授 業 計 画

令和４年度

東京家政学院大学

令和4年度　学 年 暦

前 期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行　事
4年 4月						1	2	1	1日 学年開始 3日 入学式 4日～7日オリエンテーション 8日 オリエンテーションミーティング 11日 前期授業開始
	3	4	5	6	7	8	9	2	
	10	11	12	13	14	15	16	3	
	17	18	19	20	21	22	23	4	
	24	25	26	27	28	29	30	5	
5月	1	2	3	4	5	6	7	6	
	8	9	10	11	12	13	14	7	
	15	16	17	18	19	20	21	8	21日 創立記念日
	22	23	24	25	26	27	28	9	
	29	30	31					10	
6月				1	2	3	4	10	
	5	6	7	8	9	10	11	11	
	12	13	14	15	16	17	18	12	
	19	20	21	22	23	24	25	13	19日 千代田KVA祭 （ローズ祭）
	26	27	28	29	30	31		14	
7月						1	2	15	
	3	4	5	6	7	8	9	16	
	10	11	12	13	14	15	16	17	
	17	18	19	20	21	22	23	18	
	24	25	26	27	28	29	30	19	29日 前期授業終了
	31								
8月		1	2	3	4	5	6		1日～月6日 前期定期試験 （6日は予備日） 8日～9月20日 夏季休業
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					
9月					1	2	3		3日 学内入構禁止 2日・5日・6日 前期追・再試験
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20						20日 9月卒業式

後 期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行　事
9月				21	22	23	24	1	21日 後期開始 21日 後期オリエンテーション 22日 後期授業開始 24日 学内入構禁止
	25	26	27	28	29	30		2	
10月							1	2	
	2	3	4	5	6	7	8	3	8日 月曜日の振替授業日
	9	10	11	12	13	14	15	4	
	16	17	18	19	20	21	22	5	22日 学内入構禁止
	23	24	25	26	27	28	29	6	
	30	31						7	
11月			1	2	3	4	5	7	
	6	7	8	9	10	11	12	8	12・13日 大学祭(KVA祭) (10・11日 準備のため通常授業休業)
	13	14	15	16	17	18	19	9	19日 学内入構禁止
	20	21	22	23	24	25	26	10	26日 学内入構禁止
	27	28	29	30				11	
12月					1	2	3	11	
	4	5	6	7	8	9	10	12	10日 学内入構禁止
	11	12	13	14	15	16	17	13	17日 学内入構禁止
	18	19	20	21	22	23	24	14	26日～1月7日 冬季休業
	25	26	27	28	29	30	31		
5年 1月	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14	15	10日 補講日 14日・15日 学内入構禁止 (町田キャンパス)
	15	16	17	18	19	20	21	16	16日 補講日
	22	23	24	25	26	27	28	17	21日 学内入構禁止
	29	30	31					18	30日 後期授業終了 31日 補講日
2月				1	2	3	4		1日 学内入構禁止 2日～8日 後期定期試験 （4日は予備日）
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		24日 学内入構禁止
	26	27	28						
3月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		6日～8日 後期追・再試験 9日 学内入構禁止
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		19日大学卒業式・ 大学院修了式
	26	27	28	29	30	31			25日～31日 春季休業

- 国民の祝日及び休日は、通常授業は行いません。
- ■は、定期試験期間をあらわす。
- □は、授業休業期間をあらわす。
- □は、補講日をあらわす。
- □は、振替授業日をあらわす。
- 土曜日は補講並びに行事等を行う。

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
共通教育科目	G501010	日本の文学	三村　友希	1
共通教育科目	G501020	日本の言語と文化	内田　宗一	4
共通教育科目	G501030	文章表現法	内田　宗一	8
共通教育科目	G501040	外国の言語と文化	白尾　安紗美	12
共通教育科目	G501050	異文化コミュニケーション	畝部　典子	16
共通教育科目	G501070	音楽	吉永　早苗	19
共通教育科目	G501080	美学・美術史	久々湊　直子	22
共通教育科目	G501090	色彩論	滝沢　真美	26
共通教育科目	G501110	民俗学	加藤　晴美	30
共通教育科目	G501120	考古学	佐藤　恵子	33
共通教育科目	G502010	基礎数学ａ	新海　公昭	37
共通教育科目	G502020	基礎数学ｂ	新海　公昭	41
共通教育科目	G502030	数学トピックス	新海　公昭	44
共通教育科目	G502040	基礎統計学ａ	新海　公昭	47
共通教育科目	G502050	基礎統計学ｂ	新海　公昭	50
共通教育科目	G502060	情報論	田中　康裕	54
共通教育科目	G502070	コンピュータ概論	田中　康裕	57
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習ａ	千葉　一博	61
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習ａ	田中　康裕	64
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習ａ	小野　由美子	67
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習ａ	原田　一義	70
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	千葉　一博	73
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	田中　康裕	76
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	小野　由美子	79
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習ｂ	原田　一義	82
共通教育科目	G502100	データサイエンス1	土山　玄	85
共通教育科目	G503010	人間の体	佐藤　冬果	88
共通教育科目	G503010	人間の体	金指　みの利	91
共通教育科目	G503020	ダイエットとフィットネス	深田　喜八郎	94
共通教育科目	G503050	レクリエーション概論	大嶋　徹	97
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	大嶋　徹	100
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	外川　重信	103
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	宮崎　晃子	106
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	江川　賢一	109
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習ａ	金指　みの利	112
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	佐藤　冬果	115
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	外川　重信	118
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	大嶋　徹	121
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	宮崎　晃子	124
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	江川　賢一	127
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習ｂ	金指　みの利	130
共通教育科目	G503080	健康スポーツ演習ｃ	大嶋　徹	133
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習ｄ	佐藤　冬果	137
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習ｄ	江川　賢一	141
共通教育科目	G503100	体育講義	入江　由香子	145
共通教育科目	G503110	体育実技	入江　由香子	148
共通教育科目	G504020	教養の化学	三島　綾子	151
共通教育科目	G504030	化学入門	三島　綾子	155
共通教育科目	G504040	教養の生物学	岩見　哲夫	159
共通教育科目	G504040	教養の生物学	沼波　秀樹	162
共通教育科目	G504050	生物学入門	岩見　哲夫	165
共通教育科目	G504050	生物学入門	沼波　秀樹	168

共通教育科目	G504060	環境と資源	岩見　哲夫	171
共通教育科目	G504060	環境と資源	沼波　秀樹	174
共通教育科目	G504070	地球の科学	小野　誠仁	177
共通教育科目	G504080	教養の物理学	小谷　太郎	180
共通教育科目	G504110	自然史	岩見　哲夫	183
共通教育科目	G505010	法学入門（日本国憲法）	門脇　邦夫	186
共通教育科目	G505010	法学入門（日本国憲法）	江川　剛	189
共通教育科目	G505020	市民と法	渡邊　友美	192
共通教育科目	G505020	市民と法	山田　寿則	196
共通教育科目	G505030	社会学入門	岡村　逸郎	199
共通教育科目	G505060	経済学入門	高橋　勝信	203
共通教育科目	G505070	経営学入門	金森　敏	207
共通教育科目	G505080	日本の歴史	小沢　詠美子	210
共通教育科目	G505090	世界の歴史	吉村　貴之	214
共通教育科目	G505100	世界の地理	横地　留奈子	217
共通教育科目	G505110	国際関係論	吉村　貴之	221
共通教育科目	G506010	哲学入門	大久保　歩	224
共通教育科目	G506040	生命倫理	田中　丹史	228
共通教育科目	G506050	心理学ａ	木村　文香	231
共通教育科目	G506050	心理学ａ	木村　文香	235
共通教育科目	G506060	心理学ｂ	未定	
共通教育科目	G506060	心理学ｂ	未定	
共通教育科目	G506070	ジェンダー論	未定	
共通教育科目	G506070	ジェンダー論	鈴木　亜矢子	239
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	富田　弘美　他	243
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	井澤　尚子 他	246
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	千葉　一博 他	249
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	井澤　尚子 他	252
共通教育科目	G507040	英会話集中講座	マーク　ルイス	255
共通教育科目	G507050	地域貢献活動	大嶋　徹 他	258
共通教育科目	G507060	異文化交流a	森　朋子 他	261
共通教育科目	G507070	異文化交流b	森　朋子 他	263
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田　寛	266
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀　郁子	269
共通教育科目	G508010	Basic English 1	田中　愛	272
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田　寛	275
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀　郁子	278
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田　寛	281
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀　郁子	284
共通教育科目	G508020	Basic English 2	田中　愛	287
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田　寛	291
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀　郁子	294
共通教育科目	G508030	Listening＆Speaking 1	大穀　郁子	297
共通教育科目	G508030	Listening＆Speaking 1	大和田　寛	300
共通教育科目	G508030	Listening＆Speaking 1	畝部　典子	303
共通教育科目	G508030	Listening＆Speaking１	橋本　文子	306
共通教育科目	G508030	Listening＆Speaking１	田中　愛	309
共通教育科目	G508040	Listening＆Speaking 2	大穀　郁子	312
共通教育科目	G508040	Listening＆Speaking 2	大和田　寛	315
共通教育科目	G508040	Listening＆Speaking 2	畝部　典子	318
共通教育科目	G508040	Listening＆Speaking２	橋本　文子	321
共通教育科目	G508040	Listening＆Speaking２	田中　愛	324
共通教育科目	G508050	Reading & Writing 1	大和田　寛	327
共通教育科目	G508050	Reading＆Writing１	橋本　文子	330

共通教育科目	G508060	Reading & Writing 2	大和田　寛	333
共通教育科目	G508060	Reading＆Writing２	橋本　文子	336
共通教育科目	G508070	Communication English 1	マーク　ルイス	339
共通教育科目	G508080	Communication English 2	マーク　ルイス	342
共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	大穀　郁子	345
共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	田中　愛	348
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	綾部　素幸	352
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	アニー　フランス	356
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	綾部　素幸	359
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	アニー　フランス	363
共通教育科目	G508120	フランス語初級1	綾部　素幸	366
共通教育科目	G508130	フランス語初級2	綾部　素幸	370
共通教育科目	G508140	ドイツ語入門1	織田　晶子	374
共通教育科目	G508150	ドイツ語入門2	織田　晶子	378
共通教育科目	G508160	ドイツ語初級1	織田　晶子	382
共通教育科目	G508170	ドイツ語初級2	織田　晶子	386
共通教育科目	G508180	中国語入門1	尹　青青	390
共通教育科目	G508180	中国語入門1	澁井　君也	393
共通教育科目	G508190	中国語入門2	尹　青青	396
共通教育科目	G508190	中国語入門2	澁井　君也	399
共通教育科目	G508200	中国語初級1	澁井　君也	402
共通教育科目	G508210	中国語初級2	澁井　君也	405
共通教育科目	G508220	韓国語入門1	鄭　軟姝	408
共通教育科目	G508220	韓国語入門1	丹羽　裕美	411
共通教育科目	G508230	韓国語入門2	鄭　軟姝	414
共通教育科目	G508230	韓国語入門2	丹羽　裕美	417
共通教育科目	G508240	韓国語初級1	鄭　軟姝	420
共通教育科目	G508250	韓国語初級2	鄭　軟姝	423
共通教育科目	G509010	アカデミック・ジャパニーズ1	森　朋子	426
共通教育科目	G509010	アカデミック・ジャパニーズ1	末松　史	430
共通教育科目	G509020	アカデミック・ジャパニーズ2	森　朋子	434
共通教育科目	G509020	アカデミック・ジャパニーズ2	末松　史	437
共通教育科目	G509050	日本語ラボa	森　朋子	440
共通教育科目	G509050	日本語ラボa	末松　史	443
共通教育科目	G509060	日本語ラボb	森　朋子	446
共通教育科目	G509060	日本語ラボb	末松　史	449
共通教育科目	G509070	日本語ラボc	森　朋子	452
共通教育科目	G509070	日本語ラボc	末松　史	455
共通教育科目	G509080	日本語ラボd	森　朋子	458
共通教育科目	G509090	社会人としての日本語	内田　宗一	461
共通教育科目	G509310	日本の歴史と文化	内田　宗一	466
共通教育科目	G510010	キャリアデザイン概論	金森　敏	470
共通教育科目	G510020	キャリアデザインａ	金森　敏	473
共通教育科目	G510030	キャリアデザインb	金森　敏	476

＜現代家政学科＞

専門科目	G000030	インターンシップ	金森　敏	480
専門科目	G010010	現代生活論（現代家政学科）	現代家政学科　教員	483
専門科目	G010020	家政学原論	上村　協子 他	486
専門科目	G010040	女性史	加藤　晴美	489
専門科目	G010050	美と健康	山村　明子	492
専門科目	G010060	情報処理演習Ⅰ	小野　由美子	495
専門科目	G010070	情報処理演習Ⅱ	小野　由美子	497
専門科目	G010080	卒業研究A	井澤　尚子	500

専門科目	G010080	卒業研究A	上村　協子	503
専門科目	G010080	卒業研究A	大橋　竜太	506
専門科目	G010080	卒業研究A	大嶋　徹	509
専門科目	G010080	卒業研究A	小野　由美子	512
専門科目	G010080	卒業研究A	金森　敏	515
専門科目	G010080	卒業研究A	青柳　由佳	518
専門科目	G010080	卒業研究A	竹中　真紀子	521
専門科目	G010080	卒業研究A	木村　文香	524
専門科目	G010080	卒業研究A	三宅　紀子	527
専門科目	G010080	卒業研究A	内田　宗一	530
専門科目	G010080	卒業研究A	太田　茜	533
専門科目	G010080	卒業研究A	沼波　秀樹	536
専門科目	G010080	卒業研究A	山村　明子	539
専門科目	G010080	卒業研究A	椛田　考一	542
専門科目	G010080	卒業研究A	伊藤　有紀	545
専門科目	G010080	卒業研究A	井上　清美	548
専門科目	G010080	卒業研究A	小野　方資	552
専門科目	G010080	卒業研究A	加藤　晴美	556
専門科目	G010090	卒業研究B	井澤　尚子	560
専門科目	G010090	卒業研究B	上村　協子	563
専門科目	G010090	卒業研究B	大橋　竜太	566
専門科目	G010090	卒業研究B	大嶋　徹	569
専門科目	G010090	卒業研究B	小野　由美子	572
専門科目	G010090	卒業研究B	金森　敏	575
専門科目	G010090	卒業研究B	青柳　由佳	578
専門科目	G010090	卒業研究B	竹中　真紀子	581
専門科目	G010090	卒業研究B	木村　文香	584
専門科目	G010090	卒業研究B	三宅　紀子	587
専門科目	G010090	卒業研究B	内田　宗一	590
専門科目	G010090	卒業研究B	太田　茜	593
専門科目	G010090	卒業研究B	沼波　秀樹	596
専門科目	G010090	卒業研究B	山村　明子	599
専門科目	G010090	卒業研究B	椛田　考一	602
専門科目	G010090	卒業研究B	伊藤　有紀	605
専門科目	G010090	卒業研究B	井上　清美	608
専門科目	G010090	卒業研究B	小野　方資	611
専門科目	G010090	卒業研究B	加藤　晴美	614
専門科目	G010100	家族論	井上　清美	617
専門科目	G010110	家族の文化	井上　清美	620
専門科目	G010120	子どもと遊び	大嶋　徹	623
専門科目	G010160	家族支援論	井上　清美	626
専門科目	G010170	家族と法	山里　盛文	629
専門科目	G010180	家庭経済学	上村　協子	632
専門科目	G010190	消費者教育	早野　木の美	635
専門科目	G010220	消費者政策と法	小野　由美子	638
専門科目	G010250	消費者教育演習	小野　由美子	640
専門科目	G010260	プロシューマー実習	上村　協子 他	643
専門科目	G010270	生活設計論	上村　協子	646
専門科目	G010290	エコロジー	沼波　秀樹	649
専門科目	G010300	環境保護論	沼波　秀樹	652
専門科目	G010340	都市計画	長野　博一	656
専門科目	G010430	ツーリズム（地域と文化）	岡田　美奈子	659
専門科目	G010480	コミュニティ論	信田　理奈	662
専門科目	G010510	ファッション造形学	山村　明子	665

専門科目	G010520	ファッション造形実習B	太田　茜	667
専門科目	G010530	ハンドクラフト演習	太田　茜	670
専門科目	G010540	現代衣生活論	山村　明子	673
専門科目	G010550	世界の服飾	山村　明子	676
専門科目	G010560	日本の服飾	太田　茜	679
専門科目	G010570	西洋服飾文化史	山村　明子	682
専門科目	G010580	ファッション販売論	井澤　尚子	685
専門科目	G010600	ファッションカラー演習	井澤　尚子	688
専門科目	G010610	ファッションコーディネイト	山村　明子	691
専門科目	G010620	衣と社会	井澤　尚子	694
専門科目	G010660	インテリア設計論	柳沢　伸也 他	697
専門科目	G010670	インテリア計画	青柳　由佳 他	700
専門科目	G010700	江戸東京の文化	内田　宗一	702
専門科目	G010730	日本語コミュニケーション	内田　宗一	706
専門科目	G010740	ことばと生活	内田　宗一	710
専門科目	G010760	生活文化論	加藤　晴美	714
専門科目	G010800	伝統文化の継承と発信	加藤　晴美	717
専門科目	G010810	生活文化演習	加藤　晴美	720
専門科目	G010820	食品学実験	竹中　真紀子	723
専門科目	G010830	食品衛生学	竹中　真紀子	726
専門科目	G010840	レシピの比較文化史	伊藤　有紀	729
専門科目	G010850	食文化論	伊藤　有紀	732
専門科目	G010880	フードコーディネート論	伊藤　有紀	735
専門科目	G010890	設計製図演習A	小林　直弘 他	738
専門科目	G010900	設計製図演習B	小林　直弘 他	741
専門科目	G010910	設計製図演習C	柿本　美樹枝 他	744
専門科目	G010920	設計製図演習D	柳沢　伸也 他	747
専門科目	G010930	現代家政演習	現代家政学科　教員	750
専門科目	G010950	社会調査法	小野　由美子	753
専門科目	G010960	食物学概論	三宅　紀子	756
専門科目	G010970	食と社会	竹中　真紀子	759
専門科目	G010980	食生活演習	竹中　真紀子 他	762
専門科目	G011000	インテリアCAD演習	青柳　由佳	765
専門科目	G011010	建築調査	大橋　竜太	768
専門科目	G011100	基礎ゼミ	現代家政学科　教員	771
専門科目	G011103	ファイナンシャルプランニング入門	古徳　佳枝	774
専門科目	G011104	情報伝達と表現	小林　直弘	777
専門科目	G011105	家庭電気・機械・情報処理	佐藤　智明	780
専門科目	G011106	企業と会計	古徳　佳枝	783
専門科目	G011107	家庭経営学概論	上村　協子 他	786
専門科目	G011108	家政学概論	上村　協子 他	789
専門科目	G011109	家族関係論	井上　清美	792
専門科目	G011110	家庭看護	石井　紀子	795
専門科目	G011111	消費者情報論	小野　由美子	799
専門科目	G011112	消費経済論	金森　敏	801
専門科目	G011113	児童学概論	黒岩　薫	803
専門科目	G011114	保育学	小坂田　摩由	806
専門科目	G011115	衣生活学概論	井澤　尚子 他	809
専門科目	G011116	ファッション造形実習A	井澤　尚子	812
専門科目	G011117	食品学概論	竹中　真紀子	815
専門科目	G011118	フードスペシャリスト論	竹中　真紀子	817
専門科目	G011119	栄養学概論	竹中　真紀子	820
専門科目	G011120	食品学	三宅　紀子	823
専門科目	G011121	調理学	三宅　紀子	826

専門科目	G011122	栄養学	竹中　真紀子	829
専門科目	G011123	食生活論	伊藤　有紀	832
専門科目	G011124	調理学実習	三宅　紀子 他	834
専門科目	G011125	健康・食発達心理学	青木　洋子	837
専門科目	G011127	食料経済	二瓶　徹	840
専門科目	G011129	食品の官能評価・鑑別演習	三宅　紀子	843
専門科目	G011130	住居学概論	小池　孝子	846
専門科目	G011131	建築史A	大橋　竜太	849
専門科目	G011132	建築史B	大橋　竜太	852
専門科目	G011133	住生活論	大橋　竜太	855
専門科目	G011134	住居設備	椛田　考一	857
専門科目	G011135	構造力学A	白井　篤	860
専門科目	G011136	構造計画A	永井　佑季	863
専門科目	G011137	インテリア材料	白井　篤	866
専門科目	G011138	住宅施工	白井　篤	869
専門科目	G011139	建築法規	塚田　豊	872
専門科目	G011140	建築環境学A	椛田　考一	875
専門科目	G011141	住居計画	小池　孝子	878
専門科目	G011142	福祉住環境	小池　孝子	881
専門科目	G011143	社会福祉概論	西口　守	884
専門科目	G011146	食文化演習	伊藤　有紀	887
専門科目	G011147	現代家政ゼミA	現代家政学科　教員	890
専門科目	G011150	生活福祉論	小野　由美子	893
専門科目	G011151	食と環境	沼波　秀樹	896
専門科目	G011153	グローバルコミュニケーション	マーク　ルイス	899
専門科目	G011154	家族の心理学	木村　文香	901
専門科目	G011155	コミュニケーションの心理学	木村　文香	904
専門科目	G011157	高齢者福祉論	西口　守	907
専門科目	G011158	障がい者福祉論	井原　哲人	910
専門科目	G011159	地域福祉論	嶋田　芳男	913
専門科目	G011160	ソーシャルワーク論	嶋田　芳男	916
専門科目	G011162	若者ファッション論	山村　明子	919
専門科目	G011163	日本の服飾演習	太田　茜	922
専門科目	G011164	設計製図演習E	戸田　啓太 他	925
専門科目	G011165	設計製図演習F	戸田　啓太 他	928
専門科目	G011166	現代家政ゼミB	現代家政学科　教員	931

＜生活デザイン学科＞

専門科目	G030010	生活デザイン演習A	生活デザイン学科　教員	935
専門科目	G030020	現代生活論（生活デザイン学科）	生活デザイン学科　教員	938
専門科目	G030030	卒業研究A	白井　篤	941
専門科目	G030030	卒業研究A	原口　秀昭	943
専門科目	G030030	卒業研究A	小池　孝子	945
専門科目	G030030	卒業研究A	嶋田　芳男	948
専門科目	G030030	卒業研究A	西口　守	951
専門科目	G030030	卒業研究A	呉　起東	953
専門科目	G030030	卒業研究A	石綱　史子	955
専門科目	G030030	卒業研究A	澤田　雅彦	957
専門科目	G030030	卒業研究A	齋藤　史夫	959
専門科目	G030030	卒業研究A	森　朋子	962
専門科目	G030030	卒業研究A	富田　弘美	964
専門科目	G030030	卒業研究A	深石　圭子	967
専門科目	G030030	卒業研究A	佐々木　麻紀子	970
専門科目	G030030	卒業研究A	花田　朋美	973

専門科目	G030040	卒業研究B	白井　篤	976
専門科目	G030040	卒業研究B	原口　秀昭	978
専門科目	G030040	卒業研究B	小池　孝子	980
専門科目	G030040	卒業研究B	嶋田　芳男	983
専門科目	G030040	卒業研究B	西口　守	986
専門科目	G030040	卒業研究B	呉　起東	988
専門科目	G030040	卒業研究B	石綱　史子	990
専門科目	G030040	卒業研究B	澤田　雅彦	992
専門科目	G030040	卒業研究B	齋藤　史夫	994
専門科目	G030040	卒業研究B	森　朋子	997
専門科目	G030040	卒業研究B	富田　弘美	999
専門科目	G030040	卒業研究B	深石　圭子	1002
専門科目	G030040	卒業研究B	佐々木　麻紀子	1005
専門科目	G030040	卒業研究B	花田　朋美	1008
専門科目	G030050	テキスタイル材料学	花田　朋美	1011
専門科目	G030070	衣繊維学	花田　朋美	1014
専門科目	G030120	被服整理学	團野　哲也	1017
専門科目	G030140	染色加工学	花田　朋美	1020
専門科目	G030150	染色加工学実験	花田　朋美	1022
専門科目	G030180	アパレル設計論	富田　弘美	1025
専門科目	G030250	ウィービングデザイン演習Ａ	馬場　美和子	1028
専門科目	G030280	衣環境衛生学	丸田　直美	1031
専門科目	G030490	住居デザイン演習Ａ	小池　孝子 他	1034
専門科目	G030500	住居デザイン演習Ｂ	小池　孝子 他	1037
専門科目	G030510	住居デザイン演習Ｃ	原口　秀昭 他	1040
専門科目	G030520	住居デザイン演習Ｄ	原口　秀昭 他	1043
専門科目	G030530	建築デザイン演習Ａ	原口　秀昭 他	1045
専門科目	G030540	建築デザイン演習Ｂ	原口　秀昭 他	1047
専門科目	G030550	住居ＣＡＤ演習	足立　幸寿	1049
専門科目	G030560	建築ＣＡＤ演習	足立　幸寿	1052
専門科目	G030570	建築総合演習	柏木　穂波	1055
専門科目	G030580	建築計画	小池　孝子	1057
専門科目	G030590	建築環境学Ｂ	椛田　考一	1060
専門科目	G030600	建築環境システム	椛田　考一	1063
専門科目	G030620	構造力学Ｂ	西村　彰敏 他	1066
専門科目	G030630	構造力学C	西村　彰敏	1068
専門科目	G030640	住宅設計論	原口　秀昭	1070
専門科目	G030650	構法計画	白井　篤	1073
専門科目	G030670	建築材料学	白井　篤	1076
専門科目	G030680	建築施工	白井　篤	1079
専門科目	G030760	マルチメディア演習	呉　起東	1082
専門科目	G030770	デジタルフォト論	呉　起東	1084
専門科目	G030820	インテリアデザイン論	原口　秀昭	1087
専門科目	G030830	生活美学	澤田　雅彦	1090
専門科目	G030870	生活デザイン演習Ｄ	石綱　史子	1092
専門科目	G030870	生活デザイン演習Ｄ	齋藤　史夫	1094
専門科目	G030870	生活デザイン演習Ｄ	佐々木　麻紀子	1097
専門科目	G030870	生活デザイン演習Ｄ	富田　弘美	1099
専門科目	G030870	生活デザイン演習Ｄ	花田　朋美	1102
専門科目	G030880	高分子材料学実験	花田　朋美	1105
専門科目	G030890	繊維学実験	花田　朋美	1108
専門科目	G030900	アパレルデザイン論	富田　弘美	1111
専門科目	G030910	アパレルデザイン表現実習	手島　由記子	1114
専門科目	G030920	服飾造形実習Ａ	富田　弘美	1117

専門科目	G031000	生活デザイン演習B	生活デザイン学科　教員	1120
専門科目	G031004	情報デザイン論	呉　起東	1123
専門科目	G031005	家庭電気・機械・情報処理	山際　基	1126
専門科目	G031006	デザイン概論	澤田　雅彦	1129
専門科目	G031008	家庭経営学概論	河田　敦子 他	1132
専門科目	G031010	家庭看護	遠藤　由美子	1135
専門科目	G031011	消費者調査法	小野　由美子	1138
専門科目	G031012	消費生活論	黒澤　佳子	1140
専門科目	G031014	保育学	新開　よしみ	1143
専門科目	G031015	被服学概論	富田　弘美 他	1146
専門科目	G031016	和服構成学実習	富田　弘美	1149
専門科目	G031019	食科学概論	大坂　裕子	1152
専門科目	G031030	住居学概論	小池　孝子	1155
専門科目	G031031	建築史A	大橋　竜太	1158
専門科目	G031032	建築史B	大橋　竜太	1161
専門科目	G031033	住生活論	小池　孝子 他	1164
専門科目	G031034	住居設備	椛田　考一	1167
専門科目	G031035	構造力学A	西村　彰敏 他	1170
専門科目	G031036	構造計画	西村　彰敏 他	1173
専門科目	G031037	インテリア材料	白井　篤	1175
専門科目	G031039	建築法規	原口　秀昭	1178
専門科目	G031040	建築環境学A	椛田　考一	1181
専門科目	G031041	住居計画	小池　孝子	1184
専門科目	G031042	福祉住環境	小池　孝子	1187
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	石綱　史子	1190
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	呉　起東	1192
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	齋藤　史夫	1194
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	佐々木　麻紀子	1197
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	富田　弘美	1199
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	花田　朋美	1202
専門科目	G031043	服飾造形実習B	富田　弘美	1205
専門科目	G031043	ゼミナールA	石綱　史子	1208
専門科目	G031047	ゼミナールA	呉　起東	1211
専門科目	G031052	ゼミナールA	小池　孝子	1213
専門科目	G031052	ゼミナールA	齋藤　史夫	1216
専門科目	G031052	ゼミナールA	佐々木　麻紀子	1218
専門科目	G031052	ゼミナールA	澤田　雅彦	1220
専門科目	G031052	ゼミナールA	白井　篤	1222
専門科目	G031052	ゼミナールA	千葉　一博	1225
専門科目	G031052	ゼミナールA	富田　弘美	1227
専門科目	G031052	ゼミナールA	花田　朋美	1230
専門科目	G031052	ゼミナールA	原口　秀昭	1233
専門科目	G031052	ゼミナールA	深石　圭子	1235
専門科目	G031052	ゼミナールA	森　朋子	1238
専門科目	G031052	ゼミナールA	嶋田　芳男	1240
専門科目	G031052	ゼミナールA	西口　守	1242
専門科目	G031052	ゼミナールB	石綱　史子	1245
専門科目	G031052	ゼミナールB	呉　起東	1248
専門科目	G031053	ゼミナールB	小池　孝子	1250
専門科目	G031053	ゼミナールB	齋藤　史夫	1253
専門科目	G031053	ゼミナールB	佐々木　麻紀子	1255
専門科目	G031053	ゼミナールB	澤田　雅彦	1257
専門科目	G031053	ゼミナールB	白井　篤	1259
専門科目	G031053	ゼミナールB	千葉　一博	1261

専門科目	G031053	ゼミナールB	富田　弘美	1264
専門科目	G031053	ゼミナールB	花田　朋美	1266
専門科目	G031053	ゼミナールB	原口　秀昭	1269
専門科目	G031053	ゼミナールB	深石　圭子	1271
専門科目	G031053	ゼミナールB	森　朋子	1273
専門科目	G031053	ゼミナールB	嶋田　芳男	1275
専門科目	G031053	ゼミナールB	西口　守	1278
専門科目	G031055	アパレル生産実習	富田　弘美	1281
専門科目	G031058	室内園芸	濱田　恵理子	1284
専門科目	G031061	CGデザイン演習	呉　起東	1287
専門科目	G031063	ガーデニング概論	石綱　史子	1290
専門科目	G031064	言語学概論	森　朋子	1293
専門科目	G031065	ウェブデザイン	呉　起東	1295
専門科目	G031067	ファッションビジネス論	手島　由記子	1297
専門科目	G031068	基礎調理学実習	小川　聖子	1300
専門科目	G031069	ものづくり演習A	澤田　雅彦	1304
専門科目	G031070	ものづくり演習B	澤田　雅彦	1307
専門科目	G031071	スタディツアー	生活デザイン学科　教員	1310
専門科目	G031072	テキスタイル加工演習	花田　朋美	1313
専門科目	G031073	テキスタイルデザイン論	顧　真源	1316
専門科目	G031075	プリンティングデザイン演習	顧　真源	1319
専門科目	G031076	日本文化論	内藤　久義	1321
専門科目	G031077	Practical English A	森　朋子	1324
専門科目	G031078	Practical English B	森　朋子	1327
専門科目	G031079	言語コミュニケーション	森　朋子	1330
専門科目	G031080	情報倫理	千葉　一博	1333
専門科目	G031081	ウェブデザイン演習A	高嶋　章雄	1336
専門科目	G031082	コミュニティデザイン論	齋藤　史夫	1338
専門科目	G031083	園芸論	石綱　史子	1341
専門科目	G031084	ガーデニング実習Ⅰ	石綱　史子	1344
専門科目	G031085	観賞植物素材論	石綱　史子	1346
専門科目	G031086	インターネットビジネス論	前田　邦宏	1349
専門科目	G031087	マーケティング論	鈴木　一正	1352
専門科目	G031088	被服整理学実験	佐々木　麻紀子	1355
専門科目	G031089	アパレル企画実習	手島　由記子	1357
専門科目	G031090	ウィービングデザイン演習B	馬場　美和子	1360
専門科目	G031091	ファッション・インテリアファブリックデザイン演習	馬場　美和子	1363
専門科目	G031092	ハンドクラフト演習A	顧　真源	1366
専門科目	G031093	Practical English C	森　朋子	1368
専門科目	G031094	Practical English D	森　朋子	1371
専門科目	G031095	日本語教育法	森　朋子	1374
専門科目	G031096	比較文化論	髙橋　誠一	1377
専門科目	G031097	多文化共生	髙橋　誠一	1379
専門科目	G031098	ウェブデザイン演習B	高嶋　章雄	1382
専門科目	G031099	地域政策論	西口　守	1385
専門科目	G031100	社会園芸	土橋　豊	1388
専門科目	G031101	生活と環境	土橋　豊	1391
専門科目	G031102	ガーデニング実習Ⅱ	石綱　史子	1394
専門科目	G031103	園芸装飾実習	澤田　佳与子	1397
専門科目	G031104	マーチャンダイジング	手島　由記子	1400
専門科目	G031105	グローバルビジネス論	増永　真	1403
専門科目	G031106	ハンドクラフト演習B	江良　智美	1407
専門科目	G031107	地域デザイン論	深石　圭子	1410
専門科目	G032056	アパレルＣＡＤ実習	富田　弘美	1413

専門科目	G032059	エクステリア演習	石綱　史子	1416

＜児童学科＞

専門科目	G040020	発達心理学	丹羽　さがの	1420
専門科目	G040030	教育心理学	木村　文香	1423
専門科目	G040040	教育原理	河田　敦子	1426
専門科目	G040070	教師・保育者論	齋藤　義雄 他	1429
専門科目	G040080	児童文化	吉田　久実	1432
専門科目	G040090	子どもの保健	三宅　美千代	1435
専門科目	G040100	卒業研究A	畝部　典子	1438
専門科目	G040100	卒業研究A	中田　範子	1441
専門科目	G040100	卒業研究A	新開　よしみ	1444
専門科目	G040100	卒業研究A	柳瀬　洋美	1447
専門科目	G040100	卒業研究A	新海　公昭	1450
専門科目	G040100	卒業研究A	齋藤　義雄	1453
専門科目	G040100	卒業研究A	立川　泰史	1456
専門科目	G040100	卒業研究A	丹羽　さがの	1459
専門科目	G040100	卒業研究A	和田　美香	1462
専門科目	G040100	卒業研究A	吉永　早苗	1465
専門科目	G040100	卒業研究A	末松　加奈	1468
専門科目	G040100	卒業研究A	原田　晋吾	1471
専門科目	G040100	卒業研究A	佐藤　冬果	1474
専門科目	G040100	卒業研究A	江田　裕介	1477
専門科目	G040110	卒業研究A	畝部　典子	1480
専門科目	G040110	卒業研究A	末松　加奈	1483
専門科目	G040110	卒業研究A	原田　晋吾	1486
専門科目	G040110	卒業研究A	中田　範子	1489
専門科目	G040110	卒業研究B	新開　よしみ	1492
専門科目	G040110	卒業研究B	柳瀬　洋美	1495
専門科目	G040110	卒業研究B	新海　公昭	1498
専門科目	G040110	卒業研究B	齋藤　義雄	1501
専門科目	G040110	卒業研究B	立川　泰史	1504
専門科目	G040110	卒業研究B	丹羽　さがの	1507
専門科目	G040110	卒業研究B	和田　美香	1510
専門科目	G040110	卒業研究B	吉永　早苗	1512
専門科目	G040110	卒業研究B	佐藤　冬果	1515
専門科目	G040110	卒業研究B	江田　裕介	1518
専門科目	G040130	発達臨床心理学	柳瀬　洋美	1521
専門科目	G040140	対人関係の発達	丹羽　さがの	1524
専門科目	G040150	発達障害の理解と支援	原田　晋吾	1527
専門科目	G040180	児童とカウンセリング	柳瀬　洋美	1530
専門科目	G040220	社会福祉	嶋田　芳男	1533
専門科目	G040230	社会的養護Ⅰ	塩谷　隼平	1536
専門科目	G040240	社会的養護Ⅱ	横井　義弘 他	1539
専門科目	G040290	保育内容総論A	中田　範子	1542
専門科目	G040410	保育方法論	末松　加奈	1545
専門科目	G040430	保育実践演習	児童学科　教員	1548
専門科目	G040440	算数科教育	新海　公昭	1551
専門科目	G040450	生活科教育	中田　範子	1554
専門科目	G040460	音楽科教育	吉永　早苗 他	1557
専門科目	G040470	図画工作科教育	立川　泰史	1560
専門科目	G040480	国語科教育（書写を含む）	深瀬　須美子	1563
専門科目	G040490	体育科教育	佐藤　冬果	1566
専門科目	G040500	社会科教育	梶原　正史	1569

専門科目	G040510	理科教育	猿渡　厚史	1572
専門科目	G040520	国語科教育法（書写を含む）	深瀬　須美子	1575
専門科目	G040530	社会科教育法	梶原　正史	1578
専門科目	G040540	算数科教育法	新海　公昭	1581
専門科目	G040550	理科教育法	猿渡　厚史	1584
専門科目	G040560	生活科教育法	池田　仁人	1586
専門科目	G040570	音楽科教育法	吉永　早苗 他	1589
専門科目	G040580	図画工作科教育法	立川　泰史	1592
専門科目	G040590	家庭科教育法	金田　佳子	1595
専門科目	G040600	体育科教育法	佐藤　冬果	1598
専門科目	G040630	小児保健演習	田中　和香菜	1601
専門科目	G040640	子どもの食と栄養	太田　百合子	1604
専門科目	G040670	野外活動論（児童と野外環境）	佐藤　冬果 他	1608
専門科目	G040670	自然体験活動論	佐藤　冬果 他	1611
専門科目	G040680	児童とことば	和田　美香	1614
専門科目	G040700	音楽実技B	吉永　早苗 他	1617
専門科目	G040710	児童と身体表現	荒金　幸子	1619
専門科目	G040720	子どもと造形	立川　泰史	1622
専門科目	G040730	保育表現技術	新開　よしみ	1625
専門科目	G040740	英語アクティビティ	畝部　典子	1628
専門科目	G040750	児童と外国語A	畝部　典子	1630
専門科目	G040760	児童と外国語B	畝部　典子	1633
専門科目	G040770	児童と文学	原　善	1636
専門科目	G040790	カリキュラム論	齋藤　義雄	1639
専門科目	G040800	子育て支援	西口　守 他	1642
専門科目	G040820	子ども家庭支援論	新開　よしみ 他	1645
専門科目	G040840	家庭科教育	金田　佳子	1648
専門科目	G041002	青年心理学	合澤　典子	1651
専門科目	G041003	人格心理学	合澤　典子	1654
専門科目	G041006	家庭教育論	柳瀬　洋美	1657
専門科目	G041008	児童学概論	児童学科　教員	1660
専門科目	G041010	児童福祉論	市川　和男	1663
専門科目	G041015	自然体験活動演習Ⅰ	佐藤　冬果	1667
専門科目	G041016	自然体験活動演習Ⅱ	佐藤　冬果	1670
専門科目	G041017	自然体験活動実習	佐藤　冬果	1673
専門科目	G041018	初等教育演習A	齋藤　義雄 他	1676
専門科目	G041019	初等教育演習B	齋藤　義雄 他	1678
専門科目	G041020	初等教育演習C	齋藤　義雄 他	1680
専門科目	G041021	初等教育演習D	齋藤　義雄 他	1682
専門科目	G041022	児童臨床実習ＡⅠ	柳瀬　洋美	1684
専門科目	G041023	児童臨床実習ＡⅡ	柳瀬　洋美	1687
専門科目	G041024	児童臨床実習ＢⅠ	佐藤　冬果	1690
専門科目	G041025	児童臨床実習ＢⅡ	佐藤　冬果	1693
専門科目	G041028	障害の基礎的理解	松山　直輝	1696
専門科目	G041029	特別支援学校教育課程論	江田　裕介	1699
専門科目	G041030	特別支援教育総論	江田　裕介	1702
専門科目	G041031	知的障害者の教育	江田　裕介 他	1705
専門科目	G041032	肢体不自由者の教育	松山　直輝	1708
専門科目	G041033	病弱者の教育	江田　裕介	1711
専門科目	G041034	知的障害者の心理・生理・病理	原田　晋吾 他	1715
専門科目	G041035	肢体不自由者の心理・生理・病理	岡澤　慎一	1718
専門科目	G041036	病弱者の心理・生理・病理	市川　和男 他	1721
専門科目	G041037	視覚障害の理解と支援	未　定	
専門科目	G041038	聴覚障害の理解と支援	渡部　杏菜	1725

専門科目	G041039	重複障害の理解と支援	松山　直輝	1728
専門科目	G041040	保育原理	和田　美香	1731
専門科目	G041041	子どもの理解と援助	丹羽　さがの	1734
専門科目	G041042	乳児保育Ⅰ	柳瀬　洋美 他	1737
専門科目	G041043	乳児保育Ⅱ	柳瀬　洋美 他	1740
専門科目	G041044	外国語科教育	畝部　典子	1743
専門科目	G041045	インターンシップ	齋藤　義雄	1746
専門科目	G041046	子どもと音楽	吉永　早苗	1750
専門科目	G041047	音楽実技A	佐藤　くみ 他	1753
専門科目	G041048	造形表現基礎	立川　泰史	1756
専門科目	G041050	子どもと健康	佐藤　冬果	1759
専門科目	G041051	子どもと言葉	和田　美香	1762
専門科目	G041052	子どもと人間関係	丹羽　さがの	1765
専門科目	G041053	子どもと環境	中田　範子	1768
専門科目	G041054	子どもと表現	新開　よしみ 他	1771
専門科目	G041055	児童学研究ゼミA	児童学科　教員	1774
専門科目	G041056	児童学研究ゼミB	児童学科　教員	1777
専門科目	G041057	障がい児保育A	中野　佐世子	1779
専門科目	G041058	障がい児保育B	未　　定	1782
専門科目	G041059	健康の指導法	佐藤　冬果	1785
専門科目	G041060	言葉の指導法	和田　美香	1788
専門科目	G041061	人間関係の指導法	丹羽　さがの 他	1791
専門科目	G041062	環境の指導法	中田　範子	1795
専門科目	G041063	表現の指導法	新開　よしみ 他	1798
専門科目	G041064	保育内容総論B	中田　範子	1801
専門科目	G041065	保育の計画と評価	和田　美香 他	1804
専門科目	G041066	外国語科教育法	山田　浩	1807
専門科目	G041067	子ども家庭支援の心理学	柳瀬　洋美 他	1810

＜食物学科＞

専門科目	G060010	食生産体験演習A	高尾　純宏	1814
専門科目	G060020	食生産体験演習B	高尾　純宏	1817
専門科目	G060030	栄養士論	山田　正子	1820
専門科目	G060040	地球環境と食	山岡　義卓	1823
専門科目	G060050	フードビジネス概論	山岡　義卓	1826
専門科目	G060060	コミュニケーション・プレゼン演習	黒田　久夫	1829
専門科目	G060070	有機化学	三島　綾子	1832
専門科目	G060080	分子生物学	岩見　哲夫	1835
専門科目	G060090	統計学演習	黒田　久夫	1838
専門科目	G060100	基礎サイエンス実験	岩見　哲夫 他	1841
専門科目	G060110	食と語学A	大和田　寛	1844
専門科目	G060120	食と語学B	大和田　寛	1847
専門科目	G060130	社会福祉学概論	西口　守	1849
専門科目	G060210	公衆衛生学Ⅰ(総論)	伊藤　僚子	1852
専門科目	G060220	公衆衛生学Ⅱ(各論)	伊藤　僚子	1854
専門科目	G060230	解剖生理学Ⅰ(解剖学)	林　省吾	1856
専門科目	G060240	解剖生理学Ⅱ(生理学)	林　省吾	1859
専門科目	G060250	解剖生理学実習	岩本　直樹	1862
専門科目	G060260	生化学(総論)	三島　綾子	1864
専門科目	G060270	代謝栄養学（生化学各論）	三島　綾子	1867
専門科目	G060280	栄養学・生化学実験	岩本　直樹 他	1870
専門科目	G060290	食品学総論	上薗　薫	1873
専門科目	G060310	食品学各論	上薗　薫	1876
専門科目	G060320	食品学実験	上薗　薫	1879

専門科目	G060330	食品衛生学	上薗　薫	1882
専門科目	G060340	食品衛生学実験	上薗　薫	1885
専門科目	G060350	基礎栄養学	岩本　直樹	1888
専門科目	G060360	応用栄養学	岩本　直樹	1891
専門科目	G060370	栄養学各論実習	岩本　直樹	1894
専門科目	G060380	臨床栄養学総論	岩本　直樹	1897
専門科目	G060390	臨床栄養学各論	岩本　直樹	1900
専門科目	G060400	臨床栄養学実習	吉川　絵梨	1903
専門科目	G060410	栄養学実習	岩本　直樹	1905
専門科目	G060420	栄養指導論	三澤　朱実	1907
専門科目	G060430	栄養指導実習	三澤　朱実	1910
専門科目	G060440	栄養カウンセリング論	三澤　朱実	1913
専門科目	G060450	栄養カウンセリング実習	三澤　朱実	1916
専門科目	G060460	公衆栄養学	三澤　朱実	1920
専門科目	G060470	公衆栄養学実習	三澤　朱実	1923
専門科目	G060480	給食管理学	山田　正子	1926
専門科目	G060490	校内給食管理実習	山田　正子	1929
専門科目	G060500	校外給食管理実習	山田　正子	1932
専門科目	G060510	基礎調理学実習	米澤　加代	1935
専門科目	G060520	調理学	米澤　加代	1938
専門科目	G060530	調理科学実験	米澤　加代	1941
専門科目	G060610	微生物学	鈴木　武人	1944
専門科目	G060620	HACCP実践演習	上薗　薫	1947
専門科目	G060630	食品機能学	黒田　久夫	1951
専門科目	G060640	食品加工学	上薗　薫	1954
専門科目	G060650	食品加工学実習	上薗　薫	1957
専門科目	G060660	応用調理学実習	米澤　加代	1960
専門科目	G060670	製品・食品鑑別演習	新原　恵子	1963
専門科目	G060680	食空間コーディネート論	山田　正子 他	1966
専門科目	G060690	比較食文化・食生活論	小池　美穂	1969
専門科目	G060700	調理と文化	小池　美穂	1972
専門科目	G060710	栄養士総合演習	山田　正子	1975
専門科目	G060720	食物総合演習A	岩見　哲夫	1978
専門科目	G060720	食物総合演習A	河田　敦子	1981
専門科目	G060720	食物総合演習A	三澤　朱実	1984
専門科目	G060720	食物総合演習A	山田　正子	1987
専門科目	G060720	食物総合演習A	岩本　直樹	1990
専門科目	G060720	食物総合演習A	大和田　寛	1993
専門科目	G060720	食物総合演習A	黒田　久夫	1996
専門科目	G060720	食物総合演習A	高尾　純宏	1999
専門科目	G060720	食物総合演習A	上薗　薫	2002
専門科目	G060720	食物総合演習A	米澤　加代	2005
専門科目	G060730	食物総合演習B	岩見　哲夫	2008
専門科目	G060730	食物総合演習B	河田　敦子	2011
専門科目	G060730	食物総合演習B	三澤　朱実	2014
専門科目	G060730	食物総合演習B	山田　正子	2017
専門科目	G060730	食物総合演習B	岩本　直樹	2020
専門科目	G060730	食物総合演習B	大和田　寛	2023
専門科目	G060730	食物総合演習B	黒田　久夫	2026
専門科目	G060730	食物総合演習B	高尾　純宏	2029
専門科目	G060730	食物総合演習B	上薗　薫	2032
専門科目	G060730	食物総合演習B	米澤　加代	2035
専門科目	G060740	卒業研究A	岩見　哲夫	2038
専門科目	G060740	卒業研究A	河田　敦子	2041

専門科目	G060740	卒業研究A	三澤　朱実	2044
専門科目	G060740	卒業研究A	山田　正子	2047
専門科目	G060740	卒業研究A	岩本　直樹	2050
専門科目	G060740	卒業研究A	大和田　寛	2053
専門科目	G060740	卒業研究A	黒田　久夫	2056
専門科目	G060740	卒業研究A	高尾　純宏	2059
専門科目	G060740	卒業研究A	上薗　薫	2062
専門科目	G060740	卒業研究A	米澤　加代	2065
専門科目	G060750	卒業研究B	岩見　哲夫	2068
専門科目	G060750	卒業研究B	河田　敦子	2071
専門科目	G060750	卒業研究B	三澤　朱実	2074
専門科目	G060750	卒業研究B	山田　正子	2077
専門科目	G060750	卒業研究B	岩本　直樹	2080
専門科目	G060750	卒業研究B	大和田　寛	2083
専門科目	G060750	卒業研究B	黒田　久夫	2086
専門科目	G060750	卒業研究B	高尾　純宏	2089
専門科目	G060750	卒業研究B	上薗　薫	2092
専門科目	G060750	卒業研究B	米澤　加代	2095
専門科目	G060760	フードスペシャリスト論	米澤　加代	2098
専門科目	G060770	フードコーディネート論	山田　正子	2101
専門科目	G060780	食品流通経済	黒田　久夫	2104
専門科目	G060790	バイオサイエンス演習	岩見　哲夫	2107
専門科目	G060800	フードビジネス演習	黒田　久夫	2111
専門科目	G060810	食企画・開発演習Ⅰ	黒田　久夫	2115
専門科目	G060820	食企画・開発演習Ⅱ	黒田　久夫	2119
専門科目	G060830	食企画・開発演習Ⅲ	黒田　久夫	2123
専門科目	G060840	病態生理学	岩本　直樹	2127
専門科目	G060850	子供の食とアレルギー	岩本　直樹	2131
専門科目	G060860	調理と素材	米澤　加代	2134
専門科目	G060870	食事計画論	山田　正子	2137
専門科目	G060880	食教育研究	山田　正子	2140
専門科目	G060910	被服学概論	富田　弘美 他	2143
専門科目	G060920	服飾造形実習A	富田　弘美	2146
専門科目	G060930	住居学概論（製図を含む）	小池　孝子	2150
専門科目	G060940	家庭経営学概論	河田　敦子 他	2153
専門科目	G060950	家庭電気・機械・情報処理	山際　基	2157
専門科目	G060960	保育学	新開　よしみ	2160
専門科目	G060970	食科学概論	大坂　裕子	2163
専門科目	G060980	家庭看護(学校安全・救急看護法)	遠藤　由美子	2166

＜人間栄養学科＞

専門科目	H020010	人間栄養学原論	加藤　理津子 他	2170
専門科目	H020020	管理栄養士基礎演習	城田　直子	2174
専門科目	H020030	有機化学	仁科　淳良	2177
専門科目	H020040	基礎サイエンス実験	沼波　秀樹 他	2180
専門科目	H020050	栄養情報統計演習	田中　弘之 他	2184
専門科目	H020060	健康・食発達心理学	青木　洋子	2187
専門科目	H020070	社会福祉学概論	西口　守 他	2190
専門科目	H020110	公衆衛生学Ⅰ	田中　千晶	2193
専門科目	H020120	公衆衛生学Ⅱ	田中　千晶	2196
専門科目	H020130	公衆衛生学実習	田中　千晶	2199
専門科目	H020140	疫学・社会調査法	田中　千晶	2202
専門科目	H020150	解剖生理学Ⅰ	内田　敬子 他	2205
専門科目	H020160	解剖生理学Ⅱ	未定	

専門科目	H020170	解剖生理学実習	斉藤　恵美子	2208
専門科目	H020180	運動生理学	江川　賢一	2211
専門科目	H020190	微生物学	津山　淳	2214
専門科目	H020200	臨床病態栄養学	斉藤　恵美子	2217
専門科目	H020210	分子栄養学	海野　知紀	2220
専門科目	H020220	生化学	未定	
専門科目	H020230	生化学実験	坂野　史明	2224
専門科目	H020240	基礎食品学	海野　知紀	2227
専門科目	H020250	基礎食品学実験	海野　知紀	2230
専門科目	H020260	応用食品学	林　一也	2233
専門科目	H020270	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）	林　一也	2237
専門科目	H020280	調理学	大富　あき子	2240
専門科目	H020290	調理学実験（官能評価を含む）	大富　あき子	2243
専門科目	H020300	基礎調理学実習	大富　あき子 他	2246
専門科目	H020310	応用調理学実習	大富　あき子	2249
専門科目	H020320	食事計画論実習	加藤　理津子	2252
専門科目	H020330	食品衛生学	林　一也	2256
専門科目	H020340	食品衛生学実験	林　一也	2259
専門科目	H020350	基礎栄養学Ⅰ	海野　知紀	2262
専門科目	H020360	基礎栄養学Ⅱ	海野　知紀	2265
専門科目	H020230	基礎栄養学実験	坂野　史明	2269
専門科目	H020380	食事摂取基準論	鈴木　孝子	2272
専門科目	H020390	ライフステージ別栄養学Ⅰ	斉藤　恵美子	2275
専門科目	H020400	ライフステージ別栄養学Ⅱ	斉藤　恵美子	2278
専門科目	H020410	応用栄養学実習	酒井　治子 他	2282
専門科目	H020420	栄養教育総論	辻　雅子	2285
専門科目	H020430	栄養教育方法論	辻　雅子	2288
専門科目	H020440	実践栄養教育論	酒井　治子	2292
専門科目	H020450	栄養教育実習Ⅰ	辻　雅子	2295
専門科目	H020460	栄養教育実習Ⅱ	酒井　治子	2298
専門科目	H020470	臨床栄養学基礎	斉藤　恵美子	2301
専門科目	H020480	臨床栄養学応用	城田　直子 他	2304
専門科目	H020490	臨床栄養アセスメント論	金澤　良枝	2307
専門科目	H020500	臨床栄養ケアマネジメント論	金澤　良枝	2310
専門科目	H020510	臨床栄養アセスメント実習	金澤　良枝	2313
専門科目	H020520	臨床栄養ケアマネジメント実習	金澤　良枝 他	2316
専門科目	H020530	公衆栄養学	田中　弘之	2319
専門科目	H020540	地域栄養活動論	田中　弘之	2322
専門科目	H020550	公衆栄養学実習	田中　弘之	2325
専門科目	H020560	給食経営管理論	吉野　知子	2329
専門科目	H020570	給食経営管理実習	吉野　知子 他	2332
専門科目	H020580	健康フードマネジメント論	吉野　知子	2335
専門科目	H020590	健康フードマネジメント実習	吉野　知子 他	2338
専門科目	H020600	総合演習Ⅰ	吉野　知子 他	2341
専門科目	H020610	総合演習Ⅱ	金澤　良枝 他	2344
専門科目	H020620	給食運営臨地実習	吉野　知子 他	2347
専門科目	H020630	臨床栄養Ⅰ臨地実習	金澤　良枝 他	2350
専門科目	H020640	臨床栄養Ⅱ臨地実習	金澤　良枝 他	2353
専門科目	H020650	公衆栄養臨地実習	田中　弘之 他	2356
専門科目	H020660	栄養治療学	城田　直子	2362
専門科目	H020670	臨床栄養カンファレンス演習	腰本　さおり 他	2365
専門科目	H020680	カウンセリング論	小金井　希容子	2369
専門科目	H020690	児童福祉・食育演習	酒井　治子 他	2373
専門科目	H020700	在宅地域栄養ケア演習	吉野　知子	2376

専門科目	H020710	地域栄養活動演習	田中　弘之 他	2379
専門科目	H020720	特定健診・保健指導論	國井　大輔	2382
専門科目	H020730	国際栄養活動論	田中　千晶 他	2385
専門科目	H020740	スポーツ選手の栄養学	加藤　理津子 他	2388
専門科目	H020760	スポーツ栄養学実習	江川　賢一 他	2391
専門科目	H020770	江戸・東京の食と文化	綿貫　仁美	2394
専門科目	H020780	マーケティングと商品・メニュー開発	二瓶　徹 他	2397
専門科目	H020790	フードシステム論	二瓶　徹	2401
専門科目	H020800	食・空間プロデュース論	建路　七織	2404
専門科目	H020810	栄養プロデュース実習	綿貫　仁美 他	2407
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	海野　知紀	2410
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	金澤　良枝	2415
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	辻　雅子	2420
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	酒井　治子	2425
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	田中　弘之	2428
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	橋本　文子	2432
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	林　一也	2437
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	吉野　知子	2441
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	加藤　理津子	2445
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	大富　あき子	2448
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	江川　賢一	2451
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	斉藤　恵美子	2456
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	城田　直子	2460
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	田中　千晶	2464
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	腰本　さおり	2468
専門科目	H020830	栄養・医学英語	橋本　文子 他	2472
専門科目	H020840	実践栄養英会話	マーク　ルイス	2475
専門科目	H020850	食物・栄養演習A	金澤　良枝 他	2478
専門科目	H020860	食物・栄養演習B	金澤　良枝 他	2481
専門科目	H020870	食物・栄養演習C	金澤　良枝 他	2484
専門科目	H020880	食物・栄養演習D	金澤　良枝 他	2487
専門科目	H020890	食物・栄養演習E	金澤　良枝 他	2490
専門科目	H021010	海外専門研修（栄養学）	加藤　理津子	2493
専門科目	H021020	キャリアデザイン活動	酒井　治子 他	2496

＜資格科目＞

資格科目	6100010	教師論（町田・千代田）	小野　方資	2500
資格科目	6100020	教育原理（町田）	河田　敦子	2503
資格科目	6100020	教育原理（千代田）	小野　方資	2506
資格科目	6100030	教育心理学（町田・千代田）	木村　文香	2509
資格科目	6100040	教育制度論（中・高・栄）（町田）	河田　敦子	2511
資格科目	6100040	教育制度論（千代田）	小野　方資	2516
資格科目	6100050	教育課程論（町田・千代田）	齋藤　義雄	2519
資格科目	6100060	家庭科教育法A（町田）	和田　早苗	2522
資格科目	6100060	家庭科教育法A（千代田）	花形　美緒 他	2525
資格科目	6100070	家庭科教育法B（町田）	和田　早苗	2528
資格科目	6100070	家庭科教育法B（千代田）	上村　協子 他	2531
資格科目	6100080	家庭科教育法C（町田）	花形　美緒	2534
資格科目	6100080	家庭科教育法C（千代田）	宮川　有希 他	2537
資格科目	6100090	家庭科教育法D（町田）	花形　美緒	2540
資格科目	6100090	家庭科教育法D（千代田）	宮川　有希 他	2544
資格科目	6100220	道徳教育論（小）	河田　敦子	2547
資格科目	6100220	道徳教育論（中・栄）（町田）	河田　敦子	2550
資格科目	6100220	道徳教育論（千代田）	河田　敦子	2553

資格科目	6100230	特別活動論（町田・千代田）	齋藤　史夫	2556
資格科目	6100300	教育方法・技術論（幼・小）	齋藤　義雄 他	2559
資格科目	6100300	教育方法・技術論（町田・千代田）	齋藤　義雄	2562
資格科目	6100310	生徒指導論（町田）	齋藤　史夫	2565
資格科目	6100310	生徒指導論（千代田）	齋藤　史夫	2568
資格科目	6100320	教育相談論（幼・小）	木村　文香	2571
資格科目	6100320	教育相談論（町田・千代田）	木村　文香	2575
資格科目	6100350	教育実習指導（町田）	齋藤　史夫 他	2579
資格科目	6100350	教育実習指導（千代田）	小野　方資 他	2582
資格科目	6100360	教育実習Ａ（町田）	河田　敦子 他	2585
資格科目	6100360	教育実習Ａ（千代田）	小野　方資	2588
資格科目	6100370	教育実習Ｂ（町田）	河田　敦子 他	2590
資格科目	6100370	教育実習Ｂ（千代田）	小野　方資	2593
資格科目	6100380	栄養教育実習指導（町田）	河田　敦子	2595
資格科目	6100380	栄養教育実習指導（千代田）	辻　雅子	2598
資格科目	6100390	栄養教育実習（町田）	河田　敦子	2601
資格科目	6100390	栄養教育実習（千代田）	辻　雅子 他	2604
資格科目	6100400	初等教育実習指導（小）	立川　泰史 他	2607
資格科目	6100410	初等教育実習Ｃ	立川　泰史	2611
資格科目	6100420	初等教育実習指導（幼）	吉永　早苗 他	2616
資格科目	6100430	初等教育実習Ａ	吉永　早苗 他	2619
資格科目	6100440	初等教育実習Ｂ	吉永　早苗 他	2623
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）	齋藤　史夫 他	2634
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）	小野　方資 他	2637
資格科目	6100460	教職実践演習（栄養）	辻　雅子 他	2640
資格科目	6100460	教職実践演習（栄養）	河田　敦子	2643
資格科目	6100470	教職実践演習（幼小）	立川　泰史 他	2646
資格科目	6100480	特別支援教育実習・実習指導	原田　晋吾 他	2650
資格科目	6100500	特別支援教育論（中・高・栄）	江田　裕介 他	2655
資格科目	6100500	特別支援教育論（幼･小）	江田　裕介 他	2659
資格科目	6100510	教育・保育制度論	中田　範子 他	2663
資格科目	6100520	総合的な学習の指導法（中・高・栄）	齋藤　義雄	2666
資格科目	6100520	総合的な学習の指導法（幼･小）	齋藤　義雄	2669
資格科目	6100540	進路指導論（小・中・高）	齋藤　史夫	2672
資格科目	6200010	学校栄養教育論Ⅰ	酒井　治子 他	2675
資格科目	6200020	学校栄養教育論Ⅱ	辻　雅子 他	2678
資格科目	6200030	学校栄養教育論	塩塚　宏治	2682
資格科目	6300010	博物館概論（町田）	加藤　晴美	2686
資格科目	6300010	博物館概論（千代田）	加藤　晴美	2689
資格科目	6300020	博物館資料論（町田）	神　かほり	2692
資格科目	6300020	博物館資料論（千代田）	石垣　悟	2695
資格科目	6300030	博物館経営論（町田・千代田）	田尾　誠敏	2698
資格科目	6300060	生涯学習概論（町田・千代田）	宮崎　敦子	2702
資格科目	6300080	博物館実習（町田・千代田）	田尾　誠敏	2705
資格科目	6300090	博物館資料保存論（町田・千代田）	田尾　誠敏	2708
資格科目	6300100	博物館展示論（町田・千代田）	田尾　誠敏	2712
資格科目	6300110	博物館教育論（町田）	高木　幸枝	2716
資格科目	6300110	博物館教育論（千代田）	小野　方資	2719
資格科目	6300120	博物館情報・メディア論（町田・千代田）	木村　涼	2722
資格科目	6400060	保育実習指導Ⅰ	丹羽　さがの 他	2725
資格科目	6400070	保育実習ⅠＢ	丹羽　さがの 他	2729
資格科目	6400080	保育実習ⅠＣ	柳瀬　洋美 他	2732
資格科目	6400090	保育実習Ⅱ	新開　よしみ 他	2735
資格科目	6400100	保育実習Ⅲ	柳瀬　洋美 他	2738

資格科目	6400130	保育実習指導Ⅱ	和田　美香 他	2741
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅲ	和田　美香 他	2744

共 通 教 育 科 目

シラバス参照

講義名	日本の文学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三村　友希	指定なし

ナンバリング	X13000C21
授業概要(教育目的)	古典文学を中心とした文学作品の読解、日本文学史の理解を通じて、それぞれの作品性や特徴、時代性、テーマなどの知識を深めることを目標とする。そして、古典文学を知ることによって、人間社会の多様性や普遍性、固有性について考える。なお、適宜、漫画や小説などの翻案作品を紹介しながら、古典文学の作品性とともに現代性を考察する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	文学作品を読む上で求められる作品の持つ時代性や社会のコードを理解することができる。
思考・判断の観点（K）	文学作品を読むことを通して、自分の感性・考えを探ることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	人間と社会との関係に注意しながら、意欲的に読書することができる。
技術・表現の観点（A）	読解の結果得られた自分の意見・考えを、他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の文学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	平安の和歌と現代短歌	『百人一首』の春の和歌を中心に、現代短歌も踏まえながら、三十一文字の表現性を考える。	予習としてシラバスを読み、教科書の「はしがき」を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第2回	ことばの力（１）	『万葉集』『古今集』から恋の和歌を読み、また、『万葉集』の代表的な女性歌人を中心に和歌のもつ力を考える。	予習として教科書の第3講P15を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第3回	ことばの力	『古今集』仮名序から『土佐日記』冒頭、『土佐日記』	予習として教科書の第2講P10を	180

	（2）	のさまざまな和歌に触れながら、仮名文字で書かれた日記文学の特性やことばの力を考える。	読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	
第4回	伝統と創造	『枕草子』初段などから、文学の伝統性と創造性について、また、清少納言の人物像についても考える。	予習として教科書の第8講P42を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第5回	平安女性の教養	『枕草子』『紫式部日記』から、清少納言や紫式部がつちかっていた教養のありようとその表現について考える。	予習として教科書の第9講P47を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第6回	平安女性の恋	『和泉式部日記』『和泉式部集』から、その表現性から和泉式部という1人の女性の多面性を考える。	予習として教科書の第10講P51を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第7回	かぐや姫の主張	『竹取物語』の話型を知り、かぐや姫の結婚拒否について、物語というジャンルの祖としての意味を考える。	予習として教科書の第5講P25を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第8回	子どもの造型	『枕草子』『源氏物語』などから、古典文学における子どもの描かれ方について考える。	予習として事前に配布するプリントを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第9回	「風変わり」な姫君	『堤中納言物語』の「虫めづる姫君」を中心に、古典文学におけるちょっと変わった姫君を見出し考える。	予習として教科書の第14講P71を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第10回	恋の逃避行	『伊勢物語』から「芥川」の章段などを読み、その恋の展開について考える。	予習として事前に配布するプリントを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第11回	継子物語の話型	『落窪物語』から継子物語の話型を知り、その物語構造について考える。	予習として事前に配布するプリントを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第12回	「ひかり」の転生	『源氏物語』の主人公・光源氏について、かぐや姫から継承したような、その美貌から考える。	予習として教科書の第5講P25を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第13回	物語を読む女たち	『源氏物語』における、女君が物語を読む場面、光源氏が物語を批評する場面について考える。	予習として事前に配布するプリントを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第14回	浮舟にあこがれて	『更級日記』の作者の『源氏物語』に対する憧憬のありようを考える。	予習として教科書の第12講P60を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第15回	補足と振り返り	補足として、大江スミ先生とゆかりのある村岡花子の童話などを考える。また、振り返りシートへの記入を通して客観的に自己の学びを捉え直し、これからの読書活動への展望を持てるようにする。	これまでの授業を振り返るとともに、課題に対するレポートを制作する。	180
第16回				

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	レスポンスシートに記入された質問や意見について、毎週受講者と問題を共有する。
評価方法	レスポンスシートにおいて関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。振り返りシートは15回目で実施し、レポートは、本授業の内容について問題意識をもって作成しているかという観点や客観的に事実を把捉したうえで他者へ向けて発信しているかという観点から評価する。ネット上の情報を写したものは点数化しない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レスポンスシート	○		○	
	レポート	○	○	○	○
	振り返りシート		○	○	○

評価割合	平常点30%(授業内課題含む)、振り返りシート10%、レポート60%
使用教科書名(ISBN番号)	井上・鈴木・深沢編『平安文学十五講』（翰林書房　定価980円＋税）

参考図書	適宜、授業時に示す。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会的・文化的背景を持つ人間存在について、文学を通して深く理解することができる。 【思考・判断】文学を通して得られた課題について、自身の思考を深めることができる。 【関心・意欲・態度】多様な他者理解の方法と自分の感性や思考の錬磨に関心をもつ。 【技能・表現】読書行為によって得られた知見や感得した思考を、他者に向けて自分の言葉で表現できる。
学生へのメッセージ	授業で扱う作品や紹介する参考文献に関心をもち、手にとってみてください。高等学校までの古文の授業とは少しちがいます。古典文学、読書の楽しさを感じてもらいたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	受講者の学修にグループ討議場面を導入し、意欲的な参加を促す。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟するとともに、レポート作成時の著作権使用に関する注意を喚起。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本の言語と文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

ナンバリング	X13010M21
授業概要(教育目的)	言語には、それを使って生活する人々の文化や思考の枠組みが反映していると捉えられる面がある一方で、反対に、使用する言語が人の認識やものの見方に影響を与えるという側面も認められる。この授業では、そのように密接に結びついている言語と文化との関係の問題について、日本語を対象として考察を行っていく。日本語の構造やしくみ、歴史、表現などについて分析を行い、そこから見出される日本の文化の特質を読み解くことを通じて、日本語や日本文化に対する理解および興味・関心を深めさせることをめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本の言語文化に関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内活動（ワークシート作業とその報告・分析、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	日本語の音声・音韻1 発音のしくみ	音声を発するしくみについて理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	日本語の音声・音韻2 母音と子音	母音と子音の特徴の違いや、それらの分類基準について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第3回	日本語の音声・音韻3 音素と異音	音韻論の基本、ならびに、音韻論上の最小単位である音素の概念について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要	180

			点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第4回	日本語の音声・音韻4 音素設定の原則	音素を設定するための作業原則について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	日本語の文字・表記1 文字の分類	言語学における文字の分類の枠組みについて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	日本語の文字・表記2 日本語表記の特色	日本語の文字・表記の特色について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	日本語の語彙1　語彙とは何か	語彙という概念ならびに日本語の語種について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	日本語の語彙2　語種から見た日本語語彙の特色	日本語の語彙を、語種という観点から分析した場合の種々の特色について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本語の文法1　文法とは何か	文法の概念ならびに文法論の分野について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	日本語の文法2　日本語のテンス	時間を表す文法カテゴリーのひとつであるテンスについて、その概念ならびに日本語におけるテンスの枠組みを理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

第11回	日本語と文化1　ことばと文化の関係性	語構成論の基本を理解する。言語と文化の関わりについて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	日本語と文化2　サピア・ウォーフの仮説	サピア・ウォーフの仮説について理解する。日本語の語彙と文化との関係について、ワークシートを用いた作業を通じて学ぶ。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本語と文化3　日本の文化と方言	方言、標準語、共通語の各概念について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本語と文化4　方言周圏論	柳田国男の提唱した方言周圏論について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	日本語と文化5　方言分布のさまざま	方言分布の種々のパターンと、それらの分布パターンから読み解ける事象について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
評価方法	・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。 ・平常点は、授業内活動（ワークシート作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	平常点			○	

評価割合	定期試験70%、平常点30%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて資料を配付する。
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本の言語文化に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

オフィスアワー	【千代田三番町キャンパス】 火曜3限　1703ゼミ室 【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日）　0405研究室
学生へのメッセージ	・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業回において、ワークシートを用いた作業と、その作業結果にもとづく報告・分析を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	文章表現法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

授業概要(教育目的)	ことばを用いて自分の考えや感情を表現し、相手に伝えるという技術は、人間が社会の中で他者と関わりながら生活していく中で欠くことのできない必須のものである。この授業では、文章表現に関する理論的な面からの考察と、実際に文章を書く課題への取り組みとをあわせ行うことを通じて、日本語による表現力を向上させることをめざす。表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現のありようを理解するとともに、その知識を自らの文章表現の上に応用し、実践できる力を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自分の考えや感情をことばで相手に正確に分かりやすく伝える技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内課題やペアワーク、グループワークなどに積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現を実践することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業運営に関するガイダンス、文章表現技術の必要性	相手や場面を意識して、必要な情報をわかりやすく伝えることの重要性を理解する。	「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	180
第2回	上手な意見交換の方法を学ぶ	感情的な対立を引き起こさずに、上手に意見交換を行う技術・ポイントについて理解する。	教科書第5章「上手な意見交換の方法を学ぶ」（pp.17-19）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用い	180

			るなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	文章を読解する（アカデミックリーディング）	文章の読み方の種類とその特徴について理解する。精読の方法について理解する。	教科書第6章「文章を読解する」（pp.20-22）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	文章を要約する（パラグラフの分析）	文章を要約する方法・手順を理解する。	教科書第7章「文章を要約する」（pp.23-25）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	データを集めて解釈する	データの収集や解釈にあたって、注意すべき点を理解する。	教科書第8章「データを集めて解釈する」（pp.26-28）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	プレゼンテーションを行う1　発表資料の作成	プレゼンテーションの準備に必要な情報収集の大切さを理解する。レジュメの作成方法や、プレゼンテーションの構成の基本について理解する。	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp.41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	プレゼンテーションを行う2　発表の実践	プレゼンテーションの実践と、その後のグループ内での討議を通じて、自身のプレゼンテーションの優れている点ならびに改善すべきポイントについて理解する。	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp.41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	ディベートの技法を学ぶ	ディベートに関する基本的事項ならびに論理的に議論する技術について理解する。	教科書第15章「ディベートの技法を学ぶ」（pp.47-49）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	口頭表現の基礎を押さえる	相手にとって聞き取りやすく、好印象を与える話し方がどのようなものであるかを理解する。	教科書第17章「口頭表現の基礎を押さえる」（pp.53-55）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	エントリーシートを作	エントリーシートの書き方の基本について理解する。	教科書第27章「エントリーシートを作成する」（pp.83-85）を	180

	成する1 エントリーシートの基本		読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第11回	エントリーシートを作成する2 自己分析の基本	エントリーシートにおいて要点をわかりやすくまとめる技術について理解する。	教科書第27章「エントリーシートを作成する」（pp.83-85）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	面接のコツを学ぶ	面接の目的を踏まえた上で、具体的なエピソードを交えながら話すことの大切さを理解する。	教科書第28章「面接のコツを学ぶ」（pp.86-88）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	手紙を書く1　書式の基本	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。	教科書第24章「手紙を書く1」（pp.74-76）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	手紙を書く2　依頼の手紙の基本	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、依頼の趣旨・熱意を伝えるための技術を理解する。	教科書第25章「手紙を書く2」（pp.77-79）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	手紙を書く3　手紙文作成の実践	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、書式・内容・表現のいずれにおいても礼儀にかなった手紙の書き方を理解する。	教科書第25章「手紙を書く2」（pp.77-79）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。 ・毎回の授業内で行う課題については、添削を施した上で返却し、解説を行う。
評価方法	・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。 ①課題の意図を適切に理解できている。 ②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。 ③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。 ④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。 ・平常点は、授業内に行う練習問題等への取り組み、ペアワークおよびグループワーク作業への参加状況、意見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内課題	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	授業内課題（トレーニングシート）70%、平常点30%
使用教科書名(ISBN番号)	福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著（2009）『大学生のための日本語表現トレーニング　実践編』三省堂　978-4-385-36326-4
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本語の文章表現に関する豊かな知識を有している。 【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく表現し、他者に伝えることができる。
オフィスアワー	【千代田三番町キャンパス】 金曜3限　1703ゼミ室 【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日）　0405研究室
学生へのメッセージ	・受講生自身が作業を行って実践的に学ぶ形式を取るため、教育効果を考慮して1クラスの受講定員を40名とする。受講者の抽選を行う可能性があるため、受講希望者は必ず初回授業に出席すること。 ・受講希望者が定員を超えた場合は、初回の出席者を対象に抽選を行う。2回目からの新規受講者の受け入れは行わない。 ・受講希望者が定員を超えて抽選を行う場合は、町田キャンパスの受講者を優先し、他キャンパス履修者・科目等履修生の優先順位を下げる。なお、学年による優先順位の差はつけない。 ・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・毎回の授業で作業の課題を課すので、その点を了解した上で受講すること。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ペアワーク、グループワーク、スピーチ発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	外国の言語と文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 白尾　安紗美	指定なし

ナンバリング	X13030M21
授業概要(教育目的)	「外国の言語と文化」という科目名を持つ本講義ですが、今学期はフランスの歴史や文化、社会に関するさまざまなテーマを取り上げていきます。一般的によく聞く言葉や、教科書で読んだことのある事柄について、「女性」や「地方」、「宗教」などのテーマから掘り下げ、フランスという国に対する理解を深めていきます。 単にプラスαの知識を身につけるだけではなく、他者の文化や歴史を学ぶことを通して、自身が身を置いてきた社会のあり方や、日々触れている文化を客観的に見る視点を養うことを目的とします。
履修条件	本講義はフランスについて中心的に学びますが、フランス語の学習歴は問いません。また、参考書はすべてが必読ではありません。身近に思われるものから手にとってみてください。教員の提示したもののほかに、学生が関心のあるテーマに関する書籍にあたることも歓迎します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	メディアでよく見聞きする情報からだけでは見えてこない、フランスやヨーロッパに関する知識を獲得し、他者の文化を多角的に見る意義を理解する。
思考・判断の観点（K）	授業や書籍などから得るさまざまな知識をもとに、自分の力で思考を深めることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	意見や疑問などを積極的に述べ、他の受講者の考えにも耳を傾けることができる。
技術・表現の観点（A）	与えられた課題にたいして適切な言葉で説明し、考えを述べることができる。

学習計画

フランスの文化と歴史を多角的に見る

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）

第1回	オリエンテーション	授業内容を紹介し、予定を確認する。フランスという国についての基礎知識を学ぶ。フランスといえば、華やかな文化を持つ国という印象が強いかもしれないが、本講義ではそうしたイメージから一歩引き、さまざまな観点からこの国に対する理解を深めていく。その意義について問題意識を共有する回とする。	受講者の関心について授業中に簡単なアンケートを行うので、人物や出来事、社会的なテーマなど、フランスに関する事柄で知りたいことや、それに興味を持った理由など考えてくること。また、メディアで紹介されるフランス（人）やヨーロッパに関するニュースにアンテナを張っておいてもらいたい。	120分
第2回	歴史①フランスという国とキリスト教との密接な関係	「フランス」という国はキリスト教（とりわけカトリック教会）との関係が強い国である。今回はフランスにおけるキリスト教の位置づけの基礎知識を学び、大聖堂や修道院などの宗教的建造物を通して、フランスの中世における主要な出来事を概観する。	どこでもいいので、興味のあるフランスの都市にどのような(ノートルダム)大聖堂や教会、修道院があるのか調べてみること(特徴や建立された時代についてなど)。	180分
第3回	歴史②「魔女狩り」とジャンヌ・ダルク	今回は、日本人にも名前に馴染みがあるジャンヌ・ダルクの生涯を追う。そして彼女が生きた時代、教会による異端裁判や魔女狩りについても理解を深める。	ジャンヌ・ダルクについて書籍やネットなどで簡単に調べてくること。参考書にある『図説ジャンヌ・ダルク』を読んできてもよい。	180分
第4回	歴史③フランス革命とオランプ・ド・グージュという女性	今回は「フランス革命」を取り上げる。革命前後の歴史を概観し、いわゆる「フランス人権宣言」に対して、オランプ・ド・グージュという一人の女性が提示した「女性の権利宣言」についても学習する。	世界史の教科書や参考書で挙げた文献のなかから「フランス革命」に関する箇所を読んでおくことを推奨する。「フランス人権宣言」と「女性の権利宣言」を検索して、両者の文言を事前に比べてみてもよい。	180分
第5回	歴史④「共和国」という国のかたち	今回は、現代のフランスの国のあり方を理解するにあたり重要な概念である「共和国」について学習する。「革命」という大きな歴史的出来事を経て、フランスという国のあり方にどのような変化がもたらされたのか、焦点を絞りながら19世紀フランスの歴史を概観する。	「近代国家」の成立について、参考書の該当箇所を読んでくること。	180分
第6回	地方へのまなざし①アルザス地方とは	今回から、フランスの地方の文化的多様性に目を向けてみたい。フランスといえばまず首都・パリの名が浮かぶかもしれないが、当然のことながら地方にはさまざまな伝統文化があり、それぞれに歴史がある。今回から注目するのは北東部に位置するアルザス地方である。	高校で世界史の授業を選択したことのある学生は、教科書でアルザス地方がどのように紹介されているか確認してみること。初めて聞く学生は、地図などでアルザス地方の形や、隣接する地域などを見ておいてもらいたい。 第5回までの内容に関する小テストを行う予定。押さえておくべき点は事前に提示するので復習すること。	210分
第7回	地方へのまなざし②アルザス地方の言語と宗教	引き続き、アルザス地方について学習する。今回は、この地域における言語と宗教の特殊性についてとりあげていく。	カトリック、プロテスタント、ユダヤ教などの宗教について触れるので、それぞれの違いを自分で調べてきてもよい。	180分
第8回	地方へのまなざし③アルザス地方小史（近世から近代まで）	引き続き、アルザス地方について学習する。今回はアルザスという地域がどのような歴史をたどってきたか概観する。まずは神聖ローマ帝国からフランス王国へと併合されたアルザスが、どのようにして統合されていったかをみていく。	高校の世界史の教科書などで、「ウェストファリア条約」「絶対王政」「ルイ14世」などについて書かれている箇所を確認してくること。	180分
第9回	地方へのまなざし④アルザス地方小史（近代から20世紀中頃まで）	引き続き、アルザス地方について学習する。今回は、19世紀の後半に起こったドイツへの併合、そして二つの世界大戦がアルザスの人々の生活や文化にどのような影響があったのかを学習する。	参考書などを読み、第一次世界大戦、第二次世界大戦の概要をある程度把握しておくこと。日本から見た20世紀の歴史と何が異なるか、考えてみてもよい。	180分
第10回	フランスの女性の生き方（戦後から現代まで）①解放：参政権と粛清	この回から5回にわたり、戦後から現代までの歴史を通して、フランスの女性の生き方について多角的に学習していく。この回は第二次世界大戦が終わり、「解放」されたフランスの女性に起こった参政権の付与と「粛清」という二つの出来事について学ぶ。	ヨーロッパの国々で、女性の参政権が認められたのが何年なのか調べておくこと。また、日本でいうところの戦後の粛清とは何だったか、日本史の教科書等で確認しておくと受講の際に比較がしやすいだろう。（フランスにおける女性の「粛清」に関しては少々ショッキングな画像	180分

			や映像が出てくるため、心の準備をして見てもらいたい。）	
第11回	フランスの女性の生き方（戦後から現代まで）②女性解放運動がフランスの女性にもたらしたもの	引き続き、戦後から現代までの歴史を通して、フランスの女性の生き方の変化を追う。この回では、60年代後半から70年代にかけて、フランスの女性たちが担い手となった「女性解放運動」を取り上げ、彼女たちが何を求めたのかを学んでいく。	シモーヌ・ド・ボーヴォワール（哲学者）、シモーヌ・ヴェイユ（政治家）などといった女性の人物が果たした役割について調べておくこと。	180分
第12回	フランスの女性の生き方（戦後から現代まで）③女性と装い：ココ・シャネル	引き続き、戦後から現代までの歴史を通して、フランスの女性の生き方の変化を追う。この回では、モードの国・フランスの形成に対する理解を深める手がかりとして、20世紀を通して女性の装いに変化をもたらしたココ・シャネルの生涯をたどる。	映画「ココ・シャネル　時代と闘った女性」を参考までに視聴することを推奨する。フランスの有名なファッションブランドの発祥について各自で調べてきてもよい。	210分
第13回	フランスの女性の生き方（戦後から現代まで）④女性と装い：ムスリム女性のヴェールとフランス社会	引き続き、戦後から現代までの歴史を通して、フランスの女性の生き方の変化を追う。この回では、ムスリム女性がヴェールを被ることについて、フランス社会でどのように受容されているのか、政教分離（ライシテ）の原則や移民増加の経緯とあわせてその様相を見ていく。	フランスでは正式な宗教分布の調査は行われていないが、おおよそどのくらいムスリムがいるのか、ほかにどのような宗教を実践する人びとがいるのかなど調べてみること。また、イスラームの教義において女性がヴェールを被ることがどのような意味を持つのか調べることも推奨する。	180分
第14回	フランスの女性の生き方（戦後から現代まで）⑤パリテ法、結婚、ジェンダー	ここまで、戦後から現代にいたるまでに起こったフランスの女性の生き方の変化をたどってきたが、最後に、現代のフランスにおける家族のあり方、ジェンダーに関する議論などについて学習する。	フランス人は「家族」のあり方をどのように考えているか、参考文献から関連項目や、日本のメディアの記事などを読み、日本の「家族」の捉え方との違いについて考えてみること。	180分
第15回	最終回：全体のまとめ。	本講義ではさまざまなアプローチからフランスという国を眺めてきたが、一国を多角的に見ることの意義についてあらためて問いなおしながらまとめを行う。	授業内容を振り返りながら、各自でフランスの文化やフランス社会のあり方について何を学んだか考えてくること。	180分

学習計画注記	受講者数や学生の関心、授業の進み具合などによって内容は多少変更します。
学生へのフィードバック方法	授業後に毎回提出してもらうリアクションペーパーに質問や疑問などを記入してもらい、次の授業の際に解答します。受講者の関心を把握し、適宜授業内容に反映させていきます。
評価方法	・平常点（出席とリアクションペーパー：20%） ・小テスト（1回：30%） ・期末レポート50%（2000字～3000字） 　レポート課題の詳細は授業で提示します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（リアクションペーパー）	○		○	
	小テスト（1回）	○	○	○	○
	期末レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点（毎回のリアクションペーパーの提出）20%、小テスト（1回）30%、期末のレポート50%によって評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は指定しません。配布資料をもとに授業を進め、必要に応じて参考文献も紹介します。
参考図書	上田耕造『図説ジャンヌ・ダルク――フランスに生涯をささげた少女――』河出書房新社 内田日出海『物語　ストラスブールの歴史』中公新書 剣持久木『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房 柴田三千雄『フランス史10講』岩波新書

	伊達聖伸『ライシテから読む現代フランス――政治と宗教のいま』岩波新書 中野隆生、加藤玄編著『フランスの歴史を知るための50章』明石書店 長谷川まゆ帆『女と男と子どもの近代』山川出版社 平野千果子『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房 三浦信孝、西山教行編著『現代フランス社会を知るための62章』明石書店 イレーヌ・テリー（石田久仁子、井上たか子訳）『フランスの同性婚と親子関係－ジェンダー平等と結婚・家族の変容』明石書店 クリスティーヌ・ル・ボゼック（藤原翔太訳）『女性たちのフランス革命』慶応義塾大学出版会 『ココ・シャネル　時代と闘った女性』監督ジャン・ロリターノ 『最高の花婿』監督フィリップ・ドゥ・ショーブロン 『パリ20区、僕たちのクラス』監督ローラン・カンテ
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】外国の文化や歴史を多角的に学び、豊かな知識を得ることを通じて「人間社会の多様性」に対する理解を深めることができる。 【思考・判断】数多ある情報から自らの問題関心に合わせて的確なものを取捨選択し、自分の力で思考を深めることができる。
学生へのメッセージ	受講にあたり、フランス語の学習歴の有無は問いません。フランスという国について、何かより深く知りたいという意欲がある学生を歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	異文化コミュニケーション		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	X13040C21
授業概要(教育目的)	「文化」「コミュニケーションの種類」「異文化トレーニングの方法」などについて学び、「文化の違いを調整するテクニック」を身につけることを目指す。異文化接触における具体的な場面を想定して、どのような行動をとることがベストであるか考える。授業ではワークシートに基づき自分の考えを時間内にまとめ、発表することが求められる。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人間社会の多様性を異文化を通じて理解し、自文化絶対主義に陥らずに他者を尊重できる。
思考・判断の観点（K）	異文化の人々の考え方や発想を理解し、異文化の相手に対して配慮できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に異文化について理解しようとし、異文化の人々に対して公平な見方ができる。
技術・表現の観点（A）	異文化間のトラブルに遭遇してもそれを適切に調整でき、異文化の人々に対しても自分の考えを述べることができる。

学習計画

異文化コミュニケーション

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	文化とは何か	文化とは何か考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第2回	コミュニケーション／異文化コミュニケーションの定義	コミュニケーションとは何か、異文化コミュニケーションとは何か、定義を試みる。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分

第3回	コミュニケーションのメカニズムと特性	言語コミュニケーションはどのようなメカニズムで成立するか、また、どのような特性があるか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第4回	コミュニケーションの内容面と関係面	言語コミュニケーションによる言葉の意味はどのように解釈されるか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第5回	言語コミュニケーションのスタイル	言語コミュニケーションにはどのような方法やスタイルがあるか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第6回	言語コミュニケーションの文化による違い	文化が異なると理解されにくい言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第7回	文化ギャップ：映像演習	映像を通じて文化ギャップについて考える。前半で学んだ内容を復習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第8回	中間試験と解説	この授業の前半で学んだ内容について中間試験を行う。	授業の前半に学んだ内容を復習しておく。	180分
第9回	非言語コミュニケーション（1）	非言語コミュニケーションの種類とその内容について学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第10回	非言語コミュニケーション（2）	非言語コミュニケーションの種類とその内容について学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第11回	エンパシーとシンパシー、コンフリクト・マネジメント	異文化間においてどのような考え方に基づいて行動することが適切か学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第12回	異文化トレーニング：D.I.E.メソッド	D.I.E.メソッドとはどのようなメソッドか学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第13回	異文化トレーニング：アサーティブ・コミュニケーション	アサーティブ・コミュニケーションとはどのようなことか学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第14回	異文化学習サイクル	異文化において新しく出会うさまざまな出来事について、私たちはどのように学習するか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第15回	異文化適応とカルチャーショック	異文化に適応できるとはどのようなことか、カルチャーショックとはどのような現象か理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分
第16回	期末試験	この授業の後半で学んだ内容について期末試験を行う。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	180分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。期末試験は次学期に希望者に返却する。
評価方法	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%（授業中の実績、授業参加態度）により判定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○	○		○
期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし（プリント配付）
参考図書	授業中に指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を異文化を通じて理解し、状況を的確に判断して提案できる。 【関心・意欲・態度】積極的に異文化の人々とコミュニケーションを図り、社会の構成員として徳性を持って人々のために働くことができる。 【技能・表現】学修で得た異文化に関するさまざまな知識を踏まえて自分の考えを自信を持って表現し、他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	水曜3時限　町田キャンパス1630研究室
学生へのメッセージ	授業には積極的に参加し、他人の意見に耳を傾けるとともに自分の意見を自信を持って述べて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	音楽		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし

ナンバリング	X13070M21
授業概要(教育目的)	音楽鑑賞の基本である「よく聴くこと」のために、サウンド・エデュケーションを行います。その一環として、サウンドウォークの実践や音日記を紹介し、その実践に取り組んでいただきます。講義では、人と音楽の関係、西洋音楽の歴史、民族と音楽、ジャズとクラシック、日本の音楽など、多様な音楽を視聴と解説を行います。音楽鑑賞に集中できるよう、クイズを導入した講義も行います。 なお、講義時に次回のテーマをお話ししますので、関連文献や音楽作品の視聴を積極的に行ってください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	音楽の歴史と音楽様式の変遷をたどりながら、さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、人を癒し励ましてきた音楽の魅力を探る。
思考・判断の観点（K）	さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、その発信するものを感受し、言い表そうとするものを探求する。
関心・意欲・態度の観点（V）	音楽を愛する心情を養う。 異なった時代や社会における音楽を通して、人間理解や共感を深める。
技術・表現の観点（A）	サウンド・エデュケーションの体験を通して、「音」・「音楽」への聴き方をとらえ直す。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション：聴くことの再考①	サウンドエデュケーション：「聴く」ことを問い直す。	サウンドスケープ、サウンドエデュケーションについて調べておく。	150分
第2回	聴くことの再考②	サウンドウォーク、音日記の演習	１週間の音日記を作成する。	240分
第3回	聴くことの再考③	体の諸感覚で感受する音・音楽：『タッチ・ザ・サウンド』の視聴	感想レポート「五感で音楽を感受するということについて」	150分
第4回	人間と音楽	音楽の起源・音楽の機能についての基礎知識	関連する音楽を聴いたり文献を	150分

	①		読んだりして、感想レポートにまとめる。	
第5回	人間と音楽②	音楽を聴取し、音の表情や音楽に込められた情景・感情を感受する。	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第6回	西洋音楽の鑑賞①	ルネサンスからバロックの音楽鑑賞と基礎知識	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第7回	西洋音楽の鑑賞②	古典派の音楽鑑賞と基礎知識	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第8回	西洋音楽の鑑賞③	ロマン派の音楽鑑賞と基礎知識	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第9回	西洋音楽の鑑賞④	印象派の音楽から現代音楽の鑑賞と基礎知識	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第10回	音楽と人間と社会	『魂の教育　エル・システマ』の鑑賞とディスカッション	音楽が人の心に及ぼす影響、音楽の教育力について考えておく。	240分
第11回	民族と音楽①	民族の音階と音楽（実演を鑑賞する）	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第12回	民族と音楽②	民族音楽の楽器や歌唱について発表する。	グループごとに担当地域を決めて、民族楽器や歌唱の特徴を調べておく。	240分
第13回	ジャズとクラシック	ジャズとクラシックについての聴き比べ。	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第14回	日本の音楽	日本の伝統音楽の鑑賞と基礎知識	グループごとに担当地域を決めて、民謡やお祭りの音楽について調べておく。	240分
第15回	日本の音楽②	近代から現代の音楽。童謡・唱歌等の歌唱を含む。	歌唱曲の譜読みをしておく。	240分
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業形態によって、スケジュールを変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	リフレクションシートには、講義テーマに関する予習内容、講義の中での気づき、講義内容についてさらに調べたこと（復習）を記載し、翌週の講義で提出していただきます。提出されたリフレクションシートやレポートは、採点して返却します。質問等がある場合は、その中に付記していただくと、講義の中でお答えします。
評価方法	課題評価の観点は次の通りです。 ・音や音楽を体の諸感覚で感受し、分析的に聴こうとしているか。 ・様々な表現力を持つ音楽が発信するものを感受し、言い表そうとする内容を探求しようとしているか。 ・それぞれの時代の音楽の社会・文化との繋がりに関する理解。 ・他者の感受した内容に共感することを通し、自身の音楽鑑賞を深めているか。 ・音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する理解。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	音日記		○	○	○
	リフレクションシート	○	○	○	
	グループ討議・発表とそのまとめ	○	○	○	○

評価割合	音日記（20%）、リフレクションシート：講義内容の感想および予習・復習を含む（60%）、期末レポート（20%）で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	なし（プリント配布）
参考図書	片桐　功他著「はじめての音楽史」（音楽之友社）

	岡田　暁生著「音楽の聴き方」（中公新書） 伊福部　昭著「音楽入門」（角川ソフィア文庫） 青島　広志著「これだけ！西洋音楽史」（KING RECORDS）CD
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】 音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する知識を広げ、文化的に豊かな社会に向けての提案をすることができる。 【関心・意欲・態度】 様々な表現力を持つ音楽が発信するものを体の諸感覚で感受し、豊かな感性を育む。 【技術・表現】 音楽を分析に聴いたり、他者の感じたことに共感して自己の鑑賞を深めたりすることを通し、論理性や共感性を育む。
オフィスアワー	前期：月曜日　３限　1601 後期：水曜日　 2限　1601
学生へのメッセージ	ぜひ様々な音楽に興味を持ち、積極的な態度で授業に臨んでください。質問等は随時受け付けています。 イヤフォンを外し、身のまわりの音・人の声に耳を澄ませてみよう。。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	プロの演奏家の特別講義を実施し、生演奏に触れる。
アクティブ・ラーニング	○	ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。単に受動的に音楽を聞くのではなく、課題意識をもち、感じたことの裏付けとなる音楽的特徴を考えるなどして、能動的な音楽鑑賞を行う。
情報リテラシー教育	○	レポート作成や発表のプレゼンテーションに際し、情報モラルに関する教育、情報を得るための方法、情報のアウトプットに関する内容を取り扱う。
ICT活用		ICTを活用してレポート作成を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	美学・美術史		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 久々湊　直子	指定なし

ナンバリング	X13080M21
授業概要(教育目的)	当授業は先史・古代から現代までの西洋美術の流れを概説する講義です。イタリア、スペイン、ギリシア、ドイツ、英国などヨーロッパ各地で生み出された美術作品を扱い、美術とそれを生み出した風土や地域への興味を喚起します。現在われわれが「美術館の中に安置された《美しいもの》」と考えがちな美術作品たちが、いかに多様な機能を持っていたか（そして今も持っているか）を知ってもらい、美術作品が生々しく、多弁で、多面的であるかということを共有しあうことのできる授業です。形式は講義ですが、参加者には授業中の発問応答（遠隔の場合はチャット）や毎回のワークシートの作業を中心に積極的に授業に参加していただきます。 学芸員資格、美術検定、世界遺産検定に関心がある人への入り口の役割を果たすことも一つの目的です。
履修条件	とくになし。好奇心や興味を持っている人なら誰でも歓迎です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	語学学習などで培った西洋文化・地域への興味と知識を、より実践的な行動（旅行・留学・資格取得etc.）に移し、深い異文化理解に向かうきっかけとなることを大きな目標にしています。 多くの作例に触れてもらい、その中で、西洋美術の大きな流れや時代ごとの様式の違いを識別できる様になること、シンボル・象徴・アトリビュートといった視覚文化特有の「決まりごと」を知ってもらうこと、頻繁に視覚化されてきたキリスト教主題、ギリシア・ローマ主題の内容と典拠についての知識を身につけてもらうことなどが具体的目標として挙げられます。異文化理解の基本的な知識と理解を身につけるのが目標です。
思考・判断の観点（K）	制作背景・時代背景、社会との結びつきなど、周辺の事情とともに作品を観察し、分析・考察し、それを言葉で表現する訓練も、発問応答やワークシートを通じて授業内で繰り返し行ってもらいます。視覚文化はそれだけで成り立っているのではなく、総合的な存在であることを理解したうえで考察する力を身につけてもらいます。
関心・意欲・態度の観点（V）	より深い地域への興味や異文化理解のために、授業内の発問応答やワークシートを通して、受動的な講義授業でなく、手と目と頭を動かして西洋美術に接し意欲的な学びや気づきを経験してもらうプログラムになっています。授業外の展覧会見学のフィールドワーク課題は現在難しい部分もありますがが、代わりにITを使った検索や調査、考察などを含む学年末レポートで取り組んでいただきます。
技術・表現の観点（A）	ワークシートによる毎回の表現や引用のルールについての学習はもちろん、学年末レポートでは、紙面での画像選択プレゼンテーションや表現工夫の独創的なアイディア創作に取り組んでいただきます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）

第1回	ガイダンス（履修と講義内容の説明／参考文献の紹介）	授業はパワーポイントとレジュメを中心に運営されますが、授業で使用するパワーポイントはGoogle classroom上にアップされます。これが予復習の指針となります。毎週提出するワークシートはパワーポイントとともに復習用のツールとしても活用していただきます。教室での学習の他に、美術扱ったテレビ番組、動画、美術館・博物館の常設展・展覧会の見学なども、自己の衛生管理のもとで積極的な姿勢で臨んでください。	授業はパワーポイントとレジュメを中心に運営されますが、授業で使用するパワーポイントはGoogle classroom上にアップされます。これが予復習の指針となります。毎週提出するワークシートはパワーポイントとともに復習用のツールとしても活用していただきます。教室での学習の他に、美術扱ったテレビ番組、動画、美術館・博物館の常設展・展覧会の見学なども、自己の衛生管理のもとで積極的な姿勢で臨んでください。	100分程度（復習）
第2回	先史とエジプトの造形～人が形を象ること～	洞窟壁画で精密で写実的な表現もあることを見たうえで、エジプトの形式的な様式の特徴を学びます。人類の歴史には、必ずしも「写実」を目指す方向性ばかりで造形活動をしていた訳ではない時期もあることを学びます。毎回発問対応とワークシートに取り組んでいただきます。時にはペアワーク、グループワークなどの取り組みもあります。観察や比較の重要性を学ぶワークが用意されています。	同上	150分（予復習）
第3回	古代ギリシア・ローマの発想　～外界を写すこと、理想の形を求めること～	形式的なエジプトの美術を学んだ後で、再度写実性に傾倒していくギリシア美術およびローマ美術を扱います。また同じ地域の芸術であっても時代によって様式が変化したり、作品の役割が変わったりすることも学んでいきます。特にローマ美術では、作品が権力の視覚化の役割を担ったことを学ぶことは、この語の視覚文化情報のリテラシーにも役立つはずです。 毎回発問対応とワークシートに取り組んでいただきます。時にはペアワーク、グループワークなどの取り組みもあります。観察や比較の重要性を学ぶワークが用意されています。	同上	150分　予復習＋ワークシート
第4回	キリスト教美術の始まり　～形態の抽象化とシンボルの世界～	古代ローマ時代の間に始まったキリスト教の美術を扱います。形式的でシンボルにあふれているキリスト教美術の意味を読み解くと同時に、そもそもなぜそのような形式的な様式になっているのか、既存の造形物を破壊する「イコノクラスム（聖像破壊）」の運動は、いったいどんな原理に基づいていたのか、ユダヤ教やキリスト教が持っていた「偶像崇拝禁止」のルールも合わせて扱います。毎回発問対応とワークシートに取り組んでいただきます。時にはペアワーク、グループワークなどの取り組みもあります。観察や比較の重要性を学ぶワークが用意されています。	同上	150分　予復習＋ワークシート
第5回	ロマネスク・ゴシックの美術～教会という権力・メディア～	教会権力の強大化に伴って展開する西ヨーロッパの教会建築を中心に扱う回です。ハリー・ポッターやディズニー映画の場面にも触れながら、教会堂が持つメディアの側面や体験的な空間として側面を見ていきます。毎回発問対応とワークシートに取り組んでいただきます。通常のワークシートの他に、第1回目のレポートが出されます。聖書の文言と画像をよく観察して図像を読み解く機会を持ってもらいます。	同上	300分 予復習＋レポート準備
第6回	ルネサンス～古代を学び復興するという発想～	学習内容：ロマネスク・ゴシックという中世の時代の間に、再び自然主義的な表現が出てきます。建築主流から絵画への展開、世俗権力の台頭と芸術を取り巻く環境も大きく変わってきます。一方でキリスト教美術は視覚文化特有のルールやアトリビュートが固定してくるため、ワークシートでは、ここから数回、読み解き方を学ぶ機会にもなります。	同上	150分 予復習＋ワークシート
第7回	初期ルネサンスと北方ルネサンス：古代を復興する夢／細部に神の宿る絵画	イタリア・ルネサンスで発展してくる一点透視法（線遠近法）や短縮法、北方で開発される空気遠近法といった画家の技術開発の側面を学びつつ、フレスコ画、テンペラ画、油彩画と多彩になる媒材の問題も扱います。これらがイタリアと北方という地方性ともかかわっています。毎回発問対応とワークシートに取り組んでいただきます。観察や比較の重要性を学ぶワークが用意されています。	同上	150分 予復習＋ワークシート
第8回	盛期ルネサンス：ローマと法皇たちの攻防とヴェネツィア	南北で発展した絵画のテクニックが16世紀に大きな成果となって現れ、レオナルド、ミケランジェロ、ラファエロ、ティツィアーノといった巨匠が排出する時代です。一方でカトリックとプロテスタントという宗教的な対立が芸術の在り方に大きくかかわる時代でもあり、それぞれの宗派の芸術との関係性も面白いところです。フィレンツェ・ローマとヴェネツィアの地域差も学びます。ワ	同上	150分 予復習＋ワークシート

		ークでは時代背景や作家たちの「学習」にも注目してもらいます。		
第9回	バロック・ロココ　～教会・宮廷の権力と芸術の役割～	カトリックとプロテスタントの対立はさらに大きく絵画の諸相にかかわります。カトリック圏における法王や王侯貴族たちの芸術による権力の視覚化が激化する一方、プロテスタント圏では新興市民階級が台頭し、宗教画を離れた集団肖像、風景画、風俗画、静物画といったジャンルの発展につながっていきます。18世紀のロココ芸術では、ファッションや工芸の発展も扱います。	同上	150分 予復習＋ワークシート
第10回	新古典主義とロマン主義　～権威となった様式、対抗する様式～	フランス革命前後の芸術を扱う回です。権力の視覚化に従事する芸術が終焉を迎えるのと入れ替わりに、これまでなかった「無名の人々」が主人公となる時事事件が主題となる大画面も登場する。時代は大衆が受容層の時代へと突入します。ワークでは作家が構図や設定を吟味して完成作へと作り上げるプロセスを考察してもらいます。	同上	150分 予復習＋ワークシート
第11回	写実主義から印象派へ～広がる芸術の裾野～	かつて権力の視覚化に従事していた芸術が、個人の思想を反映する様子や、芸術そのものの発展を模索する様子を見ることになる回です。官展（サロン）が牽引していた芸術界に一石を投じる革新者クールベ・マネの登場で、伝統破りこそが芸術家の使命という「アヴァンギャルド」の価値観が生まれてきます。ワークでは時代が変わっても、過去の作品の中で培われたアイディアが利用されていることも学びます。	同上	150分 予復習＋ワークシート
第12回	印象派と後期印象派～展覧会と美術の制作～	クールベ・マネを起点にして起こったアカデミーやサロンからの離反の動きがさらに展開していく様子を追っていく回です。印象派の体験した壁を越えてポスト印象派が作品の技法や概念を発展させていく様子も見ていきます。印象派展、アンデパンダン展、さらに相次いで開催される万国博覧会の役割についても考えてもらいます。異国趣味やジャポニスムについても扱います。	同上	150分 予復習＋ワークシート
第13回	世紀末美術と象徴主義～美術と工芸・デザインの融合～	ポスト印象派の様々な試みによって広がった可能性が世紀末の終末思想とともに象徴主義の耽美で爛熟した世界を繰り広げる様子を見る回になります。ここでは19世紀半ばから徐々に発展してくるファインアート（美術）とクラフト（工芸）の融合の現象にも触れていくことになります。	同上	150分 予復習＋ワークシート
第14回	フォーヴィスム・キュビスム～２０世紀美術～前衛という発想～	ポスト印象派がもたらした大きな時代の動きの中でも、特に遠近法や固有色の既存概念からの離脱に焦点を当て、その後の「現代美術」の動向の基本となる要素を学ぶ回です。ルネサンス以降の常識であった遠近法の崩壊で、時代は一気に一見非現実的、もしくは抽象化の方向へ傾倒していきます。様	同上	150分 予復習＋ワークシート
第15回	まとめ１	15回は20世紀以降の動向をダイジェストでまとめる回に予定していますが、予定通りにいかなかった場合の補足にも充てられます。学期末の2本目のレポートの質問・相談時間になることもあるかと考えられます。学年末レポートは2～3か月前には出題され、時間をかけて調査や考察を行ってもらう機会になります。	同上	500分 復習＋レポート準備

学習計画注記	毎回取り組んでもらうワークシートは、授業内容の理解促進と定着を図るものであると同時に、前回授業の復習や次回授業の予習が含まれています。授業内でノート代わりに使用すると同時に、提出後は予復習のツールとして授業外学習に活用し、豊かな学習時間を積極的に自ら作ることに努めてほしいと思います。
学生へのフィードバック方法	授業内の発問応答によるフィードバックはもちろんですが、授業の最初に前回の復習とともにワークシートの口頭講評が行われます。
評価方法	授業態度(ワークシート)、提出物(2本の学期内レポート)をもとに総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ワークシート(授業参加態度)	○	○	○	○
	学期内レポート2本（提出物）	○	○	○	○

評価割合	レポート8～9割、ワークシート（1～2割程度） 2本の学期以内レポートは単位取得必須条件です。

使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	参考図書類は授業内で適宜紹介します。初回の授業のガイダンスはとくに重要なので，受講希望者は初回授業に参加してください。
ディプロマポリシーとの関連	好奇心・興味の幅を広げ、視覚文化から異文化の社会や宗教への関心とコミュニケーションの大切さを学び、不必要な偏見や差別の無意味さを知っていただきます。多文化的状況への認識を常識として学ぶという点では、SDGsの根本的な教育にかかわる授業と言えるでしょう。
オフィスアワー	質問や指摘等は授業時（前後休み時間）に受け付けます。 （メールなどによる一方的なアクセスは受け付けていません。）
学生へのメッセージ	視覚文化に対して熱意のある学生諸氏に向けた授業です。知識を持った人よりもやる気や積極性を持った人に向いています。また、いわゆる「美術」だけでなく、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、舞台など、現代の視覚文化に興味を持つ人や、学芸員資格、美術検定、世界遺産検定にの資格取得に関心のある人にも向いている授業だと思われます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	2年間の滞在期間にフィールドワークとして行ったスペインおよびヨーロッパ各地の地域研究、美術中心の旅行オーガナイズなどの経験から、ヨーロッパ視覚文化にまつわる豊かな事例を提供します。
アクティブ・ラーニング	○	発問応答、eラーニングも活用した授業内ワークシート、それに対する翌週のフィードバック、紙面のプレゼンテーションといったアクティブ・ラーニングの諸要素を含み、能動的な参加を求める講義となっています。
情報リテラシー教育	○	とくに西洋視覚文化独特の読み解きや意味・象徴のリテラシー(発信)の教育に意識的なプログラムとなっています。異文化理解や自文化との差異、比較文化の情報リテラシーを学びたい人にも適します。
ICT活用	○	スクリーンに映し出されるパワーポイントの使用が授業運営の基本となります。ICTの活用ならではの細部画像、時には映像も活用しての授業となります。副教材の配布や提出物の収集などは全てICTを利用した授業になります。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	色彩論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 滝沢　真美	指定なし

ナンバリング	X13090C21
授業概要(教育目的)	色彩学は物理学、光学、工学、生理学、心理学など広範囲な複合領域である。この授業では、幅広い色彩の分野を総合的に知り、基礎知識を習得することを目標にしている。その中で、感覚的に捉えられがちな色彩をマンセル体系に基づいたHUE&TONEシステムを通して、論理的に捉えられるようにする。配色実習を通して、日常生活の中で色彩を使いこなせるよう、配色の基本ルールとカラーイメージ表現の基礎を習得する。グローバル社会の中で文化としての日本の色について学び、高齢者や色弱者に対応するカラーユニバーサルデザインについて学ぶことで、色彩を通して社会を見つめる目を養う。
履修条件	１．基本的な日本語能力があること。（講義内容の日本語が理解できる、日本語の質問に日本語で答えられる、日本語で書かれた試験問題を正しく理解し回答できる） ２．指定の教科書（書籍）と教材（色紙）の両方を準備できること。両方ないと授業に参加できない。教材（色紙）は大学のHPの教科書販売サイトからでないと購入できないので注意すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.業際的に広がる色彩の果たす役割を知り、リベラルアーツとしての色彩の基礎知識を身につける。
思考・判断の観点（K）	1.好き、嫌いではなく、よい色の使い方、悪い色の使い方を、理論的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.グローバルな視点で「日本の色とは何か」を説明できる。 2.「カラーユニバーサルデザイン」を学ぶことで、万人に伝わる色彩情報の伝え方を理解する。 3.1と2の2つの観点から、色彩を通して現代社会を考える。
技術・表現の観点（A）	1.学問としての座学の色彩学に加え、自分の生活で応用できる実践的な配色テクニックやセンスアップの方法を学び、自己表現できるようになるとともに、配色によって美しい環境をつくる方法を理解する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	色とは何かを知り、色彩の果たす役割を理解する。色彩検定、カラーコーディネーター検定、色彩業界の今について紹介する。15回の授業の全体像を理解する。	使用教科書、教材の確認を行う。	30分
第2回	色とは何	色を見るための光について理解する。自然光と人工光を	学習シートの解答を確認し、レ	180分

	か、照明と色	含めた照明について理解する。	ポート課題を作成する。	
第3回	色が見える仕組み、色覚説	目の構造を学び、網膜の中の錐体細胞、桿体細胞の役割を理解する。色弱がなぜ起きるか、その仕組みを理解する。代表的な色覚説についてを理解する。	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。	180分
第4回	色の混色 HUE&TONE表の作成	加法混色、減法混色の原理、三原色、応用分野を理解する。加法混色の一種である中間混色について理解する。特に、加法混色と減法混色に関しては、色紙を貼付しながらビジュアルで理解を深める。色紙の使い方、HUE&TONE表の作成方法について説明する。	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。 6回目以降の授業で使うHUE&TONEシステムの一覧表に、色紙を貼付しておく。方法については授業時に説明する。	240分
第5回	色の伝達方法　1色名 2様々なカラーシステムの紹介	色を伝える方法として、まず色名について理解する。そのために、自分の知っている色名を各自が書き出し、授業の中で発表してもらう。その結果を基に、色名の分類方法について学ぶ。特に慣用色名の中で知っておきたい色名を紹介する。次に、色を伝える方法として代表的なカラーシステムを紹介する。	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。慣用色名については、自分の知らなかった色名について復習する。教科書1章1節表色系の分類（P9）を読み、カラーシステムの大分類を復習する。代表的なカラーシステムのうち、この授業で触れないカラーシステムについては、参考文献を使って確認をしておく。色彩検定またはカラーコーディネーター検定受験希望者は、復習時間を長めにとること。	180分
第6回	マンセル表色系	マンセル表色系の色の三属性について理解する。特に、色相について、色紙を使いながら理解を深める。	授業前には、教科書1章2節のマンセル表色系（P10～13）の部分を予習しておく。学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。	180分
第7回	HUE&TONEシステム　トーンの仕組み	マンセル表色系を基にしたHUE&TONEシステムについて理解する。特に、教科書1章3節HUE&TONEシステム（P14～23）を使って、明度と彩度を一緒にしたトーンの概念を理解する。トーンに関しても色紙を使って、ビジュアルで確認しながら理解する。	4回目の教室外学習で作成したHUE&TONE表を準備しておくこと。 授業前には、教科書1章3節HUE&TONEシステム（P14～23）を読み予習しておく。学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。	180分
第8回	マンセル表色系とHUE&TONEシステムのまとめ　生活の基本色	2つのシステムの表記方法の違いと、メリット、デメリットを理解し、使い分けができるようになる。色相の果たす役割、トーンの果たす役割を理解する。HUE&TONEシステムを使った応用として、色紙を使って嗜好色診断を行い、自分のカラーボキャブラリーを確認する。カラーデータの収集方法や分析方法、ファッションとインテリアの基本色についても学ぶ。	教科書1章全体を熟読し、マンセル表色系とHUE&TONEシステムについて復習し、学習シートの解答を確認した上で、レポート課題を作成する。嗜好色診断の結果を基に、自分のクローゼットの中の洋服の色や身の回りにある色について観察する。自分の好きな色、嫌いな色について、具体的にカラーシステムの中で理解しておく。	210分
第9回	補色残像、対比、同化、色の心理的効果	色紙を使って補色残像の実験を行い、人間の色の見え方の中で生理的現象について確認する。色は単独では存在せず、置かれる場所や組み合わせによって違って見えることを、対比と同化の2つの観点から、色紙を使って自分の目で確認しながら理解する。色の心理的効果を理解する。	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。特に対比、同化に関しては、授業で紹介した事例を自分の生活の中で確認しておく。	180分
第10回	基本配色テクニック実習１（ワーク＋講義）	教科書3章1節（P41～43）を読み、まとまり（同系色、トーンのコントラスト弱）ときわだち（反対色、トーンのコントラスト強）、トーン配色（同系色で濃淡をつけた配色）と色相配色（多色相を使ったカラフルな配色）、グラデーション（漸変）とセパレーション（分離）の６つの基本配色テクニックを、練習用配色シートに貼りながら理解し、シートを完成させる。	教科書3章1節（P41～47）を通読しておく。 6つのテクニックがよく理解できなかった場合は、教科書を読みきちんと復習しておく。	180分
第11回	基本配色テクニック配色実習2（ワーク）	第10回で学んだ6つの基本配色テクニックに対して、自分のオリジナルで配色シートを完成させ、実物を提出する。	教科書3章1節（P41～47）を通読し内容を理解しておく。提出する配色シートは、成績評価の対象となることから、授業中に完成しなかった場合は、次週提出できるよう準備をしておく。	240分
第12回	配色センスアップの方法、カラー	教科書3章2節（P48～58）と学習シートを併用しながら、配色センスアップの具体的な方法を理解する。カラーユニバーサルデザインに関しては、教科書3章2節（P58～59）とCUDO（カラーユニバーサルデザイン機構）のサイ	教科書3章2節（P48～59）を熟読し、学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。視認性の高い配色について、第	180分

	ユニバーサルデザイン	トや書籍を紹介するので、その考え方や対策について理解する。	3回の網膜の中の細胞の役割から説明できるかどうかを確認し、できない場合は、第3回の教室外学習を再度行うこと。	
第13回	色彩心理、カラーイメージ	教科書4章（P62～87）を使って、主要な色のカラーイメージを確認する。その色が生活の中で具体的にどのように使われているかを確認し、カラーイメージを正しく伝える方法を理解する。	学習シートの解答を確認し、レポート課題を作成する。教科書4章（P62～87）を熟読し、主要なカラーイメージとその応用方法について理解する。授業の中で簡単に紹介するイメージスケールについても、教科書5章1節（P117～121）を通読しておくこと。	180分
第14回	イメージスケールとイメージ配色実習	教科書第6章1節（p116～121）を使って、イメージスケールを紹介する。いくつかのテーマに対して、イメージで配色をする実習を行う。色彩心理学に基づいて開発されたイメージスケールの使い方を理解する。	教科書第6章1節（p116～121）を通読する。	180分
第15回	色と文化、日本の色	第14回で課題として出した「日本の色だと思う単色」と「日本のイメージの配色」を使って、日本らしい色やイメージを掘り下げて考える。学習シートを使って、日本の色彩文化として知っておきたいキーワードの五行思想、冠位十二階、襲色目、四十八茶百鼠についても理解する。最後に授業全体のまとめを行う。	第15回の講義に向けて「日本の色」だと思う色をHUE&TONE表から3色選び、その理由を記入しておく。「日本のイメージ」については、3色配色を作りその理由を記入しておく。 日本の色の特徴や、色名を伝えられるようにしておく。レポート試験に向けて、第10回～第11回を除く回全ての総復習を行う。	180分

学生へのフィードバック方法	レポート課題に関しては、各自にフィードバックは行わないが、次週の授業の冒頭に、模範解答を口頭で解説する。 第11回の配色実習課題は、授業中にできた状態で順次確認し、間違いがあれば指摘して修正をしてもらう。 検定対策の授業ではないが、授業の中で検定で出題される部分に関しては、その旨アナウンスする。また、その箇所に関して質問がある場合は、質問を受け付け、授業にて解説する。
評価方法	レポート試験（持ち込み可）、配色実習シート、平常点（出席状況やレポート課題の提出状況）の3つにより総合的に判断する。15回のうち、3分の2以上の出席がない場合は、受験資格がないため不合格となる。 レポート試験は、毎回出題するレポート課題の中から出題するので、授業終了後次の授業までの間に作成し、模範解答を確認しておくこと。配色実習シートの提出をもって、配色の採点を行うので、必ず提出すること。レポート試験80点、配色実習シート15点、平常点5点の100点満点とし、総合で60点以上を合格とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート試験	○	○	○	
	配色実習シート	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	レポート試験80%（試験期間に実施） 配色実習シート15%（第11回の授業で作成したものを提出） 平常点（出席状況やレポート提出状況）5% 60点以上で合格
使用教科書名(ISBN番号)	住宅インテリアのための実践カラーテクニック　滝沢真美（トーソー出版） 978-4-904403-21-1 新デザイントーン130　色紙（B8）（日本カラーデザイン研究所）
参考図書	カラーコーディネーター検定試験®スタンダードクラス公式テキスト （東京商工会議所） 生活の色彩学 ―快適な暮らしを求めて―橋本令子・石原久代 編著（朝倉書店） カラーユニバーサルデザイン　カラーユニバーサルデザイン機構（ハート出版）
参考URL	http://www2.cudo.jp/wp/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】日常生活に欠かせない色彩を幅広い角度から総合的に理解する。 【関心・意欲・態度】カラーユニバーサルデザイン、日本の色を通して、現代社会の一員として、自らのあり方を考える。 【技術・表現】配色テクニックを身につけることで、美しい環境作りの方向性を理解する。

学生へのメッセージ	1.日頃から生活の中に広がる色を観察して欲しい。また、美術館に行くなど、美的なもの触れる機会を意識して増やしてほしい。 2.授業では、ワークシートの貼付や配色実習で色紙を使用する。そのための事前準備は適宜指示するので、準備を済ませてから授業に臨むこと。 3.教科書、教材、のり、はさみは毎回持参すること（のりは口紅タイプかテープ状） 4.配布したプリントや色紙の紛失には十分注意すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第6回～第14回は、日本カラーデザイン研究所の色彩基礎セミナーで企業向けに行っている内容を、学生向けに噛み砕いて講義を行う。結果として、生活の中で実践的に使えるカラーテクニックが学べるようになっている。
アクティブ・ラーニング	○	実際の色紙を切る、貼るという作業や、具体的な配色を作成するなど、演習的な要素を盛り込んだ授業となっている。また、色名、カラーイメージ、日本の色などを考えさえ、発表させることで、参加型の授業となっている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	民俗学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	X13050C21
授業概要(教育目的)	民俗学は「普通の人びと」の暮らしや文化を明らかにしようとする学問である。この科目では、毎日の仕事にいそしみ、時には楽しみ、時にはつらいことにも直面した、普通の人びとの「暮らし」について、民俗学の視点からアプローチしていく。具体的には、日本各地における都市や村落での生活文化の多様性やその移り変わりについて、地域の社会構造や衣食住、儀礼、信仰、言い伝えといった観点から学ぶ。それにより、われわれの生活文化や習慣の根底には、暮らしに関わるどのような知恵、技術、考え方が存在してきたのかを明らかにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	民俗学の成り立ちや民俗学の考え方を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	具体的な事例をあげて、民俗の多様性を説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	民俗学の方法・視座や成果について、自らの経験と関連づけながら捉えてみることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

民俗学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	民俗とは何か	ガイダンスを行う。民俗とはなにか、民俗学とはなにか、「普通の人びと」の暮らしを探る方法について考える。	「民俗」や「民俗学」について、調べておくこと。	180分
第2回	食からみる民俗①	なぜ正月には餅を入れた雑煮を食べるのか、日本人はモチモチした食感を好むのか。餅を食べることや贈り物としての餅を通して、非日常の職としての「餅」がもつ社会的な意義やその背景にある稲作との関連などについて考える。	各自、自宅で食べる「雑煮」について、どのようなものか調べておいて下さい。	180分

第3回	食からみる民俗②	「餅」は正月に欠かせないものと思われているが、日本には餅を禁忌とする「餅なし正月」の慣行をもつ地域もある。ここでは「餅なし正月」をめぐるいくつかの解釈を示しつつ、商品作物の普及や儀礼食の多様化について考えていく。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第4回	食からみる民俗③	日常の食について、雑穀やイモ、木の実などを食べる慣習を中心に考えていく。とくに北上山地や飛騨地域、山梨県の事例を検討する。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第5回	村の民俗①	人びとの暮らしの舞台であった「村」について、その構造や境界、村のなかの組織などの観点から考えていく。まず稲作を中心とした村落について、生業や儀礼などを取り上げる。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第6回	村の民俗②	山村と呼ばれる村落について、特徴的な生業や儀礼、伝承などを取り上げる。また、平地から山がどのようにみられていたのか、「愚か村」話とよばれる口承文芸や、平家落人伝説から考える。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第7回	村の民俗③	海を中心とした村落について、生業や儀礼などを中心に考えていく。特に伝統的な漁を行うにあたって伝えられてきたさまざまな技術や禁忌とされる慣行などについてみていく。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第8回	婚姻・出産・子育て①	さまざまな婚姻習俗と婚姻後の家族関係について、その多様性に着目しながら考えていく。とくに日本の伝統的な家族のバリエーションについて検討する。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第9回	婚姻・出産・子育て②	近代医療が普及する前の出産について、出産や月経時に使われた「産屋」の習俗や、エナ（胎盤）をめぐる習俗などを中心に考える。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第10回	婚姻・出産・子育て③	子育てに関するさまざまな習俗や儀礼、伝承などを取り上げる。また、伝統的な村のなかで子どもを育てるとはどういうものであったか、その目的などについて考える。	指示された文献に目を通しておくこと。	90分
第11回	グループワーク	各自の関心に従ってテーマを設定し、さまざまな民俗誌などから事例を探す、もしくは聞取り調査を行い、グループ内で議論を行う。	グループワークに向けて各自、図書館での文献調査や聞取り調査を行う。	180分
第12回	民俗と現代①	民俗学的な視点から「現代」を考える。ここではインターネット上で流布される都市伝説（ネットロア）を取り上げ、その伝達過程や変容について検討する。	自分がどのようなネットロアを知っているか、まとめておく。「きさらぎ駅」「八尺様」などのオカルト話もネットロアです。	180分
第13回	民俗と現代②	「民俗」は現代社会においてどのように変化するのか。ラーメンや餃子、喫茶店モーニング、アマビエなど、我われの身近な食文化から、民俗の変容を考える。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分
第14回	民俗と現代③	江戸時代や昭和レトロを売り物にした観光施設はなぜ作られ、消費されるのか。「日本のふるさと」や「昔なつかしい」という観点から、民俗の商品化について考える。	行ったことのある「なつかしさ」を売り物にした観光地、施設などについてまとめておく。	180分
第15回	まとめ	民俗とは何か、それを知ることにどのような意味があるのか。これからの「暮らし」を考えるうえで民俗学をどのように活用するか、考える。	指示された文献に目を通しておくこと。	180分

学習計画注記	授業の進行状況によって内容が変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行う。グループワークの成果についてはコメントをつけて返却する。
評価方法	毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめる。このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。グループワークや期末試験では、授業内容を踏まえて適切な考察をしているか、わかりやすく他者に伝える表現がなされているか、評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末試験	○	○	○	○
	グループワーク		○	○	○

	コメントシート	○		○	

評価割合	平常点（コメントシート）30%、グループワーク20%、期末試験50%で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。 島村恭則『民俗学を生きる―ヴァナキュラー研究への道―』晃洋書房、2020年。 菊地暁『民俗学入門』岩波書店、2022年。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】民俗学が社会の中でもつ役割を理解できる 【思考・判断】民俗学の視座・方法と成果の何が日常生活を考えるうえで有益であるか判断できる 【関心・意欲・態度】民俗学の視座・方法と成果を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる
学生へのメッセージ	民俗学は古いことを知るだけではなく、我われが暮らす現代社会も研究の対象とします。ネットの都市伝説もラーメンやタピオカもアマビエも研究対象になり得ます。民俗学の視点で身の回りのものを眺めてみて下さい。 受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。 自分の身近な事例について、積極的に探ってみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークでの議論や、民俗学的な調査を実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	考古学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐藤　恵子	指定なし

ナンバリング	X13060M21
授業概要(教育目的)	考古学は、人類が社会生活を営むにあたって残してきた痕跡、すなわち遺跡や遺構そして遺物といった物資料から人類の文化を再構築していく学問である。本講義では、考古学の学問的位置付けから考古学研究の意義と理論を学び、また研究法や調査法など実践の基礎も併せて学修していく。さらに講義では、諸分野と併せた多角的な歴史考察の可能性を実際の調査事例を基に探っていく他、文化財に対する知見も深めていく。本講義が目指すのは、考古学に関する基礎知識を学修し、多角的視点を養い、人類の歴史への理解を深めていくことである。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	考古学に関する基礎知識を身につけ、その特徴を説明できる。 考古学の視点から歴史を考察することができる。 文化財に関する基礎知識を身につけ、その特徴を説明できる。
思考・判断の観点（K）	考古学と諸分野との関係性から歴史を再構成する可能性を指摘できる。 文化財の現状を多角的視点から説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	人類が営んできた社会文化を俯瞰的に考察することができる。 身近に存在する文化財への意識を高める。 博物館の展示資料から人類の文化・地域の文化に対する関心を高める。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

考古学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	本講義の概要の他、講義全体の構成と内容について紹介する。また、評価方法についても説明する。	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：講義スケジュールや評価方法について確認しておくこと。また、次週の講義内容に関	予習：90分 復習：90分

			する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	
第2回	考古学とは何か	考古学の目的および成り立ちを学ぶことを通して、学問としての考古学の位置付けや意義について考察する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第3回	考古学の資料	考古学の資料とは何か。考古学資料の特性について学ぶ。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第4回	考古学の調査	考古学の調査の種類や調査方法のほか、成果の報告までの一連の調査行程に関する基礎知識を学ぶ。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第5回	考古学資料の研究方法（１）：整理	発掘調査によって得られた資料の整理方法について学ぶ。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第6回	考古学資料の研究方法（２）：型式	考古学資料の観察方法を学ぶことで、資料がどのような特性をもち人類の社会生活の中に存在していたのか理解する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第7回	考古学資料の研究方法（３）：機能と分布	考古学資料がどのように使用されていたのか、そしてそれがどれほどの広がりをもっているのか、人々が築き上げてきた文化圏について考察する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第8回	考古学資料の研究方法（４）：年代	考古学における年代の考え方を理解する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第9回	考古学資料の研究方法（５）：年代	考古学資料の年代を決めるにはどのような方法があるのか。自然科学に基づく年代測定法の原理を学ぶことを通して精度の高い編年体系を確立していく方法を理解する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第10回	考古学と関連分野	様々な考古学に関する知見を広めるとともに、考古学と関連する諸分野との学際的研究の可能性について考察する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示す	予習：90分 復習：90分

			るので、それについて考察しておくこと。	
第11回	歴史時代の考古学を考える（１）	文字史料がある時代の考古学の意義について学ぶ。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第12回	歴史時代の考古学を考える（２）	現在のカンボジアに所在するアンコール遺跡を事例に考古学と文字史料の関係から歴史を考察する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第13回	歴史時代の考古学を考える（３）	現在のカンボジアに所在するアンコール遺跡を事例に考古学と文字史料の関係から歴史を考察する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。また、次週の講義内容に関する課題を提示するので、それについて考察しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第14回	考古学と現代社会	考古学が現代社会にどのように関与しているのか、文化財の観点から理解する。	予習：前回講義で提示された課題を考察しておくこと。 復習：講義の最後に実施するリアクションペーパーの課題を復習しておくこと。	予習：90分 復習：90分
第15回	授業のまとめ	これまでの講義の内容を整理し、理解を深める。	これまでの講義内容およびリアクションペーパーの課題を整理しておくこと。	予習：90分 復習：90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合などによってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	本講義では、下記の通り、課題の考察、リアクションペーパー、期末試験を通して学習目標到達を目指す。 ① 課題の考察：次回講義内容に関する課題を予習として考察することを促すことで学生の理解度を高める。 ② リアクションペーパー：学生の理解度及び質問や疑問点を把握する。これを踏まえ、次回の講義冒頭でその解説や説明を行うことで学生の興味関心を高めると共に知識の定着をはかる。 ③ 期末試験：試験前に本講義内容全体の復習を行うことで、改めてポイントを整理し、学生の疑問点を解消する。
評価方法	本講義では、下記の通り、「リアクションペーパー」と「期末試験」を通して評価を行う。 ① リアクションペーパー（基本的に毎講義）：講義内容のポイントがおさえられているか評価する。リアクションペーパーに取り組む時間は、講義終了前に一定の時間を設ける。また、この課題の提出をもって出欠の判断も行う。だがその際、特別な事情を除き、講義に参加せずして提出されたリアクションペーパーは評価の対象外とする。 ② 期末試験（１回）：講義内容の理解度を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパー	○	○	○	
	期末試験	○			

評価割合	リアクションペーパー（40%）、期末試験（60%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しない。 毎回、配布資料を教材として用意する。
参考図書	1.『考古学：理論・方法・実践』コリン・レンフルー，ポール・バーン著、池田裕他監訳、東洋書林、2007年 2.『考古学入門』鈴木公雄著、東京大学出版会、1988年 3.『はじめて学ぶ考古学』佐々木憲一他著、有斐閣アルマ、2011年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき

	姿を的確に判断して提案できる。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働くことができる。
学生へのメッセージ	考古学は人類の歴史を遺跡や遺構そして遺物から読み解き再構築していく学問です。その分野は多岐に渡り、また諸分野との学際研究も多く行われ、人類史研究において重要な学問の一つでありますが、また同時に私たちの生活に身近な学問でもあります。周囲の地勢環境に目を向け、また博物館などに足を運ぶなどして物資料へ関心を寄せてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	発掘調査、遺物の整理、復元、また考古学資料と文字史料の学際研究成果など、実務経験に基づいた講義を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎数学ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	X13100M21
授業概要(教育目的)	高校までの数学は，どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では，まず，高校までに学習した数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで，知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に，それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて，事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで，公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	文章題１（料金の割引）	タイムセール，まとめて商品を購入するとき，団体でサービスを利用するときなど，何らかの割引があることが一般的である。割引の条件を読み取り，料金を考える問題を扱う。	予習：教科書Ⅰ部１．料金の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部１．料金の割引の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第2回	文章題２（代金の精算）	支払総額を，全員が「割り勘」している状態にもっていく問題を扱う。第１回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部２．代金の精算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部２．代金の精算の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分

第3回	文章題３（分割払い，仕事算）	分割払い，および仕事算を扱う。いずれも分数計算が必須である。第２回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部３．分割払いのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部３．分割払いと配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第4回	文章題４（損益算）	「原価」「定価」「売価」「利益」などの用語の関係を把握し，それらを使いこなす損益算を扱う。小数と分数，百分率と歩合の関係もおさえておく必要がある。第３回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部４．損益算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部４．損益算の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第5回	文章題５（速度，通過算，流水算）	人，自動車，電車そして船の移動する速度を扱う通過算，流水算を扱う。移動した道のり，所要時間，速度の関係を理解することが大事である。単位の変換も必須となる。第４回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部５．速さのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部５．速さの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第6回	四則演算，多項式の計算，指数計算，割合と比	四則混合計算の順序，根号を含む計算，多項式の計算，指数法則，割合と比を扱う。第５回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部１．間違えやすい計算問題のPOINTおよび 教科書Ⅱ部２．割合と比のPOINTに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部１．間違えやすい計算問題および 教科書Ⅱ部２．割合と比の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第7回	方程式と不等式（１次方程式・不等式，連立方程式・不等式），いろいろな問題[1]	１次方程式・不等式，連立方程式・不等式，整数問題を扱う。第６回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部３．１次方程式・不等式と連立方程式のPOINTおよび 教科書Ⅱ部６．いろいろな問題[1]のPOINTに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部３．１次方程式・不等式と連立方程式の演習問題および 教科書Ⅱ部６．いろいろな問題[1]の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第8回	因数分解と２次方程式，中間テスト	因数分解と２次方程式の解を扱う。第７回の理解度を確かめるための小テストを行う。中間テストも行う。	予習：教科書Ⅱ部４．因数分解と２次方程式のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部４．因数分解と２次方程式の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第9回	ブラックボックス	数値を一定のルールで変換する装置を複数つないで回路をつくり，入出力される数値の関係を明らかにする所謂ブラックボックスの問題を扱う。第８回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部１２．ブラックボックスのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部１２．ブラックボックスの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第10回	関数１（１次関数、頂点が原点にある２次関数）	１次関数と頂点が原点にある２次関数のグラフ描画および平面幾何への融合問題を扱う。第９回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部５．１次関数と２次関数のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部５．１次関数と２次関数の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第11回	関数２（頂点が原点にない２次関数）	２次関数を平方完成して，グラフを描画する。また，描画グラフを利用して２次不等式の解を考える問題を扱う。第１０回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第12回	関数３（２次関数の応用）	２次関数の応用として，経済学への応用問題等を扱う。第１１回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第13回	関数４（指数関数と対数関数）	自然現象や社会現象に焦点をあてながら指数関数や対数関数を扱う。第１２回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅲ部２．関数のはなしに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第14回	不等式の表す領域	不等式の表す領域を考える問題を扱う。第１３回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部１１．グラフと領域のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部１１．配布プ	予習60分，復習120分

			リントの演習問題に取り組むこと	
第15回	線形計画問題	線形な等式および不等式の制約条件のもとで，線形な目的関数の最大値あるいは最小値を考える，所謂線形計画問題を扱う。 第１４回の理解度を確かめるための小テストを行う。期末テストも行う。第１６回目にテストの振り返りを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書Ｉ部１１．グラフと領域の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分

学生へのフィードバック方法	復習で扱う演習問題(課題)について，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト） 中間テストや定期テスト（期末テスト）は，各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可を予定している。 ２．課題 毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。 ＊中間テスト，定期テスト，課題は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間テスト	○			
	定期テスト（期末テスト）	○			
	課題	○			○

評価割合	中間テスト(30%)，期末テスト(30%)，課題(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	文系女子大学生の数学演習（ISBN:978-4-416-91632-2）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を，数学的な知識をもって理解し，あるべき姿を的確に判断することができる。 【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し，その課題を論理的に分析・統合・表現することで，他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	数学は，授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して，自らの頭と手を動かして思考することが大事である。 授業は丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は，遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎数学ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	X13110C21
授業概要(教育目的)	高校までの数学は，どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では，まず，基礎数学aで扱ったテーマ以外で，高校までに学習した数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで，知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に，それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて，事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで，公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	平面図形	図形の平行移動・回転移動・対称移動，図形の内角と外角，平行線と線分の比，四角形の概念集合，平行線と面積を扱う。	予習：教科書Ⅱ部７．平面図形の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部７．平面図形の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第2回	作図	線分の垂直二等分線と三角形の外心，角の二等分線と三角形の内心，垂線と垂心，重心，傍心，円の接線，正多面体を扱う。第１回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部８．作図のPOINTおよび例題に目を通しておくこと	予習60分，復習120分

			復習：教科書Ⅱ部８．作図の演習問題に取り組むこと	
第3回	合同と相似	三角形の合同条件，三角形の相似条件，相似な図形の面積比や体積比を扱う。第２回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部９．合同と相似のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部９．合同と相似の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第4回	円の性質	円の面積，扇形の弧と面積，円周角および中心角の定理，円に内接する四角形の性質，接弦定理，円の外から２接線を引いたときの接点までの長さに関する性質などを扱う。第３回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部１０．円の性質のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部１０．円の性質の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第5回	空間図形	柱体や錐体の体積，球の体積と表面積を扱う。第４回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部１１．空間図形のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部１１．空間図形の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第6回	三平方の定理と余弦定理・正弦定理	三平方の定理およびその拡張ととらえられる余弦定理，さらに正弦定理を扱う。第５回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅱ部１２．三平方の定理のPOINTおよび例題，さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部１２．三平方の定理の演習問題，さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第7回	流れと比率	人やモノの流れを式で表す問題を扱う。第６回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部１３．流れと比率のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部１３．流れと比率の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第8回	集合，中間テスト	条件を満たす集合の要素の個数を求める問題を扱う。第７回の理解度を確かめるための小テストを行う。中間テストも行う。	予習：教科書Ⅰ部６．集合のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部６．集合の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第9回	順列・組合せ	場合の数のテーマのうち，並べる問題「順列」と選ぶ問題「組合せ」を扱う。第８回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部７．順列・組合せのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部７．順列・組合せの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第10回	確率	確率および条件付確率の問題（ベイズの定理を含む）を扱う。第９回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部８．確率のPOINTおよび例題，さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部８．確率の演習問題，さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第11回	数列	等差数列，等比数列，階差数列，フィボナッチ数列，群数列の問題を扱う。第１０回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第12回	資料の読み取り	図や表や文章から必要な情報を読み取る問題を扱う。第１１回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：教科書Ⅰ部１０．資料の読み取りのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部１０．資料の読み取りの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第13回	推論１（論理式，ベン図）	論理式やベン図を用いた推論の問題を扱う。第１２回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第14回	推論２（発言の正誤を推論する問題，対応関係）	所謂うそつき問題と，対応関係の推論の問題を扱う。第１３回の理解度を確かめるための小テストを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第15回	推論３（リーグ戦，トーナメント	リーグ戦とトーナメント戦の推論の問題を扱う。第１４回の理解度を確かめるための小テストを行う。期末テストも行う。 第１６回目にテストの振り返りを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分

	戦） 定期テスト			

学生へのフィードバック方法	復習で扱う演習問題(課題)について，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト） 中間テストや定期テスト（期末テスト）は，各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。 ２．課題 毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みおよび小テストを評価する。 ＊中間テスト，定期テスト，課題は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間テスト	○			
	定期テスト（期末テスト）	○			
	課題	○			○

評価割合	中間テスト(30%)，期末テスト(30%)，課題点(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	文系女子大学生の数学演習（ISBN:978-4-416-91632-2）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を，数学的な知識をもって理解し，あるべき姿を的確に判断することができる。 【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し，その課題を論理的に分析・統合・表現することで，他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	数学は，授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して，自らの頭と手を動かして思考することが大事である。 授業は丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は，遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）@町田まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	数学トピックス		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	X13120M21
授業概要(教育目的)	身の回りにはたくさんの「不思議」がある。A4サイズの紙の縦と横の長さの関係は？ゲームの背景に数学が存在するものがあるって本当？複利の借金ってなぜ恐い？GPSはなぜ現在の位置情報を把握できるのか？いくつかの神社に数学の問題と解答が奉納されているけどあれって何？ などである。高校までで学んだ数学を，有機的に結合させることで「身の回りの不思議」のいくつかを解決することができる。トピック的に取り上げて「先人たちのアイディアや知恵」について解説する。 ＊毎回の授業では、はさみ、のり、定規、コンパスを持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して，数学的な視点で解決しようと試みることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	鳩の巣原理，カプレカ数，黄金比，白銀比（数のおもしろさ）	鳩の巣原理を応用した事例を紹介する。おもしろい性質をもつカプレカ数を紹介する。 黄金比，白銀比を紹介する。	復習：鳩の巣原理を利用した問題を作成する。黄金比，白銀比がどこにあるか３例ずつ紹介する（図も描く）。	180分
第2回	六角将棋１（論理のおもしろさ）	ヘックスを楽しむ。六角将棋の盤とコマを作成する。	復習：六角将棋を完成させ，ルールを確認し，周りの人と対戦する。	180分
第3回	六角将棋２	六角将棋の大会をする。	復習：勝敗およびその要因を詳	180分

	（論理のおもしろさ）		細にレポートする。	
第4回	空間図形の展開図１（図形のおもしろさ）	ニンジンやジャガイモから定型図形に限らない立体図形（多面体および可展面に限る）を切り出し，その展開図を作成する。	復習：切り出した立体図形の写真を撮る。展開図を完成させる。	180分
第5回	空間図形の展開図２（図形のおもしろさ）	完成した展開図を基に，ペーパークラフトを完成させる。 まずは，展開図のコピーをとり，切り出した辺と辺がしっかり合わさるかなどをチェックし調整する。	復習：完成したペーパークラフトからもう一度立体図形を作成し，その写真を撮る。 そして，以前に撮ったニンジンやジャガイモから切り出した立体図形の写真とあわせて提出する。	180分
第6回	２次曲線の焦点（図形のおもしろさ）	２次曲線（放物線、だ円、双曲線）の焦点の図形的性質を理解し，日常への応用例を知る。	復習：焦点の性質は日常に広く応用されているので、授業で紹介したもの以外にも事例を調べる。	180分
第7回	n進数を利用したゲーム１（情報理論）	n進数を理解する。	復習：n進数の理解を深める課題に取り組む。	180分
第8回	n進数を利用したゲーム２（情報理論）	n進数を利用したゲームを作成する。	復習：n進数を利用したゲームを完成させる。	180分
第9回	一弦ギター１（算数と音楽）	音楽と数学の歴史について学ぶ。純正音階律や平均音階律について学ぶ。	復習：純正音階を作成する。ドの弦の長さを基準に，レから一オクターブ高いドまでの弦の長さを調べる。	180分
第10回	一弦ギター２（算数と音楽）	一弦ギターの作成を始める。角材の上部と下部にナットとブリッジを割り箸で作る。角材の下部にドリル等で穴をあける。 糸を，あけた穴に通し，角材上部にあるペグに巻く。弦を押さえながら，ドの音を探します。その弦の長さを基準に，レミファソラシ（一オクターブ高い）ドの弦の長さを求めて，印をつける。実際に印をつけた個所を押さえて弦をはじいたとき，対応する音が出るか確かめる。大丈夫であれば，印の個所にフレットを作る。最後にボディをつくりギターを完成させる。演奏会を行う。	復習：一弦ギターのボディを２次元のものにした場合と，３次元のものにした場合の音の響きの違いを調べる。	240分
第11回	囚人のジレンマ（ゲーム理論）	囚人のジレンマを理解する。	復習： 囚人のジレンマと思われる事例を調べる。	120分
第12回	複利計算（社会生活と数学）	複利計算について学ぶ。借金の場合の複利の怖さ，投資の場合の複利のメリットについて知る。	復習：複利計算に関する理解を深める課題に取り組む。	180分
第13回	GPSのしくみ（図形の科学）	GPSのしくみを学ぶ。	復習：GPSのしくみに関する理解を深める課題に取り組む。	180分
第14回	第13週 ファジィ集合（複雑系）	ファジィ集合とクリスプ集合を学び，あいまいさの定量化の方法について学ぶ。	復習：ファジィ集合の理解を深める課題に取り組む。	180分
第15回	和算（数学の歴史）	和算の問題のいくつかに取り組む。 16回目にテストの振り返りを行う。	復習：授業では扱わなかった和算の問題のいくつかに課題として取り組む。	180分

学生へのフィードバック方法	授業内外で取り組んだこと（平常課題）に関して，毎回チェックしコメントする。
評価方法	１．平常課題 毎回の授業内外で取り組む作業や課題を平常課題とする。 取り組みを評価する。 ２．定期試験 定期試験では，授業で取り組んだ内容の中で，特に印象に残っているものについて，概要や新たに得られた視点等について記述することで，授業への関心・意欲等を評価する。 ＊平常課題や定期試験は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常課題			○	
	定期試験			○	

評価割合	平常課題（80%），定期試験（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。プリントを配布して説明する。
参考図書	なし。
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して，数学的な視点で解決しようと試みることができ，社会を構成するひとりとして，高い徳性をもって人々に貢献することができる。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	授業では各回に行うことを丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は気楽に質問したり，研究室(1625)を訪ねて質問してほしい。好奇心に裏打ちされた自発的な学びを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎統計学ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	X13140M21
授業概要(教育目的)	授業では，統計の基礎を学び，データを適切に処理でき，かつ得られた結果を正しく理解・解釈するために必要な知識・技術について説明する。 まずは、記述統計学としての1変量の標本データの要約ができるように平均値，分散，標準偏差に代表される基本統計量を扱う。次に，2変量のデータ解析の基本として相関分析，回帰分析を扱う。最後に，離散型確率分布や連続型確率分布などにおける確率計算および中心極限定理を扱い，推定および検定の考え方につながる推測統計学の基本的考え方を解説する。毎回の講義では，事例を複数提示し，様々な事象への応用に触れる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	統計検定3級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	基本統計量（平均値，中央値，最頻値）	データ全体を代表させる数値である平均値，中央値，最頻値を学ぶ。	予習：教科書34ページから37ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第2回	箱ひげ図，分散，標準偏差	散らばりを持つデータの大まかな比較をするのに便利な箱ひげ図，全データを対象にした散らばりを説明する分散，標準偏差を学ぶ。	予習：教科書29ページ，38ページから41ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第3回	散布図，共	２変量の相関関係を視覚的に表す散布図と，数値で示す	予習：教科書26ページから27ペ	予習60分，復習120分

	分散	共分散を学ぶ。	ージ，46ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	
第4回	相関係数	相関の強弱をも見ることができる相関係数を学ぶ。	予習：教科書47ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第5回	回帰方程式	１変量を，他の変量で表現する単回帰分析や重回帰分析における回帰方程式を学ぶ。	予習：教科書110ページから113ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第6回	標本調査と確率，離散型確率変数と確率分布，中間テスト	全数調査と標本調査，無作為抽出，統計的確率と大数法則の説明から始め，離散型確率変数と確率分布を学ぶ。中間テストも行う。	予習：教科書50ページから60ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第7回	離散型確率変数の期待値と分散	離散型確率変数の期待値および分散を学ぶ。	予習：教科書60ページから61ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第8回	確率変数と変数変換，確率変数の標準化	確率変数の変数変換，そして確率変数の標準化を学ぶ。	予習：教科書42ページから43ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第9回	連続型確率変数と確率密度関数，連続型確率変数の期待値と分散	連続型確率変数と確率と似て非なる確率密度関数について学び，その後，連続型確率変数の期待値と分散についても学ぶ。	予習：教科書62ページから63ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第10回	正規分布と標準正規分布	連続型確率変数の中で最も有名な確率分布である正規分布を学ぶ。正規分布の公式，正規分布の例，正規分布の性質とパーセント点を学ぶ。そして，標準正規分布も学ぶ。	予習：教科書66ページから67ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第11回	正規分布表を用いた確率計算１	確率変数が標準正規分布に従うテーマの確率計算を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第12回	正規分布表を用いた確率計算２	確率変数が正規分布に従うテーマの確率計算を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第13回	中心極限定理と大数の法則	母集団の平均値と標本の平均値，中心極限定理と大数の法則を学ぶ。	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第14回	統計的推定（区間推定）	統計的推定（区間推定）の考え方を学ぶ	予習：教科書74ページから75ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第15回	統計的仮説検定	統計的仮説検定の考え方を学ぶ。 16回目にテストの振り返りを行う。	予習：教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分

学生へのフィードバック方法	復習で扱う演習問題(課題)について，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト） 中間テストや定期テスト（期末テスト）は，各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可を予定している。 ２．課題 毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みを評価する。 ＊中間テスト，定期テスト，課題は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間テスト	○			
	定期テスト（期末テスト）	○			
	課題	○			○

評価割合	中間テスト(30%)，期末テスト(30%)，課題(40点)
使用教科書名(ISBN番号)	統計学の図鑑（ISBN:978-4-7741-7331-3）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を，統計学的な知識をもって理解し，あるべき姿を的確に判断することができる。 【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し，その課題を論理的に分析・統合・表現することで，他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	統計学は，授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して，自らの頭で理解したら，自らの手を動かしてデータを実際に処理することが大事である。 授業は丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は，遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは，情報リテラシーを向上させることにつながる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎統計学ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	X13150M21
授業概要(教育目的)	最初に基礎統計学aで学習した項目のうち，確率分布と確率計算，標本分布，中心極限定理を中心に概説する。その後，推測統計学の中で実際のデータ処理・分析で必要となる可能性が高い「統計的推定」および「統計的仮説検定」の基本的考え方について説明する。具体的には，点推定，区間推定，母平均の差の検定，母分散の検定，適合度の検定などである。関連して，統計ソフトを用いたデータ処理（調査の企画設計、調査の実施、統計を用いた評価）も積極的に扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	統計検定2級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	母集団の平均値と標本の平均値，中心極限定理と大数の法則	母集団の平均値と標本の平均値を確認した後，中心極限定理と大数の法則をシミュレーションを通して確認する。	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第2回	統計的推定	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において，	予習：教科書74ページから75ペ	予習60分，復習120分

	１（大きな標本における母平均の推定の考え方）	大きな標本における母平均の区間推定を学ぶ。	ージに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	
第3回	母集団分布と母数（母平均，母分数など），標本分布と統計量（標本平均，不偏分散など），自由度	母数（母平均，母分散），統計量（標本平均，標本の分散），推定量，検定統計量を確認し，さらに不偏分散と自由度を学ぶ。	予習：教科書88ページから93ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第4回	統計的推定２（小さな標本における母平均の推定の考え方）	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において，小さな標本における母平均の区間推定を学ぶ。	予習：教科書94ページから95ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第5回	統計的仮説検定１（帰無仮説と対立仮説，有意水準）	統計的仮説検定の考え方を，有意水準，帰無仮説，対立仮説等の用語の説明の後，具体的な事例を通して学ぶ。	予習：教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第6回	統計的仮説検定２（両側検定と片側検定，p値，第一種の過誤と第二種の過誤）	具体的な事例を通して，両側検定および片側検定を学ぶ。その際，検定統計量が棄却域に入ることとp値が有意水準より小さいことが 同値であることを，p値の定義から説明する。 第一種の過誤と第二種の過誤についても説明する。	予習：教科書78ページから85ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第7回	統計的仮説検定３（大きな標本および小さな標本における母平均の検定）	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について，まずは母平均の検定を学ぶ。	予習：教科書98ページから99ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第8回	統計的仮説検定４（大きな標本および小さな標本における母比率の検定）	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について，次は母比率の検定を学ぶ。	予習：教科書100ページから101ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第9回	統計的仮説検定５（母分散の検定）	１つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について，最後に母分散の検定（母平均既知，未知の場合）を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第10回	統計的推定と統計的仮説検定を使ったデータ分析，中間テスト	今ままで行ってきた１つの母集団の母数に関する統計的推定および統計的仮説検定を活用した種々のデータ分析を行い，結果を記述する。中間テストも行う。	予習：第1回から第8回までに扱った事項および問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第11回	統計的仮説検定６（母平均の差の検定）	２つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について，まずは母平均の差の検定（分散既知，分散未知であるが等分散，分散未知で分散が等しいとは限らない場合）を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第12回	統計的仮説検定７（母分散の比の検定）	２つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について，次に母分散の比の検定を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第13回	統計的仮説	２つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について，	予習：配布プリントに目を通し	予習60分，復習120分

	検定８（母比率の差の検定）	最後に母比率の差の検定を学ぶ。	ておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	
第14回	統計的仮説検定９（一元配置分散分析）	３つ以上の母集団の母数に関する仮説検定の方法について，母平均の差の検定である一元配置分散分析を学ぶ。	予習：教科書102ページから103ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第15回	統計的仮説検定１０（適合度検定，独立性の検定）	適合度検定と独立性の検定を学ぶ。 16回目にテストの振り返りを行う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分

学生へのフィードバック方法	復習で扱う演習問題(課題)について，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	１．中間テストおよび定期テスト（期末テスト） 中間テストや定期テスト（期末テスト）は，各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可を予定している。 ２．課題 毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みを評価する。 ＊中間テスト，定期テスト，課題は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間テスト	○			
	定期テスト（期末テスト）	○			
	課題	○			○

評価割合	中間テスト(30%)，期末テスト(30%)，課題点(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	統計学の図鑑（ISBN:978-4-7741-7331-3）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を，統計学的な知識をもって理解し，あるべき姿を的確に判断することができる。 【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し，その課題を論理的に分析・統合・表現することで，他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	統計学は，授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して，自らの頭で理解したら，自らの手を動かしてデータを実際に処理することが大事である。 授業は丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は，遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは，情報リテラシーを向上させることにつながる。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	情報論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　康裕	指定なし

ナンバリング	X13160C21
授業概要(教育目的)	情報を処理する機械としてのコンピュータを対象にして、情報に関する基礎的なことを学ぶ。そして、情報の表現方法や問題を解決するためのモデル化について考える。また、コンピュータで情報を処理する上での考え方を学び、情報を処理する方法の基礎を理解する。それは明確な手続きであるアルゴリズムを理解することにつながり、アルゴリズムを評価することによって情報を処理する効率について考えることができる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができるようになること
思考・判断の観点（K）	数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようになること
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

情報論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	情報とは（ガイダンスを含む）	情報科学の概念から『情報とは何か？』を学ぶ。また、講義ガイダンスとして、Google Classroomを利用した講義資料の配付方法等を説明する。	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WIFIに接続可能なように設定しておくことが望ましい。	60
第2回	情報の定義	コンピュータでは、文字や画像、動画、音声など様々な情報を扱うことができる。この情報の定義と、コンピュータ上で様々な情報を取り扱うために必要となる2進数について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心	60

			に10進数と2進数の変換などの解き方を復習すること。	
第3回	文字と画像の表現	文字や色をコンピュータで取り扱うための文字コードや色コードを例にして、コンピュータで情報を扱うためのコード化（デジタル化）について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に文字コードの割り当方法などを復習すること。	60
第4回	グラフによるモデル化	数学的に現実世界の様々な問題を解決するための第一歩は、問題を単純化するモデル化である。モデル化の理論の1つであるグラフ理論について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にグラフ理論によるモデル化の方法を復習すること。	60
第5回	数学的解決①：線形計画法と待ち行列	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題を数式を使って解決する線形計画法と待ち行列について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。講義内で行った課題を中心に線形計画法の連立方程式や待ち行列の計算式の解き方を復習すること。	60
第6回	数学的解決②：ゲーム理論と日程計画問題	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題をグラフや図を使って解決するゲーム理論と日程計画問題について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にゲーム理論の考え方や日程計画法の図の作り方を復習すること。	60
第7回	データの処理	データに処理を行うことにより、様々な意味づけや解釈を行うことができるようになる。このようなデータの処理や意味解釈の方法論を代表値や簡単な統計解析の事例を基に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を代表値の意味や相関分析の解釈の仕方などを復習すること。	60
第8回	オブジェクト指向によるシステムのモデル化	現実世界にある業務や遊び全体など、システムをモデリングするための手法を学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に講義内で取り扱ったモデリング技法の特徴を復習すること。	60
第9回	アルゴリズム	コンピュータが問題を解決するための手順やプロセスをまとめた者がアルゴリズムである。アルゴリズムとは何かを学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アルゴリズムとは何かを予習しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムとは何か復習すること。	60
第10回	アルゴリズムの評価	現実世界の問題を解くためのアルゴリズムは、1つだけではなく、考え方や解き方によって複数存在する。このようなアルゴリズムの評価の方法について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの評価方法を復習すること。	60
第11回	アルゴリズムの基礎	問題を解決するためのアルゴリズムを作成するためには、基礎となるいくつかの技法・理論がある。この基礎となる理論・技法について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの基礎理論とその理論に基づくアルゴリズムの特徴を復習すること。	60
第12回	基本ソフトウェアと応用ソフトウェア	コンピュータを動作させる基礎となる基本ソフトウェア（OS）や様々な役割を果たす応用ソフトウェア（アプリケーションソフト）について、学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に基本ソフト・応用ソフトの特徴や役割を復習すること。	60
第13回	情報伝達の仕組み	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にOIS基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。	60
第14回	情報処理の歴史	情報処理の歴史について、コンピュータの開発から発展にかけて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、コンピュータ開発の歴史から発展の経緯について復習すること。	60
第15回	言語の定義	コンピュータが人間の言語を理解するために必要な、言	事前にGoogle classroomで配布	60

	と解釈	語を定義する方法と言語を解釈するコンピュータの仕組を学ぶ。またこの言語の定義と言語解釈の仕組みを基にして作られた様々なプログラミング言語についても講義する。	した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義で行った課題を中心にコンピュータが言語を解釈する仕組みやプログラミング言語の特徴を復習すること。授業全体の内容について復習すること。	

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。 ・定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。 ・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	課題	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	受講状況・学習態度（10%）、課題（60%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。
参考図書	矢沢 久雄: 情報はなぜビットなのか---知っておきたいコンピュータと情報処理の基礎知識, 日経 BP 社 (2006)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報科学に関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている 【思考・判断】情報科学の基本的な概念や論理に基づいて論理的判断・思考力を身につけている。 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
オフィスアワー	非常勤のため、出校は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。
学生へのメッセージ	情報学の基本は論理性と手順にあります.。一見難しく思えるかもしれませんが、じっくりと取り組んで下さい。 また、「コンピュータ概論」の履修を希望する場合には、本講義を履修することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	情報科学の観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができる能力を養う
情報リテラシー教育	○	情報学の基礎的な知識を基に、単にICT機器を使いこなすだけではなく、様々なメディアを利活用するための能力を養う
ICT活用	○	情報科学に関する専門的な知識を基にICT機器を活用する能力を養う

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　康裕	指定なし

授業概要(教育目的)	コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使って複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。
履修条件	情報論を履修済みであることが望ましい。 パソコン室のコンピュータを利用できること。また, @kasei-gakuin.ac.jp Gmail など、大学が用意しているネットワークサービスを利用できること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念を十分に理解すること コンピュータの計算に関する基礎的な知識と考え方を理解すること
思考・判断の観点（K）	数理的な思考に基づいて論理的に判断する能力を養うこと
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

コンピュータ概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	講義内容・講義の進め方等について説明を行う。また、Google classroomを利用した講義資料の配付方法等について説明を行う。	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WIFIに接続可能なように設定しておくことが望ましい。	40
第2回	情報システムのイメー	講義全体を通してテーマとなる『情報システム』とは何か？、また、情報システムが取り扱う『情報』とはどの	事前にGoogle classroomで配布した資料で情報の概念を予習を	60

	ジ	ような概念なのか、その概念や定義、目的などについて学習する	すること。また、講義内で行った課題を中心に情報や情報システムの概念を復習し理解すること。	
第3回	情報を処理する仕組みとその改善	情報システムが実際にどのように情報を処理していくのか、システムの成り立ちから、情報処理の仕組み、システムの改善について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認しアーキテクチャやアルゴリズムなど専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心に情報処理の仕組みを復習し理解すること。	60
第4回	コンピュータシステムの機能と性能	情報システムを構成するコンピュータについて、コンピュータを構成する主要部品について、機能や役割を理解し、その性能指標を学ぶ。また、この知識に基づいて目的に適したコンピュータなどを選定できる知識を習得する。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、わからない専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータを構成する主要部品の役割を復習し理解すること。	60
第5回	コンピュータの導入とアーキテクチャ	情報システムを構成するために必要な機器を選定するために必要な知識や選定の手順を学ぶ。また、選定の基準となる機能や性能と密接に関わるアーキテクチャについて学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アーキテクチャについて予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータの機能とアーキテクチャの関係を復習し理解すること。	60
第6回	コンピュータの構成	人間が行う命令や指示をコンピュータが理解するためには、『機械語』と呼ばれる2進数で表現されるコンピュータ言語が必要になる。この機械語とは何か、また機械語の命令をコンピュータにどのように処理するのかをKUE-CHIP2を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、機械語の前提となる2進数について予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に機械語によるコンピュータへの命令文の内容を復習し理解すること。	60
第7回	プログラムの内蔵方式	コンピュータは、データを記録する装置である「メモリ」にあらかじめプログラムを記録しておき、その記録されたプログラムを実行することで命令を処理することができる。このコンピュータにあらかじめ内蔵されれたプログラムの実行手順を学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第6回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。	60
第8回	実行順序を変える命令	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、実行順を変える命令文（ジャンプ命令）を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第6・7回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。	60
第9回	ループ処理	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、命令を繰り返す処理（ループ命令）を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にループ命令の処理手順を復習し理解すること。	60
第10回	条件によって分岐先を変えるプログラム	ループ命令は延々と命令を繰り返し、終了することがない。そこで、ループ命令を終了させるために、条件を設定して、その条件によって命令を繰り返すか、終了するか分岐する方法が考案された。この条件によって分岐先を変えるプログラムについて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にZero Flagを組み込んだジャンプ命令の処理手順を復習し理解すること。	60
第11回	オペレーティングシステムとプログラム	コンピュータを機能させるためには、オペレーティングシステム（OS）が必要となる。このOSの役割を理解し、現在のコンピュータがより複雑で膨大なプログラムをどのように処理しているのかを学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSとは何かについて予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にOSの役割を整理し理解すること。	60
第12回	メモリ管理とファイル管理	オペレーティングシステムの重要な役割であるメモリ管理とファイル管理について学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSの役割について予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。ま	60

			た、講義内で行った課題を中心にメモリの断片化の発生メカニズムやファイル管理システムを復習し理解すること。	
第13回	情報ネットワークの環境	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にOIS基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。	60
第14回	情報セキュリティ	情報システムを運用する上で情報セキュリティが大きな課題となっている。近年多発する情報の漏えいや情報システムのトラブル事例などを通して情報セキュリティの役割や重要性を学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、情報漏えいやシステムトラブルの事例を調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心に情報システムのトラブルと対応策について復習すること。	60
第15回	コンピュータの歴史	コンピュータの発展の歴史について学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、分からない専門用語などについて事前に調べて予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータの発展の経緯を復習すること。	60

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。 ・定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。 ・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	課題	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	受講状況・学習態度（10 %），課題（60 %），試験（30 %）などを総合的に評価する.
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。
参考図書	神沼 靖子，和田 勉，冨澤 眞樹 著，神沼 靖子 監修：情報システムのためのコンピュータと基本システム，共立出版（2005）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている。 【思考・判断】数理的思考に基づいて論理的判断・思考力を身につけている。 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
オフィスアワー	非常勤のため、出講は月曜日1限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。
学生へのメッセージ	コンピュータの基礎は計算にある。 なお、この講義では復習しないと理解が定着しない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようにする

情報リテラシー教育	○	利用者の視点からだけではなく、開発者や運用者の視点から情報セキュリティについて理解し、自らメディアを利活用するだけではなく、他者に啓蒙できる能力を養う
ICT活用	○	コンピュータのを構成する要素に関する基礎的な概念や役割を理解することで、より専門的にICTを利活用できる能力を養う

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ａ（D：月3）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉　一博	指定なし

ナンバリング	X10050M12
授業概要（教育目的）	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習ａ

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	この科目では、授業はパソコン室で実施される。 授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習す	45

	入力練習		ること	
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること	45
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること	45
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること	45
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること	45
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること	45
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること	45
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること	45
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること	45
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること	45
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えておくこと	45
第15回	ファイル操作の確認	ファイル操作を確認する。	授業全体の内容について復習すること	45
第16回				

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。
オフィスアワー	金曜 14:00-15:30 1411研究室 早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。 必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。
学生へのメッセージ	文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　康裕	指定なし

ナンバリング	X10051C12
授業概要(教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習a

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	この科目では、授業はパソコン室で実施される。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習す	45

	入力練習		ること	
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること	45
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること	45
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること	45
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること	45
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること	45
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること	45
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること	45
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること	45
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること	45
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えておくこと	45
第15回	ファイル操作の確認	ファイル操作を確認する。	授業全体の内容について復習すること	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に教科書は使用しない。講義内で適宜プリントを配布。
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。
オフィスアワー	非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。
学生へのメッセージ	文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する．この授業では，講義を聴くのみならず，手を動かす必要がある．講義内容の理解を深めるために演習を行う．パソコン室は，授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので各自空いた時間を利用して自学することが望まれる．

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	X10050C12
授業概要(教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	この科目では、授業はパソコン室で実施される。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USBメモリを用意すること。	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること。	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること。	45

第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること。	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること。	45
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること。	45
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること。	45
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること。	45
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること。	45
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること。	45
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること。	45
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること。	45
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること。	45
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えておくこと。	45
第15回	ファイル操作の確認	ファイル操作を確認する。	授業全体の内容について復習すること。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。
オフィスアワー	【前期】水曜日　1701ゼミ室　12：30～14：30
学生へのメッセージ	コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原田　一義	指定なし

ナンバリング	X10052C12
授業概要(教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	この科目では、授業はパソコン教室で実施される。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること。	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること。	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること。	45

第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること。	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること。	45
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること。	45
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること。	45
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること。	45
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること。	45
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること。	45
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること。	45
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること。	45
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること。	45
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考えておくこと。	45
第15回	ファイル操作の確認と学習到達度のテスト	ファイル操作を確認する。	授業全体の内容について復習すること。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。
オフィスアワー	担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。
学生へのメッセージ	文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ｂ(D：月3)		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉　一博	指定なし

ナンバリング	X10060M12
授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習ａで身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習ｂ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データ入力の基本操作	この科目では、授業はパソコン室で実施される。 授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45

第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45
第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること	45
第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	必要に応じ、授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。
オフィスアワー	月曜 15:30-17:00 1411研究室 早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。 必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。
学生へのメッセージ	表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ｂ（G）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　康裕	指定なし

授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習ａで身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習b

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45

第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること	45
第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない．適宜講義内でプリントを配布する．
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。
オフィスアワー	非常勤のため、出講は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール（y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp）で質問等を受け付ける。
学生へのメッセージ	表計算の基礎を習得する．この授業では，講義を聴くのみならず，手を動かす必要がある．講義内容の理解を深めるために演習を行う．パソコン室は，授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので自学することが望まれる．

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ｂ（G）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	X10060C12
授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習ａで身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データ入力の基本操作	この科目では、授業はパソコン教室で実施される。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること。	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること。	45

第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること。	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること。	45
第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること。	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること。	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること。	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること。	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること。	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること。	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること。	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること。	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること。	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。
オフィスアワー	【後期】水曜日　1701ゼミ室　10：40～12：50
学生へのメッセージ	コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習ｂ（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原田　一義	指定なし

ナンバリング	X10062C12
授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習ａで身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データ入力の基本操作	この科目では、授業はパソコン室で実施される。 授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること。	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること。	45

第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること。	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること。	45
第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること。	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること。	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること。	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること。	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること。	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること。	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること。	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること。	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること。	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。
オフィスアワー	担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。
学生へのメッセージ	表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	データサイエンス１		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	無し		
開設学科・年次	全学科・1年		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 土山　玄	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業の主題はデータサイエンスの手法を学ぶことに加え、データ分析の有効性と重要性を学ぶことです。それゆえ、データサイエンスの手法を理解するだけではなく、多種多様なデータに対してデータサイエンスの分析手法をどのように応用するのか実践的に理解することが重要になります。また、本授業では生活に必要なデータサイエンスの基礎を、直感的に理解できる内容をめざしながら、卒業研究の際に必要になりえるデータ分析の基礎も演習を通じて身につけてもらうことを目標とします。演習ではプログラミング言語であるRを使用します。
履修条件	コンピュータの操作にある程度習熟している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	データサイエンスの手法について理解する。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	データサイエンスに関心を持ち、主体的に学修する。
技術・表現の観点（A）	データ分析を実践できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データサイエンスとは何か	データサイエンスを取り巻く環境を理解する。データの4つの尺度（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度）とデータの種類（構造化データと非構造化データ）について学ぶ。	データの4つの尺度について復習する。	復習：180分
第2回	1変数の要約	データの中心傾向（平均値・中央値・最頻値）とデータの散らばり（分散・標準偏差）を学ぶ。Rを使用して統計量を算出できるようになる。	データの中心傾向と散らばりについて復習する。Rの基礎的な関数を復習する。	復習：180分
第3回	1変数の可視化①	質的変数の集計（単純集計・クロス集計）と量的変数の集計（度数分布表）を学ぶ。質的変数の可視化（棒グラフ・円グラフ）と量的変数の可視化（折れ線グラフ）に	Ｒを使用して、データの集計と可視化ができるように復習する。	復習：180分

		ついて実践的に学ぶ。Rを使用して頻度の集計とグラフの作成をできるようになる。		
第4回	1変数の可視化②	量的変数の可視化（ヒストグラム・箱ひげ図）と層別の処理を学ぶ。シンプソンのパラドックスについて理解する。Rを使用してヒストグラムと箱ひげ図を作成できるようになる。	Rを使用してヒストグラムと箱ひげ図を作成できるように復習する。	復習：180分
第5回	2変数の要約と可視化	2変数の関係を表す統計量（共分散・相関係数）と散布図について学ぶ。また、その他の統計量（幾何平均・加重平均・調整平均・移動平均・順位相関係数）について理解する。Rを使用して相関係数の計算と散布図の作成をできるようになる。	相関係数について復習する。Rで散布図を作成できるように復習する。	復習：180分
第6回	標本抽出	母集団と標本について理解し、母集団の統計量（母平均・母分散）と標本の統計量（標本平均・不偏分散・標本の大きさ・標本数）について学ぶ。標本抽出の方法（有意選出・無作為抽出）についても学ぶ。Rを用いて標本抽出を実践する。	母集団の統計量と標本の統計量について復習する。	復習：180分
第7回	確率分布	確率変数、離散変数の確率分布（一様分布・二項分布）および連続変数の確率分布（正規分布・標準正規分布）を学ぶ。標本分布について理解する。Rを使用して二項分布と正規分布を作成できるようになる。	二項分布と正規分布について復習する。	復習：180分
第8回	推定①	大数の法則と中心極限定理について理解する。点推定と区間推定を学ぶ。特に母分散が既知のときの母平均の区間推定について学び、Rを使用して実践できるようになる。	正規分布の性質と区間推定について復習する。	復習：180分
第9回	推定②	t分布を理解し、母分散が未知のときの母平均の区間推定について学ぶ。演習として、実際の考古学のデータを使用し、寺院の建立年代の推定を行う。	t分布を仮定した区間推定について復習する。	復習：180分
第10回	検定①	帰無仮説と対立仮説、有意水準、棄却域を理解し、1標本のt検定について学ぶ。Rを使用して、1標本のt検定を実践できるようになる。	1標本のt検定について復習する。	復習：180分
第11回	検定②	対応のない2標本のt検定および対応のある2標本のt検定について学び、Rを使用して実践できるようになる。演習として、t検定を用いた夏目漱石の文体の変化についての分析を行う。	2標本のt検定について復習する。	復習：180分
第12回	検定③	独立性の検定（カイ二乗検定・フィッシャーの正確確率検定）について学び、Rを使用して実践できるようになる。	独立性の検定について復習する。	復習：180分
第13回	2変数の関連性	カイ二乗値、クラメールの連関係数、ファイ係数について学ぶ。演習として、作家を特徴づける文体の抽出を行う。	クロス集計表を用いた関連性の計算方法について復習する。	復習：180分
第14回	回帰分析（単回帰）	説明変数と目的変数について理解する。最小二乗法と決定係数について学び、Rを使用して回帰分析を実践できるようになる。	単回帰分析について復習する。	復習：180分
第15回	回帰分析（重回帰）	過学習を理解し、変数選択（AIC・ステップワイズ法）について学ぶ。演習として、夏目漱石の小説の出版年を予測するモデルを構築する。	重回帰分析について復習する。	復習：180分

学生へのフィードバック方法	毎回の授業で質問を受け付け、翌週に回答する。
評価方法	中間レポートおよび期末レポートでは分析手法に対する理解の程度とデータ分析の実践力を確認する。 受講状況では質問の提出頻度などによって学修意欲を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間レポート	○			○
	期末レポート	○			○
	受講状況			○	

評価割合	中間レポート（40%）、期末レポート（50%）、受講状況（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし

参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】データサイエンスの知識に基づき、課題を発見し、その解決策を立案できる。 【関心・意欲・態度】積極的にデータサイエンスについての関心を持ち、実社会における様々な課題を解決するためにはどのようにデータサイエンスを活用すると良いのか思考する。 【技能・表現】種々の課題解決のために、データ分析を実践できる。
オフィスアワー	原則として、メールで対応する。必要に応じて、対面での対応も行う。
学生へのメッセージ	数学が苦手でもデータサイエンスには体験することで理解が深まることがたくさんあります。授業で採り上げた内容に不明なことがあれば積極的に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	コンピュータを使用した演習

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	人間の体		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	X13200M21
授業概要(教育目的)	現代社会では、メディアによってさまざまな情報が提供され、特に「からだ」や「健康」についての情報が溢れている社会である。その中から情報を選択し、適切な判断をするためにも、自分自身の体について基本的な正しい知識を身につけている必要があると言える。 本授業では、人体の形態、機能などについて、運動、加齢、こころといったキーワードから取り扱い、人の身体に関する知識を学ぶ。それにより疾病の予防、対策について考え、自分自身や周囲の人の命を守り、より健康な生活を送るための力を育むことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人間の体の構造や機能について説明できる。人間の体のはたらきや反応について、各器官のはたらきを関係づけて説明できる。
思考・判断の観点（K）	人間の体に起こり得る疾病や必要な対応を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分自身および周囲の人々の健康な生活の実践に寄与することができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	なぜ人の体について学ぶことは重要か	体について関心を持つことは、食事内容や健康、運動についても知識を得ることになる。健康な体作りの実践をしていくための基本となる正しい知識を理解する。	体について関心を持ち、健康や疾病について考える習慣を身につける大切さについて理解しておく。	120分
第2回	骨格系と筋肉系	人間の体を支える骨格や筋肉の構造、および関連する疾病について理解する。	授業で取り扱った骨や筋肉について、自分自身の骨、筋肉を実際に触れて確認し、その役割を理解しておく。	60分
第3回	神経系（脳	脳の構造、および各器官のはたらきについて理解する。	脳は人体の機能や生命活動をつ	60分

	のはたらき）	また、関連する疾病について学ぶ。	かさどるだけでなく、精神活動も行っていることを理解する。	
第4回	神経系（中枢神経と末梢神経）	神経系の構造、および各器官や伝達物質のはたらきについて理解する。また、関連する疾病について学ぶ。	反射的な運動と、随意的な運動は何によって決められてくるのか理解しておく。	60分
第5回	運動とからだ	子どもから大人までの運動の発達と、運動（技）の修得について学ぶ。また、関連する疾病について学ぶ。	これまでの自身の運動修得と授業で扱った理論を比較し、理解を深めておくこと。	60分
第6回	消化器系	消化器系の構造、および各器官のはたらきについて理解する。また、関連する疾病について学ぶ。	消化器系と他の器官系との関わりについて、理解を深めておくこと。	60分
第7回	呼吸器系・循環器系	呼吸器系・循環器系の構造、および各器官のはたらきについて理解する。また、関連する疾病について学ぶ。	呼吸器系は、人体の防御機能も担っていることを理解しておくこと。	60分
第8回	内分泌系・生殖器系	内分泌系・生殖器系の構造、および各器官のはたらきについて理解する。また、関連する疾病について学ぶ。	様々なホルモンがもつ役割について調べておくこと。	60分
第9回	泌尿器系・感覚器系	泌尿器系・感覚器系の構造、および各器官のはたらきについて理解する。また、関連する疾病について学ぶ。	腎臓は多様な役割を担っていることを理解しておく。	60分
第10回	免疫系	免疫系のシステムや各細胞のはたらきについて理解する。また、関連する疾病について学ぶ。	免疫反応の対象となるもの（ウイルス、細菌…など）についての理解を深めておくこと。	60分
第11回	人の体の数値が示すもの	人間の体の数値は、体温や血圧、心拍、体脂肪率など容易に計測できるものから、血中内のヘモグロビン量、白血球数など一般には計測できない数値がある。容易に計れる数値からも体の状態が分かることを理解する。	体の状態を表している数値にはどのようなものがあるのか、それは何の指標となっているのかを理解しておくこと。	60分
第12回	こころとからだ	「心身相関」という言葉があるように、人間の体と「こころ」には深い関係がある。「こころ」に関するいくつかの理論と、心身相関が引き金となる疾患の例について理解する。	こころに関連する不調について理解を深めておくこと。	60分
第13回	加齢とからだ	加齢により、様々な機能が低下し、それによって怪我、疾病が生じやすくなる。加齢により各器官系に生じる様々な変化について理解する。	加齢による機能低下を防ぐために、今から実践できる生活習慣について理解を深めておくこと。	60分
第14回	からだを守る	応急対応を学ぶことは自分自身や周囲の人の健康、命を守ることに繋がる。擦り傷や骨折などの怪我、窒息、心肺停止、やけどなど、様々な緊急時に求められる応急対応について理解する。	心肺蘇生法やAEDの使用法の流れについて復習しておくこと。	60分
第15回	健康な体でいるために	健康な状態とは何かについて考える。また、「ウェルビーイング」について学び、生涯を通じて心身ともに良好な状態であり続けるための取り組みについて考える。	自分自身にとっての「健康な状態」は何かについて、考えを深めておくこと。	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	出席確認および授業後に提出されたコメントに対し、適宜授業内で回答を行う。
評価方法	・毎回、授業の終了時に小テストを実施する。また最終レポート課題の提出を求める。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○	○	
	最終レポート課題	○	○	○	

評価割合	小テストは5点満点×15回で75%、最終レポート課題は25点満点×1回で25%とし、この2つの総合評価とする。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間の体の構造や機能について理解している。 【思考・判断】健康の維持増進のために必要な対策を判断して提案できる。

	【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって自身や周囲の人の健康のために働くことができる。
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	人のからだは、人の手で作ることのできない複雑で高度な仕組みを有しています。 自分の体のどこにどのような器官があり、それぞれがどのような役割を果たしているのかを学ぶことは、 単に、自分自身や周囲の人の健康や命を守るための知識になるだけでなく、 生命の「すごさ」を感じる機会になるのではないかと思います。 そんな「すごさ」を感じることで、自分のからだ、周囲の人のからだを大事にする気持ちを持ってほしいと思います。 そして、健康に関する情報は、大きな影響力を持って人々を振り回す性質を持っています。 社会に溢れる情報を「無批判に受容する人」「振り回される人」ではなく、 大学で学んだ「教養」を持って、自分で情報を選択して考えられる人になっていただけたら嬉しいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分自身のからだの観察（骨格系など）や、測定（心拍、筋力など）を積極的に実施し、体験的に学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	人体の機能や働きに関する動画を積極的に活用し、視覚的に理解する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	人間の体		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金指　みの利	指定なし

ナンバリング	X13200C21
授業概要(教育目的)	近年、日常生活における栄養、運動、休養のバランスが崩れ、生活習慣病の発症や進行に大きく影響している。生活習慣病に至らなくとも、大学生になりちょっとした体調不良を実感する機会が多いのではないだろうか。本授業では、自身の生活や取り巻く環境を振り返り、体への興味を深めながら健康とはどういう状態かを理解する事を目指す。また、生涯に渡って健康であり続けるためにはどのような知識と行動が必要かを理解し、実践していくことも目標とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康とはどのような状態か理解する事ができる。
思考・判断の観点（K）	自身の体の変化を正しい知識をもとに把握することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身の体を健康に保とうとする。
技術・表現の観点（A）	他者の体の変化を説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明する。	日常関活で感じる体調の変化についてまとめておくこと。 シラバスを参考に半期の授業の流れを確認すること。	120分
第2回	健康とは	健康の定義を理解する。	健康の定義に関する情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第3回	生活習慣病	生活習慣病の具体例により、体に与える影響を理解す	生活習慣病について情報を収集	120分

	について	る。	すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	
第4回	体組成と肥満判定	肥満判定を実際に行い、体組成と肥満の状態について理解する。	肥満についての情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第5回	健康と運動	運動が身体的、精神的な健康に与える効果について理解する。	自身の生活の中で、運動による体の変化についてまとめておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第6回	健康と食事	人間の体に必要な栄養素について紹介するとともに、過度な栄養による体の変化を理解する。	様々な栄養素について調べておくこと。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第7回	身体活動と消費カロリー	身体活動と消費カロリーの関係について理解し、自身の生活を基に具体的に捉える。	身体活動について情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第8回	運動プログラムの作成①	目的にあった運動プログラムを作成できるようになる。	消費カロリーの計算方法について情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第9回	運動プログラムの作成②	目的にあった運動プログラムを作成できるようになる。	消費カロリーの計算方法について情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第10回	休養の重要性	休養の役割や健康に与える影響を理解する。	休養について情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第11回	健康と心	ストレスによって生じる身体的・精神的な病気について理解する	ストレスと病気について情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。。	120分
第12回	運動の重要性（まとめ）	これまで学習してきた内容を総合的に理解する。	これまでの授業の復習をし、自身の運動習慣を振り返ること。	120分
第13回	生理と女性特有の疾病	女性特有の疾病について理解する。	女性特有の疾病にはどのようなものがあるか情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第14回	加齢と体	加齢による体の変化について理解する。	加齢による体の変化の情報を収集すること。 授業内容について資料を参考にしながら復習すること。	120分
第15回	まとめ	これまでの振り返りと学習到達度の確認。	授業全体の内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	課題レポートの添削や、期末試験の解説等でフィードバックをします。
評価方法	平常点：30点（グループワーク等の内容で評価します） 課題レポート：20点（レポートの内容で評価します） 期末試験：50点
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	課題レポート		○	○	

	期末試験	○			

評価割合	平常点：30% 課題レポート：20% 期末試験：50%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】健康とはどのような状態かを正しく理解している。 【思考・判断】自身の体の変化を正しい知識をもとに把握することができる。 【関心・意欲・態度】自身の体を健康に保とうとする。
学生へのメッセージ	日常生活の中で自分の体に興味を持ってみてください。どんな時に体が軽く感じるのか、重く感じるのか、気持ちがいいのか、悲しくなるのか、等、どんな些細な事でも構わないので、体について振り返る時間を作ってみてください。自分の事なのに意外と知らないことが多いはずです。そこから、より健康に快適に過ごしていく術を自分に合った方法で探っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業内容について、グループワーク等を実施します。
情報リテラシー教育	○	課題レポートの提出及びフィードバックの過程で、人間の体の正しい情報の取得、活用について解説します。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ダイエットとフィットネス		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深田　喜八郎	指定なし

ナンバリング	X13210M21
授業概要(教育目的)	ダイエットは、ただ体重を減らしたという目標を達成するための手段ではありません。自分自身にとって適切で健康的な身体と心を維持するための手段です。体の生理学的な機能を理解し、運動・食事・休養などの幅広い視点からダイエットを捉え、正しいダイエットのあり方を学びます。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ダイエットの在り方について正しく理解している。
思考・判断の観点（K）	自身に必要なダイエットの方法を科学的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身の体を健康に保とうとする。
技術・表現の観点（A）	他者に正しいダイエットの捉え方を説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明する。 ダイエット(diet)の語源と歴史について説明するとともに、ダイエットに対する意識調査を実施する。	「ダイエット(diet)」という言葉の意味を調べておく。 自身のダイエットに対する意識を客観的に把握すること。	120分
第2回	肥満・痩身の定義	体型の分類と計算方法について学習するとともに、なぜ脂肪が蓄積・減少するのかを理解する。	体型の計算方法について調べておくこと。 栄養素と体脂肪の関係について復習すること。	120分
第3回	体型と病気	「肥満」や「痩せすぎ」がもたらす体の不調について理解する。	生活習慣病について調べておくこと。	120分

			肥満及び痩せすぎによる体の不調について復習すること。	
第4回	食欲とは	食欲の増減はなぜ起きるのか、食欲に関する病気と合わせて理解する。	食欲について調べておくこと。 拒食症・過食症について復習すること。	120分
第5回	腸内環境	腸内環境の重要性について学習するとともに、腸内環境を整える方法を理解する。	腸内環境について調べておくこと。 腸内環境を整える方法について復習すること。	120分
第6回	体内組成	身体を構成する成分ついて学習するとともに、筋肉の重要性について理解する。	身体はどのような成分から構成されているか調べておくこと。 筋肉の役割について復習すること。	120分
第7回	運動と栄養	食事によるエネルギー摂取と、運動によるエネルギー消費の関係を理解する。	カロリーについて調べておくこと。 運動によるエネルギー消費について復習すること。	120分
第8回	ダイエットの実践方法①	筋力トレーニングの原理・原則について学習し、効果的なダイエット法について理解する	原理・原則について調べておくこと。 効果的な筋力トレーニングの方法について復習すること。	120分
第9回	ダイエットの実践方法②	有酸素運動の方法を学習し、脂肪燃焼に必要な運動方法について理解する。	有酸素運動について調べておくこと。 有酸素運動と脂肪燃焼の関係について復習すること。	120分
第10回	ダイエットの実践方法③	ヨガやストレッチが心身に与える影響について理解すること。	ストレスについて調べておくこと。 運動が心身に与える影響について復習すること。	120分
第11回	ダイエットの実践方法④	リバウンドを防ぐために必要なダイエット計画について。	リバウンドがなぜ起きるのか調べておくこと。 ダイエット計画の作成法について復習すること。	120分
第12回	生活習慣病と運動	ダイエットとして実施している運動が生活習慣病の予防・改善にも効果があることを理解する。	メタボリックシンドロームについて調べておくこと。 生活習慣病に対する運動の効果について復習すること。	120分
第13回	健康寿命と運動	ダイエットとして実施している運動が健康寿命の延伸にも効果があることを理解する。	健康寿命について調べておくこと。 加齢と運動の関係について復習すること。	120分
第14回	ダイエット計画の作成。	痩せるためだけの運動ではなく、健康を維持するための運動実施計画を作成する	自身の生活習慣をチェックし、改善できる点を抽出すること。	120分
第15回	まとめ	これまでの振り返りと学習到達度の確認。	授業全体の内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	作成したレポート等に対する講評・添削を実施する。
評価方法	平常点：30点（グループワーク等の内容で評価します） 課題レポート：20点（レポートの内容で評価します） 期末試験：50点

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	課題レポート		○	○	
	期末試験	○			

評価割合	平常点：30% 課題レポート：20% 期末試験：50%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ダイエットについて正しい知識を理解している。 【思考・判断】自身に必要なダイエットの方法を科学的に説明できる。 【関心・意欲・態度】正しい知識をもとに、自身の体を健康に保とうとする。
学生へのメッセージ	ダイエットのちまたに溢れる情報に左右されることなく、正しい知識と実践力を身につけ、それを実際に経験してほしい。運動と食事がダイエットの基本である事を充分に理解してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業内容について、グループワーク等を実施します。
情報リテラシー教育	○	課題レポートの提出及びフィードバックの過程で、ダイエットの正しい情報の取得、活用について解説します。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	レクリエーション概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	X13220M21
授業概要(教育目的)	日本のレクリエーション活動小史を把握し日本人の「レクリエーション」観を振り返る．また，現行のレクリエーション活動援助や組織，その他の関連領域を把握すること．

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本のレクリエーションについてその歴史を振り返り現状を把握すること。
思考・判断の観点（K）	レクリエーションの実践について振り返り自分の活動の価値を認めること。
関心・意欲・態度の観点（V）	在住最寄りのレクリエーション協会を調査することによって自身の生活圏を確認すること。
技術・表現の観点（A）	レクリエーションの実践で培われたものを自覚し発表すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	遊びとレクリエーション	グリム童話第１集「豚の屠殺ごっこ」遊びについて紹介し、遊びとレクリエーションの違いを学ぶこと。	ごっこ遊びについて調査すること。	45
第2回	厚生の思想（保養と厚生の理念）	レクリエーションはわが国においてははじめは「保養」や「厚生」と翻訳されたこと。わが国のレクリエーションの規定を振り返ること。	レクリエーションについてネット検索しまとめること。	45
第3回	色々な場面のレクリエーション１（2004年屈斜路湖カヌー転覆事故について）	2004年屈斜路湖カヌー転覆事故についてその原因や「低体温症」の怖さを学ぶこと。	レクリエーションの事故例を調査すること。	45

第4回	いろいろな場面のレクリエーション2（福岡大学ワンダーフォーゲル部羆襲撃事件）	福岡大学ワンダーフォーゲル部羆襲撃事件について動画を見て感想を述べること。	福岡大学ワンダーフォーゲル部羆襲撃事件を調査すること。	45
第5回	これからのレクリエーション運動（三世代のレクリエーション）	1. レジャーのこと 2. チクセントミハイのフロー理論 3. ライフスタイルマネッジメント（クリストファー・R・エジントン）	レジャーとは何かを調査すること。	45
第6回	レクリエーション支援の理論１（福祉施設の現状・静岡・八王子・相模原3都市の比較）	2005年の3都市の調査について、レクリエーションの動向を把握すること。	福祉施設でどのようなレクリエーションが行われているか調査すること。	45
第7回	レクリエーション支援の理論２（地域の現状）	日本レクリエーション協会について解説し、各個人在住の最寄りのレクリエーション協会をレポートすること。	最寄りのレクリエーション協会を調査しレポートすること。	45
第8回	レクリエーション支援の目標と理念（生きがいとレクリエーション）	神谷恵美子の生きがい論からレクリエーションにおける生きがいをとらえ直すこと。	神谷恵美子について調査すること。	45
第9回	レクリエーション支援者の役割	自立支援の基本を学び、さまざまなレクリエーション支援の現場を紹介すること。	レクリエーション支援の現場をひとつあげ調査すること。	45
第10回	レクリエーションクラブを育て運営する	レクリエーションクラブの組織と運営についてその実際を紹介する。	レクリエーションクラブについてひとつあげ調査すること。	45
第11回	市町村レクリエーション協会の役割と運営（横浜市レクリエーションの事例）	横浜市レクリエーションの事例を紹介する。	在住の最寄りのレクリエーション協会のレポートを確認すること。	45
第12回	レクリエーションを支える理念と人権宣言	ジュネーブ子ども宣言や世界人権宣言を紹介する。	ジュネーブ子ども宣言について調査すること。	45
第13回	趣味としてのレクリエーション（貝原益軒の楽の思想）	貝原益軒「養生訓」における「楽」の思想を確認し、現代のわれわれの考え方を問い直すこと。	貝原益軒について調査すること。	45
第14回	レクリエーション事業を評価する	評価はなぜ必要か。その評価方法について解説する。	表方法について調査すること。	45
第15回	レクリエーション事業と安全・保険について	レクリエーションの事故判例をもとに責任体制を確認すること。	レクリエーションの事故判例をひとつあげ調査すること。	45
第16回	テスト	1～15回の授業の要点を整理し獲得した知識を確認すること。	授業内容を振り返りまとめること。	180

学習計画注記	これまでに経験のあるレクリエーション活動を振り返りメモしておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業中の質疑応答
評価方法	平常点50%，テスト50%で判定する. （平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する．）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	平常点50%，テスト50%で判定する. （平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する．）
使用教科書名(ISBN番号)	授業中に配布するプリントを参照すること.
参考図書	授業中に配布するプリントを参照すること.
ディプロマポリシーとの関連	生活のなかのレクリエーションを見直すこと。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	これまでに経験した遊びやレクリエーション活動，またはその援助活動，指導経験、習い事などについてまとめておくこと.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		これまでのレクリエーション活動の実践
アクティブ・ラーニング	○	自分のレクリエーションの体験を発表すること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ａ（大嶋）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	X13231M12
授業概要(教育目的)	レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え，お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする．後半ではフライフィッシングのキャスティング技術について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	身体運動の知識を得ることができる。
思考・判断の観点（K）	運動を実施するときには、タイミングや速度を状況に応じて判断し決定しなければならない。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分か関心が高いスポーツ種目に出会えば意欲も高まる。
技術・表現の観点（A）	さまざまなスポーツ種目を体験できること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	施設の案内・評価方法を説明し演習・実技ができる準備をすること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第2回	室内レクリエーション（PA系ゲーム）	仲間づくりゲームでコミュニケーションが取りやすい状況で運動できる準備をすること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第3回	室内レクリエーション（PA系ゲーム）	競争ではなく、仲間づくりを目的とした軽い運動でさらにコミュニケーションの充実をはかること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第4回	室内レクリエーション	グループワークでリーダーを決め、参加者を指導してゲームを進めること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分

	（PA系ゲーム）			
第5回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第6回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第7回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第8回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第9回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第10回	フライキャスティング１グリップからベーシックキャストを経て、ショートレンジでのキャスティングができるようにすること。	フライキャスティングをグリップからベーシックキャスト・ショートレンジでのキャスティングができるようにすること。	ネット上の動画などを参考にイメージをつかむこと。	45分
第11回	フライキャスティング２ロングディスタンス・トリックキャスト	長い距離でラインを出してみること。次にトリックキャストができるようにする。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第12回	フライキャスティングアキュラシー能力のアピール	目的の場所にいかに近づけてマーカーを落とすことができるかをアピールする。	ネット上の動画などからイメージをつかむこと。	45分
第13回	自分の得意種目をアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第14回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第15回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第16回	自分の得意	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピー	週3回程度の軽い運動を実施す	45分

種目のアピール	ルすること。種目は応談により決定すること。	ること。	

学習計画注記	授業は主に室内であるが、関連種目の導入により授業の入れ替わりや統合・分離がある。また、履修学生が10名以下の場合には集中授業を実施することがある。
学生へのフィードバック方法	授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。また、評価テストによる。
評価方法	平常点50%，テスト50%で判定する. （平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する．）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	平常点50%，テスト50%で判定する. （平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する．）
ディプロマポリシーとの関連	ゲームやレクリエーションは身体運動を伴い、仲間とのコミュニケーションや生活を支える基本的手段となる。生活者にとって必須の要素である。また運動欲求が高い大学の年齢期では、それを充足させることで生活のバランスを保つことができる。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	体育会系施設は卒業までに充分活用していただきたい.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。2018年世界大会では日本代表になった。その経験を学生に還元する授業である。
アクティブ・ラーニング		相手との距離をとって的確に運動し仲間とのコミュニケーションが要求されること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ａ（外川：水3）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 外川　重信	指定なし

ナンバリング	X13230M12
授業概要(教育目的)	レクリエーショナル・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながらスポーツを楽しむことができるようにする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して理解していく。
履修条件	スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ポピュラーなスポーツの歴史や理論が説明できるようになる
思考・判断の観点（K）	安全な配慮の中で楽しむことができるようになる
関心・意欲・態度の観点（V）	自分から進んでリーダーシップやフォロアーシップをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができるようになる
技術・表現の観点（A）	相手にルールの説明ができ、指導もできるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス及びコミュニケーションゲーム	・授業を行うにあたっての留意事項 ・コミュニケーション作り（アイスブレイクゲーム、トラストゲーム、イニシアティブゲーム	履修要項をよく読んでおくこと。ゲームの種類をよく調べておくこと。授業後はゲームの復習をしておくこと	120分
第2回	２　バレーボール（トスとサーブ）	・バレーボールの理論 ・トス練習 ・サーブ練習 ・チーム練習	バレーボールの歴史と現状を調べておくこと。サーブとトスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第3回	３　バレーボール（レ	・レシーブ練習 ・アタック練習	レシーブとアタックの方法を調べておくこと。授業後は技術の	120分

	シーブとアタック）	・チーム練習	復習をしておくこと。	
第4回	4　バレーボール（ミニゲーム）	・バレーボールのルール ・ミニコートでの練習 ・柔らかいボールでの練習	バレーボールのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第5回	5　バレーボール（ゲーム）	・チーム対校ゲーム	記録の方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第6回	6　テニス又はソフトボール（基本技術）	・テニス又はソフトボールの知識 ・テニス又はソフトボールのルール	・テニス又はソフトボールの知識とルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第7回	7　バスケットボール（基本技術）	・バスケットボールの知識 ・ドリブル練習 ・シュート練習	バスケットボールの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第8回	8　バスケットボール（マンツーマンデフェンス）	・バスケットボールのルール ・マンツーマンデフェンスによるゲーム	バスケットボールのルール、マンツーマンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第9回	9　バスケットボール（ゾーンデフェンス）	・ゾーンデフェンスによるゲーム ・ゲーム	バスケットボールのルール、ゾーンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第10回	10　バドミントン（基本技術）	・バドミントンの知識 ・フォアの打ち方 ・バックの打ち方 ・サーブ練習	バドミントンの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第11回	11　バドミントン（ゲーム）	・バドミントンのルール ・ゲーム	バドミントンのルールを知っておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第12回	12　卓球（ゲーム）	・卓球の理論 ・卓球のルール ・ゲーム	卓球の歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第13回	13　フットサル（基本技術）	・フットサルの理論 ・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第14回	13　フットサル（ゲーム）	・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと	120分
第15回	15　レクリエーションスポーツとまとめ	・モルック・ボッチャのルール ・まとめ	モルック・ボッチャ歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

評価方法	授業内評価とし、平常点（50%）、運動能力（30%）、ルールなどのスポーツの理解度（20%）を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	運動能力				○
	スポーツの理解度	○	○	○	○

評価割合	授業内評価とし、平常点（50%）、運動能力（30%）、ルールなどのスポーツの理解度（20%）を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	授業の中で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連	【関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。
学生へのメッセージ	授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゲームをおこなう時は、自ら進んでチームのリーダー又はフォロワーになること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ａ（宮崎：月3）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎　晃子	指定なし

ナンバリング	X13232M12
授業概要(教育目的)	①身体の調和 呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、 自己の身体の特性を理解し、 筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。 ②心身の調和 身体と精神を呼吸でつなぎ、 いま、ここにいる自分を実感する。 ③社会との調和 ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、 どう生きるべきかを問う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点（K）	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点（A）	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らしく行えるようになる。

学習計画

健康スポーツ演習ａ（ヨガ）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。	シラバスを精読 ヨガの情報を収集	60分

第2回	身体を知る	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第3回	呼吸を深める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第4回	身体部位の意識を高める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第5回	逆転のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第6回	ねじりのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第7回	バランスのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第8回	ヨガについて①	講義：ヨガの種類、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、 課題（提出物）の提示。	課題の実践、記録	90分
第9回	ヨガについて②	講義：課題の振り返り、自律神経（交感神経と副交感神経）。 実技：座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第10回	後屈、前屈のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第11回	さまざまなポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第12回	太陽礼拝の練習①（背骨の意識を高める）	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第13回	太陽礼拝の練習②（呼吸とのつながりを深める）	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第14回	太陽礼拝の練習③（流れるように、のびのびと）	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第15回	総まとめ（快適で安定した自分へ）	実技：太陽礼拝（テスト）、座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分

学習計画注記	※履修者数や進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問等、内容によっては、授業で解説する。
評価方法	平常点（50%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（30%）で、総合的に評価をする。 （平常点：授業に臨む姿勢、服装、髪型、コメント票の内容など）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	課題（提出物）	○	○		
	実技テスト				○

評価割合	平常点（40%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（40%）。 （平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、 コメント票の内容等で、総合的に評価する）
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない

参考図書	「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。 【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。 【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。 【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。
学生へのメッセージ	体つきや身体能力、柔軟性、筋力は､人それぞれです。 ヨガをとおして、現在の自己を知り、 心身が変化していく過程を体感しましょう。 段階を追って進めますので、 初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。 安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。 裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにて、連絡や個別対応を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川　賢一	指定なし

ナンバリング	X14230C12
授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解します。スポーツ実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図り、楽しく実施できる能力を習得します。
履修条件	教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	スポーツによる健康づくりの意義を説明できる。
思考・判断の観点（K）	スポーツによる健康づくりの方法を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	スポーツによる健康づくりの基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設、用具に慣れる。	新体力テストの実施要領を調べる。	復習60分
第2回	新体力テスト	ウォーミングアップ、クールダウンの方法を理解する。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。	テスト結果を同世代と比較し、基礎的なプログラムを作成する。	復習60分
第3回	屋内スポーツ（１）	バドミントンのラケットの感覚に慣れる。サービスの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第4回	屋内スポーツ（２）	バドミントンのハイクリアー、ネットリプライの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作	復習60分

		スマッシュを行う。	を予習する。	
第5回	屋内スポーツ（３）	バドミントンシングルスのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第6回	屋内スポーツ（４）	バスケットボールのボール、リング、コートの感覚に慣れる。 ドリブルの方法、パスとシュートの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第7回	屋内スポーツ（５）	バスケットボールのオフェンス、ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第8回	屋内スポーツ（６）	バスケットボールの3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第9回	屋内スポーツ（７）	バレーボールのボール、ネット、コートの感覚に慣れる。 オーバーハンドパスを行う。アンダーハンドパスを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第10回	屋内スポーツ（８）	バレーボールのサーブ、スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第11回	屋内スポーツ（９）	バレーボールのミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第12回	屋内スポーツ（１０）	卓球のラケットの感覚に慣れる。 サービスの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第13回	屋内スポーツ（１１）	卓球のフォアハンド、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第14回	屋内スポーツ（１２）	卓球（シングルス）のゲームを体験する。 卓球（ダブルス）のゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第15回	まとめ	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	復習60分

学習計画注記	※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業中およびオフィスアワーで対応します。
評価方法	スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	スポーツによる健康づくり実践			○	○
	レポート	○	○		

評価割合	健康づくりの達成度50%、レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	新体力テスト実施要領（URL参照）
参考URL	http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている 【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー	木曜日昼休み
学生へのメッセージ	演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金指　みの利	指定なし

ナンバリング	X13242C12
授業概要(教育目的)	種目：フィットネス この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、ヨガを三大柱として扱う。 これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。 ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の身体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の身体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。 ヨガでは、呼吸に合わせて動くことによって体力増進を図り、心身のリラックスやストレス発散も目的とする。 これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・自分の身体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることが出来る。 ・ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることが出来る。
思考・判断の観点（K）	・自分の身体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 ・自分の身体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 ・協力的･協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	・遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することが出来る。 ・与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことが出来る。
技術・表現の観点（A）	・自分の身体の状況を言葉で表すことが出来る。 ・柔軟性があがり、筋力トレーニングでは負荷が増やせるようになる。

	・ヨガのポーズを理解できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→ヨガ又は身体作りの運動→筋力トレーニング 以上の流れを毎時間、基本とします。 実技とは他に課題がでる事がある。	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。	60分
第2回	自分の身体の状況を考える	自分の体と向き合い、現在の体の状況を探る。	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。	60分
第3回	ストレッチ①	ストレッチの有効性を探る。 呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使ってのストレッチを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第4回	ストレッチ②	主に上半身のストレッチを行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第5回	ストレッチ③	主に股関節のストレッチを行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第6回	ストレッチ④	主にハムストリング（腿裏）のストレッチを行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第7回	ストレッチ⑤	主に捻るストレッチと動作を行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第8回	体幹トレーニング①	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第9回	体幹トレーニング②	様々なトレーニング法を体験、実践する。	出来そうな体幹トレーニングを自宅でも実践する事。	60分
第10回	セルフマッサージ	一人で行うマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第11回	ヨガ①	主に「太陽礼拝」という連続した12個のポーズを行っていく。各ポーズの動きの確認をする。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第12回	ヨガ②	太陽礼拝について知識と実践を深める。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第13回	ヨガ③	太陽礼拝を自分のペースでスムーズに行う。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第14回	ヨガ④	太陽礼拝から他のヨガのポーズを取り入れ発展させていく。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第15回	ヨガ⑤	ヨガの難しいポーズへの挑戦をする。 授業のまとめとして、自分の身体の変化を考えてみる。	授業初回と現在の身体の変化を考えてくること。	60分

学習計画注記	体育館の地下のスタジオにて実技を行う。実技のほかにレポート提出がある。 更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。 ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。
学生へのフィードバック方法	基本的には授業前後のやり取りを基本とする。 Eメールでのやり取りも受け付ける。
評価方法	特に試験は課さないので、以下事項で評価を行う。 ・平常点 ・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。 ・課題の提出物：レポート形式の課題をWEB又は対面時に提出。 なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	授業態度・取り組み		○	○	○
	授業時の提出物	○	○		○

評価割合	平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	なし 資料は授業内で配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解/思考・判断】身体の基礎知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	Eメールにて。
学生へのメッセージ	日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｂ（佐藤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	X13240M12
授業概要(教育目的)	本授業では、様々なスポーツ種目やレクリエーションスポーツについて、事前学習やグループに対するレクチャー、そして実際の運動を通じ、その知識技術を学びます。同時に、スポーツの楽しさを実感すること、生涯にわたって運動やスポーツに親しみながら自己を成長させる力を身につけること、そして、他の学生との相互作用を通じた社会性を醸成することを目的にしています。
履修条件	・運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。 ・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	スポーツ種目のルールや練習法について説明できる。 スポーツを行うことの意義を説明できる。
思考・判断の観点（K）	心身の安全に対して、状況に応じて必要な配慮を行うことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分から進んでリーダーシップやフォロアーシップをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができる。
技術・表現の観点（A）	グループの班員に対して、ルールや練習法について適切に説明ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション アイスブレイキングゲーム	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 緊張感をほぐし、コミュニケーションを促進するアイスブレイキングゲームを行う。	アイスブレイキングゲームの効果についてまとめる。	90分
第2回	アイスブレイキングゲーム	小グループでの課題解決型ゲームを実施し、コミュニケーションを深める。	イニシアティブゲームの効果についてまとめる。	90分

	イニシアティブゲーム			
第3回	フライングディスク	フライングディスクの基本的なスローを学び、ドッヂビーやKANJAMのゲームを通じてフライングディスクを用いたスポーツへの理解を深める。	フライングディスクを用いた様々なスポーツについて調べておくこと。	90分
第4回	ボッチャ	ボッチャのルールと基本的な投球方法・戦術を学び、個人戦、団体戦のゲームを通じて理解を深める。	ボッチャの試合の様子の映像を確認し、戦術の種類についてまとめておくこと。	90分
第5回	バドミントン（1）	バドミントンの基本的な知識・技術（フォア・バック・サーブなど）を学び、簡単なゲームを行う。	バドミントンの技術の練習法について調べておくこと。	90分
第6回	バドミントン（2）	バドミントンの試合（シングルス）を通じてバドミントンのルールを理解する。	バドミントンのルール（シングルス）について調べておくこと。	90分
第7回	バドミントン（3）	バドミントンの試合（ダブルス）を通じてバドミントンのルールを理解する。	バドミントンのルール（ダブルス）について調べておくこと。	90分
第8回	バスケットボール（1）	卓球の基本的な知識・技術（ドリブル・様々なシュートなど）を学び、簡単なゲームを行う。	バスケットボールの技術や戦術の練習法について調べておくこと。	90分
第9回	バスケットボール（2）	バスケットボールの試合を通じてバスケットボールのルールを理解する。	バスケットボールのルールについて調べておくこと。	90分
第10回	卓球（1）	卓球の基本的な知識・技術（フォア・バック・サーブなど）を学び、簡単なゲームを行う。	卓球の技術の練習法について調べておくこと。	90分
第11回	卓球（2）	卓球の試合（シングルス）を通じて卓球のルールや戦略を理解する。	卓球のルール（シングルス）について調べておくこと。	90分
第12回	卓球（3）	卓球の試合（ダブルス）を通じて卓球のルールや戦略を理解する。	卓球のルール（ダブルス）について調べておくこと。	90分
第13回	ソフトバレーボール（1）	バレーボールの基礎的な知識・技術（ペアでのトス、レシーブ、サーブ）を学び、簡易化したゲームを行う。	バレーボールの基礎的な技術の練習法について調べておくこと。	90分
第14回	ソフトバレーボール（2）	簡易化したバレーボールのゲームを通じてバレーボールのルールや戦略を理解する。	バレーボールのルールについて調べておくこと。	90分
第15回	ソフトバレーボール（3） まとめ	簡易化したバレーボールのゲームを通し、相手の動きの予測や、試合運びを理解していく。 授業全体を振りかえり、スポーツ文化に対する考えをまとめる。	これまでに実施したスポーツを振り返り、自分自身の生涯スポーツに対する考えをまとめる。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに提出頂くふりかえりコメントに対しては、必要に応じて次回授業時に回答します。
評価方法	・平常点（授業後の振り返り）3×15回＝45% ・グループに対するレクチャー　20% ・スポーツ技術の修得と理解　15% ・協働的な参加　20% の総合評価とする。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（授業後の振り返り）	○	○	○	
	グループに対するレクチャー	○	○	○	○
	スポーツ技術の修得と理解	○	○	○	○
	協働的な参加		○	○	○

評価割合	・平常点（授業後の振り返り）3×15回＝45% ・グループに対するレクチャー　20% ・スポーツ技術の修得と理解　15% ・協働的な参加　20% の総合評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く 【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	運動の得意・不得意に関わらず、人間が身体を使うことや、身体を使いながら思考したり、認識したりすることは、心身の健康や人としての成長にとても大きな意味があるもののように思います。 この授業が、楽しくスポーツを実施しながら、人との関わり、そして自分自身の在り方にも目を向ける機会になればと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループに対するレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｂ（外川：水３）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 外川　重信	指定なし

ナンバリング	X13242M12
授業概要(教育目的)	レクリエーショナル・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながらスポーツを楽しむことができるようにする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して理解していく。
履修条件	スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ポピュラーなスポーツの歴史や理論が説明できるようになる
思考・判断の観点（K）	安全な配慮の中で楽しむことができるようになる
関心・意欲・態度の観点（V）	自分から進んでリーダーシップやフォロアーシップをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができるようになる
技術・表現の観点（A）	相手にルールの説明ができ、指導もできるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス及びコミュニケーションゲーム	・授業を行うにあたっての留意事項 ・コミュニケーション作り（アイスブレイクゲーム、トラストゲーム、イニシアティブゲーム	履修要項をよく読んでおくこと。ゲームの種類をよく調べておくこと。授業後はゲームの復習をしておくこと	120分
第2回	２　バレーボール（トスとサーブ）	・バレーボールの理論 ・トス練習 ・サーブ練習 ・チーム練習	バレーボールの歴史と現状を調べておくこと。サーブとトスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第3回	３　バレーボール（レ	・レシーブ練習 ・アタック練習	レシーブとアタックの方法を調べておくこと。授業後は技術の	120分

	シーブとアタック）	・チーム練習	復習をしておくこと。	
第4回	4　バレーボール（ミニゲーム）	・バレーボールのルール ・ミニコートでの練習 ・柔らかいボールでの練習	バレーボールのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第5回	5　バレーボール（ゲーム）	・チーム対校ゲーム	記録の方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第6回	6　テニス又はソフトボール（基本技術）	・テニス又はソフトボールの知識 ・テニス又はソフトボールのルール	・テニス又はソフトボールの知識とルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第7回	7　バスケットボール（基本技術）	・バスケットボールの知識 ・ドリブル練習 ・シュート練習	バスケットボールの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第8回	8　バスケットボール（マンツーマンデフェンス）	・バスケットボールのルール ・マンツーマンデフェンスによるゲーム	バスケットボールのルール、マンツーマンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第9回	9　バスケットボール（ゾーンデフェンス）	・ゾーンデフェンスによるゲーム ・ゲーム	バスケットボールのルール、ゾーンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第10回	10　バドミントン（基本技術）	・バドミントンの知識 ・フォアの打ち方 ・バックの打ち方 ・サーブ練習	バドミントンの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第11回	11　バドミントン（ゲーム）	・バドミントンのルール ・ゲーム	バドミントンのルールを知っておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第12回	12　卓球（ゲーム）	・卓球の理論 ・卓球のルール ・ゲーム	卓球の歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第13回	13　フットサル（基本技術）	・フットサルの理論 ・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第14回	13　フットサル（ゲーム）	・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと	120分
第15回	15　レクリエーションスポーツとまとめ	・モルック・ボッチャのルール ・まとめ	モルック・ボッチャの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

評価方法	授業内評価とし、平常点（50%）、運動能力（30%）、ルールなどのスポーツの理解度（20%）を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	運動能力				○
	スポーツの理解度	○	○	○	○

評価割合	授業内評価とし、平常点（50%）、運動能力（30%）、ルールなどのスポーツの理解度（20%）を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	アクティブスポーツ2020（大修館）
参考図書	授業の中で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連	【関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。
学生へのメッセージ	授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゲームをおこなう時は、自ら進んでチームのリーダー又はフォロワーになること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｂ（大嶋）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	X13241M12
授業概要(教育目的)	レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え，お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする．後半ではフライフィッシングのキャスティング技術について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	身体運動の知識を得ることができる。
思考・判断の観点（K）	運動を実施するときには、タイミングや速度を状況に応じて判断し決定しなければならない。
関心・意欲・態度の観点（V）	関心が高いスポーツ種目に出会えば意欲も高まる。
技術・表現の観点（A）	さまざまなスポーツ種目を実施することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	施設の案内・評価方法を説明し演習ができるよう準備すること。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第2回	室内レクリエーション（PA系ゲーム）	仲間づくりゲームを実施し、コミュニケーションが取りやすい状態で運動ができること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第3回	室内レクリエーション（PA系ゲーム）	競争ではなく仲間づくりを目的とした軽い運動でコミュニケーションの充実をはかる。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第4回	室内レクリエーション	グループでリーダーを決め参加者を指導してゲームを進めることができる。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分

	（PA系ゲーム）			
第5回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第6回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第7回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第8回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順序実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第9回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第10回	フライキャスティング１グリップからベーシックキャスト・ショートレンジ	フライキャスティング１グリップからベーシックキャスト・ショートレンジでのキャスティングができるようにする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第11回	フライキャスティング２ロングディスタンス・トリックキャスト	長い距離でラインを出す。次にトリックキャストができるようにする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第12回	フライキャスティングアキュラシー能力のアピール	目的の場所にいかに近づけてキャストできるかをアピールする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第13回	自分の得意種目のアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第14回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第15回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第16回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分

学習計画注記	授業は主に室内であるが、関連種目の導入により授業順番の入れ替えや統合・分離がある。また、履修学生が10

	名以下の場合には集中授業を実施することがある。
学生へのフィードバック方法	授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。または評価テストによる。
評価方法	平常点50%，テスト50%で総合的に判定する. （平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する．）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	定期試験	○		○	

評価割合	平常点50%，テスト50%で総合的に判定する. （平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する．）
ディプロマポリシーとの関連	ゲームやレクリエーションは身体運動を伴い、仲間とのコミュニケーションや生活を支える基本的手段となる。生活者にとって必須の要素である。また運動欲求が高い大学の年齢期では、それを充足させることで生活のバランスを保つことができる。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	体育会系施設・用具は卒業までに充分活用していただきたい.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。2018年世界大会では日本代表になった。その経験を学生に還元する授業である。
アクティブ・ラーニング	○	相手との距離をとって的確に運動し仲間とのコミュニケーションが要求されること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｂ（宮崎：月３）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎　晃子	指定なし

ナンバリング	X13243M12
授業概要(教育目的)	①身体の調和 呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、 自己の身体の特性を理解し、 筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。 ②心身の調和 身体と精神を呼吸でつなぎ、 いま、ここにいる自分を実感する。 ③社会との調和 ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、 どう生きるべきかを問う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点（K）	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点（A）	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らしく行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。	シラバスを精読 ヨガの情報を収集	60分
第2回	身体を知る	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分

第3回	呼吸を深める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第4回	身体部位の意識を高める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第5回	逆転のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第6回	ねじりのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第7回	バランスのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第8回	ヨガについて①	講義：ヨガの種類、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、 課題（提出物）の提示。	課題の実践、記録	90分
第9回	ヨガについて②	講義：課題の振り返り、自律神経（交感神経と副交感神経）。 実技：座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第10回	後屈、前屈のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第11回	さまざまなポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第12回	太陽礼拝の練習①（背骨の意識を高める）	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第13回	太陽礼拝の練習②（呼吸とのつながりを深める）	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第14回	太陽礼拝の練習③（流れるように、のびのびと）	実技：太陽礼拝、立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分
第15回	総まとめ（快適で安定した自分へ）	実技：太陽礼拝（テスト）、座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	60分

学習計画注記	※履修者数や進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問等、内容によっては、授業で解説する。
評価方法	平常点（50%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（30%）で、総合的に評価をする。 （平常点：授業に臨む姿勢、服装、髪型、コメント票の内容など）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	課題（提出物）	○	○		
	実技テスト				○

評価割合	平常点（50%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（30%）で、総合的に評価をする。 （平常点：授業に臨む姿勢、服装、髪型、コメント票の内容など）
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。 【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。 【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。 【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。
学生へのメッセージ	体つきや身体能力、柔軟性、筋力は､人それぞれです。 ヨガをとおして、現在の自己を知り、 心身が変化していく過程を体感しましょう。 段階を追って進めますので、 初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。 安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。 裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにて、連絡や個別対応を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川　賢一	指定なし

ナンバリング	X14240C12
授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解します。スポーツ実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図り、楽しく実施できる能力を習得します。
履修条件	教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	スポーツによる健康づくりの意義を説明できる。
思考・判断の観点（K）	スポーツによる健康づくりの方法を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	スポーツによる健康づくりの基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設、用具に慣れる。	新体力テストの実施要領を調べる。	復習60分
第2回	新体力テスト	ウォーミングアップ、クールダウンの方法を理解する。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。	テスト結果を同世代と比較し、基礎的なプログラムを作成する。	復習60分
第3回	屋内スポーツ（１）	バドミントンのラケットの感覚に慣れる。サービスの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第4回	屋内スポーツ（２）	バドミントンのハイクリアー、ネットリプライの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作	復習60分

		スマッシュを行う。	を予習する。	
第5回	屋内スポーツ（３）	バドミントンシングルスのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第6回	屋内スポーツ（４）	バスケットボールのボール、リング、コートの感覚に慣れる。 ドリブルの方法、パスとシュートの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第7回	屋内スポーツ（５）	バスケットボールのオフェンス、ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第8回	屋内スポーツ（６）	バスケットボールの3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第9回	屋内スポーツ（７）	バレーボールのボール、ネット、コートの感覚に慣れる。 オーバーハンドパスを行う。アンダーハンドパスを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第10回	屋内スポーツ（８）	バレーボールのサーブ、スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第11回	屋内スポーツ（９）	バレーボールのミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第12回	屋内スポーツ（１０）	卓球のラケットの感覚に慣れる。 サービスの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第13回	屋内スポーツ（１１）	卓球のフォアハンド、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第14回	屋内スポーツ（１２）	卓球（シングルス）のゲームを体験する。 卓球（ダブルス）のゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第15回	まとめ	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	復習60分

学習計画注記	※履修者数や演習の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業中およびオフィスアワーで対応します。
評価方法	スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	スポーツによる健康づくり実践			○	○
	レポート	○	○		

評価割合	健康づくりの達成度50%、レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	新体力テスト実施要領（URL参照）
参考URL	http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている 【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー	木曜日昼休み
学生へのメッセージ	演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金指　みの利	指定なし

ナンバリング	X13242C12
授業概要(教育目的)	種目：フィットネス この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、ヨガを三大柱として扱う。 これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。 ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。 ヨガでは、呼吸に合わせて動くことによって体力増進を図り、心身のリラックスやストレス発散も目的とする。 これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・自分の身体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることが出来る。 ・ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることが出来る。
思考・判断の観点（K）	・自分の身体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 ・自分の身体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 ・協力的･協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	・遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することが出来る。 ・与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことが出来る。
技術・表現の観点（A）	・自分の身体の状況を言葉で表すことが出来る。 ・柔軟性があがり、筋力トレーニングでは負荷が増やせるようになる。

	・ヨガのポーズを理解できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→ヨガ又は身体作りの運動→筋力トレーニング 以上の流れを毎時間、基本とします。 実技とは他に課題がでる事がある。	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。	60分
第2回	自分の身体の状況を考える	自分の体と向き合い、現在の体の状況を探る。	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。	60分
第3回	ストレッチ①	ストレッチの有効性を探る。 呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使ってのストレッチを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第4回	ストレッチ②	主に上半身のストレッチを行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第5回	ストレッチ③	主に股関節のストレッチを行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第6回	ストレッチ④	主にハムストリング（腿裏）のストレッチを行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第7回	ストレッチ⑤	主に捻るストレッチと動作を行う。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第8回	体幹トレーニング①	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第9回	体幹トレーニング②	様々なトレーニング法を体験、実践する。	出来そうな体幹トレーニングを自宅でも実践する事。	60分
第10回	セルフマッサージ	一人で行うマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第11回	ヨガ①	主に「太陽礼拝」という連続した12個のポーズを行っていく。各ポーズの動きの確認をする。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第12回	ヨガ②	太陽礼拝について知識と実践を深める。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第13回	ヨガ③	太陽礼拝を自分のペースでスムーズに行う。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第14回	ヨガ④	太陽礼拝から他のヨガのポーズを取り入れ発展させていく。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、ヨガ、その他運動の実施。	60分
第15回	ヨガ⑤	ヨガの難しいポーズへの挑戦をする。 授業のまとめとして、自分の身体の変化を考えてみる。	授業初回と現在の身体の変化を考えてくること。	60分

学習計画注記	体育館の地下のスタジオにて実技を行う。実技のほかにレポート提出がある。 更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。 ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。
学生へのフィードバック方法	基本的には授業前後のやり取りを基本とする。 Eメールでのやり取りも受け付ける。
評価方法	特に試験は課さないので、以下事項で評価を行う。 ・平常点 ・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。 ・課題の提出物：レポート形式の課題をWEB又は対面時に提出。 なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	授業態度・取り組み		○	○	○
	授業時の提出物	○	○		○

評価割合	平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	なし 資料は授業内で配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解/思考・判断】身体の基礎知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	Eメールにて。
学生へのメッセージ	日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	X13251C22
授業概要(教育目的)	1. 東京都あきる野市にある養沢川の自然環境に親しむ 2. 水生の動植物を知る（K） 3. 渓流魚（ヤマメ・イワナ・ニジマス）の特性を知る（K） 4. フライ（毛鉤）や道具のことを知り、技能を身につける（K・A） 5. フライフィッシングを通して自然環境と如何にマッチしていくべきかを学ぶ（V） 6. フライフィッシングをARTにまで高める基礎をつくる（A）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	水生昆虫や魚の習性を知ること。河川の状況を知ること。自然環境の大切さを知ること。
思考・判断の観点（K）	魚との距離をどれくらい取るべきか判断し、立ち位置を決定すること。
関心・意欲・態度の観点（V）	魚を釣りたい。魚を食べたいという意欲と欲求が釣りの技術を進歩させる原動力となること。
技術・表現の観点（A）	釣りのさまざまな道具には歴史的発展があること。釣りの服装は自分を表現する重要なアイテムである。

学習計画

フライフィッシングを通じ自然環境を学ぶこと。

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	用具の確認	第１日目：9:00～10:30　道具配布・装備確認（実践1）	フライフィッシングとはどのようなものか。ネットなどで調査すること。	60分
第2回	用具の確認	第１日目：10:30～12:00　道具配布・装備確認（実践2）	フライフィッシングとはどのようなものか。ネットなどで調査すること。	60分
第3回	自然観察	第１日目：12:30～14:00　宿泊先養沢ｾﾝﾀｰ—周辺の河川観	養沢川の地理的特徴を調査する	60分

		察（実践3）	こと。	
第4回	オリエンテーション	第１日目：14:00～15:30　開校式・釣具セッティング（実践4）	時間厳守のこと。フライトは何かを調査すること。	60分
第5回	フライフィッシングはいつはじまったか。	第１日目：15:40～17:10　16世紀にはじまっていたフライフィッシングについて学ぶこと。（講義1）	ジュリアナ・バーナーズについて調査すること。	60分
第6回	日本の漁業法	第１日目：19:00～20:30日本の漁業法について概説する。（講義2）	漁業法の所轄はどこか調査すること。	60分
第7回	キャスティング１（ショートレンジ）をマスターする。	第２日目：6:00～7:30キャスティング・精度を高める（実践5）	ネットなどでキャスティング動画をチェックしておくこと。	60分
第8回	キャスティング２（ショートレンジ・プレゼンテーション）をマスターする。	第２日目：9:00～10:30キャスティング・精度を高める（実践6）	ネットなどでキャスティング動画をチェックしておくこと。	60分
第9回	フライはなぜ飛ぶか。ロッドの機能とフライを飛ばす原理を説明すること。	第２日目：10:40～12:10キャスティング理論（講義3）	フライロッドについて調査すること。	60分
第10回	河原に降りて魚と周囲を観察すること。	第２日目：14:00～15:30養沢川の観察・魚のいる場所を確認する（実践7）	渓流について調査すること。	60分
第11回	実際にフライを巻いてみること。	第２日目：15:40～17:10フライタイング・フライを作る（実践8）	フライを巻く道具と材料について調査すること。（フェザンとテール・カディスなど）	60分
第12回	魚はどこにいて、何を食べているか。流れを読むこと。	第２日目：20:00～21:30キャスティングのポイント（講義4）	ネットの動画などでヒットシーンを確認すること。	60分
第13回	フライでマスを釣ること。	第３日目：6:00～7:30フライでマスを釣る試み（実践9）	魚がいる流れを察知することができるか。挑戦する。	60分
第14回	自然観察・河川の観察	第３日目：9:00～10:30河川の観察・動植物の観察（実践10）	養沢川の動植物について調査すること。	60分
第15回	自然観察・河川の観察	第３日目：10:30～12:00河川の観察・動植物の観察（実践11）	養沢川の動植物について調査すること。	60分
第16回	フライタイイング	第３日目14:00～15:50フライを自作する。（実践12）	ニンフとは何かを調査すること。	60分
第17回	ニジマスなどを釣る試み	第３日目：16:00～17:30フライでマスを釣る（実践13）	魚は何を食べているか確認すること。	60分
第18回	ニジマスなどを釣る試み	第３日目：17:30～19:00フライでマスを釣る（実践14）	魚は何を食べているか確認すること。	60分
第19回	水生昆虫	第３日目：20:00～21:30水生昆虫について（講義5）養沢にいる水生昆虫を紹介する。	カゲロウとトビゲラについて調査する。	60分
第20回	ニジマスを釣る試み	第４日目：6:00～7:30フライでマスを釣る（実践15）	自分が持っているフライを確認すること。	60分
第21回	郷土館見学	第４日目：9:00～10:30武蔵五日市市郷土館・古民家見学（実践16）	武蔵五日市市について調査する。	60分
第22回	郷土館見学	第４日目：10:30～12:00武蔵五日市市郷土館・古民家見学（実践17）	武蔵五日市市について調査する。	60分

第23回	ニンフをつくる	第４日目：14:00～15:30フライタイング・フライを作る（実践18）	再度ニンフとは何かを確認すること。	60分
第24回	ニジマスを釣る試み	第４日目：16:30～17:30フライでマスを釣る（実践19）	ポイントの情報交換をすること。	60分
第25回	釣魚の試み	第４日目：17:30～19:00フライでマスを釣る（実践20）	釣れるポイントの情報交換をすること。	60分
第26回	魚を釣った人の事例を参考にすること。	第４日目：20:00～21:30 個別指導・説明会（講義6）	魚のいる場所を確認すること。	60分
第27回	ニジマスなどを釣る試み	第５日目：6:00～7:30フライでマスを釣る（実践21）	実績のある場所を選んで狙うこと。	60分
第28回	フライフィッシングの名人紹介	第５日目：9:00～10:30日本のフライフィッシングの名士たち（講義7）	フライフィッシングの達人をひとりあげ調査すること。	60分
第29回	世界のフライフィッシング2	第５日目：10:40～12:10世界のフライフィッシングの名士たち（講義8）	フライフィッシング世界大会につて調査すること。	60分
第30回	世界のフライフィッシング２	第５日目：13:00～14:30世界のフライフィッシングの名士たち（講義90	フライフィッシング世界大会につて調査すること。	60分

学習計画注記	悪天候により外出・実習できないことがあり、プログラムの大幅な変更を余儀なくされることがある。
学生へのフィードバック方法	魚が釣れるか。釣れないか。それが課題でありひとつの結果である。しかし、実習生同士協力して成果を上げることも重要である。
評価方法	平常点50%，演習・釣果判定等50%で総合的に判定する. （平常点はプログラムの課題達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する．）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	釣果判定	○	○	○	○

評価割合	平常点50%，演習・釣果判定等50%で総合的に判定する. （平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する．）
使用教科書名(ISBN番号)	適宜
参考URL	http://yozawa.jp/
ディプロマポリシーとの関連	日常生活から離れて自然環境の中で自分と向き合う時間はさまざまに意味を持つことがある。その時間の中で生活のことを考え、仲間のことを思うかもしれない。日常から離れて、また日常へ帰るとき生活者としての自分に気がつくものである。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	自作のフライでニジマスを釣って胃袋におさめる．わたしたちはそのとき何を思うだろう？

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。また、2018年イタリア、2019年タスマニアでの世界大会に日本代表として2回参加した。それらの経験を学生に還元するための集中授業である。
アクティブ・ラーニング	○	自然環境を理解し、魚との距離をとって的確にキャストすることが求められ、自然と釣りの双方の学習が必要であること。
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｄ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	X13260M22
授業概要(教育目的)	スキー・スノーボードの滑走技術とその理論を学ぶと共に、運動文化としてのスノースポーツについて考える。また、スキー・スノーボードがもたらす心身への影響や、移動手段としてのスキーやスノーボードの歴史的背景、スキー・スノーボードを取り巻く環境問題をはじめとした諸問題についても学習する。なお、スキー、スノーボードの講習は、それぞれ専門の大学教員が担当する。
履修条件	体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日常で用いない新しい技術をどのように学ぶか理解している。 認識的な理解をするのと同時に、実践（身体）を通して学ぶ事の意義を理解している。
思考・判断の観点（K）	ゲレンデの状況に合わせた安全な振る舞いをすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	初級者や初心者指導に対応できる態度を持っている。 他者に対する言葉かけや、指導の方法を理解している。
技術・表現の観点（A）	ゲレンデを滑走する技術を身につけている。 初心者や初級者の技術向上に対して、適切な助言や声掛けができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	冬季スポーツの歴史（スキー・スノーボードの歴史）	冬季スポーツが世界でどのような歴史を経て来たのかを理解する。日本のスキーとスノーボードの歴史を理解する。	スキーやスノーボードが高校や大学で普及してきた年代について考えおく。	60分
第2回	冬季スポーツの魅力	冬季スポーツの魅力について、地域性や年齢段階、スポーツ活動の場から理解する。	スノーボードが特に若者に指示される理由について考えておくこと。	60分

第3回	スキー・スノーボードの用具の発展	スキーやスノーボードには、板やストック、靴と一緒に締め具といった特殊な用具が使用される。これらの歴史的発展やその使い方を理解する。用具の発展は、技術の発展と大きく結びついていることを理解する。	用具について、調べておくこと。	60分
第4回	スキー・スノーボードの技術について	スキー・スノーボードには多くの技術があり、技術は滑降する斜面と関係していることを理解する。	技術は簡単なものから複雑なもの、低速から高速、荒削りのものから洗練されたもの、というように体系化されていくことを考えておくこと。	60分
第5回	冬季スポーツと事故や怪我の防止	スポーツの実施にともなう事故や怪我の発生について理解する。ハインリッヒの法則を中心に怪我の予防について理解する。簡単な救急処置について理解する。	スキー場での怪我は、なぜ生じるのか考えておくこと。	60分
第6回	初心者・初級者の技術（実技）	スキーやボードで雪面をずらして滑ることを学ぶ。安定した姿勢で雪面をゆっくりと真下に滑ることを学ぶ。	初心者や初級者が雪の上を滑る時の気持ちを考えておくこと。	60分
第7回	初級者の特徴	スキーやボードの初級者の陥りやすい姿勢、スキ−・ボード板の操作の特徴について理解する。斜面に対応する重心の位置や構えの姿勢について理解する。	斜面を下に滑降していくということは、どのような事なのか考えておくこと。	60分
第8回	初級者から中級者へ	斜度が変わる度に、姿勢を変えることを理解する。いろいろな斜面を滑るために股関節や脚の角度を変えることを理解する。	斜面の凹凸を通過する時の重心の位置を考えておくこと。	60分
第9回	スキー・ボードの操作	板のエッジを切り替えることによって、ターンが生じることを理解する。荷重の切り替え、スキー板やボードの脚による操作について理解する。	スキーやボードの動画を見て、上級者がどのように板を操作しているか事前に調べておくこと。	60分
第10回	滑走感覚を習得する	長い距離を滑ることによって、習得した技術をさらに高めることを学ぶ。長い時間を滑ることによって、スキーやボードで使用する体の使い方を理解していく。	長い距離や長い時間、スキーやボードをするために必要な体の使いかたについて調べておくこと。	60分
第11回	滑りのバリエーション	なめらかなゲレンデや整地されていないゲレンデ、凹凸のある斜面、一定の斜度があるところといったような、様々な条件下を滑ることができる技術を習得する。	長い距離、色々な斜面、を滑りきれるためにはどのような滑りが望ましいのか考えておくこと。	60分
第12回	リスクマネジメントと応急処置	ゲレンデ内での事故防止のために、何が必要なのかについて理解する。事故に遭遇したり当事者となった時の対処方法について理解する。	スキー場の安全管理やスノースポーツの保険について調べておくこと。	60分
第13回	スピードとコントロール	スキーやボードの滑走スピードは、常に止まれるスピードで滑走しなくてはならいことを理解する。オーバースピードは事故につながることを理解する。ゲレンデ内の標識や注意事項を理解し滑走することを学ぶ。	ゲレンデでは滑走ルールを厳守することが重要であるとともに、相手の滑走方向を常に予測しながら自身が滑走していく必要があることを考えておくこと。	60分
第14回	スキー・ボードの用語	スキーやスノーボードで用いる様々な用語について理解する。それぞれの種目の技術用語と指導用語について理解する。	ヨーロッパや欧米から伝わったスポーツで用いられる用語は、指導場面で多く用いられることを学習しておくこと。	60分
第15回	総合的な滑走	スキーやスノーボードを操作して、様々な条件下を自身のコントール下で自由に安全に楽しく滑る楽しさを理解する。	事故や怪我を生じさせないで自由に楽しく安全に滑るために、準備運動から始まり適切な服装の用意、指導者の意見、斜面の選定など様々な条件を学習することの必要性について理解しておくこと。	60分
第16回	用具になれる	靴や板を履いて、重さに慣れ日常生活の中の用具と違う感覚を理解する。	部屋で足の運びを実際に行っておくこと。	90分
第17回	歩行と方向変換	板をつけて歩行したり、斜面を登っていく方法を理解する。長い装具である板を履いての方向変換を理解する。	方向変換の方法を調べて足の運びを理解しておくこと。	90分
第18回	斜面を真下に滑り停止する	面を真下にまっすぐに滑って行く時の、荷重の方法とエッジのコントロールを理解する。	上体の構えや、重心の位置、股関節の角度の変化を理解しておくこと。	90分
第19回	方向を変えて停止する	脚を曲げて停止する方法から、山回りによってエッジの角付けを強めて停止することを理解する。	エッジを強めるためにはどのようにするのか、学習しておくこと。	90分
第20回	エッジを切り替える	エッジを切り替えることによってスキーやボードは回転を生じることを理解する。	エッジの切り替えのコントロールによってターンが早くなった	90分

			り、大きくなったりすることを学習しておくこと。	
第21回	ターン（山回から谷回り）	真下に向かうフォールラインを板が2回通過すると山回りから谷回りとんりターンが生じること、体の重心の切り替えが生じることを理解する。	ターンを行うために、からだの重心はどのような軌跡をたどるのかを理解しておくこと。	90分
第22回	ターンを連続する	滑らかな斜面でターンの連続を行うことを学ぶ。積極的な上体の構えがターンの連続を可能にることを理解する。	上体の構えがターンをリードしていくことを理解しておく。	90分
第23回	エッジを切り替える	エッジを切り替えるための荷重の方法や、上体の立ち上がりの方法を理解する。	スキーやスノーボードでは、脚以外の部位に緊張があるとスムーズな回転が難しいことを理解しておく。	90分
第24回	回転弧を替えて滑る	大きなターンや小さいターン、早いターンやゆっくりしたターンといた変化のあるターンを、体でコントロールして滑ることを理解する。	脚や股関節、上体の積極的な立ち上がりを行うことで回転を滑らかにできることを理解しておく。	90分
第25回	いろいろな斜面を滑る	自然の中では、全く同じ条件で全く同じ滑りをするということは不可能である。気象条件や雪質の変化に対応しながら滑ることを理解する。	90分	
第26回	スピードのコントロール	常に停止できるスピードで滑る。そのためには脚や股関節の自由度を大きく保ち、いつでも停止できる状態で滑ることが重要であることを理解する。	安全なスピードで滑走することが、スキーやボードにとって大切な要件であることを理解しておくこと。	90分
第27回	長い距離を滑る	様々に変化した斜面を長く滑ることが上達に繋がることを理解する。	長い距離を滑ることによって、滑走感覚を身につけることが重要であることを理解しておく。	90分
第28回	フォーメーションで滑る	他者の滑走リズムに合わせて自分の滑走スピードやリズムをコントロールすることが大切であり、上達するための方法でもあることを理解する。	他人のスピードやリズムに合わせられることは、スピードコントロールが常にできていることを理解しておく。	90分
第29回	指導をする	初心者に教えられることは、様々な事柄を理解し滑走技術も習得できた証であることを理解する。	初心者に教えるために必要な事柄を整理し、どのような方法を用いるのが最適な方法かを準備しておくこと。	90分
第30回	応用技術を習得する	これまでに学習した技能を用いて、さらにいろいろな斜面や斜度に対応した技術を理解する。	応用的な技術は、どのような場面で求められるのかについて理解しておくこと。	90分

学習計画注記	・授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 ・希望者に対し、全日本スキー連盟のバッジテスト（スキー・スノーボードのそれぞれ1～3級）を実施します。（別途、受験級に応じた受験料、公認料等が必要です。）
学生へのフィードバック方法	・講習中は常に教員がアドバイスを行います。 ・実力に応じた班編成で、1班10名程度で講習を行います。 ・メディアを用いた指導法で、滑りを還元していきます。
評価方法	・事前指導が5日間あります。実習中は夕食後に講義を実施します。事前指導、実習中の講義については毎回ノートの提出を求めます。 ・4泊5日の最終日にそれぞれの班ごとに、実技テストを実施します。 ・講義中のノートの提出状況と実技テストの総合判定とします。 ・実技テストとノートの割合は、50%づつとします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	講習ノート	○		○	
	実技テスト	○	○	○	○

評価割合	講義ノート（50%）、実技テスト（50%）を総合して評価する。
参考図書	公益財団法人 全日本スキー連盟「日本スキー教程」（2018年）山と溪谷社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に

	判断して提案できる 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く 【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって課題を発見し表現することで他者との共感を創り出す
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	スキー・スノーボード実習は、普段とは異なる土地で、慣れない集団生活、慣れないスポーツを実施します。普段とは異なる環境に身を置くこと、特に集団生活は、きっと我慢しなければならないこともあり、疲労感にもつながるかと思いますが、その分、楽しさを感じることや、自分自身の新しい一面に気づくきっかけにもなります。また、受講生同士のコミュニケーションを深める機会にもなるかと思います。是非、「非日常」での自分と、そして共に過ごす他者と向き合う機会にして頂ければ嬉しいです。 また、実習では技術の習得に向けて、グループごとに講師の先生とともに5日間、集中的にスキー・スノーボードに取り組みます。きっと初日に出来なかったことが翌日にできるようになり、さらに翌日には余裕でできるようになり…と、上達を実感することができると思います。上達のためには「チャレンジ」の連続になるかもしれません。積極的にチャレンジを続け、その結果、どのように自分自身が変わっていくのかを楽しんで頂ければと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループごとのピアレクチャーを行う。また、実際に身体を動かしながら学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習ｄ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川　賢一	指定なし

ナンバリング	X13261C22
授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解します。スポーツ実施に必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図り、楽しく実施できる能力を習得します。
履修条件	※公共交通機関が運休の場合は開講しません。宿泊を伴う夏季集中で開講するため、確実に履修できる学生を優先します。定員を超えた場合は抽選となります。履修希望者はオリエンテーションに必ず参加して下さい。 今年度は8/8（月）-8/12（金）に蓼科山の家で実施する予定です（実習費25,000円税込、交通費別）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	テニスの特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点（K）	テニスのゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	テニスの基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション（千代田三番町、町田）	本授業の目的と概要を理解する。 演習に必要な服装・用具を準備する。	新体力テストの実施要領を調べる。	復習60分
第2回	新体力テスト	ウォーミングアップの方法を理解する。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。 クールダウンの方法を理解する。	テスト結果を同世代と比較し、基礎的なプログラムを作成する。	復習60分
第3回	グランドストローク	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作	復習60分

	（フォアハンド）		を予習する。	
第4回	グランドストローク（フォアハンド）	フォアハンドについてポジションの取り方を説明する。 右利きの場合、体の正面から見て、右側に来るボールをフォアファンドで対応する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第5回	グランドストローク（バックハンド）	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第6回	グランドストローク（バックハンド）	バックハンドについてポジションの取り方を説明する。 右利きの場合、体の正面から見て、左側に来るボールをバックファンドで対応する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第7回	グランドストロークの練習１	フォアハンドからバックハンドハンドを組み合わせて練習する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第8回	グランドストロークの練習２	バックハンドからフォアハンドを組み合わせて練習する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第9回	グランドストローク（クロス）	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第10回	グランドストローク（ストレート）	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第11回	グランドストローク（逆クロス）	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第12回	ボレー	ボレーの方法を理解する。 ネット付近での、ラケットワークを説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第13回	スマッシュの練習１	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、正確に打ち返す方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第14回	スマッシュの練習２	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、ポイントにつながる方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第15回	サービスの練習１	サービスの種類と方法を説明する。 ファーストサービスの技術を習得する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第16回	サービスの練習２	サービスの種類と方法を説明する。 セカンドサービスの技術を習得する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第17回	サービス・レシーブの練習１	サービスされたボールを確実に打ち返す方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第18回	サービス・レシーブの練習２	サービスされたボールを打ち返し、得点する方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第19回	試合の進め方・審判の方法	ルールを理解し判定をできるようになる。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第20回	試合の進め方・審判の方法	正しく、コールできるようになる。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第21回	ミニゲームでの試合・審判の方法	ミニゲームの方法を説明する。 本来より短い試合の進め方を学習する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第22回	ミニゲームでの試合・審判の方法	本来より短い試合でのセルフジャッジに慣れる。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分

第23回	ミニゲームでの試合・審判の方法	シングルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第24回	ミニゲームでの試合・審判の方法	ダブルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第25回	ゲーム形式での練習	ミニゲームを発展させた試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第26回	ゲーム形式での練習	シングルスのミニゲームを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第27回	ゲーム形式での練習	ダブルスのミニゲームを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第28回	５ゲームでの試合	5ゲームのシングルスの試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第29回	５ゲームでの試合	5ゲームのダブルスの試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	復習60分
第30回	５ゲームでの試合（まとめ）	テニスの基礎技術、プレーマナー、チームワーク、スポーツをする、観る、支える知識、態度、行動について説明する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	復習60分

学習計画注記	※天候、履修者の技能レベル、人数によりスケジュールや内容が変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業中およびオフィスアワーで対応します。
評価方法	スポーツを通じた健康づくりについての理解とともに、安全で効果的な運営への貢献度や健康づくりの達成度を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	スポーツによる健康づくり実践			○	○
	レポート	○	○		

評価割合	健康づくりの達成度50%、レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	全米テニス協会評価プログラム(NTRP)ガイドライン（URL参照）
参考URL	https://assets.usta.com/assets/639/15/National%20tennis%20Rating%20Program.pdf
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている 【技術・表現】学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている
オフィスアワー	木曜日昼休み
学生へのメッセージ	初心者向けに蓼科山の家で実施する（夏季集中）。NTRP3.0～4.5を主な対象とします。演習期間は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとることを心がけて下さい。運動不足の人は自宅でストレッチするなどして受講して下さい。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しむことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	体育講義		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 入江　由香子	指定なし

ナンバリング	X13280M11
授業概要(教育目的)	健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。 また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておくことが必要になる。 スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	からだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル（生活様式）を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
思考・判断の観点（K）	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、必要な動きを分類できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、スポーツについて考える	スポーツそれぞれの持つ特性や私たちとの関係性について学ぶ。	自分の好きなスポーツ、知らないスポーツについて事前に調べておく。	60分

第2回	ストレスと運動	ストレスを中心としたこころと運動について学ぶ。ストレスと運動のメカニズムを理解する。	日常的にどのようなストレスを感じ、どのようにして対処しているのかを考える。	60分
第3回	生活習慣病について	生活習慣病と運動習慣について学ぶ。	生活習慣病について理解を深める。	60分
第4回	トレーニング	トレーニングのメカニズムを知る。筋力を高めるトレーニングの原則と原理について理解する。	自身が行ったことがある（行っている）トレーニングについて順番や方法などを見直す。	60分
第5回	肥満について、骨と運動について	加齢に対する運動の関係について学ぶ。肥満の構造と骨の構造を学び、運動との関係を理解する。	肥満の改善にはどのような運動が望ましいか考える。子どもの骨折について知る。	60分
第6回	幼児期に必要な運動①	子どもを取り巻く運動やスポーツ環境について理解する。30年前と今ではどのように異なるのかを理解する。	文部科学省のHPから、それぞれの時代の子どもの体力や遊びについて調べておくこと。	60分
第7回	運動神経について	運動神経とは何を指すのか、何歳頃から向上するのか、どうすればよくなるのかを学び、理解する。	運動神経の良い人と悪い人では何が異なるのかを考える。	60分
第8回	年代別に応じた運動指導法	年代別に応じた運動指導法を鬼ごっこを例に理解する。	小さいころ経験した鬼ごっこのルールや特徴を思い出す。アレンジルールを考える。	60分
第9回	色々な環境下での運動	色々な環境や季節において運動を実施する際の注意点を学ぶ。色々な環境にて運動を実施する際のパフォーマンスについて理解する。	夏に行う運動と冬に行う運動の特徴や予測される危険面を考える。	60分
第10回	幼児体育	子どもの成長に合わせた幼児体育について理解する。発達と運動の関係について理解する。	子どもの体力の低下、運動能力の低下について調べる。	60分
第11回	遊具と安全管理	遊具の特性と遊ぶ上での点検項目や安全管理について理解する。	小さい頃に公園や園庭で遊んだ遊具と今の遊具にどのような変化があるかを事前に調べておく。	60分
第12回	子どもの体力と運動	子どもの体力と運動能力について学ぶ。子どもを取り巻く運動、スポーツ環境の実績を理解する。	文部科学省のHPにて各年代ごとの体力や変化について調べておく。	60分
第13回	スポーツにおけるレクリエーション要素	レクリエーション要素である「楽しい」とは何なのか、楽しいを伝えるためにはどうすればよいのかを考え学ぶ。	自分自身が楽しいと思えるものは何があるか複数考えておくこと。そして、なぜそれを楽しいと思えるかを考える。	60分
第14回	ライフスタイルと健康	生活スタイルと健康との関連について学ぶ。生活スタイルや嗜好がどのように健康面に影響を及ぼすのか理解する。	自分自身のライフスタイルを意識して把握する。以前と比べて変化したところを書き出しておく。	60分
第15回	運動時の応急処置	運動時に起こる怪我やその際の応急処置について学ぶ。	幼児期にはどのような怪我が多いか、どのような場面で怪我が多いのかを調べる。	60分

学習計画注記	授業の進行状況や新型コロナウィルス感染症対策による遠隔授業、対面授業の授業計画により、スケジュールが変更となる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して返却する。小テストの模範解答はgoogleclassroom上に提示する。 毎授業時の終わりにワークシートを提出する。提出されたワークシートは評価、添削し次週以降の授業時に返却する。
評価方法	小テストは講義の内容に沿ったものとし、30点満点とする。 ワークシートは2点満点とし、総計は2点×15回で30点満点とする。 期末試験は40点満点とし、上記点数と総合して評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		
	ワークシート	○	○	○	
	期末試験	○	○		

評価割合	小テスト（30%）ワークシート（30%）期末試験（40%）を総合して評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動やスポーツを、発育・発達に応じてとらえる知識をもつ。生涯を通してどのようなスポーツと関わって行くことが望ましいのかという知識をもつ。スポーツは健常者のみのものでなく、障害者とともに楽しむことであるという知識をもつ。 【思考・判断】今後、自分がスポーツや運動とどのように関わっていくのかという判断ができる力を身につけている。
学生へのメッセージ	授業で得た知識を自分自身の体験と照らし合わせて、運動や体育の必要性を考えてください。 今後の自分自身のライフスタイルをどのようにしていくかを考える機会にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育園にて幼児体育指導員および保育士への運動指導アドバイザー、小学校にて体育テクニカルアドバイザーとして勤務した実務経験を元に、健康や生活習慣、運動との関連性について教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	体育実技		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実技
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 入江　由香子	指定なし

ナンバリング	X13290M13
授業概要(教育目的)	本来、学校体育とは生涯にわたり、運動に親しむ素質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるものである。 また、楽しみながら運動を継続することで体力の体得、疾病等の軽減ができ、健やかな生活を送ることができる。このような体育教育の目的や身体活動の楽しさを授業を通して学生自身が体験し、他者との共存・協力する姿勢を身につける。 保育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。 各種スポーツやレクリエーションスポーツを実践していく中で、「からだ」を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって自ら健康や体力に配慮し、それらを保持増進していくために必要な習慣を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	様々な運動を通して、保育現場でも子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を養う。
思考・判断の観点（K）	そのスポーツや運動の特徴やポイントを理解し、修得する。
関心・意欲・態度の観点（V）	生涯に渡ってスポーツに親しむ生涯スポーツの理念と実践力を身につけるようにする。
技術・表現の観点（A）	基礎的な運動やスポーツ種目を体験することで、身体づくりのための体力を養う。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	有酸素運動	有酸素運動の種類を紹介し、自分自身にあった有酸素運動を選択し実践する。	有酸素運動とは何かを調べどのようか効果があるのかを知る。	90分
第2回	筋力トレーニング	筋力トレーニングの方法や種類を紹介する。自分自身にあった筋力トレーニングを選択し実践する。	筋力とは何かを調べどのようか効果があるのかを知る。	90分
第3回	体力テスト	自宅でできる体力テストを実践する。体力年齢と実年齢との差を知る。	体力とは何かを知り、測定に際し事前に用意するものを準備する。記録用紙に記入する。	90分

第4回	リズム	リズム遊びを実際に行ってみる。	リズムはどの運動能力なのかを調べ、興味があるリズム遊びを探す。	90分
第5回	レクリエーション	運動領域の中のレクリエーション要素を取り入れた運動遊びを紹介し、実践する。	日本レクリエーション協会のHPを閲覧し、どのようなレクリエーションがあるのかを調べる。	90分
第6回	からだほぐし、ニュースポーツ	普段使っている筋肉や体の動きを再確認し、普段使用していない筋肉や体の動きは何かを実践的に知る。	どのような動きが苦手でどのような動きがしやすかったかを思い出し、苦手な動きを復習する。	90分
第7回	鬼ごっこ①、ニュースポーツ	鬼ごっこを発達に合わせて紹介し、実践する。特徴ある鬼ごっこを理解する。	事前に鬼ごっこについて調べておく。アレンジ方法を考える。	90分
第8回	身体表現、ニュースポーツ	幼児期に身体表現がなぜ大切なのかを知り、身体で表現することを楽しむ。	授業で学んだ身体表現を家族や友人等、周りの人にも伝えられるようにする。幼児に対してもわかりやすく説明するにはどうすればよいかを考える。	90分
第9回	運動会種目、バスケットボール	実際に保育現場で行われている運動会種目を体験する。 シュートの成功の確率が勝敗に大きく影響しているバスケットボールについて、確率の高いシュートを打つための方法を理解する。	シュート練習の重要性について理解しておく。	90分
第10回	ドッヂボール、バレーボール	幼少期に行った、保育現場で行われているドッヂボールを数種類体験する。 バレーボールを通して、チームワークの必要性、作戦の大切さを理解する。	バレーボールは個人スポーツではないこと、6人が協力するとはどういうことなのかを理解しておく。	90分
第11回	キッズダンス、リズム運動	保育現場で行われているキッズダンスやリズム遊びを体験する。	インターネットや書籍等で保育現場で人気なキッズダンスやキッズ体操について調べておく。	90分
第12回	サッカー、器械運動	シュート時の感覚やパスが通った時の感覚を体験し、サッカーの楽しさを理解する。 器械運動の特性を理解し、ポイントについて学ぶ。	チームが一つになって、相手のゴールにボールを運ぶ時の感覚を理解しておく。	90分
第13回	鬼ごっこ②、レクリエーションゲーム	鬼ごっこを体験する。各年代で楽しむことができるレクリエーションゲームを体験する。	発達に沿ってそれぞれの年齢にあった鬼ごっこを調べる。	90分
第14回	模擬保育（運動遊び）実践のための計画・準備	グループに分かれ、模擬保育（運動遊び）実践のための計画をたてる。計画に沿って準備をする。	事前に運動遊びを調べる。相手にわかりやすい説明とは何かを考え、練習する。	90分
第15回	リズムテスト、模擬保育（運動遊び）実践	リズムテストを行う。 グループごとに考えた子どもが楽しめる運動遊びを発表する。子どもたちはどのような運動を楽しむのか理解する。	リズムテストの練習。 楽しい運動とはどういうものか子どもの気持ちになって考えておく。	90分

学習計画注記	授業の進行状況や新型コロナウィルス感染症対策による遠隔授業、対面授業の授業計画により、スケジュールが変更となる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の実技授業を通して、自身の得意な領域を見つけさらに興味を深めていくようにする。苦手な運動に対しては段階を追って練習をするようにアドバイスをしていく。
評価方法	最終授業回に実施する実技試験（リズムテスト）、実技参加の積極性および協調性、授業に対する関心・意欲・態度（30%）、指導案作成・模擬実践内容を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実技試験（各運動の基本的技能）	○	○	○	○
実技参加の積極性および協調性	○		○	○
授業に対する関心・意欲・態度	○	○	○	

	指導案作成・模擬実践内容	○	○	○	○

評価割合	実技試験（各運動の基本的技能）（20%）＋実技参加の積極性および協調性（30%）＋授業に対する関心・意欲・態度（30%）＋指導案作成・模擬実践内容（20%）＝合計（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々なスポーツのルールを理解する。スポーツの戦術やトレーニングの方法を理解している。 【思考・判断】ゲームを通して相手の動きの予測や判断ができる。 【関心・意欲・態度】様々なスポーツゲームに積極的に取り組み、チームのために努力を惜しまない。 【技術・表現】新しい運動遊びを考え、他者にわかりやすく見せるための工夫や表現をしている。
学生へのメッセージ	授業の前には、自身が幼少期に行っていた運動遊びを思い出し、幼児期の運動について考えてみてください。 また、授業がない日でも、普段から、からだを積極的に動かしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育園にて幼児体育指導員および保育士への運動指導アドバイザー、小学校にて体育テクニカルアドバイザーとして勤務した実務経験を元に、保育現場で行っている運動遊びや年代関係なく楽しく活動できるスポーツやニュースポーツを紹介する。
アクティブ・ラーニング	○	運動時の体験をフィードバックしながら、新しい技術に取り組んでる。
情報リテラシー教育	○	新しいゲームや運動を考え実践していくために、年齢に応じた運動遊びへの興味や関心について調べる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教養の化学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島　綾子	指定なし

ナンバリング	X13310M21
授業概要(教育目的)	生活の中で出会う現象をとりあげ、現象の背景にある化学の基本的な原理を学ぶとともに、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。また、地球環境と人間活動の関わり、直面している地球環境問題について学ぶ。授業終了時、本講義が、科学、科学技術に目を向け、地球環境問題を身近に捉えるきっかけとなることを願う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１、生活の中で出会う化学的な現象の基本的な原理を理解することができる。 ２、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。
思考・判断の観点（K）	１、暮らしに密着した化学の内容を健康や暮らしと結び付けながら学習する。 ２、身近な現象の化学を学ぶことにより、身の回りの現象や物質、食物などについて、化学的な視点から捉えられるようになることを目的とする。
関心・意欲・態度の観点（V）	１、特に関心を持った分野について、より知識を深めるための課題に取り組む
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	暮らしと化学、測定	スモッグはどうやってできるのか？オゾン層はなぜ壊れるのか？釘はどうしてさびるのか？アスピリンはなぜ頭痛にきくのか？暮らしに密着した謎ときの一部を簡単に紹介する。 化学の測定も暮らしに深く関係する。測定と単位、数値の扱い方、物質の密度などを勉強する。健康、環境問題を読み解くにも測定の理解が欠かせない。	教科書第1章「暮らしと化学」、第2章「測定」（1～22ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第2回	物質とエネ	物質の分類、物質の三態と性質を学ぶ。	教科書第3章「物質とエネルギ	180分

	ルギー	摂氏、華氏、絶対温度の三種類の温度と換算方法を学ぶ。 運動エネルギー、位置エネルギー、食品のエネルギーの単位や計算方法を学ぶ	ー」（24～37ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	
第3回	元素と原子	万物は元素からできている。元素や元素記号、周期表を学び、身の回りにある元素を身近なものに感じてもらう。アルミ箔はアルミニウム、指輪は金や銀、白金などの元素、体の中だと骨や歯にはカルシウム、リン、赤血球には鉄、甲状腺の機能に関わるヨウ素が欠かせない。	教科書第4章「元素と原子」（40～52ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180
第4回	電子配置と周期性	プリズムや水滴を通った太陽の光は、いくつかの色に分かれて見える。虹も同じようにして生まれるし、高温できれいな色を出す元素は花火に使う。原子がもつ電子の性質は光の色や研究から分かった。第４回では原子内で電子がどのような状態にあるのかを調べ、元素の性質と周期表上の位置との関係について学ぶ。	教科書第5章「電子配置と周期性」（54～70ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第5回	無機化合物と有機化合物	自然界では、ほとんどの原子が別の原子と結合している。二種類以上の元素の原子が一定の割合で結合し合った純物質を化合物という。食塩（NaCl）や重曹（NaHCO3）などのイオン化合物、プロパンC3H8やエタノールC2H5OHなどの有機化合物について、結合様式や特徴について学ぶ。	教科書第6章「無機化合物と有機化合物」（72～87ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第6回	物質の量	物質の化学式から、ある元素の質量や原子の個数がわかり、逆に元素の組成比から物質の化学式がわかる。第６回では化学の本質となる粒子の数をどんな単位で測るのか、化学式と元素組成との関係などを学ぶ。アスピリンなどの薬を飲むときには、ラベル表示を見て服用量を決める。また、食品の栄養表示は、炭水化物や脂肪、ナトリウム、鉄、亜鉛などの量を教える。	教科書第7章「物質の量」（89～97ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第7回	反応の表記と分類	化学反応式の書き方、反応式の係数の合わせ方、化学反応の分類について学ぶ。 有機化合物の官能基、有機化合物の反応について学ぶ。 どんな反応も安定な状態を目指して起こり、反応物が結合を組み替えて生成物になる。 化学反応式から光化学スモッグやオゾン層についても考える。	教科書第8章「反応の表記と分類」（101～115ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第8回	量でみる化学反応	正しい反応式は、反応物と生成物のモル関係を教える。物質のモル質量を使うと、反応物と生成物の質量がわかる。反応には熱の出入り(エネルギー変化)が伴い、熱を出しながら進む反応と吸収しながら進む反応がある。生物はエネルギーを使い、小さい分子から巨大なタンパク質やグリコーゲンの分子を作る。発熱反応で出るエネルギーは、特別な化合物がもつ結合に備える。第８回では、反応物のモル、質量の関係からエネルギーまでを学ぶ。	教科書第9章「量でみる化学反応」（117～126ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第9回	分子やイオンの形と引き合い	イオン化合物と共有結合化合物については第５回で簡単に学ぶが、第９回では少し複雑な結合も扱い、まずは原子のつながり方と分子や多原子イオンの形との関係を調べる。原子のつながり方も化合物の共鳴構造もルイス構造を描くとわかりやすい。分子の引き合いについて学び、固体、液体、気体の状態変化がなぜ起こるのかを考える。	教科書第10章「分子やイオンの形と引き合い」（128～144ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第10回	気体	私たちは大気という気体の底で生きている。大気の約21%は動植物の生存に欠かせない酸素が占める。成層圏で紫外線を吸収した酸素からできるオゾンは、生物にとって危険な紫外線を弱めてくれる。環境や健康のことを正しく考えるためにも、気体の性質をつかみ、気体の法則を知っておきたい。気体の圧力と体積の関係（ボイルの法則）、温度と体積の関係（シャルルの法則）、温度と圧力の関係（ゲーリュサックの法則）、気体の量と体積（アボガドロの法則）、気体の分圧（ドルトンの法則）などについて学ぶ。	教科書第11章「気体」（148～162ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第11回	溶液	何かが何かに溶けるということはどういうことかを考える。 電解質と非電解質との違いについて学ぶ。 溶解度、パーセント濃度、モル濃度などの計算を学ぶ。 融点や沸点などの溶液の性質が、溶質が溶けるとどのように変化するのかを考える。	教科書第12章「溶液」（164～181ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第12回	化学平衡	化学反応が起こるとき、反応は一方方向だけに進むわけではなく、たいていの場合、生成物の粒子がぶつかり合って結合を組み換え、反応物に戻る逆反応も進む。正反	教科書第13章「化学平衡」（183～198ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導	180分

		応と逆反応の速度が釣り合えば、見かけ上、反応物と生成物の量は変わらない。それを化学平衡の状態という。第１２回では、化学平衡について学ぶ。生成物がごくわずかできて平衡になる反応もあり、反応物のほぼ全部が生成物になって平衡になる反応もある。	きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	
第13回	酸と塩基	酸と塩基は暮らしや産業、環境に深く関わる。レモンやオレンジの酸味は、クエン酸やアスコルビン酸（ビタミンC）などの有機酸が出す。胃液の塩酸は食物の保存と消化を助け、胃酸過多の人は制酸剤（酸化マグネシウムなど）を飲んで酸を中和する。酸と塩基は産業にも欠かせない。合成物質の王座を占める硫酸は、肥料やプラスチック、洗剤の原料や鉛蓄電池の電解質にも使う。水酸化ナトリウムNaOHは、パルプ、紙、石鹸、繊維産業やガラスの製造に多用する。自然界では、雨や河川水、土の酸性化が問題になる。酸性の強い雨は大理石を溶かし、金属製品を腐食させる。このように現代の暮らしに深く関わる酸、塩基の性質と中和反応などについて学ぶ。	教科書第14章「酸と塩基」（200～219ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第14回	酸化と還元	酸化、還元と暮らしの関係は広くて深い。鉄釘のさびも銀食器の黒ずみも、金属の腐食も酸化反応が生む。車のライトを光らす電気エネルギーは、蓄電池のなかで進む酸化還元反応から出る。寒い日に暖炉で気を燃やせば有機物が酸化されてCO2とH2Oになるとき熱がでる。食品のでんぷんは分解されてグルコース(ブドウ糖)になり、そのグルコースが酸化されるときに出るエネルギーが私たちの体温を保ち、さまざまな活動を支える。このような身の回りの酸化、還元反応について、電子のやりとりに注目して学ぶ。	教科書第15章「酸化と還元」（223～237ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第15回	放射能の化学	初の人工元素（リン-30）をキュリー夫妻が作って3年後の1937年、カリフォルニア大学バークレー校が、放射性同位体を白血病の治療に使った。1946年には、放射性ヨウ素を使う甲状腺の診断と甲状腺がんの治療に成功し、放射線医学が大きく前に進んだ。現代ではいろいろな放射性物質を使い、たいていの臓器の形状と機能を探れる放射線医学は疾患の早期発見と治療に役立っている。第15回では放射線の反応や半減期について学び、放射線の生体影響や放射線医療との関係などについて考える。	教科書第16章「放射能の化学」（239～254ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分

学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、出席用紙提出の際に毎回小テストを行う。小テストの解説は翌週行うので、質問等がある場合には授業終了後に質問にくること。
評価方法	・小テスト、および授業での発言を重視する。小テストについては、間違い直しを行って提出すること。 ・授業中に特に興味を持った分野について、さらに感心、知識を深めるために課題提出を実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		
	授業中の発言	○	○	○	
	課題提出	○	○	○	○

評価割合	小テスト、平常点（60 %）と課題提出（40%）により評価する。 平常点は授業への参加状況、授業中の小テスト等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	ティンバーレイク教養の化学　（東京化学同人）　（978-4-8079-0822-6）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の多様性を化学の知識から考えるために必要な知識と考え方を身に付ける。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中で浮かび上がる問題について，化学の基礎理論から、客観的に分析、考察する力を身に付ける。
学生へのメッセージ	教科書を必ず入手し、授業の前後によく目を通すこと。 例題、解説をよく読み、どこまで理解できているかを確認してから授業に出席すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google Classroomを用いて課題を提出する。必要な場合には、解説動画を作成する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	化学入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島　綾子	指定なし

ナンバリング	X13320M21
授業概要(教育目的)	化学は物質の性質、物質の変化を扱う学問である。物質をつくる原子の構造および結合、結合と物質の関係を学び物質の性質について理解を深める。また、物質量、濃度、酸、塩基とpHなどの計算を理解する。前半９回の授業は、高校化学の復習を含む基本的な内容、後半５回は前半の復習及び発展的な内容とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１、化学の基本である「原子の構造」、「粒子間の結合」、「分子の形と分子間の相互作用」の３項目を十分に理解している。 ２、物質量とその他の物理量との関係を十分に理解し、濃度計算などに結び付けることができる。 ２、「酸、塩基とpHの計算」、「緩衝液」「酸化、還元」など専門課程の化学を学ぶ上で必要な基礎的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点（K）	１、分子の形と分子間の相互作用を理解できる。。 ２、物質量について理解し、物質量を用いた計算ができる。 ３、酸、塩基のpHの計算ができる。 ４、緩衝液の性質を理解できる。 ５、酸化、還元反応を理解できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１、積極的に予習を行い、理解できていない範囲、苦手な範囲を自身で確認し、授業中に克服する。化学の基本をしっかり学び、基礎力を定着させる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	元素と物質、単位と数値	化学の内容に踏み込む前に、化学を学ぶ際の基本事項を学ぶ。元素記号、指数、対数、物理量と単位、有効数字などの復習、確認を行う。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ元素記号、単位と数値の復習を行う。	120分

			授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	
第2回	原子の内部構造	化学の基礎となる原子の構造について学ぶ。原子は、原子核と電子から構成され、さらに原子核は、陽子と中性子という二種類の粒子から構成されている。原子の構造を理解するため、二つの重要な数である原子番号と質量数について学ぶ。これらの数と陽子、中性子、電子の数との関係を理解し、同位体やイオンについても学習する。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ原子の内部構造の復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第3回	原子の電子配置と共有結合、イオン結合	原子の中心には原子核があり、その周りにはいくつかの原子核がある。それぞれの原子核の電子がどのように収容されるかを示したのが電子配置である。電子配置に関する知識は、原子の化学的性質や共有結合を理解するために不可欠である。第3回では、電子配置を理解したうえで、共有結合、イオン結合について学ぶ。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ原子の電子配置の復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第4回	分子間の弱い結合	分子を作る共有結合やイオン結合に比べて、分子間に働く相互作用は、弱い結合である。分子間の相互作用は、分子の形やその極性を考えると理解しやすい。分子の形、極性と、分子間に働くイオン結合、水素結合、ファンデルワールス力などの分子間に働く弱い結合について学ぶ。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ分子間の弱い結合についての復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第5回	原子量、分子量、式量	第3回までに学んだ原子の構造、共有結合やイオン結合の知識を用いて、原子量、分子量、式量について学ぶ。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ原子の電子配置の復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第6回	物質量	物質量とその単位molは化学の基本であり、物質量なしでは化学は語れない。第6回では物質量及びその基礎となる原子量、分子量、式量について学ぶ。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ物質量の復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第7回	物質量と他の物理量との関係	化学の基本である物質量は、他の物理量である粒子の数、質量、体積と相互に交換できる。第7回では、これらの関係を学び、相互変換する方法を学ぶ。これは、溶液や化学変化の量的関係を学ぶ基礎となる内容である。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ物質量の復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	240分
第8回	溶液と濃度	化学では、金属と塩酸との反応、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和反応など、溶液が関与する反応が非常に多い。それゆえ、化学を学ぶ際に、溶液及び溶液中の各成分の割合である濃度に関する知識は不可欠である。第8回では、溶液の構成要素や種々の濃度について学習する。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ溶液と濃度の復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第9回	酸、塩基とpH	アレニウスの酸・塩基、ブレンステッドの酸・塩基、について学ぶ。さらに、酸と塩基の強さ、解離定数や水の自己解離、pHの考え方について学ぶ。	予習プリントを参考に、高校までに学んだ溶液と酸と塩基、pHの復習を行う。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	240分
第10回	中間テスト	第１回から第９回までの化学の基礎知識について、中間テストを行う。	第１回から第9回までの内容を復習し、中間テストに備える。 テスト終了後、解けなかった問題については、十分に復習し、後半の授業に備える。	240分
第11回	物質量（復習、発展編）	化学反応式と物質量との関係について考える。 化学反応式を書けるようになる。	予習プリントを用いて、第５回物質量、第６回物質量と他の物理量との関係についての内容を十分に復習する。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第12回	濃度（復習、発展編）	モル濃度の復習を行う。 化学反応の中でモル濃度を用いる演習を行い、その利便性を理解する。	予習プリントを用いて、第８回溶液と濃度についての内容を十分に復習する。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第13回	酸と塩基、緩衝液	弱酸、弱塩基のpHの計算、緩衝液について学ぶ	予習プリントを用いて、第９回酸と塩基、緩衝液についての内容を十分に復習する。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	120分
第14回	酸と塩基、	中和反応について学ぶ。酸、塩基の価数に気を付けて、	予習プリントを用いて、第９回	120分

	中和反応	中和反応式が書けるようになる。 弱酸、弱塩基を含む中和反応、その塩の液性についても考える。	酸と塩基、緩衝液についての内容を十分に復習する。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。	
第15回	酸化、還元	酸化・還元とは、どのような変化をいうのか、原子の何がどう変わるのかを学ぶ。	予習プリントを用いて、酸化、還元についての内容を予習する。 授業後、演習問題の残りを解き、課題を提出する。 第11回から15回の内容を十分に復習し、期末テスト備える。	420分
第16回				

学生へのフィードバック方法	中間テストは、採点して返却する。 前半９回で理解できなかった内容は十分に復習すること。 質問等がある場合には、授業終了後に質問に来ること。
評価方法	・予習・復習、授業の理解度の確認の為の課題をGoogle Classroomを用いて提出する。 ・前半、第1回から第9回の内容で中間テストを行う。 ・中間テストの直しをレポートにて提出する。 ・主に、第11回から第15回の内容で期末テストを行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題提出	○	○	○	
	中間テスト	○	○		
	中間テスト直しレポート	○	○	○	
	期末テスト	○	○		

評価割合	平常点（30%）と中間テスト(中間テストの直しを含む）（30%）期末テスト（40%）により評価する。 平常点は授業への参加状況、課題提出等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	
参考図書	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】化学に関する基礎学力を十分に身に付け、化学関連の実習、演習を理解する力を有する. 【思考・判断】化学の基礎理論から、実習、演習の内容を客観的に考察する力を身につけている.
学生へのメッセージ	毎回、授業プリントと共に予習プリントを配布します。 授業前に予習プリントを熟読し、例題を解いてから授業に出席してください。 授業中にも演習を行いますので、復習するようにして下さい。 高校化学の教科書を持っている方は、授業内容に相当する章を読み返して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google Classroomを用いて、授業プリント、予習プリントの配布を行う。必要な場合には、解説動画を作成する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教養の生物学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	X13340M21
授業概要(教育目的)	生物の形や色・模様などから，生物が環境に適応し進化してきた過程を解説する。「進化」，「生物多様性」，「生態系と環境」などの分野を横断的に扱い，自ら生物の特徴を評価して進化過程を推察したり，系統樹を構築したりしながら体験的に学ぶ。生命の誕生や生物の進化から生物と環境の関わり合いまで，マクロスケールでの生物学的な現象について学ぶことで，生物に関する興味・理解を高め，生きものに関する教養を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生物の形態や模様を正しく記述できる 系統関係推定法の原理が理解できる 生物の行動パターンと適応度との関係を説明できる ウイルスやプリオンなどの特徴を説明できる
思考・判断の観点（K）	生物の形態・模様・行動等から生物進化の駆動要因を推定することができる 形質分布表から系統関係の推定ができる
関心・意欲・態度の観点（V）	身の回りの生物への理解を深め，環境と生物の関わりについて関心をもつ
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生物種とは	生物分類の基本単位である種の定義を説明し、どのようして種が形成されていくのか解説する。	予習として、高等学校での授業内容で生物の多様性に関係する知識を再確認しておく。 授業後は種とは何か説明できるようにしておくこと。	240分
第2回	生物の形	生物の形を表記する基準を説明し、さまざまな生物につ	生物の形の基準を理解し、身の	120分

		いてその形をどう表記するのか解説する。	回りの生物について形を表記できるように復習しておく。	
第3回	形と進化	生物の形を生息環境や生態と関連付けて説明する。形と生態の密接な関係を解説する。	生物の形をその生息環境や生態と関連付けて理解できるよう復習しておく。	120分
第4回	生物の模様	生物の模様の定義を説明し、その模様の生態的・進化的な意義について解説する。	生物の模様を、その生物の生態などと関連させて理解できるよう復習しておくこと。	120分
第5回	擬態	擬態の定義を説明し、さまざまなタイプの擬態について、その生態的な意義と併せて解説する。	身の回りで観察される擬態の例について、その特徴を調べておくこと。 代表的な擬態のタイプやその生態的意義を理解し、説明できるよう復習しておくこと。	240分
第6回	系統関係を推定する	最新の分子生物学的手法も含め、生物の系統を推定するいくつかの方法を説明する。また、特に分岐分類学的手法を取り上げ、その手法で系統関係の推定ができるよう基本的な考え方・原理・用語等を解説する。	分岐分類学的手法で系統関係が推定できるよう、必要な用語を憶え、その考え方・原理を復習し理解しておく。	120分
第7回	分岐分類学	ある仮想的な生物群の形質表を例に、分岐分類学的手法で系統関係の推定を行う。また、課題として具体的な生物の形質表を提示し、その系統関係の推定を行ってもらう。	分岐分類学的手法によって形質分布表が与えられ具体的な生物群のその系統関係を推定する（課題）。	360分
第8回	恐竜は絶滅した？	恐竜は本当に絶滅したと表現して良いのか。分岐分類学的手法によって推定された四肢動物の系統関係を説明し、現在の鳥類が恐竜類の直系の子孫であることを解説する。	分岐分類学の考え方で、現在の鳥類を含む四肢動物、魚類の系統関係が提示できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	「こども」だけど「おとな」	幼生の形態的特徴を残して成熟するペドモルフォーシス（幼形進化）の例をあげて、生物進化において飛躍的な変化を起こす原動力として認識されている異時性について解説する。	ヘテロクローニー（異時性）の分類方法を理解し、身近なペドモルフォーシスの例が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第10回	「おんな」だけど「おとこ」	動物の世界でしばしば認められる性転換についていくつかの例をあげ、その形式・進化学的意義について解説する。	性転換という繁殖形式が自然界で定着しえた理由について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	なぜ親は子を守るのか？	動物の親に普通に見られる子の保護行動。血縁関係がない利他的行動も含め、これらの行動が成立する進化学的意義について解説する。	子の保護も含め、ヒト以外で観察される利他的行動の例について調べておくこと。 子を守ることが親にとってどのような意味があるのか，血縁関係のない個体が利益を得るような行動にどのような意味があるのか説明できるよう復習しておくこと。	240分
第12回	なぜ縄張りを作るのか？	縄張りを作ることはこの個体（群）にとって利益となることばかりではない。動物が縄張り行動を示す条件から、その進化学的意義について解説する。	動物の縄張り行動について、その条件と利益・不利益を説明できるよう復習しておくこと。	120分
第13回	ウイルスとは	ウイルスは厳密には生物には分類されていない。さまざまな種類のウイルスを紹介し、生物とは異なるその特徴や増殖方法について解説する。	生物とは異なるウイルスの特徴について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第14回	ウイルスの脅威	ウイルスが原因の病気の例などをあげて、ウイルス感染のメカニズム、さらにはウイルス感染に対応する免疫システムについて解説し、ウイルス感染対策について考えてもらう。	ウイルス感染防止対策について理解できるよう、ウイルス感染のメカニズムやそれに対抗する免疫システムについて復習しておくこと。	120分
第15回	生物進化ー今までの振り返り	生物の形態や生態・行動など、さまざまな側面からその進化の過程を考えてきた。生物進化という観点から、今まで授業で扱ってきた内容について振り返りを行う。	生物進化という観点で、形態、生態・行動などについて説明できるように復習しておくこと。 また，ウイルスについてはその実態が理解できるようにしておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず，担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため，毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については，次の授業の冒頭に改めて説明する。また，課題についてはコメントを付けて返却し，授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し，自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生物の形態や行動，進化について基本的な知識を得ているか。また，生物の特徴や行動を適応度の概念で理解しているかを，下記の基準で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	アンケート	○		○	
	課題	○	○	○	
	定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが，高等学校で使用した「生物基礎」の生物の特徴，生物の多様性と生態系，および「生物」の生物の系統と進化等の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の多様性を考えるのに必要な知識と考え方が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中で浮かび上がる問題について，分析する力が身につきます。
オフィスアワー	後期　木曜日昼休み・3限（12:30～14:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は，GoogleClassrommの連絡機能を用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	皆さんは身の回りで見られる生物について，どうしてそのような形や色彩をしているか考えたことがありますか。生物の形や色彩などは長い進化の歴史の中で，何らかの理由で獲得された結果と考えられています。この授業の中で，その形や色彩・もようなどの特徴が行動や生態とどのような関連があるのか，またどうして現在そこに生息するのかなどを考え，生物の生き様について関心を持つようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では，アンケートへの回答結果や課題の提出内容をもとに，意見を出し合って考えを深めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教養の生物学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	X13340C21
授業概要(教育目的)	太古の海は生命誕生の場であり，今日においても地球上で最も多様な生物群を育む環境である。また，我々人類とって海洋に生息する生物は水産資源として重要である。本講義では，多様な海洋環境とその環境における生物の「生きざま」を紹介。生物の行動・生態と環境，人類と海洋の関わりについて理解を深める。また，食料資源としての海洋生物の特徴や海洋プラスチック汚染についても解説し，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を習得する。 海洋環境・環境問題・生物多様性について理解を深めるために，海洋環境を再現している施設である水族館の見学を予定している。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	海洋生物の生き様を通して，基礎的な生物現象（生命現象や生態系など）が理解できる。 海洋生物の生態や海洋環境とSDGs（持続可能な開発目標）の関連性について理解できる。
思考・判断の観点（K）	海洋環境の特徴と海洋生物の生き様を通して，生活と生物・環境が密接に関わっていることを考えられる思考を持てる。
関心・意欲・態度の観点（V）	海洋生物の生き様を通して，生物の生態に興味を持ち，環境問題に関心を持てるようになる。海洋におけるSDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション－海洋と私たちの暮らし－	授業概要について説明後，「くらし」と「海洋環境」や「海洋生物」がどのように関係しているかについて紹介する。	授業内容の確認。	180分
第2回	地球誕生か	太陽系の形成から地球誕生までを解説。特に海洋の形成	予習：高校地学基礎教科書の	180分

	ら海洋の形成まで	と生命誕生について説明する。	「太陽と惑星」「生命の変遷」，高校生物教科書の「生命の起源と生物の変遷」について復習する。復習：授業内容の確認。	
第3回	生物界の構成と海洋生物	生物界の階層性を生物の分類を通して説明する。海洋生物を題材にして生物の名称についても説明する。	予習：高校生物教科書の「生物の系統」に関連する部分について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	海洋環境概説１ -なぜ海は青いか？ー	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の1回目として，光環境について生物への作用も含めて解説する。	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	海洋環境概説２　ー広大な海は一つではないー	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の2回目として，水温・塩分濃度とこれらの組み合わせで発生する水塊について生物への作用も含めてVTR映像も用いて解説する。これらを通して，海洋が一つの大きな水の塊で無いことを認識し，多様な環境に多様な生物が適応していること知る足がかりとする。	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	海洋環境概説３　ーエルニーニョが起こると豆腐が高くなる？ー	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の3回目として，地球の風系，海流についてVTR映像も用いて解説する。さらに海洋での食物連鎖の原点である栄養塩類について説明する。そして，海洋環境と人の暮らしとの関わりをエルニーニョ現象を例にして紹介する。	予習：「栄養塩類」「海洋深層水」「エルニーニョ現象」についてインターネットを用いて調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	海洋生物の生活様式１ー海洋生物のライフスタイルー	これまで解説した海洋環境概説を念頭に置いて，水柱環境を主な生息場所とするプランクトン（浮遊生物）とネクトン（遊泳動物）について適応，生態などについてVTR映像を用いて解説する。	予習：海洋環境概説（第4回～第6回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	海洋生物の生活様式２ー海洋生物のライフスタイルー	海洋中で最も多様な生息環境である基質（海底）に生息するベントス（底生生物）の適応，生態などについて解説する。また，一つの生物種でも，生活史において生活様式（ライフスタイル）を変化させて，適応していることを理解する。	予習：海洋環境概説（第4回～第7回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	海洋生物とくらし	これまで（第7回・第8回）に学んだプランクトン・ネクトン・ベントスの内，食料資源として重要なネクトンについて，魚類の鮮度，イカ類の体の構造などを実物を用いて説明し，食と海洋生物との関係を実感を伴って理解する。また，食料資源としての海洋生物の特徴について解説する。	予習：海洋生物の生活様式（第7回・第8回）の授業内容の復習。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	海洋の食物連鎖　ーイワシが安くて，マグロが高い理由ー	なぜ，「イワシは安くて，マグロが高いか？」その理由を海洋での食物連鎖から解説する。また，魚介類の増養殖についても触れる。	予習：高校生物基礎教科書の「生態系の成り立ち」に関連する部分を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	浅海の生物群集　ー生物が豊富な海域ー	生物量が豊富な沿岸域，特に潮間帯に生きる生物の適応について解説する。また，漁業対象種の稚魚を含む多くの生物の生息場所となっているが，近年減少している藻場について取り上げ，環境破壊と海洋生物の関連を説明する。	予習：第8回海洋生物の生活様式２について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第12回	外洋の生物群集　ーきれいな海には生物は多いか？ー	外洋での海洋環境と生物の適応について解説する。	予習：第8回海洋生物の生活様式のプランクトン・ネクトンの特徴について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第13回	深海の生物群集　ーなぜ深海には生物が少ないか？ー	海洋中の90%以上を占める深海域の特徴について解説し，そこに生息する深海生物の適応について説明する。さらに，1970年代後半に深海で発見され，20世紀最大の発見の一つである「化学合成生物生態系」について解説し，我々人類を含む多くの生物が依存している「光合成生態系」との関係を理解する。	予習：第10回海洋の食物連鎖について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第14回	海洋生物・海洋環境を理解する　ー水族館見学ー	海洋環境を再現している施設である東京都葛西臨海水族園を見学して，海洋環境・環境問題・生物多様性について実感を伴って理解する。	予習：東京都葛西臨海水族園のHPを閲覧し，レポート課題を作成する為に必要な展示を確認する。これまでの海洋環境・海洋生物の授業内容を確認し，見学に備える。復習：見学した内容から見学レポートを作成する。	180分

第15回	海洋生物と人類の関係ー海洋汚染と乱獲ー	一連の授業の最後として，海洋生物と人類との関係を海洋汚染と乱獲と言う視点で，解説する。乱獲による海洋生物の減少について説明し，持続可能な生物資源の活用について考える。また，近年問題かしている「マイクロプラスチック汚染」についても触れる。	予習：「マイクロプラスチック汚染」についてインターネットを用いて調べる。復習：定期試験に向けての授業内容の総復習。	240分

学習計画注記	対面授業とZoomによるオンライン授業の併用を予定。 授業内容の要約，課題などを課す予定。 東京都葛西臨海水族園の見学を予定しています。葛西臨海公園駅（JR京葉線）までの交通費と入園料（740円）が必要です。見学は土・日・祝日で行い，通常の授業を見学に置き換えます。
学生へのフィードバック方法	授業内容については，適宜質問を受ける。 提出物については解説を行う予定。
評価方法	定期試験および平常点・提出物・レポートによる総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○	○	
	平常点	○		○	
	レポート	○	○	○	○

評価割合	定期試験(80%)および，レポート・平常点(20%)による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜，資料を配付する。
参考図書	必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目　1702室
学生へのメッセージ	海洋に関する書籍などを読んだり，映像資料（テレビ番組やDVDなど）を見たりしておくと理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生物学入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	X13350M21
授業概要(教育目的)	私たちは日々，呼吸し食事をして生命を維持し成長を続けており，これらの生命現象の基本を理解することは，健康の維持を図る上で不可欠となっている。そこで，この講義では，生物の特徴を理解し，生物の基本単位である細胞の構造や働き，細胞内・生体内での反応や免疫システムなど，生命現象に関する基礎的な内容についてヒトを例に理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生物の基本的な特徴について説明できる 人体の基本的な構造や機能について説明できる 免疫の成り立ちについて説明できる 遺伝の基本的な仕組みについて説明できる
思考・判断の観点（K）	細胞・組織・器官について，構造と機能の関係を類推することができる。 健康の維持・管理について，生物学的な側面から評価することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分自身でもある人体について，正しく理解し関心をもつ。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生物の特徴	生物とは何か，生きているとはどういうことかについて説明し、生物と非生物の違いを認識してもらう。	高等学校で学んだ生物の特徴に関する知識を再確認しておく。授業で解説した高等学校での授業内容との関連を復習しておく。	240分
第2回	細胞の基本構造	動物・植物細胞の基本構造を学び，細胞内で特定の働きを担っている細胞小器官の働きやその起源について解説	高等学校で学んだ細胞に関する知識を再確認しておく。また，	240分

		する。	授業で扱った細胞内の構造について，その機能を理解しておく。	
第3回	組織と器官	ヒトを例に，細胞・組織・器官の関係を説明し，代表的な組織についてその形態・機能を解説する。	さまざまな組織について，その特徴と機能との関係を復習しておく。	120分
第4回	代謝ー生きるための活動	生命維持の根幹である代謝について，特にエネルギー代謝に焦点を絞ってATPの役割を解説する。	高等学校で学んだ細胞とエネルギーに関する知識を再確認しておく。新たに学んだ内容について，ノートで確認しておく。	240分
第5回	酵素のはたらき	生体内でのさまざまな反応を制御する酵素について学ぶ。	酵素反応の特徴について具体的に述べられるよう復習しておく。	120分
第6回	呼吸と光合成	呼吸と光合成の反応の類似点を説明し，エネルギーの移動という視点で解説する。また，実際に酵素反応による実験を見てもらい，その結果を考察する。	授業中に行った酵素実験の結果をもとに，呼吸の意味や酵素のはたらき・性質に関する課題に取り組む。	360分
第7回	人体の基本構造	生命維持に関わるさまざまな現象・反応を，ヒトを例に解説する。そのための，人体の基本を説明する。	これからの授業で人体に関わる内容を扱うので，基本的な部位やその名称等について復習しておくこと。	120分
第8回	骨格の構造と機能	ヒトの体には成人で200個余りの骨がある。その成長過程，形態・機能について解説する。	骨格の機能およびその成長過程について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	筋肉の機能と収縮のメカニズム	筋肉の種類と特徴について説明し，筋収縮のメカニズムを分子レベルで解説する。	3種類の筋肉それぞれについて特徴や機能が述べられるように復習する。また，筋収縮のメカニズムについて説明できるようにしておくこと。	120分
第10回	神経系の構成単位と神経系の機能	神経系の基本単位であるニューロンの構造から神経の伝達について解説する。また，運動神経系・自律神経系の機能を学び，人体制御における役割について理解を深める。	神経伝達の機構や人体の生理学的反応について神経系がどのように関わっているのか，説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	食物の消化と吸収	食物が人体内でどのように処理されていくのかを学び，ヒトの消化器系とそれを構成するそれぞれの器官の役割について理解を深める。	食物中の物質がどの器官でどのように消化・吸収されるのか説明できるように，成分毎にまとめておくこと。	120分
第12回	血液の循環	血液の組成から血管系の概要，腎臓や肝臓の働きについて学ぶ。心臓の構造と血液循環のシステムについても理解を深める。	肺循環・体循環と腎臓や肝臓の位置，心臓の構造と循環における役割について，復習しておくこと。	120分
第13回	生体防御	健康を守る免疫システムについて，その役割を担う細胞・組織，発現機構を学ぶ。	体液性免疫・細胞性免疫における免疫細胞の役割に理解し，自然免疫やアレルギーについても説明できるように復習しておくこと。	120分
第14回	細胞の増殖	細胞分裂の様式や機構について解説する。特に生殖細胞を生み出す減数分裂について詳しく述べる。	減数分裂における染色体の挙動について，細胞の核相とあわせ理解できるよう復習しておくこと。	120分
第15回	遺伝の基本／定期試験	生命の連続性の根幹を担っている遺伝現象について解説する。また，今まで授業で扱ってきた内容について振り返りを行う。	基本的な遺伝現象について，その原理を説明できるよう復習しておくこと。また，これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず，担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	ハンドアウトや映像資料等を用いて講義形式で授業を進める。授業の理解度を確認するため，毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については，次の授業の冒頭に改めて説明する。また，課題についてはコメントを付けて返却し，授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し，自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生物の持つ生命維持に関わる基本的な反応に関する知識を十分に得ているかを，下記の基準で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	アンケート	○		○	
	課題	○	○	○	
	定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが，高等学校で使用した「生物基礎」の細胞とエネルギーについて，生物の体内環境の維持，および「生物」の生命現象と物質，生殖と発生等の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の多様性を理解する知識が身につきます。また，そこから生命に関する基礎知識が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の中にある課題を理論的に分析する力が身につきます。
オフィスアワー	前期　火曜日2限・昼休み・3限（10:40～12:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は，GoogleClassroomの連絡機能を用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	日々の食事がどのようにして私たちの生命を支えているのか考えてみたことがありますか。なぜ，食事や睡眠をとらないと生きていけないのでしょうか。これら，生物の基本的な生命現象の原理や機構を学ぶことは，毎日の生活の質を考えることにも繋がりますので，自分のことだという意識を持って受講して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では，アンケートへの回答結果をもとに意見を出し合ってより考えを深めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生物学入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	X13350C21
授業概要(教育目的)	生物の基本単位である細胞の構造から最も身近な生物であるヒトの体の構造と機能から個体維持のしくみまでマクロ・ミクロ的視点で生物学の基礎について学びます。特に栄養士を志す学生や食科学を学ぶ学生に必要な基礎的な生物現象の理解に力点を置いて講義を進め，生化学や栄養学など専門科目を学ぶ上での基礎力を養います。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基礎的な生物現象，特にヒトに関わる生物現象の理解。
思考・判断の観点（K）	細胞の構造・機能、組織と器官・器官系、遺伝子の構造・機能、環境問題などの基礎知識を修得し、一部をこれから学ぶ生化学や栄養学等の学修に役立てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生命とは何か？について考える。	「生命」の持つ特徴を説明し，生命とは何かを考える。また，なぜ食べなくてはならないかについても考える。	予習：高校「生物基礎」を履修した学生は、「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習。高校「生物」を履修した学生は、「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習。復習：授業内容の確認。	180分
第2回	細胞の構造とはたらき1	原核細胞・真核細胞の特徴，細胞の基本構造と各細胞内の器官の機能を説明する。	予習：教科書第3章1～2を読んでおく。高校教科書「細胞の多	180分

			様性」「細胞の共通性」を復習する。復習：授業内容の確認。	
第3回	細胞の構造とはたらき２	生物の基本単位である細胞の機能について説明する。特に細胞膜の機能と細胞同士の連結等についてに理解する。	予習：教科書第3章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	生物を構成する細胞	多様な細胞の種類と特徴，ウイルスの構造と特徴について説明する。またトピックとして食と密接に関係する伝染性のタンパク質についても解説する。	予習：教科書第3章4，第7章p.157コラムを読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	生物体の構造１ 組織の種類と特徴１	上皮組織と結合組織について，その構造と機能について説明する。	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。	180分
第6回	生物体の構造２ 組織の種類と特徴２	筋組織と神経組織について，その構造と機能について説明する。	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。	180分
第7回	生物としてのヒトを知る	「ヒトはなぜ食べなくてはならないか？」を生物学的に解説し，食物から体をつくり・維持する仕組みについて考える。	予習：教科書第1章2を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	生物体の構造３ 主な器官・器官系	ヒトを例として，個体を構成する主要器官・器官系について解説する。	予習：教科書第1章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	代謝のしくみ１ 酵素・代謝	代謝と代謝に深く関係する酵素の特徴について解説する。	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。高校教科書「細胞とエネルギー」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	代謝のしくみ２ 消化・吸収	消化・吸収に関連する器官・器官系の特徴について説明する。特に胃・小腸のはたらきをVTR映像も利用して解説する。	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	第11回 代謝のしくみ３ 呼吸	生命維持の為に重要な現象である呼吸について説明する。	予習：教科書第4章5を読んでおく。高校教科書「呼吸」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第12回	遺伝のしくみ１ 遺伝とは何か？DNAの構造	生命の根源である遺伝子について説明する。DNAと遺伝の関係，DNAの構造について説明する。	予習：教科書第5章1～3を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第13回	遺伝のしくみ2 DNAの機能	DNAの機能（遺伝情報の複製・タンパク質合成）について説明する。DNAと形質の変異，その利用についても解説する。	予習：教科書第5章1～3を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第14回	遺伝のしくみ３ 遺伝子と体質	遺伝子解析が人類にもたらす影響について，医療における応用を例としてVTR映像を用いて解説する。	予習：第12回・第13回の授業内容を確認する。復習：授業内容の確認。	180分
第15回	環境と人間	食を通して身近な環境問題について考える。	予習：教科書第7章3～5を読んでおく。高校教科書「生態系と保全」を復習する。第1回から第15回までの授業内容を教科書，ノート，配布プリントを用いて復習し，定期試験に備える。	180分

学習計画注記	教科書、配布プリント、講義内容に関連した映像資料などを使用した講義形式で行う。また，授業内容の要約，映像資料の内容の確認や感想などを200字～800字程度にまとめて提出させる場合もある。
学生へのフィードバック方法	提出物については，授業中に解説する予定。
評価方法	平常点と定期試験の総合評価。（平常点は授業への参加状況，提出された課題等で総合的に判断する） 定期試験では，15回の授業で学んだ基本的な生物学的現象について問う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点20%，定期試験80%の総合評価。（平常点は授業への参加状況や課題等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	川崎・古庄編著(2009)，生物学ーヒトと環境の生命科学ー，建帛社.
参考図書	適宜，授業中に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	月曜2限　1702室
学生へのメッセージ	高校「生物基礎」を履修した学生は，「生物基礎」の「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習すると理解しやすい。 高校「生物」を履修した学生は，「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習すると理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	環境と資源		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	X13380M21
授業概要(教育目的)	毎日のように新聞記事やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられているが、地球環境や資源に関する問題を正しく理解するためには生態学の基礎知識が不可欠である。そこで、この授業では、生態学の基本的内容を学習し、地球環境とそこに生活する生物の関係、生物間の相互関係、人類を含む生物が環境に与える影響、資源の利用と保全の実態や問題点等について理解を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生物と環境、生物と生物の関わりについて説明できる 生態系の構成や内部での物質の移動について説明できる 環境問題について背景となる事実を説明できる
思考・判断の観点（K）	生態系の保全・保護についてその必要性が理解できる 環境条件の変化から生態系の変化について推察できる
関心・意欲・態度の観点（V）	地球環境の現状や未来について関心を持つ
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	環境とは何か？	「環境」ということばはさまざまな分野においてさまざまな意味で用いられている。ここでは共通の認識を持つように、生物学分野で用いられる「環境」の意味について説明する。	高等学校での授業内容で生態系に関する知識を再確認しておく。 環境という用語について、共通の認識が持てるよう復習しておく。	240分
第2回	生態系の構成	生態系は生物群集と無機的環境とで構成されることを説明し、その規模にはさまざまなレベルがあることを解説	身近な生態系について、その構成要素を列挙できるよう復習し	120分

		する。	ておく。	
第3回	生物と環境とのかかわり	生物群集と無機的環境の間には作用・環境形成作用・相互作用などが認められる。実例をあげて、これらの関係について解説する。	作用・環境形成作用・相互作用について、実例をあげて説明できるよう復習しておくこと。	120分
第4回	生物と生物の関わり－同じ種類の間	同種間の関係としていくつかの例をあげ説明する。また、個体間の関係と環境の安定性との関係について解説し、その関連を示す。	個体間の関係と環境の安定性との関係について、グラフを読み取ったり、説明したりできるよう復習しておくこと。	120分
第5回	生物と生物の関わり－異なる種類の間	ニッチの概念とガウゼの競争排他について解説する。	ニッチの概念とそこから導き出せるガウゼの競争排他則について理解できるよう復習しておくこと。	120分
第6回	生物間の関係－競争	種間競争の例について説明し、安定した生態系は結果として種間競争が低減される環境であることを解説する。	競争とニッチの重複を避けることとの関係を理解し、多様性を維持している生態系の特徴が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第7回	生物間の関係－捕食者の効果	捕食者の存在が生態系の安定性に寄与することや生物の行動に影響を与えることを説明し、捕食者の存在意義について解説する。	捕食者の存在意義について、例をあげて説明できるよう復習しておくこと。	360分
第8回	個体群の成長	個体群の成長に影響する要因をあげ、個体群の成長曲線がどう影響されるかロジスティック方程式を用いて説明する。	ロジスティック方程式の各要素の変動と成長曲線の変化との関係が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	食物連鎖と生態系内の物質・エネルギーの移動	生態系における生物群集の構成を説明し、無機的環境との関係も踏まえ、生産者から高次消費者への物質・エネルギーの移動について解説する。	生態系における各栄養段階の物質収支、エネルギーの移動が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第10回	生物資源の変動とその機構	生物資源の特徴と食物連鎖を念頭にその変動パターンと変動のメカニズムについて解説する。	生物資源が無機的資源と異なる点、また生物資源の量的変動パターン（ボトムアップコントロールやトップダウンコントロール）について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	資源保護・資源管理	水産資源を例に、密度独立型・密度依存型資源の特徴とその管理方式について解説する。また、保護と管理の問題についても言及する。	資源の特徴を把握し、その管理方式について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第12回	生物多様性	生物多様性とは何か、どのようにして測定されるのか説明し、生物多様性の保全の必要性とその意義を解説する。	生物多様性に関係する国際的な取り組みについて予習しておく。また、生物多様保存の必要性について説明できるよう復習しておく。	120分
第13回	生物多様性保全への取り組み	国際的な生物多様性保全の取り組みを紹介するとともに、その問題点についても解説する。	生物多様性保全の取り組みにおいて指摘されている問題点について、内容と理由が説明できるよう復習しておく。	120分
第14回	気候変動と地球温暖化	地球環境の変化を地球史の時間スケールとここ数十年の時間スケールで比較し、その原因と問題点を解説する。また、映像資料を視聴して、地球温暖化の現状について考える（課題）。	地球温暖化の原因とその影響について説明できるよう復習しておく。また、地球温暖化を扱った映像資料を視聴し、今まで環境について学修してきたことを踏まえて意見を述べる（課題）。	360分
第15回	これからの地球環境	今までの観測や調査を通じて得られた知見から、これからの地球環境についていくつかの予想を説明し、地球環境の未来について解説する。また、前回提示された課題について出されたいくつかの意見を材料に環境問題について考える。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。特に、環境問題について意見が述べられるようにしておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生態系や環境、資源等の問題について十分な知識を得て判断できるようになっているかを下記の基準で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	アンケート	○		○	
	課題	○	○	○	
	定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%、課題10%、定期試験80%。
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが、高等学校で使用した「生物基礎」の生物の多様性と生態系、および「生物」の生物の環境応答、生態と環境等の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を考えるのに必要な知識と考え方が身に付きます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中で浮かび上がる課題について、分析する力が身に付きます。
オフィスアワー	後期　木曜日昼休み・3限（12:30～14:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は、GoogleClassroomの連絡機能を用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	地球温暖化や化学物質汚染、さらには放射能汚染など、私たちの生活に直結する環境問題は、その理由や対策について正しく理解し冷静に判断することが重要です。知らないことは、無関心という最悪の状況に繋がります。環境問題に関心を持つためにも本講義を受講して、その本質について理解を深めて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊隊員として2度、南極の生物の調査をした経験を活かし、地球環境の問題について「現場」の問題として講義します。
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では、アンケートへの回答結果や課題の提出内容をもとに、意見を出し合って考えを深めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	環境と資源		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	X13380C21
授業概要(教育目的)	毎日のように，新聞やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられています。近年，地球温暖化や人工化学物質による汚染など環境問題がクローズアップされていますが，環境に関する現象を理解するには生態学の基礎的な知識が必要です。この授業では，生態学の基礎的な知識を踏まえ，地球環境とそこに生活する生物の関係，人類を含む生物が環境に与える影響などについて解説し，環境・資源の利用・保全の実態と問題点について理解を深めます。また，現在世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を修得します。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生態学の基礎的な現象を学び，環境に関する現象を理解する力を持つ。 環境問題とくらしの関わり合いについて理解している。 SDGs（持続可能な開発目標）に関連する生態系の現象を理解している。
思考・判断の観点（K）	環境問題とくらしの関わり合いについて理解した上で，人類も生態系の一部であるという思考を持つことが出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	持続可能な社会と環境の関係について関心を持てるようになる。 環境について理解し，SDGs（持続可能な開発目標）を実践できる態度を持てるようになる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	授業の学習目標・内容について説明する。	復習：授業内容の確認。	90分
第2回	「環境」とは何か？（生態系の構成要素）	地球の成り立ちを含めて，環境を構成する大気・水・温度などの無機的環境と生物群集（有機的環境）について解説する。これらの環境要因が影響し合って，生態系が形成されていることを理解する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生態系の成り立ち」に関係する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分

第3回	生物と生物との関わり1（種・個体・個体群・群集・個体群の成長）	生物の基本単位である「種」とは何か？個体から個体群，群集そして生態系までのまとまりの系列について解説し，生物多様性について理解する。	予習：「生物多様性」について，どのような多様性があるのかをインターネットを使って調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	生物と生物との関わり2（競争・競争の回避・ニッチ）	個体群の成長時に生じる相互作用について説明する。また，競争回避や個体群の成長戦略についても解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「バイオームの形成」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	生活資材（資源）と人口問題－ヒトも生物－	前回，解説した個体群の成長をヒトに当てはめて，人口問題などについて解説する。	予習：国立社会保障・人口問題研究所のHP（http://www.ipss.go.jp/）で，日本の人口ピラミッドの推移を確認し，各年代の特徴をまとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	生態系の構成と食物連鎖（なぜマグロは高いのか？）	最も基本的な種間関係である「食物連鎖」について海洋の食物連鎖を例にあげて解説する。特に生態系内の物質収支について理解する。	予習：高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	生態系内のエネルギーの流れと物質の循環1－エネルギーの流れと炭素循環－	生態系内でのエネルギーの流れと物質循環の特徴について理解する。物質循環に関しては炭素の循環と地球温暖化現象についても解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系内の物質とエネルギーの流れ」に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	生態系内の物質の循環2－炭素循環と地球温暖化－	炭素循環と地球温暖化現象の関連性について解説する。地球温暖化がもたらす環境変化と人類への影響を映像資料を用いて説明することにより理解を深める。	予習：高校生物基礎教科書中の「人間活動による生態系への影響」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	環境保全への取り組み－地球温暖化防止－	地球温暖化防止（抑制）の取り組みについて，国際条約の変遷も含めて映像資料を用いながら解説する。特に人間活動と環境保全の関係について理解し，今後求められていくQOL（生活の質の向上）とはどのようなものか，について考える機会とする。	予習：全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）のHP（http://www.jccca.org/）で地球温暖化と生活（家庭）での対策について，予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	人間活動の環境への影響—地球温暖化とホッキョクグマ（レポート課題）－	人間活動の環境への負荷について，地球温暖化が人類以外の生物にあたえる影響を題材として考える。この時間はNHKが製作した「北極大変動」を視聴した後に課題（レポート）を提出する（図書館等非営利上映用DVDを視聴）。	予習：第9回～第11回の授業内容の確認。復習：レポートの作成。	180分
第11回	生態系内の物質の循環3－窒素循環とリン循環－	窒素とリンの循環を説明し，その特徴について理解する。また，窒素やリンの循環が及ぼす環境への影響についても説明する。	予習：高校生物基礎教科書中の窒素循環とリン循環に関連する部分を読む。窒素とリンの循環が環境に及ぼす影響についても知識を得る。復習：授業内容の確認。第12回のレポートの作成。	180分
第12回	環境問題の歴史1　－人工化学物質と生物濃縮－	過去から現在に起こったDDTやPCBなどの人工化学物質や有機水銀による環境汚染とヒトを含む生物への影響について映像資料を用いて解説する。特に「生物濃縮」による影響について理解する。	予習：過去に日本で起こった「公害」について，原因を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第13回	環境問題の歴史2（水俣病について知る）	「水俣病」を通して，戦後の日本を支えた高度成長期に起こった「公害」についてVTRなどを視聴しながら解説する。現在の暮らしは，過去の大きな犠牲の礎に成り立っていることを理解する。	予習：「水俣病」をキーワードとして，日本における水質汚濁が原因の公害病について，原因を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第14回	生態系からもたらされる利益　－	国連が実施したミレニアム生態系評価が示した「生態系サービス」について解説し，生態系と私たちの生活の関係を理解する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系の保全」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	120分

	生態系サービス―			
第15回	持続可能な社会とは？（「環境と資源」まとめ）	これまでの授業内容を振り返り，私たちの「くらし」と「環境」が密接に関わっていることを再認識する。SDGs（持続可能な開発目標）と生活の質の向上（QOL）と地球環境の関連性について認識する。	予習：ノート，配布プリントなどから，これまでの授業を振り返る。復習：定期試験への準備。	240分

学習計画注記	対面授業と自宅他でのZoomによる双方向授業の組み合わせ。 授業内容の要約や課題，レポートを課す予定。
学生へのフィードバック方法	提出物などについては，内容の解説を行う予定。 授業内容については，適宜質問を受ける。
評価方法	定期試験および平常点・レポート・課題による総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○	○	
	平常点	○		○	
	レポート	○	○	○	○

評価割合	定期試験(80%)および平常点・レポート・課題(20%)による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	授業中に資料を配付する。
参考図書	適宜，紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目　1702室
学生へのメッセージ	高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」「生物の多様性と共通性」を復習しておくと，理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	地球の科学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小野　誠仁	指定なし

ナンバリング	X13390M21
授業概要(教育目的)	地球科学は，地球の内部構造や地震，火山活動から，大気・水循環，物質循環，地形や化石，資源形成等の地球表層，そして地球をとりまく宇宙にいたるまでの幅広い自然現象を，包括的に扱う学問である。この授業では，地球科学と私たちの暮らしとの関わりを取り上げながら地球のシステムの基礎を学び，地球規模の現象を考えるための広い視野と，科学的な態度を育成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	授業で扱った基礎的な地球科学の現象のメカニズムを理解し，説明できる。
思考・判断の観点（K）	特に災害・資源・地球環境に関わる事象に対して、適切な判断をできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	身近な自然や地球科学の話題に関心を持ち，生活との関わりを考えることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

地球の科学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 地球科学とは何か？	地球科学がどのような学問なのかを知り，学ぶ意義を理解する。地球の姿と特徴，地球の成り立ちについて学ぶ。	予習：身近に存在する地球科学にはどんなものがあるか，事前にインターネット等で調べる。 復習：自分で調べた身近に存在する地球科学が私たちの生活にどのように関わっているかを考え，調べる。	予習：90分 復習：90分
第2回	地球の活動	地球の内部構造とプレート運動の仕組みを理解し，地震，火山活動との繋がりを知る。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。	予習：90分 復習：90分

			復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	
第3回	地震	地震の種類とメカニズムを理解する。地震災害に対してどのように備えるべきか学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第4回	火山と火山災害	マグマの発生と火山噴火のメカニズムを理解する。火山災害に対してどのように備えるべきか考える。火山活動が私たちの生活にもたらす恩恵を知る。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第5回	地層と資源形成	地層と，化石や資源の形成過程を理解する。化石燃料の利用に伴う問題の背景を学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第6回	岩石と鉱物	岩石の種類と形成過程を知る。岩石と鉱物の利用例を学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第7回	地球の歴史-1	地球ができてからこれまでの環境変化と，生命の誕生，変遷を学ぶ。過去の地球環境の推定がどのように行われているかを知る。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第8回	地球の歴史-2	地球ができてからこれまでの環境変化と，生命の誕生，変遷を学ぶ。過去の地球環境の推定がどのように行われているかを知る。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第9回	大気の循環	大気の構造，地球の熱収支と大気の大循環について理解する。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第10回	海洋の循環	海洋の構造と海洋循環を理解する．エル・ニーニョ現象など，大気と海洋の相互作用を学び，それらが生活にもたらす影響を知る。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第11回	気象と気象災害	身近な気象現象のメカニズムを学ぶ。台風，集中豪雨など気象災害に対してどのように備えるべきか学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第12回	雪氷・極域科学	地球温暖化に伴い氷河や氷床などの雪氷圏で近年起きている変化について学ぶ。雪氷と生活のつながりを理解する。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第13回	環境問題	気候変動に伴う諸問題やエネルギー問題，環境汚染など，私たちが直面している環境問題の現状を学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分

第14回	宇宙の中の地球	宇宙の歴史を知る。生命存在可能性の観点から，地球と他の太陽系天体との違いを理解する。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第15回	まとめと解説	1-14回までの講義で扱った内容のまとめを行い，幅広い地球科学の知識の定着をはかる。	予習：事前に配布する資料を読み，空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について，講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分

学習計画注記	履修者数や講義の進み具合によってスケジュール，授業内容が変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	講義を通して質問等がある場合，授業の前後の時間や，非常勤講師室，メールにて質問を受けつける。 小レポートは採点し，次回講義にて解説を行う。
評価方法	毎回の授業内でコメントシートを書いてもらい，その理解度や授業態度・意欲を平常点として評価する。 A4 1枚程度の分量の小レポート課題を1回課し，知識や理解，関心を評価する。 定期試験では配布プリントの中から選択式・記述式の問題を出題する。また意見を問う記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。 これらの実施は，以下に示す力を養うことを目的としている。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	コメントシート（平常点）	○		○	
	小レポート	○	○	○	
	試験	○	○		

評価割合	コメントシート（平常点）20%，小レポート20%，試験60%で総点を決め評価する。平常の講義における意欲を考慮することがある。※受講人数によって変更あり
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しない。
参考図書	あらゆる地球科学に関する書籍。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】，【思考・判断】：自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し，そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力
学生へのメッセージ	地球科学は身近な自然を扱う学問であり，私たちの生活に密接に関わっています。テレビや新聞などで地球科学に関連するニュースが取り上げられることも多いので，ぜひそれらの情報にも積極的に接して学んでもらいたいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教養の物理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小谷　太郎	指定なし

ナンバリング	X13300M21
授業概要(教育目的)	物理学はいつどのように成立したのか、「元素」や「原子」、「単位」といった概念は誰がいつ発見したのか、そこにいたるまでの物語とともに講義する。 数式はあまり使わず、物理学の思考方法（論理の展開）を追うことを重視する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	物理学の基礎を理解する。 物理学は、この世界は何からできているのか、どのような法則にしたがっているのかを明らかにする学問である。物理学の基本と、それが発見されるまでの歴史を知る。
思考・判断の観点（K）	物理学の思考方法（論理的な思考）を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガリレオ～最初の近代科学者 1	近代科学の成立について学習する。	ガリレオ・ガリレイについて予習・復習する。	120分
第2回	ガリレオ～最初の近代科学者 2	近代科学の成立について学習する。	ガリレオ・ガリレイについて予習・復習する。	120分
第3回	ニュートン～ ニュー	ニュートン力学について学習する。	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。	120分

	トン力学を一人で建設1			
第4回	ニュートン～ ニュートン力学を一人で建設2	ニュートン力学について学習する。	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。	120分
第5回	メンデレーエフ～ 元素には周期がある	周期表について学習する。	ドミトリ・メンデレーエフについて予習・復習する。	120分
第6回	ドルトン～原子論の再発見	原子論について学習する。	ジョン・ドルトンについて予習・復習する。	120分
第7回	ドルトン～原子論の再発見	原子論について学習する。	ジョン・ドルトンについて予習・復習する。	120分
第8回	国際単位系の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習する。	120分
第9回	国際単位系の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習する。	120分
第10回	国際単位系の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習する。	120分
第11回	キュリー～不滅のはずの原子が壊れた	原子核物理について学習する。	マリー・キュリーについて予習・復習する。	120分
第12回	キュリー～不滅のはずの原子が壊れた	原子核物理について学習する。	マリー・キュリーについて予習・復習する。	120分
第13回	フェルミ～最初の原子炉と原子爆弾	原子力について学習する。	エンリコ・フェルミについて予習・復習する。	120分
第14回	元素はどこで作られた～元素合成	宇宙の元素合成について学習する。	ビッグ・バンについて予習・復習する。	120分
第15回	元素はどこで作られた～元素合成	人工元素について学習する。	エミリオ・セグレについて予習・復習する。	120分

学習計画注記	スケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	講義を中心とする。
評価方法	成績評価は平常点と定期試験による。 平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点（40 %）、定期試験（60 %）。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定なし。

参考図書	小谷太郎『科学者たちはなにを考えてきたか』(ナツメ社)。 ほか、適宜指示。
ディプロマポリシーとの関連	人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけます。 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる力と、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる力を育てます。
オフィスアワー	なし。
学生へのメッセージ	数式はあまり用いません。 これまでの物理学・数学の履修経験は必要ありません。 必ず授業の復習をすること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	自然史		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	X13370M21
授業概要(教育目的)	自然史とは、「時々刻々と変わっていく自然現象を、自然の歴史という観点でとらえ、観察し、記録しながら、自然観を養うことを目的とする」分野で、要約すると「自然の姿と生い立ちを探求する」分野と表現できる。生命誕生からヒトが出現し現在に至るまでの生物進化史のみならず、地球誕生からさまざまな岩石鉱物を生み出し大陸を形成した歴史や、宇宙誕生から星の進化に至る歴史まで、すべて自然史に含まれる。この授業では、時間の流れに沿う形で誕生以来の地球環境の変化とその変化に反応した生物の進化を中心に解説し、46億年におよぶ地球史・生命史、そして私たちヒトに連なる生命発展の経緯について理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	宇宙138億年の歴史の中で主要な地質学的イベントを列挙できる 生物進化の流れについて概要を述べることができる
思考・判断の観点（K）	地震や環境変動などがどのような過程によって生ずるのか論理的に述べることができる 生物進化はどのような要因で進み結果として方向付けられるのか、地球表層環境の変化と関連付けて説明できる
関心・意欲・態度の観点（V）	自分が住んでいる地球について長い時間軸に沿って考えることができ、生命や環境に関心をもつ
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	時空の進化	自然史という学問が時間という指標で地質学上・進化学上のできごと（イベント）を扱う分野であることを説明し，宇宙誕生から現在での時間軸を概観する。	宇宙誕生から現在までの138億年の流れを時間軸に沿って復習し，「大きな」時間の理解に努める。	120分
第2回	宇宙の創生から太陽系の誕生まで	今から約138億年前に誕生したとされる宇宙の構造を学び，その宇宙の中に私たちの太陽系が誕生するまでの課程を解説する。	天の川とは何か，どのような構造をしているのかについて事前に調べておく。	240分

			「何もない」宇宙空間で星ができるメカニズムについて再確認し，太陽系8個の惑星の特徴を復習しておく。	
第3回	地球誕生／地球内部の構造	今から約46億年前に誕生したとされる地球創成の課程を説明し，時間を追って大きな変化をとげた地球内部の構造を解説する。「生きている」地球の動きと地震・気候等との関係についても述べる。	地球内部の構造と身近な問題である地震との関係について調べておく。 46億年の間，地球内部がどのように変化してきたのか，そしてそれが地球の環境にどのような影響を与えてきたのかを理解しておく。	120分
第4回	地球史を概観する	主に表層環境の変化に着目して，地球46年の歴史を概観する。	地球内部の変化や宇宙からの影響が地球表層環境にどのように影響したか理解しておく。	120分
第5回	地球カレンダーを作る	地球史46億年を1年365日に換算し，地球史上重要なイベントの時期を実感しやすい時間軸で説明する。	地球カレンダーの考え方，計算方法について復習し理解する。 また，地球カレンダー作成の課題に取り組むこと。	360分
第6回	生命誕生	著しい変化を遂げる地球表層環境の中で生命がどのようにして誕生したのか，いくつかの代表的な説を例に解説する。	生命（生物）とは何であるか，生命体と無機物は何か違うのかを考えておく。 生命誕生の諸説を比較し，その長所・短所を説明できるよう復習する。	240分
第7回	全球凍結と生物多様性の創出	原生代の一大イベントである全球凍結の原因そして生命進化に及ぼした影響について解説し，その結果発展した生物群の特徴について説明する。	予め，地球カレンダーで全球凍結を含む前後のイベントの時間的な位置づけについて理解を深めておく。 エディアカラ生物群の特徴・独自性について復習する。	240分
第8回	古生代の世界	顕生代最初の時代である古生代全体を概観し，主として地球表層環境の推移と生物の応答について解説する。	地球表層環境の変化が生物進化にどのような影響を及ぼすのか，復習すること。	120分
第9回	古生代における生物発展ー脊椎動物の進化	古生代を通じて生物がどのように進化していったのか，魚類誕生から四肢類の出現までの課程を解説する。	脊椎動物の進化について，地球表層環境の変化に対応させて理解できるよう復習すること。	120分
第10回	古生代末の生物大絶滅と恐竜の誕生	古生代末期に起こった地球史上最大の生物大量絶滅を解説し，その原因と結果が，以後長期の繁栄を誇ることになる恐竜類の出現に繋がった点を説明する。	恐竜類の出現に関わる地球環境変動について理解できるよう復習する。	120分
第11回	中生代の世界	大量絶滅からの復活と現代型生物の進化について概観する。	地球史の中で中生代がどのような位置付けとなるのか，地球カレンダーによる解釈も踏まえ理解できるよう復習する。	120分
第12回	中生代末の生物大絶滅と恐竜の絶滅	小惑星の落下等の原因によって訪れた中生代の終焉を，地球環境変動と恐竜類や中生代の代表的な生物の絶滅という観点から説明する。	中生代の生物の多くが絶滅した理由について，環境変動という観点から理解できるよう復習する。	120分
第13回	新生代の世界	中生代が終わり新生代に入り，生物がどのように進化・発展していったか，哺乳類の発展に焦点を当てて解説する。	新生代に入り哺乳類が発展した理由について述べられるように復習する。	120分
第14回	人類の進化	今から約700万年前に出現した人類。その発展の過程と現在のように全世界に分布する特異な生物種へと進化した経緯について解説する。	人類とは何か，また人類進化の歴史について説明できるよう復習すること。	120分
第15回	未来の地球／今までの振り返り／定期試験	惑星としての地球のこれからを解説する。また，再度，地球カレンダーに基づき，地球46億年の歴史を通覧する。	地球の未来について，現在の環境や科学技術の発展などの状況から考えられる範囲でまとめて授業に臨むこと。 これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	ハンドアウトや映像資料、模型や化石標本等を用いて、講義形式で授業を進める。授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。

評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。地球の歴史と生物の進化を中心とした知識を十分に得ているかを、下記の基準で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	アンケート	○		○	
	課題	○	○	○	
	定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%、課題10%、定期試験80%。
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが、高等学校で使用した「生物基礎」の生物の共通性と多様性、および「生物」の生物の進化と系統の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】地球の歴史、生物の進化を学ぶことで、自然の多様性について理解することができます。 【思考・判断】地球環境の成立を知ることから、そのあるべき姿について判断する基礎を身につけることができる。
オフィスアワー	前期　火曜日2限・昼休み・3限（10:40～12:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は、事前にGoogleClassroomの連絡機能を用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	今から約46億年前に地球は誕生しました。それからの地球環境の変化は、想像を絶するものが有り、その中で生命が誕生し進化して、今の私たちに繋がっています。その、遠大で変化に富む生命の変遷を理解し、私たち人類という種族の誕生と発展について考えてもらいたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	履修者数と利用教室の状況によりますが、授業の一部では実物の化石を用いてその特徴と進化の過程を考え、議論してもらう時間を作ります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	法学入門（日本国憲法）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 門脇　邦夫	指定なし

ナンバリング	X13400M21
授業概要(教育目的)	日本という社会はいわば「日本国憲法」という社会契約を基礎として成立している。この憲法は、人権保障を目的としており、憲法の規定は基本原理、人権編、統治機構編からなり、その全てが人権保障を達成するために定められている。 しかし、それらの規定は、具体的な社会課題などに照らし合わせて考えられるべきものであり、規定を一読するだけでは、その価値や意味を即座に取り出すことはできない。 本講義では、憲法の規定を理解するための基礎としての「法的思考」を学びつつ、その思考法に基づいた憲法理解と様々な社会課題と関係する人権保障の在り方について学ぶことを目的とする。
履修条件	教育職員免許状希望者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人権保障の在り方を学ぶことで、一人ひとりが実際に社会で直面する課題を憲法と関係づけることができる。
思考・判断の観点（K）	法を守るだけではなく、あるべき法を常に模索し続ける思考法を習得できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	主権者としての自らの社会における役割を意識する姿勢が身につく。
技術・表現の観点（A）	考え方の基礎となる法的思考を習得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス＋導入	本講義を受講するにあたっての基本事項の案内と法学における憲法の位置付けや憲法を学ぶ意義について学習する。	教科書を読んでおくこと(特に、4～9頁参照) 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第2回	総論(基本原理＋歴史)	憲法の基本原理を確認し、当該基本原理に基づく憲法がどのように成立したのかを学習する。	教科書を読んでおくこと(122～123頁)。また、日本国憲法の成立過程について、図書館やイ	180分

			ンターネットで調べてみてください。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	
第3回	人権編1(精神的自由および人身の自由)	精神的自由の種類とその特徴や現代的な課題について概観する。	教科書を読んでおくこと(123～127頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第4回	人権編2(精神的自由権への制約)	精神的自由権は、無制約に自由であるのか。本講義では、当該人権に対する制約の基準について、判例等の具体的問題を通して学習する。	教科書を読んでおくこと(127～128頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第5回	人権編3(経済的自由権と社会権1)	経済的自由権および社会権の特徴を概観した後、両者の関係を学習する。	教科書を読んでおくこと(129～133頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第6回	人権編4(経済的自由権と社会権2)	居住移転の自由・職業選択の自由の判例等を通じて具体的問題を学習する。	配布予定資料を読んでおくこと。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第7回	人権編5(その他の人権1：新しい人権)	「幸福追求権」(13条)を根拠にして「新しい人権」と呼ばれる権利が議論されてきている。例えば、プライバシー権や環境権である。本講義では、新しい権利の特徴と課題について考える。	教科書を読んでおくこと(133～134頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第8回	人権編6(その他の人権2：法の下の平等)	「法の下の平等」(14条)とは、国家は全ての人を平等に扱わなければならないということである。しかし、この「平等」とは何を意味するのか。判例などを通じてその意味について考える。	教科書を読んでおくこと(134～135頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第9回	人権編7(その他の人権3、人権の私人間効力)	憲法上の人権は、公権力から人民を守るために設定された。しかし、社会発展に伴って、企業やマスコミなど巨大な「社会的権力」からもまた守られる必要が生じている。このような状況の中で、企業対個人のような私人間でも憲法上の人権規定が適用可能かどうかについて学習する。	教科書を読んでおくこと(135～136頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第10回	統治機構編1(三権分立1：国会)	立法府である国会の特徴と三権分立の下での課題について学習する。	教科書を読んでおくこと(136～140頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第11回	統治機構編2(三権分立2：内閣)	行政府である内閣の特徴と三権分立の下での課題について学習する。	教科書を読んでおくこと(141～144頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第12回	統治機構編3(三権分立3：裁判所)	司法府である裁判所の特徴と三権分立の下での課題について学習する。	教科書を読んでおくこと(144～148頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第13回	地方自治編	日本は中央集権化された国家であるが、都道府県、市町村などに行政区が分割され、それぞれの住民にそれぞれの行政区に関する自治を認めている。これを地方自治という。本講義では、地方自治制度の特徴と現代における中央地方関係の中での課題について考える。	教科書を読んでおくこと(148～149頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第14回	憲法改正編	憲法改正については第96条で手続きが定められている。本講義では、その手続きと課題について考える。	教科書を読んでおくこと(149～151頁)。 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分
第15回	発表	受講生による発表(任意、グループワーク可)と質疑応答を通じて憲法と私たちとの結びつきについての理解を深め、より身近なものとする。	発表者の配付資料を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること。	180分

学生へのフィードバック方法	受講生からの質問を受け付けます。コメントシートなど講義の状況を見て適切な方法を検討します。
評価方法	成績は方式①出席を含む授業内での取り組み＋レポート＋定期試験または方式②出席を含む授業内での取り組み＋発表の2つの方式のいずれかをご選択いただき、評価します。期末試験は、説明問題を想定しております。詳しい評価基準などについては、第1回、第2回の授業内で説明します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	出席を含む授業内での取り組み			○	
	レポート	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○

評価割合	①出席を含む授業内での取り組み(25%)、レポート(25%)、定期試験（50%）または ②出席を含む授業内での取り組み(25%)、発表(75%)
使用教科書名(ISBN番号)	齋藤洋編著・門脇邦夫著『法学憲法コアノート』(八千代出版、2021年)ISBN：978-4-8429-1801-3
参考図書	「学習計画」の各回では事前に読んでおく教科書の箇所を指定していますが、教科書のその他の箇所や別途資料を必要に応じて紹介あるいは配布します。
ディプロマポリシーとの関連	「人間社会と自然の多様性」を憲法および法的思考に基づいて理解し、その多様性を包摂するあるべきルールの在り方を的確に判断して提案できる能力の基礎を身につける。
学生へのメッセージ	憲法は、人権との接点を多く有していますが、その内容は近年注目されている国連の「SDGs(持続可能な開発目標)」の文脈にも大きく関わるものとなっています。憲法を通して人間社会や自然の多様性、あるいはそこに存在する様々な社会課題について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業のテーマに関わる社会問題などについて、発表する機会を設定する。
情報リテラシー教育	○	憲法を含む法学学習をしていく上で、法律情報へのアクセス方法を知ることは、重要です。いわゆるリーガル・リサーチの機会を設定します。
ICT活用	○	受講生の様子を見て、課題に必要な範囲内でハンズオン形式での発表等の資料作成に関わるサポートをいたします。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	法学入門（日本国憲法）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 江川　剛	指定なし

ナンバリング	X13400C21
授業概要(教育目的)	はじめに、法および法律学の基礎を概観し、私たちの生活の中で、法律や憲法をどのように活用すればよいのか、法律の作用や憲法の役割を考えてみる。次に、日本国憲法が保障する基本的人権について、憲法訴訟におけるリーディング・ケースを考察し、今日の基本的人権をめぐる問題状況を明らかにする。後半は、日本国憲法の理念から現実の憲法政治の問題状況を分析する。とりわけ、国民主権のもとにおける国会の役割と権能、行政の肥大化現象と地方行政改革、裁判所の人権保障機関としての役割、また、憲法改正の意味などについて考察する。
履修条件	教育職員免許状希望者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	憲法を頂点とした国内法の構造を理解し、憲法保障（例えば、裁判所の法令審査権）について説明できるようになる。
思考・判断の観点（K）	人権に関する判例を考察し、裁判所の判断が憲法の解釈に適合したものかどうかを指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権に関心をもち、配慮できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Ⅰ憲法総論 (1) 法律学と憲法学	権利・義務関係の内容・手続を定めた法令を分類しながら法令の解釈・適用を学ぶのが法律学。憲法は国家権力を制限する国の基本法であって、公権を定めた高次の法（最高法規）を学問対象とするのが憲法学であることを理解する。	教科書の第1章の「憲法の意味」「憲法の分類」「憲法規範の特性」（3～11ページ）を読んでおくこと	180分
第2回	(2) 憲法の歴史と憲法の基本原理	ヨーロッパの近代市民革命を経て、権力が一人の人間（君主）や一つの機関に集中しない工夫として権力分立制が生み出され、国家が人びとの権利を侵害してはなら	教科書第3章の「人権理念と歴史」「基本権の類型」「基本権の享有主体」（23～32ページ）	180分

		ないとしたのが、人権保障規定（権利章典）であったことを理解する。	教科書第12章の「国民主権と象徴天皇制」（135～146ページ）を読んでおくこと	
第3回	Ⅱ憲法（人権）（1）包括的基本権	憲法13条（幸福追求権）と同14条（法の下の平等）の規定は、すべての人権規定の基礎となる総則的権利である。プライバシー権は憲法13条を根拠に導かれた新しい人権の一つである。人権の私人間効力についても理解できるようにする。	教科書第3章の「基本権保障の効力」「基本的人権と公共の福祉」（32～37ページ）教科書第4章の「幸福追求権」「法の下の平等」（38～50ページ）を読んでおくこと	180分
第4回	(2) 精神的自由①	憲法19条思想・良心の自由、同20条信教の自由と政教分離原則を中心に、内心の自由を理解する。「君が代ピアノ伴奏」事件、「愛媛玉串料」事件、「エホバの証人剣道授業拒否」事件を検討する。	教科書第5章の「思想・良心の自由」「信教の自由」（51～61ページ）を読んでおくこと	180分
第5回	(3) 精神的自由②	憲法21条表現の自由、同23条学問の自由。とりわけ、表現、言論の自由は、民主政の大前提となる優越的権利であることを統治システム（議会制民主主義）との関係で理解する。「北方ジャーナル」事件を取り上げる。	教科書第6章の「学問の自由」「表現の自由」（62～82ページ）を読んでおくこと	180分
第6回	(4) 経済的自由	憲法22条、同29条は、職業選択の自由、財産権の保障を規定しているが、「公共の福祉」（人権相互の調整原理）の視点から、精神的自由を制約する場合は厳格な基準が必要であるのに対して、憲法22条、29条については、憲法自身が合理的基準による制約を予定している権利であることを理解する。	教科書第7章の「職業選択の自由」「居住・移転の自由」「財産権の保障」（83～93ページ）を読んでおくこと	180分
第7回	(5) 人身の自由	Due process of law（法の適正手続）を中心に、拷問の禁止、令状主義など、人の身体に関する自由は、日本国憲法第三章の条文の中で条文数がもっとも多い特色を理解する。「第三者所有物没収」事件、「高田」事件を取り上げる。	教科書第8章の「奴隷的拘束からの自由」「適正手続」「被疑者の権利」「被告人の権利」（94～106ページ）を読んでおくこと	180分
第8回	(6) 社会権（生存権的基本権）	自由権が国家の介入を排除する性質をもっていた（国家からの自由）のに対して、社会権は国家が配慮しなければ、十全に保障されない性質（国家による自由）をもった権利であることを理解する。朝日訴訟、堀木訴訟を取り上げる。	教科書第9章の「社会権の形成」「生存権」「教育を受ける権利」「勤労の権利」「労働基本権」（107～118ページ）教科書第11章の「国民の義務」（129～132ページ）を読んでおくこと	180分
第9回	(7) 参政権・国務請求権	参政権には選挙権、被選挙権、国民投票権があり、公務の性質によっては公務就任権も参政権の一部を構成する。また、請願権はその主体に未成年者、外国人、法人等も含まれる。これは議会制民主主義を補完する機能と捉えられることを理解する。	教科書第10章の「参政権」「請願権」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」「裁判を受ける権利」（119 ～128ページ）を読んでおくこと	180分
第10回	Ⅲ憲法（統治）(1) 国会の役割と権能	国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関（憲法41条）であって、国政について最高の責任を負う地位にある。また、議院の権能として、国政調査権（同62条）は他の権力を侵害しない範囲で独自の調査が認められることを理解する。	教科書第14章の「国会の地位」「国会の組織と活動」「国会と議院の権能」（158～169ページ）を読んでおくこと	180分
第11回	(2) 内閣の役割と権能	行政権は、内閣に属する（憲法65条）とは、各行政機関によって行政が行われ、内閣がそれを指揮監督（同72条後段）し、統括している。日本の内閣は、議会の信任に基づき、議会に対して責任を負う議院内閣制を採っていることを理解する。	教科書第15章の「内閣の地位」「内閣の組織と権能」「議院内閣制」（170～180ページ）を読んでおくこと	180分
第12回	(3) 裁判所の役割と権能	司法とは、具体的な争訟について法を解釈し適用することによって、紛争を解決する国家作用であり、この作用を行う権限を司法権という。また、すべての裁判所は、法令等が憲法に適合するか否かを判断する法令審査権を有していることを理解する。	教科書第16章の「司法権」「司法権の独立」「裁判所の組織と権能」「法令審査権」（181～197ページ）を読んでおくこと	180分
第13回	(4) 財政	国の財政を処理する権限は、国会の議決に基づいて行使されなければならない（憲法83条）とされ、「財政民主主義」の理念が含まれる。新たに租税を課したり、現行の租税を変更する場合は、法律に基づく租税法律主義を規定していることを理解する。	教科書第17章の「財政民主主義」「租税法律主義」「国費の支出」「公金の支出」「財政監督の方式」（198～205ページ）を読んでおくこと	180分
第14回	(5) 地方自治の制度と地方自治法	地方自治における団体自治とは、国家から独立した法人格をもち、自立権をもってその地方の事務を処理することをいい、住民自治とは、住民の意思に基づいて地方の事務が行われることを意味している。議会は、条例制定権をもつことを理解する。	教科書第18章の「地方自治の本旨」地方公共団体」（206～214ページ）を読んでおくこと	180分
第15回	(6) 憲法改正・平和主義	憲法改正とは、成典憲法中の条項の修正・削除および追加をなし、あるいは別に条項を設けて増補することをいう。憲法改正の限界については、成典憲法が拠って立つ基本原理を否定するような改正を行うことは法的に不可	教科書第19章の「憲法改正の意味」「憲法改正手続」「憲法改正の限界」（215～220ページ）教科書第13章の「平和主義」	180分

		能であることを理解する。憲法9条の意義・構造についても理解する。	（147～157ページ）を読んでおくこと	

学生へのフィードバック方法	実施した復習テストの回答は、次週の授業にて解説する。 また、授業終了時に実施するアンケートでなされた質問や意見にも、可能な範囲で次週の授業にて対応していく予定。
評価方法	復習テストの提出（毎回、授業内容についての復習問題を課題として出題する）を平常点として、評価の40%とする。残り60%は、課題レポートで評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	復習テスト	○		○	
	課題レポート	○	○	○	

評価割合	復習テスト（40%）、課題レポート（60%）で総合評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	尾崎利生・鈴木晃『憲法入門講義　第2版』（法律文化社、2016年）978-4-589-03750-3
参考図書	高橋和之編『新・判例ハンドブック【憲法】第2版』（日本評論社、2018年）978-4-535-00830-4 君塚正臣編『高校から大学への憲法［第2版］』（法律文化社、2016年）978-4-589-03741-1 初宿正典他編『目で見る憲法【第5版】』（有斐閣、2018年）978-4-641-22735-4 佐伯仁志・大村敦志他編『ポケット六法 令和4年版』（有斐閣、2021年）978-4-641-00922-6 大石眞編『デイリー六法 令和4年版』（三省堂、2021年）978-4-385-15982-9 三省堂編修所編『デイリー法学用語辞典【第2版】』（三省堂、2020年）978-4-385-13727-8
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】国の基本法としての憲法を頂点とした法秩序と統治構造を学び、理解できている。 【思考・判断】基本的人権をめぐる問題について、憲法を踏まえて考え、判断できている。 【関心・意欲・態度】基本的人権、とりわけ弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権をめぐる問題に関心をもち、配慮することができている。
学生へのメッセージ	テキスト、資料にあらかじめ目を通して、何が分かって、何が分からなかったのかを明らかにして、授業に参加できること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師の弁護士実務経験を活かし、日本国憲法が裁判実務や実社会においてどのように扱われ、どのような影響を及ぼしているのかについて、理解を深められる授業。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	市民と法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 渡邉　友美	指定なし

ナンバリング	X13420M21
授業概要(教育目的)	現代社会における法の意義と機能を明らかにし、法的なものの見方・考え方（legal mind）が身につけられるよう努める。日常生活に法律があふれていることを知ってもらい法律を身近に感じてもらうとともに、具体的な事例を解決できるようになることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	身近な問題を法的観点から考えることができる。
思考・判断の観点（K）	様々な場面で用いられる法律の適用を理解し、他者へ説明することができる。身近な問題について、法的観点から結論を導き出すことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

市民と法

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	契約が成立するってどういうこと？	社会生活を営む上で実は多くの契約を結んでいることを知り、法律を身近に感じられるようにする。契約が成立するために必要な要件について理解する。	予習：シラバスをよく読んでおくこと。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	180分
第2回	様々な契約（1）	債権と債務を理解する。様々な契約について学び、それぞれの契約の特徴と、各契約の相違点と類似点を理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条	180分

			文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	
第3回	様々な契約（2）、債務不履行って？	様々な契約について、それぞれの契約の特徴や各契約の類似点・相違点を理解する。 債務不履行というのがどのような場合なのかを理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	180分
第4回	物に対する権利？	物権とは何かを知り、債権との違いを理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	180分
第5回	「保証」って何？	保証契約の基礎知識を獲得するとともに、連帯保証人と保証人との違いなどについて理解できるようにする。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	180分
第6回	アクシデント発生！！	交通事故や医療事故など、契約以外によって発生する権利関係について理解する。私法と公法の違いについて知り、説明できるようにする。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	180分
第7回	社会人として働いていくこと（1）	労働者が持つ憲法上の権利について理解する。就業規則や労働協約の関係を理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	180分
第8回	社会人として働いていくこと（2）	会社に採用される時点から働いている間のルールについて学ぶ。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	180分
第9回	社会人として働いていくこと（3）	労働時間や、退職に関するルールについて理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	180分
第10回	家族になる！	婚約から婚姻までの流れや婚姻によって発生する効果について知る。事実婚や同性婚など、過渡期にある家族についても理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	180分
第11回	こんな結婚生活もう嫌だ…	離婚する手続きについて知る。離婚に伴って発生する清算関係（親権や財産分与など）について理解する。離婚後の家族関係について学ぶ。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	180分
第12回	親子の関係	親子関係について理解する。実子や養子、離婚後の親子関係について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	180分
第13回	家族が死んでしまったら	相続についての基礎知識を獲得する。自分が高齢になったときの備え（遺言状の作成など）について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。自分の家族が亡くなった場合の相続関係を図式してみる。	180分

第14回	具体的な相続	具体的相続分、遺留分侵害等について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	180分
第15回	これまでの授業のまとめ	これまでの授業を振り返り、知識の定着をはかるとともに、その知識を使えるようにする。	予習：これまでの配布資料を読み、理解する。 復習：これまでの配布資料を読み、不明な点は授業中に挙げた参考書等で自ら調べてみる。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	毎回、授業の最後に10分程度の簡単な確認テストを行い、次の授業でコメント等をつけた上で返却する。必要があれば、授業の冒頭で簡単な解説を行う。
評価方法	・平常点（確認テスト）：30%、定期試験：70% ・確認テストは、その日の授業で行った内容を確認する問題を3～5問程度出す。5～10分程度で書き終わる内容のものとする。そこでの理解度に応じて点数をつける。 ・定期試験は、100点満点で出題し、説明問題、穴埋め問題、選択問題などを出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点（確認テスト）（30%）、定期試験（70%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しない。
参考図書	池田真朗ほか著『法の世界へ〔第8版〕』（有斐閣、2020年） （ISBN:978-4-641-22088-1） ポケット六法などの小型六法や、e-Gov法令検索（https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/）など、法律を確認できるもの。 また、適宜参考になる書籍を紹介する。
参考URL	https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】社会の仕組み・身近な問題を法的観点から見つめ、様々な法律の特徴を理解するとともに、多様な価値観を身に着けている。
学生へのメッセージ	授業中は私語厳禁。あまりにも私語がひどい場合は退出してもらいます。 録音・録画・撮影は厳禁。 社会で生きていく以上、法律とともに生活することになるので、自分や家族を守る武器を身につけられるように、積極的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	市民と法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山田　寿則	指定なし

ナンバリング	X13420C21
授業概要(教育目的)	リーガルマインドを身に付け、消費生活、就労、家族関係等の女性のライフステージで生じる法律関係を理解し、心豊かな人生を送ることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	女性の生涯にかかわる法律関係を理解し、在学中や社会に出た場合に生じるトラブルに遭遇したときの対処方法を知り、友人や家族に説明できる。
思考・判断の観点（K）	当事者間の利害関係を把握し、法律による基礎的な解決方法を提示できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの見解を持ち、積極的に議論に参加することができる。
技術・表現の観点（A）	制度の概要、問題の所在を端的に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、未成年者と法	本講義の進め方（双方向型講義）と講義への取り組み方を説明する。未成年者保護法制について理解を深め、法律をめぐる基礎的な用語について理解する。	教科書１０～１２頁を読んでおくこと。	180分
第2回	憲法は何のためにあるの？　幸福追求権を例に	幸福追求権を例に、憲法の基本的な性質を理解する。	教科書１４～１７頁を読んでおくこと。	180分
第3回	それって犯罪なの？犯罪の成立	暴行や傷害のほか、女性が被害者となりがちが犯罪を例に、刑法の基本的な特徴とともに、犯罪の成立要件を理解する。	教科書１８～２５、３２～４３、５４～６３、９４、９５頁を読んでおくこと。	180分

第4回	誰でも逮捕できるの？逮捕と起訴を例に	逮捕から起訴・裁判に至る流れを理解するとともに、犯罪被害を受けた場合の対処方法について学ぶ。	教科書２６～２９、１０３、１２２、１２３頁を読んでおくこと。	180分
第5回	どんな刑罰があるの？死刑問題	刑罰の種類について理解を深めるとともに、死刑制度について考える。	教科書１１４～１１７頁を読んでおくこと。	180分
第6回	これって著作権侵害なの？　剽窃と引用	表現の自由とその限界、並びに著作権について理解を深め、併せてレポートにおける正しい「引用」の仕方を学ぶ。	教科書７０、７１、７４～８０頁を読んでおくこと。	180分
第7回	何でも「契約」できるの？　民法と不法行為	日常生活における「契約」の役割と不法行為を例に、民法の基本原則を理解する。	教科書１６～２１、３０、３１、５４～５９、１００頁を読んでおくこと。	180分
第8回	売買と賃貸借をめぐるトラブルに対処する	日常生活における売買と不動産の賃貸借をめぐる法律関係を理解し、消費者保護の法制度について学ぶ。	教科書７２、７３、１０４～１１１頁を読んでおくこと。	180分
第9回	裁判なんて関係ない？	民事裁判と刑事裁判の異同について理解するとともに、裁判員裁判制度の意義について学ぶ。	教科書９８～１０３頁を読んでおくこと。	180分
第10回	働く人の権利は守られるか？	働く人の権利と労働法制の概要について理解するとともに、働くときのルールについての学ぶ。	教科書１３０～１３７頁を読んでおくこと。	180分
第11回	男女雇用機会均等法は役に立っているの？	職場における様々なハラスメントに関する法制度を理解し、労働者保護について学ぶ。	教科書１３８～１６０頁を読んでおくこと。	180分
第12回	結婚（婚姻）をめぐる法律問題	婚姻をめぐるさまざまな問題を考えるうえでの基礎として、婚姻はどのように成立するか、婚姻により生じる効果は何か、夫婦間の財産関係等について学ぶ。	教科書１６２～１６９頁を読んでおくこと。	180分
第13回	離婚と親権をめぐる法律問題	離婚の要件と効果について理解し、それに伴い生じる親権の問題について学ぶ。	教科書１７０～１９５頁を読んでおくこと。	180分
第14回	さあ、相続。どうしたらいい？	相続法の入口として、相続人の範囲と法定相続分について学ぶ。	教科書１９６～１９９頁を読んでおくこと。	180分
第15回	女性差別撤廃条約は女性の地位向上に役立つか？	女性差別撤廃条約の日本への影響を理解するとともに、国際社会における女性の地位向上の取り組みについて学ぶ。	教科書８２～８５頁を読んでおくこと。	180分

学習計画注記	履修者の理解の度合いや関心のあり方など、諸般の要素を考慮して、上記の進度に変更が生じる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回の講義終了時に質問を受け付けます（質問の提出は任意）。次回講義の冒頭で、これに回答します。
評価方法	中間・期末のレポート（それぞれ２０００字程度）においては、講義内容についての理解できているかを判断するとともに、説得的な根拠を示したうえで、自らの意見を展開できているかどうかを評価する。 講義内容についての質問は、下表の評価基準より評価します。質問回数が多いほど、高い評価が与えられます。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間・期末レポート	○	○	○	○
	講義内容についての質問		○	○	

評価割合	中間レポート（３５％）、期末レポート（３５％）及び質問票を通じた授業への貢献（３０％）で評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	上谷さくら・岸本学『おとめ六法』（KADOKAWA、2020年） ISBN ： 978-4046047793

	なお、本書には電子書籍版もあります。使い勝手の良い方を選択してください。
参考図書	副田隆重他『ライフステージと法（第８版）』（有斐閣、2020年） 判例六法等の法令が掲載されているもの、または、以下の参考ＵＲＬで、関連する法令を検索することでも代替可能。
参考URL	https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】女性を取り巻く社会を理解し、望ましい姿を提案できる能力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】ひとりの女性として、社会と積極的に向かい合う姿勢を確立している。 【技能・表現】女性にかかわる諸問題について、他者と相互理解を図り、共に解決するための素地を身に付けている。
学生へのメッセージ	皆さんは、成人（満１８歳）になれば、自分だけの判断で社会生活をおくることができますが、そこには犯罪に巻き込まれたり、金銭的なトラブルに遭遇するなど多くのリスクが潜んでいます。また卒業後は、多くの皆さんが企業・団体等に就職することとなりますが、雇用にかかわるルールを知ることは、たいへん重要です。やがて皆さんは、家族を持ち、子どもを育て、ときには親からの相続といった、さまざまな局面に直面することになりますが、そこで生じる法律関係を理解しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師は、国際NGOの理事として国連における条約作成にも関与してきました。そうした場では多くの女性が生き生きと活躍しています。講義で扱う内容は身近な国内法が中心ですが、国際的視点を交えながら、講義を進めます。
アクティブ・ラーニング	○	質疑応答を通じた双方向の授業を行う。また、感染対策に配慮した上で、グループワークやグループ・ディスカッションを実施します。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会学入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岡村　逸郎	指定なし

ナンバリング	X13430M21
授業概要(教育目的)	本授業では、社会学の基本的な考え方を学ぶとともに、「歴史」という観点からさまざまな現象を分析する社会学の視点や方法を紹介する。本授業の目的は、社会学の基本的な考え方や理論を、さまざまな身近な現象や具体的な事例に関連づけて理解する視点を身につけることである。 本授業では、私たちの身近な現象や事例として、犯罪被害、刑事司法、社会保障、小説に注目する。そして、それらの事例をもとに、現代社会がどのような仕組みのもとでなり立っており、歴史的にどのように形成されたのかを考察する。 社会学の基本的な考え方を理解するために、社会学がおもな対象にする「社会」が、何を指し示す言葉として用いられているのかを考える。社会学における社会が、個人 - 関係性 - 集団という3つの要素から構成されるものとして把握されていることを確認し、その視点のもとで社会学理論の歴史的ななり立ちを整理する。また、相互行為という社会学の分析対象に注目して、それを規範、役割期待、逸脱、秩序、社会変動などの視点から考える。 こうした社会学の基本的な考え方を踏まえ、本授業では「犯罪被害者と司法 - 福祉」「犯罪被害者と文学」という2つのテーマから社会学的な分析を行なう方法を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・社会学の基本的な考え方を理解し、説明できる。 ・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、その現状を正確な知識のもとで把握し、理解できる。
思考・判断の観点（K）	・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、そのメカニズムを理論と身近な事例を往復しながら説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・社会で生じているさまざまな現象や社会問題について、生活者としての自らの経験にもとづき考察するとともに、授業内でのディスカッションを通して多様な視点や価値観にもとづく意見や考察に触れ、自らの視点を相対化できる。
技術・表現の観点（A）	・レスポンス・シートやレポートを通して、資料や先行研究を正しく参照する技術を身につけるとともに、自らの考えや主張を他者にわかるように提示する表現力を獲得する。

学習計画

現代の社会的事象や社会問題に、社会学の研究はどのように切り込んでいるか？

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）

第1回	ガイダンス	本授業のねらいと進め方、受講上の注意点を説明する。	予習：シラバスをよく読み、授業の進み方のイメージをもって授業に臨む。 復習：配布資料をよく読み返す。	予習：２時間 復習：２時間
第2回	社会学の基本的な考え方(1)――個人 - 関係性 - 集団	社会学の基本的な分析単位である、個人 - 関係性 - 集団を説明する。	予習：身近な事例において「社会」という言葉がどのように用いられているのかを調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、身近な事例を個人 - 関係性 - 集団という視点から整理する。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第3回	社会学の基本的な考え方(2)――規範、相互行為、秩序	規範や役割期待、逸脱などに注目して、私たちの相互行為が秩序だったものとして形成される過程を、身近な事例を踏まえつつ考える。	予習：私たちが日常生活のなかで拘束されているルールにどのようなものがあるかを考える。 復習：配布資料をよく読み返し、身の回りのさまざまなルールがどういうレベルの規範なのかを考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第4回	社会学の基本的な考え方(3)――近代化と社会変動	一般的に近代化の過程とされる政治・経済の近代化に加えて、社会学でいう近代化が社会関係の再編も視野に入れたものであることを学ぶ。近代化の過程を、4要素（個人化、国民国家の成立、自由主義市場の成立、中間集団の再編）にわけて理解する。	予習：中学高校で習った近現代史の内容を確認し、近代化というものがどのような過程なのかを考える。 復習：配布資料をよく読み返し、現代社会における社会変動がどのようなものであるのかを、身近な事例と結びつけて考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第5回	社会学の基本的な考え方(4)――近代化と社会学	社会学の創始者とされるM. ウェーバー、G. ジンメル、E. デュルケムをとりあげ、社会学が近代化とともに現われ、現前する近代社会を捉えて理論化しようとした過程を学ぶ。	予習：ウェーバー、ジンメル、デュルケムがどのような社会学者であるのかを調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、ウェーバー、ジンメル、デュルケムの理論を身の回りの事例にあてはめて考察する。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第6回	犯罪被害者と司法 - 福祉(1)――刑事司法とは何か	現代の刑事司法の仕組みを理解する。犯罪統制にかかわる諸機関を、逮捕、起訴、裁判、刑の執行、保護観察の観点から理解する。刑事裁判と民事裁判の違いを学ぶ。	予習：中学高校で習った内容を振り返り、三権分立の考え方を確認する。犯罪にかかわる身の回りの事例を、新聞記事などを調べて探す。 復習：配布資料をよく読み返し、刑事司法の仕組みを考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第7回	犯罪被害者と司法 - 福祉(2)――社会保障とは何か	現代の社会保障の仕組みを理解する。私たちが税金や社会保険料をどのようにして徴収され再分配を受けているのかを、身近な事例を通して考える。社会保障の4類型（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生）ごとに、理念、徴収法、再分配の仕組みを整理する。	予習：中学高校で習った内容を振り返り、税金や社会保障にかかわる内容を確認する。福祉にかかわる身の回りの事例を、新聞記事などを調べて探す。 復習：配布資料をよく読み返し、社会保障の仕組みを考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第8回	刑事司法の歴史（1）――刑法学	近代的な刑事司法がいかなる理念のもとで形成されたものであるのかを、18世紀の古典派刑法学と19世紀の新派刑法学の検討を通して理解する。刑事司法と近代社会の関係を、E. デュルケムの犯罪論の検討を通して考える。	予習：警察、検察、裁判所について、身近な事例を調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、刑事司法と近代社会の関係を考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第9回	刑事司法の歴史（2）――行刑学	近代的な刑事司法がいかなる理念のもとで形成されたものであるのかを、行刑学の検討を通して理解する。刑事司法と近代社会の関係を、M. フーコーの犯罪論の検討を通して考える。	予習：刑務所について、身近な事例を調べる。 復習：配布資料をよく読み返し、刑事司法と近代社会の関係を考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第10回	犯罪被害者と文学――	「探偵小説」「推理小説」「ミステリー」「ミステリ」と形容される文学やポピュラー・カルチャーのジャンル	予習：「探偵小説」「推理小説」「ミステリー」「ミステリ」と形容される作品を探し、	予習：２時間 復習：２時間

	推理小説の特徴と歴史	が、どのようなジャンルなのかを理解する。それらのジャンルと近代社会の関係を考える。	興味のある作品を読む。 復習：配布資料をよく読み返し、推理小説の物語を構成するうえでのルールを考える。参考図書の該当部分を読む。	
第11回	作品のなかの相互行為（1）――社会派・ハードボイルドと犯罪被害者	推理小説の作品の内容の分析を通して、作家 - 読者間の相互行為を分析する方法を学ぶ。宮部みゆき、真保裕一の作品の検討を通して、人間の内面や経験を「リアル」に描写する課題のもとで犯罪被害者を扱う作家の実践を考える。	予習：宮部みゆき、真保裕一の作品のなかから、関心のある作品を選んで読む。 復習：配布資料をよく読み返し、推理小説と犯罪被害者の関係を考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第12回	作品のなかの相互行為（2）――サスペンスと犯罪被害者	推理小説の作品の内容の分析を通して、作家 - 読者間の相互行為を分析する方法を学ぶ。乃南アサ、野沢尚の作品の検討を通して、人間の恐怖感を「リアル」に描写する課題のもとで犯罪被害者を扱う作家の実践を考える。	予習：宮部みゆき、真保裕一の作品のなかから、関心のある作品を選んで読む。 復習：配布資料をよく読み返し、推理小説と犯罪被害者の関係を考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第13回	作品のなかの相互行為（3）――本格ミステリと犯罪被害者	推理小説の作品の内容の分析を通して、作家 - 読者間の相互行為を分析する方法を学ぶ。東野圭吾の作品の検討を通して、従来のミステリのルールや形式を踏襲しつつも、犯罪被害者の描写を通してミステリの幅を広げようとする作家の実践を考える。	予習：東野圭吾の作品のなかから、関心のある作品を選んで読む。 復習：配布資料をよく読み返し、推理小説と犯罪被害者の関係を考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第14回	作品をめぐる相互行為――被害者の描写をめぐる作家と批評家のかかわり	前回作品の内容を検討した『容疑者Xの献身』を事例として、ある作品が文壇の関係者（作家、批評家、文学賞の審査員など）によって受容された過程を考える。小説の作品だけでなく、エッセイ、インターネットのブログ、論文、著書などを通して作品をめぐる相互行為を分析する方法を学ぶ。	予習：推理小説の作家が書いたエッセイを読む。推理小説の作家が書いたインターネットのブログをみる。 復習：配布資料をよく読み返し、推理小説と犯罪被害者の関係を考える。参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間
第15回	本授業のまとめ	授業全体の内容を振り返り、社会学と犯罪被害者、社会学と司法 - 福祉、社会学と文学の関係をあらためて整理する。	予習：過去の配布資料をよく読み返し、学んだ内容を整理する。 復習：配布資料をよく読み返し、参考図書の該当部分を読む。	予習：２時間 復習：２時間

学習計画注記	実際の授業の進捗状況によって、各回の内容を変更することがありうる。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の内容を踏まえて質問と考察をするレスポンス・シートを提出してもらう。その内容のなかで優れたものの一部については、匿名化したうえで毎回の授業の冒頭で紹介し、回答する。授業の内容に関する質問は授業中でも随時受けるほか、個別の質問は授業前後ないしメールで受けつける。
評価方法	以下を総合的に評価する。 ・授業参加への意欲や積極性など平常点 ・レスポンス・シートの内容 ・レポートの内容 ※レスポンス・シートやレポートにおいては、授業で学んだ知識を正確に理解しているか、事実関係を正確に踏まえたうえで自分の考えや主張をわかりやすく表現できているかどうか、レポートを書くうえでの最低限の作法を守れているか（自分の言葉で書く、文献や資料を参照した場合は書誌情報を明記するなど）を重視する。 ※毎回ごとの授業の内容を踏まえていないレスポンス・シートは、評価の対象にしない。毎回ごとの授業の内容を十分に踏まえられていないレスポンス・シートは、減点の対象にする。 ※以上の基礎点に加えて、＋αの評価点として、身の回りの事例と関連づけて考察できているか、自主勉強の形跡がみられるか、考察に深さがあるかどうかをみる。 ※授業に2/3以上出席しなかった学生、レポートを提出しなかった学生は、単位取得できない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	レスポンス・シートの内容	○	○	○	○
	レポートの内容	○	○	○	○

評価割合	平常点（20%）、授業内で毎回書くレスポンス・シートの内容（30%）、レポートの内容（50%）を合わせて評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。必要に応じて資料を配布したり参考書を紹介したりする。
参考図書	・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, [2007] 2019, 『新版　社会学』有斐閣. ・岡邊健編, 2014, 『犯罪・非行の社会学――常識をとらえなおす視座』有斐閣. ・武川正吾・森川美絵・井口高志・菊池英明, 2020, 『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房. ・内田隆三, [2001] 2011, 『探偵小説の社会学』岩波書店. ・岡村逸郎, 2021, 『犯罪被害者支援の歴史社会学――被害定義の管轄権をめぐる法学者と精神科医の対立と連携』明石書店.
ディプロマポリシーとの関連	・（知識・理解）司法、福祉、文学にかかわるさまざまなテーマを社会学的な視点から考察することによって、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につける。 ・（思考・判断）既存の社会学の視点や理論を生活者としての自らの経験と結びつけて考察することによって、生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる能力を獲得する。 ・（関心・意欲・態度）ディスカッションを通して自らの経験や視点を相対化することによって、生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる姿勢を養う。 ・（技能・表現）犯罪被害者という社会的に不利な立場におかれた人々の経験のありようを多様な専門的知識とのかかわりのなかで理解することによって、生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる能力を取得する。
オフィスアワー	個別の質問は授業前後ないしメールで受けつける。
学生へのメッセージ	・新聞、雑誌、書籍、テレビ、インターネットなどの日常生活で接する身近な媒体のなかから、社会的な事象（複数の人々のかかわりのなかで生じるできごと）の具体例を探す習慣を身につけてほしい。 ・レポートでは、任意の資料（小説には限らない）を1つないし複数選び、授業で学んだ社会学的な視点から考察を行なってもらう。普段の授業を受けながら、レポートの執筆に向けて自分が関心のある事象やテーマを探していってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	レスポンス・シートやレポートの内容を受講生全体に共有し、グループ・ディスカッションを行なう場合がある。
情報リテラシー教育	○	レスポンス・シートやレポートでは、レポートを書くうえでの最低限の作法を守れているか（自分の言葉で書く、文献や資料を参照した場合は書誌情報を明記するなど）を重視する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	経済学入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 髙橋　信勝	指定なし

ナンバリング	X13440M21
授業概要(教育目的)	私たちは，家庭の外で働いて得た収入によって様々な財やサービスを購入し，消費することで日々の生活を送っている．人間の日常生活における経済面での営みは，「自己保存」あるいは「生命力の再生産」とよばれる．マーシャルによれば，経済学とは，日常生活を営んでいる人間についての研究にほかならない． 今日の市場経済社会では，人びとは，自己保存に必要な財をみずからがすべて生産し，すべて消費し尽くすわけではない．私たちの身の回りの消費対象のほとんどは他者の生産の成果である．すなわち，各人の自己保存は，自分と他者とのあいだで「持ちつ持たれつ」の関係をつうじて果たされている．しかも，その主たる関係は貨幣を仲立ちとする取引関係である． この授業では，私たちが生きている現代の経済社会の実相を理解できるように，経済学の基本を学ぶ．また，この学びのなかで経済学をベースとするものの見方と判断力を養うことを狙いとする．
履修条件	とくになし．

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	市場経済の基本的な仕組みと，政府が市場経済の働きを補完する混合経済の社会について理解できるようになる．
思考・判断の観点（K）	成長と停滞と縮小をくり返す一国経済の全体の動きに関心を持ち，私たちの生活への影響を判断できるようになる．
関心・意欲・態度の観点（V）	消費支出，アルバイト，就職活動など，大学生としての日々の経済生活に経済学的視点から関心を抱き，たとえば，機会費用の考え方によって自分の経済行動を点検し，修正できるようになる．
技術・表現の観点（A）	レポート課題の作成や期末試験のためのノートの整理をつうじて，生活に根差した経済の望ましい在り方を模索し，平易な言葉で表現できるようになる．

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	経済学とは，私たち	①経済学の使命，②経済学の3つの分野，③経済学の議論の出発点である自己保存，④経済問題，⑤経済システム	予習：「経済」という言葉の由来について，図書館などで事典	予習：60分 復習：60分

	の生活の物質的な豊かさに関する学問	について学ぶ.	等を利用して調べる. 復習：経済学は，ピグーが指摘したように，私たちの「厚生」（≒満足）のうち貨幣によって捉えることができる部分のみを対象とする．物質的な豊かさイコール人間生活の豊かさであると速断してはならない．このことを確認するため，具体例を考えてみる.	
第2回	経済学に取り組むための足慣らし	①生産可能性曲線，②トレードオフ，③機会費用，④サンクコスト，⑤分業，⑥迂回生産について学ぶ.	予習：私たちが思うがままに欲しいものを獲得できる世界にいるならば，経済学という学問は必要であろうか．この問題を考えてみる. 復習：日常生活のなかでサンクコストに相当する具体例を考えてみる.	予習：60分 復習：60分
第3回	現代の経済社会は，どのように特徴づけられるのか	①経済主体，②市場，③自主的・分権的な意思決定，④経済活動の自由，⑤自己責任，⑥価格を参照基準とする経済行動，⑦混合経済社会について学ぶ.	予習：経済的不平等を緩和するために，政府はどのようなことをなしうるのかを考える. 復習：企業，家計，政府の経済的な結びつきについて復習する.	予習：60分 復習：60分
第4回	私たちは，限られた貨幣収入をどのように支出しているのかを見つめ直す	①水とダイヤモンドをめぐるスミスのパラドックス，②限界革命，③限界効用逓減の法則，④限界効用均等の法則，⑤効用の可測性とその留意点，⑥効用最大化のための消費者行動について学ぶ.	予習：人びとが財の消費から得る満足は，共通かつまったく同じものとして取り扱うことができるのであろうか．この問題について，人間を平等に扱う社会の存在を前提に考えてみる. 復習：富裕な人びとから経済的に苦しんでいる人びとへ貨幣を移すことは，限界効用逓減の法則によって，どのように説明されるのかを考える. ※第1回レポート課題の提示	予習：60分 復習：60分
第5回	買いたい側と売りたい側の思惑が一致する点に，価格決定のかなめはある	①需要曲線，②供給曲線，③均衡価格と市場の価格調整メカニズム，④需要曲線のシフト，⑤供給曲線のシフトについて学ぶ.	予習：なぜ需要曲線は一般に右下がりに，供給曲線は一般に右上がりになるのかを考えてみる. 復習：ノートを見直して，価格決定の基本について理解を深め，そのメカニズムの背景には合理的な経済人の想定があること，すなわち，スミスが着目した「利己心」にもとづく私益の追求行動が前提となっていることを復習する.	予習：60分 復習：60分
第6回	一国経済の規模は，どのようにして捉えるのか	①ストックとフロー，②国内総生産，③名目値と実質値，④国内純生産，⑤国民総所得，⑥経済成長，⑦三面等価の原則について学ぶ.	予習：第二次世界大戦後の日本における高度経済成長の光と闇の両面について，図書館などで事典等を利用して調べる. 復習：ノートを見直して，国民経済の大きさを捉えるための基本スケールである国内総生産について，なぜ二重計算の過ちは許されないのかを復習する. ※第1回レポート課題の提出	予習：60分 復習：60分
第7回	物価の変動は，私たちの生活にどのような影響をおよぼすのか	①物価，②物価指数，③インフレとデフレ，④物価変動の要因と安定化，⑤物価の国際比較について学ぶ.	予習：図書館などで，物価の急激な上昇が経済生活に混乱をもたらした事例を調べてみる. 復習：ラスパイレス方式による消費者物価指数の算出法を復習する.	予習：60分 復習：60分
第8回	第1回から第7回授業のまとめ	授業の重要ポイントを振り返る．第1回レポート課題の講評．教室外学習の問題の解説.	予習：第1回から第7回授業までのキーワードを20ほど書きだして，おおまかに説明できるかどうかを確かめる. 復習：レポート課題の講評にもとづいて，レポートの内容を見直す.	予習：60分 復習：60分
第9回	一国の経済活動はつね	①景気の1周期，②景気動向指数，③景気循環のタイプについて学ぶ.	予習：好景気と不景気の影響は，私たちの生活面に，どのよ	予習：60分 復習：60分

	に調子がよいとは限らず，不調のときもある		うに現れるのかを賃金や消費に注目して考えてみる. 復習：ノートを見直して，景気の1周期について，はじめの「谷」から次の「谷」へいたるプロセスを復習する.	
第10回	政府は，市場経済の機能不全をどのように補完しようとするのか	①公共財，②所得の再分配，③経済の安定化，④中央銀行の役割について学ぶ.	予習：政府の社会的責任とは何かを考えてみる. 復習：累進課税の強化は，労働に対するインセンティブにどのような影響を与えるのかを考えてみる. ※第2回レポート課題の提示	予習：60分 復習：60分
第11回	企業は利潤の追求を目的とするが，家計の存在理由とは何か	①企業のタイプ，②株式会社の特質，③株式市場の役割，④家計における生命力の再生産について学ぶ.	予習：市場経済社会において，なぜ株式会社が企業の代表的形態となったのかを考えてみる. 復習：家計の経済的機能について，家計と企業，家計と政府との結びつきに注意しながら，再確認する.	予習：60分 復習：60分
第12回	現代日本における働き方を企業と働く者の視点から捉える	①新卒一括採用，②ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用，③長期雇用，④企業別労働組合，⑤年功賃金，⑥みえざる出資理論，⑦正規雇用と非正規雇用について学ぶ.	予習：企業にとっての非正規雇用のメリットとデメリットについて考えてみる. 復習：現代日本において，長期雇用や年功賃金が大きく揺らいでいる理由を復習しておく. ※第2回レポート課題の提出	予習：60分 復習：60分
第13回	少子高齢社会と人口問題	①人口を捉える視点，②マルサスの時代と現代日本の人口問題，③労働力人口，④合計特殊出生率，⑤社会保障制度の持続可能性について学ぶ.	予習：人口論の祖マルサスは人口の増加力を懸念した．しかし，今日，生まれる子どもの数は日本では減少傾向にある．その理由を考えてみる. 復習：政府が人口の増加策を大々的に進めることは，なぜ慎重を要するのであろうか．この問題を，個人の自己決定の視点から考えてみる.	予習：60分 復習：60分
第14回	第9回から第13回授業のまとめ	授業の重要ポイントを振り返る．第2回レポート課題の講評．教室外学習の問題の解説.	予習：第9回から第13回授業までのキーワードを20ほど書きだして，おおまかに説明できるかどうかを確かめる. 復習：レポート課題の講評にもとづいて，レポートの内容を見直す.	予習：60分 復習：60分
第15回	総まとめと補論	これまでの授業の重要ポイントを振り返る．補論として経済学の歴史における成長志向と反成長志向を学ぶ.	予習：第8回と第14回の教室外学習で選んだ合計40個のキーワードを中心に，授業内容の総復習を行う. 復習：期末試験に備えてノートを再点検する.	予習：60分 復習：60分

学習計画注記	授業では，できるだけ平易な表現を使用し，具体例を交えながら説明する．経済学の歴史的知見の紹介や新聞の経済記事の解説なども行い，経済学のおもしろさを知ってもらう. なお，コロナ感染症に対する大学の方針に即して，対面授業のリモート授業への切り替えや，授業の進展度を考慮した授業テーマの変更がありうるので注意すること.
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートは，後日の授業で取り上げる．興味深い内容や再考を要する内容を紹介しながら全体の講評を行う. レポート課題の講評とあわせて教室外学習の問題の解説も行い，学生との対話の機会を確保する.
評価方法	2回のレポート（60%）と期末テスト（40%）により，成績を評価する．成績評価方法の詳細は，初回の授業時に説明する.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	第1回レポート課題	○	○		○
	第2回レポート課題	○	○		○

	期末テスト	○	○		○

評価割合	2回のレポート（30%＋30%）と期末テスト（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	指定しない.
参考図書	必要に応じて紹介する.
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】経済学の知見をふまえて，今日の市場経済社会の実相を理解することができる. 【思考・判断】国民経済全体の視点のみならず，各個人あるいは各家計の視点から，私たちの経済生活の向上を考えることができる. 【技術・表現】日々の生活における他者とのコミュニケーションのなかで，経済学的な発想を活かし，表現することができる.
学生へのメッセージ	第1に授業への継続的な出席，第2に集中しての受講，第3に課題を後回しにせず，十分な時間的な余裕をもって提出すること.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	経営学入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	X13450M21
授業概要(教育目的)	現代社会は、営利組織である企業、非営利組織である官庁・学校・病院など、「組織」を通じてその運営がなされている。経営学は、この組織の構造や行動、組織で働いている人のやる気や管理などの問題を扱うものである。本講義では、主に企業活動における企業の行動や企業の中で働く人の管理に焦点を当て、企業に関する理解を深めてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講生の上限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	多様な企業活動を知るができる。
思考・判断の観点（K）	企業活動について、「自分の言葉」で記述することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	組織と個人の関係を考える	個人の役割が大事だとわかっていても、組織を巨大なものとして思いがちなのはなぜかを考える。	組織と個人の関係、誘因と貢献の関係について復習しておくこと。	180分
第2回	企業イメージと３C分析	企業イメージを知り、３C分析について考える。	３C分析について復習をしておくこと。	180分
第3回	会社とは	会社は何のためにあるのか、何のために働くのかについて考える。	何のために働くのかを復習しておくこと。（1回目の課題あり）	180分
第4回	株式会社について知る	株式発行について知る、株式会社の３会について知る。	興味のある株式会社を調べておくこと（2回目の課題あり）	180分

第5回	課題の解説	課題について解説を行う	課題についての復習を行うこと。	180分
第6回	会社は誰のものか	会社は誰のものか（企業ガバナンス）を考える。	会社は誰のものか考える。（3回目の課題あり）	180分
第7回	CSRについて	CSRについて知る。CSRについて考える。	CSRの点から株式会社を調べる。（4回目の課題あり）	180分
第8回	中間振り返り	第1回～第7回までの授業内容を振り返る。	レポート作成について各自調べてくること（5回目の課題）	180分
第9回	レポート作成について	課題のレポート作成について解説を行う。	レポート作成について復習しておくこと。	180分
第10回	組織構造について①	「組織（構造）は戦略に従う」について知る。	組織構造について復習しておくこと。	180分
第11回	組織構造について②	組織構造における人の役割について考える。	社内ベンチャーについて調べおくこと。	180分
第12回	マックとモスの競争戦略について	競争戦略を知る。競争戦略について考える。	競争戦略について復習しておくこと。	180分
第13回	国際化について	企業はなぜ国境を越えた活動をするのか？	グローバリゼーションとは何か復習しておくこと。	180分
第14回	キャリアについて	キャリアデザインはいつするのか。	自身のキャリアについて復習しておくこと。	180分
第15回	総まとめ	これまで取り上げた授業内容を中心に復習を行う。	これまで取り上げた授業内容を予習しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	・課題は4回～5回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○			
	レポート	○	○		

評価割合	レポート(60%) 課題4～5回（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	加護野忠男・吉村典久、『1からの経営学』、碩学舎、2012。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解：人間社会において豊かな知識と深い思考をもって理解する。
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってくること。
学生へのメッセージ	課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本の歴史		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小沢　詠美子	指定なし

ナンバリング	X13450M21
授業概要(教育目的)	グローバル化・多様化の求められる現代において、必要なのは、それぞれの立場を尊重しつつ、自分の立場も自覚し、その上で理解し合うことです。そのためにはまず、自分はどのような背景を背負っているのかを認識しなければなりません。この授業では、日本の歴史を学ぶことによりその背景を理解し、さらにそこから自分の頭で考えることの重要性を認識する、いわば人格形成を最終的な目的とします。
履修条件	日本史に興味と学習意欲があり、自宅学習時間の取れることが条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	授業で取り上げた内容を正確に理解した上で、全体の歴史的な流れを把握、日本史の知識のない他者に、簡潔に説明することができる。
思考・判断の観点（K）	歴史的事実を踏まえた上で、一般の固定観念や偏見にとらわれることなく、現代日本の抱える諸問題を解決するための自分なりの考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	レポートや試験はプレゼンテーションの一形態でもあるので、自分の理解している知識を的確に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	日本人の起源	旧石器時代から縄文、弥生、古墳、奈良時代までの社会の様相を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分

第2回	天皇と貴族	律令制度や摂関政治など、朝廷で行われていた政治体制について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第3回	武家政権の誕生	鎌倉幕府の執権政治、得宗体制、室町幕府の守護の台頭なとについて理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第4回	戦乱から統一へ	応仁・天文の乱から室町幕府の滅亡、秀吉による「惣無事令」の発布にいたる流れを理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第5回	江戸幕府の成立	幕府の行った大名統制、外交政策と、その転換を機に巻き起こる討幕運動について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第6回	明治政府の登場	天皇中心の中央集権体制のもと、帝国主義国家へと変貌する過程を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第7回	日清・日露戦争	日本政府の朝鮮半島進出政策と、朝鮮をめぐって勃発した日清・日露戦争の意味について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第8回	社会運動と言論統制	憲法制定と国会開設、治安維持法と普通選挙法といった、明治以降の言論統制の実態を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第9回	軍部の台頭	対華二十一か条の要求、満州建国など大陸進出を進める反面、日本が国際社会から孤立していく過程を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第10回	日中戦争の	盧溝橋事件に端を発する日中戦争の戦況と、ますます深	あらかじめテキストの該当箇所	予習120分、復習60分

	勃発	まる国際的な孤立について理解する。	を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	
第11回	アジア・太平洋戦争へ	日中戦争により米英との対立が深まった結果、勃発したアジア・太平洋戦争の戦況と、この戦争の目的について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第12回	原爆と終戦	戦争によって苦難を強いられる国民生活や沖縄戦の実態、原爆投下から無条件降伏に至る過程を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第13回	新憲法の制定	GHQにより実施された民主化政策の実態と、新憲法制定までの経緯について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第14回	朝鮮戦争と日米安保条約	朝鮮戦争を契機に進む再軍備の実態と、日米安保条約の意味について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第15回	混迷する政局	55年体制の成立から崩壊にいたる過程と、その間発生した数々の疑獄事件、現代社会の問題点について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業終了後、教室でお声がけください。なお、顔の見えないメールでの対応はいたしません。
評価方法	・第１回から第７回分までをレポートにまとめ、提出していただきます。レポートが未提出の場合、評価ができなくなりますので、ご注意ください。 ・期末試験は、第８回以降が範囲となりますが、正しく理解できていることはもちろん、文章に矛盾はないか、主語は明確か、読み手に書き手の意図が伝わるか、という点も評価の対象となります。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		○
	期末試験	○	○		○

評価割合	レポートと期末試験の平均点で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しません。
参考図書	竹内誠　他編『教養の日本史』（東京大学出版会、ISBN：4-13-022014-4） 大石学　他編『地図・年表・図解でみる　日本の歴史　上・下』（小学館、ISBN: 9784096260876/9784096260883）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 日本の歴史や地域について基本的知識を持ち、その流れや因果関係を把握し、その意義を説明できる。 【思考・判断】 正確な情報を収集して、一般的な思い込みや偏見を排除し、現代社会の抱える諸問題への対処法を判断できる力、未来を見据える力を身につけている。 【技術・表現】 正しい文章表現により、自分持つ知識や考えを正確に他者に伝えることができる。
学生へのメッセージ	この授業を履修するにあたり，歴史の専門知識は必要ありません。一回一回の授業に集中して受けてください。そして、歴史から自分は何を学び取れるのだろうか、ということを、常に意識して受講してください。なお、授業を欠席した場合には、その部分は必ず自分で学習し、わからないところがあれば放置せず、遠慮なく質問に来てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	世界の歴史		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉村　貴之	指定なし

ナンバリング	X13470M21
授業概要(教育目的)	今後国際人として海外の人々と付き合う際に必要となるのは近現代の世界についての基礎知識である。この授業では、特に中東やロシアを始めとするユーラシア世界で起きている現代的な問題（多民族国家や地域紛争、政治体制の転換など）を歴史の観点から理解し、考察できるようになることを目指す。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人間社会、特にユーラシア世界の多様性に関する豊かな知識を持ち、その多民族共存、多文化接触のありようを深い思考で理解する。
思考・判断の観点（K）	ユーラシア中央部、つまり中東やロシアの多様性に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その現代的意義を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	これからの日本にとって、外国人の日本訪問、労働滞在に伴う多文化共生の問題は不可避の課題で、中東やロシアの歴史的経験は、大きな教訓となる。将来の社会人として、目の前に現れた課題に意欲的に取り組み、社会問題を解決するための能力を高める。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

多民族共存の歴史

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	導入	講座の進め方や参考書についての説明。多民族共存の歴史、世界帝国とは何かについて解説。	予習は不要。復習に力を入れて欲しい。	120
第2回	イスラーム教の起こりと拡大	イスラーム教についての解説と、イスラーム帝国が、西アジアから北アフリカ・中央アジアに拡大するまでを説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240

第3回	イスラーム世界の形成	イスラーム世界に北方の遊牧民が侵入し、イスラーム国家が変質する過程を説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第4回	オスマン国家の発生と拡大	代表的な遊牧国家だったオスマン国家が、西アジア、北アフリカ、ヨーロッパにまたがる世界帝国に成長する過程を説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第5回	オスマン帝国と西洋の衝撃	19世紀に入り、オスマン帝国が西洋列強の侵略を受け、近代化を試みると同時にどの問題点が露になる過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第6回	オスマン帝国の解体	19世紀末のキリスト教徒の民族運動と第一次世界大戦でオスマン帝国が解体する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第7回	トルコ共和国の成立と発展	オスマン帝国が解体し、西欧を模範にしたトルコ人の国民国家が成立する過程とその周辺地域の情勢を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第8回	戦争の時代とイスラーム復興運動	第二次世界大戦から冷戦に移り変わっていく時代のトルコ社会の変化と、現在のトルコ共和国の抱える宗教復興と少数民族の問題を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第9回	ロシア帝国の成立と発展	諸民族が行き交うロシアの地にキリスト教国家が成立し国力を増大させ、特に18世紀に西欧諸国を模範とした国政改革を行い、領土を急拡大させながら、世界帝国に飛躍する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第10回	社会主義の流入と革命	19世紀のロシア帝国は、西欧から新しい文化が流入する一方で、アジア地域に支配を拡げ、社会矛盾が増大し、20世紀に入って革命を迎えるまでを解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第11回	ソ連邦と民族問題	社会主義を掲げるソヴィエト政府は、平等を重んじる一方で、少数民族の取り込みを図るうえで、その独自性も重視するという難しいかじ取りを迫られた点を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第12回	社会主義の発展と国家主義	1920年代にソヴィエト政府が重視した少数民族の優遇策は、30年代に入ると内外の情勢の変化で破綻を迎える過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第13回	ソ連邦の崩壊と独立国家共同体	第二次世界大戦を勝ち抜いた社会主義体制が、1970年代以降凋落し、新たな改革を目指すとともに少数民族の問題が再燃し、1991年にはソ連邦そのものが崩壊する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第14回	ロシアの体制転換	現在のロシア連邦が社会主義体制から市場経済に転換する過程で発生した様々な問題や旧ソ連諸国の動向を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第15回	まとめ	講義の要点のまとめを行ったうえで、期末課題を実施。	参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	360

学習計画注記	出席者の関心や講義の理解度によって、講義の進度が変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーなどで重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。
評価方法	平常点と期末課題で総合的に評価する。詳細は初回講義で説明する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	日常課題	○	○	○	
	期末課題	○	○	○	

評価割合	リアクションペーパーなどの平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に使用しない。
参考図書	初回講義で推薦図書リストを配布する。
ディプロマポリシーとの関連	この講義は、専門科目に進むために基礎的な人間社会の多様性についての知識を広げ、深く理解することを目指している。特にユーラシアの中央部という東西の諸文明が交流する地域を採り上げ、人間社会の多様性を理解する。さらに、これに由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、リアクションペーパーなどを通して、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に他人に説明する能力を高める。
学生へのメッセージ	基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、知識に不安を感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などで中東イスラーム史と東欧史の箇所を復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーなどを活用し、学生との対話を重視した講義。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	世界の地理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 横地　留奈子	指定なし

ナンバリング	X13480C21
授業概要(教育目的)	地球上では、その位置により、大気の動きと太陽との角度により、様々な気候が生じています。気候の影響は土壌にも影響を与えます。各地域の農業、さらに食文化は、気候と土壌の影響でさまざまな発展をしてきました。本講義では、地球上の食文化を中心に、それをもたらしてきた農業、気候と土壌、先住民の生活について解説します。また、現代の各地域でもたらされている諸問題についても解説します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	気候による食文化の違いが理解できる
思考・判断の観点（K）	気候による違いの要因を考えられる
関心・意欲・態度の観点（V）	ニュースや新聞などの報道と関連付けて考えられる
技術・表現の観点（A）	将来自分と異なる文化背景を持つ人々と接したときに、配慮できるようになる

学習計画

世界の地理

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	講義概要	今後の講義を理解するための、用語の解説や講義の進め方など、全体的な説明を行う	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第2回	熱帯雨林気候	熱帯雨林気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく	120分

			新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	
第3回	サバナ気候	サバナ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第4回	砂漠気候	砂漠気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第5回	ステップ気候	ステップ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第6回	地中海性気候	地中海性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第7回	西岸海洋性気候	西岸海洋性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第8回	温帯［温暖］湿潤気候	温帯［温暖］湿潤気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第9回	冷帯［亜寒帯］気候	冷帯［亜寒帯］気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第10回	ツンドラ気候・氷雪気候	ツンドラ気候・氷雪気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第11回	日本の気候	温暖湿潤気候のうち、日本を細かく考える。日本の中で気候が異なることを確認し、その変化の要因を理解する。	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第12回	日本の気候と植生	日本の地域により異なる気候の中で、植生がどのように異なっているのかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースや	120分

			ドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	
第13回	日本の気候と作物	日本の地域によって異なる気候の中で、作られてきた作物の違いについて理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第14回	日本の気候と生活	日本の地域によって異なる気候の中で、人々がどのような生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	今までの講義の内容を振り返る	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	120分
第16回				

学生へのフィードバック方法	出席表に書かれた内容の中で、疑問・質問があった場合は解説する。
評価方法	定期試験の得点（70%）、平常点（30%）。その他、受講時の参加状況や取り組み方を加味します。 ※平常点は、講義への参加状況・態度などを参考に判断します。 ※毎回、出席カードを配布します。これに感想・質問・要望などを自由に書いて提出してください。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	出席票の記述	○	○	○	○
	筆記試験	○	○	○	○

評価割合	定期試験の得点（70%）、平常点（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定はしませんが、中学・高校時に使用した地図帳があれば持参してください。毎回、プリントを配布します。これをもとに講義を進めます。
参考図書	高橋伸夫ほか編『世界地図を読む　図説世界地理』大明堂、1993年。 漆原和子ほか編『世界の地域問題』ナカニシヤ出版、2007年。 ※このほかにも、講義中に紹介していきます。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】　気候による自然環境と、そこに合わせた人々の生活を理解する 【思考・判断】　異なる文化背景がある人々を理解する 【関心・意欲・態度】世界情勢への深い理解を示す 【技術・表現】　将来の異なる文化背景を持つ人々との交流に役立つ 質問・欠席の申請書類（公欠など）などは、講義の前後に受け付けます。
学生へのメッセージ	日頃より、ニュースなどの国際情勢について注意してください。講義の中で自分なりに気づく点があり、より深く理解できるはずです。 講義でとりあげる地域・主要な都市・地形を地図帳で確認してみましょう。また、講義の際に「疑問に思ったこと」や「興味をもったこと」について書籍などで積極的に調べてみてください。さらに「興味を持ったこと」（たとえば文化や産業など）について「他の地域」・「他の時代」と比較し、どの点が似ているのか、異なっているのかに関しても考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー教育	○	参考図書を案内する。その際、公共図書館等の使用方法を案内する場合がある。
ICT活用	○	講義で使用したパワーポイントのURLを紹介し、家庭学習に役立てられるようにする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	国際関係論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉村　貴之	指定なし

ナンバリング	X13490C21
授業概要(教育目的)	「国際関係論」は、単に国家間の外交だけを意味するのではなく、人や物を含めた世界規模の交流のあり方を総体的に理解する学問である。我々の生活は国際関係に影響を受けると同時に、我々の生き方が国際関係に影響を及ぼすこともある。講義では、国際関係論の重要なテーマを解説しながら、現代の我々の生活との関係に目を向けていきたい。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	国際関係に関する豊かな知識を持ち、その歩みを深い思考で理解する。
思考・判断の観点（K）	現代の国際関係に由来する「グローバル化」の問題を複眼的にとらえ、その対応策を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本も「グローバル化」とは無縁ではない。今後の人生に向けて、目の前にある課題に意欲的に取り組み、国際化社会の中で働く能力を高める。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

国際関係の歩み

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	導入	講義の進め方や国際関係論とは何かについて説明。	予習は不要。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	120
第2回	主権国家とは何か	近代の国際関係の基本単位となった主権国家の成立について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近世史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240

第3回	市民社会と国民国家の起こり	欧米の国家が、市民革命を通じて王朝から国民国家へ変化する過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第4回	産業革命から帝国主義へ	市場経済の発展とともに、ヨーロッパの強国が帝国主義となり、アジア・アフリカに植民地を築く過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第5回	第一次世界大戦後の国際関係	勢力均衡外交が破綻し、第一次世界大戦を経験した欧米が、新たな国際関係を模索する様を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第6回	大恐慌から戦争の時代へ	1929年にアメリカ合衆国で発生した大恐慌は世界に伝播し、その対応を巡って発生した「持てる国」と「持たざる国」の対立、社会主義によってその影響を食い止めようとしたソ連邦など、その後の国際関係を大きく左右することになった経緯を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第7回	第二次世界大戦	第一次世界大戦からわずか20年余りで世界の主要国を巻き込んだ第二次世界大戦がなぜ発生したのか、そしてどういう結果をもたらしたのかについて解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第8回	冷戦の起こり	第二次世界大戦で超大国に躍り出たアメリカ合衆国とソ連邦の対立が、その後の国際関係を大きく左右していく過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第9回	国際連合の仕組み	第二次世界大戦後の新たな国際秩序を支えることになった国際機関の組織と役割について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第10回	冷戦の展開と第三世界	冷戦は、自由主義圏と社会主義圏が常に対立していたわけでなく、緊張と弛緩を繰り返した。その経緯と、その両陣営から距離を取ろうとする東欧やアジアの非同盟諸国という新たな勢力が出現する過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第11回	南北問題	19世紀末に発生した帝国主義の支配構造は、形を変えながら、第二次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ諸国の経済構造にも残存していく問題を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第12回	ソ連邦の消滅と冷戦後の世界	社会主義圏の消滅とともに経済のグローバル化が世界中に浸透した。その一方で、イスラ―ム問題など反グローバリズムが高まってきている状況を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第13回	グローバル化とは何か	帝国主義や南北問題を踏まえて、欧米の経済システムが世界拡大よって生じた現代的な問題について解説。	時事的な内容なので、予習よりは復習に力を入れ、日頃からこの内容についてのニュースなどにも注意をし、参考書などを使って理解を深めること。	240
第14回	環境問題とは何か	現代の人類に喫緊の課題とされる環境問題は、まさに国際関係そのものである。この問題の発生と現状を解説する。	時事的な内容なので、予習よりは復習に力を入れ、日頃からこの内容についてのニュースなどにも注意をし、参考書などを使って理解を深めること。	240
第15回	まとめと期末課題	安全保障、グローバル化、外国人労働者、環境問題など地球規模の問題に我々がどう関わるべきかを考えたうえで、期末課題を実施。	講義で扱ってきたテーマを、参考書などを使ってよく理解しておくこと。	360

学習計画注記	出席者の関心や講義の理解度によって、講義の進度が変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーなどで講義内容に関して重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。
評価方法	平常点と期末課題で総合的に評価する。詳細は初回の講義で説明する。

評価基準	
評価基準	

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	日常課題	○	○	○	
	期末課題	○	○	○	

評価割合	リアクションペーパーなどの平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	講義で推薦図書リストを配布する。
ディプロマポリシーとの関連	この講義は、専門科目を学ぶ上で基礎となる人間社会と自然の多様性を理解する能力を高めることを目指している。国際関係論に関する知識を理解するだけでなく、現代の国際関係に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に人前で発表する能力を高める。
学生へのメッセージ	普段から、新聞、テレビ、インターネットニュースなどを通して、国際ニュースに関心を持っておくこと。また、基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、特に外交史は、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安に感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などで西洋の近世・近現代史の箇所を復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパーなどを活用し、学生との対話を重視した講義。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	哲学入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大久保　歩	指定なし

ナンバリング	X13500M21
授業概要(教育目的)	哲学は、物事を根本から考える学問です。この授業では、わたしたちがふだんの生活のなかで当たり前のこととしている事柄について深く考える力を養います。そのために、哲学上のさまざまな議論について学び、多様な観点から物事を考える訓練をします。また、自分で考え自分で議論を組み立てる力を育成します。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	哲学の歴史において扱われてきたさまざまな問題と、それに関する議論について説明できる。
思考・判断の観点（K）	ひとつの問題について多角的に検討できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分とは異なる意見にも耳を傾けることができる。
技術・表現の観点（A）	自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。

学習計画

哲学入門（G50601001）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	「哲学」が誕生した古代ギリシアがどのような社会かを知り、「哲学」がどんな学問であるかを学ぶ。	予習　シラバスをよく読んでおく。哲学や古代ギリシアについて調べる。 復習　哲学がどのような学問か、特徴をノートにまとめる。	180分
第2回	何が「美しい」のか？	ひとがあるものを「美しい」と呼ぶとき、そこにはどんな条件があるか考察する。	予習　自分にとってどういうものが「美しい」と感じられるか、具体例を挙げ、その共通点を考える。	180分

			復習　「美」の定義に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。	
第3回	なぜ「差別」は悪いのか？	「差別」とはどういうことか、なぜ「差別」は悪いのか考察する。	予習　「差別」は「区別」と何が違うのか考える。 復習　「差別」とはどういうものか、ノートに整理する。	180分
第4回	どうすれば「公平」になるのか？	かけっこのあり方などを題材に、「公平」の条件について考察する。	予習　順位をつけるかけっこと、全員一位とみなすかけっこと、どちらが「公平」か、その理由とともに考える。 復習　「公平」についてどのような哲学的立場があるのか、ノートに整理する。	180分
第5回	「幸福」とはどこにあるのか？	どのような生き方が「幸福」と呼べるのか、さまざまな考え方を検討する。	予習　自分にとってどのような生き方が「幸福」か、またなぜそう思うのか考える。 復習　「幸福」についてどのような哲学的立場があるのか、ノートに整理する。	180分
第6回	気持ちがいいのはなぜ「善い」のか？	「功利主義」と呼ばれる議論を学びながら、「善い」生き方とはどういうものか考察する。	予習　気持ちがいいことを求める生き方をするとき、どのような問題が起こるか考える。 復習　「功利主義」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。	180分
第7回	人助けはなぜ「善い」のか？	「義務論」と呼ばれる議論を学びながら、「善い」生き方とはどういうものか考察する。	予習　人助けはなぜ「善い」行為と呼べるのか、理由を考える。 復習　「義務論」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。	180分
第8回	人として立派なのはなぜ「善い」のか？	「徳論」と呼ばれる議論を学びながら、「善い」生き方とはどういうものか考察する。	予習　どういう人が立派だと思うか、またなぜそういう人は「善い」と呼べるのか、理由を考える。 復習　「徳論」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。	180分
第9回	わたしたちは「自由」なのだろうか？	「決定論」と呼ばれる議論とそれに対する批判を学びながら、「自由」とはどのようなことか考察する。	予習　自分がどのようなときに「自由」だと思うか、なぜそう思うのか考える。 復習　「自由」に関するさまざまな哲学的立場をノートに整理する。	180分
第10回	「他人」の心はほんとうにわかるのか？	「独我論」と呼ばれる議論を学びながら、「他人」の心を知ることはほんとうに可能なのか検討する。	予習　「他人」の心や気持ちがわかったと感じるのはどんなときか、またなぜそう感じたかの考える。 復習　「独我論」がどのような考え方か、またどのような問題があるかをノートに整理する。	180分
第11回	「私」はほんとうに「私」なのか？	個人のアイデンティティーの問題を中心に、ものの「同一性」について考察する。	予習　10年前の自分と今の自分はどこが異なるか、またそれだけ異なっても同じ「私」であると言えるのはなぜか、考える。 復習　個人のアイデンティティーに関するさまざまな問題について、ノートに整理する。	180分
第12回	「生」と「死」はどこでわかれるのか？	脳死についての議論などを参考にしながら、「生」と「死」について考察する。	予習　脳が活動しないことをなぜ「死」と見なせるのか考え、そこから「生」と「死」がどう定義できるか考える。 復習　「生」や「死」についてのさまざまな哲学的考え方をノートに整理する。	180分
第13回	何が「真実」なのか。	プラトンのイデア論などさまざまな議論を学びながら、あるものが「真実」だと呼べるのはどういうときか考察する。	予習　ある人の言っていることが「真実」だと思えるのは、どのようなときか考える。 復習　「真実」についてのさま	180分

			ざまな哲学的立場をノートに整理する。	
第14回	この世界はほんとうに「存在」するのか？	デカルトの「方法的懐疑」の議論などを学びながら、ものや世界が「存在」することについて考察する。	予習　この世界はなぜ夢ではなくほんとうに「存在」すると言えるのか、理由を考える。 復習　「存在」についてのさまざまな哲学的立場をノートに整理する。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返るとともに、期末試験に向けて、議論の組み立て方を学ぶ。	予習　ノートを用いてこれまでの学習を振り返る。 復習　期末試験に向けて議論の組み立て方を確認する。	180分

学習計画注記	講義を中心に進めるが、場合によっては議論も取り入れる。議論の展開によっては、スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業の最後に小レポートを提出してもらい、次回の授業の冒頭でフィードバックする。優れた意見や質問を取り上げ共有する。
評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポートと、期末試験で評価する。 ・小レポート：出席確認を兼ねる。授業内容をふまえて自分の考えを論じる。授業内容の理解度、論じ方（根拠づけ、具体例の展開）や意見の独自性、表現力の観点から評価する。 ・期末試験：授業で扱った事柄について論じる。小レポートと同じく、授業内容の理解度、論じ方（根拠づけ、具体例の展開）や意見の独自性、表現力の観点から評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート	○	○	○	○
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	小レポート60%　期末試験40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。授業でプリントを配布する。
参考図書	なし。授業内で指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会における多様な問題を知り、哲学的な観点から考察できる。 【思考・判断】哲学史上の議論をふまえて、ひとつの問題について多角的に検討できる。 【関心・意欲・態度】多様な考えを受け入れ、他者と協調して行動することができる。 【技術・表現】哲学の知識を活用して社会のなかに埋もれた課題を発見し、これについて他者に対して論理的かつ説得的に論じることができる。
学生へのメッセージ	受講にあたって哲学史に関する知識は必要ありません。哲学は自由に考えることを求める学問です。授業で取り上げる問題について積極的に自分の考えを展開してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生命倫理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　丹史	指定なし

ナンバリング	X13520M21
授業概要(教育目的)	20世紀後半以降の生命科学の飛躍的な発展に伴い、いのちをめぐる倫理としての生命倫理が問われるようになって久しい。本講義は生命倫理の基本的な知識の習得を企図し、生殖や死、再生医療、環境といった当該分野で一般的に問われるテーマを各問題の歴史的な経緯を踏まえながら考察する。その作業の中で、現在の生命倫理の中心的なアプローチの一つとなっている原則主義アプローチの妥当性を合わせて検討していきたい。こうした医療・環境をめぐる倫理問題の検討を通じ、科学技術がいかに社会と密接に関わり、また社会に対して大きな影響力を有しているのかを理解することを目標とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.　医療倫理及び環境倫理の基本問題について知識を獲得する。
思考・判断の観点（K）	1.　授業で獲得した知識を使って、主体的に自分で生命倫理に関する思考ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	バイオエシックス・生命倫理がどのような意味なのかを検討する。	シラバスの熟読、ノートの準備	180分
第2回	アメリカにおける生命倫理の登場（１）	アメリカにおける人体実験の事件がどのようにしてバイオエシックス（生命倫理）の登場の契機になったのかを考察する。	アメリカでどのような人体実験の事件があったのかを調べる。	180分
第3回	アメリカにおける生命	アメリカにおいて原則主義という考え方がどのように出てきたのかを検討する。	原則主義とはどのようなものかを調べる。	180分

	倫理の登場（２）			
第4回	安楽死・尊厳死（アメリカの議論）	アメリカにおける安楽死・尊厳死に関する裁判例を検討する。	アメリカでどのような安楽死・尊厳死に関する事件があったのかを調べる。	180分
第5回	安楽死・尊厳死（日本の議論）	日本において安楽死・尊厳死に関してどのような事件があったのかを検討する。	日本における安楽死・尊厳死に関する事件について調べる。	180分
第6回	臓器移植（臓器移植法の成立）	臓器移植法の成立までの議論の過程について検討する。	旧臓器移植法の特徴について調べる	180分
第7回	臓器移植（臓器移植法の改正）	臓器移植法の改正までの過程でどのような議論があったのかを検討する。	改正臓器移植法の特徴について調べる。	180分
第8回	生殖技術（産まないための技術）	避妊と人工妊娠中絶の倫理問題について検討する。	母体保護法について調べる。	180分
第9回	生殖技術（産むための技術）	現在における生殖補助医療に関する議論を考察する。	生殖補助医療にどのような技術があるのかを調べる。	180分
第10回	生殖技術（診断技術）	出生前診断をめぐる倫理問題を検討する。	出生前診断にどのような技術があるかを調べる。	180分
第11回	再生医療（クローン）	生殖クローニングと治療目的クローニングをめぐる議論について考察する。	ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律について調べる。	180分
第12回	再生医療（iPS細胞）	iPS細胞をめぐる倫理問題を検討する。	iPS細胞がどのようなものかを調べる。	180分
第13回	環境倫理（環境倫理学概論）	環境倫理学の基本的な視点を検討する。	世代間倫理とはどのような考え方かを調べる。	180分
第14回	環境倫理（水俣病）	水俣病の歴史的な過程について考察する。	胎児性水俣病について調べる。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容のまとめを行い、倫理委員会についても検討する。	倫理委員会とは何かについて調べる。	180分
第16回				

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	授業は板書を中心に行う。質問は教室あるいは講師控室で受け付ける。
評価方法	期末レポートによって授業内容の理解度、思考力を見る。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○		

評価割合	期末レポート（１００％）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	適宜授業中に指示します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】　医療問題や環境問題を通して、社会に多様な見解があることを理解している。 【思考・判断】　授業で獲得した知識に基づき、論理的に思考する力を身に付けている。
学生へのメッセージ	自ら主体的に考えるという姿勢を持つこと。また他の受講生に配慮した受講態度を取ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	心理学ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	X13540C21
授業概要(教育目的)	心理学とは，心と行動の関係を明らかにする学問であり，科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では，心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史，心理学の基礎，人の発達について学ぶ。本授業では，心理学の基礎的知見を，新聞，小説，映画等，様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には，簡単な実験・実習に取り組む。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．心理学とはいかなる歴史を持ち、どのようなことを明らかにできる学問なのかを説明することができる。 ２．基礎心理学、特に認知や行動に関する心の仕組みについて説明することができる。
思考・判断の観点（K）	１．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日常生活にある「何気ない」事象から、心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	自身や身近な人の行動に関して、心理学aで学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション―心理学とは―	ガイダンスとして、授業の進め方、心理学の位置づけに基づいたスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	心理学の歴史（1）	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理	180分

			し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	
第3回	心理学の歴史（2）	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	180分
第4回	感覚と知覚の心理学	感覚と知覚と認知の違いを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	知覚の応用	日常生活において、知覚の心理学が使われている場面を知り、心理学と生活とのつながりのうち、1つの側面を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。また自分の身近なところで、知覚の心理学の考え方で説明できる事象を見つける。	180分
第6回	記憶と忘却	記憶と忘却の仕組みを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 自分の記憶と忘却の「癖」について考える。	180分
第7回	人間と動物との違い（1）社会的隔離児、野生児	社会的隔離児と野生児についての「物語」を知り、そのような「物語」の存在が心理学や現在のくらしに意味することを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	人間と動物との違い（2）行動が形成されるための要因	人間と人間以外の動物の双方の行動について、その背景にある要因を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。。 普段何気なく取っている行動について、その要因を考えてみる。	180分
第9回	人間と動物との違い（3）人間の行動様式の特徴	人間の行動様式のうち、特に他の動物と異なる行動の仕組みについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動（1）脳と心と身体の関係、大脳の発達と進化	人の行動が生じる背景を、脳の機能の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動（2）欲求と行動	人の行動が生じる背景を、欲求の理論全般から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動（3）欲求の発達	人の行動が生じる背景を、欲求の発達の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動（1）喜怒哀楽、情動による行動の支配	感情と情動のそれぞれの意味を理解し、人の行動と喜怒哀楽の関係を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動（2）状況の認知と行動	主観的な経験と生理的変化と行動のつながりについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

第15回	総括	心理学の学びを振り返る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1．授業開始時に実施する「出欠確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。 2．「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として次の回で全体、もしくは個別にフィードバックを行う。
評価方法	授業への姿勢、及び試験の結果をもとに総合的に判断する。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 自己チェック、いずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己チェック	○		○	
	出席カード		○	○	○
	最終試験	○	○		

評価割合	授業への姿勢（50%）、試験の結果（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	テキストは特に指定せず、適宜、授業の中で紹介する。 また、原則として配布資料を用います。 配布方法は、google classroomを使用して、デジタルファイルでの配信とします。
参考図書	授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間の行動を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学に関する知識を得る。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3限（千代田三番町キャンパス1805室）
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生きた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。 質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.acjp メール送信の際には★を@に変更してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

シラバス参照

講義名	心理学ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	X13540C21
授業概要(教育目的)	心理学とは，心と行動の関係を明らかにする学問であり，科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では，心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史，心理学の基礎，人の発達について学ぶ。本授業では，心理学の基礎的知見を，新聞，小説，映画等，様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には，簡単な実験・実習に取り組む。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．心理学とはいかなる歴史を持ち、どのようなことを明らかにできる学問なのかを説明することができる。 ２．基礎心理学、特に認知や行動に関する心の仕組みについて説明することができる。
思考・判断の観点（K）	１．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日常生活にある「何気ない」事象から、心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	自身や身近な人の行動に関して、心理学aで学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション―心理学とは―	ガイダンスとして、授業の進め方、心理学の位置づけに基づいたスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	心理学の歴史（1）	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理	180分

			し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	
第3回	心理学の歴史（2）	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	180分
第4回	感覚と知覚の心理学	感覚と知覚と認知の違いを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	知覚の応用	日常生活において、知覚の心理学が使われている場面を知り、心理学と生活とのつながりのうち、1つの側面を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。また自分の身近なところで、知覚の心理学の考え方で説明できる事象を見つける。	180分
第6回	記憶と忘却	記憶と忘却の仕組みを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 自分の記憶と忘却の「癖」について考える。	180分
第7回	人間と動物との違い（1）社会的隔離児、野生児	社会的隔離児と野生児についての「物語」を知り、そのような「物語」の存在が心理学や現在のくらしに意味することを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	人間と動物との違い（2）行動が形成されるための要因	人間と人間以外の動物の双方の行動について、その背景にある要因を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。。 普段何気なく取っている行動について、その要因を考えてみる。	180分
第9回	人間と動物との違い（3）人間の行動様式の特徴	人間の行動様式のうち、特に他の動物と異なる行動の仕組みについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動（1）脳と心と身体の関係、大脳の発達と進化	人の行動が生じる背景を、脳の機能の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動（2）欲求と行動	人の行動が生じる背景を、欲求の理論全般から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動（3）欲求の発達	人の行動が生じる背景を、欲求の発達の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動（1）喜怒哀楽、情動による行動の支配	感情と情動のそれぞれの意味を理解し、人の行動と喜怒哀楽の関係を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動（2）状況の認知と行動	主観的な経験と生理的変化と行動のつながりについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

第15回	総括	心理学の学びを振り返る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1．授業開始時に実施する「出欠確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。 2．「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として次の回で全体、もしくは個別にフィードバックを行う。
評価方法	授業への姿勢、及び試験の結果をもとに総合的に判断する。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 自己チェック、いずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己チェック	○		○	
	出席カード		○	○	○
	最終試験	○	○		

評価割合	授業への姿勢（50%）、試験の結果（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	テキストは特に指定せず、適宜、授業の中で紹介する。 また、原則として配布資料を用います。 配布方法は、google classroomを使用して、デジタルファイルでの配信とします。
参考図書	授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間の行動を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学に関する知識を得る。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3限（千代田三番町キャンパス1805室）
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生きた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。 質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.acjp メール送信の際には★を@に変更してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

シラバス参照

講義名	ジェンダー論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鈴木　亜矢子	指定なし

ナンバリング	X13560C21
授業概要(教育目的)	ジェンダー（文化的・社会的に作られた性差）は、女性と男性という二つの性別区分を「当たり前」のこととし、この社会に存在している。このことは私たちの生活や生き方に少なからず影響を与えており、時には私たちに様々な困難をもたらすことがある。 このようなジェンダーが、私たちの社会においてどのように機能しているのかを理解し、単なる性別区分による問題を超えて、人々がその人らしく生きられる社会の仕組みや構造を私たち自身が作っていくため に必要な現状認識、知識を獲得することが本授業の目的である。 本授業では、ジェンダーに関する抽象的な理論のみならず、身近にある様々な事象からグローバルなレベルにわたり、多様かつ具体的なトピックを取り上げ、これらをジェンダーの視点から批判的な視点をもって考察し、解説をする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ジェンダー論・ジェンダー法学に関する基本的な概念、知識を身に着ける。
思考・判断の観点（K）	様々な社会問題をジェンダー視点から批判的に考察・分析し、その問題が生まれる社会的・構造的背景を理解することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日ごろからジェンダーに関する問題意識を持ち、それらに対する自分の考えを整理し、積極的に発言できる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えを論理的に口頭及び文章で端的に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	今後の授業のスケジュールと内容、ジェンダー論概要について		180分

第2回	ジェンダーとは①―性別を捉え直す	「性別」は男／女だけなのか、性別の分類や認識等、性別をめぐる「当たり前」について批判的に検討する。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第3回	ジェンダーとは②―性役割・セクシュアリティ	ジェンダー・ロール（性役割）、ジェンダー・ノーム（性規範）と、セクシュアリティの基礎概念について学ぶ。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第4回	ジェンダーとは③―女子教育の歴史と現状	女子教育の歴史的背景及び現状、日本の教育におけるジェンダー平等の現状とその課題について検討する。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第5回	フェミニズム運動とその理論、ジェンダーとの関係性	ジェンダーという概念の背景にあるフェミニズム運動の歴史を概観し、その運動の中で発展した理論について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第6回	恋愛・結婚とジェンダー―日本における恋愛・結婚・パートナシップに対する意識の変遷と現状	若者の恋愛・結婚に対する意識や行動を分析し、パートナーシップにおける問題（デートDV等）を理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第7回	結婚とジェンダー―日本と海外のパートナーシップ制度の比較検討とその問題点	日本のパートナシップ制度の現状とその特徴を把握し、生じている問題点について、諸外国との比較から分析する。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第8回	家族とジェンダー―性別役割分業／選択的夫婦別姓制度／婚外子	日本の家族制度の歴史、現状を概観し、性別役割分業や婚外子に関する知識を習得し、これらの問題点について諸外国と比較し分析する。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第9回	労働とジェンダー①―労働市場における女性の歴史／男女雇用機会均等法制定と改正	労働市場における女性の現状を歴史的に概観し、どのような経緯で男女雇用機会均等法が成立したのかその概要と改正内容を学ぶ。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第10回	労働とジェンダー②―現代女性のキャリア形成とライフプランニング／アンペイドワーク／ケア	アンペイドワークやケア概念について学び、女性のキャリア形成における問題点を学ぶ。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第11回	離婚制度と離婚を取り巻く女性の現状―離婚調停の模擬体験を通して	ジェンダー法学の基礎を学ぶ一環として、離婚調停を疑似体験することで、離婚（制度）とその問題点について理解を深める。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第12回	女性に対する暴力―セクハラ、DV	女性に対する暴力の概念とその現状について、デートDV、DV、セクシャルハラスメントを中心に学ぶ。	事前に配布する予習資料を読んでおくこと。	180分
第13回	国家とジェンダー①―男女共同参	日本におけるジェンダー主流化、男女共同参画社会、男女共同参画社会基本法について学ぶ。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分

	画社会と基本法			
第14回	国家とジェンダー②―ナショナルマシーナリーとジェンダー主流化	ナショナルマシーナリー、ジェンダー平等に関する条約等、ジェンダー主流化の国際的潮流と現状について学ぶ。	事前配布資料を読んでおくこと。	180分
第15回	授業総括	15回の授業を通して学んだことを総括し、質疑応答を通して、本授業で学んだことの理解の定着を図る。	これまで学んだことを復習し、疑問点をまとめ、授業に臨むこと。	180分
第16回				

学習計画注記	※履修者数、授業の進度や学生の理解の程度により、授業内容やスケジュールは適宜変更される場合がある。その場合は、授業時間内又はgoogle classroom等で通知する。
学生へのフィードバック方法	各回授業後に回収するコメントペーパーを次回授業内でフィードバックする。質問がある場合はコメントペーパーに記入すること。
評価方法	受講者数や理解度により、レポート課題、または小テストを実施し、表現力、論理的思考力、知識の定着を評価する。詳細については、授業にて告知する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート課題	○	○		○
	小テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○		○
	リアクションペーパー	○	○	○	○

評価割合	定期試験又はレポート、小テスト（７０％）、コメントペーパー、出席、発言（３０％）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】ジェンダーの基礎理論、及び人間社会における多様性について理解し、様々な社会現象をこれらの知識を持って考察・分析することができる。 【関心・意欲】社会を構成する大切な一人として、様々な社会問題を高い徳性をもって把握・理解することができる。 【技能・表現】上記から得られた知見を自分なりに整理して、論理的に表現し、問題解決に向け他者と協同し行動することができる。
オフィスアワー	授業内で告知する。
学生へのメッセージ	ジェンダー理論を通して、性の多様性、社会における女性の立場を理解し、これからの皆さんの人生、キャリア形成に役立ててください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ジェンダーに関する裁判、事件、問題となった事例等を、講師の実務経験に基づいて適宜解説する。
アクティブ・ラーニング	○	レポート課題において、学生自らの興味関心に従い、ジェンダーに関する情報や論文をリサーチし、分析し、考察する機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	様々な情報から、ジェンダーに関する問題点と解決策を検索して見つけ出し、それを自らの生活や人生設計に役立てるようなノウハウを提供する。
ICT活用	○	SNSを用いたジェンダー情報の提供、チャット、zoomを用いて質問や面談の時間を設け、授業内容の定着を図る。

シラバス参照

講義名	東京家政学院を学ぶ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし
准教授	澤田　雅彦	指定なし
准教授	高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	X13580M21
授業概要(教育目的)	「東京家政学院を学ぶ」は、受講生が本学の理念を創設者である大江スミの想いと行動に即してその時代の中で理解することを主眼とする。また、現代における本学理念の再評価を受講生一人ひとりが行い、講義を通して自分の生き方と重ねあわせるために必要な情報と動機とを体得する機会にする。さらに、大江スミがイギリス留学から帰国後、日本で本格的に実践した家政学とは何かを知り、家政学を構成する個々の専門領域を受講生が在学中に学ぶ意義を理解することが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	本学の理念や創設者大江スミの女子教育（家政学）について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	大江スミの想いと行動およびその当時の時代背景から、自分の生き方と重ねあわせて本学で学ぶ意義を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

東京家政学院を学ぶ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	大江家政学と「衣」の世界－ドレスの形態と女性の社会的地位－	大江スミがイギリスに留学した頃に着用していたイヴニングドレスやパリ・ロンドンで流行っていたファッションの移り変わりを把握し、女性の社会的地位や社会進出とドレスの繋がりを学ぶ。 富田弘美(本学生活デザイン学科准教授)	創立者大江スミについて、学校法人東京家政学院　東京家政学院大学のホームページから読んでおくこと。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/houjin/founder/	180分
第2回	大江スミ －人と時代－	生い立ちから本学設立まで、成長の過程と教育理念形成を追う。 特別講師　澤田佳与子（本学卒業生、草月流本部講師）	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第1章　長崎の人（3～）を読んでおくこと。また、授業の中で課題を伝える。	180分
第3回	居住環境を考える	大江スミはイギリス留学において社会衛生学を学び、今日の住居学に影響を与えた。本講義では住居学の視点か	（復習）自分の住む地域における子どもの居住環境について考える	180分

		ら子どもの健全な生育のための居住環境について学ぶ。 小池孝子（本学生活デザイン学科教授）		
第4回	大江家政学が伝えること－大江文庫　図書館見学	本学家政学は「ほんもの」主義。図書館で江戸の著作物に触れ、大江家政学が伝えることを体感する。特別講師　関原暁子（元本学図書館事務部長）	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第2章とげのある身（16～）を読んでおくこと。	180分
第5回	家政学とデザイン	家政学とデザインの共通点を探しながら、「デザインとはなにか？」「家政学とは何か？」という問題について考える。 澤田雅彦（本学生活デザイン学科准教授）	「家政学」と「デザイン」の意味を、複数の辞書・事典で調べておくこと。	180分
第6回	家政学と女性（1）女子教育と家政学	家政学が歴史的にどのように出発し、女子教育の変遷とともにその内容がいかに変化してきたかを、東京家政学院大学の沿革にも触れながら理解を深める。その際、家政学の発展を支え、担い手となった女性たちの活動、社会的位置づけに着目することで歴史的視野を広げ、自分自身の現在・将来のあり方を考える手がかりとなることを期待したい。受講者自身が自らの人生にとって「家政学とは何か」を説明できることを到達目標とする。 特別講師　石渡尊子（桜美林大学教授）	ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第3章　出会いの時（30～）を読んでおくこと。	180分
第7回	大江家政学の「食」とこれまで	創立者大江スミ先生の家政学における「食」教育と現在までのあゆみについて、受け継がれてきた考え方や内容を講話する。 特別講師　小口悦子（本学元食物学科教授、現　名誉教授）	ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第4章　新しき旅立ち（46～）を読んでおくこと。	180分
第8回	博物館は面白い　博物館見学	本学「東京家政学院生活文化博物館」見学。平成2年（1990）5月に開設。当館は身近な暮らしと結びついた生活文化とその歴史を明らかにすることを目的とする。収蔵資料は衣服類（仕事着、民俗衣装）、装身具類（櫛、簪、玉類）、工芸品類（漆器、ガラス器、木製品）。 高尾純宏（本学食物学科准教授）、川本利恵（学芸員）	東京家政学院大学生活博物館のホームページから博物館の概略を調べること。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/museum.html	180分
第9回	男女が共に社会で活躍するためには-女性活躍促進の取り組み事例から考える-	大江スミ先生は、家政学を通して、女子教育に大きな貢献をされました。女性の社会進出は進んできたものの、女性が社会で活躍するためには、多くの課題が残っています。国立の女子大学で、女性リーダー育成や男女共同参画促進のために取り組んだ経験を紹介します。求められるリーダー像や、男女が共に社会で活躍するために必要なことについて一緒に考えたいと思います。この授業を通して、家庭の一員として、組織の一員として、国民の一人として、グローバル社会の一員として、そして女性として、今後皆さんがどのような意識で過ごして行くかを考えるヒントを得てもらえればと思います。鷹野景子（本学学長）	（予習）男女が共に社会で活躍するために解決すべき課題、あるいは必要なことは何だと思いますか。考えてみましょう。 （復習）授業を通して感じたこと、考えたことを200―800字で書いてください。予習で考えた内容を含むこと。	180分
第10回	家政学と女性（2）東京家政学院から見る家政学	家政学が歴史的にどのように出発し、女子教育の変遷とともにその内容がいかに変化してきたかを、東京家政学院大学の沿革にも触れながら理解を深める。その際、家政学の発展を支え、担い手となった女性たちの活動、社会的位置づけに着目することで歴史的視野を広げ、自分自身の現在・将来のあり方を考える手がかりとなることを期待したい。受講者自身が自らの人生にとって「家政学とは何か」を説明できることを到達目標とする。 特別講師　石渡尊子（桜美林大学教授）	ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第5章　妻たるものの責務（70～）を読んでおくこと。	180分
第11回	生活と社会福祉	社会福祉は、貧困、児童や高齢者への虐待、孤独や孤立から生まれる自殺（自死ともいいます）や引きこもり、また障がい者や認知症の方ととその家族への支援など多岐にわたる生活問題に関わる。　この授業では、支援の制度や方法ををできるだけ実際の事例に即して理解し、ボランティアや仕事につなげられようにする。 西口　守（本学生活デザイン学科教授）	予習：現代社会の生活問題を新聞やネットニュースから触れておく 復習：授業の内容を整理する	180分
第12回	大学で学ぶ意味を問い直す	世界・日本の現状と課題を注目すべきデータなどを用いて概説した後、容易に正解の得られない社会をより良く生きるために何が必要か、そのためには大学でどう学ぶべきか、皆さんと一緒に考えてみたい。 吉武博通（本学院理事長、筑波大学名誉教授）	講義を通して感じたことや考えたことを小レポートにして後日提出すること。具体的な指示は授業の中で行う。	180分
第13回	女性のキャリア	働く女性の100年の歴史を振り返り、いま自分たちがどのような時代の分岐点に立っているのかを知る。また広告から性別役割分業意識の変遷を知り、女性が仕事を持つ上での心構えを考察する。 特別講師　野村浩子（「日経WOMAN」「日経EW」元編集長）	（予習）指定の動画を見て、意見をまとめる。 （復習）授業の感想を200字以内でまとめて提出	180分
第14回	大江家政学と「音楽」の世界	音楽は、私たちの生活に欠かせない。講義では、1948年に千代田区三番町の家政学院大学に開設された「子どものための音楽教室」の歴史にふれながら、家政学としての子どもと音楽について学ぶ。 吉永早苗（本学副学長　児童学科教授）	ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」の第6章　徳・智・技の世界（92～）を読んでおくこと。	180分
第15回	全体のまと	まとめのレポートを作成	今までのリアクションペーパーを参考	180分

	め		にする。	

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーは全履修者へ公開する。
評価方法	平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、まとめのレポート

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	まとめのレポート	○	○		
	平常点			○	

評価割合	平常点50%、まとめのレポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリント配付
参考図書	「ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯－」（入学時に配布）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00（富田　1405研究室） 水曜日13:00～14:30（澤田　1503研究室） 月曜日13:30～15:00（高尾　1502研究室）
学生へのメッセージ	・必ず授業の予習・復習をしてください。 ・講義終了後にリアクションペーパーがありますので提出してください。（この課題は、講師の狙いを学生が受け止めているか、更なる学習意欲が喚起されたかなどを簡潔に確認するものです。） ・15回の授業終了後には、まとめのレポートを提出してください。 ・特別講師のため、授業内容に関する質問は授業中、および終了後の対応になりますが、授業内容以外の質問等は担当教員までお問い合わせください。 ・講義テーマ・日程が変更する場合がありますがご了承ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	東京家政学院を学ぶ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし
教授	上村　協子	指定なし
教授	小野　方資	指定なし

ナンバリング	X13580C21
授業概要(教育目的)	東京家政学院の沿革、創立者大江スミの信念・理想、大江家政学の特色、建学の精神である「KVAスピリット」、家政学史上における本学院の意義、および家政学から現代生活学へ展開への貢献などを学ぶことを通じて、本学院を深く理解するとともに、そこに学ぶ学生としての自信と誇りを持ち、学び豊かな充実した学生生活を送るための基盤を形成する。あわせて、2023年の創立100周年に向けて、建学の精神を継承し、それを具現化・展開していくことで、生活者の視点から、よりよい生活と社会を創り上げていこうとする姿勢を養うことをめざす。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
思考・判断の観点（K）	他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

東京家政学院を学ぶ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション（井澤・上村・小野）	本授業担当者より授業に向けて授業方針・予定についての講和。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』発刊のことば・執筆によせてを読む。	90分

第2回	家政学から現代生活学へ（上村）	本学院の設立のKVAスピリットが、生活者の視点で、個人の尊厳と生活の質を重視する総合的実践科学「家政学・現代生活学」へつながった経緯を理解する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』4章を読む。	90分
第3回	本学創立者大江スミの生涯（沖吉）	本学院沖吉学事顧問による創立者大江スミの生涯についての講話。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』1章・2章を読む。	90分
第4回	東京家政学院の創生と創業の地三番町（沖吉）	本学院沖吉学事顧問による学院設立の経緯と創業の地三番町についての講話。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』8章を読む。	90分
第5回	大学での学びとキャリアデザイン（吉武）	自分自身のキャリアを主体的に設計するために、大学での学びはどうあるべきか、一緒に考えてみたい。	講義後に講義要旨をまとめる。	90分
第6回	ポストコロナと家政学の未来（吉武）	世界と日本が抱える課題を踏まえて、ポストコロナの時代における家政学の役割について考える。	講義後に講義要旨をまとめる。	90分
第7回	男女が共に社会で活躍するためには-女性活躍促進の取り組み事例から考える-（鷹野）	現在、女性の社会進出は進んできたものの、女性が社会で活躍するためには、多くの課題が残っています。国立の女子大学で、女性リーダー育成や男女共同参画促進のために取り組んだ経験を紹介します。求められるリーダー像や、男女が共に社会で活躍するために必要なことについて一緒に考えたいと思います。この授業を通して、家庭の一員として、組織の一員として、国民の一人として、グローバル社会の一員として、そして女性として、今後皆さんがどのような意識で過ごして行くかを考えるヒントを得てもらえればと思います。	講義後に講義要旨をまとめる。	90分
第8回	大江スミ先生の家政学（石渡尊子）	大江スミ先生と家政学について『戦後大学改革と家政学』の著者石渡尊子桜美林大学教授が講義する。	講義後に講義要旨をまとめる。	90分
第9回	進路を考える（朴卿希）	東京家政学院大学を卒業した卒業生が、在学時よりどのような学びを経て現在に至ったか、在学時の学びが卒業後の生活とどのように結びつくのか、講義する。 1回～9回の授業について振り返りを行う（上村）。	講義後に講義要旨をまとめる。	90分
第10回	あなたと東京家政学院大学（澤田佳与子）	あなたが本学院の学生に何故なったのか、その「何故」を考えましょう。東京家政学院大学の卒業生を講師に迎え、この講義で改めてその機会を持つ。	講義後に講義要旨をまとめる。	90分
第11回	教育史の中の東京家政学院（小野）	教育史の中で女子教育として、東京家政学院の果たした役割を探る。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』5章を読む。	90分
第12回	東京家政学院の文化資源を活かす（井澤）	東京家政学院大学附属図書館に架蔵されている、江戸期から昭和期までの衣食住・教育・風俗文化に関する資料である大江文庫を、学びにどのように活かすことが出来るか、講義する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第7章を読む。	90分
第13回	生活文化博物館活動（井澤）	東京家政学院に設置されている生活文化博物館における収蔵品の、所蔵にかかわる経緯・背景を知ることにより、学びを広げる方法を知る。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第7章を読む。	90分
第14回	東京家政学院と現代生活学（上村）	本学院で実践的総合科学である家政学・現代生活学を学ぶことで、暮らしを重視する生活者としての自分自身の成長可能性を発見していくか道筋を構想する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』6章を読む。	90分
第15回	まとめ一今後の生き方を考える（井澤・上村・小野）	本学院に関することを学ぶなかで、自分がどのような学びの道筋を描くことが出来たか、また、卒業後の進路選択において何を重視していくのか、自分の言葉で表すことによって、本授業を振り返る。	レスポンスシートをまとめ、教場レポート作成の準備をする。	90分

学習計画注記	校内特別授業講師の都合により、日程が変更となる場合があります。
学生へのフィードバック方法	専任教員の授業時に、学生が提出した既修のレスポンスシートを紹介し、振り返りを行う。
評価方法	授業時には基本的にはレスポンスシートを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。教場レポートは、本授業を自らの体験として客

	観的に把捉しているかという観点から評価する。自分の意見・考えを説得力ある表現で記載できる能力を培う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レスポンスシート	○		○	
	教場レポート		○		○

評価割合	授業時におけるレスポンスシートの提出（30%）および教場レポート(70%）で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	東京家政学院光塩会編　大浜徹也著『ひとひらの雪として－大江スミ先生の生涯』光塩会編集　（入学時に全員へ配布済み）
参考図書	授業内で指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。 【思考・判断】他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。 【関心・意欲・態度】本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。 【技能・表現】自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。
オフィスアワー	井澤尚子（金曜日3限）1704室・上村協子(火曜日4限）1805室
学生へのメッセージ	社会制度や歴史の流れのなかで、大江スミ先生の提唱した家事学・家政学はどのようなものだったのかを理解し、自身の学びの方向について考える機会をもちましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	理事長・学事顧問・学長（学院経営という立場から）・石渡尊子氏（桜美林大学教授）・澤田佳与子氏（華道家、本学非常勤講師）・朴卿希氏（仁荷大学校(Inha University）経営大学招聘教授）の各氏を講師としてお招きする。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	リテラシー演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉　一博	指定なし

ナンバリング	X10000M12
授業概要(教育目的)	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を育成することをめざす。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点（A）	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	A 書くということ	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。	テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第2回	B 報告書とは何か	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。	「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。	45
第3回	C レポートとは何か	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。	「C レポートとは何か」を読んでおくこと。	45
第4回	D 報告書・	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。	「D 報告書・レポートの表現」	45

	レポートの表現		を読んでおくこと。	
第5回	E レポートの構成	レポートにおける文章の構成を考え、どういう情報をどのような順序で並べるのかを見ていく。	テキスト配付済みの場合は「E レポートの構成」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第6回	F 本論の書き方	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。	「F 本論の書き方」を読んでおくこと。	45
第7回	G テーマの設定	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。	「G テーマの設定」を読んでおくこと。	45
第8回	H アウトラインの作り方	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。	「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。	45
第9回	I 文献の収集	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。	「I 文献の収集」を読んでおくこと。	45
第10回	J 引用のしかた	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。	「J 引用のしかた」を読んでおくこと。	45
第11回	K 参考文献目録の書き方	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。	「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。	45
第12回	L 表・図の作成	表・図の効果的な使い方について学ぶ。	「L 表・図の作成」を読んでおくこと。	45
第13回	M 表・図からの読み取り	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。	「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。	45
第14回	N 表・図を使った説明	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。	「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。	45
第15回	図書館ガイダンス	本学の図書館とその資料について、基本的な利用方法などのガイダンスを受ける。	図書館の利用について復習すること。	45

学習計画注記	※スケジュールは指定される教室により異なる。初回に大学生として身につけるべきことを確認する。
学生へのフィードバック方法	課題は予定していない。
評価方法	・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。 ・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。 ・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	定期試験	○			○

評価割合	平常点（50%）、定期試験（50%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編（2022）『令和4年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に、またはそれまでに無料で配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】演習形式の具体的な作業で得た技術をもって大学教育に対応できる能力を身につけている。
オフィスアワー	千葉一博（町田キャンパス 1411研究室）金曜 14:00-15:30
学生へのメッセージ	この科目を受講することにより大学における授業の特長を理解し、社会人にとっても必須である文章作成能力を高めてみましょう。 準備学習として、各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読んだ上で授業に臨みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	リテラシー演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし

ナンバリング	X10000C12
授業概要(教育目的)	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を育成することをめざす。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点（A）	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を身につけている。

学習計画

リテラシー演習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	A 書くということ	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。	テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第2回	B 報告書とは何か	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。	「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。	45
第3回	C レポートとは何か	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。	「C レポートとは何か」を読んでおくこと。	45

第4回	D 報告書・レポートの表現	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。	「D 報告書・レポートの表現」を読んでおくこと。	45
第5回	E レポートの構成	レポートにおける文章の構成を考え、どういう情報をどのような順序で並べるのかを見ていく。	テキスト配付済みの場合は「E レポートの構成」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第6回	F 本論の書き方	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。	「F 本論の書き方」を読んでおくこと。	45
第7回	G テーマの設定	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。	「G テーマの設定」を読んでおくこと。	45
第8回	H アウトラインの作り方	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。	「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。	45
第9回	I 文献の収集	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。	「I 文献の収集」を読んでおくこと。	45
第10回	J 引用のしかた	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。	「J 引用のしかた」を読んでおくこと。	45
第11回	K 参考文献目録の書き方	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。	「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。	45
第12回	L 表・図の作成	表・図の効果的な使い方について学ぶ。	「L 表・図の作成」を読んでおくこと。	45
第13回	M 表・図からの読み取り	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。	「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。	45
第14回	N 表・図を使った説明	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。	「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。	45
第15回	図書館ガイダンス	本学の図書館とその資料について、基本的な利用方法などのガイダンスを受ける。	図書館の利用について復習すること。	45

学習計画注記	※スケジュールは指定される教室により異なる。初回に大学生として身につけるべきことを確認する。
学生へのフィードバック方法	課題は予定していない。
評価方法	・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。 ・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。 ・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	定期試験	○			○

評価割合	平常点（50%）、定期試験（50%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編（2022）『令和4年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に、またはそれまでに無料で配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】演習形式の具体的な作業で得た技術をもって大学教育に対応できる能力を身につけている。
オフィスアワー	井澤尚子（千代田三番町キャンパス1704ゼミ室）金曜日3時限
学生へのメッセージ	遠隔授業回の履修者は、次のことを理解した上で授業に参加してください。 ・対面授業と遠隔授業では、授業内容に違いはないが授業方法が異なる。

	・遠隔授業回では、履修者はテキストを読解しながら「やってみましょう」「練習問題」に取り組む。 ・オンデマンド教材は、「やってみましょう」「練習問題」に対する解答例の解説である。 ・定められた授業時間内に受講すること。 この科目を受講することにより大学における授業の特長を理解し、社会人にとっても必須である文章作成能力や情報収集能力を高めてみましょう。 準備学習として、各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読んだ上で授業に望みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	英会話集中講座		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク　ルイス	指定なし

ナンバリング	X13840M12
授業概要(教育目的)	This three day intensive English course allows students to practice conversational English to gain confidence and abilty. The goal of this class is to improve student fluency of English through practical situation role-playing, memorization, language games, and writing activities.
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	Students will gain knowledge of basic English Conversation patterns.
思考・判断の観点（K）	Students will develop critical thinking skills to desribe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点（V）	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点（A）	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Introduction	Meet the teacher and make name cards and meet first speaking partner with handout #1.	Students should prepare by reading handout #1: introduction, family members, work; Do you like music? Can you play an instrument?	60
第2回	Names and greetings; How to do a song presentation	Nice to meet you games and activities, such as Wink First, and Remember Names Circle. Group 1 song presentation.		
第3回	Movie	Watch a movie in English after dinner and bath. Titles to choose from include: Fantastic Beasts and Where to Find them; Remember Me, and other popular movies.		
第4回	Family	Handout #2 with new partner. Group 2 song presentation.	Students should prepare by reading handout #2: What's your favorite family restaurant? How come? How often do you watch movies?	60
第5回	Interesting Questions and class survey	Students conduct a class survey and find out what is particulaarly interesting about a randomly chosen classmate.		
第6回	Eye Contact	This activity shows students how to give a presentation in a professional way, concentrating		

		on making eye contact with everyone in the audience.		
第7回	Haiku Competition	Students create a haiku based on seasons, actiivites, and feelings. Most liked haiku (by votes) gets a prize.		
第8回	Talk about your character	Handout #3 with new partner. Group 3 song presentation.	Students should prepare by reading handout #3: Are you quiet or talkative? Shy or outgoing? Messy or neat? Do you like to play sports?	60
第9回	Listen up!	Double dictation and disappearing dialog games.		
第10回	Food	Handout #4 with a new partner. Group 4 song presentation.	Students should prepare by reading handout #4: What kind of food do you like? What's your favorite restaurant? Do you like to eat out?	60
第11回	Money Talks	This fun activity helps students practice numbers, big and small in a fun race to finish activity.		
第12回	Your star sign	Handout #5 with a new partner. Group 5 song presentation. Dinner then bath, movie.	Students should prepare by reading handout #5: What kind of work do you want to do in the future? Where do you want to work?	60
第13回	Steven meets a bully. What should he do?	Create a consistant narrative in English based upon a list of scrambled sentences and phrases.		
第14回	Fun final activities	How romantic are you game; Group 6 song presentation.		
第15回	Final Interview/Conversation	Students conduct a short interiveiw with their partner to see how comfortable they are using English. Interview topcs may cover the five conversations from the five camp handouts.	Review all five camp handouts to compose a natural English conversastion interview with a partner.	60

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive feedback from in-class activities such as presentations and gamess, and final speaking interview.
評価方法	Students must participate for all hours that the camp is held in order to receive credit. Students must also take part actively in all speaking activities and games, and all writing activities, and be prepared to share their thoughts and ideas in English with others.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	Participation	○	○	○	○
	Writing	○	○	○	○
	Final interview	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Writing activities 20%; Final Interview 20%
使用教科書名(ISBN番号)	none
参考図書	A Japanese -English dictionary
ディプロマポリシーとの関連	Ability to use English in a fluent and confident manner.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday, 13:00-14:00; Machida Campus: Wednesday, 9-10.
学生へのメッセージ	Please relax and enjoy English music, movies, games, and activities as much as possible

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	地域貢献活動		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	X13870M12
授業概要(教育目的)	国内外を問わず，学内の授業以外で行われたボランティア活動を通じて，当該地域に貢献した活動から自分を見直すこと.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会福祉協議会や社会福祉法人などの情報をよく理解する必要がある。
思考・判断の観点（K）	いつからどれくらいの期間でボランティア活動を実施できるか決定し計画しておく必要がある。
関心・意欲・態度の観点（V）	どのような人々を援助したいのか。自分の気持ちを整理してボランティア先を決定すること。
技術・表現の観点（A）	自分ができるボランティは何か。自分が貢献できるスキルを自覚していること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	調査票，実習証明書用紙配布と実習の心構え、安全対策、保険加入などについて説明する。	自分にはどのようなボランティが適しているか調査すること。	45
第2回	事前指導	ボランティアの内容，場所等について相談すること.	いつどこでボランティアを実施するのか。あらかじめ計画しておくこと。	45
第3回	実習先の選定	社会福祉協議会や社団法人について関連する団体を紹介する。	どのようなボランティアがあるか調査すること。	45
第4回	実習先の決定	期間・期日をマッチさせボランティア先を決定し計画を立てること。	ボランティア先が決定したら滞在期間、交通、自分の生活基盤を確認すること。	45
第5回	ボランティア保険加入	依頼状が必要かどうか実習先に確認する．ボランティア保険に加入する.	ボランティア保険について調査すること。	45

第6回	ボランティアの実施	ボランティア先と連絡調整の上ボランティア活動に参加する.	ボランティア先と自分の居住地の交通を確認すること。	45
第7回	記録する	ボランてティアラ活動に参加して何を自覚したか記録・メモすること。	メモ用紙、筆記用具を準備し携帯する。	45
第8回	「地域貢献活動」記録カード	活動終了時までに「地域貢献活動」記録カードへ実習担当者に捺印してもらう.	ボランティア先の代表者にあらかじめ書類にサイン・または捺印してもらうことを依頼しておくこと。	45
第9回	「地域貢献活動」レポート	活動中にメモしたことがらをもとに「地域貢献活動」レポートとして作成する,	レポート作成の手順を確認しておくこと。	45
第10回	終了報告	「地域貢献活動」記録カードとレポートをもとに大嶋に報告すること。	ネットや電話を利用してボランティア活動のはじめと終了を大嶋まで報告すること。	45
第11回	事後指導	ボランティア活動の報告に基づいてアドバイスする。	報告内容を簡潔にまとめておくこと。	45
第12回	書類の提出	「地域貢献活動」記録カードとレポートを後期試験期間中に提出する.	提出場所と提出期限を確認すること。	45

学習計画注記	ボランティア活動を経験してもらいたい。
学生へのフィードバック方法	事前指導・事後指導による。
評価方法	オリエンテーション・説明会などの授業態度・意欲20%, 実習後のレポート提出30%, 実習証明書の提出30%, 事前指導・事後指導の連絡調整能力20%で総合的に判定する.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	レポート			○	

評価割合	オリエンテーション・説明会などの授業態度・意欲20%, 実習後のレポート提出30%, 実習証明書の提出30%, 事前指導・事後指導の連絡調整能力20%で総合的に判定する.。
ディプロマポリシーとの関連	社会参加として、学生が社会と接する重要な手段としてボランティア活動を考えるとき、学生には予想以上の収穫がある。自分はどう見られているのか。自分にできることは何かを現場で直接求められるからである。学生にとって重要な社会貢献である。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	ボランティアセンターや地域のことにふれてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		これまでの地域貢献活動実践。
アクティブ・ラーニング	○	ボランティア先の現場でさまざまな経験ができること。協力者とともにネットワークをつくることもできる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	異文化交流ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	X13800M23
授業概要(教育目的)	英語圏の大学またはそれに準ずる英語教育機関で短期英語コースを受講する。同時に研修地の名所旧跡の視察、生活様式の体験、現地で出会った人々との交流を通して、異文化理解を深め、英語によるコミュニケーション力を高めていく。研修前には事前授業が行われ、サバイバル・イングリッシュや研修地の文化等を学ぶ。
履修条件	新型コロナの感染状況によってはワクチン接種等の条件あり。（詳細は説明会にて）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語及び異文化について知識や情報を収集し、英語及び異文化について理解することができる。
思考・判断の観点（K）	異文化の生活や異文化の人々の考え方を理解し、自分はどのように行動すべきか的確に判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に英語及び異文化について理解し、文化相対主義の考え方を身につけることができる。
技術・表現の観点（A）	異文化の習慣や考え方を尊重し、異文化において適切に行動できる。

学習計画

海外研修（英語研修）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	事前授業	英語研修に関する事前授業を行う。	文献やインターネット等で現地で必要な日常英会話について学習しておく。	60分
第2回	事前ガイダンス	英語研修に関する事前ガイダンスを行う。	研修に必要な情報を確認する。	60分
第3回	研修1日目	研修地に到着後、現地でオリエンテーションを行う。	必要な日常英会話について復習しておく。	60分
第4回	研修2日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分

第5回	研修3日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第6回	研修4日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第7回	研修5日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第8回	研修6日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第9回	研修7日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第10回	研修8日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第11回	研修9日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第12回	研修10日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第13回	研修11日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第14回	研修12日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第15回	研修13日目	研修先でESLレッスン、その他アクティビティー	学習した内容を復習する。	60分
第16回	研修14日目	帰国	学習した内容を復習する。	60分

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でフィードバックする。
評価方法	事前準備・計画、現地教育機関の評価、口頭発表により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	事前準備・計画	○	○	○	○
	現地教育機関の評価	○	○	○	○
	口頭発表	○	○	○	○

評価割合	事前準備・計画30%、英語コースの評価40%、口頭発表30%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異文化、英語について学び、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。 【関心・意欲・態度】異文化理解を通じて社会を構成する一員として、高い徳性をもって人々のために働くことができる。 【技能・表現】異文化の人々と意見を交換するための言語運用技能をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・統合し、表現することで他者との共感を創り出すことができる。
学生へのメッセージ	異文化を理解することで自分の所属する文化の本質がわかることがあります。海外研修というチャンスを、自分自身を客観的に考えるきっかけにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化における研修、異文化の人々との交流を通じて日本文化と異文化を体験的に理解する。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	異文化交流ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	海外の大学生とオンラインで交流する。家庭、大学、社会における暮らしぶりを互いに紹介し合う中で、人間としての共通点および文化の違いによる相違点についての理解を深めていく。また、地球規模の問題をともに考えることで、よりよい未来を構築するための認識を共有していく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。
思考・判断の観点（K）	異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができる。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持つ。
技術・表現の観点（A）	異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	異文化交流bの全体の流れとタスクについて理解する。	自己紹介を作成する。	45分
第2回	事前準備1	交流校Aとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。	交流校Aのパートナーにメールを出す。	45分
第3回	交流校Aのパートナーとの第1回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分
第4回	交流校Aのパートナーとの第2回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分

第5回	交流校Aのパートナーとの第3回交流	予め準備した内容に基き、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分
第6回	事前準備2	交流校Bとの交流内容を確認し、交流の準備をする。	交流校Bのパートナーにメールを出す。	45分
第7回	交流校Bのパートナーとの第1回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分
第8回	交流校Bのパートナーとの第2回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分
第9回	交流校Bのパートナーとの第3回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分
第10回	事前準備3	交流校Cとの交流内容を確認し、交流のための準備をする。	交流校Cのパートナーにメールを出す。	45分
第11回	交流校Cのパートナーとの第1回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分
第12回	交流校Cのパートナーとの第2回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。	45分
第13回	交流校Cのパートナーとの第3回交流	予め準備した内容に基づき、パートナーと交流する。	ミニレポートを作成する。また、発表のためのPPTを作成する。	45分
第14回	報告会1	3人のパートナーとの交流を通して学んだこと等について、PPTを使って発表する。相互に質問や意見を交わすことで、異文化交流についての理解を深めていく。	発表のためのPPTを作成する。	45分
第15回	報告会2	3人のパートナーとの交流を通して学んだこと等について、PPTを使って発表する。相互に質問や意見を交わすことで、異文化交流についての理解を深めていく。	報告会で他の発表から学んだことをまとめる。	45分

学習計画注記	説明会あり
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるフィードバック
評価方法	課題、ミニレポート、口頭発表の完成度および取り組みの姿勢により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	ミニレポート	○	○	○	○
	口頭発表	○	○	○	○

評価割合	課題20%、ミニレポート50%、口頭発表30%
ディプロマポリシーとの関連	・異文化交流の意義や難しい点、適切な方法等についての知識がある。 ・異文化交流において生じる困難を予測し、円滑なコミュニケーションのための準備をすることができる。また、実際の場面で困難が生じた際に、問題点を的確に判断し、柔軟に対応することができる。 ・異文化に対する関心、交流しようとする意欲、相手を尊重しより良い関係を構築していける態度を持つ。 ・異文化にいる相手が理解しやすい表現や提示を工夫することができる。
学生へのメッセージ	海外の大学生がどのような生活をし、何を考えているのかを直接知ることができる授業です。今まで、別の科目で体験した学生達の共通した感想は「楽しかった！」でした。難しく考えずに、興味があればぜひご参加下さ

	い。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化の大学生と実際に交流し、異文化交流について体験的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 1(月2)		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13610M12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点（K）	日常生活で使われる英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点（V）	TOEIC受験に向けてその意欲を高める。
技術・表現の観点（A）	TOEICでの高得点獲得を目指すと同時に、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Chapter 1 Shopping	1. ショッピング関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. ショッピング関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	1. Chapter 1 Shopping（続） 2. Chapter 2 At a Restaurant	1. ショッピング関連のリスニング学習（ショートトーク問題） 2. レストラン関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. レストラン関連の文法学習（名詞の修飾） 3. レストラン関連のリーディング学習（客からの苦情の手紙、それへの対応の返事）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	Chapter 3 Transportaion	1.　交通手段関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 交通手段関連のリスニング演習（写真描写問題、会話	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておく	60分

		問題）	こと。	
第4回	1. Chapter 3 Transportaion（続） 2. Chapter 4 Entertainment	1. 交通手段関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 娯楽関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 娯楽関連の文法学習（知覚動詞、使役動詞）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	Chapter 4 Entertainment（続）	娯楽関連のリーディング学習（カードマジックについて、社内旅行企画への問い合わせ）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	Chapter 5 Accomodation	1. ホテル関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. ホテル関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	1. Chapter 5 Accomodation（続） 2. Chapter 6 Employment	1. ホテル関連のリスニング演習（ショートトーク） 2. 就職活動関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 3. 就職活動関連の文法学習（助動詞）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Chapter 6 Employment（続）	就職活動関連のリーディング学習（企業が求める人材について、求人広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	Chapter 7 Communication	1. コミュニケーション関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. コミュニケーション関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	1. Chapter 7 Communication（続） 2. Chapter 8 Negotiating	1. コミュニケーション関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 商業交渉関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 商業交渉関連の文法学習（完了、受動態）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	Chapter 8 Negotiating（続）	商業交渉関連のリーディング学習（契約について、商業広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Chapter 9 Giving a Presentation	1. プレゼン関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. プレゼン関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	1. Chapter 9 Giving a Presentation（続） 2. Chapter 10 Appointments	1. プレゼン関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 面会の約束関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 面会の約束関連の文法学習	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	Chapter 10 Appointments（続）	面会の約束関連のリーディング学習（約束を取る、約束を代わってもらう）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	Chapter 11 Public Facilities	1. 公共施設関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 公共施設関連の文法学習（仮定法）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第16回				

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは、口頭試験の場合にはその場でコメント、筆記試験の場合は採点して返却する。
評価方法	毎回の小テストは、学習の内容により、口頭試験の場合と筆記試験の場合とがある。期末試験にはレポートを課す予定。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
	レポート	○	○		○

評価割合	小テストの合計50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)	Beat Your Best Score on the Toeic L & R Test（松柏社、2019）　978-4-88198-745-2
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、4時間目
学生へのメッセージ	Toeic受験に役立つだけでなく、実用英語全般の勉強になります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀　郁子	指定なし

ナンバリング	X13611C12
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点（A）	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション テキスト第1課　ロンドン：国会議事堂	議事堂のビッグベンはロンドンのシンボル。 ・第1回～第15回、すべて遠隔授業あり（分散登校のため）。	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課　ロンドン	ビッグベンの歴史、ダウニング街10番地、イギリスの首相たち、他。 ＜文法＞原級比較、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストｐ6－7を読解して問題に解答すること。 （以降、毎回同様に準備すること）	60分

		＊第1課～第11課、各課終了ごとに課題提出あり。詳細は授業時に指示します。		
第3回	第2課　ロンドン：騎馬衛兵	小鳥やリスがいる公園、そして馬もいっぱい！ バッキンガム宮殿の近衛兵、緑いっぱいのハイドパーク、他。 ＜文法＞so～that構文、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp8－9	60分
第4回	第3課　ロンドン：ベーカー街	探偵依頼はシャーロックホームズまで。 ロンドン名所のホームズ博物館、作者コナン・ドイル、ハリー・ポッターを乗せたホグワーツ特急はキングズクロス駅から出発する。 ＜文法＞分数の読み方、他。 ・ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターの伝記映画「ミス・ポター」	p10－11	60分
第5回	第4課　ロンドン：ビクトリア＆アルバート	深い愛情で結ばれたビクトリア女王夫妻。イギリスが繁栄を極めたビクトリア朝、ロイヤルアルバートホール。現女王エリザベス2世一家の話。 ＜文法＞前置詞　as　のさまざまな用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p12－13＋ピーターラビット原文プリント（読解しておくこと）	80分
第6回	第5課　宮殿	衛兵交代はバッキンガム宮殿やウインザー城で。 ＜文法＞過去分詞の形容詞用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p14－15＋プリント	80分
第7回	第6課　ブライトン	海のリゾート地でのんびり休暇を！ ブライトンの歴史、イギリスの郵便局、他。 ＜文法＞同格表現、先行詞と関係詞が離れている場合について。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p16－17＋プリント	80分
第8回	第7課　ストーンヘンジ	ミステリアスな人気スポット。ストーンヘンジはいつ、だれが、何のために作ったのか？ ＜文法＞some～, others…、他。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p18-19＋プリント	60分
第9回	第7課　ストーンヘンジ	イギリスの新聞の販売方法、他。 ・映画「ミス・ポター」	p18－19	60分
第10回	第8課　オックスブリッジ	2つの大学は長年のライバル。ヨーロッパの大学の歴史、他。 ＜文法＞　A such as B、他。 ・映画「ミス・ポター」	p20－21	60分
第11回	第9課　ストラトフォード・アポン・エイヴォン	シェイクスピアの生まれ故郷、でも他にも見どころはいっぱい。 ＜文法＞　先行詞を含む関係副詞、不定詞の形容詞用法、must have+過去分詞、他。 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」	p22－23	60分
第12回	第10課　ロビン・フッド	イギリス最古の森シャーウッドに住むロビン・フッドは今でも大人気。 ＜文法＞仮目的語、他。	p24－25	60分
第13回	第10課　ロビン・フッド	ロビンとゆかいな仲間たち、イギリスのゴミ箱事情。 ＜文法＞「～してもらう」のhave、他。	p24－25	60分
第14回	第11課　リンカーン	大聖堂と城、美しい街の光と闇。夜の古城に出没する幽霊たち？！ ＜文法＞受動態の構文、他。	p26－27	80分
第15回	第11課　リンカーン	リンカーン大聖堂の歴史。	p26－27	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	各課終了ごとに理解度を測る小テストを実施します（GoogleClassroom上から課題として提出すること）。小テストは、翌週の授業冒頭にて答合わせと解説を行います。
評価方法	・小テスト10点満点X11課を100点換算して評価します。 ・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○

評価割合	平常点10%、小テスト90%
使用教科書名(ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅＜改訂新版＞」 Terry O'Brien 他　著　　南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　愛	指定なし

ナンバリング	X13612C12
授業概要(教育目的)	この授業では、コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法や構文を基礎から学び直す。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期授業ガイダンス & Unit 1 基本文1（5文型）	・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習について説明 ・品詞および5文型の説明	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・5文型について見直すこと ・Level 1 練習問題	60分
第2回	Unit 1 基本文1（5文型）	・Level 1 解答確認および解説 ・Level 2 & 3 ・Culture Note　和訳	第2回授業の予習 ・Point 1～5の確認 第2回授業の復習 ・5文型について見直すこと ・授業時に指示された課題を行うこと	120分

第3回	Unit 2 基本文2（第5文型の応用）	・5文型についての復習 ・Level 1	第3回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第3回授業の復習 ・第4文型と第5文型の違いについて復習する	120分
第4回	Unit 2 基本文2（第5文型の応用）	・Level 2 & 3 ・Culture Note　和訳	第4回授業の予習 ・5文型の復習 第4回授業の復習 ・5文型の復習	120分
第5回	Unit 3 助動詞	・助動詞の復習 ・助動詞を用いた慣用表現の確認 ・Level 1 & 2 ・Culture Note　和訳	第5回授業の予習 ・Point 1～6の確認 第5回授業の復習 ・Level 3	120分
第6回	Unit 4 疑問・否定	・Unit 3 Level 3 解答確認および解説 ・疑問詞の復習 ・語順の確認 ・Level 1 & 2 ・Culture Note　和訳	第6回授業の予習 ・Point 1～6の確認 第6回授業の復習 ・Level 3	120分
第7回	Unit 5 時制	・Unit 4 Level 3 解答確認および解説 ・動詞の過去形・過去分詞・現在分詞の復習 ・Level 1 ・Level 1 & 2	第7回授業の予習 ・Point 1～7の確認 第7回授業の復習 ・Level 2 & 3	120分
第8回	Unit 5 時制 & Unit 6 発音とアクセント	・Unit 5 Level 2 & 3 解答確認および解説 ・Culture Note　和訳 ・Level 1～3	第8回授業の予習 ・Point 1～6の確認 ＊テキストに添付のCDで音声の確認 第8回授業の復習 ・Culture Note　和訳	120分
第9回	Unit 7 基本動詞の特性 1	・Unit 6 Level Culture Note 解答確認および解説 ・Level 1～3 ・Culture Note　和訳	第9回授業の予習 ・Point 1～6の確認 第9回授業の復習 ・イディオムの確認	120分
第10回	Unit 8 基本動詞の特性 2	・基本動詞を用いたイディオムの確認 ・Level 1～3 ・Culture Note　和訳	第10回授業の予習 ・Point 1～6の確認 第10回授業の復習 ・イディオムの確認	120分
第11回	Unit 9 名詞と代名詞	・可算名詞と不可算名詞の復習 ・Level 1～3 ・Culture Note　和訳	第11回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第11回授業の復習 ・可算名詞、不可算名詞の数量表現の復習	120分
第12回	Unit 10 名詞と冠詞	・定冠詞と不定冠詞の復習 ・Level 1～3 ・Culture Note　和訳	第12回授業の予習 ・Point 1～3の確認 第12回授業の復習 ・様々な意味を持つ名詞	120分
第13回	Unit 11 英和辞典の使い方	・Level 1～3 ・Culture Note　和訳	第13回授業の予習 ・Point 1～3の確認 第13回授業の復習 ・英単語の語源について	120分
第14回	場所・時を表す前置詞 ＊プリント使用	・前置詞の用法について復習 ・前置詞を用いたイディオム	第14回授業の予習 ・配布された問題（プリント）を解く 第14回授業の復習 ・試験に向け、既習事項の復習を行う	240分
第15回	Review	・復習問題（前週配布）の解答確認および解説 ・前期授業範囲の総復習 →復習範囲は履修者の理解度に合わせて決定する	第15回授業の予習 ・試験に向け、既習事項の復習を行う	240分

			第15回授業の復習 ・試験に向け、既習事項の復習を行う	
第16回	定期試験	学修到達度を確認する試験を実施	・試験に向けて、既習事項の復習を行う	120分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収。 次週の授業時にて返却。
評価方法	・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。 （小テストに関する追再試験は行わない） ・定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト・定期試験	○	○		
	平常点			○	
	その他	○		○	

評価割合	小テスト・試験　70% 平常点（学習意欲、履修態度など）　20% その他（任意課題などの提出状況など）　10%
使用教科書名(ISBN番号)	タイトル：Welcome to College English　コミュニケーションのための大学英語入門 編集者：大島　眞、他 出版社：南雲堂 定価：1,900＋税 ISBN: 978-4-523-17462-8
参考図書	必要に応じて授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。 【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。
学生へのメッセージ	英文法を基礎からじっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13610C12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康生活に関して今日よく話題になることを客観的立場から整理して知り、理解する。加えて英文法の知識を確かなものにする。
思考・判断の観点（K）	身近な健康問題に無理のない自然な態度で向かうことが出来るようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	健康の維持への興味を育てる。
技術・表現の観点（A）	基礎的な英文法を身に着け、実際の英語の使用をより正しいものとし、英語力に自信が持てるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Sleep is Important	whenの使い方	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	Is Salt Bad for Us？	現在形、過去形、現在完了形	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第3回	Water is Wonderful	whyの使い方	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておく	60分

			こと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	
第4回	Hot Springs: A Miracle of Nature	動名詞	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第5回	Healthy Lessons from the Blue Zones	前置詞	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第6回	Unhealthy Habits	不定詞	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第7回	Let's Dance!	比較級	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第8回	The Story of Sugar	受動態	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第9回	Companion Animal	使役動詞など	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第10回	Music And Medicine	接続詞	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第11回	Please Listen to Me!	関係代名詞、関係副詞	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第12回	Let's Eat together!	間接疑問文	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第13回	Being Alone vs. Being Lonely	itの特別用法	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第14回	Believe in Yourself!	疑問詞＋to不定詞	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第15回	The Interview	文法のまとめ	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストが口頭の場合はその場で、筆記の場合は採点して返却する。
評価方法	授業毎回での小テスト。期末試験はレポートを課す予定。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
	レポート	○	○		○

評価割合	小テストの合計50%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号)	Healthy Habits for a Better Life 978-4-7919-7229-6
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】よく話題になり、かつ身近な健康問題について客観的に理解し、判断ができるよう　にする。 【関心・意欲・態度】健康な生活の構築に興味を抱く。 【技能・表現】英文法を身に着け、実際に英語を使用できるようにする。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限、昼休み、4時限
学生へのメッセージ	教科書の英語本文は決して難しい英語で書かれてはいないのですが、実際に使えて立派な英語です。きっとお役に立つと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀　郁子	指定なし

ナンバリング	X13611C12
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点（A）	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション テキスト第1課　ロンドン：国会議事堂	議事堂のビッグベンはロンドンのシンボル。 ・第1回～第15回、すべて遠隔授業あり（分散登校のため）。	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課　ロンドン	ビッグベンの歴史、ダウニング街10番地、イギリスの首相たち、他。 ＜文法＞原級比較、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストｐ6－7を読解して問題に解答すること。 （以降、毎回同様に準備すること）	60分

		＊第1課～第11課、各課終了ごとに課題提出あり。詳細は授業時に指示します。		
第3回	第2課　ロンドン：騎馬衛兵	小鳥やリスがいる公園、そして馬もいっぱい！ バッキンガム宮殿の近衛兵、緑いっぱいのハイドパーク、他。 ＜文法＞so～that構文、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp8－9	60分
第4回	第3課　ロンドン：ベーカー街	探偵依頼はシャーロックホームズまで。 ロンドン名所のホームズ博物館、作者コナン・ドイル、ハリー・ポッターを乗せたホグワーツ特急はキングズクロス駅から出発する。 ＜文法＞分数の読み方、他。 ・ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターの伝記映画「ミス・ポター」	p10－11	60分
第5回	第4課　ロンドン：ビクトリア＆アルバート	深い愛情で結ばれたビクトリア女王夫妻。イギリスが繁栄を極めたビクトリア朝、ロイヤルアルバートホール。現女王エリザベス2世一家の話。 ＜文法＞前置詞　as　のさまざまな用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p12－13＋ピーターラビット原文プリント（読解しておくこと）	80分
第6回	第5課　宮殿	衛兵交代はバッキンガム宮殿やウインザー城で。 ＜文法＞過去分詞の形容詞用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p14－15＋プリント	80分
第7回	第6課　ブライトン	海のリゾート地でのんびり休暇を！ ブライトンの歴史、イギリスの郵便局、他。 ＜文法＞同格表現、先行詞と関係詞が離れている場合について。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p16－17＋プリント	80分
第8回	第7課　ストーンヘンジ	ミステリアスな人気スポット。ストーンヘンジはいつ、だれが、何のために作ったのか？ ＜文法＞some～, others…、他。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」	p18-19＋プリント	60分
第9回	第7課　ストーンヘンジ	イギリスの新聞の販売方法、他。 ・映画「ミス・ポター」	p18－19	60分
第10回	第8課　オックスブリッジ	2つの大学は長年のライバル。ヨーロッパの大学の歴史、他。 ＜文法＞　A such as B、他。 ・映画「ミス・ポター」	p20－21	60分
第11回	第9課　ストラトフォード・アポン・エイヴォン	シェイクスピアの生まれ故郷、でも他にも見どころはいっぱい。 ＜文法＞　先行詞を含む関係副詞、不定詞の形容詞用法、must have+過去分詞、他。 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」	p22－23	60分
第12回	第10課　ロビン・フッド	イギリス最古の森シャーウッドに住むロビン・フッドは今でも大人気。 ＜文法＞仮目的語、他。	p24－25	60分
第13回	第10課　ロビン・フッド	ロビンとゆかいな仲間たち、イギリスのゴミ箱事情。 ＜文法＞「～してもらう」のhave、他。	p24－25	60分
第14回	第11課　リンカーン	大聖堂と城、美しい街の光と闇。夜の古城に出没する幽霊たち？！ ＜文法＞受動態の構文、他。	p26－27	80分
第15回	第11課　リンカーン	リンカーン大聖堂の歴史。	p26－27	60分
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	各課終了ごとに理解度を測る小テストを実施します（GoogleClassroom上から課題として提出すること）。小テストは、翌週の授業冒頭にて答合わせと解説を行います。
評価方法	・小テスト10点満点X11課を100点換算して評価します。 ・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○

評価割合	小テスト９０％、平常点１０％
使用教科書名(ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅＜改訂新版＞」 Terry O'Brien 他　著　　南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 2(月2)		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13620M12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点（K）	日常生活で使われる英語が正しいものであるのかの判断がしやすくなる。
関心・意欲・態度の観点（V）	TOEIC受験に向けてその意欲を高める。
技術・表現の観点（A）	TOEICでの高得点獲得を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Chapter 11 Public Facilities（続）	公共施設関連のリーディング学習（公園、公立図書館）	授業の内容を復習して理解して把握しておくこと。	60分
第2回	Chapter 12 On the Street	1. 道路上でのこと関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 道路上でのこと関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	Chapter 12 On the	道路上でのこと関連のリスニング演習（ショートトーク問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

	Street（続）			
第4回	Chapter 13 Vacation	1.　休暇関連の語彙学習（本章の予備学習） 2.　休暇関連の文法学習（受動態） 3. 休暇関連のリーディング学習（有給休暇について）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	Chapter 13 Vacation（続）	休暇関連のリーディング学習（続）（旅行先についての相談）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	Chapter 14 Environment	1. 環境問題関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 環境問題関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	1. Chapter 14 Environment（続） 2. Chapter 15 Housing	1. 環境問題関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 住居関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 住居関連の文法学習（関係代名詞）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Chapter 15 Housing（続々）	住居関連のリーディング学習（エアコンの修理依頼）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	Chapter 15 Housing（続続々）	住居関連のリーディング学習（アパートのルームメイト募集の記事と希望者よりの返事、及びそれへの回答）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	Chapter 16 Meetings	1. 会議関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 会議関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	1. Chapter 16 Meetings（続） 2. Chapter 17 Business Performance	1. 会議関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 営業成績関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 営業成績関連の文法学習（比較）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Chapter 17 Business Performance（続）	営業成績関連のリーディング学習（営業成績報告、顧客アンケート）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	Chapter 18 Handling Customer Complaints	1. 客からの苦情関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 客からの苦情関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題、ショートトーク問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	Chapter 19 Advertising	1. 宣伝広告関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 宣伝広告関連の文法学習 3. 宣伝広告関連のリーディング学習（広告媒体について、求人広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	Chapter 20 At a Factory	1. 工場関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 工場関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題、ショートトーク問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは、口頭試験の場合はその場でのコメント、筆記試験の場合は採点して返却する。
評価方法	毎回の小テストは、その時の学習内容により、口頭試験の場合と筆記試験の場合とある。期末試験はレポートを課す予定。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
	レポート	○	○		○

評価割合	小テストの合計50%、レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	Beat Your Best Score on the Toeic L & R Test（松柏社、2019） 9784881987452

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目
学生へのメッセージ	TOEIC受験対策が鮮明な教科書ですが、日常英語の勉強になりそうな語彙学習の面も含まれています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀　郁子	指定なし

ナンバリング	X13621C12
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点（A）	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション テキスト第12課　ヨーク	ステンドグラスが美しいヨーク大聖堂。 ＜文法＞不定詞の形容詞用法、他。 ・第1回～第15回、すべて遠隔授業あり（分散登校のため）。 ・第12課～第25課、各課終了ごとに課題提出あり。詳細は授業時に指示します。	p28を読解して問題に解答すること。（以降、毎回同様に準備すること）	30分
第2回	第12課　ヨーク	中世最大の教会ヨーク・ミンスター、典型的な要塞都市であるヨークの教会と城。日本の新幹線も展示されている国立鉄道博物館。 ＜文法＞仮主語と真主語、他。 ・映画「ハリー・ポッターと賢者の石」①	ｐ28－29	40分

第3回	第13課　ヨークシャー：ハワース村	ブロンテ姉妹のふるさと。『ジェーン・エア』や『嵐が丘』などの名作は風吹きすさぶこの荒野から生まれた。 ＜文法＞倒置表現、他。 ・映画②	p30－31	60分
第4回	第14課　湖水地方	ワーズワースの詩のふるさとでピーターラビットのお里。日本人観光客の多さにビックリ！ ＜文法＞現在完了進行形、他。 ・映画③	p32－33	60分
第5回	第15課　リヴァプール	ビートルズの活躍で一躍有名になった港湾都市、そこはコスモポリタンで文化の薫り高い街でもある。 ＜文法＞使役動詞、他。 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴。	p34－35	60分
第6回	第16課　ピークディストリクト・パーク	イギリス独特の荒野が広がる公園内。荒野散策は夏でも厚着で。美しい村々も点在します。 ＜文法＞不定詞の形容詞用法 ・映画④	p36－37	60分
第7回	第17課　結婚式	教会での結婚式の様子。教会とは一生のお付き合い。 ＜文法＞接続詞 that、他。 ・映画⑤	p38－39	60分
第8回	第18課　ドーヴァー	珍しい白亜の崖がシンボル。ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 ＜文法＞述語動詞が複数ある英文、他。 ・映画⑥	p40-41	60分
第9回	第18課　ドーヴァー	ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 ＜文法＞述語動詞が複数ある英文、他。 ・映画⑦	p40－41	60分
第10回	第19課　コッツウォルズ	はちみつ色のかわいい家が人気の村。クリームティーとスコーン。 ＜文法＞　注意すべき受動態、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解 ・映画⑧	p42－43 ＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第11回	第21課　ロンドン：ロンドン塔	今は賑やかな観光名所、しかし昔は処刑場でもあった場所。権力闘争、陰謀渦巻く宮廷の中。 ＜文法＞　関係詞の非制限的用法、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解 ・映画⑨	p46－47　＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第12回	第22課　ロンドン：ウエストミンスター寺院	世界遺産の寺院の内部、床と壁に塗り込められた秘密とは？！ ＜文法＞主語と述語動詞が離れている場合、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解 ・クリスマスの由来、イギリスのクリスマス ・映画⑩	p48、＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第13回	第23課　ロンドン：グローブ座	16世紀から続くシェイクスピアの劇場。ロンドンっ子は今も昔も大の芝居好き！そばにはヨーロッパーの大観覧車ロンドン・アイも。 ＜文法＞Some...,other...の訳し方、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解	p50－51　＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第14回	第24課　ロンドン：コヴェントガーデン	昔の青果市場は今や若者が集う場所。しかし大昔は修道院だった？！ ＜文法＞接続詞 as を用いて現在と過去を比較する、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解	p52　＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第25課　ロンドン：ミレニアム橋	斬新なデザインの橋が、テート・モダン美術館とセントポール大聖堂をつなぐ。 ＜文法＞不定詞の副詞用法、関係詞の非制限用法、比較級を同時に用いた英文、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」にみるイギリスの歴史と文化 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解	p54－55　＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	80分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	各課終了ごとに理解度を測る小テストを実施します（GoogleClassroom上から課題として提出すること）。小テストは、翌週の授業冒頭で答合わせと解説を行います。
評価方法	小テスト10点満点×11回～13回を100点換算して評価します。 小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○

評価割合	小テスト９０％、平常点１０％
使用教科書名（ISBN番号）	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅＜改訂新版＞」 Terry O'Brien 他　著　　南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	・充分に予習したうえで授業に臨んでください。 ・世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　愛	指定なし

ナンバリング	X13622C12
授業概要(教育目的)	この授業では、コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法や構文を基礎から学び直す。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	後期授業ガイダンス & Unit 12 形容詞と比較	・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習についての説明 ・形容詞（限定用法と叙述用法）の説明 ・形容詞、副詞の比較変化	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・比較変化	60分
第2回	Unit 12 形容詞と比較	・Level 1～3 ・Culture Note 和訳	第2回授業の予習 ・Point 1～5の確認 第2回授業の復習 ・比較変化	120分
第3回	Unit 13 副詞	・副詞の修飾、頻度を表す副詞について復習 ・Level 1～3	第3回授業の予習 ・Point 1～4の確認	120分

		・Culture Note 和訳	第3回授業の復習 ・語順、語形変化	
第4回	Unit 14 接続詞	・接続詞の働きについて復習 ・Level 1～3 ・Culture Note 和訳	第4回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第4回授業の復習 ・相関接続詞	120分
第5回	Unit 15 関係詞（関係代名詞・関係副詞）	・関係詞（関係代名詞、関係副詞）について復習 ・複合関係詞について	第5回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第5回授業の復習 ・関係代名詞と関係副詞の見分けについて	120分
第6回	Unit 15 関係詞（関係代名詞・関係副詞）	・Level 2 & 3 ・Culture Note 和訳	第6回授業の予習 ・Level 1 第6回授業の復習 ・関係代名詞、関係副詞の見分け方と和訳	120分
第7回	Review	Unit 12～15の復習	第7回授業の予習 ・Unit 12～15の復習 （疑問点・不明点をピックアップする） 第7回授業の復習 ・復習プリントを配布 →次週の授業時に解答確認および解説	120分
第8回	Unit 16 準動詞（不定詞）	・不定詞（3つの用法：名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法）について復習 ・Level 1～3 ・Culture Note 和訳	第8回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第8回授業の復習 ・不定詞：3つの用法の見分けと和訳	120分
第9回	Unit 17 準動詞（～ing形・過去分詞）	・現在分詞と動名詞の違いと過去分詞について復習 ・Level 1～3 ・Culture Note 和訳	第9回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第9回授業の復習 ・現在分詞と動名詞の見分け ・現在分詞と過去分詞の語順	120分
第10回	Unit 18 条件と仮定	・仮定法過去、仮定法過去完了について復習 ・Ifの省略（倒置） ・Ifを用いらない仮定法について復習	第10回授業の予習 ・Point 1～5の確認 第10回授業の復習 ・仮定法過去、仮定法過去完了の文構造（語順）と和訳	120分
第11回	Unit 18 条件と仮定	・Level 1～3 ・Culture Note 和訳	第11回授業の予習 ・仮定法の種類 第11回授業の復習 ・仮定法過去、仮定法過去完了の文構造（語順）と和訳	120分
第12回	Unit 19 能動態・受動態	・能動態と受動態について復習 ・書きかえ練習 ・by以外の前置詞を用いる受動態	第12回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第12回授業の復習 ・能動態と受動態の相互書きかえ →次週の授業時に解答確認および解説	120分
第13回	Unit 19 能動態・受動態	・Level 1～3 ・Culture Note 和訳	第13回授業の予習 ・第4文型の能動態から受動態への書きかえ 第13回授業の復習 ・書きかえと和訳	120分
第14回	Unit20 語の解剖（造語法）	・接頭語、接尾語について復習 ・Level 1～3 ・Culture Note和訳	第14回授業の予習 ・Point 1～4の確認 第14回授業の復習	120分

			・接頭語、接尾語について ・現在分詞と過去分詞の語順	
第15回	Review	・復習問題（前週配布）の解答確認および解説 ・後期授業内容の総復習 →範囲については、履修者の理解度に合わせて決定する	第15回授業の予習 ・試験に向けて、既習事項の復習を行う 第15回授業の復習 ・試験に向けて、既習事項の復習を行う	240分
第16回	定期試験	学修到達度を確認する試験を実施	・試験に向けて、既習事項の復習を行う	240分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で解答確認および解説を行い、回収。 次週の授業時にて返却。
評価方法	・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。 （小テストに関する追再試験は行わず、遅延は減点とする） ・定期試験は、後期授業内容を中心として出題する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト・定期試験	○	○		
	平常点			○	
	その他	○		○	

評価割合	小テスト・試験　70% 平常点 20% その他（任意課題などの提出状況など）　10%
使用教科書名(ISBN番号)	タイトル：Welcome to College English　コミュニケーションのための大学英語入門 編集者：大島　眞、他 出版社：南雲堂 定価：1,900＋税 ISBN: 978-4-523-17462-8
参考図書	必要に応じて授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。 【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。
学生へのメッセージ	英文法をじっくりと学んでいきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13620C12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	病院で使われる英語を知り、理解する。
思考・判断の観点（K）	英語のことだけでなく、たとえば「院内感染がどのように起き、どう防ぐのか」等のことを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に英語で患者対応ができるような自信を養う。
技術・表現の観点（A）	英語での患者対応ができるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	In the Lobby of the Hospital	受付、案内	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第2回	Registration	患者の登録	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第3回	Checking the Registration Card	患者の登録カードの確認	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておく	60分

			こと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	
第4回	Finding the Way	病院内の場所の案内	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第5回	Personal History	患者の経歴、病歴の確認	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第6回	Daily Activities	患者の日頃の状況の確認（1）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第7回	More about Daily Activities	患者の日頃の状況の確認（2）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第8回	Asking about Symptoms	患者の症状を聞く（1）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第9回	More about Symptoms	患者の症状を聞く（2）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第10回	Checking Blood Pressure and Weight	患者の血圧と体重測定	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第11回	Laboratory Specimens	検査のための検体を取る	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第12回	Taking Medicines	薬の飲み方の指示	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第13回	総復習（1）	前期の授業分も含めて、総復習と説明の追加	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第14回	総復習（2）	前期の分も含めての総復習と説明の追加	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分
第15回	総復習（3）	前期の分も含めての総復習と説明の追加	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。翌週にまとめと学習到達度確認のためのテストを行う。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは、口頭の場合はその場で、筆記の場合は採点して返却する。
評価方法	授業ごとに小テストを行う。期末試験はレポートを課す予定。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
	レポート	○	○		○

評価割合	小テスト50%、レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	How are you feeling Today? 978-4-7919-1271-1
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】病院で使われる英語を知り、理解する。 【思考・判断】病院にまつわるよく話題にされるトピックについて、客観的な態度で臨めるようにする。 【関心・意欲・態度】積極的に英語での患者対応をしようとする自信を養う。 【技能・表現】英語での患者対応ができるようにする。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限、昼休み、4時限
学生へのメッセージ	主に看護師を対象として書かれた教科書なのですが、管理栄養士にとっても知っておくべき英語は多く含まれています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀　郁子	指定なし

ナンバリング	X13621C12
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点（A）	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション テキスト第12課　ヨーク	ステンドグラスが美しいヨーク大聖堂。 ＜文法＞不定詞の形容詞用法、他。 ・第1回～第15回、すべて遠隔授業あり（分散登校のため）。 ・第12課～第25課、各課終了ごとに課題提出あり。詳細は授業時に指示します。	p28を読解して問題に解答すること。（以降、毎回同様に準備すること）	30分
第2回	第12課　ヨーク	中世最大の教会ヨーク・ミンスター、典型的な要塞都市であるヨークの教会と城。日本の新幹線も展示されている国立鉄道博物館。 ＜文法＞仮主語と真主語、他。 ・映画「ハリー・ポッターと賢者の石」①	ｐ28－29	40分

第3回	第13課　ヨークシャー：ハワース村	ブロンテ姉妹のふるさと。『ジェーン・エア』や『嵐が丘』などの名作は風吹きすさぶこの荒野から生まれた。 ＜文法＞倒置表現、他。 ・映画②	p30－31	60分
第4回	第14課　湖水地方	ワーズワースの詩のふるさとでピーターラビットのお里。日本人観光客の多さにビックリ！ ＜文法＞現在完了進行形、他。 ・映画③	p32－33	60分
第5回	第15課　リヴァプール	ビートルズの活躍で一躍有名になった港湾都市、そこはコスモポリタンで文化の薫り高い街でもある。 ＜文法＞使役動詞、他。 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴。	p34－35	60分
第6回	第16課　ピークディストリクト・パーク	イギリス独特の荒野が広がる公園内。荒野散策は夏でも厚着で。美しい村々も点在します。 ＜文法＞不定詞の形容詞用法 ・映画④	p36－37	60分
第7回	第17課　結婚式	教会での結婚式の様子。教会とは一生のお付き合い。 ＜文法＞接続詞 that、他。 ・映画⑤	p38－39	60分
第8回	第18課　ドーヴァー	珍しい白亜の崖がシンボル。ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 ＜文法＞述語動詞が複数ある英文、他。 ・映画⑥	p40-41	60分
第9回	第18課　ドーヴァー	ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 ＜文法＞述語動詞が複数ある英文、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」にみるイギリスの歴史と文化 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解	p40－41＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第10回	第19課　コッツウォルズ	はちみつ色のかわいい家が人気の村。クリームティーとスコーン。 ＜文法＞　注意すべき受動態、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解	p42－43 ＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第11回	第21課　ロンドン：ロンドン塔	今は賑やかな観光名所、しかし昔は処刑場でもあった場所。権力闘争、陰謀渦巻く宮廷の中。 ＜文法＞　関係詞の非制限的用法、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解	p46－47　＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第12回	第22課　ロンドン：ウエストミンスター寺院	世界遺産の寺院の内部、床と壁に塗り込められた秘密とは？！ ＜文法＞主語と述語動詞が離れている場合、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解 ・クリスマスの由来、イギリスのクリスマス	p48、＋「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第13回	第23課　ロンドン：グローブ座	16世紀から続くシェイクスピアの劇場。ロンドンっ子は今も昔も大の芝居好き！そばにはヨーロッパーの大観覧車ロンドン・アイも。 ＜文法＞Some...,other...の訳し方、他。	p50－51	60分
第14回	第24課　ロンドン：コヴェントガーデン	昔の青果市場は今や若者が集う場所。しかし大昔は修道院だった？！ ＜文法＞接続詞 as を用いて現在と過去を比較する、他。	p52	60分
第15回	第25課　ロンドン：ミレニアム橋	斬新なデザインの橋が、テート・モダン美術館とセントポール大聖堂をつなぐ。 ＜文法＞不定詞の副詞用法、関係詞の非制限用法、比較級を同時に用いた英文、他。	p54－55	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	各課終了ごとに理解度を測る小テストを実施します（GoogleClassroom上から課題として提出すること）。小テストは、翌週の授業冒頭で答合わせと解説を行います。
評価方法	小テスト10点満点×11回～13回を100点換算して評価します。 小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	小テスト	○	○		○

評価割合	小テスト９０%、平常点１０%
使用教科書名(ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」 Terry O'Brien 他　著　　南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	・充分に予習したうえで授業に臨んでください。 ・世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀　郁子	指定なし

ナンバリング	X13632M12
授業概要(教育目的)	英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に着けることにあります。 ①テキストを通して日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、海外旅行の際に必要となる書類の書き方なども学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。 ②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点（A）	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション Unit 1 Family	・授業の進め方 ・Unit 1 - Part 1 Warm-up	必要なし	0分
第2回	Unit 1 Family	Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns	必要なし	0分
第3回	Unit 2	Part 1 Warm-up	p15-18	50分

	Friends	Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・1950年代のアメリカー映画　Back To The Future　①		
第4回	Unit 3 Culture	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画②	p19－22	50分
第5回	Unit 4 Education	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画③	p23－26	50分
第6回	Unit 5 Sports	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画④	p27-30	50分
第7回	Unit 6 Work	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑤	p31-34	50分
第8回	Unit 7 Food	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑥	p35-38	50分
第9回	Unit 8 Studying English	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑦	p39－42	50分
第10回	Unit 9 Health	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑧	p43－46	50分
第11回	Unit 10 Clothes	Part 1 Warm-up Part 2 Listening Patterns Part 3 Usage Patterns Part 4 Conversation Patterns ・映画⑨	p47－50	50分
第12回	場面別英会話：空港で	・税関でのやり取り ・出入国書類の記入例の作成 ・空港内アナウンスのリスニング ・映画⑩	p49－51 「出入国書類の記入例」のプリント（まずは自力で作成しておくこと）	50分
第13回	場面別英会話：ファストフード店で 場面別英会話：レストランで	・ファストフード店での注文の仕方、スタッフとのやり取り ・レストランでの注文の仕方、スタッフとのやり取り ・現代アメリカ史とロック＆ポップスの歴史①	プリントの問題に解答しておくこと	50分
第14回	場面別英会話：レストランで 場面別英会話：レストランのテーブルで	・レストランのテーブルでのやり取り、マナーなど ・現代アメリカ史とロック＆ポップスの歴史②	プリントの問題に解答しておくこと。	50分
第15回	場面別英会話：レストランのテーブルで アメリカン・ポップカルチャー	・メニューの読み方、外国の食文化 ・アメリカン・ポップカルチャー	メニューのプリントをあらかじめ読んでおいてください。	30分

学習計画注記	授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	随時、小テストを実施します。実施した小テストは、翌週の授業の冒頭で答合わせし、講評します。
評価方法	・課題、小テスト、提出物、受講態度などにより総合的に判断します。 ・小テストは下表に示す力を養うことを目的とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
					○

評価割合	平常点１０%、小テスト９０%により評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	English Listening and Speaking Pattern 1 Andrew E. Bennett　著 南雲堂 2000円（税別）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13631M12
授業概要(教育目的)	国際社会における円滑なコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ニューヨーク観光を通じて、海外旅行の英語と現代アメリカについて理解する。
思考・判断の観点（K）	使われる英語が正しいのかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点（V）	外国人と積極的に英語で話してみようとする態度を養う。
技術・表現の観点（A）	英語で海外旅行ができるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	飛行場で	1. ホテルの予約カウンターの場所を教えてもらう 2. ホテルの予約を取る	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	ニューヨーク市中心街に向かう	1. タクシー乗り場で 2. バスに乗る	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	ホテルで	1. チェックイン 2. 部屋の中でのトラブル	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

第4回	外食	1. いいお店を紹介してもらう 2. 注文する	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	ニューヨーク市散策	1. 地下鉄に乗る 2. タクシーに乗る	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	市内観光	1. 観光船に乗る 2. 観光馬車に乗る	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	電話をかける	1. ホテルの部屋からの国際電話 2. 公衆電話	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	チケットを買う	1. 劇場チケット 2. 飛行機のチケット	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	ショッピング	1. 食料品店 2. 土産物店	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	ウオール街訪問	1. 会社を訪問 2. ビジネス街でのランチ	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	困ったとき	1. 道を尋ねる 2. 薬局で薬を買う	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	大学を訪問	1. 学生との歓談 2. 学生寮訪問	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	娯楽	1. 繁華街散策 2. パーティー参加	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	帰国	ホテルのチェックアウト	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	総復習	授業各回のポイントの再確認	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第16回				
第17回				

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは口頭の場合はその場でのコメント、筆記の場合は採点して返却する。
評価方法	毎回の授業で小テストを行う。期末試験はレポートを課す予定。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
	期末レポート	○	○		○

評価割合	小テスト50%、期末レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	① Survival English: The Sound of New York (Book 1) 978-4-255-15168-7 ② Survival English: The Sound of New York (Book 2) 978-4-255-11106-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として相応しい英語の知識と正確かどうかの判断力を養う。 【関心・意欲・態度】外国人相手の接客や海外旅行において積極的に英語で話してみようとする態度を養う。 【技能・表現】適切な英語で外国人と会話ができるようにする。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限目、昼休み、4時限目
学生へのメッセージ	観光英語とアメリカ文化をバランスよく学べる教科書です。難しいというのではないのですが、勉強になります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	X13630M12
授業概要(教育目的)	本授業では、映像視聴を通じて英語の受信・発信力を養成する。随時英語聴解力アセスメントを実施し、英語聴解力の向上を目指す。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語の聞き取り方、英語の理解の仕方を習得する。
思考・判断の観点（K）	英語の音声パターン、文法、表現を理解する。
関心・意欲・態度の観点（V）	英語の受信・発信能力を高める。
技術・表現の観点（A）	映像を見て日常生活に役立つ英語コミュニケーション力を習得する。

学習計画

Listening & Speaking 1 (Wednesday 1st Period)

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	英語聴解力アセスメント、授業のイントロダクション	実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。授業の進め方について解説する。	ストリーミング配信（無料）を利用し、教科書Unit 1の音声を確認する。	120分
第2回	Unit 1 Giving Directions and Helping（1）	動画を視聴し、Unit 1の設問等に取り組む。	Unit 1の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分

第3回	Unit 1 Giving Directions and Helping （2）	動画を視聴し、Unit 1の設問等に取り組む。	Unit 1の動画を繰り返し視聴する。	120分
第4回	Unit 2 Talking about Yourself （1）	動画を視聴し、Unit 2の設問等に取り組む。課題を提出する。	Unit 2の動画を繰り返し視聴する。	120分
第5回	Unit 2 Talking about Yourself （2）	動画を視聴し、Unit 2の設問等に取り組む。	Unit 2の動画を繰り返し視聴する。	120分
第6回	Unit 3 Host Family （1）	動画を視聴し、Unit 3の設問等に取り組む。	Unit 3の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第7回	Unit 3 Host Family （2）、これまでの復習	動画を視聴し、Unit 3の設問等に取り組む。Unit 1～３を復習する。	Unit 1～３の動画を繰り返し視聴する。	120分
第8回	英語聴解力アセスメント、中間試験	実用英語検定準2級程度の英語聴解力判定テストとUnit 1～3に関する中間試験を行う。	Unit 1～3の動画を繰り返し視聴する。	120分
第9回	Unit 4 Commuting by Train （1）	動画を視聴し、Unit 4の設問等に取り組む。	Unit 4の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第10回	Unit 4 Commuting by Train （2）	動画を視聴し、Unit 4の設問等に取り組む。	Unit 4の動画を繰り返し視聴する。	120分
第11回	Unit 5 Taking Classes （1）	動画を視聴し、Unitr 5の設問等に取り組む。	Unit 5の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第12回	Unit 5 Taking Classes （2）	動画を視聴し、Unit 5の設問等に取り組む。	Unit 5の動画を繰り返し視聴する。	120分
第13回	Unit 6 Talking with a Teacher （1）	動画を視聴し、Unit 6の設問等に取り組む。	Unit 6の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第14回	Unit 6 Talking with a Teacher （2）	動画を視聴し、Unit 6の設問等に取り組む。	Unit 6の動画を繰り返し視聴する。	120分
第15回	前期に学習したことの復習	前期に学習したUnit 1～Unit 6の内容について復習する。	Unit 1～6の動画を繰り返し視聴する。	120分
第16回	英語聴解力アセスメント、期末試験	実用英語検定準2級程度の英語聴解力判定テストと前期に学習した内容について期末試験を行う。	Unit 1～6の動画を繰り返し視聴し、学習内容について復習する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。英語聴解力アセスメントは得点を学生に知らせる。

評価方法	・評価は、中間試験40%、期末試験40%、平常点20%により判定する。 ・平常点は、授業中の実績、課題の提出状況、英語聴解力アセスメントの結果に基づく。 ・授業中の実績は、授業中の取り組み、思考、発表などを総合する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○	○	○	○
	期末試験	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	Welcome to Nippon!　田地野彰・他（朝日出版社）978-4-255-15682-8
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況にふさわしい発話ができる。 【関心・意欲・態度】積極的に外国語を理解しようと努め、コミュニケーション能力を高めることにより社会の後裔員として徳性をもって人々のために働くことができる。 【技能・表現】学修で得た英語技能をもって他者に自分の考えを伝え、同時に他者の意図を的確に理解できる。
オフィスアワー	水曜2時限　1630研究室
学生へのメッセージ	英語を通じて相手を理解しようとする意欲が英語聴解力、英語読解力を向上させます。授業を活用して確実に英語技能を身につける努力をしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が主体的、積極的に取り組むことで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本　文子	指定なし

ナンバリング	X13630C12
授業概要(教育目的)	英語を使ったコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、重要な英語の表現と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について、理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	Introduction	授業の進め方の説明を行う。	Unit:1の1.Introductory Readingを訳してくること。	60分
第2回	Unit:1 1.Introductory Readingの読解	Unit:1 Introducing YourselfのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第3回	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。	60分
第4回	Unit:1 3.Listeningの音声を聞く	Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。	60分
第5回	Unit:1	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行	Unit 1で学んだことを基に	60分

	3.Listeningの内容の確認	う。	Activity6で自分のことについて答える。	
第6回	自分のことについて表現する	Activity6の練習と発表を行う。 Activity7をまとめる。	Activity7について暗記する。 Unit:2 1 Introductory Readingを訳してくること。	90分
第7回	自分のことについて発表する Unit:2 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:2 My Best FriendのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第8回	Unit:2 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第9回	Unit:2 3.Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:3 1.Introductory Readingを訳してくること。	90分
第10回	自分のことについて発表する Unit:3 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:3 My Typical DayのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第11回	Unit:3 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第12回	Unit:3 3.Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:4 1.Introductory Readingを訳してくること。	90分
第13回	自分のことについて発表する Unit:4 1.Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:4 Shopping Habitsの1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第14回	Unit:4 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったListeningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第15回	Unit:4 3.Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめること。 これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。	180分

学習計画注記	＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。
評価方法	・各Unitの課題の発表ができているかどうか確認する。 ・定期試験はIntrocductory Reading、Grammar Review、Vocabulary and Expressions、Activity6から出題する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題発表	○		○	○
	定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。
オフィスアワー	水曜日4時限　1610研究室
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　愛	指定なし

ナンバリング	X13631C12
授業概要(教育目的)	この授業では、ポップスを通して英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しむと同時に文法にも取り組み、英語の基礎力をバランスよく向上することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	英語の歌を通して、英語そのものや異文化への興味を深めることができる。
技術・表現の観点（A）	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期授業ガイダンス & Classroom English	・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習について ・Classroom English →授業内で使用する表現	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・Classroom Englishを暗記する	60分
第2回	Unit 1 You're Beautiful be動詞	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point : be動詞	第2回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第2回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第3回	Unit 1	・Grammar A, B, C　解答確認および解説	第3回授業の予習	120分

	You're Beautiful be動詞	・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	・曲を聴き、歌詞の確認 第3回授業の復習 ・Let's Review暗記	
第4回	Unit 2 I Want It That Way 一般動詞（現在形）	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：一般動詞（現在形）	第4回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第4回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第5回	Unit 2 I Want It That Way 一般動詞（現在形）	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第5回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第5回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第6回	Unit 3 I The First Time 一般動詞（過去形）	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：一般動詞（過去形）	第6回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第6回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第7回	Unit 3 I The First Time 一般動詞（過去形）	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第7回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第7回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第8回	Unit 4 I Complicated [The Matrix Mix] 進行形	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：進行形	第8回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第8回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第9回	Unit 4 Complicated [The Matrix Mix] 進行形	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第9回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第9回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第10回	Unit 5 My Heart Will Go On 未来表現	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：未来表現	第10回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第10回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第11回	Unit 5 My Heart Will Go On 未来表現	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第11回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第11回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第12回	Unit 6 With You 助動詞	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：助動詞	第12回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第12回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第13回	Unit 6 With You 助動詞	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第13回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第13回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第14回	Unit 7 Torn 受動態	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：受動態	第14回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第14回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第15回	Unit 7 Torn 受動態	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第15回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第15回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第16回	定期試験	学修到達度を確認する試験を実施	・試験に向けて、既習事項の復習を行う	180分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。 次回の授業時にて返却。
評価方法	・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。 （小テストに関する追再試験は行わない） ・定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト・定期試験	○	○		
	平常点	○		○	
	その他			○	

評価割合	小テスト・試験　70% 平常点（学習意欲、履修態度など）　20% その他（任意課題などの提出状況など）　10%
使用教科書名(ISBN番号)	タイトル：Let's Learn English with Pop Hits!　ポップスでスタート！基礎英語 編集者：角山　照彦、他 出版社：成美堂 定価：2,300＋税 ISBN: 978-4-7919-7203-6
参考図書	必要に応じて、授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。 【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。
学生へのメッセージ	楽曲の公式URLは授業時に紹介します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、各曲の日本語の歌詞を作成する。また、Let's Review!を活用して会話表現のoutputも行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀　郁子	指定なし

ナンバリング	X13642M12
授業概要(教育目的)	英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に着けることにあります。 ①テキストを通じて日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、英文レター類の書き方なども学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。 ②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることで複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点（A）	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション Unit 11 Traveling	・授業の進め方 Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns	p51－52（テキストの指示に従って問題に解答しておくこと。以降、毎回同様に準備すること）	30分
第2回	Unit 1 Traveling	Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns ・現代アメリカに生きる女性たち―映画「プラダを着た悪魔」①	p52－54	50分

第3回	Unit 12 Music	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 映画②	ｐ55-58	50分
第4回	Unit 13 Movies	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 映画③	p59-62	50分
第5回	Unit 14 Shopping	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 映画④	p63-66	50分
第6回	Unit15 Internet ハロウィーンについて	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴	p67-69	40分
第7回	Unit15 Internet Unit16 Weather	Unit15 Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns Unit16 Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns 映画⑤	p69-72	50分
第8回	Unit16 Weather Unit17 Feelings	Unit16 Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns Unit17 Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns 映画⑥	p73-76	50分
第9回	Unit17 Feelings Unit18 Government	Unit16 Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns Unit17 Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns 「映画の脚本を読んでみよう！」	p77－81 プリント「映画の脚本を読んでみよう！」を読解しておくこと	60分
第10回	Unit18 Government	Unit18 Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns 「Devil Wears Pradaと20世紀欧米ファッション史」	p80－82	50分
第11回	Unit19 Art	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns	p83－86	60分
第12回	Unit20 The Future	Part1 Warm-up Part2 Listening Patterns Part3 Usage Patterns Part4 Conversation Patterns	p87－90	60分
第13回	場面別英会話：ショッピング クリスマスカードを書こう！ 現代アメリカ文化総まとめ①	・ショッピングの際のスタッフとのやり取り ・クリスマスカードの作成 ・アメリカ現代文化総まとめ①－「プラダを着た悪魔」と20世紀欧米ファッション史	「英文クリスマスメッセージ講座」のプリントを熟読し、クリスマスカードに書く内容を下書きしておくこと。	30分
第14回	場面別英会話：ホテルライフ 現代アメリカ文化総まとめ②	・ホテルにおけるトラブル・シューティング ・現代アメリカ文化総まとめ②－アメリカ現代史とロック・ポップスの歴史	プリントを熟読しておくこと	30分
第15回	場面別英会	・場面別英会話：ホテルライフの続き	・「オバマ前大統領とキング牧	50分

	話：ホテルライフ アメリカ現代文化総まとめ③ー名演説にみるアメリカの社会と文化	・リスニング＋リーディング：名演説にみるアメリカの社会と文化―オバマ前大統領とキング牧師の演説	師の演説」のプリントを熟読しておくこと。	

学習計画注記	授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	随時、小テストを実施します。実施した小テストは、翌週の授業冒頭で答え合わせし、講評します。
評価方法	・課題、小テスト、受講態度、提出物などで総合的に判断します。 ・小テストは、下表に示す力を養うことを目的とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○

評価割合	平常点１０％、小テスト９０％により評価します。
使用教科書名（ISBN番号）	English Listening and Speaking Patterns 1 Andrew E. Bennett著 南雲堂 2000円（税別）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13641M12
授業概要(教育目的)	国際社会における円滑なコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	国外の地域、文化を映像を通して英語で学ぶ。
思考・判断の観点（K）	国外を知ることによって視野を拡げる。
関心・意欲・態度の観点（V）	地域、文化の多様性を知り、寛容な態度の形成につなげる。
技術・表現の観点（A）	基本的な海外旅行英語を使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ヴィクトリア（カナダ）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Asking for Directions	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	カメルーン	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-In Flight Service	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	北島（ニュージーラン	Introduction Video watching	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておく	60分

	ド）	Listening and Conversation Exercise-Customs and Immigration	こと。	
第4回	ネパール	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Airport Check In	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	バーミンガム（イギリス）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Hotel Check In	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	ニース（フランス）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Order in a Restaurant	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	ウィスコンシン（アメリカ）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Shopping	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	リオデジャネイロ（ブラジル）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Streetcars and Buses	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	ウィックロウ（アイルランド）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Ordering Drinks	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	ジュネーブ（スイス）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Trains and Ticketing	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	ゴールドコースト（オーストラリア）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Car Rental	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	セントアンドルーズ（スコットランド）	Introduction Video watching Listening and Conversation Exercise-Making reservations	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	総復習（1）	重要点の総復習と付け足し学習（1）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	総復習（2）	重要点の総復習と付け足し学習（2）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	総復習（3）	重要点の総復習と付け足し学習（3）	授業中に重要として指摘されたことをよく身につけておくこと。	

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは口頭の場合はその場で、筆記の場合は採点して返却する。
評価方法	毎回の小テストは口頭の場合と筆記の場合とある。期末試験期間にはレポートを課す予定。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
	期末レポート	○	○		○

評価割合	小テストの合計50%、期末レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	World Explorer 978-4-255-15387-2
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、【思考・判断】国外の地域と文化についての教養を高める。 【関心・意欲・態度】海外旅行、日常生活で積極的に英語を使おうとする態度を養う。

	【技能・表現】初歩的な観光英語を身に着ける。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限目、昼休み、4時限目
学生へのメッセージ	楽しくて勉強になるビデオ教材です。海外の地域文化について知るだけでなく、簡単な観光英会話も学習します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	X13640M12
授業概要(教育目的)	本授業では、映像視聴を通じて英語の受信・発信力を養成する。随時英語聴解力アセスメントを実施し、英語聴解力の向上を目指す。
履修条件	今年度前期水曜1限のListening & Speaking 1（畝部担当）を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語の聞き取り方、英語の理解の仕方を習得する。
思考・判断の観点（K）	英語の音声パターン、文法、表現を理解する。
関心・意欲・態度の観点（V）	英語の受信・発信能力を高める。
技術・表現の観点（A）	映像を見て日常生活に役立つ英語コミュニケーション力を習得する。

学習計画

Listening & Speaking 2 (Wednesday 1st Period)

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期の復習、英語聴解力アセスメント	実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。採点基準を明らかにして前期期末試験を返却する。動画を視聴してUnit 1～６の内容を復習する。	Unit 1～６の動画を視聴して復習する。Unit 7の動画を視聴して予習する。	120分
第2回	Unit 7 Finding Friends (1)	動画を視聴し、Unit 7の設問等に取り組む。	Unit 7の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第3回	Unit 7 Finding	動画を視聴し、Unit 7の設問等に取り組む。	Unit 7の動画を繰り返し視聴する。	120分

	Friends (2)			
第4回	Unit 8 Potluck (1)	動画を視聴し、Unit 8の設問等に取り組む。	Unit 8の動画を繰り返し視聴する課題を提出する。	120分
第5回	Unit 8 Potluck (2)	動画を視聴し、Unit 8の設問等に取り組む。	Unit 8の動画を繰り返し視聴する。	120分
第6回	Unit 9 Sumo (1)	動画を視聴し、Unit 9の設問等に取り組む。	Unit 9の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第7回	Unit 9 Sumo (2)、これまでのまとめ	Unit 7～9の動画を視聴し、学習内容を復習する。	Unit 7～9の動画を繰り返し視聴する。	120分
第8回	英語聴解力アセスメント、中間試験	実用英語検定準2級程度の英語聴解力判定テストとUnit 7～9で学習した内容について中間試験を行う。	教科書についてはUnit 7～9の動画を繰り返し視聴する。	120分
第9回	Unit 10 Four Seasons (1)	Unit 10の動画を視聴し、設問等に取り組む。	Unit 10の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第10回	Unit 10 Four Seasons (2)、Unit 11 Green Tea (1)	動画を視聴し、Unit 10、Unit 11の設問等に取り組む。	Unit 10、Unit 11の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第11回	Unit 11 Green Tea (2)、Unit 12 Japanese Food (1)	動画を視聴し、Unit 11、Unit 12の設問等に取り組む。	Unit 11、Unit 12の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第12回	Unit 12 Japanese Food (2)、Unit 13 Part-Time Jobs (1)	動画を視聴し、Unit 12、Unit13の設問等に取り組む。	Unit 12、Unit 13の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第13回	Unit 13 Part-Time Jobs (2)、Unit 14 Shopping at a Clothing Shop (1)	動画を視聴し、Unit 13、Unit 14の設問等に取り組む。	Unit 13、Unit 14の動画を繰り返し視聴する。課題を提出する。	120分
第14回	Unit 14 Shopping at a Clothing Shop (2)、Unit 15 Asakusa (1)	動画を視聴し、Unit 14、15の設問等に取り組む。	Unit 14、15の動画を繰り返し視聴する。	120分
第15回	Unit 15 Asakusa (2)、これまでのまとめ	Unit 15の動画を視聴し、後期に学習したUnit 7～15の内容について復習する。	Unit 7～15の動画を繰り返し視聴する。	120分
第16回	英語聴解力アセスメン	実用英語検定準2級程度の英語聴解力判定テストとこれまでに学習した内容について期末試験を行う。	教科書に関しては動画を繰り返し視聴する。	120分

	ト、期末試験			

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	前期期末試験と後期中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。英語聴解力アセスメントは得点を学生に知らせる。
評価方法	・評価は中間試験40%、期末試験40%、平常点により判定する。 ・平常点は、授業中の実績、課題の提出状況、英語聴解力アセスメントの結果を含む。 ・授業中の実績は、授業中の取り組み、思考、発表などを総合する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○	○	○	○
	期末試験	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	Welcome to Nippon! 田地野彰・他（朝日出版社）978-4-255-15682-8
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況にふさわしい発話ができる。 【関心・意欲・態度】積極的に外国語を理解しようと努め、コミュニケーション能力を高めることにより社会の後裔員として徳性をもって人々のために働くことができる。 【技能・表現】学修で得た英語技能をもって他者に自分の考えを伝え、同時に他者の意図を的確に理解できる。
オフィスアワー	水曜2時限　1630研究
学生へのメッセージ	英語を通じて相手を理解しようとする意欲が英語聴解力、英語読解力を向上させます。授業を活用して確実に英語技能を身につける努力をしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening＆Speaking２		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本　文子	指定なし

ナンバリング	X13640C12
授業概要(教育目的)	英語を使ったコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語が世界の共通語として使われている現代社会において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるようになることを目指し、重要な英語の表現と英語の聴解力を向上させるためのポイントについて学習していく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期の学習内容の確認と復習	前期授業の学習内容について確認と復習を行う。	Unit:5 1.Introductory Readingを訳してくること。	90分
第2回	Unit:5 1.Introductory Readingの読解	Unit:5 My Favorite Country 1.Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第3回	Unit:5 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。	dictationの確認と復習をすること。3と4の問題を解いてくること。5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。Activity6で自分のことについて答えること。	60分
第4回	Unit:5	3と4の答え合わせと確認を行う。5の表現について練習す	Activity7についてまとめ、暗	90分

	3.Listeningの内容の確認	る。Activity6で自分のことについて表現する。	記すること。 Unit:6 1.Introductory Readingを訳してくること。	
第5回	自分のことについて発表する Unit:6 1.Introductory Readingの読解 Introductory Reading、Questions	Activity7の内容について発表する。 Unit:6 On CampusのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第6回	Unit:6 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。 5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。	60分
第7回	Unit:6 3.Listeningの内容の確認	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習を行う。6で自分のことについて表現する練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:7の1.Introductory Readingを訳してくること。	90分
第8回	自分のことについて発表する Unit:7 Introductory Readingの読解 1.Introductory Reading	Activity7の内容について発表する。 Unit:7 My Favorite DishのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第9回	Unit:7 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。 5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 6で自分のことについて答えること。	60分
第10回	Unit:7 3.Listeningの内容の確認	3と4の答え合わせと説明を行う。5の表現について練習する。6で自分のことについて表現する練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:8 1.Introductory Readingを訳してくること。	90分
第11回	自分のことについて発表する Unit:8 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:8 My First Foreign LanguageのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。 Questionsの答え合わせを行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第12回	Unit:8 3.Listeningの音声を聞く	2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 Listeningの音声を聞きながら、dictationを行う。	dictationの確認と復習をすること。 3と4の問題を解いてくること。 5.Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答えること。	60分
第13回	Unit:8 3.Listeningの内容の確認	3と4の答え合わせと確認を行う。5について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:9 1.Introductory Readingを訳してくること。	90分
第14回	自分のことについて発表する Unit:9 1.Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:9 In the KitchenのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2.Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第15回	Unit:9 1.Introductory Readingの復習 これまでの授業内容の総復習と確認	1.Introductory Readingの復習 2.Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 これまでの授業内容の総復習と確認を行う。	これまでの授業内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。	180分

学習計画注記	＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業では、次回の学習内容について予習を行ってきた内容について各学生に答えてもらうことで、予習してきた内容がどのくらいできているのかどうか各自に確認してもらう作業となります。

評価方法	・予習をしっかりと行ってきているかどうか授業の中で確認します。 ・予習をしっかりと行ってきているかどうかの平常点と、期末試験を合わせて評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	教科書の各課題	○	○	○	○
	期末試験	○	○		

評価割合	定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、これからの学習に必要な情報や知識を英語の文献からも得る ことができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。
オフィスアワー	火曜日　4限
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。授業に積 極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Listening＆Speaking２		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　愛	指定なし

ナンバリング	X13641C12
授業概要(教育目的)	この授業では、ポップスを通して英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しむと同時に文法にも取り組み、英語の基礎力をバランスよく向上することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	英語の歌を通して、英語そのものや異文化への興味を深めることができる。
技術・表現の観点（A）	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	後期授業ガイダンス ＆ 前期楽曲の復習	・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習について ・前期楽曲のリスニング ・Practice1 ＆ 2	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・配布プリントの確認	60分
第2回	Unit 8 You Are Not Alone [Radio Edit] 現在完了形	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：現在完了形	第2回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第2回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第3回	Unit 8 You	・Grammar A, B, C　解答確認および解説	第3回授業の予習	120分

	Are Not Alone [Radio Edit] 現在完了形	・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	・曲を聴き、歌詞の確認 第3回授業の復習 ・Let's Review暗記	
第4回	Unit 9 You Gotta Be 比較	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：比較	第4回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第4回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第5回	Unit 9 You Gotta Be 比較	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第5回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第5回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第6回	Unit 10 How Crazy Are You? 分詞	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：分詞	第6回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第6回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第7回	Unit 10 How Crazy Are You? 分詞	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第7回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第7回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第8回	Unit 12 Desperado 関係詞	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：関係詞	第8回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第8回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第9回	Unit 12 Desperado 関係詞	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第9回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第9回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第10回	Unit 11 Last Christmas [Pudding Mix] 現在完了形	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：不定詞	第10回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第10回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第11回	Unit 11 Last Christmas [Pudding Mix]	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第11回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第11回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第12回	Unit 13 All I Want For Christmas Is You 接続詞・前置詞	・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：接続詞・前置詞 ・Grammar ・Let's Read!	第12回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第12回授業の復習 ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	120分
第13回	Unit 14 Sunday Morning 動名詞	・Challenge Yourself!　解答確認および解説 ・Let's Review!　解答確認および解説 ・Vocabulary Preview　解答確認 ・Let's Listen Again!　解答確認 ・Let's Listen Again!　歌詞の和訳 ・Grammar Point：動名詞	第13回授業の予習 ・Vocabulary Previewを解く 第13回授業の復習 ・Grammar A, B, C	120分
第14回	Unit 14 Sunday Morning 動名詞	・Grammar A, B, C　解答確認および解説 ・Let's Read! ・Challenge Yourself! ・Let's Review!	第14回授業の予習 ・曲を聴き、歌詞の確認 第14回授業の復習 ・Let's Review暗記	120分
第15回	Review	・後期試験範囲の文法確認	第15回授業の予習 & 復習 ・試験に向けて、既習事項の復習を行う 第15回授業の復習	240分

			・試験に向けて、既習事項の復習を行う	
第16回	定期試験	学修到達度を確認する試験を実施	・試験に向けて、既習事項の復習を行う	240分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。
評価方法	・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。 （小テストに関する追再試験は行わず、遅延は減点とする） ・定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		
	定期試験	○	○		
	その他	○		○	

評価割合	小テスト・試験　70% 平常点（学習意欲、履修態度など）　20% その他（任意課題などの提出状況など）　10%
使用教科書名(ISBN番号)	タイトル：Let's Learn English with Pop Hits!　ポップスでスタート！基礎英語 編集者：角山　照彦、他 出版社：成美堂 定価：2,300＋税 ISBN: 978-4-7919-7203-6
参考図書	必要に応じて、授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。 【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。
学生へのメッセージ	楽曲の公式URLは授業時に紹介します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、各曲の日本語の歌詞を作成する。また、Let's Review!を活用して会話表現のoutputも行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13610C12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点（K）	日常生活の場面場面での英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点（V）	TOEIC受験に向けてその意欲と自信を高める。
技術・表現の観点（A）	TOEICでの高得点を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1. Mission 1 Shopping	1. ショッピング関連の語彙学習（本章で学ぶ内容の予備学習） 2. ショッピング関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	2. Mission 1 Shopping（続） Mission 2 At a Restaurant	1. ショッピング関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. レストラン関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 3. レストラン関連の文法学習（名詞の修飾）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	3. Mission 2 At a	レストラン関連のリーディング学習（ファストフードの抱える問題点、チップの適正額）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておく	60分

	Restaurant（続）		こと。	
第4回	4. Mission 3 At an Airport	1. 飛行場関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 飛行場関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	5. Mission 3 At an Airport（続） Mission 4 Entertainment	1. 飛行場関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 娯楽関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 娯楽関連の文法学習（動詞の変化）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	6. Mission 4 Entertainment（続）	娯楽関連のリーディング学習（自宅でのディナーパーティーで考慮すること、パーティーへの招待状、パーティーに参加した後の礼状）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	7. Mission 5 At a Hotel	1. ホテル関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. ホテル関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	8. Mission 5 At a Hotel（続） Mission 6 Job Hunting	1. ホテル関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 就職活動関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 就職活動関連の文法学習（助動詞）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	9. Mission 6 就職活動（続）	就職活動関連のリーディング学習（就職状況、面接試験受験のために知っておくこと）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	10. Mission 7 Telephoning	1. 電話関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 電話関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	11. Mission 7 Telephoning（続） Mission 8 Negotiating	1. 電話関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 商業交渉関連の語彙学習（本章の予備学習）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	12. Mission 8 Negotiating（続）	1. 商業交渉関連の文法学習 2. 商業交渉関連のリーディング学習（代金の交渉、電気器具の仕様書）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	13. Mission 9 Giving a Presentation	1. プレゼン関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. プレゼン関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	14. Mission 9 Giving a Presentation（続） Mission 10 Appointments	1. プレゼン関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 商用での面会関連の語彙学習（本章の予備学習）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	15. Mission 10 Appointments（続）	1. 商用での面会関連の文法学習 2. 商用での面会関連のリーディング学習（面会の約束を取る、待ち合わせの場所と時間の連絡）	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは口頭試験の場合はその場でのコメント、筆記試験の場合は採点して返却する。
評価方法	授業毎回の小テストは、その時の授業内容により口頭試験の場合と筆記試験の場合とある。期末試験にはレポートを課す予定。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
レポート	○	○		○

評価割合	毎回の小テストの合計50%、レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	Raise Your Score 150 Plus on the Toeic Test（松柏社、2016） 9784881987162

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限、昼休み、4時限
学生へのメッセージ	TOEIC受験を考えていない場合でも、TOEICの性格上日常生活と直結した英語が勉強できます。受験英語と異なる点はそこで、実用的です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本　文子	指定なし

ナンバリング	X13650C12
授業概要(教育目的)	外国語を習得するためには、発音や語彙の学習はもちろん、その言語の文法を十分に学習することが必要です。この授業では、まず高校までに学んだ英語の文法の確認と復習から始めます。そして、文法について理解できているかを確認するため、作文を含めたさまざまな練習問題を解き、その定着を図っていきます。また、平易な英語の文章を読みながら、英語の表現に親しんでいきます。英文法の知識を確実にすることで、英語のreadingとwritingの能力の向上を目指します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語のreadingとwritingに必要な文法知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点（A）	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Introduction	授業の進め方の説明を行う。	Unit 1の予習を行うこと。	60分
第2回	Unit 1 be動詞	Unit 1　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 2の予習を行うこと。	60分
第3回	Unit 2 一般動詞（現在）	Unit 2　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 3の予習を行うこと。	60分
第4回	Unit 3　一般動詞（過去）	Unit 3　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 4の予習を行うこと。	60分
第5回	Unit 4 進行形	Unit 4　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 5の予習を行うこと。	60分

第6回	Unit 5 未来形	Unit 5　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 5の予習を行うこと。	60分
第7回	Unit 6 助動詞	Unit 6　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 6の予習を行うこと。	60分
第8回	Unit 7 名詞・冠詞	Unit 7　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 7の予習を行うこと。	60分
第9回	Unit 8　代名詞	Unit 8　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 8の予習を行うこと。	60分
第10回	Unit 9 前置詞	Unit 9　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 9の予習を行うこと。	60分
第11回	Unit 10 形容詞・副詞	Unit 10　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 10の予習を行うこと。	60分
第12回	Unit 11 比較	Unit 11　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 11の予習を行うこと。	60分
第13回	Unit 12 命令文・感嘆文	Unit 12　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 13	60分
第14回	Unit 13 接続詞（I）	Unit 13　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 14	60分
第15回	Unit 14 不定詞（I）・動名詞（I）	Unit 14　文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	これまでの学習内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。	180分

学習計画注記	＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎時間練習問題の答え合わせと解説を行い、学習内容の定着を図ります。
評価方法	・教科書の各練習問題ができているかどうか確認します。 ・定期試験は文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題から出題します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	教科書の課題	○		○	○
	定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	English Primer〈Revised Edition〉 / Tetsuzo Sato, Yukari Aiko / 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英語を書く力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	X13620C12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点（K）	日常生活の場面場面での英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点（V）	TOEIC受験に向けてその意欲と自信を高める。
技術・表現の観点（A）	TOEICでの高得点を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1. Mission 11 At a Bank	1. 銀行関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 銀行関連の文法学習（仮定法）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	2. Mission 11 At a Bank（続）	銀行関連のリーディング学習（銀行の歴史、オンラインバンキング）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	3. Mission 12 On the Street	1. 路上でのこと関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 路上でのこと関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

第4回	4. Mission 12 On the Street（続） Mission 13 Taking a Trip	1. 路上でのこと関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 旅行関連の語彙学習（本章の予備学習）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	5. Mission 13 Taking a Trip（続）	旅行関連のリーディング学習（時差ぼけを防ぐには、パリ4日間ツアー）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	6. Mission 14 Dealing with Troubles	1. トラブル応対関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. トラブル応対関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	7. Mission 14 Dealing with Troubles（続） Mission 15 Renting an Apartment	1. トラブル応対関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. アパート賃貸関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. アパート賃貸関連の文法学習（関係代名詞）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	8. Renting an Apartment（続）	アパート賃貸関連のリーディング学習（アパートを借りる時に知っておくべきこと、住宅広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	9. Mission 16 Meetings	1. 会議関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 会議関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	10. Mission 16 Meetings（続） Mission 17 Business Performance	1. 会議関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 売り上げ実績関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 売り上げ実績関連の文法学習（比較）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	11. Mission 17 Business Performance（続）	売り上げ実績関連のリーディング学習（商品の売り上げ数、最優秀社員賞授与について）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	12. Mission 18 Handling Customer Complaints	1. 客の苦情関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 客の苦情関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	13. Mission 18 Dealing Customer Complaints（続） Mission 19 Advertising	1. 客の苦情関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 広告関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 広告関連の文法学習（不可算名詞）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	14. Mission 19 Advertising（続）	広告関連のリーディング学習（広告媒体の様々、商品広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	15. Mission 20 Parties	1. パーティー関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. パーティー関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題、ショートトーク問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストが口頭試験の場合はその場でのコメント、筆記試験の場合は採点して返却する。
評価方法	授業毎回の小テストは、その時の学習内容により、口頭試験の場合と筆記試験の場合とある。期末試験はレポートを課す予定。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	小テスト	○	○		○
	レポート	○	○		○

評価割合	毎回の小テストの合計50%、レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	Raise Your Score 150 Plus on the Toeic Test（松柏社、2016）ISBN978-4-88198-716-2
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限、昼休み、4時限
学生へのメッセージ	TOEIC受験を考えていない場合でも、TOEICの性格上日常生活と直結した英語が勉強できます。受験英語と異なる点はそこで、実用的です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Reading＆Writing２		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本　文子	指定なし

ナンバリング	X13650C12
授業概要(教育目的)	外国語を習得するためには、発音や語彙の学習はもちろん、その言語の文法を十分に学習することが必要です。この授業では、まず高校までに学んだ英語の文法の確認と復習から始めます。そして、文法について理解できているかを確認するため、作文を含めたさまざまな練習問題を解き、その定着を図っていきます。また、平易な英語の文章を読みながら、英語の表現に親しんでいきます。英文法の知識を確実にすることで、英語のreadingとwritingの能力の向上を目指します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語のreadingとwritingに必要な文法知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点（A）	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期の学習内容の確認と復習	前期の学習内容について確認と復習を行う。	Unit 15の予習を行うこと。	60分
第2回	Unit 15 受動態	Unit 15 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 16の予習を行うこと。	60分
第3回	Unit 16　完了形	Unit 16 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 17の予習を行うこと。	60分
第4回	Unit 17 接続詞（II）	Unit 17 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 18の予習を行うこと。	60分
第5回	Unit 18 5つの基本文型	Unit 18 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 19の予習を行うこと。	60分

第6回	Unit 19 各種疑問文	Unit 19 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 20の予習を行うこと。	60分
第7回	Unit 20 不定詞（II）	Unit 20 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 21の予習を行うこと。	60分
第8回	Unit 21 Itの特別用法	Unit 21 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 22の予習を行うこと。	60分
第9回	Unit 22 分詞・動名詞（II）	Unit 22 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 23の予習を行うこと。	60分
第10回	Unit 23 関係代名詞	Unit 23 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	Unit 24の予習を行うこと。	60分
第11回	Unit 24 仮定法	Unit 24 文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題	プリント（動詞）の文法問題の予習を行うこと。	60分
第12回	プリント（動詞）の文法問題の解説と答え合わせ	プリント（動詞）　Grammar Check, Exercises, Composition	プリント（動詞）のReading Comprehension I, Reading Comprehension IIの予習を行うこと。	60分
第13回	プリント（動詞）Reading Comprehension I, Reading Comprehension II	文章を読み、内容を把握する。	プリント（前置詞・接続詞（I））の文法問題の予習を行うこと。	60分
第14回	プリント（前置詞・接続詞（I））の文法問題の解説と答え合わせ	プリント（前置詞・接続詞（I））　Grammar Check, Exercises, Composition	プリント（前置詞・接続詞（I））のReading Comprehension I, Reading Comprehension IIの予習を行うこと。	60分
第15回	プリント（前置詞・接続詞（I））Reading Comprehension I, Reading Comprehension II	文章を読み、内容を把握する。	これまでの授業内容の総復習と確認を行い、定期試験に向けて準備をすること。	180分

学習計画注記	＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎時間文法事項の解説を行いながら、練習問題の答え合わせを行い、学習内容の定着を図ります。
評価方法	・教科書の各練習問題ができているかどうか確認します。 ・定期試験は文法事項の説明、基本問題、発展問題、長文問題から出題します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	教科書の課題	○		○	○
	定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	English Primer〈Revised Edition〉/ Tetsuzo Sato, Yukari Aiko / 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英語を書く力を向上させ、英語の文献から も必要な情報や知識を得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。授業に 積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有	概要

	無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Communication English 1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク　ルイス	指定なし

ナンバリング	X13670M12
授業概要(教育目的)	To help students have confidence and the abiliity to use Engish in daily life
履修条件	No prerequisite

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点（K）	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点（V）	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点（A）	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Introductions / About you	Introduce yourself and tell where you are from.	Prepare by reading p. 2-3; and p.34-35.	60
第2回	Coming to school/ lifestyle	Talk about where you live / Are you happy these days?	Prepare by reading p.4-5; 36-37.	60
第3回	Family life	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?	Prepare by reading p. 6-7; 38-39	60
第4回	Work / Club activities	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?	Prepare by reading p. 8-9; 40-41	60
第5回	Seasons	Talk about the weather / What kind of music do you like?	Prepare by reading p. 10-11; 42-43	60

第6回	University Life	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?	p. 12-13; 44-45	60
第7回	Colors	What are you favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?	p. 14-15; 46-47	60
第8回	Free time	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?	p. 16-17; 48-49	60
第9回	Sports	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?	p. 18-19; 50-51	60
第10回	Pets	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?	p.20-21; 52-53	60
第11回	Traveling	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?	p. 22-23; 54-55	60
第12回	Types of people	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?	p. 24-25; 56-57	60
第13回	Technology	Do you like your smartphone? / How often do you cook?	p. 30-31; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare with a partner for the speaking test. Students can choose topics to use from the book.	p. 2-59	120
第15回	Speeking Test	Five minute speaking test with a partner. A natural English conversation without notes or books.	p. 2-59	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class participation.
評価方法	Quizzes are worth 10 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	Quizzes	○	○	○	○
	Speaking Test	○	○	○	○
	Participation	○	○	○	○
	Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名(ISBN番号)	Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)
参考図書	A Japanese - English dictionary
参考URL	http://www.hotcocoa.jp/
ディプロマポリシーとの関連	Ability to speak and understand English at a basic level.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday, 13:00-14:00; Machida Campus: Wednesday, 9-10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Communication English 2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク　ルイス	指定なし

ナンバリング	X13680M12
授業概要(教育目的)	To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点（K）	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点（V）	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点（A）	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Introductions	How to talk about where you live / your summer vacation	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.	60
第2回	Work and play	Your circles and clubs / your shopping habits	p. 4-5; 36-37	60
第3回	Seasons / Colors	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food	p. 6-7; 38-39	60
第4回	Yesterday / This evening	What did you do last weekend? / How do you get the news?	p. 8-9; 40-41	60
第5回	Movies / music	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)	p. 10-11; 42-43	60
第6回	University	What will you do after you graduate? / How about	p. 12-13; 44-45	60

	life	eating out with friends?		
第7回	Free time	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?	p. 14-15; 46-47	60
第8回	Meals	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know	p. 16-17; 48-49	60
第9回	Coffee / ramen	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!	p. 18-19; 50-51	60
第10回	Technology	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?	p. 20-21; 52-53	60
第11回	Animals	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?	p.22-23; 54-55	60
第12回	Sightseeing	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?	p. 24-25; 56-57	60
第13回	More technology	Your smartphone and web-browsing / How was you New Year break?	p.28-29; 60-61	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare for the final speaking test with a partner. Students can choose the topics from the book they want to talk about. No notes or books during the speaking test.	p, 2- 61	120
第15回	Speaking Test	Five minute speaking test with a partner in natural English.	p. 2 -61	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feeback from the teacher.
評価方法	Weekly quizzes are worth 10 points. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the quizzes. The final test lets you know how comfortable and fluent you've becomd speaking English.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	Quizzes	○	○	○	○
	Speaking Test	○	○	○	○
	Participation	○	○	○	○
	Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名(ISBN番号)	Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)
参考図書	A Japanese - English dictionary
ディプロマポリシーとの関連	Ability to speak and understand basic English conversation.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday 1300- 14:00; Machida Campus: Wednesday, 9- 10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	英語検定対策講座		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀　郁子	指定なし

ナンバリング	X13690M12
授業概要(教育目的)	本講座は、初めてTOEIC受検対策に臨む方を対象としています。まずは日常的なコミュニケーションができるレベルを目標に据えて勉強していきましょう。ただ、TOEICには日本の高校までの学校英語では対応できないような問題も出題されます。授業では、そのための勉強法も伝授します。高校までの英語を復習しながら、TOEICテストへの取り組み方を学び、解法のコツや戦略を身につけましょう。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	平易なビジネス文書を読解し、必要な情報を取捨選択できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	一定の限度内では、日常生活のニーズを充足し、業務上のコミュニケーションを図れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 第1課　外食	・授業の進め方について ・TOEICテストについて ・リスニング・セクション	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課　外食	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞 ・映画視聴（リスニング力向上のため、毎回10分程度視聴します）	テキストp2－8（リスニング・セクションはわかるまで何度もCDを聞き、リーディング・セクションは充分に読解したうえで解答すること。以降、同様に予習すること。）	60分

第3回	第2課　旅行	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞の時制（１） ・映画視聴	p9－15	60分
第4回	第2課　旅行 第3課　娯楽	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞の時制（２） ・映画視聴	p16-19、21－22	60分
第5回	第3課　娯楽 第4課　会合	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：代名詞 ・映画視聴	p23-29（第3課以降、リーディングのPart6はとばす）	60分
第6回	第4課　会合 第5課　人事	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：不定詞 ・映画視聴	p30－33,35-36	60分
第7回	第5課　人事 第6課　買い物	リスニング・セクション リーディング・セクション ・映画視聴	p37－40	60分
第8回	第6課　買い物 第7課　広告	第6課　リーディング・セクション 文法：動名詞 第7課　リスニング・セクション ・映画視聴	p41-46	60分
第9回	第7課　広告	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：冠詞・名詞（１） ・映画視聴	p44－50（第7課以降、リスニングはPart3-4のみ扱う）	60分
第10回	第8課　日常生活	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：冠詞・名詞（２） ・映画視聴	p51－58	60分
第11回	第9課　オフィス・ワーク	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：仮定法 ・映画視聴	p59-65、仮定法のプリント（読んで設問に解答しておくこと）	120分
第12回	第9課　オフィス・ワーク 第10課　ビジネス	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：仮定法、分詞 ・映画視聴	p66－73	90分
第13回	第10課　ビジネス 第11課　交通 第12課　金融と銀行	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：関係詞、接続詞 ・映画視聴	第11課以降、予習範囲は教室で指示します。	90分
第14回	第12課　金融と銀行 第13課　メディア	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：接続詞 ・映画視聴	教室で指示します。	90分
第15回	第14課　健康と福祉 ・TOEIC受検に当たっての心構え ・問題集・単語集などの選び方	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：前置詞 ・映画視聴	教室で指示します。	60分
第16回				

学習計画注記	あくまでも予定です。状況によってスケジュールや進度が変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	随時、小テストを実施します。実施した小テストは、翌週の授業冒頭で解答解説を行います。
評価方法	小テスト10回-13回を100点換算して評価します。 ・小テストは下表に示す力を養うことを目的に実施しています。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			○

評価割合	平常点10%、小テスト90%により評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST : Level 1 北尾靖幸、他､著 朝日出版社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【技能・表現】 学修で得た英語技能をもって、国際的なビジネスの現場でコミュニケーションを図る能力。
学生へのメッセージ	充分な予習をしたうえで授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	英語検定対策講座		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　愛	指定なし

ナンバリング	X13690C12
授業概要(教育目的)	この授業では、TOEICの問題集を教材として、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、試験で得点を伸ばすと同時に社会のニーズに応えられるような英語運用能力を養成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	培った知識により、（検定試験において）正しい選択肢を選ぶことができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	目標スコアを設定し、自信をもって積極的に受験できる。
技術・表現の観点（A）	長文の速読に慣れ、必要な情報を的確に選択できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業ガイダンス & TOEICについて	・成績評価、テキスト、授業の進め方 ・予習、復習について ・TOEICとは？ ・PART 1～7：各セクションについて解説	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・授業時に配布する資料を確認する	90分
第2回	Unit 1 Daily Life 品詞	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 1 & 2] ・Reading [Part 5 & 6]	第2回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Unit 2 Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第2回授業の復習	120分

			・単語テスト & ディクテーション問題配布	
第3回	Unit 2 Office 代名詞	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 1 & 3] ・Reading [Part 5 & 7]	第3回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第3回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第4回	Unit 3 Meeting & Event 前置詞と接続詞 1	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 2 & 4] ・Reading [Part 5 & 6]	第4回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第4回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第5回	Unit 4 Shopping 前置詞と接続詞 2	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening [Part 2 & 3] ・Reading [Part 5 & 7]	第5回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第5回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第6回	Unit 5 Advertisement & Notice 助動詞	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 6]	第6回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第6回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第7回	Unit 6 Restaurant & Food 進行形と完了形	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 7]	第7回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第7回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第8回	Unit 7 Complaint & Inquiry 受動態	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 6]	第8回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第8回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第9回	Review Test 1	Unit 1 ～7までのまとめとしてReview Testを実施（全40問）	第9回授業の予習 ・Unit 1 ～7までの見直し 第9回授業の復習 ・Part 5の和訳	120分
第10回	Unit 8 Personnel to不定詞	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 7]	第10回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第10回授業の復習	120分

			・単語テスト & ディクテーション問題配布	
第11回	Unit 9 Travel 分詞	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 6]	第11回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第11回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第12回	Unit 10 Business 動名詞	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 7]	第12回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第12回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第13回	Unit 11 Business 関係詞	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 6]	第13回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第13回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第14回	Unit12 Manufacturing & Logistics 比較	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 2 & 4] ・Reading Part [Part 5 & 7]	第14回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第14回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布	120分
第15回	Unit 13 Finance 仮定法	・Warm-Up Questions, Words & Expressionsの解答確認および解説 ・Practice ・Short Listening ・Listening Part [Part 1 & 3] ・Reading Part [Part 5 & 7]	第15回授業の予習 ・Grammar Focusの確認 ・Warm-Up Questions, Wards & Expressionsを解く →次回の授業時に解答確認および解説 第15回授業の復習 ・単語テスト & ディクテーション問題配布 ・試験に向けて、既習事項の復習を行う	120分
第16回	定期試験	学修到達度を確認する試験を実施	・試験に向けて、既習事項の復習を行う	240分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合もしくはその他の要因により、スケジュールに変更が生じることがある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせおよび解説を行い、回収。 次回の授業時に返却。
評価方法	・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。 （小テストに関する追再試験は行わず、遅延は減点とする） ・定期試験は、授業内容を中心として出題する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト・定期試験	○	○	○	○
平常点	○		○	○

	その他	○		○	○

評価割合	小テスト・試験　70% 平常点（学習意欲、履修態度など）　20% その他（任意課題などの提出状況など）　10%
使用教科書名(ISBN番号)	タイトル：BASIC UNDERSTANDING OF THE TOEIC L&R TEST　TOEIC L&Rテスト基礎徹底トレーニング 編集者：小倉　雅明 出版社：金星堂 定価：2,300＋税 ISBN: 978-4-7647-4155-3
参考図書	必要に応じて、授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ビジネス一般で通用する基本的な能力がある。
学生へのメッセージ	授業を通して、TOEICの様々な問題に慣れていきましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	単なる解法テクニック教授の授業にならないよう、「その解答を導いたプロセス」について、履修者に積極的な発言を求める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フランス語入門1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部　素幸	指定なし

ナンバリング	X13710M12
授業概要(教育目的)	フランス語を初めて学習する人を対象に、発音、入門的な文法、基礎的な会話文などを学びます。アルファベ、それに発音と綴り字の読み方という、フランス語学習の最初歩から授業を始めます。早い時期に綴り字の読み方の習得に成功すると、その後の学習効果が格段に上がりますので頑張ってください。まず文法項目ごとに「口頭練習」をし、その上でさまざまなタイプの練習をバランスよく行うように教科書は構成されています。教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。教科書の対話で展開されるストーリーも、パリにやってきた日本人学生ミカが。やがてボルドーを訪れ、料理やワインに関心を持っていくという設定になっていますので、皆さんはきっとフランスの食文化を始めとしたさまざまな文化の特徴や楽しさを知ることになるでしょう。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 ２．挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	１．ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 ２．フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点（A）	１．他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 ２．フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 授業への導入　世界遺産「パリのセーヌ河	英語のアルファベットの読みとの違いに注意しながら、フランス語のアルファベを学びます。例えば、「私は、ミカといいます」と自分の名前を名乗る際、Mika の綴りをアルファベで言えるようになります。。また、例え	教科書 p.6 ～ p.7 に出ている単語を発音し、発音と綴り字の関係に留意して、つづりを正確に覚えるようにしましょう。授業後は、授業で扱った内容を確	120分

	岸」　第０課「フランス語の発音と綴り字」（１）アルファベ、つづり字記号	ば、 menu のような英語と同じ綴りの語であっても、フランス語では発音がかなり違うことを学びます。	実に身に付けるべく復習してください。毎回の復習時には、付属のCDを用いて、何度も発音の練習をしてください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています（「学生へのメッセージ」参照のこと）。	
第2回	第０課「フランス語の発音と綴り字」（２）つづり字と発音	フランス語の単母音字と複母音字、音（母音・鼻母音・半母音・子音）を理解し、発音の仕方を学びます。フランス語のつづり字の読みと発音を学びます。	アルファベの読みと発音を正確に覚えます。教科書に出てきたフランス語の単語を何度も発音して、フランス語のつづり字と音との関係をつかみましょう。次週の授業の最初に、第０課の小テストを実施しますので、第０課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第3回	第０課小テスト　第１課「自己紹介する」（１）あなたは日本のかたですか？	（冒頭で、第０課の小テストを実施）主語人称代名詞、動詞 être の活用、国籍を表す形容詞といった文法事項を学びます。相手と自己紹介をし合うことができるようになります。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第4回	第１課「自己紹介する」（２）私はミカといいます。はじめまして。	第０課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。国籍を表す形容詞（～人の）の語彙を増やします。「きみイタリア人？」「いや、ドイツ人だよ」などが分かるようになります。第１課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第１課の小テストを実施しますので、第１課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第5回	第１課小テスト　第２課「物を指し示す」（１）ミカさん、これは何ですか？	（冒頭で、第１課の小テストを実施）名詞と不定冠詞、指示代名詞 ce 、形容詞の性・数の一致と位置といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第6回	第２課「物を指し示す」（２）それは日本の電子辞書です。	第１課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。名詞の後ろに置く形容詞・前に置く形容詞の語彙を増やします。「フランスの車」「いい映画」などが言えるようになります。第２課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第２課の小テストを実施しますので、第２課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第7回	第２課小テスト　第３課「尋ねる」（１）どこに住んでいるの、ミカ？	（冒頭で、第２課の小テストを実施）規則動詞（-er動詞）の活用、定冠詞、疑問文といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第8回	第３課「尋ねる」（２）あなたはパリにお住まいですか？	第２課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。街にあるものの語彙を増やします。広場、橋、警察署、市役所、教会といった言葉を使って意思疎通ができるようになります。p.22 ～ p.23 にある 復習のページを使って知識の定着を図ります。第３課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第３課の小テストを実施しますので、第３課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第9回	第３課小テスト　第４課「買い物をする（１）こんにちは。おいくらです	（冒頭で、第３課の小テストを実施）指示形容詞 ce 、動詞 avoir の活用、否定文といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分

	か、このメロンは？			
第10回	第４課「買い物をする」（２）小銭はお持ちではありませんか？	第３課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。数字（ １ ～ 30 ）を学びます。第４課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第４課の小テストを実施しますので、第４課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第11回	第４課小テスト　第５課「物事や人について尋ねる」（１）向こうで何をするつもりなの？	（冒頭で、第４課の小テストを実施）動詞 aller と近接未来、疑問代名詞 que, qui 、不規則動詞といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第12回	第５課「物事や人について尋ねる」（２）誰と一緒にパリに行くのですか？	第４課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。フランスの主要都市名を学びます。第５課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第５課の小テストを実施しますので、第５課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第13回	第５課小テスト　最初から第５課までの復習	（冒頭で、第５課の小テストを実施）補足の問題プリントを用いて演習します。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第14回	問題演習	第５課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。補足の問題プリントを用いて演習します。	（次週、冒頭で前期授業の総まとめのテストを行うかもしれません。その場合は２週前には告知します）前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	120分
第15回	（前期授業の総まとめのテスト）前期授業の総復習、練習問題演習	（前期授業の総まとめのテストを実施、それを回収後に解答解説をする可能性があります）前期の授業内容の総復習、練習問題演習をします。	前期の授業内容の総復習をしてください。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。
評価方法	例年各学期、15回の授業の後の16回目に定期試験日が設けられていましたが、昨年度同様2021年度の前期は例年とは違い、定期試験日が設けられていません。そこで、シラバスを執筆している現時点では、平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）で評価を出そうと考えています。しかし、第15回目の授業日の中で、平常点を構成する１つの要素としての扱いですが、それまでに学習し終えた課までの総合的な試験、いわゆる期末試験に相当する試験を行うことがあるかもしれません。（私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉学意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是是非非、公正に評価します）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（小テストを含む）	○	○	○	○

評価割合	原則、平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）で評価します。詳しくは評価方法の項を参照してください。
使用教科書名(ISBN番号)	『パリーボルドー』　藤田裕二著　朝日出版社刊　定価（本体2,500円＋税）　978-4-255-35259-6
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察

	し、理解できるようになる。 【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。 【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フランス語入門1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ アニー　フランス	指定なし

ナンバリング	X13710C12
授業概要(教育目的)	授業を通して、フランス人の生活ぶりを覗いたり、フランスを旅行する時やフランス人に出会うときに役立つ会話を学び、フランスに親しみを持てるようになりましょう。 フランス語会話（入門）の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれれば、簡単なやり取りをすることができるようになります。主題はフランス料理といった食文化から学びます。また、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画やゲームも学ぶことで、両者の文化の関係性を知ることができるようになります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	異文化(フランス)への理解を高め、知識を深める。
思考・判断の観点（K）	異文化(フランス)を通した文化比較判断の視点を持つ。
関心・意欲・態度の観点（V）	フランス人及びフランス文化に対して意欲的でより豊かな表現で接するようになる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Introduction : La France フランスの紹介とフランスの有名な言葉	教科書 《 La France 》（２ページと３ページ）とプリント	早めに教科書を手に入れる	120分
第2回	Saluer 挨拶する	教科書レッスン１（４−５ページと書き方の練習８ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第3回	Épeler 名前の綴り	教科書レッスン２（６−７ページと９ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第4回	Compter 0から55の数	教科書レッスン２プリントとBINGO ゲーム	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第5回	Se présenter 自己紹介	教科書レッスン３（１０−１１ページと書き方の練習１４ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第6回	Les nationalités 国籍	教科書レッスン４（１２−１３ページと書き方の練習１５ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第7回	Demander le prix 値段を尋ねる	教科書レッスン４（１６−１７ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分

第8回	Les goûts - les différences 好み	教科書レッスン５（１８−１９ページと書き方の練習２２ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第9回	Mon passe-temps 趣味	教科書レッスン６（２０−２１ページ書き方の練習２３ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第10回	Les chansons françaises　フランスのシャンソン	プリント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第11回	Parler des autres　人の紹介する	教科書レッスン７（２４−２５ページ書き方の練習２８ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第12回	Caractéristiques 人と動物の特徴	教科書レッスン８（（２６−２７ページ書き方の練習２９ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第13回	Les dessins animés français フランスと日本のアニメ	ヴィデオとプリント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第14回	Révisions　復習	教科書２８−２９ページ	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第15回	Présentation プレゼンテーション：家族の紹介	プレゼンテーション	前のレッスンの復習とプレゼンテーションの準備	240分

学生へのフィードバック方法	授業中で口頭による評価
評価方法	授業態度・小テストを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業態度	○	○	○	○
	小テスト	○			

評価割合	授業態度: 50% 小テスト: 50%
使用教科書名(ISBN番号)	“Patachou 1 - Conversation”朝日出版社 ISBN : 978-4-255-35205-3
参考図書	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】簡単なフランス語で自己や他者の紹介をすることができる。 【思考・判断】フランス文化がどういったものか理解している。 【関心・意欲・態度】フランスに対する関心意欲が向上し、自発的に学習する力を身につけている。
学生へのメッセージ	短い会話を覚える。（小テストがあります） 必ず教科書を忘れないようにする。 学校に教科書を忘れた際は、必ず授業前にレッスンのページを他学生にコピーをさせてもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フランス語入門2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部　素幸	指定なし

ナンバリング	X13720M12
授業概要(教育目的)	前期と同様です。教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 ２．挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	１．ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 ２．フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点（A）	１．他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 ２．フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期の学習内容の復習第６課「場所を尋ねる」（１）あなたのホテルは何（どちら）ですか？	前期の学習内容の復習です。練習問題のプリントも配布して、文法の復習をします。所有形容詞、疑問形容詞といった文法事項を学びます。	教科書、ノート、配布した補足の練習問題のプリントを使って、前期の授業で学んだことを予め復習してきてください。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。毎回の復習時には、付属のCDを用いて、何度も発音の練習をしてください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は	120分

			考えています（「学生へのメッセージ」参照のこと）。Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	
第2回	第６課「場所を尋ねる」（２）このままっすぐ行って、２番目の道を右に進んでください。	挨拶・日常表現を学びます。第６課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第６課の小テストを実施しますので、第６課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第3回	第６課小テスト　第７課「～したいと言う」（１）ワイナリー巡りをしたいのですが。	（冒頭で、第６課の小テストを実施）人称代名詞の強勢形、指示代名詞 celui 、il y a ～ と je voudrais ～ の表現といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第4回	第７課「～したいと言う」（２）新婚旅行ではどこに行きたい？	第６課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。観光に関する語彙を学びます。第７課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。 p.40 ～ p.41 にある復習のページを使って知識の定着を図ります。	次週の授業の最初に、第７課の小テストを実施しますので、第７課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第5回	第７課小テスト、第８課「興味を述べる」（１）私、ワインにすごく興味を持っているの。	（冒頭で、第７課の小テストを実施）定冠詞の縮約、補語人称代名詞といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第6回	第８課「興味を述べる」（２）私は２０歳になったばかりよ。	第７課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。国の名前を学びます。第８課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第８課の小テストを実施しますので、第８課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第7回	第８課小テスト　第９課「誘う」（１）明日、僕と一緒にサン=テミリオン村に行かないかい？	（冒頭で、第８課の小テストを実施）代名動詞、中性代名詞 y といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第8回	第９課「誘う」（２）じゃあ、９時に駅でまた会おうよ。	第８課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。日常よく用いられる代名動詞を学びます。第９課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第９課の小テストを実施しますので、第９課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第9回	第９課小テスト　第１０課「天候と時刻を言う」（１）なんといい天気なんだろう、今日は！	（冒頭で、第９課の小テストを実施）非人称構文、命令形、感嘆文といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第10回	第１０課「天候と時刻を言う」（２）今、何時です	第９課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。天候と時刻の表現を学びます。第１０課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation	次週の授業の最初に、第１０課の小テストを実施しますので、第１０課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス	120分

	か？ー２時１５分です。	の映像を見ます。 p.54 ～ p.55 にある復習のページを使って知識の定着を図ります。	語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	
第11回	第１０課小テスト、第１１課「数量を表す」（１）もっとワイン欲しい？ーうん、もう少し欲しいわ。	（冒頭で、第１０課の小テストを実施）部分冠詞、中性代名詞 en 、数量の表現といった文法事項を学びます。	Dialogueの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第12回	第１１課「数量を表す」（２）ミカはパンにバターを付けて食べ、カフェオレを飲みます。	第１０課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。食べ物と飲み物の名詞を、適切な部分冠詞を付けた形で学びます。第１１課で学んだ文法事項の理解度を確認する各種 Exercices を解き、４行程度の量のフランス語文を読んで日本語に訳す Lecture を行います。フランスの文化を紹介する Civilisation の映像を見ます。	次週の授業の最初に、第１１課の小テストを実施しますので、第１１課の範囲全体を、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第13回	第１１課小テスト　第６課から第８課までの復習	（冒頭で、第１１課の小テストを実施）第６課から第８課までを復習します。補足の問題プリントを用いて演習します。	前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	120分
第14回	第９課から第１１課までの復習	第１１課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。第９課から第１１課までを復習します。第１２課以降に配当されているけれども、当授業でぜひ学んでおきたい表現を幾つか取り上げます。	次々週が定期試験ですから、前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	120分
第15回	後期授業の総復習、練習問題演習	後期の授業内容の総復習、練習問題演習をします。	次週が定期試験ですから、前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。
評価方法	評価の基準は、期末の定期試験の結果が６０％に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）が４０％です。（私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉学意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是是非非、公正に評価します）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（小テストを含む）	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、期末の定期試験の結果が６０％に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）が４０％です。
使用教科書名(ISBN番号)	前期の入門１で使用した同じ教科書を継続して使用します。 『パリーポルドー』　藤田裕二著　朝日出版社刊　定価（本体2,500円＋税）　978-4-255-35259-6
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。 【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。 【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上

	で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フランス語入門2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ アニー　フランス	指定なし

ナンバリング	X13720C12
授業概要(教育目的)	授業を通して、フランス人の生活ぶりを覗いたり、フランスを旅行する時やフランス人に出会うときに役立つ会話を学び、フランスに親しみを持てるようになりましょう。 フランス語会話（入門）の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれれば、簡単なやり取りをすることができるようになります。 主題はフランス料理といった食文化から学びます。また、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画やゲームも学ぶことで、両者の文化の関係性を知ることができるようになります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	異文化(フランス)への理解を高め、知識を深める。
思考・判断の観点（K）	異文化(フランス)を通した文化比較判断の視点を持つ。
関心・意欲・態度の観点（V）	フランス人及びフランス文化に対して意欲的でより豊かな表現で接するようになる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	レッスン1～8の復習(Patachou)文化：フランス のマンガの人物の紹介	教科書Patachou レッスン1～8	前期の復習	120分
第2回	La possession 持ち物	教科書レッスン９（３４-３５ページと書き方の練習３８ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分

第3回	les vêtements et les couleurs 洋服と色－	教科書レッスン１０（３６-３７ページと書き方の練習３９ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第4回	Magazines de mode ファッションマガジンとネットショッピング	ネットショッピングのシミュレーション	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第5回	l’âge et la majorité 年齢と成人期	教科書レッスン１１（４０-４１ページと書き方の練習４４ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第6回	フランスの文化：飲酒年齢・喫煙年齢	インターネットリサーチ	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第7回	la famille: 家族について話す	教科書レッスン１２（４２-４３ページと書き方の練習４５ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第8回	jeu de 7 familles －カードゲーム	プリント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第9回	Exprimer une intention 意思表示	教科書レッスン１３（４８-４９ページと書き方の練習５２ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第10回	Chez le médecin 病院に行く	教科書レッスン１４（５０-５１ページと書き方の練習５３ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第11回	Dire et demander l’heure 時間の言い方	教科書レッスン１５（（５４-５５ページ書き方の練習５８ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第12回	Noël et ″la galette des rois″: フランスのクリスマス／ガレット・デ・ロワ（１月のケーキ）のレシピ	ヴィデオとドキュメント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第13回	Parler de ses projets 予定について話す	教科書レッスン１６（５６-５７ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第14回	Parler de ses projets 予定について話す	教科書レッスン１６（５６-５７ページと書き方の練習５９ページ）	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第15回	Ecrire une lettre à une famille d’accueil ホストファミリに手紙を書く.		レッスン９～１６の復習	120分

第16回				
第17回				

学生へのフィードバック方法	授業中で口頭による評価
評価方法	授業態度・小テストを総合的に評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業態度	○	○	○	
	小テスト	○			

評価割合	授業態度: 50% 小テスト: 50%
使用教科書名(ISBN番号)	“Patachou 1 - Conversation” 朝日出版社 ISBN : 978-4-255-35205-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】簡単なフランス語で買い物や意思表示することができる。 【思考・判断】フランス文化がどういったものか理解している。 【関心・意欲・態度】フランスに対する関心意欲が向上し、自発的に学習する力を身につけている。
学生へのメッセージ	短い会話を覚える。（小テストがあります）
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フランス語初級1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部　素幸	指定なし

ナンバリング	X15710C12
授業概要(教育目的)	フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみてはいかがでしょうか。たとえ全くの初学者であっても、本人に学ぼうとする強い意欲があるなら大丈夫だと思います。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．入門程度の知識をさらに確実にする。 ２．使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やす。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	１．ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 ２．フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点（A）	１．他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 ２．フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業への導入、方向付け	集まった皆さんのフランス語学習歴やフランス語の知識を、まず問います。初学者ばかりのときも、あるいはまた、すでにフランス語の勉強を始めている人が多いときもありました。皆さんの様子を見定めてから、授業を始めます。私としては、どのようにも対応できるように準備しておきます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家で	120分

			の復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第2回	「私は名前を～といいます。／日本人です」	挨拶や自己紹介の仕方を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第3回	「あなたはフランスのかたですか？」	国籍を表す形容詞を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第4回	「これは何ですか？／ほらあそこに教会があります」	物を指し示して、それが何であるか尋ねたり、その問いに答えることができるようになります。その他、提示の表現も学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第5回	「兄弟姉妹はいますか？／私は21歳です」	動詞avoirを用いる表現を、さまざま学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第6回	「フランスの歌はお好きですか？」	好き嫌いを言えるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第7回	「きみはワインを買うの？－いや、買わないよ」	疑問文や否定文について学びます。英語にはない部分冠詞や否定の冠詞deも学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第8回	「私はテレビを見たい。／ワインはいかがですか？」	動詞vouloirを用いる表現を、さまざま学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第9回	「どんな花がお好きで	疑問形容詞を学びます。「どんな」「どの」「何」を尋ねることができるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞	120分

	すか？」		きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第10回	「このホテルは快適です／これはきれいな花です」	品質形容詞を学びます。性・数一致や置かれる位置など。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第11回	「ルーブル美術館へ行きます。／どこから来ましたか？」	「～へ行く」「～から来る」、動詞で言えば、英語のgoとcomeに相当する、allerとvenirを使う表現を学びます。関連して、定冠詞の縮約や「どこに」「どこから」などの疑問副詞も学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第12回	「大学へはどうやって来ますか？／なぜフランス語を学びますか？」	前回に引き続き、疑問副詞を学びます。今回は、理由の尋ね方「なぜ」「どうして」、そして答え方「なぜなら」です。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第13回	「今何時ですか？－4時15分前です」	時刻の尋ね方、時刻の言い方を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第14回	「いつフランスにもどりますか／おいくらですか？」	疑問副詞「いつ」「いくら」「いくつ」を用いる表現を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第15回	前期の授業の総復習	前期の授業の総復習をします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。 なお、一週間にひとコマずつ進める通常の授業とは異なり、一日に３コマ進める集中授業です。そのため、「教室外学習の時間」の欄に何と書くとよいのか迷いましたが、とりあえずは標準的な時間（120分）を挙げておきました。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、速やかに返却します。その際に解答・解説、及び講評

をします。

評価方法	平常点に期末の定期試験と、大きく２つ評価対象があるとして、総合評価ではありますが、皆さんひとりひとりの力や意欲をより細かく具体的・立体的に把握しやすい少人数のクラスとなるでしょうから、平常点の占める割合が大きいでしょう。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。知識を学び取ろうとする勉学意欲を大きく評価します。詳しくは初回の授業で話します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（小テストを含む）	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、平常点が７０%に、定期試験の結果が３０%です。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しません。受講する皆さんの希望に沿った教材プリント等をこちらで用意します。
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。 【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。 【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フランス語初級2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部　素幸	指定なし

ナンバリング	X15720C12
授業概要(教育目的)	前期と同じく、フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみてはいかがでしょうか。たとえ全くの初習者であっても、勉学意欲さえあれば大丈夫です。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．入門程度の知識をさらに確実にする。 ２．使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やす。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	１．ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 ２．フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点（A）	１．他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 ２．フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業への導入、方向付け	集まった皆さんのフランス語学習歴やフランス語の知識を、まず問います。初学者ばかりのときも、あるいはまた、すでにフランス語の勉強を始めている人が多いときもありました。後期からの人もいるのでしょうか。皆さんの様子を見定めてから、授業を始めます。私としては、どのようにも対応できるように準備しておきます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家で	120分

			の復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第2回	前期の復習１　重要な動詞の活用、	être、avoir、 - er動詞、prendre、vouloir、pouvoir、aller,venir、faireなどといった重要な動詞の直説法現在の活用を確認します。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第3回	前期の復習２　否定文、疑問文、応答文、命令文	否定文、疑問文、応答文、命令文について、知識を確かなものにします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第4回	前期の復習３　形容詞と副詞	形容詞と副詞について、知識を確かなものにします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第5回	複合過去形１　助動詞être	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にêtreを用いる動詞について学びます。「私は昨日、映画を見に行った」「私は何年何月何日に生まれました」などが言えるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第6回	複合過去形２　助動詞avoir	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にavoirを用いる動詞について学びます。「私は昨日腕時計を買いました」「私は財布を失くした」などが言えるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第7回	代名詞の広がり１　直接目的語を人称代名詞に	connaitre ～「～を知っている」,voir ～「～に会う、～が見える」,attendre ～「～を待つ」,visiter ～「～を訪れる」といった動詞を使って、練習問題をします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第8回	代名詞の広がり２　間接目的語を人称代名詞に	téléphoner à ～「～に電話する」、donner ～ à ～「～を～にあげる」、montrer ～ à ～「～を～に見せる」といった動詞を使って、練習問題をします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第9回	代名詞の広がり３　強	強勢形代名詞、代名動詞を学びます。「私は日本人です。であなたは？」「これはきみへのプレゼントだよ」	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞	120分

	勢形代名詞、代名動詞	などの表現が使えるようになります。	きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第10回	代名詞の広がり４　中性代名詞	中性代名詞en、ｙ、それにleを学びます。「あなたはパンを食べますか？」「あなたには兄弟がいますか？」などの問いに答えるときに必要となる代名詞です。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第11回	表現の幅を広げよう１もうひとつの過去時制	直説法複合過去と同じく重要な過去時制に、直説法半過去があります。たとえば、「彼女は若かったころパリに住んでいた」「私がテレビを見ていると彼が家にやってきた」などと言うときに必要となる時制です。この時制を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第12回	表現の幅を広げよう２天候や時間を言う（非人称表現）	非人称主語のilを主語に立てて文を作ります。「どんな天気ですか？」「いい天気です」「雨が降っています」「今何時ですか？」「昼の12時半です」などといったことが言えるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第13回	表現の幅を広げよう３関係代名詞を使う	関係代名詞を学びます。重要な関係代名詞には、qui、que、où、dontがあります。それぞれの用法を理解します。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第14回	表現の幅を広げよう４意思を伝える	動詞vouloirの直説法現在は、すでに学びましたが、今回は条件法現在に活用した形を学びます。条件法現在に活用すると、「～したいのですが」「～がいただきたいのですが」と語調が緩和されます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第15回	後期の授業の総復習	後期の授業の総復習をします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。 なお、一週間にひとコマずつ進める通常の授業とは異なり、一日に３コマ進める集中授業です。そのため、「教室外学習の時間」の欄に何と書くとよいのか迷いましたが、とりあえずは標準的な時間（120分）を挙げておきました。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、速やかに返却します。その際に解答・解説、及び講評

をします。

評価方法	平常点に期末の定期試験と、大きく２つ評価対象があるとして、総合評価ではありますが、皆さんひとりひとりの力や意欲をより細かく具体的・立体的に把握しやすい少人数のクラスとなるでしょうから、平常点の占める割合が大きいでしょう。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。知識を学び取ろうとする勉学意欲を大きく評価します。詳しくは初回の授業で話します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（小テストを含む）	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、平常点が７０%に、定期試験の結果が３０%です。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しません。皆さんの意向を聞いたうえで私の方で教材を用意します。
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。 【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。 【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田　晶子	指定なし

ナンバリング	X13730C12
授業概要(教育目的)	ドイツ語の基本を学びます。学んだ文法の知識を活かしながら、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけます。クラスメートとの会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを伝えたり読んだりする楽しさを味わってください。また今回はベルリンを中心に、ドイツ語圏の社会や文化についても学びます。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点（A）	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ドイツ語の基本	アルファベート、発音 ドイツ語で挨拶をしよう	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざな練習	６０分

			ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。 課題は必要に応じて具体的に指示します。指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。	
第2回	Lektion 1: 動詞の基本 (1)	Das Brandenburger Tor ブランデンブルク門 人称、動詞、ドイツ語の語順 ドイツ事情：ベルリン	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第3回	Lektion 1: 動詞の基本（２）	Das Brandenburger Tor ブランデンブルク門 ドイツ語の人称、動詞、語順 ドイツ事情：ベルリン	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第4回	Lektion 2: 名詞の基本（１）	Der Bundestag 連邦議会 名詞の性と数、格変化 ドイツ事情：ドイツ語圏	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第5回	Lektion 2: 名詞の基本（２）	Der Bundestag 連邦議会 名詞の性と数、格変化 ドイツ事情：ドイツ語圏	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第6回	Lektion 3: 複数形（１）	Die Spree シュプレー川 複数形と格変化 ドイツ事情：ドイツの朝食	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第7回	Lektion 3: 複数形（２）	Die Spree シュプレー川 複数形と格変化 ドイツ事情：ドイツの朝食	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第8回	Lektion 4: ちょっと不規則な動詞（１）	Die Humboldt-Uni フンボルト大学 ちょっと不規則な強変化動詞、命令形、人称代名詞の格変化 ドイツ事情：読書	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第9回	Lektion 4: ちょっと不規則な動詞（２）	Die Humboldt-Uni フンボルト大学 ちょっと不規則な強変化動詞、命令形、人称代名詞の格変化 ドイツ事情：読書	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第10回	Lektion 5: 前置詞（１）	Der Potsdamer Platz ポツダム広場 前置詞いろいろ ドイツ事情：パーティー	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第11回	Lektion 5: 前置詞（２）	Der Potsdamer Platz ポツダム広場 前置詞いろいろ ドイツ事情：パーティー	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第12回	Lektion 6: 冠詞いろい	Die Currywurst 名物カレーソーセージ 冠詞類、否定する語nichtとkein	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。	６０分

	ろ（1）	ドイツ事情：ビール	テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	
第13回	Lektion 6: 冠詞いろいろ（2）	Die Currywurst 名物カレーソーセージ 冠詞類、否定する語nichtとkein ドイツ事情：ビール	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第14回	Lektion 6: 冠詞いろいろ（3）	Die Currywurst 名物カレーソーセージ 冠詞類、否定する語nichtとkein ドイツ事情：ビール	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ	前期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。後期にさらに上達するための、大切な土台になります。	１２０分

学習計画注記	履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。
学生へのフィードバック方法	小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。
評価方法	小テストや課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	○
	期末試験	○			

評価割合	平常点５０％、期末試験５０％
使用教科書名(ISBN番号)	『Ich liebe Berlin ベルリンに夢中』ベアーテ・ヴォンデ他著、同学社　ISBN:978-4-8102-0740-8
参考図書	独和辞書も用意してください。初回の授業で説明します。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。
オフィスアワー	授業時間の前後に、教室にて。
学生へのメッセージ	文字の読み方や発音から始めて、ドイツ語の基礎を学びます。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。（もちろん英語が苦手でも全く問題ありません）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田　晶子	指定なし

ナンバリング	X13740C12
授業概要(教育目的)	入門１に引き続き、ドイツ語の基本を学びます。学んだ文法の知識を活かしながら、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけます。クラスメートとの会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを伝えたり読んだりする楽しさを味わってください。また今回はベルリンを中心に、ドイツ語圏の社会や文化についても学びます。
履修条件	前期の入門１を履修ずみであることが望ましいですが、そうでない場合は、前期の範囲を自習しておいてください。後期はその先へ進みます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点（A）	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期のおさらい	私の夏休み	前期に学んだことが、後期の土台になります。ひととおり見直して、記憶を新たにしておきましょう。ここでしっかり復習しておくと、後期の学習を効果的にすすめることができます。	９０分
第2回	Lektion 7:	Die Berliner Philharmonie ベルリン・フィルハーモニ	学んだ事柄は、毎回復習してお	６０分

	分離動詞、非分離動詞、接続詞（１）	ー 複合動詞、分離動詞、非分離動詞、接続詞 ドイツ事情：デザート	きましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。 新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	
第3回	Lektion 7: 分離動詞、非分離動詞、接続詞（２）	Die Berliner Philharmonie ベルリン・フィルハーモニー 複合動詞、分離動詞、非分離動詞、接続詞 ドイツ事情：デザート	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第4回	Lektion 8: 助動詞（１）	Tempelhof テンペルホーフ空港（元） 話法の助動詞、助動詞文の作りかた ドイツ事情：スポーツクラブ	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第5回	Lektion 8: 助動詞（２）	Tempelhof テンペルホーフ空港（元） 話法の助動詞、助動詞文の作りかた ドイツ事情：スポーツクラブ	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第6回	Lektion 9: 動詞の三基本形（１）	Die Berliner Mauer ベルリンの壁 動詞の３基本形、動詞の過去人称変化 ドイツ事情：離婚	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第7回	Lektion 9: 動詞の三基本形（２）	Die Berliner Mauer ベルリンの壁 動詞の３基本形、動詞の過去人称変化 ドイツ事情：離婚	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第8回	Lektion 10: 現在完了（１）	Die MUseumsinsel 博物館島 現在完了、habenかseinか ドイツ事情：自動車	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第9回	Lektion 10: 現在完了（２）	Die MUseumsinsel 博物館島 現在完了、habenかseinか ドイツ事情：自動車	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第10回	Lektion 11: 形容詞のいろいろ（１）	DasnHolocaust-Mahnmal ホロコースト記念碑 形容詞の格変化、比較の表現 ドイツ事情：洗濯	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第11回	Lektion 11: 形容詞のいろいろ（２）	DasnHolocaust-Mahnmal ホロコースト記念碑 形容詞の格変化、比較の表現 ドイツ事情：洗濯	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分

第12回	Lektion 12：「～られる」受け身の表現、再帰動詞（１）	Der Gendarmenmarkt ジャンダルメンマルクト 受動態、再帰動詞 ドイツ事情：クリスマス	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第13回	Lektion 12：「～られる」受け身の表現、再帰動詞（２）	Der Gendarmenmarkt ジャンダルメンマルクト 受動態、再帰動詞 ドイツ事情：クリスマス	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第14回	Lektion 12：「～られる」受け身の表現、再帰動詞（３）	Der Gendarmenmarkt ジャンダルメンマルクト 受動態、再帰動詞 ドイツ事情：クリスマス	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第15回	後期のまとめ	後期のまとめ	後期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。今後、自力で学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりになります。	１８０分

学習計画注記	履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。
学生へのフィードバック方法	小テストを実施する場合は、授業内で解説します。
評価方法	課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	○
	期末試験	○			

評価割合	平常点５０％、期末試験５０％
使用教科書名(ISBN番号)	『Ich liebe Berlin ベルリンに夢中』ベアーテ・ヴォンデ他著、同学社　ISBN:978-4-8102-0740-8（前期と同じです）
参考図書	独和辞書
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。
オフィスアワー	授業時間の前後に、教室にて。
学生へのメッセージ	ドイツ語の基本を身につけます。後期の入門２で基礎をひととおり身につけて、今後も学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりを作ってください。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。（もちろん英語が苦手でも全く問題ありません）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ドイツ語初級1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田　晶子	指定なし

ナンバリング	X13730C12
授業概要(教育目的)	ドイツ語の基本を学びます。学んだ文法の知識を活かしながら、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけます。クラスメートとの会話練習も多く取り入れる予定です。ドイツ語で何かを伝えたり読んだりする楽しさを味わってください。
履修条件	基本的に「ドイツ語入門１」「ドイツ語入門２」を履修済みであること、あるいはこれに相当するレベルの学習経験があること。とはいえ基本を復習しながら進めますので、それほど心配はいりません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点（A）	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ドイツ語の基本	ドイツ語の文字と発音、挨拶	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。 新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。	６０分

			テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	
第2回	動詞の基本（１） ドイツ語で自己紹介	ドイツ語で自己紹介：名前、出身その他 動詞の人称変化（１）基本的な変化	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第3回	動詞の基本（２） ドイツ語で自己紹介	動詞の人称変化（２） ある一家の自己紹介を読む	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第4回	不規則動詞（１） 人を紹介する	不規則動詞（１）ちょっと不規則な重要動詞 人を紹介する	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第5回	並列の接続詞 ドイツ語圏の国々	並列の接続詞 ドイツ・オーストリア・スイスについて	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第6回	定冠詞と不定冠詞 数と電話番号	定冠詞と不定冠詞 数字・電話番号をきく	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第7回	否定冠詞 kein	否定冠詞 kein いろいろな広告文を読む	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第8回	名詞の複数形	名詞の複数形 専攻はなんですか・何語を学んでいますか	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第9回	人称代名詞 レシピを読む	人称代名詞 ドイツ語のレシピを読む	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第10回	不定冠詞類 曜日の名前	不定冠詞類（所有を表す冠詞） 今日は何曜日？	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第11回	定冠詞類 趣味について	定冠詞類 趣味はなんですか～好きなこと・嫌いなことを話す（１）	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第12回	不規則動詞（２）	不規則動詞（２） 趣味はなんですか～好きなこと・嫌いなことを話す（２）	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分

第13回	不規則動詞（３） 食べ物の名前	不規則動詞（３） 好きな食べ物はなんですか	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第14回	命令形 物語を読む	命令形 ドイツ料理は好きですか/食習慣について話す アルプスの少女ハイジを読む	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第15回	前期のまとめ	前期に学んだことをふり返る	前期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。後期にさらに上達するための、大切な土台になります。	１２０分

学習計画注記	履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。
学生へのフィードバック方法	小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。
評価方法	小テストや課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	○
	期末試験	○			

評価割合	平常点５０%、期末試験５０%
使用教科書名(ISBN番号)	使用する教材は、適宜プリントで配布します。
参考図書	独和辞書を用意してください。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。
オフィスアワー	授業時間の前後に、教室にて。
学生へのメッセージ	文字の読み方や発音から始めて、ドイツ語の基礎を学びます。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。（もちろん英語が苦手でも全く問題ありません）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ドイツ語初級2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田　晶子	指定なし

ナンバリング	X13730C12
授業概要(教育目的)	ドイツ語の基本を学びます。学んだ文法の知識を活かしながら、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけます。クラスメートとの会話練習も多く取り入れる予定です。ドイツ語で何かを伝えたり読んだりする楽しさを味わってください。
履修条件	前期の「ドイツ語初級１」を履修済みであること、あるいはこれに相当するレベルの学習経験があること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する ・授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	・ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点（A）	・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	話法の助動詞（１） 予定や希望について話す	話法の助動詞（１） 予定や希望について話す：「～したいです」	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。 新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題な	６０分

			ど、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	
第2回	話法の助動詞（２） アンネの日記	話法の助動詞（２） アンネの日記を読む	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第3回	未来形 家族を表す語	未来形 家族について話す/兄弟はいますか	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第4回	前置詞 日付の言い方	前置詞 日付の言い方：誕生日はいつですか	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第5回	再帰動詞 ドイツの祝祭	再帰動詞 ドイツの祝祭：アドベントからイースターまで	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第6回	分離・非分離動詞 身のまわりの持ち物	分離動詞・非分離動詞 身のまわりの持ち物をドイツ語で言う/店でお買い物	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第7回	zu不定詞 インタヴューを読む	zu不定詞 インタヴューを読む：名門・聖トーマス教会合唱団の日常	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第8回	従属の接続詞 住居について（１）	従属の接続詞 住居について（１）部屋の名前と家具	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第9回	動詞の三基本形（１） 住居について（２）	動詞の三基本形（１） 住居について（２）物の置いてある位置/住まいさがし	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第10回	過去形 ドイツ語圏の文学作品	過去形 ドイツ語圏の文学作品：児童文学「Die kleine Hexe」を読む	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第11回	現在完了形 時間と日付（１）	現在完了形 時間と日付（１）スケジュールについて話す	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第12回	動詞の三基本形（２） 時間と日付（２）	動詞の三基本形（２） 時間と日付（２）図書館はいつ開いていますか	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第13回	受動態	受動態	新しく学んだ単語や文法事項を	６０分

	経験を話す（１）	経験を話す（１）週末に何をしましたか	整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	
第14回	形容詞の変化 経験を話す（２）	形容詞の変化 経験を話す（２）キャンプをしたことはありますか	新しく学んだ単語や文法事項を整理しておくこと。 テキストの予習や練習問題など、与えられた課題に取り組み、次の授業で発表できるよう準備すること。	６０分
第15回	授業のまとめ	これまでに学んだことをふり返る	これまでに学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。今後ドイツ語を学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりになります。	１２０分

学習計画注記	履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。
学生へのフィードバック方法	小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。
評価方法	小テストや課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	○
	期末試験	○			

評価割合	平常点５０％、期末試験５０％
使用教科書名(ISBN番号)	使用する教材は、適宜プリントで配布します。
参考図書	独和辞書を用意してください。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。
オフィスアワー	授業時間の前後に、教室にて。
学生へのメッセージ	文字の読み方や発音から始めて、ドイツ語の基礎を学びます。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。（もちろん英語が苦手でも全く問題ありません）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語入門1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 尹　青青	指定なし

ナンバリング	X13750M12
授業概要(教育目的)	本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。
履修条件	初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業ガイダンス 発音編 声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音	授業の説明を行い、現代中国語の声調、単母音、そり舌母音、複合母音、子音を理解する。	教科書の6～7ページを読んでおくこと。	60分
第2回	発音編 n/ng付母音、r化、軽声、変調	現代中国語のn/ng付母音、r化、軽声、変調を理解する。	教科書の8～9ページを読んでおくこと。	60分

第3回	発音編まとめ 数字、日付の言い方	発音編のウォーミングアップを行い、数字と日付の言い方を覚える。	教科書の10～11ページを読んでおくこと。	60分
第4回	第1課 何を食べるの？——母と二人で喫茶店	人称代詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文を理解する。	教科書の13～14ページを読んでおくこと。	60分
第5回	第1課 トレーニング/総合練習	第1課の総合練習を行う。	教科書15～16ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第6回	第2課 それって中国語の新聞？——図書館での出会い	指示代名詞、名詞の前の修飾語、動詞「是」の文、YES/NOで答える疑問文を理解する。	教科書の17～18ページを読んでおくこと。	60分
第7回	第2課 トレーニング/総合練習	第2課の総合練習を行う。	教科書19～20ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第8回	第3課 かわいい——散歩中の偶然	形容詞述語文、主述述語文、「喜欢」、選択疑問文を理解する。	教科書の21～22ページを読んでおくこと。	60分
第9回	第3課 トレーニング/総合練習	第3課の総合練習を行う。	教科書23～24ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第10回	第4課 何人家族？——いろいろ話してみよう	数量の数え方、動詞「有」の文、「几」と「多少」、助動詞「想」を理解する。	教科書の25～26ページを読んでおくこと。	60分
第11回	第4課 トレーニング/総合練習	第4課の総合練習を行う。	教科書27～28ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第12回	第5課 家はどこ？——もっと知りたい	方位詞、動詞「在」の文、介詞「在」、介詞「离」を理解する	教科書の29～30ページを読んでおくこと。	60分
第13回	第5課 トレーニング/総合練習	第5課の総合練習を行う。	教科書31～32ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第14回	第6課 ごはん食べた？——その頃の山本家	連動文、介詞「跟」、助動詞「要」、文末の「了」を理解する。	教科書の33～34ページを読んでおくこと。	60分
第15回	第6課 トレーニング/総合練習	第6課の総合練習を行う。	教科書35～36ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分

学習計画注記	上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。
学生へのフィードバック方法	授業にて説明する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。定期試験は授業内容から70点満点で筆記問題を出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○			○
	定期試験	○			

評価割合	平常点30%、定期試験70%。
使用教科書名(ISBN番号)	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。 【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。
学生へのメッセージ	週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。 ・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。 ・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語入門1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井　君也	指定なし

ナンバリング	X13750C12
授業概要(教育目的)	「中国語入門１」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の簡単な会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の文章を読み日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国とはどのような国なのかを紹介し、中国とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点（A）	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション＆発音１	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等	教科書「発音①・声調」（６ページ）の音声を聞いて予習しておくこと	予習３０分
第2回	発音２	単母音、複母音、鼻母音	前回の内容を復習して、教科書「発音②・母音」（６～７ページ）の音声を聞いて予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第3回	発音３	子音、有気音、無気音	前回の内容を復習して、教科書「発音③・子音」（７～８ページ）の音声を聞いて予習しておくこと	復習３０分・予習３０分

第4回	発音４	変調やピンインの表記ルールなど	前回の内容を復習して、教科書「発音④～⑧・変調など」（９～１１ページ）の音声を聞いて予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第5回	第１課	新出単語やポイント（名前の聞き方など５項目）の説明	前回の内容を復習して、第１課の単語と文法を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第6回	第１課	「你好」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第１課の会話の本文を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第7回	第２課	新出単語やポイント（動詞述語文など５項目）の説明	前回の内容を復習して、第２課の単語と文法を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第8回	第２課	「借书」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第２課の会話の本文を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第9回	第３課	新出単語やポイント（量詞など５項目）の説明	前回の内容を復習して、第３課の単語と文法を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第10回	第３課	「买衣服」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第３課の会話の本文を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第11回	第４課	新出単語やポイント（動詞「有」など５項目）の説明	前回の内容を復習して、第４課の単語と文法を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第12回	第４課	「下午见」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第４課の会話の本文を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第13回	第５課	新出単語やポイント（過去の経験「过」など５項目）の説明	前回の内容を復習して、第５課の単語と文法を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第14回	第５課	「女朋友」本文の解説や練習問題	前回の内容を復習して、第５課の会話の本文を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第15回	総復習	前期の授業内容の定着度チェック	第１課～第５課まで学習した内容を復習しておくこと	復習１２０分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した課題や小テスト、試験などは採点して返却する。
評価方法	平常点や試験によって総合的に判断する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	小テスト	○			○
	定期試験	○			○

評価割合	平常点５０％、期末試験５０％ （平常点は授業態度や小テスト等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅　世界遺産へようこそ』朝日出版社
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語入門2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 尹　青青	指定なし

ナンバリング	X13760M12
授業概要(教育目的)	後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。
履修条件	前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	第7課 1枚あげるよ——映画の約束	動詞の後の「了」と文末の「了」、目的語を一度に2つ取れる動詞、「～点…分」、介詞「从」を理解する。	教科書の37～38ページを読んでおくこと。	60分
第2回	第7課 トレーニング/総合練習	第7課の総合練習を行う。	教科書39～40ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第3回	第8課 ちょっと見せて——いっしょに買い物	動詞の重ね型と動作量「一下」、介詞「给」、助動詞「可以」、100以上の数を理解する。	教科書の41～42ページを読んでおくこと。	60分

第4回	第8課 トレーニング/総合練習	第8課の総合練習を行う。	教科書43～44ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第5回	第9課 中国語話せるよ——妹のチャイナドレス	過去の経験を表す助詞「过」、持続を表す助詞「着」、助動詞「能」、助動詞「会」を理解する。	教科書の45～46ページを読んでおくこと。	60分
第6回	第9課 トレーニング/総合練習	第9課の総合練習を行う。	教科書47～48ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第7回	第10課 まだ食事中？——母からの電話	時間量を表す語句、様態補語、進行の表現、「快～了」、「要～了」、「就要～了」を理解する。	教科書の49～50ページを読んでおくこと。	60分
第8回	第10課 トレーニング/総合練習	第10課の総合練習を行う。	教科書51～52ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第9回	第11課 心配しないで——娘の成績	回数を表す語句、結果補語、比較表現、副詞「不要・別」を理解する。	教科書の53～54ページを読んでおくこと。	60分
第10回	第11課 トレーニング/総合練習	第11課の総合練習を行う。	教科書55～56ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第11回	第12課 両親が帰ってくるようにって——旧正月の予定	方向補語、使役の言い方、「（是）～的」構文、「有点儿」・「一点儿」を理解する。	教科書の57～58ページを読んでおくこと。	60分
第12回	第12課 トレーニング/総合練習	第12課の総合練習を行う。	教科書59～60ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分
第13回	よく使う語句のまとめ	名称・呼称、疑問を表す語句、よく使う量詞、動作を数える量詞、時を表す語句、時間量を表す語句を理解する。	教科書の61～63ページを読んでおくこと。	60分
第14回	ステップアップ どうやって解いたらいい？——数学の宿題	助動詞「该・应该」、介詞「把」、「有」を使った補足、強調構文を理解する。	教科書の65～66ページを読んでおくこと。	60分
第15回	ステップアップ トレーニング/総合練習	ステップアップの総合練習を行う。	教科書67～68ページ練習問題の準備をしておくこと。	60分

学習計画注記	上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進度状況によって、前後することもある。
学生へのフィードバック方法	授業にて説明する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。定期試験は授業内容から70点満点で出題する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○			○
	定期試験	○			

評価割合	平常点30%、定期試験70%。
使用教科書名(ISBN番号)	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ（ISBN978-4-560-06936-3、白水社）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。 【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。
学生へのメッセージ	週１回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。 ・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。 ・授業後には、復習として教科書にある練習問題の回答等を音読する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語入門2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井　君也	指定なし

ナンバリング	X13760C12
授業概要(教育目的)	「中国語入門２」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語入門１」の続きで、前期で学んだ基礎文法のおさらいをし、中国語の簡単な会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の文章を読み日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国とはどのような国なのかを紹介し、中国とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習する。中国語検定試験準４級や中国語資格試験のＨＳＫ（漢語水平考試）２級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点（A）	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	第６課	新出単語と「“了”の用法」など文法項目の説明	第６課の新出単語とポイントを予習しておくこと	予習３０分
第2回	第６課	「你去哪儿了」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第６課の本文の会話を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第3回	第７課	新出単語と「進行形」など文法項目の説明	前回の内容を復習して、第７課の新出単語とポイントを予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第4回	第７課	「画画儿」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第７課	復習３０分・予習３０分

			の本文の会話を予習しておくこと	
第5回	第８課	新出単語と「前置詞」など文法項目の説明	前回の内容を復習して、第８課の新出単語とポイントを予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第6回	第８課	「她来了」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第８課の本文の会話を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第7回	第９課	新出単語と「結果補語」など文法項目の説明	前回の内容を復習して、第９課の新出単語とポイントを予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第8回	第９課	「别说话了」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第９課の本文の会話を予習してくこと	復習３０分・予習３０分
第9回	第１０課	新出単語と「受け身」など文法項目の説明	前回の内容を復習して、第１０課の新出単語やポイントを予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第10回	第１０課	「迟到」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第１０課の本文の会話を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第11回	第１１課	新出単語と「主述述語文」など文法項目の説明	前回の内容を復習して、第１１課の新出単語とポイントを予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第12回	第１１課	「打八折」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第１１課の本文の会話を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第13回	第１２課	新出単語と「只要～就…」など文法項目の説明	前回の内容を復習して、第１２課の新出単語とポイントを予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第14回	第１２課	「我也一样」本文の解説と練習問題	前回の内容を復習して、第１２課の本文の会話を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第15回	総復習	後期の授業内容の定着度チェック	第６課～第１２課までの授業内容を復習しておくこと	復習１２０分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した課題や小テスト、試験などは採点して返却する。
評価方法	平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	小テスト	○			○
	定期試験	○			○

評価割合	平常点５０％、期末試験５０％ （平常点は授業態度や小課題等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅　世界遺産へようこそ』朝日出版社
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語初級1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井　君也	指定なし

ナンバリング	X15750C12
授業概要(教育目的)	「中国語初級１」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語入門で学習した基礎文法のおさらいをし、中国語検定試験準４級を目指し、単語と文法とリスニングの能力を総合的に高め、確実な中国語力を身に付け、さらに上のレベルに進む。中国語検定試験（中検）準４級または漢語水平考試（ＨＳＫ）２級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基礎単語約５００語による発音（ピンイン表記）及び単語の意味が理解できる。
思考・判断の観点（K）	中国語の基礎な文法ができ、簡単な文章が読めるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点（A）	中国人と買い物、旅行などの簡単な会話ができるようになる。 中国人同士間の簡単な日常挨拶や交流などが聞き取れる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション＆UNIT１	自己紹介、授業の進め方、教材等 【文法】動詞述語文（１）「是」と動作を表す動詞 【リスニング】４つのトーン「四声」	一年次で学んだ単語と文法を復習して、UNIT１の単語を予習しておくこと	復習６０分・予習３０分
第2回	UNIT２	【文法】動詞述語文（２）所有と存在と所在 【リスニング】２音節の声調	前回の内容を復習して、UNIT２の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第3回	UNIT３	【文法】連動文 【リスニング】六つの単母音	前回の内容を復習して、UNIT３の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第4回	UNIT４	【文法】疑問詞疑問文（１） 【リスニング】複母音	前回の内容を復習して、UNIT４の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分

第5回	UNIT５	【文法】疑問詞疑問文（２） 【リスニング】有気音と無気音①	前回の内容を復習して、UNIT５の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第6回	UNIT６	【コラム】中国語の人称代名詞と名前の言い方	前回の内容を復習して、UNIT６の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第7回	UNIT７	UNIT１～UNIT６の復習	UNIT１～UNIT６まで学習した単語と文法とリスニングを復習すること	復習６０分
第8回	中間試験	UNIT１～UNIT６までの授業内容の定着度チェック	UNIT１～UNIT６まで学習した内容を復習すること	復習６０分
第9回	UNIT８	【文法】形容詞述語文 【リスニング】ｎとｎｇの区別（１）	UNIT８の単語を予習しておくこと	予習３０分
第10回	UNIT９	【文法】主述述語文 【リスニング】ｎとｎｇの区別（２）	前回の内容を復習して、UNIT９の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第11回	UNIT１０	【文法】名詞述語文 【リスニング】ｎとｎｇの区別（２）	前回の内容を復習して、UNIT１０の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第12回	UNIT１１	【文法】比較表現 【リスニング】そり舌音zh, ch, sh, r	前回の内容を復習して、UNIT１１の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第13回	UNIT１２	【文法】前置詞 【リスニング】聞き間違いやすい音（１）ーー三つの「i」	前回の内容を復習して、UNIT１２の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第14回	UNIT１３	【コラム】指示代名詞と日本語の「の」に相当する「的」	前回の内容を復習して、UNIT１３の単語を予習しておくこと	復習３０分、予習３０分
第15回	UNIT１４	UNIT８～UNIT１３の復習	UNIT８～UNIT１３まで学習した単語と文法とリスニングを復習すること	復習６０分
第16回	期末試験	UNIT８～UNIT１３までの授業内容の定着度チェック	UNIT８～UNIT１３まで学習した内容を復習すること	復習６０分

学習計画注記	☛☞開講日程は次の通りです。 ８月１５日（月）２～５限 ８月１６日（火）２～５限 ８月１７日（水）２～５限 ８月１８日（木）２～５限
学生へのフィードバック方法	実施した小テストや課題、試験などは、採点して、授業にて返却する。
評価方法	平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	小テスト	○			○
	定期試験	○			○

評価割合	平常点２０％、中間試験４０％、期末試験４０％ （平常点は授業態度や小テスト等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	氷野善寛など『完全攻略！中検準４級』、株式会社アルク、2019年 （※教科書を購入しなくても構いません。授業中にプリントを配布します。）
参考図書	宮岸雄介『ＨＳＫ公認テキスト２級　改訂版』、株式会社スプリックス、2021年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語初級2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井　君也	指定なし

ナンバリング	X15750C12
授業概要(教育目的)	「中国語初級２」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語初級１」の続きで、中国語入門で学習した基礎文法のおさらいをし、中国語検定試験準４級を目指し、単語と文法とリスニングの能力を総合的に高め、確実な中国語力を身に付け、さらに上のレベルに進む。中国語検定試験（中検）準４級または漢語水平考試（ＨＳＫ）２級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基礎単語約５００語による発音（ピンイン表記）及び単語の意味が理解できる。
思考・判断の観点（K）	中国語の基礎な文法ができ、簡単な文章が読めるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点（A）	中国人と買い物、旅行などの簡単な会話ができるようになる。 中国人同士間の簡単な日常挨拶や交流などが聞き取れる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション＆UNIT１５	自己紹介、授業の進め方、教材等 【文法】副詞（１） 【リスニング】聞き間違いやすい音（２）h/f, l/r	前期で学んだ単語と文法を復習して、UNIT１５の単語を予習しておくこと	復習６０分・予習３０分
第2回	UNIT１６	【文法】副詞（２） 【リスニング】聞き間違いやすい音（３）u, ū を含む音	前回の内容を復習して、UNIT１６の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第3回	UNIT１７	【文法】量詞 【リスニング】消える「o」と「e」	前回の内容を復習して、UNIT１７の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第4回	UNIT１８	【文法】数の表現 【リスニング】２桁以上の数字の聞き分け	前回の内容を復習して、UNIT１８の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分

第5回	UNIT１９	【文法】時の表現 【リスニング】時に関する表現（１）	前回の内容を復習して、UNIT１９の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第6回	UNIT２０	【コラム】親族名称と場所や方位を表す単語	前回の内容を復習して、UNIT２０の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第7回	UNIT２１	UNIT１５～UNIT２０の復習	UNIT１５～UNIT２０まで学習した単語と文法とリスニングを復習すること	復習６０分
第8回	中間試験	UNIT１５～UNIT２０までの授業内容の定着度チェック	UNIT１５～UNIT２０まで学習した内容を復習すること	復習６０分
第9回	UNIT２２	【文法】助動詞 【リスニング】時に関する表現（２）	UNIT２２の単語を予習しておくこと	予習３０分
第10回	UNIT２３	【文法】疑問文（１） 【リスニング】カテゴリーの聞き分け（１）	前回の内容を復習して、UNIT２３の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第11回	UNIT２４	【文法】疑問文２ 【リスニング】カテゴリーの聞き分け（２）	前回の内容を復習して、UNIT２４の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第12回	UNIT２５	【文法】進行と持続 【リスニング】こういう時、どういう？（１）	前回の内容を復習して、UNIT２５の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第13回	UNIT２６	【文法】経験の「过」と完了の「了」 【リスニング】こういう時、どういう？（２）	前回の内容を復習して、UNIT２６の単語を予習しておくこと	復習３０分・予習３０分
第14回	UNIT２７	【コラム】年齢の聞き方	前回の内容を復習して、UNIT２７の単語を予習しておくこと	復習３０分、予習３０分
第15回	UNIT２８	UNIT２２～UNIT２７の復習	UNIT２２～UNIT２７まで学習した単語と文法とリスニングを復習すること	復習６０分
第16回	期末試験	UNIT２２～UNIT２７までの授業内容の定着度チェック	UNIT２２～UNIT２７まで学習した内容を復習すること	復習６０分

学習計画注記	☛☞開講日程は次の通りです。 ２月９日（木）２～５限 ２月１０日（金）２～５限 ２月１３日（月）２～５限 ２月１４日（火）２～５限
学生へのフィードバック方法	実施した小テストや課題、試験などは、採点して、授業にて返却する。
評価方法	平常点や試験によって総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	小テスト	○			○
	定期試験	○			○

評価割合	平常点２０％、中間試験４０％、期末試験４０％ （平常点は授業態度や小テスト等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	氷野善寛など『完全攻略！中検準４級』、株式会社アルク、2019年 （※教科書を購入しなくても構いません。授業中にプリントを配布します。）
参考図書	宮岸雄介『ＨＳＫ公認テキスト２級　改訂版』、株式会社スプリックス、2021年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語入門1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鄭　軟ジュ	指定なし

ナンバリング	X13770M12
授業概要(教育目的)	韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをします。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点（K）	自ら考え、韓国語の文を作成するようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音の練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音	ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。	プリントを読み、ハングル文字の仕組みについて理解すること。	60分
第2回	10個の基本母音	韓国語の基礎母音10個を学ぶ。	復習として10個の基本母音の発音を練習すること。	60分
第3回	二重母音	韓国語の二重母音について学ぶ。	復習として二重母音の発音を練習すること。	60分
第4回	19個の基本	韓国語の子音について学ぶ。	復習として子音の発音を練習す	60分

	子音(1)		ること。	
第5回	19個の基本子音(2)	韓国語の子音について学ぶ。	復習として子音の発音を練習すること。	60分
第6回	19個の基本子音(3)	韓国語の子音について学ぶ。	復習として韓国語の子音の発音を練習すること。	60分
第7回	母音と子音の復習	これまで学んだ母音と子音を復習する。	復習として母音と子音を組み合わせて発音を練習すること。	60分
第8回	パッチム(1)	韓国語のパッチムについて学ぶ。	復習としてパッチム発音の仕方を練習すること。	60分
第9回	パッチム(2)	韓国語のパッチムについて学ぶ。	復習としてパッチム発音の仕方を練習すること。	60分
第10回	文法編Ⅰ「〇〇は〇〇です」	助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。自己紹介をする。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。	60分
第11回	文法編Ⅱ「韓国語のコ、ソ、ア」	韓国語の「これ、それ、あれ」の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成する。	60分
第12回	文法編Ⅲ「〇〇は〇〇ではありません」	「～ではありません」に当たる表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	文法編Ⅳ「用言の基本形とハムニダ体」	ハムニダ体について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	文法編Ⅴ「～にあります/ありません、います/いません」	「～にあります/ありません、います/いません」の表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	全体の復習	これまで学んだ語彙および文法を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分

学習計画注記	特になし。
学生へのフィードバック方法	前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の修得であるため、毎回の授業で発音の練習と発表を行う。受講生の1人ずつに発音を発表してもらい、修正するフィードバックの過程を繰り返す。必ず前回学習した発音を練習することが望ましい。
評価方法	平常点(出席、授業への参加態度）と定期試験の結果で総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点(出席、授業への参加態)	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：50% 定期試験：50% 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	チョアヘヨ！韓国語初級(ISBN番号: 978-4-255-55658-1)
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。 楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語入門1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 丹羽　裕美	指定なし

ナンバリング	X13770M12
授業概要(教育目的)	韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをします。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点（K）	自ら考え、韓国語の文を作成するようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音の練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 文字と発音（母音:単母音）	授業の進め方を説明します。 ハングル文字の成り立ちと仕組みを理解しましょう。 ハングル文字の母音について学びます。	声に出しながらプリントを書いて覚えます。書いたプリントは次回提出してください。	60分
第2回	文字と発音(子音:鼻音と流音)	韓国語の子音について学びます。	声に出しながらプリントを書いて覚えます。書いたプリントは次回提出してください。	60分
第3回	文字と発音(子音:平音)	韓国語の子音を学びます。	声に出しながらプリントを書いて覚えます。書いたプリントは次回提出してください。	60分
第4回	文字と発音	韓国語の半母音や二重母音について学びます。	声に出しながらプリントを書い	60分

	(母音:半母音・二重母音)		て覚えます。書いたプリントは次回提出してください。 次回、小テストを行います。今まで学んだところを復習してください。	
第5回	文字と発音(子音:激音) 小テスト①	4回までに習った内容の小テストを行います。 韓国語の激音について学びます。	声に出しながらプリントを書いて覚えます。書いたプリントは次回提出してください。	60分
第6回	文字と発音(子音:濃音) 小テスト①の解説	韓国語の濃音について学びます。 前回の小テストの解説を聞いて、理解を深めましょう。	声に出しながらプリントを書いて覚えます。書いたプリントは次回提出してください。	60分
第7回	文字と発音(終声)	パッチムと呼ばれる韓国語の終声について学びます。	声に出しながらプリントを書いて覚えます。書いたプリントは次回提出してください。	60分
第8回	発音の変化(一部)・日本語のハングル表記	韓国語の発音の変化や自分の名前などをハングルで表記する方法を学びます。	今まで学んだハングル文字の総復習をしてください。次回小テストを行います。	60分
第9回	小テスト② 1課　基本と本文「私は鈴木ケンタです」	小テスト②は文字と発音の総まとめです。 「基本」では文法と練習問題を行い、その後「本文」を学びます。	音声を聞いて本文を暗記しましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第10回	小テスト②の解説 1課　応用問題答え合わせ 2課「あれは教科書ではありません」	前回の小テストの解説を聞いて理解を深めましょう。 応用問題の答え合わせを行いながら、韓国語で自己紹介ができるように練習します。 指定詞の肯定文と否定文を学びます。	音声を聞いて本文を暗記しましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第11回	2課　応用問題答え合わせ 3課「どこに行きますか」	動詞・形容詞の丁寧形ハムニダ体を学びます。	音声を聞いて本文を暗記しましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第12回	3課　応用問題の答え合わせ 4課「うどんは高くありません」	動詞・形容詞の否定文を学びます。 作文課題の説明を受けて、韓国語で作文をしてみましょう。	音声を聞いて本文を暗記しましょう。 応用問題解いてきましょう。 作文課題：今まで学んだ文法を用いて文を作り、提出して添削をうけてください。 詳しくは授業中にお伝えします。	60分
第13回	1課～4課のまとめとアクティビティ 5課　漢数詞・年月・曜日	漢数詞・年月・曜日を学びます。 1課～4課の内容を復習しながら、1週間のスケジュールを韓国語で話せるように練習しましょう。	漢数詞・年月・曜日を覚えてきましょう。 次回、1課～4課と漢数詞・年月・曜日の小テストです。	60分
第14回	小テスト③ 5課「6月10日です」	1課～4課と漢数詞・年月・曜日の小テストを行います。 大きい数の漢数詞を学び、練習問題を解いて、韓国語で注文が出来るように練習しましょう。	音声を聞いて本文を暗記しましょう。 応用問題解いてきましょう。	60分
第15回	小テスト③の解説 5課応用問題の答え合わせ 前期学習内容のまとめ	小テスト③の解説を聞いて理解を深めましょう。 前期で学んだ文法、語彙を復習します。	次回、学期末試験です。 その中で、自分のことについて書く問題があります。 以前、授業の中で説明を受けていて、課題にもなったものです。 すでに皆さん添削をうけているので、それを書けるように覚えておくと良いでしょう。	60分
第16回				

学習計画注記	特になし。
学生へのフィードバック方法	前期の主な学習の内容の1つは、ハングル文字と発音の習得であるため、毎回の授業で発音の練習と発表を行う。受講生の1人ずつに発音を発表してもらい、修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、自己紹介など平易な文を韓国語で自ら作って話せる力を習得するため、小テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。
評価方法	平常点(出席、授業への参加態度、課題提出、小テスト3回）と定期試験の結果で総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点(出席、授業への参加態)	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：60% 学期末試験：40% 平常点は課題提出・小テスト・出席率・授業への参加態度等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	チョアヘヨ！韓国語初級（978-4-255-55658-1）
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。 楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語入門2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鄭　軟ジュ	指定なし

ナンバリング	X13780M12
授業概要(教育目的)	韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。前期に学習した韓国語の文字、発音、基礎的な文法を復習も行う。
履修条件	韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 韓国語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどの理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点（K）	自ら考え、韓国語の文を作成するようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

韓国語入門Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	韓国語の文字と発音、ハムニダ体	前期に学習した韓国語の文字と発音、文法を復習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第2回	否定形「～ない」	「～ない」、「～ません」について学ぶ。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第3回	韓国語の数字①	漢字語数詞を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分

第4回	韓国語の数字②	固有語数詞を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第5回	用言の活用①	母音語幹用言の活用を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第6回	用言の活用②	子音語幹用言の活用を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第7回	これまでの文法の復習	これまで学習した文法を復習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第8回	「～して」/「～すれば」	２つの文を繋ぐ「～して」の表現を学習する。 条件・仮定の表現を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第9回	「～ので、て」/「～している」	原因・理由の表現「～ので、て」を学習する。 進行・継続の表現を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第10回	「～することができる」/「～することができない」	可能・不可能の表現を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第11回	ㄹ語幹の用言/これまでの文法の復習	ㄹ語幹の用言について学ぶ。 これまで学習した文法を復習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第12回	尊敬形①	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	60分
第13回	尊敬形②	尊敬形の表現「お～になる、られる、～なされる」を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	
第14回	過去形	過去形の表現を学習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	
第15回	これまでの文法の復習	これまで学習した文法を復習する。	授業で習った内容を復習し、必ず自分のものにできるようにすること。	

学習計画注記	特になし。
学生へのフィードバック方法	学習事項を学習した後、復習として課題を出す。必ず自ら考えて課題をこなすこと。 提出してもらった課題は添削して返し、フィートバックを行う。
評価方法	平常点(出席、授業への参加態度、課題の提出)、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点(出席、授業への参加態度	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：70% 定期試験：30% 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	チョアヘヨ！韓国語初級(ISBN番号: 978-4-255-55658-1) 前期の韓国語入門1と同じ教科書を使用
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。

隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語入門2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 丹羽　裕美	指定なし

ナンバリング	X13780M12
授業概要(教育目的)	韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。 授業の進め方は「基本」と「応用」に分かれます。「基本」では①文法の解説　②文法練習　③本文(会話文)の練習を行い、課題として本文を覚え、応用問題を行ってきていただきます。「応用」では自ら文を作ったり、さらに韓国語で質問したり、答えたりするグループワークを行うことで、自身のことを述べるだけでなく相手の意見も聞ける力を養います。
履修条件	韓国語入門１の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点（K）	自ら考え、韓国語の文を作成するようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

韓国語入門Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 前期の復習 6課　固有数詞・様々な助数詞の練習	授業の説明を行います。 前期で学んだ内容を簡単に復習します。 漢数詞・固有数詞と助数詞を学びます。	次回、グループワークを行うので漢数詞と固有数詞を覚えてきましょう。 基本の練習問題をおこなってくる。	60分

第2回	6課「10時20分です」	覚えてきた固有数詞や漢数詞を用いて、時刻や個数などを言ったり聞いたりするグループワークを行います。 基本の練習問題と本文を学びます。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第3回	6課　応用問題答え合わせ 用言の活用	韓国語の文を作るのに必須事項である用言の活用を学びます。 用言の活用を理解していないと、後期の単位は難しくなってしまいます。 しっかり理解出来るようにしましょう。	次回、用言の活用が理解できているか小テストを行います。	60分
第4回	小テスト① 7課「ラーメンがとても美味しいです」	小テスト①は用言の活用の理解度を確認する試験です。 韓国の日常会話でよく用いられるヘヨ体について学びます。 この課では子音語幹のヘヨ体について学び、練習しましょう。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第5回	7課　応用問題の答え合わせ 8課「友達と映画を見ます」	小テスト①の解説を行います。 母音語幹のヘヨ体を学びます。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第6回	8課　応用問題の答え合わせ 9課「友達は韓国人です」	指定詞のヘヨ体を学びます。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。 次回、7課～9課で学んだヘヨ体の小テストを行います。	60分
第7回	小テスト② 9課　応用問題の答え合わせ 10課「ケンタさんは料理出来ますか」	小テスト②は7課～9課で学んだヘヨ体の理解度を確認する試験です。 可能・不可能などの表現を学びます。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第8回	10課　応用問題の答え合わせ 11課　ㄹ語幹の活用	小テスト②の解説を行います。 ㄹ語幹の活用について学びます。 作文課題の説明を受けて、韓国語で作文をしてみましょう。	作文課題：今まで学んだ文法を用いて「私の好きなもの(推し）を紹介します」という内容の文を作ります。 詳しくは授業でお話しますが、学期末試験につながる課題となります。提出して添削を受けましょう。	60分
第9回	11課　用言の否定形 11課「学校まで遠くありません」	用言の否定形を学びます。 季節や乗り物の語彙を覚えましょう。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第10回	11課　応用問題の答え合わせ 12課　尊敬形	尊敬形を学びます。	次回、尊敬形について小テストを行います。復習しましょう。	60分
第11回	小テスト③ 12課「先生はいま何していらっしゃいますか」	小テスト③は尊敬形の理解度を確認する試験です。 建物・場所・職業の語彙を学びます。 「何しに来ましたか」と尋ね「～しに来ました」と答えるグループワークをしましょう。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第12回	12課　応用問題の答え合わせ 13課　過去形	小テスト③の解説を聞いて理解を深めましょう。 過去形を学びます。 「何をしましたか」と尋ね「～しました」と答えるグループワークをしましょう。	過去形の小テストを行います。 復習しましょう。	60分
第13回	小テスト④ 13課「後輩と一緒に映画を見ました」	小テスト④は過去形の理解度を確認する試験です。 「何をしたいですか」と尋ね「～したいです」と答えるグループワークしましょう。	音声を聞いて本文を覚えましょう。 応用問題を解いてきましょう。	60分
第14回	13課　応用問題の答え	小テスト④の解説をを聞いて理解を深めましょう。 応用問題を通して、隣の人と韓国語で会話してみましょ	作文課題：8回目の課題「私の好きなもの(推し）を紹介しま	60分

	合わせ	う。	す」という内容の文を元に、なぜ好きになったのか、その理由を加えましょう。詳しくは授業でお話ししますが、学期末試験の準備になるものです。	
第15回	6課～13課までの内容の復習	これまで学習した文法を復習する。	次回、学期末試験です。 その中で、自分の好きなもの・人(推し)について書く問題があります。 以前、授業の中で説明を受けていて、課題にもなったものです。 すでに皆さん添削をうけているので、それを書けるように覚えておくと良いでしょう。	60分
第16回				

学習計画注記	特になし。
学生へのフィードバック方法	後期の主な学習の内容の1つは、簡単な文を韓国語で会話する力の習得である。そのため、各課の会話文を暗記して発音の練習と発表を行う。受講生の1人ずつに発音を発表してもらい、修正するフィードバックの過程を繰り返す。また、韓国語で自ら文を作って話せる力と相手の意見を聞く力を養うために、小テストを行い文法事項の理解度を確認し、その解説を行ったり、グループワークを通してより楽しく学びながらフィードバックを行う。
評価方法	平常点(出席、授業への参加態度、課題の提出、小テスト4回)、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点(出席、授業への参加態度	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：60% 定期試験：40% 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	チョアヘヨ！韓国語初級（978-4-255-55658-1）
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。 楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語初級1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鄭　軟ジュ	指定なし

ナンバリング	X15770M12
授業概要(教育目的)	入門クラスに引き続き、基礎韓国語を学び、韓国語での韓国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに韓国社会、文化に関する理解を深める。
履修条件	韓国語入門2を受講する、あるいは韓国語学習歴があることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点（K）	自ら考え、韓国語の文を作成し、適切な表現をお使う。
関心・意欲・態度の観点（V）	学習対象である韓国語に関心を持ち、積極的な態度で授業に挑む。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

韓国語初級1

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	用言の活用	用言の活用についてまとめる。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第2回	過去形と尊敬形	過去と尊敬の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第3回	勧誘	提案や勧誘の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第4回	尊敬過去形	尊敬過去形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自	60分

	／ 不可能	不可能の表現について学ぶ。	ら考えて文を作ること。	
第5回	連体形１	動詞の連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第6回	連体形２	形容詞などの連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第7回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第8回	前提・逆接・理由	前提「～だが」、逆接「～けど」、理由「～ので」の文法について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第9回	連体形３	過去連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第10回	連体形４	予期連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第11回	連体形のまとめ	これまで学んだ現在連体形、過去連体形、予期連体形を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第12回	ㅇ語幹の用言	ㅇ語幹の用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	意志 ／ 推測１	意志と推測の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	意志 ／ 推測２	意志と推測の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	各学習項目の学習の後、復習として課題を出す。提出してもらった課題は添削し返し、フィードバックを行う
評価方法	平常点(授業への参加態度、出席など)で総合的に判断し、評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	

評価割合	平常点：100%
使用教科書名(ISBN番号)	チョアヘヨ！韓国語中級(ISBN番号: 978-4-255-55659-8)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語初級2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鄭　軟ジュ	指定なし

ナンバリング	X15780M12
授業概要(教育目的)	入門クラスに引き続き、基礎韓国語を学び、韓国語での韓国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに韓国社会、文化に関する理解を深める。
履修条件	韓国語初級1を受講する、あるいは韓国語学習歴があることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点（K）	自ら考え、韓国語の文を作成し、適切な表現をお使う。
関心・意欲・態度の観点（V）	学習対象である韓国語に関心を持ち、積極的な態度で授業に挑む。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

韓国語初級2

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	初級1の復習	初級１で学んだ文法、語彙などを復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第2回	変則（変格）用言１／願望	変則用言について学ぶ。 願望の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第3回	変則（変格）用言２	変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分

第4回	変則（変格）用言３／命令	変則用言について学ぶ。 命令の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第5回	変則（変格）用言４	変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第6回	変則用言のまとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第7回	可能 ／ 不可能	可能/不可能の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第8回	依頼、お願い	依頼、お願いの表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第9回	義務・禁止の表現	義務・禁止の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第10回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第11回	許可	許可を表す表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第12回	禁止命令	禁止命令の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	目的	「～するために」の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	決心	「～することにする」の表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	各学習項目を学習した後、復習として課題を出す。提出してもらった課題は添削して返し、フィードバックを行う。
評価方法	平常点(授業への参加態度、出席など)で総合的に判断し、評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	

評価割合	平常点：100%
使用教科書名(ISBN番号)	チョアヘヨ！韓国語中級(ISBN番号: 978-4-255-55659-8) 前期の韓国語初級1と同じ教科書を使用
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	X13910M22
授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な力を身につけることを目的としている。様々な課題に取り組む中で、「情報を的確に集め理解する」「理解した情報をもとに自分の考えをまとめる」「他者に分かりやすいように伝える」ための訓練をしていく。また、そのプロセスにおいて日本語能力の向上を図る。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	課題についての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	課題についての情報を自分の考えを深める。
関心・意欲・態度の観点（V）	課題に関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業内容を理解し、大学で求められるレポートや口頭発表にはどのような特徴があるかを考える。	レポートや口頭発表の特徴を復習し、同じ特徴を持つもの（出版物等）を挙げる。	45
第2回	論理性を考える１	論理性とは何かについてアイディアを出し合う。その上で、与えられた情報を論理的な構成で整理することを目的とした練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびクラスディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	45
第3回	論理性を考える２	与えられた文章を読み、論理が破綻しているところを発見する練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびクラスディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	45

第4回	論理性を考える３	与えられた絵から、読み取れる情報をグループで話し合う。その後、その情報が論理的であるかどうかについてクラス全体でディスカッションする。	対照したい物質を２つ挙げ、違いをまとめる。	45
第5回	論理性を考える４	対照したい2つの物質の違いが論理的であるかをグループ内で検証し修正をする。対照文の表現を学んだ上で、実際に自分が選んだ２つの物質についての対象文を書く。	好きな絵もしくは写真を1枚取り上げ、何が描かれているかを挙げる。	45
第6回	論理性を考える５	自分が選んだ絵もしくは写真から得られる情報を書き出し、その情報が論理的かどうかをグループ内で検証する。描写文の書き方を学び、実際に自分が選んだ絵もしくは写真の描写文を書く。	東京家政学院大学の好きなところ、魅力的だと思う点を挙げる。	45
第7回	東京家政学院大学を紹介する１	東京家政学院大学の好きなところ、魅力的だと思うところを一言で表すテーマを考える。テーマを具体的に表す内容を挙げ、論理性があるかどうかを検証した上でワークシートをまとめる。	ワークシートを検証し、修正する。	45
第8回	東京家政学院大学を紹介する２	東京家政学院大学を紹介する上で効果的な視覚情報の計画を立て、キャンパスに撮影に行く。段落の構成を学ぶ。	自分のテーマと具体的な要素を段落の構成に当てはめる。	45
第9回	東京家政学院大学を紹介する３	段落の書き方について具体例から分析する。自分のテーマで段落を書き、修正のために必要な点をワークシートを使って自己分析する。	自分のテーマの段落を修正する。	45
第10回	東京家政学院大学を紹介する4	レジュメの書き方を学ぶ。自分のテーマの段落から、内容を箇条書きにする。	レジュメを書く。	45
第11回	東京家政学院大学を紹介する５	質疑応答の仕方を学ぶ。各自レジュメを使って発表する。発表後、質疑応答を行う。	自分の学科について紹介したいことをまとめる。	45
第12回	東京家政学院大学を紹介する6	自分の学科について紹介したいことの情報源（パンフレット、ホームページ、人等）を探し、段落構成の計画を立てる。	情報源から情報を収集し整理する。	45
第13回	東京家政学院大学を紹介する７	引用の仕方を学び、引用を使って自分の学科を紹介する段落を書く。	自分の学科紹介をレジュメにまとめる。	45
第14回	東京家政学院大学を紹介する８	レジュメを使って、自分の学科紹介について発表する。発表後、質疑応答を行う。	自分が健康について注意していることをまとめる。	45
第15回	健康について考える１	健康に必要な要素をブレインストーミングし、最も重要なものを３つ選ぶ。その要素について、なぜそれが重要なのか、健康を保つためには何をすれば良いのかを考える。	健康に関する語彙や表現をワークシートを使って学ぶ。	45
第16回	健康について考える２	効果的な読み方と要点をノートに取る方法を学び、練習問題を行う。	新しい練習問題をやる。	45
第17回	健康について考える2	健康についての文献を読み、使用したいものを選びノートを取る。	引き続きノートを取る。	45
第18回	健康について考える4	アウトラインについて学ぶ。アウトラインの練習問題を行った後、健康についての自分のアウトラインを書く。	アウトラインを見直し修正する。	45
第19回	健康について考える5	序論と本論の構成について学び、序論を書く。引用についても学ぶ。	引用についての練習問題をやる。	45
第20回	健康について考える6	引用を使って本論を書くことを学ぶ。	本論を書く。	45
第21回	健康について考える７	グラフ、図、表の用い方を学び、練習問題を行う。結論の構成について学ぶ。	結論を書く。	45
第22回	健康について考える8	引用文献一覧の書き方を学ぶ。自分のレポートの引用文献一覧を書く。	レポートを序論から引用文献一覧までつなげて見直し修正する。	45
第23回	日本人学生にききたいこと１	日本人学生にアンケートできいてみたいことをリストアップし、テーマを決定する。	アウトラインを書く。	45
第24回	日本人学生にきいてみたいこと２	アンケートの作成方法を学び、自分のアンケートを作る。	アンケートを見直し修正する。	45
第25回	日本人学生にききたい	アンケートの集計方法、統計処理の方法を学ぶ。	アンケートを実施する。	45

	こと３			
第26回	日本人学生にききたいこと４	グラフ、図、表の作り方を学び、作成する。	作成したブラフ、図、表を見直し修正する。	45
第27回	日本人学生にききたいこと５	効果的なパワーポイントの作り方を学び、実際に作成する。	パワーポイントを見直し修正する。	45
第28回	日本人学生にききたいこと６	口述原稿の作り方を学び、実際に作成する。	口述原稿を見直し修正する。	45
第29回	日本人にききたいこと７	質疑応答の方法を学び、練習する。	自分の発表の練習をする。	45
第30回	日本人学生にききたいこと８	パワーポイントを用いた口頭発表をする。発表後、質疑応答を行う。	授業全体を振り返り、研究の方法を復習する。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
評価方法	課題（課題の完成度により評価する） レポート（内容、構成、表現、形式の観点から評価する） 口頭発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションの観点から評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		
	レポート	○	○	○	○
	口頭発表	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題20%　レポート30%　口頭発表30%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。
オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限（前期）
学生へのメッセージ	アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ1		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 末松　史	指定なし

ナンバリング	X13910C22
授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な力を身につけることを目的としている。様々な課題に取り組む中で、「情報を的確に集め理解する」「理解した情報をもとに自分の考えをまとめる」「他者に分かりやすいように伝える」ための訓練をしていく。また、そのプロセスにおいて日本語能力の向上を図る。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点（V）	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

アカデミックジャパニーズ１　（水、金）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス×ウォーミングアップ	授業説明(評価の方法、授業の流れ、課題について等) 自己紹介兼練習問題	指定された文章の内容確認	４５分
第2回	経験の言語化と他者との共有	・課題の確認 ・対話、テーマを深める(JAMBORD等を使用)	400字程度の作文	45分
第3回	作文・レポ	・課題の確認	「です・ます」調の分を論説文	45分

	ート・論文の違い―アカデミックジャパニーズって何？	・作文・レポート・論文の違いについて考える。 ・論文・レポートを書く際の作文の基本	に書き直す	
第4回	テーマを述べる	・文法　助詞相当語① ・練習問題	・助詞相当語を使った作文400字程度	45分
第5回	理由・経緯を説明する。	・文法　理由の表現 ・練習問題	・理由・経緯を説明する表現を使った作文	45分
第6回	理由・経緯を説明する。	・文法　理由の表現 ・練習問題	・理由・経緯を説明する表現を使った作文	45分
第7回	わかったことを説明する①	・助詞相当語② ・練習問題	判明していることを助詞相当語を使って説明する作文	45分
第8回	わかったことを説明する②	・助詞相当語② ・練習問題	判明していることを助詞相当語を使って説明する作文	45分
第9回	今までの振り返り①	今までの課題を通し、苦手なところの練習問題等をする。	練習問題の見直し	45分
第10回	今までの振り返り②	今までの課題を通し、苦手なところの練習問題等をする。	練習問題の見直し	45分
第11回	解決策を述べる①	・文法　接続表現を学ぶ ・問題を述べ、提言する。	インターネットの問題を提示し、それについて自分の解決策を述べる	45分
第12回	解決策を述べる②	・課題について話し合う ・その上で新たな情報を調べる	調べた情報をふまえと今回の話合いの結果を含め 前回の課題の書き直し	45分
第13回	問題点を述べる①	どのように問題点を見つけそれがなぜ問題になるのかを説明できるようになる対話と練習問題	「なぜ」を説明できるようにしてくること	45分
第14回	問題点を述べる②	どのように問題点を見つけそれがなぜ問題になるのかを説明できるようになる対話と練習問題	自分の意見を調査しながら深めてくること	45分
第15回	引用①-1	引用の仕方を学ぶ	引用表現をつかった作文	45分
第16回	引用①-2	引用表現をつかった作文	作文の見直し	45分
第17回	引用②-1	実際に自分が調べた情報を引用する。(論文・レポートに相応しい引用元、ふさわしくない引用元)	実際に自分が調べた情報を使って前回の作文に加筆修正	45分
第18回	引用②-2	実際に自分が調べた情報を引用する。(論文・レポートに相応しい引用元、ふさわしくない引用元)	実際に自分が調べた情報を使って前回の作文に加筆修正	45分
第19回	解決策を述べる①-1	・文法　接続表現を学ぶ ・問題を述べ、提言する。	インターネットの問題を提示し、それについて自分の解決策を述べる	45分
第20回	解決策を述べる①-2	・文法　接続表現を学ぶ ・問題を述べ、提言する。	インターネットの問題を提示し、それについて自分の解決策を述べる	45分
第21回	解決策を述べる②-1	・課題について話し合う ・その上で新たな情報を調べる	調べた情報をふまえと今回の話合いの結果を含め 前回の課題の書き直し	45分
第22回	解決策を述べる②-2	・課題について話し合う ・その上で新たな情報を調べる	調べた情報をふまえと今回の話合いの結果を含め 前回の課題の書き直し	45分
第23回	指示詞①-1	・指示詞、文脈指示の練習問題 ・社会的問題を一つ選び、それについて話し合う	・選んだ社会問題について調べてくる。	45分
第24回	指示詞①-2	・指示詞、文脈指示の練習問題 ・社会的問題を一つ選び、それについて話し合う	・選んだ社会問題について調べてくる。	45分
第25回	指示詞②-1	・指示詞、文脈指示の練習問題 ・社会的問題を一つ選び、それについて話し合う	・上記をふまえて、今までならったこと全てに気を付けながら作文	45分

第26回	指示詞②-2	・指示詞、文脈指示の練習問題 ・社会的問題を一つ選び、それについて話し合う	・上記をふまえて、今までならったこと全てに気を付けながら作文	45分
第27回	前期のまとめ①	まとめ課題	課題の残りを終わらせる	45分
第28回	前期のまとめ課題②	まとめ課題	課題の残りを終わらせてくること	45分
第29回	前期のまとめ課題③	フィードバックと自己評価	自分のよくできたところと改善点を考えてくる	45分
第30回	総括	一学期をふりかえる	アンケート	45分

学習計画注記	・毎回の授業に課題がありますが、課題は授業時間内になるべく収まるようにします。 ・毎授業、課題のフィードバックと次のテーマに関する対話(話し合い)をします。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
評価方法	課題（課題の完成度により評価する） レポート（内容、構成、表現、形式の観点から評価する） 口頭発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションの観点から評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		
	レポート	○	○	○	○
	口頭発表	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題20%　レポート30%　口頭発表30%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	・大学・大学院留学生の日本語②作文編アカデミックジャパニーズ研究会編著アルク ・　　④論文作成編 ・話す・書くにつながる！日本語読解、小野恵久子他兆著、アルク
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。
オフィスアワー	水、金曜日4限（前期）
学生へのメッセージ	アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。 水曜日に授業、金曜日を課題に取り組む時間とします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	X13920M22
授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点（V）	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業内容を理解し、大学で求められるレポートや口頭発表にはどのような特徴があるのかを考える。	世界的な視点で女性の権利が侵害されている例を考えてくる。	45
第2回	女性の生き方と権利について考える１	女性の権利が侵害されている例を挙げ、なぜそのようなことが起こるのかディスカッションする。映像でひとつの例を観た後に、問題点を整理する。	女性の権利に関わる語や表現をワークシートで学ぶ。	45
第3回	女性の生き方と権利について考える２	女性の生き方と権利についての文章を読み、問題点をまとめディスカッションする。	前回の授業で観た映像の問題点との共通点をまとめる。	45

第4回	女性の生き方と権利について考える３	図書館の使い方、インターネットでの文献検索の方法を学び、女性の生き方と権利についての情報を集める。情報収集はグループ単位で行う。	集めた情報から、問題点を整理する。	45
第5回	女性の生き方と権利について考える４	女性の生き方と権利について、グループごとに、原因を分析した上で、解決策および自分たちにできることを話し合う。	アウトラインにそって、レポートの下書きを書く。	45
第6回	女性の生き方と権利について考える５	グループでの話し合いの結果をポスターにまとめる。説明の役割分担を決め、説明文を考える。	口頭で説明をする練習をする。	45
第7回	女性の生き方と権利について考える６	グループごとにポスター発表をする。質疑応答も行う。	他グループの発表で参考になった点をまとめる。	45
第8回	地球の問題を考える１	与えられたテーマの選択肢の中から、自分が取り組みたいものを決め、グループを構成する。グループ内で、テーマに関してブレインストーミングし、何を取り上げていくかを整理する。	テーマについて、インターネットを使って情報収集する。	45
第9回	地球の問題を考える２	情報収集の分担を決め、図書館で情報収集する。	収集した情報を読んでノートにまとめる。	45
第10回	地球の問題を考える３	グループで話し合いながら、アウトラインを作成する。パワーポイントの作り方を学ぶ。	パワーポイントの原案を考える。	45
第11回	地球の問題を考える４	持ち寄ったパワーポイントの原案をグループ内で検討し、発表用のパワーポイントを作成する。説明の役割分担を決める。	自分が説明する部分の説明文を書く。	45
第12回	地球の問題を考える５	説明文を持ち寄り、グループで修正をする。ディスカッションの方法を学び、ディスカッションのポイントを作成する。	発表とディスカッションの練習をする。	45
第13回	地球の問題を考える６	グループごとにパワーポイントを使って発表をする。発表後、発表したグループが主導となり、テーマについてディスカッションをする。	自分が調べてみたいことをいくつか考える。	45
第14回	個人研究１	テーマの決め方を学び、各自個人研究のテーマを決める。	アウトラインを書く。	45
第15回	個人研究２	アウトラインをペアで検証し、相互に改善のためのアドバイスをする。	アウトラインを修正する。	45
第16回	個人研究３	図書館で情報収集する。	収集した情報を読む。	45
第17回	個人研究４	図書館での情報収集を続ける。その過程で、アウトラインを修正していく。	収集した情報を読む。	45
第18回	個人研究５	アウトラインの論理性をグループ内で検証し、相互に改善のためのアドバイスをする。アウトラインを修正する。	収集した情報をアウトライン中どこで使用するかを考える。	45
第19回	個人研究６	レポートの構成について学び、練習問題を通して理解を深める。	授業とは別の練習問題をやる。	45
第20回	個人研究７	序論の書き方について学び、練習を通して理解を深める。	個人研究の序論を書く。	45
第21回	個人研究８	本論の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の本論を書く。	45
第22回	個人研究９	引用の意味、方法を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の本論に引用を加えて調整する。	45
第23回	個人研究１０	結論の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の結論を書く。	45
第24回	個人研究１１	レポートと口頭発表の表現方法の違いについてディスカッションし、口頭発表で留意すべき点を明らかにする。	個人研究を口頭発表する場合の留意点をまとめる。	45
第25回	個人研究１２	レジュメの書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究のレジュメを作る。	45
第26回	個人研究１３	レジュメをペアで検証し、相互に改善点をアドバイスする。レジュメの修正を行う。	レジュメの修正を完了する。	45
第27回	個人研究１４	口述原稿の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の口述原稿を書く。	45

第28回	個人研究１５	質疑応答について学び、練習問題を通して理解を深める。	質疑応答に必要な語彙、表現を学ぶ。	45
第29回	個人研究１６	各自、レジュメを使って個人研究を発表する。発表後は質疑応答を行う。	発表した者は、発表について振り返る。次週発表の者は、練習をする。	45
第30回	個人研究１７	各自、レジュメを使って個人研究を発表する。発表後は質疑応答を行う。一学期間の自分の成長を振り返り、今後の課題をまとめる。	一学期間の自分の成長を振り返り、今後の課題をまとめる。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
評価方法	課題（課題の完成度により評価する） グループ発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーション、協働の姿勢により評価する） 個人研究（レポートおよび発表の内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		○
	グループ発表	○	○		○
	個人研究	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題20%　発表30%　個人研究30%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限
学生へのメッセージ	課題を達成するために必要な日本語に自分で気づき、調べ、身につけていってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ2		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 末松　史	指定なし

ナンバリング	X13920C22
授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な力を身につけることを目的としている。様々な課題に取り組む中で、「情報を的確に集め理解する」「理解した情報をもとに自分の考えをまとめる」「他者に分かりやすいように伝える」ための訓練をしていく。また、そのプロセスにおいて日本語能力の向上を図る。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	テーマについての理解を深め、そのための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	テーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点（V）	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート・プレゼンテーションが作成できる。

学習計画

アカデミックジャパニーズ２　アカデミックプレゼンテーション

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス プレゼンテーションのテーマの設定	プレゼンテーションとは テーマを決める	自分のプレゼンテーションをしたい内容候補を３つ探してくる	45分
第2回	テーマを探す①	テーマについて話し合い	テーマについて掘り下げて考えるまたは調べる	45分
第3回	テーマを探す②	テーマ決定	どうしてそのテーマに決定したのか理由付けをする	45分

第4回	テーマ設定①-1	テーマについてどのような議論を展開していくか。	テーマに関する調査	45分
第5回	テーマ設定①-2	テーマについてどのような議論を展開していくか。	テーマに関する調査	45分
第6回	テーマの設定①-3	内容のアウトラインを元に 足りない情報等を調べる	課題	45分
第7回	わかりやすいスライド作成①	スライドを作っていく	発表スライドの草案作成	45分
第8回	表紙作成①	レイアウトを学ぶ	課題	45分
第9回	表紙作成②	レイアウトを完成される。	レイアウトの仕上げ	45分
第10回	構成を考える①-1	草案を元に構成を考える。(対話)	対話から出た疑問に答える	45分
第11回	構成を考える①-2	草案を元に構成を考える。	スピーチノートを仕上げてくる	45分
第12回	構成を考える②-1	プレゼンテーションの順序を考える	３部にわける	45分
第13回	構成を考える②-2	プレゼンテーションの順序を決定する。	３部をさらに２～３部にわける	45分
第14回	構成を考える③-1	発表のアウトラインを作る 論理的な発表の流れを作る	流れを完成される	45分
第15回	構成を考える③-2	発表のアウトライン・論理的な発表の流れを完成される。	わかりやすく流れ(プラン)を書く	45分
第16回	わかりやすいスライド作成①-2	わかりやすいスライドとは？	授業の勉強したことを元に他のスライドも直す	45分
第17回	わかりやすいスライド作成②-1	わかりやすいスライドとは？	授業の勉強したことを元に他のスライドも直す	45分
第18回	わかりやすいスライド作成②-1	わかりやすいスライドとは？	授業の勉強したことを元に他のスライドも直す	45分
第19回	わかりやすいスライド作成③-1	わかりやすいスライドとは？	スライドの手直し	45分
第20回	わかりやすいスライド作成③-2	わかりやすいスライドとは？	スライドの手直し	45分
第21回	スピーチノートの準備①	スピーチノートとは？	スピーチノートの準備	45分
第22回	スピーチノートの準備②	スピーチノートとは	スピーチノートの準備と手直し	45分
第23回	発表の練習①	声の出し方 話し方 スライドの見せ方等	発表の練習	45分
第24回	発表の練習②	録画したものを見て改善点を見つける	発表の練習	45分
第25回	発表	発表(録画)	録画したものを見てフィードバックと自己評価	45分
第26回	レジュメの作成①	レジュメの書き方	レジュメの草案を書く	45分
第27回	レジュメ作成②-1	レジュメの完成	レジュメの手直し	45分
第28回	レジュメの作成②-2	レジュメの完成	レジュメの手直し	45分
第29回	レジュメの	レジュメの見直し	自分の発表を見直す(録画、ス	45分

	見直しと総括	アカデミックプレゼンテーションで学んだことのふりかえりと気づき	ライド、レジュメ）	
第30回	総括	アカデミックプレゼンテーションで学んだことのふりかえりと気づき	アンケート	45分

学習計画注記	※第一回=水、金でセット 毎回課題の確認をします。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
評価方法	課題（課題の完成度により評価する） 発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーション、協働の姿勢により評価する） 個人研究（レポートおよび発表の内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	個人研究	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題40%　　個人研究40%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、読解、レポート作成のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成ができる。
オフィスアワー	水曜日４限、金曜日５限
学生へのメッセージ	前期と同じ自分で考えて論理を組み立てそれを発表を通じ他者にプレゼンテーションを通し伝える方法を学びます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。（テーマの設定、テーマに沿った文献検索、情報収集等）
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。 グーグルスライドまたはPowerPointを使用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語ラボａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	X13940M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、日常的な話題で日本語を使うことによって「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業内容や方法を確認し、自己紹介をする。	日本語で苦手な音、アクセント、言いにくい言葉を書き出す。	45
第2回	日本語の音声	日本語の音声の体系および母語別の難しい音について知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	日本語のアクセント	日本語のアクセントの体系を知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第4回	東京家政学院大学探検1	東京家政学院大学の設立、現在の学部学科構成について学び、クラス全体で町田キャンパスの平面図を確認する。	平面図の中で一番気になったところについて知りたいことをまとめる。	45

第5回	東京家政学院大学探検2	各自町田キャンパスで気になったところについて発表し、相互に知りたいことについてアイディを深めていく。インタビューのやりかたを学び、インタビュー表を作成する。	インタビューの練習をする。	45
第6回	東京家政学院大学探検3	授業の前半に関係者へ30分程度のインタビューを行う（写真も撮る）。後半では、パワーポイントの作成の仕方を学び、インタビューの内容をパワーポイントにまとめる。	パワーポイントを完成する。	45
第7回	東京家政学院大学探検4	口述原稿の作り方を学び、インタビューの口述原稿を作成する。	発表の練習をする。	45
第8回	東京家政学院大学探検5	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	東京家政学院大学のキャンプスについて紹介する手紙を書く。	45
第9回	ふるさとの思い出1	ふるさとの思い出のモデル発表をきく。自分の発表についてアウトラインを立てる。	発表のパワーポイントの準備をする。	45
第10回	ふるさとの思い出2	ふるさとの思い出を紹介するために必要な表現、文法、語彙を学び、口述原稿を作成する。	口述原稿を完成する。	45
第11回	ふるさとの思い出3	効果的なプレゼンテーションの方法について学び、質疑応答の練習をする。	発表の練習をする。	45
第12回	ふるさとの思い出4	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	他の人のふるさとの思い出をきいた感想をまとめる。	45
第13回	レシピ1	日本語のレシピを読んで、食材、調理法、盛りつけなどの表現について学ぶ。	簡単に作れる自国料理を作り、その様子を写真に撮る。	45
第14回	レシピ2	レシピの書き方を学び、クラスで紹介したい自国料理のレシピを作る。	写真を入れたレシピを完成する。	45
第15回	レシピ3	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	クラスで紹介されたレシピのうちひとつを選び、実際に作る。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価） 課題（課題の達成度により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表	○	○	○	○
	課題	○	○	○	
	平常点	○	○	○	○

評価割合	発表（3回）60%　課題20%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限（前期）
学生へのメッセージ	日本語を真のコミュニケーションで使うための練習を重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語ラボａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 末松　史	指定なし

ナンバリング	X13940C12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、場面にあった適確な表現ができるよう、日本語のバリエーション習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

日本語ラボａｃ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス バイトをしようI	授業説明 バイトをしたいと思ったとき	実際にバイトを探してみよう。	45
第2回	バイトをしようII	履歴書の準備(履歴書について調べる) 企業調査 何を書くのか考える・調べる	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	バイトを探	履歴書作成	履歴書を仕上げる	45

	そう！			
第4回	バイトを探そう	メールで履歴書を送ろう 敬語	面接について調べよう	45
第5回	バイトをしよう	面接の準備　敬語	分かりやすい資料とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第6回	バイトをしよう	面接ロールプレイ	面接の練習	45
第7回	電話対応	電話で問い合わせる	色々なシチュエーションを考えてくる	45
第8回	電話対応	メール対応	ビジネスメールの例文等を調べる	45
第9回	日本語の音声	イントネーションとアクセント 自分の音読を録音する	自分の録音を聞いてきて気になる発音をメモしておく	45
第10回	ディクトクロス①	会話を聞いて、(動画を見て)会話を再現する。	調理法、食材、調理器具等の名称を復習する。	45
第11回	ロールプレイ①	言葉のバリエーション(敬語、タメ語等)を使わなければいけない場面を設定しロールプレイをする。	レシピを修正し、写真を探す。	45
第12回	ディクトクロス②	会話を聞いて、(動画を見て)会話を再現する。	口頭で説明する練習を続ける。	45
第13回	ロールプレイ②	言葉のバリエーション(敬語、タメ語等)を使わなければいけない場面を設定しロールプレイをする。	調理交流のシミュレーションをする。日本語表現を特に復習する。	45
第14回	ロールプレイ③	ロールプレイ	成果報告の発表の準備をする	45
第15回	総括	何を学んで実生活でどのような役にたつようになるか	授業後アンケート	45

学習計画注記	ロールプレイをメイン活動としそれに準じた活動をします。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○			
	ポートフォリオ			○	○
	平常点	○	○	○	

評価割合	発表（２回）５０％　課題１０％　ポートフォリオ２０％　平常点２０％
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	水曜日５限（後期）
学生へのメッセージ	日本語をコミュニケーションで使う経験を重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。 JAMBORD等

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語ラボｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	X13950M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、日常的な話題で日本語を使うことで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業内容や方法について確認する。自己紹介をする。	相原町の地図を見て、気になるところに〇をつけてくる。	45
第2回	相原探検１	相原の地図で気になった場所について、お互いに情報交換する。インターネットでその場所について調べる。	その場所を紹介するパワーポイントを作成する。可能であればその場所を訪れて写真を撮る。	45
第3回	相原探検2	相原探検のモデル発表をきき、口述原稿の作り方について確認する。口述原稿を作る。	発表の練習をする。	45
第4回	相原探検3	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	相原の魅力について作文を書く。	45

第5回	日本人にインタビューする1	話を聞いてみたい日本人の性別、年齢、職業などをリストアップし、質問を考える。	インタビューの質問をリストにまとめる。	45
第6回	日本人にインタビューする2	各自考えてきたインタビューの質問を発表する。クラスメートの質問や意見を参考に質問事項を修正・追加する。インタビューの依頼の仕方も学ぶ。	インタビューの相手に依頼文を送る。	45
第7回	日本人にインタビューする3	パワーポイントの作成方法を学ぶ。	インタビューを実施する。	45
第8回	日本人にインタビューする4	インタビュー報告のモデル発表をきき、パワーポイント、口述原稿作成上の注意点を学ぶ。	インタビューを実施する。	45
第9回	日本人にインタビューする5	インタビューの結果について、パワーポイントと口述原稿を作成する。	発表の練習をする。	45
第10回	日本人にインタビューする6	各自パワーポイントを使い、インタビューの結果を報告する。相互に質問やコメントをすることで考察を深めていく。	お正月の思い出を箇条書きでまとめる。	45
第11回	お正月の思い出１	お正月の思い出の発表のアウトラインを立てる。パワーポイントの計画をする。	パワーポイントに使う写真を集める。	45
第12回	お正月の思い出2	お正月の思い出のモデル発表を聞き、質疑応答をする。自分の発表のブックを作成する。	ブックを完成する。	45
第13回	お正月の思い出3	発表のためのブックを作成する。	ブックを完成する。	45
第14回	お正月の思い出4	効果的な朗読の仕方を学び、朗読の練習をする。	朗読の練習をする。	45
第15回	お正月の思い出5	各自のお正月の思い出のブックを見ながら、作成者が朗読する。相互に質問やコメントをすることで考察を深めていく。	他の人のブックからひとつを選び感想を書く。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価） 課題（課題の完成度により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	発表（3回）60% 課題　　20% 平常点　　20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限（後期）
学生へのメッセージ	真のコミュニケーションで日本語を使う体験を積み重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語ラボｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 末松　史	指定なし

ナンバリング	X13950C12
授業概要(教育目的)	あるテーマについて専門的な文章(JLPT１級相応)を読み、それについて話し合い、調べ、まとめる力をつける。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コミュニケーションを通し、学びを深めるための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	専門的な文章(JLPT１級相応)を読み、それについて話し合い、調べ、まとめる力をつける。

学習計画

日本語ラボｂｄ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 考えるI	授業内容の説明 テーマについての話す⇒読解⇒内容確認	内容確認を仕上げる	45
第2回	考えるII	内容確認 発展　話し合い	自分の考えをまとめる(作文)	45
第3回	調べるI	エコについて話し合う 読解	内容確認	45
第4回	調べるII	SDG’Sについて調べる	リサーチをまとめる	45

第5回	調べるIII	調べた内容を発表	その内容をふまえてまとめる	45
第6回	発表I	社会問題に関する文章を読む 話し合う	内容確認(筆者の主張を理解する)	45
第7回	発表II	考察を深める(話し合う、調べる) 立ち位置を決めて主張を展開する	自分の考えをさらに掘り下げる	45
第8回	発表I	考え、調べ、話し合ったことを発表	発表の改善点(次回に向けて)	45
第9回	「〇〇と私」自分のことばをつくる	テーマ設定と仮タイトル決定	テーマについて考えてくる	45
第10回	「〇〇と私」自分のことばをつくるＩＩ	動機メモ作成	動機メモの仕上げ	45
第11回	「〇〇と私」自分のことばをつくるIII	対話	教師以外の人と同じことをしてくる。	45
第12回	「〇〇と私」自分のことばをつくるIV	話合った結果の報告⇒自分の結論を導く	自分の結論を考えて書く	45
第13回	「〇〇と私」自分のことばをつくるV	結論をクラスで検討 レポート作成	レポート作成の続き	45
第14回	「〇〇と私」自分のことばをつくるVI	レポートの発表 相互評価	自己評価	45
第15回	総括	この授業で学んだことを今後どう活かせることができるのか考える。	アンケート	45

学習計画注記	あるテーマについて、文章を読み、それについて話し合う、考え、調べ、纏める、大学で必要な勉強の仕方を学び授業です。また大学だけでなく自分のテーマを見つける試みもこの授業の目指すところです。 授業で終わらなかったことが課題になりますが、基本的に授業時間内に課題に取り組む時間を設けます。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表（1回）（内容、構成、表現、形式により評価） ポートフォリオ 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	報告・発表	○	○	○	○
	課題	○			
	ポートフォリオ			○	○
	平常点	○	○	○	

評価割合	報告・発表（１回）５０％　課題１０％　ポートフォリオ２０％　平常点２０％
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	話す・書くにつながる日本語読解中上級、小野恵久子他著アルク
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	水曜日５限

学生へのメッセージ	受け身ではない学習の仕方を身に着けていきましょう。 自分で調べ、自分で考え、それを他者と話し合うことによりさらに学びを深めていきましょう。 テスト等はありません。良し悪しを評価するわけではなくいかに課題に真剣に取り組むかというところが評価のカギになってきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分で調べ、話し合い、考える
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。 JAMBORD等

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語ラボｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	X13940M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、日常的な話題で日本語を使うことによって「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業内容や方法を確認し、自己紹介をする。	日本語で苦手な音、アクセント、言いにくい言葉を書き出す。	45
第2回	日本語の音声	日本語の音声の体系および母語別の難しい音について知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	日本語のアクセント	日本語のアクセントの体系を知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第4回	東京家政学院大学探検1	東京家政学院大学の設立、現在の学部学科構成について学び、クラス全体で町田キャンパスの平面図を確認する。	平面図の中で一番気になったところについて知りたいことをまとめる。	45

第5回	東京家政学院大学探検2	各自町田キャンパスで気になったところについて発表し、相互に知りたいことについてアイディを深めていく。インタビューのやりかたを学び、インタビュー表を作成する。	インタビューの練習をする。	45
第6回	東京家政学院大学探検3	授業の前半に関係者へ30分程度のインタビューを行う（写真も撮る）。後半では、パワーポイントの作成の仕方を学び、インタビューの内容をパワーポイントにまとめる。	パワーポイントを完成する。	45
第7回	東京家政学院大学探検4	口述原稿の作り方を学び、インタビューの口述原稿を作成する。	発表の練習をする。	45
第8回	東京家政学院大学探検5	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	東京家政学院大学のキャンプスについて紹介する手紙を書く。	45
第9回	ふるさとの思い出1	ふるさとの思い出のモデル発表をきく。自分の発表についてアウトラインを立てる。	発表のパワーポイントの準備をする。	45
第10回	ふるさとの思い出2	ふるさとの思い出を紹介するために必要な表現、文法、語彙を学び、口述原稿を作成する。	口述原稿を完成する。	45
第11回	ふるさとの思い出3	効果的なプレゼンテーションの方法について学び、質疑応答の練習をする。	発表の練習をする。	45
第12回	ふるさとの思い出4	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	他の人のふるさとの思い出をきいた感想をまとめる。	45
第13回	レシピ1	日本語のレシピを読んで、食材、調理法、盛りつけなどの表現について学ぶ。	簡単に作れる自国料理を作り、その様子を写真に撮る。	45
第14回	レシピ2	レシピの書き方を学び、クラスで紹介したい自国料理のレシピを作る。	写真を入れたレシピを完成する。	45
第15回	レシピ3	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	クラスで紹介されたレシピのうちひとつを選び、実際に作る。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価） 課題（課題の達成度により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表	○	○	○	○
	課題	○	○	○	
	平常点	○	○	○	○

評価割合	発表（3回）60%　課題20%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限（前期）
学生へのメッセージ	日本語を真のコミュニケーションで使うための練習を重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語ラボｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 末松　史	指定なし

ナンバリング	X13940C12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、場面にあった適確な表現ができるよう、日本語のバリエーション習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

日本語ラボａｃ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス バイトをしようI	授業説明 バイトをしたいと思ったとき	実際にバイトを探してみよう。	45
第2回	バイトをしようII	履歴書の準備(履歴書について調べる) 企業調査 何を書くのか考える・調べる	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	バイトを探	履歴書作成	履歴書を仕上げる	45

	そう！			
第4回	バイトを探そう	メールで履歴書を送ろう 敬語	面接について調べよう	45
第5回	バイトをしよう	面接の準備　敬語	分かりやすい資料とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第6回	バイトをしよう	面接ロールプレイ	面接の練習	45
第7回	電話対応	電話で問い合わせる	色々なシチュエーションを考えてくる	45
第8回	電話対応	メール対応	ビジネスメールの例文等を調べる	45
第9回	日本語の音声	イントネーションとアクセント 自分の音読を録音する	自分の録音を聞いてきて気になる発音をメモしておく	45
第10回	ディクトクロス①	会話を聞いて、(動画を見て)会話を再現する。	調理法、食材、調理器具等の名称を復習する。	45
第11回	ロールプレイ①	言葉のバリエーション(敬語、タメ語等)を使わなければいけない場面を設定しロールプレイをする。	レシピを修正し、写真を探す。	45
第12回	ディクトクロス②	会話を聞いて、(動画を見て)会話を再現する。	口頭で説明する練習を続ける。	45
第13回	ロールプレイ②	言葉のバリエーション(敬語、タメ語等)を使わなければいけない場面を設定しロールプレイをする。	調理交流のシミュレーションをする。日本語表現を特に復習する。	45
第14回	ロールプレイ③	ロールプレイ	成果報告の発表の準備をする	45
第15回	総括	何を学んで実生活でどのような役にたつようになるか	授業後アンケート	45

学習計画注記	ロールプレイをメイン活動としそれに準じた活動をします。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○			
	ポートフォリオ			○	○
	平常点	○	○	○	

評価割合	発表（２回）５０％　課題１０％　ポートフォリオ２０％　平常点２０％
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	水曜日５限（後期）
学生へのメッセージ	日本語をコミュニケーションで使う経験を重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。 JAMBORD等

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語ラボｄ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	X13950M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、日常的な話題で日本語を使うことで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業内容や方法について確認する。自己紹介をする。	相原町の地図を見て、気になるところに〇をつけてくる。	45
第2回	相原探検１	相原の地図で気になった場所について、お互いに情報交換する。インターネットでその場所について調べる。	その場所を紹介するパワーポイントを作成する。可能であればその場所を訪れて写真を撮る。	45
第3回	相原探検2	相原探検のモデル発表をきき、口述原稿の作り方について確認する。口述原稿を作る。	発表の練習をする。	45
第4回	相原探検3	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	相原の魅力について作文を書く。	45

第5回	日本人にインタビューする1	話を聞いてみたい日本人の性別、年齢、職業などをリストアップし、質問を考える。	インタビューの質問をリストにまとめる。	45
第6回	日本人にインタビューする2	各自考えてきたインタビューの質問を発表する。クラスメートの質問や意見を参考に質問事項を修正・追加する。インタビューの依頼の仕方も学ぶ。	インタビューの相手に依頼文を送る。	45
第7回	日本人にインタビューする3	パワーポイントの作成方法を学ぶ。	インタビューを実施する。	45
第8回	日本人にインタビューする4	インタビュー報告のモデル発表をきき、パワーポイント、口述原稿作成上の注意点を学ぶ。	インタビューを実施する。	45
第9回	日本人にインタビューする5	インタビューの結果について、パワーポイントと口述原稿を作成する。	発表の練習をする。	45
第10回	日本人にインタビューする6	各自パワーポイントを使い、インタビューの結果を報告する。相互に質問やコメントをすることで考察を深めていく。	お正月の思い出を箇条書きでまとめる。	45
第11回	お正月の思い出１	お正月の思い出の発表のアウトラインを立てる。パワーポイントの計画をする。	パワーポイントに使う写真を集める。	45
第12回	お正月の思い出2	お正月の思い出のモデル発表を聞き、質疑応答をする。自分の発表のブックを作成する。	ブックを完成する。	45
第13回	お正月の思い出3	発表のためのブックを作成する。	ブックを完成する。	45
第14回	お正月の思い出4	効果的な朗読の仕方を学び、朗読の練習をする。	朗読の練習をする。	45
第15回	お正月の思い出5	各自のお正月の思い出のブックを見ながら、作成者が朗読する。相互に質問やコメントをすることで考察を深めていく。	他の人のブックからひとつを選び感想を書く。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価） 課題（課題の完成度により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	発表（3回）60% 課題　　20% 平常点　　20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限（後期）
学生へのメッセージ	真のコミュニケーションで日本語を使う体験を積み重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会人としての日本語		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

授業概要(教育目的)	留学生の中には、卒業後日本での就職や進学、母国での日本関連企業等への就職を希望する者が多い。本科目は、卒業後、日本と海外との架け橋として活躍する可能性のある学生に対し、社会人として求められる日本語力を養成することを目的としている。授業では、敬語の文型および用法を理解させた上で、実践を意識した練習を多く取り入れていく。また、日本語の言語表現を通して、日本人の思考形式への理解を深めさせ、日本社会における円滑なコミュニケーションの方法を身につけさせることをめざす。
履修条件	学則第58条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自分の考えや感情を日本語で適切に表現する技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	敬語のしくみ	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	45
第2回	日本語の敬語の分類	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノ	45

			ートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	日本語の敬語の実践的練習	特に間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、練習問題を通じて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第4回	電話応対の基本	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第5回	電話応対のマナー	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、望ましい伝言の方法やメモの作り方を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第6回	電話応対の実践的練習	社会人として仕事の場で受ける電話の応対について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第7回	手紙の形式	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第8回	手紙に特有の日本語表現	頭語、結語、時候の挨拶などの、手紙に特有の日本語表現について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用	45

			いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第9回	手紙の書き方の実践的練習	社会人としての手紙の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第10回	履歴書の書き方の基本	就職活動の際に作成する履歴書の書き方について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第11回	効果的な文章表現の工夫	履歴書の自己紹介部分について、読み手にアピールする上で効果的な文章表現の技術を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第12回	履歴書の書き方の実践的練習	履歴書の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第13回	面接の受け方の基本	就職活動の際の面接の受け方について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第14回	効果的な口頭表現の工夫	面接に際して、面接官にアピールする上で効果的な口頭表現の技術を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第15回	面接の受け	面接の受け方について、練習問題やロールプレイングを	各回の授業で配付される資料	45

	方の実践的練習	通じて基本的な技術を習得する。	を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料、返却された課題の添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
評価方法	・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。 ①課題の意図を適切に理解できている。 ②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。 ③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。 ④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。 ・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。 ・平常点は、授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内課題	○	○		○
	定期試験	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	授業内課題40%、定期試験40%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて資料を配付する。
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本語表現に関する豊かな知識を有している。 【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく日本語で表現し、他者に伝えることができる。
オフィスアワー	【千代田三番町キャンパス】 金曜3限　1703ゼミ室 【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日）　0405研究室
学生へのメッセージ	・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ロールプレイング、課題発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	日本の歴史と文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

ナンバリング	X13930M21
授業概要(教育目的)	日本の歴史や文化についての知識は、大学における様々な勉強を理解するための背景として必要であり、また留学生自身の日本社会への適応にも重要な要素となる。しかし日本文化に育った者が大学入学時までに身につけているこれらの知識を、留学生は意識的に学ぶことで蓄積していかなければならない。「日本の歴史と文化」では、日本の歴史を学ぶことで、日本の政治的、文化的変遷を学び、更にそこから読み取れる日本文化の特徴および日本人の思考形式について理解を深めさせていく。
履修条件	学則第58条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本の歴史の概略や、日本文化の歴史的な展開について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内活動（音読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	日本の姿 日本の地理	日本の地理に関する基本を理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本の歴史や文化に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」（pp.8-9）～第3章「日本には、どんな島がありますか」（pp.12-13）を読んでおくこと。	180

第2回	日本の姿 人口・気候・行政区	日本の人口・気候・行政区に関する基本を理解する。日本史の時代区分を理解する。	教科書第4章「日本は、どんな国ですか」（pp.14-15）～第6章「いつの時代ですか」（pp.20-22）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第3回	日本の歴史 石器から土器へ	旧石器時代、縄文時代の文化を理解する。	教科書第7章「歴史をまなぶ」（pp.24-26）～第8章「ひとがすむ」（pp.27-33）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	日本の歴史 農耕と金属器の時代	弥生時代の政治と文化を理解する。	教科書第9章「米をつくる」（pp.34-38）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	日本の歴史 統一政権の誕生	古墳時代の政治と文化を理解する。	教科書第10章「統一政権の誕生」（pp.39-45）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	日本の歴史 聖徳太子と飛鳥文化	飛鳥時代の文化を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	日本の歴史 中央集権国家の形成	飛鳥時代の政治を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	まとめ・中間試験	日本の地理ならび歴史（旧石器時代～飛鳥時代）についての理解を深める。	教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」（pp.8-9）～第11章「古代国家の形成」前半部（pp.46-50）を再度読み返しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本の歴史 奈良時代の文化	奈良時代の政治と文化を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」後半部（pp.50-53）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	日本の歴史 律令国家の変容	平安時代の政治と文化を理解する。	教科書第12章「律令国家の変容」（pp.54-60）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合	180

			は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第11回	日本の歴史 武士政権の登場	鎌倉時代の政治を理解する。	教科書第13章「武士政権の登場」前半部（pp.61-65）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	日本の歴史 鎌倉時代の文化	鎌倉時代の文化を理解する。	教科書第13章「武士政権の登場」後半部（pp.66-67）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本の歴史 武士社会の展開	南北朝時代、室町時代の政治を理解する。	教科書第14章「武士社会の展開」前半部（pp.68-72）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本の歴史 戦国大名の政治	戦国時代の政治を理解する。	教科書第14章「武士社会の展開」中間部（pp.72-74）を読んでおくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	日本の歴史 中世の産業と文化	中世の産業と文化を理解する。	教科書第14章「武士社会の展開」後半部（pp.74-77）を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	・毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
評価方法	・中間試験ならびに期末試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。 ・平常点は、授業内活動（音読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○			
	期末試験	○			
	平常点			○	

評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	東京外国語大学編（1990）『留学生のための日本史』山川出版社　978-4-634-07010-3
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本の歴史や文化に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

オフィスアワー	【千代田三番町キャンパス】 火曜3限　1703ゼミ室 【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日）　0405研究室
学生へのメッセージ	・学則第58条に定める外国人留学生は必修（ただし、編入学、学士入学は「選択」）。 ・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	キャリアデザイン概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	X17000M21
授業概要(教育目的)	キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。具体的には、人生100年時代といわれる中にあって、キャリアや働くことについて深く考える。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限と下限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
思考・判断の観点（K）	他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	キャリア教育とは何か	キャリア教育とは何かを考える。	復習としてキャリアについて考えてくること。	180分
第2回	働くとは①（会社について）	働くとは何かを考える。	復習として、働くとは何か整理しておくこと。	180分
第3回	働くとは②（100年時代の働きかた）	過去と現在の働き方について考える。	復習として今後100年間における働き方について考えておくこと。	180分

第4回	100年ライフについて	100年時代の働き方について知る。	予習として、序章を読んでおくこと。	180分
第5回	長寿という贈り物について	長寿時代における働き方について考える。	予習として、１章を読んでおくこと。	180分
第6回	過去の資金計画について	これまでの教育・仕事・引退モデルの崩壊について考える。	予習として、2章を読んでおくこと。	180分
第7回	機械化・AI後の働き方について	雇用の未来として機械化・AI後の働き方について考える。	予習として、3章を読んでおくこと。	180分
第8回	お金に換算できないものについて	お金ではなく見えない資産について考える。	予習として、4章を読んでおくこと。	180分
第9回	今後の働き方①（新しいシナリオ）	今後の自身の可能性を広げることについて考える。	予習として、5章を読んでおくこと。	180分
第10回	今後の働き方②（新しいステージ）	今後の自身の選択肢の多様化について考える。	予習として、6章を読んでおくこと。	180分
第11回	今後の働き方③（新しいお金の考え方）	必要な資金をどう得るかについて考える。	予習として、7章を読んでおくこと。	180分
第12回	今後の働き方④（新しい時間の使い方）	自身のリ・クリエーションについて考える。	予習として、8章を読んでおくこと。	180分
第13回	未来の人間関係について	今後の私生活の変化について考える。	予習として、9章を読んでおくこと。	180分
第14回	変革への課題について	人生100年時代において、どのような変革の課題があるのかを考える。	予習として、終章を読んでおくこと。	180分
第15回	総復習	これまでの内容を復習する。	これまでの内容を復習しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。なお、上記のうち、２回を就職懇談会などに振り替える予定である。
学生へのフィードバック方法	授業において解説します。
評価方法	・課題として、毎週テキストの各章の要約をA４で1枚提出してもらいます。 ・レポートは4000字程度、A4で2枚～3枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		
	レポート	○	○		

評価割合	レポート(60%) 課題（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	リンダ グラットン(著)、池村 千秋（翻訳)、『LIFE SHIFT(ライフ・シフト)』、東洋経済新報社、2016年。
参考図書	星井博文(著)、リンダ・グラットン(著)、『まんがでわかる LIFE SHIFT』、東洋経済新報社、2018年。
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。ただし、事前にアポをとってくること
学生へのメッセージ	課題が多いので、覚悟をもって授業に参加すること。また、受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	キャリアデザインａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	X27050M12
授業概要(教育目的)	キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。本授業では、単に職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。
履修条件	キャリアデザイン概論を受講しているのが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知ることができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業概要	大学での学びの意義について考える。	大学生活での出会いについて復習しておくこと。	45分
第2回	キャリア教育とは	キャリア教育（就職、資格、就業）とは何かについて説明を行う。	多様な働き方を調べてくる（課題①）	45分
第3回	課題の解説	多様な働き方について解説を行う。	多様な働き方があることを復習しておくこと。	45分
第4回	学びと社会のつながり	「社会にでる」ってどういうことかを考える。	復習として、社会に出る意義を考えておくこと。	45分

第5回	社会を知る①（職種、業界偏）	職種、業界について知る。	職種、業界について復習しておくこと。	45分
第6回	社会を知る②（会社を知る）	会社について知る。	興味のある会社を知らべてくること（課題②）	45分
第7回	課題の解説	会社についての解説を行う。	会社について復習しておくこと。	45分
第8回	学びと社会のつながり	自分たちの学びがどのように社会とつながっているかを知る。	多様な働き方を調べてくる（課題③）	45分
第9回	課題の解説	多様な働き方について解説を行う。	レポート作成について調べてくること（課題④）	45分
第10回	レポート作成について	レポート作成について解説する。	レポート作成について復習しておくこと。	45分
第11回	失敗とは	失敗からの学びは何か考える。	大学での学びと社会の関係について調べてくること（課題⑤）	45分
第12回	課題の解説	大学での学びと社会の関係についての解説を行う。	大学での学びと社会の関係について復習しておくこと。	45分
第13回	組織に求められる能力とは	探求力、思考力、コミュニケーション力、遂行力について考える。	復習としてコミュニケーションについて考えてくること。	45分
第14回	仕事人生における壁について	仕事人生40年における壁について考える。	仕事人生40年における壁の復習をしておくこと。	45分
第15回	総復習	これまでの内容を総復習する。	予習としてこれまでの内容を整理しておくこと。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	・課題は4回～5回出題します。内容はA４で1枚～２枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○			
	レポート	○	○		

評価割合	レポート(60%) 課題4～5回（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	児美川孝一郎、『キャリア教育のウソ 』、筑摩書房、2013年。
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってくること
学生へのメッセージ	課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	キャリアデザインｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	X27060M12
授業概要(教育目的)	キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというとどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限と下限を設ける。
履修条件	キャリアデザインaを受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
思考・判断の観点（K）	他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	キャリア教育とは何か	キャリア教育とは何かを考える。	復習としてキャリアについて考えてくること	45分
第2回	働くとは①（会社について）	働くとは何かを考える。	身近な人の仕事上の苦労について調べてくること（課題①）	45分
第3回	働くとは②（100年時	過去と現在の働き方について考える。	復習として今後100年間における働き方について考えておくこと。	45分

	代の働きかた）			
第4回	フリーターについて。	フリーターという働き方について考える。	復習として、フリーターという働き方について考えておくこと。	45分
第5回	社会と会社について。	社会と会社について知っていること、知らないことを整理する。	社会と会社について分かっていないことを調べておくこと（課題②）	45分
第6回	課題についての解説	課題についての解説を行う。	復習として、社会と会社について分かっていないことを整理しておくこと。	45分
第7回	業界・職種について	業界・職種について知る。	興味のある業界と職種を調べておくこと（課題③）	45分
第8回	会社について	会社について知る。	興味のある会社について調べておくこと（課題④）	45分
第9回	課題についての解説	業界と会社についての解説を行う。	レポート作成を調べておくこと（課題⑤）	45分
第10回	レポート作成	レポート作成について知る。	良い会社とは何か調べておくこと（課題⑥）	45分
第11回	良い会社とは	どのような会社が良い会社なのかを考える。	復習として、良い会社について整理しておくこと。	45分
第12回	就職懇談会振り替え①（一般企業）	就職懇談会への振り替えとして、就職懇談会にできるだけ参加すること。	復習として、就職懇談会で得た情報を整理しておくこと。	45分
第13回	就職懇談会振り替え②（教職）	就職懇談会への振り替えとして、就職懇談会にできるだけ参加すること。	復習として、就職懇談会で得た情報を整理しておくこと。	45分
第14回	自己の成長について	成長するための準備を知る。	復習として、成長について考えておくこと。	45分
第15回	総復習	これまでの内容を復習する。	予習として、これまでの内容を整理しておくこと。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。なお、上記のうち、２回を就職懇談会などに振り替える予定である。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します
評価方法	・課題は5回～6回出題します。内容はA４で1枚～２枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○			
	レポート	○	○		

評価割合	レポート(60%) 課題4～5回（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	児美川孝一郎、『キャリア教育のウソ 』、筑摩書房、2013年。
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってくること

学生へのメッセージ	キャリアデザインA、aを受講していることを望む 課題が多いので覚悟をもって受講すること。 受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

専　門　科　目

シラバス参照

講義名	インターンシップ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	G32301C23
授業概要(教育目的)	企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのでなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1～2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら２点を予め理解しておくこと。
履修条件	履修の条件ではありませんが、インターンシップの研修先を決める際には、書類選考と教員による面談を行う。面談後、研修先が決定しても、授業中の態度に問題があれば、研修先を取り消すことがある。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	自分の適性をチェックすることができる。 積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立できる。 業界・職種・会社についての知識を身に付けることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	インターンシップ概要説明	夏季休暇において、インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分
第2回	インターンシップ概要説明（1回目と同じ内容。履修の関係で1回目参加できなかった学生のため）	インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分
第3回	インターンシップとは	インターンシップに参加して得られるメリットやデメリットについて知る。	復習として、インターンシップに参加する意義を考えておくこと。	90分
第4回	ESの書き方について	履歴書の書き方について説明を行う。	ESの書き方について復習しておくこと。	90分
第5回	成果報告書から知るイ	インターンシップ成果報告書からインターンシップのイメージを知る。	復習として、インターンシップのイメージを抱いておくこと。	90分

	ンターンシップ			
第6回	先輩から聞くインターンシップ	インターンシップに参加した先輩の話を聞き、インターンシップのイメージを知る。	復習として、先輩の話からインターンシップのイメージをより明確にしておくこと。	90分
第7回	面談(5月末までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第8回	面談（6月上旬から中旬までの面談者）	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第9回	面談（6月中旬から下旬までの面談者）	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第10回	ES復習と成果報告書作成の注意点	成果報告書作成における注意点を説明する。	成果報告書の作成を復習しておくこと。	90分
第11回	面談（７月以降の面談者）	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第12回	夏季休暇中：インターンシップ実習	インターンシップ実習（8時間×5日＝40時間以上）	インターンシップ実習での準備や1日の振り返りを行うこと。	90分
第13回	後期1回目：インターンシップの振り返り（１）	インターンシップ研修先の情報を共有し、他者が参加したインターンシップを知る。	復習として他社のインターンシップについて整理しておくこと。	90分
第14回	後期2回目インターンシップの振り返り（２）	インターンシップ研修先を踏まえて、興味のある業界などを報告する。	予習として興味のある業界について調べてくること。	90分
第15回	後期3回目インターンシップの振り返り（３）	インターンシップを踏まえて、就職活動などに関する情報を提供する。	予習として就職活動などについて調べてくること。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。 後期の授業は参加者全員が成果報告書を提出した後に、開講する。参加者の提出が遅れれば遅れるだけ、開講時期も遅くなる。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	・評価として、研修の2/3以上参加しないと成績対象外となります。 ・その上で、研修後に提出する成果報告書で評価します。報告書は、A4で2枚です。文章表現などが適切であるか、誤字脱字などはないか、また、期限までに提出しているか、教員の赤ペンがどれくらい入ったかで評価します。 ・成果報告書は下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	成果報告書			○	
	平常点			○	

評価割合	成果報告書95% 平常点5%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	東京家政学院大学インターンシップ成果報告書
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってくること。
学生へのメッセージ	インターンシップ研修の前に、各自で実習受け入れ先に対する業界・企業研究を行うこと。 インターンシップ研修中は、毎日、研修終了後に「実習日誌」を記述し、自分の研修成果を振り返り、翌日の課題を把握すること。 インターン終了後は、成果報告書の作成を行うこと。 なお、学生自身が大学のインターンシップ制度に協力してくれる研修先を見つけてくる気概をもって参加すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	現代生活論（現代家政学科）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　清美	指定なし
教授	現代家政学科　教員	指定なし
助教	伊藤　有紀	指定なし

ナンバリング	G21003C21
授業概要(教育目的)	21世紀を迎え、人間生活とその環境の変化は著しく、かつ、危機的な様相を深めている。地球環境、民族紛争、南北問題、格差・貧困、人種問題、あるいは国際紛争、国内に眼を転じれば、住宅問題、過労死・自殺の急増、介護、いじめ、虐待、食糧危機、食品安全、医療ミス、ニート・フリーター問題、引きこもり、などなど。世界に起きている生活の問題や日本社会に起きている問題について、その複雑な回路を学問的につなぐ努力を行い、問題を深め、希望を語れる素養を身につけることをめざす。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代の生活に生起する諸問題を、具体的に考え理解できる。
思考・判断の観点（K）	他の人々との意見の違いなど発見し、問題の複雑さを実感できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	課題について、積極的にかかわり、調べたことを整理し、皆と協力的に意見交換ができる。
技術・表現の観点（A）	テーマに沿って、相手に伝える工夫ができ、自分自身の意見が述べられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	現代生活論では、人間生活の環境の変化の中で、日常生活に起こる様々な問題を考え解決していく力を養う。そのために、自己の課題を確認し、学科の専門分野の先生方が教授するヒントをとらえ、各自がそれらに向かって、個々で解決できる力を身につけること希望し、進めていく予定である。	シラバス等を読んで、内容を把握しておくこと。	180分
第2回	祭りと遊び 担当：大嶋徹	世界の祭りの一部を紹介する。自分の在住地域の祭りを調べ地域と祭りの結びつきを考える。その祭に遊びの要素はあるか。世界の祭りにも遊びの要素はあるのか。祭りと遊びの共通点や相違点を考察する。	祭りの要素は何か。遊びの要素は何かを抽出する。さまざまな遊びや祭りでもそれらの要素は妥当するか検証する準備をすること。	180分
第3回	グループワークとチームビルディング 担当：木村文香	グループワークとチームビルディングについて、実践的に体験しながら、社会での活かし方を学ぶ。グループワークの素材として、「自分たちの力で楽しいキャンパスライフを！」をテーマとした「ラジオ番組」の企画をグループで考える。	受講前の事前学習として、「現代家政演習」で学んだグループワークの仕組みを復習し、楽しいキャンパスライフにつながる「番組」の内容を各自で考えておく。受講後の事後学修として、個別の学習活動とグループでの学習活動の違いや、チームワークの成果を検討する。	180分
第4回	家族の変化とケア　担当：井上清美	女性の社会参加や価値観の変化により、介護や子育てなど、これまで家族によって担われてきたケアの社会化が進行している。例えばヤングケアラーやダブルケアなどの問題を解決するために、ケア労働の外部化やグローバル化、ICT化など、担い手の負担を軽減する方法について考える。	事前学習として、保育所や介護サービスの現状（利用率や利用状況など）についてインターネット等を利用して調べておく。	180分

第5回	キャリア教育 担当：金森敏	キャリア教育として、①資格のためのキャリア教育、②就職のためのキャリア教育、③就業のためのキャリア教育があります。上記3点について解説をし、実際に受講している学生が上記3点についてどのように考えているのかを事前アンケートをもとに紹介します。	事前学習として、「人生100年時代の社会人基礎力」の概念を調べておくこと。また、事前アンケートにはできるけ答えてもらいたい。	180分
第6回	生協の食品ロス削減とフードバンク・子ども食堂支援活動　担当：上村協子	食品ロス削減をめざして、本学先輩たちはプロシューマー実習では4都市（相模原・横浜・川崎・八王子）での食品ロス削減を呼びかける動画制作を行い、家庭科教育法では江戸エコかるたの作成をするなどの活動を行ってきました。今回は、消費生活協同組合パルシステム神奈川が取り組む【ビーバーリンク】などを例に生協の食品ロス削減活動とフードバンク・子ども食堂支援の取り組みの関わりを学び、自分の住む地域で、自分が何をできるのかを考えます。	予習として、現代生活学研究のホームページ（http://uemuralabo.webcrow.jp/index.html）に掲載されている、小学校高学年むけの相模原・横浜・川崎・八王子の動画を見てもっとも印象にのこった動画を選び、どのような点が印象的であったのかを、3点箇条書きでかいて準備してください。	180分
第7回	日本の米食文化　担当：伊藤有紀	米は、食べ物としてはもちろん、祭祀の供え物や通貨などとしても用いられてきた日本人の生活に欠かせないものです。米食について、食文化や栄養価、調理の面から考え、自身の食生活を振り返ってみましょう。	事後学習として、授業で学んだことのうち興味ある事項について、さらに自分なりに調べてみること。	180分
第8回	いも類の私たちの食生活への関わりについて考える　担当：三宅紀子	いも類は世界的に見ても、主食としている地域もある。日本でも稲作以前から主食であり、、穀類の不足を補う意味で、エネルギー源として重要であった。日本で多く食されているいも類の栄養や特徴などを含め、いも類の私たちの食生活への関わりを考える。	事前学習として、日本で多く食されているいも類にはどのようなものがあるのか、インターネット等を用いて調べておくこと。	180分
第9回	生活者視点で考えるカラーユニバーサルデザイン 担当：井澤尚子	われわれの色の見え方は一様でないことを理解するために、色覚にはいくつかのタイプがあることを解説する。特に、日常生活におけるカラーユニバーサルデザインの具体例をあげ、カラーユニバーサルデザインの考え方や必要性について理解を深める。	色彩論を履修した学生は、「色の見える仕組み」を教科書で復習しておくこと。履修していない学生は、書籍、インターネットを用いて予習すること。併せて「カラーユニバーサルデザイン」の意味を調べまとめる。	180分
第10回	買い物の変化について考える 担当：太田茜	私たちの購買行動は時代によって大きく変化しています。現代の買い物の仕方の基礎になった百貨店の歴史を知り、これから消費者としてどのような姿勢で物を選び、手に入れていったらよいかを考えましょう。	予習として、10月～11月に買ったもの（単価1000円以上のもの）をリストにし、何を基準にそれを選んだか記録をしておくこと。消耗品として買い足したものと、そうでないものに分類しておく。	180分
第11回	Looking Outward to Communicate with Different Cultures 担当：マーク・ルイス	How customs and manners differ between cultures. How our particular values differ and influence	Students should read handout provided by the teacher before the day of class.	180分
第12回	ことばと生活文化　担当：内田宗一	言語には、それを使って生活している人々の文化が反映していると捉えられる側面が認められる。日本語の歴史的な変化を分析することを通じて、そこから読み解ける生活文化のうつりかわりの一端について考えていく。	事前学習として、ことばと生活文化の関連について、1年次必修「現代家政演習」で学んだ内容を再確認しておく。授業後はノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は、附属図書館を利用するなどして自主的に学習し、知識を定着させる。	180分
第13回	人間の感覚と環境評価指標 担当：椛田考一	人間は、目(視覚)、耳(聴覚，平衡感覚)、鼻(嗅覚)、舌(味覚)、皮膚(触覚，温覚，圧覚)で環境からの刺激を受け、その感覚によって自身の置かれた環境を認識している。熱環境、空気環境、視環境、音環境について、刺激と感覚の関係を示す種々の環境評価指標を紹介する。	配布資料を参考に興味ある事項について、さらに知識を深めること。	180分
第14回	深海からくらしを考える 担当：沼波秀樹	衣・食・住は人類に不可欠であるが，それらに必要な生活資源（食料，建材，繊維など）の多くは自然界（生態系）から得ている。特に高度な文明社会を支えているエネルギーや生きるために必要な食料と深海との関連性を解説し，地球環境について理解を深める。	身近な環境問題について，新聞やインターネット等を利用して調べる。また，「なぜ環境問題が起こるのか？」を考えておくこと。	180分
第15回	森林資源と住まい　担当：青柳由佳	日本は温暖で雨が多いため森林資源に恵まれ、それらを利用して住まいをつくってきた。しかし、近年これらの森林資源が住まいにうまく利用されないまま荒廃し始めている。このような背景を理解した上で、これからの住まいについて考察する。	日本の木造住宅につかわれる材種及び材種の地域差についてインターネット等を利用して調べる。	180分

学生へのフィードバック方法	適宜，各担当教員が質問を受ける。
評価方法	・平常点（授業への参加状況や課題が提示される場合は取り組みの等）及び定期試験（レポート形式）による総合評価。 ・各回で担当する教員から課題等が出される。 ・定期試験は記述式で，領域が重ならないように2つの授業を選んで回答する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（50%）および定期試験（50%）の総合評価とする。

使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	複数の担当教員から、必要に応じて、それぞれ参考文献などが提示される。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	第1回の授業で教員別のオフィスアワーの一覧表を配布する。授業全体に関する質問は，井上・伊藤が対応します。
学生へのメッセージ	準備学習は、広く、現代人の生活全般に関心を持つようにしてほしい。現代人とは、子ども、乳幼児、若者、大人、あるいは、高齢者や弱者、病気を抱える人びと、さまざまな困難な抱える人びと、差別を受ける人びと、などである。イメージを豊かに広げられるようにしてほしい。そうした人びとが抱える生活上の基本問題（重要課題）は何か、つねに、関心を示せるようにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家政学原論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし
非常勤講師	花形　美緒	指定なし

ナンバリング	G32205C21
授業概要(教育目的)	家政学原論とは家政学とは何か、家政学をまなぶことで人はどのように変化できるかを考える授業である。総合家政の特色をもつ本学の現代家政学の意義と可能性を３つの柱から概説する。第一は、現代日本において当面する生活の諸課題を生活者の視点、家政学・現代生活学の研究方法から明らかにする。 第二は、女性の生き方と家政学の関係を整理する。家政学がどのように生成発展してきたか、ジェンダーや老年学の視点から理解する。第三は、国際的視点や地球環境との関わりから持続可能な社会形成に向けて現代家政学の可能性を考え、家政学を学んだ学生の生涯設計と社会的役割について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点（K）	生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導 く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	東京家政学院の家政学を持続可能な社会につなぐことに意欲をもち、生命の維持・生活の質にこだわる生活者視点で地域社会を活性化する意欲をもつ。
技術・表現の観点（A）	家政学を概念図として示すことができる。

学習計画

家政学原論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	家政学原論を学ぶ（上村）	家政学原論とはどのような研究分野・授業科目かをテキスト「やさしい家政学原論」ｐ121～ｐ130、ｐ1～ｐ9を参考に理解し、半期の授業予定にそった学びの計画をたてる。	テキストｐ121～ｐ130、ｐ1～ｐ9を読み演習問題に取組む。	180分
第2回	家政学とは家政学原論とは（上村）	日本の「家政学原論」研究の歴史「家政学原論」の誕生の経緯と「家政学原論」に期待された役割について学ぶ。また大江スミが家政学・家庭科教育にどのように貢献したのかも含め理解する。	授業前に、教科書のｐ1～ｐ18をよく読んでおく。授業後に、学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第3回	世界の家政学（上村）	近代家政学の発祥の地といわれる、アメリカの家政学の歴史とヒューマンエコロジー思想を軸に、世界の家政学について理解する。また、国際家政学会の活動についても知る。	授業前に、教科書のｐ19～ｐ38、ｐ153～ｐ203を読み授業後に、学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第4回	日本における家政学の展開過程 - 松平友子を中心に -（上村）	日本における家政学の展開過程を理解し、戦後日本における家政学とジェンダーについて考える。日本で女性経済学者第1号松平とも子が、お茶の水女子大学・東京家政学院大学でどのように家政学原論を確立していったのかを理解する。	授業前に、教科書のｐ39～ｐ49 p76～ｐ78を読み授業後に、学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分

第5回	家政学における生活・生活者へのアプローチと現代生活学（上村）	天野正子の「現代生活者論」や「現代生活学」をもとに、食品ロス、SDGに関心をもち、自分自身が社会の中でいかに生きていくかを考える。生活者とは誰からサスティナブル（持続可能）な社会の創造を考える。	授業前に、教科書のｐ83～ｐ109を読み授業後に、学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第6回	持続可能な生活と社会をつくる家政学を概念図で示す（上村）	「持続可能な社会を創る」という観点から前半部分で示した家政学の特質を概念図として自分の意見をまとめる。	授業前に、前半の学習内容を参考に概念図作成に取組む。	180分
第7回	生活主体としての人間発達（花形）	家政学が（家庭を中心とした）人間の「生活」の学びであることを理解し、生活の主体者は個人・家族・コニュニティの一員として、生涯にわたって発達・変化し続けることを理解する。	授業前に教科書のｐ57～ｐ65を読み、授業後に学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第8回	家政学と家族（花形）	家政学を学ぶ上で、家族をどのようにとらえるべきかを考え、家政学が「生活主体としての人間発達」をどのように支援できるのかを考える。	授業前に教科書のｐ66～ｐ73を読み、授業後に学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第9回	家庭生活論（花形）	家政学の研究対象である家庭生活の特徴と現在の家庭生活の課題について考え、「家族・家庭・世帯」の概念の違い、世帯の動向、家族・家庭の機能について理解する。	授業前に教科書のｐ74～ｐ82を読み、授業後に学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第10回	家政学は生活をどのように捉えてきたか（花形）	家庭生活はどのような要素で校正されているかを考える。「生活文化」の意味内容や性質について具体的に理解し、家政学における「生活文化」のとらえ方や課題について考える。	授業前に教科書のｐ83～ｐ107を読み、授業後に学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第11回	家政学と教育（花形）	家庭科教育や消費者教育が家政学の本質とどのように関連するのか考える。	授業前に教科書のｐ108～ｐ120を読み、授業後に学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第12回	家政学の未来（花形）	家政学会の活動や、世界の国々の家政学の現状を、社会・経済状況との関連も踏まえて理解し、家政学の未来を考える。	授業前に教科書のｐ19～ｐ56とp131～p141を読み、授業後に学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第13回	家政学的視点とは（花形）	家政学という学問についての理解、関心を高めることを目指す。生きにくい今だからこそ生活を総合的に見つめる家政学的視点が求められている。世界の家政学や家庭科教育に動向に目をむけて、また日本の家庭科教育の役割にも注目して、持続可能な社会の実現に自分が関われるかを自分に問いかけてほしい。	復習として、テキスト全体を読み返し、自分はなぜ家政学を学ぶのかという原点に立ち戻って考える。	180分
第14回	持続可能な生活と社会をつくる家政学１（上村）	「持続可能な社会を創る」という観点から家政学の社会貢献について自分の意見をまとめる。	授業前に、教科書のp121～p141を読み授業後に、学習内容を復習して演習問題に取組む。	180分
第15回	持続可能な生活と社会をつくる家政学2（上村）	「持続可能な社会を創る」という観点から家政学の社会貢献について自分の意見をまとめる。	復習として、テキスト全体を読み返し、自分がなぜ家政学を学ぶのかという原点に立ち戻って、家政学を考える。	180分

学習計画注記	講師の都合により、日程が変更となる場合があります。
学生へのフィードバック方法	調査・考察などに関するレポート・発表、提出された課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。
評価方法	・評価の内容は、以下のような観点から行う。 ①調査の目的や意義が明確である。 ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業ごとに提出するレポート	○	○	○	
	期末試験・最終レポート	○	○	○	○

評価割合	授業ごとに提出するレポート（50%） 期末試験・最終レポート（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	やさしい家政学原論/日本家政学会 家政学原論部会 編/建帛社（978-4-7679-1449-7）
参考図書	東京家政学院における家政学原論(わたしの家政学原論<シリーズ4>,2007年家政学原論部会夏期セミナー) 上村協子「家政学部成立の歴史」お茶の水女子大学生活科学部生活社会科学研究会『創立130周年記念事業

	2005年度　公開シンポジウム　生活科学部のゆくえ（平成17年10月29日）』, 2006 家政学原論部会　若手研究者グループ編「若手研究者が読む『家政学原論』2006」, 2006, 光生館
参考URL	http://uemuralabo.webcrow.jp/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	上村　1805ゼミ室 後期：　火曜日　4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	家政学とは何か、なぜ必要であり、家政学を学んだ人は何ができたのか。家政学原論研究に取り組んだ女性たち、家政学を社会に生かして活躍する卒業生などの事例から、家政学の社会における意義と貢献内容を気が付く授業にしたいと思います。世界共通のレベルで家政学が生活者の視点で社会を変革できることを自覚し、自分自身が社会の中でいかに生きていくかを考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	文部科学省・消費者庁での委員経験にもとづき、家政学と教育行政・生活政策とのかかわりを示す
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	女性史		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	G22216C21
授業概要(教育目的)	現代社会においても、「女性らしさ」や「女性の仕事」といった観念は根強く存在するようにみえる。しかしながら、実際には男女の役割分担や女性の暮らしは時代や地域等によって多様であり、それぞれの社会における価値観や環境のあり方などによって柔軟に選択されてきた。当科目では、地理学や民俗学、歴史学的な観点から、さまざまな時代や地域の女性の暮らしや、女性をめぐる空間のあり方を検討する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	女性の暮らしや役割は固定的なものではなく、時代や環境によって規定されていることを理解する。
思考・判断の観点（K）	女性としてどう考え、どう生きるのか、女性の多様なあり方を歴史に学ぶ必要があることを理解する。
関心・意欲・態度の観点（V）	女性の暮らしや働き方やその変遷について知的好奇心を抱き、その背景にある事象について関心をもつことができる。
技術・表現の観点（A）	女性の生き方と社会の関わりについて論理的に記述することができる。

学習計画

女性史

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス―女性の生き方と歴史―	WEB漫画などを題材に、現代を生きる女性が仕事や結婚生活、育児においてどのようなことに困っているのか、なぜそのような困りごとが生じているのか、考える	子育てや結婚生活をテーマにした女性（主に主婦層）向けWEB漫画などを読んでおく	180分
第2回	イエと女性①―江戸の離婚―	江戸時代の女性というと、地位が低く抑圧されていたイメージをもたれることがある。ここでは、江戸時代における離婚と女性の地位について、離婚に際して夫から妻に渡された離縁状（三行半）から読み解いていく。	三行半（みくだりはん）という言葉について、語句の由来や使用される場面などについて調べておく。	180分
第3回	イエと女性②―結婚の地域的多様性―	伝統的な結婚というと妻が夫の家に嫁ぎ、舅姑に尽くすといったイメージがある。しかし、実際には庶民の婚姻形態は多様であった。ここでは、民俗学的な視点から庶民の「結婚」の地域性とその類型について考える。	嫁入り、婿入り、足入れ、寝宿などの語句の意味を調べてくること。	180分
第4回	イエと女性③―嫁のセンタクガエリ―	北陸地方には嫁の「センタクガエリ」「シュウトノツトメ」などと呼ばれる慣行があった。これは結婚後に行われる嫁の、実家への長期かつ頻繁な里帰りのことである。これらの慣行から、イエにおける女性の労働力について考え、日本における親と娘の関係を理解する。	「センタクガエリ」「シュウトノツトメ」などの慣行について調べておく。	180分
第5回	イエと女性④―女性労働と家族―	伝統的な女性労働の一つに「機織り」がある。ここでは、結城紬の生産地域を事例として、女性の機織りを中心として家族が性別・年齢を問わず柔軟に家事・育児を分担し、家族経営を展開していく様子を考える。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分

第6回	「職業」と女性①―職業のジェンダー化―	明治時代以降、近代国家となった日本では、性差をめぐる多様な関係性はしだいに一元化され、固定的な性別役割が生まれていく。ここでは、男女別に理想とされる「職業」や生き方のモデルを、絵画資料や少年向け／少女向け雑誌の記述などから考える。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第7回	「職業」と女性③―「主婦」の誕生―	明治時代以降、しだいに幸せな家庭のために存在する「主婦」のイメージが固定化され、実際に都市部では新中間層を中心に夫が企業などで働き、妻が家事・育児を担当する家族が増えていく。ここでは、良妻賢母イメージの展開とともに、新中間層の住宅など、暮らしの空間変容についても考える。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第8回	「職業」と女性③―「職業婦人」の誕生―	19世紀以降、女性の職業として注目された産婆や教員、あるいは大正後期から定着する電話交換手や事務員、タイピストなどの「職業婦人」について取り上げる。また、職業婦人の憧れの居住空間であった同潤会女子アパートから、職業婦人の暮らしについて考える。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第9回	「職業」と女性④―女性の暮らしと労働―	大江文庫所蔵の錦絵を紹介する。錦絵をもとに、近代における民衆の労働と暮らしについてジェンダーの視点から考える中間レポートの作成を行う。	大学HPの付属図書館のページから、「大江文庫」→「錦絵目録」で錦絵の確認をしておくこと。	180分
第10回	性の売買①―近世・近代の遊廓―	売春は女性による「最古の職業」などといわれることがあるが、それは本当だろうか。性の売買は時代や地域のジェンダー構造のなかで生み出されたものであり、その形態は状況によって大きく変化していく。ここでは特に近世から近代の遊廓（遊所）の展開についてみていく。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第11回	性の売買②―娼妓のライフコース―	ここでは性売買の場で労働・生活した人びとの暮らしにも目を向ける。まず娼妓（遊女）のライフコースを取り上げ、家庭の状況や身売りに至る経緯、労働の実態や「住み替え」の過程を考えていく。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第12回	性の売買③―遊客の存在形態―	娼妓（遊女）を「買う」側である男性遊客を取り上げる。日本の社会において「買春」とはどういうものであり、いかに変容したのか。遊客の居住地や職業、支払いの状況を検討し、性規範をめぐる近代の意識について考える。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第13回	性の売買④―遊廓と地域社会―	日本各地に多数存在した遊廓は、それぞれの地域の社会・経済と深くかかわり、地域の「繁栄」を担う存在でもあった。ここでは、遊廓の開設や移転をめぐる地域社会の動向や、貸座敷（遊女屋）を経営しようとする楼主たちに着目していく。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第14回	性の売買⑤―赤線と街娼たち―	第二次世界大戦後、日本各地には多くの「赤線」や「青線」などが形成された。赤線や青線では多くの女性たちが売春に従事し、なかには戦争で夫を亡くしたり、子どもを育てるために街娼となった女性も含まれている。こうした街娼たちの暮らしについて、「婦人保護台帳」や常磐とよ子による写真などからみていく。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分
第15回	まとめ	女性の暮らしや働き方について総括する。	指示する文献に目を通しておくこと。	180分

学習計画注記	シラバスの内容は、授業の進行状況によって変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	コメントシートで提出された質問や感想などにもとづき、次週の授業冒頭で回答または補足説明を行う。中間レポートはコメントをつけて返却する。
評価方法	毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめ、このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。中間レポートは適切な調査がなされているか、わかりやすく他者に伝える文章表現がなされているか評価する。期末試験では、授業内容に関する記述問題を出題し、内容の理解度及び文章表現について評価を行う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			○
	中間レポート	○	○	○	○
	コメントシート	○		○	

評価割合	平常点（コメントシート）20%、レポート30%、定期試験50%により評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	湯澤規子『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産―』古今書院、2009年 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館編『性差＜ジェンダー＞の日本史』国立歴史民俗博物館振興会、2020年 加藤晴美『遊廓と地域社会―貸座敷・娼妓・遊客の視点から―』清文堂、2021年　など
ディプロマポリシーとの関連	【知識・思考】生活者の視点にたって、過去から現在に至る女性の歴史を理解できる 【関心・表現】女性をめぐる社会や環境の多様性に関心をもつことができる 【関心・意欲・態度】性別やそれに基づき分業など、現代的な問題について関心をもつ。 【技能・表現】女性に関するさまざまな環境や社会について論理的に説明することができる。
学生へのメッセージ	この授業では、男女の役割や規範は生物学的な特性によって決定されるものではなく、さまざまな時代や環境に

	よって異なる、多様なものであるということを論じていきます。性差をめぐる歴史を学び、自分が当たり前にとらえている「女性とはどういうものか」をいまいちど考えていきたいと思います。 受講にあたっては、配布された資料や指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。 日本の近現代史について、基本的な流れを確認しておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	近代の錦絵や婦人雑誌、少年・少女雑誌などの資料の読解を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館での文献調査法や所蔵資料の活用法について習熟する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	美と健康		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

授業概要(教育目的)	心身が健やかで、疾病等のトラブルがなく日常生活をおくれることが「健康」な状態である。一方、「美しい」という概念は一通りの型にはまったものではない。それは歴史的にみても時代や社会によっても望ましい概念は異なってきた。また、多様性を認める今日の社会においては多種多様な「美」を見出すことが望まれる。本講では「美」と「健康」とのバランスを学び、衣服や装飾行動と身体メカニズムとの関連を理解し、美しく過ごすことの意義を考える。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	美と健康に対する歴史的事象と現代社会の問題点を理解する
思考・判断の観点（K）	美と健康とはどのような関わりをもつものなのか考え、私たちが求めるべき美と健康について適切な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	美と健康とはどのような関わりをもつものなのか考え、私たちが求めるべき美と健康について適切な判断ができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	多様な美、唯一の健康	歴史的な事象として、時代により社会が求める美・美意識は異なっていることを学び、美とは多様であることを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	美のはじまり　清潔	近代にいたるまでの日本、西洋の清潔に対する概念を学び、明治以降の近代西洋医学の導入とともに清潔が美的要因となったことを理解し、現代社会における清潔に関する課題を学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第3回	においと香り	近代にいたるまでの日本、西洋の香りに対する概念を学び、清潔の指標でもあるにおいの存在及び香りが心身にもたらす効用、現代社会における香りに関する課題を学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第4回	皮膚　小麦色の肌と美白	日本人の肌の色に対する志向を江戸時代から今日までの変遷で学ぶ。また、皮膚の組織と紫外線からの影響等を学び、健康な肌とは何かを理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第5回	美肌をつくる（1）	校内特別授業として美容の専門家である外部講師から、潤いと肌理の整った素肌をつくるための手入れについて学ぶ。	授業で指示する課題を自宅で実践する。	180分
第6回	化粧　歴史的な展開	日本人の化粧に対する志向を江戸時代から今日までの変遷で学ぶ。また、現代の化粧でのトラブルの一つとしてアイメイクに関する問題点を理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分

第7回	美肌をつくる（2）	校内特別授業で課された課題提出を踏まえ、その内容に関する振り返りとアドバイスを行う。	実践した自宅課題の内容をレポートにまとめる。	180分
第8回	毛髪　黒髪と茶髪	日本人の毛髪に対する志向を平安時代から今日までの変遷で学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第9回	毛髪　染毛料と人権	今日のヘアスタイルに欠かせない染毛料について学び、そのトラブル等について理解する。また、毛髪と人権の問題について事例を基に考える。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第10回	からだつき肥満と痩身	体格は健康の指標であると同時に、体型は美的要因でもある。第二次大戦以降の日本の体型への志向を学び、美と健康を両立させる体型とは何かについて考える。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第11回	足と靴	第二次大戦以降の靴の流行を学び、靴のデザインと正しい歩行や足の健康との関わりについて理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第12回	美容医療（美容整形）	美容医療が発展してきた背景を学び、現代の美容医療のトラブルの事例を理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第13回	企業見学	美と健康に関連する事業を行っている企業（花王株式会社すみだ事業場）の見学を行い、企業理念、製品の特長、清潔と美との関わりについて学ぶ。	予習として花王株式会社公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。見学後には、見学内容をまとめるレポートを作成する。	180分
第14回	おしゃれと心の健康	QOLを高めるために美容行為が着目されている現状に着目し、美容行為が精神面に働きかける効果について理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第15回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、美とはどのような概念か、また美と健康とはどのような関わりを持っているのか考える。	授業全体の振り返りを踏まえ、期末試験に向けて復習をする。	180分

学習計画注記	第5回:美肌をつくるは外部講師の都合により、開催時期を変更する可能性がある。 第14回：企業見学は見学先の状況により、開催時期を変更する可能性がある。 教室外学習のために授業動画の配信を行うので、復習に活用することを勧める
学生へのフィードバック方法	授業時の小課題：採点、返却時に要点を解説する。要点を再確認することで授業内容に対する理解を深める。 校内特別授業のレポート課題は採点、返却時に内容や質問に対する解説、回答を行う。
評価方法	授業時の小課題：授業内では授業の確認の小課題を行う。 課題は美容に関する自宅での実践課題と見学のまとめ課題である。 試験では授業内容全体の理解と自身の意見を論述する課題を問う。知識の記憶だけはなく、授業内容を踏まえた自身の見解を持つことが重要である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業時の小課題	○	○		
課題	○	○	○	
期末試験	○	○		

評価割合	授業の小課題：15%　課題（2回）：20%　期末試験：65%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない（プリント配布等）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】美と健康に関する歴史的背景と現代の課題を学び、美と健康が関与する「質の高い生活」とは何かを理解する。 【思考・判断】美と健康に関する現代の課題を学び、適切な行為を選択することができる。 【関心・意欲・態度】美と健康に関する今日の問題について関心をもち、情報を収集する。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	授業で扱うテーマおよび関連テーマについて、現状把握・分析および考察などを、日常的・自発的に行ってほしい。健康的かつ美しく生きるための、生活者としての自分の姿勢を構築していくことが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	美容業界に長年携わっている外部講師による実践的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	企業（花王株式会社）見学による、体感的な学びを行う。

情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題作成における情報収集とPCの活用

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	情報処理演習Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G22308C12
授業概要(教育目的)	多様な統計を読み解く力をつけるとともに、表計算ソフトを使い、集計表の作成、関数を使用した処理、グラフの作成などの応用操作を学習する。家計調査などの政府統計も活用しながら、情報処理の基本的な知識を理解し、演習を通して技術を身に付ける。コンピュータ演習bに引き続く授業である。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。	45分
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作①	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の入力について復習すること。	45分
第3回	数式入力・関数挿入の基本操作②	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の入力について復習すること。	45分
第4回	数式入力・関数挿入の基本操作③	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の入力について復習すること。	45分
第5回	数式入力・関数挿入の応用操作①	データ・計算式・関数入力などの応用操作の練習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第6回	数式入力・関数挿入の応用操作②	データ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第7回	数式入力・関数挿入の応用操作③	ータ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第8回	統計調査を	政府統計である国勢調査や家計調査を理解する。家計調	公表されている家計調査のデー	45分

	用いた演習①	査を用いた課題の説明。	タについて調べること。	
第9回	統計調査を用いた演習②	家計調査を用いた課題の作成。演習結果を提出する。	家計調査に関する課題を完成させること。	45分
第10回	統計調査を用いた演習③	事業者が実施した調査について学ぶ。質問紙調査を用いた課題の説明。	既存の質問紙調査について調べること。	45分
第11回	統計調査を用いた演習④	質問紙調査の入力と集計の説明・練習。演習結果を提出する。	質問紙調査の集計に関わる課題を準備すること。	45分
第12回	統計調査を用いた演習⑤	質問紙調査の入力と集計の説明・練習。演習結果を提出する。	質問紙調査の集計に関わる課題を準備すること。	45分
第13回	統計処理①	統計処理（クロス集計）の説明と練習。演習結果を提出する。	クロス集計表が作成できるよう復習すること。	45分
第14回	統計処理②	高度なグラフを作成する。散布図と相関係数を説明・練習。演習結果を提出する。	散布図を作成し、相関係数を求めることができるよう復習すること。	45分
第15回	統計処理③と学習到達度を確認するための試験	統計処理の確認と、学習到達度を確認するための試験を行う。	授業全体の内容について復習すること。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物				○
	定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【前期】水曜日　1701ゼミ室　12：30～14：30
学生へのメッセージ	主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	情報処理演習Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G22309C12
授業概要(教育目的)	世の中の膨大な量の情報から有用な情報を探し出し役立てるためには、情報を収集し、必要なものを効率よく検索して見やすい形式で出力する必要がある。そのためのツールであるデータベースについて、表計算ソフトとデータベース・ソフトの両方を用いながら、基本的な考え方を学ぶとともに、操作に関する能力を高める。情報処理演習Ⅰに引き続く授業である。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点（A）	コンピュータを利用して、表計算とデータベースによる情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を確認する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力などの操作を復習すること。	45
第2回	データベース管理システムの機能	データベースの役割や概要を学ぶ。演習結果を提出する。	データベースの基本的な知識を整理すること。	45
第3回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作①	特定の条件を満たすレコードを対象にして集計するDSUM関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DSUM関数の操作について復習すること。	45
第4回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作②	平均を求めるDAVERAGE関数、最大値・最小値を求めるDMAX関数、DMIN関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DAVERAGE関数、DMAX関数、DMIN関数の操作について復習すること。	45
第5回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作③	個数・数値データを求めるDCOUNT関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DCOUNT関数の操作について復習すること。	45
第6回	表計算ソフトによる基	これまで学習した関数を復習する。演習結果を提出する。	これまで学習した関数を復習すること。	45

	本的なデータベース操作④			
第7回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作①	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第8回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作②	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第9回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作③	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第10回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作④	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第11回	データベースソフトを使った操作①	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第12回	データベースソフトを使った操作②	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第13回	データベースソフトを使った操作③	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第14回	データベースソフトを使った操作④	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第15回	データベースソフトを使った操作⑤と学習到達度のテスト	テーブル・クエリ・レポートの復習と、学習到達度を確認するための試験を行う。	授業の内容について復習すること。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【後期】水曜日　1701ゼミ室　10：40～12：50
学生へのメッセージ	主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算とデータベース能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（井澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1　ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	2　問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	3　問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90分

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	4　先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	5　先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	6　先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	7　研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	8　研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	9　研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	10　調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	11　調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	12　調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	13　調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	14　調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	15　調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜日3時限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（上村）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究Ａ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			ーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。

	・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容		○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80% 平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	1805研究室の前に掲示する。（火曜日4時限の予定）
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（大橋）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 本研究室では、建築史の論文を書きます。まずは、個別に相談しながら、研究テーマを設定します。その後、各自が設定したテーマに沿って、文献の収集の方法、調査の方法、分析の方法等、論文を書くために必要な技術を学びます。授業はゼミ形式で実施します。各自が作成したレジメをもとに、1週間の研究成果を発表します。これに対し、教員ならびに研究室の構成員がコメントを述べます。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづ	卒業研究のテーマ案に関連する	90分

	と課題の設定(2)	き、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。

	③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	火曜３限　1702室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。 本研究室では、建築史および建築保存の論文指導を行うので、建築史Aおよび建築史Bの履修が望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（大嶋）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	卒業研究の内容80%、平常点20%
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		学会発表や講習会での講師実践活動。
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（小野（由））		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	13　調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。

	・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
オフィスアワー	【前期】水曜日　1701ゼミ室　12：30～14：30
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（金森）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90分

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		
	平常点			○	○

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってくること。
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（青柳）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した住生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行い、制作や研究論文の形にまとめていただく。いずれも自分なりの問題意識に立ち、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論、設計の出し方、発表、プレゼンテーションの方法など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 本研究室は建築構法に基づいた研究テーマに沿って、論文及び制作を行います。具体的なテーマの設定については、個別に相談を行い決定します。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。 インテリアCAD演習の単位取得済みであることが望ましい。 建築士指定科目をなるべく多く履修していることが望ましい。 制作を選択する場合は設計製図演習A-F、インテリアCAD演習の単位取得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現在の社会的な問題について理解し説明ができる。
思考・判断の観点（K）	現在の社会的な問題と自身の関心とに向き合い、研究テーマの設定ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら進んで研究テーマに取り組みことができる。
技術・表現の観点（A）	研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに考察ができそれを論文として執筆できる。研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに建築設計を行い作品して表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、テーマの設定について説明します。	テーマを設定するために、現代の社会的な問題について図書館、インターネット等を用いて調査してください。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定（１）	現代の社会的な問題について整理する。そこからテーマ案について考えます。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定（２）	研究テーマ案についてさらに検討を行い、研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90分

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	参考文献、既往研究の収集（１）	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	参考文献、既往研究の収集（２）	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	参考文献、既往研究の収集（３）	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定（１）	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定（２）	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定（３）	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査、制作（１）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査、制作（２）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査、制作（３）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。模型製作は自宅で行うこと。	90分
第13回	調査、制作（４）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査、制作（５）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査、制作（６）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	設計制作の場合は卒業設計展等の見学（校外学習）、個々のテーマに応じてフィールドワークを行う場合がある。
学生へのフィードバック方法	論文、制作共に毎回のゼミで指導、講評を行う。
評価方法	論文及び制作 ・社会的背景を理解してテーマを設定できる。 ・テーマに適した研究方法を選択できる。 ・研究方法に沿って資料を収集できる。 ・収集した資料に基づいて考察、結果へと導くことができる。 ・研究、制作に独自性がある。 平常点 ・授業へ積極的に参加し、自らの研究について、他者の研究について意見を述べることができる。 ・自ら進んでテーマと向き合うことができる。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文または制作	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究、制作：80%　平常点：20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	渡邉研司著：論文はデザインだ！（彰国社）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の問題に関心を持ち、建築、空間を通してそれを解決しようとする意欲を持つことができる。 【技術・表現】次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の問題解決と提案ができる。
オフィスアワー	金曜日５時限目
学生へのメッセージ	常に自身のテーマを頭に留め、情報収集、資料収集に努めてください。また自ら進んでテーマに取り組んでください。興味がある場所、建築には自ら進んで出向き、自らの目で、耳で得た情報を蓄積してください。論文を選択した人は得た情報に基づき、考察を行い結果を導く努力をしてください。制作を行う人は得た情報に基づき、積極的に手を動かして自らの考えを他者へ伝える努力をしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験に基づき、論文、制作の指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	調査研究（フィールドワーク）及びゼミ時間内でのディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	文献検索の方法、資料収集及び分析方法、論文の執筆方法、プレゼンテーション法について指導を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（竹中）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			ーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	研究方法の決定(2)	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。

	・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	前期月曜日昼休み時間～3限目
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（木村）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 なお木村ゼミ（教育心理学研究室）では、問題解決の方法として、心理学的な手法を用い、心理学的な論文の作成を目指す。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のための活動（文献収集、調査、実験など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自身が行った研究の内容を、学術的な文章によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこ	90分

			と。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	履修者の状況や各自の研究の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、報告、発表、ディスカッションの際の表現の技術、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	○

評価割合	卒業研究の内容50%、平常点50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	１．東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 ２．松井豊（著）『改訂新版　心理学論文の書き方--卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社　¥1,836 ３．浦上昌則・脇田貴文（著）『心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方』東京図書　¥3,024 ４．平井明代（編著）『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版』東京図書　¥3,024 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	水曜日4限、5限は卒業研究A受講生を優先するオフィスアワーとして設定します。 会議のない日の木曜日、金曜日3限 （千代田三番町キャンパス　1805室）
学生へのメッセージ	自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（三宅）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅　紀子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			ーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	90分
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜・2時限および昼休み　　1609研究室
学生へのメッセージ	食品学、調理学、栄養学およびその実験・実習・演習などの食分野の科目を履修してきてください。授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（内田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	火曜3限　1703ゼミ室（千代田三番町キャンパス、前期）
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（太田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田　茜	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、制作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、制作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90分

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・制作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、制作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の取組姿勢80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	1808ゼミ室　月曜昼休み～3限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（沼波）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	研究の達成状況
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜日2時間目　1702室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（山村）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	2　問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90分

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査（分析・まとめを含む）(6)	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	服飾研究の切り口は様々です。自分自身が関心を持つテーマは何かを探るために、ファッション情報なども積極的に収集してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（椛田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	火曜５限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（伊藤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤　有紀	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、食生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身に	90分

			つけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜4,5限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（井上）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　清美	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90

第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作（分析・まとめを含む）(4)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	研究の達成状況
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	火曜日３限　千代田三番町キャンパスゼミ室1701
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（小野（方））		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90

第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作（分析・まとめを含む）(4)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	研究の達成状況
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（加藤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90

第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作（分析・まとめを含む）(4)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第14回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	研究の達成状況
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（井澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1　調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	2　調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	3　調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	4　調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	5　調査・	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	6　論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	7　論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	8　論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	9　論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	10　論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	11　論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	12　卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	13　卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	14　卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	15　卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	水曜日2時限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（上村）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究Ｂ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	学生各自が設定した研究方法およびスケジュールでテーマ、調査するそれらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第5回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○

	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80% 平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	1805ゼミ室前に掲示する（火曜日4時限の予定）
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（大橋）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 本研究室では、建築史の論文を書きます。まずは、個別に相談しながら、研究テーマを設定します。その後、各自が設定したテーマに沿って、文献の収集の方法、調査の方法、分析の方法等、論文を書くために必要な技術を学びます。授業はゼミ形式で実施します。各自が作成したレジメをもとに、1週間の研究成果を発表します。これに対し、教員ならびに研究室の構成員がコメントを述べます。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	験・製作（分析・まとめを含む）(4)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第5回	調査・実験・製作（分析・まとめを含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜２限　1702室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。 本研究室では、建築史および建築保存の論文指導を行うので、建築史Aおよび建築史Bの履修が望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（大嶋）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	論文作成(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	卒業研究の内容80%、平常点20%
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』

	その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		学会発表や講師実践活動。
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（小野（由））		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキ	90

			スト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	
第5回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第6回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。 執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第11回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(3)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第13回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(3)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	【後期】水曜日　1701ゼミ室　10：40～12：50
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（金森）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		
平常点			○	○

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってくること。
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（青柳）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した住生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行い、製作や研究論文の形にまとめていただく。いずれも自分なりの問題意識に立ち、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論、設計の出し方、発表、プレゼンテーションの方法など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 本研究室は建築構法に基づいた研究テーマに沿って、論文及び制作を行います。具体的なテーマの設定については、個別に相談を行い決定します。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。 インテリアCAD演習を単位取得済みであることが望ましい。 建築士指定科目をなるべく多く履修していることが望ましい。 制作を選択する場合は設計製図演習A-F、インテリアCAD演習の単位取得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現在の社会的な問題について理解し説明ができる。
思考・判断の観点（K）	現在の社会的な問題と自身の関心とに向き合い、研究テーマの設定ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら進んで研究テーマに取り組みことができる。
技術・表現の観点（A）	研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに考察ができそれを論文として執筆できる。研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに建築設計を行い作品として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	論文の執筆、作品の制作（１）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	論文の執筆、作品の制作（２）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	論文の執筆、作品の制作（３）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	論文の執筆、作品の制作（４）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第5回	論文の執筆、作品の制作（５）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文の執筆、作品の制作（６）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第7回	論文の執筆、作品の制作（７）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第8回	論文の執筆、作品の制作（８）	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第9回	論文、作品要旨の作成（１）	論文、作品要旨の作成をする。	要旨の執筆要項を確認して、自らの研究に沿って簡潔にまとめられるように整理しておく。	90分
第10回	論文、作品要旨の作成（２）	論文、作品要旨の提出をし、確認後に受領する。（データおよびプリントアウトしたもの）	前回の授業の指導に基づき、要旨を完成させる。	90分
第11回	卒業研究発表会の準備（１）	口頭発表用のパワーポイントおよび原稿を作成する。	教室外においても口頭発表用のパワーポイントを作成を進める。	90分
第12回	卒業研究発表会の準備（２）	口頭発表用のパワーポイントおよび原稿の検討を行い、発表練習を行う。	教室外においても発表原稿を作成、推考し、発表練習を行う。	90分

学習計画注記	それぞれのテーマによってスケジュールが変更になる場合がありますが、本論、要旨、口頭発表の提出期限は統一されており、これを厳守すること。
学生へのフィードバック方法	調査・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	論文及び制作 ・社会的背景を理解してテーマを設定できる。 ・テーマに適した研究方法を選択できる。 ・研究方法に沿って資料を収集できる。 ・収集した資料に基づいて考察、結果へと導くことができる。 ・研究、制作に独自性がある。 平常点 ・授業へ積極的に参加し、自らの研究について、他者の研究について意見を述べることができる。 ・自ら進んでテーマと向き合うことができる。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文・制作	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	論文、制作：80%　平常点：20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	論文 渡邉研司著：論文はデザインだ！（彰国社）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の問題に関心を持ち、建築、空間を通してそれを解決しようとする意欲を持つことができる。 【技術・表現】次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の問題解決と提案ができる。
オフィスアワー	金曜日５時限目
学生へのメッセージ	常に自身のテーマを頭に留め、情報収集、資料収集に努めてください。また自ら進んでテーマに取り組んでください。興味がある場所、建築には自ら進んで出向き、自らの目で、耳で得た情報を蓄積してください。論文を選択した人は得た情報に基づき、考察を行い結果を導く努力をしてください。制作を行う人は得た情報に基づき、積極的に手を動かして自らの考えを他者へ伝える努力をしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験に基づき、論文、制作の指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	調査研究（フィールドワーク）及びゼミ時間内でのディスカッションを行う。
情報リテラシー	○	文献検索の方法、資料収集及び分析方法、論文の執筆方法、プレゼンテーション法について指導を行う。

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（竹中）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第5回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○

	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	後期：火曜日3-4時限目
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（木村）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 なお木村ゼミ（教育心理学研究室）では、問題解決の方法として、心理学的な手法を用い、心理学的な論文の作成を目指す。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のための活動（文献収集、調査、実験など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自身が行った研究の内容を、学術的な文章によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実験（まとめ・	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90分

	考察を含む）(5)	随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、分析、執筆など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げ、所定の時間内にわかりやすく伝える練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	履修者の状況や各自の研究の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、報告、発表、ディスカッションの際の表現の技術、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	○

評価割合	卒業研究の内容50%、平常点50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	１．東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 ２．松井豊（著）『改訂新版　心理学論文の書き方--卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社　¥1,836 ３．浦上昌則・脇田貴文（著）『心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方』東京図書　¥3,024 ４．平井明代（編著）『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版』東京図書　¥3,024 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	水曜日4限、5限、金曜日の3限は卒業研究A受講生を優先するオフィスアワーとして設定します。 会議のない日の木曜日 上記以外は、個別に相談に応じます。 （千代田三番町キャンパス　1805室）
学生へのメッセージ	自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用	○	電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（三宅）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅　紀子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第5回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜・1, 2時限　　1609研究室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（内田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜3限　1703ゼミ室（千代田三番町キャンパス、後期）
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（太田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田　茜	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、制作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、制作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・制作（まとめ・	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90分

	考察を含む）(2)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第3回	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実験・制作（まとめ・考察を含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成して決められた	90分

			時間内に収めるよう準備すること。	
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けたプレゼンテーションの準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・制作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究への内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	1808ゼミ室　月曜日2限～昼休み
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（沼波）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	水曜日2限目　1702室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（山村）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査(まとめ・考察を含む)（1）	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第2回	調査(まとめ・考察を含む)（2）	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第3回	調査(まとめ・考察を含む)（3）	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第4回	調査(まとめ・考察を含む)（4）	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第5回	調査(まとめ・考察を含む)（5）	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第6回	論文作成（1）	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキス	90分

			ト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	
第7回	論文作成(2)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	執筆要項を読み卒業研究要旨の形式などを確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導に基づき、卒業研究要旨の下書きの修正をする。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	研究の内容に基づき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料に基づき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成する。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	研究の内容に基づき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料に基づき、発表練習を行う。	前回授業時の指導に基づき、パワーポイント資料、発表原稿の下書きの修正を行っておくこと。発表の練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。

	【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。卒業論文は自身の考えを自分の言葉で文章としてまとめるなければいけません。文章力を高めるためには、意識して日常的に多くの文章を読むようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（椛田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	火曜５限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（伊藤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤　有紀	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、食生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜1, 2限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（井上）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　清美	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90

	考察を含む）(2)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90

第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	火曜日３限　千代田三番町キャンパス 1701ゼミ室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（小野（方））		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90

	考察を含む）(2)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90

第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（加藤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1　研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2　研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1　自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2　自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1　研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1　自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作（まとめ・	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90

	考察を含む）(2)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	
第3回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第4回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。　執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90

第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。　作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家族論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　清美	指定なし

ナンバリング	G22208C21
授業概要(教育目的)	現代日本の家族はどこから来て、どこへ向かうのか。標準モデルとされてきた近代家族を軸に、歴史的視点、比較文化的な視点をもとに多様な家族像について解説する。家族社会学の理論や研究成果から、家族の形態や機能の変化を理解し、新しい家族のあり方を知ることで、自らの家族観や家族イメージを相対化し、これから自分が形成していく家族について考察する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家族の形態や機能の変化を理解し、自らの家族観を相対化するための知識を得る。
思考・判断の観点（K）	家族の多様性を理解することで、それを包摂できる社会制度やシステムについて自分なりの考えが持てるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	多様な家族における問題について、新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点（A）	指定された形式でレポートを作成することが出来る。

学習計画

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方やねらいを理解する。自分の抱く家族像や家族イメージを確認し、歴史的視点、比較文化的な視点を持つことの意味について学ぶ。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第2回	家族をとらえる視点①	親族と家族、直系家族と夫婦家族、日本の家制度について理解する。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第3回	家族をとらえる視点②	核家族と近代家族、ネットワーク論やライフコース論、家族の個人化など近代の家族をとらえる視点について学ぶ。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第4回	家族をとらえる視点③	主観的家族、家族の地域性や家族のグローバル化など現代家族に生じている変化を理解する。	2回～4回の内容をもとに、自分の持つ家族観を整理してレポートを作成する。	180分
第5回	結婚の変化と多様化	伝統的な婚姻儀礼や夫婦になる手続きを知り、多様化する結婚式や結婚の意義について考える。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第6回	出産をめぐる変化	日本におけるお産の歴史をたどり、諸外国と比較しながら現在出産をめぐって生じている問題について学ぶ。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第7回	「血縁」と	特別養子縁組など血縁をめぐる問題の現状と課題を知	5回～7回の内容をもとに、血縁	180分

	いう考え方	り、諸外国と日本を比較することで日本の特徴を理解する。	によらない家族について自分の考えをまとめてレポートを作成する。	
第8回	近代家族のライフスタイル	住居や家族空間、家族行事などをとりあげ、過去から現在をたどり、近代家族を象徴するライフスタイルについて理解する。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第9回	家族と「家事」の関係	家事とは何かという視点から、家事分担の変化や外部化、省力化などについて学び、今後のあり方について考える。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第10回	企業社会と家族	都市労働者が生まれ、企業社会と性別役割分業に密接な関係が形成されたプロセスや現状について理解する。	8回～10回の内容をもとに、これからの職業生活と家族生活の両立について必要と思われることについてまとめてレポートを作成する。	180分
第11回	地域社会と家族のつながり	生活を支える連帯と協働のあり方ついて、地方と都市それぞれの事例から現状と課題を学ぶ。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第12回	「死」をめぐる変化	死を迎える場所の変化を確認し、葬送や墓をめぐる問題を知り、死と家族の関わりについて考察する。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第13回	単身世帯のゆくえ	単身世帯の増加に着目し、その内実やそれぞれの世帯が抱える問題と解決の方向性について学ぶ。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第14回	子どもが育つ家庭の変化	ケアの外部化が進み、出生数が減少する中で、子どもが育つ家庭環境がどのように変化したかを学び、多様な他者と関わるために何が必要かを考える。	11回～13回の内容をもとに、孤独や孤立を生じさせない社会のあり方について自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第15回	まとめ	ライフステージ上に生じる問題と家族関係の関わりについて確認し、問題解決のために必要な制度や環境をについて考える。	授業を受ける前に自分が抱いていた家族観が、15回の授業を受けてどのように変化したかをまとめてレポートを作成する。	180分

学習計画注記	履修者の数や興味関心に応じて、授業スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	小レポートに対する解説は授業内で行います。その他、授業内容の理解度をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介します。
評価方法	・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか） ・授業半ばで実施する小テストの点数 ・期末テストの点数

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポートの作成	○	○	○	○
	小テスト	○	○	○	
	期末テスト	○	○	○	

評価割合	レポート：50% 小テスト：20% 期末テスト：30%
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない
参考図書	授業中に提示する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】 生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる 【技術・表現】 生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな家族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスアワー	火曜日３限　千代田三番町キャンパス 1701ゼミ室
学生へのメッセージ	家族論の授業では歴史的、文化的な視点を通して、自分の家族観を見直すことを大事にしています。みなさんは一人ひとり異なる家庭で育ち、家族に対する思いも様々でしょう。「多様性」を大切にしながら、これからの家族のあり方について一緒に考えていきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家族の文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　清美	指定なし

ナンバリング	G32212C21
授業概要(教育目的)	家族の存在意義や機能について、映画やドラマなどの映像資料、小説を題材に考える。家族関係学や家族社会学における理論や研究成果をもとに、夫婦、親子、きょうだい間の関係における事例研究を行い、それをふまえて様々な問題に直面する現代家族について理解を深める。調査データや歴史資料などからはうかがい知ることが難しい幼い子どもの視点、認知症患者自身の視点、働く母や専業母、シングルファザーなど家族成員それぞれの視点から描かれた家族のあり様を知る。
履修条件	特になし（千代田区近接大学の単位互換科目になるため、他大学の学生や男子学生が受講する場合があります）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代家族が映像作品や文学においてどのように描かれているかを知り、問題の所在について理解する。
思考・判断の観点（K）	映像作品・文学における家族を分析し、家族の意義や機能について自分なりの考えを提示できるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	映像作品・文学における家族に新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点（A）	指定された形式でレポートを作成することが出来る。

学習計画

家族の文化

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	映像作品・文学における家族を分析する意味や、その方法を学ぶ。またそれらの作品が社会に与えた影響について理解する。	これまでに鑑賞した映像作品や文学をふりかえり、その中で家族がどのように描かれていたかを整理し、レポートを作成する。	180分
第2回	子どもの視点からとらえる家族①	映画「誰も知らない」をもとに、子どもの視点からみた家族の意味について考える。	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。	180分
第3回	子どもの視点からとらえる家族②	小説をもとに、子どもの視点からみた家族の意味について考察を深める。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第4回	ジェンダーとケアを考える①	保育や介護などケアをめぐる変化を確認し、それらが描かれた小説をもとに理解を深める。	事前に配布した資料を読み、内容をまとめておく。	180分
第5回	ジェンダーとケアを考える②	映画「ミッドナイトスワン」をもとに、ケアを必要とする存在とケアラーの関係について考える。	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。	180分
第6回	家族の記	映画「ファーザー」をもとに、認知症を患った高齢の親	授業内で提示された課題につい	180分

	憶～認知症患者の視点	と介護する子の視点から家族のあり方について考察する。	て、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。	
第7回	シングルマザー・シングルファザーの家族世界①	映画「クレイマー・クレイマー」をもとに、シングルマザーやシングルファザーの経験する家族について理解する。	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。	180分
第8回	シングルマザー・シングルファザーの家族世界②	小説をもとに、シングルマザーやシングルファザーの経験する家族について理解を深める。	次回の授業で紹介する作品について、あらすじと紹介する理由をまとめておく。	180分
第9回	前半のふりかえりと後半へのガイダンス	受講者から家族をテーマとする映像や小説をあげてもらい、相互に紹介することで理解を深める。	他者の家族観を知り、自己の家族観と比較をする。共通点と相違点をまとめてレポートを作成する。	180分
第10回	経済格差と家族①	映画「パラサイト」をもとに、貧困状態にある家庭生活や家族関係、またそれが子どもに与える影響について考察する。	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。	180分
第11回	貧困と家族②	小説をもとに、貧困状態にある家庭生活や家族関係、またそれが子どもに与える影響について考察する。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第12回	家族のゆくえ①～多様な性のあり方	多様な性のあり方が映像作品や文学においてどのように扱われているかを知り、それをふまえた新しい家族関係の課題を考える。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第13回	家族のゆくえ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーと近代家族	映画「花束みたいな恋をした」をもとに、ロマンティック・ラブ・イデオロギーと近代家族の関係について考察する。	授業内で提示された課題について、レポートを作成する。次回の授業でとりあげる作品を読む。	180分
第14回	家族のゆくえ③血縁によらない家族	小説をもとに、血縁によらない新しい家族関係について理解を深める。	テーマの中で最も印象に残ったものを選び、自分の家族と比較した際の共通点と相違点をまとめてレポートを作成する。	180分
第15回	まとめ	現代家族の抱える多様な課題を、映像作品や文学を通して理解することの意義を確認する。	テーマの中で最も印象に残ったものを選び、授業でとりあげた映像や小説とは別の作品をもとにレポートを作成する。	180分

学習計画注記	履修者の数や興味関心に応じて、授業スケジュールや扱う作品を変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	提出してもらったレポートに対する解説は授業内で行います。その他、授業内容の理解度をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介します。
評価方法	・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか） ・授業半ばで実施する中間レポートの点数 ・期末レポートの点数

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポートの作成	○	○	○	○
	中間レポート	○	○	○	○
	期末レポート	○	○	○	○

評価割合	小レポート：50% 中間レポート：20% 期末レポート：30%
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。
参考図書	授業内で提示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間生活、特に家族をめぐる諸問題に関する知見を身につける。 【思考・判断】社会課題の在処を発見し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】読書による人間理解の方法を体得し、さらに持続して読書行為を行うことができる。 【技能・表現】他者の意見や考えと向き合い、そのうえで自分の意見を論理的に表明することができる。
オフィスアワー	火曜日３限、千代田三番町キャンパス1701ゼミ室
学生へのメッセージ	「家族の文化」の授業では映像作品や文学作品を通して、現代家族の抱える課題を見ていきますが、みなさんからも自分の大切にしている作品やそこに描かれる家族観をぜひ教えてほしいと思います。「多様性」を大切にしながら、これからの家族のあり方について一緒に考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと遊び		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし

ナンバリング	G12214C21
授業概要(教育目的)	子どもの成長、発達にとって「遊び」の体験は重要であるが、その歴史的な変遷をたどってみると，そのプレーは必ずしも子どもたちだけのものではなかった。そうした歴史的な背景を認識した上で、子どもの遊びをめぐる現状とその問題点を把握し、そこで大人の果たすべき役割について考える。絵本、童話、童謡、遊戯、玩具、ごっこ遊びと子どもの空想・夢などを取りあげて、遊びの中で、子どもに何が育っていくのかを明らかにしていきたい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	子どもの遊びと発達を理解すること。
思考・判断の観点（K）	子ども時代を振り返り、遊びの重要性を確認すること。
関心・意欲・態度の観点（V）	大人になっても創造力豊に生活する方法は遊びを理解し実践することであることを身につける。
技術・表現の観点（A）	遊びそのものが技術や表現であることを理解すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	子どもの遊びの特徴	子どもは自分の身体をおもちゃにして遊ぶ。大人のように気晴らしのためのものではない。小宇宙「玩具の小さな世界」をつくり、やがて大宇宙「他の人々と共有する世界である」へ、そして物や人を支配する新しい段階へ前進する。エリクソンによれば子どもの遊びは「現実を支配する幼児的表現形式」である。	エリクソンについて調査すること。	30
第2回	.マザーグースのなかの遊び	英語版子守唄マザーグースには不思議な世界がある。数え歌や泥棒の唄、男の子の唄女の子の唄、何を伝えようとしているのか。	.マザーグースにつて調査すること。	30
第3回	日本の童話のなかの遊び	浦島太郎のお話しは「日本書紀」（478年）に登場する。そして現代にまで語り継がれている。それだけではない。日光の東照宮の一番奥にある家康・家光のお墓の昇り口には皇嘉門（龍宮の門）がある。日本の国歌「君が代」も浦島伝説に登場する。	浦島太郎のお話と歌を確認すること。	30
第4回	現代の遊びの環境	今の子どもたちで、積極的に遊べない子がいる。そういう子どもたちの原因の一つとして、親に丸ごと受け入れられてなくて育てられていることがあげられる。	親と子の関係に注目して善悪の判断を子どもにいつ伝えるべきか調査する。	60
第5回	ごっこ遊び１	八木紘一郎の「ごっこ遊び」について解説する。	八木紘一郎について調査すること。	30
第6回	ごっこ遊び２	久保田浩の「ごっこ遊び」を解説し、八木紘一郎の「ごっこ遊び」と比べてみる。	久保田浩を調査すること。	30
第7回	遊びと子どもの発達	子どもから大人へ、大人とは何か。河合隼雄の解説を参考にまとめる。	河合隼雄を調査する。	30

第8回	公園レポート発表・提出	近所にある公園，もしくは児童公園や子ども広場などを一つ選び，そこで１時間に何人の子供がどんな遊びをしていたか実態調査し，調査結果をレポートで報告すること。報告をもとにグループディスカッションする。	公園内の子ども調査を実施すること。	
第9回	いろいろなおもちゃ	紀元前3000年前後と推定される、メソポタミア文明・ウル第一王朝の遺跡からサイコロと遊戯盤が出土しているが、現時点では、この盤ゲームがおそらく最古のおもちゃと考えられている。	おもちゃの起源について調査すること。	30
第10回	子どもは玩具で舞台を創る	遊戯についての学問は、「劇場」の語を借りてテアトリカと呼ばれていた。劇場には遊戯のために人々が集まるのが習わしであったが、それは劇場のみが遊戯のできる場所だったからではなく、ただ、ほかの場所よりも評判が高かったからである。	遊戯と劇場は深い関連があったが、その事例を調査すること。	60
第11回	玩具と舞台でめざめるもの	自由な発想・夢を追い求め続けることが人間の本性であり権利である。子ども大人も玩具と舞台で夢を追い求めている。	舞台の意味を調査すること。	30
第12回	イメージの拡大と大きな現実	夢と現実を取りちがえることは、通常の人間ならない。しかし遊びの世界では夢と現実は同じステージ（舞台）にあっても許される。むしろ遊びの世界だからこそ自由気ままなのである。	人間の自由について調査すること。	30
第13回	遊びの原風景	子どものころ遊んだことが絵のように浮かんでくることがある。それを遊びの原風景として、自分の原風景を思い出してみたい。それぞれの原風景についてグループディスカッションしてまとめ、発表してみよう。	遊びの原風景についてまとめておくこと。	30
第14回	今、ここでの自分にとっての遊びとは何か？	大学の教室の中で、今、そこにいる自分にとって「遊び」とは何かを参考資料をもとにグループディスカッションすること。	「今、ここ」という時制の重要性について調査すること。	30
第15回	遊び、仕事、成長（ライフステージという考え）	遊びの楽しみは人それぞれである。遊びは楽しみを追求する活動である。自分の中でも高校生の時に楽しいと思ったことが、大学生になったいまでも楽しいとは限らない。楽しかったことを思い出すことがある。それはいつだったか。	楽しかったことをいくつかあげてみよう。	30
第16回	自己確認	１～15回の授業の要点をまとめ獲得した知識を確認する。	それぞれの授業の要点をまとめること。	180

学習計画注記	関連事項導入のため、各授業の順番が入れ替わることがある。また、授業を統合・分離したりすることがある。
学生へのフィードバック方法	授業中の質疑応答，視聴覚教材などで学生の授業への参加意欲を高めたい。
評価方法	課題レポート，授業中の質疑応答，プログラムでの課題達成度で20%，テスト80%の割合で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	課題レポート，授業中の質疑応答，プログラムでの課題達成度で20%，テスト80%の割合で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	基本的にプリントを使用。その他必要に応じて指示する。
参考図書	授業の中で必要に応じて指示する。
ディプロマポリシーとの関連	子どもの遊びを知ることは子どもの生活を知ることである。子どもを知ることは、次世代を知ることにつながり、大人の責任についても反省させられる。次世代につながる豊かな生活を創造するためには「子どもと遊び」は見逃すことができないことである。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	現在は子どもの遊びは，早期「教育」に飲み込まれてしまった観がある。しかし，歴史を振り返ってみれば，遊びはおとなのものであったり，人々の社会化の過程できわめて重要な役割を果たしてきた。 遊びは文明の重要な要素のひとつであり，人間性の発達には欠かすことのできない重要なキーであり，文化の源であることをこの講義を通して学び，遊びのよき導き手としての力をつけてもらいたい。 したがって「遊び心」を失わない大人であってもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者大嶋は学生時代より幼少年キャンプカウンセラーの経験がある。また、３～６歳まで育児の経験があり、子どもの発達に直接かかわってきたこと。さらに、筑波大学野外運学研究室主催の幼少年キャンプに、我が子を参加させ６年間観察してきたこと。これらの経験をもとに、子どもと遊びの関係を具体的に、かつ理論に照らし合わせながら確認したことをもとに授業を展開している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションや発表がある。

情報リテラシー教育	○	遊びの分類をデータ化し蓄積すること。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家族支援論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　清美	指定なし

ナンバリング	G22209C21
授業概要(教育目的)	家族をとりまく社会の変化を理解し、それぞれの家族が持つニーズに応じた多様な支援を提供するため、さまざまな種類の援助活動及び関係機関との連携の在り方について解説する。虐待や貧困、仕事と子育ての両立、障害を持つ子どもと家庭、家族介護者の負担などの課題を確認し、それらの課題を解決するために必要な支援について事例をもとに学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代の家族が抱える多様な問題の現状と背景を理解し、支援サービスや制度に関する知識を得る。
思考・判断の観点（K）	家族支援における基本的な視点を身につけ、どのような支援が有効であるか判断できるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	家族支援における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点（A）	指定された形式でレポートを作成することが出来る。

学習計画

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方やねらいを理解する。現代家族が抱える課題を概観し、家族支援の基本的な視点について学ぶ。	授業内で提示された資料を読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第2回	子どもの最善の利益を考える	児童虐待の歴史や現状、またその背景を知り、どのような支援が必要とされているかを学ぶ。家族に関わる機関や支援のしくみについて理解する。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第3回	子育ての困難さと支援	産後うつや育児不安など産前産後に生じる困難さを知り、それに対する支援の方向性や制度、地域の子育て支援について学ぶ。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第4回	仕事と子育ての両立支援	保育所を中心とした保育サービスの現状と課題を知り、育児休業制度や父親支援の活動など、仕事と子育てを両立させるための支援について学ぶ。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第5回	ひとり親への支援	シングルマザー支援の歴史的展開と現状を知り、母子家庭、父子家庭それぞれが必要とする支援を考える。	2回～5回の内容をふりかえり、子どもが育つ上で必要な家族支援についてレポートを作成する。	180分
第6回	貧困への対策と支援	相対的貧困とそれにともなう問題を理解し、子ども食堂や学習支援ボランティアなど、現在行われている支援の現状と課題について学ぶ。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第7回	ひきこもり	ひきこもり状態が家族や社会に与える影響について理解	授業内で提示された事例のプリ	180分

	問題の理解と支援	する。就労支援や家族への相談支援など、支援の現状や今後の方向性を考える。	ントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	
第8回	社会的養護への理解	児童養護施設や乳児院、里親など、家庭以外の場で行われるケアの現状を学び、現在課題となっていることについて理解する。	6回～8回をふりかえり、公的支援とNPOの役割について自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第9回	障害児者と家族ケア①	障害を持つ子を産み育てる困難さを知り、障害児を育てる家族に対してどのような支援が必要とされているかを理解する。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第10回	障害児者と家族ケア②	障害児者の権利とそれを擁護するしくみについて学び、家族との関わりから考察する。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第11回	高齢期の家族と支援①	介護サービスやケアマネジメントの現状と課題を学ぶ。介護が家族から社会化された経緯を理解し、家族の役割について考える。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第12回	高齢期の家族と支援②	ターミナルケアや終活の問題を通じて、高齢者の権利擁護や意思決定における家族の役割について考える。	9回～12回をふりかえり、ケアを必要とする人々の権利擁護と家族の役割について自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第13回	海外の家族支援①	日本の家族支援の特徴を理解するために、福祉レジームについて学ぶ。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第14回	海外の家族支援②	フィンランドの家族支援に注目し、日本との共通性やちがいについて学ぶ。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分
第15回	まとめ	現代の家族をめぐって生じている様々な問題と支援ニーズを確認し、支援のために必要な制度や条件について考察する。	授業内で提示された事例のプリントを読み、自分の考えをまとめてレポートを作成する。	180分

学習計画注記	履修者数や社会状況をみながら、支援の現場で活動する外部講師の講義や、子育てひろばなどの外部見学を実施します。
学生へのフィードバック方法	小レポートに対する解説は授業内で行います。その他、授業内容の理解度をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介します。
評価方法	・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか） ・授業半ばで実施する小テストの点数 ・期末テストの点数

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート作成	○	○	○	○
	小テスト	○	○	○	
	期末テスト	○	○	○	

評価割合	レポート：50% 小テスト：20% 期末テスト：30%
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。
参考図書	授業中に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会の基礎・基盤的組織である家族のあり様の理解を通じて現代社会の諸問題を理解することができる。 【思考・判断】 家族の社会的な課題や問題を事実に基づいて発見しそれに対する解決のプロ セスが理解できる 【関心・意欲・態度】 私の中にある「家族」への”こだわり”に関心をもって、それを友人とまた家族と対話しよううとする態度を持つ ことができる。
オフィスアワー	火曜３限　千代田三番町キャンパス1701ゼミ室
学生へのメッセージ	家族支援論の授業では家族の抱える様々な問題をとりあげて、どのような支援が可能かを考えます。みなさん自身が問題を抱えている場合もあるでしょう。一つひとつの問題を自分のこととしてとらえ、これから何ができるかを一緒に考えていきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家族と法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山里　盛文	指定なし

ナンバリング	G32211C21
授業概要(教育目的)	この授業では、家族というもっとも身近な存在について、法的視点を通して考えます。夫婦、親子、扶養、相続などの現実の家族問題を解決するための法律に関わる知識がいかに手助けとなるかを概説し、法律を切り口に個人と家族、家族と社会の関係について歴史的・社会的な背景を踏まえて考えます。また、近時の様々な家族関係（パートナー関係・生殖補助医療）も扱います。家族法は、私たちの家族関係を規律し方向づける指針であり、当事者の間の自由な意思決定によって市民社会を形成する基盤でもあります。現行家族法についてよく理解し、家庭生活に関する紛争を防ぎ、問題点を掘り起こし変動する社会への法的対応ができるようになることを目的とします。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.家族について、法的視点を通して説明できる。 2.家族に関する現代的な問題について、法律に関係づけることができる。
思考・判断の観点（K）	1.家族に関する法的問題について、論理的に指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

家族と法

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス家族法の基礎	この授業の概要を説明し、この授業で扱う家族法の概要について学び、家族法とはどのような法律かについて理解します。	教科書1～14頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第2回	婚姻（結婚）の成立	どのようにして婚姻（結婚）が成立するかを学び、どのような要素により婚姻（結婚）が成立し、どのような要素により婚姻（結婚）が成立しないのかについて理解します。	教科書15～53頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第3回	婚姻（結婚）の効力	婚姻（結婚）が成立した場合の効力について学び、婚姻（結婚）が成立した場合の夫婦間財産関係や財産関係以外の効力について理解します。	教科書54～87頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第4回	婚姻（結	どのようにして婚姻は解消するのかを学び、離婚の成立	教科書88～134頁（ページ）を	180分

	婚）の解消	とその後の効果について理解します。	読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	
第5回	パートナー関係	婚姻（結婚）関係以外の関係について学び、婚姻（結婚）関係以外のバリエーションや同成婚などの現代的問題について理解します。	教科書135～157頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第6回	実親子関係	法律における親子関係について学び、実親子関係における基本的なルールについて理解します。	教科書158～187頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第7回	嫡出推定制度	親子関係が明らかではないとき、どのような制度が用意されているかについて学び、親子関係の確定方法について理解します。	教科書188～213頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第8回	生殖補助医療	生殖補助医療について学び、その問題点について理解します。	教科書214～233頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第9回	養子制度	民法が用意する養子制度について学び、養子成立・効果などについて理解します。	教科書234～286頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第10回	親権	親と子に関する法律関係について学び、親権の意義・内容などについて理解します。	教科書287～333頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第11回	相続制度	人が死んだ場合の財産の移転について学び、相続の概要、だれが相続するのかについて理解します。	教科書349～362、374～404頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第12回	相続分	人が死んだ場合の財産の移転の割合について学び、相続人がどれだけ相続するのか、どのように相続する割合を決めるのかについて理解します。	教科書405～446頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第13回	遺言	人の意思による死後の財産移転の方法について学び、遺言の種類などについて理解します。	教科書447～498頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第14回	遺産分割 配偶者に関する特則	遺産の分割について学び、遺産分割方法やその効力について理解します。	教科書499～556頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第15回	相続人の権利を守る仕組み	相続人の権利を守るための仕組み・方法について学び、その方法である相続回復請求権・遺留分制度について理解します。	教科書557～579頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	180分
第16回				

学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーによる質問については、コメントして返却し、また、的確な質問については、授業にて解説します。
評価方法	・レポートは、現代における家族に関する法的問題点について、理解し、論理的に思考できているか確認します。 ・定期試験は、70点満点で出題し、授業内容を振り返り、穴埋め問題などで、家族法に関する知識および理解度を図り、論述問題により、応用的な思考力や判断力を確認します。 ・レポートおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施しています。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	レポート：30% 定期試験：70%
使用教科書名(ISBN番号)	窪田充見『家族法―民法を学ぶ（第4版）』（有斐閣・2019年） ISBN：978-4-641-13818-6
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家族に関する法制度についての知識を習得し理解することにより、現代生活の諸問題を理解する力を身につけます。 【思考・判断】家族に関する法制度を学ぶことを通して、生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察する力を身につけます。
学生へのメッセージ	・私語、その他、他の受講生の迷惑となる行為は禁止します。 ・授業資料（レジュメ・パワーポイントのスライドなど）については、感染症予防の観点から、密集・密接を避けるため、教室での配布はいたしません。したがって、ご自身でプリントアウトするか、パソコンなどでダウンロードするかしてください。 ・リアクションペーパーの提出は、オンラインで行います。 ・家族法は、私たちの生活に密接に関係しています。ニュースなどで取り上げられることも多くありますので、報道などについてもチェックしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭経済学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし

ナンバリング	G32203C21
授業概要(教育目的)	日常生活に関わる経済生活情報を、積極的に収集し、信頼できる自分オリジナルのデータをもとに、生活設計・家計管理を行う基礎的な能力を養う。キャッシュレス化が進行するなど大きく変動する家庭経済をグローバル化する経済のなかで把握するには、現金のみならず貨幣経済全体を記録した家計調査年報を用いることが有効である。コロナの影響なども含め、貨幣経済と非貨幣経済の両面から消費生活や地域経済の状況について、家庭経済生活を客観的に分析する力をつけることがさらに重要になっている。金融リテラシーに関する知識を前期の生活設計論で学んでいることを前提に、家計調査年報などを用いて、品目分類を用いて、家庭経済の収入支出の年次変化や、世帯主年齢別の違い、月別の分析、地域による差異について分析し、分析結果を適切にまとめる力を養う。
履修条件	前期に生活設計論を履修していること。パソコン室で行うため、履修人数に制限があり、家庭科教員免許取得希望者を優先する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭経済学に関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点（K）	家庭経済に関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のための活動（文献収集、調査など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

家庭経済学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	家庭経済学の学びかた エンパワメント　セルフエンパワメント	家庭経済の現状について生活者・ジェンダーの視点から自分なりの課題を設定し家計調査をもちいて分析する基本的な方法を知る。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第1章　生活から金融を考える(pp.1～10)を読み、要点をまとめる。	180分
第2回	家計からみる家族　家計調査年報を用いて お金と経済	家計に関する基本概念と、家計調査・家計調査年報を用いて、家計分析を行う方法を習得する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第2章　お金と経済ｐ11～ｐ24を読み要点をまとめる。	180分
第3回	人生とお金 生涯に必要なお金　ライフサイクルと家計 生活資源 生活の保障	家計をとりまく経済社会の状況と相互作用しながら生活がどのように変化してきたのかを、ジェンダー研究や統計調査により説明する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第3章人生とお金ｐ25～ｐ34を読み要点をまとめる。	180分

第4回	稼ぐ・使う	収入を得る　税金・社会保険料を支払う　　自由裁量で支出する　家計を管理する	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第4章　稼ぐ・使うｐ35～ｐ46を読み要点をまとめる	180分
第5回	生活設計論基礎編	生活設計の枠組み　時間の捉え方　生活リスクとリスクマネジメント	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第5章生活を設計する①ｐ47～ｐ61を読み要点をまとめる。	180分
第6回	消費社会と家計問題・生活と金融	消費者信用をキーワードにキャッシュレス社会の経済について学ぶ。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第6章生活を設計する②ｐ62～ｐ73を読み概要をまとめる。	180分
第7回	妻と夫の経済関係にみるジェンダー	妻と夫は共同して生活を営むことが多く、経済についても一体化して考えられることが多い。家計の管理形態、家計への貢献などから夫婦間の経済関係について検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第7章　貯める・遺すｐ77～ｐ88を読み概要をまとめる。	180分
第8回	親と子の経済関係	親による子の教育・養育期と親の高齢期に焦点をあて、親子間の経済関係について、実態や意識を概観し、課題を検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第8章　お金を借りるｐ89～ｐ102を読み概要をまとめる。	180分
第9回	高齢期の生活と経済保障	長寿化により高齢期が長期化している。高齢期の経済生活は、生活設計上の最重要課題の一つとなっている。高齢期の経済生活の実態を概観し、外国との比較により、高齢者の生活実態・意識と制度の関わりについて検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第9章　生活者のリスクについて考える①ｐ103～ｐ113を読み概要をまとめる。	180分
第10回	NPOと家計	生活の中でNPOにより提供されるサービスやものを利用したり、NPOの活動に関わることも少なくない。家計とNPOの関わりの実態を概観するとともに、今後の課題について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第10章生活者のリスクについて考える②ｐ114～ｐ126を読み概要をまとめる	180分
第11回	生活経済と環境	環境問題を人々の生活、経済活動との関わりから検討する。日常生活に関わる環境政策・制度を概観するとともに、持続可能な生活のあり様について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第11章お金をふやす①ｐ127～ｐ136を読み概要をまとめる。	180分
第12回	生活経済の教育	近年、金融教育・金融経済教育・消費者教育など、生活と経済の関わりを取り上げる教育の必要性が指摘されている。この背景と具体的内容について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第12章　お金をふやす②ｐ137～ｐ149を読み概要をまとめる。	180分
第13回	ワークショップ1　家計調査年報にみる食の消費行動	家計調査年報の最新版を活用し、品目分類から食を中心に分析し、地域別、月別などで家計の消費行動を発表する	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第13章　お金について相談するｐ150～p165を読み概要をまとめる。	180分
第14回	ワークショップ２　家計調査年報に見る食の消費行動	家計調査年報の最新版を活用し、品目分類から食を中心に分析し、地域別、月別などで家計の消費行動を発表する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第14章　持続可能な社会を創るｐ166～p174を読み概要をまとめる。	180分
第15回	振り返り現代生活の家庭経済	現代の家計管理　生活者の平成30年史などを参照しつつ現代家計の特徴をまとめる	テキスト全体を振り返る。テキストさらなる学習のためにｐ175～p178を読みテキスト全体を振り返って、自分の考えるところをまとめる。	180分

学習計画注記	ワークショップの準備状況で開催回数を変更することがある。
学生へのフィードバック方法	ワークショップ１，２の家計調査・考察などに関するレポート・発表、提出されたスクラップブックなどの課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。
評価方法	・評価の内容は、以下のような観点から行う。 ①調査の目的や意義が明確である。 ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
家計調査分析	○		○	
家計調査発表		○		○

	スクラップブック	○		○	
	期末試験	○	○	○	

評価割合	スクラップブック（授業記録・自宅学習の記録と毎週の新聞記事）50点 家計調査分析レポート作成および発表　　30点 最終試験　　20点
使用教科書名(ISBN番号)	『生活者の金融リテラシー ―ライフプランとマネーマネジメント―』上村協子・藤野次雄・重川純子　編著 朝倉書店 （ISBN　978-4-254-50031-8　C3033）
参考URL	http://uemuralabo.webcrow.jp/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	上村　1805ゼミ室 前期：　火曜日　4限 後期：　火曜日　4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	家計調査や国勢調査など官公庁が出している調査結果を自分でグラフ化してコメントをつけてレポートとして授業中にプレゼンテーションをします。生活設計論や家庭科教育法などとも関わりが強いです。エクセル・ワード、パワーポイントなどを使って、消費者・生産者・納税者として何を考えて行動すればいいのか、家計にあらわれた数字から一緒に考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	家計調査・分析、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	消費者教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 早野　木の美	指定なし

ナンバリング	G01019031
授業概要(教育目的)	消費者教育では、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を目指している。消費者問題の歴史を検証し、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を様々な消費者問題の事例を引用しながら解説する。消費生活に関する行動が、将来にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼしていることを理解させるための消費者教育教材として、ＤＶＤや資料を紹介する。「消費生活相談員資格試験」の合格者には国家資格が付与された。在学中に国家資格を取得できるように、国家資格試験の紹介をする。また、繊維製品品質管理士、環境カウンセラー、世界遺産検定などの情報も提供する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．豊かで安全・安心な暮らしとはどのようなものかについて説明できる。 ２．消費者問題の解決にはどのような消費者教育が必要であるか説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．消費者問題の歴史を検証し、衣食住金融等生活全般に渡り、各世代に応じた各種の消費者教育にはどのようなものがあるか説明できる。 ２．消費者問題は契約に関するものが多い。法的な思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 ２．学んだことが身についたことを示すものに消費者問題関連の検定試験や資格試験がある。各種、関連試験にトライアルしてみる。
技術・表現の観点（A）	１．生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。 ２．次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

消費者教育

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	シラバスに基づく科目の概要説明	科目の概要を理解することができる。消費者教育の概要について説明することができる。	消費者教育に関し、知っていることや体験したことをノートに書き出す。消費者教育に関する記事を読み、そしてノートに要約する。	復習と予習を合わせて120分
第2回	消費者問題と消費者問題の特徴	消費者問題には様々な種類がある。①財・サービスの質の問題　②価格の問題　③計量の問題　④表示・包装の問題　⑤広告・宣伝の問題　⑥販売方法・契約の問題　⑦廃棄物・地球環境問題　消費者問題の特徴を歴史から振り返る。	テキストの消費者問題の歴史を読んでくる。	復習と予習を合わせて120分
第3回	消費者教育と行政の消費者対応・消費者基本法	①消費者教育の基本理念と日本の消費者教育　②学校における消費者教育　③地域における消費者教育　④企業における消費者教育　⑤消費者行政のあゆみ　⑥現在の消費者行政　⑦国際機関等による消費者問題への取組　⑧消費者基本法	テキストの消費者教育に関するところを読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第4回	テーマ「18	①成年になるとどうなる②契約クイズに挑戦③多様化す	新型コロナ禍下でアルバイトが	復習と予習をあわせて

	歳のひとり立ちナビ」テキストのテーマ12題	る支払方法④どう使う？クレジットカード⑤リボ払いに注意⑥SNS上の相手と取引する前に⑦本当にもうかる？⑧犯罪につながるアルバイト⑨「お得」なはずが・・美容に関するトラブル⑩若者を狙う手口⑪消費者トラブルから身を守る心構え⑫あなたの行動が社会を変える	減少したことから、ネット上には危険なアルバイトが氾濫し、若者の消費者被害が増えています。危険なサイトの罠にはまらないための知恵を身に付けます。	120分
第5回	テーマ「撃退ネットトラブル」テキストのテーマ１３題	①ネットの情報を見極めるには②SNSの投稿には気をつけて③ネット広告の種類としくみ④「お試し」のつもりが定期購入に⑤格安をうたう模倣サイト⑥フリマサービスでトラブルに⑦ワンクリック請求に注意⑧突然表れる偽警告⑨巧妙化するフィッシング詐欺⑩危険！ネットの「もうかる」話⑪子どものネットトラブル⑫スマホ決済どう使う？⑬サブスクを利用する	普段の生活の中で自身に起きたネットトラブルを思い出し、どのような対応をしたのかを思い出してみましょう。消費者教育ではどのようなことを講じればよいのか考えてみましょう。	復習と予習をあわせて120分
第6回	テーマ「よくわかる契約」テーマ12題	①契約って何だろう②契約前のチェックリスト③契約の流れを見る④未成年者の契約⑤判断力の不十分な人の契約⑥契約をやめる（無効・取消し・解除）⑦契約をやめる（不当な勧誘の場合）⑧契約をやめる（中途解約）⑨保証契約とは⑩クーリング・オフってどんな制度？⑪クーリング・オフができる取引⑫クーリング・オフの確認ポイント	民法典の「契約」には13の契約類型が規定されています。そして、それらの契約をやめる場合にも様々な種類があります。既に締結している契約、あるいはこれから契約を考えているものについて、その契約をやめる時にはどれが該当するのか、考えてみましょう。	復習と予習を合わせて120分
第7回	テーマ「消費者トラブル注意報」	①ひと目でわかる！こんな手口（１）②一目でわかる！こんな手口（２）③60歳以上に多い消費者トラブル④火災保険を使った住宅修理⑤排水管の点検・洗浄の勧誘に注意⑥スマホを契約するときの注意点⑦クラウドファンディングのトラブル⑧消費生活センターに相談しよう	自身の体験や友人から聞いた話しなどを思い出し、どのような点に注意すれば、消費者トラブルが防げるかを考えましょう。	復習と予習を合わせて120分
第8回	テーマ「身近にひそむ危険」	①家の中の子どもの事故②高齢者の転倒・転落に気をつけよう③窒息事故を防ぐ④自転車を安全に使うために⑤安さや手軽さが強調される「セルフエステ」でトラブルに⑥安い商品でも安全性をよく確認	テキストを読み、自身や家族のヒヤリ・ハツとした事件を思い出してみよう。そして、どのような点に注意をすればよかったのか、考えてみましょう。	復習と予習を合わせて120分
第9回	テーマ「衣生活」	リクルートスーツをテーマにデザイン、繊維の特性、染み抜きの方法、クリーニングも含めて衣服の管理方法について説明します。また、２０１６年に衣類等の繊維製品の洗濯絵表示が新JISに変更になりましたので併せて解説します。	新JISの解説をしますので、事前に洋服の取扱い絵表示を確認しておいてください。繊維製品の品質向上、社員の能力開発など、アパレル企業に貢献するスペシャリスト資格としてTES試験があります。ファッションに関心のある方はトライしてみてください。	復習と予習をあわせて120分
第10回	テーマ「食生活」	①健康食品で健康被害②生食や加熱不足での食中毒③栄養成分表示を活用しよう④加工食品のアレルギー表示⑤食品添加物の役割と安全基準⑥ゲノム食品って何⑦家庭でできる食品ロス対策	消費生活センターには食に係わる様々なトラブルが寄せられます。事例を紹介しながら解説をしていきますので、自身の食生活も考えてみておいてください。	復習と予習を合わせて120分
第11回	テーマ「住まいの知識」	①賃貸住宅を契約するとき②賃貸住宅を退去するとき③不動産広告の見方④住宅ローンの組み方⑤住宅を購入するときのチェックポイント⑥住宅購入後に不具合が見つかったら⑦住宅リフォーム時の注意	どのような部屋でひとり暮らしをしたいか。自分の住要求を明らかにしましょう。様々な賃貸物件情報をしっかり読みとり、比較検討し、自分の住要求に合致する物件を選択しましょう。住居や契約に関する用語・記号を理解し、契約までの経過や重要事項説明での内容確認の大切さを学習します。	復習と予習を合わせて120分
第12回	アクテイブラーニング東京都消費生活総合センターの見学	東京都消費生活総合センターを見学します。当センターは消費者相談室以外に図書室、消費者相談関連の実験室、試験した商品の展示、資料委室などがあります。センター長の説明を聞き、施設を見学します。希望者は本を借りることができます。	図書資料室には行政、企業、各種団体が作成した啓発資料が展示してあります。消費者問題に限らず、衣・食・住・金融・法律等生活全般に関する多種多様な資料を無料で入手することができます。	復習と予習を合わせて１２０分
第13回	テーマ「生活設計と保険」	①「家計の危機」を防ぐには②今から備える「老後のお金」③資産形成に役立つ制度④金融商品を購入するときのチェックポイント⑤保険に入る前の基礎知識⑥生命保険を見直すには⑦医療保険・がん保険の「今」と「昔」	自身の加入している生命保険や損害保険を確認してみましょう。また、財産形成にはどのようなものが適切な、自分なりに調べてみましょう。	復習、予習も含めて１２０分
第14回	テーマ「法テラスと調停」	紛争に巻き込まれた時の解決方法として消費生活センターの利用だけでなく、民間が設置した各種ADR（裁判外紛争処理）機関や国が設置した法テラス、裁判所の調停制度の利用の仕方を学習します。	消費者教育では消費者が紛争に巻き込まれた時にどのように解決するのが効率的で金銭負担が少なくて済むのかも教えておくことが必要です。あまり知られていない法テラスや民事調停の申立ての方法などを具体的に解説します。自身の生活の中で起きた紛争を思い出し、どのような解決策があったのかを考えてみましょう。	復習、予習も含めて１２０分
第15回	テーマ「旅行と環境問題」	ネット通販による海外旅行契約が増加しています。旅行に関係する各種契約紛争や世界の環境問題について、講師が撮影してき各国の映像をご紹介しながら解説します。	行ってみたい国の情報を収集します。仮に旅行に行くとすれば、どのような用意が必要であるか。訪問先の歴史、文化、環境問題なども調べてみましょう。	復習、予習も含めて１２０分

学習計画注記	日頃から身近な消費者問題に関心をもちましょう。
学生へのフィードバック方法	小テストは実施しないが、毎回講義の中で提出期限を示した上で課題を出す。期限内に提出された課題を3段階評価で採点する。正解は次の週に伝える。
評価方法	テストは実施しないが、レポート課題を出す。毎回実施する課題の回答は1点～3点。実施回数が１５回なので、全部の授業で満点を取ると3点×15回＝45点になる。レポートは55点満点とする。こちらも3段階評価となる。レポートと課題とも満点を取ると合計で100点となる。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題の回答	○	○		
	レポート	○	○	○	

評価割合	レポート（55%）、課題（45%）
使用教科書名(ISBN番号)	くらしの豆知識２０２３　編集・発行　国民生活センター　販売：全国官報販売協同組合
参考図書	特定商取引法のトラブル相談Q&A・坂東俊矢監修・民事法研究会発行/　実践的消費者読本第6版・圓山茂夫編著・民事法研究会発行/　消費者契約法・消費者庁著・2019年・商事法務出版／　消費者法講義第5版・日本弁護士会著・2018年・日本評論社出版／　こども六法・山崎聡一郎著・2020・弘文堂出版／　身近でできるSDGｓエシカル消費（全3巻）山本良一監修さえら書房発行
参考URL	http://www/kokusen.go.jp/wko/index.html
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】消費者教育に必要な衣・食・住に関する基本的な知識とITを中心とした情報関連の内容についても熟知し、使いこなせる。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判に思考し、法的な考えも備えて、適切に判断を下せる力を身につけている。
オフィスアワー	講義終了後、必要であれば講師控室で受けます。控室は他の講師が多数控えているので、学生のプライバシー保護のために提出用紙に書いていただき、翌週適宜対応するなど配慮したいと考えています。
学生へのメッセージ	消費者教育には、金融教育、食育、法教育など、様々な要素が含まれているので、授業では広範囲な知識を得ることになる。消費者教育は生涯教育とも言われ、時代の変遷に伴い、全ての年代が常に学び続けて行かなくてはならない。講義を履修して役に立つと思えるのは、学生時代よりも社会人になり、困難な場面に遭遇した時だろう。消費生活アドバイザーや消費生活相談員試験に関する内容も講義の中で紹介していくので、資格取得を目指す学生も是非履修して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は行政で消費生活相談を受ける実務家である。国家資格の消費生活相談員、消費生活アドバイザー資格の他に、金融広報アドバイザー、東京都消費者啓発員、環境カウンセラー、繊維製品品質管理士等の資格を有している。裁判所の民事調停委員で、法的観点からの消費者問題を論じながら授業を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	東京都消費生活総合センターを見学し、担当者から消費者センターの現状や今後の課題等について説明を聞く。展示室では商品テスト済みの商品や啓発用の映像を視聴し、併設の図書室では希望の本を借りる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	消費者政策と法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G32306C21
授業概要(教育目的)	消費者にとって安全で安心できる商品とサービスを選択し、環境に優しい生活スタイルをつくりあげるための政策や法が求められている。消費者問題について考え、その背後にある市場メカニズムや消費者施策の必要性を理解する。消費者の生活に関わる政策と法律の動向を取り上げながら、私たち消費者が自立して考え、行動するための能力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	消費生活のために必要な知識や態度を習得し、消費者の権利と役割を自覚することができる。
思考・判断の観点（K）	消費生活を送る上で求められる批判的思考力と意思決定をする力を付けることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	消費者市民社会の構成員として自己実現していく能力を開発することができる。
技術・表現の観点（A）	安全で安心な生活を送るための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	消費者問題とは何か	消費者問題の発生や歴史、解決に向けた取り組みについて学ぶ。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分
第2回	消費者問題と消費者政策	消費者問題を振り返り、消費者政策の展開や消費者被害の拡大防止と被害救済に関する新しい制度を学ぶ。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第3回	消費者法とは何か	消費者と契約について検討し、特定商取引法や消費者契約法などの消費者法について学ぶ。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第4回	生命・身体や財産にかかわる消費者被害	消費生活製品の安全性を検討し、安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。	120分
第5回	消費者の安全に関わる政策と法律①	食品の安全が求められる背景と、関連する法律と行政の取組について学ぶ。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分
第6回	消費者の安全に関わる政策と法律②	商品の安全性について検討する。安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。	120分
第7回	消費者の安全に関わる	消費生活の相談や事故に関する情報を理解する。全国の消費生活相談のデータベースであるPIO-NETや、事故情報データバンクシステムについて学習する。	教科書第5章を読み、関連事項について調べること。	120分

	政策と法律③			
第8回	消費者行政の実際	消費者行政の展開、現状と課題について理解する。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第9回	消費者被害と法律①	契約と消費者トラブルについて理解する。悪質商法とそれを未然に防ぎ、早期解決に導くための法規制を学習する。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第10回	消費者被害と法律②	社会的に弱い立場にある「脆弱な消費者」に関わる消費者トラブルとその対応について理解する。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第11回	消費者団体の役割	消費者団体や消費者運動の歴史を振り返り、適格消費者団体の動向など、消費者を取り巻く現状と消費者団体の役割について学習する。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分
第12回	企業の消費者対応	企業の消費者対応についての変遷や、消費者被害の拡大防止と被害救済に関わる諸制度を学習する。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第13回	各ライフステージにおける消費者教育	幼児期・小学生期・中学生期・高校生期・成人期の各ライフステージにおける消費者教育のあり方について学習する。	教科書第12章から第14章を読み、関連事項について調べること。	120分
第14回	生活設計・消費者信用	生活設計に関わり、金銭管理と消費者信用について理解する。金融商品と消費者信用の仕組みを知り、トラブルの未然防止と早期解決へ導く方策を学習する。	教科書第8章及び第9章を読み、関連事項について調べること。	120分
第15回	まとめ：消費者市民社会の構築	消費者市民の概念を理解し、消費者の権利と責任について考える。消費者も利害関係者として責任ある生活スタイルを取ることの重要性を検討する。	教科書第11章と15章を読むとともに、これまで学習した内容を整理すること。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容についてふりかえりをする。
評価方法	・定期試験は70点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。 ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物			○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）及び提出物（30%）などを総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	神山久美他編『新しい消費者教育　第2版:これからの消費生活を考える』慶應義塾大学出版会、2019年(4766426339)
参考図書	国民生活センター編『くらしの豆知識（2022年版）』2021年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【前期】水曜日　1701ゼミ室　12：30～14：30
学生へのメッセージ	関連するweb教材や動画などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	消費者教育演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G22304C22
授業概要(教育目的)	消費者市民社会における消費者教育をテーマに、学生をめぐる消費生活上の課題を中心にした質問紙調査やインタビュー調査を実施する。関連する研究や啓発資料、手法についての情報を収集・分析しながら消費者教育の素材を作成する。その成果は研究報告書にまとめ、連携先等に公開して地域社会に還元することを目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	消費者教育に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点（K）	消費者教育について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	消費者教育についてどのようなものがあるか調べる。	240
第2回	消費者教育に関わる先行研究や取り組みの情報収集	行政や企業が実施している消費者教育について学習する。	行政が作成している消費者教育の啓発資料について調べる。	240
第3回	行政への消費者教育に関するインタビュー調査	行政の担当者を対象にした消費者教育の施策について聞き取りをする。	聞き取った内容を整理する。	240
第4回	調査の企画と設計、調査仮説を検討。質問紙調査の調査票作成	学生を対象にした啓発講座を実施するため、ニーズ調査の計画を立てる。	関連する先行調査を調べる。	240
第5回	質問紙調査とインタビ	どのような啓発講座が望まれているかを調べるための質問紙調査とインタビュー調査の項目を準備する。	関連する先行調査を調べる。	240

	ュー調査の実施			
第6回	学生を対象にした調査票の配布・回収・分析	確定した質問項目に沿った調査を実施する。結果をとりまとめ、その内容を分析する。	集めたデータを整理する。	240
第7回	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備①	これまでに実施したニーズ調査にもとづき、啓発講座を企画する。	これまでの講座の実践例などを調べる。	240
第8回	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備②	啓発講座の準備を進める。	効果的な学習内容などを検討する。	240
第9回	啓発イベントの実施・振り返り	啓発講座の振り返りをする中で見えてきた課題を整理する。	振り返りの内容に関するデータ整理をはじめる。	240
第10回	啓発イベントの結果とりまとめ①	啓発講座の量的データをまとめる。	まとめた内容は電子データにして発表できるようにする。	240
第11回	啓発イベントの結果とりまとめ②	啓発講座の質的データをまとめる。	まとめた内容は電子データにして発表できるようにする。	240
第12回	エシカル消費（倫理的消費）の学習	専門家からエシカル消費（倫理的消費）についての講義を受けて学習する。	関連する事項についてあらかじめ調べる。	240
第13回	エシカル消費（倫理的消費）について社会のあり方や、自分自身の取る行動（マイエシカル）について考える。	関連する情報をまとめ、発表の準備をする。	関連する情報をまとめ、発表の準備をする。	240
第14回	エシカル消費（倫理的消費）に関する研究発表の実施。	「マイエシカル」をテーマにした発表を通して、自分で学んだことを振り返り、他の履修生の発表内容からも学ぶ。	他の学修者とも情報交換をする。	240
第15回	最終報告会	啓発講座の準備や調査、エシカル消費についての発表を通して考えた消費者教育のあり方について発表する。	他の学修者の学びからも整理する。	240

学習計画注記	本授業科目は演習2単位につき、90分×30回分の授業を実施する。毎週の授業（90分×15回）のほかに、90分×15回分の授業を別に実施する予定。土曜日・日曜日などを利用することも計画しているので、第1回の授業に出席をしてスケジュールをあらかじめ了解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。 ・受講状況・学習態度、啓発講座調査、見本市調査、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	○
	啓発講座調査	○	○		
	見本市調査	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	受講状況・学習態度（10%）、啓発講座調査（30%）、エシカル消費に関する発表（30%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【前期】水曜日　1701ゼミ室　12：30～14：30
学生へのメッセージ	消費者教育について行政や事業者との連携を通して、経験しながら学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	啓発講座のニーズ調査やとりまとめなどにあたっては、グループ・ディスカッションをはじめとするアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行となる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	プロシューマー実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし
非常勤講師	宮川　有希	指定なし

ナンバリング	G32307C23
授業概要(教育目的)	食品ロス削減は、世界的課題である。グローバル経済のなか、食と農が分離し、大量生産・大量消費・大量廃棄が食の分野にも及んでいる。消費者・事業者・行政は家庭で地域で生産の現場で、何ができるのか。どのような消費者の選択・消費行動が食品ロス削減につながるのか。地域のフードバンク・フードドライブの活動、消費生活協同組合とどのように関わっているか。フードチェーン全体を見通して、大学生にアンケート調査なども実施し活動することを目指す。
履修条件	社会調査法を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食品ロス削減は世界的課題であることを理解し、グローバル経済のなか、食と農が分離し、大量生産・大量消費・大量廃棄が食の分野に及んでいる現況に関する知識を身に付け説明できる。
思考・判断の観点（K）	消費者・事業者・行政は家庭で地域で生産の現場で、何ができるのかを思考し、フィールド調査あるいはアンケート調査に基づいて自身の生活を見直し課題を発見し、食品ロス削減の方法を提案し削減に向けた計画を適切にたて判断・行動・実践につなぐことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	どのような消費者の選択・消費行動が食品ロス削減につながるのか。地域のフードバンク・フードドライブの活動に関心を持ち主体的にフードチェーン全体を見直し持続可能な社会の構築に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする態度を養い、積極的に地域社会の活動に参画することができる。
技術・表現の観点（A）	生産者と消費者が連携して持続可能な消費生活を実現し消費者市民社会をつくるには何か必要か、食品ロスとエシカル消費をテーマに食品ロスに取り組むフードバンクと連携する学生や家庭科教員を目指す学生を事例に、アンケート調査・ヒアリング調査・家計調査・フィールド調査なども活用しつつ、自分たちができるプロジェクトを企画して実行する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス（授業予定と調査倫理について）	授業目的、概要、後期スケジュール、協力団体について等。食品ロスの現状と課題（現代生活学セミナー昨年の報告書参照）。千代田区の消費生活展について授業の目的・計画・予定。社会調査士資格取得との関係。食品ロスに関して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	授業後、SDGｓに関して調べ、食品ロス削減がどのように位置づけられているかをレポートする。	240
第2回	食品ロスに関する基礎調査の説明。基礎調査の分担。	天野正子にみる消費者と生産消費者。エシカル消費、SDGｓ。シェアリングエコノミー。 生活者とは。基礎調査の説明、分担。定量調査、定性調査、二次分析の説明。二次分析は家計調査を用いる。	基礎調査のテーマにそってレポート作成の枠組み。内容を決定する。	240
第3回	プロジェクトの進め方と昨年度までの調査結果検討。消	基礎調査進捗状況の確認。2016～2018プロシューマー実習、食品ロス意識調査報告書の分析・検討。 グループにわかれて、消費生活展の出展内容を決定し役割分担。	基礎調査のテーマにそってレポート作成。資料収集。文献検索。 消費生活展の出展準備、資料収集。	240

	費生活展の出展内容の検討。			
第4回	基礎調査レポート報告（1）行政・消費者団体の取組みに関する報告。シェアリングエコノミー。	行政・消費者団体の取組みに関するレポートの報告をもとに、意見交換をする。	基礎調査のテーマにそってレポート作成。資料収集。文献検索。 消費生活展の出展準備、資料収集。	240
第5回	基礎調査レポート報告（2）「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向に関する報告。	「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向に関するレポートの報告をもとに、意見交換をする。	消費生活展の出展準備、資料収集。	240
第6回	消費生活展準備及び出展	消費生活展の出展準備、展示物の確認。	基礎調査の振返りと本調査のテーマを検討。	240
第7回	本調査テーマ・企画・役割分担等の決定。アンケート調査票の作成。	本調査テーマ決定と調査スケジュールの作成。調査依頼・仮説構成等。アンケート調査票の作成。	本調査のテーマにそってグループごとにレポート作成。資料収集。文献検索。アンケート調査を実施。	240
第8回	本調査実施（1）アンケート・インタビュー・文献調査。	アンケート調査結果を入力。インタビュー調査等の実施。	本調査のテーマにそってグループごとに報告書を作成。資料収集。文献検索。アンケート調査結果の入力・集計。	240
第9回	本調査実施（2）アンケート・インタビュー・文献調査。進捗状況の報告。	アンケート調査の単純集計報告。SPSSの説明。調査報告。消費生活展の出展準備。	本調査のテーマにそってグループごとにレポート作成。資料収集。文献検索。アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。	240
第10回	本調査中間報告。	本調査の中間報告。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。	240
第11回	本調査実施（3）アンケート・インタビュー・文献調査。	授業の目的・計画・予定。社会調査士資格取得との関係。地域に活動・協力企業等を説明。食品ロスに関する事前学習を通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。	240
第12回	内部での報告会。報告書作成準備。	結果概要報告	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。報告会予行練習の準備。プレゼン資料の作成。	240
第13回	フィールド調査実施	楠公レストハウスにて意見交換。食品ロスや江戸エコ、エシカル消費など。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。報告会予行練習の準備。プレゼン資料の作成。	240
第14回	報告会予行練習。プレゼン資料の作成。	パワーポイントを使用し、成果発表会の予行演習、意見交換を行う。	予行演習のフィードバックを踏まえてプレゼンテーション資料の修正を行う。	240
第15回	報告会の実施・振返り	報告書をもとに成果発表を行う。協力企業や学外の関係者を招いて報告会を行う。	報告会・振返りで出た意見を反映し最終報告書の作成。	240

学習計画注記	連携先の都合により、日程が変更となる場合があります。
学生へのフィードバック方法	調査・考察などに関するレポート・発表、提出された課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。
評価方法	・評価の内容は、以下のような観点から行う。 ①調査の目的や意義が明確である。 ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	調査レポート報告	○	○	○	○
	プロジェクトへの参加		○	○	
	成果発表	○		○	○

評価割合	調査レポート報告まで　30点 プロジェクトへの参加　40点 成果発表会での発表内容　30点
使用教科書名(ISBN番号)	時々に指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品ロス問題にいて総合的な家政学・生活者の視点から諸課題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	上村 前期：　火曜日　4限　1805ゼミ室 後期：　火曜日　4限　1805ゼミ室 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	自分たちができることを、アンケート調査や、ヒアリング調査、家計調査から分析するアクティブラーニングです。新しいライフスタイルにつながるどのようなアイディアが飛び出すか、楽しみにしています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分たちができることを、アンケート調査や、ヒアリング調査、家計調査から分析するアクティブラーニングです。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活設計論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし

ナンバリング	G32206C21
授業概要(教育目的)	消費者教育、金融経済教育、キャリア教育など、さまざまな領域で求められている生涯を見通した生活設計力とは冷たい貨幣で動くさらに、女性と財産をテーマに、家計調査などデータを収集し分析して、経済環境・社会政策に対応して経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。生活者を支援する専門的能力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活設計・金融リテラシーに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点（K）	生活設計・金融リテラシーに関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のための活動（文献収集、調査など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

【生活者の金融リテラシー】　貨幣新時代の家計管理・生活設計を考える

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	導入―　人生100年時代の生活設計	人生100年時代の生活設計：経済と金融に関する理論と実践の基本や、世代による人生の違いを理解し自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	テキスト『生活者の金融リテラシー』第1部総論を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第2回	人生100年時代のライフプランを描く ①変わる家族：家計管理は誰がする	デジタル化・キャッシュレス化が進む時代の家計管理・生活設計：経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	テキスト『生活者の金融リテラシー』第2部　家計管理・生活設計を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第3回	ライフプランを描く ②冷たい貨幣を温かいお金にする若者の金融リテラシー	シェアリングエコノミーやクラウドファンディングなど持続可能な社会に向けた家計管理・生活設計がすすんでいる。経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	テキスト『生活者の金融リテラシー』第3部金融と生活を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第4回	地域・モデ	大学生が魅力を感じる農泊とは；奥津軽を事例に地域・	テキスト『生活者の金融リテラ	180分

	ル事業を探す（グループ活動開始）　大学生が魅力を感じる農泊とは；奥津軽を事例に	モデル事業を探す グループ活動を開始する。国内外の農業とジェンダー問題を理解し分析する力をもとに今日の課題を解決するため女性農業者が活躍する農業経営体のＷＡＰ100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。	シー』第4部社会をつながるを予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	
第5回	【金融庁】なぜ今金融リテラシーなのか	＜金融庁＞金融リテラシー出張授業を担当して　金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー（4分野15項目）」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体（銀行、証券、保険等）の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	テキスト『生活者の金融リテラシー』1章2章11章12章を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第6回	【金融広報中央委員会】お金とは：お金を稼ぐ　お金を貯める　金融教育の意義と歴史世界の金融教育	＜金融広報中央委員会＞お金とは：お金を稼ぐ　お金を貯める　金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー（4分野15項目）」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、今後のライフキャリアプランを考える。	テキスト『生活者の金融リテラシー』1章6章7章14章を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第7回	【全国銀行協会】キャッシュレス社会の家計管理・生活設計	＜全国銀行協会＞お金をかりる　（クレジットカードの利用　住宅ローン）は金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー（4分野15項目）」の習得を基本に実施する。	テキスト『生活者の金融リテラシー』1章3章4章8章を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第8回	【地域金融機関：信用金庫】	信用金庫や信用組合など地域に密着した金融機関がどのような役割を果たしているのかを知り、中小企業や地域の小規模事業者を支える金融機関の必要がを理解する。	テキスト『生活者の金融リテラシー』11章12章14章を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第9回	【信託協会】お金を遺す遺言・相続・事業承継にみる家族と地域	＜信託協会＞お金をふやす、遺言・相続・事業承継にみる家族と地域では、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー（4分野15項目）」の習得を目的とする。	テキスト『生活者の金融リテラシー』1章2章7章14章を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第10回	【日本FP協会】さまざまな経済設計モデル格差社会でFPの果たす役割	＜日本FP協会＞さまざまな経済設計　モデル格差社会でFPの果たす役割は、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー（4分野15項目）」の習得を目的とする授業である。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に日本FP協会の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	テキスト『生活者の金融リテラシー』5章6章13章14章を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第11回	ライフプランを描く③持続可能な社会と地域コミュニティ：：寄付や社会貢献投資の意義・仕組み、身近な社会貢献事例など	持続可能な社会と地域コミュニティは金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー（4分野15項目）」の習得を目的とする授業である。各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをふりかえる。	テキスト『生活者の金融リテラシー』1章14章さらなる学習のためにを予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第12回	人生100年時代のエンパワーメントと生活資源	女性農業者が活躍する農業経営体のＷＡＰ100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	テキスト『生活者の金融リテラシー』全体をふりかえり自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、発表会にむけてチームで話し合いをしておくこと	180分
第13回	発表会【金融庁】【全国銀行協会】【信託協会】の授業をうけて	外部講師の授業をうけて学んだこと　金融庁GA奇数　全国銀行協会GB奇数　信託協会GC奇数	テキスト『生活者の金融リテラシー』を予習し、「これであなたもひとり立ち」自分のスクラップブックなど生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第14回	発表会【金融広報中央委員会】【日本証券業協会】【日本FP協会】の授業をうけて	金融広報中央委員会　GA偶数　日本証券業協会GB偶数　日本FP協会GC偶数	報告会準備・パワーポイント作成・読み原稿作成・予行演習	180分
第15回	振り返り	家計管理・生活設計を中心にした大学生の金融リテラシーを学んで、エンパワメントしたと思う内容や、将来もっと学ぶべきと思ったことを整理する。	「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」で提出したリアクションペーパーをふりか	180分

			えり各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをまとめる。女性農業者が活躍する農業経営体のＷＡＰ100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	

学習計画注記	遠隔授業となり、外部講師の都合や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	提出された課題や最終発表に対して、専門家の講師及び教員が助言、添削等を行う。
評価方法	授業時にはリアクションペーパーを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。レポートに関しては、関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。自分の意見・考えを説得力ある表現で記載できる能力を培う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業ごとのリアクションペーパー	○		○	
	レポート発表・提出資料	○			○
	最終試験	○	○	○	○

評価割合	授業ごとのリアクションペーパー　60点 レポート他　提出資料　　20点 最終試験　20点
使用教科書名(ISBN番号)	生活者の金融リテラシー ―ライフプランとマネーマネジメント― A5／192ページ／2019年11月01日 ISBN978-4-254-50031-8　C3033 吉野直行 監修／上村協子 ・藤野次雄 ・重川純子 編 朝倉書店
参考図書	大学生のためのFP資格ガイドブック 学生生活マネー＆キャリア　お役立ちハンドブック！ ＦＰ3級程度の知識をつけるテキストを適宜。 日本ＦＰ協会　フィナンシャル・プランニング入門など 生活設計にかかわる講師の団体が提供する資料を教材として使用予定である。
参考URL	https://www.shiruporuto.jp/public/data/lecture/daigaku_kogi/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	上村　1805ゼミ室　前期：　水曜日　4限　後期：　火曜日　4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	自分の求めるライフデザイン実現には、金融知識・金融リテラシーが必要です。家庭経営学概論（1年）の知識をもとに授業をすすめます。生活の経済など他科目とも関連付け社会で求められるフィナンシャルリテラシーを身につけます。各授業ごとに、事前に学んでおく内容、振り返りの内容を指示します。授業時間外に自習して、就職活動にもつながる経済基礎力を培ってＦＰ資格取得にもチャレンジしてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融庁・日本銀行・全国銀行協会・FP協会などの専門家が取り組んでいる金融教育を知り、実社会に必須となる金融リテラシーを身に付ける
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーションの作成やグループワークにおいては、パソコンや写真、動画を活用し、内面的なふりかえりにとどめず、客観的な姿を見ることで、生活設計に関する深い気づきを促す

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	エコロジー		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	G24501C22
授業概要(教育目的)	「エコロジー」とは，狭義には生物学の生態学のことを指しますが，広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指しています。このように「エコロジー」は様々な意味を持っていますが，この授業では，主に「くらし」に関係した様々な環境要因や環境問題について解説し，人類と環境との共存について学びます。くらしと都市における環境問題の関係について理解するために，簡単な汚水の分析や上下水道関連施設の見学する。また，生物に支えられている「くらし」を理解するために台所にある器具を使ってのDNA抽出や「ちりめんじゃこ」に入っている混獲生物を調べ，生物多様性と人類の関わりを知る。さらに，環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で，見学を通して「くらしと環境の共存」について考えます。見学や実験などを通して，くらしと環境問題の関係について実感を伴って理解します。また，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を多面的に考えて実践するための基礎知識を習得します。
履修条件	1年次に開講される共通科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	環境問題の歴史的変遷を学び，現在の環境問題と生活（くらし）との関係について理解する。 SDGs（持続可能な開発目標）を理解する上での基礎知識を習得する。
思考・判断の観点（K）	環境問題とくらしとの関係を理解した上で，日々の生活が環境に及ぼす影響について考え，改善する思考・判断が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	環境問題に関心を持ち，生活から環境問題を解決する意欲を持つようになる。また，SDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	簡単な実験による環境測定法の習得。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	「エコロジー」の持つ意味・意義について解説する。今後の演習内容と見学の意義について説明する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み，環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	90分
第2回	地球環境と生態系	「エコロジー」の基本概念である「環境」と「生態系」について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。	90分
第3回	生態系とくらし（生態系サービス）	人類が生態系からもたらされる様々な利益（生態系サービス）について解説し，生態系と人類の関係について理解する。また，身近な生態系サービスについて調べ，生活との結びつきを考える。	予習：高校生物基礎教科書中の生態系と生活の関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。	90分

第4回	環境問題の歴史と実態１（公害の歴史と現在の生活の関係）	日本の高度成長期に発生した公害問題を紹介し，現在の安全・安心な生活がどのようにつくられてきたのかを考える。特に世界的な環境問題として現在でも取り上げられいる「水俣病」についてVTR資料を使って紹介し，現在の生活が過去の多くの犠牲の上に成り立っていることを理解する。また，他の水質汚濁による環境問題についてインターネットを利用して調べる。	予習：公害病についてインターネットを使って調べる。復習：授業内容の確認。	90分
第5回	環境問題の歴史と実態２（水質）	生活に不可欠で身近な飲料でもある「水」が都市においてどのようにして確保されているのか，また生活排水を含む「下水」はどのように処理されているのかを解説する。その後，見学先である東京都虹の下水道館・水の科科学館をHPで見学する展示を確認する。	予習：「上水」「下水」の処理方法について調べる。復習：授業内容の確認。	90分
第6回	環境問題の歴史と実態３（水質検査実験）	都内数カ所からサンプリングした河川・壕の水と擬似的に作成した生活排水のCOD（化学的酸素要求量）や濁度などを簡易分析キットや濁度計を用いて測定し，生活排水が環境に及ぼす影響について実感を伴って理解する。簡単な実験を行う。	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」を読む。復習：実験レポートの作成。	90分
第7回	環境問題の歴史と実態４（虹の下水道館・水の科学館見学）	東京都虹の下水道館・水の科学館では，生命維持や生態系維持に必要不可欠な「水」の供給・処理の実態について理解することを目的として見学する。上水の水質維持には森林や河川と言った環境の重要性，下水の処理については多くの微生物が係わっていることを理解し，くらしに不可欠の「水」と環境との関連性について考える。特に虹の下水道館では下水設備の見学することによって，下水と環境問題について認識する。	予習：見学内容の確認。復習：虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。	90分
第8回	環境問題の歴史と実態５（自然に与える影響・生物多様性）	生物多様性の基本について解説した後，生物多様性と生活の関連性について「自然浄化」「品種」などをキーワードにVTR資料を使って理解を深める。遺伝的多様性から生まれる「品種」に関して，どのような生物が，どのように使われているのかを調べる。	予習：高校生物基礎教科書中の生物多様性に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。	90分
第9回	生物多様性とくらし1（種多様性とくらし：DNAを見てみる）	生物多様性の内，遺伝的多様性は生活に多くの利益をもたらしている。遺伝的多様性の基本であるDNAを台所にある器具を使い，取り出し，その実態について理解を深める。簡単な実験を行う。	予習：高校生物基礎教科書中の遺伝子に関連している部分を読む。復習：実験レポートの作成。	90分
第10回	生物多様性とくらし２（ちりめんじゃこから環境問題を考える１）	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより，食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。1回目では「ちりめんじゃこ」に関連する漁業，製造方法などを解説した後，無選別の「ちりめんじゃこ」の中から混獲された生物を探し出し，簡単な生物図鑑を製作する。	予習：事前に配布したテキストを読み，実習内容の確認をする。復習：生物図鑑の作成。	90分
第11回	生物多様性とくらし３（ちりめんじゃこから環境問題を考える２）	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより，食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。2回目では無選別の「ちりめんじゃこ」から選別した混獲生物を定量化し，食品としての「ちりめんじゃこ」を作り出す為にどのくらいの量の生物が混獲されているのかを知る。2回の実習を通して，食料と生物多様性・生態系との関連性を実感を伴って理解する。	予習：事前に配布したテキストを読み，実習内容の確認をする。復習：実習内容の確認。	90分
第12回	環境とくらしの共生を考える（ビオトープを例として）	都市環境下で自然環境を再現する「ビオトープ」について解説し，自然環境とくらしと共生の共存を考える。ビオトープの特徴を理解した上で，インターネットを用いて自宅周辺のビオトープを探し，特徴をまとめる。	予習：ビオトープに対する予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	90分
第13回	くらしと身近な環境問題（まちづくりと環境；ヒートアイランドを測る）	都市化に伴う環境問題をヒートアイランド現象を例として解説する。その後，校舎屋上のクーリングタワー周辺，大学周辺の歩道や公園で気温測定を行い，都市の高温化と緑地の意義について実感を伴って理解する。	予習：測定場所の選定。測定方法の確認。復習：授業内容の確認。	90分
第14回	環境保護教育・活動（見学）１（自然教育園見学）	国立科学博物館附属自然教育園では，大都市東京の中心地である目黒地区のビオトープを見学し，人口過密地域での環境問題・環境保護等について理解を深め，人と自然との共存について考える。また，気温測定を自然教育園内と近隣の公園で行い，ヒートアイランド現象に対する緑地の意義について理解する。	予習：国立科学博物館附属自然教育園についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。	90分
第15回	環境保護教育・活動（見学）２（北の丸公園見学）	北の丸公園を見学し，前回に見学したビオトープである国立科学博物館附属自然教育園と整備された緑地である北の丸公園を比較し，都市における環境保全について理解する。	予習：北の丸公園など，都心における緑地の特徴についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。	90分

学習計画注記	クラス編成などの理由で，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。見学があるので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります（土・日，補講日を利用）。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学ための入園・入館料，交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館附属自然教育園（JR目黒駅，東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅）の入園料330円，虹の下水道館・水の科学館（JR埼京線・東京臨海高速鉄道りんかい線国際展示場駅，ゆりかもめお台場海浜公園駅）の入館料は無料。 注意：ハイブリッド授業の場合には，一部授業の内容を変更したり，実験を土曜日（補講日）に行う場合もあります。また，新型コロナウイルス感染状況によっても，変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義と見学，簡単な実験。 講義中の提出物などについては，解説する予定。

評価方法	授業中に課した提出物や授業への取り組みと見学レポートの総合評価。1/3以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。特に演習科目なので，欠席については厳格に評価します。見学や実験があるので，注意して下さい。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物・授業への取り組み	○	○	○	○
	見学レポート	○	○	○	○

評価割合	授業中に課した提出物や授業への取り組み（60%），見学レポート（40%）の総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	特に定めない。
参考図書	授業中に適宜，紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち，現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	月曜2限　1702室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	環境保護論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	G24502C21
授業概要(教育目的)	様々な環境問題がとりざたされている現在、人類と自然との共存が模索されている。私たちの社会システムも環境との調和に根ざしたものに変わろうとしている。この授業では、身近なくらしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための方法について学び、自然保護や保全とは何かについて考える。また，世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）を実践するための基礎知識を習得する。 自然観や環境保全の方策などを実感を伴って理解するために，以下の見学を予定しいる。 ①国立科学博物館：生物は環境に影響を受け進化・絶滅を繰り返しながら，生物多様性を作り上げている。国立科学博物館が所蔵している過去から現在の生物標本を見学し，環境と生物の関係について理解を深める。（JR上野駅；入館料630円） ②国立極地研究所：地球上には様々な環境が存在し，人類の生活に影響を及ぼしている。極地は，人類の活動域とは離れているが，地球環境の安定化などに重要な役割を果たしている。また，人類の活動域から離れていることは，すなわち地球上で最も人類の影響が少ない場所の一つであり，地球環境の変化を研究・観測する上で適していて「地球環境の窓」とも言われている。南極・北極を研究している研究所を見学することにより，グローバルな人類と地球環境の関わり合いについて理解を深める。（多摩都市モノレール高松駅；無料） なお，見学は補講日もしくは土・日を予定している。
履修条件	専門科目「エコロジー」（2年次前期）と基礎科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。 本科目は千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	環境問題の過去と現在の状況を把握した上で，身近なくらしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための知識を得て、自然保護や保全とは何かについて理解できる能力を持つ。 世界中で取り組まれているSDGs（持続可能な開発目標）と身近な環境問題の関連性について理解できる。
思考・判断の観点（K）	常にくらしと環境の関連性を考える思考と，持続可能な社会におけるQOL（生活の質の向上）と環境の関係について適切な判断が出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	環境保護について関心を持てるようになる。 SDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	レポートにより，多くの人々に環境保護の重要性を訴える表現力が身についている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション（授業の概要）	授業の概要と進め方などについて解説する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み，環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	180分
第2回	環境とは何か？	環境の基礎知識について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系内の物質・エネルギーの循環」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	環境問題の過去・現在・未来１	大気汚染を取り上げ，日本の環境問題（公害）について振り返り，現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。	予習：日本における大気汚染について過去と現状を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	環境問題の過去・現在・未来2	水質汚濁を取り上げ，日本の環境問題（公害）について振り返り，現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。特に水俣病について解説し，社会と環境問題について考える。	予習：「日本の四大公害事件」「水俣病」についてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	生物と環境の関わり合いについて１（生物多様性）	生物多様性（種多様性・遺伝的多様性・生態系多様性）について解説し，環境保護の基本的な知識を身につける。また，今後に見学する国立科学博物館の生物多様性について展示に関しても説明する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	生物と環境の関わり合いについて２（生物多様性と人類）	生物多様性と人類との関係を「品種改良」と「外来種問題」の側面からVTR映像も利用して解説する。	予習：身近な「品種」と「外来種」について調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	生物と環境の関わり合いについて３－１（国立科学博物館見学）	生物は環境に影響を受け進化・絶滅を繰り返しながら，生物多様性を作り上げている。国立科学博物館が所蔵している過去から現在の生物標本を見学し，環境と生物の関係について理解を深める。（第7回・第８回授業を見学にあてる）	予習：第5回・第6回授業内容（生物多様性）の確認。国立科学博物館のHPで展示について下調べをする。復習：国立科学博物館の見学レポートの作成。	180分
第8回	生物と環境の関わり合いについて３－２（国立科学博物館見学）	第7回・第8回授業を見学にあてる。	予習：国立科学博物館のHPで展示について下調べをする。復習：国立科学博物館の見学レポートの作成。	180分
第9回	環境を保護する方法１（生活と環境問題）	生活と環境問題の関連性について，輸入食料について総合的にとらえる目安として考えられた「フードマイレージ」について解説し，日本の食糧事情について考える。幕の内弁当におけるフードマイレージについて調査する。	予習：フードマイレージについてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。国立科学博物館の見学レポート作成。	180分
第10回	環境を保護する方法２（回転寿司から環境を考える１）	仮想で回転寿司のメニューから寿司を注文し。注文した寿司のフードマイレージを計算し，輸入食材と日本の食糧事情を実感を伴って理解する。	予習：回転寿司チェーンのメニューと原産地を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	環境を保護する方法３（回転寿司から環境を考える２）	前回，算出したフードマイレージについて，原産地を国産にして再算出して比較することにより，日本の食糧事情と地球温暖化をはじめとする環境問題の関係について理解する。比較データについて，全体で発表する。	予習：国産の産地と単価を調べる。復習：提出物の作成。	180分
第12回	生物と環境の関わり合いについて４（環境保護と人類の活動）	研究と環境保護の関連性について理解する為に，人類の活動から遠く離れた南極・北極で行われている研究について解説する。	極地（北極・南極）について調査・研究している国立極地研究所のパンフレット類を配布するので，極地で行われている地球環境に対する研究について予習する。	180分

第13回	生物と環境の関わり合いについて５－１（国立極地研究所でのレクチャーと見学）	地球上には様々な環境が存在し，人類の生活に影響を及ぼしている。極地は，人類の活動域とは離れているが，地球環境の安定化などに重要な役割を果たしている。また，人類の活動域から離れていることは，すなわち地球上で最も人類の影響が少ない場所の一つであり，地球環境の変化を研究・観測する上で適していて「地球環境の窓」とも言われている。南極・北極を研究している研究所を見学することにより，グローバルな人類と地球環境の関わり合いについて理解を深める。なお，見学とレクチャーで3時間を予定しているので，第13回と第14回の授業を合わせて実施する。	国立極地研究所見学レポートの作成。	180分
第14回	生物と環境の関わり合いについて５－２（国立極地研究所でのレクチャーと見学）	第13回と第14回の授業を合わせて，レクチャーと見学を実施する。	国立極地研究所見学レポートの作成。	180分
第15回	環境保護論まとめ	環境保護についてこれまでの授業内容・見学を含めて解説する。	第1回～第14回までの授業・見学などについて復習し，自分なりに「環境保護」について考えてまとめる。	180分

学習計画注記	クラス編成などの理由で，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。見学があるので，時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は，通常の授業に振り替えて実施します。また，見学ための入園・入館料，交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館（JR上野駅，東京メトロ上野駅）の入園料660円，国立極地研究所（多摩モノレール高松駅）の南極北極科学館の入館料は無料。新型コロナウイルス感染状況等によって，見学先や見学時期が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	見学レポート・提出物については解説する予定。
評価方法	定期試験，平常点・レポートの総合評価。見学に参加しないとレポートを書けません。平常点は授業中の課題等で評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	レポート	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	定期試験（40%），平常点・レポート（60%）の総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	プリントを配布する予定。
参考図書	講義中に適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち，現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目　1702室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	都市計画		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長野　博一	指定なし

ナンバリング	G24308C21
授業概要(教育目的)	都市計画は、人間が生活する場・空間・建築物をもたらし、都市の環境と施設を科学的方法によって計画的に実現する手段である。現在起きている都市問題・建築環境問題の解決のためには、都市計画が果たす役割は極めて大きなものがあるとともに、市民が参加する「まちづくり」を広く意識しながら、都市・地域計画を実行することが求められる。 本講では都市計画の基本的な仕組みを理解するとともに、具体的事例を通して実践的な知識を身につけることをねらいとする。
履修条件	特に定めはないが、土木・建築などの計画・設計等の仕事に興味があり、または地域づくりやまちづくりについて関心があることを受講の条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	都市計画の基本的考え方を説明できる
思考・判断の観点（K）	都市計画は建築やデザインに加えて、市民の生活を支える役割を担っている点を具体的に説明できる
関心・意欲・態度の観点（V）	将来、プランナー（都市計画行政や計画コンサルタント）、建築等に携わる者として必須となる基礎知識・専門知識、および専門的な計画能力を身につける
技術・表現の観点（A）	与えられた課題に対して、レポートして取りまとめ、リサーチ内容を適切に表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	都市計画とまちづくりの違いと考え方について	都市計画とまちづくり（都市計画の意味・意義、まちづくりとの違い）	国土交通省のHP等で都市計画に関する情報を収集する	180分
第2回	都市計画の歴史（日本の都市計画の歴史）	我が国の都市の歴史と現在までの軌跡：歴史と建築から感じ取る	参考書②の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	180分
第3回	都市計画法①	都市計画法と都市計画マスタープラン、都市を構成する要素	自分が住んでいる区市町村の都市計画マスタープランを事前に見てくること、そして疑問点を見つける事	180分
第4回	都市計画法②	用途地域、市街化区域・市街化調整区域、建築基準法	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	180分
第5回	市街地の整備①	土地区画整理事業、市街地再開発事業　事例考察	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べること	180分
第6回	市街地の整	密集市街地整備、地区計画の策定、複合的な計画、公	国土交通省のホームページにア	180分

	備②	園・緑地の計画と設計	クセスし、内容と事例を良く調べること	
第7回	演習	自分の住んでいる街の様子について、パネル作成		180分
第8回	交通のプランニング	道路、公共交通の基本的考え方・理論、交通マスタープラン	参考書②の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	180分
第9回	都市計画の歴史（海外の歴史）	近代・現代都市計画の思潮：E.ハワード、ル・コルビュジエ、C.A.ペリーの思想	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	180分
第10回	海外都市の事例	アメリカ・ドイツ・フランスの都市事例など	諸外国の公共交通に関する情報など、各国の情報誌などを参考に、事例を調べておく	180分
第11回	現代都市が抱える諸問題①	バリアフリー、ユニバーサルデザインによるまちづくりの課題と展望	日本福祉のまちづくり学会が発行している学会誌や書籍をweb検索し、用語の意味などを理解しておくこと	180分
第12回	現代都市が抱える諸問題②	人口減少、少子高齢化時代の計画理論～コンパクトシティ・空き家	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べること	180分
第13回	現代都市が抱える諸問題③	住民参加・まちづくり、現代的アーバニズム／事例考察	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	180分
第14回	現代都市が抱える諸問題④	現代的アーバニズム／事例考察 ニューヨーク市の取り組み事例を考察（動画視聴とディスカッション）	web検索により事前に調べてくること	180分
第15回	まちづくりへの展望～コミュニケーションデザイン	講義中に紹介する書籍等を参考に学習すること	これまでのスライドやメモを基に、おさらいしておくこと	60分
第16回	定期試験		これまでのスライドやメモを基に、おさらいしておくこと	180分

学習計画注記	・参考図書をよく読み、事前に学習することを求める ・様々な情報媒体があるため、自分の住んでいる区市町村のホームページで都市計画について調べることを勧める
学生へのフィードバック方法	①講義スライドは、講義前日までに教員のwebサイトへ掲載する、各自事前にダウンロードし、事前学習すること ②リアクションペーパーを配布・回収する、質問などもペーパーを通じて出してもらって構わない
評価方法	定期試験（７０％）、平常点(３０％)による評価 ※平常点は演習、小テスト、リアクションペーパーなど

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	○
演習		○	○	
小テスト	○			
リアフクションペーパー	○			○

評価割合	定期試験（７０％）、平常点(３０％・演習・小テストなど)による評価
使用教科書名(ISBN番号)	使用しないが、参考図書は時折利用することがある
参考図書	参考書①：「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）　定価（本体 2,400円＋税）2011年11月発刊 参考書②：「入門 都市計画-都市の機能とまちづくりの考え方（谷口守 著）」（森北出版）　定価（本体 2,200円＋税）2014年10月発刊
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】都市・建物・土地に関する知識を深め、「質の高い生活」を意識できるようになる 【思考・判断】【関心・意欲・態度】演習を通じて、生活者や社会の視点に立った考え方を身に付け、諸問題の解決につなげる思考力を身に付けている 【技術・表現】リアクションペーパーを通じて、レポートや論文を書くための技術を身に着け、自分の考えを表現する力を身に付けている
オフィスアワー	・講義終了後に受け付ける ・メールにて随時相談を受けつける
学生へのメッセージ	・講義形式にてスライドを用いて行う こちらのページからダウンロードするように https://sites.google.com/site/ziliaopeibusaito/home ・毎回分の講義メモを配布する、メモをとりしっかり復習すること ・学術、実務の両面から詳しく講義するので、質問をどんどんしてくるように（講義終了後に受け付けます）

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、都市計画業務を10年以上公的機関にて実践しており、国土交通大学校等での教授歴も有している
アクティブ・ラーニング	○	毎回リアクションペーパーを求める
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	講義は対面式およびオンラインのハイブリッド型にて、スライドを用いて行なう。スライド資料は事前に教員webサイトからダウンロードする仕組みである

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ツーリズム（地域と文化）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岡田　美奈子	指定なし

ナンバリング	G22313C21
授業概要(教育目的)	19世紀に産声をあげたツーリズム(観光)は、20世紀後半に大きく発展し、現在では、地球規模での観光交流で、経済、社会、文化など様々な分野に影響を及ぼしている。この講義では、こうした観光の歴史的変遷を考察し、国際観光の意義と役割や国際観光の発展のための課題について論じる。また、観光による地域開発と地方の活性化について、学生自らが、一つの観光地を事例として、「持続可能な観光」の視点から、観光開発や観光振興の方法を検討し、その対策案をまとめていく。そして、講義全体として、これからの世界と日本の観光の在り方を論じて、学生自ら、観光開発や観光振興の課題を発見し、その対応策を提案できるようにしていきたい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．日本と世界の観光の現状を理解する。 ２．国際観光の役割、意義について理解する。 ３．観光の発展とその発展要因を理解する。 ４．マスツーリズムの発展による影響を理解する。
思考・判断の観点（K）	１．観光開発・観光振興策の立案方法を理解する。 ２．観光による地域開発・活性化案を立案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．日本と世界の観光の現状を考察し、課題を把握できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	世界の観光の現状と課題	世界の観光の現状と動向についての講義を受け、世界の観光統計を分析し、世界の観光の課題と展望について議論する。 世界共通の課題となっている「持続可能な観光」について理解する。また、観光とSDGsとの関係も学ぶ。	復習：世界の観光の現状と課題をレポートの纏める。 予習：配付される日本の観光についての資料を読み、日本の観光の課題を見つけておく。	120分
第2回	日本の観光の現状と課題	日本の観光の現状と動向についての講義を受け、日本の観光統計を分析し、日本の観光の課題と展望について議論する。	復習：日本の観光の主な課題について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットから、ツーリズムの定義を調べておく。	120分
第3回	観光とツーリズムの定義と概念	観光とは何か、を課題に講義をするめる。学問としての定義、産業としての定義、統計での定義を論じる。また欧州で始まったツーリズムの概念を論じ、日本語の「観光」の概念との違いを理解する。そして現在の観光業界で適用するツーリズム概念を考察する。授業では、学生の考えている観光についての概念を議論する。	復習：国際機関や日本政府の観光の定義をレポートに纏める。 予習：配付された観光の歴史の資料を読んでおく。	120分
第4回	ツーリズムの歴史１：	世界の観光の歴史の変遷を論じる。この回では、古代、中世と近世までの旅行の歴史を考察する。また近代での	復習：世界の観光の歴史、古代、中世、近世、近代のたびと	120分

	旅から観光へ	ツーリズムの誕生から発展の歴史を論じる。授業中に、「文明の発展における旅の重要性」について議論する。	観光の歴史をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、20世紀の観光の発展の歴史を調べておく。	
第5回	ツーリズムの歴史２：国際観光時代の到来	20世紀の世界のツーリズムの発展の歴史を考察し、21世紀の世界のツーリズムの動向を論じる。またアジア太平洋地域の台頭、観光分野でのテクノロジーの革新、グローバル化の進展などによる観光業界の変化を考察する。	復習：世界の観光の現状と動向について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、「マスツーリズム」について、調べておく。	120分
第6回	マスツーリズムの発展とその影響	第2次大戦後、ツーリズムは、大きく発展し、先進国では、ツーリズムが大衆化し、マスツーリズムと呼ばれるようになった。そこで、マスツーリズムの経済的、社会的な影響を検証し、自然への影響を考察し、これからのツーリズムの在り方を論じる。	復習：マスツーリズムの問題と解決策をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、「持続可能な観光」について調べておく。	120分
第7回	持続可能な観光	マスツーリズムの代わる新たなツーリズムのあり方を検証する。自然生態との共存できるツーリズムは可能か、現地住民に利益をもたらし、地域を活性化することはできるのか、持続可能なツーリズムは何か、などを論じる。	復習：持続可能な観光の実践方法をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、観光による地域開発の成功事例を調べておく。	120分
第8回	観光と地域開発	観光よる地域活性化の成功事例を考察し、地域開発の取り組みについて論じる。 学生は、事前に調べた「観光による地域開発の成功事例」を発表する。	復習：授業中に紹介された観光開発の成功事例の一つをレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、日本の観光庁の役割について調べておく。	120分
第9回	観光行政と観光政策	観光における政府機関の組織とその役割を論じる。事例として、日本の観光庁の組織と役割を考察する。また、観光政策の実施組織としての政府観光局の役割と実践事項について、論じる。	復習：日本の観光行政と観光政策について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、最近の日本政府の観光政策を調べておく。	120分
第10回	日本の観光政策	戦後の日本の観光政策、2003年からのビジット・ジャパン・キャンペーン、安倍政権での観光立国推進計画などを考察する。 授業中に、「日本の観光振興」のあり方について議論する。	復習：日本のインバウンド観光の課題について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、興味ある国や都市の観光マーケティング戦略を調べておく。	120分
第11回	観光開発戦略、観光振興戦略１	観光開発と観光振興の戦略の立て方、実施計画の作成方法を学ぶ。 具体的には、戦略立案のための調査、調査の分析、戦略の立案と実施計画の作成までを授業中に学び、グループ研究を進めていく。	復習：戦略計画、実施計画の作成方法をレポートに纏める。 予習：興味ある観光地の現状と課題を調べておく。	120分
第12回	観光開発・観光振興戦略２	観光開発・観光振興戦略の策定方法を、事例研究にて習得する。学生は、課題研究として、興味ある観光地を対象に、その観光地の動向を分析し、課題を把握する。そして、その観光地の発展のための観光開発・観光振興策を検討し、提案する。	復習；観光開発・観光振興戦略の策定方法をレポートに纏める。 予習：事例研究にて、興味ある観光地の観光開発・観光振興戦略を策定し、PPTに纏める。	120分
第13回	観光開発・観光振興戦略のグループ研究発表	事例研究での纏めた観光開発・観光振興策案の発表を行う。また学生は、各グループの研究発表の評価し、コメントを述べる。	復習：各事例の研究発表の内容とその評価を簡潔にレポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、興味ある日本の観光地の動向、課題を調べておく。	120分
第14回	世界各国の観光振興戦略	世界の観光先進国の観光振興戦略を紹介し、日本の観光の課題とその対応策を論じる。	復習：日本の観光の課題とその対応策について、レポートにまとめる。 予習：1回～14回までの授業内容を復習する。特に、今後の観光の課題や問題点の対応ついて、自分の意見を纏めておく。	240分
第15回	これからの観光の課題と展望 授業のまとめと小テストの実施	これまでの授業を振り返り、重要なポイントとキーワードを説明し、これからの観光の課題と展望について論じる。 その後、授業全体の理解度を確認する小テストを実施する。	復習：これからの日本の観光の課題と展望について、レポートに纏める。	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、授業スケジュールが変更となる場合がある。
学生へのフィードバック方法	１．各授業後の課題：課題は採点して、2週間以内に返却する。間違いの多かった設問については、解答の説明を行う。 ２．レポートは、採点後コメントをつけて返却する。
評価方法	１．各授業後の課題：記述式の設問で、理解度と論理性で評価する。 ２．課題レポート：「理解度、論理性、独創性」に基づき、3段階評価（Ａ，Ｂ，Ｃ）で評価しする。 ３．最終回のテスト：100点満点の出題する。各授業後の課題や、授業中で説明した重要なキーワードなどの問題を含む。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	最終回の小テスト	○	○		
	授業後の課題	○	○	○	
	課題研究レポート	○	○	○	

評価割合	最終回の小テスト　40% 授業後の課題　　20% 課題研究レポート　20% 平常点　　20%
使用教科書名(ISBN番号)	観光学基礎　発行/著者　株式会社JTB総合研究所、2019
参考図書	塩田　正志、長谷川　政弘、観光学、同文社、1994 岡本　伸之、観光学入門、2001 藤稿 亜矢子、サステナブルツーリズム—地球の持続可能性の視点から、2018
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察をすることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスアワー	火曜日４時限　非常勤講師室
学生へのメッセージ	下記のURLは、世界の国際観光の動向について、国際観光機関（UNWTO)からの2019年に発行されたレポート（暫定版）です。 第1回の授業に出席する前に、下記のURLをダウンロードして、読んでおいてください。 https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2019/01/0e50dff78710f1419d78289ddbad5f86.pdf コロナ禍で観光・旅行分野にも大きな影響が続いています。しかしながら、人々の観光への意欲はかわらず、Withコロナにおける安心・安全な旅行への関心が高まっています。国際観光は経済効果や雇用効果だけでなく、地域の文化や伝統の保存や継承、社会の発展や異文化理解の促進等、重要な役割も担っています。また最近では、観光を通した持続可能な社会づくりやSDGsへの貢献への注目も高まっています。 ツーリズムの有する多様な力を学び、チャンスがあれば旅に出て、世界の人々文化を知り、国際的な視野を養ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	旅行業界ならびに観光分野でのコンサルティングを通した多様な実務経験を活かし、観光の歴史、マスツーリズムの影響、21世紀の観光の動向、観光開発・観光振興戦略の策定などで、具体的な経験や実施事例を紹介し、理解を深める。特に、「持続可能な観光」ベースに、国際的ならびに地域目線での観光地域づくりについての理解や関心を高める。
アクティブ・ラーニング	○	各授業での主要なテーマについて、調べ、考え、その結論の発表を行う。 また、11回の授業からは、持続可能な観光やSDGsの視点からの観光開発・観光振興戦略の策定方法を学ぐ。あわせて、グループ研究にて、国内外の観光地の観光開発・観光振興戦略、観光計画を作成し、13回の授業で発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コミュニティ論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 信田　理奈	指定なし

ナンバリング	G12102C21
授業概要(教育目的)	グローバル化や少子高齢化、情報通信技術の発達等により現代社会が大きく変動するなか、コミュニティの在り方が問われている。高度経済成長期を境に日本の伝統的共同体は衰退したが、近年、コミュニティ再生の動きが活発になってきた。地域振興、震災後の復興支援、居場所づくり、子育て支援、地域福祉、男女共同参画、多文化共生を進める上で新たなコミュニティづくりが求められている。とくにコロナ禍で人とのつながりが希薄化し、孤独や孤立が大きな社会問題となっている昨今、コミュニティの存在意義は大きい。そこで本授業では、コミュニティの原理的考察に加え、市民による活動事例を踏まえながら、コミュニティの現状と課題について＜生活者＞の視点から多角的に検討する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1．コミュニティの基礎理論と重要語句について説明できる。
思考・判断の観点（K）	1．生活者の視点からコミュニティが抱える様々な問題を分析し、理解できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1．コミュニティの未来と自己の将来とを結びつけて、地域の市民活動に参加できる。
技術・表現の観点（A）	1．持続可能な社会の実現に向けて、コミュニティの在り方を提案し、発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の目的と内容、スケジュール、授業の進め方、評価方法、受講上のポイント等について理解する。	シラバスを読み、授業の趣旨や目的を把握する。コミュニティ論を学ぶ理由についてノートにまとめる。	180分
第2回	コミュニティとは何か（1）社会とのつながり	集団・組織、群れ、ネットワークを通して、社会とつながることの意味を理解する。	社会とのつながりを感じる場面やこれまでの体験をノートにまとめる。	180分
第3回	コミュニティとは何か（2）近代化とコミュニティの概念	近代化と生成・拘束する社会、コミュニティの概念、コミュニティ・コミュニケーションについて理解する。	例えば、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトなど、集団やコミュニティに関する主な定義について調べる。	180分
第4回	コミュニティとは何か（3）近代化と共同性の衰退	コミュニティを衰退させ、地域の変容をもたらした近代化と、地域が抱える多様な課題について理解する。	戦後日本の高度経済成長が地域にもたらした変化と問題点について調べる。	180分
第5回	コミュニテ	住みやすいコミュニティのイメージと条件、コミュニテ	自分が住みたいと思う街のイメ	180分

	ィとは何か（４）地域に対するイメージと帰属意識	ィに対する帰属意識の形成要因について理解する。	ージと条件についてノートにまとめる。	
第6回	市民活動とコミュニティ（１）ＮＰＯによる公共空間の創生	「市民」の意味、市民活動の生成と発展、市民社会、市民組織としてのＮＰＯと私たちの生活との関わりについて理解する。	ボランティアなどの活動を通して学んだことをノートにまとめる。授業内で小テスト（第１～５回までの範囲）を実施するので復習すること。	180分
第7回	市民活動とコミュニティ（２）地域福祉の増進	介護をめぐる地域のネットワーク、ユニバーサルデザインの社会づくりとＮＰＯの関わりについて理解する。	「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」の相違について調べる。	180分
第8回	市民活動とコミュニティ（３）居場所づくり	地域の交流拠点として注目されている「子ども食堂」と居場所づくりの意義について理解する。	居場所とは何か、なぜ居場所は必要かについて、自分の意見をノートにまとめる。	180分
第9回	市民活動とコミュニティ（４）子どもの健全育成	異年齢の子どもたちから構成され、地域に根ざした「子ども会」とコミュニティとの関係について理解する。	子ども会や他の組織（例：ガールスカウトなど）での活動経験をノートにまとめる。	180分
第10回	市民活動とコミュニティ（５）多文化共生	国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、地域の構成員として共生することの大切さを理解する。	日本で暮らす外国人が生活する上で抱える問題点をノートにまとめる。	180分
第11回	市民活動とコミュニティ（６）多様性の尊重	誰もがセクシュアリティに関係なく、自分らしく生きられる社会づくりについて理解する。	ダイバーシティ（多様性）が重視される背景とＮＰＯの取り組みについて調べる。	180分
第12回	市民活動とコミュニティ（７）地域振興・復興支援	地域の核として地方創生を実現していく「道の駅」と、震災後の復興支援に取り組むＮＰＯについて理解する。	「道の駅」についてのイメージや利用した感想等をノートにまとめる。	180分
第13回	情報コミュニティ（１）情報コミュニティと地域コミュニティ	メディア的社会化の諸相、情報コミュニティと地域コミュニティの特質について理解する。	「媒介された経験」「メディアはメッセージである」２つの言葉の意味について調べる。授業内で小テスト（第６～１２回までの範囲）を実施するので復習すること。	180分
第14回	情報コミュニティ（２）バーチャル・コミュニティの可能性と限界	ＩＣＴ、バーチャル・コミュニティの可能性と限界、災害情報のコミュニケーションについて理解する。	ネット・コミュニティとしてのＳＮＳにおける他者とのつながりについて、自分の意見をノートにまとめる。	180分
第15回	まとめ	全体を振り返り、＜生活者＞の視点からコミュニティの未来について展望する。	超スマート社会（society5.0）において、他者とのつながりはどうあるべきかをノートにまとめる。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが若干変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	小テストは採点後に返却し、授業内で問題と正解を解説する。
評価方法	・平常点は授業への積極的姿勢であり、予復習や課題への取り組み、グループ・ワークやディスカッションへの参加、発言等が含まれる。 ・小テストは授業内で計２回実施し、基礎的な知識・理解を問うものとする。実施日、出題範囲・形式等については授業内で告知する。 ・定期試験は小テストでの知識や理解を問う内容に加え、授業で取り上げた資料に関する思考力や判断力、意欲や関心度を測る内容とする。実施日、出題範囲・形式等については授業内で告知する。 ※下表参照。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	小テスト	○			
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）により総合評価する。

使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しない。講義資料（PDFファイル）をGoogleクラスルームに毎回アップする。
参考図書	『現代コミュニティとは何か（初版）』船津衛・浅川達人、恒星社厚生閣（2014）978-4-7699-1473-0 『コミュニティを再考する』齊藤純一、吉原直樹ほか、平凡社新書（2013）978-4-582-85689-7 ※その他は授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見・分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
学生へのメッセージ	なぜ人々はコミュニティを形成するのか、そもそもコミュニティとは何か、コミュニティはどうあるべきかなど、素朴な疑問や問題意識を持って授業に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	講義形式を原則とするが、履修者の主体的な学びと学習内容の理解を図るため、グループ・ワークとディスカッションを適宜取り入れる（注：コロナの感染状況によっては実施しない）。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファッション造形学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

ナンバリング	G15301C21
授業概要(教育目的)	現代の服飾文化でスタンダードとされている洋服の構造を理解し、その設計方法と表現上の特徴について学ぶ。具体的には、先ず人体の形状を把握する。次に平面的な布帛を、人体を包み込む被服として構成するための技法について検討する。あわせて、その時に生じる立体的な造形上の表現の多様さに着目する。さらに、それらの表現が着用者または第三者にはどのような心象を与えるかを検討する。服飾が持つ造形物としての機能性及び表現性の可能性を考える。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ファッション制作に必要な人体の構造その他の基本的な情報を理解する
思考・判断の観点（K）	適切な衣服設計とは何かを判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	服飾デザインの多様性について積極的に学ぶ。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	衣服の形態の特徴	衣服の形態上の特徴を3種類に分類し、その形態と表現上の特徴、着装上の特徴のかかわりについて理解する。	シラバスを読み、授業の概要について理解する。	180分
第2回	人体の構造	衣服の着衣基体となる人体の構造を学び、体型にどのように関与しているか理解する。	復習として、人体の基本的な骨格、筋について学ぶ。	180分
第3回	人体の計測	衣服制作に必要となる人体の計測項目および計測方法について学ぶ。	復習として、人体の計測項目について授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第4回	体型と体格	服飾デザインのイメージ形成にも影響する体型と体格について学び、頭身指数について理解する。	授業で指示をする頭身指数についての課題を行い、レポートを作成する。	180分
第5回	体型変化:成長と性差	成長に伴う体形変化と、男女の性差の特徴について理解する。	復習として、授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第6回	衣料品のサイズ	JIS規格の衣料品のサイズ設定について理解する。	復習として、授業で指示する自宅課題を行う。	180分
第7回	動作と体型変化	人体は姿勢の変化や動作によって、体表面の形状や寸法が変化することを理解する。	復習として授業で指示する自宅課題を行う。	180分
第8回	平面製図と立体構成	衣服の制作方法である平面製図と立体構成の手法の違いを理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分

第9回	身頃原型	衣服制作における原型について理解し、平面製図法の文化式身頃原型の設計方法を学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第10回	布帛の立体化の技法	平面である布帛を立体的な衣服形状に表現する技法の種類とそのデザイン効果について理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第11回	デザインの理論:点と線	形状の構成要素である、点と線について理解し、服飾デザインの中でどのような効果を持つか学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第12回	デザインの理論:錯視	錯視の原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第13回	デザインの原理とドレスデザイン	デザインの原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第14回	まとめ	ファッション造形にかかわる内容を確認する	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第15回	服飾デザインに触れる	文化服飾博物館でのドレス展示を見学し、多様な服飾デザインに触れる。	予習として、文化服飾博物館公式HPを閲覧し、概要を理解する。復習として見学に関するレポート課題を制作する。	180分

学習計画注記	博物館の見学は受講生の人数によって、日程等を調整する可能性がある。教室外学習には毎回の授業動画を配信するので、それを活用して復習をすることを勧める。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、次週時間内に正解の解説をする。
評価方法	見学課題においては服飾デザインの多様性について、積極的に視野を広げていることができているかについて、体型に関する課題では、授業内容を理解し、作業を行えているかを評価する。期末試験では授業内容の理解を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	中間試験	○	○		
	期末試験	○	○		
	授業時の小テスト	○			

評価割合	授業時の小テスト：15%　課題2回：20%　期末試験：65%
使用教科書名(ISBN番号)	なし、プリントを配布
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】適切な衣服設計とは何かを理解する。 【思考・判断】人体にとっての快適な衣生活とは何か判断できる。 【関心・意欲・態度】衣服設計と服飾デザインの問題について関心をもつ。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	教職のための選択科目です。被服構成のための基礎的な知識を習得することを目的としています。日常的に身近な衣服の構造やデザインをよく観察するとよいと思います。1年次後期開講のファッション造形実習Aの内容に関連する科目です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館のドレスの展覧会を見学することで、実物に触れる体験的な学習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファッション造形実習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田　茜	指定なし

ナンバリング	G25303C23
授業概要(教育目的)	本講では浴衣制作を課題とし、材料に関する特徴である染色方法から、基礎的な和服の構成と縫製技術の種類を実践的に体験し習得する。さらに着付けの方法について学ぶ。また、和の縫製技術と様々な体型の人々に可能な着装方法とその後の管理等についても合わせて理解する。最終的に日本の伝統文化である和服を継承していくことの大切さを考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本の民族衣装としての和服の役割を正しく理解し、伝えていくことへの認知ができ自分の情報として活用できる。
思考・判断の観点（K）	全体像の予測ができ、各箇所に適した工程を正しく理解し、考えての作業選択ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	特殊な技術方法などに積極的なアプローチを示し、再現してみる努力を行うことができる。
技術・表現の観点（A）	あらゆる手法・着装方法について重ねて技術を磨くことや、相手に作品の特徴などについて伝える力が体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、和服について　材料・用具の説明、基礎縫い	この授業についての進め方と概略について説明し、和服についてその呼び方・仕立て方の種類と浴衣の位置づけについて解説する。続いて材料と用具の説明を行う。また、和裁に必要な基礎縫いを学ぶ。デモを加えて説明を行い、各自基礎縫いの課題を行う。基礎縫いについては動画教材を併用し、各自で復習をしながら行う。また、次の授業から作業に入るため、次回が遠隔授業の学生は必要な材料を持ち帰る。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をして、準備するものを調べておく。	60分
第2回	裁断、袖の印付け	和服用反物の柄の解説をし、浴衣をつくる場合の裁断について説明する。各自の身頃・衽・袖の裁断を行う。実際の裁断は点検を受けた後に行う。 袖の構造を理解し、袖のしるしつけの解説をし、説明しながら学生もしるしをつけを同時に進めていく。次に縫製手順と手法を説明し、デモを加え説明をおこない、各自縫製を進める。また、三つ折りぐけの手法を復習し、袖口を三つ折りぐけする。	柄合わせの種類を確認し、身頃と袖の柄を確認する。	40分
第3回	袖の縫製	袖の縫製の続きとして、三つ折りぐけの手法を復習し、袖口を三つ折りぐけする。	袖の柄合わせの確認としるしつけの方法と基本の運針の技法を確認し練習する。袖は各自で左右完成させておく。	60分
第4回	身頃のしるしつけ・背	身頃のしるしつけをするための布び重ね方と方法を解説する。しるしつけを行い、背縫いをし、きせをかけて折	基礎縫いの練習と身頃しるし付けの確認。背縫いの手順を確認	70分

	縫い	る。身頃のくりこしあげを縫う。	する。	
第5回	繰り越し上げ、肩当てをつくる	背縫いと繰り越しあげの確認を行い、完成させる。 肩当てを縫う。部分見本とデモ動画を活用して説明をし、肩当てをつくっておく。	肩当ての縫製に必要な折り伏せ縫いを確認しておく。背縫いと繰り越しあげを完成させておく。 衽と衿の切り分けについて確認しておく。	40分
第6回	肩当つけ、衽のしるしつけ、衽つけ	肩当てつけの手順を説明し、肩当てをつける。 また、衽と衿を切り分け、衽の裁断を行って印をつける。基礎縫いとして耳ぐけの技法を復習し、習得する。	脇縫いの場所の確認と耳ぐけの練習をしておく。	30分
第7回	脇縫い・脇の始末	次に脇縫いの位置を確認し、脇縫いと脇縫いの始末の方法を説明する。各自で左右の脇を縫い、脇の始末をする	両方の脇縫いと脇の始末をする。	60分
第8回	衽付け（衽下くけ、衽つけ、耳ぐけ）	衽のしるしつけを解説し、それぞれしるしをつける。衽下のくけ、衽つけの説明をデモで行い、きせの分量についての違いを解説に加え、各自実習する。	衽の役割を理解し、その構造を確認しておく。衽のくけをする。	40分
第9回	衽つけの始末	衽つけの縫い代の始末をする。	衽付け、縫い代の耳ぐけを行う。各自でこれまでの行程で終わっていないところを確認し、仕上げておく。	30分
第10回	裾の始末、衿の裁断、共衿の柄合せ・衿のしるしつけ・衿つけ	裾角の始末の方法（縫い代の折り方と針の出し方）を説明し、裾の始末を行う。 衿の裁断を行い、本衿と共衿に切り分ける。共衿の寸法と柄合わせについて解説し、本衿の衿のしるしつけの準備としるしつけについて説明し、各自実習する。個々に柄合わせ点検を行う。衿つけの説明を行う。	衿のしるしつけ確認。裾を始末する（三つ折りぐけ）	40分
第11回	衿つけ・衿先部分縫い	衿つけの（待ち針の打つ順序と縫い方）デモを行い、衿のつけ方を再確認する。衿先の留めの部分縫いを説明し、習得させる。衿をつける	衿先の留めの確認と衿つけの確認。	40分
第12回	三つ衿芯入れ・衿くけ	本衿のきせのかけ方を確認し、三つ衿芯を入れる意味を解説し、手法を説明する。さらに衿の本ぐけとして、基礎縫いで確認し習得してから本番に入る。	三つ衿芯入れと本衿の本ぐけの確認。	40分
第13回	共衿つけ、袖つけ	共衿つけの説明を行い、共衿をつける。 袖つけの説明を行い、袖をつける。袖が左右きちんと縫えているか確認をし、袖をつける	衿の本ぐけが終わっていない人はくけておく。 袖の左右を確認しておく。	40分
第14回	仕上げ。たたみ方	これまでの授業の総確認をして、進度を整える時間とする。 仕上げの方法と、たたみ方との解説をパワーポイントで行う。 提出にむけて作業工程をまとめたレポートを作成する。	袖のつけ始末の確認をする。また、仕上げと本だたみについて確認しておく。作業工程をまとめてレポートにする。	60分
第15回	提出及びミニテスト	作品にレポートを添えて提出する。また、着付けや和裁用語についてのミニテストを行う。	着付けの仕方について動画教材で復習をしておく。	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。二回に一度行われる進度の確認で遅れが生じる人は、次の授業までに各自で追いつく努力をすること。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業での机間指導を行い、正しく理解しての作業ができているかを確認し、その都度指導する。また、遠隔授業の学生については遠隔授業の時間の進捗状況を写真で提出させ、それを確認しつつ次回の対面授業で工程を理解しているかの確認を行う。 部分縫い等の提出物と最後の作品提出のレポートに、浴衣の構造や手順を理解できているかをコメントし、再度確認させる。
評価方法	平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価する。作品課題評価は、全体の出来上がりと、最初の段階よりどれだけ上達し技術を習得できたかを評価する。着装体験では、構造の理解と重要なポイントと作法及び技法を理解し再現できるかについてと相互協力して着装が完成できるかを判断する。最後に和服の利点を感じ取れるかについてレポートの回答を見る。これらを下記の表に示す力を育むことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題制作	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	ミニテスト	○	○	○	○

評価割合	作品課題（50%）課題レポート（20%）、ミニテスト（15%）、平常点（15%）の割合で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書	小田 美代子『きものの仕立て方 職人に学ぶ、一つ身じんべえ、浴衣から、ひとえ長着まで』文化出版局(2013) 野村辰雄『新訂版　上手に縫える　着物の仕立て方』有紀書房(1996)
ディプロマポリシーとの関連	日本の伝統衣装である和服の浴衣制作を行うが、実習作業を進めていくことも、すべて人間教育が欠かせないと考える。作品完成結果のみで判断せず、そのステップ一つ一つを大事に知識・技術体得に加え、総合的に成長することを重視する。
オフィスアワー	1808ゼミ室　月曜昼休み～3限

学生へのメッセージ	・1回目の授業より必須な内容に入るため、必ず出席を希望する。 ・授業外で行う作業も出てくる事は覚悟して履修して欲しい。 ・欠席した回の分の作業は自分で追いつくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	技法的なことについては動画教材を制作し、基礎縫いなどは繰り返し学習することで確実に身に付けることができる

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ハンドクラフト演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田　茜	指定なし

ナンバリング	G35306C22
授業概要(教育目的)	ものづくりは様々な道具を使用するが、それらを活用していく「手」の重要性を再認識する。演習内容では複数の手芸技法の基礎を学び、サンプラーと作品制作を行う。学んだ手芸技法を組み合わせて自由課題として最終的な作品を自分でデザインして制作し、サンプラーを含めたポートフォリオにまとめてプレゼンテーションを行う。具体的な手法としては編み物、組紐、マクラメ、刺繍などを学ぶ。 一連の流れを通して自己の作品コンセプトを人に伝える技術も含めて、作品作りの組み立て方を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	装飾のさまざまな種類の歴史と技術を理解し、立体的に構造を把握し、実際に技法を再現できる。
思考・判断の観点（K）	図解を正しく認識し、デザインにあった表現方法を選択できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	テーマについて、情報取集を適切にでき、自ら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点（A）	デザインに適した手法の選択と材料の選定ができ、完成度の高い創作表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、手芸とは何か	手芸について様々な技法があることを理解し、またその役割を確認する。手芸の基本的な技法は編む、組む、結ぶ、刺すなどがあるが、この授業では主に編む（指編み、かぎ針編み）、組む（組紐）、結ぶ（タティングレース）、刺す（刺繍）を行うためその概要を解説し、授業の予定等を確認する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。身近な手芸作品について調べ、気になる技法の参考になる資料を探しておく。	50分
第2回	編む・１ゆび編み	編み物の基本を理解し、まず手始めにゆび編みを行う。ゆび編みをしたサンプルを利用してアクリルたわしを作成する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	40分
第3回	編む・２かぎ針でモチーフを編む	前回行ったゆび編みをふまえて、かぎ針でモチーフをつくる。基本的なかぎ針の技法を学び、レポートにまとめる。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。道具は各自で用意すること。	60分
第4回	組む・１組みひもディスクでZスパイラルを組む	組紐の基本的な技法であるZスパイラルを習作として組む。作り方の説明を読み解き、デモを行って解説を行う。組みひもディスクに練習用の糸をセットして実習を行い、一本の紐に組み上げた後、作品に仕立てる。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。また、次回取り組む課題の色合わせなどを考える	40分
第5回	組む・２組みひもディスクを使った作品の制作	前回の手法を確認し、新しい技法をデモで解説する。各自のイメージにあわせて作品の材料を揃え、制作を行う。作品はブレスレットやストラップを想定しているが、教員と相談の上で他のものにしてもよい。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分

第6回	組む・３ 組みひもディスクを使った作品の制作および提出	各自でデザインした課題にとりくみ、制作を行う。作業工程を記録しておき、レポートに役立てるとともに自分の作業スピードを把握できるよう試みる。作業手順をレポートにまとめ、作品と共に提出する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	40分
第7回	結ぶ・１ マクラメの基礎	紐や糸を使って装飾をつくるは編む、刺す、結ぶ等様々あるが、今回は結んで作るマクラメの技法を習得し、作品に生かせるようにする。まずコードの扱い方と基本的な技法を解説し、実習を行う。基礎的な技法を練習し、サンプルを制作する。 また、次回から制作するボトルハンガーのデザインをし、必要な材料をリストアップしておく。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。次回から制作するボトルハンガーに必要な資材を探しておく。	40分
第8回	結ぶ・２ マクラメのボトルハンガーづくり	前回習得したマクラメの基本技法を再確認し、それぞれのデザインにあわせて設計図をかき、制作を行う。次回とあわせて作品としてボトルハンガーに仕上げるため、必要な資材の確認をしておく。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。足りない資材がある場合は用意しておく。	40分
第9回	結ぶ・３ マクラメのボトルハンガーづくりと提出	前回に引き続き制作を行う。また、糸の始末をし、金具等をとりつけて作品に仕上げる。作業手順を課題レポートとしてつけ、提出をする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分
第10回	刺す・１ 刺繍の基礎	刺繍の技法は数多くあるが、今回は刺繍糸を使って模様を描くフランス刺繍を習得する。図案の写し方、糸の準備、刺し方などを解説し、基本の図案に従ってサンプルの図案を決め、刺し始める。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要に応じて図書館等で自由課題のヒントを探す。	60分
第11回	刺す・２ サンプラーの制作	前回に引き続きサンプラーの制作を行う。作業工程をレポートにしてまとめ、作品と共に提出する。最終課題として制作を行う自由課題のデザインを考える。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分
第12回	自由課題・１　制作（１）	今までに習得した編む、組む、結ぶ、刺すの技法の少なくとも一つ以上を使い、最終的な作品として制作するものを決定し、デザインを行う。制作するものは服飾小物とし、大きさや技法はある程度自由にしてよい。何を作るかは相談をし、点検を受けてから材料を揃えるようにする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要な資材を用意する。	40分
第13回	自由課題・２　制作（１）	前回デザインを決定した自由課題を制作する。必要な技法を確認し、適宜デモなどを行って解説をする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分
第14回	自由課題・３　制作（２）	前回に引き続き制作を行い、完成させる。次回の授業で作品コンセプト、技法の解説などのプレゼンテーションを行うため、各自でプレゼンの準備をする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分
第15回	自由課題のプレゼン、提出	自由課題のプレゼンを各自行い、お互いに講評を行う。作業手順をレポートにし、課題と共に提出する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	提出作品とレポートを返却し、それぞれの作品についての構成・手法・完成度についてコメントし、自由課題への検討課題とする。自由課題はレポートともにコメントをつける他に、学生同士で講評を行う。
評価方法	作品については、デザイン力と色彩力に加えて、技術を総合的に判断するが、技術力については、最初よりどれだけ進歩したかを個々に判断して評価を決定する。プレゼンテーションについては、自分の作品をどれだけ正しく理解し、適切な表現方法で相手に伝えることが出来るかで評価する。最後に各作品のレポートにより装飾についての考えを見る。これらを下記の表に示す力を育むことを目的として実施する。平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
作品制作	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	作品制作（60%）、レポート（15%）、プレゼンテーション（15%）、平常点（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	現代家政の各領域で専門知識を習得する中で、ファッションに関連する服飾小物や衣服を装飾する技法を習得し、ファッションの一部としてのハンドクラフトの重要性を学び豊かな心を育み総合的に成長することを目的としている。
オフィスアワー	1808ゼミ室　月曜昼休み～3限
学生へのメッセージ	日頃から装飾に関心を持って、美術館や映画等々を見て作品のインスピレーションを得るようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	技法的なことについては動画教材を制作し、基礎的な技法については繰り返し学習することで確実に身に付けることができる

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	現代衣生活論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

授業概要(教育目的)	現代社会の中で、ファッション領域における特徴のある事象を取り上げる。ファッション産業の構造と現状の課題、生産現場の人権と商品の価値、企業が取り組むべきCSR活動、エネルギー消費の問題や地球環境に配慮をするサスティナビリティなファッション商品とは何か。また少子化、超高齢化が進む中、子ども服やシニアファッション商品の開発についてなど多方面にわたる衣生活の問題について考えていく。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代のアパレル産業と消費者の課題について理解する
思考・判断の観点（K）	豊かな衣生活とは何かについて理解し、適切な消費行動をとれる
関心・意欲・態度の観点（V）	消費者として現代のアパレル産業の課題に積極的に関心をもてる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	アパレル産業の構造と課題	従来のアパレル産業の構造を学び、そこに生じる問題点を理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	日本のアパレル産業の現状	日本のアパレル産業の長所と弱点を学び、今後の展開について考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第3回	ファストファッション	今日のアパレル産業を大きく動かしているファストファッションの現状を学び、その問題点を理解する。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第4回	現代のファッションとグローバリゼーション	グローバル社会におけるアパレル産業の動向を学び、ファッションのグローバル化の持つ課題を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第5回	アパレル産業とCSR	アパレル産業のCSRについて学び、それらに対する消費者としての姿勢について考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第6回	ファッション商品の生産現場の問題点	映画「女工哀史」から、ファッション商品の生産現場が持つ問題点について学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第7回	ファッショ	前回の映画の内容を振り返り、フェアトレードやエシカ	予習として授業内で指示・配布	180分

	ン商品の価値	ルファッションの動向を学び、ファッション商品の価値とは何かを考える。	をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	
第8回	消費と廃棄	ファッション商品の消費と廃棄の現状を学び、消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第9回	３Rとファッションデザイン	今後の活用が期待されるケミカルリサイクルについて理解し、ファッション商品に対する消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第10回	ファッション商品の生産と消費の問題点	映画「トゥルー・コスト」から、ファッション商品の生産現場と消費行動が持つ問題点について学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第11回	持続可能な衣生活	前回の映画の内容を振り返り、持続可能な衣生活を創り出すための消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第12回	シニアファッション	高齢者の身体的特徴、運動・生理的機能の変化を学び、高齢者の衣生活に生じる課題を理解し、今後のシニアファッションについて考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第13回	ユニバーサルファッション	身体の機能不全などで生じる衣生活の課題を理解し、それに対応できるファッションの提案を企業の活動から学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第14回	子ども服と安全	乳幼児期の身体的特徴、運動・生理機能の特徴を学び、乳幼児の衣生活、特に子どもの健康や安全に留意する点を理解する。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第15回	服育	子ども服産業の現状を学び、ファッションを楽しむことを通し子どもの学びについて考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。授業全体を振り返り、試験に備えて指示した内容をまとめる。	180分

学習計画注記	受講生の理解度等により授業の進度を調整することがある。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、次週時間内に正解の解説をする。
評価方法	授業時の小課題：授業の振り返り小テスト等を行う。 期末課題：試験の内容については事前に指示をする。授業で提示した内容だけではなく、積極的に情報を収集する態度と、これからの衣生活のあり方と消費者としての行動を考え回答することを求める。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業時の小課題	○	○	○	
	期末試験	○	○	○	

評価割合	授業時の小課題15%、期末試験85%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。授業時にプリントもしくはデジタルデータを配布
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である衣生活に関する課題を理解する。 【思考・判断】現代の衣生活における消費者と企業の課題の解決や適切な行動について志向する。 【関心・意欲・態度】現代の衣生活の問題について関心をもち、積極的に情報を収集する。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	ファッションは個人的な楽しみでもあり、社会における問題を提示することもあります。この授業では衣生活のおける問題意識を持つことを目標にしていますので、新聞記事などにも積極的に目を通す習慣を身につけていただきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	世界の服飾		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

授業概要(教育目的)	世界各地には様々な民族服が存在する。それは歴史的背景の中で成立してきたものであるが、グローバル社会の中で服飾文化は西洋化されてしまった。今日ではその着用者は限定的となり、儀式やイベントなどに着用されることで、民族を意識させる象徴的な存在でもある。民族服の構成、色彩、装飾の特徴、現代社会における民族服飾の役割や、変わりゆく服飾文化を踏まえ、服飾文化から国家と民族との関係を見つめなおすことが目標である。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	民族服飾に関する歴史的事象と現代社会との関わりを理解する
思考・判断の観点（K）	民族服飾は民族にとってどのような意味を持つものなのか考え、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	民族服飾に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点（A）	制作課題においてイメージマップの効果的な表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	民族服飾の定義	民族と民俗、民族服飾の定義を学び、日本にとっての民族服飾とは何かを考える。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	自然をまとう　オセアニア	民族服飾の成立の要因を学び、オセアニアの服飾例から服飾デザインと素材との関わりを理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第3回	巻衣　アジア地域（インドなど）	服飾の基本形態の一つである巻衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第4回	貫頭衣　南米地域（アンデスなど）	服飾の基本形態の一つである貫頭衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第5回	寛衣　中東地域	服飾の基本形態の一つである寛衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第6回	脚衣　中東地域（トルコなど）	服飾の基本形態の一つである脚衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第7回	ヨーロッパ地域　ギリシャの衛兵	ギリシャの衛兵の服装に残されているデザインの特徴を学び、ヨーロッパ服飾文化の変遷との関わりを理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第8回	ヨーロッパ	中東欧地域の女性民族服飾の特徴と、ヨーロッパ服飾文	復習として授業内容の振り返り	180分

	地域（中欧の女性）	化の変遷との関わりを学び、民族服の持つ意味を理解する。	を行う。	
第9回	ヨーロッパ地域　スコットランド	スコットランドのタータンチェックの概要について学び、民族に固有のデザインが現代に活かされる事例について理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第10回	民族服飾がつくりだされる背景ハワイ	ハワイにおけるアロハシャツの成立の背景を学び、民族服飾とグローバリゼーションとの関わりについて理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第11回	変わっていく民族服飾西洋文化の影響	中国（満州族）におけるチーパオ、ベトナムにおけるオアザイ、シンガポールにおけるサロン・ケバヤの西洋文化からの影響を学び、民族服飾の変容について理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第12回	文化服飾博物館見学	文化服飾博物館で開催される「民族衣装　ー異文化へのまなざしと探求、受容ー」を見学し、民族服飾のデザインについて理解する。	予習として博物館公式HPを閲覧し、復習として事前に指示した課題を踏まえて見学内容に関するレポートを制作する。	180分
第13回	課題作成	多様な民族服飾のデザイン例の中から、現代の衣生活とのコラボレーションを考え、イメージマップを作成する。	課題に沿ったテーマ設定の情報収集を行う。	180分
第14回	変わっていく民族服飾チマチョゴリ	韓国の服飾文化の変容を概観したうえで、チマチョゴリの表象性について理解する。	復習として、授業内容の振り返りを行う。	180分
第15回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、民族と民族服飾とはどのような関わりを持っているのかを考える。	授業全体の振り返りを踏まえ、期末試験に向けて復習をする。	180分

学習計画注記	博物館の見学は、受講生の人数により日程等を調整する可能性がある。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、次週時間内に正解の解説をする。
評価方法	授業時の小課題：授業内では授業の確認の小課題を行う。 博物館の見学課題では積極的に服飾デザインを観察し、デザインの持つ意味を理解しているかを問う。 制作課題では民族服飾の情報収集とイメージマップ制作における表現の工夫を問う。試験では授業内容全体の理解を問う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業時の小課題	○			
	課題	○	○		○
	期末試験	○	○	○	

評価割合	授業の小課題：15%　課題（2回）：20%　期末試験：65%
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。
参考図書	授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】世界の服飾文化を学び、各地の風土や歴史的背景と服飾文化とのかかわりについて理解する。 【思考・判断】服飾文化の多様性を次世代の衣生活に生かす方策を志向する。 【関心・意欲・態度】服飾文化と民族の問題について関心をもつ。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	服飾を通してその国の文化や地域の特色を知り、異文化理解に役立ててほしい。受講に際しては、積極的に授業に参加するとともに、授業で取り上げる内容以外にも諸外国の文化、服飾について関心を持ってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館の展示を見学し、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本の服飾		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田　茜	指定なし

ナンバリング	G25202C21
授業概要(教育目的)	服飾に限らず文化は元々あったものに他国から伝播したものが混ざり合い、伝承するものである。日本の服飾は他国から伝わった服飾を独自に進化させることで現代まで残ってきた。この講義ではどのようにそれらが愛され、伝わっていたのかを学ぶ。
履修条件	特になし。学芸員課程の選択科目となっている。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	伝統的な服飾文化の受容について、それらが持つ歴史的社会的背景を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	現代日本において伝統的な服飾文化をどのように活用することが出来るか、考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的な観点から意欲的に自らの課題を発見し、それに対する調査を行うことができる。
技術・表現の観点（A）	学びの結果得られた自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の服飾

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・日本の服飾の変遷	ガイダンスとして日本の服飾の大まかな変遷について解説する。 現在の日本の衣生活は洋服が主となっているが、まずその流れを知り、どのような変遷を経ているかを学ぶ	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提示された課題をとく。	180分
第2回	古代の服飾：縄文～飛鳥・白鳳時代	古代の服飾については資料が乏しく、明らかにすることができないが出土品や可能性から探ることはできる。特に実物が出土する装身具については時代ごとに特徴がある。また、遺跡に残る壁画や古墳から出土する埴輪から服装について考察を行う	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第3回	古代の服飾：奈良時代	国として中央集権化がはじまった日本において、どのように服制がつくられていったのかを中国の服制と比較しながら学ぶ、	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第4回	古代の服飾：平安時代	平安時代はそれまで中国を参考にしていた日本が独自の文化を発展させた時期である。ここでは平安装束の成り立ちと、特にそれを特徴づけている襲色目について学ぶ。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第5回	中世の服飾	鎌倉から室町時代にかけては武家が台頭し、服飾も武家中心に発展をしている。武家の人々の服装とその根底に流れる意識について考える。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第6回	戦国・安土桃山時代の服飾	戦国時代はその名の通り大名同士で争いが起き、服装も戦乱に適した実用的なものへと変化した。また、それまでは下着として着られていた小袖が表に現れるようにな	課題とした資料や書籍を読む。	180分

		り、服装の中心的な存在になる。ここでは小袖がいかに表着として着られるようになったかに焦点をあてる。		
第7回	江戸時代・小袖の変遷	江戸時代は長く、その中での変化も激しいため3回にわたってとりあげることとする。ここでは小袖の文様の付け方に着目し、どのような技法が流行し移り変わっていったかを学ぶ。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第8回	江戸時代・武家服飾の変遷	武家の服装は戦国時代に実用的なものに変化しつつ、武家としての様式を確立していったまた、武家女性の服装は季節による衣がえが定められ、現在の和装のルールの元となる事柄が成立する時期であるので、その流れを学ぶ。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第9回	江戸時代・町人服飾の変遷	江戸時代は商工業の発達に伴って町人階級の生活が充実し、彼らの服飾は独自の美を確立していった。その中でも特徴的な「だて」と「いき」に焦点をあてて、どのようなものを美しいととらえていたかを学ぶ	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第10回	明治時代の服飾	明治政府は欧米文化の先進性を認め、服装も洋装化を目指したがいきなり服装が一新されたわけではなかった。特に男性の場合は仕事は洋服で、自宅でくつろぐときは和服でといった形式が成り立ってゆくことになる。この和洋混在の状況と、特に西洋化を目指した社交時の服装に注目する。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第11回	大正時代の服飾：洋装の導入	明治・大正時代を通して女性は圧倒的に和装で過ごす人が多かったが、その中でも洋服を着用する女性たちがあらわれはじめた。それは社会で働く女性たちであり、その人たちが何故洋装をしているかに焦点をあてる。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第12回	近現代日本の子どもと学生の服装	明治～昭和初期の学生と子どもたちの服装はその時々で大きく変化している。ここでは特に学生服として採用された詰襟、セーラー服に焦点を当てて、その日本での普及について学ぶ。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第13回	第二次世界大戦以降の日本の服装	第二次世界大戦以降の日本は洋裁ブームが起き、また世界の流行の影響も受けることになる。特にここではディオールのアルファベットライン、サンローランのサックドレス、ミニスカートの流行について知る。	課題とした資料や書籍を読む。	180分
第14回	髪型と化粧の変遷	髪型や化粧は技術や服装と関連して変化してゆくものである。特にここでは過去数十年分のメイクの変遷を流行以外にヒット商品との関連に注目して学ぶ。	課題とした資料や書籍を読む。レポートの準備をする	180分
第15回	まとめ・テスト	まとめとして日本の服飾の中で自分が興味を持った事柄についてのレポートを作成する。また、仕上げとしてテストを行う、	今までのノートを見直しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	「授業課題への回答」で得られたレスポンスは、次週には少し開示する。また、レポートの効果的な書き方についてアドバイスを行うので、実践していただきたい。レポートへのフィードバックも行う。各自が提出したレポート題目については、開示していきたい。
評価方法	授業では「授業課題への回答」において、レスポンスを取る。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。レポートは、本授業を通して得られた知見を元に他者にわかりやすく伝えるという工夫がなされているか、正確な情報に基づいて作成されているかという観点から評価する。期末試験は、授業で扱った内容に関して記述式の問題とし、理解度と表現における論理性を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業課題への回答	○		○	
	期末試験	○			○
	レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点30%(授業内課題含む)、レポート20%、期末試験50%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	井筒雅風『日本服飾史』女性編
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本の服飾を巡る社会課題を発見できる知識を持つことができる。 【思考・判断】社会課題を調査分析し、その結果、自分で考察することができる。 【関心・意欲・態度】持続して課題を追究する意欲を持つことができる。 【技能・表現】次世代に残したい文化を他者に向けて発信できる表現力を持つことができる。
オフィスアワー	1808ゼミ室　月曜昼休み～3限
学生へのメッセージ	世界と通じている日本の服飾文化について知ることは、その地に生きる人びとのくらし方を知ることでもあります。広い視野で物事を見ることができるように務めましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	西洋服飾文化史		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

ナンバリング	G35204C21
授業概要(教育目的)	現代の服飾文化のスタンダードである西洋式服飾文化の歴史的な背景を概観し、今日の服飾意識がどのように形成されてきたかを考える。特に、近世以降のヨーロッパでの社会的変動と服飾デザインの変化を関連付けて理解することで、服飾文化と社会的価値観との相互的作用に着目する。服飾は社会における人々の在り方を表象する装置であり、服飾への造詣を深めると同時に、服飾を切り口とした社会や人々へのアプローチについても考えていく。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	西洋の服飾文化の歴史を理解する
思考・判断の観点（K）	西洋の服飾文化がどのような社会の中でつくりだされてきたのか考える
関心・意欲・態度の観点（V）	異文化を理解する姿勢を身につける
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	古代から中世までの西洋服飾	当該授業では16世紀以降のヨーロッパの服飾について学ぶが、その導入として古代エジプト以降中世ゴシック期までの服飾の変遷を概観する。また、歴史を見る眼として重要な現代の価値観で判断しないことを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	16世紀とスペインモード	イタリアルネサンス様式における服飾文化の変容を確認する。16世紀の宮廷文化と服飾との関わりについて理解する。	予習として教科書pp. 44-52を読む。	180分
第3回	エリザベスⅠ世	イギリスのエリザベスⅠ世の服飾を中心に、当時の戯曲などを資料にしてスペインと敵対したイギリスの位置づけと服飾の特徴について理解する。	予習として教科書pp. 53-58を読む。	180分
第4回	17世紀とオランダモード	スペインから独立を果たし市民の経済活動が活発だったオランダ市民の服飾に注目し、服飾においてもバロック様式の造詣的な特徴への変容がみられることを理解する。	予習として教科書pp. 59-62を読む。	180分
第5回	17世紀後半のフランスバロック	ヨーロッパの政治の中心となったフランス宮廷における服飾に注目し、当時の戯曲などを資料にしてその特徴について理解する。	予習として教科書pp. 62-76を読む。	180分
第6回	18世紀のフランスロココ	フランス宮廷のロココ様式の特徴を踏まえて、男性のアビ・ア・ラ・フランセーズ、女性のローブ・ア・ラ・フランセーズについて理解する。	予習として教科書pp. 77-88を読む。	180分
第7回	18世紀のマ	マリー・アントワネットの衣裳に注目して、フランス宮	予習として教科書pp. 88-94を読	180分

	リー・アントワネット	廷モードと私的な服装の差異について、また王妃の衣裳費の記録から、宮廷文化について理解する。	む。	
第8回	フランス革命と19世紀	フランス革命に伴う社会と服飾の変化との関わりをサン・キュロット及びエンパイアスタイルの事例から理解する。	予習として教科書pp.94-100を読む。	180分
第9回	19世紀の男性服飾	今日の男性服飾の基本形となったイギリスの紳士服スタイルについて、ダンディの美意識とともに理解する。	予習として教科書pp.101-109を読む。	180分
第10回	19世紀の女性服飾	ロマンティックスタイル、クリノリンスタイルといった有閑階級の服飾について、社会と女性の在り方という視点から理解する。	予習として教科書pp.109-113を読む。	180分
第11回	19世紀のウェディングドレス	19世紀中ごろのイギリスのヴィクトリア女王のウェディングドレスから広がった白いドレススタイルを取り上げ、19世紀後半の女性の位置づけについて理解する。	予習として教科書pp.113-120を読む。	180分
第12回	19世紀の女性とスポーツ服	19世紀後半に女性たちに拡大したレジャースポーツとその服飾に着目し、現代的な価値観の誕生について理解する。	予習として教科書pp.124-129を読む。	180分
第13回	19世紀末から20世紀にかけて	アールヌーヴォーから、アールデコへの様式の変化を服飾の特徴から理解する。	予習として教科書pp136-142（9章　20世紀）を読む。	180分
第14回	まとめ	第一次大戦、第二次大戦を経て、ヨーロッパモードは今日のグローバルスタンダードな服飾となったことを理解し、社会と服飾との関わりについて再考し、試験する。	授業内容を振り返り、試験に向けて復習をする。	180分
第15回	アクセサリーミュージアムの見学	19世紀末から20世紀までの国内外のコスチュームジュエリーについて、ミュージアムの見学を通して理解する。	予習としてアクセサリーミュージアム公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。	180分

学習計画注記	見学の日程は受講生の他の授業の履修状況を踏まえて、参加できやすい日程に調整する。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、次週時間内に正解の解説をする。
評価方法	授業時の小課題：授業内では授業の確認の小課題を行う。 試験では服飾について社会との関わりの観点から理解しているかを問う。授業時の板書だけではなく、教科書の内容も自発的にまとめてノートを作成する工夫が必要である。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業時の小課題	○			
	試験	○	○	○	

評価割合	授業時の小課題：15%　試験：85%
使用教科書名(ISBN番号)	ファッションの歴史—西洋服飾史—（朝倉書店）佐々井啓編著 ISBN-10: 4254605986 ISBN-13: 978-4254605983
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】西洋の服飾文化の変容を学び、服飾文化が創り出す生活の質について理解する。 【思考・判断】服飾と社会の動向や人々の志向のかかわりから、服飾文化とは何かを考える。 【関心・意欲・態度】服飾文化の学びから異文化に関心をもつ。
オフィスアワー	月曜2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	服飾文化は社会のあり方、人々の生き方への志向を表しています。服飾史を通して異文化への視点を広げてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	これまでアクセサリーメーカーを経営したのちに、自らミュージアムを開館、運営しているアクセサリーミュージアム館長より、見学に際して展示物の説明に加えて、自身の経験等の講話をいただく。
アクティブ・ラーニング	○	ミュージアム見学による体感的な学び。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファッション販売論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし

ナンバリング	G25103C21
授業概要(教育目的)	ファッション商品を販売する現場は、消費者が商品の検討を経て購買を決心する場であると同時に、生産者側には消費者のニーズを商品企画等へつなげるための貴重な実態情報収集の場でもあり、消費者・生産者の両者にとって極めて重要である。本授業では、ファッション販売の基本およびファッション商品知識を身につけ、販売の現場で、消費者個々のニーズをつかみ適切に商品の専門的知識・技術・情報を提供できる人材を育成する事を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解する。
思考・判断の観点（K）	ファッション販売現場において消費者個々のニーズを適切に判断できる能力を培う。
関心・意欲・態度の観点（V）	ファッション小売店に関する情報を積極的に収集する。希望者は、ファッション販売能力検定試験2・3級を受験することで資格取得を目指す。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、ファッション販売とは	本授業の概略を説明する。ファッションとは何かを中心に解説する。ファッションの意味を理解する。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。	120分
第2回	販売知識(1)ファッション商品の流れ	ファッションビジネスとファッション商品、ファッション商品とコーディネート、ファッション商品の流れ、アパレル産業の概観を理解する。	予習として配布資料を読んでおく。	120分
第3回	販売知識(2)消費者は何をもとめているか	お客様の個性、お客様と顧客についてを学び、お客様＝消費者について理解を深める。	予習復習として教科書の8P～15Pを読んでおく。	120分
第4回	ファッション販売技術(1)サービスとは何か	お客様にとっての店とは、店が提供するサービスについて理解を深める。	予習として教科書の15P～17Pを読んでおく。	120分
第5回	ファッション販売技術(2)購買心理	お客様の購買心理について解説する。各自の購買心理も考えることで、理解を深める。	予習として教科書の32P～40Pを読んでおく。	120分
第6回	ファッション・マーケ	マーケティングの基礎知識を学び、マーケティングの本来の目的を考える。	予習として教科書の174P～197Pを読んでおく。	120分

	ティング知識			
第7回	タウンウォッチングについて	これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。レポート課題の「タウンウォッチング」についての解説をする。	「振り返りテスト」のための復習をする。	120分
第8回	外部講師による特別授業	大手アパレル企業に勤務する外部講師を招いて、マーケティングを中心に、実際の企業活動についてお話しをうかがう。	対象企業について、インターネットで調べ、事前学習をしておく。	120分
第9回	店舗演出(1)	店舗の環境づくりについて解説する。購買心理と店舗の陳列などの関連性を理解する。	予習として教科書の152P～160Pを読んでおく。	120分
第10回	店舗演出(2)	マーチャンダイズプレゼンテーションについて理解を深める	予習として教科書の160P～173Pを読んでおく。	120分
第11回	ファッション商品知識(1)アイテムの知識	販売スタッフに求められる知識としてファッションアイテムについて学ぶ。	予習として教科書の46P～93Pを読んでおく。	120分
第12回	ファッション商品知識(2)素材の種類と加工	販売スタッフに求められる知識として衣服の素材と加工、シルエット、衣服の構成とディテールについて学ぶ。これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。	予習として教科書の94P～123Pを読んでおく。「振り返りテスト」のための復習をする。	120分
第13回	ファッション商品知識(3)商品の品質管理	販売スタッフに求められる知識として、衣服のサイズ表示、繊維製品の品質管理について学び、理解を深める。	予習として教科書の136P～145Pを読んでおく。	120分
第14回	ファッション商品知識(4)商品苦情	販売スタッフに求められる知識として、商品苦情と対応について考える。	商品苦情について、インターネットなどで調べておく。	120分
第15回	販売スタッフの業務、まとめ	お客様が心地よく時間を過ごせる店舗環境づくりのための、販売スタッフの業務について理解を深め、本授業の内容について総括をする。	予習として教科書の198P～213Pを読んでおく。定期試験のための振り返りをする。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、2回程度「振り返りテスト」を行う。選択方式で出題し、時間内に正解の解説をする。必要に応じて、ファッション販売に関連する「基礎用語」の解説をする。
評価方法	振り返りテストを踏まえた定期試験で授業内容の理解を評価する。レポートでは対象店舗のコンセプト、店舗演出などが適確にレポートされているかを総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○	○	
	レポート	○		○	

評価割合	平常点（15%）、定期試験（70%）、課題レポート（15%）
使用教科書名(ISBN番号)	『ファッション販売３』　ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト　（一財）日本ファッション教育振興協会
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解することで、質の高い衣生活を構築する知識を有することができる。　【思考・判断】ファッション販売における消費者のニーズが理解できることで、衣生活における諸問題を多角的に考えることができる。　【関心・意欲・態度】消費者・生産者両方の立場を理解することで、情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる。
オフィスアワー	金曜日3時限
学生へのメッセージ	1年次の「衣生活学概論」で学んだ、衣服の材料・管理・サイズ等の知識の定着を目指す。ファッション系授業の関連性も考えながら、学びにつなげてほしい。また、日常生活の中でも、タウンウォッチングなどで観察する目を養ってもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大手アパレル企業に勤務する外部講師を招いて、実際の企業活動についてお話しをうかがう。
アクティブ・ラーニング	○	タウンウォッチングにおける店頭調査などの調査学習の内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ファッションカラー演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし

ナンバリング	G25304C12
授業概要(教育目的)	ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネイトにおける色彩表現を学ぶ。カラーオーダーシステムを理解することで、カラーコーディネイトの基礎となる配色技法の修得を目指す。特別授業では、外部講師による「パーソナルカラーの実践」を予定している。日常生活の多様性を考え、実践に即したコーディネイト感覚を磨く。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	色彩体系、色の分類・整理を学ぶことで、色彩と私たちの生活の関連性を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	課題の制作を通して、作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	修得した内容や技法を、日常生活のファッションコーディネイトに活用することができる。
技術・表現の観点（A）	色のしくみ、配色技法を学ぶことで、色を使ったさまざまな作品制作での応用技法を体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンスおよび色の体系とカラーコーディネイト（1）	本授業の概略を説明する。色とは何か、色の三属性について解説する。カラーコーディネイトに関係する色彩の基礎的内容を学ぶ。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。学習内容に出てくるキーワードについて、書籍、インターネット等で調べまとめておく。	45分
第2回	色の体系とカラーコーディネイト（2）	色とは何か、色の三属性、カラーオーダーシステム、トーンの概念について解説する。カラーコーディネイトに関係する色彩の基礎的内容を学ぶ。	学習内容に出てくるキーワードについて、書籍、インターネット等で調べまとめておく。	45分
第3回	色の分類と整理：色相環のコラージュ（1）	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にコラージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに雑誌などから色を探し、切り抜き色相環を作ることで、色の体系と分類を理解する。	マンセル表色系、色相環について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。コラージュの素材用の雑誌を数冊準備する。	45分
第4回	色の分類と整理：色相環のコラージュ（2）	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にコラージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに雑誌などから色を探し、切り抜き色相環を作ることで、色の体系と分類を理解する。	マンセル表色系、色相環について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。コラージュの素材用の雑誌を数冊準備する。色相環のコラージュを完成させる。	45分
第5回	色のしくみを考える（1）	色の要素としての性質（属性）について解説する。色相、明度、彩度、清濁、トーンについて理解を深める。	配布資料を読んでおく。	45分

第6回	色のしくみを考える（2）	色の見えるしくみ、色の表し方、色彩調和について解説する。カラーコーディネイトに必要な色のしくみを段階的に理解する。	配布資料を読んでおく。	45分
第7回	ファッションイメージとファッションカラー（1）	季節のイメージとカラーコーディネイション、ファッションイメージとカラーコーディネイションについて解説する。色彩表現とファッションイメージの関連について理解する。	ファッションイメージを表す言葉について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。	45分
第8回	ファッションイメージとファッションカラー（2）	日本の伝統色名、かさねの色目について解説する。日本の伝統的な配色について理解を深める。	日本の伝統色名、かさねの色目について配布資料を読んでおく。	45分
第9回	特別授業：パーソナルカラーの実践	カラーコーディネーターの外部講師から、パーソナルカラーについてのレクチャーをしていただく。パーソナルカラー診断の実演。	書籍、インターネット等で、パーソナルカラーについて調べておく。事前に配布した資料を読んでおく。	60分
第10回	配色技法について（1）	色彩調和の観点から、さまざまな配色技法を具体的に解説する。ファッション配色との関連を理解する。	色相環、トーンの概念について、もう一度復習をし、配色技法についての配布資料を読んでおく。	45分
第11回	配色技法について（2）	色彩調和の観点から、さまざまな配色技法を具体的に解説する。ファッション配色との関連を理解する。	色相環、トーンの概念について、もう一度復習をし、配色技法についての配布資料を読んでおく。	45分
第12回	洋服のカラーコーディネイト	配色技法、パーソナルカラーの講義内容を参考に、Tシャツに幾何学模様をデザインし印刷する。	配色技法、パーソナルカラーの講義内容をもう一度復習しておく。	60分
第13回	和服のカラーコーディネイト	和服のカラーコーディネイトについて考える。	和服のカラーコーディネイトについての配布資料を読んでおく。	45分
第14回	メンズカラーコーディネイト	女性とは違う服装イメージが求められるメンズカラーコーディネイトについて考える。	メンズカラーコーディネイトについての配布資料を読んでおく。	45分
第15回	まとめ	これまでの授業の総括をする。レポート課題の作成をする。	レポート課題の作成をして、最終提出日までに提出する。	60分

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業についての振り返りを行い、必要に応じて解説を行う。作品課題等に対しては、制作の各段階において助言等をそのつど行う。
評価方法	課題評価では、色相環は色相の配分が正しくなされているか、色の選択が正しいか、カラーコーディネイト作品は配色が美しく的確であるか等を総合的に評価する。平常点は、授業参加状況と授業時の作品制作への取り組みを総合的に評価する。最後にレポート課題を課す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
課題（色相環などの作品）	○	○	○	○
平常の授業参加	○		○	○
レポート課題	○	○	○	

評価割合	作品課題（50%）、平常点（30%）、レポート（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。 【思考・判断】生活者として「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。 【技術・表現】日常生活やファッション表現のための配色技法を体得することができる。
オフィスアワー	水曜日2時限
学生へのメッセージ	「色彩に関する学びは楽しい」ということを実感していただきたいと思います。私たちの生活のいたるところに色は存在します。積極的な授業参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	カラーコーディネーターの外部講師による実践的な特別授業を行う。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファッションコーディネイト		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

授業概要(教育目的)	服飾デザインのデザインイメージを理解し、ファッションイメージマップの作成を通してファッションスタイリング提案することを目的とする。まず着用者の生活用途とオケージョンの分析、ライフスタイル分析。次にファッションデザインイメージの分類とデザインの要素との関連。ファッション商品のシーズン特性。ファッション雑誌の分析。さらにファッションイメージと個人の資質を学び、総合的にファッション提案を行うことができる能力を身につけることを目的とする。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ファッションイメージを形成する要素を理解する
思考・判断の観点（K）	各要素に応じたファッションコーディネイトを選択する判断ができる
関心・意欲・態度の観点（V）	ファッションコーディネイトを楽しむ姿勢を身につける
技術・表現の観点（A）	他者に効果的に伝達できるファッションイメージマップを制作できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ファッションイメージマップ	ファッションビジネスの現場でも活用されるファッションイメージマップについて理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	45分
第2回	生活用途とオケージョンの分析	ファッションスタイルを決定する要因となる生活シーンの違いと適切な服装について理解するとともに、日本フォーマルウェア協会が提唱しているフォーマルウェアの基本について学ぶ。	復習として授業で指示するフォーマルウェアについての資料を読む。	45分
第3回	ライフスタイルの分析	ファッションは着用者のライフスタイルへの志向を反映するものであることを理解し、基本属性（性別、年齢、身分・職業）、消費行動、趣味、衣食住の志向の側面から分析する。	復習として授業内容を踏まえ、受講生自身のライフスタイル分析を行う。	45分
第4回	ファッションイメージマップの制作（1）	PCを利用したファッションイメージマップ制作の手法を理解し、20代及び50代女性の生活用途に応じたイメージマップを作成する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第5回	ファッションイメージマップの制作（2）	受講者自身（または身近な人物を設定）のライフスタイル分析をもとにファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第6回	ファッション感性とコーディネイト分析	ファッションデザインを構成する要素（色彩、形態、素材、模様、装飾等）を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。	ファッションデザインを構成する要素（色彩、形態、素材、模様、装飾等）を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。	45分

第7回	シーズンサイクル	日本のファッションビジネスにおけるシーズンサイクルについて理解する。また、提出したファッションイメージマップについて全体発表をし、各自の感性を相互に学ぶ。	復習として授業で指示をするシーズンサイクルの一覧表を作成する。	45分
第8回	毛皮製品の理解	日本毛皮協会の派遣講師による校内特別授業。各種の毛皮素材を実際に手に取り、それぞれの特性を理解する。	授業で配布する毛皮協会作成のパンフレットを読み、個々の毛皮の違いについて理解を深める。	45分
第9回	ファッションイメージマップの制作（3）	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第10回	ファッションイメージマップの制作(4)	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第11回	ファッション雑誌の分析	ファッション雑誌における、写真レイアウト・文字及び言葉遣い・テーマ設定の違いなどから、各雑誌が提案するファッション感性の違いを理解する。	予習として授業で指示をするファッション雑誌を読む。	45分
第12回	ファッションイメージと個人の資質	ファッションコーディネイトを考える上で、洋服そのものだけではなく、着用者の肌・体型・髪・声といった個人の資質との関わりを理解する。	復習として各自の個人の資質を項目ごとに書きまとめる。	45分
第13回	ファッションイメージマップの制作（5）	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第14回	ファッションイメージマップの制作（6）	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第15回	ファッションイメージマップの制作（7）	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分

学習計画注記	日本毛皮協会による校内特別授業は担当者の都合により、日程を調整することがある。
学生へのフィードバック方法	課題に対する評価、改善点等を口頭で指示をする
評価方法	授業への参加状況：授業内では内容に関して受講生に質問をするので、積極的に発言することが望ましい。また、適宜小課題を課す。 イメージマップ課題：3回の制作課題を通して、授業内容の理解、課題制作への意欲、制作内容に関する表現の工夫等を評価する。特に3回の課題について提出ごとに注意点等を指摘するので、前回までの注意事項等を踏まえて制作内容を工夫しているかを重視する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	イメージマップ課題	○	○	○	○
	授業時の小課題	○	○	○	

評価割合	授業時の小課題（15%）イメージマップ課題（85%）
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である、ファッション感性について理解する。 【思考・判断】ファッション感性を豊かにし、適切なファッションの選択ができる。 【関心・意欲・態度】ファッション感性に関する今日の情報に関心をもつ。 【技術・表現】PCのPPTソフトを使用し、効果的なヴィジュアルを作成する力を養う。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	ファッションデザインへの視点を広げる授業です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	校内特別授業の講師は国内で毛皮製品製造に携わるとともに、日本毛皮協会理事を務めている。毛皮製品に実際に触れてその特性を学ぶとともに、今日の毛皮製品の市場動向及び消費者の志向等の現状を理解する。
アクティブ・ラーニング	○	制作した課題を口頭発表し、感性の相互理解を深める。
情報リテラシー教育		

ICT活用	○	課題（ファッションイメージマップ）の制作のための情報を収集や選択し、PPTでイメージマップを表現するために活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	衣と社会		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし

ナンバリング	G35104C21
授業概要(教育目的)	多くの人々が既製服を着用しそれぞれが好きなコーディネートを楽しんでいる現在、ファッション商品には流行、社会規範、年齢、消費者のライフスタイル、経済状態や社会状況、個々人の嗜好など多くの要素を満足させるような企画がなされている。それらを踏まえこの授業では、消費の二極化や情報の発信・受信、還元型社会など、衣服と社会のつながりから見える衣生活の課題を多角的に捉え、具体的に課題の検討を試みる。さらに、授業後半では、企業連携授業に取り組み、トータルデザインとして、実際店舗のオーナメントの企画・設計・制作を行う。衣生活の多様性を考えるとともに、実践に即したファッション感覚を磨き、衣生活と社会の繋がりを考究する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活に必要な知識を理解するとともに、市場調査や店舗調査の方法を体験することで、衣生活と社会の関連性を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	ファッションと社会との関連を考えるうえで必要な情報を、広範囲に積極的に収集できる。さらに、修得した内容や技法を、さまざまな材料を用いたデザイン制作に活用することができる。
技術・表現の観点（A）	ミシンの縫製技術、手縫い技法を学ぶことで、さまざまな作品制作での応用技法を体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、特別授業（企業レクチャー）	授業の概略を説明する。松崎照明客員教授より企業連携授業の目的、対象企業について、対象商品についてなどのレクチャーをしていただく。	シラバスを読み、授業概要について理解する。インターネット等で企業連携とは何かを調べておく。	60分
第2回	婦人服原型について（1）	婦人服パターンの基本となる婦人服原型の説明をする。パターン作成について説明し、婦人服原型の理解を深める。婦人服原型を作成する。	原型作成のプリントを読んでおく。	120分
第3回	婦人服原型製図(2)デザインへの応用	ダーツとは何か。ダーツを移動することで、さまざまなデザイン展開ができることを学ぶ。	デザイン展開のプリントを読んでおく。	120分
第4回	ファッション用語について	現在の衣生活で多用されるファッション用語について解説する。	配布した、ファッション用語に関する資料を読んでおく。	120分
第5回	アパレル企業と社会（1）	現在のアパレル企業について、ニュースの記事を題材に考える。	配布した、授業関連資料を読んでおく。	120分
第6回	アパレル企業と社会	現在のアパレル企業について、ニュースの記事を題材に考える。	配布した、授業関連資料を読んでおく。	120分

	（2）			
第7回	社会の変化と衣生活（1）子ども服の洋装化	社会の変化に伴う、衣生活への影響を考える。	配布した、授業関連資料を読んでおく。	120分
第8回	社会の変化と衣生活（2）高齢化社会	社会の変化に伴う、衣生活への影響を考える。	配布した、授業関連資料を読んでおく。	120分
第9回	企画と設計計画（1）企画対象本社および店舗見学	企業連携授業の対象企業と対象店舗の調査。 ・対象企業の概要を知る ・対象店舗の街の雰囲気、店舗の外観と内装、商品などの市場調査を実施する ・店舗の概要を知る	インターネットで対象企業、対象店舗について調べておく。	60分
第10回	企画と設計計画（2）デザイン画の作成、中間発表	企画・設計した作品のデザイン画を作成し、中間発表を行う。発表会での意見、アドバイスを参考に企画の見直しをする。	制作に向けて、企画の見直しを行う。	120分
第11回	パターン作成、素材の説明と材料の購入について	必要に応じて作品のパターン作成について解説をする。材料の素材、用尺、価格などについて説明をする。	作品制作に必要な材料を各自購入する。	120分
第12回	制作（1）	店舗イメージ、商品イメージ、街の雰囲気などを考慮に入れ、作品をデザインし制作する。	企画・設計した作品の制作を進める。	120分
第13回	制作（2）	店舗イメージ、商品イメージ、街の雰囲気などを考慮に入れ、作品をデザインし制作する。	企画・設計した作品の制作を進める。	120分
第14回	仕上げ、プレゼンテーション準備	作品を完成し、発表用資料を作成する。発表用資料の提出。	企業連携授業の作品を完成し、発表用資料を作成する。	120分
第15回	企業連携授業作品のプレゼンテーションおよび講評	企画・設計・制作した作品のデザインコンセプト、配色計画などを中心にプレゼンテーションを行い、企業の方から講評をいただく。	作品への講評を参考に、レポートを完成させ、作品とともに最終提出日までに提出する。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業についての振り返りを行い、必要に応じて解説を行う。作品課題等に対しては、企画・制作・完成の各段階において助言等をそのつど行う。
評価方法	企業連携作品は、企業調査や市場調査の結果が作品に反映されているか、素材の特徴が作品に活かされているか等も含めて総合的に評価する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーションマナー、作品のアピール等が適確になされているかを総合的にみる。平常点は、授業参加状況と授業時の課題への取り組みを総合的に評価する。授業の最後に作品・レポート課題の提出を求める。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	作品課題	○	○	○	○
	平常の授業参加	○		○	○
	レポート課題	○	○	○	
	プレゼンテーション			○	

評価割合	作品課題（40%）、平常点（15%）、レポート（30%）プレゼンテーション（15%）
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリント資料を配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。 【思考・判断】「質の高い衣生活」とは何であるかを、生活と社会の関連性を理解したうえで、生活者の立場から考えることができる。 【技術・表現】衣生活における諸問題の解決策を生活者の視点で提案することができる。
オフィスアワー	水曜日2時限
学生へのメッセージ	これまで学んだファッション系授業の内容も関連付けて考えて欲しい。日ごろから生活、ファッションを扱った新聞記事などにも目を配ることが大切です。 企業連携では、担当教員以外に企業の方からも直接アドバイスを伺うことのできる授業です。積極的な授業参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	客員教授、企業の方による講義、講評も含めた企業連携授業を行う。

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	店舗調査などの調査学習の内容を含む。 課題の成果を講評会で発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	企業、店舗、街に関する調査にインターネットを活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インテリア設計論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柳沢　伸也	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G24305C21
授業概要(教育目的)	住宅を中心とした建物の設計手法を、わかりやすく多角的に講義する。周辺環境を配慮した建物の計画や、住まい手のライフスタイルに合わせた機能的で豊かな空間について、実例を用いて具体的に解説する。また、安全で合理的な構造や、建築設備および材料等、設計する際に必要な基礎的な知識について学習する。著名な住宅事例を挙げながら、建築設計の理論と実践を、ビジュアル豊かな解説で講義する。
履修条件	なし（校外学習なし）。ただし、設計製図演習Dの履修者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築設計を行う際に必要な基礎的な寸法や仕上げ材料、配置計画、動線計画などを理解する。また、建物の構造や設備など建築設計に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断の観点（K）	平面図や断面図を見て、実際の空間を理解し、機能的で合理的な設計ができるようにする。また、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの知識を持ち、高齢者や障害者の立場に立って、快適で安全な空間を設計できるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	授業での事例紹介をきっかけとして、自ら積極的に関連文献を調査したり、実際の建物を見学したりして知見を増やす。また、手を動かすことによって、インテリアを構成するエレメントの寸法や素材、機能やその成り立ちを習得する。
技術・表現の観点（A）	設計過程において、建物のファサードや外観のデザインの仕方を習得する。設計した課題をわかりやすくビジュアル的に表現し、説明できるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス：スケッチのすすめ	描くことを通して、モノの仕組みや寸法を理解し、インテリアや建築に興味を持つ	スケッチ1枚	90分
第2回	建築図面の読解その1：ル･コルヴュジエのサヴォア邸	名建築事例を通して、配置計画や動線計画等のプランニングを学ぶ。また、近代建築5原則と構造計画を学習する。	授業テーマに関する学習	180分
第3回	建築図面の読解その２：吉村順三の軽井沢の山荘	ヒューマンスケールな空間構成や設備計画、開口部の開け方等について学習する。また、周辺環境に即したアプローチや屋根形状等を学ぶ。	授業テーマに関する学習	180分
第4回	建築図面の読解その３：F･L･ライトの落水荘、G･テラ	自然豊かな環境に建設された別荘と、都市に置かれた幼稚園の名作を通して、シークエンスに配慮したプランニングや、工夫された家具や建具について学習する。	授業テーマに関する学習	180分

	ーニのサンテリア幼稚園			
第5回	環境の計画1.　風のコントロール	空気や熱の特性を理解し、住宅設計において通風・換気の計画ができるように学習する。また、結露やコールドドラフトの原因と対応策を理解する。	授業テーマに関する学習	180分
第6回	環境の計画2.　光のコントロール	太陽光の特性を理解し、日射対策や太陽光利用を学習する。また、ガラスや断熱材などの素材の特性を理解して、自然の力で快適な住まいを作る仕組みを学ぶ。	授業テーマに関する学習	180分
第7回	構法と建築1.　組積造	南イタリアのトゥルッリ住宅を事例として、地域に根差した合理的な構法である組積造を学ぶ。また、プーリア州の都市空間から、近代建築に失われた豊かなコミュニティ環境や共用空間について学習する。	授業テーマに関する学習	180分
第8回	構法と建築2.　鉄骨造ミラノのガレリア、千駄ヶ谷の商業ビル	鉄骨造の歴史や特性を俯瞰し、鉄骨建築の長所と短所を理解する。また、実例を通して鉄骨造建築の建設過程を学習する。	授業テーマに関する学習	180分
第9回	構法と建築3.　鉄骨造岸和郎の日本橋の家、M･ファンデルローエのファンズワース邸	鉄骨造の名作住宅事例を通して、鉄骨造の住空間や特色を理解する。また、構造と分離した壁の計画手法、コア配置や自由度の高いプランニングについて学習する。	授業テーマに関する学習	180分
第10回	構法と建築4.　コンクリートブロック造　ルイス・カーンのエシュリック邸	シンプルな形態でありながら、豊かな内部空間と彫りの深いファサードを獲得しているルイス・カーンの住宅について、その設計手法を分析する。	授業テーマに関する学習	180分
第11回	構法と建築5.　その他の構造　坂茂の紙の家他	構法と建築の総まとめとして、これまで扱わなかった混構造や紙構造など、特殊な構法の事例を紹介し、これからの住宅の可能性を展望する。	授業テーマに関する学習	180分
第12回	日本の建築文化1.　機能と形態、対比・対立概念	舟屋やうだつ、男坂・女坂、表と裏など、長い年月を通して形成されてきた我が国特有の建築形態や空間概念について学習する。	授業テーマに関する学習	180分
第13回	日本の建築文化2.　地と図、仮設と常設	大海原を敷地とした神社配置や、祭礼で出現する広場や市場などを通し、明快な境界を持たない我が国の領域概念、仮設と界隈空間について学習する。	授業テーマに関する学習	180分
第14回	これからの建築1.　我が国の高齢者住宅とG･ヴェルディの憩いの家	わが国の高齢者住宅の現状と課題を理解し、欧米の事例を通して、価値観が多様化し、家の選択肢も多様化した今日の高齢者住宅のあり方を考える。	授業テーマに関する学習	180分
第15回	これからの建築2.　保存と再生	地球環境への配慮から社会的ストックの建築を大切に使い続けることの重要性を学ぶ。また、保存再生事例を通して、建築の再生技術や長寿命に使い続けるための手法を学習する。	授業テーマに関する学習	180分

学習計画注記	それぞれの項目の学習量に違いがあり、１回で区切らず調整することがある。
学生へのフィードバック方法	個々のレポートに対するフィードバック：授業にて解説する。
評価方法	レポート80%、平常点20%、テスト無し
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	平常点			○	

評価割合	レポート80%、平常点20%、テスト無し
使用教科書名(ISBN番号)	教科書の使用予定無し。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】インテリア設計を通して「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】インテリアを通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、インテリア空間を構成するエレンメントを理解することができる。

	【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を送るための空間づくりができるようになる。
オフィスアワー	なし
学生へのメッセージ	快適で気持ちの良い住宅や商業空間には、その背景に設計者の細やかな心配りやデザイン力と、その空間環境を実現するための設備や構造技術が隠されています。本授業では、そうした空間を計画する際に必要な基礎知識を学習し、将来、皆さんが建築設計に関連した仕事に関わったときに役立つ知識を習得します。積極的に取り組めば取り組むほど広がっていく建築設計の世界について、興味深いその一端を紹介できればと考えています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	豊富な実務経験をいかした授業：日本で約25年、海外（イタリア）で約3年間、住宅から大規模商業施設までさまざまな建築物を数多く設計してきた経験を生かし、質の高い空間デザインについて指導していきます。また、学生の理解度に合わせたきめ細かい指導を心がけます。
アクティブ・ラーニング	○	授業は教員からの一方的な講義に限らず、学生の積極的な参加を促すよう、Q&A形式の宿題や、レポート作成などを交えて授業を行っていきたいと考えています。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インテリア計画		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G24304C21
授業概要(教育目的)	インテリア計画の基礎について広く学ぶ。人間の生活を支える室内空間が、どのように成り立っているかを理解し、それを計画するために必要な知識等を習得する。具体的には、インテリアの仕事、空間のつくり方、人体寸法、各室の機能、エレメント、家具、色彩、照明等について学習する。
履修条件	なし。ただし、設計製図演習Cの履修者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	インテリアをデザインするために必要とされる技術についてその概要を学び、そののちに続くインテリア設計論、設計製図演習を通して専門知識と技術を修得する。
思考・判断の観点（K）	快適な生活を維持するためのインテリア空間をデザインすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	計画者だけでなく消費者の立場としてインテリア空間をデザインすることができる。
技術・表現の観点（A）	人間とモノとの関係の中で生じる様々な課題を理解し、総合的にまとめ表現する技術を修得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	インテリアデザインとは何か-1	インテリアの概念とインテリアデザインの構成について学ぶ。	与えられた住宅の内外空間に色分けをして提出する。	90分
第2回	インテリアデザインとは何か-2	インテリアスタイルとは何かを考える。インテリアにかかわる仕事と資格について学ぶ。	最も関心のあること、将来の目的についてレポートする。	180分
第3回	人体寸法とモデュール	身体の寸法と基準について学び、スケール感覚を養う。	自室の実測と身体寸法を測ってみる。	180分
第4回	様々な動作空間-1　厨房と食堂	調理と食事空間の移り変わりと必要なスペースを知る。	自宅の厨房機器寸法を測ってみる。	180分
第5回	様々な動作空間-2　居間	居間の概念と移り変わりについて学び、くつろぐ、休むスペースの作り方を考える。	居間についてこれまでの概念と授業で受けた違いについて考える。	180分
第6回	様々な動作空間-3　サニタリー・個室	サニタリーの移り変わりと機器について学び、個室空間とのつながりを考える。	自宅のサニタリー空間を実測してみる。	180分
第7回	様々な動作空間-3　階段・玄関	階段の種類と構造、寸法、玄関の空間について学ぶ。	階段の寸法の取り方と種類について復習する。	180分

第8回	住宅の種類とその構造	戸建て住宅、集合住宅などの違いと構造について学ぶ。	自宅の構造について調べる。	180分
第9回	光と採光	光環境と光の取り入れ方、窓、ウインドウトリートメントについて学ぶ。	自宅にある窓とガラスについて調べてみる。	180分
第10回	床、巾木、壁、天井	インテリアを構成する部位とその役割、仕上げ、構法について学ぶ。和室の構成と真壁大壁についても学ぶ。	部屋の構成要素について、自室を見ながら復習する。	180分
第11回	扉	内外扉の種類と素材、形状を知り、スケールによる表現方法の違いを学ぶ。	自宅の玄関扉を調査して、平面、姿図のスケッチをフリーハンドで描く。	180分
第12回	家具-1	移動できる家具の種類や材質を知り、名作家具についても学ぶ。	気に入った名作椅子について調べる。	180分
第13回	インテリアの材料	インテリアで使われる材料について学ぶ。	自室の仕上げ材を調べる。	180分
第14回	照明と色彩の効果	照明の方法と種類その効果、色彩について学ぶ。	自室の照明機器の種類を調べ、スケッチを描いてみる。	180分
第15回	インテリアの計画とまとめ	授業で話した内容について設計計画へつなげる	部屋と部屋とのつながり、ゾーニング、動線等、自宅と関連付けて学ぶ。	180分

学習計画注記	それぞれの項目の学習量に違いがあり、１回で区切らずに調整することがある。
学生へのフィードバック方法	「授業にて全体講評」
評価方法	毎回の課題提出30%、レポート提出70%

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	毎回の課題提出30%、レポート提出70%
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】インテリアを通して「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】インテリアを通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、インテリアを理解することができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を送るための空間づくりができるようになる。
オフィスアワー	金曜日5限
学生へのメッセージ	これから住宅の設計を学ぼうとする者にとって、空間として建物をとらえようとすると、インテリアデザインはとても大切です。建物の外観デザインがインテリアに現れ、インテリアデザインが外観を決めることもあります。本講座では、インテリアデザインを構成する要素や空間の作り方を学び、インテリアデザインの基礎的な知識を身につけます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	住宅設計の実務経験をもとに、設計製図演習Cとの関連を考え、カリキュラムを構成する。
アクティブ・ラーニング	○	一番身近な空間である自宅との関連を常に考えながら、指導します。毎回の小課題レポートの作成を行うことで、各自設計のための資料作りとなるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	江戸東京の文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

ナンバリング	G32106C21
授業概要(教育目的)	江戸は徳川幕府の首府として栄え、明治時代以降は東京と名を変え、日本の首都として機能してきた都市である。本科目は、江戸および東京について、江戸時代から明治時代までを主たる対象として、その文化をさまざまな角度から分析することを通じて、文化的な特色や都市としての性格を理解することをめざすものである。文化的資料の読解や見学を通じて、江戸および東京の文化を理解し、さらにその上でそれを現代の私たちの暮らしにどのように生かすことができるのかを考える姿勢を養うことをめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	江戸・東京の歴史や文化に関する基本的事項について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	江戸・東京の歴史や文化から何を学び取って、これからの我々のくらしに生かしていくべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内活動（作業、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	自分の意見を、適切な日本語表現でわかりやすく伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(1)出版	江戸の出版文化の特徴や、印刷技法の種類について理解する。近世の袋綴じの和本を例に、和本の構造について、現物資料に触れながら理解する。	大学入学以前の経験も含め、日本史学（近世史、近代史）や日本文学（近世文学、近代文学）などの、江戸・東京に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(2)本屋	近世における出版プロセスを題材にした草双紙作品を講読し、江戸の本づくりの工程について理解する。江戸の出版文化の特徴や、印刷技法の種類について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第3回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(3)食	近世における食文化の東西差を題材にした草双紙作品を講読し、江戸の食文化の特徴について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属	180

			図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第4回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(4)蕎麦・うどん	近世における蕎麦ならびにうどんの種類や食され方について、文献資料や視聴覚教材を通じて学び、理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(5)水	近世の江戸における飲料水確保をめぐる諸問題について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(6)水道	近世の文芸作品における水道の描かれ方の検討を通じて、当時の人々が抱いていた水道に対する意識・イメージを理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(7)学校	明治期における高等教育機関の設立の経緯と、そこに学ぶ学生（書生）の文化について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(8)書生	明治期の書生を描いた文学作品の講読を通じて、書生ことばの特徴を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	江戸東京の言語文化 (1) 江戸語の形成	近世後期江戸語の形成プロセスについて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	江戸東京の言語文化 (2) 江戸語の特色	近世後期江戸語の特色について、その概略を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習	180

			し、知識を定着させておくこと。	
第11回	江戸東京の言語文化 (3) 江戸語の発音	近世後期江戸語について、音韻面を中心にその特徴を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	江戸東京の言語文化 (4) 江戸語から東京語へ	明治時代の日本語の特色について、近世後期江戸語との対比を中心に理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	江戸東京の言語文化 (5) 標準語の成立	明治時代以降における標準語の成立過程を理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	江戸東京の言語文化 (6) 言文一致	明治時代以降における言文一致の流れを理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	校外授業 東京都水道歴史館	東京都水道歴史館を見学し、江戸・東京の水道の歴史や生活文化について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや配付資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
評価方法	・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。 ・見学レポートは、以下のような観点から評価を行う。 ①課題の意図を適切に理解できている。 ②適切な方法で調査を行うことができている。 ③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		○
見学レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合	定期試験60%、見学レポート20%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて資料を配付する。
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、生活文化および言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】生活文化および言語文化の側面から、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	火曜3限　1703ゼミ室（前期、千代田三番町キャンパス）
学生へのメッセージ	・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・校外授業の詳細（日時・集合場所など）については、見学先との調整等を行った上で、授業内で連絡を行う。校外授業には土曜日・日曜日などをあてる可能性もあるので、あらかじめ了解しておくこと。校外授業に際しては、見学先施設や一般来館者の方々に迷惑がかからないような態度で臨むこと。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語コミュニケーション		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

授業概要(教育目的)	コミュニケーションは、人が他者と関わりながら生きてゆく上で必須のものであり、社会や文化を形作ってゆく基盤となるものである。コミュニケーションには様々な形があり、ことばを媒体とする言語コミュニケーションと、しぐさや表情、外見などといった要素による非言語コミュニケーションとに、大きく分けて捉えることができる。この授業では、このうちの言語コミュニケーションを主たる対象として、日本語によるコミュニケーションをめぐる諸問題を考えてゆく。また、それを通じて受講生各自のコミュニケーション能力を向上させることもめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本語によるコミュニケーションに関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点（K）	場面に応じた適切なコミュニケーションの取り方を判断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	コミュニケーションとは	コミュニケーションの概念の基本について理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	コミュニケーションの種類と、それぞれの特徴について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第3回	コミュニケーションと文化	コミュニケーションと文化の関係について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を	180

			再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第4回	敬語のしくみ	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	敬語の種類	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	誤りやすい敬語	間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、各種調査の結果を参照しつつ、練習問題を通じて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	敬語使用の実態と意識	文化庁による「国語に関する世論調査」の分析を通じて、敬語使用の実態と意識のありようを理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	敬語の変化	文化庁による「国語に関する世論調査」の結果から読み解ける、敬語使用の経年変化の傾向について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	敬語をめぐる新たな動向	近年勢力を拡大しつつある敬語表現の形式について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	断り表現のしくみ	日本語の断り表現のしくみについて理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	断り表現の種類	先行研究を参照しつつ、断り表現の型をどのように分類できるかを考え、理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点が	180

			あった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第12回	断り表現の使い分け	断り表現の型は一般的にどのように使い分けられているのかを、話し手と聞き手との関係性に着目して考え、理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	感謝表現のしくみ	日本語の感謝表現のしくみや、他言語と比較した場合の特徴について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	感謝表現の使い分け	日本語の感謝表現において、「ありがとう」と「すみません」はどのように使い分けられているのかを理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	感謝と謝罪の関係性	日本語において「すみません」が謝罪表現にも感謝表現にも使用されることの背景の要因について理解する。	各回の授業で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
評価方法	・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。 ・レポートは、小規模な言語調査の実践を課題として課す。レポートの内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①課題の意図を適切に理解できている。 ②適切な方法で調査を行うことができている。 ③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		○
	レポート	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	定期試験50%、レポート30%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて資料を配付する。
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】日本語を適切に用いて、生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。

オフィスアワー	金曜3限（千代田三番町キャンパス1703ゼミ室）
学生へのメッセージ	・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポート・論文の書き方に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ことばと生活		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田　宗一	指定なし

ナンバリング	G22107C21
授業概要(教育目的)	言語は、それを使う人々の生活とともにある。言語を使うことなしに生活することは困難であるという点において、言語は生活の基盤のひとつであると言える。その一方で、生活の中のさまざまな要素が言語に影響を与え、個々の表現や言語行動の上に反映されているような事例もさまざま見出される。この授業では、日本語を主たる対象として、ことばと生活の相互のつながりについて考えていく。言語を切り口として生活文化を考える視点を身につけさせるとともに、受講生自身の言語表現力を高めさせることもめざしたい。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ことばと生活の相互のつながりについて理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	若者ことばとは	若者ことばの定義、捉え方に関わる諸問題について理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	若者ことばの特色	若者ことばの特色について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第3回	さ入れことばとは	若い世代を中心に使用が広がりつつあるさ入れことばに注目し、その基本について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点が	180

			あった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第4回	さ入れことばの分析	さ入れことばの使用が広がる背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	さ入れことば使用の意識と実態	さ入れことばに対する意識と使用実態に関する諸問題について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	ぼかし表現とは	若者ことばの特色のひとつとされるぼかし表現に注目し、その基本について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	ぼかし表現の使い分け	若者ことばとして使用されるぼかし表現と、従来から日本語に存在していたぼかし表現との違いについて理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	ぼかし表現使用の背景	若者がぼかし表現を好んで使用する背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本語と性差	男性語、女性語と呼ばれる、性別による日本語表現の特色の違いについて理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	女性語の歴史1	日本における女性語の歴史的な展開（近世以前）について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	女性語の歴史2	日本における女性語の歴史的な展開（明治以後）について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用い	180

			るなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第12回	現代の女性語	現代日本における女性語の変化の動向について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本語と生活文化1	生活文化の変化が日本語に影響を与えることがあるという点について、具体的な事例を通じて理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本語と生活文化2	日本語表現の歴史的変化について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	日本語と生活文化3	日本語の各方言における表現について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。	各回の授業内で配付される資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートや資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において意見・感想等を記入して提出してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
評価方法	・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。 ・平常点は、授業内活動（作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み、意見・感想等の提出状況などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	平常点			○	

評価割合	定期試験70%平常点30%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて資料を配付する。
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。
オフィスアワー	火曜3限　1703ゼミ室（千代田三番町キャンパス、前期）
学生へのメッセージ	・出欠は、毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンス資料を配付して説明する。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活文化論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	G12103C21
授業概要(教育目的)	多様な自然環境を内包する日本では、各地の風土に根ざしたさまざまな生活文化が形成されてきた。同時に、現在を生きるわれわれが「当たり前」としている生活文化は普遍的なものではなく、地域や時代ごとの状況、人びとが抱く価値観の影響を受け、常に変化し続けていることに留意すべきである。 本講義では、地域における生活文化の変容を理解することによって、人間の暮らしと環境の相互作用を考え、現代社会における生活文化を相対的にとらえなおしていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本各地にそれぞれの風土によって培われた多様な生活文化が存在し、時代によって変化してくことを理解できる。
思考・判断の観点（K）	生活文化の多様性とその背景を、人びとの価値観や社会状況の変化、技術の進展といった視点から考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	身近な生活文化について知的好奇心を抱き、その背景にある事象について関心をもつことができる。
技術・表現の観点（A）	生活文化と地域、社会の関わりについて論理的に記述することができる。

学習計画

生活文化論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス—生活文化と価値観—	生活文化が地域や時代によって大きく変化していることを、地理学や歴史学、民俗学的な視点から学ぶ。また、それが家政学の視点からどのような意味をもつのかについて考える。	シラバスを読んでおくこと。	180分
第2回	環境と生業①—「ポツンと一軒家」からみる山村の生活文化—	TV 番組「ポツンと一軒家」が人気を集めた背景には、山奥で暮らすことが「珍しい」「不便」なもの、という意識が存在するのではないだろうか。現代人の感覚では一見「不便」と思われる山の暮らしはいかに成立し、かつなぜそれが「不便」と思われるようになったのか、考える。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第3回	環境と生業②—里山の生活文化—	近年、里山が地域の原風景として注目を集めている。里山は地域で暮らす人びとの生活の場であり、その環境は人びとの生活の影響によって大きく変化してきた。ここでは里山で行われてきた生業と環境変化を学び、人びとの生活と里山の環境との相互関係を理解する。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第4回	環境と生業③—潜水漁業からみる海の生活文化—	近代において大きな変化が起こった海の利用について、潜水漁業という視点から考える。近代以降の器械潜水という新技術の導入による新たな生活文化を、より深い場所にある新漁場の発見と従来の漁法の衰退、北海道のホタテ漁や海中工事への出稼ぎ労働の展開から学ぶ。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分

第5回	食文化①―外来野菜と漬け物の生活文化―	漬け物は日本の食文化に欠かせないものであり、その代表的な材料の一つに白菜が挙げられる。ここでは白菜がどのように日本に導入され、代表的な漬け菜として全国に普及していったのかを白菜の生産・育採種・流通・消費などの視点から学び、外来野菜導入と食文化の画一化について考える。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第6回	食文化②―ミカンの習俗と嗜好変化―	現在好まれているミカンは、可食部が多く種のない温州ミカンであるが、明治初期までは種が多く小型の紀州ミカン（小蜜柑）が一般的であった。明治期以降、日本人はなぜ温州ミカンを選択したのか。その背景には、縁起をかつぐ贈答品としてのミカンの習俗や、新暦への移行、外需の増加と減少などがあった。ここではミカンに対する価値観変化と生活文化を考える。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第7回	食文化③――缶詰からみる魚食文化の近代化―	島国である日本では魚食に長い歴史がある。ここでは明治期以降に導入された「缶詰」という新技術に着目する。缶詰生産がもたらした、イワシなど多獲性大衆魚の価値づけ、栄養という考え方、日本人の嗜好に適したクジラ大和煮の開発などを検討し、魚食文化の近代化を考える。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第8回	食文化④―産業化・都市化と「食べる」ことの近代―	近代都市に生きた庶民の食を知るには家庭料理だけでなく、都市労働問題を背景に現れた工場での共同炊事や一膳めし屋での外食、公営食堂など、共同空間での「食」を理解する必要がある。また、大量生産・大量加工のはじまりなどの問題から、近代における食文化の変容を考える。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第9回	旅と生活文化①―生活文化へのまなざしとその変化	現代では、世界遺産白川郷のように「伝統的」な景観や生活文化を活用する観光地が多い。しかし、白川郷もかつては野蛮な生活文化をもつ村として差別的な視線を向けられた。ここでは昭和初期において白川郷の生活文化が「再発見」されていく過程と、戦後の観光開発における「ふるさと」というイメージの消費や、生活文化の地域資源化について学ぶ。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第10回	旅と生活文化②―高度経済成長期における旅の変容―	旅のありようは高度経済成長期以降に変容し、女性同士、あるいは女性の一人旅が普及して「アンノン族」ブームを生み出し、ディスカバージャパンキャンペーンなどによって旧来の名所以外の場所にも観光資源としての価値が見いだされていった。ここでは、古い町並みが観光資源となった妻籠宿や、避暑地清里の事例から、旅の質的変化による新たな観光地の創出について学ぶ。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第11回	非日常の空間①―祭礼と地域社会―	祭礼は地域のにぎわいを示し、同時にその文化や歴史を反映した生活文化でもある。ここでは、人びとの「楽しみ」の部分である「付け祭り」とその変化に着目し、地域住民による「まちづくり」、協業の場として祭礼を捉え、新たな地域社会と生活文化の構築を考える。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第12回	非日常の空間②―海外文化の受容とにぎわいの形成―	軍港都市として発達した神奈川県横須賀には、オカにあがる船員を対象にした歓楽街が形成された。第二次世界大戦後の横須賀では、駐留した米軍兵士の影響から刺繍をほどこしたスカジャンや米国風の飲食店などが流行し、しだいにアメリカ的な商品を日本人向けに提供するようになる。ここでは、地域における海外文化の受容とそれを活かしたまちづくりを考える。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第13回	イエと家族①―近代産婆の登場と出産の変化―	「近代産婆」は20世紀はじめに登場した、西洋医学に基づく教育を受け資格を取得した助産職である。近代産婆による出産の変化と施設分娩への移行を追い、近代医学と衛生観念、そしてそれを学ぶ女性が、地域の出産をどう変えたのかを学ぶ。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第14回	イエと家族②―織物生産地にみる家族協業―	結城紬生産地域を事例に、家族が機織りという女性労働を軸として、それ以外の生産労働や家事・育児などの複合的な労働を、年齢・性別を問わず柔軟に分業していく様子を論じる。これにより、家族の協業による生活文化がいかにしてイエとその家業を持続させていたのかを学ぶ。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分
第15回	まとめ	近代における生活文化の変化について総括する。また、レポート作成の準備を行う。	配布資料に適宜目を通しておいてください。	180分

学習計画注記	シラバスの内容は、授業の進行状況によって変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行う。レポートはコメントをつけて返却する。
評価方法	毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめる。このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。期末レポートでは、授業内容を踏まえて適切な考察をしているか、わかりやすく他者に伝える表現がなされているか、評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
コメントシート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点（コメントシートによる）30%、レポート70%で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配布します。
参考図書	小口千明・清水克志編『生活文化の地理学』古今書院、2019年。 ISBN：9784772242110
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活文化がいかに変化するのか、社会や環境変化を関連付けて理解できる。 【思考・判断】生活文化の変容のしくみを、現代社会における生活の向上のためにいかに活すか、生活者の視点から考えることができる。 【関心・意欲・態度】身近な生活文化に関心を抱き、その背景にある事象に知的好奇心を抱くことができる。
学生へのメッセージ	生活文化とは、さまざまな環境・時代のなかで、「より良い暮らし」を求める人びとの営みの総体であると考えます。また、より良い暮らしとは経済的な合理性だけではなく、さまざまな尺度をもつものであることが重要です。過去の生活文化とその変容のしくみを知ることによって自らのものとは異なる価値観や暮らしへの理解と共感を深め、「生活の向上」を考える土台にしていきたいと思います。 受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。 自分の身近な事例について、積極的に探ってみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	伝統文化の継承と発信		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	G32105C21
授業概要(教育目的)	現代社会において「伝統」的な生活文化とされるもののなかには、近代以降にさまざまな意図によって創り上げられたものが多く含まれている。この授業では、日本における「伝統」なるものの形成過程や、それが現代社会においてどのように活用されているかについて学ぶことを目的とする。また、こうした授業の内容を踏まえ、期末にはグループでの発表を実施する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「伝統」とされる文化が歴史的・社会的にどのように創り上げられてきたのか、その過程を理解できる。
思考・判断の観点（K）	「伝統」が商業や地域資源という文脈のなかでどのように活用されてきたのか、その意義を見出すことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的な観点から意欲的に課題を取り押さえ、かつそれを横断的に他分野と結びつけることができる。
技術・表現の観点（A）	自分の意見や考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

伝統文化の継承と活用・発信

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	ガイダンスを実施する。また、我われが「伝統」と考えているものはどういうものなのかについて検討する	予習としてシラバスを読んでおく。	180分
第2回	習俗の「伝統」１	七五三の儀礼がどのように全国に普及し、画一化されていったのか、考える。	予習として自分や身近な人びとが経験した七五三の行事についてまとめておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第3回	習俗の「伝統」２	初詣の習慣は、いつ、どのように日本人の年中行事の一つになったのか、考える	予習として自分や身近な人びとが経験した初詣の行事についてまとめておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる	180分
第4回	習俗の「伝統」３	日本の伝統的な正月料理とされるおせち料理の伝統について考える。	予習として自分や身近な人びとが経験した正月料理についてまとめておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる	180分
第5回	習俗の「伝統」４	日本を代表する花とされ、ときには日本人の精神性を象徴するともいわれる桜の伝統について考える。	授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第6回	ワークショ	身近な「伝統」について、それがいつごろまでさかのぼ	文献調査を行い、発表の準備を	180分

	ップ１	れるかを文献などによって調査し、発表する。	行う。	
第7回	町並みと「伝統」１	沖縄県竹富島を事例に、「沖縄の原風景」ともいわれる赤瓦屋根の風景の形成について学ぶ。	事例地域の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第8回	町並みと「伝統」２	「小江戸」と呼ばれる埼玉県川越を事例に、蔵造りの町並みの形成について学ぶ。	事例地域の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる	180分
第9回	町並みと「伝統」３	遊廓や花街の地域資源化について、地域をめぐる語りに注目しながら学ぶ。京都の祇園や金沢の「ひがし茶屋町」を取り上げる。	事例地域の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第10回	町並みと「伝統」４	石畳の路地に料亭などが立ち並ぶ新宿区神楽坂を実際に見学し、「伝統的」な町並みがどのように維持されているのか、新宿区の景観ガイドラインと対照させつつ観察する。	事例地域の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第11回	ワークショップ２	最終回での発表を目指し、受講者でグループを結成し、グループワークを行う。各グループでテーマの設定と調査計画の議論を行う	文献調査を行い、発表の準備を行う。	180分
第12回	郷土と「伝統」１	各地の風土と結びついた郷土の芸術品として評価される陶器や織物について、民芸運動との関連から考える。ここでは沖縄県のミンサー織について取り上げる。	事例となる織物の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第13回	郷土と「伝統」２	各地の風土と結びついた郷土の芸術品として評価される陶器や織物について、民芸運動との関連から考える。ここでは栃木県の益子焼や大分県の小鹿田焼を取り上げる。	事例となる焼き物の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第14回	郷土と「伝統」３	「郷土料理」の形成について、新潟の草団子や仙台のずんだ餅、「名古屋メシ」などから学ぶ。	事例となる料理の情報を集めておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	180分
第15回	ワークショップ３	グループごとに、「伝統」の継承や活用についてのテーマを設定し、調査結果を発表する。	文献調査を行い、発表の準備を行う。	180分

学習計画注記	開講期間中、１回の現地見学（学外授業）を予定しています。また、シラバスの内容は授業の進行状況によって変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	コメントシートで提出された質問や感想などは、次週の授業冒頭で回答する。また、各自の発表について講評を行う。
評価方法	毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめる。このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。発表・課題レポートでは、適切な調査を実施したか、わかりやすく他者に伝える表現がなされているか、評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	コメントシート	○		○	
	期末レポート	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点（授業内課題及びコメントシート）30%、発表40%、期末レポート30%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	授業時に適宜示す。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を支える伝統とは何かを理解する。 【思考・判断】伝統文化やその変容とは何か、よりよい生活を目指す人間社会について考察することができる。 【関心・意欲・態度】伝統文化の保全や活用をめぐる現代的な問題について関心をもつ。 【技能・表現】伝統文化やその成立過程について、論理的に説明し、発信することができる。
学生へのメッセージ	「伝統」というと何か無条件に「ずっと昔から変わらないもの」、「伝えていくべき良いもの」と考えがちですが、それは事実でしょうか。地域社会や家庭にとっても大切な文化とされる「伝統」について、さまざまな視点から見直し、「伝統」を生活にどのように活かし、伝えていくのか、考えを深めていきたいと思います。 受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。 【学外授業について】 神楽坂周辺での学外授業を実施します。休日に実施予定ですのであらかじめ承知していて下さい。日程は授業初回に提示するので参加できるよう調整して下さい（やむを得ない理由の場合のみ欠席を認め、代替課題を課します）。 参加にあたっては積極的な態度で臨むとともに、地域の人びとや通行者の迷惑にならないよう、十分に注意すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	発表形式の授業において、他者の意見・考えを聞くことにより自身の問題発見となるよう、示唆を行う。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟するとともに、発表形式の授業においては著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活文化演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	G22104C12
授業概要(教育目的)	風景はその土地の風土や歴史、生業や信仰などによって培われた生活文化と強く結びついたものである。我われが何気なく風景をみるとき、例えば「ごちゃごちゃしている」、「昔懐かしい風景」、「あの町の風景と似ている」などと感じることがあるが、そういった感覚は何に由来するのだろうか。この授業では、風景から地域の生活文化を読み取る方法を学び、実際に地域を歩いてその観察も行う。また、生活文化を反映した風景や町並みをどのように地域活性化や観光に活用するかについても考える。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	風景や景観とは何か、またそれがどのように地域特有の生活文化に関連するかを理解する。
思考・判断の観点（K）	文献調査や現地見学を通して生活文化と地域の関係や、それらの地域おこしへの活用方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	地域に根差した生活文化とその活用方法について知的好奇心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	地図や資料などを適切に扱うとともに、自分の考えを図として的確に表現することができる。

学習計画

生活文化演習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	風景から暮らしを読む１	ガイダンスを実施する。また、風景とは何か、人びとの暮らしや自然を反映した風景の読み取り方、風景の観光への活用について、アニメ「アルプスの少女ハイジ」を題材に考える	予習としてシラバスを読んでおく。ハイジについて、登場人物などを簡単に調べておく。	90
第2回	風景から暮らしを読む２	日本各地のさまざまな風景を提示し、それが地域の風土や生活文化といかに関わるかを考える。主に「ムラ」（農山漁村）の風景と暮らしを理解し、それらの地域活性化・観光への活用方法について議論する。	世界遺産である飛騨白川郷について、地域の特徴を調べておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	90
第3回	風景から暮らしを読む３	日本各地のさまざまな風景を提示し、それが地域の風土や生活文化といかに関わるかを考える。主に「マチ」の風景と暮らしを理解し、それらの地域活性化・観光への活用方法について議論する。	「蔵の町」として知られる埼玉県川越について地域の特徴を調べておく。授業内容とそれについての感想、質問などをまとめる。	90
第4回	風景を読む方法１	風景を読むための基本的な方法について、地図の読み方を中心に学ぶ。また、さまざまな地域の観光マップを比較し、効果的なマップの作成方法について考える。	地図記号などについて復習しておく	90
第5回	風景を読む方法２	過去の風景について、江戸時代の浮世絵や、近代の古い写真や絵葉書などから学ぶ。	インターネットで東京都立図書館の「TOKYOアーカイブ」にアクセスし、江戸時代の絵図や近代の絵葉書を閲覧しておく。	90

第6回	三番町キャンパス周辺を歩く１	三番町キャンパス周辺地域はかつてどのような場所であり、その後どのように変化してきたのか。身近な場所から風景の歴史を考える。学外実習後に作成する「観光マップ」のテーマを決め、三番町キャンパス周辺の地理や歴史について文献等で調査を行う。	文献やインターネットで市ヶ谷や番町の歴史について調べておく。	90
第7回	三番町キャンパス周辺を歩く２	三番町キャンパス周辺の地理や歴史について発表を行う。観光マップのテーマについても議論する。	各自のテーマに従って文献調査を行い、発表準備を進める	90
第8回	三番町キャンパス周辺を歩く３（学外授業）	実際に三番町キャンパス周辺地域で現地見学を行い、風景を観察する。また、各自のテーマに沿ってアピールするポイントを探す。	現地見学についての感想、観察結果をまとめる。	90
第9回	三番町キャンパス周辺を歩く４（学外授業）	第8回、第9回を1回の学外授業として実施する。	観光マップの構想を考えておく。	90
第10回	観光マップの作成	フィールドワークの成果を活かし、三番町周辺の観光マップを作成する。	観光マップの構想を考えておく。	90
第11回	東京築地・佃島・月島を歩く１	関東大震災後の復興の風景として築地本願寺・場外市場周辺を、江戸時代の面影を残す風景として佃島を、もんじゃ焼きを活用した地域活性化の取り組みとして月島を取り上げる。学外実習後に作成する観光ルートのテーマを決め、築地・佃島・月島の地理や歴史について文献等で調査を行う。	文献・インターネットで築地・佃島・月島の地理や歴史を調べておく。	90
第12回	東京築地・佃島・月島を歩く２（学外授業）	実際に築地・佃島・月島で現地見学（築地本願寺や場外市場、もんじゃストリートなど）を行い、風景を観察する。また、各自のテーマに沿ってポイントを探す。	現地見学についての感想、観察結果をまとめる。	90
第13回	東京築地・佃島・月島を歩く３（学外授業）	第12回、第13回を1回の学外授業として実施する。	現地見学についての感想、観察結果をまとめる。	90
第14回	観光コース・ガイドの作成	フィールドワークの成果を活かし、家族連れや外国人観光客、若い女性など、さまざまなグループを対象とした築地・佃島・月島の観光コースおよび観光ガイドの作成を行う。	観光コースおよび観光ガイドの作成の事前準備として、おおよそのコース等を考えてくる。	90
第15回	観光コース・ガイドの発表	作成した観光コース、ガイドを発表し、議論を行う。	観光コース、ガイドを完成させておく。	90

学習計画注記	学外での見学を2回実施する。シラバスの内容は、授業の進行状況によって変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された質問や感想などにもとづき、次週の授業冒頭で回答または補足説明を行う。課題や発表については詳細な講評を行う。
評価方法	平常点には、授業内で行う議論などへの参加状況、授業内で実施する読図などの課題を含む。授業内容への理解度のほか、関心・意欲・態度について評価する。課題や発表は、関心・意欲とともに授業内容を踏まえて適切な調査を実施しているか、わかりやすく他者に伝える表現がなされているかについて評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点（議論への参加状況・授業内課題など）40%、発表（マップなどの作成を含む）60%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	授業時に随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】風景のなかに過去の人びとの生活がいかに反映されているか、理解することができる。 【思考・判断】生活文化と関連した風景をいかに活用するか、地域に提案することができる。 【関心・意欲・態度】ありふれた風景やそれと関連する風景に対する知的好奇心を持つことができる。 【技能・表現】より心豊かな生活を創造するために効果的な表現をすることができる。
学生へのメッセージ	普段我われが何気なく見ている身近な風景には、日本の生活文化を考えるためのヒントが詰まっています。日常の「当たり前」をもう一歩踏み込んで観察したとき、何を観ることができるのか、注意深く考える視点や方法を学んでください。 受講にあたっては、配布された資料、指示された文献などには必ず目を通すようにして下さい。 授業で学んだ知識をもとに、積極的に「街歩き」をしてみて下さい。 【学外授業について】 学外授業は土日に実施する場合があります。日程は授業初回に提示するので、2回とも参加できるよう調整して

	下さい。参加にあたっては積極的な態度で臨むとともに、地域の人びとや通行者の迷惑にならないよう、十分に注意すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学外でのフィールドワークを実施する。
情報リテラシー教育	○	図書館での文献調査法について習熟するとともに、効果的なプレゼンテーションができるようになる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品学実験		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G23104C13
授業概要(教育目的)	本科目では食品の性質をより詳しく知るために、食品の加工における成分や物性の変化について実験を通して理解を深めることを目的とする。具体的には、牛乳の加工品であるバターやカッテージチーズ、砂糖の結晶化を利用した砂糖衣（菓子）などを実際に作ることによって、それぞれの製造原理や食品成分の反応についての知識や加工・調理の技術を習得することを目指す。また、それぞれの加工・調理による歩留まりの計算、計測データの扱い方やレポートの書き方についても解説する。
履修条件	「食品学概論」の単位を修得していることが望ましい。 実験材料費として、1500円程度を徴収する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	授業で扱う各種食品の加工における製造原理、加工操作、適切な歩留まりを説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	グループごとの実験において、当日のテーマを理解した上で他のメンバーと協力して積極的に作業できる。
技術・表現の観点（A）	実験で実施したことを、当日のポイントを踏まえ科学レポートの書き方に沿って適切にまとめることができる。

学習計画

食品学実験

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業全体の概要を把握し、レポート作成に関する基本事項について学ぶ（全員オンデマンド方式）。		
第2回	対面グループ：果実の加工（いちごジャムの瓶詰） 遠隔グループ：スイートピクルス	対面グループは、いちごジャムの製造および瓶詰作業の実践を通して、ジャムの製造原理（ペクチンのゼリー化）、いちごジャムの加工と瓶詰めの手順、糖度計による糖度の測定方法、いちごジャムの適切な歩留まり、瓶詰めによる殺菌の意義について理解する。 遠隔グループは、スイートピクルスの製造原理（野菜の原形質分離による食感や風味の変化）、加工手順について理解する。また、計量器具の種類や精度についても学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第3回	対面グループ：果実の加工（いちごジャムの瓶詰） 遠隔グループ：スイートピクルス	対面グループは、いちごジャムの製造および瓶詰作業の実践を通して、ジャムの製造原理（ペクチンのゼリー化）、いちごジャムの加工と瓶詰めの手順、糖度計による糖度の測定方法、いちごジャムの適切な歩留まり、瓶詰めによる殺菌の意義について理解する。 遠隔グループは、スイートピクルスの製造原理（野菜の原形質分離による食感や風味の変化）、加工手順について理解する。また、計量器具の種類や精度についても学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第4回	対面グルー	対面グループは、バターとカッテージチーズの加工を通	授業後に、対面参加の受講生は	120分

	プ：乳の加工 遠隔グループ：小麦粉生地の性質	して、これらの加工原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、小麦粉の種類（薄力粉、中力粉、強力粉）ならびに、薄力粉および強力粉から作られる生地の性質について学ぶ。	本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	
第5回	対面グループ：乳の加工-1 遠隔グループ：小麦粉生地の性質	対面グループは、バターとカッテージチーズの加工を通して、これらの加工原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、小麦粉の種類（薄力粉、中力粉、強力粉）ならびに、薄力粉および強力粉から作られる生地の性質について学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第6回	対面グループ：砂糖の調理性 遠隔グループ：甘酒の製造	対面グループは、砂糖の多様な調理性について学ぶ。砂糖溶液の加熱中の色や物性の変化、砂糖を使った食品としてタフィー、ピーナッツの砂糖衣、フォンダンをとりあげ、砂糖の加熱温度による状態の変化について理解する。 遠隔グループは、甘酒の製造原理（でんぷんの糖化）、甘酒の原料である麹について理解する。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第7回	対面グループ：砂糖の調理性 遠隔グループ：甘酒の製造	対面グループは、砂糖の多様な調理性について学ぶ。砂糖溶液の加熱中の色や物性の変化、砂糖を使った食品としてタフィー、ピーナッツの砂糖衣、フォンダンをとりあげ、砂糖の加熱温度による状態の変化について理解する。 遠隔グループは、甘酒の製造原理（でんぷんの糖化）、甘酒の原料である麹について理解する。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第8回	対面グループ：マヨネーズの製造 遠隔グループ：ヨーグルトの加工	対面グループは、マヨネーズの製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、ヨーグルトの加工原理を中心に学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第9回	対面グループ：マヨネーズの製造 遠隔グループ：ヨーグルトの加工	対面グループは、マヨネーズの製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、ヨーグルトの加工原理を中心に学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第10回	対面グループ：魚肉の加工（かまぼこの製造） 遠隔グループ：大豆の水煮缶の製造	対面グループは、かまぼこの製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、大豆の水煮缶の製造における大豆の硬さの変化や缶詰の製造原理を中心に学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第11回	対面グループ：魚肉の加工（かまぼこの製造） 遠隔グループ：大豆の水煮缶の製造	対面グループは、かまぼこの製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、大豆の水煮缶の製造における大豆の硬さの変化や缶詰の製造原理を中心に学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第12回	対面グループ：豆腐の製造 遠隔グループ：トマトケチャップの製造	対面グループは、豆腐の製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、トマトケチャップの製造原理を中心に学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第13回	対面グループ：豆腐の製造 遠隔グループ：トマトケチャップの製造	対面グループは、豆腐の製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、トマトケチャップの製造原理を中心に学ぶ。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第14回	対面グループ：食肉の加工（ソーセージの製造） 遠隔グループ：全体まとめ	対面グループは、ソーセージの製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、これまでの授業内容およびレポートの書き方の振り返りを行う。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分
第15回	対面グループ：食肉の加工（ソーセージの製造） 遠隔グループ：全体まとめ	対面グループは、ソーセージの製造を通して、その製造原理を中心に学ぶ。 遠隔グループは、これまでの授業内容およびレポートの書き方の振り返りを行う。	授業後に、対面参加の受講生は本時の実験についてレポートを作成し、遠隔参加の受講生は課題に取り組む。	120分

学生へのフィードバック方法	実験時に気付いたことはその場でお伝えします。また毎回レポート・課題を提出していただき、適宜コメント等を書き込んで次の授業で返すとともに、全体に向けて改善を要する点などをお伝えします。
評価方法	平常点、レポート・課題により評価します。レポート内容が基準に達していない場合は再提出となります。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験への参加態度			○	
	レポート・課題	○			○

評価割合	平常点（30%）、レポート・課題（70%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	前期：月曜日昼休み時間～3限目
学生へのメッセージ	「食品学概論」や「食品学」の知識が生きてきます。また、対面で参加する学生は、食品を扱うので必ず指定の衛生的な身支度をして、積極的に実習・実験に参加してください。レポートをまとめる際、自分で疑問点や関連する事項について調べるなど、自主的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品関係の研究所において食品の調理・加工や分析に関わる研究を行ってきた。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品衛生学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G23105C21
授業概要(教育目的)	本科目では、我が国で施行されている「食品安全基本法」に基づき、健全な食環境整備・食品の表示・食品の衛生管理という3つの視点から、食品の安全管理について概説する。また、昨今食に関する事件が多く報道されるようになったことを受けて、事件の背景にある日本における食の安全システムや行政の問題について検討する。生産者・加工業者・流通業者・消費者とさまざまな食に携わる立場を考慮しつつ、消費者としてそれら食のリスクにどう立ち向かうかについても考えていく。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食生活におけるリスクとそれを低減するために生産者や消費者がとるべき行動、また食の安全を確保するための法律や制度について説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

食品衛生学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食品の安全性	過去20年ほどの間にBSEの発症や食品表示偽装事件の多発などにより食品の安全性についての信頼性が揺らいだ背景を理解し、日本における安全行政の仕組みについて学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	食品の劣化に関わる微生物	食品の劣化に関わる腐敗性微生物について学ぶ。その基礎知識として、自然界における微生物の種類と分布、微生物の増殖に必要な諸条件や簡易な細菌検査法について理解する。	授業前に教科書第2章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食品の腐敗・変敗とその防止	微生物による食品の腐敗・変敗の定義とこれらに関わる微生物の種類、腐敗・変敗の判定法、腐敗・変敗の防止方法について学ぶ。	授業前に教科書第2章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食中毒	食中毒の種類とその特徴、原因微生物およびウイルスの性質、それぞれの微生物・ウイルスと原因食品との関係を理解する。	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第5回	食品の安全性の確保	食品の種類（食肉製品、生鮮魚介類、水産加工食品、牛乳・乳製品、鶏卵、冷凍食品、惣菜製品）ごとに、原料、製造工程、流通過程での安全性確保のポイントを理解する。	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	家庭におけ	家庭において食品を衛生的に取り扱うために必要な調理	授業前に教科書第5章を読んで	180分

	る食品の安全保持	器具の洗浄法、洗剤・漂白剤の効果や使用方法、冷凍庫・冷蔵庫の適切な使い方について学ぶ。	おくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	
第7回	環境汚染と食品	人々の生活において健康への影響が問題となっている環境中の有害物質や放射性物質による食品汚染などについて学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	中間まとめ	第1回～第7回までの内容を振り返り、理解を深める。	理解があいまいだったところを中心に、よく復習しておくこと。	180分
第9回	器具および容器包装の衛生	食品と直接接触する器具や包装容器について、食品を汚染する可能性のある物質の種類や、これらの規制を中心に学ぶ。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	水の衛生	飲用、また食品の製造や食品の洗浄に用いられる水の安全性確保のための水の浄化・殺菌方法やその規制について学ぶ。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	食品の安全流通と表示（１）	食品の安全流通のための、食品の表示に関する法律、食品添加物の種類や使用の実際、輸入食品の安全確保対策について学ぶ。	授業前に教科書第9章-1,2,3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	食品の安全流通と表示（２）	食品の安全流通のための、遺伝子組換え食品の概要、食物アレルギーへの対策、食品に含まれる発がん物質の概要とその規制について学ぶ。	授業前に教科書第9章-4,5,6を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	食品の安全管理（１）	食品の安全行政の在り方について、リスクアナリシスを基本とし、リスク管理、リスク評価、リスクコミュニケーションの３つの要素が関わり合っていることを学ぶ。	授業前に教科書第10章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	食品の安全管理（２）	食品の安全管理のために、食品関連事業者の間で普及しつつあるHACCPやそれらを効果的に運用するためのマネジメントシステムと組み合わせた「食品安全マネジメントシステム」について理解する。	授業前に教科書第10章-2,3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの内容について、練習問題への取り組みを通して理解を深める。	試験に向けて準備しておくこと。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに、設定したテーマについてコメントシート等に記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。
評価方法	定期試験100%

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			

評価割合	定期試験（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	三訂　食品の安全性（978-4-7679-0574-7）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
オフィスアワー	前期：月曜日昼休み時間～3限目
学生へのメッセージ	微生物や化学物質に関する学びが中心となりますので、生物や化学の基礎知識が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	レシピの比較文化史		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤　有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	本科目では、料理のレシピに関する事柄を空間軸と時間軸で比較する。前半はコメ、ムギ、大豆などの代表的な食材の調理、加工法を中心に地域比較をする。後半は、日本人が摂取してきた食材や、調理法、献立様式などを中心に、食生活史をたどる。併せて自然環境や食のタブー、食事作法などの背景も学ぶ。これらを通して民族、地域、時代、宗教などにより異なる食文化の多様性を理解し、レシピに違いが生じる要因を考える。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	世界および日本の様々なレシピに関する事柄の比較を通して、食文化の共通性と多様性を知る。
思考・判断の観点（K）	どのような変遷をたどり現代の我々の食事に至っているかを把握し、将来の食生活について考える力を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	レシピ文化の考え方	レシピ文化の考え方を学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第2回	コメのレシピ比較	世界のコメの生産から食べ方までを学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第3回	ムギのレシピ比較	世界のムギの生産から食べ方までを学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第4回	麺のレシピ比較	世界の様々な麺料理について学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第5回	食事作法と食のタブー	世界における多様な食事作法と食のタブーについて学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第6回	だしのレシピ比較	世界における多様なだしについて学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第7回	豆のレシピ比較	大豆を中心に、世界における豆の生産から食べ方を学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第8回	薬味の文化	しょうがやわさびなど薬味の利用について学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめ	170分

			る。	
第9回	前半のまとめ	前半の重要ポイントについて復習する。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第10回	日本の時代変遷によるレシピ比較①	縄文時代、弥生時代の食生活について学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第11回	日本の時代変遷によるレシピ比較②	古墳時代、平安時代の食生活について学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第12回	日本の時代変遷によるレシピ比較③	鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代の食生活について学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第13回	日本の時代変遷によるレシピ比較④	江戸時代の食生活について学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第14回	日本の時代変遷によるレシピ比較⑤	明治時代～平成時代の食生活について学ぶ。	配布資料を読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	170分
第15回	まとめ	これまでの補足およびまとめを行う。	これまでの授業内でポイントとした箇所を中心に復習をしておく。	370分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・課題は原則GoogleClassromから提出すること。知識を問う課題に対しては、正解例をGoogleClassromに投稿する。また、必要に応じて授業内で解説をする。 ・質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、メール（yukito@kasei-gakuin.ac.jp）またはGoogleClassromを通して行うこと。
評価方法	・課題は、授業内容のまとめおよびそれに対する考察や意見を記入するものとする。 ・課題と確認テストで評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		
	期末テスト	○			

評価割合	課題（小テストを含む）50%，期末テスト50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人々の食の多様性を食生活の地域性や時代の変遷を通して学び、現代生活の諸問題に対する理解につなげることができる。【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、将来の食生活についての考察や問題解決につながる考察をすることができる。
オフィスアワー	水曜5限　1808研究室
学生へのメッセージ	食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集して、視野を広げていって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食文化論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤　有紀	指定なし

ナンバリング	G33201C21
授業概要(教育目的)	日本の食文化において重要ないくつかのテーマに焦点を当て、身近な話題を手がかりに現代の状況を把握する。同時に、その食文化がどのように形成され発展してきたかを遡り、自然環境、社会環境などの面から概観する。これらの学習を通して、私達を取り巻く食文化の現在、未来について考え、食生活上の問題点や課題の発見につながる思考態度を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の関心が高いテーマについて、食文化的な面からみた現在の日本における概況とそこに至る歴史的変遷を簡単に説明できる。
思考・判断の観点（K）	上記の知識・理解にもとづき将来の方向性やあり方について意見を述べることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、食文化の定義	授業概要の説明、食文化の定義、食文化を学ぶ意義を考える。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第2回	日本の食文化	日本の食文化の全体的な特徴を学ぶ	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第3回	飯を中心とした食事１	現在の食事における飯の位置づけや飯が主食とされるようになるまでの歴史的変遷などを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第4回	飯を中心とした食事２	現在の食事における飯の位置づけや飯が主食とされるようになるまでの歴史的変遷などを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第5回	パン食１	パン食が日本で定着していった過程や現在の状況などを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第6回	パン食２	パン食が日本で定着していった過程や現在の状況などを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第7回	魚食１	日本では魚食がどのように展開されてきたかを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分

第8回	魚食２	日本では魚食がどのように展開されてきたかを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第9回	肉食	日本では肉食がどのように展開されてきたかを学ぶ	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第10回	調味料	塩、砂糖、醤油を中心に調味料がどのように利用されてきたかを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第11回	外食	日本における外食文化の起こりと発展について学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第12回	調理器具・器	日本で発達した調理器具や器について学ぶ。	①配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。②試験に向け、全体の振り返りを行う。	①120分②240分
第13回	郷土料理１	郷土料理にはどのようなものがあるかおよび発達による分類を学ぶ。	①配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。②試験に向け、全体の振り返りを行う。	①120分②240分
第14回	郷土料理２	郷土料理継承の取り組みの実例について学ぶ。	①配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。②試験に向け、全体の振り返りを行う。	①120分②240分
第15回	まとめ	これまでの補足およびまとめを行う。	授業内で重要とした箇所を中心に総復習を行う。	300分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・課題（提出物）に対して、知識を問うものについてはGoogle Classroomに正解例を投稿する。 ・質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、メール（yukito@kasei-gakuin.ac.jp）またはGoogleClassromを通して行うこと。
評価方法	課題（提出物）と確認テストで評価を行う。課題は、授業内容のまとめや考察、意見を授業内で記入、提出するものとする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		
	確認テスト	○	○		

評価割合	課題（50%）定期試験（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。毎回資料を配布する。
参考図書	江原絢子，石川尚子編著『日本の食文化 「和食」の継承と食育』（2016），アイ・ケイコーポレーション 江原絢子編著『日本食の文化』（2021），アイ・ケイコーポレーション
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食文化的な視点から「質の高い生活」を把握し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、食生活、社会の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。
オフィスアワー	火３，４限
学生へのメッセージ	食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集し、問題や現象の背景にある人々の生活にも目を向けて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フードコーディネート論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤　有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養、食品の性質、食の安全性、調理科学などについて学んだことを基礎として、食生活におけるそれらの応用に必要な具体的事項を学ぶ。食に関する文化と歴史、テーブルウェア、メニュープランニング、食事マナーとサービス、テーブルコーディネートなどが中心となる。フードコーディネーターの実践については外部講師を招き、現場の仕事についての講義を通して学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食事の文化、食卓のコーディネート、サービスとマナー、メニュープランニング、食空間のコーディネート、フードサービスマネジメントの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	フードコーディネートとは	フードコーディネートの基本理念を学ぶ	教科書第1章の「フードコーディネートの基本理念」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第2回	食に関する文化と歴史	食のタブーや日本の食事の歴史などを学ぶ。	教科書第2章の「食事の文化」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第3回	食卓のコーディネート①	テーブルコーディネートの要点を学ぶ。	教科書第3章の「食卓のコーディネート」1を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第4回	食卓のコーディネート②	日本料理、中国料理、西洋料理の食卓のコーディネートを学ぶ。	教科書第3章の「食卓のコーディネート」2～4を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第5回	食卓のサービスとマナー①	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナーを学ぶ。	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分

第6回	食卓のサービスとマナー②	中国料理、西洋料理のサービスとマナー、パーティ、プロトコルについて学ぶ。	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」2～6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第7回	メニュープランニング①	メニュープランニングの要件を学ぶ。	教科書第5章の「メニュープランニング」1を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第8回	メニュープランニング②	料理様式とメニュー開発の基礎を学ぶ。	教科書第5章の「メニュープランニング」2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第9回	食空間のコーディネート	食空間（食事空間、キッチン）のコーディネートについて学ぶ。	教科書第6章の「食空間のコーディネート」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第10回	フードサービスマネジメント	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本を学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」1.2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第11回	フードサービスの起業	フードサービス（レストラン）の起業について学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」3を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第12回	投資計画、収支計画	投資計画、収支計画の作成、損益分岐点売上げ高について学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」4～6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第13回	食企画の実践コーディネート	食企画の流れ、必要なスキルについて学ぶ。	教科書第8章の「食企画の実践コーディネート」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第14回	食企画の実践現場	外部講師による特別授業。現場で活躍するフードコーディネーターから実際の仕事や仕事に臨む心構えを学ぶ。	講義内容をまとめる。講師が指定した内容についてレポートを書く。	300分
第15回	まとめ	全体の総括を行う。	これまでの授業内容を総復習しておく。	450分

学習計画注記	「食企画の実践現場」は、外部講師の都合により回目が変更になることがある。授業内で案内する。
学生へのフィードバック方法	課題はGoogleClassrom内で正解例を示すとともに必要に応じて授業内で解説を行う。質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、GoogleClassroomにコメントを送ること。
評価方法	授業のまとめとして課題を出す。課題と定期試験で評価を行う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○			
	定期試験	○			

評価割合	課題（50%）筆記試験（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	（公社）日本フードスペシャリスト協会編 『三訂 フードコーディネート論』 , 建帛社（978-4-7679-0440-5）
参考図書	授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】フードコーディネートによる物的、心的な満足が「質の高い生活」をもたらすことを理解できる。 【思考・判断】フードコーディネートの視点に立ち人々の食生活における改善点を自ら発見し、工夫すべき点を考察することができる。
オフィスアワー	火曜2限　1808研究室
学生へのメッセージ	・これまでに学んだ食品、栄養、調理などの知識をもとに、それらを実際の食生活に生かす際、食卓を楽しく豊かにするための事柄を学んでいきます。調理学実習を履修した人は、実習で学んだ献立構成、盛り付け、配膳などとも結びつけて理解してください。 ・教科書に沿って授業を進めますので、上記の教科書を準備して下さい。
教育等の取組み状況	

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	設計製図演習A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林　直弘	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G14201C22
授業概要(教育目的)	建築設計やインテリア設計など各種設計を行う基礎を学ぶことを目的としている。建築設計では図面による表現及び読み解きが必須な技術であるが、本授業では、図面を作成する技術を修得するために、線表現、図面間の関連性、基礎図（平面図、立面図、断面図、配置図）の作成を2種類（木造、鉄筋コンクリート造）の構造種別で出題する。また図面表現のみならず鉄筋コンクリート造では模型を作成し、理解を深めさせる。
履修条件	なし。なお、本演習の履修には、指定の製図道具が必要になります（学内で申し込み販売します）。１回の校外学習で交通費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築製図におけるルールを身に着けることができる。製図によって建築物そのものの構造が理解できる。
思考・判断の観点（K）	建築図面は建築物そのものの縮小ではなく記号の集積であること、他者に合理的に伝える方法であることが理解できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら魅力的な建築や空間について主張することが出来るようになり、図を描いて説明することができるようになる。
技術・表現の観点（A）	建築設計を進める上で基礎的技術である製図の技法を修得する。構造別の住宅を対象として図面の表現方法を修得する。各種図面、模型などの制作を通して、建築計画のプレゼンテーション手法を修得する。

学習計画

回数・授業テーマ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンスと製図基礎	建築製図の概要、授業の進め方の説明、必要な製図道具の説明を行います。	ガイダンスを受けて、履修について検討してください。	30分
第2回	課題１：線の練習／レタリング・文字の練習	基礎的な線の描画方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第3回	建築の成り立ち	建築物は木造や鉄筋コンクリート、鉄骨などで構造をつくり建ちます。その原理の一端を模型を作って体験します。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第4回	課題２：製図基礎／建築図面の表示記号	基本的な建築図面の表示記号について身につけます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第5回	課題３：木造住宅／配置図・平面	木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（前半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分

	図の表現方法			
第6回	課題３：木造住宅／配置図・平面図の表現方法	木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第7回	課題４：木造住宅／断面図・立面図の表現方法	木造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第8回	課題５：木造住宅／展開図の表現方法	木造住宅を理解し、展開図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第9回	課題６：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（前半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第10回	課題６：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第11回	課題７：鉄筋コンクリート造住宅／断面図・立面図の表現方法	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。（前半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第12回	課題７：鉄筋コンクリート造住宅／断面図・立面図の表現方法	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第13回	課題８：鉄筋コンクリート造住宅／展開図の表現方法	鉄筋コンクリート造住宅を理解し、展開図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第14回	鉄筋コンクリート造住宅／模型の作製　課題９	作成した図面を基に、立体的に確認するため、スチレンボードを使用し模型を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第15回	鉄筋コンクリート造住宅／模型の作製　課題９	作成した図面を基に、立体的に確認するため、スチレンボードを使用し模型を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（最終期限は１週間後）	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	演習中に作業の講評を実施する。
評価方法	講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに表記の通り評価します。厳密には図面の正確性、完成度をみます。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	各課題	○		○	○
	レポート		○	○	

評価割合	各課題を10点として評価し演習は正確性5点、完成度5点、レポートは思考判断5点、関心意欲態度5点とします。
使用教科書名(ISBN番号)	教科書については授業内で指示します。
参考図書	住宅雑誌など建築系雑誌　（雑誌の名称は授業内で提示します。）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現するために、建築製図に必要な基礎的な知識を習得する。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見して、設計製図の中で活かす工夫をする。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するために、建築製図として必要な表現方法を習得する。

オフィスアワー	授業終了後３０分程度(小林) 金曜日５時限目（青柳）
学生へのメッセージ	二級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わるさい必須の能力である。 手描きによる製図は建築設計の基本となる重要な技術です。住宅建築のトレースを通して、建築の基礎をしっかりと勉強してください。図面を読み解くことで様々な建物を見る楽しみを学びましょう。 　事前準備として、現在住んでいる家もしくは自分の部屋の間取りを描いてみましょう。また、気になる建物、気になる家具、好きな場所、好きな店を見つけてみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員はいずれも建築製図について実務経験が豊富であり、実践的な指導が出来る。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育	○	建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要性を認識する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	設計製図演習B		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林　直弘	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G14202C22
授業概要(教育目的)	本授業は、建物を立体的に把握する事を目的とします。立体表現の基礎を学び、部屋ごと寸法や納まりを確認し、パースを作成します。また設計を自由な発想で行うことが重要であるため、間取りや空間の理解、図面による表現、透視図の作成方法、設計に対するプレゼンテーション手法を学ぶ。
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Ａの単位取得済であることを条件とします。１回の校外学習で交通費、入場料負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	木造住宅の設計製図手法を修得できる。立体表現図法を修得できる。部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握できる。設計手法の進め方を理解できる。
思考・判断の観点（K）	部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	・立体表現図法を修得することができる。 ・建築計画のプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、矩計図課題１	設計製図演習Aを振り返り、矩計図を作成します。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第2回	ガイダンス、矩計図課題１	設計製図演習Aを振り返り、矩計図を作成します。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第3回	和室のパースと着彩課題２	木造住宅を中心として本学茶室を利用し、立体視した図面を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第4回	和室のパースと着彩課題２	木造住宅を中心として本学茶室を利用し、立体視した図面を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも作業を進めてください。	90分
第5回	和室のパースと着彩課題２	木造住宅を中心として本学茶室を利用し、立体視した図面を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも作業を進めてください。	90分
第6回	見学会（江戸東京たてもの園：前	建築の歴史を理解し、住宅の展開を実物を通して見学する。また空間は実体験にしか理解できないので体験を通して空間理解を促す。前川國男邸の見学会を行います。	予習：訪問する江戸東京たてもの園を調べ、どのような建物があるか確認しましょう。	90分

	川國男邸など）			
第7回	一点透視図法の仕組み 課題3	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法を描き始めます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第8回	一点透視図法の作図１ 課題3	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法の作図を行います。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第9回	一点透視図法の作図１ 課題3	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法の作図を行います。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第10回	一点透視図法の着彩 課題3	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法の着彩を行います。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第11回	建築細部の知識と設計（類例の調査とコンセプトの検討）　課題4	建築の基礎となる小住宅（２人暮らしの小さな住まい）の設計を演習形式で実施する。住宅の多様性を理解するため、類例から設計手法を読み解き、各自の設計コンセプトを作成する。	予習：類例となる建築作品を建築系雑誌から任意に選定し、その設計意図を読み解く。 必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第12回	建築細部の知識と設計（エスキース）　課題4	各自で作成したコンセプトを基にした設計図を、講師に説明し、エスキースを実施する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第13回	建築細部の知識と設計（平面図、断面図、立面図の作成）　課題4	各自で作成したエスキースをもとに基本図を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	９０分
第14回	建築細部の知識と設計（プレゼンテーション資料の作成）　課題4	設計した住宅を他者へ理解を促すためのプレゼンテーション資料を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	９０分
第15回	建築細部の知識と設計（プレゼンテーション）　課題4	設計した住宅を他者へ説明し、魅力をよりよく伝えることに努める、また聴収する学生は他学生の設計を図面から批判的に評価する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中の作業及びプレゼンテーションに対する講評を実施する。
評価方法	講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに表記の通り評価します。厳密には図面の正確性、完成度をみます。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題１～3	○	○		○
	課題4	○	○	○	○
	レポート		○	○	

評価割合	課題１～3を20点とし演習は正確性10点、完成度10点、課題4は（K）10点（v）10点、（A）10点とする。見学会レポートは思考判断5点、関心意欲5点とする。
使用教科書名(ISBN番号)	なし。※適宜、参考資料プリントを配布する。
参考図書	住宅雑誌など建築系雑誌　（雑誌の名称は授業内で提示します。）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現するために、建築製図に必要な基礎的な知識を習得する。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見して、設計製図の中で活かす工夫をする。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するために、建築製図として必要な表現方法を習得する。
オフィスアワー	授業終了後３０分程度（小林） 青柳（金曜５限　1808ゼミ室）
学生へのメッセージ	二級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わる際に必須の能力である。 立体表現の基礎となる一点透視図法や二点透視図法は、その建物の良さをプレゼンテーションする方法として有用です。建築設計やインテリア設計など様々な場で必要となる技術ですので、頑張って勉強しましょう。

	前期では、建築を見る基礎を学んでもらいました。気になる建物を見つけ、なぜ気になるのか考えてみて下さい。また、前期の復習はしっかりと行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも建築製図における実務経験が豊富である。従って実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育	○	建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要さ認識
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	設計製図演習C		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柿本　美樹枝	指定なし
教授	大橋　竜太	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G24203C22
授業概要(教育目的)	設計製図演習AおよびBで学んだ基礎知識と手法を活かし、小規模な住宅の設計２課題に取り組みます。身近な生活を想定し、図面に表現することで、ものを作り上げる喜びを感じながら、技術の上達も目指します。 第一課題「コンクリート壁式構造の小住宅」 決まったブロックの組み合わせにより、住宅を設計する手法を学ぶ。 第二課題「三世代家族の家」 第一課題で学んだ立体にする力を活かし、与えられた敷地に、自由な発想で一戸建て住宅の設計を行う。
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Ｂの単位取得済を条件とします。 「インテリア計画」を同時に履修すること。 また、１回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	独立住宅の設計に必要な空間概念および機能について説明できる。またプロの住宅作品からデザイン手法を抽出できる。
思考・判断の観点（K）	独立住宅についての設計方法、居住する家族とそこに求められる機能、敷地周辺環境との調和について理解した上で、自らの考えを住宅を通して提案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代の最先端の住宅デザインに関心を持ち、資料収集ができる。
技術・表現の観点（A）	建築の基本図面の作成、模型が制作でき、それに基づいて自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 第1課題 小住宅設計 課題の説明	まず授業の方針を説明します。そして第1課題「コンクリート壁式構造の小住宅」の説明を行います。	第1課題をよく読んで理解してきてください。3m×４m×３mの１／１００ブロック模型をスチレンボードで４つ作成し３回目の授業に持参する。	90分
第2回	課題敷地の周辺状況把握	地図上で周辺環境を把握し、近隣の状況を確認した上で、敷地図を作成する。	地図上で得た情報を描き込み、敷地図を清書してきてください。また、図書館を利用し実例研究をしてきてください。	90分
第3回	エスキース	ブロックの構成ゾーニング	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第4回	基本図作成	平面図、断面図、立面図のエスキースを行います。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分

第5回	基本図面の製図	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	授業時間内で間に合わなかった部分は完成させてきてください。	90分
第6回	模型制作	ブロック模型の制作を行います。	授業時間に間に合わなかった部分は完成させて来てください。	90分
第7回	図面の提出	図面を提出してもらいます。レイアウト等を指導しますので、さらにブラッシュアップをしてください。	指導に従って図面をブラッシュアップしてください。	90分
第8回	講評会（プレゼンテーション）、第２課題説明	第１課題を発表してもらいます。また第２課題「三世代家族の家」の説明を行います。	発表の準備をしてください。教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第9回	敷地見学（状況に応じて変更となる可能性があります）	第2課題の敷地を見学します。（状況に応じてグーグルマップ等での確認となる場合があります）	敷地を見学した上でエスキースを始めてください。	90分
第10回	基本図面の製図１	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	教室外においても製図を進めてください。	90分
第11回	基本図面の製図２	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	教室外においても製図を進めてください。	90分
第12回	基本図面の製図３	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	授業時間内に間に合わなかった場合は完成させて来てください。	90分
第13回	模型制作	模型の制作を行います。	授業時間内に間に合わなかった場合は教室外においても作業を進めてください。	90分
第14回	模型の提出	模型を完成させ提出します。ブラッシュアップを求める場合があります。	指導に従って模型をブラッシュアップしてきてください。	90分
第15回	図面の提出	図面を完成させ提出していただきます。場合によりブラッシュアップを求めます。	指導があった場合はブラッシュアップしてきてください。	90分
第16回	ポスターセッション（作品発表会）	指導教員や他の学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。但し、コロナウイルス対策としてオンライン方式となる場合がある。	口頭発表で何を伝えるかを整理してきてください。ポスターセッションは試験に準じますので充分な準備をしてきてください。	

学生へのフィードバック方法	演習方式で行い、住宅設計の課題が２件出される。敷地見学、エスキース、作図、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式（オンライン方式となる場合がある）で採点および講評が行われる。
評価方法	講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	模型	○	○	○	○
	図面	○	○	○	○
	口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	平常点２０%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）８０%とする。
参考図書	新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活･社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。
オフィスアワー	金曜日５時限目（青柳）
学生へのメッセージ	設計とは、与えられた条件の中で、一定の作図ルールに従いながらも、 自由な発想で、自分の意図するところを表現することです。 発想力、思考力、技術力を鍛えながら、暮らしのデザインにチャレンジしましょう。 そして、自分の感性、自分なりの価値観による「解＝こたえ」を見つけ、それをかたちにする達成感を味わいましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	設計製図演習D		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柳沢　伸也	指定なし
教授	大橋　竜太	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G24204C22
授業概要(教育目的)	第1課題「長く住み継がれる１００年住宅を考える：可変性を考慮して設計する」 第２課題「コミュニティ・カフェ：地域のよりどころを設計する」
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Ｃの単位取得済を条件とします。 「インテリア設計論」を同時に履修すること。 また、模型材料、道具等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	木造、鉄筋コンクリート造とした構法別の住宅の設計に必要な知識について理解できる。またプロの住宅作品からデザイン手法を抽出できる。
思考・判断の観点（K）	現代の生活に発生する問題を抽出でき、それを解決できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代の最先端の住宅デザインに関心を持ち、資料収集ができる。
技術・表現の観点（A）	建築のプレゼンテーションに必要な図面、模型を作成でき、それに基づいて自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	第1課題敷地の提示・設計諸元説明	第１課題「長く住み継がれる１００年住宅を考える」について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。	90分
第2回	エスキース１	構想に沿って、平面図、断面図のエスキースを進めます。	教室外でもエスキースを進めて下さい。	90分
第3回	エスキース２・模型制作	立面図までのエスキースを完成させ、模型制作に入ります。	エスキースを完成させてください。	90分
第4回	模型制作	指導に従って模型制作を続けます。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第5回	模型提出、図面清書	授業初めに完成模型を提出していただきます。必要があればブラッシュアップの指導を行います。同時に図面の清書を始めます。	次週までに図面を完成させてください。	180分
第6回	レイアウト図面提出	授業時間内にA2レイアウト図面を提出します。ブラッシュアップの指導を受けてください。	次週までにA2レイアウト図面をコピー仕上げにして、着彩して	90分

			模型図面を添付、プレゼンテーションの準備をしてください。	
第7回	第1課題プレゼンテーション図面の提出（A2着彩・模型写真貼付）	第1課題プレゼンテーション図面の提出（A2着彩・模型写真貼付）をしていただきます。１次採点を行い、ブラッシュアップの指導を行います。	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。	90分
第8回	第１課題ポスターセッション（作品講評会）	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。但し、コロナウイルス対策としてオンライン方式となる場合がある。	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。	30分
第9回	第2課題敷地の提示・設計諸元説明	第２課題「コミュニティ・カフェ」について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。	90分
第10回	エスキース２	断面図・立面図までのエスキースを完成させます。	教室外でもエスキースを進めて下さい。	90分
第11回	エスキース３・模型製作	立面図までのエスキースを完成させ、模型製作に入ります。	エスキースを完成させてください。	90分
第12回	模型製作	指導に従って模型製作を続けます。	次週までに模型を完成させてください。	９0分
第13回	模型提出、図面清書	授業初めに完成模型を提出していただきます。必要があればブラッシュアップの指導を行います。同時に図面の清書を始めます。	次週までに図面を完成させてください。	180分
第14回	レイアウト図面提出	授業時間内にA2レイアウト図面を提出します。ブラッシュアップの指導を受けてください。	次週までにA2レイアウト図面をコピー仕上げにし。着彩して模型写真を添付、プレゼンテーションの準備をしてください。	180分
第15回	第2課題プレゼンテーション図面の提出（A2着彩・模型写真貼付）	第2課題プレゼンテーション図面の提出（A2着彩・模型写真貼付）をしていただきます。１次採点を行い、ブラッシュアップの指導を行います。	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。	９0分
第16回	第2課題ポスターセッション（作品講評会）	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。但し、コロナウイルス対策としてオンライン方式となる場合がある。	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。	30分

学生へのフィードバック方法	演習方式で行い、前後半で住宅設計の課題が２件出される。それぞれ敷地見学、エスキース、作図、コピー製版、着彩、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式（オンライン方式となる場合がある）で採点および講評が行われる。 なお本演習は、二級建築士及びインテリアプランナー受験資格取得の指定科目である。
評価方法	講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
図面	○	○	○	○
模型	○	○	○	○
口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合	平常点２０%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）８０%とする。
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて授業内で指示します。
参考図書	新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活･社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。
オフィスアワー	授業後30分程度 金曜日の5限（青柳）
学生へのメッセージ	実際の建築の設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を創造してゆく」ことになります。授業では、実際の敷地を想定して、より具体的な「設計演習」を実施します。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	現代家政演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし
教授	現代家政学科　教員	指定なし

ナンバリング	G11001C12
授業概要(教育目的)	現代家政学科は、学生の興味や進むべき進路を見据えて、「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の各領域を横断的に学べることを特徴としている。この授業では、各領域での学びへの理解，教員や他の学生との対話，演習などを通して、現代家政領域における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代家政学科の「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の4領域における学びの特徴を理解し、今後4年間を通して学ぶ為の基本的な知識を得る。
思考・判断の観点（K）	現代の生活は「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の各領域が有機的に関連して成立しているという思考を持つことが出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代家政の領域における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点（A）	現代家政学科で学ぶ目標を考え、指示された形式でレポートを作成することが出来る。 現代家政学科4領域の学びの中から、最も関心を持った事象についてポスター形式で発表することが出来る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	大学での学びを考えよう１	現代家政学科の「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の4領域における学びの紹介とカリキュラムの説明を聞き、現代の生活は各領域が有機的に関連して成立していることを知る。	学生便覧，シラバスによる授業概要を確認する。資格科目についての履修条件などを確認する。自分の将来の目標を書き留める。	90分
第2回	大学での学びを考えよう２	現代家政学科で４年間学ぶ目標を考えるために、「自分の過去を振り返り、大学で何を学び、どのような将来を希望するか」についてのレポートを作成する。レポートの提出にはGoogleClassroomを使用するので、その使用方法についても理解する。	自分の将来の希望を再確認し、その実現のために現代家政学科の４領域でどのように学ぶのかを考えてまとめる。レポートは、指示された形式や手順を守って作成し提出する。	90分
第3回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み１（食生活領域）	「食生活」領域の学びの特徴と家政学、現代生活との関連を説明する。 食生活の中での食品の嗜好性の重要性について理解する（三宅） 調理と文化の関連性や学ぶ意義を理解する（伊藤）	配布資料等を参考にしながら内容をまとめ、食生活領域の学びについて理解を深める。（三宅、伊藤）	90分
第4回	領域別の学びの特徴の理解と課題	近年注目されている食品の機能性と調理・加工との関係や食品の機能性に関する法律などを切り口として食生活領域の学びについて理解する(竹中)	配布資料等を参考にしながら内容をまとめ、食生活領域の学びについて理解を深める（竹中）	90分

	への取り組み２（食生活領域・ファッション領域）	「ファッション」領域の学びの特徴と家政学、現代生活との関連を説明する。 身近な話題として入学式でも着用する人が多いリクルートスーツを例に、社会の動向とファッションの関りについて学ぶ（山村）	講義内容に関連するファッションキーワードについて書籍、インターネットを用いて調べる（山村）	
第5回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み３（ファッション領域）	トレンドのつくられ方を学ぶために、まず流行色について概説し、ファッション情報の流れを理解する（井澤） 身近な和服である浴衣と振袖を例にして和装のコーディネートの考え方と目的別の着こなしについて学ぶ（太田）	講義内容に関連するファッションキーワードについて書籍、インターネットを用いて調べる。（井澤、太田）	90分
第6回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み４（ハウジング領域）	「ハウジング」領域の学びの特徴と現代生活との関連性を説明する。 歴史的な建築物の保存を例として、建築物と生活や文化との関連性について理解する（大橋） フードマイレージを例として、本学科で学ぶ「ハウジング」を「住空間」とだけでなく地球全体も含む「環境」としてとらえることを理解する（沼波）	「文化財建造物にはどのようなものがあるか」、「建物の構造にはどのようなものがあるか」、「生活に関わる環境問題にはどのようなものがあるか」をインターネットを用いて調べ、各々その内のひとつについて特徴をまとめる。（大橋、沼波）	90分
第7回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み５（ハウジング領域）	建物が建つ仕組みを実際の建物を見ながら学ぶ（青柳） 住まいの基本的な性能である健康性について、評価ツールを使って解説する（椛田）	建物の構造にはどのようなものがあるかをインターネットを用いて調べ、各々その内のひとつについて特徴をまとめる（青柳） 「あなたの住まいの不都合な点」を探し、その解決方法を文献等で調べる（椛田）	90分
第8回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み６（総合家政領域）	「総合家政」領域の学びの特徴と家政学、現代生活との関連を説明する。 考えるとは何か？まず初めに、江戸時代におけるエコから「考える」とは何かを考える（上村） 消費生活の現状と課題を理解し、消費者教育のニーズを理解する（小野(由)）	知識として知っていることではなく、「考える」とは何かを自分なりに考えておくこと（上村） 若者の消費者トラブルについて調べ、問題の未然防止に役立つ方法を考える（小野(由)）	90分
第9回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み７（総合家政領域）	ライフコースの多様化と家族・家庭生活の変化を解説し、これからの家族関係について考える（井上） 生活文化を反映した風景やそれを活かした観光地化、地域活性化について、世界遺産・飛騨白川郷を事例に学ぶ（加藤）	事前学習として、インターネット（ブログやSNSを含む）や映画、小説、アニメなどから自分の理想と考える家族像を探して、その特徴をまとめること（井上） 事前学習として、ガイドブックや観光用サイトで観光地としての白川郷がどのような場所なのか（観光スポットや食事、土産物等）、調べておく（加藤）	90分
第10回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み8（総合家政領域）	グループワークの基本を理解し、活用法を考える（木村） オリーブオイルが人々の生活に深く関わっていたことを、日本人旅行者をつうじて疑似体験し、南イタリアの人々の生活に触れる（大嶋）	事前学習として、自分が経験してきたグループワークを考える。事後学習として、グループワークの自分なりの活用法を考える（木村） オリーブオイルは現在の日本ではどのような価値を持っているか調査すること。また、自分はオリーブオイルをどのように使ったことがあるかレポートすること（大嶋）	90分
第11回	領域別学びの特徴の理解と課題への取り組み9（総合家政領域）	生活文化の変化が日本語に与えた影響を分析し、ことばと文化のつながりを理解する（内田） Mark introduces some cultural ideas from different countries, and how to travel in these countries using English. （ルイス）	明治時代から現代にかけ、日本人の衣服がどのように変化してきたかを調べ、考えておく（内田） Look on a world map. Can you find Cabo San Lucas, Ukraine, Xian, and Istanbul? Which country mentioned by Mark in class would you most like to visit?（ルイス）	90分
第12回	領域別学びの特徴の理解と課題への取り組み10（総合家政領域）	現在の生活、特に、大学生活において「考える」とは何かを考える（金森） 「子どもの権利」の特徴を考える（小野(方)）	大学4年間で何を考え行動するのか。事前に大学進学率、大学不要論、大学生活などをネットなどで調べておくこと（金森） 憲法で保障される基本的人権を踏まえながらも、では「子どもの権利」にはどのような特徴があるのだろうか。これを考え、まとめる。（小野(方)）	90分
第13回	大学を知ろう	学園祭での生活に関わる展示やイベントを見学することにより、大学での学びの発展性について考える。さらに多くの人々に伝える方法について学ぶ。見学した後に見学レポートを作成する。	大学での学びや活動を多くの人々に伝える場としての視点で本学の学園祭（ローズ祭）の見学を行い、レポートを作成する。	90分
第14回	問題の発見や関心の深まりを考える	これまでの授業の振り返りを行う。また、4領域の中で最も興味を持った事象や問題の新たな発見、興味・関心を持てる事象についてまとめ、レポートを作成する。	10回の領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みを整理し、今後学びたいこと、将来にむけて4年間の大学生活で何を	90分

			するかをまとめる。１回目のレポートに対する教員からのコメントも参考にして、再度レポートを作成し提出する。２回目もGoogleClassroomを使用して提出する。	
第15回	「学び」の理解をまとめる	発表用のパワーポイントを作成する。現代家政学科4領域の学びの中で最も関心を持った事象について、先に提出したレポート内容も踏まえ、ポスターを作成する。ポスターはパワーポイントで作成するので、その使用方法についても理解する。なお、定期試験期間中に発表会を行う。	２回目のレポートをまとめた内容のポスターを作成するので、要点をまとめておく。パワーポイントの使用方法の不明点があれば質問し、解決すること。ポスター形式の発表の注意事項を確認し、作成する。	90分

学習計画注記	授業内容の一部や授業の順番は、担当教員の都合等によって変更になる場合がある。 ローズ祭は6月19日（日）に実施されるので、予定しておくこと。
学生へのフィードバック方法	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みでのコメントシート等については、振り返りの中で解説する。 ２回のレポート課題については、教員からのコメントをGoogleClassroomに入力する。
評価方法	・平常点は、領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みの各担当教員が授業内にコメントシート等を課し、理解状況や指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。 ・レポート課題は、指示された内容に沿って書かれているか、また、指示された形式や手順通りに作成・提出されているかを評価する。指示された形式や手順を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。 ・ポスター形式の発表は、最も関心を持った事象について、自分の考えを端的にまとめられているか、それを多くの人に伝えるための工夫がされているかを評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	レポート課題	○	○	○	○
	ポスター形式の発表	○	○	○	○

評価割合	平常点（領域別の学びの理解状況や課題への取り組み）60%、課題（レポート課題、ポスター発表）40%
使用教科書名(ISBN番号)	プリント等を配布する予定。 ただし、配布の形態はデジタルファイルをGoogleCalssroomにおいて配信とすることもある。
参考図書	適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	第1回に配付する資料に教員別のオフィスアワーを掲載する。
学生へのメッセージ	受講前に「大学に入学した目的」「将来の目標や夢」などについて考えをまとめておくこと。また、1年前期に履修したい科目についても考えておくこと。 「現代家政演習」に関する不明な点は、授業については各領域の教員、全般については１年担任の先生、もしくは正地先生（1802室）に問い合わせること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	ポスター形式での発表を行う。
ICT活用	○	GoogleClassroomを使用してレポート課題提出とコメント返却を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会調査法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G22310C21
授業概要(教育目的)	社会調査とは社会事象を観察して分析する過程であり、様々な目的や種類、方法がある。まずは、政府統計などを用いたデータの読み取り方を解説する。次に、量的・質的調査のプロセスである「構想・計画」「準備」「実査」「データ入力と点検」「分析」「報告」「データの管理」について学習する。なかでも、調査票を作成する際に求められる適切な質問や選択肢の設定、調査結果の記述やグラフ化について詳説する。この授業では社会調査に関わる企画、実施、結果報告といった一連の流れについて、その知識と技術を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会調査に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点（K）	社会調査について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 社会調査とは何か	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を知る。 社会調査の意義と目的を理解する。	総務省統計局の情報をインターネットで閲覧し、生活に関わる社会調査について考える。 テキスト第1章の内容をまとめる。	120分
第2回	社会調査の種類：量的調査と質的調査 社会調査のプロセス	社会調査の種類について、量的調査と質的調査それぞれの特徴を知る。 社会調査の全体像を把握して、各プロセスについて理解する。	テキスト第2章と第3章の内容をまとめる。	120分
第3回	社会調査のデザインと実査の方法	因果分析を念頭にした社会調査のデザインを検討する。 どのようなデータ取集法があるか理解する。	テキスト第4章と第5章の内容をまとめる。	120分
第4回	調査票の作成	質問の作成からレイアウトまで、その手順を学ぶ。	テキスト第6章の内容をまとめる。	120分
第5回	サンプリング	対象者をどのように選び方を学習する。	テキスト第7章の内容をまとめる。	120分
第6回	調査の実施	郵送法、個別面接法、インターネット調査などの調査実施について学習する。	テキスト第8章の内容をまとめる。	120分
第7回	データの電	データの構造化の流れ、コードの付け方などを理解す	テキスト第9章の内容をまとめ	120分

	子ファイル化	る。	る。	
第8回	調査の実施	データの収集と分析方法について理解し、調査票を作成する。 完成した調査票を使用して、調査を実施する。	調査協力者を想定しながら、調査票のレイアウト、ワーディングなどを工夫する。	120分
第9回	データの集計 調査報告とデータの管理	データの集計方法を知り、実施する。 調査結果のとりまとめをする。	テキスト第10章と第13章の内容をまとめる。	120分
第10回	内容分析（１）	さまざまな内容分析の種類と手法を理解する。 質的データ分析ソフトを使用して、分析方法を理解する。	分析の手順を確認する。	120分
第11回	内容分析（２）	質的データ分析ソフトを使用した様々な分析方法を試行する。	分析した手順を確認する。	120分
第12回	統計的推測	理論的に推測するために、標本抽出分布、標準誤差などを理解する。	テキスト第11章の内容をまとめる。	120分
第13回	変数間の関連	変数の種類と分析方法を理解する。 散布図の作成と相関係数、クロス表を作成する。	テキスト第12章の内容をまとめる。	120分
第14回	社会調査の意義と今日的課題	社会調査に関わる現状や論点について理解する。	テキスト第14章の内容をまとめる。	120分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	これまで学習した内容の振り返りを行い、学習到達度を確認するためのテストを実施する。	授業全体の振り返りをする。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	受講状況・学習態度			○	
	提出物	○	○		○
	定期試験	○	○		

評価割合	受講状況・学習態度（10%）、提出物（60%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法〔第4版〕：２ステップで基礎から学ぶ』法律文化社、2021年（9784589041418）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【前期】水曜日　1701ゼミ室　12：30～14：30
学生へのメッセージ	関連する教材などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、社会調査の能力の育成を図る
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食物学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅　紀子	指定なし

ナンバリング	G13101C21
授業概要(教育目的)	人が健康に生活するため、食生活は重要であるばかりでなく、社会的、文化的な面からも様々な機能を果たしている。中学校・高等学校の家庭科の教員として食物学分野の教育を担当するために必要な食生活に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を実行できる力を養うことを目標とする。食と栄養、食品の機能、食品と調理・加工などを中心に、総合的に食物学について講義する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1．栄養素の生体内での働きを説明できる。 2．各種食品に含まれる食品成分の機能性や調理・加工における変化を説明できる。
思考・判断の観点（K）	1．よりよい食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	1．現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

食物学概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	はじめに	食の主な機能を理解し、健康面からの「食べる」ことの意味(外部から物質を取り入れること）を理解する。現代の私たちの食生活における問題点を考える。	教科書第1章「食物とは」「人と食物」(1～3ページ、9～16ページ）第2章の「食と健康」（17～20ページ）を読んでおくこと。	120分
第2回	食と健康、栄養素の種類と消化吸収	生活習慣病と食生活との関わりを理解する。栄養素の種類と働きを理解し、食物を摂取した際の各栄養素の消化と吸収について理解する。	教科書第2章の「生活習慣病と食生活」「栄養素の種類と消化吸収（20～27ページ）を読んでおくこと。	120分
第3回	栄養素の機能（炭水化物）	炭水化物(特に糖質）に関して、単糖、少糖、多糖類の化学構造、特徴、主な供給源を理解し、エネルギー代謝と血糖値維持について理解する。	教科書第2章の「炭水化物」（27～31ページ）を読んでおくこと。	120分
第4回	栄養素の機能（脂質）	脂質(特に中性脂肪）に関して、その化学構造、脂肪酸の種類と特徴を理解する。さらに、脂質の働き、脂質摂取における量と質について理解する	教科書第2章の「脂質」（30～33ページ）を読んでおくこと。	120分
第5回	栄養素の機能（タンパク質）	タンパク質に関して、その化学構造、働き、主な供給源を理解する。また、タンパク質の栄養的な質と食生活との関連について理解する。	教科書第2章の「タンパク質」（34～37ページ）を読んでおくこと。 三大栄養素（2から5回の授業内容）について復習しておくこと。	240分

第6回	栄養素の機能（ビタミン、ミネラル）	微量栄養素であるビタミン、ミネラルの種類、働き、供給源を理解し、主なビタミンやミネラルの欠乏症、過剰症などの健康との関わりを理解する。	教科書第2章の「ビタミン」「ミネラル」（37～43ページ）を読んでおくこと。	120分
第7回	食品中のその他の成分の機能、食生活の設計	水分の生体内での働きと出納、水分摂取の重要性を理解する。栄養バランスのよい食生活を送ることができるように、日本人の食事摂取基準、食品成分表について理解する。	教科書第2章の「食品中のその他の成分（水）」「食生活の設計」（44～46ページ、51～57ページ）を読んでおくこと。次回授業の最初に、2～7の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第8回	植物性食品の調理・加工（穀類）	主食となる、米、小麦に含まれる主な成分と、調理・加工における成分の変化について理解する。	教科書第3章の「植物性食品ー米、小麦ー」（64～75ページ）を読んでおくこと。	120分
第9回	植物性食品の調理・加工（いも類、豆類）	いも類、豆類の種類と特徴を学び、いも類、豆類に含まれる主な成分、調理・加工における成分の変化、さらに加工食品について理解する。	教科書第3章の「植物性食品ーいも類、豆ー」（76～81ページ）を読んでおくこと。	120分
第10回	植物性食品の調理・加工（野菜類）	野菜類の種類と特徴を学び、野菜類に含まれる主な成分、調理・加工における色素等成分の変化について理解する。	教科書第3章の「植物性食品ー野菜ー」（81～87ページ）を読んでおくこと。	120分
第11回	植物性食品の調理・加工（海藻類、果物類、きのこ類）	海藻類、果実類、きのこ類の種類と特徴を学び、海藻類、果実類、きのこ類に含まれる主な成分、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「植物性食品ー海藻、果物、きのこー」（88～95ページ）を読んでおくこと。次回授業の最初に、8～11の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第12回	動物性食品の調理・加工（肉類、魚介類）	肉類、魚介類の種類と特徴を学び、肉類、魚介類に含まれる主な成分、、鮮度判定法、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「動物性食品ー肉、魚ー」（95～107ページ）を読んでおくこと。	120分
第13回	動物性食品の調理・加工（卵類）	卵類の特徴、主な成分、鮮度判定法について学び、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「動物性食品ー卵ー」（107～115ページ）を読んでおくこと。	120分
第14回	動物性食品の調理・加工（乳類）、その他の食品の調理・加工（甘味料）	乳類の特徴、主な成分について学び、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。甘味料の種類と特徴、調理性について理解する。	教科書第3章の「動物性食品ー乳類ー」（116～124ページ）「その他の食品」（125～128ページ）を読んでおくこと。	120分
第15回	その他の食品の調理・加工（調味料、油脂等、ゲル化剤、嗜好飲料等）、まとめ	調味料、油脂類、ゲル化剤の種類と特徴、調理性について理解する。茶、コーヒーなどの嗜好飲料の特徴と製造法を理解する。	教科書第3章「その他の食品」（128～144ページ）を読んでおくこと。 定期試験に向けて、これまでの授業全体の総復習をしておくこと。	予習240分、 復習420分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業中に行う課題については、翌週に解答をまとめて紹介し、補足解説を行う。
評価方法	・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについての記述する問題である。 ・小テストは、3～5回の授業内容について、穴埋めを中心とした問題を出題する。 ・定期試験は、小テストの振返りも含めて、授業内容全体から、穴埋め、記述等の形式で出題する。 ・課題、小テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	小テスト	○			
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験60%　小テスト20%　課題20%
使用教科書名(ISBN番号)	食物学概論　第2版　／　藤原葉子　編著　／　光生館　（ISBN 978-4-332-04065-1）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。

	【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	金曜・1時限および昼休み　1609研究室 e-mail; miyake@san.kasei-gakuin.ac.jp
学生へのメッセージ	食物学の科学的な領域を学んでいくためには、基礎に化学、生物学が必要となる。高校で学んだことをきちんと復習しておいてください。また、食に関するニュースや話題には関心をもつようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食と社会		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G33305C21
授業概要(教育目的)	近・現代の食生活のあり方は変化し続けており、それに伴い食の安全や信頼などに関する様々な問題が次々に発生している。それらの問題の原因や背景を正しく理解し、食物の生産、流通、消費の各段階でそれぞれに関わる人たちがどのように問題に向き合っていかなければならないのか考えるとともに、それらの問題を正しくとらえ、解決できる力を習得することを目的としている。現代における食に関する様々な問題を具体的に取り上げながら、食と社会の関わりや消費者としてあるべき姿について解説する。
履修条件	特になし。 本科目は近隣大学との単位互換対象科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	近・現代において変化し続けている食生活のあり方と、それに伴い発生した様々な問題とその原因や解決策について説明できる。
思考・判断の観点（K）	食生活に関わる様々な問題を理解した上で、自身が消費者としてとるべき行動について適切に判断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

食と社会

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業全体について把握する。また、現代社会における食生活のあり方を考えるきっかけとして1990年代以降に頻発した「食の不祥事」に注目し、代表的な事例における原因や対策について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第2回	食品の生産から消費まで	現代における食品の生産から消費までの過程が非常に複雑化しているのと同時に縦割りの管理により互いの信頼関係が希薄になっている現状と、その改善策について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第3回	栄養素とそれ以外の食品成分	消費者が食に期待するものとして、栄養素の供給と栄養素以外の生体調節成分の供給に大別し、それらの適切なとらえ方について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第4回	食品添加物①	現代の食生活をつくるうえで欠かせない食品添加物について、日本食品添加物協会が発行している冊子を教材として、その位置付け、分類、表示、安全性の確保について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するもの	180分

			を見付けたら、要約し、記録しておくこと。	
第5回	食品添加物②	食品添加物は消費者によってなぜ良くないイメージを持たれているのか、食の歴史を振り返りながら考える。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第6回	食生活における健康志向	現代において見られる健康志向がいつ頃から高まり始めたのか、またそれに伴う混乱と政府による法整備、「健康」や「機能性」を表示することが認可された食品のカテゴリーについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第7回	食品の機能性とデータ栄養学	様々な食品の機能性が明らかになっているが、その効果をどうとらえていくか、データ栄養学の視点から学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第8回	食育と社会の関わり	日本において、第二次世界大戦後の食生活が大きく変化した中で食育の必要性が認識された背景と、食育基本法の概要、食育推進基本計画の策定や食育の取り組み、それらをまとめて公表している食育白書について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第9回	食の安全（１）	現代における食の安全への関心の高まりと、その背景にある食の安全を脅かす事件・事故、それを受けて整備された安全行政体制と安全行政の仕組みについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第10回	食の安全（２）	前時の学習を踏まえ、食の安全は必要不可欠であるが、安全＝ゼロリスクではないこと、食生活においては様々なリスクが存在するがその影響が十分に小さければ問題はないことを理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第11回	くらしの中の食情報（１）	情報化社会の現代において、特に人々の関心を引きやすい食情報の影響の大きさ、その極端な例としてのフードファディズム、確かな食情報の選択と日常生活における活用について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第12回	くらしの中の食情報（２）	健康志向の高まりを受けて制度が整えられた「保健機能食品」と、これに相対する「いわゆる健康食品」の関係について学ぶ。一方で健康を意識した個別の食品を摂ることに注力するのではなく、「バランスのとれた食生活」を送ることも重要であることについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第13回	特別授業「食品企業は消費者のニーズにどう応えるのか」	特別授業として、消費者が求めるもの（健康、品質、嗜好など）に企業がどのように応えるのか、そのためにどのような研究開発が行われているのかについての講義を聴講する。社会における食品企業・食品研究の在り方を知り、「食と社会」の授業の中で学んだことを踏まえて考察する。	授業後に、特別授業を受けて学んだことをノートにまとめておくこと。	180分
第14回	食品の表示と宣伝広告	食品表示法や保健機能食品の制度がある一方で、いわゆる健康食品などは、これらの法や規定に触れない方法で巧みな宣伝広告をしていることを理解し、消費者としての適切な判断について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでに学習した内容を振り返る。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。期末試験に向けて、これまでの学習内容を復習する。	180分

学習計画注記	授業の進行具合により、変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業時に課した課題について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。
評価方法	平常点および課題、定期試験により評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		
	定期試験	○			

評価割合	平常点および課題20%、定期試験80%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。

オフィスアワー	後期：火曜日3-4時限目
学生へのメッセージ	食品学や栄養学の基礎知識が役に立ちます。また、日ごろから新聞等で食関係の確かな情報に目を向けておくことをおすすめします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食生活演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし
助教	伊藤　有紀	指定なし

ナンバリング	G33302C12
授業概要(教育目的)	本科目は、現代社会における食生活の乱れ、食文化の衰退などの様々な問題について自ら調べたり、健康、時短などのコンセプトに沿った企業の製品開発に触れたりしながら、具体的にその解決法を考えグループごとに発表することを通して、問題を正しくとらえ解決する力、問題の原因から結果までをまとめて示す力を養うことを目的とする。また、受講者同士がそれぞれの発表に対して意見を出し、内容の改善を図りながら学習を進める。
履修条件	栄養学系、食品学系、調理学系の専門科目を履修していることが望ましい。 大学および見学先での実習のための材料費を1500円を徴収することを予定している。 校外特別授業（実施場所：茨城県つくば市内）を予定しており、交通費は自己負担となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人々の食生活をより豊かなものにするために必要な基本事項について説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	献立作成や産学連携の取り組みに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点（A）	食生活に関して養った実践力を今後の食生活に活かすことができる。

学習計画

食生活演習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業スケジュールを確認する。自身の食生活を振り返り、現代の食生活における諸問題を理解する。		0分
第2回	健全な食生活のための献立作成と調理（1）献立作成と栄養バランスについて	第2回～第8回の「健全な食生活のための献立作成と調理」について理解を深め、食事における栄養バランス、献立作成の基本、食事バランスガイドや栄養価計算などを用いた考え方を修得する。	授業後に、宿題として課された献立作成の課題に取り組むこと。	90分
第3回	健全な食生活のための献立作成と調理（2）計画、実習準備	提出された課題について教員からのコメントを受け、グループで献立を決定し、ブラッシュアップする。次時の調理のために必要な食材の品目と量をとりまとめる。	授業内で不足した準備等を補っておくこと。	45分
第4回	健全な食生活のための献立作成と	グループで決定した献立について、調理を行う。実際の調理と試食を通して、自分たちが作成した献立を評価し、改善点を見出す。 次週の調理に向けて、材料の準備を行う。	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。	45分

	調理（3）試作、評価			
第5回	健全な食生活のための献立作成と調理（4）本番調理	前時の調理を踏まえ、改善した献立・レシピに沿って調理を行う。	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。	45分
第6回	健全な食生活のための献立作成と調理（5）発表準備	第2回～第5回までの取り組みについて、グループごとに次週の発表で使用する資料を作成する。	授業内で不足した作業等を補っておくこと。	45分
第7回	健全な食生活のための献立作成と調理（6）グループ発表	第2回～第5回までの取り組みについて、グループごとにコンセプトやアピール点について発表し、他のグループの発表を聞いてコメントを述べたり質問したりして理解を深める。	グループ発表を聞いて、重要と思ったポイント等をまとめておくこと。	45分
第8回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（1）　レシピの考案に関わる特別授業	第8回～第15回の「テーマに沿ったレシピ開発と実践」について理解を深め、レシピ開発のノウハウについて学ぶ。 原木しいたけ栽培農家の方による校内特別授業を受講する。	宿題として課された、テーマに沿ったレシピ開発の課題に取り組む。	90分
第9回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（2）　計画、実習準備	個人が作成したレシピをグループごとに突き合わせ、グループで１つレシピを決定し、ブラッシュアップする。 次時の実習に向けた準備を行う。	授業内で不足した作業等を補っておくこと。	45分
第10回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（3）　試作・評価	グループで作成したレシピについて、調理を行う。実際の調理と試食を通してレシピを評価し、改善点を見出す。 次週の調理に向けて、材料の準備を行う。	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。	45分
第11回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（4）　本番調理	前時の調理を踏まえ、改善したレシピに沿って調理を行う。	授業後に調理実習の内容やポイントをまとめておくこと。	45分
第12回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（5）　発表準備	試作を重ねて完成したレシピについて、そのコンセプトやアピール点についてグループごとにまとめ、次時に発表するための資料を作成する。	授業内で不足した作業等を補っておくこと。	45分
第13回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（6）　グループ発表	試作を重ねて完成したレシピについて、コンセプトやアピール点について発表し、他のグループの発表を聞いてコメントを述べたり質問したりして理解を深める。	グループ発表を聞いて、重要と思ったポイント等をまとめておくこと。	45分
第14回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（7）　校外特別授業に振り替え-1	原木しいたけの栽培現場を見学し、学びを深める。	見学し学んだことをまとめる。	45分
第15回	テーマに沿ったレシピ開発と実践（8）　校外特別授業に振り替え-2	原木しいたけの栽培現場を見学し、学びを深める。	見学し学んだことをまとめる。	45分

学習計画注記	第14，15回は校外特別授業（7月16日（土））に振り替えます。
学生へのフィードバック方法	グループ作業に関しては、その都度教員からコメント・アドバイスを行います。
評価方法	グループ作業（課題に対するディスカッション、実習等）への参加態度を評価します。 個人で取り組む課題を3回程度、グループで取り組む課題を2回程度課します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	グループ作業における参加態度			○	
	提出された課題の内容	○			
	発表	○			○

評価割合	平常点（40%）、課題（30%）、発表（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	前期：月曜日昼休み時間～3限目（竹中）、水曜日5限目（伊藤）
学生へのメッセージ	グループでの作業（課題に対するディスカッション、実習等）を多く取り入れた授業です。食生活について自ら考え、意見を出し、実践する意欲をもって取り組んでください。 実習の材料費として、1500円を徴収する予定です。 7月16日（土）に校外特別授業（実施場所：茨城県つくば市内）を予定しており、交通費は自己負担となります（秋葉原から片道1300円程度）。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら献立やレシピを考え、グループメンバーと協力して目標達成に向けて学びを進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インテリアCAD演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G34207C22
授業概要(教育目的)	建築設計においてＣＡＤの基本操作を身に付けることを目的とし、建築製図法の基本を確認していただく。ソフトウェアはＶｅｃｔｏｒＷｏｒｋｓを使用し、基礎的操作から２次元図面作成、さらに３次元モデリングや写真を貼りこんだレイアウトなど、プレゼンテーション図面を適切に表現するための必要な知識と技法を教示し、それらを演習によって修得する。
履修条件	基礎的な建築製図力、立体把握力を必要とするため、設計製図演習Ａ～Ｄについて単位取得済であることを履修条件とする。ソフトウェアのライセンス数やパソコンの台数に限りがあるため、履修人数の制限と調整を行う場合がある。 対面授業と遠隔授業の併用実施に際し、各自にてパソコンの用意やソフトの購入（11,000円）が必要となる場合がある。その詳細については第１回目の授業で示す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築の図法および平面図、立面図、断面図の関連が説明できる。
思考・判断の観点（K）	立面（断面）図と平面図の相互関係を読み取り立体にすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	操作を多くこなし、作業スピードの高速化が達成できる。
技術・表現の観点（A）	他人を惹きつけるプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション・CADソフトの取り扱いかた	建築インテリア業界で使われているＣＡＤのソフトの現況や、授業で使用するソフト「ＶｅｃｔｏｒＷｏｒｋｓ」について概要を説明します。	設計製図演習ＣまたはＤでそれぞれが作成した課題をＣＡＤ描画するので、そのときの図面を準備してください。	45分
第2回	２次元（平面）CAD基本描画（１）線	最初に２次元（平面）CADの基本描画（操作画面の説明、線の引き方、座標の見方）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第3回	２次元CAD基本描画（２）図形	２次元（平面）CADの基本描画（図形の描画）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第4回	２次元CAD基本描画（３）住宅の平面図	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の平面図:建具）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返	90分

			しの操作練習を行ってください。	
第5回	２次元CAD基本描画（４）住宅の平面図	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の平面図：ハッチング）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第6回	２次元CAD基本描画（５）住宅の断面図	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の断面図）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第7回	２次元CAD基本描画（６）住宅の立面図	２次元（平面）CADの基本描画（住宅の立面図）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第8回	CADデータの扱い方（１）	CADで作成したデータについて出力方法（プリントアウト、PDF化）を身につけます。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第9回	３次元（立体）CAD基本描画（１）住宅の立体作成	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体作成）１回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第10回	３次元（立体）CAD基本描画（２）住宅の立体作成	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体作成）２回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第11回	３次元（立体）CAD基本描画（３）住宅の立体作成	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体作成：建具）３回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第12回	３次元（立体）CAD基本描画（４）テクスチャ	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体：テクスチャ）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第13回	３次元（立体）CAD基本描画（５）パース	３次元（立体）CADの基本描画（住宅の立体：カメラ）を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第14回	最終提出課題作成	CADで作成した立体データについて出力方法（イメージファイル化）を身につけます。 身に着けた技術を使って２次元及び３次元の最終提出課題を作成します。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	180分
第15回	プレゼンテーション	身に着けた技術を使って２次元及び３次元の最終提出課題を作成し、最後にデータを提出します。その上で皆の前で自分の作品のプレゼンテーションを行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間や自宅にて繰り返しの操作練習を行ってください。	45分

学習計画注記	担当教員が履修生全員の作業を見ながら演習を進めるため、履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	基本的に学内のパソコン室（遠隔授業時は自宅のパソコン）を利用する。テキストは無く、その場で全体または個別に指導を行い、技術を修得していく。
評価方法	毎回の課題進行状況（平常点）および提出課題によって、作図力、理解度、空間把握力などを総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出図面（プリントアウト）	○	○		○

	提出図面（データ）	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	基本図面：30%　３D図面：30%　最終プレゼンテーション図：30% 平常点：10%
使用教科書名(ISBN番号)	なし、必要な資料または操作方法の動画（YoutubeのURL）を配布します。
参考URL	http://www.aanda.co.jp/OASIS/index.html
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活･社会の諸問題を自ら発見し自主的に作業を進めることができる。 【技能・表現】履修で得た専門的技能をもって課題を論理的に分析し表現することで他者の理解を得る表現を身につけることができる。
オフィスアワー	金曜日５時限目
学生へのメッセージ	現代社会においてパソコンのスキルは必修になっています。これを機会に可能ならノートパソコン等を用意し、パソコンのスキルアップに努めてください。 　なお、授業で使用するＶｅｃｔｏｒＷｏｒｋｓは高価なソフトですが、インテリアＣＡＤ演習履修者に限り年間約11,000円でラインセンスを使用できる制度があり、自宅でも使用できます。 　テキストは無く、その場の指導で操作を覚えていく方式のため、遅刻や欠席への対応は難しいと考えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング	○	基本的な操作については伝えるが、自らの計画がよりわかりやすくビジュアルに他者に伝わるような工夫を積極的に行えるように指導を行う。
情報リテラシー教育	○	プレゼンテーション技法についても指導を行う。
ICT活用	○	ＣＡＤ自体がＩＣＴの一部となっているが、さらにインターネット上から造形素材をダウンロードして使用するなど、ＩＣＴを積極的に活用した授業となる。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築調査		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	G34307C22
授業概要(教育目的)	都市の歴史環境や伝統的な景観を保存・活用したまちづくりについて考える。健全な都市環境の形成にとって、その都市の景観や歩んできた歴史の尊重はきわめて重要である。わが国は、諸外国と比べ、遅れをとっていたが、昨今、これらを意識したまちづくりが各地で行われるようになった。こういったまちづくりに携わることができるように、それを実践するための制度等に関して学ぶとともに、先進的な事例を調査・検討しながら、明日のまちづくりを追求する。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築保存とまちづくりの実態を知る
思考・判断の観点（K）	建築保存とまちづくりの実態を知る制度を知る
関心・意欲・態度の観点（V）	理想のまちづくりを考える能力を身につける
技術・表現の観点（A）	自分の考えを他者に伝える（プレゼンテーション）能力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	建築・都市の個性とは何か？ まちづくりの現状を知る	自分の住んでいる町の都市計画についてインターネット等を利用して調べる	90分
第2回	建築・町並みの調べ方	文献調査、実測調査、聞き取り調査、その他の調査方法、文化財建造物の調査の方法（DVD）	インターネットで門司（福岡県）の現状を調べる	90分
第3回	東京の歴史的建造物	東京の文化財建造物の特徴、谷中のまちづくり（DVD）	見学会に向けて、見学先の興味がある建物の下調べをする	90分
第4回	見学会１	東京駅周辺の歴史的建造物を実際に見る 東京駅、旧東京中央郵便局、三菱一号館、明治生命観、日本工業倶楽部、等	調査結果をまとめる	90分
第5回	プレゼンテーション１	見学会１で見学した歴史的建造物からひとつ選び、レポート（A4レポート用紙３枚）を作成するとともに【課題１】、その内容を５分程度で発表する。また、同級生の発表に質疑を行う	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、レポートを完成させる	90分
第6回	諸外国の建築保存と歴史を活かしたまちづくり	建築保存の歴史、各国の文化財保護関連法、各国の都市計画関連法	わが国と諸外国の町の景観の違いを整理する	90分
第7回	わが国の建築保存とま	わが国の建築保存の歴史、文化財保護法、景観法、歴史町づくり法	重要伝統的建造物群保存地区からひとつ選び、その特徴をまと	90分

	ちづくり		める	
第8回	文化財建造物の保存	国宝・重要文化財、登録有形文化財、伝統的建造物群保存地区、文化的景観 上野清水堂の保存・修復（DVD）	江戸の都市計画についてまとめる	90分
第9回	文化財建造物の修復	保存修復の手順、保存修復の現場 大崎八幡神社の修復（DVD）	大崎八幡の修理のDVDを見た感想文をまとめる	90分
第10回	さまざまな建築保存	わが国の建築保存の実例、山形県庁舎の保存（DVD） 建築保存に携わる職人、薬師寺金堂（DVD）	宮大工について調べる	90分
第11回	復原を考える 歴史的建造物の防災	復原に関する議論、オーセンティシティと復原 三菱一号館の復原、朱雀門の復原（DVD） 文化財防災の法制度	インターネットで三菱一号軒の復原のけいいについて調べる	90分
第12回	銀座・日本橋の歴史的建造物	銀座・日本橋の歴史的建造物び特徴	インターネットを用いて各建造物の来歴、特徴等について調べる	90分
第13回	見学会２	銀座、日本橋の歴史的建造物を実際に見る 日本橋、日本銀行本店、三井本館、三越本館、高島屋、明治屋、等	調査結果をまとめる	90分
第14回	プレゼンテーションの手法を学ぶ	PPTの作成の方法を学ぶ。ソフトの使い方から、有効なスライドの作成方法を、課題２を通して学ぶ	課題２のPPTを作成する	90分
第15回	プレゼンテーション２	見学会２で見学した歴史的建造物をひとつ選び、それぞれの建築についてPPTで10分程度のプレゼンテーションを行う【課題２】	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、PPTを完成させる	90分

学生へのフィードバック方法	採点したレスポンスシートを返却する。また、受講者のそれぞれのプレゼンテーションに対し、詳細にコメントする
評価方法	・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う ・ふたつの課題に対しては、プレゼンテーション、課題、他の受講者への質問内容の３点を評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業態度	○	○	○	
	課題	○	○		○

評価割合	授業態度（レスポンスシートで評価する）30%と課題（第一課題30%、第二課題40%）で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に定めない
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスアワー	月曜２限　1702室
学生へのメッセージ	この授業は「まちづくり」に関する授業です。画一的なまちづくりが否定される現在、地域らしさを出すために、建築保存が脚光を浴びるようになってきました。また、こういった問題は、しばしばマスコミによって取り上げられます。日頃から、新聞記事などのチェックが重要となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、歴史的建造物の修理工事等の委員会の委員を務めるなど、歴史的建造物の保存業務に関わる仕事を兼務しており、その経験をいかして授業を行っている
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、ディスカッション等の教育内容を含む
情報リテラシー教育	○	図書館の利用、インターネットを利用した情報収集、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎ゼミ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし
教授	現代家政学科　教員	指定なし

ナンバリング	G11002C12
授業概要(教育目的)	「生活の質の向上」を考えることは、現代家政学科の学びの中核をなしている。この授業では企業活動と生活，各領域の研究と生活，社会見学を通して、現代家政学科での学びと実社会との関わりについて実感を伴った理解を促す。そして、各自が現代家政演習で見つけた学習課題をより具体化することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代家政学科での学びと実社会の関わりについて理解を深める。
思考・判断の観点（K）	現代家政学科４領域の学びを、実社会にどのように活かせるかを考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代家政演習で各自が見つけた学習課題について、興味・関心を持ち続ける。
技術・表現の観点（A）	社会見学で得た知識や発見した諸問題について、自分の意見をレポートにまとめ、さらに口頭での発表を行うことが出来る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス（各領域ゼミの事前説明、後期時間割の確認）	基礎ゼミでは、全体での授業のほか、少人数でのゼミ形式の授業や学外での社会見学を行うので、それぞれの授業内容や学科での学びとの関わりについて理解する。	学生便覧，シラバスの授業概要を確認しておく。前期の「現代家政演習」で見つけた学習課題を再検討する。	90分
第2回	各領域の研究と学科での学びとの関わり１（各領域ゼミ）	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第１回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第3回	各領域の研究と学科での学びとの関わり2（各領域ゼミ）	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第２回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第4回	各領域の研究と学科での学びとの関わり3	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第３回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分

	（各領域ゼミ）			
第5回	各領域の研究と学科での学びとの関わり４（各領域ゼミ）	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第４回目。 担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第6回	現代家政学科の学びと実社会との関わり①（外部講師による講演）	【校内特別授業】現代家政学科の４領域が有機的に関連して人々の「くらし」が成り立っていることを理解し、専門性にとらわれず「生活に関するすべてを学ぶ」という本学科の教育姿勢を実感するために実施する企業による講演の１回目。講演終了後、コメントシートを記入する。	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。	90分
第7回	社会見学の事前説明１（見学先紹介）	後期後半に実施する社会見学について説明する。各領域に関連した施設や展示会等の見学を行うので、見学先と学科での学びとの関わりについて理解する。4領域のうち2領域（学生1人が2回）の見学に参加する。なお、見学終了後は見学レポートを提出し、１ヶ所については口頭発表を行う。	これまでの各領域ゼミでの学びについて整理する。 社会見学についての配布資料をよく読んで、見学先の希望を考える。	90分
第8回	社会見学の事前説明２（見学先決定）、社会見学発表会の事前説明	各自が参加する見学先を把握する。 社会見学に参加する際の注意事項，見学レポートの書き方，社会見学の口頭発表についての説明を聞き、見学に備える。	決定した見学先について、事前の配布資料を確認し、ホームページ等で基本情報を調べておく。 見学レポートの書き方にそって、どのような観点で見学に参加するかを考える。	90分
第9回	特別公開講座への出席	本学では毎年、大学の教育内容に関連した著名人等を招いて、特別公開講座を実施しているので、それに出席し、講演を聞く。 （特別公開講座の出席を基礎ゼミの出席回数に含む。） 当日配布されるコメントシートを記入する。	講演者について、事前にホームページや関連書籍等で情報収集しておく。 講演後、今後の学びやくらしにどのように活かせるかについて考察する。	90分
第10回	社会見学１	【校外授業】決定した社会見学に参加する。（１と２で１回分） 見学後にレポートを提出する。	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第11回	社会見学２	【校外授業】決定した社会見学に参加する。（１と２で１回分）	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第12回	社会見学３	【校外授業】決定した社会見学に参加する。（３と４で１回分） 見学後にレポートを提出する。	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第13回	社会見学４	【校外授業】決定した社会見学に参加する。（３と４で１回分）	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第14回	現代家政学科の学びと実社会との関わり②（外部講師による講演）	【校内特別授業】現代家政学科の４領域が有機的に関連して人々の「くらし」が成り立っていることを理解し、専門性にとらわれず「生活に関するすべてを学ぶ」という本学科の教育姿勢を実感するために実施する企業による講演の2回目。講演終了後、コメントシートを記入する。	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。	90分
第15回	学びの振り返りとまとめ	これまでの授業の振り返りとまとめを行う。 社会見学１ヶ所について、パワーポイントを使用して３分間の口頭発表を行うので、パワーポイントの使用方法や今回の発表の形式について理解する。パワーポイントのデータはGoogleClassroomで提出する。なお、定期試験期間中に発表会を行う。	これまでの授業を振り返り、まとめておくこと。 発表する見学先について要点を絞り、どのようにパワーポイントにするか考えておく。パワーポイントの使用方法の不明点は解決すること。作成したデータはGoogleClassroomで提出する。口頭発表３分間の原稿も作成し、練習を行うこと。	90分

学習計画注記	授業内容の一部や授業の順番は、担当教員や外部講師の都合等によって変更になる場合がある。 社会見学は、時間割以外の日時に行う。
学生へのフィードバック方法	・各領域ゼミでの課題やコメントシートについては、各授業にて解説する。 ・社会見学レポート、校内特別授業の課題については、振り返りの中で解説する。 ・パワーポイントを使用した口頭発表については、発表会終了時に全体に向けた教員からのコメントを伝える。
評価方法	・平常点は、校内特別授業、各領域ゼミおよび社会見学での授業内活動への参加状況、指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。 ・各領域ゼミでの課題等と社会見学レポートは、指示された内容に沿って作成されているかを見学担当教員が評価する。 ・パワーポイントを使用した口頭発表は、指定された内容に沿ってパワーポイントが作成され、３分間の口頭発表が出来ているか等を担当教員が評価する。 ※レポートと口頭発表は、指示された形式や締切期日を提出されたか等も評価に含める。なお、指示された形式を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○

	課題・レポート	○	○	○	○
	口頭発表	○	○	○	○

評価割合	平常点（各領域ゼミでの授業への参加状況・課題への取り組みの総合評価）60%、課題（各領域ゼミの課題・社会見学レポート・口頭発表）40%
使用教科書名(ISBN番号)	プリント等を配布する予定。
参考図書	適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	第１回目の授業で配布する資料に教員別のオフィスアワーを掲載する。
学生へのメッセージ	前期「現代家政演習」の内容を振り返り、将来の希望を考えておく。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	（第6回）大手通信会社による講演。CSR活動や災害時対応、最新の活動内容等について伺う。 （第14回）大手コーヒーチェーンによる講演。食品ロス削減に対する取り組みや現在の世界的な環境問題に関する活動等について伺う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用した口頭での発表を行う。
ICT活用	○	GoogleClassroomを使用してパワーポイントデータの提出を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファイナンシャルプランニング入門		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古徳　佳枝	指定なし

ナンバリング	G22311C21
授業概要(教育目的)	実生活において必要となる経済関連の知識として、ＦＰ（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「Ａ．ライフプランニングと資金計画」「Ｂ．リスク管理」「Ｃ．金融資産運用」「Ｄ．タックスプランニング」「Ｅ．不動産」「Ｆ．相続・事業承継」の６分野を対象とし、そのうち特に「年金（ライフ）」「金融」「タックス」に重点を置く。単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に応用可能な実践的学びの場としていくため、疑問を持ったら積極的に質問してほしい。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	税制や社会保険制度について理解する。 経済の基本的仕組みを理解する。
思考・判断の観点（K）	自分の目標に向かうためのプランニングができる。 複数の選択肢から合理的選択ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分自身の将来に向けて、キャリアプラン、ライフプランを構築する意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	基本的な収入支出貯蓄額、税額、金利などの算出ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス：パーソナルファイナンスの全体像	パーソナルファイナンスとは何か。個人のライフプランの全体像を俯瞰し、収入・支出・貯蓄・ローンなど社会人として自己責任で選択すべきことの全体の流れを理解する。	予習：教科書の序章・第１編（2～22ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容をよく理解しておくこと	120分
第2回	ライフプランニングと資金計画	人生の３大資金といわれる「住宅」「教育」「老後」資金について、具体的な貯蓄方法とローンの考え方を理解する。	予習：教科書第２編（24～36ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第3回	キャッシュフロー表の作成	自身の収入・支出・貯蓄残高について、長期的に予測するために、キャッシュフロー表の作成方法について理解し、実践する。	予習：教科書第８編（273～280ページ）を読んでおくこと 復習：キャッシュフロー表の構造や作成方法を十分理解し、自分自身で作成できるようにしておくこと	180分
第4回	社会保険制度と年金制度	日本において加入が義務づけられている社会保険制度を理解し、給付と負担の関係、特に負担の重さを認識する。	予習：教科書第２編（37～63ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第5回	タックスプランニング	日本の財政、特に歳入の柱である税収について認識し、税制の全体像と所得税の基本的仕組みを理解する。	予習：教科書第３編（66～72ページ）を読んでおくこと	120分

	（１）日本の税制と所得税		復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	
第6回	タックスプランニング（２）各種所得の計算	所得税は個人の所得を10種類に分けて計算する。それぞれの所得の内容と計算方法について理解する。	予習：教科書第３編（73～84ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。また、第2回から第6回までの内容について復習しておくこと	240分
第7回	タックスプランニング（３）所得税算出の流れ	10種類の所得から所得税を算出する過程として、所得控除および税額控除について理解し、具体的なケースを用いて税額計算を実際に行う。 授業の最後に、第１回ミニテストを実施する。	予習：教科書第３編（85～104ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第8回	リスクマネジメント	生命保険と損害保険について、予測できない損失に備える制度であることを理解し、自身や家族にとって必要な保障は何かを考える。	予習：教科書第４編（114～149ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。また返却されたミニテストで間違えた箇所について、見直しておくこと	240分
第9回	金融資産運用（１）経済・景気と金利	経済状況を示す指標として、GDP、景気動向指数などを学ぶ。資産運用を行う上での基盤となる「金利」とは何かを知り、その変動要因や利息計算方法を理解する。	予習：教科書第５編（152～161ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第10回	金融資産運用（２）預貯金・債券・株式	資産管理・運用において、個人が利用できる金融商品について理解する。具体的には元本確保型である預貯金と、資産を増やすためリスクを負って運用する投資性商品である、債券と株式について学ぶ。	予習：教科書第５編（162～175ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。また、第8回から第10回までの内容について復習しておくこと	240分
第11回	金融資産運用（３）投資信託・外貨建て商品	資産管理・運用において、個人が利用できる金融商品として、投資信託と外貨建て商品について学ぶ。 授業の最後に、第２回ミニテストを実施する。	予習：教科書第５編（176～193ページ）を読んでおくこと。 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第12回	不動産運用設計	個人が自宅や投資用として、不動産を購入・所有したり、また他者と賃貸契約を結んだりする際の法制度や税金について理解する。	予習：教科書第６編（196～223ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。また、返却されたミニテストについて間違えた箇所を見直しておくこと。	240分
第13回	相続・贈与の基礎（１）相続税	近年、高齢者から若年層への資産移転が重要となっている。民法における親族の考え方と相続税の基礎知識を学ぶ。	予習：教科書第７編（226～242ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。また、第12回と第13回の内容について復習しておくこと。	240分
第14回	相続・贈与の基礎（２）贈与税	相続を補完する概念である贈与について理解すると共に、時限的に実施されている教育資金や結婚・子育て資金の非課税贈与制度について学ぶ。 授業の最後に、第３回ミニテストを実施する。	予習：教科書第７編（243～257ページ）を読んでおくこと。 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。また、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	240分
第15回	全体のまとめ及び学習到達度の総合確認テスト	ファイナンシャルプランニングの全体像について包括的まとめを行う。ＦＰ技能士試験の概要を理解し資格取得を検討する。最後に学習内容全般について、総合確認テスト60分を実施する。	予習：これまでの授業内容を総復習しておくこと 復習：総合確認テストの問題用紙を持ち帰り、理解不足だった項目の見直しを行うこと	240分

学生へのフィードバック方法	第３回のキャッシュフロー表は、内容を確認して次週の授業にて返却する。 ミニテストは採点して、次週の授業にて返却し、解説する。
評価方法	・第３回授業での「キャッシュフロー表」の作成及び提出。 ・授業内で行う３回の「ミニテスト」（直前２分野の学習内容について、１回あたり10問） ・第15回授業での「総合確認テスト」（ＦＰ技能士３級レベルの問題80問。正誤問題50問、三択問題30問） ・キャッシュフロー表作成、ミニテスト、総合確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
キャッシュフロー表作成	○	○	○	○
ミニテスト	○			
総合確認テスト	○	○		

評価割合	キャッシュフロー表の提出（30%）、ミニテスト３回（30%）、第15回総合確認テスト（40%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-〔第５版〕」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2019年発行

参考図書	「10代から学ぶパーソナル・ファイナンス」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としての各種制度を理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	木曜２時限　非常勤講師室
学生へのメッセージ	ＦＰ（ファイナンシャル・プランナー）の知識は、今後の就職活動、将来の仕事、消費行動に役立ちます。まじめに授業を受ければ、初級のＦＰ資格取得レベルの知識が身に付きますので、授業後は積極的なＦＰ資格試験への挑戦を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融機関で20年以上の実務経験があり、ファイナンシャル・プランナー上級資格を持つ教員が、理論の説明に加え、具体的な資産形成の手法や考え方について講義する。
アクティブ・ラーニング	○	キャッシュフロー表作成により、社会人になってから目標を実現するために行う、資産形成などについて具体的にイメージできるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	情報伝達と表現		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林　直弘	指定なし

ナンバリング	G22110C21
授業概要(教育目的)	現代社会で重要な能力の一つにコミュニケーション能力がある。情報を正しく理解し、伝えることがコミュニケーションの始まりである。そこで、本授業では、「情報の収集　→　分類　→　情報の再構築　→　情報の可視化」の流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の可視化を演習形式で行い、コミュニケーションを理解することを目的とする。
履修条件	上級生を優先する。また大学のPCの保有台数により定員は決定する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	情報を収集する方法や画像加工の概念、情報リテラシーの理解力を説明できる
思考・判断の観点（K）	蒐集した情報の整理と分類の能力を識別し、広告すべき対象の検討と表現方法を判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持てるように関与できる
技術・表現の観点（A）	パソコン作業を通して、画像加工、DTP、美的表現、評価を体現できる

学習計画

回数・授業テーマ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	講義のオリエンテーション 情報伝達と表現の概要	情報とは何か？表現とは何か？様々な情報及び表現にさらされる現状を再確認を行う。広義の流れを確認し第一課題「辞典の作成」、第2課題は「広告作成」を行うことを確認する。	予習：「GOOD DESIGN AWARD 2018」をホームページで受賞作品を確認して、各々が気になる作品を見つける。	180分
第2回	広告デザインとコミュニケーション	情報伝達を主たるものの広告を主題に、その表現方法を理解する。また、各種表現の方法論を読み解く。	予習：我が国には各種広告に対する賞が存在する。（TCC賞、ADC賞、広告電通賞など）日々目にする広告のよりよいといわれるものを見てみよう。また、各種媒体（テレビ、インターネット、屋外広告）の広告を見てみましょう。	180分
第3回	インフォメーションデザインと実例	情報伝達する媒体を確認し、媒体ごとの意味を考察する。そこで、多岐にわたる情報を収集し、整理し、最低限必要な情報を提示する作業を行う。	予習:朝起きてから大学に来るまでの間に多くの情報伝達媒体に遭遇する。（テレビコマーシャル、新聞広告、インターネット広告、雑誌）など気を付けてみて、素敵なものを探す。	180分
第4回	グラフィックデザインの要素（デ	伝達手段としてグラフィックデザインを使用する。その際、必要な「色」について色彩学を基に原理と色における印象を考察する。	予習：日常生活のなかに様々な色に遭遇する。気分によりその受け取り方は変わるが、自分に	180分

	ザイン原理）		とって好きな色を見つけ、携帯電話などで写真に収める。	
第5回	グラフィックデザインの要素（文字表現）	伝達手段としての文字の重要性を再確認し、書体、大きさ、色、文章表現による差異を確認する。また、５回から7回にかけて個人作業として情報を収集し、表現するDTP作業を行う。	予習：朝起きてから大学に来るまでの間に多くの情報伝達媒体に遭遇する。（テレビコマーシャル、新聞広告、インターネット広告、雑誌）など文字表現を見つける。	180分
第6回	グラフィックデザインの要素（画像加工）	表現すべき情報を伝達するために画像を利用することが多々ある。写真などの画像の原理を確認し、DTP作業を行い、方法を学ぶ	予習：スマートフォンやプリント倶楽部など各種写真加工ができるツールがある。写真加工による効果を考察する。 復習：各人の課題の情報を収集する。	180分
第7回	グラフィックデザインの要素（法的規制）	表現は自由であるべきであるが、我が国における法的規制が存在する。写真や制作物には著者保護のための著作権などである。伝達する際の注意点などを学ぶ	予習：著作権法、知的財産基本法、ベルヌ条約など各種著作者を保護する法律をホームページ上で検索し概要を確認する	180分
第8回	情報伝達と表現の実践（情報収集とターゲットの検討）	第1回から7回にかけて情報伝達と表現の基礎をPC作業を通して実施した。そこで、身近な対象（家政学院大学現代生活学科の広告）を伝達するための方法を検討する。そのためにグループワークとする。	予習：作成している課題を完成させ、印刷を行う。	180分
第9回	情報伝達と表現の実践（コンセプトの作成）	伝達するためにはコンセプトが必要となる。コンセプト作成のための情報の整理方法を学ぶ	予習；それぞれが日常で気になる広告を探しそのコンセプトを考察し、レポートを作成する。	180分
第10回	情報伝達と表現の実践（中間発表）	作成したコンセプトを基にグループごとに方向性を講師に発表し、エスキースを行う。	予習：コンセプトを整理して、企画書としてまとまる。	180分
第11回	情報伝達と表現の実践（キャッチコピーの作成）	方向性（コンセプト）を基に情報を再度収集し、必要な文字を検討しパソコン作業を学び、作成する。	予習：コンセプトにあう文字情報をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。	180分
第12回	情報伝達と表現の実践（画像加工）	方向性（コンセプト）を基に情報を再度収集し、必要な画像を検討し、表現方法を考察し、パソコン作業を学ぶ。	予習：コンセプトにあう画像をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。	180分
第13回	情報伝達と表現の実践（制作物の校了と校正）	方向性（コンセプト）を基に採取した情報をとりまとめ、適切な形で表現を行い完成を目指す。また完成した広告物が印刷され製品化するまでの流れを学ぶ。	復習：作成した作品を再確認し校正を行う。	180分
第14回	情報伝達と表現の実践（プレゼンテーション資料の作成）	作成した伝達物は、他者に説明し理解をしてもらう必要がある。そのため、説明資料の作成する方法論を学び、次回の発表のための資料を作成する。	予習；我が国には各賞レースが存在する。その際使用されるプレゼンテーション用紙を検索し確認する。また2025年に開催予定の大阪万博誘致プレゼンテーションを検索し確認する。	180分
第15回	情報伝達と表現の実践（プレゼンテーション）	作成した伝達物や他グループの作成物を自己評価し、価値の所在を検討する。	予習：プレゼンテーション資料を作成し、印刷を行う。サイズはA3とする。	180分

学習計画注記	なし
学生へのフィードバック方法	課題1および２において提出もしくは発表後、講評を行う。
評価方法	・講義では、基礎から実践まで行うため、各種レポート、第一課題は知識・理解、思考・判断の基礎部分を行い、第2課題は総合力を見る ・但し４回以上の欠席、第2課題未提出もしくは欠席の場合は単位は修得できません
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	各種レポート	○			
	課題１	○	○	○	○
	課題２	○	○	○	○

評価割合	各種レポート１０％、第一課題２０％で基礎点として、第2課題は総合力として７０％（内訳作成物４０％、プレゼンテーション資料３０％）とする。
使用教科書名(ISBN番号)	なし。適宜レジュメを配布します。
参考図書	ヴィクター・パパネック著阿部公正翻訳『生きのびるためのデザイン』,1974.8.1

	各種デザイン大賞受賞作品掲載ホームページ（各自で興味ある分野で検索のこと） 各種デザイン大賞受賞作品
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	授業終了後30分程度
学生へのメッセージ	現代社会には情報にあふれています。普段見ている書籍、新聞、雑誌、そしてCMなどの情報媒体がどのように表現して、何を伝えたいのか注意してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築分野で企画立案プレゼンテーションを業務で実施している。その中で使用するノウハウを提供する。
アクティブ・ラーニング	○	講義と共にパソコン作業を取り入れ、講義広義内で得た知識をその場で実践し、技術を獲得する。
情報リテラシー教育	○	情報を収集し使用する際の法的拘束や倫理観を講義し理解を促す
ICT活用	○	講義の性質上、インターネットを利用し情報を収集し、ネットワークの基礎を学び、作成物の提出などで利用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐藤　智明	指定なし

ナンバリング	G32204C21
授業概要(教育目的)	私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなって成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活を営むことが可能になる。この授業では、家庭で使用されるエネルギー（電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水）および情報の供給システムを教示するとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価する手法を講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	[教職家庭科]家庭で使用されるエネルギーおよび情報の供給システムを説明できる。
思考・判断の観点（K）	[教職家庭科]家庭で使用されるエネルギーの視点から、その生活実態を評価できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	科学技術・エネルギーと生活について、本講義で扱う概要を理解する。身の回りにある様々な機械にあらためて目を向けてエネルギー中学校の理科や技術科で学んだ仕事とエネルギーについて復習する。ジュールとワットなどの用語も理解する。	Web等でエネルギーとは何かについて調べておく。	180
第2回	電気について考える	電流、電圧、抵抗とは何か。電子と電流、消費電力と熱の関係、電気的な損失や効率について理解する。ボルト、アンペア、ワット等の用語も理解する。	Web等でオームの法則について調べておく。	180
第3回	電気を利用した機器（１）	電球、蛍光灯およびLED、照明やインジケーターに使われる機器の原理や性能を理解する。各照明機器の温度を調べる実習あるいは実演を含む。	Web等でジュール熱について調べておく。	180
第4回	電気を利用した機器（２）	扇風機、洗濯機、ドライヤー、電気自動車（EV）および発電機に使われる電気モーターの原理や性能について理解する。簡単なモーター作成実習あるいは実演を含む。	Web等でフレミングの左手の法則について調べておく。	180
第5回	電気を利用した機器（３）	オーディオ機器に使われるスピーカー、マイクなど音を伝える機器の原理を理解する。スピーカーを使った弛んだ糸電話実演、紙コップを使った簡単なスピーカーの作成実習を含む。	Web等で音と振動について調べておく。	180
第6回	電気を利用した機器	電子レンジ、IHクッカーあるいはラジオ、テレビなど電波、電場および磁場を利用した機器の原理について理解	Web等で電磁波について調べておく。	180

	（４）	する。電磁波とは何か、熱と電磁波の関係について理解する。IHクッカーの分解実演を含む。		
第7回	熱を利用した機械（１）	自動車に使われるエンジンの原理について理解する。スターリングエンジン、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなどレシプロエンジンの原理を通して熱と仕事の関係について理解する。熱力学の第一法則についても簡単に学び、熱エネルギーから仕事のエネルギーに変換できることを理解する。模型スターリングエンジンや圧縮発火の実演を含む。	Web等でボイルシャルルの法則について調べておく。	180
第8回	熱を利用した機械（２）	発電所、家庭用発電機あるいは航空機で使われるエンジンの原理について理解する。蒸気タービンやガスタービンの原理について理解する。やかんと風ぐるまを使った蒸気タービンの実演を含む。	Web等で発電所の種類について調べておく。	180
第9回	熱を利用した機械（３）	冷蔵庫やエアコンに使われる冷凍機、ヒートポンプの原理について理解する。熱力学第一法則より仕事から熱エネルギーへ変換できることを理解する。	Web等で部屋を暖めるときに、ヒーターによる加熱とエアコンによる加熱でどちらが効率が良いか調べておく。	180
第10回	情報を伝達する機器（１）	情報とは何か、のろしやバルーン、旗振り通信からモールス信号まで簡単な情報の記号化および符号化について理解する。デジタルとは何か、アナログ信号とデジタル信号の違いについて理解する。情報量という基本的な概念についても理解する。符号化を理解するために簡単な伝言ゲームを実践する。	Web等で古代の情報伝達について調べておく。	180
第11回	情報を伝達する機器（２）	コンピュータとは何か、論理演算を含む情報処理の仕組みについて理解する。簡単な論理回路の実演を通して論理演算の基本について学ぶ。人工知能とは何か、論理計算手法の歴史を通して最新のAI技術や今後について理解する。さらに、近年、初等教育から幼児教育にまで広がりつつあるプログラミング学習について理解する。LEGOマインドストームによる実演を含む。	Web等で人工知能について調べておく。	180
第12回	技術と環境・エネルギーについての総合的理解（１）	環境破壊の様々な原因について理解する。熱の放出、CO2の増加およびオゾン層の破壊のメカニズム・原理を理解する。	Web等で環境破壊の種類について調べておく。	180
第13回	技術と環境・エネルギーについての総合的理解（２）	ハイブリッドエンジン、コンバインド発電、コージェネレーションおよびスマートグリッド技術等について学び、環境に優しい省エネ技術について理解する。また、それらの開発コストについても理解する。	Web等で普通のガソリン自動車とハイブリッド自動車の燃費について調べておく。	180
第14回	技術と環境・エネルギーについての総合的理解（３）	これまで学んできた技術と環境との関係について考えてどのようにすれば環境に優しい生活が営めるかについて考える。家電の消費電力と使用頻度について考え、グループ討論などで議論する。	自宅にある家電製品の消費電力を調べておく。	180
第15回	まとめ	第14回で議論したことについての発表および理解度の確認のためのまとめテストを実施する。	これまでに学習してきた内容についての知識を整理しておく。	180

学生へのフィードバック方法	課題について、採点の後、授業中に講評を行う。
評価方法	毎回課すミニットペーパーおよび期間内に数回課すレポート課題および授業内に行うまとめテストの結果から総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ミニットペーパー	○		○	
課題	○	○		○
まとめテスト	○	○		○

評価割合	ミニットペーパー(25%)、課題(50%)、まとめテスト(25%)の総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	中学校の技術科・家庭科教科書（授業内で紹介する）
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 ［知識・理解］　社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 ［思考・判断］　生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 生活デザイン学科 ［知識・理解］　住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。 ［思考・判断］　社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。
学生へのメッセージ	教職（家庭科）　高一種必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	CGアニメーションなどを使ったわかりやすい原理説明などを行う。LEGOマインドストームによるプログラミング実演なども行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	企業と会計		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古徳　佳枝	指定なし

ナンバリング	G32312C21
授業概要(教育目的)	この授業では、企業の経済取引に関して利益その他を報告する「会計情報」について学び、実際に利用できるようになることを目指す。具体的には、会計の基礎となる複式簿記の初歩的なルールを学び、財務諸表の構造を理解すると共に、財務諸表の分析方法について学習する。学んだ内容を活かして学生自身が実際の企業の分析を行い、その内容を最終授業において発表する。企業分析を通じて、実社会における企業活動について具体的にイメージし、将来「就職先の選定」「自身の仕事における資金管理」「投資先選定」等に活かすことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	企業会計とは何かを理解する。簿記の基本ルールを理解し、記帳と財務諸表作成ができるようになる。
思考・判断の観点（K）	財務諸表の数値を使って各社の安全性や収益性についての分析ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分自身や社会にとって、各企業がどのような役割を果たしているかについて関心を持ち、情報収集が行える。
技術・表現の観点（A）	企業のホームページ等から会社概要、財務諸表データ等を取得することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	企業と会計	企業活動における会計の意義や企業の資金調達方法について学ぶ。自分が起業するとしたら、どのように資金調達するかを考える。	予習：教科書第1章「会計の意義」、第2章「株式会社」、第3章「資本市場」（1～40ページ）を読んでおくこと 復習：企業の資金調達方法について理解すること	予習：90分 復習：90分
第2回	損益計算書の構造	企業の生み出した利益の額を計算する「損益計算書」の構造を理解する。実際の企業の損益計算書を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的にエクセルで入力しながら理解を深める。	予習：教科書第4章「財務諸表①」（41～49ページ）を読んでおくこと 復習：損益計算書の構造を理解すること	予習：90分 復習：90分
第3回	貸借対照表の構造	企業のある時点での財産状況を示す「貸借対照表」の構造を理解する。実際の企業の貸借対照表を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的にエクセルで入力しながら理解を深める。	予習：教科書第4章「財務諸表①」（49～58ページ）を読んでおくこと 復習：貸借対照表の構造を理解すること	予習：90分 復習：90分
第4回	取引の仕訳	企業の日々の経済活動を記録するための「仕訳」について学ぶ。具体的な事例に基づいて、仕訳の練習を行い、最後に演習として各自がエクセルで行った仕訳データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」（63～66ページ）を読んでおくこと 復習：学んだ仕訳ができるようにしておくこと	予習：90分 復習：90分
第5回	総勘定元帳と試算表	初めに、「仕訳」の確認テストを行う。 仕訳データから、総勘定元帳および試算表を作成する流	予習：教科書第5章「簿記」（63～66ページ）を読んでおく	予習：90分 復習：90分

		れについて学ぶ。授業では具体的な事例に基づいて練習を行い、最後に演習として各自がエクセルで行った仕訳・転記・試算表作成データを提出する。	こと 復習：総勘定元帳と試算表が作成できるようにしておくこと	
第6回	精算表と財務諸表作成	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。 精算表および貸借対照表と損益計算書の作成について学ぶ。具体的な事例に基づいて練習を行い、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」（67～69ページ）を読んでおくこと 復習：仕訳から精算表の作成までの一連の流れができるようにしておくこと	予習：90分 復習：90分
第7回	分析対象企業の選定	初めに、「精算表」の確認テストを行う。 各自ＨＰなどで情報収集を行い、自分が分析比較したい企業２社を選定し、選定理由などを記入したエクセルデータを提出する。	予習：仕訳から精算表の作成までの一連の流れができるようにしておくこと 復習：分析対象企業について、ＨＰなどで自分や社会にとってどのような役割を果たしているか調べておくこと	予習：90分 復習：90分
第8回	貸倒引当金と減価償却	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。 決算整理における「貸倒引当金」「減価償却」の処理について学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」の補論（73～80ページ）を読んでおくこと 復習：減価償却費の計算ができるようにしておくこと	予習：90分 復習：90分
第9回	キャッシュフロー計算書	初めに、「減価償却費」の確認テストを行う。 キャッシュフロー計算書の作成方法や分析の仕方を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第6章「財務諸表②」（81～87ページ）を読んでおくこと 復習：キャッシュフロー計算書の意味について理解しておくこと	予習：90分 復習：90分
第10回	連結財務諸表	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。 親会社と子会社の決算内容を合算して作成する「連結財務諸表」の作成方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第6章「財務諸表②」（88～90ページ）を読んでおくこと 復習：連結財務諸表が作成できるようにしておくこと	予習：90分 復習：90分
第11回	財務諸表分析（1）	貸借対照表を使った安全性分析と損益計算書を使った収益性分析について学ぶ。具体的には、自己資本比率、流動比率、固定比率およ売上高利益率についての算出方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第7章「財務諸表の分析①」（93～104ページ）を読んでおくこと 復習：学習した指標の計算ができるようにしておくこと	予習：90分 復習：90分
第12回	財務諸表分析（2）	貸借対照表と損益計算書を使った総合的な企業分析について学ぶ。具体的には、自己資本利益率、総資本利益率およびレバレッジ分析の算出方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第8章「財務諸表の分析②」（105～112ページ）を読んでおくこと 復習：第11回と第12回で学んだ財務諸表分析の各指標について、計算できるようにしておくこと	予習：90分 復習：90分
第13回	企業分析演習（1）	初めに、「財務諸表分析」の確認テストを行う。 学生が選定した個別企業について、企業ＨＰで財務諸表データの取得を行う。	予習：第11回・第12回で学習した指標の計算ができるようにしておくこと 復習：分析対象企業について、情報収集を行っておくこと	予習：90分 復習：90分
第14回	企業分析演習（2）	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。 次週の発表に向けて、2社比較や時系列比較による企業分析を行い、分析データをわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション資料を作成する。	予習：分析対象企業のデータ収集と指標計算ができるようにしておくこと 復習：分析対象企業について、最終的なプレゼンテーション資料を完成させておくこと	予習：90分 復習：90分
第15回	企業分析発表	各自が行った企業分析について、5-10分のプレゼンテーションを行う。プレゼンごとに教員からフィードバックを行うと共に、他の学生からもコメントをもらう。学生は自分の発表だけでなく、他者のプレゼンテーションに耳を傾け、コメントを行う必要がある。	予習：他者に伝わるプレゼンとなるように、資料と原稿を準備する 復習：他者が行ったプレゼン内容を理解し、有効に活用する	予習：90分 復習：90分

学生へのフィードバック方法	・毎回提出されるエクセルデータについて、次週の授業にてコメントする。 ・授業中に実施する４回の確認テストは、次週の授業の初めに返却の上、正解の解説とフィードバックを行う。 ・第15回の企業分析発表については、各プレゼンテーションの発表直後に、良い点、改善点についてのフィードバックを行う。
評価方法	・毎回提出されるエクセルデータについて、計算式が正しいか、最後まで入力できているかなどに応じて教員が評価する。 ・確認テストは、前回までの授業内容から出題し、授業内に計４回実施する。１回当たりの問題数は５問～10問で、計算問題が主体となる。 ・第15回の企業分析発表に対しては、「複数の分析指標を正しく用いているか」「2社比較や時系列比較ができているか」「説得力あるプレゼンとなっているか」の３つの観点から教員が総合評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
毎回のエクセルデータ	○		○	○
確認テスト４回	○	○		○
企業分析発表	○	○	○	○

評価割合	毎回のエクセルデータ（30%）、確認テスト４回（40%）、企業分析発表（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	「企業と会計の道しるべ」　水口剛・平井裕久・後藤晃範著　（中央経済社）　978-4502212710
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会における生産主体である「企業」について理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】企業を含めた社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながるより良い生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
学生へのメッセージ	会計というと難しいイメージがありますが、この授業は初心者向けの内容となっていますので、苦手意識を持たず積極的に参加して下さい。エクセルでデータ入力しながら自然に数字に親しみ、簿記の基礎的な内容が身につきます。これから就職活動を始めようという人は検討先企業の分析にも役立ちます。社会に出る前の今こそ、企業や社会についてより深く理解するために、簿記や企業会計について一緒に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	運用会社での勤務経験を有し、証券アナリスト資格を持つ教員が、企業分析について具体的かつ実践的に指導する。
アクティブ・ラーニング	○	学生がひとりひとりパソコンでの入力・検索・資料作成を行い、アクティブに学ぶ。最終授業では、各自作成した資料を用い、他者にわかりやすくプレゼンする。
情報リテラシー教育	○	ＷＥＢサイトから必要な情報を入手し、その情報を用いて分析を行う。エクセルやパワーポイントを活用する。
ICT活用	○	パソコン教室のシステムを用い、「教員から配布した資料に学生が入力して返信する」「教員からの質問に答える」など双方向型授業を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし
准教授	井上　清美	指定なし

ナンバリング	G12201C21
授業概要(教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねて考える契機とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解する。
思考・判断の観点（K）	多様かつ急激なな社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点（A）	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族・家政学の定義、家庭経営学で頻繁に用いる概念や、SDGｓの活動を理解し、持続可能な社会と家政学・家庭経営・家庭科教育について考える授業であることを概説する。	テキスト序章　今日の生活経営をよく読んでおくこと	180分
第2回	生活とは何か～新しい価値・規範の創造へ～	コミュニティ　エシカル消費と食品ロスなど現代社会・生活をとりまく状況を、主に統計資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の持つ意味について学ぶ。	授業前に第1章生活とは何か教科書pp. 7-18を良く読んでおくこと。	180分
第3回	生活経営の方法と生活経営学研究	家庭経営を取り巻く社会環境と生活意識・価値観の変化を確認し、生活経営の範囲と方法を学び、生活経営学の研究し、研究の対象とその方法について概説する。	小学校・中学校・高等学校で学んだ家庭科の授業を振りかえってくること。授業前に教科書pp. 19-28を良く読んでおくこと。	180分
第4回	生活の組織と単位の変化	個人、家族、地域、職場などさまざまな単位で私たちは生活している。個人・家族やそれに類似する生活の組織について概説する。	教科書第3章生活の組織と単位の変化　pp29～40をよく読んで、概念整理をしておこう。	180分
第5回	家族と法律	家族に関わる法律（家族法）はおもに民法の親族編と相続編に規定されている。民法の5編の内容とそれが実際の家族の問題にいかに関わり家庭生活を規定するかを確認する。	教科書第4章家族に関わる法律pp40～51をよく読んでおくこと。	180分

第6回	生活と地域共生社会	生活を支える地域の取り組み、多様な人々の暮らしの場としての地域の事例を知り、ローカルとコミュニティの課題、家族構成員とコミュニティの関係に留意して支えあうコミュニティ、地域共生社会を考える。	教科書第5章pp52～62をよく読んでおくこと。また授業内で提起された課題に対して調査し、その結果をまとめる。	180分
第7回	生活時間のとらえ方と生活時間の実態	生活時間を生活行動の量や時間配分でとらえ、生活時間調査から何がわかるのか、ペイドワーク、アンペイドワークに注目し、ジェンダー格差を解消する取り組みを考える。	教科書第6章pp61～73をよく読んでおくこと。また授業内で提起された課題に対して調査し、その結果をまとめる。	180分
第8回	家庭生活の経済　家計のとらえ方と実態　大学生の家計、共働き世帯の家計、高齢者世帯の家計	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関連させながら概説する。具体例として女性農業者のエンパワメントにはどのような意義があるか。知るぼるとこれであなたもひとり立ちなどを参考に、家計のとらえ方と実態を理解する	グローバル化・キャッシュレス化がすすみ経済格差が広がっている。18歳成年年齢引き下げのなか貧困の連鎖を防ぐ金融リテラシーを教科書pp67～74を参照し学びエンパワメントの方法を考える。教科書pp. 74～84を授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～５のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第9回	人間関係のとらえ方と関係性の実態	生活組織における人間関係のとらえ方、家事育児の分担、介護を受ける側と介護する側の関係などさまざまな関係性・ネットワークの実態を学ぶ	第8章pp. 85～95をよく読み、生活を人間関係でとらえるにはどのような方法があるのか、考えて授業をうける。	180分
第10回	ケイパビリティ・アプローチ　生活を行為や活動でとらえる	生活手段（モノ・サービス）でとらえる　人生100年時代の自助・共助・公助を奥津軽の津軽鉄道を支える団体から学び、pp102～110を参照し1000年コミュニティをﾃﾞｻﾞｲﾝによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	教科書pp7～117　『第1部生活の経営』、『第2部生活の組織と地域』　『第3部生活をとらえる』をふりかえり、人生100年時代の自助・共助・公助、コミュニティをﾃﾞｻﾞｲﾝによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	180分
第11回	働くこと・職業をもつこと	産業構造の変化・少子高齢化・グローバル化による働き手の多様化により、不安定雇用と収入問題など社会問題が複雑化する一方、これまでの働き方に規定されないオルタナティブな働き方もでていきている。支える・支えられるの２分法ではなく、共生保障という考え方も提示されているなかで、自分はどのような働き方をするのか考える。	第11章　働くこと・職業をもつことpp118～128をよく読み、新聞記事などを参照して、レポートを作成し提出する。	180分
第12回	生活の社会化と家事労働	生活の社会化は何を家庭経営にもたらしたのか。家事とは、家事労働とはなにか、コロナ禍で見える家事ばかりでなく見えない家事も注目されている。	第12章　生活の社会化と家事労働をもとに、情報化・テクノロジーが家事労働に何をもたらしたのかを授業前に考える	180分
第13回	生活と福祉	社会保障制度のしくみと地域共生社会、福祉と情報・テクノロジーの関係を事例をもとに考える。	第12回までに学んできた内容を踏まえ、教科書第13章の内容をから生活保障における互助・共助を自分の考えをまとめる。	180分
第14回	生活と契約キャッシュレス社会、消費者市民社会、生活者の視点で100年コミュニティを考える	2022年　生活と契約、キャッシュレス社会、少子高齢化が急速に進む日本社会で求められる100年コミュニティを考える。また家庭科教育と地域の関係を検討する。	日本の各時代における家訓をもとに「決まり」「暗黙のルール」等は何のために作り出されたのか理解し、各自の家庭経営でどのようなルールがあるか調査を行う。自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションをしてほしい。	180分
第15回	生活者と持続可能な社会	家族間の贈与共有と、経済社会での事業者消費者の関係性の違いを認識する。持続可能な開発や、生涯の人間発達はどのような関係性のなかで可能になるかを考える。	第1回から第14回で提出した授業レポートを読み返し、最終レポートの構想をつくる。	180分

学習計画注記	講義形式を中心としますが、ワークショップも行います。
学生へのフィードバック方法	授業内で提出するレポート内容について、次週に受講者全員と情報を共有する。
評価方法	授業内レポートでは、授業の内容を理解し授業課題に対し関心を持って取り組んでいるかという観点を中心に評価する。期末試験では、知識・理解を確認する内容と、思考をまとめる最終レポートで構成される。期末試験で何を評価されるのか、理解し周到に準備しているかを評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内レポート	○		○	
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	授業ごとに提出するレポート（50%） 期末試験・最終レポート（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	『持続可能な社会をつくる生活経営学』日本家政学会生活経営学部会　朝倉書店 2020年

参考図書	現代社会の生活経営/御船美智子 上村協子 編著/光生館/2001 やさしい家政学原論/日本家政学会　家政学原論部会/建帛社/2018 新しい消費者教育/日本消費者教育学会関東支部　監修/慶応義塾大学出版会/2016 地域社会の創生と生活経済/生活経済学会　編/ミネルヴァ書房/2017 現代「生活者」論/天野正子/有志舎/2012
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導 く考察をすることができる。
オフィスアワー	井上前期金曜日３限（千代田三番町1807ゼミ室） 上村：前期：　水曜日　4限 　　後期：　火曜日　4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	生活者としての視点から現代の家族問題や消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと念願します。 家庭科の教員になるための必修科目です。家庭科教育法をうける前に履修してください。消費者力検定やファイナンシャルプランナーの資格を取るなどチャレンジしていくための基礎的科目になります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション等のワークショップを通して他者の考え・意見に触れ、自身の思考を錬磨する機会を持つ。
情報リテラシー教育	○	口頭発表に際して効果的な資料作成を指導する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家政学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし
准教授	竹中　真紀子	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし
助教	太田　茜	指定なし

ナンバリング	G12101C21
授業概要(教育目的)	生きる力の基盤となる衣食住や家庭経済など、日常生活や地域の暮らしに必要な知識と技術を概説する。家族・消費生活、衣食住の生活改善の知識と技術を理解し、生活の質を高める方法を習得することを図る。家政の知と技が現代社会の中で、生活における人と人のかかわりあい、人と心のかかわりあい、人と物とのかかわりあい、人と事がらのかかわりあいをどのように支えてきたのかを生活者の視点で詳説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	安全で豊かな消費生活を送るための基本事項を、衣・食・住・消費経済・環境の各領域において修得する。
思考・判断の観点（K）	消費生活における様々な問題について適切に判断し、対処できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	修得した知識を活かし、安全で豊かな消費生活のために必要な行動をとることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

家政学概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	全体の授業予定を確認し、各教員から担当授業の説明を行う。また、本授業と関連する「消費者力検定」の資格受験についても説明する。	授業後に、本時の学習内容を復習する。	180分
第2回	消費生活（１）食生活	消費者力検定の食生活分野の過去問を中心に学ぶ。	事前に配布する消費者力検定の過去問に持を通しておくこと。テキストの食生活分野の箇所をよく読んでおくこと。	180分
第3回	消費生活（２）住生活	消費者力検定の住生活分野の過去問題を解き、解説を行い理解を深める。	教科書の住生活分野の関連個所をよく読んでおくこと。	180分
第4回	契約・生活設計（１）	契約とはなにか。消費者が事業者と契約をするとき、両者に格差があるため消費者のトラブルにつながる問題に対応する法律や、国や地方自治体の政策について学ぶ。	授業前に、教科書の契約・消費者問題の分野をよく読んでおく。授業後に、学習内容を復習する。	180分
第5回	契約・生活設計（２）	生活設計を行う上で、金融に関する知識が必要である。人生100年時代の家計管理・生活設計に関する金融リテラ	授業前に、教科書の生活設計の分野をよく読んでおく。授業後	180分

		シーを中心に学ぶ。	に、学習内容を復習する。	
第6回	消費生活（５）衣生活	消費者力検定の衣生活分野の過去問題を解き、解説を行い理解を深める。	教科書の住生活分野の関連個所をよく読んでおくこと。	180分
第7回	消費生活（６）環境	消費者力検定環境分野の過去問題を解き、解説を行い理解を深める。	教科書の環境分野の関連箇所をよく読んでおくこと。	180分
第8回	小テスト	第1回～第7回の授業に関わる小テストを行い、テスト後に各教員から解説や第8回以降の連絡を行う。	テストに向けて準備しておくこと。	180分
第9回	契約・生活設計（３）	持続可能な社会にむけては、SDGｓを理解し、消費者志向経営を行う企業と連携し消費者市民社会を形成する活動が重要であることを学ぶ。	授業前に、契約・生活設計（1）契約・生活設計（２）の内容を振り返り、教科書の消費者問題や情報通信をよく読んでおく。授業後に、学習内容を復習する。	180分
第10回	住生活・環境	住生活分野・環境分野の中で現代社会で特に注目される話題（安全性、まちづくり、サスティナブルデザイン等）について深く掘り下げます。	必要な資料を配布します。関連する事柄について、インターネットや本等で調べると良い。	180分
第11回	食生活（１）	現代の食生活と消費者について学ぶ。特に、食の安全にかかわる問題や、それに対する国の対策、消費者としてそれらの問題をどのようにとらえればよいのかについて学ぶ。	授業前に、教科書の食生活分野の関連個所をよく読んでおく。授業後に、学習内容を復習する。	180分
第12回	食生活（２）	現代の食生活と消費者について学ぶ。特に、食の安全にかかわる問題や、それに対する国の対策、消費者としてそれらの問題をどのようにとらえればよいのかについて学ぶ。	授業前に、教科書の食生活分野の関連個所をよく読んでおく。授業後に、学習内容を復習する。	180分
第13回	衣生活（１）	現代の衣生活と消費者について学ぶ。特に消費者として必要な知識である衣服の機能と素材について品質表示の読み方を知り、どのように扱えばいいのかを知る。また、衣服の流通について知り、よりよい持続可能な衣生活について考える。	授業前に、教科書の衣生活の分野をよく読んでおく。授業後に、学習内容を復習する。	180分
第14回	衣生活（２）	現代の衣生活と消費者について学ぶ。衣服は一度着用した後に適切な手入れをし、繰り返し着用する（これを衣服管理という）ものであるが適切な方法で手入れをすることが必要である。また、クリーニングなどのトラブルについて学び、安全な衣生活とは何かを知る。	授業前に、教科書の衣生活の分野をよく読んでおく。授業後に、学習内容を復習する。	180分
第15回	まとめ	各教員から、第9回～第14回までの振り返りや補足と、試験に関する連絡を行う。	第9回～第14回までの内容をよく復習し、定期試験に向けて準備すること。	180分

学生へのフィードバック方法	授業内で課す課題について、適宜フィードバックを行う。
評価方法	定期試験は、各教員からそれぞれの担当分野に関して出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	課題・定期試験	○	○		

評価割合	平常点（授業への参加状況、討論への参加等）：20%、課題・定期試験：80%
使用教科書名(ISBN番号)	「～消費者力検定テキスト～　やさしく学べる消費生活」　一般財団法人日本消費者協会編
参考図書	消費者力検定　ワークブック
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	上村：後期火曜4時限（1805ゼミ室） 竹中：後期火曜3-4限（1203研究室） 青柳：後期木曜昼休み（1808ゼミ室） 太田：後期月曜2限-昼休み（1808ゼミ室）
学生へのメッセージ	本授業は、「消費者力検定」や「消費生活アドバイザー」、「お客様対応専門員」などの資格と関わっています。これらの資格試験にも挑戦してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家族関係論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　清美	指定なし

ナンバリング	G12207C21
授業概要(教育目的)	少子高齢化や価値観の多様化が進行する中で、私たちが経験する「家族」は変化し、様々な課題が生じている。生涯発達の視点をふまえ、乳幼児期、子ども期、青年期、壮年期、高齢期のそれぞれのライフステージで生じる事柄や課題を家族関係との関わりでとらえ、解決するための方法を探る。家族関係学を学ぶにあたっての基本的な用語を解説し、現代日本における家族の現状と課題を理論や客観的なデータを使って説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ライフステージに生じる様々な課題を知り、家族関係を理解する上での基本的な知識を得る。
思考・判断の観点（K）	家族関係の現状や変化の背景を理解し、自分なりに考えた課題解決の方法を提示できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	家族関係における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点（A）	指定された形式でレポートを作成することが出来る。

学習計画

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方やねらいを理解する。自分にとっての家族関係をふりかえり、これから学ぶ内容との関わりについて考える。	事前に教科書の全体に目を通し、どのようなことを学ぶのか理解しておく。事後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第2回	生まれる・育つ	子どもが生まれ育つ社会、発達の基盤としての家族の現状を知る。子どもの基本的生活習慣と家族のかかわり、子どもを取り巻く環境の重要性について理解する。	事前に教科書第1章「生まれる・育つ」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第3回	子どもが直面している課題	現在の日本で子どもが直面している問題を知り、その「生きづらさ」を理解する。子どものエンパワメントを高めるために家族に何が必要か考える。	事前に教科書第２章「子どもが直面している課題」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第4回	青年期の自立と親子関係	青年期の特徴と課題を学び、青年期の親子関係の抱える問題を知る。社会的自立に向けた家族関係のあり方について考える。	事前に教科書第３章「青年期の自立と親子関係」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第5回	セクシュアリティ、	多様な性の可能性を知り、若者の性行動や、医療技術の進歩と生殖の変化について理解する。	事前に教科書第４章「セクシュアリティ、性、生殖」を読んで	180分

	性、生殖		おくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	
第6回	パートナーの選択と結婚	皆婚社会として知られてきた日本において、結婚がどのように変化しているかを理解する。結婚とは何かを考える。	事前に教科書第５章「パートナーの選択と結婚」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第7回	夫婦関係の諸相	夫婦関係に関する研究や学説を理解し、夫婦のパートナーシップの現状と課題を知る。ドメスティック・バイオレンスの問題と解決の方向性について考える。	事前に教科書第６章「夫婦関係の諸相」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第8回	離婚・再婚とステップファミリー	離婚の動向を確認し、日本の離婚制度について理解する。再婚にともなうステップファミリーや、離婚・再婚後の家族関係のあり方について考える。	事前に教科書第７章「離婚・再婚とステップファミリー」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第9回	子育てと子どもの社会化	親になる、親であるということについて学説を理解し、母親、父親の子育てが抱える課題を知る。子育てへの社会的支援を学ぶ。	事前に教科書第８章「子育てと子どもの社会化」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第10回	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスについて学び、日本の現状を知る。よりよいバランスを可能にする家族関係とはどのようなものか考える。	事前に教科書第９章「ワーク・ライフ・バランス」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第11回	親のケアにかかわるということ	親との居住距離とケアのかかわりを確認し、男性の介護や女性の介護の抱える問題を知る。介護と仕事の両立や、ストレスの軽減について考える。	事前に教科書第10章「親のケアにかかわるということ」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第12回	高齢者の社会関係と生きがい	高齢者を取り巻く社会関係を理解する。ひとり暮らしにともなう不安と問題を知り、幸せな高齢期を過ごすために必要な家族関係について考える。	事前に教科書第11章「高齢者の社会関係と生きがい」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第13回	支えられて生きる	要介護高齢者の現状を知り、介護意識や介護保険制度について理解する。親しい人々との死別に適応するために何が重要かを考える。	事前に教科書第12章「支えられて生きる」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第14回	社会の変化・家族の変化	現在の日本で進行する少子化、高齢化とそれにともなう家族関係の変化や家族を超えたつながりについて考察する。	事前に教科書終章「社会の変化・家族の変化」を読んでおくこと。授業後は授業内に提示された課題について小レポートを作成する。	180分
第15回	まとめ	第1回～14回までの学びを振り返り、ライフステージ上に生じる問題と家族関係の関わりについて確認し、問題解決のために必要な制度や環境について考える。	教科書の全体を読み返し、関心を持った事柄についてまとめておく。授業後は授業内に提示された課題についてレポートを作成する。	180分

学習計画注記	履修者の人数や興味関心によって、授業のスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小レポートに対する解説は授業内で行います。その他、授業内容の理解をはかるため、各回の最後にアンケートを実施し、結果を次の回で紹介します。
評価方法	・各回で提出される小レポートの内容（自分なりの意見が導き出され、自分の言葉で表明されているか） ・授業半ばで実施する小テストの点数 ・期末テストの点数

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート作成	○	○	○	○
	小テスト	○	○	○	
	期末テスト	○	○	○	

評価割合	レポート：50% 小テスト：20% 期末テスト：30%
使用教科書名(ISBN番号)	長津美代子・小澤千穂子編著『新しい家族関係学』建帛社（978-4-7679-1448-0）
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解

	し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる 【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな家族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスアワー	火曜日３限　千代田三番町キャンパス 1701ゼミ室
学生へのメッセージ	家族関係論の授業ではライフステージごとに家族の現状や課題を見ていきますが、みなさんは一人ひとり異なる家庭で育ち、家族に対する思いも様々でしょう。「多様性」を大切にしながら、これからの家族のあり方について一緒に考えていきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭看護		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 石井　紀子	指定なし

ナンバリング	G22202C21
授業概要(教育目的)	家庭看護の対象は、人間とその生活全般である。したがって、生活体としての人間とかかわるためには、精神・身体・社会生活等広範囲な側面を基盤とした総合的な視点が必要である。本講義では、日常的にかかりやすい病気や生活習慣病を取り上げ、家庭看護に必要な知識や技術を学習し実践するための基礎を学ぶと同時に、福祉的視点からの生活支援についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 健康とは何かを、ライフサイクルをふまえて説明できるようになる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 健康増進方法や、日常生活における看護方法に興味を持ち、新たな発見ができるようになる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションと健康の定義	授業をどのように進めていくのか、また、学習方法について理解する。 様々な健康の定義について確認し、健康とは何か自分の考えを明らかにする。	【予習】 ・教科書「はじめに」、第１章(2ページ～6ページ)を読む。テキストが届いていない場合は、他のテキストやインターネットを参考にし、健康の定義を調べる。 ・健康の定義を、2種類以上調べる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第2回	からだやこころのしくみを知る	自分のからだやこころのしくみを理解し、健康を保つためにできることを明確にする。	【予習】 ・人間の体の中(臓器など)が、どのように配置されているのか、また、それらの働きについて調べる。テキストが届いていない場合は、他のテキストやインターネットを参考にして調べる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】	予習・復習 各90分

			・授業目標に沿って、まとめる。	
第3回	女性の健康 母子保健と看護	女性のからだやこころのしくみを理解し、生活の中でどのような配慮を行う必要があるのか、明確にする。また、実践できることを知る。	【予習】 ・女性のからだやこころの特徴を調べる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第4回	家庭看護の実際① 【家庭看護の技術】 バイタルサイン測定	正確な、バイタルサイン測定方法を学ぶ。 バイタルサインの正常値を理解し、正常値からはずれた場合の原因を検討する。	【予習】 ・教科書第2章①(8ページ～14ページ)を読み、バイタルサインの測定方法や正常値を確認する。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第5回	家庭看護の実際② 【日常生活における看護】 ボディメカニクスと安楽な姿勢	ボディメカニクスとは何かを理解する。 安楽な姿勢を保つための工夫を知る。	【予習】 ・教科書第2章②の(15ページ～16ページ)を読み、ボディメカニクスや姿勢(体位)について調べる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第6回	家庭看護の実際③ 【日常生活における看護】 栄養と食事	健康を維持するための食事と、疾患を抱えた際の食事について、健康増進・看護の観点から理解する。	【予習】 ・教科書第2章②の(16ページ～19ページ)を読み、栄養素、病院食の内容について調べる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第7回	家庭看護の実際④ 【日常生活における看護】 寝衣交換、清潔保持	衣服の交換や、清潔を保持する理由を理解する。 衣服の交換方法や、清潔を保持する支援方法を実践できる。	【予習】 ・教科書第2章②の(19ページ～23ページ)を読み、衣服を交換、清潔にする目的をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第8回	家庭看護の実際⑤ 【日常生活における看護】 排泄や睡眠のしくみ	排泄や睡眠のしくみを理解し、リズムが乱れた際の対処方法を考えることができる。	【予習】 ・教科書第2章②の(23ページ～26ページ)を読み、排泄や睡眠のしくみをまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第9回	家庭看護の実際⑥ 【日常生活における看護】 罨法・消毒・服薬	罨法・消毒・服薬準備を実践を通して、家庭で行える支援や、対処方法の判断ができる。	【予習】 ・教科書第2章②の(26ページ～32ページ)を読み、罨法・消毒・服薬の種類と方法をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第10回	家族が不調を訴えたときの看護 ①体調の不良	体調不良に対して、原因や症状の判断や、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう、理解を深める。	【予習】 ・教科書第3章①(34ページ～55ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第11回	家族が不調を訴えたときの看護 ②体調以外の不調	体調以外の不調に対して、ライフサイクルをふまえた原因や症状の判断、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう理解を深める。	【予習】 ・教科書第3章②(56ページ～61ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第12回	救急対応を要する症状	包帯法や移送法など、実践を通して、対処方法の理解を深め、技術を習得する。	【予習】 ・教科書第4章(64ページ～105	予習・復習 各90分

	と徴候、処置方法		ページ)を読み、救急対応方法をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	
第13回	小児期に多い疾患	小児期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章①(108ページ～120ページ)を読み、小児の特徴をふまえて、疾患や症状をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第14回	成人期に多い疾患	成人期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章②(121ページ～132ページ)を読み、疾患や症状をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第15回	精神疾患、がん、看取り	様々な疾患や状況をふまえて、対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章③④⑤(133ページ～144ページ)を読み、特徴をふまえて疾患や症状をまとめる。※予習内容は、グーグルクラスルームの課題より提出すること。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分

学習計画注記	第1回目より、予習内容をグーグルクラスルームの課題から提出するが、第2回目からは、前回の授業に対する質問なども受け付ける書式となる。
学生へのフィードバック方法	授業の始めに本日の学習目標を示し、復習と含めて、目標が達成できているか、確認しながら授業を進める。 学生より質問があった場合は、質問者に回答を行うとともに、授業で情報共有を行う。
評価方法	・予習課題の提出　45点満点（3点×15回） 毎回の予習内容を、必ず提出すること。 ・定期試験　55点満点 定期試験の実施方法（対面かオンラインか）が未定のため、試験の形式については授業内で説明を行う。 【対面実施の場合】授業内で自分の言葉で説明できるようにと話す内容は、記述式で問う形とする。選択式の出題も出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	予習課題	○		○	
	定期試験	○		○	

評価割合	予習課題(45%)および定期試験(55%)で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	暮らしの看護 萱場一則　建帛社　(978-4-7679-1852-5)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】　社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる　【関心・意欲・態度】　生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
オフィスアワー	・対面授業の前後(質問は、積極的に行ってください。) ・予習課題の質問表の活用や、メールでも問い合わせを受け付ける。
学生へのメッセージ	家庭でできることは多くあり、日々の生活を通して健康増進や体調不良時の対処方法など、自信を持って行えるようになることを期待しています。一緒に学びを深めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	看護師としての実務経験を生かし、分かりやすく「からだやこころのしくみ」を説明します。 また、一工夫でできる専門的な対処方法を伝授致します。
アクティブ・ラーニング	○	予習を活用した、意見交換の場を設ける予定である。対面授業時のディスカッションは、感染予防の観点から控え、書面上での意見を、教員が情報提供する形式とする予定。（感染状況などの状況に応じて、対応を検討）
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	消費者情報論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G12303C21
授業概要(教育目的)	著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には表示や広告など、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。 これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などを消費者の視点から学ぶ。
履修条件	特になし 本科目は千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	消費者情報に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点（K）	消費者情報について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	消費者情報についてどのような素材・教材があるか調べる。	120分
第2回	消費者情報とは何か	企業、行政、消費者のそれぞれの立場からみた場合の消費者情報について理解する。	今日の消費者が企業と行政から提供される消費者情報の種類・方法を調べる。	120分
第3回	消費者教育をめぐる動向①	学校教育における消費者教育を学習する。	学修者が受けてきた学校教育における消費者教育の実例について整理する。	120分
第4回	消費者教育をめぐる動向②	学校教育における消費者教育を学習する。	学修者が受けてきた学校教育における消費者教育の実例について整理する。	120分
第5回	消費者教育をめぐる動向③	社会人教育における消費者教育を学習する。	社会人教育における消費者教育の実例について整理する。	120分
第6回	企業と消費者教育	企業が実施する消費者教育のメリットとデメリットについて理解する。	企業が提供している消費者教育の素材を調べる。	120分
第7回	企業における消費者情	消費者信用に関わる情報の内容と、消費者と事業者双方のメリットとデメリットを理解する。	消費者信用情報機関について調べる。	120分

	報			
第8回	行政における消費者情報①	国や自治体が実施している消費者教育やその素材について現状と課題を理解する。	国や自治体が実施している消費者教育やその素材を調べる。	120分
第9回	行政における消費者情報②	消費生活相談情報のとりまとめや活用のされ方について理解する。	消費生活相談情報の公表内容を調べる。	120分
第10回	行政における消費者情報③	消費者庁などが公表している消費者事故情報を理解する。	公表されている消費者事故情報を調べる。	120分
第11回	メディアリテラシーとは何か	メディアリテラシーの重要性について理解する。	メディアリテラシーに関わる教材を調べる。	120分
第12回	生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討	消費生活に関わる広告の種類や問題を理解する。	誇大広告など問題のある宣伝内容を調べる。	120分
第13回	消費者マーク①	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	120分
第14回	消費者マーク②	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	120分
第15回	消費者情報をめぐる取組み	消費者の様々なニーズを活用するための取組みを理解する。	行政のパブリックコメント制度（意見公募手続制度）のしくみについて調べる。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は40点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。 ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物			○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	国民生活センター編『くらしの豆知識（2023年版）』2022年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【後期】水曜日　1701ゼミ室　10：40～12：50
学生へのメッセージ	関連するweb教材や動画などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	メディアリテラシーについて学ぶ機会を設け、情報モラルに関する知識と技術の向上に努めている。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	消費経済論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森　敏	指定なし

ナンバリング	G22305C21
授業概要(教育目的)	消費経済について、消費者の視点を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の３点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
思考・判断の観点（K）	消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	講義全体の概要	３つの消費者行動を知る。	シラバスによく目をとおしておくこと。	180分
第2回	説得的コミュニケーションとは	消費者に品物やサービスを買ってもらうためのコミュニケーションを知る。	5つの説得される消費者心理を復習しておくこと。	180分
第3回	セグメンテーション	なぜ人の好みは違うのかを考える。	セグメンテーションについて復習しておくこと。	180分
第4回	店頭マーケティング	売れるお店はどうやって作るのかを考える。	課題①食品スーパーなどの売り上げをあげるために、インストア・マーチャンダイジングを考える。	180分
第5回	学習とは何か	学習とは、経験によって引き起こされる行動の永続的変化であり、購買の視点から学習を考える。	学習メカニズムについて復習しておくこと。	180分
第6回	記憶	購買の視点から学習を考える。	購買の記憶について復習しておくこと。なお、2回目の課題あり。	180分
第7回	課題の解説	課題の解説を行う。	課題について復習をしておくこと。	180分
第8回	意思決定	「意思決定者としての消費者」の観点から、消費者がどのように消費について意思決定しているのかを考える。	日経MJを題材とした3回目の課題あり。	180分
第9回	中間振り返	これまでのキーワードなどを授業において復習する。	レポート作成について4回目の	180分

	り		課題あり。	
第10回	レポート作成について	レポート作成について解説を行う。	レポート作成について復習を行っておくこと。	180分
第11回	消費で自己表現をしている	消費とは生きるために必要なものを得るだけではない。消費とは自己の存在と深くかかわっている。	消費から自己を考え復習しておくこと。	180分
第12回	文化について	消費としての文化を考える。消費は単なる買い物ではなく、その人らしさを表現するものでもある	消費と文化を復習しておくこと。日経MJを用いた5回目の課題あり。	180分
第13回	集団について（なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？）	友人などの周囲の人々が消費者の好みに及ぼす影響（意識的・無意識的を含めて）を考える。	自身の消費について影響する人を考えておくこと。	180分
第14回	家族の買い物は　誰が決めているのか	①家族の購買意思決定のあり方、②消費者としての子供の社会化について考える。	家族としての購買意思決定について復習しておくこと。	180分
第15回	総復習	これまで授業で取り扱ったキーワードを整理する。	予習として、これまで授業で取り扱ったキーワードを整理しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説を行います。
評価方法	・課題は4回～5回出題します。A４で1枚～2枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○			
	レポート	○	○		

評価割合	レポート（60%） 宿題4～5回（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	松井剛・西川英彦、『1からの消費者行動』、碩学舎、2016年。
ディプロマポリシーとの関連	生活・社会の諸問題を自ら発見し分析することができる。
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってくること。
学生へのメッセージ	課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75mm×75mmのポストイット（1束100円程度）を購入してもらうかもしれない。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用	○	グーグルフォームを活用しながら、双方向型授業を実施

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 黒岩　薫	指定なし

ナンバリング	G12213C21
授業概要(教育目的)	子どもを総合的に捉える視点として、関係する各領域(心理、保育・教育、社会、文化、福祉等)を概観しながら、子どもを取り巻く基礎的課題(子ども観、現代社会における子どもの問題、子どもの発達、子どもと環境、子どもと教育・保育等)について講義する。現実の生活や社会における子ども、子ども問題へのアプローチについて実践的な視点からも考察が深められるよう、演習を取り入れながら講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「子ども」という存在を歴史的・社会的・教育的など多角的な視点から捉えることができる。また、児童学における基礎的課題を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	上記の知識・理解の観点を踏まえた上で、子どもを取り巻く現代的課題について総合的に考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	授業内容を踏まえた上で、自らの経験、社会的状況など、子どもにかかわる情報を自ら関心を持って調べ、総合的な考察をする上での知見を獲得しようとすることができる。
技術・表現の観点（A）	獲得した知見を基に行った考察を適切にレポート等に表すことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション：児童学とは	・児童学とはなんだろう？ ・子どもを捉える視点（心理、保育・教育、社会、文化、福祉等）について学ぶ、考える	【予習】シラバスを読み、授業概要について理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第2回	「子ども」とは何か	・「子どもはかわいい」はあたりまえ？ ・子ども観の歴史的変遷と社会的背景について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子ども観に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第3回	子どもの発達	・子どもはどのように発達するのか？ ・子どもの発達に関する理論や歴史的・社会的背景について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子どもの発達に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第4回	子どもと食	・子どもにとって食事はどんな意味がある？ ・子どもの食生活と発育、社会背景に関する基礎事項について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子どもの食生活に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第5回	社会のなかの子ども①：家族	「子育ては家族の仕事」？ ・現在の日本の家族と子育てについて、現況や課題を学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、家族と子育てに関する基礎的事項を理解する	各90分

			【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	
第6回	社会のなかの子ども②：仲間	・子どもはどうやって友達を作るの？ ・子どもの仲間集団（仲間関係）について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子どもの仲間集団に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第7回	社会のなかの子ども③：遊び・メディア	・子どもはなぜ遊ぶのか？ ・子どもにとっての遊びの意味について学ぶ、考える ・好きだったテレビや絵本は？ ・子どもを取り巻くメディア（テレビ・絵本など）について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子どもの遊びやメディアに関する基礎的事項を理解する 【復習】第7回までの授業で扱ったテーマの中から一つ、グループで選び、そのテーマについてレポートを執筆する。	各90分
第8回	社会のなかの子ども④：教育制度	・なぜ子どもは幼稚園や保育所、学校に通うの？ ・日本における幼児教育制度や学校教育制度の展開や現況、基準書について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、幼児教育制度や学校教育制度に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第9回	社会のなかの子ども⑤：多文化教育	・「日本は単一民族国家」？ ・多文化教育・多文化保育について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、多文化教育に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第10回	社会のなかの子ども⑥：ジェンダー	・「男の子は〇〇、女の子は△△」？ ・子どもとジェンダー形成、周囲の環境について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子どものジェンダー形成に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第11回	現代の子どもをめぐるテーマ①：児童虐待	・児童虐待は「最近」の問題か？ ・児童虐待の実態や対策の在り方について学ぶ、考える	【予習】事前配布のプリントに目を通し、児童虐待に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第12回	現代の子どもをめぐるテーマ②：少年非行	・少年非行・犯罪は凶悪化している？ ・少年非行の諸問題と保護制度について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、少年非行に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第13回	現代の子どもをめぐるテーマ③：子どもの貧困	・「昔はもっと貧しかった」？ ・子どもの貧困の実態や対策について学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子どもの貧困に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第14回	子どもの最善の利益・共生のために①：子育て支援	・子どもや家庭のためにどんなことができる？ ・子どもと家庭の支援の在り方とその意義、支援のための具体的な制度や取り組みについて学ぶ、考える	【予習】事前配布資料に目を通し、子育て支援に関する基礎的事項を理解する。 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第15回	子どもの最善の利益・共生のために②：子どもの権利	・子どもの最善の利益のためにできることはなんだろう？ ・「子どもの権利条約」について学ぶ、考える ・これまでの授業内容を概観し、現代の子どもの位相やその課題について改めて確認する	【予習】「子どもの権利条約」について事前に目を通しておく。 【復習】自身の関心に沿って、第8～15回までの授業で扱ったテーマの中から一つ選び、そのテーマについてレポートを執筆する。	各90分

学生へのフィードバック方法	提出されたリアクションペーパーなどについて、翌週以降授業内にてフィードバックを行う。 提出されたレポートについては、各学生へフィードバックのコメントを返す。（方法は未定）
評価方法	各授業でリアクションペーパー等の提出を求める。グループワークおよび期末レポートについては、本講義でとりあげたテーマの中から課題設定を行い、論じること。詳細については、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物	○	○	○	○
	グループワーク（レポート）	○	○	○	○
	期末レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点（リアクションペーパー等）40%、グループワーク（レポート）20%、期末レポート　40%
使用教科書名(ISBN番号)	・教科書は指定しない。 ・参考文献・資料等は各授業内にて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる

	【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる ・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
学生へのメッセージ	・授業内で実施する個人／グループでのワークやディスカッションへの積極的な参加を期待します。 ・講義実施中の半期間、子どもや教育に関するニュースについて、各自関心を高めておきましょう。 ・講義の予習・復習を行い、授業に臨んでください。 ・授業を通して、知識を受身的に得るだけではなく、常に「考える」ことを意識してみましょう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個人／グループワークやディスカッションを取り入れ、受講生が主体的に参加できるような授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小坂田　摩由	指定なし

ナンバリング	G32215C21
授業概要(教育目的)	乳幼児期の保育や教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものである。少子高齢化や他者とのつながりの希薄化が進んでいる現代社会では日常生活で保育や子どもに触れる経験は乏しくなってきているが、このような現状だからこそ子どもが健やかに育つためには多様な人々が協力して保育を行うことが必要不可欠であり、性別・立場にかかわらず誰もが子どもや保育について学ぶことは急務と言える。 本授業では、子どもの心身の発達プロセスやその生活に関する基礎知識のほか、乳幼児期の教育や保育ならびに子育て支援の制度とその内容、また子どもの文化について講義する。特に、子どもをよく観察し信頼関係を築くこと、子どもが身近な環境に主体的に関わること、子どもが置かれている多様な環境や子どもの文化に興味を持つことを重視し、さまざまな実習や体験活動を交えながら講義を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	乳幼児期の教育・保育の意義や重要性とその内容を理解し、説明することができる。 子どもの発達プロセスや文化への理解を深め、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	上記知識・理解の観点を理解した上で、乳幼児期の教育・保育の今日的課題について考察を深めることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもという存在に関心を持ち、自身で設定した課題に意欲を持って取り組むことができる。 上記の場面で、多様な他者との協働を図ることができる。
技術・表現の観点（A）	子どもや保育における自らが関心を持った内容について、適切なツールを用いて発表することができる。 実践を構想することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション：保育学とは／乳幼児期の重要性	・乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、高齢期というライフステージの概念を学ぶ ・生涯発達における乳幼児期の重要性について学ぶ	【予習】保育を学ぶにあたって、自分の子ども時代について振り返りを行う 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第2回	子どもの誕生	・「赤ちゃん」に名前をつけよう！―「名づけ」の歴史的変遷とその社会的背景を知る ・出産・育児に関する社会的制度を学ぶ	【予習】事前配布のプリントに目を通し、出産・育児に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第3回	子どもの生活①：「赤ちゃん」のいる暮らし	・「赤ちゃん」のいる家庭の1日を観察する ・「赤ちゃん」の世話を体験する	【予習】事前配布のプリントに目を通し、子育てに関する基礎的な事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第4回	子どもの生活②：から	・乳幼児期のからだの発達について学ぶ ・乳幼児期の運動能力・身体の発達の特徴を理解する	【予習】事前配布のプリントに目を通し、乳幼児期の身体の発	各90分

	だの発達	・乳幼児の食事・乳幼児の衣服について知る	達に関する基礎的な事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	
第5回	子どもの生活③：こころの発達	・乳幼児期のこころの発育について学ぶ ・乳幼児期の情緒・社会性・言葉の発達の特徴を理解する	【予習】事前配布のプリントに目を通し、乳幼児期の情緒・言語面の発達に関する基礎的な事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第6回	子どもの生活④：子どもの安全	・子どもの生活環境と安全について学ぶ ・「子どもの目線」を体験する（「チャイルド・ビジョン」を作成する） ・子どもの遊びに潜む危険を予測しよう	【予習】事前配布のプリントに目を通し、子どもの安全に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第7回	子どもの遊びと文化①：様々な遊び	・子どもの遊びと保育者の役割について学ぶ ・子どもの遊びを体験する ・保育の方法について理解を深める	【予習】事前配布のプリントと以前の授業内容に目を通し、子どもの遊びに関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、自身の子ども時代の遊びについての小レポートを作成する	各90分
第8回	子どもの遊びと文化②：絵本	・絵本と読み聞かせの重要性を理解する ・絵本に描かれた子どもの姿を見てみよう ・子どもの発達段階に応じた絵本について学ぶ	【予習】事前配布のプリントに目を通し、子どもの絵本に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第9回	子どもの遊びと文化③：多様なデジタルメディア	・子どもの暮らしとメディア環境について学ぶ ・幼児番組を分析しよう	【予習】事前配布のプリントに目を通し、自分の関心のある幼児番組などについて調べる 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第10回	子どもの保育①：保育の意義、日本の保育制度	・保育の意義、日本の保育制度を理解する ・保育所保育、幼稚園教育の基本について学ぶ	【予習】事前配布のプリントに目を通し、日本の保育制度の概要について理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第11回	子どもの保育②：乳幼児教育・保育施設での1日	・保育所・幼稚園を中心とした乳幼児の教育・保育施設での1日の流れを学ぶ（映像資料） ・乳児保育・幼児教育のねらい、内容、具体的な配慮事項を知る ・保育士・幼稚園教諭などの職務を知る	【予習】事前配布のプリントに目を通し、乳幼児の教育・保育施設に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第12回	子どもの保育③：多様性を尊重した保育	・国籍や文化の違いをもつ子どもたちへの保育について学ぶ ・性別などによる固定的な意識を植えつけない保育のあり方を知る ・ミニディベートをしよう（保育とジェンダーについて）	【予習】事前配布のプリントに目を通し、多様性を尊重した保育に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第13回	子どもの福祉と子育て支援①：児童福祉の理念	・児童福祉の理念と関係法規・制度を学ぶ ・子どもの福祉にかかわる施設について学ぶ ・子ども・子育て支援新制度について学ぶ	【予習】事前配布のプリントに目を通し、子どもの福祉に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第14回	子どもの福祉と子育て支援②：保育の専門性を活かした子育て支援	・保育所保育・幼稚園教育を通した家庭支援、子育て支援について学ぶ ・保育の専門性を活かした支援の方法について学ぶ ・子育て支援ロールプレイを体験しよう	【予習】事前配布のプリントに目を通し、子育て支援に関する基礎的事項を理解する 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行う	各90分
第15回	子どもと社会・子育てと社会	・これまでの学習内容を総括した上で、子どもを取り巻く社会（家庭、社会など）と乳幼児期の教育・保育との関連について考察を行う	【予習】事前配布のプリントに目を通し、保育学の授業で学んだことを振り返る 【復習】これまでの学習内容について振り返りを行い、その関連性について考察を深める	各90分

学生へのフィードバック方法	提出されたリアクションペーパーなどについては、翌週以降授業内にてフィードバックを行う。
評価方法	各授業ではリアクションペーパーやワークシート等の提出を求めるほか、中間レポートおよび期末試験を課す。また、授業内で実施する演習やワークに関する取り組み方も平常点として評価の対象とする。詳細については、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○	○	○	○
中間レポート	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（リアクションペーパー等）（40%）、中間レポート（20%）、期末試験（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	・教科書は指定しない。 ・参考文献・資料は各授業にて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる ・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
学生へのメッセージ	・講義ではさまざまな演習やワークを実施します。事前準備が必要になることもあります。積極的な参加を期待します。 ・講義実施中の半期間、幼児期の教育や保育に関したニュース、書籍などを読み、自身の問題意識や関心を深めておきましょう。 ・講義の予習・復習をして、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	「赤ちゃん」人形を使った実践的な活動や遊びの体験をはじめとした演習を多く取り入れる。また、保育に関するディベートや、子どもの遊びの分析などを題材とした教室内でのグループ・ディスカッションにも取り組む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	衣生活学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし
教授	山村　明子	指定なし

ナンバリング	G15101C21
授業概要(教育目的)	衣服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能から成る。したがって、衣服について学ぶには、服飾美学、被服構成学、被服材料学、被服管理学、被服衛生学等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う衣服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、衣生活に関する基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の衣服に求められる課題について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	快適な衣生活を構築するために必要となる知識を理解する
思考・判断の観点（K）	快適な衣生活を送るための適切な選択ができる
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	衣服とは何か	JISに規定されている衣服に関する用語について学び、そこから衣服とはどのようなものであるかを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	衣服の機能	世界各地の民族服飾の例から、衣服は多様な機能を持つことを理解する。	復習として授業内容を振り返るとともに、授業で指示をする課題を行う。	180分
第3回	日本の服飾の変遷	日本の服飾文化の変遷を現代から古代までさかのぼり、服飾文化と日本の社会状況とのかかわりを理解する。	復習として授業内容を振り返り、授業で指示をする課題を行う。	180分
第4回	衣服と身体環境	身体の生理的特徴と、衣服の機能の一つである温熱環境の維持について理解する。	予習として教科書「5章1節　暑さ・寒さから身を守り快適に着る」を読む。	180分
第5回	既製衣料品のサイズ表示	JISに規定されている衣料品のサイズ表示の基本情報と、世界で流通している衣料品のサイズ表示、サイズ表示に関する消費者問題について理解する。	予習として教科書「4章2節　衣服のサイズ表示」を読む。復習として授業内で指示をする課題を行う。	180分
第6回	中間試験および　色彩とファッション(1)	第1回から5回までの授業内容について中間試験を行う(30分間）。後半は、色彩に関する基礎知識として、色とは何か、そして色の三属性について解説する。	中間試験に備えてこれまでの授業の振り返りを行う。	180分

	色彩のはたらき			
第7回	色彩とファッション (2)デザインの表現と色彩	色彩を系統的に理解するために、マンセル表色系、PCCSを取り上げ、カラーオーダーシステムの説明をする。さらに、衣服のデザイン表現に関係の深い、色の心理効果について解説する。	教科書第3章の「衣服を構成する色彩とデザイン」を読んでおくこと。	180分
第8回	衣服の材料 (1)繊維・糸の種類・特徴	布を構成する糸と、糸を構成する繊維について学ぶ。天然繊維と化学繊維、糸の種類、糸の太さ、糸の撚りなどについて理解する。	教科書第2章の「布を構成する糸」「糸を構成するいろいろな繊維」を読んでおくこと。	180分
第9回	衣服の材料 (2)布地の種類・特徴	衣服を構成する布について学ぶ。織物と編物の違いを理解し、それぞれの特徴を活かした衣服への用いられ方と消費性能について考える。	教科書第2章の「衣服を構成する布」を読んでおくこと。	180分
第10回	衣服の材料 (3)機能性繊維・加工	高性能衣服素材と加工の種類について理解を深める。衣生活のなかで身近にある高性能繊維素材について考える。	予習として教科書第8章を読んでおく。	180分
第11回	衣服の管理 (1)衣服の汚れと洗たく	汚れの種類、着用による衣服の性能低下について考え、洗たくの必要性と洗たくの条件、洗浄作用について学ぶ。	教科書第6章の「着用による衣服の性能変化」から「洗たくに必要なもの」までを読んでおく。	180分
第12回	衣服の管理 (2)家庭洗たくと商業洗たく	家庭洗たくと商業洗たくの違いを学び、商業洗たくを利用する際の正しい判断基準を身につける。	教科書第6章の「家庭洗たくと商業洗たく」を読んでおく。	180分
第13回	衣服の管理 (3)衣服の管理	洗たく以外の衣服の手入れとして、しみ抜きや漂白について理解する。さらに、適切な衣服の保管について考える。	教科書第6章の「洗たく以外の衣服の手入れ」を読んでおく。	180分
第14回	既成衣料品の取扱い表示	「繊維製品の洗たく等取扱い絵表示」に代表される、既成衣料品の取扱い絵表示について、絵表示の意味を正しく理解する。	教科書第6章の「衣料取り扱い絵表示」を読んでおく。	180分
第15回	環境に配慮した衣生活、まとめ	本講でこれまで学んだ衣生活についての基礎的内容を踏まえ、現代生活における衣生活の課題として、環境に配慮した衣生活について考える。	予習として教科書第7章を読んでおく。これまでの授業のまとめをする。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。
評価方法	平常点（小テスト）では要点の理解を確認する。 中間・期末試験では授業内容全体の理解を問う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間・期末試験	○	○	○	
	平常点（小テスト）	○		○	

評価割合	平常点（小テスト）：15%　中間試験：30%　期末試験：55%
使用教科書名(ISBN番号)	『消費者の視点からの 衣生活概論』菅井清美・諸岡晴美 編著、井上書院　978-4-7530-2323-3
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】快適な衣生活を構築する能力を有することで「質の高い生活」の本質が理解できる　【思考・判断】快適な衣生活を送るための適切な選択ができることで、生活におこる諸問題を解決するための考察ができる 【関心・意欲・態度】衣生活を多角的に学ぶことで情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる
オフィスアワー	山村　月曜日2時限　1703 井澤　金曜日3時限　1704
学生へのメッセージ	本授業で学ぶ内容は、1年後期以降のファッション系の授業の基礎となり、また、教員採用試験や各種検定試験につながる。よく復習をして、今後の授業に活かしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファッション造形実習A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤　尚子	指定なし

ナンバリング	G15302C23
授業概要(教育目的)	衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造および構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応。実習課題として、手縫いの基礎縫い（サンプルつくり）、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究（1/2サイズ：ハーフパンツの製作）およびステップアップ課題（スカートの製作）を取り上げる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	洋服の基本的な構造および構成方法を理解し、日常の衣生活に活用することができる。
思考・判断の観点（K）	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	修得した内容や技法を、さまざまな被服材料を用いた衣服デザイン製作に活用しようとすることができる。
技術・表現の観点（A）	ミシン縫製の基礎技術、基礎手縫い技法を学ぶことで、衣服製作でのファッション表現の基礎技術を体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、洋裁道具の説明、直線ミシン、ロックミシンの説明	本授業の概略を説明する。実習に必要な裁縫道具の説明をする。直線ミシン、ロックミシンの使い方を理解する。実習の概要を理解する。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。裁縫道具の準備をする。直線ミシン、ロックミシンの使い方の復習をする。次回の内容をプリントで確認しておく。	120分
第2回	パターンについて、ハーフパンツの裁断、しるしつけ	ハーフパンツに用いる布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、1/2パターンを用いて裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。ここでは、裁断、しるしつけについて学ぶ。	しるしつけまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。	40分
第3回	ハーフパンツの脇縫い・縫い代の始末、股下縫い・縫い代の始末	脇縫い、股下縫いはふせ縫いで始末の仕方を説明をする。ここでは、まち針の打ち方、縫い代の始末の仕方を学ぶ。	脇縫い、股下縫いまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。	60分
第4回	股上縫い・縫い代の始末、裾上げ	股上縫いでは、二度縫いと裁ちめかがりの説明をする。裾上げの方法として、縫い代を三つ折りにして、普通まつりの方法を説明する。ミシンを使わない裾上げの方法を学ぶ。	股上縫い、裾上げまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。	60分

第5回	ウエストの始末・ゴム通し、ハーフパンツの仕上げの説明、ハーフパンツの提出、レポート提出	ウエストの始末ではゴム通しの作り方、平ゴムの通し方を学ぶ。最後にハーフパンツの仕上げとして、アイロン仕上げの説明をする。完成した作品の仕上げ方を理解する。ハーフパンツの提出、レポート提出。	ウエストの始末・ゴム通し、仕上げまでを終わらせ、最終提出日までにハーフパンツ、レポートを提出する。	60分
第6回	人体計測、スカートのデザイン説明、スカートのパターンについて、布地の説明	スカートのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行う。実習で使用するスカートのパターンについて解説する。スカートの材料の説明をする。課題について理解する。	スカートの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。	120分
第7回	スカートの製図	1/4縮尺を使用して、スカートの製図をする。スカートの製図法を理解する。スカートの製図を提出する。	次回の内容についてプリントで確認しておく。	60分
第8回	スカートの裁断、しるしつけ	布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。	しるしつけまでを終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	60分
第9回	基礎縫いの説明、基礎縫い提出	基礎縫い（手縫い5種）を理解する。手縫いの基礎として、奥まつり、縦まつり、普通まつり、千鳥がけ、星止めの説明をする。基礎縫いの提出。	次回の内容についてプリントで確認しておく。	60分
第10回	仮縫いの説明、脇の始末、ダーツ縫い、左脇縫い	スカートの試着点検、補正の説明をする。試着点検の必要性を理解する。脇縫い代にロックミシンをかけ、縫い代の始末をする。しつけ糸の説明をする。スカートの本縫いとして、しつけをかけミシンで縫うことを学ぶ。	ダーツ縫い、左脇縫いを終わらせる。ファスナーの種類について調べる。ファスナーつけについてプリントで確認しておく。ファスナーつけ位置にしつけをかけておく。	90分
第11回	ファスナーつけ、ファスナーつけの始末、右脇縫い	ファスナーつけに使用する、コンシールファスナーについて理解する。縫い代に貼る伸び止めテープの説明、コンシールファスナーのつけ方、および押えがねの説明をする。コンシールファスナーのつけ方を学ぶ。ファスナーつけの点検をする。右脇を縫う。	ファスナーつけを終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	60分
第12回	見返し作り、接着芯の説明・接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫い、見返しつけ	接着芯の特徴について説明をする。見返しに接着芯を貼り、しるしをつけ、見返しを縫う。ウエスト部分の見返しつけの説明をする。見返しつけ独特のまち針の打ち方、しつけのかけ方、ミシンのかけ方を学び、なぜそうするのかを理解する。	見返しつけまで終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	60分
第13回	裾の始末、見返しの始末	裾の縫い代にロックミシンをかける。見返しの下部分にロックミシンをかける。裾の始末、見返しの始末の説明をする。裾の始末にはロックミシンをかけた後、奥まつりを用いる。見返しの始末には、基礎縫いで学んだ縦まつり、星止め、千鳥がけを用いる。基礎縫いで学んだ技法を理解する。	裾の始末、見返しの始末を終わらせる。スカートの仕上げについてプリントで確認しておく。	90分
第14回	スカートの仕上げの説明、スカートの提出、レポート提出	スカートの仕上げとして、スプリングホックのつけ方、アイロン仕上げの説明をする。スカートの提出、レポート作成・提出。	スカートの仕上げをし、最終提出日までにスカート、レポートを提出する。	90分
第15回	ポケットつけのサンプル作り、ポケットつけサンプルの提出	ポケットのつけ方を理解する。ポケットつけサンプルの提出。授業で製作した課題についての総括をする。	ポケットつけサンプルを仕上げ、最終提出日までに提出する。	60分

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で、作業内容が理解されているか、作業進度を確認している。作業のポイントといえる箇所で必ず点検を行い、間違いがあれば訂正を促す。提出した作品については、返却時にコメントを書き、学生各自に作品の総合的な完成度を再確認させる。
評価方法	平常点は、授業参加状況と授業時の作品製作への取り組みを総合的に評価する。課題（作品）評価は、授業時の説明を正しく理解しているか、さらに縫製技法を正しく習得しているかを評価する。レポート評価では、レポート課題の各項目について授業時の説明とも照らし合わせ、書かれている内容を総合的に評価する。これらを下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常の授業参加	○		○	
課題（ハーフパンツ、スカート）	○	○	○	○
課題（レポート）	○		○	

評価割合	平常点（30%）、作品課題（60%）、レポート課題（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣服製作を学ぶことで、衣服製作の側面から家庭裁縫や被服教育の変遷を理解する機会を有する。 【思考・判断】生活者として現代の衣生活を考え、「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。 【技術・表現】日常の衣生活や、ファッション表現のための裁縫の基礎技法を体得することができる。
オフィスアワー	水曜日2時限　1704ゼミ室（井澤）
学生へのメッセージ	今年は分散登校による授業になるため、履修者を32名に制限します。32名より多くなった場合は、教員の方で調整を行い履修者を32名にしますので、ご了承ください。各学年の後期オリエンテーションでの説明に注目してください。 第1回目の授業で概要を説明しますので、履修する学生は必ず出席してください。授業時間外の作業も多いので、実習内容は次回まで持ち越さないほうが良いと思います。わからないことがあったら、遠慮なく担当教員に質問してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	材料購入のための店舗見学、材料調査などを各自で行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ミシンの使用方法、基礎縫いの技法などについては動画教材を制作し活用することで、繰り返し学習に役立てることができる。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G13102C21
授業概要(教育目的)	食品は多種多様であるが、食品の基本的な性質を決定する成分は水、炭水化物、たんぱく質、脂質などに限られており、またそれらは調理・加工・保存中に変化することがある。一方で、食品の嗜好性に深く関わる微量成分（呈味成分、香気成分、色素など）の存在も重要である。本科目では、これら食品中に含まれる成分について、物質としての基本特性に加え、栄養性、嗜好性、調理特性なども関連付けて解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種食品成分の種類、構造、性質、所在を説明できる。食品における成分間反応による嗜好性や栄養性の変化について説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

食品学概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	人と食べ物	人類の歴史における食の移り変わりや食をめぐる環境問題など、人と食べ物とのかかわりや、食生活の現状について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	食品成分を理解する－有機化学の基礎－	次時以降、食品成分や成分間反応について学ぶために、その基礎知識となる有機化学の基礎を理解する。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食品の成分（水）	食品中の水の状態（結合水、自由水）と物性や貯蔵性との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食品の成分（炭水化物）	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について学ぶ。	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第5回	食品の成分（脂質）	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解する。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指標があることや油脂の酸化について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	食品の成分（たんぱく質）	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分

第7回	食品の成分（ビタミン）	食品中のビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-5を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	食品の成分（ミネラル、核酸）	食品中のミネラルの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-6,7を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	中間まとめ	教科書3章「食品の成分」の振り返りを行う。練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る。	理解があいまいだったところを中心に、よく復習しておくこと。	180分
第10回	味の成分	食品に含まれる味と香りにかかわる成分の種類、構造、利用について学ぶ。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	香りの成分	食品に含まれる、香りにかかわる成分の種類、構造、性質などについて学ぶ。また、食品の調理・加工において二次的に生成する香り成分について理解する。	授業前に、教科書第4章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	色の成分	食品の色素成分の種類、構造、性質、所在、調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第4章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	成分間の相互作用	食品の酵素的褐変と非酵素的褐変の概要と食品学的意義を理解する。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	食品成分表	食品成分表の概要を知り、実際の食生活における食品成分表の利用について学ぶ。	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業時に課した課題等について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。
評価方法	定期試験100%で評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			

評価割合	定期試験の得点（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	食べ物と健康I 第2版（978-4-7598-1818-5）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
オフィスアワー	後期：火曜日3,4時限目
学生へのメッセージ	私たちが毎日食べている食材に含まれる成分の特徴とその調理・加工における変化を中心に学んでいきます。高校や大学における化学や生物の知識が役立ちますので、復習しておくと理解しやすいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フードスペシャリスト論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G13303C21
授業概要(教育目的)	フードスペシャリストとはどのようなものか、その専門性や活躍分野について理解を深め、それを踏まえて、人類はどのようにして食物を獲得し、より嗜好性の高い食品を作ってきたのか、世界の食と日本の食の歴史と特徴、現代日本の食生活、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護などについての幅広い知識を修得させることを目指す。フードスペシャリストの専門分野としての「食」について、食文化、食生活、食産業、食の安全行政、消費者保護などの各面から解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	フードスペシャリストの概要と意義について理解し、フードスペシャリストが具備すべき基本知識を修得する。
思考・判断の観点（K）	食の安全や環境、公正な取り引き、食料自給率などの様々な面を考慮し、食品の選択や管理に活かすことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

フードスペシャリスト論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	フードスペシャリストとは	フードスペシャリストの概念、専門性および活躍の分野の概要について学ぶ。また、フードスペシャリストが社会的な規範や法令を遵守し、食育へも積極的に貢献する責務があることについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第2回	人類の歩みと食物	人類の歴史において世界の各地で発達した伝統的な食品加工・保存技術をたどり、日本独自の食品加工・保存技術について理解する。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第3回	食品加工・保存技術史	近代において発達した新しい食品加工・保存技術やイミテーションフーズについて学び、前時の内容と併せて、人類の歴史において食に関する様々な知恵と技術が生命をつないできたことを理解する。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第4回	世界の食	世界の食作法や食事内容の多様性を学び、国際化している食の世界に対応できる視野を養う。地域の自然環境によって生産・生活様式が確立され、食材とともに料理や食文化が構築されていたことについて理解する。	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付	180分

			けたら、要約し、記録しておくこと。	
第5回	日本の食	日本の歴史において、人々は何を食べてきたのか、食べ物のバリエーションはどのように増えてきたのか、また料理様式の発達や食生活の変遷について理解する。また、地域における伝統野菜や郷土料理の発達とそれらを維持することの重要性について学ぶ。	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第6回	現代日本の食生活	戦後の食生活における食料経済や食環境の変化、食の外部化の進展、生活習慣病の増加、食品産業の構造や状況について学ぶ。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第7回	食料の供給と食料自給率	食料自給率の推移と課題、食品ロスやごみ問題などの改善策としての循環型社会の必要性などについて理解する。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第8回	食品製造業	食品産業の構造や特性ついて学ぶ。食品産業の一つである食品製造業の概要、全製造業における食品製造業の特色や近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第9回	食品流通業、外食産業	食品産業のうちの食品流通業について、食品流通業を構成する食品卸売業と食品小売業の概要や特色、存在意義、近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第10回	外食産業	外食産業について、その概要や特色、近代における状況の変化について理解する。	授業前に、教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第11回	食品の品質規格と表示	食品の公正な取り引きと消費のために制定された食品の品質規格と表示に関する法体系の概要を理解する。さらにJAS法と食品表示法について詳しく学ぶ。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第12回	JAS法と食品表示法による表示	JAS法と食品表示法の概要を知り、これらが食品の公正な取り引きと消費に深く関わっていることを理解する。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第13回	健康や栄養に関する表示制度	食品の品質規格と表示に関する法律である健康増進法と食品衛生法の概要について学び、近年注目されている食品の機能性に関する表示制度を正しく理解し、自身の食生活において機能性をうたった食品を適切に利用する姿勢を養う。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第14回	食情報と消費者保護	食情報について学び、食品偽装、フードファディズム、風評被害、トレーサビリティシステムなど、食情報に関わる問題について考える。また、食品の安全におけるリスク分析や食品安全基本法、消費者問題など、消費者保護の在り方についての理解を深める。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。 また授業後に、これまでの学習内容を復習し、期末試験に備える。	180分
第15回	全体まとめ	これまでの学習内容を振り返り、練習問題に取り組む。	授業前に、これまでの学習内容を復習しておくこと。授業後には、定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業後に課した課題について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。
評価方法	定期試験の得点100%で評価します。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験の得点（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	四訂　フードスペシャリスト論（第6版）　（978-4-7679-0660-7）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	後期：火曜日3-4時限目
学生へのメッセージ	「フードスペシャリスト論」は、フードスペシャリストを目指す学生のための最も基本的な科目の１つとなっています。新聞やニュースなどで報道される食に関する様々な問題についても普段から関心を持って見るようにしてください。授業の中でも、その日の内容に関連する新聞記事等を紹介していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G23107C21
授業概要(教育目的)	本科目では栄養学について広く理解することを目的として、栄養学の歴史、各種栄養素の特性と消化・吸収、代謝機構について中心に解説する。また、食品に含まれる栄養素以外の重要な成分として水と食物繊維についても、これらの特性やそれらが私たちの身体に与える影響について解説する。また、食物が摂取された後、栄養素が体内で消化、吸収、代謝を経てエネルギーとして利用される際の変換効率や身体活動との関係についても考察し、これらの知識を実生活に活かす態度を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各栄養素の概要、消化と吸収やエネルギー消費との関係が説明できる。また、栄養素ではなくても食物繊維のように消化管内で有効に働く成分があることを説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

栄養学概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、栄養とは、栄養素の発見	栄養の本質を、「栄養」ということばの語源に立ち返って文化的な観点からとらえるとともに、「栄養素」と生物としてのヒトとのかかわりを科学的観点から理解する。また、栄養学の発展と栄養素の発見について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	栄養素とそのはたらき（１）エネルギーになる栄養素＝糖質	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	栄養素とそのはたらき（２）エネルギーになる栄養素＝脂質	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解する。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指標があることや油脂の酸化について学ぶ。	授業前に教科書第3章-１(2)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	栄養素とそのはたらき（３）からだをつくる	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-１(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分

	栄養素-1＝たんぱく質			
第5回	栄養素とそのはたらき（４）からだをつくる栄養素-2＝からだを構成する脂質とミネラル	身体を構成する栄養素で、たんぱく質以外のものとして、生体膜の成分であるリン脂質、血液の成分であるヘモグロビンの構成成分である鉄、骨の構成成分であるカルシウムについて学ぶ。	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	栄養素とそのはたらき（５）からだのはたらきを調節する栄養素-1＝ビタミン	食品中のビタミンの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3(1)(2)(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	栄養素とそのはたらき（６）からだのはらたきを調節する栄養素-2＝ミネラル	食品中のミネラルの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3(4)(5)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	中間まとめ	第1回～第7回の内容を振り返り、理解を深める。	授業後、理解があいまいであったところを中心に復習しておくこと。	180分
第9回	水と食物繊維	栄養素以外の身体に必要な成分としての水について、身体における水分出納、水の役割を中心に学ぶ。 また食物繊維について、その分類、性質、日常生活における適切な摂取のし方について学ぶ。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	消化と吸収（１）消化の流れとパターン	消化と吸収の定義、消化を担う臓器である消化管と消化腺、消化のパターン（管腔内消化と膜消化）を中心に学ぶ。	授業前に教科書第5章1,2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	消化と吸収（２）消化のしくみ	口腔、胃、小腸、大腸における消化の概要と流れについて理解する。 また、栄養素が小腸から吸収される際の、受動輸送、能動輸送の概要と、その後の輸送経路について理解する。	授業前に教科書第5章3,4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	エネルギー代謝	摂取エネルギーと消費エネルギーの関係、基礎代謝と活動時代謝、またエネルギー代謝を知るための身体の活動強度を示す指標や消費エネルギーの求め方について学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	後半まとめ	第9回～第12回の内容を振り返り、理解を深める。	授業後、理解があいまいであったところを中心に復習しておくこと。	180分
第14回	全体まとめ（１）	練習問題に取り組み、解説を聞いて知識を定着させる。	これまでの授業内容を復習し、定期試験に向けて準備すること。	180分
第15回	全体まとめ（２）	練習問題に取り組み、解説を聞いて知識を定着させる。	これまでの授業内容を復習し、定期試験に向けて準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに、設定したテーマについてコメントシート等に記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。
評価方法	定期試験の得点100%で評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			

評価割合	定期試験の得点（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ　基礎栄養学　第2版（978-4-7598-1817-8）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
オフィスアワー	前期：月曜日昼休み～3限目
学生へのメッセージ	栄養学の基礎について学びます。物質としての栄養素、またこれらが体内で変化を受けてエネルギーになる流れを理解するには、化学や生物の知識が不可欠です。これらの知識が不足していると思う場合は、共通教育科目の化学や生物に関する授業を受けて知識を補強してください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅　紀子	指定なし

ナンバリング	G23103C21
授業概要(教育目的)	私たちの健康は適切な食物の摂取と規則正しい食生活によって維持される。食品には，生命を維持するための栄養機能（一次機能），味や香りなどを感じさせる嗜好機能（二次機能）のほか，病気のリスクを低減する機能（三次機能）を有している。現在，食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により，私たちが入手できる食品はさらに多様化してきている。この講義では代表的な食品の性質，成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化，機能，利用などについて解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	代表的な食品についての性質や成分の特徴，ならびに調理・加工・貯蔵における変化を理解することができるようになる。
思考・判断の観点（K）	調理・加工・貯蔵した食品について正しい知識や新しい情報を理解することで，適切な食生活を維持するための情報の取捨選択ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	はじめに，植物性食品穀類(米)	現在の私たちを取り巻く様々な食環境，食品の分類，および食品のもつ機能性について理解する。 植物性食品の中の米について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第１章「食品の分類と食品成分表」（p.１－４），第２章「植物性食品」「１．穀類」（p.５－１４）を読んでおくこと。	120分
第2回	植物性食品穀類（小麦・大麦・とうもろこし・その他）	植物性食品の中の米以外の種々の穀類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第２章「植物性食品」「１．穀類」（p.１４－１９）を読んでおくこと。	120分
第3回	植物性食品いも類	植物性食品の中のいも類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第２章「植物性食品」「２．いも類」（p.１９－２６）を読んでおくこと。	120分
第4回	植物性食品豆類・種実類	植物性食品の中の豆類，種実類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第２章「植物性食品」「３．豆類」，「４．種実類」（p.２６－４１）を読んでおくこと。授業の最初に，１-３回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	120分
第5回	植物性食品	植物性食品の中の野菜類について，その特性，含有成	教科書第２章「植物性食品」	120分

	野菜類	分，およびその加工品について理解する。	「５．野菜類」（p.４１－５２）を読んでおくこと。	
第6回	植物性食品 果実類	植物性食品の中の果実類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第２章「植物性食品」「６．果実類」（p.５２－６４）を読んでおくこと。	120分
第7回	植物性食品 きのこ類・藻類	植物性食品の中のきのこ類，藻類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第２章「植物性食品」「７．きのこ類」（p.６４－６７）、「８．藻類」（p.６８－７１）を読んでおくこと。次回授業の最初に，４-７回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分
第8回	動物性食品 肉類	動物性食品の中の肉類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第３章「動物性食品」「１．肉類」（p.７３－８９）を読んでおくこと。	120分
第9回	動物性食品 魚介類	動物性食品の中の魚介類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第３章「動物性食品」「２．魚介類」（p.９０－１０４）を読んでおくこと。	120分
第10回	動物性食品 乳製品	動物性食品の中の乳類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第３章「動物性食品」「３．乳類」（p.１０５－１１５）を読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品 卵	動物性食品の中の卵について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第３章「動物性食品」「４．卵」（p.１１５－１２５）を読んでおくこと。次回授業の最初に，８-１１回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分
第12回	その他の食品　油脂・香辛料	油脂について，その分類，精製方法，および特性と機能について理解する。	教科書第４章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」「１．油脂」（p.１２５－１３３）を読んでおくこと。	120分
第13回	その他の食品　甘味料，調味料、香辛料	甘味料、調味料および香辛料について，その分類，精製方法，および特性と機能について理解する。	教科書第４章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」「２．甘味料」「３．調味料」（p.１３４-１４９）を読んでおくこと。	120分
第14回	その他の食品　嗜好飲料、微生物利用食品（アルコール飲料，発酵調味料）	嗜好飲料および微生物利用食品について，その種類，製造工程，およびその加工食品について理解する。	教科書第４章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」「５．嗜好飲料」、教科書第５章「微生物利用食品」（p.１４９－１６３）を読んでおくこと。授業の最初に，１２-１５回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	120分
第15回	微生物利用食品（その他の微生物利用食品）およびまとめ	その他の微生物利用食品について，その種類，製造工程，およびその加工食品について理解する。	教科書第５章「微生物利用食品」（p.１６３－１６８）を読んでおくこと。 定期試験に向けて、これまでの授業内容を復習しておくこと。	予習：120分，復習：660分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業中に行う課題については、翌週に解答をまとめて紹介し、補足解説を行う。小テストは次週までに採点して返却し、誤りの多い箇所については解説する。
評価方法	・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについての記述する問題である。 ・小テストは、3～5回の授業内容について、穴埋めを中心とした問題を出題する。 ・定期試験は、小テストの振返りも含めて、授業内容全体から、穴埋め、記述等の形式で出題する。 ・課題、小テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	小テスト	○			
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（60%），小テスト（20%）、課題（20%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	食べ物と健康　三訂　マスター食品学Ⅱ，　小関正道（編著）　他，　建帛社，978-4-7679-0698-0
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し，総合的な家政学の見地に立ち，現代社会の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察ができるようになる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー	金曜・1時限および昼休み　1609研究室
学生へのメッセージ	食品学概論で食品成分の特性から食品をみてきましたが，それを基礎としてこの科目では実際の種々の食品の特徴について学んでいきます。日常の生活においてもいろいろな食品に関心を持ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	調理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅　紀子	指定なし

ナンバリング	G23109C21
授業概要(教育目的)	調理とは食材を準備し，衛生的，栄養的に安心で，なおかつ嗜好的に優れた食べ物として調製し供するまでの一連の過程である。その過程で起こる諸現象について，食品材料の種類と調理特性，食品成分と調理変化，食味・食感への影響について調理操作や調理器具との関連から科学的な法則性について解説する。また，人間と食べ物，環境との関係を理解し，調理の技術やおいしさの向上，豊かな食生活の実践に繋がる理論を系統的に講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	調理とは何かを学び，食品材料の種類と調理特性，調理過程での成分変化や調理操作の特徴，嗜好性への影響などについて科学的，系統的に理解することができるようになる。
思考・判断の観点（K）	食べ物と人間や社会，環境との関連を理解し，豊かな食生活に繋げる能力を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	はじめに，調理の目的	調理の目的，調理と調理科学について理解する。	教科書「１．調理の目的・意義」（p.１－３）を読んでおくこと。	120分
第2回	おいしさの科学	おいしさに関与する種々の要因について理解する。	教科書「２．調理とおいしさの向上」（p.４－１６）を読んでおくこと。	120分
第3回	調理操作と調理器具①非加熱調理	調理操作の分類，非加熱操調理操作について理解する。	教科書［５．調理操作，5-1.調理操作，5-2．非加熱操作」（p.４７－５７）を読んでおくこと。	120分
第4回	調理操作と調理器具②加熱調理	調理操作の分類，加熱操調理操作および調理器具について理解する。	教科書「５．調理操作，5-3.加熱操作、5-4．加熱調理器具」（p.５８－７２）を読んでおくこと。	120分
第5回	調理操作と調理器具③新調理システム，チルド	調理操作の分類，新調理システム，チルド食品について理解する。	教科書［５．調理操作，5-5.新調理システム，5-6．チルド食品」（p.７３－７４）を読んでおくこと。次回の授業の最初に，1-5回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分

第6回	植物性食品の調理性①米	植物性食品の中の米について，その調理特性を理解する。	教科書［６．食品の調理性，6-1．米」（p.７５-８０）読んでおくこと。	120分
第7回	植物性食品の調理性②小麦，その他	植物性食品の中の小麦やその他の食品について，その調理特性を理解する。	教科書［６．食品の調理性，6-2．小麦，6-3，穀類」（p.８０-８７）読んでおくこと。	120分
第8回	植物性食品の調理性③いも類，豆類	植物性食品の中のいも類および豆類について，その調理特性を理解する。	教科書「６．食品の調理性，6-4．いも類，6-5．豆類」（p.８７－９２）を読んでおくこと。	120分
第9回	植物性食品の調理性④野菜類，その他	植物性食品の中の野菜類，果実類，種実類，およびきのこ類について，その調理特性を理解する。	教科書［６．食品の調理性，6-6．野菜類，6-7．果実類，6-8．種実類，6-9．海藻類，6-10．きのこ類」（p.９３-１０２）読んでおくこと。次回授業の最初に，6-9回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分
第10回	動物性食品の調理性①肉類	動物性食品の中の肉類について，その調理特性を理解する。	教科書［６．食品の調理性，6-11．食肉類」（p.１０３-１０７）読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品の調理性②魚介類	動物性食品の中の魚介類について，その調理特性を理解する。	教科書［６．食品の調理性，6-12．魚介類」（p.１０７-１１１）読んでおくこと。	120分
第12回	動物性食品の調理性③卵類，乳類	動物性食品の中の卵類および乳類について，その調理特性を理解する。	教科書「６．食品の調理性，6-13．卵類，6-14．乳類」（p.１１－１１７）を読んでおくこと。次回授業の最初に，10-12回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分
第13回	その他の食品の調理性①でんぷん，甘味料，油脂類	でんぷん，甘味料および油脂類について，その調理特性を理解する。	教科書「６．食品の調理性，6-15．でんぷん，6-16．甘味料，6-17．油脂類」（p.１１７-１２４）を読んでおくこと。	120分
第14回	その他の食品の調理性②ゲル化剤，調味料，香辛料，嗜好飲料	ゲル化剤，調味料，香辛料および嗜好飲料について，その調理特性を理解する。	教科書「６．食品の調理性，6-18．ゲル化剤，6-19．調味料，6-20．香辛料，6-21．嗜好飲料」（p.１２４-１３５）を読んでおくこと。	120分
第15回	献立作成（食事計画）	食事計画の必要性について学び，献立作成について理解する。	予習：教科書第５章「微生物利用食品」（p.１６３－１６８）を読んでおくこと。 復習：定期試験に向けてこれまでの授業内容を復習しておくこと。	予習：120分，復習：660分

学習計画注記	※履修者数や授業の進捗具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業中に行う課題については、翌週に解答をまとめて紹介し、補足解説を行う。小テストは次週までに採点して返却し、誤りの多い箇所については解説する。
評価方法	・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについての記述する問題である。 ・小テストは、3～5回の授業内容について、穴埋めを中心とした問題を出題する。 ・定期試験は、小テストの振返りも含めて、授業内容全体から、穴埋め、記述等の形式で出題する。 ・課題、小テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	小テスト	○			
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験60%　小テスト20%　課題20%
使用教科書名(ISBN番号)	食物と栄養学基礎シリーズ６　第四版　調理学　-生活の基盤を考える-，　吉田勉（監修）　他，　学文社，978-4-7620-2962-2
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し，総合的な家政学の見地に立ち，現代社会の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察ができるようになる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー	金曜・1時限および昼休み　1609研究室
学生へのメッセージ	調理は皆さんにとって身近でしょうか？調理を科学的に捉えて理論を理解することで，調理だけでなく食品製造や商品開発などの仕事にもつながる知識とそれを活かしていく力をつけることができます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	G33108C21
授業概要(教育目的)	本科目では、私たちが健康を維持するための科学的根拠に基づいた正しい食生活について、栄養学の観点から探究していく。実際の食生活において、またそれぞれのライフステージにおいて、それぞれの栄養素をどのように摂取すればよいのかについて、「日本人の食事摂取基準」を踏まえて考察する。さらに、生活習慣病、食物アレルギー、ダイエット、健康づくりのための国の政策や指針など食生活に関わる様々な問題や取り組みについても解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各栄養素の概要、栄養素とからだの仕組みやエネルギー消費との関係が説明できる。健康づくりのための政策指針の内容やそれらが定められた背景が説明できる。
思考・判断の観点（K）	健康に生きていくために必要な栄養素のバランスや食生活、それをどのように維持していくか説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

栄養学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	健康と栄養	健康に生きていくということ、それらを支える適正な栄養素の摂取、適度な運動と休養、生体に備わるホメオスタシスについて理解する。	授業前に、教科書第1章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	からだの仕組み	ヒトのからだの構成、生命を維持するための呼吸、消化、神経などのシステムについて学ぶ。	授業前に、教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食事と栄養（１）糖質	食品中の糖質に関して、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1,2(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食事と栄養（２）脂質	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-2(2)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第5回	食事と栄養（３）たんぱく質	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-2(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	食事と栄養（４）ミネ	食品中のミネラルとビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3,4,5を読んでおくこと。授業後に、学	180分

	ラル、ビタミン、水分		習した内容を復習しておくこと。	
第7回	食事と健康（1）栄養状態の判定	栄養状態を総合的、客観的に評価・判定するために様々な方法があること、またそれぞれの方法の概要について理解する。	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	食事と健康（2）日本人の食事摂取基準	日本において栄養素の過不足は「日本人の食事摂取基準」を用いて評価すること、また健康の維持・増進や疾患の予防・改善には、栄養摂取だけでなく適正な身体活動も必要であることを理解する。	授業前に、教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	我が国の食生活の変化と健康状況	日本の食生活は第二次世界大戦直後の食料難から徐々に改善したが、現代においては栄養過剰や栄養バランスの崩れにより生活習慣病などの様々な問題が生じていることを理解する。	授業前に教科書第5章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	健康増進のための指針	前時の学習内容を踏まえ、国民の健康増進のために様々な取り組みがなされてきたこと、またそれぞれの政策や指針の概要を理解する。	授業前に教科書第5章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	健康とダイエット	飽食、過食、貧食など食行動に様々な問題がみられる今日における、健康を維持する食事（ダイエット）の意義、また適正な体重維持における理論と実際について学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	ライフステージと栄養	胎児期から高齢期までの各ライフステージにおける生理的特徴とそれに見合った栄養ケアについて学ぶ。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	生活習慣病と栄養	生活習慣病とはどのようなものであるか、また個々の疾病の概要と予防や食事療法について学ぶ。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	免疫と栄養	健康を維持するために重要な役割を果たす免疫反応の概要について学ぶ。また、この仕組みが時として食物アレルギーとして人に対してマイナスに作用する場合があることを知る。	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、これまでに学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	全体まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前に、これまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には、定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業時に課した課題等について、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。
評価方法	定期試験の得点100%で評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	三訂　栄養と健康（978-4-7679-0661-4）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	後期：火曜日3-4時限目
学生へのメッセージ	栄養学の基礎と、実際に健康に生きていく上で栄養という現象が他の生命維持機能にどのようにかかわっているか、またそれをどのように維持していかなければならないかについて学びます。化学や生物の基礎知識も必要です。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食生活論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤　有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	私達の食に対する嗜好や要望を反映して、市場で販売される食品は多様化し、食情報も複雑化するなど食をめぐる環境は急速な変化を続けている。このような中で健康的な食生活を営むには、食生活上の問題点や課題を自覚し、より良い方向に自らを導く必要がある。本科目では、「食生活」を生活に関わる食のすべてを含む広範囲なものと考え、現代の食生活における諸問題や文化的側面について学ぶ。戦後から現代にかけての社会の変化やライフスタイルと食生活の関係、「日本型食生活」などについて触れ、質の高い食生活とは何かを考える力を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康的な食生活とはどのようなものか理解できる。自身のおかれた食生活をめぐる環境を理解できる。日本人の食生活は高度経済成長期以後、現在までどのような変化を遂げてきたか、社会背景を踏まえて大まかに説明できる。
思考・判断の観点（K）	現代の日本の食生活をめぐる問題点のうち、自身がと関連が深いと考える事柄について、解決につながる考察ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、食生活の概念	授業概要の説明、生活における食の位置づけや食生活について学ぶ意義を考える。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第2回	食べることの意味①	私たちの体にとって「食べる」とはどのような意味を持つのかを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第3回	食べることの意味②	「食べ物がおいしい」とはどのようなことかを考える。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第4回	食べることの意味③	現代人における視覚的な「おいしさ」について考える。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第5回	食べることの意味④	自身の食生活を振り返りながら、健康的な食生活とは何かを学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第6回	食べることの意味⑤	自身の食生活を振り返りながら、健康的な食生活につながる食習慣について学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第7回	食べることの意味⑥	自身の食生活を振り返りながら、健康的な食生活につながる食習慣について学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第8回	日本人の食生活①	戦後～平成における日本人の食生活の変化について学ぶ。	①配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。②小テストに向け、前半のまとめを行う。	①120分②240分
第9回	日本人の食生活②	戦後～平成における日本人の食生活の変化について学ぶ。	①配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。②小テストに向け、前半のまとめを行う。	①120分②240分
第10回	これまでのまとめ	前半部分の振り返りを行う（小テスト）。	①事前：配布資料を見て、授業のポイントをまとめる②事後：前半の学習で理解ができていなかった部分を振り返る。	①120分②240分
第11回	日本人の食事	食事とは何か、や献立の様式について学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第12回	年中行事と行事食	おせち料理を中心に行事食の在り方について考える。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第13回	食生活の未来を考える①	食品ロスについて学ぶ。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第14回	食生活の未来②、これまでのまとめ	食と環境の問題について考える。全体の復習を行う。	配布資料を見て、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第15回	まとめ	これまでの補足およびまとめを行う。	これまで授業内でポイントをした箇所を中心に復習しておく。	300分

学習計画注記	授業の進み具合によって内容が一部変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・課題（提出物）は、内容の区切りで出す。知識を問うものについては、グーグルクラスルームに正解例を投稿する。小テストは返却時に解説を行う。 ・質問がある場合は、1808研究室まで訪問するか、メール（yukito@kasei-gakuin.ac.jp）またはGoogleClassromを通して行うこと。
評価方法	・課題（提出物）は、授業で扱った内容に対する理解の度合いと考察内容に対して評価を行う。

	・小テストは前半のまとめとして行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○		
	小テスト	○			
	期末テスト	○	○		

評価割合	課題（25%）小テスト（25%）期末テスト（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。毎回資料を配布する。
参考図書	授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食生活の面から現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】自己を取り巻く食生活の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。
オフィスアワー	月曜2限,昼休み,3限　1808研究室
学生へのメッセージ	自身の食生活に目を向けて、授業で学んだことと関連づけて考えてみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	調理学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅　紀子	指定なし
助教	伊藤　有紀	指定なし

ナンバリング	G13110C23
授業概要(教育目的)	安全でおいしい食事を作るためには、確かな調理技術と調理科学の理論が必要である。ここでは、非加熱調理操作、加熱調理操作などの基礎的調理技術を習得し、日本料理と諸外国の調理法や食文化の特徴を学ぶために、日本料理・西洋料理・中国料理の調理の実習を行う。これにより、食品の衛生的な取り扱い方、食品の調理性、調理による食品成分の変化、栄養性・嗜好性を高める調理法、調理器具や食器などの取り扱い方、食卓の演出、食事作法など調理と食生活に関する基礎総合力を養うことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．食事作りに必要な調理科学の理論、食品の性質、日本および諸外国の食文化等を理解する。
思考・判断の観点（K）	１．健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
技術・表現の観点（A）	１．安全でおいしい食事を作りために必要な基礎的調理技術を身につける。

学習計画

調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、実習ノートのまとめ方を理解する。切り方の基本（包丁及びまな板の扱いを含む）、計量を理解する。	切り方の基本、計量について復習する。	15分
第2回	日本料理の基礎(1)	三色丼、味噌汁、即席漬けの献立の実習。 炊飯の基本、煮干しだしのとり方、野菜の脱水を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、炊飯の基本などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第3回	日本料理の基礎(2)	さつまいもご飯、かきたま汁、ぶりの照り焼き、ほうれん草のごまあえの献立の実習。 塩味ご飯、混合だし汁のとり方、切り身魚の調理、青菜の茹で方、あえ物のポイントを理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、混合だしのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第4回	日本料理の基礎(3)	炊き込みご飯、吉野鶏の吸い物、厚焼き卵、ひじきの煮物の献立の実習。 しょうゆ味ご飯、吸い物、卵の焼き調理（１）、乾物の調理(戻し方）を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、吸い物のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第5回	西洋料理の基礎(1)	チキンピラフ、コンソメジュリアン、生野菜のサラダ、紅茶のゼリーの献立の実習。 ピラフ、野菜の吸水、ドレッシング、ゼラチンの調理の特徴を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、ゼラチンゼリーのポイントなどについて自分で学習を深	60分

			めた点についても実習ノートにまとめる。	
第6回	西洋料理の基礎(2)	ロールキャベツ、温野菜のサラダ、ブランマンジェの献立の実習。 ひき肉の調理のポイント、野菜の加熱調理、デンプンの調理性(ゲル化）を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、ひき肉調理のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第7回	中国料理の基礎(1)	ピーマンと牛肉のせん切り炒め、三種のせん切りのあえ物、牛乳かんの献立の実習。 炒め物のポイント、あえ物、寒天の調理の特徴を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、中国料理の特徴などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第8回	中国料理の基礎(2)	焼き餃子、水餃子、野菜の甘酢漬け、とうもろこしスープの献立の実習。 小麦粉の調理（グルテンの形成）、野菜の調理（甘酢漬け）、スープ(湯菜）を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるグルテンの形成などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第9回	中国料理の基礎(3)	くらげの酢の物、肉団子のもち米蒸し、かにたま、アーモンドクッキーの献立。 もち米の調理、卵の焼き調理（２）、小麦粉の調理（膨化の種類　ベーキングパウダー）を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第10回	日本料理の基礎（4）	イワシのかば焼き、茶碗蒸し、けんちん汁、ご飯の献立の実習。 魚の扱い(イワシの手開き）、具たくさんの汁物、希釈卵の蒸し物を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、希釈卵液の蒸し物のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第11回	行事食(1) クリスマス料理	ローストチキン、コーンポタージュ、ブッシュ・ド・ノエル、紅茶の献立の実習。 骨付き鶏もも肉の扱い、肉のロースト、ポタージュスープ、スポンジケーキ(泡立て卵白による膨化）、紅茶(リーフティー）のいれ方を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における泡立て卵白による膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第12回	行事食(2) 正月料理	伊達巻き、松かさいか、いり鶏、紅白なます、雑煮の献立。 日本の行事食(特に正月料理）、イカの扱い(下処理と飾り切り）、煮物(炒め煮）を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、日本における行事食などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。正月料理について、我が家の雑煮をテーマとして調べ、レポートにまとめる。	120分
第13回	西洋料理の基礎(3)	ピザ、ミネストローネ、チョコレートババロアの献立の実習。 イースト発酵、ポタージュ、ゼラチンの調理（ババロア・ムース）のポイントを理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるイーストによる膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第14回	行事食(3) ひなまつりの献立	ちらしずし、はまぐりの潮汁、桜餅の献立の実習。 節句の行事食、すし飯のポイント、潮汁、あんを用いた和菓子（米粉を用いた和菓子）、緑茶のいれ方を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、和菓子の調理などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第15回	まとめ、実習テスト	実習テスト(野菜の切り方）、実習の振り返りを行う。	実習テストに向けての練習を行う。 授業内容全体について総復習を行う。	予習；60分 復習；120分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	受講者の実習中に、その都度調理法その他について必要に応じて、指導を行う。5から6回の実習が終了した時点で、実習ノートを提出してもらい、教室外学習がきちんと行われているかの確認も含めて、指定した事項が記載されているかどうかについて採点し、不十分な場合には、実習ノートの再提出を促して再度記載内容を確認する。
評価方法	・実習への取り組みでは、実習への積極的な参加を評価する。 ・課題では、遠隔授業の授業内容についての理解および自宅での実習の取り組みを評価する。 ・実習ノートでは、毎回の実習内容に関して指定された項目をきちんとまとめているかどうか、さらに授業内容に関して自分で学びを深める学習を教室外でも行っているかを評価する。 ・定期試験では、調理理論、食文化など、調理に必要な基本的な知識に関する問題を、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。 ・実習への取り組み、課題、実習ノート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習への取り組み	○		○	
実習ノート・レポート	○	○	○	○
実習テスト				○
定期試験	○	○		

評価割合	実習への取り組み20%、実習ノート・課題提出45%、実習テスト10%、定期試験25%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。プリント配布

参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	金曜・1時限および昼休み　1609研究室
学生へのメッセージ	食品衛生の観点から必ず指定の清潔な身支度をして実習に参加してください。食生活に関心を持ち、自宅でもできるだけ調理する機会を増やしてください。実習材料費として5000円程度を徴収する。（そのほか家庭での調理の材料費が必要となる）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習等の教育内容が含まれる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康・食発達心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 青木　洋子	指定なし

ナンバリング	G23304C21
授業概要(教育目的)	前半は後半の食発達の理解に必要となる事項を中心に、発達心理学の基本的な知識を学ぶ。後半は、主に離乳期に見られる子どもと大人の「食べる一食べさせる」関係を軸として、子どもの食べる行動の発達と、大人の食べさせる行動に見られる価値観、育児観を文化や社会構造等と関連付けながら説明する。全体を通して、健康で望ましい食生活とは何かを考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	発達心理学の基本的な用語とその意味を説明できる。乳幼児期の口腔機能の発達を説明できる。
思考・判断の観点（K）	講義で学んだ心理学と食発達の知識を元に、ミルクや離乳食の与え方、健康に関する情報の問題点を分析・指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション：授業の進め方・授業で扱うテーマの説明	発達心理学の年齢区分と乳幼児期の口腔発達の概要を知る。	授業の後、発達心理学領域の文献やインターネットを使用し、自分が興味を持ったテーマや用語を調べておく。発達の年齢区分の復習する。	120分
第2回	乳児期の発達心理学	乳児期の感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第3回	幼児期の発達心理学	幼児期の認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第4回	児童期の発達心理学	児童期の認知発達や社会性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第5回	青年期の発達心理学	青年期を中心に自己同一性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分

第6回	成人期・老年期の発達心理学	成人期と老年期に変化する心理的側面を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第7回	文化と学習	日本とフランスでは、幼児期のスプーン操作の習得過程が異なることを示した論考を紹介する。同じ技能獲得でも、文化によって差があることを理解する。	日本以外の国の食事について文献やインターネット、映像資料等を用いてどのような点が異なるか調べる。	240分
第8回	大学生の食事調査	参考書『若者たちの食卓』の中から、大学生の食事の実態を紹介する。	日本の食事内容と流通の歴史的変遷について、文献やインターネットを使用して調べる。特に昭和と平成の期間を重点的に調べること。	240分
第9回	保育園での生活と家庭での食事	第10回～第13回の講義内容の理解を深めるために、保育園での生活の流れ、保育園の食事、家庭での食事を映像で確認する。	「授乳・離乳の支援ガイド」の内容を確認しておく。	180分
第10回	新生児期から1歳前後の咀嚼と嚥下の発達	新生児期から1歳前後（離乳後期）の口腔機能の特徴を理解する。	教科書第1章を読んでおく。乳幼児期の食事道具にはどのような種類があるのか文献、インターネット、育児雑誌、店頭等で調べる。	240分
第11回	幼児期の食とコミュニケーション	幼児期の食事道具操作の発達と、食事場面でのコミュニケーションの発達を理解する。	教科書第2章を読んでおく。	120分
第12回	うまく食べるための調理形態・子どもの身体・食事環境	子どもがうまく食べられない要因を、食べ物・子どもの運動発達・食事に用いる道具の観点から理解する。	教科書第3章を読んでおく。ベビー用の食品（ベビーフードや菓子等）にはどのような種類があるか、菓子にはどのような特徴があるか調べる。	240分
第13回	うまく食べるための改善方法・道具と食べやすさ	これまで学習した子どもの摂食行動の特徴を踏まえて、乳幼児の食事の介助のポイントを理解する。	教科書第4章を読んでおくこと。	120分
第14回	母乳育児と人工乳	「授乳・離乳の支援ガイド」の改定で、母乳にアレルギーの予防効果がないことや、母乳のみと混合栄養（母乳と粉ミルクの両方を与えること）を比較しても児の肥満に差がないことが付け加えられた。完全母乳（母乳のみを与えること）を支持する意見と対比させながら、母乳と粉ミルクそれぞれの利点・欠点を理解する。	完全母乳（完母）・混合栄養・粉ミルクのみの育児スタイルの違いを調べて区別できるようにする。液体ミルクの発売経緯を調べる。	240分
第15回	まとめ	前半の発達心理学と、後半の乳幼児期の口腔機能の発達を復習し、理解を深める。	配布物と教科書を読み返し、これまでの講義の内容を総復習する。	300分

学習計画注記	受講者は必ずシラバスを読むこと。教科書は購入すること。（参考書は購入必須ではない。）授業内容及びスケジュールに変更が生じる場合には、事前に授業で告知する。
学生へのフィードバック方法	他の受講者と考えを共有するために、小レポートの内容を匿名で講義で紹介することがある。
評価方法	(1)講義の理解度を確認するため、定期試験（筆記試験）を実施する。15回目の講義で出題範囲を告知する。ただし新型コロナウイルス感染症対策で筆記試験の実施が困難な場合には、レポートに変更することがある。その場合には講義内で告知する。 (2)講義中に小レポートを2回実施する。レポートの評価は得点化（1回あたり最大10点）し、定期試験の得点に加算する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
小レポート		○		

評価割合	定期試験80%、小レポート20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	山崎祥子（2015）そしゃくと嚥下の発達がわかる本 芽ばえ社(ISBN 9784895793773)
参考図書	藤村宣之編著　(2009)　発達心理学ー周りの世界とかかわりながら人はいかに育つかー　ミネルヴァ書房 外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎編著　(2017) 若者たちの食卓　ナカニシヤ出版 根ケ山光一・外山紀子・河原紀子編（2013）子どもと食　食育を超える　東京大学出版会 その他、必要に応じて講義で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児期の摂食に関わる口腔機能の発達について専門的知識を身に付ける。 【思考・判断】食に関する情報を文化、社会構造、心理、栄養学等と関連付けて、正確な判断ができる思考を身に付ける。
オフィスアワー	毎週授業後
学生へのメッセージ	「食」は栄養バランスだけでは語れません。文化、社会、経験などは、「食」に関する心理つまり価値観に影響を与えます。その価値観は、単純に善悪や正誤に分けられません。本講義が、自分にとって望ましい「食」はどのようなものかを考えるきっかけになると良いです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食料経済		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 二瓶　徹	指定なし

ナンバリング	G01112731
授業概要(教育目的)	本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とし、前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達が著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では個別食品の特性や種類、流通について説明し、それら食品の販路拡大手法であるフードマーケティングを学び、最後に時局的問題と今後の課題について考え、本講義の総括を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．フードシステムの概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 ２．フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 ２．現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 ３．グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 ２．自分自身および取り巻く環境を踏まえ、体系的にフードシステムの在り方を捉え、積極的に提言する。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	豊かな食生活を支える食市場	１．食市場を支える食品産業を理解する。 ２．外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 ３．食の外部化をもたらした要因を理解する。 ４．少子高齢化が変える食市場を理解する。 ５．食品産業の技術発展内容を理解する。	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。	240分
第2回	消費者の食品消費の変化	１．品目別食品消費の変化を理解する。 ２．食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 ３．栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 ４．加工食品がなぜ増加したかを理解する。	教科書の第1章第2節を読んでおくこと。	120分
第3回	食生活の多様化	１．多様化をもたらした社会的要因を理解する。 ２．食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。 ３．現代における食情報が多様化した理由を理解する。	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。	240分
第4回	食品流通の役割と社会的使命	１．食品流通の役割を理解する。 ２．卸売流通の役割を理解する。 ３．小売流通の役割を理解する。 ４．流通の社会的使命を理解する。	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。	120分
第5回	卸売流通が	１．生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。	教科書の第2章第2節を読んでお	120分

	必要な食品流通	２．加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。	くこと。	
第6回	食品の小売流通	１．販売形態の分類を理解する。 ２．食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 ３．家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。	120分
第7回	外食・中食産業と食生活の変化	１．私達の食生活の変化にともない、外食産業および中食産業がどのように変化したかを理解する。	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。	120分
第8回	外食産業・中食産業のマーチャンダイジング	１．外食産業・中食産業の業態を理解する。 ２．外食産業・中食産業の販売形態を理解する。	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。	120分
第9回	主要食品の分類と流通の特性	１．商品特性による基本的分類を理解する。 ２．商品の制度的分類を理解する。	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。	120分
第10回	主食の流通と副食の流通	１．食事の主な構成である主食と副食がどのように流通しているかを理解するとともに、その違いを理解する	教科書の第4章第2節及び第3節を読んでおくこと。	120分
第11回	調味料等および中食、嗜好食品の流通	１．料理や現代の食生活に欠かせない調味料や中食、嗜好食品の流通を理解するとともに、その違いを理解する	教科書の第4章第4節から第6節を読んでおくこと。	120分
第12回	フードマーケティング	１．フードビジネスの概要を理解する。 ２．6次産業化を理解する。 ３．フードマーケティングの基礎知識を理解する。 ４．フードマーケティングの機能を理解する。 ５．フードマーケティングの担い手を理解する。	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。	240分
第13回	食料消費と環境問題	１．３Ｒを理解する。 ２．食品リサイクルと食品廃棄物を理解する。 ３．食品ロスを理解する。 ４．環境関連の用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。	120分
第14回	食品流通の安全確保	１．食品の安全性を理解する。 ２．食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第2節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報収集をしておくこと。	240分
第15回	食料消費を取り巻く課題、総括	１．食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。 ２．授業全体の総括をし、総合的に理解する。	教科書の第6章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ、新聞等で時局的な事項を調べておくこと。 なお、定期試験を行うため、授業全体の復習をしておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-meil（p20088@kasei-gakuin.ac.jp）で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。
評価方法	１．定期試験の得点（100%）で評価する。なお、定期試験はフードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題のほか、記述式の問題を出題する。 ２．定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。 ３．詳細については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	四訂 食品の消費と流通（978-4-7679-0687-4）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。 【思考・判断】現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、考察できるようになる。 【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を具体的に提言できるようになる。
オフィスアワー	面談希望の学生は、月曜日の授業終了後、非常勤講師室にて対応する。
学生へのメッセージ	本講義内容は、卒業後、食品産業等で活躍する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要な基礎的内容となっている。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くないため、主として栄養学を学ぶ履修生に消費の部分だけでなく、生産から消費までのフードシステムを体系的に捉え、栄養管理・栄養指導の場面でも活用していけるようになることを願っている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった３つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品の官能評価・鑑別演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅　紀子	指定なし

ナンバリング	G33106C22
授業概要(教育目的)	豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。適切な食品の選択を行う時に必要とされる食品の品質には、安全性、栄養性、嗜好性、生体調節機能などが関わる。食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について講義および演習により学ぶ。特に嗜好性を評価するうえで重要な官能評価法について、考え方、手法、具体的な実施方法などについて、演習を取り入れながら授業を行う。
履修条件	「食品学」「調理学」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1．食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	1．食品の品質評価から、食生活の問題点を発見し、その解決を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1．食品の品質について関心を持ち、豊かな食生活につなげることができる。
技術・表現の観点（A）	1．官能評価や食品実験について、目的・結果・考察等をわかりやすく記述し、口頭発表することができる。

学習計画

食品の官能評価・鑑別演習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	はじめに食品の品質とは	食品の品質のひとつである食品の嗜好性とおいしさに関わる要因について理解する。2点嗜好試験法、塩分濃度の違いの識別についての演習を通して、食品の嗜好性を評価する重要な方法である官能評価について理解する。	教科書序章「食品の品質とは」（1－2ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点嗜好試験法、塩分濃度の識別）についてのレポートを作成する。	60分
第2回	官能評価の概要、味覚と閾値、官能評価の手法（比較法その1）	官能評価の概要、味の認識の機構と閾値について理解する。 2点識別試験法、5味の識別テストの演習を通して、味覚と閾値、濃度識別について理解する。	教科書第1章「官能評価」（3－5ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（2点識別試験法、5味識別テスト）についてのレポートを作成する。	60分
第3回	官能評価の手法（比較法その２）	官能評価の結果に及ぼす要因とその対策、官能評価の評価環境、実施条件について理解する。 3点識別試験法、1：2点識別試験法の演習を通じて、2種の試料の違いの識別を調べる官能評価法を理解する。	教科書第1章「官能評価」（5－12ページ）を読んでくること。この回の官能評価の演習についてのレポートを作成する。	60分
第4回	官能評価の手法（順位法その１）	官能評価の手法として、比較法を理解する。 順位法（スペアマンの順位相関係数等）の演習を通じて、3種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。	教科書第1章「官能評価」（12－17ページ）を読んでくること。官能評価の演習（順位法）についてのレポートを作成する。	60分

第5回	官能評価実習および発表（第1回）	食品の調理法の違いをテーマに、実験計画を各グループで立て、3点識別試験法を用いた官能評価演習を各グループで実施して、結果をまとめて、次週の発表に向けて準備を行う。	官能評価実習（第1回）についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。	150分
第6回	官能評価の手法（順位法その2、評点法その１）	官能評価演習(第1回）について発表を各グループで行い、講評を行う。 順位法(ケンドールの一致性の係数）、2種の試料を用いた評点法の演習を行い、平均値の差の検定などの統計処理方法について理解する。	官能評価の演習（順位法、評点法）についてのレポートを作成する。	60分
第7回	官能評価の手法（評点法その2）	官能評価の手法として、順位法、評点法、記述法を理解する。 3種以上の試料を用いた場合の評点法の演習を行い、統計処理方法についても理解する。	教科書第1章「官能評価」（17－30ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（評点法）についてのレポートを作成する。	60分
第8回	官能評価の手法（配偶法）	食品の化学的評価法を理解する。 配偶法の演習を通じて、5種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。	教科書第2章「化学的評価法」（31－58ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（配偶法）についてのレポートを作成する。	60分
第9回	官能評価の手法（記述法）	食品の物理的評価法を理解する。 食品の官能特性を列挙して話し合う円卓法を用いる記述法の演習を行う。	教科書第2章「化学的評価法」（31－58ページ）を読んでくること。 官能評価の演習（配偶法）についてのレポートを作成する。	60分
第10回	官能評価実習（第2回）についての試料試作	テーマの食材を用いた2種の調理品を調製して、評点法を用いた官能評価を行う官能評価実習のために、試料の試作を実施し、評価項目を決定する。	官能評価実習（第2回）の実験計画を立て、試料調製のために、授業内で準備できなかった部分を補っておく。	60分
第11回	官能評価実習（第2回）の実施及び発表	各グループで考えたテーマに沿った2種の調理品を調製し、評点法を用いた官能評価を実施し、結果をまとめ、次週の発表の準備を行う。	官能評価実習（第2回）についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。	150分
第12回	食品の鑑別評価（動物性食品）	官能評価実習(第2回）について発表を各グループで行い、講評を行う。 卵の鮮度および性質を調べる実験を行い、卵の鮮度判定法と加熱調理性について理解する。	卵の鮮度および調理性についての実験レポートを作成する。	60分
第13回	食品の鑑別評価（植物性食品）	植物性食品の鑑別について理解する。 魚の鮮度および性質を調べる実験を行い、魚の鮮度判定法と加熱調理による変化について理解する。	教科書第4章「個別食品の鑑別 米など」　(87－138ページ）を読んでくること。 魚の鮮度と加熱調理性についての実験レポートを作成する。	90分
第14回	食品の鑑別評価食品の鑑別評価（その他の食品）	動物性食品およびその他の食品の鑑別について理解する。 野菜の調理による色の変化の実験を行い、色の測定法や、野菜の色素の性質について理解する。	教科書第4章「個別食品の鑑別 魚介類など、　油脂など」（139－221ページ）を読んでくること。 野菜の色の変化についての実験レポートを作成する。	90分
第15回	市販飲料の糖度測定、まとめ	市販飲料の糖度を測定し、日常摂取している糖分の量について理解する。授業のふりかえりを行う。	定期試験に向けて、授業全体について復習をしておくこと。	270分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	レポートについては、毎回次週までに採点して、多くの受講生が適切に記述できていなかった箇所については、授業の初めに説明を行い、不十分なレポートについては再提出を促し、再度確認する。官能評価実習ので各グループの発表については、講評を行い、次回の実習にいかすことができるようにする。
評価方法	・演習への取り組み・課題では、食への関心をもって、官能評価や食品の鑑別を理解して、演習に取り組んでいるかを評価する。 ・レポートでは、官能評価あるいは実験の目的を理解し、方法および結果を科学的にまとめ、必要に応じて適切な統計処理を行い、適切な資料を用いて調査し、考察を行い、わかりやすい文章で記述しているかを評価する。 ・定期試験では、演習も含めて授業内容全体について、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。 ・演習への取り組み、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	演習への取り組み・課題	○	○	○	○
	レポート	○	○		○
	定期試験	○	○		

評価割合	演習への取り組み・課題30%、レポート等提出40%、定期試験30%
使用教科書名(ISBN番号)	三訂　食品の官能評価・鑑別演習／日本フードスペシャリスト協会　編／建帛社　(978-4-7679-0506-8)
参考図書	なし

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	金曜日・1時限および昼休み　1609研究室 e-mail; miyake@san.kasei-gakuin.ac.jp
学生へのメッセージ	日常から、さまざまな食品に触れる機会を増やして、食品に対する関心を持ってほしい。「食品学」「調理学」などで学んだ食品の性質に関することを基礎にして、統計学の要素も加えた演習形式で行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	課題解決のために必要な情報を探索（ 図書館利用法・ 文献探索等）や 、 情報のアウトプットに関するもの（レポートの書き方、プレゼンテーション技法等）の教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	G14101C21
授業概要(教育目的)	住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点（K）	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点（A）	住生活に関する諸問題について解決案の提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	（復習）自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	150分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	（復習）自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	150分
第3回	日本の住まいの変遷（１）明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	150分
第4回	日本の住まいの変遷（２）明治時代以後・生活様式と住居	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	150分
第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	（復習）自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	150分
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	（復習）誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	150分
第7回	住まいと環	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水	（復習）自宅での水道使用量に	150分

	境	などの住環境の調整方法について学ぶ。	ついて調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	
第8回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	（復習）自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	150分
第9回	高齢化社会の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	（復習）自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	150分
第10回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	（復習）自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	150分
第11回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える （レポート1/3）地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 ＋レポート150分
第12回	福祉と住まい	国、地方自治体が実施している居住支援について学ぶ	（復習）自分の住む自治体で実施されている居住支援策について調べる （レポート2/3）地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 ＋レポート150分
第13回	住まいの管理と中古住宅市場	住まいを管理することの重要性と中古住宅市場の関係について学ぶ	（復習）インスペクションの仕組みについて調べる （レポート3/3）地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 ＋レポート150分
第14回	住まいのメンテナンス	住居の適切なメンテナンスと耐用年数との関係について学ぶ。	（復習）自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。	150分
第15回	こどもと住まい	こどもを育てるという視点から住まいについて学ぶ	（復習）自分のこども時代の住まい、住環境について考える	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。 レポートは、採点後にコメントを付して返却する。
評価方法	小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小課題	○	○	○	
	レポート	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	

評価割合	小課題40%、レポート25%、定期試験35%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特にテキストは指定しない
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築史A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	G24301C21
授業概要(教育目的)	日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点（K）	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点（V）	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション 日本建築の構造	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称	授業で説明した用語を復習すること	120分
第2回	先史時代の建築	竪穴住居、高床住居	教科書第１部Ⅰ「竪穴式住居と高床式建物」（pp.10-11）を読んでおくこと	120分
第3回	神社建築の成立	住吉造、大社造、神明造	教科書第１部Ⅱ「古代の神社建築」（pp.12-13）を読んでおくこと	120分
第4回	仏教建築の伝来	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達	教科書第１部Ⅲ「仏教建築の伝来」（pp.14-15）を読んでおくこと。また、授業で配布するプリント（組物について）の組物名称を覚えること	120分
第5回	古代の都市計画と寝殿造	条坊制、モヤ・ヒサシ構造、寝殿造	教科書第１部Ⅳ「古代の都市計画と住宅」（pp.16-17）を読んでおくこと	120分
第6回	平安時代の仏教建築	密教建築、浄土教の建築	教科書第１部Ⅴ「浄土教の建築」（pp.18-19）を読んでおくこと	120分
第7回	中世の神社建築	春日造、流造、拝殿や境内の整備	教科書第１部Ⅶ「中世の神社建築」（pp.24-25）を読んでおく	120分

			こと	
第8回	中世の仏教建築１	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禅宗様	教科書第１部Ⅵ「中世の仏教建築」（pp.20-23）を読んでおくこと	120分
第9回	中世の仏教建築２	和様、折衷様、構造技術の発達	教科書第１部Ⅵ「中世の仏教建築」（pp.20-23）を読んでおくこと	120分
第10回	中世の住宅建築から書院造へ	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造	教科書第１部Ⅷ「中世の住宅から書院造へ」（pp.26-27）を読んでおくこと	120分
第11回	近世の都市と建築	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生	教科書第１部Ⅸ「城郭建築」（pp.28-29）Ⅸ「城郭建築」（pp.28-29）Ⅹ「茶室と数寄屋」（pp.30-31）Ⅺ「近世の社寺建築」（pp.32-33）を読んでおくこと	120分
第12回	民家建築	民家の種類、町屋、土蔵造	教科書第１部Ⅻ「民家」（pp.36-39）を読んでおくこと	120分
第13回	西洋建築の移入	擬洋風建築、日本人建築家の誕生	教科書第２部Ⅰ「西洋文化の移入」（pp.42-43）Ⅱ「日本人建築家の誕生」（pp.44-46）を読んでおくこと	120分
第14回	戦後の住宅建築と都市政策	同潤会アパート、公営住宅、住宅公団、ニュータウンの開発、ｎLDK住宅の誕生	教科書第２部Ⅳ「都市計画および構造技術の発達」（pp.48-49）Ⅶ「戦後の住宅政策とDK住宅の誕生」（pp.56-58）を読んでおくこと	120分
第15回	わが国のモダニズム建築　／　定期試験	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタボリズム　／　学習内容の復習	教科書第２部Ⅴ「モダニズム建築の到来」（pp.50-53）Ⅷ「日本建築界からの発信」（pp.59-61）Ⅸ「モダニズムの先を求めて」（pp.62-63）を読んでおくこと　／　定期試験のために、これまで学習した内容を復習しておくこと	120分

学生へのフィードバック方法	レスポンスシートにコメントをつけて返却する
評価方法	・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う ・定期試験は、大問５題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レスポンスシート	○	○		
	定期試験	○	○	○	

評価割合	授業態度（レスポンスシートで判断）50%および定期試験50%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
オフィスアワー	火曜３限　1702室
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く とよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築史B		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	G34302C21
授業概要(教育目的)	西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	西洋建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点（K）	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点（V）	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション 先史時代の建築	ラスコー洞窟、ストンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること	120分
第2回	古代エジプトとオリエントの建築	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジッグラト、宮殿建築、アーチ構造	教科書第３部Ⅰ「エジプト建築」（pp.66-67）Ⅱ「オリエント建築」（pp.68-69）を読んでおくこと	120分
第3回	ギリシア建築	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生（ドリス式、イオニア式、コリント式）	教科書第３部Ⅲ「ギリシア建築」（pp.70-75）を読んでおくこと	120分
第4回	ローマ建築	５つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅	教科書第３部Ⅳ「ローマ建築」（pp.76-79）を読んでおくこと	120分
第5回	初期キリスト教建築 ビザンティン建築	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会堂、ドームの発達（スキンチ、トロンプ、ペンデンティヴ）、ハギア・ソフィア大聖堂	教科書第３部Ⅴ「初期キリスト教建築」（pp.80-81）Ⅵ「ビザンティン建築」（pp.82-83）を読んでおくこと	120分
第6回	ロマネスク建築	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂	教科書第３部Ⅷ「ロマネスク建築」（pp.86-89）を読んでおくこと	120分
第7回	ゴシック建築	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築	教科書第３部Ⅸ「ゴシック建築」（pp.90-94）を読んでおく	120分

			こと	
第8回	中世の都市と世俗建築	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家（ハーフ・ティンバー等）	教科書第３部Ⅹ「中世の世俗建築」（pp.94-95）を読んでおくこと	120分
第9回	ルネサンス建築	ルネサンス建築の特徴（古典様式の復興、教会堂建築の課題）、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラーディオの建築	教科書第３部Ⅺ「ルネサンス建築」（pp.96-100）を読んでおくこと	120分
第10回	バロック建築	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとボロッミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築	教科書第３部Ⅻ「バロック建築」（pp.101-107）を読んでおくこと	120分
第11回	近代と建築界	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル	教科書第３部XIII「リヴァイヴァル建築」（pp.108-111）を読んでおくこと	120分
第12回	新材料を用いた建築	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構築物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス	教科書第４部Ⅰ「新材料を用いた構築物」（pp.114-115）を読んでおくこと	120分
第13回	近代の都市・住宅問題	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン	教科書第４部Ⅱ「都市問題・住宅問題」（pp.116-118）を読んでおくこと	120分
第14回	近代建築運動	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォ、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・スティール、バウハウス	教科書第４部Ⅲ「アーツ・アンド・クラフツ運動」、Ⅳ「アール・ヌーヴォ」、Ⅴ「アメリカ建築の近代化」、Ⅵ「セセッション「」（pp.1118-127）ならびにⅧ「ドイツ工作連盟」、Ⅸ「近代建築運動」（pp.130-133）、Ⅺ「アール・デコとスカイスクレイパー」（p.141）を読んでおくこと	120分
第15回	モダニズム建築の完成と流布　／　定期試験	モダニズム建築、CIAM、ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、ウォルター・グロピウス、フランク・ロイド・ライト、ポスト・モダニズム建築　／　学習内容の復習	教科書第４部Ⅹ「モダニズム建築の完成と流布」（pp.134-140）Ⅻ「第二次世界大戦後の建築」（pp.142-143）XIII「ポスト・モダニズム建築」（pp.144-145）を読んでおくこと　／　定期試験のために、これまで学習した内容を復習しておくこと	120分

学生へのフィードバック方法	レスポンスシートにコメントをつけて返却する
評価方法	・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う ・定期試験は、大問５題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レスポンスシート	○	○		
	定期試験	○	○	○	

評価割合	授業態度（レスポンスシートで判断）50%および定期試験50%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
オフィスアワー	火曜３限　1702室
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見にいくとよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住生活論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	G14102C21
授業概要(教育目的)	住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活をとりまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	わが国の住空間の特徴を習得する
思考・判断の観点（K）	住空間を計画するにあたって何が重要かを理解できるようになる
関心・意欲・態度の観点（V）	理想の住空間を計画することができるようになる
技術・表現の観点（A）	住空間を1：50の建築図面（平面図）で表現できるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	住まいとは、住まいに求められるもの、どこに住むか、住まいの分類、空間を理解する、日本建築のモデュール	自分の部屋の簡単な間取りを描く	120分
第2回	さまざまな住まい	住まいの進化とアメニティの追求、住まいの地域性、住み手と住まい、住まいの種類	川崎市立日本民家園に移築保存されている民家をインターネットで調べ、現代住宅との違いを整理する	120分
第3回	住まいの伝統	寝殿造、舗設、書院造、座敷飾り、空間の上下	インターネットで書院造の実例を調べる	120分
第4回	住まいの近代化とｎLDK住宅	ベランダ式住宅、洋館、中廊下型住居、台所改革、住まい方の研究、51C型住宅、DKの登場、プレファブ住宅	リビング（L）とダイニング（D)とキッチン（K）のつながり方を整理する	120分
第5回	住宅地開発と集合住宅	都市問題の発生、田園都市論、ニュータウン、モデル住宅、住宅政策、同潤会、日本住宅公団	集合住宅と戸建住宅について、それぞれの長所と短所をまとめる	120分
第6回	住まいの管理と地域コミニュティ	住まいの安全、家庭内事故の現状、防犯、防災、住まいのメンテナンス、地域コミュニティ、地域計画	自宅の安全対策を確認するとともに、火災や地震が起きた場合の対応を確認する	120分
第7回	住まいの構成	住まいの機能、パブリック・スペースとプライヴェート・スペース、多様なライフスタイルと住まい	住まいで行う行為を列挙し、空間との関係を図示する	120分
第8回	中間試験および同解説	第１回～７回までの講義内容に関する試験を実施 授業後半にて、解答解説を行う	不正解の問題を復習する	120分

第9回	住まいの計画	リビング、ダイニング、キッチンの計画	自分の部屋の寸法を計測する	120分
第10回	図面の表現方法	図面の縮尺 平面図、立面図、断面図、展開図の表現	1：500、1：200、1：100、1：50、1：20のスケールバーを作図する	120分
第11回	１Kの住宅の計画１	自分の部屋を1：50の平面図で表現する	図面を完成させる	120分
第12回	１Kの住宅の計画２	4.2×6mの空間に１Kの住宅を計画する	図面を完成させる	120分
第13回	１Kの住宅の計画３	1点透視図法で室内を表現する	図面を完成させる	120分
第14回	マンションのリフォーム計画１	1：50の建築図面（平面図）を理解する 線の意味、躯体と間仕切壁の違いを学ぶ	図面を完成させる	120分
第15回	マンションのリフォーム計画２	理想の住戸を計画する	図面を完成させる	120分

学生へのフィードバック方法	授業で中間試験の解説を行う
評価方法	・中間試験では、それまでの講義で学んだ内容についての理解度を確認する。 ・2つ課題に関しては、図法が理解できているか、家具のスケール感が正しかどうかを中心に採点する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○	○		
	課題	○	○	○	○

評価割合	中間試験(50%)と２つの課題(第一課題30%、第二課題20%)で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に定めない
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスアワー	月曜２限　1702室
学生へのメッセージ	三次元の「空間」を理解するには、教室での授業だけでは十分ではありません。日頃から身の回りの空間に関心をもち、たとえば、ドアの幅や机の幅・高さなどを測ってみて、使いやすい寸法はいくつぐらいなのかを考えてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	製図の描き方等に関する教育内容を含む
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居設備		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	G14310C21
授業概要(教育目的)	私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、換気設備について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	［建築士指定科目］住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

住居設備

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業計画 （配布資料） 建築設備の位置付けについて理解する。 戸建住宅の建築設備／住宅で使用されるエネルギーの種類／建築士の仕事（映像資料）	建築設備の位置付けについて復習すること	60
第2回	住居設備の概要	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 （配布資料） すまいの「水・お湯」のしくみ／すまいの「空気・熱」のしくみ／ビルの「給排水・衛生」のしくみ／ビルの「空調」のしくみ／インテリアコーディネーターの仕事（映像資料）	水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習すること	60
第3回	建築と水環境（１）	水環境について理解する。 快適な水環境をつくるもの／水の流れ／都市設備と建築設備／建築設備と自然堤境／自然にやさしい再利用水	教科書p.102-110（水環境・水の用途）について読んでおくこと	180
第4回	建築と水環境（２）	水の用途について理解する。 水と生活／生命維持のための水／水の用途と設備 給排水衛生設備　上水　雑用水／生活用水と使用水量	課題１（水環境）による復習	120
第5回	水に関する基礎知識（１）	水質、給水圧力について理解する。 水質／上水，下水，再利用水／おいしい水，湯（定義，洗浄力），浄水器　残留塩素　水に対する溶解度 水と圧力／圧力の単位／ベルヌーイの式	教科書p.111-120（水に関する基礎知識）について読んでおくこと	180

第6回	水に関する基礎知識（２）	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 トラップの機能／封水損失現象とその防止対策／誘導サイホン作用　自己サイホン作用　蒸発 水の使われ方と負荷／水使用パターンとピーク負荷／適正器具数	課題２（水基礎知識）による復習	120
第7回	給水設備（１）	給水の汚染防止について理解する。 安全な水／飲料用給水の汚染と防止／クロスコネクション　逆サイホン作用　吐水口空間　バキュームブレイカー　逆止弁　受水槽の６面点検 器具の汚染と防止／間接排水　排水口空間	教科書p.121-125（給水設備）について読んでおくこと	180
第8回	給水設備（２）	給水方式について理解する。 システムの種類／器具の必要給水圧力／直結直圧方式　直結増圧方式　高置水槽方式　圧力水槽方式　ポンプ直送方式 システムの構成／ポンプ　水槽　配管材料	課題３（給水設備）による復習	120
第9回	給湯設備（１）	給湯熱源の仕組みについて理解する。 湯と水の違い／給湯エネルギー／住宅のエネルギー消費熱源とシステム機器／自然冷媒ヒートポンプ給湯器　潜熱回収型ガス瞬間湯沸器　ハイブリット型給湯器　太陽熱温水器	教科書p.126-129（給湯設備）について読んでおくこと	180
第10回	給湯設備（２）	給湯方式について理解する。 システムの種類／住戸セントラル給湯方式　さや管ヘッダー配管方式　中央式給湯方式 システムの構成／湯沸器　貯湯槽　膨張水槽　逃し管　伸縮継手	課題４（給湯設備）による復習	120
第11回	排水通気設備（１）	排水の仕組みについて理解する。 排水管内の流れ／圧力発生の原理／特殊継手排水システム／排水の種類と排水方式	教科書p.130-136（排水通気設備）について読んでおくこと	180
第12回	排水通気設備（２）	排水の円滑な流れについて理解する。 システムの部品構成／ベントキャップ／排水管・継手類／フロアドレン／阻集器／排水ます・排水槽	課題５（排水通気設備）による復習	120
第13回	衛生設備	衛生器具の種類について理解する。 衛生器具の種類／給水器具　水受け容器　排水器具　付属品　プレハブ　ユニット化 水栓金具／大便器／洗面化粧台／浴槽／流し類／排水器具	教科書p.137-141（衛生設備）について読んでおくこと 課題６レポート「キッチン・洗面・浴室・トイレの製品特徴・選択理由・設置寸法を調べる」による復習	90 690
第14回	浄化設備・ガス設備	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割／設置基準／処理方式／構造 ガス利用の歴史／都市ガスとLPG／ガスの性質／供給方式／設備設計／安全対策	教科書p.142-151（浄化設備・ガス設備）について読んでおくこと 配布資料（ガス設備の燃焼方式）について復習すること	90 60
第15回	換気設備	換気設備について理解する。 換気方式と換気量／シックハウス対策と24時間換気／換気の法的規制	教科書p.87-95（換気設備）について読んでおくこと 換気の方式について復習すること	90 60
第16回	定期試験			

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、衛生器具設備（キッチン・洗面・浴室・トイレ）の製品特徴・選択理由・設置寸法についてショールームあるいはカタログで調べる課題である。 ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	課題	○			
	レポート	○			

評価割合	定期試験(30%)、レポート及び課題(70%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	「建築の設備」入門　新訂第二版／同編集委員会編／彰国社／2017年 978-4-395-32095-0
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 ［知識・理解］　社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 ［知識・理解］　住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C　火曜５限 1807室　　／町田C　金曜３限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目　④建築設備　に認定。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	構造力学A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	G14401C21
授業概要(教育目的)	構造力学の入門編として、建築（住居）における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験（一点で支える力の実験、梁の変形など）と計算を行うことによって、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても紹介する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力を理解し、説明できる。 ２．力の釣合い条件をもとに、トラスに生ずる部材応力の計算ができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習（予習・復習）、成績評価の方法・基準などについて理解すること。力学を学ぶ上で理解して欲しい用語（質量、重量、荷重［固定荷重、積載荷重、積雪荷重、地震荷重、風圧力など］）についても説明できるようにすること。	【復習】授業で説明した用語（質量、重量、荷重）の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	60
第2回	力と形（１）１点で支える力の実験	１枚の紙に圧縮力がかかった時に、紙がどのような形だと大きな力を支えることができるかについて実験を通して理解すること。	【復習】授業で説明した用語（外力、反力及び応力）の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。又、かたちと力の関係についても復習してくること	120
第3回	力と形（２）１点で支える力の実験の解説	力と形に関係する図心、重心、剛心、座屈などの用語を用いながら、どんな形であれば大きな力を支えることができるかについて説明するので理解すること。又、応力度の計算ができること。	【復習】授業で説明した用語（図心、重心、剛心及び座屈）の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。 又、応力度の計算についても復習してくること。	120
第4回	力と形（３）図心の求め方（制作）	図心について理解を深めるため、制作でT字形(床と壁を想定）の紙の図心を求めるので理解すること。又、建物の構造形式（剛構造［耐震構造］及び柔構造［免震構造・制震構造］）についても説明できるようにすること。	【復習】授業で説明した用語（剛構造［耐震構造］及び柔構造［免震構造・制震構造］）の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	120

第5回	力と形（４）図心の求め方（計算）	図心について理解を深めるため、計算でT字形(床と壁を想定）の紙の図心を断面一次モーメントを用いて求めるので理解すること。又、建物の構造形式（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても説明できるようにすること。	【復習】断面一次モーメントの計算について復習して理解すること。又、授業で説明した用語（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第6回	形と変形	片持ち梁の変形について、部材断面の寸法や片持ちの長さを変えた実験を行いながら、形と変形の関係について説明するので理解すること。	【復習】形と変形の関係について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第7回	力の合成と分解（１）（図式解法）	力の合成と分解について作図を通して説明するので理解すること。又、荷重の種類（集中荷重、等分布荷重及び等変分布荷重）についても説明できるようにすること。	【復習】荷重の種類（集中荷重、等分布荷重及び等変分布荷重）について書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第8回	力の合成と分解（２）（図式解法及び計算）	平行な力の合成について作図を通して説明するので理解すること。又、支点と節点についても説明できるようにすること。	【復習】返却した小テストについて、復習すると共に、支点と節点について書籍やネットなどで調べて理解すること。	180
第9回	力の合成と分解（３）（支持反力の算出）	単純梁に集中荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。	180
第10回	力の合成と分解（４）（支持反力の算出）	単純梁に等分布荷重及び等変分布荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。 【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているか宿題を解いて確認すること。	240
第11回	力の合成と分解（５）（支持反力の算出）	片持ち梁に集中荷重が作用した時、及び静定ラーメンに集中荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。 【宿題あり】	【宿題】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第12回	トラス（１）（節点法による部材応力の算出）	トラスの解法の条件について説明し、実際に節点法を用いてトラスの部材応力の算出を行うので理解すること。 【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第13回	トラス（２）（節点法による部材応力の算出）	節点法によるトラス部材の応力計算ができること。【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第14回	トラス（３）（切断法による部材応力の算出）	切断法によるトラスの部材応力の算出を行うので理解できること。【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第15回	トラス（４）（切断法による部材応力の算出）	切断法によるトラス部材の応力計算ができること。授業の最後に定期試験について説明するので理解すること。	【復習】第８回から第15回までの授業内容について復習して定期試験に備えること。	360

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト、実験レポート及び宿題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に正答について解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストもしくは授業中に実施する実験レポートで評価する。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくは実験レポートの記載内容を３段階(A：10点、B５点、C：０点）で評価する。授業は15回あるので150点満点となる。宿題については、５回出し、1回10点満点で正答率によって３段階（A：10点、B：5点、C：０点）で評価する。定期試験は50点満点で、静定梁の反力計算が２問、トラス応力の計算が１問とする。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト・実験レポート	○			
	宿題	○			
	定期試験	○			

評価割合	平常点（６０％）、宿題（２０％）、定期試験（２０％）により、総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	和田彰ら／建築構造設計／実教出版、山田修／やさしい建築の構造力学／オーム社、小野里憲一・西村彰敏／力のつり合いを理解する構造力学／彰国社
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための１つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基礎となる構造的な知識を身につけている。

オフィスアワー	火曜日４時限　非常勤講師室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	構造計画Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 永井　佑季	指定なし

ナンバリング	G24402C21
授業概要(教育目的)	授業は、建築における構造デザインについて学ぶ内容とします。 構造に関する歴史的変遷を通して構造デザインの基礎知識を学び、現代建築における構造デザインの実例を通して、鉄骨構造、木質構造、鉄筋コンクリート構造等の概略の知識を習得します。その他、スタジアムのような大空間やシェル構造等の空間構造、さらに、ガラスやアルミ等の建築に使われる材料にも着目して、幅広く構造について学んでいきます。 また、「構造デザイン」がどういったものであるかの理解を深めるために、パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して体得します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築における、意匠設計と構造設計の関係性について理解を深めながら、各種構造に関する基礎知識を習得することを、目標とします。
思考・判断の観点（K）	将来、建築のデザイン関係の仕事（設計やインテリアデザイン等）をする際に、構造に対する基礎的な知識により、適切なデザイン判断が出来るようになることを目標とします。
関心・意欲・態度の観点（V）	建築の構造という分野に興味を持ち、構造デザインという分野に関心を持てるようになることを目標とします。
技術・表現の観点（A）	建築を専門としない学生でも、建築を専門とする学生とチームを組み、グループで課題に取り組むことにより、建築的な技術を体得することを目標とします。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション「構造とデザインとは」	当該授業で扱う建築における構造の世界の概要について説明を行う。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分
第2回	意匠設計と構造設計／構造デザインとは－１	意匠設計と構造設計との関係を紐解きながら、構図デザインについて学ぶ。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分
第3回	模型実験で力の流れを理解する－１	パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して、「構造」と「デザイン」の関係性について学ぶ。その第1回目として、パスタブリッジ制作のためのガイダンス及び、制作を行うグループ分け、デザインを行う。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分
第4回	鉄の構造－１	鉄骨構造の歴史について学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第5回	鉄の構造－	前回に引き続き、現代の鉄骨構造のデザインにいて学	第3回の授業で課題としている	180分

	２	ぶ。	パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	
第6回	模型実験で力の流れを理解する - ２	第3回のパスタブリッジの各グループのデザインについて中間発表を行い、互いのグループについて意見を述べたり質問をしたりすることで、製作に向けてデザインをブラッシュアップする。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第7回	木の構造 - １	木造の基本について学ぶとともに、木を使った建物の実例から木の構造デザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第8回	鉄筋コンクリートの構造 - １	鉄筋コンクリート構造の基本について学ぶとともに、鉄筋コンクリートを使った特殊な建物のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第9回	鉄筋コンクリートの構造 - ２	鉄筋コンクリートを使った現代の建物のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第10回	模型実験で力の流れを理解する - ３	第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第11回	大きな空間の構造	ドームやスタジアム等の大きな空間を作る構造について学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第12回	模型実験で力の流れを理解する - ４	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第13回	模型実験で力の流れを理解する - ５	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第14回	模型実験で力の流れを理解する - ６	第3回から開始したパスタブリッジについて、最終的な成果物に重りを載荷し、自身が制作したブリッジの強度の確認を行い、構造とデザインについて学んだことを総括する。	参考図書等を参考に、自身が制作したパスタブリッジの強度について検証を行う。	180分
第15回	総括	構造デザインについて学んだ内容について総括を行う。具体的には、授業中のレポート課題により、学んだ内容を復習するような内容とする。	参考図書を参考としながら、構造デザインについて総括を行う。	180分

学生へのフィードバック方法	パスタブリッジの制作を通して、授業中にコメント等を行う。
評価方法	授業への出席はもとより、授業への積極的な参加等の平常点や、授業内に行うレポートの提出等により評価を行う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	発表点	○		○	○

評価割合	出席及び平常点（授業への参加態度や授業中に小レポート等）（50%） パスタブリッジに関する発表点（20%） 学期末の授業内課題レポート（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	「空間・構造・物語―ストラクチュラル・デザインのゆくえ（斎藤公男著・彰国社）」 「建築構造のしくみ―力の流れとかたち（建築の絵本）（川口 衞，松谷 宥彦，川崎 一雄，阿部 優　共著・彰国社）
ディプロマポリシーとの関連	授業をとおして建築の構造デザインについて学ぶことをとおして建築における構造分野と向き合うことにより、生活・社会の諸問題を自らから分析し、問題解決に導く考察ができるようになると考えられる。
学生へのメッセージ	基本的に、スライドによる講義とします。適宜メモを取り、積極的な授業参加をしてください。講義内容を確認するため、さらに、より構造デザインに関する知識の幅を広げるために、参考図書による、予習・復習に役立てることをお勧めします。

	なお、授業の途中では、パスタによるブリッジの制作により実際に手を動かしてもらい、建物に働く力の流れを体験してもらいます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インテリア材料		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	G24403C21
授業概要(教育目的)	建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材（壁材、床材、天井材など）や屋根材を取り上げて、それら部材に使われている材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチック、瓦、スレートなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点（K）	各部位に要求される性能条件に適した建築仕上げ材料を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。	【復習】ガイダンス（第１回の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	60
第2回	屋根材料（１）　粘土瓦	粘土瓦(釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など）の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	60
第3回	屋根材料（２）スレート	スレート、プレスセメント瓦などの特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解するとこと。 【復習】返却した小テストについて復習してくること。	60
第4回	屋根材料（３）　金属板	金属板（トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼板など）の特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題①】課題のタイトル：戸建て住宅の屋根材料（屋根仕上げ材料）を選ぶ上で、最も大切と考えることをあげてください。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解してくること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題①を書くための資料集めを行う。	180

第5回	内外装仕上げ材料（１）せっこうボード	せっこうボードの特徴や種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題について書き始める。	240
第6回	内外装仕上げ材料（２）繊維補強系ボード	繊維補強系ボードの種類やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題①について書く。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第7回	内外装仕上げ材料（３）木質系材料	木質系材料（合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど）の種類や特徴について説明するできるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題①についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第8回	内外装仕上げ材料（４）軽量気泡コンクリート	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方（熱伝導、熱伝達、熱貫流）及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにすること。 【レポート課題①】レポートの返却と解説	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について復習すること。	120
第9回	内外装仕上げ材料（５）タイル	タイルの種類(素地による区分）やその特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題②】課題のタイトル：浴室のリフォーム工事をするとしたら、あなたであれば、床材として何を選択しますか。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題②の資料集めを行う。	120
第10回	内外装仕上げ材料（６）れんが	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題②についても書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	180
第11回	内外装仕上げ材料（７）石材	石材の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題②について書く。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第12回	内外装仕上げ材料（８）ガラス	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題②についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第13回	内外装仕上げ材料（９）塗装材料	塗装材料（塗料）の種類とその特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題②】課題の返却と解説	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について復習すること。	120
第14回	内外装仕上げ材料（１０）壁紙	壁紙の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第１回から第１４回までの授業内容について復習しておくこと。	240
第15回	その他の材料　接着材料と断熱材料	接着剤及び断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、第１回から第１５回までの授業内容について復習して理解していることを確認する。	360

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、35点満点とし、8

	段階（S：35点、A：30点、AB：25点、B：20点、BC：15点、C：10点、D:5点、E：0点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	レポート課題	○	○		
	定期試験	○			

評価割合	平常点(40%）、レポート課題（20%）及び定期試験（40%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材／砂川幸雄・江口征男／相模書房、初学者の建築講座 建築材料／橘高義典ら／市ヶ谷出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】質の高い生活をおくるための１つに人や環境に優しい家づくりがある。その家づくりの基礎となる建築仕上げ材料についての専門的知識を有することで、現代生活が抱えている住生活分野の諸問題を理解できる力を養う。 【思考・判断】現代生活が抱えている住生活分野の諸問題について、解決に導く考察をすることができと共に、最適解を判断できる力を養う。
オフィスアワー	火曜日４時限　非常勤講師室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住宅施工		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	G24404C21
授業概要(教育目的)	住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	．ガイダンス　施工・管理計画（１）	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、工事契約の概略についても説明できるようにすること。	【復習】ガイダンス（第１回の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	60
第2回	施工･管理計画（２）	工程表の種類及び読み方について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第3回	施工・管理計画（３）	工事現場での材料管理、工事着手前に行う各種の届出などについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題①の資料を集めること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第4回	地業工事（１）	住宅が建てられる地盤について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第5回	地業工事（２）	住宅の地盤調査として用いられているSS式サウンディング試験について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	120

			【復習】返却した小テストについて復習すること。	
第6回	基礎工事（１）	住宅に用いられている基礎の種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第7回	基礎工事（２）	基礎工事について、水盛り・やり方工事、割栗・捨てコンクリート工事、フーチング基礎工事などに分けて説明できるようにすること。 【レポート課題】タイトル：タイル工事（湿式工法）の種類とその特徴について	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題の資料を集める。	240
第8回	主体工事（１）	土台から柱の建て方まで説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題について書き始める。	300
第9回	主体工事（２）	胴差、梁、桁などの横方向の部材の取付方法について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について書く。 【復習】返却した小テストについて復習する。	360
第10回	主体工事（３）	小屋組及び屋根工事について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	内外装工事（１）	タイル工事の中の湿式工法について説明できるようにすること。 【レポート課題】返却と解説	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	180
第12回	内外装工事（２）	左官工事の中のセメントモルタル塗り及びせっこうプラスター塗工事について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	床工事（１）	床工事の中のビニルタイル張り及びビニルタイルシート張り工事について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	床工事（２）	床工事の中のカーペット工事及び畳敷きについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	設備工事	設備工事の中の給排水工事について説明できるようにすること。 授業の最後に定期試験について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第１回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	420

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題提出時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD:15点、D：10点、E：5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○			
レポート課題	○			

	定期試験	○			

評価割合	平常点（約40%）、レポート課題（約20%）及び定期試験（約40%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	最新構造入門／青木博文／実教出版、建築施工テキスト（改訂版）／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための１つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基本となる施工方法についての専門的知識を有している。
オフィスアワー	火曜日４時限　非常勤講師室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築法規		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塚田　豊	指定なし

ナンバリング	G34306C21
授業概要(教育目的)	建築基準法及び施行令を中心にその他の建築関係法令との関連も併せて、理解しにくい法令文や法令用語などを平易に解説しながら進め、建築関係法令の全体像を理解することで、社会活動上求められる法的知識やインテリア・住宅・建築関連の実務を行う上で必要と思われる法令及び資格取得の重要な項目である建築関係法令を理解出来るように説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築関連法の成立ちや概要を学ぶことで、法令の必要性を理解し、建築関連法令集の条文を理解できるようにする。
思考・判断の観点（K）	建築に関係する法令への理解を深めることで、法令順守の意識を持ち常に適切に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	建築関連法は普通に生活をするだけでも自身の回りに関わっている事を発見し法令集を確認する
技術・表現の観点（A）	社会活動をおこなう上で必要な基礎的知識及びインテリア・住宅・建築に係わる企画、設計、施工、維持管理等の実務に役立つ建築関係法令の基礎的知識を学び、法令集の有効活用を修得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	建築基準法の必要性、建築基準法の概要とこれまでの流れ	建築関連法はいつどのように出来たのか、またこれまでの経緯を確認し、具体的にどの様に環境や人々とかかわっているかを認識する。	建築基準法第1章　第1条　及び関係法令のこれまでの流れを配布プリントで確認し復習すること。	60分
第2回	建築基準法及び関係法令の法体系と構成、建築基準法の用語の解説	基準法・施行令・告示・士法・業法及び都市計画法・消防法・他、等の役割の説明。新築・改築・改修・修繕・模様替え・増築、以上・以下・未満・超える・含む・かつ・または、などの法律用語を理解する。	配布プリントを復習し、関連法の概要と法令集の項目を再確認しておくこと。	120分
第3回	建築基準法の用語の定義	建物用途、各種面積の算定・各種高さの基準・階数の算定・延焼の恐れのある部分・防火準耐火耐火構造,等の用語についての法令上の定義を理解する。	事前に建築基準法第2条各号を読んでおき、授業後に基準法第2条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第4回	敷地と道路、地域による建物の用途制限	道路の種類、敷地と道路幅員の関係、４２条２項道路の扱い、道路内の建築制限の種類、建物の用途制限、特殊建築物の種類、都市計画との関連、等を理解する。	事前に建築基準法第４２条から４８条までを読んでおく、授業後に施行令各条令との関連を再確認、都市計画地図の読み方を再確認すること。	120分
第5回	地域による	建物の大きさを規制する、容積率及び建ぺい率制限の内	事前に建築基準法第５２、５３	120分

	面積制限（容積率・建ぺい率）	容と限度(都市計画制限・道路幅員による規制）及び各要件ごとの緩和（特定道路、共同住宅、地下室、駐車場等）を理解する。	条を読んでおき、授業後に基準法第５２、５３条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	
第6回	地域毎による各種高さ制限・日影規制	建物の高さを規制する道路斜線・隣地斜線・北側斜線・高度斜線等の各斜線制限及び緩和規定を理解する。	事前に建築基準法第５５、５６、５８条を読んでおき、授業後に基準法第５５、５６、５８条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第7回	防火、準防火地域内の建築規制、その他の地域地区	防火地域、法２２条区域の概要及び建築の構造制限。景観法、文化財保護法、地区計画、等の概要や制限を理解する。	事前に建築基準法第２２条、６１～６８条を読んでおき、授業後に基準法第２２条、６１～６８条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第8回	これまでに学んだ集団規定に関する総合演習問題及び設問の解説	集団規定に関する演習問題を通してこれまでの学習内容の確認と解らなかったところを再度学習し理解すること。	事前にれまでに学んだ集団規定についてひと通り確認しておくこと、授業後に演習問題を、法令集及び施行令を確認しながら復習しておくこと。	180分
第9回	一般構造（居室、内装等の規定）	居室の採光、換気、室内の床・壁・天井の内装仕上材・下地材の材質制限、ホルムアルデヒド等のシックハウス対策等の関する制限の概要を理解する。	事前に建築基準法第２８条を読んでおき、授業後に基準法第２８条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第10回	一般構造（階段、廊下等の規定）	居室の天井の高さ、床の高さの制限、地下の居室の制限、廊下や階段の寸法制限、避難通路、避難階段の構造制限、等の概要の理解をする。	事前に建築基準法第２８、２９条、建築基準法施行令第２１から３２条、１１７から１２６条を読んでおき、授業後に基準法第２８、２９条、建築基準法施行令第２１から３２条、１１７から１２６条の各制限を復習しておくこと。	120分
第11回	建物の構造強度	木造を主に、鉄筋コンクリート、組積造などの基礎及び支持地盤、耐震性、耐風性、耐久性や地域によって異なる条件などの概要を理解する。	事前に建築基準法施行令第３６から３９条、８３から８８条を読んでおき、授業後に建築基準法施行令第３６から３９条、第８３から８８条、８９、９３、９５条の各制限を復習しておくこと。	120分
第12回	建築設備、防火関連規定、関連法としての消防法	防火上の内装制限、界壁、間仕切り壁、隔壁、非常用照明器具、排煙設備、非常用進入口（代替進入口）、避雷針設備、消防法と建築基準法の関係性と制限等の概要を理解する。	事前に建築基準法第３５条、建築基準法施行令第１１２から１１４条、１２６条を読んでおき、授業後に建築基準法施行令第１１２から１１４条、１２６条、１２９条、消防法の各制限を復習しておくこと。	120分
第13回	これまでに学んだ単体規定に関する総合演習問題及び設問の解説	単体規定に関する演習問題を通してこれまでの学習内容の確認と解らなかったところを再度学習し理解すること。	事前にれまでに学んだ単体規定についてひと通り確認しておくこと、授業後に演習問題を、法令集及び施行令を確認しながら復習しておくこと。	180分
第14回	建築士法、建築に関連する各種申請、都市計画法の概要	建築士業務の資格の種類及び業務の範囲、建築の各申請及び報告書等の流れ、建築基準法と都市計画法の関連及び位置付、耐震改修促進に関する法律等の概要を理解する.	配布資料た資料を再度読み込んで建築士法、都市計画法の法文を確認しておく.	60分
第15回	その他の建築関連法の概要	消費者保護の観点で出来たバリアフリー新法、住宅性能評価と品質確保、長期優良住宅、特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保。街造りの観点から出来た景観法。地球環境の観点から強化された省エネ法、その他の他の関連法としての宅地建物取引業法、建物区分所有法、民法、に付いての概要を理解する。	その他の関連法は実生活におけるかかわりが多く、受講者の社会活動に置き換えながら復習すること。	120分

学習計画注記	履修者の理解度によって、スケジュールが変更になる場合があります
学生へのフィードバック方法	建築関係法令集、適宜プリントの配布、によって例題を交えながら解説し進める、また授業の進行途中での演習問題により理解度の確認をおこなう、演習問題はその授業で問題の解答解説を行い受講者にも自己採点できるようにしている。履修者の理解不足部分の解説を再度行う。必要によって次回授業の最初に問題の解説を行う場合がある。
評価方法	演習問題を２回、及び定期試験を行い、問題はそれぞれ授業の内容から出題する、将来の建築士受験を考慮し出題形式は国家試験の建築士試験の出題形式に基づく選択式にしてあり法令集の持ち込みを可能としています。３回の解答内容に授業への参加状況や討論への参加状況も加えて評価の対象とします。尚演習問題の授業に欠席した場合、演習問題の再テストは行いません注意すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	演習問題２回	○	○		
	定期試験	○	○		
	授業内の討論への参加			○	

評価割合	平常点（30%）、問題演習２回（計20%）、定期試験（50%）によって総合的に評価する。（平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合判断）
使用教科書名(ISBN番号)	建築関係法令集（株式会社総合資格発行）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】　建築法令等が求めているものを正しく理解できる 【思考・判断】　法令遵守を意識して問題解決に導く考察ができる 【関心・意欲・態度】建築やインテリアはもちろん周囲の問題についても法令との関連性を考えながら活動できる 【技術・表現】　建築士資格受験はもちろん諸問題において建築法令集の有効活用がスムースにできる
学生へのメッセージ	建築法規を受講する事で、これまでに学んできた建築や住宅及びインテリア関連の多くの授業内容の重要性や関連性が見えてきます、建築法規及び関連法律をしっかり学ぶ事でより明確に社会で求められている事柄が把握できると考えられ、２級建築士資格取得の必須科目でもあり、建築法規を理解することが自身の総合力のアップとなり、社会活動でのコンプライアンス（法令遵守）の意識が実務への近道となります。また将来家を建てたり土地を取得をする場合にはこの授業内容が活きてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計及び工事監理の実務を３０年以上前から現在も行っており、現在進行形の建築設計及び建築法規の基礎知識を生かした授業を実務経験を織り交ぜながらおこなっている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築環境学Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	G24309C21
授業概要(教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	［建築士指定科目］建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

建築環境学A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	建築環境学の位置付けについて理解する。 （配布資料） 建築環境学の位置付け／自然環境と室内環境の関わり／建築環境学と建築設備の関わり／人間のための快適な環境形成とエネルギー消費	建築環境学の位置付けについて復習すること	60
第2回	建築に要求される性能	建築に要求される性能について理解する。 （配布資料） 安全・衛生（健康）と快適を提供する建物／脅かす要素／環境制御の目標と原理／建物と建築設備による制御	建築に要求される性能について復習すること	60
第3回	気候風土と建築	気候風土と建築について理解する。 （配布資料） 気候風土に適応した建築的工夫と建築の熱環境設計 寒い地方の建築的工夫／暑い地方の建築的工夫／これからの建築熱環境設計	課題１（気候風土と建築）による復習	60
第4回	建築環境学の概要	「環境とは」、SI単位について理解する。 生活環境とは／人間と生活環境／感覚と環境／環境とストレス／日常感じる良い環境悪い環境 SI単位／接頭語／対数／三角関数	教科書p.10-18（環境とは・SI単位）について読んでおくこと 配布資料（SI単位・接頭語）について復習すること	90 60
第5回	熱環境 温熱感 （１）	温熱感に影響する要因を理解する。 代謝量／人体の熱収支（熱伝導，熱対流，熱放射　蒸	教科書p.71-78（温熱感）について読んでおくこと	180

		発）／温冷感に影響する要因（気温，湿度，放射，気流，着衣量，代謝量）／MRT		
第6回	温熱感（２）	温熱感の環境評価指標について理解する。 温熱環境指標（OT，SET*，PMV）／住宅の温熱環境	課題２（温熱感）による復習	120
第7回	外界条件	外界条件について理解する。 気温（デグリデー）／湿度（クリモグラフ，WBGT）／潜熱と顕熱 日射（紫外線，可視光線，赤外線）／直達日射，天空日射，全天日射／大気透過率／大気放射量と夜間（実効）放射量／放射冷却	教科書p.79-85（外界条件）について読んでおくこと 課題３（外界条件）による復習	90 60
第8回	日照環境（１）	日照について理解する。 太陽の動き／太陽位置の表し方（太陽方位角，太陽高度）／時刻の表し方（真太陽時）／均時差／太陽位置図	教科書p.86-94（日照環境）について読んでおくこと	180
第9回	日照環境（２）	日影について理解する。 太陽位置と日影／日影曲線図／日影時間図／日影による中高層建築物の高さの制限／終日日影／永久日影／隣棟間隔／日射量	課題４（日照）による復習	120
第10回	建物の熱性能（１）	建物の伝熱について理解する。 熱貫流／熱伝導（断熱材）／対流熱伝達／放射による熱伝達／室内側・屋外側総合熱伝達率／熱貫流率	教科書p.95-107（建物の熱性能）について読んでおくこと	180
第11回	建物の熱性能（２）	建物の断熱・熱容量について理解する。 日射吸収率と長波長放射率／中空層の伝熱／壁の温度分布／平均熱貫流率／熱橋／建物の熱容量／内断熱と外断熱／充てん断熱／外張り断熱	課題５（伝熱）による復習	120
第12回	湿気環境（１）	結露現象の原理を理解する。 湿り空気線図／飽和水蒸気圧／相対湿度／絶対湿度／露点温度／比エンタルピー	教科書p.108-113（湿気環境）について読んでおくこと	180
第13回	湿気環境（２）	結露現象とその防止策について理解する。 表面結露／熱橋と表面結露／内部結露	課題６（湿気環境）による復習 レポート「日本の気候風土に適した住宅」	120 720
第14回	空気環境（１） 空気と人の健康	室内の空気質について理解する。 屋外の空気と室内の空気／室内空気汚染物質（二酸化炭素，一酸化炭素，ホルムアルデヒド，VOC，窒素酸化物，硫黄酸化物．臭気，浮遊粒子状物質，PM2.5，アスベスト）／室内空気質／シックハウス症候群／シックハウス対策／室内空気環境基準	教科書p.47-69（空気環境）について読んでおくこと	180
第15回	空気環境（２） 室内の空気汚染対策	換気方式・換気量について理解する。 室内の空気浄化の考え方／換気／必要換気量／換気回数／全般（希釈）換気／局所換気／置換換気／自然換気（風力，室内外温度差）／機械換気	課題７（空気環境）による復習	120
第16回	定期試験			

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、「日本の気候風土に適した住宅」の実例を調べる課題である。 ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	課題	○			
	レポート	○			

評価割合	定期試験(30%)、レポート及び課題(70%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	生活環境学［改訂版］／岩田利枝 他／井上書院／2021 978-4-7530-1759-1
参考図書	図説テキスト　建築環境工学／加藤信介　他／彰国社／2008
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 ［知識・理解］　社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 ［知識・理解］　住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C　火曜５限 1807室　　／町田C　金曜３限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目　③建築環境工学　に認定。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居計画		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	G24303C21
授業概要(教育目的)	家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点（K）	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点（V）	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点（A）	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・現代の家族と住まい	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ	（復習）自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える	120分
第2回	家族のかたちと住まいのかたち	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ	（復習）自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える	120分
第3回	家族の変化と新しい住まいのかたち	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ	120分
第4回	居住歴と原風景	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ	（復習）自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える	120分
第5回	住居の設計プロセス	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規について学ぶ	（復習）住居の設計プロセスと建築に関わる法規について復習する （中間レポート1/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第6回	独立住宅の計画手法	独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート2/4）住宅計画	120分 ＋レポート120分

			に関する中間レポートに取り組む	
第7回	生活行為と生活時間	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ	（復習）自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる	180分
第8回	生活行為と住空間	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ	（復習）自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える （中間レポート3/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第9回	独立住宅の構造・構法	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート4/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第10回	集合住宅の平面構成	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ	120分
第11回	生活の外部化と地域施設	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ	（復習）自分の生活を対象に生活の外部化について考える （期末レポート1/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第12回	住宅でまちをつくる	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ	（復習）多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える （期末レポート2/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第13回	集合住宅地の計画１	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ	（復習）自分の住む地域の街並みの美しさについて考える （期末レポート3/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第14回	集合住宅地の計画２	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ	（復習）自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える	120分
第15回	集合住宅団地の再生	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ	（復習）自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。 レポートは、採点後にコメントを付して返却する。
評価方法	小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。取り組み状況、完成度、授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。 中間と期末の２回実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小課題	○	○	○	
	レポート	○	○	○	○

評価割合	小課題40%、中間レポート35%、期末レポート25%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 岡田光正ほか「住宅の計画学入門－住まい設計の基本を知る」鹿島出版会 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる
学生へのメッセージ	住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	福祉住環境		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点（K）	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。	（復習）日本の人口の動向について調べ、理解する。	150分
第2回	福祉・ノーマライゼーションの考え方	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。	（復習）配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。	150分
第3回	高齢者・障害者の住環境整備－１	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにある生活用具について、共用品・福祉用具にあたるものがないか考える。	150分
第4回	高齢者・障害者の住環境整備－２	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第5回	高齢者・障害者の住環境整備－３	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分

第6回	日本の住宅と住生活上の課題	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。	150分
第7回	福祉住環境整備の技術－１	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第8回	福祉住環境整備の技術－２	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第9回	福祉住環境整備の技術－３	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第10回	福祉住環境整備の技術－４	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 ＋レポート150分
第11回	関連法規・高齢者の住環境整備	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 ＋レポート150分
第12回	障害とは何か・障害者の住環境整備	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 ＋レポート150分
第13回	高齢者の健康と自立	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。	150分
第14回	リハビリテーションの考え方	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。	150分
第15回	介護保険制度の変遷とこれから	福祉住環境整備を支える介護保険制度について、制度創設以来の変遷を振り返る。	（復習）社会情勢の変化を踏まえ、介護保険制度の今後について考える。	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	第2回以降、毎回授業開始時に前回講義内容に関する確認テストを実施する。確認テストは評価に含めず、授業時間内に解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 レポートについては採点後にコメントを付けて返却する。
評価方法	小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート	○	○	○	
	レポート	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	小レポート30%、レポート30%、定期試験40%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	「新版福祉住環境」浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる
学生へのメッセージ	本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験２級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会福祉概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

ナンバリング	R11006M21
授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史てき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解するための授業展開をする。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について具体的な事例で説明する。 現代社会の問題や課題を探索し、社会の持つひずみに関心をもって、その問題に対応する方法を身につけていく。この社会では今でも苦しんでいる多くの人がいることをまた解決を求める人も多くいることを伝え、共に生活者の視点で考える。 授業方法は、大学からの指示に従う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会福祉やソーシャルワークが理解できる　また福祉６法の概略を理解できる
思考・判断の観点（K）	社会福祉の制度と実践を理解し、ボランティア活動などで実践し、自らが評価できる
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的弱者と当事者の視点に関心を持ち、共生の思想と実践の意欲や態度を持つことができる
技術・表現の観点（A）	ソーシャルワークの方法に基づいたケアプラン作成のスキルを身に着け、モデルを通じて展開してみる

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	○オリエンテーション＝社会福祉の問題に私たちはどのように関わっているのか＝ ▼社会保障って何だろうか？	新聞やインターネットの記事から社会保障や社会福祉の問題を探す	社会福祉の問題は、どのような問題で、どのような課題があり、どのような解決が求められているのかを考えてみる。その際、何か一つの問題に関心を向けて考える（例えば児童虐待　貧困　　認知症高齢者等）	２４０分
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	社会福祉の記事を調べてみる。それを通してこの国はどのような社会構造を持つのかを考える（インターネットからのニュースや記事をチェックする）	240分
第3回	人は一人で生きられるか　逆に人はなぜ、他	アッシュの実験　　ローソン工場の実験を通して、人と社会の関係はどのような形であるかを考える	YOUTUBEで「アッシュの実験」を調べておく。また授業後、授業で取り上げた「同調圧力」を理解する	240分

	者を気にし、忖度までしようとするのか？なぜ、KYではいけないのか？			
第4回	社会福祉の歴史 社会福祉の歴史❶　イギリスの発達史	中世から救貧法までを学ぶ　なぜ「救貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ。なぜ宗教改革と貧困者救済が関係あるかを学ぶ　言葉：「いとちいさきもののひとりになしたるは、われになしたり」「働かざる者食うべからず」	世界史の教科書またはYOUTUBEででヨーロッパ中世の出来事をおさえておく　特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する　救貧法を知る	240分
第5回	社会福祉の歴史❷　ロンドンCOSが果たした役割と限界	1601年の救貧法は国家による貧民救済の歴史上エポックメイキングであった。ただし、その救済は、ワークハウスという過酷な強制労働であり、救済に値するものではなかった。こうした厳しい締め付けは国民の反発を招き、これから200年にわたる飴と鞭が繰り返された。その中で登場するのが「COS（慈善組織協会）」である。この活動はケースワークの萌芽とも呼ばれる画期的なものであった。しかし、この活動も社会的批批判を受け、衰退する。そして歴史は大きく動く・・	救貧法から新救貧法そして慈善組織協会の流れを理解する 特に「COS]について学んでおくこと。なぜ働かざる者食うべからずなのか？あなたの考えをまとめる。	240分
第6回	社会福祉の歴史❸ リッチモンドとソーシャルワークの体系化（専門化）	ソーシャルワークの発展を考える時、リッチモンドは欠かせない。苦労人であったこの女性は、「何百のケースとのかかわりのなか」からソーシャルワークの土台を作った。「生活問題は、個人の問題と社会の問題の中間で生まれる」何を意味しているのか、リッチモンドの人となりに触れながら、探求する。	リッチモンドを調べておく。特に女性の生き方ついての一つのモデルとして、考えてみる。	240分
第7回	ソーシャルワークを学ぶ❶	ソーシャルワークの定義を学ぶ。国際ソーシャルワーカー連盟の定義、そしてグローバル定義。この二つの定義からソーシャルワークはどのような問題や課題を解決することかを理解する・	国際ソーシャルワーカー協会の「ソーシャルワークの定義」を調べる	240分
第8回	社会保障とは何か	社会保障の定義　体系　財政　未来を学ぶ	社会保障の概念を調べる	240分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ❷	方法の学び❶　ソーシャルワークの体系（１）直接援助技術　（２）間接援助秘術　　（１）ケースワーク　（２）グループワーク　（２）　社会調査　ソーシャルアドミンストレーション　地域福祉　がある。今回は〇ケースワークの歴史、概念、定義　原則を学ぶ	バイスティックの原則を勉強しておく。特に＊統御された情緒関与　＊意図的な感情表出　は十分理解する	240分
第10回	ソーシャルワークを学ぶ❷	方法の学び❶　ケースワーク　　（直接援助技術）　成り立ち　変遷　定義　アプローチ　原則　プロセス ❷グループワーク　　（直接援助技術）　定義　集団活動との違い　原則　プロセス 例題からどの方法を使って問題解決を図るか検討する。	前回に続きバイスティックの原則を勉強しておく。　集団の建設的側面、破壊的側面とは何かを理解する	240分
第11回	児童福祉の学び	現代の課題　虐待問題をネットニュースなどから学ぶ 虐待とは何か　虐待増加の社会的背景　虐待が引き起こされる状況 虐待防止の取り組み	児童虐待を新聞記事から学ぶ	240分
第12回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから学んでおく	240分
第13回	介護保険を学ぶ	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険とは何か　どのようなサービスをどのようにして受けられるのか　インターネットから学んでおく	240分
第14回	介護保険を学ぶ❷	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険とは何か　どのようなサービスをどのようにして受けられるのか　インターネットから学んでおく	240分
第15回	現場からの報告	特別養護老人ホームの実際を学ぶ	特養とは何かを調べる	

学習計画注記	外部施設への見学は感染状況を見極めてきめます
学生へのフィードバック方法	提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション
評価方法	❶中間試験 ❷実務家講演のコメント ❸学期末試験 ❹平常点
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間試験	○		○	
コメント		○	○	
学期末試験	○			

評価割合	❶中間試験　３０％ ❷コメント　２０％ ❸学期末試験４０％ ❹その他　平常点　１０％
使用教科書名(ISBN番号)	別途指示　今年は予定していません
参考図書	別途指示
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 　ソーシャルワークの理解を通じて質の高い生活を理解できる 【思考・判断】 　ボランティア活動などを通じて情報の収集と分析ができて、問題解決の方法がわかる 【関心・意欲・態度】 社会的弱者の生活構造を理解しまた成果勝困難の諸問題に関心を持ちつけることができる 【技術・表現】 ケース研究やケアプラン作成を通じて、問題解決につなぐコミュニケーションの方法が理解できる。
オフィスアワー	毎週月曜日２時限
学生へのメッセージ	現代社会における社会福祉の課題を「生活者」の視点で検討し、課題を発見し、解決できるようにしていきましょう。このことに関心がある学生の受講を望みます。なお、本年は、基本は対面と遠隔の複合型授業になるので自宅での学習課題も多いと思いますのでそれを理解した上での受講をお願いいたします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かに配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食文化演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤　有紀	指定なし

ナンバリング	G33202C12
授業概要(教育目的)	江戸時代に編纂された代表的な料理書の中のいくつかの料理を実際に調理して再現することを軸とし、食文化の変遷とその延長上に現代の食卓があることを理解する。また、日本各地の郷土料理にも目を向け、地域の食文化についても学ぶ。グループでの実習と発表を通して、知識の定着と調理技術やプレゼンテーション力の向上を目指す。
履修条件	・使用教室に定員があるため履修者数は40名までとする。履修希望者が40人以上の場合は抽選とする。 ・「調理学実習」「レシピの比較文化史」を履修していることが望ましい。 ・試食および調理実習の食材費として１人1000円を徴収する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	江戸時代と現代の調理レシピや食生活の共通点・相違点を理解する。郷土料理について、使用される食材の生産、加工法、調理法などを理解できる。
思考・判断の観点（K）	江戸時代と現代の調理レシピや食生活の共通点・相違点の背景を考察できる。郷土料理について、使用される食材の生産、加工法、調理法などの面から地域での共通点・相違点を比較できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実習やグループワークなどに自ら積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	時代や地域ごとの食文化の共通点、相違点、考察した事柄などについて、パワーポイントを用いてわかりやすくまとめて発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明を行う。	授業内で指示するウェブサイトや配布資料を読む。	30分
第2回	江戸時代の食生活1	江戸時代の食生活の概要を学ぶ。	事前に配布された資料を視聴あるいは読んでくる。授業の内容をまとめる。	60分
第3回	江戸時代の食生活2	江戸時代の料理と調味料について学ぶ。	事前に配布された資料を視聴あるいは読んでくる。授業の内容をまとめる。	60分
第4回	江戸時代の食生活3	「いり酒」などをつくり、様々な食品に使用することで現代の調味料との違いを学ぶ。	事前に配布された資料を視聴あるいは読んでくる。レポートを作成する。	120分
第5回	江戸時代の料理1	大江文庫について学ぶ。	配布資料を読み、重要な個所をまとめる。	60分
第6回	江戸時代の料理2	「江戸時代料理本集成」からいくつかの料理のレシピを読む。	配布資料を読み、重要な個所をまとめる。	60分
第7回	江戸時代の料理3（調	江戸時代の料理を実際に調理する。	調理手順の確認をしてくる。レポートを作成する。	120分

	理実習）			
第8回	江戸時代の料理4	江戸時代と現代のレシピを比較する。	発表に向けて資料を作成する。	60分
第9回	江戸時代の料理5	これまで学んだ調味料や料理を中心に江戸時代の料理の特徴をまとめ、発表する。	配布資料に加えて、授業内で紹介する文献やウェブサイトから、江戸時代の料理書やその解説に関する情報を収集しておく。	120分
第10回	郷土料理の学習1	日本の郷土料理について、グループで食材や調理法などのテーマを決め、テーマを軸に共通点、相違点を学ぶ。	授業内で紹介するウェブサイトを見たり、配布資料を読み、テーマに関する情報を収集してくる。	60分
第11回	郷土料理の学習2	1に続き、日本の郷土料理について、グループで食材や調理法などのテーマを決め、テーマを軸に共通点、相違点を学ぶ。実際に調理する料理を決める。	実際に調理可能なレシピをを確認してくる。	120分
第12回	郷土料理の学習3	プレゼンテーションの方法を学び、テーマに関する集計や情報収集を進める。	授業内で紹介する文献やウェブサイトから、興味のある郷土料理についての情報を収集しておく。	60分
第13回	郷土料理の学習4	グループごとにテーマに沿った郷土料理の調理を行う。	自身のグループでつくる料理について調理手順を整理しておく。結果をまとめる。	120分
第14回	郷土料理の学習5	調理を行った郷土料理について、テーマに沿って食材や調理法、歴史的背景、実習での感想などをまとめた発表資料を作成する。	図書館やウェブサイトで、必要な文献や情報を収集しておく。	60分
第15回	郷土料理の学習6	前回までに作成した資料をもとにグループごとに発表と、評価を行う。	発表資料を完成させてくる。自分のグループの発表に対する評価から改善点を考察する。	120分

学習計画注記	・履修者数により授業内容が一部変更になることがある。
学生へのフィードバック方法	提出物は原則グーグルクラスルームから提出すること。コメントを加えて返信する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評する。
評価方法	・提出物は、授業内容のまとめやグループでのディスカッション結果などである。 ・プレゼンテーションは、個人・グループの発表に対する評価を行う。 ・調理、ディスカッション、プレゼンテーション資料作成などへの取り組み姿勢（平常点）、提出物、プレゼンテーションの出来栄えで評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	提出物	○	○		
	プレゼンテーション	○	○		○

評価割合	平常点（30%）提出物（25%）プレゼンテーション（45%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。資料を配布する。
参考図書	授業内で紹介する。
参考URL	http://www.location-research.co.jp/kyoudoryouri100/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】実習や調査を通して日本の食の独自性や多様性を知り、「質の高い生活」への理解を深められる。 【思考・判断】時代や地域による食生活の違いの理解を基礎に、「質の高い生活」についての考察ができる。 【関心・意欲・態度】食文化に関わる諸相に関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】多様な食文化への理解や将来の食文化のあり方につながる発信ができる。
オフィスアワー	水曜３、４限
学生へのメッセージ	・個人の取り組みの他、グループでも調理、ディスカッション、発表資料作りなどを行います。自主的に資料を探す、他の人と積極的に意見を交換しながら資料をつくるなど、主体的な態度を望みます。 ・試食や実習では調理実習室を利用するため、上履き、白衣（エプロン）、三角巾が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	データベースへのアクセス、集計、集計結果のまとめ、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の指導を行う。

ICT活用	○	くずし字解読のためアプリケーションソフトを活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	現代家政ゼミA		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし
教授	上村　協子	指定なし
教授	椛田　考一	指定なし
教授	現代家政学科　教員	指定なし

ナンバリング	G31004C12
授業概要(教育目的)	現代家政学科の最終学年を迎える直前の時点で、現代家政学科での学びの振り返りを行い、さらに今後の学び、卒業後のあり方を考え、展開していくための基盤を築くことを目的とする。また、4年次で「卒業研究A」「卒業研究B」を履修するための基本的習得事項（情報収集、課題の把握、調査・実験方法など）を定着させる。現代家政学科において生活に関わる分野を横断的に学んだことを生かして、本学の建学の精神である「KVA」の視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢を育成したい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現代家政学の学びと社会とのかかわりについて理解する。
思考・判断の観点（K）	学びを生かして社会で活躍していくための方策について思考する。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代家政学を社会で活かしていくために、積極的に情報を収集する。
技術・表現の観点（A）	現代家政学の学びについて、発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、卒研ゼミ決定までの流れとスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨を読んで理解する。	45分
第2回	卒業研究とは何か	卒業生などを例に、準備や発表会の様子、評価のあり方等を紹介しながら、卒業研究に向けた姿勢を育む。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨を読んで理解する。	45分
第3回	卒研ゼミ紹介(1)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第4回	卒研ゼミ紹介(2)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第5回	卒研ゼミ紹介(3)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当す	45分

			るゼミの要旨を予習として読み、理解する。	
第6回	卒研ゼミ紹介(4)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第7回	卒研ゼミ紹介(5)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第8回	卒研ゼミ紹介(6)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第9回	卒研のための情報の収集方法（文献検索等）	文献検索、新聞情報の検索方法などを学ぶ。	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献、社会的な情報を考えておく。 復習として、それらの情報に実際にアクセスし、理解する。	45分
第10回	ゼミマッチング(1)	自らが関心を持つ研究分野の教員のもとで、研究テーマの具体的な相談などをする。領域別の特徴や研究方法を知ることで、配属ゼミでの学びに備える。	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献や情報を集める。	45分
第11回	ゼミマッチング(2)	自らが関心を持つ研究分野の教員のもとで、研究テーマの具体的な相談などをする。領域別の特徴や研究方法を知ることで、配属ゼミでの学びに備える。	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献や情報を集める。	45分
第12回	客員教授による講演	最終学年を迎えるにあたり、今後の学び、卒業後のあり方を考え、専門教育と卒業後のキャリア形成のブリッジングについて学ぶ。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第13回	働くことと KVA 精神の関わり（外部講師による講演）	卒業生特別講師による、働くこととKVA精神のかかわりについての講演を聴き、自らの卒業後のあり方について考える。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第14回	卒業後のキャリアプラン（外部講師による講演）	キャリアカウンセラーによる、卒業後のキャリアプランについての講演及びワークショップを行う。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第15回	学びの振り返りとまとめ	これまでの授業の振り返りとまとめを行う。授業内で課された課題について解説を行う。	これまでの授業を振り返り、各回の要点を再確認しておく。	45分

学習計画注記	外部講師の都合等により授業内容の入れ替えを行うこともある。
学生へのフィードバック方法	課題については、振り返りの中で解説する。質問は各回の担当教員が受け、回答する。
評価方法	授業時に指示する課題を毎回提出する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業時の課題	○	○	○	○

評価割合	授業時の課題100%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。
参考図書	なし。必要に応じて授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。 【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。 【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。 【技能・表現】生活の諸問題について他者と討議し、発信することができる。
オフィスアワー	現代家政学科の各教員に問い合わせること
学生へのメッセージ	日ごろから私たちの生活における課題に目を向け、課題解決に向けて考える姿勢をもってほしい。「卒業研究」のテーマや自分の将来について真剣に考えてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	外部講師2名(キャリアカウンセラー・社会保険労務士、飲食店経営者）によるワークショップと講義を行う。
アクティブ・ラ	○	第10・11回には「現代家政ゼミB」での演習につながる調査や討議を行う。

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活福祉論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	G12314C21
授業概要(教育目的)	生活者・消費者の立場から地域社会における社会福祉のあり方を考察する。自立した生活を営むためには個人、家庭、地域、社会の単位で生活を総合的に理解する必要がある。あわせて、自助、互助、共助、公助について理解し、各段階に応じた支援について検討する。主な題材として子どもの貧困や障害のある消費者への社会的対応を取り上げ、家政学と関連させながら考察する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活福祉に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点（K）	生活福祉について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生活福祉論とは何か	生活福祉論の概念について理解する。	授業で取り扱う先行研究について復習する。	120
第2回	私たちの生活と福祉	現代の社会保障および社会福祉の概要について理解する。	国民年金についてその仕組みと、近い将来取るべき手続きについて調べる。	120
第3回	福祉の対象者とは誰か	社会福祉の対象について整理し、社会的対応の現状と課題を理解する。	子どもを対象にした社会保障・社会福祉制度を調べる。	120
第4回	個人、家庭、地域、社会単位で生活を考える	主体的に生活を営むためにできることを個人、家庭、地域、社会の単位で総合的に理解する。	学修者自身の生活テーマを設けて、個人、家庭、地域、社会の単位で対応できることを考える。	120
第5回	地域における助け合い①	自助、互助、共助、公助とは何か。具体例を探りながら、現状と課題を検討する。	自助、互助、共助、公助についての事例を調べる。	120
第6回	地域における助け合い②	具体例をあげて自助、互助、共助、公助の違いについて理解し、各段階に応じた支援について検討する。	子どもを対象にした自助、互助、共助、公助のシステムを調べる。	120
第7回	子どもの貧困①	子どもの貧困を考えるために、子ども食堂の取組みと、学校給食費の未納問題を取り上げる。	関連する書籍について割り振られた章をまとめ、発表の準備をする。	120

第8回	子どもの貧困②	子ども食堂と学校給食に関わる書籍についてまとめた内容を発表する。	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回、調べたテーマについて整理する。	120
第9回	子どもの貧困③	子ども食堂と学校給食に関わる発表を受け、ディスカッションを通して理解を深める。	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回、調べたテーマについて整理する。	120
第10回	子どもの貧困④	子ども食堂でのフィールドワークについて振り返りをして、家政学ならではの問題解決のアプローチを考える。	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回のフィールドワークについて整理する。	120
第11回	障害のある消費者への社会的対応①	脆弱（ぜいじゃく）な消費者である子どもや高齢者、障害者などについて学習する。	子どもや高齢者、障害者の消費者教育の素材を調べる。	120
第12回	障害のある消費者への社会的対応②	消費者庁『消費者白書』などを手掛かりにしながら、障害のある消費者の相談状況を理解する。	インターネットで『消費者白書』を手掛かりにして、障害のある消費者について記述されている箇所を調べる。	120
第13回	障害のある消費者への社会的対応③	消費者庁や国民生活センターの実施した調査を手掛かりにしながら、障害のある消費者の課題を理解する。	行政や消費者団体が実施している調査について調べる。	120
第14回	障害のある消費者への社会的対応④	特別支援学校などで実施されている消費者教育について考える。	各地で実施されている障害のある消費者に対する取り組みを調べる。	120
第15回	地域社会における生活福祉	生活者・消費者の立場から地域社会における生活福祉のあり方を考える。	家政学の学びを活かした地域社会で求められる支援について調べる。	120

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は40点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。 ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物			○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【後期】水曜日　1701ゼミ室　10：40～12：50
学生へのメッセージ	授業で取り扱うテーマである子どもの貧困や、障害のある消費者の問題に関する情報を収集し、その問題点や社会的な取り組みの事例を通して、家政学を学ぶ皆さんに何ができるかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	フィールドワークとその後の振り返りでは、体験学習やグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行である。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食と環境		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし

ナンバリング	G13307C21
授業概要(教育目的)	この講義は，「食」と「環境」という別々に考え論議される二分野の関連性を学ぶことを通して，環境問題をより日常的な関連性の中で捉え直し，地球環境に対する理解を深めることを目的とする。環境問題の切り口や講義は多様であるが，「食」の問題を切り口として環境問題について考え，「食」と「環境」がいかに繋がっているかを理解できるようにする。今後現代家政学科での学びを進めていき，環境，経済，社会の面から見てSDGs（持続可能な開発目標）の根源である持続可能な生活・社会を実現するのに必要な考え方や価値観を持つ為の基礎的な知識の習得を目標とする。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「食」と「環境」との関連性を理解し，持続可能な生活・社会を実現するための基礎的な知識を習得できている。
思考・判断の観点（K）	食べること，すなわち「食」と地球環境が関連しているという思考を持つことができている。「食」は個人的な行為では無く，地球環境へ負荷がかかっていることが判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	環境問題に関心を持ち，生活から環境問題を解決する意欲を持つようになる。また，SDGs（持続可能な開発目標）を実践する態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	今後の授業内容について説明する。	授業内容の確認。	90分
第2回	なぜ，食べるのかを考える	「食べる」ことの生物学的意義について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「細胞とエネルギー」「生態系内の物質・エネルギーの流れ」に関する部分を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	環境とは何か？	今後，授業の中心の一つになる「環境」について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み，生態系の成立要因について，まとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	生態系と生態系サービス	生態系の成り立ちと人類が生態系から得ている利益について解説する。	高校生物基礎教科書中の「生態系のバランスと保全」の章を読み，生態系のバランスについての知識を得る。復習：授業内容をまとめる。	180分
第5回	食生活と生	生物多様性について解説し，遺伝的多様性が人類にもた	生物多様性の3つの構成要素に	180分

	物多様性	らす利益を「品種改良」を例にして理解する。	ついてインターネットを用いて調べる。	
第6回	資源としての生物	資源としての生物についてマグロ資源を例として解説し，その特徴や化石燃料などのエネルギー資源などとの違いについて理解する。	高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を予習する。	180分
第7回	バイオテクノロジーと食料１	遺伝子操作による品種改良の基本について解説する。	高校生物基礎教科書中の「細胞内での遺伝子の発現」に関する部分を復習する。	180分
第8回	バイオテクノロジーと食料２	バイオテクノロジーによる品種改良の変遷についてVTR映像などを用いて解説し，賛否について問う。	バイオテクノロジーによる賛否について，自分意見をまとめておく。	180分
第9回	フードシステムの環境負荷１　フードマイレージ	現在のフードシステム（食料品の生産から流通・消費の相互関係）が環境に及ぼす影響について理解する。その一環として輸入食料について，総合的にとらえる目安として考えられたフードマイレージについて解説する。	フードマイレージについて調べ，フードマイレージと環境問題の関連性について，考えをまとめる。	180分
第10回	フードシステムの環境負荷２　フードマイレージとエネルギー消費	身近なコンビニ弁当からフードマイレージを算出する。さらに，原材料を国産に置き換えた場合と比較して，輸入食材の問題点を考える。また，日本の食糧事情についての問題点も考える。	フードマイレージと環境問題の関連性について，考えをまとめる。	180分
第11回	フードシステムの環境負荷３　水問題	バーチャル・ウォーター（仮想水）と飲料水の輸入など水がもたらす環境負荷についても解説する。	食品廃棄物と日本の食糧事情について，自分の考えをまとめる。	180分
第12回	フードシステムの環境負荷４　食品廃棄物	これまで解説した「フードマイレージ」「水問題」を踏まえて，日本の食糧事情や食品廃棄物問題と環境問題の関連性について考える。	食品廃棄物と日本の食糧事情について，自分の考えをまとめる。	180分
第13回	食を通して環境問題を考える（公害病を例として）	生物濃縮による食料からの人体に及ぼされる影響について，公害病を例に解説する。日本の公害の歴史を振り返り，現在の安全な食生活がどのようにつくられたかを理解する。	公害病の中で食品が原因のものを調べる。	180分
第14回	廃棄物による環境汚染マイクロプラスチック汚染	これまで食料に関係する環境問題について授業を行ってきたが，現在，ペットボトルなどの食品の容器やレジ袋などプラスチック製品が砕けて微粒子状になるマイクロプラスチックによる環境汚染が問題視されている。マイクロプラスチック汚染について解説し，この問題について考える機会とする。	マイクロプラスチック問題について企業の対応を調べる。第1回から第14回授業を復習し，定期試験への準備をする。	180分
第15回	食と持続可能な社会	これまでの授業で解説して「食」と「環境」に関連性について振り返り，持続可能な社会と食生活について考える。	これまでの授業の復習と定期試験への準備。	240分

学習計画注記	授業は，対面授業とZoomよる配信で行う予定。クラス編成などの理由で，授業の順番や内容が変更になる可能性があります。
学生へのフィードバック方法	レポート・提出物については，解説する予定。
評価方法	定期試験とレポート・提出物・平常点の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	レポート・提出物	○	○	○	○

評価割合	定期試験60%　レポート・提出物・平常点40%の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	適宜，紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち，現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	月曜日2時間目　1702室
学生へのメッセージ	1年生も履修できる科目なので，「環境」についての基本的な知識についても触れる。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	グローバルコミュニケーション		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク　ルイス	指定なし

ナンバリング	G22109C12
授業概要(教育目的)	The teacher will instruct students how to describe and explain areas of Japanese culture in English.
履修条件	None. (English Communication 1 and 2 recommended.)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their experiences in Japan, in English, and will become more at ease when speaking about Japan to others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	Introduction	Where you are from; and the places that you like in Tokyo.	Prepare for class by reading p.2-3; and p.34-35	60
第2回	Japan	Traditional Japanese things / Convenience stores	P. 4-5; 36-37	60
第3回	Transportation	Getting a driver's license / Cherry blossom viewing	P.6-7; 38-39	60
第4回	Animals / Spring	What do you like to do in the spring season? / Takoyaki and okonomiyaki	P. 8-9; 40-41	60
第5回	Food	Monjayaki / Going to a preparatory school	P. 10-11; 42-43	60
第6回	More Food	Natto and miso soup / Game centers	P.12- 13; 44-45	60
第7回	Festivals	Finding a good restaurant / Festival activities	P.14-15; 46-47	60
第8回	Fishing	Going fishing / Going to a hot spring	P. 16-17; 48-49	60
第9回	Fashion	Fashion magazines / Studio Ghibli movies	P. 18-19; 50-51	60
第10回	Comic Books	Favorite comic books / Green tea	P. 20-21; 52-53	60
第11回	More Food	Wagashi deserts / Japanese fast food	P.22-23; 54-55	60
第12回	Cosmetics	Perfume, cologne / Varieties of rice	P.24-25; 56-57	60
第13回	Spicy Food	Sushi and wasabi / Wearing a yukata	p. 26-27; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Practice speaking with a partner for final speaking test.	P. 2- 59	120

第15回	Speaking Test	Speak with a partner in a natural conversation about Japan. No notes or books.	P. 2-59	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing; and feedback from the teacher on class participation.
評価方法	Quizzes are worth 14 points each week. Quiz questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the pages assigned as homework, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English by the end of the semester. In-class writing allows you to earn more points. Write a lot about what you like and your ideas.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	Quizzes	○	○	○	○
	Speaking Test	○	○	○	○
	Participation	○	○	○	○
	Writiing	○	○	○	○

評価割合	Understanding and fluency 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名(ISBN番号)	Say What You Like 2.5 (ISBN 978-4-9906347-5-9)
参考図書	A Japanese - English Dictionary
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking Engish.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家族の心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	G22210C21
授業概要(教育目的)	現代の家族の現象について、広い視野からその詳細を知り、原因や背景を学ぶ。その際、隣接領域である家族社会学、文化人類学等で語られる家族にも言及し、家族システム理論をベースとした、家族理解の方法論について学ぶ。また、家族心理学に隣接する心理学は、生涯発達心理学、臨床心理学である。これに社会心理学的な視点を加えて、家族プロセス、家族関係、家族力動について科学的にとらえ、自分なりの考えをまとめる力を身につける。最終的には、家族を取り巻く現代の問題に気づき、心理学の視点からの解決方法を模索できる力を醸成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．家族心理学の歴史や関連する学問領域とそれらとの関係を知る。 ２．家族心理学の知識によって、どのような社会の問題を明らかにできるのかがわかる。
思考・判断の観点（K）	１．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を家族心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．社会的な問題を家族心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日常生活にある事象から、家族心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、家族心理学で得た知識に基づいて説明するなど、家族心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション―家族心理学とは―	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。	家族心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	家族とは何か	「家族」の定義について学ぶ。家族心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で家族を扱うことができる範囲を知る。	家族の心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と家族心理学のつながりを考える。	180分
第3回	家族づくりの準備	人の発達の観点から、家族はどのように作られていくのかを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	夫婦の発達	夫婦はどのように関係性が変化（発達）していくのかを知る。また現代社会における家族のあり方を、夫婦を一つの単位として考える。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

		授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。		
第5回	家族システム理論	家族にまつわるシステム理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	子どもが育つ場としての家族 （1）子育ての普遍性	養育のためのシステムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	子どもが育つ場としての家族 （2）親と子の関係	親子関係の変容について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	家族の健康	家族の発達と変容について理解し、家族における「健康」とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	家族の危機 （1）歴史的側面	家族に生じる危機とその対応について、過去はどのようなものがあったのかを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	家族の危機 （2）発達的側面　家族内の要因	家族に生じる危機のうち、家族内の要因が背景にあるものと、その解決法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	家族の危機 （3）発達的側面　家族外の要因	家族に生じる危機のうち、家族外の要因が背景にあるものと、その解決法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	家族の危機 （4）解決の方法と家族をめぐる心理学の課題と展望	家族の危機を解決する方法の一つとして、家族療法について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	現代社会の特徴からみた家族　少年法の改正と背景の検討	現代社会の特徴からみた「家族」について心理学的側面から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	子どもが育つ場としての家族 （3）現代社会の子育て	現代社会における子育てをめぐる問題について知り、その解決法を考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	変化する社会の中の家族　～家族をめぐる心理学の課題と展望～	家族の持つ普遍性と個別性の観点から、変化する社会の中での課題を考え、展望する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前配布の資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1．授業開始時に実施する「出欠確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。 2．「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として次の回で全体、もしくは個別にフィードバックを行う。
評価方法	授業への姿勢、及び試験の結果をもとに総合的に判断する。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ★自己チェック、いずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験50%、授業への意欲・態度（自己チェック、出席カードなど）50%
使用教科書名(ISBN番号)	原則として配布資料を用います。 配布方法は、google classroomを使用して、デジタルファイルでの配信とします。
参考図書	授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「家族」という社会システムの観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって「家族」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、家族の心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会の中に課題を発見し、家族心理学的な思考や家族心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3限（千代田三番町キャンパス1805室）
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。 質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.acjp メール送信の際には★を@に変更してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	「現代社会の子育て」や「家族の危機の解決方法」を扱う部分については、臨床心理士としての実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コミュニケーションの心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	G32217C21
授業概要(教育目的)	コミュニケーションの基礎的な理論と、現代社会におけるコミュニケーションに関する現象を、社会心理学や臨床心理学をベースとして学ぶ。家族とのかかわりをスタートとして、現代の生活においては様々なコミュニケーションが求められる。また、ICTの普及により、コミュニケーションを取り巻く状況は近年目まぐるしく変化している。コミュニケーションで用いる媒体は言葉にとどまらないということとあわせて、発達障害をはじめとする、コミュニケーションに困難を抱える状態についても理解を深め、コミュニケーションを取り巻く現代の問題に気づき、心理学の視点からの解決方法を具体的に模索できる力を醸成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．心理学における「コミュニケーション」とは何かを理解する。 ２．心理学の観点から、コミュニケーションの仕組みを説明することができる。 ３．社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」を理解した上で、コミュニケーションに関する現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点（K）	１．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問をコミュニケーションの心理学の知識を用いて解決しようとすることができる ３．　生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日常生活にある「何気ない」事象、生活・社会の諸問題から、コミュニケーション心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	１．自身や身近な人の行動に関して、コミュニケーションの心理学で学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。 ２．コミュニケーション心理学の知識に基づいて、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション―コミュニケーション心理学とは	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。その上で、コミュニケーション心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。	コミュニケーション心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	コミュニケーションの理論（1）コミュニケーションの仕組み	コミュニケーションの仕組みについて学ぶ。コミュニケーションを心理学でどのように理論化しているか、その背景や関連する学問領域を併せて知る。	コミュニケーションに関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分のコミュニケーションについて考える。	180分
第3回	コミュニケーションに関するスキ	対人関係の成立としての、アイスブレイク、チームビルディング、対人関係ゲームを学ぶ。	「ゲーム」を通してのコミュニケーションについて、どのよう	180分

	ルの実践（1）対人関係の成立		なものがあるのかを調べ、自分なりの見識をまとめる。	
第4回	コミュニケーションに関するスキルの実践（２）グループワークの解説	アイスブレイク、チームビルディング、対人関係ゲームの仕組みを学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第5回	コミュニケーションの理論（2）対人関係の成立	対人関係の成立について、その理論を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第6回	コミュニケーションの理論（3）コミュニケーションの果たす社会的役割	意思決定と態度変容の理論を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第7回	コミュニケーションの理論（4）コミュニケーションの果たす社会的役割	態度変容と説得の技法を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第8回	コミュニケーションに関するスキルの実践（３）意思決定と態度変容	グループワークを通して、意思決定と態度変容の場面を体験し、理論と実践場面を結びつける。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第9回	パーソナルコミュニケーション（1）カウンセリング、コーチングの理論	個人同士のコミュニケーションのうち、カウンセリングとコーチングの理論を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第10回	パーソナルコミュニケーション（２）コーチングの具体的なスキル	個人同士のコミュニケーションのうち、コーチングの具体的な実践方法を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第11回	対パーソナルコミュニケーション（３）アサーティブコミュニケーション	個人同士のコミュニケーションのうち、アサーティブコミュニケーションの理論を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第12回	スペースとコミュニケーション１	パーソナルスペースについて、具体例に基づいて理論を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第13回	スペースとコミュニケーション２	スペースとコミュニケーションについて、リーダーシップの観点から理論を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第14回	くちコミとメディア特性、CMCでのコミュニケーション	くちコミと各メディアの特性について、その理論と背景を学ぶ。	事前に配布された資料を理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことの自分なりの活かし方を考える。	180分
第15回	総括・これからのコミュニケーションを展望する	まとめ AIをはじめとする新技術とコミュニケーションを取り上げ、未来のコミュニケーションについて考える。	配布された資料や毎回の自己チェックの結果をふりかえり、興味をもった点、疑問に感じた点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	１．授業開始時に実施する「出席確認」については、その都度、教員との間で結果を共有する。 ２．「ふりかえり」については、授業終了後に教員が確認し、原則として全体、もしくは個別にフィードバックを行う。

評価方法	授業への姿勢、及び試験の結果をもとに総合的に判断する。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己チェック	○		○	
	ふりかえり（アウトカム評価）	○	○	○	○
	最終試験	○	○		

評価割合	授業への姿勢（50%）、及び試験の結果（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	原則として配布資料を用います。 配布方法は、原則としてgoogle classroomを使用して、デジタルファイルでの配信とします。
参考図書	１．『ザ・ソーシャル・アニマル　人と世界を読み解く社会心理学への招待』E.アロンソン　サイエンス社 ２．『増補改訂版　コミュニケーションと日常社会の心理　100のエピソードから読み解く』中島純一　金子書房 そのほか、授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会について、特に対人行動に関する知識をもって理解する。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3、4限（千代田三番町キャンパス1805室）
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、コミュニケーションへの関心を高めてください。 講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生きた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	適宜、コミュニケーションの具体的な側面について検討していただきます。 毎回必ず、その回の授業に関連する「質問」を考え、ふりかえりの際にgoogle classroomに記入していただきます。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、ふりかえり、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	高齢者福祉論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

ナンバリング	G22316C21
授業概要(教育目的)	わが国は世界一の長寿国家であり、１９７０年代以降に成し遂げた。欧米では長寿国家になるまで100年以上を費やすのであるが、我が国はその5分の１の20数年で成し遂げている。すなわち、我が国の高齢化は国際的にみて急速であり、であるがゆえに様々な課題が現代社会の中で一気に噴出しているといってもよいだろう。例えば、健康の問題、介護の問題、経済の問題、仕事の問題、地域の問題、生きがいやつながりの問題、そして死の問題、これらの中には、成し遂げた『長寿』を疑問視する穿った声さえある。すなわち「長生きすることが幸せなのか」？ この授業では、このような根源的な問題を押さえながら、少子高齢社会である我が国の状況を具体的なデータから理解する。また高齢社会の歴史について学ぶ。高齢者を支える保健医療福祉のサービスを学び、特に介護保険制度を詳細に理解する。さらに高齢者への介護の方法を学ぶ 教員はこれらの目的を達せさせるために現場の事例を収集し、またメディアの情報を多様に分析し、授業を行っていく。 授業方法は、大学からの指示に従う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	高齢者への制度とサービスを理解する
思考・判断の観点（K）	高齢者の置かれた社会的な状況を総合的にとらえ、人権の問題として高齢期を生きることの意味を考える力が持てる
関心・意欲・態度の観点（V）	介護を受ける側からの介護のあり方に関心を持つことができる
技術・表現の観点（A）	介護保険の手続きが理解できる。いくつかの介護の方法を理解することができる　またサービスの創造や提案ができる　仕事におけるコミュニケーションの方法がわかる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	高齢社会とは何か	新聞記事から「高齢社会」問題について整理してみる	新聞記事を整理する	240分
第2回	高齢社会の歴史と課題	高齢社会の歴史を７％　１４％という視点で考えてみる	７％　１４％の意味することを探索する	240分
第3回	楢山節考は何を言いたいか	楢山節考を事前学習で読み、その課題を検討する	楢山節考を読んでおく	240分
第4回	認知症とそのケア	NHKスペシャル　「認知症の第一人者が認知症になった」を見て、認知症という「病」「状態」を考える	認知症の４の種類 ❶アルツハイマー型　❷前頭側頭型　❸レビー小体型　❹脳血管型の概要を調べておく ◎あなたにとって「忘れる」ということはどういうことかをまとめておく	240分

第5回	社会保障における高齢者	３０兆円を超える高齢者関連費用。その内容を学び、何が問題で、何を問題としてはいけないかを考える	国家財政の仕組みを財務省のHPから学んでおく	240分
第6回	社会保障における高齢者	３０兆円を超える高齢者関連費用。その内容を学び、何が問題で、何を問題としてはいけないかを考える	国家財政の仕組みを財務省のHPから学んでおく	120分
第7回	高齢者への虐待（暴力）を考える	虐待データを読み解いていく	厚労省のHPにアクセスし虐待状況をチェックする	240分
第8回	高齢者への虐待（暴力）を考える	虐待データを読み解いていく	厚労省のHPにアクセスし虐待状況をチェックする	240分
第9回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第10回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第11回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第12回	介護の方法を学ぶ　ボディメカニズム　腰を低く　できるだけ密着して　持ち上げない	簡単な介護の方法を学ぶ　介護者の立ち位置　車いすの仕組み　車いすの坂道での介護	介護の方法をインターネットから調べる	240分
第13回	介護の方法を学ぶ	簡単な介護の方法を学ぶ　認知症の介護　いくつかの想定されうる状況での対応を考える	介護の方法をインターネットから調べる 認知症の対応困難 ❶朝ごはん食べてないへの対応 ❷あなたが財布を盗んだへの対応　❸家から出て帰宅できない ❹激しい抵抗	240分
第14回	現場に行く	現場でのケアを体験する	現場施設をHPで確認する	240分
第15回	まとめの授業として外部講師の話	ケアマネジメント方法、クレームを言い続ける家族への対応、ターミナルケアについてソーシャルワーカーから学ぶ	ノートのまとめをする	240分

学習計画注記	状況に応じて視聴覚教材を取り入れる
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーへのコメント
評価方法	❶リアクションペーパー　テーマを設定して意見や感想をもとめその内容を評価 ❷ミニレポート　外部講義の講義感想を肯定的に評価できる ❸期末試験　客観的知識の評価（正誤問題）
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
リアクションペーパー			○	
ミニレポート	○			○
期末試験	○			

評価割合	リアクションペーパー：２０％　ミニレポート：３０％　期末試験：５０％
使用教科書名(ISBN番号)	別途紹介
参考図書	内閣府　高齢社会白書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】 ・生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】 ・生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】 ・生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスアワー	月曜日３時限　その他はメールで対応
学生へのメッセージ	高齢者福祉に関心がある方の登録を強く望みます。 教育実習の「介護等体験」にも寄与できる内容です。 家庭科教育実習の福祉領域の授業内容にも貢献できると思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、その実際に基づいて、事例を踏まえて学びを深める
アクティブ・ラーニング	○	新聞記事を使った社会問題としての高齢社会問題の探索を自らが行い、教室でshareする
情報リテラシー教育	○	インターネット上の様々なサイトにアクセスし、事前学習を深める
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	障がい者福祉論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 井原　哲人	指定なし

ナンバリング	G22317C21
授業概要(教育目的)	本科目は、現代社会において障がい者の生活問題が発生するのはなぜかを、社会構造と関連付けて考察したうえで、それを克服していくために取り組まれてきた経過から生み出されてきた理念や基礎概念を理解する。また、「障がい」概念と障がい者の定義を巡る課題、障がい児者福祉制度の概要など、障がい児者福祉の基礎概念や基礎知識を習得する。これらの学びを通じて、障がい者が抱えさせられている課題の解決に寄与できる市民・支援者としての視点を身につける。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・障がい者の生活・社会活動等、現状を把握する。 ・障がい者福祉の制度。福祉サービスを説明できる。
思考・判断の観点（K）	・障がい者が抱えさせられている生活課題の背景を社会構造と関連付けて考察する。
関心・意欲・態度の観点（V）	・教室外の学習時間を含め、障がい者の福祉に関する状況を意識して収集できるようになる。
技術・表現の観点（A）	・障がい者の福祉に関する理解や学びを踏まえて、質問や疑問、および自らの考えを整理して表現できるようになる。

学習計画

障がい者福祉論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション：障がい児者に関する理解・関心を広げる	グループ討論を踏まえ、これまでの生活場面を振り返って、障がい児者との接点を踏まえ、これからの学びの内容の範囲をつかむ。	これまでの自信の生活を振り返り、障がい児者との接点を整理する。	3時間
第2回	現代社会における障がい児者問題	現代社会において障がい児者が抱えさせられている障がい児者の生活状況・実態を把握する。	ニュースや報道等を通じて、今日の社会において障がい児者が抱える生活状況を整理する	3時間
第3回	障がい児者の生活問題が発生する社会構造	障がい児者の生活課題がどのようなに引き起こされるのか、現代社会の構造を踏まえて理解する。	貧困に代表されるような生活課題がどのようにして生じるのか、報道等を通じてその端緒を理解する。	3時間
第4回	障がい児者福祉制度の成立根拠：障がい観の転換と平等思想	現代社会において障がい児者福祉制度が成立する根拠について、障がい児者に対する観点の転換と平等思想の展開について学習する。	報道等を通じて、障がい児者がどのようにみられているのかを考えるとともに、「平等」とは何を基準にして考察されているのかを検討する	3時間

第5回	ノーマライゼーションの思想から障がい者権利条約へ	障がい児者を保護の対象とみなしていた歴史から、どのようにして、またどのような主体として社会に位置づけられるようになったのか、バリアフリー法を含め、その展開過程を学習する。	ノーマライゼーションとはどのようなものを指すのか、自らの生活を振り返って「ふつう」の暮らしとは何かを検討する。	3時間
第6回	リハビリテーションとは何か	リハビリテーションの概念とその変遷について学ぶ	リハビリテーションとは何か、日常の生活で使われているものが何を指し示すのかを整理する。	3時間
第7回	障がい児者運動と福祉政策の発展過程①	身体障害者福祉法や知的障害者福祉法等、戦後の日本を中心にして福祉政策がどのように発展してきたのか、特に障がい児者運動との関係から展開過程を学習する。	学生が居住している地域の障がい児者福祉事業所・施設等の設立経過等を調べてみる。	3時間
第8回	障がい児者運動と福祉政策の発展過程②	精神保健福祉法や発達障害者支援法、医療観察法等、戦後の日本を中心にして福祉政策がどのように発展してきたのか、特に障がい児者運動との関係から展開過程を学習する。	現在課題となっている障がい児者に対する福祉サービスについて調べる。	3時間
第9回	障がい概念の検討と構造的把握①	障害者基本法の展開過程に見られる「障がい」規定を含め、ICIDHからICFへと展開された障がいの捉え方について、その特徴と意義、課題を学習する。	「障がい」児者がどのように表記されているのかを調べ、その違いについて検討する	3時間
第10回	障がい概念の検討と構造的把握②	障害者基本法の展開過程に見られる「障がい」規定を含め、日本の福祉制度を規定する法において、「障がい」がどのように定義されているのか、その課題は何かを学習する	身体障害者福祉法が「障がい」をどのように規定をしているのかを確認し、その課題について検討する	3時間
第11回	障害者総合支援法の概要と課題	国や都道府県・市町村の役割等、障がい児者の福祉サービスを規定する障害者総合支援法の概要を学習するとともにその課題を検討する。	居住地域の障がい児者福祉サービスが障害者総合支援法喉の規定を受けた事業所なのかを調べる	3時間
第12回	障害者総合支援法の下での生活課題①	相談支援専門員等の役割を含め、障害者総合支援法に基づいて行われる福祉サービスの理解を踏まえて、それが生活にどのような影響を与えているのか、また課題は何かを検討する。	障がい福祉サービスに関する課題として報道されているものを調べる	3時間
第13回	障害者総合支援法の下での生活課題②	多職種連携やネットワーキング等、障害者総合支援法に基づいて行われる福祉サービスの理解を踏まえて、それが生活にどのような影響を与えているのか、また課題は何かを検討する。	障がい福祉サービスに関する課題として報道されているものを調べる	3時間
第14回	障がい児者福祉の支援者の概要とその役割	障害者雇用促進法等の就労分野を含め、多岐にわたる障がい児者福祉の支援者の概要を踏まえ、その支援者の役割を検討する	居住地域にある障がい児者福祉サービスにどのような支援者が配置されているのかを調べる	3時間
第15回	まとめ	現代社会における障がい児者の生活問題と福祉による支援の到達点及び今後の課題を検討する	自分の専門における障がい者福祉とは。	3時間

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回のリアクションペーパーへの記載、次回講義時にその振り返りコメントをおこなう
評価方法	毎回のリアクションペーパーへの記載（60%）、レポート（40%）とする。詳細は初回講義時にアナウンスする
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業出席率				
	リアクションペーパー	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○

評価割合	リアクションペーパー60%、レポート40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
学生へのメッセージ	障がい者が社会の中で普通に生活できる社会を実現するためには何が必要なのか、一緒に考えていければと思います
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	グループディスカッションを適宜行う予定

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	PCのパワーポイントと、現況を伝える動画を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	地域福祉論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 嶋田　芳男	指定なし

ナンバリング	G32318C21
授業概要(教育目的)	地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の理念と歴史的変遷について理解した上で、地域福祉を推進する組織・人・支援技術・財源・福祉教育の具体的な内容について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の理念と歴史的変遷について説明できる 2. 地域福祉を推進する組織・人・支援技術・財源・福祉教育の内容と現状を説明できる
思考・判断の観点（K）	地域福祉を推進していく公的組織と民間組織、人々の活動や支援がイメージできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	地域福祉の推進に必要な技術について理解できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	産業構造の変化からみた地域社会	産業発展による就業構造の変化や家族形態の変化が、地域社会に及ぼした影響について理解する	就業構造の変化や家族形態の変化について、文献、インターネットから調べておく。また、授業内容を復習しておく	180分
第2回	高齢化の進展からみた地域社会	高齢化率や高齢者世帯の現状、および支援を必要とする高齢者数から地域社会の現状を理解する	高齢化率や高齢者世帯の現状、および支援を必要とする高齢者数の状況について調べておく。また、授業内容を復習しておく	180分
第3回	地域社会の特性	地域共同体モデル、伝統型アノミーモデル、個我モデル、コミュニティモデルといわれる地域社会の特性を理解する	配布したプリントを基に、授業で学んだ内容を復習しておく	180分
第4回	地域福祉の概念と理念	地域福祉の概念と理念（ノーマライゼーション、住民主体、ソーシャルインクルージョン）について理解する	テキスト10～22ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第5回	わが国における地域福祉の展開	明治期から今日に至るまでの地域福祉実践と課題を理解する	テキスト28～32ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第6回	地域福祉を支える組織（1）	公的組織（国・都道府県・市町村）の機能と役割について理解する	テキスト33～42ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第7回	地域福祉を支える組織（2）	民間非営利法人（社会福祉法人、NPO法人）、営利法人（株式会社、有限会社）の機能と役割について理解する	テキスト41～51ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分

第8回	地域福祉を支える人々（1）	コミュニティワーカー、民生委員、各種相談員の役割と現状を理解する	テキスト52～59を読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第9回	地域福祉を支える人々（2）	ボランティア、認知症サポーター、介護相談員、各種施設職員の機能と役割について理解する	配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第10回	地域福祉を推進していくための支援技術（1）	コミュニティワークの成立過程とその展開過程について理解する	テキスト27～28、68～75ページを読んでおく。	180分
第11回	地域福祉を推進していくための支援技術（2）	ある地域で実践された事例を検証することで、コミュニティワークを習得する	テキスト60～66ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第12回	地域福祉を支える財源（1）	公的な財源（補助金、地方交付税交付金、地域福祉基金）と民間財源（共同募金、ボランティア基金、助成金、地域通貨）について理解する	テキスト126～134ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第13回	地域福祉を支える財源（2）	事例を基に新たな財源確保を考え、プレゼンする（グループ単位）	他のグループでプレゼンされた内容を振り返る	180分
第14回	地域福祉計画の概要	地域福祉計画の目的とその内容及び作成手順が理解できる	テキスト93～99ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に復習しておく	180分
第15回	福祉教育の必要性	福祉教育の歴史、現状及び課題について理解する	テキスト101～107ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に復習しておく	180分

学習計画注記	授業の進捗状況によって、スケジュールが変更になることがある。 また授業は、対面と遠隔双方のハイブリット授業で実施する
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートは、採点したうえで返却する
評価方法	・平常点 グループ討議やプレゼンテーションへの参加度で評価する ・定期試験 地域福祉実践に必要となる知識の習得が計れるような出題とする。詳細については、最終授業日に説明する ※遠隔授業を実施した場合、評価方法が異なる場合がある。この場合、改めて授業時に説明する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		○
	定期試験	○			

評価割合	平常点20%、定期試験80%
使用教科書名(ISBN番号)	井村圭壮他編『地域福祉の原理と方法（第3版）』学文社（ISBN978-4-7620-2874-8） 適宜、プリントを配布する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 地域で派生している現代生活の諸問題（主に福祉問題）について考えることができる 【思考・判断】 諸問題を分析し、問題解決に導くことができる 【技術・表現】 地域で安定した生活ができるために、諸問題を解決するとともに、新たな提言・発信ができる
オフィスアワー	月曜・12:10 ～13：00
学生へのメッセージ	グループ討議やプレゼンテーション（準備含む）に対しては、自発的・主体的に参加してほしい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーとしての経験を有しており、地域福祉を推進していくために必要な知見を講義している
アクティブ・ラーニング	○	地域福祉を支える人々に関して、学生自らがその現状と課題を調べ、プレゼンテーションできるような授業を行っている
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 嶋田　芳男	指定なし

ナンバリング	G32319C21
授業概要(教育目的)	社会福祉領域で駆使されているソーシャルワークの技法について理解するための講義を行う。また、使用される技法について理解を深めるために演習を行う。 ソーシャルワークは、社会福祉専門職が駆使する技術であるが、日常生活を営んでいく上で役立つ技術でもあるため、その視点に立った授業も展開していく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活課題（福祉課題）の解決に必要となるケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの内容が説明できる
思考・判断の観点（K）	生活課題（福祉課題）を解決するための支援がイメージできる
関心・意欲・態度の観点（V）	人間関係を構築していく際に必要な姿勢・態度が習得できる
技術・表現の観点（A）	生活課題（福祉課題）の解決に必要となるケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの技法が習得できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ソーシャルワークの体系	ソーシャルワーク（ケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク）の体系を理解する	配布したプリントを基に復習する	180分
第2回	ケースワークの概要	ケースワークの成立と展開過程について理解する。また、支援者が留意しておく必要があるバイステックの7原則について理解を深める	配布したプリントを復習しておく	180分
第3回	ケースワーク実践の手法（1）演習	バイステックの7原則の視点からいくつかの事例を検討し、同原則の理解を深める	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第4回	ケースワーク実践の手法（2）演習	面接技法（あいづち、繰り返し、質問、感情の反射、支持）について理解するとともに、体験する	配布したプリントを基に復習するとともに、体験を振り返る	180分
第5回	ケアマネジメントの内容	ケアマネジメントの成立と展開過程、及びその構成要素について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第6回	ケアマネジメント実践手法	実践の場で駆使されているケアマネジメントを外部講師から講義してもらうことで、理解を深める。また、実践上の留意点についても理解する	配布したプリントを基に復習しておく。また、外部講師の講義内容を振り返る	180分

第7回	グループワークの内容	グループワークの成立と展開過程について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第8回	グループワークの実践手法（演習）	グループワークの展開に必要な活動プラグラムを作成する（グループごと）で、同技法の理解を理解を深める	グループ活動とプログラム内容を振り返る	180分
第9回	コミュニティワークの内容	コミュニティワークの成立と展開過程について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第10回	コミュニティワークの実践手法1（演習）	グループごとに、事例におけるコミュニティワークの展開過程を検証し、プレゼンテーションすることで同技法の理解を深める	グループごとにプレゼンテーションされた内容を改めて検証する	180分
第11回	コミュニティワークの実践手法2（演習）	地域で派生している生活課題（福祉課題）を抽出し、グループでその生活課題を解決するためのシステムを検証するとともに、その内容をプレゼンテーションする	事前に地域で派生している生活課題を調べておく。また、他のグループからプレゼンテーションされた内容を改めて検証する	180分
第12回	ソーシャルネットワークの内容（1）	ソーシャルネットワークの成立と成立過程について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第13回	ソーシャルネットワークの内容（2）	事例を用いて、ソーシャルネットワークの構築法について考える	グループごとにプレゼンテーションされた内容を改めて検証する	180分
第14回	ソーシャルワーク総合演習（1）	ケースワーク、ケアマネジメント、グループワークで学んだ重要事項を再確認し、知識・技術を駆使できるようにする	授業内容を予習・復習しておく	180分
第15回	ソーシャルワーク総合演習（2）	授業で学んだコミュニティワーク、ソーシャルネットワークの重要事項を再確認し、知識・技術を駆使できるようにする	授業内容を予習・復習しておく	180分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある
学生へのフィードバック方法	ソーシャルワーク総合演習で作成されたレポートは採点した上で返却する
評価方法	・平常点 グループ討議への参加度やプレゼンテーション内容で評価する ・定期試験 ソーシャルワーク実践に必要な知識や技法が計れるような出題とする。詳細は授業最終日に説明する ※遠隔授業を実施した場合、評価方法が異なる場合がある。この場合、改めて授業時に説明する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			○

評価割合	平常点50%、定期試験50%
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、プリントを配布する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会で派生している生活課題（福祉課題）について理解できる 【思考・判断】 生活課題（福祉課題）を抽出・分析し、課題解決に導く考え方ができる 【関心・意欲・態度】 社会で派生している生活課題（福祉課題）に対して関心を持つことができる 【技術・表現】 さまざまな関係者との人間関係を構築することができる
オフィスアワー	月曜・12：10～13：00
学生へのメッセージ	授業ではグループ討議、プレゼンテーションが計画されているため、自発的・主体的に参加してほしい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ソーシャルワーカーの経験を有しているため、生活課題（福祉課題）の解決に必要となるケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの実践的知識や技法について講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	若者ファッション論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村　明子	指定なし

ナンバリング	G25203C21
授業概要(教育目的)	10代から20代にかけての若者層は、既存のルール・文化に抵抗し、あるいは迎合し、自らの価値観を示してきた。若者が発信する文化にはその時代と社会の新しい感性が潜んでいる。本講では主に第二次世界大戦以降平成にかけての日本のファッションの流行を取り上げ、そこに投影された若者の感覚について論じ、そこから時代ごとに作り出されてきた「若者」とはなにかを論じる。
履修条件	特に定めず 本科目は千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	若者のファッション文化の変遷を学び、ファッション文化と社会の動向の関わりについて理解する。
思考・判断の観点（K）	若者とは何か、社会における若者の位置づけについて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代のファッション文化に対して積極的に情報を収集することができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	若者とは何か	社会の中で論じられてきた若者論について取り上げ、若者について考える意義について学ぶ	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	1950年代シネマファッション	1950年代のファッションは映画・テレビといった映像文化に影響を受けていたことを学び、社会におけるファッションの位置づけについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第3回	1960年代ミニスカート	日本経済の成長と生活の進展を学び、ミニスカートがファッションの価値観の変容にかかわったことを理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第4回	1960年代ヒッピーとサイケ	安保闘争などの社会的な動きから、若者と社会とのかかわりについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第5回	1960年代ジーンズとフォークソング	若者ファッションの代名詞となるジーンズと、フォークソングの流行から今日のジェンダー観への移行を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第6回	1970年代ファッション雑誌	ファッション雑誌が提案した若者ファッションとライフスタイルについて学び、若者の消費行動の変化について理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第7回	1980年代スポーツ天	大学進学率の向上などを背景とする、若者のライフスタイルとファッションの関りについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内	180分

	国と女子大生ブーム		容を補足する情報を記入する。	
第8回	1980年代ブランドの多様化	バブル経済の前後の事例を学び、ファッションブランドの多様化について理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第9回	1990年代カジュアル志向	バブル崩壊後のファッションの中でのカジュアル志向を学び、価値観の変容を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第10回	1990年代カジュアル志向	女子高生を中心としたファッションムーブメントとしてのギャル文化を学び、社会における若者の位置づけの変化を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第11回	2000年代ローティーン	2000年代以降のローティーンファッションに着目し、市場動向を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第12回	カワイイとは何か	日本のポップカルチャーの一つとして世界にも認知される「カワイイ」文化について学び、カワイイとは何かを考える。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第13回	エイジレス志向	2000年代以降の女性のエイジレス志向を学び、そこから今日の若者とはどのような意味を持つのかを考える。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。展覧会見学レポートを作成する。	180分
第14回	若者と着物	若い世代の人たちと着物とのかかわりについて、戦後の歴史から学ぶ	自分や家族と着物とのかかわりについて振り返る	180分
第15回	まとめ	これまで学んだ若者ファッションについて振り返り、ファッションと社会とのつながりを考える	試験に備えて、授業内容の整理と情報収集を行う。	180分

学習計画注記	受講生の理解度等により授業の進行を調整することがある。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。
評価方法	期末試験では、ファッションと社会との関わりにおいてについて理解しているかを問う。毎回の授業内容をしっかりとノート整理することが必要である。 期末試験では授業内容に加えて、現代の若者の流行に関する問題を課すので、積極的に情報収集する態度を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業ごとの小テスト	○			
	期末試験	○	○	○	
	展覧会見学課題	○	○	○	

評価割合	授業ごとの小テスト15%、期末試験85%
使用教科書名(ISBN番号)	なし。授業時に資料を配布する
参考図書	なし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会と若者のファッション文化ついて理解を深める。 【思考・判断】ファッションを通して若者文化が包含する意味について思考することができる。 【関心・意欲・態度】若者のファッション文化について意欲的に関心を持ち、情報を収集できる。
オフィスアワー	月曜日2限　1703ゼミ室
学生へのメッセージ	第二次大戦以降の日本の若者のファッションについて取り上げる、メディアの情報などを積極的に収集してください。また、同時代を経験してきた身近な父母、祖父母などに質問するのもよいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	展覧会を見学し、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本の服飾演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田　茜	指定なし

ナンバリング	G35205C12
授業概要(教育目的)	日本の民族衣装である和服の起源と変遷を理解し、現在の基本的な知識としての決まりごとやＴＰＯを学び、それぞれの特徴を理解する。さらにファッションカラー演習等の知識を活かして和装のスタイリングを考えてプレゼンテーションを行う。 また日本の特徴的な衣服として学生服を取り上げ、現在の自分の衣生活がどのような背景のもとになりたっているのかを学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本の服飾について多角的な視点に基づいて知り、現在の衣生活への影響を体系的に説明できる。
思考・判断の観点（K）	和服についてどのように現在の形になったかを知り、その変化と受容について考察することで服飾における形の変化の原因とその影響について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	和服の着装について技術だけでなく、文化的な背景についての知識を持って伝統的な行事等に参加することができる
技術・表現の観点（A）	和服の様々な着装方法について学び、自分なりに表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス：小袖の成立	イントロダクションとして日本の民族衣装である和服についてその起源を学ぶ。パワーポイントや動画等の図像資料を用い、現在の和服への変遷を知る。現在の和服は袖口が小さく縫われた小袖であるが、小袖はもともとは袖口から下が縫われていない大袖の中に着るものであった。それがどのように表着として着られるようになったのかを学ぶ。	シラバスの内容を確認しておく。	30分
第2回	浴衣の着付け・１	浴衣の着付けを学び、長着の基本的な構造と着方を学ぶ。対面授業の際に実際に着付けてみることで、綺麗に見えるポイントや着た時に動きやすいコツを知る。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第3回	浴衣の着付け・２	浴衣の由来について調べ、またその着付けをおさらいしてレポートにまとめる。	シラバスの内容を確認しておく。	30分
第4回	半幅帯を結ぶ・１	帯は最初は小袖の前あわせをとめる紐状のものであったが、徐々に飾りとしての役割も兼ねるようになり、幅は広く長さは長くなっていった。まずはじめに現在使われている帯の中で比較的幅が細く結びやすい半幅帯の結びを学習する。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第5回	半幅帯を結ぶ・２	半幅帯の結び方について調べて、レポートにまとめる。また、半幅帯の帯結びをおさらいしてみる。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第6回	学生の服装	様々な国の学生服について知り、学生らしい服装をどのように規定しているのかを考える。女子の卒業式の服装	シラバスの内容を確認しておく。予習として自分が今までに	60分

		としてよく見られる袴姿について学び、着流し（着物を着て帯を結んだだけの姿）に比べてどのような利点があるかを考える。さらに学校制服について学ぶ。自分たちのいた学校の制服について調べる。調べた結果については後日レポートにし、プレゼンを行う。	着たことのある制服についてまとめておく。	
第7回	襦袢と袷・１	裏付きの袷を着る際はその下に襦袢とよばれるものを着るため、その襦袢をつけての着付けを学ぶ。同時に補整の理屈を知り、着姿を整えるための補整を考え、実践してみる。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第8回	襦袢と袷・２	襦袢の構造と役割について調べ、レポートにまとめる。着付けのおさらいをする。	シラバスの内容を確認しておく。	30分
第9回	お太鼓・１	袷を着る際には半幅帯以外に名古屋帯や袋帯を結ぶことが多く、また帯揚げや帯締めを使ったお太鼓に結ぶことでより本格的な印象にすることが出来る。ここでは普段の和装に便利な一重太鼓の結び方を学習し、同時に長着と帯、小物のコーディネートについて考える。	シラバスの内容を確認しておく。	30分
第10回	お太鼓・２	名古屋帯・袋帯の結び方について調べて、レポートにまとめる。また、お太鼓の結び方をおさらいしておく。	シラバスの内容を確認しておく。	60分
第11回	プレゼン：学生服について	自分の通っていた学校の制服について調査を行い、レポートにまとめてそれぞれがプレゼンを行う。	シラバスの内容を確認しておく。自分の興味を持ったトピックについての資料を集めておく。	60分
第12回	袴・１	袴姿は現在は卒業式等の限定された場面でしか見ることが出来ないが、着流しに比べると動きやすく、そのために通学着として採用された経緯がある。ここでは行灯袴の着付けを学び、実際に動きやすいかどうかを検討する。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第13回	袴・２	袴の着付けについておさらいし、レポートにまとめる。着付けについてのレポートはまとめて提出することとする。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第14回	場面ごとの和装	現在の衣生活において和服を着る機会が比較的多いのは冠婚葬祭の場面であり、特に結婚式では華やかな和装が多くみられる。また、そのような改まった場面でなくとも和服を着て外出する機会はつくることができ、その際に何を着たらよいのかというのは和装の知識の少ないものには難題となる。そこで和装の組み合わせかたについて学び、どのような組み合わせをしたらいいかを考える。	シラバスの内容を確認しておく。また、自分が和装をしてみたい場面を考え、そこにふさわしいコーディネートを考える	90分
第15回	プレゼン・ミニテスト	今まで学んだことを活かして自分なりに和服を着るシチュエーションを設定し、コーディネートを考えてパワーポイントにまとめてプレゼンを行う。また、専門用語についてはミニテストを行い、知識が身についているかを確認する。	シラバスの内容を確認しておく。専門用語については今までのノートを確認しておく。	90分

学習計画注記	履修者数によってスケジュールや内容が変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	プレゼンテーションの講評を行い、またつくったコーディネートが適切かどうかを確認し、その都度指導する。またミニテストはコメントをつけて返却を行い、フィードバックを行う。
評価方法	プレゼンテーションは自分のコンセプトを適切に表現し、選んだテーマについての理解と説明できているかを評価する。ミニテストでは専門用語を正しく理解できているかを評価する。平常点は授業への参加状況とプレゼンへの取り組み状況を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ミニテスト	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	プレゼンテーション2回（60%）、ミニテスト（20%）、平常点（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活について現代にいたる流れを知り、質の高い生活を送るための選択眼を養う 【思考・判断】現在の日本の服飾についての状況を分析し、自分なりの課題をみつけて解決の方法を探る 【関心・意欲・態度】和装の変遷や現在の形について理解することで、より日本文化や伝統行事に積極的に取り組む 【技能・表現】和装の技術を習得し、自分のイメージにあったコーディネートや着こなしができる
オフィスアワー	1808ゼミ室　2限～月曜昼休み
学生へのメッセージ	日本の服飾ときいて思い浮かべるものは人によって違ってきます。着る人の事情や社会にあわせてかわる服装という視点で日本の服飾を読み解くため、日常から服飾に興味を持ち、情報を収集してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	知識を生かして自分なりのアレンジを加えた和装のコーディネートを行えるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	設計製図演習E		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 戸田　啓太	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G34205C22
授業概要(教育目的)	設計製図演習A～Dならびに関連科目で学んだ知識や手法に基づき、集合住宅の設計とインテリア計画を行う。 第１課題「〇〇の部屋」では言葉からイメージされるインテリア空間を基本図面、パース、模型等で表現することを目的とする。 第２課題「都心で暮らす単身者向け集合住宅」では集合住宅の設計に取り組む。与えられた敷地から周辺環境を読み込み、法的条件の中でコンセプトを設定して設計する。さらに一住戸の設計及びインテリアの提案へとつなげる。プレゼンテーションを通して自らの考えを他者へ伝える手法を修得することを目的とする。
履修条件	本演習の履修は、設計製図演習Dの単位取得済みを条件とします。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	与えられた課題（集合住宅、インテリア）に必要な空間、機能について説明できる。
思考・判断の観点（K）	敷地条件から周辺環境を読み解くことができ、設計条件から居住者のライフスタイル等を読み解き、それに基づいた建築、空間を提案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	建築、住宅、インテリアに関心を持ち、自ら資料収集ができる。
技術・表現の観点（A）	建築設計に必要な作図、模型制作ができ、それに基づきながら自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	第１課題説明	第１課題「〇〇の部屋」課題説明をします。	図書館やインターネットを利用して、イメージする空間を表現する「単語」を抽出してください。	90分
第2回	エスキス１	「選んだ単語」の提出をします。その単語からイメージされる空間を２．５m×２．５mで表現します。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第3回	エスキース２	単語からイメージされるインテリア計画を内観パース、模型で表現します。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第4回	模型提出	模型を提出し、模型の撮影手法について説明します。また図面レイアウトを検討します。	次週までに図面レイアウトを完成させてください。	90分
第5回	レイアウト図面提出	レイアウト図面を提出した上で、図面の手直しについて指導を行います。	次週までにレイアウト図面をコピー仕上げにし、プレゼンテーションの準備をしてください。	90分
第6回	第１課題講評会	第１課題の講評会を行います。また第２課題「都心で暮らす単身者向け集合住宅」について説明します。	第２課題：図書館等を利用して実例研究（２件）を行います。次週までに１件についてA3サイズ１枚にまとめてきてください。	90分

第7回	第２課題実例研究	実例研究２件を発表します。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第8回	エスキース１	平面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第9回	エスキース２	断面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第10回	エスキース３	立面計画を行い、平面計画の見直しを行います。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第11回	中間提出	中間提出を行います。またインテリア計画においてエスキースを行い、アクソメ図を作成します。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第12回	インテリア計画エスキース	インテリア計画においてアクソメ図の作成、模型の作成を行います。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第13回	図面作図	図面を作図し、インテリア仕上げを検討します。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第14回	模型提出	模型を提出し、模型の撮影手法について説明します。また模型の手直しについても指導をします。	次週までにレイアウト図面を完成させてください。	90分
第15回	レイアウト図面提出	レイアウト図面を提出した上で、図面の手直しについて説明します。	次週までにレイアウト図面をコピー仕上げにし、プレゼンテーションの準備をしてきてください。	90分
第16回	第２課題講評会	第２課題の講評会を行います。	設計の意図を伝えられるように準備をしてきてください。	

学生へのフィードバック方法	演習形式で行い、２課題が出される。エスキース、作図、模型、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式（オンライン方式となる場合がある）で採点及び講評が行われる。
評価方法	講評会では担当教員や他の学生に向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明してもらう。担当教員は発表の内容と提出された図面及び模型を採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	図面	○	○	○	○
	模型	○	○	○	○
	口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	２課題×40%＝80%　平常点＝20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、建築設計、インテリア設計を通して解決する。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を建築、インテリアを通して提案できる。
オフィスアワー	金曜日５時限目（青柳）
学生へのメッセージ	実際の建築設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を想像する」ことです。授業では実際の敷地条件の中で具体的な設計演習を行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能です。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	設計製図演習F		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 戸田　啓太	指定なし
助教	青柳　由佳	指定なし

ナンバリング	G34206C22
授業概要(教育目的)	設計製図演習A～Eならびに関連科目で学んだ知識や手法に基づき、カフェの設計とマンション一住戸のリノベーションを行う。第１課題では公園内にカフェを設計する。周辺環境を読み込み、その場所、空間にふさわしい建築とインテリアを提案し、基本図面、パース、模型等で表現することを目的とする。第２課題では、家族構成やライフステージの変化を想定したファミリータイプマンションのリノベーションに取り組む。基本図面、模型、プレゼンテーション等を通して自らの考えを他者へ伝える手法を修得することを目的とする。
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Eの単位取得を履修条件とします。材料等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	与えられた課題（レストラン、カフェ、マンション）に必要な空間、機能について説明できる。
思考・判断の観点（K）	敷地条件から周辺環境を読み解くことができ、それに基づいた建築、空間を提案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	建築、住宅、インテリアに関心を持ち、自ら資料収集ができる。
技術・表現の観点（A）	建築設計に必要な作図、模型制作ができ、それに基づきながら自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	第１課題 課題説明 コンセプト設定	第１課題「公園のカフェ」課題説明をします。カフェのコンセプトを設定し設計条件等について構想します。	図書館等を利用し、実例資料を収集してください。	90分
第2回	実例研究発表	「公園のカフェ」の課題に対する実例研究（２件）を発表してもらいます。１件につきA3サイズ１枚にまとめる。	図書館等を利用して実例資料を収集し、A3サイズにまとめ発表できるように準備してください。	90分
第3回	エスキース１	配置、平面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第4回	エスキース２	断面、立面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第5回	エスキース３	インテリア計画（模型）を行います。	教室外でもエスキース、模型制作を進めてください。	90分
第6回	エスキース４	インテリア計画（模型）を行います。	教室外でもエスキース、模型制作を進めてください。	90分
第7回	図面作図、模型制作、レイアウト	模型及びレイアウトの検討を行います。	次週までに模型、図面を完成させてください。	90分

第8回	第１課題プレゼンテーション	第１課題の講評会を行います。また第２課題「マンション１室のリノベーション」の説明を行います。	第１課題：設計の意図を伝えられるように準備してください。 第２課題：図書館等を利用して実例資料の収集をしてください。	90分
第9回	第２課題「マンションの１室のリノベーション」実例研究発表	第２課題の実例を２件発表します。パワーポイントにまとめてください。	図書館等を利用して実例資料を収集し、A3サイズにまとめ発表できるように準備してください。	90分
第10回	エスキース１	インテリア計画を行います。	エスキースを進めてください。	90分
第11回	エスキース２	インテリア計画（模型）を行います。	エスキースを進めてください。	90分
第12回	中間提出	中間提出を行います。図面と共にスタディ模型を提出してもらいます。	スタディ模型をつくった上で、再度平面計画、断面計画の見直しを行ってください。	90分
第13回	エスキース３	エスキースを進めます。立体表現作図、模型制作をします。	次週までに図面をまとめ、模型の完成度を上げてください。	90分
第14回	エスキース４	図面と模型を作成してください。	次週までに図面を完成させてください。	90分
第15回	図面の修正、レイアウト検討	レイアウト図面を提出し、図面の手直しについて指導します。	次週までにレイアウト図面をコピー仕上にしプレゼンテーションの準備をしてきてください。	90分
第16回	第２課題プレゼンテーション	第２課題の講評会を行います。	第２課題：設計の意図を伝えられるように準備してください。	90分

学生へのフィードバック方法	演習形式で行い、２課題が出される。エスキース、作図、模型、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式（但し、オンライン方式となる場合もある）で採点及び講評が行われる。
評価方法	講評会では担当教員や他の学生に向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明してもらう。担当教員は発表の内容と提出された図面及び模型を採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	図面	○	○	○	○
	模型	○	○	○	○
	口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	２課題×40%＝80%　平常点＝20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、建築設計、インテリア設計を通して解決する。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を建築、インテリアを通して提案できる。
オフィスアワー	授業後30分程度 金曜日５限目（青柳）
学生へのメッセージ	実際の建築設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を想像する」ことです。授業では実際の敷地条件の中で具体的な設計演習を行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能です。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	現代家政ゼミB		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋　徹	指定なし
教授	上村　協子	指定なし
教授	椛田　考一	指定なし
教授	現代家政学科　教員	指定なし

ナンバリング	G31005C12
授業概要(教育目的)	4年次の「卒業研究A」「卒業研究B」の履修に先立ち、生活の中から課題を発見し、それぞれの研究テーマを決定するために必要な情報収集、課題発見のための力を養い、研究の基礎について学ぶ。資料の講読や討議を通じて、資料の収集方法、調査方法、論文の構成や書き方等について理解を深める。学生が自主的および主体的に取り組むことが望まれる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活の諸課題を現代家政学の学びと関係づけて説明する。
思考・判断の観点（K）	研究テーマを決定するための方法を理解し、選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	現代家政学について主体的に学ぶ態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	情報を収集し、課題を発見し、効果的に発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	配属されるゼミでの演習を前に、学習の目的と主なテーマの理解を深める。	各配属ゼミに関連する情報を調べる。	45分
第2回	卒業研究発表会に出席（振替）	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。	卒業研究発表会要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。	45分
第3回	学長による特別講義	学長による講義を聴き、現代社会の課題を考え、自分なりに解決する方法を模索する。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第4回	各配属ゼミでの演習①：ガイダンス・面談	配属ゼミの教員と、テーマや方法論などの実現可能性を個別に検討する。	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献や情報を集めておく。	45分
第5回	各配属ゼミ	先行研究や参考文献について調査し、配属されるゼミで	情報の検索や収集の作業を進	45分

	での演習②：先行研究・参考文献の調査(1)	取り扱うテーマの概要を知る。	め、その内容を記録していく。	
第6回	キャリアカウンセラーによる講演	キャリアカウンセラーによる、卒業後のキャリアプランについての講演及びワークショップ。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第7回	各配属ゼミでの演習③：先行研究・参考文献の調査(2)	先行研究や参考文献について調査し、配属されるゼミで取り扱うテーマの概要を知る。	情報の検索や収集の作業を進め、その内容を記録していく。	45分
第8回	各配属ゼミでの演習④：研究方法の検討(1)	配属されるゼミで実施される研究の方法について学習する。	学んだ研究方法を実際に試してみること等を通じて、自らの研究テーマに適した研究方法を検討する。	45分
第9回	各配属ゼミでの演習⑤：研究方法の検討(2)	配属されるゼミで実施される研究の方法について学習する。	学んだ研究方法を実際に試してみること等を通じて、自らの研究テーマに適した研究方法を検討する。	45分
第10回	各配属ゼミでの演習⑥：調査・実験・製作(1)	配属されるゼミで提示されたそれぞれの課題に取り組み、調査・実験・製作を行う。	提示された課題について、教員の指示に従って作業を進める。	45分
第11回	各配属ゼミでの演習⑦：調査・実験・製作(2)	配属されるゼミで提示されたそれぞれの課題に取り組み、調査・実験・製作を行う。	提示された課題について、教員の指示に従って作業を進める。	45分
第12回	各配属ゼミでの演習⑧：調査・実験・製作(3)	配属されるゼミで提示されたそれぞれの課題に取り組み、調査・実験・製作を行う。	提示された課題について、教員の指示に従って作業を進める。	45分
第13回	各配属ゼミでの演習⑨：報告・発表の準備	配属ゼミでの学びを振り返り、成果を取りまとめる。	報告・発表に向け、必要な準備に取り組む。	45分
第14回	各配属ゼミでの演習⑩：報告・発表	配属ゼミでの学びについて、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	報告・発表に向け、必要な準備に取り組む。	45分
第15回	卒業研究発表会に出席（振替）	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。	卒業研究発表会要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。	45分

学習計画注記	外部講師の都合等により授業内容の入れ替えを行うこともある。
学生へのフィードバック方法	配属ゼミでの演習は作業、発表、質疑応答、討議を中心に授業を進め、それらの活動の中で適宜フィードバックを行う。課題については、振り返りの中で解説する。質問は各回の担当教員が受け、回答する。
評価方法	授業時に指示する課題を提出する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業時の課題	○	○	○	○

評価割合	授業時の課題100%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。 【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。 【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。 【技能・表現】生活の諸問題について他者と討議し、発信することができる。
オフィスアワー	現代家政学科の各教員に問い合わせること

学生へのメッセージ	日ごろから私たちの生活における課題に目を向け、課題解決に向けて考える姿勢をもってほしい。「卒業研究」のテーマや自分の将来について真剣に考えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	外部講師(キャリアカウンセラー) によるワークショップと講義を行う。
アクティブ・ラーニング	○	配属されるゼミで研究テーマに関わり報告や発表を実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科　教員	指定なし
教授	小池　孝子	指定なし
准教授	澤田　雅彦	指定なし
准教授	花田　朋美	指定なし
准教授	深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D11203M12
授業概要(教育目的)	初歩的な情報の収集・整理と発信の方法を体験することにより、能動的かつ自律的な学習態度を身につけ、大学の学習の特徴を理解する。また協働作業を通じて相互理解を図り、大学と学科への所属意識を高める。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会の中の諸課題についての知識を得ることができる。
思考・判断の観点（K）	社会の中の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	さまざまな課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	必要な情報を収集・分析・整理し、他者に分かりやすく発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス（授業全体の日程と内容の説明）と、オリエンテーションミーティングの振り返り。	授業日程と目的の確認。	45分
第2回	図書館ガイダンス	図書館の利用方法と情報収集の方法について学ぶ。	授業後に、図書館の資料検索の方法についてまとめておくこと。	45分
第3回	町田キャンパス研究室・実習室探検（１）	生活デザイン学科の各教員の研究室や演習室・実験室等を訪問し、学科の内容について理解する。	生活デザイン学科の各分野の内容について確認する。	45分
第4回	町田キャンパス研究室・実習室探検（２）	生活デザイン学科の各教員の研究室や演習室・実験室等を訪問し、学科の内容について理解する。	生活デザイン学科の各分野の内容について確認する。	45分
第5回	町田キャンパス研究室・実習室探検（３）	生活デザイン学科の各教員の研究室や演習室・実験室等を訪問し、学科の内容について理解する。	生活デザイン学科の各分野の内容について確認する。	45分

第6回	自己紹介（1）	自分の誕生日、血液型、出身地、出身地のお国自慢、好きなもの・こと、苦手なもの・ことについて説明しながら、自己紹介をする。	自己紹介の内容の検討。	45分
第7回	自己紹介（2）	自分が生活デザイン学科で勉強したいこと、大学生の間にやってみたいことについて説明をしながら、自己紹介をする。	自己紹介の内容の検討。	45分
第8回	自己紹介ポスターの制作	前回と前々回の自己紹介の内容をポスターにまとめる。	自己紹介ポスターの制作。	45分
第9回	自己紹介ポスター発表会（1）	制作した自己紹介ポスターの発表会。	自己紹介ポスターの再検討。	45分
第10回	自己紹介ポスター発表会（2）	制作した自己紹介ポスターの発表会。	自己紹介ポスターの再検討。	45分
第11回	新型コロナ感染症と、今後の社会と生活について（1）	新型コロナウイルス感染症が、社会と生活に与えた影響について、数名のグループ内で意見交換を行い、感染拡大により変化したこと、課題となったこと等を整理する。	グループ内の意見の整理と中間発表の準備。	45分
第12回	新型コロナ感染症と、今後の社会と生活について（2）	新型コロナウイルス感染症が、社会と生活に与えた影響について、各グループで採りあげる課題を絞り込み、中間発表を行う。	新型コロナウイルス感染症に関する課題についての考え方と対処方法を整理し発表の準備を進める。	45分
第13回	新型コロナ感染症と、今後の社会と生活について（3）	グループごとに、新型コロナウイルス感染症に関する課題を整理し、その課題についての考え方と対処方法を検討する。	発表の準備。	45分
第14回	新型コロナ感染症と、今後の社会と生活について（4）	各グループで検討した、新型コロナウイルス感染症に関する課題への考え方と対処方法を整理し、その内容を発表するための準備を進める。	発表の準備。	45分
第15回	まとめの発表会	新型コロナウイルス感染症について、これまでの授業を通じて分かったこと、考えたことをまとめて発表する。	授業全体のまとめのレポートの作成。	45分

学習計画注記	授業の進捗状況等の諸事情により学習計画が変わることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業中の作業時に口頭でアドバイスと、発表会で講評を行う。ポスター・報告書等にも随時コメントをする。
評価方法	1）発表内容（課題の理解の程度と提示された内容、構成、プレゼンテーションの仕方を評価） 2）自己紹介ポスターとレポート（内容を10段階で評価） 3）平常点（発言・質問・提案の内容と、協働作業の状況、課題への取り組みの姿勢を、各5段階で評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表会	○	○	○	○
	レポート・ポスター等	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	発表内容20%×2回・自己紹介ポスター20%・レポート20%・平常点20%。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中の諸課題についての知識を得ることができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。 【関心・意欲・態度】さまざまな課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。 【技術・表現】必要な情報を収集・分析・整理し、他者に分かりやすく発信することができる。
オフィスアワー	澤田：水曜3限 1503研究室／花田：火曜日12:30～14:00 2407研究室
学生へのメッセージ	生活デザイン学科に共通する学びのあり方を体験できる授業です。積極的に参加して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、グループで協同作業を行い実行する。
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	現代生活論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科　教員	指定なし

ナンバリング	D21201M21
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野に関わる問題について、共通のテーマに基づき、学科の教員が各々の専門分野の立場から講義を行う。様々な立場からの講義を通して、生活デザインに関する問題は、多角的・複合的な視点で考える必要があることを理解し、現代の生活における生活デザインの意義と役割を考える。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科の学習内容と方法の特徴を理解できる。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科の各専門分野を関連づけて、さまざまな課題を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中の諸課題に主体的かつ複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション（澤田）と生活デザイン学科で学ぶこと①（白井）	（前半：澤田）授業の進め方と学期末レポートの説明（後半：白井）「私の歩み」と題し、自分自身の大学から現在までの教育・研究活動と関連づけながら「私の考える生活デザイン」及び「大学での学び」について説明するので、それぞれが、「生活デザイン」及び「大学での学び」について説明できるようにする。	【予習】　前週の授業の最後に渡した資料「学びのティップス（大学で鍛える思考法）」を読んだ上で、授業に臨むこと。 【復習】　返却したミニレポートへのコメントについて目を通しておくこと。	180分
第2回	生活デザイン学科で学ぶこと②（花田）	「今なぜ『生活デザイン学科で学ぶこと』を考えるのか」という問いを起点として、私たちの日々の生活は世界と繋がっていることを解説する。自らの考えを発信し、行動することの重要性について理解する。	SDGsについて理解し、自分ができることは何かを考える。	180分
第3回	生活デザイン学科で学ぶこと③（小池）	大学で研究をおこなうために必要となる科学的思考力、論理的思考力の重要性について理解する。	新聞・雑誌記事などを読み、クリティカルシンキングを実践する。	180分
第4回	生活デザイン学科で学ぶこと④（齋藤）	生活の中のデザインを科学し、身近にあるデザインで楽しいワークを構想し、教育改革のデザインにまで応用可能なことを学ぶ。（スティックのり・はさみ持参のこと）	授業で体験したことを、発展的に応用する。	180分
第5回	生活デザイン学科で学ぶこと⑤（富田）	「発想」とはどういうことか。「発想力」を鍛える方法があるのだろうか。舞台衣装のデザイン発想の流れに沿って「発想」のプロセスを理解する。また、アイディア発想法を使って物事を違う方向から見て連想する。	授業で紹介した発想法を日常の物事でも試してください。	180分
第6回	生活デザイ	社会福祉サービスの概要を理解することを目的に、それ		180分

	ン学科で学ぶこと⑥（嶋田）	に関わる人や提供方法・利用方法、サービスの種類などについて授業を展開していきます。		
第7回	生活デザイン学科で学ぶこと⑦（加地）	日常生活で用いるモノのデザインについて、どうすればより使いやすくなるか、心理学的な視点から考える。	授業内容を日常生活に当てはめてモノのデザインについて考える。	180分
第8回	生活デザイン学科で学ぶこと⑧（呉）	目には見えない情報を可視化することで伝えることができる。そのための表現とは如何なることかを考える。事例を見せながら解説する。	現代社会は情報で溢れている。どうすればその情報社会で良い暮らしができるかを考える。またその情報はどのような表現になってるのかを考える。	180分
第9回	生活デザイン学科で学ぶこと⑨（森）	言語はコミュニケーションの重要なツールである。授業では人間が言語をどのように習得するのかについて学びを深めていく。	授業内容から発展し、言語の役割について考えをまとめる。	180分
第10回	生活デザイン学科で学ぶこと⑩（千葉）	ゲーム理論について知り、関わり合いを数理的に表現することを考える。何かのためになるとか、何かの役に立つとかは考えない。	ゲーム理論について復習すること。身の周りの関わり合いを数理的に考えてみるとなおよい。	180分
第11回	生活デザイン学科で学ぶこと⑪（佐々木）	快適な生活を営むためにはどのように考え行動するのがよいのかを考えるために、衣服の選択と洗濯を例に挙げて解説する。衣服の管理の方法について理解する。	レポートの課題内容の確認。衣生活を振り返る。	180分
第12回	生活デザイン学科で学ぶこと⑫（深石）	デザインは、カタチのないもの（ソフト面）に求められることも多い。まちづくり活動を事例として、企画の立案・実施のプロセスを交えて解説する。デザインする際に重要なものが何かを理解する。	今後の学内外での活動についてどう向き合い、取り組むべきかを考える。	180分
第13回	生活デザイン学科で学ぶこと⑬（石綱）	私たちの生活の中にある植物を使った空間デザインを実例を挙げて解説する。暮らしの中にある植物の特徴と役割を理解する。	レポートの課題内容の確認。身近にある植物を観察する。	180分
第14回	生活デザイン学科で学ぶこと⑭（原口）	住宅の購入とリフォームについて、実例を写真で見せながら、住宅の買い方、価格、リフォームについて考察してもらい、今後の学びの重要性について理解を促す。	現在の自宅を買った、借りた経緯と面積、価格を調べる。リフォーム歴がある場合は、その内容やコストも調べる。	180分
第15回	生活デザイン学科で学ぶこと⑮（西口）	社会福祉は、人が直面する生活困難の解消や軽減をはかる社会的なサービスです。少し難しい言い方をしましたので、当日はかみ砕いてお話しし、具体的な事例から皆さんと一緒に社会福祉の意味と意義を考えてみましょう。生活を営むなかで社会福祉はどんな役割を持っているのでしょうか？		180分

学習計画注記	授業計画は変更される可能性があります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で提出してもらうミニレポートは、その授業を担当した教員が採点して、次回の授業の最後に返却する。
評価方法	・毎回の授業の最後にA5版のミニレポートを作成して提出する。（ミニレポートの用紙は毎回の授業の始めに配付。） ・ミニレポートについては、その日の授業の内容が的確に理解できているか、そして授業内容についての自分の考えが、整理されて分かりやすく説明されているか否かという観点で評価し、その評価結果を平常点とする。 ・学期末レポートは第1回授業で課題内容をくわしく説明する。最終回の授業終了後に、授業全体の総括として作成し提出すること。 ・学期末レポートは、14名の教員の講義のうち、複数の講義の内容を関連づけ、それをふまえて自分が生活デザイン学科で学びたいことが、分かりやすく説明されているか否かという観点で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	学期末レポート	○	○	○	

評価割合	平常点60%と学期末レポート40%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活デザイン学科の各分野についての知識を得て、その特徴について深く理解する。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
オフィスアワー	水曜日3時限目 1503研究室（澤田）
学生へのメッセージ	この授業を通して、生活デザイン学科で学ぶ目的と意義を、改めて考え直してみて下さい。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	第13回の担当教員（石綱）は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに、植物と空間デザインと生活の関わりについて解説する。 第14回の担当教員（原口）は、約20年間の建築設計監理経験を有しており、講義で述べる住宅の購入、リフォーム、運用については戸建て住宅10棟の実績がある。その実務経験から得られた知識を、教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークで作業や分析を行う授業があります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（白井）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)
第1回	ガイダンス（卒業論文とは）	論文とレポートの違いを理解できる。
第2回	既往の研究の調査（１）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
第3回	既往の研究の調査（２）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
第4回	研究計画の立案（１）	課題解決に向けて、研究計画を立案する。
第5回	研究計画の立案（２）	課題解決に向けて、研究計画を立案する。
第6回	実験もしくは調査の実施（１）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第7回	実験もしくは調査の実施（２）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第8回	実験もしくは調査の実施（３）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第9回	実験もしくは調査の実施（４）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第10回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（１）	実験もしくは調査結果について取りまとめる。
第11回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（２）	実験もしくは調査結果について取りまとめると共に、分析や整理を行う。
第12回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（３）	取りまとめ作業に基づいて、論文を作成する。
第13回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（４）	論文を作成すると共に、要旨（梗概）作成の準備を行う。

第14回	卒業論文の要旨の作成	卒業論文の要旨を作成する。
第15回	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会に向けた準備（パワーポイントの作成）を行う。

学生へのフィードバック方法	成果物については、随時、アドバイスを行い、レベルの高い卒業研究となるように指導する。
評価方法	成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	成果物	○	○		○
	要旨	○	○		○
	発表会	○	○	○	○

評価割合	成果物、要旨、発表会の３つの総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	特に、参考書はないが、研究のテーマにより、各自に必要な書籍や論文などを紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解の観点（K）：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。 思考・判断の観点（K）：社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。 関心・意欲・態度（V）：社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。 技術・表現の観点（A）：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（原口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築物の計画、機能、面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点（K）	建築物の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	建築物のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	建築物における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	卒業研究の進め方、評価などの説明をする。その後資料集め、コンセプトの考察。	設計したい建築物、設計したい敷地、挑戦してみたい設計競技などを考えておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	卒業研究のコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる。	120分
第3回	コンセプトワークの修正	再度、コンセプトワークをまとめたコンセプトボードを発表、教員の講評を受ける。	講評を受けて、新たなコンセプトボードを作成する。	120分
第4回	エスキース	コンセプトボードを元にエスキースした成果を発表、教員から講評を受ける。	コンセプトボードを元にエスキースをする。エスキースにはスタディ模型も併用する。	240分
第5回	エスキースの修正	修正したエスキースを発表し、教員から講評を受ける。	前回の講評を受けて、エスキースを修正する。スタディ模型も併用する。	240分
第6回	エスキースの確定	再再度のエスキースを発表し、教員の講評を受けて確定する。	再再度のエスキースの手直しを行う。スタディ模型も併用する。	240分
第7回	平面図の作成	平面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図を作成する。	120分

第8回	平面図の修正	修正された平面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回の講評を元に、平面図を修正する。	120分
第9回	断面図の作成	断面図を作成して、教員の講評を受ける。	平面図を見ながら断面図を作成する。	120分
第10回	断面図の修正	修正された断面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回講評された断面図を修正する。	120分
第11回	立面図の作成	立面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図、断面図を見ながら、立面図を作成する。	120分
第12回	立面図の修正	修正した立面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回講評された断面図を修正する。	120分
第13回	パースの作成	パースを作成し、教員の講評を受ける。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成し、教員の講評を受ける。	平面図、断面図、立面図から模型を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	480分

学生へのフィードバック方法	毎回、教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の建築物についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にある建築物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にある建築物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】建築物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室
学生へのメッセージ	3年までの設計製図において、建築物の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）、パース、模型の作成の技術を習得しました。同時に計画、環境、構造、施工の知識も養いました。卒業研究ではその集大成としての設計製図です。デザインを楽しみながら演習に取り組むことで、さらなる技量の向上を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理の実務経験がある。卒業研究の設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（小池）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。大学における学びの集大成として学生自らの持つ問題意識に基づいて研究課題を設定し、その解決策の提案に取り組む。形式は、論文（レポート）とする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
履修条件	３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「住」をはじめとする家政学の各分野 について専門的知識・技術を有している。 自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。 収集した各種の多様な情報を客観的に理解し判断して結論へと導くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 自ら設定した課題に対し、社会人としての自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。 社会に対して洗練された表現力で自ら設定した課題の解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究課題の検討	（アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる	90分
第2回	先行研究レビュー	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	90分
第3回	研究課題と研究方法の検討	（アクティブラーニング：グループワーク） 先行研究レビューの結果をもとに、各自の研究課題、研究方法について検討する。	（予習）研究課題、研究方法についてレジュメにまとめる	90分
第4回	資料収集１	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究課題に関する資料を収集し、まとめたものを発表する	（予習）収集した資料をレジュメにまとめる	90分
第5回	資料収集２	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究課題に関する資料を収集し、まとめたものを発表する	（予習）前回のゼミでの指摘事項を踏まえて収集した資料をレジュメにまとめる	90分
第6回	調査の実施１	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	（予習）調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる	90分
第7回	調査の実施	（アクティブラーニング：グループワーク）	（予習）調査結果・調査の進捗	90分

	2	調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	状況をレジュメにまとめる	
第8回	調査の実施３	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	（予習）調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる	90分
第9回	論文執筆１	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する	（予習）論文の目次を作成する	90分
第10回	論文執筆２	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する	（予習）論文の進捗状況が分かる資料を用意する	90分
第11回	論文執筆３	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する	（予習）論文の進捗状況が分かる資料を用意する	90分
第12回	論文執筆４	（アクティブラーニング：グループワーク） 論文の内容について最終確認する	（予習）論文を完成させる	90分
第13回	要旨の作成１	（アクティブラーニング：グループワーク） 論文の内容をもとに要旨を作成する	（予習）要旨に書きたい内容をA3用紙にレイアウトする	90分
第14回	要旨の作成２・発表資料作成	（アクティブラーニング：グループワーク） 要旨の内容をもとに発表会のためのプレゼンテーション資料を作成する	（予習）要旨を完成させる	90分
第15回	発表練習	（アクティブラーニング：グループワーク） 作成した発表会用プレゼンテーション資料を用いて発表練習をおこなう	（予習）発表用プレゼンテーションを完成させる	90分
第16回	発表会	プレゼンテーションソフトを用いた発表を行う		

学習計画注記	別途配付するスケジュール・要領に従って、締切や執筆要領等に注意して進めること。
学生へのフィードバック方法	ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。 毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。
評価方法	論文（レポート）については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。 平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。 プレゼンテーションについては、要旨を含むプレゼンテーション資料の完成度、質疑応答を含む発表内容について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文（レポート）	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	論文（レポート）60%、平常点30%、プレゼンテーション10%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」をはじめとする家政学の各分野 について、専門的知識・技術を有している ・グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる 【思考・判断】 ・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる 【関心・意欲・態度】 ・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる 【技能・表現】 ・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている ・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている
オフィスアワー	金曜3時限　3508研究室
学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。これまで学んできたことをベースに、ゼミで互いに意見を出し合い、自分の考えをしっかりまとめましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（嶋田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 嶋田　芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	論文の作成方法（1）	論文の構成を学ぶとともに、事例を用いながら深化させていく。また、論文にふさわしい文言やふさわしくない文言についても理解する	これから研究していく論文のテーマや構成につい考えておく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	90分
第2回	論文の作成方法（2）	論文にふさわしい数値表記とふさわしくない数値表記について学ぶとともに、引用文献や参考文献の違いについても理解する	引き続き論文のテーマと構成について考えるとともに、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	90分
第3回	論文の作成方法（3）	前2回の授業内容をどの程度把握しているかを学生間で確認する。また、論文テーマとその構成についても討議し、深化を図る	引き続き論文テーマとその構成について考える	90分
第4回	研究計画書の作成（1）	考えている論文テーマとその構成を文章化し、論文作成上の指導を受ける	論文に必要な文献や資料について考えておく	90分
第5回	研究計画書の作成（2）	前回の授業で指導された点について再考し、研究計画書を作成する	引き続き論文作成に必要な文献や資料について考えておく	90分
第6回	論文関係文献の検索法	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料を検索する方法について理解する	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料について調べる	90分

第7回	先行研究の検討（1）	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る	先行研究の整理と分析を行う	90分
第8回	先行研究の検討（2）	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る	先行研究の整理と分析を行う	90分
第9回	収集した文献、資料の整理（1）	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る	収集した文献、資料の整理を行う	90分
第10回	収集した文献、資料の整理（2）	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る	収集した文献、資料の整理を行う	90分
第11回	収集した文献、資料の分析（1）	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う	90分
第12回	収集した文献、資料の分析（2）	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う	90分
第13回	量的調査の内容と手法	留め置き・郵送・集合・面接・電話調査、公的データの活用について学ぶ	授業で配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	90分
第14回	質的調査の内容と手法	個別インタビュー、フォーカスグループインタビュー、Kj法の内容と手法について学ぶ	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	90分
第15回	研究手法を決定する	研究の方向性や関係文献、関係資料の分析から、研究対象に対してどのような調査を実施するのかを学ぶ	研究対象に対して、どのような調査方法を用いるのかについて考える	90分

学習計画注記	1つの授業テーマに対して、2限（2コマ）の授業時間を充てる。 また、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	成果物は、評価した上で返却する。
評価方法	・平常点 先行研究、文献、資料の収集状況と論文作成に対する意欲から評価する。 ・成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	成果物	○	○		○
	発表会	○	○	○	○

評価割合	平常点、成果物、発表会で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じてプリントを配布する。
参考図書	白井利明他著『よくわかる卒論の書き方』（ミネルヴァ書房）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。 【思考・判断の観点】：社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】：社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。 【技術・表現の観点】：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。
オフィスアワー	火曜3限、木曜2限
学生へのメッセージ	日常から論文テーマに関係する新聞記事やニュースに関心を持ち、文献や関係資料の収集に努めて欲しい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者施設や児童福祉施設におけるソーシャルワーカーの経験から、地域で発生している福祉課題の実態やその解決方策などを論文に反映できるような授業を展開している
アクティブ・ラーニング	○	図書館で論文作成に必要な文献、関係資料を収集するとともに、フィールドワークによる関係者へのインタビューを論文に反映できるよう指導している
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネットの活用により、先行研究、関係資料、研究対象に関わる情報を収集するように指導している

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（西口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

授業概要(教育目的)	3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。 Aでは個々のテーマに沿った先行研究の探索、調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。
履修条件	３年次終了までに９０単位を取得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣と住コミュニケーション・情報、地域・園芸　家庭科などの分野について知識や理解あり、その中で社会福祉の役割や機能の知識、理解がある。またその分野の研究の目的と方法が理解できる
思考・判断の観点（K）	社会の諸問題、特に生活問題・社会福祉の課題につい情報を探索しながら客観的に判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある
技術・表現の観点（A）	探社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	論文を書くとは　関心を持つこと	学生一人一人に何かを書いた経験があるかを尋ね、人はなぜ書くのかを考える	学術論文を読み、その論文で伝えたかったことを４００字以内で述べる。	120分
第2回	論文を読む	予習でまとめたものを皆で検討する。	論文を読む❷論文の構成がどのようになっているかを理解する	120分
第3回	論文の構成を学ぶ	実際の学術論文を読んで構成を学ぶ	目的を考えてみる	120分
第4回	論文の構成❷	調査の方法を考える	どのような調査をしたいかを考える	120分
第5回	調査の方法１アンケート調査	アンケート調査　量的調査の中の質問用用紙の作り方を学ぶ	アンケート調査をインターネットで調べる	120分
第6回	アンケート調査❷	アンケート調査の実際を学ぶ　質問用紙の配布と方法そのやり方	視聴率調査を調べてくる	120分
第7回	アンケート調査❸	アンケート調査の集計を学ぶ　　またエクセルを使ったグラフの作成方法を学ぶ	エクセルのグラフをインターネット調べる	120分
第8回	質的調査❶	事例調査を学ぶ　インタビュー調査を学ぶ	質的調査とは何かをインターネットで調べる	120分
第9回	質的調査❷グラウンデッドセオリ	インタビューを分類しタイトルをつける　実際にやってみる	KJを調べておく	120分

	ーが目指すもの			
第10回	テーマを考える❶	何を書くかを考える	授業で発表できるように準備する	120分
第11回	テーマを考える❷	テーマを考える　特に目的	テーマを考える	120分
第12回	調査の方法を考える	論文の調査の方法を考える	質的調査　量的調査を復習し、自らの方法を考える	120分
第13回	目的と方法	目的方法を原稿にする	目的方法を明確にしておく	120分
第14回	発表準備	原稿をパワポにしてみる	原稿からパワポへのやり方を考える	120分
第15回	プレゼンテーション	完成したパワポをプレゼンする	パワポ準備	240分

学習計画注記	学生の理解度をみながら、順番を入れ替えたり、また別の単元を挿入することもある
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーへのコメント
評価方法	❶都度の宿題の達成状況 ❷論文としての体裁の程度 ❸中間報告　（プレゼン）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	都度の宿題の達成状況	○		○	
	発表内容	○			○
	論文の体制	○	○	○	○

評価割合	❶40% ❷１０% ❸５０%
使用教科書名(ISBN番号)	教員が個別に提示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 衣と住コミュニケーション・情報、地域・園芸　家庭科などの分野について知識や理解あり、その中で社会福祉の役割や機能の知識、理解がある。またその分野の研究の目的と方法が理解できる 【思考・判断】 社会の諸問題、特に生活問題・社会福祉の課題につい情報を探索しながら客観的に判断できる 【関心・意欲・態度】 社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある 【技術・表現】 社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある。自らの作品を効果的に発表できるスキルが身についた。 【知識・理解】 　論文構成が理解できた。また質的調査、量的調査の方法が理解できた
オフィスアワー	月曜日3時限
学生へのメッセージ	与えられた課題を確実に着実に終了すること
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は高齢者福祉施設に勤務した経験があり、現場の状況を踏まえた具体的な課題を設定して授業を進める
アクティブ・ラーニング		メンバー間のディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（呉）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進行方法の説明を行う。卒業研究又作品制作のテーマを考える。	自身の関心のあるテーマを整理しておくこと。	９０分
第2回	卒業研究のテーマを検討	卒業研究のテーマを検討し、研究の背景、目的、方法を考える。	研究の計画やスケージュるを作成	９０分
第3回	先行研究の調査１	先行研究の調査を行い発表及びディスカションを行う	先行研究の調査を行いまとめる	９０分
第4回	先行研究の調査２	先行研究の調査を行い発表及びディスカションを行う	先行研究の調査を行いまとめる	９０分
第5回	研究調査１	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	９０分
第6回	研究調査２	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	９０分
第7回	論文執筆又は作品制作１	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第8回	論文執筆又	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆	論文執筆又は作品制作を行う	９０分

	は作品制作２	又は作品制作を行う		
第9回	論文執筆又は作品制作３	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第10回	論文執筆又は作品制作４	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第11回	論文執筆又は作品制作５	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第12回	論文執筆又は作品制作６	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第13回	論文執筆又は作品制作７	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第14回	発表の準備	発表の準備や卒業研究要旨を作成	研究要旨を完成する	９０分
第15回	発表の準備	卒業研究要旨の修正及び完成と発表の練習	プレゼンテーション資料を完成する	９０分

学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	論文又は作品は70点満点で課題の結果と研究発表会で評価を行う。評価の基準は３つの基準は「独創性」「論文又は作品の完成度」「デザイン性」で５段階評価を行う。平常点は30点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文又は作品	○	○	○	○
	平常点		○	○	

評価割合	論文又は作品は70％ 平常点は30％
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日３限、４限　１３０７研究室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（石綱）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	本演習および卒業研究の進め方 各自の目標設定 研究テーマ検討	目標設定とテーマ決定	90分
第2回	テーマ決定	各自テーマ決定し成果物規定を説明する。各自で研究計画をたてる。	計画及び各自の成果物の確認	90分
第3回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第4回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第5回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第6回	研究遂行	進捗報告会	研究遂行	90分
第7回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第8回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第9回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行および進捗報告の準備	90分
第10回	研究遂行	進捗報告会と今後の日程の確認	研究遂行	90分
第11回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分

第12回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第13回	発表会準備	個別ディスカッション	プレゼンテーションの準備	90分
第14回	発表会準備	プレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの修正	90分
第15回	発表会準備	プレゼンテーションの練習 前期のまとめ	プレゼンテーションの修正 後期の準備	90分

学習計画注記	履修者数と研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	各自の研究計画に基づいて研究を遂行し、個別ディスカッションの中でフィードバックを行う。疑問・質問が生じた場合は、随時e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	以下の点について評価する。 平常点：研究に取り組む姿勢と態度。自ら計画を立て実行している。独自のアイディアを取り入れられた。 成果物：研究または制作の目的と意義を理解している。新規性が示されている。適切な調査研究を実施できたか。的確に成果をまとめ、考察しているか。提出期限や規定を守る。 発表：十分な準備。要点を抑えた明瞭な発表内容。態度と姿勢。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	
	成果物（要旨、論文または作品）	○	○		
	発表会のプレゼンテーション			○	○

評価割合	平常点30%、成果物（論文または制作）40%、発表30%で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	該当なし。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日 2限　3609研究室
学生へのメッセージ	研究（または制作）の計画、実施、解釈、まとめ、発表等の一連のプロセスを通し主体的に学んで欲しい。個別ディスカッションには十分な準備をしてくること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（澤田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。 研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。 研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマの検討	研究のテーマと目的、作品制作の場合は制作の意図を考えるとともに、研究の意義と方向性を考える。	研究テーマ検討の継続。	90分
第2回	研究テーマと研究計画の検討（１）	研究のテーマと内容を具体的に考え、研究の進め方を検討する。	研究テーマ検討の継続と研究計画の作成。	90分
第3回	研究テーマと研究計画の検討（２）	研究のテーマと内容を具体的に考え、研究の進め方を決定する。	研究テーマ検討の継続と研究計画の作成。	90分
第4回	資料調査（１）	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。	資料収集とその内容の確認。	90分
第5回	資料調査（２）	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料収集とその内容の確認。試作品の制作。	90分
第6回	資料調査（３）	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料収集とその内容の確認。試作品の制作。	90分
第7回	調査結果のまとめと考察（１）	調査結果を整理して、必要に応じて研究の方向を修正し、作品の制作や報告書の作成を進める。	資料収集とその内容の確認。作品の制作、調査内容のまとめ。	90分

第8回	調査結果のまとめと考察（２）	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第9回	調査結果のまとめと考察（３）	作品制作・報告書作成の中間報告を研究室内で行い、相互に検討する。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第10回	調査結果のまとめと考察（４）	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第11回	調査結果のまとめと考察（５）	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第12回	調査結果のまとめと考察（６）	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第13回	発表の準備（１）	作品または報告書を完成させて、その内容を発表する際の要点を整理する。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第14回	発表の準備（２）	卒業研究要旨の作成。	研究内容の整理と研究要旨の作成。	90分
第15回	発表の準備（３）	発表原稿の作成と発表の練習。	パワーポイント資料の制作等、プレゼンテーションの準備。	90分

学習計画注記	研究計画は自分自身で常にチェックをし、進捗状況を確認するとともに臨機応変に研究・制作を進めること。
学生へのフィードバック方法	毎週実施するミーティングで研究の進捗状況を確認し、研究室のメンバーでも相互の批評・検討を行う。最後の発表会は、学科教員が出席して研究内容を確認する。
評価方法	作品等の成果物については、研究・制作の着眼点や目的、独自性、技術的な仕上がりの状況で評価する。 報告書・発表の内容については、研究の意図や目的が分かりやすく示されているか、研究・制作の過程や考察の内容が、論理的に記述されているかといった点について評価する。 平常点は、研究への取り組みの姿勢、ゼミへの参加状況について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	作品等の成果物		○		○
	報告書・発表の内容	○	○		○
	平常点		○	○	

評価割合	作品等の成果物30%、報告書と発表の内容30%、平常点40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	水曜日3時限　1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（齋藤史）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点（K）	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	指導教員による個別指導(1)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第2回	指導教員による個別指導(2)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第3回	指導教員による個別指導(3)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第4回	指導教員による個別指導(4)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第5回	指導教員による個別指導(5)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第6回	指導教員による個別指導(6)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分

第7回	指導教員による個別指導(7)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第8回	指導教員による個別指導(8)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第9回	指導教員による個別指導(9)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第10回	指導教員による個別指導(10)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第11回	指導教員による個別指導(11)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第12回	指導教員による個別指導(12)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第13回	発表要旨の作成	発表要旨の作成	発表要旨の作成	180分
第14回	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	180分
第15回	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン準備	180分

学生へのフィードバック方法	適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。
評価方法	研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究の経過		○	○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	1)研究要旨の合否判定 2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	各自の問題意識による
参考図書	各自の問題意識による
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。 【思考・判断】諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能・表 現】専門的技能をもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日３限1607研究室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査対象への訪問調査。
情報リテラシー教育	○	ネット・図書による調査。
ICT活用	○	プレゼンテーション。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（森）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の総まとめとすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 論文の論理構成１	論文の特徴を学んだ後、論理構成とは何かを練習を通して理解する。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	90分
第2回	論文の論理構成２	与えられた情報を論理的な構成で整理することを目的とした練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	90分
第3回	論文の論理構成３	与えられた文章を読み、論理構成が破綻しているところを発見する練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。	卒業研究でやりたいテーマについて複数挙げる。	90分
第4回	テーマの決定	テーマの決定に必要な知識とスキルを学び、各自卒業研究のテーマを決定する。クラス全体で検証し、相互に改善点をアドバイスする。	テーマを見直し、具体的なイメージを膨らませる。	90分
第5回	アウトラインの作成	アウトラインの構成を学び、アウトラインを修正する練習を行い、クラス全体で検証する。その上で、各自の卒業研究のアウトラインを作成する。	アウトラインを見直し、自分が研究したいイメージに近づけて修正する。	90分
第6回	文献収集	文献の種類と収集の方法を学ぶ。実際に図書館で各自の卒業研究のテーマにそって文献収集を行う。	文献収集を続ける。	90分
第7回	文献の使用	収集した文献を自分の研究課題と関連させて読み、ノートを作成する。	ノート作成を続ける。	90分
第8回	テーマの修	収集した文献と照らし合わせ、テーマを修正する。	修正したテーマで文献を検証し	90分

	正		直す。	
第9回	アウトラインの修正	より詳細なアウトラインの構成について学び、自分の論文のアウトラインを修正する。	アウトラインを見直し、さらに修正する。	90分
第10回	論文の構成	論文の構成を学び、本論について詳細な計画を立てる。	本論の論拠の部分に使われる文献の箇所を探す。	90分
第11回	調査方法の種類と特徴	調査方法の種類と特徴を学び、自分の研究に適切な方法は何かを検討する。	調査の目的を考える。	90分
第12回	調査用紙の作成１	調査用紙の作り方を学び、自分の研究の調査用紙を作成する。	調査用紙の完成、修正をする。	90分
第13回	調査用紙の作成２	作成した調査用紙について、相互に意見を交換し、修正する。	授業での意見を受けて、調査用紙を修正する。	90分
第14回	予備調査	予備調査の結果を報告し、調査用紙について相互に改善点をアドバイスする。	予備調査を実施し、修正点をまとめる。	90分
第15回	調査用紙の修正	修正した調査用紙を発表し、調査用紙を完成する。また、集計方法について学ぶ。	集計を開始する。	90分

学生へのフィードバック方法	課題に対する口頭および書面によるコメント
評価方法	卒業研究の内容（研究課題の明確さ、構成の論理性、文献の的確さ、調査計画の的確さ）　課題（完成度） 平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	卒業研究の内容70%　課題10%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限
学生へのメッセージ	自分が興味を持っているテーマを選び、思考を深めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら設定した課題で研究を進める。
情報リテラシー教育	○	文献収集、調査・統計処理、論文作成および口頭発表を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（富田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマをゼミナールAで学んだ内容を中心に設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。また、服飾造形実習Bを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究A（富田）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマ・目的の検討、日程と内容の計画	テーマと目的に対して社会的な意義および研究成果のまとめ方についてを学ぶ。	テーマと目的をまとめる。	90分
第2回	研究方法の検討１	・文献調査 ・調査の計画（対象者、パネラー数、時期、内容、項目数、調査日程、調査形式など）を考える。 ・作品制作の計画（デザイン、コンセプト、着用者の基本的サイズ、属性など）	・文献調査、調査内容、項目を考えてまとめる。 ・デザイン、着用者について考える。	90分
第3回	研究方法の検討２	・文献調査 ・調査の計画（対象者、パネラー数、時期、内容、項目数、調査日程、調査形式など）を考える。 ・作品制作の計画（デザイン、コンセプト、素材、着用者の基本的サイズ、属性など）	・文献調査、調査内容、項目を考えてまとめる。 ・デザイン、コンセプト、素材について考える。	90分
第4回	研究方法の検討３	・参考文献内容を理解する。 ・項目を作成し、調査用紙を作成する。調査対象者について学ぶ。 ・デザイン、コンセプト、素材、着用者のサイズ計測、方法、日程等について学ぶ。	・参考文献のまとめでおく。 ・項目を作成し、調査用紙を整理する。 ・デザイン、コンセプト、素材について考え、デザイン画を描く。	90分

第5回	調査・作品の検討１	・参考文献内容を理解する。 ・調査のプレテストを行い、統計分析について学ぶ。 ・デザイン、コンセプト、素材選択について学ぶ。	・参考文献のまとめでおく。 ・統計分析の方法を把握する。 ・デザイン、コンセプト、素材について考え、デザイン画を描く。	90分
第6回	調査・作品の検討２	・参考文献内容を理解する。 ・プレテストのデータ入力や解析ソフトの使い方を学ぶ。 ・デザイン、コンセプト、素材の選択を学ぶ。	・参考文献内容をまとめておく。 ・解析ソフトの使い方を理解する。 ・デザイン、コンセプト、素材を決定し、修正のデザイン画を描く。	90分
第7回	調査・作品の検討３	・参考文献内容を理解する。 ・プレテストのデータ入力や解析ソフトの使い方を理解し、本調査について学ぶ。 ・素材の使用量、製図を学ぶ。	・参考文献内容をまとめておく。 ・参考文献内容を理解する。・解析ソフトの使い方を理解する。 ・材料を調達準備する。 ・製図を完成させておく。	90分
第8回	調査・作品の検討４	・参考文献内容を理解する。 ・本調査の準備について学ぶ。（調査用紙） ・製図を学ぶ。	・参考文献内容をまとめておく。 ・解析ソフトの使い方を理解する。 ・製図を完成させておく。	90分
第9回	結果の整理１、発表準備１	・調査データの入力と解析を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	・データ入力 ・パワーポイントの写真、図、表、材料サンプルを作成する。	90分
第10回	結果の整理２、発表準備２	・調査データの入力と解析について学ぶ。 ・要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	・データ入力 ・写真、図、表、材料サンプルを作成する。 ・要旨の目的、方法を書くこと。	90分
第11回	考察・まとめ１、発表準備３	・要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察をまとめる。	90分
第12回	考察・まとめ２、発表準備４	・統計分析の結果を考察を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察をまとめる。	90分
第13回	考察・まとめ３、発表準備５	・統計分析の結果を考察することについて学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察について修正する。	90分
第14回	発表準備６、口頭発表１	・パワーポイントによる口頭発表の準備と練習について学ぶ。	・パワーポイントの修正と口頭発表の練習をする。 ・要旨を修正して完成させる。	90分
第15回	発表準備７、口頭発表２	・パワーポイントによる口頭発表の準備と練習について学ぶ。	・パワーポイントを修正、完成させ、口頭発表の練習をする。	90分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	調査内容や作品に対してコメント
評価方法	平常点、調査・デザイン・作品など
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	作品（デザイン、制作）	○	○	○	○
	調査	○	○	○	○

評価割合	平常点（授業への参加状況を総合的に判断する）50% 調査等25%、作品（デザイン、制作）25%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	授業のには必ず準備をし、作業日程の計画、自分の健康を管理するように努力してください。問題点、困りごと等が生じた時には相談しながら対処していきますのでお申し出ください。やむを得ず欠席の場合は、日程を調整いたしますので、前もってご連絡を入れてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（深石）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学とそれに関する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合には、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用することができる
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して理論的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識をもって課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	今後のスケジュールと卒業研究の進め方	今後のスケジュールの確認、卒業研究の進め方を理解する。また、情報モラルや資料の収集方法等についての知識を得る（情報リテラシー教育）。 【設計の場合】施設内容の考案し、事例を調査する。計画敷地や周辺環境の下調べを行う。 【論文の場合】資料の収集方法や整理の方法を理解する。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第2回	取り組むテーマの決定	卒業研究で取り組むテーマの決定する（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】施設内容や建築用途、敷地の決定する。敷地等のデータを行う。 【論文の場合】既往研究の調査を行い、題目・目次案・研究の目的・方法・結論（仮）の策定を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第3回	コンセプトの決定	コンセプトの決定とレイアウトの大枠を捉え、必要な資料（図面）の確認を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】コンセプト案を複数提示し、コンセプトの方針を確定する。建物のゾーニングやボリュームを検討する。 【論文の場合】資料の収集と、目的・方法・結果（仮）を再考し、アプローチにに問題がないか確認する。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第4回	図面のエスキス（1）／資料収集	図面のエスキスや資料収集とデータ分析を行う。（アクティブ・ラーニング） 【設計の場合】配置図・平面図のエスキスを行い、配置	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授	90分

	とデータ分析	計画・平面計画を検討する。 【論文の場合】資料の収集とデータ分析を行う。	業内で議論できる資料を揃えておくこと。	
第5回	図面のエスキス（2）／データ分析と論文執筆	図面のエスキスとデータ分析等を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】断面図・立面図のエスキスを行い、断面計画・立面計画を検討する。 【論文の場合】データ分析と論文の執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第6回	図面の作図（1）／データ分析と論文執筆	図面のデータ化とデータ分析等を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図する。影や線の太さなど図面の効果的な作図ができる。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第7回	図面の作図（2）／データ分析と論文執筆	作図のデータ化とデータ分析を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図するとともに、図面相互の関係の最終確認を行う。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第8回	透視図の作図／論文執筆	コンセプトを表した透視図のデータ化と論文の執筆を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】空間を効果的に表現できるアングルを決め、3Dソフトやレンダリングソフトを使い、透視図を作成する。 【論文の場合】論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第9回	模型制作・写真撮影／論文執筆	模型製作や写真撮影の方法、写真の加工も行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】模型を制作し、写真撮影を行い、解像度の調整、トリミングやスタンプ機能等の写真の加工し適切な表現ができる。 【論文の場合】図表の書き方を理解し、写真の加工ができるようになる。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第10回	レイアウト／論文執筆	レイアウトと論文執筆を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】効果的なレイアウト方法を理解し、実践する。 【論文の場合】論文構成の最終確認を行い、不足している部分の追加作業を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第11回	提出に向けた最終調整	提出に向けた最終調整を行う。 設計・論文とも、出力データの最終の調整を行う。	（予習）成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。	90分
第12回	提出のための成果物の出力	成果物の出力を行い、提出のための体裁を整える。（情報リテラシー教育） 【設計の場合】出力データを印刷し、提出する体裁に整える。 【論文の場合】出力データを印刷、ファイリングをし、提出する体裁に整える。	（予習）成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。 （復習）成果物出力時には、A3判カラー印刷で圧着貼りで提出の場合は、A1判ケント紙を枚数分を持参すること。	90分
第13回	要旨の作成	図表の修正や全体の構成の確認をした上で要旨の作成を行う。（情報リテラシー教育） 【設計の場合】図面やレイアウトの修正を行い、要旨を作成する。それに加えて、展示用模型の制作を始める。 【論文の場合】全体の構成やデータの修正を行い、要旨を作成する。	（予習）要旨のたたき台を作成し、持参すること。	90分
第14回	プレゼンデータ・発表原稿の作成	プレゼンソフトを使い、プレゼンデータ・原稿の作成、発表練習を行う。併せて要旨の最終確認も行う。 設計の場合は上記の他、展示用ポスターのレイアウト作成、展示用の模型製作と必要に応じ再度模型写真の撮影を行う。	（予習）修正した要旨のたたき台、プレゼンソフトのデータを出力したものを持参すること。 【設計の場合】最終成果品の縮小版を持参すること。 【論文の場合】成果物として提出する本論を持参すること。	90分
第15回	発表練習、要旨印刷	プレゼンデータを使って発表練習を行い、自分が伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。要旨の印刷を行いホチキス止めを行う。	（予習）完成させた要旨原稿を持参すること。成果物を修正したものを改めて出力、（論文の場合は、併せてファイリング）をしておくこと。 （復習）プレゼンソフトを併用し、発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしてくること。設計の場合は、修正を終えたA1版ポスター5枚以上の再印刷を行う。	90分
第16回	発表	プレゼンテーションソフトを用いて、発表を行う。	（復習）プレゼンソフトデータや要旨の最終確認、掲示用A1版ポスター・模型の最終確認を行い、発表の練習を実施する。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	原則、授業時間内に個別に対応する。その他疑問点や相談は、オフィスアワーやアポイントを取った上日時を決めて、対応する。なお、授業に欠席した分については、必ず次回の授業までにオフィスアワー等を活用し、個別に指導を受けること。
評価方法	平常点（授業態度＋レジュメ提出や提出物）、成果物（設計図書または論文等）、要旨、発表の総合評価とする。 レジュメは、授業回数第1～10回までは、毎回A4版縦使い1枚に予習の成果をまとめ、ゼミの人数分印刷して持参すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	成果物	○			○
	要旨	○	○		○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点30%、成果物50%、要旨10%、発表10%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	必要であれば、随時指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習活動を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	金曜昼休み～３時限　3512研究室
学生へのメッセージ	卒業研究は、これまで学んできたことの集大成として、重要な位置づけとなっています。自分の興味のあることに取り組み、それをどのように問題提起し、解決していくのかを他人に分かりやすく伝えることが必要とされます。事前に十分な準備をし、主体的な授業への参加を望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、ゼミ形式で進める。必ず、他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら進める。
情報リテラシー教育	○	情報をアウトプットに関する論文の書き方、プレゼンテーション技法等についても、解説を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（佐々木）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木　麻紀子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。 「被服整理学」または「染色」関連科目を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究テーマに関わる概念や課題を理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点（K）	研究テーマを設定し、適した調査や分析方法を考案することができる
関心・意欲・態度の観点（V）	課題に主体的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	研究内容を的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	卒業研究の手引きをよく読み、卒業研究の概要を理解しておくこと。卒業研究のテーマを案を考えて、テーマに関連した授業科目等の内容を復習しておくこと	90分
第2回	問題の分析と課題の設定1	教室外学修の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、関連する文献の検索方法について情報検索の方法を理解する。	卒業研究のテーマ案に関連する資料を収集整理しておくこと。テーマ案の基礎知識を身につけておくと共に自らの問題意識を深めておくこと	90分
第3回	問題の分析と課題の設定2	前回までの内容を基に研究テーマについてさらに検討を行うため、学外施設の見学を行い、各自のテーマについての情報を収集し、問題意識を明らかにする	卒業研究のテーマ案に関連する資料を収集整理しておくこと。テーマ案の基礎知識を身につけておくと共に自らの問題意識を深めておくこと	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査1	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容を理解する。	各自のテーマに沿った先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査2	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容を理解する。	各自のテーマに沿った先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。	90分

第6回	先行研究・参考文献の調査3	学外実習　被服整理学関係の学外施設に見学に行き、研究テーマに沿った資料を収集する。	見学施設について事前にインターネットなどを使って情報を収集しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定	各自のテーマに沿って適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	研究テーマに関連した先行研究はどのような研究方法で行われているのかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	調査・実験・制作1	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第9回	調査・実験・制作2	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第10回	調査・実験・制作3	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第11回	調査・実験・制作4	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第12回	調査・実験・制作5	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第13回	研究のまとめ1	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。	これまでの調査・実験・制作等の資料を整理し、卒業研究要旨の下書きを作成しておくこと	120分
第14回	研究のまとめ2	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。	プレゼンテーション資料の下書きを作成しておくこと	120分
第15回	研究のまとめ3	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。	プレゼンテーション資料の修正を作成しておくこと	120分

学習計画注記	・各自のテーマ及び研究の進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。 ・洗剤関連の学外施設の見学を予定していますが、状況に応じて変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等については、講評や助言、添削指導を毎回行う。質問等がある場合は2406研究室まで訪問すること。
評価方法	・卒業研究の内容・要旨・プレゼンテーションは以下の観点で評価を行う。 1）研究の目的や意義が明確である。 2）先行研究を充分に参照し、その内容を理解している。 3）研究テーマに適した方法で調査・実験・制作等ができている。 4）結果の内容が十分な信頼性がある。 5）研究の内容を適した文章や制作物等で表現することができている。 ・平常点は授業内活動（報告・発表・ディスカッション等）への参加状況、指示された学習活動への取り組み姿勢、課題の提出状況などを総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
	要旨とプレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	卒業研究の内容20%、要旨10%、プレゼンテーション10%、平常点60%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	個々に指示する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜2限　2406研究室
学生へのメッセージ	授業内のみならず、授業外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各自の課題に対して、調査学習・問題解決学修・ディスカッション等を行う
情報リテラシー	○	図書館の利用法、文献検索方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法に関する内容を行う

教育		
ICT活用	○	情報収集や発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（花田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	グループワークを行う。研究の進め方、スケジュールの確認、卒研生として研究室での過ごし方を理解する。本研究室の先行研究を理解し、研究課題の検討を行う。	〔復〕各自の問題意識、興味に基づき、先行研究のレジュメを作成する。	90分
第2回	研究テーマの決定	グループワークを行う。先行研究の要約を報告し、研究の課題を確認して、テーマを決定する。	〔予〕先行研究のレジュメを作成し、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕研究テーマに関連する参考文献を収集する。研究計画を立案する。	90分
第3回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を行う。	90分
第4回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第5回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	90分
第6回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進	90分

			め、研究を遂行する。	
第7回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第8回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	90分
第9回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第10回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第11回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第12回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。卒研A発表会の要旨とプレゼンテーションの内容の検討を行う。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕報告会での検討内容に基づき要旨とプレゼンテーション資料を作成する。	90分
第13回	要旨とプレゼンテーション資料の検討	グループディスカッションを行う。プレゼンテーション資料に基づき発表し、プレゼンテーション資料の内容を検討する。要旨を提出する。	〔予〕提出用要旨を作成してくること。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。	90分
第14回	プレゼンテーション練習	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。	〔予〕修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。返却された要旨を修正する。	90分
第15回	プレゼンテーション練習	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。	〔予〕完成要旨を作成してくること。修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。発表練習を繰り返し行うこと。	90分

学習計画注記	研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。
評価方法	①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価） ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価） ③卒業研究発表会（理解力、構成力、表現力を評価） ④成果物（理解力、構成力、思考力、完成度　を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○
発表（卒研発表会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合	1)研究要旨の合否判定 2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 平常点30%　発表（報告会）20%　発表（卒研発表会）30%　成果物20%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	指定なし
参考図書	指定なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	金曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室
学生へのメッセージ	４年間の集大成として、積極的に取り組んでほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（白井）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)
第1回	既往の研究の再調査（１）	課題解決に必要な追加の資料や情報などを収集する。
第2回	既往の研究の再調査（２）	課題解決に必要な追加の資料や情報などを収集する。
第3回	研究計画の見直し（１）	課題解決に向けて、研究計画を再度、見直す。
第4回	研究計画の見直し（２）	課題解決に向けて、研究計画を再度、見直す。
第5回	実験もしくは調査の実施（１）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第6回	実験もしくは調査の実施（２）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第7回	実験もしくは調査の実施（３）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第8回	実験もしくは調査の実施（４）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第9回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（１）	実験もしくは調査結果について取りまとめる。
第10回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（２）	実験もしくは調査結果について取りまとめると共に、分析や整理を行う。
第11回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（３）	取りまとめ作業に基づいて、論文を作成する。
第12回	卒業論文の作成（１）	卒業論文を作成する。
第13回	卒業論文の作成（２）	卒業論文を作成する。

第14回	卒業論文の要旨の作成	卒業論文の要旨を作成する。
第15回	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会に向けた準備を行う。

学生へのフィードバック方法	成果物については、随時、アドバイスを行い、レベルの高い卒業研究となるように指導する。
評価方法	成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	成果物	○	○		○
	要旨	○	○		○
	発表会	○	○	○	○

評価割合	成果物、要旨、発表会の３つの総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	特に、参考書はないが、研究のテーマにより、各自に必要な書籍や論文などを紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解の観点（K）：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。 思考・判断の観点（K）：社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。 関心・意欲・態度（V）：社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。 技術・表現の観点（A）：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（原口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築物の計画、機能、面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点（K）	建築物の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	建築物のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	建築物における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	卒業研究の進め方、評価などの説明をする。その後資料集め、コンセプトの考察	設計したい建築物、設計したい敷地、挑戦してみたい設計競技などを考えておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	卒業研究のコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる	120分
第3回	コンセプトワークの修正	再度、コンセプトワークをまとめたコンセプトボードを発表、教員の講評を受ける	講評を受けて、新たなコンセプトボードを作成する。	120分
第4回	エスキース	コンセプトボードを元にエスキースした成果を発表、教員から講評を受ける。	コンセプトボードを元にエスキースをする。エスキースにはスタディ模型も併用する。	240分
第5回	エスキースの修正	修正したエスキースを発表し、教員から講評を受ける。	前回の講評を受けて、エスキースを修正する。スタディ模型も併用する。	240分
第6回	エスキースの確定	再再度のエスキースを発表し、教員の講評を受けて確定する。	再再度のエスキースの手直しを行う。スタディ模型も併用する	240分
第7回	平面図の作成	平面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図を作成する。	120分

第8回	平面図の修正	修正された平面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回の講評を元に、平面図を修正する。	120分
第9回	断面図の作成	断面図を作成して、教員の講評を受ける	平面図を見ながら断面図を作成する。	120分
第10回	断面図の修正	修正された断面図を提示し、教員の講評を受ける	前回講評された断面図を修正する。	120分
第11回	立面図の作成	立面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図、断面図を見ながら、立面図を作成する。	120分
第12回	立面図の修正	修正した立面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回講評された断面図を修正する。	120分
第13回	パースの作成	パースを作成し、教員の講評を受ける。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成し、教員の講評を受ける	平面図、断面図、立面図から模型を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする	480分

学生へのフィードバック方法	毎回、教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の建築物についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にある建築物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にある建築物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】建築物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室
学生へのメッセージ	3年までの設計製図、卒業研究Aにおいて、建築物の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）、パース、模型の作成の技術を習得しました。同時に計画、環境、構造、施工の知識も養いました。卒業研究Bではその集大成としての設計製図です。デザインを楽しみながら演習に取り組むことで、さらなる技量の向上を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理の実務経験がある。卒業研究の設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（小池）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。大学における学びの集大成として学生自らの持つ問題意識に基づいて研究課題を設定し、その解決策の提案に取り組む。形式は、論文または計画設計図書（模型を含む）とする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
履修条件	３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「住」をはじめとする家政学の各分野 について専門的知識・技術を有している。 自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。 収集した各種の多様な情報を客観的に理解し判断して結論へと導くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 自ら設定した課題に対し、社会人としての自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。 社会に対して洗練された表現力で自ら設定した課題の解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	【論文】調査計画の立案 【設計】敷地の決定・コンセプトの立案	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】卒業研究Ａで得られた結果をもとに論文の仮説を立て、検証のための調査計画を立案する 【設計】卒業研究Ａで得られた結果をもとに敷地を決定し、設計コンセプトを立案する	（予習）【論文】論文の仮説、調査計画案を作成する （予習）【設計】コンセプトボードを作成する	90分
第2回	【論文】調査計画の検証 【設計】コンセプトの決定・プログラムの検討	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】立案した調査計画について検証を行い、調査協力を依頼する 【設計】コンセプトを決定し、必要となる機能に対応する建築要素（プログラム）を検討する	（予習）【論文】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて調査計画をレジュメにまとめる （予習）【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえてコンセプト案をまとめ、プログラム案を作成する	90分
第3回	【論文】調査の実施１ 【設計】プログラムの決定・ボリ	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】プログラムを決定し、それぞれのボリューム、全体ボリュームと敷地の関係について検討する	（予習）【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる （予習）【設計】ボリュームを反映したプログラム案を作成する	90分

	ュームの検討			
第4回	【論文】調査の実施２ 【設計】ボリュームの決定・ダイアグラムの検討	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】プログラムの各要素・全体のボリュームについて決定し、各要素の位置関係をダイアグラムを作成し検討する	（予習）【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる （予習）【設計】ダイアグラム案を作成する	90分
第5回	【論文】調査の実施３ 【設計】ダイアグラムの決定・外観デザインの検討	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】ダイアグラムを決定し、外観のデザインを検討する	（予習）【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる （予習）【設計】ダイアグラムを建物の構成が分かるような形で作成する	90分
第6回	【論文】調査結果の分析と考察１ 【設計】平面計画１	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査結果を分析して考察をおこない、進捗状況について発表する 【設計】作成したダイアグラムをもとに、配置図・平面図を作成する	（予習）【論文】分析した調査結果についてレジュメを作成する （予習）【設計】配置図・平面図を作成する	90分
第7回	【論文】調査結果の分析と考察２ 【設計】平面計画２	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】調査結果を分析して考察をおこない、進捗状況について発表する 【設計】配置図・平面図を完成させる	（予習）【論文】分析した調査結果についてレジュメを作成する （予習）【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて配置図・平面図を修正する	90分
第8回	【論文】論文執筆１ 【設計】断面・立面計画１	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】分析・考察を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】断面図・立面図を作成する	（予習）【論文】論文の目次を作成する （予習）【設計】断面図・立面図を作成する	90分
第9回	【論文】論文執筆２ 【設計】断面・立面計画２	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】分析・考察を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】断面図・立面図を完成させる	（予習）【論文】論文の進捗状況が分かる資料を用意する （予習）【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて断面図・立面図を修正する	90分
第10回	【論文】論文執筆３ 【設計】プレゼンテーション図面の作成１	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】各種図面・模型・パースを作成し、レイアウトする	（予習）【論文】論文の進捗状況が分かる資料を用意する （予習）【設計】提出用図面のレイアウト案、模型・パースを作成する	90分
第11回	【論文】論文執筆４ 【設計】プレゼンテーション図面の作成２	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文】論文の内容について最終確認する 【設計】各種図面・模型・パースを仕上げ、レイアウトする	（予習）【論文】論文を完成させる （予習）【設計】提出用図面を完成させる	90分
第12回	【論文・設計】要旨の作成１	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】論文の内容をもとに要旨を作成する	（予習）【論文・設計】要旨に書きたい内容をA3用紙にレイアウトする	90分
第13回	【論文・設計】要旨の作成２	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】要旨の内容について最終確認する	（予習）【論文・設計】要旨を完成させる	90分
第14回	【論文・設計】発表資料作成	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】発表会のためのプレゼンテーション資料（ポスター）を作成する	（予習）【論文・設計】ポスターのレイアウト案を作成する	90分
第15回	【論文・設計】発表練習	（アクティブラーニング：グループワーク） 【論文・設計】作成した発表会用プレゼンテーション資料を用いて発表練習をおこなう	（予習）【論文・設計】発表用ポスター、発表原稿を完成させる	90分
第16回	【論文・設計】発表会	【論文・設計】ポスターセッション方式で発表を行う。		

学習計画注記	別途配付するスケジュール・要領に従って、締切や執筆要領等に注意して進めること。
学生へのフィードバック方法	ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。 毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。
評価方法	論文については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。 計画設計図書については、問題設定の着眼点・独自性、提案の妥当性、デザインについて評価する。 平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。 プレゼンテーションについては、要旨を含むプレゼンテーション資料の完成度、質疑応答を含む発表内容について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文・計画設計図書	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	論文・計画設計図書60%、平常点30%、プレゼンテーション10%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」をはじめとする家政学の各分野 について、専門的知識・技術を有している ・グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる 【思考・判断】 ・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる 【関心・意欲・態度】 ・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる 【技能・表現】 ・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている ・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている
オフィスアワー	金曜4時限　3508研究室
学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。これまで学んできたことをベースに、ゼミで互いに意見を出し合い、自分の考えをしっかりまとめましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（嶋田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 嶋田　芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	論文の作成方法（1）	論文の構成を学ぶとともに、事例を用いながら深化させていく。また、論文にふさわしい文言やふさわしくない文言についても理解する	これから研究していく論文のテーマや構成につい考えておく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	90分
第2回	論文の作成方法（2）	論文にふさわしい数値表記とふさわしくない数値表記について学ぶとともに、引用文献や参考文献の違いについても理解する	引き続き論文のテーマと構成について考えるとともに、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	90分
第3回	論文の作成方法（3）	前2回の授業内容をどの程度把握しているかを学生間で確認する。また、論文テーマとその構成についても討議し、深化を図る	引き続き論文テーマとその構成について考える	90分
第4回	研究計画書の作成（1）	考えている論文テーマとその構成を文章化し、論文作成上の指導を受ける	論文に必要な文献や資料について考えておく	90分
第5回	研究計画書の作成（2）	前回の授業で指導された点について再考し、研究計画書を作成する	引き続き論文作成に必要な文献や資料について考えておく	90分
第6回	論文関係文献の検索法	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料を検索する方法について理解する	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料について調べる	90分

第7回	先行研究の検討（1）	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る	先行研究の整理と分析を行う	90分
第8回	先行研究の検討（2）	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る	先行研究の整理と分析を行う	90分
第9回	収集した文献、資料の整理（1）	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る	収集した文献、資料の整理を行う	90分
第10回	収集した文献、資料の整理（2）	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る	収集した文献、資料の整理を行う	90分
第11回	収集した文献、資料の分析（1）	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う	90分
第12回	収集した文献、資料の分析（2）	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う	90分
第13回	量的調査の内容と手法	留め置き・郵送・集合・面接・電話調査、公的データの活用について学ぶ	授業で配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	90分
第14回	質的調査の内容と手法	個別インタビュー、フォーカスグループインタビュー、Kj法の内容と手法について学ぶ	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	90分
第15回	研究手法を決定する	研究の方向性や関係文献、関係資料の分析から、研究対象に対してどのような調査を実施するのかを学ぶ	研究対象に対して、どのような調査方法を用いるのかについて考える	90分

学習計画注記	1つの授業テーマに対して、2限（2コマ）の授業時間を充てる。 また、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	成果物は、評価した上で返却する。
評価方法	・平常点 先行研究、文献、資料の収集状況と論文作成に対する意欲から評価する。 ・成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	成果物	○	○		○
	発表会	○	○	○	○

評価割合	平常点、成果物、発表会で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じてプリントを配布する。
参考図書	白井利明他著『よくわかる卒論の書き方』（ミネルヴァ書房）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】：卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。 【思考・判断の観点】：社会の中にある福祉分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】：社会の中にある福祉分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。 【技術・表現の観点】：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。
オフィスアワー	火曜3限、木曜2限
学生へのメッセージ	日常から論文テーマに関係する新聞記事やニュースに関心を持ち、文献や関係資料の収集に努めて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者施設や児童福祉施設におけるソーシャルワーカーの経験から、地域で発生している福祉課題の実態やその解決方策などを論文に反映できるような授業を展開している
アクティブ・ラーニング	○	図書館で論文作成に必要な文献、関係資料を収集するとともに、フィールドワークによる関係者へのインタビューを論文に反映できるよう指導している
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネットの活用により、先行研究、関係資料、研究対象に関わる情報を収集するように指導している

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（西口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

授業概要(教育目的)	卒業研究Aでまとめた資料（文献、調査項目等）をもとに論文としてまとめることを目的とする。終了後にはその成果を発表する。現代社会の生活問題について自覚的な態度で関心を持ち、生活困難にある人の課題に寄り添う姿勢が持てる。人と状況との相互作用で形成される福祉の問題について、総合的、統合的に理解し、解決のための方法を身に着ける
履修条件	卒研Aの単位を取得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣と住コミュニケーション・情報、地域・園芸　家庭科などの分野について知識や理解あり、その中で社会福祉の役割や機能の知識、理解がある。またその分野の研究の目的と方法が理解できる
思考・判断の観点（K）	社会の諸問題、特に生活問題・社会福祉の課題につい情報を探索しながら客観的に判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある。プレゼンで分かりやすい表現をこころよみようとした
技術・表現の観点（A）	プレゼンにおいてパワポの構成やパワポの操作などが正確でなおかつ説得力がある。社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	前期の発表論を見直す	前期の発表論文を再検討する	論文を何度も読む	１２０分
第2回	調査方法を学ぶ	調査の仕方を学ぶ	調査方法を学ぶ	１２０分
第3回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第4回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第5回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第6回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第7回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第8回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第9回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第10回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第11回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第12回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第13回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分

第14回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	１２０分
第15回	プレゼン	発表会でのプレゼンテーション	準備	２４０分

学生へのフィードバック方法	精査の過程で論文をチェックする
評価方法	❶都度の課題の提出 ❷論文の体裁または作法の確認 ❸プレゼン力

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	プレゼンテーション（力）				○
	都度の課題提出	○	○	○	
	論文の体制・作法	○	○		○

評価割合	プレゼンテーション６０％ 都度課題提出　３０％ 論文の体裁。作法　１０％
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・技術】 衣と住コミュニケーション・情報、地域・園芸　家庭科などの分野について知識や理解あり、その中で社会福祉の役割や機能の知識、理解がある。またその分野の研究の目的と方法が理解できる 【思考・判断】 社会の諸問題、特に生活問題・社会福祉の課題につい情報を探索しながら客観的に判断できる 【関心・意欲・態度】 社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある。プレゼンで分かりやすい表現をこころよみようとした 【技術・表現】 プレゼンにおいてパワポの構成やパワポの操作などが正確でなおかつ説得力がある。社会福祉の課題について探索し、その解決に自覚的態度で解決を図ろうとする態度がある
オフィスアワー	月３時限　またはゼミ終了後
学生へのメッセージ	テーマに沿った内容について資料の整理をする。社会福祉や生活問題に関心を持つ。ネットニュースを読む。指定された文献を探索する

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設や行政の委員会での専門委員の経験があるので、そっれを活かした授業展開をする。具体的にはできるだけ、現場に即した論文指導をしてゆく
アクティブ・ラーニング		ディスカッションを取り入れる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（呉）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点（K）	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点（V）	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒業研究の計画１	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて論文執筆又は作品制作の計画を検討する	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて研究の計画を作成する	９０分
第2回	卒業研究の計画２	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて論文執筆又は作品制作の計画を検討する	卒業研究Aの結果及び考察を基づいて研究の計画を作成する	９０分
第3回	研究調査１	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	９０分
第4回	研究調査２	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	９０分
第5回	論文執筆又は作品制作１	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第6回	論文執筆又は作品制作２	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第7回	論文執筆又は作品制作３	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第8回	論文執筆又は作品制作	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分

	４			
第9回	論文執筆又は作品制作５	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第10回	論文執筆又は作品制作６	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第11回	論文執筆又は作品制作７	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第12回	論文執筆又は作品制作８	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第13回	論文執筆又は作品制作９	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	９０分
第14回	発表の準備	発表の準備や卒業研究要旨を作成	研究要旨を完成する	９０分
第15回	発表の準備	卒業研究要旨の修正及び完成と発表の練習	プレゼンテーション資料を完成する	９０分

学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	論文又は作品は70点満点で課題の結果と研究発表会で評価を行う。評価の基準は３つの基準は「独創性」「論文又は作品の完成度」「デザイン性」で５段階評価を行う。平常点は30点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文又は作品	○	○	○	○
	平常点		○	○	

評価割合	論文又は作品は70％ 平常点は30％
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日３限、４限　１３０７研究室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（石綱）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	本演習および後期の進め方 各自の研究について、これまでに行った内容を確認し後期の研究計画をたてる	後期の研究計画をたてる 各自必要な成果物の確認	90分
第2回	テーマ決定	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第3回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第4回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第5回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第6回	研究遂行	進捗報告会	研究遂行	90分
第7回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第8回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第9回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第10回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第11回	発表会準備	個別ディスカッション	プレゼンテーションの準備	90分

		発表要旨の準備	発表要旨の準備	
第12回	発表会準備	個別ディスカッション 発表要旨の準備	プレゼンテーションの準備 発表要旨の準備	90分
第13回	発表会準備	プレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの修正	90分
第14回	発表会準備	プレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの修正	90分
第15回	発表会準備	プレゼンテーションの練習 卒業研究のまとめ	プレゼンテーションの修正 卒業研究のまとめ データ引継ぎ	90分

学習計画注記	履修者数と研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	各自の研究計画に基づいて研究を遂行し、個別ディスカッションの中でフィードバックを行う。疑問・質問が生じた場合は、随時e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	以下の点について評価する。 平常点：研究に取り組む姿勢と態度。自ら計画を立て実行している。独自のアイディアを取り入れられた。 成果物：研究または制作の目的と意義を理解している。新規性が示されている。適切な調査研究を実施できたか。的確に成果をまとめ、考察しているか。提出期限や規定を守る。 発表：十分な準備。要点を抑えた明瞭な発表内容。態度と姿勢。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	
	成果物（要旨、論文または作品）	○	○		
	発表会のプレゼンテーション			○	○

評価割合	平常点30%、成果物（論文または制作）40%、発表30%で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	該当なし。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日2限　3609研究室
学生へのメッセージ	研究（または制作）の計画、実施、解釈、まとめ、発表等の一連のプロセスを通し主体的に学んで欲しい。個別ディスカッションには十分な準備をしてくること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（澤田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。 研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。 研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
技術・表現の観点（A）	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究計画の検討（１）	前期の研究をふまえて、後期の研究の方向と進め方・日程等を検討する。	研究計画の作成。	90分
第2回	研究計画の検討（２）	前期の研究をふまえて、後期の研究の方向と進め方・日程等を検討する。	研究計画の作成と資料調査。	90分
第3回	資料調査／試作品制作（１）	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分
第4回	資料調査／試作品制作（２）	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分
第5回	資料調査／試作品制作（３）	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分
第6回	中間のまとめ	研究の内容を整理し、論文のまとめ方の方針、最終作品の概要を確定する。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分
第7回	論文の作成／作品の制作（１）	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。	論文の作成と作品の制作作業。	90分
第8回	論文の作成／作品の制	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。	論文の作成と作品の制作作業。	90分

	作（２）			
第9回	論文の作成／作品の制作（３）	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。	論文の作成と作品の制作作業。	90分
第10回	研究のまとめ（１）	論文と最終作品を完成させる。	論文の内容の再検討。	90分
第11回	研究のまとめ（２）	研究内容についてディスカッションを行い、必要に応じて、訂正や追加の執筆や制作を行う。	論文の訂正、作品の追加制作。	90分
第12回	研究のまとめ（３）	研究内容についてディスカッションを行い、必要に応じて、訂正や追加の執筆や作品の制作を行う。	論文の訂正、作品の追加制作。	90分
第13回	発表の準備（１）	卒業研究要旨集の原稿の作成。	作品の制作、研究内容のまとめ。	90分
第14回	発表の準備（２）	卒業研究要旨集の原稿の作成。	研究内容の整理と研究要旨の作成。	90分
第15回	発表の準備（３）	発表原稿の作成と発表の練習。	パワーポイント資料の制作等、プレゼンテーションの準備。	90分

学習計画注記	研究計画は自分自身で常にチェックをし、進捗状況を確認するとともに臨機応変に研究・制作を進めること。
学生へのフィードバック方法	毎週実施するミーティングで研究の進捗状況を確認し、研究室のメンバーでも相互の批評・検討を行う。最後の発表会は、学科教員が出席して研究内容を確認する。
評価方法	作品等の成果物については、研究・制作の着眼点や目的、独自性、技術的な仕上がりの状況で評価する。 論文（研究の要旨）・発表の内容については、研究の意図や目的が分かりやすく示されているか、研究・制作の過程や考察の内容が、論理的に記述されているかといった点について評価する。 平常点は、研究への取り組みの姿勢、ゼミへの参加状況について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	作品等の成果物		○		○
	論文・発表の内容	○	○		○
	平常点		○	○	

評価割合	作品等の成果物30%、論文と発表の内容30%、平常点40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	木曜日2時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（齋藤史）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	衣・食・住・もの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点（K）	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	指導教員による個別指導(1)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第2回	指導教員による個別指導(2)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第3回	指導教員による個別指導(3)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第4回	指導教員による個別指導(4)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第5回	指導教員による個別指導(5)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第6回	指導教員による個別指導(6)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分

第7回	指導教員による個別指導(7)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第8回	指導教員による個別指導(8)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第9回	指導教員による個別指導(9)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第10回	指導教員による個別指導(10)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第11回	指導教員による個別指導(11)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第12回	指導教員による個別指導(12)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第13回	発表要旨の作成	発表要旨の作成	発表要旨の作成	180分
第14回	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	180分
第15回	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン準備	180分

学生へのフィードバック方法	適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。
評価方法	研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究の経過		○	○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	1)研究要旨の合否判定 2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	各自の問題意識による
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。 【思考・判断】諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能・表 現】専門的技能をもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日３限1607研究室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査対象への訪問調査。
情報リテラシー教育	○	ネット・図書による調査。
ICT活用	○	プレゼンテーション。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（森）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の総まとめとすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス統計処理の方法／グラフ・図・表の作成	統計処理の方法およびグラフ・図・表の作成方法を学ぶ。	自分の調査の統計処理をし、グラフ・図・表を作成する。	90
第2回	論文の表現１	論文に適さない表現を学び、文中不適切な部分を修正する練習をする。結果を発表し、相互に意見を出し合ってより良い表現にしていく。	論文の表現についての練習問題をやる。	90
第3回	論文の表現２	論文に適する表現を学び、まとまった文章をより論文にふさわしい文章に修正する練習をする。結果を発表し、相互に意見を出し合ってより良い表現にしていく。	論文の表現についての練習問題をやる。	90
第4回	論文の構成	論文の構成を学び、例示された論文をそれにあてはめて分析する。分析はグループワークで行う。	自分の論文の構成（アウトライン）を再検討する。	90
第5回	グラフ・図・表の使い方	グラフ・図・表の論文中での使い方を学び、自分の論文での計画を立てる。	自分の論文の中のグラフ・図・表の解釈文を考える。	90
第6回	引用の方法２	引用文献一覧等の書き方を学び、練習問題を通して形式を身につける。	自分の論文の引用文献一覧を作成する。	90
第7回	引用の方法３	自分の論文の引用部分を整理する。	どの部分に直接引用、どの部分に要約引用を用いるかを考える。	90

第8回	グラフ・図・表の使い方	グラフ・図・表の論文中での使い方を学び、自分の論文での計画を立てる。	自分の論文の中のグラフ・図・表の解釈文を考える。	90
第9回	本論の構成	本論の構成を学び、自分の論文の本論を執筆する。	本論の執筆をする。	90
第10回	結論の構成	結論の構成を学び、自分の論文の結論を執筆する。	結論の執筆をする。	90
第11回	要約の方法	要約の方法を学び、論文要旨を作成する。	論文要旨を修正し完成する。	90
第12回	レジュメの作成	レジュメの作成方法を学び、卒業研究発表会のレジュメを作成する。	レジュメを修正し完成する。	90
第13回	口述原稿の作成	口述原稿の作成方法を学び、卒業研究発表会の口述原稿を作成する。	口述原稿を修正し完成する。	90
第14回	発表の方法	発表の方法を学び、卒業研究発表会の準備をする。	発表のリハーサルし、時間に合わせて調整する。	90
第15回	卒業研究発表会	各自の卒業研究について発表し、質疑応答を行う。	卒業研究について振り返りを行う。	90

学生へのフィードバック方法	課題に対する口頭および書面によるコメント
評価方法	卒業研究の内容（内容、構成、表現、形式）、平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究の内容	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	卒業研究の内容80%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限（後期）
学生へのメッセージ	自分の興味を深めながら、それまでに習得した技術を駆使し、卒業研究を完成しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら設定した課題で研究を進める。
情報リテラシー教育	○	文献収集、調査・統計処理、論文作成および口頭発表を行う。
ICT活用	○	PCを駆使して資料を作成する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（富田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。制作の場合は服飾造形実習Cを履修していること。また、服飾造形実習Bを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究B（富田）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	制作・調査１	各自の後期の課題について、制作準備（材料調達、製図など）や調査（対象、人数、フォーム作成など）を学ぶ。論文の書き方、提出方法を学ぶ。	各自の後期の課題について内容・日程等の計画を立て、1回目の授業で提出すること。	90分
第2回	制作・調査２	制作準備（材料・道具の調達、製図など）や調査（具体的な計画・方法、解析法など）を学ぶ。	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。特に製図は、次回点検が受けられるように準備すること。	90分
第3回	制作・調査３	前期の試作を参考に制作し、調査（項目内容）を学ぶ。	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。	90分
第4回	制作・調査４	制作、調査（対象者、日程、項目内容の再確認）を学ぶ。	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。研究室の進捗状況の報告会の準備をすること。	90分
第5回	制作・調査５	制作準備（材料調達、製図など）や調査前準備について学ぶ。	各自に説明した課題を調べたり、制作を進めること。研究室の進捗状況の報告会の準備（実物、パワーポイン、写真など）をすること。	90分
第6回	進捗状況の	進捗情報について説明し、各自の進み具合を再検討する	報告会後は、日程修正を速やか	90分

	報告会	（7分、Zoomで全員参加）。論文を書く方法・提出の仕方を学ぶ。	に行って再計画を立てること。	
第7回	制作・調査６	制作の作業を進め、調査では実際に調査を行う手順を学ぶ。	制作を進めて60%完成させる。調査では集計方法を考えてくること。	90分
第8回	制作・調査７	制作の作業を進め、調査では集計、解析について学ぶ。	制作を進めて70%完成させる。調査では集計・解析について作業を進めること。	90分
第9回	制作・調査８	制作の作業を進め、調査では集計、解析について学ぶ。	制作を進めて80%完成させる。調査では結果から考察してくること。作品の中間点検の準備をする。	90分
第10回	制作・調査９	調査では結果（グラフ・表作成）と考察について、卒研発表会の要旨（結果・考察）のまとめ方、論文を書く方法などを学ぶ。	要旨（結果・考察）をまとめる。制作では85%完成させ、作品の中間点検の準備をする。	90分
第11回	制作・調査10	調査では結果・考察およに卒研発表会の要旨（結果・考察）のまとめ方を学ぶ。 作品の中間点検から今後の完成に向けての作業内容を学ぶ。 発表準備（パワーポイント）・論文を書く方法を学ぶ。	要旨（結果・考察）を完成させる。発表用パワーポイントを作成し、論文を書まとめる。 制作を進めること。	90分
第12回	作品・調査11	調査では結果・考察のまとめについて、作品のパワーポイントによる発表、口頭発表、展示発表について学ぶ。	パワーポイントによる発表、口頭発表の点検を受けて練習をすること。作品を完成させること。	90分
第13回	作品・調査12	完成作品の点検、撮影について、調査では結果・考察のまとめについて続きを学ぶ。	パワーポイントによる発表、口頭発表の点検を受けて練習をすること。	90分
第14回	作品・調査13	発表準備、論文提出、作品提出について学ぶ。	パワーポイントによる発表、口頭発表の点検を受けて練習をすること。	90分
第15回	卒研発表会の練習	口頭発表、パワーポインの内容最終確認、他の学生の発表を聴いて質問等による積極的な参加を学ぶ（10分、全員参加）。	発表（10分以内）になるように練習してくること。	90分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	調査内容、作品のコメント
評価方法	平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、調査内容、作品

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	調査内容	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、調査内容40%、作品40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	課題に対しては必ず事前に準備をすること。さらに、自分の健康について管理できる力、自主的な進め方を計画できる力などを身に付けるように心掛けでください。また、問題が生じて困った時には相談してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（深石）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学とそれに関する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合には、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用することができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して理論的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識をもって課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	今後のスケジュールと卒業研究の進め方	今後のスケジュールの確認、卒業研究の進め方を理解する。また、情報モラルや資料の収集方法等についての知識を得る（情報リテラシー教育）。 【設計の場合】施設内容の考案し、事例を調査する。計画敷地や周辺環境の下調べを行う。 【論文の場合】資料の収集方法や整理の方法を理解する。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第2回	取り組むテーマの決定	卒業研究で取り組むテーマの決定する（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】施設内容や建築用途、敷地の決定する。敷地等のデータを行う。 【論文の場合】既往研究の調査を行い、題目・目次案・研究の目的・方法・結論（仮）の策定を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第3回	コンセプトの決定	コンセプトの決定とレイアウトの大枠を捉え、必要な資料（図面）の確認を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】コンセプト案を複数提示し、コンセプトの方針を確定する。建物のゾーニングやボリュームを検討する。 【論文の場合】資料の収集と、目的・方法・結果（仮）を再考し、アプローチにに問題がないか確認する。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第4回	図面のエスキス（1）／資料収集	図面のエスキスや資料収集とデータ分析を行う。（アクティブ・ラーニング） 【設計の場合】配置図・平面図のエスキスを行い、配置	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授	90分

	とデータ分析	計画・平面計画を検討する。 【論文の場合】資料の収集とデータ分析を行う。	業内で議論できる資料を揃えておくこと。	
第5回	図面のエスキス（2）／データ分析と論文執筆	図面のエスキスとデータ分析等を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】断面図・立面図のエスキスを行い、断面計画・立面計画を検討する。 【論文の場合】データ分析と論文の執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第6回	図面の作図（1）／データ分析と論文執筆	図面のデータ化とデータ分析等を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図する。影や線の太さなど図面の効果的な作図ができる。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第7回	図面の作図（2）／データ分析と論文執筆	作図のデータ化とデータ分析を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図するとともに、図面相互の関係の最終確認を行う。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第8回	透視図の作図・模型制作・写真撮影／論文執筆	コンセプトを表した透視図の制作・模型製作や写真撮影の方法、写真の加工も行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】透視図・模型を制作し、写真撮影を行い、解像度の調整、トリミングやスタンプ機能等の写真の加工し適切な表現ができる。 【論文の場合】論文執筆に加え、図表の書き方を理解し、写真の加工ができるようになる。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第9回	レイアウト／論文執筆提出に向けた最終調整	レイアウトと論文執筆を行う（アクティブ・ラーニング）。提出に向けた最終調整を行う。設計・論文とも、出力データの最終の調整を行う。 【設計の場合】効果的なレイアウト方法を理解し、実践する。 【論文の場合】論文構成の最終確認を行い、不足している部分の追加作業を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。	90分
第10回	提出のための成果物の出力	A1版ポスターの出力を行い、提出のための体裁を整える。（情報リテラシー教育） 【設計の場合】出力データを印刷し、提出する体裁に整える。 【論文の場合】出力データを印刷、ファイリングをし、提出する体裁に整える。	A1版ポスターの縮小版をカラーで出力し、持参すること。 成果物出力時には、A3判カラー印刷で圧着貼りで提出の場合は、A1判ケント紙を枚数分を持参すること。	90分
第11回	要旨の作成	図表の修正や全体の構成の確認をした上で要旨の作成を行う。（情報リテラシー教育） 【設計の場合】図面やレイアウトの修正を行い、要旨を作成する。それに加えて、展示用模型の制作も始める。 【論文の場合】データの修正を行い、要旨を作成する。	要旨のたたき台を持参すること。	90分
第12回	要旨の完成	要旨の最終確認をし、完成させる。（情報リテラシー教育）。設計の場合は、展示用模型の制作を引き続き行う。	要旨の修正を持参すること。	90分
第13回	成果物の修正と再レイアウト	展示用A1版ポスターの修正を行い、レイアウトに関しても再考する。設計の場合はそれに加え、展示用の模型制作も同時に行う。	展示用A1版ポスターの修正を完成させる。	90分
第14回	発表原稿の作成	原稿の作成、発表練習に加え、展示用模型写真の撮影および、修正した展示用ポスターのレイアウトを行う。	修正をした展示用A1版ポスター（縮小したものでも可）の出力したものを持参すること。	90分
第15回	発表練習、要旨印刷	伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。また、発表会での発表の方法についても最終確認を行う。	発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしてくること。展示用模型を完成させ、修正を終えた展示用A1版ポスター5枚以上の再印刷を行う。指定された場所に展示を行う。論文の場合、本論も持参する。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	原則、授業時間内に個別に対応する。その他疑問点や相談は、オフィスアワーやアポイントを取った上日時を決めて、対応する。なお、授業に欠席した分については、必ず次回の授業までにオフィスアワー等を活用し、個別に指導を受けること。
評価方法	平常点（授業態度＋レジュメ提出や提出物）、成果物（設計図書または論文等）、要旨、発表の総合評価とする。 レジュメは、授業回数第1～9回までは、毎回A4判縦使い1枚に予習の成果をまとめ、ゼミの人数分印刷して持参すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
成果物	○			○
要旨	○	○		○

	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点30%、成果物50%、要旨10%、発表10%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	必要であれば、随時指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習活動を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	水曜１時限　3512研究室
学生へのメッセージ	卒業研究は、これまで学んできたことの集大成として、重要な位置づけとなっています。自分の興味のあることに取り組み、それをどのように問題提起し、解決していくのかを他人に分かりやすく伝えることが必要とされます。事前に十分な準備をし、主体的な授業への参加を望みます。主体的な授業への参加を望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、ゼミ形式で進める。必ず、他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら進める。
情報リテラシー教育	○	情報をアウトプットに関する論文の書き方、プレゼンテーション技法等についても、解説を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（佐々木）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木　麻紀子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究テーマに関わる概念や課題を理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点（K）	研究テーマを設定し、適した調査や分析方法を今あんすることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	課題に主体的に取り組むことがでる
技術・表現の観点（A）	研究テーマについて自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	卒業研究の進め方、提出までのスケジュールを理解し、今後の研究計画を立てる	これまでの研究成果を整理し、研究計画の修正を行う	90分
第2回	調査・実験・制作1	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第3回	調査・実験・制作2	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第4回	調査・実験・制作3	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第5回	調査・実験・制作4	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第6回	調査・実験・制作5	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第7回	調査・実験・制作6	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分

第8回	調査・実験・制作7	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第9回	研究のまとめ1	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。	各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成し、随時修正を行うこと。	90分
第10回	研究のまとめ2	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。	各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成し、随時修正を行うこと。	90分
第11回	研究のまとめ3	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。	各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成し、随時修正を行うこと。	90分
第12回	研究のまとめ4	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。	これまでの調査・実験・制作等の資料を整理し、卒業研究要旨の下書きを作成しておくこと	90分
第13回	研究のまとめ5	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。	卒業研究要旨の下書きを作成し、修正を行うこと。	120分
第14回	研究のまとめ6	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。	プレゼンテーション資料の下書きを作成しておくこと	120分
第15回	研究のまとめ7	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備・発表練習を行う。	プレゼンテーション資料の修正をしておくこと	120分

学習計画注記	・研究の進捗状況によりスケジュールに変更が生じる場合があります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・制作等に関する報告や提出された課題については講評や助言、添削などを随時行う。
評価方法	1）平常点は課題に対して授業内活動（報告・発表・ディスカッション等）への参加状況、指示された学習活動への取り組み姿勢、課題の提出状況などを総合的に判断し評価する。 2）研究要旨は課題の内容を理解し文章として表現できていることを評価する。 3）プレゼンテーションは課題の内容を十分に理解し、わかりやすく説明できていることを評価する。 4）卒業論文は課題に沿った十分な内容が記述されていること及び参考書やその他の資料からの記述を基に発展的な考察がされていることを評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	要旨	○	○		○
	プレゼンテーション	○			○
	卒業論文	○	○	○	○

評価割合	卒業研究の内容20%、要旨10%、プレゼンテーション10%、平常点60%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	個々に指示する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜2限　2406研究室
学生へのメッセージ	授業内だけではなく授業外にも自主的に調査・実験・制作などを行うこと

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各自の課題に対して、調査学習・問題解決学修・ディスカッション等の内容を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献検索方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法に関する内容を行う。
ICT活用	○	情報収集やプレゼンテーションのためにPCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（花田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマの確認	グループワークを行う。卒業研究Aの成果を整理し、発表する。卒業研究Aでの課題に基づき、卒業研究Bの研究計画を立案する。	〔予〕卒業研究Aの成果をレジュメにまとめ人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕研究計画を立案する。	90分
第2回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第3回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第4回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	90分
第5回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第6回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分

第7回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	90分
第8回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第9回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第10回	研究報告会ー要旨提出許可判定ー	グループディスカッションを行う。要旨提出許可判定審査として、研究テーマに対して取組んだこと全てに関するプレゼンテーション発表をにより報告する。	〔予〕自分の研究全ての内容報告のためのプレゼンテーション資料を作成し、発表できるように準備してくること。 〔復〕要旨提出許可判定結果に基づき、要旨を作成する。	90分
第11回	研究遂行と論文作成	要旨提出許可判定の結果に基づき、不足の研究を進める。論文作成について、個別ディスカッションを行う。要旨を提出する。	〔予〕提出要旨を作成してくること。 〔復〕論文作成の準備を進める。	90分
第12回	要旨とプレゼンテーション資料の検討	個別ディスカッションを行う。卒研B発表会の要旨とプレゼンテーションの内容、論文作成の検討を行う。	〔予〕プレゼンテーション資料の内容を検討してくること。 〔復〕検討内容に基づきプレゼンテーション資料を作成する。最終提出要旨を作成する。	90分
第13回	論文とプレゼンテーション資料の検討	グループディスカッションを行う。プレゼンテーション資料に基づき発表し、プレゼンテーション資料の内容を検討する。論文作成の個別ディスカッションを行う。	〔予〕プレゼンテーション資料を作成し、発表できるように準備してくること。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。論文の作成を進める。	90分
第14回	プレゼンテーション練習と論文の検討	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。論文作成の個別ディスカッションを行う。	〔予〕修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。論文の作成を進める。	90分
第15回	プレゼンテーション練習と論文の検討	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。論文作成の個別ディスカッションを行う。	〔予〕完成要旨を作成してくること。修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。発表練習を繰り返し行うこと。論文の作成を進めること。	90分

学習計画注記	研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。
評価方法	①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価） ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価） ③卒業研究発表会（理解力、構成力、表現力を評価） ④成果物（理解力、構成力、思考力、完成度　を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○
発表（卒研発表会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合	1)研究要旨の合否判定 2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 平常点30%　発表（報告会）20%　発表（卒研発表会）30%　成果物20%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	指定なし
参考図書	指定なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	木曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室
学生へのメッセージ	４年間の集大成として、積極的に取り組んでほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	テキスタイル材料学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D12101M21
授業概要(教育目的)	我々の生活に欠く事のできない被服を科学的に捉え、正しく理解するために、繊維製品に関する消費性能について考え、これらの性能を発現させるための原料となる繊維、繊維からなる糸、糸を組み合わせた織物・編物などの布帛について学び、主要な被服材料の化学的・物理的構造が被服にどのように反映されているのかについて考察する力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点（K）	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点（A）	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	テキスタイル材料学材料学って何？	テキスタイル材料学の講義内容について概説する。グループに分かれて、着用しているものについて、素材、色、形等を調査し、集計をして、発表する。	グループプワークの調査結果をまとめておくこと。	180分
第2回	被服着用の目的と繊維製品の消費性能	私たちはなぜ被服を着用しているのか、被服着用の目的と消費性能について学習する。	配付プリントの「被服着用の目的」「繊維製品の消費性能」を読んでおくこと。	180分
第3回	布帛について	布帛は、繊維や糸がどのように構成されできているのか、織物分解鏡で試料を観察する。また身近な布帛はどのようなものか調べる。	配付プリントの「布について」を読んでおくこと。	180分
第4回	織物の種類と構造	織物の基本構造三原組織とはどのようなものか組織図を理解する。	配付プリントの「織物の組織について」を読んでおくこと。	180分
第5回	織物組織資料の製作	三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を各自作成し、組織の構造と表記の仕方を理解する。	三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を完成させる。	180分
第6回	編物の種類と構造　その他の布帛	編物経編と横編を理解し、編物の基本組織学ぶ。近年、使用量の増加している不織布等、その他の布帛についても学習する。	配付プリントの「編物の組織について」を読んでおくこと。	180分
第7回	糸について	グループに分かれて、糸とはどのようなものか、繊維がどのように集合して糸を構成しているのか試料を分解しながら観察する。	配付プリントの「糸について」を読んでおくこと。	180分

第8回	糸の太さの表示	恒長式番手、恒重式番手の表示の仕方、糸の太さの計算を方法を理解する。板書した問題にグループで回答を導き出す。	配付プリントの「糸の太さの表示」を読んでおくこと。	180分
第9回	繊維について	被服材料の原料となる繊維とはどのようなものであるか理解する。	配付プリントの「繊維について」を読んでおくこと。	180分
第10回	繊維の分類ー天然繊維ー	天然繊維の構造と特徴の概要を理解する。	配付プリントの「天然繊維」を読んでおくこと。	180分
第11回	繊維の分類ー化学繊維ー	化学繊維の紡糸法を理解し、繊維製造の概要を理解する。	配付プリントの「化学繊維の紡糸法」を読んでおくこと。	180分
第12回	新しいテキスタイル材料	新しいテキスタイル材料についての概要を理解する。	配付プリントの「新しいテキスタイル」を読んでおくこと。	180分
第13回	テキスタイル製品と環境問題（１）	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている環境問題について理解する。（DVD観賞）	DVDを鑑賞し、印象に残った点、各自が問題だと感じた点についてまとめる。	180分
第14回	テキスタイル製品と環境問題（２）	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている環境問題について理解する。	配付プリントの「繊維製品と環境問題」を読んでおくこと。	180分
第15回	快適な衣生活のために	快適な衣生活のために必要なテキスタイル材料とはどのようなものか考察する	配付プリントを整理し、総復習をしておくこと	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 提出課題に対しての修正、コメント。
評価方法	①試験課題 ②課題提出（内容の理解、完成度、提出日の順守について評価） ③平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験課題	○	○	○	
	提出課題	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	

評価割合	筆記試験60% 提出課題20%　平常点20%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配布
参考図書	①衣服材料の科学（ISBN4-7679-1044-7　島崎恒藏編著　建帛社発行　平成14年第４刷） ②最新テキスタイル工学Ⅱ（ISBN978-4-908111-09-9　西松豊典編著　繊維社企画出版発行　2016年第２版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室 tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	衣繊維学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D22103M21
授業概要(教育目的)	糸や布の原料である繊維材料としての高分子、その集合体である繊維の構造や性質を微細構造的に捉え、天然繊維、化学繊維の特徴を理解する。更に、高感性繊維、高機能性繊維等の話題の繊維とその繊維に施された技術や発想の原点を学び、繊維を形成する高分子がいかに多彩に変身するか、いかに新しい性質を持つようになったか等について考察する力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点（K）	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	衣繊維学の概要と繊維製品の消費性能	衣繊維学の講義内容について概説する。繊維製品の消費性能とは何か理解する。グループに分かれて、着用している衣服を調査する。	グループワークの調査結果をまとめておく。身近にかわった繊維がないか調べておくこと。	180分
第2回	繊維高分子の構造	繊維の構造はどのようなものか、特に衣料用繊維は鎖状高分子であり、結晶性高分子であることが重要な要素であることを理解する。	配付プリントの「繊維高分子の構造」を読んでおくこと。	180分
第3回	セルロース繊維－綿・麻－	セルロース繊維である綿と麻の微細構造を理解する。	配付プリントの「セルロース繊維の構造」を読んでおくこと。	180分
第4回	タンパク質繊維（１）－羊毛－	タンパク質繊維である羊毛の微細構造を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維－羊毛－の構造」を読んでおくこと。	180分
第5回	タンパク質繊維（２）－絹－	タンパク質繊維である絹の微細構造を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維－絹－の構造」を読んでおくこと。	180分
第6回	再生繊維・半合成繊維	再生繊維（キュプラ、レーヨン）と半合成繊維（アセテート）の微細構造を理解する。	配付プリントの「再生繊維・半合成繊維」を読んでおくこと。	180分
第7回	合成繊維（１）	ナイロン繊維、ポリエステル繊維、アクリル繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「ナイロン繊維」「ポリエステル繊維」「アクリル繊維」を読んでおくこと。	180分

第8回	合成繊維（２）	ナイロン繊維、ポリエステル繊維、アクリル繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「ナイロン繊維」「ポリエステル繊維」「アクリル繊維」を読んでおくこと。	180分
第9回	合成繊維（４）ーその他の合成繊維、生分解性合成繊維ー	その他衣料用繊維として汎用性の高い繊維や、近年注目されている生分解性合成繊維の構造を理解する。	配付プリントの「その他の合成繊維」を読んでおくこと。	180分
第10回	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展（１）	高機能性繊維の発想の原点とその背景を理解する。	配付プリントの「高感性・高機能性繊維（１）」を読んでおくこと。	180分
第11回	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展（２）	高機能性繊維の製造技術の進展と技術要素を理解する。	配付プリントの「高感性・高機能性繊維（２）」を読んでおくこと。	180分
第12回	バイオミメティック繊維	バイオミメティック（生体模倣）の繊維の着眼点と技術要素を理解する。	配付プリントの「バイオミメティック繊維」を読んでおくこと。	180分
第13回	進化を続ける高機能繊維	繊維の製造技術は進化し続け、私たちの周りには従来品を超える新しい高機能繊維があふれていることを理解し、快適な衣生活とは何か考察する。	配付プリントの「進化を続ける高機能繊維い」を読んでおくこと。	180分
第14回	持続可能な衣生活	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている諸問題について理解する。DVD観賞。	DVDを見て感じた事、考えたことを整理してまとめておくこと。	180分
第15回	まとめ	持続可能で快適な衣生活のために必要な繊維とは何か考察する。	配布プリントを整理し、総復習をしておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
評価方法	筆記試験 平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	筆記試験	○	○	○	
	平常点	○	○	○	

評価割合	筆記試験80% 平常点20%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配布
参考図書	①衣服材料の科学（ISBN4-7679-1044-7　島崎恒藏編著　建帛社発行　平成14年第４刷） ②最新テキスタイル工学Ⅱ（ISBN978-4-908111-09-9　西松豊典編著　繊維社企画出版発行　2016年第２版） ③新繊維学材料入門（ISBN4-526-03172-01 宮本武明　本宮達也著　日刊工業新聞社発行 2004年） ④繊維の科学（ISBN978-4-526-07641-1　日本繊維技術士センター編　日刊工業新聞社発行　2016年）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
オフィスアワー	金曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室 tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション
情報リテラシー教育		

ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	被服整理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 園野　哲也	指定なし

ナンバリング	D32108M21
授業概要(教育目的)	衣服は、人が着用することによって人体から汗や皮脂、外部環境から泥や粉塵などの汚れが付着する。付着した汚れは、洗濯によって取り除かれ、衣服は清潔に保たれる。近年、加工により様々な性質を持つ繊維が現れ、その洗浄方法は複雑化している。この授業では、洗剤、洗濯用水、衣服の付着した汚れ、汚れの種類と洗浄方法について自然科学の視点から解説する。衣服の洗浄について基礎的知識を習得し、日常生活に応用することを目標とする。
履修条件	テキスタイル材料学を履修していることが望ましい.

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	洗剤や洗濯用水、衣服の付着した汚れ、汚れの種類と洗浄方法等について自然科学的に説明することができる。
思考・判断の観点（K）	洗剤や洗濯について正確な情報を収集して，論理的批判的に思考し，健康で快適な衣生活の設計と運用における，判断力が備わるようになる.
関心・意欲・態度の観点（V）	大学生として，大学の授業に臨む姿勢が備わるようになる.
技術・表現の観点（A）	GoogleClassroomをはじめ，様々なネットワークコンテンツにアクセスし，自分の必要な正しい情報が，適切に効率よく入手できるようになる.

学習計画

被服整理学2021のスケジュール

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	この授業の進め方，教科書の紹介，ヒトはなぜ服を着るか？ ヒトはなぜ洗濯をするのか？	オリエンテーション	予習：授業で使用するスライドは，できるかぎり授業前にGoogleClassroomに掲載いたします．スライドに一通り目を通しておいてください. 復習：この科目は復習重視としています. 授業スライドをみながら，ノートを充実させてください.	学習計画注記を参照.
第2回	被服の汚れ	教科書 第1章	同上	同上
第3回	洗濯用水と洗濯機	教科書 第2章	同上	同上
第4回	洗剤（1）	教科書 第2章	同上	同上
第5回	洗剤（2）	教科書 第2章	同上	同上
第6回	洗浄理論（１）	教科書 第4章	同上	同上

第7回	洗浄理論（２）	教科書 第4章	同上	同上
第8回	TA，TESと被服整理学中間試験	TA，TES資格取得に必要な，被服整理学分野の科目や過去問を紹介する. 中間試験を実施します.	同上	同上
第9回	中間試験の解説 家庭洗濯	中間試験の問題を持参してください. 教科書 第6章	同上	同上
第10回	商業洗濯	教科書 第7章	同上	同上
第11回	漂白と増白，糊つけと仕上げ，染み抜き	教科書 第8,9,10章	同上	同上
第12回	衣服の保管	教科書 第11章	同上	同上
第13回	衣服の廃棄とリサイクル 循環型社会の５R	教科書 第12章	同上	同上
第14回	家庭科教員採用試験と被服整理学期末試験	家庭科教員採用試験の過去問を紹介し，解説する. 期末試験を実施する	同上	同上
第15回	期末試験の解説，この授業のまとめ	期末試験の問題を持参してください.	同上	同上

学習計画注記	予習：授業で使用するスライドは，できるかぎり授業前に GoogleClassroomに掲載いたします．スライドに一通り目を 通しておいてください. 復習：この科目は復習重視としています. 授業スライドをみながら，ノートを充実させてください. 教室外学習の時間について 文部科学省の規定では，2単位の講義で，90分/週の授業に対して自修時間は4.5時間/週です. 実際には，大学の規定に従ってください. GoogleClassroomで連絡する事項は以下の通りである； (1) 授業で使用した，またはこれから使用する予定のスライド* (2) 試験に関する注意事項 (3) 過去問 (4) 緊急の連絡事項** (5) その他 * スライドはAdobeAcrobat形式のファイルで提供する. ファイルにはコピー＆ペースト，内容の変更，印刷に制限を かけている. **緊急の連絡等が遅滞なく受信できるように，リマインダー受信等の 登録を，授業開始までに確実に行っておくこと. （特に学年の切り替わりで，受信メールアドレスを変更した場合には， 各自の責任でGoogleClassroomネットの登録内容も変更しておくこと）
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に行う小クイズは，回収して次週に返却し， 課題の解説を行います.
評価方法	授業への積極的参加度 毎回の小クイズを含め，授業への参加度を評価します．（30点満点） 中間試験 第7回までの授業内容で，20点満点で中間試験を実施します. 期末試験 第1回～第13回の授業範囲で，50点満点で期末試験を実施します.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への積極的参加度	○	○	○	○
	中間試験	○	○		
	期末試験	○	○		

評価割合	授業への積極的参加度：30 % 中間試験：20 % 期末試験：50 % の総合評価とする。
使用教科書名(ISBN番号)	衣服管理の科学（衣の科学シリーズ） 片山 倫子（著），杉原 黎子（著），阿部 幸子（著），吉村 祥子（著） 建帛社

	本体価格：2,200円 ISBN-10: 476791048X ISBN-13: 978-4767910482
参考図書	授業中に適宜紹介します.
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間，被服，環境の相互関係から，「人間の衣生活」を理解できる専門的知識を有している. 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し，健康で快適な衣生活の設計と，運用における判断力を身につけている. 【関心・意欲・態度】大学生として，大学の授業に臨む姿勢を備えている.
オフィスアワー	非常勤講師のため，オフィスアワーはありません. 電子メールやGoogleClassroom等で，随時ご相談は受け付けます. 連絡方法は，授業冒頭で紹介します.
学生へのメッセージ	質問は授業中，授業終了後は対面で受け付けます. その他は，電子メール，GoogleClassroomのスレッドなどで随時受け付けます. 本科目の中心は洗濯です．各自が自分の生活の中で，洗濯（洗濯機洗い，手洗い，柔軟仕上げ，乾燥方法，仕上げと保管）を体験してください。また洗剤，漂白剤，柔軟剤，糊料などにはどのようなものがあるのか，ご自宅ではどのようなものを使っているのか，興味を持って調べてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回の小クイズ
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業に関する連絡事項は，できる限りGoogleClassroomを利用する. GoogleClassroomの運用方法は，上記学習計画注記を参照のこと.

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	染色加工学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D32106M21
授業概要(教育目的)	染色は古代から人類の生活に密接に関連する重要な分野で、多くの自然科学に関連する境界領域の科学である。色についての基礎的理解を深め、天然・合成染料の化学構造、化学構造と性質・分類などの一般的概念、及び染色の基礎理論を理解する。更に、伝統的な染色方法、現代の染色について学び、染色加工の問題について考察する力を育成する。
履修条件	なし（染色学実験を併せて履修することが望ましい）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点（K）	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	染色学の概要	染色学の講義内容について概説する。染色とはどのような現象か、染料と顔料の違いは何か理解できる。	身近な衣服で染料で染色されたものと顔料でプリントされたものを探してみる。	180分
第2回	染色の歴史	染色の起源はいつどのようなものであったか、またどのように発展してきたかを学び、染色に使われてきた天然染料と合成染料の概要を理解する。	配付プリントの「染色の歴史」を読んでおくこと。	180分
第3回	染色の方法と条件	浸染や捺染等の染色加工法の概要、及び、時間、温度、浴比、濃度等、染色時の設定条件を理解する。	配付プリントの「染色の方法と条件」を読んでおくこと。	180分
第4回	光と色	色を認識するためには、「光」「物体」「視覚」の三要素が必要であること、特に可視領域の電磁波と色は密接な関係があることを理解する。	配付プリントの「光と色」を読んでおくこと。	180分
第5回	染色性の評価法	染色化学においては、染料液の濃度や染色布の染着量などを科学的に測定することが基本となるため、染料液の吸光度測定と繊維表面の反射率測定により色素濃度を測定することを理解する。	配付プリントの「染料及び染色物の評価」を読んでおくこと。	180分
第6回	天然染料の概説と伝統的な染色方法	代表的な天然染料を染料の実物や染色物を確認しながら理解する。伝統的な染色技法についても解説する。	配付プリントの「天然染料」を読んでおくこと。	180分
第7回	染色の基礎理論	染色過程における染料の染着挙動、繊維内部への拡散挙動を理解する。	配付プリントの「染色とは」を読んでおくこと。	180分

第8回	合成染料の概説	合成染料開発の背景を理解する。	配付プリントの「合成染料」を読んでおくこと。	180分
第9回	合成染料の分類	各種合成染料の特徴を理解し、各々に適用繊維があることを理解する。	配付プリントの「合成染料の分類」を読んでおくこと。	180分
第10回	繊維と染料の結合力	繊維と染料間に結合力（ファンデルワールス結合、水素結合、イオン結合、共有結合と配位結合）が生じるために染色ができることを理解する。	配付プリントの「結合の種類とその力」を読んでおくこと。	180分
第11回	セルロース繊維の染色	セルロース繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「セルロース繊維の染染色機構」を読んでおくこと。	180分
第12回	タンパク質繊維の染色	タンパク質繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第13回	合成繊維の染色	合成繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「合成繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第14回	染色に関するトラブル	染色物の変退色、事故品、色に関わるトラブル、染色の環境問題について理解する。	配付プリントの「染色に関するトラブル」を読んでおくこと。	180分
第15回	まとめと試験	繊維に適した染色について総括的に理解する。	配布プリントを整理し、総復習をしておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
評価方法	筆記試験、平常点
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	筆記試験	○	○	○	
	平常点			○	

評価割合	筆記試験80%　平常点20%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配布
参考図書	①染色　理論と工芸染色（青木美津枝　飯島敏郎　蓮見幸子共著　柴田書店発行　昭和61年三訂版第６刷） ②染色って何？やさしい染色の化学（ISBN978-4-9902580-4-7　繊維応用技術研究会編　繊維社企画出版発行　2015年第３版） ③染色加工学（一般社団法人　日本衣料管理協会出版部会編　日本衣料管理協会発行　2020年2月）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
オフィスアワー	金曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室 tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Googleによる双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	染色加工学実験		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D32107M23
授業概要(教育目的)	染色学の講義で習得した知識をもとに、１）酸性染料の合成と羊毛の染色　２）ナフトール染料による木綿の染色　３）塩基性カチオン染料によるアクリルの染色　４）建染め染料による木綿の染色　５）天然繊維、合成繊維に対する各種染料の染色等のテーマについて、さまざまな染色条件での実験や測色に関する実験を実施し、染色に関する基礎理論を理解し、実践できる力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点（K）	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	繊維製品の諸課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点（A）	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	実験プログラムの説明	染色学実験で行う実験内容、試料、器具の取り扱い等について概要を説明する。 レポートの書き方や情報検索の方法についても解説する。	実験書を確認し授業の全体像を確認する。実験やレポート作成に必要なものを準備する。	45分
第2回	酸性染料OrangeⅡの合成（１）	酸性染料OrangeⅡの合成方法を理解し、グループ毎にカップリング反応の準備をする。	実験書（p.1～2）「酸性染料OrangeⅡの合成」の英文を訳してくること。	120分
第3回	酸性染料OrangeⅡの合成（２）	ジアゾ化反応、カップリング反応を理解し、グループ毎に酸性染料OrangeⅡを合成する。	実験書（p.1～3）「酸性染料OrangeⅡの合成」の英文と「Direction」を読み、OrangeⅡの合成方法を確認しておくこと。	60分
第4回	酸性染料OrangeⅡによる羊毛繊維の染色	合成した酸性染料OrangeⅡを使用し、羊毛繊維の染色を行う。グループ毎に酸性度の条件を変化させ、酸性染料の染色に及ぼす酸性度の影響について考察する。	実験書（p.4～6）「OrangeⅡによる羊毛の染色」を読んでおくこと。 酸性染料OrangeⅡの合成と羊毛繊維の染色のレポートを作成する。	135分
第5回	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（１）	グループ毎に繊維上で染料を合成する染色法のナフトール染料を用いて木綿の染色を行う。下付け液を合成し、顕色剤として、Fast colour saltを用いる。更に、ソーピングの方法と効果を理解する。	実験書（p.7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読んでおくこと。	60分

第6回	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（2）	グループ毎にジアゾ化反応を行い、顕色剤を合成してナフトール染料による木綿の染色を行い、不溶性アゾ染料の染色方法を理解する。	実験書（p.7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読み、顕色剤の合成方法を確認しておくこと。 ナフトール染料による木綿の染色のレポートを作成する。	120分
第7回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（１）	カチオン染料によるアクリル繊維の染色を行う。グループ毎に染色温度を変化させ、染着に及ぼす温度効果について検討する。	実験書（p.18～20）「アクリル繊維の染色」を読んでおくこと。	60分
第8回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（２）	カチオン染料水溶液の検量線の作成、及び、アクリル繊維を染色した後のカチオン染料残液の可視吸収スペクトル測定を行い、染着量を算出する。	可視吸収スペクトル測定値より、検量線となるグラフ、及び染着量の温度依存性の結果をグラフにまとめる。	90分
第9回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（３）	カチオン染料で染色したアクリル繊維の測色を行う。試料の反射率測定の結果から、K/S値を算出し、染色された色を客観的に分析する。	カチオン染料によるアクリル繊維の染色のレポートを作成する。	120分
第10回	木綿の建染め染料による染色（１）	インジゴのハイドロサルファイト建染め染料を用いて木綿の染色を行い、建染染料の染色機構を理解する。参加回数の効果について検討する。	実験書（p.21、22、24、25）「木綿の建染め染料による染色ーインジゴのハイドロサルファイト建染め染料ー 」を読んでおくこと。	60分
第11回	木綿の建染め染料による染色（２）	アントラキノン系建染め染料を用いて、温浴法中色染色により木綿の染色を行う。染色時間の効果について検討する。	実験書（p.23、26、27）「木綿の建染め染料による染色ーアントラキノン系建染め染料ー 」を読んでおくこと。 木綿の建染め染料による染色のレポートを作成する。	120分
第12回	各種染料による染色（１）	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計６種を染色温度と時間の条件を変化させ、直接染料と酸性染料で染色実験を行う。	実験書（p.28、29、30）「各種染料による染色」「直接染料による染色 」「酸性染料による染色」を読んでおくこと。	90分
第13回	各種染料による染色（２）	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計６種を染色温度と時間の条件を変化させ、塩基性染料と分散染料で染色実験を行う。	実験書（p.28、31、32）「各種染料による染色」「塩基性 染料による染色 」「分散染料による染色」を読んでおくこと。	90分
第14回	各種染料による染色（３）	三大天然繊維と三大合成繊維計６種を、染色温度と時間の条件をを変化させ、４種の染料で染色した試料を整理、分析し、繊維による染色性の違いと温度と時間の効果を総合的に考察する。	各種染料による染色のレポートを作成する。	120分
第15回	総合的考察	全体の実験結果を振り返り、各種染料の用法と染色方法、染料と繊維の染着機構を考察する。	繊維と染料間に働く親和力について整理する。	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。実験レポートへのコメント。
評価方法	①実験レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲　の程度を評価） ②平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度　の程度を評価）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験レポート	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	レポート60%　平常点40%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	染色学実験実験書
参考図書	①染色　理論と工芸染色（青木美津枝　飯島敏郎　蓮見幸子共著　柴田書店発行　昭和61年三訂版第６刷） ②染色って何？やさしい染色の化学（ISBN978-4-9902580-4-7　繊維応用技術研究会編　繊維社企画出版発行 2015年第３版） ③染色加工学（一般社団法人　日本衣料管理協会出版部会編　日本衣料管理協会発行　2020年2月）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室 tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。

学生へのメッセージ	各実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アパレル設計論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D22206M21
授業概要(教育目的)	被服設計の基礎知識として衣服の分類、人体の構造と計測、体型の特徴と衣服、JISサイズ、身頃原型の設定、身頃・袖・衿・スカート原型のデザイン展開、服飾素材・副資材の選定、立体化の技法などを学び、衣服製作の設計力をつけることを目的とする。また、副資材（ファスナー）の企業の講師による特別授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレル設計論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	人体計測１	既製服の誕生から量産の背景、量産のために必要な人体計測機器について理解する。	教科書「人体形態の把握」（5～11）を読んでおくこと。	180分
第2回	人体計測２体型の特徴	計測方法について理解し、身頃原型の製図に必要な項目をグループで計測する。個体差、成長と老化、性差、人種差について理解する。	教科書「基準線から」（11～30）を読んでおくこと。計測は衣服の上から行うが、厚い上着の場合は脱げるような服装でくること。教科書「人体分析」（32～36）を読んでおくこと。	180分
第3回	パターン設計１（身頃原型）	立体的な人体と平面的な身頃原型について立体裁断の身頃から形態を把握する。身頃原型の製図作成のための計測値の算計方法を学ぶ。	教科書「パターン設計」（37～40、45～46）を読んでおくこと。	180分
第4回	パターン設計２（身頃原型）	実物大の身頃原型の製図を書くことができる。シーチング（生地）の扱い方を学ぶ。	教科書「パターン設計」（46～48）や配付プリントを読んでおくこと。製図の点検後は、直しのある場合は修正すること。後期の「服飾造形実習Ｂ」で使用するので各自保管すること。	180分
第5回	パターン設計３（原型作成）	製図からシーチングに原型をトレースし、裁断、印付付けの方法を学ぶ。	印付けまで済ませておくこと。	180分
第6回	パターン設計４（原型作成）	ダーツ（AHダーツ、肩ダーツ、ウエストダーツ）の縫製方法を学ぶ。（ミシンまたは手縫いで行う。）	ダーツ縫いを済ませておくこと。	180分

第7回	パターン設計５（原型作成）	（肩、脇、裾、AH）の縫製方法・試着点検のやり方と補正の仕方を学び、完成させて試着点検の準備をすることができる。（ミシンまたは手縫いで行う。）	縫製はすべて完成させること。試着点検は各自の都合の良い時間に行うので準備をしておくこと。	180分
第8回	ダーツ展開１	バストダーツの移動についてその意味と方法を理解する。	教科書「パターン設計」（46～48）、教科書「バストダーツの移動」（41～43）を読んでおくこと。	180分
第9回	特別授業（副素材）	副素材のファスナー・スナップについて株式会社ＹＫＫの講師によって講義を行う。実務経験を活かした授業である。	配付プリント、資料の整理すること。	180分
第10回	ダーツ展開２ 衿の製図１	肩ダーツの移動についてその意味と方法を理解する。衿の製図（シャツカラー1/4）の製図を理解する。	教科書「肩ダーツの移動」（44）、「衿の作図」（54～55）を読んでおくこと。	180分
第11回	衿の製図２	基本シャツカラー（1/4）から、各種の衿に展開し、衿の上がり寸法の変化について理解する。	教科書「衿の作図」（54～55）を読んでおくこと。服飾造形実習Ｂの課題に関連するので衿の製図手順を整理しておくこと。	180分
第12回	袖の製図１	基本のセットインスリーブの製図（実物寸法）と袖山、袖幅の関係を理解する。	教科書「袖の作図」（51～54）を読んでおくこと。服飾造形実習Ｂで使用するので、点検後の製図は保管しておくこと。	180分
第13回	袖の製図２	基本のセットインスリーブからパフスリーブへの展開を学ぶ。	教科書「袖の作図」（51～54）を読んでおくこと。	180分
第14回	スカートの製図（下肢を包むもの１）	基本タイトスカートからセミタイトスカート、フレアスカート、ギャザースカーへの展開とその方法を学ぶ。	教科書「スカート」（60～63）を読んでおくこと。学ぶ	180分
第15回	素材の選定	標本を作成し、天然繊維（木綿）、化学繊維の薄物生地について特徴と用途を学ぶ。	素材の特徴、用途をまとめること。	180分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	提出物（身頃原型、その他）の課題に対するコメント
評価方法	平常点（授業への参加状況・課題提出期日などで総合的に判断する）、提出物（身頃原型の製図、その他）、レポート

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	提出物	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	

評価割合	平常点30%（授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する）、提出物（身頃原型の製図）30%、レポート40%
使用教科書名(ISBN番号)	「アパレル生産実習・アパレル設計実習」一般社団法人日本衣料管理協会 （3年「アパレル生産実習」でもこの教科書を使用する。）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	身頃原型は服作りで最も基本的な体型を表現する基型になるものです。 この授業では身頃原型を製図し、後期の服飾造形実習Bで使用しますので履修する学生は保管しておいてください。また、パターンに関する基礎力を付けたい方やパターンメーキング検定試験の受験を希望する方は、この科目で関連した内容を扱うので履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	副資材を扱っているファスナーの企業の講師を特別授業で依頼している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ウィービングデザイン演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場　美和子	指定なし

ナンバリング	D22302M22
授業概要(教育目的)	テキスタイル材料学で学んだ織物に関する基礎知識をもとに、目的や用途に合った布地、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に企画、設計、素材選定できる力を身に付けるため、手織機により三原組織（平織･斜文織･朱子織）のうち平織、斜文織の設計及び制作を行う。テキスタイルデザインの基礎的な理論と技術を理解する力を育成する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．織物組織、糸と密度の関係、風合いについて理解を深める。 ２．手織機の構造を理解する。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	１．用途に合った布の仕上げ、表現ができる。 ２．手織機のセッティングと操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	織物の概要。 基礎制作「三原組織の色糸効果」の課題説明。 一人一台手織機を使用し２色以上のコントラストのはっきりしたウール糸を用いて配列を作りパターンを製作する。	経糸の配色のイメージを決める。機結びを練習する。	120分
第2回	基礎織：三原組織の色糸効果	整経をする。 機ごしらえをする。 織り機の名称と機能を理解する。	整経を終わらせる。	120分
第3回	基礎織：三原組織の色糸効果	機ごしらえをする。（筬通し・綜絖通し・経糸の巻き込み・織り付け）	機ごしらえを終わらせる。	120分
第4回	基礎織：三原組織の色糸効果	平織を織る。	平織を織り終える。	120分
第5回	基礎織：三原組織の色糸効果	斜文織を織る。	斜文織を織り終える。	120分
第6回	基礎織：三原組織の色糸効果	平織と斜文織の組織図作成。 房のしまつをする。	平織と斜文織の組織図を完成させる。 房のしまつを終わらせる。	180分

第7回	基礎織：三原組織の色糸効果	布の縮絨をする。 応用制作のガイダンス	布の縮絨を終わらせる。	120分
第8回	応用制作：「食を彩るランチョンマット」	テーブルコーディネイト、メニューを考え、料理に映えるランチョンマットを企画する。 組織を決め、デザインを考える。	組織を決め、デザインを決定する。	予習：180分　復習：240分
第9回	応用制作：「食を彩るランチョンマット」	糸を決める。 織物設計表を作成する。	織物設計表を完成させる。	120分
第10回	応用制作：「食を彩るランチョンマット」	機ごしらえ（整経）	整経を終わらせる。	120分
第11回	応用制作：「食を彩るランチョンマット」	機ごしらえ（筬通し・綜絖通し・経糸の巻き込み・織り付け）	機ごしらえを終わらせる。	120分
第12回	応用制作：「食を彩るランチョンマット」	製織	製織を終わらせる。	240分
第13回	応用制作：「食を彩るランチョンマット」	ランチョンマットの房のしまつと仕上げをする。	ランチョンマットの房のしまつと仕上げを終わらせる。	180分
第14回	応用制作：「食を彩るランチョンマット」	テーブルコーディネートをし、写真を撮る。	写真を撮り終える。 A4サイズの用紙にタイトル、コンセプト、写真を貼り付ける。	予習:120分　復習：240分
第15回	講評会	基礎制作と応用制作の講評をする。	提出物のまとめをする。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	期末提出物は採点し、返却する。
評価方法	期末提出物は2課題とし、 第1課題「基礎制作」は織物組織を理解しているか、布の仕上げが出来ているかを評価。 第2課題「応用制作：食を彩るランチョンマット」は 制作意欲やアイデア、仕上げの丁寧さ、プレゼンテーション（発表）を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末提出物	○			○
	平常点・授業姿勢	○	○	○	
	講評会（発表含む）		○		○

評価割合	期末提出物（基礎・応用制作作品・織物設計表など）60% 平常点・授業姿勢（作業記録レポート含む）　30% 講評会5%　発表5%
使用教科書名(ISBN番号)	プリント資料配布
参考図書	ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具　岸田幸吉著 1978年10月美術出版社 手織のデザイン基礎編　長谷川変子著 1979年9月源流社 ハンドウィービング手織りの実習　浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」について専門的知識・技能を有している。グローバルな視点から「衣」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
学生へのメッセージ	織り実習では織機を１人１台使用します。毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにしてください。手織りで布を織ってみたい方、歓迎です！ファブリックで生活に彩りを添えませんか？

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	衣環境衛生学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 丸田　直美	指定なし

ナンバリング	D32110M21
授業概要(教育目的)	快適で健康的・機能的な被服の在り方を人体の生理衛生的観点から理解するため、被服の条件を「気候への適応性」「運動・動作への適応性」「皮膚の生理・衛生」の３つの視点から捉え、適切な被服素材、設計、着装が選択でき、現代社会における被服の健康問題について考察する基礎的な知識を習得することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	被服の素材、デザイン、着方および環境を含む衣生活全般について、専門的な知識を含めて修得し、その内容を説明できる。
思考・判断の観点（K）	快適で健康的・機能的な被服の在り方について、適切な被服素材、設計、着装の選択について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣料管理士として、健康的な衣生活について専門的な知識や情報収集能力を持つことを自覚できる。
技術・表現の観点（A）	人体生理衛生に関する事象に対して実証的に調べる基礎的な方法を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	被服による健康確保の概論および歴史的背景	オリエンテーション 衣環境衛生学の目的、研究対象と範囲、快適性・健康とは何か。 アパレルが健康に及ぼす影響や健康増進に果たす役割を人間の生理に基礎をおいて捉えることの重要性について概説する。	予習：テキストの熟読	予習30分
第2回	体温と皮膚温	人間の体温は環境温度が変化してもほぼ一定に保たれるが、皮膚温は環境温度によって変化する。これらの仕組みについて体温調節の観点から概説する。	予習：体温、皮膚温について理解をする。 復習：自分の平熱を測定して、1日の体温変動を調べるフィールドワークを行う。体温変動について考察しレポートを作成する。	予習30分、復習180分
第3回	人体における産熱	人体のエネルギー代謝の仕組みや種類、特徴について概説する。 自分の基礎代謝や一日のエネルギー代謝について調べ、自分自身の身体について理解を深める。 自身の一日の行動内容とエネルギー代謝量の関係を演習を通して確認する。	予習：テキストよりエネルギー代謝のしくみについて理解を深める。 復習：授業で取り上げた日以外の日を取り上げて、再度行動内容とエネルギー代謝について復習をする。	予習30分、復習60分
第4回	人体からの熱の放散	人体からの熱の放散には4種類あり、その概念について概説し、自分の周りに起こっている熱の移動現象について理解を深める。	予習：日常生活での熱移動現象についてテキストを熟読しながら理解を深める。 復習：日常の動作がどの放熱現	予習30分、復習30分

			象によるものか、小テストで確認する。	
第5回	体温調節機構	人体の体温調節機構について説明し、人間の体温調節の仕組みを理解する。	予習：体温調節のしくみについてテキストで予習する。 復習：自律性体温調節と行動性体温調節の違いがきちんと説明できるように復習をする。	予習30分、復習60分
第6回	環境の温熱条件	環境条件を説明するための温熱因子、総合的な指標としての温熱指標にはどのようなものがあるのかを解説し、生活の中での温熱因子や温熱指標について理解する。	予習：テキストを熟読し、身の回りの温熱指標について理解しておく。 復習：環境と被服の関わりを復習し、快適な衣生活のための被服の役割について考えをまとめる。	予習30分、復習60分
第7回	衣服による気候調節	我々は衣服を着ることで、暑い時でも寒い場所でも手軽に快適な状態を得ることができる。どのような衣服が気候調節に優れているのか、気候調節の観点から効果的に衣服を着るにはどうしたらよいのかを考える。また、快適な着衣を考える上での基本的な性能について、衣服の素材や形態に着目して学修する。	予習：衣服気候とはどういうものか調べておく。 復習：自分の持っている衣服を用いて、暑さ寒さに対応した衣服のコーディネートを考える。	予習30分、復習60分
第8回	環境に適した着衣量（衣服の保温性の評価）	暑さ寒さに対応した快適な着装をするための指標として、衣服の保温性（熱抵抗）を表すクロ値（clo値）について概説する。 演習として、各自の着衣のクロ値を計算し、季節ごとにどのくらいのクロ値を着用しているのかを調べ、適正着衣量について考える。	予習：クロ値（clo値）とはどういうものか理解しておく。 復習：実際に着用していた四季の衣服の着衣量（保温性）について調べ、環境との関係をまとめる。	予習30分、復習60分
第9回	暑い季節に適した衣服	暑い環境において、具体的にどのような衣服を着用すればよいのか、衣服の形態、着装方法、重ね方などについて、科学的データをもとに解説し、理解を深める。さらに、今後の自分の着装行動に応用できるようにする。	予習：暑い環境への対策と適した衣服について、テキストで理解しておく。 復習：暑い環境で実際にどのような衣服を着用するか、自分事として考える。	予習30分、復習60分
第10回	寒い環境に適した衣服	寒い環境において、具体的にどのような衣服を着装すればよいのか、衣服の形態、着装方法、重ね方などについて、科学的データをもとに解説し、理解を深める。さらに、今後の自分の着装行動に応用できるようにする。	予習：寒い環境への対策と適した衣服について、テキストで理解しておく。 復習：寒い環境で実際にどのような衣服を着用するか、自分事として考える。	予習30分、復習60分
第11回	身体の拘束の指標としての衣服圧	衣服圧は、身体を拘束し着用時の無効仕事量を増大させるため、重要な指標として用いられている。そこでまず、衣服圧の発生要因とその測定方法を理解し、日常衣服での衣服圧について考える。	予習：衣服圧についてテキストを読んで理解する。身の回りの衣服による締め付けについて考えてみる。 復習：身の回りの衣服による締め付けについて考え、衣服圧による不快感の軽減方法や快適な衣生活の方法を考える。	予習30分、復習60分
第12回	衣服圧の人体への影響とアパレルにおける有効活用	過度な衣服は健康に害をもたらす一方、適度な衣服圧は身体によい影響を及ぼし、生活の質の向上に資することも報告されている。そこで、衣服圧の影響についてその基本を理解するとともに、衣服圧の功罪をしり、適切なアパレルの選択ができるように理解を深める。	予習：衣服圧による人体への影響をテキストを読んで理解する。 復習：実際の自分の生活での衣服圧を考える。	予習30分、復習30分
第13回	アパレルと皮膚の生理・衛生	皮膚の構造や機能について概説し、皮膚に関連して、被服と汚れ、衣料による皮膚障害について例をあげて概説する。	予習：皮膚構造をテキストでより予習する。 復習：皮膚障害についてこれまでの経験をまとめる。	予習30分、復習60分
第14回	アパレルと健康をめぐる現代的課題	アパレルによる障害と対策、衣服による環境からの危害の防止、高齢者や障がい者などの衣服について考える。これらの人々が快適な衣生活、健康的な衣生活をすることができるように、みんなで話し合いながら問題解決を行う。	予習：快適で健康的な衣生活のための問題について考えながらテキストを熟読する。 復習：快適で健康的な衣生活のための問題について自分お考えをまとめる。	予習60分、復習120分
第15回	アパレルと環境	アパレルと環境についてこれまでの学習のまとめを行う。	学修した内容を生かして、今後の衣生活を快適で健康的に過ごす。 実際の日常生活で学びがどれだけ生かされるかが大切です。	無限

学生へのフィードバック方法	定期的にリアクションペーパーに記入してもらい、次回の授業でその内容や質問に関して学生にフィードバックを行う。
評価方法	平常点（授業態度や質問に対する応答、授業内演習等）、予習復習用の課題、レポート

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
予習復習用課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合	レポート（40%）、予習復習用課題（40%）、平常点（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	アパレル生理衛生論（一般社団法人　日本衣料管理協会）
参考図書	衣環境の科学（建帛社）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
学生へのメッセージ	できるだけ教科書に沿って授業を行う予定です。 事前に予習をしておいてほしいので、教科書の購入をお願いします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に取り組み、その結果等を授業内でディスカッションする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミニュケーションを行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし
准教授	深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D13101M22
授業概要(教育目的)	本授業は、近い将来、建築やインテリアのプロ（専門職）として、また、本学科で学んだ知識や技術を活かした職業に就くことを目指すための初歩的で基礎的な製図手法や技術を習得する演習授業である。住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型制作方法を学習する。
履修条件	特になし(建築士試験指定科目)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学ぶ。 基本的な建築やインテリアとしての建築製図分野の全般的な知識を習得する。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学ぶ。 基礎的な図面の表現法及び手法〈技法〉を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	課題１：線の練習	製図道具の種類、使い方について学び、線の引き方に関する課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、課題１を完成させる。	90分
第2回	課題２：レタリング・文字の練習	線の引き方に加え、建築製図に用いる文字の書き方に関する課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、課題２を完成させる。	90分
第3回	課題３：建築図面の表示記号	建築図面の表記に用いる表示記号に関する課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、課題３を完成させる。	90分
第4回	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－１	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第5回	課題４：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－２	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第6回	課題４：木造住宅／配	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、課題４を完成させる。	90分

	置図・平面図の表現方法－３			
第7回	課題５：木造住宅／断面図・立面図の表現方法－１	木造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第8回	課題５：木造住宅／断面図・立面図の表現方法－２	木造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、課題５を完成させる。	90分
第9回	課題６：ＲＣ住宅／平面図の表現方法－１	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第10回	課題６：ＲＣ住宅／平面図の表現方法－２	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、課題６を完成させる。	90分
第11回	課題７：ＲＣ住宅／断面図・立面図の表現方法－１	鉄筋コンクリート造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第12回	課題７：ＲＣ住宅／断面図・立面図の表現方法－２	鉄筋コンクリート造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	（復習）授業内容を確認し、課題７を完成させる。	90分
第13回	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－１	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。	90分
第14回	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－２	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。	（復習）授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。	90分
第15回	課題８：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－３	課題６、課題７をもとに、建築模型を製作する。	（復習）授業内容を確認し、課題８を完成させる	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業時間内は教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。提出された課題は採点後に講評とともに返却する。
評価方法	授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。 提出された課題は完成度によって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○			
	課題	○			○

評価割合	平常点：15%、課題：85%による総合評価とする。但し全課題提出を条件とする。
使用教科書名(ISBN番号)	「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6 「図解 すまいの寸法・計画事典」岩井一幸・奥田宗幸 ／彰国社／2004／4-395-10032-5
参考図書	その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している 【技能・表現】社会に対して洗練された表現力で課題解決策を発信するための基礎的な力を身につけている
オフィスアワー	金曜３時限　3508研究室（小池） 金曜２時限　3512研究室（深石）
学生へのメッセージ	図書館にある新建築や新建築住宅特集、住宅建築などの建築雑誌を読むことを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし
准教授	深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D13102M22
授業概要(教育目的)	住宅の設計作図を通して、設計技術、作図技術、プレゼンテーション技術などの習得と上達を目指す。平面図、立面図、断面図、パースなどの作図を行い、模型を作成する。さらに、図面の着彩、模型写真の撮影などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。
履修条件	住居デザイン演習Ａを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する
思考・判断の観点（K）	住まい手の求める生活像と住宅の適合性について判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	住まい手の求める生活像について積極的に考え、提案できる
技術・表現の観点（A）	住宅設計作品について、図面・パース・模型・写真を用いて表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	課題説明、家族構成・コンセプト立案	（アクティブラーニング：グループワーク） シラバス・授業の運営方法の説明。課題説明後、コンセプト等立案のための資料収集を実施し、それを提示しながらコンセプト案について発表する。	（予習）自分が住みたい住宅として、どのような住宅とすべきか（仮想の）家族構成も含め、その構想をまとめる （予習）はさみと糊を持参する	130分
第2回	エスキース（配置図・平面図）	平面や配置図の表現方法を再確認し、配置図・平面図のエスキスをで表現する。また、必要な室や大きさ、そのつながりを視覚的に把握し、室のつながりを検討する。	（予習）教科書①第2章の「2-1.配置図」（18～19ページ）「2-2. 平面図」（20～23ページ）を読んでおく （復習）平面図のエスキスを完成させておく	130分
第3回	エスキース（断面図）	断面図の表現方法を再度確認し、断面のエスキスで表現する。また、平面図との関係を再考し、齟齬を修正する。	（予習）教科書①第2章の「2-3. 断面図」（24～27ページ）を読んでおく （復習）断面図のエスキスは完成させておくこと	130分
第4回	エスキース（立面図）	立面図の表現方法を再度確認し、立面のエスキスで表現する また、2～4回の授業で描いた各種図面の相互関係を確認し、必要に応じて修正を行う	（予習）教科書①第2章の「2-4. 立面図」（28～31ページ）を読んでおく （復習）立面図も含めた各図面のエスキスを完成させておく	130分
第5回	清書（配置図・平面	配置図・平面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する	（予習）教科書①第2章の「2.平面図」（20～23ページ）を再	130分

	図）	また、配置図・平面図エスキスを清書として表現する （情報リテラシー教育）	度読んでおく （予習）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する	
第6回	清書（断面図）	断面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、断面図エスキスを清書として表現する	（予習）教科書①第2章の「2-3. 断面図」（24～27ページ）を再度読んでおく （予習）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する	130分
第7回	清書（立面図）	立面図のエスキスを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、立面図エスキスを清書として表現する さらに10回目の授業で使用する模型材料について説明をする	（予習）教科書①第2章の「2-4. 立面図」（28～31ページ）を再度読んでおく （予習）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する	130分
第8回	パース作成（一点透視図法）－１	一点透視図法の原理を把握する。 また、表現する室とアングルを決定し、パースガイドを作成する。	（予習）5～7回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしてくる （予習）教科書①第7章の「7-4. 一点透視投影法」（116～117ページ）を読んでおく （復習）前回授業で作成したパースガイドは完成させておく	130分
第9回	パース作成（一点透視図法）－２	一点透視図法による作図手順を理解しながら、作図技術を習得し、人物や植物その他什器の書き方についても理解する。	（予習）参考にしたい家具等の写真を持参する （予習）トレーシングペーパー（A3版又は幅のロール）を持参する	130分
第10回	パース作成（一点透視図法）－３ 模型道具・材料の説明	必要な線をなぞり、パース原稿を清書する。	（予習）パースの下書きを完成させておく。	130分
第11回	模型製作－１	模型制作技法を理解する。敷地や、外壁を作成する。	（予習）5～7回目に清書した図面は、数枚づつコピーする （予習）自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する	135分
第12回	模型製作－２	模型制作技法を理解する 内壁や屋根、家具や人等も制作する	（予習）5～7回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしてくる （予習）自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する	135分
第13回	面積計算の方法 図面の寸法・文字貼り	面積計算の方法を理解する。図面等に寸法や文字を貼り込み印刷原稿を作成する。	（予習）図面等に貼り込む文字や数値をトレーシングペーパーの原稿をコピーしたものに朱書きする。	135分
第14回	模型写真の撮り方 レイアウトの手法 印刷（次回の授業開始前までに）	模型写真撮影技法を理解する。 レイアウトの基本を理解し、A2版レイアウト用紙に、図面やタイトル、写真等の配置の検討を行い、模型写真以外のものの仮止めを行う。	（宿題）レイアウト用紙に配置した図面等（模型写真を除く）を印刷（KVAショップ前コピー機の印刷代：80円/1枚）、キンコーズなどの外部印刷業者の使用も可	135分
第15回	着彩・仕上げ・プレゼンテーション・完成	アルコールマーカーによる着彩技法を理解する。図面やパースの着彩を行い、模型写真を貼り込む。授業前半で図面・模型の最終仕上げを行い、授業後半でそれらを用いたプレゼンテーションを行う。	（予習）14回目の授業で完成したレイアウト原稿をコピーしたもの、スティックのりを持参する 貼り付ける模型写真の大きさを検討し、現像若しくは印刷し、持参する。 （宿題）ポートフォリオの作成・印刷（PDF化）・提出	135分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業時間内は教員が随時質問を受け付ける。提出された課題に対してコメント・講評をおこなう。
評価方法	授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。 提出された課題は完成度、プレゼンテーション内容によって評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○

評価割合	平常点：30%、提出課題の完成度・プレゼンテーション内容：70%による総合評価とする。
使用教科書名(ISBN番号)	①「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6 ②「図解 すまいの寸法・計画事典」岩井一幸 ／彰国社／2004／4-395-10032-5 （住居デザイン演習Aと共通）
参考図書	その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる 【技能・表現】社会に対して洗練された表現力で課題解決策を発信するための基礎的な力を身につけている
オフィスアワー	金曜４限　3508研究室（小池） 水曜１限　3512研究室（深石）
学生へのメッセージ	新建築や新建築住宅特集、住宅建築などの建築雑誌を閲覧することを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。 自分が心地よいと感じる空間について、スケール、素材など、その空間の構成要素について注意を払うこと。また、設計は、段階を踏んで形になっていきます。毎回の作業が遅れると、他の部分に支障をきたしますので、終わらすべき作業は、次回の授業までに完成をさせ、授業には主体的に取り組んでください。毎回の製図道具一式の持参、その都度持参を指示するトレーシングペーパーや模型材料等の消耗品は、個人負担で用意してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	初回授業では設計コンセプトに関するグループワーク、個人の発表を実施する。最終授業では各自の設計した住宅の図面、模型を用いたプレゼンテーションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習Ｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木　穂波	指定なし
非常勤講師	塚田　豊	指定なし

ナンバリング	D23103M22
授業概要(教育目的)	RC造区分所有建物内の住宅（住戸）の設計、RC造独立建物の店舗の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた実在する区分所有のRCマンション躯体内部に、住宅（住戸）の設計を指導する。第2課題は、与えられたRC造の店舗ビル躯体内部に、店舗の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	区分所有住宅、店舗の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点（K）	区分所有住宅、店舗の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	区分所有住宅、店舗の内装デザインに関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	区分所有住宅、店舗における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

区分所有住宅、店舗の設計製図

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、課題説明	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（区分所有住宅）の説明をする。その後少人数グループに分かれて、区分所有住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める。	1LDK程度の区分所有住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	区分所有住宅の見学	可能ならば、設計に用いる区分所有住宅（実物）を見学し、寸法、面積を実際の建物で確認する。見学が不可能な場合は、各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを考え、教員の指導を受ける。	区分所有住宅の平面図、断面図を十二分に読み込んでくる。家族構成、設計コンセプトを考え、紙にまとめる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。家具の配置、床・壁・天井の仕上げ、照明の配置も同時に考え、平面図に記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図の作成	断面図2面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面のエスキース、製図を行う。	120分
第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。	パースの下図を作成する。	240分

第6回	模型の作成	模型を作成する。家具は必ず入れる。	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（店舗）について説明を行う。その後グループに分かれて、店舗の種類、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌で店舗の設計、デザインを見て、イメージを膨らませる。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。授業の後に、コンセプトボードは張り出される。コンセプトが不十分な場合は、再度、練り直す。	店舗の種類、コンセプト、デザインイメージについて、A3用紙1枚にまとめる。	240分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース。	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図の作成	断面図を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。	断面図のエスキース、製図を行う。	120分
第13回	パースの作成	店舗のメイン部分のパースを作成する。	パースの下書きを行う。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。家具、什器は必ず入れる。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
使用教科書名(ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野の区分所有住宅、店舗についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にある区分所有住宅、店舗の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にある区分所有住宅、店舗に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】区分所有住宅、店舗の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2時限　3602研究室
学生へのメッセージ	2年生前期はインテリアデザインに重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅や店舗の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。製図するうちに、立体と2次元の図面が結びついて考えられるようになり、後期の独立住宅へとつなげることができます。建築、インテリアの設計ができるようになるためには、多くの図面、パースを書く必要があります。それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、区分所有住宅、店舗の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。現場（区分所有住宅）にも見学に行く。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習Ｄ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木　穂波	指定なし
非常勤講師	塚田　豊	指定なし

ナンバリング	D23104M22
授業概要(教育目的)	RC造住宅、木造住宅の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた敷地と自らが想定した家族構成で、RC造住宅の設計を指導する。第2課題は、与えられた敷地と家族構成で、木造住宅の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	RC造、木造住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点（K）	RC造、木造住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	RC造、木造住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	RC造、木造住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、課題説明	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（RC造住宅）の説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める	RC造住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	エスキース	各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを考え、エスキースを始め、教員の指導を受ける。	家族構成、設計コンセプトを考えてまとめてくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。家具の配置も同時に考え、平面図に記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う	240分
第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる	パースの下図を作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する。家具は必ず入れる	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（木造住宅）について説明を行う。その後グルー	雑誌で木造住宅の設計、デザイ	120分

		プに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	ンの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。木造住宅のエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	木造住宅のメイン部分のパースを作成する。	パースの下書きを行う	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。家具、什器は必ず入れる。	模型の部品を作成する	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
使用教科書名(ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野のRC造、木造住宅についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にあるRC造、木造住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、木造住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】RC造、木造住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2時限　3602研究室
学生へのメッセージ	2年生後期は住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、木造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造、木造住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築デザイン演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし
非常勤講師	前鶴　謙二	指定なし
非常勤講師	藤村　優	指定なし

ナンバリング	D33105M22
授業概要(教育目的)	RC造集合住宅の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた敷地で、RC造テラスハウスを設計する。第2課題は、与えられた敷地と自らが想定したコンセプトによるシェアハウスで、RC造集合住宅を設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	RC造集合住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造の構造が分かる。
思考・判断の観点（K）	RC造集合住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	RC造集合住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	RC造集合住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

RC造集合住宅の設計製図

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、課題説明	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（RC造集合住宅・シェアハウス）の説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造集合住宅、シェアハウスや今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。	RC造集合住宅、シェアハウスについて、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	集合住宅、シェアハウスのコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。ベッド、テーブル、椅子などの家具も記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。	パースを作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

	（展示発表会）			
第8回	課題説明	第2課題（RC造テラスハウス）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌でRC造テラスハウスの設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。RC造テラスハウスのエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	RC造テラスハウスのメイン部分のパースを作成する。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と平常点による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
使用教科書名(ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野のRC造集合住宅についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にあるRC造集合住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造集合住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】RC造集合住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室
学生へのメッセージ	3年生前期は集合住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築デザイン演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし
非常勤講師	前鶴　謙二	指定なし
非常勤講師	藤村　優	指定なし

ナンバリング	D33106M22
授業概要(教育目的)	幼稚園、美術館の大型の建築2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は与えられた敷地に建つ幼稚園、第2課題は与えられた敷地に建つ展示施設を設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幼稚園、美術館の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点（K）	幼稚園、美術館の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	幼稚園、美術館のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	幼稚園、美術館における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、課題説明	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（RC造、S造幼稚園）の説明をする。その後少人数グループに分かれて、幼稚園や今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。	幼稚園について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。授業前に幼稚園の見学会を予定している。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	幼稚園のコンセプトをまとめたコンセプトボード（A3）をつくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。テーブル、椅子などの家具も記入する	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第5回	パースの作成	幼稚園の主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる	パースを作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する	模型の部品を作成する	240分
第7回	ポスターセッション（展示発表会	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

第8回	課題説明	第2課題（RC造、S造美術館）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	美術館の設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。RC造テラスハウスのエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	RC造テラスハウスのメイン部分のパースを作成する。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と平常点による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
使用教科書名(ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野のRC造、S造の大型建物についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にあるRC造、S造の大型建物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、S造の大型建物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】RC造、S造の大型建物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室
学生へのメッセージ	3年生後期は大型建築に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、S造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居ＣＡＤ演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 足立　幸寿	指定なし

ナンバリング	D23107M22
授業概要(教育目的)	建築設計においてCADの基礎を身に付けることを目的とし、設計製図の基本を指導する。本講義では、フリーソフトの中でも特に一般的なJWCAD for windowsを使用し、基礎的操作から図面作成のテクニックまで、さらに3次元CADやプレゼンテーション技法の習得を目指し、住宅の基本設計図を適切に表現するための必要な知識と技法を指導する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．平面図、立面図、断面図の関連が説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．CADの重要なレイヤーという概念を類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．図面の描き方について参考になるHPに興味をもてるようになる。 https://www.designboom.com/
技術・表現の観点（A）	１．2DCAD・３DCADの基本コマンドを使いこなせる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ＪＷ＿ＣＡＤ	概要と基本 ＪＷ－ＣＡＤでできること・画面構成　・　画面操作・図面設定	建築レシピ　フリーソフト https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第2回	ＪＷ＿ＣＡＤ	作図系・編集系コマンドの基本操作 紹介基本コマンド　・よく使うコマンド	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第3回	ＪＷ＿ＣＡＤ	作図系・編集系コマンドの応用操作　住宅平面図の作成基本 基本コマンドの復習・簡単な住宅の平面図作成	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第4回	ＪＷ＿ＣＡＤ	作図系・編集系コマンドの応用操作　プレゼンの作成画像編集 チュートリアル・応用コマンド	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第5回	ＪＷ＿ＣＡＤ	集合住宅平面図作成　他 チュートリアル・新しいコマンドと総復習・マンション平面図の作図	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第6回	ＪＷ＿ＣＡＤ	集合住宅平面図作成　他 チュートリアル・作図練習	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第7回	ＪＷ＿ＣＡＤ	プレゼンテーション作成 JW-CADの総仕上げ・プレゼンテーション	https://arch-free-cad.blogspot.com/ ☆JW-CADでJPG画像表示：「SUSie」 https://arch-free-	60分

			cad.blogspot.com/2017/10/jw-cadjpg.html	
第8回	Ｓｋｅｔｃｈ Ｕｐ	ＳｋｅｔｃｈＵｐとの連携エクスポート・インポートと環境設定 JW-CAD総復習・SketchUp・初期設定・３DCADによる立体化	https://arch-free-cad.blogspot.com/ 〇RSJwwのよる外部変形 https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/10/jw-cadsketchupkerkythe.html	60分
第9回	Ｓｋｅｔｃｈ Ｕｐ	立体化　３Dモデリング（小テスト：JW－CADの確認） Sketchup初期設定の復習から・ＪＷ中間小テスト（100点満点------全体の20%）	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第10回	Ｓｋｅｔｃｈ Ｕｐ	外観パース　マンションの立体化 JWの図面マンションの立体化	https://arch-free-cad.blogspot.com/ JWからSKUへ（小テストの住宅を３Dにしてみる） 〇　https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/11/jw-cadsketchup.html	60分
第11回	Ｓｋｅｔｃｈ Ｕｐ	内観パース　（５１C型・サザエさん） ２次元から３次元CADの一連操作　総合復習・	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第12回	Ｓｋｅｔｃｈ Ｕｐ	KERKYTHEAとの連携エクスポート 最終課題　　データー提出要綱・モデリング～レンダリング～プレゼン・添景の挿入方法	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第13回	KERKYTHEA	レンダリング（総合復習） JW-CAD製図～プレゼンテーション作成・確認テスト	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第14回	KERKYTHEA+ＧＩＮＰ	プレゼンテーション 確認テスト返却・フォーマットデーターにインポート	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第15回	KERKYTHEA+ＧＩＮＰ	プレゼンテーション（最終課題） 最終仕上げ・プリントアウト　A4サイズ提出・データー提出	https:/arch-free-cad.blogspot.com/ 授業内容等質疑受付メールアドレス（提出期限切れ課題提出先） shomei@kasei-gakuin.ac.jp	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に、確認データーを提出してもらい次週の授業でExcellent・Good評価の人の内容を確認する。 小テストは、次週に採点して返却する。
評価方法	小テスト・確認テスト合わせて２０％ 最終課題８０％

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト				○
	確認テスト	○			
	最終課題	○	○		○
	Excellent・ Good	○		○	

評価割合	小テスト・確認テスト（20%） 最終課題（80%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013
参考URL	https://arch-free-cad.blogspot.com/
ディプロマポリシーとの関連	社会人として柔軟に対応できる人材を育成する。
学生へのメッセージ	CADを使うのが初めての方が大多数と思われますので、予習よりも授業で行った操作について繰り返し練習してください。 わからない、うまくできない人は、積極的に質問をするように心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築ＣＡＤ演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 足立　幸寿	指定なし

ナンバリング	D33108M22
授業概要(教育目的)	住居CAD演習で習得したスキルを基本に実社会に応用できる設計製図手法を身に付けることを目的とし、建築設計におけるプレゼンテーション技法のテクニックを指導する。本講義ではすべてフリーソフトを使用し、２次元から３次元図面作成のテクニックをさらに効果的に視覚化できる動画によるプレゼンテーション技法の習得を目指し、建築をわかりやすく適切に表現するために必要な知識と技法を指導する。差別化を図る為に動画によるポートフォリオを指導する。 最初の授業でソフトのインストール、プラグインの設定を行います。 ご自身のパソコンをお持ちの方は、ご持参ください。
履修条件	住居CAD演習を履修したもの（合否不問）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．フリーソフトの連携を関係付けられる。
思考・判断の観点（K）	１．フリーソフトの目的にあったプレゼンが可能になる
関心・意欲・態度の観点（V）	１．授業だけでなく積極的にプレゼンの可能性を探求できる。 設計のヒントになるHP：　https://www.designboom.com/ ポートフォリオ参考事例紹介　issuu.com　https://issuu.com/search?q=architecture%20portfolio
技術・表現の観点（A）	１．フリーソフトを応用してプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	JW-SU-GE	フリーソフトの連携の概要　動画 使用するソフト：SketchUP・GINP・INSCAPE・GoogleEarth　PowerPoint　MovieMaker　紹介	建築レシピ　フリーソフト　https://arch-free-cad.blogspot.com/ 設計のヒントになるHP：http://www.designboom.com/ ポートフォリオ参考事例紹介　issuu.com https://issuu.com/search?q=architecture%20portfolio	60分
第2回	ＳｋｅｔｃｈＵｐ	写真合成の手法 モンタージュ手法（Sketchupデーター）・Kerkythea　チュートリアル 背景写真を利用した合成：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/blog-post.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/ KerkytheaのSUN＆SKYウィザード：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/3d-cad.html Kerkytheaのglobal：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/12/kerkythea_7.html	60分
第3回	ＳｋｅｔｃｈＵｐ	モンタージュ写真 SU+KT+GIMP　背景画+GIMPによる合成：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/blog-post.html 図面のPDF化：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/inkscapepdf.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/ 添景の挿入：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/gimp_22.html GIMPのフィルター効果：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/gimp_23.html	60分
第4回	KERKYTHEA	添景の貼り付け プレゼンテーションボードの作成・JW-CADによるプレゼン Inkscapeによるプレゼン：https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/inkscape.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第5回	KERKYTHEA+ＧＩＮＰ	断面パース・インテリアパースの基本 合成画の応用・断面パースの作り方・Inkscapeによるプレゼン・A1プレゼン図面	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第6回	KERKYTHEA+ＧＩＮＰ	ライティングの基本・インテリアのライティング・照明の変更の仕方・照明の位置移動	https://arch-free-cad.blogspot.com/ ☆KT-Lightsのインストール	60分

		断面パースの作り方：http://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/12/blog-post_11.html	http://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/11/sketchupkt-lights.html	
第7回	KERKYTHEA+Inkscape	プレゼンテーションの基本 内観パース　ライティング・夜景の作り方・添景の影の付け方・インテリアパースの作り方	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第8回	動画作成　SU+GE+PP	ﾊﾟｿｺﾝによる動的ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ Inkscape　A1プレゼンテーション・パソコンによるプレゼンテーション手法	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第9回	GoogleEarth総合プレゼン	小テスト SUデーターを利用しA3横にプレゼンテーションする。 inkscapeにレイアウト	https://arch-free-cad.blogspot.com/ Sketchupのプラグインの場所 C:¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Roaming¥SketchUp¥SketchUp 2016¥SketchUp ※隠しフォルダを表示する設定が必要です。	60分
第10回	パソコンによるプレゼンテーション PP・MM	ポートフォリオの作成 小テスト返却・パワーポイント（チュートリアル）・	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第11回	Movie Maker動画編集	最終課題発表　プレゼンテーション SketchUpによるウォークスルー動画作成・Movie Makerの動画編集・Sketchupの便利なプラグインの紹介	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第12回	プレゼンテーション ポートフォリオ	動画ウォークスルーのプレゼンテーション 最終課題・ポートフォリオムービーの作成	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第13回	Inkscape　プレゼンテーション	A1プレゼンテーション 素材内容の確認・マスタープラン・透視図・外観・内観・断面	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第14回	最終課題　プレゼンテーション	ポートフォリオ+プレゼンテーション パワーポイントによるA3プレゼン・ポートフォリオムービー	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第15回	ポートフォリオムービー（MM）	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵﾑｰﾋﾞｰによるプレゼンテーション（最終課題） ムービーメーカーによる動画編集	https://arch-free-cad.blogspot.com/ データーが重いためファイヤーストレージ等のサイトを利用して提出するようお願いいたします。http://firestorage.jp/ 授業内容等質疑受付メールアドレス shomei@kasei-gakuin.ac.jp	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に、確認データーを提出してもらい次週の授業でExcellent・Good評価の人の内容を確認する。 小テストは、次週に採点して返却する。
評価方法	小テスト20% 最終課題80% Excellent・Good評価による加点

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	確認テスト		○		
	最終課題	○			○
	Excellent・ Good			○	

評価割合	授業中の小テスト（20%） 最終課題（80%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
参考URL	https://arch-free-cad.blogspot.com/
ディプロマポリシーとの関連	社会人として柔軟に対応できる人材を育成する。
学生へのメッセージ	住居CAD演習で習得したスキルを前提といたします。 インターネット上にはたくさんの参考サイトがあります。 授業で習わないことも丁寧に説明されていますのでいろいろ検索してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築総合演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柏木　穂波	指定なし

ナンバリング	D43109M22
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科における４年間の学修を確実なものとするために、木造軸組構法、ＲＣラーメン構造の戸建て住宅の設計作図をおこなう。設計にあたっては、構造計画・設備計画及び周辺環境との調和を図り、総合的にまとめあげることを要求する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅の構成・構造を理解する。
思考・判断の観点（K）	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅について、適切な計画・構造となっているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	住宅について、積極的に住まい手の要求をくみ取り、快適な住生活のための適切な計画を提案できる。
技術・表現の観点（A）	住宅について、住まい手の要求に適合した計画案を作成でき、建築設計図書として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、課題１その1	ガイダンス、課題1説明後、各自、平面計画をおこなう	建築製図の基礎、木造とRC造の構法の違いについて確認をしておく	90分
第2回	課題１　その2	課題１の完成図例を配布および解説後、各自、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第3回	課題１　その3	面積表、仕上げ表、主要構造部材表、断面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第4回	課題１　その4	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第5回	課題２　その1	課題１提出。課題２の説明後、各自、平面計画をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第6回	課題２　その2	課題２の完成図例を配布および解説後、各自、面積表、配置図、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第7回	課題２　その3	床伏図の考え方を解説後、主要構造部材表、床伏図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第8回	課題２　その4	矩計図の解説後、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第9回	課題３　その1	課題２提出。課題３の説明後、各自、平面計画をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第10回	課題３　その2	授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分

第11回	課題３　その3	授業内に床伏図を提出。指導を受けた後、主要構造部材表、床伏図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第12回	課題３　その4	課題３の完成図例を配布および解説 配置図、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第13回	課題４　その1	課題３提出。課題４の説明後、各自、平面計画をおこなう。 授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第14回	課題４　その2	課題４の完成図例を配布および解説。平面図の完成と断面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第15回	課題４　その3	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう。 課題４提出	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分

学生へのフィードバック方法	演習課題方式で授業を進める。授業内での質問を歓迎する。
評価方法	課題については、計画の適切性および図面の完成度によって評価する。平常点については、授業中の学習態度によって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○

評価割合	平常点：20%／課題：80%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。
使用教科書名(ISBN番号)	「特に指定しない」 適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。
参考図書	「はじめての建築製図」建築のテキスト委員会編／学芸出版／1997
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、１級建築士の資格を有し、設計事務所開設後26年間、木造及び鉄骨造の住宅・事務所・店舗等の設計監理に携わっている。 建築総合演習の指導にあたり、実務で学んだ設計の専門的知識、技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築計画		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	D33205M21
授業概要(教育目的)	建築計画学とは、建築をつくる上での基礎となる技術であり、人間の生活と空間との対応が重視される分野である。授業は建築計画に関する基礎的理論を学んだ後、各種建物に共通する基礎的問題や空間性能について具体的な建築としての各種施設を概説しながら進行する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	寸法の単位や寸法のシステム等寸法、人間の心理・行動と空間との関連、建築・住居の安全性に関する基本的な考え方及び技術者の社会的業務、各種施設の機能・形態別の特色と居住性などの基本的な「建築士」としての建築計画分野の全般的な知識を習得する。
思考・判断の観点（K）	建物が適切な建築計画に基づいてつくられているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	建築士としての社会的業務・責務に関わる諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス／建築計画とは	建築計画の全体像について学ぶ。	（復習）市民参加ワークショップによる計画事例について調べ、市民の設計プロセスへの係わりについて理解する。	180分
第2回	寸法の決め方・決まり方	建築における寸法体系、寸法の決め方について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、さまざまな要因から決まる寸法の事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第3回	空間移動と安全性	群衆行動の法則性と建物の安全計画・安全設計、防災計画について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、群衆事故の事例について調べ、対策を考える。	180分
第4回	空間と知覚１	空間の概念、知覚について、哲学、地理学、建築学、心理学の観点から学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、空間の概念について自分なりの考えをまとめる。	180分
第5回	空間と知覚２	錯視と知覚の恒常性、アフォーダンスの概念について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、身近なアフォーダンスの例について考える。	180分
第6回	空間と人間のイメージ	都市のイメージ、レジビリティの概念について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自分の住む都市のイメージについて考える。	180分
第7回	周辺空間と人間の心理	空間におけるプライバシー、テリトリー、テリトリアリティの概念について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自分の家の周りの領域性、自然監視について考える。	180分

第8回	小学校・中学校・高等学校	小学校・中学校・高等学校の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、小学校・中学校・高等学校の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第9回	幼稚園・保育所	幼稚園・保育所の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、幼稚園・保育所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第10回	美術館	美術館の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、美術館の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第11回	図書館	図書館の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、図書館の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第12回	劇場	劇場の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、劇場の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第13回	ホテル・事務所	ホテルの建築計画に関わる法規・機能・計画手法、事務所の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、ホテル・事務所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第14回	病院・診療所・高齢者施設	病院・診療所・高齢者施設の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、病院・診療所・高齢者施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第15回	商業施設・駐車場・スポーツ施設	商業施設・駐車場・スポーツ施設の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	（復習）配付プリントを復習し、商業施設・駐車場・スポーツ施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第16回	定期試験	定期試験では、授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題については採点し、次回授業時に全体講評をおこない返却する。 小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 小テストについては採点し、授業内で解説するとともに返却する。
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。２回の実施を予定している。 小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。6回程度を予定している。 小テストは、第1回～第7回の授業内容について第8回授業にて、第8回～第14回の授業内容について第14回授業にて実施する。穴埋め問題を出題する。 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小課題	○	○		
	小レポート	○	○	○	
	小テスト	○			
	定期試験	○			

評価割合	小課題10%、小レポート30%、小テスト20%、定期試験40%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	「図説やさしい建築計画」深水浩／学芸出版社／2011
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
オフィスアワー	金曜３限　3508研究室
学生へのメッセージ	建築士やインテリアコーディネーターなど資格取得の必須の科目であるため、その試験概要について把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築環境学Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	D33209M21
授業概要(教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「光・音」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	［建築士指定科目］建築環境を構成する、光・音の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

建築環境学B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業計画 人間の視覚と聴覚の特徴について、概要を説明する。		0
第2回	光環境と色彩 生活環境の中の光と色	光環境の概要について理解する。 光と色の歴史／もののデザインから見えの効果へ／光と色の計画の基本／光が人体へ与える生理的影響	教科書p.115-119（光環境の概要）について読んでおくこと	90
第3回	光と視覚（１）	光と目の特性について理解する。 光と面と目の特性／光の波長，視細胞，比視感度曲線，明所視，暗所視，分光特性（反射率，透過率）	教科書p.120-129（視覚と測光量）について読んでおくこと	180
第4回	光と視覚（２）	測光量と光源の色特性について理解する。 測光量／光束，照度，光束発散度，光度，輝度 光源の色特性／色温度，演色性	配布資料（測光量）で測光量の定義について修得すること 課題１（測光量）による復習	200 120
第5回	見えの効果（１）	視覚特性について理解する。 視覚特性／暗順応，明順応，色順応，色の恒常性，対比明るさ／空間の明るさ感	教科書p.130-135（見えの効果）について読んでおくこと	180
第6回	見えの効果（２）	見えの効果について理解する。 明視性／グレア評価，UGR 快適性・雰囲気／均斉度，照明ベクトル，モデリング	課題２（視覚特性）による復習	180
第7回	光環境のデ	照明計算について理解する。	教科書p.136-149（照明計算，	180

	ザイン（１）	照明計算について解説し、課題により演習を行う。 照明計算／照明基準総則，照度の逆二乗則／光束法	昼光照明，人工照明）について読んでおくこと 課題３（照明計算）による復習	120
第8回	光環境のデザイン（２）	昼光照明について理解する。 昼光照明／直射光，天空光，昼光率，側窓，天窓，光ダクト，ガラス素材	斬新な昼光利用の実例を探すこと	180
第9回	光環境のデザイン（３）	人工照明について理解する。 人工照明／LED，白熱電球，蛍光灯，高輝度放電ランプ，屋内照明，全般照明，局部照明，配光特性，直接照明，間接照明，街路照明，景観照明 省エネルギー／タスク・アンビエント照明，昼光利用	配布資料（住宅の照明）で住宅の照明デザインについて修得すること 課題４（光環境）による復習	250 120
第10回	色彩環境のデザイン	色彩環境について理解する。 色の見え／色の心理効果／色彩調和	教科書p.150-152（色彩）について読んでおくこと 課題５（色彩）による復習	45 45
第11回	音環境 生活の中の音	音環境の概略について理解する。 心地よい音・不快な音／コミュニケーションと音 対数の計算	教科書p.19-21（音環境）について読んでおくこと 配布資料（指数と対数）で対数の計算方法について修得すること	90 120
第12回	音の基礎知識（１）	音の物理的性質について理解する。 音の性質と基本現象／粗密波，音速，周波数特性，音場，音の強さ，距離減衰，反射，屈折，回折，干渉	教科書p.22-32（音の基礎知識）について読んでおくこと	180
第13回	音の基礎知識（２） 騒音の評価	音の心理効果について理解する。 聴覚と心理／聴覚と可聴範囲，ウェーバー・フェヒナーの法則，マスキング効果，カクテルパーティー効果，両耳効果，先行音効果 騒音の評価／等ラウドネス曲線，等価騒音レベル，ＮＣ曲線	課題６（音の基礎知識）による復習	120
第14回	建物の音響性能（１）	吸音率と透過損失について理解する。 壁の音響特性／吸音率，吸音力，透過率，透過損失 吸音機構と吸音材量／多孔質吸音材，共鳴器型吸音構造，板振動型吸音構造	教科書p.33-44（建物の音響性能）について読んでおくこと	180
第15回	建物の音響性能（２）	遮音性能と残響時間について理解する。 遮音特性とその評価量／質量則，空気音遮断性能，床衝撃音遮断性能 室内音響計画／エコー，残響時間，残響式	課題７（音環境）による復習	120
第16回	定期試験			

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	課題	○			

評価割合	定期試験(30%)、課題(70%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	生活環境学［改訂版］／岩田利枝 他／井上書院／2021 978-4-7530-1759-1
参考図書	図説テキスト　建築環境工学／加藤信介　他／彰国社／2008
ディプロマポリシーとの関連	［知識・理解］　住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	町田C　金曜３限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目　③建築環境工学　に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	建築環境システム		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	D33211M21
授業概要(教育目的)	私たちが建物の中で生活するためには、建築設備（給排水衛生・空気調和・電気・搬送・防災）が必要不可欠である。この授業では、安全で快適な居住環境を形成するために必要な建築設備のシステムを説明し、建築と設備のかかわりを教示することによって、平面・断面計画上の設備スペースについて講義する。また、省エネルギー手法について、エネルギー消費性能とライフサイクルアセスメント（環境評価）および経済性の関係についても説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	［建築士指定科目］建築設備の名称とその働きを説明できること。また、設備システムを選択する上で、考慮すべき点を説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

建築環境システム

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	建築設備の概要を理解する。 建築設備の概要／要約配布資料の説明	授業内容を要約した配布資料を読んでおくこと	60
第2回	建築から建築設備へ（１）	建築における建築設備の位置付けを理解する。 建築設備と地球環境／建築環境を構成する要素／意匠・構造・設備を合理的にまとめる	教科書p.9-20（建築から建築設備へ）を読んでおくこと	180
第3回	建築から建築設備へ（２）	設備デザインについて事例を通して理解する。 設備デザインの可能性 事例紹介	建築設備の概要の復習 課題１レポート「設備デザインの事例を調べる」	120 540
第4回	防災設備（１）	防災設備について理解する。 建築災害の種類／自然現象によるもの，人為的要因によるもの 防災計画／地震に対する建築計画／火災に対する建築計画／防災設備／防排煙設備	教科書154-167（防災設備）を読んでおくこと	180
第5回	防災設備（２）	消火設備について理解する。 消火設備／火災になるまでの経緯／燃焼の３要素／火災の種類／消火方法の分類／消火設備の種類／消火設備の設置方法／消火設備の設置対象	課題２（防災設備）による復習	120
第6回	空気調和設備の概要	建物内のエネルギーの流れを理解する。 熱の流れ／ヒートポンプパッケージ空調方式／吸収式冷	教科書21-30（空気調和設備の概要）を読んでおくこと	180

	（１）	温水発生機による空調方式		
第7回	空気調和設備の概要（２）	建物内の空気の流れを理解する。 空調空気の流れ／換気空気の流れ／水の流れ	建物内の熱・空気・水の流れについての復習	120
第8回	空調負荷（１）	自然環境と建築環境の関係について理解する。 入れ子としての内と外／自然環境の違いと変化／内と外の条件と設備／快適な温熱環境とは	教科書32-44（外界条件）を読んでおくこと	180
第9回	空調負荷（２）	太陽エネルギーの利用と遮蔽について理解する。 太陽エネルギーの基本的性質／太陽エネルギー利用／日射の遮蔽	外界条件について復習すること	120
第10回	空調負荷（３）	空調負荷について理解する。 加熱・加湿／冷却・除湿／暖房負荷と冷房負荷の要素／冷暖房負荷・空調負荷を減らす方法	教科書45-50（空調負荷）を読んでおくこと 課題３（空調負荷）による復習	90 60
第11回	空気調和設備（１）	空調熱源装置と使用エネルギーについて理解する。 エネルギーの選択／冷熱源と温熱源／新しい空調熱源方式	教科書51-60（熱源設備）を読んでおくこと 課題４（空調熱源）による復習	90 60
第12回	空気調和設備（２）	空調方式について理解する。 中央方式と個別方式／タスク空調と床吹き出し空調	教科書61-68（空調方式）を読んでおくこと 課題５（空調方式）による復習	90 60
第13回	空気調和設備（３）	熱搬送について理解する。 熱搬送方式／室内空気分布と吹き出し口／換気設備／自動制御設備	教科書69-100（熱搬送）を読んでおくこと 課題６（空調方式２）による復習	90 60
第14回	建築と省エネルギー設備計画とスペース	省エネルギー計画について理解する。 エネルギー消費の決定要因／省エネルギーはどのように実現するか／建築物省エネ法 設備スペース／建築プラン検討時の設備計画	教科書170-194（省エネルギー計画）を読んでおくこと	90 60
第15回	電気設備の概要	電気設備の概要について理解する。 関連法規／電気の基礎事項／配線設備	配布資料（電気設備の概要）を読んでおくこと 電気設備の復習をすること	90 60
第16回	定期試験			

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、「環境に配慮した設備デザイン」の実例を調べる課題である。 ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	課題	○			
	レポート	○			

評価割合	定期試験(30%)、レポート及び課題(70%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	「建築の設備」入門　新訂第二版／同編集委員会編／彰国社／2017年 978-4-395-32095-0
ディプロマポリシーとの関連	［知識・理解］　住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	町田C　金曜３限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目　④建築設備　に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	構造力学Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村　彰敏	指定なし

ナンバリング	D33302M21
授業概要(教育目的)	静定構造物と不静定構造物を通して建築（住居）構造力学を学ぶ力を身に付け、自らの力で基本的な問題に対し解決できる能力の育成を目的とする。 本科目は初学者を対象とし、ラーメン構造やトラス構造などを題材とする。 また、反力計算や応力計算の他、材料や断面の性質を通して構造力学に対する問題解決の方法を学び、基礎力を身に付ける。
履修条件	構造力学Aを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 静定と不静定構造の反力と応力計算ができる 2. 材料性質の計算ができる 3. 断面性質の計算ができる
思考・判断の観点（K）	1. 静定と不静定構造を正しく理解し説明できる 2. 材料性質を正しく理解し説明できる 3. 断面性質を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	静定構造の反力計算1	1. ラーメン構造とは 2. 構造力学Aで学習した反力計算の復習 3. ラーメン構造の反力計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第2回	静定構造の応力計算1	1. 構造力学Aで学習した応力計算の復習 2. ラーメン構造の反力計算 3. ラーメン構造の応力図	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第3回	静定構造の反力計算2	1. トラス構造とは 2. トラス構造の反力計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第4回	静定構造の応力計算2	1. トラス構造の応力計算 2. トラス構造の応力図	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第5回	不静定構造の反力計算	1. 静定・不静定構造とは 2. 不静定構造の反力計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第6回	不静定構造の応力計算	1. 不静定構造の応力計算 2. 不静定構造の応力図	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分

第7回	材料の性質1	1.応力度とは 2.ひずみ度とは 3.ヤング係数とは	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第8回	材料の性質2	1.荷重-変形と応力度-ひずみ度の関係 2.部材軸方向の剛性	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第9回	断面の性質1	1.断面積の計算 2.断面1次モーメントとは 3.断面1次モーメントの計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第10回	断面の性質2	1.断面2次モーメントとは 2.断面2次モーメントの計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第11回	断面の性質3	1.断面係数・縁応力度とは 2.断面係数の計算 3.縁応力度の計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第12回	梁のたわみ	1.梁のたわみとは 2.弾性曲線式 3.数学の基礎	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第13回	力学演習1	1.ラーメン構造の反力と応力計算の演習 2.トラス構造の反力と応力計算の演習 3.不静定構造の反力と応力計算の演習	授業の第1～6回を復習しておくこと	180分
第14回	力学演習2	1.材料と断面の性質の演習 2.梁のたわみ計算の演習	授業の第6～12回を復習しておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1.理解度の確認 2.授業内容の総括	授業の第1～14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。
評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする(毎回)。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする（板書を基準に自らの考えも含めること）。 定期テストは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート	○	○		
	定期テスト	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、定期テスト(60%)で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社 変形を理解する構造力学, 彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。 演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	構造力学Ｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村　彰敏	指定なし

ナンバリング	D43303M21
授業概要(教育目的)	建築(住居)における力学について講義する。構造力学Cは初学者向けの発展編である。 単純な構造を通して、巨視的・微視的な着眼点に基づく力学の考え方を理解し、力学に対するより深い洞察力の育成を目指す。また、構造力学A(入門編),B(基礎編)の復習についても並行して行う。
履修条件	構造力学A,Bを受講していること。または、構造力学A,Bの受講に相当する理解を備えていること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.座屈の意味を理解し計算ができる 2.せん断変形と曲げ変形の違いを理解し計算ができる 3.梁の変形の計算ができる 4.不静定構造物の解法を理解し計算ができる
思考・判断の観点（K）	1.軸変形，せん断変形，曲げ変形，座屈荷重による変形を正しく理解し説明できる 2.静定構造物と不静定構造物の解法について正しく理解し説明できる 3.梁の変形に対する考え方を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

構造力学C

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	概論	1.構造力学Aの振り返り 2.構造力学Bの振り返り	構造力学A，Bで学んだことを見直しておくこと	180分
第2回	座屈1	1.座屈とは(座屈と圧縮について) 2.座屈荷重，座屈長さ，断面2次半径，細長比	構造力学A，Bで学んだ「断面2次モーメント，ヤング係数」を復習しておくこと	180分
第3回	座屈2	1.水平移動がある場合の座屈荷重 2.水平移動がない場合の座屈荷重	前回の授業内容を復習しておくこと	180分
第4回	せん断力による変形1	1.せん断応力度 2.せん断力と曲げモーメントの関係	構造力学A，Bで学んだ「モーメントの定義，応力度，ひずみ度」を復習しておくこと	180分
第5回	せん断力による変形2	1.せん断応力度分布 2.数学の基礎(微分と積分)	前回の授業内容を復習しておくこと 構造力学A，Bで学んだ「曲げ応力度分布」を復習しておくこと	180分
第6回	せん断力による変形3	1.せん断による変形(軸変形，曲げ変形，せん断変形とは) 2.せん断弾性係数	前回の授業内容を復習しておくこと 構造力学A，Bで学んだ「軸変	180分

			形，曲げ変形」の復習をしておくこと	
第7回	梁の変形1	1.弾性曲線式とは(概論) 2.たわみとたわみ角(変形の概略)	たわみとたわみ角の違いを予習しておくこと 高校数学で学んだ「関数と定数の違い」を復習しておくこと	180分
第8回	梁の変形2	1.片持ち梁のたわみとたわみ角 2.力のつりあい計算とたわみ計算の違い	前回の授業内容を復習しておくこと	180分
第9回	梁の変形3	1.単純梁のたわみとたわみ角 2.代表的な構造のたわみとたわみ角	前回の授業内容を復習しておくこと	180分
第10回	不静定構造物の解法1	1.曲げモーメントから外力とせん断力を求める 2.荷重と曲げモーメントからせん断力と軸方向力を求める	構造力学A，Bで学んだ「応力計算，応力図」を復習しておくこと	180分
第11回	不静定構造物の解法2	1.節点が移動しない構造物とは 2.中間荷重が作用しない構造物の解法	前回の授業内容を復習しておくこと	180分
第12回	不静定構造物の解法3	1.節点が移動する構造物とは 2.基本的な梁の組み合わせによる構造物の解法	前回の授業内容を復習しておくこと	180分
第13回	力学演習1	1.反力計算の演習(建築士試験問題) 2.ディスカッション 3.演習問題の解説	授業の第1～8回を復習しておくこと	180分
第14回	力学演習2	1.応力計算の演習(建築士試験問題) 2.ディスカッション 3.演習問題の解説	授業の第9～12回を復習しておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1.理解度の確認 2.授業内容の総括	授業の第1～14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。
評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする(毎回)。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする（板書を基準に自らの考えも含めること）。 定期テストは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート	○	○		
	定期テスト	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、定期テスト(60%)で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	変形を理解する構造力学，彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住宅設計論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし

ナンバリング	D23304M21
授業概要(教育目的)	木造の基本を習得する。構法、構造、計画、材料、施工など、すべての分野のベースとなる部分を学ぶ。尺、寸、間などの寸法、在来工法、枠組み壁工法の基本、比較、基礎・地盤、壁・軸組み、1階床組み、2階床組み、小屋組み、屋根、外装、内装などの基本を、簡単な演習を交えて講義する。単に木造の知識を習得するのではなく、設計や実務に役に立つような生きた知恵の習得を目指す。後期から始まる木造設計に向けて、その時に知っておかなければならない最低限の知識を身に付ける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	木造建築に関する材料、構法、納まりなどの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点（K）	具体的な建築設計で、木造の構造的可否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	設計や工事現場における木造構法に関心をもち、設計を意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	木造住宅の1/100の設計ができ、それを図面に表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	面積計算、寸、尺、間、坪	面積計算（建ぺい率、容積率）の説明の後、寸、尺、間、坪などの伝統的な寸法体系、畳、襖、障子、テーブル、椅子、浴室、トイレなどの寸法を学ぶ。	教科書のp8～p28を読んでおくこと。	180分
第2回	容積率、建ぺい率、軸組構法と枠組み壁構法	容積率、建ぺい率の計算の説明の後、在来軸組構法と枠組み壁構法（ツーバイフォー構法）を比較し、両者の長所、短所を学ぶ。小屋組みの和小屋、洋小屋を学ぶ。	教科書のp29～p50を読んでおくこと。	180分
第3回	面積計算、ドライエリア、軸組構法と枠組み壁構法の床組み、地盤	面積計算とドライエリアの説明の後、軸組構法と枠組み壁構法の床組みの違いを学ぶ。地盤、L形擁壁、スウェーデン式貫入試験、不同沈下、地盤改良、杭などについて学ぶ。	教科書のp51～p66を読んでおくこと。	180分
第4回	近代建築の5原則、家具の大きさ、縄張り、コンクリート	コルビュジエの近代建築の5原則と家具の大きさの説明の後、水杭、水貫、水糸、ベンチマーク、縄張り、フーチング、コンクリートなどを学ぶ。	教科書のp67～p83を読んでおくこと。	180分
第5回	コルビュジエの住宅構成、軸組構法、枠組み	コルビュジエの住宅構成の説明、軸組構法、枠組み壁構法の復習の後、布基礎、べた基礎、割栗石、切込み砂利、捨てコンクリート、RCの意味、RCの構造的特徴、モ	教科書のp84～p105を読んでおくこと。	180分

	壁構法、基礎、土台	ルタル、セメントペースト、コンクリート、基礎、土台、換気口などを学ぶ。		
第6回	ミースの住宅構成、W造、RC造、S造、木造軸組	ミースの住宅構成、W造、RC造、S造の説明の後、木造1/100平面図の書き方、柱の置き方、通し柱、管柱、胴差し、軒桁、筋交い、金物、間柱などを学ぶ。	教科書のp106～p129を読んでおくこと。	180分
第7回	ミースの均質空間、RC造、S造、木造1階床組み	ミースの均質空間、RC造、S造の説明の後、1階根太、大引き、金物、火打ち土台、土台の継手などを学ぶ。	教科書のp130～p150を読んでおくこと。	180分
第8回	アアルトの住宅、木造2階床組み	アアルトの住宅の説明の後、2階根太、梁、梁の仕口、金物などを学ぶ。	教科書のp151～p168を読んでおくこと。	180分
第9回	カーンの住宅、パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木、木造の屋根	カーンの住宅、パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木の説明の後、垂木、母屋、棟木、小屋束、小屋梁、梁間、桁行、平側、妻側、切妻、寄棟、入母屋、京呂、折置、梁の仕口などを学ぶ。	教科書のp169～p190を読んでおくこと。	180分
第10回	ガウディの建物、木造小屋組み	ガウディの建物の説明の後、木造の垂木と梁の架け方を何種類か学ぶ。	教科書のp191～206pを読んでおくこと。	180分
第11回	マッキントッシュの住宅、木造屋根材	マッキントッシュの住宅の説明の後、アスファルトルーフィング、スレート、屋根勾配、水切り、棟包み、金属瓦棒葺き、金属立てはぜ葺き、本瓦、桟瓦、冠瓦、鬼瓦、巴瓦、スペイン瓦、セメント瓦、金属瓦、折版、雪留めなどを学ぶ。	教科書のp207～p227を読んでおくこと。	180分
第12回	ワグナーの建物、基礎、土台、木造の雨仕舞、外壁	ワグナーの建物、基礎と土台の違いの説明の後、軒天井、樋、内樋、屋根の1/100立面図、1/100断面図、フラットルーフの防水、防水立ち上がり、ドレイン、笠木、下見板、サイディング、ガルバリウム鋼板、ALC板、シーリング、役物、胴縁、壁体内通気などを学ぶ。	教科書のp228～p248を読んでおくこと。	180分
第13回	柱の入れ方、左官、サッシ	柱の入れ方（RC造、S造、W造比較）の説明の後、ラス、木摺、吹き付けタイル、リシン吹き付け、磁器質タイル、役物、外付けサッシ、半外付けサッシ、サッシの留め方、木製枠、サッシの平面図、框などを学ぶ。	教科書のp249～p266を読んでおくこと。	180分
第14回	床組み、ガラス、断熱材、ボード類、床材	床組み（軸組、枠組み壁）の比較の説明の後、フロートガラス、型ガラス、複層ガラス、網入りガラス、サランネット、ポリスチレンフォーム、グラスウール、岩綿吸音板、石膏ボード、化粧石膏ボード、石膏ラスボード、フローリング、クッションフロア、畳などを学ぶ。	教科書のp267～p284を読んでおくこと。	180分
第15回	小屋組み、仕上げの納まり	小屋組みの復習の後、幅木、畳寄せ、回り縁、野縁、吊り木、吊り木受け、ドア枠、ドア枠の平面図、散り、フラッシュ戸、框戸、側桁、ささら桁、踏板、蹴込み板、踏み面、蹴上げなどを学ぶ。	教科書のp285～p295を読んでおくこと。	180分

学生へのフィードバック方法	各回で実施した小テストは、次週の授業にて返却する。質問等がある場合は、授業の前後か、3602研究室まで訪問すること。
評価方法	毎回小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は10問。すべて記述式とする。小テストの再テストは原則として行わないので注意すること。定期試験は行わず、小テスト（平常点も兼ねる）で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○

評価割合	各授業の最後に、その授業でやったことの小テストを行い、その合計点で評価する。配点は平常点20%、テストの得点80%で評価。
使用教科書名(ISBN番号)	原口秀昭著「ゼロからはじめる木造建築入門」彰国社（978-4-395-01014-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】木造建築に関する基本的知識を有している。 【思考・判断】木造の軸組に対して、構造的、計画的思考、判断ができる。 【関心・意欲・態度】社会にある木造建築に対して、常に関心をいだき、木造の設計に対して意欲がある。 【技術・表現】木造建築を平面図などの図面で表現できる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室
学生へのメッセージ	設計する上で必須の木造建築の技術を身に付け、デザイン演習の木造住宅の設計につなげてください。就職先がハウスメーカーやリフォーム会社の場合、必須の知識となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理経験を有しており、木造建築の基本知識が設計、施工にどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	構法計画		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D43305M21
授業概要(教育目的)	木構造を中心に建物がどのような仕組みで建てられているか、各部材の構成方法はどのようになっているかなどについて、部材の名称を含めて具体的に解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	木造在来軸組構法について、部材の名称とその役割について説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法などについて理解すること。	【復習】ガイダンスで配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	60
第2回	地業	住宅が建てられている地盤について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第3回	基礎	住宅の地盤調査として用いられているSS式サウンディング試験について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第4回	木材の接合（１）	木造住宅の部材と部材を接合するのに用いられている各種の接合金物について理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第5回	木材の接合（２）	木造住宅の部材と部材を接合するのに用いられている各種の接合金物について理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	180
第6回	軸組（１）	１階の床ができるまでの仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	180

			【復習】返却した小テストについて復習すること。	
第7回	軸組（２）	柱や梁・桁などを仮構して、軸組を作っていく仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	180
第8回	小屋組・屋根	小屋組と屋根ができあがるまでの仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第9回	壁・天井	壁や天井などができあがるまでの仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第10回	内外装仕上げ構法（１）	内外装仕上げの中のタイルを張っていく仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第11回	内外装仕上げ構法（２）	内外装仕上げの中の左官で塗っていくときの仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第12回	床仕上げ（１）	ビニルタイル・ビニルシートで床を仕上げていく仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第13回	床仕上げ（２）	カーペットや畳で床を仕上げていく仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第14回	給排水設備	給排水設備の仕組みについて理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第15回	積算・工事機械	積算の仕方と工事で使われている施工機械について理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240

学生へのフィードバック方法	実施した小テストなどは、採点して次週の授業の初めに返却する。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容２割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：5点、C：0点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	定期試験	○			

評価割合	平常点（50%）及び定期試験（50%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の木造住宅の構法についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	水曜日４時限　3606研究室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第１回授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築材料学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D33308M21
授業概要(教育目的)	現在のように次々に建築用新素材や新製品が開発されている時代には、各種の建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法が必要になる。そこで、建築材料の中から、建物の柱、梁などの構造材料として用いられているコンクリート、木材及び鋼材について取り上げて、それら材料の基本的事項（種類、特徴、性能など）を平易に解説する。また、部位に要求される性能条件と材料の性質との関連性を理解させると共に、建築材料選定に当たっての基礎的知識を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築材料（コンクリート・木材・金属）について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点（K）	1．各種の木材について、年輪幅、含水率、密度と強さの関係を思考・判断できる。 2．適正なコンクリートを製造するためのポイントを指摘できる。 3．金属材料（鉄筋）の機械的性質がJIS（日本産業規格）に合格しているか思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識及び思考・判断をレポートにまとめる（表現する）ことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。	【復習】ガイダンス（第１回授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	30
第2回	木質系材料	木質系材料の種類や性質などについて説明できること	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	90
第3回	木材の圧縮強さ試験	各種の木材の圧縮強さと、年輪幅、比重、含水率などとの関係を説明できること	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデーターシートについて復習すること。	120
第4回	木材の圧縮強さ試験のレポート作成	レポートの作成法について理解すること	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、実験レポートに関する資料集めを行う。	180

第5回	コンクリート用材料①	コンクリートを材料から作製するので、作製方法について理解することコンクリート用材料の中のセメントの種類や特徴などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、実験レポートを書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、実験レポートについてまとめる作業を行う。	240
第6回	コンクリート用材料②	コンクリート用材料の中の骨材及び混和材料の種類や特徴について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、実験レポートについて、ルーブリックに示した観点従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	300
第7回	コンクリート供試体の作製	コンクリート供試体の作製方法に理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題①について見返すこと。	180
第8回	硬化前のコンクリートの性質	まだ固まらないコンクリートの性質について説明できること	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	金属材料	金属材料の種類や性質などについて説明できること	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	鉄筋の引張試験	鉄筋の引張性状について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデーターシートについて復習すること。	120
第11回	鉄筋の引張試験のレポート作成	鉄筋の引張試験のレポート作成方法について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、実験レポートに関する資料集めを行う。	240
第12回	コンクリートの圧縮強さ試験	コンクリートの圧縮強さ性状について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、実験レポートについて書き始める。 【復習】返却したデーターシートについて復習すると共に、実験レポートについてまとめる作業を行う。	240
第13回	コンクリートの各種試験のレポート作成	コンクリートの各種試験のレポート作成方法について理解すること。又、レポート課題を作成する上で必要となる情報活用の方法についても理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、実験レポートについて、ルーブリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、実験レポートに関する資料集めを行う。	180
第14回	硬化後のコンクリートの性質	硬化後のコンクリートの性質について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、実験レポートを書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、実験レポートについてまとめる作業を行う。	240
第15回	鉄筋コンクリートの耐久性	鉄筋コンクリートの耐久性について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデーターシートについて復習すると共に、レポート課題③について、ルーブリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにすること。	300
第16回				

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びデーターシートは、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を行う。実験レポート課題については、提出された翌週もしくは翌々週に返却し、返却時に評価基準の解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストもしくは、実験時のデーターシートの記載内容で評価する。小テ

	ストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくはデータシートの記述内容によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。実験レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD：15点、D:10点、E：5点）で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	データシート	○			
	レポート課題	○	○		○

評価割合	平常点（５０％）及びレポート課題（５０％）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	初学者の建築講座 建築材料／橘高義典ら／市ヶ谷出版、やさしい建築材料／松本進／学芸出版社、初めての建築材料／前田幸夫ら／学芸出版社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】講義及び実験から得られる情報、授業外学習から得られる情報などを客観的に理解して関係性を導き出すことができる。 【技能・表現】建築材料の学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理して、レポートにまとめることができる。
オフィスアワー	水曜日３時限及び４時限、３号棟６階３６０６研究室、できるだけ、メールなどで事前予約して下さい。
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力を養う。
情報リテラシー教育	○	レポート課題を作成する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築施工		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D33309M21
授業概要(教育目的)	建築生産の最終段階である施工について、建築物の主要構造形式である鉄筋コンクリート造と鋼構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装工事、防水工事、設備工事の順に施工方法を平易に解説する。また、施工する際に重要となる、積算及び工事機械についても説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	鉄筋コンクリート造及び鋼構造で建てられた建築物の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス施工・管理計画（１）	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、工事契約の概略について説明できること。【レポート課題（鉄骨の接合方法とその特徴について）の説明】	【復習】ガイダンス（第１回の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること	60
第2回	施工・管理計画（２）	工程表の種類及びその読み方について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第3回	地業工事（１）	建築物が建てられる地盤について説明できること。又、建築物の地盤調査として用いられている標準貫入試験について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	240
第4回	地業工事（２）	地業工事の中の杭工事について理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について、ルーブリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにすること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート	300

			課題についてまとめる作業を行う。	
第5回	地業工事（３）	地業工事の中の根切り山留め工事について理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	360
第6回	主体工事（１）	鉄骨工事の中のボルト接合について理解できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	180
第7回	主体工事（２）	鉄骨工事の中の溶接について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第8回	主体工事（３）	主体工事の中の鉄筋工事について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	主体工事（４）	鉄筋コンクリート工事の中の型枠工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	主体工事（５）	鉄筋コンクリート工事の中のコンクリート工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	主体工事（６）	主体工事の中のコンクリートブロック工事について理解すること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第12回	防水工事（１）	防水工事の中のアスファルト防水について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	防水工事（２）	防水工事の中の改質アスファルト防水、シート防水などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	防水工事（３）	防水工事の中の塗膜防水、ステンレスシート防水、モルタル防水及びシーリング防水について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	設備工事	設備工事の中の給排水工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第１回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	420

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S：50点、SA：45点、A：40点、AB：35点、B：30点、BC：25点、C：20点、CD：15点、D:10点、E：5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○			
レポート課題	○			
定期試験	○			

評価割合	平常点（約43%）、レポート課題（約14%）及び定期試験（約43%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	建築施工テキスト／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社、専門士課程 建築施工／福田健策ら／学芸出版社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築施工についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	水曜日４時限　3606研究室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	マルチメディア演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D34206M22
授業概要(教育目的)	現代社会に溢れている様々な情報を収集し、論理的に分析することにより、より正確な情報に変え、可視化することが出来る。 本授業では、映像制作を通じでマルチメディアの原理を理解し、情報伝達を理解することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点（K）	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション、チーム構成	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、チーム構成とそれぞれの役割決める。ブレーインストミング方法によるテーマを設定する。	映像作品を１つ選定して映像の構成、特徴、視覚的効果などを調査してレーポトでまとめる。	９０分
第2回	コンセプト、シナリオの作成１	ブレーインストミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。	映像作品を１つ選定して映像の構成、特徴、視覚的効果などを調査してレーポトでまとめる。	９０分
第3回	コンセプト、シナリオの作成２	ブレーインストミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。	映像作品のテーマ、コンセプト、シナリオをまとめる。	９０分
第4回	絵コンテの作成１	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	９０分
第5回	絵コンテの作成２	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	絵コンテの完成度を高める。	９０分
第6回	ロケーション	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影場所を視察する。	撮影するための準備を行う。	９０分
第7回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	９０分
第8回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	９０分
第9回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	９０分
第10回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	９０分

第11回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリを繋げる。	編集したデータを確認する。	９０分
第12回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリを繋げる。	編集したデータを確認する。	９０分
第13回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。BGMやアフレコの録音を行う。	編集したデータを確認する。	９０分
第14回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。字幕処理などを行い完成する。	編集したデータを確認する。プレゼンテーション準備を行う。	９０分
第15回	プレゼンテーション	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。	９０分

学生へのフィードバック方法	この演習は学生が主体で行う授業ですがブレインストーミングの手法、シナリオの作成方法、撮影、編集のテクニックについて授業中およびオフィスアワーの時間に適切なアドバイスを行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。 レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。 平常点は２０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	レポート		○	○	○
	最終報告書	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題（６０％）、レポート（１０％）最終報告書（１０％）平常点（２０％）で評価をする。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	月曜日２限　１３０７研究室
学生へのメッセージ	映像は情報表現にはとても重要な表現の手段です。映像制作に興味がある方は是非参加して楽しい映像を制作しましょう。 受講申請が５名以下の場合は開講できません。少人数の映像製作は難しいからです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	デジタルフォト論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D24208M21
授業概要(教育目的)	カメラの仕組みと写真の基本的な理論を理解して演習を通じて知識を深める。写真は情報伝達の表現において大切な方法である。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目的とする。テーマを用いた風景や人物などの撮影を行い、その結果を用いて様々なデジタル処理を行う。
履修条件	CGデザイン演習の履修が望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、写真の知識を深めて理解することできる。
思考・判断の観点（K）	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業のオリエンテーション、デジタルフォトの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。デジタルフォトと表現の可能性について説明を行う。	写真家を２人選び作品（世界観、特徴など）について調査しレポート１でまとめる。	１８０分
第2回	カメラについて	カメラの種類と機能、レンズの種類･絞りとシャッターの機能について理解する。	写真家を２人選び作品（世界観、特徴など）について調査しレポート１でまとめて提出。	１８０分
第3回	カメラについて	シャッターの役割を学習して露出について理解する。またシャッターの変化による表現の可能性を理解する。	課題１：カメラの基本１（露出、シャッターの理解）を行う。	１８０分
第4回	カメラについて	絞りの役割を学習して露出について理解する。また絞りの変化による表現の可能性を理解する。	課題２：カメラの基本２（露出、絞り、露出の理解）を行う。	１８０分
第5回	撮影について	季節をテーマとした写真について理解する。風景写真家１の作品について解説を行う。	課題３：季節をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート２を作成する。インスタグラムで発信を行う。	１８０分
第6回	撮影について	季節をテーマとした写真について理解する。風景写真家２の作品について解説を行う。	課題３：季節をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート２を作成すて提出。インスタグラムで発信を行う。	１８０分

第7回	撮影について	人物をテーマとした写真について理解する。ポートレート写真家１の作品について解説を行う。	課題４：人物をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート３を作成する。インスタグラムで発信を行う。	１８０分
第8回	撮影について	人物をテーマとした写真について理解する。ポートレート写真家２の作品について解説を行う。	課題４：人物をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート３を作成すて提出。プレゼンテーションの準備を行う。	１８０分
第9回	プレゼンテーション１	季節・人物のテーマで撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。	今までの課題やレポート、プレゼンテーションを振り返る。	１８０分
第10回	デジタル補正１	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、レポート４でまとめる。	１８０分
第11回	デジタル補正２	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、レポート４でまとめて提出。	１８０分
第12回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家１の作品について解説を行う。	課題５：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート５を作成する。インスタグラムで発信を行う。	１８０分
第13回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家２の作品について解説を行う。	課題５：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート５を作成する。インスタグラムで発信を行う。	１８０分
第14回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家３の作品について解説を行う。	課題５：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート５を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。インスタグラムで発信を行う。	１８０分
第15回	プレゼンテーション２	自由にテーマを設定し撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。	デジタル補正や課題５、レポート、プレゼンテーション２を振り返る.。	１８０分

学生へのフィードバック方法	課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	５回の課題は５０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。 ５回のレポートは３０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。 平常点は２０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題（５０％）、レポート（３０％）平常点（２０％）で評価をする。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。″
オフィスアワー	火曜日３限　１３０７研究室
学生へのメッセージ	写真は情報表現、情報伝達にとても有効なツールです。課題は多いですが写真について楽しく学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インテリアデザイン論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし

ナンバリング	D31114M21
授業概要(教育目的)	インテリアデザインの入門として、内部空間との関係が深いモノや人との関係に関心を持ち、モデュールや形、色、テクスチャーの心理、家具、椅子、照明や材料などについての知識を深めていく。インテリアデザイン計画では建築空間の制約を受けると同時に、室内に配される物とも密接な関連を持っている。材料、技術、手法、建築法規などのハード面についての知識と人間の心理や行動、あるいは人間的スケールなど具体的な設計に応用できるための計画技術を学ぶ。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．インテリアエレメントの幅広い知識を理解し説明できる。 ２．建築の工法、材料、建築法規などを理解し説明することができる。
思考・判断の観点（K）	１．様々な諸問題を理解し、インテリアデザイン計画を行なうことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	インテリアデザインとは、日本の住まいの特徴	インテリア計画学、インテリアデザインの発生、必要となった理由、計画の目的と対策、範囲、インテリア計画を行う時のアプローチの方法を理解する。日本の住まい、伝統的木造住宅の特徴を理解する。	インテリア計画学、インテリアデザインとは（P10 ～11）を読んでおくこと。	120分
第2回	日本の住まいとインテリアの変遷	寝殿造り、書院造り、数寄屋造りのそれぞれの特徴を理解する。西洋建築の普及と中廊下型住宅の特徴を理解する。１回目練習問題（台所寸法、天井高、建築材料）	日本の住まいとインテリアの変遷（P12 ～19）を読んでおくこと。前回の復習として、インテリアデザインを行う場合に行う4つのアプローチの方法を理解しておく。	240分
第3回	西洋のインテリア家具様式の変遷、第二次世界対戦後のデザインの流れと日本の現代家具	古代エジプトから近代アールデコまでの西洋家具様式の特徴と変遷を理解する。ビデオ（２×４工法）	西洋のインテリア家具様式の変遷（P20～25）、第二次世界対戦後のデザインの流れと日本の現代家具（P26 ～27）を読んでおくこと。	240分
第4回	人間工学の意味と人体	人体寸法と設計との関係、姿勢、作業域、動作空間を考慮した設計について理解する。２回目練習問題（色彩、	人間工学の意味と人体寸法、家具・設備への人間工学の応用	120分

	寸法、家具・設備への人間工学の応用	造形）	（P28 ～35）を読んでおくこと。	
第5回	インテリアの安全性、形・色・テクスチャーの心理	日常災害、非常災害について理解する。形と色の心理、テクスチャーの心理、人体感覚と内装材料について理解する。ビデオ（建物探訪・スローライフ編）	インテリアの安全性、形・色・テクスチャーの心理（P36 ～47）を読んでおくこと。	240分
第6回	人間尺度と空間の心理	建築モデュール、（モジュロール）、日本の木割を理解する。ビデオ（建物探訪・狭少・変形敷地編）	人間尺度と空間の心理（P48 ～55）を読んでおくこと。	120分
第7回	家具、テキスタイル、照明、サイン、グリーン、アート	家具の構造、家具デザインの条件、デザイン変遷を理解する。インテリアエレメントとしてのテキスタイル、照明等について学ぶ。ビデオ（建物探訪・ローコスト編）	家具、テキスタイル、照明、サイン、グリーン、アート（P56 ～67）を読んでおくこと。	120分
第8回	材料と仕上げ（木材、石材、タイル、金属、プラスチック）	教科書に加え、床下地と仕上げ、壁、天井、開口部、窓の納まり、派バキと廻縁の納まり等の構法を学ぶ。３回目練習問題（住居、住まいの変遷）	材料と仕上げ（床/壁/天井/開口部、カーペット・カーテン）（P68 ～75）を読んでおくこと。	120分
第9回	インテリアの構法	教科書に加え、別紙資料配布により、カーペット、カーテン、建具、扉、障子、ふすま、窓、照明器具、給排水設備、階段、住宅の構法、屋根の種類と構法を理解する。ビデオ（コーポラティブ住宅Vol13）	インテリアの構法（P76 ～83）を読んでおくこと。	120分
第10回	建築基準法・建築士法・消防法	別紙資料により、建築物、建築設備、居室、主要構造部、耐火構造、延焼のおそれのある部分、、環境衛生に関する規定、防火・避難、建築士法、消防法を学ぶ。４回目練習問題（日本史、西洋史）	建築基準法・建築士法・消防法の別紙事前配布資料を読んでおくこと。	120分
第11回	室内環境計画とその制御	熱環境、空気環境と湿気、光環境と音環境、エコロジーな室内環境について理解する。	室内環境計画とその制御（P84 ～91）	120分
第12回	プライベートインテリアの計画、住空間設計	事例を学ぶ。住まいの機能、集合住宅の計画について学ぶ。５回目練習問題（寸法計画）	住空間計画（P94 ～97）を読んでおくこと。	120分
第13回	コミニュケーション空間	LDK空間、DK空間、和室・洋室、これからのD空間、L空間のインテリア、家事空間を学ぶ。フォーマルリビングにつて考える。ビデオ（建築家の設計した住宅・フォーマルリビングVol10）	コミュニケーション空間（P98 ～105）を読んでおくこと。	120分
第14回	プライベート空間、子供の空間、、高齢者の空間、夫と妻の空間	子供の成長、空間概念、プライバシー意識、子供と家族、親の養育態度、子供部屋の装備、高齢者の身体機能の衰え、フレキシブルな将来対応、夫婦寝室と書斎、趣味の部屋を考える。	子供の空間、高齢者の空間、夫と妻の空間（P106 ～117）を読んでおくこと。	120分
第15回	サニタリー空間、収納方式と収納空間、アプローチ空間	健康空間としての便所、浴室、ユーティリティ空間について考える。	サニタリー空間、収納方式と収納空間、アプローチ空間（P118～127）を読んでおくこと。	予習：240分、復習：420分

学習計画注記	教科書の項目順に進めていくが、進み具合によりスケジュール変更の場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業についての質問は常時受け付ける。質問がある場合は、研究室へ訪ねて下さい。メールも可。 練習問題（2級建築士問題集、キッチンスペシャリスト問題集）を５回、授業前に行うが、答え合わせと同時に解説、質問を受け付ける。 ビデオ鑑賞後、短時間であるが意見交換を行う。
評価方法	定期試験の評価及び平常点。 ビデオ鑑賞後の意見交換や、積極的な質問や意見、授業態度による評価。 練習問題は自己採点し、評価に反映しない。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験	○			
	平常点			○	

評価割合	試験(85%）、平常点(15%)
使用教科書名(ISBN番号)	インテリアデザイン教科書第二版／インテリアデザイン教科書研究会編著／彰国社／2800円＋税
参考図書	「住居学入門」学芸出版社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野における知識を得、専門的な職業に通じる知識を得ることができる

オフィスアワー	水曜3限　1502研究室
学生へのメッセージ	インテリアに関心を持ち幅広い知識を吸収して、インテリア計画のできる人になれるように学修してくれることを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活美学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D31115M21
授業概要(教育目的)	ものの価値を判断する基準の1つである「美しさ」は、主観的な部分が大きく、時として曖昧であるが重要視される。その一方で、近代デザインに機能重視の考え方は欠かせない。生活用品の「美しさ」、あるいは生活における「美しさ」の考え方について、機能と美しさの関係も考慮しながら、歴史的な観点から考える。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活用品の「美しさ」「機能」「デザイン」の考え方を理解できる。
思考・判断の観点（K）	生活用品の価値の様々な側面を考慮しながら、生活における「美しさ」について判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業内容の説明	授業の進め方と目的について解説する。	この授業の目的、と生活デザイン学科全体の学習内容の関係を考える。	180分
第2回	くらしの中のデザイン	生活用品のデザインを、機能・美しさ・使いやすさ等の面から考える。	普段自分が使っている生活用品の使いやすさや美しさについて考える。	180分
第3回	やきものの色と作り方と材料（１）	やきものの作り方と材料について解説する。	自分の身の周りにあるやきものの材料や作り方について、実際に手にとって観察し考える。	180分
第4回	やきものの色と作り方と材料（２）	やきものの作り方・材料と、やきものの色や性質の関係について説明する。	自分の身の周りにあるやきものの材料・作り方と、使いやすさについて考える。	180分
第5回	やきものの色と作り方と材料（３）	やきものの色・性質と、扱いやすさ、使い手の好みの関係について考える。	普段自分が使っている生活用品の使いやすさや美しさについて考える。	180分
第6回	やきものの絵付け	やきものの絵付けの種類と特徴について解説する。	やきものを観察して、絵付けの違いを確認する。	180分
第7回	ヨーロッパの陶磁器に	ヨーロッパのやきもの作りの歴史的な変化の概略と、中国とイスラム文化圏からの影響について解説する。	18世紀までの世界史の大まかな流れを理解しておくこと。	180分

	ついて（1）			
第8回	ヨーロッパの陶磁器について（2）	中世のスペインとイタリアの陶磁器を紹介し、イスラム文化圏からの影響と、その後のヨーロッパの陶磁器づくりとの関連を考える。	日本とヨーロッパの陶磁器について、デザインと使い方の相違点を考える。	180分
第9回	ヨーロッパの陶磁器について（3）	ドイツのマイセンの磁器について解説し、ヨーロッパの磁器の歴史と特徴について学ぶ。	日本とヨーロッパの陶磁器について、デザインと使い方の相違点を考える。	180分
第10回	漆器について（1）	漆の特徴と、漆器の素地となる材料について理解する。	自分の家にある漆器を探して観察すること。	180分
第11回	漆器について（2）	漆器の作り方について解説し、漆器の美しさと使いやすさの関係について考える。	陶磁器と漆器を、様々な点について比較してみる。	180分
第12回	漆器について（3）	漆器の色と、日本列島での古代の漆器作りについて解説し、漆器と生活の関わりを考える。	陶磁器と漆器を、様々な点について比較してみる。	180分
第13回	民藝運動について（1）	民藝運動の歴史と考え方について説明する。	自分の生活の中にある「民藝品」を探してみる。	180分
第14回	民藝運動について（2）	民藝運動が現代の我々の生活に与えた影響を考える。	特定の生活用品を選び、その「価値」について考える。	180分
第15回	まとめ	14回の授業を振り返り、生活における「美しさ」について、機能との関係も含めて、もう一度考える。	レポートの作成。	180分

学習計画注記	授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	中間のレポート等は返却時に、履修者の解答のいくつかを選んで解説をする。
評価方法	１．授業終了時に、授業内容を整理するミニレポートを適宜課す。 ２．ミニレポートは、授業内容をどの程度理解できているか、さらに、授業内容を自身の体験や生活と関連づけて考えているか、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。 ３．学期の半ば頃と、学期末にレポートを出題する。 ４．レポートは、それまでの授業内容を体系的に整理できているか否か、そして、生活と「美しさ」の関わりに関する問題を考察し、自身の考え方として整理されているか否か、という視点で採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○			
	レポート	○	○		

評価割合	平常点40%、2つのレポートで60%の割合で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
オフィスアワー	木曜日2時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｄ（石綱）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要（教育目的）	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回	文献を読む②	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第8回	文献を読む③	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第9回	文献を読む④	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第10回	文献を読む⑤	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分

第11回	文献を読む⑥	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第12回	文献を読む⑦	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第13回	文献を読む⑧	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第14回	文献を読む⑨	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第15回	文献を読む⑩	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する	45分

学習計画注記	履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：読解力、要約緑、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○

評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜3限 3609研究室
学生へのメッセージ	初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｄ（齋藤史）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要（教育目的）	国分寺市立ひかり児童館他市内児童施設または近隣児童施設において、地方自治体・委託先民間団体・地域と協働し、子どもの楽しいプログラム・居場所づくりに取り組む。コミュニティデザインの実習でもある。
履修条件	特に無し

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	実施に子どもを対象とした児童福祉施設（児童館・学童保育）等の社会的役割にふさわしい活動と居場所作りに取り組もうという姿勢を持つ。
技術・表現の観点（A）	子どもたちの生活を充実させる活動をプログラムし、施設・地域の方と対話して課題を共有しながら取り組むことができる。

学習計画

こどもにやさしいまちづくりの実践

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	こどもにやさしいまちづくり	ユニセフ提唱のこどもにやさしいまちづくりとは	こどもにやさしいまちづくりをネット調査する。	60分
第2回	国分寺市の児童施設	国分寺市の児童施設の概要	国分寺市の児童施設にはどのようなものがあるか調査する。	60分
第3回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第4回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第5回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第6回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分

第7回	見学の振り返り	国分寺市の児童施設の概要を、見学をもとににまとめる	見学の様子をまとめる	60分
第8回	児童施設における活動内容の構想	グループで児童施設での活動プログラムを構想する（アクティブラーニング）	子どもを対象としたプログラムを調査する。	60分
第9回	児童施設での活動プログラム準備	児童施設での活動を実施するための準備活動を行う。	グループ活動で必要な内容・品物の準備。	60分
第10回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第11回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第12回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第13回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第14回	プログラム実施の振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの内容・気づきをまとめる	60分
第15回	こどもにやさしいまちづくりを再度考える	15回の授業を通してこどもにやさしいまちづくりの役割と可能性を考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記	学生主体でグループを形成し、実際に国分寺市の児童施設（市立ひかり児童館他）に出かけ、子どもとともに楽しいプログラムを実施します。主体的、共同的に参加することを求めます。
学生へのフィードバック方法	プログラム実施・前後の授業において計画と振り返りの時間を設ける。
評価方法	プログラムへの共同的で積極的な参加と、実施したプログラムの内容によって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	プログラムへの共同的積極的参加			○	○
	プログラムの実施内容			○	○

評価割合	プログラムへの共同的積極的参加（50%） プログラムの実施内容（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	授業内で提示する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】子どもにとって必要な社会を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断し提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって子どもたちのために働く能力 【技能・表現】学修で得た専門的技能(技術)をもって課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することでこどもにやさしいまちを創り出す能力
オフィスアワー	火曜日3限1607研究室
学生へのメッセージ	子どもたちにとって大学生は、身近で憧れの存在です。子どもたちの中に積極的に飛び込み、施設・地域の方と協力してこどもにやさしいまちづくりに実践的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。
情報リテラシー教育	○	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	○	インターネット調査

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｄ（佐々木）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木　麻紀子	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要（教育目的）	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	なし

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、プログラム内容について理解する	プログラム内容についてガイダンスで配布した資料を読んでおくこと。	45分
第2回	天然染料染色の特徴	天然染料の特徴を学ぶ	天然染料の種類や特徴について調べておくこと	45分
第3回	天然染料染色の特徴2	天然染料の特徴を学ぶ	天然染料の種類や特徴について調べておくこと	45分
第4回	天然染料の染色1	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第5回	天然染料の染色2	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第6回	天然染料の染色3	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第7回	天然染料の染色4	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第8回	天然染料の染色5	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第9回	天然染料の染色6	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第10回	天然染料の	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等	45分

	染色7		を読んでおくこと。	
第11回	染色堅牢度試験1	染色した試料の染色堅牢度を調べる	染色堅牢度試験方法について調べおくこと	45分
第12回	染色堅牢度試験2	染色した試料の染色堅牢度を調べる	染色堅牢度試験方法について調べおくこと	45分
第13回	染色堅牢度試験3	染色した試料の染色堅牢度を調べる	染色堅牢度試験結果をまとめておく	45分
第14回	作品制作	堅ろう度試験の結果を踏まえ、天然染料を使って染色作品を制作する。	これまでの授業の内容を復習し、適切な染色方法で染められるように染料、布などを準備しておくこと	45分
第15回	講座のまとめ	講座について振り返り、討議した結果をレポートにまとめる。	レポートを作成する。	45分

学習計画注記	受講人数によってはスケジュールが変更になる場合があります。また、複数回の授業を、まとめて実施することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	平常点80%、レポート20%で評価します。 平常点は授業への積極的な参加態度、授業内容の理解等を総合的に判断し評価します。 レポートは各A4用紙2枚程度に ①天然染料の種類と特徴②自身の取り組み方について記載してもらいます。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	レポート①	○			○
	レポート②		○		○

評価割合	平常点80%、レポート各10%で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	・染色の技法/田中清香/理工学社/978-4844585855 ・染色の基礎知識　増補改訂版合成染料の技法/高橋誠一郎/染色と生活社/978-4-975374-62-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜2時限　2406研究室
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	身近な染料を用いて自身でサンプル制作をする。
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集やレポート作成のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｄ（富田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要（教育目的）	（集中授業） パターンメーキング3級検定試験の課題「ブラウス」の身頃と袖、衿の応用バリエーションの製図（実物大）とテキストによる記述試験の対策を学び、製図からシーチングによる立体組み立ての知識と技術を習得して試験合格基準の力を身に付けることが目的である。

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	社会の中の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D（富田１）

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	パターンメーキング3級検定試験対策講座説明１	道具、テキスト、日程、要項内容を理解する。	パターンメーキング検定試験の要項を読んでおくこと。製図用紙を準備すること。	45分
第2回	衿の製図１、記述問題１	衿の製図（スタンドカラー、台衿付きシャツカラー、フラットカラーなど）、および記述問題を学ぶ。	衿の製図を練習し、製図用紙を準備すること。パターンメーキング検定試験の要項を読み、受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。	45分
第3回	衿の製図２、記述問題２	衿の製図（セーラーカラー、オープンカラーなど）、および記述問題を学ぶ。	衿の製図を練習し、製図用紙を準備すること。パターンメーキング検定試験の要項を読み、受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。	45分
第4回	袖の製図１、記述問題３	袖の製図（セットインスリーブ）、および記述問題を学ぶ。	袖の製図を練習し、シーチングと製図用紙を準備として基準線を入れ、アイロンがけをすること。受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。	45分
第5回	袖の製図２、記述問題４	袖の製図（パフスリーブ2種）、および記述問題を学ぶ。	袖の製図を練習し、シーチングと製図用紙を準備として基準線を入れ、アイロンがけをするこ	45分

			と。受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。	
第6回	Aブラウス１、記述問題５	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てをし、および記述問題を学ぶ。	ブラウスAの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第7回	Aブラウス２、記述問題６	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てをし、および記述問題を学ぶ。	ブラウスAの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第8回	Aブラウス３	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習すること。	45分
第9回	Bブラウス１、記述問題７	BブラウスBの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、および記述問題を学ぶ。	ブラウスBの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第10回	Bブラウス２、記述問題８	Bブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てを学ぶ。	ブラウスBの製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第11回	Bブラウス３	Bブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習すること。	45分
第12回	パターンメーキング3級検定試験対策講座説明２	記述問題のポイント、疑問点や試験用のシーチング2組、製図用紙2組、道具等の準備について学ぶ。	問題・質問等を用意してくること。チーチングや製図用紙は、皺にならないように持ち運びを工夫すること。	45分
第13回	Aブラウス４	Aブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習し、点検をうけること。	45分
第14回	Bブラウス４	Bブラウスの製図、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立て、点検と修正（身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方）などを学ぶ。	製図、シーチング組み立てを修正をしておくこと。試験時間内に仕上がるように練習し、点検をうけること。	45分
第15回	試験前の確認・質問・準備	A・Bのブラウスの製図、記述問題の疑問点などを理解する。	疑問点等を整理しておくこと。	45分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	製図、シーチング組み立てを点検してコメントする。
評価方法	平常点（授業への参加状況・提出期日・作業の取り組み方などで総合的に判断する）、課題

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
製図、組み立て	○	○	○	○

評価割合	平常点50%、課題50%
使用教科書名(ISBN番号)	パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック 日本ファッション教育振興協会
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】者ハイの中の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日　12:30～14:00
学生へのメッセージ	パターンメーキングの知識・技術を深めたい学生は、検定試験の受験の有無に関わらず履修してもかまいませんが、欠席しないようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｄ（花田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	ウィービングデザイン演習Aを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	この授業は、ウィービングデザイン演習Aを補完するものであることを理解する。織物の三原組織（平織、斜文織、朱子織）について、更に織物の並置加法混色いついて理解する。	【復】織組織、並置加法混色の理論を踏まえ、基本的な平織、斜文織、朱子織の織物製作の配色を考える。	45分
第2回	織物の製作工程を理解する　ー織機の構造ー	織機の構造を理解し、織物を製作するための糸の準備（整経作業）を行う。	【復】平織、斜文織、朱子織の織物製作の整経作業を終わらせる。	45分
第3回	織物の製作工程を理解する　ー織機のセッティングー	基礎的な織物を製作するために糸を織機にセットする手順を理解し、筬通し、綜絖通しを行い、織機に糸をセットする。	【復】平織、斜文織の織物製作のための糸のセッティング作業を終わらせる。	45分
第4回	織物の製作工程を理解する　ー基礎的な織物製作ー	平織、斜文織を製織する。	【復】平織、斜文織の織物を完成させる。	45分
第5回	織物の製作工程を理解する　ー組織図の作成ー	織りあげた平織と斜文織の組織図を作成する。	【復】組織図を完成させる。	45分
第6回	織物の製作	朱子織のための綜絖通しを理解し、織機に糸をセッティ	【復】朱子織の織物製作のため	45分

	工程を理解する　ー朱子織のセッティングー	ングする。	の糸のセッティング作業を終わらせる。	
第7回	織物の製作工程を理解する　ー朱子織の織物製作ー	朱子織を製織する。	【復】朱子織の織物を完成させる。	45分
第8回	織物の製作工程を理解する　ー房の始末、縮絨ー	房の始末、縮絨をして、布の仕上げを行う。	【復】アイロンがけや房を始末し、平織、斜文織、朱子織の基礎織物サンプルを仕上げる。	45分
第9回	織物製造施設の見学	八王子近郊の織物施設の見学（教室外での見学学習）	【予】八王子のテキスタイル産業の歴史、現状について調べておく。	135分
第10回	織物製造施設の見学	八王子近郊の織物施設の見学（教室外での見学学習）	【復】機械で織られる織物の製織工程と技術について整理してまとめる。	135分
第11回	織物施設見学の振り返り	グループに分かれ、織物製造施設を見学した振り返りを行う。	【復】織物製造施設の見学を振り返り、見学レポートを作成する 。	45分
第12回	織物施設見学の振り返り	八王子のテキスタイル産業の歴史と現状について考察し、地場産業と地域振興の関係性について、ディスカッションし、整理して発表する。	【復】織物製造施設の見学を振り返り、見学レポートを完成させる 。	90分
第13回	応用作品の制作	応用作品の製織を進める。	【復】製織作業を進める。	30分
第14回	応用作品の制作	応用作品の製織を進める。	【復】製織作業を進める。	30分
第15回	応用作品の制作	応用作品の仕上げを行う。	【復】製織したテキスタイルを使用した応用作品を制作する。	30分

学習計画注記	複数回の授業を、まとめて実施することがあります。また状況により、計画が変更される可能性もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。見学レポートへのコメント。
評価方法	①見学レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲　の程度を評価） ②平常点（内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度　の程度を評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	見学レポート	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	レポート80%　平常点20%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	水曜日４限後半～５限前半　２４０７被服材料学研究室
学生へのメッセージ	学外の施設を見学することは、製織技術についての理解が深まる貴重な機会です。積極的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な作業の実施
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	高分子材料学実験		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D22105M13
授業概要(教育目的)	テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した知識を、自分の手で実験し観察することは習得した事柄の理解をより深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段となる。糸・布の構造観察と表示、及び機械的性質、快適性に関する性質、実用性能などに関する実験を行い、高分子の構造を背景とした繊維、繊維から糸、布にいたる繊維集合体としての性質、及びその相関を考察する力を育成する。
履修条件	繊維学実験を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点（K）	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点（A）	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	実験プログラムの説明	高分子材料学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書（p.1～16）読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方等を理解する。	45分
第2回	糸の観察（１）	グループに分かれ、糸の長さと重量計測から糸の太さを算出する。恒長式番手・恒重式番手による糸の表示が理解できる。	実験書の「糸の観察」（p.高17～高23）を読んでおくこと。	45分
第3回	糸の観察（２）	グループに分かれ、検撚機を用いて、糸の合糸数、より方向、より数の測定等を観察し、糸の構造を理解する。	糸の観察の実験レポートを作成する。	45分
第4回	織物の構造（１）	グループに分かれ、織物の厚さと重量を計測し、目付、見掛け比重、含気率、カバーファクターを算出する。	実験書の「織物の構造」（p.高24～高33）を読んでおくこと。	45分
第5回	織物の構造（２）	グループに分かれ、三原組織試料布を用いて、組織図の表示、織密度、織縮率を算出し、織物の基本構造について理解する。	織物の構造の実験レポートを作成する。	45分
第6回	引張強伸度試験	グループに分かれ、各種繊維の切断時の強さと伸び率を測定し、織物の伸長特性を理解する。乾湿強度についても検討する。	実験書の「引張強伸度試験」（p.高34～高38）を読んでおくこと。引張強伸度試験の実験レポートを作成する。	45分
第7回	総合的考察	実験結果を振り返り、繊維、糸、布の物理的構造を整理し、理解する。	繊維、糸、布の物理的構造を理解し、衣服への影響について考察する。	45分

第8回	吸湿・吸水性試験（１）	グループに分かれ、各種繊維を湿度の異なる環境下で処理した各種繊維の等温吸湿曲線を作成し、繊維の吸湿性について理解する。	実験書の「吸湿性試験」（p.高39～高46）を読んでおくこと。吸湿性試験の実験レポートを作成する。	45分
第9回	吸湿・吸水性試験（２）	グループに分かれ、バイレック法により各種繊維の吸水性を観測する。	実験書の「吸水性試験」（p.高47～高48）を読んでおくこと。吸水性試験の実験レポートを作成する。	45分
第10回	摩耗・摩擦試験	グループに分かれ、各種繊維の平面摩耗試験と屈曲摩耗試験を行い繊維の摩耗特性について理解する。更に、傾斜板法により、静摩擦係数を測定し、織物の摩擦特性について理解する。	実験書の「摩耗試験」（p.高49～高52）を読んでおくこと。摩耗試験、摩擦試験の実験レポートを作成する。	45分
第11回	ドレープ性試験（１）	グループに分かれ、簡便法により各種繊維のドレープ係数を測定し、織物のドレープ性について考察する。	実験書の「ドレープ性試験」（p.高53～高56）を読んでおくこと。	45分
第12回	ドレープ性試験（２）	グループに分かれ、新合繊を試料として簡便法によりドレープ係数を測定し、繊維径によるドレープ性の相違を検討する。	ドレープ性試験の実験レポートを作成する。	45分
第13回	保温性試験	グループに分かれ、冷却法により保温性試験を行い、繊維の保温性について考察する。	実験書の「保温性試験」（p.高57～高61）を読んでおくこと。保温性試験の実験レポートを作成する。	45分
第14回	紡しわ性試験	グループに分かれ、針金法により防しわ性試験を行い、繊維の防しわ性について考察する。	実験書の「防しわ性試験」（p.高62～高63）を読んでおくこと。防しわ性試験の実験レポートを作成する。	45分
第15回	総合的考察	全体の実験結果を整理し、布帛は、繊維、糸、布の各々の性質と構造が複合的に相関した繊維集合体であることを総合的に理解する。	繊維、糸、布の構造や性質が、身近な衣服にどのように影響しているのか考察する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 実験レポートへのコメント。
評価方法	①実験レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲　の程度を評価） ②平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度　の程度を評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験レポート	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	レポート60%　平常点40%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	高分子材料学実験実験書
参考図書	①新稿被服材料学ー概説と実験ー（ISBN978-4-332-10047-8　中島利誠編著　光生館発行　2010年） ②被服材料実験書（ISBN4-8103-1104-X　石川欣造編　同文書院発行　平成１０年第三版14刷） ③衣服材料学実験（ISBN978-4-254-60634-8　松梨久仁子　平井郁子編著　朝倉書店発行　2018年）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室 tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。
学生へのメッセージ	実験法を理解することにより、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

シラバス参照

講義名	繊維学実験		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D22104M13
授業概要(教育目的)	被服材料の構造と性質を考察するためには、被服を構成している基本物質である繊維、及び高分子についての理解が必要である。各種繊維の顕微鏡観察、繊維の燃焼性、呈色性、耐薬品性、繊維の製造実験等の繊維に関する化学的・物理的性質について実験し、繊維を鑑別する知識と技術を習得すると共に、繊維、及び高分子について深く理解させる。
履修条件	高分子材料学実験を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	被服材料として取り扱われている繊維の化学的・物理的性質を理解できる。
思考・判断の観点（K）	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点（A）	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	実験プログラムの説明	繊維学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。 レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書（p.1～16）読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方等を理解する。	45分
第2回	顕微鏡の取り扱いと繊維の観察（１）	グループに分かれ、光学顕微鏡の取り扱いとマイクロメータの使い方を理解する。	実験書の「顕微鏡による繊維の観察」（p.17～20）を読んでおくこと。	45分
第3回	顕微鏡による繊維の観察（２）	グループに分かれ、光学顕微鏡により、既知繊維の側面・断面を観察し、各種繊維の形態的特徴を理解する。	顕微鏡による繊維の観察の実験レポートを作成する。	45分
第4回	繊維の燃焼性試験（１）	グループに分かれ、既知繊維繊維の燃え方、煙の状態、臭い、灰の様子について観察し、繊維の燃焼性について考察する。	実験書の「繊維の燃焼性試験」（p.21～26）を読んでおくこと。	45分
第5回	繊維の燃焼性試験（２）	グループに分かれ、バイルシュタイン法により既知繊維中の塩素を検出する。	繊維の燃焼性試験の実験レポートを作成する。	45分
第6回	着色による繊維の鑑別（１）ー鑑別用試薬ー	グループに分かれ、鑑別用試薬を用いて、既知繊維の呈色反応試験を行う。	実験書の「繊維の燃焼性試験」（p.27～32）を読んでおくこと。	45分
第7回	着色による	グループに分かれ、混合インクを用いて、既知繊維の呈	着色による繊維の鑑別の実験レ	45分

	繊維の鑑別（２）ー混合インクー	色反応試験を行う。	ポートを作成する。	
第8回	総合的考察	実験結果を振り返り、繊維の形態的特徴や化学的性質を整理し理解する。	繊維の形態的特徴や化学的特徴を決定する要因について考察する。	45分
第9回	耐薬品性試験（１）	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。	実験書の「耐薬品性試験」（p.33～38）を読んでおくこと。	45分
第10回	耐薬品性試験（２）	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。	耐薬品性試験の実験レポートを作成する。	45分
第11回	ビニロン糸の紡糸ー湿式紡糸法ー	グループに分かれ、ポリビニルアルコールを繊維化し、凝固浴中に押し出してビニロン糸を製作する。ビニロン糸の製作を通して湿式紡糸の原理を理解する。	実験書の「耐薬品性試験」（p.39～40）を読んでおくこと。	45分
第12回	ビニロン糸の紡糸ーアセタール化ー	グループに分かれ、紡糸したビニロン糸にアセタール化処理を行い、実用性について検討する。	ビニロン糸の紡糸の実験レポートを作成する。	45分
第13回	未知試料の鑑別（１）ー天然繊維ー	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。	事前に実験書の「繊維鑑別のための各種繊維の性質表」（p.41～44）を確認しておくこと。	45分
第14回	未知試料の鑑別（２）ー化学繊維ー	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。	鑑別試験の結果を振り返り回答を導き出した思考プロセスを確認する。	45分
第15回	総合的考察	全体の実験結果を振り返り、繊維の形態的特徴や化学的性質を整理し理解する。	繊維の形態的特徴や化学的特徴を決定する要因について考察する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 実験レポートへのコメント。
評価方法	①実験レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲　の程度を評価） ②未知試料の鑑別試験（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度　の程度を評価） ③平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度　の程度を評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験レポート	○	○	○	○
	未知試料の鑑別試験	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	レポート50%　未知試料の鑑別試験20%　平常点30%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	繊維学実験実験書
参考図書	①新稿被服材料学ー概説と実験ー（ISBN978-4-332-10047-8　中島利誠編著　光生館発行　2010年） ②被服材料実験書（ISBN4-8103-1104-X　石川欣造編　同文書院発行　平成１０年第三版14刷） ③衣服材料学実験（ISBN978-4-254-60634-8　松梨久仁子　平井郁子編著　朝倉書店発行　2018年）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室 tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。
学生へのメッセージ	実験法を理解することにより、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。

ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アパレルデザイン論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D12204M21
授業概要(教育目的)	アパレル製品の企画・設計を行うには、デザインに関する基礎知識が必要である。この授業では商品企画とファッションビジネスの状況、ファッションの変遷と時代背景、衣服デザインの基礎構成要素やフォーム、色彩、テキスタイルを理解しする。またデザインのミニ課題やファッションに関する内容のプレゼンテーションなどから情報を整理・発信することなどを目的とする。また、アパレル企業で実務経験のある講師による特別授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルデザイン論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業・課題の説明、アパレルデザイン	授業内容、発表課題・進め方、およびアパレル製品の台頭、衣服のファッション化、ファッションとアパレルデザインについて学ぶ。	授業後は、発表課題のファッションデザイナー、またはファッションブランドについての資料・書籍等を取集すること。	180分
第2回	特別授業	ファッションビジネスについて具体的に学ぶ。アパレル企業で実務経験のある講師の授業である。	ノート整理をしておくこと。発表課題の資料・書籍等を取集し、課題のテーマを考えること。	180分
第3回	ファッションの変遷とその背景１ミニ課題	近代から1940年代までの服飾について学ぶ。	ファッションデザイナー、歴史背景、流行した理由などをまとめておくこと。発表課題のテーマ資料・書籍等の情報を提出する。ミニ課題に取り組む。	180分
第4回	ファッションの変遷とその背景２ミニ課題	現代（20世紀後半）の服飾について学ぶ。	ファッションデザイナー、歴史背景、流行した理由などをまとめておくこと。発表課題について発表内容発表内容を整理する、	180分
第5回	衣服デザインの基礎１	ファッションアイテムやデザインを表現・説明（発表）するために、デザイン構成の基礎として形態の分析、装	発表課題の資料・書籍等を読み進めて発表内容を考えること。	180分

	ミニ課題	飾形式の原理を学ぶ。		
第6回	衣服デザインの基礎２ 発表の説明 ミニ課題	ファッションアイテムやデザインを表現したり説明（発表）するために、衣服の美の表現、立体造形に求められる機能について学ぶ。さらに、発表の仕方・提示資料・話し方・注意事項などを学ぶ。	発表課題の資料・書籍等を読み進めて発表内容をまとめること。	180分
第7回	フォーム１ ミニ課題	デザインを表現したり説明（発表）するために、フォームのディテールとバリエーションを学ぶ。	発表課題の資料・書籍等を読み進めて発表内容を考えること。	180分
第8回	フォーム２ ミニ課題	デザインを表現したり説明（発表）するために、イメージによる形態の表現、服種とデザインポイントについて学ぶ。	発表内容をまとめ、個人指導時に説明、質問等ができるように準備する。	180分
第9回	カラー１ ミニ課題	マンセル表色系、色名、色の見え方と見えやすさ、カラーイメージなどの基礎を学ぶ。	発表内容をまとめ、個人指導時に説明・質問等ができるように準備する。概略をパワーポイントにまとめで指導を受けること。	180分
第10回	カラー２ ミニ課題	配色調和、個性と社会、色彩からの発想作品についてを学ぶ。	発表内容をまとめ、個人指導時に説明・質問等ができるように準備する。概略をパワーポイントにまとめで指導を受けること。	180分
第11回	テキスタイル	テキスタイルとアパレルデザイン、テキスタイルの表現効果について学ぶ。	発表内容をまとめ、個人指導時に説明・質問等ができるように準備する。概略をパワーポイントにまとめで指導を受けること。	180分
第12回	Aグループ 発表点検・ 個人指導１	テーマ、発表内容、考察（自分の考え）について短時間だが個人指導を行う。（人数によっては変更する場合がある。）他の学生は、各自のテーマに沿って発表準備をする。	発表内容をまとめ、個人指導時に説明、質問等ができるように準備する。指導後はパワーポイント、プリント、その他発表資料を作成する。	180分
第13回	Bグループ 発表点検・ 個人指導２	テーマ、発表内容、考察（自分の考え）について短時間だが個人指導を行う。（人数によっては変更する場合がある。）他の学生は、各自のテーマに沿って発表準備をする。	発表内容をまとめ、個人指導時に説明、質問等ができるように準備する。指導後はパワーポイント、プリント、その他発表資料を作成する。	180分
第14回	Aグループ 課題発表１	発表内容、テーマの設定、考察、発表資料の見やすさ・分かり易さ、声の大きさ、周りの反応、質問等の発表について学び、経験を積む。	時間内に発表委ができるように練習すること。	180分
第15回	Bグループ 課題発表２	発表内容、テーマの設定、考察、発表資料の見やすさ・分かり易さ、声の大きさ、周りの反応、質問等の発表について学び、経験を積む。	時間内に発表委ができるように練習すること。	180分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	発表準備時の個人指導、および当日の発表に対するコメント
評価方法	平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、ミニ課題、総合的な課題発表（準備・テーマ設定・内容・提示資料・話し方・参加態度などで総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
発表	○	○	○	○
提出物	○			○

評価割合	平常点20%、ミニ課題20%、発表60%
使用教科書名(ISBN番号)	「改訂アパレルデザインの基礎」　一般社団法人衣料管理協会 資料を配付する
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	服飾デザインの授業には、デザインの発想を促す基本的な要素が満載です。デザインのディテール・ニュアンスを説明するときやファッションの感覚・作品を表現するときなどに大いに役立ちます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	アパレル企業の実務経験のある講師に特別講義を依頼している。

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	アパレル・ファションに関する内容のプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アパレルデザイン表現実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島　由記子	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業では、ファッションデザイン画を描くテーマにおいて、顔、手、足、ボディなどの人体のパーツやギャザー・フレアーの描き方など2次元的な表現方法を指導する。さらに素材の表現方法、テーマに沿ったデザインへの展開方法を習得してもらう。また、ドレーピング（立体裁断）で衣服の形を作るテーマにおいて、シーチングを組んでパターンを得る3次元的な表現方法を指導していく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. デザイン画の基本的な描き方を理解できる。 2. ドレーピング（立体裁断）の基本的な製作方法を理解できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	1. デザイン画の基本的な描き方を習得できる。 2. ドレーピング（立体裁断）の基本的な製作方法を習得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の概要	授業の概要。準備する道具について学ぶ。アパレルのデザイン画とは何かについて学習する。人体の法則、骨格・筋肉について理解する。人体のパーツ（手、腕、脚）の描き方を習得する。	次回までに、使用する道具をそろえておくこと。手、腕、脚の描き方を復習すること。	180分
第2回	デザイン画—ポージングと着装画	パース（遠近法）について理解する。人体のパーツ（顔、ボディ）の描き方を習得する。ヌードボディのポージングと着装画を習得する。	ヌードボディのポージングと着装画を復習しておくこと。	240分
第3回	デザイン画—ハンガーイラスト	ハンガーイラスト（シャツ、スカート、パンツ、ジャケット）の表現法を習得する。ギャザーとフレアーの布地の柔らかさの表現法を身につける。	ハンガーイラスト（シャツ、スカート、パンツ、ジャケット）の表現法を復習すること。	240分
第4回	デザイン画—着彩画と素材テーマ(1)	着彩画の手法を学ぶ。テーマごとのデザイン画の描き方を習得する。 テーマ(1)フリルとラッフル	フリルとラッフルのデザイン画を完成させておくこと。	240分
第5回	デザイン画—素材テーマ(2)	素材の描き方を習得する。 テーマ(2)透ける素材	透ける素材のデザイン画を完成させること。	240分
第6回	デザイン画—素材テーマ(3)	素材の描き方を習得する。 テーマ(3)レース素材	レース素材のデザイン画を完成させること。	240分
第7回	デザイン画—素材テー	素材の描き方を習得する。 テーマ(4)ツィード素材	ツィード素材のデザイン画を完成させること。	240分

	マ(4)			
第8回	デザイン画―イメージの発想	自由な発想でオリジナルデザインへと展開する。 テーマ(5)フォークロア フォークロアの調査とデザイン画の展開。	フォークロアのデザイン画を完成させること。	240分
第9回	デザイン画―プレゼンテーション	テーマ:フォークロアのプレゼンテーションを行う。	次回のドレーピングの準備をしておくこと。	240分
第10回	ドレーピングの説明、トワルの準備	ドレーピング（立体裁断）とは何かを学習する。身頃原型（ウェストフィット型）をドレーピングで製作していく。布地にガイドラインを入れ、地直しをしていく。	次回までに布地にガイドラインを入れ、地直しまでを完成させておくこと。	240分
第11回	ドレーピング―上半身実習①	前身頃原型のドレーピングを学習する。中心線をボディに合わせガイドラインに合わせながらピン打ちをする。	次回までに前身頃の３分の１までを完成させておくこと（復習）。	240分
第12回	ドレーピング―上半身実習②	前身頃原型のドレーピングを学習する。中心線をボディに合わせガイドラインに合わせながらピン打ちをする。	次回までに前身頃の３分の２までを完成させておくこと(復習)。	240分
第13回	ドレーピング―上半身実習③	前身頃原型のドレーピングを学習する。中心線をボディに合わせガイドラインに合わせながらピン打ちをする。	次回までに前身頃を完成させておくこと（復習）。	240分
第14回	ドレーピング―製図に転写する①	ボディに試着させ、トワルを修正していく。布地を製図にうつしとっていく。	次回までにトワルを修正しておくこと。	240分
第15回	ドレーピング―製図に転写する②	トワルと製図を提出する(課題）。後ろ身頃のドレーピング方法を学ぶ。	課題のトワルと製図を完成させておくこと。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 ※社会状況により、すべてを遠隔授業に変更することがあります。その場合は授業内容を変更して対応させていただきます。
学生へのフィードバック方法	授業内で製作された優れた作品を公表し、全員で共有していく。
評価方法	・デザイン画の作品の評価は、着装画とハンガーイラストとする（45%）。 ・ドレーピングの評価は、身頃原型のトワルと製図とする（45%）。 ・授業参加状況などの平常点（10%）。 平常点､作品製作の取り組み等、総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	作品（デザイン画）	○	○	○	○
	作品（ドレーピング）	○	○	○	○

評価割合	平常点（10%）、作品（90%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。配付プリント
参考図書	文化服装学園編「文化ファッション大系　アパレル生産講座③　立体裁断　基礎編」文化出版局、2005年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・アパレルのデザイン画と、身頃原型のドレーピングについて専門的な知識・技術を有している。 ・知識を深め、専門的な職業への道へつなぐことができる。
学生へのメッセージ	実習では作品を完成させるので､欠席をしないでください。 日頃よりファッション商品のシルエット、ディティールに注目するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。「デザイン画」「ドレーピング」を実務家からの視点でわかりやすく指導する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	服飾造形実習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D12201M23
授業概要(教育目的)	下肢を包む衣服としてパンツ・スカートの製図とその展開・裁断・縫製、基礎の手縫いや部分縫いなどを習得し、立体的な人体の下半身の構造と平面的なパターンとの関係を理解し、基礎的な生地の扱いや縫製技法を学び、自ら製作したり、既製服の構成や縫製を理解できることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活に関する諸課題についての知識を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	アパレルに関する技術や製品に関心を持ち、積極的に日常生活や社会で役立つ技術力や表現力を身に付けることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	スカートとショートパンツの課題説明、裁縫道具、レポート説明1、材料、人体計測、セミタイトスカート1（実物大製図基本線）	スカートのデザインと種類、材料（生地）、レポートの説明、裁縫道具、人体計測（ウエスト、ヒップ、股上など）および製図に必要な寸法計算、製図の基本線の書き方を学ぶ。	各自の寸法計算、製図の基本線までを終わらせておくこと。	90分
第2回	洋裁道具確認・説明、セミタイトスカート2（実物大スカートの製図）、ショートパンツ1（実物大製図、地直し）	道具の説明、実物大セミタイトスカート・ショートパンツの製図の仕方と平面パターンと人体の関係について学ぶ。生地の扱いとして地直しを理解する。	実物大のショートパンツの製図を完成させて提出すること。	90分
第3回	ショートパンツ2（型紙づくり、裁断）、オ	型紙、裁断、印付け（チャコ・切りじつけ）、仮縫い（説明のみ）、オーバーロックミシンの使い方（使い方、構造、糸変え、糸掛け）、縫い代のロックミシンのかけ方を理解する。	パンツのロックミシンかけまで終わらせておくこと。	90分

	ーバーロックミシンの使い方			
第4回	ショートパンツ3、本縫い1（ミシン縫製）、職業用直線ミシンの使い方	職業用直線ミシン使い方（上糸・下糸ボビン、ボビンケース）、パンツのポケット、脇、股下、股上の縫製を理解する。	パンツのポケット、脇、股下、股上の縫製までを終わらせておくこと。	90分
第5回	ショートパンツ4、本縫い2（仕上げ・完成）	裾上げ、ウエストの始末、ゴム通し、仕上げを理解して完成させることを学ぶ。	パンツを完成させること。（次回提出すること。）	90分
第6回	セミタイトスカート2（型紙づくり、型紙の展開、裁断、印つけ1）	基本型スカートの型紙の展開（フレア・ギャザー）、裁断を理解する。	裁断まで進めておくこと。	90分
第7回	セミタイトスカート3、（印付け2、仮縫い）	印付け（切りじつけ）、仮縫いの仕方を理解する。	仮縫いを仕上げておくこと。（次回試着点検をする。）	90分
第8回	セミタイトスカート4（仮縫い点検）、レポート説明2	仮縫い点検（補正の修正方法）脇縫い、縫い代処理（ロック）を学び、レポート説明を理解する。	ノート整理・レポート作成をすること。脇縫い、縫い代処理（ロック）まで終わらせておくこと。	90分
第9回	セミタイトスカート5（試着点検、脇縫い、ファスナー付け）	ファスナー付けの準備（伸び止めテープ、しつけかけ）を理解する。また、レポートの説明を理解する。	ファスナー付け（伸び止めテープ、しつけ）までを済ませておくこと。	90分
第10回	セミタイトスカート6（ファスナー付け2）、レポート説明2	ファスナー本体付けと完成までを学ぶ。また、レポートの説明を理解する。	ノート整理・レポート作成をすること。ファスナーを完成させること。	90分
第11回	セミタイトスカート7（ベルト付け）、基礎縫い1	ベルト付けと完成させること、基礎縫い用布の準備と基礎縫い1（まつり縫い・たてまつり縫い）を理解する。	ベルトを完成させること。	90分
第12回	セミタイトスカート8（裾上げ）、基礎縫い2	裾上げのロックミシン、基礎縫い2（奥まつり：裾のロック後に使用）を理解する。	裾上げを済ませておくこと。	90分
第13回	セミタイトスカート9（前カン付け）、基礎縫い3	スカートのベルトの前カン（ホックとバー）のかがり方、基礎縫い（半返し縫い、全返し縫い、千鳥け）などを理解する。	前かん付け、基礎縫いを終わらせておくこと。	90分
第14回	スカート10（仕上げアイロン）	仕上げアイロンの掛け方を理解する。	スカート、基礎縫い、レポートを完成させて、着装発表の説明内容をまとめること。	90分
第15回	セミタイトスカートの着装発表、作品・基礎縫い・レポート提出	スカートとのコーディネイトを考えて着装し、デザインの特徴、生地名や素材、製作に対する問題点や反省点などの発表について学ぶ。	発表、スカート、基礎縫い、レポートなどを提出する準備をすること。（最終日に提出する。）	90分

学習計画注記	通常は対面授業で行う予定だが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更し、1/2サイズで縫製時間を短縮させ、基礎的な技術や知識の修得に重きを置いた授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	課題（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表のコメント
評価方法	平常点20%、作品40%（着装発表を含む）、基礎縫い10%、レポート30% 平常点（授業の参加状況、授業への取り組み方などを総合的に判断する）課題（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表（内容・話し方など）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	

	作品	○	○	○	○
	基礎縫い	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、課題40%、基礎縫い10%、レポート30%
使用教科書名(ISBN番号)	プリント配付
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。【技術・表現】生活や社会において具体的な技術を身に付け、改善・創作することができる。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	基本的に授業で説明した内容は、次週までに進めてください。 特に実習は欠席しないように努め、やむを得ず欠席した場合は連絡を入れてください。遅れた部分を補うために、次の週までに進める内容をお伝えします。また、貸し出した道具などは紛失することなく、期日までに返却してください。なお、教職を履修する学生は、教育実習で被服製作を担当する場合があります。学ぶ立場と未来に教える立場を意識しながら取り組むことをお薦めします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科　教員	指定なし

ナンバリング	D11204M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野が関わる社会の諸課題について、衣生活デザイン・住生活デザイン・グルーバルコミュニケーション・コミュニティデザインの各分野の視点で考え、生活デザイン学科で学ぶための基礎となる考え方を体験的に学習する。 また卒業生を招いて懇談会を開催し、生活デザイン学科での学習の意義と将来の進路についても考える。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で考える課題がどのようなことなのかについて知識があり、理解できる。
思考・判断の観点（K）	現代社会のさまざまな課題について掘り下げて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	この授業で学んだことを、今後の大学での学びに活かそうとする意欲がある。
技術・表現の観点（A）	各課題について、問題意識を持って調べ、プレゼンテーションする能力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	この授業の目的と意義および概要を説明する。	授業目的の確認。	45分
第2回	子どもと環境（１）	国連SDGｓ（持続可能な開発目標）と国連子どもの権利条約から、地球環境と子どもの生活を考える。	国連SDGｓと国連子どもの権利条約をネットで調べる。	45分
第3回	子どもと環境（２）	子どもの遊び環境とユニセフ子どもにやさしいまちづくりから、子どもの最善の利益と地域環境を考える。	自分の身近な遊び環境を調べる。	45分
第4回	生活デザイン学科の学びと将来について（１）資格取得	自己を見つめたり、同級生の考えに触れたりすることで、様々な生き方について知り、大学生活の意義をより多角的に捉えることができる。 課題（資格取得のメリット／関心・興味のある資格／その資格を取得することで、どのような仕事に就くことができるか　など）：授業時間内に作成して提出する。	予習：生活デザイン学科で取得できる資格について調べておくこと。	45分
第5回	生活デザイン学科の学びと将来について（２）就職	自己を見つめたり、同級生の考えに触れたりすることで、様々な生き方について知り、大学生活の意義をより多角的に捉えることができる。 課題（生活デザイン学科での自分自身の目標について／大学での学びと、卒業後の目標は、どのように結び付けるられるのか　など）：授業時間内に作成して提出する。	復習：自分自身のキャリアを設計する上での必要な考え方を身につけるための第一歩となるように振り返る。	45分
第6回	生活デザイン学科の学びと将来について（３）社会	社会で活躍する卒業生の講演を通して、これからの進むべき方向を考えるきっかけを作ることができる。 講演内容：学生生活の過ごし方、現在の仕事について、将来設計の考え方についてなど	予習：卒業生への質問項目について考えてくること。	45分

	人の先輩に聴く	課題（講演の要点、講演を聴いて学んだことなど）：授業時間内に作成して提出する。		
第7回	水と洗濯（１）	資源保護の観点から、水と洗濯の関わりについて考える。	家庭での洗濯の諸問題について考えておく。	45分
第8回	水と洗濯（２）	家庭での洗濯用水の使用状況から、水資源の保護としてできることを考える。	洗濯について水資源保護の観点から考えたことをA3用紙にまとめる。	45分
第9回	やさしい日本語（１）	地域構成員の多様化が進む現代社会における「やさしい日本語」の必要性を学んだ上で、誰にでも伝わりやすい日本語とは何かを考えていく。	「大変分かりやすい」から「大変分かりにくい」と自分が感じる文書、書籍等を探す（次回の授業に持参）。	45分
第10回	やさしい日本語（２）	日本語コミュニケーションの特徴を学び、誰にでも伝わるコミュニケーションの方法を考えていく。	日本語以外を母語とし、日本文化以外で育った人に分かりにくいと思う表現、コミュニケーションの方法をリストアップする。	45分
第11回	社会福祉（１）地域とシニア層のさまざまな住まい	地域及びシニア層の現状を踏まえた上で、さまざまな住まいについて考える。	高齢期における自宅以外の住まいについて、調べておく。	45分
第12回	社会福祉（２）高齢社会と私	高齢化社会と暮らしについて考える。	2060年の高齢化率は50%になる。その時の高齢者は「あなた」です。ではあなたはその時どのような社会であって欲しいか。またどのように生きているかを考えてみよう。	45分
第13回	インテリアパース（１）	和室のインテリアパースを描きながら、和室のデザインについて考えてみる。	和室、洋室について、次の授業までに調べる。	
第14回	インテリアパース（２）	洋室のインテリアパースを描きながら、洋室のデザインについて考えてみる。	和室、洋室のパース2枚に、着彩をして、A3用紙1枚にレイアウトして、要点を引き出し線と文字で書く。	45分
第15回	成果発表会（ポスターセッション方式）	各テーマで実施したプレゼンテーションの内容を各自A3版1枚にまとめ、ポスターとして展示して、発表を行う。学習内容を一望することで、本演習全体を振り返り、学生相互に良いところを学び合う。	A3版のポスターは、各テーマの演習終了時に作成しておくことが望ましい。	45分

学習計画注記	学習計画は担当教員の都合等により変更される可能性があります。
学生へのフィードバック方法	担当教員が随時行う。
評価方法	6つの課題とも、授業への参画の度合い、課題への取り組みの状況、課題・提出物により平常点として評価する。 各課題についての評価は15点×6課題とする。 最後の成果発表会については、発表の内容、ポスターの完成度、プレゼンテーションの仕方などについて10点満点で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	プレゼンテーションの内容	○	○	○	

評価割合	各担当教員によって出された評価点（満15点×6教員）と、成果発表会についての評価（満10点）を合計して総合評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	授業内で各担当者が紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】社会の中にある諸課題を自を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	各教員にアポイントメントを取って、時間を調整してください。
学生へのメッセージ	第1回目の授業で、この授業の「目的・意義」について説明します。その内容を理解して、意欲的に授業に取り組むことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	各テーマ毎にグループワーク、ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	情報デザイン論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D34207M21
授業概要(教育目的)	現代社会で最も必要なのは情報とコミュニケーション能力と言える。情報を正しく理解し、伝えるのがコミュニケーションの始まりである。本授業では、情報の収集　→　分類　→　情報の再構築　→　情報の視覚化に流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。 また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の視覚かを体験しながらコミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点（K）	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

情報デザイン

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション：ガイダンス、情報とコミュニケーション	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、情報とコミュニケーションについて講義を行う。	情報デザインについて調査してレーポトでまとめる。	１２０分
第2回	広告デザインとコミュニケーション	広告デザインとコミュニケーションの役割を理解する。	情報デザインについて調査してレーポトでまとめる。情報の可視化の手法について振り返る。	１２０分
第3回	インフォメーションデザインと実例	インフォメーションデザインと実例について理解する。	インフォメーションデザインのまとめる。	１２０分
第4回	グラフィックデザインの要素（デザイン原理）	グラフィックデザインの要素（デザイン原理）について理解する。	グラフィックデザインのまとめ	１２０分
第5回	テーマ決定、ブレインストーミング	（アクティブ・ラーニング）チーム構成、テーマ決定、ブレインストーミング	情報の可視化について調査を行う。	１２０分

第6回	情報の収集	（アクティブ・ラーニング）情報の収集	収集したデータの整理をまとめる。	１２０分
第7回	情報の分類	（アクティブ・ラーニング）情報の分類	収集したデータの分類を行う。	１２０分
第8回	表現の基礎：反復、多様性	表現の基礎：反復、多様性について理解する。	表現の基礎演習	１２０分
第9回	表現の基礎：リズム、バランス	表現の基礎：リズム、バランスについて理解する。	表現の基礎演習	１２０分
第10回	表現の基礎：強調、簡潔性	表現の基礎：強調、簡潔性について理解する。	表現の基礎演習	１２０分
第11回	情報の可視化１	アクティブ・ラーニング）情報の可視化１	制作を行う。	１２０分
第12回	情報の可視化２	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化２	制作を行う。	１２０分
第13回	情報の可視化３	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化３	制作を行う。	１２０分
第14回	情報の可視化４	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化４	制作を行う。	１２０分
第15回	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備を行う。	２４０分

学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は２０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	レポートと最終報告書	○		○	○
	平常点		○	○	

評価割合	課題（６０％）、レポート（１０％）最終報告書（１０％）平常点（２０％）で評価をする。
使用教科書名(ISBN番号)	授業中に指定する。
参考図書	授業中に指定する。
ディプロマポリシーとの関連	【【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心 ・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	月曜日　５限
学生へのメッセージ	現代社会において情報の可視化はとても大切である。情報を可視化するために情報の収集、分類、情報の再構築と情報の表現を理解することが必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山際　基	指定なし

ナンバリング	D31106M21
授業概要(教育目的)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器について、仕組みと取扱法といった基本的知識の修得および消費するエネルギーの観点から機械や機器へのエネルギー変換、省エネルギーと経済性について、生活を合理的に管理するための能力を身につける。また社会における情報化の進展について理解し、家庭生活においてコンピュータを活用する能力と態度を育成する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器についての基本的知識の習得すること。
思考・判断の観点（K）	家庭生活において、修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術を活用すること。
関心・意欲・態度の観点（V）	日々進化する機械、電気、情報の各技術に対する関心を持つこと。
技術・表現の観点（A）	修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術の特徴、利点と欠点について適切に説明できること。

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	本講義の講義計画を説明するとともに、家庭における機械、電気、情報の利用についての全体像・概要を理解する。	自分の家庭においてどのような機械、電気機器、情報機器があるのか調査する。	60
第2回	家庭における機械①	現代生活と機械の基本的な関係について理解する。道具や機械の始まりや機械の3要素について説明する。	道具や機械を利用する利点を考える。なぜ道具や機械が考えられたのか、機械と呼ばれる条件として何があるのかを考える。	180
第3回	家庭における機械②	機械の要素と働きについて理解するとともに、家庭生活と素材・材料について考えを深める。	金属材料、非金属材料、複合素材、新素材と様々な材料を知るとともに、その機械的効果を考える。	180
第4回	家庭における機械③	家庭生活における機械の実例について理解を深める。身近にあるミシンや自動車、自転車について取り上げる。	機械の実例（ミシン、自転車、自動車）の構造、仕組みについて理解を深める。各機械の様々な機能を実現するためにどのような機構が存在するのか理解する。	180
第5回	機械、電気とエネルギー	エネルギーを発生させるもとになるものの存在から、機械や電気機器を動かすに至るまでのエネルギーの変換の基礎概念について理解する。	エネルギーの種類と目的に応じた機械的、電気的利用について理解する。	200
第6回	電気の変換	電気の熱への変換について、アイロン、調理機器を実例	電気を熱に変換する方法を理解	180

	と家庭での利用①	にあげて仕組みや構造を理解する。	する。熱への変換は加熱と冷却の双方を念頭に置いて考える。	
第7回	電気の変換と家庭での利用②	電気の動力への変換について、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、掃除機を実例にあげて仕組みや構造を理解する。	電気を動力に変換する方法を理解し、実例に挙げた以外の電気機器についても考えてみる。	180
第8回	電気の変換と家庭での利用③	電気の光への変換について、照明器具を実例に挙げて理解を深める。また変換以外へのエネルギーの利用について、電子機器を実例に挙げて理解を深める。	電気の光への変換方法を理解するとともに、電子機器の機構や仕組みを理解する。	180
第9回	一般家庭における電力の供給	電気が発電所から一般家屋に届くまでの概要と一般家屋における電力線の屋内配線や利用される機器について理解する。	屋内の配線における規格や利用される機器について理解を深める。	180
第10回	現代生活と情報機器	現代生活と情報機器の関わりについて理解し、コンピュータの機能と操作について理解を深める。	コンピュータの機能と仕組みについて理解する。	200
第11回	情報機器の家庭での利用	コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよびネットワークについて理解を深める。	コンピュータの各機能を実現するためにどのようなハードウェア、ソフトウェアがあるのか理解する。	200
第12回	家庭生活と情報システム①	家庭生活に密接した情報システムについて、情報家電、Home Energy Management System、各種ネットワークサービスの実例を挙げるとともに理解を深める。	既に自分自身が家庭生活で利用している情報システムやネットワークサービスについて、機能と仕組みを理解する。	200
第13回	家庭生活と情報システム②	情報システムの家庭経済への活用について理解する。	自分自身の家計（会計）管理、消費者としての活動に合わせて、現存するシステムやネットワークサービスの活用方法について理解を深める。	200
第14回	環境を意識した、機械、電気、情報の活用	地球環境を意識した機械の利用、電気機器の利用、情報処理について考える。	我が国のエネルギー事情を理解するとともに、対策方法、機器類の選定や利用方法について理解を深める。	200
第15回	講義全般のまとめ	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用についてまとめる。また省エネルギー、経済性を考慮した家庭生活を送るための考え方について理解を深める。	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用について、従来までの考え方や運用方法と新たな考え方や運用方法を検討する。	220

学生へのフィードバック方法	・毎回の講義時の小レポートの講評については、採点後、講義時間中に全体講評を行う。
評価方法	・期末レポートは、機械・電気・情報の各技術が家庭生活に与えた影響について論じるレポートを出題する。記述の論理整合性、技術的（理論的）正当性を当然問うこととなるが、自身の経験などを含めた主体性のある主張、指摘についても評価する。 ・平常点は、毎回の講義において、講義内容に沿った小レポートを出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○	○	○
	平常点	○		○	○

評価割合	期末レポート(50%)、平常点（50%）による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	新しい時代の家庭機械・電気・情報（第２版）／池本洋一、山下省蔵／ジュピター書房／2021（978-4909817006）
ディプロマポリシーとの関連	［知識・理解］　家庭生活の基盤として「より良い生活と技術」の関わりについて理解できる。 ［思考・判断］　生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 ［関心・意欲・態度］　日々進化する技術について関心を持ち、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか活動意欲を持つことができる。 ［技術・表現］　機械、電気、情報の各技術の特徴を把握し、その効果を説明できる。
オフィスアワー	非常勤講師のため講義時以外はメールで問い合わせること。
学生へのメッセージ	進化する様々な技術について興味や関心を持つことが重要です。そして、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか主体的な意欲を持ち活動することが、知識や技能を深めることにつながります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	デザイン概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D1111OM21
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科での学習の基本として、デザインとはなにかという問題を考える。そのことを通して、デザインの思考方法の特徴と、デザインという行為に求められることを理解する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	デザインとは何かを理解できる。
思考・判断の観点（K）	デザインするのに必要なことは何かを判断し、それに基づいて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	分かりやすく表現をすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	デザインとは何か	「デザインとは何か」という問題を考えながら、この授業の目標と、15回の授業で考えることについて理解する。	「デザインとは何か？」という問いについての自分自身の考えを整理しておく。	180分
第2回	デザインを「デザインあ」で考える	NHK教育テレビの「デザインあ」みて、デザインとは何かということと、デザインの考え方と手法の特徴について考える。	「デザインあ」の放送を見て、番組の意図するところを考察し、デザインの考え方、デザインに必要なことを考える。	180分
第3回	デザインと「観察」	デザインにおける「観察」の大切さを理解する。	実際にいろいろな「もの」と「こと」を観察し、その結果をどのようにデザインに結び付けられるかを考える。	180分
第4回	デザインと「考える」「理解する」	「考える」「理解する」ということは、どういうことなのかを考え、デザインと「考えること」「理解すること」との関係を考える。	「観察」と「理解すること」と「デザイン」の関係について、具体的な事例を探して、総合的に考えてみる。	180分
第5回	デザインと「作る・表現する」	「観察」「理解」「デザイン」の関係に基づいて、「作る・表現する」とはどのようなことなのかを考える。そこから「分かりやすい表現」についても理解する。	ポスター、Webページ、雑誌などのデザインを、「分かりやすいデザイン」という視点で観察する。	180分
第6回	デザインの対象と領域	デザインの対象となる「もの」と「こと」について考え、一般的に、デザインの対象領域はどのように考えられているのかを理解する。	「･･･デザイン」という言葉を探して、そのデザインの対象と範囲について具体的に考える。	180分
第7回	文字のデザイン	日本語の文字の書体として広く使われている、明朝体とゴシック体について理解し、文字のデザインと文書の読	読みやすい文書を作ることを実践する。	180分

		みやすさについて考える。		
第8回	サインデザインについて（1）	サインデザインの種類や事例を見て、サインデザインとは何かということを理解する。	サインデザインの実例を見つけて、そのサインの役割や性質について考える。	180分
第9回	サインデザインについて（2）	サインデザインの特徴や分かりやすさについて考え、「伝えること」とデザインの関係について理解する。	具体的なサインデザインの事例を選んで、そのサインの分かりやすさと、それをデザインした人の意図について考える。	180分
第10回	ユニバーサルデザインについて（1）	ユニバーサルデザインとは何かについて理解する。	身のまわりのユニバーサルデザインを探して、それのどこが、どう「ユニバーサルデザイン」なのかを考える。	180分
第11回	ユニバーサルデザインについて（2）	ユニバーサルデザインの発展の歴史と、これからのユニバーサルデザインの考え方について理解する。	ユニバーサルデザインの考え方で、世の中の様々なものとことを観察し、どのような問題があるかを考える。	180分
第12回	「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える	デザインの考え方、見方、デザインに必要な心構えを身につけるにはどうしたら良いのか、「デザインあ」を参考にして考える。	自分自身の「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える。	180分
第13回	デザイン思考について（1）	「デザイン思考」あるいは「デザインシンキング」とはどのような概念なのかを理解する。	生活デザイン学科の学習に、「デザイン思考」の考え方と手法が、どのように応用できるかを考える。	180分
第14回	デザイン思考について（2）	現代における「デザイン思考」「デザインシンキング」の重要性を理解する。	「デザイン思考」の考え方を応用して、デザイン概論のこれまでの授業の内容を整理する。	180分
第15回	デザインとはなにか（まとめ）	15回の授業をふり返り、「デザインとは何か」という問題を再度考える。	学期末レポートの作成。	180分

学習計画注記	授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	中間のレポートと、ミニレポートは全員の回答内容を一覧表にして返却し、その時に解説をする。
評価方法	1. 授業終了時にミニレポートを適宜課す。ミニレポートは、その日の授業内容にあわせて課題を提示する。 2. ミニレポートは、その日の授業内容がどの程度理解できているか、さらに、その内容をふまえて、自分の考えが分かりやすく整理されているか否か、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。 3. 学期末にレポートを出題する。 4. レポートは、15回の授業内容を関連づけて整理できているか否か、そしてデザインについての自分の考えが、論理的に整理されて、記述されているか否か、という視点で採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		○
	レポート	○	○		○

評価割合	平常点50%とレポート50%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる。 【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	後期木曜日2時限　1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし
教授	上村　協子	指定なし

ナンバリング	D11103M21
授業概要(教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、2019年度まで相模原市で消費生活総合センター所長を務めておられた萩原康秋氏をお招きして「消費者」とはどのような存在なのか、その生き方をご講義頂き、考察を深める機会を設けている。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解できる。
思考・判断の観点（K）	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点（A）	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻繁に用いる概念について解説する。	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第2回	社会における「家庭」パブリックとプライベートの領域	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。	レジュメを良く復習しておくこと。	180分
第3回	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に津敬資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の意味について学ぶ。	授業前後に教科書pp.7－15を良く読んでおくこと。	180分
第4回	家庭経営とジェンダー（1）現代社会におけるワークライフバランス	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なのかを考察する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分

第5回	家庭経営とジェンダー（2）近現代日本におけるジェンダー構造の変動	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第6回	江戸時代の女性の生き方	江戸時代の女性の生き方について学ぶ。日本においてジェンダー構造が大きく変動したのは、明治中期であることは前回学んだ。では、それ以前の江戸時代の女性はどのように生きていたのか、只野真葛、内藤ます等の女性の生き方から、現代女性として自らの生き方についての考えを深める。	江戸時代の女性にはどのような人がいるかを調べておくこと。可能であれば参考文献②を読んでおくことが望ましい。	180分
第7回	出産と子育て	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史的変遷も含めて概説する。	30問程度の中間テストを実施する。授業内で河田が配布したレジュメと教科書pp.33-49を参考程度に読んでおくこと。	240分
第8回	家族・家庭と法律　婚姻・親権・相続等	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第9回	消費者としての生き方	萩原康秋先生による講義。萩原先生は、2019年度まで、相模原市　市民局　消費生活総合センターの所長であられた。「消費者」とは、社会の中でどのような存在なのかを、人間の生き方として広い視野でお話頂く。	第3回、5回、6回で行われた消費者に関する授業内容をよく理解しておくこと。	180分
第10回	生活とは何か　生活者とは誰か　家計のとらえ方と実態	生活はどのように実現されるのか（生活の実現過程）、生活を取りまく条件（生活の枠組み）および個人の生活形成と社会に様式について、生活者概念や、大学生の家計、勤労者世帯の家計、共働き世帯の家計、高齢者世帯の家計、母子世帯の家計の実態をもとに、考える	教科書　pp. 7～18、pp. 74～84を授業前後によく読むこと	120分
第11回	ケイパビリティ・アプローチ：生活を行為・活動でとらえる　生活手段（モノ・サービス）でとらえる	生活を時間や金銭・ネットワークなど生活の資源に焦点をあてるのみならず、行為や活動の側から、あるいはモノ・サービスの側からとらえる。特に、ケイパビリティ・アプローチとして、生活する、生涯生きていくのに必要な生活行為・活動と家事機能の関係を考える	教科書　pp. 96～107、pp108～117を授業前後によく読むこと	120分
第12回	生活と契約・消費者問題、ライフスタイルと環境、持続可能な社会の生活設計	生活設計を「ライフデザイン」「生活資源」「生活リスク」の3領域をマネジメントするものと捉え、ライフデザインとキャリアデザインを関わらせながら、またライフスタイルと環境の関係を基盤として、持続可能な社会の生活設計を考える。	教科書　pp. 152～182を授業前後によく読むこと	120分
第13回	少子高齢化社会と福祉	少子高齢化が急速に進む日本社会では、どのような問題が生じ、それをどのように解決して行ったらよいのかを、概説する	教科書pp.137-169を授業の前後に良く読んでおくこと。	120分
第14回	少子高齢化社会における生活設計	少子高齢化や家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を発表する。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。	180分
第15回	家庭と環境問題　持続可能な社会づくりのための家庭経営	30問程度の小テストを実施する。期末レポートを提出する。	本授業のまとめのテストとなるので、復習をしておくこと。	240分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	プレゼンテーション時には、随時コメントします。
評価方法	・期末テストは30問程度で、穴埋め方式である。 ・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえて今後の自分の生き方を考える」である。1200字以上。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末小テスト	○			
期末レポート		○	○	○
グループディスカッション		○	○	○
プレゼンテーション				

評価割合	平常点　（グループディスカッション、プレゼンテーションを含む）　20点 小テスト（30%）・レポート　50%
使用教科書名(ISBN番号)	日本家政学会生活経営学部会編 『持続可能な社会をつくる生活経営学』 朝倉書店（2020年9月初版）
参考図書	①原ひろ子著『生活の経営―21世紀の人間の営み―』放送大学教育振興会　2002年 ②柴桂子著『近世おんな旅日記（歴史文化ライブラリー ; 13)』吉川弘文館　1997年 ③河田敦子著　加藤時男翻刻　『幕末明治の女性　内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年 ④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店　2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営　自分らしく生きる』同文書院　2011年 ⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自　・社会の中にある諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
オフィスアワー	随時調整し対応する。アポイントメントを取り、時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと念願します。 教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：第14回の授業ではグループディスカッション、プレゼンテーションの機会を設けている。
情報リテラシー教育	○	現代社会の状況について情報収集しながらレポートを作成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭看護		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 遠藤　由美子	指定なし

ナンバリング	D21107M21
授業概要(教育目的)	家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について説明ができる。 乳幼児から高齢期の特徴について説明ができる。
思考・判断の観点（K）	制作をする過程において創造力を駆使して、作品を完成する。 自ら設定した課題のレポートを作成する過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点（V）	課された課題を、自宅学習を含め取り組み、「提出期限を守る」「決められたこと確実に行う」など社会的役割や責任を身に着ける
技術・表現の観点（A）	演習を通して、人とのかかわりを学び社会性を身に着け、専門職としての視点を磨く。

学習計画

家庭看護

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 病児の遊びを考えよう①	チャイルドビジョンを作り実際につけて歩き子どもの視界を知る。	授業内で体感した内容のレポートを作成し、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	自宅学習　60分
第2回	健康と病気 ①健康について	授業内配布資料に沿って進める	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	自宅学習　60分
第3回	健康と病気 ②看護と介護	授業内配布資料に沿って進める	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	自宅学習　60分
第4回	病気と看護 家族の年代別健康管理	授業内配布資料に沿って進める	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	自宅学習　60分
第5回	病気と看護 病気の種類と特徴（子ども編）	授業内配布資料に沿って進める	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	自宅学習　60分
第6回	病気と看護 病気の種類	授業内配布資料に沿って進める	授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期	自宅学習　60分

	と特徴（大人編）		限：次回授業開始前まで）	
第7回	病気と看護 病児の遊びを考えよう②	パズルを作って、子どもの視点に立って遊びについて考える。	授業内で作成中のパズルを完成及びその気づきをレポート作成、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	自宅学習　約60分
第8回	身体の清潔と感染症対策（手洗いにTRY！）	実際に手を洗う	介護実習室（体を動かしやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	介護実習室（９０分）
第9回	病気と看護（体位変換にTRY！）コミュニケーション 体位	パワーポイントを活用して、コミュニケーションについての解説。実際にベッドを活用して体位を体感しよう	介護実習室（体を動かせる服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	介護実習室（９０分）
第10回	病気と看護（バイタル測定にTRY!）バイタルサインの測定	実際にバイタルサインの測定を行う	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	介護実習室（９０分）
第11回	病気と看護（車椅子にTRY！）移譲（車椅子、白杖）	実際に車いすを体験。白杖をもって歩いてみよう。	介護実習室・校内散策（動きやすい服装・上履き・運動靴・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	介護実習室（９０分）
第12回	病気と看護（着脱にTRY！）排泄、着脱	実際におむつを付けてみる。ベッド上での着替えの介助を行う。	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	介護実習室（９０分）
第13回	救急編（救急法にTRY！）	救急法の実際をDVDで確認し、手順を覚える。	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ、期限内に提出。（期限：次回授業開始前まで）	介護実習室（９０分）
第14回	課題作成	図書室・PC室・自習室などを活用し、自身の決めた課題の資料を探し、レポート（５枚）、発表（５分）資料の作成を行う。	テーマを自分で探す（授業に関連した内容で、興味を持ったものであれば可）資料収集、発表準備、提出用レポート作成	図書室　PC室　自習室 90分
第15回	課題作成・発表・提出	他の学生の前で、自ら作成した資料を基に発表を行う。	発表準備（授業に関連した内容で、興味を持ったものであれば可）資料収集、提出用レポート作成	自宅学習　約90分

学生へのフィードバック方法	講義の他、グループワーク、演習等を取り入れ、学生が主体的に授業に参加できるようにしていく。はさみ、サインペン、色鉛筆、カッターナイフ等毎授業持参すること。
評価方法	授業成果物１０点（パズル、眼鏡）個々の個人の創造性を駆使して、完成を目指す。作成したもので遊びを通して、子供の特性を学ぶ。 授業内平常課題３０点授業内の課題プリントを課し、自宅学習を促す。 発表評価５０点（態度，プレゼン準備，プレゼン資料，学生個々評価）レポート１０点、テーマに従い資料検索を重ねレポートをまとめ、それをもとに他者に自分の考えを伝えるべく様々な方法を用いて発表準備を行い、人前で意見を述べることを通して、達成感を養い今後の自身の活動に役立つ手法を身に着ける。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	成果物		○	○	○
	授業内平常課題	○	○	○	
	発表評価	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○

評価割合	成果物１０点（パズル、眼鏡）授業内課題３０点，発表評価５０点（態度，プレゼン準備，資料，学生個々評価）レポート１０点 平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	授業内で配布
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】幅広い視点から知識を深め、専門てな職業への道をつなぐことができている。 【思考・判断力】自ら設定した課題に取り組むことで、情報収集方法、理論的に分析する方法、考察するプロセスを学び行動できる力を身に着けている。 【関心・意欲・態度】授業内に課せられた課題に自ら取り組み、「課せられた課題をこなす」「提出期限を守る」など社会的マナーを守る力を培い、社会人としての役割を果たせる。

	【技能・表現」　他の学生と演習を通して関わり、社会性を身に着けている。自ら設定した課題を人前で発表することで表現力を身に着けている。
オフィスアワー	前期金曜日１限　指定教室
学生へのメッセージ	日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができて、家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	消費者調査法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野　由美子	指定なし

ナンバリング	D15301M12
授業概要(教育目的)	消費者調査の種類と方法を理解し、調査を正しく行うための技術と、調査の結果を集計・分析・考察するための知識を修得させることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	消費者調査に関わる専門的知識を有している。
思考・判断の観点（K）	消費者調査について多面的に考える姿勢を身に付けている。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら取り組む学習態度を身につけている。
技術・表現の観点（A）	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	消費者調査とは何か	消費者調査の定義や意義、重要性などについて理解する。知識調査や意識調査の共通点や相違点を学ぶ。	テキスト第1章の演習問題に取り組むこと。	120
第2回	利用目的による分類、情報の種類による分類、量と質による分類	事実調査、知識調査、意識調査について確認する。量的調査と質的調査の特徴と相違点を理解する。	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。	120
第3回	情報の収集による分類（質問紙調査法、観察法）、動機調査	質問紙調査法の種類とメリット・デメリットについて学習する。	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。	120
第4回	質問紙調査法の手順、調査票作成の手順	質問文の作成や実施に関わる留意事項を学習する。	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。	120
第5回	調査票作成の仕方	質問文の作成に関わる留意事項や、質問と回答の形式について理解する。	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。	120
第6回	全数調査と標本調査、母集団と標本、標本抽出法	調査対象の選び方に関わり、全数調査と標本調査、母集団と標本について理解する。	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。	120

第7回	標本誤差と標本数	調査対象の選び方に関わり、標本誤差と標本数について理解する。	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。	120
第8回	消費実態調査・トピックス調査の実例	衣料の消費実態調査の特徴と意義を理解する。調査項目や集計・分析について学習する。	テキスト第6章の演習問題に取り組むこと。	120
第9回	調査企画	質問紙調査を自ら実施するための調査企画を立てる。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第10回	調査票の作成①	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第11回	調査票の作成②	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第12回	調査の実施①	質問紙調査を実施して、回収した調査票のデータを集計する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第13回	調査の実施②	質問紙調査を実施して、回収した調査票のデータを集計する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第14回	調査の集計・分析①	集計の方法とグラフ化など分析に必要な知識を理解する。	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。	120
第15回	調査の集計・分析②	集計の方法とグラフ化など分析に必要な知識を理解する。	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。	120

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は40点満点で出題し、課題レポートを課す。 ・提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物			○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	日本衣料管理協会刊行委員会編『新版　消費者調査法』（日本衣料管理協会、2004年）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の諸問題に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技術・表現】課題解決に必要は情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	【後期】水曜日　1701共同ゼミ室　10：40～12：50 ※上記は千代田三番町キャンパスのため、メールなどで適宜対応する。
学生へのメッセージ	自分でテーマを決めて質問紙調査を実施しますので、取り上げたいテーマを決めて、どのような質問をしたいのかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	消費生活論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 黒澤　佳子	指定なし

ナンバリング	D25307M21
授業概要(教育目的)	安全で豊かな消費生活を送るために、消費者問題の現状と、それに対して消費者、行政、企業がなすべきことを知る必要がある。この授業は、消費者問題を体系的に捉え、消費者・行政・企業のあるべき姿を理解し、消費者問題の現状と政策を考察する基礎的な力を育成することを目的とする。近年はインターネットで買い物をする機会が増え、モノやサービスの購入スタイルも多様化してきた。また、貯蓄・投資や保険などの金融商品を選ぶ際には、自己責任が求められるようになっている。将来生きていくうえで誰もが知っておくべき金融経済の知識について、事例や体験談、ニュースで話題になっている事柄などを取り上げてわかりやすく解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	消費者問題の現状を知り、その背景にある市場メカニズムや経済状況、施策等を理解する。
思考・判断の観点（K）	自立した社会人になるために、自分の身を自分で守るための「人間力」を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

消費生活論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	消費者問題の基礎	消費者問題とは何か、消費者を取り巻く環境の変化	教科書第1章「消費者問題の基礎」（1～34ページ）を読んでおくこと	180分
第2回	消費者問題と消費者政策（1）	消費者保護基本法から消費者基本法へ	教科書第2章「消費者問題と消費者政策」（35～41ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第3回	消費者問題と消費者政策（2）	消費者政策の基本理念	教科書第2章「消費者問題と消費者政策」（42～48ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第4回	消費者問題と消費者政策（3）	消費者行政	教科書第2章「消費者問題と消費者生活」（49～56ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第5回	消費者政策の展開（1）	消費者関連法、消費者被害の発生・拡大防止	教科書第3章「消費者政策の展開」（57～64ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分

第6回	消費者政策の展開（2）	消費者契約の適正化	教科書第3章「消費者政策の展開」（65～75ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第7回	消費者政策の展開（3）	消費者紛争の解決	教科書第3章「消費者政策の展開」（76～92ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第8回	企業の消費者対応（1）	企業の消費者対応の変遷と責務	教科書第4章「企業の消費者対応」（93～102ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第9回	企業の消費者対応（2）	消費者対応部門の課題	教科書第4章「企業の消費者対応」（103～106ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第10回	企業の消費者対応（3）	企業の社会的責任とコンプライアンス	教科書第4章「企業の消費者対応」（107～108ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第11回	企業の消費者対応（4）	消費者志向経営とSDGs	教科書第4章「企業の消費者対応」（108～114ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第12回	消費者教育	消費者教育の現状と課題	教科書第5章「消費者教育」（115～136ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第13回	消費生活情報（1）	消費生活と情報の重要性	教科書第6章「消費生活情報」（137～143ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第14回	消費生活情報（2）	消費生活相談情報	教科書第6章「消費生活情報」（143～156ページ）を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第15回	消費生活論まとめ	これまでの授業の振り返り、消費者問題に対する意識の変化の考察	これまで授業で行ったリアクションペーパー（ミニレポート）および小テストをみかえしておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストおよびミニレポートは、採点して、次週の授業にて返却する。小テストの解説は、授業内にて行う。
評価方法	毎回の授業で、その回の授業で扱った内容から、小テストもしくはミニレポートを実施する。 定期試験に代えて、学期末にレポートを課す。提出期限、テーマ、作成方法は授業中に指示をする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ミニレポートおよび小テスト	○	○		
	レポート	○	○		

評価割合	授業ごとのリアクションペーパーおよび小テスト（50%）、レポート等の課題提出（50%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	「新版　消費生活論」社団法人日本衣料管理協会　2020年2月発行
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「消費生活」の分野 について専門的知識を有し、グローバルな視点から知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができ、また、多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。
学生へのメッセージ	資格取得の観点だけでなく、自分自身のためになる内容なので、関心を持って主体的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、銀行において金融の実務経験を有しており、ファイナンシャルプランナーとして消費生活におけるアドバイスを行っている。また中小企業診断士として企業側の消費者問題についても精通しており、生活に密着した身近な経済について教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし

ナンバリング	D31108M21
授業概要(教育目的)	子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭・地域・社会において大人が果たすべき役割、保育所・幼稚園・認定こども園における保育・幼児教育の今日的課題、共に育つ保育実践について考える。また、保育観察や子どもとのふれあい体験（自主実習）を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験しながら、家庭科教育における保育領域の授業実践の工夫を具体的に構想できるよう導いていく。
履修条件	家庭科教員免許取得を目指していること、またはそれに準ずる意欲のあること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 家庭科教育における保育領域の意義と目的を説明できる。 2. 保育・幼児教育の基本的事項について説明できる。 3. 乳幼児の生活と発達について具体的にイメージできる。
思考・判断の観点（K）	1. 自主実習や模擬授業を通して自己課題を発見する。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 保育領域に関心を持ち、積極的に教材研究を行うことができる。 2. 保育観察や自主実習に意欲を持って取り組む。
技術・表現の観点（A）	1. 家庭科（保育領域）の授業を構想し、模擬的に実践できる。 2. 電子黒板等を活用し、効果的にプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	家庭科教育における保育領域の意義と目的	グループワークを通して、学習指導要領「家庭科」における保育領域の意義と目的、及び改訂の背景を理解する。	中学校・高校の学習指導要領「家庭科」のページ、及びテキストのP.1～18、P.26～28を読んでおくこと	120分
第2回	保育・幼児教育の今	新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「育みたい資質・能力」について理解する。	配布プリントを読んでおくこと	120分
第3回	子どもの発達と保育	ビデオを観ながら、乳幼児の発達について理解する。	課題「子どもの姿レポート」に取り組む	120分
第4回	子どもの遊びと保育	幼稚園等で生活する子どもの姿から、遊びを中心とした保育について考える。	課題「自主実習のための準備」に取り組む	120分
第5回	「ぽかぽかひろば」保育観察	乳児グループ「ぽかぽかひろば」の観察を行う。	「ぽかぽかひろば」の資料を読んでおくこと／観察記録をまとめること	120分
第6回	保育研究課題の設定と自主実習計画の作成	模擬授業で扱う保育研究課題を設定する。また、自主実習に向けた計画を作成する。	保育研究課題に関する教材研究及び自主実習の準備	240分
第7回	自主実習	乳児（０・１・２歳児）クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分

	（１）			
第8回	絵本の教材研究発表	絵本を３冊選びその内容を紹介するとともに１冊について「読み聞かせ」の実践をする。	絵本選びと読み聞かせの練習	180分
第9回	自主実習（２）	幼児（３・４・５歳児）クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第10回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループA	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	A：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 B～E：Aグループの発表から得たことをまとめる	A：720分 B～E：60分
第11回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループB	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	B：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,C～E：Bグループの発表から得たことをまとめる	B：720分 B以外：60分
第12回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループC	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	C：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,B,D,E：Cグループの発表から得たことをまとめる	C：720分 C以外：60分
第13回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループD	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	D：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A～C,E：Dグループの発表から得たことをまとめる	D：720分 D以外：60分
第14回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループE	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	E：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A～D：Eグループの発表から得たことをまとめる	E：720分 A～D：60分
第15回	振り返りとまとめ	自主実習や模擬授業等を通して学んだことを振り返り、自己課題を明確にする。	これまでの授業内容を総復習しておくこと（まとめのファイルの提出）	120分

学習計画注記	※履修者数や授業方法（オンライン・対面）の変動等によって計画が前後したり変更になったりしますが、最終的に学習目標が達成されるよう調整します。
学生へのフィードバック方法	課題等は発表時または返却時にコメントするなどしてフィードバックを行う。質問や相談等がある場合は、1635研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	自主実習に対する取り組み（自主実習点）、模擬授業に対する取り組み（模擬授業点）に加えて、これら以外の課題への取り組み（課題点）について総合的に評価する。課題点には指定の提出物に加え、グループワークや発表など平常授業への取り組みの評価を含むものとする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題点	○	○	○	
	自主実習点		○	○	
	模擬授業点	○	○	○	○

評価割合	課題点（30%）自主実習点（30%）模擬授業点（40%）の割合で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	高等学校学習指導要領解説「家庭編」,文部科学省,平成30年７月
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「家庭科教育」（保育）分野について専門的知識を有している。 【関心・意欲・態度】社会の中にある（保育をめぐる）諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通してその解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、家庭科教育（保育）分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	（後期）金曜４限　1635研究室
学生へのメッセージ	この授業では自主実習や保育分野模擬授業に向けての事前の準備学習や教材研究など取り組むべき課題が多くあります。それぞれの課題に主体的に取り組む意欲と覚悟を持って受講してください。同時に、子どもについて学ぶこと、子どもとのふれあい体験をぜひ楽しんでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションなどのグループワーク取り入れた授業を展開する。
情報リテラシー		

教育		
ICT活用	○	模擬授業においては、効果的なプレゼンテーション資料の作成や電子黒板の活用に取り組む。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	被服学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし
准教授	花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D11101M21
授業概要(教育目的)	被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。従って、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う被服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の被服に求められている課題について考える力を育成する。 （花田朋美／７回）被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。 （富田弘美／８回）被服に要求される社会心理的快適性に関わる機能について概説する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活デザイン分野の基礎的な知識を多角的に捉え、習得する。
思考・判断の観点（K）	衣生活デザイン分野の各領域を総括的に捉え、被服に関する発展的学習に備えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活デザイン分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

被服学概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	被服学の領域、被服の着用目的・起源	被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。	自分がなぜ服を着用しているのか考える。	180分
第2回	布帛の構造ー繊維・糸・織物・編物の構造ー	グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。	配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。	180分
第3回	被服の素材（１）ー天然繊維ー	グループワークを行う。着用している衣服の商品タグを確認し、身近な衣料品にはどのような素材が使われているのか観察する。代表的な天然繊維（綿、麻、羊毛、絹）の概要を理解する。	配付プリントの天然繊維について読んでおくこと。	180分
第4回	被服の素材（２）ー化学繊維ー	代表的な化学繊維（再生繊維、半合成繊維、四大合成繊維）について、その製造方法と繊維の概要を理解する。	配付プリントの化学繊維について読んでおくこと。	180分
第5回	被服素材の	衣服素材の染色加工と高機能化について概要を理解す	配付プリントの衣服素材の高機	180分

	染色加工と機能化	る。	能化について読んでおくこと。	
第6回	被服の機能保持と健康	被服の洗浄と保管、及び被服の快適性について概要を理解する。	配付プリント被服の汚れと洗浄、及びアパレルと健康について読んでおくこと。	180分
第7回	まとめと小テスト	快適な衣生活と環境配慮の方法について概要を理解する。小テストの実施	１～６回までの配付プリントと授業内容を整理し、総復習をしておくこと。	180分
第8回	服飾デザイン１－デザイン構成－	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解する。	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考える。	180分
第9回	服飾デザイン２－デザイン要素－	デザインの要素としてリズム、色彩、フォーム、テクスチャなどについてその効果を理解する。	デザイン要素のプリントを読み、デザインについてノートを整理すること。	180分
第10回	被服の変遷１－西洋の服装－	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。	創立者大江スミが留学した頃の20世紀初頭のファッション、芸術についてノートを整理すること。	180分
第11回	被服の変遷２－日本の服装と和服文化－	古代から中世の公家装束、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。また、和服の基礎知識を知る。	戦後日本のファッションについてノート整理をしておくこと。	180分
第12回	被服心理	装いと社会規範、購買行動などについて学ぶ。	被服心理についてノートを整理しておくこと。	180分
第13回	アパレル設計－アパレル産業と既製服サイズ－	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、および既製服のJISサイズのシステムを理解する。	自分のJISサイズを把握し、ノートを整理すること。	180分
第14回	衣生活とファッションビジネス・福祉（ユニバーサルファッション）	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を学ぶ。	アパレル産業の現状、高齢者・障害のある人に考慮したデザインについてノートを整理すること。	180分
第15回	まとめと小テスト	まとめとして社会心理的な快適性機能を学び、小テストを実施する。	配付プリントとノートを整理しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もあります。 なお、通常は対面授業であるが、新型コロナウィルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。
評価方法	①第１回～第７回担当者による小テスト ②第１回～第７回の平常点 ③第８回～第１５回担当者による小テスト ④第８回～第１５回平常点
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	第１回～第７回の筆記試験	○	○	○	
	第１回～第７回の平常点			○	
	第８回～第１５回の筆記試験	○	○	○	
	第８回～第１５回の平常点			○	

評価割合	第１回～第７回と第８回～第１５回の担当者別の筆記試験（80%）および平常点（20%）による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリント配付
参考図書	第１回～第７回 ①やさしい繊維の基礎知識（ISBN4-526-05289-2　繊維学会編　日刊工業株式会社発行　2004年） ②アパレル生理衛生論(日本衣料管理協会刊行委員会編　一社　日本衣料管理協会発行　平成28年) ③衣服管理の科学（ISBN978-4-7679-1048-2　片山倫子編　建帛社発行　2016年第11刷） ④衣生活のための消費科学(日本衣料管理協会刊行委員会編　一社　日本衣料管理協会発行　平成30年)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する基礎的な知識を有している。 【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。
オフィスアワー	金曜日12時30分から14時　２４０７被服材料学研究室（花田） 木曜日12時30分から14時　１４０５被服構成学研究室（富田）
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田） 被服材料、被服衛生、被服管理、被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史などを多角的に概説します。被服の領域全般を広く学ぶことによって基礎的な生活力が身に付き役に立ちますが、自分の興味ある分野とその繋がりを考えて学際的な広い視野を持っていただきたいと思います。(富田)
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによるディスカッション。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	和服構成学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D32203M23
授業概要(教育目的)	日本の民族衣装である和服（浴衣）製作を課題として、各自の身体を計測し、基本的な手縫いの技法、和服の特徴と構造、縫製技術、着付けの仕方などを学ぶ。さらに和服の歴史、織物、色彩、文様などから日本の文化を理解し、自分で着装できること、英語で着付けの方法を説明できること、各自の浴衣の残り布で帯飾りを製作してSDGsを考えることなどを目的とする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	和服に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	和服に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	和服に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

和服構成学実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	和服の種類と構成、縫製道具、浴衣地、採寸見積り、柄合わせ	和服の基礎、材料（浴衣地、糸）、道具、採寸（寸法計算）、見積り、柄合わせのやり方を学ぶ。	採寸のため着脱可能なものを着用すること。２回目の授業までに浴衣地・糸を用意すること。	90分
第2回	柄合わせ、裁断、運針１	運針練習（3分）、身頃と袖の柄合わせ、裁断方法、運針のやり方を学ぶ。	授業で習った柄合わせを各自が行い、すべて裁断を終わらせておくこと。	90分
第3回	袖づくり１、運針２	運針の練習（3分）、袖の印付けの後に片方の袖の袖下を縫い、丸みの始末を学ぶ。	丸みの始末までを進めておくこと。	90分
第4回	袖づくり２、運針２	運針の練習（3分）、袖口の三つ折りぐけを学ぶ。	期日までに両方の袖を仕上げて提出すること。	90分
第5回	後ろ身頃の縫製と肩当て付け、運針３	運針の練習は背縫いに代える。前と後ろ身頃の印付けを行い、背縫い（並み縫い2本）、肩当て（晒）付けについて学ぶ。	次回までに肩当て付けまで終わらせること。	90分
第6回	身頃の脇縫い、衽の印	運針練習（3分）、脇縫いと縫い代始末、衽の印付けを学ぶ。	期日までに脇の縫い代始末まで終わらせること。	90分

	付け、運針４			
第7回	前身頃と衽付け、衿下ぐけ、運針５	運針練習（3分）、前身頃に衽を付けて縫い代を始末する、衿下ぐけのやり方を学ぶ。	期日までに両方の衽付け衿下ぐげを終わらせておくこと。	90分
第8回	裾上げ、裾の角の始末、運針６	運針練習（3分）、裾上げの三つ折りぐけ、裾の角の始末（部分縫い１）を学ぶ。	期日までに裾上げと裾の角（実物）を終わらせること。	90分
第9回	帯飾りの製作、今までの製作内容の確認	各自の浴衣の残り布を有効に使用して帯飾りを製作し、材料を捨てることなくアップサイクルすることを学ぶ。また、製作内容の確認および進捗業況の調整と管理することを考える。	残り布を持参すること。	90分
第10回	掛け衿づくり、衿付け、運針７	運針練習（3分）、掛け衿と身頃の柄合わせをして掛衿をつくり、衿の印付け、衿つけと衿先の止め（部分縫い２）を学ぶ。	掛衿づくりを終わらせておくこと。	90分
第11回	衿付け、衿先の止め、着付けの準備、運針８	運針練習（3分）、衿付け（ピン留め）、三つ衿芯の入れ方、本ぐけのやり方、着付けの下着と用意するものを学ぶ。	期日までに衿の本ぐけまでを終わらせておくこと。	90分
第12回	衿先の止め（実物）、衿の本ぐけ	前回の部分縫い２を参考にして実物の衿先の止めを仕上げ、衿の本ぐけを学ぶ。	次回まで衿先の止めをして衿の本ぐけ、裾上げなどを終わらせておくこと。	90分
第13回	袖つけ、運針９	運針練習（3分）、身頃に袖をつけ、袖の縫い代始末のやり方、（いしき当て）、閂止めのやり方、仕上げを学ぶ。	次回までに袖付けを仕上げておくこと。	90分
第14回	英語と日本語による着付け方法、浴衣の仕上げ	英語と日本語で浴衣の着付けと帯結びの手順、およびアイロン仕上げ、たたみ方などを学ぶ。	プリントを参考にして着付け、帯結びの手順を把握し、自分で着付けられるように練習すること。 次回までに浴衣を完成させること。	90分
第15回	着装発表（試験）、レポート提出	着装準備では自分で浴衣を着付けて帯を結び、発表では自分の浴衣の色彩や柄の意味、製作ポイントなどをわかりやすく説明することを学ぶ。	コーディネート、発表内容、レポートの準備をすること。	90分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、感染状況によっては遠隔授業に変更し、手縫いで仕立てる場合がある。
学生へのフィードバック方法	課題、部分縫い、着装・課題の発表などのコメント
評価方法	平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）作品、部分縫い、着装・課題の発表

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
作品	○	○	○	○
部分縫い	○			○
和装小物			○	○
発表・小テスト	○	○	○	○

評価割合	平常点10%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、部分縫い10%、浴衣30%、帯飾り10%、着装・課題発表40%
使用教科書名(ISBN番号)	プリント配付
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	基本的に授業で説明した箇所まで進めてください。 浴衣の知識、技術、着付けなどを身に付けて自分らしい着こなしを楽しみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食科学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大坂　裕子	指定なし

ナンバリング	D11104M21
授業概要(教育目的)	この授業では、食に関する基本的な事項を広く学び、自分自身が健康的な食生活を営む力を習得するとともに、食への興味関心を引き出すことを目的とする。家庭科教育の食の領域に関する導入授業内容である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭科教員並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を説明できる。
思考・判断の観点（K）	家庭科教員並び食の専門家として、食生活上の問題点を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	家庭科教員並び食の専門家として、積極的に食に関するあらゆる情報を自ら入手し正確に判断できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	私たちの食生活	授業の学びを深めるために、なぜ食べるのか、健康とは、食生活の歴史、体内リズムなどを理解し、次回以降の学びの基礎をつくる。	予習：教科書（p1～6）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第2回	ヒトと栄養（１）	炭水化物と炭水化物の体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p7～13）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第3回	ヒトと栄養（２）	たんぱく質とたんぱく質の体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p15～22）を読んでわからないことをまとておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第4回	ヒトと栄養（３）	脂質と脂質の体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p23～30）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第5回	ヒトと栄養（４）	ビタミン・ミネラルとビタミン・ミネラルの体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p31～40）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第6回	ヒトと食品（１）	おいしさと健康のための調理について理解する。	予習：教科書（p41～51）を読んでわからないことをまとめて	予習：90分　復習：90分

			おく。 復習：授業用ノートをまとめる。	
第7回	ヒトと食品（２）	日本標準食品成分表を学び、食品の特徴について理解する。	予習：事前配布資料の問いについてまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第8回	ヒトと食品（３）	食品の機能性成分や機能性成分の豊富な食品、保健機能食品について理解する。	予習：教科書（p53～68）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第9回	ヒトと食の安全と衛生（１）	身の回りの食べ物と安全（食中毒や遺伝子組み換え食品など）について理解する。	予習：教科書（p117～128）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第10回	ヒトと食の安全と衛生（２）	食品の安全流通と表示（食品表示法）について理解する。	予習：教科書（p128～132）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第11回	ヒトと食生活（１）	健康な食生活を送るために必要な栄養量や健康づくりのためのツール（三色食品群、６つの基礎食品、食事バランスガイドなど）について理解する。	予習：教科書（p105～116）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第12回	ヒトと食生活（２）	成長期における食生活や健康について理解する。	予習：教科書（p79～98）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第13回	ヒトと食生活（３）	成人期における食生活や健康について理解する。	予習：教科書（p69～78、93～98）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第14回	ヒトと食生活（４）	高齢期における食生活や健康について理解する。	予習：教科書（p99～103）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第15回	ヒトと食生活（５）	日本の伝統的な食文化（和食、郷土料理、行事食など）について理解する。	予習：教科書（p133～142）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分

学習計画注記	履修学生の状況によっては内容が多少前後することがある。
学生へのフィードバック方法	提出物は採点をして返却し、必要に応じ授業内で解説する。
評価方法	毎回の授業での提出物の内容及び定期試験（筆記試験）の得点
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題レポート	○	○	○	○
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	提出物30%、定期試験70%
使用教科書名(ISBN番号)	大学で学ぶ食生活と健康のきほん　吉澤みな子ら著　化学同人　（ISBN　978-4-7598-1828-4）
参考図書	高校時代の家庭科教科書や日本標準食品成分表を保有している学生は参考にしてください。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食に関する専門的知識・技術を有す。 【思考・判断】食に関するあらゆる問題に対し真摯に向き合い、対応を検討することができる。 【関心・意欲・態度】食に関するあらゆる問題に積極的に関心をもつ。
学生へのメッセージ	中学校教諭一種免許状（家庭）、高等学校教諭一種免許状（家庭）取得のための必修科目である。 毎回の授業に関する提出物があり、成績評価に加えるので欠席せずに参加してほしい。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。 住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。建築製図の基本的な技術についての実習を含む。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点（K）	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点（A）	建築製図の基本的な技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	（復習）自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	180分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	（復習）自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	180分
第3回	日本の住まいの変遷（１）明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第4回	日本の住まいの変遷（２）明治時代以後・生活様式と住居	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	（復習）自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	180分
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	（復習）誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	180分

第7回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	（復習）自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	180分
第8回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	（復習）自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	180分
第9回	高齢化社会の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	（復習）自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	180分
第10回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	（復習）自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	180分
第11回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える	180分
第12回	住まいの設計プロセス	住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類について学び、作図のための練習をおこなう。	（復習）授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第13回	住まいの設計／製図（１）図面作成のルール	建築図面作成のルールについて学び、作図の実習をおこなう。	（復習）授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第14回	住まいの設計／製図（２）平面図の作成・生活行為と生活空間	生活行為と生活空間について考えながら平面図を読み解き、平面図の作図実習をおこなう。	（復習）授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第15回	住まいの設計／製図（３）配置図の作成・周辺環境との調和	住宅と周辺環境との調和を考えながら、配置図の作図実習をおこなう。	（復習）図面を完成させる。	180分
第16回	定期試験	製図を除く授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。製図課題については、授業時間内に教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて10回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 製図課題については、完成度により評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小課題	○	○	○	
製図課題	○			○
定期試験	○	○	○	

評価割合	小課題40%、製図課題25%、定期試験35%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	定行まり子「生活と住居」光生館
参考図書	小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる 【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信するための基礎的な力を身につけている
オフィスアワー	金曜３限　3508研究室
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築史Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	D13202M21
授業概要(教育目的)	日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点（K）	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点（V）	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション 日本建築の構造	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称	授業で説明した用語を復習すること	120分
第2回	先史時代の建築	竪穴住居、高床住居	教科書第１部Ⅰ「竪穴式住居と高床式建物」（pp.10-11）を読んでおくこと	120分
第3回	神社建築の成立	住吉造、大社造、神明造	教科書第１部Ⅱ「古代の神社建築」（pp.12-13）を読んでおくこと	120分
第4回	仏教建築の伝来	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達	教科書第１部Ⅲ「仏教建築の伝来」（pp.14-15）を読んでおくこと。また、授業で配布するプリント（組物について）の組物名称を覚えること	120分
第5回	古代の都市計画と寝殿造	条坊制、モヤ・ヒサシ構造、寝殿造	教科書第１部Ⅳ「古代の都市計画と住宅」（pp.16-17）を読んでおくこと	120分
第6回	平安時代の仏教建築	密教建築、浄土教の建築	教科書第１部Ⅴ「浄土教の建築」（pp.18-19）を読んでおくこと	120分
第7回	中世の神社建築	春日造、流造、拝殿や境内の整備	教科書第１部Ⅶ「中世の神社建築」（pp.24-25）を読んでおく	120分

			こと	
第8回	中世の仏教建築１	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禅宗様	教科書第１部Ⅵ「中世の仏教建築」（pp.20-23）を読んでおくこと	120分
第9回	中世の仏教建築２	和様、折衷様、構造技術の発達	教科書第１部Ⅵ「中世の仏教建築」（pp.20-23）を読んでおくこと	120分
第10回	中世の住宅建築から書院造へ	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造	教科書第１部Ⅷ「中世の住宅から書院造へ」（pp.26-27）を読んでおくこと	120分
第11回	近世の都市と建築	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生	教科書第１部Ⅸ「城郭建築」（pp.28-29）Ⅸ「城郭建築」（pp.28-29）Ⅹ「茶室と数寄屋」（pp.30-31）Ⅺ「近世の社寺建築」（pp.32-33）を読んでおくこと	120分
第12回	民家建築	民家の種類、町屋、土蔵造	教科書第１部Ⅻ「民家」（pp.36-39）を読んでおくこと	120分
第13回	西洋建築の移入	擬洋風建築、日本人建築家の誕生	教科書第２部Ⅰ「西洋文化の移入」（pp.42-43）Ⅱ「日本人建築家の誕生」（pp.44-46）を読んでおくこと	120分
第14回	戦後の住宅建築と都市政策	同潤会アパート、公営住宅、住宅公団、ニュータウンの開発、ｎLDK住宅の誕生	教科書第２部Ⅳ「都市計画および構造技術の発達」（pp.48-49）Ⅶ「戦後の住宅政策とDK住宅の誕生」（pp.56-58）を読んでおくこと	120分
第15回	わが国のモダニズム建築	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタボリズム	教科書第２部Ⅴ「モダニズム建築の到来」（pp.50-53）Ⅷ「日本建築界からの発信」（pp.59-61）Ⅸ「モダニズムの先を求めて」（pp.62-63）を読んでおくこと	120分

学生へのフィードバック方法	レスポンスシートにコメントをつけて返却する
評価方法	・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う ・定期試験は、大問５題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レスポンスシート	○	○		
	定期試験	○	○	○	

評価割合	授業態度（レスポンスシートで判断）50%および定期試験50%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
オフィスアワー	水曜３限　3509室
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く とよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築史Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋　竜太	指定なし

ナンバリング	D23203M21
授業概要(教育目的)	西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	西洋建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点（K）	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点（V）	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション 先史時代の建築	ラスコー洞窟、ストンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること	120分
第2回	古代エジプトとオリエントの建築	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジッグラト、宮殿建築、アーチ構造	教科書第３部Ⅰ「エジプト建築」（pp.66-67）Ⅱ「オリエント建築」（pp.68-69）を読んでおくこと	120分
第3回	ギリシア建築	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生（ドリス式、イオニア式、コリント式）	教科書第３部Ⅲ「ギリシア建築」（pp.70-75）を読んでおくこと	120分
第4回	ローマ建築	５つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅	教科書第３部Ⅳ「ローマ建築」（pp.76-79）を読んでおくこと	120分
第5回	初期キリスト教建築 ビザンティン建築	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会堂、ドームの発達（スキンチ、トロンプ、ペンデンティヴ）、ハギア・ソフィア大聖堂	教科書第３部Ⅴ「初期キリスト教建築」（pp.80-81）Ⅵ「ビザンティン建築」（pp.82-83）を読んでおくこと	120分
第6回	ロマネスク建築	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂	教科書第３部Ⅷ「ロマネスク建築」（pp.86-89）を読んでおくこと	120分
第7回	ゴシック建築	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築	教科書第３部Ⅸ「ゴシック建築」（pp.90-94）を読んでおく	120分

			こと	
第8回	中世の都市と世俗建築	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家（ハーフ・ティンバー等）	教科書第３部Ⅹ「中世の世俗建築」（pp.94-95）を読んでおくこと	120分
第9回	ルネサンス建築	ルネサンス建築の特徴（古典様式の復興、教会堂建築の課題）、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラーディオの建築	教科書第３部Ⅺ「ルネサンス建築」（pp.96-100）を読んでおくこと	120分
第10回	バロック建築	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとボロッミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築	教科書第３部Ⅻ「バロック建築」（pp.101-107）を読んでおくこと	120分
第11回	近代と建築界	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル	教科書第３部XIII「リヴァイヴァル建築」（pp.108-111）を読んでおくこと	120分
第12回	新材料を用いた建築	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構築物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス	教科書第４部Ⅰ「新材料を用いた構築物」（pp.114-115）を読んでおくこと	120分
第13回	近代の都市・住宅問題	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン	教科書第４部Ⅱ「都市問題・住宅問題」（pp.116-118）を読んでおくこと	120分
第14回	近代建築運動	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォ、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・スティール、バウハウス	教科書第４部Ⅲ「アーツ・アンド・クラフツ運動」、Ⅳ「アール・ヌーヴォ」、Ⅴ「アメリカ建築の近代化」、Ⅵ「セセッション「」（pp.1118-127）ならびにⅧ「ドイツ工作連盟」、Ⅸ「近代建築運動」（pp.130-133）、Ⅺ「アール・デコとスカイスクレイパー」（p.141）を読んでおくこと	120分
第15回	モダニズム建築の完成と流布	モダニズム建築、CIAM、ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、ウォルター・グロピウス、フランク・ロイド・ライト、ポスト・モダニズム建築	教科書第４部Ⅹ「モダニズム建築の完成と流布」（pp.134-140）Ⅻ「第二次世界大戦後の建築」（pp.142-143）XIII「ポスト・モダニズム建築」（pp.144-145）を読んでおくこと	120分

学生へのフィードバック方法	レスポンスシートにコメントをつけて返却する
評価方法	・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う ・定期試験は、大問５題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レスポンスシート	○	○		
	定期試験	○	○	○	

評価割合	授業態度（レスポンスシートで判断）50%および定期試験50%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版　建築史【日本・西洋】』、彰国社（ISBN：978-4-395-00876-6）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している。グローバルな視点から専門分野の知識を深めて理解する 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
オフィスアワー	水曜２限　3509室
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見にいくとよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住生活論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし
准教授	深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D13201M21
授業概要(教育目的)	住生活および住環境について、現代における問題点を理解し、その解決方法について検討する。家族生活と社会の関係、住宅とコミュニティの関係などを検討して、住まいに求められる社会的意義に関して考察する。さらに、住宅のさまざまな機能を形態との関係から考究し、住宅を設計する際に必要不可欠となる諸問題の解決の方法を、具体的に学ぶ。
履修条件	特になし（建築士試験指定科目）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	住生活について科学的に分析し理解するための基礎知識を身に付ける
思考・判断の観点（K）	住生活について科学的に分析し理解する能力を身に付ける
関心・意欲・態度の観点（V）	住生活に関する課題の発見能力・問題解決能力を養う
技術・表現の観点（A）	

学習計画

授業計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	参考書や建築関連書籍、建築雑誌等、住・建築関連の資料を知ることで、情報の活用の仕方を学ぶ 建築系の資格についても簡単に説明できるようにする	（予習）建築系の資格について、どのようなものがあるのか、を調べ理解しておく	200分
第2回	敷地の把握と機能図	住宅が建設されるまでの流れを理解する また、機能図の表現の仕方を学ぶ	（復習）一定の条件の元、機能図で室のつながり等を図に書いて理解する（小課題）	200分
第3回	ゾーニングと動線	使いやすい住宅とは何かを考察し、住宅としての室の配置やつながりの重要さを理解する 住宅における動線の種類や、室の構成要素、空間構成の一例を理解する	（復習）空間構成について再確認し、イメージが沸くよう、具体的事例を雑誌やweb等で見ておく	200分
第4回	尺度（三角スケールの使い方、コピー倍率）	配布する課題プリントを基に、実際に図面や定規を用いて、縮尺の概念を理解する（小課題）	三角スケールを持っている場合は、持参すること （復習）課題プリントを見直し、縮尺の概念、三角スケールの使い方を習得できるようにする。	200分
第5回	木造在来軸組工法（平屋）の部材	配布する課題プリントを基に、木造在来軸組工法の概要と、平屋の地盤調査から屋根工事までの建て方を理解し、矩計図や軸組模型を参考に、使われている部材名称やその役目についても把握する	色鉛筆（12色以上）を持参する （復習）授業内に着彩した部材の図面と施工写真、軸組のアイ	200分

	名称と施工順序	プリントの部材を着彩することで、視覚的に理解できる（小課題）	ソメ図を見比べながら、部材名称と役割を再確認する	
第6回	木造在来軸組工法（２階建）の部材名称と施工順序	配布する課題プリントを基に、木造在来軸組工法の概要と2階建ての2階床木工事から屋根工事までの建て方を理解し、矩計図や軸組模型を参考に、使われている部材名称やその役目についても把握する プリントの部材を着彩することで、視覚的に理解する（小課題）	色鉛筆（12色以上）を持参する （復習）授業内に着彩した部材の図面と施工写真、軸組のアイソメ図を見比べながら、部材名称と役割を再確認する	200分
第7回	階段の構造・種類・各部名称・寸法	階段の種類や各部の名称、構造を理解し、一定の条件のもと、図面としての階段の表現ができるようになる	三角スケールを持っている場合は、持参する （予習）身近にある階段の実物をよく観察し、構造を理解しておく	200分
第8回	直階段	直階段の構造を立体的に把握し、図面での階段表現方法を理解する 課題プリントを用いて、一定の条件の元、階段の平面図・断面図を作図する（小課題）	三角スケールを持っている場合は、持参すること （復習）授業終了後に配布する模範解答と自分の解答を見比べらながら、表記の方法などの再確認をする	200分
第9回	折り返し階段	折り返し階段の構造を立体的に把握し、図面での階段表現方法をを理解する また、課題プリントを用いて、一定の条件の元、階段の平面図・断面図を作図する（小課題） 授業の1回目から8回目までの振り返り、定期試験の出題傾向を理解する	三角スケールを持っている場合は、定期試験時に持参する （復習）授業終了後に配布する模範解答と自分の解答を見比べらながら、表記の方法などの再確認する	200分
第10回	住まいの管理と中古住宅市場	住まいを管理することの重要性と中古住宅市場の関係について学ぶ	（復習）インスペクションの仕組みについて調べる	120分
第11回	住まいのメンテナンス	住居の適切なメンテナンスと耐用年数との関係について学ぶ	（復習）自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える	120分
第12回	居住地の管理	良好な居住環境形成のための居住地管理について理解する	（復習）自分の住む地域でおこなわれているまちづくり活動について調べる （レポート課題）居住地管理に関するレポート課題に取り組む	120分 ＋レポート180分
第13回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える （レポート課題）居住地管理に関するレポート課題に取り組む	120分 ＋レポート180分
第14回	福祉と住まい	国、地方自治体が実施している居住支援について学ぶ	（復習）自分の住む自治体で実施されている居住支援策について調べる	120分
第15回	こどもと住まい	社会・家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について、こどものための居住環境という視点から学ぶ	（復習）自分の住む地域におけるこどもの居住環境について考える	120分
第16回	定期試験	これまでの授業内容を踏まえた試験を受ける	（予習）これまでの授業で行った範囲を復習しておく	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題は、添削し返却、若しくは模範解答の配布を行う。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評を行う。 期末レポートについては採点後にコメントを付けて返却する。
評価方法	小課題は、授業の進行と同時に取り組み、より授業内容を深めるために行い、5回実施する。 定期試験は、100点満点で出題し、課題プリントの内容も含む。単語や数値、簡単な図面の読み書きができるかどうかを問う内容とし、問題出題の傾向については、9回目の授業後半で説明する。 小レポートは、10～15回の授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小課題	○	○		
	定期試験	○	○	○	
	小レポート	○	○		
	期末レポート	○	○	○	

評価割合	小課題20%、定期試験35%、小レポート20%、期末レポート25%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社 その他、必要に応じ、参考になる資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野 について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
オフィスアワー	水曜１限　3512研究室
学生へのメッセージ	身の回りに存在する住生活に関する諸問題への関心をもつこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居設備		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	D23210M21
授業概要(教育目的)	私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、換気設備について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	［建築士指定科目］住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

住居設備

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業計画 （配布資料） 建築設備の位置付けについて理解する。 戸建住宅の建築設備／住宅で使用されるエネルギーの種類／建築士の仕事（映像資料）	建築設備の位置付けについて復習すること	60
第2回	住居設備の概要	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 （配布資料） すまいの「水・お湯」のしくみ／すまいの「空気・熱」のしくみ／ビルの「給排水・衛生」のしくみ／ビルの「空調」のしくみ／インテリアコーディネーターの仕事（映像資料）	水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習すること	60
第3回	建築と水環境（１）	水環境について理解する。 快適な水環境をつくるもの／水の流れ／都市設備と建築設備／建築設備と自然堤境／自然にやさしい再利用水	教科書p.102-110（水環境・水の用途）について読んでおくこと	180
第4回	建築と水環境（２）	水の用途について理解する。 水と生活／生命維持のための水／水の用途と設備 給排水衛生設備　上水　雑用水／生活用水と使用水量	課題１（水環境）による復習	120
第5回	水に関する基礎知識（１）	水質、給水圧力について理解する。 水質／上水，下水，再利用水／おいしい水，湯（定義，洗浄力），浄水器　残留塩素　水に対する溶解度 水と圧力／圧力の単位／ベルヌーイの式	教科書p.111-120（水に関する基礎知識）について読んでおくこと	180

第6回	水に関する基礎知識（２）	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 トラップの機能／封水損失現象とその防止対策／誘導サイホン作用　自己サイホン作用　蒸発 水の使われ方と負荷／水使用パターンとピーク負荷／適正器具数	課題２（水基礎知識）による復習	120
第7回	給水設備（１）	給水の汚染防止について理解する。 安全な水／飲料用給水の汚染と防止／クロスコネクション　逆サイホン作用　吐水口空間　バキュームブレイカー　逆止弁　受水槽の６面点検 器具の汚染と防止／間接排水　排水口空間	教科書p.121-125（給水設備）について読んでおくこと	180
第8回	給水設備（２）	給水方式について理解する。 システムの種類／器具の必要給水圧力／直結直圧方式　直結増圧方式　高置水槽方式　圧力水槽方式　ポンプ直送方式 システムの構成／ポンプ　水槽　配管材料	課題３（給水設備）による復習	120
第9回	給湯設備（１）	給湯熱源の仕組みについて理解する。 湯と水の違い／給湯エネルギー／住宅のエネルギー消費熱源とシステム機器／自然冷媒ヒートポンプ給湯器　潜熱回収型ガス瞬間湯沸器　ハイブリット型給湯器　太陽熱温水器	教科書p.126-129（給湯設備）について読んでおくこと	180
第10回	給湯設備（２）	給湯方式について理解する。 システムの種類／住戸セントラル給湯方式　さや管ヘッダー配管方式　中央式給湯方式 システムの構成／湯沸器　貯湯槽　膨張水槽　逃し管　伸縮継手	課題４（給湯設備）による復習	120
第11回	排水通気設備（１）	排水の仕組みについて理解する。 排水管内の流れ／圧力発生の原理／特殊継手排水システム／排水の種類と排水方式	教科書p.130-136（排水通気設備）について読んでおくこと	180
第12回	排水通気設備（２）	排水の円滑な流れについて理解する。 システムの部品構成／ベントキャップ／排水管・継手類／フロアドレン／阻集器／排水ます・排水槽	課題５（排水通気設備）による復習	120
第13回	衛生設備	衛生器具の種類について理解する。 衛生器具の種類／給水器具　水受け容器　排水器具　付属品　プレハブ　ユニット化 水栓金具／大便器／洗面化粧台／浴槽／流し類／排水器具	教科書p.137-141（衛生設備）について読んでおくこと 課題６レポート「キッチン・洗面・浴室・トイレの製品特徴・選択理由・設置寸法を調べる」による復習	90 690
第14回	浄化設備・ガス設備	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割／設置基準／処理方式／構造 ガス利用の歴史／都市ガスとLPG／ガスの性質／供給方式／設備設計／安全対策	教科書p.142-151（浄化設備・ガス設備）について読んでおくこと 配布資料（ガス設備の燃焼方式）について復習すること	90 60
第15回	換気設備	換気設備について理解する。 換気方式と換気量／シックハウス対策と24時間換気／換気の法的規制	教科書p.87-95（換気設備）について読んでおくこと 換気の方式について復習すること	90 60
第16回	定期試験			

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、衛生器具設備（キッチン・洗面・浴室・トイレ）の製品特徴・選択理由・設置寸法についてショールームあるいはカタログで調べる課題である。 ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	課題	○			
	レポート	○			

評価割合	定期試験(30%)、レポート及び課題(70%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	「建築の設備」入門　新訂第二版／同編集委員会編／彰国社／2017年 978-4-395-32095-0
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 ［知識・理解］　社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 ［知識・理解］　住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C　火曜５限 1807室　　／町田C　金曜３限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目　④建築設備　に認定。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	構造力学Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村　彰敏	指定なし

ナンバリング	D23301M21
授業概要(教育目的)	建築(住居)における力学について講義する。構造力学Aは初学者向けの入門編である。 単純な構造(単純梁、片持ち梁)を通して、力の性質・力の種類・力の釣り合い・構造物の表現・反力計算・応力計算・応力図を理解し力学に対する興味を喚起する。また、基礎編の構造力学Bに向け、事象に対する力学的な思考力の育成を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.反力(支点に作用する力)と応力(部材に作用する力)の計算ができる 2.応力図(軸方向力図、せん断力図、モーメント図)を描くことができる
思考・判断の観点（K）	1.力の釣り合いを正しく理解し説明できる 2.反力と応力の違いを正しく理解し説明できる 3.応力図の意味を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

構造力学A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	力の性質1	1.力とは(力の3要素) 2.力の演算(符号，力の和と差) 3.力の単位(SI単位系) 4.数学の基礎(スカラとベクトル)	参考書P8～11を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第2回	力の性質2	1.力の合成と分解(同一作用線上の力の合成，同一作用線上にない力の合成) 2.生活における力の合成と分解 3.数学の基礎(三角関数，単位円)	参考書P12～28を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第3回	力の性質3	1.力のモーメント 2.生活におけるちからのモーメント 3.偶力(偶力とは，偶力の性質) 4.バリニオンの定理	参考書P29～38を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第4回	構造物の表現と種類	1.構造のモデル化とは 2.節点の種類(剛節点，滑節点) 3.支点の種類(移動端，回転端，固定端) 4.荷重の種類(集中荷重，等分布荷重，等変分布荷重，モーメント荷重	参考書P40～51を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第5回	力のつり合い(反力1)	1.反力とは 2.力のつり合いとは	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習して	180分

		3. 力のつり合い条件(2力のつり合い, 3力のつり合い) 4. 反力の求め方	おくこと	
第6回	力のつり合い(反力2)	1. 反力の求め方(復習) 2. 力のつり合い(復習) 3. 力の合成と分解(復習) 4. 支点の種類(復習) 5. 集中荷重が作用する片持梁の反力計算 6. 集中荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第7回	力のつり合い(反力3)	1. モーメント力(復習) 2. 生活におけるモーメント力(事例) 3. モーメント荷重が作用する片持梁の反力計算 4. モーメント荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第8回	力のつり合い(反力4)	1. 合力とは, 重心とは 2. 合力と重心の考え方 3. 等分布荷重または等変分布荷重が作用する片持梁の反力計算 4. 等分布荷重または等変分布荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54～66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第9回	力のつり合い(応力1)	1. 応力とは 2. 反力と応力の違い 3. 応力の種類(軸方向力, せん断力, 曲げモーメント) 4. 応力の描き方(N図, Q図, M図)	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第10回	力のつり合い(応力2)	1. 反力計算(復習) 2. 切断法の考え方 3. 集中荷重が作用する片持梁の応力計算 4. 集中荷重が作用する単純梁の応力計算	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第11回	力のつり合い(応力3)	1. 力のつり合い(復習) 2. 切断法の考え方(復習) 3. モーメント荷重が作用する片持梁の応力計算 4. モーメント荷重が作用する単純梁の応力計算	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第12回	力のつり合い(応力4)	1. 合力の考え方(復習) 2. 等分布荷重と等変分布荷重が作用する片持梁の応力計算 3. 等分布荷重と等変分布荷重が作用する単純梁の応力計算 4. 数学の基礎(2次関数, 極値)	参考書P67～113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第13回	力学演習1	1. 反力計算の演習(建築士試験問題) 2. ディスカッション 3. 演習問題の解説	授業の第1～8回を復習しておくこと	180分
第14回	力学演習2	1. 応力計算の演習(建築士試験問題) 2. ディスカッション 3. 演習問題の解説	授業の第9～12回を復習しておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1. 理解度の確認 2. 授業内容の総括	授業の第1～14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。
評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする(毎回)。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする（板書を基準に自らの考えも含めること）。 定期テストは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート	○	○		
	定期テスト	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、定期テスト(60%)で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	構造計画		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村　彰敏	指定なし

ナンバリング	D33306M21
授業概要(教育目的)	構造設計例を通して建築（住居）構造計画に対する興味を喚起し、構造計画を学ぶ能力の育成を目的とする。 本科目は初学者を対象とし、木造、RC造、S造の構造設計に共通する項目を題材とする。 また、構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための基本的な力を身に付ける。
履修条件	構造力学AとBを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための基本的な計算ができる
思考・判断の観点（K）	構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための概念が理解できる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	構造設計法1	構造設計の概要	構造力学の復習をしておくこと	180分
第2回	構造設計法2	構造力学と構造設計	第1回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第3回	構造設計法3	構造設計の流れ	第2回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第4回	耐力要素1	耐力要素の種類と考え方	第3回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第5回	耐力要素2	耐力要素の設計例	第4回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第6回	平面・立面的配置バランス1	耐力要素の配置バランスの考え方	第5回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第7回	平面・立面的配置バランス2	耐力要素の配置バランスの設計例	第6回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第8回	継手と接合部1	継ぎ手・接合部の種類と考え方	第7回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第9回	継手と接合部2	継ぎ手・接合部の設計例	第8回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分

第10回	各種構造1	RC造とS造の特徴	第9回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第11回	各種構造2	木造とその他構造の特徴	第10回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第12回	演習1	構造設計の演習（1回目）	第1～11回目の復習をしておくこと	180分
第13回	演習2	構造設計の演習（2回目）	第1～11回目の復習をしておくこと	180分
第14回	演習3	構造設計の演習（3回目）	第1～11回目の復習をしておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1.理解度の確認 2.授業内容の総括	授業の第1～14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。
評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする(毎回)。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする（板書を基準に自らの考えも含めること）。 最終レポートは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート	○	○		
	最終レポート	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、最終レポート(60%)で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。 演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インテリア材料		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D23307M21
授業概要(教育目的)	建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）や屋根材を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチック、瓦、スレートなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点（K）	各部位に要求される性能条件に適した建築仕上げ材料を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。	【復習】ガイダンス（第１回の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	60
第2回	屋根材料（１）　粘土瓦	粘土瓦(釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など）の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	60
第3回	屋根材料（２）　スレート	住宅屋根用化粧スレート、プレスセメント瓦などの特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習してくること。	300
第4回	屋根材料（３）　金属板	金属板（トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼板など）の特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題①】課題のタイトル：戸建て住宅の屋根材料（屋根仕上げ材料）を選ぶ上で、最も大切と考えることをあげてください。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題①を書くための資料集めを行う。	180

第5回	内外装仕上げ材料（１）　せっこうボード	せっこうボードの特徴や種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題①について書き始める。	240
第6回	内外装仕上げ材料（２）　繊維補強系ボード	繊維補強系ボードの種類やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題①について書く。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	240
第7回	内外装仕上げ材料（３）　木質系材料	木質系材料（合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど）の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第8回	内外装仕上げ材料（４）　軽量気泡コンクリート	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方（熱伝導、熱伝達、熱貫流）及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにすること。 【レポート課題①】レポートの返却と解説	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題①について復習すること。	120
第9回	内外装仕上げ材料（５）　タイル	タイルの種類(素地による区分）やその特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題②】課題のタイトル：浴室のリフォーム工事をするとしたら、あなたであれば、床材として何を選択しますか。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題②の資料集めを行う。	120
第10回	内外装仕上げ材料（６）　れんが	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題②についても書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	180
第11回	内外装仕上げ材料（７）　石材	石材の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題②について書く。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第12回	内外装仕上げ材料（８）　ガラス	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	240
第13回	内外装仕上げ材料（９）　塗装材料	塗装材料（塗料）の種類とその特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題②】課題の返却と解説	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について復習すること。	120
第14回	内外装仕上げ材料（１０）壁紙	壁紙の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第１回から第14回までの授業内容を復習しておくこと。	240
第15回	その他の材料　接着材料と断熱材料	接着剤及び断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、第1回から第15回までの授業内容について復習して理解していることを確認する。	360

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容８割、授業外学習の内容2割である。１回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって３段階（A:10点、B：５点、C：０点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文

	章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の５つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、35点満点とし、8段階（S：35点、A：30点、AB：25点、B：20点、BC：15点、C：10点、D:5点、E：0点）で評価する。定期試験については、140点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	レポート課題	○	○		
	定期試験	○			

評価割合	平常点(40%）、レポート課題（20%）及び定期試験（40%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材／砂川幸雄・江口征男／相模書房、初学者の建築講座 建築材料／橘高義典ら／市ヶ谷出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築仕上げ材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】住分野の中の建築仕上げ材料についての多様な情報を客観的に理解し判断して選別することができる。
オフィスアワー	水曜日４時限　３６０６研究室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築法規		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし

ナンバリング	D33207M21
授業概要(教育目的)	道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造など、建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法の規制を知り、面積計算、高さ計算、採光計算などの計算練習をすることで、建築の設計、施工、不動産取引において必要となる法的な知識を身に付け、応用できる力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	建築法規の目的、全体像、概念を知り、道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などの建築基準法の基本的な規制を説明できる。建築関係法令集を自力で引ける。
思考・判断の観点（K）	設計において、建築基準法の道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などのチェックができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	建築基準法の概要	法規のアウトライン　法律と条令、施行令、手続き規定と実体規定（単体規定、集団規定）、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、各用途地域、高度地区などの意味、包含関係、適用範囲。また確認申請、工事届・除去届け、中間検査、完了検査、定期報告などの手続き。用語の定義などを理解する。	教科書の8～25pを読み、p69の用途地域名はすべて暗記しておくこと。	180分
第2回	道路と敷地	道路、敷地　42条の各項の道路、43条、44条など。特に2項道路、五号道路（位置指定道路）、接道義務について学ぶ。	教科書のp26～p64を読んでおくこと。	180分
第3回	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、住居系用途地域8種	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、違いについて説明する。13種の用途地域の特色と建てられる建築物について概説し、住居系用途地域8種について詳述する。	p65～p82まで読んでおくこと。	180分
第4回	商業系、工業系用途地域	商業系、工業系用途地域5種の用途地域の説明をする。	教科書のp83～p89を読んでおくこと。	180分
第5回	建築面積、床面積、建蔽率、容積率	建築面積、床面積の定義とその緩和規定、建蔽率、容積率とその計算方法を説明し、計算練習をする。	教科書のp95～p113を読んでおくこと。	180分

第6回	床面積	地階の住宅や駐車場の緩和規定を説明し、計算練習をする。	教科書のp114～p131を読んでおくこと。	180分
第7回	道路幅から決まる容積率、用途地域をまたぐ場合の建ぺい率、容積率の計算	道路幅から決まる容積率、用途地域をまたぐ場合の建ぺい率、容積率の計算の説明をし、計算練習をする。	教科書のp132～p138を読んでおくこと。	180分
第8回	高さ制限	高さ、軒高の測り方、緩和規定、絶対高さ、道路斜線、隣地斜線、北側斜線を説明する。	教科書のp139～p169を読んでおくこと。	180分
第9回	高さ制限の緩和規定	公園、広場、水路などによる緩和の取り方を説明し、計算練習をする。	教科書のp154～p170を再度読んで、代表的な緩和規定は覚えてくる。	180分
第10回	天空率、日影規制	斜線制限ではない高さ制限としての天空率、日影規制の説明をする。斜線制限を入れたすべての高さ制限を再度説明し、計算練習を行う。	教科書のp171～p183を読んでおくこと。また斜線制限を入れた高さ制限全体を、復習してくる。	180分
第11回	防火規定	不燃材料、準不燃材料、難燃材料、耐火構造、準耐火構造、防火構造、準防火構造、耐火建築物、準耐火建築物、防火地域、準防火地域の説明をする。	教科書のp184～p219を読んでおくこと。	180分
第12回	特殊建築物、防火区画、防火壁、界壁、隔壁、内装制限	特殊建築物、防火区画、防火壁、界壁、隔壁、内装制限の説明をする。	教科書のp214～p242を読んでおくこと。	180分
第13回	階段、避難の規定	階段の一般構造、直通階段、2以上の直通階段、歩行距離、避難階段、特別避難階段、排煙、非常用照明装置、非常用の進入口、非常用昇降機の説明をする。	教科書のp243～p270を読んでおくこと。	180分
第14回	居室の規制	居室の定義、採光面積計算、換気面積、換気設備の説明をし、計算練習をする。	教科書のp271～p290を読んでおくこと。	180分
第15回	構造規定	構造規定　固定荷重、積載荷重、長期荷重、短期荷重、許容応力度層間変形角、剛性率、偏心率、必要壁量の意味と計算方法の説明をする。	教科書のp291～p302を読んでおくこと。	180分

学生へのフィードバック方法	各回で実施した小テストは、次週の授業にて返却する。質問等がある場合は、授業の前後か、3602研究室まで訪問すること。
評価方法	毎回小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は10問、すべて記述式とする。小テストの再試験は原則として行わないので注意すること。定期試験は行わず、小テスト（平常点も兼ねる）で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○

評価割合	毎回、その回でやった授業内容の小テストをして、15回分を集計して成績評価する。その際、平常点20%、得点80%とする。
使用教科書名(ISBN番号)	原口秀昭著「ゼロからはじめる建築の法規入門」彰国社（ISBN978-4-395-01028-8）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある「住」分野の諸課題を自ら発見し、建築法規に照らして論理的に分析し考察することができる。 【技術・表現】社会に対して建築法規の範囲内で、洗練された表現力で「住」分野の課題解決を行い、設計図面として表現することができる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室
学生へのメッセージ	2年次、3年次でのデザイン演習では建ぺい率、容積率が法規制として提示されました。実際の設計では、さらに道路制限、用途制限、高さ制限、防火規定、避難規定など、多くの法規制がされます。この授業で建築関連法規の基本を身に付けて社会に出ましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、建築基準法などが設計監理にいかに影響するか、設計時での法律的な注意点を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築環境学Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 椛田　考一	指定なし

ナンバリング	D23208M21
授業概要(教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	［建築士指定科目］建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

建築環境学A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	建築環境学の位置付けについて理解する。 （配布資料） 建築環境学の位置付け／自然環境と室内環境の関わり／建築環境学と建築設備の関わり／人間のための快適な環境形成とエネルギー消費	建築環境学の位置付けについて復習すること	60
第2回	建築に要求される性能	建築に要求される性能について理解する。 （配布資料） 安全・衛生（健康）と快適を提供する建物／脅かす要素／環境制御の目標と原理／建物と建築設備による制御	建築に要求される性能について復習すること	60
第3回	気候風土と建築	気候風土と建築について理解する。 （配布資料） 気候風土に適応した建築的工夫と建築の熱環境設計 寒い地方の建築的工夫／暑い地方の建築的工夫／これからの建築熱環境設計	課題１（気候風土と建築）による復習	60
第4回	建築環境学の概要	「環境とは」、SI単位について理解する。 生活環境とは／人間と生活環境／感覚と環境／環境とストレス／日常感じる良い環境悪い環境 SI単位／接頭語／対数／三角関数	教科書p.10-18（環境とは・SI単位）について読んでおくこと 配布資料（SI単位・接頭語）について復習すること	90 60
第5回	熱環境 温熱感 （１）	温熱感に影響する要因を理解する。 代謝量／人体の熱収支（熱伝導，熱対流，熱放射　蒸	教科書p.71-78（温熱感）について読んでおくこと	180

		発）／温冷感に影響する要因（気温，湿度，放射，気流，着衣量，代謝量）／MRT		
第6回	温熱感（２）	温熱感の環境評価指標について理解する。 温熱環境指標（OT，SET*，PMV）／住宅の温熱環境	課題２（温熱感）による復習	120
第7回	外界条件	外界条件について理解する。 気温（デグリデー）／湿度（クリモグラフ，WBGT）／潜熱と顕熱 日射（紫外線，可視光線，赤外線）／直達日射，天空日射，全天日射／大気透過率／大気放射量と夜間（実効）放射量／放射冷却	教科書p.79-85（外界条件）について読んでおくこと 課題３（外界条件）による復習	90 60
第8回	日照環境（１）	日照について理解する。 太陽の動き／太陽位置の表し方（太陽方位角，太陽高度）／時刻の表し方（真太陽時）／均時差／太陽位置図	教科書p.86-94（日照環境）について読んでおくこと	180
第9回	日照環境（２）	日影について理解する。 太陽位置と日影／日影曲線図／日影時間図／日影による中高層建築物の高さの制限／終日日影／永久日影／隣棟間隔／日射量	課題４（日照）による復習	120
第10回	建物の熱性能（１）	建物の伝熱について理解する。 熱貫流／熱伝導（断熱材）／対流熱伝達／放射による熱伝達／室内側・屋外側総合熱伝達率／熱貫流率	教科書p.95-107（建物の熱性能）について読んでおくこと	180
第11回	建物の熱性能（２）	建物の断熱・熱容量について理解する。 日射吸収率と長波長放射率／中空層の伝熱／壁の温度分布／平均熱貫流率／熱橋／建物の熱容量／内断熱と外断熱／充てん断熱／外張り断熱	課題５（伝熱）による復習	120
第12回	湿気環境（１）	結露現象の原理を理解する。 湿り空気線図／飽和水蒸気圧／相対湿度／絶対湿度／露点温度／比エンタルピー	教科書p.108-113（湿気環境）について読んでおくこと	180
第13回	湿気環境（２）	結露現象とその防止策について理解する。 表面結露／熱橋と表面結露／内部結露	課題６（湿気環境）による復習 レポート「日本の気候風土に適した住宅」	120 720
第14回	空気環境（１） 空気と人の健康	室内の空気質について理解する。 屋外の空気と室内の空気／室内空気汚染物質（二酸化炭素，一酸化炭素，ホルムアルデヒド，VOC，窒素酸化物，硫黄酸化物．臭気，浮遊粒子状物質，PM2.5，アスベスト）／室内空気質／シックハウス症候群／シックハウス対策／室内空気環境基準	教科書p.47-69（空気環境）について読んでおくこと	180
第15回	空気環境（２） 室内の空気汚染対策	換気方式・換気量について理解する。 室内の空気浄化の考え方／換気／必要換気量／換気回数／全般（希釈）換気／局所換気／置換換気／自然換気（風力，室内外温度差）／機械換気	課題７（空気環境）による復習	120
第16回	定期試験			

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、「日本の気候風土に適した住宅」の実例を調べる課題である。 ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	課題	○			
	レポート	○			

評価割合	定期試験(30%)、レポート及び課題(70%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	生活環境学［改訂版］／岩田利枝 他／井上書院／2021 978-4-7530-1759-1
参考図書	図説テキスト　建築環境工学／加藤信介　他／彰国社／2008
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 ［知識・理解］　社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 ［知識・理解］　住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C　火曜５限 1807室　　／町田C　金曜３限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目　③建築環境工学　に認定。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住居計画		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	G24303C21
授業概要(教育目的)	家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点（K）	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点（V）	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点（A）	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・現代の家族と住まい	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ	（復習）自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える	120分
第2回	家族のかたちと住まいのかたち	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ	（復習）自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える	120分
第3回	家族の変化と新しい住まいのかたち	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ	120分
第4回	居住歴と原風景	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ	（復習）自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える	120分
第5回	住居の設計プロセス	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規について学ぶ	（復習）住居の設計プロセスと建築に関わる法規について復習する （中間レポート1/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第6回	独立住宅の計画手法	独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート2/4）住宅計画	120分 ＋レポート120分

			に関する中間レポートに取り組む	
第7回	生活行為と生活時間	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ	（復習）自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる	180分
第8回	生活行為と住空間	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ	（復習）自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える （中間レポート3/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第9回	独立住宅の構造・構法	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ （中間レポート4/4）住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第10回	集合住宅の平面構成	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ	（復習）建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ	120分
第11回	生活の外部化と地域施設	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ	（復習）自分の生活を対象に生活の外部化について考える （期末レポート1/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第12回	住宅でまちをつくる	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ	（復習）多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える （期末レポート2/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第13回	集合住宅地の計画１	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ	（復習）自分の住む地域の街並みの美しさについて考える （期末レポート3/3）地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 ＋レポート120分
第14回	集合住宅地の計画２	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ	（復習）自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える	120分
第15回	集合住宅団地の再生	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ	（復習）自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。 レポートは、採点後にコメントを付して返却する。
評価方法	小課題は、毎回の授業で実施する。授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するものがある。取り組み状況、完成度、授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。 中間と期末の２回実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小課題	○	○	○	
	レポート	○	○	○	○

評価割合	小課題40%、中間レポート35%、期末レポート25%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 岡田光正ほか「住宅の計画学入門－住まい設計の基本を知る」鹿島出版会 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜４限　3508研究室
学生へのメッセージ	住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	福祉住環境		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点（K）	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。	（復習）日本の人口の動向について調べ、理解する。	150分
第2回	福祉・ノーマライゼーションの考え方	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。	（復習）配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。	150分
第3回	高齢者・障害者の住環境整備－１	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにある生活用具について、共用品・福祉用具にあたるものがないか考える。	150分
第4回	高齢者・障害者の住環境整備－２	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第5回	高齢者・障害者の住環境整備－３	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分

第6回	日本の住宅と住生活上の課題	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。	150分
第7回	福祉住環境整備の技術－１	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第8回	福祉住環境整備の技術－２	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第9回	福祉住環境整備の技術－３	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第10回	福祉住環境整備の技術－４	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 ＋レポート150分
第11回	関連法規・高齢者の住環境整備	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 ＋レポート150分
第12回	障害とは何か・障害者の住環境整備	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。 （レポート）住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 ＋レポート150分
第13回	高齢者の健康と自立	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。	150分
第14回	リハビリテーションの考え方	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。	（復習）配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。	150分
第15回	介護保険制度の変遷とこれから	福祉住環境整備を支える介護保険制度について、制度創設以来の変遷を振り返る。	（復習）社会情勢の変化を踏まえ、介護保険制度の今後について考える。	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	第2回以降、毎回授業開始時に前回講義内容に関する確認テストを実施する。確認テストは評価に含めず、授業時間内に解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 レポートについては採点後にコメントを付けて返却する。
評価方法	小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート	○	○	○	
	レポート	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	小レポート30%、レポート30%、定期試験40%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	「新版福祉住環境」浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる 【技能・表現】家政学を学修し、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている
オフィスアワー	金曜4時限　3508研究室
学生へのメッセージ	本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験２級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｃ（石綱）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要（教育目的）	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回	文献を読む②	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第8回	文献を読む③	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第9回	文献を読む④	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第10回	文献を読む⑤	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分

第11回	文献を読む⑥	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第12回	文献を読む⑦	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第13回	文献を読む⑧	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第14回	文献を読む⑨	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第15回	文献を読む⑩	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する	45分

学習計画注記	履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：読解力、要約緑、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○

評価割合	平常点50%、課題50%とし総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜3限 3609研究室
学生へのメッセージ	初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｃ（呉）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要（教育目的）	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。プログラムは学期の最初に生活デザイン学科で設定する。2年次3年次合同のプログラムもあり、個人での作業にとどまらず、グループの中で協力して計画と作業を進め、問題を解決する力を養う。

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

評価割合	平常点（50%）、課題（50%）の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）
使用教科書名（ISBN番号）	適宜、資料を印刷・配付する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｃ（齋藤史）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要（教育目的）	国分寺市立ひかり児童館他市内児童施設または近隣児童施設において、地方自治体・委託先民間団体・地域と協働し、子どもの楽しいプログラム・居場所づくりに取り組む。コミュニティデザインの実習でもある。
履修条件	特に無し

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	実施に子どもを対象とした児童福祉施設（児童館・学童保育）等の社会的役割にふさわしい活動と居場所作りに取り組もうという姿勢を持つ。
技術・表現の観点（A）	子どもたちの生活を充実させる活動をプログラムし、施設・地域の方と対話して課題を共有しながら取り組むことができる。

学習計画

こどもにやさしいまちづくりの実践

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	こどもにやさしいまちづくり	ユニセフ提唱のこどもにやさしいまちづくりとは	こどもにやさしいまちづくりをネット調査する。	60分
第2回	国分寺市の児童施設	国分寺市の児童施設の概要	国分寺市の児童施設にはどのようなものがあるか調査する。	60分
第3回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第4回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第5回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第6回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分

第7回	見学の振り返り	国分寺市の児童施設の概要を、見学をもとににまとめる	見学の様子をまとめる	60分
第8回	児童施設における活動内容の構想	グループで児童施設での活動プログラムを構想する（アクティブラーニング）	子どもを対象としたプログラムを調査する。	60分
第9回	児童施設での活動プログラム準備	児童施設での活動を実施するための準備活動を行う。	グループ活動で必要な内容・品物の準備。	60分
第10回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第11回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第12回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第13回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第14回	プログラム実施の振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの内容・気づきをまとめる	60分
第15回	こどもにやさしいまちづくりを再度考える	15回の授業を通してこどもにやさしいまちづくりの役割と可能性を考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記	学生主体でグループを形成し、実際に国分寺市の児童施設（市立ひかり児童館他）に出かけ、子どもとともに楽しいプログラムを実施します。主体的、共同的に参加することを求めます。
学生へのフィードバック方法	プログラム実施・前後の授業において計画と振り返りの時間を設ける。
評価方法	プログラムへの共同的で積極的な参加と、実施したプログラムの内容によって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	プログラムへの共同的積極的参加			○	○
	プログラムの実施内容			○	○

評価割合	プログラムへの共同的積極的参加（50%） プログラムの実施内容（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	授業内で提示する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】子どもにとって必要な社会を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断し提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって子どもたちのために働く能力 【技能・表現】学修で得た専門的技能(技術)をもって課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することでこどもにやさしいまちを創り出す能力
オフィスアワー	火曜日3限1607研究室
学生へのメッセージ	子どもたちにとって大学生は、身近で憧れの存在です。子どもたちの中に積極的に飛び込み、施設・地域の方と協力してこどもにやさしいまちづくりに実践的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。
情報リテラシー教育	○	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	○	インターネット調査

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｃ（佐々木）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木　麻紀子	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要（教育目的）	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	なし

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、プログラム内容について理解する	プログラム内容についてガイダンスで配布した資料を読んでおくこと。	45分
第2回	工芸染色技法について	日本の伝統的染色技法の特徴について学ぶ	染色技法についてHP等で調べておくこと	45分
第3回	サンプル制作1	サンプル制作を通じて、摺込み染の染色方法について理解する	摺込み染の染色方法について参考書等を読んでおくこと。	45分
第4回	サンプル制作2	サンプル制作を通じて、摺込み染の特徴について理解する。	摺込み染のサンプルを完成させる	45分
第5回	サンプル制作3	サンプル制作を通じて、墨流し染のデザインと特徴を理解する。	墨流し染について調べておくこと	45分
第6回	サンプル制作4	墨流し染で作品を制作する	墨流し染の特徴についてまとめる	45分
第7回	サンプル作成5	絞り染の特徴について理解し、サンプルを作成する	絞り染の特徴についてまとめておく	45分
第8回	サンプル作成6	絞り染のサンプル作成を行う	絞り染のサンプル作成を進めておく	45分
第9回	サンプル作成7	絞り染のサンプルの染色を行う	絞り染のサンプル制作を進めておく	45分
第10回	サンプル作	ろうけつ染めの特徴について理解し、サンプルを作成す	ろうけつ染めの特徴についてま	45分

	成8	る	とめておく	
第11回	サンプル作成9	ろうけつ染めの特徴を活かしてサンプルを作成する	ろうけつ染めの特徴についてまとめておく	45分
第12回	サンプル作成10	学外実習　学外の染色工房で江戸更紗染の体験を行う	江戸更紗染の特徴について調べておく	45分
第13回	まとめ1	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する	各染色技法の特徴についてまとめる	90分
第14回	まとめ2	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する	各染色技法の特徴についてまとめる	90分
第15回	まとめ3	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する	各染色技法の特徴についてまとめる	90分

学習計画注記	・受講人数によってはスケジュールが変更になる場合があります。 ・学外施設での実習を予定していますが、状況に応じて変更になる場合があります。 ・作品制作では、実習費(3000～5000円程度）がかかります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	平常点80%、レポート20%で評価します。 平常点は授業への積極的な参加態度、サンプルの完成度等を総合的に判断し評価します。 レポートは各A4用紙1、2枚程度に ①各種染色技法の特徴について②自身の取り組み方について記載してもらいます。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	レポート①	○			○
	レポート②		○		○

評価割合	平常点80%、レポート各10%で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	・染色の技法/田中清香/理工学社/978-4844585855 ・染色の基礎知識　増補改訂版合成染料の技法/高橋誠一郎/染色と生活社/978-4-975374-62-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜2時限　2406研究室
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを通じて、協働活動の方法について学ぶ。
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集やレポート作成のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｃ（富田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	（集中授業） パターンメーキング3級検定試験の課題「ブラウス」の身頃と袖・衿の基本的な製図（実物大）とテキストによる記述試験の対策を行う。基礎的な知識と技術を習得して試験合格基準の力を身に付けることが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣分野おける諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	衣分野おける諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣分野おける諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	衣分野おける課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習C（富田１）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	道具、テキスト、日程、要項内容を理解する。	パターンメーキング検定試験の要項を読んでおくこと。	45分
第2回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	ブラウスAの身頃（前・後ろ）の製図（1/2）、胸ぐせ処理について理解する。	ブラウスAの身頃（前・後ろ）の製図（1/2）の練習する。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」（記述問題のテキス）（18～22）、ダーツの方向移動（76～89）を読んでおくこと。	45分
第3回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	ブラウスAの点検、衿のバリエーション1（シャツカラー、スタンドカラー）の製図を理解する。	ブラウスAの修正、衿のバリエーション１の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」既製服の概念～（23～43）、衿（90～99）を読んでおくこと。	45分
第4回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	衿のバリエーション2（対衿付シャツカラー、セーラーカラー　他）の製図を理解する。	衿のバリエーション2の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」既製服のパターンメーキング～	45分

	（記述）		（44～57）、衿（90～99）を読んでおくこと。	
第5回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	ブラウスBの身頃（前・後ろ）の製図を理解する。	ブラウスBの身頃（前・後ろ）の製図の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」ファーストパターンメーキング～（60～75）を読んでおくこと。	45分
第6回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	ブラウスBの点検、袖のバリエーション1（基本セットインスリーブ、パフスリーブA）の製図を理解する。	ブラウスBの修正、袖のバリエーション1の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」袖（100～109）を読んでおくこと。	45分
第7回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	袖のバリエーション2（パフスリーブB、他）の製図を理解する。	袖のバリエーション2の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」袖（100～109）を読んでおくこと。	45分
第8回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	工業パターン（スカート他）の製図を理解する。	工業パターン（スカート他）の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」ドレーピングの基礎（134～139）、工業パターンメーキング（160～183）を読んでおくこと。	45分
第9回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	工業パターンの点検、各製図、過去の問題を確認して理解する。	工業パターンの点検後の修正、製図、過去の問題集、工業パターンの試験準備する。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」工業パターンの基礎知識（184～217）を読んでおくこと。	45分
第10回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（記述）	各製図、グレーディング、過去の問題を確認し、理解する。	製図、過去の問題集、工業パターンの試験準備をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」グレーディング（220～225）を読んでおくこと。	45分
第11回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）	ブラウスAの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。（製図・立体組み立て点検をする。）	ブラウスAの実物製図、ピン打ちの練習をする。	45分
第12回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）	ブラウスAの実物製図を時間内で組み立てて要点を理解する。（製図・立体組み立て点検をする。）	ブラウスAの実物製図、ピン打ちの練習をする。	45分
第13回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）	ブラウスBの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。（製図・立体組み立て点検をする。）	ブラウスBの実物製図、ピン打ちの練習をする。	45分
第14回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）	ブラウスBの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。。（製図・立体組み立て点検をする。）	ブラウスBの実物製図、ピン打ちの試験準備をする。	45分
第15回	パターンメーキング3級検定試験対策講座（実技）	試験用のシーチングのアイロン掛け、ライン入れ、道具の準備をする。	試験に向けて準備をする。	45分

学生へのフィードバック方法	製図の点検とともにコメントする。
評価方法	製図、平常点
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
製図、組み立て	○	○	○	○

評価割合	製図60%、平常点40%
使用教科書名(ISBN番号)	パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック 日本ファッション教育振興協会
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】社会の中にある課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日　12:30～14:00
学生へのメッセージ	検定試験は12月上旬にあります。記述試験に関してはテキストをよく読んでください。また、製図は、前期（生活デザイン演習C）で基本的な身頃、袖、衿を、後期（生活デザイン演習D）で衿、袖の展開とシーチングの立体組み立てを行いますので、前期から計画的に履修してください。なお、パターンメーキングの知識、技術を深めたい学生は、検定試験の受験の有無に関係なく履修してもかまいません。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習Ｃ（花田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	さがみはら環境まつりの紹介	さがみはら環境まつりとはどのようなイベントなのかを理解する。	2019年度さがみはら環境まつりの実施内容について確認する。	45分
第2回	私たちの生活を見直してみよう	私たちの日々の生活は世界と繋がっていること理解し、身近な環境問題について考える。	SDGsとはどういうことか調べてくる。	90分
第3回	持続可能な社会とは	SDGsについて調べてきたことを発表し、ディスカッションを行い、SDGsの概要について理解する。	SDGsについて理解し、各自ができることは何か考える。	45分
第4回	体験教室の実施内容の紹介	さがみはら環境まつりで開催する体験教室の実施内容を把握し、工作物の試作を行い、製作方法を理解する。	制作方法を確認し、再度工作物を作製する。（製作の練習）	90分
第5回	体験教室実施の準備（１）	体験教室で必要となる見本品の制作、及び材料を準備する。	制作方法を確認し、再度工作物を作製する。（製作の練習）	90分
第6回	体験教室実施の準備（２）	体験教室の実施方法（時間配分、参加者への対応等）についてディスカッションし、計画案を作成する。	スムーズな実施方法、参加者とのコミュニケーション方法について考える。	45分
第7回	体験教室実施の準備（３）	体験教室で必要となる道具の確認と材料を準備する。参加者とどのようにコミュニケーションを図れば良いかディスカッションし、検討する。	体験教室の材料を準備する。	45分
第8回	体験教室実施の準備	体験教室で必要となる道具の確認と材料を準備する。開催当日をシュミレーションし、準備を行う。	体験教室の材料を準備する。	45分

	（４）			
第9回	体験教室実施の準備（５）	当日使用する材料や道具の搬入準備を行う。	前日の会場設営や当日の体験教室開催で必要となる物品リストを作成する。	45分
第10回	さがみはら環境まつり会場設営	6月29日（土）さがみはら環境まつり会場設営に参加（教室外での活動）	実行委員の指示に従い、臨機応変に会場設営を行う。	180分
第11回	さがみはら環境まつり参加	6月30日（日）さがみはら環境まつり参加（教室外での活動）	体験教室のスムーズな運営を行う。	180分
第12回	さがみはら環境まつり参加	6月30日（日）さがみはら環境まつり参加（教室外での活動）	体験教室のスムーズな運営を行う。	180分
第13回	さがみはら環境まつり参加	6月30日（日）さがみはら環境まつり参加（教室外での活動）	体験教室のスムーズな運営を行う。	180分
第14回	さがみはら環境まつり参加の振り返り	さがみはら環境まつりに参加した振り返りとして、アンケート、社会人基礎力評価を実施する。取り組み内容を振り返り自己評価を行う。さがみはら環境まつり報告会用のパワーポイント資料を作成する。	さがみはら環境まつり参加を振り返り報告会用資料の作成と発表準備を進める。	90分
第15回	さがみはら環境まつりの報告会	さがみはら環境まつりの参加報告をパワーポイントを用いてプレゼンテーションにより発表する。	参加報告会を振り返り内容を整理し参加報告書をまとめる。	45分

学習計画注記	複数回の授業を、まとめて実施することがあります。また状況により、計画が変更される可能性もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業（ディスカッションや作業時）において、アドバイスを行う。発表会での講評。参加報告書へのコメント。
評価方法	①報告会（報告内容、構成、表現、プレゼンテーションを評価） ②報告書（報告内容、構成、表現を評価） ③さがみはら環境まつりでのパフォーマンス（参加者とのコミュニケーション能力、自律的行動力） ④平常点（提案力、調整力、行動力、課題への取り組みの姿勢を評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	報告会	○	○	○	○
	報告書	○	○	○	○
	さがみはら環境まつりでのパフォ	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	報告会１５％　報告レポート１５％　さがみはら環境まつりでのパフォーマンス４０％　平常点３０％　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、社会ある諸課題についての知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、分析、整理し、考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の諸問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	水曜日４限後半～５限前半　２４０７被服材料学研究室
学生へのメッセージ	学外の方々や他学年の学生と協同することは、大きな成長に繋がる貴重な経験の機会となります。積極的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、協同作業の実施。
情報リテラシー教育	○	課題に対する情報を収集し、整理、分析して、発表する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	服飾造形実習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D22202M23
授業概要(教育目的)	上半身を覆うブラウスまたはシャツの製作が課題である。身頃2種、袖3種、衿3種の製図・裁断・縫製、基礎の手縫いと部分縫いを習得し、立体的な人体の上半身・腕・頸の構造と衣服の平面的なパターンとの関係および身頃原型の使用について理解する。さらに、ショートパンツを課題としてニット地の特徴・縫製・扱いと工業パターンの製図について学び、古着のニット地や残り布などを使って持続可能なアップサイクルについて考えることを目的とする。
履修条件	「服飾造形実習Ａ」「アパレル設計論」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣服に関する分野の諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	衣服に関する分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣服に関する分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つことができる。

学習計画

服飾造形実習B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ブラウス・シャツの課題、レポート、材料、計測、デザイン条件、製図１（身頃原型）	デザイン条件、ブラウスの種類、材料（生地・糸）、レポート課題説明、人体計測、および製図では身頃原型のすえ方を学ぶ。	ブラウス・シャツのデザインを考える。2年前期「アパレル設計論」で作成した身頃原型を使用する。	90分
第2回	製図２（ブラウス・シャツの身頃・衿）	各自のサイズでブラウス・シャツの身頃と衿の製図を学ぶ。	ブラウス・シャツのデザインを決めておくこと。	90分
第3回	製図３（袖・袖の展開）	袖（セットインスリーブ・パフスリーブ・シャツスリーブ）の製図とその展開を学ぶ。	各自のサイズによる実物大のブラウス・シャツの製図を仕上げること。生地の選定をしておくこと。	90分
第4回	製図４（点検）、ブラウス・シャツのパターン作成、ニ	布帛のブラウス・シャツのパターン、ニットのショートパンツの工業用パターンの作成、生地の地直しの仕方を学ぶ。	パターンを完成させ、次回まで生地を購入し、地直しを済ませておくこと。次回は「服飾造形実習A」（1年前期）で作成した	90分

	ットのショートパンツ１（工業パターン作成）		ショートパンツの型紙を持参すること。	
第5回	ニットのショートパンツ２（裁断・縫製）	ロータリーカッターによる裁断、ロックミシンによるニットの縫製を学ぶ。	ニット生地（古着のTシャツ他、残り布など）を持参する。	90分
第6回	ブラウス・シャツの生地の裁断・接着芯・印付け	裁断、接着芯の張り方、印付け（チャコペーパー・切りじつけ）について学ぶ。	地直しをした生地を持参すること。次回までに印つけまで進めること。	90分
第7回	仮縫い１（縫い方）	仮縫いの手順について学ぶ。	仮縫いを完成させること。	90分
第8回	仮縫い２（点検）、本縫い１（ダーツ、ヨーク、肩、前立、ポケット）	仮縫い点検後の補正の仕方を学ぶ。さらにダーツ、ヨーク、肩、前立て、ポケットなどを本縫いする。	仮縫い点検ができるように縫いまとめを完成させ、補正を記入しておくこと。 ミシン糸を持参すること。	90分
第9回	本縫い２（衿づくり）	衿（シャツカラー・フラットカラー・台衿付きシャツカラー）の作り方、衿（シャツカラー・フラットカラー・台衿付きシャツカラー）の付け方の違いを学ぶ。	衿付けまでを終わらせておくこと。	90分
第10回	本縫い３（袖づくり、袖口、カウス）	袖（セットスリーブ・シャツスリーブ）の作り方、袖口の開きの始末２（短冊開き、スラッシュ開き）、カウスの作り方を学ぶ。	袖・袖口の開き、カウス付けまでを終わらせておくこと。・衿付け	90分
第11回	本縫い４（袖付け）、中仮縫い（点検）	セットスリーブ・シャツスリーブの付け方の違い、セットインスリーブのいせ込みによる立体化、中仮縫いの仕方を学ぶ。	袖付けまでを完成させること。次回は、「服飾造形実習A」（1年前期）で習ったショートパンツの型紙を持参すること。	90分
第12回	本縫い５（裾上げ）、基礎縫い１	裾上げ、基礎縫い（袋縫い、完全三つ折り縫い）の手法を学ぶ。	裾上げまで済ませておくこと。	90分
第13回	基礎縫い２、ボタンホール（ミシン）	基礎縫い（ボタンホールの手かがり、折り伏せ縫い）、ミシンのボタンホールかがりを学ぶ。	ボタンホールを済ませること。	90分
第14回	ボタン付け、仕上げ	ボタン付け、仕上げについて学ぶ。	ブラウス・シャツを完成させること。	90分
第15回	ブラウス・シャツの着装発表、作品・基礎縫い・レポート提出	ブラウス・シャツとのコーディネイトを考えて着装し、デザインの特徴、生地名や素材、製作に対する問題点・反省点など発表について学ぶ。	最終授業でブラウス・シャツ、パンツ、基礎縫い、レポートなどの課題を提出する準備をすること。また、発表は時間内でできるように練習すること。	90分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更し、1/2サイズで縫製時間を短縮させ、基礎的な技術や知識の修得に重きを置いた授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	製図・基礎縫い、作品のコメント
評価方法	平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図、基礎縫い、作品
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	製図	○	○	○	○
	部分縫い	○	○	○	○
	作品	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、製図10%、基礎縫い10%、課題40%、レポート20%
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリント配付
参考図書	なし、
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	この授業のブラウス・シャツの身頃・衿・袖を習得すると、日常着用している衣服（アパレル商品）の構成や縫製などがよくわかり、各自がデザインしたブラウスを形にすることができるようになります。なお、やむを得ず欠席した場合は連絡を入れてください。次回の授業までに遅れを取り戻すための指示をいたします。また、ニットの古着（Tシャツなど）がありましたら、廃棄せずに残しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（石綱）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（１）	各担当教員のテーマ説明① （石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス（２）	各担当教員のテーマ説明② （富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	石綱担当分の内容についてのガイダンス	演習の目的、進め方について解説する。 この演習は、各回を「1分間スピーチ」、「ドリル（理論的思考力、漢字など）」、「文章を読み要約し、発表する」の3部構成とする。	1分間スピーチを準備する。	45分
第4回	卒業研究とは	本学科の卒業研究の要件、進め方について実例を挙げて解説する。 卒業研究要旨を読む、1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する。	45分
第5回	卒業研究の要旨を読む①	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第6回	卒業研究の要旨を読む②	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第7回	卒業研究の要旨を読む③	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第8回	卒業研究の	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要	1分間スピーチを準備する。	45分

	要旨を読む④	約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。		
第9回	卒業研究の要旨を読む⑤	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第10回	文献を読む①	文献の種類を解説する。各自、興味のある一般的な文章または初歩的な文献を探す。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。 各自、興味のある文章を探しておく。	45分
第11回	文献を読む②	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第12回	文献を読む③	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第13回	文献を読む④	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第14回	卒業研究のテーマを考える①	各自、興味のある卒業研究のテーマを考え、目的、構成などを検討する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第15回	卒業研究のテーマを考える②	各自、興味のある卒業研究のテーマを考え、目的、構成などを検討する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する。 卒業研究で扱いたいテーマを検討しておく。	45分

学習計画注記	第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間割と教室で授業を行います。 履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：1分間スピーチの準備状況、文献の読解力、要約縁、文章構成力など、各回の演習で課題を設定する。期限内に課題を提出できるか、設定した課題内容を理解し、課題を提出したかと課題の内容を総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	課題	○			○

評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜日2限 3609研究室
学生へのメッセージ	石綱担当分では、基礎的な話す・書く・読む・考える力の向上を目的としています。4年次で取り組む卒業研究の実施内容を理解し、初歩的な学術論文を正しく読めるようになることを目標としています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味がある文献を探し、読み、要約し、発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（呉）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点（K）	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点（V）	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

ゼミナールA

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（1）	各担当教員のテーマ説明① （石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス（2）	各担当教員のテーマ説明② （富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	グラフィックの基本１	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第4回	グラフィックの基本２	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第5回	グラフィックの基本３	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第6回	グラフィックのまとめ	作品の発表を行い作品についてディスカションを行う	作品の報告書を書く	45分
第7回	写真の基本１	写真の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第8回	写真の基本２	写真の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第9回	写真の基本３	写真の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分

第10回	写真のまとめ	作品の発表を行い作品についてディスカションを行う	作品の報告書を書く	45分
第11回	映像の基本１	映像の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第12回	映像の基本２	映像の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第13回	映像の基本３	映像の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第14回	映像のまとめ	作品の発表を行い作品についてディスカションを行う	作品の報告書を書く	45分
第15回	プレゼンテーション	全体作品を振りかえを行い作品についてディスカションを行う	全作品の報告書を書く	45分

学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は２０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題80% 平常点20%
ディプロマポリシーとの関連	【【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心 ・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	月曜日３限、４限
学生へのメッセージ	グラフィックデザイン、写真、映像の基本を理解してゼミナールBや卒業研究A,Bの基礎に役立つために積極的に課題に取り込んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（小池）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、「住」をはじめとする家政学の各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（1）	各担当教員のテーマ説明①（石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス（2）	各担当教員のテーマ説明②（富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	社会調査の方法について・研究課題の検討（1）	社会調査の意義と方法についての講義 （アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる	45分
第4回	研究課題の検討（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる	45分
第5回	先行研究レビュー（1）	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	45分
第6回	先行研究レビュー（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	45分
第7回	フィールドワーク調査の立案（1）	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関するフィールドワーク調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる	45分

第8回	フィールドワーク調査の立案（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関するフィールドワーク調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる	45分
第9回	フィールドワーク調査の実施（1）	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第10回	フィールドワーク調査の実施（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第11回	フィールドワーク調査の実施（3）	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第12回	フィールドワーク調査の実施（4）	（アクティブラーニング：グループワーク） 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	（復習）フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第13回	フィールドワーク調査のまとめ（1）	（アクティブラーニング：グループワーク） フィールドワーク調査の結果についてディスカッションし、まとめる	（復習）フィールドワーク調査結果についてまとめる	45分
第14回	フィールドワーク調査のまとめ（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） フィールドワーク調査の結果についてディスカッションし、まとめる	（復習）フィールドワーク調査結果についてまとめる	45分
第15回	全体のまとめ	研究全体を振り返り、ディスカッションをおこなう	（予習）ディスカッションする内容をレジュメにまとめる	45分

学習計画注記	第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間割と教室で授業を行います。 履修者数や各自の希望する研究テーマによって授業内容が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。 毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。
評価方法	課題については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。 平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	

評価割合	課題の完成度50%、平常点50%とし、総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・グローバルな視点から「住」をはじめとする家政学の各分野についての知識を深めて理解する 【思考・判断】 ・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる 【関心・意欲・態度】 ・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる 【技能・表現】 ・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている
学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。卒業研究に向けて、課題解決・提案の手法について学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（齋藤史）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	子ども・子育て応援の実践と基礎理論 子ども・子育て応援の現場にゼミナールとして、また、個人で積極的に出かける。 『子ども白書』をテキストに、子ども・子育ての現状と課題を学び考える。 子ども・若者に関わる社会的活動の現場に出かけて課題を考えるとともに、卒業研究受講生とともにゼミナールを実施することを基本として、研究の実際に触れることによって理論を深め研究の方法を学ぶ。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点（K）	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

子ども・子育て応援の実践と基礎理論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	後期ガイダンス（1）	後期のゼミナールの運営の説明	自分の研究テーマを深める	45分
第2回	後期ガイダンス（2）	後期ゼミナールの運営の相談	ゼミ計画案の立案	45分
第3回	テーマに関する共同研究討議(1)	各自の研究テーマの発表	発表準備	60分
第4回	テーマに関する共同研究討議(2)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第5回	テーマに関する共同研究討議(3)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第6回	テーマに関する共同研究討議(4)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第7回	テーマに関する共同研究討議5)	各自の研究テーマの発表	見学の様子をまとめる	60分

第8回	校外授業一教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事前調査	60分
第9回	校外授業一教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事例調査	60分
第10回	校外授業一教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査まとめ	60分
第11回	テーマに関する共同研究討議(6)	研究発表	発表の準備	60分
第12回	テーマに関する共同研究討議(7)	研究発表	発表の準備	60分
第13回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	発表の準備	60分
第14回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	論議をまとめる	60分
第15回	ゼミナールでの学びのまとめ	15回の授業を通した学びを考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記	学生主体でグループを形成し、主体的、共同的に参加することを求めます。
学生へのフィードバック方法	適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。
評価方法	研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ゼミへの共同的積極的参加			○	
	研究の深化	○			
	発表		○		○

評価割合	ゼミへの共同的積極的参加（40%） 研究の深化（30%） 発表（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	授業内で提示する
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解】社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。 【思考・判断】諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能・表 現】専門的技能をもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日3限1607研究室
学生へのメッセージ	研究的協同実践者を目指し、子ども理解の研究と実践を進めましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。
情報リテラシー教育	○	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	○	インターネット調査

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（佐々木）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木　麻紀子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	被服整理分野の研究対象に必要な基礎を理解する
思考・判断の観点（K）	被服整理分野を主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	必要な資料の収集ができる
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（1）	各担当教員のテーマ説明①	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス（2）	各担当教員のテーマ説明②	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	文献を読む1	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする	課題の文章を要約し、紹介する。	45分
第4回	文献を探す	課題2　文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約を解説する。	論文の要約、解説資料を作成する	45分
第5回	文献を探す	課題2　文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約を解説する。	文献の探し、読んでおく	45分
第6回	文献を探す	課題2　文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約を解説する。	文献の探し、読んでおく	45分
第7回	被服整理学演習1	課題3　被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第8回	被服整理学演習2	課題3　被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第9回	被服整理学演習3	課題3　被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第10回	被服整理学演習4	課題3　被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分

第11回	被服整理学演習5	課題3　被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第12回	被服整理学演習6	課題3　被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめて発表資料を作成する	45分
第13回	被服整理学演習7	課題4　校外学習　被服整理学分野に関わる洗剤関連施設の見学を行い、今後の研究課題の参考にする。	見学先についてインターネット等で事前に調べておくこと。	45分
第14回	まとめ1	演習で学んだことをまとめ、発表する	演習で行った結果をまとめておく	45分
第15回	まとめ2	演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめ、発表する。	45分

学習計画注記	受講人数によっては課題やスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックします。
評価方法	平常点と課題で評価します。 平常点は授業への積極的な参加態度や演習への取り組み状況を総合的に評価します。 課題1,2は読解力、文章構成力などを総合的に判断します。 課題3,4は演習内容の理解、課題解決の方法および結果を正確に表現できるかを評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	課題	○	○	○	○

評価割合	平常点60%、課題40%で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜2時限　2406研究室
学生へのメッセージ	文献の探し方、文献を読み要約することを学びます。また演習を通して被服整理学分野でどんな課題があるのか自ら体験することで新たな課題を発見することを目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集や課題作成のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（澤田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。 澤田が担当する授業では、「デザイントレーニング」のテーマで、 手を動かして、形を描くこと、作ること、あるいは自分の考えを表現すること、伝えること、そして、デザインを考えることを実践する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	デザインに関する知識と理解を深めること。
思考・判断の観点（K）	自らの意図や思考に基づき、自分が表現したいことを論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会とデザインと自分自身の学びを関連づけて考えることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業内容と日程の説明。	授業内容についての予備調査。	45分
第2回	デザインの進め方	デザインの考え方と手順・手法の再確認。	デザインについての自分の考え方をまとめる。	45分
第3回	形を描く（１）	三角法を用いた製図の基本	製図の作図	45分
第4回	形を描く（２）	三角法を用いた製図の基本	製図の作図	45分
第5回	形を描く（３）	漢字のレタリング	レタリングの作業	45分
第6回	形を描く（４）	漢字のレタリング	レタリングの作業	45分
第7回	形を描く（５）	写生（クロッキー）の練習	次の課題のためのアイデアスケッチ	45分
第8回	形をつくる（１）	粘土の造形（基礎：円筒形を作る）	作品の制作	45分
第9回	形をつくる（２）	粘土の造形（基礎：円筒形を作る）	作品の制作	45分

第10回	形をつくる（３）	粘土の造形（応用：陶土のペン立て制作）	作品の制作	45分
第11回	形をつくる（４）	粘土の造形（応用：陶土のペン立て制作）	作品の制作	45分
第12回	形を描く（６）	写生（クロッキー）の練習	見学予定の博物館・美術館についての下調べ	45分
第13回	博物館・美術館見学	近隣の博物館の見学	作品についてのプレゼンテーションレポートを作成する準備	45分
第14回	形をつくる（５）	粘土の造形（応用：陶土のペン立て制作）	作品の写真撮影とプレゼンテーションレポートの制作	45分
第15回	作品の発表会	作品についてのプレゼンテーションレポートを作成して発表する。	プレゼンテーションレポートの手直し	45分

学習計画注記	授業計画は、各課題の進捗状況を考慮して変更します。
学生へのフィードバック方法	課題作品やレポートについては、15回目の作品の発表会でコメントします。
評価方法	１．課題・作品等は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。 ２．レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。 ３．平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題・作品等の完成状況	○	○		
	レポート	○	○		
	平常点		○	○	

評価割合	課題・作品等の完成状況30%、レポート30%、平常点40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】デザインに関する知識と理解を深めること。 【思考・判断】デザインについての諸課題を自ら発見し、それを解決するために論理的な思考ができること。 【関心・意欲・態度】社会とデザインと自分自身の学びの関わりに積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	前期水曜日3時限　1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（白井）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	新聞や雑誌、書籍などを読んで、その内容を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	新聞や雑誌、書籍などを読んで、自分の意見を持つと共に、問いを立てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識・理解及び思考・判断をレポートにまとめることができると共に、そのまとめた内容を相手に正しく伝わるように話すことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（１）各担当教員のテーマ説明	各担当教員のテーマについて理解できる。 各担当教員のテーマについて興味・関心を持つ。	興味・関心を持ったテーマについて、書籍、雑誌、インターネットなどを用いて調べる。	30
第2回	全体ガイダンス（２）各担当教員のテーマ説明	各教員のテーマについて理解できる。 各教員のテーマについて興味・関心を持つ。	興味・関心を持ったテーマについて、書籍、雑誌、インターネットなどを用いて調べる。	30
第3回	個別ガイダンス　情報源の長所・短所を理解しよう。	私達の身近な情報源として「新聞」「テレビ」「インターネット」の３つを取り上げて、それぞれの特徴を導き出すことで、新聞活用の意味を理解する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第4回	新聞を比較しよう。	複数の新聞の記事を比較することで、それぞれの新聞の特徴や、同じ出来事でも捉え方が異なることなどを理解する。（新聞を読む初歩として）	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第5回	新聞活用（１）	新聞記事を要約し、プレゼンすることで、読む力、書く力、話す力の３つを養う。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第6回	振り返り（１）	前回の授業を振り返る。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させ	45

			る。	
第7回	新聞活用（２）	新聞を見て、気になる記事を読み、それを要約する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第8回	振り返り（２）	前回の授業で要約した新聞記事についてプレゼンテーションする。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第9回	ロジカルシンキング（１）	ロジカルシンキングについて理解できること。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第10回	ロジカルシンキング（２）	問題となっている事柄を観察し、正しい方法で解決策や改善策を導き出す技術を身につける。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第11回	ロジカルシンキング（３）	問題となっている事柄を観察し、正しい方法で解決策や改善策を導き出す技術を身につける。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第12回	新聞活用（３）	新聞記事を要約し、プレゼンすることで、読む力、書く力、話す力の３つを養う。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第13回	振り返り（３）	前回の授業を振り返る。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第14回	最終課題作成	「私の強み」というテーマで書く力を養う。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	60
第15回	最終課題のプレゼン	前回の課題についてプレゼンを行うことで、話す力を養う。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	60

学生へのフィードバック方法	実施した課題については、採点・評価して次週の授業の初めに返却する。返却時に評価基準についての解説を行う。
評価方法	平常点については、授業で実施した課題の成果で評価する。最終課題については、書く力（レポート）と話す力（プレゼンテーション）で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		○
	最終課題	○	○		○

評価割合	平常点（70%）と最終課題（30%）で総合評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。
参考図書	適宜、資料を印刷、配付する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解の観点（K）：新聞や雑誌、書籍などを読んで、その内容を理解することで、専門的知識･技術を有することにつなげている。 思考・判断の観点（K）：新聞や雑誌、書籍などを読んで、自分の意見を持つと共に、問いを立てることができる。このことは、社会の中にある諸課題を分析し、考察することができるにつながる。 技術・表現の観点（A）：「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識・理解及び思考・判断をレポートにまとめることができると共に、そのまとめた内容を相手に正しく伝わるように話すことができる。
オフィスアワー	金曜日３時限及び４時限。３号棟６階３６０６研究室。できるだけ、メールなどで事前予約してください。
学生へのメッセージ	個別ガイダンス（第３回）で配付した授業予定表に従って行うので、事前に予習した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を作成する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（千葉）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉　一博	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	（学生便覧掲載の授業科目概要） ゼミナールA：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	卒業要件単位を 46 単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ゲーム理論または情報科学の分野における基本的な知識や技術を概ね説明できる。
思考・判断の観点（K）	学生間や教員との間での議論において問題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	学生間や教員との間での議論に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ゲーム理論事始め	千葉担当のこの科目では、授業は研究室で実施される。ゲーム理論について、入門的な内容を学習する。	ゲーム理論について、内容を復習する。	45
第2回	情報科学事始め	情報科学について、その各分野と基礎から応用までの入門的な内容を学習する。	情報科学について、その各分野と基礎から応用までの内容を復習する。	45
第3回	コンピュータサイエンス	計算に関する分析や計算による問題解決について、入門的な内容を学習する。	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて考える。	45
第4回	テーマに関する議論	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて議論する。	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に輪読できる文献を検索する。	45
第5回	文献に関する議論	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に輪読できる文献について議論する。	輪読する文献を調達する。	45
第6回	輪読の計画	輪読の計画について議論する。	必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第7回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第8回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45

第9回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第10回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第11回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第12回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第13回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。	45
第14回	理解したことのまとめ	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、理解したことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、理解したことをまとめて提出する。	45
第15回	理解したいことのまとめ	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、今後理解したいことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、今後理解したいことをまとめて提出する。	45

学習計画注記	学生らとの議論を通してより意欲的に取り組めるよう方法などは変更する可能性がある。
学生へのフィードバック方法	理解したことのまとめは、チェックして返却する。
評価方法	・平常点は、平常時の理解度や思考力等に基づいて総合的に判断する。 ・最後のまとめは、理解したことの程度と今後理解したいことの明確さや独自性を確認する。 ・平常点、最後のまとめは、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	最後のまとめ	○			

評価割合	平常点（50%）、最後のまとめ（50%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	議論して考える
参考図書	議論して考える
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
オフィスアワー	金曜 14:00-15:30 1411研究室 早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。 必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。
学生へのメッセージ	議論を通してコミュニケーション力を向上させましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に勉強・議論する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（富田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	服飾デザイン・造形課題として舞台衣装およびジャケットを取り上げ、学生が特に興味を抱いている領域、衣服に関するの問題点や研究事例を読み、研究・制作の方法や卒研の進め方などを学び、卒業研究に結びつくような課題を見つけ、さらに制作では基礎的な知識と技術を身に見つけることを目的とする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣分野における諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	衣分野における諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣分野における諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	衣分野における課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

ゼミナールＡ（富田）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒業研究の流れ	卒業研究（前期・後期の卒研内容）、日程、発表時期、発表の仕方、制作の進め方、提出課題などを理解する。	各自が興味ある課題を考える。	45分
第2回	衣装のデザイン１	舞台衣装およびジャケットのデザイン（設計）制作に関する資料の収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作（採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど）全体的な進め方を学ぶ。	デザイン・制作するアイテム（例：ジャケット、舞台衣装）、色彩・材料を考える。	45分
第3回	衣装のデザイン２	舞台衣装およびジャケットのデザイン（設計）制作に関する資料の収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作（採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど）全体的な進め方を学ぶ。	デザイン・制作するアイテム（例：ジャケット、舞台衣装）、色彩・材料を考える。	45分
第4回	衣装のデザイン３	舞台衣装およびジャケットのデザイン（設計）制作に関する資料の収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作（採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど）全体的な進め方を学ぶ。	デザイン・制作するアイテム（例：ジャケット、舞台衣装）、色彩・材料を決定する。	45分
第5回	制作１（計測、製図１）	ジャケットに必要な人体計測の仕方、各アイテムの製図（身頃原型、胸ぐせ処理）を学ぶ。	製図の基礎線、胸ぐせ処理まで進めておくころ。	45分
第6回	制作２（製図２）	ジャケットの製図（身頃）を学ぶ。	製図を仕上げておくこと。	45分
第7回	制作３（製	ジャケットの製図（袖、衿など）を学ぶ。	製図を仕上げておくこと。	45分

	図３）			
第8回	制作４（裁断、縫製、材料の扱い、仮縫い１）	ジャケットの縫製、裁断（工業生産の手法）、印付け、仮縫いを学ぶ。	印としてノッチを入れる段階まで進めること。	45分
第9回	制作５（縫製技術）	ジャケットのデザインに関連した基礎縫い（例：ポケット、コンシールファスナー、他）を学ぶ。	基礎縫いを仕上げて次週提出する。	45分
第10回	制作６（仮縫い２）	ジャケットの仮縫い点検を受け、補正の技術を学ぶ。	補正箇所の製図、型紙、実物に修正を入れる。	45分
第11回	制作７（本縫い１）	ジャケットの縫製を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第12回	制作８（本縫い２）、舞台衣装のデザインのまとめ１	ジャケットの縫製、舞台衣装のデザインのコンセプ、素材、デザイン画について学ぶ。	説明内容まで進めること。舞台衣装のデザインを考えること。	45分
第13回	制作９（本縫い３）、舞台衣装のデザインのまとめ２	ジャケットの縫製、舞台衣装のデザインのコンセプ、素材、デザイン画について学ぶ。	説明内容まで進めること。舞台衣装のデザインを考えること。	45分
第14回	制作10（本縫い４）、舞台衣装のデザインのまとめ３	ジャケットの縫製、舞台衣装のデザインのコンセプ、素材、デザイン画について学ぶ。	説明内容まで進めること。舞台衣装のデザインを決定し、デザイン画を考えること。	45分
第15回	制作11（本縫い５）、舞台衣装のデザインのまとめ４	ジャケットの縫製、舞台衣装のプレゼンテーション用のパワーポイントの作成について学ぶ。	説明内容まで進めること。舞台衣装こと。舞台衣装のパワーポイントをほぼ完成させる。 夏休み中にジャケットの縫製を進める。また舞台衣装のパワーポイント、プレゼンについて打ち合わせる予定。	45分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	制作課題に対するコメント
評価方法	平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、デザイン、作品、発表

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	デザイン	○	○		○
	製図・縫製	○	○		○
	作品	○	○		○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%　デザイン30%、制作（作品）30%、発表20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日　12:30～14:00
学生へのメッセージ	舞台衣装およびジャケットについて、ゼミナールA（前期）では舞台衣装はデザイン（設計）・プレゼンテーションまで、ジャケットはデザイン・製図・仮縫い・本縫いの途中までを行います。資料を参考にしてデザインを発想し、シルエットや材料の検討、製図、仮縫い、本縫い、仕上げの流れを経験することで、創作的な作品、完成度の高い作品を制作できる力が身に付きます。なお、内容・日程等は相談して決めていきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（花田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（１）	各担当教員のテーマ説明①	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス（２）	各担当教員のテーマ説明②	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	研究室ガイダンス	グループワークを行う。研究の進め方、スケジュールの確認、ゼミ生として研究室での過ごし方を理解する。本研究室の先行研究を理解し、研究課題の検討を行う。	〔予〕各自の問題意識、興味に基づき、衣服や環境をテーマとした身近な問題を調べる。	45分
第4回	衣服や環境に関する社会問題について	衣服や環境をテーマとして、身近な社会問題について調べ、その解決方法について検討する。	〔予〕調査した結果や検討した解決方法をまとめ、発表資料を作成する。	45分
第5回	衣服や環境に関する社会問題について	各自が調査した結果を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。	〔予〕調査した結果や検討した解決方法をまとめ、発表資料を作成する。 〔復〕興味を持った社会問題の解決方法について再考し、整理する。	45分
第6回	持続可能な社会とは－SDGｓについて－	グループディスカッションを行う。SDCｓについて調べたことを発表し、概要について理解する。	〔予〕SDGｓについて調べる。 〔復〕各自の興味とSDGｓの関連性について検討する。	45分
第7回	衣服や環境に関する社	各自が興味を持った社会問題に関連する先行研究を調べ、研究概要のレジュメを作成する。	〔予・復〕先行研究のレジュメを作成する。	45分

	会問題について			
第8回	衣服や環境に関する社会問題について	各自がまとめたレジュメに従い、先行研究の要約を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。	〔予〕先行研究のレジュメを作成する。 〔復〕研究テーマを検討する。	45分
第9回	衣服や環境に関する社会問題について	各自がまとめたレジュメに従い、先行研究の要約を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。	〔予〕先行研究のレジュメを作成する。 〔復〕研究テーマを検討する。	45分
第10回	予備研究計画の検討	個別ディスカッションを行い、予備研究の計画を検討する。	〔予・復〕ディスカッションに基づき、研究計画を検討する。	45分
第11回	予備研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第12回	予備研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第13回	研究報告会の準備	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進歩状況をまとめる。	〔予〕研究の進歩状況をレジュメにまとめておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。	45分
第14回	研究報告会	グループディスカッションを行う。進捗状況を整理し、プレゼンテーション発表を行う。	〔予〕プレゼンテーション資料及びレジュメを作成し、発表練習をしておくこと。	45分
第15回	研究計画の検討	個別ディスカッションを行う。プレゼンテーション発表での課題について、再検討し、研究計画を再考する。	〔予〕今後の研究計画の再検討をしておくこと。	45分

学習計画注記	研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。
評価方法	①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価） ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価） ③成果物（理解力、構成力、思考力、完成度　を評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	発表（報告会）	○	○	○	○
	成果物	○	○	○	○

評価割合	平常点４０％　発表（報告会）４０％　成果物２０％を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	適宜指示
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できること。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できること。
オフィスアワー	金曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室
学生へのメッセージ	卒業研究に向けた基礎知識と手法の修得のため、積極的に取り組んでほしいと思います。 ３、４年生が合同で活動することもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験・実習・調査活動、グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義名	ゼミナールＡ（原口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	自らの家を借りる、買うということは、最も経済的な重要度の高い消費者行動である。今まで住宅をつくる視点から住居デザイン演習などを行ってきたが、住宅を借りる、買う、経営するという視点で不動産としての住宅を考えられるようにトレーニングする。地価マップ、ハザードマップ、各種不動産サイト、ローン電卓アプリ、原口作成のエクセル表などを用いて、毎回演習を行う。
履修条件	住居デザイン演習A、B、C、Dを履修していること、履修する予定であることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	土地、建物価格、道路付けと接道条件、日照通風、各種建築知識などの不動産の基本的知識が分かる。
思考・判断の観点(K)	物件自体の質と価格の良否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V)	新築物件、中古物件検索に意欲的に楽しみながら取り組む。
技術・表現の観点(A)	不動産ポータルサイト、地価マップ、ハザードマップ、ローン計算ソフトが使えるようになる。不動産の分析内容を説明できる。

学生へのフィードバック方法	毎回、教員が学生の選んだ物件とその分析を評価し、その都度、助言を与える。
評価方法	毎回の物件検索と評価の演習における取り組みと、期末でのレポートにて採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	○

評価割合	物件検索と評価のレポートが40%、出席と演習が40%、平常点20%
参考URL	https://mikao-investor.com/youtubemenu/realestate/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】不動産についての専門知識を有している。 【思考・判断】建物と土地についての基本的法規を理解して、良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】不動産に関心、意欲を持つ。 【技術・表現】不動産の質、価格に対しての評価を提示できる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室

学生へのメッセージ	建物は建築したら不動産になります。建築物についての知識の上に不動産の知識を持てば、住宅・建築業界、不動産業界に進んだ場合の実務や自宅の購入などで大変役に立ちます。建築の勉強の上に、ぜひ不動産の勉強をしてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、17年ほどの不動産経営の実務経験がある。実務で学んだ不動産のノウハウを教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回少人数グループで、実際にネット上にある物件を検索、分析を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（深石）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究の対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究の対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。本ゼミナールでは、主に卒業設計のための調査に取り組む前段階としての演習を行う。
履修条件	卒業研究で設計を行う予定の場合、住居デザイン演習C/Dの単位取得、建築デザイン演習Aの履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	専門知識・技術を持つことができる。
思考・判断の観点（K）	基礎的な調査・分析方法を習得することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身が取り組む課題に対し、問題意識をもって、取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	的確な方法を用いて人に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒業設計・論文とは何か	卒業研究の目標・位置づけの他、これからやるべきことを整理する。ミニレポート（1）・発表。	（予習）卒業設計・論文について、調べてくること。	45
第2回	卒業設計の事例分析（1）	近代建築社「卒業制作」掲載作品について事例分析を行う。ミニレポート（2）・発表。	（予習）近代建築社「卒業制作」から良いと思う作品のコピーし、熟読する。	45
第3回	卒業設計の事例分析（2）	近代建築社「卒業制作」以外の掲載作品について事例分析を行う。ミニレポート（3）・発表。	（予習）近代建築社「卒業制作」から良いと思う作品のコピーし、熟読する。	45
第4回	卒業研究のスケジュール設定	前期、後期に何に取り組むかを検討、そのためのスケジュールを考える。ミニレポート（4）・発表。	（復習）前期後期に何を研究するのかを明確にすること。	45
第5回	設計のためのレポートの基本構成	目的・対象・方法・結論・考察・謝辞・出典について解説する。ミニレポート（5）・発表。	（復習）ミニ課題で何を明らかにするのかを考え、どうすることでそれが明らかになるのかを考えてくること。	45
第6回	目的・方法・仮説の立案	ミニ課題に取り組むにあたり、自身の興味のあるテーマを決め、目的・方法・仮説を立案する。また、データの探し方を解説する。ミニレポート（6）・発表。	（予習）ミニ課題プログラム案を複数考えて、そのレポートの基本構成について、まとめてくること。	45
第7回	データ収集1	必要な資料（書籍、雑誌、地図、写真、図面）を収集する。附属図書館・CAD室での作業。	（予習）必要だと思うデータを予め収集してくる。出典がわか	45

			るようにしておくこと。	
第8回	データ収集2	必要な資料（書籍、雑誌、地図、写真、図面）を収集する。附属図書館・CAD室での作業。ミニレポート（7）・発表。	（予習）必要だと思うデータを予め収集してくる。出典がわかるようにしておくこと。	45
第9回	データ処理1	必要な書籍、雑誌、地図、写真、図面のデータの入力行う。	（復習）データの整理をしておくこと。	45
第10回	データ処理2	必要な書籍、雑誌、地図、写真、図面のデータ処理を行う。ミニレポート（8）・発表。	（復習）データ処理を完成させること。	45
第11回	データ分析1（図表まとめ）	オリジナルの図表、グラフ等の作成（エクセルによる集計等）する。CAD室での作業。ミニレポート（9）・発表。	（復習）図表の作成を完成させること。	45
第12回	データ分析2（考察）	表やグラフ等より明らかになったこと元に考えを文章でまとめる。ミニレポート（10）・発表。	（復習）考察を完成させること。	45
第13回	レイアウト	分析結果等をわかりやすいようにパワーポイントでまとめる（タイトル、目的、方法、結果、考察）。ミニレポート（11）・発表。	（復習）授業内に終わらなかった部分を進めること。	45
第14回	発表練習	決められた時間内に、いかに的確に伝えるかを目標に発表の練習を行う。ミニレポート（12）・発表。	（復習）発表の練習をしてくること。	45
第15回	発表	これまでの成果をグループ全員に発表する。	（予習）発表の練習をしてくること。	45

学習計画注記	授業の進捗状況等の諸事情により学習計画が変わることがあります。
学生へのフィードバック方法	毎回自身の考えをミニレポートにまとめ、発表する。提出されたミニレポートは授業時間内に回答もしくは翌週までにコメントを記載し、返却する（最終回を除く）。
評価方法	発表・授業態度 ミニレポート：12回 ミニ課題：1課題

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表・授業態度			○	
	ミニレポート	○	○		
	ミニ課題				○

評価割合	平常点（発表・授業態度）20%、ミニレポート30%、ミニ課題50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	必要であれば、随時指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技術・表現】家政学を修学し、住の分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜昼休み～２限　3512研究室
学生へのメッセージ	自ら問題意識を持ち、手を動かしながら考え、作業を継続することが重要です。また、授業外においても学外の展示会等には積極的に足を運び、自身の考えと向き合うことを習慣化させてください。4年次に取り組む卒業研究を悔いのないものにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、授業内に提出されたミニレポートをもとにゼミ形式で進める。他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら客観的に自身の課題と向き合うこと。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（森）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明①	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明②	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談	45分
第3回	イントロダクション テーマの決定	ゼミナールAの概要を理解する。テーマの決定について、練習を通して理解する。	課題1のテーマを考える。	45分
第4回	課題1①	各自の課題1のテーマについてクラス全体で検討し、修正ポイントを明らかにする。修正後、アウトライン作成について学ぶ。	課題1のアウトラインを作成する。	45分
第5回	課題1②	各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正ポイントを明らかにする。修正後、文献の探し方について学ぶ。	アウトラインにそって、情報が必要な項目や内容を整理する。	45分
第6回	課題1③	図書館で文献検索の方法を実習し、文献を収集する。	探した文献を参考にアウトラインに修正を加える。	45分
第7回	課題1④	収集した文献を参考にアウトラインを修正する。さらに必要な文献をリストアップする。	足りない文献を探す。	45分
第8回	課題1⑤	レポートの3部構成を学び、練習を通して理解を深める。	自分のレポートの下書きを書く。	45分
第9回	課題1⑥	資料を用い、第三者のレポートの下書きを分析する。その上で、自分のレポートの修正点を明らかにする。	レポートの修正をする。	45分

第10回	課題1⑦	レポートにふさわしい表現を練習を通して学ぶ。自分のレポートの修正点を明らかにする。	自分のレポートを修正する。	45分
第11回	課題2①	新たな課題のテーマを考える。クラス全体で各自の課題を検討する。	課題2のアウトラインを書く。	45分
第12回	課題2②	各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。修正後、文献収集をする。	課題2の文献収集をする。	45分
第13回	課題2③	口頭発表の方法および発表資料の作成の仕方を練習を通して学ぶ。	口頭発表の資料を作成する。	45分
第14回	課題2④	効果的なプレゼンテーションの方法を練習を通して学ぶ。	発表の準備をする。	45分
第15回	課題2⑤	口頭発表を実施する。提供された話題についてディスカッションをすることで課題に対する理解を深める。	発表を振り返り、改善点をまとめる。	45分

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	課題（完成度により評価する）　ポートフォリオ（課題設定、記録内容、整理の仕方により評価する）　平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	ポートフォリオ		○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題50%　ポートフォリオ10%　平常点40%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。 【思考・判断】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 【技術・表現】問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。
オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限（前期）
学生へのメッセージ	自分の興味・関心を大きく広げて、新しい世界に踏み出しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に自主的に取り組む。ディスカッション等を通して、自分の意見を伝えると同時に、異なった意見をまとめる訓練をする。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットを駆使して情報収集をし、成果物をまとめる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（嶋田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 嶋田　芳男	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	本学科では、社会福祉主事、児童指導員といった福祉関係資格が取得できるため、社会福祉に関する知識や技術の習得も必要と考える。そこで本授業では、社会福祉概論、高齢者福祉論、子どもの福祉論の基礎的内容を学ぶことで、資格に見合った社会福祉全般の内容を理解することを目的にしている。
履修条件	特にない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会福祉全般の概要、高齢者分野、子どもの福祉分野に関する知識が習得できる
思考・判断の観点（K）	社会で派生しているさまざまな課題について、考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象と課題	乳幼児期、学童期、思春期から青年期、結婚・子育て期、高齢期における社会福祉の対象と、各々に対する諸課題について理解する	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象を調べておく。また、授業内容を復習しておく	45分
第2回	社会福祉における人権、理念、原理、ニーズ	社会福祉における人権と理念を理解するとともに、支援していく上で必要となる社会福祉の原理とニーズについて考える	授業内容を復習しておく	45分
第3回	社会福祉を取り巻く状況（1）	少子社会と高齢社会の現状と課題について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第4回	社会福祉を取り巻く状況（2）	家族と地域社会の動向及び課題について理解する	家族と地域にどのような課題が存在するのかを調べておくとともに、授業内容を復習しておく	45分
第5回	社会福祉の法律と行政の仕組み	社会福祉関係法とそれに基づく行政組織の役割・課題について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第6回	社会福祉を支える団体と施設	特に中核的な団体に位置づけられる社会福祉協議会について理解を深めるとともに、さまざまな施設について知る	社会福祉施設の種類とその役割を事前に調べておく	45分

第7回	社会福祉の専門職	社会福祉領域の各種専門職とその役割・課題について学ぶ	授業内容を復習しておく	45分
第8回	社会福祉の方法論	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについて理解する	授業内容を復習しておく	45分
第9回	社会保障の体系（1）	医療保険、年金保険、介護保険について理解するとともに、それらの課題を知る	授業内容を復習しておく	45分
第10回	社会保障の体系（2）	生活保護制度を理解するとともに、その課題を知る	授業内容を復習しておく	45分
第11回	総合演習（1）	社会福祉全般、高齢者分野、子どもの分野における福祉課題をそれぞれ1つ取り上げる	福祉に関わるさまざまな資料を収集しておく	45分
第12回	総合演習（2）	社会福祉全般、高齢者分野、子どもの分野の課題について、詳細に考察する	社会福祉全般、高齢者分野、子どもの分野の課題についてまとめる	45分
第13回	総合演習（3）	社会福祉全般、高齢者分野、子どもの分野の課題の解決方法を考える	課題の解決方法をまとめる	45分
第14回	総合演習（4）	社会福祉全般、高齢者分野の課題とその解決法をプレゼンテーションする	プレゼンテーションの準備を行う	45分
第15回	総合演習（5）	子どもの分野の課題とその解決法をプレゼンテーションする。また、全体を振り返る	プレゼンテーションの準備を行う	45分

学習計画注記	本授業は2名の教員による合同開講であり、「社会福祉ゼミナール」としてオムニバス形式で実施する
学生へのフィードバック方法	提出された課題は、評価した後に返却する
評価方法	評価はゼミへの参加度、およびレポートで評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		
	レポート	○	○		

評価割合	平常点50% レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じてプリントを配布する
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】【関心・意欲・態度】 社会の中にある諸課題に関心を持つことで自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。その過程では、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
オフィスアワー	火曜3限、木曜2限
学生へのメッセージ	授業はゼミ形式で行うため、積極的な発言や提案を期待したい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＡ（西口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	本学科では、社会福祉主事、児童指導員といった福祉関係資格が取得できるため、社会福祉に関する知識や技術の習得も必要と考える。そこで本授業では、社会福祉概論、高齢者福祉論、子どもの福祉論の基礎的内容を学ぶことで、資格に見合った社会福祉全般の内容を理解することを目的にしている。 　この中でも特に高等学校の家家庭科総合の福祉の分野を押さえて、理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会福祉全般の概要、高齢者分野、子どもの福祉分野に関する知識が習得できる 現代社会と生活困難との関係が理解できる
思考・判断の観点（K）	社会で派生しているさまざまな課題について、考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	生活困難に直面する人の「痛み」に関心を持ち続けて、寄り添うう態度を持てる
技術・表現の観点（A）	ソーシャルワークの方法を概観できる

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象と課題	乳幼児期、学童期、思春期から青年期、結婚・子育て期、高齢期における社会福祉の対象と、各々に対する諸課題について理解する	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象を調べておく。また、授業内容を復習しておく	４５
第2回	社会福祉における人権、理念、原理、ニーズ	社会福祉における人権と理念を理解するとともに、支援していく上で必要となる社会福祉の原理とニーズについて考える	人権の意味を調べ、授業の復習をする	４５
第3回	社会福祉を取り巻く状況（1）	少子社会と高齢社会の現状と課題について理解する	少子高齢社会の意味を調べ、授業内容を復習しておく	４５
第4回	社会福祉を取り巻く状況（2）	家族と地域社会の動向及び課題について理解する	家族と地域にどのような課題が存在するのかを調べておくとともに、授業内容を復習しておく4 YOOUTUBEでサザエさんというアニメを見ておく	４５
第5回	社会福祉の	日本の国会の役割（国権の最高機関の意味）を調べ社会	授業内容を復習しておく	４５

	法律と行政の仕組み	福祉関係法とそれに基づく行政組織（特に厚生労働省）の役割・課題について理解する		
第6回	社会福祉を支える団体と施設	特に中核的な団体に位置づけられる社会福祉協議会について理解を深めるとともに、さまざまな施設について知る	社会福祉施設の種類とその役割を事前に調べておく	４５
第7回	社会福祉の専門職	社会福祉領域の各種専門職とその役割・課題について学ぶ	社会福祉主事、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士について調べ、授業内容を復習しておく	４５
第8回	社会福祉の方法論	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについて理解する	ソーシャルワークの意味を調べ、授業内容を復習しておく	４５
第9回	社会保障の体系（1）	医療保険、年金保険、介護保険について理解するとともに、それらの課題を知る	社会保障の意味を調べ、授業内容を復習しておく	４５
第10回	社会保障の体系（2）	生活保護制度を理解するとともに、その課題を知る	生活保護法と憲法25条の関係を調べ、授業内容を復習しておく	４５
第11回	フィールドワーク（社会福祉の現場から学ぶ）	大学前の特養椿を訪問し、高齢者と対話する	特別養護老人ホームについて調べ、フィールドワークの内容を整理する	９０
第12回	外国人労働者の問題をNHKスペシャルから学ぶ	人口減少が続く日本では外国人労働者が重要な役割を担う、しかし、その処遇は様々な問題が指摘され国連や米国からも改善の勧告が何度か出されている。この実態をドキュメンタリーから学ぶ	外国人労働者についてインターネットで調べる	９０
第13回	総合演習（１）	社会福祉全般、高齢者分野、子どもの分野の課題の解決方法を考える	課題の解決方法をまとめる	４５
第14回	総合演習（２）	社会福祉全般、高齢者分野の課題とその解決法をプレゼンテーションする	プレゼンテーションの準備を行う	４５
第15回	まとめの授業	授業を振り返り　社会福祉について理解したことをまとめる	授業の資料やノートを整理する	４５

学習計画注記	現場へのフィールドワークは、感染症の状況をみて考える 現場本授業は2名の教員による合同開講であり、「社会福祉ゼミナール」としてオムニバス形式で実施するの実務家の講義を予定
学生へのフィードバック方法	レポートにコメントを付して返却する
評価方法	レポートと平常点（参加態度）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	平常点（参加の態度）			○	○

評価割合	レポート７０％ 平常点３０％
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	都度紹介
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】【関心・意欲・態度】 社会の中にある社会福祉や生活における諸課題に関心を持つことで自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。その過程では、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【技術・表現】 　コミュニケーション能力を高め、事象の多角的分ができ、問題解決能力を高める
オフィスアワー	mail相談
学生へのメッセージ	積極的に事前学習をし、授業後は講義のまとめをしてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ多様な事例を通して、社会福祉の現状を多角的に理解できるようにする。
アクティブ・ラーニング	○	問いとその答えまたその問いという連関を大切にする
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（石綱）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点（K）	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方について解説する	1分間スピーチの準備 卒業研究のテーマを考える	45分
第2回	卒業研究のテーマについて	卒業研究のテーマを具体的に考え、目的、アウトライン、方法を考える 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチの準備	45分
第3回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む①	各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する。	45分
第4回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む②	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する	45分
第5回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む③	卒業研究のテーマに必要な手法について調べて発表する 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチの準備	45分
第6回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む④	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する。	45分
第7回	卒業研究で用いる手法	卒業研究のテーマで用いる可能性がある手法について調べて発表する	1分間スピーチの準備	45分

	①	1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）		
第8回	卒業研究で用いる手法②	卒業研究のテーマで用いる可能性がある手法について調べて発表する 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する 各自、興味のある文章を探しておく	45分
第9回	卒業研究で用いる手法③	卒業研究のテーマで用いる手法について調べて発表する 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する	45分
第10回	卒業研究で用いる手法④	卒業研究のテーマで用いる手法について調べて発表する 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する	45分
第11回	卒業研究のテーマを決める①	卒業研究のテーマを絞り込み、関連する先行研究の文献を選ぶ	文献を読む	45分
第12回	卒業研究のテーマを決める②	卒業研究の目的とアウトライン案を検討する	卒業研究の目的とアウトライン案を検討する	45分
第13回	卒業研究のテーマを決める③	卒業研究の目的とアウトライン案を完成する	卒業研究の目的とアウトライン案を完成させる	45分
第14回	卒業研究のテーマを決める④	卒業研究の目的とアウトライン案に基づき、方法、材料等を検討する	卒業研究の目的とアウトライン案に基づき、方法、材料等案を決定する	45分
第15回	卒業研究のテーマを決める⑤	卒業研究のテーマ、目的、アウトライン、方法、材料を決定する 具体的な日程などの具体的な計画を立てる	卒業研究Aに取り組む日程などの具体的な計画を完成する	45分

学習計画注記	履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：1分間スピーチの準備状況、文献の読解力、要約録、文章構成力など、各回の演習で課題を設定する。期限内に課題を提出できるか、設定した課題内容を理解し、課題を提出したかと課題の内容を総合的に判断して評価する。第15回までに卒業研究のテーマを設定できること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	課題	○			○

評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜日2限 3609研究室
学生へのメッセージ	石綱担当分では、基礎的な話す・書く・読む・考える力の向上を目的としています。4年次で取り組む卒業研究の実施内容を検討し、研究遂行に必要な文献や資料を読む力、文章を書く力、実験方法、調査方法、制作方法などを習得する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味がある研究テーマを探し、調査し、遂行方法を決める
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（呉）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要（教育目的）	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点（K）	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点（V）	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	ゼミナールAを振り返って各自テーマを考える。	ゼミナールAの課題の考察を行う。	４５分
第2回	課題テーマの検討	課題のテーマを検討し、課題の背景、目的、方法を考える。	課題の計画やスケージュるを作成	４５分
第3回	先行事例の調査１	先行事例の調査を行い発表及びディスカションを行う	先行事例の調査を行いまとめる	４５分
第4回	先行事例の調査２	先行事例の調査を行い発表及びディスカションを行う	先行事例の調査を行いまとめる	４５分
第5回	課題資料の調査１	計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	４５分
第6回	課題資料の調査２	計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	４５分
第7回	課題の制作１	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	４５分
第8回	課題の制作２	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	４５分
第9回	課題の制作３	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	４５分
第10回	課題の制作４	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	４５分

第11回	課題の制作５	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	４５分
第12回	課題の制作６	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	４５分
第13回	課題の制作６	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	４５分
第14回	課題の制作７	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作をまとめ発表の準備を行う	４５分
第15回	発表の準備	課題の完成と報告書のまとめ	プレゼンテーション資料を完成する	４５分

学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	課題は６０点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。レポートと最終報告書は２０点満点で課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は２０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題80% 平常点20%
ディプロマポリシーとの関連	【【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心 ・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	月曜日３限、４限
学生へのメッセージ	グラフィックデザイン、写真、映像について理解して卒業研究A,Bの基礎に役立つために積極的に課題に取り込んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（小池）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、「住」をはじめとする家政学の各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点（K）	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究課題の検討	（アクティブラーニング：グループワーク） 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	（予習）興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる	45分
第2回	先行研究レビュー（1）	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	45分
第3回	先行研究レビュー（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	45分
第4回	アンケート調査の立案	（アクティブラーニング：グループワーク） 研究テーマに関するアンケート調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう	（予習）先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる	45分
第5回	アンケート調査票の作成（1）	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿ってアンケート調査票を作成し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	（予習）アンケート調査票を作成する	45分
第6回	アンケート調査票の作成（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） 調査計画に沿ってアンケート調査票を作成し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	（予習）アンケート調査票を作成する	45分
第7回	アンケート調査票の検討（1）	（アクティブラーニング：グループワーク） 作成したアンケート調査票を試してもらった結果について、ディスカッションをおこなって検討する	（予習）アンケート調査票を周囲の人に試してもらう	45分

第8回	アンケート調査票の検討（2）	（アクティブラーニング：グループワーク） 作成したアンケート調査票を試してもらった結果について、ディスカッションをおこなって検討する	（予習）アンケート調査票を周囲の人に試してもらう	45分
第9回	量的データを用いた分析１（基本統計量・代表値・分散など）	エクセルを用い、基本統計量・代表値・分散の計算方法を学ぶ	（復習）データを用いて基本統計量・代表値・分散の計算方法を確認する	45分
第10回	量的データを用いた分析２（ヒストグラム・相関係数・散布図など）	エクセルを用い、ヒストグラム・相関係数・散布図の作成方法を学ぶ	（復習）データを用いてヒストグラム・相関係数・散布図の作成方法を確認する	45分
第11回	量的データを用いた分析３（平均値の検定、ｔ検定）	エクセルを用い、平均値の検定、ｔ検定の方法を学ぶ	（復習）データを用いて平均値の検定、ｔ検定の方法を確認する	45分
第12回	質的データを用いた分析１（単純集計・データの性質）	エクセルを使って単純集計の方法を学ぶ	（復習）別のデータを用いて単純集計の方法を確認する	45分
第13回	質的データを用いた分析２（クロス集計など）	エクセルを使ってクロス集計の方法を学ぶ	（復習）別のデータを用いてクロス集計の方法を確認する	45分
第14回	質的データを用いた分析３（カイ二乗検定）	エクセルを使ってカイ二乗検定の方法を学ぶ	（復習）別のデータを用いてカイ二乗検定の方法を確認する	45分
第15回	アンケートデータのまとめ・表現方法	各自が立案したアンケートデータのまとめ方、表現方法について学ぶ	（予習）各自のアンケートデータをデータシートにまとめる	45分

学習計画注記	履修者数や各自の研究テーマによって授業内容が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。 毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。
評価方法	課題については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。 平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	

評価割合	課題の完成度50%、平常点50%とし、総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・グローバルな視点から「住」をはじめとする家政学の各分野についての知識を深めて理解する 【思考・判断】 ・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる 【関心・意欲・態度】 ・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる 【技能・表現】 ・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている
学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。卒業研究に向けて、課題解決・提案の手法について学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（齋藤史）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	子ども・子育て応援の実践と基礎理論 子ども・子育て応援の現場にゼミナールとして、また、個人で積極的に出かける。 『子ども白書』をテキストに、子ども・子育ての現状と課題を学び考える。 子ども・若者に関わる社会的活動の現場に出かけて課題を考えるとともに、卒業研究受講生とともにゼミナールを実施することを基本として、研究の実際に触れることによって理論を深め研究の方法を学ぶ。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点（K）	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

子ども・子育て応援の実践と基礎理論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（1）	各担当教員のテーマ説明①（石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス（2）	各担当教員のテーマ説明②（富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口）	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	テーマに関する共同研究討議(1)	各自の研究テーマの発表	発表準備	60分
第4回	テーマに関する共同研究討議(2)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第5回	テーマに関する共同研究討議(3)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第6回	テーマに関する共同研究討議(4)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第7回	テーマに関する共同研究討議5)	各自の研究テーマの発表	見学の様子をまとめる	60分

第8回	校外授業一教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事前調査	60分
第9回	校外授業一教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事例調査	60分
第10回	校外授業一教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査まとめ	60分
第11回	テーマに関する共同研究討議(6)	研究発表	発表の準備	60分
第12回	テーマに関する共同研究討議(7)	研究発表	発表の準備	60分
第13回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	発表の準備	60分
第14回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	論議をまとめる	60分
第15回	ゼミナールでの学びのまとめ	15回の授業を通した学びを考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記	学生主体でグループを形成し、主体的、共同的に参加することを求めます。
学生へのフィードバック方法	適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。
評価方法	研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ゼミへの共同的積極的参加			○	
	研究の深化	○			
	発表		○		○

評価割合	ゼミへの共同的積極的参加（40%） 研究の深化（30%） 発表（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	授業内で提示する
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解】社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。 【思考・判断】諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能・表 現】専門的技能をもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日3限1607研究室
学生へのメッセージ	研究的協同実践者を目指し、子ども理解の研究と実践を進めましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。
情報リテラシー教育	○	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	○	インターネット調査

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（佐々木）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木　麻紀子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要（教育目的）	生活デザイン学科の専門領域の中で各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	被服整理分野の研究対象に必要な基礎を理解する
思考・判断の観点（K）	被服整理分野を主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	必要な資料の収集ができる
技術・表現の観点（A）	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の進め方、演習内容について理解する	演習内容と課題の確認	45分
第2回	文献を読む1	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする	課題の文章を読む	45分
第3回	文献を読む2	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする	課題の文章を要約し、紹介する。	45分
第4回	文献を探す	課題2　文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約をする。	文献の探し方を復習しておく	45分
第5回	文献を読む3	課題2　各自探して文献を読み、要約し解説する。	文献を読み、要約す、解説をする準備をする	45分
第6回	文献を読む4	課題2　各自探して文献を読み、要約し解説する。	文献を読み、要約す、解説をする準備をする	45分
第7回	文献を読む5	課題2　各自探して文献を読み、要約し解説する。	文献を読み、要約す、解説をする準備をする	45分
第8回	演習1	課題3　被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第9回	演習2	課題3　被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第10回	演習3	課題3　被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分

第11回	演習4	課題3　被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第12回	演習5	課題3　被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第13回	演習6	課題3　被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第14回	まとめ1	演習で学んだことをまとめ、発表する準備を行う	演習で行った結果をまとめておく	45分
第15回	まとめ2	演習で学んだことをまとめ、発表する	演習で行った結果をまとめ、発表する準備を行う	45分

学習計画注記	受講人数によっては課題やスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックします。
評価方法	平常点と課題で評価します。 平常点は授業への積極的な参加態度や演習への取り組み状況を総合的に評価します。 課題1,2は読解力、文章構成力などを総合的に判断します。 課題3は演習内容の理解、課題解決の方法および結果を正確に表現できるかを評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	課題	○	○	○	○

評価割合	平常点60%、課題40%で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜2時限　2406研究室
学生へのメッセージ	文献の探し方、文献を読み要約することを学びます。また演習を通して被服整理学分野でどんな課題があるのか自ら体験することで新たな課題を発見することを目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集や課題作成のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（澤田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要（教育目的）	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。 澤田が担当する授業では、「デザイントレーニング」のテーマで、 手を動かして、形を描くこと、作ること、あるいは自分の考えを表現すること、伝えること、そして、デザインを考えることを実践する。
履修条件	なし

学習目標（到達目標）

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	デザインに関する知識と理解を深めること。
思考・判断の観点（K）	自らの意図や思考に基づき、自分が表現したいことを論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会とデザインと自分自身の学びを関連づけて考えることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む）	教室外学習（予習・復習）の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	テーマの設定	自分自身の制作テーマ、もしくは研究テーマと、作業計画を考える。	制作テーマまたは研究テーマの決定と、目的・意義の検討、及び作業計画の作成。	45分
第2回	制作の進め方の検討	決定したテーマでの制作の計画を考える。	計画表の作成。	45分
第3回	第１作品の制作（１）	１つめの作品の制作に着手。	作品の制作。	45分
第4回	第１作品の制作（２）	１つめの作品の制作を継続する。	作品の制作。	45分
第5回	第１作品の制作（３）	１つめの作品の制作を継続する。	作品の制作。	45分
第6回	第１作品の制作（４）	１つめの作品の完成。	まとめの報告会の準備。	45分
第7回	中間まとめの報告会	第１作品について発表する。	第２作品のテーマを考える。	45分
第8回	博物館・美術館見学	近隣の博物館・美術館の見学。	第２作品の制作の計画を考える。	45分
第9回	第２作品の	第１作品の制作の内容をふまえて２つめの作品の制作方	作品の制作。	45分

	制作（１）	針を決定し、制作に着手する。		
第10回	第２作品の制作（２）	２つめの作品の制作を継続する。	作品の制作。	45分
第11回	第２作品の制作（３）	２つめの作品の制作を継続する。	作品の制作。	45分
第12回	第２作品の制作（４）	２つめの作品の制作を継続する。	作品の制作。	45分
第13回	第２作品の制作（５）	２つめの作品を完成させる。	作品の写真撮影と、プレゼンテーションレポート作成の準備。	45分
第14回	作品発表の準備	作品の発表会の準備（プレゼンテーションレポートの作成）。	プレゼンテーションレポートの作成。	45分
第15回	作品の発表会	作品についてのプレゼンテーションレポートを作成して発表する。	プレゼンテーションレポートの手直し。	45分

学習計画注記	学習計画は、作品制作の場合の例を示していますが、作品制作を伴わない研究の場合も、この学習計画に準じて授業を進めます。 なお授業計画は課題の進捗状況を考慮して変更します。
学生へのフィードバック方法	課題作品やレポートについては、授業中に随時コメントします。 作品は作品の発表会の後に返却します。レポートは作品の発表会が終わったら、そのまま学内に掲示する予定です。
評価方法	１．課題・作品等は、制作意図をきちんと考えて制作しているか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。 ２．レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。 ３．平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題・作品等の完成状況	○	○		
	レポート	○	○		
	平常点		○	○	

評価割合	課題・作品等の完成状況30%、レポート30%、平常点40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】デザインに関する知識と理解を深めること。 【思考・判断】デザインについての諸課題を自ら発見し、それを解決するために論理的な思考ができること。 【関心・意欲・態度】社会とデザインと自分自身の学びの関わりに積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	木曜日2時限 1503研究室
学生へのメッセージ	授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクロッキー帳は毎回必ず準備する。また面接の授業では、動きやすく、汚れてもかまわない服装で出席すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（白井）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井　篤	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。 ゼミナールAの履修を通して、「読む力」「書く力」「話す力」を養うことで、「考える力」の基礎的な部分を養えたので、ゼミナールBでは、「課題解決型プロジェクト」に取り組む。課題としては、「卒業研究のテーマ」もしくは「地域連携活動のテーマ」を取り上げる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	社会の中にある課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス（課題の提示／社会人基礎力）	課題解決を通して養って欲しい力（社会人基礎力）について理解できる。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	30
第2回	提案課題の解決（１）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第3回	提案課題の解決（２）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第4回	提案課題の解決（３）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第5回	提案課題の解決（４）	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第6回	提案課題の解決（５）	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第7回	提案課題の	分析した結果に基づいて、課題解決策を発信できるよう	返却された課題（学修成果）を	45

	解決（６）	にする。	見返して、学修内容を定着させる。	
第8回	提案課題の解決（７）	課題解決策を発信する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	60
第9回	自己課題の解決（１）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	30
第10回	自己課題の解決（２）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第11回	自己課題の解決（３）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第12回	自己課題の解決（４）	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第13回	自己課題の解決（５）	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第14回	自己課題の解決（６）	分析した結果に基づいて、課題解決策を発信できるようにする。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	45
第15回	自己課題の解決（７）	課題解決策を発信する。	返却された課題（学修成果）を見返して、学修内容を定着させる。	60

学生へのフィードバック方法	実施した課題については、評価して次週の授業の初めに返却する。返却時に評価基準についての説明を行う。
評価方法	平常点については、授業で実施した課題解決策の成果で評価する。課題解決策については、解決内容（書く力・まとめる力）とプレゼンテーション（話す力）で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○		○
	課題解決策		○		○

評価割合	平常点（５２％）と課題解決策（４８％）で総合評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	適宜、資料を印刷、配付する。
ディプロマポリシーとの関連	思考・判断の観点（K）：課題について論理的に分析し考察できることは、社会の中にある課題解決にもつながる。 技術・表現の観点（A）：課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。
オフィスアワー	金曜日３時限及び４時限。３号棟６階３６０６研究室。できるだけ、メールなどで事前予約してください。
学生へのメッセージ	第１回のガイダンスで配付した授業予定表に従って行うので、事前に予習した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（千葉）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉　一博	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	（学生便覧掲載の授業科目概要） ゼミナールB：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	「ゼミナール A」の単位を修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ゲーム理論または情報科学の特定の分野における基本的な知識や技術を説明できる。
思考・判断の観点（K）	学生間や教員との間での議論において問題を指摘しまた解決できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	学生間や教員との間での議論に意欲的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	テーマに関する議論	千葉担当のこの科目では、授業は研究室で実施される。ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて議論する。	必要に応じ、ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に輪読できる文献を検索する。	45
第2回	文献に関する議論	ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に輪読できる文献について議論する。	必要に応じ、輪読する文献を調達する。	45
第3回	輪読の計画	輪読の計画について議論する。	必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第4回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第5回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第6回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第7回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第8回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を	輪読した部分を復習する。必要	45

		輪読し、勉強・議論する。	に応じ、次回輪読する部分を予習する。	
第9回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第10回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第11回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。	45
第12回	理解したことのまとめ	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことをまとめて提出する。	45
第13回	理解したいことのまとめ	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、今後理解したいことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、今後理解したいことをまとめて提出する。	45
第14回	論文スタイルで書く	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことや今後理解したいことを論文スタイルで書く。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことや今後理解したいことを論文スタイルで書いたものを仮提出する。	45
第15回	卒業研究に向けて	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する卒業研究に向けて、独自の視点や問題意識を持つ。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことや今後理解したいことを論文スタイルで書いたものを提出する。	45

学習計画注記	学生らとの議論を通してより意欲的に取り組めるよう方法などは変更する可能性がある。
学生へのフィードバック方法	仮提出された論文は、チェックして返却する。
評価方法	・平常点は、平常時の理解度や思考力等に基づいて総合的に判断する。 ・最後のまとめは、理解したことの程度と今後理解したいことの明確さや独自性を確認する。 ・論文は、論理的な思考力と文章の的確性を確認する。 ・平常点、最後のまとめ、論文は、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	最後のまとめ	○			
	論文	○			

評価割合	平常点（30%）、最後のまとめ（30%）、論文（40%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	議論して考える
参考図書	議論して考える
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
オフィスアワー	月曜 15:30-17:00 1411研究室 早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。 必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。
学生へのメッセージ	基本的な知識や技術を学んで様々な場面で活用できる基礎力を身につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に勉強・議論する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（富田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	服飾デザイン・造形課題として舞台衣装およびジャケットを取り上げ、学生が特に興味を抱いている領域、衣服に関する問題点や研究事例を読み、研究・制作の方法や卒研の進め方、さらに制作では基礎的な知識と技術を身に見つけることなどを目的とする。
履修条件	服飾造形実習Bを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣分野における諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	衣分野における諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣分野における課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	衣分野における情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

ゼミナールＢ（富田１）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒業研究・制作の説明	卒業研究・制作について、日程、中間発表、要旨、論文提出など全般について進め方を学ぶ。	卒業研究・制作のテーマを考えてくること。	45分
第2回	テーマを考える	テーマについて資料・文献を参考にしてテーマ設定をすることを学ぶ。	卒業研究・制作のテーマを考えてくること。	45分
第3回	テーマ・目的１	卒研において興味をもったテーマはどのような目的なのか、また社会的にどのような意義をもつのか、各自のテーマについて学ぶ。	テーマ、目的を考えてワードにまとめること。	45分
第4回	テーマ・目的２	テーマについて資料を収集し、文献を参考にしてテーマ設定をすることを学ぶ。	テーマ、目的を考えてワードにまとめ、仮テーマを決めること。	45分
第5回	資料・文献取集・基礎技術１	テーマに対する資料収集、制作に伴う基礎技術（コンセプトの設定、デザイン・材料など）を学ぶ。	資料等を読んで要点をまとめておくこと。用途に応じた材料・コンセプトを考えること。	45分
第6回	資料・文献を読む１・基礎技術２	資料・文献を読む。また、制作に伴う基礎技術（デザイン画、製図・型紙など）を学ぶ。	資料等を参考にして要点をまとめておくこと。デザイン画の練習をすること。また、授業で行った製図を参考にして1/4の製図を行うこと（課題）。	45分
第7回	資料・文献を読む２・基礎技術３	資料・文献を読み要点を把握する。また、制作に伴う基礎技術（デザイン画、製図・型紙など）を学ぶ。	資料等を参考にして要点をまとめておくこと。デザイン画を提出すること。1/4の製図（課	45分

			題）を進め、疑問点等を抜き出しておくこと。	
第8回	資料・文献を読む３・基礎技術４	資料・文献を読み要点を把握する。また、制作に伴う基礎技術（仮縫い、縫製・縫い代始末など）を学ぶ。	資料等を参考にして要点をまとめておくこと。縫い代始末を完成させること。1/4の製図課題を提出すること。	45分
第9回	方法の設定１・基礎技術５	卒研内容を進める方法、および制作に伴う基礎技術（部分縫製、素材別縫製方法など）を学ぶ。	テーマ、目的、方法について整理しておくこと。部分縫いなどを進めること。	45分
第10回	方法の設定２・基礎技術６	卒研内容を進める方法、および制作に伴う基礎技術（部分縫製、素材別縫製方法など）を学ぶ。	テーマ、目的、方法についてまとめて提出すること。	45分
第11回	卒研の作業計画１	具体的に卒研に取り掛かる日程（予定）、進め方、材料、道具について学ぶ。	自身のスケジュールに照らし合わせて検討し、作業の日程表（予定）を作成すること。部分縫いを提出すること。	45分
第12回	卒研の作業計画２	日程予定、進め方、材料や道具について学ぶ。	作業の日程表（予定）を提出すること。	45分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	制作課題に対するコメント
評価方法	平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、提出課題点

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	デザイン	○	○	○	○
	制作・製図	○	○	○	○
	作品	○	○	○	○

評価割合	平常点20%　デザイン30%、制作（作品）30%、発表20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日　12:30～14:00
学生へのメッセージ	ゼミナールB（後期）の舞台衣装制作は製図、仮縫い、本縫いを行い、ジャケットは仕上げを行う。さらに、卒業研究のテーマ、目的、方法を設定し、卒業研究の作業日程の計画を立てる。資料を参考にしてデザインを発想し、シルエットや材料の検討、製図、仮縫い、本縫い、仕上げの流れを経験することで、創作的な作品、完成度の高い作品を制作できる力が身に付きます。なお、内容・日程等は相談して決めます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（花田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマの確認	グループワークを行う。ゼミナールAの成果を整理し、ゼミナールBの研究計画を再考する。	〔予〕ゼミナールBの研究計画を整理し、人数分の資料を準備しておくこと。	45分
第2回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第3回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第4回	研究検討会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	45分
第5回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第6回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第7回	研究検討会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディス	45分

			カッションに基づき、研究計画を再検討する。	
第8回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第9回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第10回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第11回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第12回	研究報告会の準備	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進歩状況をまとめる。	〔予〕研究の進歩状況をレジュメにまとめておくこと。〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。	45分
第13回	研究報告会の準備	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進歩状況をまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。	〔予〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正し、発表練習をすること。	45分
第14回	研究報告会	３、４年生合同のグループディスカッションを行う。進捗状況を整理し、プレゼンテーション発表を行う。	〔予〕プレゼンテーション資料作成し、発表練習をしておくこと。	45分
第15回	研究計画の検討	個別ディスカッションを行う。プレゼンテーション発表での課題について、再検討し、研究計画を再考する。	〔予〕今後の研究計画の再検討をしておくこと。	45分

学習計画注記	研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。
評価方法	①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価） ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価） ③成果物（理解力、構成力、思考力、完成度　を評価）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	発表（検討会・報告会）	○	○	○	○
	成果物	○	○	○	○

評価割合	平常点４０％　発表（検討会・報告会）４０％　成果物２０％を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	適宜指示
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できること。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できること。
オフィスアワー	木曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室
学生へのメッセージ	卒業研究に向けた基礎知識と手法の修得のため、積極的に取り組んでほしいと思います。３、４年生が合同で活動することもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験・実習・調査活動、グループディスカッション、グループワークの実施
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

講義名	ゼミナールＢ（原口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口　秀昭	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	今まで住宅をつくる視点から住居デザイン演習などを行ってきたが、住宅を借りる、買う、経営するという視点で不動産としての住宅を考えられるようにトレーニングする。ゼミナールAでは自宅を買うという視点で演習を行ったが、ゼミナールBでは収益物件を買って経営するという視点で演習を行う。地価マップ、ハザードマップ、各種不動産サイト、ローン電卓アプリ、原口作成のエクセル表などを用いて、毎回演習を行う。
履修条件	住居デザイン演習A、B、C、Dを履修していること、履修する予定であることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点(K)	土地、建物価格、道路付けと接道条件、日照通風、各種建築知識などの不動産の基本的知識が分かる。
思考・判断の観点(K)	物件自体の質と価格の良否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V)	新築物件、中古物件検索に意欲的に楽しみながら取り組む。
技術・表現の観点(A)	不動産ポータルサイト、地価マップ、ハザードマップ、ローン計算ソフトが使えるようになる。不動産の分析内容を説明できる。

学生へのフィードバック方法	毎回、教員が学生の選んだ物件とその分析を評価し、その都度、助言を与える。
評価方法	毎回の物件検索と評価の演習における取り組みと、期末でのレポートにて採点する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	○

評価割合	物件検索と評価のレポートが40%、出席と演習が40%、平常点20%
参考URL	https://mikao-investor.com/youtubemenu/realestate/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】不動産についての専門知識を有している。 【思考・判断】建物と土地についての基本的法規を理解して、良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】不動産に関心、意欲を持つ。 【技術・表現】不動産の質、価格に対しての評価を提示できる。
オフィスアワー	金曜2限時　3602研究室

学生へのメッセージ	建物は建築したら不動産になります。建築物についての知識の上に自宅物件、収益物件の不動産知識を持てば、住宅・建築業界、不動産業界に進んだ場合の実務や自宅の購入などで大変役に立ちます。建築の勉強の上に、ぜひ不動産の勉強をしてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、17年ほどの不動産経営の実務経験がある。実務で学んだ不動産のノウハウを教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回少人数グループで、実際にネット上にある物件を検索、分析を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

UP

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（深石）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石　圭子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究の対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究の対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。本ゼミナールでは、主に卒業設計に取り組む前段階としての演習を行う。
履修条件	卒業研究で設計を行う予定の場合、住居デザイン演習C/D、建築デザイン演習の単位取得、建築デザイン演習Bの履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	専門知識・技術を持つことができる。
思考・判断の観点（K）	基礎的な調査・分析方法を習得することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身が取り組む課題に対し、問題意識をもって、取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	的確な方法を用いて人に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の概要、シラバスの説明を行う。プレゼンボード作成の概要説明。いつまでに何をすべきか手順を確認し、スケジュールをを作成する。ミニレポート（1）・発表。	（復習）次回までに卒業研究用のノートを用意・持参すること。	45
第2回	卒業研究のテーマとは	自身の興味のある事柄などから、卒業研究のテーマを考えて仮に決める。。ミニレポート（2）・発表。	（予習）取り組みたいテーマを数案考えてくること。	45
第3回	調査１（建築用途）	テーマに関する建築計画の再確認、事例作品、所要室の調査等。ミニレポート（3）・発表。	（予習）取り組みたいテーマの建築計画を調べてくること。	45
第4回	調査2（建設地）	建設地域の歴史、産業、地形、交通等の特徴の調査、ミニレポート（4）・発表。	（復習）建設地域の特徴を図表にまとめることが出来る資料を準備しておく。	45
第5回	テーマ、コンセプトとは	テーマとコンセプトを理解し、自身の取り組むテーマ・コンセプトや空間のイメージを考え決定する。ミニレポート（5）・発表。	（復習）テーマとコンセプトの具体的イメージを考えてくること。	45
第6回	敷地決定、データ化	テーマと敷地の関係を考え、敷地を決定し、ゾーニングを行う。ミニレポート（6）・発表。	（予習）出来る限り、敷地やその周辺を調査すること。（写真、気づいたことをメモ）	45
第7回	プログラム決定	ダイアグラム、所要室の検討、機能図作成を行う。見せ場となる空間のイメージ（スケッチ）決定。ミニレポート（7）・発表。	（復習）ダイアグラムはデータ化しておくこと。	45
第8回	ラフ模型制作	ラフ模型を制作し、カタチを検討する。同時に構造計画も検討する。発表。	（予習）ラフ模型の材料を用意しておくこと。	45

第9回	エスキス1	配置計画、平面計画、断面計画。発表。	（予習）必要な設計データを収集しておくこと。	45
第10回	エスキス2、データ作成（作図）1	立面計画、設備（EV、エスカレーター）計画。コンセプトの表現できる図面やパースを選択し作図する。発表。	（予習）必要な設計データを収集しておくこと。	45
第11回	データ作成（作図）2	必要な図面、パースの作図する発表。ボリューム模型制作の説明。	（予習）レイアウトを検討し、必要な図面を決定する。	45
第12回	ボリューム模型制作	ボリューム模型を制作し、カタチを検討する。発表。	（予習）適した模型材料や道具を考え、用意しておくこと。 （復習）模型写真の撮影をしてくること。	45
第13回	プレゼンボード作成1	プレゼンボードの作成。発表。	（予習）予定通りに進んでいない場合は、作業を進めてくること。	45
第14回	プレゼンボード作成2	プレゼンボードの作成。印刷設定。発表。	（復習）発表出来るようA1版1枚にまとめ、印刷すること。	45
第15回	最終発表	完成したプレゼンボードを用い、発表を行う。	（予習）発表の練習をしてくること。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	１回目から8回目は、授業毎に毎回自身の考えをミニレポートにまとめる。提出されたミニレポートは、授業内に回答もしくは、翌週までにコメントを記載し、返却する。
評価方法	平常点（発表・授業態度） ミニレポート：全7回分 プレゼンボード：1課題

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表・授業態度			○	
	ミニレポート	○	○		
	プレゼンボード				○

評価割合	平常点（発表・授業態度）20%、ミニレポート30%、プレゼンボード50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	必要であれば、随時指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技術・表現】家政学を修学し、住の分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	水曜１限　3512研究室
学生へのメッセージ	自ら問題意識を持ち、手を動かしながら考え、作業を継続することが重要です。また、授業外においても学外の展示会等には積極的に足を運び、自身の考えと向き合うことを習慣化させてください。4年次に取り組む卒業研究を悔いのないものにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、授業内に提出されたミニレポートをもとにゼミ形式で進める。他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら客観的に自身の課題と向き合うこと。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（森）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション 研究の方法	ゼミナールBの内容を理解する。ゼミナールAの内容をふまえ、グループで研究の流れを整理する。	アンケート調査のテーマを決める。	45分
第2回	アンケート調査1	各自のテーマにそってアウトラインを作成する。各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。	アウトラインを修正し、文献が必要な項目、内容を確認する。	45分
第3回	アンケート調査2	図書館で文献収集を行う。	文献を参考にアウトラインを修正する。	45分
第4回	アンケート調査3	文献の使い方を学び、各自文献から引用する箇所を検討する。	不足する文献を探す。	45分
第5回	アンケート調査4	文献の内容を資料にまとめて発表する方法を学ぶ。各自発表の準備をする。	発表の準備をする。	45分
第6回	アンケート調査5	先行文献のまとめの部分を発表する。ディスカッションを通して、お互いの発表内容について理解を深める。	アンケートの例を探す。	45分
第7回	アンケート調査6	アンケートに必要な項目についてグループで考えた上で、アンケート作成方法について学ぶ。各自アンケート（下書き）の作成を始める。	アンケート（下書き）を完成する。	45分
第8回	アンケート調査7	各自のアンケートをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。各自修正を開始する。	アンケートを完成する。	45分
第9回	アンケート調査8	アンケートの実施方法について学び、クラス全体で実施計画を立てる。	アンケートを配付する。	45分
第10回	アンケート	アンケートの集計方法および統計処理の方法を練習を通	各自アンケートの項目によって	45分

	調査9	して学ぶ。表、グラフの作成のしかたも練習する。	どのように統計を処理するかを考える。	
第11回	アンケート調査10	アンケート調査の口頭発表の方法を練習を通して学ぶ。アンケートの集計と統計処理を始める。	各自口頭発表の資料を作る。	45分
第12回	アンケート調査11	アンケート調査の口頭発表をする。ディスカッションを通して、相互の内容について理解を深める。	アンケート調査のある文献を読む。	45分
第13回	アンケート調査12	アンケート調査のあるレポートの作成方法を練習を通して学ぶ。	レポートの下書きを作成する。	45分
第14回	アンケート調査13	レポートに適する表現を練習を通して学ぶ。各自のレポートの修正点を相互に指摘し、修正を開始する。	レポートを修正し完成する。	45分
第15回	アンケート調査14	お互いのレポートを読み、発展できる点をディスカッションする。	レポートを修正する。	45分

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	課題（完成度により評価する）　ポートフォリオ（課題設定、記録内容、整理の仕方により評価する）　平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	ポートフォリオ		○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題50%　ポートフォリオ10%　平常点40%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。 【思考・判断】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 【技術・表現】問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。
オフィスアワー	月曜日3限　木曜日3限

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に自主的に取り組む。ディスカッション等を通して、自分の意見を伝えると同時に、異なった意見をまとめる訓練をする。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットを駆使して情報収集をし、成果物をまとめる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（嶋田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 嶋田　芳男	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	本学科では、社会福祉主事、児童指導員といった福祉関係資格が取得できるため、社会福祉に関する知識や技術の習得も必要と考える。そこで本授業では、地域福祉、ソーシャルワーク、障がい者の福祉に関する基礎的内容を学ぶことで、資格に見合った社会福祉全般の内容を理解することを目的にしている。
履修条件	特にない

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	地域福祉、ソーシャルワーク、障がい者福祉分野に関する知識が習得できる
思考・判断の観点（K）	社会で派生しているさまざまな課題について、考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	ソーシャルワークの技法を習得できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	地域と家族について	地域と家族の現状と課題を理解する	地域で派生している生活課題を調べておく	45分
第2回	地域社会の理解	地域社会の4つのモデルを理解し、それぞれに対するアプローチ法を習得する	自身が住んでいる地域がどのモデルに相当するかを考えるとともに、アプローチ法を検討する	45分
第3回	地域福祉と障がい者福祉の理念、概念	地域福祉と障がい者福祉の理念、概念について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第4回	地域福祉と障がい者福祉の変遷	地域福祉と障がい者福祉の歴史について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第5回	地域福祉と障がい者福祉に関わる人びと	地域福祉と障がい者福祉に関わっているフォーマルな人びとと、インフォーマルな人びとについて理解する	授業内容を復習しておく	45分
第6回	地域と障がい者福祉に関わる組織	地域福祉と障がい者福祉に関わるフォーマルな組織とインフォーマルな組織について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第7回	地域福祉計画と障がい者福祉計画	地域と障がい者に関する福祉計画の作成、およびその内容について理解する	授業内容を復習しておく	45分

第8回	地域福祉と障がい者福祉に関する財源	地域福祉と障がい者福祉に関するフォーマルな財源とインフォーマルな財源について理解する	フォーマルな財源とインフォーマルな財源について調べるとともに、復習しておく	45分
第9回	地域福祉と障がい者福祉の福祉教育	地域福祉と障がい者福祉の福祉教育の方法と内容について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第10回	高齢者福祉、こどもの福祉、障がい者福祉におけるケースワーク	ケースワークの方法と内容について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第11回	高齢者福祉、こどもの福祉、障がい者福祉におけるグループワーク	グループワークの方法と内容について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第12回	高齢者福祉、こどもの福祉、障がい者福祉におけるコミュニティワーク	コミュニティワークの方法と内容について理解する	授業内容を復習しておく	45分
第13回	総合演習（1）	障がい者福祉分野における生活課題を抽出する	各種資料を収集し、障がい者福祉に関わる課題を把握する	45分
第14回	総合演習（2）	障がい者福祉分野における生活課題に対する解決法を考える	障がい者福祉分野における生活課題に対する解決法を考える	45分
第15回	総合演習（3）	障がい者福祉分野の生活課題とその解決法をプレゼンテーションする	プレゼンテーション用のスライド、および資料を作る	45分

学習計画注記	本授業は2名の教員による合同開講であり、「社会福祉ゼミナール」としてオムニバス形式で実施する
学生へのフィードバック方法	提出された課題は、評価した後に返却する
評価方法	評価はゼミへの参加度、およびレポートで評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		○
	レポート	○	○		○

評価割合	平常点50% レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じてプリントを配布する
参考図書	授業はゼミ形式で行うため、積極的な発言や提案を期待したい
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】【関心・意欲・態度】 社会の中にある諸課題に関心を持つことで自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。その過程では、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
オフィスアワー	火曜2限
学生へのメッセージ	授業はゼミ形式で行うため、積極的な発言や提案を期待したい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ゼミナールＢ（西口）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	本学科では、社会福祉主事、児童指導員といった福祉関係資格が取得できるため、社会福祉に関する知識や技術の習得も必要と考える。そこで本授業では、社会福祉概論、高齢者福祉論、子どもの福祉論の基礎的内容を学ぶことで、資格に見合った社会福祉全般の内容を理解することを目的にしている。また前期の授業で学んだことをさらに深めて日本の置かれた社会経済状況を俯瞰しつつ、個別的な課題の問題解決の方法を身に着ける。 　この授業では、前期の学びを確認し、学生の理解を見極めて、復習的講義を行いながらあたらしいトピックにも関心を広げていく
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会福祉全般の概要、高齢者分野、子どもの福祉分野に関する知識が習得できる 現代社会と生活困難との関係が理解できる
思考・判断の観点（K）	社会で派生しているさまざまな課題について、考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	生活困難に直面する人の「痛み」に関心を持ち続けて、寄り添うう態度を持てる
技術・表現の観点（A）	ソーシャルワークの方法を理解し、課題解決の技術を身に着け、多様なコミュニケーションの方法を理解する

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象と課題　（前期の振り返り、確認）	乳幼児期、学童期、思春期から青年期、結婚・子育て期、高齢期における社会福祉の対象と、各々に対する諸課題について理解する　前期の学びを振り返り、人の生涯という点で現れる「リスク」を考える	さまざまなライフステージにおける社会福祉の対象を調べておく。また、授業内容を復習しておく	４５
第2回	社会福祉における人権、理念、原理、ニーズ（前期の振り返り、確認）	社会福祉における人権と理念を理解するとともに、支援していく上で必要となる社会福祉の原理とニーズについて考える 前期の学びを進めて、日本の中で人権の問題として考える必要があることを検討する	人権の意味を調べ、授業の復習をする	４５
第3回	社会福祉を取り巻く状況（1）アジアの高齢化特に中国の高齢化の	少子社会と高齢社会の現状と課題について理解する 前期の学びを深めて少子高齢社会にはどのような課題があり、それをどのように対処してきたのかを考える	少子高齢社会の意味を調べ、授業内容を復習しておく	４５

	現状を学ぶ（前期の振り返りと発展）			
第4回	社会福祉を取り巻く状況（2）（前期の振り返り、確認）	家族と地域社会の動向及び課題について理解する	家族と地域にどのような課題が存在するのかを調べておくとともに、授業内容を復習しておく4	４５
第5回	社会福祉の法律と行政の仕組み（前期の振り返り、確認）　介護保険法を例にとってその成立過程と実施体制を学ぶ（発展）	日本の国会の役割（国権の最高機関の意味）を調べ社会福祉関係法とそれに基づく行政組織（特に厚生労働省）の役割・課題について理解する	授業内容を復習しておく	４５
第6回	社会福祉を支える団体と施設（前期の振り返り、確認）	特に中核的な団体に位置づけられる社会福祉協議会について理解を深めるとともに、さまざまな施設について知る	社会福祉施設の種類とその役割を事前に調べておく	４５
第7回	社会福祉の専門職 現場の社会福祉士や介護福祉士の話を聞く（発展）	社会福祉領域の各種専門職とその役割・課題について学ぶ	社会福祉主事、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士について調べ、授業内容を復習しておく	４５
第8回	社会福祉の方法論（前期の振り返り、確認）	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについて理解する	ソーシャルワークの意味を調べ、授業内容を復習しておく	４５
第9回	社会保障の体系（1）（前期の振り返り、確認）	医療保険、年金保険、介護保険について理解するとともに、それらの課題を知る 社会保障とは何かを知る	社会保障の意味を調べ、授業内容を復習しておく	４５
第10回	社会保障の体系（2）（前期の振り返り、確認）	生活保護制度を理解するとともに、その課題を知る	生活保護法と憲法25条の関係を調べ、授業内容を復習しておく	４５
第11回	フィールドワーク（社会福祉の現場から学ぶ）（前期の振り返り、発展）	大学前の特養椿を訪問し、高齢者と対話する　前期の課題を深めて、認知症のある高齢者とのかかわりを持つ	特別養護老人ホームについて調べ、フィールドワークの内容を整理する	９０
第12回	外国人労働者の問題をNHKスペシャルから学ぶ（前期の振り返り、確認）	人口減少が続く日本では外国人労働者が重要な役割を担う、しかし、その処遇は様々な問題が指摘され国連や米国からも改善の勧告が何度か出されている。この実態をドキュメンタリーから学ぶ	外国人労働者についてインターネットで調べる	９０
第13回	認知症を知る ❶（前期の振り返り、確認、発展）	認知症とはなにか。4大認知症やMCIを学ぶ バリデーション　ユマニチュードなどの緩和的ケアを学ぶ	4大認知症の特徴を理解する 以下の本を読むこと　増本康平著　老いの記憶　中公新書 2020年	４５
第14回	総合演習（２）	社会福祉全般、高齢者分野の課題とその解決法をプレゼンテーションする	プレゼンテーションの準備を行う	４５
第15回	まとめの授業	授業を振り返り　社会福祉について理解したことをまとめる	授業の資料やノートを整理する	４５
第16回				

学習計画注記	現場へのフィールドワークは、感染症の状況をみて考える 現場本授業は2名の教員による合同開講であり、「社会福祉ゼミナール」としてオムニバス形式で実施するの実務家の講義を予定
学生へのフィードバック方法	レポートにコメントを付して返却する
評価方法	レポートと平常点（参加態度）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	平常点（参加の態度）			○	○

評価割合	レポート７０％ 平常点３０％
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	都度紹介
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】【関心・意欲・態度】 社会の中にある社会福祉や生活における諸課題に関心を持つことで自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。その過程では、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【技術・表現】 　コミュニケーション能力を高め、事象の多角的分ができ、問題解決能力を高める
オフィスアワー	mail相談
学生へのメッセージ	積極的に事前学習をし、授業後は講義のまとめをしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での実務経験があるので、可能な限り事例を示して、社会福祉の課題について理解することを心がける。
アクティブ・ラーニング	○	問い～答えの連関を大切にする
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アパレル生産実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D32208M13
授業概要(教育目的)	アパレル製品が、システム化された作業工程に従って商品化される過程を模擬的に体験して学園祭で販売する。商品の企画、デザイン、CADによる工業用衣料パターンメーキング、サンプル製作、縫製仕様書による指示、カッティング、縫製、仕上げ、検品と製品評価などの生産工程と商品のパッケージ、広告、販売について学び、品質のよい製品を効率よく生産するための基礎を習得することが目的である。また、特別授業として工業ミシン製造会社の見学やアパレル企業の実務経験をもつ講師の講義を行う。
履修条件	「アパレルCAD実習」を履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活に関する諸課題についての知識を深められる。
思考・判断の観点（K）	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つことができる。

学習計画

アパレル生産実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション、プロジェクトの説明、既製服の歴史	グループごとに模擬的なアパレル企業として企画、設計、生産、検品、販売などの作業内容を学ぶ。	各グループの商品テーマ、コンセプトを考える。	45分
第2回	特別授業	アパレル企業で豊富な実務経験のある講師により、アパレル企業の店舗運営、売上、利益管理、ブランド管理等について学ぶ。	この講義を参考にして、模擬的なアパレル生産の商品管理を考えること。	45分
第3回	プロダクトパターン、プロダクト１（商品企画）	プロダクトパターン、商品企画としてターゲット、ライフスタイル、コンセプトについて学ぶ。	各グループの商品テーマ、コンセプトに沿ったデザインを考える。	45分
第4回	グレーディング、マーキング、縫製仕様書、プロジェクト２（コン	グレーディング、マーキング、縫製仕様書、ターゲット、ライフスタイル、コンセプトを決定し、デザイン画で表現することを学ぶ。	各グループで生産する商品のコンセプト、デザインを決定し、作業担当者を決める。	45分

	セプト決定）			
第5回	縫製工程分析、プロジェクト３（デザイン決定）	縫製工程分析の書き方、デザイン決定と材料について学ぶ。	商品の材料（生地、副資材）などを準備する。	45分
第6回	プロジェクト４（シーチングによる試作、中間発表の準備）	シーチングでサンプル製作、シルエット、大きさ、縫製、材料（生地・副資材）、グループごとの中間発表の準備について学ぶ。	製図を書き、パターン作成、シーチングのサンプルを完成させる。	45分
第7回	特別授業 工業用各種ミシンの見学（校外授業）	ジューキ株式会社の工業ミシンを見学して縫製工場の特殊ミシンの種類、縫製方法、速さなどを理解する。	見学内容をまとめること。各担当者ごとにパワーポイントを作成し、口頭発表の練習をする。	45分
第8回	プロジェクト５（中間発表、縫製準備）	シーチングサンプル、デザイン画でデザインの発表、プロダクトパターン作成（CAD使用１）、裁断指示書、縫製指示書、工程分析表の質問、確認、コメントの対応などを学ぶ。	各担当者ごとにパワーポイントを作成し、口頭発表の練習をする。	45分
第9回	プロジェクト６（裁断・縫製準備）	地直し、裁断、仕分け（バンドリング）、芯貼りの方法を学ぶ。	縫製前段階まで進めておくこと。	45分
第10回	プロジェクト７（縫製１）	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れで作業をすることを学ぶ。	縫製、アイロンかけを進める。	45分
第11回	プロジェクト８（縫製２）	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れで作業をすることを学ぶ。	縫製、アイロンかけを進める。	45分
第12回	プロジェクト９（縫製３、パッケージデザイン）	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れ、パッケージデザイン、パネル作成について学ぶ。	縫製、アイロンかけを進める。パッケージ（包装）デザインを考える。	45分
第13回	プロジェクト10（製品完成・製品評価・検品・プレゼンテーションの準備）	検査項目に従って検品方法、プレゼンテーションの内容を学ぶ。	パネル作成、プレゼンテーションの準備をする。	45分
第14回	プロジェクト11（製品の包装）	洗濯表示、品質表示などの法律的に添付する内容、製品の包装プレゼンテーションのパネル作成をについて学ぶ。	検品、包装済みの商品を提出すること。プレゼンテーションの準備をする。パネルを完成させること。	45分
第15回	プレゼンテーション	各グループごとにパネルを使用し、商品説明、質問、確認、コメントの対応などを学ぶ。	発表練習をすること。パネルは学園祭で販売するときにも使用する。	45分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウィルス感染状況によっては遠隔授業に変更し、見学や学園祭参加ができない場合もある。
学生へのフィードバック方法	商品企画・製作物・提出課題、発表に対するコメント
評価方法	平常点（授業への参加状況、提出期日、グループ内の協力などで総合的に判断する）、商品企画・製作物、提出課題、発表
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	商品企画・制作物	○	○	○	○
	提出課題	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、商品企画・製作物30%、提出課題20%　発表30%
使用教科書名(ISBN番号)	・「アパレル設計実習　アパレル生産実習」一般社団法人日本衣料管理協会 （2年「アパレル設計論」の教科書を使用する。） ・プリント配付
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を

	持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	グループ作業で行うため、欠席をしないように心掛けてください。やむを得ず欠席した場合は、グループのメンバーとよく打ち合わせてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業で豊富な実務経験のある講師によるアパレル企業の店舗運営などの講義を依頼している。また、工業ミシンの見学では、世界中の縫製工場で使用している最新のミシンについて学ぶ。
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して自発的に調べ、グループで協議して発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	室内園芸		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 濱田　恵理子	指定なし

ナンバリング	D35205M21
授業概要(教育目的)	室内園芸全般につき、素材、栽培法などを解説する。 インテリアの概要、インテリアの歴史、近代の建築家のインテリアデザイン等について知り、合わせてそれぞれのインテリアに対し、適切で効果的な植物の種類、コーディネートを実施出来る力を養う。技術的、用語的な解説だけではなく、コーディネートや設計に応用可能なように、なるべくデザインに関連させて説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	室内園芸に関係する素材、栽培方法、見せ方やコーディネート方法などの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点（K）	具体的なインテリア内での植物の姿を思考し、関係する素材をピックアップし、コーディネートできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実生活の中でも室内園芸植物に興味を持ち、植物の種類、デザイン、メンテナンス処理等につき都度確認する習慣をつける。
技術・表現の観点（A）	室内園芸の総合的なプラニングにつき、スケッチ、コラージュなどで具体的に表現できる。

学習計画

室内園芸の実際

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	植物のある空間について考える	植物のもつさまざまな効用、演出上の効果など概要を説明する。自分が植物につき現在どの程度理解しているか再確認し、上手に共生していくために何を学ぶべきか知る。	教科書の全般、特に写真に目を通し、様々な室内植物の姿に見聞を広める。 身の回りにある植物につき、分類、名前、基礎的な知識等について調べたり、知ったりする努力をすること。	予復習に120から180分。
第2回	基本的な植物の性質と環境づくり、手入れ。	植物が他の無機質のインテリアエレメントと大きく異なる点は「いきもの」であることである。ただ、美しい、可愛らしいとチョイスするのでは欠ける部分が生育環境となる。基本的な生育環境、栽培について学ぶ。	校内や、自宅で各所の明るさと、そこに適応している植物の姿を確認すること。 教科書に掲載の写真の中から最も気にいったものにつき、植物、環境、鉢等周囲のトリートメントを考察すること。	120から180分で予習。
第3回	基本的な植物の性質2	植物をより健康に保つ技能、コンテナやスタンドなど植物をより効果的に見せるアイテム、植物のテクスチャーを読み取ることを学びます。	植物と暮らすということを疑似体験してみること。	予復習として180分。
第4回	植物の配置で変化をつける。	鉢植えの置き方(単独・複数)、寄せ鉢、寄せ植え、造形(つる性植物の誘引、トピアリー)により、その印象が変わることを知る。 鉢や鉢カバーの素材、texture、デザインのいろいろを知り、インテリアとの関係性を考察すること。	教科書p.32~37に目を通す。具体的にインテリアスタイル、植物のテクスチャーのコーディネートについて興味を持つ。	予復習に120分程度。

第5回	栽培方法 ハイドロカルチャー	室内園芸の代表的な技法であるハイドロカルチャー について知る。必用資材、植物選択、植え込み方法、管理等の手順を学ぶ。 ボトルガーデン、テラリウム 等応用形を知り、その長短所を知る。	可能であればハイドロカルチャーにつき実践を試みる。	予復習として180分目安。
第6回	植物のある家1 リビングルームを考える	植物を「置く」「吊るす」「掛ける」等レイアウト方法のバリエーションを知る。合わせてそれぞれに適した植物の選択、栽培方法につき知識を広める。室内環境の照度、湿度、温度についてイメージする。	インテリアショップ、モデルハウス、雑貨店などで様々なスタイルのリビングルーム を見る。その場所に合う植物の姿をイメージする。	予復習に100 分。
第7回	色彩とテクスチャー	色彩的な知識と、植物の持つ色彩、テクスチャーについて知る。	色彩学の基本につき、知識を徹底させる。	予復習に各100分程。
第8回	植物のある家２　リビングルーム②	家具や内装を構成する素材、植物の種類組み合わせにつき具体的に学習する。インテリアスタイルの歴史、種類、代表的家具等にも知識をひろげる。照明器具と植物のコンビネーションの可能性を知る。		主に復習に100から120分。
第9回	キッチンに置く植物	いわゆるキッチンガーデンの展開について知る。観賞・栽培・収穫・料理・クラフト等生活の様々なシーンで楽しむ植物。	ハーブ、スプラウト等に知識を広める。 教科書 p.46~61 に目を通す。 可能ならスプラウト栽培などを実践する。	予復習に各90 分を充てる。
第10回	和の演出	主に観葉植物を使用して和の景観づくりを考える。インテリアとして長く人気の和風モダンのスタイルを知る。 室内で植物が楽しまれる様になった歴史にもあたる。		予復習計100分。
第11回	居室をつなげる空間づくり	玄関、廊下、壁、天井、吹き抜けなどの植物による立体的な演出。安全面、建築基準法への配慮。 特殊空間緑化へのつながり。		予復習に180分充てる。
第12回	水回り、エクステリアと植物	トイレ、洗面所、バスルーム といった水まわりでの植物展開。清潔感、メンテナンスとの兼ね合い。 バルコニー 、コンサバトリー、サンルームといったアウトドアリビングの植物演出。 水生植物、イルミネーション等にも知識をひろげるものとする。	実際にプランを立てる～① 演習	復習として課題180分ほど。
第13回	ハンドメイドという考え方　室内で植物と共に楽しむ素材のいろいろ。	DIY、ハンドクラフトを施して楽しむインテリアと植物。ペイントやワイヤー、雑貨との組み合わせや、具合的な方法などにつき知る。 生花、人工樹木、プリザーブドフラワー、ハーバリウム、アートフラワー、エアプランツ、コケ 、多肉植物他。多種類にわたる素材の基礎知識を持つ。	年中行事と植物モチーフにつき考察する。 小さなスペースの演出についてプランを作る。~② 演習	復習として180分程度充てる。
第14回	総合的な園芸による空間演出	居室の一部コーナーにつき総合的な空間演出のプランを立てる。テーマ、コンセプトを設定し、適切なプレゼンテーションができることを目標とする。	簡単にイラスト等でプレゼンテーションツールを作成することを目標とする。	復習に180分ほどを充てる。
第15回	まとめと効果測定	一般的な住宅、小スペースの店舗等につき植物コーディネートをプランする。注意点や配慮すべき点と、現実性をふまえた上でより効果的であることのボーダーを探る。前期試験の実施。	前期試験として室内園芸のトータルな展開につき適切なプランが立てられることを問う。室内園芸の基礎について知識を定着させる。	予習として180分を充てる。

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	課題等は、次週の授業にて解説する。
評価方法	課題を課す。内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は3～5問。すべて記述式とする。定期試験を実施。課題と合算し(平常点も兼ねる) 評価する。課題につき50%定期試験につき50%で評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	授業内容の定着を目標とした課題を課題をだす。定期試験と集計して成績評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	MY TINY INDOOR GARDEN~Big Ideas for small spaces by LIA LEENDERTZ ISDN 978-1-911624-19-6 PAVILION BOOKS
参考図書	講義中に都度関連書籍を紹介。購入は自由とする。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」と「衣」分野に関係するインテリアとそれに付随する植物について、専門知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある住宅、店舗の中での植物のもつ課題を自ら発見し、分析し、考察することができる。 【技術・表現】社会に対して、インテリアエレメントとしての植物に関して、洗練された表現で課題解決を行い、表現することができる。
学生へのメッセージ	「住」と「衣」分野の双方にまたがるインテリアデザイン、より快適な空間の構成をするために植物の存在は欠

	かせません。デスクの上のほんのひと鉢から、インテリア全体にかかわるインテリアエレメントとしての植物は、非常に興味深い分野であると同時に、人間生活を名実共に豊かにするものでもあります。この授業で室内園芸とインテリアの基本を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約30年間の植物プラニングの経験を有しており、園芸や植物の基本知識がインテリアデザインやインテリアコーディネートにどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング	○	一部グループワークを予定しているが、進度等により勘案。
情報リテラシー教育	○	室内園芸につき自己のたてたプランを第三者に伝えるプレゼンテーション技法を学ぶ予定。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ＣＧデザイン演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D14202M22
授業概要(教育目的)	情報の伝達、表現方法である２次元CGの基礎学習を目的とする。この授業は２次元グラフィックツールを用いて課題を行いながら表現の基礎を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	２次元グラフィックツールの知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点（K）	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイディアに展開することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイディアに展開することができる。
技術・表現の観点（A）	情報伝達を理解し情報を可視化することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業のオリエンテーション、２次元CGの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。２次元CGについて概要と表現の可能性について説明を行う。	２次元CGについてどのようなことができるか、何を表現したいのかについて調査を行いレポートを書く。	９０分
第2回	２次元CG基礎１－１	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールの基本的なインタフェースを理解する。選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題１（野菜でコックさんを作る）を行う。	課題を理解するために再度小課題１（野菜でコックさんを作る）を復習する。次回の課題１（コラージュ）のための素材を収集する。	９０分
第3回	２次元CG基礎１ー２	レイヤー機能について演習を行う。画像の合成、スタンプツールなどを用いて小課題２（ベネチアの風景）を行う。課題１（コラージュ）を制作する。	課題を理解するために再度小課題２（ベネチアの風景）を復習する。	９０分
第4回	２次元CG基礎１ー３	イメージのレタッチについて演習を行う。課題２（ありえない世界）の説明行い制作を始める。	課題２（ありえない世界）のアイディアスケッチと表現のための素材を収集する。	９０分
第5回	課題２（ありえない世界）の制作	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールを駆使して課題２（ありえない世界）の制作を行う。	課題２（ありえない世界）の完成度を高める。	９０分
第6回	２次元CG基礎２－１	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本的なインタフェースを理解する。基本形の図形、選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題２（初めてドロー）を行う。	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本を復習する。	９０分
第7回	２次元CG基礎２－２	色の選択・グラデーション・ペーンツールの使い方を学ぶ。課題３（キャラクター）の制作を始める。	キャラクターについて資料を収集して課題３（キャラクター）	９０分

			のアイディアスケッチを行う。	
第8回	課題３（キャラクター）の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使いてキャラクターを制作する。	キャラクターデザインの完成度を高める。	９０分
第9回	課題３（キャラクター）の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使いてキャラクターを制作する。	キャラクターデザインの完成度を高める。	９０分
第10回	課題３（キャラクター）の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使いてキャラクターを制作する。制作レポートを作成する。	キャラクターデザインの完成度を高める。制作レポートを作成する。	９０分
第11回	課題４（年賀状）の制作	課題３のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	９０分
第12回	課題４（年賀状）の制作	課題３のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	９０分
第13回	課題４（年賀状）の制作	課題３のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	９０分
第14回	課題４（年賀状）の制作	課題３のキャラクターを用いて年賀状を制作する。制作レポートを作成しプレゼンテーションの準備を行う。	制作レポートを作成しプレゼンテーションの準備を行う。	９０分
第15回	プレゼンテーション	キャラクター、年賀状のデザインについてプレゼンテーションを行う。	制作レポートを作成して提出する。	９０分

学生へのフィードバック方法	小課題、課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	２回の小課題は１０点満点で提出した結果を３つの基準で評価を行う。３つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で５段階評価を行う。４回の課題は６０点満点で課題の結果、制作レポート、プレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は小課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。２回のレポートは２０点満点で小課題や課題と同じく３つの基準を５段階評価で行う。平常点は１０点満点で１５回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小課題	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	小課題（１０％）、課題（６０％）、レポート（２０％）平常点（１０％）で評価をする。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし、必要に応じてプリントを配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	火曜日２限　１３０７研究室
学生へのメッセージ	情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現を行うさいには美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探ってみたいです。この授業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ガーデニング概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D11111M21
授業概要(教育目的)	人々が様々なストレスを抱えた現代の社会では、植物に求められる機能や用途も多様化している。本講義では、園芸やガーデニングとは何かについて考え、定義する。主にガーデニングを行う際に必要な植物学や庭のデザインに関する基礎的な知識や技術について紹介する。本講義を通じ、私たちの生活の中に多く存在している植物に気づき、見る力を養う。園芸領域科目（園芸学、ガーデニング実習など）の入門編の講義である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	身の回りの植物を用いた空間デザインについて興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	植物を生活に取り入れることのメリット、デメリットを判断し、その楽しさや難しさ示すことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	本講義を受ける前には気が付かなかった、私たちの生活の中にある植物に気づき、興味を持つ。
技術・表現の観点（A）	植物を生活に取り入れるために必要な園芸やガーデニングの基礎的知識を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンスとイントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方を説明する。身近にどのような植物があるか、どのような植物を知っているかを考える。 課題①植物の紹介について説明し、進め方を決定する。	本講義の到達目標や進め方をよく理解すること。生活の中にある植物を観察する。	240分
第2回	植物、庭、花壇、園芸、ガーデニングとは植物学の基礎	本講義で扱う言葉の定義を例を紹介しながら解説する 植物学的分類、命名法、植物の形態の基礎を実例を挙げながら解説する。	講義で扱った言葉の定義を復習し違いを理解し解説できるようにする 植物の名前はどの様につけられているか、植物の形態と部分の名前を理解し解説できるようになる。	240分
第3回	造園とランドスケープの歴史①	日本庭園の歴史と様式を事例を挙げながら解説する。	日本庭園の歴史を復習し、なぜ時代によって庭園の様式が変化したか理解する。	240分
第4回	造園・ランドスケープの歴史②	西洋の庭園の歴史、様式を実例を挙げながら解説する。	授業内容を復習し、西洋の庭園の歴史と時代によって異なる様式を理解する。	240分
第5回	造園・ランドスケープの歴史③	国外の庭園の歴史と様式を実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。第3回から第5回までの造園・ランドスケープの歴史について理解する。	240分
第6回	身の回りに	街の景観の構成要素や私たちの暮らしの中にある植物に	講義内容を復習する。	240分

	ある植物	ついて考察し解説する。	各自の生活の中の景観や植物を改めて観察する。	
第7回	園芸植物の基礎①	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に野菜の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。野菜の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第8回	園芸植物の基礎②	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に果物の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。果物の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第9回	園芸植物の基礎③	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に花の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。花の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第10回	植物についての正しい情報を得る方法	植物図鑑の見方（用語の解説など）、インターネットサイトなど、植物についての正しい情報を得る方法を解説する。	講義内容の復習とインターネットなどを実際に閲覧し、情報を得る方法を確認する。	240分
第11回	園芸用資材と季節の飾り	ガーデニングや園芸で使用する特殊な資材、用土について実例を挙げて解説する。 年末から年始にかけてみられるクリスマス、お正月飾りについて解説する。	講義内容の復習。どの様な道具や資材を使うか理解し、解説できるようにする。 冬休みの間に街に飾られている植物を使った飾りを観察する。	240分
第12回	季節の重要性と植物を使った空間デザイン	庭や植物の季節の重要性、日本文化で昔から用いられる四季の代表的な植物を実例を挙げて解説する。 植物を使った空間デザインについて、実例を紹介し解説する。	講義内容の復習と秋の植物を観察する。	240分
第13回	ガーデニングの道具と資材 エクステリアデザインで用いられる材料	ガーデニングや園芸で使用する道具、資材、用土について実例を挙げて解説する。 エクステリアデザインで用いられる材料について、実例を挙げて解説する。	講義内容の復習。ガーデニングでは、どの様な道具や資材を使うか理解し、解説できるようにする。	240分
第14回	デザイントライアル	初歩的な題材、寄せ植えのデザイン方法とポイントを実例を挙げて解説する。	講義内容の復習。寄せ植えデザインのコンセプトなどについて検討する。	240分
第15回	寄せ植えのデザインのふりかえり 本講義の総括	寄せ植えデザインのクラスメートのデザインを見て評価する。 この講義で学んだこと、到達目標は達成できたか振り返る。	デザイントの考え方について復習する。身の回りある植物を改めて観察する。	240分

学習計画注記	履修者数やコロナウィルス感染症の状況などの諸事情により、スケジュールや課題が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点（70%）：各回授の終わりに業内容についてのコメントシートの提出や授業内容に関連した小課題をだす。その提出状況に基づき、授業に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題（30%)植物の紹介（レポートと発表）：課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力、表現力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	
	課題	○	○		○

評価割合	平常点（70%）と、課題（30%)による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日　2限　3609研究室
学生へのメッセージ	私たちの生活に中にある植物について学びます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	言語学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D11109M21
授業概要(教育目的)	「ことば」は「コミュニケーションの道具」と言われており、人間の生活は「ことば」なしには成り立たない。授業では、あまりにも身近な存在である「ことば」の特徴を客観的に学ぶことで、言語によるコミュニケーションの役割について考察していく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。
思考・判断の観点（K）	学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。
関心・意欲・態度の観点（V）	言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。
技術・表現の観点（A）	言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違い	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違いについて学び、言語の役割や機能について考える。言語学概論がどのような学問なのかについても学ぶ。	世界にはどのぐらいの言語があるかを調べる。自分の興味のある言語の概要についても調べる。	180
第2回	世界の言語	世界の言語の数や分類、特徴について学ぶ。各自調べてきた言語について発表する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第3回	音声学１	音声のしくみと子音について学び、日本語の子音の特徴について考える。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第4回	音声学２	母音について学び、日本語の母音の特徴を分析する。母語の体系にない音声はなぜ難しいのか、母語にない音はどのように発声するのかについても学ぶ。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第5回	音韻論１	音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかを分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第6回	音韻論２	音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかの分析を続ける。このような変化がなぜ起きるのかについても考える。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第7回	形態論１	形態素について学び、語がどのように成り立っているのかを分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第8回	形態論２	新しい語ができる際の成り立ちについて学び、いくつかの例を分析する。	授業内容を復習し、中間試験に備える。	180

第9回	中間試験（ここまでの振り返り）	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違い、言語の役割、世界の言語の分類、音の体系、語の構成について、学んだ知識を活かして分析する。	中間試験で十分に分析できなかったところを復習する。	180
第10回	統語論１	伝統文法による文の分類について学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第11回	統語論２	構造主義による統語論を学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第12回	統語論３	変形生成文法について学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第13回	意味論・語用論１	意味の分類について学び、例を用いて意味を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第14回	意味論・語用論２	例を用いた意味の分析を続ける。また、コミュニケーションで実際に使う際の機能について学ぶ。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第15回	意味論・語用論３	日本語のコミュニケーションの特徴を学ぶ。例を用いて分析をする。	授業内容を復習し期末試験に備える。	180

学生へのフィードバック方法	試験は振り返りを行う。その他は口頭、書面でコメントする。
評価方法	小テスト（全体を理解するために要点となる知識を評価する） 中間試験・期末試験（主に学んだ知識を使って分析する力を評価する） 平常点（授業およびグループディスカッションでの発言、取り組みの姿勢を評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	中間試験・期末試験	○	○		○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	小テスト10%　中間試験35%　期末試験35%　平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。 【思考・判断の観点】学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。 【関心・意欲・態度の観点】言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。 【技術・表現の観点】言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限（後期）
学生へのメッセージ	授業では、実際に体験したり、グループで話し合ったりすることが多くなります。好奇心を持って、積極的に参加して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	例を収集する。ディスカッションをする。
情報リテラシー教育	○	図書館を利用して課題について調べる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ウェブデザイン		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉　起東	指定なし

ナンバリング	D14203M21
授業概要(教育目的)	情報化社会に必須とされる情報の発信のためウェブデザインの理解が必要である。本講義では、ウェブデザインの歴史、技術、デザインなどの知識を通してウェブデザインについて理解を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点（K）	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点（V）	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点（A）	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション、Webデザインとは	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、Webデザインの概要について講義を行う。	教科書１章の「Webデザインの世界を知る」（９～２６ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第2回	Webデザインの世界を知る	インターネットの誕生から今日までの展開、影響と意味，役割を理解する。	教科書２章の「Webサイトを設計する」（２９～５２ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第3回	Webサイトを設計する１	Webサイトについて理解する。テクノロジー（CGI，PHP，Flash）について，Webの 現状と今後について理解する。	教科書２章の「Webサイトを設計する」（２９～５２ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第4回	Webサイトを設計する２	Webサイトについて理解する。テクノロジー（CGI，PHP，Flash）について，Webの 現状と今後について理解する。	教科書３章の「HTMLの役割とできること」（５５～１１２ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第5回	HTMLの役割とできること１	HTMLについて理解する。テキスト情報とマークアップ。要素と属性の違い。HTMLの基本構造を理解する。	教科書３章の「HTMLの役割とできること」（５５～１１２ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第6回	HTMLの役割とできること２	HTMLについて理解する。Headの要素とBodyの要素などを理解する。	教科書３章の「HTMLの役割とできること」（５５～１１２ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第7回	HTMLの役割とできること３	HTMLについて理解する。リストを表現する要素と表組みを作成するための要素などを理解する。	教科書５章の「Webサイトを構成する素材」（１９３～２１０ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第8回	CSSの役割	CSSはで情報をデザインするなどを理解する。	教科書５章の「Webサイトを構	１８０分

	とできること１		成する素材」（１９３～２１０ページ）を読んでおくこと。	
第9回	CSSの役割とできること２	情報をブロック単位で並べるなどを理解する。	教科書4章の「CSSの役割とできること」（１１７～１９０ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第10回	CSSの役割とできること３	CSSによるレイアウトなどを理解する。	教科書５章の「Webサイトを構成する素材」（１９３～２１０ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第11回	Webサイトを構成する素材	Webサイトで使う素材、著作権などについて理解する。	教科書６章の「Webサイトを表現する色」（２１３～２２０ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第12回	Webサイトを表現する色	Webカラーについて理解する。	教科書７章の「Webサイトを公開する」（２２３～２４０ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第13回	Webサイトを公開する	ホスティングサービスや情報を公開する前に確認することなどを理解する。	教科書８章の「Webサイトを運用する」（２４３～２５８ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第14回	Webサイトを運用する	SNSとの連携やアクセス解析などを理解する。	教科書９章の「Webサイトを制作する」（２６１～２７８ページ）を読んでおくこと。	１８０分
第15回	Webサイトを制作する	HTMLのコーディングなどを理解する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	２４０分

学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。
評価方法	定期試験は７０点満点で出題する。Webデザインを行う際に必要な基本的な知識を出題する。平常点は３０点満点で１５回を通して「毎回の感想や質問」「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	平常点		○	○	

評価割合	定期試験（７０％）平常点（３０％）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	Webデザインの新しい教科書「改訂新版」　ISBN978-8443-6563-1
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	火曜日　３限
学生へのメッセージ	現代社会において情報発信はとても大切である。情報発信の基本であるWebデザインを理解することで情報表現する幅が広がると思われる。特にこの科目はウェブデザイン実務士の必須科目でもあるので主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファッションビジネス論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島　由記子	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業では、まず日本のファッション産業の構造や、欧米と日本における産業の発展の歴史について解説する。次に、現代のファッション産業界におけるグローバル化と、ITの進歩による新たなビジネスモデルについて説明していく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.ファッション産業の構造とその業務について理解できる。 2.ファッションビジネスの基礎的な用語と、ファッション産業の歴史を説明できる。
思考・判断の観点（K）	1.ファッションビジネスの現状と課題を認識し、考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の概要、ファッションビジネスとは	授業の概要。ファッションビジネスの定義と、その特性を学ぶ。	配付プリントのファッションビジネスの定義と、その特性を読んで復習すること。	180分
第2回	ファッション産業の構造、ファッション産業（1）素材産業	繊維ファッション産業の4段階の構造と、それぞれの流れを学ぶ。その中の繊維素材産業とテキスタイル産業について学習する。	配付プリントの繊維ファッション産業の4段階を読んで復習すること。	180分
第3回	ファッション産業（2）アパレル産業	アパレル産業の分類とアパレルメーカーの業種・業態を学ぶ。アパレルメーカーの各職種（MD、デザイナー、パタンナー）と、その業務について理解する。	配付プリントのアパレルメーカーの業種と業態を読んで復習すること。	180分
第4回	ファッション産業（3）アパレル小売産業	アパレル小売業の分類と3つの業態を学ぶ。アパレル小売業の各職種（バイヤー、FA）と、その業務について理解する。	配付プリントの小売業の分類と業態を読んで復習すること。	180分
第5回	ファッション消費と消費者行動	消費者行動とマズローの5段階欲求を学ぶ。ライフスタイルの各分類とお客様の購買行動について理解する。	配付プリントのライフスタイルの各分類を読んで復習すること。	180分
第6回	ファッション・マーケティング	マーケティングの定義とマーケティングの4Pについて学ぶ。マーケティングの分類を学び、ファッション感性に関する用語を理解する。	配付プリントの4Pと、ファッション感性に関する用語を覚えるようにすること。	180分

第7回	フランスのファッション産業の歴史（1）	オートクチュールの盛衰からプレタポルテの発展までの歴史を学ぶ。ウォルト、ポワレに注目し、そのビジネススタイルを概観する。	配付プリントのオートクチュールからプレタポルテまでの歴史と、各ブランドのビジネススタイルを復習しておくこと。	180分
第8回	フランスのファッション産業の歴史（2）	オートクチュールの盛衰からプレタポルテの発展までの歴史を学ぶ。シャネルに焦点をあて、そのビジネス戦略を学習する。	配付プリントのフランスの産業の歴史を読んで復習しておくこと。	180分
第9回	イタリアとアメリカのファッション産業の歴史	ミラノの3G、ベネトンなどのイタリアのファッション産業について学習する。また、アメリカのポロ・ラルフ・ローレンのブランド戦略を学習する。	配付プリントのイタリアとアメリカの産業の歴史を読んで復習すること。	180分
第10回	日本のファッションビジネスの歴史(1)	日本のファッションビジネスの変遷について、戦前から1970年代までを、当時の時代背景を踏まえながら学ぶ。	配付プリントの日本のファッションビジネスの歴史を読んで復習すること。	180分
第11回	日本のファッションビジネスの歴史(2)、日本のデザイナーズブランド	日本のファッションビジネスの変遷について、1980年代から1990年代までを学習する。また、コム・デ・ギャルソンや、日本人デザイナーのブランドビジネスについて学ぶ。	配付プリントの日本のデザイナーズブランドの戦略について読んで復習すること。レポート課題の調査を行う。	240分
第12回	グローバルビジネスの世界（1）ーラグジュアリーブランドとファストファッション	ラグジュアリーブランドの「ブランドの民主化」と、台頭するファストファッションの構造を学習する。	配付プリントのファストファッションの構造を読んで復習すること。レポート課題の調査を行う。	240分
第13回	グローバルビジネスの世界（2）ーエコとエシカル	エコ、エシカルの視点から、世界のファッション生産地の問題を考察する。	配付プリントの世界の工場について読んで復習すること。レポート課題の分析を行う。	240分
第14回	新しいビジネスモデルー通販市場	ECビジネスの発展について学ぶ。	配付プリントのECビジネスについて読んで復習すること。	240分
第15回	総括	これまでの授業のまとめ。	これまでの授業をまとめていく。	180分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	・Google Classroom上の授業を閲覧してから書いてもらう毎回のミニレポートで、ファッションビジネスについての質問を提出してもらい、その質問にGoogle Classroom上で回答していく。
評価方法	成績評価は、最終レポート課題と、毎回のミニレポート課題の内容と、平常点。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	○

評価割合	レポート（60%）、毎回のミニレポート（20%）、平常点（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。配付プリント
参考図書	・社）日本衣料管理協会刊行委員会　「ファッションビジネス論」　日本衣料管理協会、2003年 ・永松浩介編　「ファッションビジネスの世界」　日本衣料管理協会、2011年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・ファッションビジネスの専門的知識を有している。 ・グローバルな視点から知識を深め、専門的な職業の道につなげることができる。
学生へのメッセージ	店舗で洋服を購入する際に、ブランドの特徴、商品の価格帯、店員の接客態度、商品の原産国表示などにも注目するようにしていてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。「ファッション産業の構造」「産業の歴史」「ファッションビジネスの現状と課題」を実務家の視点からわかりやすく解説する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎調理学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小川　聖子	指定なし

ナンバリング	D21105M23
授業概要(教育目的)	日本･西洋･中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として１回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても示範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。 本科目は、中学・高等学校の教員免許（家庭科）のための必須科目である。
履修条件	体調が悪い（発熱・感染性の疾病・消化器系の不調・あるいはそれらの回復期など）場合は、実習を見学・もしくは試食のみを指示する場合がある。 予め欠席の予定がある場合には、教員または学校に連絡をすること（欠席の場合でも、実習費の返却はできません）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。
思考・判断の観点（K）	食材・器具の衛生的な扱い理解することが出来る。 調理器具、食器、計量器具などの目的に合わせた扱いができる。 食材を料理ごとに適切に切砕でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	一つの食材を工夫し、多様に調味、調理できる。
技術・表現の観点（A）	盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

調理学実習基礎

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明 調理実習の順番や献立は、仕入れの都合等により変更になる場合があります。 鍋による炊飯とみそ汁・卵焼き・漬物の	オリエンテーション：服装の確認、授業の進め方、特にタイムスケジュールの徹底。授業の開始時間と終了時間の確認。 班分けと、当番の説明。各種洗剤、布巾類の取り扱い方、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。 ※白衣またはエプロン、三角巾を着用すること。上履きを用意する。服装は度毎に洗濯し清潔を心がける。 ※服装等が不備な場合でも、貸し出し用の物は用意していないので注意する。 ※調理実習では衛生上の配慮から、爪は短く、ネイルは禁止。 ※マスカラ、つけまつげなど、料理に混入する可能性のある化粧などは控える。髪はまとめておく。 ※アクセサリー・時計は外す。 ・ご飯を炊く（鍋を使用する）	本回の調理実習レポートを作成する。 授業の目的と授業内容を整理し、配布された次週の実習に備える。	120分

	献立の調理作成	・きゅうりとかぶの浅漬け ・たまご焼き ・味噌汁（豆腐・油揚げ・青ネギ）		
第2回	旬の野菜を使って、短時間にできるシチューを学ぶ 調理における牛乳の使い方を考える 手作りのどれっ新語のつくり方を学び、味わってみる	・春野菜のシチュー ・ミモザサラダ（レタス・ゆで卵・ドレッシング） ・フルーツ ・パン	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第3回	和風の魚料理：煮魚のつくり方を学ぶ 青菜のゆで方を習得する すまし汁（だしの取り方）適した具を考える	・煮魚 ・辛し和え（菜の花またはカキナなどの青菜） ・おすまし（ウド・新わかめ） ・ご飯（五穀米入りなど）	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第4回	中国風の料理の特徴を学ぶ 高温の油で短時間炒め調理法を学習する 中国風の汁物と副菜を学ぶ 季節のフルーツを味わう（（晩柑類など）	・鶏肉と春野菜の炒め物 ・トマトと卵のスープ ・ザーサイの和え物 ・ごはん ・フルーツ	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第5回	和洋折衷の特徴を考える① 洋風の衣揚げ（フライ）の調理上の注意点を知る。その上で実習を行う。 魚介のフライに良くあうタルタルソースのつくり方を学ぶ	・エビフライ ・キャベツの千切り ・タルタルソース ・ニンジンのきんぴら ・味噌汁（旬の野菜など）	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第6回	和風の肉の扱いについて学ぶ 和風の副菜の特徴を考える 伝統的な汁物のつくり方を学ぶ 季節のフルーツを味わう	・肉じゃが（牛肉・じゃがいも・新玉ねぎ） ・梅和え（きゅうり・ツナ・梅肉） ・かみなり汁（豆腐・ニラ） ・ご飯 ・フルーツ	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第7回	中国風の献立を考える 卵料理の特徴を学ぶ 中国風の副菜と汁物について考える	・かに玉 ・チンゲン菜と蒸し鶏 ・中華スープ ・フルーツ ・ご飯	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第8回	パスタのゆで方の特徴を学ぶ 具だくさんのパスタのソースのつくり方を学ぶ シンプルなサラダのつ	・野菜入りボンゴレ ・トマトとチーズのサラダ ・マチュドニア（フルーツポンチ）	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、栄養価計算、反省・感想を記録すること。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分

	くり方について考える 数種の果物を用いてフルーツポンチを作る			
第9回	切り身肉の火の通し方を学ぶ 豚肉に合う、梅酒の梅を用いたソースを作る 夏野菜を使用したスープのつくり方を学ぶ 白米に雑穀を加える手法を学ぶ	・ポークソテー梅ソース ・夏野菜のスープ ・麦ごはん ・サラダまたはフルーツ	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第10回	夏野菜をふんだんに使ったひき肉のカレーを学ぶ バターライスの特徴を考える カレーに合う、デザートを学ぶ	・ひき肉となすのカレー（トマト・カレー粉・いんげん） ・バターライス（ターメリック・パセリ・ローストナッツ） ・コールスローサラダ ・フルーツヨーグルト	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第11回	豆腐の水切りと、ゴーヤの扱いを学ぶ 夏野菜のナスを生で食する調理法を学ぶ 季節の味噌汁を考える	・ゴーヤチャンプルー ・ナスの和え物 ・味噌汁（かぼちゃ・レタス） ・ご飯	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第12回	和の麺のゆで方を学ぶ 主菜になるつけ汁のつくり方を考える 夏野菜を取り合わせた副菜のつくり方を学ぶ	・鶏南蛮つけ蕎麦 （鶏もも肉・ネギ・卵）薬味：わさび・ネギ・七味唐辛子 ・夏野菜の甘酢漬け （アスパラ・ズッキーニ・ミニトマト） ・フルーツ （メロンまたはスイカなど）	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第13回	和洋折衷の献立を学ぶ② ひき肉の料理の特徴を学ぶ ご飯に合う副菜の調理を考える	・ハンバーグ（付け合わせ） ・和風サラダ ・大根の味噌汁 ・ご飯 ・お茶	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。また、調理法や栄養価など日本料理、西洋料理との違いなども比較してまとめておくこと。 次週の実習内容を確認すること。	120分
第14回	すし飯のつくり方を学ぶ 火を使わない夏のすし飯の具材を考える かぼちゃを煮物にする（おとしぶたの使い方を考える）	・夏のちらしずし（塩鮭・シイタケ・きゅうり・みょうが・いりごま・かまぼこ） ・かぼちゃの煮物 ・おすまし（ウズラの卵・オクラ・わかめ）	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真）、栄養価計算、反省・感想を記録する。 14週の実習を終えて、復習として自身の評価をまとめること。	120分
第15回	授業のまとめ 掃除と片付け 簡単な昼食を作る	・親子どんぶり ・即席すまし汁 ・果物	実習ノートに日本料理・西洋料理・中国料理の献立の特徴（調理法、配膳図、栄養価計算など）の比較、反省・感想を記録すること。	120分

学習計画注記	天候による食材の関係で、授業内容を変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。 また、質問等は時間内またはe-mailで受けます。
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。 筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。

	実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。 調理レポート：指定された項目の記載（15週分）内容について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習参加状況	○	○	○	○
	実習試験		○		○
	筆記試験	○	○		
	実習ノート	○			○

評価割合	実習試験（10%）筆記試験（10%）調理の実習レポート（材料・分量・調理法の記載、配膳図、反省、感想、考察（40%）、授業参加状況（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	教員が作成したレシピをプリントして配布する。
参考図書	必要に応じて印刷して配付する。 ・八訂　食品成分表　2021　女子栄養大学出版部(ISBN978-4-7895-1021-9) ・調理のためのベーシックデータブック　女子栄養出版部（ISBN978-4-7895-0323-5）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。 【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。 【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。
学生へのメッセージ	・授業後には、毎回実習内容を実習レポートにし、次回の授業開始時に提出しましょう。 ・日常的に調理の機会を作ることで、技術の上達や応用力が身につきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	料理研究家としての活動を通して得られた知見を生かして授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実習を通して、グループ内での協力・協調性を養います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ものづくり演習A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D21112M12
授業概要(教育目的)	数種類の材料を使って、立体的な造形物を複数制作する。その作業を通して、材料の特徴や制作技術の応用方法などを考えつつ、制作意図に沿ったかたちを作ることを体験的に理解する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	指定された材料と道具を用いて、定められた条件の形を作る課程を理解し、形を作ることができる。
思考・判断の観点（K）	材料の特徴を考え、作り方を工夫しながら、形を作りあげることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	自分の考えを形にすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業内容と日程の説明	授業日程の説明と予備課題	授業の目的と作品制作の手順の確認と、第２回授業の作品制作の準備。	45分
第2回	課題１：立方体の制作（１）	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、2個以上制作する。	次回以降の授業で使用する材料と道具の準備と、立方体の作り方の考案。	45分
第3回	課題１：立方体の制作（２）	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、2個以上制作する。	次回以降の授業で使用する材料と道具の準備と、立方体の作り方の考案。	45分
第4回	課題１：立方体の制作（３）	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、2個以上制作する。	完成作品の写真撮影とレポート作成の準備。	45分
第5回	練習課題：クロッキー	短時間で対象物の特徴をとらえて描く。	クロッキーの自主練習と対象物の観察。	45分
第6回	課題２：木で曲面を作る（１）	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （１）試作品の制作と面の形の確認	試作品の制作作業。	45分
第7回	課題２：木で曲面を作る（２）	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （２）形の決定とヤスリでの切削作業開始	作品の制作作業。	45分
第8回	課題２：木で曲面を作る（３）	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （３）制作作業の継続	作品の制作作業。	45分

第9回	課題２：木で曲面を作る（４）	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （４）制作作業の継続	作品の制作作業。	45分
第10回	課題２：木で曲面を作る（５）	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 （５）紙ヤスリによる作品の仕上げ	完成作品の写真撮影とレポート作成の準備。	45分
第11回	課題３：紙のカードの「TOWER」制作（１）	60mm×49mmのケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。材料は、A3のケント紙を用いる。 （１）カードの裁断作業とデザインの検討	「TOWER」のデザイン、紙の組み方の検討。	45分
第12回	課題３：紙のカードの「TOWER」制作（２）	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 （２）試作品の制作	試作品の制作作業。	45分
第13回	課題３：紙のカードの「TOWER」制作（３）	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 （３）試作品の制作とデザインの決定	試作品の制作作業とデザインの決定。	45分
第14回	課題３：紙のカードの「TOWER」制作（４）	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 （４）作品の完成	制作意図のまとめと作品の制作レポート（プレゼンテーションレポート）の制作。	45分
第15回	作品の合評会	作品とプレゼンテーションレポートを提示して、自分の作品の制作意図や制作過程での工夫点などについて発表する。	作品の制作レポート（プレゼンテーションレポート）の修正。	45分

学習計画注記	作品制作の進捗状況等により、授業計画を変更します。
学生へのフィードバック方法	提出された作品は授業終了後に返却します。
評価方法	１．提出する課題は以下のとおり。 課題１：完成した立方体6点 課題２：試作品と、完成した作品とプレゼンテーションレポート 課題３：完成した「TOWER」とプレゼンテーションレポート ２．作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。 ３．レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。 ４．平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出作品	○	○		○
	レポート	○	○		○
	平常点		○		○

評価割合	提出作品40%とレポート40%と平常点20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	水曜4時限目 1503研究室または工作工房
学生へのメッセージ	授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクロッキー帳は毎回必ず準備する。また動きやすく、汚れてもかまわない服装で出席すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ものづくり演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田　雅彦	指定なし

ナンバリング	D31113M12
授業概要(教育目的)	ものづくりの基礎として、材料に適した形を考えること、寸法を正確に測ってものを作ること、抽象的な形を考えること等、いくつかの手法でものづくりを体験し、デザインの手法と考え方を理解する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	指定された材料と道具を用いて、定められた条件の形を作る過程を理解し、形を作ることができる。
思考・判断の観点（K）	材料の特徴を考え、作り方を工夫しながら、意図する形を正確に作りあげることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	自分の考えを形にすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の説明と予備課題	授業内容と日程の説明と予備課題（漢字とアルファベットのレタリング作業）	予備課題の完成と、次回以降の授業で使用する材料と道具などの準備。	45分
第2回	［課題１］文字を切り抜いた立方体の制作（１）	立方体6面のうち、5面に文字（アルファベット）を切り抜いた立方体を作る （１）材料の検討と切り抜く文字のデザイン	立方体をつくる材料の調達と文字のデザイン	45分
第3回	［課題１］文字を切り抜いた立方体の制作（２）	立方体6面のうち、5面に文字（アルファベット）を切り抜いた立方体を作る （２）文字の切り抜き作業	文字の切り抜き作業と試作品の制作	45分
第4回	［課題１］文字を切り抜いた立方体の制作（３）	立方体6面のうち、5面に文字（アルファベット）を切り抜いた立方体を作る （３）立方体の組み立て・作品の完成	作品レポート（プレゼンテーションレポート）制作の準備	45分
第5回	［課題２］粘土（陶土）の作品制作（１）	陶土で円筒形と多角柱形の茶碗を複数制作する。 （１）陶土の練りと成形の作業。	作品の制作作業。	45分
第6回	［課題２］粘土（陶	陶土で円筒形と多角柱形の茶碗を複数制作する。 （２）成形作業の続き。	作品の制作作業。	45分

	土）の作品制作（２）			
第7回	［課題２］粘土（陶土）の作品制作（３）	陶土で円筒形と多角柱形の茶碗を複数制作する。（３）形の仕上げ。（底と内側の削り作業）	作品の制作作業。	45分
第8回	［練習課題］クロッキー	短時間で対象物の特徴をとらえて描く。	クロッキーの自主練習と対象物の観察。	45分
第9回	［課題２］粘土（陶土）の作品制作（４）	陶土で円筒形と多角柱形の茶碗を複数制作する。（４）施釉と本焼きのための窯入れ作業。	課題３のバターナイフのデザインの検討。	45分
第10回	［課題３］木のバターナイフの制作（１）	木の丸枝を材料としてバターナイフを2つ制作する。（１）1つめの作品のデザインの検討と制作。	バターナイフの制作作業。	45分
第11回	［課題３］木のバターナイフの制作（２）	木の丸枝を材料としてバターナイフを2つ制作する。（２）1つめの作品の制作と2つめの作品のデザインの検討。	バターナイフの制作作業	45分
第12回	［課題３］木のバターナイフの制作（３）	木の丸枝を材料としてバターナイフを2つ制作する。（３）1つめの作品の制作（仕上げ）と2つめの作品のデザインの検討。	バターナイフの制作作業	45分
第13回	［課題３］木のバターナイフの制作（４）	木の丸枝を材料としてバターナイフを2つ制作する。（４）2つめの作品の制作。	バターナイフの制作作業	45分
第14回	［課題３］木のバターナイフの制作（５）	木の丸枝を材料としてバターナイフを2つ制作する。（５）2つの作品の仕上げ作業	バターナイフの制作作業と作品レポート（プレゼンテーションレポート）の準備	45分
第15回	作品の合評会	作品とプレゼンテーションレポートを提示して、自分の作品の制作意図や制作過程での工夫点などについて発表する。	プレゼンテーションレポートの修正	45分

学習計画注記	教室外学習の時間を有効に使って作品の制作を進めて下さい。
学生へのフィードバック方法	提出された作品は授業終了後に返却します。
評価方法	１．提出する課題は以下のとおり。 課題１：完成した立方体1点 課題２：完成した作品とプレゼンテーションレポート 課題３：完成したバターナイフ2本とプレゼンテーションレポート ２．作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。 ３．レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。 ４．平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出作品		○		○
	レポート	○	○		○
	平常点		○		

評価割合	提出作品40%とレポート40%と平常点20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	火曜日5時限 1503教室または工作工房
学生へのメッセージ	手も服も汚れる作業をします。それに対する準備をして授業に参加して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	スタディツアー		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科　教員	指定なし
准教授	呉　起東	指定なし
准教授	齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D21202M22
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の各分野〔「衣生活デザイン」「住生活デザイン」「グローバルコミュニケーション（コミュニケーション・情報）」「コミュニティデザイン（地域・園芸・ビジネス）」〕に関係する地域や施設を訪ねる実習体験を通して、高度な専門性と実践的な知識・技術の習得や、現地での人との交流を通してコミュニケーション力を養うことを目的としている。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活デザイン、住生活デザインに関する高度な専門性について理解できる。
思考・判断の観点（K）	実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	収集した情報を分析、整理し、他者に分かり易く発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	「韓国・ソウル市スタディツアー」の紹介とスタディツアー実施方法と課題の説明。	（予習・復習）「韓国・ソウル市」について、どのような地域なのかを確認する。韓国への渡航・ソウル市内の移動について調べる。	180
第2回	ソウル市の取り組み事前調査	ソウルの子ども中心のまちづくり・コミュニティデザインについて担当教員の研究から学び、グループで事例を調査する。	（予習・復習）授業内のグループ課題をまとめる。スタディツアーでの各自の参加の計画を立案する。	180
第3回	ソウル市の事前調査報告会	グループ毎に事例調査の結果を報告する。スタディツアー実施の詳細の確認を行う。	（復習・予習）授業内のグループ発表の内容をまとめ、スタディツアーでの自分の目標を立案する。	240
第4回	ソウル市スタディツアーの実施（第2日）	ソウル市の子ども・若者施設訪問見学１。訪問箇所は学生と相談の上選定する。（備考：初日は移動日）	（復習）訪問した施設の取り組みで学んだことを記録する。	45
第5回	ソウル市スタディツア	ソウル市の子ども・若者施設訪問見学２。訪問箇所は学生と相談の上選定する。	（復習）訪問した施設の取り組みで学んだことを記録する。	45

	ーの実施（第2日）			
第6回	ソウル市スタディツアーの実施（第2日）	ソウル市の子ども・若者施設訪問見学３。訪問箇所は学生と相談の上選定する。	（復習）訪問した施設の取り組みで学んだこと、第２日に訪問した３つの施設についての考察を記録する。	120
第7回	ソウル市スタディツアーの実施（第3日）	韓国の伝統的および最新の建築調査１。訪問見学箇所は事前の学生との相談で選定する。	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する	45
第8回	ソウル市スタディツアーの実施（第3日）	韓国の伝統的および最新の建築調査２。訪問見学箇所は事前の学生との相談で選定する。	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する。	45
第9回	ソウル市スタディツアーの実施（第3日）	韓国の伝統的および最新の建築調査３。訪問見学箇所は事前の学生との相談で選定する。	（復習）訪問した施設で学んだこと、第３日に訪問した３施設についての考察を記録する。	120
第10回	ソウル市スタディツアーの実施（第４日）韓国デザインの最前線見学	イラク出身の建築家ザハ・ハディッド氏が設計士、３次元の立体設計技法を駆使して設計された非線形的な建築デザインが特徴のDPP（東大門デザインプラザ）内の「アートホール」を訪問見学する。	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する。	45
第11回	ソウル市スタディツアーの実施（第４日）韓国デザインの最前線見学２	DPP（東大門デザインプラザ）内の「ミュージアム」を訪問見学する。	（復習）訪問した施設で学んだことを記録する。	45
第12回	ソウル市スタディツアーの実施（第４日）韓国デザインの最前線見学３	DPP（東大門デザインプラザ）内のデザインビジネス拠点「デザインラボ」を訪問見学する。	（復習）訪問した施設で学んだこと、DPPについての考察を記録する。	120
第13回	ソウル市スタディツアーの実施（第5日）	現地でのまとめミーティング・帰国	（予習・復習）見学活動の振り返り内容をまとめ報告を準備する。	300
第14回	「韓国・ソウル市」スタディツアーの振り返り	各自が作成した見学活動報告レポートを基に、グループ毎に見学活動内容を振り返り、実施報告用のパワーポイント資料の作成を行う。	（予習）見学活動の振り返り内容をまとめ見学活動報告レポートを執筆する。	300
第15回	スタディツアー実施報告会	見学活動報告について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションにより発表する。	（予習・復習）パワーポイントでの発表準備を行う。発表会での意見なども参考に見学活動報告レポートを完成させて提出する。	300

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	グループワーク時に適宜口頭でアドバイス。 発表会での講評。 報告レポートへのコメント。
評価方法	①報告会（報告内容、構成、表現、プレゼンテーション） ②報告レポート（報告内容、構成、表現） ③ツアーでの活動内容（計画の遂行能力、自律的行動力） ④平常点（グループワークにおける提案力、調整力、行動力、課題への取り組みの姿勢） などを総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	事前調査報告会	○	○	○	○
	実施報告会	○	○	○	○
	報告レポート	○	○	○	○
	ツアー活動内容	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	報告会２０％　報告レポート３０％　ツアーでの活動内容２０％　平常点３０％
使用教科書名(ISBN番号)	『市民力で創る子育てとコミュニティ　韓国・市民活動の挑戦』Art.31

参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活デザインの専門分野に関する知識を身につけ、高度な専門性について理解できる。 【思考・判断】実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。 【技術・表現】情報を収集し、分析、整理できる能力を身につけ、他者に分かり易く発信することができる。
オフィスアワー	齋藤：火曜日2限　1607研究室 呉：
学生へのメッセージ	韓国では市民・企業・行政のそれぞれに子どもを中心にしたまちづくり・応援の取り組みが進んでいます。また、文化も大切にされ、日本へもKポップや韓流ドラマがたくさん紹介されています。韓国の現場に出かけ、日本でのまちづくりや生活のデザインに活かす視野を得ましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に対し自ら調べ、グループワークで協議し、発表する。
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集、分析、整理し、発表する。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	テキスタイル加工演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田　朋美	指定なし

ナンバリング	D22102M12
授業概要(教育目的)	各種繊維の性質を応用してテキスタイルにデザイン的・機能的な付加価値を付与するための加工法について理解する。特にデザイン性を付与する加工については、作品制作を通して、デザインの考案と加工理論や技術を習得させることを目的としている。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	繊維製品の高付加価値化に関する理論や技術を理解できる。
思考・判断の観点（K）	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点（A）	洗練された表現力で課題解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	繊維製品の加工	繊維製品の一般加工と特殊加工について学習する。この授業では、特に布の風合いやテクスチャー、外観を変化させる特殊加工を行い作品制作をすることを理解する。	【復】各テーマの作品デザイン要素を収集する。	30分
第2回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（１）ー綿の収縮加工①ー	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。ーデザイン考案とデザイン付与ー	【予】綿の収縮加工のデザインを考案してくること。【復】収縮加工の準備を完了させること。	60分
第3回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（１）ー綿の収縮加工②ー	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。ー収縮加工の実施ー	【復】綿の収縮加工のレポートを作成すること。収縮加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	60分
第4回	特殊素材の加工ーアルミ蒸着布①ー	アルミ蒸着布の構造を理解し、どのようにデザインに活かすかを考える。	【復】アルミ蒸着布の加工デザインを考案しておくこと。	30分
第5回	特殊素材の加工ーアルミ蒸着布②ー	考案したデザインに基づき、アルミ蒸着布の染色加工準備をする。	【予】アルミ蒸着布の加工デザインを考案しておくこと。	30分
第6回	特殊素材の	考案したデザインに基づき、アルミ蒸着布の染色加工を	【復】アルミ蒸着布の加工のレ	90分

	加工ーアルミ蒸着布③ー	する。	ポートを作成すること。アルミ蒸着布を加工したテキスタイルを使用して作品制作を行う。	
第7回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）ーオパール加工①ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。ーデザインの考案ー	【復】オパール加工のデザイン下絵を終わらせること。	30分
第8回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）ーオパール加工②ー	繊維の耐薬品性を応用しオパール加工の理論と技術を理解する。ー糊置きー	【復】オパール加工糊置を完了させること。	30分
第9回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）ーオパール加工③ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。ー糊置きー	【復】オパール加工糊置を完了させること。	30分
第10回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）ーオパール加工④ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。ー繊維除去ー	【復】オパール加工の理論と技術を確認しておくこと。	30分
第11回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）ーオパール加工⑤ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。ー染色ー	【復】オパール加工の理論と技術を確認しておくこと。	30分
第12回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工（２）ーオパール加工⑥ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。ー染色ー	【復】オパール加工のレポートを作成すること。オパール加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	90分
第13回	作品制作	加工したテキスタイルを活かした作品制作を行う。	【復】加工したテキスタイルを活かした作品を完成しておくこと。	45分
第14回	プレゼンテーション資料の作成	加工したテキスタイルを活かした作品のコンセプト、制作方法等のプレゼンテーション資料を作成する。	【予】作品発表会のプレゼンテーションの資料を完成しておくこと。	45分
第15回	作品発表会	加工したテキスタイルを活かした作品のコンセプト、制作方法等をプレゼンテーションする。	【予】作品発表会のプレゼンテーションの練習をしておくこと。【復】作品報告レポートを完成させること。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 作品発表会での講評。 提出レポート、作品に対してのコメント。
評価方法	①レポート提出（内容の理解、丁寧さ、提出日の順守について評価） ②作品提出（完成度） ③発表会でのパフォーマンス（内容の理解、構成、表現力を評価） ④平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
作品	○	○	○	○
発表会	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合	提出レポート40%　作品30%　平常点30%　を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配付
参考図書	①衣服材料の科学（ISBN4-7679-1044-7　島崎恒藏編著　建帛社発行　平成14年第４刷） ②最新テキスタイル工学Ⅱ（ISBN978-4-908111-09-9　西松豊典編著　繊維社企画出版発行　2016年第２版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

	【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日１２時３０分～１４時　２４０７被服材料学研究室 tomoh@kasei-gakuin.ac.jp 質問や相談があればメールを下さい。必要に応じてオンライン、または対面にて対応します。
学生へのメッセージ	イメージしたことを形にすることを楽しんでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる作業、ディスカッション。作品発表会。
情報リテラシー教育	○	デザイン情報を収集し整理して、オリジナルデザインを考案し、プレゼンテーションする。
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	テキスタイルデザイン論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 願　真源	指定なし

授業概要(教育目的)	衣服やインテリア製品に使用され、私たちの生活に欠くことのできない布帛（テキスタイル）はどのように設計され、制作されているのか、技術的、歴史的、文化的側面から捉え、テキスタイルデザインとは何かについて考察考察する力を育成する。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１、テキスタイルデザインについて技法の特徴を説明できる。 ２、技法について歴史的な発展経緯を説明できる。
思考・判断の観点（K）	１、社会的要因によって、影響を受けてきたテキスタイルデザインの分析を重ね、デザインについての分析の仕方を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	この授業の全体をオムニバス的に紹介する。東洋の織りと染めの歴史の変遷を文様の意匠から理解する。染織品に表れた文様がどのような染織技法で表現され、それらが時代によってどのように移り変わってきたかを学ぶ。	授業で配布したプリントの「染織史」を読むこと。	140分
第2回	植物繊維	植物から糸を作る工程を紹介する。植物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。	授業で配布したプリントの「繊維ーー１.植物繊維」を読むこと。	140分
第3回	動物繊維	動物から糸を作る工程を紹介する。動物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。	授業で配分したプリントの「繊維ーー2.動物繊維」を読むこと。	140分
第4回	色	天然の染料の原料の紹介。天然染料の発色と、化学染料の発色を見比べる。	授業で配分したプリントの「染料について」を読むこと。	140分
第5回	絞り	絞りは昔纐纈と呼ばれ、糸や紐で布をくくったり、しごいたりして防染する古典的な染色技法の一つである。インドから中央アジア、中国を経て日本には7世紀に伝播している。現在では愛知県の有松・鳴海絞りや京都の京絞りへと伝承されている。授業内では、様々な絞りの手法を実材見本を提示し、さらに知識を深めていく。	授業で配分したプリントの「染ーー１.絞り」を読むこと。	140分
第6回	型染	三重県白川白子地区で代々受け継がれている「伊勢型」を使った染色法である。「型染め」のルーツと変遷、現在へどのように受け継がれているかを検証し学ぶ。	授業で配分したプリントの「染ーー2.型染」を読むこと。	140分
第7回	シルクスクリーンプリ	日本の「型染め」がルーツと言われ、印刷技術と共にイギリスで開発された効率化を実現した「シルクスクリー	授業で配分したプリントの「染ーー3.シルクスクリーンプリン	140分

	ント	ンプリント」技法。その歴史的背景と、現況と市場での位置づけなどを作品の実例などを提示しながらその特徴を学ぶ。	ト」を読むこと。	
第8回	デジタルプリント	1983年にパーソナルコンピューターが普及し、印刷技術のデジタル化が急速に発展した。同時に染色分野にもデジタル化が追随することになるが、あらゆる表現が可能になるデジタル染色品の事例と実材サンプルを手捺染との比較をしながらその特徴を学ぶ。	授業で配分したプリントの「染ーー4.デジタルプリント」を読むこと。	140分
第9回	注染	明治時代後期に始まった染色法で、ゆかたやてぬぐいに用いられてきた。技法の特徴と歴史を紹介する。	授業で配分したプリントの「染ーー5.注染」を読むこと。	140分
第10回	絣	日本の木綿の三大絣を中心に講義を進める。その中でも現在も市場で評価の高い、久留米絣を中心に、その発祥から現在に至るまでの産地の状況や、絣布の魅力を学ぶ。さらには、これからの伝統工芸の課題なども考察していく。	授業で配分したプリントの「織ーー１.絣」を読むこと。	140分
第11回	銘仙	平織りの絹織物の一つで、経糸と緯糸の糸の段階で文様を描く「ほぐし技法」で染色し、その糸を使って織り上げる技法を銘仙と呼ぶ。大正時代から昭和初期にかけて大流行した銘仙、その理由には、銘仙の図柄、デザインに特徴がある。それらのデザインを知ることで、様々な美術様式の変遷を学ぶ。	授業で配分したプリントの「織ーー2.銘仙」を読むこと。	140分
第12回	綴織	西洋でいうところのタペストリーと同じ技法なので、東洋の作品と西洋の作品の両方の紹介。	授業で配分したプリントの「織ーー3.綴織」を読むこと。	140分
第13回	編み	「編み」は「織り」と違い、一本の糸で一枚の布の構造を作ることのできる技法である。手芸的に発展した「編み」の技法が家庭用編み機の発明につながり、その後「横編み機」、無縫製横編み機「ホールガーメント機」へ発展したかをサンプルを手に取りながら学ぶ。また、現在では美術表現の一つとして新しい美術様式として確立してきていることを学ぶ。	授業で配分したプリントの「編について」を読むこと。	140分
第14回	沖縄の染織	久米島紬、宮古上布、琉球絣、首里織、喜如嘉の芭蕉布、紅型などそれぞれの技法を紹介する。	授業で配分したプリントの「沖縄の染織について」を読むこと。	140分
第15回	近代から現代へ	アニ・アルバースによる、バウハウスのテキスタイルデザインと後世への影響を紹介する。また、株式会社会社NUNOを紹介し、時代の転機と現代のテキスタイル業界を把握する。	授業で配分したプリントの「バウハウスのテキスタイルデザインについて」を読むこと。 日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字のレポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。	140分 600分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。
評価方法	・毎回のレジュメの内容から理解度の確認。 ・日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字の　レポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レジュメ	○			
	レポート	○	○		

評価割合	レジュメ（70%）及びレポート（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配付。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】テキスタイル作品を見ることで、その生地の技法を判断できる。 【思考・判断】テキスタイルの歴史を分析することで、時代に沿った提案ができるようになる。
学生へのメッセージ	生活の中で、切り離すことができないテキスタイルという分野を詳しく理解して見ませんか。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。広い視野でテキスタイルデザインについて指導することができる。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	プリンティングデザイン演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 願　真源	指定なし

授業概要(教育目的)	テキスタイルプリントデザインの基本となる柄の送りについて学び、自然をモチーフにしたデザイン、幾何学的デザイン等、更に、対象や用途を設置したデザインについて解説し、捺染技法の基礎を理解する力を育成する。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1、歴史的な観点で捺染を説明することができる。 2、染物の種類を把握することができる。
思考・判断の観点（K）	1、色の組み合わせ、モチーフの選択、配置をバランスよく組み合わせることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1、自らクリエイティブな発想をしようと日常的に意識することができる。
技術・表現の観点（A）	1、プリントする際に、キレイに見せるための段取りや力加減が調整できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	講義	捺染とは：染料を布地になすりつけて染めること。技法で分類すると、直接捺染法・抜染法・型付け浸染法などが主である。それぞれの技法の説明と特徴についての講義と、作品制作のサンプルを提示する。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第2回	型染	シルクスクリーンプリントのルーツである型染について説明し、デザインを考える。	授業で配分したプリントを読むこと。 型染のデザインを考えること。	120分
第3回	型彫り	デザインの定まったものから型紙の制作をする。	デザインを考えること。 型紙を制作すること。	140分
第4回	制作	型染の手順に沿って作業を進める。	デザインを考えること。 型紙を制作すること。	140分
第5回	紗張り、糊置き	制作した型紙を紗張りし、糊置きする。	型紙を制作すること。 糊置きすること。	120分
第6回	染色	染色に使う染料を作る。糊が乾いた生地に染色を行う。	作品を染めること。	140分
第7回	講評	型染の作品の講評とシルクスクリーンプリントの説明。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第8回	色彩計画	これまでに撮影した画像を見直し、気に入った素材を探し出す。画像から色を抽出し、ストライプ状に色を構成する。（刺繍糸、カラーカード、ガッシュ、ポスターカラー、クレヨン、色鉛筆等々）	色彩計画を作成すること。	120分

第9回	パターン計画	何からデザインを抽出するかを考える。写真などの画像から、あるいは、手描きドローイングなどを元に抽象化することを学ぶ。	デザインを考えること。	120分
第10回	リピート計画	抽象化したパターンを繰り返し構成することで、画面の広がりと共にリズムが生まれる。捺染する前の重要な行程である。	デザインを考えること。 原画を制作すること。	120分
第11回	リピート計画	抽象化したパターンを繰り返し構成することで、画面の広がりと共にリズムが生まれる。捺染する前の重要な行程である。	デザインを考えること。 原画を制作すること。	120分
第12回	染色	⑧で検討した色彩計画のなかからデザインとのバランスを考慮して色を抽出しインクを選択する。力加減を注意しながら作成する。	原画を制作すること。 作品を染めること。	140分
第13回	捺染	捺染の手順に沿って染め進める。	作品を染めること。	140分
第14回	展示発表	制作した布がどのように使われるべきか、あるいはどのように展示されるべきか検討する。	作品を染めること。 展示方法を考えること。	140分
第15回	鑑賞と講評	仕上がった布を展示することで、作品の見え方、環境が変化することを実感することは重要である。テキスタイルが生活にとってどのような役割であるかを検証する。	作品をディスプレイしておくこと。 これまでの授業内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。
評価方法	・毎回のレジュメの内容から理解度の確認。 ・作品からは色と模様とリズムのバランスを見て評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レジュメ		○		
	作品		○		○

評価割合	レジュメ（30%）及び作品（70%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配付。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】歴史的な背景からデザインを語れる。 【技術・表現】オリジナリティ溢れる表現を身につける。
学生へのメッセージ	伝統技法が衰退しているかなで、イノベーションを起こしませんか。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。 生地の制作と、生地を日用品にする制作の両方を行っており、広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本文化論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 内藤　久義	指定なし

ナンバリング	D24101M21
授業概要(教育目的)	本授業では講義だけでなく、映像や音楽の視聴から日本文化の様々な事象を発見していきます。 例えばアニメの映像やMVに表象されるものの中には、日本文化が連綿と持ち続けてきた一端が表現されています。 現代の日本文化とは、昔話や伝説や怪談、また古代・中世の建築、家具、衣服、食など、日本の古層にある文化を取り込んで成立したことを学習します。 とは言っても授業では昔話をするわけではありません。LGBTやXジェンダーの問題、ポップカルチャーなども対象として、これらの文化事象の成り立ちと、なぜ現在まで伝え続けられてきたのかを、日本文化論という視座から学び発見していきます。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現在の日本文化の成り立ちを日常にある様々な事象から学生が考察し、以下の2点を知識・理解の到達目標とする。 ①今ある私たちの日常の営みが、どのような基層文化を経て成立しているかを、学生自身が日本文化論という視座から説明できるようになる。 ②日本文化論を学ぶことにより、文化の成り立ちやそこに付される意味を発見し、学生がレポートとしてまとめられる力を付ける。 以上をグローバルな視点も含めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐ一助とする。
思考・判断の観点（K）	なぜ日本にはこのような文化が存在するのかという問いを学生自身が提起し、それを理論的に思考・判断し回答を導くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	①学生が授業内での質疑応答やグループセッション等で意欲的に発言できる。 ②授業の知見から社会の中にある諸問題に関心を持ち、学生自身がその問題に対しての方策を立案することができる。 以上の2点を自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	学習したことをリアクションペーパーやレポートに文章として表現する技術を身につける。 その表現はレポートだけにとどまらず、今後、社会人として生活する上で役立つものとする。

学習計画

日本文化論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 文化とは①	授業内容・評価方法などのガイダンスと、アフリカの「FOLI」やロシア・サハ共和国のアーティスト「UUTAI」、日本の「SEKAINO OWARI」の映像に表象されるものから文化とは何かを考えます。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 「文化」がつく語を調べる（例：文化祭、文化包丁など）。	180
第2回	文化とは②	文化の日、文化住宅、サブカルチャー、ポップカルチャー。様々な文化のついた言葉がある。それらは日本の歴史の中からどのように生まれ出て来たものなのか、『源氏物語絵巻』の画像やアニメ「鬼滅の刃」の映像から学びます。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 「鬼滅の刃」1話～3話を視聴（推奨）、『源氏物語』の概要について調べる。	180
第3回	里山の思想と文化―アニメ『となりのトトロ』から	1960年代の急激な高度成長により、日本文化の伝承の舞台となった里山が消滅していく。日本独特の景観と文化を形成する里山とは何か、里山が創りだすものとは何かを、アニメ『となりのトトロ』や『平成狸合戦ぽんぽこ』をヒントに考えます。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 身近にある「里山」について調べる。	180
第4回	文化と境界①―アニメ『攻殻機動隊:GHOST IN THE SHEL』から	私たちは日常の中に様々な境界を設け、時にはそれが紛争の原因にもなる。日常から境界を超えた先にある「異界」とは何か、また「境界」はどのように日本文化に作用して来たのかについて、アニメ『攻殻機動隊:GHOST IN THE SHEL』から発見します。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 自宅や周辺にある境界について書きだす。	180
第5回	文化と境界②	街の風景の中にも境界は存在します。境界にはメルクマール（指標）が設定され、アニメ『君の名は。』や『千と千尋の神隠し』にはそれが顕著に表現されている。同作や中世絵巻の画像、また『古事記』の読解から、なぜ境界にはメルクマールが設定されるのかを考えます。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 鈴木三重吉『古事記物語』 （https://www.aozora.gr.jp/cards/000107/files/1530_5502.html）を読む。	180
第6回	文化と境界③	「まれびと」は民俗学者・歌人の折口信夫（釈迢空）の重要な概念の一つです。時を定めて異界からやってくる者たち、これを「まれびと」と呼びました。アニメ『千と千尋の神隠し』から「まれびと」とは神か物の怪か、その姿を探ります。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 折口信夫の著作について調べる。	180

第7回	幽霊と妖怪①	境界を超えてやって来る者たちに幽霊や妖怪がいる。幽霊・妖怪は日本においてどうのように発生し、なぜ我々の元へやって来るのか。そして現在までどのようにして語り継がれているのかを、図像資料やブレークアウトルームでのセッションから考察します。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 せなけいこ『ねないこだれだ』を読む（推奨）。 次回の授業（第8回）のために自身が体験した（または聞いた、読んだ、観た）怪談を発表できるようにまとめておく。	180
第8回	幽霊と妖怪②	学生たちが体験した怪談を語ってもらい、その語りから日本文化において幽霊や妖怪とはどのような存在であるのか、伝承とは何かを考えます。 また柳田国男や諏訪春雄の幽霊と妖怪の定義から、古い神と新しい神の存在があることを学びます。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 柳田国男『遠野物語』 （https://www.aozora.gr.jp/cards/001566/files/52504_49667.html）を読む。	180
第9回	穢れと文化①ー民族と排除、アニメ『もののけ姫』から	日本は多民族国家です。アイヌ民族は古代に北関東から東北・北海道を中心に住み、朝廷の支配に服属しなかった人々。しかし江戸時代、松前藩による支配と搾取、明治政府の同化政策等によりアイヌ民族の文化は破壊されました。なぜ人は人を排除しようとするのか。アニメ『もののけ姫』から考えます。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 『もののけ姫』の時代背景について調べる。 『もののけ姫』の視聴（推奨）。	180
第10回	穢れと文化②ーアニメ『アラジン』から	西洋社会が持たないものを「異質」「不気味」なものとして規定する姿勢を批判したオリエンタリズム。西洋は私たちが暮らす東洋（オリエンタル）の文化に対して、どのようなイメージを作りだしたのかをアニメ『アラジン』の分析から知ります。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 エドワード・サイード『オリエンタリズム』を読む（推奨）。	180
第11回	日本文化と絵画—ばえる人、バズる人　中世絵巻と図像から	絵画もまた文化の伝達方法の一種でした。絵巻や屏風図は現代のSNSと同じく、自分の容姿や考えを主張し発信しました。日本の中世から近世にかけての図像から、日本文化において絵画が担ったきた役割について学びます。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 「文化遺産オンライン」（https://bunka.nii.ac.jp/）で興味ある画像を調べる。	180
第12回	人生儀礼—アニメ『エヴァンゲリヲン新劇場版:序』から	現在も七五三や成人式、還暦など人生の節目には儀礼が行われる。人は誕生から死まで、いくつものカテゴリーを作りますが、その境界にある曖昧な領域に注目します。メアリ・ダグラス『汚穢と禁忌』及びアニメ『エヴァンゲリオン新劇場版：序』か、人生儀礼と境界について考察します。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 『エヴァンゲリオン新劇場版：序』の視聴（推奨）。	180
第13回	性と日本文化—LGBTからXジェンダーへ	性の多様性について日本や世界の状況を知り、さらに日本の中世に遡りジェンダーはどのように文化の中に反映されていたのかを、中世絵巻や『とりかえばや物語』、Siaのミュージックビデオ、また関西の大学生たちが制作した映像を視聴しながら討議します。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 日本をとりまくジェンダーの状況について調べる。	180
第14回	日本文化の多様性	1960年代に欧米で発生した「カウンターカルチャー」は、既存の文化に対抗し新たな文化を形成しようとする若者たちのムーブメントでした。日本でもヒッピーやフラワーチルドレンが登場しますが、現在の日本文化に与えた影響について、音楽やCM、また文学作品から検討します。	講義資料のPowerPoint（サイトにアップ）を復習する。 1960年代、70年代の若者の文化について調べる。	180
第15回	授業総括	これまでの14回の授業の総括と日本文化についてのディスカッションを行う。	14回分の講義資料PowerPointを読み直す。	180
第16回				

学習計画注記	本授業の特徴として、私（教員）の一方的な講義だけではなく、様々な映像や音楽を視聴しながら学生たちから意見を求めます。 学生同士がグループセッションにおいて議論を行い、また「怪談」や「世間話」を語ってもらいます。 なお進行度合いや学生数により、授業テーマは前後することがあります。
学生へのフィードバック方法	各回のリアクションペーパーへの応答、またストリームなどで応答します。
評価方法	①授業内で提出したリアクションペーパー ②学期末レポート ③授業及びグループセッションでの積極的な参加態度（発言や質問） 以上の3点を総合的に評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	○
	リアクションペーパー	○	○	○	○
	授業への積極的な参加		○	○	

評価割合	レポート70%、リアクションペーパー20%、授業への積極的な参加10%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	履修する学生は以下のアニメを観ておくとことを薦めます。 「となりのトトロ」宮崎駿　1988年 「もののけ姫」宮崎駿　1997年 「千と千尋の神隠し」宮崎駿　2001年 「君の名は。」新海誠　2016年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学生が日本文化の成り立ちについて専門的知識を有し、その意味について理解している。 【思考・判断】日本文化に表象する様々な問題について、学生自身で問題提起し、それを思考し解決する力を有する。 【関心・意欲・態度】現代の日本社会に展開される事象に関心を持ち、意欲的に学び吸収することができる。
オフィスアワー	メールまたは授業終了後に対応します。
学生へのメッセージ	本授業では皆さんが暮らしている日本という国を、「文化」をキーワードに学びます。 しかし、文化とはとても広く深く、そして曖昧な概念です。 はたして文化とは何でしょうか。 例えばインスタやTikTokに「映える」写真や映像をアップしている学生もいるかと思います。これも現代のポップな文化でしょう。 しかし、映える文化はSNSが登場してから始まったわけではありません。室町時代には、すでにジョジョ立ちしている美少年の絵がアップされ（屏風図に）、平安時代の『源氏物語』は、宮中の女性の奪い合いになるほどバズりました。そして『源氏物語』のアニメ版「源氏物語絵巻」が登場します。 また現代のマンガやアニメ描写の手法は、すでに平安時代の絵巻「信貴山縁起絵巻」や「鳥獣戯画」などで使われているのです。 幽霊や妖怪も重要な日本の文化です。 1000年以上も昔に怪談は登場し、今もトイレの花子さんや口裂け女、きさらぎ駅など、怪談は語られ続けています。 なぜ幽霊には足がないのか、幽霊と妖怪とオバケの違いとは？ そしてなぜ怪談はいまだに語り続けられているのか。これを知ることも日本文化論の授業です。

	幼児が最初に出会う幽霊や妖怪が、せなけいこさんの『ねないこだれだ』に出てくるオバケと、PCゲームで撃ち殺されていくゾンビとでは、幼児の心性の発達にも大きな違いが出てくるかもしれません。 私たちだけでなく次世代に語り継ぐためにも、日本文化論という視座から幽霊や妖怪をきちんと学び考察する必要があります。 しかし日本文化論は「昔」を知る授業ではありません。現代のサブカルチャーやLGBTさらにXジェンダー、クィアについても皆さんと議論します。 そしてこの授業では「書くこと」に重点をおきます。 学生自身の考えたことを文章にして他者に伝える。書くことは一番身近で重要な表現方法です。毎回のリアクションペーパーやレポートで、日本文化について皆さんが学んだことを表現してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	レポート作成の際の引用・参考文献の正し表記方法、インターネット引用の場合のリテラシーについての学習
ICT活用	○	パワーポイント使用（毎回）・パワーポイント内リンクからネット上の映像再生

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Practical English A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D24102M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、使える英語（Practical English）を身につけていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・自己紹介	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。	他者の自己紹介を作文する。	45
第2回	好きなもの／嫌いなもの	自分が好きなもの／嫌いなものについて紹介しあう。その際に必要な表現、文法、語彙等も学ぶ。	他者の「自分が好きなもの／嫌いなもの」を作文する。	45
第3回	いつも何をしている？	自分が「いつもしていること」について紹介し合う。その際に必要な表現、文法、語彙等も学ぶ。	他者の「いつもしていること」を作文する。	45
第4回	家族や親戚	家族や親戚について紹介しあう。その際に必要な表現、文法、語彙等も学ぶ。	他者の家族や親戚について作文する。	45
第5回	大学生活	大学生活（キャンパスで好きな場所、好きな授業等）について紹介しあう。その際に必要な表現、文法、語彙等も学ぶ。	他者の大学生活を作文する。	45
第6回	私の家の好きな場所・好きなもの1	「私の家の好きな場所・好きなもの」のモデル発表を見る。その後、アウトラインの立て方を学び、自分の発表のアウトラインを作成する。	発表のための写真を撮る。	45
第7回	私の家の好きな場所・好きなもの2	パワーポイントの作成の仕方と発表によく使われる表現、文法、語彙を学ぶ。	発表用パワーポイントを作成する。	45

第8回	私の家の好きな場所・好きなもの3	発表の口述原稿の書き方とよく使われる表現、文法、語彙等を学ぶ。	発表の口述原稿を書く。	45
第9回	私の家の好きな場所・好きなもの4	プレゼンテーションの方法を学び、発表の口頭練習をする。	発表の練習をする。	45
第10回	私の家の好きな場所・好きなもの5	パワーポイントを使って、「私の家の好きな場所・好きなもの」を紹介しあう。相互に質問することで、話題を発展していく。	歌いたい英語の歌を選ぶ。	45
第11回	未来の私1	卒業後の自分についての希望や予想をシートにまとめ、発表する。	シートを修正する。	45
第12回	未来の私2	30代の自分について、希望や予想をシートにまとめ、発表する。	シートを修正する。	45
第13回	未来の私3	50代の自分について、希望や予想をシートにまとめ発表する。	シートを修正する。	45
第14回	未来の私4	70代の自分について、希望や予想をシートにまとめ、発表する。	シートを修正する。	45
第15回	特別な思い出1	頭に浮かぶ思い出を書き出し、その中でも特に特別なものを一つ選ぶ。その後、「特別な思い出」のモデル発表を見る。アウトラインの立て方を復習する。	アウトラインを立てる。	45
第16回	特別な思い出2	アウトラインを修正する。パワーポイントについて計画する。	パワーポイントを作成する。	45
第17回	特別な思い出3	口述原稿を書くために必要な表現、文法、語彙を学ぶ。口述原稿を書き始める。	口述原稿の下書きを完了する。	45
第18回	特別な思い出4	修正のポイントにそって口述原稿を書き直す。PPTと合わせて再調整する。	発表の練習をする。	45
第19回	特別な思い出5	プレゼンテーションの方法を復習する。発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第20回	特別な思い出6	パワーポイントを使って「特別な思い出」を紹介しあう。相互に質問することで、話題を発展していく。	英語で読みたい素材があるかどうか探す。	45
第21回	英語で童話を読んでみよう1	英語の童話を読み、次にどのような展開になるかを予想する。	感想と予想を作文にまとめる。	45
第22回	英語で童話を読んでみよう2	英語の童話を読み、次にどのような展開になるかを予想する。	感想と予想を作文にまとめる。	45
第23回	英語で童話を読んでみよう3	英語の童話を読み、次にどのような展開になるかを予想する。	感想と予想を作文にまとめる。	45
第24回	英語で童話を読んでみよう4	英語の童話を読み、次にどのような展開になるかを予想する。	感想と予想を作文にまとめる。	45
第25回	英語で童話を読んでみよう5	童話を結末まで読み、感想を話し合う。物語の構成について確認する。	自分のストーリーの主人公のキャラクターを決める。	45
第26回	英語でストーリーを書いてみよう1	典型的な物語展開のパターンを学び、自分のストーリーのアウトラインを立てる。	アウトラインを修正する。	45
第27回	英語でストーリーを書いてみよう2	ストーリーのページ割り計画を作成し、ストーリーを書き始める。	ストーリーの続きを書く。イラスト、写真、挿絵の準備をする。	45
第28回	英語でストーリーを書いてみよう3	ブックの作成方法を学ぶ。ストーリーの表現を修正し、ブックを作成する。	ブックを完成する。	45
第29回	英語でストーリーを書いてみよう4	朗読の方法を学び、自分のストーリーの朗読の練習をする。	朗読の練習をする。	45
第30回	英語でストーリーを書いてみよう5	それぞれのブックを見ながら、作成者の朗読を聴く。その後、相互に感想や質問をする。	他者のストーリーの感想を作文する。	45

学習計画注記	学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント。
評価方法	課題（完成度により評価する） 発表（プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

評価基準	
評価基準	

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	発表	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題40%、発表30%、平常点30%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。 【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。 【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。 【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。
オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限（前期）
学生へのメッセージ	今の力は問いません。「英語でコミュニケーションできるようになる」という強い気持ちだけ持って来て下さい。一段ずつ階段を上るように進めますので心配いりません。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Practical English B		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D24102M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、英語による思考能力も高めていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・自己紹介	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。	他者の自己紹介を作文する。	45
第2回	日本の食べ物を紹介しよう1	英語圏と日本の食べ物の代表例を挙げ、それぞれの特徴について考える。また西洋由来で日本で売られている食品で、外国人に人気の高いものを知り、その理由を考える。	外国人に紹介したい日本の食べ物を考えて、写真を準備する。	45
第3回	日本の食べ物を紹介しよう2	日本の食べ物を紹介するモデル発表をきき、アウトラインとパワーポイント作成の方法について学ぶ。アウトラインを作成する。	パワーポイントを作成する。	45
第4回	日本の食べ物を紹介しよう3	発表に使われる表現、口述原稿の作成方法を学び、口述原稿を書き始める。	口述原稿を完成する。	45
第5回	日本の食べ物を紹介しよう4	口述原稿を修正し、プレゼンテーションの方法を学ぶ。	発表の練習をする。	45
第6回	日本の食べ物を紹介しよう5	質疑応答の表現を学び、発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第7回	日本の食べ物を紹介しよう6	外国人に紹介したい日本の食べ物について、パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。	「どんな地球に住みたい？」の自分の答えをまとめる。	45

第8回	どんな地球に住みたい？1	「どんな地球に住みたい？」の各自のアイディアを発表し、クラス全体として図にまとめる。	国連のSDGs17の目標を確認する。	45
第9回	どんな地球に住みたい？2	各自確認してきた国連のSDGs17の目標につけ加えたいものを話し合い、図に追加する。アムネスティの世界人権宣言を読む。	アムネスティの世界人権宣言を最後まで読み終える。	45
第10回	どんな地球に住みたい？3	自分達が住みたいと思い描いた地球にするために、自分達で何ができるかについてアイディアを出す。	自分達でできることの中で、特に興味を持ったものを一つ選ぶ。	45
第11回	どんな地球に住みたい？4	「どんな地球に住みたい？－自分達にできること－」のモデル発表を聞き、自分の発表のパワーポイントと口述原稿を作り始める。	発表のパワーポイントと口述原稿を作成する。	45
第12回	どんな地球に住みたい？5	難民もしくは人権に関する映画を観る。	映画の感想をまとめる。発表の練習をする。	45
第13回	どんな地球に住みたい？6	映画の感想を紹介しあう。その後、「どんな地球に住みたい－私達にできること－」について、パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。	クリスマスは何の日かをまとめる。	45
第14回	クリスマスを迎えるために1	クリスマスは何の日かについて、各自まとめたものを発表する。その後、クリスマスについての物語を読む。	クリスマスは何の日かについて作文する。	45
第15回	クリスマスを迎えるために2	クリスマス精神について学び、自分がしたいことを考える。そのための具体的な目標を立てる。	平面で作成するクリスマスツリーのイメージ図を描く。	45
第16回	クリスマスを迎えるために3	クリスマスツリーのイメージ図を紹介しあい、クラスのクリスマスツリーのイメージを決定する。クリスマスツリーを作成するために、必要な材料、道具についてアイディアを出し合う。	クリスマスについての思い出を紹介するためのアウトラインを作成する。	45
第17回	クリスマスを迎えるために4	クリスマスの過ごし方が書かれたストーリーを読み、感想を述べる。	クリスマスの思い出を紹介するためのパワーポイントを作成する。	45
第18回	クリスマスを迎えるために5	クリスマスの過ごし方を書いたストーリーの続きを読み、自分でも取り入れたいことをまとめる。	クリスマスの思い出を紹介するための口述原稿を作成する。	45
第19回	クリスマスを迎えるために6	クリスマスツリーを作成する。	口述原稿を修正する。	45
第20回	クリスマスを迎えるために7	英語圏で有名なクリスマスを題材としたアニメを観て、ストーリーを確認する。	映画の感想を作文する。	45
第21回	クリスマスを迎えるために8	パーティの招待状の書き方や返信の仕方を学び、実際に作成する。簡単なケーキのレシピを学ぶ。	教員からのクリスマスパーティの招待状（メール）に返信する。	45
第22回	クリスマスを迎えるために9	自宅に招待された時の訪問の仕方や使われる表現を学び、シミュレーションする。	習ったケーキのレシピを見ながら、実際にケーキを作る。クリスマスの思い出の紹介の練習をする。	45
第23回	クリスマスパーティ	教室を家に見立て、クリスマスパーティをする。クリスマスパーティでは、パワーポイントを使って「クリスマスの思い出」を紹介する。互いに質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	教員を招待者と見立てThank Youメールを出す。正月に写真を撮る。	45
第24回	お正月には何をする？1	日本のお正月でよく見られるものや光景の絵を見て、何をしているかを説明する。その中で、自分の家でもするもの／することを挙げ、外国人への説明を考える。	お正月の説明に必要な英単語や表現を調べる。	45
第25回	お正月には何をする？2	日本の正月について、外国人がどのようなものやことに関心を持つのかについて書かれた文章を読み、感想を述べ合う。	文章の感想を作文する。	45
第26回	お正月には何をする？3	外国のお正月の過ごし方（A）について学び、感想を述べ合う。また、自分のお正月の過ごし方についての発表のアウトラインを作成する。	外国のお正月の過ごし方（A)の感想を作文する。	45
第27回	お正月は何をする？4	外国のお正月の過ごし方（B)について学び、感想を述べ合う。発表のパワーポイントを作成する。	外国のお正月の過ごし方（B)の感想を作文する。	45
第28回	お正月は何をする？5	外国のお正月の過ごし方（C）について学び、感想を述べ合う。口述原稿を書く。	口述原稿を完成する。	45
第29回	お正月には何をする？6	外国のお正月の過ごし方（D)を学び、感想を述べ合う。発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第30回	お正月には何をする？7	自分のお正月の過ごし方についてパワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントを述べ合うことで、話題を発展していく。	教員に授業の感想をメールする。	45

学習計画注記	学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント。

評価方法	課題（完成度により評価する） 発表（プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	発表	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題30%、発表40%、平常点30%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。 【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。 【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。 【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限（後期）
学生へのメッセージ	英語は、「科目」ではなく「ことば」です。文法の正確さを重視するのではなく、意味が伝わるかどうかを重視して練習していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	言語コミュニケーション		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D24106M21
授業概要(教育目的)	言語コミュニケーションの特性およびあり方について、「異文化間コミュニケーション」「アサーティブ・コミュニケーション」「やさしい日本語」「言論の自由とヘイトスピーチ」「人を動かすことば」から考えていく。いずれもケース・スタディを通して実践的に学ぶことで、コミュニケーションの本質に迫っていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルおよび多文化的な視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	異文化間コミュニケーション1	言語コミュニケーションの特徴について学び、言語によって何ができるかを考える。	言語コミュニケーションの特徴と言語によって何ができるのかをまとめる。	180
第2回	異文化間コミュニケーション2	非言語コミュニケーションの特徴について学び、言語コミュニケーションができることとの違いについて考える。	非言語コミュニケーションの特徴と言語コミュニケーションとの違いをまとめる。	180
第3回	異文化間コミュニケーション3	言語と文化の関係を学び、文化の違いによってコミュニケーションがどのように違うのか考える。	言語と文化の関係と文化の違いによるコミュニケーションの違いをまとめる。	180
第4回	異文化間コミュニケーション4	異文化間コミュニケーションがスムーズに行かなかったケースについて、その理由を分析し、解決策を考察する。	自分のコミュニケーションのタイプについてワークシートで分析する。	180
第5回	アサーティブ・コミュニケーション1	コミュニケーションのタイプについて学び、なぜアサーティブ・コミュニケーションが求められるのかを分析する。	アサーティブ・コミュニケーションができずに、失敗した例をまとめる。	180
第6回	アサーティブ・コミュニケーション2	様々な事例について、アサーティブ・コミュニケーションでの解決方法を探る。	災害についてのポスター、チラシ、文書を集める。	180
第7回	やさしい日本語1	「やさしい日本語」について、始まり、対象者、特性、実際の例等について学ぶ。	「やさしい日本語」が必要だが分かりにくい文書、ポスター、チラシなどを集める。	180

第8回	やさしい日本語2	「やさしい日本語」の特徴を学び、通常の文書を優しい日本語にする練習をする。その後、各自持参した資料のどこが分かりにくいかを分析する。	各自の資料を「やさしい日本語」に作り直す。	180
第9回	やさしい日本語3	各自作成した「やさしい日本語」による資料を発表し、改善点を明らかにする。	改善した資料をパワーポイントに作成する。	180
第10回	「やさしい日本語」4	各自「やさしい日本語」で作成し直した文書についてパワーポイントを使って紹介する。相互に質問や意見を述べることで、考察を深めていく。	ヘイトスピーチの例を集める。	180
第11回	言論の自由とヘイトスピーチ1	言論の自由について学ぶ。各自持参したヘイトスピーチの事例を紹介する。	ヘイトスピーチは「言論の自由」かについて、理由とともに考える。	180
第12回	言論の自由とヘイトスピーチ2	ヘイトスピーチの事例を分析して上で、ヘイトスピーチは言論の自由の範囲かどうかについて意見を交換する。	人を動かすことばを残した人（A)のについて調べる。	180
第13回	人を動かすことば1	人を動かすことばを残した人（A)に関して学び、映像を視聴する。その上で、どのような要素が人を動かしたのかを考える。	人を動かすことばを残した人（B)について調べる。	180
第14回	人を動かす言葉2	人を動かすことばを残した人（B)に関して学び、映像を視聴する。その上で、どのような要素が人を動かしたのかを考える。	人を動かすことばを残した人（C)について調べる。	180
第15回	人を動かす言葉3	人を動かすことばを残した人（C)に関して学び、映像を視聴する。その上で、どのような要素が人を動かしたのかを考える。また、これまでの授業内容から、他者とよりよい関係を構築するためのコミュニケーションには何が必要かを考察していく。	これまでの授業内容を総括して、コミュニケーションおよび言語コミュニケーションの意義、難しさ、方法について発表の準備をする。	180

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
評価方法	課題（完成度、独創性等で評価する） 発表（内容、構成、表現、プレゼンテーションで判断する） 平常点（発言や取り組みの姿勢で判断する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ワークシート	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題　30%　発表　40%　平常点　30%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】グローバルな視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。 【思考・判断の観点】真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。 【関心・意欲・態度の観点】言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。 【技術・表現の観点】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限（後期）
学生へのメッセージ	グローバル化、多文化共生化が進む社会において、万人とコミュニケートできる「ことば」を持つことは大切な力となります。日本語コミュニケーションの特徴についての発見を楽しみながら、世界の人とコミュニケーションできる「ことば」の習得を目指していきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	情報倫理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉　一博	指定なし

ナンバリング	D24201M21
授業概要(教育目的)	情報社会と情報を伝達するメディアについて考え、それらに関する問題を探ることにより、情報倫理の学修力を育成することを目的とする。皆で考えて話し合うように、積極的な参加を促す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	情報社会におけるさまざまな問題を正しく認識することができる。
思考・判断の観点（K）	情報社会におけるさまざまな問題の解決策を自分で考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	話し合いに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	高度情報社会と生活	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。高度情報社会における生活に関係する人工知能について考える。	人工知能について復習すること	90
第2回	情報とはなにか1	個人情報について考える。	個人情報に関して自分で考えて下調べしておくこと 個人情報について復習すること	180
第3回	情報とはなにか2	ビッグデータについて考える。	ビッグデータに関して自分で考えて下調べしておくこと ビッグデータについて復習すること	180
第4回	情報社会における心の問題	情報社会における心の問題を議論し、情報倫理の必要性について考える。	情報社会における心の問題に関して自分で考えて下調べしておくこと 情報社会における心の問題について復習すること	180
第5回	SNS（Social Networking Service）	SNSについて考える。	SNSに関して自分で考えて下調べしておくこと SNSについて復習すること	180
第6回	撮影（ドローン、防犯カメラ、…）	ドローンや防犯カメラなどによる撮影ついて議論し、倫理的な視点で考える。	ドローンや防犯カメラなどによる撮影に関して下調べしておくこと ドローンや防犯カメラなどによる撮影について復習すること	180

第7回	メディアとはなにか	メディアについて理解し、表現の自由について議論する。	メディアと表現の自由に関して自分で考えて下調べしておくこと 表現の自由について復習すること	180
第8回	メディア（新聞）	メディアのなかでも新聞などマスメディアについて考える。	マスメディアに関して自分で考えて下調べしておくこと マスメディアについて復習すること	180
第9回	IoT（Internet of Things）	IoTと日常生活環境の関連について議論する。	IoTに関して自分で考えて下調べしておくこと IoTについて復習すること	180
第10回	ネット依存	ネット依存について自己評価し、ネットやゲームに関わる問題を議論する。	ネットやゲームに関わる問題を自分で考えておくこと ネット依存について復習すること	180
第11回	バーチャルリアリティ	バーチャルリアリティについて議論し、その応用について考える。	バーチャルリアリティに関して自分で考えて下調べしておくこと バーチャルリアリティについて復習すること	180
第12回	情報メディア	情報メディアの一つとしてデジタルサイネージについて議論する。	デジタルサイネージに関して下調べしておくこと デジタルサイネージについて復習すること	180
第13回	情報社会と生活1	知的財産権について考える。	知的財産権に関して自分で考えて下調べしておくこと 知的財産権について復習すること	180
第14回	情報社会と生活2	セキュリティについて考える。	セキュリティに関して自分で考えて下調べしておくこと セキュリティについて復習すること	180
第15回	ふり返り	授業全体のふり返る。	授業全体をふり返ること	270

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	下調べのレポートなどは、チェックして返却する。
評価方法	・平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。 ・定期試験は 40 点満点で、授業のふり返りに基づいた論述形式とする。また、情報倫理に関する理解度と思考力を確認する。 ・平常点、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート	○			
定期試験		○		

評価割合	平常点（50%）、レポート（10%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「コミュニケーション・情報」分野の倫理に関する知識を有している。 【思考・判断】情報社会の諸課題を分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】情報社会の諸問題に関心を持ち、社会人として責任を果たすことができる。
オフィスアワー	金曜 14:00-15:30 1411研究室 早朝・深夜を除き、メールでも相談に応じる。 必要であれば、日時を調整してオンラインで対応する。
学生へのメッセージ	授業の予習・復習をすること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的にディスカッションに参加することによって、倫理的、社会的な能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報倫理の学修力を養成する。

ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ウェブデザイン演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高嶋　章雄	指定なし

ナンバリング	D24204M22
授業概要(教育目的)	ウェブサイトは情報化社会における情報発信手段として必須のメディアである。この授業では、学生がウェブサイトをデザインするための技術的な要素（HTML、CSS）を理解し、基礎的なウェブサイト制作スキルを身につけることを目的として、演習形式で講義する。
履修条件	専門科目「ウェブデザイン」の単位を修得していること、またはそれと同等の勉強をし、HTML、CSSに関する技術を十分理解していること。 オンライン授業となる場合は、スマートフォンやタブレット端末ではなく、パソコンの利用が必須となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	1. ウェブサイトを構成する、HTML、CSSの仕組みを説明できる。 2. ウェブサイト制作技術を用いてコーディングし、情報をウェブサイトとして表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	サイト制作の基礎	サイト制作の流れを把握し、学習範囲を明確にする。ウェブ技術の標準化、オーサリングソフトやエディタ、jQuery等、周辺技術の紹介も含め全講義を概観する。ウェブサイトの構成要素（HTML、CSS）を理解する。課題提出あり。	ウェブサイト構成要素を確認し、PCを用いた作業の流れを把握する。	60
第2回	HTML・CSSの基礎（1）	基本的なタグ（ドキュメントタイプ宣言、メタデータ用タグ、見出し、段落、箇条書き等）を利用したサイトを制作する。セレクタについて理解する。課題提出あり。	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。	90
第3回	HTML・CSSの基礎（2）	基本的なタグ（画像、表、リンク等）を利用したサイトを制作する。セクショニングコンテンツ（section、article、nav、header、footer等）を理解する。課題提出あり。	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。	90
第4回	HTML・CSSの基礎（3）	IDセレクタ、クラスセレクタ、タイプセレクタを使い分けたサイトを制作する。リセットCSSを理解する。課題提出あり。	セレクタを使い分けてサイトを制作する。	90
第5回	レイアウト（1）	ボックスモデルを理解する。基本的な単位（px、%、em、rem、vh、vw）を理解する。課題提出あり。	ボックスモデルを用いたサイトを制作する。	60
第6回	レイアウト（2）	float、positionを利用したサイトを制作する。課題提出あり。	複数のレイアウト手法によるサイトを制作する。	90
第7回	CSS3、ウェ	CSS3で導入された属性（角丸、シャドウ、グラデーショ	様々なCSS3表現を用いた試用す	90

	ブフォント	ン、ウェブフォント等）を利用したサイトを制作する。課題提出あり。	る。	
第8回	レイアウト（3）	flexboxを理解する。ナビゲーションメニューを実現するための手法（画像スプライト、CSS3、疑似クラス）を理解する。課題提出あり。	リンクの表現方法を確認する。	90
第9回	動的なweb サイト	JavaScript、ｊQueryを用いた動きのあるサイトを制作する。課題提出あり。	様々なJavaScript（jQuery）プラグインを検索する。	90
第10回	外部ウェブサービス	Googleマップ、Twitter、Facebook等の外部コンテンツを埋め込む手法を理解する。課題提出あり。	SNS等外部ウェブサービスを埋め込んだサイトを制作する。	60
第11回	レイアウト（4）	メディアクエリを理解し、モバイル対応したサイトを制作する。課題提出あり。	複数デバイスに対応したサイトを制作する。	90
第12回	レイアウト（5）	モバイル対応したシングルページを制作し、これまでの内容を復習する。課題提出あり。	スマートフォン向けのサイトを制作する。	90
第13回	レイアウト実践（1）	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを制作する（企画、コンテンツ収集、コーディング等）。課題提出あり。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第14回	レイアウト実践（2）	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを制作する（コーディング）。課題提出あり。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第15回	レイアウト実践（3）	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを制作する（コーディング、まとめ、発表）。課題提出あり。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第16回				

学習計画注記	※履修者数や学生の理解度に応じてスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	各課題に対しコメント付きで返却し、必要に応じて授業内で講評する。
評価方法	・講義時間内のコーディング作業に取り組む姿勢を平常点とし、実装の完了を以て技術の習得を確認する。 ・各回の学習内容に関するレポートで、技術の習得および内容の理解度を確認する。締め切りを過ぎたレポートは著しく評価が下がるので注意すること。 ・最終課題では、学習した技術を実践で活用できたかを確認し、グループへの貢献も含めて評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点				○
	レポート				○
	最終課題				○

評価割合	平常点20%、各回のレポート60%、最終課題20%を基準とし、総合的に判断して評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて講義関連資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【技術・表現】 テーマに沿った情報を収集・分析・整理し、ウェブサイトという媒体を通じて表現、発信できる。
学生へのメッセージ	パソコンやタブレット、スマートフォンの普及により、ウェブサイトは最も手軽な情報収集の手段となっている。情報の受け手としてではなく、送り手として情報を表現・発信するために、ウェブサイトを構成する技術を主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の課題でグループワークを実施する。
情報リテラシー教育	○	情報の表現方法を検討し、ウェブサイトとしてアウトプットする。
ICT活用	○	PCを利用し、HTML・CSSのコーディングを行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コミュニティデザイン論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	D25101M21
授業概要(教育目的)	日本の都市でも農山漁村でも、地域社会のあり方の変貌から多くの課題を抱えている。産業の衰退と暮らし、人と人の繋がりの希薄化、子どもを育てる環境の悪化など、多くの困難が指摘されている。 しかし、その一方で、地域の人たちの繋がりを作り、伝統的な暮らしと新しい生活の双方の可能性から、新しい地域のあり方を創造している取り組みが多数存在している。 子どもから高齢者まで、あらゆる世代が地域の主人公として活躍し、その力を結集している現場での実践は未来の日本と世界への希望を培っている。 コミュニティのあり方を主体的に創造するコミュニティデザインの考えを学び、社会課題に主体的に取り組み貢献できる力を身につける。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本社会の変貌と課題を理解する。
思考・判断の観点（K）	課題の原因と解決の方向のための資源を知る。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもから高齢者まで、あらゆる世代が地域の主人公として活躍する社会を主体的に構想しようという態度を持つ。
技術・表現の観点（A）	自ら考える新たなコミュニティの姿を他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	コミュニティデザインの課題とは―授業ガイダンス	コミュニティの姿を知り、コミュニティデザインの課題を考える。	自分の育った地域の姿を振り返る。	180分
第2回	私の生まれたまち	絵日記ワーク（アクティブラーニング）で、自分の育った地域の姿を記述する。	自分の育った地域の姿の特徴を考える。	180分
第3回	私の地域の姿と課題	絵日記ワークから地域の姿を知る。	自分の育った地域の課題を考える。	180分
第4回	地域の持つ資産に目を向ける―地域の特徴とは	絵日記ワークから見えてくる、これからのコミュニティをデザインするとき、活用できる資源を探る。	自分の地域の資源を調査する。	180分
第5回	校外授業―コミュニティデザインの実践１	コミュニティデザインの先進事例の地域に出かけ調査する。	インターネットで対象事例の状況調査する。	180分
第6回	校外授業―	コミュニティデザインの先進事例の地域に出かけ調査す	インターネットで対象事例の状	180分

	コミュニティデザインの実践２	る。	況調査する。	
第7回	コミュニケーション・ワーク演習１	コミュニティデザインで活用されるワークを体験する。	インターネットでコミュニティワークの事例を調査する。	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク演習２	コミュニティデザインで活用されるワークを体験する。	インターネットでコミュニティワークの事例を調査する。	180分
第9回	実践から考えるコミュニティデザインの可能性	ワークの体験からコミュニティデザインの可能性を考える	ワークを振り返る。	180分
第10回	地域と子ども	ユニセフ・こどもにやさしいまちづくりを学ぶ。	インターネットでユニセフ・こどもにやさしいまちづくりを調査する。	180分
第11回	校外講師による授業―若い世代とコミュニティ	校外講師から若い世代が主体となったコミュニティデザインの先進事例を学ぶ	若者の持つ可能性を考える。	180分
第12回	世代間交流とコミュニティ	世代間交流とコミュニティのあり方を考える。	地域の他世代の生活を考える。	180分
第13回	都市と農山漁村	地域の違いによる課題と可能性を学ぶ。	自分の育った地域と違う特徴を持つ地域の様子を調査する。	180分
第14回	自治と民主主義	市民が主体となるコミュニティデザインを考える。	市民とは何かを考える。	180分
第15回	コミュニティデザインの展望（ＢＲＤ）	コミュニティデザインの展望を自分の考えとしてまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	グループワークへの主体的参加と貢献度、および、BRD（当日ブリーフレポート）によって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	グループワークへの参加と貢献			○	○
	レポート	○	○		

評価割合	グループワークへの参加と貢献（50%） レポート（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	『蠢動する子ども・若者』本の泉社 『市民力で創る子育て』Art.31
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】コミュニティの諸課題を理解することで、教師の道 へつなぐことができる。 【思考・判断】コミュニティの諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】コミュニティで高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能 ・ 表 現】専門的技能をもってコミュニティの課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日３限1607研究室
学生へのメッセージ	自分の育った地域の姿を知り、コミュニティの一員として主体的に参加する姿勢で授業に参加し、他者との共同から新しいコミュニティのあり方を創造しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	グループ活動を主体として授業を実施

ーニング		
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	園芸論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D25201M21
授業概要(教育目的)	近年、園芸植物やそれを扱うに人々が必要とする技術は多様化している。本講義では、蔬菜（野菜）、果樹、花卉（花）の生産を主とする商業園芸と家庭菜園や庭づくりなどの家庭園芸の現状、ガーデニングなどで園芸植物を栽培、利用するために必要な基礎的な技術や植物生理について解説する。園芸領域科目（ガーデニング実習等）の他の科目につながる基礎的な力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	園芸の現状を理解し、植物の基礎的知識を身につけ、説明できる。
思考・判断の観点（K）	植物の栽培管理を行う場合に、いつ、なぜ、この管理作業が必要であるか判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	本講義で得た植物の性質や特徴の知識を、植物を用いた空間デザインや表現や生活の中で活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方について説明する。本講義で扱う園芸学の定義について解説する。	本講義の内容と園芸学の定義について理解する。	240分
第2回	園芸の起源と歴史	日本の園芸の発達と変遷、園芸植物の起源について解説する。	講義内容の復習、日本の園芸の起源と歴史について理解する。	240分
第3回	種子と発芽	植物の種子の構造とその役割、種子の休眠と発芽に影響する環境条件について解説する。	講義内容の復習、植物の種子の構造、役割や発芽のメカニズムについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第4回	植物の生長	植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について解説する。	講義内容の復習、植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第5回	地下器官の生長と発達	根の生長と地下器官の発達、菌根菌との共生などについて解説する。	講義内容の復習、根の生長と地下器官の発達、菌根菌について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第6回	花芽分化と開花	生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて解説する。	講義内容の復習、生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて理解す	240分

			る。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	
第7回	果実の発育と成熟	果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について解説する。	講義内容の復習、果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第8回	植物ホルモン	オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて解説する。	講義内容の復習、オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第9回	養分の吸収と光合成	植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について解説する。	講義内容の復習、植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第10回	栽培環境とその制御	温度、光、水など園芸作物の栽培に影響する栽培環境について解説する。	講義内容の復習、園芸作物の栽培に影響する栽培環境について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第11回	病害虫と雑草、繁殖	病気、外注、雑草の防除とコントロール法について解説する。 園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について解説する。	講義内容の復習、病気、外注、雑草の防除とコントロール法について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第12回	特別授業	学外から講師を招き、植物育種についての最前線についてのお話を伺う。	講義内容の復習、園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第13回	品種改良	園芸植物の品種の改良について実例を挙げて解説する。	講義内容の復習、園芸植物の品種の改良について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第14回	園芸植物の利用と機能	園芸植物の利用（食、観賞、癒し）と機能（抗酸化機能、栄養価）について解説する。	講義内容の復習、園芸植物の利用と機能について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第15回	総括	本講義のまとめと到達目標の達成度の確認。定期試験の方法について説明する。	本講義全体の復習を行い、定期試験の準備をすること。	240分

学習計画注記	履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：講義中のディスカッションや問題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 定期試験：講義で扱った話題や問題の中から選択式と記述式で50点満点で出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○			○
定期試験	○	○		○

評価割合	平常点50%、定期試験50%で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	「園芸学の基礎」鈴木正彦編（農山漁村文化協会）978-4-540-11105-1
参考図書	「最新園芸・植物用語集」土橋豊（淡交社）978-4473042668 その他、必要に応じて授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜 2限　3609研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ガーデニング実習Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D25202M23
授業概要(教育目的)	ガーデニング概論と園芸論などの講義で得た基礎的な知識を活かし、実際に植物の栽培管理を行う。ガーデニング実習Ⅱと合わせて年間を通した植物の栽培管理法を解説する。季節に適した植物を用い、その栽培に必要な管理計画を検討し、実習する。また、植物を生活に取り入れ利用する力も養う。
履修条件	「ガーデニング概論」、「園芸論」、「観賞植物素材論」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	身の回りで栽培されている植物に興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	植物栽培に必要な作業を考え、他の人と協力し安全に配慮しながら行うことができる。
技術・表現の観点（A）	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	イントロダクション 菜園の準備	本実習の到達目標、進め方、持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する 菜園の区画分け、植栽準備、苗の注文など	本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。持ち物、服装を準備する
第2回	菜園：植栽配置図 校内の秋の植物の観察	菜園の各自の分担区画内の植栽配置図と管理計画を完成する。 栽培する植物の栽培方法を調べる。 花壇などに植える草花の種子の播種 校内の秋の植物を観察し、記録する	作業日誌を記入する
第3回	菜園の植え付け	各自が作成した植栽配置図に従って、菜園区画に、植え付けを行う 防虫ネット設置などの作業を行う	水が枯れないように、水やりをする
第4回	春の球根の植栽計画	花壇に植える春の球根の植栽配置図を作製する 作業方法を検討し、手順を決定する	作業日誌を記入する
第5回	植物の利用：季節の飾り	夏に園芸実習場で育てた観賞用カボチャを用い、ジャックオーランタンを作る 校内に飾り付ける	作業日誌を記入する
第6回	花壇の植物の収穫	花壇の植物を収穫し、ドライフラワーを作製する ジャックオーランタンの飾りを片付ける	作業日誌を記入する
第7回	花壇の球根の植え付け	植栽計画に基づき、花壇の球根を植え付ける	作業日誌を記入する

第8回	花壇の管理 インテリアにする寄せ植え	植栽した後の花壇の管理作業（追肥、防虫、土寄せ） インテリアにする寄せ植えのデザインを考える	作業日誌を記入する
第9回	インテリアに飾る寄せ植え	インテリアに飾る寄せ植えをデザインに従って、寄せ植えをつくる	作業日誌を記入する。生育状況を観察する
第10回	菜園の管理作業 室内を飾る	菜園の管理（土寄せ、追肥、防虫） 室内空間を植物を使って飾る計画を立てる	作業日誌を記入する
第11回	冬の生育環境調査	学内の室内、屋外の各地点の照度、温度を計測して記録する	作業日誌を記入する
第12回	室内を観葉植物を用いて飾る	デザインに従って、室内を観葉植物等を用いてい飾る	日誌をつける 植物の管理をする
第13回	季節の飾り	自ら育てた植物や校内に生育している植物を使って季節の飾りを作る	日誌をつける
第14回	校内の植物観察	冬の校内の植物の姿や特徴を観察する	日誌をつける
第15回	総括 菜園の収穫と片付け	菜園の収穫と片付け 日誌を提出	収穫した野菜を調理して食べてみる

学習計画注記	本科目は、遠隔授業と面接授業を組み合わせて実施する予定です。新型コロナウィルス感染症の状況、履修者数、天候、植物の生育速度により、スケジュールや課題変更になる場合があります。 新型コロナウィルス感染症が収まり状況が良いと判断した場合には、特別校外授業を実施します。ガーデニングショーなどの見学を予定しています。実施する場合の入場料と会場までの交通費は各自で負担が必要です。
学生へのフィードバック方法	実習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点（60%）：各回の授業で課題をだす。実習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 日誌（40%）：実習中に行った作業、実習以外に行った管理作業、作業を通じて生じた疑問点、その疑問点を解決するために自ら調べた結果などを第3者へ伝わる様式で記録を残す。作業日誌を総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	
	課題	○	○		○

評価割合	平常点60%、課題40%
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日 2限　3609研究室
学生へのメッセージ	本科目履修には、材料費一人2,000円（予定）の負担が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	観賞植物素材論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D25204M21
授業概要(教育目的)	園芸やガーデニングには多種多様な植物が用いられる。植物を使った空間デザインを行うためには、個々の植物の知識が不可欠である。本講義では、特にエクステリアデザインなどで用いられる材料を知るとともに、一般的な樹木を同定する力を身につける。熱帯花木、山野草、盆栽、ハーブ、サボテン類、洋ラン等の観賞植物の分類及び特徴と栽培方法、園芸における活用方法を解説する。観賞植物の特徴を、体系的に理解し、正しい情報を入手する力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	園芸やガーデニングには多種多様な植物の名前、性質、特徴などを理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	園芸やガーデニングには多種多様な植物を栽培法や環境条件を類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	本講義で得た植物の知識を植物を用いた空間デザインや植物の栽培に活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方、樹種名同定小テストの方法について説明する。本講義で用いる用語や植物の利用上の分類の定義を確認する。	本講義で用いる用語や植物の利用上の分類の定義を確認する。講義の内容と用語や植物の利用上の分類を理解する。	240分
第2回	エクステリアデザインの材料	エクステリアデザインで使用する植物や材料について解説 課題①について解説 樹種名同定小テスト	観葉植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第3回	観葉植物	観葉植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	観葉植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第4回	多肉植物とサボテン	多肉植物とサボテンの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	多肉植物とサボテンについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第5回	草花（一年草、二年草、多年草、宿根草）	草花（一年草、二年草、多年草、宿根草）の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	草花（一年草、二年草、多年草、宿根草）について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第6回	低木と高木	低木と高木の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	低木と高木について理解を深め、いくつかの具体例の名前を	240分

		樹種名同定小テスト	挙げて説明できるようにする。	
第7回	果樹	果樹の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	果樹について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第8回	家庭菜園	家庭菜園で使われる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	家庭菜園で使われる植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第9回	山野草	山野草の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	山野草について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第10回	薬草と有毒植物	薬草と有毒植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	薬草と有毒植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第11回	盆栽とラン	盆栽とランの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	盆栽とランについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第12回	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニング	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第13回	在来植物と外来植物	在来植物と外来植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	在来植物と外来植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第14回	公園とビオトープ ファイトレメディエーション	公園とビオトープで使用される植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 ファイトレメディエーションに用いられる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト	公園とビオトープで使用される植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第15回	総括 小テスト	本講義のまとめ、到達目標の達成状況の確認。 樹種名同定小テストまとめ	本講義で得た知識をもとに、生活の中にある植物にこれまで以上に注意を払い、名前と特徴を知っている身の回りの植物を増やして欲しい。	240分

学習計画注記	履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点(50%)：講義中のディスカッションや課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 小テスト（30 %）：樹木名の同定テスト。植物を正しく同定できるか。 課題(20%)：身の回りの植物の観察。課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		○
	課題	○	○		○

評価割合	平常点50%、小テスト30%、課題20%で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	「葉っぱでわかる造園樹木図鑑」船越亮二著　講談社(978-4-06-220463-7) その他、適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	随時、講義内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜 2限 3609研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インターネットビジネス論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 前田　邦宏	指定なし

ナンバリング	D25302M21
授業概要(教育目的)	ソーシャルメディアやインターネットの特質（ひとやモノ、場所や情報の思いがけないつながりや、それらの関係性の集積）を活用したビジネスモデルを展開するための基礎的な技術を理解し、インターネット時代の新しいビジネスの創造について考える力を育成することを目的としている。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. インターネットビジネスはこれまでのビジネスと何が異なるのか理解し、説明できる 2. インターネットビジネスの発展により、生活者のライフスタイルや価値観がどのように変化するかを理解し、説明できる
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	1. 新しい情報通信技術について議論し、新しいビジネスを発想する考え方を身につけ、表現できる 2. ビジネスにおけるソーシャルメディア利用の基本的な概念を理解し、自身の活動に応用することができる

学習計画

イントロダクション

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション	授業内容の概観とルールの確認	予習として、シラバスを一読する。 復習として、高等学校までで学んだ情報科の関連する内容や、他のビジネス関連の授業で学んだことと、本授業の概要から関連する項目を関連づけることを試みる。	150分
第2回	インターネットビジネスの歴史	インターネットビジネスの歴史を理解する。	復習として、インターネット黎明期から現在までのビジネス活用を配布資料や紹介した資料などを使い、整理する。	150分
第3回	インターネットビジネスの概観	インターネットを活用したビジネスモデルの分類を行い、パタンを理解する。	復習として、自分自身が利用、また知っているインターネットビジネスの分類を試みる。	150分
第4回	分野別概観: ソーシャルメディア(広告モデル)	ソーシャルメディアの歴史と仕組みを理解する。 ソーシャルメディアを活用したインターネットビジネスの内容を概観する。	予習として、自分自身が利用しているSNSをはじめとするソーシャルメディアを把握する。 復習として、ソーシャルメディ	150分

			アのビジネス利用の例を、自分の視点で整理する。	
第5回	分野別概観：e-コマース（商品販売モデル）	e-コマースの歴史と仕組みを理解する	予習として、自分自身が利用しているeコマースサイトを把握する。 復習として、自身の知っているeコマースサイトの改善点を検討し、整理する(授業の展開に応じ、簡単な課題を提示する予定)	300分
第6回	分野別概観：デジタルコンテンツ（コンテンツ販売モデル）	デジタルコンテンツの歴史と仕組みを理解する	予習として、自分自身や周囲が利用しているデジタルコンテンツのサービスを把握する。 復習として、デジタルコンテンツサービスを、自分の視点で整理する。	150分
第7回	ソーシャルメディアの活用	ソーシャルメディアの活用提案を検討する。 履修者各自に、アイデアを授業内で報告してもらう。	予習として、簡単なソーシャルメディアの活用提案を検討し、資料を作成する。	300分
第8回	分野別概観：シェアリングエコノミー	シェアリングエコノミーの概念、歴史と仕組みを理解する	予習として、「シェアリングエコノミー」という言葉の定義やその概要を調べて整理しておく。 復習として、シェアリングエコノミーの文脈で登場するサービスを、自分の視点で整理する。	150分
第9回	既存企業におけるインターネットビジネスの活用	既存企業、大企業、中小企業でのインターネットの活用と課題について理解する。	予習として、ネットニュースやテレビ、新聞、雑誌などのマスメディアでの大企業でのインターネットビジネスの展開に関する記事を確認しておく。 復習として、授業で学んだことを踏まえて、自分の関心のある業界での主要企業のインターネットビジネスへの展開や、スタートアップへの参画を整理する。	150分
第10回	公的セクターにおけるインターネットの活用	政府、自治体におけるインターネットの活用について理解する。	予習として、自身の住んでいる自治体(都道府県、市町村)のウェブサイトを確認し、掲載内容を把握する。 復習として、民間セクターが取り組めない、公的セクターが参画するべきだと考える分野について、自分なりの考えを整理する。	150分
第11回	制度・法的課題	インターネットビジネスに関わる制度・法律を理解する。	予習として、他の授業で学んだ法制度(消費者関係など)でインターネットビジネスに関わるものがないかを把握しておく。 復習として、授業で学んだ法制度と自分自身の消費活動との関わりについて整理する。	150分
第12回	課題提示	報告のテーマ(新規ビジネスの提案)の提示と発表の要件について、説明する。 (クラスの人数等の条件で、個人発表とするかグループ発表とするかは決定する)	プレゼンテーションについて、資料を提示するので一読する。 発表に向けた情報収集を行う。	300分
第13回	技術動向	インターネットビジネスに関わる技術を理解する。	予習として、高等学校まで学んだインターネットに関係する技術について用語を整理する。 復習として、授業で学んだ技術用語について、自分自身の言葉で説明できるよう、概念をまとめる。	150分
第14回	報告(1)	個人もしくはグループでの報告を行う。	事前の準備として、発表の準備・リハーサル等を各自で行う。 発表後は、それぞれのクラスでのコメントやフィードバック等を整理する。	300分
第15回	報告(2)とまとめ	報告と授業全体のまとめを行う。未発表者がいる場合は、発表を行い、総括を行う。	定期試験に向けた復習を行う。	150分

学習計画注記	インターネットビジネスに関する企画提案を課題として提示する予定ですが、履修者の実態に応じて、提示時期は前後する可能性があります。また、取り上げるテーマは時勢（新型コロナウィルスの流行の情勢）に応じて、変更する可能性があります。例：巣ごもり消費等
学生へのフィードバック方法	課題については授業内でフィードバックをする。
評価方法	定期試験は、授業の内容やITパスポートなどの国家試験の内容・レベルを概要を把握できているかを問う内容を中心に出題する予定です。 課題は、授業の理解度や関心に応じて、インターネットビジネスの内容を理解しているか、また、自身で、学生活動を含めた様々なシーンで企画できるかをみる内容とし、数回提示します。

	プレゼンテーションは、インターネットビジネスに関するビジネスプラン等を検討していますが、履修者の関心に応じて、授業内で決定し、要件を提示します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	プレゼンテーション	○			○
	定期試験	○			
	課題	○			○

評価割合	定期試験(20%) 課題(40%) プレゼンテーション(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	授業内で適宜説明する資料を用意します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「コミュニケーション・情報」「ビジネス」の分野について、専門的知識を有している。 【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその問題解決策を発信できる力を有している。
学生へのメッセージ	どの業界への進路についても役立つ知識と成果物を得られる授業にしますので、インターネットやコンピュータ利用に自信のない方にも積極的な参加を希望しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は、ICT分野を専門とする市場調査会社に勤務経験があり、大企業やスタートアップのICTビジネスに関する支援業務の経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	授業内で、プレゼンテーションと、必要に応じてディスカッションを取り入れます。
情報リテラシー教育		授業内で、プレゼンテーションを実施するため、その技法について取り上げます。 履修者のリテラシーに応じて、PC利用教室での授業を実施します。
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	マーケティング論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鈴木　一正	指定なし

ナンバリング	D25303M21
授業概要(教育目的)	マーケティングの基本的な考え方を理解できるようにする。アパレルビジネスを担う人材に求められる知識や技術を習得させる。戦略立案、施策の前提となる消費者の意思決定プロセスを理解し、主要なフレームワークをアパレルビジネス等の実務で活用出来るようにする。 ファッションビジネスを中心とした事例も取り上げ、業界に対する理解が深かまるよう講義をおこなう。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	消費者の意思決定プロセスを理解している。 ＳＴＰ－ＭＭを理解している。
思考・判断の観点（K）	アパレル企業等におけるマーケティング戦略や施策の課題を分析できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教室外学習時間を活用し、課題に取り組む。 学習効果を高めるために、積極的に質問し、自分自身の意見を述べる。
技術・表現の観点（A）	分析結果を踏まえて、アパレル企業の戦略や施策を評価し、具体的な提案を述べることができる。

学習計画

マーケティングの基本について、アパレル業界を中心に実例も取り上げながら、楽しく理解出来る講義を目指す。

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	講義の目的、目標、講義スケジュール、評価方法について説明する。	予習：テキスト序章(1-6頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第2回	マーケティング・ミックス①	マーケティング・ミックスのうち、プロダクト（製品）とプレイス（流通チャネル）について理解する。	予習：テキスト第1章1～2(8-29頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第3回	マーケティング・ミックス②	マーケティング・ミックスのうち、プロモーション（顧客との情報のやりとり）とプライス（価格）について理解する	予習：テキスト第1章3～5(29-43頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第4回	事例分析①	確認テスト①を実施する。 具体的なアパレル企業等を取り上げ、マーケティング・ミックスの視点から分析する。	予習：事例資料を配付するので読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第5回	ターゲット市場の選定①	セグメンテーション（Ｓ）の基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第2章1～3(45-63頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分

第6回	ターゲット市場の選定②	ターゲティング（Ｔ）とポジショニング（Ｐ）の基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第2章4～5(64-74頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第7回	事例分析②	確認テスト②を実施する。 具体的なアパレル企業等を取り上げ、ＳＴＰの視点から分析する。	予習：事例資料を配付するので読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第8回	製品ライフサイクル①	製品ライフサイクル（導入期・成長期）の基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第3章1～2(75-88頁)、7(110-113頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第9回	製品ライフサイクル②	製品ライフサイクル（成熟期・衰退期）の基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第3章3～6(88-110頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第10回	市場地位別のマーケティング戦略①	市場地位別のマーケティング戦略の分類とリーダーの戦略についての基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第4章1～3(115-136頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第11回	市場地位別のマーケティング戦略②	市場地位別のマーケティング戦略のチャレンジャー、ニッチャー、フォロワーの戦略の基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第4章4～7(137-170頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第12回	事例分析③	確認テスト③を実施する。 具体的なアパレル企業等を取り上げ、市場地位別のマーケティング戦略の視点から分析する。	予習：事例資料を配付するので読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第13回	業界の構造分析	5つの競争要因の基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第5章(172-223頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第14回	全社戦略	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（ＰＰＭ）の基本的な考え方を理解する。	予習：テキスト第6章(225-266頁)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第15回	定期試験・全体の総括	本講義内容に関する定期試験を行う。 試験終了後にマーケティングに関する最新動向について理解する。	これまでの講義内容を総復習しておくこと 復習：指定された課題に取り組むこと。	180分
第16回				

学習計画注記	講義内の議論やアパレル業界等の動向を踏まえ、スケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	講義内容に関する質問やさらに議論したい点について、講義終了時にアンケートを提出する。当該内容について、翌週の講義冒頭にて解説する。 事例分析①～③について、議論を行う。
評価方法	確認テストは、第4回、第7回、第12回に実施する。（各回10点×3回＝30点満点） 質問・意見等の共有は、講義の中での発言や提出物などにおいて、思考・判断、関心・意欲・態度の視点から評価する。（30点満点）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	確認テスト	○	○		○
	質問・意見・アイデアの共有	○	○	○	○
	定期試験	○	○		○

評価割合	確認テスト（30%）、質問・意見等の共有（30%）、定期試験（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	沼上幹(2008),わかりやすい マーケティング戦略[新版],有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12355-7
参考図書	庭山一郎(2014),サラサラ読めるのにジワっとしみる「マーケティング」のきほん,翔永社,ISBN 978-4-7981-3788-9
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」分野におけるマーケティングに関する専門知識を有しており、職業人として実務に活用出来る。 【思考・判断】外部環境と内部環境を整理し、的確なマーケティング戦略や施策を立案することが出来る。消費者の意思決定プロセスを踏まえた施策立案が出来る。 【関心・意欲・態度】「衣」分野で日々生じている事象を積極的に収集し、マーケティングの視点から理解し、自分なりの見解を持てる。 【技術・表現】マーケティングのフレームワークを駆使して、現状の課題を把握し、解決策にまとめ上げていくことが出来る。
学生へのメッセージ	先行きが不透明な時代にあって、マーケティングの重要性は従来以上に高まってきている。しかし、大企業であってもマーケティングに関わる知識や技術を持ち、的確に判断している経営者は意外に少ないのが実態である。

	将来を担う皆さんには、マーケティングの重要性を理解し、基本的な活用方法を学び、アパレル業界の活性化に貢献して欲しい。 学生の皆さんの理解を深めるために、講義では積極的に発言し、授業で取り上げるべき事例などがあれば、ぜひ提案して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、流通小売業（百貨店）におけるマーケティングの実務経験を有しており、講義ではファッション関連企業の実例を取り上げて議論する。
アクティブ・ラーニング	○	第4回、第7回、第12回の事例分析では、履修者自らが分析した結果について共有し、意見交換を行っていく。
情報リテラシー教育	○	適宜、書籍や論文の探索方法を解説し、マーケティング以外も含めた情報収集のノウハウを伝えて行く。
ICT活用	○	Google Classroomを通して資料提供・レポート提出などを実施する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	被服整理学実験		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木　麻紀子	指定なし

ナンバリング	D32109M13
授業概要(教育目的)	衣料用洗剤の洗浄力に関して、起泡性、浸透力、界面張力等を測定し臨界ミセル濃度を求める。また、人工汚染布を用いた洗浄力試験を行い、市販洗剤の性能を評価すると共に、洗浄に関する要因とそれらの相関性などを考察する。これらの実験を通じ、生活に関わる身近な問題を科学的に観察する方法を学ぶことを目的とする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	被服の洗浄に関わる現象を理解することを目標とする。
思考・判断の観点（K）	得た知識を持って有効な洗濯および取扱い方法を選択できることを目標とする。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目標とする。
技術・表現の観点（A）	洗剤、洗濯、漂白などについて適切で効果的な方法や条件を理解し、実生活で活用できることを目標とする

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	実験概要の説明及び実験にあたっての諸注意	配布したプリントをよく読み、次回からの実験概要について理解しておくこと	30分
第2回	洗剤水溶液の性質1 水の硬度測定1	水の全硬度測定をEDTA法によって測定し、実験機器の取扱い方や滴定実験を通じて、検水による硬度の違いを理解する。	実験結果をレポートにまとめる	45分
第3回	洗剤水溶液の性質2 水の硬度測定2	水の全硬度測定をEDTA法によって測定し、実験機器の取扱い方や滴定実験を通じて、洗濯用水の硬度と洗剤成分のはたらきを理解する。	実験結果をレポートにまとめる	45分
第4回	洗剤水溶液の性質3 起泡力の測定	ロスマイルス起泡力測定装置を使った実験を通じて界面活性剤の種類により起泡力及び泡の安定性が異なることを体験し、市販洗剤の起泡性と泡の安定性の関係と役割について理解する。	実験結果をレポートにまとめる	45分
第5回	洗剤水溶液の性質4 比界面張力の測定	キシレンと水の比界面張力を基準として、液適法による各種洗剤水溶液の比界面張力を測定する。実験を通じて、臨界ミセル濃度について理解する。	実験結果をレポートにまとめる	45分
第6回	洗剤水溶液の性質5 浸透力の測定	洗浄過程の第1歩は被洗物がぬれることである。浸透力は洗剤の種類や濃度に影響されるため、トラベス改良法によって市販洗剤の浸透力を測定する。実験を通じて、ぬれと洗剤のはたらきについて理解を深める。	実験結果をレポートにまとめる	45分

第7回	洗剤水溶液の性質7 まとめ	これまでの洗剤水溶液を使った実験の結果をまとめ、洗剤水溶液の性質とはたらきについて理解を深める。	これまでの実験結果のレポートを見直し、要点を整理する。	45分
第8回	洗浄力試験1	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第9回	洗浄力試験2	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第10回	洗浄力試験3	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第11回	洗浄力実験4	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第12回	漂白試験1	漂白に使用する汚染布を作製し、汚染布の作製方法を理解する。	汚染布の作製方法について配布したプリントを読み、予習しておくこと。	45分
第13回	漂白試験2	各種漂白剤試験を行い、漂白剤の特徴を理解する	実験結果をレポートにまとめる	45分
第14回	漂白試験3	各種漂白剤試験を行い、漂白剤の特徴を理解する	実験結果をレポートにまとめる	45分
第15回	実験のまとめ	これまでの被服整理学実験を振り帰り、洗剤性能と洗浄に関する要因との相関性を考察する。	これまでのレポートを見直し、洗濯とはどのようなメカニズムで汚れを落としているのかを総合的にまとめる。	60分

学生へのフィードバック方法	・レポートはコメントをつけて返却する。 ・質問は授業中および授業後に受けるが、出来る範囲内で適宜個別対応も行う。
評価方法	・平常点は、授業への参加、実験への取り組み状況等で総合的に評価する。 ・レポートは、各テーマの内容を把握し、実験で得られた結果を図表などにまとめ適切な考察ができているかを評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	レポート	○	○		○

評価割合	レポートを60%、平常点を40%の総合評価とする。
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考図書	被服管理学／増子　他／朝倉書店 被服整理学／吉永　他／光生館 被服整理学/日本衣料管理協会刊行委員会編/社団法人日本衣料管理協会
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】実験形式の具体的な作業で得た技術をもって生活の中へ応用できる能力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日3限　2406研究室
学生へのメッセージ	生活に欠かせない洗濯について、洗濯機と水と洗剤がどのようなメカニズムで汚れを落としているのか、実験によって理解を深めて下さい。ひとつひとつの実験を注意深く丁寧に行い、得られた結果から分かる事は何か、また、各項目の結果を総合的に考まとめてみると、洗浄条件と洗浄力の色々な関係が見えてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に授業に参加することによって、被服管理の専門性への理解を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートの作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アパレル企画実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島　由記子	指定なし

ナンバリング	D32209M13
授業概要(教育目的)	売れ筋を作り出すには、シーズンのトレンドや市場の動きを観察しながら「何が売れるのか」を予測することが必要である。その収集した情報を分析して、その分析結果を商品企画に翻訳する。本授業ではアパレル企業における商品企画の中の、消費者動向、トレンド情報分析、ブランドコンセプトの設定方法を指導する。さらにシーズンテーマ、素材、カラー、デザイン、コーディネート、サイズ、価格構成、製造原価などのシーズン企画と、小売業における販促企画を、課題制作を通じて体験的に学んでもらう。企業における基本的なアパレル企画の手法を指導していく。
履修条件	「マーチャンダイジング」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	アパレルにおける商品企画について基礎的な知識を身につけることができる。
思考・判断の観点（K）	多種多様なファッション情報を分析・整理し、ファッション企画を立案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	各回の課題作品に対して、意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自らが立案したファッション企画を課題作品に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の概要、アパレル企業の商品企画とは	授業の概要。アパレルの商品企画とは何かを学ぶ。	配付プリントのアパレルの商品企画について読んでおくこと。持ち物の準備をしておくこと。	180分
第2回	ブランドコンセプト企画（1）	ブランドイメージ企画（ライフスタイル）を立案する。	ブランドイメージ企画マップの下書きを完成させてくること。	240分
第3回	ブランドコンセプト企画（2）	ターゲットの対象年齢、販路、ファッション感性を分析する。ターゲットのブランドイメージ企画をマップに作成する。	ブランドイメージ企画マップの下書きを期日までに完成させること。	240分
第4回	ブランドコンセプト企画（3）	ターゲットのブランドイメージ企画をマップに作成する。	ブランドイメージ企画マップ（清書）を期日までに完成させること。	240分
第5回	情報収集（1）	メディアからファッション情報（コンペティター情報）の収集を行う。	メディアからの情報を期日までに収集し整理しておくこと。	180分
第6回	情報収集（2）	ファッション情報をマップに作成する。	ファッション情報企画マップ（清書）を期日までに完成させてくること。	240分
第7回	シーズンテーマ企画	シーズンテーマ、シーズンコンセプトの設定を行う。カラー、イメージのコンセプトを立案する。シーズンテー	シーズンテーマのマップの下書きを期日までに仕上げておくこ	180分

	(1)	マのマップの下書きを作成する。	と。	
第8回	シーズンテーマ企画(2)	シーズンテーマのマップを作成する。	シーズンテーマ企画マップ(清書)を期日までに仕上げておくこと。	240分
第9回	シーズンスタイリング企画(1)	シーズンスタイリング企画(カラー、素材、スタイリング)を立案する。	シーズンスタイリング企画の下書きを、期日までに仕上げておくこと。	240分
第10回	シーズンスタイリング企画(2)	シーズンスタイリング企画のマップを作成する。	シーズンスタイリング企画マップの下書きを期日までに仕上げておくこと。	240分
第11回	シーズンスタイリング企画(3)	シーズンスタイリング企画のマップを作成する。	シーズンスタイリング企画マップ(清書)を期日までに仕上げておくこと。	240分
第12回	プロモーション企画(1)	プロモーション企画(プロモーションストーリーとVMD)の立案をする。	プロモーション企画の下書きを、期日までに仕上げてくること。	240分
第13回	プロモーション企画(2)	プロモーション企画(プロモーションストーリーとVMD)の立案をする。	プロモーション企画の下書きを、期日までに仕上げてくること。	240分
第14回	プロモーション企画(3)	プロモーション企画のマップを作成する。表紙の作成。	プロモーション企画マップ(清書)と表紙を、期日までに完成してくること。	240分
第15回	プレゼンテーション	プレゼンテーションと課題マップの講評	すべての課題マップを期日までに仕上げてくること。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進め方によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	・各回で立案された学生の企画について、学生から質問があったらそれに答えていく。 ・企画マップに対する最終の講評。
評価方法	・各回の企画マップ作品を、情報収集、分析、企画の立案、表現、完成度の点から総合的に評価していく。 ・平常点等、総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
	作品	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	作品(90%)、平常点(10%)
使用教科書名(ISBN番号)	なし。配付プリント
参考図書	・菅原正博監修　「アパレル・マーチャンダイジング」　ファッション教育社、2007年 ・菅原正博・本山光子共著　「ファッション・マーケティング」ファッション教育社、2010年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】アパレルにおける商品企画について専門的な知識・技術を有している。 【思考・判断】ファッション産業における多種多様な情報を分析・整理することができる。 【関心・意欲・態度】商品企画における各課題に対して、積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその課題を解決していくことができる。 【技術・表現】自ら立案した商品開発をわかりやすく作品に表現することができる。
学生へのメッセージ	商品企画は、アパレル企業における企画部門のマーチャンダイザー(MD)やデザイナーの仕事です。商品企画に興味がある人には受講をお勧めします。課題作品を完成させるため、できるだけ出席するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。商品企画の「情報収集」「ブランドコンセプト企画」「シーズン企画」「スタイリング企画」「プロモーション企画」を、実務家の視点からわかりやすく指導する。
アクティブ・ラーニング	○	各回で、各企画の課題マップを制作していく。最終日にプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報収集のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ウィービングデザイン演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場　美和子	指定なし

ナンバリング	D32303M22
授業概要(教育目的)	三原組織とその変化組織・二重織の技法を学び、デザインを起こし、組織、糸を選択する。 卓上機又は大機を用いて製織することによりテキスタイルを設計･制作する技術を身につける力を育成する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	織物組織図を理解することができる。 素材と織物組織の名前が分かる。
思考・判断の観点（K）	素材や布の密度によって季節感や用途を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	織物の概要。織り機と織道具の名称を理解する。 サンプル織の組織図を作成する。	組織図を完成させる。	240分
第2回	基礎制作：変化組織織のサンプル	変化組織の織物から興味のある布を１つえらび、担当者を決め糸をデザインし機ごしらえする。 履修生が順次織って布サンプルを作る。	機ごしらえを終わらせる。	240分
第3回	基礎制作：変化組織織のサンプル織	担当組織の製織	担当組織を織り上げる。	120分
第4回	基礎制作：変化組織織のサンプル織	担当組織以外のサンプル織の製織	製織を終わらせる。	120分
第5回	基礎制作：変化組織織のサンプル織	担当組織以外のサンプル織の製織	製織を終わらせる。	180分
第6回	基礎制作：変化組織織のサンプル織	担当組織以外のサンプル織の製織	製織を終わらせる。	120分
第7回	基礎制作：変化組織の	サンプル布の整理をする。	サンプル布の整理を終わらせる。	180分

	サンプル織			
第8回	変化組織のサンプル織	サンプル織をファイリングする。 組織図とサンプル布をA4クリアファイルにまとめる。	ファイリングを終わらせる。	120分
第9回	応用制作：二重織（無縫製による巾着袋）	袋織で無縫製による巾着袋を制作する。 織った布を天然のすくも藍で染色する。 素材色の糸を選びデザインし、二重織の技法、袋織の技法を学ぶ。 織物設計表を作成し、機がけの準備をする。機ごしらえをする。（整経）	整経を終わらせる。	180分
第10回	応用制作：二重織	機ごしらえをする。（筬通し・綜絖通し・巻き込み・織り付けまで）	機ごしらえを終わらせる。	240分
第11回	応用制作：二重織	袋織の製織	製織を進める。	180分
第12回	応用制作：二重織	袋織の製織	製織を進める。	120分
第13回	応用制作：二重織	製織を終わらせる。房のしまつをし、藍染めの準備をする。	製織を終わらせ房のしまつを終わらせる。	180分
第14回	応用制作：二重織	藍染め	藍染めを終わらせる。 提出物の準備とまとめをする。	240分
第15回	講評	サンプル織・二重織の講評会、意見交換をする。	提出物の振り返りをする。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	期末提出物は採点し、返却する。
評価方法	期末提出物は、2課題とし、 第一課題「変化組織のサンプル織」は組織図が出来ているか、サンプル織がきちんと織れていてファイリングが出来ているかを評価。 第2課題「二重織・巾着袋」は組織図が出来ているか、計画通り織れているか、きちんと染色出来ているかを評価。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末提出物	○			○
	平常点・授業姿勢	○	○	○	
	講評会（発表含む）		○		○

評価割合	期末提出物（基礎・応用制作作品・織物設計表など）60% 平常点･授業姿勢（作業記録レポート含む）30% 合評会5% 発表5%
使用教科書名(ISBN番号)	プリント資料配布
参考図書	ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具　岸田幸吉著 1978年10月美術出版社 手織のデザイン基礎編　長谷川麥子著 1979年9月源流社 ハンドウィービング手織りの実習　浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」について専門的知識・技術的を有している。グローバルな視点から「衣」「住」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
学生へのメッセージ	織り実習では織機を１人１台使用します。 毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにして下さい。 学校にある糸を原則使用します。 織物初心者、織姫のようにトントンと織り機で布を織ってみたい方も歓迎です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。 作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファッション・インテリアファブリックデザイン演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場　美和子	指定なし

ナンバリング	D32305M22
授業概要(教育目的)	ウィービングデザイン演習で身につけた基本的な織物の技術を基に、ファッション用、またはインテリア用のテキスタイルを企画し、設計、製作する体験を通して、用途に応じたテキスタイル設計のプロセスを理解する力を育成する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	テキスタイルの用途、技法を理解することができるようになる。
思考・判断の観点（K）	制作した布の使い方を提案できるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	「衣」「住」のテキスタイルに関心を持ち、自主的な学習を通じて企画・デザインを立案できるようになる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	ファッション、インテリアテキスタイルの使用例を見る。 様々な布サンプルやウィービングデザイン演習で織った布からイメージしたファッション又はインテリアテキスタイルを考える。 ファッションかインテリアファブリックか選択する。 ファッションならマフラー・ショールまたはバッグ、インテリアならクッションカバーまたはテーブルランナーを織る。	ファッションファブリックかインテリアファブリックかどちらか決める。	240分
第2回	プレゼンテーションボード「企画書作成」	ファッションかインテリアか何を織るか発表する。 イメージに合う写真を集める。 コンセプトとタイトルを考える。	コンセプトとタイトルを決めておく。 イメージボードの画像を集める。	240分
第3回	プレゼンテーションボード「企画書作成」	素材、色を決める。	企画書を完成させる。 糸を選ぶ。	120分
第4回	プレゼンテーションボード作成	集めた画像をコラージュしてタイトル、キャッチコピーをレイアウトする。	プレゼンボードを完成させる。	240分
第5回	制作:ファッション・インテリアファブリック	企画書とプレゼンボードを照らし合わせて織物設計表を作成する。	織物設計表を完成させる。糸の準備をする。	120分

第6回	制作：ファッション・インテリアファブリック	整経をする。	整経を終わらせる。	120分
第7回	制作：ファッション・インテリアファブリック	機がけをする。	機がけを終わらせる。	120分
第8回	制作：ファッション・インテリアファブリック	製織する。	製織を進める。	180分
第9回	制作：ファッション・インテリアファブリック	製織する。	製織を進める。	240分
第10回	制作：ファッション・インテリアファブリック	製織	製織を終わらせる。	120分
第11回	制作：ファッション・インテリアファブリック	房のしまつや整理をする。素材に合った仕上げをする。	布の仕上げを終わらせる。	120分
第12回	制作：ファッション・インテリアファブリック	縫製等、布を仕上げる。	写真を撮る準備をする。ロケ地、コーディネートや、モデルを決める。	120分
第13回	制作：ファッション・インテリアファブリック	作品の写真を撮る。	作品の写真を撮り終える。	240分
第14回	制作：ファッション・インテリアファブリック	作品画像をA4サイズにまとめる。 写真は２～３点に絞り、綺麗にレイアウトする。 コンセプトと織り組織、サイズを記入する。	作品ボードを完成させる。 提出物のまとめをする。	240分
第15回	講評会	プレゼンボードと作品ボードをA4イラストボードに貼る。 布のプレゼンテーションをする。	企画書、プレゼンボード、作品ボード、織物設計表、デザイン画等提出する。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	期末提出物は採点し、返却する。
評価方法	期末提出物は課題とし、 第1課題「プレゼンボード」と「作品画像」はコンセプトが明解に表現出来ているか、写真がきれいに撮れているかを評価。 第2課題「ファブリック作品」は計画通り織れているか、コンセプトに合っているか、企画書、織物設計表が的確にまとめられているを評価。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末提出物	○	○	○	○
	平常点・授業姿勢	○		○	
	講評会（発表含む）		○		○

評価割合	期末提出物60% 平常点・授業姿勢（作業記録レポート含む）30% 合評会5%　発表5%
使用教科書名(ISBN番号)	プリント資料配布
参考図書	ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具　岸田幸吉著 1978年10月美術出版社 手織のデザイン基礎編　長谷川麥子著 1979年9月源流社 ハンドウィービング手織りの実習　浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」について専門的知識・技術的を有している。グローバルな視点から「衣」「住」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【技能・表現】「衣」「住」のテキスタイルの学びを深め、課題解決に必要な情報蒐集・分析・整理できる技能を身につけている。

学生へのメッセージ	織物初心者の方でも丁寧に指導致します。 織り実習では織り機を１人1台使用します。 毎回違った作業をするので出来るだけ遅刻欠席のないようにしてください。 作品作りの為の資料集めを積極的に行ってください。 制作の糸は企画にあった素材を自分で購入してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。 作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ハンドクラフト演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 願　真源	指定なし

ナンバリング	D32306M22
授業概要(教育目的)	近年衣料素材としての使用量が急増している（編物）について、その特性や製造方法を理解するため、経編の基礎としてかぎ針編と緯編の基礎として棒針編みについて学び、ニット製品の規格に必要な編技法の基礎知識を習得させることを目的とする。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１、技術的な観点で編みを説明することができる。 ２、編み物の種類を把握することができる。
思考・判断の観点（K）	１、編糸の選択、編み方の組み合わせをバランスよく組み合わせることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１、自らクリエイティブな発想をしようと日常的に意識することができる。
技術・表現の観点（A）	１、編み物をする際に、キレイに見せるための段取りや力加減が調整できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	講義	編み物は大きく分かれると、経編の基礎としてかぎ針編と緯編の基礎として棒針編この二種類がある。それぞれの技法の説明と特徴についての講義と、作品制作のサンプルを提示する。	授業で配分したプリントを読むこと。道具や糸を準備すること。	60分
第2回	かぎ針編み	かぎ針の持ち方と糸のかけ方について説明する。正しい持ち方とかけ方を覚えとくと、指が疲れず、スムーズに編める。その後、「作り目」の種類とそれぞれの編み方を説明し演習する。	授業で配分したプリントを読むこと。 作り目の編み方を練習すること。	120分
第3回	基本の編み方	平編みで編む・中心から編む・だ円に編む・立体に編むなどの基本的な編み方を説明し演習する。	基本的編み方を練習しサンプルを作ること。	140分
第4回	練習	基本的編み方を練習しサンプルを作る。	サンプルを作ること。	120分
第5回	応用	編み込み模様の編み方・モチーフ編みの編み方・ビーズの編み込み方を演習する。	デザインを考えること。	120分
第6回	制作	こらまで学んだ編み方を選んで、作品を作る。	作品を制作すること。	140分
第7回	制作	編みの手順に沿って作業を進める。	作品を制作すること。	140分
第8回	講評	かぎ針編み作品の講評と棒針編みの説明。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第9回	棒針編み	棒針の持ち方と糸のかけ方について説明する。６種類の基本的編み方を説明し演習する。	それぞれの編み方を練習すること。	120分

第10回	制作	基本的編み方で編み地を作る。	６枚の編み地を作ること。	120分
第11回	応用	編み込み模様を編む・目を増やす・目を減らすなどを演習する。	それぞれの編み方を練習すること。	120分
第12回	制作	ロシアの編み作家であるオルガさんの作品の紹介。並びに、オルガさんの作品の編み方を演習する。	プリントを読むこと。デザインを考えること。	120分
第13回	制作	これまで学んだ編み方を選んで組み合わせて、作品を作る。	作品を制作すること。	140分
第14回	制作	編みの手順に沿って作業を進める。	作品を制作すること。	140分
第15回	鑑賞と講評	制作した作品がどのように使われるべきか、あるいはどのように展示されるべきか検討する。仕上がった作品を展示することで、作品の見え方、環境が変化することを実感することは重要である。テキスタイルが生活にとってどのような役割であるかを検証する。	展示方法を考えること。 これまでの授業内容を復習しておくこと。	140分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。
評価方法	・作品からは色と模様とリズムのバランスを見て評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レジュメ	○	○	○	
	作品	○	○		○

評価割合	平常点（30%）及び作品（70%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配付。
参考図書	「棒針編みの教科書」 「かぎ針編みの教科書」
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】技術的背景からデザインを語れる。 【技術・表現】オリジナリティ溢れる表現を身につける。
学生へのメッセージ	やってみたら簡単なことばかりなので、一緒チャレンジしてみましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。 生地の制作と、生地を日用品にする制作の両方を行っており、広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Practical English C		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D24102M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、使える英語（Practical English）を身につけていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・自己紹介	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。	他者の自己紹介を作文する。	45
第2回	仲間を知ろう1	仲間を知るための質問事項をクラス全体で考え、それにそってパートナーにインタビューをする。	パートナーのインタビューの答えをまとめる。	45
第3回	仲間を知ろう2	パートナー紹介のモデル発表をきく。また、パワーポイントと口述原稿の作り方を学び作成を始める。	パワーポイントと口述原稿を完成する。	45
第4回	仲間を知ろう3	各自パワーポイントを使ってパートナー紹介をする。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	自分の子どもの頃からの夢の変遷をワークシートにまとめる。	45
第5回	私の夢1	各自夢の変遷を年表にまとめる。説明のための表現、文法、語彙を学び、口述原稿を書き始める。	口述原稿を完成する。	45
第6回	私の夢2	私の夢の変遷についてのモデル発表をきく。パワーポイントと口述原稿を修正する。	発表の練習をする。	45
第7回	私の夢3	各自パワーポイントを使って、夢の変遷について発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	他の人の夢の変遷の感想を書く。	45
第8回	私の夢4	これからの夢を改めて考え直し、実現のためのステップを挙げていく。クラスで発表し、相互に夢の実現に向けてアドバイスをする。	これまでの体験の中で貴重だったと思うものをリストにする。	45

第9回	私の貴重な体験1	自分の貴重な体験を物語りにするためのアウトラインを作成する。	パワーポイントに使う写真やイラストを集める。	45
第10回	私の貴重な体験2	私の貴重な体験のモデル発表をきき、質疑応答をする。パワーポイントと口述原稿作成上の注意点を確認する。	パワーポイントと口述原稿を作成する。	45
第11回	私の貴重な体験3	パワーポイントと口述原稿を修正する。発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第12回	私の貴重な体験4	各自パワーポイントを使って貴重な体験の発表をする。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	本学の創立に関する資料（日本語）を読む。	45
第13回	私の大学＆学生生活1	東京家政学院大学の創設者についての資料を読む。	大学の創設者についての感想を書く。	45
第14回	私の大学＆学生生活2	町田キャンパスの平面図を見ながら、英語名称を確認する。大学のどこを紹介したいかをリストアップする。	所属学科の説明を考える。	45
第15回	私の大学＆大学生活3	東京家政学院大学生としての自分の生活をワークシートを使ってまとめる。	創設者、キャンパス、学科紹介、学生生活を含め、発表のアウトラインを立てる。	45
第16回	私の大学＆大学生活4	アウトラインを修正する。「私の大学＆大学生活」についてのモデル発表をきく。	パワーポイントを作成する。	45
第17回	特別な思い出3	口述原稿を書くために必要な表現、文法、語彙を学ぶ。口述原稿を書き始める。	口述原稿の下書きを完了する。	45
第18回	私の大学＆大学生活5	パワーポイントを修正し、口述原稿を作成する。	パワーポイントと口述原稿を修正する。	45
第19回	私の大学＆大学生活6	効果的なプレゼンテーションの方法について学び、発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第20回	私の大学＆大学生活7	必要に応じてパワーポイントおよび口述原稿を修正し、発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第21回	文化紹介1	英語圏の文化紹介（A)を読み、疑問点や感想を述べる。	疑問点について調べる。	45
第22回	文化紹介2	英語圏の文化紹介（B)を読み、疑問点や感想を述べる。	疑問点について調べる。	45
第23回	文化紹介3	英語圏の文化紹介（C)を読み、疑問点や感想を述べる。	疑問点について調べる。	45
第24回	文化紹介4	英語圏の文化紹介（D）を読み、疑問点や感想を述べる。	疑問点を調べる。	45
第25回	文化紹介5	外国人に紹介したい日本文化をクラス全体でリストアップする。その中からひとつを選び、発表のアウトラインを立てる。	アウトラインを修正する。	45
第26回	文化紹介6	アウトラインにそって、レジュメの計画を立てる。写真やイラストを図書館等で集める。	レジュメを作成する。	45
第27回	文化紹介7	説明に必要な表現、文法、語彙を学び、口述原稿を書き始める。	口述原稿の続きを書く。	45
第28回	文化紹介8	文化紹介のモデル発表をきき、質疑応答をする。自分のレジュメと口述原稿の修正をする。	発表の練習をする。	45
第29回	文化紹介9	発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第30回	文化紹介10	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	英語圏の文化と日本文化の考え方の違いについて作文する。	45

学習計画注記	学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント。
評価方法	課題（完成度により評価する） 発表（プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	発表	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題30%、発表40%、平常点30%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。 【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。 【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。 【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限（前期）
学生へのメッセージ	今の力は問いません。「英語でコミュニケーションできるようになる」という強い気持ちだけ持って来て下さい。一段ずつ階段を上るように進めますので心配いりません。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Practical English D		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D24102M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、使える英語（Practical English）を身につけていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・自己紹介	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、授業内容・方法について理解する。各自簡単な自己紹介をする。	他者の自己紹介を作文する。	45
第2回	英語圏の大学生活について知ろう1	英語圏の大学生活について知りたいことをクラス全体でリストアップし、自分の担当を決める。英語圏の大学のパートナーに送る自己紹介文を書く。	自己紹介文を修正し、パートナーに送る。	45
第3回	英語圏の大学生活について知ろう2	大学生活やキャンパスについての表現、文法、語彙等を学び、質問の答えがよく分からなかった時の聞き返しを練習する。	パートナーに自分の担当の項目について質問する。	45
第4回	英語圏の大学生活について知ろう3	パートナーの回答をもとに、発表のアウトラインを立てる。	アウトラインを修正する。	45
第5回	英語圏の大学生活について知ろう4	英語圏の大学生活についてのモデル発表をきき、質疑応答をする。自分の発表のパワーポイントを作成する。	口述原稿を作成する。	45
第6回	英語圏の大学生活について知ろう5	口述原稿を修正し、発表の練習をする。	発表の練習をする。	45

第7回	英語圏の大学生活について知ろう6	各自パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで考察を深め、自分達の学生生活との共通点と相違点を確認する。	こんな地球に住みたいという具体的なイメージをリストにする。	45
第8回	どんな地球に住みたい？1	「どんな地球に住みたい？」の各自のアイディアを発表し、クラス全体として図にまとめる。	国連のSDGs17の目標を確認する。	45
第9回	どんな地球に住みたい？2	各自確認してきた国連のSDGs17の目標につけ加えたいものを話し合い、図に追加する。アムネスティの世界人権宣言を読む。	アムネスティの世界人権宣言を最後まで読み終える。	45
第10回	どんな地球に住みたい？3	自分達が住みたいと思い描いた地球にするために、自分達で何ができるかについてアイディアを出す。	自分達でできることの中で、特に興味を持ったものを一つ選ぶ。	45
第11回	どんな地球に住みたい？4	「どんな地球に住みたい？－自分達にできることー」のモデル発表を聞き、自分の発表のパワーポイントと口述原稿を作り始める。	発表のパワーポイントと口述原稿を作成する。	45
第12回	どんな地球に住みたい？5	難民もしくは人権に関する映画を観る。	映画の感想をまとめる。発表の練習をする。	45
第13回	どんな地球に住みたい？6	映画の感想を紹介しあう。その後、「どんな地球に住みたいー私達にできることー」について、パワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントをすることで話題を発展していく。	クリスマスは何の日かをまとめる。	45
第14回	クリスマスを迎えるために1	クリスマスは何の日かについて、各自まとめたものを発表する。その後、クリスマスについての物語を読む。	クリスマスは何の日かについて作文する。	45
第15回	クリスマスを迎えるために2	クリスマス精神について学び、自分がしたいことを考える。そのための具体的な目標を立てる。	平面で作成するクリスマスツリーのイメージ図を描く。	45
第16回	クリスマスを迎えるために3	クリスマスツリーのイメージ図を紹介しあい、クラスのクリスマスツリーのイメージを決定する。クリスマスツリーを作成するために、必要な材料、道具についてアイディアを出し合う。	クリスマスについての思い出を紹介するためのアウトラインを作成する。	45
第17回	クリスマスを迎えるために4	クリスマスの過ごし方が書かれたストーリーを読み、感想を述べる。	クリスマスの思い出を紹介するためのパワーポイントを作成する。	45
第18回	クリスマスを迎えるために5	クリスマスの過ごし方を書いたストーリーの続きを読み、自分でも取り入れたいことをまとめる。	クリスマスの思い出を紹介するための口述原稿を作成する。	45
第19回	クリスマスを迎えるために6	クリスマスツリーを作成する。	口述原稿を修正する。	45
第20回	クリスマスを迎えるために7	英語圏で有名なクリスマスを題材としたアニメを観て、ストーリーを確認する。	映画の感想を作文する。	45
第21回	クリスマスを迎えるために8	パーティの招待状の書き方や返信の仕方を学び、実際に作成する。簡単なケーキのレシピを学ぶ。	教員からのクリスマスパーティの招待状（メール）に返信する。	45
第22回	クリスマスを迎えるために9	自宅に招待された時の訪問の仕方や使われる表現を学び、シミュレーションする。	習ったケーキのレシピを見ながら、実際にケーキを作る。クリスマスの思い出の紹介の練習をする。	45
第23回	クリスマスパーティ	教室を家に見立て、クリスマスパーティをする。クリスマスパーティでは、パワーポイントを使って「クリスマスの思い出」を紹介する。互いに質問やコメントをすることで話題を発展させていく。	教員を招待者と見立てThank Youメールを出す。正月に写真を撮る。	45
第24回	お正月には何をする？1	日本のお正月でよく見られるものや光景の絵を見て、何をしているかを説明する。その中で、自分の家でもするもの／することを挙げ、外国人への説明を考える。	お正月の説明に必要な英単語や表現を調べる。	45
第25回	お正月には何をする？2	日本の正月について、外国人がどのようなものやことに関心を持つのかについて書かれた文章を読み、感想を述べ合う。	文章の感想を作文する。	45
第26回	お正月には何をする？3	外国のお正月の過ごし方（A）について学び、感想を述べ合う。また、自分のお正月の過ごし方についての発表のアウトラインを作成する。	外国のお正月の過ごし方（A)の感想を作文する。	45
第27回	お正月は何をする？4	外国のお正月の過ごし方（B)について学び、感想を述べ合う。発表のパワーポイントを作成する。	外国のお正月の過ごし方（B)の感想を作文する。	45
第28回	お正月は何をする？5	外国のお正月の過ごし方（C）について学び、感想を述べ合う。口述原稿を書く。	口述原稿を完成する。	45
第29回	お正月には何をする？6	外国のお正月の過ごし方（D)を学び、感想を述べ合う。発表の練習をする。	発表の練習をする。	45
第30回	お正月には何をする？7	自分のお正月の過ごし方についてパワーポイントを使って発表する。相互に質問やコメントを述べ合うことで、話題を発展していく。	教員に授業の感想をメールする。	45

学習計画注記	学習計画の内容に加え、ルーチンとして、日常生活についての会話、発音・アクセント練習、歌の練習を行う。
学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント。
評価方法	課題（完成度により評価する） 発表（プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言ならびに取り組みの姿勢で評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題	○	○	○	
	発表	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	課題30%、発表40%、平常点30%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。 【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。 【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。 【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限（後期）
学生へのメッセージ	英語は、「科目」ではなく「ことば」です。文法の正確さを重視するのではなく、意味が伝わるかどうかを重視して練習していきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本語教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森　朋子	指定なし

ナンバリング	D34107M21
授業概要(教育目的)	「日本語教育」とは、「日本語を母語としない人」に日本語を教える教育のことである。授業では日本日本語学習者の多様性や日本語教育とは何かを学んだ上で、日本語教育コースを作るための知識と技術を学び、日本語教育に関する基礎的な力を養っていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本語教育に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	日本語教育および外国語教育の諸課題について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本語教育に関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	日本語学習者の多様性、日本語教育とは何か	日本国内外の日本語学習者について、国籍、人数、年齢、学習目的等の点から学ぶ。また、日本語教育とは何かを学び、外国語教育の必要性について考察していく。	自分の周辺にいる日本語学習者についての情報をまとめる。	180
第2回	学習者のニーズおよびレディネス分析1	外国語教育における学習者のニーズとレディネスについて学び、様々なケースについて分析していく。	ニーズおよびレディネス分析の調査票を作成する。	180
第3回	学習者のニーズおよびレディネス分析	それぞれ作成してきた調査票をグループ内で分析し、改善点を考える。その後、調査結果が言語コースを策定する上で、どのように活用できるかを学ぶ。	大学の授業、旅番組、スポーツ選手のインタビュー等、様々な場面で使われている日本語の特徴を分析する。	180
第4回	目標言語調査1	様々な場面で使われている日本語のそれぞれの特徴を確認する。また、日本語学習者が日本語を必要とする場面（ニーズ領域）で、どのような日本語が使われているかを調査する方法を学ぶ。	自分と友人もしくは家族の短い会話を録音し、文字化する。	180
第5回	目標言語調査2	コミュニケーション・ストラテジーについて学んだ上で、文字化した会話にどのような特徴があるのかをグループ内で分析する。	これまで受けた外国語のクラスでは「何」（どのような項目）を学んだかをまとめる。	180
第6回	シラバス・デザイン1	シラバスとは何かを学んだ上で、構造的シラバス、場面的シラバスについて学ぶ。それぞれの長所・短所、適す	構造的シラバスおよび場面的シラバスで作成された日本語教科	180

		る学習者について、グループで分析する。	書の1課がどのような構成になっているのかを分析する。	
第7回	シラバス・デザイン2	機能的シラバス、トピックシラバス、スキルシラバス、タスクシラバスについて学び、それぞれの長所・短所、適する学習者についてグループで分析する。	それぞれのシラバスで作成された日本語教科書の1課がどのような構成になているかを分析する。	180
第8回	シラバス・デザイン3	学習者のニーズによって、適するシラバスを選定する。クラス全体で発表し相互に意見を交換することで、より実質的なシラバス・デザインに近づけていく。	第8回までの内容を復習し、中間試験に備える。	180
第9回	中間試験（ここまでの振り返り）	日本語教育とは何か、日本語学習者の多様性、ニーズおよびレディネス分析、シラバスデザインについて、学んだ知識を活かし、論理的にひゅげんする。	これまで受けた外国語の授業では「何をしたか」をまとめる。	180
第10回	カリキュラム・デザイン1	中間試験の振り返りを行う。その後、外国語教授法のうち、文法訳読法とオーディオ・リンガル法のミニレッスンを受け、それぞれの長所・短所、適する学習者についてグループで分析する。さらに、理論と実践、結果のつながりを考えていく。	コミュニケーションで使えるようになるためには、どのような方法で目標言語を学べば効果的かを考える。	180
第11回	カリキュラム・デザイン2	コミュニカティブ・アプローチのミニレッスンを受け、長所・短所、適する学習者、文法訳読法とオーディオ・リンガル法との違いをグループで分析する。また、どのような工夫を加えることで教室活動をコミュニケティブにできるかを考えていく。	自分がどのように母語を獲得したのかをまとめる。	180
第12回	カリキュラム・デザイン3	コンプリヘンション・アプローチのミニレッスンを受け、長所・短所、適する学習者、コミュニカティブ・アプローチとの違いをグループで分析する。また、教授法を決める上での留意点について学ぶ。	自分が選んだ学習者を対象としたミニレッスンを計画する。	180
第13回	ミニレッスン1	各自ミニレッスンの計画を発表し、相互に意見交換をすることでより実質的なものにしていく。教室活動および教材の作り方について学ぶ。	教案・教材を作成する。	180
第14回	ミニレッスン2	各自の教案・教材を発表し、相互に意見交換をすることでより実質的なものにしていく。教師の役割について学ぶ。	ミニレッスンの練習をする。	180
第15回	ミニレッスン3	ミニレッスンの発表をする。相互評価により、改善点を見出していく。	中間試験以降の内容を復習し、期末試験に備える。	180

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
評価方法	中間試験・期末試験（主に学んだ知識を使って分析する力を評価する） ミニレッスン（学んだ知識を運用する力を評価する） 平常点（授業およびグループディスカッションでの発言、取り組みの姿勢を評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験・期末試験	○	○		○
	ミニレッスン	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験30%　期末試験30%　ミニレッスン30%　平常点10%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】日本語教育に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。 【思考・判断の観点】日本語教育および外国語教育の諸課題について分析的に考えることができる。 【関心・意欲・態度の観点】言語教育に関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。 【技術・表現の観点】問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日昼休み、水曜日昼休み、木曜日3限（前期）
学生へのメッセージ	日本が多文化共生社会となる上で、日本語教育は重要な要素です。身近な問題として考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションやミニレッスンを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	比較文化論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 髙橋　誠一	指定なし

ナンバリング	D34108M21
授業概要(教育目的)	「文化」とは，ある集団に共通するものの見方や考え方，行動の仕方，人との関わり方などにみられるパターンであり，私たちはそうした「文化」をとおして「世界」を認識したり，解釈したりしている。この授業では，文化の多様性について学ぶとともに，異なる文化との比較をとおして自文化について反省的に考える力を身につけることを目的とする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	文化の背景にあるさまざまな価値観，思考形式，行動様式の違い，および共通性について理解することができるようになる。
思考・判断の観点（K）	比較という手法を学ぶことで，ものごとを客観的にとらえることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	グローバル化のなかで生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組むことができるようになる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集，分析，整理するとともに，他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現することができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の目的やねらい，評価方法，進め方などについて説明する。「文化」に対して抱いているイメージを明確にする。	「文化」からイメージされること／ものについて考える。	180
第2回	文化とは何か	文化をとおして「世界」をみる。	他国の文化について調べる。	180
第3回	文化の普遍性と特殊性	普遍性と特殊性（共通点と相違点）について考える。	他国の文化と自国の文化の共通点と相違点について調べる。	180
第4回	比較の視点	タテ（時間軸）とヨコ（空間軸）について学ぶ・考える。	「伝統」について考える。	180
第5回	異文化接触	カルチャー・ショックについて考える（グループディスカッション）	カルチャー・ショックを受けた経験を思い出す。	180
第6回	中間試験	これまでの授業の内容をふまえ，「文化」とはどのようなものなのかを理解する。	中間試験に向けて授業の内容を振り返り，自分の考えをまとめておく。	180
第7回	文化変容とステレオタイプ	文化の変容と先入観・固定観念について学ぶ・考える。	身のまわりの「当たり前」について考える。	180
第8回	日本人論・日本文化論	代表的な日本人論・日本文化論を学ぶ。	日本人論・日本文化論の特徴を整理する。	180

	(1)			
第9回	日本人論・日本文化論(2)	日本人論・日本文化論を再考する。	日本人論・日本文化論の問題点について理解する。	180
第10回	ジェンダーとセクシュアリティ	国際比較からジェンダーとセクシュアリティについて学ぶ・考える。	日本の男女平等について考える。	180
第11回	家族と結婚(1)	国際比較から家族・結婚のあり方について考える。	自分のイメージする家族像を明確にする。	180
第12回	家族と結婚(2)	選択的夫婦別姓について考える(ディスカッション)。	選択的夫婦別姓に対する自分の考えを明確にする。	180
第13回	宗教―イスラーム文化(1)	イギリスにおける若者ムスリムについて学ぶ・考える。	ムスリムに対するイメージをまとめておく。	180
第14回	宗教―イスラーム文化(2)	日本におけるムスリムについて学ぶ・考える。	日本におけるムスリムについて調べる。	180
第15回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り，自文化についてあらためて考える。	これまでの授業の内容を振り返り，自分の考えを表現できるように整理し，まとめておく。	180

学習計画注記	学生の関心や授業の展開によって若干の変更がありうる。
学生へのフィードバック方法	ディスカッション時のコメント，リアクションペーパーの実施。
評価方法	・中間試験と期末レポート(授業内容についての確認と授業をふまえて自分の考えを述べる論述) ・平常点(リアクションペーパーの提出，ディスカッション時の発言，授業への取り組み姿勢)

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
	中間試験	○	○	○	○
	期末レポート	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験(25%) 期末レポート(40%) 平常点(35%)
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「文化」という視点から現代生活の諸問題を理解する。 【思考・判断】現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をする。 【関心・意欲・態度】「文化」に関わる社会の諸問題に対して関心をもって取り組む。 【技能・表現】他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現する。
学生へのメッセージ	「文化について学ぶ」ということは，たんに「文化を知る」ということではありません。とくに，文化の多様性を知るということは，私たちにとっての「当たり前」をあらためて見つめ直すきっかけとなるもので，視野を広げ，新たな選択肢の可能性を切り拓き，私たちの「生」(生き方や生活)をより豊かにすることにつながります。授業では一方的な講義とならないように，ディスカッションも取り入れ各自が「考える」ことを重視します。他者との議論を通して，自分の視野を広げ，考えを深めていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション時に自分の考えや意見を述べる。
情報リテラシー教育	○	授業の内容について理解を深めるために必要な情報を収集する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	多文化共生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 髙橋　誠一	指定なし

ナンバリング	D34109M21
授業概要(教育目的)	グローバル化が進む現代社会では，日常生活のさまざまな場面において外国にルーツをもつ人たちと出会い，関わる機会が増えている。こうした状況のなか，日本においても「多文化共生」という言葉や考え方が注目されるようになっている。この授業では，とくに人権という観点から，あらゆる人々の多様性を尊重していく多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について考える力を身につけることを目的とする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解することができるようになる。
思考・判断の観点（K）	現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をすることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	グローバル化のなかで生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組むことができるようになる。
技術・表現の観点（A）	課題解決に必要な情報を収集，分析，整理するとともに，他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現することができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業の目的やねらい，評価方法，進め方などについて説明する。「多文化共生」に対して抱いているイメージを明確にする。	「多文化共生」からイメージされること／ものについて考える。	180
第2回	ヨーロッパにおける移民との共生（1）フランス	「共和国モデル」に着目し，移民との共生について考える。	「共和国モデル」について復習し，理解を深める。	180
第3回	ヨーロッパにおける移民との共生（2）ドイツ	「国籍法」の変化に着目し，移民との共生について考える。	日本の国籍制度について自分なりの考えをまとめる。	180
第4回	ヨーロッパにおける移民との共生（3）イギリス	「シティズンシップ・テスト」に着目し，移民との共生について考える。	「シティズンシップ・テスト」の有効性と課題について自分の考えをまとめる。	180
第5回	難民問題について考える	難民問題の現状と背景について考える。	難民問題と自分との関わりについて考える。	180
第6回	中間試験	これまでの授業内容をふまえ，「共生」のあり方にはさ	中間試験に向けて授業の内容を	180

		まざまなバリエーションがあることを理解する。	振り返り，自分の考えをまとめておく。	
第7回	日本における多文化共生（1）	日本における外国人住民について，その歴史的背景・経緯や現状を知る。「言葉の壁」と「文化の違い」について考える。	自分の周りにいる外国人について想像し，考える。	180
第8回	日本における多文化共生（2）	外国につながる子どもたちについて，とくにアイデンティティや教育に関する問題を中心に考える。	子どもたちの課題・問題についての理解を整理する。	180
第9回	日本における多文化共生（3）	外国人住民を対象としたアンケート調査の報告書から，外国人が抱えている課題を読み解く。グループワークを行う。	アンケート調査の報告書を読み返す。	180
第10回	日本における多文化共生（4）	報告書から読み解いた課題に対して，どのような取り組みや改善ができるのか／求められているのかを考える。グループワークの成果を発表する。	アンケート調査の報告書を読み返す。	180
第11回	日本における多文化共生（5）	外国人住民の存在を肯定的にとらえ，その能力や資源を活かすことに着目した多文化共生2.0という考え方について考察する。	多文化共生2.0の有効性と問題点についてまとめる。	180
第12回	多文化共生の課題	近年の排外主義の高まりやヘイトスピーチといった問題について考察することで，多文化共生の難しさや課題について考える。	多文化共生の実現のために必要なことを考える。	180
第13回	人権とは	人権についてその意義や重要性を確認するとともに，それを保障し，実現することの難しさや課題についても考察する。	人権をめぐる理想と現実について考える。	180
第14回	あらためて多文化共生を考える	「障害の社会モデル」や「LGBT」などを取りあげ，多文化共生の射程と意義についてあらためて考える。	移民／外国人以外の多文化共生について，自分の身近な例から考える。	180
第15回	まとめ	これまでの授業を振り返り，多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について，それぞれが自分の考えをまとめる。	これまでの授業の内容を振り返り，自分の考えを表現できるように整理し，まとめておく。	180

学習計画注記	学生の関心や授業の展開によって若干の変更がありうる。
学生へのフィードバック方法	ディスカッション時のコメント，リアクションペーパーの実施。
評価方法	・中間試験と期末レポート（授業内容についての確認と授業をふまえて自分の考えを述べる論述） ・平常点（リアクションペーパーの提出，ディスカッション時の発言，グループワークの発表，授業への取り組み姿勢）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○	○	○	○
	期末レポート	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験（25%） 期末レポート（40%） 平常点（35%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解する。 【思考・判断】現代生活の諸問題を分析し，問題解決に導く考察をする。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち，社会の諸問題に対して関心をもって取り組む。 【技能・表現】他者と議論し，その結果や自分の考えを的確に表現する。
学生へのメッセージ	「多文化共生」という視点や考え方は，私たち一人ひとりの「生」（生き方や生活）に関わるものです。多様な人々が共生する社会のなかで，他者を尊重するということは，翻せば他者から自分が尊重されるということにつながります。授業では一方的な講義とならないように，ディスカッションやグループワークを行い各自が「考える」ことを重視します。他者との議論を通して，自分の視野を広げ，考えを深めていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション時に自分の考えや意見を述べる。グループワークとその成果の発表。
情報リテラシー教育	○	授業の内容について理解を深めるために必要な情報を収集する。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ウェブデザイン演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高嶋　章雄	指定なし

ナンバリング	D34205M22
授業概要(教育目的)	ウェブサイトは情報化社会における情報発信手段として必須のメディアである。この授業は、学生がウェブサイトの構造やデザイン、情報としての役割を理解すること、およびウェブサイトをデザインするための技術（HTML、 CSS、Javascriptなど ）を駆使し、サイトのコンセプト設計・デザイン・コーディング・公開を含めたウェブディレクションスキルを身につけることを目的として、演習形式で実施する。
履修条件	専門科目「ウェブデザイン」「ウェブデザイン演習A」の単位を修得していること。またはそれと同等の勉強をし、HTML、CSSに関する技術を十分理解していること。 オンライン授業となる場合は、スマートフォンやタブレット端末ではなく、パソコンの利用が必須となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	1. 情報を収集・整理・分析し、表現に落とし込むことができる。 2. ウェブサイトを構成する、HTML、CSSの仕組みを説明できる。 3. ウェブサイト制作技術を用いてコーディングし、情報をウェブサイトとして表現・発信できる。

学習計画

ウェブデザイン演習B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	ウェブディレクションの流れを把握し、学習範囲を明確にする。課題提出あり。	ウェブサイト構成要素を確認し、PCを用いた作業の流れを把握する。	60
第2回	ウェブサイトの評価	ウェブデザインの主要原則を学び、制作者視点でウェブを閲覧する。課題提出あり。	既存のウェブサイトからGoodデザイン＆Badデザインを選び、内容をまとめる。	60
第3回	ウェブサイト設計（1）	基本的なレイアウト構成、サイトマップ、ワイヤーフレーム制作、ウェブの標準化、ユーザビリティ、アクセシビリティについて学ぶ。	設計に必要な要素を理解し、制作に試用する。	60
第4回	ウェブサイト設計（2）	タイポグラフィ、配色、トーン＆マナーについて学ぶ。デザイン案・デザイン解説書を含むデザインカンプを作成する。課題提出あり。	デザインカンプを試作する。	60
第5回	HTML・CSS（1）	ウェブデザイン演習Aで学習した、基本的なタグを用いた表現を復習する。課題提出あり。	ボックスモデルを用いたサイトを制作する。	60
第6回	HTML・CSS（2）	ウェブデザイン演習Aで学習した、基本的なレイアウト表現を復習する。課題提出あり。	複数のレイアウト手法によるサイトを制作する。	60

第7回	HTML・CSS（3）	ウェブデザイン演習Aで学習した、javascript、外部サービスを用いた表現を復習する。課題提出あり。	javascriptを利用したサイト、SNS等外部ウェブサービスを埋め込んだサイトを制作する。	60
第8回	企画（1）	制作するウェブサイトのテーマを設定する。ウェブサイト制作をプロジェクトとしてとらえ、管理する。	プロジェクト管理ツールを設定し使用する	120
第9回	企画（2）	テーマに沿った資料を収集し、必要となるコンテンツを準備する。	企画書を制作する。資料収集・コンテンツを制作する。	120
第10回	ウェブサイト制作（1）	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第11回	ウェブサイト制作（2）	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第12回	ウェブサイト制作（3）	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第13回	ウェブサイト制作（4）	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。課題提出あり。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第14回	ウェブサイト制作（5）	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。完成したウェブサイトをサーバーにアップロードし公開する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施し、完成したウェブサイトを公開する。	120
第15回	プレゼンテーション	制作したウェブサイトの内容を、他者に伝える。課題提出あり。	プロジェクトを振り返る。	90
第16回				

学習計画注記	履修者数や学生の理解度に応じてスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	課題等提出物に対しコメント付きで返却し、必要に応じて授業内で講評する。
評価方法	・講義時間内の作業に取り組む姿勢を平常点とし、実装の完了を以て技術の習得を確認する。 ・制作したウェブサイトの実装内容と各回の作業報告をもとに、サイト完成度と作業量を確認する。 ・最終報告書で、講義で学習した知識・技術を実践で活用できたかを確認し評価する。 ※ウェブデザイン実務士の資格を取得する場合は、「良」以上の評価を要する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点				○
	サイト完成度と作業量				○
	最終報告書				○

評価割合	平常点（20%）、制作したサイトの完成度および各自の作業量（60%）、最終報告書（20%）を基準とし、総合的に判断して評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要に応じて講義関連資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【技術・表現】 テーマに沿った情報を収集・分析・整理し、ウェブサイトという媒体を通じて表現、発信できる。
学生へのメッセージ	近年、ウェブサイトは最も手軽な情報収集の手段となっている。情報の受け手としてではなく、送り手として情報を表現・発信するために、ウェブサイトを構成する技術を主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の課題でグループワークを実施する。
情報リテラシー教育	○	情報の表現方法を検討し、ウェブサイトとしてアウトプットする。
ICT活用	○	PCを利用し、HTML・CSSのコーディングを行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	地域政策論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

ナンバリング	D35102M21
授業概要(教育目的)	我が国には約2000の基礎自治体と呼ばれる地方公共団体、すなわち、市区町村がある。これらの自治体には、それぞれの問題や課題がある。また同じ市区町村でも地域（生活圏域）によって異なる問題や課題を持つ。ところで日本の社会状況を一言で言えば、「人口減少」と「少子高齢化」につきるであろう。特に地方では人口の減少が加速化し、また高齢化が顕著な事態である。このふたつのことが日本の地域に様々な課題をもたらし、地域の実情に即した地域政策の構築がめられている。この授業では我が国の課題が集約されている二つの地域を主に取り上げる。 　一つは大学が所属する町田市である。町田市は今まで人口が増大してきたが、今後減少に転じる。このようななかで、少子高齢化が進み、小中学校の統廃合という教育政策また高度経済成長期に増設された国策団地の老朽化と住民の高齢化など多岐にわたる問題がある。 　もうひとつは、人口減少が著しい地方、そのなかでも離島（取り上げるのは、長崎県五島市（福江島）における児童や高齢者ケアそしてその対策としての移住について検討したい、 　地方再生が叫ばれて久しいが、再生すべきは実は日本そのものかもしれないという意識をもって、今私たちが出来る対応策を学生ならでは視点で研究し、発表して、実際の政策過程につなげていくことを目標とする
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	地域政策のしくみやガバナンスを学び、地域の課題を自ら提起し解決していくための知識が身につく。
思考・判断の観点（K）	自分の身の回りで起こる地域の問題について、地域政策の観点から考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	地域社会の担い手という意識をもって、政治、経済、世界など幅広い分野の社会問題に関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	与えられたテーマに対して自分の考えを整理し、他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	講師自己紹介、講義の目的、学習計画、学習の到達点、評価の方法、参考図書紹介	当講義に期待することや学びたいことを考えておくこと	60分
第2回	地域政策の論理（地域政策とは、地域政策の歴史）	日本の実相を統計データや深部記事から知る　（日本の課題を理解する） ◆理解した内容を各自発表する	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第3回	人口減少時代の地域課題1（人口減少・少子高齢化）	我が国の人口減少や少子高齢化の状況を知り、地域に及ぶ影響について学ぶ。 ◆グループディスカッション：地域の少子高齢化社会の実際を授調べる	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第4回	地域研究（1）町田市について　町田市の	町田市の概況から理解したことについて、さらにグループで深める	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分

	概況についてデータを示して学ぶ（授業時に説明する資料を使う）			
第5回	町田市の政策課題をグループで深める❶	グループで町田市の政策課題ついて、教育、住環境、地域住民の交流、団地の老朽化と高齢化、子育て、について課題を設定すして調べる	前回の授業内容を復習しておくこと。 経産省及び内閣官房が提供する地域経済分析システムRESASについて調べておくこと（何ができるのか、どんな機能があるのか等）	90分
第6回	町田市の政策課題をグループで深める❷	グループで町田市の政策課題ついて、教育、住環境、地域住民の交流、団地の老朽化と高齢化、子育て、について課題を設定すして調べる	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第7回	町田市の政策課題研究❷	グループで町田市の政策課題ついて、教育、住環境、地域住民の交流、団地の老朽化と高齢化、子育て、について課題を設定して調べる	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第8回	町田市の政策課題研究❸	グループで町田市の政策課題ついて、教育、住環境、地域住民の交流、団地の老朽化と高齢化、子育て、について課題を設定して調べる	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第9回	町田市の政策課題研究❹	グループで町田市の政策課題ついて、教育、住環境、地域住民の交流、団地の老朽化と高齢化、子育て、について課題を設定して調べる	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第10回	町田市の政策課題研究❺　発表会	グループ学習の課題発表会　自治体へも参加を呼び掛ける	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。発表準備と振り返り	90分
第11回	地方創生❶地方が直面する課題動画を含めて説明	グループ学習：地方の課題を考える	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第12回	地方創生❷長崎県五島市　福江島を例にとって研究する	五島市の方々から現在の状況をオンラインで聞く　意見交換	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第13回	地方創設❸	福江島の挑戦　生活インフラのための人材確保と移住の問題　移住とはなにかを考える	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第14回	地方創生まとめ	地方創生と移住についてまとめる	前回の授業内容を復習しておくこと。 前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第15回	総合発表会実務家との対話	グループ研究のまとめを行う　実務家の報告を聞く	発表の準備をする	90分

学習計画注記	履修者数や履修者の理解度、授業の進み具合によってスケジュールは変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	質問や意見は、毎回配布・回収するリアクションペーパーで対応します。 リアクションペーパーは、毎回の授業の終わりで配布・回収し、次の授業の冒頭で、前回授業の振り返りとともに適宜記載内容を紹介、回答などもしていきます。 またグループワークの内容は、授業の中で適宜講評、解説します。
評価方法	評価については、まず出席を重視します。そのうえで、グループ活動への参加態度を、学生自身が評価します。そして最終的には、第三者の意見も取り入れながら（対象自治体の関係者など）発表会での成果を評価し総合的に判断します。グループ学習の自己評価では、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲・態度」「技術理解」の指標を用いて自らが自らの行動を評価します。学生数にもよりますが、それらについて、学生さんと教員が面談を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	グループワークへの参加態度	○		○	
	発表会の成果	○	○	○	○

評価割合	平常点（１０％）、参加態度等評価（４０％）、プレゼン（発表）試験（５０％）とします。

使用教科書名(ISBN番号)	教科書は特に指定しません。適宜レジメやプリントを配布します。
参考図書	受講に当たって購入する必要はありませんが、自主学習向けに以下の図書を紹介します。 ・「新版　地域政策入門 - 地域創造の時代に - 」家中茂ほか/ミネルヴァ書房/2019年 ・　「サードプレイス：」レイオルデンバーグ　みすず書房　家でも、仕事場でもない第三の場所をどう作るか、関心ふかい。 ・町田市のHPや長崎県五島市のHPをみておくこと
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人口減少・少子高齢化」の分野について、専門的知識・技術を有している。生活について多様な視点で理解できる 【思考・判断】日本の人口構造と将来予測をを踏まえて社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】衣食住と福祉や介護、保育を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し表現する技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日　2時限　授業後
学生へのメッセージ	地域政策論は、学術的に定まった定義のない、時代とともに変化していく学問です。 皆さんとともに、授業も臨機応変につくっていきたいと考えていますので、臆することなく積極的に素朴な疑問や意見を挙げてください。 なお、授業ではディスカッションやワークを多用し、手を動かしながら考えることで実践的な学びの場となることを心掛けたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師は、高齢者福祉施設のソーシャルワーカーやNPO法人の理事また行政の高齢者施策検討審議会の経験があり、具体の政策実例や業務で使用している統計等を用いながら地域政策の理論と実務を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	授業では学生相互のディスカッションやワークを多く行い、学生が自ら考え、それを表現し、能動的に授業に参加することを促進します。
情報リテラシー教育	○	授業では、現場の方々にも参加をいただき、示されたデータを直に探索する。
ICT活用	○	グループワーク等で適宜PCやインターネットなどを使用します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会園芸		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 土橋　豊	指定なし

ナンバリング	D35103M21
授業概要(教育目的)	園芸と人間との関わりにおける社会的役割、人々の暮らしや社会を豊かにし、心に安らぎを与える園芸の効用と可能性を学修するとともに、植物を活用するリスクマネジメントである有毒植物についても、具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。また、人はなぜ花を愛でるのか、園芸とは何かなど基本的概念と、生活の中の植物・園芸の効用、植物・園芸によるQOLの向上、療法・福祉への活用について考える力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 園芸と人間との関わりにおける社会的役割を説明できる。 2. 心に安らぎを与える園芸の効用と可能性を説明できる。 3. 植物を活用するうえで注意すべき有毒植物について説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 植物および園芸により社会を豊かにするためのデザインを考察することができる。 2. 植物を活用するうえで注意すべき有毒植物を利活用する際の留意点を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

社会園芸

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、「社会園芸」を学ぶにあたって	本講義の到達目標、講義内容、進め方、評価方法について説明する。社会園芸学および周辺領域学問を解説する。	本講義の到達目標についてあらかじめ理解しておく。	60分
第2回	人はなぜ花を愛でるのか	園芸療法が成り立つ前提条件として、人が植物（花）を愛でる行為について考える。	花を愛でる行為について、自身のこれまでの経験をまとめておく。	60分
第3回	「園芸」とはなにか	「園芸」とは何か、人にとってどのような意味があるかを解説する。	これまで学習した園芸に関することを復習しておく。	60分
第4回	園芸による食育活動	食育とは何か、園芸による食育活動について解説する。	食育について調べておく。	60分
第5回	植物および園芸の効用	植物および植物を栽培する園芸により、生産的・経済的効用以外にどのような効用があるかを解説する。	植物および園芸により、私たちの生活にどのような恩恵があるかを考えておく。	60分
第6回	伝統行事に見る生活の中の植物	伝統行事の見る植物の活用、伝統行事を理解するうえで必要な旧暦について解説する。	伝統行事にはどのようなものがあるか、調べておく。	60分

第7回	幼少期における植物・園芸の役割	植物を用いた子どもの遊びと発達について解説する。	これまでに行った植物を用いた遊びについてまとめておく。	60分
第8回	QOL向上における植物・園芸の役割	植物・園芸によるQOLの向上について解説する。	QOLとは何かを調べておく。	60分
第9回	園芸活動で注意すべき植物：食中毒	園芸活動において活用する園芸植物による食中毒被害について解説する。	食中毒を引き起こす植物について調べておく。	60分
第10回	園芸活動で注意すべき植物：接触皮膚炎	園芸活動において活用する園芸植物による接触皮膚炎被害について解説する。	接触皮膚炎を引き起こす植物について調べておく。	60分
第11回	植物介在療法と園芸療法	生物介在療法における植物介在療法および園芸療法、園芸福祉の位置づけと特徴、発達史について解説する。	園芸療法、園芸福祉とは何かを調べておく。	60分
第12回	園芸療法で用いる植物	園芸療法で用いる植物の特性と活用法について解説する。	園芸療法の内容と植物との関係を調べておく。	60分
第13回	植物・園芸による五感の刺激	植物および園芸活動による五感の刺激について解説する。	これまでに植物・園芸による五感の刺激の経験をまとめておく。	60分
第14回	園芸療法の手順と評価法	園芸療法の手順と、効果に対する評価法を解説する。	園芸療法にはどのような対象者がいるのか調べておく。	60分
第15回	超高齢社会と園芸療法	超高齢社会における園芸療法の役割について解説する。最後に、本講義のまとめと最終試験を実施する。	超高齢社会と何かを調べておく。また、これまでの学習範囲を復習しておく。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	毎回提出する振り返りシートに質問を記入してもらい、次回に解説する。最終試験は試験終了後に解説する。
評価方法	平常点、小テスト、講義最終日の最終試験で評価する。なお、合理的な理由がない限り再試験は実施しない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	最終試験	○	○		○
	平常点			○	
	小テスト	○	○		

評価割合	小テスト（20点）、平常点（10%）、最終試験（70%）
使用教科書名(ISBN番号)	
参考図書	人もペットも気をつけたい園芸有毒植物図鑑（978-4-473-03959-0） デザイン農学概論（978-4-254-40563-7）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
学生へのメッセージ	生活園芸士の資格取得に必要な科目とともに、植物および園芸を活用した生活デザインを考えるために必要な知識が得られます。主体的に学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公立植物園および農業試験場に勤務し、植物を介した生活デザインの実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活と環境		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 土橋　豊	指定なし

ナンバリング	D35104M21
授業概要(教育目的)	生活を取り巻く環境の理解を通して、衣食住と植物との関係、植栽デザイン、持続可能な開発目標（SDGs）に基づく都市や郊外住宅地の住環境整備において緑化の果たす役割、バイオフィリックデザイン、ユニバーサルデザイン、園芸活動によるまちづくりなど、身近な生活と環境との関係を学ぶ。また、生物多様性、地球温暖化とヒートアイランド現象など、地球規模な環境問題について考える力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.　生活を取り巻く環境を説明できる。 2.　持続可能な開発目標（SDGs）を説明できる。 3.　バイオフィリア仮説に基づくデザインを説明できる。
思考・判断の観点（K）	1.　持続可能な開発目標（SDGs）に基づく都市や郊外住宅地の住環境整備において緑化の果たす役割を考察することができる。 2.　バイオフィリア仮説に基づくデザイン、園芸活動によるまちづくりの手法を提示することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

生活と環境

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、「生活と環境」を学ぶにあたって	本講義の到達目標、講義内容、進め方、評価方法について説明する。また、「生活」と「環境」について考える。	本科目の到達目標等を理解しておく。生活とは何か、環境とは何かについて調べておく。	60分
第2回	食生活を豊かにする植物	食生活を豊かにするハーブやスパイス、嗜好料などの主な種類を解説する。	食生活における植物について調べておく。準備に要する時間、1時間。	60分
第3回	庭と植栽デザイン	庭の役割と、植栽デザインについて解説する。	庭の役割にはどのようなものがあるか考えておく。	60分
第4回	バイオフィリックデザイン	バイオフィリア仮説とそれに基づくデザインについて解説する。	バイオフィリアとは何かを調べておく。	60分
第5回	室内環境における植物の役割	室内で利活用する室内植物の効用について解説する。	室内植物にはどのような種類があるか調べておく。	60分
第6回	園芸活動と	園芸活動の場における環境設定とユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインとバリア	60分

	ユニバーサルデザイン	について解説する。	フリーについて調べておく。	
第7回	園芸活動による街づくり	園芸活動による街づくりについて、事例をもとに解説する。	街づくりとは何かを調べておく。	60分
第8回	植物を介した地域活動（１）	地域における栽培を伴う活動の留意点、手順、事例について解説する。	地域の園芸活動にはどのような対象者がいるのか調べておく。	60分
第9回	植物を介した地域活動（２）	地域における栽培を伴わない活動の留意点、手順、事例について解説する。	地域の園芸活動にはどのような対象者がいるのか調べておく。	120分
第10回	ヒートアイランド現象における都市緑化の役割	屋上緑化、壁面緑化を中心に、どのような効果があるかを解説する。	ヒートアイランド現象、屋上緑化、壁面緑化とは何かを調べておく。	60分
第11回	いま地球で起きていること	『世界がもし100人の村だったら』を読み、世界で起きている問題を解説する。	世界で起こっている問題にはどのようなものがあるか、情報を整理しておく。	60分
第12回	持続可能な開発目標（１）	持続可能な開発目標（SDGｓ）について解説する。	SDGｓとは何かを調べておく。	120分
第13回	植物から見た環境問題	生物多様性と絶滅危惧植物と人間による活動について解説する。	生物多様性、絶滅危惧植物とは何かを調べておく。	60分
第14回	生活と環境を学ぶ場としての植物園	植物園における様々な活動を調べ、発表する。	植物園の公式サイトの情報をまとめて、植物園の役割として考えられることを発表する。	60分
第15回	持続可能な開発目標（２）	植物・園芸によるSDGｓの可能性について発表と討議を行う。最後に、本講義のまとめを行う。	植物・園芸によるSDGｓの可能性について発表できるように準備しておく。これまでの授業についてまとめておく。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回提出する振り返りシートに質問を記入してもらい、次回に解説する。小テストおよび最終試験を授業内で実施し、試験終了後に解説する。
評価方法	発表課題、平常点、小テスト、講義最終日の最終試験で評価する。なお、合理的な理由がない限り再試験は実施しない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	最終試験	○	○		
	平常点			○	
	発表課題	○	○	○	○
	小テスト	○	○		

評価割合	平常点（10点）、小テスト（20点）、発表課題（10点）、最終試験（60点）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	デザイン農学概論（978-4-254-40563-8）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。 グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
学生へのメッセージ	生活園芸士の資格取得に必要な科目とともに、現代社会を理解し、SDGｓに基づく生活デザインを考えるために必要な知識が得られます。主体的に学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公立植物園および農業試験場に勤務し、植物を介した生活デザインの実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ガーデニング実習Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D35203M23
授業概要(教育目的)	1,2年次の園芸領域の講義と実習で得た基礎的な知識と経験を活かし、実際に植物の栽培管理を行う。ガーデニング実習Ⅰと合わせて年間を通した植物の栽培管理法を解説する。季節に適した植物を用い、その栽培に必要な管理計画を検討し、実習する。また、園芸や造園の役割を理解し、植物を使った時間的、空間的なデザインを見る目、思考力、判断力の向上を目指す。
履修条件	「ガーデニング概論」、「園芸論」、「観賞植物素材論」を履修していることが望ましい。「ガーデニング実習Ⅰ」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	身の回りで栽培されている植物に興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点（K）	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	植物栽培に必要な作業を考え、他の人と協力し安全に配慮しながら行うことができる。
技術・表現の観点（A）	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	イントロダクション	本実習の到達目標、進め方、春夏の季節に必要な持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する。 花壇の区画分け、片付け、植栽準備。	本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。春夏の季節に必要な持ち物、服装を準備する。 作業日誌を記入する。
第2回	菜園の準備、栽培計画	菜園の栽培計画を作成する。 花壇苗用の草花とタデアイの播種作業を行う。	作業日誌を記入する。
第3回	菜園の植え付け	それぞれに作製した植栽配置図に従って、植物の植え付ける。 野菜の苗の植え付け。 防虫ネットを設置等の作業。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第4回	校内の春の植物の観察 イネの種子播種	校内の植物の春の姿を観察する。 菜園の植物の観察、水やりなどの管理。 イネの種子を播種	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第5回	観葉植物の増殖	観葉植物を増殖する（挿し木） 菜園の植物管理、追加の苗を植え付け、直播の種子を蒔く。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第6回	花壇の植え付け 夏の寄せ植えのデザイン	花壇の植え付け管理作業。 夏の寄せ植えの植栽配置デザインを考える。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。

第7回	花壇の管理 夏の寄せ植えをつくる	菜園と花壇の管理作業（追肥、除草、防虫）。 夏の寄せ植えを植栽配置図にもとづき作製する。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第8回	タデアイの定植	菜園と花壇の管理作業（追肥、除草、防虫）。 タデアイの苗を花壇やプランターに植え付ける。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第9回	園芸実習場花壇の植え付け 屋内と屋外の栽培環境の計測	植栽配置図を作成し、それに従って植え付けを行う。 春の照度、温度、土のPHなどの環境条件の計測。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第10回	校内の植物観察 菜園と花壇の管理	校内に生育している植物の初夏の姿を観察する。 菜園と花壇の管理作業。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第11回	菜園で育てた野菜の利用 菜園と花壇の管理	ぬか床を準備する。 菜園と花壇の管理。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第12回	寄せ植えを配置	寄せ植えの生育状況を確認し、夏の間に飾る正門前へ移動し配置する。 菜園と花壇の管理。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第13回	夏植え球根 菜園と花壇の管理	夏植え球根について解説し、植え付けを行う。 菜園と花壇の管理。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第14回	藍染を体験する	育てたタデアイを使って、たたき染または生葉染めをする。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第15回	総括	本実習のまとめ、到達目標の達成度について確認する。 菜園の野菜収穫、片付け。 作業日誌提出。	夏休み期間中、野菜や花を各自収穫し片付けを行う。

学習計画注記	履修者数、天候、植物の生育速度により、スケジュールや課題変更になります。
学生へのフィードバック方法	実習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点（60%）：各回の授業で課題をだす。実習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 日誌（40%）：実習中に行った作業、実習以外に行った管理作業、作業を通じて生じた疑問点、その疑問点を解決するために自ら調べた結果などを第3者へ伝わる様式で記録を残す。作業日誌を総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	
	課題	○	○		○

評価割合	平常点60%、課題40%で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日 2限　3609研究室
学生へのメッセージ	本科目には、材料費一人2,000円の負担が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	園芸装飾実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澤田　佳与子	指定なし

ナンバリング	D35207M23
授業概要(教育目的)	生活に植物を取り入れるためには様々な方法があることを説明し、行事と植物の関係性に着目して、工夫やその効果を実践を通して解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	植物の利用法や多様性について理解する。 植物が生活にどう溶け込んでいるかを知る。
思考・判断の観点（K）	様々な場面でどんな植物を扱うのかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	生活の中に植物を利用して豊かな感性を培う。
技術・表現の観点（A）	場面に適応できる技術や手法知る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。また、受講生の身近にある植物について考えてもらう機会とする。そして様々な場面での植物表現を担当講師の作品写真などを使い紹介し、植物の持つ可能性について触れる。	復習	60分
第2回	暮らしの中の植物１：　五節句ーおもてなしの心ー	一年を通して迎える5節句について知り、人々が節句に抱く思いや由来・歴史などを学ぶ。またそれにまつわる代表的なおもてなしの様式などにも触れる。	復習	60分
第3回	暮らしの中の植物２：　ハロウィン	近年では、日本古来の行事に加わり外国の文化を取り入れた行事も根付いてきている。その一つのハロウィンに着目し、ハロウィンを表現するアレンジメントを作成し、室内装飾にも発展させる。	復習	60分
第4回	いけばな：①盛花	日本伝統文化のいけばなに触れ歴史なども学ぶ。盛花は水盤と剣山を使用し体験する。また花型図なども説明する（草月流より）	復習	60分
第5回	いけばな：②投入	いけばなのもう一つの手法で、剣山を使用しない投入れを体験する。（草月流より）	復習	60分
第6回	暮しの中の植物3：キャンパスの自然をいける一大きな	キャンパスの敷地にある植物を採取し、それを使用して大きな器に合作を行う。自然の中の植物に触れることでフラワーショップにはない花材に出会う。	復習	60分

	花器や流木を使ってー			
第7回	ウェディングフラワーアレンジ：　①ブートニアを作る	ウェディングでの新郎用ブートニアについて紹介し、実際に制作する。	復習	６０分
第8回	ウェディングフラワーアレンジ：　②ブーケを作る	ウェディングでの花嫁用ブーケについて紹介し、実際に制作する。 フラワーアレンジメントに使用される保水用オアシスなどの扱いについても説明する。	復習	60分
第9回	ウェディングフラワーアレンジ：　③会場装飾	ウェディング会場を想定し、受講者でグループを作り会場装飾を考え、テーブル花などを合作する。場をしつらえることを体験する。	復習	60分
第10回	暮らしの中の植物4：　クリスマス	クリスマス行事の時に植物を使用するクリスマス飾りを紹介する。この授業では白樺を題材にクリスマス飾りを制作する。あわせて工具の使い方やワイヤーワークなども体験し、できあがった作品を飾り「場」について考える。	復習	60分
第11回	ドライ・漂白・着色素材などを使って：レリーフ	枯らした植物や、白く漂白された植物、またそれらに着色などをし、材料の魅力を見つけレリーフを制作する。	復習	60分
第12回	押花　：花の表情の変化を学ぶ	押し花の手法を知り実際に作り、立体的な花が平面になることで生まれる表情などを観察する。	復習	60分
第13回	暮しの中の植物5：お正月	一年の最初の行事であるお正月に使われる松や水引などをとりいれた作品を制作する	復習	60分
第14回	ドライフラワーなどを使ったハーバリウム・レジン作品制作	近年流行している、インテリアとしてのハーバリウムやレジンを使った小物を作る。	復習	60分
第15回	いけばな：③自己表現としての自由花ー竹などを使ってー	いけばなは自己表現の方法にもなる。竹や異質素材などを取り入れて植物を使い制作する。 授業の総括をし、レポートを提出する。 まとめ	復習・最終提出日までにレポートを提出する。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールがなどによって変更がある場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実習については、作業の様子や、完成した作品を見てアドバイスを行い、質問なども受ける。 レポートにもコメントを加える。
評価方法	授業の出席率、作品制作への理解、レポートなど
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	作品制作	○	○	○	○
	レポート	○	○		

評価割合	課題制作５０％、最終報告３０％、授業への参加及び平常点２０％
使用教科書名(ISBN番号)	プリント
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	生活デザイン学科では生活環境を取り巻く諸問題に積極的に向き合い、生活をデザインするための高度な専門的知識と技術、及び表現力を体得することを目的の一つとしている。園芸装飾実習はコミュニティデザイン領域に配した科目であり、植物を介して人や生活を捉え直し、彩りと豊かさ、癒しを生活に取入れるための表現力を学ぶことができる
学生へのメッセージ	本科目では、材料費一人8000円程度かかります。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	担当教員はいけばな草月流本部講師であり国内外で指導を行い、スポーツや企業イベントなどでいけばなの手法

した授業		を使い会場装飾なども手がける。 また、デモンストレーションや、子供イベントなども展開している。 オランダでフラワーアレンジメント留学をし、ウエディングの仕事なども展開。
アクティブ・ラーニング	○	華展や書籍、フラワーショップをみる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	マーチャンダイジング		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島　由記子	指定なし

ナンバリング	D35305M21
授業概要(教育目的)	マーチャンダイジングは商品計画と言われ、「市場が求める最適な商品を、最適な場所と時期に、最適な価格と数量を計画」することである。本授業では、アパレル企業や小売企業においての商品企画・開発の基本、販売計画、売価設定と利益の構造、市場調査、プロモーション技術について解説していく。社会状況、経済状況、トレンドなど大きな流れを捉えながら、マーケットのニーズを見つけ、より良い商品企画に繋げる方法を解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.マーチャンダイジング（商品企画）の重要性と構造、その業務について理解できる。
思考・判断の観点（K）	1.ファッション市場における様々なターゲットの類型を理解し区別することができる。 2.市場が求める最適な商品・場所・価格を調査し、考察する基本を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.学外学習について積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	1.学修で得た専門知識をもって、課題を論理的に分析・統合し、それを表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の概要、マーチャンダイジングとは	授業の概要。マーチャンダイジングの定義と、その特性を学ぶ。	配付プリントのマーチャンダイジングの定義と、その特性を読んで復習すること。	180分
第2回	マーケティング上の分類方法（1）	ファッションマーケティング戦略の基礎知識を学ぶ。ターゲット設定の重要性と、ターゲットセグメンテーションの手法を理解する。	ファッションマーケティング戦略の基礎知識を復習すること。	180分
第3回	マーケティング上の分類方法（2）、ファッション感性による分類	ファッション志向による分類（ティスト分類、革新度による分類、マインド別分類法)を学ぶ。ファッション感性について理解する。	ファッション志向による分類、特にティスト別の分類を覚えるようにすること。	180分
第4回	商品企画のステップ、MDとデザイナーの仕事	アパレル企業の商品企画の必要性、商品企画立案のポイントと、商品企画ステップについて学ぶ。MDとデザイナーの職務について理解する。商品企画のスケジュールを学習する。	アパレル企業の商品企画の重要性、企画のステップについて復習しておくこと。	180分
第5回	グレードによる分類、	グレード別分類法について学ぶ。後半はシーズンサイクルについて学習する。	グレード別分類法について復習すること。次回までに新聞等	180分

	シーズンサイクル		で、最近の社会の動向を調べておくこと。	
第6回	ファッション情報の収集と分析	ファッション情報の収集と分析について学ぶ。市場調査とマーケティングリサーチの基本を学習する。	配付プリントのファッション情報の収集の手法を復習し、中間レポートを作成すること。	180分
第7回	ターゲット企画	アパレルの商品企画におけるターゲット・クラスター分類について具体的に学ぶ。	ターゲット・クラスター分類について復習しておくこと。	240分
第8回	シーズンコンセプト企画	シーズンテーマの設定、シーズン・コンセプト立案について学ぶ。シーズン毎のテーマの特徴について学習する。	シーズンコンセプト企画について復習しておくこと。	180分
第9回	シーズンスタイリング企画	シーズンスタイリング企画について学ぶ。	課題「企画マップ①」を作成する。	240分
第10回	アイテム企画と価格	商品コンセプトにおけるファッション感度の段階と品揃え構成について学ぶ。アイテム構成企画について学習する。アパレルメーカーの製造原価、上代・下代・掛け率、売価設定について理解する。	製造原価と価格の関係を理解しておくこと。	180分
第11回	商品企画の具体化活動、プロモーション	商企画の具体化活動について学ぶ。プロモーション活動について理解する。	企業のプロモーションについて復習をしておくこと。	180分
第12回	VMD戦略の基礎	小売業におけるVMD戦略の基礎を学ぶ。	VMD戦略の基礎について復習しておくこと。	180分
第13回	シーズン別VMDストーリー	店舗におけるシーズン別VMDを理解する。	課題「企画マップ②」を作成する。	180分
第14回	リテールMD計数	目標達成率と前年比、粗利益、商品管理などの小売店における基本的な計数の知識を、演習を通して学ぶ。	リテールMD計数について復習しておくこと。	240分
第15回	SPAのVMD、総括	小売業における業態別VMD、とりわけSPAのVMDの特性について学ぶ。これまでの復習。	これまでの授業の復習をすること。	180分

学生へのフィードバック方法	・Google Classroom上の授業を閲覧してから書いてもらう毎回のミニレポートで、マーチャンダイジングについての質問を提出してもらい、その質問にGoogle Classroom上で回答していく。 ・15回の授業内に課題レポートについての質問を受けつける。
評価方法	・課題「企画マップ①」「企画マップ②」を作成してもらう。 ・中間レポート ・平常点 ・毎回のミニレポート 以上を総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間レポート	○	○	○	○
	企画マップ	○	○	○	○

評価割合	中間レポート（30%）、企画マップ①（30%）、企画マップ②（30%）、毎回のミニレポート・平常点（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし。配付プリント
参考図書	・菅原正博監修　「アパレル・マーチャンダイジング」　ファッション教育社、2007年 ・高見俊一、川畑洋之助、風間健　「マーケティング論」　日本衣料管理協会、2006年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】マーチャンダイジングの専門的知識を有している。 【思考・判断】市場が求める最適な商品・場所・価格を調査し、客観的に分析することができる。 【関心・意欲・態度】学外での自主的な学習を取り組むことができる。 【技能・表現】課題を論理的に分析・統合・表現し、発信することができる。
学生へのメッセージ	マーチャンダイジングは、アパレル企業における企画部門のマーチャンダイザー（MD）やデザイナーの仕事です。商品企画に興味のある人に受講をお勧めします。また、講義の後半は小売業におけるMDの話となるため、販売やプレスに興味のある人にも受講をお勧めします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。「商品企画・商品開発の基本」「売価設定と利益の構造」「市場調査」「プロモーションの基礎」を実務家の視点からわかりやすく解説する。
アクティブ・ラーニング	○	・課題「企画マップ」では体験的に学ぶことで思考力を養っていく。 ・中間レポートでは、学外の調査を実施することで、体験的に学んでいく。 ・計数の授業では、基礎的な計数の知識を演習を通して学ぶ。理解を深めていく目的である。
情報リテラシー教育		

ICT活用	○	PCを活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	グローバルビジネス論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 増永　真	指定なし

ナンバリング	D35306M21
授業概要(教育目的)	本講義では、国際情勢に対する基本的な見方を身につけ、国際情勢の変化が国内外における企業のビジネス活動にどのように影響するのか考える力を育成する。 新型コロナウイルス問題をはじめ、時事問題となっている国際社会における諸問題を中心に、日本と世界とのかかわりを理解することに主眼を置く。食品や食糧の問題も扱うので、学生が将来、関連のビジネスや家庭科教育に従事する際に役立つ内容である。国際社会が直面する問題には、政治問題と経済問題があり、時には双方が絡み合うので、関連する国際政治学と国際経済学の考え方の基本も学ぶ。他の授業や将来のキャリア、その他、学生の関心を考慮して、新聞や動画も使って分かりやすく解説するので、心配はいらない。授業では他の科目の学習や卒業論文の執筆、就職活動や将来の仕事にも役立つ「記述力」を高めることを重視する。このため、毎回の授業では、受講者に理解した内容や興味を持った事項、あるいは、理解が不十分であった点についてのまとめのペーパーを書いてもらう。 各授業の事前事後学習としては、授業内容を確実に理解すると共に、広く時事問題に関心を持つことが必要である。単に知識を身につけるだけでなく、物事を整理して理解し、理解したことを表現できるようになることが目標である。国際情勢を見る眼と考え方、記述力、問題を設定する力を養うことを重視するため、テストではなく、プレゼンとレポートによって評価する。 なお、担当教員は、他大学で小中高の教員（主に社会科）を目指す学生向けの政治学の授業を担当しており、家庭科教員を目指す学生の受講も歓迎する。
履修条件	なし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	国際情勢に関する時事問題が、他の科目の学習や、日常生活、就職活動、そして、将来の仕事とどのように関連するのかをイメージできる。
思考・判断の観点（K）	国際情勢に関する時事問題の原因と影響を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンスとイントロダクションこの授業でどのようなことを学び、どのような心構えが必要なのかを説明する			
第2回	国際政治学とはどのよ	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０

	うな学問か国同士はなぜ友好的になったり、敵対的になったりするのかを考える	までにその日の課題を提出する		
第3回	国際経済学とはどのような学問か 貿易、為替相場の変動、景気と物価の関係についての基本を学ぶ	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０
第4回	新型コロナウイルス問題 新型コロナウイルス問題が内外の政治経済に与えた影響について考える	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０
第5回	日米関係 経済問題１ 経済問題を中心に日米関係について学ぶ。繊維交渉から日米貿易協定及び日米デジタル貿易協定までの歴史	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０
第6回	日米関係 経済問題２ 維交渉と農産物交渉に焦点を当て、農家、商社、繊維メーカー、飲食業界、消費者への影響を考える。農産物交渉は、経済的な利益だけでなく、食の安全に関連することを理解する	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０
第7回	日韓および日朝関係 日本と韓国、北朝鮮との間にある諸問題について学ぶ。	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０
第8回	米中関係 米中間の安全保障と経済の問題について学ぶ。貿易交渉に焦点を当てる	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０
第9回	日本とアジア諸国との関係 日本とアジア諸国との間の貿易、直接投資、日本企業の現地でのビジネスに焦点を当てる	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０
第10回	発展途上国が直面する課題 発展途上国	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	予習と復習合わせて１２０

	が直面する政治や経済の問題全般と日本との関係について学ぶ。援助、貿易、直接投資、日本企業の現地でのビジネスに焦点を当てる			
第11回	まとめ 学期に学んだことの総まとめと学生の実施するプレゼンテーション、ミニレポートについて説明	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	授業で学んだ内容につき、自分でも整理し、プレゼンテーションとレポートのテーマを決定する	予習と復習合わせて１２０
第12回	ミニレポートの執筆：今までの授業内容と学生の関心のあるテーマに関して	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	自分の関心のあるテーマに関連する情報を調べ、整理して、レポート執筆の準備をする。	予習と復習合わせて１２０
第13回	ミニレポートの執筆：今までの授業内容と学生の関心のあるテーマに関して	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	自分の関心のあるテーマに関連する情報を調べ、整理して、レポート執筆の準備をする。	予習と復習合わせて１２０
第14回	ミニレポートの執筆：今までの授業内容と学生の関心のあるテーマに関して	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	自分の関心のあるテーマに関連する情報を調べ、整理して、レポート執筆の準備をする。	予習と復習合わせて１２０
第15回	ミニレポートに対する講評、最終レポートの通知	対面授業、遠隔授業、いずれの場合も、授業で使う資料の配布と課題の提出は、Googleclassを利用し、授業終了までにその日の課題を提出する	ミニレポートの問題点を踏まえ、最終レポートを完成させる	

学習計画注記	遠隔授業となった場合や、国際情勢に大きな変化のあった場合、授業テーマの一部を変更する可能性がある
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で書いたペーパーの質問は翌週の授業で解答し、補足説明をする
評価方法	評価方法 毎回の授業で書くペーパー、第１２回から第１４回に行うミニレポートにより、授業の理解度や積極性、平常点を評価する 毎回出席しても、最終レポートを提出しないと単位を与えない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	毎回の授業で書くコメント	○	○	○	○
	ミニレポート	○	○	○	○
	最終レポート	○	○	○	○

評価割合	毎回の授業で書くコメント、第１２回から第１４回に行うミニレポート合計５０％、最終レポート５０％
使用教科書名(ISBN番号)	なし。資料は毎回の授業で配布。
参考図書	なし。ウエッブなど参考になる情報ソースを適宜紹介
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考 察することができるまた、各 種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる
オフィスアワー	教員は非常勤であり、学内に研究室を持たないので、質問、相談の際はメール（p20106@kasei-gakuin.ac.jp）で連絡すること
学生へのメッセージ	授業は、パワーポイントに音声を録音したものを使う。 授業で扱うトピックを難しい問題や縁のない問題と思わずに、身近な問題であり、自分にかかわる問題として捉えること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は、金融界での実務経験の有しているが、授業の内容で関連のするのは、国際経済に関する解説の一部だけである。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ハンドクラフト演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 江良　智美	指定なし

授業概要(教育目的)	テキスタイル製品の装飾技法の一つである刺繍の様々な技法・作品について、その発展の歴史や文化的背景を美術資料などから解説する。また、作品制作演習を通して、代表的な刺繍技術の習得と装飾表現方法を理解を深め、各技法を合わせたオリジナルデザインの作品制作を指導する。技法の習得に止まらず、履修者相互で意見を出し合うアクティブ・ラーニング形式の演習形態を導入する。また、ハンドクラフトと情報機器の活用を融合させ、現代的なデザイン創作も試みる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	テキスタイル製品の装飾技法である刺繍の歴史の知識を深め、文化的背景を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	刺繍作品を創作するために美術資料やデジタルアーカイブス等を活用し、情報の収集、整理をすることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	サンプラーなどで示される代表的な刺繍技法を積極的に習得することができる
技術・表現の観点（A）	学修した刺繍技法を用い、オリジナルデザインの作品を完成させ、テーマに沿った表現をすることができる。

学習計画

ハンドクラフト演習B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・道具の説明・刺繍とは・ハンドクラフトと現代社会	授業の進め方の説明、道具の種類と揃え方の説明、映像資料、画像資料の閲覧を行う。その後基本的な針の動かし方等を習得する。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第2回	クロスステッチの技法と作品制作：サンプラー制作	クロスステッチの歴史と技法を学ぶ。例題のステッチを刺して、サンプラーを完成させる。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第3回	クロスステッチの技法と作品制作：コースター②	クロスステッチの応用として、ダーニングワーク、ブラックワークを学び、コースターを完成させる。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第4回	フランス刺繍の技法と	フランス刺繍の歴史と技法を学ぶ。素材に下絵転写の方法を学ぶ。例題作品のワンポイントモチーフのステッチ	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備	予習：30分 復習：60分

	作品制作：サンプラー制作：ワンポイント刺繍	を完成させる。	をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	
第5回	フランス刺繍の技法と作品制作：ペンダントヘッド制作：アルファベット刺繍	フランス刺繍の歴史と技法を学ぶ。コード刺繍でアルファベットを刺す。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第6回	刺繍技法と応用作品の制作①：小さな袋ものの制作	これまで学んだ刺繍技法から応用作品を制作する。巾着袋を完成させる。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第7回	刺繍とパッチワークキルトの基礎	刺繍作品と合わせて創作するパッチワークキルトの歴史と基礎を学ぶ。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第8回	世界の刺繍デザイン（映像資料の閲覧と制作）	世界の刺繍作品や特徴を学び、実際に制作する。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第9回	リボン刺繍の技法と作品制作：額装作品	リボン刺繍の歴史と技法を学ぶ。まずは基本的な技法の習得を、例題作品から学ぶ。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第10回	リボン刺繍の技法と作品制作：額装作品	リボン刺繍の技法を用いて額装作品の制作をする。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第11回	ビーズ刺繍の技法と作品制作：ブローチ・イヤリングの制作	ビーズ刺繍の歴史と技法を学ぶ。基本的な刺し方を例題作品から学ぶ。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第12回	最終課題：動物と草花をモチーフとした作品制作（カルトナージュ）①	これまで学んだ技法を用い、動物と草花をあしらったカルトナージュ作品（箱）を制作する	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第13回	最終課題：動物と草花をモチーフとした作品制作（カルトナージュ）②	デザインを完成させ、技法を確認したのちに制作に入る。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第14回	最終課題：動物と草花をモチーフとした作品制作（カルトナージュ）③	カルトナージュ作品に仕立て、実際にものを入れることができる箱を制作する。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第15回	講評会：作品の発表と解説・まとめ	完成した作品の講評会を開催する。各自プレゼンテーションを行い、受講者同士で意見交換を行う。また、最終レポートを作成する。	予習：授業内で指導・指示した道具・材料の調査・調達・準備をおこなう。また作品に対する構想を練る。 復習：授業内で制作を開始した作品の完成度を高め、発表準備を行う。	予習：30分 復習：60分
第16回				

学習計画注記	授業内で必要な道具等を指示する。
学生へのフィードバック方法	授業内での講評、レポート添削返却、作品添削返却を通してフィードバックする。
評価方法	平常点：基本的に授業内での学修意欲、制作意欲をみます。 授業内で指示した刺繍に関する歴史・文化的背景に関する授業内コメントシートの作成、課題作品の制作と提出 その他、 指定した資料群を調査した報告レポートの作成、オリジナル作品の制作・提出を合わせて総合的に判断します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内コメントシートの作成	○	○	○	○
	報告レポートの作成	○	○	○	○
	課題作品の制作と提出			○	○
	オリジナル作品の制作・提出		○	○	○

評価割合	平常点；授業内コメントシートと課題作品の制作・提出：55% 報告レポート:15% オリジナル作品の制作・提出　30%
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	授業内で適宜指示する
ディプロマポリシーとの関連	【技能・表現】＜社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている＞に対し、刺繍に関する歴史や技法を学び、その文化的背景を理解することにより、生活をより豊かに彩るデザインを創作し、また、技術習得や学修過程において情報を収集し、活用する技術を身につけ現代社会における課題解決策を発信する点において関連する。
学生へのメッセージ	色とりどりの刺繍糸でひと針ずつ描いていく刺繍の技法にはとても古い歴史があり、多くの人々が思いをこめてきました。この授業ではそうした刺繍の文化的背景を学びつつ、自分らしい作品の制作をすることができる技術を習得していきます。穏やかな心で作品を完成させてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は舞台衣装デザイン、服飾雑貨デザイン等の経歴を持つ。
アクティブ・ラーニング	○	制作に関する途中経過を受講者で共有し、より良い作品の完成を目指す。
情報リテラシー教育	○	デジタル・アーカイブス等を活用し、世界の美術資料から情報を得ることができるようになる。
ICT活用	○	デザイン制作や作品資料の整理などに初歩的なICT活用ができるようになる。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	地域デザイン論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石　圭子	指定なし

授業概要(教育目的)	都市や地域は、それぞれの土地の歴史、風土の中で発展してきたものである。地域の住環境がどのように形成されてきたのか、様々な課題にどう対処してきたのかについて知ることが、将来的に発生する課題に対応する力を身に付けるための第一歩となる。本授業では、都市の成り立ちについて歴史的に概観し、都市計画の仕組みについて基本的な知識を習得するとともに、地域の良好な住環境形成のために配慮すべき指標について理解する。
履修条件	特になし（建築士試験指定科目）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	地域デザインを構成している様々な要素について説明することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	地域の特徴を把握した上で、主体的に行動することができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の概要説明等	地域デザインとは何か	スライドを再度確認し、授業概要について理解する。	90
第2回	都市論の誕生と展開	近代都市論の発展 現代に至る都市論の展開 日本の近代化と住居	スライドを再度確認し、近代都市論の発展や現代に至る都市論の展開、日本の近代化と住居について理解する	180
第3回	生活空間計画の展開	集合住宅からニュータウンへ ニュータウン開発とその変化	スライドを再度確認し、我が国の戦後の住宅政策の一つである集合住宅建設からニュータウン開発について理解する	180
第4回	生活圏域を取り巻く土地利用	生活圏域における土地利用に実態と課題 農地保全と活用 自然環境の保全	スライドを再度確認し、土地利用の実態や農地・自然環境の保全について理解する	180
第5回	土地利用のコントロール	日本の都市計画と都市形成 国土と大都市圏の計画 都市計画のしくみとマスタープラン 都市計画による土地利用コントロール 建築基準法による建築用途・形態制限	スライドを再度確認し、土地利用をコントロールするためのマスタープランや制度・法規について理解する	180
第6回	都市の緑と公園	緑の種類と効果 緑を確保する施策 公園の種類と管理	スライドを再度確認し、都市の緑を確保する政策や公園の管理とうについて理解する	180
第7回	治水・利水と廃棄物・エネルギ	水と廃棄物 電気・送配電システム 公共交通のネットワークと計画	スライドを再度確認し、エネルギーや交通計画についてその整備と管理について説明する	180

	一・交通計画	道路の種類とネットワーク 生活道路の整備と管理		
第8回	開発と環境・市民	都市の開発 事業プロセスと市民参加 環境アセスメント	スライドを再度確認し、都市の開発の種類や環境アセスメント等について理解する	180
第9回	快適な住環境をつくる	居住密度と暮らし 居住環境評価 地域に合わせたルールづくり 地区計画	スライドを再度確認し、快適な居住環境をつくるための規制について理解する	180
第10回	地域の個性と景観	景観の形成 景観の継承と景観まちづくり	スライドを再度確認し、地域による景観の保全について理解する	180
第11回	災害に備える	さまざまな災害 都市防災の歴史的背景 これからの防災 復興の取り組み	スライドを再度確認し、災害の種類とこれからの防災についての取り組みを理解する	180
第12回	さまざまな主体から考える	高齢者の生活空間 子どもの生活環境 インクルーシブが社会をつくる	スライドを再度確認し、さまざまな主体から生活空間・生活環境を理解する	180
第13回	農村・中心市街地・密集市街地・郊外住宅地・都心住居	農山漁村の現況 農村の再生 中心市街地・密集市街地の変化と現況と再編 郊外戸建住宅地・住宅団地の現況と再編 都心住居の現況	スライドを再度確認し、各地域の生活空間について理解する 期末レポート出題	180
第14回	住民とまちづくり	コミュニティと市民集団 参加・協働型まちづくりの発展 参加・協働型まちづくりの方法と仕組み	スライドを再度確認し、市民と協働するまちづくりについて理解する （予習・復習）期末レポートの作成	180
第15回	コミュニティを支えるマネジメント	まちづくりの担い手 地域価値を高めるコミュニティ・マネジメント	スライドを再度確認し、コミュニティ・マネジメントについて理解する （予習・復習）期末レポートの作成・提出	270

学習計画注記	授業の進捗状況等の諸事情により学習計画が変わることがあります。
学生へのフィードバック方法	毎回その日の授業内容に応じた小テストを行う。小テストの結果は、GoogleClassroomにて返却する。
評価方法	期末レポートの評価基準 1）出題の意図を把握し、それに沿った記述がされているか。 2）自分の言葉でまとめられているか。 3）自分の考えのプロセスがきちんと明記されているか。 4）これまでの授業内容が生かされた内容となっているか。 5）出典等がある場合、適切に示されているか。 についてを各10段階で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	期末レポート	○			

評価割合	平常点30%、期末レポート70%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	生活の視点でとく都市計画　薬袋奈美子・室田昌子・加藤仁美著　彰国社　2016　ISBN：978-4-395-32060-8 C3052
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「地域」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的な関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	金曜２時限　3512研究室（深石）
学生へのメッセージ	生活の身近にある地域デザインについて学びます。都市や地域に関心を持って履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アパレルＣＡＤ実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	D32207M13
授業概要(教育目的)	アパレルCADは、設計(デザイン)、パターンメーキング（製図）、生産工程等を効率化するための道具である。基本的なパターンメーキングを理解し、CADの操作方法を身に付ける。また、「アパレル生産実習」の授業で企画したデザインを商品化するために、CADで製図、型紙（パターン）、マーキング（裁ち合せ図）等を作成し、生産工程におけるCADを操作できることを目的とする。また、特別授業ではアパレル企業で商品企画、店舗管理などの実務経験をもつ講師に依頼している。
履修条件	「アパレル生産実習」を履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点（K）	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルCAD実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	基本操作、画面の表示操作方法	基本操作である直線・曲線の引き方、拡大・縮小・移動・印刷・ファイル保存などを学ぶ。	操作について各自練習すること。	45分
第2回	パターンメーキング（ストレートスカート）１	9ARサイズの前スカートの製図およびＣＡＤの操作を学ぶ。	前スカートの製図を仕上げること。	45分
第3回	特別授業	アパレル企業で豊富な実務経験のある講師により、アパレル生産の現場における店舗経営・販売、今後のアパレルの未来について学ぶ。	アパレル企業についてノート整理をすること。	45分
第4回	パターンメーキング（ストレートスカート）２	9ARサイズの後ろスカートの製図を理解する。	後ろスカートの製図を仕上げること。	45分
第5回	パターンメーキング	前タイトスカートのダーツ止まりまで裾から切り開き、フレアを入れることを理解する。	フレアスカートを仕上げること。	45分

	（フレアスカート）			
第6回	グレーディング１	9号前スカートを7号と11号にグレーディングする方法を学ぶ。	グレーディングを練習すること。	45分
第7回	グレーディング２	9号前スカートを7号、11号にグレーディングする方法を理解する。	グレーディングを仕上げること。	45分
第8回	マーキング	前後スカートとベルトを縮小し、限られた範囲の上に配置する方法を学ぶ。	マーキングを仕上げること。	45分
第9回	パターンメーキング（身頃原型）１	自分のサイズの身頃原型を製図するために、まずは身基本線を引くことを学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第10回	パターンメーキング（身頃原型）２	後ろ身頃原型の衿ぐり、肩、ＡＨ、脇を引く方法を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第11回	パターンメーキング（身頃原型）３	前身頃原型の衿ぐり、肩、ＡＨ、脇、ウエストダーツを引く方法を学ぶ。	身頃原型を仕上げること。	45分
第12回	パターンメーキング（袖）１	原型の袖ぐり寸法を利用し、その寸法を測ってセットインスリーブの製図を学ぶ。	セットインスリーブを仕上げること。	45分
第13回	パターンメーキング（袖）２マーキング、縫製仕様書作成	セットインスリーブからパフスリーブへの展開を学ぶ。アパレル生産実習の履修学生は、マーキング、縫製仕様書等の作成を学ぶ。	セットインスリーブを仕上げること。	45分
第14回	パターンメーキング（衿）１、マーキング、縫製仕様書作成	原型の衿ぐり寸法を利用し、その寸法を測ってシャツカラーの製図を学ぶ。	シャツカラーを仕上げるころ。	45分
第15回	まとめ	ストレートスカート、フレアスカート、グレーディング、マーキング、身頃原型、セットインスリーブ（パフスリーブ）、シャツカラーについてデータ整理の仕方を学ぶ	提出するデータを整理すること。	45分

学習計画注記	通常は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	提出課題に対するコメント
評価方法	平常点（授業への参加状況、提出期日などで総合的に判断する）、提出課題

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	課題	○	○	○	○

評価割合	平常点30点（授業への参加状況などで総合的に判断する）、課題70点
使用教科書名(ISBN番号)	CADのマニュアル 適宜プリント配付
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	授業で行ったCAD操作は空き時間を利用して練習してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業で商品企画、店舗管理などの経験をもつ講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	エクステリア演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱　史子	指定なし

ナンバリング	D35206M22
授業概要(教育目的)	建築物の設計において、内部空間のデザインと同様に外部空間のデザインもまた重要である。豊かな外部空間は、建築物全体の快適性を高めるものである。また、エクステリアは建物単体に付随するだけのものではなく、都市の景観を形成する重要な要素でもある。本授業では、植物を使った空間デザインを学ぶ。設計課題を通し、玄関や庭などのプライベートな小さな空間や公園など公共性のある大きな空間のデザインについて検討する。エクステリアやガーデンデザインの基本を学び、見る力と表現力の向上を目指す。
履修条件	「住居学概論」、「住居デザイン演習A・B」、「ガーデニング概論」、「観賞植物素材論」「ガーデニング実習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	エクステリアの基礎的な用語や考え方を理解する。
思考・判断の観点（K）	建築物の外部空間、庭、公園など必要な構成要素を自ら考え、適切な材料や植栽する植物を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	演習で扱う課題を通じ、身の回りのエクステリアに関心を持ち、使われている材料や植物などを識別できる。
技術・表現の観点（A）	自分の考える空間（外溝、庭、公園など）を図面、写真などを用いて人に伝える技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 図面の基本	本演習の目的、進め方、評価方法、本演習で扱うエクステリアに関連した用語、準備が必要な道具について説明する 課題①「図面の基礎練習」の説明する。 図面の表示方法を練習、平面図をトレースする	演習内で説明したエクステリアの概要と用語を理解する 課題に取り組む	90
第2回	図面の基本	エクステリアデザイン、庭のデザインの基本を解説 図面の表示方法を練習、立面図、パースを描く	エクステリアデザイン、庭のデザインの基本を復習する 課題に取り組む	90
第3回	課題②の説明	課題②デザイン課題の詳細説明、コンセプト作成	課題に取り組む	90
第4回	課題②平面図	課題②の平面図の解説と作成	課題に取り組む	90
第5回	課題②立面図と植栽配置図	課題②の立面図と植栽配置図の解説と作成	課題に取り組む	90
第6回	課題②パー	課題②のパースの解説と作成	課題に取り組む	90

	ス			
第7回	課題②レイアウトと彩色	課題②の図面をA2サイズにまとめ、色を付けるなど体裁を整える	課題②を完成させる 発表会の準備をする	90
第8回	課題②発表会	課題②を掲示し、各自の作品について解説する。課題の講評 課題③の課題説明	課題に取り組む	90
第9回	課題③コンセプト	課題③のコンセプト作成に取り組む	課題③に取り組む	90
第10回	課題③平面図	課題③の平面図に取り組む	課題に取り組む	90
第11回	課題③立面図と植栽配置図	課題③の立面図と植栽配置図に取り組む	課題③に取り組む	90
第12回	課題③パース	課題③パースに取り組む	課題に取り組む	90
第13回	課題③レイアウトと彩色	課題③をA2サイズにまとめ、色を付けるなど体裁を整える	課題③を完成させる 発表会の準備を行う	90
第14回	課題③の発表会	課題③図面を掲示し、各自の作品について解説する 講評を行う	課題①～③すべて提出済であることを確認する 演習での体験をもとに、日常生活のエクステリアデザインを観察する	90
第15回	校内特別授業	学外から招いた講師の方により、実例を挙げながらエクステリアデザインの現状について講義を行う	講義の内容を参考にエクステリアデザインについて考え、理解する 小レポートを完成し、期限までに提出する	90

学習計画注記	演習や作業の進捗状況、新型コロナウィルス感染症の状況などの諸事情により、スケジュールや課題が変更になる場合があります。 製図道具を使用します、必要に応じて購入が必要です。
学生へのフィードバック方法	授業中の作業時に口頭でアドバイスと、課題について評価とコメントをする。
評価方法	課題①図面の基礎練習(10%):図面の正確性、丁寧にきれいな仕上がり 課題②デザイン課題(30%):デザインの独創性、図面の正確性、表現方法、プレゼンテーションを評価 課題③デザイン課題(40%):デザインの独創性、図面の正確性、表現方法、プレゼンテーションを評価 平常点（20%）：小レポートや課題に取り組む態度を評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	課題	○	○		○

評価割合	課題（提出物）80%、平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】エクステリアについての専門的知識を有している。 【思考・判断】身近にある（社会の中にある）外溝デザイン、庭などの空間デザインを客観的に判断できる。 【関心・意欲・態度】身の回りにある外溝デザイン、庭、公園などの空間デザインに積極的に関心を持つ。 【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集、分析、整理、表現できる。
オフィスアワー	月曜日　2限　3609室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら考え、調べ、デザインとして表現する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	発達心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	P10002M21
授業概要(教育目的)	人は生涯を通じて発達的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習することとする。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学び，その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達的特徴について、具体的事例や視聴覚教材も参照しながら基本的知識を身に付けられるようにする。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深められるようにする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・発達心理学の基本的概念を説明できる・人の生涯発達の概観，各発達期の特徴を理解する
思考・判断の観点（K）	・人の発達に関する知見を，保育・教育実践に結びつけて考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	・自分自身のこれまでの体験と関連させながら，人の発達について具体的に理解しようとする
技術・表現の観点（A）	・発達心理学的知見が保育，教育実践にどのように活かされているか説明できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション：発達を学ぶ重要性，発達のメカニズム	生涯発達心理学の考え方を知る。教育における発達の理解の意義を学ぶ。内的要因（遺伝）と外的要因（環境）の相互作用による発達のメカニズムを理解する。	〔予習〕（１）テキスト第１～３章（p.3-52）を読み，生涯発達を対象とする心理学について概観をつかむ。発達のメカニズムを理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。	180分
第2回	乳児期の運動・認知の発達	乳児期の運動発達と認知発達について相互に関連しながら発達することを含めて学ぶ	〔予習〕テキスト第５章（pp.77-97）を読み乳児期の身体的機能・運動機能・知覚と認知の発達について概観をとらえる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。	180分
第3回	乳児期の言語・社会性の発達	乳児期の言語発達と社会性の発達について認知面とも相互に関連しながら発達することを学ぶ	〔予習〕テキスト第９章～第１０章（pp.157-188），を読み，乳児期，幼児期の言語と社会性の発達について概観をつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	180分
第4回	幼児期の運動・認知の	幼児期の運動発達の様子を学ぶ，幼児の認知発達（記憶，概念学習，推論能力，メタ認知）を学ぶ	〔予習〕テキスト第８章（pp.135-156）と事前配布資料	180分

	発達		を読み，乳幼児期の運動発達，認知発達の概観をつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	
第5回	幼児期の言語・社会性の発達	幼児の文字への関心を含めた言語発達，仲間関係の発達について事例も用いて学ぶ	〔予習〕テキスト第11章（pp.189-204）と事前配布資料を読み，幼児の言語発達・社会性の発達について，園での生活をイメージしながらつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える。確認小テスト（１）に取り組む。	180分
第6回	乳幼児期の自己と情動制御の発達	乳幼児期を通して現れてくる自己と情動制御（自己主張・自己抑制）の発達について学ぶ	〔予習〕テキスト第７章（pp.117-133）を読み，情動の発達，自己の発達，社会情動的スキルの発達についてつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	180分
第7回	児童期の認知発達	児童期の認知発達をその要因（物理的・人的環境）とともに学ぶ	〔予習〕テキスト第１５章（pp.265-274）を読み，児童期の環境と認知発達との関係を考える〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	180分
第8回	児童期の社会性の発達	仲間関係の発達，仲間関係を形成する力を高めるソーシャルスキル・トレーニングについて学ぶ	〔予習〕テキスト第５章（pp.265-274）と事前配布資料を読み，児童期の仲間関係が教室での適応と深くかかわっていることを理解する。その上で，教室での適応に必要な社会的能力を書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	180分
第9回	青年期のアイデンティティの発達	アイデンティティとは何か，アイデンティティ選択の方法について自らを振り返りながら学ぶ	〔予習〕エリクソンの発達理論と青年期の課題についてテキスト第１５章（pp.278-286）を読む他，参考図書などを用いて調べる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度参考図書を読み考える	180分
第10回	青年期の人間関係	青年期の親子関係，友人関係の様相について，自らの関係性を振り返りながら学ぶ	〔予習〕テキスト第１５章（pp.275-277）を読んだ上で，自らの高校時代～現在の親子関係について振り返りまとめる。自分にとっての友人の存在の意味についてまとめる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度参考図書を読み考える。確認小テスト（２）に取り組む。	180分
第11回	学びの様々な理論	学びの原理に関する代表的な理論（学習理論，観察学習理論，ピアジェとヴィゴツキーの認知発達理論）を学び，各発達段階の学びにふさわしい学習の仕方を理解する	〔予習〕テキスト第１２章（pp.207-222）を読み，代表的な学習に関する理論の概観と，各発達段階における学びの概観をとらえる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	180分
第12回	学びの動機づけ	主体的な学びを支える動機づけ，主体的学びを阻害する経験（学習性無力感）について学び，各発達段階にふさわしい指導のあり方を理解する	〔予習〕事前配布資料を読み，動機づけ，原因帰属，学習性無力感など，学びにかかわる心理学的概念を理解する。その上で各発達段階にふさわしい指導のあり方のポイントを考えてみる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	180分
第13回	集団における学び・育ちと保育における評価	幼児期の協同的な活動において得られる学び，育ちについて事例を用いて学ぶ。個と集団の育ちの視点に立った評価について理解する	〔予習〕事前配布プリントを読み，協同的な活動を通して得られる学び・育ちとは何か考える〔復習〕事例を再度読み，協同的な活動を通しての学び・育ちについてまとめる。保育における評価とはどういうものかまとめる	180分
第14回	成人期の発達	子育て期から子育て卒業期の親の心理について学び，子育てという経験がもつ意味を考える。教育・保育現場におえる保護者支援・保護者との連携の必要性と重要性を理解する	〔予習〕テキスト第１６章（pp.287-294）と事前配布資料を読み，子育て支援の意義，支援の実際の概要をつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度テキストを読み考える	180分
第15回	老年期の発	生物学的な衰えを補う心理的・社会的仕組みついて学	〔予習〕テキスト第１６章	180分

	達	び，生涯学び続ける存在としての人の一生を概観する	（pp.294-301）を読み，老年期の発達的特徴を知る〔復習〕バルテスの理論について授業資料を読み返しまとめる。その上で，生涯学び続けるために必要な環境について考える。確認小テスト（３）に取り組む。	

学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。
評価方法	平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容，確認小テストから評価する。定期試験は60点満点で出題し，授業で学んだ内容全てが範囲となる。心理学的概念，各発達段階の特徴の理解度，心理学的知見と教育・保育実践との関連についての理解度を測る選択式・記述式の問題から構成される。出題の傾向については，最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	定期試験	○	○		○

評価割合	平常点（40%）及び定期試験（60%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	教育職・心理職のための発達心理学，中道圭人・小川翔大（編著），978-4-7795-1547-7
参考図書	問いから始める心理学―生涯にわたる育ちの科学，有斐閣ストゥディア，坂上裕子他編著，978-4-641-15013-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの心理についての専門的な知識を有している。【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。
オフィスアワー	水曜日２限　1626研究室
学生へのメッセージ	人の発達・成長の面白さに触れるとともに、自らの成長の道のりを振り返る機会にもなる授業です。積極的に参加してくれることを期待します。 毎回授業内容の復習をしてください。わからない点についてはそのままにせず、質問したり自分で調べたりするようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らの体験を振り返るワーク，事例に基づき考えるワーク等に，小グループでのディスカッションを取り入れる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y10003M21
授業概要(教育目的)	教育心理学は、歴史的には、心理学の教育への応用から始まったが、近年では、「人と環境の相互作用から人間形成を解明しつつ、教育における諸問題の解決に必要な知識や技術を体系化する目的を持つもの」という捉え方をすることが多い。この過程で避けて通れないのは、人間形成はいかにあるべきかという問題である。教育心理学は、自らの教育観や人間観を見つめ直し、教育の目的や内容の妥当性を問い直し、よりよい教育の実現に、教職志望者の立場から貢献できる人材を育むための授業を行い、特に、実践的能力の涵養をはかる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．教育心理学の理論を理解する。 ２．教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点（K）	１．教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション―心理学と教育、人の発達の関わり―	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	発達と教育１――発達課題と身体的発達――	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。	180分
第3回	発達と教育２――運動機能の発達と発達の普遍性と可変性―― 発達と教育３――脳と神経の発達――	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。 発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

第4回	発達と教育４――自我の発達――	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	発達と教育５――自我の防衛機制――	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	発達と教育６――社会性の発達――	社会性の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	発達と教育７――認知の発達――	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	学習を支えるメカニズム１――動機づけ――	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	学習を支えるメカニズム２――記憶――	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	学習を支えるメカニズム３――自己効力感――	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	学習に関する理論１――条件づけ――	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	学習に関する理論２――観察学習と技能学習、教育における評価――	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるか考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	障害と教育1――「障害のある子ども」とは――	障害とは何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	障害と教育2――合理的配慮――	合理的配慮とその背景にある考え方、実際の取り入れられ方を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	総括――教育心理学の理論の実践への応用――	教育心理学の理論から、教育現場や子どもを取り巻く社会の中での課題を考え、どのように実践につなげるのかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	予習と復習については、授業時に指示する。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	１．授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 ２．コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験と授業への意欲、態度を総合的に評価する。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 自己チェック、ふりかえりのいずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック	○		○	
ふりかえり	○	○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験50%、授業への意欲・態度50%
使用教科書名(ISBN番号)	原則としてgoogle classroomを通して資料を配布します。
参考図書	お勧めの参考書としては以下があります。教科書ではありません。 『教育心理学』丸善出版　￥2,700　　ISBN　978-4621086360 その他参考資料は講義の際に適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	前期：月曜日のお昼休み、3限、5限（町田キャンパス1633室） 後期：月曜日のお昼休み、4限（町田キャンパス1633室） 上記以外は原則として千代田三番町キャンパス。
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。 教職必修 質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.acjp メール送信の際には★を@に変更してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育原理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	P10005M21
授業概要(教育目的)	教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史および思想、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教育が人間固有の営みであり、人間にとって必要不可欠であり、社会文化国家によって異なる歴史と思想によって形成されてきたことを理解できる。
思考・判断の観点（K）	現代教育問題の本質にあるものを見つめられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教員になるための最も基本的な科目である。常に「教育とは何か」という問題意識を持って受講している。
技術・表現の観点（A）	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢を持てるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育が人間にとって持つ意味（１）	人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。	授業前後に教科書pp.1-16を読んでおくこと。	120分
第2回	人間は教育をどのように捉えてきたか	「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を学ぶ。	授業前後に教科書pp.16-42とレジュメの第2回の部分を読んでおくこと。	180分
第3回	＜子ども＞の発見	西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想：コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想等を学ぶ。	授業前後に教科書pp.43－54とレジュメの第3回の部分ををよく読んでおくこと。	180分
第4回	近代日本に影響を与えた西洋教育思想	ペスタロッチ―、フレーベル、デューイの教育思想の概要を学ぶ。	授業前後に、教科書pp.54-59とレジュメの第4回の部分をよく読んでおくこと。	180分
第5回	近世以前の教育と近世の教育	近世以前に存在した教育機関大学寮、足利学校等でどのような教育が行われていたのかをスライドを見ながら学ぶ。江戸時代についても、藩校郷校等の教育機関で行われていた教育内容について学ぶ。藩校等の映像を見ながら学ぶ。（第1回小テスト）	西洋教育史に関する小テストを実施する。授業後に、教科書pp.61-65とレジュメの第5回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第6回	近世の教育思想	中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教	授業前後に、教科書pp.65-67とレジュメの第6回の部分を良く	180分

		育者の思想を学ぶ。	読んでおくこと。	
第7回	近代日本公教育制度の成立と展開	明治維新以降、近代日本公教育制度成立期の制度として、学制と教育令について学ぶ。	授業前後に、教科書pp. 67-71とレジュメの第7回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第8回	近代日本公教育制度の成立と展開	教育令が改正、再改正を経て、小学校令が初代文部大臣森有礼によって公布されるに至る過程、森有礼の教育政策と教育勅語の公布について学ぶ。	授業前後に、教科書pp. 71-74とレジュメの第9回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第9回	子どもの権利条約	子どもの権利条約成立の契機となったコルチャック神父の思想について学び、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。	近代以前の日本の教育史について第2回目の小テストを実施する。設問は25問程度。授業前後に、教科書pp. 243-257と第5回～第9回のレジュメを良く読んでおくこと。	240分
第10回	教科書の歴史	近代日本の教科書の歴史、現代的課題を学ぶ。	今回の部分は教科書に詳述されていないので、レジュメを良く読んでおくこと。	180分
第11回	大正自由教育運動	大正自由教育運動でどのような教育主張が展開されたかを学ぶ。「主体的で対話的な深い学び」が重要視される今日、大正期にも同じような傾向が見られたことを現代と対照しながら学ぶ。	授業前後に教科書pp. 75-77、pp. 174-181と第11回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第12回	授業をつくる	授業のデザインの仕方、教材とは何か、学習指導案の書き方を学ぶ。教育実習時や将来教員になる時のことを想定してしっかり学ぶこと。	授業前後に、教科書pp. 157-173と第12回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第13回	学力とは何か	学力をめぐる考え方、論争等を示しながら、学力とは何か、どのように評価できるかについて理解を深める。	授業前後に、教科書pp. 91-107と第13回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第14回	生涯学習	生涯学習社会がどのように形成され、現代社会にどのような役割を果たしているか、何が求められているかを概説する。	第2回テストの返却。 授業前後に、教科書pp. 209-242と第14回のレジュメを良く読んでおくこと。	120分
第15回	現代日本の教育課題	いじめや不登校等の教育問題がなぜ生じたのかを考えながら、それらの問題を解決するために教育に何が求められているかを考える。学生に発言を求める。	授業前後に、教科書pp. 259-281と第15回のレジュメを良く読んでおくこと。期末レポートはこの授業内に提出すること。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小テスト（2回）の採点後の返却。模範解答も同時に配布する。リアクションペーパーへの応答。
評価方法	・小テストは、基本的知識の定着と理解度を測るために行う。第1回は西洋教育史について15問程度、第2回は日本教育史について25問程度行う。すべて穴埋め方式で出題する。なお、特別な事情と申し出が無い限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・期末レポートのテーマは、「教育とは何か、貴女の考えを述べなさい」（2000字以上）である。本講義を通して学んだことを理解した上で、自分の考えや経験をもとに、自分の考えを自分の言葉で論じることを求めている。引用の多いレポートや説明だけでは、本課題に取り組んだと言う評価は与えられないので、注意すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	第1回小テスト	○			
	第2回小テスト	○			
	期末レポート		○		○
	リアクション・ペーパー			○	○

評価割合	小テスト（2回）30%、平常点20%、最終レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	田嶋一ほか『やさしい教育原理　改訂版』有斐閣（978-4-641-22081-2）
参考図書	・古沢常雄・米田俊彦『教育史』学文社　2009年、 ・高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版会　2014年、 ・ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書　1961年 ・松沢哲郎『想像する力　チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店　2011年、 ・コメニウス著　井ノ口淳三 訳『世界図絵』平凡社ライブラリ　1995年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	水曜日3限（要アポイントメントにより時間調整を行う。）
学生へのメッセージ	「教員とは何か」について常に問題意識を持って日常生活を送り、受講してください。考える材料は、身近に沢山あります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：常時、学生へ質問し発言を求める、対話的な授業形式を取る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教師・保育者論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし
教授	齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	P20201M21
授業概要(教育目的)	教師・保育者は、どのような仕事をしているかについて具体的に論じる。教師・保育者の指導観・保育観の基本は、「子どものためになるかどうか」である。優れた教師・保育者の実践を振り返り、教職とは何か、教職の意義とは何かを学び、理想の教師・保育者像を議論する。教師・保育者の１日や１年の仕事の具体的な内容について、教師・保育者の仕事の実態を理解させたい。反省的実践家としての教師・保育者は、日々の授業や保育を振り返り、常に改善を図っている。職場において、若手の教師・保育者が抱える悩みや不安について、アクティブラーニングを通して理解を深めたり改善策を考えたりして、教育実習・保育実習や教職への意欲の向上を図る。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教育者・保育者の資質・能力について、いくつか具体例を挙げて説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 教育者・保育者としての成長のプロセスを自分なりにイメージし、「わたしの理想の教師像・保育者像」を持つことができる。 2. 自分を振り返り、必要な知識・技能・態度について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育・保育のあり方についての様々な意見・考え方に関心を持ち、自分で調べたり、グループ討議に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教職の意義：公教育の目的	公教育の目的を学ぶとともに、「わたしの理想の教師像・保育者像」をイメージしながら、教育者・保育者の専門性とは何か、教育者・保育者になるために身につけるべき知識・技能・態度とは何かを考える。	テキスト『教職概論』の序章・第１章を読んでおく。	120分
第2回	教職の意義：他の職業との比較による教職の特徴の理解	他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。	テキスト『教職概論』の第２章を読んでおく。	120分
第3回	教職の職業的特徴	教職の職業的特徴について理解する。	テキスト『教職概論』の第３章を読んでおく。	120分
第4回	教員の役割：教職間の変遷	教員の役割について考えるとともに、教職観の変遷について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第４章を読んでおく。	120分
第5回	教員の役割：教員に	教員の役割について考えるとともに、教員に求められる資質として、知・徳・体の徳をになう道徳について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第５章を読んでおく。	120分

	求められる資質　道徳			
第6回	教員の役割：教員に求められる資質　学習指導	教員に求められる資質として、学習指導について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第６章を読んでおく。	120分
第7回	チーム学校運営への対応:学校内における業務	学校内の業務を理解するとともに、校内のチーム学校として、同僚とのチームワークや学びあい、専門職、関係機関との連携や協働の重要性について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第９章・終章を読んでおく。	120分
第8回	保育者とは：「幼稚園教諭」「保育士」の制度的位置づけとその特徴	「幼稚園教諭」「保育士」の制度的位置づけと、職務内容の特徴や義務、倫理等について学ぶ。	指定された課題に取り組む。	120分
第9回	保育者の役割：保育における養護と教育	保育者の役割について、保育所保育指針に記された養護と教育の一体性の視点から考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第10回	保育者の役割：倉橋惣三「育ての心」を手がかりに	保育者の役割について、倉橋惣三「育ての心」を手がかりに考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第11回	保育者の役割：「遊び」「生活」と保育者の専門性	保育者の役割について、「遊び」と「生活」の視点から考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第12回	保育者の専門性：子ども理解と環境を通した保育実践	子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢でいることの重要性を踏まえながら、環境を通した保育実践について考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第13回	保育者の専門性：反省的実践家の視点	反省的実践家の視点から、保育者の専門性について考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第14回	保育者の専門性：連携し協働する保育者	保育者間および保護者、他機関との連携や協働の視点から、保育者の専門性ついて考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第15回	まとめと振り返り～教育者・保育者の資質向上とキャリア形成	これまでの学習を振り返り、「わたしの理想の教師像・保育者像」を明確にするとともに、教育者・保育者としての資質向上とキャリア形成のために必要なことについて具体的に考える。	これまでの授業の総復習をしておく。	240分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	齋藤：毎時間のリフレクションペーパーを通して、授業内小試験の重要項目を周知する。初期の段階にレポート課題を提示することで、作成の期間を十分に取る。質問等がある場合は1628研究室まで訪問すること。 新開：提出課題等については授業内にてその都度返却し解説を行う。質問等がある場合は1635研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	齋藤：授業内小試験を実施するとともに、レポートを提出してもらう。授業に取り組む状況等については、「積極的な参加態度」として評価する。 新開：最終レポートを主な評価対象とする。加えて、各回の授業に取り組む態度やグループワークへの参加状況等については「積極的な参加態度」として評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内小試験	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
積極的な参加態度		○	○	

評価割合	授業内小試験（80%）、リフレクションペーパー・課題・積極的な参加態度（20%）の割合で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	齋藤義雄『教職概論』大学図書出版　２０２０年 保育所保育指針
参考図書	小学校学習指導要領 幼稚園教育要領

	認定こども園教育・保育要領
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育・保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	齋藤：月曜３時限　1628研究室 新開：金曜４時限　1635研究室
学生へのメッセージ	「わたしの理想の教師像・保育者像」を考え、教育者・保育者の専門性について学ぶ授業です。自分の考えを深めるために教育・保育に関する文献を最低1冊は読みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教員としての実務経験を活かし、小学校の実態や実践事例等を具体的に教える。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを適宜取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉田　久実	指定なし

ナンバリング	P10603M21
授業概要(教育目的)	わが国独自の概念として成立した児童文化について、時代と共に変化する児童文化の歴史をたどり、その重要性を問い直す。そして、子どもとおとなが共につくり、共に遊び、共に楽しみ、伝え合っていく文化を創造するにはどうしたらよいかを考える。具体的には児童文化の歩み、子どもの遊び・遊具・玩具、子どもと表現活動・造る、描く、子どもと文学・絵本、現代の子どもの生活と文化、児童文化を支え・育む活動について考察する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童文化の歴史的変遷や背景に目を向けながら現在の子どもたちが置かれている状況を捉える。
思考・判断の観点（K）	児童文化についての基本的な考え方と具体的な内容について理解する。
関心・意欲・態度の観点（V）	様々な児童文化と文化財に目を向け、広く深く考察をしたり、他者の視点にも関心を持つ。
技術・表現の観点（A）	身近な児童文化財について学んだことを発展させ、制作や自分なりの表現につなげていく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	児童文化と子ども	「児童文化」という語が形成される歴史的過程を検証し、現代の子どもたちを取り囲む文化環境に目を向け、社会史に位置づける。	児童文化に関するニュースなどを見つけ、児童文化について考える。	120分
第2回	子どもと遊び	子どもの発達過程における遊びの重要性は広く認められているが、児童文化の側面から見た遊びの重要性についても考える。	遊びとその重要性について自身の考えをまとめてくる。	120分
第3回	ごっこ遊び	みたて・つもり・ふり遊び、役割遊びなどとも言われる子どもの身近な遊びを取り上げ、文化的背景と意義を考える。	○○ごっこと題して、自身の幼少のころ体験したごっこ遊びについて報告するための準備をする。	120分
第4回	手あそび・歌遊び	手と歌で繰り広げられる遊びのいろいろと、年齢に応じた楽しみ方や特徴、児童文化との関わりについても知る。	秋の季節にふさわしい手遊び・歌遊びを１つ選び探して紹介できるように準備する。	120分
第5回	子どもと児童文化財	様々な児童文化財について知り、歴史的、文化的背景と子どもの遊びとの関連性についてみていく。以降、各文化財の理論と実践について学ぶ。	玩具、絵本、紙芝居、素話（語り）、児童文学、児童劇などの中から、自身が一番興味深い作品を1つ選び、歴史的背景や子ども文化とのかかわりについて調べる。	120分
第6回	おもちゃ（玩具）で遊ぶ	おもちゃの文化史と意義、発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。	120分

第7回	絵本を楽しむ	絵本の文化史と意義、発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。	120分
第8回	紙芝居を演じる	紙芝居の文化史と意義、発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。	発表の準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。	120分
第9回	お話に親しむ	素話・語りの文化史と意義、発達過程に応じた提示の仕方、遊びの展開について学ぶ。	発表のための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。	120分
第10回	子どもと児童文学	日本と海外の児童文学の歴史について概観し、児童文学が子どもにもたらすもの、多様な子どもの文学とその意義について学ぶ。	発表のための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。	120分
第11回	子どもと児童劇、劇あそび	日本の児童演劇の歴史について概観し、観劇が子どもにもたらすもの、子どもに向けた多様な劇活動とその意義について学ぶ。	発表ための準備をし、発表後は振り返りのレポートを作成する。	120分
第12回	子どもとつくる劇	子どもを対象とする劇的表現の中から人形劇等を取り上げ、身近な素材（お話、教材）を使って制作し、自分なりの表現につなげていく。	身近な素材（お話・教材）を使って保育の中で子どもと共に創作する劇遊びについて考え、発表の準備をする。	120分
第13回	いろいろな劇表現	身近な素材（お話・教材）を使って制作した劇の発表と振り返り。	身近な素材（お話・教材）を使って制作した劇表現の発表のための準備と発表後の振り返りを行う。	120分
第14回	いろいろな劇表現	身近な素材（お話・教材）を使って制作した劇表現の発表と発表後の振り返り。	身近な素材（お話・教材）を使って制作した劇表現の発表のための準備と発表後の振り返りを行う。	120分
第15回	児童文化とおとな（保育者）まとめ	子どもに向かって提示される媒体としての側面と、子ども自ら及び大人と共に作り・伝え・育む、創造活動としての児童文化について考察する。	これまでの学習内容を振り返り、また、自身の発表などからも考え感じたことをまとめておく。	120分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。教室外学習は各自の発表準備やまとめの時間にあてる。
学生へのフィードバック方法	毎回の講義で提出するレポートを通し、質問や感想を受け付ける。質問事項に関しては、翌週の講義で解説する。
評価方法	・平常点（授業中の実績）と課題レポートの結果から判定する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	試験または課題	○	○	○	○

評価割合	平常点40%・試験または課題60% （平常点は、毎回の授業での取り組み、レポート提出の状況等を総合して判断します）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で児童文化について考えることができる。 【思考・判断】児童文化からの学びを保育の実践においても応用出来、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちに児童文化を積極的に伝えることができる。 【技能・表現】子どもの専門家として児童文化財の選択と、児童文化の伝承に貢献できる。同時に、玩具での遊びや絵本読みなどにおいて豊かな表現力が身についている。
学生へのメッセージ	児童文化は子どもの幸せを願いながら大人とともに育まれてきました。 授業内容とそれに関わる予習・復習に加えて、児童文化に日頃から興味を持ち、幅広く情報を取り入れることを心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	児童文学、児童文化財についての研究と保育者としての経験を授業に反映させる。
アクティブ・ラーニング	○	学生が自ら考え、調べたことを生かし、それを授業内で発表することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもの保健		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三宅　美千代	指定なし

ナンバリング	P20001M21
授業概要(教育目的)	子どもの保健は日常生活を実践の場とし、子どもの心身の健康の保持・増進を目的としている。常に成長・発達する子どもの健康の保持・増進につとめられるよう、身体的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や発育の過程を理解するとともに、子どもに特有な症状や疾病とその対応についての学びを深める。また、現代の複雑多様な社会背景や環境において、子どもを守る保育者の在り方を考えることを目的とする。
履修条件	子どもの健やかな成長発達をめざし、子どもの健康課題について学ぼうとする意欲のあることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・子どもの身体的・社会的・精神的特徴や成長発達の過程を説明できる。 ・子どもに特有な症状や疾病と、その対応方法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	・子どもの疾患や怪我の緊急性、重症度について判断し対応できる。 ・子どもの発達段階に応じた事故予防、保育における衛生管理、危機管理、安全管理の現状を指摘し、改善策について思考することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・子どもを取り巻く社会的問題に関心を持ち、地域における子育て支援に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	・子どもの身体発育の評価ツールを用いて評価することができる。 ・子どもの運動発達の評価ツールを用いて評価することができる。 ・子どもの健康状態の変化を表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	・オリエンテーション ・保育における保健活動の意義と目的（１） 子どもの保健の概要と範囲	・授業の計画と内容、到達目標、評価方法を知り、本科目を学ぶ意義と目的を把握する。 ・子どもの保健で扱う範囲を知る。 ・子どもの保健の知識を保育でどのように役立てるか考える。 ・保育所保育指針における子どもの保健の位置づけを理解する。	・学習の進め方を理解し、学習計画を立てる。 ・教科書p.1～p.13を読む。 ・振り返りの問題(p.8)に取り組む ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第2回	・保育における保健活動の意義と目的（２） 子どもの出生と母子保健	・女性の妊娠から出産の過程と胎児の発育について学ぶ。 ・女性の健康支援や母子保健の意義について理解する。	・教科書p.14～p.20を読む。 ・振り返りの問題(p.20)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第3回	子どもの健康の現状と保健	・子どもの健康の指標と動向を知り、現代社会の子どもの健康に関する理解を深める。	・教科書p.21～p.29を読む。 ・振り返りの問題(p.29)に取り組む。	180分

		・子どもの健康に関する時代推移を理解し、現代社会における課題を考える。	・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	
第4回	子どもの発育と発達 （１）子どもの身体発育	・子どもの身体のつくりを知り、子どもの身体発育の見方を理解し、評価方法を学ぶ。 ・身体発育曲線を作成することができる。 ・子どもの身体発育に影響を及ぼす因子について理解できる。	・教科書p. 30～p. 37を読む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第5回	子どもの発育と発達 （２）子どもの運動機能の発達と評価	・原始反射と自動運動について理解する。 ・粗大運動と微細運動の発達過程を理解する。	・教科書p. 38～p. 43を読む。 ・振り返りの問題(p. 43)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第6回	子どもの発育と発達 （３）子どもの生理機能の発達と生活習慣	・体温、呼吸、循環系、消化、排泄、睡眠の生理機能の発達の特徴を知り、評価方法理解する。 ・生理機能の発達に応じた生活習慣を理解する。	・教科書p. 44～p. 52を読む。 ・振り返りの問題(p. 52)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第7回	子どもの病気と保育 （１）子どもの健康状態の把握と体調の変化への対応	・子どもの健康状態の観察ポイントを知り、日々の観察方法を理解する。 ・子どもに特有な症状について学ぶ。 ・病児保育の記録表の見方や書き方を理解する。	・教科書p. 62～p. 66を読む。 ・振り返りの問題(p. 66)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第8回	子どもの病気と保育 （２）子どもの免疫と感染症	・子どもの免疫の発達について理解する。 ・子どもに多い感染症の種類や特徴を理解する。 ・感染症の症状と対応について学ぶ。	・教科書p. 67～p. 75を読む。 ・振り返りの問題(p. 75)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第9回	子どもの病気と保育 （３）感染症の予防と対応	・感染症の発生の原因を知り、感染症対策や保育の場における環境作りについて理解する。 ・子どもの予防接種について理解する。	・教科書p. 76～p. 83を読む。 ・振り返りの問題(p. 83)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第10回	子どもの病気と保育 （4）急を要する子どもの疾患や怪我	・子どもの救急疾患や怪我の特徴と対応方法を理解する。 ・事故を起こしやすい子どもの特徴や子どもに多い事故を理解する。 ・安全な子どもの環境について考える。	・教科書p. 84～p. 93を読む。 ・振り返りの問題(p. 93)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。 【課題レポート】保育の現場における昨今の子どもの事故についての考察	180分
第11回	子どもの病気と保育 （5）子どものアレルギー疾患の特徴と対応	・子どものアレルギーの特徴や種類、対応方法を理解する。 ・集団生活におけるアレルギーの子どもへの対応について考える。 ・エピペンの使い方を理解する。	・教科書p. 101～p. 108を読む。 ・振り返りの問題(p. 108)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第12回	子どもの病気と保育 （6）子どもの慢性疾患の特徴と対応	・子どもの慢性疾患の特徴を理解し、保育の方法を考える。 ・慢性疾患を抱える子どもの保護者への支援の方法について理解する。	・教科書p. 109～p. 121を読む。 ・振り返りの問題(p. 121)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第13回	保護者との情報共有と家族への支援	・保護者との情報共有の内容や方法について理解する。 ・保護者への子育て支援の実際を理解する。 ・子どもの体調の変化について、連絡帳に書くことができる。	・教科書p. 122～p. 131を読む。 ・振り返りの問題(p. 131)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第14回	・子どもの健康診断と関係機関との連携 ・子どもの虐待防止	・子どもに関連する健診の内容と意義を理解する。 ・健診を通じた関係機関との連携の実際と意義・子育て支援を理解する。 ・健診を通じた子育て支援を理解する。 ・子どもの虐待の現状と、虐待防止の取り組みを理解する。	・教科書p. 132～p. 141、p. 53～p. 61を読む。 ・振り返りの問題(p. 141, p. 61)に取り組む。 ・教科書と配布資料を確認し、自分なりにまとめる。	180分
第15回	保育における保健活動の総括	・母子健康手帳の健康の記録の見方を理解する。 ・母子健康手帳の保育現場での活用の在り方を考える。 ・保育現場と医療現場の連携、地域連携、保護者連携について理解する。	・これまで学んだ教科書や資料を見直す。 ・配布資料を確認し、自分なりにまとめる	180分

学習計画注記	・授業の進捗状況により授業テーマが前後することもある。その場合は事前に知らせる。
学生へのフィードバック方法	・振り返りの問題は、授業にて解説する。 ・課題レポートは返却する。 ・その他、授業に関する疑問点等についてはメール等で返信する。
評価方法	・定期試験、課題レポートにより総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	振り返り	○	○	○	○
	課題レポート	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	定期試験60% 課題レポート40%
使用教科書名(ISBN番号)	・授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト　改訂第２版　小林美由紀編著　診断と治療社 2021年：ISBN978-4-7878-2531-5
参考図書	・授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート　改訂第２版　小林美由紀編著　診断と治療社　2021年 ・これならわかる！子どもの保健演習ノート　改訂第３版　榊原洋一監修　診断と治療社　2016年 ・やるべきことがすぐわかる　今日から役立つ改訂版保育園の保健のしごと　東社協保育士会保健部会／編　株式会社赤ちゃんとママ社　2020 ・子どもの保健演習　改訂第２版　大西文子編集　中山書店　2017年 ・子どもの保健　改訂第３版　渡辺博編著　中山書店　2017年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「子どもの健康」を理解し、子どもの健康と健やかな成長発達に関する専門的な知識が修得できる。 【思考・判断】家族、地域と協働しながら子どもの健やかな成長発達を支援するための感性を培うことができる。 【関心・意欲・態度】多様化する子どもの健康課題や問題に関心を持って取り組み、子どもの健やかな成長発達のために使命感を持って行動できる。
オフィスアワー	なし
学生へのメッセージ	・配布資料を自分なりに工夫してファイリングすること。 ・専用のノートを作成し、自分なりに授業内容をまとめること。 ・授業で習った内容を復習し定着を図るため、各章の終わりにある振り返り問題を行うこと。 ・課題レポート類の提出は期日を厳守すること。 ・現代の子どもに関する諸問題について常に調べ、学んだことを踏まえながら自分なりに考察すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小児病棟における小児看護経験を用いることにより、子どもの保健に関して具体的に解説していく。
アクティブ・ラーニング	○	適宜グループディスカッションを取り入れ、各自の考えを発現し、グループ内における意見を統合し発表を行い、クラスで共有する時間を設ける。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（畝部）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	テーマの決定、文献検索、論文作法などを学び、卒業研究の基礎となる前期レポートを完成させる。
履修条件	・3年次終了までに90単位取得していること。 ・論文／レポート作成には、コンピューターを利用しての文書作成技能が求められる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業研究（卒業論文）の書式、卒業研究（論文）作成のための情報検索方法を理解し、研究課題に関する深い知識を持っている。
思考・判断の観点（K）	これまでに学んだ知識を背景に、卒業研究（卒業論文）の研究課題について検討・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的、意欲的に卒業研究（卒業論文）作成に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	結束性と一貫性のある論理的文章を書くことができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	テーマの絞り込み1	ディスカッションを通じてテーマの絞り込みをする。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第2回	テーマの絞り込み2	ディスカッションを通じてテーマの絞り込みをする。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第3回	文献目録作成1	ディスカッションを通じて文献目録を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第4回	文献目録作成2	ディスカッションを通じて文献目録を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第5回	先行研究の調査1	ディスカッションを通じて先行研究を調査する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第6回	先行研究の調査2	ディスカッションを通じて先行研究を調査する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第7回	先行研究の調査3	ディスカッションを通じて先行研究を調査する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第8回	研究課題の確定、最終的主張の決定1	ディスカッションを通じて研究課題を確定し、最終的主張を決定する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第9回	研究課題の	ディスカッションを通じて研究課題を確定し、最終的主	継続的に自分自身の研究課題の	120分

	確定、最終的主張の決定2	張を決定する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	追究に取り組む。	
第10回	卒業研究（論文）アウトライン作成1	ディスカッションを通じて論文のアウトラインを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第11回	卒業研究（論文）アウトライン作成2	ディスカッションを通じて論文のアウトラインを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第12回	前期レポート作成と添削1	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第13回	前期レポートの作成と添削2	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第14回	前期レポートの作成と添削3	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第15回	前期レポートの作成と添削4	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第16回	前期レポートの提出	前期レポートを指定の期日までに提出する。提出にあたっては必ず担当教員の内容確認を受け、文字数は10,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分

学生へのフィードバック方法	提出される論文・レポートは添削または修正点を指摘する。
評価方法	平常点（授業中の実績）と10,000字以上のレポートの提出により評価する。レポートの書式は指示に従い、参考文献目録を必ずつけること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	レポート提出	○	○	○	○

評価割合	平常点（50%）、前期レポートの提出（50%）により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし（プリント配付）
参考図書	別途指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・シリ・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	水曜2時限　1630研究室
学生へのメッセージ	指示に従って積極的・主体的に資料収集、文献研究、論文／レポート作成を行うこと。事前に本学の『リテラシー演習テキスト』を読んでおくこと。実習で欠席したゼミにおける課題は、必ず後で提出すること。ゼミは卒業研究作成に重要な授業となるため、最優先すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報処理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（中田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	各自でテーマを決めて論文を作成する。幼児教育学研究室では、保育現場での観察研究などの方法を用いて、保育・幼児教育現場における乳幼児の生活に関わるすべてのことを研究対象としている。その際には、保育者と子どもという関係性を踏まえて、子どもを中心とした考察をすること、子どもの現在と未来がより豊かで充実したものとなるための研究を行うことを重視している。具体的には、以下のような研究内容である。 1.保育・教育方法に関する研究 2.保育・教育現場での環境や教材に関する研究 3.保育現場における事例に見られる関係性(子どもと保育者、子ども同士など)に関する研究
履修条件	所定の単位数を取得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	・各自のテーマに関連する先行研究から研究に有意な情報を判断し、論文作成に活用する。 ・各自のテーマに関連する事項を多角的な視点からとらえ、子どもを中心とした思考・判断のもとに考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究協力者である子どもや保護者、園関係者に対する倫理的配慮のある態度で、子どもの現在と未来に有意義な研究をすすめる。
技術・表現の観点（A）	各自のリサーチクエスチョンに適した研究方法を実現し、論文に適した文章等に表現する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	先行研究リストの作成と先行研究の活用について 卒論提出までのスケジュールの確認	先行研究文献リストの完成	90分
第2回	テーマの設定	テーマの設定と研究の方向性について検討する。	「卒業研究テキスト」内のサブノートの確認・修正を完成する。	90分
第3回	研究の基本①	児童学の研究に関する基本について資料に基づき検討する。先行研究を自身の研究に活用する際の視点について理解する。	「卒業研究テキスト」内の演習問題を完成する。	90分
第4回	研究の基本②	自身のテーマに適した研究方法を検討する。	研究法に関する文献を手掛かりに適した研究方法について検討する。	90分
第5回	研究法①	観察法を中心とした先行研究を参考に、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。	発表の準備及びレジュメの作成	90分
第6回	研究法②	インタビュー法を中心とした先行研究を参考に、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。	発表の準備及びレジュメの作成	90分

第7回	研究法③	文献法を中心とした先行研究を参考に、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。	発表の準備及びレジュメの作成	90分
第8回	研究法④	テキストマイニングを用いた先行研究を参考にして、各自のテーマに沿った研究デザインを作成し、発表し討議する。	発表の準備及びレジュメの作成	90分
第9回	予備調査と中間発表の概要	予備調査の手続きについて検討し、各自準備を進める。	予備調査の手続きを具体的に考え、適したフィールドを検索する。	90分
第10回	中間発表①	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第11回	中間発表②	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第12回	中間発表③	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第13回	中間発表④	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第14回	調査研究の実際①	観察法について、観察園での倫理的配慮及び記録、分析の視点について検討する。	観察園への依頼文を完成し、観察研究を進める。	90分
第15回	調査研究の実際②	インタビュー法、アンケート調査について、研究協力者への倫理的配慮及び記録、分析の視点について検討する。	インタビューガイド、アンケート項目を作成する。	90分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された、サブノート、発表用レジュメ等はすべて確認し、適宜添削し、コメントを付して返却する。また、基本的には個別にフィードバックをするが、クラス全体で考えたい問題については、授業内で解説をする。
評価方法	作成されたサブノート、発表用レジュメを点数化して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文発表(レジュメも含む)		○	○	○
	中間発表(資料も含む)		○	○	○

評価割合	論文発表50%、中間発表50%
使用教科書名(ISBN番号)	無
参考図書	2020-2021 東京家政学院大学児童学科中田ゼミ卒業研究テキスト 中澤潤他：心理学マニュアル観察法. 北大路書房. 2014 秋田喜代美ほか編：はじめての質的研究法　教育・学習編. 東京図書. 2014 中坪史典編：子ども理解のメソドロジー. ナカニシヤ出版. 2012 他、適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】　子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する 課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために 使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	水曜日2限目
学生へのメッセージ	研究を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回、発表、討議を行う。
情報リテラシー教育	○	研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。
ICT活用	○	中間発表の際には、予備調査の結果を画像、動画等を利用し、PPTを用いて自身の研究を報告する。

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（新開）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもと保育にかかわる児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
履修条件	学生便覧に示された条件を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点（K）	先行研究を行いながら、研究テーマを深めたり、研究の目的と方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に論文・文献収集を行う。 ゼミのディスカッションに主体的に参加する。
技術・表現の観点（A）	ゼミのディスカッショにおいて、わかりやすい言葉で研究について報告したり意見を述べたりできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの道のりを考える。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	現状分析	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。	180分
第3回	先行研究①文献抄読（１）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分
第4回	先行研究②文献抄読（2）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第5回	先行研究③文献抄読（3）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。 抄読した論文を、要約して提出する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分
第6回	先行研究④文献抄読（4）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第7回	先行研究⑤発展的まとめ	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究方法を明確にしていく。	先行研究の要約。 様々な調査の中から、自身のに	180分

			研究にふさわしい手法を探しておく。	
第8回	研究方法と手続き①	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。	180分
第9回	研究方法と手続き②	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究骨子の検討	各自の研究計画について検討する。	研究計画を立案する。	180分
第11回	調査・データ収集等①	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ収集等②	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ収集等③	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ収集等④	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討④	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間報告会	研究の進捗状況について、全員が報告する。	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。	240分

学習計画注記	※履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題解決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
評価方法	受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	先行研究の整理	○	○	○	
	ディスカッションへの参加			○	
	中間報告（プレゼンテーション）		○		○

評価割合	研究への取り組み・先行研究の整理（４0%）、ディスカッションへの参加（３0%），中間報告（プレゼンテーション）（３0%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもと保育についての専門的知識を習得する。 【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	金曜４時限　1635研究室
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（柳瀬）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間発表では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	3年次終了までに90単位修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	4年間の児童学科における学びの集大成として，自ら研究課題を設定し研究計画を立てる。
思考・判断の観点（K）	研究課題は、将来的に実務に生かすことのできる内容等、自身の興味・関心に沿うものとする。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に研究活動に取り組む
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの道のりを考える。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	問題の分析と課題領域の設定	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。	180分
第3回	先行研究一週目（文献抄読①）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分
第4回	先行研究二週目（文献抄読②）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第5回	先行研究三週目（文献抄読③）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第6回	先行研究四週目（文献抄読④）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第7回	先行研究の	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究	先行研究の要約。	180分

	まとめと研究課題の設定	方法を明確にしていく。	様々な調査の中から、自身のに研究にふさわしい手法を探しておく。	
第8回	研究方法,手続きの検討	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。	180分
第9回	研究方法,手続きの決定	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究計画の立案	各自の研究計画について検討する。	研究計画の立案	180分
第11回	調査・データ収集等一週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ収集等二週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ収集等三週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ収集等四週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討④	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間発表	研究の進捗状況について、全員が報告する。	研究の進捗状況について、要旨原稿の書式にまとめ、プレゼンテーションの準備をしておく。	240分

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業時の助言に加えて、学生一人ひとりのペースに即して、適宜コメントや助言を返す。
評価方法	受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	先行研究の整理	○	○	○	
	ディスカッションへの参加			○	
	論理的思考		○		○
	プレゼンテーション		○		○

評価割合	研究への取り組み・先行研究の整理（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、中間発表（プレゼンテーション）（30%）で評価する。
参考図書	講義内で必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。 【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、研究を進める上で生かしていく。
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（新海）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」の6つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らで研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集・データ分析等に従事できる力を養う。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションしてもらい，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする機会をもつ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	4年間の児童学科における学びの集大成として，子どもをめぐる課題に対して，自ら研究課題を設定し研究計画を立て，主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	子どもをめぐる課題をより深め，発展させることができ，理論と実践の融合を図り，専門家として社会に貢献できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までのスケジュールや，計画について話し合う。 自身の興味の対象についてゼミ生たちに説明することで，自身の研究テーマの方向性を明らかにする。	翌週に向けての研究の準備をする（復習）。	180分
第2回	課題の分析と課題領域の設定	関心のある研究テーマおよび課題領域を知る。	課題領域から研究テーマをを絞っていく（復習）。	180分
第3回	先行研究一週目	研究テーマおよびその周辺領域の先行研究を行う。	先行研究をまとめながら，翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。	180分
第4回	先行研究二週目	先行研究を重ねながら，自身の研究テーマを焦点化していく。	先行研究一週目の報告をし，翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。	180分
第5回	先行研究三週目	先行研究を重ねながら，自身の研究テーマを焦点化していく。	先行研究二週目の報告をし，翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。	180分
第6回	先行研究四週目	先行研究を重ねながら，自身の研究テーマを焦点化していく。	先行研究三週目の報告をし，翌週に向けての研究の準備をする（予習・復習）。	180分
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	自身の研究に取り組んだ動機，研究課題の背景，研究課題の設定に関する事柄をまとめたうえで，先行研究の概要を紹介をすることで，自身の研究テーマと先行研究との関係性を明らかにする。	自身の研究に関する動機，背景，研究課題の設定，および先行研究について整理しなおす（予習・復習）。	180分

第8回	研究方法，手続きの検討	自身の研究課題に対する研究仮説をたてる。	翌週に向けて，仮説の妥当性について説明する資料等を集める（復習）。	180分
第9回	研究方法，手続きの決定	自身の研究課題に対する研究仮説の妥当性と検証方法について考える。	集めた資料を整理し報告できるように準備する（予習）。 翌週に向けて，仮説の妥当性を説明する資料をさらに集めたり検証方法について考える（復習）。	180分
第10回	仮説検証のための研究計画の立案	仮設を検証するための計画を立てる。 どのような立場から，何を，どこまで， どのような方法で明らかにするのかを考える。 必要な統計手法を確認する。	仮説を検証する計画概要を完成させる（復習）。	180分
第11回	調査・データ収集等一週目	調査対象者，調査期間等の決定等，調査やデータ収集に必要な調査票の作成等の準備を始める。	調査対象者，調査期間等の決定等，調査やデータ収集に必要な調査票の作成等の準備を進める（復習）。	180分
第12回	調査・データ収集等二週目	調査対象者，調査期間等の決定等，調査やデータ収集に必要な調査票の内容を完成させる。	検証のために必要な調査票等を完成させる（予習・復習）。	180分
第13回	調査・データ収集等三週目	調査等により，実際にデータを収集する。	収集したデータを整理する（予習・復習）。	180分
第14回	調査・データ収集等四週目	調査等により，得られたデータを集計する。	得られたデータ等を集計・整理し，適切なデータ分析について検討する（予習・復習）。	180分
第15回	中間報告会	中間報告会にて、得られたデータの集計結果および検証に必要な統計手法等について報告する。 卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。	中間報告会に向けての準備をする（予習）。 卒業研究Bに向けて，中間報告で明らかになった課題を整理する（復習）。	180分

学生へのフィードバック方法	毎回のゼミの時間で，各ゼミ生に発表する機会をもってもらう。その発表に対して，ゼミ生全員で協議を行う。その協議の内容を基に，次への課題等を教員から提案する。
評価方法	１．平常課題 平常課題は毎週報告する自身の研究への取り組みや，ゼミ生同士の討論への参加の積極性等で総合的に判断する。 ２．中間報告 報告内容とプレゼンテーションを評価する。 ＊平常課題や中間報告は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常課題			○	
	中間報告			○	○

評価割合	平常課題（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心を持って取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。 【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り，専門家として社会に貢献できる力を有している。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	現実の世界にはあいまいさを含む事項が多数存在する。例えば，人間の感情，感性，意思決定，評価はその典型である。私は主に，このようなあいまいな情報や事象を，ファジィ理論や統計解析の手法を主に用いて，定量的に取り扱う研究をしている。また，算数･数学教育に興味をもっており，主に教育評価，教材構造分析，豊かな学びあいを実現するための数学的活動に関する研究，遊びから豊かな学びを実現させる就学前算数教育に強い関心がある。プログラミング教育にも大変関心がある。興味があれば，ぜひ1625研究室を訪問してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく，ゼミ生同士で討議を行う。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（齋藤義）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	先行研究をふまえつつ、自らの研究課題を設定する。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究方法を吟味し，研究計画に基づいて、調査・データ収集に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

卒業研究Ａ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1.　オリエンテーション	卒業研究Ａの概要について理解できる。	卒業研究Ａの概要について理解できる。	45分
第2回	2（1）　問題の分析と課題領域の設定	問題の分析と課題領域を設定する。	問題の分析と課題領域を設定する。	45分
第3回	2（2）　問題の分析と課題領域の設定	問題の分析と課題領域を設定する。	問題の分析と課題領域を設定する。	45分
第4回	2（3）課題の分析と課題領域の設定	課題の分析と課題領域を設定する。	課題の分析と課題領域を設定する。	45分
第5回	３（1）先行研究調査一週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第6回	３（2）先行研究調査第一週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分

第7回	４（１）先行研究調査第二週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第8回	４（２）先行研究調査第二週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第9回	５（１）先行研究調査第三週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第10回	５（２）先行研究調査第三週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第11回	６（１）先行研究調査第四週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第12回	６（２）先行研究調査第四週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第13回	７（１）先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	45分
第14回	７（２）先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	45分
第15回	８（１）研究方法，手続きの検討	研究方法，手続きを検討する。	研究方法，手続きを検討する。	45分
第16回	８（２）研究方法，手続きの検討	研究方法，手続きを検討する。	研究方法，手続きを検討する。	45分
第17回	９（１）研究方法，手続きの決定	研究方法，手続きを決定する。	研究方法，手続きを決定する。	45分
第18回	９（２）研究方法，手続きの決定	研究方法，手続きを決定する。	研究方法，手続きを決定する。	45分
第19回	１０（１）今後の研究計画の立案	今後の研究計画を立案する。	今後の研究計画を立案する。	45分
第20回	１０（２）今後の研究計画の立案	今後の研究計画を立案する。	今後の研究計画を立案する。	45分
第21回	１１（１）調査・データ収集第一週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第22回	１１（２）調査・データ収集第一週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第23回	１２（１）調査・データ収集第二週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第24回	１２（２）調査・データ収集第二週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第25回	１３（１）調査・データ収集第三週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第26回	１３（２）調査・データ収集第三週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第27回	１４（１）調査・データ収集第四週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第28回	１４（２）調査・データ収集第四週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分

第29回	１５（１）調査・データ収集第五週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第30回	１５（２）調査・データ収集第五週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分

学生へのフィードバック方法	ゼミでは、毎回研究に関する進捗状況を確認し、質疑・応答のコミュニケーションを通して、今後の指針を学生に伝えていく。レポートに関しては、内容に関する修正案を提案する。
評価方法	ゼミは、出席するのが当たり前である。平常点は毎週の授業への積極的な参加，研究への取り組みや討論への積極的な参加が望まれる。また、卒業研究の２万字に対し、前期終了時点で１万字程度記述することが望ましい。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	レポート		○		

評価割合	平常点（５０％），レポート（５０％）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への積極的参加，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。
参考図書	各自に伝える。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
オフィスアワー	ゼミの前後　１６２８研究室
学生へのメッセージ	3年次までに、自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校の教員としての経験を伝えるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園・児童養護施設等の巡回訪問の経験を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	卒業研究のテーマに関して、話し合い（コミュニケーション）を通して、理解の深化を図っている。
情報リテラシー教育	○	先行研究の調査において、適切な引用の在り方を学んでいる。
ICT活用	○	調査やデータ収集の結果を、パソコン等で適切に処理している。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（立川）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童学の専門的な知識に基づく視点をもち、主体的に設定した研究課題の背景・目的・内容・方法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	自らの研究課題に関する問題意識を明確にし、先行研究や調査結果を整理・考察を通して課題解決に向けた提案や根拠を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの問題意識を基に今日的課題を解決することに関心をもち、研究の倫理・人権・法令に準拠した探究活動を実践できる。
技術・表現の観点（A）	研究課題の探究について、適切な調査方法に基づく調査・分析・考察・論述の基本的な技能を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	問題意識に沿い、課題化に向けた問題の精選や分析の可能性を検討・考察する。各自の問題意識をメンバーで共有し、質疑応答を通して問題設定の意味や価値について明らかにする。	各自の問題意識を整理し、先行研究の有無や調査対象について説明できるようにしておく。	90分
第2回	問題の分析と課題領域の設定	着目した問題の本質化を試み、課題領域、参考文献の検索領域を明らかにする。	問題に関する先行研究（論文・著書・事例）をあげ、メンバーに提示できるように資料の準備をしておく。	90分
第3回	先行研究一週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	90分
第4回	先行研究二週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	90分
第5回	先行研究三週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	90分
第6回	先行研究四週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考	90分

			資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究について文献・資料の有効性や有意性を検討し、討論や質疑を通して研究課題や目的を明らかにする。 問題意識を疑問文にした資料を基に、研究主題・副題の趣旨を表す文言を検討する。	収集した文献・資料の要約一覧を作成しながら、文献相互の重要度や主従関係を整理しておく。	90分
第8回	研究方法,手続きの検討	課題に関わる実態や解決策を調査する対象や方法について検討する。調査の対象施設や調査依頼のスケジュール、具体的な調査手段などについて実施の準備を行う。	調査の対象・事象を精選し、調査と分析方法に応じた計画案を仮作成しておく。	90分
第9回	研究方法,手続きの決定	課題に関わる実態や解決策を調査する対象や方法を決定する。調査の対象施設や調査依頼のスケジュール、具体的な調査手段などの実施手続きを確認する。	調査と分析方法に応じた計画案に沿って、依頼状や調査日程、必要となる調査用具を整理しておく。	90分
第10回	研究計画の立案	これまで検討した調査の内容や方法、調査日程を確認し、研究計画を作成する。調査を分析・考察する際に参照できる文献・資料を確認し、必要な情報処理機器類の準備を進める。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、調査の種類や要件を確認しておく。調査機器の取り扱い事項や人権保護の観点を中心に確認しておく。	90分
第11回	調査・データ収集等一週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティーの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第12回	調査・データ収集等二週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティーの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第13回	調査・データ収集等三週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティーの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第14回	調査・データ収集等四週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティーの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第15回	調査・データ収集等五週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティーの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第16回	中間報告会	作成した「研究計画書」を基に、研究の主題、研究の概要と背景、研究目的、研究方法、調査の目的・対象・手段、分析方法などを中心に報告する。視覚機材を用いたメンバー全員の討論や質疑を基に、不足や修正に関する事項を理解し、対策や改善を行う。	研究計画書を作成し、上記の要旨について説明できるように資料を用意しておく。	90分

学習計画注記	履修学生の各種実習期間の都合により、スケジュールは柔軟に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	・毎回、各自の研究課題についてドキュメンテーションを行い、相互質疑や討論を中心に協働的に取り組む。 特に、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法について、研究の進度に沿って助言・コメントや資料や情報の提供で応答する。 ・学期末には、中間報告書（研究計画と研究の概要）の提出と、各自15分程度のプレゼンテーションを求め、中間報告書は、研究主題・内容・調査方法の改善についてコメント付きで返却する。
評価方法	・毎回の報告や討論・質疑については、自他の問題意識への関心や着目点の明確さについて総合的に評価する。 ・中間報告書とプレゼンテーションは、調査計画の内容や調査・分析方法の課題を観点に評価する。 特に、論文の構成について、卒業研究として設定する主題や問題意識、調査・分析・考察の内容や方法について、探究の筋道や倫理に着目し、論文構成の妥当性・主題や問題意識の独自性・社会への寄与を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメンテーション・質疑		○	○	
中間報告書・プレゼンテーション	○	○		○

評価割合	平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	各自の探求課題にそって適宜提示する。
参考図書	各自の探求課題にそって適宜提示する。 『卒業研究論文のいろは（ゼミ版）』の冊子を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する領域（子どもの心理・健康・保育・教育・福祉・文化）に関する専門的な知識に基づく問題意識をもち、研究主題を設定している。 【思考・判断】研究主題に応じた研究の調査・分析・考察方法を選定し、計画を立案している。 【関心・意欲・態度】明確な問題意識をもち、研究課題の解決と提案に向かう主体性を発揮している。 【技能・表現】論文の記述や調査について、基本的な技能を有し、人権・倫理・法令を尊重して探究できる。
オフィスアワー	金曜日3限、1629研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	各自による研究調査の報告とメンバー間の相互主体的な討論や質疑を中心に進める。
情報リテラシー教育	○	参照する文献の検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する場面で、情報処理の基本的な能力を発揮する機会をもつ。
ICT活用	○	文献の検索サイトやアプリケーションの活用、図書館での著書や資料の閲覧システムの利用、プレゼンテーションや分析データの視覚化などについて、適切なテクノロジーを効率的に運用する機会をもつ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（丹羽）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	発達心理学に関わる児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等が行えるようにする。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・子どもの心の発達を中心とした、文化・保育・教育といった領域について総合的に理解する。 ・論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点（K）	・複数の論文をクリティカルに読み、総合的に判断して自分の考えをまとめることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・自身のテーマに関する、関連する文献・論文等を積極的に収集する。 ・ゼミのディスカッションにおいて、主体的に意見を述べる。
技術・表現の観点（A）	・わかりやすい文章表現ができる。 ・論理的に文章を構成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までのスケジュールや，計画について話し合う。自身の興味の対象についてゼミ生たちに説明することで，自身の研究テーマの方向性を明らかにする。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	課題の分析と課題領域の設定	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。	180分
第3回	先行研究一週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら，翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第4回	先行研究二週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら，翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第5回	先行研究三週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら，翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第6回	先行研究四週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら，翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	自身の研究に取り組んだ動機，研究課題の背景，研究課題の設定に関する事柄をまとめたうえで，先行研究の概要を紹介をすることで，自身の研究テーマと先行研究との関係性を明らかにする。	自身の研究に関する動機，背景，研究課題の設定，および先行研究について整理しなおす。	180分
第8回	研究方法，手続きの検討	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。	180分

第9回	研究方法，手続きの決定	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究骨子の検討	各自の研究計画について検討する。	研究計画の立案	180分
第11回	調査・データ収集等(1)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(1)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ収集等(2)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(2)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ収集等(3)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(3)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ収集等(4)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(4)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間発表	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。	180分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
評価方法	受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	先行研究の整理	○	○	○	
	ディスカッションへの参加			○	
	論理的思考		○		○
	プレゼンテーション		○		○

評価割合	研究への取り組み・先行研究の整理（４0%）、ディスカッションへの参加（３0%），中間報告（プレゼンテーション）（３0%）で評価する。
参考図書	講義内で適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの心の発達を中心とした、文化・保育・教育といった領域についての専門的知識を習得する。 【思考・判断】子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技術・表現】知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	水曜日２限
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（和田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
履修条件	規定の単位を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点（K）	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点（V）	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点（A）	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

卒業研究A（和田）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出のスケジュールや計画について話し合う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第2回	課題領域の設定	おおまかな課題領域の設定を行う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第3回	先行研究の探し方	先行研究の探し方を図書館のレクチャーも含めて学ぶ。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第4回	先行研究の検討	ゼミのメンバーに自分の先行研究を紹介しながら、自身の研究テーマを明らかにしていく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第5回	研究テーマの焦点化	先行研究をもとに、研究テーマを焦点していく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第6回	研究テーマ	研究テーマと概要について、ゼミのメンバーに発表す	ゼミでの内容を検討し、卒業研	90分

	と概要	る。	究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	
第7回	研究の動機、背景をまとめる	自身の研究の動機、背景をまとめながら、先行研究を整理し直す。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第8回	研究方法、手続きの検討	自身の研究課題に対する仮説をたて、仮説の妥当性についてゼミのメンバーに説明し討論する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第9回	研究方法、手続きの具体化	資料を集め、仮説をもとに研究方法、手続きの具体化を行う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第10回	研究方法、手続きの決定	自身の研究方法、手続きを分りやすく説明し、ゼミのメンバーで共有する。 それぞれの研究の様々な可能性について話し合う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第11回	研究計画の立案	おおまかな研究計画を立てる。 どのような立場から、何を、どこまで、どのような方法で明らかにするのかを考える。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第12回	調査、データ収集について	立案した研究計画にしたがい、調査、データ収集について具体的に考えていく。 必要な調査票の作成などの準備を始める。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第13回	調査・データ収集	調査等により、実際にデータを収集する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第14回	調査・データ習得	調査等により、実際にデータを収集する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第15回	中間報告会	これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分

学生へのフィードバック方法	毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。
評価方法	平常点と中間報告により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	中間報告			○	○

評価割合	平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】研究の方法について理解する。 【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。 【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。
オフィスアワー	月曜日２限から４限
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるフィールドワークを中心に研究を行う。
アクティブ・ラ	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（吉永）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	主に音楽に関連する児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ,学生自らが研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事できるよう指導します。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションすることを通し，また，ゼミ仲間の研究内容・方法についても共に考えながら，卒業研究Bに向けての課題を明らかにしていきます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	子どもと音楽を中心とした、文化・保育・教育といった領域について総合的に理解する。 論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点（K）	複数の論文をクリティカルに読み、総合的に判断して自分の考えをまとめることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身のテーマに関する、関連する文献・論文等を積極的に収集する。 ゼミのディスカッションにおいて、主体的に意見を述べる。
技術・表現の観点（A）	わかりやすい文章表現ができる。 論理的に文章を構成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの道のりを考える。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	現状分析	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。	180分
第3回	先行研究①文献抄読（１）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分
第4回	先行研究②文献抄読（２）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第5回	先行研究③文献抄読（３）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第6回	先行研究④文献抄読（４）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第7回	先行研究⑤	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究	先行研究の要約。	180分

	発展的まとめ	方法を明確にしていく。	様々な調査の中から、自身のに研究にふさわしい手法を探しておく。	
第8回	研究方法と手続き①	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。	180分
第9回	研究方法と手続き②	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究骨子の検討	各自の研究計画について検討する。	研究計画の立案	180分
第11回	調査・データ収集等①	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ収集等②	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ収集等③	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ収集等④	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討④	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間発表	研究の進捗状況について、全員が報告する。	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。	240分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
評価方法	受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	先行研究の整理	○	○	○	
	ディスカッションへの参加			○	
	論理的思考		○		○
	プレゼンテーション		○		○

評価割合	研究への取り組み・先行研究の整理（４0%）、ディスカッションへの参加（３0%），中間報告（プレゼンテーション）（３0%）で評価する。
参考図書	講義内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもと音楽を中心とした、文化・保育・教育といった領域についての専門的知識を習得する。 【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	前期：月曜日　３限　1601 後期：水曜日　 2限　1601
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによ

		る討論や対話の深まりを体験的に理解する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（末松）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 末松　加奈	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
履修条件	規定の単位を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点（K）	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点（V）	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点（A）	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出のスケジュールや計画について話し合う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第2回	問題の分析と課題領域の設定	研究テーマおよび課題領域を決める。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第3回	先行研究一週目	ゼミのメンバーに先行研究を紹介しながら、課題領域に関する理解を深め、研究テーマを焦点化していく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第4回	先行研究二週目	ゼミのメンバーに先行研究を紹介しながら、課題領域に関する理解を深め、研究テーマを焦点化していく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第5回	先行研究三週目	ゼミのメンバーに先行研究を紹介しながら、課題領域に関する理解を深め、研究テーマを焦点化していく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第6回	先行研究四週目	ゼミのメンバーに先行研究を紹介しながら、課題領域に関する理解を深め、研究テーマを焦点化していく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。	180分

			次週の発表に向けて準備をする。	
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	自身の研究に取り組んだ動機、研究課題の背景等をまとめ、各自の研究目的・研究方法を明確にしていく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第8回	研究方法、手続きの検討	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第9回	研究方法、手続きの決定	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第10回	研究計画の立案	各自の研究計画について検討する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第11回	調査・データ収集等一週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第12回	調査・データ収集等二週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第13回	調査・データ収集等三週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第14回	調査・データ収集等四週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	180分
第15回	中間報告会	これまでの研究成果を発表し、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。	180分

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。
評価方法	平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
中間報告			○	○

評価割合	平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	講義内で必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】研究の方法について理解する。 【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。 【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。
オフィスアワー	水曜日3限
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	文献を検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する中で、情報リテラシーを育む機会をもつ。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（原田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	学生便覧の履修規定「卒業研究 ④現代生活学部児童学科卒業研究内規第６条」に示されている通り、研究の履修に際しては、３年次終了までに、90単位以上取得していることが履修条件となる。 （90単位に満たない場合は、90単位取得後、次の学期により研究を開始することができる。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自ら立てたテーマに関する先行研究をまとめ、自身の研究を位置付けることができる。
思考・判断の観点（K）	先行研究で得られた結果や自身の研究活動で収集したデータに基づいた考察ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	関心のあるテーマについて研究課題を設定し、研究計画を立て、研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自身の論文の内容と構成を十分理解し、要旨について簡潔に説明することができる。 研究発表の場で効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	・卒業論文を書き進めるために必要な工程を知る ・卒業論文提出までのスケジュールを確認する ・研究倫理について要点を確認する ・関心のあるテーマについて報告する	・卒業論文提出までのスケジュールを確認し、自身の計画を立てる（復習） ・関心のあるテーマについて書かれてある書籍を１冊読む（予習）	復習30分 予習150分
第2回	論文の構造を知る	・論文を構成する３つの柱（問い・論証・主張）を知る。 ・論文執筆の際の流れ（問題提起→論証→結論）を知る。 ・先行研究や文献を読むときの注意点を知る。	・論文の構造について学んだことをまとめる（復習） ・関心のあるテーマについて書かれてある書籍を１冊読む（予習）	復習30分 予習150分
第3回	研究テーマを絞り込む① 問いの定式化	・関心のあるテーマを報告する ・テーマについて書かれてある文献を紹介し、関心を持った理由について報告する ・「問いの定式化」について学び、具体的な問いに絞り込む方法について学ぶ	・関心のあるテーマについて書かれてある書籍を読み直す（復習） ・各自で「問いの定式化」のための作業を進める（予習）	復習 90分 予習 90分
第4回	研究テーマを絞り込む② 問いに対する自らの主	・絞り込んだ研究テーマについて報告する。 ・掲げた研究テーマについて、自身の主張を報告する。 ・絞り込んだ研究テーマに対する自らの主張が論証可能か検討する。	・絞り込んだ研究テーマの内容について書かれた文献を探す（復習） ・複数の文献を読み、自身の研	復習 30分 予習150分

	張を設定する		究テーマについて明らかにされていることを知る（予習）	
第5回	文献検索の方法	・先行研究や文献検索の方法について学ぶ （図書館OPAC、 ILL、文献データベースの活用）	・実際に文献収集を行う（復習） ・取り寄せた文献に目を通す（予習）	復習 120分 予習 60分
第6回	卒業論文のアウトライン作成	・論文の構成要素（タイトル、要約、本文、まとめ、参考文献）を知る。 ・研究課題として取り上げる問いについて、さまざまな疑問をぶつけることで複数の論点をあげる。 ・卒業論文の骨子となるアウトラインの作成を行う。	・研究課題にぶつける疑問を複数想定し、事前に自分なりの答えを書き出しておく（復習：詳細は授業内で説明） ・最も興味のある論点を選び、インターネットを用いてそれに関する情報を収集しておく（予習）	復習 90分 予習 90分
第7回	研究デザイン検討会資料の作成①	・作成したアウトラインに沿って、定式化した研究課題を文章でまとめる ・研究課題に対する自身の主張を論証するための方法について検討する ・「タイトル、はじめに（問題提起）、方法、参考文献」で構成される研究デザイン検討会資料作成に取り掛かる。 ・資料作成に必要な先行研究を収集し、精読する。	・研究デザイン検討会資料を作成する（復習・予習）	復習/予習 180分
第8回	研究デザイン検討会資料の作成②	・作成したアウトラインに沿って、定式化した研究課題を文章でまとめる ・研究課題に対する自身の主張を論証するための方法について検討する ・「タイトル、はじめに（問題提起）、方法、参考文献」で構成される研究デザイン検討会資料作成に取り掛かる。 ・資料作成に必要な先行研究を収集し、精読する。	・研究デザイン検討会資料を作成する（復習・予習）	復習/予習 180分
第9回	研究デザイン検討会	・資料に基づき、現段階の研究計画を発表する（１人10分程度で） ・他のゼミと合同で実施し、発表を受けて出た質問や意見に回答する ・検討会で出た意見等から、自身の研究課題や研究の方法について検討する	・研究デザイン検討会資料を作成する（復習） ・検討会で出た意見を書き出し、今後の課題や改善点について記入する（予習）	復習 90分 予習 90分
第10回	先行研究の収集①	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）	復習/予習 180分
第11回	先行研究の収集②	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する ・入手した参考文献の要旨を紹介し、自身の研究との関係について報告する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）	復習/予習 180分
第12回	先行研究の収集③	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する ・入手した参考文献の要旨を紹介し、自身の研究との関係について報告する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）	復習/予習 180分
第13回	先行研究の収集④	・定式化した研究課題を論じるうえで必要となる情報は何かについて検討する（グループワーク） ・既に収集した参考文献の引用欄や、情報データベースを用いて、参考文献を収集する ・入手した参考文献の要旨を紹介し、自身の研究との関係について報告する（グループワーク） ・論文のアウトライン上に先行研究を位置付け、論じる順序について整理する	・参考文献を収集し、精読する（復習・予習）	復習/予習 180分
第14回	アカデミックライティング①	・学術的文章や学術的文章を書く技術について学ぶ ・一文一義、主語と述語、パラグラフライティングについて、例文を参照しながら学ぶ ・これまでに執筆した文章のセルフチェックを行い、必要な箇所を修正する	・授業で学んだアカデミックライティングの要点をまとめる（復習） ・これから執筆する文章に、学んだことを反映させる（予習）	復習 120分 予習 60分
第15回	アカデミックライティング②	・学術的文章や学術的文章を書く技術について学ぶ ・引用文献の表記方法について学ぶ ・剽窃や盗用について学ぶ	・授業で学んだアカデミックライティングの要点をまとめる（復習） ・これから執筆する文章に、学んだことを反映させる（予習）	復習 120分 予習 60分

学習計画注記	参考文献の収集や論文執筆の進捗状況により、スケジュールを変更して授業を進める場合がある。
学生へのフィードバック方法	研究課題の設定、参考文献の収集、アウトラインの作成、報告資料の作成、執筆内容、文書校正等について、適宜指導、助言を行う。
評価方法	授業への参加、教室外活動への取り組み状況、成果物の報告により評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文書表現	○	○		○
プレゼンテーション	○			○

評価割合	平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	使用テキストなし（授業内で資料を配布）
参考図書	戸田山和久 著「新版 論文の教室」NHKブックス.2012.
ディプロマポリシーとの関連	◯知識・理解 　卒業論文を作成する過程で、各自のテーマに関する先行研究を通して、子どもに関する専門的な知識の修得を目指します。 ◯思考・判断 　卒業論文を作成する過程で、子どもに関する問題を定式化し、その問題に対する客観的なデータを収集します。得られたデータに基づいて、問題に対する自身の主張を論じられるようになることを目指します。 ◯関心・意欲・態度 　論文のテーマ設定では、できるだけ具体的な問いを掲げられるように、問題の絞り込みを行います。絞り込まれた問いに対する論証や考察を通して、子どもに関する問題に関心をもち、健全で豊かな成長・発達を促す手がかりについて探究し続けられるようになることを目指します。 ◯技能・表現 　論文を執筆するにあたり、文章表現の方法（アカデミック・ライティング）について学びます。また、ディスカッションに参加する際の主張の仕方や、研究成果を発表する際のプレゼンテーションの方法について学びます。
オフィスアワー	原田（月曜３～４限 1509教室） *上記以外の時間帯は、Gメールにて対応します
学生へのメッセージ	毎時間の学習が自分の論文に反映されていることを実感できるように、授業を進めていきます。ゼミ内でそれぞれの研究課題を共有しながら、学外での発表も視野に入れて、研究活動を進めていきましょう。 本科目の担当者は、特別支援教育を専門としており、特に知的障害者や発達障害者の支援方法や指導技法に興味を持っています。また、基本的には量的研究の手法を用いた卒業研究の取り組みを推奨しています。履修するにあたって相談したいことがある場合は、事前にメールで連絡の上1509教室までお訪ねください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・ゼミ学生同士で研究課題を共有し、グループワーク（討議）を通して研究の切り口を探索したり、論証の方法について検討します。論文の内容のみでなく、論文執筆の進捗状況等についても共有しながら授業を進めます。 ・研究デザイン検討会、中間発表など、進捗状況について定期的に発信する機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	・参考文献を入手するための文献データベース等の利用方法について学びます。 ・効果的なプレゼンテーションを実行するために、プレゼンテーションソフトの利用方法を学習します。
ICT活用	○	・論文執筆や収集したデータの整理は、原則PCを利用して行います。操作方法等について適宜指導を行います。 ・学習履歴を残しておくためにSlackを利用する予定です。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（佐藤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了までに、90単位以上を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究テーマに関連する社会的課題や、先行研究で示された知見を説明することができる。 自身の研究テーマの課題や方法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	社会的背景と先行研究、自身の研究との繋がりを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身で研究テーマを設定し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	・授業の進め方、スケジュール等について確認する。 ・研究論文の構成を学ぶ。 ・研究テーマ設定を見直す	（予習）児童学研究ゼミBで設定した自身の研究テーマと計画を再確認しておくこと。 （復習）次週の発表に向けて研究テーマに対する考えをまとめておくこと。	90分
第2回	報告会①研究テーマの設定	・自身の設定した研究テーマを扱う理由を改めて検討し、その結果がどのような貢献に繋がるのかを含めて発表する。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	90分
第3回	先行研究の検討（１）	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）先行研究のなかに出てきた用語などについてまとめておくこと。	90分
第4回	先行研究の検討（２）	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）レビューが不足する場合は、さらにレビューを進めること。	90分
第5回	報告会②研究領域の知見	自身の研究テーマに関連する先行研究をまとめ、領域としての知見や課題をまとめる。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。	90分

			（復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	
第6回	研究課題の検討（1）	自身の研究テーマに関連する先行研究のレビューと自身の研究計画を比較し、自身の研究の独創性や新規性、位置づけについて検討する。	（予習）先行研究のレビュー結果を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の位置づけを文章にまとめていくこと。	90分
第7回	研究課題の検討（2）	自身の研究テーマの背景と、それに応じた研究の目的について検討する。	（予習）先行研究のレビュー結果で示されている社会的背景を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的を文章にまとめていくこと。	90分
第8回	研究課題の検討（3）	自身の研究テーマの目的に応じたデータの種類と収集方法、分析方法について検討する。	（予習）先行研究のレビューで利用されているデータの種類や収集方法を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的と方法を文章にまとめていくこと。	90分
第9回	報告会③研究計画	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について発表する。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	90分
第10回	研究計画の検討	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について、前回の発表で受けた指摘を反映して修正し、文章にまとめる。	（予習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。 （復習）発表で指摘された内容をを反映させた文章を作成しておくこと。	90分
第11回	調査に向けた準備（１）	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。	90分
第12回	調査に向けた準備（２）	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。	90分
第13回	調査・データ収集（１）	調査・データ収集を進める。	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。	90分
第14回	調査・データ収集（２）	調査・データ収集を進める。	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。	90分
第15回	報告会④調査結果の報告	調査・データ収集の結果など、進捗状況について報告する。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	90分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。 メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。
評価方法	授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	成果物	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー	月曜4限 1618室
学生へのメッセージ	3年次までに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。 卒業研究は、教科書には載っていない、新しい知識を自分自身で生み出す機会です。研究テーマの設定で迷わないためにも、気になることや知りたいことなど、これまでの学びや体験の中で抱いた疑問や気付きを書き留めておくことをお勧めします。また、教員の指示で動く学びではなく、自分自身で考えた方法を自分自身で遂行する学びの機会であることを理解して取り組んで頂きたいと思います。 なお、担当者の専門領域は野外教育、身体教育です。相談がある方はいつでもご連絡ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的にテーマを発見していく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、そして適切な引用方法について提示します。 ・論文執筆のための文章作成技法について、ワープロソフトの活用法を含めて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（江田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了までに、90単位以上を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究テーマに関連する社会的課題や、先行研究で示された知見を説明することができる。 自身の研究テーマの課題や方法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	社会的背景と先行研究、自身の研究との繋がりを指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身で研究テーマを設定し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	・授業の進め方、スケジュール等について確認する。 ・研究論文の構成を学ぶ。 ・研究テーマ設定を見直す	（予習）児童学研究ゼミBで設定した自身の研究テーマと計画を再確認しておくこと。 （復習）次週の発表に向けて研究テーマに対する考えをまとめておくこと。	90分
第2回	報告会①研究テーマの設定	・自身の設定した研究テーマを扱う理由を改めて検討し、その結果がどのような貢献に繋がるのかを含めて発表する。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	90分
第3回	先行研究の検討（１）	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）先行研究のなかに出てきた用語などについてまとめておくこと。	90分
第4回	先行研究の検討（２）	自身の関心のある領域の先行研究をレビューし、知見をまとめる。	（予習）その日に扱う先行研究を検索しておくこと。 （復習）レビューが不足する場合は、さらにレビューを進めること。	90分
第5回	報告会②研究領域の知見	自身の研究テーマに関連する先行研究をまとめ、領域としての知見や課題をまとめる。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。	90分

			（復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	
第6回	研究課題の検討（1）	自身の研究テーマに関連する先行研究のレビューと自身の研究計画を比較し、自身の研究の独創性や新規性、位置づけについて検討する。	（予習）先行研究のレビュー結果を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の位置づけを文章にまとめていくこと。	90分
第7回	研究課題の検討（2）	自身の研究テーマの背景と、それに応じた研究の目的について検討する。	（予習）先行研究のレビュー結果で示されている社会的背景を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的を文章にまとめていくこと。	90分
第8回	研究課題の検討（3）	自身の研究テーマの目的に応じたデータの種類と収集方法、分析方法について検討する。	（予習）先行研究のレビューで利用されているデータの種類や収集方法を整理しておくこと。 （復習）自分自身の研究の目的と方法を文章にまとめていくこと。	90分
第9回	報告会③研究計画	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について発表する。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	90分
第10回	研究計画の検討	自身の研究テーマの背景、目的、研究の方法、予想される結果について、前回の発表で受けた指摘を反映して修正し、文章にまとめる。	（予習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。 （復習）発表で指摘された内容をを反映させた文章を作成しておくこと。	90分
第11回	調査に向けた準備（１）	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。	90分
第12回	調査に向けた準備（２）	データ収集に向けて必要な手順（調査用紙の作成、依頼文章の作成、場の設定等）を進める。	（予習）先行研究で使用されている質問紙などの資料を確認しておくこと。 （復習）自身の研究方法に必要な資料の作成を進めること。	90分
第13回	調査・データ収集（１）	調査・データ収集を進める。	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。	90分
第14回	調査・データ収集（２）	調査・データ収集を進める。	（予習）自身で作成した資料の確認・相互チェックを進めること。 （復習）収集したデータの整理・集計を進めること。	90分
第15回	報告会④調査結果の報告	調査・データ収集の結果など、進捗状況について報告する。	（予習）発表に向けた準備を進めておくこと。 （復習）発表で指摘された内容を記録し、検討しておくこと。	90分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。 個々の研究テーマによる演習の他に、共通のテーマで文献の講読やディスカッションを行うことがあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。 メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。
評価方法	授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	成果物	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー	前期：月曜３限（江田研究室） 後期：金曜４限（江田研究室）
学生へのメッセージ	3年次までに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力しよう。 卒業研究は、教科書には載っていない、新しい知識を自分自身で生み出す機会です。研究テーマの設定で迷わないためにも、気になることや知りたいことなど、これまでの学びや体験の中で抱いた疑問や気付きを書き留めておくことをお勧めします。また、教員の指示で動く学びではなく、自分自身で考えた方法を自分自身で遂行する学びの機会であることを理解して取り組んで頂きたいと思います。 なお、担当者の専門領域は野外教育、身体教育です。相談がある方はいつでもご連絡ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有します。
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的にテーマを発見していく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、適切な引用方法について学びます。 ・オンライの教育やコミュニケーションにおける情報モラルについて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・オンラインでコンテンツを共有し、基本的にペーパーレスで指導を行います。その利用方法は分かりやすく教えます。 ・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（畝部）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	研究データの収集、整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた卒業論文を作成する。卒業論文完成後は論文要旨を提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭およびパワーポイントで発表する。
履修条件	・卒業研究Aの単位を取得していること。 ・論文／レポート作成には、コンピューターを利用しての文書作成技能が求められる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業研究（卒業論文）の書式、卒業研究（論文）作成のための情報検索方法を理解し、研究課題に関する深い知識を持っている。
思考・判断の観点（K）	これまでに学んだ知識を背景に、卒業研究（卒業論文）の研究課題について検討・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的、意欲的に卒業研究（卒業論文）作成に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	結束性と一貫性のある論理的文章を書くことができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	アウトライン再考1	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）アウトラインを再考する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第2回	アウトライン再考2	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）アウトラインを再考する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第3回	研究データ加筆1	ディスカッションを通じて研究データを加筆する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第4回	研究データ加筆2	ディスカッションを通じて研究データを加筆する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第5回	研究データ整理、分析、考察1	ディスカッションを通じて研究データを整理、分析、考察する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第6回	研究データ整理、分析、考察2	ディスカッションを通じて研究データを整理、分析、考察する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第7回	論文構成の検討	ディスカッションを通じて論文構成を検討する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第8回	卒業研究	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成す	継続的に自分自身の研究課題の	120分

	（論文）作成1	る。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	追究に取り組む。	
第9回	卒業研究（論文）作成2	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第10回	卒業研究（論文）作成3	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第11回	卒業研究（論文）作成4	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第12回	卒業研究（論文）要旨作成1	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第13回	卒業研究（論文）要旨作成2	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）の要旨を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第14回	卒業研究（論文）発表原稿・パワーポイント作成1	ディスカッションを通じて発表原稿とパワーポイントを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第15回	卒業研究（論文）発表原稿・パワーポイント作成2、製本	ディスカッションを通じて発表原稿とパワーポイントを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。卒業研究（論文）の内容を最終確認後、製本する。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第16回	卒業研究（論文）の提出	20,000字以上という基準を満たした卒業研究（論文）を指定の期日までに提出し、受領証を受ける。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分

学生へのフィードバック方法	提出される論文は添削、または修正点を指摘する。
評価方法	平常点（授業中の実績）、20,000字以上の卒業研究（論文）の提出および卒研発表会における口頭発表により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	卒業研究（論文）提出	○	○	○	○

評価割合	平常点（25%）、卒業研究（論文）の提出（50%）、卒研発表会における口頭発表（25%）により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし（プリント配付）
参考図書	別途指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・シリ・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	水曜2時限　1630研究室
学生へのメッセージ	指示に従って積極的・主体的に資料収集、文献研究、論文作成を行うこと。参考文献目録の書き方は『リテラシー演習テキスト』を参照する。自分の意見と他人の意見を区別し、論文の孫引きをしないように十分注意する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報処理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（末松）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 末松　加奈	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。
履修条件	卒業研究Aの単位を修得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点（K）	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点（V）	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点（A）	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理，分析，考察一週目	卒業研究に関して、中間発表で得られた課題を明確にし、発展させる。 卒研Aで得られたデータに関してデータ分析を進める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第2回	研究データの整理、分析、考察二週目	卒業研究に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第3回	研究データの整理、分析、考察三週目	卒業研究に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第4回	研究データの整理、分析、考察四週目	卒業研究に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第5回	研究データの整理、分析、結果の整理	今までの分析結果を整理し，報告する。その結果について協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第6回	論文構成の検討	論文の構成を検討する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分

第7回	論文作成１	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第8回	論文作成２	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第9回	論文作成３	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第10回	論文作成４	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第11回	論文作成５	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第12回	論文作成６	論文を完成させる。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第13回	論文要旨作成１	論文全体の確認及び論文要旨の検討	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第14回	論文要旨作成２	論文全体の確認及び論文要旨の検討	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第15回	発表資料作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	180分
第16回	卒業研究発表会	自身の１年間の集大成として，卒業研究発表会で発表を行う。		

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。
評価方法	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	卒業研究論文	○	○		○
	研究発表			○	○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	講義内で必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】研究の方法について理解する。 【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。 【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。
オフィスアワー	水曜日3限
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育	○	文献を検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する中で、情報リテラシーを育む機会をもつ。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（原田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	学生便覧の履修規定「卒業研究 ④現代生活学部児童学科卒業研究内規第６条」に示されている通り、卒業研究の履修に際しては、３年次終了までに、90単位以上取得していることが履修条件となる。 （90単位に満たない場合は、90単位取得後、次の学期により研究を開始することができる。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自ら立てたテーマに関する先行研究をまとめ、自身の研究を位置付けることができる。
思考・判断の観点（K）	先行研究で得られた結果や自身の研究活動で収集したデータに基づいた考察ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	関心のあるテーマについて研究課題を設定し、研究計画を立て、研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自身の論文の内容と構成を十分理解し、要旨について簡潔に説明することができる。 研究発表の場で効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	方法の検討	・研究課題について考察するために、どのようなデータを収集し、結果を得る必要があるか検討する。 ・データ収集の計画を立てる（時期、対象、場所、方法等）	・卒業研究Aで立てた研究課題を再確認し、論証のために必要なデータに関するリストを作成する（復習） ・データ収集の計画に必要な準備を進める（予習）	復習 60分 予習 120分
第2回	データの収集と解析①	・収集するデータから得られる結果とその解析方法について検討する。 ・量的研究の場合は、解析に必要なアプリケーションの操作方法について学ぶ。	・データの収集を継続して行う（復習・予習） ・アプリケーションを利用した解析を行う場合は、収集できたデータの入力作業を進める（復習・予習）	復習/予習 180分
第3回	データの収集と解析②	・収集するデータから得られる結果とその解析方法について検討する。 ・量的研究の場合は、解析に必要なアプリケーションの操作方法について学ぶ。	・データの収集を継続して行う（復習・予習） ・アプリケーションを利用した解析を行う場合は、収集できたデータの入力作業を進める（復習・予習）	復習/予習 180分
第4回	データの収集と解析③	・収集するデータから得られる結果とその解析方法について検討する。 ・量的研究の場合は、解析に必要なアプリケーションの操作方法について学ぶ。	・データの収集を継続して行う（復習・予習） ・アプリケーションを利用した解析を行う場合は、収集できた	復習/予習 180分

			データの入力作業を進める（復習・予習）	
第5回	方法と結果の整理①	・データ収集の方法について文書化する際の注意事項について学ぶ ・研究倫理規定の記載方法について学び、実際に記入する。	・データ収集の方法について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく（予習）	復習/予習 180分
第6回	方法と結果の整理②	・収集したデータを効果的に示す方法について学ぶ ・図表の作成方法について学ぶ	・「結果」について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく（予習）	復習/予習 180分
第7回	方法と結果の整理③	・収集したデータを効果的に示す方法について学ぶ ・図表の作成方法について学ぶ	・「結果」について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく（予習）	復習/予習 180分
第8回	方法と結果の整理④	・収集したデータを効果的に示す方法について学ぶ ・図表の作成方法について学ぶ	・「結果」について、論文執筆を進める（復習） ・執筆の仕方で不明な点を箇条書きにして挙げておく（予習）	復習/予習 180分
第9回	方法と結果の整理⑤	・方法と結果について受講生間で報告し、考察の視点を得る ・研究課題を簡潔に説明し、論証するための方法と得られた結果について報告を行う ・他の受講生の報告を聞き、質問コメントをする	・研究課題について簡潔にまとめておく（復習） ・報告のための提示資料を用意する（予習）	復習/予習 180分
第10回	研究結果の考察①	・卒業研究で取り上げる問いを振り返り、自分の主張（仮説）を整理する ・研究活動で収集したデータが、自分の主張（仮説）を支持するものか、受講生全員で検討する	・卒業研究Aで立てた研究課題を振り返り、自分の主張（仮説）を報告できるようにしておく（復習） ・担当教員や受講生とのグループワークのなかで得た考察のポイントを整理する（予習） ・今回の研究活動でわからなかったことや、研究を発展させるために必要な研究について検討する（予習）	復習 60分 予習 120分
第11回	研究結果の考察②	・卒業研究で取り上げる問いを振り返り、自分の主張（仮説）を整理する ・研究活動で収集したデータが、自分の主張（仮説）を支持するものか、受講生全員で検討する	・卒業研究Aで立てた研究課題を振り返り、自分の主張（仮説）を報告できるようにしておく（復習） ・担当教員や受講生とのグループワークのなかで得た考察のポイントを整理する（予習） ・今回の研究活動でわからなかったことや、研究を発展させるために必要な研究について検討する（予習） ・研究論文（考察）を執筆する	復習 60分 予習 120分
第12回	研究結果の考察③	・卒業研究で取り上げる問いを振り返り、自分の主張（仮説）を整理する ・研究活動で収集したデータが、自分の主張（仮説）を支持するものか、受講生全員で検討する	・卒業研究Aで立てた研究課題を振り返り、自分の主張（仮説）を報告できるようにしておく（復習） ・担当教員や受講生とのグループワークのなかで得た考察のポイントを整理する（予習） ・今回の研究活動でわからなかったことや、研究を発展させるために必要な研究について検討する（予習） ・研究論文（考察）を執筆する（予習）	復習 60分 予習 120分
第13回	論文のアウトラインの確認 要旨の作成	・これまで執筆してきた卒業論文のアウトラインを確認し、論文の全体構成の確認を行う ・アウトラインに沿って研究の要旨を作成する	・卒業論文のアウトライン（最終版）を作成しておく（復習） ・アウトライン（最終版）と論文（本文）を照合する（復習） ・要旨の執筆を進める（予習）	復習 150分 予習 30分
第14回	発表用資料の作成・発表練習	・卒業研究発表会に向け、授業内で発表の練習を行う ・発表練習後、発表用スライドの確認・修正を行う（グループワーク）	・論文の要旨を確認し、「序論/方法/結果/考察」について、発表時間（６分）の配分・配列を行う（復習） ・発表時に提示する必要のあるデータ（図表）を選定する ・発表原稿を作成する（復習）	復習/予習 180分
第15回	卒業研究発表会	１年の取り組みの成果を、卒業研究発表会で発表する。	・発表練習を行う（復習） ・発表原稿の推敲を行う（復習） ・想定される質問について検討し、回答について考えておく（予習）	復習 150分 予習 30分

学習計画注記	参考文献の収集や論文執筆の進捗状況により、スケジュールを変更して授業を進める場合がある。
学生へのフィードバック方法	研究課題の設定、参考文献の収集、アウトラインの作成、報告資料の作成、論文執筆内容、文書校正、発表用スライドの作成等について、適宜指導、助言を行う。
評価方法	授業への参加、教室外活動への取り組み状況、研究論文の内容、研究成果物の提出・報告により評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	取り組みの姿勢			○	
	論理的思考	○	○		○
	文書表現	○	○		○
	プレゼンテーション	○			○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	使用テキストなし（授業内で資料を配布）
参考図書	山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房.2004.
ディプロマポリシーとの関連	◯知識・理解 　卒業論文を作成する過程で、各自のテーマに関する先行研究を通して、子どもに関する専門的な知識の修得を目指します。 ◯思考・判断 　卒業論文を作成する過程で、子どもに関する問題を定式化し、その問題に対する客観的なデータを収集します。得られたデータに基づいて、問題に対する自身の主張を論じられるようになることを目指します。 ◯関心・意欲・態度 　論文のテーマ設定では、できるだけ具体的な問いを掲げられるように、問題の絞り込みを行います。絞り込まれた問いに対する論証や考察を通して、子どもに関する問題に関心をもち、健全で豊かな成長・発達を促す手がかりについて探究し続けられるようになることを目指します。 ◯技能・表現 　論文を執筆するにあたり、文章表現の方法（アカデミック・ライティング）について学びます。また、ディスカッションに参加する際の主張の仕方や、研究成果を発表する際のプレゼンテーションの方法について学びます。
オフィスアワー	原田（月曜３～４限 1509教室） *上記以外の時間帯は、Gメールにて対応します
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指します。 毎時間の学習が自分の論文に反映されていることを実感できるように、授業を進めていきます。ゼミ内でそれぞれの研究課題を共有しながら、学外での発表も視野に入れて、研究活動を進めていきましょう。 本科目の担当者は、特別支援教育を専門としており、特に知的障害者や発達障害者の支援方法や指導技法に興味を持っています。また、基本的には量的研究の手法を用いた卒業研究の取り組みを推奨しています。履修するにあたって相談したいことがある場合は、事前にメールで連絡の上、1509教室までお訪ねください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・ゼミ学生同士で研究課題を共有し、グループワーク（討議）を通して研究の切り口を探索したり、論証の方法について検討します。論文の内容のみでなく、論文執筆の進捗状況等についても共有しながら授業を進めます。 ・研究デザイン検討会、中間発表など、進捗状況について定期的に発信する機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	・参考文献を入手するための文献データベース等の利用方法について学びます。 ・効果的なプレゼンテーションを実行するために、プレゼンテーションソフトの利用方法を学習します。
ICT活用	○	・論文執筆や収集したデータの整理は、原則PCを利用して行います。操作方法等について適宜指導を行います。 ・学習履歴を残しておくためにSlackを利用する予定です。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（中田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	「卒業研究A」での成果をもとに、論文を完成し、発表する。幼児教育学研究室では、以下のようなテーマで研究を進める。 1.保育・教育方法に関する研究 2.保育・教育現場での環境や教材に関する研究 3.保育現場における事例に見られる関係性(子どもと保育者、子ども同士など)に関する研究 なお、各自のテーマ、研究方法は異なるため、進捗状況に応じて、個別指導が中心となる。
履修条件	「卒業研究A」の単位を修得し、所定の単位数を修得していることを原則とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	調査結果を多角的な視点からとらえ、子どもを中心とした思考・判断のもとに考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究を進めるにあたり、研究協力者である子どもや保護者、園関係者に対する倫理的配慮をしながら、子どもの現在と未来に有意義な研究をすすめる。
技術・表現の観点（A）	自身の研究をアウトリーチの意義を踏まえ、他者が理解できるような論文に適した文章に表現する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダン	予備調査の結果等研究の進捗状況を報告し、卒業研究発表会までの概要を理解する。	予備調査の結果をまとめておく	90分
第2回	論文の構成と文章化①	作成したサブノート①の内容を確認しながら、「はじめに」を作成する。	「はじめに」の文章を完成させる。	90分
第3回	論文の構成と文章化②	作成したサブノート②の内容を確認しながら、「目的」を作成する。	「目的」の文章を完成させる	90分
第4回	論文の構成と文章化③	作成した文献リストの内容を確認しながら、先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンを明確にする。	「先行研究」の文章を完成させる。	90分
第5回	論文の構成と文章化④	中間発表の内容を確認し、「方法」を作成する。	「方法」の文章を完成させる。	90分
第6回	論文の構成と文章化⑤	中間発表の内容を確認し、「分析手続き」を作成する。	「分析手続き」の文章を完成させる。	90分
第7回	論文の構成と文章化⑥	調査結果を文章化、図式化する。	「結果」を完成させる。	90分
第8回	論文の構成	調査結果をもとに考察する。	「考察」の文章を完成させる。	90分

	と文章化⑦			
第9回	論文の構成と文章化⑧	調査結果及び考察をもとに全体的な考察を文章化する。	「全体的な考察」の文章を完成させる	90分
第10回	論文の構成と文章化⑨	研究全体から見いだされた知見を明らかにし、「今後の展望」を見出し、文章化する。	「今後の展望」の文章を完成させる。	90分
第11回	研究結果のアウトリーチについて	研究結果を外部に公表することの意義と責任について理解する。	論文全体の構成について見直し、外部に公表することを踏まえて適宜修正する。	90分
第12回	要旨の作成について	卒業研究を通して最も伝えたい点を明らかにし、要旨を作成する。	要旨を完成させる。	90分
第13回	発表原稿の作成	他者が理解しやすいプレゼンテーションの方法を理解し、発表原稿を作成する。	発表原稿を完成させる。	90分
第14回	卒業研究発表会の予行	卒業研究発表会を想定して、発表の予行を行う。限られた時間内にどのように要点を定めて発表するかを考える。また、討議しながら発表内容を精査する。	予行において気付いた修正点を修正し、発表会の準備を進める。	90分
第15回	卒業研究発表会	卒業研究発表会で、自身の研究を発表し、質疑応答する。	発表会の準備を進める。	90分

学習計画注記	授業の進行状況等により、変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された、論文、要旨、発表原稿等はすべて確認し、適宜添削し、コメントを付して返却する。また、基本的には個別にフィードバックをするが、クラス全体で考えたい問題については、授業内で解説をする。
評価方法	提出された論文と卒業研究発表会の発表内容(要旨、発表原稿も含む)を点数化して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文		○	○	○
	要旨	○			○
	卒業研究発表				○

評価割合	論文50%、要旨25%、卒業研究発表25%
使用教科書名(ISBN番号)	無
参考図書	2020-2021 東京家政学院大学児童学科中田ゼミ卒業研究テキスト 中澤潤他：心理学マニュアル観察法. 北大路書房. 2014 秋田喜代美ほか編：はじめての質的研究法　教育・学習編. 東京図書. 2014 中坪史典編：子ども理解のメソドロジー. ナカニシヤ出版. 2012
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】　子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する 課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために 使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	水曜日2限目
学生へのメッセージ	研究を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	発表、討議を中心とした授業を行う。
情報リテラシー教育	○	研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。
ICT活用	○	卒業研究発表会の際には、PPTを用いて自身の研究を報告する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（新開）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出を求める。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。
履修条件	※学生便覧参照

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点（K）	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点（A）	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理・分析・考察①	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察②	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察③	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察④	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データの整理・分析・考察⑤	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第6回	論文構成の見直し	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。	これまでの成果を大まかにまとめ、草立てを見直しておく。	180分
第7回	研究データの整理・分析・考察⑥	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第8回	研究データの整理・分析・考察⑦	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分

第9回	論文執筆内容の検討①	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討②	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討③	考察の記述に関する検討①	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討④	考察の記述に関する検討②	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討⑤	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の巣量及び原稿を準備しておく。	180分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記	※履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
評価方法	受講生の授業への参加状況，研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	取り組みの姿勢			○	
	論理的思考	○	○		○
	文章表現	○	○		○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 「児童学」の保育領域に関する豊かな知識。 【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	金曜４時限　1635研究室
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（柳瀬）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	卒業研究Aの単位を修得済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点（K）	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点（A）	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理・分析・考察①	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察②	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察③	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察④	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データの整理・分析・考察⑤	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第6回	論文構成の見直し	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。	180分
第7回	研究データの整理・分析・考察⑥	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第8回	研究データの整理・分	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようま	180分

	析・考察⑦		とめておく。	
第9回	論文執筆内容の検討①	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討②	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討③	考察の記述に関する検討①	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討④	考察の記述に関する検討②	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討⑤	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	発表用プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の資料及び原稿を準備しておく。	240分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況や研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業時の助言に加えて、学生一人ひとりのペースに即して、適宜コメントや助言を返す。
評価方法	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究への取り組みの姿勢			○	
	論理的思考	○	○		○
	文章表現	○	○		○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
参考図書	授業内で必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。 【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、考察に生かしていく。
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（新海）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理・分析・考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出できるような力を養成する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表する機会をもつ。
履修条件	卒業研究Aの単位を修得済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	4年間の児童学科における学びの集大成として，子どもをめぐる課題に対して，自ら設定した研究課題に関して，主体的に分析と考察を重ねながら、最終的な結論を導き出すことができる。
技術・表現の観点（A）	子どもをめぐる課題をより深め，発展させることができ，研究成果についての発表と質疑応答を通して，理論と実践の融合を図り，専門家として社会に貢献できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理，分析，考察一週目	自身の卒業研究に関して，卒研Aでの中間発表で得られた課題を深化そして発展させる。 卒研Aで得られたデータに関してデータ分析を進める。	研究を進める（復習）。	180分
第2回	研究データの整理，分析，考察二週目	自身の卒業研究に関する課題に関して，先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	報告の準備をする（予習）。 報告を通してみつかった課題について，検証を進める（復習）。	180分
第3回	研究データの整理，分析，考察三週目	自身の卒業研究に関する課題に関して，先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	報告の準備をする（予習）。 報告を通してみつかった課題について，検証を進める（復習）。	180分
第4回	研究データの整理，分析，考察四週目	自身の卒業研究に関する課題に関して，先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	報告の準備をする（予習）。 報告を通してみつかった課題について，検証を進める（復習）。	180分
第5回	研究データの整理，分析，結果の整理	今までの分析結果を整理し，全体報告をする。その結果について協議する。	卒研Aから取り組んでいる先行研究，研究課題に関する仮説検証の結果を統合的に整理する（予習）。	180分
第6回	論文の構成の検討	論文の構成を検討する。	検討した論文校正に従って論文を書き始める（復習）。	180分

第7回	論文作成１	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら，論文を書き進める（復習）。	180分
第8回	論文作成２	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら，論文を書き進める（復習）。	180分
第9回	論文作成３	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら，論文を書き進める（復習）。	180分
第10回	論文作成４	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら，論文を書き進める（復習）。	180分
第11回	論文作成５	論文作成で，先週までに取り組んだを報告し協議する。	報告の準備をする（予習）。 協議で得た課題を反映させながら，論文を書き進める（復習）。	180分
第12回	論文作成６	論文を完成させる。	完成した論文をもとに，要旨の構想を考える（復習）。	180分
第13回	論文要旨作成	論文の要旨に記すコンテンツを整理する。	論文の要旨を完成させる（復習）。	180分
第14回	発表資料作成	発表資料を作成する。ゼミ生の前で質疑応答を含む発表練習をする。	卒業論文および要旨の内容を基にして，発表資料を完成させる。 そして発表練習をふまえて，卒業研究発表会に向けた準備を行う（復習）。	180分
第15回	卒業研究発表会	自身の１年間の集大成として，卒業研究発表会で発表を行う。	卒研発表会のプレゼン資料を完成させ、準備を終わらせる（予習）。 卒研発表後、ゼミ生全員で振り返りを行う（復習）。	180分

学生へのフィードバック方法	毎回のゼミの時間で，各ゼミ生に発表や報告をする機会をもってもらう。その発表や報告に対して，ゼミ生全員で協議を行う。その協議の内容を基に，次への課題等を教員から提案する。
評価方法	１．平常課題 平常課題は毎週発表や報告する自身の研究への取り組みや，ゼミ生同士の討論への参加の積極性等で総合的に判断する。 ２．卒業論文 内容を評価する。 ３．卒研発表会 報告内容とプレゼンテーションを評価する。 ＊平常課題，卒業論文,そして卒研発表会は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常課題			○	
	卒業論文	○	○	○	
	卒研発表会			○	○

評価割合	平常課題（50%）、卒業論文（40%）、研究発表会（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】児童学の領域を総合的に理解し，子どもに関する専門的な知識が修得できている。そして，修得した知識や実証分析を通して論理的に論文構成を組み立てることができる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心を持って取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。 【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り，専門家として社会に貢献できる力を有している。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，自身の研究をレポートレベルではない１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切になる。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも行う。学生生活の締めくくりとして，主体的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく，ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（齋藤義）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	先行研究をふまえつつ、自らの研究課題を設定する。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究方法を吟味し，研究計画に基づいて、調査・データ収集に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

卒業研究Ｂ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１（１）研究データの整理、分析、考察第一週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第2回	１（２）研究データの整理、分析、考察第一週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第3回	２（１）研究データの整理、分析、考察第二週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第4回	２（２）研究データの整理、分析、考察第二週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第5回	３（１）研究データの整理、分	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分

	析、考察第三週目			
第6回	３（２）研究データの整理、分析、考察第三週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第7回	４（１）研究データの整理、分析、考察第四週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第8回	４（２）研究データの整理、分析、考察第四週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第9回	５（１）研究データの整理、分析、考察第五週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第10回	５（２）研究データの整理、分析、考察第五週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第11回	６（１）研究データの整理、分析、考察第六週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第12回	６（２）研究データの整理、分析、考察第六週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第13回	７（１）論文構成の検討	論文構成を検討する。	論文構成を検討する。	45分
第14回	７（２）論文構成の検討	論文構成を検討する。	論文構成を検討する。	45分
第15回	８（１）論文作成 第一週目	論文を作成する。	論論文を作成する。	45分
第16回	８（２）論文作成　第一週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第17回	９（１）論文作成　第二週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第18回	９（２）論文作成　第二週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第19回	１０（１）論文作成第三週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第20回	１０（２）論文作成第三週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第21回	１１（１）論文作成第四週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第22回	１１（２）論文作成第四週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第23回	１２（１）論文作成第五週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第24回	１２（２）論文作成第五週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第25回	１３（１）．論文完成・論文要旨作成	論文完成・論文要旨を作成する。	論文完成・論文要旨を作成する。	45分

第26回	１３（２）．論文完成・論文要旨作成	論文完成・論文要旨を作成する。	論文完成・論文要旨を作成する。	45分
第27回	１４（１）卒業研究の要旨をパワーポイント作成	卒業研究の要旨をパワーポイントで作成する。	卒業研究の要旨をパワーポイントで作成する。	45分
第28回	１４（２）卒業研究の要旨をパワーポイント作成	卒業研究の要旨のパワーポイントを作成する。	卒業研究の要旨のパワーポイントを作成する。	45分
第29回	１５（１）卒業研究発表会	卒業研究の要旨をパワーポイントで発表する。	卒業研究の要旨をパワーポイントで発表する。	45分
第30回	１５（２）卒業研究発表	卒業研究の要旨をパワーポイントで発表する。	卒業研究の要旨をパワーポイントで発表する。	45分

学生へのフィードバック方法	ゼミでは、毎回研究に関する進捗状況を確認し、質疑・応答のコミュニケーションを通して、今後の指針を学生に伝えていく。レポートに関しては、内容に関する修正案を提案する。
評価方法	ゼミは、出席するのが当たり前である。平常点は毎週の授業への積極的な参加，研究への取り組みや討論への積極的な参加が望まれる。また、卒業研究の２万字は、１１月中に書き上げ、１２月・１月は、修正に充てることが望ましいので、計画的に研究を進めることが望まれる。卒業研究Ｂでは、卒業研究という成果として具現化するので、

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	卒業研究		○		

評価割合	平常点（３０％），卒業研究（６０％）、研究発表（プレゼンテーション）（１０％）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への積極的参加，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。
参考図書	各自に伝える。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
オフィスアワー	ゼミの前後　１６２８研究室
学生へのメッセージ	4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一歩一歩研究が進められるように努力することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校の教員としての経験を伝えるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園・児童養護施設等の巡回訪問の経験を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	卒業研究のテーマに関して、話し合い（コミュニケーション）を通して、理解の深化を図っている。
情報リテラシー教育	○	先行研究の調査において、適切な引用の在り方を学んでいる。
ICT活用	○	調査やデータ収集の結果を、パソコン等で適切に処理している。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（立川）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童学の専門的な知識に基づく視点をもち、主体的に設定した研究課題の背景・目的・内容・方法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	自らの研究課題に関する問題意識を明確にし、先行研究や調査結果を整理・考察を通して課題解決に向けた提案や根拠を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの問題意識を基に今日的課題を解決することに関心をもち、研究の倫理・人権・法令に準拠した探究活動を実践できる。
技術・表現の観点（A）	研究課題の探究について、適切な調査方法に基づく調査・分析・考察・論述の基本的な技能を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理，分析，考察一週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第2回	研究データの整理，分析，考察二週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第3回	研究データの整理，分析，考察三週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第4回	研究データの整理，分析，考察四週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第5回	研究データの整理，分析，考察五週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第6回	研究データの整理，分	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分

	析，考察六週目			
第7回	論文構成の検討	論文の構成について、基本的な事項や順序を考慮して検討する。研究全体の運び方と調査・分析の過程を区別し、問題領域の中で論理的な文脈が保たれているか確認する。	章立てや項目トピックの主従関係を図式化し、整理しておく。	90分
第8回	論文作成一週目	序章・第１章では、問題意識の所在を明確にし、研究の背景、研究の目的・研究の方法について記述する。	研究計画案に則して研究の概要を整理しておく。	90分
第9回	論文作成二週目	第１章では、先行研究の歴史的変遷や問題点の現代の社会・文化歴史的な実態における位置づけを明確に述べる。論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第10回	論文作成三週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第11回	論文作成四週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第12回	論文作成五週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第13回	論文作成六週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。最終章では、総合的考察では、各章の成果を概観し、研究主題に対応した結論を記述する。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第14回	要旨作成	研究発表会における口頭発表（プレゼンテーション）に向けて、研究の要旨を作成する。規定のフォーマット（A4/縦、横書き・フォント指定・図表と参考文献を含む）にまとめ、指導教員に提出する。	研究の要旨について、目的や概要、事例や図表を精選し、整理しておく。	90分
第15回	発表資料作成	研究発表会に向け、口頭発表に使用するプレゼンテーション資料を作成する。プレゼンテーションに適したアプリケーションを用いてデータを作成し、内容や発表時間の確認を兼ねてリハーサルを実施する。各自のプレゼンテーションについて相互評価や模擬質疑を行い、内容や表現を改善する。	プレゼンテーションに適した表現の工夫を試し、視覚的な効果や論理的な内容構成を確認しておく。	90分
第16回	卒業研究発表会	自身の卒業研究について、プレゼンテーション資料を提示しながら口頭で発表する。学生や教員と質疑応答を行い、研究の成果や意義について振返る機会とする。また、質疑の成果や課題を受けて、卒業研究論文の改善や修正を行う。	口頭発表のルールやマナーを理解し、予想される質疑などを基に、シミュレーションを行っておく。	90分

学習計画注記	修学生の各種実習期間の都合により、スケジュールは柔軟に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	・毎回、各自の研究課題についてドキュメンテーション（進捗状況の報告等）を行い、相互質疑や討論を中心に協働的に取り組む。特に、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法について、研究の進度に沿って助言・コメントや資料や情報の提供で応答する。 ・学期末には、卒業研究論文の提出と、卒業研究論文は、規定文字数（20,000字以上）の有無、研究主題・内容・調査方法、及び研究の成果と課題の明確さなどについて、仮提出後に修正・改善のコメントを記して返却する。 ・「卒業研究発表会」において各自10分程度の口頭発表によるプレゼンテーションを求める。プレゼンテーションのリハーサル段階において、必要な修正・改善についてコメントで応答する。
評価方法	・各自が行う研究課題についてのドキュメンテーションは、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法に関する観点から、質疑応答の実態を基に評価する。 ・卒業研究論文は、規定文字数（20,000字以上）の有無、研究主題・内容・調査方法、及び研究の成果と課題の明確さなどを基に、研究の妥当性や独自性を観点に総合的に評価する。 ・プレゼンテーションは、発表リテラシーに着目し、内容整理の適切さ、視覚的な情報伝達技能を中心に総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ドキュメンテーション		○	○	
	卒業研究論文	○	○		○
	プレゼンテーション			○	○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	各自の課題に添い適宜提示する。
参考図書	各自の課題に添い適宜提示する。 『卒業研究論文のいろは（ゼミ版）』の冊子を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する領域（子どもの心理・健康・保育・教育・福祉・文化）に関する専門的な知識に基づく問題意識をもち、研究主題を設定している。 【思考・判断】研究主題に応じた研究の調査・分析・考察方法を選定し、計画を立案している。

	【関心・意欲・態度】明確な問題意識をもち、研究課題の解決と提案に向かう主体性を発揮している。 【技能・表現】論文の記述や調査について、基本的な技能を有し、人権・倫理・法令を尊重して探究できる。
オフィスアワー	水曜4限、1629研究室
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	各自による研究調査の報告とメンバー間の相互主体的な討論や質疑を中心に進める。
情報リテラシー教育	○	参照する文献の検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する場面で、情報処理の基本的な能力を発揮する機会をもつ。
ICT活用	○	文献の検索サイトやアプリケーションの活用、図書館での著書や資料の閲覧システムの利用、プレゼンテーションや分析データの視覚化などについて、適切なテクノロジーを効率的に運用する機会をもつ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（丹羽）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出を求める。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点（K）	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点（A）	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理・分析・考察(1)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(1)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察(2)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(2)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察(3)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(3)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察(4)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(4)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データの整理・分析・考察(5)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(5)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第6回	論文構成の見直し	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。	180分
第7回	研究データの整理・分析・考察(6)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(6)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分

第8回	研究データの整理・分析・考察(7)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(7)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第9回	論文執筆内容の検討(1)	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討(2)	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討(3)	考察の記述に関する検討(1)	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討(4)	考察の記述に関する検討(2)	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討(5)	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の資料及び原稿を準備しておく。	180分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題解決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
評価方法	参加状況，研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	取り組みの姿勢			○	
	論理的思考	○	○		○
	文章表現	○	○		○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
参考図書	講義内で適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「児童学」について、発達・心理・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。 【思考・判断】子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技術・表現】知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	水曜日２限
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（和田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答場面において教員や学生とやりとりを行う。
履修条件	規定の単位数を取得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点（K）	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点（V）	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点（A）	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理	卒業研究に関して、中間発表で得られた課題を明確にし、発展させる。 卒研Aで得られたデータを整理する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第2回	研究データの整理、分析	卒業研究に関する課題について、先週までに取り組んだ内容を報告し、ゼミ内で協議する。 得られたデータについて分析を始める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第3回	データの分析	卒業研究に関する課題について、先週までに取り組んだ内容を報告し、ゼミ内で協議する。 得られたデータについて分析を進める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第4回	データの分析	得られたデータの分析をしながら、適宜、ゼミ内で発表していく。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第5回	データ分析の成果発表	得られたデータ分析について、結果を報告する。 その結果について協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第6回	論文の構成の検討	論文の構成を検討する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分

第7回	論文作成１	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第8回	論文作成２	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第9回	論文要旨作成	論文要旨に記すコンテンツを整理する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第10回	論文要旨完成	論文要旨を完成させる。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第11回	卒業研究発表資料作成	発表資料を完成させる。ゼミ生の前で質疑応答を含む発表練習をする。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第12回	卒業研究発表会	自身の一年間の集大成として、卒業研究発表会で発表を行う。		

学生へのフィードバック方法	毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。
評価方法	平常点、卒業論文とその発表により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		
	卒業論文			○	○
	研究発表			○	○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】研究の方法について理解する。 【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。 【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。
オフィスアワー	月曜日２限から４限
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるフィールドワークを中心に研究を行う。
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（吉永）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨の作成・提出を求めます。卒業研究発表会において最終的な研究の成果をスライドに示しながら口頭で発表し、質疑応答を行います。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点（K）	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点（A）	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究データの整理・分析・考察①	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察②	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察③	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察④	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データの整理・分析・考察⑤	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第6回	論文構成の見直し	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。	180分
第7回	研究データの整理・分析・考察⑥	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第8回	研究データの整理・分析・考察⑦	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分

第9回	論文執筆内容の検討①	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討②	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討③	考察の記述に関する検討①	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討④	考察の記述に関する検討②	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討⑤	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の巣量及び原稿を準備しておく。	180分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
評価方法	受講生の授業への参加状況，研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	取り組みの姿勢			○	
	論理的思考	○	○		○
	文章表現	○	○		○

評価割合	平常点（40%），研究論文（50%），研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。（平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
参考図書	講義内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。 【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。 【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。 【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。
オフィスアワー	前期：月曜日　３限　1601 後期：水曜日　 2限　1601
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（佐藤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	卒業研究Aの単位を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究によって得られた知見や今後の課題を説明することができる。
思考・判断の観点（K）	調査によって得られたデータを適切に考察し、主張することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身で設定した研究テーマに対し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データの整理と検討	収集したデータを整理し、進捗状況を共有する。追加調査の必要性や分析の方針を検討する。	（予習）収集したデータを整理し、発表できるように準備しておくこと。 （復習）追加調査が必要な場合は計画を立てること。	90分
第2回	データの整理・分析（１）	収集したデータを整理し、分析方法について検討し、分析を進める。	（予習）データの整理を進めておくこと。 （復習）自身の研究に合わせた分析方法を調べておくこと。	90分
第3回	データの整理・分析（２）	分析の結果を考察する。また必要に応じて図表を作成する。	（予習）分析を進めておくこと。 （復習）図表の作成を進めておくこと。	90分
第4回	執筆内容（序論）の検討	研究の背景から得られた結果までの流れを確認し、ストーリー構成を決定する。序論の執筆方針を決定し、執筆を進める。	（予習）研究の問いを振り返り、一貫性を持ったストーリーが構成されているかを検討すること。 （復習）序論の執筆を進めておくこと。	90分
第5回	執筆内容（先行研究）の検討	先行研究に関する章の執筆を進め、自身の研究に過不足なく必要な先行研究が提示されているかを確認する。	（予習）一貫性を持ったストーリーに必要な先行研究が提示されているかを検討すること。 （復習）先行研究の執筆を進めておくこと。	90分

第6回	執筆内容（方法）の検討	研究方法に関する章の執筆を進め、自身の研究の方法が適切に提示されているかを確認する。	（予習）研究の全体を見直し、方法や手順をまとめておくこと。 （復習）方法の執筆を進めておくこと。	90分
第7回	執筆内容（結果）の検討	結果に関する章の執筆を進め、自身の研究の結果が適切に提示されているかを確認する。	（予習）研究の全体を見直し、得られた結果をまとめておくこと。 （復習）結果の執筆を進めておくこと。	90分
第8回	執筆内容（考察）の検討	考察に関する章の執筆を進め、自身の研究の考察が適切に提示されているかを確認する。	（予習）結果と考察をまとめておくこと。 （復習）考察の執筆を進めておくこと。	90分
第9回	執筆内容（結論）の検討	結論に関する章の執筆を進め、自身の研究の結論が適切に提示されているかを確認する。	（予習）研究の全体を見直し、研究の概要や総合考察をまとめておくこと。 （復習）結論の執筆を進めておくこと。	90分
第10回	論文要旨の作成（１）	要旨の構成と、記述内容を検討する。	（予習）自身の研究を振り返り、要旨に掲載するポイントを整理しておくこと。 （復習）要旨の作成を進めておくこと。	90分
第11回	論文要旨の作成（２）	要旨を発表し、指摘に応じて修正を加える。	（予習）要旨の作成を進めておくこと。 （復習）指摘を受けた点について修正を加えておくこと。	90分
第12回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの流れを検討し、パワーポイント資料を作成する。また、発表原稿を作成する。	（予習）自身の研究を振り返り、発表で説明するポイントを整理しておくこと。 （復習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進めておくこと。	90分
第13回	発表練習（１）	作成したパワーポイント資料・発表原稿を用い、発表練習を行う。	（予習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進め、発表練習をしておくこと。 （復習）指摘を受け、パワーポイント資料・発表原稿の修正を進めておくこと。	180分
第14回	発表練習（２）	修正したパワーポイント資料・発表原稿を用い、発表練習を行う。	（予習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進め、発表練習をしておくこと。 （復習）指摘を受け、パワーポイント資料・発表原稿の修正を進めておくこと。	180分
第15回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	（予習）発表練習をしておくこと。 （復習）質疑応答で出た質問を整理し、回答をまとめておくこと。	180分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。 メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。
評価方法	授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
成果物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4限 1618室

学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。 卒業研究の執筆は、4年間の学びのまとめであると言えます。完成には、自分自身で1つ1つのことを「やり切る力」が必要になると思います。論文が完成した時、児童学のなかに自分自身が発見した知識が残る喜びが感じられるよう、サポートしたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的に研究を進めていく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、そして適切な引用方法について提示します。 ・論文執筆のための文章作成技法について、ワープロソフトの活用法を含めて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（江田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	卒業研究Aの単位を取得していることが履修条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自身の研究によって得られた知見や今後の課題を説明することができる。
思考・判断の観点（K）	調査によって得られたデータを適切に考察し、主張することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自身で設定した研究テーマに対し、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	プレゼンテーション等において、自身の研究テーマを分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	データの整理と検討	収集したデータを整理し、進捗状況を共有する。追加調査の必要性や分析の方針を検討する。	（予習）収集したデータを整理し、発表できるように準備しておくこと。 （復習）追加調査が必要な場合は計画を立てること。	90分
第2回	データの整理・分析（１）	収集したデータを整理し、分析方法について検討し、分析を進める。	（予習）データの整理を進めておくこと。 （復習）自身の研究に合わせた分析方法を調べておくこと。	90分
第3回	データの整理・分析（２）	分析の結果を考察する。また必要に応じて図表を作成する。	（予習）分析を進めておくこと。 （復習）図表の作成を進めておくこと。	90分
第4回	執筆内容（序論）の検討	研究の背景から得られた結果までの流れを確認し、ストーリー構成を決定する。序論の執筆方針を決定し、執筆を進める。	（予習）研究の問いを振り返り、一貫性を持ったストーリーが構成されているかを検討すること。 （復習）序論の執筆を進めておくこと。	90分
第5回	執筆内容（先行研究）の検討	先行研究に関する章の執筆を進め、自身の研究に過不足なく必要な先行研究が提示されているかを確認する。	（予習）一貫性を持ったストーリーに必要な先行研究が提示されているかを検討すること。 （復習）先行研究の執筆を進めておくこと。	90分

第6回	執筆内容（方法）の検討	研究方法に関する章の執筆を進め、自身の研究の方法が適切に提示されているかを確認する。	（予習）研究の全体を見直し、方法や手順をまとめておくこと。 （復習）方法の執筆を進めておくこと。	90分
第7回	執筆内容（結果）の検討	結果に関する章の執筆を進め、自身の研究の結果が適切に提示されているかを確認する。	（予習）研究の全体を見直し、得られた結果をまとめておくこと。 （復習）結果の執筆を進めておくこと。	90分
第8回	執筆内容（考察）の検討	考察に関する章の執筆を進め、自身の研究の考察が適切に提示されているかを確認する。	（予習）結果と考察をまとめておくこと。 （復習）考察の執筆を進めておくこと。	90分
第9回	執筆内容（結論）の検討	結論に関する章の執筆を進め、自身の研究の結論が適切に提示されているかを確認する。	（予習）研究の全体を見直し、研究の概要や総合考察をまとめておくこと。 （復習）結論の執筆を進めておくこと。	90分
第10回	論文要旨の作成（１）	要旨の構成と、記述内容を検討する。	（予習）自身の研究を振り返り、要旨に掲載するポイントを整理しておくこと。 （復習）要旨の作成を進めておくこと。	90分
第11回	論文要旨の作成（２）	要旨を発表し、指摘に応じて修正を加える。	（予習）要旨の作成を進めておくこと。 （復習）指摘を受けた点について修正を加えておくこと。	90分
第12回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの流れを検討し、パワーポイント資料を作成する。また、発表原稿を作成する。	（予習）自身の研究を振り返り、発表で説明するポイントを整理しておくこと。 （復習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進めておくこと。	90分
第13回	発表練習（１）	作成したパワーポイント資料・発表原稿を用い、発表練習を行う。	（予習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進め、発表練習をしておくこと。 （復習）指摘を受け、パワーポイント資料・発表原稿の修正を進めておくこと。	180分
第14回	発表練習（２）	修正したパワーポイント資料・発表原稿を用い、発表練習を行う。	（予習）パワーポイント資料・発表原稿の作成を進め、発表練習をしておくこと。 （復習）指摘を受け、パワーポイント資料・発表原稿の修正を進めておくこと。	180分
第15回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	（予習）発表練習をしておくこと。 （復習）質疑応答で出た質問を整理し、回答をまとめておくこと。	180分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。 個々の研究テーマによる演習の他に、共通したテーマで文献の講読やディスカッションを行うことがあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において、提示された内容（テーマ設定、方法論の設定、執筆された原稿等）について適宜フィードバックを行います。 メールおよび研究室訪問による質問も随時受け付けます。
評価方法	授業への参加、卒業論文への取り組み、成果物、プレゼンテーションにより、自分自身が設定した課題に対する主体的な取り組みを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	成果物	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	平常点（40%）、成果物（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）による総合評価 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	・適宜に資料の配布やオンライン・コンテンツの共有を行います。
参考図書	適宜に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊か

	な成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	前期：月曜３限（江田研究室） 後期：金曜４限（江田研究室） 事前に必ずメール等でアポイントメントをとってください。
学生へのメッセージ	卒業研究Ｂでは，卒業研究Ａの成果をさらに発展させて，１つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。 卒業研究の執筆は、4年間の学びのまとめであると言えます。完成には、自分自身で1つ1つのことを「やり切る力」が必要になると思います。論文が完成した時、児童学のなかに自分自身が発見した知識が残る喜びが感じられるよう、サポートしたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有します。
アクティブ・ラーニング	○	・教員による指示ではなく、主体的に研究を進めていく過程を重視します。 ・ゼミ生相互の発表、ディスカッションを通して研究を進め、学びを深めていきます。
情報リテラシー教育	○	・文献の扱い方について、文献検索方法やデータベースの活用法、適切な引用方法について学びます。 ・オンライの教育やコミュニケーションにおける情報モラルについて学びます。 ・プレゼンテーションの技法について、プレゼンテーションソフトの活用法を含めて学びます。
ICT活用	○	・オンラインでコンテンツを共有し、基本的にペーパーレスで指導を行います。その利用方法は分かりやすく教えます。 授業（卒業研究執筆に向けた一連の作業）は、PCを利用して進めます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	発達臨床心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング	P30101M21
授業概要(教育目的)	人間のライフサイクルを「生涯発達」という連続性のなかで捉え、乳児期・幼児期、学童期・思春期、青年期、成人期、老年期の各時期に生ずる様々な悩みや問題について理解を深める。また、直面する課題に即した臨床実践のあり方や支援に必要な心理臨床の基礎的理論、技法、実践を学ぶ。発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	発達臨床学的な課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
思考・判断の観点（K）	発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。
関心・意欲・態度の観点（V）	人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。
技術・表現の観点（A）	１．各種発達検査・心理検査の模擬体験等を通して、発達臨床に関する課題の把握とアセスメント、課題解決に向けての実践力を培う。 ２．事例を理解する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップなどの作成方法を学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	発達臨床心理学の背景と意義	発達心理学と臨床心理学の基本的な考え方と発達臨床心理学という学問が生まれた背景と意義について学ぶ	「発達とは何か」という問いについて、配布資料をもとに考える。	120分
第2回	生涯発達とライフサイクル論	発達を生涯にわたるものとしてとらえ、エリクソンのライフサイクル論やピアジェやフロイトの発達論などおもな生涯発達に関する理論について学ぶ。	授業で配布する資料を復習し、生涯発達の基本について理解しておく。	120分
第3回	胎児期～乳児期の発達と心理臨床	胎児期～乳児期の発達の基本について学び、未熟児医療やこの時期の臨床的な課題と支援について学ぶ。	胎児期～乳児期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。	120分
第4回	幼児期～学童期の発達と心理臨床	幼児期～学童期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第5回	発達障害と共に生きるということ	おもな発達障害に関する事例の検討を通し、発達障害と共に生きること、共に生きる家族を支えることについて考える。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第6回	心理的アセスメントの方法①発達	心理的アセスメントの方法として、主な発達検査・心理検査について知り、その一部を実際に体験し、各種検査への理解を深める。	実際に発達検査・心理検査を経験し、得られた考察をまとめる。	120分

	検査・心理検査			
第7回	心理的アセスメントの方法②総合的理解と見立て	各種検査から得られた検査結果をどのように読み取り、どのように対象児に生かすのか、支援の基本を学ぶ。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第8回	学校の発達臨床—不登校といじめ	不登校やいじめ等、学校現場における臨床事例について、発達臨床的な視点から理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、学校現場における臨床事例について検討してみる。	120分
第9回	児童養護と発達臨床	虐待等、児童養護の問題について現状について知り、発達臨床的視点から考える。	今回の授業で学んだことをもとに、児童養護に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第10回	ジェノグラムとエコマップ	事例を理解し方針を検討する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップの作成方法について学ぶ。	事例をもとに、自分でジェノグラムとエコマップを作成する課題に取り組む。	120分
第11回	思春期～青年期の発達と心理臨床	思春期～青年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	思春期～青年期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。	120分
第12回	成人期の発達と心理臨床	成人期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、成人期の臨床事例について検討してみる。	120分
第13回	老年期の発達と心理臨床	老年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題について、「語ること」「傾聴すること」の重要性を主軸とした対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、老人期の臨床事例について検討しまとめる。	120分
第14回	家族関係と発達臨床	「家族もまた発達する存在である」という考え方を基盤とし、そこに展開する家族関係や家族に関する諸問題を発達的視点から理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、家族に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、最後に、発達臨床に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。	確認テストは授業内で配布した資料や板書の内容から提出する。	予習240分、復習420分

学習計画注記	※履修者の保育・教育実習の状況や授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業内ミニ課題やリアクションペーパーを実施し、次の回の授業時間内に、寄せられた質問への回答や解説する。また、学生の興味・関心を授業内容に適宜反映させる。
評価方法	・授業内で実施する課題への取り組みも評価の対象とする。 ・授業の最後に、まとめと振り返りを行い、確認テストを実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○	○	
	授業内課題			○	

評価割合	定期試験70%、授業内ミニ課題20%、平常点（授業への取り組み等）10%
使用教科書名(ISBN番号)	麻生武・浜田寿美男　編「よくわかる臨床発達心理学」（2017第4版）ミネルヴァ書房 ISBN：978-4-623-06326-0
参考図書	人間関係の理解と心理臨床（978-4-7664-2466-9）　吉川晴美・松井知子 編著（慶應義塾大学出版会）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。 【思考・判断】人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。 【技術・表現】心理劇（ロールプレイ）等を通じて、問題の把握と問題解決への実践力を養う。
オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室
学生へのメッセージ	子どもの発達や臨床に関する身の回りの記事やニュースに興味をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員の療育現場や子育て支援現場での実務経験を生かし、事例をもとに考える授業を取り入れる。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる事例検討やロールプレイを取り入れながら、学生自身が感じ、考え、理解を深める時間を大切にする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	対人関係の発達		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	P30102M21
授業概要(教育目的)	乳幼児期から老年期までの、各世代の対人関係の発達や特徴について概観した上で，社会の変化を背景として対人関係のあり方も変化してきていることを理解できるようにする。現代に生きる子どもたちの対人関係の課題について取り上げ、ソーシャルスキルトレーニングなどの支援について紹介する。青年期の対人関係の課題については、学生自身の対人関係について振り返りつつ考えていけるようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・乳幼児期から老年期までの各世代の対人関係の特徴を説明できる
思考・判断の観点（K）	・授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる
関心・意欲・態度の観点（V）	・現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち，よりよく人と人がつながり，生きることができる社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション：人にとっての人とのかかわり	人の一生を他者とのかかわりという視点から概観する	〔予習〕誕生から人生の終わりまでの人とのかかわりにどのようなものがあるか書き出してみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	180分
第2回	乳児期の人間関係	生後一年間の成長を追ったドキュメンタリー映画を教材に，人は人との関係の中に生まれてくること，それはどの社会においても変わらないこと，乳児と他者との関係のありようは文化によって違うこと等を学ぶ。	〔復習〕生後一年間の乳児と他者のかかわりについて，文化を通じて共通している点，文化によって異なる点をまとめ小レポートを作成する。	180分
第3回	幼児期の人間関係	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域人間関係の内容を中心に，幼児期の人とのかかわる力の発達について学ぶ	〔予習〕要領，指針，教育・保育要領の領域人間関係を読む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	140分
第4回	児童期の人間関係(1)	児童期の人間関係の特徴を概観した後，児童期の子どもたちを描いた映像作品を鑑賞し，その特徴の具体的な現れ方を考える	〔予習〕１年次「発達心理学」で学んだ児童期の発達的特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。〔復習〕授業中に鑑賞した映像作品において，児童期の親子関係，仲間関係の特徴が具体的にどのように現れていたか小レポートにまとめる。	220分

第5回	児童期の人間関係(2)	各自作成したレポートをグループ内で発表し，児童期の人間関係についてディスカッションを行う	〔予習〕前回の授業後に作成したレポートを基にグループでの発表準備をする。〔復習〕グループディスカッションで得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第6回	思春期・青年期の人間関係(1)：ソーシャルスキルトレーニング	思春期・青年期の対人関係の特徴を概観したうえで，近年教育の現場にも取り入れられているソーシャルスキルトレーニングについて学ぶ	〔予習〕1年次前期「発達心理学」で学んだ思春期・青年期の発達的特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。　〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	180分
第7回	思春期・青年期の人間関係(2)：恋愛関係	青年期の恋愛関係の発達について概観を学んだ後，グループディスカッションを行う	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第8回	現代社会における人間関係を考える(1)青年の人間関係	友人との関係のあり方について，自分たちの世代と上の世代を比較し，グループディスカッションを行う。	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第9回	現代社会における人間関係を考える(2)SNSの世代	現代の青年の人間関係にSNSがどのような影響を与えているかグループディスカッションを行う。	〔予習〕一週間のうちどのようなSNSをどのくらいどのように利用したか記録しておく。若者のSNS利用についてどのような意見があるかインターネット等で調べておく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第10回	現代社会における人間関係を考える(3)自分たちの人間関係を振り返る	現代の青年の人間関係の特徴について他の世代との比較，SNS利用との関係などから総合的に考察する	〔予習〕第８回，第９回のグループディスカッションの内容を見返しておく。〔復習〕グループディスカッションの内容を次回発表できる形にまとめる	180分
第11回	現代社会における人間関係を考える(4)グループ発表	現代の青年の人間関係の特徴について各グループの考察を発表する	〔復習〕これまでのグループディスカッションから得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第12回	成人期の人間関係(1)メンターの役割①	職場でのメンターの役割について学んだ上で，メンター的存在を描く映像作品を鑑賞する	〔予習〕自分が社会で働く際，上司に求めることを書き出しておく。〔復習〕映像作品に描かれるメンター的存在の特徴について気が付いたことを書き出しておく。	180分
第13回	成人期の人間関係(2)職場の人間関係	職場の人間関係において大切なことについてグループディスカッションを行う	〔復習〕自分が働きだしたとき，新人としてどのような姿勢をもつことが必要か，自分が指導する立場に立ったとき，どのような配慮が必要か，授業でのディスカッションを参考にまとめる。	180分
第14回	老年期の人間関係	人生の最後の時期の人とのかかわりについて学ぶ	〔予習〕祖父母とどのようなかかわりをもってきたか，自分が乳幼児の時，児童期の時，思春期，青年期に分けて書き出す。〔復習〕祖父母の視点から見た孫との関係について，気が付いたことをまとめる。	180分
第15回	まとめと発表	授業を通して人との関係について学んだことを各自発表する	〔予習〕これまでの授業資料を読み返し，学んだことを発表できる形にまとめる。〔復習〕発表した内容も含めた形で最終レポートを作成する。	180分

学習計画注記	授業の進み具合等によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。
評価方法	・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。 ・小レポートは，取り組みと内容により評価する。 ・最終レポート課題では，　授業で得た気づきを基に，自ら積極的に考える姿勢，考察の内容を評価する。 ・平常点，課題，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	平常点	○	○	○	
	小レポート	○	○	○	
	最終レポート		○	○	

評価割合	平常点（20%），課題(50%)，最終レポート（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。適宜資料を配布する。
参考図書	授業のなかで適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人の生涯にわたる人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる。【関心・意欲・態度】現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち，よりよく人と人がつながり，生きることができる社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている。
オフィスアワー	水曜日４限　1626研究室
学生へのメッセージ	授業形態は講義ですが，演習的な内容が多く含まれています。知識を得るだけではなく，それを用いて考えることを重視した授業ですので，受け身でなく，積極的な姿勢で参加できる方の受講を歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッション，全体での発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	発達障害の理解と支援		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	P20404M21
授業概要(教育目的)	・自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等についての理解と指導や支援方法について理解する。 ・幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。 ・個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（ＬＤ）、注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）等についての理解と指導や支援方法について理解する。 2.幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。
思考・判断の観点（K）	1.個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.様々な発達障害の障害特性や状況及び学習や生活上の困難について、事例を通して特徴的な行動について理解を深める。
技術・表現の観点（A）	1.発達障害の様々な障害特性や支援法について、説明ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	発達障害の理解と支援	インクルーシブ教育システムについて学ぶ。インクルーシブ教育、特別支援教育、小・中学校等における特別な配慮を必要とする児童生徒等への指導を理解する。	教科書第1章8～19ページで、インクルーシブ教育、特別支援教育の概要について事前・事後学習をする。	120分
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園、教育・保育要領、小学校、特別支援学校学習指導要領改訂のポイント	新保育指針・教育要領・学習指導要領改訂の特別支援教育に関するポイントを学び、特別支援教育への理解を深める。	教科書第2章21～26ページで、特別支援教育に関する改訂のポイントについて事前・事後学習をする。	120分
第3回	小・中学	小・中学校、特別支援学校学習指導要領改訂の特別支援	教科書第2章28～34ページで、	120分

	校、特別支援学校学習指導要領改訂のポイント	教育に関するポイントを学び、特別支援教育への理解を深める。	小・中学校、特別支援学校学習指導要領について事前・事後学習をする。	
第4回	学習障害児の理解と支援	学習障害児の理解と支援を学び、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書第3章37～42ページで、学習障害児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第5回	注意欠陥多動性障害児の理解と支援	注意欠陥多動性障害児の理解と支援を学び、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書第4章43～48ページで、注意欠陥多動性障害児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第6回	自閉症児の理解と支援	自閉症児の理解と支援を学び、自閉症の概念、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書第5章49～55ページで、自閉症児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第7回	幼稚園等における発達障害等の教育	幼稚園・保育所における特別支援について学び、現状と指導の実際、地域ネットワークについて理解する。	教科書第6章56～66ページで、幼稚園等の特別支援教育について、事前・事後学習をする。	120分
第8回	小・中学校、高等学校における発達障害等の教育	小・中学校、高等学校における発達障害等の教育について学び、教育課程の編成、学級経営上の配慮、授業における配慮、校内支援体制、保護者・関係機関との連携について理解する。	教科書第7・8章67～86ページで、小・中学校における発達障害等の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第9回	特別支援学校における発達障害等の教育	特別支援学校における発達障害等の教育を学び、教育課程の編成、自閉症学級の指導、学習指導案作成、支援・指導法について理解する。	教科書第9章90～105ページで、特別支援学校における発達障害等の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第10回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について学び、作成の目的、実態把握の方法、指導・支援への活用について理解する。	教科書第10章105～113ページで、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について、事前・事後学習をする。	120分
第11回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(幼稚園)	幼稚園における障害の特性等に応じた指導・支援の実際を学び、指導計画、実態把握、教材、環境の構造化、評価の工夫を理解する。	教科書第11章-1、122～131ページで、幼稚園における障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第12回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通常の学級)	小学校通常の学級における発達障害児の教育を学び、通常の学級の授業の中での支援を理解する。	教科書第11章-2、132～144ページで、小学校通常の学級における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第13回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校特別支援学級)	小学校特別支援学級における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。	教科書第12章145～153ページで、小学校特別支援学級における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第14回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通級による指導)	小学校通級による指導における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。	教科書第13章154～163ページで、小学校通級による指導における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	102分
第15回	発達障害の理解と指導	地域における障害のある子どもの子育て支援について学び、子ども・子育て支援制度、障害者差別解消法等を理解する。	教科書第14章164～173ページで、地域における障害のある子どもの子育て支援について、事前・事後学習をする。	120分
第16回	定期試験	教科書の内容を基にして定期試験を実施する。	教科書の各章と各授業内容を、復習して定期試験に臨むこと。	

学習計画注記	履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	・授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れて、学生の主体的な学びを深める。 ・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。
評価方法	・定期試験で総合的に評価する。(100%) ただし、状況によっては、定期試験ではなくてレポートで評価する場合もある。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	振り返りシート	○			
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	「発達障害の理解と指導」、杉野学、梅田真理、柳瀬洋美編著　大学図書出版　978-4-907166-90-8C3037
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解し、障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができている。 【思考・判断】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる完成やコミュニケーション能力が備わっている。
オフィスアワー	メールで対応する
学生へのメッセージ	保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざす学生にとって、発達障害のある子どもに対する理解を深めるとともに、さまざまな支援方法を知り、それを活用できる力を育むことは、今日とても必要とされている。この授業で学んだことは、皆さんの将来の仕事に役立つものである。 障害の捉え方やさまざまな発達障害の理解と支援について、教科書、プリント、ビデオなどを用いて、はじめての学生にも分かりやすく授業をするので、是非、受講して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	授業内容に応じて、ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。
情報リテラシー教育	○	障害のある子どもに関する教育におけるICT活用や個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切な指導とICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童とカウンセリング		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング	P40101M21
授業概要(教育目的)	ひとは生きていく上で、苦しみや哀しみと無縁ではいられない。時には「何が辛く苦しいのか」すら分からないほど困難な状態に陥ってしまう場合もある。そのような場合、まず困っている自分自身に気づき、理解し、その状況を客観的に再認識するところから始めると、新たなかかわり方の工夫が可能となり、問題解決へと結びついていくことが少なくない。本授業では、子どもにかかわる事例を中心に取り上げながら、基本的なカウンセリングの理論と技法、実践を統合的に理解し自分と向き合いながら、ひとがひとを理解し支えるとはどういうことなのか、ひとの心に寄り添うとはどういうことなのかについて考えていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。
思考・判断の観点（K）	１．課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。
技術・表現の観点（A）	１．自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション～カウンセリングとは何か	カウンセリングとは何か、カウンセリングについてのイメージや、身近なカウンセリングについて知っていることを話し合う。	各自がこの授業で学びたいことについてまとめる。	120分
第2回	カウンセリングの歴史的変遷	現代のカウンセリングという形になるまでの歴史的変遷と精神分析学、ゲシュタルト心理学、ユング心理学、クライエント中心療法、認知情動療法など、カウンセリングへとつながるおもな心理療法について学ぶ。	「こころ」について、興味のあるテーマや自分自身の課題についてまとめてみる。	120分
第3回	こころとからだのメッセージ	心身一元論や心身二元論など、こころとからだに関する基本的な理論について知り、様々な事例から、こころとからだの深い関連性について学ぶ。 自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなどについても実際に体験してみる。	授業で学んだ自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなど体験したことについてまとめる。	120分
第4回	こころの病理の理解	こころの病理について基本的な知識を学び、おもな精神疾患の症状と周囲の理解や対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、こころの病理に関するテーマでのミニレポートを作成する。	120分
第5回	“Who am I？”～私の「自分探	自己分析の技法のひとつである「Who am I test」を用いて自分自身を客観的に見つめ、自己分析を行う。	自己分析によって気づいたことをまとめる。	120分

	し」～自分を理解するということ			
第6回	自分の内面を見つめる―描画法と投影法	描画法と投影法を用いて、自分の内面を見つめる経験をし、自己理解体験をする。	授業で体験した描画法や投影法によって気づいたことをまとめる。	120分
第7回	自己を表現するということ～セルフアサーション	「さわやかな自己表現」と言われるセルフアサーションを学び、ロールプレイ等による体験を通して「相手も自分も尊重する」コミュニケーションのあり方について実践的に学ぶ。	授業で体験したセルフアサーションから得た気づきをミニレポートにまとめる。	120分
第8回	語ることの意味と聴くことの意味	カウンセリングの最も重要な作業である「語ること」と「聴くこと」について、その意義を学び、ロールプレイにより実際に体験する。	ロールプレイで体験した「語ること」と「聴くこと」の重要性について、自分自身の経験をもとにまとめる。	120分
第9回	カウンセリングにおける基本的な態度	相手の話を聴く際に必要な基本的な姿勢として、「受容」「共感」「無条件の肯定的関心」「自己一致」等、カウンセリングにおける基本的な態度について学ぶ。	模擬カウンセリングによって体験したカウンセリングにおける基本的な態度について、ミニレポートにまとめる。	120分
第10回	カウンセリングの展開と気づきのプロセス	インテーク（初回面接）に始まる、カウンセリングの基本的な展開とクライエントの気づきのプロセスについて、いくつかのの事例をもとに学ぶ。	授業で提示された事例について、自分自身で気づいたことについてまとめる。	120分
第11回	カウンセリングの理論と技法①クライエント中心療法	C.ロジャーズが創始者であるクライエント中心療法について、その基本理念と理論について学ぶ。	今回の授業で学んだことを、教科書と配布資料をもとに復習する。	120分
第12回	カウンセリングの理論と技法②認知療法	うつの治療に有効とされる認知療法について、そのもととなるA.エリスの論理療法や論理情動療法のABC理論、ABCD理論から学ぶ。	復習として、認知療法に関するミニワークを実際に取り組んでみる。	120分
第13回	カウンセリング体験～ロールプレイ	あらかじめ用意されたシナリオを用いたロールプレイによるカウンセリング体験と自分で考えた課題場面を用いての試行カウンセリングにより、相談をする側と受ける側の体験を通してカウンセリングに必要な配慮やスキルを実践的に学ぶ。	カウンセラー側、クライエント側、それぞれの立場で感じたことや考えたことについてまとめる。	120分
第14回	事例検討とスーパーヴィジョン	保育・療育・教育現場や心理相談の場で対応することの多い事例を取り上げ、アセスメントと支援について検討する。	事例検討を通して得られた気づきや考察についてミニレポートにまとめる。	120分
第15回	まとめ	授業全体を振り返り、「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について、確認する。	基本的なカウンセリングの技法と、授業全体を通して自身の学びをレポートにまとめる。	120分

学習計画注記	※履修者の実習期間の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義に加えて、グループワークやロールプレイ等の実践演習もまじえ、その場で解説を行い、理解を深める。 リアクションペーパーを通して出された質問事項や興味・関心に対しては、以降の授業で回答したり、授業内容に反映させたりしていく。
評価方法	期末レポートや授業内ミニ課題、平常点（授業への取り組み状況等）により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○	○	
	ミニレポート	○		○	○

評価割合	期末レポート60%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断10%による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	柳瀬洋美, 2022「気になる保護者の理解のために－内なる子どもとの対話を通して」ジアース教育新社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。 【思考・判断】課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。 【関心・意欲・態度】「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。 【技術・表現】自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。
オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）
学生へのメッセージ	・自分自身の課題や、身近な人が抱える課題について、整理しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。
アクティブ・ラーニング	○	・事例検討や試行カウンセリング体験、心理検査体験を取り入れた授業展開ができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会福祉		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 嶋田　芳男	指定なし

ナンバリング	P104O1M21
授業概要(教育目的)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者と障害者福祉など、社会福祉全般について講義する
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者と障害者福祉について説明できる
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	保育分野に関わる関心だけでなく、他の社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会福祉の基礎概念（1）	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念（ノーマライゼーションなど）が理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第2回	社会福祉の基礎概念（2）	「社会生活の原理」と「バイステックの7原則」双方の原理が理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第3回	社会福祉を取り巻く環境（1）	少子高齢化社会の現状と課題について理解する	少子化、高齢化の状況を調べておく	180分
第4回	社会福祉を取り巻く環境（2）	家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する	世帯の状況を調べておく。配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第5回	わが国における社会福祉の展開（1）	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する	テキスト31～36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	180分
第6回	わが国における社会福祉の展開（2）	昭和期から現在に至るまで、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する	テキスト37～40ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	180分
第7回	社会福祉を支える法体系	社会福祉の法体系及び各種法律の概要について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	240分

第8回	社会福祉を支える組織	社会福祉における国・都道府県・市町村によって設けられた各種行政組織や、民間組織について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第9回	社会福祉を支える専門職	ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）やケアワーカー、保育士、医療関係専門職の業務内容と資格、および連携について理解する	テキスト42～50ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	240分
第10回	社会福祉の援助方法	ケースワークを中心に、グループワーク、コミュニティワーク他、さまざまな方法論の内容を理解する	テキスト52～61ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	120分
第11回	社会保障制度の概要（1）	年金保険、医療保険制度の概要について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第12回	社会保障制度の概要（2）	公的扶助（生活保護）の基本原理、基本原則、種類と内容について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第13回	高齢者の福祉（1）	高齢者の現状と法体系、および公的介護保険制度の概要を理解する	テキスト73～82ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	120分
第14回	高齢者の福祉（2）	公的介護保険制度におけるさまざまなサービスの種類と内容について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	300分
第15回	障害者の福祉	障害者福祉の法体系と、障害者総合支援法におけるさまざまなサービスの種類と内容について理解する	テキスト85～94ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	180分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある
学生へのフィードバック方法	特になし
評価方法	・平常点 授業の受講態度・姿勢について評価する ・定期試験 保育士として、他の福祉専門職との連携を図るために必要な知識について把握しているかを問う出題とする。詳細については、最後の授業で説明する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	定期試験	○			

評価割合	平常点20%、定期試験80%
使用教科書名(ISBN番号)	大熊信成他編『現代社会福祉の諸相』大学図書出版 必要に応じ、授業時にプリントを配布
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもの保育活動に直接的・間接的に関係する各種社会福祉制度や社会福祉方法論に関する専門的な知識が修得できる 【関心・意欲・態度】 子どもをめぐるさまざまな福祉課題などに関心が持て、子どもたちが健全で豊かに成長できるように行動するとともに、子どもの視点で支援できる
オフィスアワー	火曜3限、木曜2限
学生へのメッセージ	新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、保育士業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塩谷　隼平	指定なし

ナンバリング	P20402M21
授業概要(教育目的)	この授業では、社会的養護について、原理、理論、援助方法、課題などの視点から総合的に教示する。特に施設養護に注目し、児童福祉施設における支援の実践例を通して、子どもの育ちとケアの方法について理解を深めることを目的とする。また、そのために必要な子どもの心理的発達について説明し、社会的養護にある子どもの抱える心理的な問題とその援助方法についても理解できるようにする。さらに児童虐待の問題についても大きく扱い、現代社会における子どもを取り巻く養護の諸問題に対して保育士としてできることを考えていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1．社会的養護の制度や現状について説明できるようになる。 2．児童福祉施設の制度や現状について説明できるようになる。
思考・判断の観点（K）	児童福祉施設で保育士として働くための基礎を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	児童虐待の問題について、多角的、かつ主体的に考えることができるようになる。
技術・表現の観点（A）	施設養護の子どもたちの心理について理解し、その支援方法を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会的養護とは	社会的養護の原理や定義、現状について理解する。	シラバスをよく読んで、本講義で扱う内容について予習し、配布プリントをみて社会的養護について復習すること	90分
第2回	社会的養護の制度と歴史	社会的養護の歴史について理解する。特に児童福祉法の制定からはじまる施設養護の経過について学ぶ。	第二次世界大戦後の日本の歴史について予習し、社会的養護の歴史と絡めて復習すること	90分
第3回	家庭養護と施設養護	里親などの家庭養護と施設における家庭的養護について理解する。	里親制度について予習、復習すること	90分
第4回	環境に問題を抱えた子どもの施設養護	環境に問題を抱えた子どもの入所施設である乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について理解する。	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について予習、復習すること	90分
第5回	問題行動を抱えた子どもの施設養護	問題行動を抱えた子どもの入所施設である児童自立支援施設、児童心理治療施設について理解する。	児童自立支援施設、児童心理治療施設について予習、復習すること	90分
第6回	障害を抱えた子どもの施設養護	障害を抱えた子どもの入所施設である障害児入所施設について理解する。	障害児入所施設について予習、復習すること	90分

第7回	児童福祉施設における支援	児童養護施設でのレジデンシャルワークを中心に、施設における支援について理解する。	施設におけるレジデンシャルワークについて予習、復習する	90分
第8回	施設における乳幼児期の支援	乳幼児期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の幼児期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の乳幼児期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第9回	施設における児童期の支援	児童期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の児童期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の児童期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第10回	施設における思春期の支援	思春期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の思春期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の思春期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第11回	児童虐待の現状	児童虐待の種類や現状について理解する。	児童虐待のニュースなどに関心をもって目を通しておくこと	90分
第12回	児童虐待の影響	児童虐待が子どもに与える心理的影響について理解する。	児童虐待について予習、復習すること	90分
第13回	児童虐待の原因	児童虐待の原因について理解し、虐待をしてしまう親にどのような支援が必要かを考える。	保育士として、虐待を予防するために何ができるか予習、復習すること	90分
第14回	児童虐待を受けた子どもへの援助	児童虐待を受けた子どもへの施設における支援について理解する。	施設における被虐待児の支援について予習、復習すること	90分
第15回	これからの社会的養護	家庭養護の促進や施設の小規模化など社会的養護における変化と課題について理解する	これまでの授業で学んだことをふりかえり、社会的養護がどうあるべきかについて考えること	90分

学習計画注記	オンライン授業に変更になった場合、学習内容の一部を変更することもある
学生へのフィードバック方法	感想や質問へのフィードバックは次回の授業内で解説する
評価方法	毎回の授業後に内容について確認する小テストを実施する。また、ワークなどを実施した際には小レポートを課す。最後にすべての学習内容を復習するために試験を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	確認テスト	○	○		○
	小レポート		○	○	
	試験	○	○		○

評価割合	毎回の確認テストとワークの小レポート（50%）、定期試験または最終テスト（50%）で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない
参考図書	１．吉田眞理　2019　「児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ」　萌文書林 ２．塩谷隼平・吉村夕里・川西智也　2021　「公認心理師・臨床心理士のための福祉心理学入門」北大路書房 ３．福田佳織　2012　「笑って子育て―物語でみる発達心理学―」　北樹出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの福祉」「子どもの心理」について理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる 【関心・意欲・態度】児童虐待の問題を通して、子どもをめぐる課題や問題について理解し、子どもの健全な成長・発達のために自分に何ができるかを考えることができる。また、社会的養護にある子どもたちの理解を通して、子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけることができる。
オフィスアワー	非常勤なのでオフィスアワーは設定しません。メールなどで連絡ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、児童養護施設において心理職としての実務経験を有しており、施設養護の現状や子どもたちへの支援について、実際の体験をもとに教授している。
アクティブ・ラーニング	○	子どもの心理アセスメントに使用するテストを学生自身が体験したり、学生自身の子ども時代をふりかえるようなワークを実施したりすることで、子どもの心理について体験的に理解する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	確認テストや最終確認テストは、Googleフォームなどを利用してオンラインで実施する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし
非常勤講師	横井　義広	指定なし

ナンバリング	P20402M12
授業概要(教育目的)	施設で子ども達と関わりあうための基礎となる重要な概念について身についているかどうか自己評価・相互検討を行い、スーパーヴァイズを受ける。併せて養護技術の基礎を習得する。子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成する。また、児童期にふさわしい生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、居住型児童施設に生活する児童の立場についての理解を深める。日常的に展開されている児童の具体的な活動や生活の援助の方法を学ぶ。児童の心身の成長や発達を保障し、援助するために必要な知識や技能を習得する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解することができる
思考・判断の観点（K）	1.施設養護及び家庭養護の実際について理解し社会的養護を必要とする子どもの家庭状況や施設での生活について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成し社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について関心をもつことができる
技術・表現の観点（A）	1.施設で子ども達と関わりあうための基礎的概念を理解し養護技術の基礎を習得することができる。 2.社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し個に応じた具体的な支援法を習得することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会的養護の概要	社会的養護の概要について学び、社会的養護における子どもの理解として、社会的養護の理念と仕組み、社会的養護を必要とする子どもの現状、児童相談所一時保護、子ども家庭支援センター、家庭養護と施設養護について理解する。	厚生労働省HPを閲覧し社会的養護の定義と原理、児童虐待、障害児の入所増加、障害児入所施設の種類について予習・復習をする。	60分
第2回	日常生活支援	日常生活支援について学び、基本的生活習慣の獲得、生活リズムと日課、社会性の獲得と自立、事例分析と支援方法を理解する。	厚生労働省HPを閲覧し障害児入所施設の概要、障害者総合支援法、障害児入所施設における支援、児童福祉施設と保育士の役割について予習・復習をする。	60分
第3回	治療的支援	治療的支援について学び、愛着関係の形成、行動の分析と理解、心理治療、事例分析と支援方法について理解する	図書で治療的支援について予習・復習をする。	60分
第4回	自立支援	自立支援について学び、児童養護施設の自立支援、自立援助ホームの自立支援、施設出身者の自助グループの自立支援、事例分析と支援方法を理解する。	図書で、児童養護施設における自立支援について予習・復習をする	60分
第5回	施設養護の	施設養護の生活特性及び実際を学び、乳児院、児童養護	乳児院、児童養護施設HPで児童	60分

	生活特性及び実際	施設における生活支援の実際について理解する。	養護施設の生活と支援の実際について予習・復習をする。	
第6回	施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性及び実際を学び、児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設における生活支援の実際を理解する。	図書で、施設における発達障害児の理解と支援、自閉症等の発達障害児などのある子どもへの接し方について予習・復習をする。	60分
第7回	福祉型障害児入所施設の生活特性及び実際	福祉型障害児入所施設の生活特性及び実際を学び、主として知的障害のある児童を入所させる施設、主として自閉症児を入所させる施設、主として盲児を入所させる施設、主としてろう児を入所させる施設、主として肢体不自由児を入所させる施設における生活支援の実際を理解する。	入所型施設HPを閲覧し日常生活の支援、個別及び集団における支援、個別支援計画について予習・復習をする。	60分
第8回	医療型障害児入所施設の生活特性及び実際	医療型障害児入所施設の生活特性及び実際を学び、主として肢体不自由児を入所させる施設、主として重症心身障害児を入所させる施設における生活支援ついて理解をする。	図書で児童福祉施設の支援者としての資質について予習・復習をする。	60分
第9回	家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性及び実際を学び、家庭的養護と家庭養護、小規模グループケア、地域小規模児童養護施設、里親、ファミリーホームの概要について理解する。	図書や関連施設HPで、各施設の概要と特徴について理解を深める。	60分
第10回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価	アセスメントと個別支援計画の作成を学び、アセスメントの意義と方法、個別支援計画の内容、事例分析と個別支援計画の作成について理解する。	図書でアセスメントと個別の支援計画について理解を深める	60分
第11回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価を学び、記録の意義と内容、第三者評価、自己評価ガイドライン、自己評価の実際について理解する	図書で支援計画と自己評価について調べ理解を深める	60分
第12回	社会的養護に関わる専門的技術 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	社会的養護に関わる専門的技術を学び、保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 として、施設環境の整備、生活支援の基本、行動上の問題への対応、個別援助と集団援助について理解する	図書で、社会的養護が必要な子どもに対する様々な支援法について理解を深める	60分
第13回	社会的養護に関わる専門的技術	社会的養護に関わる専門的技術を学び、社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践として、家庭との協働、支援プログラムによる保護者への支援、児童福祉施設における就労支援について理解する	図書で、相談援助や家庭との連携について理解を深める	60分
第14回	今後の課題と展望-社会的養護における家庭支援	今後の課題と展望について学ぶ。社会的養護における家庭支援として、子ども虐待・DV等の現状、施設による親子関係再構築支援の重要性、親子関係再構築支援の事例分析と支援内容・方法について理解する	図書や厚生労働省HPなどで、社会的養護に関する施策を理解する	60分
第15回	社会的養護の課題と展望-新しい社会的養護の方向-	新しい社会的養護の方向について学ぶ。生活単位の小規模化とケア体制、新たな社会的子育て支援システム構築について理解する。	図書、厚生労働省HP等で新しい施策について理解を深める。	60分
第16回	社会的養護の概要について、定期試験を通して自身の学習の習得状況を把握する。	社会的養護内容に関する定期試験、試験を通して保育士として求められる資質・能力について考える	定期試験内容を振り返り、社会的内容に関する知見を深める	60分

学習計画注記	履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。 ※前半を横井が8回分、後半を江田が8回分(定期試験を含む)担当する。
学生へのフィードバック方法	・参考図書、プリント、ビデオなどを用いて、実践的に具体的で見て分かりやすい授業をする。 ・質問等がある場合は、メール等で対応する。
評価方法	定期試験、授業内レポートや授業への参加状況を総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	授業内レポート			○	○

評価割合	定期試験80%　授業内レポート・授業態への参加状況20%
使用教科書名(ISBN番号)	特になし

参考図書	・社会的養護、新保育士養成講座、全国社会福祉協議会 ・よくわかる社会的養護内容、小木・宮本・鈴木編、ミネルヴァ書房 ○適宜、資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【技能・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。
オフィスアワー	前期：月曜３限（江田研究室） 後期：金曜４限（江田研究室） 必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること。
学生へのメッセージ	保育所、施設等で勤務する際、虐待などの子どもを取り巻く環境の変化や地域の子育て支援に関する知識や実践的な指導力は欠かせない。社会的養護内容を学び、基本的な考え方や支援方法について理解を深めて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、施設長として施設運営、母子生活支援等に関する基本的な考え、援助方法、地域連携に関する幅広い実務経験を有しており、保育士資格に関する実務的・実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ施設を育む。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護や個人情報流出防止に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切なICT機器による視覚・聴覚支援について情報を提供する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育内容総論Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし

ナンバリング	P20202M12
授業概要(教育目的)	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す内容を踏まえ、乳幼児期の発達を理解しながら、保育現場で展開されている保育の内容について総体的に学ぶ。また、わが国の保育の基本である「一人ひとりの特性に応じた援助」、「環境を通した教育」、「遊びを通した総合的な指導」について、具体的な事例を持ち寄り、討議を通して理解を深める。
履修条件	特に定めない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各領域の構造や位置づけについて説明できる。 ・「遊びを通した総合的指導」の重要性を踏まえ、幼児の遊びの種類について調査し、乳幼児の遊びと学び・発達との関連性を説明できる。
思考・判断の観点（K）	小学校教育への接続を踏まえ、学びの芽生えから自覚的な学びの接続について考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	保育内容の概要	子どもの園生活と遊びの様子を紹介するビデオを視聴し、保育内容の意味と意義について理解する。	授業内容を確認し、配布資料の演習問題を完成する。	30分
第2回	幼児の園生活と保育者の援助①	保育現場の事例から、「言葉の前のことば」「子どもの視点に立つ」「子ども同士の関係を援助する」について討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第3回	幼児の園生活と保育者の援助②	保育現場の事例から、「共感する」「乳幼児の表現」について討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第4回	子ども観と保育の変遷	様々な時代、様々な国の子ども観と子どもの生活から「子ども」を大人がどう捉え、どのような保育が求められたのかを考える。確認テストあり。	教科書第1章をよく読み、大人は子どもをどうとらえるのかについて考えをまとめておくこと。	30分
第5回	子どもの遊びの意味	子どもの行う遊びの実際から、遊びのもつ総合性と子どもの学びについて考える。確認テストあり。	確認テストの復習、乳幼児向けの遊びの種類について資料を収集する。	60分
第6回	領域・ねらい・内容②	領域、ねらい、内容の関連性を構造的に理解する。確認テストあり。	教科書第2章を予習し、５領域について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第7回	領域・ねらい・内容③	領域「健康」と関連事項として、食育、「幼児期運動指針」について理解する。確認テストあり。	教科書第5章を予習し、子どもの言葉と人とのかかわりについ	60分

			て内容を確認する。確認テストの復習	
第8回	領域・ねらい・内容④	領域「人間関係」、「環境」と関連事項として、「道徳性の芽生え」「協同的な学び」「規範意識の芽生え」「環境を通した教育」について理解する。確認テストあり。	教科書第4章を予習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第9回	領域・ねらい・内容	領域「言葉」、「表現」と関連事項として絵本の読み聞かせを体験する。確認テストあり。	教科書第4章の予習・復習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第10回	乳児保育と保育所保育指針①	保育所の機能と役割、保育所保育指針について理解する。確認テストあり。	教科書第7章の予習し、保育所の概要について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第11回	乳児保育と保育所保育指針②	保育所の生活や保育士の援助について実際を理解する。	ワークシートの完成	30分
第12回	幼児教育と幼稚園教育要領	幼児期の発達特性と幼稚園教育要領の内容と構造について理解する。確認テストあり。	教科書第6章を予習し、幼稚園の概要について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第13回	幼保連携型認定こども園	幼保連携型認定こども園の役割と実際について考え、理解する。確認テストあり。	教科書第8章を予習し、様々な保育形態について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第14回	身近な素材を使った遊びの実際	「小麦粉粘土」の製作を通して、身近で可塑性のある素材の活用について、演習を通して考える。	ワークシートに、小麦粉粘土の作り方や完成後の変化について記入する。	30分
第15回	構成遊びの意義と実際	「カプラ」を利用した構成遊びの実際と保育の工夫について、演習を通して考える。	ワークシートに、完成した製作物の画像とともに遊び方の工夫について記入する。	30分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業時に行われる確認テストは、学生が自己採点をする。教員が学生の習熟度を確認しながら、解説を行う。
評価方法	・授業中に行う確認テストは、各自で採点し授業内容の理解を確認するためのものであるため、評価に含めない。 ・定期テストは、第1回から13回までの授業内容を試験範囲として出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期テスト	○	○		
	ワークシート		○		○

評価割合	定期テスト(60%)、ワークシート(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	中田範子著「子どもの育ちと環境ー未来を見据えた保育の探求ー」大学図書出版
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書その他、適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている
オフィスアワー	水曜日2限目
学生へのメッセージ	学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士としての実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学生が実物を使って遊ぶ中での気づきを大切にしながら、グループ討議を取り入れている。
情報リテラシー教育	○	乳幼児向けの遊びの種類について調査し、情報を収集、活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、幼稚園・保育所の生活や保育者の援助の実際を理解する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育方法論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 末松　加奈	指定なし

ナンバリング	P30202M21
授業概要(教育目的)	本講義では、従来の保育思想を基本に踏まえながら、現代社会とのかかわりの中で改めて保育理論を構造的に解明し、保育方法の内容を検討し、保育実践を整理・再考できるようにする。乳幼児が主体的、自発的に遊び、活動する中で、価値のある学びが生まれ、心身のすこやかな成長と発達が助成される。そのような環境を構成し、価値のある取り組みができるように援助する方法を学び、幼稚園・保育所における保育の計画や指導方法、ならびに幼稚園教諭・保育士としての役割について考えられるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育の基本、および保育の方法に関する基本的知識を身につける。
思考・判断の観点（K）	事例等から学び、自ら保育の方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもへの理解を深め、保育者の役割について考えられるようになる。
技術・表現の観点（A）	現場に生きるような保育の方法を考える力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション、保育方法とは何か	・授業の進め方、スケジュールなど、本講義の受講の仕方等について確認する。 ・保育の方法について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」をもとに確認する。 ・事例検討を通して、子どもの内面や発達を捉える視点を学ぶ。	・教科書第1章および幼稚園教育要領、保育所保育指針の説明した部分を読み返す。	180分
第2回	様々な保育形態	・様々な保育形態を確認する。	・教科書第3章の説明した部分を読み返す。 ・（小レポート）授業内容を参考に、様々な園の保育形態について調べる。	180分
第3回	子ども理解にもとづいた保育方法と評価	・事例検討を通して、子どもの内面や発達を捉える視点を学ぶ。 ・子ども理解にもとづいた保育の評価について学ぶ。	・教科書第2章の説明した部分を読み返す。	180分
第4回	環境を生かした保育方法	・環境を生かした保育について、様々な園の事例を通して理解する。 ・保育室・園庭の環境構成について具体的に考える。	（課題）保育室・園庭の環境構成について調べ、理想となる環境を絵に描く。	180分
第5回	環境を生かした保育方法	・教室外学習で調べた内容をもとに、理想となる環境について発表する。	（小レポート）各グループで発表された内容を振り返り、環境構成において保育者として大切にしたいことをまとめる。	180分
第6回	遊びを通した保育方	・遊びの重要性について、事例をもとに理解を深める。 ・個の育ちと集団の育ちについて、事例をもとに理解を	・教科書第6章を読み、保育を行う上で何が大切なのか理解を	180分

	法・個と集団を生かした保育方法	深める。	深める。 ・教科書第7章を読み、総合的な保育を行う上で何が大切なのか理解を深める。	
第7回	家庭・地域との連携を生かした保育（1）	・防災に関する取り組みを見て、家庭や地域と連携する上で何が大切なのか理解する。	・（小レポート）園における防災について、授業を通して気が付いたことを整理し、自分の考えをまとめる。	180分
第8回	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法	・各年齢ごとに園に慣れるまでの子どもの様子を理解する。 ・各年齢の遊びの形と保育者の関わり方について理解する。	・教科書第8章を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）0・1・2歳の保育室の環境についてまとめる。	180分
第9回	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法	・入園当初、園生活に慣れたころ、気の合う友達と遊びを進める時期、仲間と協力して生活する時期、卒園を前にした時期、それぞれの子どもの様子を事例から読み取る。	・教科書第8章を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）各時期において保育者が大切にすべきことを考える。	180分
第10回	家庭・地域との連携を生かした保育（2）	・連絡帳やクラスだより、園だよりを見て、グループで話し合いながら、園での子どもの姿や成長の様子を家庭や地域に伝える上で何が大切なのか理解する。	・教科書第11章を読み返し、理解を深める。	180分
第11回	小学校との交流活動のデザインとアプローチカリキュラム	・事例をもとに幼小連携の実際について理解する。	教科書第12章を読み、様々な交流活動があることを理解する。	180分
第12回	配慮を要する子どもへの保育方法	インクルーシブな保育や外国籍の子ども等への保育の実際について、事例をもとに理解する。	・教科書第13章を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）ワークを通して、具体的な配慮の方法について考える。	180分
第13回	教材や情報機器を活かした保育方法	・ドキュメンテーションについて理解する。 ・保育における様々なICT活用について理解する。	・教科書第14章を読み返し、理解を深める。 ・（小レポート）遠隔で保育を行わなければならない場合、どのような方法が考えられるか検討する。	180分
第14回	保育の計画・実践・評価	・ワークをもとに、各自指導案を書く。	授業で作成した指導案を読み返し、修正等を行う。	180分
第15回	保育の計画・実践・評価	・前回作成した指導案をグループで読み合わせ、お互いに気付いたことや改善点などを話し合う。	（課題）グループの話し合いで出た意見をもとに、各自指導案を振り返り修正する。	180分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	課題等の提出物は、次週以降にコメントを記載して返却する。また、必要に応じて授業中に紹介するなどし、授業内容理解に役立てる。
評価方法	平常点、小レポート、課題、最終レポートで評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	小レポート	○	○		
	課題	○	○		
	最終レポート	○	○		

評価割合	平常点15%、小レポート35%、課題20%、最終レポート30%
使用教科書名(ISBN番号)	「新しい保育講座６　保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡辺英則 編（ミネルヴァ書房）
参考図書	保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省） 幼保連携型認定こども園　教育・保育要領
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保育の方法について総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組むことができている。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	末松　水曜3限 研究室1501
学生へのメッセージ	事例の検討やグループワークなど、積極的に参加してください。自分の考えを持つこと、他者の考えを聞くことを大切にしてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個別探究（個人で考える）→協同探究（グループ・ディスカッション）→個別探究（個人で考える）のサイクルを取り入れることで理解を深めます。
情報リテラシー教育	○	調べ学習の際には、情報発信元の信憑性をよく考えた上で適切に情報収集を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育・教職実践演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし
教授	新開　よしみ	指定なし
教授	吉永　早苗	指定なし
准教授	柳瀬　洋美	指定なし
准教授	丹羽　さがの	指定なし
准教授	和田　美香	指定なし
助教	原田　晋吾	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし
助教	佐藤　冬果	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業は、模擬保育やグループ討議を積極的に取り入れる。これらを通して、幼稚園教諭・保育士として求められる①使命感や責任感、教育的愛情について、②社会性や対人能力、③幼児理解や学級経営について、④保育者として求められる援助方法について、学生が実習や教育課程以外の体験を踏まえて省察し、それまで身につけた知識や技能を活用しながら課題を見出し、改善方法を身に付ける。
履修条件	幼稚園免許、保育士資格取得を前提とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育現場をめぐる現代的問題と保育者に求められる使命や責任について理解する。
思考・判断の観点（K）	乳幼児を取り巻く環境の変化を踏まえた保育現場の現状から、援助・指導上の課題について考え、判断する。
関心・意欲・態度の観点（V）	地域・家庭との連携の重要性を踏まえ、適切に対応する態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	カリキュラム・マネジメントの観点で自身の保育実践を省察し、幼児を多面的に理解しながら保育者に求められる方法を見出す技術を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	これまでの学びの振り返りと省察	「児童学カルテ」や「履修カルテ」を手がかりに、これまで学修した内容を振り返り、保育者になる者として必要な学びについて考える。	【予習】可能な限り、授業や実習で使用した資料を収集し、児童学カルテを作成しておく。 【復習】自分の履修状況を確認し、履修カルテを作成する。	90
第2回	保育者としての使命と責任	保育をめぐる現代的諸課題を踏まえ、これからの保育者が果たすべき使命や社会的責任とは何かについて考える。また、自分が保育者（社会人・大人）として使命感や責任感を持って取り組みたい課題について問い直し、整理する。	【予習】保育に関連したニュースや新聞記事などを３つ以上収集して持参する。 【復習】保育者として（または保育関連資格の保有者として）今後意識して取り組んでいきたいことについてまとめる。	90

第3回	特別支援教育の現状と課題	特別な支援を要する児童の支援や、就学先の決定に関する支援について、仮想事例をもとに、ロールプレイやグループ討議を取り入れながら検討する。	【予習】文部科学省HPで、「障害のある子どもの就学先決定」に関するページに目を通しておく。 【復習】就職先あるいは自宅のある市区町村の就学相談の手順について調べ、整理する。	90
第4回	保育とICTの活用	保育における情報リテラシー教育とデジタルデバイスの活用について、その意義と現状について理解する。活用事例を取り上げ学び、保育の様々な場面でどのように活用できるのか考える。	【予習】実習園でICT活用に関することを見聞きしたことがあればその内容を、なければWEBなどで調べまとめる。 【復習】どのような活用が可能か考え、また保育現場に取り入れる際に課題と思われることをまとめる。	90
第5回	保育現場と小学校との連携	保幼小連携・接続について，その意義と現状について理解する。接続カリキュラム・活動の具体例も取りあげ学び，今後求められることを考える。	【予習】実習園で保幼小連携に関することを見聞きしたことがあればその内容を，なければ自分の住む自治体での保幼小連携の取り組みについて調べまとめる。 【復習】今後，園，自治体に求められる取り組みについて考えまとめる。	90
第6回	担任の役割と学級経営	担任の役割やクラス経営の基本を押さえたうえで、クラス運営における子どもの育ちの捉えや発信、保護者との関係構築について学ぶ。	【予習】実習で見聞きした「連絡帳」「おたより」「ドキュメンテーション」などの取り組みがあれば、その記録をまとめておく。 【復習】授業で学んだ担任の役割やクラス経営の基本をまとめておく。	90
第7回	現地調査（フィールド・ワーク）①	保育者になることを前提として、在学中にさらに学んでおきたい（深めておきたい）テーマを設定し、保育現場における現地調査（フィールドワーク）１回目を行う。テーマ例：幼稚園・保育所の行事、地域社会との連携、地域子育て支援、多文化共生保育など	【予習】テーマを設定し、調査計画の立案等、フィールドワークに向けた具体的な準備を行う。	90
第8回	現地調査（フィールド・ワーク）②	（同上の）保育現場における現地調査（フィールドワーク）２回目を行う。	【復習】調査の結果についてまとめ、報告会での発表に備える。	90
第9回	事例検討①：気になる子どもへの保育者の援助	保育場面で出会う「気になる子ども」を事例として取り上げ、多面的に理解する。さらに、保育者の援助のあり方について、ロールプレイなどの実践を通して学びを深める。	【予習】自分が「気になる子ども」について、その特性を整理しておく。 【復習】授業内で検討したことをもとに、援助のあり方についてまとめる。	120
第10回	事例検討②子どもの遊びと援助	保育場面で出会った、乳幼児の遊びに関する事例を取り上げ、多面的に理解する。さらに、子どもの思いを捉えた、子どもの育ちへの援助のあり方について、ロールプレイなどの実践を通して学びを深める。	【予習】これまでの実践で出会った遊び場面を想起し、エピソード記録にまとめておく。 【復習】授業内で検討したことをもとに、援助のあり方にいついてまとめる。	120
第11回	事例検討③家庭との連携	さまざまなニーズをもつ家庭との連携のあり方や保護者への対応の実際について、事例検討やロールプレイを通して、多面的に理解し学びを深める。	【予習】実習中にみられた保育者と保護者の関わりの具体的場面やその様子、家庭との連携の実際や工夫などについて、ふりかえりまとめておく。 【復習】授業内で検討したことをもとに、家庭との連携のあり方についてまとめる。	90
第12回	園庭環境と安全管理	園庭や地域の自然環境などの、戸外での保育における安全管理の考え方について、事故事例を取り上げながら理解する。また、自らの安全を守るための安全教育の在り方についても考える。	【予習】実習園等で示された安全管理の方針を振り返っておく。 【復習】事故事例を1つ取り上げ、事故防止のための対策まとめる。	90
第13回	学び続ける保育者としての在り方	養成から育成に向かう流れの中で、保育者のキャリアについて理解する。さらに園内研修、保育者のライフコース、保育者の処遇、研修制度に関する論文を読み解きながら、学び続けることの意味を考えていく。	【予習】論文のタイトルをあらかじめ提示するので、それを読んでおく。 【復習】授業内容を踏まえて、今後の自身のキャリアの展望についてまとめる。	90
第14回	現地調査（フィールド・ワーク）③	保育現場における現地調査（フィールドワーク）の報告会１回目。各自、テーマに沿った現地調査の成果を発表し、互いに学び合う。	【予習】報告会用パワーポイントと発表原稿を作成し、発表の練習をする。	120
第15回	現地調査（フィールドワーク）④	保育現場における現地調査（フィールドワーク）の報告会２回目。各自、テーマに沿った現地調査の成果を発表し、互いに学び合う。	【復習】２回の報告会を通した学びや気づきをまとめる。	120

学習計画注記	状況により学習計画を変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	提出物はすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成でき

	るように適宜助言する。
評価方法	提出されたレポート課題、発表の内容を点数化して評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート課題	○	○		
	発表	○	○	○	○

評価割合	レポート課題(50%)、発表(50%)
使用教科書名(ISBN番号)	無
参考図書	増田まゆみ、矢藤誠慈郎編著「ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習」(建帛社) 幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書、履修カルテ他、授業内に提示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもの環境をめぐる多様化した課題や問題に関心を持って取り組み、使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	水曜日2限目
学生へのメッセージ	本授業は幼稚園教諭・保育士に必要な資質能力が形成されたかについて最終的に確認するものである。学生が保育者としての自分の在り方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者としての資質を高めることが目標及びテーマである。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち2名は、保育士として実務経験を有しており、保育士に必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	現地調査(フィールドワーク)や事例検討を通して、学生同士が意見交換をする中で、保育現場の実際に基づいて多面的に理解する。
情報リテラシー教育	○	保育でどのような情報リテラシーが求められるのか、事例をもとに考える。
ICT活用	○	保育におけるデジタルデバイスの活用方法の意義と現状を事例と共に教授し、実際の活用方法を考える。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	算数科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	P20303M21
授業概要(教育目的)	まずは，学習指導要領における小学校算数科の目標と内容（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」）について解説する。次に，学びの連続性の観点から，小学校から高校までに学習する算数・数学を系統別に概観し，特に躓きやすい分野については再考するとともに，これらを分かりやすく指導するにあたって教師に必要とされるより深い数学的内容について解説する。また，幼小連携・接続，保小連携・接続等の観点から，就学前算数（インフォーマル算数）についても扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	発達の連続性を意識した就学前の算数に関する遊びを提案できる。小学校および中学校課程レベルの問題を解くことができるだけでなく，教えることができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	新学習指導要領の概略，就学前算数と数学の概論	小学校学習指導要領解説算数編および幼稚園教育要領解説の中で算数に関するポイントを学び，今後何を学ぶべきかを明らかにする。	予習：小学校学習指導要領解説算数編の第１章「総説」および第２章「算数科の目標及び内容」に目を通すこと。さらに，幼稚園教育要領解説の第１章「総説」および第２章「ねらい及び内容」第２節３の「環境」に目を通すこと。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理する。	180分
第2回	就学前算数１（数，量）	０歳児から５歳児までの数と量に関する発達を学ぶ。	復習：学修で得た知識を使って，発達段階に応じた数や量に関する遊びを考え始める。	180分
第3回	就学前算数２（図形，論理）	０歳児から５歳児までの図形と論理に関する発達を学ぶ。	復習：学修で得た知識を使って，発達段階に応じた図形や論理に関する遊びを考え始める。	180分
第4回	就学前算数３（発達段階に応じた連続的な遊びの提案１）	発達段階に応じた数や量に関する遊びの例を紹介する。	復習：中間テストに向かって，発達段階に応じた数や量に関する遊びを具体化する。	240分
第5回	就学前算数	発達段階に応じた図形や論理に関する遊びの例を紹介す	復習：中間テストに向かって，	240分

	４（発達段階に応じた連続的な遊びの提案２）	る。	発達段階に応じた数や量に関する遊びを具体化する。	
第6回	数と計算１（数の体系，四則演算，記数法） 中間テスト	数の体系，四則演算，記数法，筆算を学ぶ。 中間テスト（遊びの提案）をGoogleクラスルーム上にアップロードしてもらう形で行う予定でいる。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第7回	数と計算２（因数分解，二次方程式や不等式）	文字式，恒等式と方程式，因数分解，二次方程式や二次不等式を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第8回	測定および変化と関係１（量，単位）	離散量と連続量，量の性質，単位を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第9回	測定および変化と関係２（単一量と複合量，割合，比）	単一量と複合量，割合（同種，異種），比を学ぶ	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第10回	測定および変化と関係３（表とグラフ，関数）	表とグラフから始めて，関数を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第11回	図形１（平面幾何）	様々な平面図形とその性質，面積について学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第12回	図形２（立体幾何）	様々な空間図形とその性質，体積を学ぶ。ユークリッド幾何およびリーマン幾何についても紹介する。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第13回	図形３（図形の合同，図形の相似）	図形の合同，図形の相似，論証幾何を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第14回	データの活用１（平均値，分散，箱ひげ図）	まず，平均値，中央値，最頻値を学ぶ。次に散らばりをみる分散，箱ひげ図を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第15回	データの活用２（場合の数、確率）	場合の数および確率（条件付確率、ベイズの定理を含む）を学ぶ。 16回目にテストの振り返りを行う。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分

学生へのフィードバック方法	予習・復習で扱う課題について，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること
評価方法	１．就学前算数の遊びの提案（中間テスト） 第１回から第５回で学習した内容を踏まえて，３歳児から５歳児の数，量，図形，論理に関する具体的な遊びを提案する。その際，子どもの発達段階に応じた連続的な遊びであるかを評価する。 遊ぶの提案はWeb上に提案する遊びをWeb上にアップロードしてもらう形で行う。 ２．定期テスト（期末テスト） 第６回以降で学習した内容の類題を出題する。 テスト中は教科書や参考書の持ち込みは不可とする。 ３．課題 毎回の復習時に取り組む報告書などで評価する。 ＊テストや課題は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	遊びの提案（中間テスト）	○			
	定期テスト（期末テスト）	○			
	課題	○			

評価割合	遊びの提案(40%)，定期テスト(40%)，課題(20%)
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領解説算数編（平成29年告示）（ISBN:978-4-536-59010-5）

	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）（ISBN:978-4-577-81447-5）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を，算数・数学的な知識をもって理解し，あるべき姿を的確に判断することができる。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	算数・数学は，授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して，自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として，あるときは小学生として，算数・数学を考えてほしい。 授業は丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は，遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし

ナンバリング	P10301M21
授業概要(教育目的)	小学校教育課程の生活科で取り扱われている基本的事項について理解を深める。身近な生活に関する見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていく資質・能力を育成することを目標にした生活科教育の特性を理解し、幼保小の接続のあり方を視野に入れながら学ぶ授業である。そのため、可能な限り、踏査を通した演習を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童を対象とした生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得することが目的である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を理解する。
思考・判断の観点（K）	生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などとのかかわりについて実践例を通して考え、その意義と内容を理解する。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・子どもを取り巻く環境と生活	諸外国の子どもと我が国の子どもの生活や社会経験・自然体験について、調査結果をもとに理解し、小学校教育の中でできることを探る。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第2回	幼児教育と小学校教育の接続について	幼児教育・小学校教育の制度・内容・子どもの学び方の特性を理解し、接続の重要性について考える。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第3回	生活科創設の経緯と意義	生活科創設の経緯を理解するとともに、現在の子どもを取り巻く環境や学校教育における課題に即して、生活科の位置づけや意義について理解する。	演習問題を完成させる。	90
第4回	学校と生活	学校内を探索することを通して得られた児童の気づきの質を高めることの意義と方法について理解する。	ワークシートに記入する。また、友人のワークシートには、授業内容を踏まえた教師としてのコメントを記入する。	90
第5回	家庭と生	昨今の家庭環境の変化と課題について把握しながら、家庭や地域に開かれた教育課程について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第6回	地域と生活	学校と地域の連携の重要性と児童にとっての意義につい	大学周辺を踏査し、記録をと	90

		て、理解する。	る。	
第7回	公共物や公共施設の利用(1)	児童館の見学を通して、地域と学校の連携や地域にある子どもの居場所の実態を理解する。また、児童館の周囲の環境について踏査する。	児童館を見学した際の記録を作成する。	90
第8回	公共物や公共施設の利用(2)	児童館の実態とその地域の特性について踏査した結果をもとに、児童の公共物・公共施設の利用に関する意義と意味について演習を交えながら考える。	地図を完成する。	90
第9回	「季節の変化と生活」と環境教	児童の自然体験活動の意義について理解する。小学校教育課程における環境教育や総合的学習の時間について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第10回	自然や物を使った遊び	学内において、児童向けの野外活動を体験しながら、身近な自然から豊かな体験と気づきが得られる学習内容について検討する。	ワークシートに季節の移り変わりについて感じたことを「季節からの招待状」として作成する。	90
第11回	動植物の飼育・栽培	児童にとっての飼育栽培の意味、命の教育、食育について理解する。	再生野菜の観察記録を完成する。	90
第12回	生活や出来事の交流	学校と地域の連携が必要な活動について計画を立て、指導案の作成について理解する。	ワークシートを完成させ、友人のワークシートに教師としてのコメントを記入する。	90
第13回	自分自身の成長	児童が捉える自己評価、他者評価について理解し、児童に対する教師の評価について理解する。	ワークシートを完成させ、友人のワークシートに教師としてのコメントを記入する。	90
第14回	子どもと情報化社会、国際交流	学校教育における外国につながる児童に関する諸問題に理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第15回	子どもと事故、災害、安全教育	学校環境の安全対策の在り方について実例を交えながら理解する。	グループ討議の結果を踏まえたワークシートを完成する。	90

学習計画注記	授業の進行状況等により変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	提出されたワークシート等はすべて確認し、授業内に返却する。また、授業内に、適宜生活科教育の内容に合致したものか、自身の考察が適切に記入されているか等を観点とした助言を行う。
評価方法	提出物、学期末レポートの評価をすべて点数化して成績を付ける。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ワークシート	○	○	○	○
	学期末レポート	○	○		

評価割合	ワークシート40%、学期末レポート60%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。適宜授業時に紹介する。
参考図書	小学校学習指導要領生活編、同解説書、環境教育指導資料(幼稚園、小学校編)他、適宜授業中に示す。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 のうち、「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。
オフィスアワー	水曜日2限目
学生へのメッセージ	学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学内及び学外の踏査を行う。また、学内において、自然と関わる演習を行う。
情報リテラシー教育	○	環境教育の実際について情報を収集し、レポート作成に活用する。
ICT活用	○	学内の踏査を通して発見したもの等を画像を用いて発表する。その際には、デジタルカメラやパソコン等を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	音楽科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし
非常勤講師	塚本　恭子	指定なし

ナンバリング	P30306M21
授業概要(教育目的)	子どもの音楽表現の発達の諸相を知ると同時に、乳幼児期の音楽表現の指導から小学校の音楽科の指導に関する知識と実践について解説する。学習指導要領の内容に沿って、音楽科の各領域（歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくり）の内容について理解を目指す。また、歌唱や器楽、鑑賞等の実践を通して、学生自身の音楽実践力の向上を図る。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幼児・児童期の音楽的発達について理解する。音楽表現の多様性を実感するとともに、教科教育としての音楽科の目標・内容・方法を理解する。
思考・判断の観点（K）	音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわるとともに、表現することを楽しむ。 わが国や諸外国の音楽に触れることを楽しむ。
技術・表現の観点（A）	曲想と音楽の構造等の関わりについての理解、音楽表現に関する知識・技能、小学校音楽科学習指導要領にある【共通事項】に関する知識を用いて音楽表現を工夫したり、音楽づくりをしたりすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション：小学校音楽科の意義と目的①	保育・学校教育における音楽教育は何を目指すのか	保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校音楽科学習指導要領等の関連箇所を読んでおく。	150分
第2回	音楽教育の意義と目的②	音楽的な見方・考え方について考える。	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。	150分
第3回	音楽教育の意義と目的③	小学校音楽科に関するマイクロディベート	論題に対する肯定側及び否定側立論を考える。	240分
第4回	音楽教育と楽譜①	楽譜の存在について考える。図形楽譜に関する知識と実践。	楽譜の歴史について調べておく。	150分
第5回	音楽教育と楽譜②	図形楽譜の制作と表現、発表。	音楽をイメージして図形楽譜を制作する。	150分
第6回	歌唱についての知識・技能①	声遊びからボイスアンサンブルへ。発声法について学ぶ。	ボイスアンサンブルの譜読みをしておく。	150分
第7回	歌唱についての知識・	情景が伝わる歌唱の工夫を考える。	小学校音楽教科書から歌唱曲を選択し、練習しておく。	240分

	技能②		小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。	
第8回	歌唱についての知識・技能③	合唱の実践を通し、アンサンブルの美しさを感じ、合唱指導の基礎知識を学ぶ。	パート練習をしておく。	240分
第9回	器楽についての知識・技能①	鍵盤ハーモニカの導入と活動の展開について、実践を通して学ぶ。	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。	240分
第10回	器楽についての知識・技能②	リコーダーの導入と活動の展開にいて実践を通して学ぶ。	リコーダー曲の練習。 小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。	150分
第11回	器楽についての知識・技能③	ボディーパーカッションを通してその基礎知識を学ぶとともに、アンサンブルの教育的意義を考える。	課題曲の予習。	150分
第12回	音楽づくりの知識・実践①	身の回りのものを使った即興表現	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。	150分
第13回	音楽づくりの知識・実践②	環境の中に音楽をつくる。発表する。	グループで作品を制作する。	240分
第14回	鑑賞教育	鑑賞の授業展開について学ぶ。	小学校音楽科学習指導要領の関連箇所を読んでおく。	150分
第15回	指揮法の知識・技能	既習曲を用いて指揮法の基礎的な知識を学び、実践を通しその基礎技能を習得する。	合唱指揮あるいはオーケストラの映像を探し、指揮の様子を視聴しておく。	150分

学習計画注記	学習内容により、教室を移動することがあります。
学生へのフィードバック方法	リフレクションシート、レポートは採点して、次週の授業で返却します。リフレクションシートに記載された質問事項についても、次週にお答えします。
評価方法	評価の視点は次の通りです。 ・ディベートやペアトークに積極的に参加し、その内容に自分の考えを反映させてレポートやリフレクションシートが書かれているか。 ・幼児期の音楽表現活動のねらいや、小学校音楽科の目標が理解されているか。 ・表現活動に積極的に取り組み、基礎的な技能の習得につとめているか。 ・音楽の基礎的な知識を理解し、音楽表現や音楽の授業プランへの応用を考えることができているか。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	作品発表	○		○	○
	ディベート	○	○	○	
	リフレクションシート	○	○	○	

評価割合	リフレクションシート（60%）作品発表（２０%）、期末レポート（20%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	小学生のおんがく１年～６年（教育芸術社） 小学校学習指導要領解説　音楽編　文部科学省
参考図書	保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもの保育・子どもの教育・子どもの文化としての音楽についての知識を修得する。 【思考・判断】 音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。 【関心・意欲・態度】 子どもの豊かな成長・発達の姿を想定して、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる。 【技術・表現】 協働して音楽表現に取り組むことにより、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。
オフィスアワー	前期：月曜日　３限　1601 後期：水曜日　 2限　1601
学生へのメッセージ	教科教育の基礎を学ぶとともに、音楽実践として合唱、合奏を行います。積極的な参加と自主的な練習を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	共担者（非常勤）は、公立小学校及び国立大学教育学部附属小学校での経験の豊富実践経験を有す。
アクティブ・ラ	○	音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。
ICT活用	○	ICTを活用した情報検索や教材作成を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	図画工作科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし

ナンバリング	P20306M21
授業概要(教育目的)	小学校図画工作科の特性を理解し、学習指導要領の目標と内容に準じた指導方法について学ぶ。Ａ表現「造形遊びをする活動」、「絵や立体・工作に表す活動」においては、「思考・判断・表現」の力としての発想や構想に関する事項、「技能」に関する事項としての材料・用具の特徴、表し方を工夫する力の指導について体験的に理解する。「B鑑賞」においては、実践教材を用いた様々な展開方法や見方・感じ方を生活の中の造形に広げる指導や表現活動との連携などを考察する。理論と実践の両面から「形や色、イメージ」など、造形的な特徴への視点及び「内容の取り扱い」に必要な知識と技能の修得する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校図画工作科の教科の特性及び目標・内容・内容の取り扱い・評価活動について学習指導要領に基づく基礎的知識を有し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	小学校図画工作科の内容領域の構成と事項に基づいた題材の開発や展開について、発達に配慮した観点を基に学習指導計画案を作成できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもの生活を取り巻く教育課題や造形文化に関心をもち、主体的な感性を重視する造形活動の意味や価値を説明できる。
技術・表現の観点（A）	子どもが主体的に取り組む造形活動を開発・導入・展開する技能を有し、適切な評価の材料・観点について説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	今日的な教育課題と子どもの造形表現	今日的な教育課題と子どもの造形表現の関連を知り、子どもの生活に根ざす発想や表現の特徴について理解する。現代の社会・文化的状況や教育の歴史的変遷の観点から事例や情報を参照し、造形教育・教科学習の役割を理解する。	教育課題と期待する子ども像に関連した学校や地域の実例を参照し、特徴や観点を整理しておく。	180分
第2回	図画工作科の目標・内容と期待する児童像	図画工作科の目標・内容と期待する児童像の関連に着目して学習指導要領の改訂趣旨や教科目標を捉え、内容領域の構成、学年ごとの目標や内容、題材活動の概要を理解する。	学習指導要領の総則にある改訂趣旨・図画工作科の教科目標を参照し、重視する観点を整理しておく。	180分
第3回	A表現「造形遊び」（低学年）の指導と評価	A表現「造形遊び」（低学年）における指導と評価の一体的扱いについて、体験的に理解する。低学年児童の遊びや生活に根ざす発想過程と表現について理解する。	A表現「造形遊び」（低学年）の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照しながら気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第4回	A表現「造形遊び」（中・高学年）の指導と評価	A表現「造形遊び」（中。高学年）における指導と評価の一体的扱いについて、体験的に理解する。中学年・高学年児童の認識の発達に根ざす発想過程と表現について理解する。	A表現「造形遊び」（中。高学年）における指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照しながら気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第5回	A表現「絵	A表現「絵に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いにつ	A表現「絵に表す」活動の指導	180分

	に表す」活動の指導と評価	いて、体験的に理解する。描画材料や用具の基礎的な知識を知り、題材の目標との関連や育てたい資質・能力との関連を理解する。	と評価について、検定教科書の題材や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	
第6回	A表現「立体に表す」活動の指導と評価	A表現「立体に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて、体験的に理解する。材料・用具の特徴や育てたい資質・能力との関連について理解する。	A表現「立体に表す」活動の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第7回	A表現「工作に表す」活動の指導と評価	A表現「工作に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて。体験的に理解する。工作と伝統工芸、理科工作との違いを知り、材料の特徴や発想過程を理解する。	A表現・「工作に表す」活動の指導と評価について、検定教科書や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第8回	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開について、題材の目標との関連や機器機能の活用方法について体験的に理解する。タブレット型PCを有効に活用する表現活動について理解する。	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開について、検定教科書の題材や事例を参照し,気づいた特徴や観点を整理しておく。	180分
第9回	身体感覚や認識を楽しむ題材の展開	日常生活で培われる身体感覚や認識を楽しむ題材の展開について、発想過程や表現の特徴を体験的に理解する。感覚と連携する認識と造形発想について理解する。	日常生活で培われる身体感覚や認識を楽しむ題材の展開について事例を参照し、気づいた特徴や観点を整理しておく。	180分
第10回	造形的な関わりを楽しむコミュニケーション題材の展開	友だちとの造形的な関わりを造形発想や行為のきっかけとする題材について、「意味や価値をつくり出す喜び」と相互作用の関連に着目し、体験的に理解する。	友だちとの造形的な関わりに着目する造形表現について、検定教科書や事例を参照し,気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第11回	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法について、体験的に理解する。子どもの造形的な見方・感じ方を多面多様にするゲームや視覚機器（タブレット型PCやデジタルカメラ）を活用する実践事例を基に、鑑賞活動の可能性や課題を理解する。	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法について、児童相互が見方・感じ方を変化させるための手だてや観点を整理しておく。	180分
第12回	B鑑賞「親しみのある造形文化や生活観を活かす鑑賞活動」の展開と方法	B鑑賞の独立した鑑賞活動について、親しみのある造形文化や生活観を活かす展開と方法について体験的に理解する。	B鑑賞「親しみのある造形文化や生活観を活かす鑑賞活動」の展開と方法について検定教科書の題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第13回	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法について、体験的に理解する。表現から鑑賞に、または鑑賞から表現に領域を超えて働く子どもの感覚や感性の特徴を理解する。	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法をもつ活動について、検定教科書の題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第14回	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法について、発想過程の特徴や内容領域を超えて働く子どもの感覚や感性を体験的に理解する。	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法について、検定教科書にある題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第15回	指導計画・評価計画の作成と実践	指導計画・評価計画の作成と実践方法について、具体的事例や集団討論を通して体験的に理解する。指導計画の作成方法や評価規準の扱いや評価材料の収集・活用計画の基本的な要件を理解する。	指導計画・評価計画の作成と実践について、検定教科書や教師用指導書から事例を参照し、気付いた観点を整理しておく。	180分

学習計画注記	履修者数やテーマに対する関心の広がりによってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	・講義及び討論・発表による混合形式。グループや全体のディスカッションでは適宜必要な解説と助言で応じる。毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシートについて、コメント付きで返却する。 ・授業中盤で、子どもの発達に応じた対応に考慮した題材の略案を記す課題レポートの提出を求め、改善点をチェックして返却する。
評価方法	・毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 ・発達を踏まえた題材の略案レポートは、発達に応じた対応を中心とする実践課題への着目と方略を観点に評価する。 ・学期末に、「生活や遊び・身近な材料を生かす造形題材」を共通テーマにした小論レポートの提出（1200～1600字程度）を求める。レポートは、学習目標の到達規準に準拠する観点から評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○	○	○	
課題レポート	○			○
小論レポート	○	○		

評価割合	平常点10%、ドキュメントシート20%、課題レポート20%、期末小論レポート50%を総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし（授業者が適宜資料を配布する）

参考図書	①立川泰史『意味づくりの造形教育　見方をむすぶ学びのニューカテゴリー』開隆堂出版、2018年10月、ISBN978-4-304-03115-1 C3037 ②文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説・図画工作編』日本文教出版、2018年3月、ISBN-10:4536590110 （上記及びその他資料を授業内で適宜配布する。）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】教科の特性を理解し、育む資質・能力について実践に必要な基礎的かつ専門的な知識を有している。 【思考・判断】教科の目標や内容・評価について、児童観・教材観・指導観を基に展開方法を考察する指導観と評価観を有している。 【関心・意欲・態度】児童の発達や造形教育の歴史的変遷に関心をもち、現代的な課題の解決に向かう実践感覚を有している。 【技能・表現】造形的な見方・考え方を育む実践展開を考察・計画・評価する基本的な能力を有している。
オフィスアワー	水曜4限・1629研究室
学生へのメッセージ	講義内容を体験的に学ぶので、そのプロセスや成果を自身で記録・保管する。 参考資料は授業で適宜配布する。 講義のほか簡単な制作実技を行うため、動きやすく汚れてもよい服装や安全に配慮する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。
情報リテラシー教育	○	事前学習や集団討論に必要な観点の基礎になる実践事例の収集、自身が着目した観点から事後学習で参照する実態調査を通して、情報処理能力を向上する機会をもつ。
ICT活用	○	教師や子どもの学習評価、表現・鑑賞活動の中でデジタル機器の活用場面を知るとともに、授業内の集団討論やプレゼンテーションでタブレット型 PC・アプリケーションコンテンツを活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	国語科教育（書写を含む）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深瀬　須美子	指定なし

ナンバリング	P10302M21
授業概要(教育目的)	国語科教育の意義、小学校国語科教育の目標や内容を理解し、小学校教師として指導にあたるにおいて必要な国語科教育についての基礎的知識を身に付けることを目的とする。 概要 ・国語教育の歴史、今の国語科教育に至る背景 ・国語科教育の意義 ・小学校国語科教育に求められていること ・小学校国語科教育の目標や内容、方法 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化や読書や言葉、書写などの言語文化」等における指導に必要な基礎的知識

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	国語教育の取り組みの歴史、背景をふまえて、国語科教育の意義、小学校国語科教育の目標や内容を理解し、指導に必要な基礎的知識を身に付ける。
思考・判断の観点（K）	現代の国語科教育に求められていること、各教科の基盤としての国語であることを踏まえ、現代の授業構想を知り、主体的な学びにしていくための工夫、教えるべき基礎的事項に目を向け、指導の在り方を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	毎時間の課題、提出課題に真摯に向き合い、学んだことをもとに自分の考えをもち、話し合いや記述等、学習に取り組んでいる。
技術・表現の観点（A）	現代の国語科教育に求められている授業の在り方を理解し、必要な基礎的事項を自ら調べ、わかりやすく、活用できる形にまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	″ガイダンス 国語科教育の意義　″	″学習の見通しを持つ。 文化審議会答申、国語科学習指導要領等の資料を読み、考えたことを話し合い、小学校国語科教育の目標、国語科教育のもつ意味について、理解する。″	毎回、ダウンロードした資料、配布する配布資料を読み、整理してファイルし持参する。途中、出された課題を期日までに提出する。	240
第2回	″国語科教育の内容 ″ ″	小学校国語科学習指導要領解説を読み、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」から構成されている国語科の内容について理解する。	″小学校学習指導要領解説「国語編」を読んでおくことＰ１２～Ｐ１５ 文部科学省ＨＰ「生きる力」をダウンロードし読んでおくこと 配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。″	240
第3回	″学習指導要領の変遷と今まで取り組まれてきた国語科	今までに取り組まれてきた国語科教育、PISA（国際的な学力調査）の変遷、学習指導要領の変遷等を振り返り、国語科教育が目指すことについて考える。	国立政策研究所「教育課程の改善の方針、各教科等の目標、評価の観点等の変遷」をダウンロードし、読んでおくこと。	240

	教育実践 〃			
第4回	読書活動	国語科で育成を目指す資質・能力をより高めるうえで重要な読書活動について理解する。	〃配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 文部科学省ＨＰを開き「読書活動推進」について優秀賞を得た全国の取り組みを読んでおくこと。〃	240
第5回	〃国語科教育の授業方法　１ 〃	「主体的・対話的・深い学び」のの実現に向け、「見方・考え方」「グループにおける対話」「振り返り」を大切にした授業が求められていること、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力育成が求められていることを理解する。優れた学習指導案の授業を体験し、「国語で正確に理解し適切に表現する」主体的な学びを支え、言語活動を通して生きて働く「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を育てていくという授業の在り方について理解する。	〃小学校学習指導要領解説「国語編」を読んでおくことＰ３～Ｐ５ 配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。〃 〃文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集」第１章～第3章、国語科の指導事例をダウンロードし、読んでおくこと。 配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。〃	240
第6回	〃国語科教育の基礎的知識 「伝統的文化」	「伝統的文化」を指導するうえで必要な基礎的事項を理解する。	〃配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「新訂国語便覧」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。〃	240
第7回	国語科教育を指導するうえで知っておきたい知識	小学生に指導するにあたり、知っておきたい作家、作品について、インターネットや「新訂国語便覧」等で調べ、引用などのルールにのっとり、リーフレット等の活用しやすい形にまとめることで、理解する	事前に提示された作家や作品などについて調べた資料、本などを用意しておくこと。	240
第8回	〃国語科教育の基礎的知識 「言葉・情報・言語文化」（書写を含む）	「言葉・情報・言語文化」を指導するうえで必要な基礎的事項を理解する。（書写を含む）	〃配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「新訂国語便覧」「アクティブ・ラーニングサポートワーク」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。	240
第9回	〃国語科教育の基礎的知識 学習活動をしていくうえで必要な知識「読むこと」「書くこと」「話すこと」	各教科の基盤としての国語科であることをふまえ、「読むこと」「書くこと」「話すこと」を指導するうえで指導者として知っておくべき基礎的事項を理解する。	〃配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「アクティブ・ラーニングサポートワーク」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。	240
第10回	〃国語科教育の基礎的知識 学習活動をしていくうえで必要な知識「読むこと」「書くこと」「話すこと」	各教科の基盤としての国語科であることをふまえ、「読むこと」「書くこと」「話すこと」を指導するうえで指導者として知っておくべき基礎的事項を理解する。	〃配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「アクティブ・ラーニングサポートワーク」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。	240
第11回	国語科教育の基礎的知識 学習活動をしていくうえで必要な知識「読むこと」「書くこと」「話すこと」	各教科の基盤としての国語科であることをふまえ、「読むこと」「書くこと」「話すこと」を指導するうえで指導者として知っておくべき基礎的事項を理解する。 環境づくり、教具、ノート等	〃配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「アクティブ・ラーニングサポートワーク」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。	240
第12回	国語科教育の単元を作るうえで必要な知識 教科書、教材　教材研究等	具体例を参考にしながら、児童の学びに向かう力を引き出す国語科教育における単元作り、教科書、教材、教材研究等について理解する。	大学図書館等で小学校国語教科書１～６年を見ておくこと。 配布資料を読み、学んだことを理解しておくこと。 文部科学省「言語活動の充実に関する事例集」第１章～第3章国語科の指導事例をダウンロードし、読んでおくこと。	240
第13回	国語科教育を支える教具　板書 ノート指導等	具体例などを読みながら、国語科教育を支える教具、板書、ノート指導等の在り方について理解する。	国語教育を支える教具、板書、ノート指導等について調べておく。 配布資料を読み、学んだことを理解しておくこと。	240
第14回	国語科教育を進める環	様々な特性を持つ児童も含めすべての児童に対し、わかる、主体的に取り組める国語科教育を行う上での環境の	環境の在り方について調べておく。	240

	境作り	重要性、在り方について現場の実際を踏まえながら理解する。	配布資料を読み、学んだことを理解しておくこと。	
第15回	まとめと評価	自らの学びを振り返り、国語科教育について学び続ける自らの学びの方向性を確認する。	配布資料や、資料、記録を整理して国語科教育についての自らの学びを振り返る。	240

学習計画注記	授業の進み具合等によってスケジュールが変更になることもあります。ダウンロードした資料は持参して下さい。資料は、さかのぼって使用することがあります。〇回〇月◎日配布と記入しファイルしておき資料整理、活用力も身に付けてください。
学生へのフィードバック方法	振り返りカードに書かれた振り返りや質問、提出課題などに、評価またはコメントを記入し返却する。
評価方法	毎回、自身の取組の振り返りや、授業内容についての自身の考察を記入する。授業に真摯に参加し、記述することで思考力・判断力・表現力を確認する。 自ら調べた資料も含め、学んだことを、活用できる形にまとめる課題に取り組み、わかりやすく表現することをめざすことで必要な知識を得たことを確認する。 最後の全体振り返りは、記述方法を提示する。毎回の授業の積み重ねの中で、得た知識を根拠として自分の考えが書けるようになることの確認を行う。 知識・理解　振り返り、提出課題記述内容　授業中の取組 思考・判断　振り返り　提出課題記述内容　授業中の取組 関心・意欲・態度　授業への取組　課題への取組　記述内容

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	振り返り記述内容	○	○	○	○
	提出課題記述内容	○	○	○	○
	授業への取組	○	○	○	○

評価割合	授業への取組３０％ 振り返り記述内容４０％ 提出課題への取組と記述内容３０％
使用教科書名(ISBN番号)	″小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省　　ＩＳＢＮ９７８－４－４９１－０３４６２－１　　東洋館出版 新訂　総合国語便覧　新版六訂　　ＩＳＢＮ９７８－４－８０４０－３３０１－３　　第一学習社 アクティブ・ラーニングサポートワーク　ISBN　978-4-18-195717-9 明治図書 ″
参考図書	″言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～［小学校版］文部科学省 教育出版 ″
ディプロマポリシーとの関連	授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。
学生へのメッセージ	生涯、主体的に学び続ける人の育成が求められています。学ぶために「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる国語科はさらに重要となってきています。指導するためには、信頼されるだけの知識、人としての姿勢が必要となります。日ごろから、探求心をもって主体的に学び、調べ、読書し、考えを交流し、振り返りをしながら、自らを高めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を活かし、実際の児童の様子、実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	体験する、自らの考えを記述する、わかりやすく表現する、グループ等で交流する等の活動を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育	○	指導を行う上で必要な情報の探索方法、情報モラル、伝えるための技法に触れながら授業を行う。
ICT活用		学習に必要な資料を得るなど、情報を得る、引用する等の活動も取り入れながら授業を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	体育科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P20308M21
授業概要(教育目的)	小学校における体育科教育の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学び、学習指導要領を読み解くことで小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容について、児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について学び、代表的な教材を用いて指導計画の作成方法および指導方法についても取り上げる。
履修条件	・模擬授業を実施する回には、運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。 ・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校における体育科教育の目標、および授業で扱う領域・内容と評価法について理解している。
思考・判断の観点（K）	模擬授業の内容を学習指導要領と照らし合わせ、その適切性について指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	学習指導要領に沿った授業づくりの工夫に積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	模擬授業を展開し、適切な運営や声掛けができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	小学校「体育科教育」の概要	小学校体育科教育の概要について学び、その枠組みや改訂のポイント等について理解する。	学習指導要領解説（体育編）に目を通しておくこと。	60分
第2回	体育科の目標と内容	小学校教育の中で体育科が担うべき役割と意義、また各学年での目標を理解する。	学習指導要領解説（体育編）のうち、「教科の目標および内容」に目を通しておくこと。	60分
第3回	教科としての体育の歴史と意義	体育科授業を取り巻く制度的な条件と、体育が教科として学校教育の中で果たしてきた役割と意義について理解する。	戦前・戦後の体育の役割について理解しておくこと。	60分
第4回	体育とスポーツの概念について	体育科教育が教材とする運動・スポーツについて、楽しさを感じる理論的背景について理解する。	過去に体験した体育授業を振り返り、「楽しさ」を感じた授業とその要因について振り返ってまとめておくこと。	60分
第5回	運動やスポーツの教授方法	運動やスポーツを教えるための基本的な方法論を学ぶ。	学習法や学習者の心理的影響、体の発育・発達に伴うスポーツの影響等の基本を理解しておく。	60分
第6回	体育科の学習内容と授業計画の作成	学習計画や指導案の作成について基本的原則を学ぶ。	環境や教員、地域性等から年間の学習計画が影響されること、施設や用具等の制限から教材選びが影響されることを理解しておく。	60分

第7回	体育の評価	体育科における学習成果の評価について理解する。	評価の意義や目的、方法について理解しておく。	60分
第8回	模擬授業Ⅰ： 体つくりの運動遊び 体つくり運動	「体つくり運動遊び」「体つくり運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。	「体つくり運動（遊び）」の授業案の例を検索しておくこと。	60分
第9回	模擬授業Ⅱ： 器械・器具を使っての運動遊び 器械運動	「器械・器具を使っての運動遊び」「器械運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。	「器械・器具を使っての運動遊び」「器械運動」の授業案の例を検索しておくこと。	60分
第10回	模擬授業Ⅲ： 走・跳の運動遊び 走・跳の運動 陸上運動	「走・跳の運動遊び」「走・跳の運動」「陸上運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。	「走・跳の運動遊び」「走・跳の運動」「陸上運動」の授業案の例を検索しておくこと。	60分
第11回	模擬授業Ⅳ： ゲーム ボール運動	「ゲーム」「ボール運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。	「ゲーム」「ボール運動」の授業案の例を検索しておくこと。	60分
第12回	模擬授業Ⅴ： 表現リズム遊び 表現運動	「表現リズム遊び」「表現運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。	「表現リズム遊び」「表現運動」の授業案の例を検索しておくこと。	60分
第13回	模擬授業Ⅵ： 保健（1）	「保健領域」のうち、「健康な生活」「体の発育・発達」に関する背景や目的・意義と学習内容について理解する。	「保健領域」のうち、「健康な生活」「体の発育・発達」の授業案の例を検索しておくこと。	60分
第14回	模擬授業Ⅶ： 保健（2）	「保健領域」のうち、「心の健康」「けがの防止」「病気の予防」に関する背景や目的・意義と学習内容について理解する。	「保健領域」のうち、「心の健康」「けがの防止」「病気の予防」の授業案の例を検索しておくこと。	60分
第15回	「水遊び」「水泳運動」 授業のまとめ	「水遊び」「水泳運動」の背景や目的・意義と学習内容について理解する。 授業を振り返り、学んだことを整理する。	「水遊び」「水泳運動」の授業案の例を検索しておくこと。	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	模擬授業担当者には、教員からのフィードバックに加え、児童役として参加した学生からのフィードバックのコメントを集約して返却します。
評価方法	・各回の小レポート ・指導案の作成 ・模擬授業 ・授業への積極的な参加 を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	各回の小レポート	○	○	○	
	指導案	○	○	○	○
	模擬授業	○	○	○	○
	授業への積極的な参加			○	○

評価割合	・各回の小レポート、授業への積極的な参加　4×15回＝60% ・指導案　20% ・模擬授業　20%
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 東洋館出版社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	小学校の体育は、生涯にわたるスポーツとの付き合い方、ひいては生涯にわたる運動習慣（健康）に影響を与えうる科目と言えます。 それだけでなく、人との関わり方や、上手く物事が進まない時の行動など、人として大事なことを学ぶ場でもあると思っています。 体育が苦手だと感じている方もいると思いますが、「体育『を』教えるより、体育『で』人を育てる」という気持ちで、臨んでいただけたらと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	理論として学んだ学習指導要領の内容を生かした模擬授業を実践する。また、児童役として授業に参加する。それらの体験を振り返ることで、体験的に授業の在り方を学ぶ。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 梶原　正史	指定なし

ナンバリング	P20302M21
授業概要(教育目的)	・新学習指導要領に沿って、小学校社会科の目標及び内容を理解する。 ・教科書に記述されている各学年の内容を確認する。 ・学習指導案の作成,模擬授業を通して社会科の授業づくりの方策を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・小学校社会科の目標と内容（各学年の単元構成）を説明できる。
思考・判断の観点（K）	・主体的・対話的で深い学びを実現する授業形態・指導方法の有効性について説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・周囲と積極的に関わりコミュニケーションを取りながら、学習内容を理解しようとしている。
技術・表現の観点（A）	・「授業のまとめと振り返り」において、わかったことをまとめ、そこから考えたことを文章にまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションと社会科の概要	授業の計画を理解する。 小学校社会科の目標と内容の全体像をつかむ。	（予習）『社会編』1～30、167～178ページを読んでおく。	180分
第2回	小学校社会科の目標と内容	「何ができるようになるか」「何を学ぶか」について理解する。 「主体的・対話的で深い学び」について理解する。	（予習）『社会編』135～141、148～153ページを読んでおく。	180分
第3回	第３学年の学習	学習指導要領に明示されている第３学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を確認する。	（予習）『社会編』31～47ページを読んでおく。	180分
第4回	第４学年の学習	学習指導要領に明示されている第４学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を確認する。	（予習）『社会編』48～69ページを読んでおく。	180分
第5回	第５学年の学習	学習指導要領に明示されている第５学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を確認する。	（予習）『社会編』70～96ページを読んでおく。	180分
第6回	第６学年の学習	学習指導要領に明示されている第６学年の目標と内容について理解する。 教科書の内容を確認する。	（予習）「社会編』97～134ページを読んでおく。	180分
第7回	調査活動の方法と地域教材の活用	調査活動の方法と地域教材を活用した授業について理解する。（授業の録画を視聴する。）	（予習）『社会編』141～146ページを読んでおく。	180分
第8回	表現活動と	社会科学習における表現活動（資料の作成と発表の仕	（予習）『社会編』143～146ペ	180分

	ICT活用の充実	方）・ICT活用の工夫について理解する。	ージを読んでおく。 （準備）インターネット検索ができるツール（スマートフォンやタブレット等）を持っている人は持参する。	
第9回	授業づくりの方策①	師範授業の視聴を通して授業のポイントを理解する。 学習指導案の形式を理解する。	（課題）事前配布の学習指導案作成資料を確認しておく。	180分
第10回	授業づくりの方策②	学習指導案の作成のポイントと手順を理解する。 模擬授業の計画を知る。 模擬授業，学習指導案を作成する学年，単元の教材研究を行う。	（課題）学習指導案例を参考に個人で学習指導案作成の準備をする。	180分
第11回	学習指導案作成①	学習指導案例を参考に個人で学習指導案を作成する。	（課題）作成した学習指導案から授業を構想する。	180分
第12回	学習指導案作成②	個人が作成した学習指導案をもとにグループで模擬授業用の学習指導案を完成する。	（課題）個人で作成した学習指導案を修正し提出する。	180分
第13回	模擬授業①	グループで作成した学習指導案をもとにして模擬授業の準備を行う。（資料作成，授業のリハーサル）	模擬授業に向けて個人で準備する。	180分
第14回	模擬授業②	学習指導案をもとにして模擬授業を行う。（授業を指導するグループ，児童役をするグループを交互に行う。） 模擬授業をもとにして「授業づくりの課題」についての全体討議を行う。	（課題）学習指導案を修正し提出する。（授業実施グループ）	180分
第15回	授業のまとめ	模擬授業の成果と課題をまとめる。授業を振り返り社会科授業のあり方を考える。	（提出）ポートフォリオ （復習）定期試験に向け、学習内容を復習しておく。	180分

学生へのフィードバック方法	・毎時間、授業の最後に５～１０分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとる。授業で使用した学習プリントのまとめと振り返り欄に記入させる。回収した学習プリントにコメントを記入して次時に返却する。学生は，学習プリントをポートフォリオ用ファイルに保管し，後日のまとめと自己評価に活用する。
評価方法	・授業における学習の状況，課題の内容，定期試験など総合的な観点から評価する。 ・毎時間、授業の最後に５～１０分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとり、学習プリントに学生が記入したものを評価する。学習プリントにコメントして返却する。学習プリントやポートフォリオ用ファイルをもとに学生も自己評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	参加態度・発言等			○	○
	授業のまとめと振り返り	○	○		
	課題への取り組み			○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	・参加態度・発言等（２５％）　・授業のまとめと振り返り（２５％）、 ・課題への取り組み（２５％）　・定期試験（２５％）
使用教科書名(ISBN番号)	・『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』（文部科学省発行）(ISBN978-4-536-59009-9)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と共同しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献する。
学生へのメッセージ	現在「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改革が進められている。旧来の暗記中心の座学型授業形態から脱し、アクティブな授業形態のあり方を模擬授業などから学び、学校現場で授業づくりに活かせるようにしたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は公立小学校の教員経験を有し、社会科教育について授業研究を続けてきた。児童の意欲を高める導入のあり方や学習課題への取り組ませ方のポイントを具体的に示しながら、わかりやすく指導していきたい。
アクティブ・ラーニング	○	・学習者が能動的に学ぶ方法として、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等を取り入れ、体験的に学ばせたい。
情報リテラシー教育	○	・調べ学習をする際の図書の活用法やインターネットでの情報収集の仕方、調べた結果をまとめる方法、情報を扱う上での注意点（情報モラル）等について具体的に紹介し理解させたい。
ICT活用	○	・プレゼンソフトや動画ソフトを活用して視覚的に授業内容を理解させたい。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	理科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 猿渡　厚史	指定なし

ナンバリング	P20304M21
授業概要(教育目的)	理科の学習では，子どもが自然に対して興味・関心をもち，問題解決の活動を通して科学的なものの見方や考え方をするようになることが期待されている。小学校理科の目標と各区分の内容を理解し，子どもの自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得する。理科離れ・理科嫌いと言われる最近の子どもにいかに興味を持たせるかについても考える。
履修条件	「生活科教育」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童が科学的なものの見方や考え方を持てるように指導する知識を得ることが出来る。
思考・判断の観点（K）	自身が科学的な思考の基本である客観的な考え方やそれに基づいた判断が出来て，それを児童に教えることをが出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	科学教育への関心，意欲，態度を持つことが出来る。
技術・表現の観点（A）	小学校理科のVTR映像や講義中の実験を通して，児童に対して適切な表現が出来るようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション（小学校理科の初歩的知識の確認１）	「昆虫の体」（第3学年B領域「身の回りの生物」），「ヒトの体」（第6学年B領域「人の体のつくりと働き」），「月の動き」（第４今後，小学校理科を教えるに当たり，学年B領域「月と星」，第6学年B領域「月と太陽」），「流水のはたらき」（第5学年B領域「流れる水の働きと土地の変化」）について基本的な知識を問う課題を行って，小学校理科の内容をどのくらい理解しているかを確認する。	時間中に作成した課題について，各自で正解を調べ、間違っている部分を訂正する。同時に周辺知識についても調べ，最も興味深い現象についてまとめる。	180分
第2回	小学校理科の初歩的知識の確認２	前回の課題について各自で調べた正解について説明する。また，一緒に調べた周辺知識について紹介・発表する。	発表を聞き，最も興味の持てた事象と最も興味の持てなかった事象について，その内容と興味を持った理由を書く。	180分
第3回	学習指導要領内容の変遷と現在の小学校「理科」の目的	学習指導要領の変遷と平成30年度から一部改訂が実施されている小学校学習指導要領について，変更点などを解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.1～11を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	小学校理科教育の目標と内容１	理科の教科目標について，理科的な見方・考え方，問題を科学的に解決するために必要な資質・能力について解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.12～19を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	小学校理科教育の目標	理科の内容構成（学年進行）について解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」	180分

	と内容２		p.20～26を読む。復習：授業内容の確認。	
第6回	学年進行を経験する（植物の成長を例として）	学年目標の構成・内容の基本的な考え方を解説し，植物の成長を例として，VTR映像を使って学年進行を体験する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.27～28を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	各学年の目標と内容1	第3学年の目標及び内容ついてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.29～44を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	各学年の目標と内容２	第4学年の目標及び内容ついてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.45～60を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	各学年の目標と内容３	第5学年の目標及び内容ついてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.61～74を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	各学年の目標と内容４	第6学年の目標及び内容ついてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.75～93を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	理科教育における体験的な学び１	「A. 物質・エネルギー」区分の電気の働きについて，第3学年の「電気の通り道」に関連する簡単な実験を行い，理科教育における体験的な学びついて理解する。	予習：配布したテキストを読み，実験方法を確認する。復習：実験レポートの作成。	180分
第12回	理科教育における体験的な学び２	「A. 物質・エネルギー」区分の電気の働きについて，第4学年の「電流の働き」に関連する簡単な実験を行う。さらに第6学年の「電気の利用」に結びつけるように理科教育における体験的な学びついて理解する。	予習：配布したテキストを読み，実験方法を確認する。復習：実験レポートの作成。	180分
第13回	社会教育施設との連携について１	小学校学習指導要領中の「指導計画の作成と内容の取扱い」中にある，博物館や科学館との連携について解説する。また，次回に見学する見学テーマ（学習目標）を決める。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.94～103を読む。予習：国立科学博物館のHPで展示の概要を調べる。	180分
第14回	社会教育施設との連携２	パソコンを使って国立科学博物館のHPで見学テーマ（学習目標）に合わせた見学ルートの検討する。	見学コースの検討。	180分
第15回	社会教育施設との連携３	国立科学博物館での学習目標に沿った見学を行う。見学後に展示を巡る見学ルートの再検討を行い，実際に児童との見学を想定し，フィードバックする。	見学レポートの作成。	180分

学習計画注記	博物館の見学先は，国立科学博物館（最寄り駅JR上野駅，東京メトロ上野駅，京成上野駅）を予定。上野駅までの交通費と入館料（630円）が必要となる。なお，3時間程度の見学を予定しているので，土日，祝日，補講日での見学となる。
学生へのフィードバック方法	発表については，解説と評価を口頭で伝える。レポート・提出物に関しては，コメントを返す予定。
評価方法	レポート・提出物，平常点の総合評価（平常点は授業への取り組み状況等で総合的に判断する）。 授業内での提出物，レポートを出す予定である。授業に出席しなければ提出物は提出できないので注意すること。また，博物館の見学をするが，見学に参加しないとレポートは書けないので，注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
提出物	○	○	○	
発表	○			○
授業への取り組み（平常点）			○	

評価割合	レポート・提出物（80%），平常点（20%）の総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領解説 理科編 ―平成29年7月（978-4-491-03463-8）
参考図書	適宜，授業中に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が習得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】本学科の特徴ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り，子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	月曜日1時間目　2309室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査項目に関する発表と評価。
情報リテラシー教育	○	PCを利用した見学先の情報入手。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	国語科教育法（書写を含む）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深瀬　須美子	指定なし

ナンバリング	P20301M21
授業概要(教育目的)	小学校における国語科教育の位置づけと役割、国語科の目標と内容を、教育にかかわる法、社会情勢を含めて理解することを目指す。指導するにあたって必要な基本的事項、小学校の低学年、中学年、高学年の各各の発達にふさわしい指導内容、主体的に学ぶ児童を育成し、思考力、判断力、表現力を身に付ける国語指導のありかたについて実践的に学習する。具体的には、小学校国語科教育の目標と内容、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材研究の実際、国語科授業展開の方法、書写指導の方法、学習評価のあり方等を、優れた授業の記録や、小学校の取り組み事例をもとに模擬授業や討論などにより学び、児童の視点に立ち、主体的な学びをひきだす国語科授業法を身に付けることを目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校国語科の目標と内容を関連付けて授業方法の説明ができる。
思考・判断の観点（K）	小学校国語科の目標の背景、発達段階、児童の視点を根拠として、指導の在り方について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	国語科教育の目標と児童の視点、主体的学びを意識して授業に参加している。
技術・表現の観点（A）	学習指導要領、学習教材、読書教材を授業づくりに生かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	講座ひらき　１５時間の学びの見通し	主体的な学びの指導者をめざし、目指す授業イメージ、指導者像をつかみ、自らの学びの目当てと意欲をもつ。	毎回、配布するレジメを読み、整理してファイルし持参する。途中、出された課題を期日までに提出する。	180分
第2回	学校教育に求められていること	現代社会が学校教育に求めていること、法が求めている教育について理解する。	小学校指導要領解説「国語編」総説を読んでおくこと P1～P10	180分
第3回	小学校国語科教育の目標	小学校国語科学習指導要領解説を読み、国語科教育の目標を理解する。 学習指導要領を読み、児童の発達段階の概要と学習の系統について知る。	小学校指導要領解説「国語編」国語科の目標 を読んでおくこと P11～P15 P196～p207	180分
第4回	小学校国語科学習指導要領解説の	小学校国語科学習指導要領解説の読み方を知り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」から構成されている国語科の内容について理解する。 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の３	小学校指導要領解　「国語編」を読んでおく。 P16～P39	180分

	読み方と国語科の内容	領域と、言語活動を通して指導事項を指導することを知る。		
第5回	小学校の国語科の授業の実際 (1) 「話すこと・聞くこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「話すこと・聞くこと」 言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 説明する　スピーチをする　討論する	小学校指導要領解　「国語編」「話すこと・聞くこと」を読んでおく。 P28～, P57～, P94～, P132～	180分
第6回	小学校の国語科の授業の実際（２）「書くこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「書くこと」 言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 手紙を書く　　説明文を書く　新聞を作る　俳句・短歌・詩を書く	小学校指導要領解　「国語編」「書くこと」を読んでおく。 P32～, P63～, P101～, P139～	180分
第7回	小学校の国語科の授業の実際（３）「読むこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「読むこと」 言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 音読する　　物語を読み、感想を交流する　　本を紹介する、推薦する	小学校指導要領解　「国語編」「読むこと」を読んでおく。 P36～, P67～, P108～, P146～	180分
第8回	小学校の国語科の授業の実際（４）書写　読書　漢字指導	書写、漢字指導、読書を取り入れた授業のあり方を優れた実践例をもとに一部、体験も取り入れながら理解する。	小学校指導要領解　「国語編」を読んでおく。 P16~P27	180分
第9回	学ぶ意欲を引き出す授業つくりと学習評価の概要	児童の学ぶ意欲を引き出す授業作りのあり方と学習評価の目的、概要について理解する。	今まで配布された資料等を、授業で活用できるようファイルしておく。	360分
第10回	教材研究と授業計画づくり１	児童の目線にたった教材研究の重要性と授業計画への生かし方を、体験とグループ討議を通じて理解する。	第１０回における教材研究、グループ討議をもとに細案、指導案本時案を作成する。出席を要する。	180分
第11回	教材研究と授業計画づくり２	児童の目線にたった教材研究の重要性と授業計画への生かし方を、グループ討議を通じて理解し、学習指導案本時案、細案を作成する。	第１０回における教材研究、グループ討議をもとに細案、指導案本時案を作成する。出席を要する。	180分
第12回	教材研究と授業計画づくり３	細案をもとに、教師役と児童役に別れ実践しながら、グループで改善点を話し合い、発問・指示、板書、教材、支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。	指導案本時案、細案を完成させて持参する。	180分
第13回	教材研究と授業計画づくり４	細案をもとに、教師役と児童役に別れ、実践しながら、グループで改善点を話し合い、発問・指示、板書、教材、支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。	指導案本時案、細案を持参する。	180分
第14回	学んだことの振り返り目指す国語の授業像、教師像、学びの目標の確認	今までの学びを振り返り、わかったこと、わからないことを整理するともに、これから自ら目指す国語の授業像、教師像、学びの目標を確認する。	振り返り記入をするので前回までのレジメを読み返し、わかったこと、わからないことを整理するともに自ら目指す国語の授業像、教師像、学びの目標を考察しておく。	180分
第15回	まとめ	前回の振り返り、疑問点、国語の授業像、教師像などを交流し、今後のの学びの目標をもつ。グループ討議で解決できなかった疑問点を質問し、確実な学びを得る。		

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることもあります。 配布資料は、さかのぼって使用することがあります。〇回〇月◎日配布と記入し、ファイルしておき資料整理、活用力も身に付けて下さい。
学生へのフィードバック方法	振り返りカードに書かれた振り返りや質問、提出課題などに、評価またはコメントを記入し返却する。
評価方法	毎回、自身の取組の振り返りや、授業内容についての自身の考察を記入する。授業に真摯に参加し、記述することで思考力・判断力・表現力を確認する。 最後の全体振り返りは、記述方法を提示する。毎回の授業の積み重ねの中で、得た知識を根拠として自分の考えが書けるようになることの確認を行う。 知識・理解　振り返り、提出課題記述内容　授業中の取組 思考・判断　振り返り　提出課題記述内容　授業中の取組 関心・意欲・態度　授業への取組　課題への取組　記述内容

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	振り返り記述内容	○	○	○	○
	提出課題記述内容	○	○	○	○
	授業への取組	○	○	○	○

評価割合	授業への取組３０％ 振り返り記述内容４０％ 提出課題への取組と記述内容３０％
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省
参考図書	言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～［小学校版］文部科学省
ディプロマポリシーとの関連	関心・意欲・態度 子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。
学生へのメッセージ	生涯、主体的に学び続ける人の育成が求められています。学ぶために「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる国語科はさらに重要となってきています。そして指導するためには、児童との信頼感が土台となります。 日ごろから、探求心をもって調べ、体験し、読書し、考える、ICT機器を活用するなど、主体的に学びに取り組みましょう。そして、児童の気持ち、思いに寄り添える、信頼される教師となるために、常にどうすればよいか考え、互いの考えの交流を行い、自らを振り返ることを大切にしながら、学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を生かし、実際の児童の様子、実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	体験する、自らの考えを記述する、グループ等で交流する等の活動を取りいれて授業を行う。
情報リテラシー教育	○	指導を行う上で必要な情報の探索方法、図書館の活用、情報モラル、伝えるための技法に触れながら授業を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 梶原　正史	指定なし

ナンバリング	P30301M21
授業概要(教育目的)	小学校の社会科の目標・内容を確認する。また，授業実習を通して学校現場で社会科を指導する実践的能力を身に付ける。 社会科創設期（戦後に誕生した新しい科目である）から現在に至る学習指導要領の変遷を整理するとともに，代表的な社会科実践を分析して授業づくりにいかす。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学習指導要領の目標と内容を理解する。社会科の指導計画の編成から学習指導案の作成までの手順と指導方法を知る。
思考・判断の観点（K）	社会科教育の在り方を教育制度や学習理論，代表的な実践などから考える。また，社会科の授業を分析して、自らの学習指導にいかせるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	周囲と積極的に関わりコミュニケーションを取りながら、学習内容を理解していく。
技術・表現の観点（A）	授業の課題や「授業のまとめと振り返り」などで、考えたことを文章にまとめたり、発表したりすることができる。

学習計画

社会科教育府

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 学習計画 社会科教育法についての説明	授業で使用した学習プリントなどをもとに社会科教育法について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第2回	社会科創設に至る戦前の教育①	戦前の教科書の検討（修身、地理、国史等）	授業で使用した学習プリントなどをもとに戦前の教育について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第3回	社会科創設に至る戦前の教育②	昭和初期郷土教育運動における地域学習	授業で使用した学習プリントなどをもとに郷土教育について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第4回	社会科の創設①	日本国憲法の制定 戦後新教育運動と社会科	授業で使用した学習プリントなどをもとに新教育運動について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第5回	社会科の創	社会科創設期における教育実践	授業で使用した学習プリントな	180分

	設②	（カリキュラム改造，問題解決学習等）	どをもとに社会科創設期について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	
第6回	学習指導要領の変遷と社会科①	日本社会の発展と社会科の課題①（学習指導要領と教科書）	授業で使用した学習プリントなどをもとに社会科の課題について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第7回	学習指導要領の変遷と社会科②	日本社会の発展と社会科の課題②（地域学習の実例）	授業で使用した学習プリントなどをもとに地域学習について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第8回	学習指導要領の変遷と社会科③	現行学習指導要領社会科編の目的と内容の検討 模擬授業の視聴 授業づくりの課題，評価の方法	授業で使用した学習プリントなどをもとに授業づくりについて復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第9回	指導計画の作成①	学年ごとの指導計画の作成（３・４年） 授業実践例（中学年）	授業で使用した学習プリントなどをもとに指導計画について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第10回	指導計画の作成②	学年ごとの指導計画の作成（５・６年） 授業実践例（高学年）	授業で使用した学習プリントなどをもとに指導計画について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第11回	社会科授業実習①	社会科授業の実際（担当者による学生を児童にみたてての師範授業）	授業で使用した学習プリントなどをもとに師範授業について復習する。 配布した資料を読み，次の授業の予習をする。	180分
第12回	社会科授業実習②	授業づくりの実際（3～6学年の授業をグループで分担して行う） グループの編成，グループでの話し合い（活動計画・授業内容の確認，役割分担，教科書の検討，学習指導案作成，模擬授業）	グループで話し合った内容や個人の分担を確認して，資料や学習指導案などを作成する。 模擬授業の準備を行う。	180分
第13回	社会科授業実習③	授業づくりの実際（3～6学年の授業指導をグループで分担して行う） グループでの話し合い（学習指導案の検討，模擬授業のリハーサル）	模擬授業の資料作成や発表のリハーサルなどを行い，模擬授業に備える。	180分
第14回	社会科授業実習④	授業づくりの実際（3～6学年の授業指導をグループで分担して行う） 授業演習①（他グループを児童にみたてて，指導を行う）	模擬授業を振り返り，成果と課題をまとめておく。 学習プリントと資料を整理して，学習ノートでポートフォリオ評価ができるようにしておく。	180分
第15回	社会科授業実習⑤ 授業のまとめ	授業演習②（他グループを児童にみたてて，指導を行う） 学習ノート（ポートフォリオ）をもとに社会科教育法ついて自己評価を行う。（提出する。）	定期試験に向けて授業の復習を行う。	180分

学生へのフィードバック方法	学習プリントや授業資料を集積する学習ファイル（ポートフォリオ）を作成する。学習プリントの提出と返却を通して授業担当と質疑応答を行う。授業で使用した学習プリントや資料を自宅で再度、読み直して、要点をまとめ，知識の定着を確実なものにする。
評価方法	毎時間、授業の最後に5~10分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとる。記入した学習プリントを家庭学習後に提出する。担当者が内容についてコメントして返却する。学習プリントを学習ノートにファイリングして，学習のまとめや自己評価（ポートフォリオ評価）に生かす。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
参加態度・発言等			○	○
授業のまとめと振り返り	○	○		
課題への取り組み			○	○
定期試験	○	○		

評価割合	授業への出席、発言、レポートの提出、定期試験などで総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』（文部科学省発行）(ISBN978-4-536-59009-9)
参考図書	講義の中で適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と共同しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。

	【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献する。
オフィスアワー	金曜３限
学生へのメッセージ	小学校課程の免許取得希望者に対して、学校現場で子どもたちを指導するために必要な「主体的・対話的で深い学び」を授業の中で体験的に学びます。そのためにゼミ形式も採用します。講義をただ受けるという姿勢でなく、積極的に、参加する態度が必要になります。また、予習など、事前に準備をして授業に臨んでほしいです。 社会科教育の在り方を，教育制度や教育思想，授業実践など様々な視点からとらえていきます。 担当者の実務教員としての経験を踏まえ，授業指導に活用できる実践的能力を模擬授業や授業映像の視聴と分析などを通して身につけます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は公立小学校の教員経験を有し、社会科教育について授業研究を続けてきた。児童が意欲的に学習課題に取り組む方策などを学校現場に即してわかりやすく指導していきたい。
アクティブ・ラーニング	○	学習者が能動的に学ぶ方法として、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等を取り入れ、体験的に学ばせたい。
情報リテラシー教育	○	調べ学習をする際の図書の活用法やインターネットでの情報収集の仕方、調べた結果をまとめる方法、情報を扱う上での注意点(情報モラル)等について具体的事例を紹介し理解させたい。
ICT活用	○	プレゼンソフトや動画ソフトを活用して視覚的に授業内容を理解させたい。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	算数科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海　公昭	指定なし

ナンバリング	P30302M21
授業概要(教育目的)	学習指導要領における小学校算数科の目標と内容（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」）を読み解くことで，各領域の学習内容や指導方法そして評価方法について理解し，実際に子どもを指導できる力を養成する。そのために，教材研究，指導案の作成，模擬授業，協議会を通して，実践的な授業力や指導力を養う。関連して，模擬授業では，教材・教具（ICTを含む）を，その有効な役割を理解できるように，積極的に活用する。 また，現場の小学校教員による特別講義を提供することで，算数科をとりまく今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り，授業における教師の役割についての認識を深めるための機会をつくる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校および中学校課程の問題を解くことができるに留まらず，その問題の背景や系統的な視点で教えることができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	学習で得た知識・技術・思考をもって算数授業や学級運営等の中でみえる様々な課題に対応することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	算数教育，新学習指導要領と算数科の目標	主体的・対話的で深い学びを目指す算数教育，ICTを用いた算数教育，カリキュラム・マネジメントに基づく算数教育，算数教育のユニバーサルデザイン，数学的活動の重視の観点から算数科の目標を確認する。	予習：教科書第１章と第２章（1ページから25ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第2回	「A 数と計算」の指導	「A 数と計算」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第３章（27ページから61ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第3回	「C 測定」の指導	「C 測定」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第５章（87ページから94ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分

第4回	「C 変化と関係」の指導	「C 変化と関係」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第６章（97ページから105ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第5回	「B 図形」の指導	「B 図形」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第４章（65ページから85ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第6回	「D データの活用」の指導	「D データの活用」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第７章（109ページから124ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第7回	算数の授業づくり，指導計画の作成と評価１	算数の授業づくりにおける学習指導の視点を学ぶ。	予習：教科書第８章（127ページから130ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第8回	算数の授業づくり，指導計画の作成と評価２	評価と指導，学習指導案の作成方法を学ぶ。	予習：教科書第９章（135ページから144ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直しながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第9回	模擬授業と協議会１（１年生）	１年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第10回	模擬授業と協議会２（２年生）	２年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第11回	模擬授業と協議会３（３年生）	３年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第12回	模擬授業と協議会４（４年生）	４年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第13回	模擬授業と協議会５（５年生）	５年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第14回	模擬授業と協議会６	６年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者	180分

	（６年生） ＊特別講師による指導		以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	
第15回	種々の教育法の提案および模擬授業と協議会 ＊特別講師による指導	特別講師から，算数科をとりまく現場の今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について学ぶことで，授業における教師の役割についての認識を深める。	予習：事前に告知された課題に取り組む。 復習：授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分

学生へのフィードバック方法	復習で扱う報告書や模擬授業後の提案については，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。また，模擬授業実施にあたっては，授業時以外の時間で，指導案検討等の模擬授業ための指導を行う。
評価方法	１．指導案作成 内容を評価する。 ２．模擬授業 模擬授業の内容と協議会のやりとりを評価する。 ３．課題 毎回の復習時に取り組む報告書や，模擬授業後の省察や授業の改善案の提案の内容を評価する。 ＊上記の評価項目は，下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	指導案作成	○			
	模擬授業と協議会	○			○
	課題	○			

評価割合	指導案作成（30%），模擬授業と協議会（40%），課題（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領解説算数編（平成29年告示）（ISBN:978-4-536-59010-5） 小学校算数科教育法（ISBN:978-4-7679-2112-9）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を，算数・数的な知識をもって理解し，あるべき姿を的確に判断することができる。 【技能・表現】学修で得た算数・数学的知識・技術をもって，算数授業や学級運営，さらには人間社会や自然の中にみえる課題を発見し，その課題を論理的に分析・統合・表現することで，他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	前期：水曜日１２：３０～１４：００ 後期：水曜日１２：３０～１４：００
学生へのメッセージ	算数・数学は，授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して，自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として，あるときは小学生として，算数・数学を考えてほしい。 授業は丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は，遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学教員が学問の専門性を伝えるだけでなく，現場の教員から日々の実践研究に裏付けされた視点による今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り，授業における教師の役割についての認識を深める。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業はまさにアクティブ・ラーニングであることが求められる。また，協議会等では，学生同士で活発な議論を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業時は，積極的にICTの活用をする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	理科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 猿渡　厚史	指定なし

ナンバリング	P30303M21
授業概要(教育目的)	子どもに対して，理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには，子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では，子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	科学的なものの見方・考え方を児童自身で身につけられるように、教材を工夫し知識・理解の効果的な定着を図る。
思考・判断の観点（K）	学生一人一人が科学的な思考である客観的な考え方やそれに基づいた判断を身につけ、児童を指導することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	理科教育への関心・意欲・態度を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	小学校理科にICT教材を取り入れたり，実験を行ったりしながら、児童に適切な表現ができるようにする。

学習計画

学習計画

学生へのフィードバック方法	1.授業は講義形式で行う場面と実験・観察の体験活動、模擬授業の形式を適宜取り入れて行う
評価方法	・毎回の課題レポートから効果測定を行う。 ・実験・観察においては、事前の準備から事後の片付けまで一連の流れを身につけたかチェックする。 ・模擬授業においては、学習指導案と教材研究から、わかりやすさや工夫の観点から評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○	○	○	○
提出物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○			○
授業への取組			○	

評価割合	レポート・提出物・プレゼンテーション（80%）、平常点（20%）の総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領解説　理科編：平成29年7月発行
参考図書	適宜、授業中に紹介する。

ディプロマポリシーとの関連	1.　初等理科教育に関する基礎的な知識・技能とともに理科についての関心とその内容の探究に必要な思　考力・判断力・表現力を養う 2.　講義、演習、実技においては、専門知識・技能の基礎を習得させるとともに、課題解決のための思考力、判断力、表現力を育むアクティブ・ラーニング科目を充実させる。
学生へのメッセージ	理科教育法を受講するための準備として，身の回りにある自然や科学ついて考える習慣をもってほしい。また，将来，皆さんが向き合う小学生は，それについて如何に考えるだろうかという見方・考え方も養ってもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		模擬授業を通して、児童がどのように科学的な見方・考え方を効果的に身につけることができるか検証する。
アクティブ・ラーニング		実際に実験・観察を行い、児童が興味・関心を高める場面はどこか、また、科学的な思考をする場面はどこか検証する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		プログラム教材キットを活用し、実際にプログラムを作成する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生活科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 池田　仁人	指定なし

ナンバリング	P20305M21
授業概要(教育目的)	生活科の成果と課題の検討、授業参観を通して授業構成の原理を探求し、生活科の授業を計画・実施するために必要な力量を育成するとともに授業技術の向上をはかる。また、学習指導案を作成し、模擬授業を展開する事を通して生活科授業実践のための指導力を育成する。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校教育における生活科の役割を理解する。
思考・判断の観点（K）	生活科における子どもの見方、支援の仕方について理解する。
関心・意欲・態度の観点（V）	模擬授業及びその準備に積極的に参加する。
技術・表現の観点（A）	指導案作成を通し生活科授業を構成する力および生活科の活動計画を作成する力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生活科の理念と目標	生活科で育てたい子ども像や生活科の役割について解説する。	学習指導要領解説生活編を熟読し、生活科の目的や育てたい子ども像について具体的に捉えておく。	160分
第2回	生活科の現状と課題	現在の生活科が置かれている状況、問題点などについて解説する。	生活科成立までの歴史や現在の問題点などについて調べておく。	120分
第3回	生活科の授業例の紹介	生活の理念に沿った学習展開の例を紹介する。	生活科の理念に沿った投げかけや展開の仕方について整理する。	180分
第4回	授業の実際	ビデオ視聴を通し、授業の見方や授業展開上の疑問点などを整理する。	生活科の理念に沿った投げかけや展開の仕方について整理すると共に生活課を構成する上でわからないことなどを整理しておく。	180分
第5回	生活科の指導計画の解説①	教材開発から単元計画の立て方について解説し、生活科単元の骨組みを考える。	自らの生活科の経験を振り返り、どのような活動がどのような目的の下に行われたかについて考察する。	180分
第6回	生活科指導計画基礎資料作成	生活科マップ・カレンダー等の作成及び機器の活用について解説する。	校舎外や実際の町に出て、活用できそうな教材をピックアップする。	200分
第7回	生活科の指	単元目標の設定の仕方について解説し、実際に計画を立	教材を設定し、単元の枠組みを	240分

	導計画の解説②	てる。	考えておく。 授業後、生活科の理念を反映させて単元目標を修正していく。	
第8回	生活科の指導計画の解説③	指導観、教材観、児童観について解説する。	主に指導の流れについて修正を加える。 扱う教材について下調べをしておく。	180分
第9回	生活科の指導計画の解説④	全体指導計画の立案について解説し、実際に単元計画を立てる。	指導の流れや教材観をもとにし、授業中に立てた単元の計画を修正していく。	180分
第10回	生活科の指導計画の解説⑤	本時の授業計画案作りについて解説し、実際に一時間の計画を立てる。	指導計画や子どもへの投げかけを想定し、指導案の修正をする。また、教材の調べ活動も引き続き行う。	180分
第11回	生活科の指導計画の実際①	各グループ（若しくは個人）で授業計画を立案する。	授業では各個が持ち寄った指導計画をもとに模擬授業で用いる授業を検討するので、その準備を行う。	180分
第12回	生活科の指導計画の実際②	授業計画案作りの仕上げと模擬の授業準備を行う。	授業内で検討し尽くせなかった指導案の作成と、模擬授業に用いる教材の準備を行う。	180分
第13回	生活科の指導計画の実際③	授業計画案作りの仕上げと模擬の授業準備を行う。	授業内で検討し尽くせなかった指導案の作成と、模擬授業に用いる教材の準備を行う。	180分
第14回	模擬授業	ＰＣ・プロジェクター・ＩＣレコーダーなど視聴覚機器も活用しながら授業計画を元にして役割分担して授業（活動）を行う	役割分担の練習を行い、授業の準備をする。 授業後はどの点が良かったか、また良くなかったかについて考察する。	180分
第15回	模擬授業の反省まとめ	導入の仕方、支援などの観点に基づいて反省を行う。 その他、生活科を中心に据えた低学年学級経営などについて解説する。	模擬授業の反省をまとめ、低学年指導の仕方について考察する。	180分

学習計画注記	生活科の授業は一般にイメージしにくいので、授業計画の組み立ての順番も段階的に指導していく。
学生へのフィードバック方法	単元計画や単元目標、指導観など、その時間で立てた計画等は回収し、添削を加えて返却することにより、指導案作りの力が身につくようにしていく。
評価方法	・授業の中で作成した単元目標、指導観や単元計画など（授業内のレポート）と完成した指導案で総合的に評価する。 ・模擬授業の完成度を評価に加える。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内レポート	○	○	○	○
	指導案	○	○		○
	模擬授業			○	

評価割合	授業内レポート(20%)、指導案(70%)、模擬授業(10%)
使用教科書名(ISBN番号)	特にありません。
参考図書	小学校学習指導要領解説生活編
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている 【関心・意欲・態度】 ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶと いう謙虚な姿勢・態度を身につけている 【技能・表現】・本学科の特色ある授業への 積極的な参加を通して理論 と実践の融合を図り、子ども の専門家として社会に貢献できる
学生へのメッセージ	生活科は特に学級経営･子ども支援に影響のある科目です。低学年教師になったつもりで取り組んで下さい。幼児教育に関する知識があるとより理解が深まります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は小学校教員経験者である。実際の授業や低学年指導の様子を話しながら、イメージしにくい生活科の授業について教授していく。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を行ううえで、学生同士で内容を検討しながら学びを進めていく。また、実際に低学年が行う活動を体験し、実体験の重要性などについて理解する。
情報リテラシー教育	○	季節や地域の特長を活かすために、図書資料、映像資料、文献等を検索し、活用する。
ICT活用	○	模擬授業に於いて、導入に視聴覚機器を用いるなどして子どもの関心を呼び起こすようにする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	音楽科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし
非常勤講師	塚本　恭子	指定なし

ナンバリング	P30307M21
授業概要(教育目的)	小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について、目標・内容・指導計画等と対応させながら理解を深める。様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指し、子どもにとって実りある授業づくりを探究する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容について理解する。 小学校音楽科学習指導要領の内容について理解する。
思考・判断の観点（K）	小学校音楽の授業を構成し実践するための授業感を形成する。 児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	児童に伝えたい音楽を探求する。
技術・表現の観点（A）	小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	学習指導要領解説①	日本の音楽教育の歴史、教育目標・育成を目指す資質能力について	小学校音楽科学習指導要領、音楽科の目標を通読。日本の音楽教育の歴史に関する文献を検索し、読んでおく。	150分
第2回	学習指導要領解説②	小学校音楽科学習指導要領に関する全体構造及び指導上の留意点の理解	小学校音楽科学習指導要領と小学校音楽科教科書を照合しながら読んでおく。	240分
第3回	音楽的発達と学習内容の関連及び保幼小連携としての音楽の役割	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた低学年における指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿について復習し、小学校音楽科との関連を考えておく。	150分
第4回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究①	歌唱教材・器楽教材の教材研究の方法と展開について	小学校音楽科教科書に掲載されている歌唱教材及び器楽教材に目を通し、歌ったり演奏したりしておく。	150分
第5回	音楽科におけるインクルーシブ教	事例を通し、音楽を介したコミュニケーションの可能性を考える。	自分の体験を振り返ったり文献を検索したりして、インクルー	240分

	育の実際とその意義の理解		シブ教育における音楽の役割を考えておく。	
第6回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究②	音楽づくりの実践と発表	小学校音楽科教科書に掲載されている音楽づくりのための教材をピックアップし、その内容を確認しておく。	150分
第7回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究③	鑑賞曲の教材研究の方法と展開について	小学校音楽科教科書に掲載されている鑑賞教材を調べ、CDやYouTube等で確認しておく。	150分
第8回	音楽の授業づくり①	学習指導案の構成について、事例を通して理解する。	学習指導案の書き方について、配布プリンを熟読して具体的なイメージがもてるようにしておくとともに、疑問点を確認しておく。	150分
第9回	音楽の授業づくり②	歌唱教材に関する模擬授業（２グループ）とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第10回	音楽の授業づくり③	器楽教材に関する模擬授業（２グループ）とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第11回	音楽の授業づくり④	鑑賞教材、音楽づくりに関する模擬授業（２グループ）とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第12回	音楽の授業づくり⑤と講義の振り返り	評価についての理解。模擬授業及び講義全体を通しての振り返りを行う。	６件の模擬授業について、学び・助言・反省点を含むレポートを作成する。	150分
第13回	音楽の授業づくり⑥	情報機器を活用した学習指導案やポートフォリオの作成方法についての基礎知識及び、音楽の著作権法や引用の方法について理解する。	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストの添付の仕方について予習しておく。	150分
第14回	日本の伝統音楽について	小学校音楽科教科書に掲載されている日本の伝統音楽について、鑑賞したり実際に楽器を演奏したりして知識・理解を深める。	小学校音楽科教科書に掲載されている日本の伝統音楽を調べ、CDやYouTube等で確認しておく。	120分
第15回	小学校音楽科教育に関する実践研究の動向	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索した内容の発表とその検討	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索し、要点をまとめておく。	240分
第16回				

学習計画注記	授業内容により、教室を変更することがあります。第5回は実務経験者による特別講義を予定しています。
学生へのフィードバック方法	質問はメールにて随時受け付けます。質問事項については、全体に解説が必要な場合はGoogleクラスルーム及び翌週の講義で解説します。
評価方法	課題レポートでは、小学校音楽科に関する知識・理解、及び予習と講義の振り返りに対する関心・意欲・態度を評価します。 学習指導案・模擬授業では、講義内容の理解とその応用、実践力を中心に評価します。 期末レポートでは、小学校音楽科の授業に向けての資質・能力、授業づくりの方法についての理解と応用力などを評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題レポート	○	○	○	
	学習指導案・模擬授業	○	○	○	○
	期末レポート	○	○		

評価割合	リフレクションシートへの記入（60%）、学習指導案・模擬授業（20%）、期末レポート（20% ）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	小学校音楽科学習指導要領解説（文部科学省） 小学校音楽科教科書１年～６年（教育出版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容、小学校音楽科学習指導要領の内容について専門的な知識を修得する。 【思考・判断】 模擬授業を通し、児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を、実践的に学び、さまざま

	な課題に柔軟に対応できる姿勢を身に付ける。 【関心・意欲・態度】 児童に伝えたい音楽を探求する。 【技術・表現】 小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。
オフィスアワー	前期　月曜日　３限　1601 後期 水曜日　２限　1601
学生へのメッセージ	全員が模擬授業を行います。一人ひとりが責任をもって取り組んでください。 小免必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	共担者（非常勤）は、公立小学校及び国立大学教育学部附属小学校での経験の豊富実践経験を有す。
アクティブ・ラーニング	○	グループで協働し、学習指導案を作成し、模擬授業の準備を行う。講義ではペアトーク、グループディスカッションを毎回取り入れて、理解の向上を図る。
情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法や文献の引用方法についての基礎的な知識を身に付ける。
ICT活用	○	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストを挿入したレポートの作成を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	図画工作科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし

ナンバリング	P30304M21
授業概要(教育目的)	小学校図画工作科の目標と内容、その指導と評価の実践方法を学ぶ。子どもと図画工作科をとりまく今日的な課題や教育観の変遷を知り、「表現と鑑賞」の題材や評価の事例から教師の役割を考える。そのうえで、「造形遊び」・「絵や立体・工作」などの表現と鑑賞の内容領域を結ぶ指導及び評価活動について協議し、基礎的な理解を深める。また、「材料・用具」の特徴や「学年目標と内容」に配慮する教材研究や題材開発を行い、学習指導案の作成と模擬授業を通して実践的な指導方法の習得と展開・活用力の修得を目指す。
履修条件	R2年度開講なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校図画工作科の学習指導要領に準拠した目標・内容・評価について、基本的な知識を有し、説明できる。造形・鑑賞活動を通して育む資質・能力の観点から、実践的な内容や方法について必要な事項を説明できる。
思考・判断の観点（K）	図画工作科の教科特性を理解し、個に応じる児童観・指導観・教材観・評価の観点をもち、題材の導入・展開・評価について計画したり、説明したりできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	児童をとりまく今日的な課題に関心をもち、育みたい資質・能力と関連づけて指導と評価の内容や方法を改善することができる。
技術・表現の観点（A）	題材の設定や開発、指導の展開、評価材の収集などについて実践的な技能を有し、授業を改善する具体的な観点や方法を説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	図画工作科の今日的課題や動向	図画工作科の今日的課題や動向について、他教科との関連や子どもの実態などの社会的背景を基に考察し、教科特性と目標を理解する。	図画工作科の今日的課題や動向に着目し、象徴的な事象を調べて整理しておく。	180分
第2回	子どもの発達と造形表現の特徴	子どもの発達と造形表現の特徴の関連について、児童の感覚や認識の発達と造形表現の特徴を知り、発達・成長に応じた題材の構成や指導の観点を理解する。	子どもの発達と造形表現の関連という視点から、現行の図画工作科教科書の題材を基に、特徴的な事例を整理しておく。	180分
第3回	図画工作科・美術科教育の理念と変遷	図画工作科・美術科教育の理念と変遷について知り、今日期待される教科学習の目的と実践課題について理解する。	図画工作科・美術科教育の理念と変遷の観点から、現行学習指導要領の改訂の趣旨や期待する子ども像を整理しておく。	180分
第4回	図画工作科教育の目標と内容	図画工作科教育の目標と内容について、学習指導要領に示される教科目標及び内容、具体的な展開における内容の取り扱い、表現・鑑賞・共通事項の構造を理解する。他教科との関連や造形的な見方・考え方について集団討議を通して考察する。	図画工作科教育の目標と内容の観点から、学習指導要領図画工作科の教科目標、学年ごとの目標と内容について整理しておく。	180分
第5回	内容領域と指導方法	表現活動としての「造形遊び」の目標・内容を知り、具体的な実践事例を通して学年ごとの活動の特徴や展開方法の要件を理解する。事例題材の実技的考察や集団討論	表現活動としての「造形遊び」の目標・内容について現行学習	180分

	（1）造形遊び	を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	指導要領を参照し、各学年の違いや特徴を整理しておく。	
第6回	内容領域と指導方法（2）絵に表す	「絵に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	「絵に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照して整理しておく。	180分
第7回	内容領域と指導方法（3）立体に表す	「立体に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	「立体に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照し、整理しておく。	180分
第8回	内容領域と指導方法（4）工作に表す	「工作に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	「工作に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照し、整理しておく。	180分
第9回	内容領域と指導方法（5）鑑賞活動	鑑賞の内容領域の目標と内容について知り、学年による鑑賞題材の趣旨・特徴や違いについて理解する。具体的な事例を体験しながら集団討議を通して、実践指導の要件や鑑賞活動の展開方法を体験的に理解する。	鑑賞の内容領域の目標と内容について、　現行学習指導要領を参照し、学年目標や内容の概要を整理しておく。	180分
第10回	図画工作科学習の評価活動	図画工作科学習の評価活動について、目標と評価規準の関係、教師の評価と評価材料の収集、児童の相互評価活動や自己評価活動などの実践的内容と方法を理解する。実際に評価の各形態を体験し集団討論することを通して課題や可能性を考察検討する。	図画工作科学習の評価活動について、現行学習指導要領を参照し、目的と評価材料の種類を整理しておく。	180分
第11回	学習指導案の基礎的事項と作成	学習指導案における基礎的な指導計画の形態・記述事項、記述方法について知り、その作成・活用の仕方や意味について理解する。図画工作科の教科特性に応じた指導計画と他教科との違いを比較する討論・考察を通して特徴を理解する。	学習指導案の基礎的事項と作成方法について具体的な事例を参照し、気付いた観点を整理しておく。	180分
第12回	模擬授業と討論（１）	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。協議で得た意見を基に省察し指導案の改善をはかる。	180分
第13回	模擬授業と討論（２）	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。議で得た意見を基に省察し指導案の改善をはかる。	180分
第14回	模擬授業と討論（３）	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。議で得た意見を基に省察し指導案の改善をはかる。	180分
第15回	擬授業と討論（４）・まとめ	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。議で得た意見を基に省察し指導案の改善をはかる。	180分
第16回				

学習計画注記	授業後半に個々が設定する題材の学習指導案の作成と模擬授業を行う。
学生へのフィードバック方法	講義及び討論・発表による混合形式。グループや全体のディスカッションでは適宜必要な解説と助言で応じる。 毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシートについて、コメント付きで返却する。 授業計画の後半で各自が実施する模擬授業に際し、事前の学習指導案の提出を求め、改善点などの指摘・助言をして応じる。模擬授業は、各自が実践した題材展開について、実践的な問題・留意点を中心に協議してコメントする。
評価方法	・毎回授業を振返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 ・教育実習など教育現場での実践を想定した学習指導案は、基本的な書式や内容事項、指導と評価の一体的な扱いの捉え方を観点に評価する。模擬授業は、実践的な展開に向けた題材設定、教材研究の視点、実践の技能について評価する。 ・講義全体の内容、自ら着目した題材を基に考察したことをテーマにした小論レポートの提出（1200～1600字程度）を学期末に求める。レポートは、学習目標の到達規準に準拠する観点から評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
ドキュメントシート	○	○	○	

	学習指導案・模擬授業	○	○		○
	小論レポート	○	○		

評価割合	平常点10% 、学習指導案20%、模擬授業20%、期末小論レポート50%などを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	必要な学習資料を毎回の授業で配布する。
参考図書	①文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説・図画工作編』日本文教出版／平成30年3月、ISBN-10: 4536590110 ②文部科学省検定教科書『図画工作』及び『教師用指導書』開隆堂出版／平成27年版 ③立川泰史『意味づくりの造形教育 見方をむすぶ学びのニューカテゴリー』開隆堂出版、2018年10月、ISBN978-4-304-03115-1 C3037
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】教科の特性を理解し、育む資質・能力について実践に必要な基礎的かつ専門的な知識を有している。 【思考・判断】教科の目標や内容・評価について、児童観・教材観・指導観を基に展開方法を考察する観点を有している。 【関心・意欲・態度】児童の発達や造形教育の歴史的変遷に関心をもち、現代的な課題の解決に向かう実践感覚を有している。 【技能・表現】造形的な見方・考え方を育む実践展開を考察・計画・評価する基礎的能力を有している。
オフィスアワー	金曜3限・1629研究室
学生へのメッセージ	授業で配布する資料は各自でファイリング保管し、レポート課題作成時や復習で参照すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教諭として造形・美術教育の題材開発・教材開発や授業研究に従事した。文部科学省検定教科書の編修著者代表、文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修・地域や企業・社会的教育機関と連携するネットワークを生かし、学習指導要領に準拠した教科目標や内容を今日の社会文化的背景に照して提供する。
アクティブ・ラーニング	○	児童の表現活動にあるメッセージ性や実践形態としての協働学習を体験的に理解することを重視する。グループ討論や学習成果の相互評価活動を随時行う。
情報リテラシー教育	○	小学校で実践されている題材事例、学習指導案や授業形態の事例などの情報を収集・整理することを通して、題材開発や指導計画に活用する能力を高めていく。
ICT活用	○	グループ討論や教材研究についてタブレット型 PCを活用する。模擬授業での実践展開においてオンラインwebコンテンツを活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金田　佳子	指定なし

ナンバリング	P20307M21
授業概要(教育目的)	小学校家庭科教育の目標と内容について理解し、指導と評価の具体的方法について指導する。 また、子どもたちを取り巻く生活の状況を見つめ、学習指導要領を基にこれからの家庭科教育の在り方も視野に入れて学ばせる。特に教材研究を通して指導内容を理解し、授業展開の視点と方法を踏まえて学習指導計画を作成する。その後、模擬授業を行い実践的な指導方法の習得を目指し指導する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学習指導要領に基づき家庭科教育の意義や目標、果たす役割について理解し、解説できる
思考・判断の観点（K）	各領域のねらいを理解し、児童の実態に合わせた指導を考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点（A）	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画（指導案）を立てることができる

学習計画

家庭科教育法

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	家庭科教育の変遷と今日的意義	家庭科教育全体像をつかみ、その変遷と今日的意義を理解する。 ※目標･教材分析について研究課題テーマの提示	課題選択後、関連資料を収集（第３時以降で使用）	30分
第2回	小学校家庭科の目標と内容	法的根拠に基づいた学習指導要領の位置付けを理解し、小学校家庭科教育の目標と内容について理解する。	第５時の「目標・教材分析のまとめ」（レポート）提出に向けて資料の読み込み	60分
第3回	家庭科における教材研究と資料等の活用①	学習指導要領、小学校教科書、その他資料を活用し、目標・教材分析を通して指導内容を理解する。	第５時の「目標・教材分析のまとめ」（レポート）提出に向けて資料の読み込み	60分
第4回	家庭科における教材研究と資料等の活用②	学習指導要領、小学校教科書、その他資料を活用し、目標・教材分析を通して指導内容を理解する。	第５時の「目標・教材分析のまとめ」（レポート）提出に向けて資料の読み込み	60分
第5回	家庭科における授業展開の視点と方法①	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・学びの過程と家庭科授業、・授業の成立 ※「目標・教材分析のまとめ」(レポート)提出日	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	30分
第6回	家庭科における授業展	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	30分

	開の視点と方法②	・年間指導計画 ・家庭科指導案の構成		
第7回	家庭科における授業展開の視点と方法③	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・家庭科における学習指導方法	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	30分
第8回	家庭科における評価の視点と方法	指導計画作成を通して、評価の種類とその方法について理解する。	指導計画と評価について復習し、理解を深める	30分
第9回	教材研究・授業研究①	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。 ※学習指導計画（指導案）作成について課題提示	学習指導計画(指導案)作成に向けて資料収集・資料作成	120分
第10回	教材研究・授業研究②	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。	学習指導計画(指導案)作成に向けて資料収集・資料作成	120分
第11回	教材研究・授業研究③	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。 ※研究成果提出日	成果発表へ向けての資料作成	60分
第12回	教材研究・授業研究（発表、評価・交流）①	研究課題ごとのグループで研究成果発表。評価し、交流する。(グループディスカッション)	成果発表へ向けての資料作成	60分
第13回	教材研究・授業研究（発表、評価・交流）②	全体での研究成果発表。評価し、交流する。	次回行う模擬授業の準備	60分
第14回	教材研究・授業研究（発表、評価・交流）③	授業研究成果発表を兼ねて模擬授業を実施。	次回行う模擬授業の準備	60分
第15回	教材研究・授業研究（発表、評価・交流）④	授業研究成果発表を兼ねて模擬授業を実施。	模擬授業を振り返る	60分

学生へのフィードバック方法	実施したレポート等は、採点して次週の授業にて返却する。また、模範解答等は授業内で解説する。
評価方法	教材分析レポート、選択した研究課題をもとに研究成果レポートを実施。平常点としてワークシート・作品提出を対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート１、２	○	○	○	○
発表、交流		○	○	○
ワークシート等平常点	○		○	

評価割合	教材分析レポート（２０％）、研究成果レポート（５０％）、平常点（ワークシート・作品提出，発表・交流等授業態度）（３０％）
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領解説　家庭編　文部科学省　東洋館出版 小学校家庭科教育法　建帛社
参考図書	小学校家庭科教科書「新しい家庭５・６」　東京書籍
ディプロマポリシーとの関連	【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる 【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる 【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心をもち、家庭科の指導内容を工夫する力を養うことができる 【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けることができる
学生へのメッセージ	家庭科は「生活」そのものを学びの対象にする教科です。 身近な生活を観察したり、子どもの生活や置かれている現状を意識しておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。
アクティブ・ラーニング	○	互いに学び合うアクティブ・ラーニングを取り入れ、互いに高め合うことを目指します。

情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーション資料の活用でわかりやすい授業を組み立てます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	体育科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし
非常勤講師	佐藤　豊	指定なし

ナンバリング	P30305M21
授業概要(教育目的)	小学校体育科について、児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について代表的な教材を基に小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学ぶ。さらに学習指導要領と指導書の内容について取り上げ、小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容を指導できることを目指し、指導計画及び指導方法についても学ぶ。
履修条件	・模擬授業を実施する回には、運動に適した服装、体育館シューズで参加してください。 ・体育実技を実施する上で健康上の配慮が必要な人は、申し出てください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校体育の授業方法について理解している。
思考・判断の観点（K）	小学校の学年に対応した教材の構成を組み立てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	探究心をもって教材の準備や授業運営に参加することができる。
技術・表現の観点（A）	学年に応じた教材を活用して体育授業を展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 学習指導要領の見方	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 小学校における体育授業の全体像、評価方法について学ぶ。	学習指導要領解説（体育編）のうち、「教科の目標および内容」に目を通しておくこと。	120分
第2回	各学年の領域別指導内容	低学年・中学年・高学年の領域別指導内容を確認し、理解を深める。	学習指導要領のうち、模擬授業を担当する学年、領域について記載されたページを読み込んでおくこと。	120分
第3回	指導案作成に向けて（1） 単元構造図の作成	担当する学年・領域を例に、指導内容の抽出や評価機会を整理することで、単元構造図の作成方法について学ぶ。	学習指導要領のうち、模擬授業を担当する学年、領域について記載されたページを読み込んでおくこと。	120分
第4回	指導案作成に向けて（2） 教材の検討	担当する学年・領域を例に、適した教材とその指導の流れ（はじめ、なか、まとめ）を検討する。	小学校体育で用いられる様々な教材について調べておくこと。	120分
第5回	指導案作成に向けて（3）	担当する学年・領域を例に、1時間分の指導案を作成し、模擬授業に向けた準備を進める。	掲示物の作成など、模擬授業に向けて準備を進めること。	150分

	指導案の作成と修正			
第6回	模擬授業Ⅰ：体つくりの運動遊び	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第7回	模擬授業Ⅱ：器械・器具を使っての運動遊び	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第8回	模擬授業Ⅲ：走・跳の運動遊び	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第9回	模擬授業Ⅳ：陸上運動	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第10回	模擬授業Ⅴ：ゲーム	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第11回	模擬授業Ⅵ：ボール運動	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第12回	模擬授業Ⅶ：表現リズム遊び表現運動	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第13回	模擬授業Ⅷ：保健（1）	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第14回	模擬授業Ⅸ：保健（2）	作成した指導案に基づき、模擬授業を展開する。担当者以外の学生は、児童役として授業に参加する。	指導を担当した学生は、自分自身の指導案の改善点について振り返る。児童役として参加した学生は、指導役の学生に対するフィードバックを記述する。	120分
第15回	振り返りとまとめ	授業をふりかえり、小学校体育の指導案の作成時の注意事項や、授業の展開方法について理解を深める。自分自身の体育授業の指導力についても考察を深める。	作成した指導案に修正を加え、改訂版を提出する。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小テストに記載された質問等に対するフィードバックを次回授業時に行います。
評価方法	授業終了時の小テスト、期間中の模擬授業演習、指導案の課題提出の総合的な評価とする。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○		○	
	模擬授業	○	○	○	○
	指導案の課題提出	○	○	○	○

評価割合	授授業終了時の小テスト（4点×15回=60点）、期間中の模擬授業演習（10点）、指導案の課題提出（10点×3回=30点）の総合的な評価とする。
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 東洋館出版社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる

	【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	小学校の体育は、生涯にわたるスポーツとの付き合い方、ひいては生涯にわたる運動習慣（健康）に影響を与えうる科目と言えます。 それだけでなく、人との関わり方や、上手く物事が進まない時の行動など、人として大事なことを学ぶ場でもあると思っています。 体育が苦手だと感じている方もいると思いますが、「体育『を』教えるより、体育『で』人を育てる」という気持ちで、臨んでいただけたらと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	児童が理解しやすい教材作りのために様々な教材作りに関わる。
情報リテラシー教育	○	児童の成長の段階に応じた授業の展開をするために、多くの資料の整理を行い適切な指導案の作成を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	小児保健演習（PA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　和香菜	指定なし

ナンバリング	P30501M12
授業概要(教育目的)	子どもの保健で学んだ知識を基に、昨今の子どもたちを取り巻く様々な環境に目を向け、保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、体調不良や傷害への適切な対応、事故防止対策や災害への備え等について講義します。これらの保健的な技術が保育現場で実践できるよう演習を行います。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・子どもの病気や健康診断について説明できる。 ・保育環境や安全対策、災害への備えについて説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	・子どもの健康に関する情報をニュースや本等から収集する。 ・積極的に授業に参加し、グループの仲間と協力する。 ・自分自身の健康状態を正しく感じとり、体調管理ができる。
技術・表現の観点（A）	・だっこやおんぶ、沐浴等の子どもの養護が適切に行える。 ・身長・体重やバイタルサインが正しく測定できる。 ・衛生的で安全な保育環境を整えることができる。 ・応急手当が正しく行える。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、乳幼児の養護（１）だっこ	オリエンテーション、本講義の内容および進め方、準備するものなどについて説明する。実際に沐浴人形をだっこして、首がすわらない乳児の安全な抱き方、寝かせ方、首がすわってからの乳児の抱き方の演習を行う。	教科書第１章を事前に読んで、子どもの健康と安全を学ぶ理由を理解しておくこと。抱っこのしかたを理解しておくこと。	120分
第2回	乳幼児の養護（２）衣服の着脱	乳児の衣服の着脱について演習を行う。 乳児・幼児の衣服の着脱においては、特に０～５ヶ月頃までの乳児の場合、衣服も特有のもので着脱にもコツがある。幼児期の衣服に関しては、子どもが着脱しやすい工夫が施してある。それらを理解しながら、保育者として着脱の方法を学び、子どもたちへの着脱の援助のしかたについても学ぶ。	教科書第５章を事前に読んで、衣服の種類や着脱のしかた、子どもへの声かけのしかたなどを理解しておくこと。	120分
第3回	乳幼児の養護（３）おむつ交換	布おむつと紙おむつについて、それぞれの特徴やかえ方のポイントをおさえておくこと。	教科書第５章を事前に読んで、布おむつのかえ方、紙おむつのかえ方、そのポイント、子どもへの声かけのしかたなどを理解しておくこと。	120分
第4回	保育における健康観察	健康状態を把握する方法を学び、体温測定のしたか等を演習する。	教科書第５章を事前に読んで、子どもの健康観察の方法について理解しておくこと。	120分

第5回	身体計測	乳幼児用体重計、乳幼児用身長計、メジャー等を用いて、人形の体重、身長、胸囲、頭囲を測定し、正しい計測方法、注意点について学ぶ。	教科書第５章を事前に読んで、身体計測を行う目的、測定方法について理解しておくこと。	120分
第6回	身体発育の評価	身体計測の結果から発育の評価方法について学び、ワークシートを用いて演習する。	教科書第５章を事前に読んで、発育の評価の方法について理解しておくこと。発育評価の結果をワークシートにまとめる。	120分
第7回	乳幼児の養護（４）沐浴	乳児の清潔を守るための方法について学ぶ。沐浴人形を使って、沐浴の演習を行う。	教科書第５章を事前に読んで、沐浴の手順について理解してから演習に臨むこと。演習を行う際の服装に気をつけること。	120分
第8回	健康診断	それぞれの健康診断を行う目的や方法について学び、結果の記入のしたかなどの演習を行う。	教科書第５章を事前に読んで、健康診断の目的、健康診断の種類や方法を理解しておくこと。	120分
第9回	子どもの体調不良への対応	乳幼児は体調を崩しやすく、特に乳児の体調不良には注意が必要である。発熱や嘔吐、下痢などのそれぞれの体調不良時の対応について学ぶ。	教科書第３章を事前に読んで、子どもが体調をくずした時の対応について理解しておくこと。	120分
第10回	子どものかかりやすい感染症	子どものかかりやすい感染症と感染症が発生したときの対応について学ぶ。	教科書第４章を事前に読んで、それぞれの感染症、感染症発生時の対応について理解しておくこと。	120分
第11回	保育における健康と安全の管理	子どもが長い時間を過ごす園の環境について学ぶ。子どもが安心・安全に生活できるような保育環境、安全対策について学ぶ。また災害への備えについて学ぶ。	教科書第２章を事前に読んで、衛生管理、安全管理、危機管理や災害への備えについて理解おくこと。	120分
第12回	応急手当（１）きずの種類と応急手当	子どもが怪我をしたときの基本的な応急手当について学ぶ。	教科書第３章を事前に読んで、子どもの怪我やその手当について理解しておくこと。	120分
第13回	応急手当（２）包帯法	止血の方法、ネット包帯の使い方、三角巾の扱い方について演習を行う。	教科書第３章を事前に読んで、止血の方法や包帯をする目的やその種類、巻き方について理解しておくこと。	240分
第14回	応急手当（３）一次救命処置	心肺蘇生法とAEDの使い方、気道異物除去について学び、演習を行う。	教科書第３章を読んで、一次救命処置の目的や手順を理解しておくこと。気道異物除去の手順を理解しておくこと。動きやすい服装で参加すること。	120分
第15回	個別の配慮を必要とする子どもへの対応、まとめと解説	食物アレルギーなど個別に配慮を必要な疾病を理解し、そのような子どもへの対応や緊急時の対応について学ぶ。アナフィラキシー対策としてエピペンの使い方の演習を行う。	教科書第５章を事前に読んで、アレルギー疾患、慢性疾患について理解しておくこと。あわせてこれまでの学びの不明点を明確にしておくこと。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の終わりに簡単な感想やわからないことを書いてもらい、毎授業開始時にコメント付きで返却します。質問等がある場合は授業中または終了後などに聞きにきてください。
評価方法	・筆記試験を行います。出題の傾向については最後の授業で説明します。 ・各々の課題の点数を合計した総合評価ですが、合格には筆記試験が６割以上できていることが条件です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		
授業への参加姿勢			○	○
課題	○			

評価割合	定期試験（60%）、授業への参加姿勢（20%）、課題（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	「これだけはおさえたい！保育者のための健康と安全」（鈴木美枝子編著、創成社）
参考図書	「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健」(鈴木美枝子編著、創成社) その他、授業時に適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保育者として乳幼児の保健、養護に関する専門的な知識を有している。 【技術・表現】体調の良くない子どもやけがをした子どもなどの状況を正しく判断し、適切な対応を行うことができる。
オフィスアワー	月曜２、３限　非常勤講師室
学生へのメッセージ	子どもの気持ちに寄り添い、子どもの健康と命を守れる保育者になるべく主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は幼稚園で養護教諭として勤務経験があり、保育者としての心構えや習得するべき子どもの健康の保持増進についての知識と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもの食と栄養		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 太田　百合子	指定なし

ナンバリング	P20501M22
授業概要(教育目的)	乳児期、幼児期、学童期、産前産後の食事、小児期の疾病の特徴と食事、児童福祉施設の給食の役割などDVD視聴や献立作成を通して実践力を身に付け、食育を行うための能力を習得するための講義をする。実習は、理論を生かした調乳、離乳食、幼児食、成人食等の調理実習を指導する。食育発表を通して実践力を身に付けるための演習指導を行う。 栄養学、調理学、食品学などの基礎的な知識や子どもの身体発育・発達を理解し、子どもに教えられる基礎を身に付けることを目指す。また、保護者に対して食生活支援ができる知識を身に付けることを目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.献立と栄養素の関連を関係づけられる。 2.子どもの発育・発達に即した要点を説明できる。 3.栄養に関する基礎知識を食育に関係づけられる。
思考・判断の観点（K）	1.現代の食生活の問題点を指摘できる。 2.子どもの病気の時の食事を理解し、それに合わせた食事内容を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.調理実習には意欲を持って積極的に行う。
技術・表現の観点（A）	1.調理では、調理器具を適宜使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	子どもの健康と食生活の意義	現代の食生活の問題点を理解する。 自分の食生活、家族の食生活などを比較し、食生活の改善点を探る。	教科書第1章P.10～19を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第2回	栄養に関する基礎知識	栄養学の基本的理論を理解する。	教科書第2章P.22～35を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第3回	栄養に関する制度	食事摂取基準の理解と献立作成の応用からバランスのとれた献立を理解する。 食中毒予防と衛生管理について理解する。	教科書第3章　P.36～46を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第4回	妊娠期と授乳期の食生活	妊娠前の食生活のありかたを理解する。 産前産後の食生活を理解する。 胎児の発育・発達と栄養を理解する。 葉酸、食物繊維の摂取基準を満たす献立作成から妊娠中の食生活を理解する。 食品添加物についてDVD視聴から理解する。	教科書第4章　P.48～59を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第5回	乳児期の食生活	乳汁栄養の種類と特徴を理解する。 調整粉乳の調乳法を理解する。 授乳と離乳食の栄養バランスを理解する。 授乳の仕方、栄養について理解する。	教科書第5章　P.62～68を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第6回	離乳期の食生活	離乳の必要性を理解する。 支援のポイントを理解する。	教科書第5章P.68～74を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分

		ベビーフードを理解する。 子どもの食べる機能の発達DVDを視聴し理解を深める。		
第7回	幼児期の食生活	食機能の発達を理解する。 食事の内容の理解と間食の意義を理解する。 保護者の食事上の問題と対応を理解する。DVDを視聴し、対応の理解を深める。 弁当の衛生管理と栄養配分を理解する。	教科書第6章　P.76～89を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第8回	学童期・思春期の食生活	身体的特徴を理解する。 肥満と痩せ、朝食欠食を理解する。 カルシウムと鉄不足を補う献立作成から理解する。 今まで経験した給食の内容、食育の思い出の情報交換を行う。	教科書第7章　P.90～104を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第9回	生涯発達と食生活	生涯発達と変化を理解する。 成人期、高齢期の健康上の課題を理解する。	教科書第8章P.106～114を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第10回	食育の基本と内容	食育がなぜ必要とされるのか理解する。 和食文化を理解する。 子どもに望ましい食育を理解する。	教科書第9章　P.117～131を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第11回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設と給食について理解する。 保育所給食の運営について理解する。	教科書第10章　P.132～143を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第12回	特別な配慮を必要とする食事と栄養（1）体調不良	体調不良の時の食事を理解する。 水分摂取について理解する。	教科書第11章　P.144～148を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）障がいのある子どもへの対応	障がいの種類や特徴を理解する。 食事摂取基準の考え方、食事形態を理解する。 DVD視聴から感想や意見をまとめる。 介助方法を身に付けるために理解する。	教科書第11章　P.148～158を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（3）食物アレルギー	食物アレルギーの定義、症状、診断方法について理解する。 食物除去の考え方を理解する。 園における食物アレルギー対応を理解する。	教科書第12章　P.161～170を読んでおくこと。	復習と予習を合わせて120分
第15回	演習：子どもの栄養評価(1)	身体発育曲線で栄養を評価することを理解する。	教科書第巻末付録P.171～184を理解しておくこと。	復習と予習を合わせて120分
第16回	演習：子どもの栄養評価（2）	身体発育曲線で栄養を評価することを理解する。	教科書巻末付録P.171～184を理解しておくこと。	復習と予習を合わせて120分
第17回	演習：調理実習　成人用献立（1）	調理器具の扱いを理解する。 調理の段取りを理解する。	りんごをウサギに切れるよう練習すること。	復習と予習を合わせて120分
第18回	演習：調理実習　成人用献立（2）	調理器具の扱いを理解する。 調理の段取りを理解する。	りんごをウサギに切れるよう練習すること。	復習と予習を合わせて120分
第19回	演習：調理実習　離乳食（1）ポトフから離乳食を作成する。	離乳食を理解する。	教科書第5章　P.67、P.71を理解しておくこと。 包丁でみじん切り、乱切りなど切り方を練習すること。	復習と予習を合わせて120分
第20回	演習：調理実習　離乳食（2）ポトフから離乳食を作成する。	離乳食を理解する。	教科書第5章　P.67、P.71を理解しておくこと。 包丁でみじん切り、乱切りなど切り方を練習すること。	復習と予習を合わせて120分
第21回	演習：調理実習　1～2歳児の幼児食、おやつ（1）	1～2歳児に適する調理を理解する。 1～2歳児のおやつを理解する。	教科書第6章　P.76～80を理解しておくこと。 おにぎりを握れるように練習すること。	復習と予習を合わせて120分
第22回	演習：調理実習　1～2歳児の幼児食、おやつ（2）	1～2歳児に適する調理を理解する。 1～2歳児のおやつを理解する。	教科書第6章　P.76～80を理解しておくこと。 おにぎりを握れるように練習すること。	復習と予習を合わせて120分
第23回	演習：調理実習　3～5歳児の弁当、おやつ（1）	衛生管理を理解する。 弁当の内容、バランスを理解する。 ３歳以上のおやつを理解する。	教科書第6章　P.82～83をよく理解しておくこと。 3歳以上に適する弁当の容量を調べて用意する。	復習と予習を合わせて120分

第24回	演習：調理実習　3～5歳児の弁当、おやつ（2）	衛生管理を理解する。 弁当の内容、バランスを理解する。 ３歳以上のおやつを理解する。	教科書第6章　P.82～83をよく理解しておくこと。 3歳以上に適する弁当の容量を調べて用意する。	復習と予習を合わせて120分
第25回	演習：食育計画制作（1）	食育を理解する。 クッキング保育計画を立てる。	教科書第9章　P.121～122をよく理解しておくこと。	復習と予習を合わせて120分
第26回	演習：食育計画制作（2）	食育を理解する。 クッキング保育計画を立てる。	教科書第9章　P.121～122をよく理解しておくこと。	復習と予習を合わせて120分
第27回	演習：行事食、郷土料理（1）	行事食、郷土料理の内容を理解する。 食育の要点を理解する。	行事、郷土産物の内容を調べてよく理解しておくこと。	復習と予習を合わせて120分
第28回	演習：行事食、郷土料理（2）	行事食、郷土料理の内容を理解する。 食育の要点を理解する。	行事、郷土産物の内容を調べてよく理解しておくこと。	復習と予習を合わせて120分
第29回	演習：栄養の理解・献立作成（1）	栄養の基礎をもとに献立の作成を通して理解する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	復習と予習を合わせて120分
第30回	演習：栄養の理解・献立作成（2）	栄養の基礎をもとに献立を作成を通して理解する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	復習と予習を合わせて120分

学習計画注記	第1～14回は対面授業。第15～30回は、演習や調理実習に取り組みレポート提出。
学生へのフィードバック方法	レポートは期限までに提出のこと。随時、採点して返却する。質問がある場合は、メールを利用のこと。
評価方法	・定期試験は、6割以上とれていること。 ・提出レポートは、文章表現などから知識や理解を評価する。各10点満点（10点学んだ知識や文献などから説明されているなどの模範解答。7-9点ほぼ完璧に説明できている。4-6点大きな間違いがなく説明できている、1-3最低限の説明ができている。） ・調理実習は、各10点満点（10点献立レシピ通りに作成され、自らの考えを述べ模範解答である。7-9点ほぼ完璧に作成され、自らの考えを述べている。4-6点大きな間違いなく作成され、自らの考えを最低限述べている。1-3点間違いもあるが最低限作成され、自らの考えを述べていない。）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	演習レポート	○	○	○	○
	学習態度	○		○	

評価割合	定期試験60%、提出レポート30%、学習態度10%による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	子どもの食と栄養　羊土社　太田百合子、堤ちはる編著（978-4-7581-0907-9）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの食に関して専門的な知識を有している。 【思考・判断】具体的、実践的な機会を通して、柔軟に対応できる力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】子どもの食の課題を理解し、専門的にかかわれる態度を身に付けている。 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。
オフィスアワー	大学のメールアドレスp20019@kasei-gakuin.ac.jpもしくはyuri256max@ezweb.ne.jp に連絡してください。
学生へのメッセージ	専門職として食生活の支援力を養うために、自分の食生活を意識して自らバランスの良い食生活をすること。日頃の食事や、食生活・健康に関心を持ち、発信される情報に注目すること。 調理実習の前には、包丁が使えること、簡単な料理が出来るよう練習しておくこと。食品や器具の取扱いや服装について衛生面安全面の配慮について事前に学習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、国立総合児童センター内の小児保健部・小児科クリニツクに30年間勤務経験がある。小児肥満改善教室、離乳食講座、広場事業、妊婦栄養相談、離乳食・幼児食栄養相談、ダウン症や自閉症等の摂食指導を行い、保育士・栄養士等キャリアアップ講師、育児雑誌監修等を生かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	保育士等として食育を行うには、知識、経験、環境などから自分の食生活を振り返る事が重要である。演習をもとに発見学習を繰り返し、今後の実習や卒後に生かせるようにする。
情報リテラシー教育	○	レポート、演習は、情報を収集する力を養う。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	野外活動論（児童と野外環境）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし

ナンバリング	P40501M21
授業概要(教育目的)	自然の中での様々な体験・遊びは、身体を通じて五感に働きかけ、幼児・児童期の子どもの心身の豊かな成長を促すものである。現代社会ではその機会が減少しており、保育所保育指針や幼稚園教育要領、小学校学習指導要領などで自然とのかかわりを充実させることの重要性が示されている。 本授業では、園や学校において身近な自然を活用した自然体験活動（キャンプ）を効果的にかつ安全に指導するための知識技術を修得することを目的とし、自然体験活動（キャンプ）に関連する基本的な理論を取り扱う。
履修条件	希望者は、本授業の単位取得（ただし、*印がついた授業回への出席が必須）、および「自然体験活動演習Ⅰ」の単位取得により、公益社団法人日本キャンプ協会が発行する「キャンプインストラクター」の資格を取得することができます。詳細は初回授業で説明をします。 （資格を申請する場合は、別途登録費用（13300円+テキスト代2200円）が必要となります。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）の意義や効果について説明できる。
思考・判断の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）を取り巻く現状と現代社会における課題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティに対して積極的に関与することができる。
技術・表現の観点（A）	保育・教育に自然体験活動（キャンプ）を積極的に取り入れることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 過去の自然体験から学ぶ （佐藤・末松）（*）	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、過去に経験した自然体験活動の記憶を想起し、自然体験による教育効果について考察する。	自分自身の最も印象的な自然体験活動のエピソードについてまとめる。	60分
第2回	自然体験活動の意義：非認知能力の育ち （佐藤） （*）	自然体験活動が子どもに与える影響について、自己との繋がり、他者との繋がり、自然との繋がりの観点から理解する。	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、非認知能力への影響について考察を深める。	60分
第3回	自然体験活動の意義：認知能力の育ち （末松）	自然体験活動が学力や教科の学習観に与える影響について学ぶ。	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、認知能力への影響について考察を深める。	60分
第4回	野外教育の	自然体験活動を教育の手段として用いる「野外教育」に	文化による自然観の違いを整理	60分

	歴史的背景（佐藤）	ついて取り上げ、子どもの教育に野外活動が活用されるようになった国内外の文化的背景について知り、その歴史、変遷を理解する。	し、自分自身の体験と絡めながら考察する。	
第5回	日本の保育における自然体験（末松）	日本の保育に自然体験が取り入れられてきた歴史や現行の制度を学び、保育における自然体験教育の現状を理解する。	戦前～現代の保育における自然体験に関する文献に目を通し、当時の保育における自然体験の意味を考察する。	60分
第6回	日常の保育活動の中で行われる自然体験（1）（末松）	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、「園の中」で行われる活動について理解する。	事例から、子どもの認知能力や非認知能力の発達に寄与する体験についてまとめる。	60分
第7回	日常の保育活動の中で行われる自然体験（2）（末松）	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、散歩や遠足など「園の外」で行われる活動について理解する。	散歩・遠足を通した学びの内容や、日々の保育や子どもの姿と散歩・遠足との関係についてまとめる。	60分
第8回	デンマーク、ドイツ、日本における森のようちえん（末松）	幼児を対象とした野外活動である「森のようちえん」活動について、その概要や国内外での発展の歴史と現状を知るとともに、幼稚園教育における意義について理解する。	森のようちえん全国ネットワークの団体会員一覧の中から、選択した団体の保育の特徴をまとめる。	60分
第9回	自然体験活動の指導（1）（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）における指導者の役割や、求められる資質能力を理解する。	これまでの自身の経験をふりかえり、自分自身に肯定的な影響を与えた指導者の行動、態度などについてまとめる。	60分
第10回	自然体験活動の指導（2）（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）の指導において重要な「キャンプカウンセリング」について、その考え方を学ぶ。	キャンプカウンセリング的なかかわり方について整理し、事例に対する対応について考える。	60分
第11回	自然環境と環境配慮（佐藤）（*）	自然体験活動の活動フィールドである自然環境について、基本的な知識と、環境を破壊しないために配慮すべき点について学ぶ。また、植物の同定に必要な知識を学び、危険植物の判別や自然解説に必要な知識を身につける。	自然環境下で活動する上で注意が必要な危険植物について調べ、その特徴をまとめる。	60分
第12回	自然体験活動（キャンプ）のプログラム（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）の一つの実施形態である「組織キャンプ」について、その概要や、プログラムの立案に必要な知識を修得するとともに、指導者の役割分担とそれぞれの役割について理解する。	キャンプで実施されるアクティビティについて調べ、それぞれの活動がもたらしうる効果について整理する。	60分
第13回	環境教育プログラム（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。	子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	60分
第14回	自然体験活動（キャンプ）における安全管理（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）に潜むリスク要因について学び、具体的な事故事例等から配慮すべき点について理解する。	実際に森の中を歩いた際に発見したリスクについてまとめる。	60分
第15回	安全な自然体験活動（キャンプ）に向けて全体のまとめ（佐藤・末松）（*）	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってはスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	各回で提出された小レポートに対するフィードバックを、次回授業内において回答します。
評価方法	・毎授業後の小レポート　75点（5点×15回） ・学期末レポート　10点 ・平常点　15点
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	
平常点	○	○	○	○

評価割合	毎授業後の小レポート（75%）、学期末レポート（10%）、平常点（15%）
参考図書	日本キャンプ協会『キャンプ指導者入門』（第5版） （※日本キャンプ協会発行資格（キャンプインストラクター）を申請予定の方は購入して頂く必要があります。(税込み2200円、初回授業時に希望調査)）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。 しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。 保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティや安全管理のトレーニングについては、実際にキャンパス内の森に出向いて体験的に学んでいただきたいと思います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	自然体験活動論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし

ナンバリング	P40501M21
授業概要(教育目的)	自然の中での様々な体験・遊びは、身体を通じて五感に働きかけ、幼児・児童期の子どもの心身の豊かな成長を促すものである。現代社会ではその機会が減少しており、保育所保育指針や幼稚園教育要領、小学校学習指導要領などで自然とのかかわりを充実させることの重要性が示されている。 本授業では、園や学校において身近な自然を活用した自然体験活動（キャンプ）を効果的にかつ安全に指導するための知識技術を修得することを目的とし、自然体験活動（キャンプ）に関連する基本的な理論を取り扱う。
履修条件	希望者は、本授業の単位取得（ただし、*印がついた授業回への出席が必須）、および「自然体験活動演習Ⅰ」の単位取得により、公益社団法人日本キャンプ協会が発行する「キャンプインストラクター」の資格を取得することができます。詳細は初回授業で説明をします。 （資格を申請する場合は、別途登録費用（13300円+テキスト代2200円）が必要となります。）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）の意義や効果について説明できる。
思考・判断の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）を取り巻く現状と現代社会における課題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティに対して積極的に関与することができる。
技術・表現の観点（A）	保育・教育に自然体験活動（キャンプ）を積極的に取り入れることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 過去の自然体験から学ぶ （佐藤・末松）（*）	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、過去に経験した自然体験活動の記憶を想起し、自然体験による教育効果について考察する。	自分自身の最も印象的な自然体験活動のエピソードについてまとめる。	60分
第2回	自然体験活動の意義：非認知能力の育ち （佐藤） （*）	自然体験活動が子どもに与える影響について、自己との繋がり、他者との繋がり、自然との繋がりの観点から理解する。	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、非認知能力への影響について考察を深める。	60分
第3回	自然体験活動の意義：認知能力の育ち （末松）	自然体験活動が学力や教科の学習観に与える影響について学ぶ。	自分自身の自然体験活動の経験を振り返り、認知能力への影響について考察を深める。	60分
第4回	野外教育の	自然体験活動を教育の手段として用いる「野外教育」に	文化による自然観の違いを整理	60分

	歴史的背景（佐藤）	ついて取り上げ、子どもの教育に野外活動が活用されるようになった国内外の文化的背景について知り、その歴史、変遷を理解する。	し、自分自身の体験と絡めながら考察する。	
第5回	日本の保育における自然体験（末松）	日本の保育に自然体験が取り入れられてきた歴史や現行の制度を学び、保育における自然体験教育の現状を理解する。	戦前～現代の保育における自然体験に関する文献に目を通し、当時の保育における自然体験の意味を考察する。	60分
第6回	日常の保育活動の中で行われる自然体験（1）（末松）	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、「園の中」で行われる活動について理解する。	事例から、子どもの認知能力や非認知能力の発達に寄与する体験についてまとめる。	60分
第7回	日常の保育活動の中で行われる自然体験（2）（末松）	日常の保育活動の中で実践される自然体験から、散歩や遠足など「園の外」で行われる活動について理解する。	散歩・遠足を通した学びの内容や、日々の保育や子どもの姿と散歩・遠足との関係についてまとめる。	60分
第8回	デンマーク、ドイツ、日本における森のようちえん（末松）	幼児を対象とした野外活動である「森のようちえん」活動について、その概要や国内外での発展の歴史と現状を知るとともに、幼稚園教育における意義について理解する。	森のようちえん全国ネットワークの団体会員一覧の中から、選択した団体の保育の特徴をまとめる。	60分
第9回	自然体験活動の指導（1）（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）における指導者の役割や、求められる資質能力を理解する。	これまでの自身の経験をふりかえり、自分自身に肯定的な影響を与えた指導者の行動、態度などについてまとめる。	60分
第10回	自然体験活動の指導（2）（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）の指導において重要な「キャンプカウンセリング」について、その考え方を学ぶ。	キャンプカウンセリング的なかかわり方について整理し、事例に対する対応について考える。	60分
第11回	自然環境と環境配慮（佐藤）（*）	自然体験活動の活動フィールドである自然環境について、基本的な知識と、環境を破壊しないために配慮すべき点について学ぶ。また、植物の同定に必要な知識を学び、危険植物の判別や自然解説に必要な知識を身につける。	自然環境下で活動する上で注意が必要な危険植物について調べ、その特徴をまとめる。	60分
第12回	自然体験活動（キャンプ）のプログラム（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）の一つの実施形態である「組織キャンプ」について、その概要や、プログラムの立案に必要な知識を修得するとともに、指導者の役割分担とそれぞれの役割について理解する。	キャンプで実施されるアクティビティについて調べ、それぞれの活動がもたらしうる効果について整理する。	60分
第13回	環境教育プログラム（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。	子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	60分
第14回	自然体験活動（キャンプ）における安全管理（佐藤）（*）	自然体験活動（キャンプ）に潜むリスク要因について学び、具体的な事故事例等から配慮すべき点について理解する。	実際に森の中を歩いた際に発見したリスクについてまとめる。	60分
第15回	安全な自然体験活動（キャンプ）に向けて全体のまとめ（佐藤・末松）（*）	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。	自然体験活動（キャンプ）を安全に運営するための知識や技術（自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等）を学ぶ。	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってはスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	各回で提出された小レポートに対するフィードバックを、次回授業内において回答します。
評価方法	・毎授業後の小レポート　75点（5点×15回） ・学期末レポート　10点 ・平常点　15点
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小レポート	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	
平常点	○	○	○	○

評価割合	毎授業後の小レポート（75%）、学期末レポート（10%）、平常点（15%）
参考図書	日本キャンプ協会『キャンプ指導者入門』（第5版） （※日本キャンプ協会発行資格（キャンプインストラクター）を申請予定の方は購入して頂く必要があります。(税込み2200円、初回授業時に希望調査)）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。 しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。 保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自然体験活動（キャンプ）で扱うアクティビティや安全管理のトレーニングについては、実際にキャンパス内の森に出向いて体験的に学んでいただきたいと思います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童とことば		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし

ナンバリング	P30601M21
授業概要(教育目的)	児童期の子どもの言葉の発達を理解し、その時期の言語生活を豊かにするための具体的な環境や方法について伝える。 また、幼児期からの繋がりを意識した上で、小学校以降の教科学習をしていくための基礎としての言葉についても考えていくようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解する。 ・1次的言葉から2次的言葉への移行について理解する。
思考・判断の観点（K）	・児童期の子どもの言葉の課題をみつけ、解決していく態度を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	・児童期の子どもが置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。
技術・表現の観点（A）	・言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。 ・話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの実践的な指導力を身に付ける。

学習計画

児童とことば

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは何か、ということを講義形式で学習する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第2回	日常生活における児童期の言葉	日常生活における児童期の言葉について、事例を用いながら講義形式とグループワークを組み合わせて学習する。	グループワークの内容をまとめながら復習を行う。	90分
第3回	1次的言葉と2次的言葉	1次的言葉と2次的言葉について、資料と具体的事例をもとに理解する。またその獲得が、児童の生活にどのように影響するのかということについて考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 言葉の発達に遅れのある子どもの事例を実習日誌などから拾い上げ次回の予習をしておく。	90分
第4回	言葉の発達が気になる児童に対する支援	言葉の発達が気になる児童に対する支援について、具体的事例をもとにその実際を考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第5回	伝え合う力を高めると	伝え合う力を高める実践について講義形式とグループワークにより理解する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分

	は			
第6回	思考力や想像力を養うとは	言葉によって思考力や想像力を養うことについて理解し、その具体的実践について学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第7回	文字・語句・表記に関する事項	文字・語句・表記に関する事項について、児童期の言語発達の視点から学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第8回	話すこと・聞くこと	児童期の話すこと・聞くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 子ども時代に書いた文字などが残っていれば、探して用意しておく（次回の予習）	90分
第9回	読むこと・書くこと	児童期の読むこと・書くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第10回	児童期の言語感覚を養う実践	児童期の言語感覚を養う実践について、講義とグループワークにより学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 図書館等で『ごんぎつね』の本を探して読んでおく（予習）	90分
第11回	言語活動の展開１	『ごんぎつね』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 図書館等で『スーホの白い馬』の本を探して読んでおく（予習）	90分
第12回	言語活動の展開２	『スーホの白い馬』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 図書館等で『モチモチの木』の本を探して読んでおく（予習）	90分
第13回	言語活動の展開３	『モチモチの木』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。 図書館等で『注文の多い料理店』の本を探して読んでおく（予習）	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第14回	言語活動の展開４	『注文の多い料理店』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第15回	児童の言葉をはぐくむ読書の指導について	児童期の読書活動について、具体的事例を取り上げながら考察する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。 これまでの授業で学んだことをまとめておく。	90分

学習計画注記	テキストは使用しないが、適宜プリントを配布する。ワークシートの形式の部分は、授業後に復習を兼ねて完成させ、ファイルに綴じておく。定期試験の前には、その資料をもとに準備すること。
学生へのフィードバック方法	授業の質問、感想、要望を受け付ける。毎回それに対してのフィードバックを行う。 指導案など提出したものは添削、助言をして返却する。
評価方法	平常点（50%）、定期試験（50%） （平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点（50%）、定期試験（50%） （平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	『のはらうたⅠ』工藤直子　童話屋
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解できている。 【思考・判断】児童期の子どもの言葉の課題をみつけ、解決していく態度を養う。 【関心・意欲・態度】児童期の子どもが置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。 【技能・表現】言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。
オフィスアワー	月曜２限から４限
学生へのメッセージ	言葉に関する自分自身の感性を豊かにするために、日頃から言葉の楽しさや美しさを意識して、授業に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラ	○	言語活動の展開は、グループワークを取り入れ、教員と学生、学生同士の双方向のやりとりを行う。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	先行研究などを収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けた上で、信頼性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の言語活動の展開をパワーポイントなどにまとめて発表し、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	音楽実技Ｂ（金3）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし
非常勤講師	渡邉　有里香	指定なし
非常勤講師	久田　由紀子	指定なし
非常勤講師	佐藤　くみ	指定なし
非常勤講師	武内　貴久子	指定なし

ナンバリング	P20601M12
授業概要(教育目的)	児童と音楽Aで習得した演奏技術を基礎に、乳幼児・児童を対象とした弾き歌いの課題曲を扱う。乳幼児・児童が生き生きと音楽活動を楽しみ、感性を育むことができるような歌唱・ピアノ伴奏についての演習を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	子どもの歌における伴奏の役割を理解している。
思考・判断の観点（K）	子どもの動きに合わせ、即興的に伴奏を工夫することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	他者の表現の工夫を学び、自分の演奏に生かすことができる。
技術・表現の観点（A）	簡易伴奏を考えたり、子どもの声域に合わせた伴奏を考えたりできるような、実践的な力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	本講義のねらい、講義の進め方の説明とクラス分け	児童と音楽Aで習得した曲を復習しておく。	90分
第2回	春のうた①	ぶんぶんぶん、チューリップ　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第3回	春のうた②	めだかのがっこう、ことりのうた　など。	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第4回	夏のうた①	しゃぼんだま、うみ　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第5回	夏のうた②	たなばたさま、あめふりくまのこ　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第6回	秋のうた①	とんぼのめがね、まつぼっくり　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第7回	秋のうた②	どんぐりころころ　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第8回	冬のうた①	ジングルベル、あわてんぼうのサンタクロース　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第9回	冬のうた②	お正月、こぎつね　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第10回	みんなのうた①	さんぽ	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第11回	みんなのうた②	おかあさん、とけいのうた　など	課題曲の譜読み・個人練習習	90分

第12回	みんなのうた③	思い出のアルバム　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第13回	動物のうた①	アイアイ　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第14回	動物のうた②	ぞうさん　など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第15回	発表と自己評価	発表と鑑賞、講義を振り返り、自己評価を行う。	発表会用の弾き歌いを練習する。	90分
第16回				

学習計画注記	１クラスを４つのグループに分け、４人の講師が順に個人レッスンを行います。最初の講義において、グループ分けをします。学習計画に具体的な曲名をあげていますが、各自の技術、進度に合わせて課題曲を選定します。
学生へのフィードバック方法	リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。その他質問事項があれば専任教員の吉永がお答えします。
評価方法	リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には発表会を予定しています。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リフレクションシート	○		○	
	課題の進捗状況		○	○	○
	発表		○		○

評価割合	リフレクションシート（４０%）、課題の進捗状況（３０%）、発表会（３０%）で評価する。参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	島田和昭・高倉秋子 編（1998）『うたってひいて童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社
参考図書	各自の進度に応じて、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもの文化をとしての、楽譜の読み方、基本的な音楽理論の習得。 【思考・判断】 子どもの状況に合わせて、弾き歌いをすることができる。 【関心・意欲・態度】 保育者・小学校教諭として身につけておきたい弾き歌い曲について、豊かなレパートリーを有している。 【技能・表現】 子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。
オフィスアワー	吉永をお訪ねください。 前期：月曜日　３限　1601 後期：水曜日　２限　1601
学生へのメッセージ	予習復習および自己練習の時間を毎日確保して、表現技術の向上に努めてください。 ピアノ伴奏の練習をする前に、まずその曲の詩を味わい、よく歌えるようにしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童と身体表現		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 荒金　幸子	指定なし

ナンバリング	P20602M12
授業概要(教育目的)	身体表現の楽しさを共有し、これからの子どもたちにとって本当に求められているものは何かを考えながら、指導者として持つべき資質・能力（洞察力、コミュニケーション力、人間力、等を含む実践的指導力）を培っていくことを目的とする。 子どもの健康教室、子育て教室の指導経験をもとに「楽しく体を動かそう」をテーマとし、子どもたちと楽しむことができる身体活動を共有しながら、指導者としての技術の習得を目指す。
履修条件	・上手、下手を気にせず、子どもの心で楽しくからだを動かしてみようと思う人。 ・安全面、衛生面を考えた身支度（運動着、体育館履き含む）で参加できる人。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	子どもにとっての身体活動の意義が理解できる。
思考・判断の観点（K）	子どものからだの発育発達にあった工夫と指導法について、自らの実践体験を通して理解できるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	グループワークにも積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	自らの身体活動の向上にむけ、動きを楽しみながら表現するとができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	からだほぐしの運動	自らのからだの使い方や動きのクセを知り、からだを正しく動かす方法を身につける。	ケガをしないように、からだ整え準備をしておくこと。 疲労を感じられる部分をしっかりケアしておくこと。	45分
第2回	保護者と（子ども同士でも）できるコミュニケーション遊び	現場ですぐに実践できるコミュニケーション遊びを紹介し、体験する。	今まで、自分自身が体験してきたコミュニケーション遊びをあげておくこと。 コミュニケーション遊びを記録に残しておくこと。	45分
第3回	自分の動きを見直そう	日常生活の中では動かしきれない「からだの使い方」を学び、必要性を理解する。	巧緻性とは、巧緻性を高める運動とは何かを調べておくこと。 からだを器用に動かす練習をしておくこと。	45分
第4回	動きに慣れよう	いろいろな動きを体験し実践しながら身につけていく。	からだを動かす練習をしておくこと。 いろいろな動きに慣れるよう練習をしておくこと。	45分
第5回	動きを楽しもう	自分のイメージ通りに、からだを動かすことができるようになる過程を楽しむ。	からだを動かす時間を持つようにしておくこと。 疲労が長く残らないように体のケアをしておくこと。	45分

第6回	ボール遊びを考えよう	ボールの特性を理解する。 ボールをいかした動きを体験する。	ボールに慣れておくこと。 ボール特性をいかした遊び、動かし方を考えておくこと。	45分
第7回	縄跳びを工夫しよう	縄の活用法、跳び方、動かし方等ひと工夫した動きを体験する。	縄に慣れておくこと。 縄の特性をいかした跳び方、動かし方を考えておくこと。	45分
第8回	身近な用具で運動遊びを考えよう	すぐに活用できる用具を利用した運動遊びを体験する。 自ら用具の使い方を工夫し提案する。	身近にある用具で利用できそうな物をあげておくこと。 他者の提案した遊びを記録に残しておくこと。	45分
第9回	運動会作品にチャレンジしよう	運動会作品（身体表現）を実践する。 上手、下手を考えずにチャレンジする。	からだを動かし体調の確認をしておくこと。 疲労回復できる体のケア等を行なっておくこと。	45分
第10回	運動会作品を工夫しよう	グループで運動会作品を創作する。 動き、隊形など運動会をイメージして工夫する。	子どもたちをイメージした表現方法を考えておくこと。 仲間の提案した動きや隊形等、創作に必要なことをまとめておくこと。	45分
第11回	運動会作品を発表しよう	グループで創作した運動会作品を発表する。 各グループの表現を楽しむ。	発表に必要な事項をグループごと確認しておくこと。 自ら楽しむことができたか、創作から発表までの振り返りをしておくこと。	45分
第12回	体操・ダンスの指導法	号令と動きについて 心地よく動くため、動かせるために必要なことを体験し理解する。	号令とは何か調べておくこと。 動きに合わせた号令のかけ方を練習をしておくこと。	45分
第13回	体操・ダンスの指導法	姿勢と示範について 正しい姿勢とは、示範に必要なことは何かを体験し理解する。	正しい姿勢、良い姿勢とは何か調べておくこと。 示範について理解を深めておくこと。	45分
第14回	笑顔の素敵な先生を目指して	指導実践の中で、指導上の留意点を明確にし理解する。	子どもたちを前にして指導する場合、指導上配慮することをあげておくこと。 指導者として表現できたか、自分自身で振り返りをしておくこと。	45分
第15回	楽しくからだを動かそう	まとめ 専門的リーダーシップをもつ指導者に必要なことを理解する。	リーダーシップとは何かを調べておくこと。 からだを動かすことを楽しむことができるようになったか自己評価をしておくこと。	45分

学習計画注記	環境、状況により学習内容が前後することがある。
学生へのフィードバック方法	授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
評価方法	指導者の前に、人間として成長していくため自らが自主性や自発性をもち、いろいろな課題に取り組みながら、新しい能力を修得することができたか総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート	○		○	
実技	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合	レポート等提出物（30%） グループ・ワーク、実技テスト、授業への取り組み方（積極的性、協調性、安全性）を（70%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし 必要に応じて資料を配布する。
参考図書	教育技術MOOK　よくわかるDVDシリーズ みんなで踊ろう！運動会の表現ダンス（小学館）　他
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】実践的なプログラムを通して、その必要性を理解し自らの成長を高めている。 【関心・意欲・態度】何事もチャレンジする姿勢をもち、自分自身の可能性を広げている。
学生へのメッセージ	からだを動かすことが大好きな子どもたちの輪を広げるリーダー（指導者）を目指します。 自らを変革していく姿勢を大切に、身体表現を通じて学びを深めましょう。 身体表現に苦手意識があっても「楽しく体を動かそう」とする意欲があれば遠慮せずに履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現在も担当教員が、子育て教室・子どもの健康教室において実践指導している内容を体験させ、その指導方法を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	既存の運動会作品（担当教員オリジナル振付）をグループに分け、創作から発表までの展開方法を伝えている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと造形		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし

ナンバリング	P20603M12
授業概要(教育目的)	子どもの心身の発達に伴う造形表現の変容を知り、指導の内容と方法について体験的に学ぶ。「生活や遊び」から表したいことを見付ける題材、「形や色」を言葉のように使って表し伝える喜びを味わう活動、子どもの「感覚や感性」を生かす環境や言葉掛けなど、実践的な事例を体験しながら理解を深める。また、さまざまな造形表現の演習を通して、素材の具体的な特徴や出会い方、子どもの表現に適した「材料・用具」に関する知識と技能を身につけ、今日の教育的課題を解決する応用力・指導力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 幼児期における造形表現の特徴と発達の関連、活動の意義や価値について、基礎的な事項を説明できる。 2. 幼児の造形活動に適した内容や教材・用具の使用方法に関する基礎的な知識をもち、説明できる。
思考・判断の観点（K）	幼児の発達や個性を理解する視点をもち、個に応じた支援・指導の展開方法を検討できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	幼児が親しむ遊びや造形文化に関心をもち、子どもらしく個性的な感性を育む視点を説明できる。
技術・表現の観点（A）	身近な生活や遊びに関連づけた造形活動に導入・展開する基本的技能を活用し、具体的な活動を運ぶ要件を説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1. 子どもの造形表現と保育の意義	今日の社会や造形文化と子どもの造形表現の関連を知り、保育における位置づけや意義を理解する。	親しみのある造形文化の概要を把握し、幼児の造形表現と生活の関連を整理しておくこと。	45分
第2回	「形や色」に触れる出会い	生活や遊びにある「形や色」に触れる大切さを知り、造形活動を展開する実践的方法を理解する。	生活にある「形や色」について考え、造形活動を開発・展開する事例を調査しておく。	45分
第3回	「描画材や用具」に触れる出会い	幼児が造形表現に用いる描画材や用具の特徴について、基礎的な知識と基本的な技能を体験的に理解する。	造形表現に用いる材料や用具の活用に係る事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。	45分
第4回	「身近な材料」に触れる出会い	身近な自然材料や人工材料の種類や特徴及び活用方法について、体験的に理解する。	身近な生活にある自然材料を中心に活用事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。	45分
第5回	子どもの育ちと造形表現	幼児期から児童期に至る心身や認識の発達と造形表現の特徴を知り、支援の方法や観点を体験的に理解する。	幼児期の発達や成長の特徴について整理しておく。	45分
第6回	さまざまな表し方と活用（１）技法や行為から	幼児の造形活動に適した表現技法や遊びを生かした表現行為について体験的に理解する。	幼児期の造形活動について技法や行為を生かした事例を調べておく。	45分

第7回	さまざまな表し方と活用（２）感覚や認識から	幼児の造形表現を支える身体感覚や認識の特徴を知り、造形活動に導く意義や具体的な方法を体験的に理解する。	幼児の成長に伴う感覚や認識の発達について、参考資料を基に特徴を整理しておく。	45分
第8回	季節を感じる表現と壁面装飾	季節感を基に発想する造形表現の意味や材料特徴の生かし方を知り、楽しい壁面装飾と環境づくりを体験的に理解する。	季節感を大切にした造形活動や材料の事例を調べ、活動構成に求められる観点を整理しておく。	45分
第9回	遊びから生まれる造形表現	材料の特徴を味わう遊びや気付きを生かした造形表現の内容や環境づくりについて体験的に理解する。	幼児の遊びにある感覚や認識の働きについて年齢を基に基礎的な事項を整理しておく。	45分
第10回	人とつながる造形表現	協働性や社会性を重視する造形表現について意義や価値を知り、具体的な展開方法について体験的に理解する。	幼児のコミュニケーション能力を生かす造形活動の内容や展開について事例をあげ、特徴を整理しておく。	45分
第11回	からだで生みだす造形表現	身体の動きや感覚を生かした造形表現の意義や内容を知り、知覚や認識をつなげる造形活動の展開について体験的に理解する。	日常生活の中で働く幼児の運動感覚や身体感覚について具体的場面の特徴を整理しておく。	45分
第12回	かたまりから生まれる造形表現	粘土の種類や特徴の違いを知り、かたまりの中から発想を広げる造形表現の可能性について体験的に理解する。	紙粘土や土粘土の特徴を生かした幼児の表現について事例をあげ、支援する観点を整理しておく。	45分
第13回	語り継がれるお話づくり（１）構想と制作	幼児に適した創作物語を構想するグループの話し合いを通して物語文化に触れ、楽しく表現するための要件について体験的に理解する。タブレット型PCを活用したビジュアル・コミュニケーションや構想プロセスを体験的に理解する。	パネルシアターやエプロンシアターなどの実践事例をあげ、物語の創作・演技の意義・目的を整理しておく。	45分
第14回	語り継がれるお話づくり（２）制作と演じ方	グループで構想した創作物語を保育者が演技する際の「材料の活用」や「演じ方」について体験的に理解する。	幼児の興味・関心を高める物語の演じ方や材料の活用について事例をあげ、工夫点を整理しておく。	45分
第15回	物語表現の発表・まとめ	グループで創作した物語を相互鑑賞し改善点や工夫点を協議することを通して、物語的表現のよさや違い、幼児の発達・成長に果たす役割を体験的に理解する。各演習で習得した知識や技能について総合的に振返る対話を基に、子どもと造形表現の関係や支援環境の要件を理解する。	これまでの造形体験や討論を振返り、造形的な表現活動に求められる知識・技能について資料を基に整理する。 各演習で体験した内容を基に、実践的な造形活動の構想・計画し、子どもの発達に寄与する意義を考察するレポートを提出する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。 毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。
評価方法	・毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 ・全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート（1200~1600字程度）の提出を学期末に求める。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ドキュメントシート	○	○	○	
	小論レポート	○	○		
	演習・グループディスカッション			○	○

評価割合	平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし（毎回の授業にて適宜資料を配布する）
参考図書	文部科学省『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』フレーベル館、2018年（ISBN：9784577814475）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもをとりまく生活や遊びの視点を通して、児童学を構成する領域を総合的に理解し、子どもの造形表現の特徴と発達の関連など、専門的な知識を有している。 【思考・判断】幼児期における造形表現の特徴に適した具体的・実践的な造形活動の展開について考察・検討し、討論する方略を有し、家族・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション力・感性を備えている。 【技能・表現】造形活動を開発・展開する基礎的な技能や表現力を有し、理論と実践の融合を図ることを通して、子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	金曜3限　1629研究室
学生へのメッセージ	「つくる・みる・つたえる」ことに関心をもって、演習に取り組むこと。 自らつくる楽しさを味わうことが、子どもに表現の喜びを知らせることにつながる。 そのため、身近な材料や自然、地域と文化に興味をもち、造形表現やデザインへの意識を広げることが望ましい。 学んだ成果やエピソードは、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教員として教育現場に従事した経験をもち、文部科学省検定教科書の編修代表として題材開発や教材開発に携わる。文部科学省の学習資料作成委員として学習指導要領に準拠する教育内容の普及に努める一方、幼稚園・小学校の現職教員の研修、社会的教育機関や企業との連携を生かし、今日的課題に応じた学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	演習では個人の活動と協働的学習の両立を目指し、自他の対話を通した対話的で実感的な理解を主に授業を構成する。
情報リテラシー教育	○	教育現場で実践されている具体的な事例を授業前後に参照することを通して、webコンテンツや検索スキルを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCをグループディスカッションや造形表現の構想プロセス等で活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育表現技術		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし

ナンバリング	P10604M12
授業概要(教育目的)	「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解するために、保育者・教育者に不可欠な情報伝達能力とコミュニケーション能力の開発を目指す。 「伝わる」ように伝える方法を各自が自主的に考え、課題を通して実践的に表現力を身につけることを目標とする。 グループ単位のワークショップ形式授業では、グループメンバーの多様性を尊重して独創的で創造力豊かな表現方法を習得することを目的とする。そのうえで「他者が発信する情報の読み取り方」「自身が発信したい情報の伝え方」までを学習することを目指します。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・正しい日本語と友達同士の会話を臨機応変に使い分けることができる。 ・情報リテラシーを理解したうえで、最新の情報機器を効果的に使い表現することができる。 ・保育者、教育者として常に社会情勢に関心を持ち、それについて学び、考え、自分の意見を述べることができる。 ・防災知識や災害時の的確な情報伝達能力を身につける。
思考・判断の観点（K）	・子どもの視点に立ち思考を共有したうえで、様々な課題に実践的に取り組み解決することができる。 ・年齢を問わず様々な人と相互理解できるコミュニケ―ション能力を有し、柔軟に対応する判断力を持つ。
関心・意欲・態度の観点（V）	・授業内容に関心を持ち、積極的に能動的に参加し表現力豊かに情報発信ができる。 ・グループワークではメンバーの多様性を認め、それぞれが能力を発揮するチーム作りができる。
技術・表現の観点（A）	・理論 と実践の融合を図り、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身に着けている。 ・「伝わるように伝える」ために、明瞭で良く通る声を持つ。 ・言葉だけではなく全身を使って情報発信をすることができるスキルを持つ。 ・書く、読む、話す、演じるの基本的なスキルを身に着け、演出力や表現力を十分に発揮することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	情報伝達技術１	・全員の前で、各自がマイクを使って自己紹介 ・印象的なフレーズや全身で自己表現する技術を授業で身につけるための第一歩とする	・自宅やアルバイト先などで他人が自分をどう見ているかをリサーチ ・他人が自分に対して持つイメージを確認し自己イメージとのギャップを確認 ・自己イメージを投影したオリジナル名刺を作成（提出）	120分
第2回	情報伝達技術２―①　各自の体験を言語化をして表現	・第1回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・「ある日の私」をテーマに2分程度のスピーチをする	スピーチ原稿の作成	120分

	する力を身につける			
第3回	情報伝達技術２―② 他者の体験を理解し評価する	・第２回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・「ある日の私」をテーマに書かれた他者のスピーチを聞き、印象的な部分や興味深い部分など評価してメモをとる	・発声・滑舌の自習 ・評価メモの作成	30分
第4回	表現技術１―① グループで朗読劇上演構想と推敲	・第３回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・グループに分かれ課題童話を朗読劇にする。上演のための脚本を作成し演出を考える	・脚本案作成と推敲→決定稿作成 ・演出に合わせた衣装など準備 ・発声・滑舌の自習	120分
第5回	表現技術２―② グループで朗読劇上演と評価	・第４回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・グループごとに朗読劇上演　他グループの上演を見て評価する ・作成し脚本の提出	・発生と滑舌の自習 ・脚本をもとにグループでリハーサル　衣装や小道具準備	90分
第6回	読み聞かせ基礎１ 基礎的な朗読技術習得	・第５回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・具体的な文章を使って、意味の取り方・強調の方法・読むスピードの演出的効果などを学ぶ	・発声・滑舌の自習	20分
第7回	読み聞かせ基礎２ 聴衆を巻き込む朗読技術取得	・第６回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・グループに分かれて童話の朗読　　メンバーの声質・雰囲気ほかで配役を決める　間の取り方や強調に注意して表現力を磨く	・発声・滑舌の自習 ・朗読のための下読み	30分
第8回	保育教材研究１ 創作童話を書く	・第７回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・課題絵画を見てイメージことを基に創作童話を書く	・発声と滑舌の自習 ・創作童話の推敲・清書	120分
第9回	保育教材研究２ 自分で書いた創作童話を朗読	・第８回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・各自が書いた同作童話を朗読	・発声と滑舌の自習 ・創作童話の推敲と朗読のための下読み	120分
第10回	情報伝達技術 言葉だけに頼らない情報収集と情報伝達手法「持ち物展覧会」開催	・第９回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・ペアを組んでお互いの持ち物に関する情報を収集 　机の上に相手の人柄や生活態度などを表現するコピーを添えてお互いに品物を展示をする 　全員で展示内容・方法の評価をつける	・発声と滑舌の自習 ・「持ち物展覧会」の記録と評価メモの作成	30分
第11回	読み聞かせ応用編 一人で好きな詩を朗読	・第１０回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・課題として10篇の詩を配布　自分の声や気分にあった作品を選び朗読 　自己評価と他者評価をする	・発声と滑舌の自習 ・朗読の下読み ・朗読の自己評価メモ作成	60分
第12回	演出技術１ 創作朗読劇を作る	・第11回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・創作朗読劇上演のために、各自で課題童話の「続編」を書き創作童話を作る	・発声と滑舌の自習 ・課題童話の朗読下読みと執筆	120分
第13回	演出技術２ 創作朗読劇における脚本演出の工夫	・第１２回：発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・グループでのワークショップ形式授業 　各自が書いた創作童話を参考にしながら、グループごとに脚本作成 　観客を楽しく巻き込める演出を工夫する 　チームリーダを決めて配役を決める 　それにまつわる衣装・小道具・メイク・音響などの役割分担	・発生と滑舌の自習 ・創作朗読劇に脚本推敲と清書。衣装・メイク・音響効果など準備 ・上演に向けてのリハーサル	180分
第14回	演出技術３ 創作朗読劇発表と最新情報機器の演出的利用の工夫	・第１３回：発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・グループごとに創作朗読劇上演　脚本・演出（情報機器利用を含む）に関しての評価 ・グループ単位で脚本提出	・発声と滑舌の自習 ・創作朗読劇上演に向けてのリハーサル ・上演後の評価メモ作成	120分
第15回	インタビューのテクニックと情報処理技術	・第１４回発声と滑舌の基本練習　全員で詩の朗読 ・ペアを組んでお互いに統一テーマに関するインタビューを実施 　相手の情報を聞き出し1分程度のスピーチ原稿にまとめ発表 　情報の伝達とコミュニケーション能力育成の成果発表	・発声と滑舌の自習 ・発表の評価メモ作成	30分

学生へのフィードバック方法	・提出物（レポートなど）採点しコメントを付けてフィードバックする。 ・質問があれば直接またはメールなどで応じる。
評価方法	１）15回の講義の中で適宜宿題としてレポート（作文を含む）提出を求める。知識・思考・意欲・表現技術を念頭に置いて採点する。 ２）全員の前で決められたテーマについてマイクを使って発表する機会を繰り返し設け、授業の理解度・積極性・表現力を採点する。 ３）学ぶ意欲をもって「積極的に授業に参加しているか」「他者への協調性があるか」など授業態度で採点する。 ４）グループでの協同作業を協調性をもってスムーズに行い、自分の得意分野を積極的に生かしてグループに貢献しているかを採点する。

	※定期テストは行わない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート（作文を含む）	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○
	授業態度・グループワークへの取	○	○	○	○

評価割合	１）レポート（作文を含む）の提出と内容　30% ２）発表での表現力・コミュニケーション能力ほか　30% ３）授業での集中力と積極性40%
使用教科書名(ISBN番号)	随時配布
ディプロマポリシーとの関連	・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる ・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	（後期）金曜４限　1635研究室
学生へのメッセージ	将来的に必ず役立つ実践と経験を重要視する授業です ・相手に自分の気持ちが伝わる＜話し方＞＜聞き方＞を学ぼう ・子どもの視点を忘れずに、常に好奇心を持ち、発見を楽しもう ・授業には積極的に参加し自分から楽しむ気持ちを大切にしよう

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	積極的にグループワークを行う。話す・演じる・演出するなど人前で情報を発信する効果的な方法を指導する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	英語アクティビティ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P10605M12
授業概要(教育目的)	英語圏の伝承動揺であるマザーグースを中心に、英語の歌を実際に歌って覚える。同時に歌に伴うあそびを覚え、子どもたちに教えられるレベルをめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語の歌を通じて子どもの文化を理解できる。
思考・判断の観点（K）	子どもの文化を子どもの視点で考え、子どもの文化を適切に伝承できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に子どもの文化を学ぶ意欲を持ち、その文化を実践できる。
技術・表現の観点（A）	子どもに歌と遊びの技術を伝え、子どもと一緒にその技術を表現できる。

学習計画

英語アクティビティ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	マザーグース概説、英語の歌（1）	マザーグースとは何か理解する。Bingo; Eensy Weensy Spider; I'm a Little Teapot などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第2回	英語の歌（2）	前回までの復習とHead, Shoulders, Knees and Toes; Hickory Dickory Dock; Hot Cross Buns などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第3回	英語の歌（3）	前回までの復習とThe Wheels on the Bus; Humpty Dumpty; If You're Happy and You Know It などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第4回	英語の歌（4）	前回までの復習とHokey Pokey; Jack and Jill; John Brown's Baby などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第5回	英語の歌（5）	前回までの復習とThe Grand Old Duke of York; Old MacDonald Had a Farm; Where Is Thumbkin? などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第6回	英語の歌（6）	前回までの復習とPat-a-Cake, Pat-a-Cake; Ten Little Monkeys; Row, Row, Row Your Boat などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第7回	英語の歌（7）	前回までの復習とTwinkle, Twinkle Little Star; Polly, Put the Kettle On; One, Two, Three, Four, Five! などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第8回	英語の歌（8）	前回までの復習とFive Little Ducks; One Potato, Two Potato; A Sailor Went to Sea などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分

第9回	英語の歌（9）	前回までの復習とTeddy Bear, Teddy Bear; This Old Man; Rock-a Bye Baby などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第10回	英語の歌（10）	前回までの復習と Sing a Song of Sixpence; This Little Pic Went to Market; One, Two, Buckle My Shoe などを覚える。	教科書に付属のDVDを利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第11回	英語の歌（11）	前回までの復習とTen Fat Sausages; Jelly in a Bowl; Pease Porridge Hot などを覚える。	配付する資料を利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第12回	英語の歌（12）	前回までの復習とSeven Steps; Finger Family; The Farmer in the Dell などを覚える。	配付する資料を利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第13回	英語の歌（13）	前回までの復習とIf All the Raindrops; One Windy Day; Jingle Worldなどを覚える。	配付する資料を利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第14回	英語の歌（14）	前回までの復習とWe Wish You a Merry Christmas; O Christmas Tree; Deck the Halls などを覚える。	配付する資料を利用して歌と遊び方を覚える。	120分
第15回	英語の歌（15）、期末試験	この授業で学んだ英語の歌を復習し、期末試験を行う。	教科書に付属のDVDおよび配付した資料を利用して、この授業で学んだ英語の歌と遊び方を復習する。	120分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	随時小テストを行う。期末試験答案は後期に希望者に返却する。
評価方法	・平常点（授業中の実績）50%、期末試験50%により評価する。 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	試験	○	○		○

評価割合	平常点（授業中の実績）50%、期末試験50%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	原幸子（2011）『てあそび英語うた』DVDブック、民衆社、978-4-8383-1031-9
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】マザーグースや英語の童謡についての知識と深い思考によって英語圏の児童文化を理解し、子どもたちに伝えられる。 【関心・意欲・態度】積極的に海外の児童文化を理解しようと努め、社会の構成員として次世代に子どもの文化を伝えることができる。 【技能・表現】英語の歌の知識と手あそびの技術を子どもたちに伝えることができる。
オフィスアワー	水曜２時限　1630研究室
学生へのメッセージ	教科書付属のDVDを自宅で視聴して、遊びを覚えてください。授業中は積極的に参加することを心がけて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	DVDを利用し実際に手あそびをやりながら学習する。授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童と外国語Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P30602M21
授業概要(教育目的)	この授業では、英語の絵本について学ぶ。絵本の歴史、絵本のテクニックなどについて理解し、実際に英語の絵本を読んで子どもたちに英語絵本の楽しさを教えられるレベルをめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	外国語（英語）の絵本について理解し、子どもに伝えられる。
思考・判断の観点（K）	どのような外国語（英語）の絵本が子どもたちに適切か判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に外国語（英語）の表現を学び、子どもたちに英語の面白さ、楽しさを伝えることができる。
技術・表現の観点（A）	自信をもって子どもたちに英語の絵本の読み聞かせができる。

学習計画

児童と外国語A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	絵本とは何か	絵本の基本概念と歴史を概観する。	教科書第１部第1章を読んでおく。	180分
第2回	英米児童文学の歴史（1）	イギリス児童文学の歴史について学ぶ。（その1）	配付するプリントの内容を理解する。	180分
第3回	英米児童文学の歴史（2）	イギリス児童文学の歴史について学ぶ。（その2）	配付するプリントの内容を理解する。	180分
第4回	英米児童文学の歴史（3）	アメリカ児童文学の歴史について学ぶ。	配付するプリントの内容を理解する。	180分
第5回	絵本のテキスト	絵本の機能と技法について学ぶ。	教科書第１部第2章を読んでおく。	180分
第6回	絵本と読者	子どもの発達と絵本、絵本の読者などについて学ぶ。	教科書第１部第3章を読んでおく。	180分
第7回	絵本の種類（1）	物語絵本について学ぶ。	教科書第１部第4章を読んでおく。	180分
第8回	絵本の種類（2）	さまざまなジャンルの絵本について学ぶ。	教科書第１部第5章を読んでおく。	180分
第9回	英語の絵本	英語の絵本を読む。	実際に声に出して読む練習をす	180分

	の実際（1）	絵本はプリントを配付する。	る。	
第10回	英語の絵本の実際（2）	英語の絵本を読む。 絵本はプリントを配付する。	実際に声に出して読む練習をする。	180分
第11回	英語の絵本の実際（3）	英語の絵本を読む。 絵本はプリントを配付する。	実際に声に出して読む練習をする。	180分
第12回	英語の絵本の実際（4）	英語の絵本を読む。 絵本はプリントを配付する。	実際に声に出して読む練習をする。	180分
第13回	英語の絵本の実際（5）	英語の絵本を読む。 絵本はプリントを配付する。	実際に声に出して読む練習をする。	180分
第14回	英語の絵本の実際（6）	英語の絵本を読む。 絵本はプリントを配付する。	実際に声に出して読む練習をする。	180分
第15回	英語の絵本の実際（7）	英語の絵本を読む。 絵本はプリントを配付する。	実際に声に出して読む練習をする。	180分
第16回	まとめと期末試験	これまでに学習した内容について復習し、期末試験を行う。	これまでに学んだ内容を復習しておく。	180分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業では随時小テストを行い、内容を確認する。
評価方法	・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（授業中の実績）50%、試験50%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	生田美秋他編著（2013）『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房 978-4-623-06433-5
参考図書	授業中に指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門てきた知識を修得した上で外国語を指導できる。 【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的い取り組むことができる。 【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	水曜2時限　1630研究室
学生へのメッセージ	自信をもって子どもたちに外国語（英語）を教えられるように、授業では積極的・主体的に取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童と外国語Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P30603M21
授業概要(教育目的)	この授業では、英語のフォニックスについて学ぶ。フォニックスとは、つづりと発音との間の規則性を学び、文字から正しい発音へと導く指導法である。子どもたちに正しい英語の発音を教えられるレベルをめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	英語の発音方法について理解し、実践できる。
思考・判断の観点（K）	英語の文字と発音に関する規則性を理解し、例外についても説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に英語を発音し、子どもたちに英語の面白さ、楽しさを伝えることができる。
技術・表現の観点（A）	正しい英語の発音を身につけ、自信をもって子どもたちに英語を教えることができる。

学習計画

児童と外国語B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	英語のフォニックス：子音（1）	英語の音体系とフォニックスと何かについて理解する。1字つづりの子音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter1を読み、CDで練習する。	180分
第2回	英語のフォニックス：子音（2）	1字つづりの子音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter1を読み、CDで練習する。	180分
第3回	英語のフォニックス：短母音（1）	1字つづりの母音（短母音）を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter2を読み、CDで練習する。	180分
第4回	英語のフォニックス：短母音（2）	1字つづりの母音（短母音）を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter2を読み、CDで練習する。	180分
第5回	英語のフォニックス：子音ダイアグラフ（1）	２文字で１音になる子音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter3を読み、CDで練習する。	180分
第6回	英語のフォニックス：子音ダイア	２文字で１音になる子音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter3を読み、CDで練習する。	180分

	グラフ（2）			
第7回	英語のフォニックス：子音ブレンド（1）	隣り合う2つ以上の異なる子音を1音として発音する子音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter4を読み、CDで練習する。	180分
第8回	英語のフォニックス：子音ブレンド（2）	隣り合う2つ以上の異なる子音を1音として発音する子音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter4を読み、CDで練習する。	180分
第9回	英語のフォニックス：母音ペア（1）	隣り合う2つの異なる母音が結びつき新しい母音となる音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter5を読み、CDで練習する。	180分
第10回	英語のフォニックス：母音ペア（2）	隣り合う2つの異なる母音が結びつき新しい母音となる音を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter6を読み、CDで練習する。	180分
第11回	英語のフォニックス：Rのついた母音（1）	Rが付くことによりRに影響を受ける母音を文字を意識して発音する。	教科書Chapter7を読み、CDで練習する。	180分
第12回	英語のフォニックス：Rのついた母音（2）	Rが付くことによりRに影響を受ける母音を文字を意識して発音する。	教科書Chapter7を読み、CDで練習する。	180分
第13回	英語のフォニックス：サイレントe	語末に発音しないeのつく語を文字を意識しながら発音する。	教科書Chapter8を読み、CDで練習する。	180分
第14回	英語のフォニックス：総復習（1）	学習した英語の発音を文字を意識して読む。	CDで練習する。	180分
第15回	英語のフォニックス：総復習（2）	学習した英語の発音を文字を意識して読む。	CDで練習する。	180分
第16回	まとめと期末試験	この授業で学んだことについて復習し、期末試験を行う。	教科書Chapter1～8を復習し、CDで練習する。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業では随時小テストを行い、確認する。
評価方法	・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
試験	○	○		○

評価割合	平常点（授業中の実績）50%、試験50%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	ジュミック今井（2005）『フォニックス＜発音＞トレーニングBook』（明日香出版社）978-4-7569-0844-6
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で外国語を指導できる。 【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	水曜2時限　1630研究室
学生へのメッセージ	学んだ表現や知識は、言葉として「使う」ことが大切です。外国語を使ってコミュニケーションすることの楽しさを子どもたちに伝えられるようになってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童と文学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原　善	指定なし

ナンバリング	P40501M21
授業概要(教育目的)	幼児期から学童期にある子どもを主な読者対象とし、その年齢の子どもを描いた児童文学作品を取りあげ、その内容、意義について考究する。絵本、童話作品、伝承文学などを、子どもの要求や発達に即した表現という観点から検証するとともに、文学作品との関わりの中で、子どもに何が育まれていくのかについて探求する。その上で、保育・教育者として子どもの年齢にふさわしい文学作品を選択出来るようになることを目指す。
履修条件	なし。なお本科目は幼稚園・小学校教諭免許取得に必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・各回に取り上げる具体的な作品についての精緻な読解に到達すること。
思考・判断の観点（K）	・児童文学をめぐる毎週のテーマについて、自分なりの理解を深めること。
関心・意欲・態度の観点（V）	・毎週のテーマに関わる作品を探して実際に自分で読むことを重ねる中で、自身で推薦図書を選択できるようになること。
技術・表現の観点（A）	・取り扱った伝承文学について、自分なりの効果的な再話ができるようになったり、独創的な続編の創作ができるようになったりすること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス（言葉と生命について）	・宮沢賢治「おきなぐさ」読解	授業前には宮沢賢治の文学についておおよそのところを調べておく。 授業後には、言葉を主題にした作品について調べて、テーマについての理解を深める。	120分
第2回	児童文学のはじまり	・巌谷小波「こがね丸」読解	配布されたプリントで作品の全文を授業前に通読しておく。 授業後には出発期の児童文学の状況について調べて当該作品の位置づけを自分なりに確認する。	120分
第3回	子供の純粋さ	・志賀直哉「清兵衛と瓢箪」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第4回	子供の純粋さへの幻想	・川端康成「バッタと鈴虫」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分

第5回	子どもによる大人の相対化	・山田詠美「風葬の教室」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第6回	児童にとっての悲哀の仕事	・石井睦美「五月の初め、日曜日の朝」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第7回	童話と絵本	・村上春樹「ふわふわ」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第8回	伝承文学の再話	・昔話の自身による再話とオマージュ作品の創作	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第9回	伝承文芸と現代	・前時の昔話の各種絵本のバリエーションの読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第10回	ファンタジーとそれを支える伝承	・三浦哲郎「ユタとふしぎな仲間たち」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 できれば映像作品も観ておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第11回	児童文学とアダプテーション	・ミュージカル「ユタと不思議な仲間たち」鑑賞	授業前に当該作品を通読して比較ができるようにしておく。 授業後には、相違点を踏まえて、他のアダプテーション作品について探しておく。	120分
第12回	児童文学と戦争	・小川未明「野薔薇」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第13回	児童文学と教科書	・新美南吉「ごん狐」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第14回	児童文学と動物	・椋鳩十「大造爺さんと雁」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第15回	絵本の読み聞かせ	・谷川俊太郎「もこもこもこ」他の実演	授業前に絵本の読み聞かせの法則を調べておく。 授業後には、当該作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	個々の課題 やコメントシートについては、そのつど授業の中で解説していく。
評価方法	毎回の授業への参加状況・随時行う課題の得点などで総合的に判断する平常点評価と、学期末のレポートの得点を合わせて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○	○	

評価割合	・平常点…（６０％） ・定期試験及びレポート等…（４０％）
使用教科書名(ISBN番号)	三浦哲郎『ユタとふしぎな仲間たち』（新潮文庫、ISBN４－１０－１１５３０７－X）は必携。 その他はそのつど指示し、必要に応じてプリントを配布する。
参考図書	参考書として関口安義編『アプローチ児童文学』（翰林書房）があればいいが、必要なものはそのつど指示する。なお、取り扱う作品のいくつかを収録したものに『日本児童文学名作集（上）』（岩波文庫ISBN４－００－３１１４３１－０）があるが、これは今後のためにも手元におくことが望ましい。

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「子どもの文化」としての児童文学の意義と魅力をを理解できる専門的知識を有し、「子どもの教育」の場に提供する教材を選別できる作品の読解力が修得できている。 【関心・意欲・態度】文学が描いてきた児童像の中から・子ど もの視点に立ち、・子どもの視点に立ち、・子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
学生へのメッセージ	時間内に読む場合も多く、積極的に読みに参加することが求められるが、随時出席票を使った小さな課題を提出して貰うので、事前にプリントが配られている場合には、きちんと作品を読んでくること。また最終週までに５編の作品を選定できるように、毎週のテーマについて関連作品を自分なりに渉猟すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員による一方向的な講義形式をとらず、各自が自ら対象作品を能動的に読解し、課題を発見していけるようなグループ・ディ スカッションを取り入れていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	カリキュラム論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし
准教授	中田　範子	指定なし

ナンバリング	P30309M21
授業概要(教育目的)	学校や幼稚園にはさまざまな問題が山積しており、新たな教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」であるカリキュラムの充実である。また、カリキュラムマネジメントの重要さも増している。この講義では、カリキュラムやカリキュラムマネジメントをとらえる際に必要な視点や学習指導要領ついての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。 また、保育所及び幼保連携型認定こども園における計画の意義やその種類と役割を理解しつつ、保育内容の充実に資する計画と評価の在り方を具体的に学ぶ授業である。乳幼児の育ちを支えるための記録・計画・実践の関連性について理解しながら、よりよい保育のあり方を探ることが目的である。具体的な事例を通した演習や計画の作成を行う。
履修条件	特になし（小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得希望の者を含む）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	カリキュラムの意味と意義が理解できる。 カリキュラムに関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法が理解できる。 保育実践における計画の種類とそれらの意味と意義を説明することができる。
思考・判断の観点（K）	子どもの発達の様子に即した教育内容・保育内容を吟味しながら、学びを支える教師や育ちを支える保育者の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程（カリキュラム）や教育課程経営（カリキュラムマネジメント）をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領ついての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	計画の意味と意義	保育の展開における計画の意味と意義について理解する。	教科書（中田）の第９章を予習し、記録の意味と意義について内容を確認する。	60分
第2回	保育の計画	計画の種類と実践・記録・計画の関連について理解する。	教科書の第１０章を予習・復習し、計画の種類について内容を確認する。	60分
第3回	幼稚園の計画①	幼稚園の短期的な活動の内容案を考察し、活動案の作成について理解する。	年齢に応じた遊び・保育内容に関する資料を収集し、適した保育内容を吟味する。	90分
第4回	幼稚園の計画②	内容案を精査し、幼稚園の活動案を作成する。	配布資料の演習問題を完成する。	60分

第5回	幼稚園の計画③	日案を作成するにあたり、幼稚園の生活の流れや援助の主要な観点について理解する。	演習問題を完成する。	120分
第6回	長期計画	幼稚園の日案を作成する。	日案を作成する。	120分
第7回	計画と省察	保育を展開する手がかりを導くための評価・反省・省察の在り方の実際について理解する。	要領・指針に記載の内容について復習する。	120分
第8回	カリキュラムとカリキュラムの類型	カリキュラムの意味と意義、カリキュラムの類型を理解する。	教科書（齋藤）の第１章を読んでおくこと。	120分
第9回	カリキュラムに関する法制および行政	カリキュラムに関する法制および行政、教科書検定制度を理解する。	教科書の第２章、第３章を読んでおくこと。	120分
第10回	近代日本のカリキュラム　明治・大正編	明治期や大正自由教育、国民学校等を理解する。	教科書の第４章を読んでおくこと。	120分
第11回	現代日本のカリキュラム　昭和編	戦後の経年主義、教育の現代化と人間化を理解する。	教科書の第５章を読んでおくこと。	120分
第12回	現代日本のカリキュラム　平成編	ゆとり教育と生きる力を理解する。	教科書の第６章を読んでおく。	120分
第13回	現代日本のカリキュラム　令和編	現行の学習指導要領の詳細と、中教審答申の概要について理解する。	教科書の第７章を読んでおくこと。	120分
第14回	カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価	ＰＤＣＡマネジメントサイクルによるカリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価について理解する。	教科書の第９章、第１０章を読んでおくこと。	120分
第15回	カリキュラム・マネジメントと反省的実践家の事例	ＰＤＣＡマネジメントサイクルによるカリキュラム・マネジメントと反省的実践家の実践事例	特色ある保育所、認定こども園、幼稚園、小学校等の実践事例を調べておく。（レポート課題）	120分

学習計画注記	授業の進行状況等により、変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業中以外は研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。 提出物はすべて添削して授業内に返却する。また、子ども主体の内容になっているが、年齢に応じた保育内容が、保育者として適切な表現を用いているか等を観点として、適宜助言をする。
評価方法	保育分野（中田担当）と教育分野（齋藤担当）の割合は、５０点：５０点とする。 保育分野では、提出された内容案・活動案、日案を点数化して評価する。 教育分野では、授業内小試験は、100点満点で出題する予定である。（コロナの感染状況によっては、レポートとなることがある。）出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的内容とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、授業で興味を持った内容や特色ある小学校について調べてもらう予定である。授業のノートはきちんと取ること。確認後返却する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
試験(コロナ感染状況による)	○			
指導案		○		○
学期末レポート・レポート		○		○
ノート	○			○
積極的な参加態度			○	

評価割合	保育分野：指導案45%、学期末レポート５５％ 教育分野：試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	保育分野 中田範子『子どもの育ちと環境ー未来を見すえた保育の探究ー』大学図書出版（978-4-907166-88-5） 教育分野 齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『新版教育課程ーカリキュラムマネジメント入門』大学図書出版　2021年（978－4－909655－51－6）
参考図書	小学校学習指導要領、同解説書、幼稚園教育要領、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する６領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。
オフィスアワー	火曜日2限目(齋藤) 水曜日2限目(中田)

学生へのメッセージ	学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。 保育士資格取得　必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の実際について理解し、実務経験に基づいて教授している。 担当教員は、小学校で教諭として実務経験を有しており、巡回訪問等で幼稚園、保育所、認定こども園等の保育の実際について理解し、実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	計画作成にあたりグループ討議を行う。レポートに関するグループ討議を行い、話合いに関してプレゼンテーションを実施する。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容に関する情報を収集するとともに、特色ある小学校に関する情報を収集し、指導案作成等に活用する。
ICT活用	○	パワーポイントを活用したプレゼンテーションを授業で取り入れるように心がけるとともに、授業を録画し、欠席者等にＹＯＵＴＵＢＥで公開できるように努める。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子育て支援（ＰＡ）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし
准教授	井上　清美	指定なし

授業概要(教育目的)	子育てをめぐる社会の状況は大きくしている。その大きな要因は産業構造の変化、少子高齢化社会の到来、これにともなう人口減少、および家族（世帯）の在り方の変質。また地域社会のあり様の変化を上げることができるだろう。 　これらの問題や課題は、何もわが国特有の事象ではなく、多くの先進国が経験していることでもある。しかし、我が国の場合、経済発展が急速に進んだこともあり、これらの問題が加速化し、したがって子育ての環境が激変し、子どもを産み　育てにくい社会になったといっても過言ではない。すなわち、子育て困難は、社会構造の変化に伴った生じた『人権の揺らぎ』といっても過言ではない。 　従来の伝統的価値観ではともすれば保育士は、子どもとの一対一の関係でのみ支援が規定されがちであったが、このような社会状況を踏まえて、保護者に対する相談（保育相談支援）の重要さも指摘されている。この授業では、これらを踏まえて❶保育士の行う子育て支援の特性を概観的に理解し❷そのうえで保育士の行う子育て支援の展開と❸保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）について理解することを目的とする。授業方法は、大学からの指示に従う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育士が保護者に対して行う「保育相談支援」について具体的に説明できる
思考・判断の観点（K）	現代社会における子育ての困難の問題を社会構造の変化が招来した”人権の揺らぎ”という視点で受け止めかつ理解できる
関心・意欲・態度の観点（V）	子育て困難の保護者に対して関心を寄せ続け、また一人一人に即した方法で関与しようとする意欲を持つことができる
技術・表現の観点（A）	地域の社会資源や多職種間連携を通じて子育て困難にある（例えば孤立や虐待など）保護者に対してアクセスする技術や表現の方法を理解し活用できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	教員の自己紹介　授業の概要　学生からの質疑応答	子育て困難についてインターネットで調べる	２４０
第2回	子どもの保育とともに行う保護者の支援（井上清美）	保育士には、在園児の保護者や地域の子育て家庭を支援する役割があることを理解する。保育士の専門性を生かしながら、子ども・子育て家庭を支えていく姿勢について事例をもとに考える。	事前に「保育所保育指針」4章「子育て支援」を読み、内容をまとめておくこと。	２４０
第3回	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成（井上清美）	保育所保育指針の内容をふまえ、保護者との相互理解や信頼関係とはどのようなものか解説する。また信頼関係を形成する上で必要なことについて学ぶ。	授業で配布した事例プリントを読み、保護者への適切な言葉がけを考える。	２４０

第4回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解（井上清美）	家族の多様性を確認し、保護者や個々の家庭が抱える支援ニーズについて解説する。自分の家族観を相対化し、家庭の状況を客観的に捉えることの重要性を理解する。	事前に、インターネットや映画、小説、アニメなどから自分の理想と考える家族像を探して、その特徴をまとめておくこと。	２４０
第5回	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供（井上清美）	「多様な他者」が子どもの育ちや保護者の子育てに与えるメリットについて説明し、その機会が減少していることを理解する。他者と出会う機会や場の内容について、事例をもとに学ぶ。	事前に、幼少期に自分が経験した、家族以外の「他者との関わり」を文章にしておくこと。	２４０
第6回	子ども及び保護者の状況・状態の把握(井上清美)	保護者と直接的、間接的にコミュニケーションをとるための方法、留意事項について解説する。送迎時の対応や連絡帳のやりとりの際に細やかな配慮が重要であることを理解する。	事後に、授業で配布された連絡帳（例）の返事を考える。	２４０
第7回	保育所等における支援（井上清美）	保育所に求められる子育て支援の意義や役割を理解し、実際に行われている支援内容を解説する。保護者から不安や悩みを相談された際の対応などについて事例をもとに学ぶ。	授業で配布した事例プリントを読み、保護者への適切な言葉がけを考える。	２４０
第8回	地域の子育て家庭に対する支援（井上清美）	地域子育て支援が必要とされる背景と、地域子育て支援拠点やその他のサービス内容と支援について解説する。保育所の特性を活かした子育て支援のあり方を、具体例をもとに学ぶ	事前に、自分の住む自治体の地域子育て支援拠点のHPを確認し、どのようなサービスが行われているか調べておく。	２４０
第9回	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（井上清美）	近年、保育所でニーズの高まる子育て支援、例えば外国籍家庭への支援や多様なジェンダーへの配慮等について解説する。実際に取り組まれている支援内容を、事例をもとに学ぶ。	事前に、外国籍家庭への支援に対する自分の考えをまとめておく	２４０
第10回	支援の展開❶　（西口守）ソーシャルワークではインテーク＝情報収集＝アセスメント＝＝契約＝モニタリング＝リアセスメント＝終結　これを保育相談の支援プロセスに沿って考える	支援計画（アセスメントの方法）～実践～モニタリング（評価）～記録～ケース会議の持ち方　参加の仕方　これらを事例を通じて能動的に学ぶ	支援のプロセスを調べておく 特に【アセスメント】について理解しておく	２４０
第11回	支援の展開❷　（西口守）職種間連携　チームでかかわる保育　保育相談　現代社会における保育実践は様々な考え方や立場の人々と一緒に仕事をしなければ効果は生まれない。	チームでしかしチーム保育（ケア）は様々な困難がある。そこでキーワード「弁護」と「交渉」の技法（ブラックワイとブレナン）を理解する かかわることの困難を理解し、困難を乗り越える方法をグループワークから理解する	チームの力を発揮できないことば（信念対立とは何か）を調べる チーム保育とサークル活動は何が違うかを考える	２４０
第12回	支援の展開❸（西口守）　地域の社会資源の連携とコラボレーションそして共生SYMBIOSISとは何か	社会資源の連携を「地域のお母さんたちのあつまり」から学ぶ。非行政関与型自主サークルの活動を例にとって学ぶ	地域のお母さんたちのインフォーマルな活動にはどのようなものがあるかを調べる	２４０
第13回	地域の子育て家庭に対する支援【１】（西口守）発達障害を持つ子どもと家庭の場合 【２】在日外国人の子	発達障害の事例と在日外国人の事例をグループで検討し、保育士としての介入の視点を検討してみる	発達障害を調べる 在日外国人の生活環境について調べる	２４０

	どもと家庭の場合			
第14回	地域の子育て家庭に対する支援❷（西口守）虐待が疑われるケース	虐待を加害者、被害者という一方的な構図で見る癖をなくし、なぜ、親が手を出すのか。この中でどのような支援が、いや心に寄り添う態度が必要なのかを「母の手記」を題材に検討する	虐待事例を調べておく	２４０
第15回	まとめの授業　子育て当事者との対話	授業をまとめてみる	ノートの整理	２４０

学生へのフィードバック方法	レポートへのコメント付記　リアクションペーパでのレスポンスなど
評価方法	❶学期末試験による知識の客観的評価（正誤問題） ❷レポートによる論述するちからの評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	学期末試験	○			○
	レポート			○	○

評価割合	井上、西口の総合点評価　　期末試験６０％　レポート４０％
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	都度紹介
ディプロマポリシーとの関連	【知識・技術】 ・児童学を構成する 6 領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 　児童学を構成する児童の福祉を現代社会における「子育てt支援」について総合的に学び理解できる 【思考・判断】 ・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わってい　子育て困難にある家庭に対して社会や資源と協働し、コミュニケーションの能力を高める 【関心・意欲・態度】 　・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる・ 【技術・表現】 　子育て困難な人へのアプローチの方法としての「コミュニケーション能力」を高め、授業を踏まえた実践活動を志向する 【技能・表現】 ・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につ　ソーシャルワークの展開方法を学び、この中で、バイステッィクのケースワークの原則を理解し、コミュニケーションの方法を深める
オフィスアワー	mailでの問い合わせ
学生へのメッセージ	子育てがむずかいいという保護者が多くなっています。皆さんは保育の場で一義的には子供と関わりながら、その成長を支援するのですが、もう一つ保育者に対する『保育相談』です。保護者のいう「いらいらして、悪いと思いながら、子どもに手をだしてしまうの、そしてそのあと罪障感に苦しんでいる」ことに寄り添い、その痛みを少しでも軽減しようとする感性や知識と方法そして技術が求められます。皆さんの現場にはそういう保護者がたくさんいて、皆さんの専門職としての声掛けや具体的な手助け（支援）を心待ちにしているのです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ソーシャルワーカやセラピストの経験がある担当教員はできるだけ事例に即して授業展開を行う
アクティブ・ラーニング		授業では、事例を用いて、グループワークなどを通じて、他者から学ぶことを目指す
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし
非常勤講師	赤沼　未佳	指定なし

授業概要(教育目的)	現代において社会的な子育て支援が必要となった背景、家族を取りまく社会状況、子育て支援体制の現状をふまえ、家庭支援の実際や関係機関との連携のあり方について事例を通して具体的に考えることを目的とする。前半（担当：赤沼）は，障害のある子どもとその家族の支援についての理解を深める。家族が子どもの誕生から成長に伴い，どのような生活問題に直面することになるのかを考えていくことにより，家庭支援のあり方について学ぶ。後半（担当：新開）は、保育の場における保護者支援や地域の子育て支援の実際について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・保育の場に求められる家庭支援の意義と基本的事項について理解し、説明できる。 ・障害のある子どもとその家族の抱える様々な困難について理解し、いくつかの支援方法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	事例検討において、家庭のニーズに応じた支援方法について考えたり、提案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	課題やグループワークに意欲を持って取り組み、積極的に参加することができる。
技術・表現の観点（A）	事例理解の手法を必要に応じて活用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	障害の基礎的な知識	保育や幼児教育の現場で関わる可能性の高い障害についての基礎的な知識を身につける。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第2回	ライフステージに応じた支援	各年齢段階において、障害のあるお子さんとそのご家族がどのような支援機関、専門職とかかわり、どのような制度やサービスを利用しているのかについて学び、ライフステージに応じた支援について理解を深める。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第3回	家族は子どもの障害をどのように受けとめていくのか	障害のあるお子さんを育てているご家族が、お子さんの障害にどのように向き合っているのかについて、いくつかの学説について触れながら学ぶ。また、お子さんを支えているご家族をどのようにエンパワメントしていくのかについて、具体的な支援例を通じて理解を深める。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第4回	家族が子どもの特性について理解を深めていくための援助	障害のあるお子さんの認知や行動について、家族がより深く理解し、互いに良好なコミュニケーションを持つことができるようになることを目指して、どのような援助が行われているのかをいくつかの支援方法を通じて学習する。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第5回	保護者が幼児期の子育てにおいて感じやすい不安につい	幼児期には保護者・保育者・お子さんが協力してトイレットトレーニングに取り組むことが必要となる。前半は一般的なトイレットトレーニングの流れを確認し、後半は障害のあるお子さんの場合にはどのような工夫や配慮を行うことができるのかについて事例やワークを通して	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分

	て①(トイレットトレーニング)	学習する。		
第6回	保護者が幼児期の子育てにおいて感じやすい不安について②（ことばの遅れ）	「ことばの遅れ」は幼児期のお子さんを育てている保護者が抱きやすい悩みである。前半はことばの遅れの要因にはどのようなものがあるのかについて確認し、後半はことばを促す関わりや生活面の配慮について事例やワークを通して学習する。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第7回	ゲストスピーカーによる講演	障害のあるお子さんを育ててこられたご家族にお越しいただき、子育ての困難やその困難にどのように向き合ってきたか、またどのような保育者や支援者、専門職と出会い、どのようなかかわりや支援があったかなどについてお話を聞かせていただく。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第8回	まとめの講義とレポート作成（前半）	前半はこれまでの授業の内容を振り返り、後半はレポート作成を行う。	レポート作成の準備を行う。	120分
第9回	子ども家庭支援の意義と役割	保育所保育指針「子育て支援」の内容と現代の子育て家庭の課題を関連づけて考えることにより、保育所における家庭支援の意義と目的についての理解を深める。	教科書や配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。	120分
第10回	子育て家庭に対する支援の体制	子ども家庭支援を推進するための社会資源、次世代育成支援対策、子ども・子育て支援新制度を知ることにより、子育て家庭への様々な支援体制に関する理解を深める。	教科書や配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。	120分
第11回	保育士による子ども家庭支援の基本	保育所や地域子育て支援施設における子育て支援の原則、保護者と連携して子どもの育ちを育てる視点、子どもの育ちを保護者と共に喜び合う基本的態度について考える。	教科書や配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。	120分
第12回	多様な支援の展開と関係機関との連携（１）	保育所を利用する家庭への支援の在り方と、支援の実際について理解を深める。	教科書や配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。	120分
第13回	多様な支援の展開と関係機関との連携（２）	要保護児童とどの家庭への支援の在り方と、支援の実際について理解を深める。	教科書や配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。	120分
第14回	多様な支援の展開と関係機関との連携（３）	地域の子育て家庭への支援の在り方と、支援の実際について理解を深める。	教科書や配布資料をよく読み、指定された課題に取り組み理解を深める。	120分
第15回	まとめの講義とレポート作成（後半）	前半はまとめの講義を行い、後半はレポート作成を行う。	レポート作成の準備を行う。	120分
第16回				

学習計画注記	＊授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業中に記述したコメントペーパーや事例検討などについては、適宜次週以降の授業中に紹介し、授業内容の理解に役立てていく。 質問がある場合には授業の前後または研究室（mailも可）に積極的に声をかけること。
評価方法	平常点（提出物、授業態度、出席状況など）40%、レポートまたは試験60%の割合で評価する。レポートの課題については授業中に説明する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	定期試験（レポート）	○	○	○	○

評価割合	平常点（提出物を含む）40%・レポートまたは試験60%の割合で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	保育所保育指針
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子ども家庭支援にかかわる専門的な知識を修得する。 【思考・判断】家庭・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性を磨く。 【関心・意欲・態度】子ども家庭をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子ども家庭の健全で豊かな育ちのために使命感を持って行動できる。 【技術・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。
オフィスアワー	新開：金曜日　４時限　1635研究室
学生へのメッセージ	保育士資格の必修科目です。保育施設に通う子どもの家庭、地域の子育て家庭、障害のある子どもの家庭など、さまざまなニーズをもつ家庭への支援について、興味関心を持って受講してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	前半を担当する赤沼先生は療育センターでの実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金田　佳子	指定なし

ナンバリング	P10303M21
授業概要(教育目的)	小学校家庭科について、教育課程における位置付けや意義、目標等について指導するとともに、実際の指導内容等について歴史的な側面を踏まえて指導する。また、学習指導要領を通して、現在、小学校で進められている家庭科教育の現状を理解し、これからの家庭科教育のあり方について視野に入れながら研究を進めさせる。実際の講義にあたっては、①小学校家庭科における目標と内容、②家庭科における教材研究と授業展開、③小学校家庭科の目的・役割を理解させ、生活の質の向上を図ることについて可能な限り理論と実践を結びつけて指導することに留意する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭科教育の意義と目的、果たす役割について理解できる
思考・判断の観点（K）	家庭科教育が目指す視点をもとに思考・判断することができる
関心・意欲・態度の観点（V）	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点（A）	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画を立てることができる

学習計画

家庭科教育

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 家庭科教育の概要	学校における教科の一つである「家庭科」とは何かについて自分が学んだことをもとに考え、家庭科教育全体像をつかむ	(復習)家庭科教育の概要を把握し、全体像を理解する (予習)家庭科教育の今日的意義を考える	60分
第2回	家庭科教育の変遷と今日的意義	家庭科教育全体像をつかみ、その変遷と今日的意義を理解する	(復習)家庭科教育の変遷と今日的意義を理解する (予習)学習指導要領に目を通す	60分
第3回	小学校家庭科における目標と内容	学習指導要領に基づき、小学校家庭科の目標と内容を理解する	(復習)学習指導要領に基づき、小学校家庭科の目標と内容を理解する (予習)「調理の基礎」について小学校家庭科教科書に目を通す	60分
第4回	教材研究と授業展開①「調理の基礎」の目標・教材分析	目標・教材分析を通して指導内容を理解する①	(復習)「調理の基礎」について学習指導要領を見直し、目標を理解する (予習)「調理の基礎」について小学校家庭科教科書の教材に目を通す	60分

第5回	教材研究と授業展開②「調理の基礎」の目標・教材分析	目標・教材分析を通して指導内容を理解する②	(復習)「調理の基礎」について小学校家庭科教科書の教材分析を見直す (予習)「調理の基礎」について1単位時間の指導計画に目を通す	60分
第6回	教材研究と授業展開③「調理の基礎」の授業分析	1単位時間の指導計画の授業分析を的確に行うことができる	(復習)1単位時間の指導計画に授業分析について理解する (予習)「ゆでたまご」の調理実習について教科書に目を通し、実習の準備をする	60分
第7回	「衣食住の生活」内容の教材研究とその実践① 調理の基礎ゆでてみよう	教材研究・実践を通して指導内容を理解する①	(復習)「ゆでたまご」の調理実習の詳細をまとめる	120分
第8回	教材研究・授業研究①	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画（指導案）を作成する① ※課題の提示	(課題)学習指導計画作成	120分
第9回	教材研究・授業研究②	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画（指導案）を作成する②	(課題)学習指導計画作成	120分
第10回	「衣食住の生活」内容の教材研究と指導上の留意点①	教材研究を通して指導内容を理解する① 生活を豊かにするための布を用いた製作 ※学習指導計画提出	(課題)学習指導計画提出 (復習)布を用いた製作について理解する (予習)快適な住まい方について小学校家庭科教科書に目を通す	60分
第11回	「衣食住の生活」内容の教材研究と指導上の留意点②	教材研究を通して指導内容を理解する② より快適な住まい、季節に合わせた着方、住まい方	(復習)より快適な住まい、季節に合わせた着方、住まい方について教科書を基に理解する (予習)少子高齢社会進展への対応について考える	60分
第12回	「家族・家庭生活」内容の教材研究と指導上の留意点	教材研究を通して指導内容を理解する③ 少子高齢社会の進展への対応、異なる世代の人々とのかかわり ※研究課題の提示	(課題)研究課題レポート作成 (復習)少子高齢社会進展への対応、異なる世代の人々とのかかわりについて理解する (予習)現在の消費生活と消費者の行動、自立した消費者について調べる	120分
第13回	「消費生活・環境」内容の教材研究と指導上の留意点	教材研究を通して指導内容を理解する④ 現在の消費生活と消費者の行動、意思決定、自立した消費者の育成	(課題)研究課題レポート作成 (復習)消費生活と消費行動について理解する (予習)布を用いた製作の材料を準備する	120分
第14回	「衣食住の生活」内容の教材研究とその実践② 布を用いた製作	教材研究・実践を通して指導内容を理解する② ※研究課題レポート提出	(課題)研究課題レポート提出 (復習)布を用いた製作を振り返る	120分
第15回	まとめ	小学校家庭科の目的・役割を理解し、生活の質の向上を図るための指導内容を理解する	(復習)返却された研究課題レポートを見直し、理解を深める	60分
第16回				

学生へのフィードバック方法	実施したレポート等は、採点して次週の授業にて返却する。また、模範解答等は授業内で解説する。
評価方法	学習指導計画レポート、課題をもとに研究課題レポートを実施。平常点としてワークシート・作品提出を対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
レポート１、２	○	○	○	○
発表、交流		○	○	○
ワークシート等平常点	○		○	

評価割合	学習指導計画レポート（30%）、研究課題レポート（40%）、平常点（ワークシート・作品提出，発表・交流など授業態度）（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	小学校家庭科教育法　建帛社 小学校家庭科教科書「新しい家庭５・６」東京書籍
ディプロマポリシーとの関連	【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる 【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる

	【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心をもち、家庭科の重要性を理解することができる 【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けることができる
学生へのメッセージ	家庭科は「生活」を学ぶ教科です。人と人、人とものをつなぎ、生活文化の継承、持続可能な社会の構築を目指すものです。楽しみながら、積極的に学ぶ姿勢を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーション資料の提示でわかりやすい授業を組み立てます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	青年心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 合澤　典子	指定なし

ナンバリング	P20101M21
授業概要(教育目的)	青年期は自我を確立していくとともに、心身の大きな変化が伴う大切な時期である。本講では、青年期が人として生きていく上で大切な時期であることを理解した上で、青年期の課題や問題について考え、問題意識を高めていくことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．青年心理学に関連する学問領域とそれらとの関係を知る。 ２．青年心理学の知識によって、どのような社会の問題を明らかにできるのかがわかる。
思考・判断の観点（K）	１．物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、青年心理学の内容を生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を青年心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．社会的な問題を青年心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日常生活にある事象から、青年心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、青年心理学で得た知識に基づいて説明するなど、青年心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	青年心理学とは	青年期の定義、区分、一般的な特徴を学ぶ。ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本的な姿勢を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	青年心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	青年期の思考と感情	青年期における特徴を、思考や感情の側面から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	青年心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と青年心理学のつながりを考える。	180分
第3回	青年期の課題１：身体・ジェンダー	青年期における身体発達や身体に係る意識の形成について理解する。また、青年の生物学的性や社会文化的性であるジェンダーの問題について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	青年期の課題２：自己・アイデンティティ	アイデンティティとは何かを知り、自我と自己の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	青年期の課題３：家族	青年期における家族関係や友人関係の特徴を知り、対人関係の発達を理解する。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点	180分

	と友人	授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	を明らかにしておく。	
第6回	青年期の課題４：学校と学習	青年期における学校生活や、学習のとらえかたから、青年期の課題について考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	青年期の課題５：進路と職業	青年期の進路や意思決定、学校から職場への移行の特徴を知り、青年期の課題について考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	青年期の「問題」１：不登校・ひきこもり	青年期における問題を理解し、不登校やひきこもりの特徴および支援について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	青年期の「問題」２：非行	青年期における問題を理解し、非行の実態と支援について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	青年期の「問題」３：リスク行動	青年期における問題を理解し、リスク行動の実態と対応について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	青年期の「問題」４：摂食障害	青年期における問題を理解し、摂食障害の病理や特徴,支援について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	青年期の「問題」５：発達障害	青年期における問題を理解し、発達障害の病理や特徴,支援について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	現代の青年期：メディアの影響	青年期における問題に対するメディアの関わりを理解し、対応について考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	現代の青年期：社会と政治	青年期における自立を社会や政治とのつながりからとらえ、青年期の特徴について理解を深める。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	青年期から大人へ	心理学の観点から、変化する社会の中での青年期の課題を考え、展望する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 学生の興味や関心によって、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	１．授業時に実施するリアクションペーパー，自己チェックについては、オンラインで実施し、その都度、教員との間で結果を共有する。 ２．毎回の授業後にリアクションペーパーの記入を求める。最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、次回以降の授業でフィードバックする。
評価方法	授業への意欲・態度（アクティブワーク、自己チェック、リアクションペーパー）、プレゼンテーション（発表）、試験への取り組みをもとに、総合評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
自己チェック（小テスト）	○			
リアクションペーパー		○	○	○
プレゼンテーション（発表）	○		○	○
アクティブワーク		○	○	
試験	○	○		

評価割合	試験50%、プレゼン（発表）20%、授業への意欲・態度30%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。
参考図書	授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】青年期という発達段階から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって「青年期」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、青年心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会の中に課題を発見し、青年心理学的な思考や青年心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。

オフィスアワー	質問がある場合は、メールで連絡してください。 合澤典子　p20001@kasei-gakuin.ac.jp
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。日常的に触れる媒体にも注目し、青年期の課題を身近に感じましょう。 授業後半では、受講生の皆さんが調べた内容についてグループ発表を行なってもらいます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	現代社会における青年期特有の問題やその解決方法についてグループ・ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	気になるトピックや問題点についての情報検索や、PowerPointを用いたプレゼンテーションを行う。
ICT活用	○	google classroomを用いて、自己チェック、配布資料のアーカイブを可能にする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	人格心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 合澤　典子	指定なし

ナンバリング	P30103M21
授業概要(教育目的)	人格心理学との関連が深い領域をいくつか取り上げながら、人格についての理解を深める。具体的には、人格と発達的側面、対人関係、感情、文化、健康の関係について扱う。また、人格の測定では、各手法についての理解を深め、測定における課題についても考察を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 人格心理学における概念、理論や発達について理解を深めるとともに、それらが私たちの身近な問題に関わっていることを学ぶ。 2. 人格を形成するには人間の心理的な理解にとどまらず、進化や遺伝、脳との関連からも理解できる。
思考・判断の観点（K）	1. 人格の発達や変化について理解し、身近な問題とどのように関わるかを判断することができる。 2. 文化や社会による人格の多様性を認め、家族・地域・社会の中で、創造力・コミュニケーション能力・感性を磨くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 人格に関する領域の理解だけでなく、自ら疑問を持ち、科学的に考える姿勢を身につけることを目指す。 2. デスカッションを行うときには積極的に意見を出し合いながら強調することができる。
技術・表現の観点（A）	1. 講義を通して、客観的事実なのか、自分の意見なのかを区別して表現できる。 2. パーソナリティテストの知識を習得することで自分自身を見つめなおし、自身の表現力を向上させることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、パーソナリティの定義	パーソナリティの定義、一般的な特徴を学ぶ。 ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本的な姿勢を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	パーソナリティ心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第2回	パーソナリティの歴史	パーソナリティの理解についての歴史的な流れをふまえて，心理学とパーソナリティの関わりを理解する。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第3回	パーソナリティの諸理論	パーソナリティを扱う諸理論について紹介し，どのような軸をもとにパーソナリティの理論が理解されてきたかを学ぶ。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業	180分

		アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	の内容についての自己チェックを行う。	
第4回	パーソナリティと相互作用論	問題行動がある場合に、人のどの側面が影響するかを巡る議論から、パーソナリティと状況の影響について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第5回	パーソナリティと発達(1)乳児期～青年期	乳児期から青年期にかけて発達するパーソナリティの特徴について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第6回	パーソナリティと発達(2)成人期以降	成人期以降のパーソナリティの発達について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第7回	パーソナリティの発達的変化	パーソナリティの生涯を通した発達的変化を紹介する。どのようなパーソナリティの変化があるのかを学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第8回	パーソナリティと遺伝	遺伝的側面からみたパーソナリティや，行動遺伝学からみたパーソナリティの研究方法を紹介する。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第9回	パーソナリティと対人関係(1)友人関係	友人関係の良好さ，維持に関わるパーソナリティについて紹介し，友人との関係性とパーソナリティについて考える。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第10回	パーソナリティと対人関係(2)親密な関係	親密な関係の形成や，悪化，維持に関わるパーソナリティや理論について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第11回	パーソナリティと病理	パーソナリティの正常と異常の考え方や、パーソナリティ障害について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第12回	パーソナリティと文化	文化による考え方や行動の違いについて，パーソナリティに関する様々な心理学的観点をもとに理解する。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第13回	パーソナリティと健康	健康リスクとなるパーソナリティについて紹介し，疾患と関わるパーソナリティやその経路の理論について学ぶ。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第14回	パーソナリティと測定	パーソナリティの測定法について，質問紙法や投影法といった手法を概観しながら，測定に関連する信頼性や妥当性について理解を深める。 アクティブワークを用いて，授業内容に関連する疑問についてのディスカッションを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 google classroomを用い、授業の内容についての自己チェックを行う。	180分
第15回	人格心理学のまとめと振り返り	人格心理学の全体の授業を通して、振り返りを行った後、学習到達度を確認するためのテストを行う。 google classroomを用い、授業全体の内容についてのテストを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	240分

学習計画注記	2022年度は、集中講義として開講します。 授業日は、1月末～2月の土曜日の3日間（各1～5限）を予定しています。

	詳細は決まり次第Google classroomでお知らせします。 履修者数や授業の進み具合等によってスケジュールや内容が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	１．授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 ２．リアクションペーパーへの回答については、教員が出席状況と記入内容をチェックした後、次の授業で質問事項に対して回答する。
評価方法	・授業では毎回小テストを行う。選択式および記述式の混合型で行う。 ・定期試験は小テストを振り返りながら選択式および記述式の混合型で実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己チェック	○	○		
	リアクションペーパー	○		○	○
	試験	○	○		

評価割合	試験70%、授業への意欲・態度（自己チェック，リアクションペーパー，アクティブワーク）30%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。
参考図書	授業の中で適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する子どもの６領域「保育」「教育」「福祉」「健康」「心理」「文化」を総合的に理解するための、人の思考や行動に関わる専門的な知識が習得できる。 【思考・判断】パーソナリティ心理学についての理解を深めることで、家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を備えることができる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に対して、心理学の知識に基づいて理解し、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために何ができるかを科学的に考え行動できる。 【技能・表現】子どもをはじめとする人間の社会活動に関わるパーソナリティに関する知見をもとに，子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	質問がある場合は、メールで連絡してください。 合澤典子　p20001@kasei-gakuin.ac.jp
学生へのメッセージ	自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。日常的に経験している友人・家族・親密な人との関係や，文化の違い，自分自身の成長や健康とも関係のある分野です。パーソナリティの奥深さに触れながら，楽しんで学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	パーソナリティの理解に関する疑問や課題について、グループ・ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを用いて、振り返り（自己チェック）、配布資料のアーカイブを可能にする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭教育論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング	P20309M21
授業概要(教育目的)	現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
思考・判断の観点（K）	・人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題について考えてみる。 ・保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。
関心・意欲・態度の観点（V）	・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について、積極的に関心をもって現代社会全体との関連からとらえる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション・家庭とは何か	家庭や家族について、各自が抱くイメージを出し合い、共有する。 養育家庭の体験談を読み、様々な家族のあり方に気づく。	「家族・家庭とは何か」について授業内で話し合ったことをもとに、自分が考えたことをまとめる。	120分
第2回	子どもが育つ場としての家庭（養育者と子どものかかわり方の基本原理）	子どもが育つ場としての家庭について、養育家庭など血縁関係による家族という形にとらわれず、さらに施設で育つ子どもたちにも目を向け、養育者と子どものかかわり方の基本原理について考える。	さまざまな家族関係について、授業で学んだことをもとにまとめる。	120分
第3回	乳児期と家庭教育	乳児期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に生きていくための基盤となる愛着関係や信頼関係の構築に着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第4回	幼児期と家庭教育	幼児期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に自律と自立に着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第5回	学童期・思春期と家庭	学童期・思春期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考え	120分

	教育	果たす役割について、特に自立の前段階としての親子関係に着目して考える。	たことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	
第6回	青年期と家庭教育	青年期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に「自立」というテーマに着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第7回	家庭教育にみる家族の発達的課題～育てられる者から育てる者へ	成人期以降の基本的な発達を踏まえた上で、特に「育てる者から育てる者へ」という役割転換に着目し、家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第8回	事例から考える家庭教育	子育てにおいて、親が悩んだり迷ったり不安に感じることの多い場面を取り上げ、親としてどのような対応が望ましいのか、または考えられるのか、各自で検討し、発表する。合わせて、支援者の立場からどのような助言や支援ができるのかについて考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第9回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①	現代社会の変容について、「社会全体」「家族」「人間関係」「ライフスタイル」「その他」の5つの視点から捉え、各自が気づいたことを発表し、全体で共有する。また、変容自体を良い・悪いで評価するのではなく、その結果、現在どのような状況になっているのか、良い面と悪い面の両面から考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第10回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②	前回授業で考えた現代社会の変容について、家族や家庭をひとつのシステムとしてとらえる。また、現代日本社会における結婚観と家族観の変容について知り、その背景について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第11回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③	資料として「女性の社会的変容と子育ての上で生じている心の諸相」（菅井,2001）と「女性のライフサイクルの木」（岡本他,2002）を使い、女性と子どもの視点から、家族と家庭、家庭教育について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第12回	家庭教育支援の現状と課題～家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携	子育て家庭への支援の現状を知り、家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携のあり方について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第13回	海外の家庭教育	海外の家庭教育のあり方について、社会的・文化的背景を踏まえつつ、日本の家庭教育と比較検討する。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第14回	今後の家庭教育に求められるもの	現代の社会的背景を踏まえながら、今後、家庭教育に求められるもの、必要とされる支援について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、発達的視点、社会的視点からみた、「家族」「家庭」「家庭教育」についての総括を行う。 授業の最後に、まとめとしての確認テストを行う。	これまで学んできたことをしっかり復習しておく。	240分

学習計画注記	※　授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業時のミニレポートなどを活用し、質問や疑問については毎回の授業内で回答やコメント、または助言等を返していく。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験	○	○	○	
	ミニレポート		○	○	
	平常点		○	○	

評価割合	試験60%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加など）10%により総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。必要な資料を配布します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。 【思考・判断】人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題について考えてみる。 また、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。 【関心・意欲・態度】家庭と家庭教育をめぐる諸問題について、積極的に関心をもって現代社会全体との関連からとらえる。

オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室
学生へのメッセージ	各自、新聞や雑誌等の家庭や家族に関する記事を意識し、目を通しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は長年、子育て支援の現場での臨床経験があり、本科目が扱う領域に詳しい。
アクティブ・ラーニング	○	グループで本科目で取り上げるテーマについてディスカッションするなどの時間を取り入れている。
情報リテラシー教育	○	
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし

ナンバリング	P10001M21
授業概要(教育目的)	子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。児童学における基礎的課題（子ども観、子どもの発達等）を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもを取り巻く問題の解明に向けて、課題を捉え、知識を深め、自ら実践する力をつける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童学科の学びを構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」における基礎的課題を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	・子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動する態度を身につける。 ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	児童学の対象としての子ども	子どもを知り、子どもに学び、子どもとの関係を考える児童学のあり方について学ぶ。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第2回	わたしの中の子どもと出会う	子どもの頃の自分、周りの人々、好きだった遊び、印象に残っている出来事、その時の気持ちなどについて振り返りながら、人生における子ども時代の意味を考える。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第3回	赤ちゃんと共に育つ	新生児～満１歳児の発達と生活の基本的事項について学ぶ。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第4回	園生活と子ども	幼稚園・保育園・こども園での幼児教育で大切にしていることについて学ぶ。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組	160分

			む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	
第5回	乳児期と幼児期の学びの芽生えと支援	乳幼児保育の3つの視点と5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から考える。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第6回	学校と子ども	学校教育をめぐる現代的課題について学ぶ。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第7回	特別な支援を必要とする子ども	障がいのある子どもの保育・教育について学ぶ。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。中間レポートを作成する。	260分
第8回	子どもと絵本	子どもと絵本のかかわりについて考える。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第9回	子どもの遊びと文化	子どもの生活と遊び、児童文化財、メディア環境について考える。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第10回	子どもの生活と健康	食べること、眠ること、遊ぶことをめぐる子どもの生活の現状や課題について学ぶ。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第11回	児童虐待・子どもの貧困	児童虐待の現状と課題、子どもの貧困問題について考える。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第12回	子どもの権利	子どもの権利条約について学ぶ。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第13回	生命の誕生をめぐって	子どもをもつこと、産むことの意味について考える。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第14回	現代社会の変容と子育て家族	日本の子育て支援の現状と課題について考える。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	160分
第15回	現代社会と子ども	これまでの学習内容を振り返り、今後取り組むべき課題について整理・考察する。	予習：Googleクラスルームに指定した「予習課題」に取り組む。 復習：これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、今後の学習や研究に興味・関心を持って臨めるようにする。最終レポートを作成する。	360分

学生へのフィードバック方法	授業中に記述したコメントペーパーや事例検討などについては、適宜次週以降の授業中に紹介し、授業内容の理

	解に役立てていく。 質問がある場合には授業の前後または研究室（mailも可）に積極的に声をかけること。
評価方法	授業への取り組みの態度、参加状況、授業中の実績、課題提出状況等に基づく平常点と、中間レポート・期末レポートにより総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	中間レポート	○		○	
	期末レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点（課題への取り組み等）（60%）、中間レポート（10%）、期末レポート（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	授業中に適宜指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を理解するための子どもに関する基礎的な知識を修得する。 【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動できる態度を身につける。 子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
オフィスアワー	木曜日　2時限　1632研究室
学生へのメッセージ	子どもに関する様々な課題（子どもを観察したり、接したりしてみること、子どもに関する様々な問題についてニュース、新聞、本等で調べること、絵本、児童文学や玩具、遊び場、子どもの生活する環境等に触れてみること）に関心を向け、積極的にかかわったり、行ったりしてみることを望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童福祉論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 市川　和男	指定なし

ナンバリング	P20401M21
授業概要(教育目的)	児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景の根拠を学び、実践に役立つ知識へ発展させる。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について講義する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.児童福祉の意義及び歴史的展開過程について説明できる。 2.児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に説明できる。 3.児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスを説明できる。
思考・判断の観点（K）	1.児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスの現状と課題について指摘できる。 2.児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割を類別し、現状と課題について指摘できる。 3.児童家庭福祉の動向と展望について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	【第１回集中授業　5月（5/14（土）予定）　2～4限目】オリエンテーション 児童家庭福祉とは何か	児童家庭福祉の授業の全体像について理解する。 子どもを表す用語や社会福祉や児童福祉の目的を学び、児童とは何か、児童福祉とは何かについて理解する。	・予習：テキスト第1章「児童福祉とは何か」（11～15ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第2回	【第１回集中授業　5月（5/14（土）予定）　2～4限目】現代の社会と子どもの生活（１）子どもの生	急速な社会の変化や、少子化の進展について学び、子どもの生活環境の変化について理解する。	・予習：テキスト第2章1節「子どもの生活環境の変化」（17～24ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分

	活環境の変化			
第3回	【第１回集中授業　5月（5/14（土）予定）　2～4限目】現代の社会と子どもの生活（２）子どもの成長や発達をめぐる問題	子どもの生活習慣やからだと心の変化、高学歴社会の子ども達や、心と行動へのケアが必要な子ども達の現状を学び、子どもの成長や発達をめぐる問題について理解する。	・予習：テキスト第2章2節「子どもの成長や発達をめぐる問題」（25～37ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第4回	【第２回集中授業　5月（5/28（土）予定）　2～4限目】現代の社会と子どもの生活（３）子育てをめぐる問題	子育ての負担・安心感や、経済的な負担感、仕事と子育ての両立の現状を学び、子育てをめぐる問題を理解する。	・予習：テキスト第2章3節「子育てをめぐる問題」（37～50ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第5回	【第２回集中授業　5月（5/28（土）予定）　2～4限目】児童家庭福祉の理念と概念	児童福祉理念の国際的動向や、日本における児童福祉の理念、子どもの権利条約の意義と内容について学び、児童家庭福祉の理念と概念について理解する。	・予習：テキスト第3章「児童家庭福祉の理念と概念」（51～60ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第6回	【第２回集中授業　5月（5/28（土）予定）　2～4限目】児童家庭福祉の歴史	近代以前の時代における児童保護、明治初期の児童保護対策、児童保護事業の始まり、児童保護にかかわる制度・政策、児童福祉法の成立とその後、欧米における児童福祉の歩みについて学び、児童家庭福祉の歴史を理解する。	・予習：テキスト第4章「児童家庭福祉の歴史」（61～80ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第7回	【第３回集中授業　6月（6/11（土）予定）　2～4限目】児童福祉および関連施策の体系	児童福祉及び関連施策の対象、関連施策の諸形態、児童対策にかかわる主な法律、児童福祉及び関連施策の全体場について学び、児童福祉および関連施策の体系を理解する。	・予習：テキスト第5章「児童福祉および関連施策の体系」（81～88ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第8回	【第３回集中授業　6月（6/11（土）予定）　2～4限目】児童福祉の法制度	児童福祉法の構成、児童福祉施設および事業、児童福祉の機関と児童福祉実施のしくみ、児童福祉の財政について学び、児童福祉の法制度を理解する。	・予習：テキスト第6章「児童福祉の法制度」（89～107ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第9回	【第３回集中授業　6月（6/11（土）予定）　2～4限目】児童家庭福祉と保育	保育をめぐる現状、子ども・子育て支援制度、保育所・認定こども園、地域型保育給付、地域こども・子育て支援事業について学び、児童家庭福祉と保育を理解する。	・予習：テキスト第7章「児童家庭福祉と保育」（110～123ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第10回	【第４回集中授業　6月（6/18（土）予定）　2～4限目】児童家庭福祉と児童養護	社会的養護の仕組み、要保護児童の動向、児童虐待、社会的養護の現状について学び、児童家庭福祉と児童養護を理解する。	・予習：テキスト第8章「児童家庭福祉と児童養護」（134～143ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第11回	【第４回集中授業　6月（6/18（土）予定）　2～4限目】児童家庭福祉と非行問題	非行とは、少年非行への対応、非行の要因と背景、非行少年の自立支援について学び、児童家庭福祉と非行問題を理解する。	・予習：テキスト第9章「児童家庭福祉と非行問題」（145～158ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第12回	【第４回集中授業　6	障害のある子ども、障害児福祉の制度を学び、児童家庭福祉と障害児問題を理解する。	・予習：テキスト第10章「児童家庭福祉と障害児問題」（159	予習90分、復習90分

	月（6/18（土）予定）　2～4限目】 児童家庭福祉と障害児問題		～175ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第13回	【第５回集中授業　7月（7/9（土）予定）　2～4限目】 次世代育成支援と子どもの遊びの保障	子どもの「遊び」やその問題、「遊び」を保障する場と制度、「子どもの権利」と「遊び」について学び、次世代育成支援と子どもの遊びの保障を理解する。	・予習：テキスト第11章「次世代育成支援と子どもの遊びの保障」（177～192ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第14回	【第５回集中授業　7月（7/9（土）予定）　2～4限目】 児童家庭福祉の専門職	児童福祉に関わる専門職、保育士制度の歴史と意義について学び、児童家庭福祉の専門職を理解する。	・予習：テキスト第12章「児童家庭福祉の専門職」（193～199ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してこれまで学んだ章の内容をまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第15回	【第５回集中授業　7月（7/9（土）予定）　2～4限目】 医療的ケア児支援法について　※内容変更	医療的ケア児支援法の概要を知り、保育士による保育の実際について理解する。	・予習：授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してこれまで学んだ章の内容をまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第16回	【第６回集中授業　8月（8/6（土）予定）　2限目】 「期末試験」 ※感染症が蔓延する場合は、遠隔にて実施します。	※感染症が蔓延し、遠隔で実施する場合 ・Google classroom内の児童福祉論の中に期末試験を用意します。10:40～11:40までの60分間になります。 ・通信環境を整えおいてください。パソコンからもスマートフォンからもアクセス可能です。	・予習：第1回から15回までのキーワードを整理してこれまで学んだ章の内容をまとめておくこと。	

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。
評価方法	・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し，授業内に実施します。1回あたりの問題数は10問程度で出題します。 ・定期試験は、小テストの振り返りや記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		
	態度		○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	小テスト（20%）、態度（20%）、定期試験（60%）にて評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	松本園子・堀口美智子・森和子編著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』ななみ書房　2017年。 978-4-903355-66-5C3037
参考図書	その日の授業に関連する資料を配布します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。 【思考・判断】 ・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。 ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。
オフィスアワー	毎回、小テストに「質問・感想」の記入欄を設けているため、質問等の応答は可能。
学生へのメッセージ	主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背

	景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回りのことに照らし合わせたり置き換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。 ※感染症が蔓延する場合の出欠席の対応について ・感染や濃厚接触が疑われる場合は、すみやかに大学へ連絡して下さい。この連絡状況から、感染者に対する出欠席の取り扱いを行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，児童家庭福祉領域の中で、知的障害児、重症心身障害児になどの児童やその家族に関する、福祉、看護医療の専門職として実務経験を有しており、生活支援技術、相談支援技術、保育（療育）に関する理論や支援技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	自然体験活動演習Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P40502M23
授業概要(教育目的)	森のようちえん活動において実施される自然体験活動プログラムを実際に体験し、その魅力や意義・効果について体験的に理解することで、自然体験活動の指導に必要な素地を養うことを目的としている。また、学んだ知識技術を基に、子ども達の活動を支える「キャンプカウンセラー」の役割を補助的に担い、キャンプカウンセリング的なかかわり方や安全管理技術を修得するとともに、子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深めることを目指す。
履修条件	自然体験活動論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）で実施される様々なプログラムについて説明できる。 自然体験活動（キャンプ）で実施されるプログラムの意義や効果ついて説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムの効果的な運営に寄与することができる。
技術・表現の観点（A）	自然体験活動（キャンプ）で活用される様々なプログラムで必要な技術を修得している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 森のようちえんとは	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。	60分
第2回	森のようちえんの指導法	キャンプカウンセリング的なかかわり方について学ぶ。	森のようちえん活動における子どもの様子を映像で視聴し、その場で求められるキャンプカウンセリング的なかかわり方について整理する。	60分
第3回	森のようちえん活動におけるリスク管理	自然体験活動（キャンプ）がはらむリスクとその対処について学ぶ。	過去の事故事例から、安全管理の面で指導者が担うべき役割や対策について整理する。	60分
第4回	森のようちえん（A）の指導に向けた準備（1）	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。	60分
第5回	森のようちえん（A）の指導に向	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。	60分

	けた準備（2）			
第6回	森のようちえん（A）の指導（1）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導において主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。	90分
第7回	森のようちえん（A）の指導（2）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいて主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。	90分
第8回	森のようちえん（A）の指導のふりかえり	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。	90分
第9回	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（1）	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。	60分
第10回	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（2）	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。	60分
第11回	森のようちえん（B）の指導（1）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導において主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。	60分
第12回	森のようちえん（B）の指導（2）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいて主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。	60分
第13回	森のようちえん（B）の指導のふりかえり	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。	90分
第14回	子どもの様子に関するふりかえり	森のようちえん活動における指導を振り返り、特に子どもの様子に焦点を当て、自分自身の働きかけや周囲の子ども、活動内容と子どもの様子の影響関係について考察を深める。	子どもの様子をまとめた報告書を作成する。	90分
第15回	指導法に関するふりかえり	森のようちえん活動における指導を振り返り、特に自分自身の指導法に焦点を当て、気づきを整理する。	子どもの様子をまとめた報告書を作成する。	90分

学習計画注記	・野外活動が出来る服装で受講して下さい。 ・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。
評価方法	・森のようちえん活動への取り組み ・活動記録 ・最終レポート（ノート提出） を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	森のようちえん活動への取り組み	○	○	○	○
	活動記録	○	○	○	○
	最終レポート（ノート提出）	○	○	○	

評価割合	・森のようちえん活動への取り組み　60% ・活動記録　20% ・最終レポート（ノート提出）　20%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。 しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。 保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。

	また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんにおける指導を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	自然体験活動演習Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P40502M23
授業概要(教育目的)	本授業は、自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において、子ども達の活動を支える「キャンプカウンセラー」の役割を主任的な立場で担うことを通じ、自然体験活動の指導力を養うことを目的としている。体験的にキャンプカウンセリング的なかかわり方や安全管理技術を修得するとともに、子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深めることで、自然体験活動の指導力を育成することを目指す。
履修条件	自然体験活動演習Ⅰを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）の指導法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	個々の子どもに適した関わり方を指摘できる。 自然環境下の危険箇所について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自然体験活動（キャンプ）における子どもの指導に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点（A）	自然体験活動（キャンプ）を適切に指導することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 森のようちえんとは	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。	60分
第2回	森のようちえんの指導法	キャンプカウンセリング的なかかわり方について学ぶ。	森のようちえん活動における子どもの様子を映像で視聴し、その場で求められるキャンプカウンセリング的なかかわり方について整理する。	60分
第3回	森のようちえん活動におけるリスク管理	自然体験活動（キャンプ）がはらむリスクとその対処について学ぶ。	過去の事故事例から、安全管理の面で指導者が担うべき役割や対策について整理する。	60分
第4回	森のようちえん（A）の指導に向けた準備（1）	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。	60分
第5回	森のようちえん（A）の指導に向	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。	60分

	けた準備（2）			
第6回	森のようちえん（A）の指導（1）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導において主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。	90分
第7回	森のようちえん（A）の指導（2）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいて主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。	90分
第8回	森のようちえん（A）の指導のふりかえり	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。	90分
第9回	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（1）	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、活動内容の把握を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した指導方法について考えをまとめる。	60分
第10回	森のようちえん（B）の指導に向けた準備（2）	プログラムディレクターの指示のもと実地踏査を行い、安全確認を行う。	森のようちえん実施にあたって想定されるリスクとその対応について整理する。	60分
第11回	森のようちえん（B）の指導（1）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にプログラムの指導において主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（プログラムへの取り組み方について）を作成する。	60分
第12回	森のようちえん（B）の指導（2）	子ども達を対象にした森のようちえんにおいて、特にグループマネジメントにおいて主任カウンセラーとしての役割を果たす。	子どもの活動中の様子の記録（他者とのかかわり方について）を作成する。	60分
第13回	森のようちえん（B）の指導のふりかえり	活動を振り返り、子どもの様子や他者とのかかわり方について考察し、記録をする。また指導上の改善点についてまとめる。	指導方法に関する学生相互での気づきを整理すること。	90分
第14回	子どもの様子に関するふりかえり	森のようちえん活動における指導を振り返り、特に子どもの様子に焦点を当て、自分自身の働きかけや周囲の子ども、活動内容と子どもの様子の影響関係について考察を深める。	子どもの様子をまとめた報告書を作成する。	90分
第15回	指導法に関するふりかえり	森のようちえん活動における指導を振り返り、特に自分自身の指導法に焦点を当て、気づきを整理する。	子どもの様子をまとめた報告書を作成する。	90分

学習計画注記	・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。
評価方法	・森のようちえん活動への取り組み ・活動記録 ・最終レポート（ノート提出） を総合的に評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	森のようちえん活動への取り組み	○	○	○	○
	活動記録	○	○	○	○
	最終レポート（ノート提出）	○	○	○	

評価割合	・森のようちえん活動への取り組み　60% ・活動記録　20% ・最終レポート（ノート提出）　20%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。 しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。 保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。 また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんにおける指導を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	自然体験活動実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P40502M23
授業概要(教育目的)	自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱで学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において取り扱うプログラムの指導法について深く学ぶ。また活動内容の企画運営を主となって実施する「プログラムディレクター」の役割を担うことで、自然体験活動の場を設定し、運営する能力を育成する。子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深める。
履修条件	自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムと期待される効果について説明できる。 自然体験活動（キャンプ）の指導法や指導の考え方について説明できる。
思考・判断の観点（K）	目的に応じた自然体験活動（キャンプ）を計画し、提示することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自然体験活動（キャンプ）の企画運営に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点（A）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムを適切に企画・運営・指導することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 森のようちえんとは	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。	60分
第2回	アイスブレーキングゲームの指導法（1）	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「アイスブレイクゲーム」のうち、緊張感をほぐすことを目的としたゲームを体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。	アイスブレイキングゲームを通して得た気づきや、子どもがアイスブレイキングゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	60分
第3回	アイスブレーキングゲームの指導法（2）	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「アイスブレイクゲーム」のうち、互いを知り合うことを目的としたゲームを体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。	アイスブレイキングゲームを通して得た気づきや、子どもがアイスブレイキングゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	60分
第4回	イニシアティブゲームの指導法	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「イニシアティブゲーム」を体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。	イニシアティブゲームを通して得た気づきや、子どもがイニシアティブゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	60分
第5回	オリエンテーリングの	自然体験活動の具体的なプログラムの一つであり、動物の痕跡探し（アニマルトラッキング）や植物の観察を行	自然発見オリエンテーリングを通して得た気づきや、子どもが	60分

	指導法	いながら進める「自然発見オリエンテーリング」を体験し、その効果を理解するとともに、その指導法について学ぶ。	自然発見オリエンテーリングを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	
第6回	ネイチャーゲームの指導法（1）	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。また、いくつかの春や夏に適したアクティビティを実際に体験することで、その指導法と効果について理解する。	ネイチャーゲームを通して得た気づきや、子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	90分
第7回	ネイチャーゲームの指導法（2）	自然体験活動の具体的なプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。また、いくつかの春や夏に適したアクティビティを実際に体験することで、その指導法と効果について理解する。	ネイチャーゲームを通して得た気づきや、子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	90分
第8回	焚火の指導法	自然体験活動の中でも大きな教育的な意義をもつ焚火を実際に体験することで、その効果と安全な指導法について理解する。	焚火を通して得た気づきや、子どもが焚火を経験することによって得ることが期待される効果についてまとめる。	90分
第9回	森のようちえんのプログラム立案（1）	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第10回	森のようちえんのプログラム立案（2）	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第11回	森のようちえんのプログラム計画と準備（1）	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。	60分
第12回	森のようちえんのプログラム計画と準備（2）	当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	60分
第13回	森のようちえんのプログラム実施（1）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第14回	森のようちえんのプログラム実施（2）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第15回	ふりかえり、まとめ	企画・運営を行ったプログラムを振り返り、その成果や改善点についてまとめる。	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した活動報告書を作成する。	90分

学習計画注記	・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。 ・日本キャンプ協会認定の「キャンプインストラクター」の資格保有者が本授業を履修し、森のようちえん活動の宿泊キャンプに参加した上で単位を取得することで、上位資格である「キャンプディレクター2級」に申請することができます。 （別途、テキスト代：2,200 円（税込）、登録諸経費：11,000 円（税込）が必要です。）
学生へのフィードバック方法	プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。
評価方法	・プログラム企画・運営への取り組み ・企画書 ・実施報告書 ・レポート（ノート提出） を総合的に評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	プログラム企画・運営への取り組	○	○	○	○
	企画書	○	○	○	○
	実施報告書		○	○	○
	最終レポート（ノート提出）	○	○	○	○

評価割合	・プログラム企画・運営への取り組み　20%×2回＝40% ・企画書　　10%×2回＝20% ・実施報告書　10%×2回＝20% ・最終レポート（ノート提出）　20%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる

	【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。 しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。 保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。 また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんの企画・運営を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし
非常勤講師	猿渡　厚史	指定なし

ナンバリング	P20311M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Ａでは、小学校・特別支援学校でのボランティアや授業見学を通じて教師とはどのような職業か理解する他、教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の向上を図る。 特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

初等教育演習Ａ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	心構え、ガイダンス、教職教養	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。	90分
第2回	教職教養 算数・数学	教員採用試験対策演習　教職教養　算数・数学　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	教職教養　算数・数学について復習する。	90分
第3回	算数・数学	教員採用試験対策演習　算数・数学　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習　英語週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習　英語・国語	英語・国語について復習する。	90分
第6回	国語	教員採用試験対策演習　国語 週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 最も印象に残っている先生（猿渡厚史）集中講義で行う。	最も印象に残っている先生について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　大きな影響を与えてくれた先生（猿渡厚史）	大きな影響を与えてくれた先生について復習する。	90分

第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教師に求められる力（猿渡厚史）	教師に求められる力について復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教職とは（猿渡厚史）	教職とはについて復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　自分の教職への適性（猿渡厚史）	自分の教職への適性について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教育界の課題や子どもたちの抱える問題(猿渡厚史)	教育界の課題や子どもたちの抱える問題について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教育課題への対応についての小論文（猿渡厚史）	教育課題への対応についての小論文について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　目標とする子どもの姿（猿渡厚史）	目標とする子どもの姿について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　学習指導要領について（猿渡厚史）	学習指導要領についてについて復習する。	90分

学生へのフィードバック方法	作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。
評価方法	各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。 ボランティア活動の報告を評価する。 担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	レポート		○		
	平常点			○	

評価割合	試験またはレポート（５０％）、平常点（５０％） 総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	２０２４年度　教員採用試験対策問題集１　一般教養』東京アカデミー編　２０２２年１０月刊行
ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
オフィスアワー	各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。
学生へのメッセージ	教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし
非常勤講師	坂本　紀典	指定なし
非常勤講師	猿渡　厚史	指定なし

ナンバリング	P30312M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Ｂでは、初等教育演習Ａでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の定着を図る。 特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

初等教育演習Ｂ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職教養の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。	90分
第2回	教職教養、算数・数学	教員採用試験対策演習　教職教養　算数・数学　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	教職教養　算数・数学について復習する。	90分
第3回	算数・数学	教員採用試験対策演習　数学　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	数学について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習　英語　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習　英語・国語 週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	英語・国語について復習する。	90分
第6回	国語	教員採用試験対策演習　国語　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己分析 集中講義で行う。	自己分析について復習する。	90分

第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教職に生かせる自分の性格や資質・能力	教職に生かせる自分の性格や資質・能力について復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　理想の教師像と努力したいこと	理想の教師像と努力したいことについて復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　これまでの人生で自分を大きく成長させた体験や出来事	これまでの人生で自分を大きく成長させた体験や出来事について復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　自己アピール文作成	自己アピール文作成について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教育に求められている「生きる力」の育成について	教育に求められている「生きる力」の育成について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　新しい学力論とアクティブラーニング	新しい学力論とアクティブラーニングについて復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　豊かな心や健やかな体	豊かな心や健やかな体について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　自己アピール文完成	自己アピール文を完成させる。	90分

学生へのフィードバック方法	作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。
評価方法	各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。 ボランティア活動の報告も評価する。 担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	レポート		○		
	平常点			○	

評価割合	試験またはレポート（５０％）、平常点（５０％） 総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	２０２３年度　教員採用試験対策問題集１　一般教養』東京アカデミー編　　２０２１年１０月刊行
ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
オフィスアワー	各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。
学生へのメッセージ	教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育演習Ｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし
非常勤講師	猿渡　厚史	指定なし

ナンバリング	P30313M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Ｃでは、初等教育演習Bまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の向上を図る。また、面接や小論文および模擬授業の対策も行う。 特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

初等教育演習Ｃ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。	90分
第2回	教職教養 算数・数学	教員採用試験対策演習　教職教養　算数・数学　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	教職教養　算数・数学について復習する。	90分
第3回	算数・数学	教員採用試験対策演習　算数・数学　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習　英語　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習　英語・国語	英語・国語について復習する。	90分
第6回	国語	教員採用試験対策演習　国語	国語について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 場面指導の実際１ 集中講義で行う。	場面指導の実際について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　場面指導の実際２	場面指導の実際について復習する。	90分

第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教育課題の解決に向けて小論文作成	教育課題の解決に向けて小論文作成について復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　模擬授業と集団協議１	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　模擬授業と集団協議２	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　模擬授業と集団協議３	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　授業力をつける　指導案の改善	授業力をつける　指導案の改善について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　授業力をつける　教材の工夫	教材の工夫について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　指導内容と方法の工夫改善	指導内容と方法の工夫改善について復習する。	90分

学生へのフィードバック方法	作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。
評価方法	各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。 担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	レポート		○		
	平常点			○	

評価割合	試験またはレポート（５０％）、平常点（５０％） 総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	２０２４年度　教員採用試験対策問題集１　教職教養』東京アカデミー編　２０２２年１０月発刊
ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
オフィスアワー	各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。
学生へのメッセージ	教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育演習Ｄ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし
非常勤講師	猿渡　厚史	指定なし

ナンバリング	P40301M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Ｄでは、初等教育演習Ｃまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の定着を図る。また、面接や小論文及び模擬授業の対策も行い、教師への志望動機や理想とする教師像等について適切に表現できるかを再確認するとともに、自己理解を深め、自己に関するプレゼンテーション能力の向上を図る。 特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問・予想問題を通して実践力をつける。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

初等教育演習Ｄ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。	90分
第2回	教職教養 算数・数学	教員採用試験対策演習　教職教養　算数・数学　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	教職教養　算数・数学について復習する。	90分
第3回	英語	教員採用試験対策演習　英語　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習　英語　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習　英語・国語　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	英語・国語について復習する。	90分
第6回	国語	教員採用試験対策演習　国語　週１回木曜日５限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文提出　集中講義で行う。	自己アピール文提出について復習する。	90分

第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教育実習に向けての心構え	教育実習に向けての心構えについて復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　教育実習の反省と学習したこと	教育実習の反省と学習したことについて復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　自己アピール文完成	自己アピール文を完成する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　予想問題の小論文作成	予想問題の小論文作成について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　模擬授業と集団協議の実施と改善１	模擬授業と集団協議の実施と改善１について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　模擬授業と集団協議の実施と改善２	模擬授業と集団協議の実施と改善２について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　面接対応と場面指導の実施と改善１	面接対応と場面指導の実施と改善１について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座　面接対応と場面指導の実施と改善１	面接対応と場面指導の実施と改善１について復習する。	90分

学生へのフィードバック方法	作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。
評価方法	各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。 担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○			
	レポート		○		
	平常点			○	

評価割合	試験またはレポート（５０％）、平常点（５０％） 総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	２０２３年度　教員採用試験対策問題集１　教職教養』東京アカデミー編　２０２１年１０月発刊
ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
オフィスアワー	各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。
学生へのメッセージ	教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童臨床実習ＡⅠ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	学内で実施している乳幼児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保育者としての実践力、臨床家としての資質を養成する。
履修条件	原則として、後期開講の「児童臨床実習ＡⅡ」と合わせ、通年で履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。 ２．保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。
思考・判断の観点（K）	１．個々の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。 ２．保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保護者支援のあり方について理解を深める。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	１．学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	現代の子育て事情を背景に、本実習授業の目的や各自の課題について知る。 初回の活動準備を行う。	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。	120分
第2回	子育て支援の現状と子育て支援グループ活動の基礎理論	グループ参加者（子どもと保護者）の基本的な情報を共有する。 子育て支援グループ活動の基礎理論について学ぶ。	次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第3回	子育て支援グループ実践活動①インテーク（集団における個の課題の確認）	インテーク面談により、各参加者（子どもと保護者）の様子を把握し、現状と課題について確認する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第4回	子育て支援グループ実践活動②（集団での安定、出会い体験）	集団に包まれ安定できる状況のもと、参加者（子どもと保護者）が安心して活動するために、保育者はどのようなことに留意し、役割を果たしたらよいのかについて考え、実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分

第5回	子育て支援を考える②（親子の交流の場としての役割について考える）	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割について考える	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第6回	子育て支援グループ実践活動③（保護者支援の実践の試み）	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第7回	子育て支援を考える③（保育者による保護者支援）	保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第8回	子育て支援グループ実践活動④（集団におけるコーナー活動の展開②）	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてのかかわりに留意し、保育を実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第9回	子育て支援グループ実践活動⑤（グループダイナミクス）	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第10回	子育て支援を考える④（地域社会と子育て）	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第11回	子育て支援グループ実践活動⑥（季節行事を取り入れた家族参加活動）	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第12回	子育て支援を考える⑤（現代社会における子育てをめぐる環境について）	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第13回	子育て支援グループ実践活動⑦（集団活動体験の統合）	保育場面において、子どもたち一人ひとりの活動やコーナー活動での体験が統合され、個と集団が共に育ちあうために、保育者がどのように動いたらよいのかについて考え、実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第14回	子育て支援活動を考える⑥（現代社会における子育ての課題の理解と支援の実際）	現代日本社会の子育てをめぐる社会的背景を踏まえながら、子育てに関する課題を理解し、支援の実際について探る。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第15回	まとめ（前期活動の総括および個人の実践研究成果発表）	前期の活動を総括し、個人の実践研究の成果を発表し、全体で共有する。また、前期の総括を踏まえ、後期の「児童臨床実習CⅡ」に向け、課題を検討する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の全体の活動の総括と各自の課題についての総括をおこなう。	240分

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	・毎回の活動前後の話し合いでのコメント ・期末レポートへのコメント
評価方法	実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点（活動への参加状況や討論への参加）などによる総合評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末レポート	○	○	○	
実習課題への取り組み	○	○	○	○
毎回の活動記録	○	○	○	

評価割合	平常点（授業への参加状況・討論への参加など）および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価
参考図書	東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援―地域に開く大学として共に育つ保育活動から―　第Ⅲ巻　2010年度」
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。 【思考・判断】個々の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。 【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。
オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室（メール等でも積極的に連絡をください。）
学生へのメッセージ	0歳～3歳の乳幼児期の子どもたちの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究テーマ等、各自の興味や・関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。(担当教員は長年、子育て支援の現場で臨床経験がある。)
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。
情報リテラシー教育		現代の子育て家庭を取り巻く現状を踏まえ、情報機器やITネットワークを活用した子育て支援のあり方を探る。
ICT活用		ZoomやYouTube等のICTを活用し、新たな子育て支援について考えていく。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童臨床実習ＡⅡ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	０歳～3歳の乳幼児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動学内実習。前期の「児童臨床実習ＡＩ」を踏まえ、参加者である子どもと保護者個々の課題と取り組み、保育者、臨床家としての資質の向上をはかる。毎回の活動体験にもとづく集団討議をおこない、児童学研究上の諸問題などについても考究する。
履修条件	原則として、前期開講の「児童臨床実習ＡＩ」と合わせ、通年で履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。 ２．個と集団の相即的発展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。
思考・判断の観点（K）	１．子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
技術・表現の観点（A）	１．学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション・後期・子育て支援グループ準備活動	前期「児童臨床実習ＣＩ」を改めて振り返り、後期からの本実習授業の目的や各自の課題についてグループで共有する。 また、後期の活動準備を行う。	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。	120分
第2回	子育て支援グループ実践活動①（集団における個の課題の検討）	グループ参加者（子どもと保護者）の個と集団の育ちに着目し、個々の課題を検討する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第3回	子育て支援を考える①（子ども理解と保育の目標及び子育て支援の目標の設定）	前回活動での参加児と保護者の様子を踏まえ、各参加者（子どもと保護者）の課題を確認し、後期の活動・支援方針について検討する。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第4回	子育て支援グループ実践活動②	個と集団の関係性に着目しながら、一人ひとりの子どもたちにとってのコーナー活動の充実を意識した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。	120分

	（集団におけるコーナー活動の展開①）		・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	
第5回	子育て支援を考える②（親子の交流の場としての役割について考える）	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割について考える	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第6回	子育て支援グループ実践活動③（保護者支援の実践の試み）	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第7回	子育て支援を考える③（保育者による保護者支援）	保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第8回	子育て支援グループ実践活動④（集団におけるコーナー活動の展開②）	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてのかかわりに留意し、保育の実践を	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第9回	子育て支援グループ実践活動⑤（グループダイナミクス）	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第10回	子育て支援を考える④（地域社会と子育て）	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第11回	子育て支援グループ実践活動⑥（季節行事を取り入れた家族参加活動）	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第12回	子育て支援を考える⑤（現代社会における子育てをめぐる環境について）	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第13回	子育て支援グループ実践活動⑦（季節行事を取り入れた保育）	クリスマスという季節行事を取り入れながら、子どもたちが主体的に楽しめる保育内容を考える。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第14回	子育て支援活動を考える⑥（現代社会における子育ての課題の理解と支援の実際）	これまでの活動も振り返りながら、現代社会における子育ての課題の理解と支援の実際についてグループディスカッションを取り入れながら理解を深める。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第15回	子育て支援グループ実践活動（最終）とまとめ （1年間の活動の総括および個人の実践研究成果発表）	前期「児童臨床実習ＣＩ」も含め、1年間の活動全体を振り返り、参加者（子どもと保護者）一人ひとりの成長や変化、集団全体の成長と発展について確認し、今年度最後の活動をまとめる。また学生についても保育者としての気づきや成長を総括する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の全体の活動の総括と各自の課題についての総括をおこなう。	120分

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	・毎回の活動前後の話し合いでのコメント ・期末レポートへのコメント

評価方法	実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点（活動への参加状況や討論への参加）などによる総合評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○	○	
	実習課題への取り組み	○	○	○	○
	毎回の活動記録	○		○	

評価割合	期末レポート30%、実習課題への取り組み30%、毎回の活動記録40%
参考図書	東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援―地域に開く大学として共に育つ保育活動から―　第Ⅲ巻　2010年度」
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。個と集団の相即的発展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。 【思考・判断】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。 【関心・意欲・態度】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。 【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。
オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室
学生へのメッセージ	0歳～３歳の乳幼児期の子どもたちの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究のフィールドとして選択している人は、研究課題等、各自の興味や・関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は公認心理師・臨床心理士等の有資格者であり、長年、療育・子育て支援現場で心理専門職としての実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。
情報リテラシー教育		現代の子育て家庭を取り巻く現状を踏まえ、情報機器やITネットワークを活用した子育て支援のあり方を探る。
ICT活用		ZoomやYouTube等のICTを活用し、新たな子育て支援について考えていく。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童臨床実習ＢⅠ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P40502M23
授業概要(教育目的)	自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱ、自然体験活動実習で学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において、活動内容の企画運営を主となって実施する「プログラムディレクター」の役割を担い、春～夏に適した自然体験活動の場を設定し、運営する能力を育成する。さらに、計画→実施→ふりかえりのサイクルを2度行うことで、実践的な能力の定着を目指す。子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深める。
履修条件	自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱ、自然体験活動実習を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムと期待される効果について説明できる。
思考・判断の観点（K）	目的に応じた自然体験活動（キャンプ）を計画し、提示することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自然体験活動（キャンプ）の企画運営に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点（A）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムを適切に指導することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 森のようちえんとは	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。	60分
第2回	森のようちえんのプログラム（A） 立案（1）	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第3回	森のようちえんのプログラム（A） 立案（2）	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第4回	森のようちえんのプログラム（A） 計画と準備（1）	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。	60分
第5回	森のようちえんのプログラム	当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	60分

	（A） 計画と準備 （2）			
第6回	森のようちえんのプログラム （A） 実施（1）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第7回	森のようちえんのプログラム （A） 実施（2）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第8回	ふりかえり（プログラム（A））	企画・運営を行ったプログラム（A）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。	90分
第9回	森のようちえんのプログラム （B） 立案（1）	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第10回	森のようちえんのプログラム （B） 立案（2）	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第11回	森のようちえんのプログラム （B） 計画と準備 （1）	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。	60分
第12回	森のようちえんのプログラム （B） 計画と準備 （2）	プログラム（A）の学びを基に、当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	60分
第13回	森のようちえんのプログラム （B） 実施（1）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第14回	森のようちえんのプログラム （B） 実施（2）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第15回	ふりかえり、まとめ	企画・運営を行ったプログラム（B）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。 また、プログラム（A）との比較を行い、成果の差や運営方法の改善などについて理解を深める。	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。	90分

学習計画注記	・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。
評価方法	・プログラム企画・運営への取り組み ・企画書 ・実施報告書 ・レポート（ノート提出） を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プログラム企画・運営への取り組	○	○	○	○
企画書	○	○	○	○
実施報告書		○	○	○
最終レポート（ノート提出）	○	○	○	○

評価割合	・プログラム企画・運営への取り組み　20%×2回＝40% ・企画書　　10%×2回＝20% ・実施報告書　10%×2回＝20% ・最終レポート（ノート提出）　20%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる

	【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。 しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。 保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。 また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんの企画・運営を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童臨床実習ＢⅡ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P40502M23
授業概要(教育目的)	自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱ、自然体験活動実習で学んだ知識と実践的能力を基に、森のようちえん活動において、活動内容の企画運営を主となって実施する「プログラムディレクター」の役割を担い、秋～冬に適した自然体験活動の場を設定し、運営する能力を育成する。さらに、計画→実施→ふりかえりのサイクルを2度行うことで、実践的な能力の定着を目指す。子ども達が自然の中で活動することが子ども達にどのような影響を与えるのかについて、実際の経験を通じて理解を深める。
履修条件	自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱ、自然体験活動実習を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムと期待される効果について説明できる。
思考・判断の観点（K）	目的に応じた自然体験活動（キャンプ）を計画し、提示することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自然体験活動（キャンプ）の企画運営に積極的に寄与することができる。
技術・表現の観点（A）	自然体験活動（キャンプ）のプログラムを適切に指導することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 森のようちえんとは	授業で扱う内容や進め方、スケジュール等について確認する。 また、森のようちえんの概要や教育目的等について理解する。	過去の森のようちえんの実施報告に目を通し、活動内容を理解する。	60分
第2回	森のようちえんのプログラム（A） 立案（1）	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第3回	森のようちえんのプログラム（A） 立案（2）	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第4回	森のようちえんのプログラム（A） 計画と準備（1）	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。	60分
第5回	森のようちえんのプログラム	当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	60分

	（A） 計画と準備 （2）			
第6回	森のようちえんのプログラム （A） 実施（1）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第7回	森のようちえんのプログラム （A） 実施（2）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第8回	ふりかえり（プログラム（A））	企画・運営を行ったプログラム（A）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。	90分
第9回	森のようちえんのプログラム （B） 立案（1）	森のようちえん全体の教育目的を踏まえ、自身が担当する森のようちえんでの教育目標を設定する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第10回	森のようちえんのプログラム （B） 立案（2）	様々な自然体験活動プログラムの中から、目的に合ったプログラムを選択し、その指導法について理解する。	プログラムとその目的、期待される効果等について整理しておく。	60分
第11回	森のようちえんのプログラム （B） 計画と準備 （1）	実地踏査を行い、活動場所や移動経路等を設定し、危険箇所などの確認を行う。	実施予定のプログラムの特性を理解し、適した運営方法について考えをまとめる。	60分
第12回	森のようちえんのプログラム （B） 計画と準備 （2）	プログラム（A）の学びを基に、当日の行動予定表やスタッフ配置、準備物や指導法などについて計画を進め、実施に向けた準備を進める。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	60分
第13回	森のようちえんのプログラム （B） 実施（1）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第14回	森のようちえんのプログラム （B） 実施（2）	子ども達を対象にした森のようちえんを実施し、プログラムディレクターとしての役割を体験する。	森のようちえん実施に向けた準備を進める。	90分
第15回	ふりかえり、まとめ	企画・運営を行ったプログラム（B）を振り返り、その成果や改善点についてまとめる。 また、プログラム（A）との比較を行い、成果の差や運営方法の改善などについて理解を深める。	森のようちえんの活動内容や時程、子どもの様子を記載した報告書を作成する。	90分

学習計画注記	・森のようちえんの実施状況等によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	プログラム実施後に面談の機会を設け、ともにふりかえりを実施し、フィードバックを伝えます。
評価方法	・プログラム企画・運営への取り組み ・企画書 ・実施報告書 ・レポート（ノート提出） を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
プログラム企画・運営への取り組	○	○	○	○
企画書	○	○	○	○
実施報告書		○	○	○
最終レポート（ノート提出）	○	○	○	○

評価割合	・プログラム企画・運営への取り組み　20%×2回＝40% ・企画書　　10%×2回＝20% ・実施報告書　10%×2回＝20% ・最終レポート（ノート提出）　20%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる

	【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。 しかし、幼児･児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。 保育者・教育者など、子どもの専門家を目指す皆さんには、まずは皆さん自身が自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。 また、本授業ではそのような「場づくり」の役割を担うことで、豊かな体験の場を作る力をもって現場に出てほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	森のようちえんの企画・運営を実際に行いながら、体験的に学びます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	障害の基礎的理解		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 松山　直輝	指定なし

ナンバリング	P10004M21
授業概要(教育目的)	障害者に対する基礎的理解を得るために、3つの事に焦点を当てた講義を実践する。第1に特別支援教育の概要や基礎的理念の理解を図る。第2に個別障害に対する基礎的理解を図る。第3に障害の擬似体験から障害に対する実践的な理解を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	障害種による基本的知識の理解が十分である。
思考・判断の観点（K）	障害による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	疑似体験活動後のディスカッションに協力的態度で取り組み事ができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションと特別支援教育	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。また、現場経験を踏まえて特別支援教育の魅力について触れる。	シラバスを参照し、全講義の流れを確認しておく事。	180分
第2回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概念について触れるとともに、教育現場の様子を資料から学ぶことで、実践に向けた理解を深める。	自分が考える「特別支援教育」のイメージや定義について、ノートに記載しておくこと。	180分
第3回	特別支援教育の基本的理念	特別支援教育に関連が深い障害の概念、差別・平等、ノーマライゼーション、インクルージョンについて理解する。	授業後、授業で取り上げた用語について整理し、各概念をノートにまとめておくこと。	180分
第4回	障害者の理解と支援「ICIDHとICF」	国際障害分類（ICIDH）の歴史的背景と課題ついて理解するとともに、国際生活機能分類（ICF）による課題解決の視点や障害に対する捉えを理解する。	授業後、ICFのモデルを活用した事例を一つノートに書くこと。	180分
第5回	障害の基礎的理解①「身体障害者」	障害の基礎的理解として、身体障害者の定義、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、平衡機能の障害、音声障害、言語機能の障害・そしゃく機能の障害、内部障害について理解する。	授業後、各障害についてノートに整理すること。	180分
第6回	視覚障害・白杖体験	ツールを活用して視覚障害を疑似体験し、視覚障害者の困難さや支援に対する理解を深める。	授業後、疑似体験した際の困難や支援の必要性についてノートにまとめておく事。	180分
第7回	肢体不自由・麻痺体	ツールを活用して肢体不自由を疑似体験し、肢体不自由者の困難さや支援に対する理解を深める。	授業後、疑似体験した際の困難や支援の必要性についてノート	180分

	験		にまとめておく事。	
第8回	肢体不自由・車椅子体験	ツールを活用して肢体不自由を疑似体験し、肢体不自由者の困難さや支援に対する理解を深める。	授業後、疑似体験した際の困難や支援の必要性についてノートにまとめておく事。	180分
第9回	聴覚障害・体験	ツールを活用して聴覚障害を疑似体験し、聴覚障害者の困難さや支援に対する理解を深める。	授業後、疑似体験した際の困難や支援の必要性についてノートにまとめておく事。	180分
第10回	障害の基礎的理解②「知的障害者」	知的障害者の心理機能について理解する。特に、知覚、認知、学習、行動調整の特性を中心に理解する。また、事例から知的障害者の教育について理解する。	知的障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。	180分
第11回	障害の基礎的理解③「精神障害者」	精神障害の概要について理解し、事例から精神障害者の困難や支援の方法を理解する。	精神障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。	180分
第12回	障害の基礎的理解④「発達障害者」	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害について、その感覚や行動等の特性について理解する。	発達障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。	180分
第13回	障害の基礎的理解⑤「高次脳機能障害・重複障害者」	高次脳機能障害や重複障害について理解し、事例から高次脳機能障害者や重複障害の困難や支援の方法を理解する。	高機能障害を持つ児童生徒の特徴、及び困難と支援の方法を整理しておく事。	180分
第14回	ゲストスピーカーの語り	身体障害者に関わりある方の語りを聞き、障害に対する実際的な理解を深める。	ゲストスピーカーの実際的な語りをメモし、事後に要点をまとめておくこと。	180分
第15回	講義まとめ	第1回～14回までの講義内容を復習する。	第1回～14回までの講義内容を復習しておくこと。	180分

学習計画注記	・履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・授業後のまとめの時間に質問を受け付け、その質問に回答する。
評価方法	・毎回の授業後に出席を兼ねたリフレクションペーパーの記載を求める。 ・リフレクションペーパーの内容、擬似体験とゲストスピーカーの講演後に提出する小レポート、及び期末レポート（もしくは定期試験）により評価する。 ・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業・疑似体験		○	○	
	レポート・リフレクションペーパ	○	○	○	
	期末レポート(或いは定期試験)	○	○		

評価割合	リフレクションペーパーの内容（15%）、小レポート(25%)、期末レポート(或いは期末試験)(60%)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別な支援ニーズを有する子どもの専門的、基礎的知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会との繋がりの観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。 【関心・意欲・態度】障害のある子どもの立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。
オフィスアワー	木曜２、３限（1605研究室）
学生へのメッセージ	社会環境の変化や価値観の多様化に伴い、子どもの支援ニーズも多様化しています。保育や教育の現場では、多様な支援ニーズに対応するための専門的知識や技能が求められています。本講で「障害」の基礎的事項について学び、「障害」について主体的に考えて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭：知的障害、発達障害、肢体不自由、聴覚障害、精神障害、聴覚障害、重複障害を持つ生徒に対する実務経験。②病弱者に対する学習支援：白血病等で病院の外へ出る事ができない子ども達への教育支援。③特別支援学校の部活指導：知的障害者に対する陸上競技の指導。以上の実務経験に基づいた教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	講義では障害の疑似体験ツールを活用した体験学習を取り入れて、それら経験に基づくディスカッションからアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	適宜、特別支援教育の合理的配慮に有用なICT機器の活用方法について紹介する。

シラバス参照

講義名	特別支援学校教育課程論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし

ナンバリング	P10306M21
授業概要(教育目的)	障害のある児童の教育は、その基本的な目的において、障害のない児童の教育と何ら変わるところはない。しかし、障害による困難を補い、多様な発達の課題に応じた教育を行うため、特別支援学校の教育課程には、自立活動という領域が加えられていることや、柔軟な課程編成が認められているなどの特色がある。また実際の指導は、一人一人の教育ニーズに応じて個別の指導計画を作成することや、医療、福祉、就労など地域の関係諸機関や保護者と密接に連携して進めることが必要とされている。本講義では、こうした特別支援学校の教育課程について基本的な知識を学ぶとともに、その実践例を通じて具体的な指導の展開を検討する。あわせて特別支援学校における今日的な教育課題について講ずる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	特別支援学校の教育課程について、各教科等の取り扱いや、障害の状態に応じた課程編成の方法を知り、その意義を理解する。
思考・判断の観点（K）	自立活動の区分及びその内容と、各教科や特別活動など他の領域の指導との関連を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。
技術・表現の観点（A）	個別の指導計画を作成するために必要な学習課題の分析を適切に行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション「特別支援教育の目的」	学校教育法や障害者基本法に基づき特別支援教育の目的について知る。その目的が、特別支援学校の教育課程にどのように反映しているかを学ぶ。	学校教育法や障害者基本法について調べ、学びを深めてください。	120分
第2回	各教科等を合わせた指導（1）	特別支援学校における柔軟な教育課程の編成の一つに「各教科等を合わせた指導」がある。本時は、その中から「日常生活の指導」と「遊びの指導」について実践例を通じて学習する。	「特別支援学校」と「日常生活の指導」「遊びの指導」をキーワードとして実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。	120分
第3回	各教科等を合わせた指導（2）：	「各教科等を合わせた指導」の中から、本時は、「生活単元学習」と「作業学習」について実践例を通じて学習する。	「特別支援学校」と「生活単元学習」「作業学習」をキーワードとして実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。	120分
第4回	重複障害者等に関する教育課程の取り扱い	二つ以上の重複した障害を有する児童に対しては、より柔軟な教育課程の編成が認められている。本時は、重複障害者に対する自立活動を主とした指導について学習する。	学習指導要領の中で自立活動に関する記載を調べておきましょう。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm	120分
第5回	自立活動（1）	自立活動は特別支援学校の教育課程に設けれている特別な領域である。本時は、自立活動の意義と変遷、指導の基本について学ぶ。	特別支援学校の自立活動について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm	120分
第6回	自立活動（2）：　６つの区分と指導内容	本時は、自立活動の６つの区分と、それぞれの主な指導内容について学ぶ。	自立活動の６つの区分と内容が、各教科や他の領域の指導とどのように関連づけられるかを調べ、学びを深めてください。	120分
第7回	個別の指導計画（1）	個別の指導計画について学び、日本の特別支援教育に導入された経過を考える。また、参考とされたアメリカのＩＥＰについて学び、日本の個別の指導計画との共通点や相違点について検討する。	アメリカの障害児教育におけるＩＥＰについて調べ、学びを深めてください。	120分
第8回	個別の指導計画（2）：長期目標と短期目標、学習課題の分析	個別の指導計画の特徴の一つとして、長期目標と短期目標の二つの目標の立て方がある。本時は、その目標の設定に必要な学習課題の分析方法について学ぶ。	自立活動と個別の指導計画との関連を調べ、学びを深めてください。	120分
第9回	個別の教育支援計画	個別の指導計画は、個々の児童の教育ニーズに合わせて個別化された学校教育のプログラムである。これに対して、個別の教育支援計画は、学校と関係機関（医療・保健、福祉、就労等）や地域社会、保護者との連携を図る	個別の教育支援計画について調べ、学びを深めてください。	120分

		ために作成されるものである。本時は、個別の教育支援計画について学びながら、学校と地域社会との連携の在り方を考える。		
第10回	特別支援学校のキャリア教育（1）：キャリア発達と社会参加	本時は、障害の児童生徒のキャリア発達と社会参加について考える。	キャリア教育について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省ホームページ 『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm	120分
第11回	特別支援学校のキャリア教育（2）	本時は、特別支援学校におけるキャリア教育の実践例を学ぶ。	特別支援学校のキャリア教育の実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。	120分
第12回	交流及び共同学習	障害のある児童の教育は、障害のない児童と教育の場が分離されて行われることが多いため、相互の交流及び共同学習の機会を設けることが求められている、本時は、交流教育の形態と実践について学ぶ。	交流教育にはどのような方法があるのか、またそれぞれの実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。	120分
第13回	ICTの活用と情報モラル教育	本時は、障害のある児童の学習やコミュニケーションを補う支援技術について学習する。社会が急速に情報化されているため、障害者の生きる力も、「情報化社会を生きる力」として見直していく必要がある。また、情報モラル教育の重要性についても考える。	特別委支援教育におけるＩＣＴ活用の実践例の紹介を調べ、学びを深めてください。	120分
第14回	特別支援学校の性教育	障害者の性教育は、以前は性的な問題の予防的な観点から行われる傾向があった。しかし、現代では、セクシャリティ教育の視点から、障害者の権利として性を考えていくことが求められている。本時は、ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に基づき、障害者に対する性教育を見直す。	ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」について調べ、学びを深めてください。	120分
第15回	まとめ	これまでの学びを振り返り、障害者の学齢期における発達課題と、特別支援学校の教育課程との関係を考える。	この授業で学んだことを総括して、特別支援教育に関する学びが、自分自身の教職へのキャリア発達とどのように関係するか、言語化して説明できるようにしてください。	120分

学習計画注記	授業の進度等により内容の入れ替えや順序の変更等を行うことがある。
学生へのフィードバック方法	・授業毎にコメントカードを提出する。カードの内容に学生からの質問が含まれるときは、次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかかーどをピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。 ・サブノートを配布し、その記入を課題として提出を求めることがある。サブノートはディスカッションの素材として、教員の側からコメントを加えてピックアップし、授業内で紹介する。
評価方法	・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。 ・評価の方法は、①期末レポートと、②授業で配布するサブノートへの記入の提出課題、③ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○		○
	サブノート	○	○	○	
	ディスカッション		○	○	○
	コメントカード	○	○	○	

評価割合	期末レポート（70%）、サブノート（10%）、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	毎時間プリント教材を配布する。
参考図書	適宜に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別支援学校の教育課程について、各教科等の取り扱いや、障害の状態に応じた課程編成の方法を知り、その意義を理解する。 【思考・判断】自立活動の区分及びその内容と、各教科や特別活動など他の領域の指導との関連を考えることができる。 障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。 【関心・意欲・態度】障害のある児童の教育に関心をもち、教職への意欲を高める。 【技術・表現の観点】個別の指導計画を作成するために必要な学習課題の分析を適切に行うことができる。
オフィスアワー	前期：月曜３限（江田研究室） 後期：金曜４限（江田研究室）
学生へのメッセージ	障害のある児童の教育ニーズは、ニーズそのものが特別なものではなく、障害のない児童とまったく同じ、ごく当たり前のニーズを持っているに過ぎません。しかし、その当たり前のニーズを達成するためには、特別な指導のプロセスを必要とすることがあります。例えば、目の見えない子どもに対して、他の子どもと同じプリントの教材を配ったとしたら、それは平等な扱いであったとしても、公平な指導とは言えません。その児童が他の児童と同じように教育の目的に到達するためには、教材を点字のプリントに変更したり、通常の学級の教育課程にはない点字の指導を新たに加えることが必要になります。そうしたプロセスの変更が特別支援教育そのものなのです。また、その指導の方法も、何か特殊なことを行っているのではなく、、一人一人の発達状況や障害に合わせた「個に応じた指導」が、より丁寧に行われているだけなのだと分かります。すなわち、特別支援教育とは、じつは特別な教育ではなく、誰一人置き去りにしない教育であり、その学びは、どんな子どもの教育においても、きっと有用であると言えるでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。 想定事例で児童の学習課題の分析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報モラルの教育について学ぶ。
ICT活用	○	特別支援教育におけるＩＣＴの活用について実践例を通じて学ぶ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	特別支援教育総論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし

ナンバリング	P10305M21
授業概要(教育目的)	特別支援教育は、障害のある児童や、発達につまずきや偏りがある児童、その他の特別な教育ニーズを有する児童を対象として、その個人差に応じた支援を行うことで学習や生活の困難を補い、児童の自立を図るために必要な知識や技能を提供するものです。しかし、特別支援教育の目的の根本は、障害のない児童の教育と何ら変わるものではありません。同じ教育の目的を達成するために、そのプロセスにおいて特別な配慮や支援をより丁寧に行っていく教育が、特別支援教育の本質であるといえます。 本講義では、「障害とは何か？」という素朴な疑問からスタートして、障害の概念の歴史的な変遷や、現代の国際社会における障害の定義へと学びを進めていきます。また、障害者の人権や教育保障に関わる国内法規や国際条約を概観し、特別支援教育をめぐる現代の課題について考えます。知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史と、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を提供します。加えて海外の特別支援教育を紹介します。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史を理解し、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を知る。
思考・判断の観点 (K)	特別支援教育をめぐる現代の課題について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	特別支援教育における障害種別の教育活動への関心を深め、教職への意識を高める。
技術・表現の観点 (A)	1障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。

学習計画

特別支援教育総論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション「障害とは何か？」	ＷＨＯ（世界保健機構）のＩＣＦ（国際生活機能分類）について学ぶ。「障害とは何か？」についてディスカッションを通じて考えながら、現在の国際社会における障害の概念定義を学習する。	ＩＣＦ（国際生活機能分類）について調べ、学を深めてください・ 【参考例】 厚生労働省ホームページ 「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」（日本語版） https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html	120分
第2回	障害者の人権と教育保障	現代の日本の教育法規と障害者基本法、国際連合の障害者の権利に関する条約について学び、障害のある人の人権と教育の保障がどのように図られているかを知る。そのキーワードとして「合理的配慮」「アクセシビリティ」「バリアフリー」の意義について考える。	・「学校教育法」における特別支援教育に関する事項を調べてみましょう。 ・「障害者基本法」と国際連合の「障害者の権利に関する条約」について調べ、学びを深めてください。	120分
第3回	肢体不自由の理解と教育支援（１）	肢体不自由者に対する教育の歴史を概観するとともに、その教育支援に必要となる基本的な知識を学ぶ。本時は、肢体不自由教育の時代的な変遷を概観する。また、車椅子の操作と介助を体験的に学び、支援の在り方について考える。	パラリンピックの車椅子競技など、肢体不自由者の活躍を調べ、学びを深めてください。	120分

第4回	肢体不自由の理解と教育支援（２）	重度の肢体不自由者における「自立」と「自律」をどのように考えるか、ディスカッションを通じて考える。また、肢体不自由者の教育における医療との連携や、学校における医療的ケアなどについて学び、現在の学校教育の課題について考える。	・「自立」とはどのような状態を言うのか？　自分はどの程度自立しているかを考え、ノート等に記録して授業に臨んでください。 ・授業後、その考え方がどのように変化したかを記して、考えをまとめ、深めてください。	120分
第5回	視覚障害の理解と教育支援（１）	古くは日本の中世の当道座から始まる、日本独特の視覚障害者の教育や職業訓練の歴史を概観する。また、点字と歩行訓練の体験的な学習を通じて、教育支援の基本的な心構えについて考える。	点字と視覚障害者の白杖歩行について調べ、学びを深めてください。	120分
第6回	視覚障害の理解と教育支援（２）	視覚のはたらきについて学びながら、障害の程度や発生の時期による課題を考え、盲人、弱視者の教育支援に必要となる基本的な知識を学ぶ。	視力検査に用いられるランドルト環とその利用の歴史、色覚検査と色覚障害による資格制限などについて調べてみましょう。	120分
第7回	聴覚障害の理解とその支援（１）	聴覚障害者の教育の歴史を概観するとともに、ろう学校の教育の動画を視聴し、口話法（聴覚口話法）と手話、人工内耳等の支援方法についてディスカッションを通じて考える。	口話法、手話、人工内耳について、それぞれ調べ、学びを深めてください。	120分
第8回	聴覚障害の理解とその支援（２）	手話の歴史と、聴覚障害者の教育における方法論の変遷について考える。また、手話と指文字の体験的な学習を通じて、教育支援に必要な心構えについて考える。	指文字を調べ、自分の名前を指文字で綴れるようになりましょう。	120分
第9回	知的障害の理解と教育支援（１）	知的障害をめぐる概念定義や診断基準の変遷、及び教育的な処遇の歴史について学び、その人権と教育保障について考える。	知的障害の福祉手帳が発布される条件について調べてみましょう。知能や知能検査、及び「適応行動」の意味などを調べ、学びを深めてください。	120分
第10回	知的障害の理解と教育支援（２）	知的障害者の進路とキャリア教育について学ぶとともに、現代の社会生活における支援の課題と「生きる力」について考える。	特別支援学校高等部の卒業生の進路について調べ、学びを深めてください。	120分
第11回	重度重複障害の理解と教育支援（１）	特別支援教育の対象となる児童の障害が重度化、重複化する傾向について、第二次大戦の前後から現代までの変遷を学ぶとともに、その要因について考える。また対象者の実態の変化にともなう、教育課題の変化について考える。	特別支援学校における重複障害の学級に在籍する児童生徒の人数変化について調べ、学びを深めてください。	120分
第12回	重度重複障害の理解と教育支援（２）	ＩＣＴの技術的な発展が障害者の教育にもたらす変化を知る。重度重複障害を有する児童に対する教育の方法について、特にアシスティブテクノロジーの活用から考える。また「情報処理機器アクセシビリティ指針」等、こうした変化の背景にある制度的な変化について知る。	「情報処理機器アクセシビリティ指針」を調べ、それが自分が利用しているコンピュータやスマートフォンにどのように反映しているか確かめてみましょう。	120分
第13回	海外の特別支援教育（１）	東南アジア、特にベトナムにおける特別支援教育と、児童の医療、福祉について学ぶ。	ベトナムについて調べておきましょう。特に日本との関係に注目して調べ、考えたことを記録してください。	120分
第14回	海外の特別支援教育（２）	アメリカ合衆国、特に中西部のネブラスカ州における特別支援教育と、児童の医療、福祉について学ぶ。	アメリカのネブラスカ州について調べてみましょう。また、アメリカの特別支援教育で用いられるＩＥＰ（個別教育計画）について調べ、学びを深めてください。	120分
第15回	まとめ	これまでの学習内容を総括し、ディスカッションにより洞察を深める。	これまでの授業のテーマの中で、自分が最も関心をもったものを取りあげ、意見や提案をまとめて記録し、授業に臨んでください。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。
評価方法	・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。 ・評価の方法は、①期末レポートと、②ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○		○
	ディスカッション	○	○	○	○
	コメントカードコメントカード	○		○	

評価割合	期末レポート(80%)、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	各授業でプリント教材を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、重度重複障害それぞれの障害に応じた教育の歴史を理解し、その教育支援に必要となる基本的な臨床的知識を知る。 【思考・判断】特別支援教育をめぐる現代の課題について考える。 【関心・意欲・態度】特別支援教育における障害種別の教育活動への関心を深め、教職への意識を高める。 【技術・表現】1障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。
オフィスアワー	前期：月曜3限（江田研究室）、後期：金曜4限（江田研究室） 事前に必ずメールなどでアポイントメントをとってください。
学生へのメッセージ	障害のある児童の教育に対する理解は、ふだん当たり前だと思っていたことへの疑問から始まります。すなわち理解が進むほど、疑問が増えてきます。「複雑でよく分からない」と感じたとしたら、それはむしろ自分の認識

	が深まっている証だとも言えるでしょう。そうした疑問を、好奇心と学びの意欲につなげてくれることを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害のある児童の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	障害のある児童の学習とコミュニケーションを支援するＩＣＴの活用について学ぶ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	知的障害者の教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし
助教	原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	P20310M21
授業概要(教育目的)	知的障害児の障害や学習特性を正しく理解して個別の指導計画に基づき授業を計画的に実施することは重要である。また幼稚園、小学校等に在籍する特別な教育的ニーズを要する幼児児童も含めて、一人一人の障害の状態や学習特性等に応じた多様な指導方法が求められている。そのためには、まず知的障害児の障害や学習特性に応じた指導内容・方法について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。知的障害児の障害や学習特性の理解、知的障害教育の教育内容・方法、実態把握から指導目標の設定や指導内容・方法及び学習評価の理解、個別の教育支援計画や個別の指導計画及び指導案の作成、教材・教具の作成について概説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.知的障害児の障害や学習特性及び基本的な指導方法を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	1.事例を通して、知的障害の障害特性や行動面への理解を深めることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.知的障害児の指導法について、実態把握を行い指導目標の設定や指導内容・方法の検討を行う指導の流れを理解し適切な指導や必要な支援について理解を深めることができる。
技術・表現の観点（A）	1.知的障害教育の指導内容・方法や学習評価の理解及び学習指導案を作成することができる。 2.知的障害教育における基本的な指導内容や指導方法を他者に説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育要領・学習指導要領改訂のポイント	知的障害教育に関する教育要領、特別支援学校学習指導要領(幼稚部、小学部・中学部・高等部)と小学校・中学校学習指導要領の改訂のポイントについて学び、知的障害教育の概要を理解する。	教科書第1章を読んでおくこと。	120分
第2回	知的障害児の障害特性と配慮	障害の捉え方(ICF)、知的障害とは、各障害特性と配慮(知的障害、ダウン症、自閉症・情緒障害、重度・重複障害)を学び、各障害特性や状況を理解する。	教科書第2章を読んでおくこと。	120分
第3回	知的障害教育における教育課程編成と多様な教育の場	教育課程編成の基本的な考え方について、各教科等に係る具体的な改善事項、各教科、道徳　特別活動、特別の教科道徳、総合的な時間の指導、自立活動、外国語活動、幼稚園、小学校・中学校(特別支援学級)、特別支援学校(幼稚部、小学部、中学部、高等部)の教育活動の特色 を学び、特別支援教育の多様な教育の概要について理解する。	教科書第3章を読んでおくこと。	120分
第4回	知的障害教育における指導の特徴	知的障害児の学習上の特性、教育的配慮の基本について、指導の形態(教科別の指導、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けた指導、各教科等を合わせた指導)の指導内容の設定と授業時数の配当及び各教科	教科書第4章を読んでおくこと。	120分

		の目標に準拠した評価の観点による学習評価について学び、教育課程の編成・実施・評価について理解する。		
第5回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	個別の教育支援計画と個別の指導計画作成の意義、配慮事項について、その作成と活用例を学び、実際の指導について理解する。	教科書第5章を読んでおくこと。	120分
第6回	自立活動の指導	自立活動の指導内容・方法を学び、個々の障害特性に応じた指導法について理解する。	教科書第6章を読んでおくこと。	120分
第7回	学習指導案の作成・活用	学習指導案の作成に関する事項(単元名、本時のねらい、児童生徒の実態、指導目標の設定、授業の導入・展開・まとめ)、学習評価等について学び、特別支援教育における授業を理解する。	教科書第7章を読んでおくこと。	120分
第8回	日常生活の指導	特別支援学校(幼稚部、小学部、中学部、高等部)、小学校・中学校特別支援学級における日常生活の指導について実践的に学び、知的障害児の生活指導について理解する。	教科書第8章を読んでおくこと。	120分
第9回	遊びの指導	特別支援学校(幼稚部、小学部)、小学校特別支援学級における遊びの指導の実践を学び、知的障害児の社会性や生活力を高める方法について理解する。	教科書第9章を読んでおくこと。	120分
第10回	生活単元学習	特別支援学校(幼稚部、小学部、中学部)、小学校・中学校特別支援学級における生活単元学習の実践を学び、知的障害児の体験を通した学びについて理解する。	教科書第10章を読んでおくこと。	120分
第11回	作業学習の指導	特別支援学校(中学部・高等部)、小学校・中学校特別支援学級における実践例を学び、知的障害児の社会的・職業的な自立に必要な知識・技能・生活習慣を育むことついて理解する。	教科書第11章を読んでおくこと。	120分
第12回	国語科の指導	特別支援学校(小学部、中学部、高等部)、小学校・中学校特別支援学級の実践を学び、知的障害児の言語力やコミュニケーション力を育む国語指導について理解する。	教科書第12章を読んでおくこと。	120分
第13回	算数科の指導	特別支援学校(小学部、中学部、高等部)、小学校・中学校特別支援学級の実践を学び、知的障害児の数量等の指導に関する学習指導法を理解する。	教科書第13章を読んでおくこと。	120分
第14回	重複障害児の理解と指導	重複障害及び重度・重複障害の定義、状態像、多様な教育の場、実態把握と指導目標・内容の設定、指導方法の工夫などを学び、知的障害と重複した障害のある子どもに対する指導内容・方法について理解する。	教科書14章を読んでおくこと。	120分
第15回	知的障害児の進路指導	個別の移行支援計画、現場実習、進路先の決定を学び、知的障害児の進路指導について理解する。	教科書第15章を読んでおくこと。	120分
第16回	定期試験	教科書と各授業内容を基に定期試験を実施する	教科書の各章と各授業内容を復習して、定期試験に臨むこと。	

学習計画注記	履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	・授業ではスライドを提示したり、オンライン・コンテンツを共有するなど、理解しやすい授業を行う。 ・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。
評価方法	・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。 ・評価の方法は、①定期試験（または期末レポート）と、②授業内で指示した課題の提出、④コメントカードの提出を総合して採点を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験（または期末レポート）	○	○		
	提出課題	○	○		○
	コメントカード	○		○	

評価割合	定期試験（または期末レポート）70%、提出課題20%、コメントカード10%
使用教科書名(ISBN番号)	各授業でプリント教材等を配布、またはオンライン・コンテンツを共有する。
参考図書	適宜に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別支援学校の知的障害教育について理解し、知的障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができている。 【技能・表現】学習指導案の作成や指導法及び教材の作成について学び、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】知的障害児の指導法について、実態把握を行い指導目標の設定や指導内容・方法の検討を行う指導の流れを理解し適切な指導や必要な支援について理解を深めることができる。 【技術・表現】知的障害教育の指導内容・方法や学習評価の理解及び学習指導案を作成することができる。知的障害教育における基本的な指導内容や指導方法を他者に説明することができる。
オフィスアワー	メールで対応する
学生へのメッセージ	知的障害と他の障害は重複している場合も多いので、知的障害について知ることは、様々な障害を知る上での基礎となる。したがって、将来、保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざしている学生にとって、知

	的障害を理解しておくことはとても重要である。学習指導案の作成や教材・教具を活用した支援方法などについて、具体的にプリントやビデオなどを使用して、分かりやすく授業をする。初めての学生にも分かるように授業をするので、是非、受講して知的障害教育への理解を深めて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、重度障害児童の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等の情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	障害のある児童のための電子教科書の利用や、ＩＣＴを導入した学習指導の方法を学ぶ。 知的障害や発達障害の児童の書字能力の発達について、ＩＣＴにより評価する方法を体験する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	肢体不自由者の教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 松山　直輝	指定なし

ナンバリング	P30310M21
授業概要(教育目的)	肢体不自由教育の歴史や肢体不自由を持つ児童・生徒の学習上又は生活上の困難等に関する基本的事項について解説する。また、障害の特性に応じた指導について解説し、合理的配慮や教材の工夫について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	肢体不自由に関する基本的知識を理解している。
思考・判断の観点（K）	肢体不自由による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	疑似体験活動後のディスカッションに協力的な態度で取り組めている。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

肢体不自由者の教育

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションと肢体不自由の定義	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。肢体不自由の定義について解説する。	肢体不自由についてWebで調べておくこと	180分
第2回	肢体不自由教育の歴史	肢体不自由者を対象とした学校ができるまでの歴史を解説する。	Webで肢体不自由者について調べておくこと。	180分
第3回	肢体不自由児の理解（1）脳性麻痺等の基礎疾患	肢体不自由の概念と支援の概要、脳性麻痺、脊椎障害、進行性筋ジストロフィー、末梢神経疾患について解説する。	各症状についてWeb上の情報を調べておくこと。	180分
第4回	肢体不自由児の理解（2）脳性麻痺等の基礎疾患	肢体不自由の概念と支援の概要、脳性麻痺、脊椎障害、進行性筋ジストロフィー、末梢神経疾患について解説する。	脳性麻痺、脊椎障害、進行性筋ジストロフィー、末梢神経疾患の各症状についてWeb上の情報を調べておくこと。	180分
第5回	今日の肢体不自由の課題	医療の進歩等に伴う，児童生徒の状態の変化と，教育ニーズの多様化について解説する。	児童・生徒の医療的ケアに関してWebで調べておくこと。	180分
第6回	重度・重複障害児教育	医療の定義と教育の定義の違い、並びに学習指導要領に示された重度重複障害について解説する。	重度重複障害についてWebで調べておくこと。	180分
第7回	肢体不自由	実態把握の手法と目標設定のプロセスについて解説す	肢体不自由者の実態把握につい	180分

	特別支援学校における指導内容の選定	る。	てWebで調べておくこと。	
第8回	自立活動１	障害種別に自立活動の在り方を概説し，認知発達・運動障害に対する自立活動の実際を紹介する。	自立活動の概要をWebで調べておくこと。	180分
第9回	自立活動２	障害種別に自立活動の在り方を概説し，認知発達・運動障害に対する自立活動の実際を紹介する。	自立活動の概要をWebで調べておくこと。	180分
第10回	肢体不自由教育における支援機器の紹介	車椅子、座位保持装置、コミュニケーション支援機器等を紹介し、その活用法と特徴について解説する。	車椅子、座位保持装置、コミュニケーション支援機器についてWebで調べておくこと。	180分
第11回	肢体不自由教育における自立活動(1)	保有する感覚の活用，身体の動き，姿勢と運動の関係に関する指導について解説する。	幼児の発達や身体の反射についてWebで調べておくこと。	180分
第12回	肢体不自由教育における自立活動(2)	呼吸障害，摂食嚥下障害のある児童生徒の指導について解説する。	呼吸障害、摂食嚥下障害についてWebで調べておくこと。	180分
第13回	重度・重複障害における教科指導のあり方について	学習指導要領の改訂を踏まえ，従来自立活動を主として教育課程を編成していた児童生徒の教科学習の可能性について解説する。	自立活動について復習しておくこと。	180分
第14回	ゲストスピーカーの語り	肢体不自由に関わりある方の語りを聞き、肢体不自由に対する学びを深める。	受講後は小レポートを提出すること。	180分
第15回	肢体不自由教育のまとめ	肢体不自由教育に対するこれまでの講義をまとめる。	これまでの講義内容を振り返っておく事。	180分

学習計画注記	・履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・授業後のまとめの時間に質問を受け付け、その質問に回答する。
評価方法	・毎回の授業後に出席を兼ねたリフレクションペーパーの記載を求める。 ・リフレクションペーパーの内容、疑似体験とゲストスピーカーの講演後に提出する小レポート、及び期末レポート（もしくは定期試験）により評価する。 ・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業・リフレクションペーパー		○	○	
	疑似体験・小レポート	○	○	○	
	期末レポート(或いは定期試験)	○	○		

評価割合	授業・リフレクションペーパー（15%）、小ポート（25%）、期末レポート(或いは定期試験)(60%)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】肢体不自由の専門的、基礎的知識が修得できている。 【思考・判断】肢体不自由があることによる独自の困難さが理解できている。 【関心・意欲・態度】肢体不自由のある児童・生徒の立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。
オフィスアワー	木曜２、３限（1605研究室）
学生へのメッセージ	肢体不自由はただ手や足が不自由ということではありません。それによる学習や生活上の困難さが存在します。本授業では、そうした困難さと当該ニーズに応じた指導法について、実際に教具を用いて体験的な理解を図ります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭：知的障害、発達障害、肢体不自由、聴覚障害、精神障害、聴覚障害、重複障害を持つ生徒に対する実務経験。②病弱者に対する学習支援：白血病等で病院の外へ出る事ができない子ども達への教育支援。③特別支援学校の部活指導：知的障害者に対する陸上競技の指導。以上の実務経験に基づいた教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	テーマに即したディスカッションを行い、主体的・協働的な活動を実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	適宜、特別支援教育の合理的配慮に有用なICT機器の活用方法について紹介する。

シラバス参照

講義名	病弱者の教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし

ナンバリング	P30311M21
授業概要(教育目的)	「病気」や「虚弱」という言葉は、広く曖昧な意味で用いられているため、病弱者の教育を理解するためには、まず教育対象となる児童の疾病や、学習または生活の困難について知る必要がある。また病弱者の教育は、医療との関係が深いゆえに、医療のシステムや治療法の変化にともなって、対象者の実態や教育の場が時代によって変遷する。そのため歴史や制度に関する学びが不可欠である。また、この授業では、病弱者の教育において求められる個別の指導計画の作成を、課題分析の実習を通じて学習する。具体的な指導法として、ＩＣＴを用いた支援技術や、遠隔教育の方法、食事場面での支援などを、実習や実験により体験的に学んでいく。あわせて学校における医療的ケアや、教育と医療及び福祉の連携など、病弱者の教育における今日の課題について講ずる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	病弱者の教育において対象となる疾病の種類と特徴を知り、学習上または生活上に生じる困難を理解できる。 病弱者の教育の変遷を知り、現代の学校教育における課題を理解できる。
思考・判断の観点（K）	教員との質疑応答や、学生どうしのディスカッションの中で、他者の意見から思考を修正し、自身の論述の水準を高めることができる。 ICT等の支援技術の適性を判断し、児童の実態に応じた教材・教具の選択が行える。
関心・意欲・態度の観点（V）	ディスカッションに積極的に参加し、他者の意見にも耳を傾けることができる。 指導計画や教材の作成において、先例を模倣せず、独自性のある提案を行うことができる。 授業の中で分からないことや疑問を感じたことは、まず自分で調べて解決する態度をもつ。
技術・表現の観点（A）	児童の学習課題を分析する方法を身につけ、個別の指導計画を立案することができる。 遠隔教育の指導法を習得し、児童の障害に応じてオンライン教材等の工夫を行うことができる。

学習計画

病弱者の教育

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション「病弱・身体虚弱とは」	年間の授業計画及び学習目標を提示する。「病弱児の教育」という言葉に対する各自のイメージに基づきディスカッションを行う。 その上で、小児の慢性疾患や難病、精神疾患、身体虚弱等、「病弱」の教育カテゴリーに含まれる病理の概念と、児童の生活や学習の 状況について概観する。	・受講に先立ち、「病弱」「身体虚弱」のキーワードから連想するイメージを、ノート等にできるだけ多く箇条書きにしておいてください。 ・授業でのディスカッションと学習を通じて、自分の当初のイメージがどのように変わったかを記録し、この授業で自分が身に付けたい 知識や技能、及び教職に向けての課題を具体化してください。	120分

第2回	病弱教育の変遷	明治期から現代まで、病弱者の教育の歴史的な変遷をたどり、対象疾患と教育制度及び教育形態の時代的変化を学ぶ。 特に今日国際的に目指されている障害者のインクルーシブ教育と、病弱者の教育の在り方との関係について検討する。	・事前に国際連合のCRPD「障害者の権利に関する条約」に目を通しておきましょう。 文部科学省ホームページ（日本語訳） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1323315.htm 国際連合（United Nation）（原文） https://www.un.org/development/desa/disabilities/convention-on-the-rights-of-persons-with-disabilities.html	120分
第3回	主な病気と教育支援（１）「小児がん、白血病、膠原病」	病弱者の疾病の概要と、教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。 本時は、小児慢性特定疾病の中から、白血病や固形腫瘍等の悪性新生物、ベーチェット病や若年性特発性関節炎等の膠原病について 知り、その教育支援の課題を検討する。	・小児慢性特定疾病の疾患群や病気の種類について調べてください。 【参考例】 小児慢性特定疾病情報センターホームページ https://www.shouman.jp/disease/search/group/ ・授業で学んだ病気や、その患者の教育について、各自で調べて学びを深めてください。	120分
第4回	主な病気と教育支援（２）「アレルギー疾患、糖尿病（1型糖尿病）、てんかん」	病弱者の疾病の概要と、教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。 本時は、小児気管支喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギー等のアレルギー疾患や、1型糖尿病、てんかんについて知り、 その教育支援の課題を検討する。	・この授業で学ぶ病気について調べ、授業後の学びを深めましょう。 【参考例】 アレルギー疾患の手引き（日本アレルギー学会） chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/viewer.html?pdfurl=https://www.jsaweb.jp/huge/allergic_manual2020.pdf&clen=49184961&chunk=true 日本てんかん協会ホームページ https://www.jea-net.jp/epilepsy	120分
第5回	主な病気と教育支援（３「筋ジストロフィー、先天性ミオパチー、ＡＬＳ」	病弱者の疾病の概要と、教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。 本時は、筋ジストロフィーや先天性ミオパチー、ＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）等の筋疾患について知り、その教育支援の課題を検討する。	・「難病」「指定難病」の定義と、その病気の種類や医療制度について調べてください。 【参考例】 難病情報センターホームページ https://www.nanbyou.or.jp/ 日本ＡＬＳ協会ホームページ https://alsjapan.org/how_to_cure-summary/ ・こうした疾病を有する人にどのような教育支援が行われているか調べ、学びを深めてください。	240分
第6回	主な病気と教育支援（４）「精神病性障害」	病弱者の疾病の概要と教育支援に必要な基礎的知識、心構えを学ぶ。本時は、統合失調症等の精神病性障害について知り、 その教育支援の課題を検討する。	・授業中に精神障害者家族会のよる調査資料を提供するので、そこから考えられることをまとめ、サブノートに記入して次回の授業で提出してください。	120分
第7回	病弱者の教育における自立活動と個別の指導計画（１）「自立活動の６つの区分と内容」	特別支援学校の教育課程における自立活動の６つの領域とその内容が、病弱者の教育とどのように関連づけられるかを検討し、 個別の指導計画の立案に向けて学ぶ。	・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編』第7章1「個別の指導計画の作成」及び病弱の生徒の個別の指導計画に 目を通しておいてください。 以下から参照できます。 文部科学省ホームページ chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/viewer.html?pdfurl=https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_5.pdf&clen=4094697&chunk=true	120分
第8回	病弱者の教育における自立活動と個別の指導計画（２）「目標の設定と課題分析」	個別の指導計画の作成を体験的に学習する。指導目標を適切に設定するため、課題分析の理論を学び、児童の実態把握（スタート）から 目標（ゴール）まで指導のプロセスを計画する実習を行う。	・授業で学んだことをもとに、各自で具体的な活動の目標を想定して、課題分析を行ってください。その指導計画のアイディアを サブノートに記入し、次回の授業で提出してください。	240分
第9回	病弱者の教育における自立活動と個別の指導計画（３）「指導の展開」	学生がそれぞれに作成した個別の指導計画を提案し、授業内でディスカッションを行う。また指導の目標と計画が、自立活動の ６つの区分と内容にどのように関係するかを検討する。	・授業内でディスカッションから学んだことを基に、自分で行った課題分析と指導計画の完成度を高めてください。	120分
第10回	病弱者の教育における支援技術（１）「視線コミュニケーション」	病弱者の教育における具体的な指導法について学ぶ。 本時は、筋ジストロフィーやＡＬＳ等の筋疾患により、自発的な身体の運動が困難となった児童に対して、視線により学習や コミュ ニケーションを行う支援技術を体験する。 先端的な工学技術を用いたハイテクレベル、身近な教材を活用するローテクレベル、道具を用いないノンテクレベルの指導法を それぞれ学ぶ。 特にローテクレベルの支援技術は、その効果について授業内で実証実験を行う。	・障害者の学習やコミュニケーションを支援するアシスティブ・テクノロジーについて調べてみよう。 【参考例】 厚生労働省『障害者の支援機器の活用ガイドブック』 chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/viewer.html?pdfurl=https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000307902.pdf&clen=5784222&chunk=true ・授業後、視線を利用したコミュニケーションを効果的に行うためには、どのような教材の工夫が考えられるか、自分のアイデアを サブノートに記入し、次回の授業で提出してください。 【参考】本時の実験について指導教員の以下の論文に詳しく書かれています。参考にしてください。 「視線コミュニケーションにおける注視点判別の効果的な条件設定に関する研究」 file:///C:/Users/Main-User/Downloads/KJ00004327742%20(2).pdf	120分

第11回	病弱者の教育における支援技術（２）「ＩＣＴの活用」	病弱者の教育における具体的な指導法について学ぶ。 本時は、障害の重い児童のコミュニケーションや遊びを充実させるため、ＩＣＴを活用した指導法を体験する。 多様なスイッチやセンサーを導入して、障害のある児童の残存機能を効果的に引き出し、子どもの活動の主体性を高めることを 目的とする。	・障害の重い子どものコミュニケーションや遊びを支援する機材にはどのようなものがあるか調べてみよう。 【参考例】 able-netホームページ（アメリカ） https://www.ablenetinc.com/	120分
第12回	病弱者の教育における支援技術（３）遠隔教育	病弱者の教育における具体的な指導法について学ぶ。 本時は、インターネット等のオンラインを利用した遠隔教育が、病弱者の教育に果たす役割について検討する。 タブレット型情報端末を利用した体験実習を行う。あわせて遠隔教育における情報モラルについて学ぶ。	・日本の学校における遠隔教育の現状について調べてください。 【参考例】 文部科学省「遠隔教育システム活用ガイドブック」第3版 chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/viewer.html?pdfurl=https://www.mext.go.jp/content/20210601-mxt_jogai01-000010043_002.pdf&clen=8575052&chunk=true	120分
第13回	病弱者の医療的ケア	医療施設に入院・入所している間、医師や看護師が行っていた医療的なケアを、家庭や学校で継続して行うことが必要なばあい、 家族や教員等の非医療職の人間が対応することになる。 医療的ケアは今日の特別支援教育における重要な課題の一つである。医療的ケアに対応する上で必要となる知識と心構えを学ぶ。	・学校における医療的ケアがなぜ必要になっているのか。. また学校で医療ケア児が増えているのはなぜか、各自で仮説を考えて授業に臨んでください。 ・授業後は、学校における医療的について調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省「学校における医療的ケアの今後の対応について（通知）」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1414596.htm	120分
第14回	病弱者の食事の指導	病弱者における食事の指導は、健康の維持や増進のための栄養管理面だけでなく、障害の重い児童にとっては、発達支援の 基礎となる重要な側面を有している。 本時は、児童の食べる機能の発達について、体験実習を通じて学習する。 特に、食べ物を口の中に取り込み、咀嚼し、飲み込むまでの一連の摂食動作の機能的な発達とその障害、及び指導法を学ぶ。	・様々な食材による口腔の摂食動作の違いを試し、そのプロセスを言語化して、説明できるようにしてください。 ・食べる機能の発達と、発声や発音などの言語の機能的な発達との関係を調べ、学びを深めてください。	120分
第15回	まとめ「教育と医療及び福祉の連携」	教育と医療、福祉は、それぞれに分かれた社会システムとして発展してきた。 しかし、病弱者においては、これらはどれも同時に必要不可欠な社会サービスといえる。 病弱者の教育が、病院・施設内の教育から、地域社会に統合された教育の形態へと変化していることから、三者の連携の重要性が増している。 本時は、特別支援学校の「個別の教育支援計画」について学びながら、地域連携の在り方について検討する。	・個別の教育支援計画について調べておきましょう。 【参考例】 文部科学省「個別の教育支援計画について」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361230.htm ・個別の教育支援計画の記載の具体例を調べ、学びを深めてください。 【参考例】 文部科学省「個別の教育支援計画の参考様式について」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00005.htm ・教育と医療及び福祉の連携における課題と、その改善策について、自分の考えをまとめてください。	240分

学習計画注記	・授業の進度等により内容の順序の変更や入れ替えを行うことがある。 ・第14回授業における食事の指導の体験実習では教材費として実費（100～200円程度）を徴収する。
学生へのフィードバック方法	・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて答える。また、学習内容の振り返りのために、教員の側でいくつかピックアップして意見を紹介する。コメントカードは、記載内容の紹介を授業で行うことの可否について、カードのチェック欄で学生自身が選択することができる。 ・サブノートの提出課題は、ディスカッションの素材として、教員の側でコメントを加えてピックアップし、授業内で紹介する。
評価方法	・授業時数の内、実習等の特別な事由による欠席を除き、３分の２以上を出席した者を評価の対象とする。 ・評価の方法は、①期末レポートと、②授業で配布するサブノートへの記入の提出課題、③ディスカッションへの参加状況、④各授業でのコメントカードの提出を総合して採点を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○		○
	提出課題	○	○	○	○
	ディスカッション	○	○	○	○
	コメントカード	○	○	○	

評価割合	期末レポート(60%)、提出課題（20%）、ディスカッション（10%）、コメントカード（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	『標準「病弱児の教育」テキスト』ジアース教育新社 日本育療学会【編著】/山本昌邦/島治伸/滝川国芳【編】 1,980円（税込） （ISBN978-4-86371-493-9）
参考図書	『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』ミネルヴァ書房 小野 次朗/西牧 謙吾/榊原 洋一【編著】

参考URL	https://www.shouman.jp/disease/search/group/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】病弱者の教育において対象となる疾病の種類と特徴を知り、学習上または生活上に生じる困難を理解できる。病弱者の教育の変遷を知り、現代の学校教育における課題を理解できる。 【思考・判断】教員との質疑応答や、学生どうしのディスカッションの中で、他者の意見から思考を修正し、自身の論述の水準を高めることができる。ICT等の支援技術の適性を判断し、児童の実態に応じた教材・教具の選択が行える。 【関心・意欲・態度】ディスカッションに積極的に参加し、他者の意見にも耳を傾けることができる。指導計画や教材の作成において、先例を模倣せず、独自性のある提案を行うことができる。授業の中で分からないことや疑問を感じたことは、まず自分で調べて解決する態度をもつ。 【技術・表現】ディスカッションに積極的に参加し、他者の意見にも耳を傾けることができる。指導計画や教材の作成において、先例を模倣せず、独自性のある提案を行うことができる。授業の中で分からないことや疑問を感じたことは、まず自分で調べて解決する態度をもつ。
オフィスアワー	前期：月曜３限（江田研究室） 後期：金曜４限（江田研究室）
学生へのメッセージ	障害のある児童の教育に対する理解は、ふだん当たり前だと思っていたことへの疑問から始まります。すなわち理解が進むほど、疑問が増えてきます。「複雑でよく分からない」と感じたとしたら、それはむしろ自分の認識が深まっている証だとも言えるでしょう。この授業では、「病気とは何か？」「病気と障害の違いは何か？」といった問題から始まり、毎日当たり前に行っている食事についても、きっと「どうやって自分が食べているのか分からない」と思うようになるでしょう。そうした疑問を、好奇心と学びの意欲につなげてくれることを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	重度障害のある児童の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしでディスカッションを行う機会を設ける。 想定事例で児童の学習課題の分析を行う。 視線コミュニケーションの効果について実証実験を行う。 食事指導及び遠隔教育について体験の会を設ける。
情報リテラシー教育	○	遠隔教育における情報モラルについて指導を行う。
ICT活用	○	障害のある児童の学習とコミュニケーションを支援するＩＣＴの活用について体験実習を行う。 オンラインの遠隔教育のバリエーションについて体験実習を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	知的障害者の心理・生理・病理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田　晋吾	指定なし
非常勤講師	飯野　彰人	指定なし

ナンバリング	P10502M21
授業概要(教育目的)	知的障害の定義、診断、発生要因等の病理的特徴と、学習、記憶、認知、知覚等の心理的特徴から障害特性等の基礎的な知識を取り上げる。知的障害児者が抱える社会生活上の課題等について先行研究や事例を取り上げながら、支援する上で重要な点を解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・知的障害に関する諸側面を、医学的、病理学的な観点から説明することができる。 ・知的障害のある子どもの心理的特性について、定型発達児と異なる点を解説できる。 ・知的障害のある子どもにみられる疾患にはどのようなものがあるか説明できる。
思考・判断の観点（K）	・知的障害の心理的特性について説明することができ、生活上の困難を指摘したり、特性に合わせた指導支援のあり方を提案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・授業の予習（事前学習）で調べたことをまとめる。 ・授業内で取り上げた障害について要点を整理し、毎回の授業後に記述する。 ・授業内で行う疑似体験やグループ討議等で、積極的に発言する。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

知的障害者の心理・生理・病理

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業ガイダンス 知的障害の基礎知識	・知的障害の定義に関する歴史的変遷。 ・現在の知的障害（知的能力障害）の診断基準。 ・知的障害の発生要因と発生頻度。	（予習）厚生労働省のサイト（e-ヘルスネット）で「知的障害（精神遅滞）」について調べ、要点をまとめておく。 （復習）知的障害の診断基準について整理しておく。	90
第2回	知的障害者の知的機能	・知的障害の診断基準の１つである「知的機能」という概念について。 ・「知的機能の制約」とはどのような状態を指すか。 ・知能指数(IQ)、生活年齢(CA)、精神年齢(MA)について。 ・知能指数(IQ)の観点から定型発達と知的障害について考える。	（予習）第1回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。インターネット等で「正規分布」について調べ、簡単な図とそれが示す意味を知る。 （復習）知的機能の制約によって生じる生活上の困難について考える。知能指数(IQ)の分布について説明できるようにしておく。	90
第3回	知的機能の評価法	・知能指数(IQ)を評価するための心理検査（田中ビネー式知能検査Ｖ・WISC-Ⅳ）の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について	（予習）第２回で学習した「知能指数(IQ)」を復習する。 （復習）知的障害児が社会生活を送る上で、心理検査結果をど	90

			のように活用するとよいか説明できるようにしておく。	
第4回	知的障害者の適応機能	・知的障害の診断基準の１つである「適応機能」という概念について。 ・「適応機能の制約」とはどのような状態を指すか。 ・社会生活、日常生活を支えるための指導支援	（予習）第１回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。 （復習）適応機能の下位分類について整理する。	90
第5回	適応機能の評価法と分類	・適応機能を評価するための評価尺度（SM社会生活能力検査、vineland-Ⅱ）の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について	（予習）第４回で学習した「適応機能」を復習する。 （復習）知的障害児が社会生活を送る上で、適応機能尺度の結果をどのように活用するとよいか説明できるようにしておく。	90
第6回	知的障害者の心理機能①（言語・コミュニケーション）	・知的障害者の言語・コミュニケーションの特徴。 ・重度知的障害者のコミュニケーションの特徴と補助代替コミュニケーション。 ・コミュニケーションの指導・支援。	（予習）インターネット等で、重度の知的障害者のコミュニケーション手段（支援ツール）について調べておく。 （復習）知的障害児のコミュニケーション指導を行ううえで重要な点を整理しておく。支援ツールのアイディアを出す。	90
第7回	知的障害の心理機能②（記憶）	・記憶の分類について ・知的障害者の記憶に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討	（予習）インターネット等で「ワーキングメモリー」について調べ、書き留めておく。 （復習）支援方法や支援ツールのアイディアを箇条書きで挙げておく。	90
第8回	知的障害の心理機能③（知覚・注意）	・知的障害者の視知覚および注意に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討	（予習）インターネット等で「ゲシュタルトの法則」について調べ、まとめておく。 （復習）知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。支援方法や支援ツールのアイディアを箇条書きで挙げておく。	90
第9回	知的障害の心理機能④（運動）	・知的障害者の運動機能（粗大運動・微細運動）に関する特徴 ・行動調整機能 ・発達支援の視点からの検討	（予習）新生児・乳児の反射反応や運動発達について要点をまとめておく。 （復習）知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。	90
第10回	知的障害のある子どもの支援	・幼稚園、保育園に在籍する知的障害児の支援の実際 ・特別支援学校に在籍する知的障害児の支援の実際 ・ユニバーサルデザイン	（予習）インターネット等で「ユニバーサルデザイン」について調べておく。 （復習）幼稚園や保育園で実施するユニバーサルデザインを取り入れた教育・保育に関するアイディアを挙げる。	90
第11回	まとめ・振り返り・中間試験	第１～１０回の講義を振り返り、中間試験を実施する。	（予習）第１～１０回の講義内容をおさらいしておく。 （復習）中間試験で溶けなかった問題について各自確認しておく。	90
第12回	自閉症スペクトラム障害(ASD)	・自閉症スペクトラム障害の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・自閉症スペクトラム障害の子どもの治療（診療）と支援。	（予習）自閉症スペクトラム障害の子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）自閉症スペクトラム障害の子どもの支援の要点をまとめておく。	90
第13回	注意欠如多動性障害(ADHD)	・注意欠如多動性障害(ADHD)の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・ADHDの子どもの治療（診療）と支援。	（予習）ADHDの子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）ADHDの子どもの支援の要点をまとめておく。	90
第14回	学習障害(LD)	・学習障害(LD)の基礎的知識（診断基準、疫学、行動特性等）について。 ・LDの子どもの診断（診療）と支援。	（予習）LDの子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。 （復習）LDの子どもの支援の要点をまとめておく。	90
第15回	知的障害および発達障害と医療	知的障害児や発達障害児に対する児童精神科（医療）の役割について学ぶ。 診断、薬物療法、ペアレントトレーニング、二次障害への対処、就学相談等における学校との連携などを取り上げて解説する。	（予習）第12~14回で学んだ発達障害の特徴や支援の要点を復習しておく。 （復習）知的障害児や発達障害児に対する医療の役割について整理しておく。	90

学習計画注記	この科目の初回の授業は4月25日(月)の５限とします。 それ以降、毎週月曜５限に開講し、11回の授業を行います（７月４日(月)まで）。 残り４回の授業は、夏季集中講義期間に飯野先生による授業を開講します。 夏季集中講義の日程については決まり次第、授業内でご連絡します。
学生へのフィードバック方法	・授業の中では学生が主体となって活動する機会を設定する。活動の成果や授業内での発言、グループ討議で出されたアイディアに対して、適宜フィードバックを行う。
評価方法	・各授業において、その時間に学んだ内容を簡潔にまとめる時間を設ける。授業終了後に回収し、担当教員がコ

	メントを付けて返却する。事前学習の内容や授業後のまとめも評価の対象とする。 ・第１１回目の授業では、振り返りと中間試験を実施する。また、夏季集中講義で学んだ内容についてレポートにまとめ、それを評価の対象とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ミニレポート	○	○		
	期末レポート	○	○		
	授業ノート		○	○	

評価割合	毎回の授業のミニレポートの評価(30%)、期末レポート(60%)、授業ノート（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし（毎回の授業で講義内容に関する資料を配布します）
参考図書	小池敏英・北島善夫著 「知的障害の心理学」北大路書房
ディプロマポリシーとの関連	・「子どもの健康・心理」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる（知識・理解） ・子どもを巡る多様化する課題や問題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感をもって行動しようとする（関心・意欲・態度）。
オフィスアワー	原田（月曜３～４限 1509教室）
学生へのメッセージ	授業は＊月＊＊日（金）5限を初回とし、以降＊月＊日（金）まで、毎週金曜5限に実施します（全１１コマ）。 また、夏期集中講義期間に非常勤講師の先生による集中講義４コマを行います。 集中講義の詳しい日程は決定次第、授業内で連絡します。 知的障害のある子どもの保育や教育に携わるうえで、心理・生理・病理の各側面から障害の特性を知っておくことはとても重要です。この科目を通して、知的障害の子どもの保育や教育について興味を持ってほしいと思います。特別支援学校の免許取得を希望する学生は必修の授業となっていますが、それ以外の学生の受講も歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生のみなさんが主体となって考え、活動できるように話題提供を行います。調べ学習、ペアワーク、授業内の作業、疑似体験への参加などの機会を作ります。
情報リテラシー教育	○	授業では適宜グラフを使って解説を行います。グラフの読み取り方など、必要に応じて説明を加えます。また、情報のアウトプットに関する指導として、レポート課題では文章表現のチェックを行います。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	肢体不自由者の心理・生理・病理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岡澤　慎一	指定なし

ナンバリング	P20504M21
授業概要(教育目的)	肢体不自由がある子どもの心理・生理・病理に関する基本的な事項について講義する．実際的，具体的な理解を促進するために，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いに関する映像資料を多用する．
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病理的な観点から一定程度説明することができる
思考・判断の観点（K）	肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの方針を設定することができる
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	肢体不自由の定義と状態像	肢体不自由の定義と状態像について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第2回	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況／運動系の発達	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について理解する 運動系の発達について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第3回	肢体不自由のある子どもの生理・病理1（肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患）	肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第4回	肢体不自由のある子どもの生理・病理2（肢体不自由の原因疾患：	肢体不自由の原因疾患：神経・筋疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分

	神経・筋疾患）			
第5回	肢体不自由のある子どもの生理・病理3（肢体不自由の原因疾患：骨・関節疾患）	肢体不自由の原因疾患：骨・関節疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第6回	肢体不自由のある子どもの心理1（感覚・知覚・認知）	肢体不自由のある子どもの心理（感覚・知覚・認知）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第7回	肢体不自由のある子どもの心理2（言語）	肢体不自由のある子どもの心理（言語）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第8回	肢体不自由のある子どもの心理3（コミュニケーション）	肢体不自由のある子どもの心理（コミュニケーション）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第9回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点1（探索活動，Joyful shared event）	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（探索活動，Joyful shared event）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第10回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点2（コミュニケーション・システム）	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（コミュニケーション・システム）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第11回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点3（感覚運動）	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（感覚運動）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第12回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点4（課題学習）	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点（課題学習）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第13回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際1（知的障害を併せ有する肢体不自由事例）	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際（知的障害を併せ有する肢体不自由事例）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第14回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際2（感覚障害を併せ有する肢体不自由事例）	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際（感覚障害を併せ有する肢体不自由事例）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第15回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際3（医療的ケアの必要な肢体不自由事例）	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際（医療的ケアの必要な肢体不自由事例）について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち，該当部分を事前によく読み，事後によく振り返ること	120分
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更します
学生へのフィードバック方法	毎回，授業の終わりに意見や感想，質問を書いてもらい，次回の授業の冒頭で意見や感想を紹介したり，質問に答えたりする
評価方法	毎回の「意見や感想，質問」の内容および最終試験の結果による

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	「意見や感想，質問等」の内容		○	○	○
	最終試験	○	○		

評価割合	「意見や感想，質問等」の内容（20%），最終試験（80%）
使用教科書名(ISBN番号)	テキストは使用しない．参考資料は適宜配布する．
参考図書	重度・重複障害児指導研究会（編）（1979）講座　重度・重複障害児の指導技術　第1巻～第6巻．岩崎学術出版社． 川住隆一（1999）生命活動の脆弱な重度・重複障害児への教育的対応に関する実践的研究．風間書房．
ディプロマポリシーとの関連	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病理的な観点からの理解を深めるとともに，肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして，肢体不自由がある子どもの行動の意味を捉えるための実践的な力量を身に着けている
オフィスアワー	集中講義のため，休み時間などにお尋ねください
学生へのメッセージ	障害児教育が教育の原点であるという言説の実相の一端を共有できればうれしく思います

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	病弱者の心理・生理・病理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 市川　和男	指定なし
非常勤講師	中村　由紀子	指定なし

ナンバリング	P20505M21
授業概要(教育目的)	病弱児の人体の生理、各種疾患や障がいの病理、心理的特性について学び、病弱児への適切な配慮、具体的な発達の支援について事例を取り上げながらその根拠を学び、実践に役立つ知識へ発展させる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 小児慢性疾患を抱える病弱児の人体の特徴の生理、小児慢性疾患の病理、心理特性について説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 小児慢性疾患を抱える病弱児に必要な配慮や発達支援の方法について類別し、現状と課題について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	【第１回集中授業　10月　2～4限目】（市川先生） オリエンテーション 病気や障害をめぐる動向（1）	健康や病気、障害の概念や、疫学統計、病弱、障害児教育の歴史的展開について学び、病気や障害をめぐる動向について理解する。	・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」（1～14ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第2回	【第１回集中授業　10月　2～4限目】（市川先生） 病気や障害をめぐる動向（2）	健康や病気、障害の概念や、疫学統計、病弱、障害児教育の歴史的展開について学び、病気や障害をめぐる動向について理解する。	・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」（1～14ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第3回	【第１回集中授業　10月　2～4限目】（市川先生） 子どもの発達・精神、	発達の領域、支えるもの、脳内機能局在、遅れの診断について学び、子どもの発達・精神、運動面の発達について理解する。	・予習：テキスト第1章「子どもの発達・精神、運動面の発達」（17～27ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワー	予習90分、復習90分

	運動面の発達		ドを整理してまとめておくこと。	
第4回	【第２回集中授業　10月　2～4限目】（市川先生） 発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害（1）	発達障害、自閉症、広汎性発達霜害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。	・予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」（28～44ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第5回	【第２回集中授業　10月　2～3限目】（市川先生） 発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害（2）	発達障害、自閉症、広汎性発達霜害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。	・予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」（28～44ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第6回	【第２回集中授業　10月　2～3限目】（市川先生） 知的障害を伴わない発達障害と二次障害（1）	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。	・予習：テキスト第3章「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」（45～55ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第7回	【第３回集中授業　11月　2～3限目】（市川先生） 知的障害を伴わない発達障害と二次障害（2）	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。	・予習：テキスト第3章「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」（45～55ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第8回	【第３回集中授業　11月　2～4限目】（市川先生） 病気や障害の受容とセルフケア	病気や障害の受容とセルフケア、発達段階とセルフケア、疾患の受け止め方と心理や情緒面、セルフケアの力を育てるカリキュラム、慢性疾患に適応するための支援について学び、病気や障害の受容とセルフケアについて理解する。	・予習：テキスト第12章「病気や障害の受容とセルフケア」（197～205ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第9回	【第３回集中授業　11月　2～4限目】（市川先生） 病気や障害の子どもの心理特性	病気の概念の発達、疾患と病気の違い、発達段階から見た心理社会的問題について学び、病気や障害の子どもの心理特性を理解する。	・予習：テキスト第13章「病気や障害の子どもの心理特性」（206～214ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第10回	【第４回集中授業　12月　2～3限目】（市川先生） 教育・医療・保健・福祉の連携と支援	地域で暮らすことへの包括支援、全人的ケアの理念と機能、QOLを高める教育・医療・保健・福祉の連携と支援について学び、教育・医療・保健・福祉の連携と支援を理解する。	・予習：テキスト第14章「教育・医療・保健・福祉の連携と支援」（215～224ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第11回	【第４回集中授業　12月　2～3限目】（市川先生） 病気や障害のある子どもを支える法制度	社会保障制度、母子保健関連施策と子どもの医療制度について学び、病気や障害のある子どもを支える法制度を理解する。	・予習：テキスト第15章「病気や障害のある子どもを支える法制度」（225～231ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第12回	【第５回目集中授業　2月・3月　3～4限目】（中村先生） 循環器疾患	就学先の循環器疾患の経年変化、学校現場で良く見る循環器疾患における児童への対応の注意点について学び、環器疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第4章「環器疾患の理解と支援」（59～73ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分

	の理解と支援			
第13回	【第５回目集中授業2月・3月3～4限目】（中村先生） 吸器疾患の理解と支援	就学先の心疾患児童への対応の注意点や、呼吸器の感染症、気管支ぜん息、過換気症候群について学び、吸器疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第5章「吸器疾患の理解と支援」（74～85ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第14回	【第６回目集中授業2月・3月3～5限目】（中村先生） 神経系疾患の理解と支援（1）	てんかん、脳性麻痺、ダウン症、神経皮膚症候群について学び、神経系疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第10章「神経系疾患の理解と支援（1）」（150～172ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第15回	【第６回目集中授業2月・3月3～5限目】（中村先生） 神経系疾患の理解と支援（2）	知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、水頭症について学び、神経系疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第11章「神経系疾患の理解と支援（2）」（173～194ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：これまでの学びのキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第16回	【第５回目集中授業2月・3月3～5限目】（中村先生・市川先生） 「期末試験」 ※感染症が蔓延する場合は、遠隔にて実施します。			

学習計画注記	・履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 ・授業教室：XXXX教室
学生へのフィードバック方法	・実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。
評価方法	・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し，授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は10問で、すべて穴埋め方式で出題する。 ・定期試験は、小テストの振り返りの問題を含む。また、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	・小テスト（20%）、態度（20%）、定期試験（60%）にて評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	・小野次郎・西牧謙吾・榊原洋一編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』（ミネルヴァ書房）978-4-623-06153-2
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。 【思考・判断】 ・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。 ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。
オフィスアワー	・特になし。
学生へのメッセージ	・主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回りのことに照らし合わせたり置き換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。 ※感染症が蔓延する場合の出欠席の対応について ・感染や濃厚接触が疑われる場合は、すみやかに大学へ連絡して下さい。この連絡状況から、感染者に対する出欠席の取り扱いを行います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	＜中村由紀子＞担当教員は，小児医療を専門とする医療機関において、肢体不自由児、知的障害児、重症心身障害児などの病弱の児童やその家族に対して、医療の専門職として実務経験を有している。 ＜市川和男＞担当教員は，特別支援学校、児童福祉施設、小児医療を専門とする医療機関において、教員と連携しながら、病弱の児童やその家族に対して、医療や福祉の専門職として実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	対面授業では、小グループなどにより授業を展開することもある。
ICT活用	○	本授業は、遠隔授業と対面授業にて実施する。また、第1～11回授業については、Google formにて小テストを実施する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	聴覚障害の理解と支援		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 渡部　杏奈	指定なし

ナンバリング	P204O5M12
授業概要(教育目的)	聴覚障害の生理・病理の基礎、聴覚障害教育の制度と教育課程、聴覚補償やコミュニケーション方法の在り方や聴覚障害の特性に配慮した指導事例を理解し、聴覚障害児の支援・指導の在り方を考え、対応する力を育成することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	聴覚障害の特性、支援・指導のポイントを説明することができる。
思考・判断の観点（K）	聴覚障害教育における教育学的・心理学的諸問題に対し、適切な支援・指導方法を考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	聴覚障害教育にかかわる教育学的・心理学的諸問題に関心を示し、主体的に学びを深める。
技術・表現の観点（A）	聴覚障害の特性に配慮した指導ができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	聴覚障害の定義と特質	聴覚障害の定義・原因・分類について学ぶ。	予習：これまでの経験をもとに、聴覚障害とはどんな障害かを考えておく。 復習：聴覚障害の定義・原因・分類について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分
第2回	聴覚障害児の支援と教育の場	聴覚障害児は、どのような場で学び、どのような支援を受けているかを理解する。	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害児の支援と教育の場について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害児の支援と教育の場について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分
第3回	特別支援学校（聴覚障害）の教育課程	聴覚障害幼児の言語指導や児童生徒の各教科等の教育課程の現状と課題について学ぶ。	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害の教育課程について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害の教育課程について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分
第4回	聴覚障害のきこえと聴覚補償	聴覚障害の原因や分類を理解し、聴覚補聴のための聴力検査、補聴器、人工内耳及び集団補聴システムについて学ぶ。	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害のきこえや聴覚補償について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害のきこえや聴覚補償について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分

第5回	聴覚障害と多様なコミュニケーション	聴覚口話法やキュード法、手話などの多様なコミュニケーション方法について体験的に学ぶ	予習：手話について情報を得たり、考えたりしておく。 復習：聴覚障害における多様なコミュニケーション方法について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分
第6回	言語と指導	聴覚障害児に対する発音指導や聴覚活用の指導方法を学ぶ	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害児への言語指導について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害児への言語指導について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分
第7回	聴覚障害教育における教科指導と自立活動	聴覚障害児一人一人に応じた授業の実際について、具体的な場面をDVDで見ながら学び考える。	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害児への教科指導や自立活動について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害児への教科指導や自立活動について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分
第8回	聴覚障害教育の歴史	世界及び日本の聴覚障害教育の歴史について学び、コミュニケーション指導の考え方の変遷から、現在の聴覚障害教育の在り方を考える。	予習：事前配布資料を読んで、聴覚障害教育の歴史について、疑問点やより深く学びたい点をまとめておく。 復習：聴覚障害教育の歴史について、わかったこと、考えたことをまとめる。	180分

学生へのフィードバック方法	各授業について小レポート課題を実施する。小レポート課題にはコメントをつけて返却する。
評価方法	・小レポート課題では、授業内容からわかったこと、考えたことを書いてもらう。知識を修得できているか、授業内容に関心をもって考えられているかを評価する。 ・最終レポート課題では、授業で学んだことを根拠に説明したり、考えたりする問いを出題し、知識の修得状況、思考力、表現力を評価する。 ・平常点では、発問に対する応答、グループディスカッションへの参加状況など、授業への積極的参加状況を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小レポート課題	○		○	
	最終レポート課題	○	○		○
	平常点		○	○	

評価割合	小レポート課題30%、最終レポート課題60%、平常点10%
使用教科書名(ISBN番号)	なし（資料を配布する）
参考図書	１．聴覚障害教育の基本と実際（2008）中野 善達・根本 匡文 田研出版 ２．教育オーディオロジーハンドブック 聴覚障害のある子どもたちの「きこえ」の補償と学習指導(2017) 大沼直紀監修・著 立入哉・中瀬浩一編著 ジアース教育新社 ３．特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援（2021）廣田栄子 学苑社 ４．特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編　文部科学省 URL：教育支援資料：文部科学省
参考URL	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】聴覚障害児に対する適切な教育を行うことのできる専門的な知識を修得できている。 【思考・判断】聴覚障害教育の具体的実践例による学びを通し、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】聴覚障害児を巡る課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
学生へのメッセージ	聴覚障害は、見た目にはわかりにくい障害である。そのため、聴覚障害の障害特性を理解した指導の在り方を学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、聴覚特別支援学校の教員としての実務経験を有しており、学校現場の現状や授業実践例を挙げた講義を行うことができる。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションやグループワークにより、聴覚障害教育における諸問題への対応方法や支援・指導方法を考えることを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	重複障害の理解と支援		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 松山　直輝	指定なし

ナンバリング	P30401M21
授業概要(教育目的)	障害が重複することによる独自の困難さを理解し、個別のニーズに基づいた指導法について受講者自らが考え、理解することを目的とする。授業においては、障害の疑似体験や自立活動の体験などを通じた体験学習を交え、重複障害の理解と教育実践に対する理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	重複障害に関する基本的知識を理解している。
思考・判断の観点（K）	障害が重複することによる生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	疑似体験活動後のディスカッションに協力的な態度で取り組めている。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

重複障害の理解と支援

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションと重複障害の定義	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。重複障害の定義について解説する。	重複障害を持つ児童・生徒についてWebで調べておくこと。	180分
第2回	感覚器官の重複：盲ろう	盲ろう二重障害の原因、状態像、生活上や学習上の困難さについて解説する。	盲ろうの状態が発達や生活に及ぼす影響について、Webで調べておくこと。	180分
第3回	盲ろうの擬似体験とディスカッション	ツールを活用して盲ろうを体験する。またコミュニケーションの支援についてディスカッションを実施する。	盲ろうについて前講義でノートした事柄を復習しておくこと。	180分
第4回	肢体不自由と知的障害の重複：重症心身障害	重度の知的障害と肢体不自由が重複する重症心身障害について、原因、状態像、生活上や学習上の困難さについて解説する。	重症心身障害についてWebで調べておくこと。	180分
第5回	重症心身障害の擬似体験	ツールを活用して重症心身障害の状態を疑似体験する。また、体験から生活機能の補完についてディスカッションを行う。	重症心身障害について前講義でノートした事柄を復習しておくこと。	180分
第6回	障害の重度・重複化と医療的ケア	近年増加している医療的ケア児について解説し、指導上の課題等について理解する。	医療的ケア児についてWebで調べておくこと。	180分

第7回	重複障害者の実態把握	重複障害者の多様な状態像とアセスメントの方法について学ぶ。	重複障害者の実態把握の重要性についてWebで調べておくこと。	180分
第8回	重複障害者の教育課程	学習指導要領に示される重複障害者等の教育課程の取扱いについて理解する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編」の第3編第2章第8節「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」に目を通しておくこと。	180分
第9回	重複障害者の自立活動の指導（1）	重複障害者の自立活動の指導（1）　重複障害者のニーズを自立活動の区分・項目に沿って整理し、指導における配慮事項や工夫について理解する。	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編」の第6章1～3「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」に目を通しておくこと。	180分
第10回	重複障害者の自立活動の指導（2）	重複障害者のニーズを自立活動の区分・項目に沿って整理し、指導における配慮事項や工夫について理解する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編」の第6章4～6「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」に目を通しておくこと	180分
第11回	ICT機器を活用した指導	ICT機器を活用した指導 ICT機器を活用した指導について体験的に学ぶ。タブレット端末や様々なセンサースイッチを実際に使い、そこから重複障害の子どもへの指導の有効性について考える。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編」の第7章3～5「他領域・教科等との関連」「指導方法の創意工夫」「自立活動を主とした指導」に目を通しておくこと。	180分
第12回	自立活動の事例と実践(1)	知的障害と脳性麻痺を患う生徒Aの指導事例を学び、その指導を実践的に体験する。	自立活動について復習しておくこと。	180分
第13回	自立活動の事例と実践(2)	知的障害と脳性麻痺を患う生徒Aの指導事例を学び、その指導を実践的に体験する。	自立活動について復習しておくこと。	180分
第14回	ゲストスピーカーの語り	重複障害児の現場指導や現場を巡回指導してきたゲストスピーカーを招き、現場的課題を知り、考える。	重複障害の現場的課題をこれまでの講義からまとめておくこと。	180分
第15回	講義のまとめ	重複障害者に対する教育についてまとめる。	これまでの全講義を復習しておくこと。	180分

学習計画注記	・履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・授業後のまとめの時間に質問を受け付け、その質問に回答する。
評価方法	・毎回の授業後に出席を兼ねたリフレクションペーパーの記載を求める。 ・リフレクションペーパーの内容、疑似体験とゲストスピーカーの講演後に提出する小レポート、及び期末レポート（もしくは定期試験）により評価する。 ・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業・リフレクションペーパー		○	○	
	擬似体験・小レポート	○	○	○	
	期末レポート(或いは定期試験)	○	○		

評価割合	授業・リフレクションペーパー（15%）、小レポート（25%）、期末レポート(或いは定期試験)（60%）
使用教科書名(ISBN番号)	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042297） 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042319）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】重複障害の専門的、基礎的知識が修得できている。 【思考・判断】重複障害独自の困難さが理解できている。 【関心・意欲・態度】疑似体験や自立活動の体験を通じたディスカッションに熱心に取り組めている。
オフィスアワー	木曜２、３限（1605研究室）
学生へのメッセージ	重複障害の独自の生活上、学習上の困難さを理解し、児童・生徒一人一人の将来の自立に向けた指導に繋げてもらえればと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、主に３つの実務経験を有している。 ①特別支援学校教諭：知的障害、発達障害、肢体不自由、聴覚障害、精神障害、聴覚障害、重複障害を持つ生徒に対する実務経験。②病弱者に対する学習支援：白血病等で病院の外へ出る事ができない子ども達への教育支援。③特別支援学校の部活指導：知的障害者に対する陸上競技の指導。以上の実務経験に基づいた教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	講義では障害の疑似体験ツールを活用した体験学習を取り入れて、それら経験に基づくディスカッションからアクティブラーニングを実践する。

情報リテラシー教育		
ICT活用	○	適宜、特別支援教育の合理的配慮に有用なICT機器の活用方法について紹介する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育原理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし

ナンバリング	P10003M21
授業概要(教育目的)	保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など、保育を行う上で基本となる知識、考え方を伝える。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を理解し、我が国の保育の特色と現状、課題を把握できるようにする。子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深めるようにする。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について、学生自身のもつそれらを確かめ、授業を進める中でその多様性や専門家である保育者との違いに気がつくようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
思考・判断の観点（K）	保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点（V）	保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点（A）	保育内容について技術的な面も含め習得する。

学習計画

保育原理

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	幼児教育・保育の概念と意義	幼児教育・保育の基本的概念、理念にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の概念や意義を復習する。	180分
第2回	西洋における保育思想の歴史	西洋における保育思想の歴史を理解し、どのような歴史的変遷があったのかを学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の西洋の歴史を復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べて おく。	180分
第3回	日本の保育思想と歴史	日本の保育思想と歴史について、年代を追って理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、日本の保育思想と歴史について復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べて おく。	180分
第4回	保育ニーズの拡大と保育制度の整備	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、現代的課題と絡めながら理解する。	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、身近な事例を取り上げて考察する。	180分

第5回	新たな保育制度の始まり（認定子ども園、子ども・子育て支援新制度）	新たな保育制度の始まりについて理解する。	認定子ども園や子ども子育て支援新制度について整理する。	180分
第6回	保育所保育と幼稚園教育の実際	保育所保育と幼稚園教育の実際について、共通点と相違点を指針と要領で確認しながら理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育所保育と幼稚園教育の実際について復習する。	180分
第7回	保育の内容	保育の内容について乳児保育の3つの視点や5領域、10の姿の視点も含めて理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに保育の方法や形態について復習する。	180分
第8回	保育の計画と記録・評価	前回の保育の内容と関連付けながら、保育の計画と記録・評価について理解する。	保育の計画と記録について要点をまとめ、復習する。	180分
第9回	保育の方法	方法や形態について具体的事例をもとに学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の方法や形態について復習する。	180分
第10回	保育者の職務	保育者の職務について、具体的な事例をもとに理解する。 保育士の倫理綱領についても触れる。	保育士の倫理綱領については、具体的な事例をあげながら復習する。	180分
第11回	園と家庭との連携、地域との連携	園と家庭との連携、地域との連携にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、園と家庭との連携、地域との連携について復習する。 地域の広報などにも関心を持ち、身近な事例をもとにその実際を調べ学習する。	180分
第12回	子育てに関する相談・援助	子育てに関する相談・援助があるのか理解する。 保育園の子育て機能について知る。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育園の子育て機能について理解を深める。 さらに、興味がある人は、地域の子育て支援センターなどに行き、そのニーズを知る。	180分
第13回	多様な保育ニーズ	多様な保育ニーズにはどのようなものがあるのか理解する。 その際、保育における現代的課題と関連付けて考える。	多様な子育てニーズについて、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	180分
第14回	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）について、事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	180分
第15回	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）にはどのようなものがあるのか理解する。 具体的事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	180分

学習計画注記	原則講義形式で行うが、DVD視聴、ワーク、ディスカッション等も取り入れる。
学生へのフィードバック方法	提出物については、添削して返却する。
評価方法	平常点20%、定期試験80%で評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	定期試験（80%）、平常点（20%）
参考図書	アクティベート保育学　保育原理（ミネルヴァ書房） 保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省） 幼保連携型認定こども園　教育・保育要領
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。 【思考・判断】保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。 【関心・意欲・態度】保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。 【技能・表現】保育内容について技術的な面も含め習得する。
オフィスアワー	和田：月曜２限から４限 末松：水曜３限

学生へのメッセージ	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを用意してください。 毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については質問をするか、自分で調べて確認しておいてください。 保育の基本を理解する重要な科目です。積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	発表などを通して、講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもの理解と援助		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	P10102M12
授業概要(教育目的)	子ども理解が「保育の出発点」であることを理解できるようにする。幼稚園，子ども園，保育所における乳幼児の生活や遊びの実態に即して，乳幼児の発達及びその過程で生じるつまずき，その要因を把握するための原理を理解し，対応の方法を考えられるようにする。幼児理解が幼児教育のあらゆる営みの基本となることを理解できるようにする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・子ども理解が保育の出発点であるという意味を説明できる
思考・判断の観点（K）	・乳幼児の発達過程で生じるつまづきとその要因を把握するための視点を理解し対応の方法を考えられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・子どもの発達をめぐる課題，問題に関心をもって取り組み，保育現場における援助の方法を提案できる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション・幼児教育における幼児理解の意義	幼児理解と指導案作成・保育実践・評価との関係を学ぶ	〔予習〕テキスト第１章②，④（p.15-23,p.30-42）を読み，子どもの発達の把握と保育の振り返り・評価の概要を理解する〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第2回	乳幼児理解における発達の把握	発達段階と発達過程，個人差への配慮を学ぶ	〔予習〕テキスト第１章②（p.15-23）を読み，発達段階と発達過程，発達を捉えるツールとしての発達検査の概要を捉える。乳幼児期にどのような個人差が見られるか考え，必要な配慮点について考える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第3回	乳幼児の学びの課程を捉える視点	乳幼児が遊び，生活の中で何を学び，身に付けているのかを読み取る	〔予習〕テキスト第２章（p.51-89）を読み，乳幼児期の遊び・生活を通した学びの概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分

第4回	乳幼児の学びを支える保育者	保育者の受容的姿勢，乳幼児と保育者の信頼関係の重要性	〔予習〕テキスト第２章①（p.51-58）を読み，人的環境としての保育者，乳幼児の学びを支える存在としての保育者の役割について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第5回	いざこざから学ぶこと	いざこざ場面の事例から，個の育ちと集団の育ちを読み取る	〔予習〕テキスト第２章②（p.59-78）を読み，いざこざが育ちにつながる体験となること，そのために必要な援助について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第6回	仲間関係の事例からつまずきの要因を学ぶ	仲間関係におけるつまずきの事例から，子ども同士の関係性その他の要因を考える	〔予習〕事前配布プリントを読み，仲間関係におけるつまづきの要因について考える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第7回	観察・記録の実際	乳幼児の発達や学びを捉える観察及び記録の方法を学ぶ	〔予習〕テキスト第２章③（p.24-29）を読み，保育の観察と記録の方法を理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第8回	観察記録と考察の発表とディスカッション	各自の記録と考察をグループ内で発表し協議することを通して多様な見方・考え方に気付く	〔予習〕前回授業の内容を復習しておく。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる	180分
第9回	観察・記録からの乳幼児理解と学びの読み取り	観察記録を元に，子どもたちの育ち・学びを伝えるということを意識しながらドキュメンテーションを作成する。	〔予習〕ドキュメンテーションについて教科書を読む他，自分でも書籍等で調べておく。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる	180分
第10回	保育における評価	保育・幼児教育における評価とは何か学ぶ。評価の種類，評価と指導計画との関連，PDCAサイクルについて学ぶ。	〔予習〕テキストテキストpp.30-42を読む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第11回	基本的生活習慣の獲得と発達援助	基本的生活習慣の獲得と援助の方法，基本的生活習慣と主体性の育ちについて学ぶ。	〔予習〕テキストpp.90-98を読む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第12回	発達の課題に応じた援助やかかわり	発達課題とは何か，保育者による援助の基本，配慮点を理解する。また保育者以外の専門家による援助について理解する。	〔予習〕テキストpp.99-109を読む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第13回	発達や学びの連続性と就学への支援	幼児期から児童期にかけての学びと育ちの連続性，小学校との連携・接続と就学支援について学ぶ。	〔予習〕テキストp.111-122を読む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストを読み考える。	180分
第14回	現代社会における子どもの発達と保育の課題	統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える	〔予習〕テキスト第４章①（p.123-130）を読み，乳幼児をもつ家族の現状を把握する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第15回	子育て支援に生かすカウンセリング技法	カウンセリングの基本的な姿勢と技法を学ぶ	〔予習〕テキスト第４章④（p.149-156）を読み，子育て支援に生かすカウンセリングの基本的姿勢と技法の概観を捉える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分

学習計画注記	授業の進度その他の事情によって計画が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	毎回コミュニケーション・カードを確認し，下線and/orコメントをつけて返却する。質問や疑問点についてはフィードバック資料を作成し，次回授業時に解説する。
評価方法	・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度を授業内課題への取り組みと内容，コミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。中間レポートは観察記録と考察，グループディスカッションを通しての気づきをまとめたものとし，理解度・観察記録技術・考察，気づきの深さを評価する。最終レポート課題では，多角的な視点から子どもの育ちを理解する視点，子ども理解に基づき具体的な援助を考える力等，授業の到達目標に基づき評価する。 ・平常点，中間レポート，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	中間レポート		○	○	○
	最終レポート		○		

評価割合	平常点（50%），中間レポート(20%)，最終レポート（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	子どもの理解と援助―子どもの育ち・学びをとらえて支える―/光生館，無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さがの（編著），978-4-332-70195-8
参考図書	授業中に適宜指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心をもって取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち，子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。
オフィスアワー	水曜日４限　1626研究室
学生へのメッセージ	前期の発達心理学で学んだ知識を基に，子どもを理解しその育ちを援助する方法について学びます。前期のテキスト，授業資料も手元に置いて，必要に応じて見返しながら受講してください。保育・教育現場での実践につながる内容です。授業，ワーク，課題へ積極的に参加するとともに，理論と実践を結びつけながら，自ら考える姿勢を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを取り入れる。記録を実際に作成するワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし
准教授	和田　美香	指定なし

ナンバリング	P10201M21
授業概要(教育目的)	テキストや保育所保育指針等を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」について理解を深める。乳児保育に関する歴史的変遷も踏まえながら、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を知る。さらに3歳未満児の発達と生活について知る。 乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解し、豊かな保育内容を探求するための基盤づくりをする。
履修条件	特になし。 なお、本科目は保育士必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し説明できる。 ２．３歳未満児の発育･発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ２．乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	乳児保育の意義･目的と歴史的変遷	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷について知る。	教科書第1章を読んでおく。	120分
第2回	乳児保育の役割と機能	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	教科書第1章を読んでおく。	120分
第3回	乳児保育における養護及び教育	乳児保育における養護と教育について、日本の現状を知り、今後の展開について考える。	児童養護と教育の観点から、自分でもメディア等でニュースを調べてみる。	120分
第4回	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について、最新のデータを踏まえながら、事例等を通して理解を深める。	教科書第3章、第7章をよく読んでおく。 メディア等、乳児保育や子育て支援家庭に関する社会の動向に興味・関心をもって自分でも調べてみる。	120分

第5回	保育所における乳児保育	保育所における乳児保育の基本について保育所保育指針をもとに理解する。	教科書第3章を読んでおく。	120分
第6回	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	保育所以外の児童福祉施設について知り、その役割や機能、そこに入所している（利用している）乳児の生活や実状について知る。	教科書第9章§5「乳児院」について読んでおく。	120分
第7回	家庭的保育等における乳児保育	家庭的保育とは何か、その意義と現状について知る。	教科書第9章§３在宅保育についてよく読んでおくほか、今住んでいる地域の資源について調べてみる。	120分
第8回	3歳未満児の生活と環境	3歳未満児の生活と環境のうち、日課や保育室内外の環境について知る。	教科書第2章§１「日課」、§７「子どもの居る場所」、第4章についてよく読んでおく。	120分
第9回	3歳未満児の遊びと環境	3歳未満児の遊びと環境のうち、遊びを取り上げ、発達等の観点から理解する。	教科書第2章§２「遊ぶ」読んでおく。	120分
第10回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	3歳未満児から３歳以上児の保育について、その概要と基本となる考えについて理解する。	教科書の第５章、第７章についてよく読んでおく。	120分
第11回	3歳未満児の発育･発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わり	3歳未満児の発育･発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わりについて、実践例をもとに理解を深める。	教科書第5章、第6章をよく読んでおく。	120分
第12回	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	乳児保育において、子どもたちの生活を支える上で重要な保育計画・記録・評価のあり方について学び、その意義について理解する。	教科書第5章を読んでおく。	120分
第13回	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場として、保育所や認定こども園のほか、在宅保育や乳児院、子育て支援センター等のさまざまな社会資源について知る。	教科書第9章を読んでおく。	120分
第14回	乳児保育おける連携・協働①（職員間および保護者との連携･協働）	乳児保育現場における、保育者間の連携・協働や家庭との連携・協働のあり方について学ぶ。	教科書第3章、第6章を読んでおく	120分
第15回	乳児保育おける連携・協働②（自治体や地域の関係機関との連携・協働）・まとめ	乳児保育の現場でどのような関係機関とどのように連携・協働しているのかについて学ぶ。	自分が住んでいる地域の乳児期を支援する関係機関や事業について調べる。	120分

学習計画注記	※　状況により、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業内で出す課題やリアクションペーパーへのコメントを通じて、学生の疑問や質問へのフィードバックを行っていく。
評価方法	・試験はテキストと必要に応じて配布する資料の中から出題する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	
授業内課題			○	

評価割合	試験60%、提出物（授業内課題等）30%、平常点10%
使用教科書名(ISBN番号)	『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』（新・基本保育シリーズ）（中央法規）
参考図書	演習乳児保育の基本（978-4-89347-125-3）阿部和子編（萌文書林）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し説明できる。また、３歳未満児の発育･発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。 【思考・判断】保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について把握できている。

	乳児保育における職員間の連携･協働及び保護者や地域の関係機関との連携について考えることができる。
オフィスアワー	水曜５時限　1619研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）
学生へのメッセージ	日頃より、本授業の対象年齢である０～３歳児を意識し、身の回りや社会の状況に興味・関心をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員2名のうち1名は障害児療育センターや子育て支援センターにおいて長年の臨床経験を有しており、家庭的保育以外にも施設での乳児保育等の実際についてもよく知っている。またもう1名は保育士として保育現場での実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし
准教授	和田　美香	指定なし

ナンバリング	P10202M12
授業概要(教育目的)	乳児保育の基本を押さえながら、現場におけるその実際を伝える。 さらに画像を使って、実践的な内容を解説し、考えていくようにする。 実践的なワークを行いながら具体的に理解するようにしていく。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
思考・判断の観点（K）	・乳児の生活や遊びの環境とその安全管理について、様々な視点からその工夫を考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	・関心を持ち、積極的に園見学などに参加する。
技術・表現の観点（A）	・沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。

学習計画

乳児保育Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	子どもと保育士等との関係の重要性	子どもと保育士等との関係の重要性について、保育所保育指針を参考にしながら理解する。	保育所保育指針やテキストから子どもと保育士等との関係の重要性について触れられているところをチェックし、復習する。	90分
第2回	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針の文言をもとに考え、事例を見ながら理解する。	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針やテキストを参考に復習をする。	90分
第3回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて事例をもとに検討し、発達段階に応じた関わりについて理解する。	保育所保育指針やテキストを参考にしながら乳児の発達段階について復習をする。	90分
第4回	子どもの体験と学びの芽生え	子どもの体験と学びの芽生えについて、保育所保育指針の「乳児保育の３つの視点」を参考にしながら、その具体的なところを考える。	乳児保育の3つの視点について復習をして、その内容をよく理解しておく。	90分
第5回	子どもの一日の生活の	子どもの一日の生活の流れと保育の環境について、テキストや視聴覚教材により理解する。	テキストと授業内で配布されたプリントなどを参考にしなが	90分

	流れと保育の環境		ら、子どもの一日の生活の流れと保育の環境について復習をする。	
第6回	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について考える。	授業で作成した環境構成図について、良さや課題についてまとめる。	90分
第7回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について、事例をもとに考察していく。写真や動画などをみながらその実際に触れる。（次回、保育所を訪問する際の事前指導も行う）	授業で扱った事例から、援助のポイントをまとめる。	90分
第8回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について、保育所を訪問して体験として学ぶ。（コロナの感染状況による）	授業で扱った援助のポイントについてまとめる。	90分
第9回	子ども同士の関わりとその援助の実際	乳児保育の中での子ども同士の関わりについて理解する。乳児保育の3つの視点における「人との関わり」、領域「人間関係」につながる発達の見通しについて学ぶ。保育所見学の事後指導をすることにより、さらに学びを深める。	乳児保育の３つの視点について事例をまとめ、領域との関係を整理する。	90分
第10回	保育所での見学（保育所で実際に乳児と関わる）	乳児の安全安心について具体的に学ぶ。	見学の記録を指定の用紙にまとめる。	90分
第11回	集団生活での配慮事項	集団生活における具体的な配慮を考える。 進級時などの移行に関する配慮についても学ぶ。	授業内で学んだことのポイントをまとめる。	90分
第12回	指導計画について・まとめ	指導計画について学ぶ。（長期指導計画、短期指導計画、個別の指導計画について） これまでの授業の復習を行う。	乳児クラスにおける指導計画を実際に書いてみる。	90分
第13回	保育現場の実際から考える	アクティブラーニング（子どもの発達を考えた手作りおもちゃの作製、発表をする）	子どもの発達を考えた手作りおもちゃについて、その意義を整理する。	90分
第14回	保育現場の実際から考える	アクティブラーニング （園見学とこれまでの授業内容をまとめ、振り返る。）	保育の生活と遊びについて、具体的な方法をまとめる。	90分
第15回	保育現場の実際から考える	アクティブラーニング （これまでの授業内容、園見学を振り返りながら、乳児保育における課題や目指すところを整理し、まとめて発表をする。）	これまでの授業を振り返り、要点を整理して理解する。	90分

学習計画注記	毎回の演習課題をもとに授業を進めていく。
学生へのフィードバック方法	毎回の課題について、個別または全体にフィードバックを行う。
評価方法	平常点60%と授業内テスト40%をもとに評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	授業内テスト	○			

評価割合	平常点60%と定期試験40%をもとに評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』（新・基本保育シリーズ）（中央法規）
参考図書	『乳児保育の基本』（萌文書林）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 【思考・判断】乳児の生活や遊びの環境について、安全管理について、様々な視点から考える。 【関心・意欲・態度】演習課題に積極的に取り組む。 【技能・表現】沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。
オフィスアワー	月曜２限から４限
学生へのメッセージ	演習課題中心の授業です。自分から課題を見つけ、積極的な姿勢で取り組んでください。 保育士資格必修
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育士として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	演習課題を通してアクティブラーニングを実践していく。
情報リテラシー教育	○	調べ学習をする際、その情報の発信元や発信目的などに目を向けた上で、信頼性を判断する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	外国語科教育		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P10304M21
授業概要(教育目的)	小学校の外国語活動・外国語科の指導に必要な第二言語習得理論、小学校教員に必要な英語四技能、マザーグース、異文化理解・国際理解教育など、外国語教育に必要な知識を学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	外国語活動・外国語科の授業実践に必要な基本的英語運用力が身についている。
思考・判断の観点（K）	外国語（英語）を指導する授業の在り方について自ら思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に英語運用力の向上に努め、第二言語習得理論、英米の児童文化、異文化理解・国際理解教育などについて興味関心を持って学ぶことができる。
技術・表現の観点（A）	基本的な英文法、英語音声の調音方法、英語の四技能について学ぶことができる。

学習計画

外国語科教育

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	学習指導要領外国語活動および外国語科の理解	学習指導要領外国語活動および外国語科の内容を学習する。	学習指導要領外国語活動および外国語科を読んでおく。	180分
第2回	第二言語習得理論の理解（1）	児童期の第二言語の学びの特徴を理解する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第3回	第二言語習得理論の理解（2）	児童期の第二言語の学びの特徴を理解する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第4回	英語音声の理解（1）	英語の発音・リズム・アクセントについて理解し、英文を適切に音読できるようになる。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第5回	英語音声の理解（2）	英語の発音・リズム・アクセントについて理解し、英文を適切に音読できるようになる。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第6回	英文法の理解（1）	小学校での外国語教育に必要な英文法について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第7回	英文法の理解（2）	小学校での外国語教育に必要な英文法について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第8回	話す英語のトレーニン	クラスルーム・イングリッシュ、スモールトークなどについて学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分

	グ（1）			
第9回	話す英語のトレーニング（2）	クラスルーム・イングリッシュ、スモールトークなどについて学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第10回	英語技能の向上のために（1）	指導者としてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティング能力を向上させるにはどうしたら良いか学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第11回	英語技能の向上のために（2）	指導者としてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティング能力を向上させるにはどうしたら良いか学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第12回	マザーグースの知識（1）	英米の伝承童謡（マザーグース）について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第13回	マザーグースの知識（2）	英米の伝承童謡（マザーグース）について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第14回	マザーグースの知識（3）	英米の伝承童謡（マザーグース）について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第15回	異文化理解・国際理解教育の知識	外国語教育における異文化理解・国際理解教育について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	180分
第16回	まとめと期末試験	外国語教育において学習した内容に関して復習し、期末試験を実施する。	学習指導要領外国語活動及び外国語科を熟読し、授業で学習したプリント教材を復習しておく。	180分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業では随時小テストを行う。
評価方法	・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（50%）、試験50%
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省（2018）小学校学習指導要領ー平成29年告示（東洋館出版社）　978-4-4910-3460-7
参考図書	別途指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で外国語を指導できる。 【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	水曜3時限　1630研究室
学生へのメッセージ	学んだ知識や技能を実践的に活用できるように、常に訓練を怠らないようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	インターンシップ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	P10307M23
授業概要(教育目的)	小学校・特別支援学校等の教育現場において、教師としての経験を積むために、インターンとして仕事の一部を体験する。教育現場でのインターンとしての活動では、学生ではなく教師としての言動が望まれる。事前・事後の学習では、小学校・特別支援学校の別のコースに分かれて学習する。体験後、学んだことをレポートにまとめるとともに、成果報告会でのプレゼンテーションなどの振り返り（リフレクション）を通して、教育実習に生かすことはもとより、将来の職業選択・キャリア形成に資する力の育成を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教職に関する知識を身につけ、教職について理解している。
思考・判断の観点（K）	子ども、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教職に関する関心があり、教育現場で体験に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

インターンシップ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1　オリエンテーション・校種選択	インターンシップに関する概要を知り、小学校か特別支援学校かの参加する学校種を明らかにする。小学校と特別支援学校とに分かれる。 小学校：インターンシップの意義と目的 特別支援学校：インターンシップの意義と目的・心構え、勤務規律等	学校種について考え、変更がある場合は、直ちに連絡する。 インターンシップの意義と目的について確認する。	60分
第2回	２　インターンシップの概要、インターンシップ校の研究	小学校：インターンシップの概要について理解する。 特別支援学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等）	小学校：インターンシップの概要について確認する。 特別支援学校：インターンシップ校について調べる。	60分
第3回	３　インターンシップの心得、様々な障害の理解と支援	小学校：インターンシップの心得について理解する。 特別支援学校：知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性　等	小学校：インターンシップの心得について確認する。 特別支援学校：知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性について確認する。	60分
第4回	４　インターンシップ	小学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程　等）	小学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程	60分

	校の研究、特別支援学校の教育課程	特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について等	等）について調べる。 特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について　等について調べる。	
第5回	５　インターンシップ校の研究、自立活動の指導	小学校：インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等） 特別支援学校：自立活動の６区分の内容、指導法	小学校：インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等）について調べる。 特別支援学校：自立活動の６区分の内容、指導法について確認する。	60分
第6回	６　自己紹介文の書き方、知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導	小学校：自己紹介文を書く 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）	小学校：自己紹介文を確認する。 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）について確認する。	60分
第7回	7　日誌の書き方、肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導	小学校：日誌の書き方 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）	小学校：日誌の書き方を確認する。 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）を確認する。	60分
第8回	8　直前の最終確認、危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導	小学校：直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え） 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導	小学校：直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え）をする。 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導を確認する。	60分
第9回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第10回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第11回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第12回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第13回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第14回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第15回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第16回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第17回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第18回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第19回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第20回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第21回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第22回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第23回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第24回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第25回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第26回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第27回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第28回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第29回	インターン	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６	

	シップ		日間）	
第30回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第31回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第32回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第33回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第34回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第35回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第36回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第37回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第38回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第39回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第40回	インターンシップ	インターンシップ（８時間×６日間）	インターンシップ（８時間×６日間）	
第41回	41 リフレクション（１）	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題をまとめる（ワークシート） 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題のまとめ（ワークシート）を確認する。 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を確認する。	60分
第42回	42　リフレクション（２）	小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成 特別支援学校：児童生徒指導、１人１人の特性に応じた指導支援	小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成。 特別支援学校：児童生徒指導、１人１人の特性に応じた指導支援の確認。	60分
第43回	リフレクション(３)	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化を確認する。	60分
第44回	44 リフレクション（３）	小学校：インターンシップ報告会　パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討	小学校：インターンシップ報告会　パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討を確認する。	60分
第45回	45 リフレクション（５）	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：４年生教育実習報告会への参加	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：４年生教育実習報告会への参加	60分

学生へのフィードバック方法	インターンシップを通して、教育現場の現実をよく理解してほしい。
評価方法	インターンシップ校による観察に基づく評価と事前・事後指導の平常点
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	観察			○	
	平常点			○	

評価割合	インターンシップ校による観察に基づく評価（７０％） 事前・事後指導の平常点（３０％）
使用教科書名(ISBN番号)	授業で紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども、保育者、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。

オフィスアワー	随時　１６２８研究室
学生へのメッセージ	インターンシップは、教育現場を知る貴重な機会である。教育実習の準備段階でもあるが、将来の職業選択やキャリア形成に役立ててほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職の実践経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	グループラーニングやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと音楽		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし

ナンバリング	P10601M12
授業概要(教育目的)	乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらいおよび内容に基づいた、乳幼児期の表現活動を支援するための音楽的表現活動のあり方について講義する。様々な音楽表現の実践を取り入れ、事例を通して乳幼児の音楽表現について解説する。また、音楽の基礎理論についての講義も行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	様々な音楽表現活動の実践を通し、乳幼児の表現の発達を踏まえた音楽表現のあり方について理解する。
思考・判断の観点（K）	表現の基礎的な知識を生かし、子どもの表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	共同して表現することを通し、主体的・対話的で深い学びのあり方について理解しようとする。
技術・表現の観点（A）	表現の基礎的な知識を生かし、子どもの表現活動に展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現①	身の回りの音の感受と表現 わらべうたあそび①	テキスト第１章、第２章の通読 わらべうたあそび①の整理	90分
第2回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現②	人の声の感受と表現 わらべうたあそび②	テキスト第３章の通読 わらべうたあそび②の整理	90分
第3回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現③	音・声が音楽的になっていくということ わらべうたあそび③	第１回、第２回の講義内容から、本テーマが示すであろう具体的な内容について考えておく。 わらべうたあそび③の整理	90分
第4回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために①	歌唱活動の実践と指導の視点 わらべうたあそび④	課題曲の詩を味わい、歌えるようにしておく。 わらべうたあそび④の整理	90分
第5回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために②	楽器を用いた活動と指導の視点 わらべうたあそび⑤	テキスト第４章第１節の通読 わらべうたあそび⑤の整理	90分
第6回	乳幼児の豊かな感性と	音環境を考える わらべうたあそび⑥	テキスト第５章第１節の通読 わらべうたあそび⑥の整理	90分

	表現を支えるために③			
第7回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために④	幼児期の終わりまでの育ってほしい姿の視点から わらべうたあそび⑦	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について調べておく。 わらべうたあそび⑦の整理	90分
第8回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる①	リズム遊びの展開 わらべうたあそび⑧	配布プリントの譜読み・練習をしておく。 わらべうたあそび⑧の整理	90分
第9回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる②	歌遊びの展開 わらべうたあそび⑨	テキスト第４章第２節の予習 わらべうたあそび⑨の整理	90分
第10回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる③	楽器遊びの展開 わらべうたあそび⑩	テキスト第４章第３節の予習 わらべうたあそび⑩の整理	90分
第11回	イメージを表現する①	楽器の響きを追求する。手作り楽器に応用する。	配布プリントの譜読み・練習をしておく。 手作り楽器の製作	90分
第12回	イメージを表現する②	視覚からのインプットを聴覚的表現に変容させる。	手作り楽器を仕上げる。配布プリントの予習。 『私のテキスト』の整理	90分
第13回	イメージを表現する③	聴覚からのインプットを視覚的表現に変容させる。	配布プリントの予習 『私のテキスト』の整理	90分
第14回	イメージを表現する④	幼児と楽しめる歌の創作	幼児と楽しめる歌の歌詞を考えておく。 『私のテキスト』の整理	90分
第15回	発表と総括	創作した歌を発表する。 幼児の音楽的表現を育むICT活用について。 総括	発表曲の練習 幼児の音楽的表現を育むICT活用のアイディアを考える。	90分

学習計画注記	講義内容により、教室を変更することがある。 前半の講義では、毎回、実践を通し、わらべうた遊びのレパートリーづくりのための時間を持ちます。習得したわらべうたを楽譜に表すことを通し、音楽の基礎理論を学びます。
学生へのフィードバック方法	質問および疑問点はリフレクションシートに記載してください。翌週の講義内でお答えします。作品発表については、コメントをお伝えします。「私のテキスト」は、添削して返却します。
評価方法	講義ではリフレクションシートを配布し、学習内容の理解、講義への意欲・態度等を評価します。個人発表、グループ発表は、講義内容の理解と応用力、取り組み方、表現力等の視点で評価します。私のテキストとは、講義内で紹介したわらべうたあそびについて、その楽譜とあそびかた等をまとめたものですが、知識・理解・思考・判断の状況を判断します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リフレクションシートの内容	○		○	
	発表への取り組みとその内容		○	○	○
	「私のテキスト」の作成	○	○		

評価割合	リフレクションシート（４０％）、発表（３０％）、「私のテキスト」（３０％）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	無藤隆監修・吉永早苗著(2016)『子どもの音感受の世界一心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求』萌文書林 高倉秋子（著），島田和昭（著）『うたってひいて 童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 「子どもの音楽的成長と発達」についての基礎知識を身に付けるとともに、子どもの音楽的感性とその表現について理解する。 【思考・判断】 子どもの音楽的表現を支える創造力・コミュニケーション力・感性を身に付ける。 【関心・意欲・態度】 子どもと音楽を通して豊かに関わるための、様々な音楽表現を体験し、積極的にレパートリーを増やす。 【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな音楽的表現力を身に付ける。
オフィスアワー	前期：月曜日　３限　1601 後期：水曜日　２限　1601
学生へのメッセージ	乳幼児期を対象とした講義内容であるが、学びの連続性・保幼小連携の観点からも、小学校教諭免許希望者も受講しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	子どもとの音楽遊びの経験の豊かな作曲家による特別講義を予定している。
アクティブ・ラーニング	○	ペアトークおよび学び合いを通して、理解を深める。テーマを設定し、協働して音楽表現を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	幼児の音楽表現を育むICTの活用について考える。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	音楽実技Ａ（金4）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐藤　くみ	指定なし
教授	吉永　早苗	指定なし
非常勤講師	渡邉　有里香	指定なし
非常勤講師	久田　由紀子	指定なし
非常勤講師	武内　貴久子	指定なし

ナンバリング	P10602M12
授業概要(教育目的)	本授業の目的は、ピアノの弾き歌いの実技を通し、保育者として子どもの様々な音楽的な表現を受けとめ、育むために必要な知識や技術の基礎を身につけることである。楽譜の読み方や音楽理論の知識を実践を通して理解し、各自のレベルに応じた童謡や唱歌に取り組みながら、ピアノ演奏の基本的な技術および歌唱技術を獲得できるように講義を構成する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	楽譜の読み方や基本的な音楽理論について理解している。
思考・判断の観点（K）	子どもの音楽的成長を支えるための保育者・教師としての音楽的な資質について理解している。
関心・意欲・態度の観点（V）	表現技術の獲得に向け、積極的に教室外学習に励んでいる。
技術・表現の観点（A）	子どもの音楽表現活動のための弾き歌いの基本的な技術が身についている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	本講義のねらい、弾き歌いを通しての学びについての概説、講義の進め方の説明とクラス分け	弾き歌いのテキストに目を通し、知っている曲について１～３曲、歌ったり弾いたりしておく。	90分
第2回	読譜の基礎学習	楽譜の読み方・ピアノ演奏の基礎基本	初回に決められた課題曲の練習	90分
第3回	発声の基礎知識	保育者・小学校教諭として必要な歌唱技能に関し、その発声法の基礎を学ぶ。	課題曲を暗譜して歌えるようにしておく。	９０分
第4回	ピアノ伴奏の基礎技術①	和音の弾き方を中心とした、音の響かせ方や音色作りについて	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第5回	ピアノ伴奏の基礎技術②	指遣いとメロディーの響かせ方	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第6回	ピアノ伴奏の基礎技術③	強弱の表現について	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分

第7回	ピアノ演奏の基礎技術④	歌唱と伴奏のバランス	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第8回	ピアノ伴奏の基礎技術⑤	曲の構造に関する知識	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第9回	ピアノ伴奏の基礎技術⑥	アーティキュレーションを学ぶ	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第10回	ピアノ演奏の基礎技術⑦	子どもの声を引き出すために	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第11回	ピアノ伴奏の基礎技術⑧	子どもとともに歌うということ	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第12回	ピアノ演奏の基礎技術⑨	歌詞の情景が思い描かれるような歌唱表現	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第13回	ピアノ伴奏の基礎技術⑩	情景が思い描いた伴奏表現の方法	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第14回	ピアノ伴奏の基礎技術⑩	情景が思い描いた伴奏表現の方法	個別に提示された課題曲の予習・復習	９０分
第15回	発表会	発表会形式で、弾き歌いを披露する。友達の演奏表現から学ぶ。	発表会用の弾き歌いを練習する。	９０分

学習計画注記	１クラスを４つのグループに分け、４人の講師が個人レッスンを行います。最初の講義において、グループ分けをします。
学生へのフィードバック方法	リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。その他質問事項があれば専任教員の吉永がお答えします。
評価方法	リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には発表会を予定しています。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リフレクションシート	○		○	
	課題の進捗状況		○	○	○
	発表		○		○

評価割合	リフレクションシート（４０%）、課題の進捗状況（３０%）、発表会（３０%）で評価する。参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	冨田英也 ・鈴木恵津子 編（2011）『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社
参考図書	各自の進度に合わせ、適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもの文化をとしての、楽譜の読み方、基本的な音楽理論の習得。 【思考・判断】 子どもとの音楽表現の場面を想定し、弾き歌いをすることができる。 【関心・意欲・態度】 保育者・小学校教師に必要な音楽的資質の獲得に向けて、積極的に課題に取り組んでいる。 【技能・表現】 子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。
オフィスアワー	吉永をお訪ねください。 前期：月曜日　３限　1601 後期：水曜日　２限　1601
学生へのメッセージ	予習復習および自己練習の時間を毎日少しでも確保して、表現技術の向上に努めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	造形表現基礎		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし

ナンバリング	P10606M12
授業概要(教育目的)	子どもが造形文化に親しみ、美的な生活づくりに向かう態度や感性を育む意味を造形体験から考える。さまざまな実技体験を通して子どもの造形活動に立ち合うための基礎的な知識と基本的な技能に関する知見を広げる。また、各種の画材や素材の特徴や可能性、さまざまな材料や用具の適切な扱い方を知る。それにより、子どもの造形体験と文化的な生活との親和的な関係、教材化に向けた開発・応用についての討論を深め、造形感覚に基づく視点を子どもの生活や遊びに活かす視点と力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	子どもの発達過程と造形表現の関連、材料や用具の特徴について基礎的な知識を有し、表現活動を安全かつ効果的に実践する要件を理解する。
思考・判断の観点（K）	子どもの心身の発達に応じた造形活動を計画・展開する視点から、さまざまな材料・用具の特徴を生かす題材を展開するための基本的事項を検討して説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもが生活の中で親しむ造形文化や遊びに関心をもち、表現活動に立ち合うための環境づくりについて説明できる。
技術・表現の観点（A）	子どもの主体的な造形表現を促す主題設定、材料・用具の特徴に見合う取り扱いなどについて基本的な技術を有し、安全で楽しい活動を展開する環境を構想し説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	今日の生活・文化と子どもの造形表現	今日の生活や造形文化と子どもの造形活動の関連について考え、簡単な実技を通して造形活動の意義や役割を体験的に理解する。	親しみ深い今日の造形文化について事例をあげ、それぞれの特徴や問題について整理しておく。	45分
第2回	遊びから生まれるイメージと造形表現	自然な遊びから生まれるイメージと造形表現を知り,子どもの認識や関心に基づく造形表現の特徴について体験的に理解する。	遊びから生まれるイメージと造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。	45分
第3回	からだの感覚を生かす造形表現（１）	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、からだ全体の運動感覚を楽しみながら働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。	からだの感覚を生かす造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。	45分
第4回	からだの感覚を生かす造形表現（２）	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、触感・視覚・聴覚など形・色・質感の感覚が総合的に働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。	手触りや形・色などの感覚を生かす造形表現についていくつかの事例をあげ、共通する特徴を整理しておく。	45分
第5回	自然の材料から生まれる造形表現（１）	自然の材料（木枝・葉や実・石・土・水など）に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴を生かすイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。	子どもの造形表現に使われる自然材料（上記）について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生	45分

			かし方について観点を整理しておく。	
第6回	自然の材料から生まれる造形表現（２）	自然の材料（光や影、風・空気などの手に取れないもの）に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴に基づくイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。	子どもの造形表現に使われる自然材料（上記）について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。	45分
第7回	身近な材料から生まれる造形表現（１）	日常生活で触れる身近な人工材料（紙や粘土など）から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。	日常にある人工材料（上記）を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。	45分
第8回	身近な材料から生まれる造形表現（２）	特殊な人工材料（アルミ箔・プラスティック素材・段ボールなど）から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。	やや特殊な人工材料（上記）を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。	45分
第9回	用具の操作や技法から生まれる造形表現（１）	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ウレタンローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。	用具の特徴を生かした技法や実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第10回	用具の操作や技法から生まれる造形表現（２）	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。	用具の操作や技法から発想する実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第11回	ことばから生まれるイメージと造形表現	ことばから生まれるイメージと造形表現を知り、ことばの発達に応じて広がる認識や感情からイメージする造形表現について体験的に理解する。	ことばの発達に応じて広がる認識や感情を生かす実践事例をあげ、共通する特徴や観点を整理しておく。	45分
第12回	物語から生まれるイメージと造形表現	絵本やアニメなどの物語から生まれるイメージと造形表現を知り、子どもの発想や構想の基になる物語性や創造的想像力について体験的に理解する。	物語のストーリーや絵から発想する造形表現の実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第13回	季節や地域の体験から生まれる造形表現	四季の自然や行事で感じる季節感や地域の風土や行事など、子どもの実体験から生まれる造形表現について、活用意図や期待効果について体験的に理解する。	季節感を大切にする実践事例を参照し、共通する特徴や観点を整理しておく。	45分
第14回	見方・感じ方の変化や重なりを生かす造形表現	さまざまな対象や事象に触れつつ変化する「見方・感じ方」を重視する造形表現を知り、活動の意味や価値について体験的に理解する。	形や色についての見方・感じ方の変化を楽しむ造形的な表現の事例をあげ、着目点の変化やイメージの特徴を整理しておく。	45分
第15回	造形行為のみとりと環境づくり・まとめ	子どもの造形行為に寄り添うみとりと造形環境の構成に関する基礎的な要件を知り,個におうじた援助や適切な環境づくりについて体験的に理解する。全演習を通して造形体験を振返り、実践的な知識・技能の生かし方に関する討論を通じて整理・理解する。	造形的な表現行為をさせる子どもの心情や興味について、具体例をあげながら整理しておく。	45分

学習計画注記	履修者数や進み具合でスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。 ・毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。 ・授業中期以降に、それまでの演習体験から印象に残る３～5例の画像をあげて考察する中間ポートフォリオ（A4判・形式自由）の提出を求める。
評価方法	・毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 ・授業中期以降に提出するポートフォリオは、コメントを記して返却する。 ・学期末に全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート（1200～1600字程度）の提出を求める。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ドキュメントシート	○	○	○	
	中間ポートフォリオ			○	○
	小論レポート	○	○		

評価割合	平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。必要な資料を適宜配布する。
参考図書	・厚生労働省／編『保育所保育指針　平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814482 ・内閣府／文部科学省／厚生労働省／著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814499 ・文部科学省/著『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814475
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの生活・文化・遊び、子どもの造形表現の特徴について専門的な知識を有している。 【思考・判断】乳幼児期の造形的な表現の特徴に適した材料・用具・環境に配慮し考察・判断できる。

	【関心・意欲・態度】成長・発達する子どもの生活、文化、遊びに関心をもち、特徴や意味を理解している。 【技能・表現】乳幼児の認識や関心に基づいて造形的な表現活動や環境を設定し、立ち合う技術や方略を発揮する能力を有する。
オフィスアワー	金曜3限・1629研究室
学生へのメッセージ	「つくる・みる・つたえる」という表現の基礎的な意味や価値について、造形体験を楽しみながら実感的に理解する。 このように、自分らしい価値を「つくりだす喜び」を味わうことが、子どもに「表現の楽しさ」を知らせることにつながる。 それには、日頃から「身近な材料や自然」、「身近な地域や造形文化」に関心をもち、よさや違いについて意識を広げたい。 自身が学んだ成果は、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	演習を中心とし、成長・発達する子どもの感覚や認識に着目し、造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。
情報リテラシー教育	○	今日の社会や文化の視点から子どもの生活や遊びの実態を把握するために、webコンテンツやジャーナルの実践事例を参照し考察する。
ICT活用	○	造形活動のみとり・言葉掛け・援助・反省的実践に活用できる機器としてタブレット型PCやアプリケーションの活用方法を体験的に理解する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと健康		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし

ナンバリング	P20205M12
授業概要(教育目的)	温かな触れ合いのなかで子どもの心身の健康を守り育て、生涯にわたって健康に過ごすための基本的な習慣や態度を養うことは、保育者の重要な役割の一つである。本科目は、幼稚園教諭・保育士として必要な専門的知識（領域に関する専門的事項）である「健康」（健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う）のねらいと内容について解説し、その実践に必要な知識・技能について、講義だけでなく、毎回のグループワーク、グループ発表などの主体的な学修を通して育成することを目的としている。具体的には、「健康」の概念、乳幼児期の子どもの健康課題や心身の発育発達、生活習慣や食習慣の形成、運動技能の発達や遊び、家庭や社会との連携に関して学び、実際の保育現場において子どもの健康を支援するための知識・技能・態度を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・乳幼児期の子どもの心身の発達や諸機能、および健康状態に関する基礎知識をもち、説明できる。 ・子どもの健康的な生活習慣の形成に必要な方策、および周囲の大人の役割を説明できる。
思考・判断の観点（K）	・子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すための、適切な支援や指導展開を提案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・子どもの心身の健康を育むことに関心を持ち、子どもの健康増進に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	・子どもの心身の健康を維持増進するための指導案を作成し、発表を通してその詳細や意義を表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	「健康」について理解する	「健康」とは何かについて、自分自身の考えをまとめ、グループで共有することで考えを深める。また、健康の定義や概念を学び、乳幼児期の子どもにとっての心身の健康の意義と、今日の子どもが抱える健康課題を理解する。	「健康」な状態とはどのような状態かについて、大人と子どもを比較して理解を深めておくこと。	90分
第2回	領域「健康」の理解	領域に関する専門的事項「健康」について、そのねらいと内容を理解する。また、幼稚園教育要領改訂による変更点に着目し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連や、これからの時代に求められる健康教育のあり方についてグループごとに考えを深める。	保育所保育指針および幼稚園教育要領の「領域に関する専門的事項『健康』」該当部分に目を通し、そのねらいと内容を理解しておくこと。	90分
第3回	子どもの心身の健康と疾病について	心と体の健康は、相互に密接な関連がある。乳幼児期の子どもが見せる様々な健康状態の異常と、関連が想定される心の課題について理解する。また子どもの疾病の事例を取り上げ、グループごとにその背景や対応について考察を深める。	頻繁にみられる子どもの疾病について、その背後にある心身の課題や対応について調べ、よく理解すること。	90分
第4回	子どもの生活習慣と健康	子どもの基本的生活習慣（就寝、起床、食事、睡眠、排泄、着衣、清潔など）について理解し、生活習慣と健康の関連について理解する。また、家庭や周囲の大人の生活習慣が子どもに与える影響についてグループごとに整理し、理解する。	基本的生活習慣の発達に関する資料に目を通し、現代の子どもが抱える生活習慣に関する課題と大人の影響について理解すること。	90分
第5回	子どもの食	健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食	現代の子どもの食生活を取り巻	90分

	生活と健康	習慣が重要である。保育における食育の意義を学ぶと同時に、周囲の大人の食習慣が子どもに与える影響について理解する。また、より良い食習慣を形成するための方策について、グループごとに考えを共有することを通じて学ぶ。	く状況や問題点を調べ、その改善のための支援策を考えること。	
第6回	健康教育に関する指導計画の作成	グループごとに子どもの基本的生活習慣に関する今日的課題を取り上げ、その背後にある要因等についてインターネットや文献等を活用して検討する。また、その解決を目指し、よりよい基本的な生活習慣を形成するための長期の指導計画を作成する。	テーマについての情報を収集し、発表に向けての準備を進めること。	90分
第7回	健康教育に関する指導計画のグループ発表とふりかえり	作成した指導計画や、その背景等についてグループごとに発表する。ディスカッションやふりかえりを通じて、子どもの健康を支援する保育について総合的に理解する。	発表に向けて、指導計画の目的や留意点を十分に理解し、発表の準備を進めること。	90分
第8回	子どもの身体的機能の発達	乳幼児期の子どもの身体の諸機能について、運動および生理機能の観点からその特徴と発育発達を理解する。また、グループごとに乳幼児期の様々な子どもの映像を視聴して特徴をまとめ、子どもの発達には個人差があることを理解する。	乳幼児期の子どもの身体的な特徴を理解し、発達には個人差があることと同時に、異常が疑われるケースについて理解すること。	90分
第9回	子どもの運動能力の現状と課題	乳幼児期の子どもは、身体の諸機能が著しく発達する時期である反面、現代社会の生活習慣によって様々な課題を抱えている。子どもの運動能力についての現状と課題を学ぶことに加え、生活習慣が子どもの運動能力に与える影響について、グループごとに考察を深める。	現代生活のなかで不足している動きを引き出すことができる環境や道具、場の設定について具体的な案を考えること。	90分
第10回	子どもの遊びと運動能力	身体の発達に伴い、子どもは色々な「遊び」をする。多様な遊びを楽しむことで心身が動き、発達していくことを理解する。また一人遊びや集団遊び、室内遊びから戸外遊びなど、様々な遊びの特徴を学び、グループでの対話を通じてそれらの遊びの意義について理解する。	子どもの遊びの具体例についての情報を収集し、それぞれが身体に与える影響を理解すること。	90分
第11回	戸外遊びとその指導	戸外での遊びは体の諸機能の発達を促すと同時に、自然との触れ合いが心の健康や認知機能の発達にも寄与することなど、戸外遊びの意義を理解する。また、戸外遊びへの興味および遊びを通じた子どもの心身の発達を引き出す方策を考え、グループごとに共有することで理解を深める。	子どもの運動意欲を高める戸外遊びの具体例についての情報を収集し、それぞれの特性を理解すること。	90分
第12回	安全管理とリスクマネジメント	子どもの遊びや生活の中、また交通や災害時における危険と安全管理について理解する。また、子どもが主体的に安全を管理するための教育やリスクマネジメント理論を学ぶとともに、グループでの対話を通じて大人が危険をいかに取り扱うべきかについての考察を深める。	遊びに潜む危険と安全管理について、具体的な事故事例をもとに、求められる対応について理解すること。	90分
第13回	戸外遊びに関する指導計画の作成	保育所あるいは幼稚園における戸外遊びの指導案を作成する。	戸外遊びや指導案作成に関する情報を収集し、発表の準備を進めること。	90分
第14回	指導計画のグループ発表とふりかえり	作成した指導案をグループ内で発表する。ディスカッションやふりかえりを通じて、総合的に理解する。	戸外遊びや指導案作成に関する情報を収集し、発表の準備を進めること。	90分
第15回	子どもの健康と社会との連携 授業のまとめ	授業で取り扱った内容を総合的にまとめると同時に、これまで学んだ保育現場での健康教育と、社会（家庭や地域、幼保小学校連携など）とのつながりについて理解する。	これまでの学びの内容を総復習し、自身の理解度や疑問点を整理すること。また最終レポートに取り組み、学びを総合的に生かした考察をすること。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合もあります。
学生へのフィードバック方法	提出された小レポートに記載された質問や意見には、次回授業で回答します。質問はメールにて随時受け付けます。
評価方法	・毎授業後の小レポート　70点（5点×14回） ・平常点（授業への積極的な参加）　15点 ・最終課題の発表　15点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
毎授業後の小レポート	○	○	○	
平常点（授業への積極的な参加）	○	○	○	○
最終課題の発表	○	○	○	○

評価割合	・毎授業後の小レポート　70点（5点×14回） ・平常点（授業への積極的な参加）　15点 ・最終課題の発表　15点
参考図書	『保育所保育指針解説書』（平成 30 年 3 月告示）　厚生労働省　フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月告示）　文部科学省　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月告示）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの健康を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】家族・地域・社会と協働して子どもの健康を守り、育てるためのコミュニケーション能力・感性が備わっている 【関心・意欲・態度】子どもの健康をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
オフィスアワー	月曜4限　1618室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループごとのディスカッション、および指導案の作成と発表を通し、主体的で能動的な学修を進める。
情報リテラシー教育	○	得られた情報を整理し、レポートにまとめる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと言葉		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし

ナンバリング	P20207M12
授業概要(教育目的)	領域「言葉」の基礎となる考え方を理解し、「言葉のもつ意義と機能」「言葉の感覚を豊かにする実践」「児童文化財の活用」の視点から、どのようにしたら乳幼児が豊かな言葉や表現を育むことができるかを考えるようにする。上記の目的を達成する過程において、主体的に考えることができるように、グループディスカッションやワークショップなども取り入れながら、「言葉」の意義と機能について具体的に理解するようにする。その上で乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につけるようにする。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解する。 「言葉」の意義と機能について理解する。 乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。
思考・判断の観点（K）	乳児の言葉を育てるための具体的な方法について考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	乳児の言葉を育てるための方法について主体的に考えることができる。
技術・表現の観点（A）	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために「言葉」の領域から、必要な知識や技術を実践的に習得する。 児童文化財などの教材の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

学習計画

子どもと言葉

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	保育内容としての領域言葉（他領域との関わりなど）	領域言葉の内容を捉えた後、グループワークなどを通して、他領域との関係の中で具体的に考える、	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 指針や要領を手元に用意し、3つの視点や5領域についての文言を確認しておく（予習）	90分
第2回	乳児保育の３つの視点と５領域における領域言葉	前言語期から乳児の言葉、さらに幼児の言葉への発達をどのように支えていくかという視点から領域言葉を考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 言葉にはどのような意義があるのか、思いつくままに箇条書きにしておく（予習）	90分
第3回	言葉のもつ意義と機能（コミュニケーション、思考の手段など）	言葉のもつ意義と機能について、実際にワークショップを行いながら具体的に考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 言葉の意義について日常生活から具体例をあげて考えてみる。	90分
第4回	言葉のもつ	前回の授業の内容を踏まえて、事例や動画などを見なが	授業で取り扱ったプリントやテ	90分

	意義と機能（コミュニケーション、思考の手段など）	ら、具体的な実践に置き換えて考えていく。	キストをもとに、復習をしておく。	
第5回	子どもの言葉の発達２（話し言葉から書き言葉の習得まで、１次的言葉と２次的言葉）	話し言葉から書き言葉の習得までを子どもの発達段階に合わせて考えていく。さらに保育の中で具体的な援助をどのようにしていけばよいかということを、議論を展開しながら考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第6回	言葉に対する感覚（言葉の美しさ、楽しさ）	詩や回文などを題材にして、実際に言葉の美しさや楽しさを体験する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 回文を作ってみる。	90分
第7回	言葉を豊かにする保育環境（保育者の役割、言葉掛け、保育室の環境など）	子どもの言葉を育む環境とはどのようなものか。物的環境と人的環境の両面から議論し、保育室の環境設定や言葉かけなど自分なりの視点で考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第8回	言葉遊びと保育実践	様々な言葉遊びの世界を体験するなかで、その楽しさを味わう。さらに、保育実践の中ではどのような援助が必要かということにつなげて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第9回	児童文化財とは何か（子どもにとっての児童文化財の意義）	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第10回	児童文化財の実際（種類や歴史、保育への取入れ方）	紙芝居や絵本などの児童文化財を保育に取り入れる場合、どのような配慮が必要かという視点からグループワークなどを通して考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第11回	児童文化財を用いた実践（絵本、紙芝居）	前回議論した内容をもとに、絵本や紙芝居を用いた演習を行う。	授業で学んだポイントを復習しながら、絵本や紙芝居などを再度読んでみる。 図書館などで色々な絵本を読んでみる。	90分
第12回	児童文化財を用いた実践（昔話とストーリーテリングを用いた模擬保育）	前回の模擬保育の経験を踏まえて、昔話やストーリーテリングといった題材をもとに、模擬保育を行う。また、2回分の模擬保育の振り返りを行う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第13回	児童文化財を用いた実践（ペープサート、人形劇、パネルシアター）	ペープサート、人形劇、パネルシアターなどの教材を用いた模擬保育を行う。その際、子どもにとってどのような学びがあるのか、また子ども自身が主体的にその時間を過ごすためにはどのような工夫や配慮が必要かということを考えながら行うようにする。	授業で取り扱った内容をまとめておく。	90分
第14回	子どもの生活と遊びにおける体験（見立て遊びご,っこ遊び,劇遊び,わらべうた遊び等）	子どもの生活と遊びという視点から、言葉の発達を考えていく。ままごと遊びや見立て、ごっこ遊びの中での子どもの言葉の育ちをどうとらえるかということをグループワークで考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 具体的場面をイメージして子どもの生活と遊びにおける体験を書き出してみる。	90分
第15回	保育の現代的課題と領域言葉（ICT,アクティブラーニング,幼保少接続,特別な支援等）	これまでの授業を振り返りながら、保育の現代的課題と領域言葉の関連について考えていく。ICTやアクティブラーニングをどのように保育に取り入れていくのか、また保育者の振り返りとしてもそのような視点が持てるようにしていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 これまでの授業をまとめておく。	90分

学習計画注記	講義と演習形式で行う。 ①資料を手掛かりとして、考察し、発見しあう授業 ②過去の研究を手掛かりとして、知識を得る講義 ③テーマを共有してふるまいながら気付き、身につける演習
学生へのフィードバック方法	授業の質問、感想、要望、を受け付ける。毎回それに対してのフィードバックを行う。指導案など提出したものは、添削、助言をして返却する。
評価方法	平常点50%、定期試験50%

	（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	平常点50%、定期試験50% （平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	コンパクト版『保育内容シリーズ４　言葉』
参考図書	保育所保育指針 幼稚園教育要領
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。 【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。 【関心・意欲・態度】子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく。 【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。
オフィスアワー	月曜2限から４限
学生へのメッセージ	保育所保育指針、幼稚園教育要領を基本に進めていくので、毎回持参すること。グループワークなども多く含まれるので、授業では自分の意見を述べるなど、積極的に参加してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、発表などを行い、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを行っていく。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと人間関係		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	P20209M12
授業概要(教育目的)	現代の乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる課題を理解し，幼児教育に求められる教育内容について理解する。乳幼児期の人と関わる力は，大人や仲間など他者との関係や集団における経験の中で育つことを理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解する ・乳幼児期の人間関係の発達について基本的な知識を身に付ける ・「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」について理解する
思考・判断の観点（K）	・保育の現場における子どもたちの実際の姿と，それに影響を与えている社会的要因を結び付けて考えることができる ・乳幼児期の人と関わる力を育む援助，保育について考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	・現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心を持ち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	現代の乳幼児の人間関係，領域「人間関係」とは	・家庭・地域での経験と乳幼児教育に期待されるもの，領域「人間関係」のねらいと内容，他の領域との関連について学ぶ	〔予習〕「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を読む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第2回	乳幼児期の発達と領域「人間関係」（１）親との出会いとかかわり　（２）保育者との出会いとかかわり	人生最初の人間関係である愛着の形成と，園での生活の基盤となる保育者との信頼関係について学ぶ	〔予習〕幼稚園，保育所での保育者とのかかわりで印象に残っているエピソードを書いてくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第3回	乳幼児期の発達と領域「人間関係」（３）仲間との出会いとかかわり	園での仲間との出会い，関係の始まり・発展と，仲間集団・クラス集団において現れる自己主張・自己抑制の発達について学ぶ	〔予習〕自分が幼稚園や保育所に通っていた時の，友達とのかかわりで思い出に残っていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第4回	乳幼児期の遊びと人間関係 （１）遊びと子どもの育ち （２）遊びと人間関係の発達	遊びを通して学ぶ子どもの姿，遊びの発達と人間関係の発達との関連について学ぶ	〔予習〕乳幼児が「砂場」での遊びで学ぶことを思いつく限り書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第5回	乳幼児期の遊びと人間関係 （３）うま	「自分を出して遊ぶこと」と「なかまとともに遊ぶこと」の統合の仕方を学ぶ過程について学ぶ	〔予習〕幼児期の友だちとのケンカで覚えていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について授業資料等を読み考える。	90分

	くいかない経験			
第6回	乳幼児期の生活と人間関係（１）家庭生活を通して	きょうだいや祖父母とのかかわり，家庭生活を通しての価値やルールの学びについて理解する	〔予習〕自分が乳幼児期に家庭で伝えられた生活上のルールにどのようなものがあったか，書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第7回	乳幼児期の生活と人間関係（２）園生活を通して	生活の自立と人とのかかわり，自分たちで生活を作っていく中での学び・育ちついて理解する	〔予習〕園生活の中で経験されに身につけられていく「生活に必要な行動」にはどのようなものがあるか，思いつく限り書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について授業資料等を読み考える。	90分
第8回	個と集団の育ち	仲間集団やクラス集団における関係性の育ち，個と集団の育ちの捉え方について学ぶ	〔予習〕これまでの友達とのかかわりから学んだことにどのようなものがあるか，書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第9回	乳幼児期の自立心の育ち	自己の発達と自立心の育ちについて学ぶ	〔予習〕乳幼児期の自己の発達，自己主張と自己抑制の発達について，1年次前期「発達心理学」のテキスト・授業資料の該当箇所を見直し確認しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第10回	幼児期の協同性の育ち	他者と目標を共有してやり遂げようとする力の育ちについて学ぶ	〔予習〕幼児期になかまと力を合わせた経験，そのときの保育者のかかわりを思い出し書き出す。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第11回	乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち	他者との葛藤経験を通してきまりの必要性を理解し，気持ちを調整し折り合いをつける力の育ちについて学ぶ	〔予習〕事前配布プリントを読み，乳幼児期の道徳性の発達に関する理論にどのようなものがあるか知る。園生活における「お約束」にどのようなものがあったかを思い出し書き出す。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第12回	乳幼児期の思いやりの芽生えと育ち	仲間とのかかわりの中で現れてくる他者への思いやりの気持ちとその発達について学ぶ	〔予習〕事前配布プリントを読み，幼児期に友だちにしてもらってうれしかったこと，友だちにしてあげた思いやり行動を書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第13回	幼児の人と関わる力の育ちについて映像から学ぶ	仲間集団における葛藤を経験する中で，他者の気持ちに気づき，自分の行動を調整する姿を見せる女児のエピソードを見て，仲間とのかかわりを通した，人と関わる力の育ちの実際を知る	〔予習〕現在の自分のコミュニケーション能力について，高いか低いか，何か課題を感じているか，振り返ってまとめる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第14回	乳幼児期の人間関係の広がり	乳幼児の地域での生活で経験される人間関係や，そこで育まれるものについて考える	〔予習〕乳幼児期の地域の人々とのかかわりについて，覚えていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第15回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する	〔予習〕事前配布課題に取り組む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分

学習計画注記	授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。
評価方法	・平常点は，学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。 ・課題は，事前課題や授業内の課題（グループワークや発表を含む）への取り組みと内容により評価する。 ・最終レポート課題は，　授業到達目標の達成の程度を測るものとする。 ・平常点，課題，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	課題	○	○	○	
	最終レポート	○	○		

評価割合	平常点（30%），課題(30%)，最終レポート（40%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	『新版　事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係』無藤隆（監修）・岩立京子（編集代表），萌文書林（978-4-89347-257-1）
参考図書	授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】領域人間関係，乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育，保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。
オフィスアワー	水曜日４限　1626研究室
学生へのメッセージ	1.演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。 2.毎回授業内容を復習しておいてください。 3.宿題とした課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと環境（PA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし

ナンバリング	P20111M12
授業概要(教育目的)	子どもを取り巻く環境は、保育者、保護者、友達等の人的環境及び遊具等の物的環境、自然環境や社会環境等子どもを取り巻くすべてが相互に関連しながら構成されている。子どもを取り巻く環境の現状を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す領域「環境」及び乳児保育における三つの視点に示すねらい及び内容、内容の取扱いについての理解を深める。また、その指導のもととなる環境に対する感性を養い、必要な知識・技能を身に付ける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「環境を通した教育」の意味を踏まえ、子どもを取り巻く環境の構造を理解する。
思考・判断の観点（K）	領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの経験内容とそれに対する保育者の配慮事項について考える。子どもが環境にかかわる姿を捉え、その意味や意義を考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	小学校教育への接続を踏まえ、自然環境、数量・図形、標識・文字等に関わる姿から、幼児の科学的概念の発達について関心を持って捉える。
技術・表現の観点（A）	子ども主体の環境を通した保育を展開するために必要な技術を演習を通して身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	現代の子どもを取り巻く環境の構造と特徴	現代の子どもを取り巻く環境の概要から、その構造と子どもに与える影響について考え、理解する。	現代の子どもにとって必要な体験と幼児期の体験が意味することを考え、ノートにまとめる。	90
第2回	子どもを取り巻く環境の変化	現代の子どもを取り巻く環境に関する様々なデータから、現状と課題にzいて考え、理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90

第3回	乳幼児にとっての環境の意味と意義	乳幼児が自発的、主体的に環境に関わる様々な事例を通して、子どもにとっての環境の意味を考え、理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第4回	領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す、領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。	これまでの授業内容を復習し、領域「環境」との関連について理解する。	90
第5回	植物栽培の知識と技術	植物栽培に関する基礎的事項を理解し、ハツカダイコンの栽培に取り組む。	ハツカダイコンを栽培・観察・記録する。園生活で子どもたちが飼育する小動物の生態と飼育方法について調査・まとめ・発表準備をする。	150
第6回	生き物の飼育の知識と技術	生き物の飼育や生態系に関する基礎的事項を理解し、飼育の方法について調査・発表する。	演習問題を完成する。	90
第7回	身近な環境にある数と形	ネイチャーゲーム「フィールドパターン」、「カモフラージュ」を行い、数と形に関する保育内容について検討する。	ワークシートを完成する。	90
第8回	子どもの文字環境	乳幼児が文字・数量とかかわる姿から、文字・数量に対する「感覚を豊かにする」ことの意味を理解する。	子どもの遊びの中にある文字・数量について考える。	90
第9回	子どもの情報環境	子どもの生活にある情報とICTとの関わりについて考え、理解する。	演習問題を完成する。	90
第10回	子どもの自然環境	ネイチャーゲーム「フィールドパターン」、「サウンドマップ」、「サイレントウォーク」の実践を通して、自然環境に対する感覚を豊かにする。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気付いたことを記入する。	90
第11回	自然の移り変わりと伝統行事	春・夏の自然と伝統行事に関する事項や保育内容を調査し、発表する。	自然と伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。	90
第12回	保育現場に見られる命の教育について	保育現場で、命に触れる子どもの姿から、命に関する保育内容を検討する。	演習問題を完成する。	90
第13回	子どもの地域社会とのかかわりについて	「まち保育」を例に挙げ、地域の社会的資源を生かした保育内容について考え、理解する。	演習問題を完成させる。	90
第14回	多文化共生保育	外国につながる子どもを取り巻く環境に関する現状と課題、多文化共生保育の実際について考え、理解する。	演習問題を完成する。	90
第15回	生活科教育と領域「環境」	領域「環境」に示す保育内容と生活科教育との連続性について理解する。	演習問題を完成する。	90

学習計画注記	授業の進行状況等により変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出されたワークシートはすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。
評価方法	・発表は授業内に評価する。 ・学期末レポートは各自で作成し、評価する。 ・ワークシート等の提出物については、提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ワークシート		○	○	○
	観察記録		○	○	○
	発表	○		○	
	学期末レポート	○	○		

評価割合	ワークシート(20%)、観察記録(10%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)

使用教科書名(ISBN番号)	特に定めない。
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもの環境をめぐる多様化した課題や問題に関心を持って取り組む。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につ けている。
オフィスアワー	火曜日1,5限　1623研究室
学生へのメッセージ	実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学内において、ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと表現		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし
教授	立川　泰史	指定なし
教授	吉永　早苗	指定なし

ナンバリング	P20213M12
授業概要(教育目的)	乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について実践的に学ぶ。様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通し、乳幼児の表現を支える保育者としての感性や表現力・創造性を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けを理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、乳幼児の表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	乳幼児の発達と表現の関係について関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい及び内容について理解する。	幼稚園教育要領の領域「表現」の章をよく読んでおくこと。	60分
第2回	乳幼児の素朴な表現の実際	事例を通して、乳幼児の表現の発達について考える。	テキスト第１部（第１章～第３章）　を読んでおくこと。	60分
第3回	表現の源に出会う体験（１）身体への気づき	ノンバーバルコミュニケーションを中心としたいくつかのワークを通して、表現媒体・コミュニケーション媒体としての「身体」に気づく。	テキスト第４章を読んでおくこと。	60分
第4回	表現の源に出会う体験（２）多感覚を実感する	触り心地を音にする。音楽を描く。絵から音を作り出す。	「黄色い声」「尖った音」など、複数の感覚が重なった音の表現を探してみる。 「共感覚」について調べておく。	90分
第5回	表現の源に出会う体験（３）さわりごこちマップ	様々なさわりごち（触感）を基に、身近な場所の特徴を視覚化するマップをつくる。統合的に働く感覚と造形表現の関連を理解し、教材選び・活動構成・環境づくりの意味を実体験する。	からだの感覚や経験から生まれる新しい見方・感じ方について、自身の経験や事例をあげて説明できるようにしておく。	60分
第6回	からだで感	共同絵の具の特徴や用具の扱いから生まれる造形表現に	共同絵の具や用具の種類、特徴	60分

	じて（1）絵の具で遊ぶ	ついて理解し、活動や主題の構成・開発について可能性と課題を探究する。	などについて実践事例をあげ、活動の趣旨を整理しておく。	
第7回	からだで感じて（2）音のマップ～環境との対話	サウンドウォークを体験する。自然の中、建物の中を歩き、そこに聞こえる音や音の響きに耳をすませてみよう。壁に耳を当てると、聴こえ方が違うかも知れない。右足と左足、音は同じかな？	サウンドウォーク、サウンドマップ、サウンドスケープをキーワドとした論文を検索し、読んでおく。	60分
第8回	からだで感じて（3）からだであらわすワーク	「なりたいものになる」ワークなど、即興的な身体表現に取り組み、表現活動を仲間とつくっていく楽しさや心地よさを味わう。	予習課題：身体表現としての「ふり」探し	60分
第9回	身近な素材の発見（1）コラージュで遊ぶ	「形や色（造形言語）の引用」という観点から、創造的な造形表現の可能性を探究する。異なるものを結び重ねると生じる発想イメージの働きについて、体験的に理解する。	「～としてみる」「～であってもよい」という比喩的な見方・感じ方を活用する事例を探索し、子どもの認識発達と関連付けて説明できるようにする。	60分
第10回	身近な素材の発見（2）つくって遊ぶ	身近で親しみのある材料を生かす造形表現の意義や可能性を探究する。製作とチームアプロ―チの討論から、諸材料（自然材料と人工材料・手に取れる材料と取れない材料、可塑性の有無で区別できる材料、透明・不透明材料など）の特徴を知り、活動構成と育てたい資質・感性・技能を考察する。	日常生活にある身近な材料を「自分の観点」で探す。（例：白いもの、光るもの、透明なもの、細長いもの） 集めた材料を授業に持参できるように、準備しておく。	60分
第11回	身近な素材の発見（3）音遊び・音づくり	手作り楽器の製作とアンサンブル。 音のイメージを描き、それを音にしていく。そのあと、音で会話してみよう。どんな音の物語ができるかな？	手作り楽器を製作する。	120分
第12回	文化的・協働的表現（1）鑑賞から企画へ	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに企画する。	各自「企画案」を作成する。	120分
第13回	文化的・協働的表現（2）創造する	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに制作する。	グループ内で分担を決め、企画・制作に向けた準備等を行う。	240分
第14回	文化的・協働的表現（3）発表	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに発表する。	発表に向けてグループごとに準備・練習等を行う。	240分
第15回	総括	ポートフォリオをまとめながら学びの過程の振り返りを行う。	これまでの授業内容を総復習し、ポートフォリオ（学びの記録）を作成する。	120分

学生へのフィードバック方法	3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行していく。
評価方法	各授業における課題（提出物、演習への取り組み、発表態度等）の評価とともに、「ポートフォリオ」によって本授業全体を通した学びの過程と成果を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業課題	○	○	○	○
	ポートフォリオ	○	○	○	○

評価割合	授業課題（コメントシート）の評価（60%）、ポートフォリオ課題の評価（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	無藤隆監修・浜口順子編者代表『事例で学ぶ保育内容　領域「表現」』萌文書林　2018（ 978-4-89347-260-1）
参考図書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「子どもの保育」における「表現」の位置付けを理解し、子どもに関する専門的な知識が習得できている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	（前期）新開：金曜４限　1635研究室 吉永：前期 月曜３限 後期 水曜2限 1601研究室 立川：火曜３限　1629研究室
学生へのメッセージ	保育士資格・幼稚園教員免許の必修科目です。実習などでのやむを得ない欠席の場合も、後日必ず学習内容を確認して、それぞれの課題に臨みましょう。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当者は国公立小学校の教諭として教育研究に従事した経験を有する。文部科学省検定教書の編修著者代表や文部科学省学習資料作成委員として各教育委員会主催の現職教員の研究・研修及び地域行政や企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育の課題に対応する情報や知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる課題への取り組みや発表など、さまざまな実践的ワークを通して主体的、能動的に学んでいく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童学研究ゼミＡ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科　教員	指定なし
教授	畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P30001M12
授業概要(教育目的)	児童学研究における研究課題の決定、研究方法、卒業論文に求められる要素など、4年次の卒業研究（卒業論文作成）に必要な基本的知識について学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点（K）	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点（A）	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

児童学研究法

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	児童学研究ゼミA (1)、授業オリエンテーション	児童学研究ゼミAの授業概要、卒業論文に関する取り決め、児童学研究ゼミAの評価等について概説し、児童学研究ゼミ配属先決定方法について説明する。児童学研究ゼミA第2回～第11回の講義を聞いて指定期日までに児童学研究ゼミ配属先希望調査票を提出する。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第2回	児童学研究ゼミA (2)、文献研究の方法1	文献研究の方法について概説し、論文の構成や参考文献目録の書き方について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第3回	児童学研究ゼミA (3)、文献研究の方法2	図書館の使い方、文献検索の方法について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第4回	児童学研究ゼミA (4)、文献研究の方法３、領域別研究方法１	文献研究の方法に関するまとめテストを実施する。領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分

第5回	児童学研究ゼミA(5)、領域別研究方法2	領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分
第6回	児童学研究ゼミA(6)、領域別研究方法3	領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分
第7回	児童学研究ゼミA(7)、領域別研究方法4	領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分
第8回	児童学研究ゼミA(8)、領域別研究方法5	領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分
第9回	児童学研究ゼミA(9)、領域別研究方法6	領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分
第10回	児童学研究ゼミA(10)、領域別研究方法7	領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分
第11回	児童学研究ゼミA(11)、領域別研究方法8	領域別研究方法について学習する。	卒論を念頭において、どのような研究が可能か考える。	120分
第12回	児童学研究ゼミA（12）、ゼミ相談	各研究室に回ってどのような研究が可能か相談する。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分
第13回	児童学研究ゼミA（13）、ゼミ活動１	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分
第14回	児童学研究ゼミA（14）、ゼミ活動２	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分
第15回	児童学研究ゼミA（15）、ゼミ活動３	ゼミ担当教員の指示に従って研究を進める。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分

学習計画注記	領域別研究方法においては課題が課されるので、必ず提出すること。
学生へのフィードバック方法	セミ配属先は学生の希望をもとに決定されるため、詳細に研究計画を立てておくこと。
評価方法	・平常点により評価する。 ・平常点は、授業中の実績（授業の取り組み方、領域別研究方法における課題の提出、各ゼミにおける実績）に基づき総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
文献研究の方法まとめテスト	○	○	○	○
質問紙調査まとめテスト	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合	平常点100%（授業の取り組み方、領域別研究方法における課題の提出、各ゼミにおける実績）
使用教科書名(ISBN番号)	なし（プリント配付）
参考図書	授業中に指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。

	【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	研究室により異なる。
学生へのメッセージ	これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童学研究ゼミＢ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科　教員	指定なし
教授	畝部　典子	指定なし

ナンバリング	P30002M12
授業概要(教育目的)	4年次に開講される卒業研究A・B履修に先立ち、各自が取り組みたいテーマをもとに研究の基礎について学ぶ。具体的には、資料の収集、講読及び討議を通して仮説や探究したい点を絞り込み、論文の構成や書き方について理解を深める。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点（K）	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点（A）	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

卒業研究基礎ゼミ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	児童学研究ゼミB（1）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第2回	児童学研究ゼミB（2）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第3回	児童学研究ゼミB（3）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第4回	児童学研究ゼミB（4）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第5回	児童学研究ゼミB（5）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第6回	児童学研究ゼミB（6）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第7回	児童学研究ゼミB（7）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第8回	児童学研究ゼミB（8）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分

第9回	児童学研究ゼミB（9）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第10回	児童学研究ゼミB（10）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第11回	児童学研究ゼミB（11）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第12回	児童学研究ゼミB（12）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第13回	児童学研究ゼミB（13）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第14回	児童学研究ゼミB（14）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第15回	児童学研究ゼミB（15）	配属される児童学研究ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分

学生へのフィードバック方法	配属されるゼミの指示に従う。
評価方法	配属されるゼミにおける平常点（授業中の実績）と課題（卒研発表会におけるワークシートおよび指定された提出物）の提出等により総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	課題提出	○	○	○	○

評価割合	児童学研究ゼミBにおける総合評価による。
使用教科書名(ISBN番号)	配属されるゼミ担当教員の指示に従う。
参考図書	配属されるゼミ担当教員の指示に従う。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	研究室により異なる。
学生へのメッセージ	これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	障がい児保育Ａ（PA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中野　佐世子	指定なし

授業概要(教育目的)	障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の現状、および今後の課題を理解する。 障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「助けを必要としている子ども・要助児」と捉える。そして保育者としての役割は、助けることを必要としている子どもであることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。 このように「障害児保育」をとらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。 保育の場で日常的に歌われている曲に手話を付け、障害児も一緒にできる手話ソングの学習を行う。
履修条件	講義の初回から毎回出席し、意欲的に学ぶ姿勢のある者。 話し合い、発表を行うため、他者とのコミュニケーションが積極的に取れる者。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	個々の障害について正しく理解し、保護者と共に子どもの発達を促せる保育者になる。
思考・判断の観点（K）	障害児の成長を促すため、今どのような助けが必要となるのかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	障害を身近な問題としてとらえ、社会の中の障害者への関心が高まる。
技術・表現の観点（A）	保護者への伝え方、提言の仕方を考え、保育者のアドバイスを受け入れてもらえる伝え方が身につく。 手話ソングや手話によるゲームをする技術が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	「障害」のとらえ方 －「障害」とは	障害とは何か？を　身近なマークなどから学ぶ	教科書P-17を読んで復習	60分
第2回	「障害」のとらえ方 －「障害児とは」「要助児の概念」	身体障害、知的障害、精神障害・発達障害の概要を学び、障害児についての理解を深める	教科書P-4,5を読んで復習をする	60分
第3回	障害に応じた保育支援視覚障害Ⅰ	視野の発達と障害、色覚の発達と障害について学び、援助方法、保護者への伝え方などについて学ぶ グループ討議をして発表する	教科書P-10,11を読んで復習 ネットで＜色覚多様性＞について確認をする	90分
第4回	障害に応じた保育支援視覚障害Ⅱ	視力の障害について学び、援助・ガイドの方法を理解する	教科書P-12,13を読んで復習する 身近にあるユニバーサルデザインについて調べる	90分
第5回	障害に応じた保育支援聴覚言語障害Ⅰ	耳の構造を学び、聞こえのしくみと聴覚障害について理解する	教科書P-6,7を読んで復習する 「みみ展」を検索し、聞こえ方についての理解を深める	90分

第6回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障Ⅱ	聞こえないことと話せないことの関係について学び、二次的な障害（話せない、日本語の獲得が難しい）について理解を深める	配布したプリントを読み復習をする	60分
第7回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障Ⅲ	聴覚障害児、難聴児とのコミュニケーション方法や留意点について学ぶ	教科書P-8,9を読んで復習をする	60分
第8回	障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅰ	肢体不自由の種類や状態、介助する場合の留意点について学び、理解を深める DVDを視聴	視聴したDVDについてレポートを作成する	90分
第9回	障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅱ	肢体不自由者の目に見えない障害について理解し、園活動においての留意点を学ぶ	教科書P-14を読んで復習する	60分
第10回	障害に応じた保育支援 知的障害Ⅰ	知的障害について学び、理解する DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	120分
第11回	障害に応じた保育支援 知的障害Ⅱ	知的障害の特性を学び、それぞれの特性に合わせた援助方法を理解する 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第12回	障害に応じた保育支援 発達障害Ⅰ	発達障害の種類やその特性について学ぶ DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	90分
第13回	障害に応じた保育支援 発達障害Ⅱ	発達障害の特性に合わせた援助方法や留意点について学ぶ 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第14回	障害児を取り巻く保育の現状と課題 補助犬について	今まで学んできたことを踏まえ、改めて障害児保育の現状と課題について学ぶ 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）について理解し、園活動における留意点について学ぶ（DVDを視聴）	配布したプリント と　教科書P-15を読んで復習をする	90分
第15回	生活動作に関する具体的な保育技術 家庭への支援、家庭との連携と協力	障害の特徴に応じた生活動作（食事動作、排泄動作、行為動作など）に関する具体的な保育技術について学ぶ 家庭への支援、家庭との連携と協力について考え、留意点について学ぶ プリントを配布し、グループ討議、発表をする	プリントを読んで復習 試験に向けて今までの総復習をする	120分

学習計画注記	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後学習20時間 こちらは前期(中野先生)のシラバスです。後期は上出先生のシラバスをご覧ください。
学生へのフィードバック方法	講義の最後にリアクションペーパーに感想や考察、疑問点を記入し提出。 講師はこれを添削し、コメントを記載して返却する。 また、必要なことに関しては、全体に向けても再度説明を行い、講師と学生の意見交換をすすめる。
評価方法	リアクションペーパーの内容、平常点、定期試験等で評価を決定する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパー	○	○	○	
	グループ発表	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点30%　レポート20%　試験50%　の割合で評価する （平常点とは、授業での積極的な態度や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。）
使用教科書名(ISBN番号)	①「手話ソングブック　～ともだちになるために～」　すずき出版　　新沢としひこ 中野 佐世子　共著 ②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野 佐世子著　書店での取り扱いがないため、講義内で販売します。800円(税込)
参考図書	・手話ソングブック２／新沢としひこ・中野佐世子共著／すずき出版 ・手話ソングブック３／新沢としひこ・中野佐世子共著／すずき出版 ・手話ゲームブック　／新沢としひこ・中野佐世子共著／すずき出版
ディプロマポリシーとの関連	・児童学を構成する6領域を総合的に理解し、障害児の専門職における必要な知識・技能を有することができる。 ・障害児に対する総合的かつ包括的な相談支援の知識と技術を修得し、子ども及び保護者への支援ができる。

	・講義を通してコミュニケーションの取り方の基本を身につけ、子ども及び保護者に対して円滑なコミュニケーションを図ることができる。 ・多様化する障害に対して興味関心を持ち続け、先入観を持たず、今、目の前にいる子どもから学ぼうとすることができる。 ・子どもや障害に関する知識と技術を修得し、社会貢献できる以下の能力（基礎的な能力・知識・技術）を有することができる。 ・手話の学習を通して、豊かなコミュニケーション能力が身に付き、それを保育で実践できる
学生へのメッセージ	保育の現場で出会う「障害児」達を想定し、皆さんが「困らない」、子ども達を「困らせない」知識を身につけます。 実習に間に合うよう、すぐに使える手話ゲーム・手話ソングを取り入れています。 テキストについては、講義の中で案内します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・心身障害児総合医療療育センターで勤務した経験を活かし、様々な障害および支える家族の問題について伝える。 ・手話通訳として活動している経験を活かし、手話の楽しさ、保育における有用性について伝える
アクティブ・ラーニング	○	・グループトークを行い、発表する
情報リテラシー教育	○	・毎回のリアクションペーパーを通して、考察の導き方、書き方を説明する
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	障がい児保育Ｂ（ＰＡ）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未　　定	指定なし

ナンバリング	P30204M12
授業概要(教育目的)	障がい児保育を支える基本的理念と障害の概念が歴史的変遷を遂げ、ソーシャルインクルージョンを取り入れていくことを目指している保育の現状があることを理解する。そのうえで、保育者として必要である様々な障害の正しい知識と保育における発達の支援や実際、家族支援、専門機関等の連携などを幅広く学び理解を深め、多様な子どもたちをひとしく大切にし、個々に合わせた配慮がおこなえるよう、基本的態度や技術も含めて具体的に学ぶことを目的としている。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.子どもにかかわる障害の概念と種類について具体的な例を挙げて説明できるようになる. 2.障がいのある子どもの理解の方法・支援の方法について具体的に説明できるようになる.
思考・判断の観点（K）	1.障がいのある子ども一人ひとりに合わせた援助の方法、合理的配慮や環境設定の工夫等、保育内容を考えることができる.
関心・意欲・態度の観点（V）	1.障がいに関連する保育や社会問題などに関心を示し，意欲的に授業課題に取り組むことができる.
技術・表現の観点（A）	1.障がいのある子どもの一人ひとりのニーズに合わせた実践的な配慮方法や発達支援の方法の技術が身につく.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション，「障害」の捉え方	障がい児保育の授業についての説明から授業概要を把握する. 障害の概念について学ぶ.	教科書の「障害の概念」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「障害児保育の歴史」の章を読んで予習しておくこと.	20分
第2回	障害児保育の歴史	子どもの障害にかかわる保育，教育に関することを含めたわが国における障害児の歴史について学ぶ.	教科書の「障害児保育の歴史」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「障害児保育の基本」の章を読んで予習しておくこと.	45分
第3回	障害児保育の基本	障害児保育の歴史を踏まえたうえで，基本として，対象，理念を知り，保育者の役割について学ぶ	教科書の「障害児保育の基本」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「肢体不自由児，視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章を読んで予習しておくこと.	45分
第4回	障害の理解と保育における発達の支援ー肢体不自由児，	肢体不自由児，視覚・聴覚障害児について，講義とともに映像を含めて，障害の状態や生活，保育・教育について学ぶ．そのうえで，実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ	教科書の「肢体不自由児，視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「知	45分

	視覚・聴覚障害児		的障害児の理解と支援」の章を読んで予習しておくこと.	
第5回	障害の理解と保育における発達の支援ー知的障害児	知的障害児について，講義とともに映像を含めて，障害の状態や生活，保育・教育について学ぶ．そのうえで，実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ	教科書の「知的障害児」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「発達障害児（自閉症）」の章を読んで予習しておくこと.	45分
第6回	障害の理解と保育における発達の支援ー発達障害児（自閉症）	発達障害児（自閉症）について，講義とともに映像を含めて，障害の状態や生活，保育・教育について学ぶ．そのうえで，実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ	教科書の「発達障害児（自閉症）」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「発達障害児（ADHD・LD)」の章を読んで予習しておくこと.	45分
第7回	障害の理解と保育における発達の支援ー発達障害児（ADHD, LD）	発達障害児（ADHD・LD)について，講義とともに映像を含めて，障害の状態や生活，保育・教育について学ぶ．そのうえで，実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ	教科書の「発達障害児（ADHD・LD)」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．「医療保育」について関連サイト等を検索し予習しておくこと.	45分
第8回	医療を要する子どもの理解と保育における発達の支援ー病児，病弱児	医療保育について，講義とともに映像を含めて，医療における子どもの保育や教育について学ぶ.	「医療保育」の配布プリントを読み，復習しておく．教科書「障害児保育の歴史」の章を読んで予習しておくこと.	45分
第9回	障害児保育の実際①生活と遊びの環境	障害児保育の実際として，遊びの中での療育（ゲーム療育等）を学生同士で実践しグループワークから学ぶ.	教科書の「障害児保育の実際，生活と遊びの環境」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「障害児保育の実際，子ども同士のかかわりと育ち合い」の章を読んで予習しておくこと.	30分
第10回	障害児保育の実際②子ども同士のかかわり，職員間の協働（グループワーク）	障害児保育の実際における子ども同士のかかわり，職員間の協働を事例から具体的支援の計画立案，方法をグループワークで協議する．次回の発表準備のために，文献検索等をおこなう.	教科書の「障害児保育の実際子ども同士のかかわり，職員間の協働」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．また，次回の発表のために文献等検索し準備をおこなう.	50分
第11回	障害児保育の実際③子ども同士のかかわり職員間の協働（グループ発表）	障害児保育の事例について，10回でグループワークをおこない， 10回の授業の障害児保育の事例から具体的支援の計画立案，方法をグループワークで協議した内容を発表して，学生同士で共有することで様々な視点の療育を学ぶ.	配布プリントで発表内容を振り返る．教科書「家庭との連携，家族への支援」の章を読んで予習しておくこと.	40分
第12回	家庭との連携，家族への支援	障害児保育を円滑かつ効果的に行うために重要な家庭との連携，家族支援について学ぶ	教科書の「家庭との連携，家族支援」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「専門機関との連携」の章を読んで予習しておくこと.	45分
第13回	専門機関との連携	障害児への支援や配慮について，様々な専門機関，関係機関の取り組みや連携を学ぶ	教科書の「専門機関との連携」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書「障害のある子どもを取り巻く保育の現状と課題」の章を読んで予習しておくこと.	45分
第14回	障害のある子どもを取り巻く保育の現状と課題	保健・医療・福祉・教育における障害を有する子どもの課題と現状について，事例から学ぶ	教科書の「障害のある子どもを取り巻く保育の現状と課題」の章及び配布プリントを読み，復習しておく．教科書全体，今までの配布資料を読んで予習しておくこと.	45分
第15回	障がい児保育の授業のまとめ	障害児保育を支える理念から振り返り，保育者として子どもと家族に必要な支援や配慮を改めて総合的に理解する.	教科書全体及び今までの配布資料を読み返す．教科書や資料内の重要な部分を覚え，定期試験に向けて学習する.	85分

学習計画注記	授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合があります.
学生へのフィードバック方法	レポート課題については，添削し返却する．授業内で解説をおこなう.
評価方法	平常点とは、授業への積極性、課題・プレゼンに対する取り組み等を総合的に評価するものである. レポートは，事例を基に支援計画を考え，考察する. 定期試験は，選択式問題及び小論文である．出題傾向については，最後の授業にて説明する.
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点（プレゼンを含む）	○	○	○	○

	レポート	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点（プレゼンを含む）20%・レポート20%・定期試験60%で評価する.
使用教科書名(ISBN番号)	藤永保（監修）阿部五月他（著）『障害児保育　子どもとともに成長する保育者を目指して』萌文書林
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し，障がいや疾患のある子どもに関する専門的知識を有している. 【思考・判断】障がいのある子どもと家族への支援を具体的に計画し，実践的な学びに繋げることができる. 【関心・意欲】障がいに関連する保育や社会問題などに関心を持ち，意欲的に課題へ取り組むことを身につける. 【技術・表現】保育者として，障がいや疾患のある子どもの具体的支援の実践技術をプレゼンを通して表現する力，コミュニケ―ション力を身につける.
学生へのメッセージ	障がいのある子どもの理解と支援は、実際に関わることで深めることができます。日頃から多様な子どもたちと接する機会を積極的につくるとともに、障害に関連する保育や社会的問題などに関心を示し、自ら学ぶように努めてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学病院小児病棟の保育，児童発達支援室の療育指導・心理相談及び市の巡回相談員としての勤務経験を活かし，障がいや疾患を有する子どもとその家族の保育，支援の方法等について事例を基に具体的に教授している
アクティブ・ラーニング	○	グループワークをおこない，プレゼン（発表）する.
情報リテラシー教育	○	課題レポートのために必要な情報をデータベース活用，文献等探索をおこない作成する.
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	健康の指導法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐藤　冬果	指定なし
非常勤講師	中島　悠介	指定なし

ナンバリング	P20204M22
授業概要(教育目的)	本科目は、領域「健康」のねらいと内容、および内容の取扱いについて理解し、子どもが健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことに向け、その指導に必要な知識・技能を育成することを目的としている。特に運動発達とそれを促す運動遊びについて理解し、その指導力の修得を目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・領域「健康」のねらいと内容、および内容の取扱いについて理解している ・子どもの成長と運動の関係について理解している ・子どもの運動遊びの指導の在り方を理解している
思考・判断の観点（K）	・子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すための運動遊びについて、適切な支援や指導展開を提案できる
関心・意欲・態度の観点（V）	・子どもの心身の健康を育むことに関心を持ち、子どもの健康増進に寄与できる
技術・表現の観点（A）	・子どもの心身の健康を維持増進するための指導案を作成し、模擬授業を展開できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	領域「健康」の理解	領域「健康」のねらいおよび内容、全体構造を理解する。	幼稚園教育要領に目を通しておくこと。	90分
第2回	領域「健康」の内容の取扱い	基本的な生活習慣や安全能力を育むための援助について理解する。	幼稚園教育要領に目を通しておくこと。	90分
第3回	子どもの心身の育ち	幼児期の心身の発達の特性や、運動に伴う心身の変化について理解する。	運動習慣の重要性について、子どもの体の発達とともに理解しておく。	90分
第4回	アイスブレイキングゲーム	履修者の緊張をほぐし安心感の共有と一体感の醸成を図る。様々なゲームを体験する中で、コミュニケーションの幅の広がり（身近な人から知らない人と）、コミュニケーションの質の変化（クローズとオープンの違い）を体験的に学ぶ。	アイスブレイキングゲームの種類について調べておくこと。	90分
第5回	ボールを用いた運動遊びの指導方法	ボールを用いた運動遊びの例としてソフトバレーボールを用いたゲームを行う。道具・ルール・技術を調整することで、種目の難易度が変わり、難しい種目が個人または集団に合った楽しい種目に変わることを理解する。	ボール遊びの種類について調べておくこと。	90分
第6回	ゴルフ型の運動遊びの指導方法	ゴルフ型の運動遊びの例としてターゲットバードゴルフを用いたゲームを行う。ゴルフの難しい技術をなるべく簡単に行えるように工夫された遊びであるため、子どもから高齢者まで楽しめるニュースポーツの1つである。道	道具を用いた遊びの意義について考察し、まとめておくこと。	90分

		具やルールを工夫することで、難易度が変わることを理解する。		
第7回	ゴール型の運動遊びの指導方法	ゴール型の運動遊びの例としてアルティメットを用いたゲームを行う。遊びの元となっている種目の特性を理解し、種目の動作の分析を行うことが、具体的な指導法に関わることを理解する。技術を習得させる時に、最終的に必要な動作を分割して体験させることによって、スムーズに指導を展開できることを学ぶ。技術のつながり・経験のつながりを意識したプログラム展開方法を学ぶ。	運動種目を取り上げ、動きを分析することで、その運動には多様な動きが含まれることを理解しておく。	90分
第8回	ターゲット型の運動遊びの指導方法	ターゲット型の運動遊びの例としてドッチビーを用いたゲームを行う。ドッチビーの元であるドッチボールは、投動作をしっかりと習得しなければ勢いがあるボールを投げることは難しい。また投げられたボールが身体に当たると痛いため、好き嫌いが別れる種目である。しかし、ドッチビーを用いることで投動作のレベル差を少なくすることができ、当たっても痛くなくなるため、多くの人が楽しめるスポーツになる。道具を変えることで多くの人が楽しめる種目になることを学ぶ。	運動が嫌いになる子どもの心理についてまとめておくこと。	90分
第9回	運動指導の計画（1）	3～4名のグループに分かれ、多くの人が楽しめる種目を考案する。	技術のつながり・経験のつながりを意識した指導展開、道具・ルール・技術を調整したプログラム計画を十分に留意して計画を進めること。	90分
第10回	運動指導の計画（2）	3～4名のグループに分かれ、多くの人が楽しめる種目を考案する。	技術のつながり・経験のつながりを意識した指導展開、道具・ルール・技術を調整したプログラム計画を十分に留意して計画を進めること。	90分
第11回	運動指導の模擬保育（1）	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。	90分
第12回	運動指導の模擬保育（2）	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。	90分
第13回	運動指導の模擬保育（3）	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。	90分
第14回	運動指導の模擬保育（4）	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。	90分
第15回	運動指導の模擬保育（5） まとめ	グループごとに考案し計画したプログラムを、1班30分の持ち時間で発表し、実際に模擬保育を展開する。 模擬保育のふりかえりを行い、「健康」の指導に対するまとめを行う。	模擬保育に参加し、指導を担当したグループに対するフィードバックのコメントを作成することでふりかえりを深めること。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合もあります。
学生へのフィードバック方法	各グループの発表に対し、教員からのフィードバックを行います。
評価方法	・平常点（授業への積極的な参加）　40% ・指導案の作成　20% ・模擬授業の展開　20% ・最終レポート課題　20%

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（授業への積極的な参加	○	○	○	○
	指導案の作成	○	○		
	模擬授業の展開	○	○	○	○
	最終レポート課題	○	○		

評価割合	・平常点（授業への積極的な参加）　40% ・指導案の作成　20% ・模擬授業の展開　20% ・最終レポート課題　20% の総合評価とする。
参考図書	『保育所保育指針解説書』（平成 30 年 3 月告示）　厚生労働省　フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月告示）　文部科学省　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月告示）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの健康を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】家族・地域・社会と協働して子どもの健康を守り、育てるためのコミュニケーション能力・感性が備わっている

	【関心・意欲・態度】子どもの健康をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
オフィスアワー	月曜4限　1618室
学生へのメッセージ	子ども時代に楽しく身体を動かした思い出は、子ども達が生涯にわたって健康に過ごす基盤となるのだと思います。皆さんには、子どもたちが楽しく、夢中になって身体を動かす活動に取り組む場を作るための指導力を身につけて頂きたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	いくつかの運動プログラムを体験することで、子どもの運動を通じた心身の変化を体験的に学ぶ。また、指導案の作成と発表を通し、主体的で能動的な学修を進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	言葉の指導法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし

ナンバリング	P20206M22
授業概要(教育目的)	領域のねらい「生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」を柱にして、保育のあり方、子どもの姿の捉え方、について考えることを目的とする科目である。 言葉の機能や乳幼児期の言葉の発達について理解しそれらの知識を総合的に保育実践に取り入れる力を養うようにする。 保育の中で活動を展開できる技術を獲得する他、指導計画を作成し模擬保育を行うなかで、その技術をさらに実践的な力にしていく。 また、言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの理解や、言葉をめぐる相談の実際と対応について等、現代における言葉の諸問題についても学べるようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	領域「言葉」の基礎となる考え方を理解する。 「言葉」の意義と機能について理解する。
思考・判断の観点（K）	幼児がどのようにしたら豊かな言葉や表現を育むことが出来るかを考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	演習課題に積極的に取り組みながら、主体的に考える。
技術・表現の観点（A）	実践を通して言葉に対する感覚を豊かにし、保育実践に生かすための技術を学ぶ。

学習計画

言葉の指導法

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	保育所保育指針、幼稚園教育要領の基本的な考え方（乳児保育の視点と領域言葉を中心に）	保育所保育指針、幼稚園教育要領から領域言葉の内容を捉える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 指針や要領の当該箇所を再度確認をしておく。	90分
第2回	領域言葉のねらいと内容	領域言葉のねらいと内容について、文言を一つ一つ確認し、具体的事例をあげながら解説をする。その後、保育の実践と照らし合わせてグループワークの形式で議論する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 子どもを観察して生活の中の言葉について気付いたことを箇条書きにしておく。	90分
第3回	生活と遊びの中の言葉（養護と教	生活と遊びの中の言葉について、具体的事例に基づいて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分

	育に関わる保育内容の展開）			
第4回	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項について、解説書をもとに理解をする。その後、事例や動画などを見ながら、具体的な実践に置き換えて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 保育の過程について「保育原理」の授業の当該箇所を見ておく（予習）	90分
第5回	保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について	保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について領域言葉を中心にして指導計画をもとに考えていく。 実際に計画を立てることをしながら、保育の流れ（計画、実践、記録、省察、評価、改善）のポイントをつかむ。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第6回	指導案の立案	遊び（5領域）は総合的な活動なので領域言葉だけを取り出して指導案を書くという考え方ではないことを伝えたうえで、まずは指導案を書くということに目的にして、言葉の発達を意識した指導計画を立てていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第7回	指導計画立案の振り返り	指導計画の立案を得て、どのような視点から保育の評価を行うかということについて具体的に考えていく	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第8回	児童文化財とは何か（子どもにとっての児童文化財の意義）	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 児童文化財を一つ取り上げ、実践してみる。	90分
第9回	領域言葉と国語科教育のスムーズな連携（幼保小接続）	領域言葉と国語科教育のそれぞれのねらいや内容を確認し、その違いや共通点について話し合う。そのうえで、どのような配慮があればスムーズな連携が可能になるのかを考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第10回	配慮の必要な子どもへの対応（外国籍の子ども、障害のある子ども）	配慮の必要な子どもへの対応について、その配慮や留意点について、領域言葉の側面から考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第11回	領域言葉の保育実践の動向	保育実践が、今どのような方向を目指しているのかということを紹介し、領域言葉の視点から考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第12回	総合的な保育の展開・まとめ	これまでの授業を振り返りながら、保育の現代的課題と領域言葉の関連について考えていく。保育者の振り返りの視点、保育の評価の視点を確認し、その具体的な方法について事例をもとに考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 これまでの授業のポイントをまとめておく。	90分
第13回	保育現場の実際から考える	アクティブラーニング（内容については変更の可能性あり）	テーマに沿った内容を生活の中で具体例の年込み、考えたことをまとめておく。（詳細は授業で指示）	90分
第14回	保育現場の実際から考える	アクティブラーニング（内容については変更の可能性あり）	テーマに沿った内容を生活の中で具体例の年込み、考えたことをまとめておく。（詳細は授業で指示）	90分
第15回	保育現場の実際から考える	アクティブラーニング（内容については変更の可能性あり）	テーマに沿った内容を生活の中で具体例の年込み、考えたことをまとめておく。（詳細は授業で指示）	90分

学習計画注記	毎回の演習課題を中心に授業をすすめていく。 積極的に取り組むこと。
学生へのフィードバック方法	毎回の演習課題について個別または全体に対してフィードバックを行う。
評価方法	平常点50%、定期試験50% （平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	平常点50%、定期試験50% （平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名(ISBN番号)	コンパクト版『保育内容シリーズ４　言葉』
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。 【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。 【関心・意欲・態度】子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく。 【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。
オフィスアワー	月曜２限から４限
学生へのメッセージ	領域「言葉」は、他の領域との関係が大変深い。言葉が、生活や遊びの中で、他の領域と密接に関連しながら子ども達の育ちを支えていることをよく理解して、広い視点から言葉について考えてもらいたい。そのために、日頃から日常生活の中での言葉に感心を持ち、課題を見つけ積極的に授業に参加して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	演習課題を中心に双方向のやり取りを行っていく。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	人間関係の指導法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし
准教授	丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	P20208M22
授業概要(教育目的)	幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１）幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらい及び内容、並びに全体構造を理解している。 ２）幼稚園教育における育みたい領域「人間関係」における資質能力について理解している。 ３）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人とかかわる力を養うために必要な、幼児が経験し見につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 ４）幼児期の集団生活を通してさまざまな人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。
思考・判断の観点（K）	１）幼児の心情、認識、思考及び幼児の体験と動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１）模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 ２）領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	１）領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。 ２）指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション・幼稚園教育要領における「人間関係」	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との比較を通して幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ	〔復習〕今回授業で学んだことを、教科書や配布資料を読んで復習し、しっかり理解する	90分
第2回	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方について、個々への丁寧なかかわりと集団保育の展開を意識しながら考える	〔予習〕事前配布の事例について、保育者としてどのような関わりが望ましいのか考えてくる 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか，授業中の学びを基に検討し，よりよい援助の在り方について考える。	90分

第3回	自立心を育む援助	３～５歳の育ちの姿に沿った、自立心を育むために必要な援助と環境構成について学ぶ	〔予習〕3～5歳の一般的な発達の特徴について調べてくる 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか，授業中の学びを基に検討し，よりよい援助の在り方について考える	90分
第4回	トラブル場面と教師の援助	他者との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し，自他の気持ちに気づく援助のあり方―トラブルと教師の援助	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み，幼児期の友達とのケンカなどのトラブルに対する保育者のかかわり・援助について気が付いたことをまとめる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について，再度資料を読み考える。	120分
第5回	自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方	自他の気持ちの違いへ気づき，自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方 ―折り合いがつかない事例を考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み，自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか，授業中の学びを基に検討し，よりよい援助の在り方について考える。	90分
第6回	きまりをめぐるさまざまな幼児の葛藤と援助	家庭・園・社会生活のきまりと幼児に経験させたい内容を考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み，自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか，授業中の学びを基に検討し，よりよい援助の在り方について考える。	90分
第7回	ルールのある遊びの援助	葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまりをつくるための援助について考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み，自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか，授業中の学びを基に検討し，よりよい援助の在り方について考える。	90分
第8回	個と集団の育ちを考える	幼児同士の係わり合いを生かす教員の間接的援助のあり方について考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み，自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか，授業中の学びを基に検討し，よりよい援助の在り方について考える。	90分
第9回	協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開	協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開について、見通しや振り返りの工夫を意識して考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、見通しや振り返りを書いてくる 〔復習〕授業中の学びを基に検討し、協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開についてまとめてみる	90分
第10回	園の行事のねらいと活動内容	幼児にとって意味ある行事のねらいと協同的な活動内容について、導入段階を含む1ヶ月の展開を考え、実際に模擬保育を行う	〔予習〕園の1年間の主な行事について調べてくる 〔復習〕模擬保育を行ってみて得た気づきをまとめ、考察する	120分
第11回	幼小の交流活動を考える	幼小の交流活動における相互主体的で互恵的な活動の展開と工夫について考える	〔予習〕現在，自分の住む地域でどのような幼稚園・保育所―小学校の交流活動が行われているか，調べてまとめてくる。 〔復習〕相互主体的で互恵的と言える交流活動には何が必要か，授業での学びを復習し，交流活動の具体例を考えてみる。	90分
第12回	小学校以降の生活や学習で活かされる力	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続期を考える	〔予習〕「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読み，人間関係にかかわる項目について，年長の終わり頃にどのような具体的な姿が見られそうか考えてみる。そしてそれが，小学校での生活と学びにどのようにつながっていきそうか，考えてみる。	90分

			〔復習〕幼児期に育まれた力を大切にした，接続期の小学校での学び方・生活の仕方について，授業での学びを基に具体的に考えてみる。	
第13回	地域とのかかわりを考える	さまざまな人との関わりにある特徴を捉え、幼児期に経験させたい地域の人との関わりを考える	〔予習〕身近な地域の人にはどのような人々がいるのかについて調べてくる 〔復習〕授業で学んだことを元に、地域とのかかわりが幼児期の成長に果たす役割についてまとめる	90分
第14回	多様な人、多様な子どもとの関わり	多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きていく上で、幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助を考える	〔予習〕幼児を取り巻く多様な人・多様な子どもについて書いてくる 〔復習〕自分で事例を挙げ、幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助について考え、それをまとめる	90分
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ	現代における情報機器を通した子どもの人とのかかわりについて考える	〔予習〕人間関係」をめぐる現代的諸問題について考えて書いてくる 〔復習〕情報機器を通した子どもの人とのかかわりにおいて、保育者の援助の在り方についてまとめる	予習120分、復習120分
第16回	定期試験			

学習計画注記	授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業についてフィードバック資料を作成し，次回授業時に配布する。
評価方法	・平常点は，学びに向かう姿勢，意欲，理解度を授業内課題への取り組み，リフレクションペーパーの記入状況，内容から評価する。 ・最終レポート課題は，　授業到達目標の達成の程度を測るものとする。 ・平常点，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	最終レポート	○	○		

評価割合	平常点（70%），最終レポート（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	及川留美（編著）「エピソードから楽しく学ぼう人間関係」創成社 （ISBN　978-4-7944-8097-2）
参考図書	授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】領域人間関係，乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育，保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。
オフィスアワー	水曜日５限　1609研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）（柳瀬） 水曜日４限　1626研究室（メールでの質問も歓迎します。訪問の場合可能な限り事前にご連絡下さい）（丹羽）
学生へのメッセージ	1.演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。 2.毎回授業内容を復習しておいてください。 3.宿題とした予習課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	事例検討を効果的に取り入れる
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う
情報リテラシー教育	○	情報機器を通した子どもの人とのかかわりについて考える
ICT活用		

シラバス参照

講義名	環境の指導法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし

ナンバリング	P20210M22
授業概要(教育目的)	乳幼児の発達の特性や環境を通した教育の重要性を踏まえた、領域環境のねらい、内容に応じた指導法を修得する授業である。乳幼児は、様々な環境と関わりながら深い学びを実現する。このような乳幼児の発達の特性や環境を通した教育の重要性を踏まえた、乳児保育における三つの視点、及び領域「環境」の示すねらいや内容、内容の取扱いを踏まえた指導法について、カリキュラムマネジメントを意識しながら演習を通して理解を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幼児期の環境との関わりの重要性を踏まえ、環境を通した教育と小学校教育への接続について理解する。
思考・判断の観点（K）	環境を通した教育の指導を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	国内外の乳幼児向けの自然体験活動の実践に関心を持ち、保育の質の向上に向けて、カリキュラムマネジメントの在り方を理解する。
技術・表現の観点（A）	・指導計画(活動案)の作成を通して、年齢に応じた環境構成や援助、指導法を身につける。 ・園内環境構成案を作成し、子どもの豊かな経験に結びつく環境のあり方について考える。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	幼児の環境を通して学ぶ姿	レイチェルカーソン「センス・オブ・ワンダー」を参照しながら、乳幼児期の環境との関わりの重要性について考える。	授業内容を踏まえ、環境の影響の大きさについて日常生活の中で考える。	90分
第2回	幼児向け野外活動プログラムの実際と検討	ネイチャーゲーム「森の色合わせ」の実践を通して、自然環境に対する興味を喚起し、自然に対する気づきの重要性を理解する。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気づいたこと、子どもに気づいてほしいことを記入し、理解する。	90分
第3回	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討①	秋の自然環境や伝統行事を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成	90分
第4回	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討②	冬の自然環境を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成	90
第5回	季節の移り替わりに関わる保育内容の指導法の検討③	自然環境を活用した保育内容や、指導法(保育形態、ICTの活用等)について理解を深める。	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成	90

第6回	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討④	秋の伝統行事を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成	90
第7回	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討⑤	冬の自然環境や伝統行事を調査・発表し、保育内容にどのように取り入れるのかを考える。	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成	90
第8回	季節の移り変わりに関する保育の指導法の検討⑥	伝統行事を題材にした保育内容や、指導法(家庭や地域との連携、指導計画と実際等)について理解を深める。	資料の収集と発表の準備。リフレクションシートの作成	90
第9回	園内環境の構成案の作成と検討	【私たちの園を作ろう】様々な園の園舎や園庭を調査し、子どもにとって有意義な園内環境を考える。また、園の設置基準に関する法令等を調査し、園の保育方針、人的配置等を考える。	各班で、園庭や園舎を園のパンフレットの形式で作成する。	120
第10回	園外保育の計画作成	【秋の遠足の立案】秋の遠足に適した場所を検索し、立案する。また、その内容を保護者向けのおたよりの形式でまとめる。	秋の遠足に適した場所を検索しておく。「保護者向けおたより」を完成する。	120
第11回	模擬保育①園生活と社会環境(保護者会を通した保護者との連携)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で発表する。保護者の立場に立ってねらいと内容を分かりやすく説明する。	発表の準備をする。秋の遠足のねらいと内容をどのようにわかりやすく説明するか、保護者に信頼感と安心感を得ることができる発表の方法を考える。	90
第12回	模擬保育②園生活と社会環境(園外保育と自然環境に関わる保育内容)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で、発表する。想定される保護者からの要望への対応を考える。	保護者の立場に立って、保育者に対する要望や子どもに対する配慮等について想定し、よりよく家庭と連携しながら、子どもを中心とした保育への実現について考える。	90
第13回	模擬保育③園生活と社会環境(社会資源の活用と幼児の地域社会とのかかわり)	模擬保育を振り返り、省察しながら計画の修正を行う。また、家庭や地域との連携について考える。	リフレクションシートを完成する。	90
第14回	幼児の事故の特徴と災害に対する安全教育	保育環境にある安全に対する配慮、災害に対する対応について考える。	ワークシートに授業内容と園での災害に対する対応について考察を記入する。	90
第15回	小学校教育への接続と環境教育	環境教育、ESDに関する国内外の資料をもとに、現状と課題を理解する。	演習問題を完成する。	90

学習計画注記	授業の進行状況等により、変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	学生が提出した提出物はすべて添削、採点し、返却する。また、グループ討議や発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。
評価方法	提出物、学期末レポートの評価を点数化する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	園内環境構成案	○	○	○	○
	保護者向けおたより	○	○	○	○
	学期末レポート	○	○		○
	発表	○	○	○	○

評価割合	提出物(30%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)
使用教科書名(ISBN番号)	無
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーシ ョン能力・感性が備わっている 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組む。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	水曜日2限目

学生へのメッセージ	「子どもと環境」で学んだことを整理し、実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の指導法について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	表現の指導法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし
教授	立川　泰史	指定なし
教授	吉永　早苗	指定なし

ナンバリング	P20212M22
授業概要(教育目的)	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説に示されたねらい及び内容について、音楽・造形・身体表現領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し、実現する方法を習得する。
履修条件	「子どもと表現」を履修しておくこと。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、乳幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点、評価、小学校の教科等とのつながりを理解している。
思考・判断の観点（K）	1. 乳幼児の生活と実態に即した表現について構想することができる。 2. 表現活動を豊かにするための環境構成・指導法の工夫について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. グループ討議、指導案の作成や模擬保育において積極的に協働し、自分の役割を見つけて寄与できる。
技術・表現の観点（A）	1. 指導案の作成や模擬保育への参加において、自分なりの感性、創造力、表現力を十分に発揮することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	子どもの遊びや生活における表現	子どもの「表現」の捉え方について理解する。	テキスト第１章を精読しておく。	150分
第2回	音楽的な感性と表現	子どもの表現のありようについて、音楽の視点から考える	テキスト第5章の精読	150分
第3回	音楽表現の教材と指導法	音楽表現の視点から、指導案の構造を理解し、表現のねらいについて具体的に考え、ねらいを実現する教材研究を行う。	テキスト第12章の精読	150分
第4回	3歳未満児の領域「表現」の指導方法及び保育の構想	子どもの姿を想定し、学内の施設・環境を活用した模擬保育の実践を通し、保育における表現活動のあり方を考える	テキスト第９章の精読	150分
第5回	3歳以上児の領域「表現」の指導	子どもの姿を想定し、学内の施設・環境を活用した模擬保育の実践を通し、保育における表現活動のあり方を考える	テキスト第10章の精読	240分

	方法及び保育の構想			
第6回	乳幼児期の発達と表現	表現における素材との出会い、他者との関わり、子どもの思い・保育者の思い等について考える	テキスト第2章の精読	240分
第7回	身体的な感性と表現	子どもの表現のありようについて、身体表現の視点から考える	テキスト第3章の精読	240分
第8回	領域「表現」と環境構成	豊かな感性を育み表現を引き出す環境構成について考える	テキスト第８章の精読	150分
第9回	造形的な感性と表現	子どもの表現のありようについて、造形の視点から考える	テキストの第4章の精読	150分
第10回	領域「表現」と小学校教科等とのつながり	領域表現を視点として小学校への接続を考える	テキスト第7章の精読	150分
第11回	造形表現の教材と指導法	造形表現の視点から、指導案の構造を理解し、表現のねらいについて具体的に考え、ねらいを実現する教材研究を行う。	テキスト第11章の精読	150分
第12回	表現活動におけるICTの活用	情報機器及び教材の活用法について体験的に学び、保育に活用できるアイディアを考える。	表現活動におけるICT活用の事例を収集する	150分
第13回	領域「表現」の歴史と内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷とその理由について考える	テキスト第6章	240分
第14回	乳幼児期の表現に関わる現代的課題	乳幼児期の表現に関わる課題、研究動向についての知識を広げる	テキスト第13章の精読	240分
第15回	振り返りと総括	これまでの学びを振り返り、乳幼児の表現とその指導のあり方について考える。	これまでの学習を振り返り、3年次での実習で取り組みたい表現活動について具体的にまとめる	150分

学習計画注記	「表現の指導方法と保育の構想」では、グループに分かれて指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを行います。模擬保育では、保育者役を担当する人以外は幼児役を担当し、その年齢の幼児になりきることで子ども理解を深めます。
学生へのフィードバック方法	3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行します。質問はメール等でも随時受け付けます。
評価方法	以下の５つの観点から３名の教師が総合的に評価を行う。 1. 乳幼児の表現のありようと指導上の留意点を理解している。 2. 情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4. 模擬保育とその振り返りを通し、他者と協力して保育を改善する視点を見出すことができる。 5. 保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	学びの過程の評価		○	○	○
	学びの成果の評価	○	○	○	○

評価割合	学びの過程の評価（課題提出・グループ発表や模擬保育への参加等）70%、学びの成果の評価（最終レポート）30%、　の割合で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	小林紀子・砂上史子・刑部育子編著　新しい保育講座11 保育内容「表現」 ミネルヴァ 書房
参考図書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 無藤隆監修・浜口順子編者代表『事例で学ぶ保育内容　領域「表現」』萌文書林　2018（ 978-4-89347-260-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの表現についての知識を広げ、より豊かな感性と表現を育むための指導法について理解している。 【思考・判断】模擬保育における具体的・実践的な場面において、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	新開：金曜４限　1635研究室 吉永：前期月曜３限，後期水曜2限 1601研究室 立川：水曜3限　1629研究室
学生へのメッセージ	ICTを活用し、ドキュメンテーションやポートフォリオなどの記録、幼児にわかり易い教材や資料の作成を行ってみましょう。

	グループで指導案作成に取り組み、協働して模擬保育を展開することができるよう、自主学習を行ってください。 幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得に必要な授業科目であることに留意すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は、国公立小学校教諭として従事した経験を有する。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省学習資料作成委員として教育委員会主催の現職教員の研究研修や地域行政・企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育課題に対応する知識や情報を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	指導案作成や模擬保育のほか、グループワークを多く取り入れています。
情報リテラシー教育	○	活動をデジタル機器に記録・保存したり、トピック・エピソードを精選したりする活動を通して、情報管理や発信に関する倫理観、基本的な処理技能を高める。
ICT活用	○	乳幼児期の表現教育におけるICT活用について学ぶと共に、学生自身がタブレット型PCやアプリケーションを用いて、学習プロセスのドキュメンテーションや相互評価を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育内容総論Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし

ナンバリング	P20203M21
授業概要(教育目的)	「保育内容総論A」で学習した内容を踏まえ、現行の幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域にそれぞれ示されているねらい、内容、内容の取扱いについての理解を深める。さらに、年齢に応じた保育の計画と実践に関する今日的課題に視点を広げ、発達段階に応じた保育の計画と指導法のあり方について演習を通して検討し、学生自らの発見をもとに理解を深める。
履修条件	「保育内容総論A」の単位を取得した者を原則とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	乳幼児期の発達の特性を踏まえ、一人ひとりの乳幼児の特性に応じた援助の重要性を説明できる。 国内・国外の保育の実際を参考にしながら、乳幼児の興味や発達の特性に応じた援助の在り方を説明できる。
思考・判断の観点（K）	乳幼児期の遊びや環境の重要性を踏まえ、遊びを通した保育を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	作成した指導案を検討し、振り返りながら保育を改善する視点を身に付ける。
技術・表現の観点（A）	それまで得られた保育に関するあらゆる知識を関連付けながら、実際を想定して指導計画(活動案)を作成し、適した保育技術を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	幼児の園生活と保育者の援助①	ガイダンス 「気になる子ども」について考える	自分が気になる子どもの特徴とその理由について覚知する。	30分
第2回	幼児の園生活と保育者の援助②	「個と集団」「一人で遊ぶ子ども」をテーマとした事例をもとに、討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第3回	幼児の園生活と保育者の援助③	「子ども同士の育ちあい」「子どもの自己主張と自己抑制」をテーマにした事例をもとに討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第4回	0-1歳児の生活と保育	0-1歳児の発達の特徴と保育者の援助について理解する。	教科書第4章を予習し、0-1歳児の言葉と人とのかかわりについて内容を確認しておく。	30分
第5回	1-2歳児の生活と保育	1-2歳児の発達の特徴と遊び、おもちゃとの関わりについて理解し、物とのかかわりの重要性について考える。	教科書第4章を予習し、1-2歳児の言葉と人とのかかわりについて内容を確認しておく。	30分
第6回	3歳児の生活と保育	3歳児の発達の特徴と遊び、遊びの意義について考える。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第7回	4歳児の生	4歳児の発達の特徴と遊び、子ども同士の関係への援助に	ワークシートに「子ども同士の	30分

	活と保育	ついて考える。	言葉の伝え合いと保育者の援助」を観点として、考察を記入する。	
第8回	5歳児の生活と保育	5歳児の発達の特徴と遊び、遊具を活用した遊びの工夫について考える。	ワークシートに「運動遊びの種類と工夫」を観点として考察を記入する。	30分
第9回	諸外国の特徴的な指導法	レッジョ・エミリア・アプローチに見る子どもを中心とした教育について考える。	ワークシートにレッジョ・エミリア・アプローチの概要を記入し、大人が子どもに寄り添うことと環境の作り方について考察を記入する。	30分
第10回	保育に活用する教材と指導計画①	保育に活用できる身近な素材と環境構成について考える。	サブノートのテーマ1,2を完成する。	90分
第11回	保育に活用する教材と指導計画②	指導計画(活動案)の作成について理解する。年齢に応じた保育内容と遊具や運動用具の活用を考案する。	教科書第10章を予習し、計画作成の概要について内容を確認する。	30分
第12回	保育に活用する教材と指導計画③	子どもが主体になって楽しむことが中心となる保育内容の計画を作成・検討する。	各グループで討議をすすめ、指導計画を完成する。	90分
第13回	模擬保育①音楽遊びの展開	作成した指導計画をもとに、音楽遊びをテーマとした模擬保育を行う。時系列の観察記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分
第14回	模擬保育②造形遊びの展開	作成した指導計画をもとに、造形遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分
第15回	模擬保育③運動遊びの展開	作成した指導計画をもとに、運動遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された指導案はすべて確認し、修正点について適宜コメントする。観点は、年齢に応じた保育内容であること、ねらいと内容が合致していること、保育の展開方法が適切であること等である。
評価方法	サブノート、学期末レポート、模擬保育を点数化して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	指導案作成	○	○	○	○
	サブノート	○	○	○	○
	学期末レポート	○	○		

評価割合	指導案の作成25%、サブノート25%、学期末レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	中田範子著「子どもの育ちと環境ー未来を見据えた保育の探求」大学図書出版
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書その他、適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】保育者・教育者として求め られる豊かな表現力を身につけている。
オフィスアワー	水曜日2限目
学生へのメッセージ	学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学生が指導計画作成及び検討を通して、考案した保育内容をどのように実現するかを考え、理解する。また、子ども同士の関係や保育者の援助をテーマとした、グループ討議を行う。
情報リテラシー教育	○	乳幼児に適した保育内容について調査し、情報を収集し、指導案作成に活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、保育所の生活や保育士の援助の実際を理解する。

シラバス参照

講義名	保育の計画と評価		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし
准教授	中田　範子	指定なし

ナンバリング	P30201M21
授業概要(教育目的)	保育所及び幼保連携認定こども園における、全体的な計画と指導計画の意義を伝える。その種類と役割を理解しつつ、保育内容の充実に資する計画と評価の在り方を具体的に考えられるようにする。 乳幼児の育ちを支えるための記録・計画・実践・評価の関連性について理解しながら、よりよい保育の在り方を探ることが目的である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。
思考・判断の観点（K）	子ども理解に基づく保育の過程について理解しながら、それぞれの保育観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点（V）	保育の内容の充実と質の向上について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点（A）	保育内容の充実と質の向上について技術的な面を含め修得する。

学習計画

保育の計画と評価

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムの基礎理論について理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、カリキュラムの考え方について復習をする。	90分
第2回	保育における計画と評価の意義	保育における計画と評価の意義について理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、計画と評価の意義について復習をする。 保育の過程の循環について予習しておく。	90分
第3回	子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環によ	子ども理解についてどのような方法があるか考えてみる。 子どもの姿から考える保育の過程の循環を理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、子ども理解に基づく保育の過程の循環について復習をする。 保育所保育指針や幼稚園教育要領を手元において読み、次の授業の準備をしておく。	90分

	る保育の質の向上			
第4回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景について、保育の実際をイメージしながら理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、指針と要領の内容と社会的背景について復習をする。 保育所保育指針等をよく読んで、保育の目標について予習しておく。	90分
第5回	保育所保育指針等における保育の目標と計画の基本的考え方	保育の目標と計画の基本的考え方について理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、保育の目標について復習をする。 保育所保育指針等をよく読んで、全体的な計画と指導計画について予習しておく。	90分
第6回	指導計画（長期的・短期的）の作成	短期的・長期的な指導計画を全体的な計画としsンや要領を踏まえて作成する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに全体的な計画と指導計画の関係について復習をする。	90分
第7回	全体的な計画と指導計画の関係性	全体的な計画と指導計画の関係性について、実践をイメージしながら。具体的に理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、全体的な計画と指導計画の関係について復習をする。	90分
第8回	全体的な計画作成	全体的な計画の概要を捉え、グループで話し合いながら、一つ作成してみる。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、全体的な計画について復習をする。	90分
第9回	指導計画作成上の留意事項	指導計画作成上の留意事項について、グループワークと教員による解説で理解する。	指導計画の留意事項について、箇条書きでまとめる。 計画に基づく保育の柔軟な展開についてイメージし、次回の予習をする。	90分
第10回	計画に基づく保育の柔軟な展開	様々な事例を基に、計画に基づく保育の柔軟な展開について学ぶ。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、保育の柔軟な展開について復習をする。 保育所保育指針等をよく読んで、保育の記録及び省察について予習しておく。	90分
第11回	保育の記録及び省察	保育の記録及び省察について、視聴覚教材を利用して実際をイメージしながら考える。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、保育の記録及び省察について復習をする。 大事な点を箇条書きでまとめる。 保育所保育指針等をよく読んで、保育士及び保育所の自己評価について予習しておく。	90分
第12回	保育士及び保育所の自己評価	保育士及び保育所の自己評価について、自己評価チェックリストなどを利用して具体的に考えていく。 第三者評価についても理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、保育士及び保育所の自己評価について復習をする。 保育の質向上について、保育所保育指針等の該当部分を読み、その課題をまとめる。	90分
第13回	保育の質向上に向けた改善の取り組み	様々な事例を基に、保育の質向上とはなにか、その改善の取り組みについて理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、保育の質向上とその改善の取り組みについて復習をする。 保育所保育指針等をよく読んで、保育所児童保育要録について予習しておく。	90分
第14回	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録について、どのような視点から記入するか、その役割は何かなど、具体的なところを理解する。	授業で使用したパワーポイントやワークシートなどの資料をもとに、保育所児童保育要録について復習をする。 これまでの復習をして、子どもの姿から考える保育の計画と評価についてまとめる。	90分
第15回	これからの保育の計画と評価	先駆的な園の事例を学び、これからの保育の計画と評価について考える。	これまでの授業を自分なりにまとめ、要点を理解する。	90分

学習計画注記	原則講義形式で行うが、動画視聴、グループワーク、ディスカッション等も取り入れる。
学生へのフィードバック方法	提出物については、添削して返却する。 質問は、次の回に全体に共有する形でフィードバックする。
評価方法	平常点20%、定期試験80%で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	定期試験（80%）、平常点（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	・子どもの姿ベースの新しい指導計画の考え方
参考図書	・０，１，２歳児　子どもの姿ベースの指導計画 ・３，４，５歳児　子どもの姿ベースの指導計画
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。 【思考・判断】子ども理解に基づく保育の過程について理解しながら、それぞれの保育観を考えていく。 【関心・意欲・態度】保育の内容の充実と質の向上について関心をもって取り組む。 【技能・表現】保育内容の充実と質の向上について技術的な面を含め修得する。
オフィスアワー	月曜2限から4限（和田） 水曜日2限目(中田)
学生へのメッセージ	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを手元において随時読んでください。 毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については復讐をするか。自分で調べて確認をしておいてください。 保育の基本を理解する重要な科目です。 積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当教員は現場経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング		発表などを通して講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。
情報リテラシー教育		調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用		保育現場におけるＩＣＴの活用を授業の中で体験してみる。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	外国語科教育法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山田　浩	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では，小学校「外国語」「外国語活動」を担当する教員に必要とされる専門知識・技能（基礎）を習得する。これまでの小学校英語・学習指導要領・「外国語」「外国語活動」の授業や単元の構成・評価のあり方・小中高連携，児童や学校の多様性への対応などについて学び，授業分析・学習指導案の作成・英語活動の体験などを通して，授業構想力や授業省察力などを向上させることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・小学校英語のこれまでの経緯及び新学習指導要領「外国語」「外国語活動」の目標・内容について理解している。 ・We Can! 及び Hi, friends! などの教材について，その趣旨・構成・特徴・使用上の留意点などを理解している。 ・学習指導案（「外国語」「外国語活動」）に関して，その構成・授業目標の設定の仕方・その他重要な留意点を理解している。 ・「数」「時間割」「将来の夢」などのテーマ単元の活動を体験することを通して，「外国語（活動）」の活動バリエーションについての知識を獲得している。 ・授業実践ビデオの視聴と分析を通して，「外国語（活動）」授業の分析の観点を理解している。 ・外国語（英語）教育における小学校「外国語」「外国語活動」の役割と小・中・高等学校の連携に関して，基本的な知識を得ている。 ・児童や学校の多様性への対応について，さまざまな指導環境に柔軟に対応するための基本的な事項を理解している。
思考・判断の観点（K）	・小学校「外国語」「外国語活動」担当教員の問題を自分の問題として考えることができるようになる。 ・学習指導案（略案）を立案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	「外国語」「外国語活動」の授業が自分の授業であるという意識を持つ。
技術・表現の観点（A）	自らが外国語（英語）でコミュニケーションしたいと思う。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	小学校での外国語指導	これまでの小学校英語と新学習指導要領「外国語」「外国語活動」	配布された詳細なシラバスを読み，提示された課題学習をする。	180分
第2回	第一言語獲得と第二言語習得	第一言語獲得と第二言語習得のプロセス	授業中に指示されたトピックに関する調べ学習をする。	180分
第3回	「数」の単元の英語活動	「数」に関する理解を促す活動を考え，工夫する。	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第4回	「外国語（活動）」の留意点(1)	積極的なコミュニケーション態度，逆向き設計，効果的なインプットの与え方など	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第5回	授業分析	「時間割」の単元の英語活動に関する授業分析	授業中に指示された課題学習を	180分

			する。	
第6回	「外国語（活動）」の留意点(2)	児童の発達段階に合った指導，グループワーク・ペアワークの必然性，自然な言語使用の場面設定の作り方など	授業中に指示された課題学習を行う。	180分
第7回	英語活動の分析	「将来の夢」の単元の英語活動	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第8回	「外国語（活動）」の留意点(3)	競争への配慮，児童の多様性への対応，「楽しさ」についての検討，ALTとのTTなど	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第9回	外国語（活動）授業実践	授業実践ビデオを用いた外国語（活動）授業実践 （行ってみたい国）の分析	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第10回	教材研究と学習指導案	「外国語」「外国語活動」の教材研究を行い，学習指導案（略案）を作成する。	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第11回	文字指導，評価	「外国語」における文字指導（読む・書く活動）「外国語」「外国語活動」の評価	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第12回	テキストの特徴，ICTの活用	Hi, friends! 及び We Can! の特徴，ICTの活用	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第13回	模擬授業	受講生による模擬授業	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第14回	英語発音基礎訓練，ティーチャー・トーク	「外国語」「外国語活動」担当者のための英語発音基礎訓練，効果的なティーチャー・トーク	授業中に指示された課題学習をする。	180分
第15回	小中高連携と他教科との連携	外国語（英語）教育としての小学校外国語（小中高連携）と小学校教育としての小学校外国語（他教科との連携）	授業中に指示された課題学習をする。	180分

学習計画注記	・詳細な内容は，第１回目の授業で提示します。 ・毎回の授業中に，次の授業までにこなしておく課題を提示しますので，それに取り組んでください。 ・参考資料は授業中に配布します。
学生へのフィードバック方法	提出された振り返りシートなどに記入されたコメントに対して，次の授業時にフィードバックをする。
評価方法	平常点，レポート（①「外国語」「外国語活動」において留意すべきこと，②模擬授業／模擬授業について），学習指導案（略案）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート	○	○	○	○
学習指導案	○	○	○	○

評価割合	(1)平常点（授業への取り組み）（40%） (2) レポート（①「外国語」「外国語活動」において留意すべきこと，②模擬授業／模擬授業について）（40%） (3) 学習指導案（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	・小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語編（平成29年）　文部科学省（9784304051685）
参考図書	・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック （http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm）　文部科学省 ・We Can! 1 & We Can! 2（外国語教科書）　文部科学省 ・Let's Try! 1 & Let's Try 2（外国語活動資料）　文部科学省
ディプロマポリシーとの関連	・教師としての使命感や責任感を持ち，自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができる。 ・子どもの視点に立って自主的に社会に貢献しようとする。 （関心・意欲・態度）
学生へのメッセージ	英語を好きになってください。 言語の壁を越えて，皆さん自身がいろいろな活動を経験し生徒に伝える工夫をしていくことは，創造的な活動です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らが体験する。自分の考えを他者に伝える。グループ内で協働作業をして，目標に達する。

情報リテラシー教育	○	必要な情報を検索する。情報モラルに関して確認する。伝えるためのテクニックを取得する。
ICT活用	○	必要な場合，WEB面接ツール等を利用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援の心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし

ナンバリング	P30403M21
授業概要(教育目的)	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。また、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。その他、子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解し、子どもの精神保健とその課題について理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．生涯発達に関する関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達　課題等について理解する。 ２．子どもの精神保健とその課題について理解する。
思考・判断の観点（K）	家族･家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
関心・意欲・態度の観点（V）	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
技術・表現の観点（A）	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	乳幼児期から学童期前期にかけての発達と心理臨床（柳瀬）	乳幼児期～学童期前期の発達課題や家族関係について学ぶとともに、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	乳幼児期の基本的な発達について、これまで学んできたことも踏まえて理解する。	120分
第2回	学童期後期から青年期にかけての発達と心理臨床（柳瀬）	学童期後期から青年期の発達課題や家族関係について学ぶとともに、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	学童期後期から青年期の基本的な発達について、これまで学んできたことも踏まえて理解する。	120分
第3回	成人期･老年期における発達と心理臨床（柳瀬）	成人期・老年期の発達課題や家族関係について学ぶとともに、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことを元に、成人期・老年期の発達課題についてさらに理解を深める。	120分
第4回	家族･家庭の意義と機能（柳瀬）	家族･家庭の意義と機能について、「子どもの成長」という観点から理解を深める。	これまで学んできたことや自分自身が経験したことをもとに、	120分

			配布資料をもとに課題に取り組む。	
第5回	親子関係･家族関係の理解（柳瀬）	親子関係･家族関係に関する様々な事例の検討を通し、心理臨床的な課題への理解を深める。	今回の授業で学んだことをもとに、親子関係･家族関係に関する臨床事例についてさらに検討し、理解を深める。	120分
第6回	子育ての経験と親としての育ち（柳瀬）	「育てられるもの」から「育てるもの」へという視点から、子育ての経験を通して親が親として成長していく過程やそこに生じる心理臨床的な課題について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、子育てをめぐる臨床事例についてさらに検討し、理解を深める。	120分
第7回	子育てを取り巻く社会的状況（柳瀬）	子育てを取り巻く、現代日本社会の現状について知る。	子育てに関する記事等を調べ、授業で学んだことを元に自身で検討し、その問題点についてまとめる。	120分
第8回	ライフコース・ライフサイクルと仕事･子育て（柳瀬）	現代日本人のライフコース・ライフサイクルについて、諸外国との比較も交えながら学ぶ。また、女性のライフサイクルにおける「仕事と子育て」について理解を深める。	現代日本社会における「仕事と子育て」に関する記事等を調べ、授業で学んだことを元に自身で検討し、その問題点についてまとめる。	120分
第9回	多様な家庭とその理解（柳瀬）	家族や家庭の多様性とその現状について知り、支援の基本について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、自分が興味を持った「家庭」をひとつ取り上げ、課題についてまとめる。	120分
第10回	特別な配慮を要する家庭	特別な配慮を要する家庭にはどのような家庭があるのか、そしてどのような課題を抱えているのかについて学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、特別な配慮を要する家庭に関する臨床事例について検討しまとめる。	120分
第11回	子どもの精神保健と心理臨床①（発達に課題のある子どもたち）	発達に課題のある子どもたちについて、障がいと児童養護の両方の視点から検討し、子ども理解を深める。	今回の授業で学んだことをもとに、障がいのある子どもたちの臨床事例について検討しまとめる。	120分
第12回	子どもの精神保健と心理臨床②（発達検査･心理検査を知る・心理的アセスメント）	子ども理解の方法としての発達検査･心理検査について知る。 発達的課題や心理臨床的な課題を抱える子どもについて、その現状と課題をどのように理解し、支援方針を立てていくかについて、その基本を学ぶ。	発達検査・心理検査にどのようなものがあるのか、事前に調べ、どのような対象について実施されているのかについてまとめる。	120分
第13回	子どもの生活･生育環境とその影響	子どもに関する諸課題の背景にある家庭問題に焦点を当て、子どもの生活･生育環境が与える影響について知り、生涯発達という観点から考える。授業では、おもに児童虐待を取り上げ、「世代間連鎖」という視点から、子育て支援、家庭支援のあり方について理解を深める。	今回の授業で学んだことをもとに、児童虐待に関する臨床事例について検討しまとめる。	120分
第14回	子どもの心の健康に関わる問題（小川）	精神医学の観点から、子どもの心の健康に関わる様々な問題と支援の基本について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、興味・関心を持った子どもの心の健康に関わる様々な問題を自身で取り上げ、検討し、得られた考察をまとめる。	120分
第15回	１．子どもと家庭支援のあり方について、心理臨床的な視点から検討し、理解を深める。 ２．まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、最後に、子育て支援・家庭支援に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。	確認テストは授業内で配布した資料や板書の内容から提出する。	予習240分、復習420分

学習計画注記	※履修者の保育・教育実習の状況や授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります
学生へのフィードバック方法	授業内ミニ課題やリアクションペーパーを実施し、次の回の授業時間内に、寄せられた質問への回答や解説する。また、学生の興味・関心を授業内容に適宜反映させる。
評価方法	・平常点は，学びに向かう姿勢，意欲，理解度を授業内課題への取り組み，リフレクションペーパーの記入状況，内容から評価する。 ・まとめテストや最終レポート課題は，　授業到達目標の達成の程度を測るものとする。 ・平常点，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
授業内課題	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	
				○

評価割合	定期試験70%、授業内ミニ課題20%、平常点（授業への取り組み等）10%
使用教科書名(ISBN番号)	柳瀬洋美，2022「気になる保護者の理解のためにー内なる子どもとの対話を通して」ジアース教育新社
参考図書	適宜、授業内で紹介していく。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】領域人間関係，乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育，保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち，保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。
オフィスアワー	水曜日５限　1609研究室（その他、メールで積極的に連絡してください。）
学生へのメッセージ	1.日頃より、子育て支援に関する情報に注目し、 2.毎回授業内容を復習しておいてください。 3.宿題とした予習課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は障害児療育センターや子育て支援センターにおいて長年の臨床経験を有している。授業には子ども家庭支援に関する実践的な内容の資料や事例を教材として効果的に取り入れていく。
アクティブ・ラーニング	○	調べ学習を積極的に取り入れ、学生自らが問題意識をもって授業の課題に取り組む。
情報リテラシー教育	○	現代の子育て家庭を取り巻く現状を踏まえ、情報機器やITネットワークを活用した子ども家庭支援のあり方について考えていく。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食生産体験演習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	R10001M12
授業概要(教育目的)	1年生の必修科目であり、学科の全教員が担当する授業でもあります。通年開講される重要な授業で、主に担当する教員の授業内容は、野菜栽培などを通した「食育」の学びとなります。野菜等を育成栽培する基礎知識、栽培管理の実体験を通して野菜栽培を学ぶ。他の教員による、食生産関係の見学会を予定している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	野菜栽培・育成の基礎（野菜の分類、科目、好光性種子と嫌光性種子、コンパニオンプランツ、、土壌の酸性度、連作障害、肥料の三要素、肥料の量、種の蒔き方、定植できる野菜と出来ない野菜、誘引の仕方）を理解し栽培方法を説明できる。野菜の品種の特徴を理解し、料理との関係を説明できる。
思考・判断の観点（K）	野菜の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	野菜栽培に興味を持ち、更なる野菜のメカニズムに関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	一般的な春・夏野菜、秋・冬野菜の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を活かした栽培作業ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、昨年度の例を挙げの授業解説	枝豆の種蒔きの方法を学ぶ。	種蒔きの方法3種類の復習。栽培作物の特徴と蒔き方の関係を復習する。	90分
第2回	枝豆種蒔き作業	プランター栽培（屋上）。枝豆の点蒔き作業。	種まき作業を思い起こして記録する。	90分
第3回	トマト苗、キュウリ苗の定植作業解説。（昨年度の映像）	コンパニオンプランツ全般の解説。トマト苗のコンパニオンプランツとしてニラ苗を同時に植えることにより、病害虫の被害が減少することを理解する。キュウリ苗には小ネギを添えて定植。	復習：コンパニオンプランツについてまとめる。	90分
第4回	トマト苗、キュウリ苗の定植	トマト苗に支柱を立て誘引、キュウリ苗に支柱を立てネットを掛ける。ピーマン、パプリカ苗に支柱を立て誘引する。	定植作業を思い起こし記録する。	90分
第5回	トマト苗に支柱を立て誘引、キュウリ苗に支柱を立てネットを掛ける。	トマト苗、キュウリ苗の支柱立て、ネット掛け作業。誘引作業。ピーマン、パプリカ苗に支柱を立て誘引する。	支柱の立て方を思い起こし記録する。	90分
第6回	野菜栽培の	野菜の分類、科目、好光性種子と嫌光性種子、コンパニ	配布資料による復習。	90分

	基礎知識。	オンプランツ、土壌の酸性度、連作障害、肥料の3要素、肥料の量、種の蒔き方、定植ができる野菜と出来ない野菜、誘引の仕方。		
第7回	野菜の品種と料理の関係	ジャガイモ、トマト、ナス、大根の部位の特徴や品種とその特徴を知り、適する料理を知る。	配布資料による復習。	90分
第8回	伝統野菜	江戸東京伝統野菜、なにわ大阪の伝統野菜、京野菜、加賀野菜、全国の伝統野菜について学ぶ。	配布資料による復習。	90分
第9回	収穫について考える	作物の品種と成長期間、開花からの日数について学ぶ。	配布資料による復習。	90分
第10回	毒のある野菜	毒のある野菜、食べ合わせ、食材の組み合わせにより栄養価が下がるものと、効果的な組み合わせがあることを学ぶ。、	配布資料での復習。	90分
第11回	キュウリの収穫作業	誘引作業と追肥の仕方、キュウリの収穫を体験する。	作業内容をまとめておく。	90分
第12回	緑黄色野菜とサラダ	緑黄色野菜、淡色野菜について学ぶ。またサラダの種類について学ぶ。	配布資料での復習。	90分
第13回	トマト、キュウリの収穫（予定）	班ごとに、収穫を体験する。	収穫体験の記録。	90分
第14回	収穫作業と枝豆の計測	枝豆鞘の数、鞘豆の全重量を記録する。一本の枝に通常42～47鞘と言われているが、何サヤ付いているかを記録を取る。3粒、2粒、1粒のそれぞれの数を記録。10本の枝豆全体の重量を計測し記録する。後日、全員の平均値を算定する。	収穫作業の記録を取る。	90分
第15回	収穫祭（予定）枝豆、キュウリの試食会	調理班担当者は調理をお願いします。冷凍枝豆の茹でたものと、収穫したての焼枝豆の、香りの違いを体験する。	復習：取り立ての枝豆、トウモロコシが香りが強いことを理解し、収穫について考え調べてみる。	90分

学習計画注記	畑や屋上での野菜栽培は、天候に左右されることがある。また校外授業、ミュージアム見学も先方の予約状況にもよる。また外部講師を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が発生すると予想されます。ご留意をお願いします。
学生へのフィードバック方法	レポート提出は、後期最初の授業で返却し、評価についてコメントします。
評価方法	授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため、協調性、チームワーク等の態度を見ます。最終レポート、見学レポート、外部講師感想、平常点で評価。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	最終レポート	○	○		
	見学レポート		○	○	
	外部講師感想		○	○	
	平常点			○	

評価割合	最終レポート（40%）、見学レポート（10%）、外部講師感想（10%）、平常点（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】野菜の品種と料理の関係、野菜の特徴等の専門的知識を理解している。 【思考・判断】野菜の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てる能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】野菜栽培に興味を持ち、更なる野菜のメカニズムの能力を身につけている。 【技能・表現】一般的な春・夏野菜、秋・冬野菜の栽培育成。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を活かした能力を身につけている。プレゼンテーション能力を身に付けている。
オフィスアワー	月曜日　3.5限～4.5限　1502研究室
学生へのメッセージ	野菜栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーション力を身に付ける。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食生産体験演習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	R10007M12
授業概要(教育目的)	①秋・冬野菜の栽培方法として苗からの栽培、種からの栽培を体験し、栽培と管理の知識を身につける。 ②ジャガイモ、大根の品種について、その品種の特徴と料理との関係について講義を行う。、 ③伝統的野菜や新顔野菜について調査し、パワーポイントを作成する。 ④食に関する博物館の見学会を予定しているので、食と農について関心を持ち、見聞を広める。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	野菜栽培・育成の基礎（野菜の分類、科目、好光性種子と嫌光性種子、コンパニオンプランツ、、土壌の酸性度、連作障害、肥料の三要素、肥料の量、種の蒔き方、定植できる野菜と出来ない野菜、誘引の仕方）を理解し栽培方法を説明できる。野菜の品種の特徴を理解し、料理との関係を説明できる。
思考・判断の観点（K）	野菜の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	野菜栽培に興味を持ち、更なる野菜のメカニズムに関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	一般的な春・夏野菜、秋・冬野菜の栽培育成ができる。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を活かした栽培作業ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス（ジャガイモの植付、大根・人参の種蒔きの方法）	秋冬野菜にはどのような野菜があるのか、根菜は種から育てるため、代表的な青首大根の栽培を行ない、種蒔きの方法や手順を学ぶ。ジャガイモの定植方法を学ぶ。	大根の品種名と特徴、どんな料理に向くのかをネット検索し、まとめる。	90分
第2回	ジャガイモの定植作業。（屋上プランター）	プランター栽培。ジャガイモの定植作業。	定植方法を思い起こして記録する。	90分
第3回	大根・人参の種蒔き作業。（園芸実習場）	マルチに穴をあけ、大根の点蒔き作業、人参の筋蒔き作業。散水作業。	種蒔きの方法（点蒔き。筋蒔き、バラ蒔き）と野菜の品種をまとめる。	90分
第4回	世界のお菓子について	世界のお菓子にはどのような物があるのか、発祥の言われ、特徴、食べ方、材料、作り方を紹介する。、	個人、個人で調べてみる。発表・パワポ作成のために下調べを行っておくこと。	90分
第5回	大根の間引き作業	1穴に種を５粒蒔いたものの中で、育ちの悪い、小さな苗を間引き、２本残してさらに育てる。	間引きの方法を記録しておく。	90分
第6回	プレゼンテ	「世界のお菓子」について調査し発表を行うためのパワ	自宅でパワポ作成の続きを行	90分

	ーションの方法。パワーポイントの作り方。1401第1PC室	ポの作成方法を紹介する。「世界のお菓子」を実際に検索して調べ、パワポ作成、８枚程度を作成する。USB持参のこと。	う。11月24日完成したUSBを持参すること。学校のUSBへ入力。	
第7回	「世界のお菓子」調査。1401第1PC室	パワーポイント8枚を作成し、発表原稿を準備。USB持参。	完成できなかった人は自宅で続きの作業。11月24日USB持参。学校のUSBに入力。	90分
第8回	お米の品種、ライスレディーDVD鑑賞	日本では、お米の品種改良が盛んに行われ、特Aランクのお米が沢山存在する。南魚沼産コシヒカリ、ササニシキ、ゆめぴりか、晴天の霹靂、ミルキークイーン、ヒノヒカリ、などの特徴を学ぶ。	復習：お米の種類と特徴をまとめる。	90分
第9回	「世界のお菓子」発表会①	8枚のパワ-ポイントを使用し、1人2分30秒の発表を行う。今後授業で発表する機会が多くなると思われるので、発表を体験する。パワポの作成の仕方のポイント、人に伝える良い発表とは、話し方や、発表原稿、時間配分などを身に付けてほしい。	自分の発表を振り返り、発表のポイントをメモしておく。	90分
第10回	「世界のお菓子」発表会②	8枚のパワ-ポイントを使用し、1人2分30秒の発表を行う。今後授業で発表する機会が多くなると思われるので、発表を体験する。パワポの作成の仕方のポイント、人に伝える良い発表とは、話し方や、発表原稿、時間配分などを身に付けてほしい。	自分の発表を振り返り、発表のポイントをメモしておく。	90分
第11回	ジャガイモの収穫（屋上プランター）、サツマイモ、里芋、落花生の収穫	個人個人で栽培しているジャガイモの収穫作業。全員で栽培している、サツマイモ、里芋、落花生の収穫作業。	収穫作業手順を記録しておく。	90分
第12回	大根の間引き作業	1穴に2本残した大根の小さな方を間引き、1本残し育てる。間引いた大根はやや小さいが、土を落とし洗って持ち帰る。	大根の間引き作業を記録を取っておく。	90分
第13回	小テスト、野菜栽培の基礎知識より出題。新顔野菜について	野菜の分類、科目、好光性種子と嫌光性種子、コンパニオンプランツ、土壌の酸性度、連作障害、肥料の3要素、肥料の量、種の蒔き方、定植ができる野菜と出来ない野菜、誘引の仕方。小テスト。残りの時間で新顔野菜の紹介を行う。	配布資料による自己採点。新顔野菜、果物について調べ、レポート提出。	90分
第14回	大根の収穫	大根の収穫。収穫した大根の葉や形、色の違いを比較して、大根の種類について学ぶ。	収穫作業のまとめ。授業全体をまとめレポートにする。（試験週間提出）	90分
第15回	「大収穫祭」お米（ご飯）の食べ比べと大根の食べ比べ	お米、「コシヒカリ」、「ササニシキ」の味の違いを知る。また中間だと言われている「ゆめぴりか」の違いにも気づきたい。６種類の産地の違いの品種を食べ比べを体験する。また、大根も食べ比べを行う。青首、三浦、聖護院、辛味、紅しぐれ、ビタミン、源助大根を予定している。	収穫作業のまとめ。授業全体をまとめレポートにする。（試験週間提出）	90分

学習計画注記	畑や屋上での野菜栽培は、天候に左右されることがあります。また校外授業も先方の予約状況にもよる。予定変更が多く発生すると予想されます。ご留意をお願いします。
学生へのフィードバック方法	学生さんがプレゼン用のパワポを作成したものを授業で紹介し評価する。プレゼンテーション技術とは？の説明を行う。
評価方法	授業への積極的な参加を期待します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため協調性、チームワーク等の態度を見ます。平常点、博物館見学レポート、小テスト、プレゼン用パワポ作成、最終レポートで評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
最終レポート	○			
博物館見学レポート		○	○	
小テスト	○			
平常点（グループワーク）			○	○

評価割合	平常点（40%）、博物館見学レポート（１0%）、プレゼン用パワポ作成（10%）、小テスト（10%）、最終レポート（30%）で評価。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】野菜の品種と料理の関係、野菜の特徴等の専門的知識を理解している。 【思考・判断】野菜の特性や栽培期間を理解し、作業手順や作業効率を考え、栽培計画を立てる能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】野菜栽培に興味を持ち、更なる野菜のメカニズムの能力を身につけている。

	【技能・表現】一般的な春・夏野菜、秋・冬野菜の栽培育成。種からの栽培、苗からの栽培などの特性を活かした能力を身につけている。プレゼンテーション能力を身に付けている。
オフィスアワー	月曜日　3.5限～4.5限　1502研究室
学生へのメッセージ	野菜栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーションを身に付ける。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養士論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R10002M21
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 この授業は、使命感のある栄養士の養成の一基盤となるものである。そのため、栄養士の有資格者や雇用者、行政の担当者からの講義を得ながら、栄養士として備えるべき資質や知識・技能を理解することを目的とする。具体的には、保育所・学校給食・高齢者福祉施設・病院などの栄養士、管理栄養士を招き、栄養士の置かれている現状と、栄養士として何か求められているかなどについて講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養士の活動分野、役割、業務内容を理解し、栄養専門職としての栄養士の役割と業務内容を説明できる。
思考・判断の観点（K）	栄養士業務に必要な知識が何かを理解することにより、栄養士を目指すために学ぶ意義を確認することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養士養成のためのカリキュラムおよび4年間で学ぶ意義を理解し、学ぶ意欲を高めることができる。
技術・表現の観点（A）	様々な分野で栄養士・管理栄養士として仕事をされている方々からの講義聞き、その内容についてグループディスカッションおよび発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養士の役割と業務	栄養士の仕事内容、活躍分野、役割について、管理栄養士との違いも含め解説する。	事前に配布する資料を読み予習し、授業後は栄養士の仕事内容を復習しておくこと。。	120分
第2回	食事に関する調査方法について①	食事調査の目的、方法、結果の読み取り方、分析方法について説明する。	事前に配布する資料を読んでおくこと。	120分
第3回	食事に関する調査方法について②	食事調査の結果から、対象者を行動変容に導く指導方法について説明する。	第3回の食事に関する調査方法について、配布資料の復習をしておくこと。	120分
第4回	栄養素の働きについて	栄養素の働きについて理解する。	高校の時の家庭科の教科書を復習しておくこと。	120分
第5回	日本食品成分表について①	日本食品成分表の内容および使い方を説明する。	日本食品成分表の「資料編」「本表編」を読んでおくこと。	120分
第6回	日本食品成分表について②	日本食品成分表の内容および使い方を説明する。	日本食品成分表の「資料編」「本表編」を読んでおくこと。	120分
第7回	献立と献立計算	献立表の記入方法および日本食品成分表を用いた献立計算方法を理解する。	調理学実習で習った献立計算の理解および復習をしておくこ	120分

			と。	
第8回	日本人の食事摂取基準について①	日本人の食事摂取基準について、その内容と利用方法を理解する。	「日本人の食事摂取基準2020年版」の「総論」（1～47ページ）を読んでおくこと。	120分
第9回	日本人の食事摂取基準について②	日本人の食事摂取基準について、その内容と利用方法を理解する。	「日本人の食事摂取基準2020年版」の「各論：エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物」（51～170ページ）を読んでおくこと。	120分
第10回	日本人の食事摂取基準について③	日本人の食事摂取基準について、その内容と利用方法を理解する。	「日本人の食事摂取基準2020年版」の「各論：ビタミン、ミネラル」（171～375ページ）を読んでおくこと。	120分
第11回	栄養士の活動分野① 保育所	実際に保育所で活躍している栄養士から、実際の仕事内容の説明を受け、保育所の栄養士の業務内容を理解する。また、栄養士の話を聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	事前に配布する資料を読み予習し、授業後は保育所の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第12回	栄養士の活動分野② 小学校	実際に小学校で活躍している栄養士から、実際の仕事内容について説明を受け、小学校の栄養士業務を理解する。また、栄養士の話を聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	事前に配布する資料を読み予習し、授業後は小学校の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。。	120分
第13回	栄養士の活動分野③ 病院	実際に病院で活躍している管理栄養士から、実際の仕事内容について説明を受け、病院の栄養士業務を理解する。また、栄養士の話を聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	事前に配布する資料を読み予習し、授業後は病院の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第14回	栄養士の責務と職業倫理	栄養士の責務と職業倫理について理解する。	事前に配布する資料を読んでおくこと。	120分
第15回	栄養士養成教育とカリキュラムとの関連	栄養士養成におけるカリキュラムおよび科目の内容を知ることで、4年間の学びの流れを理解する。	学生便覧の食物学科の授業科目概要を読んでおくこと。また、配布資料（参考時間割、4年間の科目）も確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	提出されたレポートについて、コメントを付けて返却する。
評価方法	平常点、レポート提出状況、レポート内容、グループディスカッションへの参加状況、テストにより評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート提出状況			○	
レポート内容	○	○		○
グループ討議参加状況	○	○	○	○

評価割合	平常点（10%）、レポート提出状況（20%）、グループディスカッション参加状況（10%）、試験（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	日本食品成分表、日本人の食事摂取基準2020年版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】栄養士として探求心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲を持つ。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室
学生へのメッセージ	初回の授業に出席する前に、中学あるいは高校までに習った食物、調理、栄養、体の構造について、各自復習しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	様々な分野で栄養士・管理栄養士から講義いただいた内容についてグループディスカッションを行い、感じたこと、考えたこと、気付いたこと等をグループでまとめ、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	地球環境と食		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡　義卓	指定なし

授業概要(教育目的)	食は人類が存続するために不可欠な要素である。一方、人口が一定水準を超えた段階から、食料の安定確保は地球環境に対する「作用」なしには持続することができなくなった。その「作用」は結果として食料の安定的生産を損ねる結果を招いており、この悪循環が地球環境の破壊を再生不能な段階まで進めることとなっている。そこで、地球環境と食料生産・食料確保との関係について学習し、持続可能な食の確保について考察する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	地球環境と食にどのような関係があるのか理解することができる。
思考・判断の観点（K）	地球環境の観点から、現代の食に関する問題点を把握、理解することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら問題解決に向けての取り組みを進められるようになること。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解する。	授業計画で取り上げているテーマのうち自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、それぞれ食の営みとどのような関係があるのか調べる。	60分
第2回	食と地球環境の関係	私たちの食の営みが地球環境とどのような関係があるのかを俯瞰的に理解する。	復習として身の回りの食の営み（例：アルバイト先や日頃利用するスーパー、飲食店等）と自然環境との関係を調べる。予習として日本と世界の食糧需給の状況を調べる。	180分
第3回	日本の食料需給・世界の食料需給	地球環境と食の関係を理解するための基礎知識として日本と世界の食料需給の現状について理解する。	復習として私たちの日頃の食品消費のあり方を振り返り、どのように見直すことができるか考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより地球温暖化に関する最近の話題を調べる。	180分
第4回	地球環境と食にまつわる諸課題①地球温暖化	今回から7回にわたり地球環境と食にまつわる諸課題をテーマごとに学習する。第1回として地球温暖化と食の関係を理解する。	復習としてここ最近の大規模な自然災害（特に地球温暖化と関連する可能性のあるもの。例：2018年の西日本豪雨）による食産業への影響について調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより水資源に関する最近の話題を調べる。	180分
第5回	地球環境と	水資源の現状と課題等を理解する。	復習として水の大切さについて	180分

	食にまつわる諸課題 ②水資源の問題		の理解を促す活動にどのようなものがあるか調べる。予習として生物多様性の言葉の意味やその意義等について書籍やインターネット等により調べる。	
第6回	地球環境と食にまつわる諸課題 ③生物多様性	生物多様性と食の関係を理解する。	復習として生物多様性が大切だという理解を促すための方策を考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより食の工業化・グローバル化に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第7回	地球環境と食にまつわる諸課題 ④食の工業化・グローバル化	食の工業化・グローバル化と地球環境の関係を理解する。	復習として身の回りの工業化・グローバル化された食品を取り上げ、その生産から消費に至るプロセスがどのようになっているか調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより遺伝子組換え食品に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第8回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑤遺伝子組換え食品	遺伝子組換え食品と地球環境の関係を理解する。	復習としてゲノム編集技術について調べ環境への影響について考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品廃棄物等に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第9回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑥廃棄物問題とリサイクル	食品廃棄物や容器包装リサイクルと地球環境の関係を理解する。	復習として自分の生活における食品廃棄や容器包装の取り扱いを振り返り、どのように改善できるか考察する。予習として東日本大震災の被災地における放射能による被害や復興の状況について調べる。	180分
第10回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑦東日本大震災と食	東日本大震災における原発事故が環境と食に及ぼす影響について理解する。	復習として被災地の食の復興に関する活動にどのようなものがあるか調べ、その意義や課題等について考察する。予習として未利用資源の活用（特にゲスト講師の携わる事業）についてインターネット等により調べる。	180分
第11回	地球環境に配慮した食の営み ①未利用資源の活用	未利用資源の活用に携わるゲスト講師の講話を聞き、その活動の意義や課題、可能性等について理解する。	復習としてゲスト講師の講話を踏まえて未利用資源の活用事業を推進するための方策を考える。予習として地産地消の言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第12回	地球環境に配慮した食の営み ②地産地消	地球環境に配慮した営みとして地産地消の活動、意義、課題等について理解する。	復習として身近な地産地消の取り組み（直売所やマルシェ等）を見聞し、授業で学んだことと照らし合わせて考察する。予習としてフェアトレードの言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第13回	地球環境に配慮した食の営み ③フェアトレード	地球環境に配慮した営みとしてフェアトレードの活動、意義、課題等について理解する。	復習として身近なフェアトレード商品（食品）を取り上げ授業で学んだことと照らし合わせて考察する。11回から13回までの学習を踏まえて、身の回りで地球環境に配慮していると思われる営みを取り上げ、その内容、意義、課題、可能性等について論ずる。	240分
第14回	ワーク　地球環境の視点からこれからの食品消費を考える	これまでの学習を踏まえて地球環境の視点からこれからの食品消費の望ましいあり方についてグループワークを通じて考究する。	復習として授業内のワークで作った提案内容を振り返り、具体的な行動に落とし込めるようにブラッシュアップする。予習としてこれまでの授業内容を確認し、疑問点や確認したいこと等を洗い出しておく。	180分
第15回	まとめ・振り返り	これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。	試験に備えて授業全体を通して学んだことを振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、地球環境への影響を配慮しつつ、今後自分はどのように食に関わっていきたいかを考える。	240分

学習計画注記	毎回の授業において主に学習内容を確認するためのスモールテストを実施するとともにリアクションペーパーを記入する。また毎回の授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーのコメントのうちのいくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。

評価方法	期末試験は学期末に実施する。 中間レポートは授業の復習の一環として9回目以降に実施し、理解度や情報収集、考察により評価する。中間レポートの課題は授業内にて提示する。 平常点は毎回のミニテストとリアクションペーパーの内容により理解度を確認し、評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○	○	
	中間レポート	○	○	○	
	平常点	○	○	○	

評価割合	期末試験60点、中間レポート20点、平常点20点
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。
参考図書	必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食文化を理解し、様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に着ける 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 力を身につけている 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる 栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
学生へのメッセージ	食と環境に関連する諸課題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	第14回の授業において学んだことを踏まえて自分たちに何ができるかを考えるグループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フードビジネス概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡　義卓	指定なし

ナンバリング	R11005M21
授業概要(教育目的)	「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。フードビジネスは、食に関わるあらゆる事業活動の総称であり、私たちの生活に密接に関わることはもちろん、殊更重要な社会的役割を有する。本授業では、食品の生産から消費に至る過程を軸に各種フードビジネスの事業や担い手について概観し、その機能や役割を理解すると同時にフードビジネスが抱える諸課題を確認する。さらに、今後、持続可能な社会の構築を目指すうえでの望ましいあり方や進むべき方向性についても考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種フードビジネスの事業や担い手、歴史的経緯等基本的な知識を身につけることにより、その機能や役割、現代社会における諸課題を理解できるようになる。
思考・判断の観点（K）	上記理解に基づき、持続可能な食の営みを目指すうえでフードビジネスの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス：フードビジネスとは	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解し、学習領域であるフードビジネスの全体像を概観する。	フードビジネスの全体像（生産・加工・流通・消費）を概観したうえで自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、どのようなフードビジネスの事例があるか調べ、意義や課題について考察する。	60分
第2回	私たちの暮らしとフードビジネス	身近な食品を題材にして、フードビジネスが私たちの暮らしとどのように関係しているのかを理解する。	復習として身近な食品（授業で取り上げた以外）のいくつかについて、それぞれどのようなフードビジネスが関係しているのかを洗い出して、改めてフードビジネスと自分たちの生活との関係を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近の話題を調べる。	180分
第3回	フードビジネス①生産（農業・漁業：概要）	農業・漁業について概観するとともにフードビジネスとしての特徴を理解する。	復習として加工食品の原材料や家庭で使用している食材について産地や生産方法を調べ、さまざまな食料生産のあり方があることを確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近	180分

			の話題（特に課題に関する事柄）を調べる。	
第4回	フードビジネス②生産（農業・漁業：意義と可能性）	前回に続き農業と漁業を扱う。フードビジネスとしての農業・漁業の意義と可能性について理解する。	復習として前回と今回の授業で学んだ農業・漁業の現状や課題、可能性を整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品製造業に関する最近の話題を調べる。	180分
第5回	フードビジネス③加工・製造（食品製造業）	食品製造業について概観し、その特徴を理解する。	復習として身近な加工食品を自分自身でつくることで製造工程の複雑さや衛生管理の難しさ等を理解する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の流通に関する最近の話題を調べる。	180分
第6回	フードビジネス④流通（食品の流通）	食品流通の全体像について概観し、その特徴を理解する。	復習として授業で学んだ食品流通の仕組みを整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより卸売市場に関する最近の話題を調べる。	180分
第7回	フードビジネス⑤流通（卸売流通）	食品流通のうち生鮮食品（青果、鮮魚、精肉等）の卸売流通の特徴について理解する。	復習として授業で学んだ卸売流通の流れを食品の種類ごとに整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品小売業に関する最近の話題を調べる。	180分
第8回	フードビジネス⑥流通（小売流通）	食品流通のうち小売流通（スーパー、専門小売店等）についてその特徴を理解する。	代表的な小売流通であるスーパーと専門小売店について、両者で買い物をしたうえでその特徴、メリット、デメリットなどを比較し、今後、小売流通をどのように利用したいか考察する。	240分
第9回	フードビジネス⑦外食・中食	外食についてはチェーンレストランと個人経営の飲食店の比較を通して、中食についてはコンビニエンスストアを題材に、それぞれフードビジネスとしての特徴を理解する。	復習として外食や中食の利用に際してそのオペレーションを想像しながら授業で学んだことを確認する。予習として次週講義のゲスト講師のビジネスについてインターネット等で事前に情報収集し、その特徴等を理解する。	180分
第10回	フードビジネスの実際	フードビジネスに携わるゲスト講師を招き、フードビジネスの現場から見た意義や課題、可能性等について理解する。	復習としてゲスト講師の講話を振り返り、当該ビジネスの意義、課題、可能性を整理し、課題解決の方策を考察する。予習として経営学の教科書等によりマーケティングに関する基本的な情報を得ておく。	180分
第11回	フードビジネス⑧マーケティング	マーケティングに関する基礎知識を身につけるとともにフードビジネスにおけるマーケティングの特徴や留意点を理解する。	復習として身近な食品における企業等のマーケティン活動について学んだことと照らし合わせてどのような課題があるかを考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食のグローバル化や工業化に関する最近の話題を調べる。	180分
第12回	フードビジネスの現代的課題①グローバル化・工業化	グローバル化や工業化が進展することでフードビジネスの領域において生起する諸課題を理解する。	復習として具体的な食品を題材に、工業化やグローバル化が進展することによる課題を解決するための方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の安全性や環境に関する最近の話題を調べる。	180分
第13回	フードビジネスの現代的課題②食の安全性・環境問題	食の安全性や環境に関する問題とフードビジネスの関係について理解する。	復習として食の安全性や環境に関する諸課題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策について考察する。予習として地産地消について言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第14回	これからのフードビジネス	フードビジネスの抱える諸課題を解決するための方策のひとつとして地産地消やフェアトレード等いくつかの事例を取り上げ、その内容や意義、課題について理解する。	復習として身近な地産地消の営み（直売所やマルシェ等）を見聞し、授業内容に照らし合わせて意義や課題等について考察する。予習としてこれまでの授業内容を確認し、疑問点や確認したいこと等を洗い出しておく。	180分
第15回	まとめ・振り返り	これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。	試験に備えて授業全体を通して学んだことを振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、自分自身が今後、どのよう	240分

			にフードビジネスに向き合っていきたいかを考える。	

学習計画注記	毎回の授業の最後にその日の学習内容を確認するためのスモールテストを実施するとともに、リアクションペーパーを記入する。また毎回の授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーのコメントのうちのいくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。
評価方法	期末試験は学期末に実施する。 中間レポートは授業の復習の一環として7回目以降に実施し、理解度や情報収集、考察により評価する。中間レポートの課題はいずれも授業内にて提示する。 平常点は毎回のミニテストとリアクションペーパーの内容により理解度を確認し、評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○	○	
	中間レポート	○	○	○	
	平常点	○	○	○	

評価割合	期末試験60点、中間レポート20点、平常点20点
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配布する。
参考図書	なし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食文化を理解し、様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に着ける 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
学生へのメッセージ	フードビジネスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	コミュニケーション・プレゼン演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R11003M12
授業概要(教育目的)	【授業の概要】アクティブラーニングに対応するための基本的な対話力を養う。グループワーク形式で各種課題に取り組む過程で、コミュニケーションの基礎 ―受容と発信― を身につける。また、多数の人に効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。近代的な教育に適応するための初めの演習であり、今後の学びの基盤を築く。 【授業の内容】 コミュニケーションのワークは、テキストを利用したものと、独自に開発したワーク（オリジナルコンテンツ）の２種類があります。 【授業の形式】 ・４人または３人１組でチームを組み、ワークを進めていきます。 ・３回のクールがあり、各クールでメンバーを組み替えます。 ・クラス全体にプレゼンテーションを行う回があります。
履修条件	・グループワークが中心の授業です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・コミュニケーションに必要な基本的な知識と技術が理解できている ・基本的なプレゼンテーションスキルが理解できている ・ファシリテーターの基本的な役割が理解できている
思考・判断の観点（K）	良好なコミュニケーションを成立させるための行動を自分で判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	コミュニケーションとプレゼンのスキルを身につける意欲・態度が養われている
技術・表現の観点（A）	・ファシリテーターの基本的な役割を担うことができる ・多数の人に自分の考えを表現・発信することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 4/15	「グループワークの進め方と基本的なコミュニケーション技術の説明」 ・授業内容を説明します。 ・コミュニケーションに必要な受容と発信、コミュニケーションを促すファシリテーションを説明します。	・授業内容を確認してください。 ・コミュニケーションとプレゼンテーションに関するアンケート（Google Form）に回答してください。	45分
第2回	第１クール：チーム・ディスカッション① 4/22	「大学で学びたいこと、学ぶべきこと」 私たちは大学で何を学ぶべきでしょうか？何を学びたいですか？大学に入学した意味をグループでディスカッションし、発表します。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第3回	第１クール：ファシリテーショ	「新説・桃太郎」 昔話桃太郎を題材としたグループワークから、コミュニケーションを考えます。 テキスト p.74-78	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分

	ン・ワーク ① 5/6			
第4回	第１クール：プレゼンテーション・スキル ① 5/13	「プレゼンテーション・スキルを磨く」 良いプレゼンテーションとはどのようなプレゼンテーションでしょうか？心に響くプレゼンをTEDから学びます。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第5回	第１クール：コミュニケーション・スキル ① 5/20	「ファシリテーションの人間観」 人間関係を形成する中で、ファシリテーションがなぜ必要なのか、大事なのかを理解します。 テキスト p.1-14	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第6回	第２クール：チーム・ディスカッション ② 5/27	「私たちが置かれている状況について考える」 社会環境や時代を考えてみましょう。ディスカッションにより、気づきを得ます。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第7回	第２クール：ファシリテーション・ワーク ② 6/3	「デザインコピー」 設計図を元に模型を組み立てます。グループで協力して取り組んでください。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。 テキスト p.112-113	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第8回	第２クール：プレゼンテーション・スキル ② 6/10	効果的なプレゼンテーション資料の作り方を学びます。	第12回のプレゼンの資料の作成を進めてください。	45分
第9回	第２クール：コミュニケーション・スキル ② 6/17	「観察する」 私達が普段どのようなコミュニケーションをしているのかを観察してみましょう。 テキスト p.47-53	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第10回	第３クール：チーム・ディスカッション ③ 6/24	「ジェンダーと女性の自立」 ジェンダーを考えてみましょう。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第11回	第３クール：ファシリテーション・ワーク ③ 7/1	「干ばつを救え」 干ばつを救うため井戸を探します。グループで協力してプロジェクトを成功させてください。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。 テキスト p.87-95	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第12回	第３クール：プレゼンテーション・スキル ③ 7/8	「ショートプレゼン・効果的に大勢の人の心に伝える」 あなたの興味のある題材について、短いスピーチをしてみてください。うまくプレゼンする必要はありません。あなたらしいプレゼンをしてみてください。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第13回	第３クール：コミュニケーション・スキル ③ 7/15	「ジョハリの窓」 自己分析のワークをしてみましょう。 テキスト p.60-63	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第14回	まとめのファシリテーション・ワーク 7/22	「共に成長する」 ロールプレイのワークを行います。 テキスト p.141-147	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	45分
第15回	授業のまとめ 7/29	・コミュニケーションとプレゼンテーションに必要な知識と技術を振り返ります。 ・コミュニケーションを高めるために、今後どのようなことをしたら良いか具体的な目標を考えます。	アンケート（Google Form）に回答してください。	45分

学習計画注記	・本科目は、演習（１単位）ですから、毎回45分程度の課題に取り組みます。 ・グループワークに対する振り返りは、次週授業日の前日9:00までに回答してください。 ・第８回は、PC室での演習を予定しています。
学生へのフィードバック方法	Google Classroomの投稿機能を利用して、グループワークに対する振り返りに対して、フィードバックのコメントをお送りします。遠慮なく、質問やコメントを投稿してください。わかりやすくお答えします。
評価方法	①演習への参加度（50%） ・ルーブリック評価します。 ・ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。 ②振り返りの投稿（50%） ・グループワークに対する振り返りを評価します。 ・振り返りの採点基準は、クラスルームに掲示します。 ——— 定期試験は、ありません。 ②の振り返りの投稿の最終〆切は、2022/8/5 12:10です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	演習への参加度	○	○	○	○
	振り返りの投稿	○	○	○	○

評価割合	①演習への参加度（50%） ②振り返りの投稿（50%） 各回の評価を合計して、成績評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	【教科書】実践 人間関係づくりファシリテーション ISBN 9784760826476 教員として生徒を指導する時や、将来職場の人間関係を調整する際にも、とても役に立ちます。長く使えるテキストです。 【その他】プリントや動画を適宜使用します。
参考図書	教科書以外の資料については、Google Classroomに掲示します。
参考URL	https://classroom.google.com/c/NDcxOTE5NTg5OTMz?cjc=t73ps5s
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーションとプレゼンテーションが理解できている 【思考・判断】多種多様の情報を整理する力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 栄養士・食の専門家として必要なコミュニケーションとプレゼンのスキルを身につける意欲・態度が養われている 【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、開発企画に必要な基礎的な表現力を身につけている。
オフィスアワー	授業後
学生へのメッセージ	・楽しく、有意義で、役に立つ演習にしたいと思います。みなさんの積極的でポジティブな姿勢が授業を楽しくします。実りのある時間にしましょう。みなさんの建設的な意見も積極的に授業に取り入れてきます。 ・ファシリテーションの技術は、ティーチングにとても役に立つので、教職を目指す学生にもお勧めします。新指導要領において要求されているアクティブラーニングやコンピテンシーの概念についても、体験的に学ぶことができると思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	企業で経験した人事管理やチーム形成マネジメントの経験をもとに、人の心理行動を理解する方法や、効果的に人とコミュニケーションするためのファシリテーション技術などを教授しています。コンテンツについては、大学生が理解できる内容・レベルに調整しています。
アクティブ・ラーニング	○	本科目は、学生どうしのディスカッションやグループワークを中心とした内容となります。
情報リテラシー教育	○	マイクロソフト・パワーポイントの利用方法を学びます。
ICT活用	○	Google Classroomを活用します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	有機化学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島　綾子	指定なし

ナンバリング	R11008M21
授業概要(教育目的)	有機化学で学ぶべき課題を基礎的な事項から複雑な生体構成成分まで学習する。特に食品、生体分子に関連する有機化合物の理解に力を入れる。生体分子や食物に含まれる有機化合物のみならず、私たちの身のまわりに存在する有機化合物についても、その性質や反応性について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１、有機化合物の構造の分類、構造の特徴を知る。 ２、官能基や立体的な特徴を理解する。 ３、酸化・還元、置換、付加、脱離など基本的な反応機構を理解する。 ４、生体構成有機化合物の基本的な構造や特徴を理解する。
思考・判断の観点（K）	１、生体構成有機化合物の構造や特徴をこれまでに学んだ基本事項と結びつけて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１、それぞれの単元で積極的に課題に取り組み、理解を深める。 ２、小テスト、確認テストでの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	有機化合物の分類と化学結合	有機化合物における化学結合は主として共有結合である。炭素原子の結合様式、単結合、二重結合、三重結合などによって炭化水素を分類する。また、官能基による分類についても学ぶ。共有結合の他にも、イオン結合、水素結合について学習する。	教科書第1章の「有機化学を学ぶにあたって」、第2章の「有機化合物の分類と化学結合」（1～18ページ）を読んでおくこと。高校時代、もしくは化学入門の授業で学習した炭素原子の結合様式、官能基についての復習を行う。	120分
第2回	有機化合物の立体化学Ｉ	同じ分子式をもっているが、化学構造や物理的性質が一致しない分子を互いに異性体と呼ぶ。異性体は構造異性体と立体異性体に大別され、立体異性体は、さらに幾何異性体及び鏡像異性体に分類される。第2回では、これらの異性体と、旋光性、不斉炭素について学ぶ。	教科書第3章「有機化合物の立体化学」の３．１から３．４（19～28ページ）を読んでおくこと。 授業のはじめに、第一回の復習として、有機化合物の官能基による分類の小テストを行う。 官能基について十分に復習する。	180分
第3回	有機化合物の立体化学ＩＩ	主に炭素原子上の立体関係、すなわち立体配置、及び原子に結合している置換基の相対的な立体関係の立体葉いざについて学ぶ。また、食品成分の立体化学についても学ぶ。	教科書第3章「有機化合物の立体化学」の3・5、3・6（28～36ページ）を読んでおくこと。 授業のはじめに、第2回の復習として、鏡像異性体についての小テストを行う。前回の授業「有機化合物の立体化学Ｉ」の	180分

			復習を十分に行い、演習問題を解いておくこと。	
第4回	鎖式炭化水素（アルカン、アルケン、アルキン）の命名法と特徴	炭化水素の中でも鎖状飽和炭化水素アルカンと二重結合、三重結合をもつ不飽和炭化水素アルケン、アルキンの命名方法、特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」アルカン、アルケン、アルキン（37～42ページ）を読んでおく。高校時代、もしくは化学入門で学習したアルカン、アルケン、アルキンの命名法を復習しておく。 授業のはじめに、立体配座についての小テストを行う。前回授業「有機化合物の立体化学II」の復習も十分に行うこと。	180分
第5回	芳香族化合物	環状の炭化水素の特徴、命名法について学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の環状炭化水素（43～46ページ）をよく読んでおくこと。 授業のはじめに、鎖式炭化水素の命名、特徴についての小テストを行う。前回授業の「鎖式炭化水素の命名法と特徴」について十分に復習すること。	180分
第6回	官能基による特徴・・・酸素含有有機化合物と硫黄を含む化合物	酸素、硫黄を含む有機化合物をその官能基の特徴に分類して、命名法や特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の官能基による特徴 A（46～57ページ）をよく読んでおくこと。 授業のはじめに、芳香族化合物についての小テストを行う。前回授業「芳香族化合物」の復習を十分に行うこと。	180分
第7回	官能基による特徴・・・窒素含有有機化合物	窒素含有有機化合物をその官能基の特徴に分類して、命名法や特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の官能基による特徴 B（57～66ページ）をよく読んでおくこと。 授業のはじめに、酸素含有有機化合物と硫黄を含む化合物についての小テストを行う。前回授業の復習を十分に行うこと	180分
第8回	第1回から第7回確認テスト 有機化合物の反応・・・酸化還元反応	酸化・還元とは電子の受け渡し、すなわち酸化数の変化を伴う反応である。有機化合物の酸化では、主として分子中に酸素が入るか、または分子から水素が脱離する。一方、有機化合物の還元では、主として分子中に水素が入る反応である。 また、分子中の原子または置換基が、別の原子または置換基を攻撃し、入れ替わる置換反応についてその反応様式を学ぶ。 授業のはじめに、第1回から第7回有機化合物の構造と特徴までの範囲の確認テストを行う。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・1（67～72ページ）を読んでおく。 授業のはじめに、第1回から第7回有機化合物の構造と特徴までの範囲の確認テストを行う。第7回までの範囲を十分に復習しておくこと。	240分
第9回	有機化合物の反応・・・置換反応	分子中の原子または置換基が、別の原子または置換基を攻撃し、入れ替わる置換反応についてその反応様式を学ぶ。 授業のはじめに、前回の確認テストの解説を行う。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・2（72～79ページ）を読んでおく。 授業のはじめに、前回確認テストの解説を行う。間違えた問題については、レポートにまとめて提出すること。	240分
第10回	有機化合物の反応・・・付加反応	不飽和結合や環を有する分子へ別の分子が結合する付加反応について学ぶ	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・3（79～82ページ）を読んでおく。 授業のはじめに、置換反応についての小テストを行う。前回授業の復習も十分にしておくこと。	180分
第11回	有機化合物の反応・・・脱離反応	ある分子から２個の原子または置換基が取り去られ、その位置に不飽和結合、または環が生成する脱離反応についてその反応様式を学ぶ。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・4（83～86ページ）を読んでおく。 授業のはじめに、付加反応についての小テストを行う。前回授業の復習も十分にしておくこと。	180分
第12回	第8回から第11回までの確認テスト 炭水化物	生体構成有機化合物である炭化水素について、構造、構成単位、分類や特徴について学ぶ。 糖アルコール、糖の酸化物などの糖誘導体について、その構造や分類、特徴について学ぶ。 授業のはじめに、第8回から第11回までの確認テストを行う。	教科書第6章「炭水化物」の（87～102ページ）を読んでおく。 授業のはじめに、第8回から第11回までの確認テストを行う。有機化合物の反応の復習も十分にしておくこと。	240分
第13回	アミノ酸と蛋白質	生体構成有機化合物であるアミノ酸、蛋白質について、その構成単位や立体構造による特徴や結合様式について学ぶ。	教科書第7章「アミノ酸と蛋白質」（103～113ページ）を読んでおくこと。 授業のはじめに、前回の確認テストの解説を行う。間違えた問題についてはレポートにまとめて提出すること。	240分
第14回	脂質	生体構成有機化合物である脂質を基本的な構造や特徴に分類しながら学ぶ。	教科書第8章「脂質」（114～122ページ）を読んでおくこと。	180分

			授業のはじめに、「アミノ酸と蛋白質」の小テストをおこなう。前回授業の復習を十分にすること。	
第15回	ビタミン、核酸	生体構成有機化合物であるビタミンについて、その分類方法や基本的な構造、特徴について学ぶ。また、核酸の構成単位を知り、その構造や特徴について学ぶ。	教科書第9章「ビタミン」、第10章「核酸」（123～141ページ）を読んでおくこと。 授業のはじめに、「脂質」についての小テストを行う。前回授業の復習を十分に行うこと。 また、定期試験に向けて、全範囲の復習を行うこと。	420分

学生へのフィードバック方法	授業毎に小テストを行い、理解度を確認します。次回の授業にて小テストの解説を行います。質問等は、授業終了後に質問に来ること。
評価方法	・毎回の授業での小テストと単元ごとの確認テストを重視する。 ・小テスト及び確認テストの間違い直しを課題提出として実施する。 ・定期テストでは、小テストや確認テストの振り返りを含む問題、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。 ・小テスト、確認テスト及び定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○	○	
	確認テスト	○	○	○	
	課題提出	○		○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	出席、小テスト、確認テスト、課題提出を含む平常点（５０％）および定期試験の得点（５０％）により評価する。 平常点は授業への参加状況・演習・課題レポート等により総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	基礎有機化学（栄養科学シリーズNEXT）講談社サイエンティフィク　(978-4-06-155357-6)
学生へのメッセージ	特に、化学の基礎に自身のない人は「化学入門」の履修をすること。 繰り返しテキストを読み、併せて配布するプリントを見直して下さい。 小テストの直しは確実に行い、分からない単元を残さないように進めてください。 有機化学の基本的な手法や考え方に慣れて来ると授業の内容がわかり易くなります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google Classroomを用いて課題を提出する。必要な場合には、解説動画を作成する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	分子生物学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	R11009M21
授業概要(教育目的)	生命の基本的特性のひとつである遺伝現象を司る遺伝子のはたらきを明らかにすることを目的に、DNA・ゲノムの構造・機能、遺伝情報の解読・利用の仕組みを学び、さらには，近年注目されているエピジェネティックスやゲノム編集技術等について理解を深める。免疫や代謝等の重要な生命現象についても、分子生物学的視点から解説し、その機構について明らかにしていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生物を構成している主要物質について、構造・機能を説明できる 遺伝現象について、その原理を説明できる DNAやRNAの構造・機能について説明できる
思考・判断の観点（K）	生命維持に関わる物質について、構造や所在からその機能を類推することができる 今後発展が予想される遺伝子に関する科学技術について、その意義・問題点等を評価・批判することができる
関心・意欲・態度の観点（V）	生命維持に関わる物質を摂食によって得られる要素と関連付け、食に関する興味・関心をもつ 遺伝子に関わる技術が人間社会におよぼす影響について関心を持つ
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	分子生物学で扱う領域を説明し、高等学校で学んだことの関連を解説します。	高等学校で学んだ遺伝に関する領域において頻出の用語について、その意味・内容を理解しておく。授業で解説した高等学校での授業内容との関連を復習しておくこと。	240
第2回	生命を支える物質	生物の体を構成しその活動を支える物質ー有機物として、タンパク質・糖質・脂質について概要を説明する。	高等学校で学んだ有機物に関する知識を再確認しておく。また，授業で学んだ有機物に関する事項について、ノートの記述で確認しておくこと。	240
第3回	細胞の構造と機能	さまざまな細胞の形態・構造とその機能の関わりについて理解を深める。細胞内の構造であるオルガネラについては、その機能と生命維持との関わりについて解説する。	高等学校で学んだ細胞に関する知識を再確認しておく。また、授業で学んだ細胞に関する事項について、ノートの記述で確認しておくこと。	240
第4回	細胞とゲノム	生物を規定する遺伝子の最小単位であるゲノムについて、ヒトを例にその実体を説明する。	ゲノムという言葉について、身の回りで使われている例を見つけ、その内容を調べる。	120
第5回	DNAの構造	遺伝子の本体であるDNAについて、分子構造上の特徴とその性質について学ぶ。	高等学校で学んだDNAに関する知識を再確認しておく。授業後	120

			は、DNAの構造について新たに学んだ内容をノートで確認しておく。	
第6回	DNAと染色体	DNAが染色体の構成にどう関わっているか学び、染色体の挙動と性別や血液型などの遺伝現象との関連を理解する。	高等学校で学んだ染色体に関する知識を再確認しておく。また、ヒトの染色体についてその本数や性染色体などの特徴を調べておく。授業後は遺伝現象を染色体の挙動から説明できるように復習しておく。	240
第7回	DNAと遺伝子	DNAという物質が遺伝子として機能するしくみを学び、遺伝子の実体を理解する。	高等学校で学んだ遺伝子に関する知識を再確認しておく。	120
第8回	DNAの複製	DNAの構造と複製の課程との関連を解説し、細胞分裂時におけるDNAの挙動と複製機構を理解する。	高等学校で学んだDNAに関する知識を再確認しておく。特に細胞周期について理解した上で授業に臨むこと。	120
第9回	DNAからRNAへ	セントラルドグマと言われる遺伝子からタンパク質への流れを理解し、その流れの中でDNAの塩基配列がRNAに転写される仕組みを学ぶ。	高等学校で学んだDNAやRNAに関する知識を再確認しておく。特に、DNAとRNAの違いについて理解しておくこと。	120
第10回	RNAからタンパク質へ	映像資料も利用して、RNAの塩基配列が翻訳され、目的とするタンパク質が合成する仕組みについて学ぶ。	高等学校で学んだRNAに関する知識を再確認しておく。また、タンパク質の基本構造についても予習しておくこと。	120
第11回	複製・転写・翻訳	これまで個々に学んだ複製・転写・翻訳について、この過程全体を通じて再度それぞれの機構を理解する。特に、転写時におけるプロセッシングや翻訳時のコドン対応についてより詳しく学ぶ。	これまでの授業で学んだDNA・RNAに関する事柄をノートやハンドアウトで振り返り、その内容を再確認しておく。授業後に翻訳に関する課題に取り組むこと。	240
第12回	エピジェネティクス	遺伝子の塩基配列によって制御されない遺伝現象として最近注目されているエピジェネティクスについて学び、その機構がヒトの形質発現にどう関わっているのか理解する。	エピジェネティクスをキーワードに、身近な例について調べておく。	120
第13回	免疫の多様性と遺伝子	免疫機構について学び、多様な抗原に対して対応できる仕組みを遺伝子制御の観点から理解する。	高等学校で学んだ免疫に関する知識を再確認しておく。特に、体液性免疫についてその発現の機構を復習しておくこと。	120
第14回	遺伝子に関する最近の話題	iPS細胞や遺伝子治療、ゲノム編集技術など、新しい分子生物学上の技術について解説し、私たちのくらしにどう関わっていくかを考える。	インターネットや新聞、図書館にある書籍などを用いてiPS細胞や遺伝子治療、遺伝子組換え技術について知識を深めておくこと。また、これらのメリットそして問題点を考えておくこと。	120
第15回	生命と遺伝子	この授業で学んできた遺伝子に関する内容を復習・再確認し、遺伝子が支える生命と遺伝子が駆動する進化について理解を深める。	これまでの授業ノートの内容を通覧し、疑問な点を明確にしておくこと。 また、授業終了後にもこれまでの授業内容で不明確であった部分も含め、総復習しておくこと。	420

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。遺伝子を中心とした分子生物学的な知識を十分に得ているか。また、分子生物学的な技術の利点・問題点等を理解しているかなどを評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%、定期試験80%。
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。
参考図書	ワトソン遺伝子の分子生物学　第7版　東京電機大学出版局 細胞の分子生物学　第6版　ニュートンプレス よくわかる分子生物学の基本と仕組み　第2版　秀和システム
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境は遺伝子の働きについても影響します。その原理等を理解することができます。 【思考・判断】情報を整理し、客観的な判断ができるような基礎力が身につきます。

	【関心・意欲・態度】食生活を取り巻くさまざまな事象について関心をもち、自ら課題を見いだし、その解決に意欲的に取り組むことができます。
オフィスアワー	後期　火曜日2限・昼休み（10:40～12:30）　生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は、GoogleClassroomの連絡機能を用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	分子生物学の分野は近年最も発展している分野のひとつで、日々新しい発見が生まれています。その知見を応用した技術は、くらしを便利にしたり、病気を治したりすることに留まらず、人間の生まれ持った個性や寿命にまで影響するような段階に来ています。本講義を受講して、これらの知識・技術の基本を理解し、その有用性と問題点について理解を深めて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ただし、授業の一部では、グループワークによる課題検討を行うことがあります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	統計学演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R11004M12
授業概要(教育目的)	【授業の概要】統計の基礎概念を理解し、計算方法を習得します。最終的には、実験データや社会調査結果がどのように数値化され、意味付けられているかを理解します。疫学統計の考え方も紹介していきます。 【授業の形式】 ・座学で考え方と計算方法を学んだ後に、PC演習で演習問題に取り組みます。演習では、マイクロソフト・エクセルとエクセル統計ベルカーブの使い方を学びます。
履修条件	・計算のワークと、PCを使った演習があります。 ・グループワークが2回あります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・統計学の基本的な考え方と計算方法が理解できている
思考・判断の観点（K）	・数値やグラフの意味を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・印象や主観のバイアスにとらわれず、データを数値から解析し、確からしさを判断できる。
技術・表現の観点（A）	・初歩的な統計の計算ができる。 ・数値データの意味を文章で説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス／中学と高校の数学の振り返り（座学1）	・統計に必要な中学と高校の数学について理解度を確認する。 ・統計学を学ぶ目的を確認する。	理解度チェックのできなかった部分を解き直して、提出すること	45分
第2回	エクセルの基本演算の習得／基本統計量（PC演習1）	・Microsoft Excelの操作と、基本演算子の使い方を習得する。	課題に取り組み、提出すること	45分
第3回	データの種類と尺度／基本統計量／データの図表化（座学2）	・データの種類を理解し、データの種類によってどのような統計量や図表を利用したら良いのかを理解する。	課題に取り組み、提出すること	45分
第4回	度数分布とヒストグラム／相関解析（PC演習2）	・エクセルを用いて、データの基本統計量の計算や図表の作成を習得する。	課題に取り組み、提出すること	45分

第5回	母集団と標本／統計的仮説検定とp値（座学3）	・母集団と標本の概念や、標本の分布について学ぶ。 ・統計的仮説検定の概念と、p値の考え方を理解する。	課題に取り組み、提出すること	45分
第6回	母集団と標本／標本の分布（PC演習3）	・標本を分析し、母集団を予想する。 ・全数調査を分析し、母集団を理解する。	課題に取り組み、提出すること	45分
第7回	2つの平均値の比較（座学4） ２つの平均値を比較する手法を学ぶ。	・２つの平均値を比較する手法を学ぶ。	課題に取り組み、提出すること	45分
第8回	2つの平均値の比較（PC演習4）	・p値の計算をエクセルで行い、統計量をもとに考察する。	課題に取り組み、提出すること	45分
第9回	分散分析と多重比較（座学5）	・分散分析と多重比較の計算方法を学ぶ。	課題に取り組み、提出すること	45分
第10回	分散分析と多重比較（PC演習5）	・分散分析と多重比較の計算をエクセルで行い、統計量をもとに考察する。	課題に取り組み、提出すること	45分
第11回	実験計画（グループワーク1）	・実験計画法を学びます。 ・実際の調査や実験において、どのように統計を利用すれば良いのかをケーススタディで学びます。	課題に取り組み、提出すること	45分
第12回	クロス集計とカイ２乗検定（PC演習6）	・ベルカーブのクロス集計の機能を学びます。 ・適合度の検定と、独立性の検定を学びます。	課題に取り組み、提出すること	45分
第13回	栄養学・疫学と統計（座学7）	・栄養学や疫学で使われている統計について学びます。	課題に取り組み、提出すること	45分
第14回	研究と数理統計（グループワーク2）	・学術研究に利用されている数理統計のデータの読み方を学びます	課題に取り組み、提出すること	45分
第15回	授業のまとめ（座学9）	・これまで学んだ統計手法について復習します。	期末試験の準備をしてください。	45分

学習計画注記	・本科目は、演習（１単位）ですから、毎回45分程度の課題に取り組みます。筆記の課題と、クラスルームの投稿機能を利用した課題があります。 ・教室での座学、PC室でのPC演習、ラーニングコモンズでのグループワークがあります。会場を間違えないようにしてください。
学生へのフィードバック方法	課題の解答内容を確認して、皆さんの理解度を確認していきます。
評価方法	期末試験100% ・期末試験の成績に、課題提出率と出席率の両方を乗じて成績評価します。第１回のガイダンスの出席は、計算に入れません。第１５回は、課題はありません。 ・期末試験へのテキスト、ノート、配布プリントの持ち込みを許可します。テキストは、本人のものを確認するために、検印をします。 ・期末試験は、PC室で行います（履修人数がPC室のキャパシティーを超えた場合は、教室で筆記試験となります）。マイクロソフト・エクセルとエクセル統計ベルカーブを利用して問題を解答することができます。webは接続できないようにPC環境を設定します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	期末試験　（100点） 期末試験の成績点に、出席率と課題提出率を乗じて成績評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	『よくわかる心理統計』（ISBN-13: 978-4623039999）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】実験や研究に必要な統計の基礎的な知識が理解できている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、データを元に課題を見出すことができる。 【技能・表現】データを統計の手法を用いて分析できる。
オフィスアワー	授業後

学生へのメッセージ	・ものごとを数値で評価する利点は、主観や印象に基づいた偏り（バイアス）や誤差を少なくすることです。統計を学んでおくと、官能検査、疫学調査、社会調査のデータの信頼性を「確からしさ（確率）」で論じることができるようになります。 ・本授業では、数学的原理をなるべく少なくして、統計の手法をどのように利用するかを学んでいきます。このクラスで学んだことは、実験や卒業研究に役立ちます。 ・エクセルソフトウェアは、ワード・パワーポイントと並んで必須のICTスキルになっています。この授業で技術をマスターしてください。エクセルに強くなれて良かったとの感想を毎年いただいています。 ・エクセル統計ベルカーブの使い方を習得しますが、実験や卒業研究に役立ちます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	数理統計について、ディスカッションしながら理解する回が２回あります。
情報リテラシー教育	○	統計情報の分析方法を学びます。
ICT活用	○	エクセルソフトウェアの使い方を習得します エクセル統計ベルカーブ（エクセルのアドインソフトウェア）の使い方を習得します

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎サイエンス実験		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし
准教授	黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R11010M13
授業概要(教育目的)	実験実習を通して，食品科学の基礎となる化学・生化学・生物学の考え方と実験技術を学ぶ。試薬調製，ガラス器具の操作，滴定や酵素反応などの基本的な実験操作や生物学の基礎実験を実習し，クリティカルシンキング，仮説構築と検証など基本的な考え方を理解する。また，ラボノートの作成や研究倫理についても学習し，専門科目の学びの基盤を築く。
履修条件	・履修人数が多い場合には、生物分野と化学分野を前後半で入れ替えて実施します。また、RAとRBで履修人数が大きく異なる場合は、ガイダンス時に、くじ引きにより前後半の人数を調整することがあります。 ・化学実験では、頭髪・爪・服装・履物について条件があります。 ・事故や怪我を起こさないように、体調管理を整えて参加してください。安全上問題があると判断した場合は、退出していただく場合があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	動植物細胞や生物の構造・特徴を具体的に列挙できる 化合物の化学構造と性質の関係が理解できている モル・pH・中和反応など、化学分析の基礎的な概念が理解できている
思考・判断の観点（K）	実験結果から作用機序等について理論的な推論が行える 自然科学を背景とした合理的で根拠に基づいた考え方が身についている
関心・意欲・態度の観点（V）	グループ内でコミュニケーションを取り，協調して実験操作できる 主体的に実験に参加し，グループでの討論に参加できる
技術・表現の観点（A）	顕微鏡操作に習熟する 薬品等の計量・扱いができる 化学反応の観察・測定ができる 化学分析に必要な計算ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション／班分け・準備作業，科学的思考法の説明	・班分けとそれに伴う実験の準備，実験を行うにあたっての基本的な注意事項を説明する。 ・科学的思考法を理解する。 ・実験ノートの記載方法を理解する。 ・化学の基礎を理解し、ガラス器具の使用方法など、実験の安全について学ぶ。		0分
第2回	顕微鏡・ミクロメーターの使い方	顕微鏡の各部名称・操作方法を説明し，ピント合わせ，絞り調節などの基本操作を行う。さらに，ミクロメーターの使用法を説明し，各倍率での目盛の計算を行う。	事前にテキストの該当部分を熟読し，顕微鏡各部の名称や基本的な操作手順について理解しておく。	0分
第3回	植物細胞の構造	植物細胞を材料として顕微鏡操作に慣れる。植物細胞内の構造を観察し，その形態・特徴を記述する。さらに，	事前にテキストの該当部分を熟読し，実験の手順について理解	0分

		ミクロメーターを用いて細胞の大きさを測定する。	しておく。また，顕微鏡の操作方法についても確認しておく。	
第4回	動物細胞の構造	動物細胞の観察を通じて，顕微鏡操作に習熟する。前回行った植物細胞の観察から得られた知識から，動物細胞の特徴を理解する。ヒトの上皮細胞や血液細胞（血球）の特徴を理解する。	事前にテキストの該当部分を熟読し，実験の手順について理解しておく。また，顕微鏡の操作方法についても確認しておく。	0分
第5回	染色体の観察	遺伝情報の担い手であるDNAからなる染色体を顕微鏡で観察・確認する。また，チャイニーズハムスターの染色体図版を用いて核型分析を行い，染色体のしくみについて理解を深める。	事前にテキストの該当部分について熟読し，実験の手順について理解しておく。また，顕微鏡の操作方法について確認しておく。	0分
第6回	【化学分野①】物質の構造の基礎	・分子模型を用いて、基本的な有機化合物の構造を理解します。 ・試薬の形状や香りを観察します。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第7回	【化学分野②】有機化合物の性質	・脂質のサンプルを用いて、溶媒への溶けやすさ・融点を調べます。 ・物質の構造と性質の関連性を学びます。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第8回	【化学分野③】有機化合物の分離	・植物性食品に含まれる色素を薄層クロマトグラフィーを利用して分離します。 ・クロマトグラフィーの原理を学びます。	次回の実験方法をノートに記載すること。	
第9回	【化学分野④】モルの概念と計算／試薬の調製	・モルの概念を理解します。 ・濃度を理解し、計算方法を学びます。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第10回	【化学分野⑤】酸と塩基（１）中和滴定	・中和滴定の原理を理解します。 ・中和滴定を利用して、濃度を計算する方法を学びます。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第11回	【化学分野⑥】酸と塩基（２）pHと緩衝作用	・化学平衡を理解します。 ・pHの計算方法を学びます。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第12回	【化学分野⑦】酸と塩基（３）計算と分析	・モル・中和・pH・緩衝液を復習し、ミスなく計算できるようにします。 ・エクセルを利用したグラフと近似式の作図方法を学びます。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第13回	【化学分野⑧】アミノ酸のニンヒドリン反応／ランベルト・ベールの法則	・アミノ酸のニンヒドリン反応を理解します。 ・分光分析の原理を理解します。 ・ランベルト・ベールの法則を理解し、計算方法を学びます。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第14回	【化学分野⑨】酸化と還元／酵素反応	・酸化と還元の基礎を学びます。 ・リポキシゲナーゼの反応を観察します。	次回の実験方法をノートに記載すること。	0分
第15回	【化学分野⑩】化学の基礎（まとめ）	・化学の基礎を復習し、2年次以降の専門的な学びの準備をします。 ・模擬試験を解いて、理解が不十分なところを復習してください。	・ラボノート・テキストを読み返し、学んだことを復習してください。 ・期末試験に備えて、計算方法などを確認してください。	0分

学習計画注記	「実験」形式の授業なので，事前・事後学習の時間を設定していないが，必ず実験を行う前にテキストを熟読しておくこと。授業開始時には簡単な注意事項を述べるのみで，すぐに操作に入ることもあるので，班メンバー間で実験作業の流れについて確認しておくこと。 【実験ノートについて】 ・実験ノートは、『ラボノート』を利用することを勧めます。ラボノートは、KVAショップで購入できます。 ・ルーズリーフは、使用しないでください。綴じノートを利用してください。 ・ラボノートを利用しない場合も、罫線ノートよりも、方眼ノートの方が良いです。
学生へのフィードバック方法	生物分野 毎回ラボノートに必要な事項を記載し提出してもらう。提出したラボノートノートは添削・コメントを付けて，次の授業開始時に返却する。毎回終了時にアンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については，次の授業の冒頭に改めて説明する。 化学分野 適宜、化学の基礎の理解度を測るテストを出題します。正解できなかった場合は、良く復習しておくこと。期末試験の対策にもなります。
評価方法	生物分野 実験に積極的に参加し，自身の役割を果たそうとしているか。顕微鏡操作技術や基本的な実験技術をを修得しているか。観察事実に基づく推論を行っているか等を評価する。 化学分野 ・授業への参加度をルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomに掲示します。 ・期末試験により授業の理解度を評価します。期末試験は、ラボノートとテキストの持ち込みを可とします。マニュアルと資料の持ち込みは不可です。マニュアルのテキストへの添付も不可です。必要な情報を手書きすること。テキストは、本人のものであることを確認するために検印をします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
顕微鏡操作・実験技術の習得	○			○
実験に積極的に参加		○	○	
実験結果の理論的な考察	○	○		○
授業への参加度	○	○	○	○
期末試験	○	○		○

評価割合	生物分野：平常点（アンケートへの回答状況を含む）50%，ラボノートの内容50% 化学分野：授業への参加度70%，期末試験30%
使用教科書名(ISBN番号)	生物分野：テキストを配付する。 化学分野： 理系大学受験 化学の新研究 改訂版 三省堂（ISBN: 978-4385260938） その他、資料・マニュアルを配布する
参考図書	生物の実験法Ⅰ　培風館／教養　生物学実験　共立出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食に関わる問題を科学的に考察するために必要な基礎知識が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中に発見された課題について，理論的に考え分析・総合する力が身につきます。 【関心・意欲・態度】自ら考え，課題の解決に向けてチームでディスカッションする力が身につきます。 【技能・表現】客観的な判断をするために必要なデータを収集する技能が身に付きます。また，成果を効果的にプレゼンテーションすることができます。
オフィスアワー	生物分野：後期　火曜日2限・昼休み（10:40～12:30）生物学研究室（2205） 化学分野：実験終了後、またはZoom。Zoomでの面談を希望する場合は、Gmailで予約してください。
学生へのメッセージ	実験という体験を通して，基本的な実験技術と科学的思考法（仮説を立て，その真偽を検証し，結果を考察，結論する）を身につけます。思考の過程は，ラボノート等に記録しますが，記載方法は添削等を通して指導します。実験を進める上で必要となる化学・生化学・生物学分野の知識も学んで行きますが，基礎知識があると実験内容の理解が進みます。そのため，化学・生物学系の基礎科目の履修や，高校化学・生物学の教科書の復習により理解を深めておくことを薦めます。 化学分野の学びは、食品学や栄養学を理解する基礎となります。十分な基礎がないと、食品学や栄養学の学びが表層的になり、本質的に理解できません。本授業は選択科目ですが、化学に不安がある学生はぜひ積極的に履修することをお勧めします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	生物分野 観察結果・実験結果の評価・考察について班単位で検討し，検討結果をもとにクラス全体で考える。
情報リテラシー教育	○	化学分野 各種データベースの利用方法を学びます。
ICT活用	○	化学分野 マイクロソフトエクセルを利用した測定値や理論値の演算、グラフの作図等を学びます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食と語学A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	R11011M12
授業概要(教育目的)	栄養・食の専門家として、国際的な視野を持つために、「食」をキーワードに国際的なコミュニケーション能力・外国語運用能力を有する学びを展開する。「食」をグローバルに発信できるスキルを身に着ける。なお、本科目は、フードビジネスアドミニストレーター資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「食」に関係する英語を、日常会話から基礎的な専門用語にまでわたって知る、理解する。
思考・判断の観点（K）	食と栄養教育における日米の多少の違いを掴む。
関心・意欲・態度の観点（V）	外国人と積極的に英語で「食」について話し合えるよう、自信と興味を身に着ける。
技術・表現の観点（A）	「食」に関係して知った英語を、教室内での練習を経て、実生活で使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Meeting People	英語で自己紹介をする。大学での勉強のことや、大学外での自分のこと、興味のあること等を英語で会話をする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	Talking about the Kitchen (1)	1. 各種台所用品の英語を学ぶ。 2. 台所用品の置き場所が説明できるようにするために、場所を表す前置詞や形容詞を学び、クラスメートと練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	Talking about the Kitchen (2)	前回に続いて各種台所用品の英語を学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第4回	Likes and Dislikes	1. 自分の食べ物の好き嫌いを英語で話せるようにし、クラスメートと練習する。 2. 人の話したことへの肯定、否定の返答の表現を学び、練習する。 3. クラスメートと相談しながら、自分の興味ある日本、その他の国の料理をインターネット等で調べ、次回の授業で英語で発表できるように準備をする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容の3を完成させておくこと。	60分
第5回	1. 自分が興味がある料理についての英語での発表。（発表①） 2. Ordering	1. 自分が興味を持っている料理を英語で発表する。内容と聞き取り易さの2面から評価する。 2. 食品の買い物を例にして、各種食品の数の数え方、量の計り方を学ぶ。（可算名詞、不可算名詞の学習）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

	Food: What Do We Need?			
第6回	At a Restaurant	1. レストランでの注文の場面の英語を学び、練習する。 2. 自分の好きなレストランについて、英語で紹介できるようにする。（次回で発表）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。	60分
第7回	1. 自分の好きなレストランについての英語での紹介 2. Cooking	1. 前回の授業で作成した自分の好きなレストランの英語での紹介を発表する。（発表②） 2. 具体的な調理手順を英語で聞き、話せるようにする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Recipes	1. 英文レシピを読めるようにする。 2. 自分で料理を選んで英文レシピを作成する。（次回で発表）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。	60分
第9回	1. 自分で作成した英文レシピの発表 2. Giving Dietary Advice	1. 前回の授業で作成した英文レシピの発表をする。（発表③） 2. 栄養指導で重要となる英語を学び、練習する。 3. 食品各種のグリセミック指数（血糖指数）を学ぶ。 4. 「～しなさい」、「～してはいけません」の英語を練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	Talking about Diets (1)	1. 食関係の場面を例として、英語での頻度の表し方を学び、練習する。 2. 日米のそれぞれの外食利用の頻度を比較する。 3. 頻度の表現を含めて、自分の食生活を英語で紹介できるようにする。（次回で発表）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第11回	1. 自分の食生活についての発表 2. Researching Diet Information	1. 前回の授業で作成した自分の食生活についての英語での発表をする。（発表④） 2. 食品各種の栄養価について英語で聞き、話せるようにする。 3. 食品の英語での栄養分析表を読む練習をする。 4. バランスの良い食生活のための食品チャートの日米の違いを知る。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Life as a Dietitian	栄養士の仕事内容を英語で説明できるようにし、将来自分がどのような栄養士として働きたいのか、を英語で作成する。（次回で発表）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容を完成させておくこと。	60分
第13回	1. 自分が将来どのような栄養士として働きたいのかの英語での発表 2. Talking about Diets (2)	1. 前回の授業で作成した将来の希望についての英語での発表（発表⑤） 2. さらに食関係の英語を学ぶ。 3. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所をクラスメートと相談しながら考え、英語で作成する。（次回で発表）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第14回	1. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表 2. People with Special Dietary Needs	1. 前回の授業で作成した日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表をする。（発表⑥） 2. 特別食が必要な人達のための栄養指導で使われる英語を学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	Talking about Food Experiences	自分の過去の食体験について語る。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回での小テストは採点してその次回の授業で返却する。
評価方法	小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する（5点満点）。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では個人発表を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
小テスト	○	○		○
発表	○	○	○	○

評価割合	発表50%、小テスト50%
使用教科書名(ISBN番号)	Speaking of Nutrition（南雲堂、2017）978-4-523-17827-9
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】世界での多様な食環境、食文化を知るとともに、外国人相手で日本食を英語で紹介でき、相手の状態に合わせて英語での基礎的な栄養指導を行えるようにコミュニケーション力をつける。 【思考・判断】食品各種の持つ栄養価についてのアメリカでの資料、アメリカと日本とでの外食の頻度の違い、両国での栄養指導方法の違い等を考える。 【関心・意欲・態度】栄養士としての関心を国内に限らず、外国人とも英語で栄養指導をしたり、食事、食習慣について話そうとする意欲と態度を養う。 【技能・表現】英語で、基礎的な栄養指導ができ、将来自分が目指す栄養士像を話すことができ、日本食の紹介ができたり、好きなレストランの紹介ができたりするようにする。
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目
学生へのメッセージ	食と栄養について、そう難しくなく、重要な英語を学べる教科書です。発表の内容も重要なことが選ばれています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習や共同作業
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食と語学B		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	R21013M12
授業概要(教育目的)	「食と語学A」に続き、栄養・食の専門家として、国際的な視野を持つために、「食」をキーワードに国際的なコミュニケーション能力・外国語運用能力を有する学びを展開する。「食」をグローバルに発信できるスキルを身に着ける。なお、本科目は、フードビジネスアドミニストレーター資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.　「炭水化物」、「タンパク質」、「脂質」等、栄養学の重要表現の英語を学ぶ。 2.　近年、食にまつわり話題にされている事柄を知る。
思考・判断の観点（K）	1.　自分の食生活を栄養学的に判断する。 2.　日本と諸外国の食とを比較検討する。
関心・意欲・態度の観点（V）	初歩的な栄養学への興味を引き出し、近年の食を取り巻く諸問題を考えることに発展させる。
技術・表現の観点（A）	「食」を題材にして、英語自体の勉強をする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Unit 1　エネルギー産生栄養素	炭水化物、タンパク質、脂質の体内での働きを学ぶ。	自分が昨日食べたものを炭水化物、タンパク質、脂質に分け、翌週発表。	60分
第2回	Unit 2 栄養学：略史	18世紀に壊血病の予防法の発見から始まり、20世紀に大きく発展した栄養学を歴史的に概観する。	自分の普段の食事バランスを検討して、翌週発表。	60分
第3回	Unit 3 主食	世界各地域の主食について学ぶ。	和食と外国の食との違いを考え、翌週発表。	60分
第4回	Unit 4　食の文化遺産	和食のみが食の文化遺産ではないことを学ぶ。食の文化遺産登録の意味を考える。	自分の好きな外国料理について調べて、翌週発表。	60分
第5回	Unit 5　弁当箱のアート	今日、日本の弁当は国内だけでなく、国外からも注目を受けている。その理由を考える。	自分の作りたい弁当のデザインを描いて、翌週発表。	60分
第6回	Unit 6 日本の給食制度	日本の学校給食の独自な点を考える。	学校への弁当持参と給食とどちらの方が好きか、その理由とともに翌週発表。	60分
第7回	Unit 7 こども食堂	近年増えてきているこども食堂について考える。	自分の知っている食に関するボランティア活動について、翌週発表。	60分
第8回	Unit 8 スーパーフー	近年増えてきているスーパーフードのはらむ問題について考える。	自分で実行している健康食について、翌週発表。	60分

	ド			
第9回	Unit 9 ハラルフード	今日日本でもイスラム教徒のためにハラルフードが食べられるようになってきていることについて学ぶ。	外国人にとって食べやすい和食と食べずらい和食について考え、翌週発表。	60分
第10回	Unit 10 味覚	現在分かっている味覚の仕組みについて学ぶ。	自分が食品を購入する時に気にすることを翌週発表。	60分
第11回	Unit 11 機内食	人間の味覚は飛行機の中では変わるとのこと。そこを考えて機内食は作られることを学ぶ。	自分が作りたい機内食のデザインを描いて、翌週発表。	60分
第12回	Unit 12 砂糖	砂糖の取りすぎが健康に悪影響を与えることについて学ぶ。	自分で砂糖の取りすぎを気にするかどうかをその理由とともに翌週発表。	60分
第13回	Unit 13 砂糖税	砂糖の取りすぎによる健康への悪影響を抑えるために砂糖税を設けた国があることを学ぶ。	日本でも砂糖税が必要かどうかを考え、翌週発表。	60分
第14回	Unit 14 抗酸化物質	老化を防ぐと言われる抗酸化物質について学ぶ。	抗酸化物質の上手な取り方を考え、翌週発表。	60分
第15回	Unit 15 遺伝子組み換え食品	遺伝子組み換え食品のいい点、悪い点について学ぶ。		

学生へのフィードバック方法	毎回の授業での小テストは採点して次回の授業で返却する。
評価方法	小テストは毎回で行う。各授業ごとに重要なところを指摘する。その中から次回の授業で5問を選んで出題する（5点満点）。第15回目の授業分の小テストはその時間中に行う。遅刻、欠席で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験はレポートとする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		○
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	レポート60%、小テスト40%
使用教科書名(ISBN番号)	健康生活に見る食育と栄養（入門編）（南雲堂、2020）978-4-523-17896-5
参考図書	食ことば英語辞典（小学館、2004）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養学の基礎的なことを英文でおさらいをする。さらに、食にまつわる今日的ないくつかの注目すべきトレンドについて、英文を通じて理解を深める。 【思考・判断】食にまつわる今日的な状況について、客観的な立場で考慮できるような態度を養う。 【関心・意欲・態度】今日の食にまつわる社会的状況と自分の日常の食生活との関連を見出し、食についての視野を広め、深め、栄養学への関心を喚起する。 【技術・表現】食を題材にして、英語の読解力、英単語力、会話力の上達をはかる。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限、昼休み、4時限
学生へのメッセージ	「食と語学A」の教科書に比べてより英語学習が中心となっています。題材はすべて食についてです。学習者にとってあまり難しくなく、興味が持てるように注意して作られています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習と協同作業
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	社会福祉学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし

ナンバリング	R11006M21
授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史てき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。 この授業対象者が栄養士を目指していることに鑑み、食と社会福祉の関連についても理解を深めていくことを目的として授業を展開する。 授業方法は、大学からの指示に従う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基本的人権の保障としての社会福祉やその展開方法としてのソーシャルワークが理解できる　また社会保障を理解し、その中で福祉６法の果たす概略を理解できる
思考・判断の観点（K）	社会福祉の制度と実践を理解し、ボランティア活動などで実践し、自らが評価できる
関心・意欲・態度の観点（V）	社会的弱者と当事者の視点に関心を持ち、共生の思想と実践の意欲や態度を持つことができる
技術・表現の観点（A）	ソーシャルワークの方法に基づいたケアプラン作成のスキルを身に着け、モデルを通じて展開してみる

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	○オリエンテーション＝社会福祉の問題に私たちはどのように関わっているのか＝	新聞やインターネットの記事か社会福祉の問題を探す	社会福祉の問題は、どのような問題で、どのような課題があり、どのような解決が求められているのかを考えてみる。その際、何か一つの問題に関心を向けて考える（例えば児童虐待　貧困　　認知症高齢者等）	120分
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	社会福祉の記事を調べてみる。それを通してこの国はどのような社会構造を持つのかを考える（インターネットからのニュースや記事をチェックする）	２４０分
第3回	人は一人で生きられるか　逆に人はなぜ、他者を気にし、忖度までしようとするのか？なぜ、KYではいけないのか？	アッシュの実験　　ローソン工場の実験を通して、人と社会の関係はどのような形であるかを考える	YOUTUBEで「アッシュの実験」を調べておく。また授業後、授業で取り上げた「同調圧力」を理解する	２４０分
第4回	社会福祉の歴史 社会福祉の歴史❶　イギリスの発達史	中世から救貧法までを学ぶ　なぜ「救貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ。なぜ宗教改革と貧困者救済が関係あるかを学ぶ　言葉：「いとちいさきもののひとりになしたるは、われになしたり」「働かざる者食うべからず」	世界史の教科書またはYOUTUBEででヨーロッパ中世の出来事をおさえておく　特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する　救貧法を知る	２４０分
第5回	社会福祉の歴史❷　ロンドンCOSが果たした役割と限界	1601年の救貧法は国家による貧民救済の歴史上エポックメイキングであった。ただし、その救済は、ワークハウスという過酷な強制労働であり、救済に値するものではなかった。こうした厳しい締め付けは国民の反発を招き、これから200年にわたる飴と鞭が繰り返された。その中で登場するのが「COS（慈善組織協会）」である。この活動はケースワークの萌芽とも呼ばれる画期的なものであった。しかし、この活動も社会的批批判を受け、衰退する。そして歴史は大きく動く・・	救貧法から新救貧法そして慈善組織協会の流れを理解する 特に「COS]について学んでおくこと。なぜ働かざる者食うべからずなのか？あなたの考えをまとめる。	２４０分
第6回	社会福祉の歴史❸　リッチモンドとソーシャルワークの体系化（専門化）	ソーシャルワークの発展を考える時、リッチモンドは欠かせない。苦労人であったこの女性は、「何百のケースとのかかわりのなか」からソーシャルワークの土台を作った。「生活問題は、個人の問題と社会の問題の中間で生まれる」何を意味しているのか、リッチモンドの人となりに触れながら、探求する。	リッチモンドを調べておく。特に女性の生き方ついての一つのモデルとして、考えてみる。	２４０分
第7回	ソーシャルワークを学ぶ❶	ソーシャルワークの定義を学ぶ。国際ソーシャルワーカー連盟の定義、そしてグローバル定義。この二つの定義からソーシャルワークはどのような問題や課題を解決することかを理解する・	国際ソーシャルワーカー協会の「ソーシャルワークの定義」を調べる	２４０分

第8回	ソーシャルワークを学ぶ❷	グローバル定義を学ぶ。近年ソーシャルワークでは「グローバル定義」が一般化されている。社会の変化特にダイバシティや少数者（マイノリティ）への配慮へソーシャルワークがどのうに向き合うか問われている。具体的な事案からこの問題を議論してみたい。	グローバル定義を以下のサイトで確認しておく・https://www.jacsw.or.jp/06_kokusai/IFSW/files/SW_teigi_01705.pdf	２４０分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ❷	方法の学び❶　ソーシャルワークの体系（１）直接援助技術　（２）間接援助秘術　　（１）ケースワーク　（２）グループワーク　（２）　社会調査　ソーシャルアドミンストレーション　地域福祉　がある。今回は〇ケースワークの歴史、概念、定義　原則を学ぶ	バイスティックの原則を勉強しておく。特に＊統御された情緒関与　＊意図的な感情表出　は十分理解する	２４０分
第10回	ソーシャルワークを学ぶ❷	方法の学び❶　ケースワーク　　（直接援助技術）　成り立ち　変遷　定義　アプローチ　原則　プロセス　　❷グループワーク　　（直接援助技術）　定義　集団活動との違い　原則　プロセス 例題からどの方法を使って問題解決を図るか検討する。	前回に続きバイスティックの原則を勉強しておく。　集団の建設的側面、破壊的側面とは何かを理解する	２４０分
第11回	ソーシャルワークを学ぶ❸　社会調査とは何か　質的調査と量的調査 視聴率調査、内閣支持率調査 インタビュー調査　事例調査	私が生きてきた時代について。一人一人の歴史を時代状況とクロスさせながら書いてみる	私の生い立ちを親からインタビューする	２４０分
第12回	児童福祉の学び　障害者福祉とICF	現代の課題　虐待問題をネットニュースなどから学ぶ 虐待とは何か　虐待増加の社会的背景　虐待が引き起こされる状況 虐待防止の取り組み ▼障がい者福祉の中でICFという概念が注目されている。人の生活課題は、個人ご環境との関係で規定される。まさにソーシャルワークの考えそのものだ。これを事例から学びたい	児童虐待を新聞記事から学ぶ ICFを調べておく	２４０分
第13回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから学んでおく	２４０分
第14回	介護保険を学ぶ	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険とは何か　どのようなサービスをどのようにして受けられるのか　インターネットから学んでおく	２４０分
第15回	現場の方からのお話（ソーシャルワークを実践しながら思うこと。学生に伝えたい現場の楽しさ。給料もお話してもらいます）	❶現場の話を聞きながら、ソーシャル枠の必要性と社会福祉の意義を理解する ❷授業のまとめ	〇特別養護老人ホーム、高齢者デイサービスセンター、地域包括支援センターを調べておく	120分

学習計画注記	外部施設への見学は感染状況を見極めてきめます
学生へのフィードバック方法	提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション
評価方法	❶中間試験 ❷実務家講演のコメント ❸学期末試験 ❹平常点
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○		○	
	コメント		○	○	
	学期末試験	○			

評価割合	❶中間試験　３０％ ❷コメント　２０％ ❸学期末試験４０％ ❹その他　平常点　１０％
使用教科書名(ISBN番号)	別途指示　今年は予定していません
参考図書	別途指示
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 　・社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】 　・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている・生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある・生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】 専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている・生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスアワー	毎週月曜日２時限 ✉相談
学生へのメッセージ	食と社会福祉との関連を考えながら授業を作っていきましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かに配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	公衆衛生学Ⅰ（総論）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 伊藤　僚子	指定なし

ナンバリング	R20101M21
授業概要(教育目的)	公衆衛生学ではヒトの集団を対象とし、疾病の予防、健康の保持と増進等を学ぶ。本講義では、『環境問題と健康』、『依存症』（たばこ、飲酒、ゲーム）、『感染症』、『高齢者』などをテーマに、日本社会が抱える健康問題とその対策について学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	主要な生活習慣病と感染症の疫学と予防対策について説明できる。
思考・判断の観点（K）	生活習慣病、感染症等の疾病と社会構造との関連性を理解し、これらの健康問題に対する、住民参加の健康対策の展開方法がわかる。
関心・意欲・態度の観点（V）	講義、演習課題をとおして、「健康問題の原因を追究し、解決する。」という公衆衛生学的視点を身に付ける。
技術・表現の観点（A）	栄養士の専門知識を生かして、他の保健・医療・福祉分野の専門家と共に、公衆衛生活動を遂行できる技術を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	衛生と公衆衛生	公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理	「健康」に関する自分の考えをもってから出席してください。	120分
第2回	ヘルスプロモーション	健康日本21（第二次）とソーシャル・キャピタル	「健康日本21（第二次）」について調べておく。	120分
第3回	環境と健康１	生態系と環境保全、環境汚染と健康影響	代表的な公害について調べておく。	120分
第4回	環境と健康２	放射線の健康影響	予習：厚生労働省『食品中の放射性物質への対応』に目をとおしておく。	120分
第5回	格差社会と健康	社会的弱の健康問題	日本における結核の流行状況について調べておく。	120分
第6回	生活習慣の現状と対策１	食生活、身体活動、休養	予習として厚生労働省の国民健康栄養調査の結果に目を通しておく。	120分
第7回	生活習慣の現状と対策２	喫煙	健康増進法について調べておく。	120分
第8回	生活習慣の現状と対策３	飲酒	日本における飲酒量の変化について調べておく。	120分

第9回	主要疾患の疫学と予防対策１	悪性新生物、循環器疾患	日本におけるがん検診の制度について調べておく。	120分
第10回	主要疾患の疫学と予防対策２	代謝疾患と骨・関節疾患	骨粗しょう症について調べておく。	120分
第11回	主要疾患の疫学と予防対策３	口腔保健	虫歯、歯周病とはどのような病気か、予習をしておく。	120分
第12回	感染症対策１	感染症と関連法規　COVID-19、鳥インフルエンザ等	感染症の法律について調べておく。	120分
第13回	高齢者保健	高齢者福祉サービスの現状について	介護保険制度について調べておく。	120分
第14回	精神保健対策	精神保健関連制度と現状	精神保健対策の歴史と現状について調べておく。	120分
第15回	総合演習	環境問題と安全安心の食料供給	フードマイレージ、バーチャルウォーターについて調べておく。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内課題については、各授業で解説します。質問は授業後・次回授業前ならびに、e-mailでも対応します。
評価方法	演習課題と定期試験で評価します。 演習課題では、まず、『公衆衛生学的視点』を理解することが 求められます。次に、公衆衛生学視点で『健康問題の解決方法が理解できているか』評価します。 試験では、栄養士として公衆衛生活動を行うために必要な、法律、理論などが身についているのかを評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内課題	○	○	○	
	定期試験	○			○

評価割合	演習課題30点、定期試験70点で評価をする。
使用教科書名(ISBN番号)	川添　禎浩編　新食品・栄養科学シリーズ　『社会・環境と健康』化学同人
参考図書	「国民衛生の動向」　厚生統計協会
ディプロマポリシーとの関連	○知識・理解 学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 ○思考・判断 多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている ○関心・意欲・態度 食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる
学生へのメッセージ	公衆衛生学では、『物事を考えること』を重視しており、スマホの返信とは異なる思考力が求められます。戸惑うかもしれませんが、慣れていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学病院勤務、国際協力（インドネシアの保健所、国際緊急援助隊）、特定保健指導の経験を踏まえ、広い視野から公衆衛生学について講義を行う。(管理栄養士免許所持)
アクティブ・ラーニング	○	グループごとに課題に取り組む参加型授業も取り入れる。
情報リテラシー教育	○	予習として、インターネットを活用した厚生労働省のHPなどからの情報収集が求められる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	公衆衛生学Ⅱ（各論）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 伊藤　僚子	指定なし

ナンバリング	R30102M21
授業概要(教育目的)	公衆衛生学ではヒトの集団を対象とし、疾病の予防、健康の保持と増進等を学ぶ。本授業では疫学と保健・医療・福祉政策の各論を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康、疾病、行動にかかわる統計について説明できる。 疫学の方法、保健・医療・福祉政策について説明できる。
思考・判断の観点（K）	公衆衛生学の各領域について、栄養士を目指す者として自分の考えをもち、他者の意見を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会・環境と健康の現状と課題について、関心をもつことができる。
技術・表現の観点（A）	健康情報を効率的に収集し、その質を評価することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	厚生統計1	人口動態統計　生命表	平均寿命、健康寿命について予習をする。	120分
第2回	厚生統計2	出生率、少子化対策	日本の出生率の変化、少子化対策について調べる。	120分
第3回	母子保健	母子保健法　妊産婦、乳幼児の健康対策	母子保健法について調べる。	120分
第4回	厚生統計3	死亡統計	日本の死因について、時代とともにどのように変化をしたのか調べておく。	120分
第5回	厚生統計4	疾病統計	『疾病統計』とはどのような統計なのかを調べておく。	120分
第6回	保健・医療・福祉のしくみ	社会保障制度の概要と今後	保健所の仕事内容、病院の仕事内容、福祉施設の仕事内容について把握しておく。	120分
第7回	医療制度、医療法と医療計画	医療法、医療計画	日本の医療費について調べておく。	120分
第8回	疫学	疫学とは、疫学調査法	疫学について教科書を読んで予習をする。	120分
第9回	生活習慣病対策１	特定保健指導	生活習慣病とは何か、予習をしておく。	120分

第10回	学校保健	学校保健の制度と役割	学校関連の法律にはどのような法律があるのか、把握しておく。	120分
第11回	産業保健	労働者の健康管理　過労死	過労死の事例について調べる。	120分
第12回	生活習慣病対策2	健康日本21	健康日本21について調べる。	120分
第13回	危機管理	災害対策、災害時の対応	自分の家の備蓄食品を把握しておく。	120分
第14回	国際保健	国際的な健康づくりの取り組み	SDGｓとは何か、調べておく。	120分
第15回	総合演習	グループ別参加型学習。健康対策シュミレーション。	健康になるために必要な社会の条件について考えておく。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内課題については、各授業で解説します。質問は授業後・次回授業前ならびに、e-mailでも対応します。
評価方法	演習課題と定期試験で評価します。 演習課題では、まず、『公衆衛生学的視点』を理解することが 求められます。次に、公衆衛生学視点で『健康問題の解決方法が理解できているか』評価します。 試験では、栄養士として公衆衛生活動を行うために必要な、法律、理論などが身についているのかを評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内課題	○	○	○	
	定期試験	○			○

評価割合	演習課題30点、定期試験70点で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	川添　禎浩編　新食品・栄養科学シリーズ　『社会・環境と健康』化学同人 （2021年度後期『公衆衛生学I』のテキストを継続して使用します。）
参考図書	「国民衛生の動向」　厚生統計協会
ディプロマポリシーとの関連	○知識・理解 学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 ○思考・判断 多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 ○関心・意欲・態度 食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
学生へのメッセージ	公衆衛生学は、健康問題を解決していく学問です。本講義でも、「自分で調べて、自分で考える。」ことを重要視します。社会の健康問題について調べ、自分なりの意見を持てるようになっていただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学病院勤務、国際協力（インドネシアの保健所、国際緊急援助隊）、特定保健指導の経験を踏まえ、広い視野から栄養士養成に向けた講義を行う。(管理栄養士免許所持)
アクティブ・ラーニング	○	グループで取り組む参加型授業も実施予定である。
情報リテラシー教育	○	本講義では、総務省統計局や厚生労働省などの統計について解説を行うが、学生自身も、HPで最新情報について調べ、積極的な授業への参加が求められる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	解剖生理学Ⅰ（解剖学）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 林　省吾	指定なし

ナンバリング	R10201M21
授業概要(教育目的)	解剖生理学は，人が生きていくための，体のしくみを学ぶ学問である。解剖学者は，人体のかたち（構造）からしくみを明らかにしようとし，生理学者は，人体のはたらき（機能）からしくみを明らかにしようとする。かたちとはたらきは，車の両輪であり，かたちを知らずしてはたらきを明らかにすることはできないし，はたらきを知らずして，かたちを明らかにすることはできない。とは言え，かたち（の一部）は目に見えるため，比較的取り付きやすい（ように見える）が，はたらきは目に見えないので，一見難しい（ように見える）。そこで，解剖生理学Ⅰ（解剖）では，まず人体のかたち（構造）を学び，そこから理解できる範囲のはたらき（機能）に触れることで，人体の基本的なしくみを学ぶ。次年度の解剖生理学Ⅱ（生理）では，解剖生理学Ⅰ（解剖）で学んだ人体のかたちを武器に，より深く人体のはたらきを学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人体の基本的な構造と機能を理解し，自分の言葉で説明できる。
思考・判断の観点（K）	人体の構造と機能についての基礎知識をもとに，健康に関する客観的な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	解剖生理学の知識を活かし、それぞれの立場から社会貢献しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	相手の知識や立場など，状況に応じて適切な説明手段を選び，相手に応じて説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	器官系，臓器（器官），組織，細胞	人体の大まかなかたちを学ぶ。	「はじめに」1B，2，3 第1章1A，2A，3，4A，5，6	120分
第2回	消化器系 1：消化管	食物（栄養）を摂取し，排泄する経路を学ぶ。	第2章1，2，4	120分
第3回	消化器系 2：消化腺	食物を消化・吸収し，栄養素に変えるための構造を学ぶ。	第2章2E，6D-F 第11章8	120分
第4回	呼吸器系 1：気道	空気を肺に出し入れする経路を学ぶ。	第2章3 第5章1-3	120分
第5回	呼吸器系 2：肺	体内に酸素を取り入れ，二酸化炭素を排出するための構造を学ぶ。	第5章4，5	120分
第6回	循環器系 1：心臓	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に送りだすための構造を学ぶ。	第4章1-3	120分
第7回	循環器系 2：血管 血液・リン	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に運ぶ血液・リンパの構成と，それらが流れる経路を学ぶ。	第4章5，7 第2章6E 第3章1，3A，4-6C	120分

	パ系 免疫系		第6章3A 第13章1A-C	
第8回	調節系1： 内分泌系	これまでに学んだ構造物を，血液を介して調節するしくみを学ぶ。	第10章1-3，4A，5A，6A，7A，8A 第2章6D 第6章1-3，4A，B，5	120分
第9回	体壁系（筋骨格系，皮膚）	人体を包む皮膚と人体を動かすための構造を学ぶ。	第8章1，2 第9章1，2A，B 第14章1，2 題12章6	120分
第10回	調節系2： 中枢神経系	これまで学んだ構造物を，神経を介して調節するしくみを学ぶ。	第11章1，2A-F	120分
第11回	調節系3： 末梢神経系，感覚器系	中枢神経系の指令を全身に送る経路，全身の刺激を中枢神経系に伝える経路を学ぶ。	第11章3，4，6-8 第12章	120分
第12回	泌尿生殖器系	摂取した食物（栄養）を排泄する経路とともに，次世代に子孫を残すための構造を学ぶ。	第6章1-4B 第7章 第10章9	180分

学習計画注記	毎回，下記の【予習】，【授業】，【復習】を行う。 【予習】 1.解剖生理学ノート 人体の構造と機能（以下「ノート」）の学習のポイントを読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に〇を付ける。 2.ノートのKeywordsを読み，「知らない用語」にX，「聞いたことはあるが，意味のわからない用語」に△，「意味まで知っている用語」に〇を付ける。 3.ノートの「書いてみよう！」に取り組む。 【授業】 1.ノート「要点整理問題」の重要（赤丸）項目を中心に，教科書を参照しながら解説する。取り上げた［カッコ］事項にチェック（✓）を付ける。［カッコ］の中は空欄のままにする。決して正解を書かないこと。 2.解説をメモするノートを別に用意してもよいが，ノートに直接書き込むことを推奨する。 【復習】 1.ノートの学習のポイントを改めて読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に〇を新たに付ける。予習時のマークを決して消さないこと（色を変えるなどして，予習時と復習時の見分けがつくようにしておくと良い）。 2.授業で取り上げた［カッコ］事項を，正解を見ずに記入する。記入できなかった場合は，空欄のままにせず，［X］と記入する。 3.記入した項目の正解を確認する，不正解の場合は，解答にXを付ける。決して解答を消してはならない。 4.教科書の下表の教室外学習に記載された範囲について，授業で取り上げた要点整理問題について書かれているところを中心に通読する。特に，これまで△やXだった項目は，（たとえ復習時に〇であっても！）必ず教科書で確認し，［カッコ］を付けるなどして必ず記録しておくこと。 ＊　上記【予習】・【授業】・【復習】の状況は、評価の対象である。（後述）
学生へのフィードバック方法	大学に登録してあるメールアドレスによる質問や意見を歓迎する。また，面接授業日に合わせて，対面による質問，学習相談にも対応する予定である。
評価方法	定期試験と教室外学習（授業後のノート）により評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	〇	〇		
	教室外学習（授業後のノート）		〇	〇	〇

評価割合	定期試験を主とし，適宜教室外学習（授業後のノート）の評価を加味する。
使用教科書名(ISBN番号)	解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版（栄養科学イラストレイテッド[演習版]）(978-4-758-11363-2) 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版（栄養科学イラストレイテッド）(978-4-758-11362-5)
参考図書	人体解剖ビジュアル（978-4-907-176273） イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき 第3版（978-4-260-03887-4） 新版 からだの地図帳（978-4-062-61025-4） からだの地図帳 解剖学用語（978-4-062-61026-1）
参考URL	http://physiology1.org/
ディプロマポリシーとの関連	人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。 食事や栄養が人体に与える影響について、客観的に判断することができる。
オフィスアワー	面接授業日に別途設ける。
学生へのメッセージ	この授業では，栄養士にとってもっとも重要な，食物（栄養）が人体を通過する経路（消化管）のしくみをまず取り扱う。そこからさらに，食物を消化・吸収して栄養素に変えるしくみ，栄養素を呼吸によってエネルギーを得るしくみ，エネルギーを使って体を動かすしくみを学んでいくことにしよう。さらに，体を動かすためには，動かそうと考え，その考えを伝えるしくみも必要になる。これら人体の基本的なしくみに関する知識と理解は，解剖生理学II(生理学)の学修の前提になるとともに，臨床栄養、病態生理などを学ぶための，重要な足がかりとなる。今，その山頂は目に見えないほど高く，とても登る気にならないかもしれません。だけど，どんな山で

	も，一歩踏み出せば，山頂は一歩近づきます。歩き続ければ，いつか山頂も見えるはず。まずは一歩を踏み出そう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	解剖生理学Ⅱ（生理学）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 林　省吾	指定なし

ナンバリング	R20203M21
授業概要(教育目的)	解剖生理学は，人が生きていくための，体のしくみを学ぶ学問である。解剖学者は，人体のかたち（構造）からしくみを明らかにしようとし，生理学者は，人体のはたらき（機能）からしくみを明らかにしようとする。かたちとはたらきは，車の両輪であり，かたちを知らずしてはたらきを明らかにすることはできないし，はたらきを知らずして，かたちを明らかにすることはできない。私たちは，解剖生理学I（解剖）で，まず人体のかたち（構造）を学び，そこから理解できる範囲のはたらき（機能）に触れることで，人体の基本的なしくみを学んできた。解剖生理学II（生理）では，解剖生理学I（解剖）で学んだ人体のかたちを武器に，より深く人体のはたらきを学ぶ。「解剖生理学」は人体の構造と機能について学ぶ学問である。解剖生理学I・IIを通して修得した，正常な（健康な）人体の構造と機能の基礎知識は，臨床栄養，病態生理などを学ぶ基礎となる。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人体の基本的な構造と機能を理解し，自分の言葉で説明できる。
思考・判断の観点（K）	人体の構造と機能についての基礎知識をもとに，健康に関する客観的な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	解剖生理学の知識を活かし、それぞれの立場から社会貢献しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	相手の知識や立場など，状況に応じて適切な説明手段を選び，相手に応じて説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	細胞と組織	すべての臓器に共通する，細胞と組織の機能を学ぶ。	「はじめに」 第1章1B，2B3，4B，5，6	180分
第2回	消化器系 1：消化	食物（栄養）を摂取し，排泄するまでの機能を学ぶ。	第2章1B，4，5 第12章7 第11章2A-2），B-4），D-3），8	180分
第3回	消化器系 2：吸収	食物を消化・吸収し，栄養素に変えるための機能を学ぶ。	第2章6 第10章6C	180分
第4回	血液・リンパ・凝固系	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に運ぶ機能を学ぶ。	第3章1，2，3B-E，4，5，6B-D，7 第6章3-5 第10章6，7A-C，8	180分
第5回	呼吸器系	体内に酸素を取り入れ，体外に二酸化炭素を排出する機能を学ぶ。	第5章6-8 第3章3C 第6章3E 第11章2B-4），D-3），8	180分
第6回	環器系1：心臓	栄養素，酸素，二酸化炭素を人体の各部分に送りだすための機能を学ぶ。	第4章2-4 第10章5，7D	180分

			第11章2B-4），D-3），8	
第7回	循環器系2：血管	血液が全身を円滑に流れるための機能を学ぶ。	第4章6，8 第6章3-5 第10章7B，D 第11章2B-4），D-3），8	180分
第8回	調節系1：内分泌系	これまでに学んだ機能を，血液を介して調節するしくみを学ぶ。	第10章3-8 第6章4，5 第2章6D 第11章2D-3），8	180分
第9回	体壁系（筋骨格系，皮膚）	人体を包む皮膚と人体を動かす筋の機能を学ぶ。	第8章3，4 第10章6 第14章 第9章2B-E，3 第11章5，7 第12章6	180分
第10回	調節系2：中枢神経系	これまで学んだ機能を，神経を介して調節するしくみを学ぶ。	第11章2，5-8	180分
第11回	調節系3：末梢神経系，感覚器系	中枢神経系の指令を全身に送る経路，全身の刺激を中枢神経系に伝える経路の機能を学ぶ。	第11章3，5-8 第12章	180分
第12回	泌尿生殖器系	摂取した食物（栄養）を排泄する機能とともに，次世代に子孫を残すための機能を学ぶ。	第6章2-4 第7章 第10章9	180分

学習計画注記	毎回の授業は，下記の【予習】，【授業】，【復習】のプロセスで行う。 【予習】 1. 教科書解剖生理学ノート 人体の構造と機能（以下「ノート」）の学習のポイントを読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に〇を付ける。 2. ノートのKeywordsを読み，「知らない用語」にX，「聞いたことはあるが，意味のわからない用語」に△，「意味まで知っている用語」に〇を付ける。 3. ノートの「書いてみよう！」に取り組む。 【授業】 1. ノート「要点整理問題」の重要（赤丸）項目を中心に，教科書を参照しながら解説する。取り上げた［カッコ］事項にチェック（✓）を付ける。［カッコ］の中は空欄のままにする。決して正解を書かないこと。 2. 解説をメモするノートを別に用意してもよいが，ノートに直接書き込むことを推奨する。 【復習】 1. 教科書解剖生理学ノート 人体の構造と機能（以下「ノート」）の学習のポイントを改めて読む。各項目（番号）の前に，「全く意味がわからない項目（文章）」にX，「意味がわかるところもある項目」に△（わかる範囲に［カッコ］などで印をつけておくと更によい），「全ての意味がわかる項目」に〇を新たに付ける。予習時のマークを決して消さないこと（色を変えるなどして，予習時と復習時の見分けがつくようにしておくと良い）。 2. 授業で取り上げた［カッコ］事項を，正解を見ずに記入する。記入できなかった場合は，空欄のままにせず，［X］と記入する。 3. 記入した項目の正解を確認する，不正解の場合は，解答にXを付ける。決して解答を消してはならない。 4. 教科書の下表の教室外学習に記載された範囲について，授業で取り上げた要点整理問題について書かれているところを中心に通読する。特に，これまで△やXだった項目は，（たとえ復習時に〇であっても！）必ず教科書で確認し，［カッコ］を付けるなどして必ず記録しておくこと。
学生へのフィードバック方法	講義終了時に記入していただくコメントシートに対して、次の講義でフィードバックする。授業後の質問には，その都度対応する。その他、大学に登録してあるメールアドレスによる質問や意見も歓迎する。
評価方法	定期試験，教室外学習（授業後のノート）により評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	〇	〇		
授業中の演習	〇	〇	〇	
教室外学習（授業後のノート）		〇	〇	〇

評価割合	定期試験を主とし，授業中の演習，教室外学習（授業後のノート）の評価を適宜加味する。
使用教科書名(ISBN番号)	解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版（栄養科学イラストレイテッド[演習版]）（羊土社）ISBN: 978-4-758-11363-2 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版（栄養科学イラストレイテッド）（羊土社） ISBN: 978-4-758-11362-5
参考図書	人体解剖ビジュアル（サイオ出版）ISBN: 978-4-907-176273 イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき 第3版（医学書院）ISBN: 978-4-260-03887-4 新版 からだの地図帳（講談社）ISBN: 978-4-062-61025-4 からだの地図帳 解剖学用語（講談社）ISBN: 978-4-062-61026-1
ディプロマポリシーとの関連	人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。 食事や栄養が人体に与える影響について、客観的に判断することができる。
学生へのメッセージ	この授業では，栄養士にとってもっとも重要な，食物（栄養）が人体を通過する経路（消化管）のしくみをまず取り扱う。そこからさらに，食物を消化・吸収して栄養素に変えるしくみ，栄養素を呼吸によってエネルギーを得るしくみ，エネルギーを使って体を動かすしくみを学んでいくことにしよう。さらに，体を動かすためには，動かそうと考え，その考えを伝えるしくみも必要になる。これら人体の基本的なしくみに関する知識と理解は，臨床栄養，病態生理などを学ぶための，重要な足がかりとなる。その山頂は未だ目に見えないほど高いままかもしれません。だけど，解剖生理学I（解剖）で学んできたあなたにの眼下には，既に最初には想像もできなかったほどに広大な景色が広がっているでしょう。そして，これまでに学んだ人体のかたちに関する知識は，これか

	らの一歩をずっと楽で，楽しいものにしてくれるでしょう。歩き続ければ，いつか山頂も見えるはず。次の一歩を踏み出そう！

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	解剖生理学実習（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R20202M13
授業概要(教育目的)	人体模型や実験動物を用いた実習によってヒトにおける各臓器や臓器系の配置、形態を学習する。さらに、ブタ、ヒトの組織標本を用いて組織的形態と機能の間の関連について実地に理解する。また、鏡検観察によって細胞レベルでの微細構造を観察し、各組織・臓器にみられる細胞学的特徴を把握して機能との関連を理解する。生理学的領域においては、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 人体模型、ブタ、ヒトの組織標本を用いて人体の形態と機能について説明できる。 2. 臨床栄養学の理解につなげるために病理学についても形態的観点から説明できる。 3. 生理学的領域において、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。
技術・表現の観点（A）	1. 各実習における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第2回	人体模型	人体模型による臓器位置の確認及び骨格標本を用いて骨の名称の確認を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第3回	身体観測	身体観測と計測を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第4回	循環器に関するビデオ学習	NHKスペシャル 驚異の小宇宙 人体 Vol.2「しなやかなポンプ～心臓・血管～」 [DVD]を観て、心臓内部の様子やしくみを理解する。	学習におけるレポートを作成する。	60分
第5回	循環１	血圧の測定、心音の聴取、安静時の体温測定を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第6回	循環２	運動負荷による心拍数、血圧、体温の測定を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第7回	心肺蘇生法	心肺蘇生法の原理や方法を習得する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	呼吸	肺活量の測定、努力肺活量の測定を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	組織の観察	光学顕微鏡を用いて消化器系（胃・腸）の組織を観察す	実験におけるレポートを作成す	60分

	1	る。	る。	
第10回	組織の観察２	光学顕微鏡を用いて消化器系（肝臓）の組織を観察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	組織の観察３	光学顕微鏡を用いて筋肉の構造を観察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	内分泌	インスリンによる低血糖状態の観察と血糖測定（マウス）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	解剖	動物の解剖（マウス）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	感覚	皮膚感覚・反射神経、盲斑の検出を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1 回目～14 回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。
評価方法	・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	
	確認テスト	○	○		
	実習態度			○	○

評価割合	科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。ただし、確認テストが60%未満の者は再試験を行うこともある。
使用教科書名(ISBN番号)	松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273） 東京消防庁編『身につけよう応急手当普通救命講習テキスト』東京法令出版
参考図書	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで使用している教科書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
オフィスアワー	火曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	実習時は白衣（実験用）を着用のこと。 レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。 授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験を協同し、得られた実験結果を共有、解析する。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生化学(総論)		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島　綾子	指定なし

ナンバリング	R20204M21
授業概要(教育目的)	生体内での様々な化学反応や物質交換によって、生命維持が行われる。生命活動の主軸となる細胞や生体物質構造、生理機能について総合的に学ぶ。また、食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節の基礎について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１、生体成分の構造と性質を理解する。 ２、酵素の役割、その調節機構を十分に理解する。 ３、生体成分の代謝の基礎、代謝調節の基礎を理解する。
思考・判断の観点（K）	１、これまに学習した有機化学の概念を生化学の学習に応用する。
関心・意欲・態度の観点（V）	１、予習、復習、授業毎の小テスト、確認テストで理解度を深める。 ２、小テスト、確認テストの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	細胞の構造と機能	生体膜、細胞の小器官など細胞の基本構造とその機能について学ぶ。 生化学を学ぶための基本事項の確認を行う。	教科書　1−11ページ、生物の基本単位-細胞をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第1章「生化学を学ぶための基本の「き」」（1～7ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第2回	糖質の構造と性質	糖質は、主要なエネルギー源であるとともに、生体の構成材料や細胞間の情報伝達物質として、きわめて広範囲にわたる生命活動に関係している。糖質は、単糖類、オリゴ糖、多糖類に大別される。これらの構造と性質について学習する。	教科書41～51ページ、糖質の特徴をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第2章「糖質」（9～18ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第3回	糖質の代謝①	解糖系におけるグルコースの代謝と生成物について理解する。TCA回路とその生成物について理解する。	教科書52～58ページ、解糖系・TCA回路をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第10章「糖質代謝」（99～111ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第4回	糖質の代謝②	グリコーゲンの合成と分解について理解する。糖質以外の生体成分からのグルコース生成である糖新生について理解する。 五炭糖リン酸回路で生成する物質とその働きについて理解する。	教科書58～68ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第10章「糖質代謝」（99～111ページ）を予習、復習に用いる。	180分

第5回	脂質の性質と分類	脂質の性質と分類について学ぶ。単純脂質、複合脂質、誘導脂質の分類とその構造、性質について学習する。	教科書79～8ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第3章「脂質」（19～29ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第6回	脂質の代謝①	脂質は生体内でどのような代謝物に変換するかを学習する。 コレステロール代謝・リン脂質の合成･イコサノイドの種類と機能について学習する。	教科書　85～95ページをよく読んでおくこと。 生化学基本ノート第10章「脂質代謝」（113～122ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第7回	脂質の代謝②	脂肪酸合成・リポたんぱく質と脂質の輸送について理解する。	教科書95～103ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第10章「脂質代謝」（113～122ページ）を予習、復習に用いる。	240分
第8回	アミノ酸･たんぱく質の構造	最も重要な生体物質として位置づけられるたんぱく質の構造と機能について学習する。生化学反応の触媒、運動、物質の運搬など、生命活動の至るところでたんぱく質は働いている。たんぱく質は20種類のアミノ酸からなり、それらの構成アミノ酸の数、種類、結合順序がことなると、性質や働きも異なってくる。	教科書　104～112ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第4章「タンパク質」（31～40ページ）を予習、復習に用いる。	240分
第9回	アミノ酸･たんぱく質の代謝①	たんぱく質の分解　アミノ酸の代謝　アミノ基転移反応・酸化的脱アミノ反応について理解する。個々のアミノ酸の代謝と生成物について理解する。	教科書　112～119ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第11章「タンパク質代謝」（123～134ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第10回	アミノ酸･たんぱく質の代謝②	尿素回路、神経伝達物質について理解する。	教科書119～122をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第11章「タンパク質代謝」（123～134ページ）を予習、復習に用いる。	240分
第11回	核酸代謝	ヌクレオチドの生合成、ヌクレオチドの分解とサルベージ経路、デオキシリボヌクレオチドの合成などヌクレオチドの代謝の基礎を学習する。	教科書　125～129ページを読んでおくこと。 生化学きほんノート第13章「核酸代謝」（135～144ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第12回	たんぱく質の生合成・遺伝子発現の調節	たんぱく質の生合成の機序、遺伝子発現について理解する。	教科書　130～138ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第14章「遺伝情報とその発現」（145～155ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第13回	酵素と代謝①	酵素はたんぱく質のみから成るものと、たんぱく質以外の補助因子を含むものがあるが、いずれも反応速度を大きく促進する機能を示す。第7回では、まず、酵素の分類と性質について学習する。	教科書　145～152ページをよく読んでおくこと。 生化きほん本ノート第9章「酵素」（75～87ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第14回	酵素と代謝②	酵素は、反応が触媒される場合、最初に酵素―基質複合体を生成する。酵素の濃度と反応速度との関係について学ぶ。また、酵素反応の阻害についても学習する。	教科書　153～158ページをよく読んでおくこと。 生化学基本ノート第9章「酵素」（75～87ページ）を予習、復習に用いる。	180分
第15回	遺伝子と生体情報	ＤＮＡと遺伝子、遺伝子の多様性、ＤＮＡの損傷と修復など遺伝子と生体情報の基礎について学ぶ。	生化学きほんノート第14章「遺伝情報とその発現」（145～155ページ）を予習、復習に用いる。	420分

学生へのフィードバック方法	授業ごとの小テストや確認テストの解説は次回授業にて行う。質問等がある場合には、授業後に質問に来ること。
評価方法	平常点では、出席を含む小テスト、確認テストの点数及び間違い直しの課題提出を重視する。各回の授業にて小テスト、確認テスト対策を行い、理解を深めること。 定期試験では、小テスト、確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。 小テスト、確認テスト、及び定期試験は、下記に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
出席、小テスト	○	○	○	
確認テスト	○	○	○	
定期試験	○	○	○	
課題提出	○		○	

評価割合	出席、小テスト、確認テストを含む平常点（50 %）、定期試験（50 %）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	基礎から学ぶ生化学（南江堂）（978-4-254-24651-9） 生化学きほんノート（南山堂）（978-4-525-13151-7）
学生へのメッセージ	「生化学きほんノート」を予習、復習用の課題として教科書に指定しました。毎回の予習、復習に十分に時間を取ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	代謝栄養学(生化学各論)		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島　綾子	指定なし

ナンバリング	R30206M21
授業概要(教育目的)	生化学等の学習の上に、代謝とその調節、恒常性を維持するホルモンの作用、及び免疫のしくみについて学び、生化学における各論部分を学習する。栄養素との関連を重視しながら、栄養素の代謝の仕組み、食生活、環境の変化に対する生体機能の適応の仕組みについて学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1、生体における代謝調節のしくみについて理解する。 2、食生活、環境の変化に対する生体機能の調節のしくみについて理解する。
思考・判断の観点（K）	1、これまに生化学（総論）で学習した概念を生化学の学習に応用する。
関心・意欲・態度の観点（V）	1、予習、復習、授業毎の小テスト、確認テストで理解度を深める。 2、小テスト、確認テストの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	代謝とは	異化と同化、物質の代謝、生体のエネルギー源、など代謝の基本的概念について学ぶ	教科書　p24から36をよく読んでおくこと	180分
第2回	糖質の代謝①	代謝の全体像を復習する。 糖質の代謝、解糖系、TCAサイクル、グリコーゲンの分解合成の詳細について学ぶ。	教科書　p37から61をよく読んでおくこと。 特に、糖質の特徴、解糖系、TCAサイクル、グリコーゲンの分解合成について復習しておくこと。 復習 ： 代謝ドリル　3.1～3.4	180分
第3回	糖質の代謝②	糖質とタンパク質、脂質、核酸構成成分との関わりについて学ぶ。 血糖と生体機能との関わりについて学ぶ。 難消化吸収性のオリゴ糖や糖アルコールなどが生体内でどのように利用されているのかを学ぶ。	教科書　p62から79をよく読んでおくこと 復習 ： 代謝ドリル　3.5～3.8	180分
第4回	脂質の代謝①	脂質の種類と機能について復習する。 脂質代謝（β酸化、脂肪酸の生合成、脂肪酸、コレステロールの生合成）の詳細について学ぶ。 ケトン体の生成と代謝について学ぶ。	教科書　p79から93をよく読んでおくこと 脂質の種類と機能について復習しておくこと。 脂質の代謝（β酸化、脂肪酸の生合成等）について復習しておくこと。 復習 ： 代謝ドリル　4.1～5.5	180分

第5回	脂質代謝②	エイコサノイドの種類と機能について学ぶ。 脂肪組織の合成と分解について、ホルモン作用と共に学ぶ。 リポたんぱく質の代謝と機能について学ぶ。	教科書　p93から104をよく読んでおくこと。 リポたんぱく質について復習しておくこと。 復習 ： 代謝ドリル　5.6～5.7	180分
第6回	タンパク質の代謝①	アミノ酸の炭素骨格部分の代謝の詳細について学ぶ。 窒素含有化合物とアミノ酸とアミノ酸の代謝について学ぶ。	教科書　p104から125をよく読んでおくこと タンパク質の分類について復習しておくこと。 アミノ酸の構造について復習しておくこと。 タンパク質の分解について復習しておくこと。 復習 ： 代謝ドリル　6.1～7.4	180分
第7回	タンパク質の代謝②	尿素回路の詳細を学ぶ。 神経伝達物質の働きについて学ぶ。	教科書　p119から125をよく読んでおくこと 復習 ： 代謝ドリル　7.5	240分
第8回	代謝の関わり合いについて	アミノ酸炭素骨格の分解と利用について学ぶ。 アセチルCoAを介した糖質、脂質、アミノ酸異化の関わりについて学ぶ。 糖質、脂質の同化におけるほかの代謝との関わりについて学ぶ。	これまでに学んだ、糖質、脂質、タンパク質の代謝について復習しておくこと。 復習 ： 代謝ドリル　8.1～8.3	240分
第9回	遺伝子と生体情報	DNAと遺伝子、染色体、ゲノムなどの詳細について学ぶ。 ヌクレオチドの生合成について学ぶ。 遺伝情報が受け継がれるしくみについて学ぶ。	教科書　p125～134をよく読んでおくこと。 DNAと遺伝子、染色体、ゲノムについて復習しておくこと。 生化学きほんノート　5章、13章	180分
第10回	DNAとたんぱく質の合成	遺伝子発現、転写調節による遺伝子発現の調節、遺伝子解析の現状について学ぶ	教科書　p134～143をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート　13章	180分
第11回	筋と代謝	糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝についての確認テストを行う。 筋の構造と収縮、収縮のエネルギー源（代謝）について学ぶ。	糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝について十分に復習しておくこと。	240分
第12回	ビタミン、ミネラルとその働き	水の生理機能、水と細胞内環境、電解質濃度の調節、腎臓における尿の生成について学ぶ。	教科書　p178～200をよく読んでおくこと	180分
第13回	水、血液と生体	水は生体内でどのような働きをしているかを学ぶ。 血液の機能、白血球と生体防御、血小板と血液凝固について学ぶ。	教科書　p201～219をよく読んでおくこと	180分
第14回	生体の恒常性維持における尿の役割と働き	尿の役割と働きについて学ぶ。 血液と尿による恒常性の維持について学ぶ。	教科書　p219～225をよく読んでおくこと	180分
第15回	代謝のまとめ	第1回から第14回までの内容についてまとめを行う。	第1回から第14回までの内容を十分に復習しておくこと。	420分

学生へのフィードバック方法	授業ごとの小テストや確認テストの解説は次回授業にて行う。質問等がある場合には、授業後に質問に来ること。
評価方法	平常点では、出席を含む小テスト、確認テストの点数及び間違い直しの課題提出を重視する。各回の授業にて小テスト、確認テスト対策を行い、理解を深めること。 定期試験では、小テスト、確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。 小テスト、確認テスト、及び定期試験は、下記に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	出席、小テスト	○	○	○	
	確認テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	
	課題提出	○		○	

評価割合	出席、小テスト、確認テストを含む平常点（40 %）、定期試験（60 %）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	基礎から学ぶ　生化学　（南江堂）　(978-4-524-24651-9) いちばんやさしい代謝ドリル　（講談社）　(978-4-06-513420-7)
参考図書	生化学きほんノート（南山堂）(978-4-525-13151-7)
学生へのメッセージ	毎回の授業の前に、生化学の内容を「生化学きほんノート」などで十分に復習してから授業に出席してくださ

	い。これまでの復習をしておくと代謝栄養学の内容がスムーズに理解できます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		Google Classroomを用いて課題を提出する。必要な場合には、解説動画を作成する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養学・生化学実験（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有（上薗）		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし
准教授	上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R20205M13
授業概要(教育目的)	栄養学・生化学実験では食品学実験でも扱う栄養素成分に対して生体試料の側面から採り上げ、分析する力を学ぶ。実験遂行に際し、必然となる事前準備や手法、試料の扱い方を体得していく。人体に対する実験的学びの中で必要とされる倫理面に対する留意事項に関しても学ぶ。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもある。
履修条件	基礎的な生物、化学を理解し、関係教科を履修済み、履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各関係教科の知識と理解を応用し、結果の予測、得られた結果の考察に活用できる。
思考・判断の観点（K）	栄養学・生化学領域の講義で修得した成分、生体物質の構造および機能について、客観的に実験手法を分析し、結果を解析できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションがとれる。
技術・表現の観点（A）	各実験における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	実験の心得（担当：岩本）	使用機器･器具の予備知識,実験対象試料と研究倫理を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第2回	消化試験１（担当：岩本）	唾液アミラーゼによるデンプンの分解を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第3回	消化試験２（担当：岩本）	膵液による脂質の消化試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第4回	消化試験３（担当：岩本）	膵液によるタンパク質の消化試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第5回	生体成分の分析法（栄養学）１（担当：岩本）	血液成分に関する実験(血糖の定量:ムタロターゼ･GOD法）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第6回	生体成分の分析法（栄	血液成分に関する実験(血中中性脂肪･コレステロール･遊離脂肪酸の定量）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分

	養学）２（担当：岩本）			
第7回	生体成分の分析法（栄養学）３（担当：岩本）	尿成分に関する実験（尿中クレアチニンの定量）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	実験準備（担当：上薗）	各実験における試薬準備等の事前準備(試薬調製、機器準備）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	生体反応の分析方法（生化学１）（担当：上薗）	DNAプロファイリング実験(PCR)①PCRを用いたDNA増幅	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	生体反応の分析方法（生化学２）（担当：上薗）	DNAプロファイリング実験(電気泳動)②PCR産物の電気泳動	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	生体反応の分析方法（生化学３）（担当：上薗）	DNAプロファイリング実験③解析,タンパク質精製実験①細菌を用いたライブラリ構築	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	生体反応の分析方法（生化学４）（担当：上薗）	タンパク質精製実験②スクリーニングと培養	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	生体反応の分析方法（生化学５）（担当：上薗）	タンパク質精製実験③タンパク質抽出	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	生体反応の分析方法（生化学６）（担当：上薗）	タンパク質精製実験③カラムクロマトグラフィーを用いたタンパク質精製と解析	実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト（担当：岩本・上薗）	1 回目～14 回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがある。
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートは、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には2101研究室（岩本）または2308研究室（上薗）まで訪問すること。
評価方法	・科目確認テスト40%、レポート評価50%および実習態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。ただし、確認テストの点数がが60%未満の者は再試験を行う。 ・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の実験にて説明する。 ・レポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	確認テスト	○	○		○
	実験態度			○	

評価割合	科目確認テスト40%、レポート評価50%および実習態度10%で総合的に評価（小数点以下は四捨五入）
使用教科書名(ISBN番号)	林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7）（岩本） 必要内容資料を適宜配布（上薗）
参考図書	各関係教科の教科書、授業配布資料等
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的技術を身につける。
オフィスアワー	月曜4・5限　2101研究室 2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。（岩本） 木曜2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得てください（上薗）。

学生へのメッセージ	実習時は白衣（実験用）を着用のこと。 レポートの提出は、提出期限・形式を守ること。 授業内容を事前に教科書などで予習すること。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	生化学領域 担当教員が食製造現場等における現地調査等を行った実務経験より、実験内容がヒトと食においてどのように活用されているか、今後、活用されるかについても紹介する。
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験を協同し、得られた実験結果を共有、解析する。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品学総論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R10301M21
授業概要(教育目的)	食品はヒトにとって大変身近な存在であり，生命維持に必要不可欠な存在である。食品の成分を理解し，日々の生活の維持，健康増進のために役立てる知識を自身が実働的に活用，また第三者へも提供できる基盤となる知識を食品が有する三つの基本的機能（一次機能；栄養特性，二次機能；嗜好特性，三次機能；健康機能特性）を柱に本講義では学びを展開する。そのために食品を構成する成分を化学的に捉えられるようになる学びに加え，近年の食品に関係する法律の変化も捉えながら知識を深める講義展開を行う。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修科目であり、卒業要件科目である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食品の成分と機能を説明することができる。
思考・判断の観点（K）	様々な食品を扱う際に食品の成分と機能の知識を基に思考、判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食の諸問題対処に対し、食品の成分や機能を基に意欲をもって対処できる。
技術・表現の観点（A）	食品の成分と機能に関し、他者に正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	人間と食品（食べ物）	1. 食文化と食生活、2. 食生活と健康、3. 食料と環境問題を理解する。	教科書；第1章「人間と食品（食べ物）」（12～25ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品の一次機能（食品成分の化学）①	1. 食品の一次機能とは、2. 炭水化物（糖質，食物繊維）の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（26～43ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	食品の一次機能（食品成分の化学）②	3. 脂質の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（43～57ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	食品の一次機能（食品成分の化学）③	4. タンパク質の構造と種類と特性について理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（57～69ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	食品の一次機能（食品成分の化学）④	5. ビタミンのの構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（69～77ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第6回	食品の一次機能（食品成分の化学）⑤	6. ミネラル（無機質）の構造と種類と特性、7. 核酸・核酸の構成成分を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（77～89ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）①	1. 食品の二次機能、2. 水分、3. 食品中に含まれる色素成分の分類と特徴を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（90～107ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）②	4. 呈味成分（味とは，甘味成分，酸味成分，苦味成分，塩味成分，うまみ成分）を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（107～111ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）③	5. 香気・におい成分，6. 官能評価，7. 有害成分（植物・動物性，アレルゲン，突然変異原性物質）を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（111～122ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	食品の三次機能（食品の健康機能性）①	1. 食品の三次機能とは、2. 機能性食品とは、3. 口腔内や消化管内で作用する機能を理解する。	教科書；第4章「食品の三次機能（食品の健康機能性）」（123～131ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	食品の三次機能（食品の健康機能性）②	4. 消化管吸収後の標的組織における生理機能調節を理解する。	教科書；第4章「食品の三次機能（食品の健康機能性）」（131～137ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品成分の変化①	1～4. 炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミンの変化、5. 成分の相互作用による変化を理解する。	教科書；第5章「食品成分の変化」（138～149ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	食品成分の変化②	6・7. 褐変、光による変化、8. 加圧・加圧・減圧による変化、9. 酵素による変化を理解する。	教科書；第5章「食品成分の変化」（150～161ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	食品の物性	1. 食品の物性とは、2. コロイド、3. レオロジー、4. テクスチャーを理解する。	教科書；第6章「食品の物性」（162～175ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	食品の表示と規格基準	1. 食品表示制度 、2. 健康や栄養に関する表示の制度 、3. 基準について理解する。	教科書；第7章「食品の表示と規格基準」（176～196ページ）を読んでおくこと。 第1回から第15回の授業内容を復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート15%、定期試験（筆記試験）85%の総合評価（100%）とします。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題レポート	○	○	○	○
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート15%、定期試験（筆記試験）85%の総合評価（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 改訂第2版　食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税　2021年10月25日発行 B5判 216ページ ISBN 978-4-7581-1365-6
参考図書	授業内で必要に応じて，紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の成分と機能に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。
オフィスアワー	木曜2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品学各論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R20302M21
授業概要(教育目的)	多種多様な食品を利用し、ヒトは生命を維持しながら、多彩な食文化を構築し、食生活を営んでいる。食生活形成においては食材の特性を知り、有効活用できる能力が必要である。本講義においては、日本食品標準成分上の分類ごとの特性と属する食品素材に加え、グローバル化する現況を鑑み、輸入食材や新たな食素材にも視点をおき、選択を的確に行うために必要性な専門的知識を学ぶ授業展開を行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもある。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	多種多様な食品の特性とその利用について専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	多種多様な食品の特性を活かした思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	多種多様な食品の特性に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点（A）	多種多様な食品の特性を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食品の分類と食品成分表	1. 分類の種類、2. 食品成分表の理解について理解する。	教科書；第1章「食品の分類と食品成分表」（12～26ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	植物性食品①	1. 穀類（種類と特徴、米、小麦、大麦、とうもろこし、そば、その他）について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」（27～36ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	植物性食品②	2. いも類（種類と特徴、じゃがいも、さつまいも、その他）、3. 豆類（種類と特徴、大豆、雑豆類）について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」（36～51ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	植物性食品③	4. 種実類（種類と特徴、ごま、アーモンド、その他）、5. 野菜類①（種類と特徴、葉菜、根菜）について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」（51～62ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	植物性食品④	5. 野菜類②（果菜、茎菜、花菜、その他）、6. 果実類（種類と特徴、成分、加工特性）について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」（62～68ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	植物性食品⑤	7. きのこ類（種類と特徴、成分、加工特性）、8. 藻類（種類と特徴、成分、加工特性）について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」（68～81ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	動物性食品	1. 食肉類（種類と特徴、成分変化、牛、豚、鶏、その他	教科書；第3章「動物性食品」	予習90分、復習90分

	①	の食肉；ジビエ等、加工特性）について理解する。	（82～91ページ）を読んでおくこと。	
第8回	動物性食品②	魚介類（種類と特徴、成分、品質特性、加工特性等）について理解する。	教科書；第3章「動物性食品」（92～104ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	動物性食品③	乳類（種類と特徴、成分、飲用乳、乳製品等）について理解する。	教科書；第3章「動物性食品」（104～111ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	動物性食品④	卵類（種類と特徴、構造、成分、調理加工特性、品質判定、栄養強化卵等）について理解する。	教科書；第3章「動物性食品」（112～119ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	油脂	1. 食用油脂の特徴と分類、2. 植物性油脂、3. 動物性油脂、4. 加工油脂（マーガリン類、ショートニング、低カロリー油脂代替物）について理解する。	教科書；第4章「油脂」（120～137ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	調味料、香辛料、嗜好飲料	1. 甘味料（天然、合成）、2. 調味料（食塩等）、3. 香辛料、4. 嗜好飲料（茶類、コーヒー、ココア、清涼飲料）について理解する。	教科書；第5章「調味料、香辛料、嗜好飲料」（138～162ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	加工食品	1. 加工食品とは、2. 一次加工食品、3. 二次加工食品、4. 三次加工食品、5. 食品添加物について理解する。	教科書；第6章「加工食品」（163～179ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	微生物利用食品、バイオ食品などの新規食品	1. 微生物利用食品（発酵食品）の分類と性質、2. アルコール飲料、3. 発酵調味料、4. その他の微生物利用食品について理解する。5. バイオテクノロジー応用食品、6. 最近の食品加工技術による食品について理解する	教科書；第7章「微生物利用食品」（180～193ページ）、第8章「バイオ食品などの新規食品」（194～204ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。	第1～15回目の授業の振り返りを行っておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート15%、定期試験（筆記試験）85%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題レポート	○	○	○	○
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート15%、定期試験（筆記試験）85%の総合評価（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド　食品学Ⅱ 改訂第2版 食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社 栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税　2021年10月25日発行 B5判 232ページ ISBN 978-4-7581-1366-3
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 改訂第2版 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税　2021年10月25日発行 B5判 216ページ ISBN 978-4-7581-1365-6 ご自身が使用された当該年度の発刊をご持参ください。新規に購入する必要性はありません。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。 1年次「食品学総論」で使用した教科書（参考図書部分に記載）毎回、持参して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品学実験（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R20303M13
授業概要(教育目的)	健康の維持・増進に不可欠な各種食品成分の栄養特性・成分変化、性質を実践的に理解するために、食品に係わる分析法、分析技術、分析値の解析を学ぶ授業展開を行う。また、実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食品の成分分析の基礎と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点（A）	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備①	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 実験器具の洗浄と乾燥を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第2回	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備②	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 計測器具・機器の特性把握を行う。 試薬調製を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第3回	定性分析と定量分析①	容量分析；中和滴定（水酸化ナトリウム溶液の標定）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量① 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量①	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第4回	定性分析と定量分析②	容量分析；中和滴定（食酢中の酢酸の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容	予習30分、復習60分

		水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量② 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量②	に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	
第5回	定性分析と定量分析③	容量分析；沈澱滴定（醤油中の食塩の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量③ 灰分の定量；直接灰化法用るつぼの恒量③	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第6回	定性分析と定量分析④	強酸と強塩基の滴定曲線作成を行う（pH測定）。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量① 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量①	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第7回	定性分析と定量分析⑤	タンパク質・アミノ酸の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量② 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量②	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第8回	定性分析と定量分析⑥	脂質の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③ 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第9回	定性分析と定量分析⑦	糖の定性反応実験を行う。 脂質の定量；ソックスレー抽出法：受器（脂肪定量びん）恒量①	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第10回	定性分析と定量分析⑧	脂質の定量；ソックスレー抽出法：試料と円筒ろ紙精秤、受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第11回	定性分析と定量分析⑨	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出 タンパク質の定量；ケルダール法：試薬調製、試料調製	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第12回	定性分析と定量分析⑩	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量① タンパク質の定量；ケルダール法：試料の分解	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第13回	定性分析と定量分析⑪	脂質の定量；ソックスレー抽出法：脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定①	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第14回	定性分析と定量分析⑫	タンパク質の定量；ケルダール法：蒸留・中和滴定①	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第15回	定性分析と定量分析⑬と実技＋筆記試験	分析データのまとめを行う。 実技＋筆記試験を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1回～第14回の復習を行っておくこと。	予習30分、復習60分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	実験態度（編成された班における協同の様子等）25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験（実験操作）10%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
実技試験	○	○		○
筆記試験	○	○		

評価割合	実験態度（編成された班における協同の様子等）25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験（実験操作）10%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	実験食品学実験—実験で学ぶ食品学—　改訂初版／同文書院 江角彰彦　著 定価2750円（税込）ISBN978-4-8103-1517-2
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ　食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編　定価2600+税 栄養科学イラストレイテッド　食品学Ⅱ改訂第2版食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社 栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品の専門的な知識を基礎に多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品成分分析における専門的技術を身につける。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品衛生学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R30304M21
授業概要(教育目的)	食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的必要条件である。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。近年の食中毒の発生状況からみた傾向、食品添加物の安全性と発ガンの問題、食品と感染症や寄生虫との関係などについての理解を深め、食生活の中で留意すべき点についても学ぶ。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもある。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	多種多様な食品と場の安全管理に必要な専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	多種多様な食品と場の安全確保の思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	多種多様な食品と場の安全管理に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点（A）	多種多様な食品と場の安全管理に関する事項を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食品の衛生と法規	食品の衛生概要、国内外の食品に関連する法規と組織について理解する。	教科書；第1章「食品衛生と法規」（12～37ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品の変質①	食品の変質原因物質と食品の変質発生機序について理解する。	教科書；第2章「食品の変質」（38～44ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	食品の変質②	食品の変質に対する判定方法と食品の変質防止方法について理解する。	教科書；第2章「食品の変質」（44～53ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	食中毒①	食中毒の発生状況、三類感染症、細菌性食中毒①（サルモネラ属，腸炎ビブリオ，病原大腸菌）について理解する。	教科書；第3章「食品と微生物」・第4章「食中毒」（54～73ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	食中毒②	細菌性食中毒②（ウェルシュ，エルシニア，セレウス，カンピロバクター，リステリア）について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（74～78ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	食中毒③	細菌性食中毒③（ナグビブリオ等）、ウイルス性食中毒（ノロウイル等）、人獣共通感染症について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（79～83，94～96ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	食中毒④	寄生虫（魚類からの感染，肉類からの感染，野菜や水か	教科書；第4章「食中毒」（83	予習90分、復習90分

		らの感染）、化学物質による食中毒について理解する。	～93，97～98ページ）を読んでおくこと。	
第8回	食中毒⑤	動物性自然毒（フグ毒，シガテラ毒，麻痺性貝毒，下痢性貝毒等）について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（98～100ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	食中毒⑥	植物・真菌性自然毒（キノコ毒，アルカロイド配糖体，青酸配糖体，その他）について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（100～106ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	食品中の汚染物質①	カビ毒、内分泌かく乱物質、有害元素（水銀，カドミウム，ヒ素，銅，スズ）について理解する。	教科書；第5章「食品中の汚染物質」（107～122ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	食品中の汚染物質②	放射性物質（人体への影響，食品汚染）、異物混入（動物性，植物性，鉱物性）について理解する。	教科書；第5章「食品中の汚染物質」（122～129ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品添加物	食品添加物の分類と安全性評価（食品衛生法による食品添加物の分類を含む）について理解する。	教科書；第6章「食品添加物および残留農薬等」（130～143ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	残留農薬等	ポジティブリスト制度，食品に関わる器具・容器包装，遺伝子組換え食品等について理解する。	教科書；第6章「食品添加物および残留農薬等」（143～155ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	食品衛生管理と食品表示制度	国内外の食品衛生管理基準と食品衛生管理手法（HACCP・ISO等）、衛生事項および品質事項に関する食品表示基準等について理解する。	教科書；第7章「食品衛生管理」（156～175ページ）、第8章「食品表示制度」（176～205ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。	第1～15回目の授業の振り返りを行っておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	中間確認課題30%、定期試験（筆記試験）70%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間確認課題	○	○	○	○
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	中間確認課題30%、定期試験（筆記試験）85%の総合評価（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド　食品衛生学　改訂第２版 田崎達明／編 2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5
参考図書	トニー・ハート 恐怖の病原体図鑑 ウイルス・細菌・真菌完全ビジュアルガイド 西村書店 濱田篤郎 寄生虫ビジュアル図鑑 危険度・症状で知る人に寄生する生物 誠文堂新光社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品衛生学実験（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R30305M13
授業概要(教育目的)	実際に取引をされている食品の安全性はどのように確認をされているのか、基準を設定されているのか、食品を扱う・食品衛生の管理を行う・食品衛生管理の指導をする立場として必要とされる食品衛生管理手法を実際の各現場における実用性にも視点をおき、実験手法を通して講義教科で学んだ内容を体得していく。実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いついても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食品衛生管理の基礎知識と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点（A）	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備	食品衛生学実験を行うための基礎知識・食品微生物学的検査を行うための事前準備を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第2回	食品の微生物的検査①	発酵食品を試料とした細菌の形態観察と染色法、顕微鏡観察を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第3回	食品の微生物的検査②	食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分

第4回	食品の微生物的検査③	前週に採取・培養した食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）結果の解析を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第5回	環境衛生実験①	飲用水中の生菌・大腸菌検査、水道水の残留塩素試験、空中落下細菌検査を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第6回	環境衛生実験②	前週に採取・培養した飲用水中の生菌・大腸菌検査結果、空中落下細菌検査結果解析を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第7回	食品の鮮度・異常簡易試験①	調理器具・手指の細菌検査、食品成分の残留試験を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第8回	食品の鮮度・異常簡易試験②	調理器具・手指の細菌検査結果解析を行う。 魚類の鮮度試験（揮発性塩基窒素測定）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第9回	食品の鮮度・異常簡易試験③	牛乳の鮮度試験（レサズリン試験）、卵の鮮度試験（比重測定，割卵判定）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第10回	食品の鮮度・異常簡易試験④	油脂の変質試験（酸価試験，過酸化物価試験）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第11回	食品の理化学試験①	保存料試験（高速液体クロマトグラフィー・紫外線吸光法による定性・定量試験）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第12回	食品の理化学試験②	着色料試験（薄層クロマトグラフィーによる定性試験，羊毛染色法試験）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第13回	食品の理化学試験③	漂白料試験（亜硫酸定性試験，通気蒸留法による定量試験）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第14回	食品の理化学試験④	発色剤試験（比色法による亜硝酸塩定量試験）を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第15回	食品の理化学試験⑤と実技＋筆記試験	植物有害成分検出試験（シアン化合物）、容器包装材試験（材料判別燃焼試験）を行う。 実技＋筆記試験を行う。	１．教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでくること。 ２．実験レポートを作成すること。 ３．第1回～第15回の復習を行っておくこと。	予習30分、復習60分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	実験態度（編成された班における協同の様子等）25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験（実験操作）10%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
実技試験	○	○		○
筆記試験	○	○		

評価割合	実験態度（編成された班における協同の様子等）25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験（実験操作）10%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	新しい食品衛生実験　新版第2版 西島基弘・宮澤文雄・安達修一・石川ふさ子・井部明弘・大島赴夫・金井美恵子・佐藤吉朗 三共出版　B5判　148ページ　ISBN 978-4-7827-0753-1
参考図書	栄養科学イラストレイテッド　食品衛生学　改訂第２版 田崎達明／編　　羊土社　2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品衛生管理の専門的な知識を基礎に、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品衛生分析における専門的技術を身につける。
オフィスアワー	金曜4限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品衛生管理を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎栄養学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R20401M21
授業概要(教育目的)	栄養とは何かを理解し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割及び５大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質）の生理的意義を理解する。また、消化・吸収と栄養素の体内動態についても講義する。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証およびフードスペシャリスト、教職（中高）、食品衛生監視員・食品衛生指導者、フードコーディネーター取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 栄養に関する基本用語を説明することができる。 2. ５大栄養素の体内での変化、生理的作用並びに相互作用ついて説明することができる。
思考・判断の観点（K）	1. 各栄養素がからだの中に入ると消化器官のどこでどのような作用を受け、どのような作用を発揮するのかを類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養の概論	栄養の定義、栄養学の歴史を学ぶ。	教科書の第1章（p1-12）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第2回	摂食行動	生活リズムと食生活、摂食の調節について学ぶ。	教科書の第2章（p13-19）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第3回	炭水化物の栄養（１）	炭水化物の消化・吸収について学ぶ。	教科書の第5章（p53-65）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第4回	炭水化物の栄養（２）	炭水化物の体内代謝について学ぶ。	教科書の第5章（p53-65）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

			Google Classroomにある小テストを受験する。	
第5回	脂質の栄養（１）	脂質の消化と吸収について学ぶ。	教科書の第6章（p67-77）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第6回	脂質の栄養（２）	脂質の体内代謝、脂質代謝異常と動脈硬化について学ぶ。	教科書の第6章（p67-77）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第7回	タンパク質の栄養（１）	アミノ酸とタンパク質とは何か、タンパク質の消化と吸収について学ぶ。	教科書の第4章（p39-52）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第8回	タンパク質の栄養（２）	タンパク質の体内代謝について学ぶ。	教科書の第4章（p39-52）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第9回	ビタミンの栄養（１）	脂溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第7章（p79-97）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第10回	ビタミンの栄養（２）	水溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第7章（p79-97）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第11回	無機質の栄養	多量元素・微量元素の働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第8章（p99-112）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第12回	機能性非栄養成分	水・食物繊維について学ぶ。	教科書の第9章（p113-121）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第13回	消化と吸収と栄養素の体内動態（１）	消化器系の構造と機能（消化の場・仕組み）について学ぶ。	教科書の第3章（p21-38）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第14回	消化と吸収と栄養素の体内動態（２）	消化・吸収の基本概念（吸収部位・吸収の仕組み）について学ぶ。	教科書の第3章（p21-38）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第15回	エネルギー代謝	生体におけるエネルギー、消費エネルギーについてについて学ぶ。	教科書の第10章（p123-136）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・毎時間後に実施する小テストの解答については次の授業時間内で提示する。定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。 ・毎回の小テストの結果や総合成績は、すぐにGoogle Classroomにアップするので確認すること。
評価方法	・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、小テストを期日まで受験しなかった場合は、解説・解答を提示しているため再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	小テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名(ISBN番号)	林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	火曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	基礎栄養学は応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学とも関連が深く、2年前期に「基礎栄養学」をマスターすればこれらの科目の理解もアップします。結果として栄養士実力認定試験（全員受験）や管理栄養士国家試験（希望者・要実務経験）の勉強も楽に進めることができるので、しっかり集中して学んでください。 ※私が担当する授業では、2022年度から生理休暇を試験的に導入します（座学のみ）。申し出があった場合、毎月1日に限って「公的な欠席」に見なし、出席として処理します（定期試験日は除く）。 欠席した授業については、Google Classroomに保存してある授業スライド等を確認してノートの穴埋めをしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	応用栄養学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R20402M21
授業概要(教育目的)	人の一生を通して発育、加齢や妊娠などの各ライフステージにおける身体の構造変化、生理学的・生化学的な代謝の変化を学び、それらに基づいて各段階における適切な栄養ケア・マネジメント（栄養管理）の基本的考え方を習得する。更に適切な評価、判定を行った上で身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の方法を学ぶ。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要不可欠な各ライフステージ別栄養学の基礎知識を理解する。また、運動・スポーツやストレス、特殊環境の特性に基づいた栄養ケアも学ぶ。本科目は、栄養士免許証および食品衛生監視員・食品衛生指導者取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について説明できる。 2. 運動や特殊環境における人体の特性、栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 健康の維持・増進及び疾病予防のために栄養素の機能等を十分理解し、健康に及ぼすリスクの管理について基本的な考え方を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	基礎的な栄養素の知識や解剖生理学の知識を応用し、総合的に理解するよう取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食事摂取基準	ライフステージ別食事摂取基準について学ぶ。	教科書の第2章（p27-58）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第2回	成長・発達・加齢	運動機能の発達、加齢による機能低下について学ぶ。	教科書の第3章（p59-74）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第3回	妊娠期（１）	妊娠期の生理的特徴と性周期について学ぶ。	教科書の第4章（p75-101）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第4回	妊娠期（２）	妊娠期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第4章（p75-101）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

			Google Classroomにある小テストを受験する。	
第5回	授乳期	授乳期の栄養・食事管理について学ぶ。	教科書の第4章（p75-101）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第6回	新生児・乳児期（１）	新生児・乳児の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第5章（p105-126）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第7回	新生児・乳児期（２）	新生児期・乳児期の発育について学ぶ。	教科書の第5章（p105-126）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第8回	成長期（１）	成長期（幼児期・学童期・思春期）の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第6章（p127-156）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第9回	成長期（２）	成長期（幼児期・学童期・思春期）の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第6章（p127-156）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第10回	成人期（１）	成人期の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第7章（p157-176）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第11回	成人期（２）	成人期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第7章（p157-176）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第12回	高齢期（１）	高齢期の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第8章（p177-198）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第13回	高齢期（２）	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第8章（p177-198）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第14回	健康増進と運動、スポーツ	健康増進と運動およびスポーツと栄養について学ぶ。	教科書の第9章（p201-214）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第15回	特殊環境と栄養	特殊な環境（ストレス反応、高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境）と栄養について学ぶ。	教科書の第10章（p215-230）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・毎時間後に実施する小テストの解答については次の授業時間内で提示する。定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。 ・毎回の小テストの結果や総合成績は、すぐにGoogle Classroomにアップするので確認すること。
評価方法	・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、小テストを期日まで受験しなかった場合は、解説・解答を提示しているため再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	小テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名(ISBN番号)	栢下淳編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-1364-9）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	「応用栄養学」で学ぶ内容は多岐にわたります。様々なライフステージだけでなく、スポーツ時や特殊な環境下における人体の生理的特徴を理解し、その状況に応じた栄養管理などを習得します。学ぶ範囲はとてつもなく広いですが、学んだことを自身や周りにいる家族、友人に還元できるよう主体的に取り組んでほしいです。 ※私が担当する授業では、2022年度から生理休暇を試験的に導入します（座学のみ）。申し出があった場合、毎月1日に限って「公的な欠席」に見なし、出席として処理します（定期試験日は除く）。 欠席した授業については、Google Classroomに保存してある授業スライド等を確認してノートの穴埋めをしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養学各論実習（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R30405M13
授業概要(教育目的)	応用栄養学の講義を踏まえ、各ライフステージおよびさまざまな環境に応じた実践的な栄養マネジメントが展開できることを目指す。目的となる対象者の特性を理解し、食事摂取基準に基づいた献立作成も含めた食事計画を行い、実際に作成した献立を実習することで理解を深める。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 応用栄養学で学習した内容を基礎とし、各ライフステージ及びスポーツ時の特性を説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 対象者に応じた栄養ケアプロセスを展開し、栄養診断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2. 食品構成からの献立作成、調理、供食という一連の流れを、実践に繋げていくことができる。
技術・表現の観点（A）	1. ライフステージ別における栄養管理の特徴を示し、栄養マネジメントが展開できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション・栄養マネジメントの理論	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。また栄養マネジメントについて学ぶ。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第2回	日本人の食事摂取基準（2020年版）を用いた望ましい食事計画 食品構成表の作り方	モデル献立を用いて、望ましい食事計画を立てる。また食品構成表の作り方を学ぶ。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第3回	栄養診断、ＳＯＡＰの書き方	栄養ケアプロセスによる栄養診断、ＳＯＡＰの書き方を学ぶ。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第4回	成人期の栄養（1）	成人期のモデルに対する献立作成を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第5回	成人期の栄養（2）	成人期のモデルに対して立てた献立について栄養価計算を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第6回	妊娠期の栄養（1）	妊娠期のモデルに対して栄養診断・献立作成をする。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	妊娠期の栄養（2）	妊娠期のモデルに対して立てた献立で調理実習を行い、評価をする。	実験におけるレポートを作成する。	60分

第8回	乳児期の栄養（1）	乳児期のモデルに対する調乳実習と評価を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	乳児期の栄養（2）	乳児期のモデルに対して栄養診断及び離乳食調理を行い、さらに粥の種類について学ぶ。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	学童期の栄養	学童期のモデルに対して間食について学び調理を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	高齢期の栄養（1）	高齢期のモデルに対して献立作成を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	高齢期の栄養（2）	高齢期のモデルに対して立てた献立で軟菜食調理を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第13回	スポーツと栄養（1）	競技スポーツ選手のモデルに対して献立作成を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第14回	スポーツと栄養（2）	競技スポーツ選手のモデルに対して立てた献立で調理を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1 回目～14 回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。
評価方法	・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	
	確認テスト	○	○		
	実習態度			○	○

評価割合	科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。ただし、確認テストが60%未満の者は再試験を行うこともある。
使用教科書名(ISBN番号)	堀江祥允編『ライフステージ栄養学実習書』光生館（978-4332020974）
参考図書	栢下淳編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-1364-9） 小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
オフィスアワー	月曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	実習時は白衣（調理用）を着用のこと。 レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。 授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、調理を協同し、得られた結果を共有する。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	臨床栄養学総論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R30403M21
授業概要(教育目的)	栄養ケアプロセスの概要を知り、臨床栄養学分野における栄養士業務について学ぶ。また、栄養素の補給手段である栄養法（経口栄養・経腸栄養・静脈栄養）について学ぶ。そして、代表的な代謝・内分泌疾患である肥満、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、甲状腺機能亢進症・低下症の病態生理や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理の基本を学ぶ。 栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 医療における臨床栄養の意義を説明できる。 2. 栄養補給法の目的、種類、手法について説明ができる。
思考・判断の観点（K）	1. 各疾患の栄養生理及び栄養食事療法について説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	職業倫理を理解し、チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	臨床栄養の概念	臨床栄養の意義・医療及び介護における管理栄養士・栄養士について学ぶ。	教科書の第1章（p2-9）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第2回	栄養ケア・マネジメント	栄養ケアの意義と方法、栄養スクリーニング、栄養評価等について学ぶ。	教科書の第2章（p10-35）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第3回	人体への栄養補給（1）	栄養補給法の歴史、経口栄養法について学ぶ。	教科書の第3章（p36-37）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第4回	人体への栄養補給（2）	経腸栄養法について学ぶ。	教科書の第3章（p38-41）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

			Google Classroomにある小テストを受験する。	
第5回	人体への栄養補給（3）	経静脈栄養法について学ぶ。	教科書の第3章（p42-45）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第6回	肥満と代謝疾患（1）	肥満・メタボリックシンドロームについて学ぶ。	教科書の第6章（p58-61）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第7回	肥満と代謝疾患（2）	脂質異常症（病態生理）について学ぶ。	教科書の第6章（p70-75）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第8回	肥満と代謝疾患（3）	脂質異常症（栄養食事療法・薬物療法）について学ぶ。	教科書の第6 章（p70-75）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第9回	肥満と代謝疾患（4）	糖尿病（病態生理）について学ぶ。	教科書の第6章（p62-69）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第10回	肥満と代謝疾患（5）	糖尿病（病態生理・薬物療法）について学ぶ。	教科書の第6章（p62-69）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第11回	肥満と代謝疾患（6）	糖尿病（栄養食事療法）について学ぶ。	教科書の第6章（p62-69）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第12回	肥満と代謝疾患（7）	糖尿病（運動療法・妊娠糖尿病・小児糖尿病）について学ぶ。	教科書の第6章（p62-69）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第13回	肥満と代謝疾患（8）	糖尿病腎症について学ぶ。	教科書の第11章（p164-166）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第14回	肥満と代謝疾患（9）	高尿酸血症と痛風について学ぶ。	教科書の第6章（p76-81）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第15回	内分泌の疾患	甲状腺機能亢進症と低下症についてについて学ぶ。	教科書の第12章（p190-195）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・毎時間後に実施する小テストの解答については次の授業時間内で提示する。定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。 ・毎回の小テストの結果や総合成績は、すぐにGoogle Classroomにアップするので確認すること。
評価方法	・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、小テストを期日まで受験しなかった場合は、解説・解答を提示しているため再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	小テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名(ISBN番号)	多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）
参考図書	日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版』文光堂（978-4830660467）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	火曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	※私が担当する授業では、2022年度から生理休暇を試験的に導入します（座学のみ）。申し出があった場合、毎月1日に限って「公的な欠席」に見なし、出席として処理します（定期試験日は除く）。 欠席した授業については、Google Classroomに保存してある授業スライド等を確認してノートの穴埋めをしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	臨床栄養学各論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R30407M21
授業概要(教育目的)	疾患・病態の成立および予防と治療に栄養がどのように関係しているかの機序を学び、どのような栄養学的治療手段が適切かを学び、対象者のQOLを損なわない食事について考える。病状に影響を及ぼす栄養素、食品、調理法を知り、適正な栄養管理を行う為の知識を得る。 栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 各疾患の栄養状態、病態について説明ができる。
思考・判断の観点（K）	1. 栄養・治療アセスメントの意義・手技を呈示することができる。 2. 各疾患の患者の栄養ケアについて説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	職業倫理を理解し、チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養障害	栄養失調、たんぱく質・エネルギー栄養障害やリフィーディング症候群及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第5章（p52-57）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第2回	消化器疾患	胃炎、胃・十二指腸潰瘍・胃癌、大腸癌及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第7章（p88-103）及び第8章（p106-115）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第3回	肝・胆膵系疾患（1）	肝臓の働きと栄養代謝及び肝炎及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第9章（p116-135）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第4回	肝・胆膵系疾患（2）	脂肪肝、NAFLD及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第9章（p116-135）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

			Google Classroomにある小テストを受験する。	
第5回	循環器疾患（1）	高血圧、動脈硬化及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第10章（p138-153）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第6回	循環器疾患（2）	虚血性心疾患・心不全及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第10章（p138-153）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第7回	腎臓の疾患（1）	腎臓の働きと栄養代謝について学ぶ。	教科書の第11章（p154-189）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第8回	腎臓の疾患（2）	慢性腎臓病とその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第11章（p154-189）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第9回	腎臓の疾患（3）	糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・透析及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第11章（p154-189）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第10回	摂食障害、神経疾患	神経性食欲不振症及び神経性過食症について学ぶ。	教科書の第13章（p196-203）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第11回	呼吸器系疾患	慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息の栄養管理について学ぶ。	教科書の第14章（p204-213）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第12回	血液疾患	貧血とその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第15章（p216-223）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第13回	筋・骨格疾患	骨粗鬆症、くる病、サルコペニアについて学ぶ。また、それらの栄養ケアについても学ぶ。	教科書の第16章（p224-233）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第14回	小児疾患	先天性代謝異常症・周期性嘔吐症・消化不良症について学ぶ。	教科書の第20章（p270-283）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第15回	妊産婦・授乳婦疾患	妊娠高血圧症候群について学ぶ。	教科書の第21章（p284-287）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・毎時間後に実施する小テストの解答については次の授業時間内で提示する。定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。 ・毎回の小テストの結果や総合成績は、すぐにGoogle Classroomにアップするので確認すること。
評価方法	・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、小テストを期日まで受験しなかった場合は、解説・解答を提示しているため再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	小テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名(ISBN番号)	多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	火曜4限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	※私が担当する授業では、2022年度から生理休暇を試験的に導入します（座学のみ）。申し出があった場合、毎月1日に限って「公的な欠席」に見なし、出席として処理します（定期試験日は除く）。 欠席した授業については、Google Classroomに保存してある授業スライド等を確認してノートの穴埋めをしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	臨床栄養学実習（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉川　絵梨	指定なし

ナンバリング	R30406M13
授業概要(教育目的)	臨床栄養学の実践として、各疾患の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理（栄養ケアマネジメント）を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、栄養療法の基礎を習得する。具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解する。さらに、代表的な治療食の献立作成から調理、評価を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解できる 2.具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解できる 3.チーム医療における管理栄養士の役割を理解できる
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	1.チーム医療の一員として臨床に通用する力を身につけることができる
技術・表現の観点（A）	1.代表的な疾患の病態に適した治療食の献立作成、調理ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業概要 病院における管理栄養士の役割 治療食の意義、目的 栄養補給方法	授業概要の説明 病院における管理栄養士の役割、治療食、栄養補給方法について理解する	臨床栄養学の授業を復習しておく	10分
第2回	栄養管理、栄養補給方法	臨床検査からの栄養状態および病態の評価、身体計測、カルテの書き方、食事調査について実習を行う 傷病者の栄養補給方法について学ぶ、一般治療食の展開を学び、献立作成する	臨床栄養学の授業を復習しておく	10分
第3回	肥満症、脂質異常症	肥満症、脂質異常症の栄養管理計画書作成	肥満症、脂質異常症について調べておく	10分
第4回	糖尿病①	糖尿病の栄養管理計画書作成 糖尿病食の献立作成	糖尿病について調べておく	10分
第5回	糖尿病②	糖尿病の栄養管理計画書作成 糖尿病食の献立作成	糖尿病について調べておく	10分
第6回	糖尿病③	糖尿病食の調理実習を行う	前回作成した献立を調理できるよう準備しておく	30分
第7回	エネルギー	糖尿病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループ	発表準備をしておく	30分

	コントロール食	ごとに発表する その他エネルギーコントロール食について学ぶ		
第8回	腎臓病①	腎臓病の栄養管理計画書作成 腎臓病食の献立作成	腎臓病について調べておく	10分
第9回	腎臓病②	腎臓病の栄養管理計画書作成 腎臓病食の献立作成	腎臓病について調べておく	10分
第10回	腎臓病③	腎臓病食の調理実習を行う	前回作成した献立を調理できるよう準備しておく	30分
第11回	たんぱくコントロール食	腎臓病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループごとに発表する その他たんぱくコントロール食について学ぶ	発表準備をしておく	30分
第12回	濃厚流動食①	濃厚流動食の試飲を行う	濃厚流動食を調べておく	30分
第13回	濃厚流動食②	試飲した濃厚流動食についてグループごとに発表する	発表準備をしておく	30分
第14回	その他の疾患について	その他の疾患について栄養管理計画作成を行う	興味のある疾患を考えておく	10分
第15回	まとめ 症例検討	提示した症例に対して栄養計画を作成する	今までの授業を復習しておく	30分

学習計画注記	履修者や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	提出した課題は次週返却し、授業中に解説します。
評価方法	平常点、発表、課題提出

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点、発表、課題提出	○		○	○

評価割合	平常点30%、発表30%、課題提出40%
使用教科書名(ISBN番号)	糖尿病食事療法のための食品交換表(978-4-8306-6046-7) 腎臓病食品交換表（978-4-263-70674-9）
参考図書	臨床栄養学　基礎から学べる　アイ・ケイコーポレーション
ディプロマポリシーとの関連	適切な栄養管理を行うためにための知識と技術を有している。 チーム医療の一員として栄養管理に責任をもって参画できる知識と技術を有している。
学生へのメッセージ	チーム医療の中で、管理栄養士は責任をもって積極的に栄養管理をしていく必要があります。ぜひ積極的に授業に参加し、その知識と技術を習得してください。臨床現場のみならず多方面で活躍できる管理栄養士を目指しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、臨床現場での栄養管理の経験を有し、その経験を元に授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期後半	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R30404M13
授業概要(教育目的)	基礎栄養学の講義では、栄養学の基礎領域を全体的に学んだ。本実習ではこれらの基礎知識を、「動物」や「ヒト（自分）」のサンプルを用い実験・実習を通して再確認する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 生体成分（血液、尿、唾液）の成分値や体内での働きについてについて説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2. 実習を通して学んだ栄養に関する知識を、応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学で発展できる。
技術・表現の観点（A）	栄養士資格専門科目教育内容の「栄養と健康」の科目（基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学）の知識に基づいて論じることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション（実習の目的と進め方）を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第2回	味の閾値と五基本味	味の閾値と五基本味の識別の検査を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第3回	生活時間調査票	生活時間調査票からのエネルギー代謝量の算出を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第4回	正常尿成分実験	尿中尿素窒素の測定を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第5回	トリグリセリドの定量	１日絶食したマウスの血清中のトリグリセリドの定量を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第6回	血糖値の測定①	経口ブドウ糖負荷試験を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第7回	血糖値の測定②	経口ブドウ糖負荷試験の評価をする。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	血糖値の測定③	食品成分が血糖に与える影響について、血糖値を測定して観察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	血糖値の測定④	食品成分が血糖に与える影響について、測定した血糖値を用いて考察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	食品成分が腸内細菌叢	食品（海藻）を用いて腸内細菌について考察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分

	に与える影響			
第11回	呼気からの安静時代謝の算出	呼気からの安静時代謝の算出する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	安静時代謝量の測定	安静時代謝量の測定を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	ビタミン	ビタミンの過剰症・欠乏症カルタ大会を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	ミネラル	ミネラルの過剰症・欠乏症カルタ大会を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1 回目～14 回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。
評価方法	・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・評価方法であるレポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	
	確認テスト	○	○		
	実習態度			○	○

評価割合	科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。ただし、確認テストが60%未満の者は再試験を行うこともある。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
オフィスアワー	火曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	実習時は白衣（実験用）を着用のこと。 レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。 授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員おいて、実験・実習を協同し、得られた結果を共有、解析する。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養指導論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30501M21
授業概要(教育目的)	・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康増進や疾病予防のため、健康状態や栄養状態、食生活状況を把握する方法（栄養アセスメント）について解説する。加えて、対象者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導・教育の方法について、個別指導と集団指導に分けて、P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに沿って、教授する。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態をアセスメントする方法を説明できるようになる。 ・学生が対象者のライフステージ、ライフスタイルに沿った栄養指導ポイントを説明できるようになる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点（K）	・学生が対象者に応じた栄養指導の目標設定、指導計画立案、評価の方法を判断できるようになる。 ・学生が集団討議法の特徴を理解し、目的に応じた集団栄養指導を判断できるようになる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が自分や家族、地域等における食関連問題に関心を持ち、課題解決に向けて積極的に教育手法や食教材を考える意欲がある。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について関心を持って自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が、栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　第1・2・3章 栄養指導の定義と意義、 栄養指導の沿革、栄養指導と関係法規	・栄養指導の定義と意義、栄養指導の沿革、栄養指導と関係法規（栄養指導にかかわる法規、教育関連・保健・医療関連・高齢者関連の法規）について、理解する。	教科書を読んでおく（p1～36）。	90分
第2回	2回目　第4・5章　食生活・栄養に関する諸調査、栄養教育の方法と技術	・食生活・栄養に関する調査の概要を理解する。 栄養指導の方法と技術として、栄養指導の一般原則、栄養指導のマネジメントサイクル（PDCA）について、理解する。	教科書を読んでおく（p37～54）。	90分
第3回	3回目　第5章　栄養教	・栄養指導の計画、方法として、個別指導について理解する。	教科書を読んでおく（p55～59）。	90分

	育の方法と技術			
第4回	4回目　第5章　栄養教育の方法と技術	・栄養指導の方法として、集団指導の方法について、理解する。	教科書を読んでおく（p60～62）。	90分
第5回	5回目　第6章　栄養指導の実際	栄養指導の実際として、指導方法の選択、カウンセリングの理論と意義、行動科学と栄養指導（行動科学理論、行動変容技法）について、理解する。	教科書を読んでおく　（p63～73）。	90分
第6回	6回目 第7章　栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導に必要な基礎事項として、日本人の食事摂取基準の基本的な考え方、活用した栄養指導方法について、理解する。	教科書を読んでおく（p74～77）。	90分
第7回	7回目　第7章　栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導に使う教材・媒体として、食生活指針について、理解する。	教科書を読んでおく　（p78～79）。	90分
第8回	8回目　第7章　栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導に使う教材・媒体として、食事バランスガイドについて、基本的な考え方、料理区分、活用の方法について、理解する。	教科書を読んでおく（p80～84）。	90分
第9回	9回目　第7章　栄養指導に必要な基礎事項	食育関連として、食育基本法と栄養指導、食育と栄養教諭制度について、理解する。	教科書を読んでおく（p85～86）。	90分
第10回	10回目　第７章　栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導と運動指導（運動指導の原則、健康づくりのための身体活動基準、健康づくりのための身体活動指針）について、理解する。	教科書を読んでおく（p90～93）。	90分
第11回	11回目　第8章　ライフステージ別栄養指導	・ライフステージ別栄養指導として、妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期における栄養指導のポイントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p94～103）。	90分
第12回	12回目　第8章　ライフステージ別栄養指導	・ライフステージ別栄養指導として、乳幼児期、学童期、における栄養指導のポイントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p103～110）。	90分
第13回	13回目　第8章　ライフステージ別栄養指導	・ライフステージ別栄養指導として、思春期、成人期、高齢期における栄養指導のポイントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p110～117）。	90分
第14回	14回目　第9章　ライフスタイル別栄養指導、試験範囲連絡	・ライフスタイル別栄養指導として、単身生活者、スポーツ栄養（スポーツの種類と栄養特性、エネルギーの供給源からみたスポーツ種目）における栄養指導ポイントについて、理解する。	教科書を読んでおく　（p118～122）。	90分
第15回	15回目　第11章　給食における栄養指導、定期試験	給食における栄養指導として、病院給食、学校給食、福祉施設給食、事業職給食の栄養指導ポイントについて、理解する。 定期試験実施。	教科書を読んでおく（p123～133）。試験範囲を復習しておく。	90分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・定期試験は100点満点で出題する。 ・出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明する。 ・定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○	○	

評価割合	・定期試験（100%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・Nブックス 三訂　栄養指導論　建帛社（ISBN　978-4-7679-0667-6　C3047）
参考図書	・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル　第3版　第一出版　（ISBN　978-4-8041-1358-6　C3077） ・日本人の食事摂取基準 2020版

参考URL	https://www.kenpakusha.co.jp/np/isbn/9784767906676/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。” 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養指導や食育の実例を示しながら講義するので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は「栄養の指導」分野の中核である患者への個別栄養指導、健診後の栄養教育など、病院での実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への栄養指導、健常者への予防的栄養教育に関し実例を示して、より実践的に栄養指導方法を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・コミュニケーションスキルが自然と身に着くよう、履修者間で議論・検討できる機会を数回設定します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養指導実習（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30504M13
授業概要(教育目的)	・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康増進や疾病予防のため、健康状態や栄養状態、食生活状況を把握する方法（アセスメント）について解説するので、ワークシートを使って実習して頂く。対象者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導や食育の方法について、個別指導と集団指導に分け、P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに沿って、栄養指導対象者の問題解決に対し、食行動の変容を図るための技法を実習して頂く。
履修条件	・「栄養指導論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態、食行動の変容に関する知識を身に着け、それを理解すること。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点（K）	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態をアセスメントして、正しい判断ができるようになる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が協調的に参加し栄養指導方法を積極的に提案して、グループの考えをまとめることができるようになる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点（A）	・学生が対象者の栄養問題解決に向け目標設定、計画立案、評価のスキルを身に着けそれを表現できるようになる。 ・学生が対象者の問題行動を修正し、行動変容を導くためのサポートや効果的な集団指導のスキルを身に着けそれを表現できるようになる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１回目　実践社会での食育方法を体験-外部講師による講話および実習	小・中学生を対象とした実践社会での食育方法を体験する。 スライドの作成方法（字の大きさ・読みやすさ、画像の見やすさ・分かりやすさ等）や話し方、言葉使い、説得力、語り口調な等を注視する。	小・中学生を対象とした食育について調べておく。	135分
第2回	２回目　集団討議法-ブレインストーミング	ブレインストーミングを体験し、集団討議法の特徴を把握して効果的な討議能力を身に着ける。 同時にコミュニケーション能力を養う。 「課題提出あり」	朝食を食べない理由について調べておく。 教科書を読んでおく　(p54～61)。	135分
第3回	3回目　行動変容ステ	対象者の食生活改善を支援するため、行動変容の準備性を把握して栄養の指導に役立てる。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく　「行動変容に対する準備性の把握、対象	135分

	ージの把握と栄養指導		者アセスメントのまとめ、指導計画」（p29～37）。	
第4回	4回目　健康信念モデルを用いた栄養指導	健康信念モデルを用いて、行動変容をおこす栄養指導を身につける。 コミュニケーションやカウンセリング能力を養う。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 教科書を読んでおく 「健康信念モデルを用いた栄養指導、自己効力感を高める工夫」（p37～37）。	135分
第5回	５回目一自己効力感を用いた栄養指導	自己効力感を高める栄養指導を身につける。 コミュニケーションやカウンセリング能力を養う。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「自己効力感を高める工夫」（p37～37）。	135分
第6回	6回目　栄養アセスメント-身体計測・評価	対象者の栄養状態や健康状態を把握するための方法として、身体計測の実際を体験する。 併せて、その評価を行って対象者の身体状況や栄養状態等を推測する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」（p3～9）。	135分
第7回	7回目　内臓脂肪減量（エネルギー調整）のためのプランニング、モニタリング	肥満やメタボリックシンドロームの者、予備群に対する科学的な減量方法として、「内臓-脂肪減量のためエネルギー調整シート」を活用した指導計画を立てる技術を身に着ける。 「課題提出あり」	教科書を参照しておく 「健康づくりのための身体活動基準2013、内臓-脂肪減量のためエネルギー調整シート」（p11）。	135分
第8回	8回目　食事調査結果の食事摂取基準を用いた栄養評価、教材を用いた栄養指導	食事摂取基準を用いて栄養素等摂取量を評価し、個人に見合った栄養指導計画を立てる技術を身に着ける。 「課題提出あり」	公衆栄養学実習シート3-2「食事摂取基準を用いた食事調査の評価表」（秤量記録法）を完成させ持参する。 教科書を読んでおく （p14～23）。	135分
第9回	9回目　食事バランスガイドを活用した栄養評価・指導	食事バランスガイドを活用した食事評価、教材を活用した栄養指導の方法を身に着ける。 「課題提出あり」	下記の書籍の食事バランスガイドの5つの料理区分、１SVについて把握しておく。	135分
第10回	10回目　生活活動量の把握（タイムスタディ）	個人の生活活動量を（タイスタデイ）記録して、身体活動レベルの判定につなげる。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」（p3～9、特にp7）。	135分
第11回	11回目　栄養教育媒体の企画・作成（テーブルポップ）	対象者の行動変容を導く効果的な栄養教育媒体（テーブルポップ）の企画作成に関する技術を身に着ける。 「課題提出あり」	栄養教育用のテーブルポップについて下調べしておくこと。 教科書を読んでおく 「栄養教育媒体の作成-啓発用ポスター、卓上メモ」（p68～72）。	135分
第12回	12回目　小学校低学年向け食育教材の開発・作成	小学校低学年向けの食育教材（エプロンシアター）を考え、作成する。 どのように教材を活用すれば、分かりやすい食育ができるかを学ぶ。 「課題提出あり」	食育テーマを事前に考えておく。 テーマについて理解してもらうため、何を作るかを相談しておく。	135分
第13回	13回目　減塩指導一味噌汁編	体験学習により対象者の減塩の支援に役立てる。 「課題提出あり」	汁物の減塩方法について調べておく。	135分
第14回	14回目　発表会-テーブルポップについて	プレゼンテーション技術を身に着ける。	テーブルポップの実物を持参する。 発表の練習をしておく。	135分
第15回	15回目　発表会-エプロンシアターについて	プレゼンテーション技術を身に着ける。	エプロンシアターの実物を持参する。 発表の練習をしておく。	135分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・平常点45%（3点×15回）、レポート点45%（3点×15回）、発表点10%で評価する。 ・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合	・平常点45%、レポート点45%、発表点10%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・栄養科学シリーズNEXT 栄養教育論実習 第2版　講談社　(ISBN　978-4-06-155381-1　C3377)
参考図書	・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル　第3版　第一出版　(ISBN　978-4-8041-1358-6　C3077) ・日本人の食事摂取基準 2020版
参考URL	https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000149035
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。〃 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養指導や食育の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は「栄養の指導」分野の中核である患者への個別栄養指導、健診後の栄養教育など、病院での実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への栄養指導、健常者への予防的栄養教育に関し実例を示して、より実践的に栄養指導方法を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・栄養指導対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養指導技術をより高めるため、グループ内でデイスカッションし、時にデイベイトして、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。 ・食事摂取量の測定方法の一つとして、若年層の誰もが保有するスマートフォンを活用して自らの食事を撮影する方法（食事画像評価法）を実習に取り入れます。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養カウンセリング論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30502M21
授業概要(教育目的)	・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、栄養カウンセリング理論や技法の基礎について解説する。食生活や食行動は心理的な側面によっても大きく左右されるため、人々の複雑な心のあり方や、心理面からの食生活改善のためのアプローチ方法をについて、事例を示して教授する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生がカウンセリングの必要性、理論と技術、人々の食行動と心理面の関係性を説明できるようになる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点（K）	・学生が対象者の気持ちに寄り添ったサポートについて判断できるようになる。 ・学生が人々の健康状態、ストレス状態を理解し、それに合ったアプローチについて判断できるようになる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が家族や友人等の身近な人々の食の悩みや相談に関心を持ち、積極的に人々に寄り添い、共感しようとする意欲がある。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ（栄養カウンセリングの定義、特徴、効果）について、理解する。	教科書を読んでおく　(p1～5)。	90分
第2回	2回目　栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキルとして、基本的態度（受容、共感、自己一致）、傾聴の意義について、理解する。	教科書を読んでおく　(p6～8)。	90分
第3回	3回目　栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル	傾聴を構成する技法（かかわり行動、単純受容、確認、受けとめ、要約、開かれた質問・閉ざされた質問）について、理解する。	教科書を読んでおく（p9～14）。	90分
第4回	4回目　栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル	目標、計画、実行段階における行動療法やコーチングの活用について、理解する。	教科書を読んでおく　(p15～17)。	90分

第5回	5回目　栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論	栄養カウンセリングに必要な栄養カウンセリング理論（精神分析療法、来訪者中心療法）について、理解する。	教科書を読んでおく（p18～20）。	90分
第6回	6回目　栄養カウンセリングに必要なカウンセリングスキル	行動療法（行動療法とは、流れ、保健医療分野への応用、手順、技法）について、理解する。	教科書を読んでおく（p21～23）。	90分
第7回	7回目　栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論	交流分析（交流分析とは、交流分析）、家族療法（家族療法とは、栄養教育における家族療法）について、理解する。	教科書を読んでおく（p24～27）。	90分
第8回	8回目　栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論	パーソナリテイ理論（パーソナリテイ理論とは、その発達）、グループアプローチ（グループアプローチとは、特徴）について、理解する。	教科書を読んでおく（p28～34）。	90分
第9回	9回目　心理アセスメント	心理アセスメントとして、面接、心理テスト、行動観察による心理面のアセスメントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p35～39）。	90分
第10回	10回目　栄養教育に関係が深い疾病や健康に関する保健行動	栄養教育に関係深い保健行動として、健康信念モデル、自己効力感について、理解する。	教科書を読んでおく　（p40～45）。	90分
第11回	11回目　カウンセリングに必要な食行動理論	栄養カウンセリングに必要な食行動理論として、食行動に影響を及ぼす要因（文化的、社会的、生理的、心理的、認知的要因）、食行動と学習（レスポンデント学習、オペラント学習、認知的学習）について、理解する。	教科書を読んでおく（p46～49）。	90分
第12回	12回目　カウンセリングに必要な食行動理論	ストレスと食行動（ストレスとは、行動との関係）、摂食障害における食行動（高度な肥満、神経性食欲不振症、神経性大食症）について、理解する。	教科書を読んでおく（p50～56）。	90分
第13回	13回目　ライフステージと食行動の特徴	ライフステージと食行動の特徴として、妊婦・授乳期、乳幼児期、学童期の食行動について、理解する。	教科書を読んでおく（p57～66）。	90分
第14回	14回目　ライフステージと食行動の特徴、試験範囲連絡	青年期、成人期、壮年期、高齢期の食行動について、理解する。	教科書を読んでおく（p67～73）。	90分
第15回	15回目　栄養カウンセリングの応用、定期試験	栄養カウンセリングの応用として、様々な場での栄養カウンセリングの応用（個別栄養教育、集団栄養教育、特定健診・特定保健指導）について、理解する。　定期試験実施。	教科書を読んでおく（p74～90）。試験範囲について復習しておく。	90分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・定期試験は100点満点で出題する。 ・出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明する。 ・定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○	○	

評価割合	・定期試験（100%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・栄養科学シリーズ　ＮＥＸＴ　栄養カウンセリング論　第2版　（ISBN　978-4-06-155358-3　C3377）

参考図書	・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　生活習慣病を中心に：医歯薬出版　（ISBN　978-4-263-23337-5　C3047）
参考URL	https://www.kspub.co.jp/book/detail/1553583.html
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。” 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養カウンセリングの実例を示しながら講義するので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は外来診療における患者への栄養カウンセリングの実務経験を有している。生活習慣病や心的要因による拒食症や過食症等の患者に対する個別面談の栄養指導、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべきクライアントの気持ちに寄り添った栄養カウンセリングスキルについて、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・栄養指導対象者の気持ちに寄り添い共感力を身に着けるため、単に講義を聴講するのではなく、講義内容についてどのように共感したか、できなかったか、隣席の学生とデイスカッションを行う。これにより考える力、表現する力が養えるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養カウンセリング実習（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30505M13
授業概要(教育目的)	・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、食生活や食行動は心理的な側面によっても大きく左右されるため、人々の複雑な心のあり方や、心理面からの食生活改善のためのアプローチ方法をについて解説するので、ワークシートに沿って実習して頂く。具体的には、コーチングやロールプレイ等の実習を通して、個々の対象者に合わせた心理面からの栄養ケアについて、対象者が自発的に行動変容できるよう教授する。
履修条件	・「栄養カウンセリング論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が栄養指導対象者の健康・栄養状態に伴う心理面の状態に関する知識を身に着け、それを理解できる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点（K）	・学生が対象者の心理面を考え、気持ちに寄り添ったサポートを判断できるようになる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が協調的に参加し栄養カウンセリング方法を積極的に提案してグループの考えを纏めることができる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点（A）	・学生が対象者の心理面を理解し信頼関係を築くことで、対象者の気持ちに寄り添ったサポートや、対象者の自発的な行動変容を促すためのスキルを身に着け、それを表現できるようになる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１回目　ガイダンス、栄養カウンセリング実習の基本的事項	栄養カウンセリングを行う際の基本的事項（倫理的配慮、環境整備、場面構成および実施通知）について学ぶ。 栄養カウンセリングにおける職業倫理について 栄養カウンセリングを行う際の環境整備について 栄養カウンセリングの場面構成、実施通知の作成（シート1-2） 「課題提出あり」	教科書を読んでおく　(p91～95）。	135分
第2回	2回目　人の話を聴くときの視線、姿勢および態度	人の話を聴く時の好ましい時とそうでない時の違いについて体験し、人の話を聴く技術を身に着ける。 聴くことが難しい視線、姿勢、態度についての体験 （１）　聴き手（栄養士役）は視線をそらしながら聴いてみる （２）　聴き手（栄養士役）は腕を組みながら聴いてみる （３）　聴き手（栄養士役）はノートに記録しながら聴いてみる 聴くときの好ましい視線、姿勢、態度についての体験 （4）　聴き手（栄養士役）は話し手（クライエント	教科書を読んでおく（p96～96）。	135分

		役）にやさしい視線や態度で聴いてみる 「課題提出あり」		
第3回	3回目　初回面接時でのかかわり行動	初回面接でのクライエントに対する栄養士の好ましいい接し方やかかわり行動について体験し、かかわり行動に関する技術を身に着ける。 初回面接でのかかわり行動について話を構成する→栄養士役・クライエント役を決めてロールプレイングを行う。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p98～98）。	135分
第4回	4回目　単純受容	「うなずき、あいづち、繰り返し」を活用し、クライエントの話の流れを妨げずに熱心に聴く態度を養う。 「うなずき」だけを使って聴く体験 「うなずき、あいづち、1語か2語の繰り返し」を使って聴く体験 役割を交代して同様に行う 「課題提出あり」	教科書を読んでおく　（p99～100）。	135分
第5回	5回目　理解したことを確認する	クライエントの話しの内容や気持ちを理解して、正確に簡潔に確認する方法を習得する。 ファーストステップ：クライエントの話の1文ずつを正確に確認する体験 セカンドステップ：クライエントの話をある程度聴いて、理解したことを確認する体験 役割を交代して同様に行う 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p101～102）。	135分
第6回	6回目　気持ちを受けとめるためのウオーミングアップ	クライエントがこれまで言えなかった気持ちが表現されるようなきっかけを作り、それを受けとめる技術を養う。 クライエント役：自分の今の気持ちを絵に書いてみる→栄養士はそれを見て感じ取った思いを言葉で伝える。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく　（p103～103）。	135分
第7回	7回目　要約	クライエントの状況や思いを関連付けて、話の趣旨を要約することの効果を実感し、その技術を身に着ける。 クライエント役は相談する→栄養士役はクライエントの思いを関連付けて話の趣旨を要約する。 1. 閉ざされた質問の体験　（対話事例1）：3分間 2. 開かれた質問の体験　（対話事例2）：4分間 3. 閉ざされた質問と開かれた質問を状況に合わせて使う体験　（対話事例１または2）：5分間 役割を交代して同様に行う 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p114～114）。	135分
第8回	8回目　開かれた質問と閉ざされた質問	クライエントの正確な情報を引き出し気持ちを理解するため、開かれた質問と閉ざされた質問を状況に応じて活用し、対象者を理解する技術を身に着ける。 1. 閉ざされた質問の体験　（対話事例1）：3分間 2. 開かれた質問の体験　（対話事例2）：4分間 3. 閉ざされた質問と開かれた質問を状況に合わせて使う体験　（対話事例１または2）：5分間 役割を交代して同様に行う 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p115～117）。	135分
第9回	9回目　信頼関係を築く	栄養教育の実践事例の体験をとおして、クライエントの気持ちを受け止めて受容し、信頼関係を築く技術を身に着ける。 クライエントと信頼関係を築くことができなかった事例とできた事例の体験 　①栄養カウンセリング技法を身に着けていない栄養士の対応の体験　　（３分間） 　②栄養カウンセリング技法を身に着けている栄養士の対応の体験　（３分間） 栄養士が無意識に患者の栄養教育を拒否してしまった事例と受容できた事例の体験 　③栄養カウンセリング技法を身に着けていない栄養士の対応の体験　（３分間） 　④栄養カウンセリング技法を身に着けている栄養士の対応の体験　（４分間） 「課題提出あり」	教科書を読んでおく　（p118～121）。	135分
第10回	10回目　共感	栄養教育の実践事例を体験することで、クライエントに共感し、信頼関係を築く技術を身に着ける。 共感できずに追求し、追い込んでしまった事例と共感できた事例の体験 　①栄養カウンセリング技法を身に着けていない栄養士の対応の体験 　②栄養カウンセリング技法を身に着けている栄養士の対応の体験 「課題提出あり」	教科書を読んでおく「実習10：栄養教育の実践事例」（p118～123）。	135分
第11回	11回目　気持ちを受けとめる	栄養士がクライエントの気持を受けとめる方法を習得して、受け止めることの効果を知り、技術を身に着ける。 クライエント役は「これまで最も辛かったこと」について話す→栄養士役は傾聴し、気持ちを受けとめる。 役割を交代して同様に行う 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p103～105）。	135分
第12回	12回目　行動療法、コーチングの活用	行動療法やコーチングを活用して、対象者（クライエント）が自己決定し行動変容するように導く技術を身に着ける。 受容、共感、自己一致の態度で応答し、行動変容の計画を立てるまでの事例の体験 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p124～129）。	135分

第13回	13回目　栄養カウセリングの総仕上げ、役割演技（ロールプレイング）の考案	これまで学んだ栄養カウンセリング面談を想定した役割演技（ロールプレイング）を考案してそのスキルを身に着ける。 ペアで役割演技を考案する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p130～130）。	135分
第14回	14回目　発表会ー役割演技（ロールプレイング）	他者の役割演技をみて参考にする。 ペアごとに役割演技を披露する。	事前練習をしておく。	135分
第15回	15回目　発表会ー役割演技（ロールプレイング）	他者の役割演技をみて参考にする。 ペアごとに役割演技を披露する。	事前練習をしておく。	135分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・平常点45%（3点×15回）、レポート点45%（3点×15回）、発表点10%で評価する。 ・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	レポート点	○	○	○	○
	発表点	○	○	○	○

評価割合	・平常点45%、レポート点45%、発表点10%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・栄養科学シリーズ　ＮＥＸＴ　栄養カウンセリング論　第2版：講談社　（ISBN　978-4-06-155358-3　C3377） （前期の栄養カウンセリング論と同じ教科書）
参考図書	・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　生活習慣病を中心に　医歯薬出版　（ISBN　978-4-263-23337-5　C3047）
参考URL	https://www.kspub.co.jp/book/detail/1553583.html
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。〃 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養カウンセリングの実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は外来診療における患者への栄養カウンセリングの実務経験を有している。生活習慣病や心的要因による拒食症や過食症等の患者に対する個別面談の栄養指導、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべきクライアントの気持ちに寄り添った栄養カウンセリングスキルについて、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・栄養指導対象者の気持ちに寄り添った栄養カウンセリング技術をより高めるため、グループワーク、グループデイスカッションを行い能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）を活用して教授します。 ・栄養カウンセリングも今後はオンラインを活用して行われるため、本授業でも、オンライン上でのコミュニケーション方法について教授します。

シラバス参照

講義名	公衆栄養学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30503M21
授業概要(教育目的)	・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、地域や職場などの健康・栄養問題の実態、それらを取り巻く自然、社会、経済、環境問題について解説する。人々の健康の保持増進を図るため、健康・栄養施策や具体的な実践活動、集団に対する栄養マネジメントについて教授します。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が公衆栄養活動の進め方を説明できるようになる。 ・学生が健康・栄養問題の現状とそれに対しどのような施策・取り組みが行われているかを説明できるようになる。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点（K）	・学生が人々の栄養と健康の関連や問題点を類別し判断できるようになる。 ・学生が具体的な対策方法として、対象者に応じた食事調査方法、栄養疫学の研究デザインを判断できるようになる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が地域や近郊における食関連問題に関心を持ち、課題解決に向けて積極的に施策や活動を計画しようとする意欲がある。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　第1章　公衆栄養の概念	公衆栄養の概念、公衆栄養活動について理解する。	教科書を事前に読んでおく（p1～14）。	90分
第2回	2回目　第2章　健康・栄養問題の現状と課題	社会環境と健康・栄養問題（食料問題）、健康状態の変化について理解する。	教科書を事前に読んでおく（p15～25）。	90分
第3回	３回目　第2章　健康・栄養問題の現状と課題	食事の変化（エネルギー・栄養素・食品群別摂取量、食事パターン）、食生活の変化（食行動、食知識、食態度、食スキルの変化）について理解する。	教科書を読んでおく（p26～39）。	90分
第4回	４回目　第2章　健康・栄養問	食環境の変化（フードバランスシート、食糧自給率）、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。	教科書を読んでおく（p40～50）。	90分

	題の現状と課題			
第5回	５回目　第3章　栄養政策	わが国の公衆栄養活動、公衆栄養関係法規（地域保健法、健康増進法、食育基本法など）について理解する。	教科書を読んでおく　(p51～58)。	90分
第6回	６回目　第3章　栄養政策	国民健康・栄養調査（調査の目的、沿革、内容、方法）について理解する。	教科書を読んでおく　(p62～66)。	90分
第7回	７回目　第3章　栄養政策	国の健康増進の基本方針と地方計画（健康日本21、健康日本21（第二次）、食育推進基本計画）について理解する。	教科書を読んでおく（p76～87）。	90分
第8回	８回目　第3章　栄養政策	諸外国の健康・栄養政策（現状、ヘルシーピープル、フードガイドなど）の概要について理解する。	教科書を読んでおく（p88～94）。	90分
第9回	９回目　第4章　栄養疫学	栄養疫学の概要、曝露情報としての食事摂取量、食事摂取量の測定方法（食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法など）の特徴について理解する。	教科書を読んでおく（p95～108）。	90分
第10回	１０回目 第4章　栄養疫学	食事摂取量の評価方法（食事調査と食事摂取基準、総エネルギー調整栄養素摂取量、栄養素密度法、残差法）について理解する。	教科書を読んでおく　(p109～114)。	90分
第11回	１１回目 第4章　栄養疫学	食事摂取量の評価方法（データ処理と解析、主な統計解析手法、栄養疫学研究デザイン）について理解する。	教科書を読んでおく　(p115～121)。	90分
第12回	１２回目 第5章　公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの方法（ＰＤＣＡサイクルとプリシード・プロシードモデルの各段階）、公衆栄養アセスメント（質問調査の方法と活用）について理解する。	教科書を読んでおく（p122～130）。	90分
第13回	１３回目 第5章　公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの計画（アセスメント）、目標設定（短期・中期・長期目標）、評価（経過・影響・成果評価）について理解する。	教科書を読んでおく（p130～145）。	90分
第14回	１４回目 第6章　公衆栄養プログラムの展開、試験範囲の連絡	食環境づくりのためのプログラムの展開（食環境の整備、栄養成分表示の活用）について理解する。	教科書を読んでおく（p146～186）。	90分
第15回	１５回目 第6章　公衆栄養プログラムの展開、定期試験	地域集団の特性別プログラムの展開（生活習慣病ハイリスク集団への特定健康診査・特定保健指導）について理解する。　定期試験実施。	教科書を読んでおく（p187～211）。試験範囲を復習しておく。	90分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・定期試験は100点満点で出題する。 ・出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明する。 ・定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施している。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○	○	

評価割合	・定期試験（100%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・カレント 公衆栄養学 第3版　（建帛社）　（ISBN　978-4-7679-0684-3　C3047）
参考図書	・日本人の食事摂取基準 2020版（第一出版）
参考URL	https://www.kenpakusha.co.jp/np/isbn/9784767906843/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。″

	【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における公衆栄養活動の実例を示しながら講義するので、学生自身もできる限り卒後の働く職場や実践社会をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、第一種衛生管理者（健康管理の国家資格：厚生労働省）、産業栄養指導者（厚生労働省外郭団体中央労働災害防止協会認定資格）を有し、トータル・ヘルス・プロモーションプランにおける栄養教育、集団給食部門における栄養改善に関する実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき公衆栄養施策の計画立案・評価・改善について、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・コミュニケーションスキルが自然と身に着くよう、履修者間で議論・検討できる機会を数回設定します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集ではインターネット、授業のフィードバックではclassroomを活用して教授します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	公衆栄養学実習（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30506M13
授業概要(教育目的)	・本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康の保持・増進を図るため、健康・栄養問題の把握と分析について解説するので、ワークシートに沿って実習して頂く。これらの実習を通して、対象集団の状況に即した栄養改善計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うための栄養マネジメントが身に着くよう教授する。
履修条件	・「公衆栄養学」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が栄養指導対象集団の健康・栄養状態に及ぼす食環境面の様々な要因に関する知識を身に着け、それを理解すること。 ・学生が多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点（K）	・学生が健康・栄養問題を分析し、なぜそうなるのかの要因や問題点を抽出し、判断できるようになる。 ・学生が多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が協調的に参加し公衆栄養施策の方法を積極的に提案して、グループの考えを纏めることができるようになる。 ・学生が食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・学生が栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点（A）	・学生が公衆栄養活動のための的確な調査を実施し、対象集団に応じた計画立案、評価・改善のスキルを身に着け、それを表現できるようになる。 ・学生が栄養疫学、統計の基本処理のスキルを身に着け、それを表現できるようになる。 ・学生が食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　秤量記録法、食事画像撮影による食事調査の記録	食事画像撮影による食事調査の特徴について理解する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく（p1～5）。	135分
第2回	2回目　秤量記録法の分析	秤量記録法による食事調査の分析方法を理解する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「秤量記録法（実測法）」（p50～53ページ）。	135分
第3回	3回目　秤量記録法の分析	秤量記録法による食事調査の分析方法を理解する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「秤量記録法（実測法）」（p50～53ページ）。	135分
第4回	4回目　秤量記録法に	秤量記録法による食事調査の栄養素摂取量の計算方法を習得する。 個人の栄養素摂取量を食事摂取基準に沿って評価する。	教科書を読んでおく 「秤量記録法（実測法）」（p50～53）。	135分

	よる食事調査の評価			
第5回	5回目 24時間思い出し法による食事調査の記録	24時間思い出し法による食事調査の聞き取り（面接による聞き取りのロールプレイング）を体験する。 24時間思い出し法における目安量を重量化できるようになる。	料理・食品の1食分、ポーションサイズ等を把握しておく。 教科書を読んでおく 「24時間思い出し法」（p40～49）。	135分
第6回	6回目 24時間思い出し法による食事調査の分析	24時間思い出し法による食事調査記録の分析ついて学ぶ。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「24時間思い出し法」（p40～49）。	135分
第7回	7回目 24時間思い出し法による食事調査の評価	24時間思い出し法による食事調査記録の誤差について把握する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「24時間思い出し法」（p40～49）。	135分
第8回	8回目 食物摂取頻度調査法	食物摂取頻度調査法による食事調査の回答方法を体験する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「食物摂取頻度調査法」（p54～59）。	135分
第9回	9回目 食物摂取頻度調査法による栄養素摂取状況の評価	食物摂取頻度調査法による分析結果を評価する。	教科書を読んでおく 「食物摂取頻度調査法」（p54～59ページ）。	135分
第10回	10回目 生活活動時間調査によるエネルギー消費量測定	生活活動時間調査の記録方法を習得する。 総エネルギー消費量（TEE）を算出方法を理解する。 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「生活活動時間調査によるエネルギー消費量測定」（p71～76）。	135分
第11回	11回目 食生活質問票の作成	栄養改善のための活動や取組の効果を評価するため、食生活質問票を考案できるようになる。 「課題提出あり」	これまでの食事調査結果から問題点・課題を把握し、食生活上のどのような点について調査したいか考えておく。	135分
第12回	12回目 調査の実施、分析	食生活質問票を用いた調査を実施し、集計する。 食生活質問票を用いた調査の集計結果を表にする 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「 質問票の作成法、質問票の整理」（p63～65, p91～95）。	135分
第13回	13回目 発表用スライド作成	食生活質問票を用いた調査の集計結果の表から、発表用スライドを作成する. 「課題提出あり」	教科書を読んでおく 「 質問票の作成法、質問票の整理」（p63～65, p91～95）。	135分
第14回	14回目 発表会-質問紙調査結果について	プレゼンテーション技術を身に着ける。	発表用スライドのデータをUSBに入れておくこと。	135分
第15回	15回目 発表会-質問紙調査結果について	プレゼンテーション技術を身に着ける。	発表用スライドのデータをUSBに入れておくこと.	135分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・平常点45%（3点×15回）、レポート45%（3点×15回）、発表点10%で評価する。 ・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
レポート点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合	・平常点45%、レポート45%、発表点10%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・栄養科学シリーズ　ＮＥＸＴ　公衆栄養学実習　（講談社）（ISBN　978-4-06-155355-2　C3347）
参考図書	・日本人の食事摂取基準 2020版（第一出版）
参考URL	https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000149009
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができ

	るコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。″ 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における公衆栄養活動の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、第一種衛生管理者（健康管理の国家資格：厚生労働省）、産業栄養指導者（厚生労働省外郭団体中央労働災害防止協会認定資格）を有し、トータル・ヘルス・プロモーションプランにおける栄養教育、集団給食部門における栄養改善に関する実務経験を有しており、将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき公衆栄養施策の計画立案・評価・改善について、実例を示してより実践的に教授します。
アクティブ・ラーニング	○	・公衆栄養学活動における計画、実施、評価、改善の技術をより高めるため、グループ内でデイスカッションし、時にデイベイトして、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	給食管理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R20603M21
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 この授業は、特定多数の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般のマネジメントを行う能力について講義する。また、特定給食施設における経営管理を中心に、基礎的な学習や栄養・食事管理システムとマネジメントを行うための知識と技術について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養士の役割、特定給食施設の種類および特性、実際の給食運営について説明できる。
思考・判断の観点（K）	給食運営管理業務の実践・管理手法および実施後の評価をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食事・栄養管理はライフステージを通して行うものであることを理解し、対象者に合わせた献立立案・作成を常に関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	給食の概念	給食の概念、給食の目的、特定給食の概要と法規、栄養士・管理栄養士の役割について理解する。	教科書の「第1章　給食の概念」を読んでおくこと。	120分
第2回	給食の運営とマネジメント	給食運営業務の流れと給食運営マネジメントについて理解する。	教科書の「第2章　給食の運営とマネジメント」を読んでおくこと。	120分
第3回	栄養・食事管理について	栄養管理の意義と目的、栄養管理計画、栄養教育計画、食事計画、献立管理、品質管理、栄養・食事管理の評価について理解する。	教科書の「第3章　栄養・食事管理」を読んでおくこと。	120分
第4回	献立管理について	給食における献立計画、献立作成の手順、各種給食施設の献立の特徴、献立の評価について理解する。	教科書の「第4章　献立管理」を読んでおくこと。	120分
第5回	生産管理について	給食における生産管理、調理工程計画の実際、大量調理の品質管理について理解する。	教科書の「第5章　生産管理」を読んでおくこと。	120分
第6回	品質管理について	給食における品質管理、作業指示による品質管理、品質管理の評価について理解する。	教科書の「第6章　生産管理」を読んでおくこと。	120分
第7回	食材管理について	食材料管理の分類、食材料の購入管理、発注・検収、食材料の保管・在庫管理、食材料費の評価について理解する。	教科書の「第7章　食材料管理」を読んでおくこと。	120分
第8回	安全・衛生管理、危機	安全・衛生のリスク、安全・衛生管理の対策、事故発生時の対処、危機管理対策について理解する。	教科書「第8章　安全・衛生管理」および「第16章　危機管理」を読んでおくこと。	120分

	管理について			
第9回	施設・設備管理について	給食の施設・設備管理の概要、給食の施設・設備計画、施設・設備の保守管理について理解する。	教科書の「第9章　施設・設備管理」を読んでおくこと。	120分
第10回	経営管理について	経営管理の意義・目的、経営組織、経営資源について理解する。	教科書の「第10章　経営管理」「第11章　マーケティング」「第12章　顧客管理」「第15章　原価管理」を読んでおくこと。	120分
第11回	給食運営の委託について	委託の目的、委託の形態および方法、関連法規について理解する。	教科書の「第14章　給食運営の委託」を読んでおくこと。	120分
第12回	各種給食施設の給食運営の特徴（児童福祉施設、学校）	児童福祉施設給食の概要、児童福祉施設給食の実際、学校給食の概要、学校給食の実際について理解する。	教科書の「第18章　各種給食施設の給食運営の特徴」を読んでおくこと。	120分
第13回	各種給食施設の給食運営の特徴（高齢者福祉施設、事業所）	高齢者福祉施設給食の概要、高齢者福祉施設給食の実際、事業所給食の概要、事業所給食の実際について理解する。	教科書の「第18章　各種給食施設の給食運営の特徴」を読んでおくこと。	120分
第14回	各種給食施設の給食運営の特徴（病院）	病院給食の概要、病院給食の実際について理解する。	教科書の「第18章　各種給食施設の給食運営の特徴」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめおよび定期試験	給食の運営をするにあたり、関連する全ての管理内容について理解する。定期試験も行う。	教科書全般を読んで理解しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	定期試験の結果を受け、上位関連科目において説明・解説を行う。
評価方法	平常点、定期試験で評価を行う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点10%、定期試験90%
使用教科書名(ISBN番号)	給食経営管理論／三好恵子ら編著／第一出版
参考図書	日本人の食事摂取基準2020年版／第一出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室
学生へのメッセージ	校内・校外給食管理実習を学ぶ前の給食管理の基礎と理論を学ぶ授業です。この科目は校内給食管理実習を受けるための必須要件となっていますので、しっかり勉強しましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	校内給食管理実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R30605M13
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 給食の管理・運営について、その計画・実施・販売・提供について校内実習を通して学ぶ。対象者に応じた食事計画を実施することは、栄養士にとって必要不可欠なスキルである。食事計画論や基礎および応用調理学実習で学んだ知識・技能を基に、献立作成、調理実習、献立評価などを実習することにより、適切な食事計画を実施することのできる能力を備えることを目標とする。また、その作業工程でHACCPの概念に基づいた衛生・安全管理の実際を学ぶ。
履修条件	校内給食管理実習を履修するためには、以下の科目を修得済みでなければならない。 1. 基礎調理学実習（１年前期・必須科目） 2. 調理学（２年前期・必須科目） 3. 調理科学実験（２年後期・必須科目） 4. 給食管理学（２年前期・必須科目）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学内実習を通じ、栄養士が行う給食の運営全般について説明できる。
思考・判断の観点（K）	作業の流れを理解し、的確な指示をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	校内実習はグループワークであるため、それぞれ尊重、協力し合い、コミュニケーションをとらなければ、安心・安全で喫食者が満足する給食を作ることができないことが理解できる。
技術・表現の観点（A）	基本的な調理技術だけではなく、大量調理の技術を身につけ実践することができる。また、栄養指導媒体作成を通じ、喫食者に理解してもらえる表現技術を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	実習内容および実習の進め方を理解する。また、実習室の清掃をすることで、実習室の構造および機器備品類の配置を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第2回	指示献立実習	指示された献立の調理を行うことで、実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第3回	試作	各グループで作成した予定献立を試作し、献立内容の再検討、修正等を行うことで、試作の必要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分

第4回	実習準備①	予定献立をもとに、レシピ、作業工程表、発注表等の関連帳票、媒体などの作成を行い、事前準備の重要性を理解する。また、本作実施シミュレーションを栄養士が班行うことで、実習当日の作業の流れおよび指示内容の確認をすることの必要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第5回	実習準備②	予定献立をもとに、レシピ、作業工程表、発注表等の関連帳票、媒体などの作成を行い、事前準備の重要性を理解する。また、本作実施シミュレーションを栄養士が班行うことで、実習当日の作業の流れおよび指示内容の確認をすることの必要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第6回	第1回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第7回	第1回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第8回	第2回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第9回	第2回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第10回	前半の反省会、後半の準備	前半の実習の反省が、後半の実習でよりよい献立を喫食者提供できることにつながることを理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第11回	第3回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第12回	第3回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第13回	第4回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第14回	第4回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第15回	反省会、まとめ	４回行った大量調理実習の総括を行い、校内給食管理実習が校外給食管理実習につながる重要な実習であることを理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容と実施した献立および実習内容との比較を行い、予定通りに実習を行うことができたか、また不足・不備な点があったかを確認する。	120分

学生へのフィードバック方法	提出してもらうレポートにコメントを入れて返却する。
評価方法	平常点、実習に取り組む姿勢、協働意欲、給食運営理解度を総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	平常点			○	
	実習に取り組む姿勢			○	
	協働意欲		○	○	
	給食運営理解度	○	○		○

評価割合	平常点50%、実習に取り組む姿勢20%、協働意欲20%、給食運営理解度10%
使用教科書名(ISBN番号)	調理場における衛生管理マニュアル＆調理技術マニュアル 日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版） 食品成分表 その他資料を配布する
参考図書	給食経営管理論（第一出版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内での実習を通し、様々な立場や状況の人々とのコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組み、栄養士として探究心および倫理観を持ち、【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る技能を身につける。
オフィスアワー	金曜5限　2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	対象者とテーマに合った献立や媒体内容などを、グループディスカッションしながら決めていく。
情報リテラシー教育	○	媒体等に用いる情報について、科学的根拠のあるデータ等を用いるように指導する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	校外給食管理実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R30606M13
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 実際の給食施設において、給食を運営する栄養士の業務を体験することにより、実践力を培い、栄養士としての主体的な自覚を養う。総合的なマネジメントについて理解し、給食施設における栄養士の役割と業務内容を習得する。
履修条件	校外給食管理実習を履修するためには、以下の科目を修得済みでなければならない。 1. 校内給食管理実習を修得済みであること 2. 食品衛生学（３年前期・必修）が修得済みであること 3. 食品衛生学実験（3年後期・必修）は履修中であること 4. GPA2.00　以上であること（３年前期の単位修得時点）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学外での実習を通し、栄養士業務の実際を理解し、給食管理学や校内給食管理実習で学んだ内容と合致させることができる。
思考・判断の観点（K）	実習施設における多種多様の情報を整理し、また社会人としての行動を判断し実行できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	校外実習で学ぶ意味を理解し、実習先の指導者の指示内容に真摯な態度で臨み行うことができる。実習施設の給食の運営以外の特徴等にも関心を持ち、施設自体の役割等についても理解することができる。
技術・表現の観点（A）	実習施設の指導者の指示に従い、調理作業等をきちんとすることができる。また、実習記録ノートの記載も、正式な書類の扱いとして、丁寧にわかりやすく行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	校外実習①	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第2回	校外実習②	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第3回	校外実習③	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第4回	校外実習④	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第5回	校外実習⑤	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第6回	校外実習⑥	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケ	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営	120分

		ーションの重要性も理解する。	に関する学びの復習	
第7回	校外実習⑦	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第8回	校外実習⑧	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第9回	校外実習⑨	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第10回	校外実習⑩	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第11回	校外実習⑪	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第12回	校外実習⑫	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第13回	校外実習⑬	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第14回	校外実習⑭	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第15回	校外実習⑮	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分

学生へのフィードバック方法	実習先の指導者からいただいたご指摘内容を個別に伝える。 実習記録ノートにコメントを記載し返却する。
評価方法	実習前の事前指導に取り組む姿勢・意欲、実習先の指導者の評価、実習後の事後指導に取り組む姿勢・意欲、実習記録ノートの内容を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	事前指導に取り組む意欲・姿勢	○		○	
	事後指導に取り組む意欲・姿勢	○		○	○
	実習先からの評価	○	○	○	○
	実習記録ノートの内容	○	○	○	○

評価割合	実習先の指導者の評価60%、実習前の事前指導に取り組む姿勢20%、実習後の事後指導に取り組む姿勢20%
使用教科書名(ISBN番号)	資料を配布する
参考図書	日本人の食事摂取基準、日本食品成分表、給食経営管理論（第一出版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学外での実習を通し、様々な立場や状況の人々とのコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組み、栄養士として探究心および倫理観を持ち、【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る技能を身につける。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室
学生へのメッセージ	意欲をもって、真面目に取り組むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	基礎調理学実習（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R10601M23
授業概要(教育目的)	日本･西洋･中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として１回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても師範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。 本科目は、栄養士免許証、中・高教員免許、フードスペシャリスト、フードコーディネーター取得のための必須科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。 栄養価計算方法を説明できる。
思考・判断の観点（K）	食材・器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理器具、食器、計量器具などを目的に合わせた扱いができる。 調理の目的に合わせて食材を適切に切砕でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	協調して授業に参加することができ、班の構成員としての役割に対して寄与できる。
技術・表現の観点（A）	基本的な調理道具が使用でき、盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明	調理の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。包丁、まな板、各種計量器具について種類と適切な使い方を学ぶ。また、各種洗剤、石鹸、布巾類の取り扱い方他、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。	調理実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理し、次週からの実習に備える。	120分
第2回	日本料理①炊飯（白飯）、ゆで方、だしの取り方、野菜の切り方	炊飯の調理工程（計量、洗米、浸漬、加水、蒸らし）を理解し、盛り付け方、配膳・配置を学ぶ。だしは、昆布、かつお、および混合出しの取り方を学ぶ。汁物の椀だね、椀妻、吸い口を学ぶ。正しいまな板への向かい方、包丁の持ち方と野菜の切り方を実習を通して、技術を取得する。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第3回	日本料理②味付けご飯、魚のおろし方、筍のゆで方	味付けご飯について塩分濃度、調味料の添加時期など白飯と比較をしながら要点と技術を理解・習得する。魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い、三枚おろしを習得する。筍のゆで方、和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録する	120分

	（たけのこご飯、鰺のかば焼き、木の芽和え、若竹汁）		こと。次週の実習内容を確認すること。	
第4回	日本料理③ 煮方、蒸し方、練り物（お赤飯、炊き合わせ、かきたま汁、葛桜）	実習を通して、もち米の吸水、加熱法とささげ豆によるもち米への着色方法を学ぶ。煮方について学び、炊き合わせの方法について学ぶ。葛でんぷんの糊化と透明感と口触り、温度管理など実習で学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第5回	日本④　揚げ物、和え物、煮干しだし、寄せもの（天丼、白和え、なめこの味噌汁、水ようかん）	揚げ物の要点・注意点について学ぶ。和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。また寒天の扱い方について、寄せ方について学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第6回	日本料理⑤（太巻き寿司、ばらの巻き寿司、茶わん蒸し、わらび餅）	すし飯のための炊飯（加水量、加熱・蒸らし時間）の要点と合わせ酢の調味割合を実習を通して学ぶ。茶わん蒸しのだしと卵の割合、加熱の要点を学ぶ。わらび粉の扱い方について学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第7回	日本料理⑥ 献立演習（栄養計算，どらやき）	日本成分表の成り立ちと栄養価計算の基本的な方法を学ぶ。菓子の実習では、卵の起泡性について実習を通して学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第8回	西洋料理① ミネストローネスープ、若鶏のソテー、マッシュポテト、ブラマンジェ	スープは基本となるブイヨンの取り方を学び、ソテーは鶏肉の下処理、調味法、焼き方を学ぶ。マッシュポテトはジャガイモの裏ごしの要点と加熱・調味法を学ぶ。ブラマンジェは、コーンスターチの調理上の特徴（糊化）と攪拌効果（粘弾性）を学ぶ。 実習ノート中間提出。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第9回	西洋料理② ハンバーグステーキ、コンソメスープ、ワインゼリー	コンソメスープではスープの澄まし方について、ハンバーグステーキは肉だねの作り方、成形、焼成方法について学ぶ。またトマトソースについて学び。ワインゼリーでは、ゼラチンの扱い方について学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第10回	西洋料理③（オニオングラタンスープ、舌平目のムニエル、トマトサラダ、クレープ）	オニオンスープの玉ねぎの切り方と炒め方の終点を学ぶ。舌平目のおろし方、ムニエルの要点を学ぶ。クレープでは小麦粉生地の特性と焼き方、オレンジソースについて学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第11回	西洋料理④（グラタン、サラダニース風、カスタードプディング）	グラタンでは、ルウの材料割合とベシャメルソースの加熱方法とその終点を学ぶ。ニース風サラダでは、ビネグレットソースの基本の調味割合と調理法を学ぶ。カスタードの材料配合割合と加熱の要点、カラメルの調理法の要点を学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第12回	中国料理①（冷菜、チンジャオロース、粥、桃饅頭）	中国料理の様式の特徴と盛り付け、配置・配膳を学ぶ。什錦拌盤では、3種の食材を冷菜としての盛り付け方、塩クラゲの処理法と味付け、きゅうりの切り方と下処理法と調味を学ぶ。また中華粥の調理法、桃饅頭の生地作り、成形、蒸し方について学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第13回	中国料理②（炒飯、麻婆豆腐、トマトスープ、タピオカのココナッツミルク）	炒飯では、飯、具材の下準備と炒め方、味付けの要点を学ぶ。溜菜（麻婆豆腐）では、肉への下味、炒め方など溜菜の要点を学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第14回	中国料理③（花巻、鶏絲黄花湯、	花巻では蒸し方、湯（鶏ガラスープ）の取り方、澄ませ方について西洋料理のスープストック取り方の相違点なども比較しながら学ぶ。杏仁豆腐では、粉寒天の扱い方	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法（科学的なポイント、調理上の要点	120分

	咕咾肉、杏仁豆腐）	の復習と牛乳の調理上の注意点を学ぶ。シロップの材料割合と加熱条件を学ぶ。	など）、配膳図（写真）、出来上がりの評価・考察を記録すること。次週の筆記試験の確認をすること。これまでの実習を振り返って、復習として自身の評価を実習ノートにまとめること。	
第15回	まとめ　定期試験、片付け	これまでのまとめと調理の基本的な内容についての筆記試験を行う。	実習ノート最終提出。	120分
第16回	テーブルマナーの体験授業	有名ホテルでテーブルマナーの体験授業を実施する。西洋料理のマナーを学ぶ。	西洋料理のテーブルマナーについて、事前に調べ、きちんとした作法で食事ができるように準備しておくこと。	120分

学習計画注記	天候他で食材に影響がある場合、授業内容を変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2108室やemail）で受けます。 実習ノートは定期的に回収し、採点をして返却します。
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。 筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。 実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。 実習ノート：指定された項目の記載（15週分）内容について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験		○		○
筆記試験	○	○		
実習ノート	○	○	○	○

評価割合	授業参加状況（30%）、実習のノート（40%）、筆記試験（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	①応用自在な調理の基礎　日本料理篇　河内一行、川端晶子他共著 建帛社（978-4-7679-0629-4） ②応用自在な調理の基礎　西洋料理篇　川端晶子 編著建帛社（978-4-7606-0247-6） ③応用自在な調理の基礎　中国料理篇 川端晶子、澤山茂 編著 建帛社　（978-4-7679-0631-7） ④八訂　2020食品成分表　女子栄養大学出版部（978-4-7895-1021-9） ⑤調理のためのベーシックデータブック　女子栄養出版部（978-4-7895-0323-5）
参考図書	必要に応じてプリントを配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。 【技能・表現】食を通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日　2限　2108研究室
学生へのメッセージ	授業後には、実習内容を毎回実習ノートにまとめること。調理の機会を作ることで技術の上達や応用力が身につきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	調理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R20602M21
授業概要(教育目的)	調理は食品の栄養性の向上や安全性を配慮し、美味しい食事を作ることを目的とする。そのためには、より良い食事計画を行い調理理論に基づいた効率的な加工法や調理法を習得する必要がある。本講義では、食事設計について理解し、調理器具、調理操作について学び、調理の果たす役割について専門的な基礎知識の習得を図る。 本科目は、栄養士免許、中・高教員免許（家庭）、フードスペシャリスト、フードコーディネーター取得のための必科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.調理の意義、目的を説明できる。 2.食品の調理特性を説明できる。 3.調理による食品の栄養成分の変化、テクスチャーの変化を説明できる。
思考・判断の観点（K）	1.適切な調理操作と調理機器の使用法、関係性を分類できる。 2.おいしさの要因について分類できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業概要、調理の目的と意義について	調理学の授業内容の概要を理解する。また、調理の目的と意義を理解する。	事前学習により授業内容について調べ、理解が深まる様に努めること。調理について調べておくこと。 授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第2回	おいしさの設計1	食べ物の嗜好性―おいしさの要因―	おいしさの設計について教科書をよく読んでくること。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第3回	おいしさの設計2 食事設計1	おいしさの演出―おいしさを生み出すだしと調味― 食事設計の基本について	食事計画について、食事バランスガイドについて調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第4回	食事設計2	献立作成について	献立作成ついて調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第5回	調理操作1	非加熱操作　非加熱調理操作の種類と目的およびその操作に必要となる器具の種類と特徴について理解をする。	非加熱操作について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分

第6回	調理操作2	加熱操作　加熱調理操作法の種類と操作目的とその効果について学ぶ。また、それらの操作に用いる加熱器具・設備についてその特徴と調理上の効果を学ぶ。	加熱操作について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第7回	調理設備、器具	調理設備、器具	調理設備、器具について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第8回	食品の調理特性1	植物性食品1　穀類：米、小麦粉	主食となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第9回	食品の調理特性2	植物性食品2　いも類、豆類、種実類	副食のうち、副菜となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第10回	食品の調理特性3	動物性食品1　食肉類、魚介類	副食のうち、主菜となる食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第11回	食品の調理特性4	動物性食品2　卵類、乳類	完全栄養食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第12回	食品の調理特性5	ビタミン、無機質を多く含む食品の調理性 野菜類、果実類、きのこ類、海藻類	からだの調子を調える食品について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第13回	食品の調理特性6	成分抽出素材 油脂類、砂糖、ゲル化素材	成分抽出素材について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第14回	食品の調理特性7	調味料、香辛料について	調味料の役割について調べておくこと。授業内容で不明な点は書籍などで調べ復習すること。	120分
第15回	調理の役割	調理の果たす食品開発への役割、授業まとめ	第1回目から第14回目までの内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によって授業内容を変更することがある。
学生へのフィードバック方法	毎時間5分程度の質問の時間を設ける。また、小テスト（確認）を実施し、採点後に正回答を明示する。質問等がある場合には時間内または研究室（2108室やemail）で受けます。
評価方法	小テスト10%、定期試験90%の総合評価とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への取り組み	○	○	○	○
	小テスト	○	○		
	筆記試験	○	○		

評価割合	授業への取り組み30%、小テスト10%、定期試験60%を合計して評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	調理学　第2版（公社）日本フードスペシャリスト協会　編　建帛社　(978-4 -7679-0656-0)
参考図書	必要に応じて指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。
オフィスアワー	木曜日　2時限　2108研究室
学生へのメッセージ	栄養士養成の必修科目であるため、授業前に教科書を読んでおくこと。また、授業後は講義内容を復習するなど、積極的、自主的に授業に臨んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	調理科学実験（RA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R20604M13
授業概要(教育目的)	調理科学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に関与する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。本授業は、栄養士免許取得に必須科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 食品の調理特性を説明できる。 2. 調理操作法（非加熱、加熱、調味）による食品の外観、テクスチャーなど食味、栄養成分への影響を関係づけて説明できる。
思考・判断の観点（K）	食品の調理・加工特性に基づいて、調理法の適否を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	調理上の変化のメカニズムを探求することに協調的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	実験機器・器具が正しく使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス：調理科学実験の概要と実験上の諸注意。機器・器具の取り扱い方、計量・計測について。実験レポートの作成法について。（講義）	調理科学実験の概要について理解する。実験の進め方、実験結果のまとめ方を理解する。また、基本的な器具・機器の扱い方を学ぶ。	教科書3～5ページの調理科学実験を始めるにあたってを読んでおくこと。 教科書8～9ページを読んでおくこと。	120分
第2回	味覚：五基本味の閾値と味の相互作用ついて	甘味、塩味、酸味、苦み、うま味の5基本味について、検知域、認知域を確認する。鰹節と昆布、およびこれらの混合出しから、味の相互作用（相乗効果）について確認をする。また、うま味成分と塩味の関係性を確認する。	授業前は、教科書14ページの実験1、18ページの実験2の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第3回	植物性食品：米（米	米の種類とその形状についてについての違いを理解する。米の吸水について種類（もち米、うるち米、無洗	授業前は、教科書56ページの実験1、プリントの方法を読み、	120分

	の形状と吸水）	米）と水温により吸水速度が異なることを理解する。	実験の流れをノートにまとめておく。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出する。	
第4回	小麦粉の種類と特徴：グルテン形成に及ぼす要因	薄力粉と強力粉の違いを識別できるように、外観、色、手触りを比較する。ドウ調製のための加水量とドウの伸展性を比較し、こね、寝かしの効果を確認する。また、調味料の種類とその添加時期によりグルテン形成への影響を確認し、調理への応用を考察する。	授業前は、教科書62ページの実験1を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第5回	小麦粉：スポンジケーキの品質に及ぼす卵の泡立て法の影響	卵の泡立て方法が、ケーキの膨化やきめ、テクスチャーに及ぼす影響を調べ、考察する。	授業前は、教科書66ページの実験3を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。	120分
第6回	野菜・果物の色（溶液のpHと加熱条件、酵素的褐変）	野菜にふくまれる色素（クロロフィル、アントシアニン、フラボノイド）は、加熱溶液のpHや食塩、塩類の影響を受けることを理解し、調理への適性を考察する。酵素的褐変の機構と防止法を理解する。	教科書の72ページ実験1と74ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第7回	豆類（豆類の種類と吸水・膨潤、あずきあんの調整と性状）	豆の種類による吸水パターンの特徴および時間との関係について調べ、適切な浸漬吸水時間を知る。またあんの調整方法をあずきを原料として学び、生あんや練あんの性状について、テクスチャーやあんとでん粉の関係を理解する。	教科書78ページ実験1と80ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第8回	いも類の扱い方（じゃがいも、さつまいも）	じゃがいもにおいて粉質性と粘質性の2種のいもの加熱後の扱いが、調理後のテクスチャーの与える影響を学ぶ。さつまいもの加熱方法（蒸し加熱、オーブン加熱、電子レンジ加熱）の違いが甘味、色調、香りが異なることを知り、調理への応用を考察する。	教科書の82ページ実験1、84ページ実験2を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第9回	肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化	調味料類や野菜・果物中に含まれる酵素（植物プロテアーゼ）の作用が肉の軟化に及ぼす影響を理解する。 ハンバーグにおける食塩や副材料の影響について、それぞれの役割を理解し、その他のひき肉料理への応用を考察する。	教科書の94ページ実験5、96ページ実験6のを読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。	120分
第10回	魚肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化（あじ、いか）	魚の塩締め、酢締めについて生の魚肉に及ぼす食塩、食酢の影響を知り、その役割を理解する。いかのテクスチャーが加熱時間により変化することを理解する。	教科書の98ページ実験1、104ページ実験4を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第11回	卵の調理性（熱凝固性、希釈性）	卵黄、卵白の熱凝固性を知る。希釈卵液の希釈濃度、希釈液や調味料種類による影響について、茶碗蒸し、卵豆腐、カスタードプリンを対象にゲル化特性を理解する。	教科書の113ページ実験6、107ページ実験2、108ページ実験3を読み実験手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第12回	卵液の調理性2（起泡性、乳化性）	卵白を撹拌すると起泡するが、その際の添加物（砂糖、油脂、卵黄、塩、レモン汁）と温度の影響を理解する。卵黄の乳化作用を利用したマヨネーズの調製法の理論を、調味料の添加時期と割合、撹拌操作から理解し、安定なエマルションの形成要因を学ぶ。	教科書の114ページ実験7、116ページ実験8を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次回提出すること。	120分
第13回	牛乳・乳製品の調理特性（酸、熱による影響、クリームの起泡性）	牛乳が酸凝固（カード化）するpHを確認し、カッテージチーズを調製する。牛乳のたんぱく質の熱変性（皮膜、加熱臭）について、その要因を把握する。また各種クリームの気泡条件とその違いを理解し、適正な起泡条件を知る。	教科書の118ページ実験1、119ページ実験2、の120ページ実験3を読み、実験の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第14回	成分抽出素材と調理1（砂糖の加熱による変化）	砂糖の加熱温度と撹拌時間の関係を理解し、フォンダン、砂糖衣の要点を理解する。	教科書の122ページ実験1と配布プリントを読み手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第15回	成分抽出素材と調理2（寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性）	寒天、ゼラチンに添加する砂糖のゲル化、テクスチャーへの影響について理解する。また、牛乳、果汁を添加することで各ゲル化に及ぼす影響を理解する。たんぱく質分解酵素を含む果物の添加方法とゲル化への影響を理解する。	教科書の126ページ実験1、130ページ実験3の手順をまとめておくこと。授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分

学習計画注記	諸事情により食材の搬入に影響があった場合は、授業内容を変更することがある。
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートのコメントを参考にして修正を行い再提出すること。質問がある場合には、2108研究室（email可）まで訪問すること。

評価方法	実験授業への参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）10%、レポートによる評価60%、定期試験30%

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業参加状況	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	

評価割合	授業参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）10%、レポート60%、定期試験30%
使用教科書名(ISBN番号)	調理学実験　改訂新版　今井悦子他　アイ・ケイコーポレーション（978－4－87492－345－0　C3077）
参考図書	必要に応じて提示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取りまく様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
オフィスアワー	木曜日　2限　2108研究室
学生へのメッセージ	失敗をせず、嗜好性の高い食事づくりには、その食材の調理特性を知り、的確な調理・加工をすることが必要となります。調理は、実習、実験、講義の3つの科目を履修し技術を向上させながら、科学的な理由を学び、実験により確認をすることで栄養士として、様々な対象者に対して確実な食事作りが可能となります。主体性をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	微生物学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鈴木　武人	指定なし

授業概要(教育目的)	微生物は多種多様であり，ヒトの生活と密接な関係を持っている。本講義では食品の安全確保、あるいは食品加工（伝統食品や新食品開発）などに重要なヒト・動植物および食品に関わる病原あるいは有用微生物を対象とし、その種類・性質といった微生物の概略から、微生物の利用、制御、感染症の発生メカニズムなど応用的な事柄に至るまで授業展開する。
履修条件	高校における生物を理解していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・微生物の種類、特徴、構造・形態、増殖様式を説明できる。 ・微生物による食品の変敗や食中毒について説明できる。 ・微生物の食品への有効利用について説明できる。
思考・判断の観点（K）	・微生物と人との関わりについて、有効利用と排除の両面から具体的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・食品の安全に関する理解に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	微生物の種類と性質①微生物とは何か	細菌、ウイルス、真菌の分類とそれらの基本的な違いについて学修する。	配付した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。	120分
第2回	微生物の種類と性質②細菌（Ⅰ）	細菌の構造と機能について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第3回	微生物の種類と性質③細菌（Ⅱ）	細菌の栄養・代謝、増殖について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第4回	微生物の種類と性質④ウイルス（Ⅰ）	ウイルスの構造と機能について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第5回	微生物の種類と性質⑤	ウイルスと宿主の関係、増殖について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。	120分

	ウイルス（Ⅱ）		講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	
第6回	微生物の種類と性質⑥真菌類	真菌類の構造と機能、増殖、栄養・代謝について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第7回	微生物の培養	細菌、ウイルス、真菌の培養方法を学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第8回	微生物の利用①	発酵食品など食品加工への微生物の利用を学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第9回	微生物の利用②	微生物の酵素代謝系を利用した物質生産について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第10回	消毒と滅菌	滅菌と消毒の概念や代表的な消毒・滅菌法について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第11回	食品の腐敗と保存①	腐敗による食品の変敗について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第12回	食品の腐敗と保存②	食品の保存と微生物管理について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第13回	感染と免疫	微生物の感染とそれに対する生体防御について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第14回	感染性食中毒	国内で発生率の高い感染性食中毒について、病原体の種類や病態について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第15回	腸内細菌叢と健康	腸内細菌叢とメタボリックシンドロームの関係について学修する。	講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。 これまでの授業内容を総復習しておくこと。	予習240分 復習420分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の講義後に行う小テストは、次回の講義で正答の提示と解説を行います。
評価方法	・毎回の講義後に、その回の講義を振り返る小テストを行います。問題数は5問（各1点）で五択問題または正誤問題とします。1～15回までの点数の合計点（75点）を30点満点に換算し、評価します。小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は70点満点で出題し、出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	小テスト	○		○	

評価割合	定期試験（70%）および小テスト（30%）で評価します。 試験形式等は初回授業時に説明します。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	栄養士や教員、食の専門家として、探究心を持つとともに、使命感と倫理観を持って社会に貢献するための専門知識を有している。 また、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るために必要な指導力を身につけている。
オフィスアワー	なし
学生へのメッセージ	微生物は食品加工への応用により保存性や嗜好性の改善に加えて様々な機能性を発揮させる一方で、食品の変敗や我々人の命を脅かす食中毒の原因にもなります。これらの知識は食品を扱う上で必要不可欠であるため、理解を深めるよう務めて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，真菌の発酵抽出物を用いた家畜飼料添加物や健康食品を製造する企業とその機能性解明の共同研究を実施するなかで、その際に得られた知見から使用方法や使用目的に関するアドバイスを行ったり、製造時の品質管理に関する知見を提供するなどの経験を有している。このような微生物発酵産物の利用に関し、生産現場における留意点や、利用の注意点などを教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ＨＡＣＣＰ実践演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R41713M22
授業概要(教育目的)	HACCPによる衛生管理は、各原料の受入から製造工程、製品の出荷までのすべての工程において、食中毒など健康被害を引き起こす可能性のある危害要因を科学的に管理する手法である。HACCPプラン導入には一般的衛生管理プログラムの導入も必要である。そのため、製造環境の衛生管理、従業員の衛生管理、食品取扱者の教育・訓練、記録の必要性など、HACCPによる食品衛生管理を実施する上で整備しておくべき食品製造の衛生管理プログラムについても学びながら、HACCPプランを立案できるスキルを演習形態で習得する。専門性の高い分析機器に関する演習も展開する。現代生活学部食物学科におけるHACCP管理者資格ワークショップ同等教科としての開講科目、食品衛生管理者及び食品衛生監視員並びにHACCP管理者資格に関する選択科目でもある。
履修条件	食品衛生に関する総体的基礎知識を有し、特に食品の調理・加工工程における食品衛生管理のポイントも理解していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食品製造工程及び食品衛生管理の基礎知識と併せて、食品の安全確保・検証に必要となる専門理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	演習を編成された班で協同遂行し、演習工程、結果を分析し、情報共有ができる。
技術・表現の観点（A）	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作・HACCP立案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	●食品安全マネジメントシステム(FSMS)とCodex食品衛生の一般原則① ●HACCPプラン：HACCPとは（歴史、用語と定義、7原則と12手順と他の規則・規格等との関係性）	1. 食品に関係する法律及び規則、食品衛生新5SとSSOP（衛生標準作業手順）の概要、HACCPに関する知識を習得する。 2. HACCPチーム編成；班分けを行う。 3. 予備知識確認を行う。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第2回	●食品安全マネジメントシステム(FSMS)と	1. 食品に関係する法律及び規則、食品衛生新5SとSSOP（衛生標準作業手順）の概要、HACCPに関する前週内容の補足を行う。 2. 洗浄とろ過・除菌・除菌，環境の汚染防止，清浄度測	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。	予習60分，復習60分

	Codex食品衛生の一般原則② ●食品製造現場における衛生管理と微生物制御① ●HACCPプランニング1－①：加工食品製造現場事例	定に関する知識を習得する。 3. 加工食品製造現場動画を視聴❶する。	［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	
第3回	●食品製造現場における衛生管理と微生物制御② ●HACCPプランニング1－②：手順1；HACCPチームの編成とスコープ特定	1. 設備機器・器具類，包装材料，作業操作における微生物制御対策知識を習得する。 2. HACCPプランにおける手順1；HACCPチーム編成（第1回班分け）とスコープ特定（第2回視聴動画❶の内容を基に）を行う。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第4回	●食品製造現場における衛生管理と微生物汚染防止対策③ ●HACCPプランニング1－③：手順2；製品の記述、手順3；意図する用途および対象消費者特定、手順4；フローダイヤグラム（製造工程図）構築	1. 液体系，固体及び粉末系食品の微生物制管理に関する知識を習得する。 2. 視聴動画❶に基にHACCPプランの手順2～4を立案する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第5回	●食品衛生管理と危害分析法①；原子吸光分析法❶ ●HACCPプランニング1－④：手順2；手順4；フローダイヤグラム（製造工程図）の構築、手順5；フローダイヤグラム等の現場確認	1. 原子吸光分析法について食品中のカルシウム分析を事例に機器とデータ解析法を習得する。 2. 視聴動画❶に基にHACCPプランの手順4と手順5（参考事例追加情報を基にブラッシュアップを行う）を立案する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第6回	●食品衛生管理と危害分析法②；原子吸光分析法❷ ●HACCPプランニング1－⑤：原則1ハザード分析と管理手段の検討	1. 原子吸光分析法について、第5回のデータを基にデータ解析法を行う。 2. 視聴動画❶と前週までの情報より、HACCPプラン原則1（手順6）としてハザード分析とその管理手段内容の検討する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第7回	●食品衛生管理と危害分析法③；GC－MSによる分析法❶ ●HACCPプランニング1－⑥：HACCPプラン原則2重要管理点決定、原則3管理基準（許容限界）設定、原則4モニ	1. GC－MS（ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー）を用いた残留農薬分析を学ぶために食品中成分分析を事例に機器並びにデータ解析法を習得する。 2. 視聴動画❶と前週までの情報より、HACCPプラン原則2（手順7）として重要管理点（CCP）の決定と原則3（手順8）各CCPに対する妥当性が確認された管理基準（許容限界）設定、原則4（手順9）各CCPに対するモニタリングシステム設定を立案する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分

	タリングシステム設定			
第8回	●食品衛生管理と危害分析法④；GC－MSによる分析法❷ ●HACCPプランニング1－⑦：HACCPプラン原則5改善（修正）措置設定、原則6プランの妥当性確認と検証手順設定、原則7文書と記録方法確立	1. GC－MS（ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー）を用いた残留農薬分析を学ぶために行った第7回のデータ解析を行う。 2. 視聴動画❶と前週までの情報より、HACCPプラン原則5（手順10）改善（修正）措置の設定、原則6（手順11）HACCPプランの妥当性確認および検証手順の設定、原則7（手順12）文書および記録方法を確立する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第9回	●食品衛生管理と危害分析法⑤；HPLCによる分析法❶ ●HACCPプランニング1－⑧：各チームのプレゼントとブラッシュアップ	1. HPLC（高速液体クロマトグラフィー）を用いた分析手法を学ぶために、食品添加物；合成着色料の分析を事例に機器並びにデータ解析法を習得する。 2. 視聴動画❶を基に作成したHACCPプランのプレゼンを行い、各チームのプレゼンを受け、自身達のチームの立案内容をブラッシュアップする。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第10回	●食品衛生管理と危害分析法⑥；HPLCによる分析法❷ ●HACCPプランニング2－①：大量調理施設運営事例と事例に対するHACCPプラン手順1～3	1. HPLC（高速液体クロマトグラフィー）を用いた分析手法を学ぶために行った食品添加物；合成着色料のデータ分析を行う。 2. 大量調理施設現場動画❷を視聴する。 3. 視聴動画❷を基に手順1～手順3を立案する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第11回	●HACCPプランニング2－②：HACCPプラン手順4～5、原則1	1. 視聴動画❷を基に手順4～5、原則1を立案する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第12回	●HACCPプランニング2－③：HACCPプラン原則1～6	1. 視聴動画❷を基に原則1～7を立案する。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第13回	●HACCPプランニング2－④：HACCPプラン原則7とプレゼン準備	1. 視聴動画❷を基に原則7を立案する。 2. 大量調理施設事例のHACCPプランプレゼンの準備を行う。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第14回	●HACCPプランニング2－⑤：大量調理施設事例HACCPプランのプレゼンとディスカッション	1. 大量調理施設事例のHACCPプランプレゼンを各チーム行う。 2. 他チームのプレゼンやディスカッションを受けて自身のチームのHACCPプランをブラッシュアップする。	［予習］事前配布資料、教科書当該関連事項を読んでおくこと。 ［復習］次回関連内容を精査しておくこと。	予習60分，復習60分
第15回	●まとめ ●HACCPプランニング確認試験	1. 第1回～第14回の纏めと最新の食中毒事例と食品事故事例を解説する。 2. HACCPプランニングの確認試験を行う。	［予習］前週までの内容を精査し、試験に向けた準備を進めておくこと。 ［復習］試験内容の解答精査と提出を行うプランニング内容の精査を行っておくこと。	予習60分，復習60分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	演習態度（個別または編成された班における協同の様子等）25%、演習結果解析・課題レポート45%、HACCPプランニング試験30%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	演習態度	○	○	○	○
	演習結果解析・課題レポート	○	○	○	○
	HACCPプランニング試験	○	○		○

評価割合	演習態度（編成された班における協同の様子等）25%、演習結果解析・課題レポート45%、HACCPプランニング試験（プレゼンを含む）30%の総合評価（100%）とします。
使用教科書名(ISBN番号)	HACCP管理者認定テキスト　日本食品保蔵科学会HACCP管理者認定委員会編　豊福肇 春田正行 日佐和夫 共著 建帛社　発行年月日2021年4月30日　ISBN；978-4-7679-0706-2　CコードC3047　定価　2,420円(本体価格：2,200円) 必要な資料も授業中に適宜、配布・配信します。
参考図書	大量調理施設衛生管理マニュアル厚生労働省, 新訂版食品添加物の使用基準便覧（第45版）日本食品衛生協会, 松井利朗・松本清 共編　食品分析学　培風館, 取り組もうHACCP-きほんの12手順- 日本食品衛生協会, 食品衛生検査指針微生物編《細菌》注解 日本食品衛生協会, 新訂 食品衛生責任者ハンドブック-第2版- 日本食品衛生協会
参考URL	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/haccp/index.html
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品衛生管理の専門的な知識を基に、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】演習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品製造現場における衛生管理システムの専門的技術を身につける。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品衛生管理や食品製造工程等々の基礎知識の上に専門的かつ実務的な要素が入る演習となります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する選択科目、HACCP管理者資格修得においては必修となる科目です。 授業展開内容の性質上、履修人数により機器分析の学びにおいては2クラス編成日程的に分かれ、行う可能性もあります。 また、機器分析の実技に関しては町田校舎と千代田三番町校舎の両校舎を使用し、展開します。 そのため、千代田三番町校舎に出向く回が1回分もしくは2回の授業相当になる可能性があります。 但し、新型コロナ対応の状況により、町田校舎のみで行う可能性もあります。 詳細は授業展開時に説明をします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。また、HACCP管理者資格養成協会によるHACCP管理者資格認定講師の認証も得ている。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行い、プレゼンも行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、HACCP立案や報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	情報収集、HACCP立案や報告書作成等に必要なツールを活用する。 資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品機能学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R31708M21
授業概要(教育目的)	近年の栄養学や食品科学の発展は目覚ましく、食品の機能性に関する多くの知見が蓄積されている。また、それらの知見を利用して新しい食品素材や技術が開発・実用化されている。本講義では、最新の科学研究論文を紹介しながら、食品機能に関する科学研究と産業応用例を学ぶ。（学生便覧より） まず、食品学と栄養学を復習し、食品機能の基礎を修得します。また、1,2年次の授業で習っていない知識や実験技術について詳しく解説します。次に、食品機能の最新の知見を学びます。学術研究のしくみと、研究倫理・ヒト試験の進め方についても理解します。
履修条件	・食品の機能に興味がある方 ・食と栄養の科学について、進んだ学びをしたい方 ・卒業研究で、実験系のテーマを選ぶ方 ・将来、より専門的な職種を目指したい方（研究職・大学教員・医療現場の管理栄養士など）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食と栄養の科学の基礎が理解できている 食と栄養に関する最新の科学研究や産業応用例の知識が深まっている
思考・判断の観点（K）	データを読み取って、 科学的根拠に基づく客観的で合理的な解釈ができる
関心・意欲・態度の観点（V）	食や栄養の専門家として深い探究心を持ち、より進んだ学びを志している
技術・表現の観点（A）	データを読み取って、 科学的根拠に基づく客観的で合理的な説明ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 4/12	・本授業のシラバスを確認する。 ・２年後期までに学んだ食品機能の知識の理解度をチェックする。	食品機能の知識の理解度チェックについて、解答できなかった問題について取り組み、次回の授業までに提出してください。	180分
第2回	食品機能の基礎知識（１）4/19	・タンパク質の科学を学ぶ。 ・受容体・酵素と食品機能に関して復習する。	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第3回	食品機能学の基礎知識（２）4/26	・核酸の科学を学ぶ。 ・遺伝子発現・遺伝と食品機能の関係を学ぶ。	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第4回	食品機能学の基礎知識（３）5/10	・代表的な２次機能と３次機能性の成分を復習します。 ・トクホや機能性表示食品について復習します。	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第5回	学術研究と研究倫理【グループワーク】 5/17	・情報のエビデンスレベルについて学びます ・論文投稿のしくみを理解します ・疫学と統計の基礎を学びます ・ヒト試験と、研究倫理について学びます	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分

第6回	食と栄養の科学（１） 5/24	肥満に関する新しい知見（１） カロリーのコントロールだけで、肥満は防ぐことができるか？	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第7回	食と栄養の科学（２） 5/31	肥満に関する新しい知見（２） 運動すれば、痩せるか？	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第8回	食と栄養の科学（３） 6/7	肥満に関する新しい知見（３） 肥満と糖尿病の蔓延は、人類の進化の中で遺伝子が変化したせいかも知れない？	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第9回	食と栄養の科学（４） 6/14	和食の素晴らしさを遺伝子チップで証明する	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第10回	食と栄養の科学（５） 6/21	ビタミンDは、遺伝子に働いて作用を発揮する	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第11回	食と栄養の科学（６） 6/28	刺激や苦味を有する成分は、健康機能性を有するものが多い	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第12回	食と栄養の科学（７） 7/5	・遺伝子組換え食品・遺伝子編集食品を受け入れますか？ ・人工培養肉を受け入れますか？	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第13回	食と栄養の科学（８） 7/12	食欲と脳（１） 加工食品は、有害でしょうか？有害だとしたら、何が問題でしょうか？	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第14回	食と栄養の科学（９） 7/19	食欲と脳（２） お腹の中の腸内細菌が、あなたの思考と気分を決めているかも知れない！	課題に取り組み、次回の授業までに課題を提出してください。	180分
第15回	授業のまとめ【グループワーク】 7/26	授業で学んだことを振り返ります。	期末試験の準備をしてください。	180分

学習計画注記	・皆さんの理解度を確認しながら、授業を進めていきます。理解度は、課題の解答状況を見ながらチェックします。 ・本科目は講義ですから、毎回180分程度の教室外学習が必要です。教室外学習は、主に課題提出となります。毎回課題を提出できるように、勉強の時間を確保してください。 ・理解を深めるために、グループワークを２回予定しています（第５回と第１５回） 【ノートについて】 ・ルーズリーフは、勧めません。 ・方眼ノートを勧めます。 ・見開き、左を授業中のメモ、右側に整理・調べ用にすると良いです。 ・卒業後も、活用できるノートにすることを勧めます。 ・良いノートを取っておくと、就活の時にとても役にたちます。 ・ノートを真剣に取ると、「書く」力が身につきます。
学生へのフィードバック方法	・提出していただいた課題に対して、適宜、フィードバックしてお返しします。 ・記述式問題への解答方法、文章作成についても指導します。 ・適宜、ノートを提出していただいて、ノートの記入方法について指導します。
評価方法	筆記試験 ・テキスト、ノート、配布プリントの持ち込みを可とします。 ・授業の理解度を確かめる記述式の問題を出題します。 ・授業で習得した知識を発展させて解く記述式の問題を出題します。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
期末試験	○	○	○	○

評価割合	期末試験 100% 期末試験の成績に、課題提出率と出席率の両方を乗じて成績評価します。第１回のガイダンスの出席は、計算に入れません。第１５回は、課題はありません。
使用教科書名(ISBN番号)	食の未来 地中海食からゲノム編集まで（別冊日経サイエンス222） ISBN：978-4532512224 その他に、プリントを配布します。
参考URL	https://classroom.google.com/c/NDkyNDQ1OTkxMjI1?cjc=upa6ppb
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・栄養士、食の専門家として探究心を持っている。 【技能・表現】 食と栄養に関して、科学的根拠をもとに合理的に説明できる表現力を身につけている
オフィスアワー	授業後
学生へのメッセージ	・近年の食品科学と栄養学の発展は、目覚ましいものがあります。教科書には書かれていない事実や発見がたく

	さんあります。先端の科学研究の面白さを味わってください。 ・より専門的な職種を目指す学生を応援したいと考えています。将来、大学院へ進学して研究職を目指す方・大学教員を目指す方・病院など医療現場の管理栄養士を目指す方に必要な「科学」の素養を高める教育を目指しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業にて経験した食品機能の研究と開発について、紹介します。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを２回予定しています。
情報リテラシー教育	○	科学データや、文献情報を検索する方法を説明します。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品加工学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R21706M21
授業概要(教育目的)	食品の加工・貯蔵技術は有限な素材を有効に活用するために重要である。本授業では農林畜産物、水産物等の加工・貯蔵意義、原理、加工方法に加え、加工特性や貯蔵特性を捉えた包材に関する知識、加工食品の表示に関わる規格や制度に加え、実際の加工食品製造ラインの流れ、製造工程で使用される食品機械についての学びも授業展開する。本科目は現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録、HACCP管理者資格取得に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目である。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	多種多様な食品の特性を生かした加工食品製造に必要な専門知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	加工食品製造における各種工程において、安全面に配慮し、倫理的思考と判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	基礎的知識を生かして、応用発展に繋げるコミュニケーションができる。
技術・表現の観点（A）	加工食品に関する知識を正しく他者に伝える文章作成ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	第1章　現代の食生活と加工食品	1. 食品加工・調理の歴史 2. 私たちの生活と加工食品の関わり を理解する。	教科書；「第1章　現代の食生活と加工食品」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	第安全な加工食品をつくるためのしくみ	1. 加工食品を劣化させる要因 2. 食品の加工技術 3. 食品の保存技術 4. 加工食品を保存するための包装技術 を理解する。	教科書；「第2章　安全な加工食品をつくるためのしくみ」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	公正な加工食品をつくるためのしくみ	1. 食品表示法 2. 保健機能を表示するためのルール を理解する。	教科書；「第3章　公正な加工食品をつくるためのしくみ」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	付加価値の高い加工食品をつくるためのしくみ	1. 食品添加物とその使用基準 2. 食品加工への酵素や微生物の利用 3. 安定した品質の加工食品をつくるしくみ を理解する。	教科書；「第4章　付加価値の高い加工食品をつくるためのしくみ」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	植物性食品を原料とした加工食品の製造法①	1. 穀類 2. いも類およびでん粉類 の加工食品を理解する。	教科書；「第5章　植物性食品を原料とした加工食品の製造法1. 穀類2. いも類およびでん粉類」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第6回	植物性食品を原料とした加工食品の製造法②	3. 豆類 4. 種実類 の加工食品を理解する。	教科書；「第5章　植物性食品を原料とした加工食品の製造法　3. 豆類　4. 種実類」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	植物性食品を原料とした加工食品の製造法③	5. 野菜類 6. 果実類 の加工食品を理解する。	教科書；「第5章　植物性食品を原料とした加工食品の製造法　5. 野菜類　6. 果実類」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	畜産加工食品とその利用①	1. 魚介類加工品 2. 食肉加工品 を理解する。	教科書；「第6章　畜産加工食品とその利用　1. 魚介類加工品　2. 食肉加工品」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	畜産加工食品とその利用②	3. 卵類加工品 4. 乳加工品 を理解する。	教科書；「第6章　畜産加工食品とその利用　3. 卵類加工品　4. 乳加工品」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	畜産加工食品とその利用③	ジビエの特性を理解する。日本ジビエ振興協会から講師による特別授業を行う。	教科書・配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	発酵食品と油脂食品の製造法①	1. 微生物利用食品 を理解する。	教科書；「第7章　発酵食品と油脂食品の製造法　1. 微生物利用食品」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	発酵食品と油脂食品の製造法②	2. 油脂食品 を理解する。	教科書；「第7章　発酵食品と油脂食品の製造法　2. 油脂食品」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	これからの加工食品①	1. 品種改良技術と遺伝子組換え技術 を用いた加工食品を理解する。	教科書；「第8章　これからの加工食品　1. 品種改良技術と遺伝子組換え技術」読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	これからの加工食品②	2. これからの加工食品：食の専門職と食品加工 を理解する。	教科書；「第8章　これからの加工食品　2. これからの加工食品：管理栄養士と食品加工」を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	加工食品とHACCPシステム	加工食品製造に関わる衛生管理システム を理解す。	1. 配布資料を読んでおくこと。 2. 第1回～第15回までの復習を行っておくこと。 3. 出題課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート15%、定期試験（筆記試験）85%の総合評価（100%）とします。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題レポート	○	○	○	○
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート15%、定期試験（筆記試験）85%の総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	ステップアップ栄養・化学シリーズ　食品加工学　著者中島肇・佐藤薫 編　化学同人　出版年月日 2020/03/30 ISBN9784759818963　判型・ページ数B5　・176ページ　定価本体2,300円＋税
参考図書	＊二重に購入をされないよう気をつけて下さい。以下の教科書よりも以前の教科書を有している学年のかたが履修希望の場合、新たに購入される必要性はありません。 ●令和3年度　食品学総論使用教科書；栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編　定価2600+税 ●令和4年度食品学各論使用教科書；栄養科学イラストレイテッド　食品学Ⅱ 改訂第2版 食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品加工に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録、HACCP管理者資格取得に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。また、ジビエを用いた回では、日本ジビエ振興協会より実際にジビエを常に扱われている講師による実務経験を反映して頂いた授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実物資料を基にその特性を理解する。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポート作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品加工学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R21707M23
授業概要(教育目的)	食品加工学の講義内容を踏まえ、実際の加工食品製造に準拠した製法にて缶詰や瓶詰、レトルト食品等をつくる。糖蔵、塩蔵、燻煙等の加工手法を実際に実習することにより、多種多様な食品素材のの加工特性を捉える。併せて、包材特性試験や貯蔵試験や製造規格試験等も行い、加工食品の規格や貯蔵試験も体得する授業展開を行う。本科目は現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員必修、HACCP管理者資格取得に関する選択科目である。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	多種多様な食品素材を生かした一般的な加工技術工程を食品加工を行う意義と併せて説明できる。
思考・判断の観点（K）	加工原料、加工工程の状態を把握し、応用的思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	基礎的な食品加工工程を応用へ繋げる意欲や関心をもち、編成された班で協同できる。
技術・表現の観点（A）	基礎的な食品加工操作を自身並びに他者への安全面にも留意した加工操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	豆類の加工①	納豆の製造を行い、製造工程並びに発酵食品と豆類の加工特性を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第2回	豆類の加工②	米味噌の製造を行い、製造工程並びに発酵食品と豆類の加工特性を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第3回	豆類の加工③	豆腐の製造（木綿豆腐、絹ごし豆腐）を行い、製造工程並びに食品添加物（凝固剤）の特性と豆類の加工特性を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第4回	果実類の加工①	みかんのシラップ缶詰の製造を行い、製造工程並びに、食品添加物用強アルカリ・強酸の特性を用いた剥皮工程、缶詰の巻し締め、使用果実の糖度とシロップ濃度の関係を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第5回	果実類の加工②	グレープフルーツマーマレードの製造と併せてペクチン検査を行い、製造工程とジャム製造原料となる果実類の特性を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

			２．実習レポートを作成すること。	
第6回	キノコ類の加工	キノコの調味瓶詰め作成より、製造工程並びに調味加工品特性とガラス瓶詰め理論を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第7回	いも類の加工	コンニャクの製造を行い、製造工程並びに食品添加物（凝固剤）の特性と加工工程における物性変化を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第8回	乳類の加工①	バターの製造、ヨーグルトの製造、酸乳飲料の製造①を行い、製造工程と併せて乳製品の特性を理解する、	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第9回	乳類の加工②	乳酸菌飲料の製造②、ヨーグルトの乳酸測定を行い、最終調整を行う。試飲可能な折は、食品添加物（香料）によるフレーバー変化を検討する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第10回	畜肉類の加工①	ジビエ（鹿）肉の特性を理解する。日本ジビエ振興協会講師による解体見学、調理・加工特性のための実習を行う。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第11回	穀類の加工②	中華麺の製造を行い、製造工程並びにかん水と小麦粉の反応による色調並びに物性の変化を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第12回	嗜好品の加工	キャラメルの製造を行い、製造工程と糖類の変化を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第13回	畜肉類の加工②	豚肉挽肉を用いたソーセージの製造を行い、製造工程と香辛料の特性と畜肉の物性変化を理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第14回	イミテーションフーズの加工（魚卵）	人工イクラの製造を行い、製造工程とイミテーションフーズの用途について理解する。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第15回	製造基準検査と確認試験	みかんのシラップ缶詰の缶検査を行い、完成品並びに長期保存品の規格条件を理解し、規格適合品の有無を確認する。 製造工程理論等の実技＋筆記試験を行う。	１．事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 ２．実習レポートを作成すること。 ３．第1回～第15回を復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	＊授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	実習態度（編成された班における協同の様子等）30%、実習結果検討・課題レポート50%、実技＋筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習態度	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	実技試験	○	○		○
	筆記試験	○	○		

評価割合	実習態度（編成された班における協同の様子等）30%、実習結果検討・課題レポート50%、実技＋筆記試験（全15回授業内容）20%の総計100%による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	なし　必要な資料を授業中に適宜、配布します。
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編

	栄養科学イラストレイテッド食品学Ⅱ改訂第2版食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社 栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品加工における専門的技術を身につける。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学，基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なかたほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、HACCP管理者資格取得に関する必修科目です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。また、ジビエを用いた回では、日本ジビエ振興協会より実際にジビエを常に扱われている講師による実務経験を反映して頂いた授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	応用調理学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R11702M23
授業概要(教育目的)	基礎調理学実習を発展させた日本・西洋・中国料理の調理実習を行う。季節向きの献立、行事食、精進料理等、各趣向や目的に合わせた献立において内容に沿った食べ物の文化的、歴史背景も学べる内容とする。技術、食品の性質とその取り扱い方、演出、食事作法なども学ぶ。本科目は、中・高教員免許、フードコーディネーターの資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 行事食を通して食べ物と行事の繋がりや意味合い、食の文化的、歴史的背景を説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 食材の下処理法や衛生的な取扱い方、調理技術が身についている。 2. 食品の種類と概量を説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	協調して授業に参加することができ、班の構成員としての役割に対して寄与できる。
技術・表現の観点（A）	調理用具・機器を使用でき、目的に合わせた食事の演出とマナーや献立作成ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業概要、授業の目的と進め方、評価、実習上の心得、準備等。行事食の実技試験についての説明、個人献立の作成課題。	授業の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。	実習ノートを作成し授業の目的と授業内容を整理すること。次週の実習内容を確認すること。各班、指示のあった行事食の個人献立の作成を行い、次週提出。	120分
第2回	日本料理の献立による実習（親子丼、かぼちゃの肉そぼろかけ、きゅうりとくらげの白酢あえ、あさりの潮汁）	丼物の調味方法、盛り付け、かぼちゃの切り方、煮方について、塩くらげの扱い方、三杯酢について、あさりの扱い方、潮汁について学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第3回	精進料理の献立による	塩味飯について塩分濃度、調味料の添加時期など白飯と比較をしながら要点と技術を理解、習得する。豆腐の水	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術	120分

	実習（さつまいもご飯、飛龍頭、卯の花、ごま豆腐、生麩の味噌汁）	切り、揚げ方、おからの炒り煮の方法、くずでんぷんの糊化と練り上げ終点について学ぶ。	的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。精進料理についてまとめること。次週の実習内容を確認すること。	
第4回	西洋料理の献立による実習（チキンカレー、バターライス、サーモンのカクテル、フルーツの盛り合わせ）	イギリス式カレーソースの作り方、バターライスの炊き方、フルーツ飾切りまた盛り付け方について学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第5回	中国料理の献立による実習（粽子、春巻き、玉米湯、蒸しカステラ）	粽子ではもち米の扱い方、春巻きでは野菜の切り方、揚げ方、玉米湯ではスープのとろみのつけ方、溶き卵の流し方について学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第6回	献立作成（行事食）	行事食個人献立返却、班で献立作成、班行事食献立提出（料理名、材料、重量、完成図まで）	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第7回	西洋料理の献立による実習（ウィン風カツレツ、クラムチャウダー、ロールパン、シュークリーム）	豚肉の処理とソテー方法、ルウと貝を加える要点を学ぶ。シュー生地の材料割合と加熱方法、カスタードクリームの材料割合と調理法、生クリームの泡立ての要点を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第8回	西洋料理の献立による実習（ザクースカ、ピロシキ、ボルシチ）	ロシア料理による前菜であるザクースカの盛り合わせ、パン生地を作成し、生地のこね、発酵、形成、焼成の流れを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。ロシアの食文化についてもまとめる。次週の実習内容を確認すること。	120分
第9回	韓国料理の献立による実習（鶏肉のジョン、チヂミ、三色ナムル、かぶとリンゴのキムチ、わかめスープ）	朝鮮の伝統調理方法であるジョンについて、またナムル、キムチの実習を行い、韓国料理の様式やマナーについて学ぶ。 班行事食献立（栄養計算まで）提出。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。韓国の食文化についてもまとめる。次週の実習内容を確認すること。	120分
第10回	行事食：クリスマス料理（ローストチキン、バターライス、にんじんのグラッセ、ブロッコリーのソテー、フルーツポンチ）	鶏肉の下処理、成形、焼き方、にんじん切り方、グラッセの方法、ゆで方、ソテーの方法、フルーツのカットの方法を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第11回	行事食：お正月①（田づくり、栗きんとん、伊達巻、雑煮）	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。食材とおせち料理の言われなどを調べておく。	120分
第12回	行事食：お正月②（のし鶏、ぶり照り、筑前煮、なます、菊花かぶ）	お正月の重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）、器への盛り付けを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の実習内容を確認すること。我が家のおせちについてまとめる。	120分
第13回	中国料理の献立による実習（春餅、豆腐の	立春を祝う料理（春餅）の実習では、小麦粉の扱い方、揚げ物、炒め物について、またマンゴープリンではゼラチンの扱い方について復習を行う。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。	120分

	肉団子スープ、マンゴープリン）		次週の実習内容を確認すること。	
第14回	実技試験：行事食	各班で作成した献立についての実技試験を行う。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価、考察を記載すること。次週の発表準備を行う。	120分
第15回	実技試験発表、まとめ	行事食実習（実技試験）の発表、片付け	発表練習。これまでの実習を振り返り、自身の評価を実習ノートにまとめること。実習ノート最終提出。	120分

学習計画注記	天候他、材料の搬入に影響があった場合は実習内容の変更をすることがあります。
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は2108研究室（emailも可）を訪問してください。
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習への取り組み方を評価する。 技術試験：応用的な実技試験を行う。 調理ノート：指定された項目の記載（15週分）と課題の記述を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習参加状況	○	○	○	○
	実習試験		○		○
	実習ノート	○	○	○	○

評価割合	平常点（40%、授業への参加状況）、実技試験(30%)、調理実習ノート他提出物(30%)による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	①応用自在な調理の基礎　日本料理篇　河内一行、川端晶子他共著 建帛社（978-4-7679-0629-4） ②応用自在な調理の基礎　西洋料理篇　川端晶子 編著建帛社（978-4-7606-0247-6） ③応用自在な調理の基礎　中国料理篇 川端晶子、澤山茂 編著 建帛社　（978-4-7679-0631-7） ④八訂　2020食品成分表　女子栄養大学出版部 ⑤調理のためのベーシックデータブック　女子栄養出版部（978-4-7895-0323-5
参考図書	必要に応じてプリントを配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。 【技能・表現】食と通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日　2限　2108研究室
学生へのメッセージ	実習ノートを活用し、時間を見つけて調理をすることで技術が上達します。栄養士は、多様な食材の特徴を知り、一食材を多様に、また多くの食材を使いこなせる知識と技術が求められます。積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	製品・食品鑑別演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 新原　恵子	指定なし

ナンバリング	R31709M22
授業概要(教育目的)	食品の栄養、安全性、機能性に関して客観的に鑑別する方法は、現代社会の機器分析の発達により格段に進歩をしたが、「おいしさ」や「品質の総合的な評価」の大部分は人による官能評価に委ねられている。各食品の種類や特性などを理解し、品質を評価できる能力を身に着けることが、適切な食材を選択するためには重要になる。官能評価法の中で使用頻度の高い手法を使用して、実験計画を立てられるようにし、具体的な実施方法について、演習や発表を取り入れながら習得する。
履修条件	食品の基礎知識を有していることを前提にした授業内容もあるため、「食品学」や「調理学」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食品の品質を評価する官能評価法の中でも、主要な方法について説明できる。 化学的評価法、物理的な評価法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	食品の官能評価から、食品の開発に必要な要素について考えることができる。 食品の品質評価を通し、食の安全性や食生活についての問題点を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食品の本来の「おいしさ」や「栄養価」に関心を持ち、食品の生産、製造、販売、選択購入、保存、調理方法などを通し、毎日の健康的で、豊かな食生活に寄与できるようになる。
技術・表現の観点（A）	官能評価の目的、正しい評価の方法、結果の出し方を習得し、専門的に記述表現できるようにする。 「おいしさ」や「品質の評価」を専門的な表現で発表できるようになる。

学習計画

食品の官能評価と鑑別

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション。食品の品質についての概要。	食品であるために優先すべき、基本的な特性を理解し、食品の品質について考える。 毎日の「食事」において、「食品」の果たす役割りを考える。	自分が「おいしい」と感じている食材や料理を、「食品学」や「調理学」など履修した授業の観点などをを取り入れて、「栄養」「嗜好」「生体調節機能」についてまとめておく。	60分
第2回	官能評価の手法の選択①	官能評価 5味の識別テストの復習。 演習1：2点識別試験法、2点嗜好試験法について 演習2：3点識別試験法について官能評価を通して学ぶ。	授業前に教科書P3-P16を読んでおく。	予習60分。復習60分
第3回	官能評価の手法の選択②	順位法、評点法を理解し、なぜこれら評価法が必要なのかを理解する 演習3　スピアマンの順位相関係数について 演習4 Newell&MacFarlaneの検定表を用いる検定ついて官能評価を通して学び、各々の評価について検定を実施し、レポートにまとめる。	授業前に教科書P17からP19を読んでおく。「好ましさ」に寄与する要因を理解する。	予習60分、復習90分
第4回	官能評価の手法の選択	演習5　ケンドールの一致性の係数 演習6 評点法について　官能評価を実施して評価法を学	教科書P21～P29までを読んでおく。	予習60分。復習120分。

	③	び、各々の評価について検定を実施し、レポートにまとめる。		
第5回	化学的評価法について。	演習7:食品の変質について 食品成分と品質のかかわりについて学び、品質検査法について演習を取り入れて学習する。市場などや、購入段階では外観に頼った選別も行われるため、外観による食品情報についても学ぶ。	教科書P31-P58までを読んでおく。実際に食品を店頭で購入する際に、今回の授業を踏まえ留意した点をまとめておく。また酵素褐変を防止法をした調理法について調べておく。	予習60分、復習90分
第6回	物理的評価方法について	食品の基本的な特性を踏まえ、食品がもつ力学的性質、レオロジー、食感、テクスチャー、色の評価について学ぶ。特に近年の高齢社会において、高齢者が栄養摂取をしやすい形態での食の開発が、重要になっている。咀嚼や嚥下を考慮するユニバーサルデザインフードについての物性規格について学ぶ。	教科書P59ーP85まで読んでおく。	予習60分。復習90分
第7回	個別食品の鑑別:米、麦類、トウモロコシ、雑穀類、イモ類について	食品を総合的・体系的な知識で鑑別できる知識を習得する。主食である米や小麦の種類や加工品について理解をする。	授業前に教科書P88-P110を読み、食品学で学んだ食品の特徴について復習しておく。	予習60分、復習90分。
第8回	個別食品の鑑別：豆類、種実類、野菜類、キノコ類、果物類、海藻類について	演習8:野菜の官能評価を実施する。 野菜の生食、加工食品の鑑別。野菜や果物などの品質だけでなく、鮮度保持や熟成についても知識を深める。また豆類の「植物性たんぱく質」としての可能性を考え、品質や取り扱いの知識を深める。	授業前に教科書P111-138までを読んでおく。家庭で食べる豆類や、豆類の加工品の食べ方や、おいしさについて予習しておく。	予習60分、課題180分
第9回	個別食品の鑑別：魚介類、肉類、卵とその加工品について	魚介の鮮度判定。鮮度が重要視される魚介類の鮮度判定においての指標や鮮度を保つための流通技術を学び、理解を深める。肉類は輸入物も含め種類が多い。部分肉の種類や銘柄、品種について学び日常の食生活にも寄与できるように学ぶ。	授業前に教科書P139-168まで読んでおく。授業で学んだことをもとに魚介類もしくは肉類を購入する場合どの様なことを問題視したか、店頭での購入時の鑑別についてにまとめておく。	予習90分、課題90分
第10回	個別食品の鑑別：乳と乳製品について	演習9：牛乳、乳製品官能評価を実施。牛乳、乳製品の官能評価を通し、成分の違いや種類、特徴について知識を深める。 機能性表示食品と特定保健用食品の内容も含む。	授業前にP168-P177を読んでおく。授業前の1週間の中で、毎日の牛乳・乳製品の摂取した種類や量を書き出しておく。授業の中で簡易のカルシウム摂取チェックをするので、「自分の食生活の中での牛乳乳製品について」まとめておく。	予習60分、復習60分
第11回	個別食品の鑑別：油脂、菓子類、酒類について	健康ブームにより、店頭の植物油の種類も増えている。各食用油の特徴や変敗防止について理解を深める。菓子や酒類などの嗜好品は多種多様であるが、酒に関しては、製造方法の違いによる分類も理解する。	授業前に教科書P177-P198を読んでおく。復習として醸造法について理解を深める。	予習60分、課題90分
第12回	個別食品の鑑別：茶類、コーヒー、ココア、嗜好飲料について	演習10：市販飲料の官能評価。 その他飲料の鑑別について鑑別について理解をする。	授業前にP198-P209を読んでおく。官能評価を基に、購入する頻度の多い飲料類の成分ついて調べておく。	予習60分、復習60分
第13回	個別食品の鑑別：醸造食品、調味料、香辛料	食文化の広がりにより、世界中の食が日本に入り、海外の料理が広まっている。それに伴い海外の調味料も普及している。一方国内の伝統的な醸造食品は、健康ブームや手作り加工食品ブームに伴い、広がりつつある。食文化と調味料について学ぶ。	授業前に教科書Ｐ209～Ｐ223までを読んでおく。	予習60分、復習60分
第14回	個別食品の鑑別：インスタント食品、冷凍食品、弁当	食生活、社会生活の変化に伴い、外食・中食が普及している。昨年は新型コロナウィルス感染拡大により食生活の中で、店頭の料理の持ち帰り形態が普及をした。その種類や取り扱いの知識を深める。	授業前にP224-P236を読んでおく、身近なところで持ち帰り形態になったお店があれば、メニュー等調べておく。	予習60分、課題90分
第15回	個別食品の鑑別：機能性食品 授業のまとめ	健康作りに対する関心の高まりから、多種多様な食品が流通している。その中でも保健機能食品について学ぶ。 15回の授業の中で補足すべき点や、テストについて説明をする。	授業前に教科書P237-P240をよんでおく。	予習60分
第16回				

学習計画注記	授業展開において、新型コロナウィルス感染拡大、履修者数、授業進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	官能評価を実施することにより、専門的な表現で記述できているか確認する。発表内容については、内容が適切か、表現が伝わるかを講評する。その他必要事項については授業内で、適宜フィードバックする。
評価方法	「官能評価」だけでなく、「食品学」や「調理学」の観点から、食への関心を持ち、レポートにまとめられ、発表できるかどうかを評価する。演習の授業であるため、授業内での取り組み、プレゼンテーション、発言など平常点と提出レポートも定期試験と同様に重要視する。授業課題レポートは日時、時間厳守とし、提出期限を遅延したものは減点とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題レポート	○	○	○	○
	演習・課題の取り組み、発表	○	○	○	○
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート・課題の取り組み（小テスト含む）40%、演習・課題の取り組み発表20%、定期試験40%
使用教科書名(ISBN番号)	三訂食品の官能評価・鑑別演習/建帛社 日本フードスペシャリスト協会編
参考図書	授業内で適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間の営みのなかで、最重要事項である「食」について「おいしさ」が重要であることを認識し、人が基準として判断する唯一の測定方法である官能評価を実施、分析し、提案や発信ができる。 【嗜好・判断】食を取り巻く環境が大きく変動する中で、食に関する総合的知識、技術を身に着け、食材を鑑別し、問題解決に導くための考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】消費者、生活者の視点に立ち、市場の動向や現代社会の諸問題に目を向け、「食」関する関心を持ち続けることができる。
学生へのメッセージ	フードスペシャリストの受験資格科目（協会指定科目）であるため、食品学や調理学の専門的知識を前提に授業を進めます。そのため関連教化の習得、復習が必要になります。日々の生活の中でも、なるべく多くの食材に興味・関心を持ち頂け、市場調査や家庭でも料理を実践することが望ましいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品企業に勤務し、食品開発、食品製造などを経験し、現在は普及活動などの実務をしている。実学的な現場情報も取り入れながら授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	市場調査（オンライン、企業HP検索等）学習、食生活問題解決学習を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食空間コーディネート論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし
准教授	高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	R21703M21
授業概要(教育目的)	この科目は、フードコーディネーター資格取得のために必須の科目である。 この授業は、心地よい食卓・食事空間の演出は、豊かな食生活を営む上で最も重要なことである。日常の食卓や行事に伴う様々な趣向を凝らした食卓の演出について、日本や諸外国の基本的テーブルセッティングのルールとその歴史的・文化的背景を含めて学ぶ。また、食器やカトラリー、クロスの材質、フラワーアレンジメントやこれらを総合したカラーコーディネート、食卓とイスなどテーブルを中心としたコーディネートの適正、採光や音響、温湿度などについてもその適切な条件について実演・実習を加えながら解説する。また、これらを基本とするテーブルマナーを解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幅広い文化によって構成されている食空間に関する知識を勉強することは、感性が豊かに磨かれ、「おもてなしの心と感謝の気持ち」が現れ、よりよい食環境づくりにつながる。食空間をプロデュースすることの意義を説明できる。
思考・判断の観点（K）	国、行事、季節等により食空間コーディネート内容は変化するため、国の習慣、行事内容等を考慮しコーディネートできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食空間を整える要素として食器の種類・形・触感、照明、色彩、花、部屋の広さ、料理内容など多くある。それらの組み合わせにより、食空間を様々に変化させることができる。テーブルコーディネートと色の効果について解説する。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食空間コーディネートとは	食空間コーディネートの目的、意義、役割について理解する。	テキストの「基礎理論」を読んでおくこと。	120分

第2回	テーブルコーディネートアイテムについて①	テーブルコーディネートのアイテムとして重要な食器の種類について理解する。	テキストの「テーブルコーディネートアイテムⅠ」を読んでおくこと。	120分
第3回	テーブルコーディネートアイテムについて②	テーブルコーディネートのアイテムとして重要な食卓装飾品、照明・光、テーブルリネン、テーブルに飾る花について理解する。	テキストの「テーブルコーディネートアイテムⅡ」を読んでおくこと。	120分
第4回	色彩について	食空間コーディネートをする際の、カラーシステム、配色テクニック、テーブルの色使いについて理解する。	テキストの「色彩」を読んでおくこと。	120分
第5回	和洋中のコーディネートについて	洋風テーブルセッティング、和食卓のセッティング、中国料理のセッティング、パーティー、国内外の行事について理解する。	テキストの「コーディネート」を読んでおくこと。	120分
第6回	おもてなし料理について	日本料理、西洋料理、中国料理、酒類・飲料類、日本料理・西洋料理・中国料理のテーブルマナーについて理解する。	テキストの「おもてなし料理」を読んでおくこと。	120分
第7回	卓食について	食育基本法、卓食の意味・役割について理解する。	テキストの「卓食」を読んでおくこと。	120分
第8回	LDKとキッチン	食卓の変遷、家の中の食卓空間の位置、DK・D・K、ワークトライアングル、キッチンレイアウト（Ⅰ、Ⅱ、L、U、アイランド型、ペニンシュラ型）、LDKの構成について理解する。	復習：キッチンとダイニング、リビングの関係を理解し、それぞれのメリット、デメリットを理解しておく。キッチンの種類、ワークトライアングルとの関係も理解しておく。	120分
第9回	動作空間と寸法	人体寸法、動作特性、ダイニングの動作空間、キッチンの動作空間について理解する。調理台の高さの算出を実際に自分の身長を基に計算する。	復習：収納や配膳などの動作空間について理解しておく。自分自身に合った調理台の高さについての導き方を復習しておく。	120分
第10回	コーディネーション（美の基本）、コーディネーション5つのポイント、インテリアイメージについて	インテリアイメージは、インテリアスタイル（クラシック、エレガント、モダン、カジュアル、ナチュラル、和風など）と色や素材のテイストから決まる。ここでは、テイストとして照明器具、キャンドル、カーテン、ウインドウトリートメント（窓枠装飾）を解説する。	復習：インテリアスタイルの特徴とそれぞれのエレメントの選択について理解しておく。	120分
第11回	和陶磁器について	和陶磁器の種類（炻器、陶器、磁器）、産地、土、釉薬、形、技法について解説する。また漆器の産地、加飾について解説する。食器の組み合わせ方の事例を挙げ解説する	復習：炻器、陶器、磁器、漆器の産地と特徴を理解しておく。またそれらの食器の組み合わせ方についても考察し、理解を深めておく。	120分
第12回	洋陶磁器について	洋陶磁器の基本アイテム5ピースの理解、洋陶磁器の種類と使い方、各国の食器の模様と特徴、洋陶磁器の歴史とブランド。 特にドイツのマイセン「ブルーオニオン」について、イギリスのボーンチャイナについて解説する。	復習：洋陶磁器は基本の大きさと形状があることを理解する。各国の食器の模様と特徴を理解しておく。	120分
第13回	銀器（金属器）とカトラリー、ガラス器について	金属器の歴史、製造工程、金属器（ステンレス、銀メッキ、純銀）の特徴。カトラリーの主なデザイン様式。また、ガラス器では、食事中に使用するグラス（ワイングラス、シャンパングラス、ピルスナーグラス）、食前、食後に使用するグラス類を解説する。	復習：洋食ではグラスに入れる液体によりグラスの形状や大きさが異なり、飲み物の温度を重要視するため、ステム（細脚）を持つ習慣がある。アルコール度数によりグラスの大きさが異なることを理解しておく。	120分
第14回	家具・床・壁紙・じゅうたんのスタイルと特徴	和家具・洋家具の歴史とスタイルの特徴。クラシック、エレガント、カントリー、モダン、ポストモダン、アバンギャルド、ナチュラル、カジュアル、和風、現代和風のスタイルと特徴を見ていく。ダイニングチェアーの特徴、カーペットの敷き方、壁紙と空間、木材の特徴・種類を紹介する。	復習：各スタイルの特徴を確認しておく。	120分
第15回	まとめ	テーブルマナーやテーブルセッティングについて、食事空間と様々なエレメント、日本独自の食習慣など総合的に理解する。	復習：配布資料の理解、試験対策としての学習。	120分

学生へのフィードバック方法	定期試験の結果を受け、定期試験問題の解説と答案用紙を一緒に返却する。
評価方法	平常点（20%）、課題（80%）で評価を行う。

	担当教員が2名いるが、それぞれが上記割合で評価を行い、その評価を合わせて総合的に成績を出す。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点20%、課題80%
使用教科書名(ISBN番号)	「TALK 食空間コーディネーターテキスト・3級」／食空間コーディネート協会 ただし、すでに本学で食空間コーディネート協会による講習会を受講した学生は購入しなくてよい。
参考図書	「TALK 食空間コーディネーターテキスト・2級」／食空間コーディネート協会 「TEXT　BOOK　テーブルコーディネート」／（株）優しい食卓
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食の専門家として探求心を持ち、社会に貢献したいという意欲があり、【技能・表現】食に関する表現力を身につける。
オフィスアワー	月曜3.5～4.5限　1502研究室（高尾） 金曜5限　2311研究室（山田）
学生へのメッセージ	フードコーディネータ資格取得希望者は、必ず履修してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	食に関する幅広い知識を習得し、食空間を構成する要素の必要性と感性を磨くことにより、食空間をプロデュースすることの意義を身に付ける。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	比較食文化・食生活論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小池　美穂	指定なし

ナンバリング	R11701M21
授業概要(教育目的)	世界の食文化と日本の食文化が形成された要因を自然環境、社会環境の視点から考え、多様な食文化を学ぶ。さらに、時代における日本食についての特徴を知り、近世以降日本食に影響を与えた事柄について歴史を辿ることにより、その背景についても理解する。近代においては、西洋文化の受容について知り、日本食が変化する様子を社会の変化から捉える。食生活の地域差、食の工夫、調理文化、食教育の形成などについても理解し、食生活の現状と課題を見つめ直す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	世界の食文化形成と日本の食文化形成の要因について比較し、特徴について理解できる。
思考・判断の観点（K）	「日本食」が形成され、変化する過程を辿ることにより現代の食の課題、将来の食について発展させて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	各時代における調理文化・郷土食などの学びから食文化の継承について考え、興味を広げることができる。
技術・表現の観点（A）	「食」が紡ぐ文化を通して自らの視点で比較し、様々な事柄に反映できる力を養う。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食文化の領域	食文化の定義を知り、食文化研究の対象について考える。	食文化の領域に関する内容を教科書の項目で確認し、予習しておく。また、授業の内容をノートにまとめて復習し、価値ある資料となるよう作成する。	90分
第2回	世界の食文化形成の特徴	世界の食文化圏、料理文化圏の分類からその形成要因を自然環境、社会環境の視点から学ぶ。	世界の食文化に関する内容を資料で確認し、予習しておく。ま	90分

			た、授業の内容をノートにまとめて復習しておく。	
第3回	日本の食文化形成の特徴	日本の食文化形成についてその要因を自然環境、社会環境から考え、特徴を理解する。	日本の食文化形成に関する内容を教科書の項目で確認し、予習しておく。授業の内容をノートにまとめて復習しておく。	90分
第4回	異文化接触と受容	喫茶文化にみられる異文化の受容の過程を学び、日本独自の食文化形成について考える。	茶、紅茶などの歴史について調べ、予習しておく。授業の内容をノートにまとめて復習しておく。	90分
第5回	日本の料理形式の発展①平安・鎌倉時代	大饗料理、精進料理について学ぶ。	平安・鎌倉時代の料理形式について予習しておく。授業の内容をノートにまとめて復習しておく。	90分
第6回	日本の料理形式の発展②室町・安土桃山・江戸時代	本膳料理、懐石料理、会席料理の変遷を知り、現代の食事様式に至る流れを理解する。	日本の料理形式に関する内容を予習しておく。授業の内容をノートにまとめて復習しておく。	90分
第7回	年中行事と行事食	平安時代から継承され、江戸時代に制定された年中行事を中心に行事食との関わりを学ぶ。	年中行事について各地に見られる行事食を調べておく。授業の内容をノートにまとめて復習しておく。	90分
第8回	江戸時代の料理書からみる調理と調味料の変遷	江戸時代に出版された料理書の特徴を知り、日本食発展の原点を学ぶ。	江戸時代に出版された料理書に関する内容について調べ、授業の内容をノートにまとめて復習しておく。	90分
第9回	西洋料理書、家庭向け料理書・雑誌と家庭料理の影響	明治時代における西洋文化の導入と西洋料理書、家庭向け料理書・雑誌の特徴から家庭料理の影響について考える。	明治時代における西洋文化の導入について調べ、授業の内容をノートにまとめておく。	90分
第10回	明治後期以降の食生活の変化	明治後期から変化する食生活について社会的背景を理解し、大正・昭和期の日常食の地域差についても学ぶ。	大正・昭和期の日常食の地域差について調べ、授業内容をノートにまとめておく。	90分
第11回	各地の食生活と郷土食の特徴	地域による料理の特徴を郷土料理を通して理解する。	郷土料理について調べ、予習しておく。授業内容をノートにまとめておく。	90分
第12回	非常の食生活	非常食の工夫を昭和時代の戦時食料統制下などの歴史から学ぶ。	戦争時における食生活についての資料を読み、予習しておく。授業内容をノートにまとめておく。	90分
第13回	高度経済成長期にみられる食の変容	高度経済成長期の食について知り、日本型食生活の特徴を理解する。	日本型食生活について調べ、予習しておく。授業の内容をノートにまとめておく。	90分
第14回	食教育について	食教育の位置づけと食生活の関連について学び、これからの食教育について考える。	食教育について調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	90分
第15回	和食文化のユネスコ無形文化遺産登録と世界につながる食	日本の食文化の基本を「自然の尊重」という軸から考え、世界各地の文化との繋がりを知る。	日本食の文化の特徴について考えておく。授業内容をノートにまとめておく。	90分
第16回				

学習計画注記	状況により、リモートと併用になることがあります。
学生へのフィードバック方法	課題の結果は、コメントをつけて返却します。 質問について随時対応致します。
評価方法	授業への取り組み、課題評価、レポート作成を総合して評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への取り組み			○	
	課題評価	○			○
	レポート作成	○	○		

評価割合	授業への取り組み(20%）、課題評価(30%）、学期末レポート(50%)
使用教科書名(ISBN番号)	江原絢子『日本食の文化　原始から現代に至る食のあゆみ』アイ・ケイコーポレーション(2021)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】世界と日本の食文化の多様性を理解し、行事食などの課題に取り組むことで培った独自のコミュニケーション力を持っている。 【思考・判断】食生活に関する諸課題について、豊かな想像力に基づく的確な判断力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】調理文化、郷土食の具体例に学ぶことにより食文化について関心を持ち、自ら考えをまとめる力を発揮することができる。 【技能・表現】専門的な学びを通して、食に関する諸問題など社会に生かせる表現力を身に付けている。
学生へのメッセージ	世界と日本の食文化について興味があるトピックスを見つけ、独自の視点から調べておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題を通して視覚的に共有することにより互いに学び合うことができる。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	調理と文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小池　美穂	指定なし

ナンバリング	R41712M23
授業概要(教育目的)	食文化的視点から調理実習を行う。はじめに各国の料理と食材、調理法、調味の共通点や違いを知るため、いくつかの国を事例とした調理実習を通して、食文化の背景を学ぶ。 　また、日本においては、各地域の食文化(粉食文化、粒食文化と食材など）について、郷土料理の実習を通して考える。さらに、本学の大江文庫に収められている江戸時代の料理書を紐解き、饗応の為の本膳料理形式を知り、時代による経緯についても理解を深める。江戸時代の再現料理を通し、素材、調理法、調味の工夫を学び、現代に生かす知恵に繋げる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本の料理形式を知り、時代による経緯を学び、知識を得る。 粉食文化、粒食文化について調理実習を通して理解を深める。
思考・判断の観点（K）	世界の料理、日本の郷土料理、伝統野菜、米・米粉を用いた料理などの課題に取り組むことにより、食文化の視点から調理を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	世界の料理文化と日本の料理文化の特徴を知り、素材、調理法、調味の工夫を実践できる。
技術・表現の観点（A）	各国の料理を通して、多様な調理方法及び調理技術を習得し、自ら応用できる力を養う。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業計画について 世界と日本の食文化について	授業内容と進行の予定、実習上の諸注意、成績評価、課題についての説明を行う。 世界と日本の食文化と調理について食文化の背景と特徴を解説する。	課題についての計画を立てる。 次週の実習の予習をする。	120分
第2回	世界の粉食文化と料理	無発酵のパン類と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてインド、メキシコ、中国料理の特徴を実習を通して考え	授業内容について工夫をしてポートフォリオを作成する。	120分

		る。	[項目：調理名、材料・分量、調理法、盛り付けの写真等、評価・感想、復習の写真]	
第3回	世界の粉食文化と料理	発酵したパン類と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてイタリア、中国料理の特徴を実習を通して考える。	ポートフォリオの作成 世界の料理についての課題作成	180分
第4回	世界の粉食文化と料理	発酵したパン類と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてドイツ料理の特徴を実習を通して考える。	ポートフォリオの作成 日本の郷土料理についての課題作成	180分
第5回	世界の粉食文化と料理	米粉を用いた料理と食材の特徴を学ぶ実習。事例としてベトナム料理の特徴を実習を通して考える。	ポートフォリオ作成 伝統野菜を用いた料理の考案	180分
第6回	日本の粉食文化と料理	小麦粉(手打ちうどん）の実習と郷土料理の実習を通して各地域に見られる料理の特徴について学ぶ。	ポートフォリオの作成 各地域に見られる米を用いた料理、米粉を用いた料理の考案	180分
第7回	日本の粉食文化と料理	蕎麦粉(手打ち蕎麦）の実習と伝統野菜を用いた料理の実習を通して各地域に見られる料理の特徴について学ぶ。	ポートフォリオの作成	120分
第8回	日本の米の多様な利用と料理	各地域に見られる米・米粉を用いた料理の実習を通して地域の料理の特徴について学ぶ。	ポートフォリオの作成	120分
第9回	西洋料理の形式	西洋料理の正餐のメニュー構成とテーブルセッテイングを学ぶ。 (オードブル・スープ・肉料理・サラダ・菓子)	ポートフォリオの作成	120分
第10回	日本料理の形式	懐石料理について七夕の茶事の料理を通して日本料理の形式を学ぶ。 (飯・汁・向付・煮物椀・焼物・香の物・主菓子)	ポートフォリオの作成	120分
第11回	江戸時代の本膳料理	江戸時代の料理書『素人庖丁』『料理早指南』などを用い、本膳料理形式(武家社会の饗応料理)から発展した料理形式を学ぶ。 (飯・汁・膾・坪・香の物・焼物・菓子)	ポートフォリオの作成	120分
第12回	江戸時代の精進料理	江戸時代の料理書『素人庖丁』『精進献立集』などを用い、精進料理(禅宗における調理法)を学ぶ。 (飯・汁・向付・平皿・坪・香の物・菓子)	ポートフォリオの作成	120分
第13回	江戸時代の料理	材料別料理書として流行した『豆腐百珍』から料理の工夫を学ぶ。	ポートフォリオの作成	120分
第14回	江戸時代の料理	江戸時代の料理書『料理物語』『万宝料理秘密箱』『年中番菜録』などを用い、食材を生かす工夫を学ぶ。	ポートフォリオの作成	120分
第15回	江戸時代の料理	江戸時代の料理書『料理珍味集』『万宝料理秘密箱』などを用い、香辛料、香味野菜を取り入れる工夫と料理を彩る方法を学ぶ。	ポートフォリオの作成	120分

学習計画注記	状況により、遠隔授業と併用になることがあります。
学生へのフィードバック方法	課題の結果は、コメントをつけて返却します。 質問について随時対応致します。
評価方法	平常点(授業への取り組み)、課題評価、ポートフォリオの作成、実習試験を総合して評価します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点(授業への取り組み)			○	
	課題評価	○			○
	ポートフォリオの作成	○	○		
	実習試験	○	○	○	○

評価割合	平常点(授業への取り組み)(20%)、課題評価(20%)、ポートフォリオの作成(30%）、実習試験(30%)を総合して判断します。
使用教科書名(ISBN番号)	実習・資料プリントを配布します。
参考図書	江原絢子編『日本食の文化』アイ・ケイコーポレーション(2021) 吉井始子『翻刻江戸時代料理本集成』臨川書店　全10巻・別巻(1978～81)

	日本の食生活全集編集委員会編『日本の食生活全集』全50巻(1984～1993)
ディプロマポリシーとの関連	[知識・理解]多様な食文化を理解し、実習により培った独自のコミュニケーション力を持っている。 [思考・判断]豊かな想像力に基づく的確な判断力を身に付けている。 [関心・意欲・判断]課題とするテーマに取り組むことにより、自ら考え、まとめる力を発揮することができる。 [技能・表現]専門的な学びを通して、社会に生かせる技術力と表現力を身に付けている。
学生へのメッセージ	テーマとしている世界と日本の食文化について独自の視点から調べておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題を通して、視覚的に共有することにより、互いに学び合うことができる。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	栄養士総合演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R20704M12
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のために必須科目である。 校内給食管理実習に向け、対象者別の献立作成に加え、「安心・安全な給食」を提供するための給食施設の衛生管理について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食事摂取基準の考え方、食品成分表の使い方、献立作成の基本、給食施設における衛生管理を理解することができる。
思考・判断の観点（K）	対象者に合わせた各栄養素およびエネルギー量を満たす栄養基準の設定をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	献立作成においては積極的に料理や調理方法の提案ができ、衛生管理については重点的に管理する内容を的確に指摘することができる。
技術・表現の観点（A）	給食施設ごとの献立作成・衛生管理ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の内容、授業の進め方について説明する。		120分
第2回	給食施設の衛生管理について①	大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた給食施設の衛生管理について説明する。	テキスト「衛生管理ガイドブック　第1章」を読んでおくこと。	120分
第3回	給食施設の衛生管理について②	大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた給食施設の衛生管理について説明する。	テキスト「衛生管理ガイドブック　第2章」を読んでおくこと。	120分
第4回	給食施設の	大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた給食施設の	テキスト「衛生管理ガイドブッ	120分

	衛生管理について③	衛生管理について説明する。	ク　第3章」を読んでおくこと。	
第5回	給食施設の衛生管理について④	大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた給食施設の衛生管理について説明する。	テキスト「衛生管理ガイドブック　第4章」を読んでおくこと。	120分
第6回	衛生管理と調理技術について①	給食施設の調理場における衛生管理と調理技術について説明する。	テキスト「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　第2章」を読んでおくこと。	120分
第7回	衛生管理と調理技術について②	給食施設の調理場における衛生管理と調理技術について説明する。	テキスト「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　第3章」を読んでおくこと。	120分
第8回	衛生管理と調理技術について③	給食施設の調理場における衛生管理と調理技術について説明する。	テキスト「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　第4章」を読んでおくこと。	120分
第9回	衛生管理と調理技術について④	給食施設の調理場における衛生管理と調理技術について説明する。	テキスト「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　第5章」を読んでおくこと。	120分
第10回	対象者に合わせた献立作成③	自分たちで設定した対象者用に作成した献立をグループごとに発表する。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第11回	給食施設で使用する帳票類について	給食施設で使用する帳票類の使用目的と利用方法について説明する。	事前に配布する「校内給食管理実習テキスト」を読んでおくこと。	120分
第12回	対象者に合わせた献立作成①	自分たちで設定した対象者用に作成した献立をグループごとに発表する。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第13回	対象者に合わせた献立作成②	自分たちで設定した対象者用に作成した献立をグループごとに発表する。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第14回	対象者に合わせた献立作成③	自分たちで設定した対象者用に作成した献立をグループごとに発表する。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	献立作成に関する知識の習得度を、確認テストおよび答え合わせをし確認する。	この授業で使用したテキスト、配布資料を読み返しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	提出された献立等の提出物にコメントを入れて返却する。また、グループディスカッション後の発表に対してもコメントを伝える。
評価方法	平常点、提出物、グループディスカッションの参加状況（グループ作業も含む）、確認テストで評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	提出物	○	○		
	レポート	○	○		
	GDの参加状況			○	○

評価割合	平常点20%、提出物20%、グループディスカッションの参加状況（グループ作業も含む）30%、確認テスト30%
使用教科書名(ISBN番号)	・調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル／学建書院
参考図書	日本食品成分表、日本人の食事摂取基準、応用栄養学で使用する教科書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象に

	ついて関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るために食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室
学生へのメッセージ	献立作成は栄養士の基本業務です。一見、簡単そうに感じますが、対象者や基準に合わせた献立を作成することは食事摂取基準、食品成分表等に関する知識および理解と献立を組み立てるセンスや判断が大切になります。またそれらは、予期せぬ災害時における食事管理にも役立ちます。この授業で献立作成技術をマスターしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分たちで設定した対象者用の献立作成およびHUGは、グループディスカッションにより出来上がった成果物について発表を行う。
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（岩見）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし，栄養士や食のスペシャリストとして，社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	「分子生物学」「基礎サイエンス実験」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	具体的な研究テーマ案を説明できる
思考・判断の観点（K）	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	自らテーマを探し，調査研究の対象として具体化することができる
技術・表現の観点（A）	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションできる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション・希望調査			
第2回	研究室ガイダンス	生物学研究室の研究テーマや本研究室で可能な研究方法を紹介	紹介された内容を確認し，当研究室で学べることを考える	30
第3回	研究分野の説明	生物学研究室の研究テーマに関連した分野を関連の資料を用いて紹介	自分の興味を具体的にイメージし，研究室の主要な研究テーマとの関連を考える	30
第4回	興味の対象を絞り込む	各自，興味・関心の内容，興味・関心を抱いた理由を説明し，質問・提案等を受けてより具体化する	自分の興味・関心と，研究する内容との関係を説明できるようにしておく	30

第5回	興味の対象を絞り込む	各自，興味・関心の内容，興味・関心を抱いた理由を説明し，質問・提案等を受けてより具体化する	自分の興味・関心と，研究する内容との関係を説明できるようにしておく	30
第6回	興味の対象について文献調査をする	具体化されたテーマに関して，先行研究の状況を調べる	図書館・インターネットを利用して，テーマに関する情報を収集しておく	120
第7回	文献調査結果の発表	文献調査結果を発表し，テーマのオリジナリティ，有用性等について議論する	収集した情報の内容・精度を検討し，説明できるようにしておく	45
第8回	文献調査結果の発表	文献調査結果を発表し，テーマのオリジナリティ，有用性等について議論する	収集した情報の内容・精度を検討し，説明できるようにしておく	45
第9回	研究（調査）方法の検討	文献調査で判明した問題点を検討し，研究方法について解説する	議論の中で指摘された問題点について検討しておく	30
第10回	研究（調査）に必要な要素とは	文献調査の結果を踏まえ，自分のテーマについて必要となる要素について検討する	指摘された問題点の解決方法について検討しておく	60
第11回	研究（調査）に必要な要素とは	文献調査の結果を踏まえ，自分のテーマについて必要となる要素について検討する	指摘された問題点の解決方法について検討しておく	60
第12回	問題点の検討	発表されたテーマの優れている点・問題点について検討する	助言内容を反映できるよう検討しておく	60
第13回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ，改めて研究テーマを発表する	設定した研究テーマの内容をブラッシュアップし，説明できるようにしておく。他の発表内容について，優れている点・問題点を指摘できるようにしておく。	45
第14回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ，改めて研究テーマを発表する	設定した研究テーマの内容をブラッシュアップし，説明できるようにしておく。他の発表内容について，優れている点・問題点を指摘できるようにしておく。	45
第15回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ，改めて研究テーマを発表する	設定した研究テーマの内容をブラッシュアップし，説明できるようにしておく。他の発表内容について，優れている点・問題点を指摘できるようにしておく。	45

学習計画注記	テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので，授業外学習時間については変動があると予想される。また，一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定するが，内容によっては共同で取り組むことも可能。
学生へのフィードバック方法	基本的にゼミ形式で進行するので，授業中・発表中の質問・回答等，フィードバックを随時行う。
評価方法	授業への参加度（積極的に意見を出し，自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への参加度	○	○	○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	授業への参加度50% プレゼンテーション50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	提示されたテーマにあわせて紹介する

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々に，自分が検討した内容を具体的に伝えることができる 【思考・判断】種々の情報を整理し，研究テーマの意義を客観的に判断できる 【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し，課題を見出し，その解決に意欲的に取り組むことができる 【技能・表現】体系的な学修を通じて，研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる
オフィスアワー	前期　火曜日2限・昼休み・3限（10:40～12:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は，GoogleClassroomを用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	研究という活動には，自ら興味・関心を持つことが重要ですが，その前提には知らないもの・分からないものに対する「好奇心が」が必要です。教員は「好奇心」を持つきっかけを提供することができますが，「好奇心」を抱き，自ら研究活動に入るには，皆さん自身の意志が不可欠です。ゼミの主役は皆さん自身であることを理解して授業に臨ん下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員としてフィールドで調査・研究をした経験を活かして，一定の制限の中で結果を出していく取り組み方を伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で，履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献調査において，引用に値する情報と，参考にできない情報との違いについて教授します。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については，インターネットを利用しての情報収集を行います。また，各種ソフトウェアを使用して，数値データ・画像データ等の解析について教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（河田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。 ①文献調査の方法（インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。） ②フィールドワークの方法（インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等） ③テーマの設定（テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか） ④先行研究の検討 以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールAでは①、②について文献を読み、図書館に赴いき、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。 　教職課程履修学生の場合は、「教えるということ」や「授業研究」についても学習の機会を設ける予定である。
履修条件	社会における教育や人間の在り方に興味を持っている事。 基本的に、文献調査かインタビュー調査なので、こうした研究方法に興味関心があることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	文献を読みながら要約することができる。
思考・判断の観点（K）	フィールドワークや文献調査を行いながら、何が重要かを自分なりに考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分の興味関心を深く調べ、様々なことに関連付けて発展させることができる。
技術・表現の観点（A）	自分の興味関心のあることや自分で調べたことを少しずつでも論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究に必要なこと （1）文献調査の方法	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。	インターネット検索を学んだら、実際に様々な検索ワードで検索をしてみること。	240分
第2回	国会図書	パソコン室で国会図書館や大学図書館のOPACを用いて、	検索用語は沢山ある。思わぬ用	240分

	館、大学図書館のOPACの使い方	どのような文献がヒットするかを実際に行う。	語で面白い文献に出会う面白さを味わってほしい。	
第3回	文献を読む（1）	検索して入手を申し込んだ文献を読んで要約する。	文献を読む。研究論文は、小説や物語のようには読めない。論文を読むということを学ぶ。	240分
第4回	文献を読む（2）	自分が選んだ文献を読んで要点をまとめ、プレゼンする。	プレゼン用のレジュメの準備をする。	360分
第5回	文献を読む（3）	プレゼンされた文献について、ゼミ生同士でディスカッションする。自分の物事の見方だけではなく、他者の多様な見方を学ぶ。	ディスカッションで学んだことにより自分の研究を更に発展させて、調べる。	360分
第6回	フィールドワークとは(1)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』（1993年）を読みながら学ぶ。	短い文章なので、一人10ページを担当しする。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。	240分
第7回	フィールドワークとは(2)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』（1993年）を読みながら学ぶ。	短い文章なので、一人10ページを担当しする。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。	240分
第8回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』の第1章をを一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』の第1章を読んで、担当節をまとめる。	240分
第9回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』第2章を一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』第2章を読んで、担当節をまとめる。	240分
第10回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』第3章を一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』第3章を読んで、担当節をまとめる。	240分
第11回	国会図書館を使ってみる(3回分)	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第12回	国会図書館を使ってみる	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第13回	国会図書館を使ってみる	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第14回	調べたことをまとめてプレゼンする。	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度	プレゼンの準備をする。	300分
第15回	調べたことをまとめてプレゼンする。	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度	プレゼンの準備をする。	300分

学習計画注記	ゼミ形式。随時ゼミ発表を行う。国会図書館へ行ったり、近隣の学校に足を運んだりする。
学生へのフィードバック方法	発表時にコメントし、調査方法については随時助言する。
評価方法	研究への関心・意欲・態度。 ゼミ発表の内容 で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	熱意をもってゼミに参加している			○	
	文献の要約ができる	○	○		○

	研究として深めようとする意欲が			○	

評価割合	熱意をもってゼミに参加している（30%）。 論文や参考資料等、文献の要約ができる（40%）。 自分の興味や関心を研究として深めようとする意欲がある（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	特に無
参考図書	・原ひろ子『観る・集める・考える一発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年 ・箕浦康子『フィールドワークの技法』 ・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年 ・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年 ・
ディプロマポリシーとの関連	○思考・判断 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身に着けている、に該当。 ○関心・意欲・態度 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる、に該当。
オフィスアワー	月曜日4限ほか随時。メールでアポイントメントを取ること。
学生へのメッセージ	研究とは、自分の興味関心を「とことん極める」ことです。 自分が何を「知りたい」、「極めたい」のか、何に「興味があるのか」を知ることが一番大切です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゼミ発表。図書館調査。
情報リテラシー教育	○	文献検索。
ICT活用	○	PPTを用いた発表。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（三澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	・本演習では、人々の健康増進、疾病予防、栄養・食生活改善のための、地域や身近な人々の問題・課題課題解決へ向けたアプロ―チ方法を企画立案する方法を解説する。これらの能力も身に着けることにより、どのようにしたら地域社会に食の面で貢献できるかを考える力が身に着くよう育成する。具体的には、食教材の開発や食育の手法を企画開発できるよう教授する。
履修条件	・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学を履修済みであること、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習を履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が対象となる人々の 多様な食生活や食環境の実態を調査する方法を学び、その内容を理解できること。
思考・判断の観点（K）	・学生が多様な栄養・食生活等に関する情報を整理して、客観的に思考、判断することができるようなること。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになること。
技術・表現の観点（A）	・学生がさらなる実態把握や研究のため、質問紙調査、食事調査などを考案できるようになること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　オリエンテーション	食物総合演習の全体の進め方について学ぶ。「課題提出あり」	卒業研究のテーマについて、興味をもてるものを事前に調べ考えておく。	90分
第2回	2回目　テーマ選定	卒業研究のテーマ選定の方法について学ぶ。	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。	90分
第3回	3回目　対象集団の設	対象となる人々の 多様な食生活や食環境の実態を調査する方法を学び、その内容を理解し、課題抽出・整理する。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分

	定・課題抽出			
第4回	4回目　対象集団の設定・課題抽出	対象となる人々の 多様な食生活や食環境の実態を調査する方法を学び、その内容を理解し、課題抽出・整理し、まとめる。「課題提出あり」	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第5回	5回目　食育・食生活改善の手法、教材の調査・整理	課題解決のための食育や食生活改善に対し、手法、施策、教材等を意欲的に調べ、まとめる。「課題提出あり」	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第6回	6回目　食育・食生活改善の手法、教材の調査・整理	課題解決のための食育や食生活改善に対し、手法、施策、教材等を意欲的に調べ、まとめる。「課題提出あり」	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第7回	7回目　食育・食生活改善の手法、教材の調査・整理	課題解決のための食育や食生活改善に対し、手法、施策、教材等を意欲的に調べ、まとめる。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第8回	8回目　調査票・教材開発	課題解決・評価のため、質問紙調査票・食事調査票を考案し、教材開発、食事改善計画を実際に立案する。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第9回	9回目　調査票・教材開発	課題解決・評価のため、質問紙調査票・食事調査票を考案し、教材開発、食事改善計画を実際に立案する。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第10回	10回目　調査票・教材開発	課題解決・評価のため、質問紙調査票・食事調査票を考案し、教材開発、食事改善計画を実際に立案する。「課題提出あり」	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第11回	11回目　発表会の資料作成	これまで作成した調査票、教材、計画書を用いて、発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第12回	12回目　発表会の資料作成	これまで作成した調査票、教材、計画書を用いて、発表資料を作成する。「課題提出あり」	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第13回	13回目　食育・栄養教育体験	実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。	90分
第14回	14回目　中間発表会の練習	ゼミの中で、中間発表会の練習を行う	中間発表会の練習をチームでしておく。	90分
第15回	15回目　中間発表会	これまでの資料、教材、計画書に関して発表し（パワーポイントを用いたプレゼンテーション）、開発した教材を公表する。他者の発表を聴いて自己の発表を改善する。	発表の練習をチームでしておく。	90分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・平常点45%、資料点45%、発表点10%で評価する。 ・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点			○	
資料点	○	○	○	○
発表点	○	○	○	○

評価割合	・平常点45%、資料点45%、発表点10%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・特に指定しない
参考図書	・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル　第3版　（第一出版）　（ISBN　978-4-8041-1358-6　C3077） ・日本人の食事摂取基準 2020版　（第一出版）
参考URL	http://www.daiichi-shuppan.co.jp/book/book205.html
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。″ 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究テーマ・活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームで自主的にディスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（山田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	2年から3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	これまで学んだ体の構造、栄養素の役割および体内での代謝を理解し、特にナトリウムおよび鉄について説明できる。
思考・判断の観点（K）	文献検索をすることができ、文献の内容を読み取り、それら情報を整理し研究に結び付けることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の研究テーマについて理解し、研究計画・立案をすることができ、それら内容について説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	後期の演習の進め方について打ち合わせを行う。	これまで学んだ専門科目の内容で、興味のあるものを復習しておく。	60分
第2回	文献検索について①	文献検索について説明する。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。	60分
第3回	文献検索について②	文献検索の方法について説明する。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。	60分
第4回	文献検索に	実際に、PCを利用した文献検索を行う。	これまで受講した実験・実習で	60分

	ついて③		提出したレポートの書き方の復習をしておく。	
第5回	テーマ発表準備①	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第6回	テーマ発表準備②	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第7回	テーマ発表準備③	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第8回	テーマ発表準備④	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第9回	テーマ発表準備⑤	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第10回	発表①	自分で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第11回	発表①	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第12回	発表②	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第13回	発表③	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第14回	発表④	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第15回	まとめ	発表に関する総括を行う。	前期に行ったことを踏まえ、後期の研究テーマを考えておく。	60分

学生へのフィードバック方法	直接本人に研究計画内容について確認し、指導する。
評価方法	平常点、取り組む意欲、課題提出状況、プレゼンテーション内容について総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	取り組む意欲			○	
	課題提出状況	○	○	○	○
	プレゼンテーション内容	○	○	○	○

評価割合	平常点（20%）、取り組む意欲（20%）、課題提出状況（30%）、プレゼンテーション内容（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。また、栄養士、教員、食の専門家として探究心を持っている。【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（岩本）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。科目を横断して知識・技能を統合し、総合的な能力を養う。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養と食のスペシャリストとして、栄養学の概念、消化・吸収の調節機構、糖質、脂質等の栄養素の摂取と生活習慣病との関連について説明できる。
思考・判断の観点（K）	3年次までに学んだ様々な知識・技術を横断的に統合し、現代の食・栄養に関わる課題に対して解決案が提示できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2. 栄養と食のスペシャリストとして、人々の健康に広く貢献する者としての意欲と使命感を身につけている。
技術・表現の観点（A）	学習内容や研究活動についてプレゼンテーションができ、根拠に基づくディスカッションができる。 社会の一員であることを自覚し、コミュニケーション能力および豊かな人間性を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション（食物総合演習Aの目的と進め方）を行う。	研究テーマを考える。栄養士実力認定試験の過去問題についてグループ学習を行う。	60分
第2回	栄養士実力認定試験対策①	栄養士実力認定試験の問題（栄養学総論・五大栄養素）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第3回	卒業研究体験①	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分

第4回	栄養士実力認定試験対策②	栄養士実力認定試験の問題（栄養学総論・消化吸収）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第5回	卒業研究体験②	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第6回	栄養士実力認定試験対策③	栄養士実力認定試験の問題（解剖生理学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第7回	卒業研究体験③	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第8回	栄養士実力認定試験対策④	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学・乳幼児期）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第9回	卒業研究体験④	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第10回	栄養士実力認定試験対策⑤	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学・妊娠期）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第11回	卒業研究体験⑤	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第12回	栄養士実力認定試験対策⑥	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学・高齢期）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第13回	卒業研究体験⑥	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第14回	栄養士実力認定試験対策⑧	栄養士実力認定試験の問題（臨床栄養学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1 回目～14 回目の演習についての総括を行い、授業時間の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。
評価方法	・確認テスト（栄養士実力認定試験出題基準の問題）を行い、20点満点で出題する。 ・随時提出を求める研究活動報告書および毎回のプレゼンテーションを評価する。 確認テスト、報告書作成、プレゼンテーションは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	確認テスト	○			
	報告書	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	確認テスト20%、研究活動報告書50%およびプレゼンテーション30%で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	全国栄養士養成施設協会 編『栄養士実力認定試験過去問題集』建帛社（978-4-7679-0659-1）
参考図書	・林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7） ・松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273） ・栢下淳 他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-0877-5） ・小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4） ・多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	火曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	栄養士の勉強の上に研究があります。より良い研究をするために、しっかり栄養士の知識を身につけてください。問題集を解く際にグループ学習を事前に行ってもらいます。また、研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 グループ学習を事前に行った上で、担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。 確認テスト等はGoogleフォームを用いる。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（大和田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	うどんの材料、作り方の手順、材料の産地や製粉業者による違い、粉の分類、配合のバランス、加水率、塩分濃度、練り方、切り幅、ゆで時間、変わりうどんの可能性等を学ぶ。
思考・判断の観点（K）	自分で手打うどんを作る技術を持つことにより、お店のうどんの客観的な評価ができるようにする。自分で作る際の自分なりの適正な粉の配合や加水率、塩分濃度を得られるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	うどんの作り方の基本を知ったあとは、いかに自分なりにより高度のものを作れるか、その向上心を育てる。また、いいお店を探そうとする意欲を培う。
技術・表現の観点（A）	手打ちのうどんを作れるようにする。その技術の上達に努める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション、希望調査	学年全体集合、希望調査票提出		
第2回	メンバーの顔合わせ、イントロダクション	授業内容のイントロダクションとメンバーによる自由討議で授業の方向性を決めていく。	説明を受けたことをよく復習しておくこと	60分
第3回	うどん打ち①	うどん打ち実習（中力粉）（粉と水の分量、塩の分量、水回し、こね）	自宅でも練習すること。	60分

第4回	うどん打ち②	のし、切り、ゆで	自宅でも練習すること。	60分
第5回	うどん打ち③	太切り	自宅でも練習すること。	60分
第6回	うどん打ち④	細切り	自宅でも練習すること。	60分
第7回	うどん打ち⑤	足踏み	自宅でも練習すること。	60分
第8回	うどん打ち⑥	薄力粉	自宅でも練習すること。	60分
第9回	うどん打ち⑦	強力粉	自宅でも練習すること。	60分
第10回	うどん打ち⑧	フランス産の粉	指摘を受けたことをよく考えておくこと。	60分
第11回	うどん打ち⑨	オーストラリア産の粉	自宅でも練習すること。	60分
第12回	うどん打ち⑩	埼玉県産の粉	自宅でも練習すること。	60分
第13回	うどん打ち⑪	薄力粉＋強力粉	自宅でも練習すること。	60分
第14回	うどん打ち⑫	変わりうどん①	自宅でも練習すること。	60分
第15回	うどん打ち⑬	変わりうどん②	自宅でも練習すること。	60分

学生へのフィードバック方法	お互いに作ったものを食べあって評価をしあう。
評価方法	加水率、水回しの具合、捏ね具合、つながり具合、塩分の具合、粉の配合、のし具合、切り具合、ゆで加減、調理時間、衛生への配慮等をチェック項目とし、技術を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実技試験	○	○	○	○

評価割合	実技試験100%
使用教科書名(ISBN番号)	使用せず。
ディプロマポリシーとの関連	【知識、理解】手打うどんの作り方を一通り学ぶ。 【思考、判断】自分で作れることによってはじめて人の作ったものの評価ができるようになる。そうでないと、お店の良しあしも判断がつかない。 【関心・意欲・態度】教師からだけでなく、学生がお互いに批評しあうことにより、さらなる技術の向上を目指していただきたい。 【技術・表現】手打うどんの技術を手にする。
オフィスアワー	月：昼休み、4時間目 水：2時間目、昼休み、4時間目 木：昼休み
学生へのメッセージ	頑張れば、自分にしか作れないうどんを作れるようになることも可能です。この点だけは人には負けない、というものをお持ちになってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	うどんの手打を実習していただきます。

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（黒田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	本研究室の食物総合演習Aでは、本研究室の研究に必要な実験技術や解析方法の基礎を学びます。
履修条件	来年度の卒業研究を履修する前までに、食品機能学（前期）と統計学演習（後期）を履修してください。本研究室の研究テーマを取り組む上で必要な知識と技術を修得できます。他の科目の履修と重なる場合は、相談に乗ります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・本研究室の実験技術と解析方法の基礎が理解できている。 ・研究に必要な２つの要素（新規性と進歩性）の概念が理解できている。 ・研究テーマの探索・試験実験・結果の分析・考察の進め方が理解できている。
思考・判断の観点（K）	・研究テーマの新規性と進歩性が判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・研究テーマに必要な知識と技術の習得について、意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	・研究討議会に参加し、意見や質問を発信できる。 ・本研究室の基礎的な実験と解析を進めることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス（全体）／チームミーティング（4/14）	・全体ガイダンスの内容については、担任より連絡があります。 ・全体ガイダンスの後に、４年生と一緒に、研究室のミーティングを行います。年間予定等を確認します。 ・研究における新規性と進歩性を学びます。 ・研究倫理について学びます。	・前期の授業内容を確認し、授業を受ける準備を進めてください。	45分
第2回	生化学・分子生物学の	・物質の分類、状態、分離精製、モルなど、化学の基礎を理解します ・大豆のリポキシゲナーゼの活性測定を体験します	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分

	基礎①(4/21)			
第3回	生化学・分子生物学の基礎②(4/28)・東京都立町田総合高等学校・大学(上級学校)訪問・モデル授業への参加・課題型どちらかを選択します。	・分子模型を利用して、基本的な有機化合物の構造と構造式を理解します。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第4回	卒業研究進捗報告会への参加①（5/12）	・卒業研究進捗報告会へ参加し、質疑応答に参加します。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第5回	生化学・分子生物学の基礎③（5/19）	・分子模型を利用して、アミノ酸・糖・脂肪酸の構造と構造式を理解します。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第6回	生化学・分子生物学の基礎④（5/26）	・試薬の調製とpHについて実験技術を学びます。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第7回	卒業研究進捗報告会への参加②（6/2）	・卒業研究進捗報告会へ参加し、質疑応答に参加します。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第8回	生化学・分子生物学の基礎⑤（6/9）	・タンパク質の抽出とたんぱく質濃度の測定法を習得します。 ・タンパク質の電気泳動法を習得します。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第9回	生化学・分子生物学の基礎⑥（6/16）	・酵素活性測定法を習得します。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第10回	生化学・分子生物学の基礎⑦（6/23）	・酵素反応速度論を学びます。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第11回	官能検査の基礎①（6/30）	・VAS法による官能検査の方法を学びます。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第12回	卒業研究進捗報告会への参加③（7/7）	・卒業研究進捗報告会へ参加し、質疑応答に参加します。	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第13回	官能検査の基礎②（7/14）	・データの統計処理（t検定と分散分析）	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第14回	官能検査の基礎③（7/21）	・データの統計処理（相関解析）	課題に取り組み、次回までに提出してください。	45分
第15回	授業のまとめ（7/28）	食物総合演習Aで学んだことを復習します。 食物総合演習Bで参加するプロジェクトを決定します。	期末試験の準備をしてください	45分

学習計画注記	・本科目は、演習（１単位）ですから、毎回45分程度の課題に取り組みます。 ・月に１回、４年生の卒業研究の進捗報告会に参加していただきます（5/12, 6/2, 7/7）
学生へのフィードバック方法	・本研究室の実験技術の修得については、ラボノートの記録を確認して、アドバイスします。
評価方法	期末試験（筆記試験） テキスト・ノート・プリントの持ち込みを可とします。

	期末試験の得点に、授業の出席率と、課題の提出率を乗じて、成績点を決定します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	期末試験 100% 期末試験の得点に、授業の出席率と、課題の提出率を乗じて、成績点を決定します。
使用教科書名(ISBN番号)	理系大学受験 化学の新研究 改訂版 978-4385260938 三省堂ト部 吉庸 基礎サイエンス実験で使用したテキストです。 その他に、プリントを適宜配布します
参考図書	研究室のクラスルーム「フード・サイエンス＆アーツ研究室」 https://classroom.google.com/u/0/r/MTk1NDIwODE5NFpa/sort-last-name クラスコード：eykunn7 研究室のビジョン、研究テーマ、研究業績が確認できます。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている
オフィスアワー	ゼミ後
学生へのメッセージ	・ゼミは、大学でしか経験できないコンテンツの一つだと思います。取り組むのは大変に感じるかと思いますが、他の授業では得られない大きな達成感が得られると思います。 ・ゼミでは、教員との深い対話も経験できます。専門領域の学びだけでなく、人生をどう生きるべきかなど、哲学的な話もたくさんする機会があると思います。 ・ようこそ、私たちの研究室へ！楽しく実りある時間を共に過ごすことをとても楽しみにしています。 ・最後に、ラルフ・エマーソンの言葉を紹介します「大学とは？大学とは、高い理想を仰ぎ見る若い魂が人生経験の深い賢明な魂と出会う場である。」

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・食品企業での食品の研究開発の経験（食品機能の研究開発）を伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	・学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を磨きます。 ・メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育	○	・各種学術データベースの使用方法を習得します。
ICT活用	○	・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）と統計ソフトウェアのスキルを習得します。

ウインドウを閉じる

講義名	食物総合演習Ａ（高尾）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年前期までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活躍する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	文献調査、現地調査、現地聞き取り、野菜栽培の実験等データ収集を主に行うことを承知しておいて下さい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	論文とは何か、論文の作法、口頭発表の作法と技法、調査の方法を理解できる。
思考・判断の観点（K）	自分の論文テーマを考え、何を明らかにするのかを明確化することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日常の生活の中で、疑問に思うこと、興味が持てるテーマを探し、追及できる力を身につける。
技術・表現の観点（A）	予備調査から分かることを分析し、明確化し、発表表現できる。

学習計画

食物総合演習A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	全体ガイダンス　配属希望調査			
第2回	表現するに足りる議論とは何か（１）論文を書くとはどのようなことか（資料）	論文を書くとはどのようなことかを理解する。	資料を読み返し復習しておく。	60分
第3回	③表現するに足りる議論とは何か（２）論文の作法（引用、註）	論文の作法　引用の仕方、註のつけかた。を学ぶ。	次回、資料、口頭発表の作法と技法を読んでおく。	60分
第4回	表現するに足りる議論とは何か（３）口頭発表の作法と技法	口頭発表の作法と技法を学ぶ。	次回、資料、調査の方法を読んでおく。	60分

第5回	表現するに足りる議論とは何か（４）調査の方法	調査の方法を学ぶ。	「表現するに足りる議論とは何か」をまとめる。	60分
第6回	レポートにまとめる①	「表現するに足りる議論とは何か」をレポートにまとめる。	自分で行いたい研究論文のテーマを考えておく。	60分
第7回	自分で行ないたい論文のテーマに即した学術論文を探す。	学術論文検索の仕方を学ぶ。	学術論文を探す。	120分
第8回	学術論文を読み理解する（1）	学術論文の検索、学術論文を読み理解する・	学術論文を読み理解する。	60分
第9回	学術論文を読み理解する（２）	学術論文を読み理解する。何を伝えたいのかを理解する。	学術論文を読み理解する。	60分
第10回	学術論文を理解する（３）	学術論文を読み理解する。	学術論文を読み理解する。	60分
第11回	レポートにまとめる。②	学術論文を読み、理解できたことをレポートにまとめる。	学術論文を読み、理解できたことをレポートにまとめる。	60分
第12回	研究テーマの設定	自分が行いたい研究テーマの設定。抽出したもの中から、選択する。	研究テーマの検討（何を明白にしたいのかを再度検討する）	120分
第13回	先行研究調査。	自分が行いたいテーマの先行研究結果から学ぶ。	先行研究結果をよく理解し、自分のテーマとの違いを明確化する。	120分
第14回	研究手法の検討	先行研究との相違点、結論の抽出方法などを明確化する。	抽出方法の明確化の検討。	120分
第15回	研究テーマ・調査方法等の発表	自分の行いたい研究テーマ・調査方法を決定し、他のゼミ生に発表し質問、意見等を募る。	研究テーマ・調査方法の再度検討。特に方法の検討を行う。	120分

学習計画注記	研究テーマは、２～３名のグループで取り組むことも可能であるが、最終的な結論は個人の考察とする。 研究テーマ設定に時間を要し、進行スピードが異なることがあると予想されるため、後半の授業計画にばらつきが出ることがある。
学生へのフィードバック方法	研究は個人のテーマに即したものであるため、自分で進めることが肝要である。研究の方法などには助言を行ないます。
評価方法	論文を書くとはどのようなことかを理解し、自分の研究テーマの何を明確化するかを理解し、結論（考察）を導き出すことを重視する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	出席			○	
	レポート①	○			
	レポート②	○	○		
	発表		○		○

評価割合	出席（20%）、レポート①（10%）、レポート②（10%）、発表（60%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	知の技法: 東京大学教養学部「基礎演習」テキスト（単行本）　著者: 小林 康夫, 船曳 建夫
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】論文とは何かを理解する理解力。 【思考・判断】先行研究を熟読し、先行研究結果と自分の研究方法の相違点と結論を明確化する力。 【関心・意欲・態度】自分が興味を持てる研究テーマを見つけ探求する力。 【技能・表現】自分自身の考察を表現発表できる力。
オフィスアワー	月曜日　3.5限～4.5限　1502研究室
学生へのメッセージ	野菜栽培の実験を行いたい人は、授業（ゼミ）と同時に進行することになります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	野菜栽培の実験では、授業「食生産体験演習A,B」で得た知識と経験を活かした実験を行い、データの収集能力を身につけます。

アクティブ・ラーニング	○	自ら興味を持てる研究テーマを見つけ出し、問題を発見解決し、考察に導く力を身につけます。
情報リテラシー教育	○	資料や先行研究論文を熟読し理解して、レポートにまとめる力を養います。
ICT活用	○	ゼミの中での相互理解、討議等を重ねることによって、コミュニケーションを養います。

UP
ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（上薗）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	食物学科3年次以上の学年であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食に関連する分野において、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能習得を目指し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる基礎を培うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス（全体）／配属希望調査	1. 学科全体ガイダンス 2. 配属希望調査	食物総合演習Aで遂行する研究テーマの研究計画素案を考える。	90分
第2回	指導教員による個別及びゼミ合同指導①	1. 研究室ガイダンス 2. 研究テーマを検討する。	先行研究等の情報収集を行う。	90分
第3回	指導教員による個別及びゼミ合同指導②	先行研究から得た情報を反映した食物総合演習Bまで視野に入れた研究計画を報告し、検討する。	研究に必要な試料と試薬の調達、調整等、研究実働に必要と考えられる情報収集準備を進める。	90分

第4回	指導教員による個別及びゼミ合同指導③	前回に続き、先行研究から得た情報を反映した食物総合演習Bまで視野に入れた研究計画を報告し、試料・試薬調製計画、研究手法の概要案を検討する。	研究テーマに必要と考えられる情報収集を行う。	90分
第5回	指導教員による個別及びゼミ合同指導④	前日までの研究テーマに対する情報収集等の進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究テーマ内容検討を行う。	研究テーマに必要と考えられる情報収集を行う。	90分
第6回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑤	前回に続き、前日までの研究テーマに対する情報収集等の進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究テーマ内容検討を行う。	研究テーマに必要と考えられる情報収集を行う。	90分
第7回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑥	前回に続き、前日までの研究テーマに対する情報収集等の進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究テーマ内容検討を行う。	研究テーマ内容に関する情報整理を行う。	90分
第8回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑦	１．研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。 ２．連携案件がある場合、連携先との打合せを行う。	中間報告へ向けた準備を行う。	90分
第9回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑧	研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。	中間報告へ向けた準備を行う。	90分
第10回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑨	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告会の結果を反映した研究計画検討を行う。	90分
第11回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑩	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告会の結果を反映した研究計画検討を行う。	90分
第12回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑪	中間報告会の結果を受け、研究実働に必要とされる研究技術習得を行う。	研究技術習得実働を進める。	90分
第13回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑫	研究技術習得と併せて、食物学科卒業研究A発表会用の要旨案を読み始める。	研究技術習得実働を進める。	90分
第14回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑬	次年度卒業研究着手に向けた学びの一環である食物学科卒業研究A発表会参加への準備（質疑案検討等）を行う。	食物学科卒業研究A発表会要旨案を読み、質問を考える。	90分
第15回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑭	次年度卒業研究着手に向けた学びの一環である食物学科卒業研究A発表会参加する。	食物総合演習Bに向けた研究実働と併せて発表会における質疑応答内容検討等も行う。	90分

学習計画注記	研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。、
学生へのフィードバック方法	研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。
評価方法	研究室ゼミへの参加（15%）、研究テーマに関連する中間報告内容（15%）、令和2年度においては生活デザイン学科食生活分野卒業研究A発表会への出席及び参加報告書内容（10%）、研究テーマに対する取り組み内容（60%）の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究要旨	○	○	○	○
	中間報告発表	○	○	○	○
	研究姿勢	○	○	○	

評価割合	ゼミへの参加（15%）、中間報告内容（15%）、卒業研究A発表会出席及び参加報告書（10%）、研究テーマに対する取り組み（60%）の総合評価（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	研究テーマに即し、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食に関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】食を中核とした社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】食を中核とした社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	指導教員による個別・グループ指導では、事前に十分な準備をして望んで下さい。 研究テーマに関連する教科を既修並びに履修しておいて下さい。 理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。 研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。 よって、探求心を持って継続して研究をすることが必要となります。 研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	ゼミ、研究テーマ打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	ゼミ報告書作成、将来的に作成する論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	中間報告用資料作成等、研究遂行時に必要なツールを活用する。 資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ａ（米澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。 卒業論文と連動して、実験を計画・実施するための、調理学分野の文献検索や適切な対照区の設け方設定などの実験計画法を自分の課題を題材として学ぶ。課題に適した実験方法が書かれている論文・教科書の読み込なしについて学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点（K）	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション・希望調査			
第2回	研究室ガイダンス	本研究室の研究テーマの紹介、本研究室のルール説明、研究計画書の作成手順の説明	研究テーマの探索を始める。	120分
第3回	文献検索①	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。	研究室テーマの中でまた興味のあるテーマについて探索する。	120分
第4回	文献検索②	研究室のテーマの中で興味のあるテーマについて文献検	文献の入手と読み込みおよび文	120分

		索を行い、読み込み、要点をまとめる。発表用にパワーポイント資料を作成する。	献の理解できなかった箇所の復習を行う。	
第5回	文献紹介	各自、興味・関心の内容，興味・関心を抱いた理由を説明し、検索文献のまとめをパワーポイントを使用して行う。質問・提案等を受けてより具体化する。	自分の興味・関心と，研究する内容との関係について、また収集した情報の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく。	120分
第6回	予備実験計画①	研究計画書の作成方法について。	興味のある研究テーマについて研究計画書を作成する。	120分
第7回	予備実験計画②	研究計画書の作成、提出。（背景、目的、方法まで）	参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第8回	予備実験計画③	訂正を受けた実験計画書について修正、発表準備（背景、目的、方法まで）	予備実験計画の発表のためにパワーポイントで発表用資料を作成し、発表の練習をする。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第9回	中間発表	研究計画について中間発表（背景、目的、方法まで）を行い、ディスカッションを行う。	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第10回	予備実験データ検討①	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。	データが出れば、図表の作成を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第11回	予備実験データ検討②	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第12回	予備実験データ検討③	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第13回	予備実験データ検討④	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第14回	予備実験データ検討⑤	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。 発表スライドの作成、発表練習を行う。	120分
第15回	予備実験についてまとめの発表	予備実験について中間発表（背景、目的、方法、結果、考察）を行い、ディスカッションを行う。	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分

学習計画注記	テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また、一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定する。
学生へのフィードバック方法	基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。
評価方法	授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への参加度	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	授業への参加度50% プレゼンテーション50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし

参考図書	提示されたテーマにあわせて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる。 【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる。 【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる。
オフィスアワー	木曜日 2限 2108室 面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。
学生へのメッセージ	研究とは、誰も知らないことを探求することで、本来その人の自主的な興味に基づいて行うものです。研究を進める上で大切なことは、行動力、観察力、発想力と責任感です。報告、連絡、相談をよくして、共に研究活動を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献検索を行い情報を収集し整理を行い、レポート・計画書の作成、プレゼンテーションによるアウトプット方法を学びます。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については、インターネットを利用しての情報収集を行います。また各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析を行います。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（岩見）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし，栄養士や食のスペシャリストとして，社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	原則として「食物総合演習A（岩見担当）」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	具体的な研究テーマ案を説明できる
思考・判断の観点（K）	提案する研究テーマについて，その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	自らテーマを探し，調査研究の対象として具体化することができる
技術・表現の観点（A）	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションできる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマの設定	食物総合演習Aで設定したテーマについて，再度検討する	食物総合演習Aで設定したテーマについて，確認しておく	45
第2回	研究テーマに関連した文献の探索	図書館・インターネットで文献情報を得る方法について学修する	今までに習った文献検索方法について復習しておく	30
第3回	研究テーマに関連した文献の探索	図書館・インターネットで文献情報を得る方法について学修する	今までに習った文献検索方法について復習しておく	30
第4回	文献紹介・問題点の指摘	収集した文献を紹介し，その問題点を議論する	テーマに関係した文献を収集し，紹介できるようにしておく	45

第5回	文献紹介・問題点の指摘	収集した文献を紹介し，その問題点を議論する	テーマに関係した文献を収集し，紹介できるようにしておく	45
第6回	文献紹介・問題点の指摘	収集した文献を紹介し，その問題点を議論する	テーマに関係した文献を収集し，紹介できるようにしておく	45
第7回	各種実験方法の紹介	テーマに関係する実験方法を具体的に紹介する	文献等に記された実験手法について予習しておく	30
第8回	各種実験方法の実習	本研究室で行える実験方法を習得する	事前に実験マニュアルを熟読しておく	45
第9回	各種実験方法の実習	本研究室で行える実験方法を習得する	事前に実験マニュアルを熟読しておく	45
第10回	実験計画の立案	今までの情報・経験をもとに，改めて研究テーマに即した実験計画を作成する	実験計画の作成において疑問点・問題点を集約しておく	60
第11回	実験計画の発表・検討	立案した実験計画を発表し互いに検討する	分かりやすく説明できるようにしておく。気付いた問題点等を提示できるようにしておく	60
第12回	実験計画の発表・検討	立案した実験計画を発表し互いに検討する	分かりやすく説明できるようにしておく。気付いた問題点等を提示できるようにしておく	60
第13回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ，改めて研究テーマを発表する	研究テーマの発表準備をする。問題点を指摘された場合は，その解決策を検討しておく	45
第14回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ，改めて研究テーマを発表する	研究テーマの発表準備をする。問題点を指摘された場合は，その解決策を検討しておく	45
第15回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ，改めて研究テーマを発表する	研究テーマの発表準備をする。問題点を指摘された場合は，その解決策を検討しておく	45

学習計画注記	テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので，授業外学習時間については変動があると予想される。また，一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定するが，内容によっては共同で取り組むことも可能。
学生へのフィードバック方法	基本的にゼミ形式で進行するので，授業中・発表中の質問・回答等，フィードバックを随時行う。
評価方法	授業への参加度（積極的に意見を出し，自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への参加度	○	○	○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	授業への参加度50% プレゼンテーション50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	提示されたテーマにあわせて紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々に，自分が検討した内容を具体的に伝えることができる 【思考・判断】種々の情報を整理し，研究テーマの意義を客観的に判断できる 【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し，課題を見出し，その解決に意欲的に取り組むことができる 【技能・表現】体系的な学修を通じて，研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる
オフィスアワー	後期　火曜日2限・昼休み・3限（10:40～12:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は，GoogleClassroomの連絡機能を用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	研究という活動には，自ら興味・関心を持つことが重要ですが，その前提には知らないもの・分からないものに対する「好奇心が」が必要です。教員は「好奇心」を持つきっかけを提供することができますが，「好奇心」を抱き，自ら研究活動に入るには，皆さん自身の意志が不可欠です。ゼミの主役は皆さん自身であることを理解して授業に臨ん下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員としてフィールドで調査・研究をした経験を活かして，一定の制限の中で結果を出していく取り組み方を伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で，履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献調査において，引用に値する情報と，参考にできない情報との違いについて教授します。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については，インターネットを利用しての情報収集を行います。また，各種ソフトウェアを使用して，数値データ・画像データ等の解析について教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（河田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。 ①文献調査の方法（インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。） ②フィールドワークの方法（インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等） ③テーマの設定（テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか） ④先行研究の検討 以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールBでは③、④について文献を読んだり、図書館に赴いたり、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。
履修条件	ゼミナールAを履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究とはどういうものかを理解する。
思考・判断の観点（K）	テーマの設定はどのようにしたら良いのかを考えられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	何かを研究によって明らかにしたいという意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	自分の研究で明らかにしたいことについての方法を考え、それを解明する筋を表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマの設定	自分が興味があることを具体化する。	いろいろな情報を得ながら、テーマを絞ったり広げたり試みる。	240分
第2回	テーマの設定	おおよそのテーマを決めたら、そのテーマに関連する文献を渉猟する。	国会図書館OPACや本学図書館、様々な図書館のホームページに入って、多様なキーワードで検索を行う。	240分

第3回	研究方法を考える。	文献調査なのかフィールドワークなのか、自分のテーマと適性をもとに考える。箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』第4章を読む。	箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』第4章を一人1節ずつ担当して読む。自分の調べたいことがあるところ、人がいるところへ行ってみる計画を立てる。	240分
第4回	学校調査（1）	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を行う。 調査時、調査終了後にどのような挨拶が必要なのかを学ぶ。	撮影用カメラ、フィールドノートを準備すること。	90分
第5回	学校調査（2）	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を行う。 調査したことの記録の方法、個人情報への配慮を学ぶ。	撮影用カメラ、フィールドノートを準備すること。	240分
第6回	調査結果の整理(1)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。	240分
第7回	調査結果の整理(2)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。	240分
第8回	調査結果から何を読み取るか	得られたデータを整理した結果から何が読み取れるかを考える。	データをよく見る習慣を持つ。	240分
第9回	調査結果を発表し合う(1)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。	報告発表の準備をする。	240分
第10回	調査結果を発表し合う(2)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。	報告発表の準備をする。	240分
第11回	インタビュー調査（1）	研究方法でインタビューを選んだ者は、インタビューノート作成とテープ起こしを行う。	テープ起こしをしてくる。	240分
第12回	インタビュー調査（2）	インタビュー調査時の状況、相手の様子等、を記録する。	インタビューノートの作成。	360分
第13回	インタビュー調査から読み取れること	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。	インタビュー調査記録の読み取り。	240分
第14回	インタビュー調査から読み取れること	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。	インタビュー調査記録の読み取り。	240分
第15回	ゼミナールA/Bを振り返って	ゼミナールBを振り返って、何を学び、何を面白く感じたかを発表し合う。	自分の考えをまとめておく。	60分

学生へのフィードバック方法	随時コメント、指導を行う。
評価方法	①自分が関心を持っているテーマに対し、どれほど真剣に、取り組んでいるか。 ②学術的なレベルに達するために、先行研究や文献の探索に取り組んでいるか。 ③調査対象となる人々との関わりや事象に対し、しっかりとした配慮や態度で取り組めているか。 ④まとめられた研究成果は論理性があるか。 の項目で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	真剣に組む姿勢			○	
	先行研究や文献の渉猟	○	○	○	
	調査対象への配慮		○	○	○
	研究成果の論理性	○	○		○

評価割合	①テーマに対する取り組み方。（30%） ②興味関心を学術的なレベルに達するために、先行研究の探索に取り組んでいるか。（20%）

	③調査対象への配慮。（20%） ④研究成果の論理性。（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	特に無。
参考図書	・原ひろ子『観る・集める・考える一発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年 ・箕浦康子『フィールドワークの技法』 ・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年 ・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年 ・
ディプロマポリシーとの関連	〇知識・理解 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 〇思考・判断 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている ③関心・意欲・態度 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
オフィスアワー	アポイントメントにより、随時相談に応じる。
学生へのメッセージ	研究は、自分のテーマに対する興味関心の強さ深さによって大きく左右されます。その意味で、自分を見つめ、育てる良い学びをしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	随時、ゼミ発表を行う。
情報リテラシー教育	○	文献検索。図書館での調査。
ICT活用	○	図書館ラーニングコモンズでの模擬授業も可能です。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（三澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	・本演習では、栄養素等の分析結果、食生活状況に関するアンケート調査結果の処理、集計、分析方法、分析結果を用いた図表の作成方法、論文の構成、書き方について解説するので、ワークシート等を使って演習して頂く。次年度の研究活動のためのスキル、プレゼンテーション能力も身につくよう教授する。
履修条件	・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、食物総合演習Aを履修済み、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習を履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が対象となる人々の 多様な食事、食生活、食環境の実態を表現するため、データの分析、図表の作成方法について学び、理解すること。
思考・判断の観点（K）	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができるようなること。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになること。
技術・表現の観点（A）	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したり、発表できるようになること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　オリエンテーション	食物総合演習の全体の進め方について学ぶ。	学術論文に興味をもって事前に調べ考えておく。	90分
第2回	2回目　食育・栄養教育体験	実践社会における食育や栄養教育の学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第3回	3回目　食育・栄養教	実践社会における食育や栄養教育の学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方に	90分

	育体験		ついて、事前に調べておく。	
第4回	4回目　調査票・食教育案作成	実践社会における調査票・食教育案を企画・作成する。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第5回	5回目　調査票・食教育案作成	実践社会における調査票・食教育案を企画・作成する。「課題提出あり」	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第6回	6回目　調査票の処理・分析	調査票の処理・分析について解説するので、実際に分析してみる。	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第7回	7回目　調査票の処理・分析	調査票の処理・分析について解説するので、実際に分析してみる。	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第8回	8回目　調査票の処理・分析	調査票の処理・分析について解説するので、実際に分析してみる。「課題提出あり」	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第9回	9回目　図表作成、論文構成	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、実際に作成・執筆してみる。	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第10回	10回目　図表作成、論文構成	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、実際に作成・執筆してみる。「課題提出あり」	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第11回	11回目　報告資料作成	事業・調査などの報告資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第12回	12回目　報告資料作成	事業・調査などの報告資料を作成する。「課題提出あり」	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第13回	13回目　発表資料作成	発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第14回	14回目　発表資料作成	発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第15回	15回目　発表会	これまでの資料、教材、計画書に関して発表し（パワーポイントを用いたプレゼンテーション）、開発した教材を公表する。他者の発表を聴いて自己の発表を改善する。	発表の練習をしておく。	90分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・平常点45%、資料点45%、発表点10%で評価する。 ・レポート作成、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	資料点	○	○	○	○
	発表点	○	○	○	○

評価割合	・平常点45%、資料点45%、発表点10%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・特に指定しない
参考図書	・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル　第3版　（第一出版）　(ISBN　978-4-8041-1358-6　C3077) ・日本人の食事摂取基準 2020版　（第一出版）
参考URL	http://www.daiichi-shuppan.co.jp/book/book205.html

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。″ 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・栄養士になるための必須専門科目である。実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・正しく有益な健康・栄養情報の検索・収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（山田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要性がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	これまで学んだ体の構造、栄養素の役割および体内での代謝を理解し、特にナトリウムおよび鉄について説明できる。
思考・判断の観点（K）	文献検索をすることができ、文献の内容を読み取り、それら情報を整理し研究に結び付けることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の研究テーマについて理解し、研究計画・立案をすることができ、それら内容について説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	後期の演習の進め方について打ち合わせを行う。	これまで学んだ専門科目の内容で、興味のあるものを復習しておく。	60分
第2回	論文の書き方について①	論文の書き方について学ぶ。	興味のあるテーマの論文を読んでおく。	60分
第3回	論文の書き方について②	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習をしておく。	60分

第4回	論文の書き方について②	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習をしておく。	
第5回	論文の書き方について③	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習をしておく。	
第6回	論文の書き方について④	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習をしておく。	60分
第7回	論文の書き方について⑤	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習をしておく。	60分
第8回	給食関連施設の見学①	給食関連食材を扱う食品メーカーの見学を行い、大量調理用に作られている食材について学ぶ。	校内給食管理実習で行ったことを復習しておく。	60分
第9回	給食関連施設の見学②	給食関連食材を扱う食品メーカーの見学を行い、大量調理用に作られている食材について学ぶ。	校内給食管理実習で行ったことを復習しておく。	60分
第10回	給食関連施設の見学③	給食関連食材を扱う食品メーカーの見学を行い、大量調理用に作られている食材について学ぶ。	校内給食管理実習で行ったことを復習しておく。	
第11回	次年度に行う研究テーマを決める①	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第12回	次年度に行う研究テーマを決める②	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第13回	次年度に行う研究テーマを決める③	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第14回	次年度に行う研究テーマを決める③	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第15回	まとめ	次年度の研究に向け、その研究テーマおよび研究計画の確認を行う。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分

学生へのフィードバック方法	直接本人に研究計画内容について確認し、指導する。
評価方法	平常点、取り組む意欲、課題提出状況、プレゼンテーション内容について総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	取り組む意欲			○	
	課題提出状況	○	○		○
	プレゼンテーション内容	○	○		○

評価割合	平常点（20%）、取り組む意欲（20%）、課題提出状況（30%）、プレゼンテーション内容（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。また、栄養士、教員、食の専門家として探究心を持っている。【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（岩本）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要性がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養と食のスペシャリストとして、栄養学の概念、消化・吸収の調節機構、糖質、脂質等の栄養素の摂取と生活習慣病との関連について説明できる。
思考・判断の観点（K）	3年次までに学んだ様々な知識・技術を横断的に統合し、現代の食・栄養に関わる課題に対して解決案が提示できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2. 栄養と食のスペシャリストとして、人々の健康に広く貢献する者としての意欲と使命感を身につけている。
技術・表現の観点（A）	学習内容や研究活動についてプレゼンテーションができ、根拠に基づくディスカッションができる。 社会の一員であることを自覚し、コミュニケーション能力および豊かな人間性を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション（食物総合演習Bの目的と進め方）を行う。	研究テーマを考える。栄養士実力認定試験の過去問題についてグループ学習を行う。	60分
第2回	栄養士実力認定試験対策①	栄養士実力認定試験の問題（栄養学総論）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第3回	卒業研究計画書作成準	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分

	備①			
第4回	栄養士実力認定試験対策②	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第5回	卒業研究計画書作成準備②	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第6回	栄養士実力認定試験対策③	栄養士実力認定試験の問題（解剖生理学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第7回	卒業研究計画書作成準備③	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第8回	栄養士実力認定試験対策④	栄養士実力認定試験の問題（臨床栄養学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第9回	卒業研究計画書作成準備④	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第10回	栄養士実力認定試験対策⑤と学習到達度の確認テスト	栄養士実力認定試験の問題（まとめ）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。授業時間の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	学習内容に対して復習を行う。	60分
第11回	卒業研究計画書作成準備⑤	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第12回	卒業研究計画書作成準備⑥	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験や文献調査等を通して考える。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第13回	卒業研究計画書作成準備⑦	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第14回	卒業研究計画書作成準備⑧	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験や文献調査等を通して考える。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第15回	総括と卒業研究計画書提出	1 回目～14 回目の演習についての総括を行い、研究テーマを具体化した卒業研究計画書を提出してもらう。	来年度の卒業研究に向けて文献調査等を進める。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。
評価方法	・確認テスト（栄養士実力認定試験出題基準の問題）を行い、20点満点で出題する。 ・随時提出を求める研究活動報告書および毎回のプレゼンテーションを評価する。 ・提出を求める研究計画書について評価する。 確認テスト、報告書作成、プレゼンテーション、研究計画書は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	確認テスト	○			
	報告書	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○
	研究計画書	○	○	○	○

評価割合	確認テスト10%、研究活動報告書50%およびプレゼンテーション30%、研究計画書10%で総合的に評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	全国栄養士養成施設協会 編『栄養士実力認定試験過去問題集』建帛社（978-4-7679-0659-1）

参考図書	・林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7） ・松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273） ・栢下淳 他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-0877-5） ・小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4） ・多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	栄養士の勉強の上に研究があります。より良い研究をするために、しっかり栄養士の知識を身につけてください。問題集を解く際にグループ学習を事前に行ってもらいます。また、研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 グループ学習を事前に行った上で、担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、確認テスト等はGoogleフォームを用いる。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（大和田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要性がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。それを行う前段階として、蕎麦打ちの基本とそのバリエーションの技術指導を行う。
履修条件	食物総合演習A（大和田）を履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	蕎麦打ちの技術とその過去と現在を知る。
思考・判断の観点（K）	お互いの卒業研究に関係することについて議論をする。
関心・意欲・態度の観点（V）	うどん、そばを歴史的、地域的、系統的に深い背景の上で考えていこうとする態度を養う。
技術・表現の観点（A）	手打そばの基本だけでなく、バリエーション（太切り、細切り、御前蕎麦、田舎蕎麦、粗びき、変わり蕎麦等）にチャレンジする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	蕎麦打ち①	二八そば	自宅でも練習すること。	60分
第2回	蕎麦打ち②	九一蕎麦	自宅でも練習すること。	60分
第3回	蕎麦打ち③	十割そば	自宅でも練習すること。	60分
第4回	蕎麦打ち④	太切り	自宅でも練習すること。	60分
第5回	蕎麦打ち⑤	細切り	自宅でも練習すること。	60分

第6回	蕎麦打ち⑥	田舎蕎麦	自宅でも練習すること。	60分
第7回	蕎麦打ち⑦	粗びき	自宅でも練習すること。	60分
第8回	蕎麦打ち⑧	御膳粉	自宅でも練習すること。	60分
第9回	蕎麦打ち⑨	変わり蕎麦（卵切り）	自宅でも練習すること。	60分
第10回	蕎麦打ち⑩	変わり蕎麦（柚子切り）	自宅でも練習すること。	60分
第11回	日本における蕎麦の歴史①	資料の紹介をします。	学んだことをよく押さえておくこと。	60分
第12回	日本における蕎麦の歴史②	前回の続きになります。別の資料を紹介します。	学んだことをよく押さえておくこと。	60分
第13回	日本におけるうどん、蕎麦の現在	うどんの地域による違い、蕎麦の現況についてお話します。	学んだことをよく押さえておくこと。	60分
第14回	卒業研究に向けて①	研究したいことの発表と自由討議。	よく予習、復習をしておくこと。	60分
第15回	卒業研究に向けて②	研究したいことについての発表と自由討議（続）。	よく予習、復習をしておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	打っていただいた蕎麦をみなで食べあってお互いに批評をします。
評価方法	前期と同様のチェック項目から評価します。最終の2回の発表会では発表者の発表だけでなく、質問者の質問も評価します。普段の実習での他人への評価も評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	発表、自由討議	○	○	○	
	実技	○	○	○	○

評価割合	実技80%、発表、自由討議20%
使用教科書名(ISBN番号)	使用せず
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】蕎麦の打ち方とそのバリエーションを体験学習する。 【思考・判断】自分で手打蕎麦を作れることでお店の蕎麦が判断できるようにする。 【関心・意欲・態度】蕎麦打ちの技術の向上と新たなる変わり蕎麦に挑戦しようとする意欲を培う。 【技術・表現】手打蕎麦の技術を一通り獲得する。
オフィスアワー	月：昼休み、4時間目 水：2時間目、昼休み、4時間目 木：昼休み
学生へのメッセージ	蕎麦打ちは難しいですが、厳しくはしません。お互いに失敗を楽しみながら進めていきましょう。その中から自分の得意の蕎麦を見つけていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実際に蕎麦を手打で打っていただきます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（黒田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	・研究プロジェクトに参加し、本研究室の研究テーマの知識と実験技術を習得します。 ・データの分析と解釈の方法を習得します。 ・研究の進め方と、研究論文の作成方法について学びます。 ・初歩的な批判的思考を学びます。
履修条件	・統計学演習を未履修の学生は、統計学演習を履修してください。本研究室の研究テーマを取り組む上で必要な数理統計の知識と技術を習得できます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・研究に必要な２つの要素（新規性と進歩性）が理解できている。 ・本研究室の実験技術と解析方法が理解できている。
思考・判断の観点（K）	・初歩的な批判的思考ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	・研究討議会に参加し、質問や意見を発信できる。 ・本研究室の実験技術と解析方法を利用して、実験データを解析できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ゼミミーティング	・４年生と合同で、ゼミのミーティングを開きます。 ・後期のプロジェクトの進め方と予定を確認します。	後期のプロジェクトに参加する準備を進めてください。	45分
第2回	研究プロジェクトへの参加（１）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第3回	研究プロジェクトへの	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してくださ	45分

	参加（２）		い。	
第4回	研究プロジェクトへの参加（３）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第5回	研究討議会への参加（１）	・４年生の発表を聞き、研究テーマの理解を深めてください。 ・研究棟議会における質問の仕方を習得してください。	研究討議会に参加して、得られた学び、質問をクラスルームに投稿してください。	45分
第6回	研究プロジェクトへの参加（４）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第7回	研究プロジェクトへの参加（５）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第8回	研究プロジェクトへの参加（６）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第9回	研究討議会への参加（２）	・４年生の発表を聞き、研究テーマの理解を深めてください。 ・研究棟議会における質問の仕方を習得してください。	研究討議会に参加して、得られた学び、質問をクラスルームに投稿してください。	45分
第10回	研究プロジェクトへの参加（７）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第11回	研究プロジェクトへの参加（８）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第12回	研究プロジェクトへの参加（９）	研究プロジェクトに参加し、研究テーマに関する基礎的な知識・技術を習得します。	授業内容をよく復習して、実験ノートに内容を記載してください。	45分
第13回	研究討議会への参加（３）	・４年生の発表を聞き、研究テーマの理解を深めてください。 ・研究棟議会における質問の仕方を習得してください。	研究討議会に参加して、得られた学び、質問をクラスルームに投稿してください。	45分
第14回	研究論文の作成法の習得（１）	卒業研究論文など、論文の書き方を学びます。 食物総合演習B研究レポートの作成に取り組みます。	食物総合演習B研究レポートを作成して、提出してください。	45分
第15回	研究論文の作成法の習得（２）	卒業研究論文など、論文の書き方を学びます。 食物総合演習B研究レポートの作成に取り組みます。	食物総合演習B研究レポートを完成させてください。	45分

学習計画注記	・本科目は、演習（１単位）ですから、毎回45分程度の課題に取り組みます。 ・食物総合演習B終了時点で、卒業研究をスタートできる準備を完了させます。 ・キャリアについて考える時間を作ります。シーナ・アイエンガー『選択日記』を読んで、「選択」する技術を高めます。
学生へのフィードバック方法	・各回のラボノートの記録を確認して、アドバイスします。 ・研究計画について、アドバイスします。
評価方法	①プロジェクトへの取り組み（50点） ・評価の参考として、実験ノートを提出してください。 ②食物総合演習B研究レポート（50点） ・ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。 ①と②の合計に出席率を乗じて、成績評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	①プロジェクトへの取り組み	○	○	○	○
	②食物総合演習B研究レポート	○	○		○

評価割合	①プロジェクトへの取り組み（50点） ②食物総合演習B研究レポート（50点） ①と②の合計に出席率を乗じて、成績評価します。

使用教科書名(ISBN番号)	シーナ・アイエンガー『選択日記』(978-4-16-375600-4)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている
オフィスアワー	ゼミ後
学生へのメッセージ	・食物総合演習Bでは、卒業研究の準備を完了させます。次年度に卒業研究をスタートできるように準備を進めてください。 ・キャリア形成についても、アドバイスしていきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・食品企業での研究開発の経験を伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	・メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育	○	・各種学術データベースの使用方法を教授します。
ICT活用	○	・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の発展的スキルを教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（高尾）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要性がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。
履修条件	文献調査、現地調査、現地聞き取り、野菜栽培の実験等データ収集を主に行うことを承知しておいてください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	先行研究と自分の研究との相違点、結論の導き方、研究方法の違いを説明できる。
思考・判断の観点（K）	研究の目的、方法を明確化し、何を明らかにするかを説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的なデータ収集、データ分析ができる。
技術・表現の観点（A）	データ集積の分析、グラフ化、視覚化（技術）することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマ設定	自ら興味が持てる研究テーマを抽出し、数点より選択しテーマを設定する。	テーマの抽出と検討	60分
第2回	予備調査（１）	研究テーマに即した先行研究、事例研究等を探し、自らのテーマとの違いを発見する。また考察の方向性についても検討を行う。	先行研究、事例等の検索。	60分
第3回	予備調査（２）	研究テーマに即した先行研究、事例研究等を探し、自らのテーマとの違いを発見する。また考察の方向性についても検討を行う。	先行研究、事例等の検索。	60分
第4回	予備調査	研究テーマに即した先行研究、事例研究等を探し、自ら	先行研究、事例等の検索。	60分

	（３）	のテーマとの違いを発見する。また考察の方向性についても検討を行う。		
第5回	データ収集（１）	生活用具等の調査の場合は、数値の計測を行う。（重さ、各部位の大きさ、形、色、特徴など）一覧表にまとめる。 書籍、論文等による事例のデータを収集する。	書籍、論文等による事例のデータを収集する。	120分
第6回	データ収集（２）	生活用具の調査研究では、引き続きデータを収集する。（最低でも数十点以上） 書籍、論文等による事例のデータを収集する。	書籍、論文等による事例のデータを収集する。	120分
第7回	データ解析	生活用具調査研究の場合は、データの分類を行う。（時代、大きさ、色、用途、特徴等のグルーピング化） 野菜等の栽培実験では、それぞれの計測データを収集する。計測する対象により時期が異なるためその時期に行う。	データ収集。	120分
第8回	データ解析（２）	生活用具調査研究では、データのグラフ化し、視覚的にわかりやすいデータとし特徴を読み解く。 野菜栽培実験では、条件とデータの因果関係を考察する。	データの解析、またデータの組み合わせ等による解析、別の結果へ導き出せないかを検討する。	60分
第9回	まとめ	中間のまとめとして、データより考察できることを各項目ごとに挙げる。	解析作業。	60分
第10回	レポート作成（１）	研究結果データをグラフ化し、仮の考察として文章化してみる。	文章化作業。	120分
第11回	レポート作成（２）	生活用具調査に於いては、データ解析による考察の検討。図式化等による比較検討などを行う。 比較検討して分かったことを、箇条書きとして抽出する。	考察できることの抽出。	120分
第12回	レポート作成（３）	分かったことを抽出、整理して考察する。文書としてまとめ、研究室内での発表準備を行う。	発表準備。	60分
第13回	発表（１）	研究室内に於いて、研究発表会を行う。パワポによる発表、質疑応答等を行い、研究発表形式を体験する。	予習、復習等。	60分
第14回	発表（２）	研究室内に於いて、研究発表会を行う。パワポによる発表、質疑応答等を行い、研究発表形式を体験する。	予習、復習等。	60分
第15回	発表（３）	研究室内に於いて、研究発表会を行う。パワポによる発表、質疑応答等を行い、研究発表形式を体験する。	予習、復習等。	60分

学習計画注記	研究テーマにより、データが集まりやすいテーマとやや難しいテーマが出てくると考えられるため、個々により進歩状況が異なることになる。進めることができる人は早めに進めても構わない。最終的に個人の考察が述べられるようにしてほしい。
学生へのフィードバック方法	データ収集の仕方、解析等の助言を行う。考察について表現の仕方についても指導を行う。
評価方法	地道にデータの収集を行い、データ分析、グラフ化、図式化などの作業を行なうことが賢明です。 多くのデータが集まれば、より確信的な考察が述べられるようになると考えます。毎回の細かなデータ収集作業を行なって下さい。多くのデータ収集を評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	発表		○		○

評価割合	平常点（20%）、発表（80%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】先行研究を熟読し、先行研究結果と自分の研究方法の相違点と結論を明確化する力を身につけている。 【関心・意欲・態度】自分が興味を持てる研究テーマを見つけ、探求する力を身につけている。 【技能・表現】自分自身の考察を表現発表できる力を身につけている。

オフィスアワー	月曜日　3.5限～4.5限　1502研究室
学生へのメッセージ	野菜栽培の実験を行いたい人は、授業（ゼミ）と同時に進行することになります。 毎回の細かなデータ収集作業を行なって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	データ収集と解析。予備調査から解ることを分析し明確化。
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味を持てる研究テーマを見つけ出し、疑問に思う事柄を調査に基づきデータを収集し、考察を導き出す力を身につけます。
情報リテラシー教育	○	先行研究論文を熟読し理解して、考察を読み取る力を身につけます。
ICT活用	○	発表等を踏まえ、コミュニケーション能力を身につけます。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（上薗）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要性がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。
履修条件	食物学科3年次以上の学年であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食に関連する分野において、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点（K）	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	習熟した技能習得を目指し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる基礎を培うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	指導教員による個別及びゼミ合同指導①	食物総合演習Aの振り返りと食物総合演習Bにおける研究計画立案を行う。	食物総合演習Bで遂行する研究テーマの研究計画素案を考える。	90分
第2回	指導教員による個別及びゼミ合同指導②	各自の研究テーマに即した食物総合演習Bにおける研究計画立案を行う。	食物総合演習Bにおける研究計画を検討する。	90分
第3回	指導教員による個別及	食物総合演習Aで行った内容を受け、卒業研究まで視野に入れた研究計画を報告し、検討する。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分

	びゼミ合同指導③			
第4回	指導教員による個別及びゼミ合同指導④	1．前回に続き、先行研究から得た情報を反映した食物総合演習Bまで視野に入れた研究計画を報告し、食物総合演習Bにおける研究計画を検討する。 2．連携先との連携案件がある場合、前期進捗報告と本年度の最終的な展開打合せを行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第5回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑤	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究内容検討を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第6回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑥	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究内容検討を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第7回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑦	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究内容検討を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第8回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑧	研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第9回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑨	研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第10回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑩	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告会へ向けた準備を行う。	90分
第11回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑪	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告結果を反映し、研究立案を基に実働を行う。	90分
第12回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑫	中間報告会の結果を受け、研究を進める。	研究立案を基に実働を行う。	90分
第13回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑬	研究遂行と併せて、食物学科卒業研究B発表会用の要旨案を読み始める。	中間報告結果を反映し、研究立案を基に実働を行う。	90分
第14回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑭	卒業研究着手に向けた学びの一環である食物学科卒業研究B発表会参加への準備（質疑案検討等）を行う。	食物学科卒業研究B発表会要旨案を読み、質問を考える。	90分
第15回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑮	次年度卒業研究着手に向けた学びの一環である食物学科卒業研究B発表会へ参加し、質疑応答を行う。	卒業研究Aに向けた研究実働と併せて食物学科卒業研究B発表会における質疑応答内容検討等を行い、発表会参加後は報告書作成を行う。	90分

学習計画注記	研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。、
学生へのフィードバック方法	研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。
評価方法	研究室ゼミへの参加（15%）、研究テーマに関連する中間報告内容（15%）、令和2年度においては生活デザイン学科食生活分野卒業研究B発表会への出席及び参加報告書内容（10%）、研究テーマに対する取り組み内容（60%）の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究要旨	○	○	○	○

	中間報告発表	○	○	○	○
	研究姿勢	○	○	○	

評価割合	ゼミへの参加（15%）、中間報告内容（15%）、卒業研究B発表会出席及び参加報告書（10%）、研究テーマに対する取り組み（60%）の総合評価（100%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	研究テーマに即し、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食に関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】食を中核とした社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】食を中核とした社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	金曜4限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	指導教員による個別・グループ指導では、事前に十分な準備をして望んで下さい。 研究テーマに関連する教科を既修並びに履修しておいて下さい。 理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。 研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。 よって、探求心を持って継続して研究をすることが必要となります。 研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	ゼミ、研究テーマ打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	ゼミ報告書作成、将来的に作成する論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	中間報告用資料作成等、研究遂行時に必要なツールを活用する。 資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物総合演習Ｂ（米澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。 卒業論文と連動して、実験を計画・実施するための、調理学分野の文献検索や適切な対照区の設け方などの実験計画法を自分の課題を題材として学ぶ。課題に適した実験方法が書かれている論文・教科書の読み込なしについて学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	具体的な研究テーマ案を説明できる。
思考・判断の観点（K）	提案する研究テーマについて、その意義（オリジナリティ・有用性等）を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	研究テーマの内容とその意義（オリジナリティ・有用性等）を分かりやすくプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究室ガイダンス：研究テーマ関連領域の理解と研究テーマの決定	食物総合演習Aの取り組みを参考に、卒業研究の準備を行う。 研究テーマの決定。	研究テーマの検討を行う。	120分
第2回	文献検索①	研究テーマに関連する文献を検索し、熟読する。	研究テーマの関連領域の検討。	120分
第3回	文献検索②	研究室テーマ関連領域で検索した文献の読み込み、要点をまとめる。発表用にパワーポイント資料を作成する。	文献の入手と読み込みおよび文献の理解できなかった箇所の復習を行う。	120分

第4回	文献紹介	文献について、研究テーマとの関連性、重要性、参考箇所について説明し、検索文献のまとめをパワーポイントを使用して行う。質問・提案等を受けてより具体化する。	研究テーマとの関連性、今後の研究への参考箇所の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく。	120分
第5回	予備実験計画①	研究計画書の再検討、作成。	研究テーマについて研究計画書を作成する。	120分
第6回	予備実験計画②	研究計画書の作成、提出。（背景、目的、方法まで）	参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第7回	予備実験計画③	訂正を受けた実験計画書について訂正、発表準備（背景、目的、方法まで）	予備実験計画の発表のためにパワーポイントで発表用資料を作成し、発表の練習をする。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第8回	中間発表	研究計画について中間発表（背景、目的、方法まで）を行い、ディスカッションを行う。	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第9回	予備実験データ検討①	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。	データが出れば、図表の作成を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第10回	予備実験データ検討②	改定した実験計画書を提出。計画した予備実験を実行する。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第11回	予備実験データ検討③	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第12回	予備実験データ検討④	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第13回	予備実験データ検討⑤	計画した予備実験を実行する。結果、考察について検討を行う。	図表の作成を行う。参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。 発表スライドの作成、発表練習を行う。	120分
第14回	予備実験についてまとめ	予備実験について中間発表要旨（背景、目的、方法、結果、考察）を作成し、提出する。	発表スライドの作成、発表練習を行う。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分
第15回	予備実験について発表	予備実験について発表（背景、目的、方法、結果、考察）を行い、ディスカッションを行う。	発表スライドの作成、発表練習を行う。ディスカッション後に改善点も検討し、卒業研究につなげること。 参考にした書籍、文献、データについてもまとめておくこと。	120分

学習計画注記	テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定する。
学生へのフィードバック方法	基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。
評価方法	授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への参加度	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	授業への参加度50% プレゼンテーション50%

使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	提示されたテーマにあわせて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる。 【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる。 【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる。
オフィスアワー	木曜日 2限 2108室 面談を希望する場合はmailで事前に連絡を入れて下さい。
学生へのメッセージ	研究とは、誰も知らないことを探求することで、本来その人の自主的な興味に基づいて行うものです。研究を進める上で大切なことは、行動力、観察力、発想力と責任感です。報告、連絡、相談をよくして、共に研究活動を行いましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献検索を行い情報を収集し整理を行い、レポート・計画書の作成、プレゼンテーションによるアウトプット方法を学びます。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については，インターネットを利用しての情報収集を行います。また各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析を行います。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（岩見）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	大学での学びの集大成として、主に海洋生物を材料とした研究テーマを設定し、担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討を進め、得られた結果をもとに理論的な考察を行う。また、それらの経過・結果について、口頭発表、論文作成の指導を受ける。これにより、研究を進めるための基本となるさまざまな要素を修得し、卒業論文作成を進める。
履修条件	卒業研究を履修するための単位が修得済であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究対象に関する知識を十分に修得している。
思考・判断の観点（K）	明らかにしようとしている問題点・疑問点が理解できている。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら積極的に先行研究等の情報収集ができる。 納得できる結果が得られるまで、検証作業を繰り返すことができる。
技術・表現の観点（A）	得られた結果と導かれた考察・結論を、適切かつ論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業研究の進め方について説明する。	食物総合演習で学んだ内容を確認しておく。	90分
第2回	研究方法検討	研究方法の確認・習熟のための作業を行う	計画している研究方法について調査しておく	90分
第3回	研究方法検討	研究方法の検討に加え、機械・器具・サンプルの扱いについて練習する	機械・器具類の扱いについて予習しておく	90分
第4回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分

第5回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第6回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第7回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第8回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第9回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第10回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第11回	結果のまとめ	実験結果をまとめる	結果について不明な点、問題点等をまとめておく	90分
第12回	結果のまとめ	実験結果をまとめる	結果について不明な点、問題点等をまとめておく	90分
第13回	結果のまとめ	実験結果をまとめる	結果について不明な点、問題点等をまとめておく	90分
第14回	発表準備	中間発表のための準備を進める	発表内容のシナリオを作成する	90分
第15回	発表準備	中間発表のための準備を進める	発表内容のシナリオを作成する	90分

学習計画注記	研究の問題点・進捗状況等について、定期的に報告する。 サンプル処理、データ収集・解析を適宜進める。
学生へのフィードバック方法	研究の進捗状況に応じ、直接本人にフィードバック、指導する。
評価方法	研究に取り組む態度、途中経過の発表内容、論文内容等を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究の進め方	○	○	○	○
	授業への参加度			○	
	研究発表	○	○	○	○
	論文原稿	○	○	○	○

評価割合	研究に取り組む態度・授業への参加度 50% 論文内容 50%
参考図書	研究テーマに応じて適宜紹介します
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻くさまざまな事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観をもって社会に貢献したいという意欲がある。 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技術と、これらの開発企画や表現力を身につけている
オフィスアワー	卒業研究授業時間の前後
学生へのメッセージ	さまざまな場面で理解に時間がかかること、結果の解釈に戸惑うことがあるかと思いますが、研究テーマについて自ら積極的に取り組み、一つ一つ克服していくことが、この授業の最も意味あるところです。自分のテーマについては、自分が一番の専門家となるという意欲をもって取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	2度の南極地域観測で得た経験・知識、技術等を活かして指導します

アクティブ・ラーニング	○	対教員のみならず、同じ研究室の学生同士の話し合いも重視します。
情報リテラシー教育	○	文献検索・各種データベス利用等を指導します。
ICT活用	○	データ分析、画像処理、論文執筆等に必要なICTを活用・指導します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（河田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	①教育（家庭科教育・食に関する教育・教育の歴史）に関すること ・家庭科における食分野の指導方法 ・家庭科教育の歴史　家庭科はどのように教科になったのか等 ②食と人間の関わりを社会科学的に考える ・世界の給食 ・食育に対する意識調査等 ③ライフヒストリー研究（ある人間と社会の関わりの歴史） ・ある豆腐屋の歴史等 本ゼミは、人間や社会と食との関わりを社会科学的に研究する研究室です。研究方法は、文献、インタビュー、アンケート調査等です。自分は何を学び、何を研究したいのかを考えながらゼミを行います。研究とは何か、論文の書き方から学びます。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。 食物総合演習ABで河田の指導を受けていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自分が設定してテーマの研究目的を結論に導くために必要な知識・理解が積み上げられている。
思考・判断の観点（K）	自分が設定したテーマの研究目的を達成するための思考・判断を継続的に行うことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの関心を研究テーマとし、卒業研究に意欲的に自律的な態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の研究内容を他者に伝える技術・表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒論の書き方（１）テーマの設定	自分が何を研究テーマとするかを決め、そのテーマに関する先行研究を国会図書館や各種図書館の検索機能を用いて調査収集する。	国会図書館のOPACで、キーワード検索を行い、できるだけ多く	120分

	と先行研究の調査収集	先行研究目録を作成し、一つ一つ所在を確かめ読み進める。	の文献をピックアップし、その文献のコピーを取ること。	
第2回	先行研究の検討	今回までに調べて入手した先行研究のリストと、一つでも良いので読んだ文献を授業中に紹介する。文献の説明の仕方も学ぶ。	文献検索とそのリスト化、文献収集と読みを継続して行う。	120分
第3回	先行研究の検討	新たに見つけた先行研究の文献紹介を行う。できれば、前回紹介した文献との違いの比較検討の仕方を学ぶ。	先行研究の文献のリスト化、検索を続ける。	120分
第4回	卒研の書き方（２）研究方法	先行研究の検討を通して、何をどのように調べれば、先行研究に対して新たな知見となるのかを考える。調査には、インタビュー調査、アンケート調査、文献調査等いろいろある。何を選ぶことが自分の研究目的達成のために妥当な方法なのかを考える。	研究方法の選び方は、自分の性格や環境に合った方法を選ぶこと。できることとできないことの見極めが重要である。	120分
第5回	研究方法の選定	研究方法については指導教員とディスカッションしながら、決定する。文献講読を引き続き行う。	先行研究の収集、読みを継続して行う。常に自分の研究テーマに関連する事象について看取できるようにアンテナを張っておくこと。	120分
第6回	研究調査計画	調査方法、研究方法を決めたら、どのように実施するかの計画を立てる。インタビュー調査であれば、何月に何人位のインタビューを行うのか、対象者はどのように選定依頼するのか等、具体的な計画を立て、指導教員と相談する。	インタビュー対象者の選定や依頼、文献購入等は、指導教員に相談してから行うこと。	240分
第7回	調査の準備	調査計画の基づき、第一回調査のための準備を行う。得られる調査結果の予想や仮設を立てながら、どのような情報、データを入手したいのかを書き出す。	調査結果の仮設や予想は、繰り返し繰り返し考察を重ねること。その内容は常に記録しておくこと。	240分
第8回	第1回調査の実施	準備が良くできたら、実際に調査を行ってみる。本調査のプレテストのような意味もある調査となる。実際に調査を行ってみて、驚いたこと、予想もしなかったことに遭遇することは、非常に大事であることを学ぶ。	インタビュー調査であれば、質問項目を事前に挙げておく。この質問項目は必ず指導教員と相談すること。	240分
第9回	調査の実施	引き続き調査を行う。試行錯誤の過程をきちんと記録しておくこと。仮説や予想が何故はずれたのか、予想が的中したのはなぜか、それを考えることが研究の更なる発展を促すことを学ぶ。	教室外で調査を実施する。	240分
第10回	調査経過報告	調査経過をまとめてゼミで報告する。報告内容には何が含まれていなければいけないかを学ぶ。報告の順序立て方も学ぶ。調査内容が豊富であればあるほど、データ整理は大変である。それを楽しめるようになることが研究を深めるこつである。	調査内容を整理し、報告できるようにすること。	240分
第11回	調査結果をまとめ、次の課題を見出す。	調査結果をまとめ、そこから言えることを考察する。より正確な結論や深まりのある研究にするためには次に何を調べる必要があるのかを考察する。	得られた調査結果に関連する文献を探す。	240分
第12回	第2回調査計画	第1回調査から本調査となる第2回調査計画を練る。第1回調査に何を加え、何を注意すればより有益な結果を得られるのかを考察する。夏休みに調査を実施するのが良いので、調査依頼状等、夏休みに間に合うように計画を立てる。	調査に必要な情報収集（統計、文献等）を積極的に行うこと。	240分
第13回	卒研中間発表会の準備	卒研発表会のためのPPTを作成する。決められた時間内に研究発表をどのように行うのかを学ぶ。	PPT資料と発表原稿を作成してくること。	240分
第14回	卒研中間発表会のリハーサル	作成し、1回指導を受けた発表内容を発表する。卒研中間発表要旨も作成する。	卒研中間発表要旨は、作成してくること。	240分
第15回	卒研の中間発表	卒研中間発表会	発表原稿は何度も読んでおくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	卒研ゼミで個別に指導する。
評価方法	取り組み姿勢が重要である。 教員とディスカッションを行い、指導に耳を傾ける態度。 自律的に文献を検索収集し、文献を読み進める力、 調査における行動力、 論理的思考力 の観点から評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	取り組み姿勢			○	
	指導を受け入れる柔軟性		○	○	
	文献講読力	○	○		
	調査における行動力			○	○
	論理的思考力	○	○		○

評価割合	取り組み姿勢（30%）、柔軟性（10%）、文献講読力（20%）、調査能力（20%）、論理的思考力（20%） 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種のた王な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	授業内（1612室）で時間調整を行う。
学生へのメッセージ	自分が取り組みたいと思うテーマを思う存分極めるようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業内は常に対話形式である。プレゼンも頻繁に行う。
情報リテラシー教育	○	様々な図書館での文献検索の方法を身に付けられるようにする。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（三澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授する。
履修条件	・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習、食物総合演習A・Bを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができるようなること。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになること。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用・周知できる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマを	90分

			考え、テーマに関連する授業科目の内容を復習しておくこと。関連する学術論文に興味をもって事前に調べ考えておく。	
第2回	2回目　問題分析、課題設定	研究テーマに沿って、課題・問題点、解決方法、調査方法を明確化する。	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べておく。	90分
第3回	3回目　先行研究・参考文献の調査	本学の図書館を利用して、書籍・文献探索の方法を学び、研究テーマに関する参考文献を収集する。これまで明らかになっていること、明らかになっていないこと等、整理する。	研究テーマに沿った先行研究・参考文献を事前に集めて、精読して理解しておくこと。	90分
第4回	4回目　研究方法の立案	研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、食教育・教材開発・調査実施・分析・考察・纏めなどのスケジュールを立案する。	栄養指導論・実習において学んだPDCAサイクルに沿った企画立案について復習しておく。	90分
第5回	5回目　調査票・教材の企画開発	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。	90分
第6回	6回目　調査票・教材の企画開発	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。	90分
第7回	7回目　調査票・教材の企画開発	研究テーマに沿った調査票・教育教材を企画・開発する。	関連するアンケート調査票、食教育教材について、インターネット、書籍、文献などから事前に調べておく。	90分
第8回	8回目　調査・食教育の実施	スケージュール、学習指導案に沿って、調査・食教育を実施する。	調査はやり直しができないため、不備や漏れは無いか事前に確認しておく。	90分
第9回	9回目　調査結果の分析、事業評価票の作成	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。	90分
第10回	10回目　調査結果の分析、事業評価票の作成	調査結果について作表・解析・分析する。食教育について事業評価を行い報告書を作成する。「課題提出あり」	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。	90分
第11回	11回目　図表作成、論文構成立案	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。	90分
第12回	12回目　図表作成、論文構成立案	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、作成・立案する。「課題提出あり」	作表や統計解析方法について予習・復習しておく。	90分
第13回	13回目　発表資料作成	発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第14回	14回目　発表資料作成	発表資料を作成する。「課題提出あり」	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第15回	15回目　発表会	これまでの資料、教材、計画書に関して発表し（パワーポイントを用いたプレゼンテーション）、開発した教材を公表する。他者の発表を聴いて自己の発表を改善する。	発表の練習をしておく。	90分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価する。 ・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としている。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
	発表点	○	○	○	○

評価割合	・論文・要旨・作成資料点（50%） ・発表点（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	・特に指定しない
参考図書	・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書） ・日本人の食事摂取基準 2020版 （第一出版） ・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 （第一出版） （ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077）
参考URL	http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】 ・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。″ 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜3限、火曜1限、火曜昼休み：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと ・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。 ・自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（山田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	2年から3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的に、食に関する課題を自ら研究テーマとして設定し、研究方法の立案、文献検索、研究実施、まとめ、統計分析、評価、プレゼンテーション、卒業論文の作成ができるように指導する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	これまで学んだ体の構造、栄養素の役割および体内での代謝を理解し、特にナトリウム、カリウムおよび鉄について説明できる。
思考・判断の観点（K）	文献検索をすることができ、文献の内容を読み取り、それら情報を整理し研究に結び付けることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の研究テーマについて理解し、研究計画・立案をすることができ、それら内容について説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業研究の進め方について打ち合わせを行う。	これまで学んだ専門科目の内容で、研究に関連する内容を復習しておく。	60分
第2回	文献検索①	研究テーマに関係する文献検索を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。	60分
第3回	文献検索②	研究テーマに関係する文献検索を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。	60分
第4回	研究方法の	研究・実験方法の確認を行う。	これまで受講した実験・実習で	60分

	立案		提出したレポートの書き方の復習をしておく。	
第5回	研究実施①	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第6回	研究実施②	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第7回	研究実施③	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第8回	研究実施④	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第9回	研究実施⑤	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第10回	研究実施⑥	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第11回	研究実施⑦	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第12回	研究実施⑧	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第13回	研究実施⑨	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第14回	中間報告会準備	中間報告会のための準備を行う。	これまで行ってきた研究・実験の内容を確認する。	60分
第15回	中間報告会準備	中間報告会のための準備を行う。	これまで行ってきた研究・実験の内容を確認する。	60分

学生へのフィードバック方法	直接本人に研究計画内容について確認し、指導する。
評価方法	平常点、取り組む意欲、課題提出状況、プレゼンテーション内容について総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	取り組む意欲			○	
	課題提出状況	○	○	○	○
	プレゼンテーション内容	○	○	○	○

評価割合	平常点（20%）、取り組む意欲（20%）、課題提出状況（30%）、プレゼンテーション内容（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。また、栄養士、教員、

	食の専門家として探究心を持っている。【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（岩本）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Bと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養・食品・教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果・結論を見出し考察をおこなう。また、それらの経過・結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を進める。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究テーマの目的を、社会的背景や既往の研究と関連付けて理解できる。
思考・判断の観点（K）	得られた実験データから導かれる解釈を正しく理解できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2. 研究目的に沿って実験を遂行し、その結果を観察・記録し、実験ノートに整理できる。
技術・表現の観点（A）	実験成果を口頭で発表し、討論において的確に受け答えができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒業研究テーマ設定（1）	過去の研究テーマ、卒業論文なども参考にして研究課題を設定する。	研究計画書を作成する。	60分
第2回	卒業研究テーマ設定（2）	選択したテーマについてプレゼンテーションする。	プレゼン資料を作成する。	60分
第3回	卒業研究の準備	研究を進める上で、必要な資材を準備する。	必要な資材を準備する。	60分
第4回	リサーチミーティング	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。	研究活動における報告書を作成する。	60分

	(1)			
第5回	論文紹介(1)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。	60分
第6回	リサーチミーティング(2)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。	研究活動における報告書を作成する。	60分
第7回	論文紹介(2)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。	60分
第8回	リサーチミーティング(3)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。	研究活動における報告書を作成する。	60分
第9回	論文紹介(3)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。	60分
第10回	リサーチミーティング(4)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。	研究活動における報告書を作成する。	60分
第11回	論文紹介(4)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。	60分
第12回	リサーチミーティング(5)	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する。	研究活動における報告書を作成する。	60分
第13回	論文紹介(5)	関係論文を検索し、主要な論文について、ゼミにて報告する。	論文の検索をし、主要なポイントを要約する。	60分
第14回	中間報告会の準備	中間報告会の準備をする。	プレゼン資料を作成する。	60分
第15回	中間報告会	研究の進捗状況について、報告する。	プレゼン資料で予行練習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。
評価方法	卒業研究の取り組みを総合的に判断し、評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	先行研究の整理	○	○	○	
	ディスカッション			○	
	プレゼンテーション	○	○		○

評価割合	先行研究の整理（40%）、リサーチミーティングでのディスカッションへの参加（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	・林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7） ・松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273） ・栢下淳 他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-0877-5） ・小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4） ・多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	火曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）

学生へのメッセージ	研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（大和田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Ｂと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養･食品･教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果･結論を見出し考察をおこなう。また、それらの経過･結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を進める。
履修条件	大和田担当の「食物総合演習A、B」が履修されていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	うどん、蕎麦について、自分の関心のある分野での正統的な知識、理解を高める。
思考・判断の観点（K）	各々の関心のある分野のことで、客観性のある思考、判断ができるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	各々の関心のある事柄について、あくなき探求心を培い、実験、調査を重ねては新たな興味、発見を連続していけるようにする。
技術・表現の観点（A）	食材加工において各々の得意分野での技術を磨き、次々と新たなる進歩、発見を目指す。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	メンバーの顔合わせ。スケジュールの調整。やりたいことの確認と討議。	自由討議とコメント	やりたいことはすぐ決めてください。すぐに活動に移ってください。	120分
第2回	先行研究の調査、確認	先輩方の先行研究について、報告していただきます。	主に小口研究室の卒業研究が対象になると思います。	120分

	①			
第3回	先行研究の調査、確認②	前回同様です。前回で残った方に発表してきただきます。		120分
第4回	先行研究の調査、確認③	対象とする先行研究を学外に広げてください。	本学図書館の他、書店、インターネットなど、とにかく探してください。前回、前々回同様発表をしていただきます。	120分
第5回	先行研究の調査、確認④	前回同様で、残った方に発表していただきます。また、前回発表していただいた方にも、さらなる発見についてご報告をお願いします。	前回同様です。	120分
第6回	自分の実験、調査①	資料がそろったところで、十分な検討後、ご自分の実験、調査に移ってください。	各自での実験、調査です。メールでの報告を求めます。	120分
第7回	自分の実験、調査②	前回同様です。アドバイスを必要とされる場合は随時ご連絡ください。	メールでの具体的な活動報告を求めます。ない場合は欠席扱いも考えます。	120分
第8回	自分の実験、調査③	前回同様です。	最低週1回のメールを求めます。	120分
第9回	自分の実験、調査③	前回同様です。そろそろ前期の学科での中間発表会のことを考えてください。	このあたりで論文の結論が見え出すことを目標にしておいてください。	120分
第10回	自分の調査、研究の中間発表会①	当研究室の中だけの中間発表会です。	指導教員と級友からの指摘を受け、さらなる進歩、改善に励んでください。 和気あいあいでお互いに指摘しあいましょう。	120分
第11回	自分の実験、調査の中間発表会②	前回同様です。前回残った方に発表していただきます。前年度生活デザイン学科の卒業研究要旨集を参考にして、夏休み前の中間発表会の用意を始めてください。	学科での中間発表会を念頭においてください。	120分
第12回	自分でも学科の中間発表会用資料が作れるように準備を始めてください。	発表資料の表と本文の作成①	出来たもののメール報告を義務付けます。	120分
第13回	中間発表会資料の作成②	前回同様です。	今週もメール報告を義務付けます。	120分
第14回	中間発表会の模擬発表①	一人一人発表していただきます。級友の発表には質問、助言をしていただきます。	質問を想定したうえで発表の練習をしておいてください。	120分
第15回	中間発表会の模擬発表②	前回残った方に発表していただきます。時間があれば前回発表の方にももう一度発表をお願いします。	本番でとちったりしないようよく練習しておいてください。	120分

学生へのフィードバック方法	各々に向けて口頭で行います。
評価方法	先行資料の調査が十分かどうか、自分の実験、調査が十分かどうか、内容に面白味があるか、発表資料は整っているか、実際の発表を上手にできるか、などの項目でチェックします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	学科内中間発表会の発表内容	○	○	○	○
	中間発表会での発表と質疑応答	○	○	○	○

評価割合	学科内中間発表会での発表内容80%、質疑応答20%。

使用教科書名(ISBN番号)	使用せず
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】関心のある分野での十分な知識を得る。客観的で説得力のあるプリゼンテーションができるようにする。 【思考・判断】多様な情報を整理し、まとめる能力を養う。 【関心・意欲・態度】食に関して、自分の関心のある事柄を突き詰めて研究する態度を養う。 【技能・表現】食材加工の技能を高める。
オフィスアワー	月：昼休み、4時間目 水：2時間目、昼休み、4時間目 木：昼休み
学生へのメッセージ	自分の好きなことをするのですから、毎日何か1つは発見をする覚悟で活動ください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分の興味を追求する実験、調査。
情報リテラシー教育	○	書籍、パンフレット、インターネット等による情報収集。
ICT活用	○	インターネット検索。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（黒田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	食物総合演習Bにおいて決定したテーマについて、プロジェクト研究を進めます
履修条件	・卒業研究を履修するための単位を修得していること ・学生便覧の現代生活学部食物学科卒業研究内規を確認しておくこと

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・研究に必要な新規性と進歩性が理解できている ・研究テーマに関連する知識が、広く、深くなっている
思考・判断の観点（K）	・批判的に思考できる＝クリティカルシンキングが身についている
関心・意欲・態度の観点（V）	・粘り強く研究を進めることができる ・データの信頼性を厳しく評価することができる
技術・表現の観点（A）	・データから得られた結果と考察を、論理的かつ簡潔に口頭で説明できる。 ・データから得られた結果と考察を、論理的かつ明瞭に文章で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	プロジェクト研究の開始	プロジェクトを開始します。	・研究計画を確認し、準備を進めてください。	90分
第2回	プロジェクト（１）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第3回	プロジェクト（２）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第4回	月例報告会（１）5/12	・各研究プロジェクトの進捗を報告してください。 ・研究討議をします。	・教員のフィードバックを確認して、次の作業を進めてくださ	90分

			い。	
第5回	プロジェクト（３）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第6回	プロジェクト（４）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第7回	プロジェクト（５）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第8回	月例報告会（２）6/2	・各研究プロジェクトの進捗を報告してください。 ・研究討議をします。	・教員のフィードバックを確認して、次の作業を進めてください。	90分
第9回	プロジェクト（６）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第10回	プロジェクト（７）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第11回	プロジェクト（８）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第12回	月例報告会（３）7/7	・各研究プロジェクトの進捗を報告してください。 ・研究討議をします。	・教員のフィードバックを確認して、次の作業を進めてください。	90分
第13回	プロジェクト（９）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第14回	プロジェクト（１０）	プロジェクトを進めます。	・データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第15回	前期のまとめ	・前期の結果と、今後の課題を発表してください。 ・研究室のメンバーの発表に対して、質問・コメントしてください。	中間発表の準備を進めてください。	90分

学習計画注記	・本科目は、演習（２単位）ですから、毎回90分程度の課題に取り組みます。 ・各プロジェクトごとに研究を進めます。スケジュールは、チームのメンバーと相談して決めます。 ・授業時間は、合計で30コマとなります。20コマ以上の時間数を満たせないと、受験資格を喪失します。コマ数は、個人ごとに出席簿を作って集計し、記帳管理します。 ・中間発表は、8月 6日（土）です。時間は、追ってお知らせします。本年度は、人数の関係で、２つのグループ（領域）に分かれて発表する予定です。 ・コロナ感染等、登校ができなくなった場合は、休講とします。感染の谷間など、登校が再開できたところで、集中的に研究プロジェクトを進める予定です。
学生へのフィードバック方法	・ゼミでの発表について、フィードバックします。 ・ラボノートを確認して、フィードバックします。
評価方法	①研究プロジェクトへの参加度 ラボノートを確認して評価します。適宜提出してください。 ②中間発表 研究は、チームで行いますが、中間発表は、一人ずつ行います。 発表は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。 卒業研究論文の草稿も提出します。書式に十分慣れてください。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	①研究プロジェクトへの参加度	○	○	○	○
	②中間発表	○	○	○	○

評価割合	①研究プロジェクトへの参加度：80% ②中間発表：20%
使用教科書名(ISBN番号)	テーマに従って、必要なテキストを参考図書から選んで購入してください
参考図書	【実験系のテーマ】 理系大学受験 化学の新研究 改訂版 978-4385260938 三省堂 卜部 吉庸 【官能検査を行うテーマ】 よくわかる心理統計 978-4623039999 ミネルヴァ書房 山田 剛史 【ヒト試験を行うテーマ】

	いざ、倫理審査委員会へ―研究計画の倫理的問題を吟味する 978-4903803197尾藤誠司・福原俊一 健康医療評価研究機構
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている
オフィスアワー	ゼミ後
学生へのメッセージ	3年間で学んだことをフル活用して、充実した研究を進めてください。データを厳しく評価して、結果を批判的に考えることを心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業で経験した研究のノウハウを伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	対話を重視したゼミを展開します。
情報リテラシー教育	○	各種データベースをフル活用します。
ICT活用	○	エクセルをフル活用します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（高尾）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	本研究室では、①生活用具の調査研究（例、飯碗の大きさと形、日常使いの皿の調査）②食品の調査（全国のお饅頭・お煎餅・お団子）、③食材の調査（地域と食材－水戸納豆の料理と食品－）、④野菜栽培の実験（高糖度のトマト栽培）などの、食に関わる文化について研究を行う。書籍からの資料収集、現地の調査や聞き取りによるデータ収集を主に行い分析する。データの特徴から傾向や考察を見出し、卒業論文を作成する。
履修条件	卒業研究を履修するための単位収得済みであること。 髙尾担当の「食物総合演習A・B」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し理論的、体系的に説明することができる。 先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	研究テーマの問題意識を明確化して、自らの研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のための文献収集、調査、実験に積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の研究内容を文章によって適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	自分自身が設定した研究テーマ、研究の目的、研究の方法を再度確認、検討する。	何を明らかにしたいのか？について考える。データ分析やアンケート調査から特徴や結論を導き出すにはどのような手順で進めていけば良いかを検討する。	書籍検索、インターネット文献資料検索。	90分
第2回	先行研究	自己の研究分野で先行研究を検索。同じ分野の論文を収	書籍、資料、図書館論文検索。	90分

	（論文）の調査。	集し、自分の研究との違いについて明確にする。		
第3回	先行研究（論文）の調査。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第4回	自分の研究と先行研究（論文）との違いを明確にする。	先行研究者の目的や方法を明らかにする。多くの論文が存在する場合は、表にまとめて分類しておく。	前回と同じ。	90分
第5回	調査。	書籍資料の調査、現地資料収集調査、現地聞き取り調査など自分の研究に合った調査方法を検討する。	授業外で現地に赴くことが多くある。連日足を運ぶことも多々ある。できうる限りの調査を行う。	90分
第6回	調査。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第7回	調査。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第8回	調査。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第9回	調査。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第10回	データ分析。	収集したデータを表やグラフ、図解にまとめる。データの特徴が見える様に視覚化する。	前回と同じ。	90分
第11回	データ分析。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第12回	データまとめ。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第13回	データ分析から見出したことを箇条書きにし文章化する。	どのような結果（特長）を見出したのか？その理由について考える。貴女自身の考えをまとめる。	考察を考える。	90分
第14回	中間報告会発表の準備。	前回と同じ。	発表の準備と練習。	90分
第15回	中間報告会（発表）。	研究結果が明確化できているか？、考察として述べることができるかを考える。相手に研究結果を伝えるためにはどのような発表が良いかを考える。パワーポイントの表現方法を検討する。	発表、あなたの考察はうまく伝わったか？を考える。	90分

学習計画注記	研究テーマや調査方法によりそれぞれの進み方が異なるため、自身で計画を立て進めてほしい。
学生へのフィードバック方法	調査方法、データ収集、データ分析、考察の抽出、発表方法などに対して、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の評価方法。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析ができている。 ④結果や考察の内容に十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容をは学術論文に適した文章である。 ・平常点は授業内活動（報告、発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間報告会発表	○			○
	調査・データ分析		○		○
	まとめ・論文	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	中間報告会（40%）調査・データ分析（10%）まとめ・論文（40%）平常点（10%）

使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発信し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜日3.5限～4.5限　1502研究室
学生へのメッセージ	授業時間以外にも調査・実験などの作業を行なうこと。各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、そのつど学習計画を立てるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（上薗）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Ｂと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養･食品･教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果･結論を見出し考察を行う。また、それらの経過･結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を進める。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食物・家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを様々な立場や状況の人々と活用することができる。
思考・判断の観点（K）	多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に主体的に取り組むことができ、また、他人とも協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。 習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	指導教員による個別指導①	各自の研究テーマに即した研究計画立案を行う。	卒業研究Aで遂行する研究テーマの絞り込みを行い、研究計画素案を立案する。	180分
第2回	指導教員による個別指導②	各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択する。	先行研究等の情報集と精査を行う。	180分

第3回	指導教員による個別指導③	先行研究から得た情報を反映した卒業研究論文作成まで視野に入れた研究計画を発表し、試料・試薬調製計画、研究手法の概要を決定する。	研究に必要な試料と試薬の調達、調整等、研究実働を始める。	180分
第4回	指導教員による個別指導④	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成の流れを理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第5回	指導教員による個別指導⑤	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成の流れを理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第6回	指導教員による個別指導⑥	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成の流れを理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第7回	指導教員による個別指導⑦	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成における専門用語について理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第8回	指導教員による個別指導⑧	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成における専門用語について理解する。 3．連携先のある研究テーマの場合、研究先と情報交換等を行う。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第9回	指導教員による個別指導⑨	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成における参考・引用文献使用の注意事項を理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第10回	指導教員による個別指導⑩	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．各自の研究テーマに即した研究データの統計処理手法を理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第11回	指導教員による個別指導⑪	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．各自の研究テーマに即した研究データの統計処理手法を理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第12回	指導教員による個別指導⑫	1．卒業研究A発表会に向けて、前日まで行った研究成果と今後予定について検討する。 2．卒業研究A発表会用要旨作成における内容の検討を行う。	研究実働と併せて、卒業研究A発表会用の要旨を作成する。	180分
第13回	指導教員による個別指導⑬	卒業研究A発表会準備①；卒業研究A発表会用要旨内容の精査を行う。	研究実働と併せて、卒業研究A発表会に必要なパワーポイントスライド、発表原稿を作成する。	180分
第14回	指導教員による個別指導⑭	卒業研究A発表会準備②；事前作成した発表用パワーポイントスライド、発表原稿、質疑応答検討を行う。	研究実働と併せて、作成した発表用資料等に修正や補足を行う。	180分
第15回	指導教員による個別指導⑮	卒業研究A発表と質疑応答結果検の振り返り	最終発表並びに卒業研究Bに向けた研究実働と併せて発表会における質疑応答内容検討等も行う。	180分

学習計画注記	研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。、
学生へのフィードバック方法	研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。
評価方法	学科における研究要旨、発表会におけるプレゼンテーションの合否判定、並びに研究に対する取り組み内容に対して総合評価を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究要旨	○	○	○	○
	卒業研究中間発表	○	○	○	○
	研究姿勢	○	○	○	○

評価割合	1)研究要旨の合否判定、2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 1)、2)の全てに合格した場合、研究姿勢を加味し、総合的(100%)に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	研究テーマに即し、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食物・家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	火曜日2限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むことを心がけて下さい。 理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。 研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。 よって、探求心ももって継続して研究をすることが必要となります。 研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	研究打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールを活用する。 資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ａ（米澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文とする。研究テーマの設定，研究計画の策定、研究の方法の検討、論文のまとめ及びプレゼンテーションと一連の研究の手順を実践し、食物学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究テーマについてその先行研究についてその内容を説明できる。
思考・判断の観点（K）	研究上で得られた様々な情報や経過・結果について分析・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のプロセスにおいて課題解決をするために自主的に学習を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	研究成果についてその目的、方法、結果、考察について理論的な報告ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマ・目的の検討、日程と内容の計画	各自の研究テーマに即した研究計画立案を行う。テーマと目的に対して社会的な意義および研究成果のまとめ方についてを学ぶ。	卒業研究Aで遂行する研究テーマの絞り込みを行い、研究計画素案を立案する。	120分
第2回	研究方法の検討①	各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行う。	120分
第3回	研究方法の検討②	文献調査、実験の計画を考える。	先行研究等の情報集と精査を行う。	120分
第4回	研究方法の	これまでにまとめた実験計画に関連する参考文献をまと	パワーポイントで簡単に文献紹	120分

	検討③	めて、1人15分程度で報告する。	介用に発表スライドを準備する。	
第5回	調査・実験の検討①	実験計画を詳細に検討する。	引き続き参考文献をまとめ、実験計画を立てる。	120分
第6回	調査・実験の検討②	調査・実験のプレテストを行い、統計分析について学ぶ。	参考文献をまとめておく。 統計分析の方法を把握する。	120分
第7回	調査・実験の検討③	プレテストのデータ入力や解析ソフトの使い方を学ぶ。	参考文献内容をまとめておく。 解析ソフトの使い方を理解する。	120分
第8回	調査・実験の検討④	参考文献内容を理解する。 本調査の準備について学ぶ。	参考文献内容をまとめておく。 解析ソフトの使い方を理解する。	120分
第9回	結果の整理①	実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成）	参考文献内容をまとめておく。 データ入力、写真、図、表を作成する。	120分
第10回	結果の整理②	実験データの入力と解析について学ぶ。 要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。	参考文献内容をまとめておく。 実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成） 要旨の目的、方法を書くこと。	120分
第11回	考察・まとめ①	要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。	参考文献内容をまとめておく。 要旨の結果、考察をまとめる。	120分
第12回	考察・まとめ②	統計分析の結果から考察を行う。	参考文献内容をまとめておく。 要旨を完成させること。	120分
第13回	発表準備①	これまでにまとめた目的、方法、結果、考察までを発表資料としてパワーポイントで作成する。	パワーポイントファイルおよび発表原稿の作成。	180分
第14回	発表準備②	わかりやすく伝える発表の練習。	発表スライドの訂正および発表原稿の訂正。	180分
第15回	中間発表	卒業研究Aの研究成果の発表を行う。	発表練習および質疑応答対策を行う。	120分

学習計画注記	進度によっては、予定した時間外での指導を行うことがあります。
学生へのフィードバック方法	毎週の授業内で個別指導を行うとともに、必要な状況では、随時、個別指導を行います。
評価方法	1）研究要旨の合否判定 2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究要旨	○	○	○	○
	研究発表	○	○	○	○

評価割合	1）研究要旨の合否判定 2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 1）2）を総合的(100%)に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。 【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。 【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日　2限　2108研究室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。また、研究は予定通り進まないこともあるた

め、時間の余裕をもって計画・実施することを心掛けること。
また、研究上の疑問や方向性に不安なことがある場合は、すぐに相談に来ること。2108研究室(またはemail)を訪ねること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	研究打合せ時に、ディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	各種文献データーベースの使用方法を学ぶ。
ICT活用	○	統計ソフトウエアや研究要旨作成、発表用資料作成、論文作成に必要なツールを活用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（岩見）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	R40715M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Aと連動し、大学での学びの集大成として、主に海洋生物を材料とした研究テーマを設定し、担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討を進め、得られた結果をもとに理論的な考察を行う。また、それらの経過・結果について、口頭発表、論文作成の指導を受ける。これにより、研究を進めるための基本となるさまざまな要素を修得し、卒業論文作成を進める。
履修条件	卒業研究を履修するための単位が修得済であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究対象に関する知識を十分に修得している。
思考・判断の観点（K）	明らかにしようとしている問題点・疑問点が理解できている。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら積極的に先行研究等の情報収集ができる。 納得できる結果が得られるまで、検証作業を繰り返すことができる。
技術・表現の観点（A）	得られた結果と導かれた考察・結論を、適切かつ論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究内容の検討	前期の結果について再検討し、問題点を抽出、対応策を検討する	前期の発表について、疑問点・問題点を把握しておく	90分
第2回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第3回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第4回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分

第5回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第6回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第7回	経過報告会	これまでの進行状況・結果等について発表する	発表内容をまとめ、準備をしておく	90分
第8回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第9回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第10回	実験	研究計画に沿って実験を進める	明らかにすべきこと、問題点等についてまとめておく	90分
第11回	卒業論文執筆	研究結果をまとめ、書式にあわせて論文を執筆する	執筆段階で不明な点、疑問点等をまとめておく	90分
第12回	卒業論文執筆	研究結果をまとめ、書式にあわせて論文を執筆する	執筆段階で不明な点、疑問点等をまとめておく	90分
第13回	卒業論文執筆	研究結果をまとめ、書式にあわせて論文を執筆する	執筆段階で不明な点、疑問点等をまとめておく	90分
第14回	発表準備	卒業論文発表のための準備を進める	発表内容のシナリオを作成する	90分
第15回	発表準備	卒業論文発表のための準備を進める	発表内容のシナリオを作成する	90分

学習計画注記	研究の問題点・進捗状況等について、定期的に報告する。 サンプル処理、データ収集・解析を適宜進める。
学生へのフィードバック方法	研究の進捗状況に応じ、直接本人にフィードバック、指導する。
評価方法	研究に取り組む態度、途中経過の発表内容、論文内容等を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究の進め方	○	○	○	○
	授業への参加度			○	
	研究発表	○	○	○	○
	論文原稿	○	○	○	○

評価割合	研究に取り組む態度・授業への参加度 50% 論文内容 50%
参考図書	研究テーマに応じて適宜紹介します
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻くさまざまな事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観をもって社会に貢献したいという意欲がある。 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技術と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	卒業研究授業時間の前後
学生へのメッセージ	さまざまな場面で理解に時間がかかること、結果の解釈に戸惑うことがあるかと思いますが、研究テーマについて自ら積極的に取り組み、一つ一つ克服していくことが、この授業の最も意味あるところです。自分のテーマについては、自分が一番の専門家となるという意欲をもって取り組んで下さい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	2度の南極地域観測で得た経験・知識、技術等を活かして指導します

アクティブ・ラーニング	○	対教員のみならず、同じ研究室の学生同士の話し合いも重視します。
情報リテラシー教育	○	文献検索・各種データベス利用等を指導します。
ICT活用	○	データ分析、画像処理、論文執筆等に必要なICTを活用・指導します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（河田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

授業概要(教育目的)	卒業研究Aで行った、先行研究の検討、研究方法の決定、調査計画に基づき、オリジナルデータ取得のための調査を実施する。その結果を分析し、卒業論文を作成、卒研発表会で発表を行う。
履修条件	卒業研究の履修には、３年次終了時点で、卒業要件単位を９０単位以上修得していることを条件とする。修得単位が９０単位未満の場合は、９０単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。 卒業研究Aで河田の指導を受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒行研究のために調べた事柄を整理し、論述する基本的な知識・理解がある。
思考・判断の観点（K）	調査等から得られた内容を論理的に整理できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	この卒研から何かを得ようという積極的関心・意欲・態度がある。
技術・表現の観点（A）	何をどのような目的と方法で研究しているかを他者にわかり易く表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	調査計画の確認	今後の調査計画の確認を行う。何を明らかに知るために、何を調べるのか。そのためにはどのような準備と段取りが必要なのか、どの程度の期間が調査に必要なのかを、指導教員とディスカッションしながら確認する。	上記の学習内容に必要は情報（文献、インタビュー対象者、調査地）等についてよく考えておくこと。	180分
第2回	調査の実施と報告	授業時間内には実施した調査内容を少しずつ報告する。調査時間に本授業を含める場合もある。	調査自体が教室室外学習である。	240分
第3回	調査の実施と報告	授業内では、調査結果の報告を行う。調査時間が少ない場合は、本授業時間を調査時間に含める場合もある。	教室外で調査を行い、その結果を記録する。	240分
第4回	調査の実施と報告	調査内容の報告を受け、卒論の論旨を構築しながら、更に必要な資料・データについて指導教員とディスカッションして考察する。	更に必要な資料・データがある場合は、更に調査を計画する。	240分

第5回	調査結果の整理	調査で得られた資料・データを整理して、分析し易いようにする。授業時間を用いて整理を行うことも可。	1回で整理はできないので、授業時間外にもデータ整理を行うこと。	180分
第6回	調査データの整理	引き続き調査で得られたデータ整理を行う。データ不足の場合は、再度調査を実施する。	教室外での調査がある場合もある。	120分
第7回	調査結果のまとめ	整理したデータから何が言えるのか、を考察する。	整理したデータに類似した内容の研究があれば、探しておくこと。	180分
第8回	調査結果のまとめ	得られたデータから何が言えるか、について指導教員とディスカッションを行う。言えることは常に箇条書きにして記録しておくこと。	得られたデータ、整理したデータから何が言えるか、自分が何を言いたいのかを、常に考えること。	120分
第9回	卒論の書き方	卒論の目次（章・節）の立て方を学ぶ。目次の立て方を学んだ後で、自分の論文の目次を作成する。	目次の作成は、非常に重要である。何度も組み換えをしながら、論旨を組み立てること。	180分
第10回	卒論の執筆（１）	目次に従い、自分が書き易い章から執筆していく。途中で指導教員の前でプレゼンし、文言の表現の仕方等を学ぶ。	とにかく、書き続けること。	180分
第11回	卒論執筆（２）	研究の目的、研究方法、先行研究の検討は、執筆終了。調査の概要に着手し、得られたデータから読み取れることを箇条書きにしておく。	得られたデータ・資料を何度も何度も読むこと。読んで気付いたことは必ず箇条書きに記録しておくこと。	180分
第12回	卒論執筆（３）	得られたデータについて気付いたことを箇条書きにした内容を吟味し、同じ項目で整理できるものを探して、幾つかの項目を作成する。	卒研を書き続ける。	240分
第13回	卒研要旨の作成	卒研発表会のための要旨を作成して、指導教員の指導を受け、要旨の書き方を学ぶ。	要旨の書き方、短い文章で論旨をまとめるまとめ方について考えること。	180分
第14回	卒研発表の準備	卒業論文をPPT資料にして、他者に分かり易く伝えられるようにする。研究内容を他者に分かり易く、アピールするようにプレゼンするにはどのようにすれば良いのかを学ぶ。	図や絵、写真がプレゼンには欠かせないので準備すること。	240分
第15回	卒研発表と卒論提出	卒研発表会で発表し、コメントをもらうことで、自分の卒研を振り返る。他の学生の発表を聴くことからも、いろいろなことを学ぶ。	卒業論文を完成させる事。参考文献も整理すること。	240分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	ゼミ形式、発表、個別指導
評価方法	取り組み姿勢：多様な問題に直面した時に、助言を受けて自律的に解決方法を見つけて卒業研究をやり抜くことができる。 卒業研究要旨・簡潔に卒研の要旨をまとめることができる。 卒業論文：研究目的、研究動機、研究方法、調査結果、結論等がしっかり文章化されている。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	取り組み姿勢			○	
	卒業研究要旨作成	○	○		○
	卒業論文	○	○	○	○

評価割合	取り組み姿勢（30%） 卒業研究要旨・簡潔に要旨をまとめることができる。（30%） 卒業論文（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	授業内に指示する。参考図書はできるだけ自分で探すこと。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー	随時アポイントメントを取ること。（1612教室）
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゼミでは、常にディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	資料情報の収集・入手の方法は、随時指導する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（三澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	R40715M22
授業概要(教育目的)	・本科目は、卒業のための必修科目である。本授業では、自らが発見した食生活に関わる課題や地域での活動を研究テーマとして設定し、食教育や調査を行い研究に繋げる。学生はそのテーマを追求するため、結果の分析、教育方法の纏め、考察、結論を導いていく。研究プロセス、発表方法、論文執筆の方法について、テーマに応じて適切な指導を行う。これらの研究活動を通して新たな自分を発見でき、延いては地域・社会に貢献できる力が身に着くよう教授する。
履修条件	・栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学、栄養指導実習、栄養カウンセリング実習、公衆栄養学実習、食物総合演習A・B、卒業研究Aを履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・学生が研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 ・学生が研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	・学生が多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができるようなること。 ・学生が問題を明確化して、自ら研究のテーマを設定し、それに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・学生が対象集団・地域社会の課題を見い出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになること。 ・学生が研究活動（文献収集、調査、分析、教育考案、プロトコル作成）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	・学生が対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したりできる。 ・学生が自身が行った研究の内容を、学術的な文章の執筆、発表スライドを作成でき、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	1回目　スケージュー	論文執筆のスケジュールを立てる。	「卒業研究の手引き」をよく精読しておく。	90分

	ル			
第2回	2回目　論文執筆	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。	卒業生の卒業論文を読んでおく。	90分
第3回	3回目　論文執筆	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。	卒業生の卒業論文を読んでおく。	90分
第4回	4回目　論文執筆	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。	卒業生の卒業論文を読んでおく。	90分
第5回	5回目　論文執筆	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。	卒業生の卒業論文を読んでおく。	90分
第6回	6回目　論文執筆	研究テーマについて、スケジュールに沿って論文を執筆する。「課題提出あり」	卒業生の卒業論文を読んでおく。	90分
第7回	7回目　要旨の作成	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	卒業生の要旨を事前に学んでおく。	90分
第8回	8回目　要旨の作成	研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。「課題提出あり」	卒業生の要旨を事前に学んでおく。	90分
第9回	9回目　発表資料作成	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。	90分
第10回	10回目　発表資料作成	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。	90分
第11回	11回目　発表資料作成	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。	90分
第12回	12回目　発表資料作成	研究の要旨に沿って、パワーポイントの発表資料を作成する。「課題提出あり」	発表資料の作成方法について事前に復習しておく。	90分
第13回	13回目　発表会	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。	所定時間内に発表できるよう練習しておく。	90分
第14回	14回目　発表会	ゼミナールにおいてプレ発表会を行う。発表後、纏め方等について議論し内容の向上を図る。	所定時間内に発表できるよう練習しておく。	90分
第15回	15回目　本発表	想定される質問を考え、事前に準備しておく。	所定時間内に発表できるよう練習しておく。	90分

学習計画注記	・授業の最後に毎回質問を受け付ける。 ・さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。（事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。） ・新型コロナの状況、やむを得ない事情（物理的な環境・教材等）によっては、授業内容が変更されることがあります。
学生へのフィードバック方法	・g-mailまたはclassroomを活用してフィードバックする。
評価方法	・論文・要旨・作成資料点、発表点で総合的に評価する。 ・論文および発表は下表に示すスキルを養うことを目的としている。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	論文・要旨・作成資料点	○	○	○	○
	発表点	○	○	○	○

評価割合	・論文・要旨・作成資料点（50%） ・発表点（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	・特に指定しない
参考図書	・SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（東京図書） ・日本人の食事摂取基準 2020版　（第一出版） ・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル　第3版　（第一出版）　(ISBN　978-4-8041-1358-6　C3077)
参考URL	http://www.tokyo-tosho.co.jp/download/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／K】

	・学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断／K】 ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度／V】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。″ 【技術・表現／A】 ・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	・月曜5限、火曜5限：栄養指導研究室（2106室） ・事前にg-mailで予約してから来訪して下さい。
学生へのメッセージ	・学生便覧の食物学科卒業研究内規を確認しておくこと ・実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。自分の興味ある研究活動を見つけ、卒業後も役に立ち思い出に残るような研究となるよう取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は、病院（管理栄養士）及び企業（第一種衛生管理者、産業栄養指導者）において、「栄養の指導」分野の中核を成す栄養指導及び栄養教育の実務経験を有している。将来の栄養士・管理栄養士として習得すべき栄養指導（ハイリスクアプローチ）、予防的栄養教育、公衆栄養活動（ポピュレーションアプローチ）に関して、実例を示しより実践的に、結果（アウトカム）を出せるよう、研究を指導します。
アクティブ・ラーニング	○	・対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでデイスカッションし、能動的に学べるよう教授します。
情報リテラシー教育	○	・研究のための文献検索、アイデアの情報収集について教授します。
ICT活用	○	・情報収集（インターネット）、授業のフィードバック（classroom）、データ入力・集計（エクセル）、栄養分析（エクセル栄養君）、統計解析（SPSS）等の各種ソフトウェアを活用して教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（山田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	2年から3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的に、食に関する課題を自ら研究テーマとして設定し、研究方法の立案、文献検索、研究実施、まとめ、統計分析、評価、プレゼンテーション、卒業論文の作成ができるように指導する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	これまで学んだ体の構造、栄養素の役割および体内での代謝を理解し、特にナトリウム、カリウムおよび鉄について説明できる。
思考・判断の観点（K）	文献検索をすることができ、文献の内容を読み取り、それら情報を整理し研究に結び付けることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の研究テーマについて理解し、研究計画・立案をすることができ、それら内容について説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	卒業研究の進め方について打ち合わせを行う。	これまで学んだ専門科目の内容で、研究に関連する内容を復習しておく。	60分
第2回	研究実施①	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第3回	研究実施②	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分

第4回	研究実施③	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第5回	研究実施④	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第6回	研究実施⑤	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第7回	研究実施⑥	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第8回	研究実施⑦	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第9回	研究実施⑧	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第10回	研究実施⑨	テーマに沿った研究・実験を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第11回	卒業論文執筆①	研究・実験データをまとめ、卒業論文執筆を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第12回	卒業論文執筆②	研究・実験データをまとめ、卒業論文執筆を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第13回	卒業論文執筆③	研究・実験データをまとめ、卒業論文執筆を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。わからないことは、自ら文献等で調べておく。	60分
第14回	卒業研究発表会準備	卒業研究発表会のための準備を行う。	これまで行ってきた研究・実験の内容を確認する。	60分
第15回	卒業研究発表会準備	卒業研究発表会のための準備を行う。	これまで行ってきた研究・実験の内容を確認する。	60分

学生へのフィードバック方法	直接本人に研究計画内容について確認し、指導する。
評価方法	平常点、取り組む意欲、課題提出状況、プレゼンテーション内容について総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	取り組む意欲			○	
	課題提出状況	○	○	○	○
	プレゼンテーション内容	○	○	○	○

評価割合	平常点（20%）、取り組む意欲（20%）、課題提出状況（30%）、プレゼンテーション内容（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義･実習･演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々と

	の疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。また、栄養士、教員、食の専門家として探究心を持っている。【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（岩本）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R40715M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Aと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養・食品・教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果・結論を見出し考察をおこなう。また、それらの経過・結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を行う。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究テーマの目的を、社会的背景や既往の研究と関連付けて理解できる。
思考・判断の観点（K）	得られた研究データから導かれる解釈を正しく理解できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 各課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。 2. 研究目的に沿って実験や活動等を遂行し、その結果を観察・記録し、実験ノートに整理できる。
技術・表現の観点（A）	実験や活動等の成果を口頭で発表し、討論において的確に受け答えができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	リサーチミーティング①	卒業研究Aの中間報告の内容に加えて調べ、実験等を行ってきたことを報告する。	研究活動における報告書を作成する。	60分
第2回	リサーチミーティング②	卒業研究Aの中間報告の内容に加えて調べ、実験等を行ってきたことを報告する。	研究活動における報告書を作成する。	60分
第3回	リサーチミーティング③	卒業研究Aの中間報告の内容に加えて調べ、実験等を行ってきたことを報告する。	研究活動における報告書を作成する。	60分
第4回	考察の検討	考察の検討をするため、ディスカッションする。	研究データ等から考察を考え	60分

	①		る。	
第5回	考察の検討②	考察の検討をするため、ディスカッションする。	研究データ等から考察を考える。	60分
第6回	論文作成①	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。	卒業論文を作成する。	60分
第7回	論文作成②	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。	卒業論文を作成する。	60分
第8回	論文作成③	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。定期的にディスカッションを行う。	卒業論文を作成する。	60分
第9回	論文作成④	先行研究等の資料を分析し、論文の構想・論旨の組み立てを行いアウトラインを作成する。定期的にディスカッションを行う。	卒業論文を作成する。	60分
第10回	論文作成⑤	アウトラインから本文の執筆を行う。	卒業論文を作成する。	60分
第11回	研究発表とプレゼンテーション準備①	最終報告でのプレゼンテーション用の資料を作成する。	プレゼン資料の作成	60分
第12回	研究発表とプレゼンテーション準備②	最終報告でのプレゼンテーション用の資料を作成する。	プレゼン資料の作成	60分
第13回	研究発表とプレゼンテーション準備③	最終報告でのプレゼンテーション用の資料を作成する。	プレゼン資料の作成	60分
第14回	研究発表と質疑応答①	プレゼンテーションを行った後、ディスカッションを行う。	プレゼン資料の作成	60分
第15回	研究発表と質疑応答②	プレゼンテーションを行った後、ディスカッションを行う。	プレゼン資料の作成	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。
評価方法	卒業研究の取り組みを総合的に判断し、評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	先行研究の整理	○	○	○	
	ディスカッション			○	
	プレゼンテーション	○	○		○
	卒業論文	○	○	○	○

評価割合	先行研究の整理（10%）、リサーチミーティングでのディスカッションへの参加（30%）、最終報告（プレゼンテーション）（30%）や卒業論文（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	・林淳三編『基礎栄養学』建帛社（978-4-7679-0529-7） ・松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273） ・栢下淳 他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社（978-4-7581-0877-5） ・小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4） ・多賀昌樹編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー	月曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	同じテーマを持った班員において、調理や実験を協同し、得られた結果を共有・解析する。 担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、レポートや報告書作成等に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（大和田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田　寛	指定なし

ナンバリング	R40715M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Ａと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養･食品･教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果･結論を見出し考察をおこなう。また、それらの経過･結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を行う。
履修条件	大和田担当の「食物総合演習A、B」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	うどん、蕎麦について、自分の関心のある分野での正統的な知識、理解を高める。
思考・判断の観点（K）	各々の関心のある分野において、客観性のある思考・判断ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	各々の関心のある事柄について、あくなき探求心を培い、実験、調査を重ねては新たな興味、発見を連続していけるようにする。
技術・表現の観点（A）	食材加工において、各々の得意分野での技術を磨き、次々と新たなる進歩、発見を目指す。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	夏休み中の研究の進展についての研究室内での発表会①	ひとり15分ほどで、夏休み中の研究の進展について話していただきます。聞く人は発表者にとって参考になるような質問、助言を全員していただきます。発表者はそれを受けてその先どのように研究を進めていくのかを責任をもって答えていただきます。	発表ができ、質問に答えらるように準備をしておくこと。	120分
第2回	夏休み中の研究の進展についての	前回と同じ。前回から残った方に発表していただきます。前回発表された方で、追加して分かったことのある方は述べていただき、質問、助言を得てください。	発表ができ、質問に答えらるように準備をしておくこと。前回発表されている方でも積極的に	120分

	研究室内での発表会②		前週への追加事項を話し、皆さんの意見をもらってください。	
第3回	発表会で受けた指摘を基にして、さらなる実験、調査を進める。	第三者による新たな視点を取り入れての最後の実験、調査に取り組んでください。	スケジュールの上からして、自分の実験、調査はこれが最終段階になります。寸暇を惜しんで論文に書けることを少しでも増やしてください。	120分
第4回	論文を書き出してください。締め切りは12月中旬です。	「序論」から書くよりも「結論」から書く方が書きやすいかもしれません。	考えるよりも先に「字」にしてしまってください。人間は字に書くことによって考えがまとまっていきます。ざっと書いては書き直す、を繰り返していってください。	120分
第5回	論文を書いてください。	前回と同様です。 書く際に、参考資料から得たものと、自分で考えたこととの区別が明瞭であるように書いてください。そこが曖昧だと盗作を疑われます。	書いたところからメールでの報告を求めます。	120分
第6回	論文執筆。書けたところからメールで送ってください。	前回と同様です。 細かい語句のことよりも全体の論旨を大事にしてください。	結論を見据えてでの執筆を行ってください。	120分
第7回	論文執筆。書けたところからメールで送ってください。	前回と同様です。 結論が見えたら、もし自分がそれを反論する立場に立ったらどうするか、を考えてください。それによって結論が客観性を帯びてきます。	メール報告は頻繁にすること。	120分
第8回	論文執筆。書けたところからメールで送ってください。	前回と同様です。 もう見直しの段階です。	誤字脱字にお気をつけください。	120分
第9回	論文を完成させてください。締め切りはもうすぐです。	前回と同様です。 目次の整理を行ってください。	メールで送っていただきます。	120分
第10回	論文執筆最終段階です。誤字、脱字の確認をしてください。	前回と同様です。 指導教員以外からのチェックが加わることを想定の上論文を完成させてください。	論文の提出締め切りは待ってはもらえません。	120分
第11回	最終の点検作業を行ってください。	時間に余裕があれば、付け加えることがあれば付け加えてください。	点検作業でうっかりミスをしないこと。	120分
第12回	「要旨」を作成してください。前期の学科内中間発表会で作った様式です。	様式を守ってください。提出締め切りに遅れないこと。	誤字脱字のチェックを忘れないでください。	120分
第13回	学科での発表会の予行演習をしていただきます。①	他の人の発表も聞いて参考にしてください。	とちらずに発表できるように何度も練習しておくこと。	120分
第14回	発表の練習をしていただきます。②	前回残った方の模擬発表です。	聴衆の質問を想定しておいてください。	120分
第15回	学科での発表会の練習をしていただきます。③	さらに残っている方のための発表練習です。聞く人は発表者のために質問、意見を述べてください。	前回、前々回同様です。	120分

学生へのフィードバック方法	各々に向けて口頭で行います。
評価方法	先行資料の調査が十分かどうか、自分の実験、調査が十分かどうか、内容に面白味があるか、論文は整っているか、学科内での卒業研究発表会では上手にできたか、などで評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	卒業研究発表会	○	○	○	○
	論文の内容	○	○	○	○

評価割合	論文の内容80%、卒業研究発表会での発表20%
使用教科書名(ISBN番号)	使用せず
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】多様な情報を処理し、まとめる能力を養う。 【関心・意欲・態度】食に関して、自分の関心のある事柄を突き詰めて研究する態度を養う。 【技能・表現】食材加工の技能を高める。
オフィスアワー	月：昼休み、4時間目 水：2時間目、昼休み、4時間目 木：昼休み
学生へのメッセージ	後期に入ったらすぐ論文執筆に取り掛か駆らないと12月中旬の提出締め切りに間に合いません。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分の興味を追求する実験、調査。
情報リテラシー教育	○	参考資料の収集、解読。
ICT活用	○	インターネット等の活用。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（黒田）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R40715M22
授業概要(教育目的)	・卒業研究Aで取り組んだことを振り返り、卒業研究Bで取り組むことを決定し、研究を進めてください。 ・卒業論文を完成させたのち、発表の準備を進め、発表してください。
履修条件	・卒業要件単位を90 単位以上修得していること ・学生便覧の現代生活学部食物学科卒業研究内規を確認しておくこと

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・研究に必要な新規性と進歩性が正確に理解できている ・研究テーマの理解が、広く、深くなっている
思考・判断の観点（K）	・批判的に思考できる＝クリティカルシンキングが身についている ・根拠に基づいて、意見を発信できる
関心・意欲・態度の観点（V）	・粘り強く研究を進めることができる ・データの信頼性を厳しく評価することができる
技術・表現の観点（A）	・データから得られた結果と考察を、論理的かつ簡潔に口頭で説明できる ・データから得られた結果と考察を、論理的かつ明瞭に文章で表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ゼミミーティング	後期の進め方を確認します	後期のプロジェクトの準備を進めてください	90分
第2回	プロジェクト（１）	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第3回	プロジェクト（２）	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第4回	プロジェク	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進め	90分

	ト（３）		てください。	
第5回	月例報告会（１）	・各研究プロジェクトの進捗を報告してください。 ・研究討議をします。	教員のフィードバックを確認して、次の作業を進めてください。	90分
第6回	プロジェクト（４）	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第7回	プロジェクト（５）	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第8回	プロジェクト（６）	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第9回	月例報告会（２）	・各研究プロジェクトの進捗を報告してください。 ・研究討議をします。	教員のフィードバックを確認して、次の作業を進めてください。	90分
第10回	プロジェクト（７）	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第11回	プロジェクト（８）	プロジェクトを進めます	データ分析や結果の考察を進めてください。	90分
第12回	プロジェクト（９）	実験データの収集を終了し、図表を完成させます。	卒業論文の結果と考察、実験方法と材料を執筆し、提出してください	90分
第13回	月例報告会（３）	・各研究プロジェクトの進捗を報告してください。 ・研究討議をします。	卒業論文の序論と参考文献を執筆し、提出してください。	90分
第14回	卒業論文の執筆（１）	卒業論文を完成させます。	卒業論文の推敲を進め、原稿を提出してください。	90分
第15回	卒業論文の執筆（２）	卒業論文を完成させてください。	発表会の準備を進めてください。 パワーポイントと原稿を提出してください。	90分

学習計画注記	・日程と時間管理に留意してください。
学生へのフィードバック方法	・ラボノートを確認し、アドバイスします。 ・適宜、質問に対してアドバイスします。
評価方法	①プロジェクトへの取り組み ②卒業論文 ③ポスターとポスター発表 ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	①プロジェクトへの取り組み	○	○	○	○
	②卒業論文	○	○	○	○
	③ポスターとポスター発表	○	○	○	○

評価割合	①プロジェクトへの取り組み（40%） ②卒業論文（40%） ③ポスターとポスター発表（20%）
使用教科書名(ISBN番号)	卒業論文の執筆に必要な文献を、適宜紹介します。
参考図書	【実験系のテーマ】 理系大学受験 化学の新研究 改訂版 978-4385260938 三省堂 卜部 吉庸 【官能検査を行うテーマ】 よくわかる心理統計 978-4623039999 ミネルヴァ書房 山田 剛史 【ヒト試験を行うテーマ】 いざ、倫理審査委員会へ—研究計画の倫理的問題を吟味する 978-4903803197尾藤誠司・福原俊一 健康医療評価研究機構
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている

	【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている
オフィスアワー	ゼミ後
学生へのメッセージ	・充実した研究を進め、卒業研究を完成させてください。 ・データを厳しく評価して、結果を批判的に考えることを心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業で経験した研究のノウハウを伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育	○	学術情報の検索と、適切な解釈について教授します。
ICT活用	○	マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の高度なスキルを教授します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（高尾）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾　純宏	指定なし

ナンバリング	R40715M22
授業概要(教育目的)	本研究室では、①生活用具の調査研究（例、飯碗の大きさと形、日常使いの皿の調査）②食品の調査（全国のお饅頭・お煎餅・お団子）、③食材の調査（地域と食材ー水戸納豆の料理と食品ー）、④野菜栽培の実験（高糖度のトマト栽培）などの、食に関わる文化について研究を行う。書籍からの資料収集、現地の調査や聞き取りによるデータ収集を主に行い分析する。データの特徴から傾向や考察を見出し、卒業論文を作成する。
履修条件	卒業研究を履修するための単位収得済みであること。 髙尾担当の「食物総合演習A、B」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	卒業研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し理論的、体系的に説明することができる。 先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	研究テーマの問題意識を明確化して、自らの研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のための文献収集、調査、実験に積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	自分の研究内容を文章によって適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒業研究Aで行なった調査結果をもとに、再調査を行うか、また別の視点からの調査、実験を行うか	ディスカッションを行い、友人からのアドバイスを受ける。	調査方法・実験の検討。	90分

	について検討を加える。			
第2回	卒業研究Aで行なった調査結果をもとに、再調査を行うか、また別の視点からの調査、実験を行うかについて検討を加える。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第3回	調査又は実験。	調査の準備。アンケート等の検討。	調査項目、アンケート項目の検討。	90分
第4回	調査又は実験。	データ収集。データ分析。	データ収集、データ分析。	90分
第5回	調査又は実験。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第6回	調査又は実験。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第7回	調査又は実験。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第8回	結果・考察の検討	グラフ化、グルーピング化。	グラフ化、グルーピング化。	90分
第9回	結果・考察の検討。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第10回	論文作成。	論文の章立てを考える。	論文の章立てを考える。	90分
第11回	論文作成。	論文作成。	論文作成。	90分
第12回	論文作成。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第13回	論文作成。	前回と同じ。	前回と同じ。	90分
第14回	研究室内発表会。	友人に発表を聞いてもらい、不備な点を指摘してもらう。	不備な点の検討。	90分
第15回	最終発表準備。	結果・考察を十分把握し、質問等の予測を行う。解答例を用意しておく。	発表準備。	90分

学習計画注記	研究テーマや調査方法によりそれぞれの進み方が異なるため、自身で計画を立てて進めてほしい。
学生へのフィードバック方法	調査方法、データ収集、データ分析、考察の抽出、発表方法などに対して、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	・卒業研究の評価方法。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析ができている。 ④結果や考察の内容に十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容は学術論文に適した文章である。 ・平常点は授業内活動（報告、発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢などによって評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	最終発表	○	○		○
	論文	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	最終発表（30%）、論文（50%）、平常点（20%）

使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発信し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜日　3.5限～4.5限
学生へのメッセージ	授業時間以外にも調査・実験などの作業を行なうこと。各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、そのつど学習計画を立てるようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（上薗）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 上薗　薫	指定なし

ナンバリング	R40715M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Ａと連動し、大学での学びの集大成として、主に栄養･食品･教育を専門領域とした研究テーマを設定し、各担当教員とのディスカッションを行いながら先行研究調査、研究手法の検討、結果･結論を見出し考察を行う。また、それらの経過･結果について、口頭発表、論文の作成の指導を受ける。これにより研究を進めるための基本となる様々な要素を習得し、卒業論文作成を行う。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食物・家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを様々な立場や状況の人々と活用することができる。
思考・判断の観点（K）	多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に主体的に取り組むことができ、また、他人とも協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品･食物の調理･加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。 習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	指導教員による個別指導①	１．卒業研究Aの結果等を受けての卒業研究Bの今後の研究計画と卒業研究論文内容の流れを報告する。 ２．研究進捗状況より研究内容検討を行う。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第2回	指導教員による個別指導②	１．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 ２．卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分

第3回	指導教員による個別指導③	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第4回	指導教員による個別指導④	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。 3．連携案件の場合、連携先へ前期進捗報告と本年度の最終的な展開打合せを行う。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第5回	指導教員による個別指導⑤	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第6回	指導教員による個別指導⑥	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2．卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第7回	指導教員による個別指導⑦	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容の不足は無いか最終確認を行う。	研究計画に即し、研究実働の最終調整を進める。	180分
第8回	指導教員による個別指導⑧	1．前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究結果の最終確認を行う。 2．卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	卒業研究論文作成を進める。	180分
第9回	指導教員による個別指導⑨	卒業研究論文作成の進捗状況を報告し、考察等に必要な文献等の不足はないか、確認する。	卒業研究論文作成を進める。	180分
第10回	指導教員による個別指導⑩	卒業研究論文作成の進捗状況を報告し、論文完成へ向けた計画の調整を行う。	卒業研究論文作成を進める。	180分
第11回	指導教員による個別指導⑪	卒業研究論文作成の進捗状況を報告し、最終調整を行う。	卒業研究論文最終提出物を完成させる。	180分
第12回	指導教員による個別指導⑫	完成卒業研究論文より食分野卒業研究B発表会用要旨作成における内容の検討を行う。	卒業研究B発表会用の要旨を作成する。	180分
第13回	指導教員による個別指導⑬	卒業研究B発表会準備①；食分野卒業研究B発表会用要旨内容の精査を行う。	卒業研究B発表会に必要なパワーポイントスライド、発表原稿を作成する。	180分
第14回	指導教員による個別指導⑭	卒業研究B発表会準備②；発表用パワーポイントスライド、発表原稿、質疑応答検討を行う。	作成した発表用資料等に修正や補足を行う。	180分
第15回	指導教員による個別指導⑮	卒業研究B発表会準備③；前回からの発表用パワーポイントスライド、発表原稿、質疑応答検討の最終調整を行う。	最終発表に向けて、発表練習等を行う。	180分

学習計画注記	研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。、
学生へのフィードバック方法	研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。
評価方法	学科における研究要旨、発表会におけるプレゼンテーションの合否判定、並びに研究に対する取り組み内容に対して総合評価を行います。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究要旨	○	○	○	○
	卒業研究論文	○	○	○	○
	研究発表	○	○	○	○
	研究姿勢	○	○	○	○

評価割合	1)研究要旨の合否判定、2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定、3)卒業研究論文の合否判定 1)、2)、3)の全てに合格した場合、研究姿勢も加味し、総合的(100%)に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし

参考図書	研究テーマに即し、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食物・家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	金曜4限目　2308研究室　授業前後やメール等で事前に予約と訪問時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むことを心がけて下さい。 理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。 研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。 よって、探求心ももって継続して研究をすることが必要となります。 研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	研究打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールを活用する。 資料提供、課題提出等に活用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	卒業研究Ｂ（米澤）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R40714M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文とする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、論文のまとめ及びプレゼンテーションと一連の研究の手順を実践し、食物学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究テーマについてその先行研究についてその内容を説明できる。
思考・判断の観点（K）	研究上で得られた様々な情報や経過・結果について分析・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究のプロセスにおいて課題解決をするために自主的に学習を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	研究成果についてその目的、方法、結果、考察につて理論的な報告ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマ・目的の再検討、日程と内容の計画	各自の研究テーマに即した研究計画の再検討と研究計画書の作成	卒業研究Bで研究する研究計画書を修正する。	120分
第2回	実験もしくは調査の実施①	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。	120分
第3回	実験もしくは調査の実施②	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。	120分

第4回	実験もしくは調査の実施③	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。	120分
第5回	実験もしくは調査の実施④	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。	120分
第6回	実験もしくは調査の実施⑤	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。	120分
第7回	実験もしくは調査の実施⑥	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。	120分
第8回	実験もしくは調査の実施⑦	課題解決に必要な追加の実験もしくは調査を実施する。各自の研究テーマに必要となる情報収集を行うツールを選択し、文献調査を行う。	先行研究等の情報集と精査を行い、課題解決に必要な追加資料や情報などを収集する。	120分
第9回	結果の整理①	実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成）	参考文献内容をまとめておく。データ入力、写真、図、表を作成する。	120分
第10回	結果の整理②	実験データの入力と解析について学ぶ。 目的、方法、結果、考察の書き方を学ぶ。	参考文献内容をまとめておく。 実験データの入力と解析を学ぶ。（材料サンプル、写真、図、表の作成） 要旨の目的、方法を書くこと。	120分
第11回	考察・まとめ①	背景、目的、方法、結果、考察の書き方を学ぶ。	参考文献内容をまとめておく。結果、考察をまとめる。	120分
第12回	考察・まとめ②	統計分析の結果から考察を行う。	引用文献、目次、表紙を記述し、卒業論文を完成させる。	120分
第13回	発表準備①要旨完成	要旨を完成させる。 これまでにまとめた目的、方法、結果、考察までを発表資料としてパワーポイントで作成する。	パワーポイントファイルおよび発表原稿の作成。	180分
第14回	発表準備②	わかりやすく伝える発表の練習。Q&Aの確認。	発表スライドの訂正および発表原稿の訂正。Q&Aを通して研究内容の構成を整える。	180分
第15回	最終発表	卒業研究AおよびBの研究成果の発表を行う。	卒業研究AおよびBの取り組みを振り返り、自己評価を行う。	60分

学習計画注記	進度によっては、予定した時間外での指導を行うことがあります。
学生へのフィードバック方法	毎週の授業内で個別指導を行うとともに、必要な状況では、随時、個別指導を行います。
評価方法	1）研究要旨の合否判定 2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究要旨	○	○	○	○
	研究発表	○	○	○	○

評価割合	1）研究要旨の合否判定 2）発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 1）2）を総合的(100%)に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし
参考図書	必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。 【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。

	【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日　2限　2108研究室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。また、研究は予定通り進まないこともあるため、時間の余裕をもって計画・実施することを心掛けること。 また、研究上の疑問や方向性に不安なことがある場合は、すぐに相談に来ること。2108研究室(またはemail)を訪ねること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	研究打合せ時に、ディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	各種文献データーベースの使用方法を学ぶ。
ICT活用	○	統計ソフトウエアや研究要旨作成、発表用資料作成、論文作成に必要なツールを活用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	フードスペシャリスト論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R11801M21
授業概要(教育目的)	この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きくな視野で「食」を捉え、食文化、食生活、食品産業、食情報、加工・貯蔵性など幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。フードスペシャリストの意義とその概要、活用等の基本知識を習得する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	フードスペシャリストの仕事内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点（K）	食に関する様々な問題および課題について、食品産業分野の観点から考え、解決方法を提案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食品の開発製造から流通、販売、外食、消費に至る食関係の広範な分野について、常に関心を持ち、情報収集を積極的にできる。
技術・表現の観点（A）	「食」に関する総合的･体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消費者に提案できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	フードスペシャリストとは	食の専門職の現状、フードスペシャリストの概念、フードスペシャリストの業務とその専門性、フードスペシャリストの養成と資格、フードスペシャリストの活躍分野、フードスペシャリストの責務について理解する。	教科書の第1章の「食の専門職の現状」「フードスペシャリストの概念」「フードスペシャリストの業務とその専門性」「フードスペシャリストの養成と資格」「フードスペシャリストの活躍分野」「フードスペシャリストの責務」を読んでおくこと。	120分

第2回	人類と食物①	人類の歩みと食物について理解する。	教科書の第2章の「人類の歩みと食物」を読んでおくこと。	120分
第3回	人類と食物②	食品の加工・保存技術史について理解する。	教科書の第2章の「食品の加工・保存技術史」を読んでおくこと。	120分
第4回	世界の食①	食作法、食の禁忌と忌避について理解する。	教科書の第3章の「食作法」「食の禁忌と忌避」を読んでおくこと。	120分
第5回	世界の食②	世界各地の食事事情について理解する。	教科書の第3章の「世界各地の食事事情」を読んでおくこと。	120分
第6回	日本の食①	日本食物史について理解する。	教科書の第4章の「日本食物史」を読んでおくこと。	120分
第7回	日本の食②	食の地域差について理解する。	教科書の第4章の「食の地域差」を読んでおくこと。	120分
第8回	現代日本の食生活①	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活について理解する。	教科書の第5章の「戦後の食生活の変化」「食生活の現状と消費生活」を読んでおくこと。	120分
第9回	現代日本の食生活②	食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率、環境と食について理解する。	教科書の第5章の「食生活の変化と食産業」「食料の供給と食料自給率」「環境と食活」を読んでおくこと。	120分
第10回	食品産業の役割①	フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向、食品製造業の目的と特徴について理解する。	教科書の第6章の「フードシステムと食品産業」「食品製造業の規模と動向」「食品製造業の目的と特徴」を読んでおくこと。	120分
第11回	食品産業の役割②	食品卸売業、食品小売業、外食産業について理解する。	教科書の第6章の「食品卸売業」「食品小売業」「外食産業」を読んでおくこと。	120分
第12回	食品の品質規格と表示①	食品の品質規格、表示に関わる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示について理解する。	教科書の第7章の「食品の品質規格」「表示に関わる法律」「JAS法による規格」「食品表示法による表示」を読んでおくこと。	120分
第13回	食品の品質規格と表示②	健康や栄養に関する表示制度、その他お法令等による表示による表示について理解する。	教科書の第7章の「健康や栄養に関する表示制度」「その他お法令等による表示」を読んでおくこと。	120分
第14回	食情報と消費者保護	食情報の発信と受容、食情報の濫用、食の情報管理、食品の安全、消費者保護の制度について理解する。	教科書の第8章の「食情報の発信と受容」「食情報の濫用、食の情報管理」「食品の安全」「消費者保護の制度」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。	わかりにくかった内容について、その箇所を教科書で確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを行う。質問等がある場合には、2108研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。
評価方法	平常点と定期試験で評価を行う。この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のための必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点30%、定期試験70%

使用教科書名(ISBN番号)	フードスペシャリスト論／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社 (978-4-7679-0660-7)
参考図書	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組む。
オフィスアワー	木曜日　2時限　2108研究室
学生へのメッセージ	フードスペシャリスト協会認定資格試験を受験したい学生には必修の科目です。 教科書と併せて過去問題集の取り組みもしましょう。 また、この科目は定期試験の再試験は行いませんので、しっかり勉強しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	フードコーディネート論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R21803M21
授業概要(教育目的)	この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。 食の様々な場面において、多様な条件や要求を満足させるための演出をすることが、フードコーディネートである。食卓、食品販売、食情報を発信するイベントやマスメディアや広告企画、ライフステージに合わせた食育、店舗経営などで、食空間のコーディネートやサービスマナー、メニュープランニング、フードマネージメントなどについて講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	フードコーディネーターの仕事の内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点（K）	食に関する正しい知識および情報と誤った情報との選択・識別をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	専門分野だけの知識・技術をコーディネートするだけではく、専門以外にも幅広い知識を習得し、多様な状況においてものごとを総合的な視点で捉えることができる。
技術・表現の観点（A）	新しい食の「ブランド」「トレンド」を創る 食の｢開発｣｢演出｣｢運営｣を行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	フードコーディネートの基本理念	おいしさの本質、おいしさとフードコーディネートとに関連について理解する。	教科書の「第1章　フードコーディネートの基本理念」を読んでおくこと。	120分
第2回	食事の文化について①	食事の概念、食のタブーと宗教について理解する。	教科書の第2章の「食事とは」「食のタブーと宗教」を読んでおくこと。	120分
第3回	食事の文化につい②	日本の食事の歴史、特別な日の食事、外国の食事について理解する。	教科書の第2章の「日本の食事の歴史」「特別な日の食事」	120分

			「外国の食事」を読んでおくこと。	
第4回	食卓のコーディネート①	テーブルコーディネートの要点、日本料理の食卓のコーディネートについて理解する。	教科書の第3章の「テーブルコーディネートの要点」「日本料理の食卓のコーディネート」を読んでおくこと。	120分
第5回	食卓のコーディネート②	中国料理の食卓のコーディネート、西洋料理の食卓のコーディネートについて理解する。	教科書の第3章の「中国料理の食卓のコーディネート」「西洋料理の食卓のコーディネート」を読んでおくこと。	120分
第6回	食卓のサービスとマナー①	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナー、中国料理のサービスとマナー	教科書農耕第4章の「サービスとマナーの基本」「日本料理のサービスとマナー」「中国料理のサービスとマナー」を読んでおくこと。	120分
第7回	食卓のサービスとマナー②	西洋料理のサービスとマナー、パーティー、プロトコルについて理解する。	教科書の第4章の「西洋料理のサービスとマナー」「パーティー」「プロトコル」を読んでおくこと。	120分
第8回	メニュープランニング	メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎について理解する。	教科書の第5章の「メニュープランニングの要件」「料理様式とメニュー開発の基礎」を読んでおくこと。	120分
第9回	食空間のコーディネート①	食空間のコーディネートの基礎を理解する。	教科書の第6章の「食空間のコーディネートの基礎」を読んでおくこと。	120分
第10回	食空間のコーディネート②	食事空間のコーディネート、キッチンコーディネートを理解する。	教科書の第6章の「食事空間のコーディネート」「キッチンコーディネート」を読んでおくこと。	120分
第11回	フードサービスマネジメント①	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本、フードサービス（レストラン）の起業について理解する。	教科書の第7章の「フードサービスマネジメントの動向と特性」「マネジメントの基本」「フードサービス（レストラン）の起業」を読んでおくこと。	120分
第12回	フードサービスマネジメント②	投資計画の作成、収支計画の作成、損益分岐点売上高について理解する。	教科書の第7章の「投資計画の作成」「収支計画の作成」「損益分岐点売上高」を読んでおくこと。	120分
第13回	食企画の実践コーディネート①	食企画の流れ、食企画に必要な基礎スキルについて理解する。	教科書の第8章の「食企画の流れ」「食企画に必要な基礎スキル」を読んでおくこと。	120分
第14回	食企画の実践コーディネート②	食企画の実践現場について理解する。	教科書の第8章の「食企画の実践現場」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめと定期試験	全体のまとめおよび定期試験を行う。	わかりにくかった内容について、その箇所を教科書で確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを行う。質問等がある場合には、2311研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。
評価方法	平常点と定期試験で評価を行う。この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点10%、定期試験90%
使用教科書名(ISBN番号)	フードコーディネート論／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社
参考図書	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食に関する表現力を身につける。
オフィスアワー	金曜日　5時限　2311研究室
学生へのメッセージ	この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目です。この科目は定期試験の再試験は行わないため、これら資格取得を目指している人はしっかり勉強してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食品流通経済		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R31809M21
授業概要(教育目的)	【授業の概要】政治経済の基礎を学んだ後、会計と経営の基礎を学ぶ。フードビジネスの事例について、新聞等を利用して事例を研究する。また、食品企業のビジネス戦略等の事例を研究し、企業の強み・弱みを分析する力を養う。 【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。
履修条件	・フードビジネスの経済と経営の知識を基礎から学びたい方を対象にしています。 ・小論文を作成するワークがあります。 ・グループワークディスカッションがあります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・政治と経済の基礎が理解できている ・財務会計の初歩的な知識が理解できている ・フードビジネスの諸問題が理解できている
思考・判断の観点（K）	フードビジネスの諸問題について、根拠に基づいた客観的で合理的な分析ができる
関心・意欲・態度の観点（V）	フードビジネスが社会・経済・環境・生活に与える影響に深い関心がある
技術・表現の観点（A）	・フードビジネスの諸問題について、根拠に基づいた客観的で合理的な文章を作成できる ・フードビジネスの諸問題について、根拠に基づき、客観的で合理的な説明ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・基礎知識のチェック	・授業の概要と評価方法について説明します ・高校で学ぶ政治経済の知識の理解度を確認します	授業内容をよく理解してください。	180分
第2回	政治の仕組み（１）	・民主政治の基本原理と日本国憲法 ・法の支配とは、なぜ法が必要か？	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分

第3回	政治の仕組み（２）	・日本の政治制度と現代日本政治 ・日本の政治の流れと、最近の潮流	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第4回	政治の仕組み（３）	・現代の国際政治 ・グローバル社会の中の日本の役割、過去・現在・未来	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第5回	財務会計（１）	・財務管理の概要を学びます	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第6回	財務会計（２）	・経理の基本的な計算方法について学びます ・決算書の基本的な仕組みについて学びます	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第7回	財務会計（３）	・決算書から、企業価値を分析する方法を習得します。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第8回	経済の仕組み（１）	・経済社会の種類を学びます。 ・資本主義経済の仕組みを学びます。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第9回	経済の仕組み（２）	財政・税・貨幣・金融政策などについて学びます。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第10回	経済の仕組み（３）	日本経済の発展と国民福祉の向上 ・戦後日本の経済成長 ・産業構造の変化 ・中小企業・農業の問題 ・労働問題 ・社会保障・消費者問題・環境問題	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第11回	経済の仕組み（４）	国民経済と国際政治 ・国際政治のしくみを学びます。 ・経済のグローバル環境を学びます。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第12回	フードビジネスの事例研究（１）	・日本経済新聞から、フードビジネスに関係する記事を学びます。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第13回	フードビジネスの事例研究（２）	・日本経済新聞から、フードビジネスに関係する記事を学びます。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第14回	フードビジネスの事例研究（３）	・日本経済新聞から、フードビジネスに関係する記事を学びます。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分
第15回	まとめ	・授業の内容を整理します。 ・期末試験の準備をします。	課題に取り組み、課題を提出してください。	180分

学習計画注記	・本科目は、講義（２単位）ですから、毎回180分程度の課題に取り組みます。 ・リアルタイムで、現在進行している政治経済の動向も学んでいきます。 【ノートについて】 ・ルーズリーフは、勧めません。 ・方眼ノートを勧めます。 ・見開き、左を授業中のメモ、右側に整理・調べ用にすると良いです。 ・卒業後も、活用できるノートにすることを勧めます。 ・良いノートを取っておくと、就活の時にとても役にたちます。 ・ノートを真剣に取ると、「書く」力が身につきます。
学生へのフィードバック方法	・課題は添削してお返ししますので、添削された文章を確認して訂正して、再度提出してください。この作業により、小論文の書き方及び、文章の作成方法を習得してください。
評価方法	期末試験100% 期末試験の成績に、課題提出率と出席率の両方を乗じて成績評価します。第１回のガイダンスの出席は、計算に入れません。第１５回は、課題はありません。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	期末試験（100%） 期末試験の成績に、課題提出率と出席率の両方を乗じて成績評価します。第１回のガイダンスの出席は、計算に

	入れません。第１５回は、課題はありません。
使用教科書名(ISBN番号)	・新版もういちど読む山川政治経済（978-4-634-59107-3） ・適宜、課題に関してプリントを配布します
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	授業後
学生へのメッセージ	・コロナ禍は、政治と経済を身近な問題として考えるきっかけとなったのではないでしょうか？政治と経済の重要性を感じ、学び、卒業後のキャリア形成に役立ててください。 ・企業で経験したことも伝えていきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業での実務経験（２６年間）で蓄積したビジネスの知識と技術を皆さんに伝えます。卒業後のキャリア形成に役立つ実践的な授業を展開します。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークディスカッションを行います。
情報リテラシー教育	○	新聞やメディアの情報から、社会の変化を読み取る力を養います
ICT活用	○	ワードによる文章作成を練習します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	バイオサイエンス演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見　哲夫	指定なし

ナンバリング	R31811M22
授業概要(教育目的)	食に関する分野には、その理解にバイオサイエンスの知識・技術を必要する領域がある。そこでこの授業では、その理解の基礎となる知識・技術の習得を目的として、バイオサイエンスにおいて基本・重要と考えられている組織切片法、染色体解析法・電気泳動法，さらには遺伝子組換え実験等を体験・学習してもらう。また、ラボノートの使い方や研究倫理についても学習し、社会における当該分野での活動にも対応できる能力の基礎を身につけてもらう。
履修条件	基本的な理化学実験技術を習得し、その基本的な原理について理解していることが前提となる。そのためには、分子生物学・有機化学に関する授業、生化学関係の授業・実験等を履修済みであることが望ましい。 実験操作の前には、作業内容等を説明する授業を行い、安全・確実に実験作業が進むように設定している。従って、事前学習を欠席した場合は、その実験作業は見学のみとなる可能性があることを承知しておくこと。 実験内容によっては、所定の授業時間帯以外の作業を必要とする。授業に関わる総時間数について配慮し、事前に案内した上での授業時間外作業となるが、これらの授業時間外作業につても出席が必須となる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	セントラルドグマに関わる遺伝現象について説明できる。 実験作業に関わる手順についてその意味を理解できる。
思考・判断の観点（K）	実験結果から作用機序等について理論的な推論ができる。 実験結果からなにが肯定されなにが否定されるか、証明できる内容を推察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	グループ内でコミュニケーションを取り、協調して実験操作ができる。 主体的に実験作業、結果・考察・検討等に参加し、グループでの問題解決に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	バイオサイエンスに関わる実験を安全に行うことができる。 基本的なDNA解析技術を身につけている。 得られた結果とそこから導かれる推論について理解しやすいようにプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	演習全体の流れの解説し、授業を安全に受けるための知識・技術を学ぶ。	既習の実験・実習・演習科目において学んだ実験操作等につい	180

			て復習しておくこと。	
第2回	細胞周期の確認	植物の分裂組織を材料に、体細胞分裂を観察し、細胞周期を計算する。	授業前に大学共通科目、高等学校で学んだ細胞周期に関する知識を再確認しておく。授業後は細胞周期の計算結果を検証しておく。	90
第3回	細胞周期の理解／だ腺染色体の構造と機能	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、全体で検討しつつ細胞周期の特徴について理解を深める。だ腺染色体についてその構造・機能を解説し、解析方法について学習する。	授業後に検討会の結果を再確認しておく。	90
第4回	だ腺染色体の観察	双翅類（ユスリカ等）幼虫のだ腺染色体を用い、DNA・RNAの分別染色（メリルグリーン・ピロニン染色）でその働きを理解する。	だ腺染色体を用いる実験についてその操作法を予習しておく。	45
第5回	だ腺染色体染色結果の解析／セントラルドグマの理解	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、全体で検討しつつ染色体の構造・機能について確認、セントラルドグマ（DNA→RNA→タンパク質の流れ）について理解を深める。	セントラルドグマについて復習し、遺伝子発現の流れを理解する。	90
第6回	制限酵素によるDNA分析の原理・解析方法	DNA制限酵素の機能、電気泳動法の原理とDNA断片サイズの測定法等を解説、DNA分析技術の基本を学習する。また、次週の実験作業の準備を行う。	DNA制限酵素の働きや電気泳動法の原理について復習しておく。	45
第7回	制限酵素によるDNA断片分析	複数種の制限酵素を用いてDNA断片の分別・同定を行う。	DNA断片分析の実験手順について予習しておく。授業後は得られて結果について検証しておく。	90
第8回	制限酵素によるDNA断片分析実験の結果解析	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、DNA断片サイズの予測結果等について全体で検討する。検討結果を踏まえて、制限酵素によるDNA断片分析の原理・意義等について理解を深める。	全体での検討結果を踏まえて自分の班の実験結果を確認しておく。問題点等が見つかった場合は、その内容・改善方法等を記録しておく。	90
第9回	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験事前学習	遺伝子組換え技術・遺伝子発現制御等について解説し、これを確認するためのプラスミドを用いた細菌の形質転換実験の手順を説明する。次週の実験準備を行う。	遺伝子組換え技術、形質転換の確認方法等の原理について復習しておく。	45
第10回	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験	細菌に緑色蛍光タンパク質クラゲ遺伝子を取り込ませ、細菌の形質転換を確認する。	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験手順について予習しておく。授業後は得られた結果について検証しておく	90
第11回	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験結果の解析	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、遺伝子組換え実験の結果等について全体で検討する。検討結果を踏まえて、遺伝子組換え技術・遺伝子発現制御等について理解を深める。	全体での検討結果を踏まえて自分の班の実験結果を確認しておく。問題点等が見つかった場合は、その内容・改善方法等を記録しておく。	90
第12回	タンパク質フィンガープリント法による魚類の系統分析の事前学習	タンパク質を分析することで生物の系統関係を推定する方法について解説し、タンパク質分析方法としも一般的なポリアクリルアミド電気泳動法の原理・手順を説明する。次週の実験準備を行う。	ポリアクリルアミド電気泳動法の原理について復習しておく。また，生物の系統関係を構築する分岐分類学的手法について理解を深めておく。	45
第13回	タンパク質フィンガープリント法による魚類の系統分析	アクリルアミドゲル電気泳動法を用いて，魚類の筋タンパク質を分析し、そのプロファイルを作成する。得られた結果を他の種類のプロファイルと比較し、系統樹を構築する。	アクリルアミドゲル電気泳動法の手順について予習しておく。授業後は得られた結果をもとに分析を進める。	90
第14回	タンパク質フィンガープリント法による魚類の系統分析結果解析	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、得られた魚類の系統樹の内容についてついて全体で検討する。検討結果を踏まえて、遺伝子の変化とそれを反映したタンパク質の変化の関係、さらには遺伝子変異等について理解を深める。	全体での検討結果を踏まえて自分の班の実験結果を確認しておく。問題点等が見つかった場合は、その内容・改善方法等を記録しておく。	90
第15回	バイオサイエンス演習	分子生物学分野の重要項目とバイオサイエンス演習で行った内容との関連を解説する。実験技術や反応の原理等、学修した内容の再確認を行う。	いままでの実験ノートを確認し、不十分なところ不明瞭なところを加筆修正しておく。授業	180

	全体の振り返り		後、不足の点があればその対応した上で期限までに実験ノートを提出する。	

学習計画注記	実験作業を伴う回の前にはテキストを熟読し、その原理を理解し、間違いのない操作ができるよう準備しておくこと。
学生へのフィードバック方法	適宜，ラボノートの内容について確認しコメントする。 毎回、関心度や理解度を測るアンケートを実施し、次回にその内容を踏まえた解説を行う。理解度が不十分と思われる内容については、追加の説明を行う。
評価方法	授業に積極的に参加しているか、自分の役割を果たそうとしているか、各種実験機器・器具の操作技術を習得しているかについて、授業中の態度によって評価する。 ラボノートに書かれた実験結果の考察内容（結果に基づく推論を行っているか、理論的な考察ができているか等）やアンケート等によって、バイオサイエンスに関わる各項目への理解度を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験器具・機器の操作技術の習得	○	○		○
	授業に積極的に参加	○	○	○	○
	検討結果の発表・討論内容	○	○	○	○
	ラボノートの記述内容	○	○		

評価割合	授業への参加度（器具・機器の操作を含む）50% ラボノートの内容・検討会の内容　50%
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じて事前にテキスト・ハンドアウトを配布する。
参考図書	バイオ実験を安全に行うために　化学同人
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食生活の中で、バイオサイエンス領域の知見・技術がどのように活用されているかを理解し、説明することができる。 【思考・判断】実験から得られた結果を解析し、論理的・客観的に考察する力が身につく。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く事象とバイオサイエンス領域の成果との関係について関心をもち、課題を見いだし、理解することができる。 【技術・表現】食に関するさまざまな解析技術を習得し、食品に関わる先端的な技術の理解・習得が可能で、そこから得られる可能性について説明することもできる。
オフィスアワー	前期　火曜日2限・昼休み・3限（10:40～12:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生はGoogleClassroomの連絡機能を用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	社会において、さまざまなバイオサイエンスの用語や知識が普通に使われるようになっていますが、その内容についてはまだまだ理解が不十分な状況です。そのため、食に関わる分野においても重要性を増してるバイオサイエンスの理論や技術を学び、正しく理解することは、食を考える上でも不可欠となっています。一方で、新しい分析技術の開発も進んでおり、それらの基本原理のみならず、分子生物学の基礎についても理解を深める必要があります。本演習を履修して、バイオサイエンス分野における基礎・応用の両面について理解を深めてください。なお、一定の基礎知識が必要となりますので、「分子生物学」が履修済みであることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験結果の評価・考察について班単位で検討し、検討結果をもとにクラス全体で考える。
情報リテラシー教育	○	ゲノムデータの検索・利用方法を学びます。
ICT活用	○	マイクロソフト・エクセルを用いた，実験結果の解析を行います。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	フードビジネス演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R41812M22
授業概要(教育目的)	グループワーク形式で、フードビジネスの産業構造、経済、科学技術、倫理など多面的な観点から討議する。本演習を通して、食と栄養に関する知識を幅広く深く醸成する。また、コンプライアンスやマネジメントに関する知識と技術を身につけ、ビジネスに必要なコンピテンシーを養う。 ・ビジネスで活きる実践的な授業内容です。 ・グループで討議するワークが中心の授業になります。 ・クラス全体に、自分が調べたこと、考えたことを発表する機会があります。 ・自己分析・リーダーシップなど、コミュニケーション・スキルを練習するワークがあります。 ・キャリア形成について考えます。 【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。
履修条件	グループワークとプレゼンテーションがあります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	フードビジネスのグローバル環境と日本の問題点・食品産業の産業構造・現代の科学技術・倫理とコンプライアンスなどに関する深い知識が身についている。
思考・判断の観点（K）	フードビジネスのグローバル環境と日本の問題点・食品産業の産業構造・現代の科学技術・倫理とコンプライアンスなどに関して、根拠をもとにクリティカルに考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	グループワークを通して、質の高い対話力が身についている。
技術・表現の観点（A）	自分の考えをまとめ、簡潔明瞭に他者に口頭で伝えることができる。 自分の考えをまとめ、簡潔明瞭な文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	本演習の内容と、グループワークの進め方を説明します。	・授業内容をよく確認してください。	90分

			・授業前アンケートに回答してください。 ・次回の資料を読んで、質問に回答してください。	
第2回	テーマ１「倫理とコンプライアンスの視点」の解説とグループディスカッション	・倫理とコンプライアンスの視点から、グロバール環境と日本を比較します。 ・フードビジネスを取り巻く労働環境・ジェンダーギャップ・経済格差などを考えます。	次回の個人発表の準備をしてください。	90分
第3回	テーマ１「倫理とコンプライアンスの視点」の個人発表	倫理とコンプライアンスの視点から、現在のビジネス環境に関して、調べたことを発表してください	次回の資料を読んで、質問に回答してください。	90分
第4回	コミュニケーション・スキル（１）自己分析	自己分析のワークを経験し、コミュニケーションにおける自分の強みと弱みを理解します。	次回の資料を読んで、質問に回答してください。	90分
第5回	テーマ2「経済と産業構造の視点」の解説とディスカッション	日本のフードビジネスが抱える構造的な問題について解説し、問題点をディスカッションします。	次回の個人発表の準備をしてください。	90分
第6回	テーマ2「経済と産業構造の視点」の個人発表	フードビジネスの産業構造に関して、調べたことを発表してください。	次回の資料を読んで、質問に回答してください。	90分
第7回	コミュニケーション・スキル（２）交渉術	原則立脚型交渉術などを学び、効果的に交渉する方法を理解します。	本日のワークの振り返りを投稿してください。	90分
第8回	テーマ3「科学技術の視点」の解説とディスカッション	ICTやゲノム科学など、フードビジネスにインパクトを与える科学技術を解説し、フードビジネスと科学技術についてディスカッションします。	次回の個人発表の準備をしてください。	90分
第9回	テーマ3「科学技術の視点」の個人発表	フードビジネスにインパクトを与える科学技術について発表してください。	次回の資料を読んで、質問に回答してください。	90分
第10回	コミュニケーション・スキル（３）リーダーシップ	チームをまとめるための知識と技術を理解します。	本日のワークの振り返りを投稿してください。	90分
第11回	テーマ4「キャリア形成」の解説とディスカッション	フードビジネスにおけるキャリア形成についてディスカッションします	次回の個人発表の準備をしてください。	90分
第12回	テーマ4 課題図書の個人発表	キャリア形成に関する図書についての紹介と、気づきについて発表します。	次回の資料を読んで、質問に回答してください。	90分
第13回	コミュニケーション・スキル（４）人間関係のコントロール	人間関係において、軋轢やトラブルが生まれる原因と、それらを回避するための方法を理解します。	本日のワークの振り返りを投稿してください。	90分
第14回	エクセレン	企業の施設を訪問し、企業の理念・ビジネス・CSRなどに	本日の見学の振り返りを投稿し	90分

	トカンパニーの研究（校外授業）	ついて学ぶ。	てください。	
第15回	まとめ	・本授業で学んだことを振り返ります。 ・今後のキャリア形成のために必要なことをディスカッションします。	期末試験の準備をしてください。	90分

学習計画注記	・本科目は、演習（２単位）ですから、毎回90分程度の課題に取り組みます。 ・グループワークでは、毎回、グループディスカッションのレベルについて採点し、一人一人に改善点をコメントしたアドバイスのメモをお渡しします。就活のグループディスカッション対策にも有効です。 ・個人発表は、パワーポイントを利用して発表してください。原稿を読むのではなく、スライドを見ながらプレゼンをしてください。ファイルの「ノートを入力」に原稿を入れてください。発表後にファイルを提出物として受領します。 ・グループワークでは、プリント類を提出していただく場合がありますが、内容を確認後お返しします。 ・校外授業を予定しています。 ・キャリア形成についても、ディスカッションしていきます。
学生へのフィードバック方法	Google Classroomを利用して、学生の質問やコメントに対して、個別に回答します。
評価方法	①個人発表（3回×10点；1回×20点 = 50点） 第３・６・９回が10点、第１２回（キャリア形成に関する図書）が20点です。 ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲示します。 やむを得ない理由で欠席した場合は、後日プレゼンの機会を設けます。 ②期末試験（50点）筆記試験（記述式） テキスト・ノート・プリントの持ち込みを可とします。ノートは、期末試験終了後提出してください。成績評価後にお返しします。 ①と②の素点の合計に、課題提出率と出席率の両方を乗じて成績評価します。第１回のガイダンスの出席は、計算に入れません。第１５回は、課題はありません。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	個人発表	○	○	○	○
	期末試験	○	○		○

評価割合	①個人発表（3回×10点；1回×20点 = 50点） ②期末試験（50点）筆記試験
使用教科書名(ISBN番号)	・実践 人間関係づくりファシリテーション ISBN 9784760826476 コミュニケーション・プレゼン演習で使用したテキストです。 ・その他に課題図書を利用します。課題図書は、自分で選んでください。事前にこの授業の課題にふさわしいか、ご相談ください。 ・その他に、プリントを配布します。 ・各自、日本経済新聞などを購買して、時事の情報を入手してください。webの情報も利用可能ですが、情報発信者が特定でき、信頼できるものだけにしてください。フェイクニュースにも注意してください。活字を読む習慣を身につけるようにしてください。
参考図書	政治や経済がわからない場合は、『新版もういちど読む 山川政治経済』を読むことをお勧めします。食品流通経済で使用したテキストです。
参考URL	https://classroom.google.com/c/NDkyNDQ1ODE2NDU3?cjc=kjuc2um
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる 【関心・意欲・態度】 ・食を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	授業日の昼休み。予約が必要です。 就職活動やキャリア形成に関する相談も可能です。
学生へのメッセージ	・本授業は、ビジネスの世界で仕事をしていくために必要な知識と技術を身につけるための実践的な授業です。卒業後に即戦力となれるように、学生のうちに身につけておくべき経済の知識や、コミュニケーションスキルを教授します。企業で経験した様々なこと（裏話）も伝えていきます。 ・プレゼンテーションの機会もたくさんあるので、就活にも役に立つと思います。例年、この授業を受講したおかげで面接が苦にならなくなったという学生が多いです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	企業で経験したビジネスの実践的な知識・ノウハウを教授します。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士、学生と教員のディスカッションにより、深くて強い対話力を養います。
情報リテラシー教育	○	日本経済新聞、日経ニュース、日経メルマガの記事などを授業に取り入れます。
ICT活用	○	パワーポイントの効果的な作成と、パワーポイントを利用した効果的なプレゼンについてアドバイスします。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食企画・開発演習Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R21804M22
授業概要(教育目的)	【授業の概要】食品の企画開発を担うための基礎力を養う。食と栄養の科学の基礎を学び直し、科学的根拠に基づいた食品開発の方法を学ぶ。商品開発に必要なマーケティングや、食の法・制度・知的財産の基礎的な知識も習得する。 【授業の目的】食企画・開発演習シリーズ（I, II, III）では、食と栄養の科学と、食品の開発に必要な法・制度・知的財産・マーケティングを理解することにより、根拠（エビデンス）に基づいた食を開発できる基礎的なコンピテンシーを養います。 【授業の内容】 ・３つのワークがあります。【ワーク１】は、マーケティングの基礎を学びます。【ワーク２】では、3-4人でグループを作り、チームで企画を考えます。リーダーシップやチームコミュニケーションを学びます。【ワーク３】では、【ワーク１】と【ワーク２】で学んだことを活かして、各自が自由な発想で企画を立案し、クラスにプレゼンします。 ・【ワーク１】では、日毎にメンバーを組み替えします。 ・【ワーク２】と【ワーク３】のチームメンバーは、それぞれくじ引きで決めます。 【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。
履修条件	・グループワークに積極的に参加できる方 ・ディスカッションやコミュニケーションを楽しめる方 ・食の企画開発に必要な「食と栄養の科学」を、基礎からもう一度学ぶモチベーションを持っている方

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・食品の企画開発に必要な「食と栄養の科学」と「科学的根拠」の基礎が理解できている。 ・食品の企画開発に必要な食品の開発に必要な法・制度・知的財産・マーケティングの基礎が理解できている。
思考・判断の観点（K）	・食品の企画開発に必要な食と栄養の科学と科学的根拠の「確からしさ」を思考・判断できる。 ・食品の企画開発に必要な食品の開発に必要な法・制度・知的財産・マーケティングについて思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・グループワークに積極的に参加し、他者と対話できる。
技術・表現の観点（A）	・食品の企画開発に必要な根拠（エビデンス）を口頭で説明できる。 ・企画の立案とプレゼンテーションの体験を通して、自身の企画力とプレゼンテーションを自己分析できてい

	る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス／食品の開発の考え方と実際	・授業の概要、到達目標、成績評価の方法を確認します ・コンピテンシーについて理解し、企画開発になぜ必要なのかを考えます ・ファシリテーションの考え方と、グループワークのディスカッション方法を理解します ・ビジョンとは何か、なぜ大切なのかを理解します	・履修前アンケートに回答してください。 ・期末試験時に、マインドマップを提出してください。	90分
第2回	【ワーク１】マーケティングのツール	・2軸法ーSWOTとクロスSWOTについて学びます ・CVCAについて学びます。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第3回	【ワーク１】フィールドスタディ	・フィールドスタディを実施し、SWOT分析とCVCAを実行してください。 ・パワーポイントファイルを作成し、クラスに発表してください。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第4回	【ワーク１】食の法・制度と知的財産権	・食の法・制度と、知的財産権の基本を理解します。 ・食の法・制度、知的財産の情報を検索する方法を習得します。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第5回	【ワーク１】食品の開発と科学	・食と栄養の科学の理解度を確かめます。 ・科学的根拠がなぜ食品の開発に必要なのかを学びます。 ・食品開発の体験をお話しします。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第6回	【ワーク２】企画のテーマ説明／食と栄養の科学的根拠①	テーマについて説明します。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第7回	【ワーク２】企画の調査／食と栄養の科学と科学的根拠②	企画に必要な情報を集めてください。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第8回	【ワーク２】企画の立案／食と栄養の科学と科学的根拠③	調査結果をもとに、企画を立案してください	課題に取り組み、提出してください。	90分
第9回	【ワーク２】企画の実行／食と栄養の科学と科学的根拠④	企画を実行してください	課題に取り組み、提出してください。	90分
第10回	【ワーク２】企画の発表／食と栄養の科学と科学的根拠⑤	企画を発表してください	課題に取り組み、提出してください。	90分
第11回	【ワーク３】個人企画（立案）／食と栄養の科学と科学的根拠⑥	企画を立案してください。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第12回	【ワーク３】個人企画（調査）／食と栄養の科学と科学的根拠⑦	・パワーポイントを利用して、プレゼン資料を作ってください。 ・プレゼンの要旨をスプレッドシートに入力してください。	課題に取り組み、提出してください。 プレゼン資料をグーグルドライブのフォルダに保存してください。	90分

第13回	【ワーク３】個人企画（フィードバック）／食と栄養の科学と科学的根拠⑧	企画に対して、一人一人アドバイスをします。	課題に取り組み、提出してください。 個人企画の発表の準備を進めてください。	90分
第14回	【ワーク３】個人企画（資料の作成と発表準備）／チームマネジメントの基礎	・発表の準備を進めます。 ・チームマネジメントの基礎知識を学びます。	課題に取り組み、提出してください。	90分
第15回	【ワーク３】個人企画（発表会）／授業のまとめ	・発表会に積極的に参加し、発表者に建設的なコメントや意見・感想を発信します、 ・授業を振り返ります。	授業全体を復習して、期末試験の対策を進めてください。	90分

学習計画注記	・本科目は、演習（２単位）ですから、毎回90分程度の課題に取り組みます。 ・リーダーシップを経験するために、各回で順番にリーダーの役割を経験していただきます。
学生へのフィードバック方法	・授業に対する振り返りや課題を確認し、フィードバックします。（Google Classroomを利用） ・適宜活動記録ノートを提出していただき、コメントを付箋に添付して返却します。
評価方法	・期末試験は、ミニレクチャー「食と栄養の科学」と「科学的根拠」を含む授業全体の理解度を測るテストを実施します。テキスト『ひと目でわかる食べ物のしくみとはたらき図鑑』・配布プリント・活動記録ノートの持ち込みを可能とします。テキストとノートは、本人確認のために、検印します。 ・期末試験の成績は、課題提出率と出席率の両方を乗じて最終的に成績評価します。第１回のガイダンスの出席は、計算に入れません。第１５回は、課題はありません。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末試験	○	○		○
	個人企画	○	○	○	○

評価割合	期末試験（90点） 個人企画（10点） 期末試験の成績は、課題提出率と出席率の両方を乗じて最終的に成績評価します。第１回のガイダンスの出席は、計算に入れません。第１５回は、課題はありません。
使用教科書名(ISBN番号)	ひと目でわかる食べ物のしくみとはたらき図鑑（イラスト授業シリーズ） 北村 真理（監修），屋良 佳緒利（監修），千葉 喜久枝（翻訳） ISBN: 978-4422740331 その他、適宜プリントを配布します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
オフィスアワー	授業前の昼休み・授業後
学生へのメッセージ	食の企画開発を目指す方への実践的な学びを提供します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	食品企業での研究開発の実務経験２６年。実務で通用する知識と技術を教授し、キャリアに役立つ授業を展開し

した授業		ています。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークでは、学生同士でディスカッションし、企画開発に必要な対話力を養います。
情報リテラシー教育	○	・食の栄養と科学に関するデータベースの利用法を学びます。 ・食の法・制度に関するデータベースの利用法を学びます。
ICT活用	○	パワーポイント・エクセル・ワードの技術を習得します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食企画・開発演習Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R31808M22
授業概要(教育目的)	【授業の概要】食品の企画開発を担うための応用力を養う。食品の開発に必要な食と栄養の科学をさらに深く学び、行動経済学に基づくマーケティングを学ぶ。地域連携企業へのサービス・商品アイテム提案などの具体的事例を実践的に学ぶことにより、食の企画開発に必要なコンピテンシーを養う。 【授業の内容】 ・食品の開発に必要な食と栄養の科学をさらに深く学びます。 ・食品開発のマーケティングに必要な行動経済学の基礎を学びます。 ・企画開発の内容とスケジュールについては、連携企業と調整して決定します。 【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。
履修条件	・食企画・開発演習Iの単位を修得している必要があります。 ・校外授業を計画しています。実施日は、カリキュラム上、全員が参加できる日程を設定します。不参加の場合は、別途レポートを提出していただきます。 ・企画は、前半と後半に分け、前半と後半でメンバーを組み替えします。班わけは、くじ引きで決めます。 ・全員にリーダーの役割を経験していただきます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・食と栄養の科学に関する発展的な知識が理解できている。 ・行動経済学に関する基礎的な知識が理解できている。
思考・判断の観点（K）	・食と栄養の科学に関する発展的な知識に基づいて、企画の内容を思考・判断できる。 ・行動経済学の知識に基づいて、企画の効果を思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・食と栄養の科学をより深く学びたいと考え、実践している。 ・食品の開発において、根拠を大切にしている。 ・企画に主体的に参加し、チームと協力して成果を達成しようとしている。
技術・表現の観点（A）	・食品の開発において、根拠を合理的に説明することができる。 ・効果的な企画の立案とプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）

第1回	ガイダンス 4/15	・本授業の概要を説明します。 ・企画開発のコンピテンシーを確認します。	・授業内容を確認してください。	90分
第2回	企画①-1／行動経済学① 4/22	・メンバーを決定します。 ・テーマを説明します。 ・コンセプトを検討します。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第3回	企画①-2／食と栄養の科学① 5/6	・企画の設計	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第4回	企画①-3／行動経済学② 5/13	・企画を実行してください。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第5回	企画①-4／食と栄養の科学② 5/20	・企画を実行してください。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第6回	日清カップヌードルミュージアムの見学（校外授業）【日程調整します】	・創造的思考と食品開発について学びます。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第7回	企画①-5／食と栄養の科学③ 6/3	・活動内容を報告してください	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第8回	企画②-1／行動経済学③ 6/10	・メンバーを決定します。 ・テーマを説明します。 ・コンセプトを検討します。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第9回	企画②-2／食と栄養の科学④ 6/17	・企画の設計	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第10回	企画②-3／行動経済学④ 6/24	・企画を実行してください。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第11回	企画②-4／食と栄養の科学⑤ 7/1	・企画を実行してください。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第12回	外部講師による食企画開発のレクチャー（校内特別授業）7/8	・外部講師のお話を拝聴し、キャリア形成に関して深く考えてください。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第13回	企画②-5／食と栄養の科学／食と栄養の科学⑥ 7/15	・企画を実行してください。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第14回	企画②-6／行動経済学⑤ 7/22	・企画を実行してください。	・活動記録ノートに活動内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第15回	発表会／授業のまとめ 7/29	・企画の発表会を行います。 ・授業内容の振り返りをします。	期末試験の準備をしてください。	90分

学習計画注記	・本科目は、演習（２単位）ですから、毎回90分程度の課題に取り組みます。 ・企画の内容は、連携企業と調整して決定します。 ・第６回の校外授業の日程は調整します。参加を希望する全員が参加できる日程とし、参加を希望しない方には

	別途課題を提出していただきます。 ・毎回１コマ分を利用して、食と栄養の科学に関する発展的な学び／行動経済学の学びをします。 【ノートについて】 ・ルーズリーフは、受け取りません。 ・方眼ノートを勧めます。 ・見開き、左を授業中のメモ、右側に整理・調べ用にすると良いです。 ・卒業後も、活用できるノートにすることを勧めます。 ・良いノートを取っておくと、就活の時にとても役にたちます。 ・ノートを真剣に取ると、「書く」力が身につきます。
学生へのフィードバック方法	・クラスルームの振り返りや、リーダー会議や、チームミーティングを通して対話します。
評価方法	①授業への参加度 ルーブリック評価します。ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。参加度を測る参考として、活動記録ノートを提出してください。ルーズリーフは不可です。 ②期末試験 活動記録ノート、テキスト、配布プリントの持ち込みを可とします。テキストは、本人確認の押印をします。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	企画への参加度	○	○	○	○
	期末試験	○	○		○

評価割合	企画への参加度（50点） 期末試験（50点）
使用教科書名(ISBN番号)	知識ゼロでも今すぐ使える！行動経済学見るだけノート(978-4800286710)
参考URL	https://classroom.google.com/c/NDkyNDQ1OTkxMzA4?cjc=f4dys72
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 【技能・表現】 ・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている
オフィスアワー	授業終了後
学生へのメッセージ	本授業の目的は、単に知識と技術を習得することではなく、仕事に役立つ能力を獲得することを目標にしています。「知っている」は、必ずしも「できる」ことを意味しません。本授業では、コンピテンシーを身につけることを目標としていますが、それは、①知識を相互作用的に活用する力、②人間関係形成能力、③自律的に行動する力の３つです。この３つの力の獲得を目指して、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・企業で経験した企画開発の実践的な知識を教授します。 ・企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを教授します。 ・食品企業での研究開発の実務経験２６年。研究開発部門の若手の育成で培った指導のノウハウを、大学生が理解できるようにアレンジして授業を行なっています。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士でディスカッションと作業を行い、企画を実現していきます。
情報リテラシー教育	○	食と栄養に関するデータベースを使いこなせるようにします。
ICT活用	○	マイクロソフトオフィスを利用します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食企画・開発演習Ⅲ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田　久夫	指定なし

ナンバリング	R31810M22
授業概要(教育目的)	【授業の概要】食企画・開発演習I、IIで学んだ知識・手法・経験を生かして、ビジネスの場で実践できる企画開発力を養う。地域連携企業へのマーケティング提案やコンサルティング、エクセレントカンパニーの見学・ヒアリングを通して、社会で活躍するための企画開発力を養う（学生便覧より） 【授業の内容】 ・企画開発の発展的な知識と技術を学びます。 ・科学的根拠に基づいた食品開発ができるようになります。 ・企画開発のマーケティングやマネジメントに必要な行動心理学の基礎を学びます。 【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。
履修条件	・食企画・開発演習IとIIの単位を修得している必要があります。 ・グループワークがあります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・食の企画開発に必要な食と栄養の科学と、批判的思考の方法が理解できている。 ・行動心理学をベースとした企画開発における管理スキルが理解できている。
思考・判断の観点（K）	・食と栄養の科学の知識を基盤として、食品開発における科学的根拠の確からしさを思考・判断できる。 ・行動心理学をベースとした企画開発の適切な進め方と管理を思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・自ら企画を立案・実行し、周りの協力を得ながら企画を実行する意欲と態度が身についている。 ・難しい問題もあきらめずに、考え抜く意欲と態度が身についている。
技術・表現の観点（A）	・食と栄養に関する科学的根拠を論理的にわかりやすく説明できる。 ・根拠に基づいて、企画を効果的かつ魅力的に提案できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	・本授業の内容を説明します。 ・企画開発のコンピテンシーを再確認します。	・授業内容を確認してください。	30分

第2回	企画開発における管理スキル（１）／企画開発①	・プロジェクトマネジメントの基礎と応用 ・企画の情報収集	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第3回	食と栄養の科学的根拠（１）／企画開発②	・食の科学的根拠「栄養学の振り返り」 ・企画の立案	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第4回	企画開発における管理スキル（２）／企画開発③	・コミュニケーションスキル「自己分析」 ・企画の設計	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第5回	食の企画開発と科学的根拠（２）／企画開発④	・食と栄養の科学的根拠「エビデンスの確からしさの判断方法」 ・企画の実行①	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第6回	企画開発における管理スキル（３）／企画開発⑤	・コミュニケーションスキル「交渉術」 ・企画の実行②	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第7回	食の企画開発と科学的根拠（３）／企画開発⑥	・食と栄養の科学的根拠「栄養学の現代的課題①」 ・企画の中間まとめ	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第8回	フィールドスタディ（校外授業）	・キリンビール横浜工場を見学して、食品の開発・製造・製品管理を学ぶ	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第9回	企画開発における管理スキル（４）／企画開発⑦	・行動心理学（１） ・企画の情報収集	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第10回	食の企画開発と科学的根拠（４）／企画開発⑧	・食の企画開発と科学的根拠「栄養学の現代的課題②」 ・企画の立案	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第11回	企画開発における管理スキル（５）／企画開発⑨	・行動心理学（２） ・企画の設計	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第12回	食の企画開発と科学的根拠（５）／企画開発⑩	・食と栄養の科学的根拠「栄養学の現代的課題③」 ・企画の実行①	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第13回	企画開発における管理スキル（６）／企画開発⑪	・行動心理学（３） ・企画の実行②	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第14回	食の企画開発と科学的根拠（６）／企画開発⑫	・食と栄養の科学的根拠「栄養学の現代的課題④」 ・自由企画のまとめと発表資料の作成	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・課題に取り組み、課題を提出してください。	90分
第15回	企画の発表／授業のまとめ	・プレゼンとフィードバック	・活動記録ノートに本日の活動の内容を記載してください。 ・期末試験の準備を進めてください。	90分

学習計画注記	・本科目は、演習（２単位）ですから、毎回90分程度の課題に取り組みます。 ・企画開発の内容とスケジュールは、連携企業との調整により決定します。 【ノートについて】 ・ルーズリーフは、受け取りません。 ・方眼ノートを勧めます。 ・見開き、左を授業中のメモ、右側に整理・調べ用にすると良いです。 ・卒業後も、活用できるノートにすることを勧めます。 ・良いノートを取っておくと、就活の時にとても役にたちます。 ・ノートを真剣に取ると、「書く」力が身につきます。
学生へのフィードバック方法	・都度ミーティングを開き、具体的な取り組みに関してフィードバックします。 ・活動記録ノートを適宜確認して、質問等に対してフィードバックします。
評価方法	① 授業への参加度 参加度を測る参考として、活動記録ノートを提出してください。方眼ノートをお勧めします。ルーズリーフは不可です。 ②期末試験 授業で学んだ内容について、記述式の問題を出題します。活動記録ノート・テキスト・授業で配布したプリント類の持ち込みが可能です。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	①企画への参加度	○	○	○	○
	②期末試験	○	○		○

評価割合	①企画への参加度（50点） ②期末試験（50点）
使用教科書名(ISBN番号)	シーナ・アイエンガー『選択日記』(978-4-16-375600-4) 食と栄養の科学に関するプリントを配布します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、 客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている
オフィスアワー	授業終了後
学生へのメッセージ	・食企画・開発演習シリーズの最後の授業として、食と栄養の科学に関する質の高い知識と、科学的根拠の判断力を養います。単に知っているのではなくて、習得した知識と技術をどのように企画開発に応用するか、企画開発のコンピテンシーを身につけることが本授業の目的です。 ・FBA（フードビジネスアドミニストレーター）では、コンピテンシーを身につけることを目標としていますが、それは、①知識を相互作用的に活用する力、②人間形成能力、③自律的に行動する力の３つです。この３つの力の獲得を目指して、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・企業で経験した企画開発やビジネスの実践的な知識を教授します。 ・食品企業での研究開発の実務経験26年。研究開発部門で培ったノウハウを、大学生が理解できるようにアレンジして授業を行なっています。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士でディスカッションと作業を行い、企画を実現していきます。
情報リテラシー教育	○	各種データベースの利用方法を習得します。
ICT活用	○	現代の文房具、パワポ・ワード・エクセルを自在に使えるようにします。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	病態生理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R21805M21
授業概要(教育目的)	人体の正常な機能の異常や、調節機能が傷害されることによって起こる病気の身体機能の状態と傷害をきたす原因を学ぶ。特に主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できるようになることを目的とする。本科目は、HACCP管理者資格取得のための選択科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 主要疾患の治療において栄養面以外で必要とされるケアについても把握し、栄養士・管理栄養士が医療チームの中での役割を列記することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	解剖生理学で学んだ人体の構造と機能に関する知識を基に、正常な状態が病気によって傷害された際に起こる変化について理解できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	病態生理とは	疾患診断の概要を学ぶ。	教科書の第1章（p1-3）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第2回	循環器疾患（１）	循環器系疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第6章（p101-119）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分

第3回	循環器疾患（２）	循環器系疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第6章（p101-119）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第4回	呼吸器疾患（１）	呼吸器疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第10章（p151-157）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第5回	呼吸器疾患（２）	呼吸器疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第10章（p151-157）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第6回	消化管疾患	消化器疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第5章（p69-81）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第7回	肝・胆・膵疾患	肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第5章（p86-100）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第8回	腎臓・尿路疾患（１）	腎・尿路疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第7章（p122-136）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第9回	腎臓・尿路疾患（２）	腎・尿路疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第7章（p122-136）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第10回	内分泌疾患	内分泌疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第8章（p137-144）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第11回	代謝疾患（１）	代謝疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第3章（p24-36）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第12回	代謝疾患（２）	代謝疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第4章（p37-68）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第13回	自己免疫・アレルギー疾患	免疫・アレルギー疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第14章（p178-185）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。 Google Classroomにある小テストを受験する。	120分
第14回	血液疾患	血液系の疾患・障害の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第13章（p171-177）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

			Google Classroomにある小テストを受験する。	
第15回	筋疾患	筋骨格疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第11章（p158-165）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・毎時間後に実施する小テストの解答については次の授業時間内で提示する。定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。 ・毎回の小テストの結果や総合成績は、すぐにGoogle Classroomにアップするので確認すること。
評価方法	・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、小テストを期日まで受験しなかった場合は、解説・解答を提示しているため再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名(ISBN番号)	田中明編『疾病の成り立ち：臨床医学』建帛社（978-4767906331）
参考図書	松村譲兒編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版（9784907176273）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	HACCP管理者資格希望者だけでなく、管理栄養士国家試験受験を希望する学生や、病院における食事管理、栄養指導などに興味のある学生はぜひ選択して下さい。 ※私が担当する授業では、2022年度から生理休暇を試験的に導入します（座学のみ）。申し出があった場合、毎月1日に限って「公的な欠席」に見なし、出席として処理します（定期試験日は除く）。 欠席した授業については、Google Classroomに保存してある授業スライド等を確認してノートの穴埋めをしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子供の食とアレルギー		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本　直樹	指定なし

ナンバリング	R31806M21
授業概要(教育目的)	子どもに関わる者にとって、子どもの食と栄養についての正しい知識は不可欠である。子どもの栄養のみならず、幅広く食育についての知識も習得する。また、「食べる喜び」は、年齢を問わず与えられるべきものであるが、特定の食品に触れたり、吸い込んだり、摂取することにより心身に様々なアレルギー症状が起こる「食物アレルギー」について、その原因やメカニズム、対処方法等を専門的に解説する。本科目は、HACCP管理者資格取得のための選択科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を説明できる。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について説明できる。 4. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できる。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成 23年3月、厚生労働省）、「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等
思考・判断の観点（K）	1.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもの食生活について関心をもち、子どもの｢食｣に関する課題に意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・子どもの健康と食生活の食意義	学修の進め方等のガイダンス及び子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題について学ぶ。	教科書の第1章（p2-7）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

第2回	栄養に関する基本的知識（1）	食物中の栄養素のはたす役割、消化吸収、炭水化物について学ぶ。	教科書の第2章（p9-13）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	栄養に関する基本的知識（2）	脂質、たんぱく質、ミネラル、ビタミン、水分の機能について学ぶ。	教科書の第2章（p16-23）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	栄養に関する基本的知識（3）	食事摂取基準と献立作成・調理の基本について学ぶ。	教科書の第2章（p24-31）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第5回	子どもの発育・発達と食生活（1）	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について学ぶ。	教科書の第3章（p32-51）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	子どもの発育・発達と食生活（2）	幼児期の心身の発達と食生活について学ぶ。	教科書の第3章（p52-64）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	子どもの発育・発達と食生活（3）	学童期の心身の発達と食生活について学ぶ。	教科書の第3章（p65-71）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	子どもの発育・発達と食生活（4）	生涯発達と食生活について学ぶ。	教科書の第3章（p72-79）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	食育の基本と内容（1）	保育における食育の意義・目的と基本的考え方について学ぶ。	教科書の第4章（p80-81）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	食育の基本と内容（2）	食育の内容と計画及び評価について学ぶ。	教科書の第4章（p82-94）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第11回	食育の基本と内容（3）	食育のための環境及び地域の関係機関や職員間の連携について学ぶ。	教科書の第4章（p95-109）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	家庭や児童福祉施設における食生活の現状（1）	家庭における食事と栄養について学ぶ。	教科書の第5章（p110-117）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	家庭や児童福祉施設における食生活の現状（2）	児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。	教科書の第5章（p118-137）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）	食物アレルギーの原因やメカニズムについて学ぶ。	教科書の第6章（p138-149）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）	疾病および食物アレルギーの子どもへの対応について学ぶ。	教科書の第6章（p138-149）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむを得ない事情等により一部変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	・毎時間後に実施する小テストの解答については次の授業時間内で提示する。定期試験および追再試験の問題用紙は返却する。 ・質問等がある場合には2101研究室まで訪問（E-mailでも可）すること。 ・毎回の小テストの結果や総合成績は、すぐにGoogle Classroomにアップするので確認すること。
評価方法	・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、小テストを期日まで受験しなかった場合は、解説・解答を提示しているため再テスト

	は行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名(ISBN番号)	小野友紀編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4・5限　2101研究室 （2年・3年・4年共通です。事前に予約をしてください。）
学生へのメッセージ	この科目は「応用栄養学」の“子ども”の領域をより深く掘り下げて学びます。栄養学や食物アレルギーの基礎知識を自分自身の食生活に活用・実践することで、知識の定着を図って欲しいです。 ※私が担当する授業では、2022年度から生理休暇を試験的に導入します（座学のみ）。申し出があった場合、毎月1日に限って「公的な欠席」に見なし、出席として処理します（定期試験日は除く）。 欠席した授業については、Google Classroomに保存してある授業スライド等を確認してノートの穴埋めをしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomに課題や資料を共有する。また、小テスト等はGoogleフォームを用いる。試験結果や総合成績はGoogle Classroomに逐一アップする。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	調理と素材		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 米澤　加代	指定なし

ナンバリング	R31807M23
授業概要(教育目的)	食品の調理特性は、その扱い方により調理後の外観や食味に様々な影響を及ぼす。この授業では、一つの食材または食品群に視点を当て、食品の持つ多様な調理加工上の特徴・特性について調理実習を通して理解することを目的とする。さらに、これらの調理特性を活かした様々な新しい料理法への発想と、嗜好性の高い料理を具現化できる実践力、技術力を向上させる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種食材の種類や品種の特徴やその調理特性（調理中、調理後の変化）を理解して説明できる。
思考・判断の観点（K）	1. 食材の調理特性を生かした献立組やレシピの作成ができる。 2. 調理中の食品の変化を見極め、より嗜好性の高い料理をつくることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 食品、食材への興味感心を持が持てる。 2. 美味しい料理に仕上げるための注意・判断ができる。 3. 協調して授業に参加することができ、自身の役割を果たすことができる。
技術・表現の観点（A）	1. 食材の特性を生かすための調理技術を基に基本となる調理操作を適切にこなせる。 2. 食材の特性を生かした新しい料理へも応用・展開できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	授業概要。授業の目的と概要、授業の進め方、評価。実習上の心得、準備等。	授業の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。	実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理すること。	120分

第2回	穀類（米、米粉）に視点をあてた献立内容による実習	米、もち米、上新粉、白玉粉を用いた実習を通して、こめの種類と加工法（うるち、もち種の粒・粉状）の違いと調理法（扱い方）及び調理後の食味の特徴を学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、米の調理特性についてまとめる。	120分
第3回	小麦粉（薄力粉、強力粉）に視点をあてた料理実習（中国料理、点心）	小麦粉の種類（薄力粉、強力粉）と調理特性（伸展性、粘弾性他）の違いについて調理実習を通して、種類、扱い方と調理適性の違いを学ぶ。また点心についても学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、小麦の調理特性についてまとめる。	120分
第4回	いも類に視点をあてた献立による実習（1）西洋料理	じゃがいも（男爵、メークイン）の調理特性の違いとそれに伴う調理法の違いを学ぶ。諸外国でのいもの利用法も学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	120分
第5回	いも類に視点をあてた献立による実習（2）日本料理	日本料理の一汁三菜にいも類やその加工品を使用した献立による調理実習を行う。各いも類の下処理法などの違いとその理由も学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、前回の内容も踏まえて各いもの調理特性についてまとめる。	120分
第6回	豆類に視点をあてた献立（おから料理）	豆とその加工品（おから）を使った献立実習により、調理・加工法が異なることを実習を通して学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。また、まめ類の調理特性についてまとめる。	120分
第7回	豆類に視点をあてた献立（日本料理）	豆とその加工品を使った献立実習により、各種豆の成分の違いから調理・加工法が異なることを実習を通して学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	120分
第8回	魚介類に視点をあてた献立（中国料理）	中国料理の実習を通して、魚介類の調理特性を学ぶ。 実習ノート中間提出。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	120分
第9回	肉類に視点をあてたの実習（中国料理）	種類の異なる肉を使用し、肉の種類と部位の特徴に適した料理法を学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	120分
第10回	卵に視点をあてた献立による実習（西洋料理）	西洋料理の実習を通して、卵類の調理特性を学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。卵の特性を生かした料理などを調べる。	120分
第11回	乳・乳製品に視点をあてた献立による実習（西洋料理）	西洋料理の実習を通して、乳・乳製品の調理特性を学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、反省・感想を記録すること。乳・乳製品の特性を生かした料理などを調べる。	120分
第12回	野菜・果物に視点をあてた献立による実習（1）（日本料理）	夏の野菜と果物を使った一汁三菜の献立による実習。野菜は特有の色、香、食感があるためその特徴を生かした組み合わせや切り方、加熱方法により嗜好性に影響を与える。実習を通してこれらを学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	120分
第13回	野菜・果物に視点をあてた献立による実習（2）（西洋料理）	西洋料理の実習を通して、野菜の種類や品種により調理特性の違いを学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	120分
第14回	材料の組み合わせによる献立	第2回～13回（米から野菜）をすべて使用した献立による実習。松華堂弁当箱への盛り付けを行い、皿や鉢への盛り付け方との違いも学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要	120分

			点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	
第15回	まとめと定期試験	食材の調理特性を利用した献立作成を行い、その中から実習を行う。 実習ノート最終提出。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法（科学的、技術的要点）、配膳図、出来上がりの評価・考察を記録すること。	120分

学習計画注記	天候他、材料の搬入に影響があった場合は、実習内容を変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において机間巡視しながら理解できていない点や技術面の指導やサポートを行います。また、質問等は授業時間中、時間外は2108室（e-mail可）を訪問してください。
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して実習班内での協力や実習への取り組み方を評価する。 実習試験：素材の特性を生かした課題に関する実技試験を実施、評価する。 実習ノート：指定された項目に記載（15回分）を課題の記述内容について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習参加状況	○	○	○	○
	実習試験	○	○	○	○
	実習ノート	○	○	○	○

評価割合	平常点（40%）、実習ノート（30%）、実習試験(30%）による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	「調理と素材」のプリントを配布。
参考図書	・八訂　食品成分表/女子栄養大学出版（978-4-7895-1021-9） ・調理のためのベーシックデータ/女子栄養大学出版部（978-4-7895-0323-5）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・技術】多様な食環境・食事文化を理解できる。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技術を身につける。また、新しい発想・応用力を養い、その実践ができる。
オフィスアワー	木曜日　2限　2108研究室
学生へのメッセージ	食材の特徴を理解することで、多様な料理へと利用を可能にします。時間を見つけて調理をすることで技術・応用力がついていきます。 栄養士は、1つの食材を多様に、また多くの食材を使いこなせることが求められます。積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食事計画論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R11802M21
授業概要(教育目的)	この科目は、「食品衛生監視員・食品衛生管理者」および「フードコーディネーター」の資格取得のために必須の科目である。 毎日食べる食事は、主食、主菜、副菜に大きく分かれている。私たちは、これら食事から必要なエネルギーおよび栄養素を摂取しており、そのバランスがよいことで健康を維持することができる。しかし食事の目的はそれだけではない。食事は、化学的感覚、物理的感覚、心理的感覚、生理的感覚が揃うことで美味しく食べることができる。そのような食事を提供するためには、食事計画および献立作成の知識と技術が必要になる。本科目では、現代日本の食に関する問題点を理解した上で、給与栄養目標量に合った食事計画および献立作成ができるようになることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食事計画および献立作成の目的を説明することができる。
思考・判断の観点（K）	作成した食事計画および献立の評価をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	食生活を取り巻く様々な問題や課題について関心を持ち、それらを献立作成に反映できる。
技術・表現の観点（A）	食事計画および献立作成に関わる計算をすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食事計画と献立作成について	食事計画および献立作成について、その意義と目的を理解する。	テキストの「第1章　献立作成にあたって」を読んでおくこと。	120分
第2回	日本の食の	現代日本における食に関連する課題とその原因を理解す	ライフステージごとの食の問題	120分

	現状と課題①	る。	点について調べておくこと。	
第3回	日本の食の現状と課題②	現代日本における食に関連する課題とその原因を理解する。	ライフステージごとの食の問題点について調べておくこと。	120分
第4回	献立作成の理論と実際について①	献立立案までの基礎計画、食事摂取基準と献立作成の関連について理解する。	テキストの「第2章　献立作成の理論と実際」を読んでおくこと。	120分
第5回	献立作成の理論と実際について②	献立作成までの手順について理解する。	テキストの「第2章　献立作成の理論と実際」を読んでおくこと。	120分
第6回	献立作成の理論と実際について③	食品群別荷重平均営巣成分、食品構成について理解する。	テキストの「第2章　献立作成の理論と実際」を読んでおくこと。	120分
第7回	献立作成の理論と実際について④	献立表の役割と様式、栄養出納系さんsについて理解する。	テキストの「第2章　献立作成の理論と実際」を読んでおくこと。	120分
第8回	献立の見方、読み方、考え方について	献立の立案と献立計画、予定献立表の作成、献立の評価方法について理解する。	テキストの「第3章　献立の見方、読み方、考え方」を読んでおくこと。	120分
第9回	食事計画および献立作成の実際①	給与栄養目標量を満たす食事計画および献立作成を実際に作成し、その方法を理解する。	これまで学んできたことを復習しておくこと。	120分
第10回	食事計画および献立作成の実際②	給与栄養目標量を満たす食事計画および献立作成を実際に作成し、その方法を理解する。	これまで学んできたことを復習しておくこと。	120分
第11回	食事計画および献立作成の実際③	給与栄養目標量を満たす食事計画および献立作成を実際に作成し、その方法を理解する。	これまで学んできたことを復習しておくこと。	120分
第12回	３色食品群と６つの基礎食品について	３色食品群および６つの基礎食品について、食指導等に使用できるよう理解する。	事前に資料については説明する。	120分
第13回	食事バランスガイドについて	健康的な食生活を送るためには、1日に何をどれだけ食べたらよいかを理解する必要がある。食事バランスガイドは、それをイラストを用いてわかりやすく示したものである。この食事バランスガイドの役割と利用方法を理解する。	事前に配布する資料を読んでおくこと。	120分
第14回	給食施設における食事計画および献立作成の実際について	特別講師として給食会社の管理栄養士の先生にご講義をいただき、各種給食施設における食事計画および献立作成の実際を学んで理解する	これまでの授業内容の復習をしておくこと。	120分
第15回	まとめおよび定期試験	食事計画および献立作成について学んだこと全般のまとめおよび試験を行う。	学んだこと全てを復習しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	提出物にコメントを記入し返却する。
評価方法	平常点、提出物の提出状況および内容、筆記試験により総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	提出物	○	○	○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点10%、提出物50%、定期試験40%
使用教科書名(ISBN番号)	・日本食品成分表 ・調理のためのベーシックデータブック／女子栄養大出版 ・日本人の食事摂取基準（2020年版）／第一出版 ・食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表／群羊社
参考図書	必要に応じて指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るころができる食事計画および献立作成ができうりょうになる。
オフィスアワー	金曜日、5時間目、2311研究室
学生へのメッセージ	献立作成をするにあたり、この科目で学ぶ内容は基礎となります。2年生になりますと、本格的な献立作成を行うことになります。ここでしっかり基礎を身に付けておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食教育研究		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田　正子	指定なし

ナンバリング	R41813M21
授業概要(教育目的)	中学生および高校生の食に関する問題点を文献および統計データより明確にし、その改善方法を考え、指導媒体を作成できるように指導する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	若い世代の健康問題を抽出することができる。
思考・判断の観点（K）	教育実習あるいはこれまで学んだことを生かし、抽出した健康問題を解決するための方法を提案をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育実習あるいはこれまで学んだことを生かし、健康問題を解決するための方法を具現化することができる。
技術・表現の観点（A）	対象者の行動変容を引き起こすことができる指導媒体を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の概要、進め方等を説明する。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第2回	中学生・高校生の食に関する問題点の抽出①	文献や統計データを調べ、中学生・高校生の食に関する問題点について調べる。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第3回	中学生・高校生の食に関する問題点の抽出②	文献や統計データを調べ、中学生・高校生の食に関する問題点について調べる。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分

第4回	中学生・高校生の食に関する問題点の抽出③	文献や統計データを調べ、中学生・高校生の食に関する問題点について調べる。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第5回	問題点を解決するための指導媒体の作成①	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第6回	問題点を解決するための指導媒体の作成②	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第7回	問題点を解決するための指導媒体の作成③	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第8回	問題点を解決するための指導媒体の作成④	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第9回	問題点を解決するための指導媒体の作成⑤	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第10回	問題点を解決するための指導媒体の作成⑥	中学生・高校生の食に関する問題点を解決するための指導媒体の作成を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第11回	指導媒体を用いた指導の発表①	中学生・高校生を対象とした食指導媒体を用い発表を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第12回	指導媒体を用いた指導の発表②	中学生・高校生を対象とした食指導媒体を用い発表を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第13回	指導媒体を用いた指導の発表③	中学生・高校生を対象とした食指導媒体を用い発表を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第14回	指導媒体を用いた指導の発表④	中学生・高校生を対象とした食指導媒体を用い発表を行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第15回	まとめ	全体のまとめおよび振り返りを行う。	応用栄養学、公衆栄養学、栄養指導論、教育実習等で学んだ内容を復習しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	課題を評価し、コメントを直接本人に伝える。
評価方法	平常点、プレゼンテーション、提出物により総合的に判断する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○
	提出物	○	○	○	○

評価割合	平常点（20%）、プレゼンテーション（40%）、提出物（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	必要に応じ指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る。

オフィスアワー	金曜日　5時間目　2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	被服学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし
准教授	花田　朋美	指定なし

ナンバリング	R11904M21
授業概要(教育目的)	被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。従って、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の被服に求められている課題について考える力を育成する。 （花田朋美／７回）被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。 （富田弘美／８回）被服に要求される社会心理的快適性に関わる機能について概説する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。
思考・判断の観点（K）	被服分野の各領域を総括的に捉え、教育現場での発展的学習に備えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

被服学概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	被服学の領域、被服の着用目的・起源	被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。	自分がなぜ服を着用しているのか考える。	180分

第2回	布帛の構造ー繊維・糸・織物・編物の構造ー	グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。	配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。	180分
第3回	被服の素材（１）ー天然繊維ー	グループワークを行う。着用している衣服の商品タグを確認し、身近な衣料品にはどのような素材が使われているのか観察する。代表的な天然繊維（綿、麻、羊毛、絹）の概要を理解する。	配付プリントの天然繊維について読んでおくこと。	180分
第4回	被服の素材（２）ー化学繊維ー	代表的な化学繊維（再生繊維、半合成繊維、四大合成繊維）について、その製造方法と繊維の概要を理解する。	配付プリントの化学繊維について読んでおくこと。	180分
第5回	被服素材の染色加工と機能化	衣服素材の染色加工と高機能化について概要を理解する。	配付プリントの衣服素材の高機能化について読んでおくこと。	180分
第6回	被服の機能保持と健康	被服の洗浄と保管、及び被服の快適性について概要を理解する。	配付プリント被服の汚れと洗浄、及びアパレルと健康について読んでおくこと。	180分
第7回	まとめと小テスト	快適な衣生活と環境配慮の方法についての概要を理解する。小テストの実施。	１～６回目までの配付プリントと授業内容を整理し、総復習をしておくこと。	180分
第8回	服飾デザイン１ーデザイン構成ー	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解する。	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考え、デザインについてノートを整理すること。	180分
第9回	服飾デザイン２ーデザイン要素ー	デザインの要素としてリズム、色彩、フォーム、テクスチャなどについてその効果を理解する。	デザイン要素のプリントを読み、デザインについてノートを整理すること。	180分
第10回	被服の変遷１ー西洋の服装ー	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。	創立者大江スミが留学した頃の20世紀初頭のファッション、芸術についてノートを整理すること。	180分
第11回	被服の変遷２ー日本の服装と和服文化ー	古代から中世の公家装束、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。また、和服の基礎知識を知る。	戦後日本のファッションについてノート整理をしておくこと。	180分
第12回	被服心理	装いと社会規範、購買行動などについて学ぶ。	被服心理についてノートを整理しておくこと。	180分
第13回	アパレル設計ーアパレル産業と既製服サイズー	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、および既製服のJISサイズのシステムを理解する。	自分のJISサイズを把握し、ノートを整理すること。	180分
第14回	衣生活とファッションビジネス・福祉（ユニバーサルファッション）	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を学ぶ。	アパレル産業の現状、高齢者・障害のある人に考慮したデザインについてノートを整理すること。	180分
第15回	まとめと小テスト	まとめとして社会心理的な快適性機能を学び、小テストを実施する。	配付プリントとノートを整理しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 なお、通常は対面授業であるが、新型コロナウィルス感染状況によっては遠隔授業に変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。
評価方法	①第１回～７回担当者による小テスト ②第１回～７回の平常点 ③第８回～１５回担当者による小テスト ④第８回～１５回の平常点

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	第１回～第７回の筆記試験	○	○	○	
	第１回～第７回の平常点			○	
	第８回～第１５回の筆記試験	○	○	○	
	第８回～第１５回の平常点			○	

評価割合	第１回～第７回と第８回～第１５回の担当者別の小テスト（80%）および平常点（20%）による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配布
参考図書	第１回～第７回 ①やさしい繊維の基礎知識（ISBN4-526-05289-2　繊維学会編　日刊工業株式会社発行　2004年）　②アパレル生理衛生論(日本衣料管理協会刊行委員会編　一社　日本衣料管理協会発行　平成28年) ③衣服管理の科学（ISBN978-4-7679-1048-2　片山倫子編　建帛社発行　2016年第11刷） ④衣生活のための消費科学(日本衣料管理協会刊行委員会編　一社　日本衣料管理協会発行　平成30年)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。
オフィスアワー	金曜日12時30分から14時　２４０７被服材料学研究室（花田） 木曜日12時30分から14時　１４０５被服構成学研究室（富田）
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田） 被服材料、被服衛生、被服管理、被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史などを多角的に概説します。被服の領域全般を広く学ぶことによって基礎的な生活力が身に付き役に立ちますが、自分の興味ある分野とその繋がりを考えて学際的な広い視野を持っていただきたいと思います。(富田)

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによるディスカッション。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Googleを活用した双方向コミュニケーション。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	服飾造形実習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田　弘美	指定なし

ナンバリング	R11905M23
授業概要(教育目的)	下肢を包む衣服としてパンツ・スカートの製図とその展開・裁断・縫製、基礎の手縫いや部分縫いなどを習得し、立体的な人体の下半身の構造と平面的なパターンとの関係を理解し、基礎的な生地の扱いや縫製技法を学び、自ら製作したり、既製服の構成や縫製を理解できることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。
思考・判断の観点（K）	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点（A）	アパレルに関する技術や製品に関心を持ち、積極的に日常生活や社会で役立つ技術力や表現力を身に付けることができる。

学習計画

服飾造形実習A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	スカートとショートパンツの課題説明、裁縫道具、レポート説明1、材料、人体計測、セミタイトスカート1（実物大製図基本線）	スカートのデザインと種類、材料（生地）、レポートの説明、裁縫道具、人体計測（ウエスト、ヒップ、股上など）および製図に必要な寸法計算、製図の基本線の書き方を学ぶ。	各自の寸法計算、製図の基本線までを終わらせておくこと。	90分

第2回	洋裁道具確認・説明、セミタイトスカート2（実物大スカートの製図）、ショートパンツ1（実物大製図、地直し）	道具の説明、実物大セミタイトスカート・ショートパンツの製図の仕方と平面パターンと人体の関係について学ぶ。生地の扱いとして地直しを理解する。	実物大のショートパンツの製図を完成させて提出すること。	90分
第3回	ショートパンツ2（型紙づくり、裁断）、オーバーロックミシンの使い方	型紙、裁断、印付け（チャコ・切りじつけ）、仮縫い（説明のみ）、オーバーロックミシンの使い方（使い方、構造、糸変え、糸掛け）、縫い代のロックミシンのかけ方を理解する。	パンツのロックミシンかけまで終わらせておくこと。	90分
第4回	ショートパンツ3、本縫い1（ミシン縫製）、職業用直線ミシンの使い方	職業用直線ミシン使い方（上糸・下糸ボビン、ボビンケース）、パンツのポケット、脇、股下、股上の縫製を理解する。	パンツのポケット、脇、股下、股上の縫製までを終わらせておくこと。	90分
第5回	ショートパンツ4、本縫い2（仕上げ・完成）	裾上げ、ウエストの始末、ゴム通し、仕上げを理解して完成させることを学ぶ。	パンツを完成させること。（次回提出すること。）	90分
第6回	セミタイトスカート2（型紙づくり、型紙の展開、裁断、印つけ1）	基本型スカートの型紙の展開（フレア・ギャザー）、裁断を理解する。	裁断まで進めておくこと。	90分
第7回	セミタイトスカート3、（印付け2、仮縫い）	印付け（切りじつけ）、仮縫いの仕方を理解する。	仮縫いを仕上げておくこと。（次回試着点検をする。）	90分
第8回	セミタイトスカート4（仮縫い点検）、レポート説明2	仮縫い点検（補正の修正方法）脇縫い、縫い代処理（ロック）を学び、レポート説明を理解する。	ノート整理・レポート作成をすること。脇縫い、縫い代処理（ロック）まで終わらせておくこと。	90分
第9回	セミタイトスカート5（試着点検、脇縫い、ファスナー付け）	ファスナー付けの準備（伸び止めテープ、しつけかけ）を理解する。また、レポートの説明を理解する。	ファスナー付け（伸び止めテープ、しつけ）までを済ませておくこと。	90分
第10回	セミタイトスカート6（ファスナー付け2）、レポート説明2	ファスナー本体付けと完成までを学ぶ。また、レポートの説明を理解する。	ノート整理・レポート作成とファスナーを完成させること。	90分
第11回	セミタイトスカート7（ベルト付け）、基礎縫い1	ベルト付けと完成させること、基礎縫い用布の準備と基礎縫い1（まつり縫い・たてまつり縫い）を理解する。	ベルトを完成させること。	90分
第12回	セミタイトスカート8（裾上げ）、基礎縫い2	裾上げのロックミシン、基礎縫い2（奥まつり：裾のロック後に使用）を理解する。	裾上げを済ませておくこと。	90分
第13回	セミタイトスカート9	スカートのベルトの前カン（ホックとバー）のかがり方、基礎縫い（半返し縫い、全返し縫い、千鳥け）など	前かん付け、基礎縫いを終わらせておくこと。	90分

	（前カン付け）、基礎縫い3	を理解する。		
第14回	スカート10（仕上げアイロン）、基礎縫い4、テキスタイル（生地標本）	仕上げアイロンの掛け方、基礎縫い（ボタン付け）、生地（名称と特徴）を理解する。	スカート、基礎縫い、レポートを完成させて、着装発表の説明内容をまとめること。	90分
第15回	セミタイトスカートの着装発表、作品・基礎縫い・レポート提出	スカートとのコーディネイトを考えて着装し、デザインの特徴、生地名や素材、製作に対する問題点や反省点などの発表について学ぶ。	発表、スカート、基礎縫い、レポートなどを提出する準備をすること。（最終日に提出する。）	90分

学習計画注記	通常は対面授業で行う予定だが、新型コロナウイルス感染状況によっては遠隔授業に変更し、1/2サイズで縫製時間を短縮させ、基礎的な技術や知識の修得に重きを置いた授業に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	課題（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表のコメント
評価方法	平常点（授業の参加状況、授業への取り組み方などを総合的に判断する）作品（スカート・パンツ）、基礎縫い、レポート、発表（内容・話し方など）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	作品	○	○	○	○
	基礎縫い	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、課題40%、基礎縫い10%、レポート30% 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する
使用教科書名(ISBN番号)	プリント配付
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。【技術・表現】生活や社会において具体的な技術を身に付け、改善・創作することができる。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	基本的に授業で説明した内容は、次週までに進めてください。 特に実習は欠席しないように努め、やむを得ず欠席した場合は連絡を入れてください。遅れた部分を補うために、次の週までに進める内容をお伝えします。また、貸し出した道具などは紛失することなく、期日までに返却してください。なお、教職を履修する学生は、教育実習で被服製作を担当する場合があります。学ぶ立場と未来に教える立場を意識しながら取り組むことをお薦めします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	住居学概論（製図を含む）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池　孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。 住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。建築製図の基本的な技術についての実習を含む。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点（K）	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点（A）	建築製図の基本的な技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	（復習）自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	180分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	（復習）自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	180分
第3回	日本の住まいの変遷（１）明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	（復習）住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第4回	日本の住ま	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭	（復習）住まい、住まい方の変	180分

	いの変遷（２）明治時代以後・生活様式と住居	和時代までについて学ぶ。	化と時代背景について考える。	
第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	（復習）自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	180分
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	（復習）誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	180分
第7回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	（復習）自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	180分
第8回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	（復習）自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	180分
第9回	高齢化社会の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	（復習）自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	180分
第10回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	（復習）自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	180分
第11回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える	180分
第12回	住まいの設計プロセス	住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類について学び、作図のための練習をおこなう。	（復習）授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第13回	住まいの設計／製図（１）図面作成のルール	建築図面作成のルールについて学び、作図の実習をおこなう。	（復習）授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第14回	住まいの設計／製図（２）平面図の作成・生活行為と生活空間	生活行為と生活空間について考えながら平面図を読み解き、平面図の作図実習をおこなう。	（復習）授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第15回	住まいの設計／製図（３）配置図の作成・周辺環境との調和	住宅と周辺環境との調和を考えながら、配置図の作図実習をおこなう。	（復習）図面を完成させる。	180分
第16回	定期試験	製図を除く授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。製図課題については、授業時間内に教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて10回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 製図課題については、完成度により評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小課題	○	○	○	

	製図課題	○			○
	定期試験	○	○	○	

評価割合	小課題40%、製図課題25%、定期試験35%により総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	定行まり子「生活と住居」光生館
参考図書	小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な環境や文化を理解する 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる 【技能・表現】生活の質の向上を図るための技能と表現力を身につけている
オフィスアワー	金曜３限　3508研究室
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし
教授	上村　協子	指定なし

ナンバリング	D11103M21
授業概要(教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、2019年度まで相模原市で消費生活総合センター所長を務めておられた萩原康秋氏をお招きして「消費者」とはどのような存在なのか、その生き方をご講義頂き、考察を深める機会を設けている。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解できる。
思考・判断の観点（K）	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点（A）	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻繁に用いる概念について解説する。	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第2回	社会における「家庭」	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。	レジュメを良く復習しておくこと。	180分

	パブリックとプライベートの領域			
第3回	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に津敬資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の意味について学ぶ。	授業前後に教科書pp.7－15を良く読んでおくこと。	180分
第4回	家庭経営とジェンダー（1）現代社会におけるワークライフバランス	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なのかを考察する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第5回	家庭経営とジェンダー（2）近現代日本におけるジェンダー構造の変動	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第6回	江戸時代の女性の生き方	江戸時代の女性の生き方について学ぶ。日本においてジェンダー構造が大きく変動したのは、明治中期であることは前回学んだ。では、それ以前の江戸時代の女性はどのように生きていたのか、只野真葛、内藤ます等の女性の生き方から、現代女性として自らの生き方についての考えを深める。	江戸時代の女性にはどのような人がいるかを調べておくこと。可能であれば参考文献②を読んでおくことが望ましい。	180分
第7回	出産と子育て	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史的変遷も含めて概説する。	30問程度の中間テストを実施する。授業内で河田が配布したレジュメと教科書pp.33-49を参考程度に読んでおくこと。	240分
第8回	家族・家庭と法律　婚姻・親権・相続等	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第9回	消費者としての生き方	萩原康秋先生による講義。萩原先生は、2019年度まで、相模原市　市民局　消費生活総合センターの所長であられた。「消費者」とは、社会の中でどのような存在なのかを、人間の生き方として広い視野でお話頂く。	第3回、5回、6回で行われた消費者に関する授業内容をよく理解しておくこと。	180分
第10回	生活とは何か　生活者とは誰か　家計のとらえ方と実態	生活はどのように実現されるのか（生活の実現過程）、生活を取りまく条件（生活の枠組み）および個人の生活形成と社会に様式について、生活者概念や、大学生の家計、勤労者世帯の家計、共働き世帯の家計、高齢者世帯の家計、母子世帯の家計の実態をもとに、考える	教科書　pp. 7～18、pp. 74～84を授業前後によく読むこと	120分
第11回	ケイパビリティ・アプローチ：生活を行為・活動でとらえる 生活手段（モノ・サービス）でとらえる	生活を時間や金銭・ネットワークなど生活の資源に焦点をあてるのみならず、行為や活動の側から、あるいはモノ・サービスの側からとらえる。特に、ケイパビリティ・アプローチとして、生活する、生涯生きていくのに必要な生活行為・活動と家事機能の関係を考える	教科書　pp. 96～107、pp108～117を授業前後によく読むこと	120分
第12回	生活と契約・消費者問題、ライフスタイルと環境、持続可能な社会の生活設計	生活設計を「ライフデザイン」「生活資源」「生活リスク」の3領域をマネジメントするものと捉え、ライフデザインとキャリアデザインを関わらせながら、またライフスタイルと環境の関係を基盤として、持続可能な社会の生活設計を考える。	教科書　pp. 152～182を授業前後によく読むこと	120分
第13回	少子高齢化社会と福祉	少子高齢化が急速に進む日本社会では、どのような問題が生じ、それをどのように解決して行ったらよいのかを、概説する	教科書pp.137-169を授業の前後に良く読んでおくこと。	120分
第14回	少子高齢化社会における生活設計	少子高齢化や家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を発表する。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッ	180分

			ションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。	
第15回	家庭と環境問題　持続可能な社会づくりのための家庭経営	30問程度の小テストを実施する。期末レポートを提出する。	本授業のまとめのテストとなるので、復習をしておくこと。	240分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	プレゼンテーション時には、随時コメントします。
評価方法	・期末テストは30問程度で、穴埋め方式である。 ・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえて今後の自分の生き方を考える」である。1200字以上。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末小テスト	○			
	期末レポート		○	○	○
	グループディスカッション		○	○	○
	プレゼンテーション				

評価割合	平常点　（グループディスカッション、プレゼンテーションを含む）　20点 小テスト（30%）・レポート　50%
使用教科書名(ISBN番号)	日本家政学会生活経営学部会編 『持続可能な社会をつくる生活経営学』 朝倉書店（2020年9月初版）
参考図書	①原ひろ子著『生活の経営—21世紀の人間の営み—』放送大学教育振興会　2002年 ②柴桂子著『近世おんな旅日記（歴史文化ライブラリー；13)』吉川弘文館　1997年 ③河田敦子著　加藤時男翻刻　『幕末明治の女性　内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年 ④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店　2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営　自分らしく生きる』同文書院　2011年 ⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自　・社会の中にある諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
オフィスアワー	随時調整し対応する。アポイントメントを取り、時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと念願します。 教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：第14回の授業ではグループディスカッション、プレゼンテーションの機会を設けている。
情報リテラシー教育	○	現代社会の状況について情報収集しながらレポートを作成する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山際　基	指定なし

ナンバリング	R31907M21
授業概要(教育目的)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器について、仕組みと取扱法といった基本的知識の修得および消費するエネルギーの観点から機械や機器へのエネルギー変換、省エネルギーと経済性について、生活を合理的に管理するための能力を身につける。また社会における情報化の進展について理解し、家庭生活においてコンピュータを活用する能力と態度を育成する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器についての基本的知識の習得すること。
思考・判断の観点（K）	家庭生活において、修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術を活用すること。
関心・意欲・態度の観点（V）	日々進化する機械、電気、情報の各技術に対する関心を持つこと。
技術・表現の観点（A）	修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術の特徴、利点と欠点について適切に説明できること。

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	本講義の講義計画を説明するとともに、家庭における機械、電気、情報の利用についての全体像・概要を理解する。	自分の家庭においてどのような機械、電気機器、情報機器があるのか調査する。	60
第2回	家庭における機械①	現代生活と機械の基本的な関係について理解する。道具や機械の始まりや機械の3要素について説明する。	道具や機械を利用する利点を考える。なぜ道具や機械が考えられたのか、機械と呼ばれる条件として何があるのかを考える。	180
第3回	家庭におけ	機械の要素と働きについて理解するとともに、家庭生活	金属材料、非金属材料、複合素	180

	る機械②	と素材・材料について考えを深める。	材、新素材と様々な材料を知るとともに、その機械的効果を考える。	
第4回	家庭における機械③	家庭生活における機械の実例について理解を深める。身近にあるミシンや自動車、自転車について取り上げる。	機械の実例（ミシン、自転車、自動車）の構造、仕組みについて理解を深める。各機械の様々な機能を実現するためにどのような機構が存在するのか理解する。	180
第5回	機械、電気とエネルギー	エネルギーを発生させるもとになるものの存在から、機械や電気機器を動かすに至るまでのエネルギーの変換の基礎概念について理解する。	エネルギーの種類と目的に応じた機械的、電気的利用について理解する。	200
第6回	電気の変換と家庭での利用①	電気の熱への変換について、アイロン、調理機器を実例にあげて仕組みや構造を理解する。	電気を熱に変換する方法を理解する。熱への変換は加熱と冷却の双方を念頭に置いて考える。	180
第7回	電気の変換と家庭での利用②	電気の動力への変換について、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、掃除機を実例にあげて仕組みや構造を理解する。	電気を動力に変換する方法を理解し、実例に挙げた以外の電気機器についても考えてみる。	180
第8回	電気の変換と家庭での利用③	電気の光への変換について、照明器具を実例に挙げて理解を深める。また変換以外へのエネルギーの利用について、電子機器を実例に挙げて理解を深める。	電気の光への変換方法を理解するとともに、電子機器の機構や仕組みを理解する。	180
第9回	一般家庭における電力の供給	電気が発電所から一般家屋に届くまでの概要と一般家屋における電力線の屋内配線や利用される機器について理解する。	屋内の配線における規格や利用される機器について理解を深める。	180
第10回	現代生活と情報機器	現代生活と情報機器の関わりについて理解し、コンピュータの機能と操作について理解を深める。	コンピュータの機能と仕組みについて理解する。	200
第11回	情報機器の家庭での利用	コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよびネットワークについて理解を深める。	コンピュータの各機能を実現するためにどのようなハードウェア、ソフトウェアがあるのか理解する。	200
第12回	家庭生活と情報システム①	家庭生活に密接した情報システムについて、情報家電、Home Energy Management System、各種ネットワークサービスの実例を挙げるとともに理解を深める。	既に自分自身が家庭生活で利用している情報システムやネットワークサービスについて、機能と仕組みを理解する。	200
第13回	家庭生活と情報システム②	情報システムの家庭経済への活用について理解する。	自分自身の家計（会計）管理、消費者としての活動に合わせて、現存するシステムやネットワークサービスの活用方法について理解を深める。	200
第14回	環境を意識した、機械、電気、情報の活用	地球環境を意識した機械の利用、電気機器の利用、情報処理について考える。	我が国のエネルギー事情を理解するとともに、対策方法、機器類の選定や利用方法について理解を深める。	200
第15回	講義全般のまとめ	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用についてまとめる。また省エネルギー、経済性を考慮した家庭生活を送るための考え方について理解を深める。	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用について、従来までの考え方や運用方法と新たな考え方や運用方法を検討する。	220

学生へのフィードバック方法	・毎回の講義時の小レポートの講評については、採点後、講義時間中に全体講評を行う。
評価方法	・期末レポートは、機械・電気・情報の各技術が家庭生活に与えた影響について論じるレポートを出題する。記述の論理整合性、技術的（理論的）正当性を当然問うこととなるが、自身の経験などを含めた主体性のある主張、指摘についても評価する。 ・平常点は、毎回の講義において、講義内容に沿った小レポートを出題する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末レポート	○	○	○	○
	平常点	○		○	○

評価割合	期末レポート(50%)、平常点（50%）による総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	新しい時代の家庭機械・電気・情報（第２版）／池本洋一、山下省蔵／ジュピター書房／2021（978-4909817006）
ディプロマポリシーとの関連	［知識・理解］　家庭生活の基盤として「より良い生活と技術」の関わりについて理解できる。 ［思考・判断］　生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 ［関心・意欲・態度］　日々進化する技術について関心を持ち、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか活動意欲を持つことができる。 ［技術・表現］　機械、電気、情報の各技術の特徴を把握し、その効果を説明できる。
オフィスアワー	非常勤講師のため講義時以外はメールで問い合わせること。
学生へのメッセージ	進化する様々な技術について興味や関心を持つことが重要です。そして、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか主体的な意欲を持ち活動することが、知識や技能を深めることにつながります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし

ナンバリング	R31908M21
授業概要(教育目的)	子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭・地域・社会において大人が果たすべき役割、保育所・幼稚園・認定こども園における保育・幼児教育の今日的課題、共に育つ保育実践について考える。また、保育観察や子どもとのふれあい体験（自主実習）を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験しながら、家庭科教育における保育領域の授業実践の工夫を具体的に構想できるよう導いていく。
履修条件	家庭科教員免許取得を目指していること、またはそれに準ずる意欲のあること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 家庭科教育における保育領域の意義と目的を説明できる。 2. 保育・幼児教育の基本的事項について説明できる。 3. 乳幼児の生活と発達について具体的にイメージできる。
思考・判断の観点（K）	1. 自主実習や模擬授業を通して自己課題を発見する。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 保育領域に関心を持ち、積極的に教材研究を行うことができる。 2. 保育観察や自主実習に意欲を持って取り組む。
技術・表現の観点（A）	1. 家庭科（保育領域）の授業を構想し、模擬的に実践できる。 2. 電子黒板等を活用し、効果的にプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	家庭科教育における保育領域の意義と目的	グループワークを通して、学習指導要領「家庭科」における保育領域の意義と目的、及び改訂の背景を理解する。	中学校・高校の学習指導要領「家庭科」のページ、及びテキストのP.1～18、P.26～28を読んでおくこと	120分
第2回	保育・幼児教育の今	新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「育みたい資質・能力」について理解する。	配布プリントを読んでおくこと	120分

第3回	子どもの発達と保育	ビデオを観ながら、乳幼児の発達について理解する。	課題「子どもの姿レポート」に取り組む	120分
第4回	子どもの遊びと保育	幼稚園等で生活する子どもの姿から、遊びを中心とした保育について考える。	課題「自主実習のための準備」に取り組む	120分
第5回	「ぽかぽかひろば」保育観察	乳児グループ「ぽかぽかひろば」の観察を行う。	「ぽかぽかひろば」の資料を読んでおくこと／観察記録をまとめること	120分
第6回	保育研究課題の設定と自主実習計画の作成	模擬授業で扱う保育研究課題を設定する。また、自主実習に向けた計画を作成する。	保育研究課題に関する教材研究及び自主実習の準備	240分
第7回	自主実習（１）	乳児（０・１・２歳児）クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第8回	絵本の教材研究発表	絵本を３冊選びその内容を紹介するとともに１冊について「読み聞かせ」の実践をする。	絵本選びと読み聞かせの練習	180分
第9回	自主実習（２）	幼児（３・４・５歳児）クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第10回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループA	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	A：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 B～E：Aグループの発表から得たことをまとめる	A：720分 B～E：60分
第11回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループB	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	B：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,C～E：Bグループの発表から得たことをまとめる	B：720分 B以外：60分
第12回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループC	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	C：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,B,D,E：Cグループの発表から得たことをまとめる	C：720分 C以外：60分
第13回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループD	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	D：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A～C,E：Dグループの発表から得たことをまとめる	D：720分 D以外：60分
第14回	保育研究課題に基づく模擬授業（１）発表グループE	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	E：教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A～D：Eグループの発表から得たことをまとめる	E：720分 A～D：60分
第15回	振り返りとまとめ	自主実習や模擬授業等を通して学んだことを振り返り、自己課題を明確にする。	これまでの授業内容を総復習しておくこと（まとめのファイルの提出）	120分

学習計画注記	※履修者数や授業方法（オンライン・対面）の変動等によって計画が前後したり変更になったりしますが、最終的に学習目標が達成されるよう調整します。
学生へのフィードバック方法	課題等は発表時または返却時にコメントするなどしてフィードバックを行う。質問や相談等がある場合は、1635研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	自主実習に対する取り組み（自主実習点）、模擬授業に対する取り組み（模擬授業点）に加えて、これら以外の課題への取り組み（課題点）について総合的に評価する。課題点には指定の提出物に加え、グループワークや発表など平常授業への取り組みの評価を含むものとする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題点	○	○	○	
	自主実習点		○	○	
	模擬授業点	○	○	○	○

評価割合	課題点（30%）自主実習点（30%）模擬授業点（40%）の割合で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	高等学校学習指導要領解説「家庭編」,文部科学省,平成30年７月
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「家庭科教育」（保育）分野について専門的知識を有している。 【関心・意欲・態度】社会の中にある（保育をめぐる）諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通してその解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、家庭科教育（保育）分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	（後期）金曜４限　1635研究室
学生へのメッセージ	この授業では自主実習や保育分野模擬授業に向けての事前の準備学習や教材研究など取り組むべき課題が多くあります。それぞれの課題に主体的に取り組む意欲と覚悟を持って受講してください。同時に、子どもについて学ぶこと、子どもとのふれあい体験をぜひ楽しんでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションなどのグループワーク取り入れた授業を展開する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業においては、効果的なプレゼンテーション資料の作成や電子黒板の活用に取り組む。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食科学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大坂　裕子	指定なし

ナンバリング	D11104M21
授業概要(教育目的)	この授業では、食に関する基本的な事項を広く学び、自分自身が健康的な食生活を営む力を習得するとともに、食への興味関心を引き出すことを目的とする。家庭科教育の食の領域に関する導入授業内容である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭科教員並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を説明できる。
思考・判断の観点（K）	家庭科教員並び食の専門家として、食生活上の問題点を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	家庭科教員並び食の専門家として、積極的に食に関するあらゆる情報を自ら入手し正確に判断できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	私たちの食生活	授業の学びを深めるために、なぜ食べるのか、健康とは、食生活の歴史、体内リズムなどを理解し、次回以降の学びの基礎をつくる。	予習：教科書（p1～6）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第2回	ヒトと栄養（１）	炭水化物と炭水化物の体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p7～13）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第3回	ヒトと栄養（２）	たんぱく質とたんぱく質の体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p15～22）を読んでわからないことをまとておく。	予習：90分　復習：90分

			復習：授業用ノートをまとめる。	
第4回	ヒトと栄養（３）	脂質と脂質の体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p23～30）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第5回	ヒトと栄養（４）	ビタミン・ミネラルとビタミン・ミネラルの体内での働きについて理解する。	予習：教科書（p31～40）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第6回	ヒトと食品（１）	おいしさと健康のための調理について理解する。	予習：教科書（p41～51）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第7回	ヒトと食品（２）	日本標準食品成分表を学び、食品の特徴について理解する。	予習：事前配布資料の問いについてまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第8回	ヒトと食品（３）	食品の機能性成分や機能性成分の豊富な食品、保健機能食品について理解する。	予習：教科書（p53～68）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第9回	ヒトと食の安全と衛生（１）	身の回りの食べ物と安全（食中毒や遺伝子組み換え食品など）について理解する。	予習：教科書（p117～128）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第10回	ヒトと食の安全と衛生（２）	食品の安全流通と表示（食品表示法）について理解する。	予習：教科書（p128～132）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第11回	ヒトと食生活（１）	健康な食生活を送るために必要な栄養量や健康づくりのためのツール（三色食品群、６つの基礎食品、食事バランスガイドなど）について理解する。	予習：教科書（p105～116）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第12回	ヒトと食生活（２）	成長期における食生活や健康について理解する。	予習：教科書（p79～98）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第13回	ヒトと食生活（３）	成人期における食生活や健康について理解する。	予習：教科書（p69～78、93～98）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第14回	ヒトと食生活（４）	高齢期における食生活や健康について理解する。	予習：教科書（p99～103）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分
第15回	ヒトと食生活（５）	日本の伝統的な食文化（和食、郷土料理、行事食など）について理解する。	予習：教科書（p133～142）を読んでわからないことをまとめておく。 復習：授業用ノートをまとめる。	予習：90分　復習：90分

学習計画注記	履修学生の状況によっては内容が多少前後することがある。
学生へのフィードバック方法	提出物は採点をして返却し、必要に応じ授業内で解説する。
評価方法	毎回の授業での提出物の内容及び定期試験（筆記試験）の得点
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題レポート	○	○	○	○
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	提出物30%、定期試験70%
使用教科書名(ISBN番号)	大学で学ぶ食生活と健康のきほん　吉澤みな子ら著　化学同人　（ISBN　978-4-7598-1828-4）
参考図書	高校時代の家庭科教科書や日本標準食品成分表を保有している学生は参考にしてください。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食に関する専門的知識・技術を有す。 【思考・判断】食に関するあらゆる問題に対し真摯に向き合い、対応を検討することができる。 【関心・意欲・態度】食に関するあらゆる問題に積極的に関心をもつ。
学生へのメッセージ	中学校教諭一種免許状（家庭）、高等学校教諭一種免許状（家庭）取得のための必修科目である。 毎回の授業に関する提出物があり、成績評価に加えるので欠席せずに参加してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	家庭看護(学校安全・救急看護法)		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 遠藤　由美子	指定なし

ナンバリング	R21906M21
授業概要(教育目的)	家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について述べることができる。 乳幼児期の心身の特徴について、説明ができる。
思考・判断の観点（K）	制作をする過程において、独自の創造力を駆使して、作品を完成する。自らが選択した課題のレポート作成の過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点（V）	課された課題を自宅学習を含め取り組み、提出期限などルールを重んじる力を培う。
技術・表現の観点（A）	演習を通して、人とのかかわり方を学び社会性を身に着け専門職としての視点を持つ。

学習計画

家庭看護

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 病児の遊びを考えよう①	チャイルドビジョンを作り、実際につけて歩いて、子どもの視点から考える。	授業内で体感した内容のレポートを作成し期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	自宅学習　60分
第2回	健康と病気 ①健康について	授業内配布資料に沿って進める。	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	自宅学習　60分

第3回	健康と病気②看護と介護	授業内配布資料に沿って進める。	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	自宅学習　60分
第4回	病気と看護家族の年代別健康管理	授業内配布資料に沿って進める。	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	自宅学習　60分
第5回	病気と看護病気の種類と特徴（子ども編）	授業内配布資料に沿って進める。	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	自宅学習　60分
第6回	病気と看護病気の種類と特徴（大人編）	授業内配布資料に沿って進める。	授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	自宅学習　60分
第7回	病気と看護病児の遊びを考えよう②	パズルを作って、実際に遊んでみて子どもの遊びについて考える。	授業内で作成中のパズルを完成させ、その気づきをレポート作成、期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	自宅学習　約60分
第8回	身体の清潔と感染症対策（手洗いにTRY！）	実際に手を洗う	介護実習室（体を動かしやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	介護実習室（９０分）
第9回	病気と看護（体位変換にTRY！）コミュニケーション体位	パワーポイントを活用して、コミュニケーションについての解説。実際にベッドを活用して体位を体感しよう	介護実習室（体を動かせる服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	介護実習室（９０分）
第10回	病気と看護（バイタル測定にTRY!）バイタルサインの測定	実際にバイタルサインの測定を行う	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	介護実習室（９０分）
第11回	病気と看護（車椅子にTRY！）移譲（車椅子、白杖）	実際に車いすを体験。白杖をもって歩いてみよう。	介護実習室・校内散策（動きやすい服装・上履き・運動靴・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	介護実習室（９０分）
第12回	病気と看護（着脱にTRY！）排泄、着脱	実際におむつを付けてみる。ベッド上での着替えの介助を行う。	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	介護実習室（９０分）
第13回	救急編（救急法にTRY！）	救急法の実際をDVDで確認し、その手順を覚える。	介護実習室（動きやすい服装・上履き・タオル・水分補給用の水分） 授業内で配布したプリントを完成させ期限内に提出。（期限：次回授業開始まで）	介護実習室（９０分）
第14回	課題作成	図書室・PC室・自習室などを活用し、自身の決めた課題の資料を探し、レポート（５枚）発表（５分）資料の作成を行う。	テーマを自分で探す（授業内容に関連した内容で、興味を持ったものであれば可）資料収集、発表準備、提出レポート作成	図書室 PC室 自習室　90分
第15回	課題作成・発表・提出	他の学生の前で自ら作成した資料を基に発表を行う。 他の学生のプレゼンテーションを聞き、他の学生の学習内容を知る。	発表準備（授業に関連した内容で、興味を持ったものであれば可）資料収集、提出用レポート作成	自宅学習　約90分

学生へのフィードバック方法	講義の他、グループワーク、演習等を取り入れ、学生が主体的に授業に参加できるようにしていく。はさみ、サインペン、色鉛筆、カッターナイフ等毎授業持参すること。
評価方法	授業成果物１０点（パズル、眼鏡）個々の個人の創造性を駆使して、完成を目指す。作成したもので遊びを通して、子供の特性を学ぶ。 授業内平常課題３０点授業内の課題プリントを課し、自宅学習を促す。 発表評価５０点（態度，プレゼン準備，プレゼン資料，学生個々評価）レポート１０点、テーマに従い資料検索

	を重ねレポートをまとめ、それをもとに他者に自分の考えを伝えるべく様々な方法を用いて発表準備を行い、人前で意見を述べることを通して、達成感を養い今後の自身の活動に役立つ手法を身に着ける。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	成果物		○	○	○
	授業内平常課題	○	○	○	
	発表評価	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○

評価割合	成果物１０点（パズル、眼鏡）授業内課題３０点，発表評価５０点（態度，プレゼン準備，資料，学生個々評価）レポート１０点 平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	授業内で配布
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自ら選択した課題を、レポートとして仕上げ発表するプロセスを体験、演習を通して、対人関係に必要なマナーやプレゼンテーション能力を身に着けることができる。 【思考・判断力】情報の整理やまとめる力を培うことができる。 【関心・意欲・態度】課せられた課題に自主的に取り組むことで、自己の責任や役割を認識し、社会人としての倫理観を身に着けている。 【技能・表現】制作など独自の創造力を駆使して、作品完成させることで、表現力を身に着けている。
オフィスアワー	前期金曜日１限　指定教室
学生へのメッセージ	日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができて、家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

講義名	人間栄養学原論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　理津子	指定なし
教授	田中　弘之	指定なし
教授	江川　賢一	指定なし
准教授	城田　直子	指定なし
助教	建路　七織	指定なし

ナンバリング	H11001C21
授業概要(教育目的)	健康の維持・増進を目的とした栄養管理において、食べ物からの側面（栄養・調理など）だけでなく、人からの側面（嗜好、代謝、疾病・健康状態、身体活動量など）を考慮した食生活を営めるよう計画・実施することが不可欠である。一方、食生活とは、個々人を取り巻く地域の自然・社会・経済・文化などの条件や歴史的変遷とも密接に関わって形成される。 そこで、1～5回では、人間栄養学や管理栄養士としての職業倫理について、管理栄養士業務の実例を通して講義する。6～15回では、望ましい食生活を実現化させるための栄養管理にかかわる基礎知識を、食品の生産・流通、食品の選択、調理、食文化との関連を踏まえて解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	①４年間の学びおよび管理栄養士としての業務の基礎となる「人間栄養学」の内容を説明できる。 ②人間栄養学を基にした栄養管理の目的および手法を説明できる。 ③栄養管理に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	①人間栄養学」および管理栄養士の役割を理解したうえで、管理栄養士として社会貢献しようとする意欲を持つ。 ②将来の目標に向かって主体的に学ぶ意欲、態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	（１）オリエンテーション：授業の概要、諸注意事項など （２）人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場（フードサービス）	（１）授業の受講ルールやレポートの書き方を学ぶ。 （２）管理栄養士の活躍の場のうちフードサービスでの現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習：全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習：講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第2回	人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場（スポーツ栄養）	管理栄養士の活躍の場のうちスポーツ栄養での現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習：全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページ、日本スポーツ栄養学会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習：講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第3回	人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場（臨床栄養）	管理栄養士の活躍の場のうち臨床栄養での現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習：全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習：講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第4回	人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場（食育・地域栄養ケア）	管理栄養士の活躍の場のうち食育・地域栄養ケアでの現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習：全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習：講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第5回	人間栄養学からみた栄養管理の意義	1～4回までに聴講した管理栄養士の役割を振り返りつつ、業務の要となる栄養管理の意義を学ぶ。	復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第6回	人間栄養学の考え方	4年間の学びの基礎となる「人間栄養学」を学ぶ。	復習：学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第7回	食生活の現状と対策：食品の生産・流通、食糧需給、食品ロス、食品・栄養の情報	日本人の食生活の現状、問題点とその対策を食品の生産・流通、食糧需給、食品ロスの観点から学ぶ。 食品の表示に関する法律とその内容を学ぶ。	予習：食品の表示に関する情報を調べる。「七訂食品成分表2020（女子栄養大学出版部）」資料編72、83ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第8回	食文化：食文化の形成、日本料理の変遷、年中行事と食べもの、伝統食・郷土食、食事のマナー	食文化の形成、日本の伝統食文化としての和食の特徴、日本の伝統的な食事スタイルの種類と特徴、行事食を学ぶ。 正しい食事マナーを理解する。	予習：農林水産省ホームページ「日本の伝統食文化としての和食（http://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/wasyoku.html）を読む。 日本料理の種類や行事食を調べる。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第9回	健康状態の現状と栄養管理の進め方	生活習慣よって起こる疾病を理解する。また疾病の予防、健康維持・増進を目的とした栄養管理、栄養診断を学ぶ。	予習：生活習慣病の種類や原因に関する情報を調べる。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分

第10回	「栄養素」：栄養素の種類と働き、１日の摂取量（日本人の食事摂取基準[2020年版]）	健康の維持・増進を目的とした栄養管理を計画・実施する際の柱となる日本人の食事摂取基準[2020年版]を学ぶ。	予習：「日本人の食事摂取基準[2020年版]」1～5ページ、「七訂食品成分表2020（女子栄養大学出版部）」資料編16～28、73ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第11回	「食品」：栄養素の供給源、食品成分表、廃棄率、購入量、栄養価の算出方法	栄養素の供給源を確認する。食品成分表の見方および使い方、栄養価計算の方法を学ぶ。	予習：「七訂食品成分表2020（女子栄養大学出版部）」本表編口絵6～28、19～20、22、356(7)～362(1)ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第12回	「料理」：調理操作、配合、調味の基本	調理の種類と特徴、基本的な調理操作や配合を学ぶ。	予習：「七訂食品成分表2020（女子栄養大学出版部）」資料編90～91ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第13回	「食事」と「生活習慣」：食事の基本形、生活リズムと食事、食事と生活習慣病	食事の基本的な構成を学ぶ。食事と生活リズムと生活習慣病の関連を理解する。	予習：第6～12回までのワークシートをもとに学習した内容を振り返る。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第14回	まとめ	人間栄養学を柱とした栄養管理の目的、手法等の基礎知識について、実践に向け整理する。	予習：第4～13回までのワークシートをもとに学習した内容を振り返る。 復習：第14回の内容を振り返り、まとめる。	150分
第15回	ふりかえり	第1～15回にわたって学習した内容を振り返り、レポートにまとめる。	予習：第14回の学習内容を振り返る。 復習：第1～15回までの学習内容を振り返り、まとめる。	150分

学習計画注記	進行状況および感染症の流行状況によって内容を前後させる場合がある。 変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパー等の提出物を確認後、返却する。 また質問がある場合には、各教員に問い合わせることができる。
評価方法	リアクションペーパー等による提出物（40%）と、定期試験（60%）を総合的に評価する。 ※リアクションペーパー等：提出された内容について正確性、丁寧さを評価する。なお、提出遅れ、未提出は0点とする。 ※定期試験：範囲は授業時間中に提示する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパー	○		○	
	定期試験	○			

評価割合	提出物40%、定期試験60%とし、総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	「八訂食品成分表」　女子栄養大出版部 「調理のためのベーシックデータ」　女子栄養大出版部 「日本人の食事摂取基準[2020年版]」　第一出版 「導入教育」信頼される専門職になるために　医歯薬出版
参考図書	適宜紹介する

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
オフィスアワー	田中：水曜1、2限（1607研究室） 江川：木曜日昼休み（G0101研究室） 城田：水曜日3時限（1404研究室） 建路：木曜日3時限（1312研究室） 加藤：火曜日2限（1B05研究室）
学生へのメッセージ	電卓を用意する（試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可）。 受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 〇遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 〇計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 〇提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	行政機関（田中）、民間企業の研究機関（江川）、臨床施設（城田）、高齢者福祉施設（建路）、スポーツ栄養現場（加藤）等に従事した経験を踏まえ、管理栄養士業務にかかわる食育・地域栄養ケア、フードサービス、臨床栄養、スポーツ栄養の４つの領域に関する基礎知識および職業倫理についての理解を促進するための専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

UP

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	管理栄養士基礎演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田　直子	指定なし

ナンバリング	H11002C12
授業概要(教育目的)	この授業は「管理栄養士とは何か」を学ぶ基礎的な科目である。自分を知り相手を知る機会を通し、「食」と「栄養」の関わりについて一層関心を高め、意欲を持って学びを進めていけるよう管理栄養士の職務や事例を紹介しながら職業倫理を培う。また、「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の領域における管理栄養士の役割を理解し、さらには管理栄養士が活躍する現場を見学する。見学終了後は報告会を実施し、見学で学んだ内容を発表すると共に見学に行かなかった現場についても学びを深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	管理栄養士とは何かを適切に説明できる。見学を通して管理栄養士の役割や現状を理解できる。見学に行かなかった現場についても理解ができる。
思考・判断の観点（K）	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域における管理栄養士の役割や現状を理解し、類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	どのように自分を知り相手を知るか、そしてそれらを知ることで「食」と「栄養」の関わりに関心を持ち、意欲を持って学びを進めることにつなげる。見学する現場や領域を主体的に選択する。見学施設については事前に学習し、得られた情報を持って見学に臨む。
技術・表現の観点（A）	施設見学前後のグループワークおよび個人課題で自分の考えを表現できる。見学後に内容をまとめる力、プレゼンテーション力が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	管理栄養士とは	管理栄養士とはどのような職種か、また、4年間の学びについて学び、現時点での自分自身の考えや将来像について認識する	特になし	
第2回	管理栄養士の職業倫	管理栄養士の職務や事例を学びながら職業倫理を培う。「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」	受講するにあたり、各自、管理栄養士とは何か、職務、役割、	60分

	理、活躍の場、4領域の関連性	「フードサービス」の4領域それぞれにおける管理栄養士の役割や現状、4領域の関連性を理解する。上記の理解をふまえ、見学希望調査を実施する。	活躍の場、4領域の関連性などを調べておくこと	
第3回	4領域での学び	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域について、自分自身が学びたいことや知りたいことを明確にする。	受講するにあたり、各自、事前に各領域で学びたいことを明確にしておくこと	60分
第4回	自分を知る	体力測定を実施する。人々の健康づくりやスポーツ選手の競技力向上に役立てることを目的とした体力測定のスキルを体験的に習得する。	受講するにあたり、各自、体力測定の項目および測定項目について予習しておくこと。	60分
第5回	グループディスカッション	グループディスカッションにより、施設見学におけるテーマを決定し、見学により何を学ぶか考える	受講するにあたり、各自、事前に施設見学における学習テーマを考え、まとめておくこと	60分
第6回	プレゼンテーションの方法、コミュニケーション、マナー	プレゼンテーションについて学び、報告会へ向け理解を深め、コミュニケーションやマナーについて学び、自分の理解度および実践状況を知る	受講するにあたり、各自、管理栄養士の学外実習の手引きの該当箇所を熟読しておくこと	60分
第7回	相手を知る	管理栄養士に必要なスキルとはどのようなものか、「相手を知る」体験を通して学び、相手を知るにはどのようなスキルが必要かを考える	授業内容を復習し、管理栄養士というライセンスを活かした職場で働く際に必要なスキルを今後、どのように身につけていくか自分なりに考えておくこと	60分
第8回	テーブルマナー講座	都内ホテルにおいて講座を受講し、テーブルマナーを学ぶ	受講するにあたり、各自、事前にテーブルマナーとはどのようなものかを調べておくこと	60分
第9回	施設見学（学外実習）	見学可能な時期を利用して「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設の見学を通して、管理栄養士の職務、役割、食と栄養との関わりなどを学ぶ	見学は1度しかないので、各自意欲を持って、見学施設について事前にしっかりと調べ、予習をしたうえで見学に臨み、見学後は学んだ内容をまとめておくこと	90分
第10回	グループワーク	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、グループワークによる意見交換、考察などをまとめ、報告会に向けた資料および提出物、媒体を作成する	受講するにあたり、活発なディスカッションになるよう自分の意見などをしっかり準備しておくこと	120分
第11回	報告会①	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」施設見学のプレゼンテーションを行い、見学に行かなかった施設についても理解を深める	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習をしておくこと	60分
第12回	報告会②	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」施設見学のプレゼンテーションを行い、見学に行かなかった施設についても理解を深める	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習をしておくこと	60分
第13回	報告会③	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」施設見学のプレゼンテーションを行い、見学に行かなかった施設についても理解を深める	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習をしておくこと	60分
第14回	学びの考察、将来像の描画	当科目の受講を通して自分自身が学んだこと、解決したことは何かなどを考察し、現時点での将来像を認識、描画する	受講するにあたり、これまでの授業を通してどのようなことを学んだか、自分のなかで何が解決したかなど考えをまとめておくこと	60分
第15回	栄養価計算ソフト演習	2年次から使用する栄養価計算ソフトの使用方法について、ソフト開発者による演習を通して学ぶ	受講後は課題を進め、スムーズに扱えるようにしっかり復習しておくこと	120分

学習計画注記	※通年授業のため、授業日程によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	プレゼンテーション用の原稿は添削して返却する。 提出物は課題内容および必要に応じ授業にて解説または採点し、返却する。
評価方法	平常点（参加状況、授業への取り組み、授業態度等）、プレゼンテーション（グループワークでの取り組みや提出物、報告会での発表等）、提出物で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○
	提出物	○	○	○	

評価割合	平常点40%、プレゼンテーション30%、提出物30%
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き（非売品のため入学後に配布）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思、他社と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
オフィスアワー	水曜3時限
学生へのメッセージ	管理栄養士について基本的な知識を深め、4年間のこれからの学びに繋げていってほしいと思います。自分を知り、自分で考え、相手のことを知る機会でもあります。受け身ではなく、積極的に真面目に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士として現場での実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	学外施設見学、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	プレゼンテーション技法
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	有機化学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 仁科　淳良	指定なし

ナンバリング	H11003C21
授業概要(教育目的)	食品を扱ううえで必要になる有機化学を理解するためには、生物が生産する物質を知る必要がある。生物が生産する物質は、大きく一次代謝産物と二次代謝産物に分けられる。一次代謝産物は生命維持に必要で普遍的に存在する物質、二次代謝産物は生命現象に関与しない種固有の化合物である。本科目では一次代謝産物である３大物質群（糖質，脂質，アミノ酸・タンパク質）および核酸の種類、化学的性質や機能，さらには生化学反応の基礎について習得し、管理栄養士としてのバックグラウンドとするとともに学生実験、卒論等で活用できるようになる。
履修条件	高校レベルの生物、化学の知識を習得していることが望ましい。 Googleクラスルームにアップロードした教科書の画像をプリントアウトして手元に置き、これを見ながらメディア教材を視聴すること。 対面講義の際には教科書のプリントアウトを持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	調理や食品劣化等に伴う味、香り、色等の変化を化学として考えることができるようになる。
思考・判断の観点（K）	食品成分に関して、五感だけでなく化学的に考察することができるようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	化学式をできるだけ理解し、化学式から味、食品としての機能が推定できるようになる。
技術・表現の観点（A）	化学式を利用して食品成分、調理中に起こる化学反応を説明できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	アミノ酸とタンパク質（１）	アミノ酸の酸 - 塩基性と等電点・アミノ酸の電気泳動・アミノ酸の立体化学と生物活性	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第2回	アミノ酸と	アミノ酸の化学的性質・ペプチドの構造と性質	【事前学習】教科書の該当ペー	180分

	タンパク質（２）		ジを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	
第3回	アミノ酸とタンパク質（３）	タンパク質の種類・タンパク質の構造	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第4回	糖質（１）	糖質の分類・単糖の立体配置	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第5回	糖質（２）	アルドースとケトースの立体配置・単糖の環状構造・単糖のアノマー変旋光・単糖の立体配座・主な単糖類・単糖の反応	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第6回	糖質（３）	二糖・還元性二糖・非還元性二糖・マルトース・セロビオース・ラクトース・スクロース、多糖・セルロース・デンプン・グリコーゲン・その他の重要な糖	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第7回	糖質（４）	糖質の生合成と代謝：光合成・グルコースの生合成・グリコーゲンの生合成と分解・ペントースリン酸経路	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第8回	脂質（１）	脂肪酸とそのエステル・トリアシルグリセロール・ロウ	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第9回	脂質（２）	油脂・油脂と脂肪酸の化学反応・脂肪細胞	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第10回	脂質（３）	細胞膜脂質・リン脂質・糖脂質・細胞膜の構造と機能	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第11回	脂質（４）	エイコサノイド・プロスタグランジン・ロイコトリエン・ステロイド	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第12回	核酸（１）	染色体と遺伝子	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第13回	核酸（２）	DNA、RNAの構造と機能	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第14回	化学メッセンジャー（１）	ホルモン、神経伝達物質	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分
第15回	化学メッセンジャー（２）	薬物、麻薬	【事前学習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【事後学習】小テスト内容を参考にして授業内容の復習をすること。	180分

学習計画注記	授業内容の進み具合により学習計画が前後することがあります.
学生へのフィードバック方法	授業終了後に小テスト（Googleフォームで回答と送信）行います. 次の授業の始めに解説を行います。
評価方法	小テストの成績を参考にして評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	各講義での小テスト	○			
	取り組む態度			○	

評価割合	取り組む態度（40%）、小テストの得点（60%）により評価します.
使用教科書名(ISBN番号)	菅原二三男 『マクマリー 生物有機化学 生化学編 原書8版』 丸善出版 2018年 原書8版 978-4-621-30240-8
参考図書	John McMurry 『マクマリー有機化学（下） 』 東京化学同人 2013年 第8版 太田博道 『これならわかる生物有機化学』 共立出版 2010年 第1版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】有機分子の構造や性質に関する基礎学力により、専門科目の食物栄養や生命科学の内容を理解する力を有する. 【思考・判断】有機化学の基礎理論から、健康や栄養に関わる有機化学反応について論理的に考察する力を身につけている.
オフィスアワー	講義の時間と講義後
学生へのメッセージ	米国の某大学では、理系文系を問わず、すべての学生に生命有機化学が必修となっており、生命有機化学は研究のためだけなく経済活動のバックグラウンドとしても必要な情報と考えられるようになってきました。本科目では有機化学の基礎をすぐれた教科書を用いて習得することを目標にします。習得した知識は研究活動だけでなく、実生活でも役に立つはずです。 質問等は下記のメルアドにお願いします。 nishina.atsuyoshi@nihon-u.ac.jp

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎サイエンス実験（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波　秀樹	指定なし
助教	鈴木　孝子	指定なし

ナンバリング	H11004C13
授業概要(教育目的)	食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。（化学分野） 基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解している。（生物学分野）
思考・判断の観点（K）	基礎的な実験・レポート作成などを通して，管理栄養士として必要不可欠な理科的思考をもつようになる。（両分野）
関心・意欲・態度の観点（V）	実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。（化学分野） 実験に対する取り組み方やレポートの書き方などついて実践できる。（生物学分野）
技術・表現の観点（A）	基礎的な実験技術，実験結果と考察による理科的な思考の両方を習得し，2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力をもっている。（両分野）

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	今後の実験の進め方などについての説明。数値データの取り扱いについての説明。	事前に渡されたテキストを読む。	60分
第2回	生物実験の心得とレポート作成・スケッチ描	基礎サイエンス実験の生物学分野実験（以下，生物学実験）を行うにあたり，実験ノートの書き方，スケッチの描き方などの基本的な知識・技術を習得する。	事前に渡されたテキストと高校「生物基礎」教科書の実験・観察について項目を読んでおく。	60分

	画についての説明（生物学分野１）遠隔授業1回目			
第3回	DNAの解説と核型分析（生物学分野2）遠隔授業2回目	対面で実験を行うDNAの抽出実験に関する基本的生物学的事項について資料を用いて解説することにより，実験の目的，意義に対する理解を深める。また，現在の遺伝病の出産前診断に用いられている染色体の核型分析を行い，遺伝子の座である染色体の特徴について理解する。	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第4回	ATPによる筋収縮実験・酵素実験解説（生物学分野3）遠隔授業3回目	ATPによる筋収縮実験と酵素実験に関する基本的生物学的事項について資料を用いて解説することにより，実験の目的，意義に対する理解を深める。	配布したテキストを読み，解説内容・実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第5回	動物・植物細胞の観察（生物学分野4）対面授業1回目	生物学実験だけでなく，専門科目の実験（解剖生理学，微生物学など）に使用する生物顕微鏡の基本操作を習得する。また，植物細胞や動物細胞の観察によって基本的な細胞構造や，生物体と細胞との関わりを理解する。	第2回で説明したレポートの書き方やスケッチの描き方などを復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第6回	DNAの抽出と定性分析（生物学分野5）対面授業2回目	遺伝情報の担い手であるDNAを実際に細胞から抽出し，定性分析を行い，その実態について理解を深める。	第3回で説明したDNAの構造と機能について復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第7回	ATPによる筋収縮実験（生物学分野６）対面授業3回目	骨格筋を材料として筋肉の収縮現象を実際に観察し，さらにはその生化学的変化の一端の理解を深めることを目的として行う。	第4回のATPについての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第8回	コハク酸脱水素酵素の実験（生物学分野7）遠隔授業4回目	生体内で行われている酵素反応を生体外の比較的簡単な実験系を用いて再現・観察し，酵素の働きについて理解を深める。	第4回の酵素についての解説を復習する。実験前に配布したテキストを読み，実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第9回	化学実験の心得と器具の基本操作（化学分野１）遠隔授業1回目	化学実験を行うにあたり、器具の名前、各器具の操作方法など基本的な知識・技術を習得する。また実験から得られた数値の取り扱い方などを学ぶ。	実験前に化学実験のマニュアル（基礎の部）を読み、実験器具や安全ピペッター、ガスバーナーの使用方法について予習をしておくこと。	60分
第10回	溶液の濃度と密度（化学分野２）遠隔授業2回目	化学実験を行う際の基本的な測定方法と濃度や密度の計算を学ぶ。	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。溶液の濃度について復習しておくこと。	60分
第11回	容量分析（１）中和滴定 基礎編（化学分野3）遠隔授業3回目	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。	60分
第12回	容量分析（2）酸化還元滴定（化学分野4） 遠隔授業4回目	過マンガン酸カリウム水溶液によるオキシドールの酸化還元滴定を行う。酸化還元反応に伴う電子の授受や酸化数の変化に着目し、酸化還元の定義について理解を深める。定量計算法と溶液の取り扱い方を習得する。	実験前に化学実験のマニュアル（実験の部）を読み、実験内容について予習しておくこと。酸化還元反応の講義を行うため、「化学基礎」の酸化反応と還元反応について復習しておくこと。	60分
第13回	溶液の濃度と密度（化学分野5）対面授業1回目	遠隔授業で学んだ手技を踏まえ、塩化ナトリウムを用いて電子天秤による物質量の測定や水溶液の調整法を習得する。また水溶液の濃度と密度の関係や水の密度と温度の関係について考察する。	遠隔授業の溶液の濃度と密度の分野を対面授業前にもう一度予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。	60分
第14回	容量分析	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。	遠隔授業の容量分析（１）中和	60分

	（１）中和滴定 基礎編（化学分野6）対面授業２回目	具体的にはシュウ酸標準溶液で水酸化ナトリウム水溶液を標定する。中和反応の計算方法を実際の実験で得た数値を用い、理解を深める。	滴定の分野を対面授業前にもう一度予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。	
第15回	容量分析（１）中和滴定　実践編（化学分野7）対面授業3回目	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。対面授業2回目で行った標定した水酸化ナトリウム水溶液を用い、食酢中の酢酸の定量を行う。	遠隔授業の容量分析（１）中和滴定の分野を対面授業前にもう一度予習し、実験ノートに実験計画書き、実験概要を把握しておくこと。	60分

学習計画注記	実験内容は，実験材料の入手などの都合によって変更になる場合があります。（生物学分野） 実験内容は,授業実施方法によって変更になる場合があります。（化学分野）
学生へのフィードバック方法	実験時間内に作成した実験サブノート（実験レポート），観察スケッチは次回までに添削する。（生物学分野） 実験終了後に提出したレポート内容の講評・総括を行います。各自提出したレポートの添削内容を確認して下さい。（化学分野）
評価方法	【化学分野・生物学分野共通】化学分野50%、生物学分野50%で評価する。実験科目は出席（実験）しないとレポートが書けないので、欠席・遅刻は厳しい評価になる。この科目は化学分野と生物学分野の両方の基礎的な知識・基本的な実験操作の習得を目的としているため、全15回であるが、どちらかの分野で欠席が多い場合などは、評価が著しく低くなり不可になる可能性がある。専門実験につながる基礎実験なので、実験中の態度なども評価の対象となる。 【化学分野】提出したレポートの合計点と実験態度等の平常点で総合的に評価する。 【生物学分野】毎回，提出する実験サブノートと一部の実験で描くスケッチ，課題を評価対象とする。毎回の実験の提出物・実験態度，実技試験により，総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験サブノート（生物学分野）	○	○	○	○
	実験レポート（化学分野）	○	○	○	○
	実技試験（生物学分野）				○

評価割合	【生物学分野】提出物・出席・実験態度＝50% 【化学分野】実験レポート・出席・実験態度＝50%
使用教科書名(ISBN番号)	教員作成の実験テキストを配付する（両分野）。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・技能】人間，食物そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有す。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題について探求し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して批判的・論理的に思考できる。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持つ。 【技能・表現】健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能の基盤となる基礎的実験技能を身につける。
オフィスアワー	水曜日2限目（沼波） 木曜日2限目（鈴木）
学生へのメッセージ	本実験授業は専門科目の実験授業に必要な基本的な実験手技および理論的思考力を習得することを目標としています。そのため、「化学基礎」と「化学」の基礎的な内容を復習し、授業に臨んでください。（化学分野） 生物学・化学の知識だけでなく，実験を通して，今後，専門科目で必要な実験のリテラシーや理科的な思考を養ってください。（生物学分野）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養情報統計演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　弘之	指定なし
教授	江川　賢一	指定なし
教授	田中　千晶	指定なし

ナンバリング	H21005C12
授業概要(教育目的)	Evidence-Based Nutrition（根拠に基づく栄養学）を実践するためには、まずは各種文献等の情報を有効に活用する必要がある。そのためには情報の取得方法や、統計学の理論に基づいたデータの扱いが必須である。本演習では、インターネットを活用した各種栄養情報の収集方法、さらには統計学の基礎知識を学びながら、統計処理アプリケーションソフトを用いてデータ解析の方法を習得する。特に管理栄養士として扱うことが多い疫学データについて、数値を扱いながら理解を深める。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	確率論的なものの見方を理解し、統計学的推測（推定と検定）の原理と方法を説明できる。
思考・判断の観点（K）	調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	調査や測定により得られた結果を適切に考察し、図表等で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	統計とは（田中弘之）	国の実態をとらえるための「統計」、大量の事象をとらえるための「統計」、確率的事象をとらえるための「統計」、データと情報	各自が思いをめぐらせる統計について調べる。配布プリントにより復習する。	予習25分、復習20分
第2回	統計の基礎1（田中弘	標本調査とは？～調査のしくみと設計～	配付プリントの復習をする。	45分

	之）			
第3回	統計の基礎２（田中弘之）	政府統計を読み取る	配付プリントの復習をする。	45分
第4回	統計用語を知る（田中弘之）	用語と使用例を正確に述べられるようになること。	配付プリントの復習をする。	45分
第5回	各種統計を読み取る。（田中弘之）	統計学以外の統計テストを説く。これまでの内容を整理する。	配付プリントの復習をする。	45分
第6回	統計情報の表現法（田中千晶）	実験、調査などによって得られたデータは、変数（個人や状況に応じて値が変わるもの）についての分布を図にすることで全体を把握することができる。今回は、実際の質的データあるいは量的データを用いて、様々な図の作成方法を修得する。	「ていねいな保健統計学」を用いて、演習で学んだ検定方法の該当箇所を復習すること。	復習45分
第7回	母集団の平均値の区間推定（田中千晶）	ある集団（標本集団）で得られた値から、本来知りたかった集団（母集団）の平均値がどのあたりに存在するか知りたい場合がある。そこで今回は、実際の量的データを用いて、区間推定を理解する。	「ていねいな保健統計学」を用いて、演習で学んだ検定方法の該当箇所を復習すること。	復習45分
第8回	2群の代表値の検定（田中千晶）	ある変数について、異なる集団で値が同様と考えてよいか検討したい場合がある。今回は、2群（グループ）の母平均値が等しいかどうかの検定、対応のある2つの平均値が等しいかどうかに関する検定方法について学ぶ。	「ていねいな保健統計学」を用いて、演習で学んだ検定方法の該当箇所を復習すること。	復習45分
第9回	2変数の相関（田中千晶）	データ解析を行うとき、変数（項目）間の関係を調べたい場合がある。今回は、量的データ同士を表示する方法として、散布図を描き、2つの量的データ間の関連を示す指標である相関係数を求める方法を学ぶ。	「ていねいな保健統計学」を用いて、演習で学んだ検定方法の該当箇所を復習すること。	復習45分
第10回	記述統計のとらえ方（田中千晶）	記述統計は、データが得られた背後の状況を理解した上で解釈する必要がある。そこで対象集団やデータの収集方法、他の変数の影響などを踏まえて、統計情報の見方を学ぶ。	6～10回の演習で学んだ検定方法を復習すること。	復習45分
第11回	栄養疫学入門（江川）	人間集団の栄養摂取、食習慣や食行動と疾病の関連を調査する疫学手法を理解する。	第5章人口統計を予習すること。	復習45分
第12回	人口統計（江川）	人口静態統計、人口動態統計、出生・死亡に関する指標を理解する。人口ピラミッド、生命表からわが国の人口の動向を理解する。	第6章保健統計調査（1 基幹統計）を予習すること。	復習45分
第13回	保健統計（江川）	基幹統計、一般統計調査の方法と内容を理解する。	インターネットで国民健康・栄養調査を入手し、回答すること。	復習45分
第14回	国民健康・栄養調査（江川）	わが国の国民健康・栄養調査の方法と内容を理解する。	第6章保健統計調査（5 情報処理）を予習すること。	復習45分
第15回	疫学と統計学（江川）	栄養疫学に必要な統計学・情報処理の基礎を理解する。	栄養疫学に関する学習事項を復習すること。	復習45分

学生へのフィードバック方法	・提出課題の返却はせず、模範解答を記したプリントを配布するので、各自で復習すること。（田中弘之） ・提出課題の返却はせず、次週の講義で解説する。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する。（田中千晶） ・予想問題は、次週の講義で解説する。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する。（江川）
評価方法	・教室外学習は、提出課題の内容により理解度を評価する。（田中弘之） ・教室外学習は、リアクションペーパーの内容により理解度を評価する。（田中千晶） ・教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価する。（江川）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○			
リアクションペーパー		○		○

評価割合	演習課題（70%）、平常点（リアクションペーパー、30%）（田中千晶） 定期試験（60%）、平常点（提出物を含む。40%）（江川）
使用教科書名(ISBN番号)	（1～5回）プリントを配布。 （6～10回）授業中は配布資料を用いる。授業外学修における復習は、11～15回と同様の教科書を用いる。 （11～15回）ていねいな保健統計学,羊土社（978-4758109727）
参考図書	（11～15回） 国民健康・栄養調査　https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html 身体状況調査票　https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_sinntai.pdf 栄養摂取状況調査票　https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_eiyou.pdf 生活習慣調査票　https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_seikatu.pdf
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】個人から地域コミュニティ、グルーバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【技能・表現】人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能とともに、マネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日15:00～17：30（田中弘之） 水および木曜日昼休み（田中千晶） 木曜日昼休み（江川、G0101研究室）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（田中弘之）内閣府の白書作成や厚生労働省の承認統計（国民健康・栄養調査）の政策主担当をした。 担当教員（田中千晶）は、国立の研究機関および国際共同機関での研究の経験を踏まえて、ヘルスプロモーションに関する基本的なデータ解析法を教授する。 担当教員（江川）は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的としたデータ解析手法を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	教室外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックする。（江川）
情報リテラシー教育	○	白書
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出する。（江川、田中千晶）

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	健康・食発達心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 青木　洋子	指定なし

ナンバリング	G23304C21
授業概要(教育目的)	前半は発達心理学の基本的な知識を学ぶ。後半は、乳幼児期の食の自律の過程を心身発達、社会環境、育児観などと関連付けながら解説する。学習内容を踏まえて、履修者自身が健康な食生活とは何か考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	発達心理学の基本的な用語とその意味を説明できる。乳幼児期の食の自律の過程を説明できる。
思考・判断の観点（K）	講義で学んだ心理学と食発達の知識を元に、ミルクや離乳食の与え方、健康に関する情報の問題点を分析・指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション：授業の進め方・授業で扱うテーマの説明	発達心理学の年齢区分と乳幼児期の口腔発達の概要を知る。	授業の後、発達心理学領域の文献やインターネットを使用し、自分が興味を持ったテーマや用語を調べておく。発達の年齢区分の復習する。	120分
第2回	乳児期の発達心理学	乳児期の感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第3回	幼児期の発	幼児期の認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習す	120分

	達心理学		る。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	
第4回	児童期の発達心理学	児童期の認知発達や社会性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第5回	青年期の発達心理学	青年期を中心に自己同一性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第6回	成人期・老年期の発達心理学	成人期と老年期に変化する心理的側面を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第7回	文化と学習	日本とフランスでは、幼児期のスプーン操作の習得過程が異なることを示した論考を紹介する。同じ技能獲得でも、文化によって差があることを理解する。	日本以外の国の食事について文献やインターネット、映像資料等を用いてどのような点が異なるか調べる。	240分
第8回	大学生の食事調査	参考書『若者たちの食卓』の中から、大学生の食事の実態を紹介する。	日本の食事内容と流通の歴史的変遷について、文献やインターネットを使用して調べる。特に昭和と平成の期間を重点的に調べること。	240分
第9回	保育園での生活と家庭での食事	第10回～第13回の講義内容の理解を深めるために、保育園での生活の流れ、保育園の食事、家庭での食事を映像で確認する。	「授乳・離乳の支援ガイド」の内容を確認しておく。	180分
第10回	新生児期から1歳前後の咀嚼と嚥下の発達	新生児期から1歳前後（離乳後期）の口腔機能の特徴を理解する。	教科書第1章を読んでおく。乳幼児期の食事道具にはどのような種類があるのか文献、インターネット、育児雑誌、店頭等で調べる。	240分
第11回	幼児期の食とコミュニケーション	幼児期の食事道具操作の発達と、食事場面でのコミュニケーションの発達を理解する。	教科書第2章を読んでおく。	120分
第12回	うまく食べるための調理形態・子どもの身体・食事環境	子どもがうまく食べられない要因を、食べ物・子どもの運動発達・食事に用いる道具の観点から理解する。	教科書第3章を読んでおく。ベビー用の食品（ベビーフードや菓子等）にはどのような種類があるか、菓子にはどのような特徴があるか調べる。	240分
第13回	うまく食べるための改善方法・道具と食べやすさ	これまで学習した子どもの摂食行動の特徴を踏まえて、乳幼児の食事の介助のポイントを理解する。	教科書第4章を読んでおくこと。	120分
第14回	母乳育児と人工乳	「授乳・離乳の支援ガイド」の改定で、母乳にアレルギーの予防効果がないことや、母乳のみと混合栄養（母乳と粉ミルクの両方を与えること）を比較しても児の肥満に差がないことが付け加えられた。完全母乳（母乳のみを与えること）を支持する意見と対比させながら、母乳と粉ミルクそれぞれの利点・欠点を理解する。	完全母乳（完母）・混合栄養・粉ミルクのみの育児スタイルの違いを調べて区別できるようにする。液体ミルクの発売経緯を調べる。	240分
第15回	まとめ	前半の発達心理学と、後半の乳幼児期の口腔機能の発達を復習し、理解を深める。	配布物と教科書を読み返し、これまでの講義の内容を総復習する。	300分

学習計画注記	授業内容及びスケジュールに変更が生じる場合には、事前に授業やGoogle Classroomで告知する。
学生へのフィードバック方法	他の履修者と考えを共有するために、小レポートの内容を講義で紹介する。
評価方法	(1)学期末にレポート作成を課す。 (2)（1）とは別に、講義中に小レポートを2回実施する。小レポートの評価は得点化（1回あたり最大10点）し、学期末レポートの得点に加算する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	期末レポート	○	○		
	小レポート	○	○		

評価割合	期末レポート80%、小レポート20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	山崎祥子（2015）そしゃくと嚥下の発達がわかる本 芽ばえ社　ISBN　9784895793773
参考図書	藤村宣之編著　(2009)　発達心理学一周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか一　ミネルヴァ書房　ISBN 9784623084630 外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎編著　(2017) 若者たちの食卓　ナカニシヤ出版　ISBN　9784779511424 根ケ山光一・外山紀子・河原紀子編（2013）子どもと食一食育を超える　東京大学出版会　ISBN 9784130513234 その他、必要に応じて講義で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児期の食の自律に関して専門的知識を身に付ける。 【思考・判断】食に関する情報を文化、社会構造、心理、栄養学等と関連付けて、正確な判断ができる思考を身に付ける。
学生へのメッセージ	食は健康に直結しますが、その良し悪しの判断は栄養面だけでなく、文化、社会、そしてヒトの心理などが影響しています。つまり、たった一つの「正解」があるのではなく、多様な解が存在します。本講義を通して、自分にとって望ましい食はどのようなものか、何の影響を強く受けているか掘り下げて考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会福祉学概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口　守	指定なし
教授	嶋田　芳男	指定なし
非常勤講師	尾谷　健	指定なし

ナンバリング	H32107C21
授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史とその変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。 社会保障を理解し、社会保障における社会保険（年金、医療、介護、労働など）また社会福祉について体系的に理解する。 授業方法は、大学からの指示に従う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	社会福祉やソーシャルワークが理解できる　また現代社会の生活問題とその解消や軽減を図るそ福祉６法との関係が説明できる
思考・判断の観点（K）	社会保障の体系を理解し、この中における社会福祉の位置を構造化できる
関心・意欲・態度の観点（V）	現代社会の生活問題に積極的に関心を持ち、ボタンティア活動などの実践場にも主体的に参画できる
技術・表現の観点（A）	学修したソーシャルワークの方法をもとに、実際の事例に対しての支援の在り方をグループワークを通じて展開できる技術を有する

学習計画

現代社会における社会福祉の意味と意義を考える

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	１２０分

第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	24０
第3回	❶人は一人で生きられるか　人を他者の顔色を見続けて生きるのか ❷社会保障とは何か 社会保障と社会福祉は何が違いか。社会保障を体系的に理解する	❶アッシュの実験　ホーソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」 ❷社会保障は、セーフティネットと言われるがその意味は？社会福祉は社会保障の中でどのような立場かを考える	◎一人は好き？　一人ぼっちは好き？　◎人と「共に」生きるのは好き？ こんなことを考えてみて？ YOUTUBEでアッシュの実験と社会保障について調べておく	24０分
第4回	社会福祉の歴史 社会福祉の歴史❶　イギリスの発達史	中世から救貧法までを学ぶ　なぜ「救貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ	世界史の教科書で中世の出来事をおさえておく　特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する	24０
第5回	障害福祉を学ぶ	障がい者総合支援法　ICFの概念を学ぶ	身体障害　知的障害　精神障害について学び、その３障害の支援を学ぶ　ICFと支援の関係を学ぶ	24０
第6回	地域福祉を学ぶ	地域福祉の概念を理解する	地域の福祉問題を身近な事例から考えておく	24０
第7回	ソーシャルワークを学ぶ❶	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	24０分
第8回	ソーシャルワークを学ぶ❶	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	24０分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ❷	方法の学び❶　ケースワーク　グループワーク	バイスティックの原則を勉強しておく	24０
第10回	ソーシャルワークを学ぶ❷	方法の学び❶　ケースワーク　グループワーク	バイスティックの原則を勉強しておく	24０
第11回	児童福祉❶	現代の課題　虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	240
第12回	児童福祉❶	現代の課題　虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	240
第13回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから学んでおく	240
第14回	介護保険を学ぶ❶	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険を知っておく	240
第15回	外部講師の講演	社会福祉の現場を理解する	職種間連携を調べる	１２０

学習計画注記	外部施設への見学もあり（感染状況を踏まえて）
学生へのフィードバック方法	提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション
評価方法	❶中間試験 ❷実務家講演のコメント ❸学期末試験 ❹平常点

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○		○	

	コメント			○	
	学期末試験	○			
	平常点			○	

評価割合	❶中間試験　３０％ ❹平常点　１０％ ❷コメント　２０％ ❸学期末試験４０％ ❹その他　平常点　１０％
使用教科書名(ISBN番号)	別途指示
参考図書	別途指示
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・多面的なカリキュラムの履修により、人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。・管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。（ソーシャルワークの方法を学び、他者へのコミットメントの方法やコミュニケーションを高めることを通じて自己理解や他者への共感力を高める）。 【思考・判断】 生・学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。（生活問題の構造を理解し、職との連携を講じながら問題解決のプライオリティを考えることができる） 【関心・意欲・態度】 職の専門家とのコラボや連携のをするための傾聴力や共感性を高めることができる 【技術・表現】 ・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間生活の質をためるための他者とのｌコミュニケーションできる力や、自らを表現できるプレゼンテーション力を高めるとともに、「聴く力」を育ていくことができる 【技術・表現】 体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている　社会福祉の視点から「孤食」「共食」の意味を学び、生活の質を高めるための連携や協働としての支援の方法を考えることができる
オフィスアワー	毎週月曜日２時限
学生へのメッセージ	現代社会の負の問題（痛み）と社会福祉との関連を考えながら授業を作っていきましょう。こんなに豊かな日本ですが、今も生活問題に苦しむ人は多くいます。またコロナ禍は社会の分断を広げ、深め、この中で児童虐待や配偶者へのDVも深刻です。また自殺者数も若い女性の増加率が高くなっています。このような問題に関心を向けて、同じ人間として、私に何ができるのかを絶えず自分自身に問うていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かに配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	公衆衛生学Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　千晶	指定なし

ナンバリング	H22102C21
授業概要(教育目的)	公衆衛生とは、組織的な社会努力を通して集団の健康を改善することであり、疾病の予防を目的とし、かつ健康の保持増進を図る技術である。本講義では、人の健康に影響を及ぼす社会と環境の関わりについて、健康の概念をはじめ広範囲にわたる分野（保健・医療・福祉・介護システム、健康問題の現状と健康づくり施策など）を学ぶ。集団全体の健康問題を評価でき、予防医学上の課題を自らとらえ解決していくことができる管理栄養士を養成することを目標とする。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人の健康に影響を及ぼす社会と環境の関わりについて、健康の概念、公衆衛生の歴史、健康を維持・管理するための基本的な社会制度や現状等について学修し課題を発見する。
思考・判断の観点（K）	集団全体の健康問題を評価できるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	集団全体の健康問題を、予防医学上の課題を自らとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点（A）	人の健康と社会・環境との関係について公衆衛生指標などを利用し表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学Ⅰ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	健康と公衆衛生1	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、健康の概念	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第2回	健康と公衆衛生2	公衆衛生の概念（プライマリヘルスケア，ヘルスプロモーション，一次・二次・三次予防）	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第3回	保健統計1	保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計	本日の講義と教科書の該当箇所	180分

			を用いて復習する。	
第4回	保健統計2	傷病統計による主な疾病の現状と動向などの、死因分類と死因統計、生命表、疾病統計等の概要	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第5回	疫学とは	疫学の概念、疫学指標、疫学研究の方法	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第6回	根拠に基づいた保健対策と研究倫理	根拠に基づいた保健対策、疫学研究と倫理	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第7回	生活習慣の現状と健康1	生活習慣病の概念、身体活動、運動、喫煙行動、飲酒行動などの生活習慣の現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第8回	生活習慣の現状と健康2	休養指針、ストレスと健康	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第9回	健康日本21	健康日本21の概要	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第10回	主要疾患の疫学	悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患、骨、関節疾患、ロコモティブシンドローム、その他慢性疾患に関する死亡状況	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第11回	主要疾患の疫学と予防対策	悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患、骨、関節疾患、ロコモティブシンドローム、その他慢性疾患に関する予防対策	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第12回	環境と健康	生態系の中の人間生活、環境汚染と健康影響、環境衛生	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第13回	感染症	主要感染症	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第14回	感染症の予防	感染症に関する法律、予防接種	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第15回	公衆衛生学のまとめ	第１～14回までのまとめ	教科書と第14回までのノートを用いて、全体の復習を行う。	180分

学習計画注記	学習の進度により、学習内容を調整します。
学生へのフィードバック方法	質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。
評価方法	期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末試験	○	○		
	平常点		○	○	○

評価割合	期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	中村信也(著/文). 公衆衛生学　2020／2021 第十一版, 同文書院, ISBN9784810314977
参考図書	特に無し。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人々の健康の維持・増進と社会および環境を関連付けながら「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける 【思考・判断】 特に地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける 【関心・意欲・態度】 「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている 【技術・表現】

	人の健康と社会・環境との相互関係に基づく公衆衛生上の専門的技能と、他職種とのコミュニケーションやマネジメント、プレゼンテーション力などを身につける
オフィスアワー	水および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。
学生へのメッセージ	私達が健康の維持・増進をする上で、社会や環境は深く関わっています。著しく変化する社会や環境の動向に目を向け、社会の制度や環境対策など、社会に出てからも役立つ知識を身につけ、活用できるように学修しましょう。また、「管理栄養士国家試験の出題基準（ガイドライン）」では、「公衆衛生学」が「社会・環境と健康」の内容として出題されています。本科目を通じて、準備をしていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用		Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	公衆衛生学Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　千晶	指定なし

ナンバリング	H22102C21
授業概要(教育目的)	本講義では、公衆衛生学Ⅰで学修した事を基礎に、理念レベル、統計レベル、政策･指標レベル（健康日本21）の公衆衛生学を統合的に学ぶことを目的とする。健康日本21の概要、それを実現するために必要なわが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解することを目的とする。
履修条件	公衆衛生学I

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	現実社会における健康問題を社会がどのように解決しようとしているのかを説明できるようになる
思考・判断の観点（K）	人々の健康状態に違いが生じる原因を追究するための方法論を判断できるようになる
関心・意欲・態度の観点（V）	集団全体の健康問題を、予防医学上の課題を自らとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点（A）	人の健康と社会・環境との関係について、政府統計をはじめとする各種統計などの情報を収集・利用し、適切に解釈し、表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	地域保健	地域保健活動の目的および現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第2回	母子保健	母子保健の目的および現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分

第3回	学校保健	学校保健の目的および現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第4回	成人保健	成人保健の目的および現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第5回	産業保健	産業保健の目的および現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第6回	精神保健	精神保健の目的および現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第7回	社会保障	社会保障の概念、栄養関連法規	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第8回	医療保険制度	医療保険制度の概要、データヘルス計画	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第9回	福祉制度	福祉制度の概要	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第10回	高齢者保健	高齢者保健の目的および現状と課題	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第11回	介護保険制度	介護保険制度の概要	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第12回	国際保健	国際保健の意義、国際的な健康問題、国際協力と国際機関の役割	本日の講義と教科書の該当箇所を用いて復習する。	180分
第13回	身体活動の地域間比較1	身体活動のレポートカードに関する解説と、身体活動の都道府県差と関連する要因の探索	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる（公衆衛生学実習教科書第7章） 180分	180分
第14回	身体活動の地域間比較2	身体活動の都道府県差と関連する要因に関する発表（グループ毎、全体）	身体活動と関連のありそうな様々な都道府県単位の統計結果を調べる	180分
第15回	公衆衛生学2のまとめ	第1～14回のまとめ	教科書と第14回までの講義ノートを用いて、全体の復習を行う	180分

学習計画注記	学習の進度により、学習内容を調整します。
学生へのフィードバック方法	質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。
評価方法	期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	期末試験	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	期末試験(80%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	公衆衛生学Ⅰの教科書（中村信也(著/文). 公衆衛生学　2020／2021 第十一版, 同文書院, ISBN9784810314977）および公衆衛生学実習の教科書（田中千晶: 基礎から学ぶ発育発達のための身体活動～元気な子どもを育む確かな根拠～. 2019,杏林書院. ISBN：978-4-7644-1205-7）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人々の健康状態に違いが生じる原因を追究するための方法論を説明できるようになる 【思考・判断】 現実社会における健康問題を社会がどのように解決しようとしているのかを判断できる力を身につける 【関心・意欲・態度】 「人間の健康と環境」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている 【技術・表現】 人の健康と社会・環境との相互関係について政府統計などを利用し、プレゼンテーションできる力などを身につける
オフィスアワー	木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。
学生へのメッセージ	公衆衛生学Ⅰで学修したことを基礎として、具体的なテーマ設定に基づいてその展開を試みることによって、知

	識がより確実なものとなり、かつ応用可能な能力となることを目指します。ディスカッションの中で常に応用を念頭に置いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング		グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索。
ICT活用		Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	公衆衛生学実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　千晶	指定なし

ナンバリング	H22103C13
授業概要(教育目的)	本科目では、「公衆衛生学Ｉ」で学んだ基礎知識を用いて、地域社会の公衆衛生学的課題の解決に取り組むことができるようにする。政府統計や環境測定などの公衆衛生学に関連する調査・測定法の習得、調査・測定法の留意点、および評価法について学ぶ。
履修条件	公衆衛生学I

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	地域社会の公衆衛生学的課題を解決するための、公衆衛生学に関連する調査・測定法を説明できる。
思考・判断の観点（K）	政府統計や環境測定機器等から得られた結果を評価できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。
技術・表現の観点（A）	人の健康と社会・環境との関係について政府統計や環境測定機器、各種情報などを利用し表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	健康と公衆衛生学実習	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、測定と評価とは、成人・高齢者における適正体重の測定法と留意点および評価法（測定値の妥当性と信頼性、スクリーニング）	授業前に公衆衛生学Ｉで使用した教科書を用いて「一次予防、二次予防、三次予防」および「スクリーニング」について復習してくること	45
第2回	成人・高齢	形態（身体組成、周径囲）測定の妥当性と再現性の実	授業前にキャリパーを用いた皮	45

	者の健康1	際、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表	下脂肪厚および腹囲の測定法を復習してくること	
第3回	成人・高齢者の健康2	体力（機能）の測定法と留意点および加齢変化、性差	授業前に教科書第3章の該当箇所を予習すること	45
第4回	母子の健康	発育の測定法と留意点および評価法（SDスコア、パーセンタイル法）、環境と発育発達	授業前に教科書第3章の該当箇所を予習すること	45
第5回	身体活動ガイドライン	身体活動指針（アクティブガイド、幼児期運動指針）、体力の基準と測定評価の留意点	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること	45
第6回	身体活動・運動1	身体活動の定量法（身体活動と運動の定義、二重標識水法、要因加算法、歩数計法）と留意点、食事摂取基準の活用の理論	授業で学修した要因加算法と歩数を次回の授業まで測定してくること、教科書第1章，第2章の該当箇所を復習すること	45
第7回	身体活動・運動2	身体活動量の定量法（要因加算法、加速度計法、歩数計法）とその実際	授業後に教科書第5章，第6章の該当箇所を復習すること	45
第8回	身体活動・運動3	座位行動の定義、健康日本21の数値目標、政府統計を用いたグループワークと発表	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること	45
第9回	身体活動・運動4	運動の定量法（心拍数法、歩数計法、活動記録法）とその実際	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること、授業後に教科書第2章の該当箇所を復習すること	45
第10回	環境と健康1	室内・室外環境の測定	授業前に、新聞などを用いて、環境汚染が健康に及ぼす影響について調べてくること	45
第11回	環境と健康2	室内・室外環境の測定結果に関する発表	授業前にグループワーク発表内容をまとめてくること	45
第12回	こころの健康と休養	ストレスチェック、睡眠の評価	授業前に、新聞などを用いて、ストレスや睡眠に関する現代人の課題について調べてくること	45
第13回	環境問題と保健政策1	環境問題や保健制度に関する諸問題を一つ取り上げ、グループワークを実施する	授業前に関連するニュース等で、現代の課題や国・自治体の政策について調べてくること	45
第14回	環境問題と保健政策2	環境問題や保健制度に関する諸問題を一つ取り上げ、グループワークを実施する	授業前に健康に関わる国・自治体の政策について調べてくること	45
第15回	環境問題と保健政策3・まとめ	環境問題や保健制度に関する諸問題に関する発表、第1～14回のまとめ	授業前に教科書と第14回までのノートを用いて、全体の復習を行うこと	45

学習計画注記	学習の進度により、学習内容を調整します。
学生へのフィードバック方法	質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。
評価方法	プレゼンテーション(50%)、レポート(30%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	プレゼンテーション	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	平常点		○	○	

評価割合	プレゼンテーション(50%)、レポート(30%)、平常点（リアクションペーパーの提出20%）から総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	田中千晶: 基礎から学ぶ発育発達のための身体活動～元気な子どもを育む確かな根拠～. 2019,杏林書院. ISBN：978-4-7644-1205-7
参考図書	公衆衛生学Ｉで使用した教科書（中村信也(著/文). 公衆衛生学　2020／2021 第十一版, 同文書院, ISBN:

	9784810314977)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会の基盤となる健康とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解する方法論を説明できるようになる。 【思考・判断】 現実社会における健康問題を判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度】 子どもから高齢者まで幅広い年齢層の「人間の健康と環境」に関心を持ち、集団全体の健康問題を、他者と協力してとらえ解決できるようになる。 【技術・表現】 人の健康と社会・環境との関係に関する各種調査や測定機器などを利用できる技術を習得する。
オフィスアワー	木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。
学生へのメッセージ	公衆衛生学Ｉで学修したことを基礎として、健康に関連する課題を検討するために、社会で用いられている調査/測定法および評価法の習得を目指します。統計を用いながら、調査法・測定法の留意点についても学修します。グループワークによるディスカッションの中での積極的な学びの態度を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索を行う。
ICT活用	○	Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	疫学・社会調査法		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　千晶	指定なし

ナンバリング	H02014031
授業概要(教育目的)	人々の健康とQOLの向上に重要な役割を果たす上で、健康の規定要因を測定・評価し、健康の増進や疾病の予防に役立てる疫学的な考え方は重要である。本科目では、社会の健康課題に関する情報を理解する上で必要な疫学および社会調査法の基本的な概念や方法について学修する。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	統計学の基本的概念及び方法、疫学の方法、統計的推定・検定の考え方と方法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	健康の規定要因を測定・評価し、健康の増進や疾病の予防に役立てる疫学的な考え方を身に付ける。
関心・意欲・態度の観点（V）	グループワークを通じて、社会調査の基礎事項を理解し、集団全体の健康問題を解決できるようになる。
技術・表現の観点（A）	集団全体の健康問題を、保健統計や疫学データなどを利用し表現できるようになる。

学習計画

疫学・社会調査法

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	疫学・社会調査法とは	授業受講にあたり、注意点、評価方法の説明、疫学・社会調査法の概念	高木兼弘が実施した調査を事前に調べてくること。	180
第2回	保健統計	頻度（割合、率、比）の比較、事例をもとに罹患率、有病率、生命表の求め方を学ぶ。	授業で学んだ検定方法に関して、栄養情報統計演習で使用し	180

			た教科書を用いて復習すること。	
第3回	エビデンスに基づいた医療および保健対策	疫学研究のデザイン（横断研究、コホート研究、症例対照研究、ランダム化比較試験、システマティックレビュー）について学び、エビデンスレベルを理解する。事例をもとにクロス集計、リスク比、オッズ比について計算問題を解き、計算方法について理解する。	授業で学んだ検定方法に関して、栄養情報統計演習で使用した教科書を用いて復習すること。	180
第4回	スクリーニング	スクリーニングの目的と適用条件について内容を理解する。スクリーニングの精度（敏感度、特異度）、陽性反応的中度、ROC曲線について計算を行いながら理解を深める。	授業で学んだ検定方法に関して、栄養情報統計演習で使用した教科書を用いて復習すること。	180
第5回	疫学研究と倫理	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針	授業で学んだ研究倫理に関して、公衆衛生学1で使用した教科書を用いて復習すること。	180
第6回	社会調査の方法	調査用紙の作り方、各班で調査テーマの決定、先行研究の調べ方。	調査テーマを次回の授業までに、確定すること。	180
第7回	調査用紙の作成	アンケートを作成する、調査テーマに関係する先行研究を調べる。	調査用紙を作成し、次回の授業で配布できるように準備すること。	180
第8回	調査用紙の実際	アンケートを配布し、実施・回収を行う、調査テーマに関係する先行研究をまとめる。	次回の授業までに、データ入力を完了すること。	180
第9回	調査の集計	アンケートの単純集計を行う。	次回の授業までに、単純集計を完成させること。	180
第10回	調査結果の発表準備①	各班のアンケート結果について、これまでの授業で学んだ統計法を用いて分析する。	次回の授業までに、統計分析を完成させること。	180
第11回	調査結果の発表準備②	各班のアンケート結果をパワーポイントで作成し、発表に備える。	次回の授業までに、プレゼンテーション資料を作成すること。	180
第12回	調査結果の発表準備③	各班で作成したパワーポイントを用いて、各班で発表練習を行い、改善をする。	プレゼンテーション資料の発表の練習をすること。	180
第13回	調査結果の発表①	アンケートの集計および解析結果について、パワーポイントを用いて発表および質疑応答を行う。	各班の発表内容の要約および意見を提出すること。	180
第14回	調査結果の発表②	アンケートの集計および解析結果について、パワーポイントを用いて発表および質疑応答を行う。	各班の発表内容の要約および意見を提出すること。	180
第15回	調査結果の発表③	アンケートの集計および解析結果について、パワーポイントを用いて発表および質疑応答を行う。	各班の発表内容の要約および意見を提出すること。	180

学習計画注記	学習の進度により、学習内容を調整します。
学生へのフィードバック方法	質問等は、リアクションペーパーの使用あるいは対面にて対応します。
評価方法	管理栄養士国家試験の対策のために、疫学に関する試験（20%）を行います。また、社会調査を実施し、グループによるプレゼンテーションと課題提出を行います（75%）。毎回の授業のリアクションペーパーの提出状況も考慮します（平常点：5%）。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験	○	○	○	○
	プレゼンテーション/課題	○	○	○	○
	平常点		○	○	

評価割合	試験（20%）、プレゼンテーションと課題提出（75%）、リアクションペーパーの提出状況（平常点：5%）から総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	公衆衛生学Ｉで使用した教科書
参考図書	特に無し。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】

	疫学的手法を用いて、人々の健康の維持・増進と社会および環境を関連付けながら「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】 保健統計や疫学データから、食・栄養・健康に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度】 集団全体の健康問題に関心を持ち、管理栄養士として実践しようとする意思を身につける。 【技術・表現】 社会調査から得た結果について、疫学で学んだ統計手法を用いて分析する。そして、他者に伝えるプレゼンテーション力を身につける。
オフィスアワー	水および木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。
学生へのメッセージ	現在社会では、人々の健康に関連する多数の調査結果や研究結果が公表されています。これらの情報を多角的に観察し、解釈できるように、現在も社会に出てからも役立つ知識を身につけ、実際に他者に伝えることができるように表現方法について学修しましょう。また、「管理栄養士国家試験の出題基準（ガイドライン）」では、「社会・環境と健康」の内容として本科目で扱う内容が出題されています。本科目を通じて、準備をしていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットを用いた健康関連情報の検索を行う。
ICT活用	○	Google formを用いたリアクションペーパー提出を実施する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	解剖生理学Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 内田　敬子	指定なし
非常勤講師	阿部　清美	指定なし
非常勤講師	鳴海　覚志	指定なし
非常勤講師	奥野　博庸	指定なし
非常勤講師	城田（井上）　華	指定なし
非常勤講師	友岡　領	指定なし

授業概要(教育目的)	「解剖学」は体の「構造」を、「生理学」は体の「機能」を学ぶ学問です。 「解剖生理学」は、「解剖学」と「生理学」を統合・簡略した科目で、人体栄養学の基礎となります。 「解剖生理学Ⅰ」の講義の教育目的は、管理栄養士が基礎知識として持つべき、正常（健康）な人体の構造を学習することです。「解剖生理学Ⅰ」で身につけた人体の構造に関する知識は、「解剖生理学Ⅱ」で扱う人体の機能ならびに「臨床栄養学」で扱う疾患の理解に繋がります。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 人間の解剖学的構造が理解できる。 2. 細胞、組織、器官の部位や名称を記憶している。 3. 器官系ごとに主な機能が理解できる。
思考・判断の観点（K）	1. 人体解剖学の知識を入手する方法が身についている。 2. 解剖学的知識を応用して細胞、組織、器官の機能について推察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 健康の源であり、適切な栄養によって育まれ維持されている身体に対して関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身につけている。
技術・表現の観点（A）	1. 人体解剖学を理解し、適切な解剖学的用語を用いて人体の構造の説明ができる。

学習計画

解剖生理学Ⅰ（人体の正常な構造と機能）

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション、人体概観、細胞と組織	全15回の概要と担当者を紹介する。第1回目として、人体の区分や部位の用語を理解し、身体を形成している細胞と組織の構造や機能を学ぶ。特に、細胞小器官の種類と特徴について学習する。4月11日（月）4限に実施する。	教科書の第1,2章（1-28ページ）を読んでおくこと。	180分
第2回	遺伝と遺伝子	遺伝子の本体はDNAとはどんなものか、遺伝情報を維持するためにどのような仕組みが備わっているのか、遺伝の仕組みにはどのようなものがあるかを理解する。4月21日（木）4限に実施する。	教科書の第2章のⅡ（12-16ページ）を読んでおくこと。	180分
第3回	骨格系・筋系の構造と機能	姿勢や運動を可能にする骨格系と筋系の解剖と機能を理解し、主な骨と筋の名称を記憶する。5月12日（木）4限に実施する。	教科書の第3, 4章（29-72ページ）を読んでおくこと。	180分
第4回	血液の構造と機能	血球・血漿の構成と各々の主な機能を学ぶ。ヘモグロビンの分解と処理、止血と血液凝固、血液型について理解する。5月12日（木）5限に実施する。	教科書、第4章（73-84）を読んでおくこと。	180分
第5回	免疫系の構造と機能、アレルギー	免疫をつかさどる細胞、組織、器官を知り、自然免疫と獲得免疫、細胞性免疫と液性免疫を理解する。5月19日（木）4限に実施する。	教科書の第5章 Ⅵ-Ⅷ（84-102ページ）を読んでおくこと。	180分
第6回	消化器系の構造と機能	消化器系を構成する、消化管、肝胆膵の構造を学び、栄養分の消化と吸収を理解する。5月19日（木）5限に実施する。	教科書の第8章（157-188ページ）を読んでおくこと。	180分
第7回	循環器系（心臓）の構造と機能	循環器系のうち心臓と心臓を栄養する冠動脈の構造と主な機能を理解する。心臓が周期的に拍動する仕組みについて学ぶ。5月26日（木）4限に実施する。	教科書の第6章 Ⅰ-Ⅱ（103-112ページ）を読んでおくこと。	180分
第8回	内分泌系の構造と機能	内分泌線の構成と各部位の名称を学ぶ。さらに各々から分泌されるホルモンの種類と主な働きを理解する。6月9日（木）4限に実施する。	教科書の第7章（133-156ページ）を読んでおくこと。	180分
第9回	代謝系の構造と機能	糖質、タンパク質、脂質のエネルギー代謝の仕組みを理解する。特に血糖値を一定に保つ仕組みについて学ぶ。6月16日（木）4限に実施する。	教科書の第7章 Ⅵ（152-154ページ）を読んでおくこと。	180分
第10回	循環器系（血管・リンパ管）の構造と機能	循環器系のうち、血液やリンパ液の輸送路である血管とリンパ管の解剖と血圧をはじめとする主な機能を理解し、各部位の名称を学ぶ。6月23日（木）4限に実施する。	教科書の第6章 Ⅲ-Ⅴ（112-132ページ）を読んでおくこと。	180分
第11回	腎・泌尿器系の構造と機能	腎・泌尿器系の解剖学的特徴と尿生成をはじめとする主な機能を理解し、各部位の名称を学ぶ。6月23日（木）5限に実施する。	教科書の第10章 Ⅰ-Ⅴ （217-240ページ）を読んでおくこと。	180分
第12回	呼吸器系の構造と機能	呼吸器系の構造とガス交換をはじめとする主な機能を理解し、各部位の名称を学ぶ。6月30日（木）4限に実施する。	教科書の第9章 （189-216ページ）を読んでおくこと。	180分
第13回	神経系の構造と機能	神経系の分類や構造、主な機能を理解し、各部位の名称を学ぶ。6月30日（木）5限に実施する。	教科書の第12章 Ⅰ-Ⅺ （269-300ページ）を読んでおくこと。	180分
第14回	皮膚と感覚器系の構造と機能	皮膚や様々な感覚器の構造と主な機能を理解し、各部位の名称を学ぶ。7月14日（木）4限に実施する。	教科書の第13章 Ⅰ-Ⅶ（301-326ページ）を読んでおくこと。	180分
第15回	生殖器系の構造と機能、全体の総括	生殖器系の構造と主な機能を理解し、各部位の名称を学ぶ。 第1回から15回までに学んだ内容を再度見直し、知識を確実なものにする。質問を受け付ける。7月28日（木）4限に実施する。	第1回から第14回までに学んだ内容を復習し、再度教科書も読んでおくこと。	480分

学習計画注記	授業の進行度合いによって講義スケジュールが変更される場合があります。
学生へのフィードバック方法	複数の講師によるオムニバス形式で講義を行います。 パワーポイントによる写真などの提示も併用します。 知識を確実にするため、総括の授業も予定しています。 *新型コロナウイルス感染症の流行状況によって、遠隔授業に変更になる場合があります。
評価方法	定期試験の成績で100%評価します。 学習態度が悪い場合には、程度に応じて定期試験成績から減点します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期テスト	○			
	授業中の学習態度			○	

評価割合	定期試験100%で評価する。 15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると受験資格を失います。
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト（第4版）/岩堀修明/文光堂/2016年 (978-4-8306-0040-1)
参考図書	ぜんぶわかる人体解剖図/坂井健雄、橋本尚詩著/成美堂出版/2021年/ISBN978-4-415-30619-3
ディプロマポリシーとの関連	本講義は、ディプローマポリシーの「知識・理解」に直結した内容である。本講義を受講することによって、解剖学的用語が身につけば、他職種との専門用語を用いたコミュニケーションが可能となり、ディプローマポリシーの「技能・表現」にも関連している。
オフィスアワー	木曜日講義後。
学生へのメッセージ	人体の主な部位や細胞・組織・器官の名称を記憶することは、人間を理解する上での基礎となります。器官系ごとに主な働きと一緒に構造と名称をしっかり学んでいきましょう。折に触れて予習復習し、学習した知識を自分のものにして下さい。 この科目を学習すれば、正常な身体の働きについて理解が深まり、栄養と健康に関する様々な事柄が理解しやすくなるでしょう。解剖学的用語は、栄養や健康に関わる他の職種の人たちとのコミュニケーションに欠かせません。 人体は、非常に目的にあった構造をしています。自らの体を振り返り、楽しみながら勉強してゆきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医師または医学部教員であり、臨床栄養や応用栄養の領域における解剖学と生理学の知識の重要性を臨場感をもって教授することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	解剖生理学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤　恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ「人体の構造と機能」を、器官系別に可能な限り実体験することで理解を深める。さらに、臨床栄養の現場で、医療チームの一員として疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎を体験的に習得する。
履修条件	解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	解剖生理学I,IIで学んだ、人体の主な組織、器官、器官系の名称と働きを説明できる。
思考・判断の観点（K）	実習で得られたデータを、正しく解釈できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	人体の構造や機能に興味をもって、意欲的に実習に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	データに基づいて、考察を行い、結果の発表または実習レポートにまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 実習予定と注意事項、レポートの記載法	実習班の構成や出欠に関するルール、レポート提出期限、実習の評価方法を理解する。 病歴の取り方を学習し、実習を安全の施行するための問診票を完成させる。	実習レポートの作成法に関して、リテラシー教育で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第2回	身体計測と栄養状態の評価	体表解剖学で用いられる、主な計測点の部位や名称を理解する。 正しい身長、体重、ウエスト周囲長、上腕周囲長、皮下脂肪厚の測定法を学び、BMIや体脂肪率、上腕筋面積を算出する。	配布資料に目を通しておくこと。	120分
第3回	運動器系の解剖生理：	運動器健診の項目を実際に体験して、運動器の状態の評価法を学ぶ。	ロコモティブシントロームやサルコペニア、フレイルについ	120分

	徒手筋力検査など		て、配布資料に目を通しておくこと。	
第4回	神経系の解剖生理：疲労やストレスの評価など	認知機能検査や主な感情の評価方法を体験する。 膝蓋腱反射やアキレス腱反射の出し方を学ぶ。	配布資料に目を通しておくこと。	120分
第5回	循環器系（1）：診察法、臨床症候と血圧	循環器疾患患者に認められる臨床症候を理解する。 脈の触診、心音の聴取、血圧測定法を学び、結果の解釈について理解する。	配布資料に目を通しておくこと。	120分
第6回	循環器系（2）：心電図	安静時、運動負荷心電図を解釈する。 体位による心電図の変化を理解する。	配布資料に目を通しておくこと。	120分
第7回	呼吸器系の解剖生理：呼吸機能検査など	呼吸モデルを用いて、呼吸運動を理解する。 呼吸機能検査の方法や結果の解釈について学習する。	配布資料に目を通しておくこと。	120分
第8回	腎・泌尿器系の解剖生理：尿検査など	試験紙法を用いた尿一般検査を行い検査の仕組みや結果の解釈を学習する。	配布資料に目を通しておくこと。	120分
第9回	アレルギー疾患、アナフィラキシーショックへの対応	アナフィラキシーショックへの対応法を学習する。	解剖生理学I,IIで使用した教科書や資料で、アレルギーについて復習しておくこと。	120分
第10回	消化器系の解剖生理と感染予防：嚥下機能の評価など	口腔内の観察、様々な嚥下評価法を体験する。 経口感染予防のために、標準予防策について学習し、正しい手洗い法を実習で身につける。	解剖生理学I, IIで使用した教科書の、嚥下、咀嚼の部分を復習しておくこと。	120分
第11回	内分泌系の解剖生理：経口糖負荷試験	経口ブドウ糖負荷試験の方法、負荷後の血糖反応を評価して、糖尿病の診断について理解を深める。	配布資料に目を通しておくこと。	120分
第12回	一次救命処置, AEDの使い方	一次救命処置とAEDの使い方を学習する。	書籍やweb等で、一次救命処置について予習しておくこと。	120分
第13回	細胞・組織学（1）：顕微鏡の使い方、組織を顕微鏡で観察	明視野顕微鏡の使用法を学習する。 顕微鏡で撮影した、筋肉、軟骨、消化管の組織の写真をもとにして、組織の特徴がわかるようにスケッチする。	観察予定の臓器について復習しておくこと。	120分
第14回	細胞・組織学（2）：主な臓器の組織を顕微鏡で観察	肝臓、腎臓、膵臓、精巣、肺の組織の写真をもとにして、組織の特徴がわかるようにスケッチする。	観察予定の臓器について復習しておくこと。	120分
第15回	総まとめ	1から14回までの実習で扱った項目のうち、特に重要な項目に関する理解度を確認する。	1から14回で学習した解剖生理学I, IIで使用した教科書の部分を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	新型コロナウイルス感染症の流行状況や履修者の状況により、授業形態や内容の変更が生じる可能性があります。
学生へのフィードバック方法	質問等は、授業内で適宜対応します。 さらに質問や問い合わせがある場合には、Google Classroom、メール、研究室訪問等で対応します。
評価方法	各回の実習レポートの内容と、出欠状況、実習態度を評価対象とします。 実習レポートを予定された実習の3分の2以上未提出の場合は、合格点未満になります。実習態度が悪い場合は、程度に応じて減点の対象となります。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	実習レポート	○	○	○	○
	実習態度			○	

評価割合	受講票（実習態度含む）50%、レポート50%　（実習態度が良好でもレポートの提出がないと合格点に達しません。必ずレポートを提出すること。） 6回以上欠席すると「不可」の評価になります。
使用教科書名(ISBN番号)	資料を配布します。
参考図書	解剖生理学Ⅰ，Ⅱで使用した教科書や資料も参考にしてください。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。 【関心・意欲】「人間の栄養」に関心を持ち、他者と協働する姿勢を身につける。 【技能・表現】マネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につける。
オフィスアワー	木曜昼休み　1503研究室
学生へのメッセージ	今まで学んできた解剖生理学の知識をより確実なものにするために、積極的な関わりを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場で実際に行われている実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	運動生理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川　賢一	指定なし

ナンバリング	H22204C21
授業概要(教育目的)	運動を遂行するとき、身体は運動に最も適した状態となるように変化します。また、トレーニングを長期間継続すると、身体はそのトレーニング様式にあわせて変化します。このような一過性の応答や慢性的な適応の生理学的メカニズムを講義します。
履修条件	H12201C21 解剖生理学Ⅰ、H12202C21 解剖生理学Ⅱを学習していること。H22203C13 解剖生理学実習と合わせて履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 ２．運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。
思考・判断の観点（K）	健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたる運動の効用を説明できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス：環境への対応とストレス応答	健康寿命維持増進における運動生理学の意義、概要、学習方法を理解する。 環境適応とストレス応答について、生理学的機序を理解する。	予習：予想問題（1から12） 復習：教科書第2章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第2回	総論：健康増進と運動	運動による健康増進効果についての科学的エビデンスを学習し、運動の急性応答と慢性適応の生理学的機序を理解する。	予習：予想問題（1から3） 復習：教科書第3章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第3回	総論：運動・スポー	運動時のエネルギー供給系の生理学的機序を理解する。	予習：予想問題（1から3） 復習：教科書第4章の通読、用	予習60分、復習60分

	ツとエネルギー		語集の作成	
第4回	各論：運動と筋・骨系	運動の実施による筋・骨格系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第5章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第5回	各論：運動と循環器系	運動の実施による循環器系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第6章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第6回	各論：運動と呼吸器系	運動の実施による呼吸器系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第7章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第7回	各論：運動と神経系	運動の実施による神経系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第8、9章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第8回	各論：骨格筋収縮能力の維持と改善、体温調節	運動の実施による骨格筋収縮、熱産生の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（8章1、9章1から2） 復習：教科書第9章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第9回	スポーツと栄養	トップアスリートのスポーツ栄養管理事例から、管理栄養士に必要な運動生理学の理解を深める。 （校内特別授業の予定）	予習：教科書第10章前半（10.1～10.5）の通読 復習：教科書1から9章までの予想問題の自己採点（中間試験）	予習60分、復習60分
第10回	スポーツと栄養総論	運動の実施によるエネルギー代謝の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から5） 復習：教科書第10章後半（10.6～10.11）の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第11回	スポーツと栄養各論	運動と栄養摂取の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第11章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第12回	運動負荷評価法	運動負荷テストの目的、種類、様式を理解し、運動負荷テストの実施上の注意点を理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第12章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第13回	運動処方	安全で効果的な運動処方の科学的根拠を学習し、健康づくりに応用する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第13章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第14回	運動療法	内科的および外科的疾病の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第14章の通読、用語集の作成	予習60分、復習60分
第15回	運動障害	内科的および外科的障害の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書の通読、教科書10から14章までの予想問題の自己採点（期末試験）	予習60分、復習60分

学習計画注記	※履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。 教室外学習はGoogle Classroomの課題に取り組みます。面接授業では課題について解説します。専門発展科目の履修に接続します。
学生へのフィードバック方法	教室外学習の予想問題は、次週の講義で解説します。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応します。
評価方法	中間試験は教科書1から9章の範囲から出題します。期末試験は教科書10から14章の範囲から出題します。特別授業、教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパー			○	
	中間試験	○	○		
	期末試験	○	○		

評価割合	リアクションペーパー20%、中間試験40%、期末試験40%

使用教科書名(ISBN番号)	山本順一郎（2018）エキスパート管理栄養士養成シリーズ16運動生理学（第4版）. 化学同人. （ISBN：9784759812497）
参考図書	「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823） American College of Sports Medicine（2021）ACSM's Guidelines for Exercise Testing and Prescription, 11th Edition. Wolters Kluwer. ISBN:9781975150181（旧版翻訳：アメリカスポーツ医学会（2011）運動処方の指針 原書第8版. 南江堂. ISBN:978-4524262168）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている 【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる 【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
オフィスアワー	木曜日昼休み（G0101研究室）
学生へのメッセージ	人間の生命を守り、健康を増進する上で管理栄養士に不可欠な科目です。解剖生理学などと関連付けた教室外学習が効果的です。疑問や質問は講義中に解決するように積極的に参加し、ディスカッションを中心に予習、復習することを期待します。公認スポーツ栄養士を目指す学生は指定した教科書を完全にマスターし、参考図書にチャレンジしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、人体の構造と機能に関する理解を促進するための専門的知識を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	教室外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックします。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出します。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	微生物学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 津山　淳	指定なし

ナンバリング	H12205C21
授業概要(教育目的)	微生物は身の回りに多く存在し、我々に様々な影響を与えている。特に、管理栄養士は食中毒、発酵、腸内細菌、さらに感染リスクの高い患者の栄養指導など微生物と接する機会が多い。そのため微生物学は重要な基礎科目である。 本講義では感染機構および宿主の防御機構、主な感染症の概要について解説する。微生物の基礎的な知識を習得した上で、主に感染症や食中毒を引き起こす微生物について学んでいくための内容となる。 初めて微生物を学ぶことを想定し、基本的な内容から丁寧に説明するが、時によっては最新の研究成果も紹介していく。
履修条件	無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 食中毒や腸内細菌など、食や人間の栄養と微生物との関連について理解する。 2. 免疫学の基本用語を理解し、病原体に対する宿主の防御機構を説明できる。 3. 主な感染症およびそれを引き起こす病原体の種類と構造について理解する。
思考・判断の観点（K）	1. 感染性を持つ病原体の種類や性質、危険性を分類できる。 2. 食中毒を引き起こす病原体を熟知し、調理時の予防策を立案できる。 3. 微生物の本質的な基礎を習得することにより、健康・栄養と微生物の接点をイメージできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1. 調理時の適切な衛星環境の向上に積極的に寄与できる 2. 勤務先において感染症患者や感染症発生時の対応に円滑に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	微生物とは何か	種からドメイン(超界)に至る生物の基本分類を理解し、特に微生物の多様性について説明する。 また病原性をもつ感染源を蠕虫、原虫、真菌、細菌、ウ	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分

		イルス、プリオンに分類し、それぞれの特徴について理解する。		
第2回	感染の基本と自然免疫システム	感染症に罹患した際の経過および感染経路の種類について理解する。 また、感染に対する生体の防御機構について概説する。 特に第2回講義では免疫反応の中でも自然免疫応答について解説する。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第3回	獲得免疫システム	感染に対する生体の防御機構について概説する。 特に第3回講義では免疫反応の中でもリンパ球を中心とした獲得免疫応答について解説する。	配布される資料を予習・復習しておくこと。 獲得免疫は複雑な過程なので、高校生物を履修していない者は予習復習は必須。	180分
第4回	細菌の分類とグラム陽性球菌	細菌の分類法は様々なものがある。ここでは形態、酸素要求性、細胞壁による分類法を学ぶ。 これらの分類法を学んだ上で、通性嫌気性グラム陽性球菌に分類される細菌についてその病原性を中心に説明する。 特に黄色ブドウ球菌によって引き起こされる毒素型食中毒と感染型食中毒の違いについて理解することは重要である。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第5回	通性嫌気性グラム陰性桿菌	ビブリオ科、腸内細菌科、パスツレラ科が含まれる通性嫌気性グラム陰性桿菌についてその病原性を中心に説明する。 第5回講義では腸管出血性大腸菌、腸炎ビブリオ、サルモネラなど、現代の日本においてもしばしば見られる食中毒菌が含まれる。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	120分
第6回	好気性菌 芽胞菌	微好気性菌を含む好気性菌および芽胞菌についてその病原性を中心に説明する。 カンピロバクターやセレウス菌などの食中毒の原因細菌が含まれる。 また性感染症や芽胞菌などの概念について理解する。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第7回	嫌気性菌 マイコバクテリウム 非定型細菌	酸素を必要としない嫌気性菌、結核などのマイコバクテリウム、通常の細菌の定義から外れている非定型細菌について各論的に解説する。 また近年、発展が目覚ましい腸内細菌と栄養学の接点について、ここ10年程で得られている研究成果についての概説も予定している。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第8回	ウイルス Ⅰ	ウイルスは生物ではないが微生物学に含まれるのである...！ ウイルス概論として、ウイルスの構造と基本分類およびウイルスのライフサイクルについて説明する。 またDNAをゲノムとして保有するDNAウイルスについて個別に解説を行う。	配布される資料を予習・復習しておくこと。 高校生物の範囲である生命のセントラルドグマに関して復習を行うこと。 特にゲノム、DNA、遺伝子の違いを理解し、それぞれ説明可能な状態になっていること。	180分
第9回	ウイルス Ⅱ	DNAウイルス各論の後半及び、RNAウイルス各論の導入回となります。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第10回	ウイルス Ⅲ	RNAウイルス各論の後半。ノロウイルスなど食中毒上重要なウイルスなどに加え、新型コロナウイルスと呼称されているSARS-CoV-2についての解説も行う。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第11回	プリオン 真菌	真菌および感染性タンパク質であるプリオンについて解説する。 真菌は感染症の種類や真菌毒などについても学ぶ。 プリオンは当然生物ではありませんが微生物学で取り扱います。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第12回	蠕虫と原虫	寄生虫である蠕虫と原虫について学ぶ。彼らの独特な生活環について説明する。 各論としてはアニサキスに加え、近年食中毒の原因物質として同定されたクドアなどについて学ぶ。 蠕虫は体長が数メートルにおよぶものも存在しており、微生物どころか巨大生物も含まれるが微生物学において学びます。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第13回	感染性食中毒	食中毒について我が国における発生状況に関して解説する。 ここまで学んできた多くの微生物の中から、管理栄養士として特に重要となる、本邦において食中毒を起こしうる病原体を中心としてた総復習を行う。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分
第14回	ワクチン基礎・消毒と	ワクチンの基本的な種類とその特性について解説する。 また消毒・滅菌の概念とそれぞれの手法について理解す	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分

	滅菌	る。		
第15回	法令・院内感染予防	感染症の予防及び感染症の患者に　対する医療に関する法律および学校感染症法について解説する。 また院内感染予防について感染経路別に理解する。	配布される資料を予習・復習しておくこと。	180分

学習計画注記	スマートフォン、タブレット、ノートPCの持ち込みを推奨する。
学生へのフィードバック方法	質問は講義中いつでも受け付けます。また、メールでの質問も受け付けますが、その場合はメールで返信するか授業において解説するかは講師が判断します。 公平を期すため、定期試験に関する質問は試験前最後の講義以降は基本的に受け付けません。
評価方法	試験100%（100点満点）で行う。 ただし、講義中に内容に関連した質問をした場合や、こちらから出す問いに対して高度な回答した場合は加点の対象とする場合がある。 試験は定期試験のみ。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期テスト	○	○		

評価割合	試験100%（100点満点）で行う。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症, 編集: 医療情報科学研究所 ブラック微生物学, 著者: Jacquelyn G.Black, 監修・翻訳: 神谷 茂, 高橋 秀実, 林 英生, 俣野 哲朗
ディプロマポリシーとの関連	微生物学は感染症のみならず食中毒、発酵、腸内細菌など食や健康との関連が深い。 抵抗力の低下した方への栄養指導や食事の提供を行う管理栄養士には、本講義で解説する食中毒を引き起こす病原体の「知識と理解」は必須である。また、最近では腸内細菌叢による各種代謝が人間の栄養に重要な役割を果たしていることが明らかとなっている。このように日進月歩で新しい知見が見出されている領域でもあるため、本講義では最新知見にも対応できる「思考と判断力」の形成に向けた基礎を目指す。そのため表層的な議論に留まらず最新の研究成果やその考え方についての解説も、あくまでも1年生向けに行っていく。
オフィスアワー	講義の前後30分は非常勤講師室にいます。 (事前にメールで予約をもらえると確実に対応できます)
学生へのメッセージ	高校までの生物学の知識があることが望ましいです。 ただし、不明点があればいつでも質問して下さい。 どんな初歩的な質問であっても構いませんので、理解しないまま素通りしないようにして下さい。質問は講義中いつしても構いません。 鋭い質問は加点の対象とする場合も有ります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の理解度確認および理解向上のためアプリを用いた問題を講義中に出すことを予定している。 ネットワークやアプリ動作など環境に応じて柔軟に対応する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床病態栄養学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤　恵美子	指定なし

ナンバリング	H22206C21
授業概要(教育目的)	臨床栄養の現場で管理栄養士が遭遇する主な疾患について、その疾病の成り立ちを講義する。1年次に履修した解剖生理学や生化学、基礎栄養学の知識を基に、種々の疾患の発症機序や主要症状、臨床検査、治療の基本的な考え方について説明する。臨床栄養学習得に向け必要とされる医学的な理解、解釈を講義する。
履修条件	解剖生理学I および解剖生理学II を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各疾患の病態や診断など、臨床医学の基礎的知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	加齢・疾患に伴う変化	加齢に伴う変化、疾患に伴う変化（炎症、萎縮・肥大、化生・異形成、腫瘍など）、個体の死について学ぶ。	事前学習：教科書第1章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第2回	疾患診断の概要	主な症候、および主な臨床検査の意義と解釈について学ぶ。	事前学習：教科書第2章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第3回	疾患治療の概要	主な治療法について学ぶ。	事前学習：教科書第3章を読んでおく。	150分

			事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第4回	栄養障害と代謝疾患１	栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次に学んだ内分泌系や生化学、基礎栄養学について復習しておく。教科書第4章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第5回	栄養障害と代謝疾患２	糖尿病、高尿酸血症、痛風について、成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ内分泌系について復習しておく。教科書第4章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第6回	消化器系１	消化器系疾患（口腔，食道，胃十二指腸，大腸）の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系について復習しておく。教科書第5章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第7回	消化器系２	肝胆膵系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系（肝胆膵）について復習しておく。教科書第5章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第8回	循環器系	循環器系疾患（脳卒中を除く）の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ循環器系について復習しておく。教科書第6章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第9回	腎臓系１	腎臓系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎臓系について復習しておく。教科書第7章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第10回	腎臓系２，尿路系，生殖器系，内分泌系1	腎臓系疾患，尿路系疾患，男性生殖器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。 内分泌系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎・尿路系，生殖器系について復習しておく。教科書第7章・第12章および第8章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第11回	内分泌系2	内分泌系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ内分泌系について復習しておく。教科書第8章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第12回	呼吸器系	呼吸器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ呼吸器系について復習しておく。教科書第10章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第13回	血液系	血液系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ造血器系について復習しておく。教科書第13章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第14回	脳、神経・精神系	脳卒中、神経疾患、精神疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ脳・神経系について確認しておく。教科書第6章の該当部分および第9章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分

第15回	運動器系	運動器系（筋・骨）疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ運動器系（筋・骨）について確認しておく。教科書第11章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。 定期テストにむけて総復習しておく。	600分

学習計画注記	COVID-19の状況、履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義時に、講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。
評価方法	学習到達度の確認テスト（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	筆記試験	○	○		

評価割合	筆記試験100%
使用教科書名(ISBN番号)	健康・栄養科学シリーズ　臨床医学—人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂）
参考図書	病気がみえる vol.1～14（MEDIC MEDIA） イメージするからだのしくみシリーズ（MEDIC MEDIA）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	木曜昼休み　1503研究室
学生へのメッセージ	1年次に履修してきた科目を基にした科目であると同時に、今後の専門科目の基盤となる科目ですので、しっかり理解するよう努めてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	分子栄養学（HA・HB）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野　知紀	指定なし

ナンバリング	H22207C21
授業概要(教育目的)	栄養素の代謝は、生体が持つ巧みな分子機構により調節されている。この調節には、ホルモン、酵素タンパク質、ビタミン、微量金属などが重要な役割を担っている。本講義では、人間の健康あるいは疾病に関連する生体の代謝調節機序について分かりやすく概説し、栄養学を細胞生物学あるいは遺伝子生物学と関連させながら、分子レベルの視点から捉えていく。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．細胞膜を介した物質の移動を説明できる。 ２．酵素とその機能を説明できる。 ３．DNAの構造とDNAの複製のしくみを説明できる。 ４．遺伝子の発現とその制御機構を説明できる。 ５．生活習慣病と遺伝子多型（遺伝因子）の関連を説明できる。 ６．細胞間情報伝達物質とそれらによる調節を説明できる。 ７．個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構を説明できる。 ８．糖質代謝，脂質代謝，アミノ酸代謝の相互連関を説明できる。 ９．ヌクレオチドの合成，分解，再利用を説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．遺伝子発現に及ぼす栄養素、非栄養素、栄養状態の影響を類別できる。 ２．満腹時（食後），空腹時（食間期）の栄養素の代謝変化を類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生体物質と細胞	真核細胞には、核をはじめとして様々な細胞小器官や構造物がみられる。これらが互いに関連して働くことで、生命活動が営まれていることを理解する。特に、細胞膜	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分

		については水や栄養素の細胞内への取込みに係る役割を果たしていることから、その構造的特徴を中心に説明する。		
第2回	細胞膜を介した物質の移動	前回に細胞膜の構造を学んだ。今回は、膜を介した物質の出入りの仕組みについて理解する。生体膜を介して物質が移動する場合、膜に配置された輸送たんぱく質を通過するが、輸送たんぱく質のチャネル、担体、ポンプとしての働きを学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第3回	遺伝情報とその発現（DNAの構造と複製）	遺伝子の本体はDNAであり、母細胞のDNAが正確に複製され、娘細胞に伝えられる。DNAの構造を学び、DNAの半保存的複製のしくみについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第4回	遺伝情報とその発現（たんぱく質の合成）	DNAは、塩基配列という形で遺伝情報を保持している。この塩基配列によって、生命活動で中心的な役割を担うたんぱく質のアミノ酸配列が決められ、形質が発現する。遺伝子が発現してたんぱく質が合成される過程（転写、翻訳）を理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第5回	遺伝子の発現調節	多細胞生物は、同じ遺伝情報を持つ多数の細胞からなるが、それぞれの細胞には形や機能に違いがある。このような違いは、細胞によって発現している遺伝子が異なることによって生じる。真核生物における転写調節因子の役割などについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第6回	遺伝子と疾患	単一遺伝子疾患は遺伝要因のみで発症する疾患であるが、生活習慣病などの多くの疾患は遺伝要因と環境要因がそれぞれある割合で関与している。代表的な疾患について学び、さらに近年急速に明らかになりつつある多因子疾患と遺伝子の係りについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第7回	バイオテクノロジーの技術（遺伝子組換え食品，ゲノム編集食品）	世界的な人口増加による食糧問題に対する解決法として，遺伝子組換え技術やゲノム編集技術が期待されている。さらには，ゲノム編集技術を用いて，血圧上昇抑制効果のあるGABA（γ-アミノ酪酸）を多く含むトマトの創出など，バイオテクノロジーの技術を利用した健康の維持・増進が期待される食品も開発されている。これらの技術について，正しい知識を得る。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第8回	情報伝達の機構（細胞間情報伝達、細胞内シグナル伝達と内分泌系・神経系による調節）	細胞同士は様々な形で情報をやりとりしている。大きくわけると、隣り合った細胞がお互いに接着してその部分で情報交換する場合と、ある細胞が何らかの物質を分泌してそれを他の細胞が受け取る場合がある。さらに、情報を細胞膜で受け取ったときに、細胞内にある別の情報伝達を介して細胞内に伝えられる仕組みもある。このような細胞間情報伝達や細胞内シグナル伝達を学ぶ。また、信号分子が特定の細胞から血液中に分泌されて運搬され、離れた場所で作用するホルモンのその働きを理解する。信号分子を分泌する細胞と情報を受け取る細胞が近接している場合の例として、シナプスにおける情報伝達についても学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第9回	個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構	睡眠と覚醒、ホルモンの分泌、体温の変化などは昼夜の光刺激によって調整されている。このような概日リズム（サーカディアンリズム）をコントロールしているのが「時計遺伝子」と呼ばれる遺伝子群である。体内時計の刻みを促進または抑制する因子について学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第10回	酵素とその働き	細胞内の化学反応は生体触媒である酵素のはたらきで行われる。酵素の種類（酸化還元酵素、転移酵素、加水分解酵素、脱離酵素、異性化酵素、合成酵素）や性質（基質特異性、最適温度、最適pHなど）を学ぶ。また、酵素とともに働く補酵素の役割や酵素反応の調節の機序を理解する。さらに、酵素の阻害形式（競争的阻害、非競争的阻害、反競争的阻害）の酵素反応論的な知識を得る。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第11回	糖質の代謝(1)	食事から体内に取り込まれたグルコースは、グルコース6-リン酸となり、グルコース6-リン酸から分岐していく。このようおなグルコースの代謝系は、それぞれの組織特異性によった役割を果たしている。今回は、グルコース代謝系（解糖系，クエン酸回路，電子伝達系と酸化的リン酸化，熱産生）を理解し，グルコースの利用における組織の役割の違いを学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第12回	糖質の代謝(2)	前回はグルコース代謝に関わる組織特異的な発現について学んだ。今回は、満腹時（食後）と空腹時（食間期）における糖質の代謝について，糖新生経路，グリコーゲンの合成・分解経路，ペントースリン酸経路，ウロン酸経路を取り上げ，それぞれの糖質代謝の全体像を理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分

第13回	脂質の代謝	生化学の学習内容とリンクさせながら，脂肪酸の合成，伸長，不飽和化の経路とβ酸化，ケトン体の合成・利用経路を学ぶ。食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるトリグリセリドの合成・分解経路を理解するとともに，脂質の輸送経路に関する知識についても修得する。また，コレステロールの合成経路とコレステロールの利用についても学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第14回	たんぱく質・アミノ酸の代謝	食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるたんぱく質の合成と分解，アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応と尿素回路，炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用を学ぶ。また，エネルギー産生栄養素としての糖質，脂質，アミノ酸代謝の相互連関を理解する。アミノ酸由来の生理活性アミンの種類などの構造についても説明する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第15回	ヌクレオチドの代謝	ヌクレオチドのデノボ合成とサルベージ合成の機序を学び，ヌクレオチドの分解・排泄経路とあわせて，巧みな調節機構を理解する。また，これらの機構の異常に伴う疾患についての知識を修得する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて180分
第16回	定期試験	第1回～15回までの授業内容について定期試験を行う。	配布されるプリント等を復習しておくこと。	

評価方法	・確認テストは，各回の授業における知識を確認するために実施する。 ・定期試験は，毎回行う確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	確認テスト	○			

評価割合	定期試験（90%），確認テスト（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	プリントを配布
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	水曜1時限　1205研究室
学生へのメッセージ	生活習慣病は、遺伝的素因と環境的要因によって発症する。個々の遺伝子の特徴によって最適な栄養管理を目指すことを「オーダーメイド栄養」と呼ばれる。生活習慣病に係る遺伝子の知識を修得することは、管理栄養士として基本的事項であるので，苦手意識を持たずにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	生化学実験（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期後半	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 坂野　史明	指定なし

ナンバリング	H22209C13
授業概要(教育目的)	生体分子の化学的特性やこれらが関わる化学反応と生命機序を理解するための基礎生化学的実験を行う。 実験をきちんと進めるためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠となる。また、それぞれの実験がどのような原理に基づいているのかや、得られた実験データからどのような結論が導けるのか等を、よく考えて理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生体分子の化学的性質を理解し、その基本的な分析手法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点（A）	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第2回	基礎実験Ⅰ	基本的な実験器具類の使用目的と使用法を理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第3回	基礎実験Ⅱ	吸光光度法（比色法）による濃度測定について理解し、分光光度計を用いて検量線を作成する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等	60分

			を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	
第4回	糖質実験（糖質の代謝Ⅰ）	代謝反応の観察から解糖系について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第5回	糖質実験（糖質の代謝Ⅱ）	糖代謝産物の代表的な呈色反応について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第6回	脂質実験（脂質の抽出と定量Ⅰ）	生体試料（肝臓）からの脂質の抽出法について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第7回	脂質実験（脂質の抽出と定量Ⅱ）	肝臓中のコレステロール定量法について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第8回	核酸実験（核酸の抽出と定量Ⅰ）	生体試料中の核酸（DNA）の抽出法について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第9回	核酸実験（核酸の抽出と定量Ⅱ）	核酸（DNA、RNA）の紫外線吸収能について理解し、この性質を利用した定量法を身につける。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第10回	酵素実験Ⅰ	酵素反応の特徴について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第11回	酵素実験Ⅱ	酵素反応速度論について理解し、KmおよびVmaxの決定法を身につける。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第12回	尿中成分に関する実験Ⅰ	尿中の尿素窒素測定法について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第13回	尿中成分に関する実験Ⅱ	尿中へのクレアチニン排泄量を測定し、クレアチニン・クリアランスについて理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第14回	ビタミン実験Ⅰ	生体試料からのビタミンC抽出法について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第15回	ビタミン実験Ⅱ	ビタミンCの分析を通じて、微量生体成分の分離・定量法を理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分

学習計画注記	実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートの内容から、説明が必要な点についてフィードバックする。
評価方法	実験への取り組み方、実験ノートの取り方、レポートの内容から総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験への取り組み方	○	○	○	○
	実験ノート	○	○		
	レポート	○	○		

評価割合	実験への取り組み方（20%）、実験ノート（20%）、レポート（60%）
使用教科書名(ISBN番号)	プリントを配布
参考図書	新しい生化学・栄養学実験　ISBN4-7827-0450-x c3077
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。 【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日2時限目
学生へのメッセージ	高校で学習した化学、生物に関する基礎知識も必要となるため、予習しておくこと。 基礎専門知識を導く元となる実験を通して管理栄養士の基礎力を身につけてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、生化学の基礎実験について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎食品学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野　知紀	指定なし

ナンバリング	H12301C21
授業概要(教育目的)	食品成分（水、炭水化物、タンパク質、脂質、ミネラル、ビタミン、嗜好成分など）の化学的性質について学ぶ。また、食品の生育・生産から、調理・加工を経て、ヒトに摂取されるまでの過程で、その食品の持つ栄養特性と物性がどのように変化するかを総合的に理解する。環境負荷等の観点から食料廃棄など社会生活との関わりについても学ぶ。さらに、食品成分が健康維持・増進に及ぼす影響と疾病予防に対する役割を理解し、食品表示に係る法制度についても概説する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．食べ物の循環（食物連鎖・フードシステム）を説明できる ２．食品に含まれる各種成分の種類，構造，性質，所在を説明できる。 ３．食品成分間反応における，栄養面，嗜好面，安全面への影響を説明できる。 ４．食品の物性について説明できる。 ５．食品の表示に係る制度を説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．食品成分の機能性や疾病予防に対する役割を列記することができ，適切に利用するための食品表示制度の仕組みを類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食生活と健康，食料と環境問題	食べ物と人の関わりを歴史的変遷の観点から学ぶ。食料の需給システムと環境問題を理解する。	教科書第1章の「食品の歴史的変遷」「食料と環境問題」（1～9ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第2回	食品の主要	食品中の水の状態（結合水・自由水）と、物性や貯蔵性	教科書第3章の「1．水（水	復習と予習をあわせて

	成分（水分）	との関連を理解する。	分）」（27～33ページ）を読んでおくこと	180分
第3回	食品の主要成分（炭水化物）①	食品中の単糖，少糖の種類，構造，性質，所在を知る。	教科書第3章の「2. 炭水化物」（33～50ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第4回	食品の主要成分（炭水化物）②	食品中の多糖，食物繊維（水溶性・不溶性）の生理的機能を理解する。	教科書第3章の「2. 炭水化物」（41～50ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第5回	食品の主要成分（脂質）①	食品中の脂質の種類，構造，性質，所在を知る。	教科書第3章の「3. 脂質」（50～64ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第6回	食品の主要成分（脂質）②	油脂の物理化学的指標としてのケン化価，ヨウ素価，過酸化物価等を理解する。	教科書第3章の「3. 脂質」（50～64ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第7回	食品の主要成分（タンパク質）	食品中のアミノ酸，ペプチド，たんぱく質の種類，構造，性質，所在を知る。たんぱく質の変性の栄養学的意義を理解する。	教科書第3章の「4. たんぱく質」（64～74ページ）を読んでおくこと	復習と予習をあわせて180分
第8回	食品の主要成分（ビタミン）	食品中のビタミンの種類，構造，性質，所在を知る。食品の加工や貯蔵に係る含有量の変化を理解する。	教科書第3章の「5. ビタミン」（75～80ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第9回	食品の主要成分（ミネラル）	食品中の無機質の種類，性質，所在，生理的機能を知る。	教科書第3章の「6. 無機質」（81～87ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第10回	食品の嗜好成分（呈味成分）	食品の呈味成分（基本味・補助味）の種類，構造，性質を知る。成分の組合せによる呈味の相互作用を理解する。	教科書第4章の「味の成分」（93～99ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第11回	食品の嗜好成分（香気成分） 食品の嗜好成分（色素成分）	食品の香気成分の種類，構造，性質を知る。二次的に生成する香気成分の生成機序を理解する。 食品の色素成分の種類，構造，性質，所在を知る。ポルフィリン系色素の色の変化を理解する。	教科書第4章の「香りの成分」（100～102ページ）を読んでおくこと。 教科書第4章の「色の成分」（103～109ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第12回	食品成分の反応（化学的変化・酵素的変化） 食品の物性	酵素的褐変（ポリフェノールオキシダーゼ）と非酵素的褐変（アミノカルボニル反応，カラメル反応）による食品学的意義を理解する。 食品におけるコロイド分散系として，エマルションとサスペンション，ゾルとゲルの関係を理解する。液状食品の流動特徴を知る。	教科書第5章の「成分間の相互作用」（111～118ページ）を読んでおくこと。 教科書第6章の「食品の物性とおいしさ」（119～130ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第13回	栄養成分表示の概要（強調表示）	食品表示基準の概要と、食品選択における栄養表示の重要性を理解する。	教科書第8章の「栄養成分表示」（145～149ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第14回	食品の機能性と特定保健用食品・特別用途食品・栄養機能食品・機能性表示食品	食品の三次機能を有する成分について，具体的な食品表示の例を用いて、保健機能食品制度の概要を理解する。	教科書第8章の「食品の持つ三つの機能」「健康食品にかかわる制度」（139～145ページ）を読んでおくこと。 消費者庁のホームページより，特定保健用食品と機能性表示食品の具体例と食品表示基準の概要を調べておくこと。	復習と予習をあわせて180分
第15回	食品成分表の理解	食品成分表の利用における留意点を把握する。また，一般成分（水分，たんぱく質，脂質，炭水化物，灰分）の測定原理を学び，エネルギーの算出方法を理解する。	教科書第9章の「食品成分表」（153～163ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第16回	定期試験	学習目標の到達度を確認する。	教科書とノート等を復習しておくこと。	

学生へのフィードバック方法	・確認テストの模範解答は，授業内で提示する。 ・質問がある場合は，emailで連絡すること。
評価方法	・確認テストは，各授業の学習内容について選択式問題で出題する。 ・定期試験は、毎回行う確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	確認テスト	○			

評価割合	定期試験（90%），確認テスト（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	食べ物と健康Ⅰ食品成分を理解するための基礎（第2版）喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士（化学同人）（ISBN 978-4-7598-1818-5）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	火曜3時限
学生へのメッセージ	我々は食事を通して様々な化学成分を摂取している。それらを体内で利用して生命活動を営んでいる。どのような食品にどのような成分が含まれているのかを詳しく知ることは，管理栄養士として必要な知識であるので，主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において特定保健用食品等の開発研究に関する実務経験を有しており、食品成分の三次機能に着目した食品に対し、開発者として習得すべき「商品企画から販売までの流れ」、アドバイザリースタッフとして習得すべき「利用の注意点」を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎食品学実験（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野　知紀	指定なし

ナンバリング	H22302C13
授業概要(教育目的)	基礎食品学で学んだ知識を確実なものとするために、実際の食品を検体とし、水分、脂質、タンパク質（アミノ酸）、無機質（食塩相当量、カルシウム）、ビタミン（L-アスコルビン酸）、嗜好成分（ポリフェノール、アミノカルボニル反応物）などの定性分析及び定量分析を行う。分析に際しては、滴定法、各種クロマトグラフィー法、分光光度法、原子吸光光度法などを駆使する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．食品成分表における栄養素等の測定法について説明できる。 ２．食品成分の性質と成分間反応について，基礎食品学で学んだ知識と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．実験の目的に応じて、食品成分の定量法と定性法を類別できる。 ２．食品が持つ多様な機能性を類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．実験結果に対する考察について、実験協力者とのディスカッションに参加できる。
技術・表現の観点（A）	１．仮説を立て、それを証明することで、論理的な思考を表現できる。 ２．食品素材や成分に精通して、合理的かつ自主的な食品の選択に使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	実験の基礎（薬品・器具の扱い方，結果の記録方法と報告など）	実験を行うにあたっての注意事項を理解する。ガラス器具やpHメーター等の機器の使用法について理解する。また、実験データの取り扱い方、まとめ方を学ぶ。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第2回	重量測定（水分，灰	大豆（国産・外国産）を粉砕して、常温加熱乾燥法による水分測定を行う。また、直接灰化法による灰分の測定	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分

	分）	を行う。		
第3回	タンパク質の性質（等電点沈殿）	乳由来のカゼインが等電点によって沈殿する現象を確認し、遠心分離によってカゼインを分離される。さらに、カゼインがリン含有たんぱく質であることの性質を、リンモリブデン比色法によって確認する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第4回	無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）	3種類の醤油（濃口醤油、薄口醤油、減塩醤油）中の塩化物イオンをモール法によって測定する。また、得られた結果から食塩相当量を求め、各醤油の特性を理解する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第5回	糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる糖類の検出）	薄層クロマトグラフィー（TLC）による分離技術を学ぶ。複数の糖類をTLCを用いて分離し、分離した糖質を発色剤を用いて視覚的に観察する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第6回	糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）による分離技術を学ぶ。清涼飲料水に含まれる糖類をHPLCを用いて分離し、清涼飲料水中の複数の糖類を定量する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第7回	ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）	分光光度計を用いた比色定量法を学ぶ。酒石酸鉄比色法による緑茶飲料中のポリフェノールを定量する。標準物質を用いた検量線の作成方法を学ぶ。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第8回	食品成分間反応（アミノカルボニル反応）	糖とアミノ酸によるアミノカルボニル反応を学ぶ。アミノカルボニル反応に及ぼすpHの影響やアミノ酸の種類の影響を視覚的、嗅覚的に観察する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第9回	タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解）	たんぱく質に含まれる窒素の定量法であるケルダール法の原理を学ぶ。大豆（国産・外国産）を用いて、たんぱく質の硫酸分解を行う。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第10回	タンパク質の定量（ケルダール法：アンモニア蒸留）	硫酸分解によって得られたアンモニアを水蒸気蒸留によって回収する。得られた窒素量に、窒素たんぱく質換算係数を乗じることによって求めるタンパク質の定量法を学ぶ。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第11回	脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）	有機溶媒を用いた脂質の抽出法を学ぶ。大豆（国産・外国産）の脂質をジエチルエーテルを用いて抽出し、抽出された脂質の質量を測定する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第12回	ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）	インドフェノール法によるL-アスコルビン酸の定量法を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸を定量する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第13回	食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）	キュウリに含まれるアスコルビン酸酸化酵素の特徴を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸がキュウリのアスコルビン酸酸化酵素によってどのように変化するかを理解する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第14回	無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）	原子吸光光度計を用いたカルシウムの定量法を学ぶ。大豆（国産・外国産）に含まれるカルシウムを定量する。	実験レポートを作成し，次週の授業開始前に提出する。	45分
第15回	脂質の性質（油脂のケン化価の比較）	油脂の物理化学的性質の指標であるケン化価の測定法を学ぶ。長鎖脂肪酸からなる油脂と中鎖脂肪酸からなる脂肪酸でケン化価を比較する。	実験レポートを作成し，指定日に提出する。	45分

学生へのフィードバック方法	作成された実験レポートは，採点して，返却する。実験結果や考察などについて質問がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	・実験レポートは、配布されたテキストに基づき作成すること。 ・実験レポートは、以下の基準に基づき評価される。 ①レポート課題そのものを理解している。 ②課題にそって解答がなされている。 ③答えるべきことがらの内容について正確に理解している。 ④専門用語の意味などについて、正確に理解している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	レポート（60%）、平常点（40%） （平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	プリント配布
参考図書	Nブックス実験シリーズ　食品学実験（青柳康夫・有田政信編）建帛社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている。 【技術・表現】人々の生活の質の向上に寄与するべく、健康の保持増進のための専門的技能と共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜2限目
学生へのメッセージ	実際に我々が毎日摂取している食品の具体的な成分を分析することは、「食」を扱う管理栄養士として必要な知識・技術となる。論理的な思考も身につけることができることから、常に疑問（課題）を明らかにするという意欲を持ち続けてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において商品の研究開発の実務経験を有しており、実験的な手法による品質管理等の実際を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	応用食品学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林　一也	指定なし

ナンバリング	H22303C21
授業概要(教育目的)	農産物（穀類、いも類、野菜類など）や畜産物、水産物などの食品の成分や特徴を学ぶ。また、それらを基に加工される食品の加工方法等についても学習する。貯蔵法や加工法のいずれにおいても、伝統的な方法に加えて、新しい技術や手法も次々と作り出されている。ここでは、食品の様々な貯蔵法の原理と身近な食品加工法の基礎について理解させる。この講義では、食品の諸性質やその食品の特長を生かした加工方法等を学ぶことにより、食材や加工食品の高度な利用方法等を理解させることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．食材･食品の種類や、それらに含まれる成分を説明できる。 ２．様々な加工食品の製造方法を説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．食材･食品の種類等を類別できる。 ２．食材の旬や成分を活かした食品加工、調理への展開を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．日常で食している食品に対して、その素材や加工法などに関心を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

応用食品学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、現在の食品に関する状況（生鮮食品や加工食品とは何か、食料	応用食品学のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。生鮮食品や加工食品（１次加工食品、2次加工食品など）とは何か、植物性食品、動物性食品、農産物、水産物など、食品の区分を理解する。また、現在の私たちを取り巻く食品の状況（食糧の生産や消費、食料自給率、食料輸入など）について理解をする。	教科書第1章「食品」1～7ページを読んでおくこと。特に第1章4「食品の消費と供給」については予習と復習をして理解すること。	120分

	受給率や供給、消費など）（webによるオンデマンド配信）			
第2回	穀類とその加工品（対面授業）	穀類とは何かを理解する。米や小麦を中心として、その他の麦、トウモロコシなどの種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章1.「穀類」8～33ページを読んでおくこと。特に米と小麦の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第3回	いも類とその加工品（webによるオンデマンド配信）	いも類とは何かを理解する。ジャガイモやサツマイモを中心として、その他のいも類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章2.「いも類」34～43ページを読んでおくこと。特にジャガイモとサツマイモの項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第4回	豆類・種実類とその加工品 （webによるオンデマンド配信）	豆類や種実類とは何かを理解する。大豆や小豆を中心として、その他の豆類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。（ただし、納豆の項目は除く）さらに、種実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。	教科書第2章3.「豆類」44～52ページおよび4.「種実類」53～59ページを読んでおくこと。特に大豆の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。（ただし、納豆の項目は除く）	120分
第5回	野菜類とその加工品（対面授業）	野菜類とは何かを理解する。野菜類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、野菜類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章5.「野菜類」60～77ページを読んでおくこと。特に野菜類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第6回	果実類とその加工品（webによるオンデマンド配信）	果実類とは何かを理解する。果実類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、果実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章6.「果実」78～90ページを読んでおくこと。特に果実類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第2章の1～6の植物性食品についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。	240分
第7回	きのこ類、海藻類とその加工品（webによるオンデマンド配信）	きのこ類や海藻類とは何かを理解する。きのこ類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、海藻類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。	教科書第2章7.「きのこ類」91～97ページおよび8.「海藻類」98～105ページを読んでおくこと。特にきのこや海藻の成分の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第8回	食肉類とその加工品（webによるオンデマンド配信）	食肉類とは何かを理解する。食肉類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第3章1.「食肉類」106～124ページを読んでおくこと。特に食肉類の熟成に関わる項目と食肉類加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第9回	乳類、卵類とその加工品 （webによるオンデマンド配信）	乳類、卵類とは何かを理解する。乳類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、卵類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。（ただし、乳類発酵食品の項目は除く）	教科書第3章2.「乳類」125～140ページおよび3.「卵類」141～148ページを読んでおくこと。特にそれぞれのたんぱく質の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第3章の1～3の動物性食品（畜産食品）についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。（ただし、乳類発酵食品の項目は除く）	180分
第10回	魚介類とその加工品（対面授業）	魚介類とは何かを理解する。魚介類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。（ただし、魚介類発酵食品の項目は除く）	教科書第3章4.「魚介類」149～175ページを読んでおくこと。特に魚介類に含まれる成分や加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。（ただし、魚介類発酵食品の項目は除く）	120分
第11回	発酵食品（アルコー	発酵食品（アルコール類など）とは何かを理解する。発酵食品（アルコール類、食酢、みりんなど）の性質や成	教科書第4章3.「調味料／食酢、みりんなど」196～197ページおよび第4章5.「嗜好性飲料	120分

	ル類など）（対面授業）	分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。あわせて嗜好性飲料の茶類についても学ぶ。	とアルコール飲料」208～215ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	
第12回	発酵食品（味噌、醤油、醤油）（対面授業）	発酵食品（味噌、醤油、醤油）とは何かを理解する。発酵食品（味噌、醤油、醤油）の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。	教科書第4章3.「調味料／みそ、しょうゆなど」190～195ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第13回	発酵食品（納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）（対面授業）	発酵食品（納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）とは何かを理解する。発酵食品（納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など）の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。	教科書第2章3.「豆類／大豆の用途」48ページおよび第3章2.「乳類／乳類の利用」132～139ページ、第3章4.「魚介類／魚介類の加工品」172～173ページの発酵食品の項目を読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、発酵食品についてそれぞれの項目で微生物や加工方法の区別ができるように復習をすること。	120分
第14回	油脂、甘味料、調味料，嗜好性飲料(webによるオンデマンド配信)	油脂、甘味料、調味料とは何かを理解する。油脂、甘味料、調味料の種類や性質、成分、加工方法を理解する。また，嗜好性飲料とは何かを理解する。茶やコーヒーの種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工方法について学ぶ。さらに、香辛料の種類や性質、含まれる成分についても学ぶ。	教科書第4章1.「食用油脂」176～183ページおよび2.「甘味料」184～188ページ、3.「調味料／食塩･うま味調味料」189～190，教科書第4章4.「香辛料」198～203ページおよび第4章5.「嗜好性飲料とアルコール飲料」204～208ページを読んでおくこと。	240分
第15回	香辛料とまとめ （対面授業）	香辛料の種類や性質、含まれる成分についても学ぶ。本講義の全体にわたって、食品とは何かということを理解すること。	本講義の全体にわたって、それぞれの項目の食品の成分等の区別などができるように復習をすること。	720分

学習計画注記	学年暦，時間割の変更，講義内容の進行状況によりシラバス・講義形態が変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
評価方法	成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（90%）授業への参加態度などの平常点（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	Nブックス　新版 食品学Ⅱ　第2版／菅原龍幸監修／建帛社 ISBN　978-4-7679-0718-5
ディプロマポリシーとの関連	【知識･理解】食品に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品，食材の基礎を理解できる知識基盤を有している。 【思考･判断】食品に関する正確な情報を収集し、論理的･批判的に思考することで健康や栄養に関する取り組みに対処できる能力を身につける。
オフィスアワー	月曜日3時限　1401研究室
学生へのメッセージ	普段食べている食品などの基本的な内容です。スーパーなどに行ったとき，食材や食品をよく見てください。パッケージに記載されている表示にも注意をして，いろいろなものに興味を持ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業において、官公庁、農協等との食品の研究・開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学の講義の上で食品の成分や栽培・生産体系から収穫・加工・販売までを実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林　一也	指定なし

ナンバリング	H22304C13
授業概要(教育目的)	加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深める。さらに、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学ぶ。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較するなど、食品の鑑別についても学ぶ。また、食品開発における基礎についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解する。
思考・判断の観点（K）	食品の加工法や保存法などを学ぶことで、食品を鑑別できる能力を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点（A）	加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深めことで、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び、その技術を習得する。

学習計画

応用食品学実験

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、発酵食品の原理（納豆）	応用食品学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明。納豆の製造を通して大豆の納豆菌での発酵による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	納豆の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第2回	豆タンパク質の加工変化（豆腐）	豆腐の製造を通じて豆タンパク質の加工による変化と豆腐製造原理、製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	豆腐の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分

第3回	乳の変化（チーズ）	チーズの製造を通じて乳タンパク質などの加工による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	チーズの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第4回	発酵（味噌）	米味噌の製造を通じて大豆、米などの原料が麹、味噌発酵微生物などによる変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	味噌の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第5回	缶詰製造	缶詰（サンマの醤油煮）の製造を通じて缶詰製造の原理、食品保存方法（缶詰包装による食品保存・加圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。	缶詰の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第6回	肉類の加工（ソーセージ）	ソーセージの製造を通じて畜肉類加工の原理、燻製の原理、食品保存方法（発色剤等の添加物）、鑑別方法などを学ぶ。	ソーセージの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	果実類のゲル化（マーマレード）	マーマレードの製造を通じて果実類加工･ジャム化の原理、食品保存方法（糖蔵）、鑑別方法などを学ぶ。	マーマレードの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	乳類発酵（ヨーグルト）	ヨーグルトの製造を通じて乳たんぱく質の酸凝固の原理、食品保存方法（乳酸発酵）、鑑別方法などを学ぶ。	ヨーグルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	糖蔵の原理（ミカンシロップ）	ミカンのシロップ漬けの製造を通じて糖蔵や柑橘加工の原理、食品保存方法（糖蔵･酸貯蔵）、鑑別方法などを学ぶ。	ミカンのシロップ漬けの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	高圧殺菌法（レトルト食品）	ミートソースのレトルト食品の製造を通じてレトルト加工の原理、食品保存方法（レトルト・高圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。	レトルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	糖質マンナンの変化（コンニャク）	コンニャクの製造を通じてコンニャクマンナン加工変化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	コンニャクの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	カビの酵素による糖化実験（甘酒）	麹による甘酒の製造を通じて麹による米デンプンの糖化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	米麹甘酒の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	乳脂肪の変化（バター）	バターの製造を通じてクリームからバターへの転相など乳化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	バターの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	糖質の加熱変化（キャラメル化）	キャラメルの製造を通じて糖の加熱変化･キャラメライゼーションの原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	キャラメルの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	小麦タンパク質の粘性（パスタ）	パスタの製造を通じて小麦たんぱく質のグルテン形成の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	パスタの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分

学習計画注記	授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。
学生へのフィードバック方法	各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
評価方法	成績の評価は、レポート提出と内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	実験に臨む態度等			○	○

評価割合	レポート（５０％）および実験へ臨む態度などの平常点（５０％）で判定する。
使用教科書名(ISBN番号)	プリント配布
ディプロマポリシーとの関連	【知識･理解】加工食品の製造方法・特性などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、広く普及する加工食品を扱える技術を身につけている。 【思考･判断】食品の加工法や保存法などを学ぶことで、正確な情報を収集することで食品を鑑別できる能力を

	身につけている。 【関心･意欲･態度】食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。 【技術･表現】加工食品をつくる実学を通じて、専門的技能を身につけている。
オフィスアワー	月曜日3時限　1401研究室
学生へのメッセージ	納豆や，味噌，ヨーグルトなどの発酵食品や豆腐などの伝統的食品やレトルト加工，高圧蒸気加熱加工など，様々な食品の製造，加工技術を学びます。普段，スーパーなどで買ってくるものがこんな風につくられているのかなど，興味を持って学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究･共同食品開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学実験を担当する上で、食品加工の原理・方法などを実践・実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	調理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富　あき子	指定なし

ナンバリング	H12305C21
授業概要(教育目的)	調理過程における食品材料の化学的、物理的、組織学的変化を知り、おいしくなる方向へとその変化を制御する学問が調理学である。体に必要な栄養成分を食べられる形である献立として示せなければ、せっかくの管理栄養士としての栄養指導も実行できない。従って保存・調理による栄養素の消長や機能成分の変化、物性の変化と食べ易さや消化吸収との関連などは重要である。そこで食品材料や調理操作に関すること、おいしさの評価方法、調理学的な側面からの献立作成についてなど順を追って学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1. 調理学という学問の意義を理解し説明することが出来る。 2. 各食品材料の調理過程による変化を理解し説明することが出来る。
思考・判断の観点（K）	1. 調理操作の結果、なぜその様な現象が起きるのかを根拠を持って考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

調理学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	食べ物と嗜好性	おいしさの要因や評価の方法などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第2章の「食べ物と嗜好性」（　17～44ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第2回	食事設計と栄養	食事設計の基本知識や食卓構成などを理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第3章の「食事設計と栄養」	180分

			（　45～65ページ）を読んで復習しておくこと。	
第3回	調理器具	調理熱源や調理器具、設備などを理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第4章の「調理器具」（66～77ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第4回	調理操作	加熱操作、非加熱操作、冷凍・解凍、調味操作などを理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第5章の「調理操作」（78～107ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第5回	調理操作による変化（米）	米の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「米」（108～112ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第6回	調理操作による変化（小麦）	小麦の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「小麦」（112～118ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第7回	調理操作による変化（イモ類、豆類）	イモ類、豆類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「イモ類、豆類」（118～125ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第8回	調理操作による変化（野菜、海藻、果物）	野菜、海藻、果物の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「野菜、海藻、果物」（125～133ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第9回	調理操作による変化（肉）	肉の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「肉」（134～140ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第10回	調理操作による変化（魚）	魚の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「魚」（140～145ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第11回	調理操作による変化（砂糖）	砂糖の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「砂糖」（145～148ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第12回	調理操作による変化（卵）	卵の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「卵」（148～154ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第13回	調理操作による変化（牛乳・デンプン）	牛乳、デンプンの調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「牛乳・デンプン」（154～162ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第14回	調理操作による変化（油脂・寒天・ゼラチン）	油脂、寒天、ゼラチンの調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。課題提出有り（先週の確認テスト）	授業での配布プリント及び教科書第6章の「油脂・寒天・ゼラチン」（163～169ページ）を読んで復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	1回から14回までのまとめと振り返り	授業での配布プリント（1～14回）の内容を総復習しておくこと	180分
第16回				

学生へのフィードバック方法	質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）
評価方法	定期試験と平常点の総合で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
定期試験	○	○		

	平常点			○	

評価割合	定期試験(90%)、平常点(10%) (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)
使用教科書名(ISBN番号)	「調理学」畑江敬子・香西みどり（東京化学同人）
参考図書	「調理と理論」同文書院
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	火曜５時限
学生へのメッセージ	調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有していおり、商品を開発をする上で食品の調理学的知識を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	調理学実験（官能評価を含む）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富　あき子	指定なし

ナンバリング	H22306C13
授業概要(教育目的)	調理学実験の目的は、調理の過程でなぜそのような現象が起こるのか、その理由はなぜか、法則性を見出し失敗しない調理技術の修得を目指すもの、すなわち再現性のある「調理のコツ」をつかむことである。この授業では実験の基本操作の修得から各食材の性質を知る実験、調理操作の違いによる料理の出来具合や栄養成分の差を調べる実験へと進め,先の目的を達成する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	調理学実験の基本操作を理解して実践することが出来る。
思考・判断の観点（K）	実験結果についてなぜそうなったのか調理科学的に説明が出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	実験の作業を班員と協力し合いながら積極的にかかわることが出来る。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	調理学実験の目的、実施方法、レポートの書き方等を理解する。	配布プリントを復習すること。	60分
第2回	官能検査法	紅茶の甘味の嗜好試験を行うことで3点嗜好試験法について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第3回	米の炊飯	米の炊飯実験を行うことで、水の浸水時間と吸水量の違い、炊飯要領を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第4回	卵の熱凝固	様々な条件のカスタードプリンを作ることで卵の熱凝固	本日の実験を振り返りレポート	60分

	性	性を理解する。	を作成すること。課題提出あり。	
第5回	卵の乳化性	マヨネーズを作ることで卵黄の乳化性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第6回	小麦粉中のグルテンの性質	様々な種類の小麦粉からドウを作ることでグルテンの性状を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第7回	小麦粉に対する副材料の影響	様々な条件のクッキーを作ることでクッキーの性状に及ぼす副材料の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第8回	乳製品の起泡性と転相	生クリームの泡立て実験を行い、生クリームの起泡性とバターへの転相について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第9回	揚げ物の吸油率	揚げ物の揚げ方による吸油率の変化について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第10回	砂糖溶液の加熱とその性質	砂糖溶液の加熱実験を行うことで、調理加工への適性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第11回	イカの収縮	イカの加熱実験を行うことで収縮とテクスチャーの変化を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第12回	魚の酢締め	魚を塩締め、酢締めすることで魚肉に及ぼす調味料の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第13回	ゼラチンと寒天の性質	パイナップルゼリーを作ることで、ゼラチンと寒天の性質の違い及びたんぱく分解酵素の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第14回	報告検討会	他班の実験結果を知ることで、実験内容の理解を深める。発表は実物投影機を利用する。	本日の検討会を振り返りレポートを作成すること。課題提出あり。	60分
第15回	まとめ	まとめと学習到達度の確認テスト	確認テストの内容を復習しておくこと	60分

学生へのフィードバック方法	学生の作成したレポート内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）
評価方法	毎回のレポートと確認テストを総合的に評価する。 なお授業を欠席した場合は、その回のレポートは提出できないため評価に影響する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	確認テスト	○	○		

評価割合	レポート（50%）、確認テスト（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	クッキングエクスペリメント　4th Edition、四宮陽子（学研書院）　978-4-7624-3853-0
参考図書	調理と理論（同文書院）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	火曜５時限
学生へのメッセージ	調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に実験に関わりましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有していおり、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実験という科目の性質上、学生らは班ごとに実験を遂行し、結果についてディスカッションして考察をまとめる。
情報リテラシー教育	○	実験結果を書くためのレポート作成の方法を学ぶ。報告会にて結果と考察をプレゼンテーションする。
ICT活用	○	報告会でのプレゼンテーションには実物投影機を利用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎調理学実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 綿貫　仁美	指定なし

ナンバリング	H12307C13
授業概要(教育目的)	具体的な調理技術の到達目標を最初に示すので、授業中はもとより自宅でも日々調理に慣れること。 決められているテーマにそった3～4品の献立を、4～5人のグループごとに調理する。 授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、１つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	基本の調理技術と器具類の正しい使用方法、食材の調理特性などを理解して調理を実践できる。
思考・判断の観点（K）	薄味、均等で美しい盛り付け、最小の栄養損失などを考えた調理が実践出来る。
関心・意欲・態度の観点（V）	調理の作業を班員と協力し合いながら積極的に関わることが出来る。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

基礎調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	これから実習を行うにあたり、基本的は注意事項を理解する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。	60分
第2回	半年間の目標	半年間の基礎調理学実習を受けるにあたり、到達目標に向けての自己学習の計画を立てる。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分

第3回	計量の練習・野菜の切り方１	衛生的な手洗いの方法を理解する。デジタル秤及び計量スプーンの正しい使い方を理解する。野菜の基本的な切り方を理解する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第4回	炊飯の方法、だしの取り方他	炊飯の方法、かつお節と昆布の混合だしの取り方、日本茶の基礎的な知識と基本的な煎茶の入れ方を理解する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第5回	一汁三菜、茹でる操作	和食の基本の一汁三菜を理解し、簡単な日本料理を調理する。茹でる操作の基本を理解し青菜を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第6回	炒める操作	中国料理の構成を理解する。炒める操作の基本を理解して簡単な中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第7回	野菜の切り方2、魚のおろし方	野菜の基本的な切り方を理解して練習する。魚を3枚におろす。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第8回	揚げる操作	揚げ物の操作の基本について理解する。中華材料について理解して基本的な中華料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第9回	焼く操作	西洋料理と焼く操作の基本を理解する。オーブンの正しい扱い方を理解する。基本的な西洋料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第10回	蒸す操作	正しい蒸し器の扱い方を理解して基本的な西洋料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第11回	実技試験	野菜の切り方１、野菜の切り方２と魚のおろし方の実技試験を実施する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第12回	煮る操作	煮る操作の基本を理解して煮物を調理する。簡単な日本料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第13回	実習室の整備	半年間使用した実習室の整備をしながら、調理場の衛生管理について学ぶ。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第14回	和菓子、包丁の研ぎ方について	水ようかんの作り方を知り失敗しない様に調理する。もち米の蒸し方を理解して赤飯を調理する。包丁の研ぎ方の基本を理解して練習する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第15回	定期試験	定期試験と半年間のまとめ	半年間の学びを総合的に復習をする。	60分

学習計画注記	進行状況および感染症の流行状況により、変更が生じる場合がある。
学生へのフィードバック方法	学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、1402（綿貫）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）
評価方法	各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート） 実技試験 定期試験 平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等） 以上を総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○			

	実技試験	○	○		
	定期試験	○			
	平常点			○	

評価割合	各種提出物30%（１回でも未提出の場合は、30%分を評価の対象外とする） 技術試験30% 定期試験20% 平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）978-4-8103-1457-1 「八訂食品成分表2021」女子栄養大学出版部、 「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日3時限　1402　（綿貫仁美）
学生へのメッセージ	調理技術の向上は、何度も経験することが大切です。 授業だけでなく、日々の生活の中でも積極的に調理に関わって行きましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、集団給食施設において業務に携わった経験を踏まえ、基礎調理学実習を担当する上で調理の理論と技術を実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	応用調理学実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富　あき子	指定なし

ナンバリング	H22308C13
授業概要(教育目的)	基礎調理で学んだことをふまえ、諸外国の料理や行事食、郷土食の調理を通し調理技術の向上を図る。授業中はもとより自宅でも日々調理を行い調理に慣れること。 基礎調理学実習と同様に毎回決められたテーマにそって3～4品の献立を4～5人のグループごとに調理する。 授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、１つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	応用的な調理技術と器具類の正しい使用方法を身に付け実践できる。
思考・判断の観点（K）	郷土料理や各国の食文化を理解しながら調理が実践できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	班員と協力し合いながら遂行できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

基礎調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	これから実習を行うにあたり、基本的は注意事項を理解する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第2回	日本料理	秋の献立を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。	60分

			来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	
第3回	西洋料理１	フランスの食文化を理解しながらサンドイッチ等を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第4回	西洋料理２	パスタについて理解しながらイタリア料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第5回	西洋料理３	オーブンを活用しながら魚の包み焼き、クッキー等を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第6回	中国料理１	中国の食文化を理解しながら中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第7回	中国料理２	揚げる、焼く、蒸す操作を入れながら中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第8回	韓国料理	韓国の食文化を理解しながら韓国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第9回	東南アジアの料理	東南アジア（インドネシア、ベトナム、タイ）の食文化を理解しながら調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第10回	日本の郷土料理	各県の郷土料理を理解しながら、今回は鹿児島県の郷土料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 実技試験に備えて調理の練習を行う。	60分
第11回	行事食１	クリスマスの意味を理解しながらパーティー料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第12回	行事食２	正月の行事について理解しながら数品のおせち料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第13回	行事食3	桃の節句の行事について理解しながら、桃の節句で食べる料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 次週の実技試験の練習を行う。	60分
第14回	実技試験	応用調理学実習で取り上げた料理の中から１～2品の実技試験を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第15回	まとめ、包丁の確認	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。各自の包丁が正しく扱われているか確認する。	半年間学んだことを総合的に復習する。	60分

学生へのフィードバック方法	学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、１B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）
評価方法	各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート） 実技試験 定期試験 平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等） 以上を総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
提出物	○			

	実技試験	○	○		
	定期試験	○			
	平常点			○	

評価割合	各種提出物30%（１回でも未提出の場合は、30%分を評価の対象外とする） 技術試験30% 定期試験20% 平常点20%
使用教科書名(ISBN番号)	「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）ISBN 978-4-8103-1457-1 「八訂食品成分表2021」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1021-9 「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-0323-5
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
オフィスアワー	木曜日2時限　1B04研究室　（大富あき子）
学生へのメッセージ	調理技術向上には授業を受けるだけではなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。 「調理が楽しくて好き」と言えるようになりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食事計画論実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　理津子	指定なし

ナンバリング	H12309C13
授業概要(教育目的)	管理栄養士業務の基本は、対象者の状態に応じた栄養管理を適切に運営することである。そのためには、栄養状態の診断結果を客観的に分析する力、必要な支援計画を立案する力、目標達成に向け計画を運営する力が必要となる。 そこで、本実習では、栄養管理の要となる食事計画について、栄養管理の手順に沿って実践しながら、対象者の健康状態に応じた栄養管理を行うために必要な知識と技術の習得を目標とする。また、食事計画の立案にあたっては、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」をベースに、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、食事計画を立案できる力を育成する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	①栄養管理の実践に必要な基礎知識を身につけている。 ②栄養管理の目的および手順を理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	対象者の健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	班員と協力しながら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点（A）	①栄養管理の手順に基づいた食事計画を運営できる。 ②栄養管理計画の作成に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を適切に使用しながら創意工夫して食事計画を立案できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	(1)オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、諸注意事項	(1)授業の学習目標を確認する。 (2)献立作成の基礎を身につけるために、１品の適正量を確認する。	予習：「人間栄養学原論」の学習内容をワークシートをもとに振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。	120分

	など (2)献立の分析①（1品の適量の理解）、栄養計算の復習			
第2回	献立の分析②（調理法による栄養価の違い）	献立作成の基礎を身につけるために、調理法による栄養価の違いを確認する。	予習：「基礎調理学実習」と「人間栄養学原論」の学習内容を振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。	120分
第3回	(A)食材の分析（旬カレンダーの作成）、栄養価計算の復習 (B)調理実習室の準備	(A)献立作成の基礎を身につけるために食材の分析（旬カレンダーの作成）、栄養価計算の復習を行う。 (B)調理実習室の準備しながら、献立や盛り付けの構想を練る。	予習：実習室に入室する準備をする。 復習：学習内容を振り返る。	60分
第4回	栄養管理の手順	「人間栄養学原論」で学習した栄養管理の基本的知識を振り返り、栄養アセスメントを実践する。	予習：「人間栄養学原論」の学習内容をワークシートをもとに振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。	120分
第5回	(A)見本献立の調理 (B)献立の分析③（献立構成の理解）	(A)献立作成の基礎を身につけるために見本献立を調理し、考察する。 (B)献立作成の基礎を身につけるために見本献立を分析し、考察する。	予習：実習室に入室する準備をする。 復習：学習内容をレポートにまとめる。	60分
第6回	(A)献立の分析③（献立構成の理解） (B)見本献立の調理	(A)献立作成の基礎を身につけるために見本献立を分析し、考察する。 (B)献立作成の基礎を身につけるために見本献立を調理し、考察する。	予習：実習室に入室する準備をする。 復習：学習内容をレポートにまとめる。	60分
第7回	栄養状態の診断（アセスメント）の実践、給与栄養目標量の設定	「人間栄養学原論」で学習した栄養管理の基本的知識を振り返り、栄養アセスメントを実践する。 アセスメントを分析し、その結果にもとづき目標を設定する。また、目標を達成するために必要なエネルギーおよび栄養素の摂取目標量を設定する。	復習：目標および給与栄養目標量の設定内容が適切であるかどうか、資料類および「食事摂取基準[2020年版]」で確認する。ワークシートに記録する。	120分
第8回	食品構成の作成	前回の「給与栄養目標量」を達成するための食品群ごとの摂取量を決定し、食品構成表を作成する。	復習：設定した食品群ごとの摂取量が適切であるか、ワークシートをもとに確認する。ワークシートに記録する。	60分
第9回	献立作成①（献立構成、食材、使用量の決定）	料理様式、調理法、料理の組み合わせを考慮し、前回作成した食品構成をもとに献立を作成する。 具体的には献立構成（主食・主菜・副菜）、使用食材、使用量を決定する。	予習：「人間栄養学原論」のワークシートをもとに望ましい献立構成を確認する。 復習：設定した献立が適切であるか、ワークシートやテキスト類をもとに確認する。ワークシートに記録する。	60分
第10回	献立作成②（栄養価計算）	使用する食材や使用量の栄養価を算出し、第7回で決定した給与栄養目標量の範囲内であることを確認する。	予習：授業前までに献立構成、使用食材、使用量を決定しておく。 復習：給与栄養目標量の範囲内となるよう献立の栄養価、味、見た目などを確認・調整する。ワークシートに記録する。	120分
第11回	献立作成③（献立修正、作業工程の立案、発注伝票の作成	献立の構成、組み合わせ、栄養価を確認後、調理工程を確認し、実施計画を立てる。また、献立を実施するにあたり必要な食材を調達するため、発注伝票を作成する。	復習：作業工程および発注量を確認し、期日までに作業工程表と発注伝票を提出する。ワークシートに記録する。	120分
第12回	(A)献立の実践 (B)食材の分析（旬カ	(A)計画にもとづき調理を行い、評価する。 (B)献立作成の基礎を身につけるために食材の分析（旬カレンダーの作成）、栄養価計算の復習を行う。	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を	60分

	レンダーの作成）、栄養価計算の復習		振り返り、まとめる。ワークシートに記録する。	
第13回	(A)実施献立の分析 (B)献立の実践	(A)実施献立の内容を分析・評価し、まとめる。 (B)計画にもとづき調理を行い、評価する。	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。ワークシートに記録しながら、プレゼンテーション資料を作成する。	120分
第14回	(A)評価の報告、調理実習室の清掃 (B)実施献立の分析	(A)栄養管理全体の評価について報告書にまとめた内容を発表する。 (B)実施献立の内容を分析・評価し、まとめる。	予習：発表原稿を覚える。 復習：報告書を作成する。	120分
第15回	評価の報告	栄養管理全体の評価について報告書にまとめた内容を発表する。	予習：発表原稿を覚える。 復習：報告書を作成する。	120分

学習計画注記	進行状況および感染症の流行状況によって内容を前後させる場合がある。 変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。
学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。
評価方法	提出物50%、定期試験30%、平常点20%を総合的に評価する。 ※提出物（Ｋ・Ｖ・Ａ）：提出された内容の正確性、丁寧さを評価する。なお、提出遅れ、未提出は評価の対象外とする。 ※定期試験（Ｋ）：範囲は授業時間中に提示する。 ※平常点（Ｖ・Ａ）：受講態度、予習の状況、プレゼンテーション等の状況を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物	○	○	○	○
	定期試験	○	○		
	平常点			○	○

評価割合	提出物50%、定期試験30%、平常点20%とし、総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	「八訂食品成分表」　女子栄養大出版部 「調理のためのベーシックデータ第５版」　女子栄養大出版部 「日本人の食事摂取基準[2020年版]」　第一出版
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	水曜日昼休み（1B05研究室）
学生へのメッセージ	１）受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 〇遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 〇計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 〇提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。 ２）電卓を用意する。試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可とする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、スポーツ栄養の現場、行政施設等での実務経験を有しており、対象者に応じた栄養管理業務について理論と技術を教授している。

アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生は班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。
情報リテラシー教育	○	発表会用のプレゼンテーション資料を作成する。
ICT活用	○	発表会用の資料をパワーポイントで作成し、映写して発表する。

ウインドウを閉じる

講義名	食品衛生学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林　一也	指定なし

ナンバリング	H22310C21
授業概要(教育目的)	食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめまぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農薬、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食の安全･安心とは何かを食品衛生と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点（K）	様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

食品衛生学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、食品衛生行政および関連法規、食品の表示　(webによるオンデマンド配信)	食品衛生学のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。食品衛生に関連する法規や行政の仕組みを理解する。また、国際的な食品衛生の規格などについてもについて理解をする。	教科書第1章「食品の安全」1～6ページおよび第2章「食品衛生と法規」5～23ページを読んでおくこと。特に衛生に関する行政や法規は複雑なので良く復習をして理解すること。	180分
第2回	食品の変質と防止方法（変質，保存方法，包装容器）(webによるオンデマンド配信)	食品の変質はどのようにして起きるのか、またその防止方法について理解をする。	教科書第3章「食品の変質／油脂の酸敗、食品の変質の防止法、鮮度、腐敗、酸敗の判定法」32～54ページを読んでおくこと。	180分
第3回	食品と微生物（微生物の種類）(webによるオンデマンド配信)	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。	教科書第3章「食品の変質／微生物」25～31ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性質は複雑なので良く復習をして理解すること。	120分

第4回	食品と微生物（微生物の諸性質）(webによるオンデマンド配信)	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。	教科書第3章「食品の変質／微生物」32～41ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性質は複雑なので前回の講義内容と合わせて復習をして理解すること。	180分
第5回	食中毒の定義と食中毒（細菌性１）(対面授業)	食中毒とは何か、定義や発生状況等を理解する。食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／食中毒とは、食中毒の発生状況」57～65ページを読んでおくこと。食中毒は食品衛生の中心となるので良く復習をして理解すること。教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	120分
第6回	食中毒（細菌性２）(対面授業)	食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	120分
第7回	食中毒（細菌性３，ウイルス性）(対面授業)	食中毒のうちで細菌性の食中毒およびウイルス性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページおよび「食中毒／ウイルス性食中毒」90～95ページを読んでおくこと。細菌別やウイルスの食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	120分
第8回	食中毒（寄生虫･自然毒・化学毒・食物アレルギー）(webによるオンデマンド配信)	食中毒のうち微生物によって起こる以外食中毒で、寄生虫、動物性･植物性の食中毒、化学毒、食物アレルギーなどについて理解する。	教科書第4章「食中毒／寄生虫による食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、食物アレルギー」96～116ページを読んでおくこと。また、全体的に食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	240分
第9回	寄生虫と感染症　(webによるオンデマンド配信)	前回の続き寄生虫症と食品から感染する感染症について理解する。	教科書第5章「食品による感染症と寄生虫症」117～148ページを読んでおくこと。	120分
第10回	食品汚染物質　1(対面授業)	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化(食品加工)によって生じる有害物質について良く復習をして理解すること。	180分
第11回	食品汚染物質　2　(対面授業)	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化(食品加工)によって生じる有害物質について良く復習をして理解すること。	180分
第12回	食品添加物1(対面授業)	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。	180分
第13回	食品添加物2　(対面授業)	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。	180分
第14回	食品衛生管理と包装容器，食品の安全性の問題　(webによるオンデマンド配信)	食品衛生管理法として HACCPやISOを理解する。併せて洗剤や包装容器についても理解する。また，食の安全、残留農薬や遺伝子組換え、放射線処理などの問題を理解する。	教科書第8章「食品衛生管理」209～238ページおよび第9章「食品用器具および包装容器」239～245ページ，教科書第10章「食品の安全性問題」247～263ページを読んでおくこと。	180分
第15回	食品の安全性の問題とまとめ(対面授業)	全体を通したまとめを行う。	食品衛生の全体を良く理解できるように復習すること。	480分

学習計画注記	学年暦，時間割の変更，講義内容の進行状況によりシラバス・講義形態が変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法	成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（90%）授業への参加態度などの平常点（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	食べ物と健康　食品の安全　改訂第2版　有薗幸司（編集）　南江堂　2018
ディプロマポリシーとの関連	【知識･理解】食品衛生に関する基礎知識を学ぶことによって，管理栄養士として食や栄養を扱う上での、食品衛生の基礎を理解できる知識基盤を有している。 【思考･判断】食品衛生に関する正確な情報を収集し、論理的･批判的に思考することで食の安全･安心に関する取り組みに対処できる能力を身につける。
オフィスアワー	月曜日3時限　1401研究室
学生へのメッセージ	食品衛生は，食品を扱う上での基本です。食品添加物や食品表示，食中毒など様々なものを学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食品衛生学実験		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林　一也	指定なし

ナンバリング	H32311C13
授業概要(教育目的)	食品衛生の立場から、食品の安全性を確かめる物理的，化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	食品衛生の技術を学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点（A）	食の安全･安心の基本となる食衛生の諸技術を学ぶことで、様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。

学習計画

食品衛生学実験

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	食品衛生学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明および実験で使用する器具などの説明。		
第2回	微生物培養培地作製	微生物の標準培養培地の作成。微生物を培養するときの方法や培地の説明		
第3回	微生物培養培地作製	微生物の選択培養培地および大腸菌検査培地の作成。微生物を殺菌法、保存法などをの説明。		
第4回	食品の微生物検査（標準平板培養	普段、食している食品中の一般生菌数と大腸菌群数を検査する。		

	法，大腸菌群テスト）			
第5回	食品の微生物検査（生菌数，大腸菌群数，大腸菌確定検査）	普段、食している食品中の一般生菌数、大腸菌群数の検査および大腸菌群測定培地で得られたコロニーのうち、大腸菌を確定する試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第6回	真菌類の食品からの分離（カビ，酵母）	真菌を用いてつくられている食品から真菌類(カビおよび酵母)を分離する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	真菌類の形態観察，細菌類の分離	前回分離したカビおよび酵母のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、細菌を用いてつくられた食品から細菌類を分離する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	細菌類の顕微鏡観察（グラム染色など）	前回分離した細菌類の分離した細菌のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、分離した細菌をグラム染色を行い、グラム陽性、陰性の検査を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	微生物の抗生物質耐性試験	真菌類および細菌類の各種抗生物質に対する抵抗性(感受性)試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	微生物の耐紫外線，耐熱性試験	細菌類の紫外線および加熱に対する耐性試験を行い、紫外線、加熱殺菌に対する効力を検討する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	生活環境と手指等の清潔度（微生物汚染度）の測定	生活環境における微生物生息数の試験および手指に生息する微生物数の試験（手洗いによる微生物除去も含め）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	遺伝子組換え食品の検出試験	遺伝子組換え食品として流通が許されている食品から遺伝子組換え作物を原料として用いているかの判定試験（遺伝子組換え検出試験）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	食品添加物（着色料）の検出試験	食品添加物の着色料を食品から分離検出する試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	油脂の酸化度測定、水道水の残留塩素濃度測定、畜肉加工品の発色剤の検出	使用済み、未使用の油脂の酸化度の測定、水道水の残留塩素濃度の測定、畜肉加工品に使用される発色剤の検出を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	残留農薬試験	食品に残留する残留農薬をGC-MSを用いて検出する方法を学ぶ。	実験におけるレポートを作成する。	60分

学習計画注記	授業はすべて対面で実施する。但し，授業内容は，学年暦などにより回の内容，授業形態(対面，オンデマンド)が入れ替わることがある。
学生へのフィードバック方法	各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
評価方法	成績の評価は、レポート提出とその内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	実験に臨む態度等			○	○

評価割合	レポート（５０％）および実験へ臨む態度などの平常点（５０％）で判定する。
使用教科書名(ISBN番号)	プリント配布

ディプロマポリシーとの関連	【知識･理解】食品衛生の技術・手法などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、食品衛生を行える能力を身につけている。 【思考･判断】食品衛生の正確な情報を収集することで的確な食品衛生を行える能力を身につけている。 【関心･意欲･態度】食品衛生の技術・手法などを学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。 【技術･表現】食品衛生の技術･手法を学ぶ実学を通じて、食品の安全･安心を的確に扱える専門的技能を身につけている。
オフィスアワー	オフィスアワー 月曜日3時限　1401研究室
学生へのメッセージ	食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査，食品添加物の検査などを行います。社会に出て，食の分野で働くためには必要な基礎知識です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生学実験を教える上で食品衛生の管理等の手法を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎栄養学Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野　知紀	指定なし

ナンバリング	H13401C21
授業概要(教育目的)	基礎栄養学Ⅰでは、栄養とは何か、その意義について理解するとともに、栄養素の消化・吸収の基本概念を修得する。人間の個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品に含まれる栄養素の面から捉え、生体内に吸収された後、生体の構成成分として代謝変換される一連の代謝過程について体系的に講義する。また、エネルギーの消費と供給のバランスを保つ摂食行動及びそれに係る代謝調節の全体像についても概説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．栄養と栄養素について説明できる。 ２．生活習慣病と遺伝子多型（遺伝因子）の関連について説明できる ３．摂食行動の調節機構について説明できる。 ４．消化・吸収と排泄の意義と調節機構について説明できる。 ５．栄養素ごとに，関連の消化酵素と作用機序，吸収過程について説明できる。 ６．炭水化物の栄養学的役割について説明できる。 ７．炭水化物の各臓器における役割と動態を説明できる。 ８．血糖とその調節機構を説明できる。 ９．食物繊維の定義，種類，分類，主な生理機能について説明できる。 10．脂質の栄養学的役割について説明できる。 11．脂質の体内動態と臓器特性について説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義（重要性）を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養の定義、栄養と	栄養の概念および栄養と健康・疾患との関わりから、栄養の意義を理解する。欠乏と過剰を起源とした栄養学の	教科書第1章の「栄養の定義」「栄養と健康・疾患」（14～19	復習と予習をあわせて180分

	健康・疾患	歴史について学ぶ。	ページ）を読んでおくこと。	
第2回	遺伝形質と栄養の相互作用	遺伝形質と栄養の相互作用について学び、生活習慣病と遺伝子多型の関連について理解する。特に、倹約（節約）遺伝子の種類と役割を知る。	教科書第1章の「遺伝形質と栄養の相互作用」（20～25ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第3回	食物の摂取（空腹感と食欲、食事のリズムとタイミング）	空腹時、満腹時における生理的な条件変化（自律神経系、内分泌系など）に伴う摂食行動の調節機構を理解する。また、摂食行動における概日リズムの重要性を知る。	教科書第2章の「満腹感・空腹感と食欲」「摂食量の調節」「食事のリズムとタイミング」（28～36ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態（消化器系の構造と機能）	栄養素の消化と吸収の意義と機構について、消化器系の構造と機能の観点から理解する。	教科書第3章の「消化器系の構造と機能」「消化・吸収と栄養」（39～44ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態（消化過程の概要、管腔内消化の調節）	物理的消化、化学的消化、生物学的消化の概念を理解する。特に化学的消化に係る消化酵素の種類やはたらきに関する基本的事項を学び、ホルモンによる分泌調節の仕組みを理解する。	教科書第3章の「消化過程（分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物）の概要」「管腔内消化の調節」（44～51ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第6回	消化・吸収と栄養素の体内動態（膜消化・吸収）	吸収の機序（受動輸送、能動輸送）の基本的概念を理解する。さらに、水溶性栄養素と脂溶性栄養素の体内動態について学ぶ。	教科書第3章の「膜消化・吸収」（52～56ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第7回	栄養素別の消化・吸収（炭水化物、たんぱく質）	炭水化物とたんぱく質の消化・吸収の機序を学ぶ。特に、それぞれの栄養素の消化に係る酵素と、吸収に係る輸送体（トランスポーター）の種類と役割について理解する。	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収」のたんぱく質と炭水化物（糖質，食物繊維）（56～59ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第8回	栄養素別の消化・吸収（脂質、ビタミン、ミネラル）	脂質、ビタミン、ミネラルの消化・吸収の機序を学ぶ。特に、生理的条件におけるミネラルの吸収性の違いについても把握する。	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収」の脂質、ビタミン、ミネラル）（59～63ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第9回	栄養素の体内動態、生物学的利用度	消化吸収率の測定法および算定法を理解する。	教科書第3章の「栄養素の体内動態」「生物学的利用度（生物学的有効性）」（64～66ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第10回	炭水化物の栄養（エネルギー源としての作用，血糖とその調節）	血糖値調節ホルモンの種類と役割を学ぶ。グリコーゲンの体内分布、その分解と合成の過程をエネルギー代謝との関係で把握する。	教科書第4章の「エネルギー源としての作用」「血糖とその調節」（70～74ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第11回	炭水化物の栄養（糖質の体内代謝）	炭水化物の各臓器における役割と動態を理解する。特に、脳のエネルギー源としてのグルコースの役割を知り、血糖の一定に保つのとの重要性を理解する。	教科書第4章の「糖質の体内代謝」（75～78ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第12回	炭水化物の栄養（他の栄養素との関係、食物繊維）	炭水化物の摂取量に影響して、必要量が変わるビタミンを理解する。食物繊維の定義、種類、分類、それぞれの主な生理作用を理解する。	教科書第4章の「他の栄養素との関係」「食物繊維」（78～83ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第13回	脂質の栄養（脂質の臓器間輸送）	脂質の臓器間輸送におけるリポたんぱく質の役割を理解する。絶食時の脂肪組織におけるホルモン感受性リパーゼの作用を理解する。	教科書第5章の「脂質の臓器間輸送」（95～98ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第14回	脂質の栄養（脂質の体内代謝）	食後，食間期の脂質の体内代謝を学ぶ。また，細胞内で脂肪酸からエネルギーが産生されるまでの流れを理解する。	教科書第5章の「脂質の体内代謝」（98～100ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第15回	脂質の栄養（摂取する脂質の量と質の評価、脂肪酸由来	脂肪酸由来の生理活性物質（エイコサノイド）の種類と役割を理解する。	教科書第5章の「摂取する脂質の量と質の評価」「脂肪酸由来の生理活性物質」「他の栄養素との関係」（101～102ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分

	の生理活性物質，他の栄養素との関係）			
第16回	定期試験	第1回～15回の授業内容について定期試験を行う。	授業内容を復習しておくこと。	

学生へのフィードバック方法	・確認テストの模範解答は、授業内に提示する。 ・質問等がある場合にはemail等で連絡すること。
評価方法	・確認テストは，各回の授業の学習範囲から出題し，授業内に実施する。すべて選択式の方式で出題する。なお、合理的な理由がない限り、確認テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は，確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	確認テスト	○			

評価割合	定期試験（90%）、確認テスト（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学改訂第４版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1360-1）
参考図書	栄養科学イラストレイテッド［演習版］基礎栄養学ノート 改訂第４版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1361-8）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日2限目
学生へのメッセージ	我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎栄養学Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野　知紀	指定なし

ナンバリング	H13402C21
授業概要(教育目的)	基礎栄養学Ⅱでは、健康の保持・増進疾病の予防・治療における栄養の役割を総合的に理解する。特に、ビタミン、無機質（ミネラル）、電解質、水分については、それぞれの栄養学的役割を概説し、欠乏または過剰がもたらす代謝変化を知る。また、基礎代謝や臓器別エネルギー代謝などエネルギー代謝の基本的概念について、その測定法を含めて学ぶ。
履修条件	基礎栄養学Ⅰを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割，臓器間輸送と臓器における機能の特徴について説明できる。 ２．窒素平衡と食事たんぱく質の栄養価評価法について説明できる。 ３．ビタミンの栄養学的役割，生理作用と欠乏・過剰について説明できる。 ４．ビタミンの吸収と体内利用に及ぼす食事成分の影響について説明できる。 ５．ミネラルの吸収，体内動態，および生理学的役割について説明できる。 ６．ミネラルの欠乏と過剰が生体に及ぼす影響について説明できる。 ７．生体内の水の分布，機能および水分出納について説明できる。 ８．電解質（Na，K等）の生理学的役割について説明できる。 ９．基礎代謝・安静時代謝，活動時代謝の定義，身体活動レベルについて説明できる。 10．生体の利用エネルギー，エネルギー消費量の測定法，エネルギー出納について説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義（重要性）を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	たんぱく質の栄養（たんぱく質の	たんぱく質・アミノ酸の代謝について，食後，食間期の違いを把握する。生体内におけるたんぱく質の合成と分解の仕組みについて理解する。	教科書第6章の「たんぱく質の合成と分解」「たんぱく質・ア	復習と予習をあわせて180分

	合成と分解，たんぱく質・アミノ酸の臓器間輸送）		ミノ酸の体内代謝」（110～113ページ）を読んでおくこと。	
第2回	たんぱく質の栄養（たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差，アミノ酸の臓器間輸送）	たんぱく質・アミノ酸の臓器間輸送と臓器における機能の特徴（代謝の臓器差）について理解する。	教科書第6章の「たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差」「アミノ酸の臓器間輸送」（114～117ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第3回	たんぱく質の栄養（摂取するたんぱく質の量と質の評価，他の栄養素との関係）	食事たんぱく質の栄養価評価法（生物学的評価法，化学的評価法）について，その基本的概念を理解する。たんぱく質の摂取量に影響して，必要量が変わるビタミンを理解する。	教科書第6章の「摂取するたんぱく質の量と質の評価」「他の栄養素との関係」（117～121ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第4回	ビタミンの栄養（ビタミンの構造と機能：脂溶性ビタミン）	脂溶性ビタミンの種類と機能を理解する。また、脂溶性ビタミンの摂取過多による過剰症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（126～129ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第5回	ビタミンの栄養（ビタミンの構造と機能：水溶性ビタミン①）	水溶性ビタミンの種類（B1，B2，B6，B12，ナイアシン）と機能を理解する。また、水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（129～132ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第6回	ビタミンの栄養（ビタミンの構造と機能：水溶性ビタミン②）	水溶性ビタミンの種類（葉酸，パントテン酸，ビオチン，ビタミンC）と機能を理解する。また、水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」（133～135ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第7回	ビタミンの栄養（ビタミンの栄養学的機能、ビタミンの生物学的利用度、他の栄養素との関係）	ホルモン様作用、補酵素、抗酸化作用、血液凝固、造血作用、一炭素単位代謝に係る各種ビタミンについて理解する。水溶性ビタミンの組織飽和と尿中排泄、腸内細菌によるある種のビタミンの産生、ビタミンB12吸収機構の特殊性を理解する。	教科書第7章の「ビタミンの栄養学的機能」「ビタミンの生物学的利用度」「他の栄養素との関係」（135～139ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第8回	ミネラルの栄養（ミネラルの分類と栄養学的機能、硬組織におけるはたらき）	多量ミネラルと微量ミネラルの分類を学び、体内における分布とその意義を理解する。硬組織（骨、歯）におけるカルシウム、リン、マグネシウムの役割を理解する。	教科書第8章の「ミネラルの分類と栄養学的機能」「硬組織におけるはたらき」（143～146ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第9回	ミネラルの栄養（生体機能の調節作用、酵素反応の賦活作用）	血圧調節に係るアンジオテンシン、アルドステロンとナトリウムの仕組みを理解する。活性酸素消去酵素、呼吸酵素に係るミネラルを把握する。	教科書第8章の「生体機能の調節機構」「酵素反応の賦活作用」（147～148ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第10回	ミネラルの栄養（鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度）	ヘム鉄と非ヘム鉄、機能鉄と貯蔵鉄の関係を理解する。カルシウム、鉄の消化吸収率と変動要因について理解する。	教科書第8章の「鉄代謝と栄養」「ミネラルの生物学的利用度」（149～151ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第11回	水・電解質の栄養的意義（水の出納）	水の供給と排出に係る代謝水、不可避尿、不感蒸泄の実際を理解する。	教科書第9章の「生体内の水」「水の出納」（155～158ページ）を読んでおくこと。	復習を予習をあわせて180分

第12回	水・電解質の栄養的意義（脱水、浮腫、電解質代謝と栄養）	脱水の種類と臨床的症状を理解する。酸塩基平衡における電解質の役割を理解する。高血圧とナトリウム・カリウムの関与を理解する。	教科書第9章の「脱水、浮腫」「電解質代謝と栄養」（158～166ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第13回	エネルギー代謝の概念	物理的燃焼値と生理的燃焼値の違いについて把握する。基礎代謝量の概念と基礎代謝量に影響を及ぼす因子について理解する。	教科書第10章の「エネルギー代謝の概念」「エネルギー消費量（基礎代謝量）」（170～172ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第14回	エネルギー消費量，臓器別エネルギー代謝	メッツ（Mets）、身体活動レベル（PAL）の定義を理解する。安静時における臓器別エネルギー代謝量の特徴を理解する。	教科書第10章の「エネルギー消費量」「臓器別エネルギー代謝」（172～176ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第15回	エネルギー代謝の測定法	呼気ガス分析によるエネルギー代謝量の測定原理、エネルギー基質としての糖質と脂質の燃焼割合の算出法を理解する。	教科書第10章の「エネルギー代謝の測定法」（176～180ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて180分
第16回	定期試験	第1回～15回の授業内容について定期試験を行う。	教科書6章から10章までを復習しておくこと。	

学生へのフィードバック方法	・確認テストの模範解答は，授業内に提示する。 ・質問事項がある場合は，email等で連絡すること。
評価方法	・確認テストは，各授業の学習内容から選択式問題として出題する。 ・定期試験は，毎回行う確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	確認テスト	○			

評価割合	定期試験（90%），確認テスト（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第４版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1360-1）
参考図書	栄養科学イラストレイテッド［演習版］基礎栄養学ノート 改訂第４版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1361-8）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	火曜3時限
学生へのメッセージ	我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎栄養学実験（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 坂野　史明	指定なし

ナンバリング	H23403C13
授業概要(教育目的)	栄養素が生体内でどのような消化・吸収・代謝経路をたどり、生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかなどについて、実験的手法を通して理解する。また、摂取する栄養素の量と質によって生体濃度が変化するため、その測定法を習得する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各栄養素の消化過程についてその概要が説明できる。血液の生化学的検査手法について説明できる。
思考・判断の観点（K）	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実験に主体的に取り組む意欲をもつ。
技術・表現の観点（A）	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	実験の概要と注意点、実験ノートやレポート作成の方法について解説する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第2回	糖質実験（でんぷんの消化Ⅰ）	でんぷんの消化過程を観察し、糖質の消化と反応温度の関係について考察する。	予め配布テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第3回	糖質実験（でんぷんの消化Ⅱ）	でんぷんの消化過程を観察し、糖質の消化とpHの関係について考察する。	予め配布テキストをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。	60分

			得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	
第4回	糖質実験（でんぷんの消化Ⅲ）	でんぷんの消化によって生じたグルコースを定量する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第5回	たんぱく質実験（たんぱく質の消化Ⅰ）	たんぱく質の消化過程を観察し、反応温度との関係について考察する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第6回	たんぱく質実験（たんぱく質の消化Ⅱ）	たんぱく質の消化過程を観察し、pHとの関係について考察する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第7回	たんぱく質実験（たんぱく質の消化Ⅲ）	たんぱく質の消化によって生じた低分子のペプチド、アミノ酸を定量する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第8回	脂質実験（脂質の消化Ⅰ）	リパーゼによる脂質の消化過程を観察し、反応温度やpHとの関係について考察する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第9回	脂質実験（脂質の消化Ⅱ）	脂質のリパーゼ消化産物を薄層クロマトグラフィー（TLC）法で分析する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第10回	クロマトグラフィー実験Ⅰ	クロマトグラフィー法の原理と物質の分離について理解する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第11回	クロマトグラフィー実験Ⅱ	カラムクロマトグラフィー法による物質の添加回収実験を行い、その正確さについて考察する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第12回	クロマトグラフィー実験Ⅲ	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）法を用いた分離定量実験を行い、その特徴について考察する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第13回	血液成分に関する実験Ⅰ	血清中のトリアシルグルセロールおよび遊離脂肪酸含量を測定する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第14回	血液成分に関する実験Ⅱ	血清中の総コレステロールおよび遊離コレステロール含量を測定する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分
第15回	血液成分に関する実験Ⅲ	血清中のアミノ基転移酵素活性を測定する。	予め配布プリントをよく読んで、実験の背景、目的、方法等を実験ノートにまとめる。 得られた実験結果に基づいて、レポートを作成する。	60分

学習計画注記	実験の進行状況により、学習計画を一部変更・修正する可能性がある。
学生へのフィードバック方法	レポートの提出により、栄養成分の消化過程について理解が進むようにフィードバックする。
評価方法	実験への取り組み方、実験ノートの取り方、レポートの内容から総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実験への取り組み方	○	○	○	○
	実験ノート	○	○		
	レポート	○	○		

評価割合	実験への取り組み方（20%）、実験ノート（20%）、レポート（60%）
使用教科書名(ISBN番号)	プリントを配布
参考図書	新しい生化学･栄養学実験　ISBN4-7827-0450-x c3077
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。 【技能・表現】健康の保持増進に関する専門的技能を身につけている。
オフィスアワー	木曜日2時限目
学生へのメッセージ	基礎専門知識を導く元となる実験を通して管理栄養士の基礎力を身につけてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国立研究機関において生化学・分子生物学研究に関する実務経験があり、栄養成分の生化学的分析法について実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食事摂取基準論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 鈴木　孝子	指定なし

ナンバリング	H23501C21
授業概要(教育目的)	食事摂取基準の概念や、エネルギーおよび各栄養素の基準値設定とその根拠について講義する。特に国内外における基礎的研究・疫学的研究などの結果の意義や解釈について説明する。さらに食事摂取基準値と疾病リスクとの関連、また、ライフステージ別の特徴についても講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食事摂取基準策定の意義や科学的根拠について説明できる。 栄養素の各指標について科学的根拠に基づき説明できる。
思考・判断の観点（K）	健康増進・疾病予防に寄与する栄養素の機能などを理解し、各ライフステージにおける栄養管理に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	総論	食事摂取基準について、策定方針、基本的事項、留意事項、活用に関する基本的事項などを理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第2回	総論２，エネルギー１	食事摂取基準について、策定方針、基本的事項、留意事項、活用に関する基本的事項などを理解する。 エネルギーに関する基本的事項、エネルギー摂取の消費、エネルギー必要量に関する基本的事項や、必要量の測定・推定・算定などについて理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分

第3回	エネルギー２	エネルギーに関する基本的事項、エネルギー摂取の消費、エネルギー必要量に関する基本的事項や、必要量の測定・推定・算定などについて理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第4回	たんぱく質	たんぱく質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第5回	脂質，炭水化物，エネルギー産生栄養素バランス	脂質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。炭水化物，エネルギー産生栄養素バランスに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第6回	脂溶性ビタミン１	脂溶性ビタミン（ビタミンA，D）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。　事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第7回	脂溶性ビタミン２	脂溶性ビタミン（ビタミンE，K）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第8回	水溶性ビタミン１	水溶性ビタミン（B1，B2）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第9回	水溶性ビタミン２	水溶性ビタミン（ナイアシン，B6，B12，葉酸）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第10回	水溶性ビタミン３	水溶性ビタミン（パントテン酸，ビオチン，ビタミンC）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第11回	多量ミネラル１	多量ミネラル（ナトリウム，カリウム）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第12回	多量ミネラル２	多量ミネラル（カルシウム，マグネシウム，リン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第13回	微量ミネラル1	微量ミネラル（鉄，亜鉛，銅，マンガン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。　事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第14回	微量ミネラル2	微量ミネラル（ヨウ素，セレン，クロム，モリブデン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	180分
第15回	水，対象特性，生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連	水，対象特性（妊婦・授乳婦，乳児・小児，高齢者），生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。これまでの授業内容を総復習しておく。	180分
第16回	定期試験			

学習計画注記	COVID-19の状況、履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義時に、関連する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%
使用教科書名(ISBN番号)	日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）
参考図書	健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学改訂第7版（南江堂）（ライフステージ別栄養学Iで使用している教科書です）
参考URL	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/eiyou/syokuji_kijyun.html
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	木曜日　3限　1206
学生へのメッセージ	単に栄養素の数値を覚えるのではなく、その背景にある考え方を理解するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、これまでに微量栄養（ミネラルやビタミン）の基礎的研究や疾病におけるそれらの動態について疫学的な調査を行っておりいくつかの論文で報告している。それらの実績をもとに臨床現場における栄養素摂取状況やそれらと疾患との関連について最新の情報を呈示しながら、実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	ライフステージ別栄養学Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤　恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	ライフステージ別栄養学Ⅰは応用栄養学の一分野に分類される。 本講義では、ライフステージ概論にはじまり、妊娠期（児の側からみれば胎児期）、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期にいたる成長期における各ライフステージの栄養学とそれらに関連した病態生理について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各ライフステージにおける特徴（疾病も含む）に基づいた栄養状態や栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点（K）	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ライフステージ別栄養学の概要	ライフステージやライフサイクルの概念、小児期の分類、ヒトのライフステージと食生活、成長発達に伴う変化生涯にわたる健康のためのアプローチについて理解する。	教科書の第3章、A, B（55-65ページ）を読んでおくこと。	120分
第2回	栄養アセスメント	栄養スクリーニングの方法、臨床検査値の解釈、問診. ・食事調査法について理解する。	教科書の第1章A-D（1-15ページ）を読んでおくこと。	120分
第3回	妊娠・産褥期の生理	妊娠成立の仕組み、発生週数と在胎週数の違い、妊娠に伴う母体の変化、胎児発育に影響を及ぼす因子、産褥について理解する。	教科書の第4章A（69-79ページ）を読んでおくこと。	120分
第4回	妊娠・分娩・産褥期	妊娠中の低栄養と次世代の健康、妊婦・授乳婦の栄養必要量や栄養付加量、妊産婦のための食事バランスガイ	教科書の第4章C-E（74-84ページ）を読んでおくこと。	120分

	の栄養アセスメントと病態生理	ド、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病について理解する。		
第5回	授乳期	乳汁に関するホルモン、母乳栄養の利点、初乳と生乳の違い、授乳婦の栄養、授乳中に注意すべき食品や服薬、垂直感染について理解する。	教科書の第4章授乳期A-D（84-100ページ）を読んでおくこと。	120分
第6回	正常新生児と乳児	新生児の分類、胎児循環、褐色脂肪細胞、新生児の診察と原始反射、新生児期から乳児期の身体発育の原則、授乳や離乳食が順調か否かの判断法について理解する。	教科書の第5章A, B（103-131ページ）を読んでおくこと。	120分
第7回	未熟児、新生児の病態生理と栄養学的問題	未熟性に起因した疾患や問題点、新生児黄疸、先天性胆道閉鎖症、ビタミンK欠乏性出血症、呼吸窮迫症候群、低血糖、貧血、消化管アレルギー、くる病、絵師成長円などについて理解する。	教科書の第5章C（117-131ページ）を読んでおくこと。	120分
第8回	栄養補給法母乳と人工乳の違い	母乳と人工乳の違い、母乳育児を進めるためのポイント、育児用ミルクの種類と特徴について理解する。	教科書の第5章C（117-128ページ）を読んでおくこと。	120分
第9回	乳児期の栄養と離乳食	離乳の開始・進行・終了、離乳食の進め方と支援法、手づかみ食べの重要性、咀嚼機能の発達、乳児期の食事摂取基準について理解する。	教科書の第5章のC（129-131ページ）を読んでおくこと。	120分
第10回	先天性代謝異常章と特殊ミルク	代表的な先天性代謝異常症の種類と病態・治療法、新生児マススクリーニング、特殊ミルクの適応症について理解する。	この部分は教科書には記載されていないが、国家試験問題としては頻出する。学習内容に記載されたのキーワードを参考にして、書籍やインターネットで予習しておくこと。	240分
第11回	幼児期の成長と栄養アセスメント	スキャモンの臓器別発育曲線、幼児の体格判定法、骨年齢、歯牙の生える順番、幼児期における各臓器の発育発達の特徴、間食の量や与え方について理解する。	教科書の第6s章A-C（133-141ページ）を読んでおくこと。	120分
第12回	幼児期の病態と栄養ケア	幼児期のやせと栄養障害、貧血、脱水、周期性嘔吐症、食物アレルギー、食を通じた幼児の健全育成について理解する。	教科書の第6章のD-F（142-158ページ）を読んでおくこと。	120分
第13回	学童期の成長障害と栄養アセスメント	思春期のホルモン分泌、成熟度の評価法、小児肥満・肥満症・メタボリック症候群、小児の家族性高コレステロール血症について理解する。	教科書の第7章A-B（161-181ページ）を読んでおくこと	120分
第14回	思春期の病態と栄養ケア	思春期に頻度が上昇する、糖尿病、やせ、貧血、女性アスリートの三主徴や、逸脱行為（喫煙、飲酒、性の問題）、生活リズム障害について理解する。	教科書の第7C（182-185ページ）を読んでおくこと。	120分
第15回	ライフステージ栄養学（妊婦、胎児、新生児、乳幼児、学童期、思春期）のまとめ	第1回から14回の講義で、特に栄養学的に重要な部分を確認し、理解や知識を確実なものとする。	第1回から14回までの配布資料に再度目を通すこと。知識が不確実な部分は、その部分の教科書も再度読んでおくこと。	240分

学習計画注記	COVID-19の状況、履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義時に、講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。
評価方法	学習到達度の確認テスト（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%
使用教科書名(ISBN番号)	応用栄養学：改訂第7版/渡邊令子ほか/南江堂/2020年/

	(978-4-524-22904-8)
参考図書	健康・栄養科学シリーズ：臨床医学．人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂） 病気がみえる vol.1～14（MEDIC MEDIA） 日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	木曜昼休み
学生へのメッセージ	今まで履修してきた基礎系の科目や臨床系の科目のみならず、社会医学系や栄養教育系など、どの科目とも有機的に繋がっています。他の分野とも関連付けながら学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	ライフステージ別栄養学Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤　恵美子	指定なし

ナンバリング	H33503C21
授業概要(教育目的)	本講義では、成人期、更年期、高齢者などの各ライフステージの栄養学とそれらに関連した病態生理について講義する。さらに、栄養とエネルギー代謝、スポーツと栄養、環境ストレス（疾患、生体リズム、温度環境、高所、高圧、低圧、無重力など）、災害時といった特殊な環境の条件下における生体の反応と特殊な栄養状態、および栄養的要求について講義する。
履修条件	臨床病態栄養学，臨床栄養学基礎，ライフステージ別栄養学Ⅰ を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各ライフステージにおける特徴（疾病も含む）に基づいた栄養状態や栄養管理について説明できる。健康と栄養，運動と栄養，特殊環境下などの生理的特徴や栄養について説明できる。
思考・判断の観点（K）	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養ケア・マネジメント，臨床検査値の読み方1	栄養ケア・マネジメントの概念について学習する。臨床検査の目的，種類，検査値の解釈（尿検査，便検査，血液一般検査，凝固系検査，血液生化学検査，免疫系検査等），臨床検査値と疾患について学習する。	事前学習：2年次までに学習した各種疾患について復習しておく。教科書第1章を読んでおく。 事後学習：授業で配布する資料および参考図書等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	150分
第2回	臨床検査値	臨床検査の目的，種類，検査値の解釈（尿検査，便検	事前学習：2年次までに学習し	150分

	の読み方2，食物アレルギー1	査，血液一般検査，凝固系検査，血液生化学検査，免疫系検査等），臨床検査値と疾患について学習する。 アレルギーの概要について学習する。	た各種疾患について復習しておく。教科書第1章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業で配布する資料および参考図書等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	
第3回	食物アレルギー2	乳幼児期のみならず、近年は成人期にも増加している食物アレルギーについて、病態・診断等を学習する。	事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	150分
第4回	食物アレルギー3	食物アレルギーの治療、栄養管理について学習する。	事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。第2回、第3回の食物アレルギーに関する授業内容を復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	150分
第5回	成人期１	成人期の生理的特徴，成人期特有の各種疾患（肥満症，メタボリックシンドローム等）について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第8章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第6回	成人期２	成人期特有の各種疾患（脂質異常症，高尿酸血症，高血圧，その他の生活習慣病，など）について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第8章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第7回	成人期３，更年期	成人期特有の各種疾患、さらに更年期における特有の生理的変化や各種疾患（婦人科系疾患，骨粗鬆症予防等）について学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する内容について復習しておく。臨床病態栄養学で使用した教科書の左記疾患該当部分および教科書第8章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第8回	高齢期１	高齢期の生理的変化の特徴について学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第9回	高齢期２	高齢期に多くみられる、フレイル、ロコモ―ティブシンドローム、サルコペニア、骨粗鬆症等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第10回	高齢期３	高齢期に多くみられる、摂食・嚥下障害、誤嚥等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第11回	高齢期４	高齢期に多く見られる認知症，脳血管障害，褥瘡等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第12回	運動生理，スポーツと栄養	運動時の生理的特徴やエネルギー代謝、運動と栄養ケアについて理解する。	事前学習：運動生理学で学習した内容を確認しておく。教科書第10章の左記該当部分を読んでおく。	150分

			事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	
第13回	環境と栄養	生体リズム，ストレスと栄養の関係について学習する。	事前学習：教科書第11章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第14回	特殊環境と栄養	高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境などの生理的変化および栄養との関係について学習する。 災害時の栄養について学習する。	事前学習：教科書第11章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第15回	まとめ	全体を通してのまとめ。	事前学習：これまでの授業の内容（第1～14回）を総復習しておく。	600分

学習計画注記	COVID-19の状況、履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義時に、講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。
評価方法	学習到達度の確認テスト（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	筆記試験	○	○		

評価割合	筆記試験100%
使用教科書名(ISBN番号)	健康・栄養科学シリーズ：応用栄養学：改訂第7版（南江堂）
参考図書	健康・栄養科学シリーズ：臨床医学．人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂） 栄養科学イラストレイテッド　臨床医学　疾病の成り立ち　改訂第2版（羊土社） 病気がみえる vol.1～14（MEDIC MEDIA） 栄養科学イラストレイテッド　応用栄養学（羊土社） 日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	木曜昼休み　1503研究室
学生へのメッセージ	今まで履修してきた基礎系の科目や臨床系の科目のみならず、社会医学系や栄養教育系など、どの科目とも有機的に繋がっています。他の分野とも関連付けながら学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	応用栄養学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井　治子	指定なし
准教授	加藤　理津子	指定なし
助教	會退　友美	指定なし

ナンバリング	H33504C13
授業概要(教育目的)	ライフステージ別栄養学Ⅰ・Ⅱ、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理（マネージメント）の方法を育成する。 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養うことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	ライフステージ別の特徴を踏まえたマネジメントについて説明できる
思考・判断の観点（K）	ライフステージ別の対象者の生活に基づいた栄養マネジメントについて考えることができる
関心・意欲・態度の観点（V）	ライフステージ別の対象者のQOLが向上する栄養マネジメントを模索しようとする
技術・表現の観点（A）	ライフステージ別の対象者のための栄養マネジメントをすることができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養マネジメント	①授業の概要 ②栄養マネジメントの復習	予習：シラバスを確認する 復習：栄養マネジメントの理解する	30分
第2回	栄養マネジメント、献立作成の基本学習	栄養価計算、調味%等の理解を深める。	復習：課題レポートを作成し、提出する。	60分

第3回	高齢期の栄養マネジメント～講義編～	①高齢者の特性 ②高齢者の栄養マネジメント	予習：高齢者の特性を調べる 復習：学習内容についてレポート作成を作成し、提出する	60分
第4回	高齢期の栄養マネジメント～実習編～	①高齢者食の試食 ②高齢者を対象とした食事の調理と試食	復習：実習内容についてレポート作成を作成し、提出する	60分
第5回	妊娠・授乳期の栄養マネジメント～講義編～	妊娠・授乳期のマネジメントの特徴を把握する。	復習：妊娠・授乳期の栄養マネジメントをレポートにまとめる。	60分
第6回	乳汁期の栄養ケアマネジメント～講義編～	乳汁の調理実習を通して、乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。	乳汁期のレポートを作成してくる。	60分
第7回	乳汁期の栄養ケアマネジメント～実習編～	乳汁の調理実習を通して、乳汁期の栄養マネジメントの特徴について学ぶ。	乳汁期のレポートを作成してくる。	60分
第8回	離乳期の栄養ケアの実習と評価（初期・中期）～講義編～	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ	作り方、作業工程表を作成してくる	60分
第9回	離乳期の栄養ケアの実習と評価（初期・中期）～実習編～	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ	作り方、作業工程表を作成してくる	60分
第10回	離乳期の栄養ケアの実習と評価（後期・完了期）～講義編～	離乳食の後期、完了期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ	作り方、作業工程表を作成してくる	60分
第11回	離乳期の栄養ケアの実習と評価（後期・完了期）～実習編～	離乳食の後期、完了期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ	作り方、作業工程表を作成してくる	60分
第12回	離乳期の栄養ケアの実習と評価（オリジナル献立の立案）	統一献立で学んだ離乳食の特徴に基づき、各班で離乳食の献立を作成する。	オリジナルの献立、栄養価計算を行ってくる。	60分
第13回	離乳期の栄養ケアの実習と評価（オリジナル献立の立案と実習計画）	各班で作成したオリジナルの離乳食献立を調理し、離乳食作りの実際について学ぶ	作業工程表を作成してくる	30分
第14回	離乳期の栄養ケアの実習と評価（オリジナル献立の実習）	離乳期の食事の特徴について調理実習を通して学ぶ	作業工程表を作成してくる	30分
第15回	全体のまとめと試験	試験にて、習得度を確認しつつ、全授業を通して栄養マネジメントを考察する。	復習：レポートを作成し、提出する。	60分

学習計画注記	進行状況および感染症の流行状況によって内容を前後させる場合がある。 変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認する。

学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。
評価方法	演習課題（レポート等）50%、定期試験30%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。 なお、演習課題（レポート等）については、正確性、丁寧さ等の観点から内容を評価そ、提出遅れの場合は減点し、未提出の場合は0点とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	演習課題	○		○	○
	レポート	○	○	○	○

評価割合	演習課題（レポート等）50%、定期試験30%、実習に対する取組姿勢20%とし、総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・「子どもの食生活」　ななみ書房　上田玲子、酒井治子他 ・「応用栄養学実習書—PDCAサイクルによる栄養ケア 第2版」　建帛社　柳沢 幸江（編著）／松井 幾子（編著） ・「八訂食品成分表」　女子栄養大出版部 ・「調理のためのベーシックデータ第５版」　女子栄養大出版部 ・「日本人の食事摂取基準[2020年版]」　第一出版
参考図書	ビオサポ食育ブック（無料）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養管理を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な栄養管理ができる力を身につけている 【関心・意欲・態度】栄養管理に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技術・表現】栄養管理を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
オフィスアワー	酒井　水曜日2限　地域栄養教育（酒井）研究室 加藤：火曜日2限（1B05研究室）
学生へのメッセージ	実務を意識し、各ライフステージの対象者について管理栄養士の視点をもち、栄養マネジメントを行い、生活者のための食事を一緒に考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（會退）、担当教員（酒井）は保育所等、担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、乳幼児期の栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	班別にディスカッションを行いながら協力をして各ライフステージの献立作成、調理、振り返りを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	栄養教育総論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻　雅子	指定なし

ナンバリング	H23601C21
授業概要(教育目的)	栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的について理解する。そのために、教育的な手段を用いて、人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すために、適切な栄養教育マネジメントについて、アセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解した栄養教育実施者となるための心構えを含めた講義を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.栄養教育の目的・目標や対象者について理解し説明できる。 2.栄養教育マネジメントの流れについて理解し説明できる。 3.栄養教育関連法規について理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	1.栄養教育の目的・目標について自ら考え、判断し、説明できる。 2.栄養教育マネジメントの流れについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.グループワークで授業の最後にディスカッションを行うことがある。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。 2.授業の予習・復習を行い、自主的にノートまとめを行うことができる。 3.小テストは授業の復習を行った後に受けることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

栄養教育総論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 栄養教育の概念	栄養教育の概念として教育のとらえ方について学び、現在の生活習慣上の問題点について理解する。	教科書、目次及び序章（1.教育のとらえ方～4.教育に必要な力）を読んで学ぶ。	180分
第2回	栄養教育の概念及び歴	栄養教育の概念の続きと歴史について学ぶ。教科書にない追加情報については配布プリントで学び、栄養教育の	教科書、序章（5.教育と人間形成～7.栄養教育に携わる使命と	180分

	史	歴史について理解する。	役割）、及び巻末資料の栄養指導・栄養教育の歩み（歴史）の部分を読んで学ぶ。	
第3回	栄養教育の歴史及び国際栄養の理解	栄養教育の歴史を続けて学ぶ。教科書にない追加情報については配布プリントで学び、栄養教育の歴史について理解する。さらに栄養教育に関連する持続可能な開発目標（SDGs）や国際栄養の理解として諸外国のフードガイドについて学ぶ。 さらにSDGsのレポートを課す。	教科書、巻末資料の栄養指導・栄養教育の歩み（歴史）及び付録：国際栄養の理解を読んで学ぶ。 SDGsのレポートについて、期日までに提出することが必要。	180分
第4回	栄養教育の法的根拠	栄養教育の概念を理解したうえで対象者へ栄養教育を実施するための、栄養教育関連法規について学び、理解する。	教科書の巻末資料における関連法規（食育基本法）と配布資料でのその他の関連法規を読んで学ぶ。	180分
第5回	栄養教育マネジメント：マネジメントサイクルとマネジメントに必要なモデル	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育マネジメントサイクルと関連するモデル（生態学的モデル、ソーシャル・マーケティング、プリシード・プロシード）を学び、理解する。	教科書、第2章栄養教育マネジメントを読んで学ぶ。	180分
第6回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、そのアセスメントを中心的に学び、情報の収集などについても理解する。	教科書、第3章栄養教育のためのアセスメントを読んで学ぶ。	180分
第7回	栄養教育マネジメント：計画立案	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その計画立案について学び、理解する。学習指導案について計画立案を学ぶ、	教科書、第4章栄養教育計画（1.栄養教育計画の立案）を読んで学ぶ。	180分
第8回	栄養教育マネジメント：計画立案及び目標設定	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その計画立案について学び、理解する。学習指導案について計画立案及び目標設定を学ぶ。	教科書、第4章栄養教育計画（2.栄養教育の目標設定）を読んで学ぶ。	180分
第9回	栄養教育マネジメント：目標設定	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その目標設定を学び、理解する。学習指導案について目標設定を及び栄養教育計画書を学ぶ。（目標の種類と栄養教育計画書について学ぶ）	教科書、第4章栄養教育計画（3.目標の種類と4.栄養教育計画書）を読んで学ぶ。	180分
第10回	栄養教育マネジメント：栄養教育プログラムの実施	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施について学び、理解する。栄養教育の計画～実施について学習指導案を作成することで学ぶ	教科書、第4章栄養教育計画（5.栄養教育と学習指導案）と第5章栄養教育の実施（教材選択等）を読んで学ぶ。 学習指導案のレポートについて、期日までに提出することが必要。	180分
第11回	栄養教育マネジメント：教材の選択と作成	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時に使用する主な媒体と教材について学び、理解する。 （教材の選択と作成を学ぶ）	教科書、第5章栄養教育の実施（2.教材の選択と作成）を読んで学ぶ。	180分
第12回	栄養教育マネジメント：学習形態の選択	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時の学習形態について学び、理解する。 （学習形態の選択及び実施に向けた準備を学ぶ）	教科書、第5章栄養教育の実施（3.学習形態の選択及び4.実施に向けた準備）を読んで学ぶ。	180分
第13回	栄養教育マネジメント：栄養教育の評価	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の評価について学び、理解する。 （1.栄養教育の評価と意義、2.栄養教育の評価と目的、3.評価の対象者、4.評価指標と評価基準を学ぶ）	教科書、第6章栄養教育の評価（1.栄養教育の評価と意義～4.評価指標と評価基準）を読んで学ぶ。	180分
第14回	栄養教育マネジメント：栄養教育の評価のデザイン	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の評価のデザインについて学び、理解する。 （5.栄養教育マネジメントにおける各種評価、6.栄養教育の評価のデザイン、7.評価のデザインにかかわる因子を学ぶ）	教科書、第6章栄養教育の評価（5.栄養教育マネジメントにおける各種評価～7.評価のデザインにかかわる因子）を読んで学ぶ。	180分
第15回	栄養教育と食環境づくりとの関連、まとめ定期試験	対象者を支援する環境（食環境）の改善について、食環境の定義から、食物へのアクセスおよび情報へのアクセスにおける食環境整備についてまで学び、理解する。 まとめを行い定期試験を実施する。	教科書、第8章（食環境づくりにおける栄養教育）を読んで学ぶ。全１４回で実施した栄養教育総論の内容の振り返りを行う。	180分

学習計画注記	コロナ対応による講義の実施方法や講義の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。
学生へのフィードバック方法	毎回講義の理解度について講義の最後に小テストを実施する。 小テスト・レポート提出・平常点についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。また小テストの結果については翌週の講義でもフィードバックする。 ノートを提出することで知識の理解や関心を持って学びを行ったかの態度などを評価する。またノート提出の内容は平常点として評価する。
評価方法	・小テストは全15回の授業中、14回実施する。小テストは〇×形式のテストとする。小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は〇×形式及び穴埋め記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントの全範囲が出題範囲となる。 ・授業の最後にグループワークで討論を行い、その結果をリアクションペーパーとして記述形式で提出してもらうことがある。 ・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。 ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	定期試験	○	○		
	グループワーク	○	○	○	

評価割合	小テスト１５％・レポート２０％、平常点２５％（平常点は授業への参加状況や態度及び、ノート提出で総合的に判断する）、定期試験４０％とする。
使用教科書名(ISBN番号)	栄養教育論 第2版　岡崎光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美　共著　光生館（978-4-332-03044-7）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他者と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
オフィスアワー	月曜日４時間目　1605研究室
学生へのメッセージ	現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的についてを学びます。その為に、教育的な手段を用いて人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すための栄養教育マネジメントまで総合的に学ぶことになります。 本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	小テストやグループワーク及びレポート作成を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	レポート作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	栄養教育方法論（HA・HB）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻　雅子	指定なし

ナンバリング	H23602C21
授業概要(教育目的)	本講義では栄養教育方法における行動科学理論ついて学ぶ。つまり対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで必要な行動科学理論の詳細を学ぶ。また栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	1.栄養教育方法の理論について理解し説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について理解し説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	1.栄養教育方法の理論について自ら考え、判断し、説明できる。 2.栄養教育方法の各種行動変容技法について自ら考え、判断し、説明できる。 3.行動変容カウンセリングについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	1.授業の中でグループワークを実施する。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養教育と行動科学	栄養教育のために理論として行動科学の定義について学び、理解する。さらに学習理論における刺激-反応理論についても学び、理解する。	教科書1.第1章（1.栄養教育のための理論、２.栄養教育のための行動科学的アプローチ(2-1①刺激-反応理論)）を読んで学ぶ。	180分
第2回	栄養教育のための行動科学的アプローチ（刺激-反応理	行動科学の理論における刺激ー反応理論について学び、理解する。 行動科学理論におけるヘルス・ビリーフ・モデルについて学び、理解する。	教科書1.第1章（2-1①刺激-反応理論、2-2①ヘルス・ビリーフ・モデル）及び、教科書2.のヘルス・ビリーフ・モデルを読んで学ぶ。	180分

	論、ヘルスビリーフモデル）			
第3回	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル）	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後次回にグループワークを行うための話し合いを行う。また対象者への栄養教育の方法の実践として、秤量について学び、理解する。 秤量調査のレポートを課す。	教科書1.第1章（2-2②トランスセオレティカルモデル）及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで学ぶ。 秤量調査としてレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。	180分
第4回	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。その後グループごとに分かれてそれぞれ異なったテーマのグループワークを行う。	教科書1.第1章（2-2②トランスセオレティカルモデル）及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに学びを進める。グループワーク発表後にはレポートを課す。	180分
第5回	個人に対する行動科学的アプローチ（トランスセオレティカルモデル（グループワーク））	行動科学理論におけるトランスセオレティカルモデルのグループワークを実施し学びの理解を深める。	教科書1.第1章（2-2②トランスセオレティカルモデル）及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに発表準備を進める。グループワーク発表後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。	180分
第6回	個人に対する行動科学的アプローチ（計画的行動理論）	行動科学理論における計画的行動理論について学び、理解する。 また前回までのトランスセオレティカルモデル（グループワーク）の振り返りを行う。	教科書1.第1章（2-2③計画的行動理論）及び、教科書2.の計画的行動理論を読んで学ぶ。	180分
第7回	個人間の行動科学的アプローチ（社会的認知理論とソーシャルサポート①）	行動科学の理論における社会的認知理論及びソーシャルサポートについて学び、理解する。	教科書1.第1章（2-3①社会的認知理論、②ソーシャルサポートとソーシャルネットワーク）、及び教科書2.の自己効力感を読んで学ぶ。	180分
第8回	個人間の行動科学的アプローチ（ソーシャルサポート②）	行動科学の理論におけるソーシャルサポート及びストレスマネジメントについて学び、理解する。さらに授業内でソーシャルサポートのグループワークを行う。ソーシャルサポートのグループワークレポートを課す。	教科書1.第1章（2-3②ソーシャルサポート、4-10ストレスマネジメント）と、教科書2.のソーシャルサポートを読んで学ぶ。当日は授業内でソーシャルサポートのグループワークを行うため事前に前の週の振り返りを行っておく。グループワーク後にはレポートを課すので、提出期日までに提出することが必要。	180分
第9回	行動カウンセリング	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらいレポート作成の課題を課す。	教科書1.第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」のカウンセリングを読んでおくこと。 また行動カウンセリングDVDの課題レポートについて提出期日までに提出することが必要。	180分
第10回	ストレスとコーピング	行動科学の理論におけるストレスとコーピングについて学び、理解する。	教科書2.のストレスとコーピングを読んでおくこと。	180分
第11回	集団や社会における行動科学的アプローチ	行動科学の理論におけるコミュニティオーガニゼーション等について学び、理解する。 （コミュニティオーガニゼーション、イノベーション普及理論、ヘルスリテラシーを学ぶ）	教科書1.第1章（2-4①コミュニティオーガニゼーション、②イノベーション普及理論、③ヘルスリテラシー）を読んで学ぶ。	180分
第12回	行動カウンセリング	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。	教科書1.第1章（3.カウンセリング(カウンセリングの理論、クライエント中心療法、認知行動療法、家族療法、カウンセリングの技法等)）を読んで学ぶ。	180分
第13回	行動カウンセリングの	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。	教科書1.第1章（3.カウンセリング(カウンセリングの技法、	180分

	実践	さらに実践の学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらい、レポートを課す。	動機づけ面接)）を読んで振り返りを行う。 栄養カウンセリングについて、レポートを期日までに作成する。	
第14回	行動変容技法	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。 （4.行動変容技法を学ぶ）	教科書1.第1章（4.行動変容技法(刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約、セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ)）を読んで学ぶ。	180分
第15回	組織づくり・地域づくりへの展開（行動変容技法）及びまとめ	行動科学の理論における組織づくり地域づくりでの各種行動変容技法について学び、理解する。 （5.組織づくり・地域づくりへの展開を学ぶ）	教科書1.第1章（5.組織づくり・地域づくりへの展開）を読んで学ぶ。まとめとして栄養教育計画論の内容の振り返りを行う。	180分

学習計画注記	コロナ対応による講義の実施方法や講義の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。
学生へのフィードバック方法	毎回講義の理解度について講義の最後に小テストを実施する。 小テスト・レポート提出・平常点についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。また小テストの結果については翌週の講義でもフィードバックする。 ノートを提出することで知識の理解や関心を持って学びを行ったかの態度などを評価する。またノート提出の内容は平常点として評価する。
評価方法	・小テストは全15回の授業中、14回実施する。小テストは○×形式のテストとする。小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は○×形式及び穴埋め記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントの全範囲が出題範囲となる。 ・授業中に数回グループワークで討論を行い、その結果をリアクションペーパーやレポートとして記述形式で提出がある。 ・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。 ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○			
	レポート	○	○		
	グループワーク	○	○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	小テスト１５％・レポート２５％、平常点２０％（平常点は授業・グループワークへの参加状況や態度及び、ノート提出で総合的に判断する）、定期試験４０％とする。
使用教科書名(ISBN番号)	1.栄養教育論 第2版　岡﨑光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美　共著　光生館（978-4-332-03044-7） 2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　松本千明　医歯薬出版株式会社（9784263233375）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他者と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
オフィスアワー	月曜日４時間目　1605研究室
学生へのメッセージ	現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育方法の必要性・意義・目的についてを学びます。その為に、栄養教育方法の理論から技術まで基礎的知識を詳細に学ぶことになります。 本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	講義内での情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養教育論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井　治子	指定なし

ナンバリング	H33603C21
授業概要(教育目的)	栄養教育を効果的に行うために、学習者のライフステージ、すなわち、乳幼児期から高齢期にいたる時期の特徴や、ライフスタイル、健康状態等の特徴を十分に踏まえてアセスメントを行い、栄養教育の目的・目標を設定し、学習カリキュラムを立案して実施し、評価する実践方法を育成することを目的とする。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解できるよう教授する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な知識について説明することができる
思考・判断の観点（K）	学習者のライフステージの食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける
関心・意欲・態度の観点（V）	学習者のライフステージ、栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける
技術・表現の観点（A）	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術をもち、多様なライフスタイルをもつ学習者のニーズに応じた教育方法を選定し、学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 栄養教育マネジメント１	本授業の特徴、学習方法を理解する。 人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を構造的に理解する理論枠組みを学ぶ。栄養教育の目的・目標と、ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会について学ぶ。	予習：教科書①　「第１章　栄養教育の概念　A.栄養教育の目的・目標」「B.栄養教育の対象と機会　１　ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分

第2回	栄養教育マネジメント２	栄養教育マネジメント、アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法を学ぶ。	教科書①　「第５章　A.栄養教育のマネジメント」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第3回	妊娠・授乳期の栄養教育１	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。妊娠・授乳に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。	教科書①　「第11章　ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育 A.妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第4回	妊娠・授乳期の栄養教育２	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書①　「第11章　ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育 A.妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第5回	乳児期（乳汁）の栄養教育１	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。乳児とその保護者に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。	教科書①　「第11章　B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第6回	乳児期（乳汁）の栄養教育２	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書①　「第11章　B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第7回	離乳期の栄養教育１	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。離乳に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。	教科書①　「第11章　B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第8回	離乳期の栄養教育２	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書①　「第11章　B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第9回	幼児期の栄養教育１	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。保育所等での栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。	教科書①　「第11章　B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第10回	幼児期の栄養教育２	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書①　「第11章　B.乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第11回	学童・思春期の栄養教育１	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。学童に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。	教科書①　「第11章　C.学童期 D.思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第12回	学童・思春期の栄養教育２	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書①　「第11章　C.学童期 D.思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第13回	高齢期の栄養教育１	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。高齢者に関わる栄養教育の実践に関わる動画を活用し、対象者理解を深める。	教科書①　「第11章　F.高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第14回	高齢期の栄養教育２	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書①　「第11章　F.高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リ	180分

			アクションペーパーにまとめる。	
第15回	まとめ	ライフステージ・ライフスタイル栄養教育の特徴を振り返り、まとめる。また、習得度を把握するために、試験を行う。	授業全体を振り返り、試験で正解でなかった点を振り返る。	180分

学生へのフィードバック方法	授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1603研究室に訪問すること。
評価方法	・毎回の授業内容の理解度を高めるための、授業毎のリアクションペーパーも評価の一環とする。小テストは国家試験の過去問題から出題する。 ・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容であるとともに、より実践的な教育の方法に関する記述問題を含む。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパー	○	○	○	○
	小テスト	○			
	試験	○	○		

評価割合	授業へのリアクションペーパー(10%)、定期試験(70%)、小テスト（毎授業内におけるテスト）(20%)などから総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	「改訂 栄養教育」　丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編　南江堂　9784524259663 「第６版 子どもの食生活」　上田玲子他　ななみ書房　4903355290
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学習者のライフステージに応じた栄養教育について、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】学習者のライフステージに応じた栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】学習者のライフステージに応じた栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技能・表現】 学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術をもち、ニーズに応じた教材や学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につけている
オフィスアワー	水曜日　１限　地域栄養教育（酒井）研究室
学生へのメッセージ	ライフステージ別栄養論Ⅰ・Ⅱで学んだこと、栄養教育総論、栄養教育方法論で学んだことを復習しながら、栄養教育の実践につなげる方法を探っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に食環境整備に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	栄養教育実習Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻　雅子	指定なし

ナンバリング	H33604C13
授業概要(教育目的)	栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、栄養教育マネジメントにおける対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見いだし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教育マネジメントの流れについて理解し、栄養教育マネジメントの計画を立てることができる。
思考・判断の観点（K）	自ら考え、判断し、栄養教育マネジメント計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	積極的に単独活動やグループ活動に参加し、興味関心をもって参加することでグループ活動に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	レポートとして提出する報告書を適切な技術でもって表現することができる。 グループワークで必要な技術を用いて、他者との協働を円滑に進めることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 特定健診・保健指導について①	栄養教育マネジメントに沿った実習全体の流れについて理解する。ロールプレイによる特定健診保健指導の流れについて学ぶ。	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。	60
第2回	特定健診・保健指導について②	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える。	90
第3回	特定健診・保健指導に	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組	60

	ついて③		むべきか考える。	
第4回	特定健診・保健指導について④	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ。	特定検診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える（各班の発表に向けて班ごとに発表準備を進める）。	90（発表準備予習30分含む）
第5回	特定健診・保健指導について⑤	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ（各班ごとの発表）。 食事調査法及び身体活動調査法について学ぶ。	食事調査や身体活動調査についての課題が出されるのでその課題について取り組む。	60
第6回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。	栄養教育アセスメントにおける食事調査について取り組む。	60
第7回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事歴質問法・摂取頻度調査方法）及び秤量食事記録法の解析について学ぶ。	食事調査結果について解析に取り組む。	60
第8回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査（食事バランスガイド）の解析方法を学ぶ。	様々な食事調査結果の解析について取り組む。	60
第9回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	食事調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。	食事調査結果の解析結果を分析し、その栄養教育計画の作成に取り組む。	60
第10回	栄養教育マネジメント：アセスメント	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。	60
第11回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ。	身体活動調査の解析結果の分析に取り組む。	60
第12回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	身体活動調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ。	身体活動調査の解析結果の分析、その栄養教育計画の作成に取り組む。	60
第13回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	身体活動指針を用いた身体活動調査の解析結果の分析及び運動計画の作成を学ぶ。	身体活動調査の解析結果の分析、運動計画の作成に取り組む。	60
第14回	栄養教育マネジメント：栄養教育目標設定	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラムについて学ぶ。	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組む。	60
第15回	栄養教育マネジメント：栄養教育評価設定	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム作成について学ぶ。	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組む（全体的な振り返りを行い総合レポートを作成する取り組みが必要となる）。	90

学習計画注記	コロナ対応により実習の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もある。その場合は随時担当教員の方から連絡を行う。実習で必要なプリントなどはその都度配布する。 クラスごとで実習の流れが異なる場合があるので、初回に必ず全体の流れを把握すること。
学生へのフィードバック方法	基本的には実習授業内でフィードバックを全体に行う。 レポート提出・平常点についてはGoogle classroom等を活用して実施するためそこで結果はフィードバックされる。 個人的な課題に対する質問及び課題の未提出等については個別でメールなどでフィードバックを行う。
評価方法	・レポート提出は本実習中栄養教育マネジメントとしての総合レポートの形で提出してもらう。また各課題ごとに新着状況を提出することもレポート評価に含む。 ・グループワークとして1.特定健診・保健指導のロールプレイを実施する。グループでの話し合い、実施のサポート、最後の評価に至るまで積極的に興味関心をもって参加することが必要である。2.アセスメント調査及びデーター解析時には二人ペアでグループワークに取り組むため積極的に取り組むことが必要である。

	・実習に対する積極性が見られず態度が悪いものは、マイナス評価がつく。 ・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。 ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	○
	グループワーク	○	○	○	○

評価割合	課題レポートと平常点（平常点は実習への積極的な参加状況や取り組み等から総合的に判断する）６０%、グループワーク４０%
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	栄養教育論（第一出版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる知識についてきちんと理解し、活用する事に該当。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理に関する専門的技能と共に、コミュニケーション能力やマネジメント力を表現する力を身につける事に該当。
オフィスアワー	月曜日４時間目　1605研究室
学生へのメッセージ	栄養教育マネジメントの基本的な流れを学びます。その為に必要なアセスメントからデータ解析や報告書作成について学び、さらには目標設定、計画設定、評価設定まで行います。 本実習では学生個人のスキルアップだけでなく、グループでのスキルアップも目指す為、関心意欲を持った態度で積極的に今までの知識を活用して主体的に考えて作業を進めることが必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報のまとめ、解析、HP上での報告等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	実習中の課題作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

講義名	栄養教育実習Ⅱ（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井　治子	指定なし
助教	會退　友美	指定なし

ナンバリング	H33605C13
授業概要(教育目的)	栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえ、食環境づくりの視点に着目した教育内容を立案する技術を養ことを目的とする。具体的には、グループワークにより、学習者の実態把握のためのアセスメント内容の抽出、学習案の立案（講習会形式型）、企画書のプレゼンテーション、評価計画、評価の実際までのプロセスをフルコースで行う。昨年度に引き続き、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やすことで、和食文化の保護・継承につなげることを目的とした農林水産省の事業に参画し、和食に関連する企業等と連携した栄養教育（食育）の実際的な展開方法を学ぶというアクティブラーニングの形式を用いる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点（K）	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	栄養教育の目標設定、教育内容の選定、評価方法を設計する技術と共に、企画書として表現する力、プレゼンテーションスキル、対象者に対するコミュニケーションスキル、活動をすすめていく実践力を養う。

学習計画

回	時限	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１限後半	オリエンテーション食育の計画方法１	実習の目的、進め方の確認。食育のための栄養・食生活の枠組みの捉え方、食育の計画の作成方法を学ぶ。PPモデルを活用した「和食を食べること」という行動とQOL・健康状態との関連項目の抽出方法を習得する。（Phrase1･2社会・疫学診断と、Phrase3行動・環境診断の実施）「和食に関する事前調査」により、自己評価を行う。	PPモデルについて、事前に講義科目での学習内容を復習する。昨年度の学生の食育の計画例を確認する。	120分
第2回	１限後半	食育の計画方法２	各対象に応じて、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因分析の方法を学ぶ。（Phrase3行動・環境診断、Phrase4教育・組織診断、Phrase5政策診断の実施。）	自分が、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因について事前に考えてくる。	120分
第3回	１限後半	栄養・食に関わる政策診断	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業に関する講和を聞き、国として「和食文化を推進する意義、管理栄養士に期待すること」を学ぶ。	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業をホームページから事前に情報収集しておく。	120分

第4回	１限後半	栄養・食に関わる企業による食育の展開事例	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育として、事業展開されている実践内容を理解する。	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べておく。	120分
第5回	１限後半	食育の計画方法３	「和食を食べること」を促進するための栄養教育の場（拠点・人）の設定、目的・目標を設定する。（Phrase5 政策・運営診断の実施）	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べる。	120分
第6回	１限後半	実態把握のための調査設計	実態把握のための調査設計の方法を学ぶ	疫学・社会調査法等の授業で学んだことを確認しておく。	120分
第7回	１限後半	実態把握のための調査票の作成	Google Formsの活用方法を学ぶとともに、教育の目的・方法を選定するための実態調査の調査票を作成する。	Google Formsの活用に関する動画を視聴する。	120分
第8回		食育計画の作成　１	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。	計画した食育の教材として、適した食事の構成を検討する。食事を通して、何を学んでほしいのか、教育目標との関連を確認する。	120分
第9回	１限後半	食育計画の作成　２	動画の中で提案する食事を決定し、用いる食材や調理方法を考える。	ホームページ等から、教育目標の達成に効果的な食事の盛り付けや撮影方法を調べる。	120分
第10回	１限後半	食育計画の作成　３	動画の中で提案する食事を作成し、調理動画を収録する。	調理動画の構成を考えるために、YouTubeで配信されている動画を視聴する。	120分
第11回	１限後半	食育計画の作成　４	食育計画書を修正し、予算案などの立案、評価計画を実施する。動画の流れ、評価項目の設計方法を学ぶ。	動画の構成を考え、作成する。	120分
第12回	１限後半	食育計画の作成　５	食育計画書を完成させ、動画の撮影を行う。	動画の撮影のための準備を行う。	120分
第13回	１限後半	食育計画の作成　６	収集してきた素材を基に、動画の編集を行う。	収集してきた素材の整理をする。	120分
第14回	１限後半	食育動画の評価方法	食育の動画をどのように評価するか、評価項目を確認する。	動画の相互視聴にむけて、その評価方法を理解する。	120分
第15回	１限後半	食育計画書の企画案の説明と動画視聴と評価とまとめ	各班20分で相互に動画の視聴と行い、評価を用いて相互評価し、批判的討論を行う。【和食に関する事後調査】を行い、その習熟度を確認する。	食育計画書の説明の原稿をつくる。	120分

学生へのフィードバック方法	授業中の実習課題は当日、また、翌週において質疑応答をしながら、計画書や指導案等の立案方法について指導する。
評価方法	グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）と、テストにて評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題実習		○	○	○
	テスト	○			

評価割合	グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）60%、テスト40%
使用教科書名(ISBN番号)	「改訂第５版 栄養教育」　丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編　南江堂　978452425
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教育を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】栄養教育を通して、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技術・表現】栄養教育を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
オフィスアワー	火曜日　５限　地域栄養教育（酒井）研究室
学生へのメッセージ	本授業には今まで学んできた知識・技術の統合が必要です。実践現場で即座に必要とされる技術です。人の前で話すことには慣れが必要です。勇気をもって取り組みましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	行政機関、企業での食育活動の企画案を立案し、それをプレゼンテーションすることで、企画評価を学生間の相互評価、行政・企業担当者からの企画評価をいただく。企画段階ではあるが、対象者の設定、食育の場や教材の選定等において、ニーズに応じ、かつ臨場感を持った学習ができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

UP
ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養学基礎		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤　恵美子	指定なし

ナンバリング	H23701C21
授業概要(教育目的)	臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。臨床栄養学基礎では、臨床病態栄養学で学んだ総論的知識を基に、各疾患の病態・症状・診断・治療を網羅的に講義する。
履修条件	臨床病態栄養学を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各疾患の病因と病態、症状、診断を理解したうえで、栄養とかかわりの深い各疾患別の治療を説明できるようにする。
思考・判断の観点（K）	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養障害，内分泌系	栄養障害（PEM，カヘキシー，マラスムス，クワシオルコル），ビタミン異常症，ミネラル異常症、内分泌系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ栄養障害，内分泌系疾患について復習しておく。教科書第4章および第8章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第2回	薬理学総論，糖尿病１	治療に必要な薬物療法についての概要を学ぶ。 糖尿病の診断・基本的な治療法について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。教科書第4章の該当部分を読んでおく。	150分

			事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第3回	糖尿病２	糖尿病の診断・治療、特に治療薬について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。教科書第4章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第4回	消化器系１	上部消化管疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書第5章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第5回	消化器系２	下部消化管疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書第5章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第6回	消化器系３	肝胆膵疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書第5章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第7回	栄養療法，周術期，がん，緩和ケア	栄養療法，周術期，がん，緩和ケアの病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：教科書第16章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第8回	循環器系	循環器系疾患（脳卒中を除く，肺塞栓症を含む）の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ循環器系疾患について復習しておく。教科書第6章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第9回	腎臓系１	腎臓系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系・尿路系等について復習しておく。教科書第7章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第10回	腎臓系２，泌尿器系	腎臓系疾患（透析含む），尿路系疾患，泌尿器系疾患（男性生殖器系疾患含む）の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系・尿路系等について復習しておく。教科書第7章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第11回	呼吸器系，血液系	呼吸器系疾患，血液系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ呼吸器系・血液系について復習しておく。教科書第10章および第13章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第12回	感染症，外傷，熱傷，クリティカルケア	感染症，外傷，熱傷，クリティカルケアの病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：教科書第15章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第13回	脳神経系	脳卒中，神経系疾患，障害者の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ脳・神経系について復習しておく。教科書第6章の該当部分および第9章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第14回	運動器系１	運動器系疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理学や病態栄養学で学んだ運動器系について復習しておく。教科書第11章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分

第15回	運動器系２，免疫・アレルギー系	運動器系疾患（骨軟化症、変形性関節症など）の病態・診断・治療について学ぶ。 免疫・アレルギー系疾患の成因・病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理学や病態栄養学で学んだ免疫系及び運動器系について復習しておく。教科書第11章及び第14章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。これまでの授業内容（第1～15回）を総復習しておく。	600分
第16回	定期試験			

学習計画注記	COVID-19の状況、履修者の状況等によって進行内容が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義時に、関連する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%
使用教科書名(ISBN番号)	健康・栄養科学シリーズ　臨床医学―人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂）
参考図書	病気がみえる vol.1～14（MEDIC MEDIA）， 薬がみえる vol.1～3（MEDIC MEDIA） イメージするからだのしくみシリーズ（MEDIC MEDIA） 健康・栄養科学シリーズ　臨床栄養学　改訂第3版（南江堂）， 栄養科学イラストレイテッド　臨床医学―疾病の成り立ち　改訂第2版（羊土社）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	木曜昼休み　1503研究室
学生へのメッセージ	3年次で学修する臨床栄養学応用や臨床栄養ケアマネジメントにつながるだけでなく、ライフステージ別栄養学や臨地実習など他の科目とも密接に関連していますので、関連づけて学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養学応用		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田　直子	指定なし
講師	腰本　さおり	指定なし

ナンバリング	H33702C21
授業概要(教育目的)	疾患別の食事療法の実際と栄養管理方法を学び、栄養教育の特性と技法、多職種での栄養管理の取り組みを学ぶ。 疾患別栄養管理方法の根拠が理解でき、栄養サポートの実践力を身につけることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種疾患の栄養管理の特性について理解できる。
思考・判断の観点（K）	各種疾患の栄養管理の実際とチーム医療の取り組みを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士としての知識と行動、職業倫理観を理解できる。
技術・表現の観点（A）	患者への栄養サポート方法を活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	医療における管理栄養士の役割	傷病者の栄養管理を行う上での栄養療法と栄養教育の役割、チーム医療や医療従事者とのコミュニケーション、患者の守秘義務や権利を学ぶ	医療の場での栄養管理やチーム医療についてノートを整理し復習すること	60分
第2回	入院時食事療養（院内約束食事箋、供与栄養目標量）	医療保険制度、入院時食事療養等、医療施設における食事療養の算定基準を学ぶ	入院時食事療養、特別食加算、栄養指導料について予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第3回	糖尿病の食	糖尿病の食事療養の基礎、カーボカウント等の特殊な食	教科書の糖尿病に関する頁およ	120分

	事療法（食品交換表の理解）	事療法の実際、栄養管理目標、糖尿病交換表について学ぶ	び糖尿病交換表を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	
第4回	糖尿病教育および献立展開（食品交換表の活用）	糖尿病の集団指導、教育入院のクリニカルパスと患者教育方法、糖尿病食品交換表を実際に使用した糖尿病食の献立作成および展開について学ぶ	教科書の糖尿病に関する頁および糖尿病食品交換表を再度予習し、受講後はノートを整理し復習すること	180分
第5回	脂質異常症、高尿酸血症の食事療法	脂質異常症、高尿酸血症の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書の脂質異常症、高尿酸血症に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第6回	肥満症の食事療法	肥満症の食事療養の実際、内科的治療および外科的治療の食事療法、栄養管理目標について学ぶ	教科書の肥満症に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第7回	高血圧、心疾患、脳血管疾患の食事療法	高血圧、心疾患、脳血管疾患の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書の高血圧、心疾患、脳血管疾患に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第8回	消化器疾患（肝臓、胆のう、膵臓）の食事療法	消化器疾患の食事療養の実際、栄養管理目標、術前術後の栄養管理について学ぶ	教科書の消化器疾患（肝臓、胆のう、膵臓）に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第9回	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の食事療法	潰瘍性大腸炎、クローン病の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書の潰瘍性大腸炎、クローン病に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第10回	腎疾患の食事療法（食品交換表の理解）	腎疾患の食事療養の実際、栄養管理目標、腎臓病食品交換表について学ぶ	教科書の糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症に関する頁、腎臓病食品交換表を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	180分
第11回	腎疾患の献立展開（食品交換表の活用）	腎臓病食品交換表を実際に使用した腎臓病食の献立作成および展開について学ぶ	教科書の腎臓病に関する頁および腎臓病食品交換表を再度予習し、受講後はノートを整理し復習すること	180分
第12回	緩和ケア、上部消化管術後の栄養管理	緩和ケア、上部消化管術後の栄養管理の実際を学ぶ	教科書の緩和ケア、消化器の術前術後に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第13回	周産期（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病ほか）、高齢者（サルコペニア、フレイル）の食事療法	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠の食事療法の実際と栄養管理目標、サルコペニア、フレイル予防についての食事療法の実際を学ぶ	教科書の高血圧、糖尿病、加齢に伴う機能低下の栄養ケアの頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第14回	褥瘡の栄養管理、咀嚼嚥下障害の食事管理	褥瘡の栄養管理方法と多職種による介入の実際、咀嚼嚥下障害のレベルに対応する食事管理について学ぶ	教科書の褥瘡、摂食嚥下障害に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分
第15回	栄養補給法（静脈栄養、経腸栄養）	栄養補給法の種類、輸液や栄養剤の用途と種類について学ぶ	教科書の静脈栄養法、経腸栄養法に関する頁を予習し、受講後はノートを整理し復習すること	120分

学生へのフィードバック方法	提出物は添削後に返却し、適宜解説や補足を行う。
評価方法	提出物と定期試験で評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	提出物	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	提出物20%、定期試験80%
使用教科書名(ISBN番号)	新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版　本田佳子編　医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）
参考図書	・食品成分表 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・腎臓病食品交換表 ・栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。
オフィスアワー	城田：水曜3時限　　腰本：木曜2時限
学生へのメッセージ	適切な栄養管理を行えるよう、疾病・病態別に栄養代謝・栄養補給・給食実施についてしっかり学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院において給食管理、栄養管理の経験を有する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養アセスメント論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし

ナンバリング	H33703C21
授業概要(教育目的)	疾病者の病態や栄養状態に基づいた、疾病治療のための適切な栄養管理方法を学ぶ。代謝・内分泌系疾患、循環器系疾患、消化器系疾患、腎疾患、外科的疾患などの栄養状態、栄養管理、栄養補給法を学ぶ。理論的に疾患の栄養アセスメントを考え、栄養サポートが出来ることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種疾患の栄養アセスメントと栄養管理について理解する。
思考・判断の観点（K）	各種疾患の栄養管理の特徴、方法が考えられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点（A）	患者の栄養食事指導が出来る。

学習計画

臨床栄養アセスメント論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	臨床栄養学と栄養アセスメント	医療現場における管理栄養士の役割について学ぶ。診療報酬制度、チーム医療、栄養アセスメントの意義、方法について学ぶ。（各回・遠隔授業ZOOMを併用する）	教科書「栄養ケアの基礎」「栄養アセスメント」を予習しておくこと	120分
第2回	チーム医療と栄養ケアプランの実施	チーム医療には様々あるが、Nutruition support team(NST)での管理栄養士の役割や栄養ケアプランの立て方について学ぶ	教科書「栄養ケアプランの実施」を予習する	120分
第3回	肥満症の栄養アセスメ	肥満症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「肥満症」を予習する	120分

	ント			
第4回	糖尿病の栄養アセスメント	糖尿病の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「糖尿病」を予習する	240分
第5回	脂質異常症の栄養アセスメント	脂質異常症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「脂質異常症」を予習する	120分
第6回	高血圧・心疾患の栄養アセスメント	高血圧、心疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高血圧」」「虚血性心疾患」「心不全」を予習する	240分
第7回	高尿酸血症の栄養アセスメント	高尿酸血症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高尿酸血症を予習する	120分
第8回	肝疾患の栄養アセスメント	肝疾患（慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変」を予習する	240分
第9回	胆のう炎、胆石症の栄養アセスメント	胆のう炎、胆石症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「胆のう炎、胆石症」を予習する	120分
第10回	膵疾患の栄養アセスメント	膵疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「膵炎」を予習する	240分
第11回	腎疾患の栄養アセスメント	腎疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する	240分
第12回	炎症性腸疾患の栄養アセスメント	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「潰瘍性大腸炎、クローン病」を予習する	240分
第13回	消化器術前・術後の栄養アセスメント	消化器（上部消化器、下部消化器）の術前・術後の病態、栄養食事療法について学ぶ	教科書「消化器の術前・術後」を予習する	120分
第14回	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の栄養アセスメント	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病、糖尿病合併妊娠の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高血圧、糖尿病」および配布資料を予習する	240分
第15回	加齢にともなう機能低下への栄養アセスメント	加齢にともなう機能低下（サルコペニア、フレイル、認知症、褥瘡など）の診断基準、治療、栄養生理、栄養ケアについて学ぶ	教科書「加齢にともなう機能低下の栄養ケア」を予習する	180分

学習計画注記	食事療法が治療の一翼となる疾患を理解し、栄養アセスメントを身につける。
学生へのフィードバック方法	授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。
評価方法	・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートも評価の一環とする。 ・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	確認レポート	○	○		
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	確認レポート20点、定期試験80点
使用教科書名(ISBN番号)	新臨床栄養学栄養ケアマネジメント12版（978－4－263－70792－0）

	栄養食事療法の実習4版（978－4－263－70794-4）
参考図書	食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 腎臓病食品交換表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各種疾患のアセスメント、栄養食事療法の知識が身に付き理解できている。 【思考・判断】各種疾患の臨床検査値を理解し栄養食事療法の計画が考えられる。 【感心・意欲・態度】各種疾患の栄養療法に対する関心や考える意欲、態度が身についている。 【技能・表現】各種疾患の栄養療法を患者に伝える技術、表現力が身についている。
オフィスアワー	木曜日1、2限、
学生へのメッセージ	栄養食事療法が治療の一環となる疾病を理解して、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	ティスカッション、
情報リテラシー教育	○	文献検索、図書館利用
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養ケアマネジメント論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし

ナンバリング	H33704C21
授業概要(教育目的)	臨床分野で医療スタッフの一員として、人びとの健康の保持・増進、および疾患の治療予防に携わっている管理栄養士の仕事を理解し、医療人としての管理栄養士としての資質を養うことを目的とする。前期に学んだ臨床栄養アセスメント論を発展させケアプランを立て栄養療法を実施し、評価するための栄養ケアマネジメントの一連の流れを理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種疾患と食事マネジメント（献立管理も含め）について理解する。
思考・判断の観点（K）	各種疾患に適合した食事管理が判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点（A）	患者の栄養食事指導ができる。

学習計画

臨床栄養ケアマネジメント論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	易消化食のマネジメント	胃炎、消化性潰瘍、腸疾患の病態および適応される流動食、分粥食、副菜の形態を理解し易消化食について系統的に学ぶ。（各回・遠隔授業ZOOMを併用）	教科書「胃・腸疾患」を予習する	120分
第2回	塩分コントロール食のマネジメント	高血圧、虚血性心疾患など食塩コントロール食が適応される疾患の病態および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「高血圧、虚血性心疾患」を予習する	120分
第3回	エネルギー	肥満症、糖尿病、脂質異常症などエネルギーコントロー	教科書「肥満症、糖尿病、脂質	240分

	コントロール食のマネジメント	ル食が適応される疾患の病態および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	異常症」を予習する	
第4回	エネルギーコントロール食のマネジメント	糖尿病治療のための食品交換表よりエネルギーコントロール食のマネジメントを学ぶ	糖尿病治療のための食品交換表を予習する	240分
第5回	エネルギーコントロール＋食塩コントロール食のマネジメント	肥満症、糖尿病、脂質異常症などエネルギーコントロール食が適応される疾患に、高血圧が合併し食塩コントロール食が必要となる栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「肥満症、糖尿病、脂質異常症、高血圧」を予習する	120分
第6回	たんぱく質コントロール食のマネジメント	腎臓疾患の病態、たんぱく質コントロール食が適応される病期の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する	240分
第7回	たんぱく質コントロール食のマネジメント	腎臓病食品交換表よりたんぱく質コントロール食のマネジメントを学ぶ	腎臓病食品交換表を予習する	240分
第8回	たんぱく質コントロール食のマネジメント（治療用特殊食品）	低たんぱく食の適応される慢性腎不全の病態、および治療用特殊食品を用いた栄養・食事マネジメントについて学ぶ	腎臓病食品交換表を予習する、配布資料を予習する	240分
第9回	脂質コントロール食のマネジメント	脂質異常症の病態、脂質コントロール食の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「脂質異常症」を予習する	120分
第10回	脂質コントロール食のマネジメント	慢性閉塞性肺疾患の病態（急性期、慢性期）と脂質比率を増やす場合の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「慢性閉塞性肺疾患」を予習する	120分
第11回	膵臓疾患時の栄養マネジメント	膵臓疾患の病態と、病期に応じた栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「膵臓疾患」を予習する	120分
第12回	肝硬変、肝不全時の栄養マネジメント	肝硬変、肝不全時の病態と、病期に応じた食事・栄養マネジメントについて学ぶ	教科書「肝硬変、肝不全」を予習する	240分
第13回	炎症性腸疾患時の栄養マネジメント	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の病態、および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「炎症性腸疾患」を予習する	240分
第14回	経腸栄養剤	各種病態において経腸栄養剤を利用する場合の、経腸栄養剤の特徴や、栄養マネジメントについて学ぶ	配布資料を予習する	180分
第15回	嚥下食	各種病態において嚥下食の適応となる場合の、嚥下食の特徴や栄養マネジメントについて学ぶ	配布資料を予習するを予習する	120分

学習計画注記	各種疾患の食事管理を理解する。
学生へのフィードバック方法	授業毎に前回の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。
評価方法	・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートも評価の一環とする。 ・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合	確認レポート20点、定期試験80点
使用教科書名(ISBN番号)	新臨床栄養学ケアマネジメント第4版（978－4－263－70794－4） 栄養食事療法の実習第12版（978－4－263－70792－4）
参考図書	食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 腎臓病食品交換表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】疾患に適合した栄養マネジメントの知識が身についている。 【思考・判断】疾患を理解し適合する献立管理や食事指導ができる。 【感心・意欲・態度】献立管理、食事指導への関心、意欲、患者対応の態度が身についている。 【技能・表現】献立作成や食事指導への技術、表現力が身についている。
オフィスアワー	木曜1，2限
学生へのメッセージ	栄養食事療法が各種疾患への治療の一環であることを理解し、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は。総合病院勤務経験、および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献検索、図書館利用
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養アセスメント実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田　直子	指定なし

ナンバリング	H33705C13
授業概要(教育目的)	傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養管理を行うために，実習を通して，疾病治療上，特に患者の病態に適した栄養管理の方法について学ぶ。アセスメント（各種検査・診査・計測など）による栄養状態の評価・判定の方法については，事例を解析するなどの実技を通して，詳細に学ぶ。特に，各種生化学的検査値に基づく栄養状態判定には，測定値と病態との関係についての知識が確かなものであることが要求されるため，それらを実習により学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	患者の病態に適した栄養管理の方法を説明できる。生化学的検査値と病態を関連つけられる。
思考・判断の観点（K）	患者の病態に適した栄養管理の方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	グループワークでは積極的に参加し，自らの意見や考察を述べる。
技術・表現の観点（A）	身体計測の手技を身につけ，アセスメントによる栄養状態の評価・判定ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	科目の概要（導入）	臨床栄養アセスメント実習で学ぶ内容，臨床栄養管理に必要な技能について理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。	60分
第2回	食事摂取量調査	食事調査の種類と特徴について，実践を通して理解する。	5日間の食事記録法（秤量法）を課題とする。	240分
第3回	食事摂取量調査	5日間の食事記録を元に，管理栄養士役と患者役のペアを組み，食事内容の詳細をロールプレイにより詳細を聴き取る。それらの結果より，管理栄養士役は日本食品標準	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの食事摂取	60分

		成分表を用いて栄養量を算出し，食事内容を考察，改善案を作成する。	量調査について予習しておくこと。	
第4回	市販弁当分析（グループワーク）	市販弁当を元の献立に組み立て直す作業を行う。実際に料理ごとの食材重量を測定し，味見による調味料の想定などを通し，アセスメントのひとつである食事調査を行う際に役立てるスキルを身につける。	揚げ物の吸油率や調味料%，基本的な料理の塩分・糖分%などについて復習しておくこと。	60分
第5回	市販弁当分析（グループワーク）	前回に引き続き，食材重量測定，味見による調味料の想定などを通し，元の献立に組み立て直す作業を行う．それらの結果より，弁当の栄養価を算出することで，特徴，問題点や課題を見出し，考察する。	授業内に終わらなかった分析は，課題として終わらせておくこと。	120分
第6回	市販弁当分析（グループワーク）	グループ内で，分析した市販弁当の特徴，問題点や課題などを共有し，それらを元に，理想的な市販弁当を考案（対象者，特長，献立，商品名，価格など）する。プレゼンテーション準備として，グループごとに模造紙でポスターおよび発表原稿を作成する。	授業内に終わらなかったプレゼンテーションのための媒体・発表原稿準備は，課題として終わらせておくこと。	240分
第7回	プレゼンテーション	グループごとに，理想的な市販弁当についてプレゼンテーションを行う。他グループのプレゼンテーションでは，聴講者は消費者の立場で積極的にディスカッションを行う。	プレゼンテーションの準備として，グループ内での発表分担および発表原稿を決定し，効果的なプレゼンテーションの練習を忘れないこと。	60分
第8回	栄養補給法	経管（経腸）栄養法の実際を理解するとともに，様々な経腸栄養剤の成分や特徴を把握する。成分栄養剤，消化態栄養剤，半消化態栄養剤，天然濃厚流動食の特徴や製品を知る。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの経管（経腸）栄養法について予習しておくこと。	60分
第9回	栄養補給法	病態に応じた経腸栄養剤の内容と使用量について，症例を通して検討する。	経腸栄養剤について予習しておくこと。	60分
第10回	栄養補給法	嚥下調整食についての知識を深め，栄養管理計画作成の手順と重要なポイントを学ぶ。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの嚥下調整食について予習しておくこと。	60分
第11回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第12回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第13回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第14回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法，生理生化学検査（血圧，脈拍数，安静時基礎代謝量），骨密度測定などの実践を通し，測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し，理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第15回	SOAP記録	POS（問題志向型システム）に沿った栄養記録の作成方法を学ぶなかで，医療における栄養管理の経過記録として，SOAPの4項目に分類して記録する方法を実践を通して理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストのPOSおよびSOAP記録について予習しておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	提出物は，添削し返却する。
評価方法	評価はSABCDとする。 ・平常点は，参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。 ・提出物 ・定期試験

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	○
	提出物	○	○		○
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点（20%），提出物（20%），定期試験（60%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版　本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70792-0） 新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント4版　本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70792-4）
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。
オフィスアワー	水曜3限
学生へのメッセージ	臨床栄養アセスメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ，臨床栄養アセスメントについてしっかり理解しましょう。患者の栄養評価は，臨床現場では重要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士として臨床現場で栄養アセスメントの実務経験を有しており，アセスメントによる栄養状態の評価・判定，患者の病態に適した栄養管理の方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	SOAP記録
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養ケアマネジメント実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし

ナンバリング	H33706C13
授業概要(教育目的)	臨床栄養ケアマネジメント論で学んだ理論をいかに実践に応用・活用するか，について一連の方法を学ぶ。具体的には，病院給食における栄養管理，NSTにおける管理栄養士の役割，栄養士活動，在宅訪問栄養指導，検診センターや人間ドックにおける管理栄養士の役割，さらに，ターミナルケアに至るまでの栄養ケアプランの作成方法，実施方法，評価方法を学ぶ。そして，献立や治療食を作成するなど疾患の状態に応じた栄養管理は，調理実習を含め修得する。また，各種治療用特殊食品を用いた実習も実施する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	臨床栄養ケアマネジメント論の理論を関連つけ，応用できる。
思考・判断の観点（K）	様々な栄養ケアプランの作成方法，実施方法，評価方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	献立を元に，事前に調理実習の工程を考え，グループ内で効率よく分担し，積極的に調理実習に参加する。
技術・表現の観点（A）	疾患の状態に応じた栄養管理を献立や調理に応用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	科目の概要（導入），易消化食の献立作成	臨床栄養ケアマネジメント実習で学ぶ内容，臨床栄養管理に必要な技能について理解する。易消化食の特徴を理解し，適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの易消化食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は，課題とする。	120分
第2回	易消化食の調理実習	基本的な易消化食の献立・食品選択・調理方法を理解し，調理実習により実践する。そして，実際に試食をし，考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し，当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分

第3回	減塩食の献立作成	減塩食の特徴を理解し，適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの減塩食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は，課題とする。	120分
第4回	減塩食の調理実習	基本的な減塩食の献立・食品選択・調理方法を理解し，調理実習により実践する。そして，実際に試食をし，考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し，当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第5回	エネルギーコントロール食の献立作成	エネルギーコントロール食の特徴を理解し，適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストのエネルギーコントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は，課題とする。	120分
第6回	エネルギーコントロール食の調理実習	基本的なエネルギーコントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し，調理実習により実践する。そして，実際に試食をし，考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し，当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第7回	たんぱく質コントロール食の献立作成	たんぱく質コントロール食の特徴を理解し，適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストのたんぱく質コントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は，課題とする。	120分
第8回	治療用特殊食品の調理実習	たんぱく質コントロール食で活用される治療用特殊食品の種類・特徴を理解し，調理実習により扱い方を理解する。そして，実際に試食をし，考察する。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの治療用特殊食品について予習しておくこと。	60分
第9回	たんぱく質コントロール食の調理実習	基本的なたんぱく質コントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し，調理実習により実践する。そして，実際に試食をし，考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し，当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第10回	脂質コントロール食の献立作成	脂質コントロール食の特徴を理解し，適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの脂質コントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は，課題とする。	120分
第11回	脂質コントロール食の調理実習	基本的な脂質コントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し，調理実習により実践する。そして，実際に試食をし，考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し，当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第12回	嚥下食の献立作成	嚥下食の特徴を理解し，適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの嚥下食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は，課題とする。	120分
第13回	嚥下食の調理実習	基本的な嚥下食の献立・食品選択・調理方法を理解し，調理実習により実践する。そして，実際に試食をし，考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し，当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第14回	食物アレルギー対応の献立作成	食物アレルギー対応の方法（除去・代替）を理解し，適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し，授業に臨むこと。また，テキストの食物アレルギー対応について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は，課題とする。	120分
第15回	食物アレルギー対応市販食品の調理実習	食物アレルギー患者に用いられる市販食品の種類・特徴を理解し，調理実習により扱い方を理解する。そして，実際に試食をし，考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し，当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	提出物は添削後に返却し，適宜解説や補足を行う。

評価方法	提出物と定期試験で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○		○	○
	提出物	○	○		○
	定期試験	○	○		

評価割合	提出物20%，定期試験60%
使用教科書名(ISBN番号)	▸栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版　本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70792-0） ▸新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版　本田佳子編，医歯薬出版株式会社（978-4-263-70794-4）
参考図書	食品成分表，糖尿病食事療法のための食品交換表，腎臓病食品交換表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能を身につけている。
オフィスアワー	金澤：水曜日1，2時限
学生へのメッセージ	臨床栄養ケアマネジメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ，臨床栄養ケアマネジメントについてしっかり理解しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士としての実務経験を有しており，病院給食における栄養管理，NSTにおける管理栄養士の役割，栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法，評価方法，治療食献立の作成や調理に至るまで，臨床現場における管理栄養士の使命について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク（調理実習）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	公衆栄養学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　弘之	指定なし

ナンバリング	H23801C21
授業概要(教育目的)	住民のQOLの向上と、健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題と、それを取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を養う。公衆栄養学では、特に、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題、あるいはニーズを把握する。
思考・判断の観点（K）	上記を取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするといった、思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について積極的にかかわり改善意欲を身につける。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１．公衆栄養の概念，公衆栄養活動の意義	わが国の法律の仕組みと健康づくりに関する法令とその役割を知る。 公衆栄養学と管理栄養士の役目を理解する。	栄養士法、健康増進法、地域保健法 母子保健法、高齢者の医療の確保に関する法律、食品衛生法、介護保険法、食品安全基本法、食料・農業・農村基本法、食育基本法、学校給食法について、教科書の巻末の栄養関連法規を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分

第2回	２．わが国の健康・栄養問題の現状と課題	わが国の人口構造の変化、超高齢社会、健康・栄養問題と健康状態の変化について理解する。	教科書により、わが国の人口構造と、それに伴う健康・栄養問題の現状と課題を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第3回	３．国民健康・栄養調査の沿革	わが国の国民健康・栄養調査の沿革と基本的な考え方を理解する。	教科書により、栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国利研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「 栄養調査 情報のひろば」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第4回	４．国民健康・栄養調査の方法	わが国の国民健康・栄養調査の目的・方法を理解する。	教科書により、栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「 国民健康・栄養調査の結果と現状について」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第5回	５．食事の変化	栄養調査に基づく、エネルギー摂取量、栄養素摂取量、食品群別摂取量と料理・食事パターンの面から経時的変化と現状について理解する。	教科書により栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「 国民健康・栄養調査の結果と現状について」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第6回	６．食生活の変化	食生活とそれを支える食環境との関連を食物へのアクセスと食情報へのアクセスを理解する。	教科書により、食生活の変化について食行動・食知識・食スキルの変化について、読んでおくこと。 配布プリントにより復習すること。	180分
第7回	７．食環境の変化	食品生産・流通面、食情報面の両面から食環境を理解する。	教科書により、食料需給表と食料自給率について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第8回	８．地域における健康危機管理の在り方	災害時の栄養・食生活支援活動について、理解する。	教科書により、健康・食生活の危機管理を読む。また、国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにより、「災害時の健康・栄養について」と日本栄養士会HPより、「災害時の栄養・食生活支援マニュアル」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第9回	９．栄養施策に関する指針	食生活指針改定の趣旨、国民の食生活の現状と課題と食生活指針の構成と各項目について理解する。	教科書により、食生活指針について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第10回	10．栄養施策に関する指針やツール	健康・栄養食生活改善のための指針やツールを理解する。	教科書により、他ツール運動指針、食事バランスガイド、食育ガイド及び健康な食事について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第11回	11．健康日本２１の背景と目標設定	わが国の健康づくり対策の沿革と健康日本21の背景と目的を理解する。	教科書により、健康日本21、生活習慣病の定義とその対策の流れについて、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第12回	12．健康日本21第2次について	″国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針と同計画の第2次の目標について理解する。	教科書により、健康日本21、生活習慣病の定義とその対策の流れについて、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第13回	13．諸外国における健康・栄養問題	諸外国の健康・栄養状態，栄養素摂取の概況について理解する。	教科書により、国際的に健康状態や栄養状態を比較するときに用いられる指標や国際機関による健康・栄養・食料政策について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分

第14回	14. 地域特性に対応したプログラムの展開	地域における公衆栄養活動を理解する。	教科書により、地域栄養ケアのための関係団体と食生活改善推進員連絡協議会について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第15回	15. 管理栄養士業務における実践力の強化に向けて	社会に貢献する管理栄養士の業務を地域の特性に対応した制度を理解する。 まとめとして、テストを行いその狙いを解説する。	教科書により、在宅医療、介護予防の制度について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。
評価方法	・前回の授業内容と配布資料に係る小テストとリアクションペーパーは、14回実施する。１回当たりの問題は国家試験の出題方式で数は、３問とする。 ・定期試験は１００点満点で出題して、国家試験の出題方式と穴埋め等により、応用的な思考力や理解力を判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		
	リアクションペーパー		○	○	
	定期テスト	○	○		

評価割合	平常点は授業へのリアクションペーパー等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト（毎授業内におけるテスト）(30%)などから総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学，吉池信男他編（南江堂　2021）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解する。 【思考・判断】・学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題につ いて探求し、その課題解決を模索する。 【関心・意欲・態度の観点】・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。″
オフィスアワー	火曜日：10：45～12：00、15:00～17：30、金曜日10：00～12：00
学生へのメッセージ	心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献することを念頭としながら「問題は何か、解決するためにどうするのか」という取組意欲をもつ受講を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパー
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	地域栄養活動論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　弘之	指定なし

ナンバリング	H33802C21
授業概要(教育目的)	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。
思考・判断の観点（K）	地域住民を主体としたネットワークづくりの必要性や、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の推進が思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実情に応じた公衆栄養マネージメントにより、関心・意欲を高めることができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１．公衆栄養マネジメントの概念とプロセス	公衆栄養マネージメントの必要性・対象と実施者・プロセス・モデルについて、理解する。	教科書により、同概念と同対象を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第2回	２．公衆栄養プロセスとアセスメント	アセスメントの種類、流れ、主要な役割、プロセス改善との関係などを理解する。	教科書により、アセスメントの項目と目的・枠組みプロセス改善を理解する。配布プリントにより、復習すること。	180分
第3回	３．住民参	公衆栄養プログラムの計画を理解する。	教科書により、プログラムの目	180分

	加とコミュニティ・オーガニゼーション		標設定や地域社会資源の把握や施策のアセスメント等について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	
第4回	４．公衆栄養活動のための法規	公衆栄養プログラムの実施について、理解する。	教科書により、プログラムの実施と関係者・機関の役割、コミュニケーション管理について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第5回	５．公衆栄養プログラムの評価	評価の意義と方法やその実際について理解する。	教科書により、経過評価、影響評価、結果評価と各要因および経済評価について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第6回	６．食育の基本	食育推進の背景と経緯、食育基本法について、理解する。	食育白書や農林水産省HPの今までの食育推進基本計画を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第7回	７．食育推進基本計画	食育推進基本計画とそのツールを理解する。	教科書により、食育基本法の概念と食育推進基本計画を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第8回	８．母子の公衆栄養プログラム策	母子保健法に係る計画や指針やツールを理解する。次世代育成支援法を知る。	教科書により、健やか親子21、保育所保育指針、妊産婦のための食生活指針、授乳・離乳支援ガイドを読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。″	180分
第9回	９．特定健診・特定保健指導	高齢者の医療の確保に関する法律や特定健診・特定保健指導の仕組みを理解する。	教科書により、特定健診・特定保健指導を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第10回	10．機能を表示する食品	私たちが飲食するものの法律上の分類について、理解する。	教科書により、特別用途表示食品と保健機能食品の活用を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第11回	11．栄養成分表示等	食品表示法と関連する法律について理解する。	教科書により、栄養成分表示の活用を読んでおくこと。消費者庁HP食品表示を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第12回	12．特別用途表示の許可と虚偽誇大広告の禁止	用途別に見た食品の分類と適正な食品表示について理解する。	教科書により用途別に見た食品と消費者庁HP食品表示を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第13回	13．栄養疫学１	栄養疫学の概要や指標について理解する。	教科書により、栄養疫学の概要や指標を読んでおH38:J39くこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第14回	14．栄養疫学２	栄養疫学の方法や調査について理解する。	教科書により、方法、調査・測定方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第15回	15．食事摂取基準	食事摂取基準活用について理解する。 まとめとして、テストを行いその狙いを解説する。	教科書により、食事摂取基準による評価方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。
評価方法	・前回の授業内容と配布資料に係る小テストとリアクションペーパーは、14回実施する。１回当たりの問題は国家試験の出題方式で数は、３問とする。 ・定期試験は１００点満点で出題して、国家試験の出題方式と穴埋め等により、応用的な思考力や理解力を判断する。″
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	小テスト	○	○		
	リアクションペーパー		○	○	
	定期テスト	○	○		

評価割合	平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト（毎授業内におけるテスト）(30%)などから総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学　吉池信男他編（南江堂　2021）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につける。 【思考・判断】・課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度の観点】・他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける
オフィスアワー	月曜日15:00～17：30、火曜日10：00～12：00
学生へのメッセージ	公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組について、地域・職域の公衆栄養活動を効果的に実践するために必要な他の専門科目との繋がりをもって受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	白書等政府刊行物の利用
ICT活用	○	府省庁のガイドライン、統計資料の閲覧・ダウンロード

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	公衆栄養学実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　弘之	指定なし

ナンバリング	H33803C13
授業概要(教育目的)	公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力，意見をまとめる力を習得する。
履修条件	公衆栄養学概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメント、栄養プログラムの展開を理解していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	エビデンスに基づいた健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
思考・判断の観点（K）	調査結果から得られたエビデンスの合理的な利用と具体的な活用を考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	調査結果から得られたエビデンスを基に食習慣・生活習慣の改善への意識・関心を高める。
技術・表現の観点（A）	政策や提案を実効性と継続性のある技術・表現を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションとスマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」等の栄養調査について	アセスメントのための各栄養調査による比較	各栄養調査方法とその特徴を学ぶ教科書「栄養疫学」を読む予習をする。配付資料により、スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」復習し、実行日に決行する。	180分
第2回	写真より３日間の食物	主食・主菜・副菜の区別を入力する 献立・食品重量を推察するとともに食品名の判定結果の	予習、復習により食品成分表の使用方法を理解する。	180分

	摂取量を推察する。	×をつける 栄養価計算した推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差求める その結果どの食品がエネルギー，タンパク質等に影響が大きいかを調べる そのバラツキ（分布）を調べる		
第3回	写真より３日間の食物摂取量を推察する。	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。	教科書・食事摂取基準等を参考にエネルギー産生栄養素とその割合を予習復習で理解する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の栄養調査をパートナーと完結しておくこと。	180分
第4回	写真より３日間の食物摂取量を推察値と真の値を比較する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」のパートナーから真の値と携帯写真24時間思い出し法の値を比較する。	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー，タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の真の値を計算しておく。	180分
第5回	統計処理方法	基本統計、相関、有意差検定を理解する。	教科書の栄養疫学を予習し、配付資料を復習すること。	180分
第6回	写真記録法（推察値）と秤量記録法（真の値）を比較検討する。	様式に従った、入力、データチェックを行う。基本統計や相関を求める。 様式に従った、レポート作成を行う。	教科書栄養疫学で栄養価数値の様式や配付資料の基本統計や相関を予習・復習する。	180分
第7回	携帯カメラ写真による24時間思い出し法による栄養調査の標準化について	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。	栄養調査結果数値の特性や基本統計量と相関関係の測定について、教科書栄養疫学と配付資料により予習・復習する。	180分
第8回	携帯カメラ写真による24時間思い出し法の栄養調査の標準化について	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。 文献の意義と検索方法を学ぶ。	教科書の栄養疫学と配付資料により、文献や基本統計の比較や相関について予習・復習する。	180分
第9回	携帯カメラ写真記録による24時間思い出し法栄養調査の標準化について」のレポート作成（報告書）	秤量記録法と写真記録法との比較（エネルギー・栄養素の基本統計量と相関等を測定） 読み取り違い例のまとめをする	グループごとのデータチェックを行うための適切な数値について、教科書の栄養疫学や配付資料により予習・復習する。	180分
第10回	携帯カメラを使った24時間思い出し方法と秤量法(ゴールドスタンダード)との検討	妥当性と標準化に向けた再現性の検討 偶然誤差と系統誤差、妥当性と精度について理解する。	教科書の栄養疫学と配付資料により予習・復習をする。	180分
第11回	習慣的な食事調査結果（秤量法結	食事摂取基準値と調査結果から、栄養素で考え、食品・料理　（主食・主菜・副菜）で伝える事を学び、その適切に行える食生活習慣の改善点を考える。	食事摂取基準値の算出方法と活用について予習・復習する。	180分

	果より）を食事摂取基準からみた　検討について			
第12回	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた　検討について	携帯カメラによる栄養調査によって得られたＥＮ・栄養素を食事摂取基準と比較して課題を抽出する（２~３点に絞る） 主食｛穀類（ご飯・パン・麺）｝、主菜｛ 肉類・魚類・豆類など｝副菜｛ 野菜類など｝の観点からの課題 生活習慣からの課題（運動習慣等含む）	教科書栄養マネジメントや配付資料により予習・復習をする。	180分
第13回	20歳代女子学生の習慣的な食事調査結果による食習慣・生活習慣の　改善のポイント（食事摂取基準から）報告書の作成	背景、目的、方法、結果、課題抽出（食生活と生活習慣の観点から）、計画及び具体策（食生活と生活習慣の観点から）、考察、実効性、継続性の両観点からまとめについて、プレゼン資料を班ごとに作成する。	学習目的の意義を今までの教科書の箇所と配付資料により予習・復習をする。	180分
第14回	調理実習	栄養教育の具体的な提案のツールを増やす。	学修してきた調理技術について、予習・復習する。	180分
第15回	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション	Ⅰ背景 20歳代の女子の生活習慣や食生活などの問題について背後に潜んでいる状況や事柄を説明している。 背景に沿った目的や課題を説明している。 Ⅱ目的 課題に対して、目指すための目標が明確になっている。 Ⅲ方法 食事摂取基準からの判定、主食・主菜・副菜などの観点から具体策への手順（検討内容）が示されている。 Ⅳ結果 アセスメントや基本統計が課題抽出、計画、具体策及び考察の内容とつながっている。 Ⅴ課題の抽出 目的、結果に基づく課題になっていて、目標、計画、具体策へつなげていく内容となっている。 Ⅵ計画及び具体策　目標は、実施後の結果と比較することが可能となっている。（分かりやすいか） 計画は、食物を摂取するための行動変容について（知識・態度・行動レベル）述べている。 食物を摂取するための行動変容に係る環境レベルを述べている。 具体策　実施する内容が課題解決（リスクの低減）に向けた内容であり、実効性や継続性の観点から検討されている。 Ⅶ 考察 食生活の観点から意見・結論が述べられ、関係する論文を引用している。 生活習慣改善の観点から意見・結論が述べられ、関係する論文を引用している。 実効性や継続性の観点から今後の課題などが提案や検討がされている。 まとめとして、小テストを行いその狙いを解説する。	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。	180分

学生へのフィードバック方法	調査方法の確認やレポート作成時にアドバイスをする。
評価方法	課題遂行能力、期限提出能力、データ作成・集計・チェック能力、データ分析能力、データ解析能力、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業参加状況・討論への参加		○	○	○
	グループワークへの積極性		○	○	○
	レポート	○	○		○
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点は実習や討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(10%)、レポート(20%)，定期試験(60%)から総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学，吉池信男他編（南江堂　2021）
参考図書	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」マニュアル（同文書院）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食物接収状況の把握と生活習慣、ライフステージ域との関係から「人間の栄養」を理解する。 【思考・判断】・学際的な学習を通じて、個人から集団の現代の食・栄養に関わる諸課題につ いて探求し、その課題解決を模索する。 【関心・意欲・態度の観点】・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。
オフィスアワー	火曜日：10:40～12:00、15:00～17：30、金曜日：9：30～12：00、15:00～17：30
学生へのメッセージ	公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開に際し、事前に他の専門科目との繋がりを想定した状況を踏まえて、受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	給食経営管理論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし

ナンバリング	H13901C21
授業概要(教育目的)	給食における栄養管理、安全・衛生管理、作業管理および施設管理等の給食運営の理論について講義する。さらに食品流通や給食に関わる経営全般を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全体のマネジメントを行うための基礎理論について理解することを目的とする。具体的には、特定給食施設の概要と管理栄養士の配置基準、人事・労務管理、原価管理、給食業務の流れ、栄養管理と栄養教育、食事計画と献立作成、食材料管理、大量調理の特性と作業管理、HACCPと安全・衛生管理等について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	特定給食施設について説明できる。 特定給食施設における給食経営管理全般について説明できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点（K）	給食経営管理において各種サブシステムが具体的にどのように連動してトータルシステムを形成しているか理解し判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	給食経営管理関連の授業の流れ全般を説明する。 特定給食施設の概要を学ぶ。		
第2回	給食の概念 給食の運営	特定給食施設の目的・役割を理解する。 対象者の違いにより様々な特定給食がある事を理解し、管理栄養士・栄養士の役割や位置づけを学ぶ。 給食のシステムと業務の流れを学ぶ。	テキスト第１章給食の概念、第２章給食の運営とマネジメントを読んで予習しておく。	120分
第3回	栄養・食事管理	特定給食施設において栄養・食事管理を実施するための利用者のアセスメント方法、マネジメント方法を学ぶ。	テキスト第３章栄養・食事管理を読んで予習しておく。	120分

第4回	献立管理	給食運営の中心的役割を担う献立の種類や条件を理解する。 食事の品質向上の観点からPDCAサイクルの実践について学ぶ。	テキスト第４章献立管理を読んで予習しておく。	120分
第5回	生産管理	大量調理の特性を学ぶ。 給食の条件に応じた献立の生産(調理) 工程・作業工程の計画と管理について理解する。	テキスト第５章生産管理を読んで予習しておく。 第２回、第３回、第４回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第6回	品質管理 食材管理	給食における食事の品質管理について学ぶ。 食材の管理方法を理解し必要な帳票類の作成について学ぶ。 食材購入方法を理解し購買計画について学ぶ。	テキスト第６章品質管理、第７章食材管理を読んで予習しておく。	120分
第7回	衛生・安全管理	安全・安心な給食を提供するための衛生管理の重要性について理解する。 HACCPや大量調理施設衛生管理マニュアルについて具体的に学ぶ。	テキスト第８章衛生・安全管理を読んで予習しておく。	120分
第8回	施設・設備管理	給食の施設・設備を管理し正しく運用することの重要性を理解する。 設備機器、レイアウト、作業動線等も含めた施設・設備管理の範囲と要件について学ぶ。	テキスト第９章施設・設備管理を読んで予習しておく。 第５回、第６回、第７回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第9回	経営管理	経営管理とは経営資源を有効活用して計画を達成するためのプロセスと経営計画の結果を管理することを理解する。	テキスト第１０章経営管理を読んで予習しておく。	120分
第10回	マーケティング 顧客管理	マーケティングの意義・目的・機能を理解し給食における活用方法を学ぶ。 顧客管理の意義・目的を理解し顧客管理に欠かせない顧客満足度について学ぶ。	テキスト第１１章マーケティング、第１２章顧客管理を読んで予習しておく。	120分
第11回	人事・労務管理 給食運営の委託	人事・労務管理とは経営活動の主軸となる機能である「人」という資源を対象とした管理活動である事を学ぶ。 組織の目的・目標を達成するために「人」を効率よく活用し能力を最大限に引き出すことを理解する。 各種給食施設の委託状況、委託に関する制度、委託と受託側の役割について理解する。	テキスト第１３章人事・労務管理、第１４章給食運営の委託を読んで予習しておく。	120分
第12回	原価管理	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解する。 医療・介護制度等に応じた費用の仕組みと食事に関わる費用の算定方法について学ぶ。	テキスト第１５章を読んで予習しておく。 第８回、第９回、第１０回、第11回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第13回	危機管理 事務・情報管理	給食で想定される災害・事故を理解する。 被害の予防策、被害拡大の防止策、事故後の対策名等の実際について学ぶ。 給食運営業務と事務・情報管理の関係要点について理解する。介護制度等に応じた費用の仕組みと食事に関わる費用の算定方法について学ぶ。	テキスト第１６章危機管理、第１７章事務・情報管理を読んで予習しておく。	120分
第14回	各種給食施設の給食運営の特徴	給食施設毎の利用者の特徴、給食の目的、根拠法令、管理栄養士・栄養士の配置規定等を把握し理解する。 各種給食運営の概要と実際を学ぶ。	テキスト第１８章各種給食施設の給食運営の特徴を読んで予習しておく。	120分
第15回	特定給食施設における給食経営管理のまとめ 定期試験	特定給食施設の給食経営管理についての概要とサブシステムの管理事項を整理し理解する。 まとめの授業終了後定期試験を行う。	これまでの授業内容を復習しておく。 第12回、第13回、第14回の授業の要点をまとめ提出する。	360分

学生へのフィードバック方法	定期的に授業内容のまとめ（自習ノート）を提出し、内容をチェックし返却する。
評価方法	定期試験：80% 平常点：20% （平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		
	定期試験	○			

評価割合	定期試験（80%）、平常点（20%）で総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	給食経営管理論/三好恵子、山部秀子、平澤マキ/第一出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食経営管理に関わる専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日3時限
学生へのメッセージ	この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。2年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	給食経営管理実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期前半	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし

ナンバリング	H23902C13
授業概要(教育目的)	給食経営管理論の理論の実践を目的とする。この実習では、特定給食施設における大量調理の生産管理をはじめ、給食経営管理のサブシステム全般を学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、 対象者のニーズに応じ、給与栄養目標量に見合った「食事」を作り、提供・サービスを行う。HACCPの概念に基づいた衛生管理による作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報）を実践する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好等を踏まえ、諸条件を考慮した献立作成について説明できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点（K）	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点（A）	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画、栄養教育計画、試作準備	実習の流れとスケジュールを確認する。栄養・食事計画（献立作成等）と栄養教育計画（栄養媒体等）について学ぶ。試作の流れとスケジュールを確認する。グループワークにて選択献立（主菜Ｂ）を検討・決定し、試作時に必要な帳票類を作成し、期間献立表を提出する。栄養教育媒体を検討する。	考案する献立（主菜Ｂ）を自宅で作成し、調整内容を確認する。	120分
第2回	試作実習	グループワークにより運営献立の試作実習を実施する。試作後選択献立（主菜Ｂ）を評価し修正点を調整する。試作時に使用した帳票を記入し提出する。栄養教育媒体を作成し提出する。	試作献立（主菜Ｂ）の内容とレシピを確認し自宅で作成する。	120分
第3回	給食運営管理、生産管理、衛生安	生産管理（作業指示書、作業工程表）、食材管理（食材日計表、発注書）、衛生管理（調理室設備と厨房機器、使用方法）ついて学び確認する。グループワークにて、決定した運営献立に基づき作業指示書、作業工程表、食	試作後の献立内容の変更点を確認しておく。	60分

	全管理、試運転準備	材日計表、発注書等を作成する。試運転の流れを確認する。		
第4回	試運転実習、運営準備	大量調理の試運転を実施する。運営1班の献立を用いて、実習室の流れ（動線、汚染区域・非汚染区域）、大量調理機器の使用方法、衛生管理等の確認を行う。試運転終了後グループワークにて自班の運営の具体的なイメージの確認と作業指示書・工程表の見直しを行う。運営日の献立表、食材日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。	作成する献立の内容とレシピを確認しておく。	60分
第5回	運営実習1	運営班1班 運営班、サポートＡ班、サポートＢ班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第6回	運営実習1のまとめ、運営実習2の準備と確認	運営実習1（1班）のまとめと運営実習2（2班）の準備と確認を実施する。1班は運営後の帳票類を完成させ提出する。2班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第7回	運営実習2	運営班2班 運営班、サポートＡ班、サポートＢ班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第8回	運営実習2のまとめ、運営実習3の準備と確認	運営実習2（2班）のまとめと運営実習3（3班）の準備と確認を実施する。2班は運営後の帳票類を完成させ提出する。3班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第9回	運営実習3	運営班3班 運営班、サポートＡ班、サポートＢ班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第10回	運営実習3のまとめ、運営実習4の準備と確認 食事・栄養計画	運営実習3（3班）のまとめと運営実習4（4班）の準備と確認を実施する。3班は運営後の帳票類を完成させ提出する。4班は運営前の帳票類を完成させ提出する。主食・主菜（ＡＢ）・副菜・汁物、デザートの献立作成について説明し具体的な運営献立を検討する。	運営後の帳票の整理をしておく。 コンセプト・テーマに合わせ自分の班の運営献立を考案する。	120分
第11回	運営実習4	運営班4班 運営班、サポートＡ班、サポートＢ班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第12回	運営実習4のまとめ、運営実習5の準備と確認 食事・栄養計画	運営実習4（4班）のまとめと運営実習5（5班）の準備と確認を実施する。4班は運営後の帳票類を完成させ提出する。5班は運営前の帳票類を完成させ提出する。グループワークにて主食・主菜（ＡＢ）・副菜・汁物、デザートの献立作成について運営献立を検討・決定し期間献立表、献立表、作業指示書を作成する。	運営後の帳票の整理をしておく。 考案した運営献立を自宅で作成する。	120分
第13回	運営実習5	運営班5班 運営班、サポートＡ班、サポートＢ班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第14回	運営実習5のまとめ 運営全体のまとめ 食事・栄養計画	運営実習5（5班）のまとめを実施する。実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。総合評価会の準備を行う。グループワークにて、帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを提出する。 グループワークにて、運営献立表、作業指示書、日計表を作成し提出する。 運営	班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。	120分
第15回	総合評価会	プレゼンテーション形式にて、5回の運営全体の総合評価を実施する。具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理のおけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。実習における自己評価も実施する。	実習で学んだサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。	180分

学習計画注記	※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。
評価方法	実習点と試験で総合的に評価する。 ・実習点（実習技能、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物） ・筆記試験

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習点	○	○	○	○
	筆記試験	○			

評価割合	実習点80%、筆記試験20%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食経営管理における専門的知識と、それらをそれらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日2,3限
学生へのメッセージ	給食経営管理実習では、100食程度の昼食を作り学生(1年生)にも提供します。給食経営管理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、給食経営管理のPDCAサイクルを実感しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	健康フードマネジメント論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし

ナンバリング	H23903C21
授業概要(教育目的)	給食マネジメント、経営管理の基本を踏まえ、対象者に応じたフードサービスという視点から各種特定給食施設の特徴と給食の展開について講義する。具体的にはサブシステム管理手法を習得し、給食経営管理実習に繋げることも目的とする。また３年生が運営する給食を喫食することを原則とし、実際の給食を例にあげて解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種特定給食施設の特徴と目的、対象者に応じた食事サービスを理解し各々の給食経営管理の手法を示すことができる。 大量調理の特徴と必要な帳票類について説明できる。
思考・判断の観点（K）	各種特定給食施設における管理栄養士の役割を理解し求められる能力について判断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	給食経営管理関連の授業の流れと現時点の状況を理解する。 栄養計算ソフトの活用と献立入力課題の取り組みについて説明する。	栄養計算ソフトの使用方法を確認しておく。	120分
第2回	給食経営管理の基本１	給食のマネジメント：給食の概念と目的を理解し、各種給食の概要や管理栄養士・栄養士の配置や役割を理解する。 経営管理、経営組織：給食管理の概念・要素、経営組織、経営管理のプロセスの基本を理解する。	テキスト第1章給食のマネジメント、第２章給食における経営管理の基本（給食経営とは～経営管理のプロセス）を読んで予習しておく。	120分
第3回	給食経営管理の基本２	会計管理：会計システムと財務諸表、原価管理について理解する。	テキスト第２章給食における経営管理の基本（会計システムと	120分

		人事管理：人事・労務管理、人材育成と教育研修について理解し人事管理における管理者の役割を学ぶ。	財務諸表～部下の育成）を読んで予習しておく。	
第4回	給食経営管理の基本３	コントラクトフードサービス：コントラクトフードサービスの現状を把握し委託契約の基本を理解する。 マーケティングと情報管理：マーケティングの定義、機能を理解し給食におけるマーケティングについて学ぶ。 フードビジネス：内食・中食・外食市場の動向及び食市場全体の現状を理解する。	テキスト第２章給食における経営管理の基本（コントラクトフードサービス）、第３章情報管理を読んで予習しておく。	120分
第5回	給食経営管理の展開１	栄養・食事管理：栄養管理の意義と目的を理解し栄養管理計画及び栄養教育計画から食事計画への展開を学ぶ。 メニュー管理：給食におけるメニューの機能を理解しメニュー管理の展開をメニュープランニングの実際から学ぶ。	テキスト第４章栄養・食事管理、第５章メニュー管理を読んで予習しておく。 第１回、第２回、第３回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第6回	給食経営管理の展開２	食材管理：食材管理の概要を理解し、食材の購入管理、発注・研修、保管・在庫管理について学ぶ。	テキスト第６章食材管理を読んで予習しておく。	120分
第7回	給食経営管理の展開３	生産管理：生産管理の構造、種類と特徴を理解する。調理作業の標準化の方法を学び調理作業工程表の作成方法を理解する。	テキスト第７章生産管理を読んで予習しておく。	120分
第8回	給食経営管理の展開４	食事サービス管理：食事サービス管理と供食システムの種類を理解する。食事サービスにおける制度管理の重要性と適温給食のための方法を学ぶ。食数管理の変動要因を理解し計数管理の実践を学ぶ。	テキスト第８章食事サービス管理を読んで予習しておく。 第４回、第５回、第６回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第9回	給食経営管理の展開５	リスクマネジメント：給食施設におけるリスクマネジメントと危機管理を学ぶ。リスクマネジメントとコンプライアンス（法令順守）について理解する。	テキスト第９章リスクマネジメントを読んで予習しておく。	120分
第10回	給食経営管理の展開６	施設・設備管理：給食の施設・設備管理の目的、対象と範囲を理解し、施設・設備計画を作成するためのシステム、調理室の条件、設計、機器、関連設備について学ぶ。	テキスト第１０章施設・設備管理を読んで予習しておく。	120分
第11回	給食経営管理の実際１	病院給食 医療を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。	テキスト第１１章病院給食を読んで予習しておく。	120分
第12回	給食経営管理の実際２	学校給食 学校給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。	テキスト第１２章学校給食を読んで予習しておく。	120分
第13回	給食経営管理の実際３	福祉施設給食（児童・高齢者） 児童・高齢者施設給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。	テキスト第１３章児童福祉施設給食、第１４章高齢者福祉施設給食を読んで予習しておく。	120分
第14回	給食経営管理の実際４	事業所給食 事業所給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。	テキスト第１５章事業所給食を読んで予習しておく。	120分
第15回	各種施設における給食経営管理のまとめ 定期試験	各種施設における給食経営管理の特徴を比較整理し理解する。 喫食者実習の体験を踏まえて給食経営管理実習に向けての概要を理解する。 まとめの授業終了後、試験を実施する。	これまでの授業内容を復習しておく。 第10回、第11回、第12回、第13回の授業の要点をまとめ提出する。	360分 240分

学生へのフィードバック方法	定期的に授業内容の要点をまとめ（自習ノート）提出し、内容をチェックし返却する。
評価方法	定期試験、平常点で評価する。 （平常点は授業への参加状況、喫食者実習への参加、課題の提出状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○		
	定期試験	○			

評価割合	定期試験の得点（80%）、平常点（20%）で総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	実践 給食マネジメント論/髙城孝助・三好恵子・松月弘恵編著/第一出版

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日：3時限
学生へのメッセージ	この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。3年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。次期の実習に向けて目的を持って取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	健康フードマネジメント実習（HA）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし

ナンバリング	H33904C13
授業概要(教育目的)	健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする能力を養う。給食を好ましい食べ方の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では、特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得し、さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる能力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好や諸条件を考慮した献立作成ついての説明ができ、具体的に献立作成ができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点（K）	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点（A）	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画、栄養教育計画	実習の流れとスケジュールを確認する。 グループワークにて、試作（予定）献立を作成し提出する。 経営計画を作成し提出する。	担当する献立を自宅で試作し、修正点とレシピを確認する。	180分
第2回	給食運営管理、食材管理、原価管	グループワークにて試作献立を決定し試作準備を行う。 試作スケジュールの確認と使用する帳票類の準備を行	試作で担当する献立を決め、内容と手順（食器を含む）を確認する。	120分

	理、生産管理、衛生安全管理 試作準備	う。 栄養教育媒体を作成する。		
第3回	試作実習	グループワークにより試作実習を実施する。 試作後、献立を評価し改善点について調整する。 試作時に使用した帳票を記入し提出する。	試作後に内容変更した担当献立について、再度自宅で調理し確認する。	120分
第4回	運営準備①（試作後の改善）	試作時の改善点（栄養・原価・調味・色彩・ボリューム・作業等）を調整し運営献立を決定する。 グループワークにて、献立表、作業指示書、食材日計表、発注書、栄養媒体を作成する。	担当献立について内容を確認し問題点や課題を調整する。	120分
第5回	運営準備②	運営に必要なすべての帳票を作成する。 献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等作成し提出する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第6回	運営実習の確認	全班、運営に使用する帳票類を作成する。 1班は運営前の帳票類を全て完成させ確認し提出する。	試作迄の帳票の整理をしておく。 次回運営班は、サポート班、評価班に事前に作業指示書、作業工程表、重量測定表等必要な資料を配付し、運営当日の役割を説明しておく。	60分
第7回	運営実習1	運営班1班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第8回	運営実習1のまとめ 運営実習2の準備と確認	運営実習1（1班）のまとめと運営実習2（2班）の準備と確認を実施する。 1班は運営後の帳票類を完成させ提出する。2班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第9回	運営実習2	運営班2班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第10回	運営実習2のまとめ 運営実習3の準備と確認	運営実習2（2班）のまとめと運営実習3（3班）の準備と確認を実施する。 2班は運営後の帳票類を完成させ提出する。3班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第11回	運営実習3	運営班3班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第12回	運営実習3のまとめ 運営実習4の準備と確認	運営実習3（3班）のまとめと運営実習4（4班）の準備と確認を実施する。 4班は運営後の帳票類を完成させ提出する。4班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第13回	運営実習4	運営班4班 運営班、サポート班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第14回	運営実習4のまとめ 運営全体のまとめ	運営実習4（4班）のまとめと総合評価会の準備を行う。 4班は運営後の帳票類を完成させ提出する。 班毎に帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを作成し提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。 班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。	180分
第15回	総合評価会	プレゼンテーション形式にて、4回の運営全体の総合評価を実施する。 具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理におけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。 実習における自己評価も実施する。	実習で学んだ給食運営のサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。	240分

学習計画注記	※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。
評価方法	実習点と試験で総合的に評価する。

	・実習点（実習技術、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物） ・筆記試験

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習点	○	○	○	○
	筆記試験	○			

評価割合	実習点（80%）、筆記試験（20%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食経営管理に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	吉野：木曜日3限
学生へのメッセージ	健康フードマネジメント実習では、100食程度の昼食を作り学生(2年生)にも提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	総合演習Ⅰ（3年）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2,3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし
教授	金澤　良枝	指定なし
教授	酒井　治子	指定なし
教授	田中　弘之	指定なし
准教授	城田　直子	指定なし
准教授	加藤　理津子	指定なし
講師	腰本　さおり	指定なし

ナンバリング	H33001C12
授業概要(教育目的)	臨地実習前の事前指導と各班の実習テーマに関する事前準備を行う。具体的には各々の実習の目的や目標の理解、実習施設の概略の周知と動機付け、知識の整理、研究課題の検討等を行う。さらに病院、事業所、小学校、高齢者福祉施設、保育所、保健所等実習先の指導者から講義を受け、実習にあたっての心構え、社会における管理栄養士の使命および役割や業務について理解することを目的とする。
履修条件	給食運営臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、公衆栄養臨地実習または臨床栄養Ⅱ臨地実習のいずれの履修条件を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	実習先の特徴や概略を把握し、実習に必要な基本事項や管理栄養士の役割や業務について理解し説明することができる。
思考・判断の観点（K）	「課題発見（気づき）と問題解決」、「専門的知識と技術の統合」について考える力が身につく。
関心・意欲・態度の観点（V）	実習に対する心構えや取り組む姿勢を学び、実習先の管理栄養士等の外部講師による実践的な講義により各分野への興味や関心が深まる。
技術・表現の観点（A）	課題の取り組みを通じて、学内で学んだ知識と技術を具体的に表現する力が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	総合ガイダンス（2年次実施）	臨地実習（給食運営・公衆栄養・臨床栄養ⅠⅡ）の概要と選択方法を学ぶ。実習先の分野について希望調査を実施する。	特になし	
第2回	全体ガイダンス	臨地実習に向けて3分野合同講義 今後の分野別スケジュールを確認し、各臨地実習の目的と概要を理解する（公衆栄養、臨床栄養ⅠⅡ、給食運営）。実習に向けての準備や心構え及び注意事項を学ぶ。	「学外実習の手引き」の、総合演習Ⅰの部分を読んでおくこと。	60分
第3回	公衆栄養ガイダンス①	公衆栄養臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する	「学外実習の手引き」の、公衆栄養臨地実習の分野を読んでおくこと。	60分
第4回	外部講師講演（介護保険施設）	介護老人福祉施設の管理栄養士による「介護保険施設における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	介護保険施設の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。	120分

			指定されたレポートを作成すること。	
第5回	公衆栄養ガイダンス②	公衆栄養臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分
第6回	外部講師講演（事業所）	コントラクトフードサービスの管理栄養士による「事業所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	事業所の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第7回	外部講師講演（保健所・保健センター）	保健所・保健センターの管理栄養士による「保健所・保健センターにおける役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保健所・保健センターの管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第8回	外部講師講演（保育所）	保育所の管理栄養士による「保育所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保育所の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第9回	外部講師講演（小学校）	小学校の管理栄養士による「小学校における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	小学校の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第10回	外部講師講演（病院）	病院の管理栄養士による「病院における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	病院の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第11回	給食運営ガイダンス①	給食臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第12回	報告会	4年生における給食運営・公衆栄養・臨床栄養ⅠⅡ臨地実習の報告会（プレゼンテーション）に参加する。発表後のディスカッションにより実際の実習のイメージと理解を深める。	事前に配付される要旨集を予習し、当日に質問やディスカッションができるよう準備をしておく。	120分
第13回	給食運営ガイダンス②	給食運営臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分
第14回	臨床栄養ガイダンス①	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の臨床栄養臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第15回	臨床栄養ガイダンス②	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分

学習計画注記	※外部講師の講演日程については、場合により変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	レポートは後日返却する。 （外部講師への質問についての回答を含む）
評価方法	平常点、レポートから総合的に評価する。 （平常点は、授業態度・意欲、課題への取り組み状況から総合的に判断する）
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
平常点	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点50%、レポート50%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食運営、臨床栄養、公衆栄養等のカリキュラムの履修により習得した専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	吉野（木曜日3時限）、金澤（木曜日2時限、金曜日2時限）、酒井（未定）、田中（未定）、城田（水曜日3時限）、加藤（火曜日2時限）、腰本（木曜日2時限）
学生へのメッセージ	臨地実習実施のための事前授業です。実習の目的を明確にし、心構えや基本事項を学び実習の準備を行います。また臨地実習前に実習先の指導者から職場での管理栄養士の役割と業務について学びます。実習先の特徴や概要を捉え、その中から自ら課題・テーマを見出し主体的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実習班単位によるグループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	総合演習Ⅱ（4年）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田　直子	指定なし
教授	金澤　良枝	指定なし
教授	酒井　治子	指定なし
教授	田中　弘之	指定なし
准教授	吉野　知子	指定なし
准教授	加藤　理津子	指定なし
講師	腰本　さおり	指定なし

ナンバリング	H43002C12
授業概要(教育目的)	実習先の指導者を招き、管理栄養士の専門性や実践的な業務について、実施後の臨地実習の復習を兼ねた講義を行う。 各臨地実習（給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、臨床栄養Ⅱ臨地実習）で体験した内容および作成した課題について、発表報告会を実施する。
履修条件	給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、臨床栄養Ⅱ臨地実習を終了していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	実習先の特徴や概略が把握できており、管理栄養士の役割、業務について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点（K）	実習先での実際の体験より、管理栄養士として課題発見、問題解決、専門的知識と技術の統合について考え、判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、臨床栄養Ⅱ臨地実習を通して、各分野で仕事をする管理栄養士について、興味、関心が高まり、意欲を向上させる。
技術・表現の観点（A）	給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、臨床栄養Ⅱ臨地実習で学んだ内容を正しく表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	総合ガイダンス	給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養臨地実習Ⅰ,Ⅱについて、各担当管理栄養士を招聘しその実習をさらに深めることを目標とするガイダンスを行う。(担当者により遠隔ZOOMを併用することがある)	特になし	
第2回	外部講師講演（給食運営臨地実習・事業所）	臨地実習を通しての総括、コントラクトフードサービスで求められる管理栄養士の資質	臨地実習の復習	60分
第3回	外部講師講演（給食運営臨地実習・介護保健施設）	臨地実習を通しての総括、介護保健施設で求められる管理栄養士の資質	臨地実習の復習	120分
第4回	外部講師講演（給食運営臨地実習・小学校）	臨地実習を通しての総括、小学校で求められる管理栄養士の資質	臨地実習の復習	120分
第5回	外部講師講演（臨床栄養臨地実習）	臨地実習を通しての総括、大学病院、一般病院で求められる管理栄養士の資質	臨地実習の復習	120分
第6回	外部講師講演（臨床栄養臨地実習）	臨地実習を通しての総括、国立病院機構で求められる管理栄養士の資質	臨地実習の復習	120分
第7回	外部講師講演（公衆栄養臨地実習）	臨地実習を通しての総括、保健所、保険センターで求められる管理栄養士の資質	臨地実習の復習	120分
第8回	外部講師講演（公衆栄養臨地実習）	臨地実習を通しての総括、保健所、保険センターで求められる管理栄養士の資質	臨地実習の復習	120分
第9回	臨地実習発表会の準備	パワーポイントの作成、プレゼンテーション準備	臨地実習を振り返る、課題復習	120分
第10回	臨地実習発表会の準備	パワーポイントの作成、プレゼンテーション準備	臨地実習を振り返る、課題復習	120分
第11回	発表会	プレゼンテーション、質疑応答	臨地実習の復習	120分
第12回	発表会	プレゼンテーション、質疑応答	臨地実習の復習	120分
第13回	発表会	プレゼンテーション、質疑応答	臨地実習の復習	60分
第14回	発表会	プレゼンテーション、質疑応答	臨地実習の復習	60分
第15回	臨地実習のまとめ	各臨地実習を通して、管理栄養士の社会的役割、今後の管理栄養士の在り方について考察する	臨地実習の復習	60分

学習計画注記	外部講師日程については、場合により変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	レポートは後日返却します。また、各臨地実習での成果を冊子にして配布します。
評価方法	平常点、レポート、各実習施設での評価を総合的に判断します。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	実数先評価	○	○	○	○

評価割合	平常点とレポートを総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習手引き 各臨地実習担当教員から指示された教科書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食運営臨地実習、公衆栄養臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、臨床栄養Ⅱ臨地実習で学んだ専門的知識が身に付き、管理栄養士としての専門職を自己理解し、社会に貢献できる。 【思考・判断】現代の食・栄養に関する課題について、臨地実習を経験した知識を通し、問題解決ができる。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会貢献できる意思と、多職種とも連携ができる力が身に付き、自ら行動できる。 【技術・表現】管理栄養士として栄養指導、栄養管理などの専門的能力があり、それを対象者に教育できる能力、プレゼンテーションができる。
オフィスアワー	城田(水曜3時限）、金澤（木曜2時限、金曜2時限）、酒井(水曜日2時限）、田中(水曜日1・2時限）、吉野（木曜3時限）、加藤(火曜2時限）、腰本(木曜2時限)
学生へのメッセージ	管理栄養士の社会的役割や各分野の業務について学び、社会貢献できるよう努力しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士としての実務を有している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献検索
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	給食運営臨地実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし
准教授	加藤　理津子	指定なし
講師	腰本　さおり	指定なし
助教	建路　七織	指定なし

ナンバリング	H33901C13
授業概要(教育目的)	特定給食施設における給食運営を学ぶ。具体的には、事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所のいずれかを実習先とし、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術の修得を目的とする。献立作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務、大量調理の特性と留意点、衛生管理等、学内で学んだ知識や技術が実際の給食現場でどのように反映されているかを体験し学習する。
履修条件	食品衛生学、給食経営管理論、健康フードマネジメント論、給食経営管理実習の指定科目を3科目以上の単位を取得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	特定給食施設（事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所）における、各々の給食運営の特徴と目的を説明できる。
思考・判断の観点（K）	給食現場での体験から、課題を発見（気づき）し、臨機応変に判断し、対応することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実習を通じて将来の進路への関心や興味が深まり、意欲的に学習に取り組む姿勢が身につく。
技術・表現の観点（A）	給食業務を行うために、必要な食事計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	事前指導	実習先に関する基本情報や実習課題・提出物を確認し、実習先での事前オリエンテーションに向けての準備を行う。	「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおく。 実習先からの事前課題に取り組み、内容をよく精査しておく。	240分
第2回	事前オリエンテーション（実習施設）	事前オリエンテーションとして、施設の概要、実習内容・日程、持ち物、注意事項、厨房案内等基本的な事項について確認し学ぶ。	実習先の基本情報をよく確認しておく。 「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおく。	120分
第3回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第4回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第5回	給食運営実	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営		

	習	管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第6回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第7回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第8回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第9回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第10回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第11回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第12回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第13回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第14回	給食運営実習	各施設における給食運営（施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理）の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第15回	事後指導	実習後、実習班毎に教員への報告とグループワークによる総括を行い、課題のまとめ、お礼状、実習日誌、各提出物等を完成させる。	実習課題をまとめ整理しておく。	240分

学生へのフィードバック方法	実習日誌は、毎日記入し実習施設指導者に提出し、添削やコメント付きで返却される。 課題については内容も様々で実習先によって対応が異なる。 ・献立課題については、添削指導だけではなく実習中に実際に調理・提供する施設もある ・ミニ栄養指導課題については、添削指導後実習中に実施する ・栄養媒体は、添削後実習中に使用するケースが多い
評価方法	規定の必要実習時間を終了している、実習施設の指導者よる評価点がついている、学内への提出物を全て提出していること、実習日誌の提出を確認し、単位取得「合格」とする。　実習施設での指導者の評価、実習報告書の内容を総合的に評価する。単位を取得できた場合の成績評価はＰ(合格)とする。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	必要実習時間の実施	○	○	○	○
	施設指導者の評価	○	○	○	○
	実習報告・提出物の作成	○	○	○	
	実習日誌の提出	○	○	○	

評価割合	単位取得条件100%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食運営に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	吉野（木曜日3時限）、加藤（火曜日2時限）、腰本（木曜日2時限）、建路（木曜日3時限）
学生へのメッセージ	実習先となる特定給食施設（事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所）の給食運営の特徴を捉えておきましょう。さらに学内での給食経営管理実習の流れを踏まえ「大量調理施設衛生管理マニュアル」を復習して実習に臨みましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として専門領域の実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーションを実施している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養Ⅰ臨地実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし
准教授	城田　直子	指定なし
講師	腰本　さおり	指定なし

ナンバリング	H43702C23
授業概要(教育目的)	病院において，ベッドサイド訪問，個別指導や集団指導を通して，栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を学ぶ。学内における講義や実習では学ぶことのできない病院のシステム，医療スタッフとの関わり，ベッドサイドへの訪問，実際の個別栄養食事指導，集団栄養指導を通して，病態治療が臨床の場でどのように行われているのか，それらの実際を２週間の医療現場での実習を通して学び，実践力を養うことを目的とする。また，実習施設における事前集中講義，学内での特別講義や直前指導，事後の報告会なども行う。
履修条件	臨床栄養アセスメント論，臨床栄養アセスメント実習のうち，１科目以上の単位を取得している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を理解できる。病態治療が臨床の場でどのように行われているか説明できる。
思考・判断の観点（K）	管理栄養士の役割を理解し，状況に沿った必要な知識や情報を判断し，活用できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来の進路について，医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点（A）	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価など，臨床の場における実践力が養える。また，プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	事前指導	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み，予習しておくこと。	60分
第2回	事前指導	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習	管理栄養士の学外実習の手引き	60分

		テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。	の関連項目をよく読み，予習しておくこと。	
第3回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第4回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第5回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第6回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第7回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第8回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第9回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第10回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第11回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第12回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第13回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第14回	事後指導	学内において，お礼状，指定成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。	120分
第15回	事後指導	学内において，お礼状，指定成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。	120分

学習計画注記	臨床現場で患者を対象として課題研究も実施する。
学生へのフィードバック方法	実習中は，毎日，実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され，実習課題の指導も行われる。実習終了後には，完成させた実習日誌を本学に提出後，担当教員が内容を確認し，返却する。
評価方法	評価は，単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである。 ・実習施設における事前集中講義をはじめ，既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。 ・実習施設の指導者より，評価表にて評価を受けること。 ・学内での事後指導の際に，指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。 ・実習日誌を作成し，期限までに提出すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	必要実習時間の履行	○	○	○	○
	施設指導者の評価	○	○	○	○
	指定成果物・提出物	○	○	○	○
	実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合	単位取得条件（100%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し，戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と，他者と協働するための共感力，生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度，豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に，他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント，プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	金澤（木曜日2時限,金曜日2時限） 城田（水曜日3時限） 腰本（木曜日2時限）
学生へのメッセージ	実際に病院管理栄養士の働く姿，業務内容，他職種との連携，患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があってこその実習です。決して受け身にならないよう，積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士としての実務経験を有しており，臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養Ⅱ臨地実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし
准教授	城田　直子	指定なし
講師	腰本　さおり	指定なし

ナンバリング	H43703C13
授業概要(教育目的)	給食運営臨地実習・臨床栄養Ⅰ臨地実習を終えた後に本実習を行う。栄養治療などの疾病に関わる医療行為を具体的に実施する現場での実習である。先の臨床栄養Ⅰ臨地実習と異なる点は，医療チームの一環として加わり，患者の栄養状態のアセスメントとその判定，それらに応じた栄養ケアプランの作成，治療の実施と評価に至るまでのプロセスの詳細を学ぶことにある。実習生として現場で具体的な課題を発見し，解決方法を検討する。
履修条件	臨床栄養アセスメント論，臨床栄養アセスメント実習のうち，１科目以上の単位を取得している（臨床栄養Ⅰ臨地実習に同じ）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	患者の栄養状態のアセスメントとその判定，それらに応じた栄養ケアプラン作成，治療の実施と評価に至るまでのプロセスを理解できる。
思考・判断の観点（K）	臨床現場で具体的な課題を発見できるよう，常に問題意識を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来の進路について，医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点（A）	臨床現場で具体的な課題を自ら発見し，解決方法を検討できる。また，プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	事前指導	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み，予習しておくこと。	60分
第2回	事前指導	学内において，実習時の基本事項・実習日誌作成・実習	管理栄養士の学外実習の手引き	60分

		テーマ・体調管理・腸内細菌検査など，実習に向けての事前準備を指導する。	の関連項目をよく読み，予習しておくこと。	
第3回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第4回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第5回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第6回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第7回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第8回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第9回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第10回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第11回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第12回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第13回	病院実習	実習施設において，給食管理，栄養管理・チーム医療（NST，褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	60分
第14回	事後指導	学内において，お礼状，指定成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。	60分
第15回	事後指導	学内において，お礼状，指定成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。	60分

学習計画注記	臨床現場で通院している患者を対象として研究活動（実習）を実施する。
学生へのフィードバック方法	実習中は，毎日，実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され，実習課題の指導も行われる。実習終了後には，完成させた実習日誌を本学に提出後，担当教員が内容を確認し，返却する。
評価方法	評価は，単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである（臨床栄養Ⅰに同じ）。 ・実習施設における事前集中講義をはじめ，既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。 ・実習施設の指導者より，評価表にて評価を受けること。 ・学内での事後指導の際に，指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。 ・実習日誌を作成し，期限までに提出すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	必要実習時間の履行	○	○	○	○
	施設指導者の評価	○	○	○	○
	指定成果物・提出物	○	○	○	○
	実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合	単位取得条件（100%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し，戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と，他者と協働するための共感力，生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度，豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に，他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント，プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	金澤（木曜日2時限,金曜日2時限） 城田（水曜日3時限） 腰本（木曜日2時限）
学生へのメッセージ	実際に病院管理栄養士の働く姿，業務内容，他職種との連携，患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があってこその実習です。決して受け身にならないよう，積極的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は，病院管理栄養士としての実務経験を有しており，臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	公衆栄養臨地実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　弘之	指定なし
教授	酒井　治子	指定なし
教授	江川　賢一	指定なし
教授	田中　千晶	指定なし
准教授	大富　あき子	指定なし
講師	腰本　さおり	指定なし
助教	會退　友美	指定なし

ナンバリング	H43804C13
授業概要(教育目的)	実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得すること
履修条件	公衆栄養学、公衆衛生学のうち，１科目以上の単位を取得している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	区市町村における地域診断の方法を理解するとともに、住民への身近なサービスである健康日本21、食育推進活動及び母子保健活動を通じた健康づくり対策を理解する。
思考・判断の観点（K）	管理栄養士の役割を理解し，状況に沿った必要な知識や情報を判断し，活用できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来の進路について，行政の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点（A）	PDCAによる地域診断の方法を理解するとともに、保健・医療・福祉施策の場において実践力が養える。また，プレゼンテーション技術を用いて課題を明確にして、解決策をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	事前指導	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センター	都道府県・政令市・特別区保健	120分

		の役割	所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。	
第2回	事前指導	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの役割	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。	120分
第3回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第4回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第5回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分

			（４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）		
	第6回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
	第7回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
	第8回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分

			（４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）		
	第9回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
	第10回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
	第11回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分

		（４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）		
第12回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第13回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務　例： （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 （５）健康なまちづくり （６）人材及び住民組織の育成 （７）連携体制づくり （８）健康危機管理 （９）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） ２．保健所 （１）実態把握及び分析 （２）計画の策定及び事業の施策化 （３）評価 （４）専門的な栄養指導、食生活支援 （５）特定給食施設等への指導 （６）食生活に関する正しい知識の普及 （７）充実した食環境の整備 （８）市町村に対する技術的な支援 （９）人材育成 （10）連携体制づくり （11）健康危機管理 （12）その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し，課題作業を進めること。	120分
第14回	事後指導	学内において，お礼状，成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。	120分
第15回	事後指導	学内において，お礼状，成果物・提出物などを完成させ，聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は，速やかにお礼状下書き，指定成果物・提出物などを完成させること。	120分

学生へのフィードバック方法	実習中は，毎日，実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され，実習課題の指導も行われる。実習終了後には，完成させた実習日誌を本学に提出後，担当教員が内容を確認し，返却する。
評価方法	評価は，単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである。 ・実習施設における事前集中講義をはじめ，既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。 ・実習施設の指導者より，評価表にて評価を受けること。 ・学内での事後指導の際に，指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。

	・実習日誌を作成し，期限までに提出すること。 評価基準

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	必要実習時間の履行	○	○	○	○
	施設指導者の評価	○	○	○	○
	指定成果物・提出物	○	○	○	○
	実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合	単位取得条件（100%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により，総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として，自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し，その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し，戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と，他者と協働するための共感力，生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度，豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて，人々の生活の質の向上に寄与すべく，健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に，他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント，プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	火曜日5限目
学生へのメッセージ	管理栄養士としての社会に適応する相応しい実習態度を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	保健所・保健センター業務報告書
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	栄養治療学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田　直子	指定なし

授業概要(教育目的)	医療現場において医療の一翼を担える管理栄養士を目指す。各種疾患別の症例に基づき、栄養アセスメントを実施し、疾病者の栄養状態を把握し、栄養管理のあり方を習得する。栄養指導媒体の作成や模擬栄養指導など実践力が備わる様に学習する。医療の倫理、患者の権利の問題など、医療人としての在り方についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	各種疾患の栄養評価、栄養管理について理解する。
思考・判断の観点（K）	各種疾患の栄養管理について、個々の患者背景、病態を考え提案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	各種疾患の栄養管理について、医療倫理を備えた管理栄養士として患者に接することができる。
技術・表現の観点（A）	各種疾患の適切な栄養食事指導媒体の作成や提案ができる。

学習計画

栄養治療学

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	肥満症症例の栄養評価と栄養指導	肥満症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導の実際について学ぶ	教科書「肥満症」を予習しておくこと	240分
第2回	糖尿病症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「糖尿病」を予習しておくこと、受講前に糖尿病治療のための食品交換表を復習しておくこと	120分
第3回	糖尿病＋高血圧症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病と高血圧を合併している症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「糖尿病」「高血圧」を予習しておくこと	240分

第4回	脂質異常症症例の栄養評価と栄養指導	脂質異常症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「脂質異常症」を予習しておくこと	120分
第5回	脂質異常症＋糖尿病＋高血圧症例の栄養評価と栄養指導	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「脂質異常症」「糖尿病」「高血圧」を予習しておくこと	240分
第6回	脂質異常症＋糖尿病＋高血圧症例の栄養評価と栄養指導の媒体作成	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例の栄養食事指導媒体を作成し、実際の栄養指導のシミュレーションを行う	教科書「脂質異常症」「糖尿病」「高血圧」を予習しておくこと	240分
第7回	慢性腎臓病（ステージ1～3）症例の栄養評価と栄養指導	慢性腎症病（ステージ1～3）の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「糸球体腎炎」を予習しておくこと	120分
第8回	慢性腎臓病（ステージ4～5）症例の栄養評価と栄養指導	慢性腎臓病（ステージ4～5）の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「慢性腎不全」を予習しておくこと	120分
第9回	糖尿病性腎症症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病性腎症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「糖尿病性腎症」を予習しておくこと	240分
第10回	慢性腎不全低たんぱく食事療法の媒体作成	慢性腎不全低たんぱく食事療法の栄養食事指導媒体を作成し、実際の栄養指導のシミュレーションを行う	教科書「慢性腎不全」を予習しておくこと、受講前に腎臓病食品交換表を復習しておくこと	240分
第11回	炎症性腸疾患症例の栄養評価と栄養指導	炎症性腸疾患の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「潰瘍性大腸炎」「クローン病」を予習しておくこと	120分
第12回	鉄欠乏性貧血症例の栄養評価と栄養指導	鉄欠乏性貧血の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「鉄欠乏性貧血」を予習しておくこと	120分
第13回	肝硬変症例の栄養評価と栄養指導	肝硬変症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「肝硬変」を予習しておくこと	120分
第14回	妊娠糖尿病症例の栄養評価と栄養指導	妊娠糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「糖尿病」を予習しておくこと	180分
第15回	高齢者（サルコペニア・フレイル）症例の栄養評価と栄養指導	高齢者（サルコペニア・フレイル）症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ	教科書「加齢にともなう機能低下への栄養ケア」を予習しておくこと	240分

学習計画注記	授業毎に症例を提示するので、疾患の栄養食事管理について理解を深める。
学生へのフィードバック方法	毎回の症例シートは内容を確認し、適宜返却する。
評価方法	症例シート、栄養食事指導媒体、定期試験を総合的に評価する。 ・症例シート：臨床検査値の読み方、食事指導の方法について理解できているか ・栄養食事指導媒体：患者に対してよりわかりやすい内容を提示できているか ・定期試験：医療スタッフとしての基礎知識が身についているか
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）

	症例シート	○			
	栄養食事指導媒体	○		○	○
	定期試験	○	○		○

評価割合	症例シート15点、栄養食事指導媒体10点、定期試験75点
使用教科書名(ISBN番号)	新臨床栄養学・栄養ケアマネジメント（978－4－263－70664－0）
参考図書	・食品成分表 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・腎臓病食品交換表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各種疾患の栄養アセスメント、栄養管理が理解でき、栄養食事指導に対応できる知識を有している。 【思考・判断】患者に適合した栄養管理の対応が身についている。 【感心・意欲・態度】患者教育への関心、意欲、栄養食事指導に対する態度が身についている。 【技能・表現】栄養食事指導媒体などにより栄養指導を表現できる。
オフィスアワー	水曜日3時限
学生へのメッセージ	各種疾患の栄養食事療法についての知識を高め、それらを患者に正しく伝える技術を磨き、人間味のある栄養食事指導が実施できるよう、徳性を養いましょう。積極的に取り組み、実りのある学びにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院およびクリニックにおいて個別・集団栄養食事指導経験を有する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床栄養カンファレンス演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 腰本　さおり	指定なし
教授	斉藤　恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	模擬カンファレンス（症例検討）から，治療方針に基づいた栄養ケアマネジメントを実践的に学習する。病態，臨床データ，服薬状況，治療経過に基づいて患者に最も適切な栄養ケアの方針を提案しながら，NSTカンファレンスを主導方法を学ぶ。一連のシュミレーションから，多職種連携のカンファレンスに必要な知識、情報、スキルを習得し、医療者に必要なコミュニケーション能力を高める。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	患者の病態や臨床データから臨床栄養に関係する専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	病態や臨床データから栄養状態を適切に判定し，適切な栄養ケアマネジメントをシュミレートできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	医療現場において管理栄養士の専門性を発揮し，カンファレンスに積極的に参加し，多職種と協調できる。
技術・表現の観点（A）	他職種や患者とのコミュニケーションをはかり，カンファレンスのプレゼンテーション，チーム医療に基づいた栄養指導が実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	カンファレンスの目的	カンファレンス（症例検討）の概要と目的を理解する。	【予習】 症例検討に関する学術誌や参考書からカンファレンスの概要把握を行う。 【復習】 カンファレンスの目的を振り返り、必要な臨床データをまとめる。	60分
第2回	糖尿病の症例検討	糖尿病症例の模擬カンファレンス ・疾患の概要，臨床データ，服薬，これまでの経過から患者の状態を把握する。 ・栄養ケアの治療方針について検討する。	【予習】病態，臨床データをまとめ，疾患の概要把握を行う。 【復習】次回のカンファレンスにむけて、栄養ケアの治療方針	60分

			の提案方法をシュミレートする。	
第3回	糖尿病のNSTカンファレンス（1）	糖尿病の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第4回	糖尿病のNSTカンファレンス（2）	糖尿病の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第5回	慢性腎臓病の症例検討	慢性腎臓病症例の模擬カンファレンス ・疾患の概要，臨床データ，服薬，これまでの経過から患者の状態を把握する。 ・栄養ケアの治療方針について検討する。	【予習】病態，臨床データをまとめ，疾患の概要把握を行う。 【復習】次回のカンファレンスにむけて、栄養ケアの治療方針の提案方法をシュミレートする。	60分
第6回	慢性腎臓病のNSTカンファレンス（1）	慢性腎臓病の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第7回	慢性腎臓病のNSTカンファレンス（2）	慢性腎臓病の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第8回	心不全の症例検討	心不全症例の模擬カンファレンス ・疾患の概要，臨床データ，服薬，これまでの経過から患者の状態を把握する。 ・栄養ケアの治療方針について検討する。	【予習】病態，臨床データをまとめ，疾患の概要把握を行う。 【復習】次回のカンファレンスにむけて、栄養ケアの治療方針の提案方法をシュミレートする。	60分
第9回	心不全のNSTカンファレンス（1）	心不全の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第10回	心不全のNSTカンファレンス（2）	心不全の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第11回	高齢者の症例検討	高齢者の症例の模擬カンファレンス ・疾患の概要，臨床データ，服薬，これまでの経過から患者の状態を把握する。 ・栄養ケアの治療方針について検討する。	【予習】病態，臨床データをまとめ，疾患の概要把握を行う。 【復習】次回のカンファレンスにむけて、栄養ケアの治療方針	60分

			の提案方法をシュミレートする。	
第12回	高齢者のNSTカンファレンス（1）	高齢者の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第13回	高齢者のNSTカンファレンス（2）	高齢者の模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分
第14回	がん・緩和ケアの症例検討	がん・緩和ケアの症例の模擬カンファレンス ・疾患の概要，臨床データ，服薬，これまでの経過から患者の状態を把握する。 ・栄養ケアの治療方針について検討する。	【予習】病態，臨床データをまとめ，疾患の概要把握を行う。 【復習】次回のカンファレンスにむけて、栄養ケアの治療方針の提案方法をシュミレートする。	60分
第15回	がん・緩和ケアのNSTカンファレンス	がん・緩和ケアの模擬NSTカンファレンスを主導する ・適切な栄養補給の方法、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養ケアについて、管理栄養士として提案する。 ・他職種の栄養ケアの意見をとりまとめ、栄養ケアの方針を決定する。	【予習】 NSTカンファレンスで発表する栄養ケアに関する提案をシュミレーションする。 【復習】 模擬カンファレンスを振り返り、管理栄養士として自分のスキル不足を感じた知識、情報、技術を補う。	60分

学習計画注記	演習の進行状況によって、学習内容の順序が入れ替わる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	プレゼン（発表）			○	○
	提出物	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点：１０点，プレゼン（発表）：２０点，提出物：２０点，定期試験：３０点
参考図書	チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方 第2版 篠田道子，栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第12版 本田佳子 医歯薬出版,新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第4版 本田佳子 医歯薬出版，症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト第3版 川崎英二 医歯薬出版,臨床栄養教育トレーニングテキスト 本田佳子 医歯薬出版，ステップアップ臨床栄養学実習 桑原節子 建帛社，病気がみえる vol.1～14（MEDIC MEDIA），イメージするからだのしくみシリーズ（MEDIC MEDIA）,今日の治療薬2022 南江堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識 【思考・判断】食・栄養に関わる課題の解決に向けて正確な情報を収集し，戦略的な取り組みを判断できる力 【関心・意欲・態度】管理栄養士として貢献する意思，他者と協働するための共感力，主体的に学ぶ意欲と態度 【技術・表現】栄養管理と栄養指導に関する専門的技能，他職種とのコミュニケーション能力，プレゼンテーション力などの表現力
オフィスアワー	腰本：木曜日2時限 斉藤：木曜昼休み
学生へのメッセージ	疾患の基礎知識や臨床データについて事前学習をしておいてください。 多職種の中において管理栄養士としての専門性を発揮できるように，積極的に発言し意見交換してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は臨床における経験があり，臨床現場の実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育	○	各種学会治療のガイドラインを参考とする。
ICT活用	○	栄養価計算ソフトを利用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	カウンセリング論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小金井　希容子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、カウンセリングについての理解を深めるために、諸理論、心理アセスメントなど、カウンセリングについて総合的に学ぶ。また、社会に出てから実践で役に立つカウンセリングの基本的な知識・姿勢・技術を面接実習や演習を通して身につけ、カウンセリングマインドを養うとともに、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を育成することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養カウンセリングに必要な諸理論やアセスメントを説明できる。
思考・判断の観点（K）	カウンセリング場面で扱う課題の背景にあることを思考し、課題解決や個人の成長のために必要な情報やアプローチを選択することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養や健康における様々な課題に関心を持ち、それに対して主体的に関わる態度や他者と協働する姿勢を養う。
技術・表現の観点（A）	カウンセラーとして思考したことを、相手にあわせて言葉で表現できるようになる。栄養カウンセリングで使用する資料を、言葉や表などを用いて適切に表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ、基本的技法　①共感と受容	授業の進め方、課題についての説明。ロジャースの来談者中心技法およびカウンセリングマインドについて理解する。授業内でロールプレイを行うときのルール（自己開示と個人情報の扱い）について確認し、栄養カウンセリングにおける倫理について学習する。演習：自分が話しやすいと感じる人の特徴について話し合い、共感や受容について理解を深める。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」P.1～7、20～21	50分
第2回	基本的技法②傾聴	傾聴の特徴を学び、日常会話の「聞く」とカウンセリングにおける「聞く」の違いを理解する。演習：日常的な会話と傾聴をロールプレイして、その体験の相違について話し合う。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」P.7～13	50分
第3回	基本的技法	オープン・クローズの質問について理解する。気づきを	教科書「栄養カウンセリング論	50分

	③質問と気づき	得ることにより、気持ちや行動が変わることを理解する。クライエントの気持ちに寄り添いながら仮説を立てていく。演習：ロールプレイによって、カウンセリングにおけるオープン・クローズの質問を練習する。講師によるカウンセリングのロールプレイ（録画）を見て、カウンセリングの流れを把握する。	第2版」p.13～14	
第4回	基本的技法④評価・アセスメント、見立て	相談されたときに、クライエントの抱えている状況や問題についてアセスメントし、見立てる必要があることを理解する。 授業内ワーク：bio-psycho-socialモデルを理解し、模擬ケースをアセスメントおよび見立てる練習を行う。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」p.35～39	50分
第5回	基本的技法⑤直面化、目標設定	評価・アセスメントの結果と見立てをクライエントと共有する難しさを体験し、注意点を整理する。さらに、目標設定を考えるときのカウンセリングが出来るようになる。演習：クライエントの気持ちを想像しながら伝える練習をロールプレイで行う。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」p.15	50分
第6回	ロールプレイ①	これまで学習したカウンセリングの基礎をロールプレイを通して実践する。今回、登校ではなく、遠隔で受講した学生は、ロールプレイを視聴した感想（A41枚程度）を提出する。	カウンセリングの基礎、特に第1回から5回までに学習した基本的技法を復習する。	50分
第7回	ロールプレイ②	これまで学習したカウンセリングの基礎をロールプレイを通して実践する。今回、登校ではなく、遠隔で受講した学生は、ロールプレイを視聴した感想（A41枚程度）を提出する。	カウンセリングの基礎、特に第1回から5回までに学習した基本的技法を復習する。	50分
第8回	健康心理学と生活習慣に関するカウンセリング	生活習慣（体重管理、睡眠、喫煙、飲酒、糖尿など）に関するカウンセリングを行うために、健康心理の主要概念について理解する。健康の維持や促進、およびセルフ・エフィカシー、バーンアウトなど、健康心理学的に重要な考え方を学び、生活習慣へのカウンセリングについて考える。演習：生活習慣の悩みをテーマに、ロールプレイを行う。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」p.40～54	50分
第9回	行動変容のための理論①認知療法、行動療法、認知行動療法	考え・行動・感情の連動に焦点を当てる心理療法であることを学習する。また、刺激・反応、オペラント条件付け、不合理な信念、モニタリングなどの基本的概念を理解する。演習：①生活習慣や食に関するテーマに沿って、ワークシートを使い、考え・行動・感情を書き出し、カウンセリングをロールプレイする。②リフレーミングや思考記録表により、捉え方や考え方について扱う。ロールプレイにより実践する。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」p.21～23 レポート課題：家族や友達と模擬カウンセリングを行いレポートを作成する	50分
第10回	行動変容のための理論②心と体について～ストレス、リラクセーション、マインドフルネス～	ストレスと健康について理解を深める。ストレスに対し、カウンセリングで身体的な介入を適切に行えるようになる。演習：呼吸法や筋弛緩、マインドフルネスのワークを実施し、今ここの感覚との接触を体験する。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」p.93～97 授業内で使用する資料を基に復習し、授業中に学習したリラクセーションを1週間体験してみる。	50分
第11回	行動変容のための理論③家族やコミュニティーとの繋がり	食事をテーマとして、個人と家族・コミュニティーとの繋がりについて考える。授業内ワーク：クライエントが家族との関係について話すときに使用できるアセスメントツールとして、ジェノグラムを学ぶ。	教科書「実践栄養カウンセリング論」P.27～28、57～66	50分
第12回	行動変容のための理論④様々なアプローチ	動機付けカウンセリングや心理教育的アプローチ、ソーシャル・サポートなどを理解する。継続面接を行うときに注意することを学習し、実践する。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」p.82～87	50分
第13回	個人・集団カウンセリングの理論と現場の様子について	集団カウンセリングを行うときの注意点について学習する。集団カウンセリングの様子を紹介し、自分が実施する際の留意点をまとめる。復習を兼ねて講師が行うカウンセリングのロールプレイを聞き、授業内で学習した内容を定着させる。	教科書「栄養カウンセリング論第2版」p.32～35、78～82	50分
第14回	カウンセリングの終結、カウンセリングのロールプレイ③	これまで学習したカウンセリングの基礎をロールプレイを通して実践する。今回、登校ではなく、遠隔で受講した学生は、ロールプレイを視聴した感想（A41枚程度）を提出する。	授業内で使用した資料を復習する。	50分
第15回	カウンセリ	これまで学習したカウンセリングの基礎をロールプレイ	授業内で使用した資料を復習す	50分

	ングの終結、カウンセリングのロールプレイ④ 講師のカウンセリング（録画）を見て技法を用いるカウンセリングについて理解を深める。	を通して実践する。今回、登校ではなく、遠隔で受講した学生は、ロールプレイを視聴した感想（A41枚程度）を提出する。	る。	

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合、また対面・オンライン授業などの形態によってスケジュールや内容が変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した課題は、採点して、次週の授業にて返却し解説する。
評価方法	○授業内容の理解促進のため、授業ごとに課題（100点満点/回、15回）の提出が求められる。課題は２～４問であり、明示された課題の目的を確認し、回答を思考する。オンライン授業の場合は、課題提出が出席確認を兼ねる。空欄で提出されたものや課題の理解が示されないと捉えられる場合は減点とする。 ○最終課題（40点満点） パワーポイント４～５枚程度で、自分がカウンセリングをするときの、自分なりの注意点をまとめる。授業内容が熟考されていること、またカウンセリングをする自分というものがイメージされている必要がある。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	課題・発表	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	

評価割合	課題60% 最終課題40%
使用教科書名(ISBN番号)	小松啓子・大谷貴美子「栄養カウンセリング論　第2版」講談社サイエンティフィク出版
参考図書	堀越　勝・野村　俊明「精神療法の基本　支持から認知行動療法まで」医学書院 久保克彦「栄養カウンセリング」MCメディカ出版 赤松利恵・永井成美「栄養カウンセリング論」化学同人 国重浩一「もう一度カウンセリング入門」日本評論社
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として他者と協働するための共感力を有している。 【技能・表現】専門的知識と共に、他職種とのコミュニケーション能力やプレゼンテーションなどの表現力を有している、
学生へのメッセージ	人に話を聞いてもらうと、心が楽になるときもありますが、関わり方によってはそれにより傷つくこともありますね。相手の気持ちを想像しながらカウンセリングが行えるように、練習していきましょう。カウンセリングの力が求められる場面はたくさんありますので、現場で使えるスキルをぜひ身に着けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	精神科や教育現場での実践を踏まえて、理論を実践と結び付けながら授業を進めて行く。特に、栄養・健康が相談テーマとなったケースを、個人情報に配慮しながら紹介していく。また、現場で実際に使えるアセスメントや心理教育的資料作成を授業内で行う。資格：臨床心理士、公認心理師、家族療法士（米国）
アクティブ・ラーニング	○	各講義の質問により、自己理解などの発見学習や体験学習を行う。
情報リテラシー教育	○	レポート作成において、情報に対する評価と選択についてガイダンスを行う。
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	児童福祉・食育演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井　治子	指定なし
教授	吉永　早苗	指定なし
助教	會退　友美	指定なし

ナンバリング	H44601C12
授業概要(教育目的)	児童福祉法改正、次世代育成支援対策、認定こども園、障害者自立支援法などの新しい施策が、子どもの福祉の現場にどういう影響をもたらしているのか。子どもを主人公にした児童福祉サービスの全体像を概観する。母子保健、子育て支援、児童虐待、一人親家庭と貧困、児童養護などの視点とともに、管理栄養士として、児童の栄養管理はもとより、子どもの「食を営む力」の育成に向けた支援のための実践力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	児童福祉サービスにおける子どもの食に関わる様々な法令や制度をもとに豊かな子どもの食について説明できる
思考・判断の観点（K）	乳幼児期の子どもの豊かな子どもの食について自らの考えを思考することができる
関心・意欲・態度の観点（V）	保育所における子どもの豊かな食の経験について自ら考えようとし、管理栄養士としての役割を模索しようとする
技術・表現の観点（A）	保育所における子どもの豊かな食について自らの考えを表現し、食事提供や食育にいかすことができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション（担当：酒井）	本授業の流れ、評価方法等の説明　保育所・子ども園等の制度の違い（就職活動に向けて）を理解する	保育所保育指針等の構成等、内容を復習する。	60分
第2回	保育所における目指す子どもの姿に向けた食経験とは？	子どもにとって豊かな食経験とは何かを学生同士の討議をする。さらに、「保育所保育指針」「保育所における食育に関する指針」を参照し、保育所での経験を踏まえて目指す子どもの姿を考える	食育で目指す子どもの姿と生活での子どもの食行動との関連を整理する。	60分

	（担当：酒井）			
第3回	保育所における食育の計画・評価（１）（担当：酒井）	保育所における食育の計画・評価をすすめる方法を習得し、管理栄養士の専門性を生かした保育所の職員の連携体制づくりについて考える。	保育所における食育の実践にむけて、管理栄養士としての役割を整理する。	60分
第4回	保育所における食育の計画・評価（２）（担当：酒井）	保育所における豊かな食経験のためのPDCAについて計画書等の書式等の事例を踏まえて考える。	様々な食育に関連する書式等を見直し、自分なりに食育の在り方を考える。	60分
第5回	保育所における子育て支援、地域連携（担当：酒井）	保育所の子どもだけでなく、子どもを取り巻く人々を知り、管理栄養士としての役割を考える。	子育て支援、地域の組織、人等にまとめ、管理栄養士の役割を整理する。	60分
第6回	子どもの生活と遊び（担当：吉永）	「食」に関する子どもの生活の中での経験は、遊びのなかにどのように表れているのだろうか。また、保育士はどのようにその環境を構成しているのか。これらについて事例をとおして考える。	自分自身を振り返り、「食」と遊びについの関係を書き出しておく。講義を受けて、管理栄養士としての役割を整理する。	60分
第7回	子どもの食と表現（担当：吉永）	「食」の中で育まれる子どもの感性と表現について、事例をとおして考える。	「食」に関わる絵本を探しておく。講義を受けて、感性・表現の育ちを育む管理栄養士としての役割を整理する。	60分
第8回	保育所における食事提供のPDCA（１）（担当：會退）	食事提供ガイドライン等を踏まえ、保育所における豊かな食経験を保障するための食事提供について学ぶ。	保育所における食事提供のPDCAを整理し、子どもにとっての豊かな食事の在り方を自分なりにまとめる。	60分
第9回	保育所における食事提供のPDCA（２）（担当：會退）	自分が考える子どもにとって豊かな食事をまとめ、学生同士で討議する。	子どもにとっての豊かな食経験について自らの考えをまとめる。	60分
第10回	保育所における食の個別対応（担当：會退）	離乳食、アレルギー、障がい児等、個別の配慮が必要な子ども達の食について、その特徴と食事提供について考える。	それぞれの個別の配慮が必要な子どもの食事提供の特徴を整理する。 保護者が不安に思うこと、地域資源について考える。	60分
第11回	保育所等における食事提供～計画（献立作成）～①（担当：會退）	グループで園を想定し、目標等を話し合って決める。さらに、想定した目標に適した1日の献立をグループで話し合って立案する	自身でも献立を考え、メンバーと共有できるようにする。	60分
第12回	保育所等における食事提供～計画（献立作成）～②（担当：會退）	他の班の発表や自分の班への意見から、1か月を通した献立の立て方の方向性を決める。また、食育だよりの作成に向け、想定した園の目標に適した内容を話し合う。	実際に配付されている予定献立表などを収集し、想定する園に適した献立表を考える。	60分
第13回	保育所における食事提供～評価～（担当：會退）	提供した食事を評価する項目、方法（給食日誌、検食簿等）について話し合う。その際に必要となる職員連携等などの視点も含め、改善に向けた取り組みと次回の食事提供の計画へのつながりを考察する	予習として、実際に園で使用されている食事の食事評価の様式等を調べる。	60分
第14回	食事提供～環境構成～（担当：會退）	食事の内容以外にも食事を食べる場所や人、時間など多様な要因が関わって食事時間が構成される。これらを総合的に考え、想定した園の食事のあり方を話し合い、発表の準備を行う	第15回のまとめに向けた準備を行う	60分
第15回	まとめ（担当：會退）	班ごとに全体を通しての発表をし、各班が学んだことを共有する。管理栄養士として必要な役割や力について考察をし、受講者全体で協議、討議を行う。	授業全体を通し、学んだことについてまとめる	60分

学生へのフィードバック方法	提出されたレポートについてコメントをつけた後に返却する。

評価方法	平常点（20%）、レポート（80%）で評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点（授業態度等）			○	
	レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点（20%）、レポート（80%）
使用教科書名(ISBN番号)	新版 子どもの食生活，ななみ書房，上田玲子他（4903355290）
参考図書	平成30年改訂　保育所保育指針
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる書課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
オフィスアワー	吉永：前期月曜3限、後期水曜2限 酒井：前期水曜2限、後期水曜2限 會退：未定
学生へのメッセージ	保育所における子どもの食事について、食事提供だけでなく、子どもを中心とした生活の中の食の在り方について考え、現場で求められる自分なりの管理栄養士の姿を一緒に模索しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育所の食育指針を作成した酒井より、保育所における子どもの目指す姿と食の在り方に関する考え方を講義する。現こども園の理事長を務める坂崎より、現在の保育の在り方について講義をする。保育所で栄養士を実務していた會退が保育所における食事提供等について事例を交えながら講義と討議を行う。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士によるグループディスカッションを行い、自らの考えを広げ、考える力を養う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	在宅地域栄養ケア演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし

授業概要(教育目的)	管理栄養士が在宅を訪問し栄養指導を行う場合、介護保険による「居宅療養管理指導」と医療保険による「在宅患者訪問栄養指導」がある。これら在宅における管理栄養士の役割と在宅チーム医療に関わる他職種の専門性を学ぶとともに協働の重要性を理解する。症例検討により訪問栄養指導の実践力を養い、在宅の栄養ケアにおける現状と問題点を社会的要因も踏まえ把握し、今後の課題と可能性について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養ケアマネジメントの仕組みについて説明できる。 高齢者施設及び在宅における介護サービス、栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点（K）	介護保険制度における高齢者施設及び在宅の管理栄養士としての役割を理解し、課題や解決方法の取組について探求できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と主体的に学ぶ意欲を持つことができる。
技術・表現の観点（A）	管理栄養士としての専門的技能を生かし他職種と共働することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	介護保険制度について	介護保険制度についての基礎を学ぶ。	介護保険制度についての概要を予習しておく。	120分
第2回	栄養ケアマネジメントについて	栄養ケアマネジメントの基礎を学ぶ。	栄養ケアマネジメントについて概要を予習しておく。	120分
第3回	高齢者が陥りやすい症状１	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 脱水、低栄養の基礎を理解し、その実践について症例を基に学ぶ。	高齢者の脱水と低栄養の概要について予習しておく。	120分
第4回	高齢者が陥りやすい症状２	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 褥瘡、摂食・嚥下障害について基礎を理解しその実践について学ぶ。	褥瘡、摂食・嚥下障害について予習しておく。	120分

第5回	高齢者の栄養ケアにおける食事のポイント	水分摂取方法、エネルギーアップの方法、たんぱく質付加価の方法、摂食・嚥下障害の評価方法を学ぶ。	高齢者の食事のポイントを復習し整理する。	120分
第6回	栄養補助食品の種類と活用１	栄養補助食品の種類と分類を理解し活用方法を学ぶ。	栄養補助食品について、事前に配付されたパンフレットで予習しておく。	120分
第7回	栄養補助食品の種類と活用２	様々な栄養補助食品を実際に試食し在宅への活用方法を検討する。	試食した栄養補助食品について自己評価し、在宅への活用方法としてのレシピを考案する（レポート作成）	240分
第8回	栄養ケアマネジメントの実際１（施設・在宅）	施設・在宅における栄養ケアマネジメントの実際を学ぶ。 協働する他職種の役割を理解する。 症例検討を行いディスカッションする。	施設・在宅における栄養ケアマネジメントについて予習しておく。	120分
第9回	管理栄養士に求められるコミュニケーションについて	他職種におけるチームケアの基本となるコミュニケーションについて学ぶ。 利用者、家族に対するコミュニケーションについて学ぶ。	コミュニケーション能力の基本を予習しておく。	120分
第10回	品質管理	施設において実施する介護サービスの品質管理について学ぶ。	介護サービスの概要についえ予習しておく。	120分
第11回	リスクマネジメント	高齢者施設において安心安全なサービスを提供するためのリスクマネジメントの実際を学ぶ。	リスクマネジメントの概要を予習しておく。	120分
第12回	施設サービス計画書の作成	施設サービス計画書の作り方（栄養ケア計画書を含む）を学び、個々人に対するアセスメントの計画書への反映の仕方を学ぶ。	施設サービス計画書の概要について予習しておく。	120分
第13回	高齢者施設における看取り介護	高齢者施設における終末期の看取り介護について学ぶ。 看取り介護における管理栄養士の役割を学ぶ。	看取り介護加算の概要について予習しておく。	120分
第14回	要介護高齢者に対する介護技術	食事介助をはじめ高齢者施設で実践している介護技術について学ぶ。	食事介助の基本を予習しておく。	120分
第15回	要介護高齢者の食事形態	要介護高齢者の高齢者施設で実践している摂食・嚥下機能に応じた食事形態について学ぶ。	摂食・嚥下機能の評価について予習しておく。 「変化の時代における専門職のコミュニケーションとは～役割と専門性を考える～」についてレポートする。	240分

学習計画注記	進行状況によってシラバス内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	講義や課題についての質問等は、研究室への訪問またはe-mailの問い合わせで対応する。
評価方法	平常点とレポートで評価する。 ＊平常点は授業への参加態度、討論への参加等で総合的に判断する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	レポート	○	○		

評価割合	平常点(40%)、レポート(60%)で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	臨床栄養別冊 新 在宅訪問栄養実践ガイド／医歯薬出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】高齢者福祉における専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】社会福祉及び高齢者の栄養ケアマネジメントに関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯に

	わたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】高齢者の福祉栄養ケアマネジメントに関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日2,3時限
学生へのメッセージ	高齢者のケアを医療、介護、栄養等其々の観点から捉え、栄養ケアマネジメントを実施するうえで必要な視点を学びます。さらに施設や在宅では、具体的に多職種とどのように連携し協働しているのかを症例を通して実感しましょう。基本的な業界の専門用語について、事前に教科書、情報誌などで学習しておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者福祉施設等に従事した経験を踏まえ専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、グループディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	地域栄養活動演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　弘之	指定なし
教授	嶋田　芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	地域栄養活動をすすめための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、市町村、保険者、事業者、学校等の健康の増進に関わる各主体が、健康づくりに活用できる社会的資源の状況を踏まえた健康課題に対応した、個人の自発的な意志が関わる生活習慣の改善を促すための計画を提案し、実践・評価するまでの実践力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	地域栄養活動をすすめための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握方法の実践が理解できる。
思考・判断の観点（K）	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を観察、状況判断しながら公衆栄養活動の実践ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	他職種との協調する態度と高齢者がかかえる課題解決への主体的な役割と意欲を学ぶ。
技術・表現の観点（A）	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を踏まえた、公衆栄養活動が確実に実施できる技術や対象への表現が実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションと地域栄養活動計画の策定とは	栄養学の目標のうち、心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献を理解する	公衆栄養活動によるQOLの向上について、地域栄養活動論での内容を思いめぐらす。	180分
第2回	地域栄養活動計画の策	地域計画策定・実施・評価に関わる上で必要とされる技能と調査設計	健康日本21と食育推進基本計画等の構成について、政府のHPや白書により知る。	180分

	定の方法と実際			
第3回	地域の特性	4つの地域モデル（地域共同体モデル、伝統型アノミーモデル、個我モデル、コミュニティモデル）の特性を理解し、それぞれの地域モデルへのアプローチ法を理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第4回	地域栄養支援法（1）	地域への支援方法に位置づけられるコミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの概要について理解する。また、それぞれの支援方法の違いを知る	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第5回	地域栄養支援法（2）	コミュニティワークの展開過程について事例を用いながら学ぶ。また、コミュニティソーシャルワークの展開過程についても理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第6回	地域栄養支援法（3）	地域におけるネットワークを構築していくための2つのアプローチ法（既存の組織等を活用した方法と新たな組織を構築していく方法）について学ぶ。また、事例を用いながらネットワークを構築していく際の留意点について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第7回	地域栄養支援法（4）	地域で栄養士として活動していく際に必要になってくる人や組織を知る。また、それぞれの役割や機能を把握することでスムーズな連携が図れることを理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第8回	地域栄養活動計画の策定	栄養・保健指導に必要な管理栄養士に役立つ既存資料を知る。	栄養・保健指導に必要な法律・諸制度、統計資料等に関する政府のHP等や今までの配布プリントにより、予習・復習する。	180分
第9回	地域栄養活動計画の策定	栄養・保健指導に必要な管理栄養士に役立つ既存資料を知る。	栄養・保健指導に必要な栄養学・医学的知見、科学的研究データ、指導技術等に関する政府のHP等や今までの配布プリントにより、予習・復習する。	180分
第10回	地域栄養活動計画の策定	「日本で一日に起こる出来事」の数の調査から、課題を考える。	政府HP、白書および配付資料により予習・復習する。	180分
第11回	地域栄養活動計画の策定	「人口100人で見た日本」から社会保障に関する課題を考える。	政府HP、白書および配付資料により予習・復習する。	180分
第12回	地域栄養活動計画の策定	第8. 9、10、11回で得た内容の課題の抽出、目標、計画の立案を実施する。	データーヘルスや地域包括ケア等に関する政府のHPや今までの配布プリントにより、予習・復習する。	180分
第13回	地域栄養活動計画の策定	第8. 9、10、11回で得た内容の課題の抽出、目標、計画の立案を実施する。	データーヘルスや地域包括ケア等に関する政府のHPや今までの配布プリントにより、予習・復習する。	180分
第14回	地域栄養活動計画の策定	第8. 9、10、11回で得た内容の課題の抽出、目標、計画の立案を実施する。	データーヘルスや地域包括ケア等に関する政府のHPや今までの配布プリントにより、予習・復習する。	180分
第15回	計画と改善点の発表	各班の計画と実践について、評価する。	公衆栄養学実習で実践した評価方法について予習する。	180分

学生へのフィードバック方法	計画策定に係る公衆栄養学、地域栄養活動論修得している内容のアドバイス
評価方法	レポトート作成と発表における積極性、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○	○	○
	発表	○	○	○	○

評価割合	平常点は演習への参加状況・討論への参加等で総合判断する(20%)、レポート(80%)などから総合的に評価する

使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学　吉池信男他編（南江堂　2021）
参考図書	地域診断すすめ（医学書院） 管理栄養士・栄養士必携（日本栄養士会）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・管理栄養士等の専門職業人として、地域包括ケアにつながる教養を身につける。 【思考・判断】・課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、高齢者にかかる健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度の観点】・他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける。
オフィスアワー	田中；月曜日15:00～17：30、火曜日10：00～12：00
学生へのメッセージ	わが国の高齢者の栄養にかかる主要な政策についての理解を得ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	発表における意見聴取やまとめ
情報リテラシー教育	○	政府刊行物や既存資料の活用
ICT活用	○	政府統計やHPの活用

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	特定健診・保健指導論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 國井　大輔	指定なし

授業概要(教育目的)	メタボリックシンドロームの早期発見・早期改善を目指すべく導入された特定健診・保健指導は、内臓脂肪の蓄積に注目した生活習慣病予防のためのアプローチである。しかし、生活習慣病の発症を未然に防ぐ取り組みとはいえ、慣れ親しんだ習慣を変えることは容易ではない。特定保健指導を含めた健康づくりでは、単に対象者に合わせた情報提供をするだけでなく、対象者の生活スタイルや思考パターンを考慮した改善環境の見極めとフォローが重要になってくる。人の行動を科学的に把握し、適した目的地に導いていくためのスキルの習得を目標とする。
履修条件	この講義は、特定保健指導における実践的なノウハウを学んでいくため、栄養教育、栄養指導、応用栄養学、栄養カウンセリングなどの学門領域を横断的に発展させていく思考が必要になる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	特定健康診査・特定保健指導の制度内容の理解と、管理栄養士として遂行していくための、行動科学的な支援方法ならびに行動変容プログラムの組み立て方を習得
思考・判断の観点（K）	「理解できる」から「続けられる」ための支援の流れや評価方法を習得する
関心・意欲・態度の観点（V）	信頼関係を築くためのコミュニケーションスキルを習得する
技術・表現の観点（A）	行動変容支援を成功させる（結果につながる）カウンセリング技術を習得する

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	特定健診・保健指導論について（導入）	オリエンテーションとして、10年以上にわたって、特定健診・保健指導を実施してきた経験を踏まえ、管理栄養士の活躍の現状を紹介する。		45分
第2回	健康づくりの考え方と支援者の役割	管理栄養士として、行動変容支援に携わる為の心構えについて実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「健康づくりの考え方と支援者の役割について」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	45分

第3回	支援者として必要な考え方とスキル ①	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル①」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	45分
第4回	支援者として必要な考え方とスキル ②	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル②」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	45分
第5回	支援者として必要な考え方とスキル ③	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル③」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	45分
第6回	支援者として必要な考え方とスキル ④	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル④」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	45分
第7回	支援者として必要な考え方とスキル ⑤	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル⑤」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく。	45分
第8回	特定健診・保健指導の制度概要について ①	特定健康診査・特定保健指導の制度について説明する。実際の保健指導で頻出するやり取りについて、ミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	特定健康診査・特定保健指導の制度に関する資料を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく。	45分
第9回	特定健診・保健指導の制度概要について ②	特定健康診査・特定保健指導の制度について説明する。実際の保健指導で頻出するやり取りについて、ミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	特定健康診査・特定保健指導の制度に関する資料を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく。	45分
第10回	特定健診・保健指導の制度概要について ③	特定健康診査・特定保健指導の制度について説明する。実際の保健指導で頻出するやり取りについて、ミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	特定健康診査・特定保健指導の制度に関する資料を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく。	45分
第11回	特定健診・保健指導の制度概要について ④	特定健康診査・特定保健指導の制度について説明する。実際の保健指導で頻出するやり取りについて、ミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	特定健康診査・特定保健指導の制度に関する資料を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく。	45分
第12回	ケーススタディ ①	行動変容支援、行動変容プログラムに基づいて実際に行った事例について紹介し、解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「ケーススタディ①」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第13回	ケーススタディ ②	行動変容支援、行動変容プログラムに基づいて実際に行った事例について紹介し、解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「ケーススタディ②」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	45分
第14回	健康行動支援プログラム論のまとめ	健康行動支援と行動変容プログラムについてまとめ、テスト対策について解説する。	実戦レベルで活用できるよう、これまで学んだ内容を見直しておく。	45分

学生へのフィードバック方法	実施するミニ課題を次の授業で返却し、解説することで、自身の考え方のフィードバックができる
評価方法	・実際に特定保健指導の現場でやり取りされる内容をミニ課題で問い、対応の仕方を習得させる ・レポートは、課題に対して自身の考えをまとめ、わかりやすく伝えるスキルを習得させる ・定期試験は、記述式でケーススタディから課題や改善点を読み取り、実際の現場で役に立つ対応力を習得させる

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ミニ課題	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	出席・授業態度15%＋ミニ課題15%＋レポート30%＋テスト40%による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	なし（適宜、資料を配付する）
ディプロマポリシーとの関連	この授業は、栄養指導、カウンセリングに必要なスキルを学ぶため、理論だけで無く、実際の特定保健指導の現場でやり取りされる実例を、「ミニ課題」として紹介することで、実際の特定保健指導の現場でのポイントを学べるため、将来、「食と健康をつなぐ専門家」として活躍したい学生向けになっている。
オフィスアワー	学籍番号と名前を明記の上、メール（p21016@kasei-gakuin.ac.jp）にて随時受け付けます。
学生へのメッセージ	この授業は、栄養指導、カウンセリングに必要なスキルを学ぶため、理論だけで無く、実際の特定保健指導の現場でやり取りされる実例を、「ミニ課題」として紹介することで、自ら考える力を養うと共に、実際の特定保健指導の現場でのポイントを学べる。また、日本での管理栄養士の活動をベースに、アジア圏での栄養管理技術の実情や課題などを含め、展望についても紹介する。将来、「食と健康をつなぐ専門家」として活躍したい学生向けになっている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、特定保健指導機関を10年以上運営する代表者で、自らも国内外での栄養指導・栄養カウンセリング実務を担っている。
アクティブ・ラーニング		適宜、ディスカッション、ミニテスト（ミニ課題）をすることで、実践的な考え方を整理できる。
情報リテラシー教育	○	健康づくり支援に関する健康情報や商品の本質を見抜く力を習得させる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	国際栄養活動論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　千晶	指定なし
非常勤講師	カバリエロ　優子	指定なし
非常勤講師	西　信雄	指定なし

授業概要(教育目的)	世界の健康問題は栄養不良に関連し、生活習慣病が主要課題となりつつある。課題解決に向け、世界保健機関（World Health Organization）や国際連合児童基金（United Nations Children's Fund）等の国連機関による活動や日本の国際栄養活動、具体的には青年海外協力隊などを含む政府開発援助（Official Development Assistance）、官民連携事業、Active Healthy Kids Global Alliance、特定非営利活動法人（NPO法人）による活動等を取り上げる。国際的な場面における栄養士の活動を理解するため、子どもから高齢者まで幅広く、世界の保健協力の実情を理解し、将来の活動の場の広がりを考えていくことを目的とする。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	国際的な保健活動、栄養活動について学ぶ。
思考・判断の観点（K）	生活習慣病の予防対策は、世界の課題となりつつあることを理解し、栄養士の重要性を考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養士の果たす役割が大きくなりつつあることを実際に体感する。
技術・表現の観点（A）	国際的な場面における、栄養活動について表現できる。

学習計画

国際栄養

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	国際的な保健活動（田中担当）	Active Healthy Kids Global Allianceによる小児期からの生活習慣病対策	Active Healthy Kids Global Allianceのwebを用いて、各国の課題をまとめる。	180分
第2回	国立健康・栄養研究所	世界の栄養状態の現状と、栄養不良の二重負荷、持続可能な開発目標、持続可能で健康的な食事などに対する対	（復習）配布資料該当箇所	180

	の国際連携活動（山口担当）	策の動向を学ぶ。		
第3回	世界保健機構（WHO）とWHO協力センター（山口担当）	日本人の食事摂取状況と栄養状態について国民健康・栄養調査の歴史や社会背景を考察すると共に、世界の食事摂取状況と栄養状態の国際比較を通して日本の現状を学ぶ。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第4回	海外と比較した日本の栄養状況-国民健康・栄養調査より-（山口担当）	食事・栄養対策を行う国際機関や日本との関わりを理解し、国際連携を行うための日本の組織について学ぶ。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第5回	持続可能な開発目標の達成に向けた企業の栄養改善行動（山口担当）	企業が行う持続可能な開発目標の達成に向けた食事や栄養に関する改善行動を学ぶ。2021年に開催された国連食料システムサミットや東京栄養サミット2021で示されたコミットメント等を参考に、国やテーマを決めて自ら調べる。	（復習）配布資料該当箇所 備考：第5回は、調査準備、発表資料の作成のためにパソコンを用意する。パソコンは、大学の貸し出し、またはその他の方法でインターネットを使った調査ができるようにする。	180分
第6回	企業の栄養改善行動の調査のまとめと発表（山口担当）	第5回で調べた企業の栄養改善行動について発表する。適宜グループディスカッションを行い、議論する。	発表スライドは事前に担当者に送っておく。第6回で発表できるように練習しておく。	180分
第7回	国際栄養学と研究の現状（山口担当）	国際栄養学と研究の現状について、担当者の経験を交えて講義を行う。国際的な場面における栄養士の役割や栄養活動の重要性について学ぶ。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第8回	栄養と教育（カバリェロ担当）	栄養教育が果たす社会への影響力の大きさについて学ぶとともに、具体的なアプローチ方法について考える。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第9回	母子保健と栄養改善活動（カバリェロ担当）	母子保健の重要性について知り、栄養改善のためのアプローチ方法を学ぶ。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第10回	途上国における栄養調査と栄養改善活動（カバリェロ担当）	地域により異なる食文化の特徴と食の歴史についての概要を学ぶ。栄養アセスメントの手法を学ぶとともに、栄養改善活動後の評価方法について考える。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第11回	国際機関、青年海外協力隊、NGOの活動（カバリェロ担当）	歴史的背景を踏まえた各組織における実際の活動事例について学ぶ。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第12回	食とSDGs（カバリェロ担当）	持続可能な社会の実現のために、食の面からSDGsを考えていく。ICTを活用して、実践活動計画を立てる。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第13回	国際的な食の課題について考える（カバリェロ担当）	食に関連する国際的な課題をテーマとして設定し、肯定側と否定側に分かれてディベートを行うことで、情報リテラシー、論理構築力、プレゼンテーション能力を身につけることを目指す。	（復習）配布資料該当箇所	180分
第14回	キャリアパス（カバリェロ担当）	授業前半は、ライフステージとキャリア構築について考える。後半は、自身が目指す国際栄養活動を考え、最終回の発表についての準備を行う。	次回の授業のための発表準備を行う。	180分
第15回	国際栄養活動論のまとめ（田中担当）	本授業を踏まえ、自身が今後必要であると考える国際栄養活動について、発表、討論を行う。	授業前に、1～14回の講義内容に基づき、自身が今後必要であると考える国際栄養活動をまとめてくる。	180分

学習計画注記	講師の予定により、日程変更の可能性があります
学生へのフィードバック方法	質問等は、講義内に対応します。
評価方法	平常点（35%）、報告・レポート(65%)
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	報告レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点(35点)と報告レポート(65点)
使用教科書名(ISBN番号)	第1回は、公衆衛生学実習、第2～7回は、公衆栄養学および公衆衛生学で使用した教科書を使用します。
参考図書	特に無し。
ディプロマポリシーとの関連	（知識・理解）社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる。 （思考・判断）健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる。 （感心・意欲・態度）生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続けることができる。 （技能・表現）他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	水および木曜日昼休み（田中）に実施しますので、事前にメールでご連絡下さい。
学生へのメッセージ	実際に国際協力を経験している講師の話を中心に展開します。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う（受講状況によって変更あり）。
情報リテラシー教育	○	インターネットで関連資料の検索等を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	スポーツ選手の栄養学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　理津子	指定なし
教授	江川　賢一	指定なし

ナンバリング	H34501C21
授業概要(教育目的)	運動生理学を中心として，栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進めます。 前半（運動生理学）では，運動を行ったときの一過性の生理応答，トレーニングを行ったときの慢性的な適応現象を説明します。 後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと，よりよいスポーツ活動のための食事について，実例とともに説明します。
履修条件	H22204C21 運動生理学、H22203C13 解剖生理学実習を学習していること。 H44503C13 スポーツ栄養学実習の履修希望者は必ず履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 ２．運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。 ３．スポーツ選手の栄養学的課題を列挙できる。 ４．スポーツ選手のよりよいスポーツ活動のための食事を説明できる。
思考・判断の観点（K）	健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動の違いを判断できる。 スポーツ選手の栄養摂取と一般人の栄養摂取の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたるスポーツ栄養の意義を説明できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の概要、青年期女性の健康問題と対策を説明する。	スポーツ栄養にマネジメントに関する情報を収集する。	予習60分、復習60分
第2回	スポーツと	身体活動時の生理応答を説明する。	運動生理学で学習した呼吸循環	予習60分、復習60分

	栄養の基礎		系、運動系、免疫系の一過性応答および慢性適応を復習する。	
第3回	スポーツと栄養の応用	身体活動時の代謝を説明する。 （校内特別授業の予定）	基礎栄養学で学習した糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を復習する。	予習60分、復習60分
第4回	スポーツと栄養の実践	スポーツに関わる体重管理、摂食障害、貧血、骨代謝、水分補給の問題を説明する。	応用栄養学で学習した食事摂取基準、ライフステージ別の栄養課題、支援方法を復習する。	予習60分、復習60分
第5回	健康づくりを目的とした運動処方	運動処方の理論を説明し、健康づくりに応用する。	身体活動基準・指針、アクティブガイドの情報を収集する。	予習60分、復習60分
第6回	健康づくりを目的としたサポート計画の作成	対象別の健康課題を整理し、健康づくりに必要なサポート計画を作成する。	身体活動基準・指針を復習し、対象別にメッツ計算する。	予習60分、復習60分
第7回	前半の振り返り	1～6回目までの学習を振り返る。	予習：1～6回目の内容をまとめ、説明できるようにする。 復習：7回目の授業内容を整理する。	予習60分、復習60分
第8回	スポーツ選手の栄養管理	スポーツ選手を対象とした栄養マネジメントと栄養アセスメントを学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第9回	栄養計画の立案	栄養計画の立案方法を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第10回	目的別の栄養摂取方法	目的別の栄養摂取方法を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第11回	スポーツ選手の食生活	スポーツ選手の食生活を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第12回	女性のスポーツ栄養	女性アスリートを対象にした栄養管理を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第13回	スポーツ選手を対象とした栄養学の応用	学習内容を振り返り、スポーツ選手を対象にした栄養管理計画を立案する。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第14回	まとめ	スポーツ選手を対象とした栄養管理の実践に向け、学習内容を整理する。	予習：学習内容を整理する。 復習：14回目授業を復習する。	120分
第15回	振り返り	1～15回目の授業を振り返り、まとめる。	予習：第14回の学習内容を振り返る。 復習：第1～15回までの学習内容を振り返り、まとめる。	120分

学習計画注記	※履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。 変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認して下さい。
学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却します。
評価方法	中間試験：記述式で出題します。 課題提出：授業の進行に応じたワークシートおよびまとめのレポートを出題します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○	○		
	課題提出	○	○	○	○

評価割合	中間試験（50%）、課題提出（50%）

使用教科書名(ISBN番号)	「八訂食品成分表」 「調理のためのベーシックデータ」　女子栄養大出版部（978-4789503174） 「日本人の食事摂取基準[2020年版]」　第一出版（978-4804113128） 「エッセンシャルスポーツ栄養学」 市村出版（978-4902109542）
参考図書	「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている 【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる 【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
オフィスアワー	江川　G0101研究室：木曜日昼休み 加藤　1B05研究室：月2限
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待します。 〇遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組むこと。 〇計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努めること。 〇提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授します。 担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、アスリートの運動処方に関する専門的知識を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

講義名	スポーツ栄養学実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	１限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川　賢一	指定なし
准教授	加藤　理津子	指定なし

ナンバリング	H44503C13
授業概要(教育目的)	運動生理学を中心として，栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進めます。 前半（運動生理学）では，運動を行ったときの一過性の生理応答，トレーニングを行ったときの慢性的な適応現象を説明します。 後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと，よりよいスポーツ活動のための食事について，実例とともに説明します。
履修条件	H22204C21 運動生理学、H22203C13 解剖生理学実習、 H34501C21 スポーツ選手の栄養学を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 ２．運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。 ３．スポーツ選手の栄養学的課題を列挙できる。 ４．スポーツ選手のよりよいスポーツ活動のための食事を説明できる。
思考・判断の観点（K）	健康のための運動，競技のための運動，リハビリのための運動の違いを判断できる。 スポーツ選手の栄養摂取と一般人の栄養摂取の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたるスポーツ栄養の意義を説明できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業の概要、青年期女性の健康問題と対策を説明する。	スポーツ栄養にマネジメントに関する情報を収集する。	120分
第2回	スポーツと栄養の基礎	身体活動時の生理応答を説明する。	運動生理学で学習した呼吸循環系、運動系、免疫系の一過性応答および慢性適応を復習する。	120分
第3回	スポーツと栄養の応用	身体活動時の代謝を説明する。	基礎栄養学で学習した糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を復習する。	120分
第4回	スポーツと栄養の実践	スポーツに関わる体重管理、摂食障害、貧血、骨代謝、水分補給の問題を説明する。	応用栄養学で学習した食事摂取基準、ライフステージ別の栄養課題、支援方法を復習する。	120分
第5回	健康づくりを目的とした運動処方	運動処方の理論を説明し、健康づくりに応用する。	身体活動基準・指針、アクティブガイドの情報を収集する。	120分

第6回	健康づくりを目的としたサポート計画の作成	対象別の健康課題を整理し、健康づくりに必要なサポート計画を作成する。	身体活動基準・指針を復習し、対象別にメッツ計算する。	120分
第7回	スポーツ栄養アセスメント	スポーツ栄養アセスメントの方法を説明する。	アセスメントの方法を復習する。	120分
第8回	スポーツ栄養サポートの実施１	アセスメントに基づくサポート計画を立案する。	対象者のニーズに合わせた計画を作成する。	120分
第9回	スポーツ栄養サポートの実施２	料理教室を計画する。	栄養サポートを開始し、対象者のモニタリングを実施する。	120分
第10回	運動・栄養指導の実践①（モニタリング）	個別サポートにおける運動・栄養指導を実践する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第11回	運動・栄養指導の実践②（料理教室）	料理教室を実施し、個別サポートにおける運動・栄養指導を考察する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第12回	運動・栄養指導の実施③（モニタリング）	個別サポートにおける運動・栄養指導を実践する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第13回	運動・栄養指導の評価	個別サポートで実施した運動・栄養指導を評価する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第14回	運動・栄養指導の結果報告	個別サポートの成果をプレゼンテーションする。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第15回	まとめ	個別サポートの成果を総括する。	学修事項を整理し、サポート経験を記録する。	120分

学習計画注記	※履修者数や講義の進度によりスケジュール、授業方法が変更になる場合もあります。 変更が生じる場合には事前に連絡をするので、メールを常に受信できるようにし、また受信内容を直ちに確認して下さい。
学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却します。
評価方法	中間試験：講義の内容を筆記形式で出題します。なお、臨地実習など単位取得にかかわる合理的な理由がない限り、追・再試験を実施しません。 課題提出：授業の進行に応じたワークシートおよびまとめのレポートを出題します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間試験	○	○		
	課題提出	○	○	○	○

評価割合	中間試験（50%），課題提出（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	「八訂食品成分表」　女子栄養大出版部（978-4-7895-1021-9） 「調理のためのベーシックデータ」　女子栄養大出版部（978-4789503174） 「日本人の食事摂取基準[2020年版]」　第一出版（978-4804113128） 「エッセンシャルスポーツ栄養学」 市村出版（978-4902109542）
参考図書	「理論と実践 スポーツ栄養学」 日本文芸社（978-4537215823）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている 【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる 【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
オフィスアワー	江川　G0101研究室：木曜日昼休み 加藤　1B05研究室：木曜日昼休み
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待します。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組むこと。 ○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努めること。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的とした運動処方に関する専門的知識を教授します。 担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	江戸・東京の食と文化		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 綿貫　仁美	指定なし

ナンバリング	H24901C21
授業概要(教育目的)	200年以上におよぶ徳川政権下の時代は、現代につながる伝統的な食文化が完成した時代でもある。本科目では、前半は江戸時代以前の日本の食文化の形成・発展を、後半は江戸時代以降の食に関わる事象を取り上げ解説する。日本の食文化の形成要因を、自然環境、社会環境の両面から考え、食文化が現代の私たちの食生活にどのようにつながっているのか、さらにはどのように活かしていけるのかについて考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本の自然環境の特徴と食文化形成とを関係づけられる。 日本の伝統食品の特徴と歴史を理解する。
思考・判断の観点（K）	現代の食生活の課題点を発見分析し、課題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	日本の食文化に興味を持ち、主体的に授業に参加できる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス 日本人の食-狩猟採取時代	日本列島における、旧石器時代から縄文時代の社会と食生活について知る。	縄文時代にはどのような物を食べていたのか調べておく。	160分
第2回	稲作社会の成立	弥生時代から古墳時代の社会と食生活について知る。特に水田稲作導入による社会の変換について理解する。	稲作の起源、日本への伝播について調べておく。	160分
第3回	日本的食文化の形成期	飛鳥時代から室町時代前半にかけての社会と食生活について知る。	平安時代の貴族の食について調べておく。	160分

第4回	日本的食文化の再編成期	室町時代後半から江戸時代初期にかけての社会と食生活について知る。特に海外との交流による食文化の伝来について理解する。	室町時代にはどのような外来の食が日本に伝来したのか調べておく。	160分
第5回	伝統的な食文化の完成期	江戸時代の社会と食生活について知る。特に生活用水（上水）が江戸の人々の暮らしの基盤となったことを理解する。	上水井戸がどのようなものであったか調べておく。	160分
第6回	江戸の食材	江戸時代には輸送ルートが発達した。酒、鰹節、海苔等の食材について、江戸にどのようにして集められ、消費されたのかについて知る。	江戸時代の海運にどのようなルートがあったか調べておく。	240分
第7回	調味料-味噌味から醤油味へ	江戸を市場とする醤油産業の発展、それにともなって考案された料理について知る。	関西の醤油と関東の醤油の違いについて調べておく。	160分
第8回	江戸の食べ物屋と菓子	高級料理茶屋から軽食屋までさまざまな食べ物屋と菓子類について知る。	江戸時代にはどのような食べ物屋があったのか調べておく。	160分
第9回	江戸の料理書とグルメガイド	江戸時代には出版文化が盛んとなった。その中から食べ物に関する出版物である、料理書と食べ歩きを楽しむための小冊子（ガイドブック）について知る。	江戸時代の料理書にはどのようなものがあるのか調べておく。	160分
第10回	江戸の行事と食	日本古来の年中行事は、多種多様な要素が交わり、現代まで伝承されているものがある。ここでは、江戸庶民の年中行事とそれに関わる食について知る。	現代にはどのような年中行事があるのかまとめておく。	160分
第11回	江戸東京野菜	江戸の御府内やその近郊の農村で栽培され、江戸で消費され、江戸の食文化を育てた伝統野菜について産地や歴史等を知る。	伝統野菜を守り普及していくために、様々な活動が行われている。実際にどのような活動が行われているのか調べておく。	160分
第12回	近代における食の変化	明治維新後の新しい生活様式の出現、外来料理の受容、戦争の時代の食、現代の食生活の多様化について知る。	明治時代以降、生活様式にはどのような変化があったのか調べておく。	160分
第13回	食卓・台所の変化	膳からテーブルへの変化、食事作法（箸）、台所や調理器具等の変化について知る。	身近な調理器具について、どのように変化してきているのか調べておく。	160分
第14回	食に関わる企業の取り組み	現代の食を取り巻く環境において、企業ではどのような取り組みをしているのか知る。	様々な企業の食に関連する取り組みについて、ホームページなどで調べておく。	240分
第15回	世界に広がる日本食 まとめ	現在世界中で日本の料理が食べられるようになった背景とその実際を知る。 授業の総まとめを行う。	世界中でどのような日本の料理が食べられているのか調べておく。 これまでの授業内容を総復習する。	300分

学習計画注記	学年暦、授業の進み具合により、シラバス、授業方法が変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	質問や不明な点がある場合は、1402まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
評価方法	・レポートおよび平常点で評価する。 ・レポートは与えられたテーマに対し、具体的な事例、それに対する自らの考えが述べられているか、誤字脱字はなく読みやすい文章であるか総合的に判断する。 ・平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○	○		
	平常点			○	

評価割合	レポート(70%)、平常点(30%)で判定する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して理論的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー	木曜日3時限　1402
学生へのメッセージ	現在の私たちの食文化は長い年月をかけて形成されたが、同時に様々な課題も生まれている。日頃から新聞、テレビ等の食に関する情報を意識して得るようにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、集団給食施設において業務に携わった内容を踏まえ、江戸・東京の食と文化を担当する上で、特に現代の食生活の多様化、行事食のあり方などを実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	マーケティングと商品・メニュー開発		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 二瓶　徹	指定なし
非常勤講師	ひがし　きよみ	指定なし

ナンバリング	G33306C21
授業概要(教育目的)	本講義では、食品企業やホテル、レストランといったお客様に商品や料理を提供する視点を一体的に捉えるべく、講義前半のマーケティングと商品開発（1回～8回：担当教員　二瓶）については、マーケティングの基礎知識をはじめ、それを踏まえた商品開発と販売戦略の企画立案する知識と手法をゲストティーチャーの実践内容を踏まえ、習得することを目指す。 また、講義後半のメニュー開発（9回～15回：担当教員　ひがし）については、基本概念、業態別メニュー開発の方法やメニュー開発における視覚的要素の重要性を学ぶこととし、これまでに学んだ管理栄養士資格取得に関する知識や技術を活かしながら、単なる栄養価を考慮したメニュー開発にとどまらず、テーブルウェアの知識や盛り付けのノウハウ、スタイリングを習得することで、顧客のニーズに合ったより良いメニュー開発の提案力を養う。 なお、実践的スキルを身につけることを目的としているため、必要に応じグループワーク等を取り入れることとする。
履修条件	本講義は、授業概要にもあるように実践的講義を行うことから、履修可能数は50名と制限するとともに、講義内容によって使用する教室が変更されることを留意し履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	【マーケティングと商品開発】 ・マーケティング手法の概要を理解し、説明できるようになる。 ・マーケティング理論を理解し、商品開発と販売戦略の考え方と手法を身につける。 【メニュー開発】 ・メニュープランニングに関する知識を理解することができる
思考・判断の観点（K）	【マーケティングと商品開発】 ・マーケティング手法を用い、単に商品開発や販売戦略を考えるのではなく、プロダクトアウト及びマーケットインの両方の視点に立ち、考える力を培うことを目指す。 【メニュー開発】 ・様々な条件に応じた企画提案ができる
関心・意欲・態度の観点（V）	【マーケティングと商品開発】 ・多様な知識とアイデアを創出し、それを積極的に発言およびグループワークに取り入れるようになる。 【メニュー開発】 ・単なるメニュープランではなく、器選びや盛り付けの工夫により、美味しく見せる提案ができる
技術・表現の観点（A）	【マーケティングと商品開発】 ・開発した商品およびメニューが、どのようにすれば消費者等に受け入れやすい物になるか、学生ならではのアプローチ方法（表現方法）を創出できるようになる。

	【メニュー開発】 ・クライアントの要望に応じたメニュープランニングができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンスとマーケティングを考える	１．（ガイダンス）マーケティングと商品開発の説明 ２．マーケティングとは何かを考える ３．日常生活とマーケティングの関係性を考える	食品企業が取組むインターネットやSNSをはじめ、書籍や店頭における広告宣伝等から、企業がどのような考えや戦略で該当商品を展開しようとしているかを、事前に調べ学習しておく。	120分
第2回	消費者の食生活の変化と食料消費を取り巻く課題を考える	１．食市場を支える食品産業を理解する。 ２．外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 ３．食の外部化をもたらした要因を理解する。 ４．少子高齢化が変える食市場を理解する。 ５．食品産業の技術発展内容を理解する。 ６．食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。	Google Classroomから事前に配信する資料について予習するとともに、自分自身の食生活やインターネット等で生活者の食生活の傾向を調べておくこと。	240分
第3回	フードビジネスとフードマーケティング	１．フードビジネスの概要を理解する。 ２．フードマーケティングの基礎知識を理解する。 ３．フードマーケティングの機能を理解する。 ４．フードマーケティングの担い手を理解する。	Google Classroomから事前に配信する資料について予習しておくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。	240分
第4回	食品企業におけるマーケティングと商品開発①	１．食品企業がマーケティング手法をどのように用いているかを理解する。 ２．食品企業がマーケティング手法を用い、どのような商品を開発しているかを理解する。	第3回で学んだ食品企業のマーケティング手法と商品開発手法を復習しておく。	240分
第5回	食品企業におけるマーケティングと商品開発②	１．第3回で学んだ食品企業のマーケティング手法と商品開発手法を再確認する。 ２．マーケティング手法を用い、教員が提示したテーマについてグループワークを行う。	第4回で学んだ食品企業のマーケティング手法と商品開発手法を復習しておく。	120分
第6回	食品企業におけるマーケティングと商品開発③	１．課題に対し、各グループでワークした内容の発表 ２．各グループが発表した内容に対する意見交換及び講評	第3回及び第4回講義資料を再読するとともに、身近な食品の展開方法を考える。	120分
第7回	マーケティングの視点から考える、海外における日本型ビジネスモデルの展開	１．日本の農林水産・食品の輸出状況を理解する。 ２．対象国のマーケットニーズとビジネスモデルを考える。 ３．海外において、どのようなビジネスモデルを構築できるかを考える。	Google Classroomから事前に配信する資料について予習しておくこと。また、インターネット等を活用し、学習内容に該当する内容の事前学習をしておく。	120分
第8回	マーケティングと商品開発の総括	１．第1回から第7回まで学んだ内容を振り返る ２．学んだ内容をどのように理解し捉えているか、レポートを提出する。	第1回から第7回まで学んだ内容を復習する。	120分
第9回	食の商品メニュー開発概論	ガイダンス・商品メニュー開発とは	シラバスを読む・食関連情報収集・書籍やインターネットなどで予習しておく	120分
第10回	フードビジネスにおける業態の分類と業態別メニュー開発のポイント	喫茶専門店・ベーカリーカフェ・デリカテッセン・専門料理店・コンビニエンスストアなどのメニュー開発ポイントについて学ぶ	事前学習：興味のある業態のメニューについて食関連分野の書籍やインターネットなどで調べる 事後学習：授業で習得した内容や知識をまとめる	120分
第11回	メニュー開発・構成の基本概念とメニュープランニングに必要なスキル	メニュー開発に求められる要素やラフスケッチなどのスキル、メニュープランニングの基礎を学ぶ	事前学習：メニュープランニングに関する情報収集、書籍やインターネットなどで調べる 事後学習：授業で習得した内容や知識をまとめ、業態を1つ選び、マーケティングの４Pを基にメニュープランし、プランニングシートを作成し、次回提出する	180分
第12回	テーブルウェアの基礎知識	洋食器・カトラリー・グラス・和食器・箸・漆器・リネン・フィギュアについて学ぶ	事前学習：和洋のテーブルウェアについてどのような種類があるのか、書籍やインターネットなどで調べる	120分

			事後学習：授業で習得した内容や知識をまとめる	
第13回	食と器の関係・盛り付けの基礎	食と器の関係を知り、和洋の盛り付けの基礎や美味しく見せる方法を学ぶ	事前学習：和洋の盛り付けに関する情報収集、書籍やインターネットなどで調べる 事後学習：授業で習得した内容や知識をまとめ、前回提出したメニュープランニングに基づき、料理のラフスケッチを作成し、次回提出する	240分
第14回	スタイリングと写真の撮り方	酒造メーカー・食器メーカー・カフェ・病院・雑誌などの実例からスタイリングと写真の撮り方を学ぶ	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネットなどで調べる 事後学習：メニュープランニングやラフスケッチに基づき、実際に料理をし、テーブルウェアを選び、盛り付け、スタイリングをして撮影し、プランニングシートを完成させ、指定期日までに提出する。	180分
第15回	業態別メニュープランニング発表	講師により選出された提出物（プランニングシート）に基づき、プレゼンテーションし、学生間にて意見交換、講師による講評。選出の基準については、ガイダンスにて説明する。	事前学習：発表内容について、PPにまとめ、準備する 事後学習：授業で習得した内容や知識をまとめる	120分

学生へのフィードバック方法	【マーケティングと商品開発】 毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-meil(p20088@kasei-gakuin.ac.jp)で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。 【メニュー開発】 毎回の講義終了後、学びの内容ならびに質問事項を「受講票」に記載し、提出。質問事項についてはグーグルクラスルームまたは講義時回答ならびにアドバイスする。履修学生全般に関わる質問の場合は翌週の講義時にフィードバックする。
評価方法	【マーケティングと商品開発】 授業への取り組み姿勢、プレゼンテーション及び第8回に提出するレポートを総合的に判断する。 【メニュー開発】 授業への取り組み姿勢、提出物、プレゼンテーションなどで、総合的に判断する。（メニュープランニング作成・ラフスケッチ作成・スタイリングおよび撮影等・プレゼンテーションについては授業にて解説する）。 なお、最終的な評価は「マーケティングと商品開発」ならびに「メニュー開発」の両教員が総合的に判断し、学生の評価を決定する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業への取り組み姿勢	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○
	提出物（レポート含む）	○	○	○	○

評価割合	評価割合は「マーケティングと商品開発」が50%、「メニュー開発」が50%とし、各テーマを担当する両教員が総合的に判断し、学生の評価を決定する。
使用教科書名(ISBN番号)	【メニュー開発】 食と器～伝え残したい季節の料理　和洋の器に盛り付けて(9784901359689)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 マーケティング手法の概要を理解し、商品開発と販売戦略の考え方と手法を身につけるとともに、メニュープランニングに関する知識を理解することができる。 【思考・判断】 マーケティング手法を用い、単に商品開発や販売戦略を考えるのではなく、プロダクトアウト及びマーケットインの両方の視点に立ち、考える力を培うなど、様々な条件に応じた企画提案ができる。 【関心・意欲・態度】 多様な知識とアイデアを創出し、それを積極的に発言およびグループワークに取り入れるようになり、また、単なるメニュープランではなく、器選びや盛り付けの工夫により、美味しく見せる提案ができるようになる。 【技術・表現の観点】 開発した商品およびメニューが、どのようにすれば消費者やクライアントに受け入れやすい物になるか、学生ならではのアプローチ方法（表現方法）を創出できるようになる。
オフィスアワー	メールにて相談希望学生は、シラバス記載のメールアドレスにて連絡していただき、メールにて回答。 なお、面談希望学生は、月曜日の授業終了後、非常勤講師室にて対応する。
学生へのメッセージ	現代における食情報や商品、料理は多様であり、また、SNS等の発達により、消費者へのアプローチ手法もさまざまである。 本講義では、そのような環境の変化に対応すべく、前半ではマーケティングの基礎知識をはじめ、それを踏まえ

た商品開発と販売戦略の企画立案する知識と手法を習得することを目指し、後半ではメニュー開発の基本概念、業態別メニュー開発の方法やメニュー開発における視覚的要素の重要性を学ぶこととしている。
これらの知識と手法を習得することにより、顧客のニーズに合ったより良い商品やメニューを考案することができると思われるため、講義においても、積極的な参加を期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、一般消費者等を対象にした商品開発やレストランやホテル等のクライアントの要望に沿ったメニュー開発およびテーブルコーディネートを行っていることから、その前段となる基礎的知識を教授するとともに、実践的な知識と手法を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	フードシステム論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 二瓶　徹	指定なし

ナンバリング	H02079031
授業概要(教育目的)	本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とし、前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達が著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では個別食品の特性や種類、流通について説明し、それら食品の販路拡大手法であるフードマーケティングを学び、最後に時局的問題と今後の課題について考え、本講義の総括を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．フードシステムの概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 ２．フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 ２．現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 ３．グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 ２．自分自身および取り巻く環境を踏まえ、体系的にフードシステムの在り方を捉え、積極的に提言する。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	豊かな食生活を支える食市場	１．食市場を支える食品産業を理解する。 ２．外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 ３．食の外部化をもたらした要因を理解する。 ４．少子高齢化が変える食市場を理解する。 ５．食品産業の技術発展内容を理解する。	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。	240分
第2回	消費者の食	１．品目別食品消費の変化を理解する。	教科書の第1章第2節を読んでお	120分

	品消費の変化	２．食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 ３．栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 ４．加工食品がなぜ増加したかを理解する。	くこと。	
第3回	食生活の多様化	１．多様化をもたらした社会的要因を理解する。 ２．食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。 ３．現代における食情報が多様化した理由を理解する。	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。	240分
第4回	食品流通の役割と社会的使命	１．食品流通の役割を理解する。 ２．卸売流通の役割を理解する。 ３．小売流通の役割を理解する。 ４．流通の社会的使命を理解する。	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。	120分
第5回	卸売流通が必要な食品流通	１．生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。 ２．加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。	教科書の第2章第2節を読んでおくこと。	120分
第6回	食品の小売流通	１．販売形態の分類を理解する。 ２．食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 ３．家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。	120分
第7回	外食産業のマーチャンダイジング	１．外食産業の業態を理解する。 ２．外食産業の食材流通を輸入食材および国産食材に分けて理解する。	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。	120分
第8回	中食産業のマーチャンダイジング	１．中食産業の業態を理解する。 ２．中食産業の販売形態を理解する。	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。	120分
第9回	主要食品の分類	１．商品特性による基本的分類を理解する。 ２．商品の制度的分類を理解する。	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。	120分
第10回	主要食品の温度帯別流通	１．食品の温度帯（常温から冷凍）を理解する。	教科書の第4章第2節を読んでおくこと。	120分
第11回	主要食品の流通	１．生鮮食料品をはじめ、加工食品の個々の流通とその特徴を理解する。	教科書の第4章第3節を読んでおくこと。	120分
第12回	フードビジネスとフードマーケティング	１．フードビジネスの概要を理解する。 ２．6次産業化を理解する。 ３．フードマーケティングの基礎知識を理解する。 ４．フードマーケティングの機能を理解する。 ５．フードマーケティングの担い手を理解する。	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。	240分
第13回	食料消費と環境問題	１．３Ｒを理解する。 ２．食品リサイクルと食品廃棄物を理解する。 ３．食品ロスを理解する。 ４．環境関連の用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。	120分
第14回	食品流通の安全確保	１．食品の安全性を理解する。 ２．食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第2節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報収集をしておくこと。	240分
第15回	食料消費を取り巻く課題、総括	１．食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。 ２．授業全体の総括を行い、総合的に理解する。	教科書の第6章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ、新聞等で時局的な事項を調べておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-meil（p20088@kasei-gakuin.ac.jp）で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。
評価方法	１．定期試験の得点（100%）で評価する。なお、定期試験は100点満点で出題し、フードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題のほか、自らの考え方や習熟度を把握する記述式の問題を出題する。 ２．定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。 ３．詳細については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	四訂 食品の消費と流通 (978-4-7679-0687-4)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】履修生が習得する「人間の栄養」のみならず、フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。 【思考・判断】健康・栄養課題を考えるうえで、現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、総合的に考察できるようになる。 【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を現代に暮らす生活者の栄養と関連付けた具体的な提言できるようになる。
オフィスアワー	面談希望の学生は、月曜日の授業終了後、非常勤講師室にて対応する。
学生へのメッセージ	本講義内容は、卒業後、食品産業等で活躍する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要な基礎的内容となっている。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くないため、主として栄養学を学ぶ履修生に消費の部分だけでなく、生産から消費までのフードシステムを体系的に捉え、栄養管理・栄養指導の場面でも活用していけるようになることを願っている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった３つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食・空間プロデュース論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 建路　七織	指定なし

ナンバリング	H34004C21
授業概要(教育目的)	食や食卓、食空間の役割や演出方法を学び、より豊かで生命力のある食生活をコーディネートするための知識や技術を修得する。具体的には、日本や諸外国における食文化の成り立ちや特徴を理解し、生活における食、食卓、食空間の演出がもたらす役割について理解する。また、食卓演出にかかわるテーブルウエアやテーブルセッティング、テーブルマナー、食空間の演出にかかわるフードサービスマネジメントについての知識を得る。あわせて、これらの知識をもとに食卓演出を体験し、応用力、創造力の基礎を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	心地よく食事をするために必要なマナーや心構えを理解し、説明することができる
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	食文化やテーブルウェアに関する感性を高め、ライフスタイルにあわせた心地よい食空間をプロデュースすることができる
技術・表現の観点（A）	色、食器、空間演出などの工夫を実践できるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	ガイダンス、フードコーディネートの基本理念について	シラバスを読んでくること。 食情報に関して、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく	180分
第2回	食事の文化（1）	食のタブーと宗教、日本の食文化について学ぶ	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分

第3回	食事の文化（2）	日本と代表的な世界の食文化を比較し、様々な料理形式を学ぶ	事前学習：興味のある外国の食文化を書籍やインターネット等で調べておき、その特徴についてまとめておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第4回	食卓のサービスとマナー	料理様式、食事マナー、正しい箸の持ち方を習得する	事前予習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後復習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第5回	メニュープランニング（1）	メニュープランニングの要件、メニュー開発の基礎を学ぶ	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第6回	メニュープランニング（2）	日本料理、中国料理、西洋料理の基本構成、メニュープランニングの作成と提出	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめること。メニュープランニング案を次週までに提出する。	180分
第7回	フードサービスマネージメント(1)	フードサービスマネージメントの動向を知り、マーケティング手法による企画立案の方法を学ぶ	事前学習：消費者のニーズやトレンドについて予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第8回	フードサービスマネージメント(2)	フードサービスの起業について学ぶ	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第9回	テーブルコーディネートの基礎	テーブルコーディネートの要点を学ぶ	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第10回	テーブルコーディネートの応用（外部講師による講義）	フードコーディネートの専門家から、テーブルコーディネートのポイントや演出スタイルを学び、実践力を身につける	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第11回	食空間のコーディネート	食空間のコーディネートの基礎、食事空間・キッチンのコーディネートについて学ぶ	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第12回	行事と食空間コーディネート	クリスマスリースの作成とレポート提出	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめること	180分
第13回	食企画の基本	食企画の基本と食情報について学ぶ	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分
第14回	食企画の実践	食企画の実践現場について学ぶ 食の企画書を提出し、プレゼンテーションの準備をする	事前学習：事前に資料を収集しておく	180分

			事後学習：発表内容についてまとめる	
第15回	食企画の実践　プレゼンテーション（発表）	食企画の発表についてグループごとにプレゼンテーションを行う	事前学習：授業テーマに沿った内容について、関連分野の書籍やインターネット等で予習しておく 事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめる	180分

学習計画注記	外部講師の予定、進行状況により、スケジュール等が変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	質問等がある場合は、1312研究室まで訪問するか、e-meilで問い合わせる。
評価方法	授業への取組み姿勢、提出物、プレゼンテーション等で総合的に判断する。レポート（企画書、メニュープランニング等）提出が、数回あります。プレゼンテーションに関する評価は、授業にて解説する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート（企画書、メニュープラ	○		○	○
	確認テスト	○		○	
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	レポート課題（企画書、メニュープランニング等）60%、確認テスト 20%、発表 20%
使用教科書名(ISBN番号)	レジュメを配布する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それら地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日3時限目　1312研究室
学生へのメッセージ	国内外問わず、普段から食に関する情報に関心を持って生活し、積極的に授業に取り組むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士として特定給食施設に従事した実務経験があり、その経験を踏え、実学的に教授する
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	栄養プロデュース実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 腰本　さおり	指定なし
教授	酒井　治子	指定なし
准教授	城田　直子	指定なし

ナンバリング	H24001C13
授業概要(教育目的)	臨地実習の前に、様々な実践活動の場で組織の役割を学び、人々を取り巻く社会構造への認識を深め理解する。「食」を通してあらゆるライフステージに適した生活を創造し、乳幼児から高齢者に至る様々な健康状態の人々の健康づくりをプロデュースできる管理栄養士を目指すことを目的とする。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	実践活動の場での管理栄養士および栄養士の位置付け、組織、役割、業務、食を通した取り組み、他職種との連携、情報発信や地域とのかかわり等を説明することができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	様々な実践活動の場において、他者と協働するための共感力、主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点（A）	他職種とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス実習先の希望調査	実習概要、各実習先施設の特徴について知る。実習先の希望調査を行う。	学外実習の手引き「１.学外実習の種類と履修条件」を読んでおくこと。	45分
第2回	事前学習①	学外実習を行うための基本事項（態度・姿勢・服装等）について理解する。先輩の体験談や事例について知る。	学外実習の手引き「2.1）学外実習にむけての心構え」を読んでおくこと。	45分

第3回	事前学習②	授業欠席届、腸内細菌検査等の提出書類の取り扱いについて知る。お礼状の書き方を知る。	学外実習の手引き「2.2）実習にむけての事前準備 提出書類の準備、3）腸内細菌検査の提出方法、4）出勤簿の取り扱い、5）実習日誌の記入や提出、6）実習終了のお礼」を読んでおくこと。	45分
第4回	事前学習③	実習先施設の概要、交通経路を調べる。実習報告会に向けてのまとめ方について知る。	学外実習の手引き「4.4）提出物について」を読んでおくこと。	45分
第5回	事前学習④	誓約書の記入。各施設班毎の実習テーマについて話し合いを行う。	実習施設のホームページなどを見て、実習テーマをどのようにするか考えておくこと。	45分
第6回	マナー講習	マナー講師による講習。学外実習に向けての礼儀や態度ついて体験の場を持って理解する。	マナー講習の体験を踏まえて、お礼状を作成し、提出すること。	45分
第7回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第8回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第9回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第10回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第11回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第12回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第13回	まとめ	各施設の担当教員の指示に従い、お礼状の作成、まとめ作業（要旨集原稿、実習報告会パワーポイントの作成）等を行う。	実習日誌（まとめ）の記入を行っておくこと。	45分
第14回	まとめ	各施設の担当教員の指示に従い、お礼状の作成、まとめ作業（要旨集原稿、実習報告会パワーポイントの作成）等を行う。	実習日誌（まとめ）の記入を行っておくこと。	45分
第15回	実習報告会	パワーポイントを用いた各施設の発表および要旨集を熟読し、様々な施設の栄養士・管理栄養士の役割や業務、取組みについて理解する。	実習日誌（報告会を終えて）の記入を行っておくこと。	45分

学習計画注記	授業日程は、予定変更の可能性もあります。
学生へのフィードバック方法	マナー講習後のお礼状課題は添削をし、後日返却をする。実習日誌は確認後返却をする。
評価方法	・平常点は授業への参加状況、提出物の状況、授業態度から総合的に判断する。 ・単位を取得できた場合の成績評価はP（合格）とする ・学外施設でのオリエンテーション、学外施設での実習、実習報告会を欠席した場合は、他の要件を満たしていても単位を認めない。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○			○
	実習評価表			○	○

評価割合	平常点（50%）、実習評価表（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日2時限
学生へのメッセージ	学外施設での実習に臨む姿勢として、実習先の施設についてしっかりと把握しておくことが大切である。ただ単に授業や学外施設での実習に受け身で参加することがないように注意し、各自で積極的に取組み、自覚を持って参加してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学外施設における実習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（海野）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野　知紀	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	特定の研究課題を設定し、課題を解決するための研究手法・技術の基礎を教授する。さらに、得られた研究成果は研究室や学科での発表会において討論（ディスカッション）し、質疑応答を通してプレゼンテーション力を高めていく。なお、研究テーマによっては、研究の一部を外部機関との協働で実施する場合がある。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	設定した研究課題について、その解決法を関係づけられる。 得られた研究成果について、統計学的な解釈の結果として説明できる。
思考・判断の観点（K）	文献調査などにおいて、論理的・批判的な思考を基に、正確な情報を類別できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会に貢献するという意思を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点（A）	研究室や学科での発表会を通して、得られた研究成果をわかりやすいく表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要，スケジュール，研究の進め方を説明する。	アカデミックスキル科目の復習	45分
第2回	研究室紹介	成育栄養学研究室（原），応用栄養学研究室（斉藤）のテーマを紹介する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第3回	研究室紹介	臨床栄養管理学研究室（城田），臨床栄養学研究室（金澤）のテーマを紹介する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第4回	研究室紹介	栄養政策学研究室（田中弘之），地域栄養教育学研究室（酒井）のテーマを紹介する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第5回	研究室紹介	栄養教育研究室（辻），応用食品学研究室（林）のテー	専門導入科目，専門基礎科目，	45分

		マを紹介する。	専門科目の復習	
第6回	研究室紹介	栄養学研究室（海野），調理学研究室（大富）のテーマを紹介する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第7回	研究室紹介	給食経営管理研究室（吉野），食と世界を考える研究室（橋本）のテーマを紹介する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第8回	研究室紹介	運動生態学研究室（江川），実践応用栄養学研究室（加藤）のテーマを紹介する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第9回	研究室紹介	研究室（田中千晶），研究室（榎本）のテーマを紹介する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第10回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第11回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第12回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第13回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第14回	希望調査	研究室訪問の結果より，研究室希望調査の実施を行う。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第15回	研究室配属	研究室訪問の結果のまとめと振り返り，今後の目標についてグループワークを実施する。	専門導入科目，専門基礎科目，専門科目の復習	45分
第16回	オリエンテーション	実習の概要と進め方を説明する。	配布資料の復習	45分
第17回	先行研究の調査	研究テーマに沿った文献調査を実施する。	配布資料の復習	45分
第18回	先行研究の調査	研究テーマに沿った文献調査を実施する。	配布資料の復習	45分
第19回	先行研究の調査	研究テーマに沿った文献調査を実施する。	配布資料の復習	45分
第20回	先行研究の調査	研究テーマに沿った文献調査を実施する。	配布資料の復習	45分
第21回	先行研究の調査	研究テーマに沿った文献調査を実施する。	配布資料の復習	45分
第22回	研究計画の立案	研究テーマに沿った実験計画を作成する。	プレゼンテーションの準備	45分
第23回	研究計画の立案	研究テーマに沿った実験計画を立案する。	プレゼンテーションの準備	45分
第24回	研究計画の立案	研究テーマに沿った実験計画を立案する。	プレゼンテーションの準備	45分
第25回	研究計画のプレゼンテーション	目的、方法、予想される結果からなる研究計画書について，研究室内で発表する。	プレゼンテーションの振り返り	45分
第26回	研究計画のブラッシュアップ	プレゼンテーションを踏まえて，研究計画案の詳細を検討する。	先行研究などの復習	45分
第27回	実践栄養プロデュース実習発表会の参加	実践栄養プロデュース実習発表会に参加し，4年生の発表を聴講する。	発表要旨の確認	45分
第28回	実践栄養プロデュース実習発表会の参加	実践栄養プロデュース実習発表会に参加し，4年生の発表を聴講する。	発表要旨の確認	45分
第29回	実践栄養プロデュース実習発表会レビュー	聴講した実践栄養プロデュース実習発表会での発表内容から研究室からの発表と研究室以外の発表をピックアップしてレポートにまとめる。	実践栄養プロデュース実習発表会の復習	45分
第30回	動物実験に	実験動物を用いた研究を行うにあたって必要となる倫理	配布物等の復習	45分

	おける倫理教育	的配慮等に関するビデオ視聴		
第31回	オリエンテーション	研究実施に向けた注意事項	配布物等の復習	45分
第32回	研究の実施1	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第33回	研究の実施2	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第34回	研究の実施3	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第35回	研究の実施4	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第36回	研究の実施5	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第37回	研究の実施6	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第38回	研究の実施7	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第39回	研究の実施8	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第40回	研究の実施9	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第41回	研究の実施10	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第42回	研究の実施11	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第43回	研究の実施12	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第44回	研究の実施13	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第45回	中間発表会	研究の進捗状況について，研究室内における中間発表会を開催する。	プレゼンテーション資料の作成	45分
第46回	研究の実施14	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第47回	研究の実施15	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第48回	研究の実施16	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第49回	研究の実施17	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第50回	研究の実施18	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第51回	研究の実施19	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第52回	研究の実施20	研究計画に沿って研究を遂行する。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第53回	研究のまとめ1	実験データの解析，考察を行う。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第54回	研究のまとめ2	実験データの解析，考察を行う。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第55回	研究のまとめ3	実験データの解析，考察を行う。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第56回	研究のまとめ4	実験データの解析，考察を行う。	進捗状況を適宜報告し，必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第57回	実践栄養プロデュース	プレゼンテーション資料を作成する。		45分

	実習発表会の準備			
第58回	実践栄養プロデュース実習発表会の参加	実践栄養プロデュース実習発表会に参会して，セッションで発表を行う。		
第59回	実践栄養プロデュース実習発表会の参加	実践栄養プロデュース実習発表会に参会して，セッションで発表を行う。		
第60回	研究成果の総評	実践栄養プロデュース実習発表会での発表を踏まえた総評を受ける。		

学生へのフィードバック方法	研究の進捗状況にあわせて、適宜指示する。
評価方法	【平常点】研究背景を理解し、計画的に課題の解決に向けた取り組みについて総合的に判断する（70%）。 【要旨の作成】研究内容や研究成果について、必要な項目と内容を備えた要旨を作成することができる（10%） 【研究発表会】研究成果について必要な内容と項目を備えて報告することができる（10%）。研究内容や研究成果に対する質問に答えることができる（10%）。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	研究発表				○

評価割合	平常点（70%）、研究発表会（要旨の作成も含む。30%）
使用教科書名(ISBN番号)	適宜指示する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。 【関心・意欲・態度】主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	前期月曜日2限目 後期火曜日3限目
学生へのメッセージ	実践健康プロデュース実習での学修は、管理栄養士としての個々の専門性を確立するための第一歩である。本研究室は、実験的に研究課題を解決するための手段を学ぶことができる。研究倫理も培いながら、意欲を持って取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において特定保健用食品等の開発研究に関する実務経験を有しており、食品成分の三次機能に着目した食品に関し、開発者として習得するべき「商品開発から販売までの流れ」、アドバイザリースタッフとして習得するべき「利用上の注意点」を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	先行研究や文献等を利用して、実験・調査によって得られたデータを考察する。
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。 統計解析ソフトを使用して、推定と検定を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（金澤）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	内科クリニックにて、臨床、食事管理について患者症例を通して学ぶ。臨床検査値の見方、栄養指導の方法、栄養指導媒体作成など、臨床現場で学ぶ。医療での管理栄養士の在り方を身につけることを目標とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	疾患（糖尿病、腎臓病を中心とした）の病態、栄養評価、栄養管理について学ぶ。
思考・判断の観点（K）	疾患に適合した栄養管理を考えられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	医療倫理を備えた管理栄養士として患者に接することが出来る。
技術・表現の観点（A）	疾患に適切な栄養指導を考え、提案できる。

学習計画

実践健康栄養プロデュース実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	臨床現場での管理栄養士の在り方	臨床栄養現場での医療スタッフとして管理栄養士の在り方について再度学習する。	教科書「医療と臨床栄養学」「全人的医療と臨床栄養学」を予習・復習する。	120分
第2回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第3回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分

第4回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第5回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第6回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第7回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第8回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第9回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第10回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第11回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第12回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第13回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第14回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第15回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第16回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第17回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第18回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第19回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第20回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第21回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第22回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第23回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第24回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分

第25回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第26回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第27回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第28回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第29回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第30回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第31回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第32回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第33回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第34回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第35回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第36回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第37回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第38回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第39回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第40回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第41回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第42回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第43回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第44回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第45回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分

第46回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第47回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第48回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第49回	症例検討	見学した症例より、患者に同意を得て病態を理解し食事管理について介入し、食事指導媒体の作成や栄養指導方法について学ぶ。	病態の理解、食事管理方法について予習・復習する。食事指導媒体を考案、作成する。	60分
第50回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第51回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第52回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第53回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第54回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第55回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第56回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第57回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第58回	論文作成と発表準備	論文作成、発表準備	文献検索、	45分
第59回	発表会	パワーポイントでの研究発表	他グループの発表の学習、確認	45分
第60回	発表会	パワーポイントでの研究発表	他グループの発表の学習、確認	45分

学習計画注記	臨床現場で通院している患者を対象として研究活動（実習）を実施する。
学生へのフィードバック方法	クリニックで、患者の栄養評価、臨床データ、食事管理について症例を通して学びながら、研究をまとめていく。
評価方法	・患者症例より病態に即した栄養評価、栄養管理の知識があるか。 ・指導媒体が考えられるか。 ・症例の経過をまとめることが出来るか。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	症例検討	○	○	○	○

評価割合	疾患の理解、栄養指導方法の理解、まとめより総合的に評価する。100点
使用教科書名(ISBN番号)	臨床栄養学栄養ケアマネジメント（978－4－263－70664－0）
参考図書	食品成分表 糖尿病治療のための食品交換表 腎臓病食品交換表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】病態の理解、栄養評価、栄養管理が理解でき食事指導に対応できる知識を有している。【思考・判断】患者の病態に適合した栄養療法の対応ができる。 【感心・意欲・態度】患者に正しい栄養指導ができる。 【技能・表現】研究としてまとめ、プレゼンテーションが出来る。

オフィスアワー	木曜1、2限
学生へのメッセージ	自主的に研究に取り込み、患者の気持ちが分かる管理栄養士を目指す。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッショ、グループワークの実施。
情報リテラシー教育	○	文献検索、図書館利用、データベースの活用。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（辻）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻　雅子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	今までの学びの集大成として、研究室で各自の研究を進めることで、自分の進路を見つけ出すことができるように、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献出来るような力を身につけることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人間・食物や地域との関わりなどの理解を深めることで、管理栄養士としての専門的知識と、社会で実践できる知識基盤について理解する。
思考・判断の観点（K）	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決にむけて正確な情報を収集したうえで論理的思考にもとづいて、戦略的な判断ができる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として将来社会に貢献する意思と、他者と協働する力と、生涯にわたり主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点（A）	得られた結果についてまとめる力と、それをプレゼンテーションする力を高め、表現力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、スケジュール、研究の進め方について理解する。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	アカデミックスキル科目の復習	180分
第2回	研究室紹介①	成育栄養学研究室（原）、応用栄養学研究室（斉藤）のテーマを学ぶ。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習を行う	180分
第3回	研究室紹介②	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室（金澤）のテーマを学ぶ。	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習を行う	180分

		（最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）		
第4回	研究室紹介③	栄養政策学研究室（田中弘之）、地域栄養教育学研究室（酒井）のテーマを学ぶ。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目（食育・地域栄養ケア系）の復習を行う	180分
第5回	研究室紹介④	栄養教育研究室（辻）、応用食品学研究室（林）のテーマを学ぶ。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目（食育・地域栄養ケア系、フードサービス系）の復習を行う	180分
第6回	研究室紹介⑤	栄養学研究室（海野）、調理学研究室（大富）のテーマを学ぶ。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目（フードサービス系）の復習を行う	180分
第7回	研究室紹介⑥	給食経営管理研究室（吉野）、食と世界を考える研究室（橋本）のテーマを学ぶ。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目（フードサービス系）の復習を行う	180分
第8回	研究室紹介⑦	運動生態学研究室（江川）、実践応用栄養学研究室（加藤）のテーマを学ぶ。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目（スポーツ栄養系）の復習を行う	180分
第9回	研究室紹介⑧	ヘルスプロモーション研究室（田中千晶）のテーマを学ぶ。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目（スポーツ栄養系）の復習を行う	180分
第10回	研究室訪問①	研究室訪問を行い、指導教諭に話を伺い研究内容について学びを深める。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う	180分
第11回	研究室訪問②	研究室訪問を行い、指導教諭に話を伺い研究内容について学びを深める。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う	180分
第12回	研究室訪問③	研究室訪問を行い、指導教諭に話を伺い研究内容について学びを深める。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う	180分
第13回	研究室訪問④	研究室訪問を行い、指導教諭に話を伺い研究内容について学びを深める。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う	180分
第14回	希望調査	研究室訪問の結果より、自分の希望について振り返りを行い、研究室希望調査の提出を行う。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う	180分
第15回	研究室配属について	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを行い研究について目標を定める。 （最初の15回は3年担任一同が主体となって全体的に実習を進めていく）	専門導入科目、専門基礎科目の復習を行う	180分
第16回	辻研究室オリエンテーション	1年半の研究の流れについて理解する	自分自身の研究についてテーマを決めるために事前に情報を集める。	180分
第17回	研究課題について情報収集①	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第18回	研究課題について情報収集②	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第19回	研究課題について情報収集③	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第20回	研究課題について情報収集④	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分

第21回	研究課題について情報収集⑤	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第22回	研究課題について情報収集⑥	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第23回	研究の流れを構築する①	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第24回	研究の流れを構築する②	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第25回	研究の流れを構築する③	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第26回	研究の流れを構築する④	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第27回	研究の流れを構築する⑤	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第28回	研究の流れを構築する⑥	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第29回	研究の流れを構築する⑦	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第30回	研究の流れを構築する⑧	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第31回	研究実施①	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第32回	研究実施②	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第33回	研究実施③	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第34回	研究実施④	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第35回	研究実施⑤	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第36回	研究実施⑥	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第37回	研究結果まとめ①	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第38回	研究結果まとめ②	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第39回	研究結果まとめ③	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第40回	研究結果まとめ④	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第41回	研究結果まとめ⑤	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第42回	研究結果まとめ⑥	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第43回	研究結果ま	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行い	180分

	とめ⑦		ながら考察する。	
第44回	研究論文作成①	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第45回	研究論文作成②	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第46回	研究論文作成③	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第47回	研究論文作成④	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第48回	研究論文作成⑤	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第49回	研究論文作成⑥	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第50回	研究報告会準備①	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第51回	研究報告会準備②	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第52回	研究報告会準備③	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第53回	研究報告会準備④	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第54回	研究報告会準備⑤	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第55回	研究報告会	研究結果についてデータまとめの結果について研究報告会で発表する。	研究結果についてデータまとめの結果について研究報告会で発表するための準備をする。	180分
第56回	まとめ①	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。	最終論文を仕上げる。	180分
第57回	まとめ②	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。	最終論文を仕上げる。	180分
第58回	まとめ③	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。	最終論文を仕上げる。	180分
第59回	まとめ④	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。	最終論文を仕上げる。	180分
第60回	まとめ⑤	指導教諭とともに研究報告会の振り返りを行い。再度データの整理を行い、最終論文を冊子としてしあげる。	最終論文を仕上げる。	180分

学習計画注記	研究内容の実施時期はテーマによって異なるため、各自積極的に意欲をもって研究に取り組むことが必要である。
学生へのフィードバック方法	演習形式およびグループワークを中心として実施する。 研究の進捗状況によって各自へ個別にフィードバックする。
評価方法	課題に取り組む姿勢や研究内容をまとめる力、研究論文作成、 また研究報告会などのプレゼンテーション力など総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究報告会	○	○	○	○
	研究論文	○	○	○	○

評価割合	3年時は、平常点50%とグループごとでの話し合いの参加等50%で評価を行う。4年次は、研究報告会40%、研究論文30%、平常点30%（平常点は積極的な参加状況や態度等から総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	課題により参考文献は随時指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、人間・食物や地域との関わりなどの理解を深めることで、管理栄養士としての専門的知識と、社会で実践できる知識基盤について理解する事に該当。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決にむけて正確な情報を収集したうえで論理的思考にもとづいて、戦略的な判断ができる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として将来社会に貢献する意思、他者と協働する力、生涯にわたり主体的に学ぶ意欲と態度を身につける事に該当。 【技術・表現】得られた結果についてまとめる力と、それをプレゼンテーションする力を高め、表現力を身につける事に該当。
オフィスアワー	月曜日４時間目　1605研究室
学生へのメッセージ	研究テーマがきまったら、各自事前に研究課題や研究方法等ついて調べておくことが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授するものである。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや研究報告会を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	研究論文作成を通じて情報検索等における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（酒井）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井　治子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。具体的には、研究計画の立案から、研究遂行のための実践力、研究要旨をまとめ、口頭によるプレゼンテーション能力を養うことを目的とする。 　地域栄養教育研究室では、地域の保育所、学校、子育てひろば、保健センター、企業等との関わりを持ち、地域でのさまざまな栄養活動の実践を通して、その栄養教育の計画・実施・評価の具体的な展開についての実践力を高めることを目的とする。４年間の学業の集大成とし、進路を切り開くことができる「自ら考え実行する力」を身につけることができるように指導する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	地域で暮らす人々の食の営みと、それを支援する情報と環境を統合したアプローチによる栄養教育（食育）に関する知識を高める。
思考・判断の観点（K）	地域で暮らす人々の食の営みを構成する要素を抽出し、研究課題の優先順位づけを行い、その解決に向けた科学的な思考力と判断力を養う。
関心・意欲・態度の観点（V）	学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することに意欲を持ち、積極的な態度を培う。
技術・表現の観点（A）	地域でのさまざまな栄養活動の実践を通して、栄養教育の実践力と、研究の計画、遂行、その結果を分かりやすく表現できる力を養う。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	研究テーマ、および研究計画の立案	過去の研究論文をよみ、全体像を把握する。	120分
第2回	臨床栄養系（１）	臨床栄養系教員により、研究内容を学ぶ	臨床栄養系分野の研究内容を復習する	120

第3回	食育・地域系（１）	食育・地域系教員により、研究分野を学ぶ	食育・地域系分野の研究内容を復習する	120分
第4回	フード系（１）	フード系教員により、研究内容を学ぶ	フード系分野の研究内容を復習する	120分
第5回	スポーツ系（１）	スポーツ系教員により、研究内容を学ぶ	スポーツ系分野の研究内容を復習する	120分
第6回	臨床栄養系（２）	臨床栄養系教員により、研究内容を学ぶ	臨床栄養系分野の研究内容を復習する	120
第7回	食育・地域系（２）	食育・地域系教員により、研究分野を学ぶ	食育・地域系分野の研究内容を復習する	120分
第8回	フード系（２）	フード系教員により、研究内容を学ぶ	フード系分野の研究内容を復習する	120分
第9回	スポーツ系（２）	スポーツ系教員により、研究内容を学ぶ	スポーツ系分野の研究内容を復習する	120分
第10回	臨床・食育地域の分野でのブース式個別相談	臨床・食育地域の分野での研究内容について、ブース式に個別相談をする	臨床・食育地域の分野での研究内容について復習する	120分
第11回	フード・スポーツの分野でのブース式個別相談	フード・スポーツの分野での研究内容について、ブース式に個別相談をする	フード・スポーツの分野での研究内容について復習する	120分
第12回	3年担任 希望調査	提示された研究課題を理解し、希望する研究内容を選定する	提示された研究課題を理解し、理解しにくい部分を明確にする	120分
第13回	地域栄養教育研究とは	地域栄養教育研究の概要、研究の進め方について理解する。	地域での栄養・食の課題、栄養教育に関する論文の構造を確認する。	120分
第14回	４年生の研究内容に学ぶ	４年生が実施中の研究内容を把握し、興味の幅を広げる	４年生が実施中の研究内容を復習し、関連する文献を読む	120分
第15回	研究テーマに関する先行研究レビュー1	自分の研究テーマに関して、研究論文の情報検索の方法を理解する。	オンラインジャーナル、図書館等のハンドリサーチにより、レビューワークを実施する。	120分
第16回	研究テーマに関する先行研究レビュー２	研究レビューリストの作成方法を説明する。	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。	120分
第17回	研究テーマに関する先行研究レビュー３	研究レビューリストの作成方法を説明する。	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。	120分
第18回	研究テーマ別レビューワーク１	自らが設定した研究テーマに沿ったレビューワークを行い、研究デザインを理解する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	120分
第19回	研究テーマ別レビューワーク２	自らが設定した研究テーマに沿ったレビューワークを行い、研究デザインを理解する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	120分
第20回	研究テーマ別レビューワーク３	自らが設定した研究テーマに沿ったレビューワークを行い、研究デザインを理解する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	120分
第21回	研究計画書の立案方法１	研究計画書に必要な項目を理解する。	研究計画書の事例を収集し、熟読する。	120分
第22回	研究計画書の立案方法２	研究計画書に必要な項目を理解する。	研究計画書の事例を収集し、熟読する。	120分
第23回	研究の流れと研究倫理	研究を始めにあたって、先輩方の研究を基に、研究計画と実施、成果のまとめまでの全体像を把握する。	自らが関心のある研究テーマについて、先行研究までの成果と残された課題を整理する。	120分

第24回	研究計画書の作成１	研究計画書の作成をすすめる。	研究計画書の作成を通して、研究方法を吟味する。	120分
第25回	研究計画書の作成２	研究計画書の作成をすすめる。	研究計画書の作成を通して、研究方法を吟味する。	120分
第26回	研究フィールドの選定と依頼１	研究計画書に沿って研究を実施する。研究フィールドの依頼方法を学ぶ。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第27回	研究フィールドの選定と依頼２	研究計画書に沿って研究を実施する。研究フィールドの依頼方法を学ぶ。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分

学習計画注記	学習の進行状況によって、内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	研究のプロセスで、課題を出し、次回に確認をし、返却する。
評価方法	研究計画から遂行と、プレゼンテーション、総合討論の内容により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究計画から遂行	○		○	
	プレゼンテーション	○			○
	総合討論		○	○	

評価割合	研究計画から遂行40%、プレゼンテーション30%、総合討論30%
使用教科書名(ISBN番号)	指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】地域環境とのつながりを重視し、人間の栄養と食の営みに関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】地域環境とのつながりを重視し、人間の栄養と食の営みに関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる。 【関心・意欲・態度】地域環境とのつながりを重視し、人間の栄養と食の営みに関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている 【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている
オフィスアワー	酒井　火曜日５限　地域栄養教育（酒井）研究室
学生へのメッセージ	個人の興味から自らテーマを絞っていくことを希望します。なお、他のメンバーの研究についてもできるだけ参加し、実践力を養ってもらいたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での地域ベースでの栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かした授業を展開している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（田中）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　弘之	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人体の個体レベルで生物学的な問題として把握するだけでなく心理的要因や行動科学的要因、さらには社会的要因、経済的要因なども考慮して総括的に把握することができる。
思考・判断の観点（K）	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	成果・結果を健康につなぎＱＯＬの向上が社会貢献となることが意識できる。
技術・表現の観点（A）	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	既存の実習概要と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第2回	栄養政策研究室の概要を説明する。	研究計画書と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第3回	研究計画書の作成	研究計画書と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第4回	研究テーマに沿った実	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分

	習・調査を実施			
第5回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第6回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第7回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第8回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第9回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第10回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第11回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第12回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第13回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第14回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第15回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第16回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第17回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第18回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第19回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第20回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分

第21回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第22回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第23回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめのチェックをする。	45分
第24回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめのチェックをする。	45分
第25回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめのチェックをする。	45分
第26回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめのチェックをする。	45分
第27回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめのチェックをする。	45分
第28回	プレゼンテーションの作成	テーマに沿った実習・調査のプレゼンテーションの作成と発表の練習	プレゼンテーションの作成と発表の練習の補完	45分
第29回	プレゼンテーションの作成	テーマに沿った実習・調査のプレゼンテーションの作成と発表の練習	プレゼンテーションの作成と発表の練習の補完	45分
第30回	プレゼンテーションの作成	テーマに沿った実習・調査のプレゼンテーションの作成と発表の練習	プレゼンテーションの作成と発表の練習の補完	45分

学生へのフィードバック方法	研究の進捗状況にあわせて、適宜指示する。
評価方法	【平常点】研究背景を理解し、計画的に課題の解決に向けた取り組みについて総合的に判断する（60%）。 【要旨の作成】研究内容や研究成果について、必要な項目と内容を備えた要旨を作成することができる（10%）。 【研究計画の進行】研究計画に沿った展開が適切に行えることができる（10%）。 【研究発表会】研究成果について必要な内容と項目を備えて報告することができる（10%）。研究内容や研究成果に対する質問に答えることができる（10%）。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	研究発表				○

評価割合	平常点（60%）、研究発表会（要旨の作成・研究計画進行、も含む。40%）
使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学、学会発表の統計学
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。 【関心・意欲・態度】主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	前期：火曜日15:00～17：30 後期；月曜日15:00～17：30、
学生へのメッセージ	問題は何か、解決するためにどうするのかを常に意識すること。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	先行研究や文献等を利用して、実習・記録・調査によって得られたデータを考察する。
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。 統計解析ソフトを使用して、検定を行う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（橋本）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本　文子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	管理栄養士として役立つ様々な食や健康に関するテーマについて理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	管理栄養士として必要な食や健康に関する話題について理解を深めることができる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	自分の興味のあるテーマについて調べた内容を相手にわかりやすく伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。	アカデミックスキル科目の復習	120分
第2回	研究室紹介	成育栄養学研究室（原）、応用栄養学研究室（斉藤）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習	120分
第3回	研究室紹介	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室（金澤）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習	120分
第4回	研究室紹介	栄養政策学研究室（田中弘之）、地域栄養教育学研究室(酒井)のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系)の復習	120分
第5回	研究室紹介	栄養教育研究室（辻）、応用食品学研究室（林）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系、フードサービス系)の復習	120分

第6回	研究室紹介	栄養学研究室（海野）、調理学研究室（大富）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（フードサービス系）の復習	120分
第7回	研究室紹介	給食経営管理研究室（吉野）、食と世界を考える研究室（橋本）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（フードサービス系）の復習	120分
第8回	研究室紹介	運動生態学研究室（江川）、実践応用栄養学研究室（加藤）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（スポーツ栄養系）の復習	120分
第9回	研究室紹介	（仮）ヘルスプロモーション研究室（田中千晶）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（スポーツ栄養系）の復習	120分
第10回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	120分
第11回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	120分
第12回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	120分
第13回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	120分
第14回	希望調査	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。	専門導入科目、専門基礎科目の復習	120分
第15回	研究室配属	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。	専門導入科目、専門基礎科目の復習	120分
第16回	オリエンテーション	授業の進め方についての説明	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第17回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第18回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第19回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第20回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第21回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第22回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第23回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第24回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第25回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第26回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第27回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第28回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第29回	食や健康に	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表す	食や健康に関する話題について	120分

	関する話題について	る。	自分が興味があるものについて調べること。	
第30回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	これまでのことについてまとめる。	120分
第31回	オリエンテーション	授業の進め方についての説明	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第32回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第33回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第34回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第35回	食や健康に関する話題について	食に関するDVDを見る。	DVDを見て感じたことや考えたことをレポートにまとめる。	120分
第36回	食や健康に関する話題について	DVDを見てわかったことを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第37回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第38回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第39回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第40回	食や健康に関する話題について	JICA地球ひろばを訪問し、施設見学とお話を伺う。	JICA地球ひろば訪問で感じたことをレポートにまとめる。	120分
第41回	食や健康に関する話題について	JICA地球ひろばで感じたことやわかったことについて発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第42回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第43回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第44回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第45回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第46回	食や健康に関する話題について	卒研発表に向けてテーマを絞り込む。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第47回	食や健康に関する話題について	卒研発表に向けてテーマを絞り込む。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第48回	食や健康に関する話題について	卒研発表に向けてテーマを決め、調べていく。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第49回	食や健康に関する話題について	卒研発表に向けてテーマを決め、調べていく。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分

第50回	食や健康に関する話題について	テーマについて各自調べを進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第51回	食や健康に関する話題について	テーマについて各自調べを進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第52回	食や健康に関する話題について	テーマについて各自調べを進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第53回	食や健康に関する話題について	テーマについて各自調べを進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第54回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第55回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第56回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第57回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第58回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第59回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第60回	食や健康に関する話題について	卒研発表	これまでのことについてまとめる。	120分

学習計画注記	＊授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業時に各自テーマについて調べたものを発表し、お互いに意見を交換する機会を持ちます。
評価方法	・各テーマについての調査と発表 ・卒研発表会に向けての取り組み

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	各テーマについての発表	○		○	○
	卒研発表	○		○	○

評価割合	各テーマの発表50%と卒研発表50%で総合的に評価します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士に必要な食と健康についての様々な話題について深い知識と理解を身につけている。 【思考・判断】正しい情報を判断できる力を身につけている。 【技能・表現】専門的知識を相手にわかりやすく表現する力を身につけている。
オフィスアワー	前期　水曜日4時限　1610研究室 後期　水曜日3時限　1610研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（林）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林　一也	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	所属する研究室において、担当教員の指導のもとにテーマを決め研究を遂行し、研究計画、研究方法、実験、ディスカッションなど研究の進め方を修得する。また期末には発表、論文作成など研究内容のまとめ揚げるスキルを身につける。研究テーマは管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	研究テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究することで、管理栄養士として社会に出たときに主体的に学ぶ意欲と態度、共感力、豊かな人間性を身につけることができる。
技術・表現の観点（A）	研究テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究し、最終的に研究内容をまとめ発表することで、管理栄養士として専門的技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント力、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。

学習計画

実践健康栄養プロデュース実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定しない。
第2回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマ	適宜必要に応じて行う。	特に設定しない。

		に関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。		
第3回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定しない。
第4回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第5回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第6回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第7回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第8回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第9回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第10回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第11回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第12回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第13回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第14回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第15回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第16回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第17回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第18回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。

		書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。		
第19回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第20回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第21回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第22回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第23回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第24回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第25回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第26回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第27回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第28回	実践健康栄養プロデュース報告会	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）		
第29回	実践健康栄養プロデュース報告会	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）		
第30回	実践健康栄養プロデュース報告会	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）		

学習計画注記	すべて対面で行う。
学生へのフィードバック方法	研究内容、進め方、結果の考察などは研究室内のデッスカッションとして適宜行う。
評価方法	研究遂行能力、論文作成能力、研究報告会での発表能力などの研究能力を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	総合的な研究能力の評価			○	○

評価割合	総合的な研究能力(100%)
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度研究】テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究することで、管理栄養士として社会に出たときに主体的に学ぶ意欲と態度、共感力、豊かな人間性を身につけることができる。 【技術・表現研究】テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的

	に研究し、最終的に研究内容をまとめ発表することで、管理栄養士として専門的技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント力、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。
オフィスアワー	月曜日3時限　1401研究室
学生へのメッセージ	研究は自主的に行うことが重要である。就職活動、国試対策など全ての確立を目指すための心構えが重要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究･共同食品開発に携わった内容を踏まえ、食品に関する研究を実践的･実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（吉野）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野　知子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	所属する研究室において、特定の研究課題・テーマを決定する。研究計画、研究手法の基礎を学び習得する。研究結果については、研究論文、研究発表によりその成果をまとめる。管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究を通じて社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけることができる。
思考・判断の観点（K）	研究テーマの課題解決に向けて正確な情報を取集して、的確な取り組みを判断できる力を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究テーマへ主体的に取り組み成果を得たことにより、社会に貢献しようとする意思と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることができる。
技術・表現の観点（A）	研究内容に関する討論や、共同研究者との実験・調査を進め、最終的にその成果を発表する事により、他者とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマの検討	研究テーマの候補について検討する。 研究の進め方について（研究計画、研究方法、研究結果、考察、発表、論文まとめ）説明する。	研究テーマ候補について関連文献の検索・情報収集をする。	90分
第2回	研究テーマの検討	研究の方向性を明確にし最終的な研究テーマを決定する。 研究の進め方を確認し研究計画を作成する。	研究テーマについての文献を収集する。	90分
第3回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分

第4回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第5回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第6回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第7回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第8回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第9回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第10回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第11回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第12回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第13回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第14回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第15回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第16回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第17回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第18回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第19回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第20回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第21回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第22回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第23回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。 研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第24回	研究のまとめ	実験・調査によって得られたデータをまとめ、発表会の要旨、発表会プレゼンテーション資料を作成する。 論文を作成する。	発表原稿を作成する。	45分

第25回	研究のまとめ	実験・調査によって得られたデータをまとめ、発表会の要旨、発表会プレゼンテーション資料を作成する。 論文を作成する。	発表原稿を作成する。	45分
第26回	研究のまとめ	実験・調査によって得られたデータをまとめ、発表会の要旨、発表会プレゼンテーション資料を作成する。 論文を作成する。	発表原稿を作成する。	45分
第27回	研究のまとめ	実験・調査によって得られたデータをまとめ、発表会の要旨、発表会プレゼンテーション資料を作成する。 論文を作成する。	発表原稿を作成する。	45分
第28回	実践健康栄養プロデューース報告会準備	実践健康栄養プロデューース報告会に向けての準備、発表練習を行う。	発表練習をする。	45分
第29回	実践健康栄養プロデューース実習報告会	実践健康栄養プロデューース実習報告会にて研究成果の発表及び質疑応答を行う。		
第30回	実践健康栄養プロデューース実習報告会	実践健康栄養プロデューース実習報告会にて研究成果の発表及び質疑応答を行う。		

学生へのフィードバック方法	研究テーマについて定期的にディスカッションし研究の内容・方向性、結果、考察を進めていく。
評価方法	研究テーマへの取り組む姿勢、研究成果、発表能力などの研究能力を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	研究能力（取組・成果・発表）	○	○	○	○

評価割合	研究テーマに対する主体的な取り組み、研究成果、発表能力など研究能力を総合的に100%として評価する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】研究を通じて社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】研究テーマの課題解決に向けて正確な情報を取集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】他者とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日：1,2限目
学生へのメッセージ	自分の興味・関心のある研究テーマについて主体的に追求し意欲を持って臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者施設、病院、給食受託会社の管理栄養士としての実務経験を有している教員が教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（加藤）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　理津子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	研究課題への主体的な取り組みの中で、社会で求められているニーズに対応できる実践力を養うことを目的とする。具体的には、研究計画の立案から評価・改善までの一連の研究手法の実践、報告書の作成、ディスカッションや成果発表などを通し、研究遂行のための実践力、プレゼンテーション能力を養う。研究課題は、スポーツ栄養の現場での実践体験を含む課題とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	スポーツ（身体活動）と栄養の関係を説明できる。
思考・判断の観点（K）	課題を発見し、研究課題を解決へと結びつける科学的視点を持っている。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会に貢献するという意思を持ち、主体的に研究課題にかかわる意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点（A）	①得られた研究成果を科学的に解析し、その結果をわかりやすく表現できる。 ②研究成果をもとに望ましい栄養管理を実践できる力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	研究テーマおよび研究計画の立案	研究計画案の作成 資料収集	60分
第2回	研究テーマと計画の確認	資料等の科学的根拠に基づき、研究計画を見直し、修正する。	調査準備 資料収集	60分
第3回	栄養アセスメント項目の確認	アンケートの作成および検討、計測の練習	資料等の科学的根拠に基づき、調査内容の見直し、修正	60分

第4回	栄養アセスメントの準備	栄養アセスメントに必要な物品の準備	調査準備 資料収集	60分
第5回	栄養アセスメントの実施	栄養調査等のアセスメントの実施	データ入力および解析	60分
第6回	栄養アセスメントの実施	栄養調査等のアセスメントの実施	データ入力および解析	60分
第7回	栄養アセスメントの実施	栄養調査等のアセスメントの実施	データ入力および解析	60分
第8回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第9回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第10回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第11回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第12回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第13回	中間報告	データ解析結果の中間報告	報告内容の整理	60分
第14回	解析データの見直し	中間報告の結果に基づき見直し、修正	情報収集	60分
第15回	解析データの見直し	中間報告の結果に基づき見直し、修正	情報収集	60分
第16回	結果説明会の準備	結果説明会用のスライドおよび配布資料作成	情報収集	60分
第17回	結果説明会の準備	結果説明会用のスライドおよび配布資料作成	情報収集	60分
第18回	結果説明の予行練習	結果説明のプレゼンテーションの確認	台本の作成と暗記、当日の流れや配布資料の確認、修正点の整理	60分
第19回	結果説明内容の見直し	スライド、台本の見直し、修正	台本の作成と暗記、当日の流れや配布資料の確認、修正点の整理	60分
第20回	結果説明	結果説明の実施	アンケートの集計	60分
第21回	発表要旨の作成	解析結果の分析	作成内容の見直し	60分
第22回	発表要旨の作成	解析結果の分析	作成内容の見直し	60分
第23回	発表要旨の作成	解析結果の分析	作成内容の見直し	60分
第24回	発表用スライド作成	発表要旨にもとづき発表用スライドの作成	見直し	60分
第25回	発表用スライド作成	発表要旨にもとづき発表用スライドの作成	見直し	60分
第26回	発表予行練習	作成したスライドを使用した予行練習	修正点の確認	60分
第27回	発表内容の見直し	修正点を確認し、修正	発表練習	60分
第28回	発表の予行練習	修正したスライドを使用した予行練習	発表練習	60分

第29回	研究発表会	学内の研究報告会にて発表	修正点の確認	60分
第30回	まとめ	発表を終えての反省会実施	提出物をまとめる	60分

学習計画注記	進行状況によって内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	研究の進行にしたがって提出物等に記入したものを、その都度確認し、返却する。
評価方法	平常点60%、提出物30%、プレゼンテーション10%とし、総合的に評価する。 ※平常点：実習態度 ※提出物：理解度、正確性、丁寧さ ※プレゼンテーション：表現力

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	提出物	○	○		○
	プレゼンテーション			○	○

評価割合	平常点60%、提出物30%、プレゼンテーション10%ととし、総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜紹介する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	前期：火曜日2限（1B05研究室） 後期：月曜日2限（1B05研究室）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	研究計画の立案から評価・改善までの一連の研究手法の実践、報告書の作成、ディスカッションや成果発表などを通し、研究遂行のための実践力、プレゼンテーション能力を養う。
情報リテラシー教育	○	収集したデータを統計解析する。得られた研究成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。
ICT活用	○	発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（大富）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富　あき子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	自分の興味関心および能力に適合した研究課題を設定することが出来る。 設定した研究課題について文献等により幅広い知識を得て研究に応用することが出来る。
思考・判断の観点（K）	設定した研究課題について正確な情報収集、論理的批判、戦略的な取り組みができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会に貢献しようとする意識を強く持ち、他者と協働しながら学ぼうとする意欲を持ち合わせている。
技術・表現の観点（A）	得られた結果を適宜まとめ、プレゼン資料を作成して、発表会にて主体的に表現ができる。

学習計画

実践健康栄養プロデュース実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	研究テーマの設定。研究計画の立案。課題提出あり。	研究計画書の作成	60分
第2回	研究テーマと計画の検討	各自の研究テーマおよび研究計画書についてゼミ内で発表して検討する。。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第3回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第4回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分

第5回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第6回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第7回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第8回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第9回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第10回	献立作成及び調理実習	自分で作成した献立内容を調理して、学部の特別非常勤講師の指導を受ける。	献立内容の事前確認、実施した調理内容の反省を生かして新たな献立を検討する。課題提出あり。	60分
第11回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第12回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第13回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第14回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	次回の中間報告に向けての発表資料作成を行う。課題提出あり。	60分
第15回	中間報告会	各自の研究途中結果についてゼミ内で発表して検討する。	今日の検討内容を踏まえて次の調査内容を検討する。	60分
第16回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第17回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第18回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第19回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第20回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第21回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第22回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第23回	発表要旨の作成	各自の研究テーマをまとめて発表会用の要旨を作成する。課題提出あり。	時間内に終わらなかったまとめの続きを行う。	60分
第24回	発表要旨の作成	各自の研究テーマをまとめて発表会用の要旨を作成する。	時間内に終わらなかった資料作成の続きを行い完成させる。	60分
第25回	発表資料と原稿の作成	各自の研究結果をもとに、発表会用の資料と原稿を作成する。課題提出あり。	時間内に終了しなかった作業を続けて実施する。	60分
第26回	発表資料と原稿の作成	各自の研究結果をもとに、発表会用の資料と原稿を作成する。課題提出あり。	時間内に終了しなかった作業を続けて実施する。	60分
第27回	発表資料と原稿の作成	各自の研究結果をもとに、発表会用の資料と原稿を作成する。課題提出あり。	時間内に終了しなかった作業を続けて実施する。	60分
第28回	発表練習	各自の発表会用の資料と原稿を用いてゼミ内で発表練習を行う。	今日の発表練習を受けて、訂正を完了させる。	60分
第29回	発表会	学内の研究報告会において発表を行う。	事前に発表の練習を行う。	60分
第30回	まとめ	発表会を終えての反省会の実施。	発表原稿、発表資料、研究過程の資料を最終的にまとめる。	60分

学生へのフィードバック方法	研究計画検討会、調査実施時、中間報告会、発表練習会、その他必要に応じて学生にフィードバックは適宜行う。

評価方法	平常点 提出物（要旨、発表資料、発表原稿） プレゼンテーション

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	提出物	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	平常点　70% 提出物（要旨、発表資料、発表原稿）15% プレゼンテーション　　15%
使用教科書名(ISBN番号)	適宜紹介する
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し て論理的・批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を 身につけている。
オフィスアワー	火曜　5限
学生へのメッセージ	各自の研究テーマに沿って、学生時代にしかできないことを大いに実施していきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法等を活用して研究に従事していたので、この科目ではそれらの経験を生かして理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	調査を遂行し、結果と考察についてゼミ内でディスカッションして、それを次の調査に反映させる。
情報リテラシー教育	○	報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
ICT活用	○	報告会のプレゼンテーションはパワーポイントを映写して行う。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（江川）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川　賢一	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	運動に関する専門的技能を習得し、人々の健康増進を運動から解決できることを教育目標として、スポーツ産業、民間企業、行政、学校、医療福祉施設、予防サービス、試験研究教育機関（大学院含む）等への業務に役立つ実践研究を実施します。
履修条件	2年次までの必修科目の単位取得。実験実習演習科目の積極的参加、臨地実習、総合演習での主体的、協調的な学習の確実な実施が必要です。学外実習の機会を活用することを期待します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	健康のための栄養、競技のための栄養、リハビリのための栄養の違いを説明できる。運動と栄養の相互作用を説明できる。
思考・判断の観点（K）	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	人間の生活に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点（A）	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業概要、スケジュール、研究の進め方を説明する。	アカデミックスキル科目の復習	45分
第2回	研究室紹介	成育栄養学研究室（原）、応用栄養学研究室（斉藤）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習	45分
第3回	研究室紹介	臨床栄養管理学研究室(城田)、臨床栄養学研究室（金澤）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目(臨床栄養系)の復習	45分
第4回	研究室紹介	栄養政策学研究室（田中弘之）、地域栄養教育学研究室(酒井)のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目(食育・地域栄養ケア系)の復習	45分

第5回	研究室紹介	栄養教育研究室（辻）、応用食品学研究室（林）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（食育・地域栄養ケア系、フードサービス系）の復習	45分
第6回	研究室紹介	栄養学研究室（海野）、調理学研究室（大富）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（フードサービス系）の復習	45分
第7回	研究室紹介	給食経営管理研究室（吉野）、食と世界を考える研究室（橋本）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（フードサービス系）の復習	45分
第8回	研究室紹介	運動生態学研究室（江川）、実践応用栄養学研究室（加藤）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（スポーツ栄養系）の復習	45分
第9回	研究室紹介	（仮）ヘルスプロモーション研究室（田中千晶）のテーマを紹介する。	専門導入科目、専門基礎科目（スポーツ栄養系）の復習	45分
第10回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	45分
第11回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	45分
第12回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	45分
第13回	研究室訪問	研究室訪問	専門導入科目、専門基礎科目の復習	45分
第14回	希望調査	研究室訪問の結果より、研究室希望調査の実施を行う。	専門導入科目、専門基礎科目の復習	45分
第15回	研究室配属	研究室訪問の結果のまとめと振り返り、今後の目標についてグループワークを実施する。	専門導入科目、専門基礎科目の復習	45分
第16回	オリエンテーション	実習の概要と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第17回	研究計画プレゼンテーション１	運動生態学研究の概要を説明する。	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。	45分
第18回	研究計画プレゼンテーション２	運動生態学研究の方法を説明する。	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。	45分
第19回	レビューワーク１	情報検索の方法を説明する。	オンラインジャーナル、書架および学会等の情報源からレビューワークを実施する。	45分
第20回	レビューワーク２	リストの作成方法を説明する。	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。	45分
第21回	研究テーマ別レビューワーク１	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	45分
第22回	研究テーマ別レビューワーク２	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを実施する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	45分
第23回	研究デザイン１	研究テーマの立て方を説明する。	運動、栄養、健康に関するリサーチクエスチョンを立てるための文献研究を行う。	45分
第24回	研究デザイン２	研究テーマの精査を説明する。	リサーチクエスチョンのプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第25回	研究計画プレゼンテーション３	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。	45分
第26回	研究倫理	人権擁護、情報保護などの倫理を学習する。	テーマに沿って臨床試験登録を検索する。	45分
第27回	研究の実施１	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第28回	研究の実施２	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第29回	研究の実施３	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分

第30回	中間プレゼンテーション１	実施した研究概要を発表する。	受講者相互に文献研究を行う。	45分
第31回	研究テーマ別レビューワーク３	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	45分
第32回	研究テーマ別レビューワーク４	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	45分
第33回	研究テーマ別レビューワーク５	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	45分
第34回	研究テーマ別レビューワーク６	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	45分
第35回	研究計画プレゼンテーション４	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。	45分
第36回	研究の実施４	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第37回	研究の実施５	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第38回	研究の実施６	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第39回	研究の実施７	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第40回	研究の実施８	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第41回	研究の実施９	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第42回	研究の実施１０	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第43回	研究の実施１１	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第44回	研究の実施１２	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第45回	中間プレゼンテーション２	実施した研究概要を発表する。	受講者相互に文献研究を行う。	45分
第46回	研究の実施１３	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第47回	研究の実施１４	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第48回	研究の実施１５	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第49回	研究の実施１６	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第50回	研究の実施１７	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第51回	研究の実施１８	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第52回	研究の実施１９	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第53回	研究の実施２０	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	45分
第54回	研究の評価	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。	45分

第55回	総合討論１	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	45分
第56回	総合討論２	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	45分
第57回	総合討論３	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	45分
第58回	総合討論４	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	45分
第59回	総合討論５	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	45分
第60回	総合評価	相互にプレゼンテーションを評価し、研究成果を総括する。	研究成果を批判的に吟味する。	45分

学習計画注記	※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	研究室で個別に対応します。
評価方法	研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	プレゼンテーション	○			○
	総合討論		○	○	

評価割合	プレゼンテーション60%、総合討論40%
使用教科書名(ISBN番号)	指定しない。
参考図書	指定しない。
参考URL	http://www.equator-network.org/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている 【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる 【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている 【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている
オフィスアワー	木曜日昼休み（G0101研究室）
学生へのメッセージ	研究活動を主体的に実施することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、人間の健康・運動・栄養に関する研究方法を教授します。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（斉藤）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤　恵美子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	栄養・食に関わる諸問題について研究テーマを設定し、研究計画を立てる。データを収集し分析を行い、結果をまとめ、発表会でプレゼンテーションを行う。これらのプロセスを通して、健康・栄養課題を解決するために必要な研究手法を習得させる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	研究テーマに関連した事項や手法を理解する。
思考・判断の観点（K）	研究を遂行するために必要な論理的思考力を習得する。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの関心事項に対して、主体的に解決手法を調べることができる。
技術・表現の観点（A）	研究結果を発表し、根拠に基づいたディスカッションをすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	この科目の概要、研究の取り組み方、進め方について理解する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第2回	研究テーマの設定	自分の探求したい課題を決定する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第3回	研究テーマの設定	自分の探求したい課題を決定する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第4回	研究テーマの設定	自分の探求したい課題を決定する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第5回	先行研究の	課題に関連した先行研究の文献・資料を収集・講読し、	適宜必要に応じて行う。	60分

	探索	研究テーマを絞り込む。		
第6回	先行研究の探索	課題に関連した先行研究の文献・資料を収集・講読し、研究テーマを絞り込む。	適宜必要に応じて行う。	60分
第7回	先行研究の探索	課題に関連した先行研究の文献・資料を収集・講読し、研究テーマを絞り込む。	適宜必要に応じて行う。	60分
第8回	先行研究の探索	課題に関連した先行研究の文献・資料を収集・講読し、研究テーマを絞り込む。	適宜必要に応じて行う。	60分
第9回	研究手法の検討	テーマに適した研究手法を検討し、データ収集の準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第10回	研究手法の検討	テーマに適した研究手法を検討し、データ収集の準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第11回	研究手法の検討	テーマに適した研究手法を検討し、データ収集の準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第12回	研究手法の検討	テーマに適した研究手法を検討し、データ収集の準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第13回	研究計画の作成	テーマの目的や方法、意義等の妥当性も考慮しながら、研究計画を作成する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第14回	研究計画の作成	テーマの目的や方法、意義等の妥当性も考慮しながら、研究計画を作成する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第15回	研究計画の作成	テーマの目的や方法、意義等の妥当性も考慮しながら、研究計画を作成する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第16回	研究計画の作成	テーマの目的や方法、意義等の妥当性も考慮しながら、研究計画を作成する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第17回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第18回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第19回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第20回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第21回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第22回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第23回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第24回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第25回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第26回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第27回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第28回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第29回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第30回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第31回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第32回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第33回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第34回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第35回	研究成果報告の準備	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第36回	研究成果報告の準備	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第37回	研究成果報	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を	適宜必要に応じて行う。	60分

	告の準備	行う。		
第38回	研究成果報告の準備	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第39回	研究成果報告の準備	プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第40回	研究成果報告の準備	プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第41回	研究成果報告の準備	プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第42回	研究成果報告の準備	プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第43回	発表会	研究成果の発表を行う。全体発表会で他の研究室の発表を聴講し、議論に参加する。	発表内容のおさらい	60分
第44回	発表会	研究成果の発表を行う。全体発表会で他の研究室の発表を聴講し、議論に参加する。	発表内容のおさらい	60分
第45回	発表会	研究成果の発表を行う。全体発表会で他の研究室の発表を聴講し、議論に参加する。	発表内容のおさらい	60分

学習計画注記	研究テーマによって、上記の内容・進行が変更になることがあります。またCOVID-19の状況によっても、内容・進行が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	都度、研究の方向・内容について助言指導を行う。
評価方法	卒業研究への取り組み姿勢、教員らとのディスカッションの内容、発表内容の完成度等を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ディスカッション	○	○	○	
	発表会				○

評価割合	取り組み姿勢・ディスカッション50%、発表会50%
使用教科書名(ISBN番号)	なし（研究テーマにより必要に応じて指示する）
参考図書	なし（研究テーマにより必要に応じて指示する）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・技能】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】学際的な学習を通じて、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】体型的学習を通じて、多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	水曜5時限　1503研究室
学生へのメッセージ	自ら積極的に取り組むことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務や臨床研究等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（城田）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田　直子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	管理栄養士として必要な知識・技術・姿勢などをもとに、社会ニーズの把握、実践力向上を目標に、学内外の実験や実習を通して研究レベルまで発展させる。各研究室への配属をもって、個々あるいはグループで実習（研究）テーマを設定し、実習（研究）成果に関する発表会を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	先行研究を調べ、それらの内容を理解できる。 自分の研究内容（目的、方法、結果、考察等）を理解し、研究計画～成果について説明できる。
思考・判断の観点（K）	常に物事に対して問題意識を持ち、様々な観点から物事を見ることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	研究に対して意欲を持ち、積極的に取り組む。
技術・表現の観点（A）	研究計画書を作成でき、研究の手法を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究テーマの決定	ディスカッションを行いながら、研究テーマおよび研究計画を決定する。	3年次で調査した先行研究に加え、現時点で改めて新しい先行研究について調べておく。	60分
第2回	研究計画書の作成①	研究計画書について理解する。	各自、研究計画書とはなにか調べておく。	120分
第3回	研究計画書の作成②	先行研究調査結果をふまえて研究計画書を作成する。	研究計画書の例を参考に、各自で研究計画書を作成する。	240分
第4回	研究計画書の作成③	研究計画書を完成させる。	担当教員や研究チーム内でディスカッションを行いながら研究	120分

			計画書を修正していく。	
第5回	研究倫理申請書の作成	研究倫理について復習し、各研究内容と照らし合わせて倫理審査書類を作成する。	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行いながら倫理審査書類を完成させる。	120分
第6回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第7回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第8回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第9回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第10回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第11回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第12回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第13回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第14回	学内での研究	学内において研究を実践する。必要に応じて担当教員および研究チーム内でディスカッションし、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨む。研究作業内容は速やかにまとめる。	60分
第15回	研究成果をまとめる	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行い、研究成果をまとめていく。	チーム内で協力しながら進める。	60分
第16回	研究成果をまとめる	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行い、研究成果をまとめていく。	チーム内で協力しながら進める。	60分
第17回	研究成果をまとめる	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行い、研究成果をまとめていく。	チーム内で協力しながら進める。	60分
第18回	研究成果をまとめる	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行い、研究成果をまとめていく。	チーム内で協力しながら進める。	60分
第19回	研究成果をまとめる	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行い、研究成果をまとめていく。	チーム内で協力しながら進める。	60分
第20回	発表会に向けての媒体作成	要旨集の原稿を作成する。	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行い、作業を進める。	120分
第21回	発表会に向けての媒体作成	要旨集の原稿を作成する。	担当教員および研究チーム内でディスカッションを行い，作業を進める。	120分
第22回	発表会に向けての媒体作成	要旨集の原稿を完成させる。	締め切りまでに提出する。	120分
第23回	発表会に向けての媒体作成	発表会用Powerpoint、発表原稿を作成する。	締め切りまでに仕上げられるよう、協力して作業を進める。	120分
第24回	発表会に向けての媒体	発表会用Powerpoint、発表原稿を作成する。	締め切りまでに仕上げられるよう、協力して作業を進める。	120分

	作成			
第25回	発表会に向けての媒体作成	発表会用Powerpoint、発表原稿を作成する。	締め切りまでに仕上げられるよう、協力して作業を進める。	120分
第26回	予演会①	ゼミで発表練習を行い、担当教員およびゼミ生でディスカッションを行い、媒体を改善する。	Powerpoint、原稿は改善し、完成させる。発表時間を厳守できるように練習する。	120分
第27回	予演会②	ゼミで発表練習を行い、担当教員およびゼミ生でディスカッションを行い、媒体を改善する。	Powerpoint、原稿は改善し、完成させる。発表時間を厳守できるように練習する。	120分
第28回	発表会①	研究成果を発表する。	発表準備は怠らないこと。	240分
第29回	発表会②	他の研究について聴講し、積極的にディスカッションに参加する。	要旨集は事前に目を通し、興味のある研究発表を調べておく。	60分
第30回	発表会③	他の研究について聴講し、積極的にディスカッションに参加する。	要旨集は事前に目を通し、興味のある研究発表を調べておく。	60分

学生へのフィードバック方法	研究計画書およびその他の提出物は添削し、返却する。必要に応じてグループワークやディスカッションを行い、理解度を深める適切な方法を取る。
評価方法	研究への取り組み、参加態度、成果物（研究計画書、研究進捗、研究成果、発表会の原稿等）、発表会を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	
	成果物	○	○	○	○
	発表会	○			○

評価割合	研究への取り組み、参加態度、成果物、発表会を総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	水曜3時限
学生へのメッセージ	研究テーマに対して、常に様々な視点から物事を見たり考えたりと、興味を持ってしっかり取り組みましょう。研究の楽しさを少しでも感じてほしいと思っています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士として給食管理、栄養管理、栄養食事指導の経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	研究計画書、倫理審査書類
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（田中千）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中　千晶	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	子どもから高齢者を対象に、ヒトの健康課題（生活習慣病など）を解決するための研究手法の基礎を学修する。研究の背景を熟考したうえで、研究テーマを設定する。研究テーマに沿った測定・調査を実施し、得られた研究成果を研究室や学科での発表会において発表を行う。更に、質疑応答を通してプレゼンテーション力を高めていく。なお、研究テーマによっては、研究の一部を外部機関との協働で実施する場合がある。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人の健康に影響を及ぼす課題に対し、適切な文献を用いて、その解決法を説明できる。
思考・判断の観点（K）	論理的・批判的な思考を基に、研究を実施する。
関心・意欲・態度の観点（V）	様々な年齢層の国内外の健康課題に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点（A）	測定・調査から得た結果について、他者へわかりやすく表現できるようになる。

学習計画

実践栄養プロデュース実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーションと研究内容の発表	研究実施に向けた、一年間の研究の進め方の確認	授業前に、研究実施に向けた、一年間の研究の進め方をまとめてくる。	45
第2回	研究の実施1	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第3回	研究の実施	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告	45

	2		する準備を行う。	
第4回	研究の実施3	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第5回	研究の実施4	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第6回	研究の実施5	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第7回	研究の実施6	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第8回	研究の実施7	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第9回	研究の実施8	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第10回	研究の実施9	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第11回	研究の実施10	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第12回	研究の実施11	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第13回	研究の実施12	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第14回	研究の実施13	研究計画に沿って研究を遂行する。	次回の授業で、進捗状況を報告する準備を行う。	45
第15回	研究室内での中間報告会	研究の進捗と今後の進め方の発表を行う。	授業内に、研究の進捗と今後の進め方の発表準備をしてくる。	45
第16回	研究室内での中間報告会のまとめ	中間報告会での指摘に基づき、修正した今後の研究の進め方について発表する。	授業内に、今後の進め方の発表準備をしてくる。	45
第17回	研究の実施14	研究テーマに関連する先行研究のまとめ。	授業前に、研究テーマに関連する先行研究を集約してくる。	45
第18回	統計解析1	研究結果の統計解析を実施する。	授業前に、先行研究を参考に、どのような統計手法を用いるべきか意見をまとめてくる。	45
第19回	統計解析2	研究結果の統計解析を実施する。	前回の授業を参考に、どのような統計手法を用いるべきか意見をまとめてくる。	45
第20回	統計解析3	研究結果の統計解析を実施する。	前回の授業を参考に、どのような統計手法を用いるべきか意見をまとめてくる。	45
第21回	研究結果の示し方	研究結果の作図の検討。	授業前に、先行研究を参考に、研究結果を作図する。	45
第22回	研究結果の考察1	研究結果の考察を行う。	授業前に、先行研究を用いた研究結果の考察を準備する。	45
第23回	研究結果の考察2	研究結果の考察を行う。	授業前に、先行研究を用いた研究結果の考察を準備する。	45
第24回	実践栄養プロデュース実習発表会の準備1	実践栄養プロデュース実習発表会での発表内容のスライド作成を行う。	授業前にスライドを用いた発表の準備をする。	45
第25回	実践栄養プロデュース実習発表会の準備1	実践栄養プロデュース実習発表会での発表内容のスライド作成と発表原稿を準備する。	授業前にスライドを用いた発表原稿の準備をする。	45
第26回	実践栄養プロデュース実習発表会の準備2	実践栄養プロデュース実習発表会での発表内容の口頭発表練習を行う。	授業後に、本授業で学んだ修正点を改善した、発表内容を作成する。	45
第27回	実践栄養プ	実践栄養プロデュース実習発表会の最終準備を行う。	授業後に、修正点を改善し、実	45

	ロデュース実習発表会の最終準備		践栄養プロデュース実習発表会の発表内容の最終準備を行う。	
第28回	実践栄養プロデュース実習発表会1	実践栄養プロデュース実習発表会にて、口頭発表を行う。もしくは、質疑応答を行う。	授業前に、実践栄養プロデュース実習発表会の準備をする。	45
第29回	実践栄養プロデュース実習発表会2	実践栄養プロデュース実習発表会にて、口頭発表を行う。もしくは、質疑応答を行う。	授業前に、前回の発表会を参考に、実践栄養プロデュース実習発表会の発表内容の手直しをする。	45
第30回	まとめ	実践栄養プロデュース実習発表会での発表を含む総評。	授業前に、実践栄養プロデュース実習発表会で学修したことをまとめてくること。	45

学習計画注記	学修の進度により、学習内容を調整します。
学生へのフィードバック方法	定期的にディスカッションし、研究テーマを探していきます。
評価方法	平常点（研究計画に対する主体的取り組み: 50%）、研究の要旨作成（10%）、研究室内および研究発表会でのプレゼンテーションと質疑応答（40%）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	研究の要旨作成	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	平常点（研究計画に対する主体的取り組み: 50%）、研究の要旨作成（10%）、研究室内および研究発表会でのプレゼンテーションと質疑応答（40%）から総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特に無し。
参考図書	特に無し。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人々の健康の維持・増進と社会および環境を関連付けながら「人間の健康・栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】 幅広い年齢層の健康に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度】 主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。 【技術・表現】 プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	水曜日と木曜日昼休みに実施しますので、研究室へお越しください。
学生へのメッセージ	実践健康プロデュース実習は、各自の関心事に基づいた、皆さんが主体となって学修できる科目です。研究の背景を熟考した上での、研究目的の設定を行います。将来、どのような進路に進まれても役立つ科目ですので、意欲を持って取り組んで下さい。研究テーマによっては、外部の研究者や学生の皆さんと接する場を提供したいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		国際機関Active Healthy Kids Global Allianceの日本の代表者として、子どもとその周囲の大人の健康増進に資する生活習慣、環境、政策の改善に取り組んでいる経験を生かす。
アクティブ・ラーニング		先行研究等を利用して、測定・調査によって得られたデータを考察する。
情報リテラシー教育		インターネットを用いた健康関連情報の検索
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習（腰本）4年生		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 腰本　さおり	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養に関連した研究手法や統計に関する基本的知識を習得し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	現象を科学的な手法で解析し、倫理的な思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として研究マインドを持ち、持続可能な社会のために自ら貢献できる。
技術・表現の観点（A）	食・栄養の社会問題の解決のために解決策を提案、発信できる。

学習計画

実践栄養プロデュース実習　授業計画表

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	研究の進め方	研究の進め方を学ぶ。研究とは何か、研究の目的、種類、手法、発表方法について全体像を理解する。文献検索方法を修得する。	【予習】自分が研究したいテーマの候補をまとめ、参考にする論文を読む。 【復習】自分の研究の進め方を検討し、参考となる論文をまとめる。	120分
第2回	多職種による栄養サポートの取り組み：外部	栄養サポートにおける管理栄養士の役割について、医師の視点を学ぶ	【予習】自分の研究に関連することで、外部講師へ質問する内容をまとめる。 【復習】自分の研究の手法を決	120分

	講師特別授業		定し、研究計画書の下書きをする。	
第3回	病院の見学	病院見学を実施し管理栄養士の役割を学ぶ。また研究対象となる疾病における栄養管理に関する文献について調査する。	【予習】関連する参考論文２報の概要を発表できるように準備する。 【復習】関連する先行研究と自分の研究の違い（新規性）を明確にしておく。	120分
第4回	研究テーマ	自分の研究テーマ、研究手法について発表し、ディスカッションする。	【予習】自分の研究計画の発表の準備をする。 【復習】ディスカッションから、自分の研究計画を練り直す。	120分
第5回	研究計画の立案	研究計画のディスカッションをする。	【予習】研究計画書をまとめる。 【復習】研究計画書を加筆修正する。	120分
第6回	研究計画書	研究計画書を完成させ発表する。	【予習】研究計画書をまとめ、ディスカッションの準備をする。 【復習】研究計画書の加筆修正をする。	120分
第7回	倫理審査の必要性	人を対象とした研究の倫理指針と倫理審査を理解する。守秘義務について理解する。	【予習】人を対象とする研究とは何かを予習する。 【復習】自分の研究が倫理審査の対象であれば審査の準備をする。	120分
第8回	統計手法（量的）	定量的（数値的）な研究の種類と手法について理解する。統計ソフトの使い方をマスターする。	【予習】どのような研究が量的研究なのか予習する。 【復習】自分の研究の量的な部分と、使用する統計手法をまとめておく。	120分
第9回	統計手法（質的）	質的（言語的表現）な研究の種類と手法について理解する。統計ソフトの使い方をマスターする。	【予習】どのような研究が質的研究なのか予習する。 【復習】自分の研究の質的な部分と、使用する統計手法をまとめておく。	120分
第10回	栄養相談の見学	栄養相談に陪席し、患者の栄養ニーズを確認する。	【予習】自分の研究を実施の準備をする。 【復習】データをまとめる。	120分
第11回	研究の実施（2）	研究を実施し、データをまとめる。	【予習】自分の研究を実施の準備をする。 【復習】データをまとめる。	120分
第12回	研究の実施（3）	研究を実施し、データをまとめる。	【予習】自分の研究を実施の準備をする。 【復習】データをまとめる。	120分
第13回	研究の実施（4）	研究を実施し、データをまとめる。	【予習】自分の研究を実施の準備をする。 【復習】データをまとめる。	120分
第14回	研究の実施（5）	研究を実施し、データをまとめる。	【予習】自分の研究を実施の準備をする。 【復習】中間発表の準備をする。	120分
第15回	多職種による栄養サポートの取り組み：外部講師特別授業	栄養サポートにおける管理栄養士の役割について、看護師の視点を学ぶ	【予習】自分の研究に関連することで、外部講師へ質問する内容をまとめる。 【復習】自分の研究の手法を決定し、研究計画書の下書きをする。	120分
第16回	中間発表	研究の中間発表からディスカッションを行う。	【予習】中間発表の準備をする。 【復習】ディスカッションから、論文の方向性を見直す。	120分
第17回	多職種による栄養サポートの取り組み：外部	栄養サポートにおける管理栄養士の役割について、臨床心理士の視点を学ぶ	【予習】自分の研究に関連することで、外部講師へ質問する内容をまとめる。 【復習】自分の研究の手法を決	120分

	講師特別授業		定し、研究計画書の下書きをする。	
第18回	結果の解析	結果の解析について発表、ディスカッションする。	【予習】結果を解析し、ディスカッションの準備をする。 【復習】ディスカッションから、解釈を見直す。	120分
第19回	論文作成（1）	研究の「テーマ」、「背景」、「目的」、「結果」についてディスカッションを行う。	【予習】論文のテーマ、背景、目的、結果をまとめ、ディスカッションの準備をする。 【復習】論文を修正する。	120分
第20回	論文作成（2）	研究の「テーマ」、「背景」、「目的」、「結果」についてディスカッションを行う。	【予習】論文のテーマ、背景、目的、結果をまとめ、ディスカッションの準備をする。 【復習】論文を修正する。	120分
第21回	論文作成（3）	研究の「考察」、「結論」についてディスカッションを行う。	【予習】論文の考察、結論をまとめ、ディスカッションの準備をする。 【復習】論文を修正する。	120分
第22回	論文作成（4）	研究の「考察」、「結論」についてディスカッションを行う。	【予習】論文の考察、結論をまとめ、ディスカッションの準備をする。 【復習】論文を修正する。	120分
第23回	発表要旨の作成（1）	発表会の要旨を作成する。	【予習】要旨を作成する。 【復習】要旨の加筆修正を行う。	120分
第24回	発表要旨の作成（2）	発表会の要旨を作成する。	発表会のスライドを作成する。	120分
第25回	発表スライドの作成（1）	発表会のスライドを作成する。	【予習】発表スライドを作成する。 【復習】スライドの加筆修正を行う。	120分
第26回	発表スライドの作成（2）	発表会のスライドを作成する。	【予習】発表スライドを作成する。 【復習】スライドの加筆修正を行う。	120分
第27回	発表の予行演習（1）	発表会の予行演習を行う。	【予習】予行演習の準備をする。 【復習】予行演習の練習をする。	120分
第28回	発表の予行演習（2）	発表会の予行演習を行う。	【予習】予行演習の準備をする。 【復習】発表会の練習をする。	120分
第29回	研究発表会	発表会	【予習】発表会の練習をする。 【復習】発表会の反省点、成長点を振り返る。	120分
第30回	まとめ	研究から学んだことを意見交換し、研究の必要性についてあらためて考える。	【予習】研究から学んだことをまとめる。 【復習】次の研究の計画をする。	120分

学習計画注記	とくに、がん緩和ケア、精神疾患、QOLの観点からの栄養サポートの研究手法について学習を進める予定です。
学生へのフィードバック方法	研究の進捗に応じて授業にて解説する。論文、要旨の提出物は確認し、都度返却する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○	○	○	○
	提出物（論文、要旨）	○	○		
	プレゼン（発表）			○	○

評価割合	平常点：20点，提出物（論文、要旨）：40点，プレゼン（発表）：40点
使用教科書名(ISBN番号)	適宜紹介します。
参考図書	適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	木曜日2時限
学生へのメッセージ	研究は一人で行うことはできません。調査に協力してくれる参加者、励まし合う仲間、助言をしてくれる仲間と指導者が必要です。ディスカッションからお互いに切磋琢磨して論文をまとめましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は実務経験があり，臨床研究における実践的な内容を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育	○	論文検索システムを利用する。
ICT活用	○	総計解析ソフトを利用する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	栄養・医学英語		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本　文子	指定なし
教授	斉藤　恵美子	指定なし

ナンバリング	H34003C12
授業概要(教育目的)	国際化が進む中、管理栄養士として仕事をしていく上で、栄養について英語で説明したり、また栄養指導を英語で行うことが今後ますます求められる。栄養・医学英語では、①栄養指導を行う場合や医療現場でよく使われる英語の用語や表現について学ぶ。②さらに、外国人対応をする際に押さえておくべき要点についても学ぶ。 尚、この科目は半期15週の授業の内、①を中心に前半の10週を橋本が、②を中心に後半の5週を斉藤が担当し、各担当の最終週にそれぞれ試験を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	食や健康に関する英語の文献を読んで情報を得ることで、食や健康に関して理解を深めることができる。 臨床現場・実社会で管理栄養士として専門対応するうえで、栄養・医学分野の基本的な英語を理解する。
思考・判断の観点（K）	食や健康に関して考える力を身につける。
関心・意欲・態度の観点（V）	食や健康に関して関心を持つ。
技術・表現の観点（A）	健康や食に関する英語の表現を知ることができる。 臨床現場・実社会において、多様な文化的・言語的背景をもったクライアントに対応するための基礎的な手法を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Introduction	授業の進め方について説明する。	Chapter 1 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第2回	Chapter 1:	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の	Readingの続き、Reading	60分

	Why do people love sweets? Vocabulary、Reading	練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	
第3回	Chapter 1 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Chapter 2 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第4回	Chapter 2: Do you have a "dessert stomach"? Vocabulary、Reading	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第5回	Chapter 2 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Chapter 3 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第6回	Chapter 3: Why is Japanese cuisine so popular? Vocabulary、Reading	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第7回	Chapter 3 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Quiz 1に答え、Chapter 4 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第8回	Chapter 4: Did you enjoy your school meals? Vocabulary、Reading	Dialogue 1に答え、Quiz 1の答え合わせを行う。Chapter 4のVocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第9回	Chapter 4 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	これまでの学習内容の総復習を行うこと。	180分
第10回	これまでの学習の総復習と確認を行う。その後、10週分の学習内容についての試験を行う。	これまでのまとめと試験	試験の内容についての確認	60分
第11回	臨床現場の英語　その１	病院等での医療用語や表現について学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第12回	臨床現場の英語　その２	病院等での医療用語および栄養指導や検査結果説明等に用いる表現を学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第13回	実臨床での外国人対応　その１	外国人対応の現状について学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第14回	実臨床での外国人対応　その２	外国人対応の基礎的な手法について学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第15回	実臨床での外国人対応　その３，後半のまとめ	外国人対応に必要な、多様な文化的背景について学ぶ。学習到達度の確認テスト。	事前学習：科目後半で学習した内容を復習しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分

学習計画注記	＊履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。 （斉藤）授業内で提示した課題に取り組み、解説を加える。
評価方法	前半10週については ・各自その日の授業についてあらかじめ予習してきた内容を確認しながら授業を進めます。 ・定期試験はVocabulary、Reading、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionから出題します。 後半5週については 15回目に行う筆記試験（後半5回分に関する内容）70%，授業中のディスカッションへの取り組み 30%

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内容の予習	○		○	
	定期試験	○			
	授業中のディスカッション	○	○	○	○
	筆記試験	○			

評価割合	（前半10週）定期試験70%、授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。 （後半5週：斉藤）授業中のディスカッションへの取り組み・プレゼンテーション（30%），筆記試験（70%）
使用教科書名(ISBN番号)	（前半10週）Living Well, Eating Well / Josh Norman 他/ Asahi Press （後半5週：斉藤）指定なし（授業中に資料配布）
参考図書	（後半5週：斉藤）授業内で提示します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として必要な食と健康に関するトピックを英文で読むことで、英語の文献から様々な情報や知識を得ることができる。 【知識・技能】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技能・表現】体型的学習を通じて、多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	（橋本）水曜日４時限　1610研究室 （斉藤）木曜昼休み　1503研究室
学生へのメッセージ	（橋本）授業で学んだことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習をしてきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。 （斉藤）英語のみにとらわれず、多様な文化的・言語的背景をもつ相手とのかかわり方を考える契機となることを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	（斉藤）担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務や臨床研究等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら教授する。
アクティブ・ラーニング	○	（斉藤）グループ・ディスカッションの実施
情報リテラシー教育	○	（斉藤）課題解決における情報探索に関する事項
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	実践栄養英会話（HA・HB）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク　ルイス	指定なし

ナンバリング	H34004C12
授業概要(教育目的)	Students will learn and practice basic conversation patterns for talking about health and nutrtion.
履修条件	None. (Communication English 1 and 2 recommended.)

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点（K）	Students will develop critical thinking skills to describe their ideas about health and nutrition and be able to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点（V）	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点（A）	Students will learn techniques to exprss their feelings more easily in English, and will gain confidence in their ability.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	Introduction	Introducing ourselves / Vitamin A	Perpare for class by reading p. 2-3; and p.34-35	60
第2回	Meals	Breakfast and dinner / Calcium	P. 4-5; 36-37	60
第3回	Family	Talk about your famiy members / Fiber	P. 6-7; 38-39	60
第4回	Free Time	Clubs and circles / Vitamin B1 and meat	P. 8-9; 40-41	60
第5回	Work	Where do you work? / The common cold vs. the flu	P.10-11; 42-43	60
第6回	Fashion	Going to a hair salon / Fermented food	P. 12-13; 44-45	60
第7回	Animals	Having a pet / Vitamin D	P. 14-15; 46-47	60

第8回	Going Out	Eating out with friends / Probiotics	P. 16-17; 48-49	60
第9回	Seasons	Your favorite season / Vitamin C	P.18-19; 50-51	60
第10回	Sightseeing	Going to Disneyland / Protein	P. 20-21; 52-53	60
第11回	At Home	Cooking and cleaning / Vitamin K	P. 22-23; 54-55	60
第12回	Money	Shopping and snacks / Healthy Teeth	P. 24-25; 56-57	60
第13回	Entertainment	The news and music and movies / Carbohydrates	P. 26-27; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare for final speaking test with a partner. Students choose health and nutrition topics to speak about. No notes or books during the test.	P. 2-59	120
第15回	Speaking Test	Speak in natural conversational English for 5 minutes with a partner.	P. 2-59	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores and feedback from weekly in-class writing and from discussion with the teacher.
評価方法	Quizzes are worth 14 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you have become while speaking about health and nutrtior topics.

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	Quizzes	○	○	○	○
	Speaking Test	○	○	○	○
	Participation	○	○	○	○
	Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 50%; Quizzes 30%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名(ISBN番号)	Say What You Like 3 (ISBN 978-4-9906347-4-2)
参考図書	A Japanese / English Dictionary
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】学際的な学習を通じて、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求することができる。 【関心・意欲・態度】社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	Monday 12:30 - 14:00
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習A		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし
教授	人間栄養学科　教員	指定なし

ナンバリング	H34005C12
授業概要(教育目的)	管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：坂野）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分

第4回	食べ物と健康（基礎食品）①	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第5回	食べ物と健康（応用食品）②	食べ物と健康（応用食品）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（応用食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第6回	食べ物と健康（食品衛生）③	食べ物と健康（食品衛生）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第7回	食べ物と健康（調理）④	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第8回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第9回	応用栄養①	応用栄養について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第10回	応用栄養②	応用栄養について学ぶ（担当：加藤）	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第11回	栄養教育①	栄養教育について学ぶ（担当：辻）	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第12回	栄養教育②	栄養教育について学ぶ（担当：酒井）	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第13回	臨床栄養①	臨床栄養について学ぶ（担当：斉藤）	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第14回	臨床栄養②	臨床栄養について学ぶ（担当：金澤）	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第15回	臨床栄養③	臨床栄養について学ぶ（担当：城田）	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第16回	公衆栄養	公衆栄養について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第17回	給食経営管理	給食経営管理について学ぶ（担当：吉野）	給食経営管理について関連分野の学びの復習をおこなう	90分

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、講義回数等が変則的になる。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	管理栄養士国家試験科目の中から100点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。6割以上点数が取れなければ不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）
使用教科書名(ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2） 及びその他教員配布のプリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験

の出題範囲は明確になっているので、学習するにあたりまずは各科目のポイントをきちんと整理することから始め、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習B		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし
教授	人間栄養学科　教員	指定なし

授業概要(教育目的)	食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（生化学）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

第4回	食べ物と健康①（基礎食品）	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第5回	食べ物と健康②（調理）	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第6回	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第8回	応用栄養学	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第9回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第10回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第11回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ（担当：斉藤）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第12回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第13回	臨床栄養学③	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	食物・栄養演習B及びCの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければBもCも不合格となる。 B・Cの出席日数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）
使用教科書名(ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2） 及びその他各教員の配布プリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習C		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし
教授	人間栄養学科　教員	指定なし

授業概要(教育目的)	食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（生化学）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

第4回	食べ物と健康①（基礎食品）	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第5回	食べ物と健康②（調理）	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第6回	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第8回	応用栄養学	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第9回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第10回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第11回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ（担当：斉藤）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第12回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第13回	臨床栄養学③	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	食物・栄養演習B及びCの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければBもCも不合格となる。 B・Cの出席日数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）
使用教科書名(ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2） 及びその他各教員の配布プリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習D		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし
教授	人間栄養学科　教員	指定なし

授業概要(教育目的)	食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで、管理栄養士としての総まとめとしての学びを深めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③（生化学）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

第4回	食べ物と健康①（基礎食品）	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第5回	食べ物と健康②（調理）	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第6回	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第8回	応用栄養学①	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第9回	応用栄養学②	応用栄養学について学ぶ（担当：加藤）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第10回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第11回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第12回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第13回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	食物・栄養演習D及びEの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければDもEも不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）
使用教科書名(ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2） 及びその他各教員配布のプリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。 管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を履修して単位を取得できることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習E		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤　良枝	指定なし
教授	人間栄養学科　教員	指定なし

授業概要(教育目的)	食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで、管理栄養士としての総まとめとしての学びを深めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点（K）	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ（担当：田中（千））	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③（生化学）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：坂野）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

第4回	食べ物と健康①（基礎食品）	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第5回	食べ物と健康②（調理）	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第6回	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第8回	応用栄養学①	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第9回	応用栄養学②	応用栄養学について学ぶ（担当：加藤）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第10回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ（担当：辻）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第11回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第12回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第13回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野）	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	食物・栄養演習D及びEの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければDもEも不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）
使用教科書名(ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2） 及びその他各教員配布のプリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。 管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を履修して単位を取得できることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	海外専門研修（栄養学）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　理津子	指定なし
教授	田中　弘之	指定なし

ナンバリング	H15001C13
授業概要(教育目的)	世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力などを持った国際社会で活躍できる管理栄養士を育成する。さらに高年次以降本格化する専門分野の学びの動機づけ、視野の広がりを獲得することを目指す。
履修条件	定員に対し、応募者多数の場合は抽選を行います。 実地研修がある場合には、参加にあたり以下の条件を満たしていることが必須です。 〇履修登録をしている。 〇事前指導①～③を全て受講している。 〇必要経費を納入している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	日本の食文化、日本の健康増進にかかわる社会制度、栄養管理の国際的動向、国際貢献について基礎的な知識を理解している。
思考・判断の観点（K）	これまでに学習した基礎的な知識・技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点（V）	・管理栄養士制度の仕組みや活動、海外の当地の健康事情・健康課題とその背景である人々の生活状況、食料生産、食文化を学びながら、国際的な視野を身につけようとしている。 ・人間栄養に対する興味関心を高め、情報収集するなど、主体的な学習態度を身につけようとしている。
技術・表現の観点（A）	目標達成に向けた企画立案、マネジメント、コミュニケーションを実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	研修の目的および内容、日程を理解する。 グループ別研修の準備をする。	予習：シラバスを読む。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。グループ別研修の資料を収集する。	60分

第2回	海外事情を知る	イタリア人講師への質問を考える。	予習：イタリアの情報を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第3回	海外事情を知る	外部講師からからイタリア語を学ぶ。 ①イタリア語を話してみよう ②イタリア人講師に質問してみよう	予習：質問の内容を考える。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第4回	海外事情を知る	イタリア在住の日本人（卒業生）への質問を考える。	予習：イタリアの情報を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第5回	海外事情を知る	イタリアで活躍する卒業生から学ぶ。 ①イタリアの現状 ②イタリアでの暮らし（食文化・気候・制度など） ③これまでの人生経験 ④学生時代に学んでおくべきこと	予習：資料を読む。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第6回	グループ学習①	グループごとのテーマに関する情報を収集する。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第7回	グループ学習②	グループごとのテーマに関する情報を収集する。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第8回	グループ学習③	グループごとに収集した情報を整理する。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第9回	グループ学習④	グループごとに収集した情報をまとめる。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第10回	グループ学習⑤	第9回の内容をもとに発表用の媒体を作成する。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第11回	グループ学習⑥	第9回の内容をもとに発表用の媒体を作成する。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第12回	グループ学習⑦	発表のリハーサルを行う。	予習：スライドの見直しと修正をし、発表原稿を覚える。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第13回	グループ学習⑧	学習した内容を発表する。	予習：スライドの見直しと修正をし、発表原稿を覚える。 復習：学習内容を学習記録にまとめる。	60分
第14回	まとめ①	学習した内容をまとめ、報告書を作成する。	予習：実地研修の記録をワークシートにまとめる。 復習：報告会のリハーサルを行う。	120分
第15回	まとめ②	報告書の内容を発表する。	予習：報告会の発表練習をする。 復習：実地研修の記録をワークシートにまとめる。	60分

学習計画注記	授業の進行状況によって内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがって提出物等に記入したものを、その都度確認し、返却する。
評価方法	提出物40%、平常点30%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。 ※提出物：理解度、正確性、丁寧さ ※平常点：研修態度（原則、全ての日程に出席することとします） ※プレゼンテーション：表現力
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物	○	○	○	○

	平常点			○	
	プレゼンテーション		○	○	○

評価割合	提出物40%、平常点30%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	適宜紹介する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して思考できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	田中：火曜日昼休み（1607） 加藤：月曜日2限（1B05）
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者（田中）は、厚生労働省で国際会議に参加している。
アクティブ・ラーニング	○	学生は、各自が収集した情報をもとに、班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。
情報リテラシー教育	○	得られた成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。
ICT活用	○	発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。

ウインドウを閉じる

CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	キャリアデザイン活動		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 會退　友美	指定なし
教授	酒井　治子	指定なし
教授	江川　賢一	指定なし

ナンバリング	H15002C13
授業概要(教育目的)	管理栄養士としてのキャリアデザインの重要性について講義する。キャリアをデザインするための知識と関心を持ち、学生自らがキャリアをデザインすることを目標とする。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	人間、食物、地域・環境の相互関係を説明できる。管理栄養士業務に多職種連携が必要であり、地域の社会資源を活用できることを説明できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士としてのキャリアプランを立案するための意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	はじめに	管理栄養士のキャリアの実例からキャリアデザインについて説明する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第2回	管理栄養士のキャリアデザイン	専門職としてのキャリアデザインの重要性について説明する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第3回	管理栄養士に関係する	キャリアコースに関わる職業と管理栄養士との関係を理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分

	職業			
第4回	管理栄養士と社会とのつながり	管理栄養士が利用可能な社会資源を理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第5回	キャリアデザインを考える①	自己分析を通じて自分のキャリアをデザインする。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第6回	キャリアデザインを考える②	自分自身の将来像を想定して自分のキャリアをデザインする。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第7回	キャリアデザインを考える③	自分のキャリアデザインの実現に必要な行動目標を考える。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第8回	管理栄養士のキャリア	現代社会における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第9回	管理栄養士のキャリア（フードサービス）	フードサービスにおける管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第10回	管理栄養士のキャリア（食育・地域栄養ケア）	食育・地域栄養ケアにおける管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第11回	管理栄養士のキャリア（臨床栄養）	臨床栄養における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第12回	管理栄養士のキャリア（スポーツ栄養）	スポーツ栄養における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第13回	自らのキャリア形成に向けて：多職種連携	キャリア形成に必要な多職種連携について理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第14回	自らのキャリア形成に向けて：社会資源の活用	キャリア形成に必要な社会資源の活用について理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第15回	まとめ・評価	全体のまとめ・評価を行う。	学修事項をまとめ、記録する。	120分

学習計画注記	一方的な講義にならないよう、講義中にディスカッションを行う。
学生へのフィードバック方法	担当教員のオフィスアワーで対応する。
評価方法	平常点と課題の内容により評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点			○	
	課題	○		○	

評価割合	平常点（20%）、課題評価（80%）
使用教科書名(ISBN番号)	使用しない。
参考URL	https://www.dietitian.or.jp/career/

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
オフィスアワー	（酒井）火曜日　５限　地域栄養教育（酒井）研究室 （江川）木曜日昼休み　G0101研究室 （會退）未定
学生へのメッセージ	講義での理論と実社会での様々な活動に触れながら、自ら課題を発見し、その解決方法を探求することを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（會退）は保育所、担当教員（酒井）は消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に従事した経験をふまえて、栄養教育の実践と評価関連のキャリアコースについて教授する。担当教員（江川）は民間企業の研究機関に従事した経験を踏まえて、健康増進関連のキャリアコースについて教授する。
アクティブ・ラーニング	○	人々の生活のニーズを考え、食物の生産から消費まで実体験を基に学習する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

資　格　科　目

シラバス参照

講義名	教師論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	Y10001M21
授業概要(教育目的)	教職の意義、教員の役割（資質能力）、教員の職務内容、そして、チーム学校の意義について論じる。歴史に即して教師とはどんな職業だったのかを説明し、教育現場の実際に即して教師の仕事を紹介し、教師の使命と服務規律、最後に、チーム学校の一員としての教師の今日的な要請を論じる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１，教師とは何かに関する基礎知識を修得する。 ２，他の教育職との違いを理解する。
思考・判断の観点（K）	１，教師とは何かの理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２，子どもを理解し、尊重する教職の独自の役割を理解しようとする。 ３．教育現場において起きている問題を、教師論のテーマに結びつけて、生かそうとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育現場に起きている問題を、教師論のテーマにそくして理解しようとする態度を形成する。
技術・表現の観点（A）	教育現場において起きている問題を教師論で講じた課題に結びつけて考え、自分の意見を発表できる。

学習計画

教師論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	この授業の概要・目的　教師とは何か	配付資料の担当箇所を読んで、併せて、第2回以降の手掛かりとするために「自身がなぜ教職課程を履修しようと考えたのか」を考え、KGノートを作成する。	180分
第2回	学校・教師	学校というもの、教師というものの特徴を意識して考え	配付資料の担当箇所を読んで、	180分

	というものの特徴	てみる。	KGノートを作成する。	
第3回	「学校の教師」の特徴	塾や習い事の先生と「学校の教師」のちがいについて考えることを手掛かりに、学校というものの・学校の教師というものの特徴を深く考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第4回	学校の教師の仕事を考える　「授業づくり」とは	「授業」をするために教師はどんな準備をしているのだろうか。この準備だけで授業は成り立つものであろうか。「授業づくり」に教師はどう臨んでいるかを履修学生と考える	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第5回	学校の教師の仕事を考える　「学級づくり」とは	授業が成り立つ大切な要素に、授業を通じた学習に臨む子どもたちの様子がある。学習が学級といったまとまり＝関係性を介して共に学んだり考えたりする営みであることを振り返り、このための「学級づくり」の大切さについて考える	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第6回	学校の教師の仕事について考える成長・発達・思春期に向き合う	子どもは、自立心が芽生えたり、様々なことに葛藤を覚えたりと、心身共に成長・発達を迎える。これに向き合う難しさと大切さを考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第7回	学校の教師の仕事について考える「生活指導」とは	成長・発達・思春期の難しさの中には「問題行動」とされる行為に臨んでしまう子どもとの向き合い方がある。「子どもの「問題行動」に向き合う」ことの特質について、特に大人との違いや成長・発達という特質を踏まえて考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第8回	学校の教師の仕事について考える「学校づくり」（チーム学校）とは	これまで学習してきた教師の重要な仕事を、教師は教師たち同士で協力することで乗り越えてきた。この取り組み＝組織的であり非意図的な取組みについて考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第9回	歴史的存在としての教師　「教育勅語・大日本帝国憲法」と教師	教育、そして教師は子どもの成長発達や学習を促すことを仕事としてきた。ただし、これらをいわば日の当たる面ととらえるのであれば、なにもこういうことばかりではなかった。これを歴史、特に「教育勅語・大日本帝国憲法」のもとの教育（特に教化）を取り上げ考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第10回	歴史的存在としての教師　「教育基本法・日本国憲法」と教師	前時の授業をもとに戦前の教育のなにが問題にされたのかを振り返り、これを戦後教育改革は制度的・実践的にどう乗り越えようとしたのかについて、特に権利として教育が位置づくことの意義について考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第11回	歴史的存在としての教師　子どもの権利保障と教師	前時の内容を受けて、教育が政治の波にどうもまれてきたかを視野に入れながら、国際的には子どもの権利保障のための取り組みが進められてきたことを扱い、特に「最善の利益」や「意見表明」の意義について考える	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第12回	教師をめぐる今日的課題　いじめ・不登校・暴力問題	「いじめ・不登校・暴力」の問題を考える。その際、「生活指導」の時間で学んだことを踏まえ、こういった問題の背景に意識を届かせ、目を配る重要さについて考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第13回	教師をめぐる今日的課題　「学力」問題	「学力（の低下）」が言われて久しいが、この問題の背景には、階層間格差問題や貧困問題が隠されている。このことを理解したうえで、「学力」問題への取り組みのあり方について考える。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第14回	教師をめぐる今日的課題　教師の勤務と身分保障	子どもの成長発達や学習の権利の保障のための条件整備として教師の勤務や身分保障のあるべき姿を、内容面・制度面等から多角的に考える	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第15回	この授業のまとめ	この授業で扱ったテーマが他の教職課程科目にどうつながっていくか話し、いまいちど「自身がなぜ教職課程を履修しようと考えたのか」を考えてもらう。	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開するが、議論・質疑応答も当然大切にしたい。
学生へのフィードバック方法	学生には、KGノート（家庭学習ノート）を自宅で作成するように指導する。講義でとったノートを再度、自宅で読み直し、テキストを読み込んで、あらためて、KGノートを作成すること。復習をかねて、知識の習得を確実なものにするためのもの、このKGノートの点検を時々に行う。
評価方法	定期試験とKGノート（家庭学習ノート）の総合評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	KGノート	○		○	

評価割合	KGノート1割、定期試験9割による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年（ISBN-13:978-4623059263）
参考図書	講義の中で、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、人間社会の豊かな知識と理解ができる 思考・判断、あるべき人間都教育の姿を追究できる 関心と表現、学習で得た知識を持って、他者と共感して、問題解決に向かうことができる
学生へのメッセージ	教師論は、自分の被教育体験をいかに考えるか、が重要になってくる。つまり、皆さん方が、どのような学校体験を積んできたのか、その経験を振り返ることである。 しかもこの振り返りは、批判的に振り返ることが重要になる。批判的に、とはどのようなことなのか、そのこと自体も、じっくり考えていただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育原理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	Y20002M21
授業概要(教育目的)	教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史および思想、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教育が人間固有の営みであり、人間にとって必要不可欠であり、社会文化国家によって異なる歴史と思想によって形成されてきたことを理解できる。
思考・判断の観点（K）	現代教育問題の本質にあるものを見つめられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教員になるための最も基本的な科目である。常に「教育とは何か」という問題意識を持って受講している。
技術・表現の観点（A）	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢を持てる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育が人間にとって持つ意味（１）	人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。	授業前後に教科書pp.1-16を読んでおくこと。	120分
第2回	人間は教育をどのように捉えてきたか	「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を学ぶ。	授業前後に教科書pp.16-42とレジュメの第2回の部分を読んでおくこと。	180分
第3回	＜子ども＞の発見	西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教	授業前後に教科書pp.43－54とレジュメの第3回の部分ををよ	180分

		育史の導入とし、西洋近代における教育思想：コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想等を学ぶ。	く読んでおくこと。	
第4回	近代日本に影響を与えた西洋教育思想	ペスタロッチ―、フレーベル、デューイの教育思想の概要を学ぶ。	授業前後に、教科書pp.54-59とレジュメの第4回の部分をよく読んでおくこと。	180分
第5回	近世以前の教育と近世の教育	近世以前に存在した教育機関大学寮、足利学校等でどのような教育が行われていたのかをスライドを見ながら学ぶ。江戸時代についても、藩校郷校等の教育機関で行われていた教育内容について学ぶ。藩校等の映像を見ながら学ぶ。（第1回小テスト）	西洋教育史に関する小テストを実施する。授業後に、教科書pp.61-65とレジュメの第5回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第6回	近世の教育思想	中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を学ぶ。	授業前後に、教科書pp.65-67とレジュメの第6回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第7回	近代日本公教育制度の成立と展開	明治維新以降、近代日本公教育制度成立期の制度として、学制と教育令について学ぶ。	授業前後に、教科書pp.67-71とレジュメの第7回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第8回	近代日本公教育制度の成立と展開	教育令が改正、再改正を経て、小学校令が初代文部大臣森有礼によって公布されるに至る過程、森有礼の教育政策と教育勅語の公布について学ぶ。	授業前後に、教科書pp.71-74とレジュメの第9回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第9回	子どもの権利条約	子どもの権利条約成立の契機となったコルチャック神父の思想について学び、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。	近代以前の日本の教育史について第2回目の小テストを実施する。設問は25問程度。授業前後に、教科書pp.243-257と第5回～第9回のレジュメを良く読んでおくこと。	240分
第10回	教科書の歴史	近代日本の教科書の歴史、現代的課題を学ぶ。	今回の部分は教科書に詳述されていないので、レジュメを良く読んでおくこと。	180分
第11回	大正自由教育運動	大正自由教育運動でどのような教育主張が展開されたかを学ぶ。「主体的で対話的な深い学び」が重要視される今日、大正期にも同じような傾向が見られたことを現代と対照しながら学ぶ。	授業前後に教科書pp.75-77、pp.174-181と第11回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第12回	授業をつくる	授業のデザインの仕方、教材とは何か、学習指導案の書き方を学ぶ。教育実習時や将来教員になる時のことを想定してしっかり学ぶこと。	授業前後に、教科書pp.157-173と第12回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第13回	学力とは何か	学力をめぐる考え方、論争等を示しながら、学力とは何か、どのように評価できるかについて理解を深める。	授業前後に、教科書pp.91-107と第13回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第14回	生涯学習	生涯学習社会がどのように形成され、現代社会にどのような役割を果たしているか、何が求められているかを概説する。	第2回テストの返却。 授業前後に、教科書pp.209-242と第14回のレジュメを良く読んでおくこと。	120分
第15回	現代日本の教育課題	いじめや不登校等の教育問題がなぜ生じたのかを考えながら、それらの問題を解決するために教育に何が求められているかを考える。学生に発言を求める。	授業前後に、教科書pp.259-281と第15回のレジュメを良く読んでおくこと。期末レポートはこの授業内に提出すること。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小テスト（2回）の採点後の返却。模範解答も同時に配布する。リアクションペーパーへの応答。
評価方法	・小テストは、基本的知識の定着と理解度を測るために行う。第1回は西洋教育史について15問程度、第2回は日本教育史について25問程度行う。すべて穴埋め方式で出題する。なお、特別な事情と申し出が無い限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・期末レポートのテーマは、「教育とは何か、貴女の考えを述べなさい」（2000字以上）である。本講義を通して学んだことを理解した上で、自分の考えや経験をもとに、自分の考えを自分の言葉で論じることを求めている。引用の多いレポートや説明だけでは、本課題に取り組んだと言う評価は与えられないので、注意すること。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	第1回小テスト	○			
	第2回小テスト	○			

	期末レポート		○		○
	リアクション・ペーパー			○	○

評価割合	小テスト（2回）30%、平常点20%、最終レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	田嶋一ほか『やさしい教育原理　改訂版』有斐閣（978-4-641-22081-2）
参考図書	・古沢常雄・米田俊彦『教育史』学文社　2009年、 ・高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版会　2014年、 ・ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書　1961年 ・松沢哲郎『想像する力　チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店　2011年、 ・コメニウス著　井ノ口淳三 訳『世界図絵』平凡社ライブラリ　1995年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	水曜日3限（要アポイントメントにより時間調整を行う。）
学生へのメッセージ	「教員とは何か」について常に問題意識を持って日常生活を送り、受講してください。考える材料は、身近に沢山あります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：常時、学生へ質問し発言を求める、対話的な授業形式を取る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育原理		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	Y20002C21
授業概要(教育目的)	１，教育とは何か、を論じる。人間とは何かを論じ、教育の意義を明らかにする。次に、発達とは何かを論じ、発達に応じた教育の意義を論じる。 ２、学校とは何かを論じる。学校の誕生を説き、次に、近代学校の成立を明らかにする。 3、日本の教育の歴史を論じる。「学制」「教育勅語」「植民地教育」「戦後教育改革」「高度経済成長と教育」そして、「グルーバリゼーションの教育」を論じる。 ４、教育の重要な思想を論じる。近代教育思想の子どもの権利思想を論じる。次に発展途上国の教育思想を論じ、最後に、日本の教育遺産としてある生活綴方教育思想を論じる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１，教育の基本原理を理解する。 ２，自分の被教育体験に結びつけて、教育原理の課題を理解する。
思考・判断の観点（K）	１，教育現場に実際に起きている問題に結びつけて理解し、判断できるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	１，教育現場に起きている問題と自分自身の被教育体験とを結びつけ、考える意欲を形成出来るようにする。
技術・表現の観点（A）	１，教育現場において起きている問題を理解し、自分の意見を発表することができる。

学習計画

教育原理

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	教育とは何か	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第2回	教育の基本概念ー教育とは何か	人間と教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分

第3回	教育の基本概念ー発達とは何か	発達と教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第4回	教育の基本概念ー学校とは何か	学校の誕生	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第5回	教育の基本概念ー近代学校とは何か	近代学校の成立	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第6回	教育の歴史ー近代日本と「学制」	学制	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第7回	教育の歴史ー教育勅語	天皇制と教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第8回	教育の歴史ー植民地と教育	アジアと日本の教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第9回	教育の歴史ー戦後教育改革	平和と民主主義と基本的人権	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第10回	教育の歴史ー高度経済成長と教育	経済と教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第11回	教育の歴史ーグローバリゼーションと教育	現代日本の教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第12回	教育の思想ールソーの教育思想	子どもの権利	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第13回	教育の思想ー石川啄木、島崎藤村など	教師の自由	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第14回	教育の思想ーフレイレの課題発見型学習	発展途上国の教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第15回	教育の思想ー生活綴り方教育	生活と教育の結合	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第16回				
第17回				

学習計画注記	講義が中心であるが、質疑応答も重視する。
学生へのフィードバック方法	学生には、KGノート（家庭学習ノート）の作成を指示している。講義ノートを自宅で再度、学習する際に、配付資料やテキストを写し、知識の習得を確実にするためである。KGノートを点検する。
評価方法	KGノートと定期試験の総合評価
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○	○	
	KGノート	○		○	

評価割合	KGノート1割、試験9割、の総合評価

使用教科書名(ISBN番号)	汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年（ISBN-13:978-4623059263）
参考図書	講義の中で、適宜、紹介する。さしあたり 広田 照幸・塩崎 美穂編著『教育原理保育実践への教育学的アプローチ』樹村房、2010年（SBN-13:978-4883671519）
ディプロマポリシーとの関連	知識、理解、人間社会の豊かな知識と理解ができる。 思考、判断、あるべき人間と教育の姿を追求できる 関心と表現、学習で得た知識を持って、他者と共感して、問題解決に向かうことが出来る
学生へのメッセージ	教育学は、実際にある、教育の現場の困難を解決するためにあるものだ。教育の困難とはどのようなものか、そのことをまずはイメージしてほしい。基礎知識を暗記して安心する、ということではない。現場の教育問題の困難を解決するために学ぶのだ、ということである。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育心理学		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y10003M21
授業概要(教育目的)	教育心理学は、歴史的には、心理学の教育への応用から始まったが、近年では、「人と環境の相互作用から人間形成を解明しつつ、教育における諸問題の解決に必要な知識や技術を体系化する目的を持つもの」という捉え方をすることが多い。この過程で避けて通れないのは、人間形成はいかにあるべきかという問題である。教育心理学は、自らの教育観や人間観を見つめ直し、教育の目的や内容の妥当性を問い直し、よりよい教育の実現に、教職志望者の立場から貢献できる人材を育むための授業を行い、特に、実践的能力の涵養をはかる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．教育心理学の理論を理解する。 ２．教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点（K）	１．教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。 ３．教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション―心理学と教育、人の発達の関わり―	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分

第2回	発達と教育１――発達課題と身体的発達――	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。	180分
第3回	発達と教育２――運動機能の発達と発達の普遍性と可変性―― 発達と教育３――脳と神経の発達――	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。 発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	発達と教育４――自我の発達――	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	発達と教育５――自我の防衛機制――	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	発達と教育６――社会性の発達――	社会性の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	発達と教育７――認知の発達――	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	学習を支えるメカニズム１――動機づけ――	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	学習を支えるメカニズム２――記憶――	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	学習を支えるメカニズム３――自己効力感――	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	学習に関する理論１――条件づけ――	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	学習に関する理論２――観察学習と技能学習、教育における評価――	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるか考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	障害と教育1――「障害のある子ども」とは――	障害とは何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	障害と教育2――合理的配慮――	合理的配慮とその背景にある考え方、実際の取り入れられ方を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	総括――教育心理学の理論の実践への応用――	教育心理学の理論から、教育現場や子どもを取り巻く社会の中での課題を考え、どのように実践につなげるのかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	予習と復習については、授業時に指示する。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。

	その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	１．授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 ２．コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験と授業への意欲、態度を総合的に評価する。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 自己チェック、ふりかえりのいずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己チェック	○		○	
	ふりかえり	○	○	○	○
	最終試験	○	○		

評価割合	最終試験50%、授業への意欲・態度50%
使用教科書名(ISBN番号)	原則としてgoogle classroomを通して資料を配布します。
参考図書	お勧めの参考書としては以下があります。教科書ではありません。 『教育心理学』丸善出版　￥2,700　　ISBN　978-4621086360 その他参考資料は講義の際に適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	前期：月曜日のお昼休み、3限、5限（町田キャンパス1633室） 後期：月曜日のお昼休み、4限（町田キャンパス1633室） 上記以外は原則として千代田三番町キャンパス。
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。 教職必修 質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.acjp メール送信の際には★を@に変更してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

シラバス参照

講義名	教育制度論（中・高・栄）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	Y20005M21
授業概要(教育目的)	なぜ、公教育制度が制定されるようになったのか。教育関連の制度が時代によってどのように変遷してきたのか、教育制度が現代教育問題とどのような関係があるのかについて、憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法等の基本的な教育法規をもとに概説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	憲法、教育基本法、学校教育法、児童福祉法等主な教育関連法について基本的な知識を有している。
思考・判断の観点（K）	教育制度の成立過程や存在意義について考え、現状を判断する材料を有している。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来教員となるために教育制度に関して知り、活用しようとする意欲がある。
技術・表現の観点（A）	法律を遵守し、また法律を守るように生徒を指導できる教育力・伝える力・表現力を持つ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育制度を学ぶことの意味	人間社会にとって教育制度とは何か、について学ぶ。	本授業で教科書について説明を行う。授業後に、pp.1-17を読んでおくこと。	120分
第2回	教育法のしくみ	教育関連法のしくみと相互関係を特に憲法と教育基本法について学ぶ。	授業前後に教科書pp.18－38を良く読み、授業後に配布したレジュメを良く読むこと。	180分
第3回	子どもの学習権	子どもの権利、人権、学習権についてその権利を法律でどのように保証しているかを学ぶ。	授業前後に教科書pp.163-183を良く読み、配布資料とワークシートも授業後に良く読んでおくこと。	180分

第4回	教職員の制度	教員はどのように法によって身分保障され、どのような権利と義務が課せられているのかを学ぶ。	授業後にワークシートをよく復習し、授業前後に教科書教科書pp.58-68を良く読んでおくこと。	180分
第5回	教員の研修	教員養成・研修に関する制度について概説する。このような制度がつくられた背景についても説明する。	授業後に教科書pp.80－94を良く読んでおくこと。授業内で配布したワークシートを良く復習すること。	180分
第6回	学校教育法と義務教育	学校教育法に定められた学校の定義と義務教育の理念について学ぶ。	授業前後に教科書pp.102-125を良く読んでおくこと。	180分
第7回	教育委員会の制度	教育委員会の組織と職務および地域との関わりについて、概説する。	授業前後に教科書pp.68-79を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	180分
第8回	教育行政制度の歴史	教育委員会制度の歴史と現状の課題について新聞記事等を用いて概説する。	この部分は、教科書には無いので、授業後に配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。	120分
第9回	教科書制度	教科書制度の歴史と現状の問題点、教科書制度の国際比較を行い、教科書制度についての理解を深める。	授業前後に教科書pp.95－101を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	180分
第10回	義務教育と教育機会の均等	義務教育における教育機会の均等を定めた法制度と無償性の関係についてと現代社会における状況を概説する。	授業前後に教科書pp.102-106,pp.180-183を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。30問程度の中間テストを実施するので、前回までに配布したワークシートを良く復習しておくこと。	240分
第11回	生涯学習	生涯学習が何故現代社会に必要なのか、生涯学習制度はどのように成立したのかを学ぶ。 この部分は、教科書全体に関わる部分でもある。	教科書pp.24-38を良く読んでおくこと。配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。	120分
第12回	幼児教育と子育て支援	現代社会は、男女共同参画社会であることを踏まえて、夫婦が働きながら子育てをできる社会になるための子育て支援の法制度を学ぶ。	教科書pp.126－143を授業前後に良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	120分
第13回	学校の安全管理	学校保健安全法に基づく学校における健康保持と安全、災害時の学校の対応等について学ぶ。災害が多い今日、どのような法律によって教育現場が運営維持されているかを知ることの重要性を理解する。	この部分は、教科書には無いので、配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと	180分
第14回	教師の教育権について	アクティブラーニング：学校教員に教育権はあるか、あるとすればどのような権利かをグループディスカッションして、グループ毎に発表する。	参考文献にあげた図書をよく読んでくること。	120分
第15回	教育制度論を学び考えたこと	全体の授業での学びを振り返る。	教育制度論で学んだ子どもの学習権、学校教育制度、教員の権利義務、保護者の義務等をきちんと振り返り、期末テストに備える。	240分
第16回	期末テスト		テストに備えて予習・復習をしておく。	240分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	中間テストは模範解答と共に返却する。
評価方法	・30問程度の中間テストを1回実施する。 ・期末テストは、中間テストの設問中25問程度を含む50問である。 ・授業中に制度についての知識理解について随時質問を発する。教員の質問に対する応答も関心・意欲・態度の評価に含める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
中間テスト	○			
期末テスト	○	○		
授業態度・リアクションペーパー			○	

評価割合	受講態度２０％、試験５０％、中間テスト（３０％）で総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	小玉 敏也 （編著）,鈴木 敏正 （編著）,降旗 信一 （編著）『持続可能な未来のための教育制度論 （「ＥＳＤでひらく未来」シリーズ）』学文社 2018年 ISBN：978-4-7620-2764-2
参考図書	①ピーター・L・バーガー著 薗田稔訳『聖なる天蓋』新曜社 1995年 ②市川須美子編『教育小六法 平成30年版』学陽書房 2019年 ③兼子仁著『教育権の理論』勁草書房 1976年 ④堀尾輝久著『いま、教育基本法を読む』岩波書店 2003年 ⑤河田敦子著『近代日本地方教育行政制度の形成過程』風間書房 2011年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる
オフィスアワー	火曜日 午後15：00～16：30（アポイントメントを取り、調整すること）
学生へのメッセージ	教育法規、教育制度に関する話が主になります。現代の自分たちの生活や教育現場と制度がどのように結び付いているかを、新聞やテレビの情報と共に考えながら受講してください。教育法制度の理論と内容をしっかり身に付けることは、教員採用試験でも教育現場でも役に立ちます。授業内容を積極的に吸収するようにしてください。 教職必修です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、毎時学生に発言を求め、対話形式で行う。第14回では、グループディスカッション、プレゼンを行う。
情報リテラシー教育	○	資料として新聞記事を多く用いる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育制度論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	６限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	Y20005C21
授業概要(教育目的)	授業では講義により、次のことの学習を目標とする。人間の成長・発達の権利を保障することを意義・原理とする教育関連法規・条約の学習を通じ、教育の法的・制度的仕組みに関する基礎知識を学習する。そして、学校と地域の連携や学校安全について学習する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１，教育制度は、教育の実際を規定することを理解する。 ２，教育制度の歴史を踏まえ、教育の理念、目的を正確に理解し、その規定要因を理解する。
思考・判断の観点（K）	１，教育現場の実際を理解し、教育制度による規定要因を判断出来るようにする。
関心・意欲・態度の観点（V）	１，教育現場に生ずる問題を、教育制度との関連で考える関心を深め、意欲的に学習する態度を形成する。
技術・表現の観点（A）	１，教育問題を教育制度との関連で考え、自分の意見を発表できる。

学習計画

教育制度論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション 学校事故・学校安全と学校の法的責任	学校事故・学校安全と学校の法的責任について考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第2回	子どもの権利の特徴（1）—体	体罰はなぜ禁止されなくてはならないのか。このことを子どもの権利の原理・特質に照らして考える	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分

	罰の禁止・子どもの権利条約から考える			
第3回	子どもの権利の特徴（2）―基本的人権としての教育をうける権利	「教育をうける権利」（日本国憲法第26条）を読み、この条文で保障される権利について深く考える。義務教育の性質について考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第4回	学校教育における子どもの権利保障の課題（1）	日本国憲法で保障がうたわれている基本的人権の中での「教育をうける権利」の位置づけについて、具体的な判例を通じて考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第5回	学校教育における子どもの権利保障の課題（2）	日本国憲法第26条の「能力に応じて等しく」というところの解釈について、インクルーシブ教育の考え方に基づきながら、具体的な判例を通じて考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第6回	学校教育における子どもの権利保障の課題（3）	具体的な判例を通じて、教育基本法でなぜ「人格の完成」や「不当な支配の禁止」が位置づけられなくてはならなかったのかを考える。大日本帝国憲法と教育勅語に基づいた戦前の教育について考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第7回	学校教育における子どもの権利保障の課題（4）	具体的な判例を通じて、教員の採用・身分・処分・研修について学び、その意義とあり方について考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第8回	学校教育における子どもの権利保障の課題（5）	具体的な判例に基づき、学習指導要領の法的性質と教師の教育の自由について考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第9回	学校教育における子どもの権利保障の課題（6）	「家永教科書裁判」を通じて、ここで争われた権利と権限（教科書制度における文部科学省や教育委員会の権限）について考える。併せて、文部科学省や教育委員会の働きについて考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第10回	いじめと学校の法的責任（個人情報と情報公開の法制を含む）	具体的な判例を通じ、いじめ事件における学校の法的責任について考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第11回	子どもの権利条約と子どもの権利	子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）を読み、この中で保障がうたわれている権利について理解し、この権利を具体的に保障していくための取り組みについて理解する。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第12回	社会教育・生涯教育の法制度	社会教育・生涯教育の意義やありかたについて考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第13回	教育制度の今日的課題（1）	「開かれた学校づくり」「コミュニティ・スクール」制度の課題について考える	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第14回	教育制度の今日的課題（2）	子どもの権利保障と「校則」問題について考える。特に「三者協議会」といった実践の動向についても考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第15回	この授業のまとめ	子どもの命、成長と発達を保障するための法や制度の意義とあり方について今一度考え、今後の学習へのつながりを考える。	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分

学習計画注記	講義が中心だが、質疑応答を重視する。
学生へのフィードバック方法	KGノート（家庭学習ノート）の作成を指示する。講義で作成されたノートを、自宅で、再度、書き直して行う。テキストや資料の文章をもう一度、ノートに写して、知識の定着を図る。そのための点検を時々行う。

評価方法	定期試験とKGノートの、総合評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		
	KGノート	○		○	

評価割合	KGノートと定期試験の総合評価。
使用教科書名(ISBN番号)	勝野正章他編『教育小六法（2022年度版）』学陽書房、2022年（ISBN-13:978-4313011984）
参考図書	汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年（ISBN-13:978-4623059263） 他、講義の中で、適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、豊かな知識を得ることができる 思考・判断力、あるべき人間と教育の姿を追究し，判断することができる
学生へのメッセージ	歴史的な説明が大変をしめる講義になる。教育には歴史があるのだ、という当たり前の事実を、まずは、知ってほしい。近代的な学校はいつからスタートしたのか、なぜ、学校は生まれたのか、民衆は学校をどのように受け入れたのか、等々、である。近代日本には、4つの大きな戦争を経験してきた。実は、教育制度は、この戦争と密接な関連をもっていた。こうした事実に、関心を示せる力量をみにつけてほしい。今後の教育の困難な課題に向きあうためには、ぜひ必要な力量となることを、想像して、勉強にどん欲に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育課程論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期後半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y20006M11
授業概要(教育目的)	学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程（カリキュラム）や教育課程経営（カリキュラムマネジメント）をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領ついての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１　教育課程の意義が理解できる。 ２　教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解できる。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

教育課程論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１　ガイダンス、教育課程とカリキュラムの類型	教育課程とカリキュラムの類型を理解する。	教科書の第１章（ｐ８～１６）と第２章（ｐ１８～２２）を読んでおくこと。	１２０分
第2回	2　教育課程に関する	教育課程に関する法制及び行政、教科書検定制度を理解する。	教科書の第２章（ｐ２２～２７）と第３章（ｐ３０～３８）	１２０分

	法制及び行政		を読んでおくこと。	
第3回	３　近代日本の教育課程	明治期や大正自由教育、国民学校を理解する。	教科書の第４章（ｐ４０～４８）を読んでおくこと。	１２０分
第4回	４　現代日本の教育課程、昭和編	戦後の経験主義、現代化とゆとり教育を理解する。	教科書の第５章（ｐ５０～５８）を読んでおくこと。	１２０分
第5回	5　現代日本の教育課程、平成編	ゆとり教育と生きる力を理解する。	教科書の第６章（ｐ６０～６８）を読んでおくこと。	１２０分
第6回	6 学習指導要領の改訂	学習指導要領（中学校編、高等学校編）の解説を学び、詳細を理解する。 新学習指導要領が工夫した点と課題を理解する。	教科書の第７章（ｐ７０～７７）を読んでおくこと。 レポート（新学習指導要領が工夫した点と課題）の作成。	１８０分
第7回	７　教育課程の評価とカリキュラムマネジメント	教育課程の評価、カリキュラムマネジメントを理解する。	教科書の第９章（ｐ９４～１０５）と第１０章（ｐ１０８～１１７）を読んでおくこと。	２１０分
第8回	８　カリキュラムマネジメントと反省的実践家の事例	ＰＤＣＡマネジメントサイクルによるカリキュラム・マネジメントと反省的実践家の実践事例	特色ある小学校等の実践事例を調べておく。	１２０分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。
評価方法	試験は、１００点満点で出題する。コロナの感染状況に応じて、レポートとする。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、最新の教育課題または学習指導案を作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験	○			
	レポート		○		
	ノート	○			
	積極的な参加態度			○	

評価割合	試験　70%、平常点　30%で評価する。 試験：基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。 平常点　：授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等
使用教科書名(ISBN番号)	齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『新版教育課程論ーカリキュラムマネジメント入門ー』大学図書出版　2021年(978-4-909655-51-6)
参考図書	『学習指導要領中学校編』、『学習指導要領高等学校編』文部科学省
ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
オフィスアワー	授業の前後、授業の教室　または　１６２８研究室
学生へのメッセージ	教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育課程論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	担当教員は、中学校・小学校において教員、教務主任としての実務経験を有している。学習指導要領に基づいた

した授業		教科指導や教育課程の編成・運用に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田　早苗	指定なし

ナンバリング	Y21101M21
授業概要(教育目的)	中学校・高等学校の家庭科を担当するために必要な基礎知識（家庭科の歴史、教科目標、内容、意義、評価等）について学び、中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を考慮した教育法や題材の選び方を検討し、家庭科についての理解を深めることを目的とする。それらをふまえ、学習指導案の作成および検討、模擬授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・中学校・高等学校の家庭科の目標や内容、学習方法、評価等について理解することができる。 ・中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を理解した上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点（K）	・学習指導案の検討や模擬授業の際に、受講生同士で良い部分や改善点を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	・家庭科の効果的な学習方法について、進んで考えることができる。
技術・表現の観点（A）	・生活に関して調べたことを自分なりに工夫してまとめ、発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、家庭科とは	家庭科とはどのような教科なのか、自分達が学んできた家庭科を振り返りながら考える。	家庭科の教科書に目を通し、家庭科の内容についておさえる。	180分
第2回	家庭科教育の理念、歴史的変遷	家庭科教育が歩んできた道のりを振り返り、家庭科教育で求められていること、何をねらいとしているのかを考える。	学習指導要領解説の総説を読み、改訂の経緯や趣旨・要点をおさえておく。	180分
第3回	家庭科の学習内容(1)家庭・家族	家庭・家族に関する内容について授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。	教科書および学習指導要領解説の家庭・家族に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分

第4回	家庭科の学習内容(2)衣生活	衣生活の基礎基本事項をおさえる。	教科書および学習指導要領解説の衣生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第5回	家庭科の学習内容(3)食生活	食生活の基礎基本事項をおさえて授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。	教科書および学習指導要領解説の食生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第6回	家庭科の学習内容(4)住生活	住生活の基礎基本事項をおさえる。	教科書および学習指導要領解説の住生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第7回	家庭科の学習内容(5)環境	環境に配慮した生活について、授業で実施できるアクティブ・ラーニングを取り入れて考える。	教科書および学習指導要領解説の環境に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第8回	家庭科の学習内容(6)消費生活	消費生活について、生徒が主体的に考えるような授業方法を考えていく。	教科書および学習指導要領解説の消費生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第9回	家庭科の評価と年間指導計画、学習指導案の作成方法	家庭科の評価の観点、家庭科の授業計画の立て方、家庭科の学習指導案の作成方法について扱う。	授業で取り上げた内容を確認し、授業計画を立てる上でのポイントを整理しておく。模擬授業で取り扱いたい内容を考えて、学習指導案を作成するための資料を集める。	180分
第10回	学習指導案の作成(1)家庭科の教科目標	家庭科の目標について考える。グループで家庭科の学習指導案を作成する。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	180分
第11回	学習指導案の作成(2)授業の展開	授業を展開する方法について考える。グループで家庭科の学習指導案を作成する。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	180分
第12回	学習指導案の検討	作成した学習指導案について意見交換を行う。	配布プリントの作成。模擬授業の準備・練習をする。	180分
第13回	模擬授業（1）	模擬授業を行い、学習指導案の改善点を考える。	模擬授業担当班は授業の準備・練習をする。学習指導案を見直し、意見交換でもらったアドバイスを参考にして修正する。	180分
第14回	模擬授業（2）	模擬授業を行い、学習指導案を改善する。	模擬授業担当班は授業の準備・練習をする。学習指導案を見直し、意見交換でもらったアドバイスを参考にして修正する。	180分
第15回	学習指導案の改善、総括	模擬授業後に見直し、修正した学習指導案をもとに意見交換を行い、学習指導案を改善する。	学習指導案を見直し、意見交換でもらったアドバイスを参考にして修正する。これまでの授業内容を復習する。	180分

学習計画注記	受講人数や授業の進捗によりスケジュールを変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出物に対しては内容を吟味して授業内で解説します。
評価方法	学期末レポート（グループで作成した学習指導案に個人で修正を施したもの、および省察）、授業内提出物、小レポート（レジュメ原稿および発表）、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート（学習指導案、省察）	○	○	○	○
	授業内提出物	○	○	○	○
	小レポート	○		○	○
	平常点（授業への参加状況）			○	

評価割合	レポート：40% 授業内提出物：40% 小レポート：10% 平常点：10%
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省「高等学校学習指導要領解説　家庭編」（教育図書）978-4-87730-419-5 令和4年度用 高等学校家庭科教科書 「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍）
参考図書	文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」（開隆堂）978-4-304-02154-1
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。 【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。
学生へのメッセージ	普段から生活に関することに興味・関心を持ち、授業で扱った内容との関連性を考えるようにしてください。授業では受け身にならないよう、積極的に参加・発言するよう心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形　美緒	指定なし
教授	上村　協子	指定なし
准教授	竹中　真紀子	指定なし

ナンバリング	Y21101C21
授業概要(教育目的)	小学校・中学校・高等学校での家庭科の教科としての位置づけ、学習指導要領における家庭科の目標と指導内容の現状および歴史的経緯を概説する。また、生活を工夫し創造する態度を育成する家庭科教育の意義を学生に修得させることを目的とし、学習指導案の作成方法、指導計画や指導方法の基本、分野ごとの教材研究方法について解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学習指導要領の歴史的変遷、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と家庭科教員としてもとめられる事柄を説明できる。
思考・判断の観点（K）	自身の生活における課題発見、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善というプロセスに沿って適切に判断・行動できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	社会の諸問題について関心を持ち続け、生活者の視点に立ち持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	グループ発表やノートへの記入において重要な事項を適切に表現することができる。

学習計画

家庭科教育法A

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書について確認する。これまで自分が受けてきた家庭科の授業を振り返り、これからの学びをイメージする。	予習として、自身の中学校・高等学校での家庭科の学びについて、教科書等を読み直し振り返っておくこと。授業後に、本時	180分

			のポイント等をノートにまとめておくこと。	
第2回	家庭科とは、学習指導要領とは	家庭科教育の歴史や科目構成、学習指導要領などについて学ぶ。	授業後に、ノートに授業のポイントをまとめ直し、配布プリント等の内容を復習しておくこと。	180分
第3回	家庭科における食生活領域の学び	家庭科の各科目における食生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における食生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書（高等学校　家庭総合）の食生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第4回	先輩教員からの話	本学で学び、家庭科教員になった卒業生による講義を聞き、教員採用への道のりや教育現場の様子について理解を深める。	講義の中で重要と思ったことや自分の将来への展望などをまとめておくこと。	180分
第5回	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び	家庭科の各科目における家庭経済・消費者領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における当該領域の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の衣生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第6回	家庭科と家庭科教員の役割	小・中・高の家庭科での学習について、また改訂などにより家庭科に求められるものがどのように変化してきたのかについて学ぶ。担当教員の実際の学校での授業経験などから、家庭科教員としての自分の目指す教員像を思い描く。	学習指導要領の改訂について、配布プリント等の内容を復習すること。家庭科教員となったらどのような授業をしていきたいか、学習指導案作成までに考えをふくらませておくこと。	180分
第7回	家族・家庭・福祉領域の学び	家庭科の各科目における家族・家庭・福祉領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における当該領域の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の家族・家庭・福祉の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第8回	家庭科における衣生活の学び	家庭科の各科目における衣生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における衣生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の住生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第9回	家庭科における住生活の学び	家庭科の各科目における住生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における住生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の住生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第10回	年間指導計画、学習指導案の作成方法	家庭科教育の年間指導計画の立て方と学習指導案の作成方法について学ぶ。	家庭科教育の年間指導計画の立て方と学習指導案の作成方法について復習する。	180分
第11回	学習指導案の作成	グループごとに学習指導案とワークシートを作成し、次週以降の発表に向けて準備する。	次週以降の発表に向けて不足した準備を補っておくこと。	180分
第12回	学習指導案グループ発表1	対面授業のグループは、作成した学習指導案およびワークシートについて発表する。	発表を聞いて重要と思ったことなどをまとめておくこと。	180分
第13回	学習指導案グループ発表2	対面授業のグループは、作成した学習指導案およびワークシートについて発表する。	発表を聞いて重要と思ったことなどをまとめておくこと。	180分
第14回	4年生学生から教育実習体験を聞く	教育実習が終了した4年生の学生から実習体験を聞き、理解を深める。	実習体験の話のポイントをまとめておくこと。	180分
第15回	全体振り返り	これまでの学習内容を振り返る。	授業後には、期末試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進み具合や、特別授業の講師の都合等によりスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	グループ発表の際には、その場でフィードバックを行う。
評価方法	課題やノートの内容を評価する。 定期試験では、主に学習指導要領の理解に関する出題を行う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	グループ発表	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	平常・課題点：40%、アースノート：20%、定期試験：40%
使用教科書名(ISBN番号)	(1)学習指導要領解説（高等学校　家庭）／文部科学省（978-4877304195） (2)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0）
参考図書	学習指導要領解説（中学校　技術・家庭）／文部科学省（978-4-304-02154-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	上村：火曜4限 竹中：月曜昼休み時間～3限
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用や授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。面接授業では、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	班活動等を通して他の受講生に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田　早苗	指定なし

ナンバリング	Y21102M21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法Aの内容を踏まえて、様々な学習方法や指導する際の手がかりについて検討する。学習指導案の作成および模擬授業を行い、意見交換等を通して授業実践力を身につけ、中学校・高等学校の家庭科についてさらに理解を深めることを目的としている。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	中学校・高等学校の家庭科について理解を深めた上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点（K）	受講生同士で模擬授業を検討し、より良いものに改善することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	家庭科を指導する際に必要な知識と技術を進んで身につけることができる。
技術・表現の観点（A）	学習者にとって意義のある教材・教具を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	家庭科教育法Aの授業を振り返り、模擬授業の担当領域を決める。	家庭科教育法Aで行ったことを復習しておく。模擬授業で取り扱いたい内容を考えて学習指導案を作成する準備をする。	180分
第2回	学習指導案、教具・教材の作成方法	家庭科の様々な学習方法、教具教材の意義について知る。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	180分
第3回	衣生活実習(1)基礎縫い	基礎縫いを復習し、指導上の留意点を考える。	教科書で基礎縫いについて確認しておく。	180分
第4回	衣生活実習	簡単な小物製作を通して製作実習の指導上の留意点を考	基礎的な裁縫技能を確認してお	180分

	(2)作品製作	える。	く。	
第5回	衣生活実習 (3)作品製作および製作実習振り返り	簡単な小物製作を通して製作実習の指導上の留意点を考える。	製作実習を振り返り、製作についてまとめる。	180分
第6回	模擬授業 (1)家庭・家族	家庭・家族に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第7回	模擬授業 (2)保育	保育に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第8回	模擬授業 (3)高齢者、福祉、共生	高齢者、福祉、共生に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第9回	模擬授業 (4)食生活	食生活に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第10回	模擬授業 (5)衣生活	衣生活に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第11回	模擬授業 (6)住生活	住生活に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第12回	模擬授業 (7)環境	環境に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第13回	模擬授業 (8)経済生活・消費者	経済生活・消費者に関する内容をどのように教えたらよいのか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第14回	学習指導案の検討、修正、総括	意見交換でもらったアドバイスをもとに学習指導案の改善を行う。	学習指導案、配布プリントの修正・改善を行う。これまでの授業内容を復習する。	180分

学習計画注記	受講人数や授業の進捗によりスケジュールを変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出物に対しては内容を吟味して授業内で解説する。学習指導案には個別にコメントします。
評価方法	学期末レポート（学習指導案、教材、省察）、模擬授業、授業内提出物、作品製作についてのまとめ、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	学期末レポート	○	○	○	○
	模擬授業	○	○	○	○
	授業内提出物	○	○	○	○
	作品製作	○		○	○
	平常点			○	

評価割合	レポート（学習指導案、教材、省察）：40% 模擬授業：15% 授業内提出物：25% 作品製作について：5% 平常点：15%

使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省「高等学校学習指導要領解説　家庭編」（教育図書）978-4-87730-419-5 令和4年度用 高等学校家庭科教科書「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍）
参考図書	文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」（開隆堂）978-4-304-02154-1
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。 【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。
学生へのメッセージ	普段から生活に関することに興味・関心を持ち、家庭科の授業でどのようにいかすことができるかを考えるようにしてください。 第3～5回では基礎縫い・布小物製作を行います。以下のものを各自で用意してください。 ・裁縫用具（針・糸・糸切りばさみ） ・ボタン１～２個（２つ穴あるいは４つ穴ボタン。大きさは自由。） ・布小物製作の材料 詳しくは、初回授業にて説明します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村　協子	指定なし
准教授	竹中　真紀子	指定なし
非常勤講師	花形　美緒	指定なし

ナンバリング	Y21102C21
授業概要(教育目的)	「家族・家庭」、「衣食住の生活」、「消費と環境」等、家庭科教育の基礎的な内容を踏まえ、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業の実施という一連の流れを通して、学生同士が評価し合いながら実践力を高める授業の運営を目指す。以上の体験的な学習活動を通して、「生活の営みに係る見方・考え方」を養う家庭科教員に必要とされる資質を学生に体得させることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家政学と家庭科教育の歴史的変遷、家庭科教員として求められるカリキュラムマネジメントについて説明できる。
思考・判断の観点（K）	自身の生活における課題発見、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善というプロセスに沿って適切に判断・行動できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	成年年齢18歳引き下げを踏まえて、男女が協力して主体的に家庭を築き相互に支え合う社会の構築に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする態度や主体的に地域社会と関わり、参画することができる。
技術・表現の観点（A）	小・中・高等学校家庭科の系統性を明確化し「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」の三つの枠組みに整理し家庭科の授業を構成することができる。

学習計画

家庭科教育法B

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法などについて確認する。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。	180分

第2回	家庭科の教材研究	家庭科の授業を計画する際に、教科書や資料集以外に日常生活の中から教材として用いることができるものについて考察する。実際に身の回りのものに目を向け、模擬授業に使用できるかどうか検討する。	次時以降の模擬授業において、導入部分あるいは展開部分で使用できそうな教材や見本を、日常生活の中から探して持参できるように準備すること。	180分
第3回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （１）家族	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第4回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （２）子ども	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第5回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （３）高齢者	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第6回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （４）食生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第7回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （５）衣生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第8回	家庭科の授業と学び	これまでの5回の模擬授業を通して、「生徒に伝わる家庭科の授業」の在り方について考察し、次回以降の模擬授業に活かす姿勢を養う。	授業後に、ノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	
第9回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （６）衣生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第10回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （７）消費行動	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第11回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （８）持続可能な社会環境	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第12回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 （９）ライフステージと経済計画	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第13回	模擬授業の振り返り・考察	これまでの全ての模擬授業を振り返り、領域ごとに最も優れていた模擬授業を選び、考察する。	授業後に、ノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第14回	模擬授業の記録	前時に選ばれた模擬授業の担当者は再度授業を実施し、それを次年度以降の教材とするために動画として記録する。	授業後に、ノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分

第15回	全体まとめ	これまでの授業全体を振り返り、領域ごとの授業のポイントを確認し、学習指導案とも対応させて理解を定着させる。	授業全体をよく振り返り、定期試験に向けて準備を行うこと。	180分

学習計画注記	授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	模擬授業についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。
評価方法	模擬授業については、内容や発表態度を評価する。また、課題やノートを提出させ評価する。定期試験では、学習指導案に関する出題を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	模擬授業	○	○	○	○
	アースノート	○			○
	定期試験	○			

評価割合	平常点50%、模擬授業20%、期末テスト30%
使用教科書名(ISBN番号)	(1)学習指導要領解説（高等学校　家庭）／文部科学省（978-4877304195） (2)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	上村：火曜4限（1805ゼミ室） 竹中：火曜3-4限（1203研究室）
学生へのメッセージ	初めて一人で授業を作り、模擬授業を実践することになります。他の受講生の模擬授業にも参加することで多くのことを学び取ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形　美緒	指定なし

ナンバリング	Y31103M21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法Ａ，Ｂで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容について確認する。家庭科の授業づくりでは教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践力を高める。
履修条件	家庭科教育法A・Bを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学習指導要領の改訂に伴う、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と意義、家庭科の授業内容について総合的な知識を持ち、家庭科教員として求められる事柄を説明できる。
思考・判断の観点（K）	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心をもち、社会に貢献したいという態度を持って、生活者として持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	模擬授業や相互評価を通して、教育者として求められるコミュニケーション能力や豊かな表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書等について確認する。家庭科教育法A・Bの履修を通して学んだことを振り返り、家庭科教育法C・Dでどのように発展させるか、家庭科教員として自分自身の目指す教員像を思い描く。	予習として、自分自身の中学・高校時代での家庭科の学びについて振り返っておくこと。家庭科教育法A・Bで学んだ内容についても振り返っておくこと。	180
第2回	家庭科教育の目標と内容、授業形	改訂された家庭科の科目構成や学習指導要領について学び、授業計画の作成方法などについて理解する。	授業後に、授業のポイントを自分の言葉でまとめ、年間授業計画について授業で作成したものを見直しておくこと。	180

	態、授業計画			
第3回	家庭科教育の意義、指導方法	家庭科教育の意義について、家庭科に求められるものはどのように変化してきたのかを学ぶ。さらに家庭科教員としての指導方法について、担当教員の実際の学校での授業経験から考察する。	学習指導要領の改訂についてプリント等を整理しまとめること。自分自身がどのような家庭科の授業をしたいか、模擬授業の指導案作成時までに考えておくこと。	180
第4回	家庭科における家族・家庭及び福祉領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における家族・家庭及び福祉領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第5回	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における家庭経済・消費者領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第6回	家庭科における食生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における食生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第7回	家庭科における衣生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における衣生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第8回	家庭科における住生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における住生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第9回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（１）家族・家庭及び福祉領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第10回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（２）家庭経済・消費者領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第11回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（３）食生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第12回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（４）衣生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第13回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（５）住生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第14回	教育実習報告会	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験授業（主に研究授業について）を、司会進行を分担しながら聴講す	授業後に、先輩の教育実習についての報告のポイントや感想を	180

		る。教育実習や教育現場での授業について理解を深める。	まとめておくこと。	
第15回	学習指導案・模擬授業の考察および総括	授業で作成した学習指導案と、実際に行った模擬授業を振り返り、改善点を修正する。	修正した箇所をポイントごとにまとめ、後期の授業や教育実習につなげられるようにしておくこと。	180

学生へのフィードバック方法	模擬授業については、内容や授業の進め方などその都度評価し改善を要する点を伝えるなどしフィードバックを行う。
評価方法	模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、行われた模擬授業に対してのコメント内容も評価する。講義授業からはどのようなことを学んだか、各自まとめた内容を評価する。期末試験では他に学習指導案の作成についての出題を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	模擬授業	○	○	○	○
	模擬授業への考察・相互評価	○	○	○	○
	期末試験	○	○		

評価割合	模擬授業（指導案作成）の発表と質疑応答・・・40% 模擬授業への考察、相互評価･･･20% 定期試験･･･40%
使用教科書名(ISBN番号)	中学校 技術･家庭科学習指導要領解説 高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編 家庭総合 パートナーシップでつくる未来（実教出版）
ディプロマポリシーとの関連	「知識・理解」家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。 「思考・判断」課題に対して、多種な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。 「関心・意欲・態度」生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。 「技能・表現」教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。
学生へのメッセージ	家庭科教育法Ａ・Ｂの学習指導案、模擬授業での省察を見直して授業計画に合わせた授業を再構築し、また他の単元での授業構成について教材研究を進めておきましょう。 家庭科教育法A・Bで使用した教科書と今回指定の教科書の内容比較などを行うことがあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	家庭科教員としての経験を基に、年間授業計画や授業展開、評価方法などについて具体的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業指導案及び模擬授業を作り上げること、他の受講生の模擬授業に対しての相互評価を行うことによって、互いに家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科や生活への関心を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ICTを利用した学校教育の取り組みが増加していることなど、変わる教育現場に対応できるよう、ICTを効果的に活用した授業を検討する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮川　有希	指定なし
教授	上村　協子	指定なし

ナンバリング	Y31103C21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法A、Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容の確認をする。教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法を学び、模擬授業を通して家庭科の授業をつくる実践力を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭科教育法A、Bで学習した知識を深め、教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法をより実践的に理解する。
思考・判断の観点（K）	
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	小・中・高等学校家庭科では「家族・家庭生活」，「衣食住の生活」，「消費生活と環境」の三つの枠組みで系統だて高校ではホームプロジェクトや学校家庭クラブで社会貢献するよう指導する能力を養う。

学習計画

家庭科教育法C

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書の確認。専用ノート（アースノート）の使い方を確認。家庭科A・Bの授業を振り返り、教育実習や教員となる様子をイメージする。年間指導計画及び学習指導案作成についての確認を行う。	家庭科教育法A・Bで学んだ内容について振り返り、アースノートにまとめておくこと。	180分
第2回	家庭科における主体	家庭科における学習目標を確認し、主体的、対話的で深い学びについて協働学習を中心とした授業について考え	予習として学習指導要領の総説を理解しておくこと。授業後	180分

	的、対話的で深い学び	る。併せて、探究課題や実習の位置づけについて理解する。	に、アースノートに授業のポイントをまとめ直し、復習しておくこと。	
第3回	家庭科における持続可能な社会につながる学び(1)	家庭科教育とSDGsとの関わりを授業実践例を通して考える。SDGｓの主旨を理解し、持続可能な社会のために多様な視点を大切にした問題解決的な学習、実践的・体験的な学習、アクティブラーニングなどについて学ぶ	予習として、海外との関わりがあると思われる新聞記事をスクラップしておくこと。復習として、SDGｓの視点を取り入れて新聞記事をまとめておくこと	180分
第4回	家庭科における持続可能な社会につながる学び(2)	家庭科教育とSDGsとの関わりを授業実践例を通して考える。SDGｓの主旨を理解し、持続可能な社会のために多様な視点を大切にした問題解決的な学習、実践的・体験的な学習、アクティブラーニングなどについて学ぶ	予習として、前回の内容が国内との関わりにつながってくると思われる新聞記事をスクラップしておくこと。復習として、SDGｓの視点を取り入れて新聞記事をまとめておくこと	180分
第5回	家庭科における持続可能な社会につながる学びと授業計画	ここまでの授業を基に授業計画の作成とその評価について、学ぶ。年間シラバスにおける目標を明確にし、その評価方法を確認するとともに、各授業作成のための目標及び評価の観点を明確にする。	予習としてSDGｓの内容について確認しておく。授業後は、それらをもとに授業を計画し、授業目標を達成するために必要な教材研究を行う。	180分
第6回	家庭科授業に関する教材研究・指導案作り(1)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。	予習として指導案の書き方及び、教材研究の方法について調べておく。復習として、授業案作成のための教材研究を行う。	180分
第7回	家庭科授業に関する教材研究・指導案作り(2)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。	予習として指導案の書き方及び、教材研究の方法について調べておく。復習として、授業案作成のための教材研究を行う。	180分
第8回	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(1)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。その経過及び結果を発表する。	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。	180分
第9回	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(2)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。その経過及び結果を発表する。	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。	180分
第10回	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(3)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。その経過及び結果を発表する。	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。	180分
第11回	家庭科授業に関する教材研究と指導案の発表(4)	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業研究をグループで行い、学習指導案を作成する。その経過及び結果を発表する。	予習として教材研究を行い、指導案を作成する。復習として、発表された指導案についてまとめておく。	180分
第12回	4年生の教育実習体験を聞いて学ぶ	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験報告会について各チームで役割を担い、先輩との情報交換を行い教育実習や教育現場での授業について理解を深める。	授業後に、アースノートに先輩教員の講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第13回	領域横断型や教科横断型授業について	これまでの学習内容を基に、領域や教科を横断した授業についてマッピングなどから考える	予習としてこれまでの学習内容を整理しておく。授業後アースノートに講義のポイントや感想をまとめておく。	180分
第14回	まとめ	これまでの学習指導全体についてのまとめ及び学習内容の共有を行い、授業の理解の定着を図る。	予習としてこれまでの学習内容を整理しておく。授業後アースノートに講義のポイントや感想をまとめておく。	180分
第15回	確認テストと全体のまとめ	家庭科の学習指導の特質や特徴的な指導法等について理解する。授業実践例を通して、一斉指導、小集団学習、個別学習におけるアクティブラーニングについて学ぶ。併せて、日常生活に結び付ける視点から生活文化についても扱う。 教育評価の意義と目的及びその方法を確認する。年間シラバスにおける目標を明確にし、その評価方法を確認す	学習内容を確認、理解をして授業に臨むこと。	180分

		るとともに、各自の学習指導案における目標及び評価の観点を明確にする。		

学生へのフィードバック方法	各チームの発表についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。
評価方法	グループごとのDVD教材分析や指導案の作成については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、主に学習指導要領の理解に関する出題を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	グループ発表	○		○	
	アースノート	○			○
	定期試験	○			○

評価割合	平常点（DVD教材・指導案の作成含む）：40% 授業記録（アースノートへの授業記録）：20% 定期試験：40%
使用教科書名(ISBN番号)	(1)学習指導要領解説（高等学校　家庭）／文部科学省（最新版入手不可？） (2)学習指導要領解説（中学校　技術・家庭）／文部科学省（978-4-304-02154-1） (3)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0） (4)評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】/教育出版/(978-4-316-30052-8) (5)評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校　共通教科「家庭」】/(978-4-316-30073-3)
参考図書	授業時に適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	担当教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ｄ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形　美緒	指定なし

ナンバリング	Y31104M21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法Ｃを継続しながら家庭科の目標と学習内容を確認する。家庭科の授業づくりを通し学習指導の諸方法における留意点等また評価の意義、目的等を具体的に学び、家庭科教員としての実践力を養う。
履修条件	家庭科教育法Cを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学習指導要領の改訂に伴う、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と意義、家庭科の授業内容について総合的な知識を持ち、家庭科教員として求められる事柄を説明できる。
思考・判断の観点（K）	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心をもち、社会に貢献したいという態度を持って、生活者として持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点（A）	模擬授業や相互評価を通して、教育者として求められるコミュニケーション能力や豊かな表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	授業予定、評価方法などについて確認する。家庭科教育法Cの振り返りから、家庭科教育法Dの模擬授業時の目標を各自設定し、発表する。模擬授業の担当日や担当領域について決定する。	家庭科教育法Cで使用した学習指導案に目を通し、家庭科教育法Dで行う模擬授業時に自分が注意したい点や新たに挑戦したい点などについて箇条書きに書き出してくること。	180
第2回	実習授業の注意点及び模擬授業・省察	家庭科の授業のうち、実習を行う場合の注意点について学ぶ。調理実習や被服製作実習、幼児や高齢者とのふれあい実習などさまざまな実習を想定し、課題を発見する。	本授業で指定する家庭総合の教科書の相当するところを読んでおくこと。 模擬授業担当者は、自身の模擬	180

		模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	
第3回	実習授業の事前準備と指導方法 模擬授業・省察	前時に確認した注意事項に加え、実習授業の際はどのような事前準備や連絡等が必要になるか理解する。指導方法、手順などの説明が生徒に伝わるようにはどのように工夫できるか検討する。 模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	授業で学んだ点を自分なりにまとめ、担当する模擬授業でどのように活かせるか検討しておくこと。 模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第4回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第5回	ワークシート作成の方法と注意点 模擬授業・省察	家庭科の授業で使用するワークシートの作成について学ぶ。授業での効果的な使用法や評価規準などとともに、どのようなワークシートが適切か考察する。 模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	自身の模擬授業ではどのようなワークシートを使用することができるか考えをまとめておくこと。 模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第6回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第7回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第8回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第9回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第10回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第11回	家庭科の教材研究 模擬授業・省察	家庭科の授業ではどのようなものを教材として用いることができるのか、例を提示し、授業内容を計画する。教材として導入に使用するもの、展開で使用するものなど具体的な授業を想定して深く理解する。 模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	授業後に、実際に自分が授業で使用してみたい教材を身近なところから探しておくこと。各領域１点以上の教材を検討しておくこと。 模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180

第12回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第13回	学習指導案および模擬授業の省察、総括	学習指導案の作成方法を再度確認し、自身が模擬授業で用いた指導案を再評価し修正する。模擬授業で学んだこと、改善すべきことなど意見を交換し、教育実習に向けてのまとめとする。	教育実習に向けて、これまでの授業や模擬授業を振り返り、自分でまとめておくこと。教育実習にむけて、家庭科教育法で学んだことを活かせるようにしっかり省察しておくこと。	180

学生へのフィードバック方法	模擬授業については、内容や授業の進め方などその都度評価し改善を要する点を伝えるなどしフィードバックを行う。
評価方法	模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、行われた模擬授業に対してのコメント内容も評価する。講義授業からはどのようなことを学んだか、各自期末試験にまとめた内容を評価する期末試験では他に学習指導案の作成についての出題を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	模擬授業	○	○	○	○
	模擬授業の考察・相互評価	○	○	○	○
	定期試験	○	○		

評価割合	模擬授業（指導案作成）の発表と質疑応答・・・30% 模擬授業への考察、相互評価･･･30% 定期試験･･･40%
使用教科書名(ISBN番号)	中学校 技術･家庭科学習指導要領解説 高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編 家庭総合 パートナーシップでつくる未来（実教出版）
ディプロマポリシーとの関連	「知識・理解」家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。 「思考・判断」課題に対して、多種な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。 「関心・意欲・態度」生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。 「技能・表現」教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。
学生へのメッセージ	家庭科教育法Ｃでの学習指導案の作成、模擬授業の省察をとおして、中高生の生活実態を把握した授業内容になるよう、情報収集を図り、授業への資料となるよう整理しておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業指導案及び模擬授業を作り上げること、他の受講生の模擬授業に対しての相互評価を行うことによって、互いに家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科や生活への関心を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭科教育法Ｄ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮川　有希	指定なし
教授	上村　協子	指定なし
助教	太田　茜	指定なし

ナンバリング	Y31104C21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法ABCの学びを総合して、家庭科の指導方法や教材研究の工夫をすることに重点を置き、家庭科の授業能力を高めることを目標とする。学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察・改善から家庭科の授業の実践力を高める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭科教員として、国際的視点なども踏まえ、学問的背景と今日的な家庭科の社会的視座を理解する。
思考・判断の観点（K）	教育現場の現況を理解して、家庭科教員としてふさわしい見識を身につけ、授業を構築する考えや判断力を育成する。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの教員としての資質を確認し、教壇に立つ上で不足している知識や、技能を身に付けようとする。
技術・表現の観点（A）	家庭科の学習指導案の作成や模擬授業を行うことができ、家庭科の今日的な課題や実践的動向を知り、自らの授業の向上に取り組むことができる。

学習計画

家庭科教育法D

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法などの確認。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。	180分
第2回	学習指導案	模擬授業の実践に向けて、作成した学習指導案や教材を	家庭科の学習内容でもある「生	180分

	の作成および及び授業展開についての考察(1)	考察し、相互評価を通して、主体的・対話的・深い学びの学習方法の授業を目指し、学習指導案の改善を行う。	活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。	
第3回	学習指導案の考察および模擬授業（１）	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第4回	学習指導案の考察および模擬授業（２）	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第5回	学習指導案の作成および及び授業展開についての考察（２）	模擬授業の実践に向けて、作成した学習指導案や教材を考察し、相互評価を通して、主体的・対話的・深い学びの学習方法の授業を目指し、学習指導案の改善を行う。	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。	180分
第6回	学習指導案の考察および模擬授業（３）	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第7回	衣生活学習指導案の考察および模擬授業（４）	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第8回	学習指導案の作成および及び授業展開についての考察（３）	模擬授業の実践に向けて、作成した学習指導案や教材を考察し、相互評価を通して、主体的・対話的・深い学びの学習方法の授業を目指し、学習指導案の改善を行う。	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。	180分
第9回	学習指導案の考察および模擬授業（５）	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第10回	学習指導案の考察および模擬授業（６）	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第11回	教育実習報告会			180分
第12回	教育実習報告会			180分
第13回				180分
第14回				180分
第15回				180分
第16回				

学生へのフィードバック方法	模擬授業についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。
評価方法	模擬授業については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、学習指導案に関する出題を行う。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	模擬授業	○		○	○
	アースノート	○			○
	定期試験				

評価割合	平常点（出席、模擬授業への態度、提出物）　30% 授業記録（アースノートの授業記録）　30% 模擬授業（指導案、プリント、授業内容）　40%
使用教科書名(ISBN番号)	(1)学習指導要領解説（高等学校　家庭）／文部科学省（最新版入手不可？） (2)学習指導要領解説（中学校　技術・家庭）／文部科学省（978-4-304-02154-1） (3)高等学校　家庭総合　パートナーシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	担当教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。上村　1805ゼミ室　前期：　水曜日　4限　後期：火曜日　4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	道徳教育論（小）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	Y24101M21
授業概要(教育目的)	・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。 ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。 ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。 ・毎時、学生１人１回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。 ・１人または１グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	道徳教育の歴史と現状を理解できる。
思考・判断の観点（K）	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点（A）	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどういう時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本における道徳	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争につい	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表	180分

	教育の歴史Ⅰ	て学ぶ。	の準備をする。	
第3回	近代日本における道徳教育の歴史Ⅱ	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。	第3回レジュメを良く読んでおくこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第4回	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかがわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ　道徳性の発達理論：	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかり行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかり行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	講義形式、ときに、意見を求める。資料をたくさん配布する。資料を読みこなせる能力を求める。 模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。
評価方法	「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	「心に残る言葉」発表			○	○
	学習指導案の作成と修正	○	○	○	
	模擬授業		○	○	○
	授業への取り組み			○	

評価割合	・　授業中の「心に残る言葉」発表　20%、　学習指導案の作成と修正(20%) ・　模擬授業実技（30%） ・　平常点（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省『平成30年　小学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示）　特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）
参考図書	・中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、 ・岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料　道徳教育の研究』（北樹出版　1994年） ・井ノ口淳三『道徳教育　改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社　2016年 ・河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol.32　2006年） ・三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol.32　2006年 ・ローレンス・コールバーグ著　岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会　1987年　他
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	随時対応します。
学生へのメッセージ	・「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 ・道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 ・道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。 小学校教免必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：いじめやモラルジレンマについてのディスカッション、模擬授業、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	教具としてICTを活用する場合がある。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	道徳教育論（中・栄）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	Y20201M21
授業概要(教育目的)	・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。 ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。 ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。 ・毎時、学生１人１回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。 ・１人または１グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。
履修条件	中・高等学校教諭一周免許状を取得希望者は、必修。高等学校教諭一種免許状のみ取得希望者は、履修可能であるが、必修ではない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	道徳教育の歴史と現状を理解できる。
思考・判断の観点（K）	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点（A）	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどういう時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本に	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教	第2回レジュメを良く読んでお	180分

	おける道徳教育の歴史Ⅰ	育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。	くこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	
第3回	近代日本における道徳教育の歴史Ⅱ	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。	第3回レジュメを良く読んでおくこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第4回	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかがわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ　道徳性の発達理論：	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかり行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかり行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	講義形式。時に、学生に意見を求める。配布する資料を読みこなせる能力を求める。 模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。
評価方法	「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	「心に残る言葉」発表			○	○
	学習指導案の作成と修正	○	○	○	
	模擬授業		○	○	○
	授業への取り組み			○	

評価割合	・　授業中の「心に残る言葉」発表　20%、　学習指導案の作成と修正(20%) ・　模擬授業実技（30%） ・　平常点（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	家庭科教諭志望者：文部科学省『中学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示）　特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。） 栄養教諭志望者：文部科学省『小学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示）　特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）
参考図書	・中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、 ・岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料　道徳教育の研究』（北樹出版　1994年） ・井ノ口淳三『道徳教育　改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社　2016年 ・河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol.32　2006年） ・三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol.32　2006年 ・ローレンス・コールバーグ著　岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会　1987年　他
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	随時対応します。
学生へのメッセージ	・「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 ・道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 ・道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：いじめやモラルジレンマについてのディスカッション、模擬授業、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業の時にICTを活用する場合がある。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	道徳教育論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	Y20201C21
授業概要(教育目的)	・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。 ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。 ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。 ・毎時、学生１人１回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。 ・１人または１グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。
履修条件	中・高等学校家庭科・栄養教諭教職課程履修者であれば履修可。高等学校のみ免許状取得希望の場合は、履修しなくても良い。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	道徳教育の歴史と現状を理解している。
思考・判断の観点（K）	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点（A）	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどういう時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本に	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教	第2回レジュメを良く読んでお	180分

	おける道徳教育の歴史Ⅰ	育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。	くこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	
第3回	近代日本における道徳教育の歴史Ⅱ	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。	第3回レジュメを良く読んでおくこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第4回	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかがわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ　道徳性の発達理論：	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかり行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかり行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学生へのフィードバック方法	講義形式。時に、学生に意見を求める。配布する資料を読みこなせる能力を求めます。 模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。
評価方法	「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	「心に残る言葉」発表			○	○
	学習指導案の作成と修正	○	○	○	
	模擬授業		○	○	○
	授業への取り組み			○	

評価割合	・　授業中の「心に残る言葉」発表　20%、　学習指導案の作成と修正(20%) ・　模擬授業実技（30%） ・　平常点（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	家庭科教諭志望者：文部科学省『中学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示）　特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。） 栄養教諭志望者：文部科学省『小学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示）　特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）
参考図書	・中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、 ・岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料　道徳教育の研究』（北樹出版　1994年） ・井ノ口淳三『道徳教育　改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社　2016年 ・河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol.32　2006年） ・三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol.32　2006年 ・ローレンス・コールバーグ著　岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会　1987年　他
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー	随時対応します。水曜日15：00～16：00
学生へのメッセージ	・「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 ・道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 ・道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	いじめやモラルジレンマに関するディスカッション、模擬授業、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	教材としてICTを活用する場合がある。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	特別活動論（小・中・高・栄）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y30007M21
授業概要(教育目的)	「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を学身につける。 将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、 ・今日の教育の課題と特別活動の意義の理解 ・他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢 ・生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力 を培う。
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に位置付けられている特別活動、今日の教育において持つ役割を理解する。
思考・判断の観点（K）	今日の教育の課題から見た特別活動の意義を考えられる。
関心・意欲・態度の観点（V）	他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢を持つ。
技術・表現の観点（A）	生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を得る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	特別活動論の課題と目的—授業ガイダンス	学校における特別活動とは何か、その課題を理解する。	今までの学校生活をふり返り、児童の学校生活充実の条件を考える。	180分
第2回	特別活動実践演習ホー	特別活動の一つであるホームルーム活動を模擬的に実践し、新学年のクラスをスタートする活動を体験する。	子ども時代の新年度の様子をふり返る。	180分

	ムルーム開き			
第3回	教育の目的と特別活動１　エピソード記述から探る子どもの願い	絵日記ワークにより、生徒にとって楽しい学校となるために条件を探る。	学校の楽しさとは何か、自身の体験から考える。	180分
第4回	教育の目的と特別活動２　学級班活動による教育目標の検討	絵日記ワークをもとに、グループワークによって、学校教育の目標を考える。	グループの絵日記の内容を相互に回覧して、学校教育充実の条件を考える。	180分
第5回	教育の目的と特別活動３　生徒の視点から見た教育の目的（ＢＲＤ）	3回の授業を通して、教育の目的を考察し、自分の文章として表現する。	教育の目的についての自分なりの考えを考察する。	180分
第6回	コミュニケーション能力の育成と特別活動	今日の生徒にとってコミュニケーション能力の育成が課題であり、そのための特別活動の役割を考える。	コミュニケーション能力を育てるための、ホームルーム活動・学校行事について図書・インターネットで調査する。	180分
第7回	コミュニケーション・ワーク演習１（ホームルーム活動）	児童のコミュニケーション能力を高めるホームルーム活動を、グループで計画し模擬実践する。（アクティブラーニング）	コミュニケーションワークを調査する（ICT活用）	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク演習２（学校行事）	学校行事で活用できるコミュニケーションワークをグループで計画し、模擬実践する。（アクティブラーニング）	学校行事で実践できるコミュニケーションワークを調査する。（ICT活用）	180分
第9回	ＢＲＤ　今日の子どもとコミュニケーション能力育成の課題	コミュニケーションワークの実践から、今日の児童のコミュニケーション能力の形成のあり方を考えまとめる。	学校現場で行われているコミュニケーションワークの事例を図書・インターネットで調査する。	180分
第10回	事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動	学校教育実践事例を読み、教師の専門性・生きがいを発揮する特別活動の構想について考察する。	教師の教育実践に関する図書を読む。	180分
第11回	憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法	教育に関わる法・条約から特別活動の役割を考察する。	教育に関わる法・条約を調べる。	180分
第12回	特別活動校外授業―下見計画実習１（多摩動物公園）	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第13回	特別活動校外授業―下見計画実習２（多摩動物公園）	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第14回	特別活動の指導案	学外活動の下見を踏まえて、特別活動の指導案を立案する。	指導案を記述する。	180分
第15回	特別活動の課題と展望（ＢＲＤ）	今日の生徒の現状から、特別活動の役割とあり方を考察してまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				

学習計画注記	学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク（指導計画の立案・模擬活動・プレゼンテーションなど）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	特別活動指導案の完成度。 グループで実施する特別活動指導案プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるBRD（当日ブリーフレポート）による。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	特別活動指導案	○		○	○
	プレゼンテーション		○	○	○
	ミニテスト	○			
	レポート		○	○	○

評価割合	特別活動指導案（30%） プレゼンテーション（30%） ミニテスト（10%） BRD（当日ブリーフレポート）（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	『Withコロナあそびのすすめ』（Art.31発行）入手方法は授業にて伝えます。
参考図書	折出健二編『特別活動』学文社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道 へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能 ・ 表 現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日３限1607研究室
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の子ども時代の学校の様子をふり返る・実習等での体験をまとめる、などによって授業に主体的に参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育方法・技術論（幼・小）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし
教授	齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y34004M11
授業概要(教育目的)	教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点にしぼれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１　教育方法・技術の意義を理解できる。 ２　教育方法・技術に関する基礎的な知識と基本的な技能、その活用が理解できる。
思考・判断の観点（K）	教育方法・技術に関する課題と可能性に気付き、教育実践への活用応用方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育方法・技術に関心をもち、問題意識をもって積極的に学習に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	情報機器を扱う基礎的な技能を体得し、適切な目標設定と活用を図ることが出来る。

学習計画

教育方法・技術論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１　ガイダンス、西洋における教育方法（１９世紀前半まで）	西洋における教育方法（１９世紀前半まで）ベーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。	教科書の第１章（ｐ１０～１８）を読んでおくこと。	１２０分

第2回	2　西洋における教育方法（１９世紀後半から）	西洋における教育方法（１９世紀後半から）デューイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。	教科書の第２章（ｐ２０～２８）を読んでおくこと。	１２０分
第3回	３　日本における教育方法	日本における教育方法を理解する。	教科書の第３章（ｐ３０～３８）を読んでおくこと。	１２０分
第4回	４　学習の理論と授業のデザイン	学習の理論と授業のデザインを理解する。	教科書の第４章（ｐ４０～４８）と第５章（ｐ５０～５９）を読んでおくこと。	１２０分
第5回	5　相互主体的な「学びあい」協働的な学習活動形態の構成方法と実践技術	学びあいに関わる学習活動の構成方法について実践事例を収集し、それぞれの違いやよさ、様々な事例を支えている教育技術を検討する。	教科書の第６章（ｐ６２～７１）を読んでおくこと。 興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。	１８０分
第6回	６　教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴ	教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴについて理解する。学習環境デザインの視点から、認識ツールとしてのデジタル・デバイス、その活用を有意義にする活動の展開などと合わせて検討・考察する。	教科書の第７章（ｐ７４～８３）と第８章（８６～９４）を読んでおくこと。	１２０分
第7回	７　評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。	教科書の第９章（ｐ９６～１０６）と１２章（ｐ１３０～１３９）を読んでおくこと。	２１０分
第8回	８　まとめ	これまでの学習をまとめる。	これまでの学習の総まとめをする。	２７０分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。
評価方法	授業内小試験は、１００点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。興味を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業内小試験	○			
	レポート		○		○
	ノート	○			
	積極的な参加態度			○	

評価割合	授業内小試験（７０％）平常点（３０％）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等
使用教科書名(ISBN番号)	齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版　2018年
参考図書	『教育方法学』　佐藤学　岩波書店　1996年 他は、授業で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	授業の前後　授業教室または随時　1628研究室（齋藤） 金曜３限　1629研究室（立川）
学生へのメッセージ	教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ＩＣＴについての理解し、活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育方法・技術論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	６限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y30009C11
授業概要(教育目的)	教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点にしぼれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１　教育方法・技術の意義が理解できる。 ２　教育方法・技術に関する基礎的・基本的な知識が理解できる。
思考・判断の観点（K）	教育方法・技術に関する問題点が理解できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

教育方法・技術論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	１　ガイダンス、西洋における教育方法（１９世紀前半まで）	西洋における教育方法（１９世紀前半まで）ベーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。	教科書の第１章（ｐ１０～１８）を読んでおくこと。	１２０分
第2回	2　西洋に	西洋における教育方法（１９世紀後半から）デューイ、	教科書の第２章（ｐ２０～２	１２０分

	おける教育方法（１９世紀後半から）	キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。	８）を読んでおくこと。	
第3回	３　日本における教育方法	日本における教育方法を理解する。	教科書の第３章（ｐ３０～３８）を読んでおくこと。	１２０分
第4回	４　学習の理論と授業のデザイン	学習の理論と授業のデザインを理解する。	教科書の第４章（ｐ４０～４８）と第５章（ｐ５０～５９）を読んでおくこと。	１２０分
第5回	5　学びあい	学びあいを理解する。	教科書の第６章（ｐ６２～７１）を読んでおくこと。 興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。	１８０分
第6回	６　教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴ	教育の道具・素材・環境、教育機器とＩＣＴを理解する。	教科書の第７章（ｐ７４～８３）と第８章（８６～９４）を読んでおくこと。	１２０分
第7回	７　評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。	教科書の第９章（ｐ９６～１０６）と１２章（ｐ１３０～１３９）を読んでおくこと。	２１０分
第8回	８　まとめ、定期試験	これまでの学習をまとめるとともに定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめをする。	２７０分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。
評価方法	定期試験は、１００点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。興味を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験	○			
	レポート		○		○
	ノート	○			
	積極的な参加態度			○	

評価割合	試験（７０％）平常点（３０％）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等
使用教科書名(ISBN番号)	齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版　2018年
参考図書	『教育方法学』　佐藤学　岩波書店　1996年 他は、授業で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	授業の前後　授業教室または講師控室
学生へのメッセージ	教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ＩＣＴについての理解し、活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生徒指導論（小・中・高・栄）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期前半	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y34103M11
授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	子どもの学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点（K）	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として子どもを理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	子どもと対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・子どもの自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どもをめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どもをめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	教育課程と生徒指導	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの学習指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える	120分
第3回	生徒指導の特質・集団	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分

	指導と個別指導	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。		
第4回	生徒指導のための子ども理解・子ども観（小学生期の理解）	絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導についての考えをまとめる。	児童憲章・子どもの権利条約を調査し、全体を読む。	120分
第5回	暴力・いじめ・不登校などの課題と学校内外の連携・相談支援	生徒指導に関わる諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 （アクティブラーニング・情報リテラシー教育）	NDO-OPACを活用し、問題意識に関わる文献を下調べする。	120分
第6回	日常生活の指導と子どもの成長	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	生徒指導上の課題と展望	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。 グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	生徒指導案	○	○		
	模擬授業・プレゼンテーション			○	○
	ミニテスト	○			
	レポート	○	○		○

評価割合	生徒指導案（30%） 模擬授業・プレゼンテーション（30%） ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	日本子どもを守る会編『子ども白書2022』かもがわ出版
参考図書	文部科学省『生徒指導提要』教育図書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道 へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能 ・ 表 現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日３限1607研究室
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や子どもの実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループ研究とグループによる模擬授業など
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生徒指導論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	６限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y30010M11
授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生徒の学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点（K）	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として生徒を理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点（A）	生徒と対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・生徒の自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どもをめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どもをめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	教育課程と生徒指導	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの生徒指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える	120分
第3回	生徒指導の特質・集団指導と個別指導	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。 ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分

第4回	生徒指導のための子ども理解・子ども観（中高生期の理解）	絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導についての考えをまとめる。	児童憲章・子どもの権利条約を調査し、全体を読む。	120分
第5回	暴力・いじめ・不登校などの課題と学校内外の連携・相談支援	生徒指導に関わる諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 （アクティブラーニング・情報リテラシー教育）	ＮＤＬ-OPACを活用し、問題意識に関わる文献を下調べする。	120分
第6回	日常生活の指導と子どもの成長	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	生徒指導上の課題と展望	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。 グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	生徒指導案	○	○		
	模擬授業・プレゼンテーション			○	○
	ミニテスト	○			
	レポート	○	○		○

評価割合	生徒指導案（30%） 模擬授業・プレゼンテーション（30%） ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	日本子どもを守る会編『子ども白書2021』かもがわ出版
参考図書	文部科学省『生徒指導提要』教育図書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道 へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能 ・ 表 現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日３限1607研究室
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループ研究とグループによる模擬授業など
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育相談論（幼・小）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y20011M21
授業概要(教育目的)	学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、学校内部での連携と、学校外の教育相談機関との連携なども考慮に入れて、具体的に受講者とともに考えていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．教育相談とは何かを理解する。 ２．教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 ３．教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点（K）	１．教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	学校での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	学校教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション ――教育相談の目的と領域――	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 あわせて、学校における「相談」とは何かを知る。	教育相談を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。 その中で、「相談」に関して自分が持っていたイメージとの相	180分

			違点を整理し、自分が関心のある分野と教育相談のつながりを考える。	
第2回	問題行動はいつ起きる？２――子どもの発達と「困りごと」――	学校における問題と発達段階の関係を知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第3回	子どもの「困りごと」解決の仕組み1――不登校・いじめと子どもの権利――	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、不登校・教育機会確保法、いじめ、子どもの権利に関する条約など	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	子どもの「困りごと」解決の仕組み2――チーム学校と教育相談――	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、虐待（加害者支援の考え方）、チーム学校、生徒指導提要、３段階の心理教育的援助サービスを学ぶ。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	教育相談でのコミュニケーション１　――カウンセリングと心理療法――	カウンセリングと心理療法の違いや、それぞれの進め方を知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	教育相談でのコミュニケーション２　――カウンセリングによる問題解決の手法――	カウンセリングによる問題解決の手法について知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	教育相談でのコミュニケーション３　――相談場面で起きること――	相談場面で起きる様々なことを何かを知り、問題解決を行う上で気をつけるべきポイントを知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	個別対応の実際1――ラポール形成編――	実際にラポールはどのように形成するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのようにラポールを形成するのかを具体的に考える。	180分
第9回	個別対応の実際２――青年期問題編――	青年期の問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように青年期特有の問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第10回	学校内での連携１――友だち関係不調――	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。友だちとうまくかかわれない子どもの事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第11回	学校内での連携２――子どもへの視点の変換――	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。子どもへの見方を変換することで、どのように対応が広がるのかを、小学校教諭の事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分

第12回	集団対応の実際１ ――発達障害の子どもの世界――	発達障害の子どもには世界はどう見えているのかを知り、どう対応するのか、集団を想定した場面をでの基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように発達障害の子どもに対応するのかを具体的に考える。	180分
第13回	集団対応の実際２ ――合理的配慮とアセスメント―――	合理的配慮とは何かを具体的に知り、どう対応するのか、集団を想定した場面での基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように合理的配慮が必要な場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第14回	集団対応の実際３ ――集団を対象とした予防・開発的取り組み、グループマネージメント――	集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グループマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第15回	総括	これまでの学修内容を振り返り、どのように実践現場で役に立てることができるかを考える。	これまでの内容を理解し、不明な点を明らかにする。	180

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	１．コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。 ２．ワークブックについては、中間試験の前と授業の最終回の前に回収し、記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	授業への姿勢、最終課題、ワークブックへの取り組みをもとに総合評価を行う。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 自己チェック、ふりかえりのいずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。 ★ワークブックは授業時に配布します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己チェック	○	○		○
	ふりかえり	○	○	○	○
	ワークブック	○	○	○	○
	最終課題	○	○	○	○

評価割合	授業への姿勢→50% ワークブック→25% 最終課題→25%
使用教科書名（ISBN番号）	授業時配布のレジュメ、ワークブックを使用する他、適宜、授業の中で紹介する。 なお、原則としてgoogle classroomを通して資料を配布します。 参考図書として以下の図書を推薦する。
参考図書	自学自習用の参考図書として『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房　を推奨する。 このほか適宜、授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理相談的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。

	【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相談的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	町田キャンパス1633室→月曜日 水曜日の4限、会議のない木曜日3限、金曜日3限 （千代田三番町キャンパス1805室）
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。 必要に応じて、連絡や質問があれば、以下のメールアドレスにご連絡ください。 fumicak★kasei-gakuin.ac.jp （★を@に変えて送信してください）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育相談論（中・高・栄）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y20011M21
授業概要(教育目的)	学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、学校内部での連携と、学校外の教育相談機関との連携なども考慮に入れて、具体的に受講者とともに考えていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．教育相談とは何かを理解する。 ２．教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 ３．教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点（K）	１．教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 ２．教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	学校での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点（A）	学校教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	イントロダクション ――教育相談の目的と領域――	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 あわせて、学校における「相談」とは何かを知る。	教育相談を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。 その中で、「相談」に関して自分が持っていたイメージとの相	180分

			違点を整理し、自分が関心のある分野と教育相談のつながりを考える。	
第2回	問題行動はいつ起きる？２――子どもの発達と「困りごと」――	学校における問題と発達段階の関係を知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第3回	子どもの「困りごと」解決の仕組み1――不登校・いじめと子どもの権利――	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、不登校・教育機会確保法、いじめ、子どもの権利に関する条約など	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	子どもの「困りごと」解決の仕組み2――チーム学校と教育相談――	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、虐待（加害者支援の考え方）、チーム学校、生徒指導提要、３段階の心理教育的援助サービスを学ぶ。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	教育相談でのコミュニケーション１　――カウンセリングと心理療法――	カウンセリングと心理療法の違いや、それぞれの進め方を知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	教育相談でのコミュニケーション２　――カウンセリングによる問題解決の手法――	カウンセリングによる問題解決の手法について知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	教育相談でのコミュニケーション３　――相談場面で起きること――	相談場面で起きる様々なことを何かを知り、問題解決を行う上で気をつけるべきポイントを知る。	事前に配布された資料をよく理解し、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	個別対応の実際1――ラポール形成編――	実際にラポールはどのように形成するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのようにラポールを形成するのかを具体的に考える。	180分
第9回	個別対応の実際２――青年期問題編――	青年期の問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように青年期特有の問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第10回	学校内での連携１――非行逸脱行動――	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。非行逸脱傾向の子どもたちの事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第11回	学校内での連携２――不登校傾向――	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。不登校傾向の子どもの事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分

第12回	集団対応の実際１ ――発達障害の子どもの世界――	発達障害の子どもには世界はどう見えているのかを知り、どう対応するのか、集団を想定した場面をでの基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように発達障害の子どもに対応するのかを具体的に考える。	180分
第13回	集団対応の実際２ ――合理的配慮とアセスメント―――	合理的配慮とは何かを具体的に知り、どう対応するのか、集団を想定した場面での基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように合理的配慮が必要な場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第14回	集団対応の実際３ ――集団を対象とした予防・開発的取り組み、グループマネージメント――	集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グループマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第15回	総括	これまでの学修内容を振り返り、どのように実践現場で役に立てることができるかを考える。	これまでの内容を理解し、不明な点を明らかにする。	180

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	１．コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。 ２．ワークブックについては、中間試験の前と授業の最終回の前に回収し、記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	授業への姿勢、最終課題、ワークブックへの取り組みをもとに総合評価を行う。 ★授業への姿勢 自己チェックへの取り組みとふりかえりへの取り組みから総合的に判断 ☆自己チェック 出席確認を兼ねる。前の回の内容に関する課題（google フォーム等）への回答を、毎回の授業の冒頭で求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 ☆ふりかえり 授業の最後に、googleフォーム等で提示される課題に回答を求める（対面授業時はスマートフォン等で回答を求めることになる）。 自己チェック、ふりかえりのいずれも、締め切り通りに提出されていることを重視します。 ★ワークブックは授業時に配布します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己チェック	○	○		○
	ふりかえり	○	○	○	○
	ワークブック	○	○	○	○
	最終課題	○	○	○	○

評価割合	授業への姿勢→50% ワークブック→25% 最終課題→25%
使用教科書名（ISBN番号）	授業時配布のレジュメ、ワークブックを使用する他、適宜、授業の中で紹介する。 なお、原則としてgoogle classroomを通して資料を配布します。 参考図書として以下の図書を推薦する。
参考図書	自学自習用の参考図書として『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房　を推奨する。 このほか適宜、授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理相談的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。

	【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相談的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	町田キャンパス1633室→月曜日 水曜日の4限、会議のない木曜日3限、金曜日3限 （千代田三番町キャンパス1805室）
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。 必要に応じて、連絡や質問があれば、以下のメールアドレスにご連絡ください。 fumicak★kasei-gakuin.ac.jp （★を@に変えて送信してください）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育実習指導（中等）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし
准教授	齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y40103M11
授業概要(教育目的)	本授業は、教育実習そのものである。教科担当の先生や、担任の先生との事前の連絡をしっかり取れるようになり、担当授業の教材研究・学習指導案作成・実践、生徒との関わり方、担任業務ができるようになることを目的とする。
履修条件	教育実習派遣規準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教育実習校で授業を行える家庭科に関する専門的知識・理解、担任としての生徒指導に関する知識・理解を有している。
思考・判断の観点（K）	教育実習時に教師として思考・判断する力がある。
関心・意欲・態度の観点（V）	教員になるために必要な教職への意欲・関心が態度として示されている。学校現場の先生方と積極的にコミュニケーションを取れる。
技術・表現の観点（A）	生徒に教える技術・表現力を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習事前指導	教育実習先と連絡を取り、オリエンテーションの日時を確認する。教育実習の心構え、教育実習ノートの書き方等を学ぶ。	教育実習先へは、きちんと連絡を取り、使用教科書、実習中に担当させて頂ける授業の単元、実習日程等をしっかり事前に把握しておくこと。	120分
第2回	実習校で実施する授業の事前練習	実習校で担当することを指示された授業範囲について模擬授業で事前練習を行う。	本授業時間だけでは、担当させて頂ける授業の模擬授業を出来ない場合は、指導教員と相談し、授業時間外に模擬授業を最	240分

			低1回はすること。実習先でさせて頂ける授業については綿密にしっかり授業計画を練っておくこと。生徒の前に立ったら、実習生とはいえ、プロ意識を持って授業ができるだけの準備をすること。	
第3回	事前模擬授業	教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。	研究公開授業に指定された単元については、2回以上の模擬授業を事前に行った上で、実習先の担当の先生のご指導を受けるようにすること。	240分
第4回	教育実習事前模擬授業	教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。	教室外学習教材研究を充分行い、模擬授業を実施すること。	240分
第5回	教育実習事前模擬授業	学級会･ホームルームや学校行事などの特別活動を模擬的に実施する。	実習で担当する学級の生徒の状況と担任の指導方針、実習期間中の学校行事の計画を聞き、指導計画を考える。	240分
第6回	教育実習事後指導	教育実習修了後の反省と御礼状の書き方。教育実習ノートの提出と受け取りについて学ぶ。	教育実習校への御礼状は、教育実習修了後1週間以内にお送りすること。教育実習ノートは、実習修了日に担当の先生に伺った上で校長先生に提出すること。	120分
第7回	教育実習報告会の準備	教育実習で学んだこと、事前の準備で不足していたことへの反省、後輩たちに伝えたいこと等を報告会ためのPPTを作成し、発表のリハーサルを行う（アクティブ・ラーニング）。	報告会の発表内容の作成。PPT資料や報告書のための資料作成。プレゼンの練習。	180分
第8回	教育実習報告会	教育実習で学んだこと、事前の準備で不足していたことへの反省、後輩たちに伝えたいこと等を報告会で発表する。	報告会の発表内容の作成。PPT資料や報告書のための資料作成。	180分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	模擬授業の指導、質問には随時対応します。
評価方法	教育実習への取り組み姿勢（50%） 模擬授業（50%）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	教育実習への取り組み姿勢		○	○	○
	模擬授業	○	○	○	○

評価割合	実習校の評価を重視する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。
参考図書	授業中適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・「家庭科教育」の各分野 について、専門的知識・技術を有している。 ・グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる 【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。 【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	担当教員が随時対応できる態勢を整えている。
学生へのメッセージ	教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。この実習において欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業や報告会のためのプレゼンの練習。
情報リテラシー教育	○	教材研究における情報活用
ICT活用	○	学校現場でICTを活用した授業ができるようにする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育実習指導		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	６限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし
教授	上村　協子	指定なし
准教授	木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y40103C11
授業概要(教育目的)	教育実習についての事前・事後指導を行う。授業実習については教科教育法等で主要事項を扱うので、本授業ではより全般的・包括的な事項を扱う。また、実習実施にあたっての諸連絡もこの時間に行うので、毎時間必ず出席すること。教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。
履修条件	3年生前期までの教職科目がすべて履修済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教材研究と子ども理解を中心に、教育実習の基本事項を理解すること
思考・判断の観点（K）	教育実習で必要な技術、および心構えについて思考すること
関心・意欲・態度の観点（V）	大学での学修内容を教育実習で活かしていくために、積極的に情報を収集すること
技術・表現の観点（A）	教育実習で必要な理解と学修内容について、相手に合わせた適切な発信ができること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	教育実習とは何か	実習ノートを書く。	180分
第2回	教育実習とは何か	教育実習のビデオ鑑賞、実習記録の書き方・要点指導	実習ノートを書く。	180分
第3回	教育実習とは何か	教育実習の評価基準とは何か、子ども理解と教材分析	実習ノートを書く。	180分

第4回	教育実習のまとめ方について	教育実習後に開催される教育実習報告会に向けて、報告書のまとめ方を学ぶ。また、教育実習先の学校、地域についての理解を深め、まとめる。	予習として、学校の概要、案内、指導案など、集められる資料を集めておく（90分）。復習として、教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報を集め、まとめる（90分）。	180分
第5回	教育実習での生徒理解に向けての準備	教育実習中に重要となる生徒理解のレディネスを高める。そのため、教育実習で必要なこと、目指したい教師像、楽しみにしていることなどをグループワーク形式で検討し、自分の強みを知り、弱みを解決する方法を検討する。	予習として、既にまとめてある教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報をあらためて見直し、加えて自分の強み、弱みへの理解を深めておく（90分）。復習として、自分の強みを生かし、自分の弱みを解決する方法を考える。	180分
第6回	教育実習報告１	家庭科教育法Aの授業履修中の学生（主に学部2年生）を対象として教育実習の報告を行う。家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたかを中心に報告する。教育実習中の研究授業・学習指導案を提示しながら、生徒の授業中の様子・反応をまとめ、評価する。地域や学校の状況にあった、より生徒の生活にあった授業とするには、家庭科教材研究としてどのような準備をして深めておけばよかったかを、発表する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。	180分
第7回	教育実習報告２	家庭科教育法Cの授業履修中の学生（主に学部3年生）を対象教育実習の報告を行う。教育実習校の特色・生徒・家庭科の教員・実習室の様子、家庭科年間計画などを説明し、家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたか、実習先を選ぶときにどのような点を留意すべきか、実習校の家庭科教員との連絡の取り方、など教育実習準備をしておくべきかを発表する。また、研究授業・学習指導案を提示しながら、題材設定の理由の記載方法や評価する。学校の状況にあった、より生徒の生活あった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩に提示する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。	180分
第8回	教育実習をふりかえる	教育実習全体をふりかえり、地域・学校の状況にあった、より生徒の生活あった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩からのレスポンスシートに記入し、受講生全員で教育実習をふりかえり意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。	180分

学習計画注記	※受講生の教育実習の日程や、質疑応答・討論を中心に展開する。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	授業で提出した課題、製作物については採点後、可能な限り返却する。返却できないものの場合は、担当教員による口頭でのコメント、画像や動画として電子ファイルで返却するなどして、フィードバックする。
評価方法	実習報告会と受講態度の総合評価
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習報告会	○	○		
	レポートシート	○		○	

評価割合	出席および毎時のレポートにより評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	毎回、プリントを用意する。
参考図書	講義に中で、適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、豊かな知識をえること 思考・判断力、めざすべき姿の教育を追究し、判断できること

	表現など、学んだことを適確に表現できること
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。 教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。したがって、この講義の欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育実習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし
准教授	齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y40301M43
授業概要(教育目的)	中学校または高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点（K）	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習開始	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかり考えておくこと。	600分
第2回	教育実習2日目・3日目	授業見学をしっかり行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の	120分

			先生に提出し、指導を受けること。	
第3回	教育実習4,5日目	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。	180分
第4回	教材研究	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。	学校現場で活用されている教材をしっかり見学し、深く学んで自分の授業に活かすこと。	120分
第5回	学修指導案の作成	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。	120分
第6回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。	180分
第7回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。	180分
第8回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。	180分
第9回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（１）	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。	120分
第10回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（２）	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。わからないことは指導教員に質問して教えて頂く。	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこｔ。	120分
第11回	研究公開授業の準備（１）	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。	240分
第12回	研究公開授業の準備（２）	研究公開授業は、生徒とのコミュニケーション、授業力、教材研究、教員とのコミュニケーション等全てが評価される場であることを学ぶ。最善の努力をし、自分の力を出し切る集中力を学ぶ。	事前に参観して下さる先生方には、押印した学習指導案をお渡ししながら、参観のお願いをしに行くこと。指導の先生の指示を良く聴くこと。	240分
第13回	研究公開授業	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。	240分
第14回	教育実習最終日・教育実習ノートの提出	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちん挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。	120分
第15回	教育実習校への御礼状、大学への報告	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。	240分

学生へのフィードバック方法	実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。 公開研究授業を大学教員が参観する。
評価方法	教育実習校における評価が大部分を占める（90%）。 状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある（10%）。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	勤務態度		○	○	
	教材研究	○	○	○	○
	生徒指導		○		○

	教員とのコミュニケーション		○	○	
	事前準備	○	○	○	

評価割合	実習校の評価（90%） 特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある。（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省『中学校学習指導要領　家庭科』 文部科学省『中学校学習指導要領解説　家庭科』 文部科学省『高等学校学習指導要領　家庭科』 文部科学省『高等校学習指導要領解説　家庭科』 家庭科の教科書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	教育実習中なので、アポイントメントにより時間調整を行うこと
学生へのメッセージ	教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありましょうが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	まさに実務経験のある先生方に囲まれて実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育実習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	Y40301C43
授業概要(教育目的)	教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。 これは中学・高校教員免許資格に必要である。 教育実習参加（派遣）基準に合致していない場合、教育実習に派遣はできない。
履修条件	教育実習派遣基準に合格していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	総合家政学の立場を生かし、生活課題を生徒に提示できる知識の獲得をめざす
思考・判断の観点（K）	子どもの立場に立って、高い倫理性を堅持し、生徒が考えることができる思考に導く
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもが如何に意欲を高め、学習に向かい合うのか、その契機を探る態度の形成
技術・表現の観点（A）	子どもが学習に向かうためのさまざまな教育的働きかけのための技術と表現（コミュニケーション）の獲得

評価方法	教育実習校の評価と平常点の総合評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自習校の評価	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	実習校の評価9割と平常点1割

参考図書	教育実習事前指導で渡している資料など
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、教育現場で、子どもたちに分かる学習を保障するための知識の獲得 思考・判断、子どもの寄り添う資質能力を培い、子どもに考えさせる自らの思考の獲得 意欲・態度、子どもの学習を成立させるためにあらゆる努力を惜しまない態度の形成 表現と提案、子どもと会話ができるコミュニケーション能力と問題提示の能力形成
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	教材研究のために、睡眠時間が減ってしまうかも知れない。実習中は、それほど、大変である。 しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。「それに力づけられて頑張れた」と、実習生の多くが言う。皆さんのがんばりと活躍を期待している。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育実習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし
准教授	齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y40401M23
授業概要(教育目的)	高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点（K）	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点（V）	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習開始	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかり考えておくこと。	600分
第2回	教育実習2日目・3日目	授業見学をしっかり行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。	120分

第3回	教育実習4,5日目	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。	120分
第4回	教材研究	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。	学校現場で活用されている教材をしっかり見学し、深く学んで自分の授業に活かすこと。	90分
第5回	学修指導案の作成	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。	90分
第6回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。	120分
第7回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。	120分
第8回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりすること。	120分
第9回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（１）	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。	90分
第10回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ（２）	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。わからないことは指導教員に質問して教えて頂く。	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこｔ。	90分
第11回	研究公開授業の準備（１）	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。	120分
第12回	研究公開授業の準備（２）	研究公開授業は、生徒とのコミュニケーション、授業力、教材研究、教員とのコミュニケーション等全てが評価される場であることを学ぶ。最善の努力をし、自分の力を出し切る集中力を学ぶ。	事前に参観して下さる先生方には、押印した学習指導案をお渡ししながら、参観のお願いをしに行くこと。指導の先生の指示を良く聴くこと。	120分
第13回	研究公開授業	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。	180分
第14回	教育実習最終日・教育実習ノートの提出	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちん挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。	90分
第15回	教育実習校への御礼状、大学への報告	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。	120分

学生へのフィードバック方法	実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。 公開研究授業を大学教員が参観する。大学教員も教育実習ノートにコメントをする。
評価方法	教育実習校における評価が大部分を占める（90%）。 状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある（10%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
勤務態度		○	○	
教材研究	○	○	○	○
生徒指導		○		○
教員とのコミュニケーション		○	○	

事前準備	○	○	○	

評価割合	実習校の評価（90%） 特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある（10%）。
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省『高等学校学習指導要領　家庭科』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説　家庭科』 家庭科の教科書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	教育実習中なのでアポイントメントにより時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありましょうが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験のある先生方に囲まれて教育実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育実習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	Y40401C23
授業概要(教育目的)	教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。 これは高校教員免許資格に必要である。 教育実習参加（派遣）基準に合致していない場合、教育実習に派遣はできない。
履修条件	3年生前期までに教育実習派遣基準に合格していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	総合家政学の立場に立って、生活課題を子どもに提示できる知識の獲得
思考・判断の観点（K）	子どもの学習の理解という立場に立って、如何に、学習が成立するのか、そのための思考と判断の獲得
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもの学習が成立するために如何に努力するべきか、そのための努力を惜しまない意欲の形成
技術・表現の観点（A）	子どもと会話できるためのコミュニケーション能力と問題課題解決のための提示能力の形成

評価方法	教育実習校の評価と平常点の総合評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習校の評価	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	実習校の評価9割と平常点1割

参考図書	教育実習事前指導における資料など
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、総合家政学の立場を生かし、生徒の学習を成立させるための知識の獲得 思考・判断、子どもの立場に立って、如何に生徒が理解できるのか、そのための思考判断の獲得 意欲・態度、子どもの学習を成立させるためのあらゆる努力を続けるための意欲と態度の形成 表現と提案、子どもと会話できるためのコミュニーション能力と問題解決のための提示能力の形成
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	教材研究のために、睡眠時間が減ってしまうかも知れない。実習中は、それほど、大変である。 しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。「それに力づけられて頑張れた」と、実習生の多くが言う。皆さんのがんばりと活躍を期待している。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養教育実習指導（食物）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	Y40502M11
授業概要(教育目的)	栄養教諭の免許取得のための教育実習について、事前・事後指導を行う。実習校との連絡の取り方、事前オリエンテーションにおける実習内容の確認、教育実習、教育実習報告会までを指導する。教育実習は1週間で短いので、有意義な実習を行えるように十分な準備と実践力の確認をする。必ず毎時出席すること。
履修条件	便覧に記された教育実習派遣基準を満たしていること。 ・3年次後期ＧＰＡ2.00以上 ・下記の教職科目が履修済みであること 「教育原理」「教師論」「教育制度論」「特別支援教育論」「教育心理学」「教育課程論」 「学校栄養教育論」（栄養教諭）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教諭として行う教育実習に、関心・意欲を持って臨み、実習生としてふさわしい態度を取ることができる。
技術・表現の観点（A）	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション能力を発揮することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習事前オリエンテーション	教育実習におけるあいさつ、「ほう・れん・そう」（報告・連絡・相談）の重要性を学ぶ。	教育実習校についてよく調べておく	90分
第2回	教材研究	実習先でさせて頂く授業の学習指導案を準備し、模擬授業を実施しながら教材研究を行う。	模擬授業準備をする。	90分
第3回	教育実習の	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備	模擬授業の準備をする。	90分

	準備・模擬授業	し、模擬授業を行う。一人35分程度。		
第4回	教育実習の準備・模擬授業	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備し、模擬授業を行う。一人35分程度。	模擬授業の準備をする。	90分
第5回	教育実習の準備・模擬授業	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備し、模擬授業を行う。一人35分程度。	模擬授業の準備をする。	90分
第6回	教育実習の準備・模擬授業	教育実習でさせて頂く授業の学習指導案・教材を準備し、模擬授業を行う。一人35分程度。	模擬授業の準備をする。	90分
第7回	教育実習報告会の準備	発表内容のアウトラインの確認。PPTや発表原稿の作成。発表リハーサル。	PPTの作成とPPTの資料となる材料の準備。この時間にリハーサルまで実施するには、相当の準備をしておくこと。	90分
第8回	教育実習報告会	クラスメートの報告を聴き、自らの実習を振り返り、反省を深める。後輩に何を伝えたらより良い実習になるのかを考える。	教育実習報告が充実したものになるように準備する。	120分

学習計画注記	教育実習時期は人によって異なるため、自ら積極的に実習校で指導に当たってくださる先生方と協議し準備を行うこと。実習校及び指導教諭とのコミュニケーションが大切である。
学生へのフィードバック方法	個別に模擬授業の指導や、助言を行う。心配なことがあれば相談に応じる。
評価方法	充実した教育実習を行うための事前準備の取り組み及び報告会発表準備、事後の実習校へのご挨拶、報告書の作成等および態度で総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	事前準備への取り組み	○	○	○	○
	実習中の態度			○	
	報告会発表	○	○	○	○
	模擬授業・教材研究	○	○	○	○

評価割合	平常点30%、報告発表会40%、模擬授業30%（平常点は授業への参加状況や教育実習に臨む態度及び実習報告会の準備等総合的に評価する）
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領（文部科学省） 中学校学習指導要領（文部科学省） 食に関する指導の手引き（文部科学省）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解している。 【思考・判断】栄養教諭として、現場で児童生徒に対し適切な指導を実施するための情報収集能力と、自ら考え周囲の方々と相談しながら判断していく能力を有している。 【関心・意欲・態度】栄養教諭として現場の指導教諭や職員の方々と協調していける関心・意欲を持ち、それを態度に示しながら主体的に実習に取り組むことができる。 【技術・表現】食に関する指導の実施において、専門的知識と技能を持って表現できる。
オフィスアワー	月曜日4限
学生へのメッセージ	教育実習は、実際に児童生徒に教えるので、プロ意識を持って臨んでください。準備をし過ぎることはありません。実習先の先生方のことを考えながら、早め早めに連絡を取り、相談し、大学にもしっかり報告するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、教材研究
情報リテラシー教育	○	PPTの作成。食味関する様々な情報収集。

ICT活用	○	コロナ禍の影響もあるのでICT活用もできるようにする。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養教育実習指導		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻　雅子	指定なし

ナンバリング	Y40502C11
授業概要(教育目的)	栄養教諭免許取得に関わる教育実習について、事前・事後指導を行う。食に関する専門的事項及び学校給食管理の学びについては、栄養士免許取得必須科目としてすでに習得済みである。したがって、本授業では包括的な内容で実習指導を行うことを目的とする。また事前指導においては細かい連絡等も行うため必ず毎時間出席すること。本授業は栄養教育実習及び教職実践演習（栄養）と連動して一年間の流れで学びを深めるものである。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加するための態度が見られる。
技術・表現の観点（A）	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習前オリエンテーション	栄養教育実習に行くための準備について学ぶ	教育実習校について学びを深めておく	90分
第2回	栄養教育実習記録の書き方など	栄養教育実習記録の書き方など事前準備から最終評価まで流れを学ぶ	栄養教育実習記録について事前に中身を確認しておく	90分
第3回	教育実習参加にあたっての諸注意	教育実習参加にあたっての諸注意について学ぶ	教育実習参加にあたっての心構え及び身支度等の諸注意について考える	90分
第4回	関連授業と	関連授業と授業参観の方法について学ぶ	食の指導に関連する授業と各種	90分

	授業参観の方法		授業参観の方法について考える	
第5回	学校組織の理解	学校の組織について学ぶ	学校の組織について理解を深め、どのように協働すべきか考える	90分
第6回	栄養教諭の職務内容とその心構え	栄養教諭の職務内容とその心構えについて学ぶ	栄養教諭の職務内容とその心構えについて学びを深める	90分
第7回	教育実習校の教諭との連携	教育実習校の教諭との連携について学ぶ	教育教育実習校の教諭との連携について学びを深める	90分
第8回	模擬授業の準備①指導案作り	模擬授業の準備として指導案作りについて学ぶ	模擬授業の準備として指導案作りを行う	90分
第9回	模擬授業の準備②教材づくり	模擬授業の準備として教材づくりを学ぶ	模擬授業の準備として教材づくりを行う	90分
第10回	模擬授業の模擬体験①指導案を使用して模擬授業	模擬授業の模擬体験として指導案を使用しての模擬授業を学ぶ	模擬授業の模擬体験として指導案を使用しての模擬授業準備を行う	90分
第11回	模擬授業の模擬体験②教材も使用しての実践模擬授業	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業を学ぶ	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業準備を行う	90分
第12回	教育実習後のオリエンテーション	教育実習後の報告発表の準備について学ぶ	教育実習後の報告発表の準備を行う	90分
第13回	栄養教育実習記録の整理・報告書作成	栄養教育実習記録の整理・報告書作成について学ぶ	栄養教育実習記録の整理・報告書を作成する	90分
第14回	実習の自己評価と報告会準備	実習の自己評価と報告会準備について学ぶ	実習の自己評価と報告会準備を行う	90分
第15回	栄養教育実習報告会	栄養教育実習報告会を行う	栄養教育実習報告会について準備する	90分

学習計画注記	教育実習時期は人によって異なるため、自ら積極的に指導教諭と協議し栄養教育実習に出るための準備を行い、実習校及び指導教諭と連絡を取り合うことが必要である。
学生へのフィードバック方法	個別に指導案及び教材等、また教育実習に出るための事前準備・事後指導内容について授業中に解説を行ったり、添削して返却しフィードバックを行う。
評価方法	教育実習に行くための事前準備の取り組み（30%）及び報告書作成などの事後の取り組み（30%）、さらに報告発表会及び平常点（40%）で評価する。（平常点は授業への参加状況や教育実習に挑む態度や報告発表会への参加状況や態度で総合的に評価する） ・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。 ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	報告発表会	○	○	○	○
	レポート	○	○		

評価割合	学校概要の調査30%、その他指導案や教材作成・報告書作成等の作成40%、平常点30%（平常点は授業への参加状況や教育実習に臨む態度及び報告発表会の準備など総合的に評価する）
参考図書	小学校学習指導要領（文部科学省） 中学校学習指導要領（文部科学省）

	食に関する指導の手引き（文部科学省）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解している。 【思考・判断】栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度】栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。 【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる。
オフィスアワー	月曜日４時間目　1605教室
学生へのメッセージ	栄養教諭になるための教育実習にでるために、教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習にでるための課題発見力・課題解決学習についてグループワークや模擬授業練習を通じて学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養教育実習（食物）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし

ナンバリング	Y40301M43
授業概要(教育目的)	小学校または中学校において教育実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めていくことを目的とする。
履修条件	本学食物学科の教育実習派遣基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭として現場で必要な知識を理解している。
思考・判断の観点（K）	栄養教諭として、教育現場で自動生徒に適切な指導について自ら考え、指導の先生方に相談しながら、判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教諭として現場での実践に、意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	食に関する指導の実施に於いて、専門的知識と技能をもって、栄養教諭として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習1日目①	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかり考えておくこと。	90分
第2回	教育実習1日目②	授業見学をしっかり行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けるこ	90分

			と。栄養共有の職務内容について理解を深める。	
第3回	教育実習1日目③	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。栄養教諭の職務内容について理解を深める。	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。	120分
第4回	教育実習2日目①	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ。	学校現場で活用されている教材をしっかり見学し、深く学んで自分の授業に活かすこと。	90分
第5回	教育実習2日②	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。	120分
第6回	教育実習2日目③	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ。	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める。	90分
第7回	教育実習3日目①	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ。実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	栄養教諭として現場での児童・生徒への指導について理解を深める。	90分
第8回	教育実習3日目②	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ。	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める。	90分
第9回	教育実習3日目③	栄養教諭として教育現場で児童・生徒への指導について学ぶ。	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。	90分
第10回	教育実習4日目①栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ。	学習指導案の作成。T.T.（ティーム・ティーチング）の方法等について指導される先生のご指導を受け、積極的に取り組む。	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこと。	90分
第11回	研究公開授業の準備（１）	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。	240分
第12回	研究公開授業の準備（２）	研究公開授業は、生徒とのコミュニケーション、授業力、教材研究、教員とのコミュニケーション等全てが評価される場であることを学ぶ。最善の努力をし、自分の力を出し切る集中力を学ぶ。	事前に参観して下さる先生方には、押印した学習指導案をお渡ししながら、参観のお願いをしに行くこと。指導の先生の指示を良く聴くこと。	240分
第13回	研究公開授業	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。	240分
第14回	教育実習最終日・教育実習ノートの提出	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちん挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。	120分
第15回	教育実習校への御礼状、大学への報告	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。	240分

学生へのフィードバック方法	実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。 公開研究授業を大学教員が参観する。
評価方法	教育実習校における評価が大部分を占める（90%）。 状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある（10%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
勤務態度		○	○	

	教材研究	○	○	○	○
	生徒指導		○		○
	教員とのコミュニケーション		○	○	
	事前準備	○	○	○	

評価割合	実習校の評価（90%） 特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある。（10%）
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省『中学校学習指導要領』 文部科学省『小学校学習指導要領』 食に関する指導の手引き（文部科学省）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施ができるよう情報を収集し、指導の先生方のご指導を受けながら、それらを総合して判断することができる。 【関心・意欲・態度】栄養教諭としての専門性と探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。 【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための教育者としての技能や表現力を身に付けている。
オフィスアワー	教育実習中なので、アポイントメントにより時間調整を行うこと
学生へのメッセージ	教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありましょうが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	まさに実務経験のある先生方に囲まれて実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		多様な情報の中から、児童生徒に教えるために正しい情報を識別する能力を養う。
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養教育実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻　雅子	指定なし
助教	會退　友美	指定なし

ナンバリング	Y40503C13
授業概要(教育目的)	教育実習校において実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および、教員として学校で行う全般的な業務に携わる。大学での学びや実習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々との関わりに、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習一日目①	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第2回	教育実習一日目②	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第3回	教育実習一日目③	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第4回	教育実習二日目①	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分

第5回	教育実習二日目②	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分
第6回	教育実習二日目③	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分
第7回	教育実習三日目①	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第8回	教育実習三日目②	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第9回	教育実習三日目③	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第10回	教育実習四日目①	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第11回	教育実習四日目②	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第12回	教育実習四日目③	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第13回	教育実習五日目①	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分
第14回	教育実習五日目②	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分
第15回	教育実習五日目③	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分

学習計画注記	教育実習内容は教育実習校と打ち合わせて決めるため、自ら積極的に実習校と連絡を取り合うことが必要である。
学生へのフィードバック方法	栄養教育実習中の学びについての評価は、栄養教育実習記録に教育実習校の指導教諭及び校長からコメントで返却される。 また教育実習中の振り返りについては後期の教職実践演習（栄養）の方でもフィードバックを行う。
評価方法	教育実習校からの実習評価と「栄養教育実習記録」及び報告発表会及び平常点で評価する。（平常点は教育実習に挑む態度や報告発表会への参加状況や態度で総合的に評価する）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	教育実習校の評価	○	○	○	○
	栄養教育実習記録	○	○	○	
	報告発表会	○	○	○	○

評価割合	教育実習校の評価９０％、栄養教育実習記録５％、栄養教育実習指導での取り組み５％
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定はない
参考図書	小学校学習指導要領（文部科学省） 中学校学習指導要領（文部科学省） 食に関する指導の手引き（文部科学省）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解している事に該当。 【思考・判断】栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける事に該当。 【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる事に該当。

オフィスアワー	月曜日3時間目　1605教室
学生へのメッセージ	栄養教諭になるための教育実習であるため、教育現場で教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	辻は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。また會退は保育園で乳幼児に関わった実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習を通じて、課題発見力・課題解決学習について学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育実習指導（小：3年次）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3,4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし
教授	齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y34006M11
授業概要(教育目的)	小学校教育実習の手引きや実習の事前・事後指導などを通して教育実習の意義を確かめ、教育実習生としての基礎的知識と基本的技能を修得する。教育実習生の立場や心得、勤務形態、学齢による心身の成長発達、学習指導要領に準ずる教科指導とカリキュラムマネージメント、教育目標に則した学級経営、児童の生活指導や個に応じた支援、教材研究と研究授業などに関する留意事項を理解する。教育実習生としての真摯な姿勢、具体的な教師像をもつ教育職員として実践に取り組む責任感や態度を身に付ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	小学校実習（初等教育実習C）に取り組むための基礎事項を理解し、教育の現場で学ぶための実践的・専門的な知識を実践活動に関連づけられる。
思考・判断の観点（K）	今日的な課題や地域の実態に応じて教育実践の内容と方法を検討し、教育の目標の達成に向けたよりよい指導を改善する視点と判断力を発揮できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもの人権や個性を尊重し、地域に根ざす学校の教育目標や学校・学年・学級経営方針に即して実践的な知識・技能を学ぶ協調性や姿勢を発揮できる。
技術・表現の観点（A）	個や状況に応じて学習・生活指導を行うための基礎となる表現力や対話力、教科指導における基本的な技能を実践場面で活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	教育実習の意義と目的・実習校の選択ガイダンス	小学校の教育実習に参加するにあたって教育実習の意義と目的を知る。実習記録（日誌）の記述内容や取り扱いなど、学校教育の現場に参加する際の基本的な留意事項を理解する。	『小学校実習のてびき』（児童学科編）を参照し、教育実習の概要を確認しておく。	90分
第2回	教育実習の具体的な目	教育目標の達成に向け、児童の発達に応じた要求と特性を捉え、指導を工夫しながら児童への理解と愛情に基づ	『小学校実習のてびき』第１章のⅡを参照し、児童理解、指導	90分

	標と関連する資質	く人間関係を形成する趣旨を理解し、社会的役割と大学での学びを総合的に生かす指導改善の姿勢を準備する。	改善、責任等を確認しておく。	
第3回	小学校教育実習の心得・学校の組織と生活・教育目標と学級経営	教育実習生の出退勤管理、授業の参観や担当、人権・個人情報や安全管理、危機管理などの概要を知り、所属学級における指導教諭や児童との接し方に関する基礎的事項を理解する。	『小学校実習のてびき』第１章のⅢを参照し、小学校教育実習の心得と厳守・留意する事項を整理しておく。	90分
第4回	事前面談・教育実習計画（オリエンテーション）について	配属学校でのオリエンテーション（実習前の面談・打ち合わせ）について、手続きやマナー、持ち物などの留意事項を理解する。	『小学校実習のてびき』第１章のⅣを参照し、学校オリエンテーションの流れを整理しておく。	90分
第5回	教育実習（教育実地研究）における研究テーマの決め方	教育実習における授業観察や授業研究の意義を考え、研究テーマの決め方や研究授業の設定までの要件と流れを理解する。	『小学校実習のてびき』第１章のⅤを参照し、自身の問題意識と研究目標（テーマ）を検討しておく。	90分
第6回	「学習指導案」作成の手順	学校経営方針（教育目標）に基づく「学習指導案」の意義や責任、「学習指導案」作成に必要となる基礎知識と専門的な技能を身に付ける。教科単元の事例をあげて授業改善に向けた観点を共有する討論を通して、実践と計画との関連を捉える。	『小学校実習のてびき』第１章のⅥを参照し、「学習指導案」の形式や作成手順を整理しておく。	90分
第7回	小学校教育実習の実際	小学校各学年の児童の特性について「からだ・こころ」の両面から概要を知り、発達・成長に応じた指導上の配慮を理解する。	『小学校実習のてびき』第１章のⅦを参照し、学年ごとの傾向や特徴を整理しておく。	90分
第8回	授業参観の方法	授業参観や実践観察における記録の取り方について、基本事項や着眼点、記録形式と手順、参加マナー、記録を基にした考察方法などを、実例を参照して理解する。簡単な実践記録を体験することを通して、考察や解釈の方略を修得する。	『小学校実習のてびき』第１章のⅧを参照し、授業観察における基本的な内容を整理しておく。	90分
第9回	学習指導案の作成から授業まで	「学習指導案」の作成から授業実践までの流れを知り、作成の手順、授業当日までの教材研究のポイント、授業後の協議会の留意事項などを理解する。学習指導案の実例を基に簡単な研究協議会を摸し、留意点を体験的に理解する。	『小学校実習のてびき』第１章のⅨを参照し、学習指導案作成と授業までの準備や協議会・反省会の概要を整理しておく。	90分
第10回	実習日誌の書き方	実習日誌の意義及び記録項目や具体的な記述方法について知り、記録に基づいた考察（仮説的視点と解釈・事象の取り扱い）の方法を理解する。記録の実例をあげ、実際の考察記述を体験し、相互評価する討論を通して情報処理の理解を深める。	『小学校実習のてびき』第１章のⅩを参照し、実習日誌の意義や基本項目を整理しておく。	90分
第11回	お礼状の書き方	教育実習終了後に配属校に提示する「お礼状」の書き方について、その意義を踏まえ、記述する内容や指し出しの手順を理解する。	『小学校実習のてびき』第１章のⅪを参照し、「お礼状」作成の基本的な流れを整理しておく。	90分
第12回	教科等の概要（各教科・領域の目標・育てたい資質・能力・学習形態）	学習指導要領に示される「各教科・領域の目標・育てたい資質・能力」について確認し、実習時の授業観察や授業づくりの観点とする方法を理解する。指導と評価の一体的な扱いを実現するための教科特性、合科的指導の可能性や課題について、知見を深める。	『小学校実習のてびき』第2章のⅠを参照し、各教科の目標に準じて「求められる資質・能力」を確認しておく。	90分
第13回	学習指導案の作成（導入形態と主発問）	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に導入と主の発問を相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。	『小学校実習のてびき』第2章Ⅱ（学習指導案の様式）を参照し、自分が作成する教科または領域の特性を整理し検討しておく。	90分
第14回	学習指導案の作成（指導と評価の一体化・見取りと評価材料）	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に指導と評価活動の連携を観点に相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。	『小学校実習のてびき』第2章Ⅱを参照し、「全体の指導計画」と「本時の展開」の関連や、目標と評価規準の関係を整理しておく。	90分
第15回	教材研究と反省的実践	授業づくりと授業改善に求められる教材研究の意義や内容、実践授業の成果や課題を省察する観点や協議会の捉えについて理解する。授業改善に向けた実践者の評価サ	『小学校実習のてびき』全体を振返り、実習生活に求められる	90分

		イクルを理解し、授業者としての実践力・改善力を高める。	意識・資質・能力を整理しておく。	

学習計画注記	履修者の実習期間により、スケジュールが変動する場合がある。
学生へのフィードバック方法	・教育実習の心構えをはじめ、学習指導案の書き方や教育実習記録の書き方など実務の基礎知識・基本的な技能を高める。授業ごとに個々の疑問や課題を「ドキュメントシート」に記し、適宜、助言指導を返す。 ・教育実習に参加する前に、各教科・領域等の「学習指導案」を作成し、学習指導に要する汎用的スキルを修得する。想定した教科・領域の指導計画について、重要な観点を指摘し、コメント付きで返却する。 ・教育実習終了後は報告会を通して情報を交換し、教育職員としての資質を向上する。討論や講評を通した振返りの成果を記す「実習報告シート」は討論の継続（類型化）に活用し、その過程を講評する。
評価方法	・ドキュメントシートについては、教育実習の基礎的事項に関する理解の深まり方を示す考察記述を評価する。 ・学習指導案については、単元目標と評価計画の整合性、単元設定の理由となる児童観・教材観・指導観の記述、展開方法の妥当性を評価する。 ・実習報告では、実習前後における問題意識の変容や深まり方を評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ドキュメントシート	○		○	
	学習指導案	○	○		○
	実習報告シート		○	○	

評価割合	ドキュメントシート（20%）、学習指導案（50%）、実習報告シート（30%）を総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	『小学校実習の手引き』東京家政学院大学児童学科編（配布）
参考図書	齋藤義雄『教育方法・技術論ー主体的・対話的で深い学びに向けてー』大学図書出版、2018年、ISBN：978-4-907166-85-4c3937
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】地域に根ざす学校の教育目標や人権を尊重する立場を理解し、初等教育実習（小）に臨むための基礎的な知識を有する。 【思考・判断】場面の状況に応じる指導観を基に、適切な教育行動を実践する主体性や協働性を有する。 【関心・意欲・態度】人格を形成という教育の目的に高い関心をもち、自らを改善する主体性や自己教育力を有する。 【技能・表現】教科学習や生活指導場面で基礎となる対話力や創造性を発揮し、指導を計画・展開・省察・改善する基本的な技能を有する。
オフィスアワー	金曜3限　1629研究室（立川）　火曜2限　1628研究室（齋藤）
学生へのメッセージ	小学校教育実習の意義について理解し、どのような目標をもって臨むか、自身の考えをまとめておくこと。学び手として実習に望むが、子どもにとっては指導者である。期間中、この両義的な立場に位置づけられることを自覚し、将来像をつくりながら誠実に取り組みたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修や企業・地域行政と連携するネットワークを生かし、求められる教師像や学校教育の役割など、今日的な情報と知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	小学校で常態化している集団討論や協働的な問題解決などの学習形態を実体験することを通して、相互主体的に学び合う機会をもつ。
情報リテラシー教育	○	指導の実例を積極的に参照するために、著作権・肖像権の有無や情報の真偽にも留意して自身の計画・実践に活用するリテラシーを高める。
ICT活用	○	タブレット型PCや電子黒板、デジタルコンテンツや教育用アプリケーション、視聴覚機器を活用する実践形態について、体験的に理解する機会をもつ。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育実習Ｃ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし

ナンバリング	Y44009M43
授業概要(教育目的)	小学校において、校長をはじめとする指導教諭等の指導の下で、授業観察、授業参加、授業指導を主にした実地研究を行う。この教育実習を通して、社会的義務と期待を担う学校教育の実務を体験的に理解する。 この実地研究に際し、大学での学習と小学校における指導を関連づけて考察・判断する基礎・基本的な知識・技能を確認したり省察していく。事前・事後を通して、教育実習の意義や教育職員としての服務、学年・学級経営、学習指導、生徒指導等についての資質・能力、教員として相応しい教職観、倫理観などを身に付けることを目的とする。
履修条件	「学生便覧」の定める教育実習派遣基準（小学校）を満たしていること。 「小学校教育実習指導」の授業を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学習指導要領をはじめ学校教育に求められる社会的機能を実践する場に臨む責任と意義を理解し、実践活動や改善に努めるための基礎的な知識を説明できる。
思考・判断の観点（K）	教科の特性や場面状況に応じて適切な指導援助を実践する判断力・決断力をもち、問題解決の具体的方法や観点をあげることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	児童の個性を尊重して理解することに関心をもち、共に育つ喜びを実感しながら個に応じた教育活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	学級経営への参加や授業づくりに臨むための基本的な技能をもち、適切かつ柔軟に発揮するための表現力・対話力を発揮できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション（学校・地域の特性・実習の流れの把握）	教育実習の概要について、配属学校にて事前説明を受ける。学校と地域の特色、教育目標、配属された学年学級経営方針、児童の実態、学校の行事日程ほか、教育実習の内容日程、勤務時間と出退勤管理、準備品、担当授業数、施設設備と備品管理などの概要を知る。	オリエンテーション前に学校や教育委員会のホームページなどを参照し、地域と特色ある教育活動を把握しておくこと。説明を受けた留意事項は、教育実習記録に記入する。実習初日まで	120分

			に、自分の実習目標（研究テーマ）を想定しておくこと。	
第2回	本実習（学校教育目標の理解と児童理解）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	実習初日から配属学校の教育目標と地域に根ざした特色ある教育活動を把握する。配属学級の経営方針と児童の実態把握に努める。	120分
第3回	本実習（研究テーマの決定と児童理解）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	教育実習記録（実習日誌）に、児童の実態に即して自ら設定した目標を記述する。一日の学校生活の流れを理解し、教科指導と生活指導とのけじめ、登下校指導や給食・清掃指導のルールなど学校生活での教師の役割について振り返る。	120分
第4回	本実習（授業観察・授業参加）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	授業観察を通して、教科の特性や指導方法の違い、児童個々の理解を深める。観察記録を振り返り、理解の個人差や対応方法を検討し、担当する教科や指導法を検討する。	120分
第5回	本実習（教科・単元目標と内容・教材研究）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	授業観察を通して、担当する教科における指導法の考察と教材研究を進める。学習指導要領の教科目標と学年目標、内容の取り扱いを理解し、担当学級・学年の実態に合わせた指導方法を検討していく。	120分
第6回	本実習（学習指導案作成と実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	担当した授業の省察を通して、教科・単元の目標に準拠した教材の研究を進める。児童の学びに向かう態度を高める教材・発問を工夫し、視覚教材、具体物、学習形態を具体的に改善する手段を考察する。	120分
第7回	本実習（学習指導案作成と実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	学習指導案の作成や改善を通して、指導計画を見直しながら、単元のねらいを実現する「導入・展開・終結」の流れを具体的に検討すする。実践的な指導法や児童個々の理解に応じるみとりについて反省し、学習形態（個人・小グループ・全体活動）の活用展開を改善するための視点を確認する。	180分
第8回	本実習（授	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組	担当した実践授業を通して、教	180分

	業実践）	む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	科ごとに児童個々の理解を深め、個に応じた指導方法と教材活用を検討する。検討した教材の選定や活用方法が単元や題材のねらいの具現化に則しているかを視点に考察を重ねる。	
第9回	本実習（学習形態と指導法）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	能力別編成の学習形態、体験型実技型の教科の特性、発問のことば選び、板書計画、活動の時間配分などについて、各教科の見方・考え方を高め、育てたい資質・能力を培う活動計画を具体的にしていく。	180分
第10回	本実習（研究授業設定と準備）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業とする教科を決定し、学習指導案を作成する。これまで担当した実践授業の成果と課題を振り返り、自分の研究テーマの視点や指導教諭からの助言を基に、指導計画を改善する。	180分
第11回	本実習（研究授業計画）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業の指導案の計画についてシミュレーションを繰り返し、教材の提示と活用、既習事項と発展学習とのつながりなどを視点に考察する。	180分
第12回	本実習（研究授業計画）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業直前準備として、学習指導案の記述と本時の流れについて最終確認を行う。教材準備（内容・提示・配布・回収など）と学習形態との適性を検討し、予想される児童の反応を具体的に想定する。	240分
第13回	本実習（公開研究授業）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、	研究授業を実践と協議会を通して、学習指導案と実践の差異、個に応じた指導や形成的評価、学級全体の活動の様子、教科・単元の目標や内容と理解の実態を省察する。協議会での自評や助言への謝辞など、省察的実践者としての基礎的な態度と意義を体験的に理解する。	360分

		指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。		
第14回	実習成果と課題の整理	教育実習の成果と課題を自分の研究テーマの視点を中心に整理する。 教育実習終了後に教育実習記録を実習学校に提出し、学校から事後指導を受ける。	教科指導を支える学級経営、学年間の連携、特別な配慮を要する児童の理解と支援、学校の教育目標を実現する学級目標に則した生活のあり方について理解を整理する。教育実習記録を振り返り、自分の研究テーマの視点から実習の成果と課題を明確にする。	180分
第15回	教育実習の省察・まとめ	教育実習を通して学んだことを教育実習記録にまとめ、以後の学習に反映する課題を明らかにする。教育実習全般を通して実習生活を支えて頂いた教職員、共に育とうとしてくれた児童に感謝し、教育職員としての職業観や社会人としての礼節を身に付ける。	実習校・学校長の所見・指導助言を受けた事項と自己の研究テーマを観点に実習全般を振り返り、省察する。期間中に作成した学習指導案や教材資料とともに、大学へ提出する。	240分

学習計画注記	受け入れ学校が実情を勘案して立案する教育実習計画により、実習生の配属学年・学級、内容日程が決定する。研究授業の日時・校時・教科または領域は、学校側の指導教員と相談して決定する。
学生へのフィードバック方法	・配属学校における事前オリエンテーションの内容について、疑問や不安を解消するよう相談に応じる。 ・教育実習記録は、記録考察と指導担当教諭の所見を総合的に確認し、コメントする。 ・自己評価票については、巡回指導担当からの報告と勘案して確認し、必要な場合は個別に面談で対応する。
評価方法	・教育実習記録（学習指導案・教材研究資料等を含む）の内容を総合的に評価する。 ・自己評価票の各観点について、巡回指導教諭の所感・配属学校教諭・校長の所見などを基に、目標到達度を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	教育実習記録	○	○		○
	自己評価票・省察記述	○	○	○	

評価割合	『教育実習記録』の記述内容と教育実習校による評価及び教材研究（60%）と自己評価票・省察まとめ（40%）を総合的に判断し評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	『小学校実習のてびき』東京家政学院大学現代生活学部児童学科編 『教育実習記録（日誌・自己評価票）』東京家政学院大学現代生活学部児童学科編
参考図書	文部科学省『学習指導要領解説』（総則と各教科編） 齋藤義雄・中田範子『幼稚園・小学校教育実習ー学びの連続性を通してー』大学図書出版　2018年、ISBN：978-4-907166-87-8c3037
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、児童や学校教育に関する専門的な知識を有する。 【思考・判断】児童や学校の教職員・教育実践者などと直接ふれあい実践的機会を通して、様々な場面課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】児童の見方・考え方に関心をもち、児童と共に育つという主体的・対話的な姿勢・態度を有する。 【技能・表現】教科学習や生活場面の指導に求められる基本的な技能と個の状況に応じたコミュニケーション能力を発揮できる。
オフィスアワー	金曜3限（前期）、水曜4限（後期）、1629研究室
学生へのメッセージ	・実習とは、単なる体験ではなく、大学の学びと実地での知見を統合する研究（教育実地研究）に位置づく主体的な探究活動である。ゆえに、自分が描く教師像の具現化に向けた「研究テーマ」が必須になることを念頭に置いて臨みたい。 ・実地研究（実習）を通して、主体的に課題を解決し、小学校教員としての資質・能力の向上につなげるように取り組む。教育実習の意義や実務に参加する社会的責任を自覚した真摯な姿勢が求められる。 ・教育実習期間中における大学への「報告・連絡・相談」を心掛ける。特に、研究授業の日程や内容は、巡回にあたる担当教員に事前に連絡し、相談に努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修著者や文部科学省学習資料作成委員として現職教員の研修・地域行政や企業との連携するネットワークを生かして、今日的な教育

		課題に相応した情報や知識、授業研究の実践的な方略を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	配属学校の教職員や児童との関わりと対話を通して、地域に根ざす学校教育の意義や役割を実感し、主体的に見いだした課題の解決にあたる。
情報リテラシー教育	○	地域の実態に即した特色ある教育活動について情報を整理し、児童理解のための情報、学校の教育目標に基づく指導方針などに関心をもって実践に活用する。
ICT活用	○	電子黒板、タブレット型PC、ネットワーク、webコンテンツ、デジタル教科書や視覚教材などについて、配属校の環境と指導目的に応じて効果的に活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育実習指導（幼：3年次）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3,4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし
准教授	中田　範子	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし

ナンバリング	Y34006M11
授業概要(教育目的)	幼稚園における初等教育実習に先立って行う事前指導と、教育実習が終了してから行う事後指導が含まれる授業である。実習の意義や実習生としての立場と心得、教育実習生としての勤務の在り方を理解することを目的とする。また、学生が幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と保育の実際との関連について理解を深めながら、幼児の発達に応じた保育者の援助、保育内容等についての留意事項を学び、実習の成果を高めようとするものである。
履修条件	「初等教育実習A」を履修する者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	実習の意義や実習生としての基本的な態度について理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	幼児に適した保育内容であることを考え、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	初等教育実習Aを通して学んだことを省察し、今後に向けた課題を見出し自覚化する。
技術・表現の観点（A）	実習に向けて幼児の発達段階に応じた保育内容を考え、指導計画の作成に適した文章で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダン	「初等教育実習A」の報告会へ参加する。幼稚園生活の流れ、幼児の姿や保育を観察する際の観点について理解する。	参加した実習報告会の内容をまとめ、気づきと自らの課題についてまとめておく。	30
第2回	幼稚園・こども園にお	幼稚園・こども園における子どもの1日の姿について、映像を視聴することを通して学びを深める。	幼稚園・こども園における、幼児の姿、保育者の援助、環境構	60

	ける子どもの姿		成について、気付いたことをまとめる。	
第3回	幼稚園・こども園における子どもの姿と保育者の援助	幼稚園・こども園における子どもの姿と保育者のかかわりに関する映像を視聴し、環境構成や保育者の援助について学びを深める。	講義での気づきをまとめるとともに、観察実習に向けての課題を明らかにしておく。	30
第4回	オリエンテーションの実施概要・初等教育実習Aの心構え	・実習園でのオリエンテーションの内容と事務手続きについて理解する。 ・実習の意義と実習生としての在り方を理解する。	・「実習の手引き」をよく読み、疑問点等をまとめておくこと。 ・授業で習った実習の心構えや目標の設定をもとに、「実習生個人票」「初等教育実習Aに臨んで」を作成する。	60
第5回	実習記録について	実習記録の作成と観察の実際について演習を通して理解する。	「実習の手引き」、授業資料、日誌等の内容を確認し、疑問点についてまとめておく。	30
第6回	保育の実際	園生活に関する画像や動画を用いて、幼稚園の一日の生活を理解し実習に役立つ技術を修得する。	授業内容と気づき、課題について記入する。	30
第7回	初等教育実習Aの振り返り ・実習報告会	初等教育実習Aを省察し、新たな目標を設定する。実習報告会を行う。	実習報告会の発表内容と発表方法を各グループで討議し、資料を作成する。	110

学習計画注記	やむを得ない事情で授業を欠席する場合には、授業内容や配付物等を自分で確認すること。また、必要に応じて個別の対応を行う。
学生へのフィードバック方法	提出されたワークシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。
評価方法	・ワークシート等の提出物、及び授業内の発表等を対象に評価を点数化する。 ・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	ワークシート	○		○	
	実習日誌		○		○
	報告会発表	○	○	○	○

評価割合	提出物(70%)、報告会発表(30%)
使用教科書名(ISBN番号)	使用せず
参考図書	文部科学省「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説書」 文科省、厚労省、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」 東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A　実習の手引き」
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、子どもに関する専門 的な知識が修得できている。 【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通し て、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。 【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿 勢・態度を身につけている 【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	吉永：前期 月曜日3限, 後期 水曜2限 中田：前期は火曜日1,5限、後期は火曜日3,4限 末松：水曜3限
学生へのメッセージ	本授業は、幼稚園での実習が実りあるものとなるための大切な授業です。毎回の授業内容を確実に理解し、身につけ、疑問点はその都度解決するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	幼稚園での見学実習では、実際に幼稚園を訪問し、幼児と関わりながら観察する。また、実習報告会の準備及び実施の過程において、自らの経験を振り返りながら、学生同士の意見交換を行う。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考え、指導計画を作成する。
ICT活用	○	幼児の姿や幼稚園生活の実際を理解するために、画像や動画を用いた授業を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育実習Ａ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし
准教授	中田　範子	指定なし
非常勤講師	沼澤　由佳子	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし

ナンバリング	Y34007M13
授業概要(教育目的)	日々子どもたちが生活する幼稚園において、子ども達の遊びや集団活動等の様子を観察することを中心にした実習である。また、初等教育実習Ｂにつなげる実習でもあり、適宜、子ども達と実際に関わることを通した観察や、部分実習等を行う。こうした実習を通して、幼稚園教育の実際を体験し、幼稚園生活や子どもと保育の実態を理解するとともに、初等教育実習Bへ向けての課題の抽出と目標の設定へとつなぐことを目的とする。
履修条件	初等教育実習指導(幼)を履修していること。学生便覧に定める実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幼稚園において幼児との関わりを体験しながら、幼児の発達の様子や、保育環境の構成、保育内容等を理解し、幼稚園教諭や他の教職員の役割に気付き、理解を深める
思考・判断の観点（K）	子どもを取り巻く家庭・地域に対する幼稚園や保育者の役割について考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	日々の保育の省察をもとに積極的に実習課題を見出だし、実践する。
技術・表現の観点（A）	子どもの気持ちに寄り添いながら、保育者として適切に援助し、関わることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う	オリエンテーションの内容を日誌に記入し、ピアノの練習、読	60

			み聞かせをする絵本の選定等、必要な準備をする。	
第2回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第3回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第4回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第5回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第6回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第7回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第8回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第9回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60

		わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。		
第10回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第11回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第12回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第13回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第14回	反省会・事後指導	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。	60
第15回	保育の省察	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。	初等教育実習Bに向けた課題を見出し、準備を進める。	60

学習計画注記	各実習園の状況により、配属クラス、部分実習の内容等が異なるため、各自でよく確認してください。
学生へのフィードバック方法	提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。
評価方法	・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。 ・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習園からの評価項目1				○
	実習園からの評価項目2			○	
	実習園からの評価項目3	○		○	

	実習日誌		○		○
	振り返りシート		○	○	

評価割合	実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	使用せず
参考図書	東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A　実習の手引き」「初等教育実習A　実習日誌」
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、子どもに関する専門 的な知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿 勢・態度を身につけている。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	吉永：前期 月曜日3限, 後期 水曜2限 中田：前期は火曜日1,5限、後期は火曜日3,4限 末松：水曜3限
学生へのメッセージ	実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。子どもとの関わりを楽しみ、心を動かしながら多くのことを学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。
ICT活用	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育実習Ｂ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永　早苗	指定なし
准教授	中田　範子	指定なし
助教	末松　加奈	指定なし

ナンバリング	Y44008M33
授業概要(教育目的)	実際に教育活動が展開されている幼稚園の中で、園長を始め指導教諭等の指導の下で、観察、保育参加、部分実習、全日実習を3週間にわたって行うものである。この実習を通して、教育として行われる業務に全般的に携わることになる。大学での学習と幼稚園における実践等を関連させて考察しながら、教師としての服務、学級経営、環境の構成や保育者の援助等、総合的な力を身に付けるとともに、教員として相応しい教職観、倫理観、識見を豊かにする。
履修条件	3年次に「初等教育実習A」の単位を修得し、「初等教育実習指導(幼)」を履修していること、「学生便覧」の定める実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幼稚園において、幼児の姿を受け止め、関わることを通して、子ども一人ひとりに応じた援助の在り方を理解する。
思考・判断の観点（K）	長期的及び短期的な保育のねらいと方法、内容の関連について実践を通して具体的に考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	子どもの様子や自分自身の子どもとのかかわりや援助の方法を省察することにより、課題を明確にして取り組む。
技術・表現の観点（A）	幼稚園における幼児の遊びや活動が充実するような保育者としての援助や環境構成等の保育技術を身につけ、実践する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う	オリエンテーションの内容を実習日誌に記入し、必要な準備を行う。	60

第2回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60	
第3回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60	
第4回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60	
第5回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60	
第6回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成す	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60	

		る。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第7回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第8回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第9回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第10回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第11回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとり	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		との関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第12回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第13回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第14回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第15回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第16回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第17回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第18回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第19回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第20回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第21回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第22回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第23回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第24回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第25回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第26回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で	一日の保育を省察しながら実習	60

		実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	
第27回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第28回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第29回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第30回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第31回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第32回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第33回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第34回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第35回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第36回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第37回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第38回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第39回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第40回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第41回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第42回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第43回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第44回	反省会・事後指導	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。	60
第45回	保育の省察	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。	自己の課題を見出し、よりよい社会人、保育者となるための準備をする。	60

学習計画注記	実習園の方針により、実習内容や配属クラスが異なるため、各自でよく確認してください。
学生へのフィードバック方法	提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。
評価方法	・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。 ・担当者間で協議の上、評価を決定する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習園からの評価項目1		○	○	○
	実習園からの評価項目2			○	
	実習園からの評価項目3				○
	実習日誌	○	○		○
	振り返りシート		○	○	

評価割合	実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	使用せず
参考図書	東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習B　実習の手引き」
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの 教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に 理解し、子どもに関する専門 的な知識が修得できている。 【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通し て、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。 【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿 勢・態度を身につけている。 【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュ ニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	水曜日2限目
学生へのメッセージ	実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容や指導案の作成について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。
ICT活用	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教職実践演習（中等）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし
准教授	齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y40102M22
授業概要(教育目的)	大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力や指導力の実践力とのさらなる統合を図り、教師としての使命感や責任感に基づく、教師としての資質形成を目的とする。教育実習で指摘された改善点に取り組み、教師としての能力を更に高める時間としたい。おもな授業形態は、講義や演習、模擬授業、ロールプレイ、学校見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。
履修条件	教育実習AまたはBを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教育に関する基礎的知識、家庭科教員としての専門的知識をある程度有し、また、知識・理解が不足している時に、その知識に関する調べ方がわかっている。
思考・判断の観点（K）	生徒への対応が、教育者として思慮深く、客観的な判断基準を有している。
関心・意欲・態度の観点（V）	教育や家族・家庭について常に関心を持ち、向上心と研究意欲をもって、より良い教育者になろうとする意欲があり、教師としてふさわしい態度は何かを考えることができる。
技術・表現の観点（A）	・生徒にわかり易く、生徒の興味・関心を惹き出すような学びのプログラムを企画する能力がある。 ・声・文字・身振り等を通して、相手に伝える表現力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	教職課程の集大成として4年間を振り返り、教育実習で指摘されたこと等を克服して、履修カルテを完成させることが本演習の目的であることを学ぶ。	家庭科は生活科学なので、日々情報入手にアンテナを張り、次世代を育てられる知識量を見に付けること。	90分
第2回	教職と教育実習に関す	教職課程全体と教育実習を振り返り、どのような点を今後努力していくべきかを学生間でディスカッションし、確認し合う。	中学高等学校で公開されている授業を積極的に参観すること。	120分

	るディスカッション			
第3回	自らの反省に基づく授業改善計画の作成	履修カルテを記入しながら、自分が苦手とする分野がどこなのかを確認し、できるだけその苦手分野の模擬授業を本演習で実施することが望ましい。あるいは、実習先で研究公開授業として行った授業をお互いに見せ合うことによって、専門性の高い授業を学び合う。	日々、家庭科に関わる情報の入手と学習に心がける。	90分
第4回	授業力向上のための教材研究・学習会（被服分野　人数によって変動する）	被服分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、より良い授業ができるように学び合う。	中学高等学校が公開している授業をできるだけ参観すること。	90分
第5回	授業力向上のための教材研究・学習会（食分野　人数によって変動する）	食分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。より良い授業ができるように学び合う。	調理実習は、模擬授業ではなかなかできないので、教育実習で担当したことを克明に記録しておくこと。	90分
第6回	授業力向上のための教材研究・学習会（住分野　人数によって変動する）	住分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。	防災や災害時の安全管理についても再度確認しておくこと。	90分
第7回	授業力向上のための教材研究・学習会（家族分野　人数によって変動する）	家族・保育分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。	保育分野は、近年教育実習で行うことが多く、教える内容も増えてきている。充分に学習を積んでおくこと。	90分
第8回	授業力向上のための教材研究・学習会（環境・消費者問題　人数によって変動する）	環境・消費者問題を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を実施する。将来よりよい授業ができるように学び合う。	環境・消費者問題は今社会でも大きな問題になっている。社会で起きていることに敏感になり、正確な情報を次世代に伝えられるように学習すること。	90分
第9回	学級経営	学校における生徒の基礎的な生活集団である学級･ホームルームの活動(特別活動)を通した生徒指導のあり方を、教育実習を振りかえり深める。	文部科学省「生徒指導提要」などを読む。	90分
第10回	教員間のコミュニケーション	教師同士の協力が教師を育てること、情報交換が生徒指導に役立つことを、教育実習で体験した学校行事（特別活動）などの事例を振り返り学ぶ。	文部科学省「学習指導要領解説特別活動論」などを読む	90分
第11回	学校訪問・見学	公開授業を実施している学校を訪問する。あるいは、別の日に公開授業を参観したことで本時の振り替えとする。	基本的に教室外学習である。	90分
第12回	学校訪問・授業見学	11回と同様である。1校の授業見学を2回分と換算する。	本時が教室外学習である。	90分
第13回	家庭科教師と現代社会	本時は、家庭科教員を長く勤められた方をお招きして現場の様子や実体験をお話頂く予定である。	家庭科教員になるために聴いておきたい質問事項等準備しておくこと。	90分
第14回	これからの家庭科教育（ディスカッション）	本演習を通して学んだこと、教職課程を通して学んだこと等を振り返り、ディスカッションを行う。履修カルテを完成させる。	自分の不得意分野に就いてはよく学習しておくこと。	90分
第15回	まとめ	履修カルテを提出し、教員となるための心構えを発表し合う。	履修カルテをしっかり完成させておくこと。	60分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	履修カルテ、教育実習ノートにコメントして返却する。
評価方法	授業参加の姿勢、各授業ごとの話し合いの姿勢の評価。模擬授業の評価。レポート課題の評価など、総合的に評

価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	授業参加の姿勢		○	○	
	模擬授業	○	○	○	○
	履修カルテ		○	○	

評価割合	授業参加の姿勢（30%）、模擬授業（40%）、履修カルテ（30%）
使用教科書名(ISBN番号)	特に指示しない。各講義中で、参考文献を明示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って、責任を果たすことができる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。 ・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。
オフィスアワー	アポイントメントにより時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	教職課程を履修したことが自分の人生にどのように活かされるのか、本当に、教師になりたいのかどうか、真剣に考えてください。いずれは教師への道を選ぶ、という態度もあってよいです。自分の中の教師への志望の意思をある程度明確にされることを希望します。教員という仕事に伴う社会的責任を自覚しながら、自らの人生の歩みを確かなものにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	家庭科教員経験のある方をお招きしてお話して頂く。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教職実践演習（中等）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	１限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし
教授	上村　協子	指定なし
准教授	木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y40102C22
授業概要(教育目的)	大学4年間で学んだ学習知と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力・生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた教師としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義や演習、発表。ロールプレイなどを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	教師としての使命感や責任感と教育的愛情を理解し、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力の必要性を理解することに加え、自己理解を深めること
思考・判断の観点（K）	教育現場で生じている問題に気付き、教師として必要な能力と技術について思考すること
関心・意欲・態度の観点（V）	教師としての能力の形成を具体的に実感できるようになること
技術・表現の観点（A）	保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、児童・生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力を得ること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	教職の使命について	なぜ、教職を志望したのか、そのメモ化。教育実習に行った感想ノート作成。	180分
第2回	履修カルテの完成	履修カルテとは何かをあらためて理解し、必要事項を記入する。	履修カルテの記入に必要な資料をそろえることを予習とする（90分）。授業後、履修カルテのうち、完成できていない部分について記入し、必要事項が全	180分

			て記入された履修カルテを見て、教職課程での4年間を各自振り返る（90分）。	
第3回	教職課程での学びに関するふりかえり（個人）	自分にとって、教職課程での学びとは何だったのか、今後どう活かしていくのかを考える。考えた内容は、パワーポイントにまとめる。	教職課程で学んだ4年間を振り返るのに必要な資料をそろえることを予習とする（90分）。まとめたパワーポイントを基に、小グループで共有する方法を検討する（90分）。	180分
第4回	教職課程での学びに関するふりかえり（小グループ）	前の回に各自でまとめた「教職課程での学び」を小グループで共有する。その後、同じグループで「教職課程での学び」についてグループワークを行い、自分たちの変化、成長への気づきを深める。	作成したプレゼンテーションを、わかりやすくプレゼンテーションできるようにすることを予習とする（90分）。小グループで共有したグループメンバーのプレゼンテーションから、教職課程での4年間を各自振り返る（90分）。	180分
第5回	教職課程での学びに関するふりかえり（全体）	前の回に各小グループで行った「教職課程での学び」に関するグループワークの結果を全体で共有する。また、第2回目から5回目までの授業を振り返り、グループワークの組み立てについても学ぶ。最後に、「教職課程での学び」を共通体験として、自分たちの変化、成長への気づきをさらに深める。	前の回に行ったグループワークから自分が得たことを、適切に表現できるようにすることを予習とする（90分）。気づいた自分の成長を、継続的に伸ばし、社会で活かす方法を考える（90分）。	180分
第6回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備	180分
第7回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、中学生の部活動について、教師の部活動指導の実態に関するメモと資料収集	180分
第8回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、現在の中学生の進路選択のついて資料収集	180分
第9回	学校経営と実習校訪問、併校訪問	学級経営の課題と教師の任務、併校訪問、キャリア教育の実施、併校教師との懇談、学校経営について、生徒の実態と進路状況など、	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、中学生時代の自分の生き方の振り返り、現在の進路選択における自己教養形成についての考察ノート作成、	180分
第10回	学校経営と実習校訪問	生徒指導、子ども観、そして同僚教師の連携、チーム学校に一員としての資質能力形成	チーム学校の一員としての資質能力に関する資料種集とメモ化	180分
第11回	持続可能な社会と家庭科教育　１	家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながるエシカル消費などに裏打ちされた家庭科について、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGｓなど持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第12回	持続可能な社会と家庭科教育２	シェアリングエコノミーなど、あらたな生活環境が出現しているなかでの家庭科教育を考える。若者の生活設計や家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされたかていかきょういくについて、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGｓなど持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第13回	持続可能な社会と家庭科教育３	贈与経済を中心に、家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされた家庭科の授業実践を例に、実際の生活現場を想定した授業案を作成する。	東京家政学院大学の先輩家庭科教師が、持続可能な社会にむけて行っている家庭科教育実践について話をきき調べる。	180分
第14回	持続可能な社会と家庭科教育４	人生100年時代の家族・地域・農業など家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGｓなど持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第15回	まとめ	教職の使命と課題、大学4年間の教養形成と教育実習での「成果」	常勤、非常勤など、今後の教職への準備に必要なことの整理。	180分

			非常勤講師の状態に関する資料集など、	

学生へのフィードバック方法	演習と講義、見学など、 教職専門教師と家庭科科目専門教師の共同。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験（レポート）	○	○	○	○
	レスポンスシート	○		○	○

評価割合	定期試験8割とレスポンスシート2割の総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	特に使用はしない。授業の中で、その都度、参考文献を指示する。
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	4年間の教職科目の締めくくりの講義である。 自分自身が本当に教職に向いているのかどうか、真剣に確かめてほしい。 教職を目ざすのなら、3, 4年はあきらめず、採用試験を突破して、専任の道を目ざす、そういう「意思」を持てるのかどうか。自ら、答えを出してほしい。 そういう、講義にしていきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを用い、自らの成長への気づきを促す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーションの作成やグループワークにおいては、パソコンや写真、動画を活用し、内面的なふりかえりにとどめず、客観的な姿を見ることで、より深い気づきを促す

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教職実践演習（栄養：人間栄養）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし
教授	酒井　治子	指定なし
准教授	吉野　知子	指定なし
准教授	辻　雅子	指定なし

ナンバリング	Y40501M22
授業概要(教育目的)	大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた栄養を中心とする教科指導力や生徒理解力及び指導力とのさらなる統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的にする。おもな授業形態は、講義、演習、模擬授業発表会（ロールプレイ）、実践演習として学校での訪問見学などを組み合わせ、実際の教育現場で遭遇する事案等を想定した教育課題について取り扱い演習を行う事を目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点（A）	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的とした演習についてガイダンスで理解する。（担当：辻）	履修カルテの記入整理をしておく	180分
第2回	教職の意義と教師の役	教職の意義と教師の役割、使命感について理解する。（担当：小野）	教職の意義と教師の役割、使命感について栄養教育実習の振り	180分

	割、使命感についての講義		返りを行っておく。	
第3回	これまでの4年間の学修の振り返りと教職の使命・意義	これまでの4年間の学修の振り返りとともに教職の使命・意義と教師の役割について理解する。（担当：小野）	履修カルテの記入と栄養教育実習の振り返りをまとめておく。	180分
第4回	教師の使命感について	教師の使命感についての討議を行う。（担当：小野）	教師の使命感について栄養教育実習の振り返りを行っておく。	180分
第5回	子ども理解の課題についての討論	子どもについて理解を深めるために子ども観の課題について理解する（担当：小野）	栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行っておく。	180分
第6回	子ども理解・子ども観について事例研究・討議	子ども理解・子ども観について事例研究・討議をおこなう（担当：辻）	栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行っておく。	180分
第7回	地域保護者との共同関係の構築について講義	地域保護者との共同関係の構築について講義を行う（担当：酒井）	栄養教育実習の現場における地域保護者との連携について振り返りを行っておく	180分
第8回	教育現場における給食運営について講義と討議	教育現場における給食運営について講義と討議をおこなう（担当：吉野）	栄養教育実習の現場における給食運営について振り返りを行っておく	180分
第9回	栄養教育の教職模擬授業発表会①	栄養教育の教職模擬授業の発表会を実施する（担当：辻）	栄養教育実習で実施した研究授業のまとめを行う	180分
第10回	栄養教育の教職模擬授業発表会②	栄養教育の教職模擬授業の発表会を実施する（担当：辻）	栄養教育実習で実施した研究授業のまとめを行う	180分
第11回	栄養教育実習校における実践演習①	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第12回	栄養教育実習校における実践演習②	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第13回	栄養教育実習校における実践演習③	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第14回	栄養教育実習校における実践演習④	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第15回	資質能力のまとめと確認	栄養教諭としての資質能力のまとめと確認を行う。（担当：小野）	栄養教諭としての資質能力のまとめを行い、自分自身の教諭としての資質の確認を行う。	180分

学習計画注記	本演習はオムニバスで複数の教員にて担当するため、欠席などしないように気を付けること。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	・各担当教員の授業・演習等の取り組み姿勢や模擬授業発表会及び平常点で評価する。（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する） ・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。 ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	模擬授業発表会	○	○	○	○
	グループワーク	○	○	○	○
	学校見学報告書	○	○	○	

評価割合	平常点５０％、模擬授業発表会３０％、その他学校における実践演習の報告書作成２０％（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する）
使用教科書名(ISBN番号)	テキストは指定しない。配布資料等は随時担当教員が紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる事に該当。 【思考・判断】栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる事に該当。 【関心・意欲・態度】栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる事に該当。 【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる事に該当。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	現代社会の中の子どもの食をめぐる問題を考え、学校や教師の役割について考えてほしい。栄養問題は重要であるが、教育現場では、もっと広く、例えば農業の実際の問題など、食をめぐる様々な問題を考えてほしい。その上で、栄養教諭はどんな課題を引き受けなければならないのかを考えてもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教職実践演習（栄養：食物）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田　敦子	指定なし
教授	三澤　朱実	指定なし

ナンバリング	Y40501M22
授業概要(教育目的)	栄養教諭教職課程の集大成として位置づけられる演習授業である。4年間の教職課程で学んだことを履修カルテを基に振り替える。教育の基礎理論は身についているか、対児童生徒の成長や発達段階を配慮した指導ができるか、授業の実践力（学習指導案の作成、教材研究、児童生徒とのコミュニケーション）、先生方とのコミュニケーション、指導の先生との関係の作り方等、全体の学びを通して教師としての使命感を高め、実際に教職に就く心構えを形成する。
履修条件	栄養教育実習を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭として食と教育に関する専門的な知識を持ち、その活用の仕方を理解している。わからないことがあった場合の調べ方がわかっている。
思考・判断の観点（K）	栄養教諭として食に関する指導をする際に、児童生徒に伝わるような方法を考え、適切な判断をすることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教諭として知識・技能・実践力を身に付けることに積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点（A）	栄養教諭として食に関する指導をする際に、児童生徒に伝わるような表現力と表現できる技術を身に付けている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス	4年間の教職課程の振り返りと履修カルテの書き方	履修カルテの記入を整理しておく	180分
第2回	授業研究	教育実習で実施した模擬授業、教材研究	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方	180分

			法や教材について話し合い、共有し、理解を深める	
第3回	授業研究②（栄養教育1）	教育実習で実施した模擬授業、教材研究（教育実習で作成した学習指導案を中心に発表・報告する）	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。	180分
第4回	授業研究③（栄養教育2）	教育実習で実施した模擬授業、教材研究（教育実習で作成した学習指導案を中心に発表・報告する）	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。	180分
第5回	子どもの健康と食育①	教育実習で実施した模擬授業、教材研究	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。	180分
第6回	子どもの健康と食育に	教育実習で実施した模擬授業、教材研究	教育実習で実施した授業をクラスメートの前で実施し、授業方法や教材について話し合い、共有し、理解を深める。	180分
第7回	給食運営①	教育実習で実施した給食運営について	教育実習で実施した給食運営の留意点について発表し合い、クラスメートと課題等を共有する。	180分
第8回	栄養教育実習校における実践演習①	学級経営についての講義（実習校）		180分
第9回	栄養教育実習校における実践演習②	学級経営についての講義（実習校）	実習校の指導に従う。	180分
第10回	栄養教育実習校における実践演習③	学校現場の見学調査（地域の小学校へ）（実習校）	実習校の指導に従う。	180分
第11回	栄養教育実習校における実践演習④	学校現場の見学、給食調理師との討議（実習校）	実習校の指導に従う。	180分
第12回	実習校おける実践演習の報告と反省	12月までに実習校で実施された実践演習の報告と反省を行う。	発表用PPTを準備すること。	180分
第13回	地域保護者との連携①	教育実習で実施した経験をもとに学ぶ合う。		180分
第14回	地域保護者との連携②	教育実習で実施した経験をもとに学び合う。		180分
第15回	今後にむけて	4年間の栄養教諭教職課程を振り返り今後に向けた内容を発表する。履修カルテを提出する。	履修カルテを完成させておくこと。	180分

学習計画注記	教育実習で指導の先生方から注意されたこと、褒められたこと等を整理しておいてください。
学生へのフィードバック方法	履修カルテに大学教員としての所見を記入して返却します。
評価方法	授業への参加状況や態度、教育実習の反省に基づく模擬授業や教材作成の再構築、履修カルテの内容等で評価します。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	模擬授業	○	○	○	○
	教材研究	○	○	○	○
	取り組む姿勢			○	

	履修カルテ	○	○	○	

評価割合	授業への参加状況と態度（30%）、模擬授業・教材研究（40%）、履修カルテの内容（30%） 提出物の締切を守れるかどうかも評価の対象になります。
使用教科書名(ISBN番号)	特に無
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として必要な基本的な知識を有し、栄養教諭の職務の重要性を理解している。 【思考・判断】食について児童生徒に「教える」際に配慮しなければならないことについて、多種多様な情報を整理し、周囲の人々とコミュニケーションを取りながら判断できる。 【関心・意欲・態度】栄養教諭として、探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。 【技能・表現】専門的、教育に関する体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力を身に付けている。
オフィスアワー	相談に応じて設定します。
学生へのメッセージ	教育実習を修了し、4年次後期になると気も緩みがちになります。教職実践演習は、栄養教諭免許状を取得するための集大成ですので、取り組む姿勢、出席すること、教師となることへの自覚・心構え等が重要になります。しっかりとした態度で臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現場で活躍されている栄養教諭の方（家庭科の先生になる場合もあります。）をお招きしてお話を聞く機会を設けます。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、教材研究、授業見学（コロナ禍のため実施できない場合があります。）
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	小学校教職実践演習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川　泰史	指定なし
教授	齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y44105M22
授業概要(教育目的)	教職課程科目や教育課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限度必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する。 教師として教育の理念を学ぶとともに、実践的な指導力・反省力を身に付け、それらを向上する。 初等教育実習の園や小学校の実習体験、ボランティア活動など、実践的な経験や観察を通して教師としての姿勢・態度・意識、および自ら資質・能力を高める意義について理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	今日の教育課題に照して求められる教師像を理解し、教育者に必要な基礎的・専門的な知識に基づいて、反省や改善に主体的に取り組む実践力や観点について説明できる。
思考・判断の観点（K）	児童の理解や教育環境の把握に向かう視点をもち、実態に即した指導の改善を検討・判断する教育的な見方・考え方を有する。
関心・意欲・態度の観点（V）	児童・保護者・地域や社会の課題に関心をもち、主体的・協働的に課題解決に向かう意欲と姿勢を有する。
技術・表現の観点（A）	多様な場面の教育目的に則して適切な対応を実践する基本的な能力を有し、児童の個性を尊重して地域に貢献する技術、よりよい生活や学習環境を構築する実行力を発揮できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション、小学校初等教育実習の成果や課題の抽出	自身の初等教育実習を振り返り、印象に残った実践的課題を抽出する。教師・子ども・教材教具・学習環境などの観点を基に、指導場面やエピソードを踏まえて、前後の文脈を切り取りながらマッピングを行う。	実習体験や実習日誌の考察から、多様な問題を整理しておく。 観点１：資質・能力という基礎学力と「思考・判断・表現」の重視について	90分

第2回	今日求められる教師の資質・能力、「経験や知識を関連付ける」教師のちからに着目して	子どもをとりまく社会的背景から今日的な教育課題を抽出し、教師に求められる具体的な資質・能力を考察する。 グループ・トークにより課題を整理し、教師像、子ども理解、教材解釈や開発、学習環境デザイン、などの観点を切り口に問題意識を明らかにする。	抽出した課題を領域（教師・子ども・教材・環境）の中に位置づけて整理しておく。 観点２：教師の資質・能力について	90分
第3回	教師としてのコミュニケーション能力、子ども理解と関係づくりに着目して	教師に求められるコミュニケーション能力の特徴について、「コーチング、カウンセリングマインド」などに着目して考察する。学級・学年経営の基盤となる対話力の意味や価値について、グループ・トークや全体発表を通して実感的に理解する。	課題の本質や背景を考察し、解決の手だてを整理しておく。 観点３：教師のコミュニケーション能力について	90分
第4回	子ども理解に大切なこと、児童の実態を把握する視点と指導に着目して	教師による子ども理解が「指導の起点」となることについて、具体的な事例をあげて検討する。子ども理解と指導の関連についてグループ・トークを通して考察し、全体発表と協議を通して自他の見方・考え方から理解を深める。	子どもの実態を把握し、期待する児童像をもつことからはじまる指導について具体的な事例を見付けておく。また子ども観が単元設定の理由の基盤になることを調べておく。 観点４　子ども理解の深め方	90分
第5回	学級経営のポイント、教科指導や生活指導の場面に着目して	多面的・継続的な児童理解の重要性について、教師の視点や努力が有意な指導・支援の成果につながる場面について考察する。グループ・トークを通して視野を広げ、理解を深める。とくに、教科指導の場面と学校生活指導・生徒指導の場面に分けて検討する。	学級経営の重要性、学校経営や学年経営、または専科経営との関わりなどについて基礎的事項を調べたり、より多くの事例へ視野を広げる。 観点５：学級経営のポイントについて	90分
第6回	ギガ・スクール構想とICTの活用、次世代の学習環境デザインとデジタルデバイスに着目して	デジタル・デバイスを学習に活用する環境づくりと、効果的な実践事例について検討する。期待される構造と実社会が対峙する課題についても知り、グループ・トークを通して、より実践的な指導の在り方を考察する。	次世代の人工知能活用やデジタルデータの活用、学習環境に変革をもたらすデバイス開発と社会的背景などについて調べ、具体的な実践について知見を深める。 観点６：グリーン・デジタル、持続可能社会への歩み	90分
第7回	ICT教育と教育の方法・技術、インフォメーションとコミュニケーションの特徴を生かす捉え方と学習に着目して	電子黒板、タブレット型PC、3Dプリンターなどのデジタル・デバイス、大型モニターや従来型の黒板などの教具、ネットワーク環境の構築などについて組み合わせや活用について知見を広げ、それぞれの機能を活かす学習場面や指導事例について検討する。実際にデバイス機器を体験しながらロール・プレイを行うなどして議論を深める。	現在の教育現場で活用されるICT関連の機器端末について調べ、事例をあげて問題意識を説明できるようにする。 観点７：ICT活用の現在と未来	90分
第8回	教材解釈と開発、教具の活用、教材研究の視点と学習活動の構成に着目して	教材解釈と開発の違いや特徴、教材研究の視点が学習活動の構成に密接な関係にあることを理解する事例をあげ、グループ・トークを通して考察を深める。研究授業で活用した教材・教具を紹介しながら具体的・実践的な場面を検討する。	教科の特性や目標と内容にそって、教材教具の適切な運用方法や視点があることを調べ、理解を深めていく。 観点８：教材解釈と開発、教具の活用	90分
第9回	教師のメンタル・ヘルスとキャリア・ステージ、対人支援職としての教師がもつ使命感や情緒的背景の課題に着目して	対人支援という職種の特性や教師に期待される人格や役割を検討することを通して、教員生活を送りながら生涯に渡って向上心を継続するキャリア形成について検討考察する。教員のライフステージや研修制度、職業人として期待される要件などをグループ・トークや事例発表による協議を行う。	教師のメンタル・ヘルス、自己啓発について情報を集め、わかりやすく整理する。 観点９：期待される教師像と自己啓発について	90分
第10回	学校と地域・社会教育との連携的課題、互恵的や役割	地域に根ざす教育、特色ある教育実践、地元に開かれた学校、社会教育機関との連携などについて、事例をもとに理解し、具体的な展開やよりよい関係づくりについて検討協議する。グループの事例考察を基に、全体協議の	地域に根ざす教育、特色ある教育実践、地元に開かれた学校、社会教育機関との連携などについて、具体的な事例をあげられるようにし、整理する。	90分

	を期待しあう関係に着目して	場を通して基礎的な知識と求められる資質・能力を考察する。		
第11回	実践的課題と解決を主題とする研究成果発表①、課題を共有するグループによる考察の成果報告と全体協議	課題を共有するメンバーで構成したグループごと、実践的な課題について模擬授業を含む成果報告を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	グループ編成後、成果報告に必要なプレゼン資料、簡単な模擬授業に必要な資料や模擬教材などを準備しておく。	90分
第12回	実践的課題と解決を主題とする研究成果発表②、課題を共有するグループによる研究考察の成果の報告と協議	課題を共有するメンバーで構成したグループごと、実践的な課題について模擬授業を含む成果報告を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	グループ編成後、成果報告に必要なプレゼン資料、簡単な模擬授業に必要な資料や模擬教材などを準備しておく。	90分
第13回	実践的課題と解決を主題とする研究成果発表③、課題を共有するグループによる研究考察の成果の報告と協議	課題を共有するメンバーで構成したグループごと、実践的な課題について模擬授業を含む成果報告を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	グループ編成後、成果報告に必要なプレゼン資料、簡単な模擬授業に必要な資料や模擬教材などを準備しておく。	90分
第14回	実践的課題と解決を主題とする研究成果発表④、課題を共有するグループによる研究考察の成果の報告と協議	課題を共有するメンバーで構成したグループごと、実践的な課題について模擬授業を含む成果報告を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	グループ編成後、成果報告に必要なプレゼン資料、簡単な模擬授業に必要な資料や模擬教材などを準備しておく。	90分
第15回	「教職履修カルテ（小学校編）」の確認と総合的まとめ、教育の今日的課題・求められる教師像に基づく教職観	「履修カルテ」に示された観点を基に、これまでに履修した教職科目の目標到達度を自己評価する。自己評価の平均値を基に視覚化される結果を参照し、自身の今後の課題を明確にする。今日の教育的課題に対応して求められる教師像を捉え、自己教育力を高める。	履修カルテに記述する科目、各履修科目の成績及び成果と課題などの情報を整理し、自分の教師像を明確にする。	90分

学習計画注記	履修生の実習期間や人数により、スケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	・教育的課題を共有するグループやペア形態での考察及び発表・指導案の作成、模擬授業などと講評を中心に実施する。 ・小学校における初等教育実習での成果と課題を振り返り、共有した課題を小グループでの討論を通して問題領域の分類を行う。各グループが「領域ごとの問題解決をまとめたプレゼンテーション」と質疑応答を行う。それぞれのプレゼンテーションについては、講評・助言で応答する。 ・「問題解決の場面に則した学習指導案や場面指導計画」を作成し、模擬授業・ロールプレイ形式で発表する。発表ごとに全体の質疑応答を設け、講評や助言で応答する。 ・プレゼンテーションや模擬授業では、それぞれの発表に対して「相互評価票」を記入し、提出を求める。 ・学期末に、これまで学んだ教職科目の修得度を自己評価する「履修カルテ」を作成し、データ提出を求める。本カルテは、教員からのコメントを記して大学が保管する。
評価方法	・考察成果報告のプレゼンテーション及び後半の模擬授業・ロールプレイは、提起する問題の妥当性や明確さ、解決策に活用する知識や考え方、プレゼンテーション・リテラシーなどを観点に総合的に評価する。 ・発表時に記入する「相互評価票」は、問題への関心の高さや考察内容を観点に評価する。 ・学期末の提出を求める小論レポート（1600字程度）は、「4年間で変容した教職観」を共通テーマとし、「指導観・児童観・教材観」における知識・理解、考察・判断の思考力、記述スキルなどを観点に、総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	中間プレゼンテーション	○	○	○	○
	相互評価票		○	○	
	小論レポート	○	○		○

評価割合	平常点（主体的に討論に参加し学ぶ姿勢）20%、課題考察の報告発表プレゼンテーション20%、相互評価票の記入20%、期末小論レポート40%などをもとに、総合的に判断する。
使用教科書名(ISBN番号)	特になし。（資料・ワークシートは適宜配布する）
参考図書	①文部科学省編『小学校学習指導要領解説・各教科領域編』日本文教出版ほか（平成29年3月公示版）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】今日の教育課題を理解し、教職に必要な基礎的な知識を有する。 【思考・判断】子ども・保護者・地域の実態を把握し、実態に応じて課題の解決を案出・実践する柔軟な見方・考え方を有する。 【関心・意欲・態度】学校・地域・行政・社会的教育機関と協働して教育に従事する意義に関心をもち、反省・改善し続ける自己教育力を有する。 【技能・表現】教職に求められる基本的な技能、豊かな表現力と対話力を発揮する資質を有する。
オフィスアワー	水曜4限・1629研究室（立川）、火曜2限　1628研究室（齋藤）
学生へのメッセージ	小学校教諭を目指す自覚をもち、基礎的な知識・基本的な技能を高めるための問題意識を具体化しながら参加すること。 各自の問題意識については「卒業研究」との関連も視野に入れ、効果的・効率的な探求計画をもって取り組む。 授業で配布する資料・ワークシート類は各自で管理・保管し、随時提出可能にしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、国立大学附属・公立等の小学校教員として教育現場に従事した経験を有する。現職教員の研修や文部科学省検定教科書の編修、文部科学省の学習指導資料作成委員等に参加する経験から、今日の教育的課題に則した情報を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	小グループでの討論や全体発表での質疑応答、相互評価票による発表者と聞き手の相互主体的な学びを通して、対話的で協働的な学習形態をとる。
情報リテラシー教育	○	実習体験・ボランティアなどで知った実態や事例検索から得た情報を整理し、問題の解決策を案出する機会をもつ。
ICT活用	○	考察成果報告のプレゼンテーションでは、各グループの検討を基にプレゼンテーションに適したアプリケーションでデータを作成し、視覚機器を用いて発表する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	特別支援教育実習・実習指導		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日	金曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田　晋吾	指定なし
教授	江田　裕介	指定なし
助教	松山　直輝	指定なし

ナンバリング	Y45201M33
授業概要(教育目的)	本科目では、特別支援教育を専門とする教員としての基本的な資質・能力の涵養をねらいとした講義・演習を行う。 指導案の書き方、模擬授業、教材教具の研究、指導技法の習得、学習評価の仕方などを通じて、特別支援教育を専門とする豊かな人間性と指導力のある教師となることを目指す。
履修条件	幼稚園教諭または小学校教諭の普通免許状を取得予定であること。 原則として、特別支援教学校教諭一種免許状を取得するために履修すべき3年次までの科目（学生便覧125ページ）を全て履修し単位修得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	特別支援学校の教育課程を理解し、各教科・領域の概要を説明できる。 特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害種や障害特性について説明できる。
思考・判断の観点（K）	幼児児童生徒の活動の様子をみて、障害の状態に応じた指導計画を立案することができる。 実習で経験したことを事前指導で学習した内容と関連付けて考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	教員あるいは社会人としての自覚をもって実習に取り組む。 PDCAサイクルの視点をもち、子どもへの対応や授業の改善策を考え、実践に活かすことができる。
技術・表現の観点（A）	障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。 幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。

学習計画

特別支援教育実習・実習指導

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテ	・実習の意義と目的、心構え、勤務と服務規律について	テキスト「特別支援教育ハンド	60

	ーション①	確認する。 ・実習初日までに必要な準備を確認し、スケジュール表を作成する。	ブック」第２章「実習の準備」を事前に読んでおくこと。	
第2回	オリエンテーション②	・実習日誌を受け取り、事前に書き込める内容（実習先となる学校の概要など）の記載を行う。 ・実習に関するビデオ教材を視聴する。実習中の記録の取り方（日誌の記載方法）を知る。	実習日誌に目を通し、書き込める箇所に記入をしておくこと。	60
第3回	実習校の研究	・実習先が同じ学生同士でグループを作り、学校目標、校種、教育課程を調べ、実習日誌にまとめる。	・テキスト「特別支援教育ハンドブック」第３章、第４章を読んでおくこと。 ・実習校のホームページを閲覧し、学校に関する基礎情報を確認しておくこと。	60
第4回	様々な障害の理解と支援	・知的障害・肢体不自由の障害特性を学び、実際の指導場面で必要な配慮事項を検討し、発表する。 ・視覚障害、聴覚障害、自閉症について復習を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第４章を読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。	60
第5回	特別支援学校の教育課程	・特別支援学校（知的・肢体）の教育課程を確認する。 ・それぞれの実習先となる特別支援学校の教育課程と照らし合わせながら、時間割を確認する。	実習先の学校種とその教育課程について調べたことをまとめておくと良い。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。	120
第6回	個別の指導計画、個別の教育支援計画	・個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成過程を学習する。仮想事例について、個別の教育支援計画を作成する。また、模擬的なケース会議を開き、個別指導計画を作成する。	３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。	60
第7回	自立活動の指導	・自立活動の意義と、６区分の内容を学習する。 ・自立活動の時間の学習指導案を読み込み、指導の目的や具体的な指導方法を学ぶ。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。	60
第8回	知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導	・知的障害児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導方に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。	60
第9回	肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導	・肢体不自由児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案および教材例集を事前に読んでおくこと。 ３年次までに履修済みの「特別支援教育に関する科目」、特に「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目」で学習した内容を復習しておくこと。	60
第10回	学習指導案の作成	学習指導案の作成手順を理解し、指導案の例を参考にしながら作成準備を行う	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第５章「学習指導案の作成」を読んでおくこと。	60
第11回	学習指導案の作成①	・指導案作成の手順を学ぶ。 ・授業改善のためのPDCAサイクルについて学ぶ。 ・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ①。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」に掲載されている過去の実習生が作成した指導案およ	60

			び教材例集を事前に読んでおくこと。	
第12回	学習指導案の作成②	・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ②。 ・指導案を作成する（個別作業①）。	前回の授業で学習したことをまとめておくこと。文部科学省のホームページから特別支援学校の学習指導要領をダウンロードして目を通しておくこと。	120
第13回	学習指導案の作成③	・指導案を作成する（個別作業②）。	指導案作成に必要な情報を収集しておくこと。模擬授業で必要な教材を準備しておくこと。	120
第14回	学習指導案の作成④	・指導案に基づいて模擬授業を行う。 （時間の都合上、指導案の一部について模擬授業を行う。）	自分の指導案をよく読み込み、授業者として実演できるようにしておくこと。	120
第15回	事前指導のまとめ	・実習日誌の記載について最終確認を行う。	これまでの授業で学んだことや、作成したものを日誌のファイルに綴じ、すぐに参照できるようにしておくこと。	120
第16回	特別支援学校の授業実践	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程城の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。	60
第17回	特別支援学校の授業実践	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程城の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。	60
第18回	特別支援学校（知的）で使用する教材・教具研究	・特別支援学校（知的）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。	知的障害のある児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。	120
第19回	特別支援学校（肢体）で使用する教材・具研究	・特別支援学校（肢体）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。	肢体不自由の児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。	60
第20回	教材・教具の作成	・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。	60
第21回	教材・教具の作成	・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。	60
第22回	教材・教具の作成（発表）	・作成（再現）した教材の発表を行う。 ・すべての教材レポートをまとめた冊子を作成し、授業後に配布する。	発表の仕方について各自確認・練習しておくこと。	60
第23回	特別支援学校（実習校）での実習オリエンテーション	・特別支援学校での教育実習に先駆けて、実習校でオリエンテーションを行う。	・オリエンテーションの日程調整の連絡や、当日のマナーについて予習しておくこと。 ・オリエンテーションで必ず確認する事項について日誌内の所定のページに書き留めておくこと。	60
第24回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60
第25回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60

第26回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60
第27回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60
第28回	実習報告会の準備	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。	60
第29回	実習報告会の準備	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。	60
第30回	実習報告会への参加	・実習報告会で発表を行う。 ・発表を聞き、就学前機関や小学校の職務を学ぶ。	実習報告会の発表の手順について、グループのメンバーでよく確認しておくこと。	60

学習計画注記	本科目は、通年で開講する。 特別支援学校での実習を希望している者は必ず履修すること。
学生へのフィードバック方法	・学生の質問や発表内容について、３名の担当教員が授業内で即時にフィードバックを行う。 ・課題の成果や作成した指導案に、担当教員がコメントをつけて返却する。
評価方法	①実習校から提出される評価票および日誌の記載内容に基づいて評価を行う（40点満点）。 ②大学で実施する事前事後指導では、授業内での発表、課題（指導案や教材作成）、模擬授業の実施状況を評価の対象とする（60点満点）。 上記、①、②の評価点を合計し、総合評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	グループ討議・発表	○	○		
	指導案・教材作成	○			○
	模擬授業			○	○
	教育実習評価表			○	
	実習日誌の記載内容	○	○	○	

評価割合	教育実習（40%）、実習事前事後指導（60%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	特別支援教育ハンドブック（東京家政学院大学特別支援教育研究会）を初回授業で配布する。
参考図書	授業内で適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する６領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる。 【思考・判断】具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子ども達の健全で豊かな成長・発達のために、使命感を持って行動できる。 【技術・表現】障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。 幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。
オフィスアワー	原田（月曜３～４限 1509教室）
学生へのメッセージ	特別支援教育は、幼稚園、保育園、小・中学校においても推進することが求められています。 特別な教育的ニーズや障害の状態について理解を深め、確かな知識や技術で支援を行えるように学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特別支援学校教員経験者、重症心身障害児施設職員経験者、教育センター心理相談員経験者が本科目を担当する。
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業では、少グループに分かれて演習形式（導入説明→演習→発表→振返り）で進める。
情報リテラシー	○	学校教育における情報教育、教員としての情報倫理、情報管理について授業の中で適宜指導する。

教育		
ICT活用	○	教員による解説や学生の発表において、PCやタブレット等の機器を使用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	特別支援教育論（中・高・栄）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし
准教授	木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y20004M11
授業概要(教育目的)	思春期または青年期の入口にある生徒の発達には、学校で行う各教科等の学習内容を習得することだけでなく、自分の行動を適切にコントロールする力を身に付けることや、他の生徒や教員、地域社会の人たちと良好な関係を築き、維持していくための課題がある。本講義では、こうした学習活動や、行動の自己調整、人との関係形成等に困難があり、特別な教育ニーズを有する生徒の教育支援について学んでいく。こうした問題は、学校におけるいじめや不登校、引きこもりといった教育問題とも深く関わっている。また、不適切な養育環境等の要因で心的外傷を生じている生徒の教育支援や、食行動に問題を有する生徒の指導についても講ずる。あわせて外国につながる生徒の言語の教育や、ＩＣＴを活用した学習活動の支援など、現代の学校における特別な教育ニーズにも触れる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	特別な教育ニーズを有する生徒の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点（K）	生徒の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	特別な教育ニーズを有する生徒の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
技術・表現の観点（A）	生徒の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。 障害のある生徒の教材・教具にＩＣＴを適切に活用することができる。 障害のある生徒の摂食の問題に関する指導を行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）

第1回	イントロダクション：障害のある生徒の教育	・特別支援学校や特別支援学級、通級の指導など、障害のある生徒に対する学校教育のシステムを知る。また現代の国際社会において目指されるインクルーシブ教育システムの構築について理解する。 ・思春期や青年期の入り口にある生徒における心身の機能的な発達の特性と、発達の最近接領域について考える。	・予習：学校教育法に定められた学校の種別や、特別支援学級及び通級による指導の対象と種類を調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育の現状」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm ・復習：各指導形態における在籍幼児・児童の人数や学級数と、その近年の推移等を調べ、学びを深めてください。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育資料」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm	120分
第2回	思春期にある生徒の発達における障害とその教育支援 （１）学習につまずきのある生徒	・「学習」とは何かを考え、生徒の発達上に生じる学習のつまずきや、学習能力の障害について知る。 ・発達性学習症（ＤＬＤ;Developmental Learning Disorder*）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。　＊WHO（世界保健機構）のICD11（国際疾病分類）による。	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第3回	思春期にある生徒の発達における障害とその教育支援 （２）行動の自己コントロールが苦手な生徒	周囲と協調して行動する、時間や順番を待つ、人の話を聞く、ルールに従う、忘れ物をしないなど、行動の自己コントールに必要となる発達的な要素について考え、幼児児童の発達上に生じる行動調整の遅れや、その障害を知る。 ・注意欠如多動症（ＡＤＨＤ:Attention Deficit Hyperactivity Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第4回	思春期にある生徒の発達における障害とその教育支援 （３）人との関係を築くことが難しい生徒	視線や表情、身振り、相手との距離や位置など、他者との関係を調整する非言語の機能について考え、生徒の発達上に生じる関係形成のつまずきや、その障害を理知る。 ・自閉スペクトラム症（ＡＳＤ: Autism Spectrum Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第5回	思春期にある生徒の発達における障害とその教育支援 （４）心に傷を負った生徒	・マルトリートメント（不適切な養育）や、過酷な環境、事件や災害等によって生じたトラウマ（心的外傷）が、生徒の発達上にもたらす影について考え、社会性の発達の問題や、その障害を知る。 ・反応性愛着障害（Reactive attachment disorder of childhood）と脱抑制性対人交流障害（Reactive attachment disorder of childhood）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。	・予習：子どもの発達段階に応じた支援の必要性について調べておきましょう。 【参考例【文部科学省ホームページ「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第6回	摂食の障害とその教育支援	思春期やせ症のような拒食、過食、異食、偏食といった食行動の問題を理解し、その教育支援について考える。また重度の障害者においては、摂食のための口腔機能の障害が、発声や発音など言語の機能的な障害とも深く結	・予習：子ども口腔機能とその支援について調べておきましょう。 【参考例】愛知県半田保健	120分

		び付いている。したがって摂食の指導は、単に食事介助や偏食の指導ではなく、生徒の発達支援における最も基礎的な課題の一つといえる。本時は、摂食における口腔の機能を学ぶため、様々な食材を用いて体験実習を行う。	所「乳幼児の口腔機能支援ハンドブック」 https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/291998.pdf ・復習：授業での学びに基づき、他にも様々な食材を試食してみましょう。摂食の経過を自己観察し、気づいたことを記録しながら、学びを深めてください。、	
第7回	障害のある生徒の学習やコミュニケーションを支援するテクノロジー	文字や文章の読みに困難のある生徒のためのデイジー教科書や、視覚障害のある生徒のための点字プリンタ、触覚ディスプレイ、全身を動かせない重症者の利用する視線入力装置など、ＩＣＴを活用した先端的な教育支援について学ぶ。一部の機材については体験実習を行う。	・予習：障害の重い子どものコミュニケーションや遊びを支援する機材にはどのようなものがあるか調べてみよう。 【参考例】able-netホームページ（アメリカ） https://www.ablenetinc.com/ ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第8回	母国語や貧困の問題等のある子どもの学習・生活上の困難と支援	特別な配慮を必要とする生徒への指導、子どもの貧困問題、不登校対策、組織的な支援について学ぶ	・予習：外国につながる子どもの教育について調べておきましょう。 【参考例】CLARINET(海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒に対する指導の在り方について」 https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/1335783.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第9回	特別支援教育に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、様々な困難を抱える子どもに対する適切な指導や必要な支援について理解を深める	定期試験を通して、多様な連続した教育の場における特別支援教育の教育内容・方法について理解を深める	90分

学習計画注記	・学習の進度等により講義のテーマの順序や構成を変更することがある。 ・第7回の授業の体験実習では、教材費として食材の実費（100～200円）を徴収する。
学生へのフィードバック方法	・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて回答する。また学習内容の振り返りのため、教員の側でいくつかカードをピックアップし、その意見等を紹介する。ただし、カードの記載内容を授業で紹介することの可否について、学生自身がカードのチェック欄で選択することができる。
評価方法	定期試験の成績と、授業中の体験実習やディスカッションへの参加状況、及びのコメントカードの記述を総合して評価する。、
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		○
	授業中の活動		○	○	○
	コメントカード	○	○	○	

評価割合	定期試験（70%）、体験実習またはディスカッションへの参加状況（20%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)	各授業でプリント教材等を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。
参考図書	適宜に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別な教育ニーズを有する幼児児童の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。 【思考・判断】幼児児童の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。 【関心・意欲・態度】特別な教育ニーズを有する児童の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。 【技術・表現】幼児児童の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。 障害のある幼児児童の教材・教具にＩＣＴを適度に活用することができる。 障害のある幼児児童の摂食指導を安全に行うことができる。
オフィスアワー	前期：月曜３限（江田研究室） 後期：金曜４限（江田研究室） 事前に必ずメール等でアポイントメントをとってください。
学生へのメッセージ	障害のある児童の教育において、正しい知識と理解は、教員としての適切な判断や、さらに指導の意欲や態度とも密接に関係します。例えば、自閉スペクトラム症の児童の中には、教員や他の子どもが話しかけると両耳を手で塞ぐ例や、手をつなごうとすると振り払うような子どもがいます。しかし、これらの行動は、特有の感覚の過敏によるもので、相手を拒絶しているわけではありません。その理解がないと、教員は児童への接し方が分からなくなり、子どもどうしの関係をうまく導くこともできません。また、ＤＬＤ（発達性学習症）の児童における読み書きの問題は、海外からの留学生や外国につながる子どもの日本語学習のつまずきと非常によく似ています。障害に対して生じる「何でそんなことをするのか？」「何でこんなこともできないのか？」といった疑問や違和感は、じつは自分の中にある「当たり前」という固定観念や常識にとらわれているだけなのかも知れません。特別支援教育という言葉も、必ずしも「特別」なものではなく、より丁寧で、より深い理解に基づく教育なのだと考えてもらえると嬉しく思います。そうした子ども理解の知識や態度は、どんな子どもの教育においても無駄にはならないと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	・授業では適宜ディスカッションの機会を設ける。 ・摂食指導及びＩＣＴ等のアシスティブ・テクノロジーの活用について体験実習を行う。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等に準じ人権尊重に結びつけた指導を行う。
ICT活用	○	・ＩＣＴを活用した障害者へのアシスティブ・テクノロジーの体験実習を行う。 ・オンライン・コンテンツの活用を進める。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	特別支援教育論（幼･小）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江田　裕介	指定なし
准教授	木村　文香	指定なし

ナンバリング	Y24002M11
授業概要(教育目的)	幼児児童期の子どもの発達には、学校で習う各教科等の内容を身に付けることだけでなく、自分の行動をコントロールする力を高めることや、同年齢の子どもと集団生活を送る中で良好な関係を築いていくための課題がある。本講義では、こうした学習活動や、行動の自己調整、人との関係形成等に困難があり、特別な教育ニーズを有する幼児児童の教育支援について学んでいく。また養育環境等の要因で心的外傷を生じている子どもの指導や、食べる機能に障害を有する子どもの摂食指導についても講ずる。あわせて外国につながる子どもの言語の教育や、ＩＣＴを活用した遊びの指導など、現代の学校における特別な教育ニーズにも触れる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	特別な教育ニーズを有する幼児児童の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点（K）	幼児児童の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	特別な教育ニーズを有する児童の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。
技術・表現の観点（A）	幼児児童の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。 障害のある幼児児童の教材・教具にＩＣＴを適度に活用することができる。 障害のある幼児児童の摂食指導を安全に行うことができる。

学習計画

特別支援教育論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）

第1回	イントロダクション：障害のある幼児児童の教育	・特別支援学校や特別支援学級、通級の指導など、障害のある幼児・児童に対する学校教育のシステムを知る。また現代の国際社会において目指されるインクルーシブ教育システムの構築について理解する。 ・幼児・児童期における心身の機能的な発達の特性と、発達の最近接領域について考える。	・予習：学校教育法に定められた学校の種別や、特別支援学級及び通級による指導の対象と種類を調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育の現状」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm ・復習：各指導形態における在籍幼児・児童の人数や学級数と、その近年の推移等を調べ、学びを深めてください。 【参考例】文部科学省ホームページ「特別支援教育資料」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm	120分
第2回	幼児児童の発達における障害とその教育支援（１）学習につまずきのある子ども	・「学習」とは何かを考え、幼児児童の発達上に生じる学習のつまずきや、学習能力の障害について知る。 ・発達性学習症（ＤＬＤ;Developmental Learning Disorder*）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。　＊WHO（世界保健機構）のICD11（国際疾病分類）による。	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第3回	幼児児童の発達における障害とその教育支援（２）行動の自己コントロールが苦手な子ども	じっと座って勉強する、時間や順番を待つ、人の話を聞く、ルールに従う、忘れ物をしないなど、行動の自己コントールに必要となる発達的な要素について考え、幼児児童の発達上に生じる行動調整の遅れや、その障害を知る。 ・注意欠如多動症（ＡＤＨＤ:Attention Deficit Hyperactivity Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第4回	幼児児童の発達における障害とその教育支援（３）人との関係を築くことが難しい子ども	視線や表情、身振り、相手との距離や位置など、他者との関係を調整する非言語の機能について考え、幼児児童の発達上に生じる関係形成のつまずきや、その障害を理知る。 ・自閉スペクトラム症（ＡＳＤ: Autism Spectrum Disorder）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。	・予習：本講義の対象となる児童の学びの場について調べておきましょう。 【参考例】文部科学省ホームページ「障害に配慮した教育」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00800.html ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第5回	幼児児童の発達における障害とその教育支援（４）心に傷を負った子ども	・マルトリートメント（不適切な養育）や、過酷な環境、事件や災害等によって生じたトラウマ（心的外傷）が、幼児児童の発達上にもたらす影について考え、社会性の発達の問題や、その障害を知る。 ・反応性愛着障害（Reactive attachment disorder of childhood）と脱抑制性対人交流障害（Reactive attachment disorder of childhood）の特性を理解し、その教育支援に関する基礎的な知識を学ぶとともに、教員としての配慮と心構えを考える。	・予習：子どもの発達段階に応じた支援の必要性について調べておきましょう。 【参考例【文部科学省ホームページ「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第6回	食べる機能の発達とその教育支援：人はい	食べることは生存に不可欠な行為であるが、幼児児童における摂食のための口腔機能の発達は、発声や発音など言語の機能的な発達とも深く結び付いている。したがって摂食の指導は、単に食事介助や偏食の指導ではなく、	・予習：子ども口腔機能とその支援について調べておきましょう。 【参考例】愛知県半田保健	120分

	かにして物を飲み食べしているか？	幼児児童の発達支援における最も基礎的な課題の一つといえる。本時は、摂食における口腔の機能を学ぶため、様々な食材を用いて体験実習を行う。	所「乳幼児の口腔機能支援ハンドブック」 https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/291998.pdf ・復習：授業での学びに基づき、他にも様々な食材を試食してみましょう。摂食の経過を自己観察し、気づいたことを記録しながら、学びを深めてください。、	
第7回	幼児児童の発達における遊びの役割とその教育支援：アシスティブ・テクノロジーの利用	幼児児童は、さまざまな遊びを通じて自ら興味関心を広げるとともに、その興味を他者と共有することで、共感性や協調性を発達させ、人間関係形成の基盤をつくる。しかし、障害の重い幼児児童においては、心身の機能的な制限から、こうした活動にも限界が生じやすい。本時は、障害のある幼児児童の遊びを充実させるため、アシスティブ・テクノロジーの利用について、体験実習を通じて学ぶ。	・予習：障害の重い子どものコミュニケーションや遊びを支援する機材にはどのようなものがあるか調べてみよう。 【参考例】able-netホームページ（アメリカ） https://www.ablenetinc.com/ ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第8回	母国語や貧困の問題等のある幼児児童の学習・生活上の困難と支援	特別な配慮を必要とする幼児児童への指導、子どもの貧困問題、不登校対策、組織的な支援について学ぶ	・予習：外国につながる子どもの教育について調べておきましょう。 【参考例】CLARINET(海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒に対する指導の在り方について」 https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/1335783.htm ・復習：授業での学びに基づき、将来の教員となるときの配慮や心構えについて考えをまとめ、記録してください。	120分
第9回	特別支援教育に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、特別支援教育についてより理解を深める	定期試験を通して、特別支援教育の教育内容・方法について理解を深める	90分

学習計画注記	・学習の進度等により講義のテーマの順序や構成を変更することがある。 ・第7回の授業の体験実習では、教材費として食材の実費（100～200円）を徴収する。
学生へのフィードバック方法	・授業毎に提出するコメントカードは、内容に質問が含まれるときは次回の授業の冒頭で取り上げて回答する。また学習内容の振り返りのため、教員の側でいくつかカードをピックアップし、その意見等を紹介する。ただし、カードの記載内容を授業で紹介することの可否について、学生自身がカードのチェック欄で選択することができる。
評価方法	定期試験の成績と、授業中の体験実習やディスカッションへの参加状況、及びのコメントカードの記述を総合して評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験	○	○		○
	授業中の活動		○	○	○
	コメントカード	○	○	○	

評価割合	定期試験（70%）、体験実習またはディスカッションへの参加状況（20%）、コメントカード（10%）

使用教科書名(ISBN番号)	・各授業でプリント教材等を配布する。またはオンライン・コンテンツを共有する。
参考図書	・適宜に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別な教育ニーズを有する幼児児童の発達課題を理解し、適切な支援を行うために必要となる基本的な知識を身に付ける。 【思考・判断】幼児児童の発達や障害の状況を判断し、その個人差に応じた指導の工夫や配慮を考えることができる。 【関心・意欲・態度】特別な教育ニーズを有する児童の教育に対して関心をもち、教員としての対応能力を高める意欲と、積極的に関わっていこうとする態度を身に付ける。 【技術・表現】幼児児童の個人差に応じた指導の目的や方法を他者に分かりやすく伝えることができる。 障害のある幼児児童の教材・教具にＩＣＴを適度に活用することができる。 障害のある幼児児童の摂食指導を安全に行うことができる。
学生へのメッセージ	障害のある児童の教育において、正しい知識と理解は、教員としての適切な判断や、さらに指導の意欲や態度とも密接に関係します。例えば、自閉スペクトラム症の児童の中には、教員や他の子どもが話しかけると両耳を手で塞ぐ例や、手をつなごうとすると振り払うような子どもがいます。しかし、これらの行動は、特有の感覚の過敏によるもので、相手を拒絶しているわけではありません。その理解がないと、教員は児童への接し方が分からなくなり、子どもどうしの関係をうまく導くこともできません。また、ＤＬＤ（発達性学習症）の児童における読み書きの問題は、海外からの留学生や外国につながる子どもの日本語学習のつまずきと非常によく似ています。障害に対して生じる「何でそんなことをするのか？」「何でこんなこともできないのか？」といった疑問や違和感は、じつは自分の中にある「当たり前」という固定観念や常識にとらわれているだけなのかも知れません。特別支援教育という言葉も、必ずしも「特別」なものではなく、より丁寧で、より深い理解に基づく教育なのだと考えてもらえると嬉しく思います。そうした子ども理解の知識や態度は、どんな子どもの教育においても無駄にはならないと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員は重度障害児の教育臨床に16年間従事した経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	・授業では適宜ディスカッションの機会を設ける。 ・摂食指導及びＩＣＴ等のアシスティブ・テクノロジーの活用について体験実習を行う。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等に準じ人権尊重に結びつけた指導を行う。
ICT活用	○	・ＩＣＴを活用した障害者へのアシスティブ・テクノロジーの体験実習を行う。 ・オンライン・コンテンツの活用を進める。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育・保育制度論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田　範子	指定なし
教授	齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y24001M21
授業概要(教育目的)	人間としての基礎を培う、幼児期及び児童期の子どもの保育・教育は、幼稚園・小学校で行われている保育・教育がどのような社会背景や制度のもとに営まれているのかを考える。現代的な諸問題を取り上げながら、学校安全、地域との連携、クラス経営等について社会的な枠組みから考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育現場や学校をめぐる現代的問題、制度的事項、経営的事項について理解する。
思考・判断の観点（K）	乳幼児や児童の生活の変化を踏まえた現状を理解し、指導上の課題について考える。
関心・意欲・態度の観点（V）	諸外国の保育・教育の動向に関心を持ち、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	ガイダンス、教育を支える保育・教育制度の仕組み	教育・保育制度の概要について理解し、課題意識を持ち、子どもの視点に立った制度の重要性を理解する。	幼児・児童を取り巻く現代的課題について、気になる事例を挙げ、まとめる。	60
第2回	保育・教育制度と関連法規	教育・保育に関連する法令等について理解し、目指す教育・保育の方向性について考える。今年度は、家庭との連携や子育て支援制度について焦点を当てる。	演習問題を完成する。	60

第3回	わが国の幼児・児童をめぐる諸問題の実情と対応	今年度は「子どもの貧困」を取り上げ、その現状を理解し、課題について考える。	討議の内容をまとめる。	60
第4回	保育・教育制度の概要①：幼保一体化	幼保一体化と認定こども園に関する現状を理解し、課題について考える。	討議の内容をまとめる。	60
第5回	保育・教育制度の概要②：幼小接続	幼小接続に関する取り組みの必要性と具体的な取り組みについて理解し、課題について考える。	討議の内容をまとめる。	60
第6回	保育・教育制度の概要③：長時間保育	事例をもとに、教育時間外の教育・保育、夜間保育の現状を理解し、その制度面の課題について考える。	演習問題を完成する。	30
第7回	保育・教育制度の概要④：保育士の研修制	保育士の研修制度について理解し、求められる資質や能力について考える。	演習問題を完成する。	120
第8回	保育・教育制度の概要⑤：諸外国の教育制度	諸外国の教育制度を理解するとともに、保育・教育を取り巻く社会について考える。	演習問題を完成する。	60
第9回	学級経営	幼稚園・小学校における学級経営に関する基礎知識と諸問題について理解する	テキスト『教職概論』の第８章を読んでおく。	１２０
第10回	校内における業務　校務分掌	園・学校内における各教職員の業務・役割と連携の在り方について理解する。	テキスト『教職概論』の第１０章を読んでおく。	１２０
第11回	教員研修の意義及び制度上の位置づけ	教員の職務内容について理解するとともに、教員研修の意義と制度について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第１１章を読んでおく。	１２０
第12回	学び続ける教師	学び続ける教師は、反省的実践家であることについて理解する。	テキスト『教職概論』の第１２章を読んでおく。	１２０
第13回	身分保障・働き方改革	教師の身分保障や働き方改革に関する現状と諸問題について理解する。	テキスト『教職概論』の第１３章を読んでおく。	１２０
第14回	チーム学校運営への対応：主に校外	教職員の連携と外部機関との連携について理解する。	テキスト『教職概論』の第１４章を読んでおく。	１２０
第15回	現代的な課題	現代的な問題を取り上げ、課題について考える。	テキスト『教職概論』の第１５章を読んでおく。	１２０

学習計画注記	状況により、計画に変更が生じる場合もある。
学生へのフィードバック方法	提出物はすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。
評価方法	提出物と学期末レポートはすべて点数化し、担当者間で協議の上、評価を決定する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出物(討議のまとめ等)	○	○	○	
	学期末レポート	○	○	○	

評価割合	提出物(40%)、学期末レポート(60%)
使用教科書名(ISBN番号)	齋藤義雄『教職概論』　大学図書出版　2020年

参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
オフィスアワー	水曜日2限目(中田)
学生へのメッセージ	受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、2名とも、幼稚園・保育所・小学校で教諭・保育士として実務経験を有しており、教育・保育の現場の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	教育・保育制度に関する現代的諸問題について、学生同士の討議を通して、課題を抽出し、その解決方法について考える。
情報リテラシー教育	○	子どもを取り巻く諸問題について調査する過程で、的確な情報を収集し、多方面から読み解き、考察する。
ICT活用	○	子どもを取り巻く諸問題について調査・考察し、画像等を用いながらまとめる。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	総合的な学習の指導法（中・高・栄）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期後半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y30008M11
授業概要(教育目的)	中学校・高等学校における総合的な学習の時間は、学習指導要領で、探究の時間としての位置づけの重要性が増していて、高等学校では名称が「総合的な探究の時間」となっている。変化の激しい社会に対応して、自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考えとして、探究的な学習、協同的な学習、体験的な学習、言語活動の充実等の実践事例を広く学ばせる。学習指導案を作成し、プレゼンテーションを行い、アクティブラーニングを通して、改善点を議論させる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	総合的な学習の時間の意義や原理が理解できる。
思考・判断の観点（K）	自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができる。
技術・表現の観点（A）	調べた内容、開発した教材を適切な方法でプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	総合的な学習の時間の意義と原理	高等学校、中学校、小学校の総合的な学習の時間で学んできたことを振り返ることを通して、総合的な学習の時間の意義と原理を理解する。また、教材開発課題を確認する。	テキストの第1講を読んでおくこと。	120分
第2回	総合的な学習の時間の変遷	総合的な学習の時間の変遷を理解する。	テキストの第2講を読んでおくこと。	120分
第3回	総合的な学	総合的な学習の時間の計画と評価を理解する。	テキストの第3講を読んでおく	120分

	習の時間の計画と評価		こと。	
第4回	総合的な学習の時間の指導ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の指導について、情報機器及び教材の活用について理解する。	テキストの第4講を読んでおくこと。	120分
第5回	総合的な学習の時間を推進するために体制づくりーカリキュラム・マネジメントー	総合的な学習の時間を推進するための体制作りについて、カリキュラム・マネジメント視点から理解する。	テキストの第5講を読んでおくこと。	120分
第6回	個人探究課題のプレゼンテーション①ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。	テキストの第6講を読んでおくこと。	120分
第7回	個人探究課題のプレゼンテーション②ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。	テキストの第7講を読んでおくこと。	120分
第8回	個人探究課題のプレゼンテーション③ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。	テキストの第8講を読んでおくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後に質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。
評価方法	試験（４０％）と教材開発・プレゼンテーション（５０％）、平常点（１０％）で評価する。 試験は、コロナの感染状況に応じてレポートとする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験	○			
	レポート（教材開発）		○		
	プレゼンテーション				○
	積極的な参加態度			○	

評価割合	試験　４０％ 教材開発・プレゼンテーション　５０％ 平常点　１０％ 平常点：授業への積極的な参加態度、ノート等
使用教科書名(ISBN番号)	梅澤秀監、木内隆生、嶋﨑政男『特別活動15講と総合的学習8講』大学図書出版　2019年
参考図書	『中学校学習指導要領　総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領　総合的な探究の時間編』
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】自ら興味・関心をいだいた課題の教材開発を通して、深く探究することができる。 【技能・表現】探究した課題に関して情報機器を活用したプレゼンテーションを行うとともに、自分の意見を積極的に発言し、コミュニケーション能力の向上を図る。
オフィスアワー	授業の前後に授業教室か1628研究室
学生へのメッセージ	積極的な態度で授業に臨むことを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	中学校、小学校で総合的な学習の時間の指導を行った実戦経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング		プレゼンテーションやディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		探究のための情報モラルに関して理解する。
ICT活用		情報機器、パワーポイントを活用したプレゼンテーションを実践する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	総合的な学習の指導法（幼・小）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤　義雄	指定なし

ナンバリング	Y30008M11
授業概要(教育目的)	小学校における総合的な学習の時間は、学習指導要領で、探究の時間としての位置づけの重要性が増している。変化の激しい社会に対応して、自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考えとして、探究的な学習、協同的な学習、体験的な学習、言語活動の充実等の実践事例を広く学ばせる。学習指導案を作成し、プレゼンテーションを行い、アクティブラーニングを通して、改善点を議論させる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	総合的な学習の時間の意義や原理が理解できる。
思考・判断の観点（K）	自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自ら興味・関心をもった内容を積極的に調べ、教材開発ができる。
技術・表現の観点（A）	調べた内容、開発した教材を適切な方法でプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	総合的な学習の時間の意義と原理	高等学校、中学校、小学校の総合的な学習の時間で学んできたことを振り返ることを通して、総合的な学習の時間の意義と原理を理解する。また、教材開発課題を確認する。	テキストの第1講を読んでおくこと。	120分
第2回	総合的な学習の時間の変遷	総合的な学習の時間の変遷を理解する。	テキストの第2講を読んでおくこと。	120分
第3回	総合的な学習の時間の	総合的な学習の時間の計画と評価を理解する。	テキストの第3講を読んでおくこと。	120分

	計画と評価			
第4回	総合的な学習の時間の指導ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の指導について、情報機器及び教材の活用について理解する。	テキストの第4講を読んでおくこと。	120分
第5回	総合的な学習の時間を推進するために体制づくりーカリキュラム・マネジメントー	総合的な学習の時間を推進するための体制作りについて、カリキュラム・マネジメント視点から理解する。	テキストの第5講を読んでおくこと。	120分
第6回	個人探究課題のプレゼンテーション①ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。	テキストの第6講を読んでおくこと。	120分
第7回	個人探究課題のプレゼンテーション②ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。	テキストの第7講を読んでおくこと。	120分
第8回	個人探究課題のプレゼンテーション③ー情報機器及び教材の活用ー	総合的な学習の時間の個人探究課題について、情報機器を活用してプレゼンテーションを行う。	テキストの第8講を読んでおくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後に質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。
評価方法	試験（４０％）と教材開発・プレゼンテーション（５０％）、平常点（１０％）で評価する。 試験は、コロナの感染状況に応じてレポートとする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	試験	○			
	レポート（教材開発）		○		
	プレゼンテーション				○
	積極的な参加態度			○	

評価割合	試験　４０％ 教材開発・プレゼンテーション　５０％ 平常点　１０％ 平常点：授業への積極的な参加態度、ノート等
使用教科書名(ISBN番号)	梅澤秀監、木内隆生、嶋﨑政男『特別活動15講と総合的学習8講』大学図書出版　2019年
参考図書	『小学校学習指導要領　総合的な学習の時間編』
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】自ら興味・関心をいだいた課題の教材開発を通して、深く探究することができる。 【技能・表現】探究した課題に関して情報機器を活用したプレゼンテーションを行うとともに、自分の意見を積極的に発言し、コミュニケーション能力の向上を図る。
オフィスアワー	授業の前後に授業教室か1628研究室
学生へのメッセージ	積極的な態度で授業に臨むことを期待する。

教育等の取組み状況

	該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業	○	中学校、小学校で総合的な学習の時間の指導を行った実戦経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング		プレゼンテーションやディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		探究のための情報モラルに関して理解する。
ICT活用		情報機器、パワーポイントを活用したプレゼンテーションを実践する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	進路指導論（小・中・高）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期後半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤　史夫	指定なし

ナンバリング	Y30101M11
授業概要(教育目的)	進路指導は、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活をよりよくおくれる資質を育てる過程であり、教育活動である。それを包含するキャリア教育は、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育む。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	進路指導の現状を知っている。
思考・判断の観点（K）	進路指導の課題を自分なりに持っている。
関心・意欲・態度の観点（V）	職業のあり方と人生の充実の方策の考えを持つ。
技術・表現の観点（A）	生徒と対話して援助できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	進路指導・キャリア教育の意義と原理	進路指導・キャリア教育の意義と原理を考える	自分が教職課程の授業を受講するに至った経緯を振り返る	120分
第2回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育と学校の体制	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育と学校の体制を学ぶ	自分の体験した進路指導を振り返る	120分

第3回	職業に関する体験活動とキャリア教育	職業に関する体験活動とキャリア教育を学ぶ	今までの学校生活で体験した学外活動を振り返る	120分
第4回	ガイダンスと進路指導・キャリア教育	ガイダンスと進路指導・キャリア教育を学ぶ	生徒指導における進路指導を考える	120分
第5回	キャリア形成のための自己評価・ポートフォリオ	キャリア形成のための自己評価・ポートフォリオを学ぶ	子どもの自己評価の現状を調べる	120分
第6回	青年期のキャリア・カウンセリングの考え方	青年期のキャリア・カウンセリングの考え方を学ぶ	青年がどのように将来を構想しているのか調べる	120分
第7回	キャリア・カウンセリングのロール・プレイ実践	キャリア・カウンセリングのロール・プレイを実践する	自分の人生を振り返る	120分
第8回	総合考察—進路指導と生徒のキャリア形成	総合考察する。—進路指導と生徒のキャリア形成	授業を振り返る	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	レポート試験（６０%）、ロール・プレイ実践評価（40%）

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート試験	○		○	
	ロール・プレイ実践		○		○

評価割合	レポート試験（６０%）、ロール・プレイ実践評価（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	『サビカス ライフデザイン・カウンセリング・マニュアル——キャリア・カウンセリング理論と実践』遠見書房
参考図書	授業内で紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道 へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自 ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に 理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能 ・ 表 現】教師としての専門的技能をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日３限1607研究室
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	グループワークを行う
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネット調査を行う

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	学校栄養教育論 Ⅰ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井　治子	指定なし
准教授	大富　あき子	指定なし
非常勤講師	島崎　聡子	指定なし

ナンバリング	Y32501C21
授業概要(教育目的)	栄養教諭（一種）教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Ⅱ、そして教職実習に向けた基礎の学習として、栄養教諭という資格の成り立ちから、職務内容、使命、役割への理解を深めることを目的とする。また、小・中学校での食に関する指導の全体計画の作成方法を理解し、栄養教諭として食に関する指導の効果的な指導方法を教授する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題の背景には社会状況の変化があることを客観的に理解し、説明できる。
思考・判断の観点（K）	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題について探求し、その課題解決に向けた方策について情報取集して思考し、効果的な取り組みを判断できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題の解決のため、栄養教諭（管理栄養士）として使命感を持って取り組む意欲がある。また、他職種と連携するためのコミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点（A）	幼児・児童・生徒に効果的な指導を行うための全体計画や指導案を作成することができる。 教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。

学習計画

回	年月日(曜日)	時限	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	令和 4年05月05日	４限前半	栄養教諭の制度と役割（担当教員：酒井）	栄養教諭制度が創設された経緯と関係法規等について理解する。 栄養教諭の職務内容である「給食の管理」と「食に関する指導」を一体的に展開するためには、他の教職員や保護者、地域の専門家等との連携・協力が必要である。そのための効果的な食に関する指導全体計画の作成方法について理解する	栄養教諭論　第１章の「１　栄養教諭の制度と役割」（1～11ページ）および資料１の「食に関する指導体制の整備について」（182～189ページ）を読んでおくこと。	120分
第2回	令和 4年04月14日	４限前半	学校における食育を推進するための施策（担当教員：酒井）	食育基本法と食育推進基本計画における学校における食育の推進の位置づけ及び学校に期待される役割について理解する。	栄養教諭論　第１章「６～８．学校給食の歴史、食育基本法」と第３次食育推進基本計画(資料2～３　190～206ページ）を読んでおくこと。	120分
第3回	令和 4年04月07日	４限前半	幼児・児童生徒に対する食育の必要性（担当教員：酒井）	少子高齢化社会を迎えるわが国の課題と次世代を生きる児童生徒の健康の保持増進のため、学校における食育の重要性について理解する。	食に関する指導の手引き第１章「児童生徒の食生活を取り巻く状況等」（1～5ページ）を読んでおくこと。	120分
第4回	令和 4年04月21日	４限前半	学習指導要領の意義と食育のあり方（担当教員：酒井）	学習指導要領改訂の趣旨とカリキュラムマネジメント、学校給食法において学校給食が教育に位置付けられた経緯を踏まえて、学校における食育のあり方を理解する。	栄養教諭第５章の「学習指導要領の意義と食育のあり方」と「学校給食法　208～210ページ」を読んでおくこと。	120分
第5回	令和 4年05月19日	４限前半	食に関する指導の全体計画の編成（担当教員：酒井）	食に関する全体計画を基本について学ぶ。児童生徒に身につけさせたい、または改善したい食に関する目標を設定し、給食の時間および食に関連する教科等、教育活動全体の中で取り組めるよう演習を通して学ぶ。よりよい計画を作成することを通して、より深く、体系的に食育を推進する方法について学ぶ。	栄養教諭論　第６章「食に関する指導の全体計画」をよく読んでおく。	120分
第6回			食生活に関する歴史と食事・食物の文化的事項（担当教員：大富）	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項について学ぶ。	食文化を題材にした食に関する指導の事例を収集する。	120分

第7回			食文化に着目した食に関する指導（担当教員：大富）	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項を、どのように食に関する指導に盛り込んでいくか、また、児童・生徒の発達段階に応じた展開のあり方を学ぶ。	食文化を題材にした食に関する指導に適切な教材を考える。	120分
第8回	令和 4年06月02日	４限前半	学校給食の意義･役割給食の時間の指導案作成(担当教員：白井)	学校における食育の中心である給食の時間の指導及び食育の教材となる献立の活用方法について学ぶ。	食に関する指導の手引き第４章「学校給食を生きた教材として活用した食育の推進」（196～227ページ）を読んでおくこと。また、給食の時間の指導案の題材を考えておくこと。	120分
第9回	令和 4年06月09日	４限前半	給食の時間の指導案作成(担当教員：白井)	グループで給食の時間の指導案を作成することを通して、児童生徒の食に関する課題を明確にし、学校給食の献立を教材として活用することが、課題解決のために効果的な指導方法であることを理解する。(グループワーク)	給食の時間における指導案を集め、指導案の作成方法を調べておく。	120分
第10回	令和 4年06月16日	４限前半	給食の時間の指導案作成(担当教員：白井)	グループで話し合い、給食時間の指導案を修正し完成させる。作成した指導案で模擬授業を行うとともに、他のグループの模擬授業から、より深く、給食の時間における食に関する指導の題材設定、指導案の作成方法等について学ぶ。（グループワーク）	グループで話し合い、又は分担し、給食の時間の指導案をほぼ完成させておくこと。また、模擬授業に必要な教材を用意しておくこい。	120分
第11回	令和 4年06月23日	４限前半	食に関する個別的な対応指導(担当教員：白井)	生活習慣病の要因となる肥満傾向や近年、増加している食物アレルギーを有する児童生徒等に対応するための望ましい個別対応指導について理解する。	文部科学省作成の学校給食における食物アレルギー対応指針に目を通しておくこと。	120分
第12回	令和 4年06月30日	４限前半	教科等の特性を踏まえた食に関する指導(担当教員：白井)	食と関連した教科等における指導を行う際に、教科の目標や特質を踏まえつつ、食に関する指導の目標達成を図ることが大切なことを理解する。また教科等の指導案作成方法について学ぶ。	食に関する指導の手引き第３章「各教科等における食に関する指導の展開」（46～175ページ）の内、小学校特別活動、体育、家庭科について読んでおくこと。	120分
第13回	令和 4年07月07日	４限前半	教科等における食に関する指導案作成(担当教員：白井)	グループにおいて小学校体育又は家庭科の指導案を作成し、学校給食を教材として活用することが効果的な指導につながることを理解する。また、望ましい指導案の作成方法について学ぶ。（グループワーク）	よくわかる栄養教諭の補遺：指導案例（283～303ページ）の内小学校体育、家庭科の指導案を読んでおく。 グループで話し合い、分担し、８割程度指導案を作成しておくこと。	120分
第14回	令和 4年07月14日	４限前半	教科等における食に関する指導案作成(担当教員：白井)	グループで話し合い、または教員の助言を得て指導案を完成させ、模擬授業を行う。教員の講評や他のグループの模擬授業を踏まえ、より深く、効果的な指導方法や指導案の作成方法について理解する。（グループワーク）	模擬授業に必要な教材を作成しておくこと。 授業の後で作成した指導案に修正を加え、完成させること。	120分
第15回	令和 4年07月21日	４限前半	諸外国における食育及び学校給食の現状(担当教員：白井)	わが国の学校給食制度が世界で最も優れた制度と評価される所以は、給食の提供と食育が一体的に展開されていることであることを理解し、栄養教諭（管理栄養士・栄養士）の役割が極めて大きいことを、諸外国の学校給食と対比させて学ぶ。	レポートを実施するので、これまでの授業内容を復習しておくこと。	120分
第16回						

学習計画注記	授業の進行状況によっては、スケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	演習を実施した際には、模範解答を提示する。
評価方法	レポート提出、食に関する全体計画および指導案の作成並びに模擬授業によって下表に示す力が身についているかどうかを評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	レポート	○		○	
	全体計画の作成	○	○		
	指導案の作成・模擬授業		○	○	○

評価割合	平常点(40%),教員が課すレポート､指導案等(60%) 平常点は､授業態度や授業及び討論への積極的な参加状況によって評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	四訂 栄養教諭論: ―理論と実際―, 金田 雅代, 建帛社, 2019, 4767921163 「食に関する指導の手引き」, 文部科学省, 2019, 4827815755
参考図書	学習指導要領、体育及び家庭科の教科書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、組織的おくこと地域との相互理解から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】栄養教諭（管理栄養士）として社会に貢献しようとする意思と他者と共働するための豊かな人間性を身に付けている。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のために給食管理と食育に関する専門的な技能と表現力を身に付けている。
オフィスアワー	酒井：水曜日１限 大富：月曜日５限
学生へのメッセージ	本授業と他の教職科目とをつなげ、学習を深めていくことで、児童生徒に対する食育の必要性や栄養教諭の役割の理解及び食に関する指導の実践力の向上が期待できる。児童生徒が健康で明るい未来を生きるための基礎を培うために、栄養教諭の役割は極めて重要であるから、是非、意欲的に学んでいただきたい。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	酒井は「和食給食を活かした食に関する指導」に関わっている経験、大富も家庭科教諭としての実務経験と、食文化を活かした教育の経験、白井は栄養教諭としての長年の実務経験を生かして、栄養教諭の食に関する指導の方法について教授する。それぞれの特性を活かして栄養教諭が習得すべき効果的な指導方法について教授している。

アクティブ・ラーニング	○	食に関する指導の全体計画、指導案の作成について、グループにおいて意見交換しながら作り上げるグループワークを採用している。
情報リテラシー教育	○	わが国が抱える現代課題や子どもたちの食に関する状況等をインターネット等を通して情報収集する。また食に関する指導案例をインターネットや書籍から収集する。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	学校栄養教育論Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	３限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻　雅子	指定なし
非常勤講師	伏島　礼子	指定なし

ナンバリング	Y32502C21
授業概要(教育目的)	栄養教諭の教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Iに引き続き、食に関する指導の全体計画から、家庭や地域と連携した各教科や特別活動等、また、個別指導までの具体的な実践方法を理解する。指導案作成、発表、相互評価等の実践演習や模擬授業を通して指導の手法を取得する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭が行う「食に関する指導」に必要な知識、スキル、態度について説明することができる
思考・判断の観点（K）	「食に関する指導」について栄養教諭の立場から思考することができる
関心・意欲・態度の観点（V）	児童・生徒の発達段階に応じた「食に関する指導」について自ら考えようとし、栄養教諭としての役割を模索しようとする
技術・表現の観点（A）	栄養教諭として「食に関する指導」を行う必要なスキルを習得し、学習者のニーズに応じた指導ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	学校栄養教育論Ⅰの振り返り：栄養教諭の職務内容、使命、役割の確認と、自らの考えをまとめ、討論する。	栄養教諭について学んだこと、自分の考えを整理する。今後学ぶべき内容やなりたい栄養教諭像を模索する。	120
第2回	児童の発達に応じた教科における食に関する指導（家庭科、技術・	家庭科という教科の全体像を把握し、児童の発達に応じた学習指導内容への理解を深める。	小学校の家庭科の学習指導要領を熟読する。	120

	家庭科）（担当：伏島礼子）			
第3回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の指導案の立案方法１（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	小学校の家庭科の学習指導要領を熟読する。	120
第4回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の指導案の立案方法２（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案を考える。	120
第5回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の評価計画（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導の評価方法を学び、指導の再編について学ぶ。	小学校の家庭科における食に関する指導の評価方法を考える。	120
第6回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の演習１（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイの予行練習を行う。	120
第7回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の演習２（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイを行う。	120
第8回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の模擬授業（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイを行う。	120
第9回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導　（担当：辻　雅子）	児童生徒の食生活の実態把握と活用について学ぶ。さらに発達に応じた食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	児童・生徒の食に関する問題点について考える。	120
第10回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導　（担当：辻　雅子）	食育の取り組み事例を参考に、食に関する指導の指導案の立案について学び、指導案作成のための学校における年間計画を振り返る。	小学校における食に関する指導の指導案を考えるために季節の旬について学ぶ。	120
第11回	児童・生徒の発達段階	食に関する指導の指導案を作成するために食に関する年間計画の振り返りを行う。	小学校における食に関する指導の計画を考える。	120

	に応じた食に関する指導　（担当：辻　雅子）			
第12回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導　（担当：辻　雅子）	食育の取り組み事例を参考に、食に関する指導の指導案の立案について学び、指導案を作成する。	小学校における食に関する指導の指導案を考える。	120
第13回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導　（担当：辻　雅子）	食に関する指導の指導案（Ｔ1・Ｔ2）を作成する。	小学校における食に関する指導の運営及び評価方法を考える。	120
第14回	栄養教育の前年度の学生の教職模擬授業を学ぶ　（担当：辻　雅子）	栄養教育の教職模擬授業の発表会に参加して、授業運営方法について学ぶ。	小学校における食に関する指導の実践について考える。	120
第15回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導　（担当：辻　雅子）	まとめ	小学校における食に関する指導について全体的なふりかえりを行う。	120

学生へのフィードバック方法	授業中の演習課題・レポートは当日、また、翌週に質疑応答をしながら、議論を深める。
評価方法	授業中の演習課題と最終回でのレポートにより評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	演習課題	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○

評価割合	演習課題（伏島）40%、レポート（辻）40%、平常点20%（平常点は授業への積極的な参加状況等から総合的に判断する）
使用教科書名(ISBN番号)	四訂 栄養教諭論: ―理論と実際―, 金田 雅代, 建帛社, 2019, ISBN-10: 4767921163 「食に関する指導の手引き-第二次改訂版― 」, 文部科学省, 健学社, 2019, ISBN-10: 4779704960
参考図書	小学校学習指導要領, 文部科学省 小学校学習指導要領解説　家庭編, 文部科学省
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、栄養教諭として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技術・表現】栄養教諭として、栄養の管理と指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
オフィスアワー	辻：月曜日４時間目　1605研究室
学生へのメッセージ	栄養教諭に必要な知識、スキル、態度とはどのようなものか？４年次の教育実習にむけて、食に関する指導の実践力を自主性をもって積極的に高めていくことが必要となる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員である辻は国の研究所での実務経験を有しており、長年栄養教諭の実習指導に携わっている。また伏島は現職の家庭科教諭としての長年の実務経験があり、それを生かして、栄養教諭の食に関する指導の方法について教授する。
アクティブ・ラーニング	○	各自模擬授業を数回実施することで、自らの栄養教諭としての資質を高めることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	学校栄養教育論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	５限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塩塚　宏治	指定なし

ナンバリング	Y32501M21
授業概要(教育目的)	栄養教諭の役割を認識し、発育成長期という特殊な時期にある児童および生徒に職の意義を認識させる。また、食に対する正しい知識を習得させ食生活に対して正しい選択ができるようにする。
履修条件	日頃から学校教育で行われている活動をあらゆる場面を見付けて見たり聴いたりできるようにしてください。また、学校教育関わる情報には敏感になって欲しいです。 　受講するまえに、その日の予定をみてテキストに目を通し、関連する事項を事前に調べておく様にしてください。 　受講後には、その日の学びの内容を整理し、疑問に思った点を自らも調べ補うようにしてください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	栄養教諭としての必要最低限の知識面の理解
思考・判断の観点（K）	栄養教諭としての授業をつくっていく上での思考・判断する力
関心・意欲・態度の観点（V）	栄養教諭として学校現場に入っていくことへの関心・意欲 学校現場に入っていく上での態度
技術・表現の観点（A）	食に関する授業をつくっていく上での技能・表現

学習計画

15

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	栄養教諭とは	栄養教諭とは何か 　栄養教諭制度創設の趣旨と意義 　栄養教諭の役割および職務内容 社会・時代的な背景 　食生活に関する歴史的および文化事項並びに食に関する指導の方法に関する事項 　児童および生徒の栄養の指導および管理に関わる社会	小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 第１章　総説　改訂の経緯及び基本方針１頁から16頁まで予習しておくこと。 食に関する指導の手引き一第二次改訂版一第１章　学校におけ	（１８０分）

		的事情 　学校給食の変化 　学校における食 各法律や食育基本法と学校における食育 学校給食の目的、意義、役割　（知識・理解）	る食育の推進の必要性　1頁から15まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	
第2回	学校における給食の目的、意義、役割	児童及び生徒の栄養の指導及び管理にかかる法令（学校給食法） （ 学校給食法以外の法令と制度（学校保健法、障害者福祉法）） 　　学習指導要領 　　学校給食法 教育活動としての学校給食 学校教育活動全体で取り組む食に関する指導 児童及び生徒の食事に関する実態把握、分析等に必要な事項を含む 学校教育活動全体で取り組む食に関する指導 　■食に関する指導の全体計画 　■家庭、地域社会と連携した食育 　■発達の段階に配慮した指導計画　（知識・理解）	食に関する指導の手引き　６頁から７頁、資料３　９頁～１１頁を予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	６０分
第3回	学習指導要領について	教科等における食に関する指導 特別活動における食に関する指導 給食時間における食に関する指導 学級担任と連携した食に関する指導 課題設定の方法と指導の展開　　（思考・判断）	食に関する指導の手引き 第４章　各教科等における食に関する指導の展開　７４頁から１６４頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	１２０分
第4回	教科における食に関する指導　１	生活科、社会科等における食に関する指導 体育科、保健体育科における食に関する指導 題材設定、;教材の作成、指導方法等　　（思考・判断）（技能・表現）	食に関する指導の手引き 第４章　各教科等における食に関する指導の展開　７４頁から１６４頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	１２０分
第5回	教科等における食に関する指導　２	総合的な学習の時間における食に関する指導 食事バランスガイド 題材設定、教材の作成、指導方法等　　（思考・判断）（技能・表現）	食に関する指導の手引き 第４章　各教科等における食に関する指導の展開　１４５頁から１５６頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	６０分
第6回	家庭、地域社会と連携した食育の推進	家庭と連携した食に関する指導の進め方 地域社会の食育推進関係者との連携のあり方 地場産物等生産者と連携した食育 　※地域における食育基本計画　（思考・判断）（技能・表現） 災害時の食支援（知識・表現）	食に関する指導の手引き 第２章　学校・家庭・地域が連携した食育の推進　２６頁から３３頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	６０分
第7回	食に関する指導の課題設定と実践	給食時間における指導の課題設定 教育活動としての給食 　全体計画の作成（実態・法律・学校教育目標・健康教育目標・目指す児童像） 　学校における給食（教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動） （思考・判断）（技能・表現）	食に関する指導の手引き 第５章　給食の時間における食に関する指導　２１８頁から２３３頁まで予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	９０分
第8回	食に関する指導の課題設定と実践	児童生徒が個々に抱える様々な食生活の問題の把握と相談指導等 １　専門性を生かした個別指導 　食物アレルギー、肥満傾向、痩身傾向、 　　■　偏食傾向、間食、朝食欠食等 ２　食物アレルギー指導 ３　その他（スポーツアスリート・肥満指導）（知識・理解）	食に関する指導の手引き 第６章　個別的な相談指導の進め方　２３４頁・２３５頁を予習しておくこと。 資料等を使用し復習をすること。	６０分
第9回	食に関する指導授業	授業の映像による観察。または、模擬授業（小学校で行われる食に関する指導内容の授業を映像等を使って観察する） （思考・判断）（技能・表現）	復習、模範授業の観察、指導案等を見て、自分で行う授業等を考察する。	９０分
第10回	食に関する指導の課題設定と実践	家庭、地域社会と連携した食に関する指導の進め方、ネットワークの構築等について学ぶ。 　　・地場産物等地域資源を活用した食に関する指導 実践演習 生きた教材を活用した食に関する指導の指導案、教材等の作成	事前配布の資料を見て予習すること。 授業のレポ―ト提出。	６０分

		（思考・判断）（技能・表現）		
第11回	実践演習	模擬授業に向けて指導案、教材等の作成　授業計画（思考・判断）（技能・表現）	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出	６０分
第12回	実践演習	模擬授業に向けて指導案、教材等の作成（思考・判断）（技能・表現）	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出	６０分
第13回	模擬授業	模擬授業の実施と評価法について学ぶ（思考・判断）（技能・表現）	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出	６０分
第14回	模擬授業	模擬授業の実施と評価法について学ぶ（思考・判断）（技能・表現）	他人の指導案、模擬授業を見て復習を行うこと。 授業のレポート提出	６０分
第15回	まとめ	これまでの学習から、栄養教諭の役割等についてまとめ、意見交換をする。 （知識・理解）（技能・表現）	食に関する指導の手引き及び提供資料を見て復習を行うこと。	１２０分

学習計画注記	本授業では、教材を作成したり、模擬授業を行ったりを何度か行っていきます。受講者の人数にもよりますが、できる限り模擬授業の回数を増やしていきたいと考えています。ですから、受講者人数によってはシラバスの中の授業内容と各回の予定を変更していくこともあります。その際には、授業の予定を再度受講者全員に配布いたします。 教室外学習（予習・復習）の内容 　学習小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説第１章総説（１頁～10頁）及び食に関する指導の手引き一第二次改訂版一第１章学校における食育の推進の必要性から第２章学校・家庭・地域が連携した食育の推進（１頁～33頁）を予習しておくこと。 また、授業後に講義内容を復習をおこなうこと。 各回授業レポート提出
学生へのフィードバック方法	栄養教諭の役割を認識し、発育成長期という特殊な時期にある児童及び生徒に食の意義を認識させる。また、食に対する正しい知識を習得させ食生活に対して正しい選択が出来るようにする。こうした考えをもとに、実践的な授業実践ができる知識や技能を獲得させる。また、学校現場に入って仕事をしていこうという関心や意欲をもつようにするとともに,学校現場へ入っていく態度を獲得する。
評価方法	・毎回の授業レポート ・最終回に行う記述式の試験と、途中に行う形成的な評価テスト並びに模擬授業に向けて作成する教材や指導案を元に評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	模擬授業等	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	平常点（10%）レポート（10%）、模擬授業等（40%）及び定期試験（40%）
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省　食に関する指導の手引き一第二次改訂版一　平成31年3月 小学校学習指導要領（平成29年告示） 中学校学習指導要領（平成29年告示）
参考図書	もっと食育（東洋システムサイエンス）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】講義・演習を通して、多様な食文化や食歴を理解し、児童生徒・保護書、地域の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って教材化し行動できる。 【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の向上を図るための指導力や食品・食物の調理の技能と生きた教材としての学校給食を考える技能と、これらの開発企画や表現力を身につける。
オフィスアワー	火曜5限
学生へのメッセージ	学校現場で即座に対応できるだけの力をつけていけるようにします。課題、模擬授業を積極的に行ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公立学校の栄養教諭として実務経験を有しており、食に関する指導の授業研究・教材研究について右に出るものはない。指導案から教材作成や指導方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	個人やグループで考え発表する場を数多く授業の中で行っていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	Y13602M21
授業概要(教育目的)	博物館とは何か、博物館や学芸員が果たす社会的な役割や機能を理解し、欧米諸国や日本における博物館の発達の歴史を検討する。そのうえで、博物館における展示や文化財の保存・活用、教育活動について具体的な事例に即して検討し、博物館や学芸員をめぐる現状と、今後の課題について考えることを目的とする。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	博物館の歴史と特徴及び現代における諸課題について説明できる
思考・判断の観点（K）	博物館における学芸員の役割や存在意義について考え、その限界や問題点についても指摘できる
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館の活動を通じて、博物館が社会において果たすべき役割に関心を持ち自主的に行動できる
技術・表現の観点（A）	博物館や学芸員の役割や課題を、論理的に説明することができる

学習計画

博物館概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館学とは何か	ガイダンスを実施する。また、博物館とは何かを理解するための学問である「博物館学」の目的や内容、方法について学ぶ	シラバスを確認して受講すること。受講期間中にはなるべく多くの博物館を見学すること。	180分
第2回	博物館の定義と目的	博物館とはどのような施設か、「博物館法」やその他の法的枠組みから、その定義や目的について学ぶ。	「博物館法」について調べておくこと。	180分
第3回	博物館の分類と種類	博物館にはどのような種類があるのか、設置者や専門領域などの観点から学ぶ。	博物館にはどのような種類の施設があるか情報を集めておく。	180分
第4回	博物館の施	博物館に求められる施設と設備について学ぶ。	これまで見学したことのある博	180分

	設		物館の展示スペースにはどのような施設があったかまとめておく。	
第5回	欧米における博物館の歴史	博物館は欧米諸国が生み出した「知の社会化」のための装置ともいわれる。ここでは、近代の欧米諸国における博物館の発達史について学ぶ。	欧米の博物館について情報を集めておく。	180分
第6回	日本における博物館の歴史１	日本における博物館前史として、正倉院等のコレクションや江戸時代における本草学の隆盛と物産会等について学ぶ。	正倉院、本草学について情報を集めておく。	180分
第7回	日本における博物館の歴史２	明治期以降における日本への博物館の導入を、草創期における博覧会の開催や内務省博物館の創設、帝室博物館開設への経緯を理解する。	万国博覧会、内国勧業博覧会について情報を集めておく。	180分
第8回	日本における博物館の現状	現代の博物館をとりまくさまざまな課題や、現代社会の要請に応え得る博物館の存在意義について考える。	インターネットなどを活用し、現代における博物館の課題について考えておく。	180分
第9回	博物館の機能	博物館が果たす展示・収集保存・調査研究・教育普及などの機能について学ぶ。	博物館の4つの機能について調べておく。	180分
第10回	博物館における展示の実際１	国立歴史民俗博物館における展示を取り上げ、そのメッセージ性や調査・研究との関わり、メディア展開などについて検討する。	千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館のHPを閲覧しておく。	180分
第11回	博物館における展示の実際２	国内外の事例から、戦争や災害など「負の遺産」と呼ばれる事象を対象とした展示がどのように行われているのか、博物館が果たす役割を中心に検討する。	戦争や災害をテーマとした博物館や特別展などについて調べておく。	180分
第12回	博物館における展示の実際３	これまで訪れたことのある博物館における展示についてまとめ、グループワークを行う。	この回までに複数の博物館を訪れ、各自で見学しておくこと。	180分
第13回	企業と博物館	企業が設立した企業博物館などについて、その意義や社会的な役割を考える。	企業博物館についての情報を集めておく。	180分
第14回	博物館と地域社会	地域社会に根差した地域博物館のあり方について学び、地域文化や地域振興の拠点、地域住民の生涯学習の場として博物館をいかに活用すべきか考える。	博物館におけるボランティア制度について、具体的な事例について情報を集めておく。	180分
第15回	これからの博物館と学芸員	これからの博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。	これから博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。	180分

学習計画注記	授業の進行状況により、内容は変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行います。
評価方法	・毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめる。このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。 ・定期試験は、授業内容を踏まえて博物館に関する問題を出題する。内容の理解度や文章表現に関して評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	コメントシート	○	○	○	
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（コメントシートなど）30%、期末試験70%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	大堀哲ほか編著『博物館学Ⅰ』学文社、2012年（ISBN番号：9784762022845） 稲村哲編『博物館概論』放送大学教育振興会、2019年（ISBN番号：4595319312）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる 【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割の可能性と限界について考察できる

	【関心・意欲・態度】博物館をとりまくさまざまｎ問題について関心を持つことができる 【技能・表現】博物館をめぐる課題に対して論理的に分析・説明することができる
学生へのメッセージ	講義の受講中、できるだけさまざまな博物館施設の見学をして下さい。博物館には美術館や動植物園、資料館なども含みます。また、博物館のホームページや展示の図録などにも積極的に触れてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークやディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	５限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	Y13602M21
授業概要(教育目的)	博物館とは何か、博物館や学芸員が果たす社会的な役割や機能を理解し、欧米諸国や日本における博物館の発達の歴史を検討する。そのうえで、博物館における展示や文化財の保存・活用、教育活動について具体的な事例に即して検討し、博物館や学芸員をめぐる現状と、今後の課題について考えることを目的とする。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	博物館の歴史と特徴及び現代における諸課題について説明できる
思考・判断の観点（K）	博物館における学芸員の役割や存在意義について考え、その限界や問題点についても指摘できる
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館の活動を通じて、博物館が社会において果たすべき役割に関心を持ち自主的に行動できる
技術・表現の観点（A）	博物館や学芸員の役割や課題を、論理的に説明することができる

学習計画

博物館概論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館学とは何か	ガイダンスを実施する。また、博物館とは何かを理解するための学問である「博物館学」の目的や内容、方法について学ぶ	シラバスを確認して受講すること。受講期間中にはなるべく多くの博物館を見学すること。	180分
第2回	博物館の定義と目的	博物館とはどのような施設か、「博物館法」やその他の法的枠組みから、その定義や目的について学ぶ。	「博物館法」について調べておくこと。	180分
第3回	博物館の分類と種類	博物館にはどのような種類があるのか、設置者や専門領域などの観点から学ぶ。	博物館にはどのような種類の施設があるか情報を集めておく。	180分
第4回	博物館の施	博物館に求められる施設と設備について学ぶ。	これまで見学したことのある博	180分

	設		物館の展示スペースにはどのような施設があったかまとめておく。	
第5回	欧米における博物館の歴史	博物館は欧米諸国が生み出した「知の社会化」のための装置ともいわれる。ここでは、近代の欧米諸国における博物館の発達史について学ぶ。	欧米の博物館について情報を集めておく。	180分
第6回	日本における博物館の歴史１	日本における博物館前史として、正倉院等のコレクションや江戸時代における本草学の隆盛と物産会等について学ぶ。	正倉院、本草学について情報を集めておく。	180分
第7回	日本における博物館の歴史２	明治期以降における日本への博物館の導入を、草創期における博覧会の開催や内務省博物館の創設、帝室博物館開設への経緯を理解する。	万国博覧会、内国勧業博覧会について情報を集めておく。	180分
第8回	日本における博物館の現状	現代の博物館をとりまくさまざまな課題や、現代社会の要請に応え得る博物館の存在意義について考える。	インターネットなどを活用し、現代における博物館の課題について考えておく。	180分
第9回	博物館の機能	博物館が果たす展示・収集保存・調査研究・教育普及などの機能について学ぶ。	博物館の4つの機能について調べておく。	180分
第10回	博物館における展示の実際１	国立歴史民俗博物館における展示を取り上げ、そのメッセージ性や調査・研究との関わり、メディア展開などについて検討する。	千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館のHPを閲覧しておく。	180分
第11回	博物館における展示の実際２	国内外の事例から、戦争や災害など「負の遺産」と呼ばれる事象を対象とした展示がどのように行われているのか、博物館が果たす役割を中心に検討する。	戦争や災害をテーマとした博物館や特別展などについて調べておく。	180分
第12回	博物館における展示の実際３	これまで訪れたことのある博物館における展示についてまとめ、グループワークを行う。	この回までに複数の博物館を訪れ、各自で見学しておくこと。	180分
第13回	企業と博物館	企業が設立した企業博物館などについて、その意義や社会的な役割を考える。	企業博物館についての情報を集めておく。	180分
第14回	博物館と地域社会	地域社会に根差した地域博物館のあり方について学び、地域文化や地域振興の拠点、地域住民の生涯学習の場として博物館をいかに活用すべきか考える。	博物館におけるボランティア制度について、具体的な事例について情報を集めておく。	180分
第15回	これからの博物館と学芸員	これからの博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。	これから博物館や学芸員が果たすべき役割について、授業などをもとに各自で課題を見つけ、考察する。	180分

学習計画注記	授業の進行状況により、内容は変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	コメントシートでは、感想・意見・質問を受け付けます。質問等については、次回授業の冒頭で回答・補足説明を行います。
評価方法	・毎回、授業終盤で授業内容のまとめ・感想・質問などについてコメントシートにまとめる。このコメントシートの提出をもって出席と認める。その記入内容により、関心・意欲・態度とともに授業内容の理解に関して評価を行う。 ・定期試験は、授業内容を踏まえて博物館に関する問題を出題する。内容の理解度や文章表現に関して評価を行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	コメントシート	○	○	○	
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（コメントシートなど）30%、期末試験70%で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	大堀哲ほか編著『博物館学Ⅰ』学文社、2012年（ISBN番号：9784762022845） 稲村哲編『博物館概論』放送大学教育振興会、2019年（ISBN番号：4595319312）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる 【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割の可能性と限界について考察できる

	【関心・意欲・態度】博物館をとりまくさまざまｎ問題について関心を持つことができる 【技能・表現】博物館をめぐる課題に対して論理的に分析・説明することができる
学生へのメッセージ	講義の受講中、できるだけさまざまな博物館施設の見学をして下さい。博物館には美術館や動植物園、資料館なども含みます。また、博物館のホームページや展示の図録などにも積極的に触れてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークやディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館資料論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 神　かほり	指定なし

ナンバリング	Y23604M21
授業概要(教育目的)	博物館資料は、博物館活動の根幹をなすものである。本講義では博物館資料にはどのようなものがあるのか、博物館ではどのように資料を収集し、保存し、利活用するのかなどを、できるだけ実例に即して学ぶことを目的とする。博物館資料論を通じ、学芸員の仕事の意義や、博物館の社会的役割についても理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	博物館で取り扱う資料の性格とその社会的意義について説明できる
思考・判断の観点（K）	博物館で取り扱う資料のもつ可能性や限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館で取り扱う資料への理解を深め、自らの興味関心に引き付けて収集・保存から活用までを考えることができる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

博物館資料論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館資料論の目的と意義	博物館資料とは何か、博物館資料にはどのようなものがあるかを概観し、博物館資料論を学ぶことの意味を考える。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第2回	博物館資料の定義と特性	実物等資料（一次資料）・複製等資料（二次資料）などの博物館資料の定義や、それらの特性について学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第3回	博物館の資料収集	博物館の運営理念に基づいた収集方針の立て方や、具体的な資料収集方法（採集・購入・寄贈・寄託・借用・制作など）を学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

第4回	博物館資料の分類と資料化のプロセス	歴史民俗系博物館を例に、資料の種類や分類方法を学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第5回	博物館資料の受入れから配架まで	歴史民俗系博物館の資料を例に、資料の受入れから登録、配架までの流れを学ぶ	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第6回	博物館資料の取扱い①	人文系博物館における資料の特性と取扱いについて学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第7回	博物館資料の取扱い②	人文系博物館における資料の特性と取扱いについて学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第8回	博物館資料の収蔵と保存	博物館資料の劣化要因を知り、収蔵・展示施設における保存環境について学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第9回	生物被害への対策	資料に被害をもたらす生物について知り、駆除や予防などの対策について学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館資料の記録手法	博物館資料を記録するための、写真撮影・作図・拓本などの技法について学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第11回	資料調査の実際①	民俗調査・文化財調査などの実例から、博物館の資料調査の手順や調査研究の方法について学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第12回	資料調査の実際②	民俗調査・文化財調査などの実例から、博物館の資料調査の手順や調査研究の方法について学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第13回	災害から資料を守る①	盗難・事故・自然災害など、博物館資料をとりまくさまざまなリスクを知り、対策や復旧について学ぶ。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第14回	災害から資料を守る②	資料を脅かす自然災害・人的災害と、各地で行われている文化財レスキュー活動について知る。資料を災害から守り、次世代に継承するために何ができるか考える。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第15回	博物館資料論を学んで（まとめ）	これまでの講義を総括し、博物館で資料を収集し、次世代へ伝えることの意義を確認する。博物館資料を通じて博物館が担う社会的役割や、その可能性について考える。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	講義内容に関するリアクションペーパーを提出してもらう。質問や疑問点があれば記入しても良い。次回以降の講義において、可能な範囲でフィードバックを行う。
評価方法	・毎回、講義の最後（10分程度）にリアクションペーパーを配布し、講義の要点をまとめたり、感想や意見を述べてもらう。授業への取り組みとリアクションペーパーの内容とを合わせて平常点とする（50%）。 ・定期試験（またはレポート）を行う（50%）。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパー		○	○	
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点（50%）、定期試験またはレポート（50%）
使用教科書名(ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配布。
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館資料が保存され展示されることの社会的意義を理解できる 【思考・判断】博物館における資料の可能性について生活と絡めて考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の資料を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる

学生へのメッセージ	博物館資料に関する基礎的知識を得るだけでなく、資料と向き合い、資料と格闘する学芸員の仕事の醍醐味をぜひ知ってほしいです。同時に博物館や博物館資料を取り巻く現状や課題についても関心を持ち、博物館の社会的意義についても考えてほしいと思います。 そのためにぜひなるべく多くの博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など）を見学してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館資料論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	２限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣　悟	指定なし

ナンバリング	Y23604C21
授業概要(教育目的)	博物館において最も重視される業務のひとつに博物館資料の保存作業にあるといってよい。この業務が博物館の中で十分に機能しないと、博物館資料の有効な活用が期待できないばかりか、次世代への確実な受け渡しもできなくなる。講義に当たっては、具体的に資料の収集から資料の活用にいたるまでのプロセスを追って博物館資料の位置づけとその考え方について理解する。
履修条件	学芸員資格（任用）の取得を目指す者 ※本講義は卒業要件単位には含まれません。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	博物館で取り扱う資料の性格とその社会的意義について説明できる
思考・判断の観点（K）	博物館で取り扱う資料のもつ可能性や限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館で取り扱う資料への理解を深め、自らの興味関心に引き付けて収集・保管から活用までを考えることができる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

博物館資料論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館資料論の目的と意義	博物館で取り扱う資料とはどのようなものか、ということを学ぶために博物館資料の種類と分類を総覧し、次いで博物館の所有ないし管理する資料とするための一連の手続きについて概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第2回	博物館資料の性格	博物館の資料といえば、実物資料（一次資料）だけが資料と考えられがちであるが、他にも二次資料とよばれる資料があること、その役割などについて学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

第3回	博物館資料の収集方法	博物館の資料を収集する方法、具体的には採集、購入、寄贈、寄託、借用、製作などに視点あててその可能性と限界について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第4回	博物館資料の保存と修理	博物館で取り扱う資料は材質も形状も多種多様であるため、ぞれぞれの形状や材質に対応する保存方法がある。多様な保存方法について概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第5回	博物館資料の整理と管理	博物館で扱う資料の日常的な管理方法について、台帳の作成や整理方法、データベースや検索方法などを紹介しながら概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第6回	博物館資料の記録化（１）写真	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に写真・画像として記録することの有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第7回	博物館資料の記録化（２）実測図	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に資料を計測して実測図を作成することの有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第8回	博物館資料の記録化（３）拓本	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に拓本として記録する技術とその有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第9回	博物館資料の記録化（４）台帳	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に台帳の作成・整備の手順とその有効性・限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館資料の記録化（５）調査法	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に資料自体を観察したり、聞き取りや文献調査などにより付帯情報を収集・整理することの意義について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第11回	博物館資料の収蔵と梱包	博物館にある資料を適切な保存・管理の下で活用する方法のうち、特に資料の収蔵と移動（梱包）の技術や考え方について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第12回	博物館資料の展示と活用	博物館にある資料を有効に活用する代表的な形態としての展示業務について、おもに展示企画の作成と展示技術について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第13回	博物館の刊行物	博物館における調査研究などの活動を公開するさまざまな刊行物を取り上げて、博物館における活動の社会的な広がりと意義について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第14回	実物と複製、偽物、クローン	博物館にある資料を適切に保存しつつ、有効に活用するための手段として、実物以外の形態の資料を作成し用いることの意義と限界、そして課題について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第15回	再び博物館資料論の目的と意義（まとめ）	改めて博物館で扱う資料とは何か、という問いを立てて講義のまとめを行うことで、社会の中での資料のもつ役割と可能性について理解するとともに、博物館そのものの存在意義を考えてみます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。
評価方法	・毎回、講義の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。そこでは、基本的には講義の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・定期試験は、博物館資料に関する総合的な観点からのテーマを出題して論じてもらいます。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパー		○	○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	リアクションペーパー（毎回）（30%）、定期試験（70%）で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配布します。

参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館資料が保存され展示されることの社会的意義を理解できる 【思考・判断】博物館における資料の可能性について生活と絡めて考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の資料を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる
オフィスアワー	毎週木曜日昼休み（12：30～12：50）に1701ゼミ室にて相談を受けます。
学生へのメッセージ	博物館で取り扱われる資料の多様性を知るとともに、それが保存され、展示される社会的意義を理解してほしいです。加えて、そうした資料を扱う博物館活動が現代社会で必要とされる意味にも思いをはせることで、各自の専攻の社会的立ち位置を自覚する機会ともしてほしいと考えています。 本講義期間中は、予習・復習学習のみならず、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を講義内容と絡めながら見学してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館経営論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾　誠敏	指定なし

ナンバリング	Y33603M21
授業概要(教育目的)	日本における経済的不況は今なお脱しきれず、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が継続的な課題となっている。こうした社会的な潮流は博物館運営の面においても例外とは言えず、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。 本講義では、博物館概論で学んだ博物館のあり方を更に深く掘り下げ、今日的な博物館経営の取り組みや課題を解説することにより、博物館が直面している諸問題について、博物館がどのような取り組みを行っているかを概観する。
履修条件	博物館学に関する概説を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．博物館を運営する上での基本的な要素を説明することができる。 ２．博物館が現実的に取り組んでいる施策の事例を通じて、現代社会における博物館のあり方、役割を具体的に述べることができる。 ３．専門分野以外の経営面において、学芸員が取り組むべき視点を学ぶことができる。
思考・判断の観点（K）	博物館経営の上で重要と思われるテーマを個別に取りあげ解説することにより、現在、博物館が抱える運営上の諸問題について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館の運営や学芸員への理解を深め、単に展示を見るというだけでなく他の側面からも博物館に足を運び考えることができる。
技術・表現の観点（A）	博物館の学芸活動を通じて、地域社会やコミュニティーにおいて、住民に対してどのように接し活動すべきかの指針を得ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館経営とは何か	シラバスに基づく講義内容の説明を行うとともに、授業への導入として博物館経営論とはどのようなものであるのかについて解説する。博物館経営論の導入として、現代社会の中で、なぜ博物館に「経営」といった視点が必要なのか。行政が積極的にとりいれているＮＰＭ（ニュ	【予習】一般的に、社会において「経営」とは何を意味するのかを考えておく。 【復習】ＮＰＭという大きな潮流を理解し、現代社会における	予習・復習　各90分

		ー・パブリック・マネジメント）の視点から、博物館経営の必要性を知る。	博物館経営について何が大切であるかをまとめておく。	
第2回	博物館の設立と基本構想	博物館の設立の行程や理想的な博物館建設の形を知り、その中でも基本理念の重要性を知る。	【予習】博物館を新たに設置するために考慮すべき要件をまとめておく。 【復習】新設博物館の設立過程を確認し、基本構想の要素について整理しておく。	予習・復習　各90分
第3回	博物館の行政制度と使命	公的機関として設置されることの多い博物館を運営する上での、法的根拠について理解を深めると共に、その使命について考える。	【予習】博物館概論で触れられた、博物館法および関連規則を思い出し、博物館設置の目的について整理しておく。 【復習】博物館の法的位置づけや運営の実態、博物館が果たすべき使命について、プリントと講義内容を復習する。	予習・復習　各90分
第4回	博物館の財政	公的機関でありまた教育機関でもある博物館の、財政基盤ならびに予算の特殊性、出納の実態などを学ぶ。	【予習】一般的に、行政の予算がどのような過程で成立するのかを調べておく。 【復習】博物館の財政的根拠や予算の特質を、講義内容とプリントを確認してまとめておく。	予習・復習　各90分
第5回	博物館の建築と施設	博物館の施設や設備といったハード面について、近年における傾向やリニューアル等の問題点について知る。	【予習】実際に訪れたことのある博物館を思い出し、博物館の施設がどのようにな構造になっているかのを考えておく。 【復習】博物館の施設や設備が、どのような観点から設計・設置されているかをよく理解しておくこと。	予習・復習　各90分
第6回	博物館の人的資源と組織	博物館を支える人々は多様で、それぞれがどのように博物館の業務と関わっているのか。そのなかでも博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、博物館における役割とその特質について概観する。	【予習】博物館の中で学芸員はどのような仕事をしてるのだろうか。博物館概論で学んだ博物館の機能と併せてまとめておく。 【復習】博物館における学芸員の位置づけと重要性について理解し、今日の学芸員が何を求められているのかを復習しておくこと。	予習・復習　各90分
第7回	ミュージアム・マーケティング	博物館の集客戦略として行われてきているミュージアム・マーケティングの手法と具体例について学ぶ。	【予習】商業的に使われているマーケティングの意味を調べておく。 【復習】ミュージアム・マーケティングの手法と運用上の留意点についてまとめておく。	予習・復習　各90分
第8回	博物館を評価する	博物館組織の内外で実施されている事業評価のあり方について学ぶ。	【予習】行政や企業で行われている事業評価のあらましを調べてみる。 【復習】事業評価について、博物館におけるその意義と問題点について整理しておくこと。	予習・復習　各90分
第9回	指定管理者制度と博物館	現在行われている指定管理者制度の有効な点や問題点をよく理解し、より強い官と民のパートナーシップとしての指定管理者制度の新しい姿を知る。	【予習】自治体において採用されてきている指定管理者制度について、その概要をまとめておく。 【復習】旧来の事業委託制度と指定管理者制度の違いをまとめ、博物館やその他の施設における指定管理の具体例を調べてみる。	予習・復習　各90分
第10回	ミュージアム・サービス	博物館経営における「サービス」とは何を意味するのか。今日の博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に学んでいく。	【予習】　一般的にイメージするサービスと公共サービスの違いについて考えておく。 【復習】利用者主体の博物館経営という観点から、博物館が行うことができるサービスにはどのようなものがあるのかを、よく整理しておくこと。	予習・復習　各90分
第11回	ミュージアム・サービ	前回の課題としたミュージアム・サービスでは、快適な空間づくりのための施策が管内サービスで行われていた。このような空間づくりの側面として、いくつかの付	【予習】博物館の付帯施設のうち、来館者のサービスに供するものは何がありか挙げてみる。	予習・復習　各90分

	スと付帯施設	帯施設が設置されている。ここでは、カフェ、レストラン、ミュージアムショップを取り上げて、その意義を述べてみたい。	【復習】ミュージアムショップで販売されているミュージアム・グッズの意義を教育面から整理しておく。	
第12回	地域社会と博物館	生涯学習機関としての博物館が、地域への貢献として地域が抱える問題に取り組むという新たな課題について、新しい博物館の施策を学ぶ。	【予習】あなたがイメージする地域あるいは地域社会とはどのようなものか。地域社会における博物館の存在意義を考えてみる。 【復習】博物館と地域社会との関係、および博物館が地域社会に果たす役割をまとめておく。	予習・復習　各90分
第13回	地域社会における博物館の新しいかたちーエコミュージアムー	地域社会と博物館の新たな関わり方の一つとして、1990年以来、エコミュージアムという考え方が導入されてきた。エコミュージアムの歴史を追い、ヨーロッパでのエコミュージアムの基本的な考え方、日本のエコミュージアムの特質を学ぶ。	【予習】エコミュージアムという言葉を調べておく。 【復習】本来ヨーロッパで行われてきたエコミュージアムの概念と、日本のエコミュージアムの実態を比してみる。	予習・復習　各90分
第14回	博物館と観光	旅行ガイドブックには常に登場する博物館であるが、生涯学習機関に位置付けられる博物館は観光には消極的であった。しかしながら政府は、オリンピックを背景に博物館や文化財を観光資源として積極的に活用する姿勢に転換した。こうした流れを概観し、博物館と観光との関係を説明する。	【予習】一般的の人が博物館を訪れる契機は何であろうか。思い付くままに列記し、その中で観光利用がどのくらいの位置を占めるのかを検討してみる。 【復習】博物館を観光資源として活用する利点を説明できるようにまとめる。	予習・復習　各90分
第15回	コロナ禍における博物館経営	2020年から始まったコロナ禍において、公共的施設として不特定多数の来館者を迎える博物館は、休館を始めとする制限を数多く設けざるを得ない状態となった。そのような中で行われてきた新たな取り組みについて概観する。	【予習】博物館のホームページを閲覧して、コロナ禍での対策を調べてみよう。 【復習】コロナ禍での博物館の取り組みとして行われているバーチャルミュージアムを体験してみよう。	予習・復習　各90分

学生へのフィードバック方法	授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。 質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。
評価方法	期末レポートによる評価　70% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30% また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、５回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパーへの回答	○	○		
	定期試験または期末レポート	○	○		○

評価割合	定期試験または期末レポートによる評価　７0% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30%
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。
参考図書	加藤有次ほか編『博物館経営論』雄山閣出版、1999年刊 大堀　哲編『博物館経営論』樹村房、1999年刊 佐々木亨ほか『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会、2008年刊 大堀　哲ほか『博物館学Ⅲ（博物館情報・メディア論・博物館経営論）』学文社、2012年刊
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館と地域社会の結びつきを理解し、博物館が地域社会に果たすべき役割を説明することができる。 【思考・判断】博物館経営の施策を通して、博物館がどのように地域社会の諸問題を解決していくべきであるのかを思考することができる。 【技術・表現】博物館学芸員が地域社会やコミュニティーにおいて、住民に対するコミュニケーションを通じて地域社会の問題に取り組み解決する指針を得ることができる。
オフィスアワー	質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。 教員メールアドレス　m-tao@rb3.so-net.ne.jp ※大学名・科目・氏名を明記すること。

学生へのメッセージ	コロナ禍の折ではあるが、機会を作って博物館に足を運び、展示だけではなく授業で学んだ視点を生かして、博物館経営の観点から博物館を見学するくせをつけよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、いくつかの自治体において博物館の基本構想策定に委員として関わり、また博物館協議会の委員を務めている。これらの実務経験を取り入れた授業を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	各回の授業は教員が講義する型式を基本とするが、ディスカッションを取り入れた双方向型の授業を取り入れていきたい。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	生涯学習概論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎　敦子	指定なし

ナンバリング	Y13601M21
授業概要(教育目的)	生涯学習は人が生涯にわたって成長し続けるという理念のもとに行われる教育・学習形態で、あらゆる機会に、あらゆる場所において」学習する権利を実現させようとするものである。この講義では生涯学習の理念を踏まえ、社会教育施設（生涯学習施設）のあり方、役割をとらえた後に、国際化の進む日本社会における多文化共生の実態から、学習権の意味を考えていく。この授業を通じて、学ぶことの意義、方法を知る契機となる授業を目指す。
履修条件	生涯学習、図書館、博物館、美術館等の社会教育施設（生涯学習施設）に関心のある学生、多文化共生について学びたいと考える学生。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	生涯学習、社会教育の概念と関係を知る。
思考・判断の観点（K）	資料から生涯学習・社会教育の概念や理念を理解し、実際の運用にあたっての諸問題について自己の意見がを持てるようになる。
関心・意欲・態度の観点（V）	資料や他者との意見交流を通して、自分の考えをまとめ、表現（文章化・発表する）することができるようになる。
技術・表現の観点（A）	自らのことばで生涯学習の諸事象を具体的に表現することができるようになる。

学習計画

生涯学習概論授業予定

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	オリエンテーション	これから学習する生涯学習について。これからの授業の見通しと授業のルール（感想・記録用紙）について説明。	これまでの学校教育以外の学習の振り返り振り返りと、記録・感想用紙記入。	120分
第2回	生涯学習の登場	1965年にユネスコで生涯学習が提唱され、日本に導入された歴史的推移を知る。	テキスト第１章を読み、どこが提唱したのかを調べる。記録・感想用紙の記入。	120分

第3回	生涯学習と学校教育	生涯教育が提唱された歴史的背景について、テキスト、資料から考える。提唱当時の「生涯教育」から「生涯学習」へと推移した理由について理解する。	テキスト第１章を読み、生涯教育提唱の背景で影響を与えた人物を調べる。記録・感想用紙の記入。	120分
第4回	ユネスコと生涯学習	1946年に発表された「ユネスコ憲章」を読み、生涯学習との関連について考える。	配布した資料及びテキスト第３章でユネスコ憲章を読んでみる。記録・感想用祇の記入。	120分
第5回	社会教育の歴史	戦前からあった社会教育の歴史を資料によってみていく。日本国憲法、教育基本法（1947年）から社会教育と生涯学習との関係について考える。	資料から社会教育の目的を確認し、生涯学習との関係について考える。記録・感想用祇の記入。	120分
第6回	生涯学習と社会教育施設	社会教育法から社会教育の目的、定義を確認する。目的の実現のために社会教育施設が地域の人々の身近につくられていることを理解する。	配布した社会教育法から社会教育施設にはどのようなものがあるかを調べる。記録・感想用紙の記入。	120分
第7回	生涯学習と図書館①	図書館法を読み、図書館の目的、定義を知る。社会教育施設としての図書館の生涯学習における役割を考える。	配布した図書館法及び図書館の自由に関する宣言を読み、考えたことをまとめる。記録・感想用紙の記入。	120分
第8回	生涯学習と図書館②	図書館法を読み、図書館の目的、定義を知る。社会教育施設としての図書館の生涯学習における役割を考える。	配布した図書館法及び図書館の自由に関する宣言を読み、考えたことをまとめる。記録・感想用紙の記入。	120分
第9回	第1回レポート発表	グループでレポートの発表を行う。他者の意見、感想を知ることを通して自分の考えを深める。また、発表方法について相互に学ぶ。	発表レポートの用意。授業後、記録・感想用紙記入。	120分
第10回	生涯学習と博物館	博物館法を読み、博物館の目的、定義を知る。社会教育施設としての博物館の生涯学習における役割を考える。	テキストの第4章から第13章について関心のある国の生涯学習について読んでおく。記録・感想用紙の記入。	120分
第11回	生涯学習と美術館	美術館について、これまで学習した図書館、博物館などの社会教育施設の生涯学習における役割の観点から考える。	配布した資料を読み、自分の考えをまとめる。記録・感想用紙記入。	120分
第12回	日本の生涯学習の特質①	日本の生涯学習の特質について、多文化共生の観点から資料や新教育基本法から考える。	テキストの第4章から第13章について関心のある国の生涯学習について読んでおく。記録・感想用紙の記入。	120分
第13回	日本の生涯学習の特質②	近年増加している外国人労働者とその家族（特に子ども）の現状についてて、資料から見ていく。新教育基本法第３条には生涯学習の理念が規定されたが、その理念に照らして日本の生涯学習の特質について考えていく。	テキストの第4章から第13章について関心のある国の生涯学習について読んでおく。記録・感想用紙の記入。	120分
第14回	第2回レポート発表	グループでレポートの発表を行う。他者の意見、感想を知ることを通して自分の考えを深める。また、発表方法について相互に学ぶ。	発表レポートの用意。授業後、記録・感想用紙記入。	120分
第15回	生涯学習と専門的職員	社会教育施設でもあり生涯学習施設でもある図書館や博物館・美術館には専門的職員がいる。資料をもとに社会教育施設の動向について気が付いたこと、自分の考えをまとめ、意見交流をしていく。	配布した資料で気が付いたことをまとめておく。記録・感想用紙の記入。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	各回毎に「記録・感想用紙」を記入し、次回授業時に紹介してもらう。それに対して、コメント、解説を行う。
評価方法	定期試験は行わない。毎回授業後の「記録・感想用紙」と、2つのレポートの提出で行う。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	記録・感想用紙	○	○	○	○
	レポート　２つ	○	○	○	○

評価割合	「記録・感想用紙」（50点）、2つのレポート(50点）で行う。

使用教科書名(ISBN番号)	岩崎正吾編『多文化・多民族共生時代の世界の生涯学習』学文社、2018年
参考図書	解説『教育六法』三省堂、2020年版
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解：生涯学習の授業を通じて、学ぶことの意義、学び方、さらにその知識をいかに生かすのかを考える能力。 関心・意欲：生涯学習の授業を通じて社会に生きる人の多様性を理解し、尊重する能力。
オフィスアワー	講義時間の前後20分
学生へのメッセージ	生涯を通して学ぶことの重要性を考えてみましょう。　多様な人々と社会を作る意味を考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		新聞記事を活用して、具体的な事例から検討をしていく。
アクティブ・ラーニング		グループ学習を通じて、他者の考えを知り、自分の考えを深めていく。
情報リテラシー教育		新聞記事を活用して、グループでの意見交流を行う。
ICT活用		DVDの視聴による学習を通じて、意見交換を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館実習		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾　誠敏	指定なし
准教授	加藤　晴美	指定なし

ナンバリング	Y43609M33
授業概要(教育目的)	博物館実習は、学芸員資格を取得するための総仕上げとしての位置付けがある。 本実習には、「学内実習」「見学実習」「館園実習」の3種があり、博物館の実務に対する幅広い理解を得ることが目的である。 「学内実習」では、資料の取り扱いや実務についての習得をはかることを中心とし、博物館資料の収集、整理、保管、展示に関する技術等を修得する。 「見学実習」では博物館を訪れ、展示はもとより博物館の構造や施設、バックヤード等を見学し、具体的に博物館施設と業務の多様性について理解する。 「館園実習」は、町田キャンパスの生活文化博物館において模擬展示を行う。実際に展示の企画を立て、資料の収集や取材、パネル等の作成を行い、生活文化博物館の一画でパネル展示を行う。
履修条件	博物館概論ならびに各論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	学芸員の実務の多様性を理解する。
思考・判断の観点（K）	学芸員の実務についての可能性や限界について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	自らの興味や関心に関連させて博物館の活動について考えることができる
技術・表現の観点（A）	資料の保存と公開に関する技術と思想を自ら実践できる

学習計画

博物館実習

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	学内実習1 ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスを行うとともに、博物館資料の多様性とその受け入れ・整理作業についての解説する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。

第2回	学内実習2 「モノ」資料と展示	博物館における「モノ」資料の位置付けについて解説する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第3回	学内実習3 資料の採拓（1）	博物館資料の取り扱い方法として、資料の拓本について基本的な知識を解説する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第4回	学内実習4 資料の採拓（2）	実際に考古資料を用いて採拓を行う。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第5回	学内実習5 資料の実測（1）	「モノ」資料の実測について、その意義、実測の歴史、実測の方法について解説する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第6回	学内実習6 資料の実測（2）	模擬資料を用いて、実測図を作成する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第7回	学内実習7 古文書の取り扱い（１）	紙資料の代表格となる古文書の取り扱いについて、基本的な知識を解説する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第8回	学内実習8 古文書の取り扱い（２）	実際の古文書を用いて、史料整理や目録の作成を実践する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第9回	学内実習9 フィールドワークの方法	地域の暮らしを復原することを目的とした地理学的・民俗学的な地域調査の方法を解説し、模擬的なフィールドワークを行う。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第10回	学内実習10 資料の梱包（1）	梱包の基本を学び、模擬資料を梱包するための梱包材を作成する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第11回	学内実習11 資料の梱包（2）	資料の 梱包材を用いて、実際に模擬資料の梱包を行う。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第12回	学内実習12 資料写真の撮影(1)	資料写真の撮影について、一眼レフのフィルム・カメラを用いて、その康応や使用方法および撮影の基本知識を理解する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第13回	学内実習13 資料写真の撮影(2)	実習に用いた資料等を対象として、実際に資料写真の撮影を行う。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第14回	学内実習14 資料台帳の作成(1)	資料台帳の意義や活用方法、博物館における資料登録の手順等について解説する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第15回	学内実習15 資料台帳の作成(2)	これまでの実習で行った採拓資料、実測図、資料写真等を利用して、資料台帳（資料カード）を作成する。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学することが望ましい。
第16回	館園実習 見学実習	「館園実習」は５日間の夏期集中授業として、町田キャンパス生活文化博物館において実務的な模擬展示を行う。 「見学実習」は前期・工期を通じて、博物館見学を５日分の予定で実施する。 町田・千代田三番町両キャンパスの受講生が合同での実施となる。 詳細については、別途説明する。	見学実習・館園実習ともに、実習にあたっては要点や疑問点などを書き留められるようなメモを携帯し、事後にまとめておくこと。

学習計画注記	「学内実習」は、前期の授業時間帯に教室内で行う。 「館園実習」は、夏期休暇中に５日間の日程で集中して、町田キャンパス生活文化博物館で実施する。 「見学実習」は、前期・後期を通じ土・日・祝日や休暇期間を利用して、５日分程度の予定で行う。 なお、「館園実習」と「見学実習」は、町田キャンパスと千代田三番町キャンパスの両受講生合同で実施する。
学生へのフィードバック方法	実習の内容や取り扱う資料は多岐にわたるため、その都度、前後の実習内容との関連性や相違など留意すべき点について授業中に触れる。 また「館園実習」や「見学実習は、総まとめ的な位置づけにあるので、これまで学んできた博物館学各論の内容を実地で示して解説する。
評価方法	「学内実習」への取り組みや「館園実習」・「見学実習」に参加する姿勢などの平常点（70%）を基本とし、各実習に関わるレポート（30%）を課し、これらを勘案して総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実技および授業への取り組み	○	○	○	○
	各実習に関するレポート	○	○	○	

評価割合	実技および授業への取り組み　70% 期末レポート　30%
使用教科書名(ISBN番号)	授業の際、必要に応じてプリント等の資料を配布する。
参考図書	田中梨枝子編　2019『博物館実習ガイドブック』藝術学舎 日本博物館協会編　2016『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学芸員の業務が多岐にわたることを理解することができる。 【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割を理解し、来館者や地域社会との関わりについて考察ができる。 【関心・意欲・態度】博物館活動と自らの興味関心を関連づけて、展示を見学する以外の視点で博物館を考えることができる。 【技術・表現】学芸員が行う業務の主要な部分について体験し、意志で主体的に身に着けることができる。
オフィスアワー	質問等については、メールまたは授業前後に教室で受け付ける。 メールアドレス（田尾誠敏）：m-tao@rb3.so-net.ne.jp ※授業名と氏名を明記すること。
学生へのメッセージ	実習を体験することによって、学芸員が博物館において多様な業務を行っていることを知り、また様々な課題に取り組んでいるということを理解してほしい。 コロナ禍の折ではあるが、本実習期間中は、機会を見つけてできるだけ様々な種類の博物館を訪れ、実習の内容を追体験する視点で見学してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、自治体の文化財保護審議委員や博物館協議会委員を務め、文化財行政や博物館に対して、資料の取り扱いについて指導・助言を行う立場である。また専門分野である考古学については、長く発掘調査や資料整理を行っている。授業ではこれらの実務経験に基づいた授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実習という実務的な授業であるため、受講生の能動的な学修が中心となる。個人作業とグループ作業の双方を取り入れ、体験型学修を通じて知識や技術を身に着ける。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館資料保存論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾　誠敏	指定なし

ナンバリング	Y33605M21
授業概要(教育目的)	博物館において資料（コレクション）とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪伝統による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。
履修条件	博物館学に関する概説の授業ならびに博物館資料論を受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	博物館でおこなわれている資料保存に関する幅広い知識や考え方を身につけることができる。
思考・判断の観点（K）	多様な博物館資料の特性を把握し、その資料をどのように取り扱うべきであるのかという判断ができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館資料をはじめとする我が国の文化財の重要性を認識し、次世代へと継承していく意欲を養える。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館の資料保存　ー守る・残す・伝えるー	博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。	【予習】博物館法では資料保存（保管）がどのように位置づけられているかを確認塩ておく。 【復習】美術工芸品を含む人文系資料が、どのような素材でつくられているかを整理する。	予習・復習　各90分
第2回	文化財保護法の理念と特質	博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。	【予習】文化財保護法を調べ、文化財とはどのようなものかを確認する。 【復習】文化財保護法の理念を	予習・復習　各90分

			まとめ、博物館資料との関わりを整理しておく。	
第3回	わが国の気候・風土と伝統的保存	年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。	【予習】わが国の地理的特徴と気候について、その多様性を確認しておく。 【復習】日常で行われてきた伝統的な保存方法に、どのようなものがあるのかをまとめておく。	予習・復習　各90分
第4回	正倉院にみる伝統的保存	伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。	【予習】奈良市に所在する正倉院について調べておく。 【復習】正倉院宝物が長きにわたって伝えられてきた保存法についてまとめておく。	予習・復習　各90分
第5回	博物館資料と文化財科学	資料の保存と修復に関わる理科学的研究分野である文化財科学について解説する。	【予習】前回までに学んだ伝統的保存法の限界についてまとめておく。 【復習】文化財科学のインターフェイス的な役割と研究分野について確認しておく。	予習・復習　各90分
第6回	博物館の保存環境	博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。	【予習】博物館資料や文化財がどのような場所に置かれているかを確認しておく。 【復習】博物館において資料の保存環境を整備する際の留意点をまとめる。	予習・復習　各90分
第7回	博物館資料の生物被害対策とIPM	博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM（総合的有害生物管理）について概説する。	【予習】博物館資料や文化財を汚損・食害する生物を調べておく。 【復習】IPMがなぜ行われるようになってきたのかをまとめ、その理念と手法的特徴を確認しておく。	予習・復習　各90分
第8回	資料の梱包と輸送	博物館の資料を取り扱う上で最もリスクが高い場面が、資料を展示作業にかかわる資料の移動である。こうした観点から、博物館において行われている資料の梱包や輸送をはじめとする資料の取り扱いを概観する。	【予習】資料を展示するという一連の過程を思い浮かべ、資料に対する物理的な危険性を想定してみよう。。 【復習】資料の梱包や輸送上の留意点を、資料の材質た資料の種類といった多様性を考慮して整理しておく。	予習・復習　各90分
第9回	考古資料の保存と修復	考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。	【予習】考古資料とはどのようなものでどのような特質があるのかわ調べる。 【復習】考古資料が博物館において、修復され展示されるｊことが多い理由についてまとめておく。	予習・復習　各90分
第10回	紙資料の保存と修復	光や温湿度に影響を受けやすい古典籍等の史料に対する保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。	【予習】博物館で展示されている紙資料の種類を調べておく。 【復習】史料の保存手法やアーカイブ化の利点をまとめておく。	予習・復習　各90分
第11回	美術工芸資料の保存	美術系博物館や歴史系博物館が取り扱う、幅広い美術工芸品の保存について概観する。	【予習】博物館資料として扱う美術工芸品の種類や材質の多様性を確認しておく。 【復習】美術工芸品の保存環境と収蔵・保管の留意点をまとめておく。	予習・復習　各90分
第12回	動物園と種の保存	自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・育成などの意義について述べる。	【予習】博物館法や文化財保護法における、自然系資料の位置付けを確認しておく。 【復習】生物を扱う博物館の特質と、保存の手法および意義についてをまとめておく。	予習・復習　各90分
第13回	コレクション・ドキュメンテーションと資料管理	資料の保存・管理の第一歩であるコレクション・ドキュメテーションの手法を通じて、登録から保存管理までの流れを学ぶ。	【予習】博物館資料の記録がどのように活用されているかを、博物館のホームページ等で調べておく。 【復習】コレクション・ドキュ	予習・復習　各90分

			メンテーションの利点と手順についてまとめておく。	
第14回	博物館の資料保存と危機管理	博物館における資料面での危機管理を取り上げ、短期・中期・長期的な資料の管理について説明する。	【予習】環境による資料の劣化以外に、学芸員が博物館資料を取り扱う際の注意点を考えておく。 【復習】博物館資料を脅かす短期・中期・長期的な危機にどのようなものがあるのかをまとめ、その対策について確認する。	予習・復習　各90分
第15回	被災文化財の保護と博物館	近年問題となっている災害に直面した文化財に対して、博物館館が果たしてきた役割について述べる。	【予習】震災等の自然災害に直面した文化財の事例について調べておく。 【復習】被災文化財の救出や保護に果たす博物館の役割を確認しておく。	予習・復習　各90分

学生へのフィードバック方法	授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。 質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。
評価方法	期末レポートによる評価　70% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30% また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、５回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパーへの回答		○	○	
	定期試験または期末レポート	○			

評価割合	定期試験または期末レポートによる評価　70% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30%
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。
参考図書	青木　豊編『人文系博物館資料保存論』雄山閣　2013年刊 石崎武志編『博物館資料保存論』講談社　2012年刊 本田光子・森田　稔編『博物館資料保存論』放送大学教育振興会　2012年刊
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館の資料保存に関する知識を身に付けることで、博物館資料をはじめとする文化財を次世代に継承し、地域社会における質の高い文化的生活の持続が可能であることが理解できる。
オフィスアワー	質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。 教員メールアドレス　m-tao@rb3.so-net.ne.jp ※大学名・科目・氏名を明記すること。
学生へのメッセージ	コロナ禍の折ではあるが、機会があれば実際の博物館を訪れて、資料の展示環境や展示の方法などから、資料保存と展示との両立を考えてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	講義が中心であるが、学生諸君との質疑やリアクションでのやり取りなど双方向性のある授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	博物館展示論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	２限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾　誠敏	指定なし

ナンバリング	Y33606C21
授業概要(教育目的)	来館者にとって、展示は博物館の顔である。しかしながら博物館が収蔵する資料（コレクション）は多岐にわたる。これらの資料は過去にどのように展示されてきたのかという展示の歴史をはじめとして、展示の意義や手法など、博物館展示に関する個別テーマを取り上げて解説する。
履修条件	博物館学に関する概説の授業を受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	展示に関する基礎的な知識を身に付け、博物館および来館者にとって展示とは何を意味するのかを理解することができる。また、博物館が資料を展示するための様々な取り組みを知ることができる。
思考・判断の観点（K）	博物館における展示の意義や手法を学ぶことにより、博物館展示の可能性と限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館展示への理解を深め、自らの興味や関心に基づいて博物館に足を運び考えることができる
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館における展示とは何か	今日の博物館展示は、教育・普及活動の側面のみならず、地域活性化をはじめとする地域貢献をも視野に入れた事業として展開している。導入として、現代社会における博物館展示の意義について述べる。	【予習】一般的に行われている展示（ディスプレイ）と、博物館が行う展示にはどのような差があるかを考えてみる。 【復習】博物館が行う展示の意義をまとめておく。	予習・復習　各90分
第2回	展示の歴史ー陳列から展示へー	わが国で行われてきた前近代的な陳列や列品が、今日の展示に発展していく様相を、時代を追って概観する。	【予習】前近代において、人に「もの」を見せるという行為にどのようなものがあるかを調べておく。 【復習】近代以降の博物館の歴	予習・復習　各90分

			史を、展示の発達という視点でまとめておく。	
第3回	博物館資料の多様性と展示の類型	博物館は美術工芸品や考古資料などの文化財や、生き物を含む自然資料など、多様なコレクションを有する。これらの様々な資料がどのように展示されるのか、展示手法を類型化して概観する。	【予習】博物館概説で学んだ博物館の種別を思い出して整理しておく。 【復習】博物館の分野別による。資料の見せ方の特徴をまとめておく。	予習・復習　各90分
第4回	博物館建築と展示空間	博物館という施設は、ハード面においてもソフト面においても、独特な建築の視点や設備の要素が盛り込まれている。そのなかでも、博物館の顔ともいうべき展示空間を構成する諸要素について述べる。	【予習】博物館の展示空間室がどのようなものであるのか、過去に訪れたことのある博物館の展示室を思い出し、その特徴をまとめておく。 【復習】展示空間は展示資料の視点と来館者の視点があることに留意し、展示空間を設計する際の要点をまとめておく。	予習・復習　各90分
第5回	展示のプロセス	来館者に展示をより良く理解してもらうためには、ストーリー作りや導線計画など多くの要素を必要とする。ここでは、企画段階からオープン、さらには事後処理に至る、展示の制作を段階を追って概観する。	【予習・復習】過去に訪れた博物館を思い出し、また新たに博物館を訪れて、展示物の配置や導線にどのような工夫がなされているかを確認する。	予習・復習　180分
第6回	展示のための設備（１）　展示ケースと展示具	博物館が収集する多様な資料を効果的に展示する手法について、屋内外の展示手法ならびに、模型やレプリカを用いた展示の効用についても言及する。	【予習】展示室マイに設置されている展示具には、どのような種類があるだろうか。展示室を思い起こし、あげてみる。 【復習】展示品に対する展示ケースの役割を整理しておく。	予習・復習　各90分
第7回	展示のための設備（２）　照明	資料を効果的に演出するには、照明は欠かすことのできない設備である。芸術性や快適性など来館者への効果を概観するとともに、資料の保存環境への配慮についても触れる。	【予習】展示に限らず、照明を用いて「もの」を効果的に見せている事例を調べてみる。 【復習】展示において、どのような照明の種類があり、どのような方法によって照明がなされているのか。その効果とともにまとめておく。	予習・復習　各90分
第8回	展示の解説システム	展示は博物館にとって、学芸員や博物館の意思を伝達する装置であるといってもよい。そこで重要な役割を果たすのが解説システムである。ここでは展示解説の多様性や解説手法と展示品の関係などを概観する。	【予習】博物館の展示室を想像して、展示解説の種類を考えてみる。 【復習】博物館の館種や展示品の種類による解説手法の違いをまとめる。	予習・復習　各90分
第9回	展示における映像とマルチメディアの利用	1970年の大阪万博以来、展示に大型映像機器をはじめとする視聴覚機器の導入が進み、今日の展示にはマルチメディア機器は欠かせないものとなっている。このような視聴覚機器の効果に触れると共に、デジタルミュージアムやインターネット上に展開するバーチャルミュージアムについてもその意義を検討する。	【予習】マルチメディアとは何か、その定義と実態について考えてみる。 【復習】博物館展示においてマルチメディアが急速に普及した背景と、マルチメディア利用の現状を把握しておく。	予習・復習　各90分
第10回	展示の評価	博物館の展示をより良いものにしていくために重要な視点が、展示評価である。ここでは、展示評価の手法としてよく取り上げられる「ゴール・レファレンス法」について取り上げる。	【予習】これまで学んだ事項を参考にして、展示を評価する際の視点を挙げてみる。 【復習】機会があれば展示を訪れ、その展示に対する評価をしてみる。	予習・復習　各90分
第11回	展示の広報	博物館において展示は博物館の考えを来館者に伝える装置であるが、いくら優れた展示を行っても広報を行わなければ来館者は増えず、展示の教育的効果を図ることもできない。そのため、博物館の活動を社会に発信する広報は極めて重要である。ここでは、展示をはじめとする博物館の広報について概観する。	【予習】博物館のwebサイトを閲覧して、博物館はどのような項目を立てて広報を行い、展示はその中でどのような位置づけにあるのかを調べておく。 【復習】博物館の広報活動の多様な手段とその効果をまとめておく。	予習・復習　各90分
第12回	展示にみる博物館の学び	博物館にとって展示活動は、普及・啓発事業と並んで教育活動の一つとして捉えられる。展示の教育的効果を、学校教育との連携お よび地域社会における生涯学習の両測面から見てみたい。また、教育・普及の視点からガイドボランティアやギャラリートークといった解説活動にも触れる。	【予習】学校教育と生涯学習の相違点を調べておく。 【復習】博物館の教育・普及活動の種類と効果についてまとめておく。	予習・復習　各90分
第13回	博物館の楽しみ ー非	今日の博物館展示は、学術的な側面を維持しながら、楽しい、分りやすい、ためになる展示を展開する必要があ	【予習】これまでに訪れた博物館展示で、面白かった展示の事	予習・復習　各90分

	日常から日常へー	る。このような、共感や感動を呼ぶ身近な博物館づくりの観点から行われている、様々な取り組みについて紹介する。	例を挙げ、どういった点がどのような理由で興味を引いたのかについて考えてみる。 【復習】現代社会あるいは地域社会において行われている、共感や感動を呼ぶ展示の特質をまとめておく。	
第14回	体験展示とハンズ・オン	少子高齢化が進む今日の社会において、次世代を担う子供たちを博物館に誘うことは、博物館の将来を予測する上で重要な課題である。ここでは子供に視点を置いたチルドレンズミュージアムの実態について取りあげるとともに、そこで行われている体験・思考型展示の意義について考える。	【予習】チルドレンズミュージアムとはどのような博物館なのかを調べておく。 【復習】チルドレンズミュージアムの目的と手法について整理しておく	予習・復習　各90分
第15回	展示とユニバーサルデザイン	バリアフリーという用語が社会に浸透しているが、多岐にわたるバリアフリーの対象者を知り、博物館が行っているハード面とソフト面での施策について理解する。さらに昨今のユニバーサルミュージアムへの取り組みについて、特に展示面からアプローチする。	【予習】近年、公共施設の設計に取り入れられるようになってきたユニバーサルデザインについて、予め調べる。 【復習】バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを把握し、ユニバーサルミュージアムの特徴を復習しておく。	予習・復習　各90分

学生へのフィードバック方法	授業では各回のポイントやキーワードについて、リアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。 質問等がある場合には、メールにて連絡をするか、授業時間およびその前後に教室または講師室で受け付ける。
評価方法	期末レポートによる評価　70% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30% また、公欠･病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、５回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	リアクションペーパーへの回答		○	○	
	期末レポートまたは定期試験	○	○		

評価割合	定期試験または期末レポートによる評価　70% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点　30%
使用教科書名(ISBN番号)	教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。
参考図書	黒沢浩編『博物館展示論』（講談社 2014年刊） 里見親幸『博物館展示の理論と実践』（同成社 2014年刊） 大堀哲・水嶋英治『博物館学Ⅱ 博物館展示論・博物館教育論』（学文社 2012年刊）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館の展示に対する取り組みや手法等を知ることにより、博物館が展示を通して地域社会に知的豊かさを提供する生涯学習機関であることを理解することができる。 【判断】展示は博物館の意思伝達装置であるので、来館者や地地域社会に対してどのうようなメッセージを伝えなければならないのかを思考することができる。
オフィスアワー	質問等については、メールにより随時受け付けるが、授業前後に教室または講師室で受け付ける。 教員メールアドレス　m-tao@rb3.so-net.ne.jp ※大学名・科目・氏名を明記すること。
学生へのメッセージ	博物館は規模や資料の種類によって様々なものがある。コロナ禍の折ではあるが、機会があれば、そうした多様な資料がどのように展示されているのかを、実際に博物館に足を運んで確かめてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、展示のアドバイザーや協議会委員として博物館展示にかかわり、また文化財保護の現場で資料の取り扱いについて経験を有するとともに指導・監修の業務を行っている。これらの実務経験を取り入れた授業を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	講義が中心であるが、学生諸君との質疑やリアクションでのやり取りなど双方向性のある授業を行う。
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館教育論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	１限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高木　幸枝	指定なし

ナンバリング	Y23607M21
授業概要(教育目的)	博物館教育の意義とコロナ禍を経た現状について講義し、国内外の事例を幅広く紹介する。 教育プログラム（ワークシート、ギャラリートーク、ワークショップ等）をシミュレーションする場を作り、「自分らしい企画」を実現する意味について、理解を促す。作業を通じて、学芸員の基本的スキルの習得を促す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	博物館における多彩な教育活動について、説明できる。
思考・判断の観点（K）	博物館の現状を理解した上で、教育プログラムの課題について、指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館活動への理解を深め、自ら興味を持って博物館を訪れ、学びを進めることができる。
技術・表現の観点（A）	教育プログラムを実践するための基礎的コミュニケーション力が養われている。

学習計画

博物館教育論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館教育の理念と、コロナ禍を経た現状	「博物館の場における学び」と「展示品に関わる学び」を理解する。 コロナ禍により、活動の実際がどのように変化したかを理解する。	ネット検索エンジンで「博物館」のホームページを検索し、どのような活動をしているか、調べてみてください。 興味ある博物館の活動があれば、メモをしてみてください。	180分
第2回	日本の博物館教育の歴	明治時代の「教育博物館」から始まる日本独自の歴史を理解する。	ネットの検索エンジンで「国立博物館」情報を調べておいてく	180分

	史		ださい。	
第3回	イギリス、アメリカの実例	イギリスとアメリカの博物館教育の実例を理解する。	イギリスとアメリカの主な博物館（美術館）情報を調べてみてください。	180分
第4回	オランダ、ドイツ、フランスの実例	オランダ、ドイツ、フランスの博物館教育の現状を理解する。	オランダ、ドイツ、フランスの主な博物館（美術館）情報を調べてみてください。	180分
第5回	博物教育活動の諸形態	多様な博物館教育のありかたを理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してください。	180分
第6回	教育プログラムの立案と実践	教育プログラムの立案と実践を体験し、博物館教育の課題を理解する。	ネット検索エンジンで、教育プログラムの実例を調べておいてください。	180分
第7回	ワークシートの立案と作成	ワークシートの立案と作成を実際に行い、博物館教育の課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してください。	180分
第8回	社会教育施設としての博物館活動	様々な実例をもとに、博物館の現状と課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、見学してください。	180分
第9回	博物館教育と学校連携	博物館の現状と課題を理解する。	ネット検索エンジンで、博物館と学校連携の実例を調べておいてください。	180分
第10回	博物館の教育活動　ギャラリートーク	展示品の解説について実践的におこない、意味とスキルを理解する。	近隣の博物館へ足を運び、学芸員による展示品の解説を実際に聞いてみてください。	180分
第11回	博物館の教育活動　ワークショップ	ワークショップの立案を実践的におこない、意味とスキルを理解すること。	近隣の博物館へ足を運び、ワークショップの例を調査しておいてください。	180分
第12回	博物館の教育活動における「多様性」への配慮	博物館における「多様性」への配慮とは何かを理解する。	「多様性」「ユニバーサル」の語をネット検索し、この言葉に関連する記事や意見について、調べてみてください。	180分
第13回	教育を担う学芸員の役割	学芸員の仕事の意味と現状を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してください。	180分
第14回	これからの博物館教育（１）	コロナ禍以降の先進的な博物館教育の実例を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してください。	180分
第15回	これからの博物館教育（２）	企業とタイアップした先進的な博物館教育の実例を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義についての「振り返りシート」（15分程度）を、毎回の授業時間内に記入していただきます。寄せられた疑問や感想については、次回以降の解説や資料のなかで活かしてまいります。
評価方法	定期試験（レポート）と「振り返りシート」との総合的評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	振り返りシート	○		○	
	定期試験	○	○	○	○

評価割合	定期試験(レポート)70%、「振り返りシート」30%で評価します。

使用教科書名(ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配付します。
参考図書	栗田秀法[編著]『現代博物館学入門』2019年、ミネルヴァ書房
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い特性をもって人々のために働く能力
学生へのメッセージ	事前に検索エンジンで博物館情報を入手するとともに、博物館に足を運んで知識を身に着け、感性を磨きましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は30年を超える学芸員としての実務経験を有しています。博物館教育の現状や課題を講義するとともに、教育プログラムに必要な基礎力を実践的に指導します。
アクティブ・ラーニング	○	教育プログラム（ワークシート、ワークショップ、ギャラリートーク等）の立案と実践を体験し、効果についてのディスカッションをおこないます。
情報リテラシー教育	○	博物館情報や所蔵品データベースを活用して、教育プログラムの立案に活かす作業をおこないます。教育プログラムを実施する際の「個人情報取り扱いの注意点」や「著作権への配慮」について、授業のなかで説明します。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館教育論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	４限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小野　方資	指定なし

ナンバリング	Y23607C21
授業概要(教育目的)	博物館教育の意義を理念を講じる。生涯学習の場としての意義を論じる。博物館の利用を考え、利用者の実態を調べてみる。その体験を通じて、利用者は何を学ぶ、考えたのか、その特性を考えてみる。学校教育と異同を考え、学びの本質を考え、人間の成長を論じてみたい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	博物館の教育活動の基礎を学ぶ
思考・判断の観点（K）	博物館の実際に触れ、感性・表現力・伝達力を駆使する博物館の教育力について考える
関心・意欲・態度の観点（V）	博物館の実際にふれ、感想を述べ合う。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

博物館教育論

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	第1回、オリエンテーション	博物館とは何か	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第2回	第2回、博物館教育とは何か	博物館教育とは何か、その歴史	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第3回	第3回、博物館教育とは何か、	博物館教育とは何か、その種類	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第4回	博物館教育	利用者の要望と体験	テキストを読み直し、KGノート	180分

	とは何か		を作成する	
第5回	博物館教育とは何か	学芸員の仕事	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第6回	博物館に行ってみる	東京国立博物館の本館見学	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第7回	博物館に行ってみる	東京国立博物館、東洋館	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第8回	博物館に行ってみる	昭和館に行ってみる	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第9回	教育とは何か	教育と人間の関係	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第10回	教育とは何か	学校の誕生と文化の伝達	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第11回	教育と展示	文化と国家の関係	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第12回	教育と展示	文化と教育	テキストを読み直し、KGノートを作成する	30分
第13回	教育と展示	文化の子ども	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第14回	教育と展示	教科書と文化	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第15回	教育と展示	漫画と教育	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分

学習計画注記	受講者が少数の場合には、ゼミ形式で行う場合も想定される
学生へのフィードバック方法	講義ノートの他に、KGノート（家庭学習ノート）を作成してもらう。講義で聴いたノートをもとに、テキストに学んだ内容をあらためてKGノートに記入し、復習を行う。そのノートを時々点検したい。
評価方法	定期試験（レポート）とKG（家庭学習）ノートの総合的評価

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	定期試験（レポート）	○	○	○	
	KGノート	○			

評価割合	KGノートを点検し、定期試験（レポート）とで総合評価をする。
使用教科書名(ISBN番号)	木下史青『博物館へ行こう』、岩波ジュニア新書、2007年（ISBN-13：978-4005005710）
参考図書	毎回の講義で配布する資料、など。
ディプロマポリシーとの関連	知識・思考、豊かな知識とあるべき姿を適確に判断できる 関心・態度、高い徳性をもって働く能力を得る 表現、他者と共感しながら創造する力を得る
オフィスアワー	水曜日4限
学生へのメッセージ	文化の持つ人間形成力につて、みんなで考えてみましょう。 いい文化に触れた時、人間は時間を忘れ、その環境に中に一体化している自分を発見できます。このとき、文化の人間に与える変容力というものを感じ取れるかもしれません。その変容力と教育との関係を、受講生と一緒に考えて、議論してみたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	博物館情報・メディア論		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木村　涼	指定なし

授業概要(教育目的)	博物館において、情報がどのように整理され、社会にどのように提供され活用されるのか、大規模な博物館から市町村規模の博物館に至るまで代表的な事例を紹介していく。その上で、博物館における情報の取り扱いを理解し、その活用方法を考える。これからの学芸員は、コンピューターなどのデジタル機器を使いこなして編集作業も出来る事が求められる。実際の博物館の事例をみることによって、情報、メディア活用の実態を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．博物館における情報の意義及び提供、活用などに関する基礎的な知識を説明できる。 ２．博物館における情報発信の現状と課題について説明できる。
思考・判断の観点（K）	１．博物資料のデジタルアーカイブのシステムについて理解できる。
関心・意欲・態度の観点（V）	
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	博物館情報・メディア論を学ぶ	博物館における情報・メディアの提供について理解する。	教科書１の「博物館情報・メディア論を学ぶ」（9～20頁）を読んでおくこと	60分
第2回	博物館における情報・メディアの意義	展示映像や音声ガイドといった視聴覚メディアの特性や学芸員の果たす役割を理解する。	教科書２の「博物館における情報・メディアの意義」（21～41頁）を読んでおくこと	60分
第3回	博物館の機能からみた情報の蓄積と活用	博物館は情報をどのように扱うか、また、現代社会における博物館の情報をより良く活用する取り組みを理解する。	教科書３の「博物館の機能からみた情報の蓄積と活用」（42～59頁）を読んでおくこと	60分
第4回	情報教育の	博物館の展示や教育に利用されているメディアについて	教科書４の「メディアで学ぶ、	60分

	意義と重要性	理解する。	メディアを学ぶ」（60～76頁）を読んでおくこと	
第5回	データベースの構築と運用	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。	60分
第6回	博物館標本のデジタル化の技法	デジタル技術が収蔵品の管理や展示にどのように利用されているのかを理解する。	教科書６の「博物館標本のデジタル化の技法」（92～103頁）を読んでおくこと	60分
第7回	デジタルミュージアム	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。	60分
第8回	デジタル･アーカイブ	デジタル･アーカイブの意義とその構築の流れを理解する。	教科書８の「デジタル・アーカイブの現状と課題」（124～141頁）を読んでおくこと 授業の最初に、1～７回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第9回	情報通信技術の活用	博物館が行う情報発信について、特に博物館展示に視点を向け、近年の活用事例をあげて理解する。	教科書９の「博物館展示における情報通信技術の活用」（142～160頁）を読んでおくこと	60分
第10回	インターネットを活用した情報発信	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。	60分
第11回	博物館と知的財産	著作権法の概要理解及び博物館資料の取り扱いがもたらす法的な問題点を理解する。	教科書11の「博物館と知的財産」（176～199頁）を読んでおくこと	60分
第12回	博物館と市民をつなぐ情報メディア	博物館の情報発信のモデルとして、展示を事例にあげて理解する。	教科書12の「博物館と市民をつなぐ情報メディア」（200～221頁）を読んでおくこと	60分
第13回	展覧会と情報メディア	展覧会ができるまでの過程を通して、デジタル技術利用の実際を理解する。	教科書13の「展覧会と情報メディア」（222～239頁）を読んでおくこと	60分
第14回	博物館における情報メディアの活用	情報技術やメディアを常設展示に入れ成果をあげている博物館の事例をあげて理解する。	教科書14の「常設展示のイノベーション」（240～256頁）を読んでおくこと	60分
第15回	博物館情報・メディア論の未来	これまで学んだことを統括するとともに、「博物館情報・メディア論」の今後を展望する。	教科書15の「博物館情報・メディア論の未来」（257～272頁）を読んでおくこと 授業の最初に、８～14回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストの答え合わせは次週の授業にて行う。
評価方法	・平常点として授業の参加状況、討論への積極的な参加などをもとに評価する。 ・小テストは２回分の授業に関わる学習範囲から出題し、授業内に計２回実施する。１回あたるの問題数は、大問７題で構成する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点	○			
	小テスト	○			

評価割合	小テスト（複数回）（70%）、平常点（30%）で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	西岡貞一・篠田謙一編『博物館情報・メディア論』（ＮＨＫ出版、平成25年）　978-4-595-31412-4
参考図書	なし

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館における情報発信方法の現状と課題を理解できる。 【思考・判断】デジタルアーカイブの構築方法を理解できる。
学生へのメッセージ	日本各地には様々な博物館があります。博物館がどのような形で情報発信をしているのか、実際に博物館を見学し、実態を学んで下さい。また、インターネットなどを通して、自分にとって興味ある博物館の情報発信の現状を理解して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅰ（3年次）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	４限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし
教授	新開　よしみ	指定なし
准教授	柳瀬　洋美	指定なし
准教授	和田　美香	指定なし
非常勤講師	高橋　健司	指定なし
助教	原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	Y26301M22
授業概要(教育目的)	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。
履修条件	保育士資格取得希望者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	実習の意義・目的・内容・方法を理解する 実習施設の概要と機能を理解する
思考・判断の観点（K）	実習課題を明確化する
関心・意欲・態度の観点（V）	実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む
技術・表現の観点（A）	基本的な保育技術を身につける 指導実習用の指導案を作成する 記録（実習日誌）の書き方を習得する

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	保育実習の意義・目的・内容の理解（保育所）	保育実習の意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第2回	保育実習の意義・目的・内容の理解（施設）	保育実習の意義・目的・内容（施設）についてグループワークを中心に理解を深める。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第3回	保育実習の方法の理解（保育所）	保育実習の方法について演習形式で理解する。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第4回	保育実習の方法の理解（施設）	保育実習の方法について演習形式で理解する。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第5回	実習の心構えの理解（保育所）	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第6回	実習の心構えの理解（施設）	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第7回	個人情報の保護と守秘義務	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第8回	子どもの人権の尊重についての理解	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第9回	実習課題の明確化とロールプレイ（保育所）	実習課題をロールプレイにより明確化する。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第10回	実習課題の明確化とロールプレイ（施設）	実習課題をロールプレイにより明確化する。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第11回	実習記録の意義・方法の理解（保育所）	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第12回	実習記録の意義・方法の理解（施設）	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第13回	実習施設の理解（保育所）	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第14回	実習施設の理解（保育所）	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第15回	保育指導案作成の実際（保育所）	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第16回	保育指導案作成の実際（施設）	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第17回	実践指導（保育所）	巡回訪問指導によるスーパービジョン	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第18回	実践指導（施設）	巡回訪問指導によるスーパービジョン	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分

第19回	実習総括（保育所）	保育所実習の振り返りをグループワークの形式で行う。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第20回	実習総括（施設）	施設実習の振り返りをグループワークの形式で行う。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第21回	実習日誌の評価とふりかえり（保育所）	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第22回	実習日誌の評価とふりかえり（施設）	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第23回	指導実習の評価とふりかえり（保育所）	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第24回	指導実習の評価とふりかえり（施設）	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第25回	ロールプレイによるふりかえり（保育所）	ロールプレイにより保育所実習について新しい気付きを得る。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第26回	ロールプレイによるふりかえり（施設）	ロールプレイにより施設実習について新しい気付きを得る。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第27回	自己課題と学習目標の明確化（保育所）	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第28回	自己課題と学習目標の明確化（施設）	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第29回	実習Ⅱにむけて	実習Ⅱにむけて自己課題の整理を行う。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第30回	実習Ⅲにむけて	実習Ⅲにむけて自己課題の整理を行う。	実習先について理解を深める。. 保育技術・援助の技術を磨く。	90分

学習計画注記	受講人数や実習時期により計画は変更になる可能性があります。
学生へのフィードバック方法	日誌や指導案は指導後に返却をする。
評価方法	・実習の評価（実習評価票及び実習態度）：実習評価票，実習園からの総評により，子ども・保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。 ・実習日誌及び事前・事後指導の評価：子ども・保育に関する知識の修得，実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，考察の深さ，保育技術の修得について評価する。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習の評価	○	○	○	○
	実習日誌および事前・事後指導の	○	○	○	○

評価割合	本授業においては出席率100%が前提である。 実習の評価（50%）、実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）

参考図書	１．実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004 ２．指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009 ３．福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007
ディプロマポリシーとの関連	（知識・理解） 実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習施設の概要と機能を理解する。 （思考・判断） 実習課題を明確化する。 （関心・意欲・態度） 実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む。 （技術・表現） 基本的な保育技術を身につける。 指導実習用の指導案を作成する。 記録（実習日誌）の書き方を習得する。
オフィスアワー	水曜3，4限
学生へのメッセージ	保育実習ＩＢ及びＩＣに参加するために，本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は，実習指導室へ理由を添えた「欠席届」を提出し，後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また，毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどの活動を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育実習ＩＢ（4年次）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽　さがの	指定なし
教授	新開　よしみ	指定なし
准教授	和田　美香	指定なし
非常勤講師	高橋　健司	指定なし
助教	原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	Y36302M23
授業概要(教育目的)	この実習は，保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
履修条件	規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・乳幼児の生活・遊び・発達等について理解を深める ・保育所の機能，保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点（K）	・各科目で習得した知識・技術と保育実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点（V）	・各科目で習得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する
技術・表現の観点（A）	・保育技術を実践し，磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)
第1回	実習施設を多面的に理解する	実習生として保育に入りながら，実習先施設について理解を深める
第2回	保育の一日の流れを理解し、参加する	保育所の一日の流れに注目し理解しながら，保育に参加する

第3回	子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する	保育に入り子どもを観察したりかかわったりしながら，乳幼児の発達を理解する
第4回	保育計画・指導計画を理解する	保育計画・指導計画がどのように実践されるかを観察し理解する。
第5回	生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を磨く	部分実習を行い，保育技術を磨く。実施後の振り返りを通して指導計画についてより深く理解する
第6回	職員間の役割分担とチームワークについて理解する	保育に参加しながら，職員間の役割分担とチームワークについて観察，理解する。また自らチームの一員として保育を行うことで実践的に理解する。
第7回	参加観察の記録方法を体験的に習得する	実習日誌を書き，保育の記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより，保育記録についてより理解を深め，記録技術を磨く。
第8回	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ	日々の保育に参加し，保育者の保育における意図，ねらいと具体的な保育内容（環境構成を含む）との関連を理解する。
第9回	保育士としての倫理を具体的に学ぶ	日々の保育に参加することを通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	安全および疾病予防への配慮について理解する	保育に参加することを通して，子どもたちの安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
第11回	保育者の子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する	保育に参加し，保育者の身近で，子どもへのかかわり方，環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく	保育への参加，保育の記録，振り返りを通し，自らの課題に気付く
第13回	指導計画を立て、部分実習に臨む	部分実習を行うクラスの子どもたちをよく観察し，かかわりながら，その発達を理解する。その上で指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
第14回	保育マップを作成する	実習期間中，子どもたちの遊び・活動が観察された場所に，内容，参加した子どもたちの名前等を記入し，保育マップを作成する。
第15回	反省会に出席し、実習全体を省察する	反省会に出席し，実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法	実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。
評価方法	・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，保育記録の技術の修得について評価する ・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	日誌の評価		○	○	○
	実習施設による評価		○	○	○

評価割合	日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林 ・指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林
学生へのメッセージ	保育実習ＩＢへの参加基準は以下の通りです。 ①1，2年次開講の保育士必修科目の内，未修得科目が３科目以下であること。 ②学業成績の総合評価の平均ＧＰＡが2.2以上であること。 ③「保育実習指導Ｉ」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ

情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育実習ＩＣ（3年次）		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬　洋美	指定なし
助教	原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	Y36303M23
授業概要(教育目的)	この実習は，施設実習に参加し、一日の流れや生活の具体的な内容について理解を深め、施設の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を施設での実践や利用者との関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
履修条件	規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・施設の利用者について理解を深める ・施設の機能，保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点（K）	・各科目で習得した知識・技術と実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点（V）	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
技術・表現の観点（A）	・支援技術を実践し，磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)
第1回	実習施設を多面的に理解する	実習生として生活に入りながら，実習先施設について理解を深める
第2回	施設の一日の流れを理解し、参加する	施設のの一日の流れに注目し理解しながら，参加する
第3回	観察やかかわりを通して利用者を理解する	観察したりかかわったりしながら，利用者を理解する
第4回	支援計画を理解する	支援計画がどのように実践されるかを観察し理解する。

第5回	生活や遊びなどの一部を担当し、技術を磨く	生活援助などの一部を担当し、実施後の振り返りを通してより深く理解する。
第6回	職員間の役割分担とチームワークについて理解する	生活に参加しながら，職員間の役割分担とチームワークについて観察，理解する。また自らチームの一員として動くことで実践的に理解する。
第7回	参加観察の記録方法を体験的に習得する	実習日誌を書き，記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより，記録についてより理解を深め，記録技術を磨く。
第8回	支援のねらいを具体化する方法について学ぶ	日々の生活行為に参加し，支援の意図，ねらいとの関連を理解する。
第9回	保育士としての倫理を具体的に学ぶ	実践を通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	安全および疾病予防への配慮について理解する	安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
第11回	利用者へのかかわり方、環境構成の工夫	利用者へのかかわり方，環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく	記録，振り返りを通し，自らの課題に気付く
第13回	指導計画を立て、部分実習に臨む	指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
第14回	個別のかかわり	気になる利用者について個別にかかわり、具体的支援について考える。
第15回	反省会に出席し、実習全体を省察する	反省会に出席し，実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法	実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。
評価方法	・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，保育記録の技術の修得について評価する ・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	日誌の評価		○	○	○
	実習施設による評価		○	○	○

評価割合	日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている 【関心・意欲・態度】・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている 【技能・表現】・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる ・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
オフィスアワー	月曜２限から４限
学生へのメッセージ	保育実習ＩCへの参加基準は以下の通りです。 ①1，2年次開講の保育士必修科目の内，未修得科目が３科目以下であること。 ②学業成績の総合評価の平均ＧＰＡが2.2以上であること。 ③「保育実習指導Ｉ」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。

アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開　よしみ	指定なし
准教授	丹羽　さがの	指定なし
准教授	和田　美香	指定なし
非常勤講師	高橋　健司	指定なし

ナンバリング	Y46305M23
授業概要(教育目的)	保育の実践現場に置いて子ども達とふれあい、生活を共にするなかで、保育所における子どもの生活を理解する。また、保育者の関わり方や保育技術を体験的に学ぶ。保育実習Ⅱ（保育所）は「参加観察実習」（部分実習を含む）を経て「指導実習（責任実習）」（部分実習から全日実習）へと移行する段階である。保育の場に積極的に参加し、実習を行うクラスの主担任の展開する保育の流れを理解するとともに、子どもへの基本的かつ適切な関わり方を習得することを目指している。また、実習保育所の指導のもと、半日から一日の保育を保育者として実践させていただくことにより、保育実践力を高めていくことを目的とする。
履修条件	学生便覧の規定による保育実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育者同士の連携や子育て支援の工夫を実際の場面の中でとらえることができる。
思考・判断の観点（K）	子どもの個人差を考慮し、内面を理解しながら、その場に応じた対応方法を工夫できる。 責任実習を振り返り、自己課題を明確にできる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実習に意欲を持って参加し、実習生として子どもや先生方に学ばさせていただく謙虚な姿勢でコミュニケーションを図りながら、その場に必要な働きをしようと試みることができる。
技術・表現の観点（A）	習得してきた保育技術を活かしながら自分なりに保育を立案し、実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)
第1回	実習課題に取り組む(1)	保育全般に参加し、保育技術を習得する。
第2回	実習課題に取り組む(2)	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。

第3回	実習課題に取り組む(3)	発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
第4回	実習課題に取り組む(4)	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
第5回	実習課題に取り組む(5)	地域社会に対する理解を深め、子育て支援のための手法や連携方法について学ぶ。
第6回	実習課題に取り組む(6)	職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
第7回	実習課題に取り組む(7)	保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第8回	実習課題に取り組む(8)	保育者の子どもとかかわる姿勢から、効果的な援助と指導の内容と方法を学ぶ。
第9回	実習課題に取り組む(9)	園環境と子どもの遊びの実態について理解する。
第10回	実習課題に取り組む(10)	子どもの実態を把握し、これに即した指導計画を立案する。
第11回	実習課題に取り組む(11)	子どもの遊びや活動を促す環境を構成する。
第12回	実習課題に取り組む(12)	立案した指導計画に基づいて実践し、子どもの実態に即した援助の方法を試みる。
第13回	実習課題に取り組む(13)	自己の保育を省察するための記録（日誌）を工夫して書く。
第14回	実習課題に取り組む(14)	保育マップを作成する。
第15回	実習課題に取り組む(15)	反省会に出席し、実習全体を省察する。

学習計画注記	※各回の内容は12日間の実習の中で意識して行う事項を示しており、実際にはそれぞれの実習園の実態や自己課題に即して各自スケジュールを調整しながら実習課題を遂行していくことになります。なお、本科目の「予習・復習」に相当する部分は「保育実習指導Ⅱ」の授業で行います。
学生へのフィードバック方法	実習中に行われる巡回訪問指導において、質問や疑問点などについて口頭で担当教員よりフィードバックを行います。その他の質問等は、実習終了後に保育実習指導Ⅱの授業の中で解説します。
評価方法	実習園からの評価（5項目の小項目と総合評価の評価点各5点満点、合計30点満点）と、実習後に提出された日誌の評価70点を合わせて、総合的に評価します。したがって、実習を規定の時間数終えても日誌を提出しない場合は不合格となり、単位認定できません。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	実習園の評価	○	○	○	○
	実習日誌の評価		○	○	○

評価割合	実習の評価（50%）と実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）を合わせて総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	保育実習指導Ⅱで用いたテキストを参考にすること。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	水曜２限
学生へのメッセージ	「自ら学ぶ・学び合う・共に育つ」…本学児童学科の実習教育に共通する理念です。実習中は子どもや先生方に学ばせていただくという謙虚な姿勢を保ちつつ、単に受け身ではなく、疑問点について積極的に質問するなど「主体的な学び手」としての自分のあり方を心がけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	保育現場での実習は全てがアクティブラーニングです。
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅲ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし
准教授	柳瀬　洋美	指定なし
助教	原田　晋吾	指定なし

ナンバリング	Y46307M23
授業概要(教育目的)	児童への福祉は現在、特別な支援を必要とされる児童に対する施策だけでなく、すべての家庭において児童が健全に育成されることや児童を生み育てやすい社会環境を整備することを目指した施策が中心となっています。保育実習Ⅲでは保育士を目指す人が、保育所以外の児童福祉施設での現場実習を通して、について理解を深める。
履修条件	※保育実習ＩB及びＩCを履修済みであること。 ※規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	・施設の利用者について理解を深める。 ・施設の機能，保育士の専門性や業務等について理解する
思考・判断の観点（K）	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
関心・意欲・態度の観点（V）	・初めての施設実習（保育実習ＩＣ ）で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む
技術・表現の観点（A）	・保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	保育実習Ⅲの概要について	保育実習Ⅲの目的と概要や保育士の専門性について確認する。	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。	120分
第2回	保育実習Ⅲの手引きと	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。	120分

	日誌について			
第3回	実習施設の概要と自己課題の明確化	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。	「実習に臨んで」の下書きの作成	120分
第4回	実習課題発表①	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第5回	実習課題発表②	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第6回	実習課題発表③	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	部分実習指導案の作成	120分
第7回	実習における課題場面のロールプレイ①	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	・取り上げる課題場面について検討する。	120分
第8回	実習における課題場面のロールプレイ②	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。	120分
第9回	実習日誌の書き方	保育実習Ⅲの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。	120分
第10回	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。	120分
第11回	実習終了事後報告①	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第12回	実習終了事後報告②	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第13回	実習終了事後報告③	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第14回	実習報告会に向けて①	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分
第15回	実習報告会に向けて	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分

学習計画注記	実習先の施設の状況により、実習内容や順番が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	実習巡回記録，実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。
評価方法	・日誌の評価：実習に臨む姿勢，考察の深さ，記録の技術の修得について評価する ・実習施設による評価：実習に臨む姿勢，保育者としての思考・判断，意欲・態度，技術について評価する

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	日誌の評価		○	○	○

	実習施設による評価		○	○	○

評価割合	日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】施設の利用者について理解を深める。また施設の機能，保育士の専門性や業務等について理解する 【思考・判断】各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する 【関心・意欲・態度】初めての施設実習（保育実習ＩＣ）で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む 【技術・表現】保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く
オフィスアワー	水曜日5時限　1619研究室
学生へのメッセージ	保育実習Ⅲでは実習施設の種別に応じた高い専門性が求められます。十分な事前学習をして実習に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育実習に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅱ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田　美香	指定なし
教授	新開　よしみ	指定なし
准教授	丹羽　さがの	指定なし

ナンバリング	Y46304M12
授業概要(教育目的)	保育実習Ⅰにおいて課題となったテーマについて、課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにするとともに保育所実習Ⅱに向けた準備を行う。実習後はその経験を手掛かりとして、卒業後保育士として働く意欲が育つように自己課題を明確にし、子どもたちや他の保育士に学び、育ち続けることができるような基盤づくりをすることを目的とする。
履修条件	保育実習指導Ⅰおよび保育実習ⅠBを履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	保育士の専門性（子育て支援を含む）と職業倫理について説明できる。
思考・判断の観点（K）	実習に臨んで、自己課題を具体的に見つけることができる。
関心・意欲・態度の観点（V）	実習関連の書類作成や与えられた課題への取り組み等、必要な準備を滞りなく行うことができる。
技術・表現の観点（A）	実習に活かせるようレパートリーを増やしたり練習するなどして保育技術の向上を図ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解	保育実習Ⅱの意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。	保育実習Ⅱの手引き「保育実習Ⅱの意義と目的」「保育実習の心得」を読んでおくこと。 誓約書、個人票、出勤簿を記入し、学外実習事務室へ提出すること。	90分
第2回	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅱの方法について演習形式で理解する。	保育実習Ⅱの手引き「保育実習	90分

	の方法の理解		Ⅱの概要」を読んでおくこと。 実習園周辺マップを記入し学外実習指導室へ提出すること。	
第3回	実習課題の明確化	保育実習Ⅰの振り返りを行いつつ、保育実習Ⅱの自己課題を明確化する。	保育実習ⅠBの日誌を読んでおくこと。 保育実習Ⅱの手引き「保育実習の心得」を読んでおくこと。	90分
第4回	実習日誌Ⅱの書き方	実習日誌Ⅱの書き方、特にエピソード記録の書き方について、実践しながら学ぶ。	保育実習Ⅱの手引き「実習日誌作成上の留意点」を読んでおくこと。	60分
第5回	主活動案の作成と検討(1)	責任実習で行う主活動案を作成するための準備を行う。	主活動で何を行うかいくつかの案を考えておく。	180分
第6回	主活動案の作成と検討(2)	グループごとに作成した主活動案の検討を行う。	各自「保育指導計画案」を作成してくる。	180分
第7回	主活動案の作成と検討(3)	修正した指導案をもとに、模擬保育に必要な準備をする。	指導案を修正してくる。	120分
第8回	模擬保育(1)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。 模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第9回	模擬保育(2)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。 模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第10回	模擬保育(3)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。 模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第11回	模擬保育(4)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。 模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第12回	主活動検討と模擬保育のまとめ	主活動検討と模擬保育の振り返りとまとめを行う。 実習に向けての最終確認を行う。	実習日誌の事前記入欄を全て記入しておくこと。	180分
第13回	実習事後指導(1)	グループワークで「責任実習」を中心に実習全体について振り返る。	実習日誌の記入漏れがないか最終確認しておく。	60分
第14回	実習事後指導(2)	保育実習Ⅱにおける自己課題の達成状況について評価し、将来に向けた自己課題を明確化する。 今後のキャリア形成の見通しを立てる。	自己課題についてまとめておく。	120分
第15回	実習事後指導(3)	実習報告会に向けた発表の準備を行う。	グループごとに分担を決めて必要な発表資料（パワーポイント等）を作成する。	180分

学習計画注記	※実習配属の時期により、スケジュールが変更になることもあります。
学生へのフィードバック方法	授業中の課題提出物は返却し、解説を行います。
評価方法	授業への参加状況、模擬保育等を「平常点」とし、最終的に提出された「指導案」とともに評価対象とする。

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	平常点		○	○	
	指導案		○		○

評価割合	本授業においては出席率100%が前提である。 平常点（50%）＋指導案（50%）をもって「合格」とする。
使用教科書名(ISBN番号)	保育実習指導Ⅰで使用したテキストを引き続き使用します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点

	に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	水曜日２限
学生へのメッセージ	保育実習Ⅱに参加するために，本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は，学外実習事務室へ理由を添えた「欠席届」を提出し，後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また，毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育所での実務経験を有する担当教員による保育現場に即した具体的な事例提供やアドバイスを行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク形式での演習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅲ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	３限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択		

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科　教員	指定なし
准教授	柳瀬　洋美	指定なし
准教授	和田　美香	指定なし

ナンバリング	Y46306M12
授業概要(教育目的)	１．保育実習の内、保育所以外の児童福祉施設実習（以下、施設実習）の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ２．実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ３．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ４．施設における保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
履修条件	保育士の選択必修科目です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点（K）	１．自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し､明確な目的意識と自己課題をもって実習に臨む。
思考・判断の観点（K）	１．学生一人ひとりが保育実習ＩＢ（保育所）や保育実習ＩＣ（施設）において成立した各自の課題と真摯に向き合い、今回の保育実習Ⅲにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。
関心・意欲・態度の観点（V）	１．現代の社会状況にも関心をもち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ･情報ﾘﾃﾗｼｰ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間（分）
第1回	保育実習Ⅲの概要について	保育実習Ⅲの目的と概要や保育士の専門性について確認する。	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。	120分

第2回	保育実習Ⅲの手引きと日誌について	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。	120分
第3回	実習施設の概要と自己課題の明確化	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。	「実習に臨んで」の下書きの作成	120分
第4回	実習課題発表①	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第5回	実習課題発表②	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第6回	実習課題発表③	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	部分実習指導案の作成	120分
第7回	実習における課題場面のロールプレイ①	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	・取り上げる課題場面について検討する。	120分
第8回	実習における課題場面のロールプレイ②	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。	120分
第9回	実習日誌の書き方	保育実習Ⅲの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。	120分
第10回	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。	120分
第11回	実習終了事後報告①	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第12回	実習終了事後報告②	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第13回	実習終了事後報告③	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第14回	実習報告会に向けて①	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分
第15回	実習報告会に向けて	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分

学習計画注記	※　履修学生の実習の状況等により、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	１．３年生までの実習記録や保育所からの評価に基づき自己課題を明確にする。 ２．グループ・ディスカッションにより、自己の課題解決の過程を探る。 ３.各施設で必要とされる専門的な知識や保育技術を身につける。 ４．保育現場における課題場面をロールプレイ等を通じて吟味する。
評価方法	平常点（自己課題への取り組みや授業に臨む姿勢）および指導案作成・課題の提出

評価基準

評価基準

	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	自己課題への取り組みや授業に臨			○	
	指導案作成・課題の提出	○	○	○	○

評価割合	平常点６０％ 指導案作成･課題提出４０％
使用教科書名(ISBN番号)	施設実習ガイド（978-4-89347-203-8）駒井美智子編著（萌文書林）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し､明確な目的意識と自己課題をもって実習に臨む。 【思考・判断】学生一人ひとりが保育実習ＩＢ（保育所）や保育実習ＩＣ（施設）において成立した各自の課題と真摯に向き合い、今回の保育実習Ⅲにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。 【関心・意欲・態度】現代の社会状況にも関心をもち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。
オフィスアワー	水曜日5限　1619研究室
学生へのメッセージ	保育士資格を取得することへの高い意識をもって授業に臨んでください。また、自分の実習先の施設について、十分な事前学習を自主的に進めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育・療育現場での臨床経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	実際の指導案の作成や、実習に臨んでグループ討議を用いて事前学習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

所　在　地

東京家政学院大学
【町田キャンパス】
〒194-0292　東京都町田市相原町 2600 番地
電話　042（782）9811

【千代田三番町キャンパス】
〒102-8341　東京都千代田区三番町 22 番地
電話　03（3262）2251

授 業 計 画　　令和4年度

令和４年４月１日　　発行

発　行　　東京家政学院大学
学務室
電　話　　03（3262）2257
https://www.kasei-gakuin.ac.jp/